# Workday Adaptive Planning のドキュメント

**Product Summary**

**January 13, 2026**

workday.

# 目次

Adaptive Planning....9

始める前に....9
概念: Adaptive Planning....9
Adaptive Planning の全ユーザー向けの開始....12
Adaptive Planning のプロファイル、ホーム ページ、E メール グループの変更....12
Adaptive Planning 通知の表示....14
ダッシュボード内でのコラボレーション....15
通知のアプリ接続の設定....16
概念: ナビゲーションのクイック ツアー....17
概念: レポート作成と分析....19
概念: Adaptive Planning 内でのコラボレーション....21
Adaptive Planning 管理の開始....21
ステップ: Adaptive Planning モデルの設定....21
ステップ: 営業向け地域プランニングの設定....24
概念: セキュリティ....25
概念: インテリジェント プランニング....26
概念: セールス プランニング....26
概念: HCM を使用したワークフォース プランニング....27
参考: 地域認証 URL....29
Workday ドキュメントの基本情報....29
Workday ドキュメントの使用方法....29
情報の検索....32
ビデオ: Workday ドキュメントの概要....34
その他のリソース....34
Workday ドキュメントについて教えてください....35
機械翻訳の免責事項....35

シート....35
シートを開く....35
例: キューブ シートまたはモデル シートでの属性値の追加または名前の変更....36
概念: シート....37
概念: シートのクイック ツアー....40
概念: シート タイプ....43
概念: シート内の合計セル....46
概念: シナリオとシート....49
参考: シート ツールバー....49
参考: シートでの右クリック操作....53
参考: シートの色および表記....55
参考: ワークフォース プランニング向け事前構築済シート....57
FAQ: シート データを変更したユーザーを確認する方法....59
FAQ: 実績のオーバーレイ期間中に、合計科目のフォントが黒色で表示されるのはなぜですか？....59
トラブルシューティング: シートのロードが表示段階でスタックする....60
トラブルシューティング: シートで科目が見つからない....60
トラブルシューティング: メイン メニューに前提条件が表示されない....61
セル内のデータの変更....62
モデル シートでの行の追加....62

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

モデル シートでの分割の追加 63
標準シートでの分割の追加 64
キューブ シートでの行の追加 66
前方向および下方向へのコピー 66
時間合計でのデータの按分 69
科目、組織、属性の合計でのデータの按分 71
複数のセルの値の調整 73
概念: シートのスイッチ、チェックボックス、ドロップダウン リスト 74
参考: セル内のデータのクリア 75
参考: コピーと貼り付け 75
例: 分割を使用した内部取引の相殺消去 78
例: 特性を使用した内部取引消去の入力 80
トラブルシューティング: シートのセルがロックされているためデータを変更できない 82
シート ビュー 84
キューブ シート ビューの変更 84
モデル シート ビューの変更 87
標準シート ビューの変更 88
シート上の期間表示の変更 89
モデル シートでのゼロと空白の非表示 91
シートのデフォルト ビューを異常検出用に設定 91
概念: シート ビュー 92
概念: ゼロと空白の非表示 93
シート内のデータの探索、ドリル、強化 93
シート内でのダッシュボード グラフの作成 93
シート内の異常値の検出 94
シートのスパークラインの使用 95
概念: シート内のデータの検索 96
概念: "セルを探索" および "行の詳細" 96
概念: セル メモ 98
概念: シート内の異常検出 99
概念: ドリルダウンとドリルスルー 100
概念: CDC によるデータへのドリルスルー 100
参考: ドリルダウン 100
参考: トランザクションのドリルスルー 102
参考: NetSuite へのドリルスルー 103
参考: Workday トランザクションおよびオブジェクトへのドリルスルー 104
FAQ: "セルを探索" ですべての関連行または属性分割を表示する方法 105

Excel Interface をプランニングに使用 105
Excel Interface for Planning の概要 105
概念: Excel Interface for Planning 105
Excel Interface for Planning 製品のダウンロード 107
Excel Interface for Planning バージョンの確認 109
Adaptive Planning または Work Offline への接続 109
シート タイプを特定 111
概念: Excel Interface for Planning インターフェイス ツアー 113
Excel Interface for Planning のインストール 116
Excel Interface for Planning のインストール 116
参考: Excel Interface for Planning の技術要件 118
シート内のデータの検索と入力 120
シート内のデータの検索と入力 120
セルへのドリルダウンまたは行の詳細 124
更新のリフレッシュ、マージ、送信 124
ノートの追加と編集 126
分割と行の追加 126

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

シート ビューの変更 128
データを他のバージョンと比較 132
Excel Interface for Planning での属性と特性の使用 133
Excel グラフを使用 139
複数のシートとワークブックの使用 140
Excel Interface for Planning のリファレンス 140
参考: Excel リボンの Planning タブ ボタン 140
参考: Excel Interface for Planning の "プランニング" ペイン 141
参考: Excel Interface for Planning での右クリック操作 144
参考: 表示オプションの設定とフィールド 144
参考: Excel Interface for Planning の Excel および Adaptive Planning 関数 150
参考: セルの色および表記の凡例 155

Web レポート 156
レポートの表示と作成 156
概念: Web レポート 156
レポートからのテンプレートの作成 158
概念: レポートのクイック ツアー 159
概念: トランザクション レポート 161
概念: レポート ブック 162
レポートのスナップショットの作成 163
レポートの共有 164
レポート通知の送信 165
トランザクション レポートの作成 166
静的レポート ファイルのアップロード 167
レポート ブックの作成 167
パターン レポートの作成 169
変更履歴レポートの実行 170
参考: レポートのコンテキスト メニュー オプション 171
参考: レポートのツールバー ボタン 173
参考: トランザクション レポートのツールバー 174
参考: 高度な変更履歴の検索のパラメータ 175
参考: レポートのプロパティ 176
Adaptive Planning マトリクス レポート 180
モデル レポート 241
Web レポートの書式設定 245
レポートのスケジューリング 252
レポートの FAQ およびトラブルシューティング 257
FAQ: PTD レポートの列に科目の空白が表示されるのはなぜですか？ 257
FAQ: マトリクス レポートでどの年間累計値にドリルダウンできますか？ 257
異なるバージョンからのさまざまな期間の小計の作成 258
Excel レポートでのタイム スタンプの作成 266
2 つの異なるバージョンと期間間の差異の作成 268
レポート ブック内で動的に更新される PowerPoint の作成 270
Excel レポートとテンプレート レポートの違い 272
繰り返しレポートのタブを Excel でヘッダーとして表示 273
レポートの処理中にエラーが発生しました。エラー メッセージは次のとおりです 273
異なるタブ上の組織があるレポートの Excel へのエクスポート 275
FAQ: 時間パラメータを自動的に更新できますか？ 278
FAQ: レポートに表示される通貨は何によって決定されますか？ 278
2 つの異なる計画バージョンからの実績とデータ間の差異の検索 278
サーバーとの通信中に エラーが発生しました。再試行してください。 279
予想以上のレポート値 279
レポートのパフォーマンスを最適化する 280
FAQ: レポートに分割を表示するにはどうすればよいですか？ 281

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

FAQ: マトリクス レポートから合計を削除するにはどうすればよいですか？ ..... 282
レポートはお知らせに追加できません ..... 282
FAQ: レポートの科目値がシートの科目値と異なるのはなぜですか？ ..... 283
"過去 12 か月平均" レポート ..... 283
レポートのプロパティに "科目の分割を表示" オプションが含まれていない ..... 289
任意の組織合計の合計 ..... 290
FAQ: テンプレート レポートを作成するのはなぜですか？ ..... 291
Adaptive Planning 4.0 のフォーマットに準拠したテンプレートを選択する必要があります ..... 291
FAQ: 新しい年のモデル レポートを更新するにはどうすればよいですか？ ..... 292

ダッシュボード ..... 292
ダッシュボードの開始 ..... 292
ステップ: ダッシュボードの設定 ..... 292
ダッシュボードへのグラフの追加 ..... 293
ダッシュボードでの計画バージョンの比較 ..... 293
ダッシュボードの操作 ..... 294
概念: ダッシュボード ..... 296
エリアおよびダッシュボード ..... 297
エリアの作成 ..... 297
エリアのコンテキスト フィルタ ..... 297
ダッシュボードの作成 ..... 301
ダッシュボードのコピー ..... 301
エリアの共有 ..... 302
エリアのスナップショットの作成 ..... 304
E メールからのエリアのスナップショットの表示 ..... 305
ダッシュボードからのスナップショットの表示 ..... 306
概念: エリアのスナップショット ..... 306
概念: データの分析とグラフ操作 ..... 308
概念: 能力とノルマの計画の推奨ダッシュボード ..... 310
例: 地域プランニング ソリューション ..... 311
グラフ ..... 314
グラフ データのフィルタ ..... 314
条件付き書式設定 ..... 324
グラフの計算 ..... 329
ダッシュボードでシートを使用する ..... 341
ダッシュボードでのレポートの使用 ..... 342
属性マッピング テーブル ..... 344
地理マップ ..... 348
ダッシュボードへのテキストの追加 ..... 351
シナリオとバージョンを比較するためのFA グラフの作成 ..... 352
散布図の作成 ..... 352
小計を計算したウォーターフォール グラフの作成 ..... 353
概念: クロス集計グラフ ..... 353
概念: スコアカード ..... 359
概念: 能力とノルマの計画の推奨ダッシュボード ..... 361
参考: グラフのタイプ ..... 363
参考: 時間の配置 ..... 365
グラフ設定と UI オプション ..... 367
ダッシュボードの例 ..... 452

シナリオ ..... 491
シナリオを作成 ..... 491
シナリオの変更をダウンロードしてレビュー ..... 493
ベース バージョンへのシナリオのマージ ..... 494

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

共有シナリオのコラボレーションの管理....495
概念: シナリオ....497
概念: シナリオ通知....500
FAQ: シナリオ....501
トラブルシューティング: ベース バージョンがロックされているためシナリオが統合されない....504

プロセスとワークフロー....505
プロセスとプロセス タスクの作成....505
プロセスの標準タスクの作成....506
プロセスの組織およびシート ワークフロー タスクの作成....509
プロセスでのタスクの完了....510
ステップ: ワークフローの使用....512
概念: プロセスの開始、管理、終了....514

プロセスとワークフローの使用....514
Excel Interface for Planning の概要....514
概念: Excel Interface for Planning....514
Excel Interface for Planning 製品のダウンロード....517
Excel Interface for Planning バージョンの確認....518
Adaptive Planning または Work Offline への接続....519
シート タイプを特定....521
概念: Excel Interface for Planning インターフェイス ツアー....522
Excel Interface for Planning のインストール....526
Excel Interface for Planning のインストール....526
参考: Excel Interface for Planning の技術要件....528
シート内のデータの検索と入力....530
シート内のデータの検索と入力....530
セルへのドリルダウンまたは行の詳細....534
更新のリフレッシュ、マージ、送信....534
ノートの追加と編集....536
分割と行の追加....536
シート ビューの変更....538
データを他のバージョンと比較....542
Excel Interface for Planning での属性と特性の使用....543
Excel グラフを使用....549
複数のシートとワークブックの使用....550
Excel Interface for Planning のリファレンス....550
参考: Excel リボンの Planning タブ ボタン....550
参考: Excel Interface for Planning の "プランニング" ペイン....551
参考: Excel Interface for Planning での右クリック操作....554
参考: 表示オプションの設定とフィールド....554
参考: Excel Interface for Planning の Excel および Adaptive Planning 関数....560
参考: セルの色および表記の凡例....565

OfficeConnect....566
OfficeConnect の使用....566
OfficeConnect の概要....566
OfficeConnect のインストールと設定....578
OfficeConnect レポート要素....595
OfficeConnect レポート ワークブック....628
OfficeConnect レポートの設定とプロパティ....655
OfficeConnect for PowerPoint....670
OfficeConnect for Word....675

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

OfficeConnect の FAQ とトラブルシューティング....686
端数処理設定の変更....686
COM 登録エラー....691
Excel シートのプランニングを含む OfficeConnect の作成....691
OfficeConnect で過去 12 か月レポートを作成....693
固定日付列の作成....696
OfficeConnect のパーセント値の表示....701
FAQ: OfficeConnect の更新エラーを解決するにはどうすればよいですか？....701
リンクされているセルを含まない OfficeConnect Excel ファイルの Excel コピーを作成する方法....701
OfficeConnect ワークブックから Excel ファイルにリンク....702
行の挿入後に数値が正しくシフトしない....703
OfficeConnect タスク ペインが正しく表示されていません....704
要素を削除....707
ワークブックのゼロと空白の非表示または非表示にする....708
コンテキストのタイプ....711
トラブルシューティング ツール: OfficeConnect と Planning for Excel....713

モデリング....722
モデルの管理....722
モデル インサイトのプランニング センター....722
インテリジェント プランニング....734
時間とカレンダー....773
バージョン....797
組織....846
科目....863
カスタム属性と特性....970
シート作成....1018
数式....1132
通貨....1216
配賦ルール....1228
トランザクション....1233
連結....1237
レポート ダッシュボードとお知らせ....1273
表示名に対する組織コード、属性コード、特性コード....1276
モデル概要....1282
ステップ: カスタム按分の設定....1286
概念: Adaptive Planning からの計画のパブリッシュ....1288
参考: メタデータのコードと名前のベスト プラクティス....1289
参考: ワークフォース ファンデーション モデル....1290
参考: Financial Planning の基本モデル....1293
参考: セールス プランニング ソリューションへのリンク....1295
モデリングの FAQ とトラブルシューティング....1296
バージョンと時間に関する FAQ....1296
組織、属性、特性に関する FAQ....1304
アカウントの FAQ....1309
配賦ルールと配賦取引に関する FAQ....1310
連結の FAQ....1311
数式の FAQ....1312
シートとワークフローの FAQ....1330

セキュリティと管理....1383
管理の使用....1383
システム設定....1383

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ユーザーと権限セット ..... 1397
マルチインスタンス ..... 1527
SAML シングル サインオン ..... 1535
インスタンス ライフサイクル管理 ..... 1554
Amazon Aurora PostgreSQL での Adaptive Planning の独自キーの使用 (BYOK) の設定 ..... 1556
管理の FAQ とトラブルシューティング ..... 1557
為替換算調整勘定はどのように機能しますか？ ..... 1557
管理者に関する FAQ ..... 1558

インテグレーション ..... 1573
API メソッド (XML) ..... 1573
API メソッド ..... 1573
内部 ID 参照 ..... 1576
データ インテグレーションの管理 ..... 1577
クラウド データ コネクト ..... 1577
インテグレーション設定 ..... 1607
データのインポートとエクスポート ..... 2050
NetSuite インテグレーション ..... 2070
API ドキュメント ..... 2089
インテグレーションの FAQ とトラブルシューティング ..... 2557
タスクが 1 時間ごとよりも頻繁に実行されるようにスケジュールするには、どのようにすればよいですか？ ..... 2557
インポートおよびエクスポートに関する FAQ ..... 2558
REST API (JSON) ..... 2594
概念: JSON 形式の API ..... 2594
Adaptive Planning REST サービス ディレクトリ ..... 2597
サービス: モデリング ..... 2598
サービス: セキュリティ ..... 2729
サービス: タスク ..... 2752

製品サポート ..... 2758
参考: 技術要件 ..... 2758
参考: Adaptive Planning におけるアクセシビリティ ..... 2760
参考: インポート履歴の保存域ポリシー ..... 2761
参考: Adaptive Planning のユーザー アクティビティと監査証跡 ..... 2761
Adaptive Planning のドメインおよび IP アドレス ..... 2762
参考: Adaptive Planning の制限 ..... 2770
参考: Adaptive Planning のレポート パフォーマンス ..... 2773
参考: exportData パフォーマンス ..... 2781
参考: お問い合わせ ..... 2783

製品ダウンロード ..... 2785

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# Adaptive Planning

Adaptive Planning ブックへようこそ。このブックでは、以下の方法を学習できます。

- ERP システムと CRM システムから統合された実績データを使用して、予算、予測、what-if 分析を作成する。
- 属性、数式、リンクを使用してビジネス ニーズをモデル化します。
- シート、シナリオ、プロセス、ワークフローでデータを管理します。
- レポート、ダッシュボード、OfficeConnect でデータを分析します。

ドキュメントの使用方法について詳しくは、こちらをご覧ください。 Workday ドキュメントの使用方法（29ページ）または ビデオ: Workday ドキュメントの概要（34ページ）。

# 始める前に

## 概念: Adaptive Planning

Adaptive Planning は、次の用途に使用できるクラウドベースのプランニングおよび分析ソリューションできます。

- ファイナンシャル プランニング
- セールス プランニング
- ワークフォース プランニング
- その他の各種機能

### ファイナンシャル プランニング

ファイナンシャル プランニングの次の機能を使用して、収益、コスト、売上、経費のプランニングを行えます。

- 総勘定元帳科目のモデリング
- 予算および予測のバージョンの作成
- ERP システムおよび CRM システムからの実績データのインポート

さらに、Workday 財務管理とのインテグレーションにより、以下に基づく財務計画をパブリッシュできます。

- Adaptive Planning の計画バージョンのデータおよびメタデータ
- 定義済みの財務管理の計画構造とプラン テンプレート

### セールス プランニング

セールス プランニングの次の機能を活用して、販売目標の達成を支援できます。

- 各地域を十分にカバーする営業担当者を割り当てられる地域プランニング
- 季節などの要素に基づいて人材配置の問題に関する計画を立てられる、能力およびノルマの計画

### ワークフォース プランニング

ワークフォース プランニングの次の機能を使用して、従業員を正確に把握し、変化する要件に対応できます。

- 効果的な採用計画の作成
- ギャップの特定

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- ビジネス目標との整合性の確保
- what if シナリオの推進

ワークフォース プランニングには、次の要素を使用する、Workday ヒューマン キャピタル マネジメントとのインテグレーション用に特別にセットアップされたファンデーション モデルが含まれています。

- プリセット データ ローダ
- モデル シート
- 属性
- 数式

### その他の各種機能

Adaptive Planning には、他にも次のような機能があります。これらの機能を使用して、インテリジェント プランニング、プランニング データの管理、関係者向けのレポートの生成を行うことができます。

| 機能 | 説明 |
|---|---|
| インテリジェント プランニング | 機械学習により、以下を実現します。<br>• パターンの特定、データの予測、異常の検出<br>• より正確なモデルの構築<br>• 収益性の高いオポチュニティの特定および最大 24 期間先までの未知のリスクの回避 |
| インテグレーション | データ ソース、データ ローダ、データ エージェントを使って、他のシステムからデータをインポートするためのインテグレーションを設定します。<br>Adaptive Planning API を使用して、オンライン インスタンスのプランニング データとメタデータをインポートし、更新します。 |
| Microsoft プラグイン | OfficeConnect アドインをインストールして、Adaptive Planning のオンライン インスタンスの最新データを使用した取締役会報告を MS Word、Excel、PowerPoint で作成します。<br>Excel Interface for Planning アドインをインストールし、Excel を使って Adaptive Planning のデータを表示、入力、更新します。 |
| 連結 | 複数の組織からなる企業の、GAAP で求められる財務活動と財務レコードをサポートします。 |

### モデリング コンポーネント

モデリング コンポーネントを使用して計画を作成してビジネスを反映させます。モデル内のすべてのデータ ポイントは、時間、バージョン、組織、科目、モデルに追加したカスタム属性など、モデルの属性の交差部分にあたります。属性に特性をタグ付けすることも可能です。

モデリング コンポーネントには以下が含まれます。

| モデリング コンポーネント | 説明 |
|---|---|
| 組織 | 組織は、ビジネスの組織階層の構造を模倣できます。 |
| バージョン | 計画バージョンと実績バージョンは、計画を立てる必要があるビジネスのシナリオを表していま |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| モデリング コンポーネント | 説明 |
| --- | --- |
| | す。モデルにはすでに計画バージョンと実績バージョンがそれぞれ 1 つ含まれています。計画バージョンはいくつでも作成でき、実績サブバージョンも作成できます。例: 計画バージョンで翌年の予算を計画する場合。 |
| 科目 | モデルには標準の総勘定元帳科目と科目コードが含まれていますが、追加で総勘定元帳科目を作成して、科目コードを設定することもできます。次の各種の科目タイプを使用して追加の科目を作成することで、プランニング情報をさまざまな方法でグループ化できます。<br>• 総勘定元帳<br>• カスタム<br>• メトリック<br>• 前提条件<br>• モデル<br>• キューブ |
| 数式 | 数式を使用すると、科目とシートのデータが自動的に計算されます。エンド ユーザーは、シートのセルに直接数式を入力します。<br>共有数式は、シート上の編集可能なセルに表示される唯一のシステム数式です。これらの数式はデータを入力する際に編集またはオーバーライドできます。特定の組織やバージョンで総勘定元帳とカスタム科目の値を計算します。組織ごとに異なる数式が使用される不定科目 (旅費など) に適しています。<br>算出科目を使用すると、総勘定元帳、カスタム、キューブ、およびモデル科目の数式を作成できます。共有数式とは異なり、算出科目はすべての組織とすべてのバージョンで値を計算します。算出科目は、計算方法が一貫している算出科目 (純利益など) に適しています。<br>メトリック科目の数式は、財務比率や非財務メトリックを計算します。この方法は、売上総利益率のような科目に適しています。 |
| カスタム属性 | 追加の属性を作成できます。例: 製品、顧客、または地域のカスタム属性の作成など。 |
| 特性 | 特性は、標準階層の範囲外の属性をグループ化します。モデルの他の部分のメタデータに特性と特性値をタグ付けします。次の要素に特性をタグ付けできます。<br>• 組織<br>• 科目<br>• カスタム属性 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: セキュリティ構造（1403ページ）
概念: バージョン（842ページ）
概念: 組織（855ページ）
概念: 科目（887ページ）
概念: カスタム属性（988ページ）
概念: 特性（1009ページ）
概念: Excel Interface for Planning（105ページ）
概念: OfficeConnect の仕組み（571ページ）
概念: 連結（1240ページ）
概念: HCM および財務管理との Adaptive Planning の使用
タスク
ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定

# Adaptive Planning の全ユーザー向けの開始

## Adaptive Planning のプロファイル、ホーム ページ、E メール グループの変更

始める前に

- Adaptive Planning にサインインするアクセス権があることを確認します。 アクセス権がないにもかかわらず、他の製品または製品領域における個人情報または連絡先情報を変更したい場合は、以下を参照してください。
    - Workday プロファイルでこの情報を変更する方法については、組織のドキュメントを参照してください。組織が HCM と財務管理を備えた Adaptive Planning にユーザー同期 SAML SSO を使用している場合は、Workday プロファイルでこの情報を変更します。
    - 組織がこの目的に Adaptive Planning または Workday を使用していない場合は、組織のドキュメントを参照し、この情報を変更する方法を確認してください。
    - ステップ: 連絡先情報の設定:Workday で組織の従業員の連絡先情報インフラストラクチャを設定する方法について学習します。
- セキュリティ:
    - E メール グループを作成および使用するための "レポートへのアクセス" 権限
    - E メール グループを作成および使用するための "通知の送信" 権限

このタスクについて

Adaptive Planning プロファイル ページでは、次の操作を実行できます。

- 自分の個人情報、パスワード、ホーム ページを変更する。
- E メール通知の送受信方法を変更する。
- 独自の個人用 E メール グループを作成する。
- デフォルトのインスタンスを選択する (複数のインスタンスにアクセスできる場合)。

手順

1. 任意のページの上部にあるプロファイル アバターをクリックし、ドロップダウン メニューにアクセスします。
2. このドロップダウン メニューから、"プロファイルを表示" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. プロファイル、ホーム ページ、E メール グループを変更する場合、以下の考慮事項があります。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| パスワード | 管理者がインスタンスの設定を許可している場合のみ、パスワードの変更が可能です。管理者がサインインで SAML SSO のみを許可している場合、ユーザーのプロファイルにパスワード リセット オプションは表示されません。ユーザー名のみを使用してサインインできます。<br><br>管理者は、最小文字数、アルファベットまたは数字の文字数など、パスワードの要件も定義します。 |
| E メール | Adaptive Planning イベントからの E メール通知を受信できるように、有効な E メールを設定します。E メール通知をトリガできるイベントは次のとおりです。<br><br>• Web レポートを共有する。<br>• エリアのスナップショットを共有する。<br>• タスク割り当てを処理する。<br>• ワークフローを使用してシートを承認する。<br>• インテグレーション タスクが成功または失敗する。<br><br>有効な E メールを設定すると、次のことも可能になります。<br><br>• 他のユーザーが、E メールが設定されたユーザーを個人用 E メール グループに追加して、そのユーザーにグループ E メールを送信する。<br>• 管理者が、"管理" の "すべてのユーザー" ページから E メールが設定されたユーザーに直接メールを送信する。<br><br>ユーザー名を E メール アドレスとして設定する場合は、"ユーザー名を E メールとして使用" を選択できます。 |
| ホーム ページ | 最初にサインインすると、管理者がユーザーごとに設定したホーム ページが表示されます。ホーム ページは自分で変更することができます。使用可能なオプションは、Adaptive Planning のどの領域に対するアクセス権限がユーザーに割り当てられているかによって異なります。<br><br>ダッシュボードのホーム ページについては、他のユーザーによって エリアが共有されている場合にのみ、"エリア" および "ダッシュボード" のプロンプトにオプションが表示されます。両方のプロンプトを空のままにすると、ダッシュボードの概要ページが自動的にホーム ページとして表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| マイ アバター | デフォルトでは、このページの "個人情報" セクションの " 氏名 :" フィールドの次の文字が含まれた画像が使用されます。<br>• 最初のテキスト文字列の最初の文字。<br>• 最後のテキスト文字列の最初の文字。<br>例:"名前" フィールドに、「Maria Teresa Parcia Rméz de Arroio」と入力します。アバターには、Maria の M と Arroio の A が入った画像が使用されます。<br>名前にスペースなしで文字列が 1 つしか含まれていない場合は、その文字列の最初の文字のみが使用されます。ローマ字に含まれない文字がサポートされています。<br>2 番目のラジオ ボタンを選択し、"ファイルの選択" を選択して 、アバターとして使用するカスタム プロファイル写真をアップロードします。 |
| 個人用 E メール グループ | レポートを送信する際、E メールの受信者を個別に選択する代わりに、ユーザーのグループにレポートを送信できます。グループの作成および変更時は、複数のアイテムを一度に選択できます。<br>例: 営業報告書を毎週役員に送信する場合は、報告書を送付すべき相手全員を含めた「営業報告書」というグループを作成します。 |

## Adaptive Planning 通知の表示

始める前に
ユーザー プロファイルで E メールが設定されていることを確認します。参照 Adaptive Planning のプロファイル、ホーム ページ、E メール グループの変更 ( 12ページ )

このタスクについて

Adaptive Planning によって自動的に生成される通知により、ユーザーはメッセージを表示、アーカイブ、アクションを実行できます。通知ページは E メールのインボックスのように機能します。

手順

1. ツールバーの通知ベルをクリックします。
   ベルのバッジは、未読メッセージの数を示します。最新の通知が一番上に表示されます。 通知リストでは、未読メッセージはドット付きで示されます。
2. 表示する通知を選択します。
   通知本文が中央のペインに表示されます。
3. (任意) 次の関連アクション メニューを参考にして、タスクを完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 未読としてマーク | 通知を未読としてマークすると、後でもう一度読むようリマインドするのに役立ちます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アーカイブ | 通知をアーカイブに移動して、インボックスをクリアします。 |
| インボックスに移動 | 通知をアーカイブからインボックスに移動します。 |

タスクの結果

例

次のタスク

## ダッシュボード内でのコラボレーション

始める前に

- 参照 ダッシュボードの操作（294ページ）。
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードにアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集 " 権限

このタスクについて

ダッシュボードのコメント機能を使用すると、プラットフォーム内でのリアルタイムのインタラクションと、データに基づいたより効率的な意思決定を行うことができます。ダッシュボード ウィジェットにコメントを直接追加し、同僚にタグを付けて、フィードバックやディスカッションをすぐに行うことができます。タグが設定されると、ユーザーは製品内通知と E メールを受信します。

タグ付けされたユーザーは、Adaptive Planning 通知が Slack と統合されている場合、以下を実行できます。

- Slack ですぐに通知を受けます。
- Slack メッセージをクリックし、そこから Adaptive に移動して、ダッシュボードの特定のチャット場所に移動します。そのためには Adaptive への口グインが必要になる場合があります。
- 元のコメントに対する返信。自身のコメントを編集する。他のユーザーをタグ付けする"保存"自分のコメントは削除できます。"ダッシュボードの編集" 権限を持つユーザーは、あらゆるユーザーの任意のコメントを削除できます。

タグ付けされたユーザーは、Adaptive Planning でもこれらの通知を受け取ります。

AP 通知と Slack とのインテグレーションについて説明している記事に x-ref を追加> を参照してください。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアをクリックして開くか、新しいエリアを作成します。エリアの作成を参照してください。
3. 分析したいウィジェットにマウスを合わせ、チャット アイコンをクリックする。
4. コメントを入力し、通知先のユーザーにタグを付けます。
5. (任意) すべてのコメントにアクセスするには、ダッシュボード エリアで "コメント" アイコンをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

6. (任意) コメント入力者がコメントを作成したときに表示された正確なデータを表示するには、コメント内の "フィルタ" アイコンを選択し、"適用"をクリックします。これにより、元のコメント入力者がダッシュボードのウィジェットに対してコメントを追加したときにダッシュボードに表示されていたフィルタと同じフィルタが表示されます。
7. (任意)。コメントを解決するには、ウィジェットの "スレッドの解決 " チェック マーク アイコンをクリックします。解決されたコメントは "コメント" スレッドに移動されます。"コメント" スレッドからコメントを直接解決することもできます。
   コメントを解決すると、チェック マーク アイコンが緑色に変わります。

タスクの結果

例

## 通知のアプリ接続の設定

始める前に

- Slack コラボレーション アプリへのアクセス。
- 管理者によって、Adaptive Planning インスタンスが Slack と統合されるように設定されました。参照 アプリとの通知インテグレーションの設定（1387ページ）。

このタスクについて

管理者は、Adaptive Planning 通知と Slack などのコラボレーション アプリを統合して、ユーザーがそのアプリで通知にアクセスして管理できるようにすることができます。

コラボレーション アプリとのインテグレーションは以下の理由で行われます。

- コミュニケーション、コラボレーション、効率を大幅に向上させる。
- より親近的で生産的な勤務環境を構築する。

管理者が Adaptive Planning 通知インテグレーションと Slack を統合した後、特定のステップを完了する必要があります。

手順

1. Adaptive Planning グローバル ツールバーで、 通知 アイコンをクリックします。
2. "通知の管理 " ページで "Connect for Slack" をクリックします。
   接続を完了するには、Slack のメッセージを確認するよう求められます。
3. Slack の "アプリ"で、"Workday Adaptive Planning"をクリックします。
   "Workday Adaptive Planning for Slack へようこそ" というメッセージが表示されます。
4. "Adaptive Planning アカウントを Slack に接続 " リンクをクリックします。Adaptive Planning のサインイン ページが表示されます。
5. 認証のために Adaptive Planning にサインインします。
   "通知の管理" ページに以下のいずれかが表示されます。
   - Slack に接続したことを示す成功メッセージ。
   - インテグレーションに失敗した場合は、エラー メッセージが表示されます。

     サインアウトしてから再びサインインしてみてください。また、Slack の E メールが、Adaptive Planning の "管理"にある "My プロファイル" ページにある E メールと一致することを確認します。

タスクの結果

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

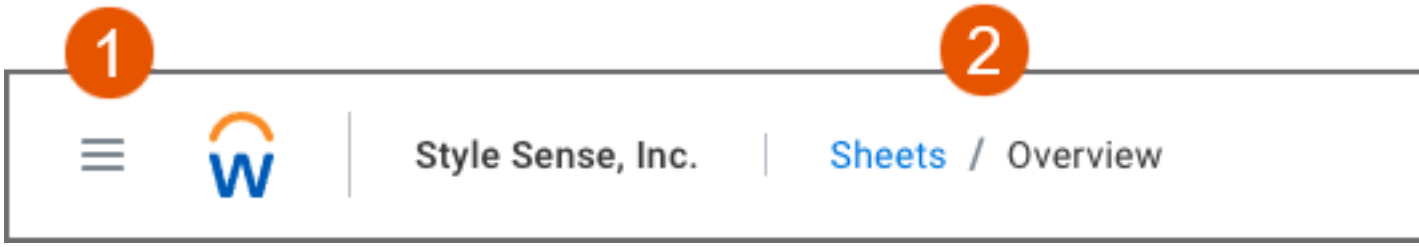
例

次のタスク

## 概念: ナビゲーションのクイック ツアー

ビデオを見るか、以下をお読みください。

上部のツールバー
モデル内のすべてのページの上部に同じツールバーが表示されます。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | メイン ナビゲーション メニューが開きます。ここからモデルのさまざまな領域にアクセスできます。 |
| 2 | リンクから元の場所に戻ります。たとえば、現在 P&L シートを表示している場合、"シート" をクリックすると、シートの概要に戻ります。 |
| 3 | バージョンを選択します。デフォルトのバージョンは管理者によって設定され、太字で表示されます。 |
| 4 | 状況に応じた製品ドキュメントのトピックが開きます。 |
| 5 | "通知" ページが開き、通知を表示および管理できます。 |
| 6 | プロファイル アバターのドロップダウン メニューが開きます。 |

メイン ナビゲーション メニュー
各ユーザーに与えられた権限に応じて、以下のメイン ナビゲーション メニュー オプションが表示されます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| シート | シート上のデータを表示、入力、更新します。シートを設定および管理するには、メイン ナビゲーション メニューから "モデリング" エリアにアクセスします。 |
| 前提条件 | ユーザー割当シート上のデータを表示、入力、更新します。前提条件シートを設定および管理するには、メイン ナビゲーション メニューから "モデリング" エリアにアクセスします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| レポート | モデルのデータを表示する Web レポートを作成、表示、共有します。 |
| ダッシュボード | グラフおよびシートを含むダッシュボードを表示、作成します。セールス プランニングのダッシュボード、グラフ、シートを変更します。 |
| シナリオ | 計画バージョンに基づく個人用シナリオを作成します。シナリオでは、変更をバージョンにマージする前に変更をテストできます。 |
| お知らせ | 管理者から共有されたレポートやその他の情報を表示します。 |
| 連結 | 複数の組織を持つ企業の内部取引消去を表示し、仕訳入力を作成します。 |
| プロセス | チーム内で連携して、割り当てられたプロセス タスクに基づいて計画サイクルを実行します。 |
| ワークフロー | 計画バージョンと実績内で組織を承認および却下します。 |
| 数式 | 選択した組織とバージョンの共有数式を管理します。 |
| 計画のパブリッシュ | Adaptive Planning から Workday 財務管理 (FINS) または Workday ヒューマン キャピタル マネジメント (HCM) に財務計画または人員計画をパブリッシュします。 |
| モデリング | 以下を含むモデルを設定、管理します。<br>• バージョンおよびカレンダー<br>• 組織、カスタム属性、および特性<br>• 科目<br>• シート<br>• 機械学習<br>• プランニング センター: 使用状況とパフォーマンスを監視できます。 |
| 管理 | 以下を管理します。<br>• ユーザーおよびユーザー グループ<br>• アクセスおよび権限セット<br>• SAML SSO 設定<br>• マルチインスタンス設定<br>• 一般的なシステム設定 |
| インテグレーション | 次のような外部データ ソースとのインテグレーションを管理、設定します。<br>• スプレッドシート<br>• データベース<br>• オンプレミス ソース<br>• クラウド ソース<br>データを手動でインポートまたはエクスポートします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| サポート | 製品ドキュメント、カスタマー サポート、およびトレーニングを通じて、製品フィードバックを提供し、製品サポートを受けることができます。 |

relatedlinks
概念
概念: シートのクイック ツアー（40ページ）
概念: ダッシュボード（296ページ）
概念: シナリオ（497ページ）
タスク
ステップ: 内部取引消去の設定（1245ページ）
プロセスとプロセス タスクの作成（505ページ）
仕訳入力の作成（1253ページ）
ステップ: ワークフローの使用（512ページ）
チェック設定のメトリック（722ページ）

## 概念: レポート作成と分析

Adaptive Planning でレポートを作成する準備をする際は、以下のオプションを評価して最適なレポート ツールを決定できます。

- Web レポートでは、次の操作ができます。
  - 特定のシナリオやエンド ユーザー向けの標準化されたビューをレビューするレポートをすばやく作成する。
  - 同じデータを安全な方法で操作し、共有する。
  - ドラッグ アンド ドロップで簡単に操作できるインターフェイスを使用します。
- OfficeConnect を使用すると、以下のことが可能になります。
  - Adaptive Planning データと Excel の機能を組み合わせ、詳細な書式設定を使用して複雑な数式を作成する。
  - レポートを簡単にリフレッシュして、常に最新のデータを反映できます。
  - Microsoft Word または PowerPoint にデータを取り込んで、他のグループに提供します。
- ダッシュボードでは、以下の操作ができます。
  - データの動的なビジュアライゼーションを作成します。
  - ダッシュボードでシートにデータを入力し、関連するすべてのグラフを更新します。

長さの比較

さまざまなレポート オプションの長所を比較して、自分に最適なレポート ツールを評価します。

| 機能 | Web レポート | OfficeConnect | ダッシュボード |
| --- | --- | --- | --- |
| Web ベース | はい | いいえ<br>最新の Adaptive Planning データへのリンク | はい |
| 選択パラメータとフィルタ | はい<br>パラメータとフィルタの両方 | はい<br>フィルタのみ | はい<br>フィルタのみ |
| ドリルダウン オプション | はい<br>• セルの探索 | はい<br>• セルの探索 | はい |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 機能 | Web レポート | OfficeConnect | ダッシュボード |
|---|---|---|---|
| | • 属性と特性によるドリル | • 展開および折り畳みのオプション | • シートとグラフの "セルを探索"<br>• 属性別のドリル |
| データのグラフィカルなビジュアライゼーション | いいえ | はい<br>Excel 機能の使用 | はい |
| Excel へエクスポート | はい | はい | いいえ |
| PDF へエクスポート | はい | はい<br>Excel 機能の使用 | はい |
| プロセス タスクで使用 | はい | いいえ | はい |
| 要素を積み上げたり配置したりする柔軟性 | いいえ<br>柔軟性に制限のあるグリッド状レイアウト | はい<br>グリッド状レイアウトにすることで柔軟性が向上 | はい |
| 形式設定 | いいえ<br>限られた書式設定オプション | はい<br>Excel の十分な書式設定機能 | はい<br>限定された書式設定 |
| 計算と数式 | はい<br>• 計算要素<br>• レポート固有の数式 | はい<br>Excel の完全な数式機能 | はい<br>グラフの計算 |
| 他のユーザーまたはグループと共有 | はい<br>Adaptive Planning のサインインおよび一定のナビゲーション経験が必要 | いいえ<br>ファイルのバージョン管理および共有がオフラインです。 Excel ファイルとして Adaptive 以外のユーザーと共有することができます。 | はい |
| アドホック レポート | いいえ<br>• レポート ビルダーでの要素階層の表示の管理<br>• レポート ビューアーでの親要素の展開または折り畳み | はい<br>• 要素の展開または折り畳み<br>• 要素をグループ化する<br>• 展開の要素を保持または削除する | いいえ |
| スナップショットの作成とスケジュール | スナップショットのみを作成 | いいえ | はい |
| 通知 | はい<br>レポート共有時に通知を送信する | いいえ | はい<br>スナップショットの共有時に通知を送信する |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: ダッシュボード（296ページ）
概念: OfficeConnect の仕組み（571ページ）
概念: Web レポート（156ページ）

### 概念: Adaptive Planning 内でのコラボレーション

Adaptive Planning では、ダッシュボードでアプリケーション内チャット機能を使用して以下のことができます。

- ダッシュボード ウィジェットで直接会話を開始したり、参加したりする。
- 特定のユーザーをコメントにタグ付けして質問や注意を促し、タグ付けされた個人への通知をトリガする。
- Adaptive Planning 通知内で、または Slack などの統合職場チャット アプリケーションを通じて、タグ付きコメントの通知を受け取る。
- 通知から Adaptive Planning 内の関連するコメントとデータ コンテキストに直接移動します。
- コメントに関連付けられたフィルタ アイコンを使用すると、ダッシュボードのフィルタが、コメントが最初に作成されたときに表示される正確なデータ ビューと一致するように自動的に調整されます。
- コメントの編集、コメントの並べ替え、コメント スレッドの削除を行うことができます。削除されたスレッドについては、タグ付けされたユーザーに通知されます。管理ユーザーは、全ユーザーのすべてのコメントを削除できます。

参照 ダッシュボード内でのコラボレーション（15ページ）。

ビジネスにおけるメリット

- Adaptive Planning 内で直接、状況に応じたディスカッションを行うことができるため、E メール、個別のチャット アプリケーション、スプレッドシートなど、複数の外部コミュニケーション方法を使用する必要がなくなります。
- 会話をダッシュボード ウィジェットに直接結び付けることで、データの配置と精度を高めます。フィルタ設定をコメントのコンテキストに自動的に整合させる機能は、誤った解釈を防ぎ、すべてのコラボレーターが同じデータを表示するようにするのに役立ちます。
- 機密性の高い Planning データに関するディスカッションが、Adaptive Planning で設定されたユーザー アクセス フレームワーク内で安全に行われるため、データのセキュリティとコンプライアンスが強化されます。
- データがある場所で、質問や不一致を直接、的を絞ったコミュニケーションで迅速に解決することができるため、意思決定の迅速化を促進します。

## Adaptive Planning 管理の開始

### ステップ: Adaptive Planning モデルの設定

始める前に

サインイン認証情報を持つ Adaptive Planning インスタンスを受け取ります。

このタスクについて

Adaptive Planning モデルは、以下に対して機能します。

- ファイナンシャル プランニング
- セールス プランニング
- ワークフォース プランニング

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Adaptive Planning の各データ ポイントは、属性の交差部分に対応しています。すべての Adaptive Planning インスタンスで、以下の属性を利用できます。

- 期間: 1 月から 12 月までのカレンダーに基づく月、四半期、年
- バージョン: 実績バージョン 1 つと計画バージョン 1 つ。過去のデータには実績バージョンを使用します。実績サブバージョンを作成して、実績データをスライスしたり、仕訳入力を使用したりできます。将来のデータには計画バージョンを使用します。例: 予算、what-if シナリオ、予測。計画バージョンは必要な数だけ作成できます。
- 科目: 標準的な科目コードが設定された標準的な総勘定元帳科目。さらに、総勘定元帳の作成も可能です。総勘定元帳外でメトリックや前提条件を作成し、カスタム科目を作成することもできます。
- 組織: 会社を表す単一の最上位組織。ビジネス ニーズに応じて組織階層を作成できます。一般に、組織は企業の組織構造を模倣しています。例: コスト センター、部門、子会社。

また、モデルにカスタム属性や特性を追加することもできます。カスタム属性を追加すると、データの交差部分に追加の座標が表示されます。特性は属性と関連データをグループ化します。レポートおよび数式で特性グループを参照できます。

API とインテグレーション ローダを使用してモデルを作成することもできます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
   "モデリング" ページから、モデルの作成に必要なすべてのリンクにアクセスします。
   各ステップの完了後は、ブレッドクラムを使用して "モデリング" に戻ることができます。
2. (任意) "時間" をクリックします。
   構造に時間層を追加し、カレンダーを延長して、実際の構造とは異なる時間合計を作成します。
   次を参照してください。
   - 代替カレンダーの追加 ( 783ページ ) .
   - カレンダーへの期間の追加 ( 785ページ ) .
   - カレンダー構造の変更 ( 780ページ ) .
3. (任意) 計画バージョンの作成 ( 797ページ ) 。
   "バージョン" をクリックして、新しい計画バージョンを作成するか、計画の設定を管理します。新しい実績サブバージョンを作成することもできます。
4. (任意) "組織" をクリックします。
   組織階層を作成します。
   参照 ステップ: 組織の作成 ( 846ページ ) 。
5. (任意) カスタム属性の作成 ( 970ページ ) 。
   独自のビジネス ニーズをサポートするために追加の属性を作成し、値を作成します。
6. (任意) 特性の作成 ( 1002ページ ) 。
   特性を使用し、組織、科目、および任意のカスタム属性に特性値をタグ付けします。例: 製品属性値に製品グループ特性をタグ付けする場合。
7. (任意) 科目の作成 ( 863ページ ) 。
8. (任意) 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更 ( 869ページ ) 。
   数式は他の属性および科目を参照し、組織やバージョン全体で科目のデータを計算します。科目設定で数式を追加します。
   シートからは、算出科目は読み取り専用です。ユーザーは関連データを変更し、計算がリアルタイムで更新されるのを確認できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

9. (任意) 共有数式を作成する（1180ページ）。
   共有数式は、特定の組織およびバージョンの科目のデータを計算します。
   シートからでも、ユーザーは特定のセルの数式を編集するか、数式を使用する代わりに値を入力できます。
10. 標準シートを作成します。
    総勘定元帳、カスタム、メトリック、および前提条件科目を標準シートに追加します。
    参照 ステップ: 標準シートの作成（1032ページ）。
11. (任意) モデル シートを作成します。
    モデル シートには独自の科目階層があります。
    これらには、モデル科目の計算を実行するレコードが含まれます。
    参照 ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）。
12. (任意) キューブ シートを作成します。
    キューブ シートごとにキューブ科目階層を作成し、計画中に複数の属性を介してシートをピボットできるようにします。
    参照 ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）。
13. (任意) キューブ シートに総勘定元帳科目およびカスタム科目を追加します。
    総勘定元帳科目とカスタム科目をキューブ シートに追加して、標準科目の計画に属性と特性を使用します。
    参照 キューブ シートへの総勘定元帳科目およびカスタム科目の追加（1094ページ）。
14. (任意) キューブ シートおよびモデル シートのデータを標準科目にリンクします。
    モデル シートおよびキューブ シートで収集した属性とデータを総勘定元帳またはカスタム科目に取り込みます。
    参照 科目へのリンクの追加（908ページ）。
15. データをモデルに取り込みます。
    シートにデータを入力するか、インテグレーションを介してデータをロードします。
    次を参照してください。
    - シートを開く（35ページ）.
    - Planning データ ローダの作成（1744ページ）.

次のタスク

メイン メニューから以下を選択します。

- アドホック レポートを作成および共有する場合は "レポート"
- データをビジュアル グラフに変換する場合は "ダッシュボード"

OfficeConnect を使用して Microsoft Excel、PowerPoint、Word にデータをストリーミングすることもできます。

プランニング センター を使用して、モデルのパフォーマンスと使用状況を定期的に監視します。次を参照してください。

- チェック設定のメトリック（722ページ）.
- レポート メトリックの確認（727ページ）.
- シート メトリックのチェック（725ページ）.

relatedlinks
概念
概念: モデル設計のベスト プラクティス（731ページ）
概念: 実績バージョン（836ページ）
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
概念: データをインポート（2067ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

概念: シート（37ページ）
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）
ステップ: ダッシュボードの設定（292ページ）

## ステップ: 営業向け地域プランニングの設定

### このタスクについて

地域プランニングは、営業チームに公正かつバランスの取れた営業機会をもたらす上で役立ちます。地域プランニングは、能力とノルマの計画と組み合わせて使用することをお勧めします。地域プランニングは、次の目的で使用できます。

- その地域が、営業担当者のノルマの達成および営業範囲のカバーに最適な規模であることを確認する。
- 未開拓の営業機会がある未対応地域を特定する。

### 手順

1. カスタム属性の作成（970ページ）.
   地域階層のカスタム属性を作成します。
   地域の割り当てに必要なカスタム属性を作成できます。例:
   - 地区
   - 地方
   - 地域
2. カスタム属性の作成（970ページ）.
   営業組織階層のカスタム属性を作成します。
   例:
   - 地域担当 VP
   - シニア VP
   - 営業担当者
3. 顧客関係管理 (CRM) モデル シートを作成します。
   Adaptive Planning CRM モデル シートを使用して、計画用の営業データを保存できます。例:
   - 顧客の年間経常収益
   - TAM (市場規模)
   - 成約

   階層のカスタム属性と営業組織属性をシートに追加します。次に、CRM からデータをインポートします。
   参照 例: セールス プランニングに向けた CRM データのモデル シートの作成（1088ページ）。
4. 販売名簿モデル シートを作成します。
   営業組織の関係を記録して、営業組織のロールアップ方法を表示します。
   参照 ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）。
5. 地区および地方の属性値を地域の属性値にマッピングするためのルールを設定します。
   地域ルールに従って、販売科目データが正しい地域に自動的に割り当てられます。
   参照 例: 属性マッピングを使用した地域ルールの設定（1001ページ）。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

6. 地域階層のキューブ シートを作成します。
   地域属性を列に追加し、CRM モデル シートにリンクされたキューブ科目を行に追加します。 ゼロや空白になる行はすべて非表示にするようにしてください。
   このキューブ シートは、地域の関係を示します。
   参照 ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）。
7. ダッシュボードの作成対象 地方、地区、地域の分割
   参照 ダッシュボードの作成（301ページ）。

relatedlinks
タスク
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）
ステップ: セールス プランニングに向けた CRM データのモデル シートの作成
ステップ: 派生属性の設定（995ページ）
参考
参考: セールス プランニング ソリューションへのリンク（1295ページ）
例
例: 地域プランニング ソリューション（311ページ）

## 概念: セキュリティ

インスタンスでは、2 つのセキュリティ構造のいずれかを使って、ユーザーまたはグループが表示、編集できるデータの特定の交差部分を定義しています。

- ユーザーが自身が担当する組織のデータのみを表示できる組織ベースのセキュリティ構造。"管理" でユーザーのプロファイルを作成する際、ユーザーに組織を割り当てます。
- ルールベースのセキュリティ構造にアクセスして、ユーザーまたはグループに割り当てることができる一連のルールを定義します。

採用するセキュリティ構造に関係なく、データのセキュリティを保護する方法がいくつかあります。こうした方法はそれぞれが他の方法に依拠するものであり、場合によっては他の方法をオーバーライドすることがあります。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 認証情報 | ユーザーに ID とパスワードを提供します。 |
| 権限 | Adaptive Planning ユーザーが表示またはアクセスできる領域、セクション、サービスを管理します。 |
| アクセス ルール | ルールによって、ユーザーが表示または変更できるデータを制限します。 |
| 組織設定 | "組織の使用可否" 設定を使って、特定のバージョンで組織とそのデータを表示するようにします。 |
| バージョン設定 | バージョン設定の "アクセス制御" セクションを使って、バージョン全体を非表示にするかロック、またはバージョンの一部をロックします。 |
| 科目設定 | 次の設定を使って、科目へのアクセスを制御します。<br>• データ プライバシー<br>• "給与の詳細" フラグ |
| シートのプロパティ | 以下のプロパティを使って、シートへのアクセスを制御します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • シートを読み取り専用に設定します。<br>• シートをサブレベルで非表示にします。<br>• 特定の交差部分へのアクセスをブロックするキューブ制限を追加します。<br>• 給与の詳細としてフラグを設定します。 |

relatedlinks
概念
概念: セキュリティ構造（1403ページ）
タスク
ステップ: アクセス ルール セキュリティの設定（1397ページ）
ステップ: 組織ベースのセキュリティの設定（1400ページ）

## 概念: インテリジェント プランニング

インテリジェント プランニングでは、機械学習テクノロジーを活用してより正確な計画を作成できます。Adaptive Planning には、次の 2 つのインテリジェント プランニング機能があります。

- 異常検出: 機械学習データを使用して専用の予測バージョンを生成します。選択すると、モデル シートで定義した範囲外の計画バージョンのデータ ポイントがハイライトされます。
- Predictive Forecaster: 特定のバージョン、シート、科目、期間に予測データを生成します。参照データ、退役軍人、季節性を定義できます。異なるアルゴリズムを選択することもできます。

relatedlinks
概念
ステップ: 異常検出の設定
機械学習予測の作成
概念: Predictive Forecaster
タスク
FAQ: Predictive Forecaster
FAQ: インテリジェント プランニング
ステップ: 異常検出の設定（734ページ）

## 概念: セールス プランニング

セールス プランニングは、販売計画を立てるために Adaptive Planning でサポートされているユース ケースの 1 つです。

セールス プランニングは、連携して機能する 2 つの機能で構成されています。

- 能力とノルマの計画
- 地域プランニング

セールス プランニングでは、主にダッシュボードを使用して計画と分析を行います。セールス プランニング サイクル全体を通して、ダッシュボードからシートを調整できます。グラフは動的に更新されるため、変更によって販売計画にどのような影響が生じるのかを確認できます。

### 能力とノルマの計画

能力とノルマの計画は、計画した販売目標を達成するのに十分な営業リソースを確保する上で役立ちます。販売計画に特化したグラフは、人材配置を調整してテストし、人材配置目標を達成させるのに役立ちます。

通常、能力とノルマの計画には次のような計画が含まれます。

- 季節性: 営業チームの年間パフォーマンス サイクル

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 人員強化: 新しい営業担当者がパフォーマンスを最大限に発揮するためのプロセス
- ノルマ達成: 計画した販売目標の達成度
- 生産性: 販売ノルマの未達または超過達成を示す指標

能力とノルマの計画を使用することで、ダッシュボードで計画を表示できます。ダッシュボードから、採用と人材配置のシナリオを調整してテストできます。

地域プランニング

地域プランニングは、営業チームに公正かつバランスの取れた営業オポチュニティをもたらす上で役立ちます。地域プランニングによって、営業担当者に適切な地域が割り当てられるようにします。営業担当者のノルマに対して、地域の規模は十分でしょうか？逆に、担当者が十分対応できる規模でしょうか？また、未対応の地域の検出も可能なため、収益を上げるチャンスを見逃さないようにする上で有効です。

通常、地域プランニングには次のような計画が含まれます。

- 営業担当者のヘッドカウントの変更
- 売上ノルマの調整
- 地理または業種をまたぐ営業担当者の再分配
- 地域を構成する地理的階層の変更
- 新規採用人員強化の加速 (新しい営業担当者が責任のある業務を担当できるようになるまでの期間を短縮する)

セールス プランニング バージョン

セールス プランニングのバージョンはシナリオのように機能します。ダッシュボードおよびシートに表示されるバージョン プロンプトから、異なるバージョンを選択できます。

セールス プランニング ダッシュボード

ユーザーが使用するダッシュボードとエリアには、各会社固有の営業ワークフローと業務が反映されます。

エリアは少なくとも 2 つ設けることを推奨します。1 つは能力とノルマの計画用、もう 1 つは地域プランニング用です。それぞれ、さまざまなグラフが入ったダッシュボードを含むエリアを作成できます。ダッシュボードをタブで整理し、計画プロセスの 1 つの過程を一度に完了できるようにします。それぞれのタブにアクセスして既存のデータを分析し、個々のシートやグラフを調整できます。変更を終えたら、各ダッシュボードの結果がどのように変わるかを分析します。

relatedlinks
概念
概念: 能力とノルマの計画の推奨ダッシュボード
タスク
ステップ: セールス プランニングに向けた CRM データのモデル シートの作成
参考
参考: セールス プランニング ソリューションへのリンク

## 概念: HCM を使用したワークフォース プランニング

ワークフォース プランニングは、必要な職務を遂行するための適切なスキルを備えた適格な人材の確保に役立ちます。Workday Adaptive Planning では、さまざまな方法で従業員計画を立てることができます。

- ファイナンシャル プランニング インスタンスの従業員シート
- Workday ヒューマン キャピタル マネジメント (HCM) と併用する、ファンデーション モデルを備えた個別のワークフォース プランニング インスタンス
- カスタマー サクセス マネージャで検索できるその他のオプション

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

従業員シート

- 従業員のデータの追跡と計画に使用できるモデル シートです。
- ファイナンシャル プランニング インスタンスが必須です。
- このシートのデータがファイナンシャル プランニング モデルの他のシートに入力されます。
- 従業員が財務に及ぼす影響を把握するのに最適です。

**HCM** を使用したワークフォース プランニング

- ファイナンシャル プランニングとは別のテナントです。ワークフォース プランニング テナントを利用するのに、ファイナンシャル プランニング テナントは必要ありません。
- HCM は必須です。
- HCM に向けた Adaptive Planning の設定が必須です。
- HCM データおよびメタデータと同期するための、インテグレーション ローダと属性を備えた事前構築済みのファンデーション モデルが含まれています。
- Adaptive Planning のシートやレポートから HCM のデータやオブジェクトにドリルダウンできます。
- 計画から収集したデータをパブリッシュして、HCM でポジションや職務補充依頼を作成できます。
- インテグレーション タスクをスケジュールして、更新済みの HCM データを継続的に Adaptive Planning に送信できます。
- Workday で "Workforce Planning 設定の管理" タスクを提供し、Adaptive Planning データ、メタデータ、モデル シートを自動的に生成してロードします。

ワークフォース プランニングのファンデーション モデル

ワークフォース プランニングのファンデーション モデルには、別個のワークフォース プランニング テナントが含まれています。ワークフォース プランニング テナントには以下が含まれます。

- Workday Customer Central のカスタム レポート: ワークフォース プランニング モデルへの入力に必要なすべての Workday HCM データとメタデータを保持します。
- カスタム属性: カスタム レポートの Workday 属性と合致します。
- Adaptive Planning の "インテグレーション設定" における Workday 認証情報: Adaptive Planning を HCM に接続します。
- Adaptive Planning の "インテグレーション設定" における Workday データ ソースおよびローダ: カスタム レポートの HCM データおよび属性値をモデルにロードします。
- 事前構築済みシート: ロードされたデータを使用した要員計画をサポートするよう設定されています。

注 : ワークフォース プランニング モデルの構造に変更を加えると、基盤となるロジックが壊れる場合があります。

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning からの計画のパブリッシュ（1288ページ）
概念: ドリルダウンとドリルスルー（100ページ）
タスク
ステップ: Adaptive Planning からのワークフォース プランニング アクションのパブリッシュ
参考
参考: ワークフォース プランニング向け事前構築済シート（57ページ）
参考: ワークフォース ファンデーション モデル（1290ページ）
ワークフォース プランニングのステージング テーブルおよびローダ（1777ページ）
参考: データとメタデータを Adaptive Planning にインポートするレポート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### 参考: 地域認証 URL

デフォルトでは、すべての Workday テナントは、米国ベースの認証サービスを使用します。テナントで、米国以外の地域の認証サービスを使用している場合があります。地域認証では以下を実行できます。

- ローカル データの常駐要件をサポートする。
- 地域のメンテナンス ウィンドウに対応する。

サインイン URL をキーとして使用することで、地域を決定できます。 テナントが地域の認証を使用している場合、Adaptive Planning の次の機能にアクセスするための URL は地域によって異なります。

- Adaptive Planning のログイン
- API
- データ インテグレーション
- OfficeConnect と EIP

Adaptive Planning のスケジュールされたメンテナンスについては、Workday Adaptive Planning - Americas Scheduled Maintenanceを参照してください。

シンガポール **1**

| 機能 | URL 形式 |
|---|---|
| Adaptive Planning のサインイン | sglogin.adaptiveplanning.com |
| API | sgapi.adaptiveplanning.com |
| データ エージェント | sgsignin.adaptiveplanning.com |

シンガポール **2**

| 機能 | URL 形式 |
|---|---|
| Adaptive Planning のサインイン | login003.adaptiveplanning.com |
| API | api003.adaptiveplanning.com |
| データ エージェント | signin003.adaptiveplanning.com |
| OfficeConnect と EIP | • API endpoint URL (PlanningApiUrl): api003.adaptiveinsights.com<br>• Authorization endpoint URL (PlanningAuthorizationUrl): login003.adaptiveinsights.com |

# Workday ドキュメントの基本情報

## Workday ドキュメントの使用方法

Workday ドキュメントへようこそ。Chrome (Windows 版または macOS 版) を使用することをお勧めします。他のブラウザでは一部の機能が正常に動作しません。

以下の対象者向けに、製品領域別にガイドのドキュメントが提供されます。

- 管理者: リリースの計画と、Workday 製品の設定、実装、使用方法。このコンテンツは製品固有のガイドで提供されます。閲覧するには ログイン が必要です。
- ユーザー: Adaptive Planning、ストラテジック ソーシング、Peakon Employee Voice などの使用方法。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 開発者: Workday Extend と API リソースへのアクセス。このコンテンツの中には、ログインする必要があるものもあります。

注 : 給与計算の控除の設定など、社員としての個人的なタスクへの Workday の使用方法について質問がある場合は、雇用主のガイドラインを相談するか、Workday 管理者に問い合わせてください。

"ホーム" ページでクイック リンクと概要ビデオを表示し、"ガイド" ページから Workday の製品およびプラットフォームの情報にアクセスすることができます。

Workday ドキュメント サイトでは、以下の機能を提供しています。

| 機能 | 機能の説明 |
| --- | --- |
| ナビゲーション | • Workday ロゴまたはヘッダーの "Workday ドキュメント" をクリックするか、メニューから "ホーム" をクリックしてドキュメント ホームページにアクセスします。<br>• "ガイド" のコンテンツでブックのセクションにドリルインするには、テキスト自体ではなく、テキストの横にあるキャレット アイコンを選択します。例: ヒューマン キャピタル マネジメント ブックの目次で、"従業員情報" の横にあるキャレット アイコンを選択して、次のセクション レベルに移動します。<br>• 特に検索結果からトピックに移動した後は、トピック タイトルの上にブレッドクラムを使用して、ドキュメント内で自分自身の整理を行うことができます。<br>• 各トピックの下部にある前のトピックと次のトピックのリンクをクリックして、ブック内を移動する。<br>• 一部の Workday ガイドでは、コンテンツを表示するためにログイン認証情報が必要です。これらのガイドのいずれかへのリンクをクリックすると、ログインを要求するプロンプトが表示されます。アクセス権については、HR 管理者または IT 管理者にお問い合わせください。 |
| 製品 | "ガイド" ページのコンテンツは製品領域別に編成されています。 |
| トピック タイプ | ほとんどのコンテンツは、以下のトピック タイプ内で提供されます。<br>• 設定の考慮事項: 設定オプションを評価したり、機能の設定に必要な作業を計画するために使用する製品または機能の概要。<br>• タスク: 製品または機能の設定および使用方法。<br>概念: タスクを完了するために知っておく必要がある背景情報。<br>• 参考: Workday の使用をサポートする参考資料。<br>• 例: Workday で特定の目標を達成するための詳細な手順。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 機能 | 機能の説明 |
| --- | --- |
| | • FAQ: Workday Community、カスタマー サポート ケースなどから頻繁に寄せられる質問に対する回答。<br>• トラブルシューティング: 製品または機能に関する問題、考えられる原因、およびその解決方法についての説明。<br>• ユース ケース: 図またはビデオを用いて複雑なプロセスやタスクについて説明します。 |
| 検索とフィルタ | • すべてのパブリケーションを完全一致の語句、ワイルドカード、または演算子で検索する。<br>• ファセットを使用して検索結果を絞り込む。<br>• コンテンツの詳しい検索方法は、 情報の検索を参照してください。 |
| 多言語 | ドキュメント ホーム ページの上部にある地球アイコンを選択して、優先言語でコンテンツを表示できます。<br>ホーム ページまたはガイド ページでは、翻訳されたコンテンツ用のリンクの横に地球アイコンが表示されます (混合言語の経験がある場合)。<br>さまざまな言語で検索することもできます。 |
| ダウンロードと印刷 | コンテンツは以下のいずれかの方法でダウンロード、印刷できます。<br>• トピックの上部にある "PDF をダウンロード" をクリックして、トピックが含まれているブック全体をダウンロードする。ダウンロードしたファイルからすべてまたは特定のトピックを印刷する。<br>• ブラウザの機能を使用して、個別のトピックを PDF 形式でダウンロードまたは印刷します。 |
| リンク | • トピックの最後にある "関連情報" セクションに、追加情報のリンクが含まれている。<br>• ブック間のリンクをクリックすると、別のブックにあるコンテンツが表示される。<br>• 外部リンク アイコン (青いボックスに白抜きの矢印) の付いたリンクをクリックすると、Workday 管理者ガイド外のコンテンツが表示される。 |
| フィードバックの送信 | • トピックの下部にある "この情報はお役に立ちましたか？" プロンプトに回答することで、Workday のドキュメント チームに直接フィードバックを送信する。<br>• 推奨: フィードバックまたはクエリーの回答を受け取れるように、フィードバックの詳細、氏名、E メール アドレスを入力する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 機能 | 機能の説明 |
| --- | --- |
| 用語集 | すべてのブックの完全な用語集にアクセスして、Workday 固有の用語を確認する。 |

## 情報の検索

Workday Documentation AI によって生成された検索結果を使用して、ガイドとリリース センターのコンテンツを検索できます。検索結果には、概念、タスク、その他の情報のサマリが、サマリの下にある参照リンクから提供されます。AI 生成の検索のオンとオフを切り替えたり、結果についてフィードバックを入力したりすることができます。

Workday Community の AI 生成の検索を使用することもできます。結果には、Workday が作成した Workday コンテンツ (ナレッジ ベースの記事、研修資料など) のほか、Workday ガイド、ヘルプ センター、リリース センターのコンテンツも含まれます。結果には、ディスカッションや質問、回答、ユーザー グループの投稿、提供されているソリューション、アイデア、トレーニングは含まれません。

以下の検索オプションを使用できます Workday ドキュメント内の関連情報を検索するには:

- 優先言語での検索 (使用可能な場合)
- 完全一致の検索語。
- 完全一致の語句の検索。
- ワイルドカードを使用した検索。
- 比較演算子とブール演算子を使用した検索。
- ファセットを使用した検索結果の絞り込み

単語の完全一致検索

| 検索クエリー | 例 |
| --- | --- |
| 目的の単語の前に "+" 記号を使用して、完全一致を検索する。 | 「+performance」と検索すると、その単語に完全に一致するトピックのみが結果に含まれます。「performed」や「performing」などのバリエーションを含むトピックは結果から除外されます。 |
| 完全一致の単語と通常の単語を同じクエリーで組み合わせる。 | 「employee +performance engineering」を検索すると、結果には「employee」と「engineering」のバリエーションを持つトピックが含まれますが、「performance」については完全に一致するトピックのみが含まれます。 「performed」や「performing」などの「performance」のバリエーションを含むトピックは、結果から除外されます。 |

注 :

- 大文字と小文字は区別されません
- アクセント記号付きの文字の場合は、区別されます。 フランス語やスペイン語など、アクセント記号を使用する言語を検索する場合は、完全一致の単語と通常の単語を組み合わせて検索できます。
- シャープ記号 (#) は、プラス記号 (+) と同じ効果があります。
- 同じ検索クエリー内で ワイルドカード 文字 (* と ?) と完全一致語 (+) を組み合わせることはできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

語句の完全一致検索

| 検索クエリー | 例 |
| --- | --- |
| 引用符を使用して、完全一致の語句を検索する。 | "職務の変更ビジネス プロセス" |
| 引用符内の検索語と引用符外の他の検索語を組み合わせる。 | 「setup "time tracking"」を検索する場合、検索結果には、単語「setup」と語句「time tracking」を含むトピックが含まれます。 「time」と「tracking」を別々に含むトピックは、検索結果に含まれません。 |
| キーワード間で以下の連続演算子のいずれかを使用して、連続する出現箇所のみを検索する。以下の文字はすべて同じ効果を持つ。<br>• ( )<br>• .:'<br>• / \<br>• _- | 「*tax_form Canada_Revenue_Agency*」 の検索は、*"tax Form" "Canada Revenue Agency"*と同じです。 |

ワイルドカードを使用した検索

ワイルドカード文字 (* および ?) を使用すれば、検索のバリエーションが広がります。 ワイルドカードは、正確なスペルがわからない場合や、機能に慣れていない場合に役立ちます。

| 検索クエリー | 例 |
| --- | --- |
| 目的の単語の最後にアスタリスク (*) を使用して、その単語で始まる言葉を検索する。 | 「micro*」と検索すると、「Microsoft」、「microphone」、「microprocessor」などの単語が結果に含まれます。 |
| 疑問符 (?) を単語の最後または単語内で使用して、疑問符の場所に任意の文字を含む言葉を検索する。 | 「gr?y」と検索すると、「grey」や「gray」などの単語が結果に含まれます。 |

注 :

- 用語の途中にアスタリスク (*) を入れることはできません。代わりに疑問符 (?) を使用してください。
- ワイルドカードの前に少なくとも 2 文字含める必要があります。つまり、検索クエリーをワイルドカードから始めることはできません。
- 検索結果には、アルファベット順で見つかった最初の 32 件のワイルドカードの単語のみがデフォルトで含まれます。結果の最大数を増やすと、パフォーマンスの問題の原因になる場合があります。

比較演算子とブール演算子を使用した検索

検索クエリーで演算子を使用して、結果を絞り込むことができます。

| 演算子 | タイプ | 検索クエリーの例 | 結果 |
| --- | --- | --- | --- |
| = | 比較 | *@title=tax* | タイトルに「tax」を含むトピック |
| == | 比較 | *@title=="Enterprise Search"* | 「Enterprise Search」が正確なタイトルであるトピックのみ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 演算子 | タイプ | 検索クエリーの例 | 結果 |
|---|---|---|---|
| <> | 比較 | *@title <> "Enterprise Search"* | タイトル フィールドが定義されていて、タイトルに「Enterprise Search」が含まれないトピック |
| AND | ブール値 | *expense AND report* | 「expense」と「report」の両方を含むトピック |
| OR | ブール値 | *expense OR report* | 「expense」または「report」のいずれかを含むトピック |
| NOT | ブール値 | *expense NOT report* | 「expense」を含み、「report」を含まないトピック |
| NEAR:[number] | ブール値 | *expense NEAR:5 report* | 「expense」と「expense」の間にある単語が 5 個以内のトピック |

注 : ブール演算子では大文字と小文字が区別されます。演算子を小文字で記述すると、Workday では通常の検索語として扱われます。

検索結果のフィルタ

以下のファセットを使用して、検索結果をフィルタリングできます。

- 出版物: 特定の出版物のコンテンツを検索するために使用します。
- 製品: 特定の Workday サービスに関連付けられているコンテンツを検索するために使用します。
- Workday の使用: 製品内の機能別にさらにフィルタリングするために使用します。

Workday では、ファセットを使用するたびに結果が更新されます。 以下が可能です。

- ファセットを使用すると、検索ボックスに単語を入力せずに検索できます。
- 検索語を入力せずに、検索バーの虫眼鏡をクリックし、該当するファセットを選択します。

## ビデオ: Workday ドキュメントの概要

このビデオでは、Workday ドキュメントの使用方法を理解できます。 表示する際に最適な状態にするために、ビデオを全画面に拡大することをお勧めします。

## その他のリソース

Workday ガイドとリリース センターで提供されている情報に加えて、以下のリソースが役立つ場合があります。

| リソース | 説明 |
|---|---|
| ケース管理 | Workday のケース管理システム。指定のサポート連絡先は、このページを使用して一般的な問い合わせを行い、ケースを記録できます。 |
| トレーニング サポート | 研修のリクエストと購入に関する情報。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| リソース | 説明 |
| --- | --- |
| Implementation Partners | プロフェッショナル サービス パートナーのリスト。 |
| リリース センター | 機能、テスト、導入計画、その他のリリース情報に関するリリース ノートとその他のリソース。 |
| Tenant Refreshing | テナントのリフレッシュ プロセスに関する情報。サンドボックス リフレッシュの除外については、こちらをクリックしてください。 |
| Workday Touchpoints Kit | Workday Touchpoints Kit の概要。このキットへのアクセス方法とキットの活用方法に関する情報が含まれます。 |

### Workday ドキュメントについて教えてください

Workday ドキュメントをご利用のお客様から、ご感想をお聞かせください。この記事では、ご意見を共有するために私たちとつながることができる複数の方法について説明します。

参加する

Workday はユーザーのコンテンツ エクスペリエンスを向上させる方法を常に探しています。Workday 機能の設定と 構成 を支援するために公開されているコンテンツについては、設定および使用方法のリソースを参照してください。次の方法でフィードバックを共有してください:

- Workday コンテンツ クルーの ユーザー グループに参加する。Workday ドキュメントの使用方法に関するデモをホストし、共有することで、機能リリースの準備に役立てます。ドキュメントの変更を検討する際、ユーザー グループのプリファレンスについてフィードバックが要請されます。最後に、コンテンツ チームは、Workday のドキュメント リソースや、ドキュメント リソースをどのように使用して日々の業務を支援するかについて、同僚と協力するのに最適なフォーラムです。
- doc.feedback@workday.com までメールを送信して、お客様の懸念や考えていることを知らせてください。
- Workday ドキュメント サイトから特定のトピックに関連したフィードバックを送信する。各トピックでは、詳細なフィードバックを送信できます。
- AI によって生成された検索サマリと結果についてのフィードバックを送信し、その関連性と有用性に関するフィードバックを送信する。

簡単にアクセスできるように、"doc.workday.com" をブックマークすることをお勧めします。パートナーになっていただきありがとうございます。

### 機械翻訳の免責事項

本サイトの一部のコンテンツは機械翻訳で翻訳されたものです。機械翻訳された内容は必ずしも正確ではあるとは限りません。正規のバージョンはこれらのコンテンツの英語版です。機械翻訳によって生じた不整合や相違点に法的拘束力および法的効力はありません。

# シート

## シートを開く

始める前に

セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

シートを使用すると、データを表示、入力、変更できます。管理者による計画プロセスの編成方法に応じて、モデルのさまざまな領域で同じシートにアクセスできます。

例: 管理者から、コスト センターの経費を基に費用シートを編集するプロセス タスクが割り当てられたとします。プロセス タスクを使用することで、期日の割り当てや、計画の全体的な進捗状況の追跡も可能になります。

以下を開くためのアクセス権が付与されている可能性があります。

- 組織割当シート。これらのシートには組織の多くの部門のデータを一度に含めることができますが、アクセスできるのは自分の組織のデータのみです。
- 前提条件シート。ユーザー割当シートとも呼ばれます。これらのシートには、ユーザーがアクセスできる組織以外のデータが含まれている可能性があるため、管理者はユーザーに個別に割り当てます。

手順

1. シートにアクセスするには、メイン メニューから以下のオプションのいずれかを選択します。
    - シート: 組織割当シートまたは前提条件シートを開きます。左側のパネルを展開し、前提条件シートと組織割当シートを切り替えます。
    - 前提条件: 前提条件シートを開きます。左側のパネルを展開し、前提条件シートと組織割当シートを切り替えます。
    - プロセス: ユーザー割当の標準プロセス タスクから、組織割当シートまたは前提条件シートを開きます。プロセスを選択し、シートが添付されたタスクを開きます。

      セキュリティ: "プロセス トラッカーへのアクセス" 権限。
    - ダッシュボード: ダッシュボード上のシートから組織割当シートまたは前提条件シートを開きます。エリアを開き、シートのあるダッシュボードを選択します。(任意) ツールバーに簡単にアクセスできるように、シートを展開します。

      セキュリティ:

        - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
        - "ダッシュボードの編集" 権限 (ダッシュボードにシートを追加するため)
2. (任意) "シート" および "前提条件" メニューから開いたシートから、そのメニューにリストされている他のシートに以下の方法で移動します。
    a. Ctrl+Alt を押したままにします。
    b. "]" を押してシートのリスト内を先に進むか、"[" を押して戻ります。
    c. キーを離して、強調表示されたシートを開きます。

    注 : シートが見つからない場合は、"組織" プロンプトから選択した組織を確認します。組織割当シートの場合、選択した組織に割り当てられたシートのみがリストに表示されます。

relatedlinks
例
トラブルシューティング: メイン メニューに前提条件が表示されない ( 61ページ )

## 例: キューブ シートまたはモデル シートでの属性値の追加または名前の変更

このシナリオでは、以下のシート上で属性値を追加または名称変更する方法について説明します。

- "製品収益" キューブ シート
- "マーケティング" モデル シート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

このタスクについて

管理者は、"製品収益" キューブ シートまたは "マーケティング" モデル シートで属性の変更が有効になるよう設定しています。両方のシートに "製品" カスタム属性が含まれます。"製品" 属性に次のような変更を加えたいと考えています。

- "ジャケット" を属性値として追加する。
- "タンク トップ" 属性値の名前を "ノースリーブ" に変更する。

始める前に

セキュリティ: "シート上で属性を編集" 権限

手順

1. メイン メニューから "シート" を選択します。
2. "製品収益" キューブ シートまたは "マーケティング" モデル シートを選択します。
3. 以下のように、"製品" 属性の既存の値を表示します。
    - モデル シートの場合は、"製品" 列の任意のセルにマウスを合わせ、下矢印をクリックします。
    - キューブ シートの場合は、"製品" フィルタをクリックします。
4. (任意) キューブ シートでは、"製品" が行または列の場合、シート ビューを変更します。
    a. ツールバーで "属性を変更" をクリックします。
    b. "製品" を "列" または "行" の 別のオプションに置き換えて、フィルタとして使用できるようにします。
    c. "製品" フィルタの値を選択し、"OK" をクリックします。
5. リストの下部にある "属性を編集" を選択します。
   "Edit Product" ウィンドウが表示されます。
6. (任意) 値を変更するには、属性詳細セクションの "名前" フィールドを変更して保存します。
7. (任意) 新しい値を追加するには、ツールバーで "新規属性値を作成" をクリックします。
8. 右側のパネルで、必須フィールドに入力して保存します。
9. "OK" をクリックします。

タスクの結果

次のタスク

relatedlinks
例
参考: キューブ シートの列のプロパティ

## 概念: シート

シートには (実際の元帳データ、予測、予算などの) データを表示、入力、および更新するためのインターフェイスが用意されています。シートには標準、モデル、キューブの 3 種類があります。

注 : シートおよびシート設定の作成に関するドキュメントについては、モデル管理ガイドを参照してください。

シートを使用して、データを入力または変更できます。シートを使用すると、次のことができます。

- 特定のアクティビティおよび会計期間の予算金額を入力します。
- さまざまな部門と協力して詳細な予算を準備する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

Adaptive Planning では、データがサーバーに保存されます。シートを保存すると、保存されているデータが更新されます。

シートには次の 3 つのタイプがあります。

- 標準: 列に時間、行に科目または組織が入ったシンプルなスプレッドシート
- モデル: レコードのリストを含むシート
- キューブ: ピボットできる多次元シート

シートおよびシートの一部に対するアクセスは、管理者が設定する権限、割当、データ制限によって異なります。

### シートの権限

管理者はユーザー ID に権限を割り当てる必要があります。

| 権限 | 説明 |
|---|---|
| シートへのアクセス | シートを表示できます。 |
| 編集可能なシート アクセス | データを入力または変更できます。 |
| ダッシュボードへのアクセス | 表示可能なダッシュボードからシートのデータを表示および変更できます。 |

### シートの割当

管理者によって、各ユーザーまたはユーザーがアクセス可能な組織にシートが割り当てられます。自分に割り当てられたシートには "前提条件" 領域から、組織に割り当てられたシートには "シート" 領域からアクセスできます。また、"ダッシュボード" 領域でシートを検索することもできます。適切な権限があれば、ダッシュボードにシートを追加して、ダッシュボードを他のチーム メンバーと共有できます。

### データの制限

管理者はシートまたはシートの一部を制限できます。例: 営業部門のユーザーは、シートの経費、旅費、その他の営業関連データにアクセスできます。マーケティング部門が使用するデータにはアクセスできません。以下の内容は一部の共通要件です。

- データを表示できるが、変更はできない。
- シートは表示できるが、特定の行または列は表示できない。

### シート上の値と計算

計算値が入るセルでは、モデルのすべての領域から数式が使用されます。数式を表示するには、"セルを探索" を使用します。

"セルを探索" はセルの値に関する情報を含むウィンドウで右クリックをすると開きます。関連する詳細へのドリルダウンや、ソースデータへのドリルスルーに使用します。

### 属性、特性、情報ラベルを選択できるシートのドロップダウン メニュー

シートのドロップダウン メニューを使用して、属性、特性、情報ラベルを選択できます。組織は、シートに表示できるカスタム属性、特性、情報ラベルを定義します。属性と特性はシート タイプごとに異なる動作をします。

- 標準シート: 属性は期間列の前の列に表示されます。属性値は、該当する列にあるセルのドロップダウン メニューから選択できます。特性と情報ラベルは標準シートには存在しません。
- モデル シート: 属性、特性、情報ラベルを任意の列に表示できます。セルのドロップダウン メニューから属性値と特性値を選択でき、選択するとほかのセルの関連するドロップダウン メニューがフィルタリングされます。
- キューブ シート: 属性と特性を行でネストしたり、列で使用したりできます。また、属性と特性はフィルタとしても使用できます。情報ラベルはキューブ シートには存在しません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

セルにマウスを合わせると、セルのドロップダウン メニューにアクセスできます。

### セル内のデータの変更

白色または青色のセルのデータを変更できます。モデル シートの必須の列には、列ヘッダーに赤いアスタリスクが表示されます。シートを保存する前に、その列の各行に値を入力するか、そこで値を選択する必要があります。

セルやシートに応じて、以下のさまざまな方法でデータを変更できます。

- データを入力する。
- 数式を使用する。参照 概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力（1137ページ）。
- コピーして貼り付ける。
- 前方向または下方向にコピーする。参照 前方向および下方向へのコピー（66ページ）。
- 複数のセルの値を調整する。参照 複数のセルの値の調整（73ページ）。
- 値を按分する。次を参照してください。
    - 科目、組織、属性の合計でのデータの按分（71ページ）.
    - 時間合計でのデータの按分 （69ページ）.
- スパークラインを使用する。参照 シートのスパークラインの使用（95ページ）。

シートの保存前または保存後に、ほとんどのセルのデータをクリアできます。

### セル内のチェックボックスと切替

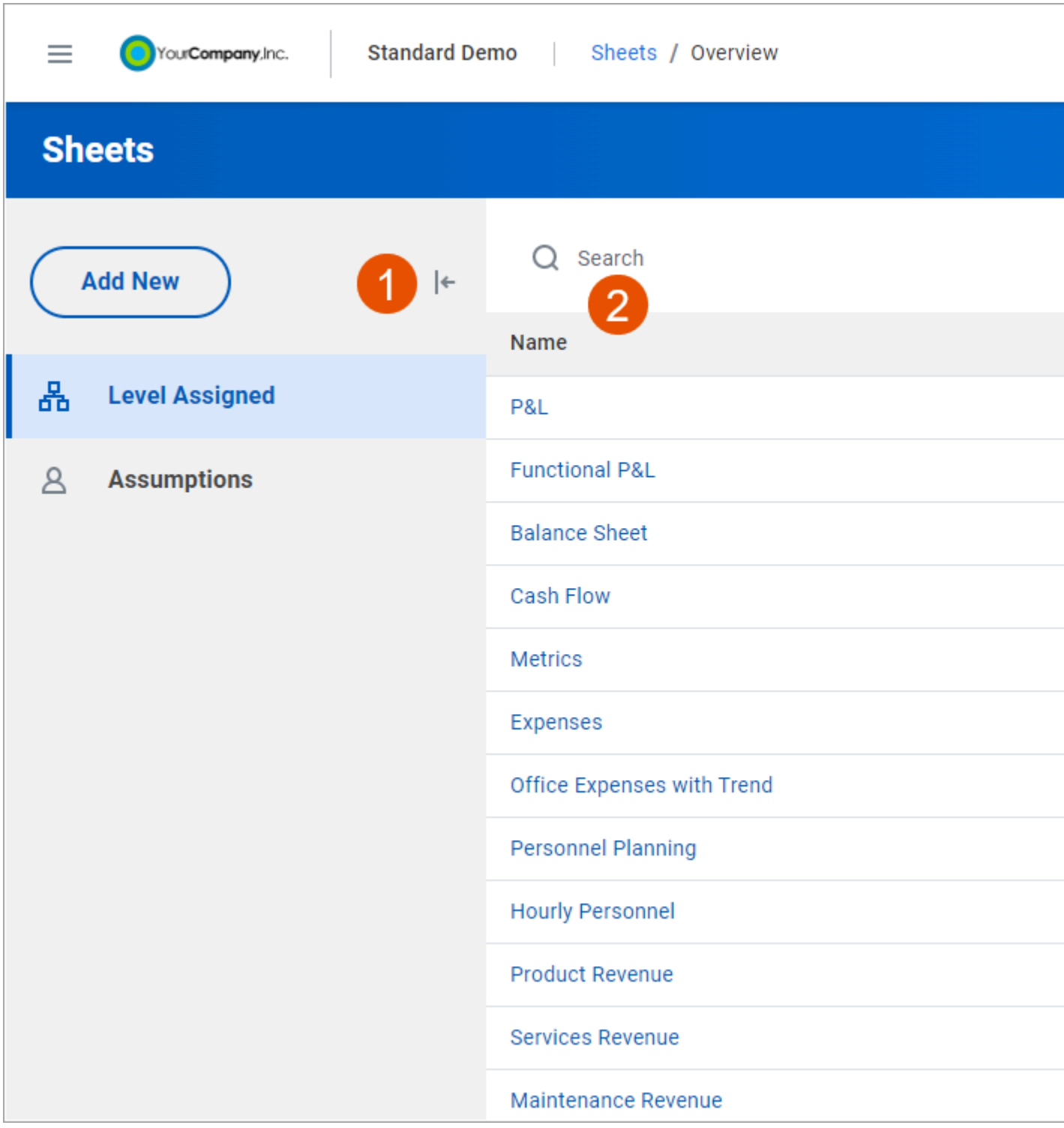
チェックボックスと切替はモデル シートにのみ存在します。未保存の変更は青色で表示されます。保存済みの変更は、緑色またはグレーで表示されます。

relatedlinks
概念
概念: シート タイプ（43ページ）
概念: "セルを探索" および "行の詳細"（96ページ）
参考
ステップ: ワークフローの使用（512ページ）
例
概念: シートの作成
トラブルシューティング: シートのセルがロックされているためデータを変更できない（82ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# 概念: シートのクイック ツアー

シートと前提条件の概要



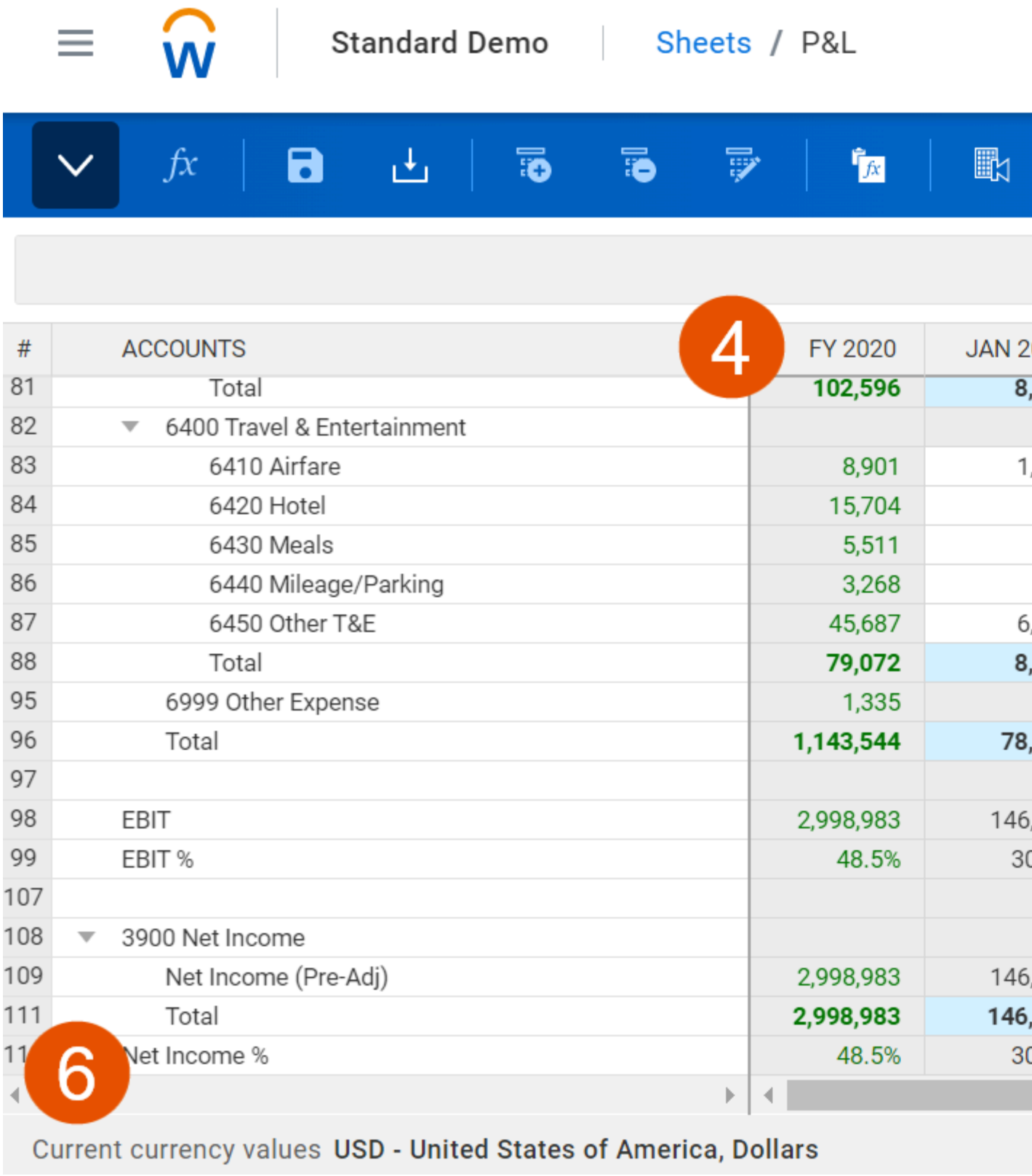

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 1 | 次の操作ができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • 新しい "組織割当シート" または "前提条件シート" を追加します。 このオプションにより、モデリングで既存の新しいシート ワークフローが開きます。このオプションは、シート、科目、属性、数式の権限を含むモデルがある場合にのみ表示されます。<br>• 組織割当シートと前提条件シートを切り替えます。<br>• セクションを折り畳みます。 |
| 2 | シート名を入力して、リストでシートを検索します。 |
| 3 | "組織" プロンプトは、組織割当シートを表示している場合にのみ表示されます。ドロップダウン リストには、アクセス可能なすべての組織が含まれます。シート リストを変更すると、選択した組織に割り当てられたシートが表示されます。 |
| 4 | ワークフローがある場合は、ワークフロー ステータス ボタンをクリックしてワークフローのメモをレビューし、ステータスを更新できます。 |
| 5 | ツールバーの詳細アイコンを使用して、以下を実行できます。<br>• セル メモを検索<br>• 変更履歴を検索<br>• ワークフロー ステータスの更新<br>リストの "その他のアクション" アイコンを使用して、以下を実行できます。<br>• 名前の変更<br>• 編集。モデリングで既存のシート編集ワークフローを開きます<br>• 削除<br>リスト内の "その他のアクション" は、シート、科目、属性、数式の権限を含むモデルがある場合にのみ表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

個別のシート




| # | ACCOUNTS | FY 2020 | JAN 2 |
|---|---|---|---|
| 81 | Total | 102,596 | 8, |
| 82 | 6400 Travel & Entertainment | | |
| 83 | 6410 Airfare | 8,901 | 1, |
| 84 | 6420 Hotel | 15,704 | |
| 85 | 6430 Meals | 5,511 | |
| 86 | 6440 Mileage/Parking | 3,268 | |
| 87 | 6450 Other T&E | 45,687 | 6, |
| 88 | Total | 79,072 | 8, |
| 95 | 6999 Other Expense | 1,335 | |
| 96 | Total | 1,143,544 | 78, |
| 97 | | | |
| 98 | EBIT | 2,998,983 | 146, |
| 99 | EBIT % | 48.5% | 30 |
| 107 | | | |
| 108 | 3900 Net Income | | |
| 109 | Net Income (Pre-Adj) | 2,998,983 | 146, |
| 111 | Total | 2,998,983 | 146, |
| 11 | Net Income % | 48.5% | 30 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 1 | バージョンのドロップダウン リストには、アクセス可能なすべてのバージョンが含まれます。"シナリオの作成" 権限がある場合は、シナリオ バージョンを作成することもできます。 |
| 2 | ツールバーのボタンを使用して、タスクを完了できます。ツールバーはシート タイプごとに変化します。 |
| 3 | 科目で数式を使用する場合は、数式バーに表示されます。セルのフィールドにデータや数式を入力することもできます。 |
| 4 | サイズを変更するには、階層行を展開および折り畳み、列の区切りをドラッグします。 |
| 5 | データをセルに直接入力するか、右クリックして追加の操作を行います。 |
| 6 | 選択したセルのデータに使用される通貨です。データを入力する場合、管理者が設定した組織の通貨でデータを入力します。組織が行にない場合は、シートには以下の通貨が表示されます。<br>• モデル シートと標準シートで選択した組織<br>• キューブ シートで選択した組織フィルタ<br>異なる通貨を持つ組織が行中にある場合、データは最上位組織の通貨で表示されます。 |
| 7 | キーボードのショートカットのリストです。 |

relatedlinks
概念
概念: シート ビュー ( 92ページ )
参考
参考: シート ツールバー ( 49ページ )
参考: シートでの右クリック操作 ( 53ページ )
例
変更履歴レポートの実行

## 概念: シート タイプ

シートのツールバー、行、列のコンテンツでシート タイプを識別できます。 シートには以下の 3 つのタイプがあり、それぞれ機能が異なります。

- 標準
- モデル
- キューブ

シートを使用すると、実績元帳データ、予測、予算などのデータを表示、入力、更新できます。

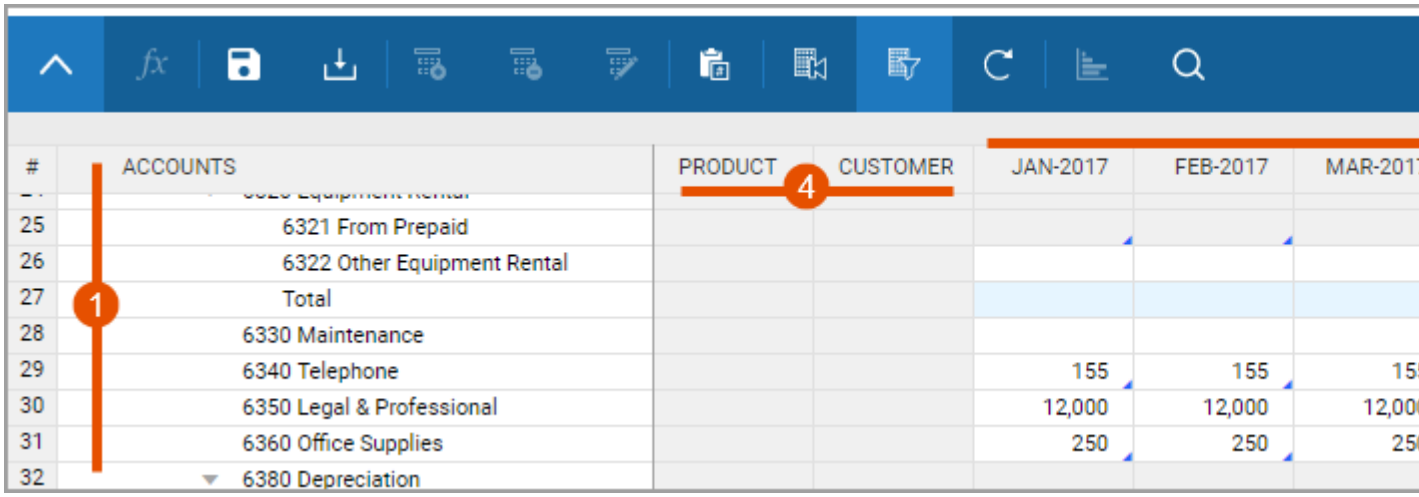
標準シート

標準シート 科目と期間で構成されるシンプルなグリッドが含まれます。

例:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 貸借対照表
- キャッシュ フロー シート
- 経費シート
- 損益シート
- 収益シート




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 科目または組織は行の下に入力されます。 |
| 2 | 組織または科目はドロップダウン メニューに存在します。ドロップダウン メニューを使用して行を切り替えます。 |
| 3 | 時間は列全体に入力されます。"表示オプション" を使用して期間を変更します。 |
| 4 | 属性はドロップダウンの値を持つセルを含む列として存在します。一部の標準シートでは属性を使用できません。属性を選択するには、分割を追加します。 |

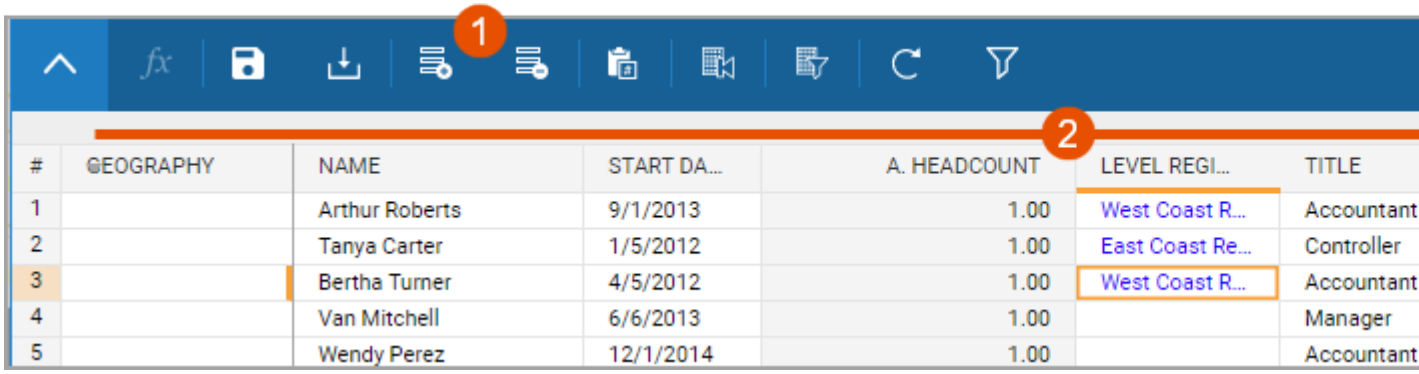
標準シートのツールバーには "分割を追加"、"分割を削除"、"分割名を変更" のボタンもあります。

### モデル シート

モデル シートを使用してレコード ベースのデータを入力できます。このシートには、列全体にカスタム フィールド名があり、行としてレコードがあります。モデル シートには、財務イベントをモデリングするための基礎的なビジネス ロジックが含まれます。 例:

- 資産購入の償却
- 社員の月収
- 売上から得られた収益

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

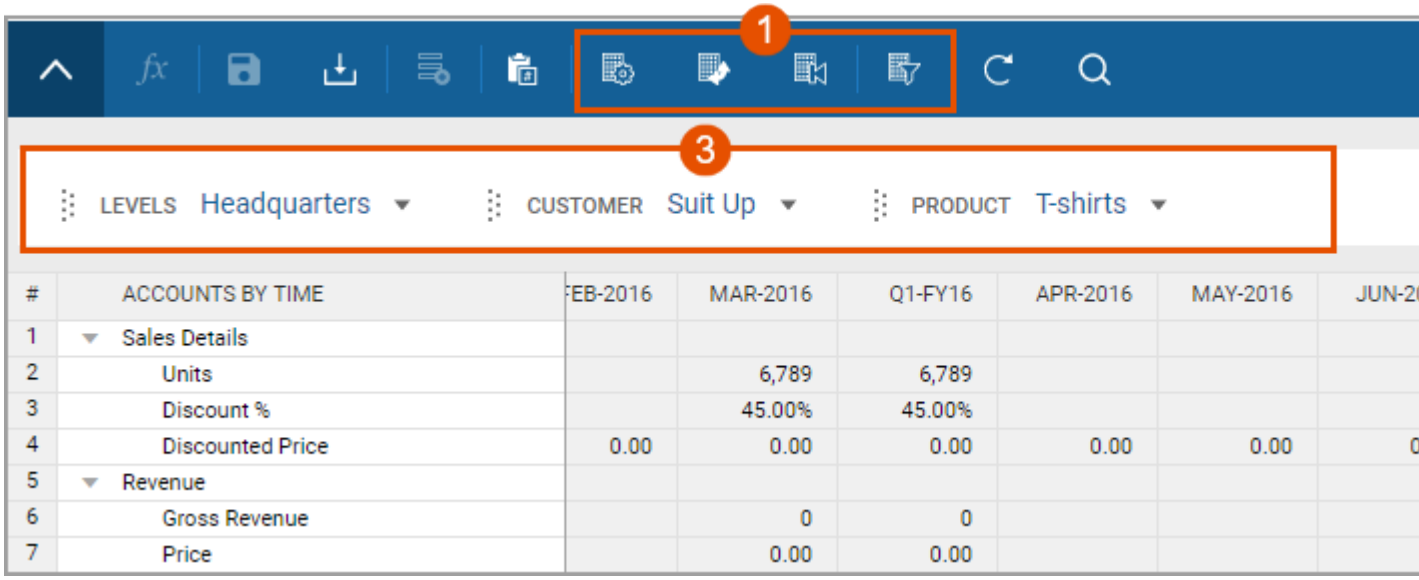



| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 分割の追加、削除、名前変更ボタンに加え、あるいはそれらの代わりとなる "行を追加" および "行を削除" ボタンが表示されます。 |
| 2 | ラベル付き列は画面の上部に存在し、レコードは行の下にリストされています。列のタイプによってデータの入力方法が決まります。フィールドに入力するか、ドロップダウンから選択できます。行ヘッダーはなく、列ヘッダーのみです。 |

新しい情報を既存の行に入力するか、新しい行を追加できます。管理者は、モデル シートで一度に表示できる最大行数を設定できます。シートが最大行数になっている場合、全体で何行を表示できるかを示すメッセージが表示されます。フィルタを使用して、異なるデータ セットを見つけます。

### キューブ シート

キューブ シートを使用すると、 大きくなる可能性がある属性セットのいくつかの科目で多次元データを入力できます。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | ツールバーにさらにオプションを表示できます。シートをピボットし、複数の方法でデータを表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 2 | ツールバーに組織のドロップダウン リストがありません。組織は、フィルタ、列、または行として使用する属性です。 |
| 3 | 代替属性: データをフィルタして列と行にドラッグ アンド ドロップし、行に最大 5 つの属性をネストします。 |

マージされたキューブ シートは、常に読み取り専用です。これらのシートでは、他のシートに存在するデータを結合して計算済データを表示します。

キューブ シートのユース ケースでは複雑かつ多属性な営業予測をモデリングしていますが、このキューブ シートはほぼすべての多属性モデルのプランニングに使用できます。

relatedlinks
概念
概念: シート（37ページ）
概念: シートのクイック ツアー（40ページ）

## 概念: シート内の合計セル

合計では、事前設定された構造に従って入力の値が合計または平均されます。合計セルは、時間、科目、属性、組織の値の合計を示します。すべての合計値をシート内で変更できるわけではありません。合計値を変更するには、青色のセルを探します。

すべての合計がシートに表示されるわけではありません。合計を非表示にする表示オプションが適用されている可能性があります。または、キューブ シートのパフォーマンスを向上させるために、管理者が合計を非表示にしている可能性があります。参照 参考: キューブ シートのシート プロパティ（1113ページ）。

合計の仕組み
合計値は次の方法で変更できます。

- 関連セルを変更し、シートに合計を計算させます。
- 合計を変更し、関連セル内のデータを計算するための按分方法を選択します。時間合計の場合は、方法を選択する必要がない場合もあります。入力したデータは、管理者が設定した方法で自動的に配布されることがあります。

按分方法は、関連セルにどのように値を分散するかを決定します。時間合計の場合、按分データは、何らかの理由でセルがロック中でない限り、シート上に関連セルが見られない場合でも、関連セルに自動入力されます。組織、属性、科目の合計の場合、按分データは、シート上に表示される関連セルにのみ自動入力されます。

合計はモデル内の階層に基づいています。管理者は、会社用に Adaptive Planning がセットアップされた際に、異なる階層を作成しました。

- 時間階層はカレンダーの設定に基づいていて、最も一般的なのは月 > 四半期 > 年です。月は四半期の合計の一部であり、四半期合計は年の合計の一部です。
- 組織階層は通常、会社の組織に基づいています。組織は親組織の一部であり、親組織は一般的に "Total Company" (会社全体) と呼ばれる 1 つの最上位組織の一部です。
- 科目階層は通常、会社の会計帳簿を反映しています。科目の値を合計する標準シートに小計がある場合があります。科目の合計とは異なり、科目階層を追従しておらず、変更はできません。
- 各カスタム属性は合計です。属性値は、属性合計の一部です。
- 標準シート上の分割は、行に合計を作成します。これらはシート上に作成されたデータカテゴリです。合計のように機能しますが、構造階層には追従しません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### シート タイプ別の合計の制限

モデル シートの場合、時間合計にのみ値を入力できます。

標準シートの場合、時間合計および科目合計に値を入力できます。

キューブ シートの場合は、以下の合計が表示されます。

- 時間と科目の合計: 列にある場合、行のみにある場合、または最後にネストされた属性として行にある場合に表示されます。
- 組織とカスタム属性の合計: 最後にネストされた属性である場合にのみ、ネストされた行に表示されます。

### 列の合計

期間とすべての標準シートを含むモデル シートでは、列において関連セルの後に時間合計が表示されます (表示可能な場合)。例: 四半期 1 の列は 1 月、2 月、3 月の列の後に表示されます。

キューブ シートでは、科目、組織、または任意のカスタム属性を列に入れることができます。

### 行の合計

すべてのシートにおいて、折り畳まれた行の合計はグレー表示されます (読み取り専用)。関連する値や合計を変更するには、行を展開します。展開すると、"合計" とラベル付けされた合計が最終行に表示されます。

- 標準シートでは、通常、科目は行ヘッダーであり、シート データは科目別に表示されます。
- 組織別に標準シートを表示する場合、組織が行ヘッダーであり、組織合計を変更することはできません。
- キューブ シートでは、時間、科目、組織、およびカスタム属性を行にドラッグすることができます。これらは常に変更可能とは限りません。
- キューブ シートの場合、シートのパフォーマンスを向上させるために、管理者が合計行数を非表示にしている可能性があります。

### フィルタとしての合計

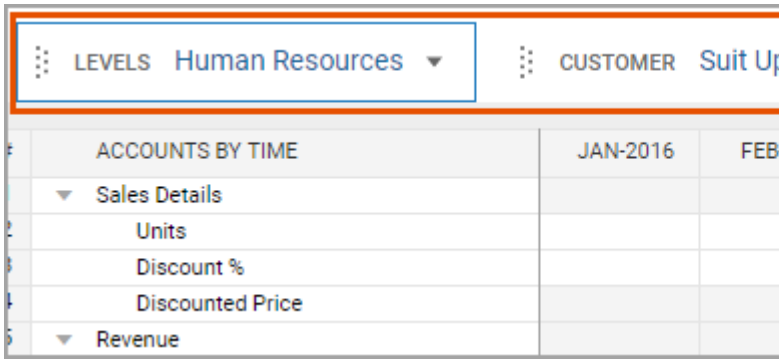
属性がフィルタである場合、展開矢印が付いたフィルタが合計です。合計を選択すると表示されますが、データを変更することはできません。"最下位" または展開できないフィルタを選択すると、シートでデータを変更できます。これらの値は合計に含まれます。

#### モデル シートおよび標準シート内のフィルタ

組織または科目フィルタは、ツールバーのドロップダウンのプロンプトから使用できます。

#### キューブ シート内のフィルタ

キューブ シートでは、行または列にはない属性 (時間、組織、科目、およびカスタム属性を含む) がフィルタになります。

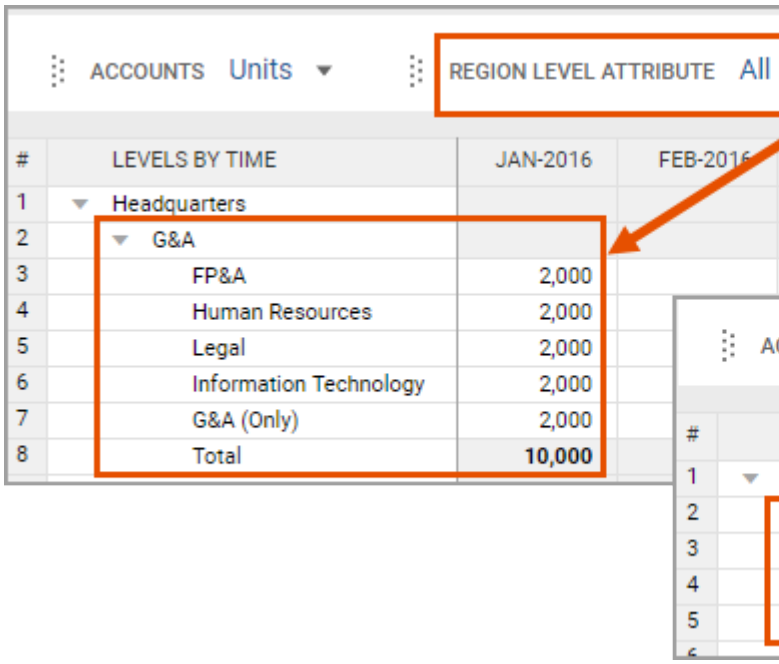



#### フィルタとしての属性特性

特性フィルタの機能は異なります。シートには、利用可能の特性値の一部が含まれていない場合があり

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ます。この例は、"地域" と名付けられた組織の特性を示すもので、組織はその行にあります。"リーガル" と "人事" には、"West Coast" の特性値がタグ付けされています。"G&A" の合計および特性の選択に基づくそれらの違いに注意してください。




特性値に "すべて" を選択し、行内のフィルタリングされていない組織をすべて表示する場合、組織ごとに入力した値は、表示できない場合や特性フィルタから選択した場合でも、適切な属性がタグ付けされます。

計算タイプ別の合計
合計の計算タイプには、合計にデータを入力できないものがあります。

この表では各計算タイプを定義し、その計算タイプによってシートでの編集時にセルがロックされるか、どの属性にその計算タイプを使用できるかを示します。

| 計算タイプ | シートでロック解除されているか | 時間合計 | 組織およびカスタム属性の合計 | 科目合計 |
|---|---|---|---|---|
| 合計: 関連セルの合計。 | はい | はい (フロー科目の場合) | はい | はい |
| 平均: 空白セルをゼロ値とみなして平均を計算します。 | はい | はい | いいえ | いいえ |
| 非空白平均: 空白セルをゼロ値とみなさずに平均を計算します。 | はい | いいえ | 可 | いいえ |
| 最後: 最後の関連セルと同じ値。 | はい | はい (ストック科目の場合) | いいえ | いいえ |
| 加重平均: 別の科目で重み付けした平均。 | いいえ | はい | はい | いいえ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 計算タイプ | シートでロック解除されているか | 時間合計 | 組織およびカスタム属性の合計 | 科目合計 |
|---|---|---|---|---|
| テキスト: 管理者が指定した読み取り専用テキスト。 | いいえ | いいえ | 可 | いいえ |

relatedlinks
タスク
標準シートでの分割の追加 ( 64ページ )

## 概念: シナリオとシート

シナリオ バージョンは、ベース バージョンを開始点として使用し、what-if シナリオを構築したり、ベース バージョンへの変更を管理したりします。ベース バージョンとシナリオ バージョンを互いに独立して変更し、後でマージすることができます。シートへのデータ入力またはインテグレーションのインポートのいずれかを使用して、ベース バージョンに影響を与えることなく、ベース バージョン データに対して申請された変更を行うことができます。ベース バージョンの整合性を維持するため、シナリオ バージョンでは一部のシート アクションが無効になっています。

"シートの概要" ページでシナリオ バージョンを選択すると、以下の機能が無効になります。

- セル メモの検索
- 変更履歴を検索する。
- ワークフローのステータスを更新する。

シナリオ バージョンのシートを編集すると、以下の機能が無効になります。

- シートのセル メモを追加、編集、または削除します。
- シート メモを追加します。
- 数式値を計算します。
- 表示オプションを変更して、すべてのユーザーに対してシート ビューをデフォルトに設定します。
- NetSuite にドリルイン、トランザクションにドリルイン、または Workday にドリルイン。
- 計画をパブリッシュします。
- 標準シートの異常値を表示します。
- シートと組織を同期します。
- 連結機能を使用する。

標準シートの場合、シナリオ バージョンを基準バージョンまたは他のシナリオ バージョンと比較できます。

relatedlinks
概念
概念: シナリオ ( 497ページ )

## 参考: シート ツールバー

シートのツールバーは、シート タイプに基づいて変化します。

| アイコン | 説明 | シート タイプ |
|---|---|---|
| 数式バーを非表示<br>数式バーを表示 | 数式バーを展開または折り畳みます。 | すべてのシート |
| フォーミュラ アシスタント | 正しい数式構文を提供します。 | すべてのシート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 説明 | シート タイプ |
| --- | --- | --- |
| 保存 | データベースに変更を送信します。シートを保存すると、その他のユーザーがこのシートを開いたときに変更を見ることができます。そのデータを使用する他のシートも更新されます。 | すべてのシート |
| ダウンロード | Microsoft Excel (*xls) のスプレッドシートにデータをダウンロードします。<br>モデル シートの場合、オプションによって以下のようになります。<br>• このシートをダウンロードすると、非表示の値とコードがすべて含まれます。<br>• "印刷対応ビュー" を選択した場合、シートは非表示の値とコードをすべて除外し、現在のビューの状態を優先する。<br>シートのセルが 1,000 万個を超えると使用できなくなります。フィルタを使ってセルの数を減らしてください。<br>セキュリティ: "Excel にダウンロード" 権限 | すべてのシート |
| パブリッシュ | Workday HCM にワークフォース アクション計画をパブリッシュします。<br>Workday でユーザー同期を完了し、Workday へのワークフォース アクション計画のパブリッシュを有効化すると表示されます。<br>参照 概念: Adaptive Planning からの計画のパブリッシュ（1288ページ）。 | ワークフォース アクション計画をパブリッシュするために有効化されたモデル シート |
| 数式を再計算 | 数式を再計算してすべての行にリンクを入力し、"要求に応じて再計算" が設定されているシートを残りのモデルと同期します。<br>参照 要求に応じて再計算を有効化（1022ページ）。 | モデル シートとキューブ シート |
| 分割を追加<br>分割を削除 | 行の分割、分割の削除、または名前の変更を行います。<br>次を参照してください。 | モデル シートとキューブ シート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 説明 | シート タイプ |
| --- | --- | --- |
| 分割名を変更 | • モデル シートでの分割の追加（63ページ）.<br>• 標準シートでの分割の追加（64ページ）. | |
| 行を追加 | モデル シートに新しいレコードを追加します。非表示の行を表示するか、キューブ シートで表示された行を見つけます。次を参照してください。<br>• モデル シートでの行の追加（62ページ）.<br>• キューブ シートでの行の追加（66ページ）. | モデル シートとキューブ シート |
| 行を削除 | 選択した行を削除します。 | モデル シート |
| 数式のコピー モード<br>値のコピー モード | コピー モードを数式のコピー モードから値のコピー モードに変更します。クリックしてモードを切り替えます。<br>参照 参考: コピーと貼り付け（75ページ）。 | すべてのシート |
| デフォルト ビューにリセット | シートを管理者によって定義された初期ビューに復元します。 | すべてのシート |
| 表示オプション | • 期間と属性をフィルタリングします。<br>• 代替カレンダーを表示します。<br>• モデル シートで、列ごとに複数のフィルタを作成できます。<br>参照 概念: シート ビュー（92ページ）。 | 条件付きですべてのシート |
| 属性を変更 | 属性と特性を選択し、行および列に表示します。<br>参照 キューブ シート ビューの変更（84ページ）。 | キューブ シート |
| 列および行の入替 | 行ヘッダーと列ヘッダーを入れ替えます。<br>参照 キューブ シート ビューの変更（84ページ）。 | キューブ シート |
| シートをリフレッシュ | 他のユーザーがデータに対して新たに行った変更でシートを更新します。保存前に行った変更はすべて破棄されます。<br>このボタンを使用して未保存の作業を消去することをお勧めします。他の人が行った更新を見 | すべてのシート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 説明 | シート タイプ |
| --- | --- | --- |
| | るには、必ず最初に自分の作業を保存します。 | |
| 選択したセルのグラフを作成 | 選択したセルのグラフィックス バージョンを表示します。ダッシュボード権限を持つユーザーのみが使用可能です。 | 標準シート |
| 予測メトリック<br>予測メトリックを表示 | シートのセルに生成されたデータの予測範囲と精度パーセントを表示または非表示にします。<br>予測ツールで精度メトリックが有効になっていない場合、またはメトリックが存在しない場合、ツールバー アイコンは無効になります。 | 予測ツールによって生成されたデータを持つバージョンのキューブ シートと標準シート |
| 異常を表示 | 検出された異常を示す、紫色の枠線の表示/非表示を切り替えます。<br>予測を生成する後に表示されます。<br>参照 異常検出予測の生成（739ページ）。 | 標準シート |
| 検索 | 数字または単語で検索し、一致するものを見つけます。上下矢印を選択して、次の一致を探します。 | すべてのシート |
| フィルタ | 数字または単語を入力して、既存のフィルタ内で一致するレコードを表示できるようにするためのキーワード フィールドを開きます。 | モデル シート |
| 別のシートからリフレッシュ | リンクされたモデル シートからデータを抽出します。 | 他のモデル シートにリンクされているモデル シート |
| 組織 | シートに表示する組織データを選択します。アクセス権のある組織のみが表示されます。標準シートでは、行が組織の場合、プロンプトに科目のリストが表示されます。 | 標準シートとモデル シート |
| シート メモの追加<br>シート メモの編集 | シートにメモを表示または追加します。シートのメモはバージョンおよび組織固有のものです。メモを追加することができるのは、サブ組織なしの組織に限られます。組織を選択した場合、その組織のメモとその組織のサブ組織のメモのみ表示できます。メモにテキストが含まれたら、テキスト ボックスを手動 | すべてのシート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 説明 | シート タイプ |
| --- | --- | --- |
| | でクリアしてメモを削除する必要があります。<br>すべての組織でシートのすべてのメモを表示するには、サブ組織のある組織を選択し、" シート メモを追加" " > すべてのメモを表示"を選択します。 | |

## 参考: シートでの右クリック操作

以下に応じて、コンテキスト固有のオプションが提供されます。

- シート タイプ
- 以下のデータ タイプ。
  - セル
  - 列ヘッダー
  - 行ヘッダー

| オプション | 説明 | 使用可否 |
| --- | --- | --- |
| 組織別に表示<br>科目別に表示 | 行の組織または科目を表示します。<br>参照 標準シート ビューの変更 ( 88ページ ) 。 | 標準シート<br>ヘッダー行 |
| 属性を変更 | 属性と特性を選択し、行および列に表示します。<br>参照 キューブ シート ビューの変更 ( 84ページ ) 。 | キューブ シート<br>ヘッダー行 |
| 軸を入れ替える | 行ヘッダーと列ヘッダーを入れ替えます。<br>参照 キューブ シート ビューの変更 ( 84ページ ) 。 | キューブ シート<br>行の属性が 1 つの場合 |
| 表示オプション | 期間と属性をフィルタリングします。<br>参照 シート上の期間表示の変更 ( 89ページ ) 。 | すべてのシート<br>データ セル |
| クリア | 保存前または保存後にセル内のデータを消去します。結果はセル タイプによって異なります。<br>参照 参考: セル内のデータのクリア ( 75ページ ) 。 | すべてのシート<br>ほとんどの白色セル<br>単一または複数のセル選択 |
| 前方向へコピー > 最後までコピー | 行の残りのセルにコピーします。<br>参照 前方向および下方向へのコピー ( 66ページ ) 。 | すべてのシート<br>白色のセル<br>単一または複数のセル選択 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 | 使用可否 |
| --- | --- | --- |
| 前方向へコピー > 詳細設定 | コピー オプションに従って、行の残りのセルにコピーします。<br>参照 前方向および下方向へのコピー（66ページ）。 | すべてのシート<br>白色のセル<br>単一または複数のセル選択 |
| 下方向へコピー > 最後までコピー | 選択したセルを列の残りのセルにコピーします。<br>参照 前方向および下方向へのコピー（66ページ）。 | キューブ シート |
| 下方向へコピー | チェックボックスと切替スイッチの状態を、選択したセルから列内の残りのセルにコピーします。 | モデル シート<br>チェックボックスまたは切替スイッチを含むセル |
| フォーミュラ アシスタント | 正しい数式構文を提供します。 | すべてのシート |
| 調整 | 選択したセルの値を調整します。調整はセル内の数式を置換します。<br>参照 複数のセルの値の調整（73ページ）。 | 標準シートとキューブ シート<br>青色または白色のセル<br>複数または単一のセル選択 |
| メモを追加<br>メモを編集<br>メモを削除 | セル メモを追加、編集、または削除する。<br>参照 概念: セル メモ（98ページ）。 | すべてのシート<br>青色または白色のセル |
| 分割を追加<br>分割名を変更<br>分割を削除 | 行を分割してデータを分類したり、分割名を変更したり、分割を削除したりします。<br>• モデル シートでの分割の追加（63ページ）.<br>• 標準シートでの分割の追加（64ページ）. | モデル シート。管理者により、分割および標準シートの追加が許可されます。<br>モデル シートの場合、科目はフローである必要があります。<br>標準シートの場合、科目は以下のいずれかである必要があります。<br>• 残高科目別に計画されたストック科目<br>• フロー科目<br>白色のセル |
| 行を追加<br>行をコピー<br>行を削除 | 行を追加したり、選択した行をシートの最後にコピーしたり、行を削除したりできます。<br>参照 モデル シートでの行の追加（62ページ）。 | モデル シート<br>白色のセル |
| 行を分割 | 選択した行の下にインデント行としてコピーを追加します。シートの作成方法によって、特定の列が読み取り専用になります。 | 分割を追加できるモデル シート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 | 使用可否 |
| --- | --- | --- |
| 行の詳細 | 選択した行の現在のシートに関連付けられているすべてのモデル科目の値を表示します。 | モデル シート |
| 属性値の作成 | ダイアログを開いて、セル内の属性値と同じ組織で属性値を作成します。 | モデル シート<br>属性列内のセル。シート ビルダーのこの属性に対して "シート上で属性を編集" を選択した場合に使用できます。 |
| 属性値の編集 | 列の属性の属性値を変更したり、新しく追加したりできるダイアログを開きます。 | モデル シート<br>属性列内のセル。シート ビルダーのこの属性に対して "シート上で属性を編集" を選択した場合に使用できます。 |
| セルの探索 | "セルを探索" を起動して、任意のデータ ポイントをドリルダウンしたり、ドリルスルー オプションにリンクしたりすることができます。 | すべてのシート<br>データ セル |
| 異常に印をつける<br>異常の印をはずす | 異常値を示す紫色の枠線を表示または削除します。 | 標準シート<br>異常の印を外すには、紫色の枠線のセルをターゲットに設定します。 |
| トランザクションにドリルイン | 選択したセルのトランザクションの詳細レポートを開きます。 | トランザクションをデータ ソースとするキューブ シートと標準シート |
| ドリルイン*NetSuite* | オープンセルの値に該当するトランザクションを含む NetSuite レポート。 | NetSuite に対して有効なインスタンス。 |
| ドリルイン*Workday* | オープンセルの値に該当するトランザクションを含む Workday レポート。 | Workday 用に設定されたインスタンス。<br>ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定を参照してください。 |

## 参考: シートの色および表記

シートのセルの背景、枠線、テキスト、および隅の色は、データに関する情報を提供します。

Excel Interface for Planning のインジケータは、スタンドアロンのシートに似ています。

- 背景色（56ページ）
- テキストの色またはスタイル（56ページ）
- 罫線の色（56ページ）
- 形状（57ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

背景色

| 背景色 | 説明 |
| --- | --- |
| 白の背景 | データを変更できます。 |
| グレーの背景 | データを変更できません。テキストの色またはスタイルがその理由を示している場合があります。 |
| 青の背景 | 科目の合計データ、時間、カスタム属性、または分割です。合計データを変更したり、按分方法を使用したりして、関連データを更新できます。 |
| 緑の背景 | このシナリオ バージョンで行った変更このデータは引き続き変更できます。シナリオ バージョンで変更された合計セルについては、引き続き青色の背景でセルが表示されます。 |

テキストの色またはスタイル

| テキストの色またはスタイル | 説明 |
| --- | --- |
| 青のテキスト | データが保存されていない |
| 緑のテキスト | 実績データであることを示します。 |
| 太字テキスト | 合計であることを示します。 |
| 赤のテキスト | データを計算する数式が工ラーのある別のセルを参照しています。 |
| 取り消し線テキスト | このシナリオ バージョンでこの行を削除しました。 |

罫線の色

| 罫線の色 | 説明 |
| --- | --- |
| オレンジの罫線 | モデル管理者が指定したデータ検証ルールにより、このセル データは無効です。 この無効なデータを含むシートを保存することはできます。 |
| 赤の罫線 | 以下のいずれかを実施します。<br>• データを計算する数式に工ラーがあります。<br>• 保存する前にデータを入力する必要があります。<br>• モデル管理者が指定したデータ検証ルールにより、このセル データは無効です。 保存する前にデータを修正する必要があります。 |
| 紫の罫線 | データが機械学習の予測値の範囲外にあります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

形状

| 形状 | 説明 |
| --- | --- |
| グレーの三角形が付いた列ヘッダー。 | 右または左に非表示の列があることを示します。非表示の列を表示するには、"表示オプション" を使用します。 |
| 青の三角形 | 数式でデータを計算します。背景色は、数式を変更または置換できるかどうかを示します。 |
| 緑の三角形 | 属性マッピング ルールから自動的に入力される派生属性データを示します。 |
| 紫の三角形 | データは予測担当者によって生成されました。<br>これらのセルにマウスを合わせると、予測範囲と精度のメトリックが表示されます。生成されたデータのあるセルが行に存在する場合、行のすべてのセルに紫色の三角形とマウスオーバー時のテキストが表示されます。 |
| 赤の三角形 | データにセル メモがあります。 |
| グレーまたは緑のチェックボックスおよびスイッチ | 保存済みデータであることを示します。 |
| 青のチェックボックスおよびスイッチ | 未保存のデータであることを示します。 |
| 半分が塗りつぶされた円 | 相対科目または相対科目の合計 |

relatedlinks
例
概念: 残高タイプと相対科目

## 参考: ワークフォース プランニング向け事前構築済シート

Adaptive Planning では、ワークフォース プランニングのファンデーション モデルの一部としてあらかじめ構築済みのシートが提供されます。

ユーザー割当シート

メイン メニューから "前提条件" を選択すると、これらのユーザー割当シートにアクセスできます。

| シート名 | 説明 |
| --- | --- |
| All Assumptions | グローバルな戦略的ワークフォース ドライバーを入力する標準シートであり、次のシートで科目を計算します。<br>• Bottom Up: Position Management。Planning Configuration Manager を使用して作成します。<br>• Bottom Up: Job Management |
| Bottom Up: Location Assumptions | 勤務地に基づく福利厚生の料率用のキューブ シートです。 |
| FX Translations to Reporting Currency | 1 つのレポート通貨への通貨換算用のキューブ シートです。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| シート名 | 説明 |
| --- | --- |
| Financial Summary | 計画の財務上の影響を計算するためのキューブ シートです。 |

組織割当シート

メイン メニューから "シート" を選択すると、次のシートにアクセスできます。

| シート名 | 説明 |
| --- | --- |
| Top Down: Strategic Headcount Plan | リーダーが組織ごとに四半期の人員予算を入力するためのキューブ シートです。例: 会社、コストセンター、または監督組織ごとに四半期の人員予算を入力します。<br>このシートのデータによって、"Top Down vs Bottom Up" シートのデータが変化します。 |
| Top Down vs Bottom Up | ワークフォース プランニング モデルの今後の開発用。このキューブ シートで、リーダーの人員の数値目標と監督組織のリクエストとのギャップを特定します。以下のシートからデータを取得します。<br>• Bottom Up: Aggregated (All Staffing Models) Plan<br>• Top Down Strategic Headcount Plan |
| Bottom Up: Job Management Plan | 表示するには、給与詳細の権限が必要です。<br>職務管理の人材配置モデルを使用する監督組織向けの新規採用と職務を追跡するモデル シートです。<br>セルのドロップダウン メニューの属性値と、このシートの一部のデータは、Workday ヒューマン キャピタル マネジメントからロードされます。<br>このシートのデータによって、"Bottoms Up: Aggregated (All Staffing Models) Plan" シートのデータが変化します。 |
| Bottom Up: Contractors | 契約社員と契約社員のポジションを追跡するモデル シートです。<br>セルのドロップダウン メニューの属性値と、このシートの一部のデータは、Workday ヒューマン キャピタル マネジメントからロードされます。<br>このシートのデータによって、"Bottoms Up: Aggregated (All Staffing Models) Plan" シートのデータが変化します。 |
| Bottoms Up: Aggregated (All Staffing Models) Plan | 表示するには、給与詳細の権限が必要です。<br>以下のシートを組み合わせて人員計画をレビューして分析するためのキューブ シートです。<br>• Bottom Up: Contractors<br>• Bottom Up: Job Management Plan |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| シート名 | 説明 |
| --- | --- |
| | • Bottom Up: Position Management。Planning Configuration Manager を使用して作成します。<br>このシートの一部のデータは、Workday ヒューマン キャピタル マネジメントからロードされます。<br>このシートのデータによって、"Top Down vs Bottom Up" シートの内容が変化します。 |
| Worker Data | 表示するには、"給与の詳細" 権限が必要です。<br>社員の採用日、退職日、現在の給与をリストするモデル シートです。<br>機密データの保存は推奨されません。例: 地域のプライバシー ポリシーの対象となる機密データ。 |

relatedlinks
例
ステップ: 機密データの保護

## FAQ: シート データを変更したユーザーを確認する方法

モデル管理者がバージョンの変更履歴をアクティブ化した場合、変更履歴の検索を使用して、シートのセルにユーザーが入力した変更の履歴をレビューできます。 この情報は、以下を特定するのに役立ちます。

- データの作成場所
- データの作成日
- データの最終変更者

変更履歴の検索を使用して、以下のいずれかを確認できます。

- バージョンのデータに加えられた変更。参照 変更履歴レポートの実行（170ページ）。
- シートの特定のセルに加えられた変更。

シートの特定のセルに加えられた変更をレビューする方法は次のとおりです。

1. シート上で、変更履歴を確認するセルを右クリックします。
2. "セルを探索" を選択します。
3. "変更履歴を表示" を選択します。

relatedlinks
タスク
バージョンの変更履歴の使用

## FAQ: 実績のオーバーレイ期間中に、合計科目のフォントが黒色で表示されるのはなぜですか？

管理者により、合計科目の実績が無効になりました。実績のオーバーレイ期間、合計科目は、実績が有効になっている子科目の実績データを合計します。

管理者は、合計科目の "実績 " 列に "有効化" を 入力した後、科目構造をインポートすることで修正できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: 実績のオーバーレイ

## トラブルシューティング: シートのロードが表示段階でスタックする

シートを表示する際に、ネットワークはインターネット ブラウザと通信して、リモート サーバーから HTML コードを取得します。ネットワークとインターネット ブラウザ間の通信が何らかの理由によって中断された場合、このデータ取得プロセスは停止します。

インターネット ブラウザに問題がある

原因: インターネット ブラウザを最新バージョンに更新する必要があります。

ソリューション: インターネット ブラウザを最新バージョンに更新します。

原因: お使いのインターネット ブラウザまたはインターネット ブラウザのバージョンはサポートされていません。

ソリューション:

1. サポートされているインターネット ブラウザとバージョンを確認します。 参照 参考: 技術要件 ( 2758ページ ) 。
2. インターネット ブラウザとバージョンを確認してください。
3. サポートされているインターネット ブラウザまたはバージョンに切り替えます。

原因: インターネット ブラウザに不明な問題があります。

ソリューション: サポートされている別のインターネット ブラウザでもう一度試してください。 参照 参考: 技術要件 ( 2758ページ ) 。

ネットワークに問題があります。

原因: ネットワークに中断またはダウンタイムが発生しています。

ソリューション:

1. 他の Adaptive Planning ユーザーが同じネットワークでアプリケーションにアクセスしている場合は、シートを開いて、シートが表示段階でスタックするかどうかを確認するように依頼します。
2. セキュリティ保護された別のネットワークで再試行します。例: ホーム ネットワーク。
3. オフィス ネットワークでのみ問題が発生する場合は、社内の IT チームにお問い合わせください。 ホーム ネットワークでのみ問題が発生する場合は、インターネット プロバイダにお問い合わせください。

## トラブルシューティング: シートで科目が見つからない

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 以下のいずれかの理由により、現在シート ビューではゼロと空白が非表示になっており、データがこの科目に存在していません。<br>• 新しい科目です。<br>• この科目にはまだデータが入力されていません。 | シート ビューを変更して、ゼロと空白を表示します。<br>モデル シートの場合は、次のようになります。<br>1. ツールバーで "表示オプション" を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | 2. "行をフィルタリング" タブで、見つからない科目の行を見つけ、以下のいずれかを選択します。<br>• すべてクリア<br>• グループを削除<br>標準シートとキューブ シートの場合:<br>1. ツールバーで "表示オプション" を選択します。<br>2. "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" チェックボックスをオフにします。<br>参照 概念: ゼロと空白の非表示（93ページ）。 |
| モデル シート ビューでは現在、この列が非表示になっています。 | この列が表示されるようにシート ビューを変更します。<br>1. ツールバーで "表示オプション" を選択します。<br>2. "列を非表示" タブで、見つからない科目の列を探し、チェックボックスをオフにします。 |

relatedlinks
例
トラブルシューティング: シートに科目がない

## トラブルシューティング: メイン メニューに前提条件が表示されない

原因: メイン メニューに "前提条件" オプションを表示するには、少なくとも 1 つのユーザー割当シートへのアクセス権が必要です。

ソリューション: セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "モデル管理" を選択します。
3. "ユーザー割当シート" を選択します。
4. 割り当てるシートについて、"アクセス可能ユーザー" 列で "変更" を選択します。
5. 矢印ボタンを使用して、"選択済のユーザー" リストにユーザーを移動します。

relatedlinks
タスク
キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て
キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て（1021ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

# セル内のデータの変更

## モデル シートでの行の追加

### 始める前に

- シートをモデル シートとして識別します。参照 概念: シート タイプ（43ページ）。
- バージョン シナリオに行を追加するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。
- セキュリティ:
  - "編集可能なシート アクセス" 権限
  - 新しい行の属性値をシート上で直接作成するには、"シート上で属性を編集" 権限へのアクセスを設定します。

### このタスクについて

モデル シートでは、新しい行を追加して新しいレコードを含めることができます。

Workforce Planning Configuration Manager によって管理されているモデル シートでは無効です。

### 手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. 行を追加するには、以下のいずれかの方法を使用します。
   - ツールバーの "行を追加" を選択する。
   - シート上の任意の場所を右クリックして、"行を追加" を選択する。
   - シート上の任意の場所を右クリックして、"行をコピー" を選択する。シートの一番下に新しい行が追加されます。
   - 複数のセルの行全体をハイライトしてからその領域を右クリックし、"x 行を追加" または "x 行をコピー" を選択する。 同じ数の新しい空白行またはコピーされた行が、シートの下部に追加されます。

### タスクの結果

保存したら、シート フィルタをチェックして、新しい行とデータを表示できることを確認します。

### 例

この例では、特性と属性を一緒に使用して、モデル シートへのデータ入力を高速化する方法を説明します。"グループ" は、以下の値を含む "製品" 属性の特性です。

| 製品 | グループ |
| --- | --- |
| • タンクトップ<br>• ブラウス<br>• セーター<br>• T シャツ<br>• ジーンズ<br>• レギンス<br>• スカート | • トップス<br>• ボトムス<br>• アクセサリー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 製品 | グループ |
| --- | --- |
| • ハンドバッグ<br>• ベルト<br>• 手袋<br>• 帽子 | |

- "製品" 属性リストを絞り込むには、"グループ" 列でロックされていないセルをクリックし、"トップス" を選択します。短い製品リストに、以下の製品のみが含まれるようになりました。
  - T シャツ
  - タンクトップ
  - ブラウス
  - セーター
- "製品" 列に値を入力するには、列のロックされていないセルをクリックし、"タンク トップ" を選択します。 "グループ" 列には自動的に "トップス" が入力されます。

次のタスク

新しい行のロック解除された各セルにデータを追加します。

relatedlinks
概念
概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力（1137ページ）

## モデル シートでの分割の追加

始める前に

- シートをモデル シートとして識別します。参照 概念: シート タイプ（43ページ）。
- 管理者により、モデル シートでの分割が有効化されている。
- 科目はフローである必要があります。 科目がフローである場合、所与の期間値は、その期間の正味アクティビティに等しくなります。参照 概念: 科目のタイプ設定（893ページ）。
- シナリオ バージョンに分割を追加するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。
- セキュリティ:
  - "編集可能なシート アクセス" 権限
  - 新しい分割に応じて属性値をシート上で直接作成するには、"シート上で属性を編集" 権限へのアクセスを設定します。

このタスクについて

分割を使用して、部門や科目などのさらなるカテゴリでデータを分類できます。

Workforce Planning Configuration Manager によって管理されているモデル シートでは無効です。

分割を追加すると、分割行のセルには親行の値がコピーされ、以下のような条件に応じてロックまたはロック解除されます。

- ユーザー権限
- 表示設定
- シートに含まれる科目

分割を含む行を削除すると、その行の分割もすべて削除されます。

例: 従業員シートで、社員が時間を部署間で分割します。社員レコードを分割して、部署別にリソースを割り当てることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. 行または既存の分割のセルを右クリックし、"行を分割" を選択します。

次のタスク

新しい行のロック解除された各セルにデータを追加します。

実績バージョンの分割を削除するには、基になる実績データを消去します。

relatedlinks
概念
概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力（1137ページ）
タスク
インテグレーション管理からのデータ消去（2060ページ）
参考
トラブルシューティング: シートのセルがロックされているためデータを変更できない（82ページ）

## 標準シートでの分割の追加

始める前に

- シートを標準シートとして識別します。参照 概念: シート タイプ（43ページ）。
- 科目は以下のいずれかである必要があります。
    - 残高科目によって計画され、各期間の実行中の残高です。 参照 概念: 科目のタイプ設定（893ページ）。
    - フロー 科目がフローである場合、所与の期間値は、その期間の正味アクティビティに等しくなります。参照 概念: 科目のタイプ設定（893ページ）。
- バージョン シナリオに分割を追加するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。
- セキュリティ:
    - "編集可能なシート アクセス" 権限
    - 新しい分割に応じて属性値をシート上で直接作成するには、"シート上で属性を編集" 権限へのアクセスを設定します。

このタスクについて

標準シートでは、分割を追加して行を追加し、部門や科目などのさらなるカテゴリでデータを分類できます。

例: 旅費データには、次のような関連要素があります。

- セミナー
- 講演の機会
- 見本市
- トレーニング

分割を作成し、旅費に必要な数だけ行を追加します。これらの分割は旅費科目の総合計にロールアップされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. 分割を追加するには、以下のいずれかの方法を使用します。
    - ツールバーで "分割を追加" を選択します。
    - 行のセルまたは既存の分割を右クリックし、"分割を追加" を選択します。
    - 複数の分割の場合、既存の分割の範囲をハイライトして右クリックし、"分割を追加" を選択します。例: 2 行の分割を追加するには、既存の 2 行の分割を含む範囲をハイライトします。
5. (任意) 属性を含む標準シートの場合、分割を作成した後に属性値を変更します。

タスクの結果

元の行は自動的にロックされます。この元の行に表示されるロック済みおよびロールアップされた合計を変更するには、分割行を展開してそのデータを変更します。

例

衣類を販売する店舗の場合、モデルに "製品" という属性があります。"製品" には "グループ" と呼ばれる属性特性があります。"グループ" は、製品の属性値を分類します。

| グループの特性値 | トップス |
| --- | --- |
| 製品の属性値 | • タンクトップ<br>• T シャツ<br>• ブラウス<br>• セーター |

目的

- "製品" 属性の分割または行を追加する。
- 期間全体で入力した値を "タンク トップ" で分類する。

"トップス" グループ属性は、データの新しい行に自動的にタグ付けされます。タンク トップのデータは、"トップス" で参照される値に影響します。ユーザーはレポートを作成できるようになりました。また、"タンク トップ" のみか "トップス" のいずれかを参照する数式を使用することもできます。

1. "製品" 列で、属性値を追加する交差部分のセルを選択します。
2. セルを右クリックして "分割を追加"を選択します。
3. 「タンク トップ」と入力し、"OK" を選択します。
4. 新しい分割で、"製品" 列のセルの上にマウスを合わせ、下矢印をクリックします。
5. "タンク トップ" を選択します。
6. 分割の場合は、期間列の各セルに値を入力します。

次のタスク

新しい行のロック解除された各セルにデータを追加します。

relatedlinks
概念
概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力（1137ページ）
概念: シートのスイッチ、チェックボックス、ドロップダウン リスト（74ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## キューブ シートでの行の追加

### 始める前に

- シートをキューブ シートとして識別します。参照 概念: シート タイプ（43ページ）。
- バージョン シナリオに行を追加するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。
- セキュリティ:
  - "編集可能なシート アクセス" 権限
  - 新しい行の属性値をシート上で直接作成するには、"シート上で属性を編集" 権限へのアクセスを設定します。

### このタスクについて

キューブ シートに行を追加して、非表示になっているかどうかに関係なく、特定の行を検索できます。この機能により、大きなキューブ シートが管理しやすくなります。行を追加すると、行に現在表示されている属性がフィルタされます。

キューブ シートに行を追加するボタンをアクティブ化するには、表示オプションと属性フィルタを変更します。

### 手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. ツールバーの "表示オプション" メニューで、"すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" を選択します。
5. 属性フィルタごとに、展開できない属性を選択します。

   これらの属性は、ネストされた属性構造の最も内側の値です。

   表示オプションと属性フィルタを設定すると、"行を追加" ボタンがアクティブになります。それでも "行を追加" ボタンを選択できない場合は、シートを保存してください。
6. "行を追加" を選択します。

   複数選択できるのは、ネストされた属性構造の最も内側の値のみです。

### タスクの結果

行が表示され、シート上のその行まで自動的にスクロールします。行の最初のセルにカーソルが移動します。

### 次のタスク

行のロック解除された各セルのデータを変更するか、新しいデータを追加します。

relatedlinks
概念
概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力（1137ページ）

## 前方向および下方向へのコピー

### 始める前に

- バージョン シナリオで値を変更するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:
  - "編集可能なシート アクセス" 権限
  - (任意) "シート上で属性を編集" 権限

このタスクについて

前方向または下方向にコピーする場合は、以下を実行します。

- セルに数値がある場合は、数値をコピーします。
- セルに数式がある場合は、数式をコピーします。
- セルに空白がある場合は、空白をコピーします。
- フィルタまたは表示オプションにより非表示になっている列のセルにもコピーします。
- セル メモはコピーしないでください。
- ロック済のセルと合計セルはスキップします。

下方向へコピーする場合も、以下を実行します。

- ゼロまたは空白の非表示行にコピーしないでください。
- シート作成時に "キューブ シートのプロパティ" で シートのパフォーマンスを向上させるために "合計合計を非表示" を選択した場合、キューブ シートの非表示の科目にコピーしないでください。 シートを表示するときに、"表示オプション" で科目を非表示にします。 非表示の科目に下方向へコピーするには、"シートのパフォーマンスを向上させるために合計を 非表示" チェックボックスをオフにします。

値が次のような場合は、前方向または下方向へのコピーを使用して、範囲内のセル全体のデータ入力を高速化できます。

- 値が比較的一貫している場合
- 値が関連しており、決まったパターンで増減する場合

前方向へのコピーはすべてのシート タイプで使用できますが、下方向へのコピーはキューブ シートでのみ使用可能です。

以下をコピーしようとすると、前方向および下方向へのコピーは使用できません。

- 期間、科目、組織、属性合計
- ロック済のセル

手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. 前方向および下方向へのコピー オプションにアクセスするには、セルまたはセルの範囲を右クリックします。
5. 以下を考慮して、前方向または下方向へのコピーを設定します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 最後までコピー | 行または列の最後まで、前方向または下方向へのコピーを適用します。最後まで前方向へのコピーを適用するには、"コピー" プロンプトで "終了" を選択したときと同じように値をコピーします。 |
| 値 | 前方向へのコピーでのみ使用できます。<br>このプロンプトにアクセスするには、"詳細設定..." を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | このフィールドには、現在セル内にある値が自動的に入力されます。既存の値を残すことも、値を変更することもできます。変更しても、右クリックした元のデータには影響しません。 |
| コピー | 前方向へのコピーでのみ使用できます。<br>このプロンプトにアクセスするには、"詳細設定..." を選択します。<br>期間別の前方向へのコピーを適用します。"値" を開始値として使用します。<br>例: 開始値として「300」を指定して "四半期" を選択した場合、「300」が四半期の終わりまで前方向にコピーされます。 |
| コピーオプション | 前方向へのコピーでのみ使用できます。<br>このプロンプトにアクセスするには、"詳細設定..." を選択します。<br>前方向へコピーする値は、数値データに対してのみ増減できます。<br>前方向へコピーする値を増減する場合は、前のセルの値を増減します。値またはパーセンテージで増減できます。 |
| ゼロで停止 | 前方向へのコピーでのみ使用できます。<br>このチェックボックスにアクセスするには、"詳細設定..." を選択します。<br>前方向へコピーする値を減少する際に値が負にならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 |

例

10% ずつ増加で前方向へコピーした場合:

| JAN-2016 | FEB-2016 | MAR-2016 | Q1-FY16 | APR-2016 | MAY-2016 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 100 | 110 | 121 | 331 | 133 | 146 |
| 2,000 | | | 2,000 | | |

値を 10 ずつ増加で前方向へコピーした場合:

| JAN-2016 | FEB-2016 | MAR-2016 | Q1-FY16 | APR-2016 | MAY-2016 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 100 | 110 | 120 | 330 | 130 | 140 |
| 2,000 | | | 2,000 | | |

値で減少するように前方向へコピー: "ゼロで停止" を有効/無効にした場合:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| JAN-2016 | FEB-2016 | MAR-2016 | APR-2016 | MAY-2016 | JUN-2016 | JUL-2016 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 100 | 75 | 50 | 25 | 0 | -25 | -50 |
| 100 | 75 | 50 | 25 | 0 | 0 | 0 |

## 時間合計でのデータの按分

### 始める前に

- 按分方法を理解するために、合計計算を確認します。
- バージョン シナリオで値を変更するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

### このタスクについて

時間合計では、事前設定されたカレンダー構造に従って入力の値が合計または平均されます。シートでは、時間合計は青色で表示されます。時間合計にデータを入力すると、非表示のセルも含め、関連セルが按分パターンに従って自動的に入力されます。

目的の合計が関連要素よりも重要である場合、時間合計にデータを入力します。例: 飲食費の年間予算が 10,000 である場合。月ごとに値を入力する代わりに、年の合計に 10,000 を入力します。次に、按分方法により毎月の経費の詳細を計算できます。

### 手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. (任意) ツールバーで "表示オプション" をクリックします。次に、使用する時間合計の横にあるチェックボックスをクリックします。
5. キューブ シートの場合は、"属性を変更" をクリックして、以下のいずれかに対して "時間" を選択します。
   - 列
   - 行。行から他のすべての属性を削除します。
   - 最後にネストされた行

   異なる科目時間合計を使用するネストされた行の複数の層を持つ行に "時間" を表示すると、以下のようになります。
   - 外側の層の合計行に f(x) を表示します。
   - 外側の層の合計行をロックします。
   - 最も内側の層の合計行でのみ按分を有効にします。
6. 青色の時間合計のセルに値を入力して、Enter キーを押します。

   Enter キーを押すと、按分方法を選択するプロンプトが表示されます。

   以下のいずれかの理由で、按分プロンプトが表示されない場合があります。
   - 科目の合計計算が "最後" になっている。"最後" の合計では、合計値が最後のセルにのみ分配され、その他の関連セルの値は変更されません。
   - インスタンスで、時間合計に自動按分が使用されている。Enter を押すと、管理者が設定した方法で関連セルが自動入力されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

7. 以下を考慮して、按分方法を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 比率 | 表示されている関連セルの既存の値の比率で分配します。 |
| 均等 | 合計を均等に分割するか、平均をすべての関連セルにコピーします。 |
| 比率 (過去の年の値を使用) | それぞれの関連セルに前年の値の比率で分配します。 |
| 加重 4-4-5 | 3 番目のセルごとに最大の重み付けが適用されます。 |
| 加重 4-5-4 | 2 番目のセルに最大の重み付けが適用されてから、3 番目のセルごとに最大の重み付けが適用されます。 |

タスクの結果

関連セルに値が入力されます。

例

以下の値を入力します。

- セル 1: 100
- セル 2: 200
- セル 3: 300

シートを保存したら、合計に 1000 を入力します。時間合計の計算と按分方法に応じて、関連セルの値は以下のように変わります。

| 方法 | 合計のロールアップ | 平均のロールアップ |
|---|---|---|
| 比率 | セル 1: 167<br>セル 2: 333<br>セル 3: 500 | セル 1: 500<br>セル 2: 1000<br>セル 3: 1500 |
| 比率 (過去の年の値を使用) | セルの現在の値ではなく前年の値を使用する場合を除き、"比率" と同様に分配します。 | セルの現在の値ではなく前年の値を使用する場合を除き、"比率" と同様に分配します。 |
| 均等 | セル 1: 333<br>セル 2: 333<br>セル 3: 333 | セル 1: 1000<br>セル 2: 1000<br>セル 3: 1000 |
| 加重 4-4-5 | セル 1: 308<br>セル 2: 308<br>セル 3: 385 | セル 1: 923<br>セル 2: 923<br>セル 3: 1154 |
| 加重 4-5-4 | セル 1: 308<br>セル 2: 385<br>セル 3: 308 | セル 1: 923<br>セル 2: 1154<br>セル 3: 923 |
| 加重 5-4-4 | セル 1: 385 | セル 1: 1154 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 方法 | 合計のロールアップ | 平均のロールアップ |
|---|---|---|
| | セル 2: 308<br>セル 3: 308 | セル 2: 923<br>セル 3: 923 |

relatedlinks
タスク
ステップ: カスタム按分の設定（1286ページ）

## 科目、組織、属性の合計でのデータの按分

始める前に

- 按分方法を理解するために、合計計算を確認します。
- バージョン シナリオで値を変更するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

このタスクについて

合計では、事前設定された構造に従って入力の値が合計または平均されます。シートでは、合計は青色で表示されます。合計にデータを入力すると、表示された関連セルが按分パターンに従って自動的に入力されます。

ベスト プラクティスとして、目的の合計が詳細または関連要素よりも重要である場合に、合計にデータを入力できます。例: 営業の親組織に 50 を超える子孫組織がある場合。7 月の製品収益の予測が 800,000 であるとします。営業の親組織に 800,000 を入力できます。次に、按分方法によりすべての子孫組織の値を計算します。

手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. (任意) ツールバーで "表示オプション" をクリックして、"すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" チェックボックスをオフにします。

   すべての行を表示することで、すべての関連セルが表示されていることを確認できます。すべての按分オプションを使用可能にするには、すべての関連セルが表示されている必要があります。
5. 以下のようにシート ビューを変更します。

   キューブ シートの場合は、"属性を変更" をクリックして、最後にネストされた属性としてカスタム属性、組織、または科目を行に追加します。組織属性およびカスタム属性の合計セルは、それらが行で最後にネストされた属性である場合にのみ表示されます。科目の合計は、行または列として表示されます。

   標準シートの場合は、最初の列を右クリックして "科目別に表示" を選択し、科目の合計に値を追加します。
6. 青色の合計セルに値を入力して、Enter キーを押します。

   Enter キーを押すと、按分方法を選択するプロンプトが表示されます。

   合計計算が "最後" になっているために、按分プロンプトが表示されない場合があります。"最後" の合計では、合計値が最後のセルにのみ分配され、その他の関連セルの値は変更されません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

7. 以下を考慮して、按分方法を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 比率 | 表示されている関連セルの既存の値の比率で分配します。"比率" は、シートにすべてのセルが表示されていない場合に選択できる唯一の方法です。 |
| 均等 | 合計を均等に分割するか、平均をすべての関連セルにコピーします。<br>シートにすべての関連セルが表示されていない場合は使用できません。 |
| 比率 (過去の年の値を使用) | それぞれの関連セルに前年の値の比率で分配します。<br>シートにすべての関連セルが表示されていない場合は使用できません。 |
| 前提条件を選択 | インスタンス用にカスタム作成された按分方法を含むドロップダウン メニューを使用します。<br>シートにすべての関連セルが表示されていない場合は使用できません。 |

タスクの結果

関連セルに値が入力されます。

例

以下の値を入力します。

- セル 1: 100
- セル 2: 200
- セル 3: 300

シートを保存したら、合計に 1000 を入力します。時間合計の計算と按分方法に応じて、関連セルの値は以下のように変わります。

| 方法 | 合計のロールアップ | 平均のロールアップ |
|---|---|---|
| 比率 | セル 1: 167<br>セル 2: 333<br>セル 3: 500 | セル 1: 500<br>セル 2: 1000<br>セル 3: 1500 |
| 均等 | セル 1: 333<br>セル 2: 333<br>セル 3: 333 | セル 1: 1000<br>セル 2: 1000<br>セル 3: 1000 |
| 比率 (過去の年の値を使用) | セルの現在の値ではなく前年の値を使用する場合を除き、"比率" と同様に分配します。 | セルの現在の値ではなく前年の値を使用する場合を除き、"比率" と同様に分配します。 |

relatedlinks
タスク
ステップ: カスタム按分の設定 ( 1286ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## 複数のセルの値の調整

### 始める前に

- バージョン シナリオで値を変更するには、"モデル管理"でシナリオ バージョンを作成します。
- データを変更するバージョンまたはシナリオ バージョンにアクセスできることを確認します。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

### このタスクについて

シートに数値データを入力する場合、そのデータを調整して数値の増減を行うと、調整対象となった行、列、または範囲内にある複数のセル全体の値にその変更が反映されます。"調整" オプションを使用すると、以下が可能になります。

- 超過または不足の修正。たとえば、四半期の推定予算が 1,000 ドル超過している場合、四半期の科目行のすべてのセルを「-1,000」と指定して調整する必要があります。
- コピーしたデータの調整。例: 昨年の実績のデータを当年度の予算にコピーしたとします。予算について、シート、列、または行のすべての値を 10% 増やす必要があります。

調整は以下を無視します。

- グレー表示された、選択範囲内の読み取り専用セル
- 選択に関連セルも含まれている場合、青色の合計セル

注 : セルに数式が含まれている場合、調整によって計算値が新しい調整値に自動的に置き換えられます。

### 手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) シナリオ バージョンを使用してベース データへの変更を申請するには、"バージョン" プロンプトからベース バージョンを選択して展開します。
3. (任意) ベース バージョン内でネストされたシナリオ バージョンを選択します。
4. セル範囲を選択します。
5. 範囲を右クリックして "調整" を選択します。
6. 調整オプションを選択します。

   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 調整値を比率で分配 | 入力した正または負の整数を、現在のセルの値に比率で分配します。 |
| 調整値を均等に分配 | 入力した正または負の整数を、現在のセルの値に均等に分配します。 |
| 調整値を個別に適用 | 指定したパーセントまたは値で各セルの調整値を増減します。 |

### 例

次の表は、さまざまな調整オプションと結果を示しています。開始値は次のとおりです。

- セル 1: 1,000
- セル 2: 2,000
- セル 3: 3,000

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 希望する結果 | 調整オプションと入力 | 調整後の値 |
|---|---|---|
| 既存の値に比例してセル全体に 1000 をスプレッドします。 | • 調整値を比率で分配<br>• 1000 | • セル 1: 1,167<br>• セル 2: 2,333<br>• セル 3: 3,500 |
| セル全体に均等に 1000 をスプレッドします。 | • 調整値を均等に分配<br>• 1000 | • セル 1: 1,333<br>• セル 2: 2,333<br>• セル 3: 3,333 |
| 各セルの値に 100 を加算します。 | • 調整値を個別に適用<br>• +<br>• 値<br>• 100 | • セル 1: 1,100<br>• セル 2: 2,100<br>• セル 3: 3,100 |
| 各セルの値から 100 を減算します。 | • 調整値を個別に適用<br>• -<br>• 値<br>• 100 | • セル 1: 900<br>• セル 2: 1,900<br>• セル 3: 2,900 |
| 各セルの値の 10% を現在の値に加算します。 | • 調整値を個別に適用<br>• +<br>• パーセント(%)<br>• 10 | • セル 1: 1,100<br>• セル 2: 2,200<br>• セル 3: 3,300 |
| 各セルの値の 10% を現在の値から減算します。 | • 調整値を個別に適用<br>• -<br>• パーセント(%)<br>• 10 | • セル 1: 900<br>• セル 2: 1,800<br>• セル 3: 2,700 |

## 概念: シートのスイッチ、チェックボックス、ドロップダウン リスト

シートによっては、スイッチ、チェックボックス、ドロップダウン リストが表示されます。

### スイッチ、チェックボックス、ドロップダウン リストの仕組み

スイッチ、チェックボックス、および一部のドロップダウン選択肢では、同じシートやモデル内の別のシートのデータを使用して、数式を有効にすることができます。たとえば、医療/福利厚生のスイッチをオンにすると、給与や人員などの他のデータを使用して、人件費を計算できます。

ドロップダウン選択肢は、データのスライス、分類、タグ付けに使用されるモデル内の情報ラベル、カスタム属性、特性である場合もあります。

### チェックボックスまたは切替スイッチ状態の変更

要件: モデル シート

チェックボックスをオンまたはオフにするには、チェックボックスを選択します。切替スイッチを使用するには、オンまたはオフにするスイッチを選択します。チェックボックスや切替スイッチの未保存の変更は、青色で表示されます。保存済みの変更は、緑色またはグレーで表示されます。

| | 保存済 | 未保存 |
|---|---|---|
| チェックボックス | ☑ ☐ | ☑ ☐ |
| 切替スイッチ | on off | オン オフ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ドロップダウン リスト

ドロップダウン リストが表示されるセルでアイテムを選択するには、次の操作を行います。

1. セルにマウス ポインターを合わせると、ドロップダウン矢印が表示されます。
2. 矢印をクリックして、値を選択します。

属性と特性のドロップダウン リスト

セルのドロップダウン リストに属性や属性特性が表示される場合は、モデル シートの他の関連ドロップダウン リストでフィルタとして使用できます。表示される選択肢の変更や追加も可能です。参照 キューブ シート ビューの変更（84ページ） および モデル シート ビューの変更（87ページ）。

## 参考: セル内のデータのクリア

データをクリアすると、以下の結果になる可能性があります。

- 空白
- ゼロ

セルを参照する数式では、ゼロおよび空白の動作が異なります。

モデル シートの組織ドロップダウン セルおよびテキスト セレクターの場合、現在のデータのセルをクリアする唯一の方法は別のオプションを選択することです。

| クリア方法 | 結果 |
|---|---|
| "リフレッシュ" ボタン | 白色または青色のセルにある未保存のデータのみに対して使用可能。<br>元のデータに戻ります。 |
| 右クリック > "クリア" | 白色のセルにある保存済または未保存のデータに対して使用可能。<br>• ほとんどのデータおよびドロップダウン プロンプトのデータが空白に置き換えられます。<br>• "累積タイプ" - "差額" の設定を含むストック科目では、データがゼロに置き換えられます。<br>青色のセルには "クリア" オプションがありません。 |
| ゼロを入力 | 白色のセルにある保存済または未保存のデータに対して使用可能。<br>共有数式の計算データがクリアされます。 |
| Backspace または Delete キー | 保存済または未保存の青色のセルに対して使用可能。<br>合計セルおよびすべての関連セルのデータがゼロに置き換えられます。 |
| "行を削除" ボタン | モデル シートでのみ使用可能。<br>行全体および行内のすべてのデータが削除されます。 |

## 参考: コピーと貼り付け

Adaptive Planning でのコピーと貼り付けの結果は、以下によって異なります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- コピーするコンテンツ
- 貼り付け先

以下からデータをコピーできます。

- Excel スプレッドシート
- その他の Adaptive Planning シート
- 同じ Adaptive Planning シート内

次のコピーと貼り付けの標準的なコマンドを使用することで、Adaptive Planning シートへのデータ入力速度が向上します。

- Ctrl + C
- Ctrl + V
- Ctrl + X

ツールバーの "コピーモード" ボタンを使って、値の貼り付けと数式の貼り付けを切り替えます。

一般ルール

| | |
|---|---|
| コピー | Adaptive Planning シートで、以下をコピーします。<br>• グレーのセル<br>• 青色のセル<br>• 以下を含む白色のセル<br>  • 数値データ<br>  • 数式<br>  • 日付<br>  • テキスト<br>  • ドロップダウンの値<br>  • 選択した任意の値<br>他の任意のドキュメントからテキストをコピーできます。 |
| 切り取り | 白色または青色のセル。<br>グレーのセルからデータを切り取ることはできません。 |
| 貼り付け | • 任意の白色または青色のセルへ。青色のセル (時間合計、科目合計、または属性合計) については、値を按分する必要があります。<br>• 読み取り専用セルに貼り付けることはできません。セルの範囲をコピーして別の範囲に貼り付ける場合、選択範囲内の読み取り専用セルには貼り付けられません。<br>• ドロップダウンでは、貼り付ける値はドロップダウンで使用可能なオプションである必要があります。<br>• 数値セルにテキストを貼り付けると、テキストは数式として扱われます。無効な数式の場合、エラーが発生します。 |

切り取りまたはコピーするシートの形式は、貼り付けるシートに合わせます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

例: Excel ファイルに四半期の合計が含まれていない場合は、Adaptive Planning シートの四半期の合計を非表示にします。以下のように、同種のデータを含むセルに、セルをコピーまたは切り取りします。

- 合計セルを合計セルに。
- 数式を数値セルに。
- テキストをテキスト セルに。

複数のセルの切り取り、コピー、貼り付け

セルの範囲をコピーまたは切り取る場合は、以下のようにします。

- コピー/切り取りの選択範囲と同じ数の列と行を貼り付けの範囲として選択します。
- 貼り付けの選択範囲内の読み取り専用セルと合計セルに注意します。
- 数式はコピーしません。

| 選択およびコピーまたは切り取り | 選択 | 貼り付けの結果 |
|---|---|---|
| 複数セル (下方向) | 狭い範囲 | 選択範囲のみ貼り付けられ他のセルは廃棄されます。 |
| 複数セル (横方向) | 狭い範囲 | 選択範囲外のロック解除済みセル。 |
| 複数セル (下方向) | 1 つのセル | 下に向かって並んでいるロック解除済みセル。科目合計、組織合計、属性合計に対応するセル データ、ならびに選択範囲外のセルは廃棄されます。 |
| 複数セル (横方向) | 1 つのセル | 横に並んでいるロック解除済みセル。合計セルに対応するセル データは廃棄されます。 |
| 任意の範囲 | 範囲の正確な属性 | 使用可能なすべてのセル。合計またはグレーのセルに対応するセル データは廃棄されます。 |
| 単一セル | 複数セル | 範囲の最初のセルのみ。 |

モデル シートでの切り取り、コピー、貼り付け
レコードをコピーして新しいレコードを追加する場合は、まず少なくとも 1 行を追加します。複数の新しい行を新しい行に貼り付けます。シートでは、貼り付けのサイズに合わせて行が作成されます。

シートまたはダッシュボード上のシートの列を非表示にした場合は、次のようになります。

- データ範囲をコピーして貼り付ける場合、非表示の列の値を除く値がコピーおよび貼り付けされます。
- 分割列をコピーしても、非表示の列の値は貼り付けられません。

行をコピーした場合は、非表示の値もコピーおよび貼り付けされます。

数値または数式データ範囲

| 選択およびコピーまたは切り取り | 選択および貼り付け先 | 貼り付け先 |
|---|---|---|
| 任意の範囲 | 範囲の正確な属性 | 使用可能なすべてのセル。合計またはグレーのセルに対応するセル データは廃棄されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 選択およびコピーまたは切り取り | 選択および貼り付け先 | 貼り付け先 |
|---|---|---|
| 単一セル | 複数セル | 範囲の最初のセルのみ |

数式のコピー
数式を含むセルの場合、"コピー モード" ボタンによって貼り付ける内容が決まります。データをコピーして貼り付ける前に、以下のように切り替えます。

- "値のコピー モード" を選択して、数値テキストを貼り付けます。
- "数式のコピー モード" を選択して数式を貼り付けます。

数式を含まないセルをコピーする場合は、テキストを貼り付けられます。

| 選択およびコピーまたは切り取り | 貼り付け先 | 貼り付けの結果 |
|---|---|---|
| 数式を含む Adaptive Planning セル | Excel | 数式構文はテキストとして貼り付けられます。Excel の値は計算されません。<br>Excel のセルに数式を貼り付けるには、Adaptive Planning のセルを一度に 1 つだけ選択します。複数のセルを選択しても、数式はコピーされません。 |
| 数式を含む Adaptive Planning セル | Adaptive Planning シート | 数式を文字列として貼り付け、"保存" をクリックすると値を計算します。 |
| Adaptive Planning の数式をテキストとして含む Excel セル | Adaptive Planning シート | 数式を文字列として貼り付け、"保存" をクリックすると値を計算します。 |
| Excel 数式を含む Excel セル | Adaptive Planning シート | 計算値を貼り付けます。数式は貼り付けられません。 |

合計への貼り付け

青色の合計セルには常に数値が含まれます。

| 選択およびコピーまたは切り取り | 貼り付け先 | 貼り付けの結果 |
|---|---|---|
| 青色の合計セル | 白色の単一セル | 数値 |
| 任意の単一セル、合計を含む | 青色の単一合計セル | 数値。按分方法を選択します。 |
| 任意のセル範囲 | 青色の合計を含む範囲 | 合計セルに対応するセル データは廃棄されます。 |
| 任意のセル | グレーの合計セル (組織合計など) | グレーのセルに対応するセル データは廃棄されます。 |

## 例: 分割を使用した内部取引の相殺消去

この例では、連結機能を備えた分割方法を使用して会社間取引を消去することにより、関連会社間の取引を解決する方法を説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

親会社は、2 つの子組織、つまり親会社の子会社である A 社および B 社を持つ組織です。現行予算バージョンで、A 社が B 社に支払った 2023 年 1 月の 4,000 ドルのトランザクションを入力します。このトランザクションを、親会社組織で消去したいものとします。

トランザクションは内部取引シートで追跡します。科目は行の中で、組織はツールバーの "組織" のドロップダウン プロンプトで提供されています。分割方法の場合、標準シートにはシートの 2 列目に取引先属性があります。行には以下の総勘定元帳科目があります。

- 買掛金: 貸方科目である"負債"にロールアップされる。
- 売掛金: 借方科目である"資産"にロールアップされる。

分割方法で内部取引データを入力する場合、貸方勘定に金額を入力し、対応する金額を借方科目に入力する必要があります。次に、適切なデータに取引先属性値をタグ付けします。貸方と借方間で差額が発生した場合、システムでは自動的に調整科目に差額が保持されます。

始める前に

- 連結を有効にする場合は、当社にご連絡ください。
- 内部取引消去のために分割方法を設定する。参照 ステップ: 内部取引消去の設定（1245ページ）。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

手順

1. メイン メニューから "シート" を選択します。
2. シートを開くには、"内部取引" をクリックします。
3. トップ メニューのバージョン プロンプトから "現行予算" を選択します。
4. "組織" プロンプトから "A 社" を選択します。
   まず、支払パートナーとして A 社のトランザクションを入力します。
5. "2023 年 1 月"および"買掛金"に対応するセルから、セルを右クリックして "分割を追加" を選択します。
6. "分割名" には、「B 社への支払い」 と入力します。
7. "OK" をクリックします。
   このステップにより、"B 社への支払い" という新しい行、すなわち分割が作成されます。分割は"買掛金" にロールアップされます。
8. "B 社への支払い" および "2023 年 1 月" に対応するセルに、「*4000*」 と入力します。
9. 同じ行の "取引先" 列から "B 社" を選択します。
   このステップにより、A 社 と B 社が本トランザクションの取引先として関連付けられます。
   シートは次のようになります。
   組織: A 社

| 科目 | 取引先 | 2023 年 1 月 |
|---|---|---|
| 負債 | | |
| - 買掛金 | | |
| – B 社への支払い | B 社 | 4,000 |
| 資産 | | |

10. ツールバーの "保存" をクリックします。
11. "組織" プロンプトから "B 社" を選択します。
    ここで、受領パートナーとして B 社の対応するトランザクションを入力します。
12. "2023 年 1 月" および "売掛金" に対応するセルから、右クリックして "分割を追加" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

13."分割名" には、「A 社からの受領」と入力します。
14."OK" をクリックします。
このステップにより、"A 社からの受領" という新しい行、すなわち分割が作成されます。分割は"売掛金" にロールアップされます。
15."A 社からの受領" および "2023 年 1 月" に対応するセルに、「*4000*」と入力します。
16.同じ行の "取引先" 列から "A 社" を選択します。
このステップにより、A 社 と B 社が本トランザクションの取引先として関連付けられます。
シートは次のようになります。
組織: B 社

| 科目 | 取引先 | 2023 年 1 月 |
|---|---|---|
| 負債 | | |
| 資産 | | |
| - 売掛金 | | |
| -- A 社から受領 | A 社 | 4,000 |

17.ツールバーの "保存" をクリックします。

タスクの結果

"4,000" のトランザクションは、親会社組織の "売掛金" 科目または "買掛金" 科目には計上されません。

次のタスク

次のいずれかを実行できます。

- "親会社 (限定)" 組織に移動し、2 つの入力項目が互いに相殺されていることを確認します。
- "連結 > の内部取引消去" に移動し、トランザクションをレビューします。参照 連結からの内部取引消去のレビュー（1249ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 連結（1240ページ）
タスク
ステップ: 内部取引シートの作成（1036ページ）
内部取引科目の設定（874ページ）
取引先と相殺消去組織の作成（850ページ）
連結方式の選択（1257ページ）
相殺消去ルールの作成（1248ページ）

## 例: 特性を使用した内部取引消去の入力

この例では、連結機能で特性方法を使用する場合に、内部取引消去を入力する方法を説明します。

このタスクについて

親会社は、2 つの子組織、つまり親会社の子会社である A 社および B 社を持つ組織です。現行予算バージョンで、A 社が B 社に支払った 2023 年 1 月の 4,000 ドルのトランザクションを入力します。このトランザクションを、親会社組織で消去したいものとします。

特性方法を使用するには、考えられるすべての取引先のペアごとに個別の科目を用意します。各ペアのトランザクションは、常に同じ貸方科目と借方科目に入力します。科目構造は次のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 内部取引債務
    - A 社から B 社: "B 社" 特性を持つ。
    - B 社から A 社: "A 社" 特性を持つ。
- 内部取引債権
    - B 社から A 社: "B 社" 特性を持つ。
    - A 社から B 社: "A 社" 特性を持つ。

取引科目が標準シート上にある場合、科目特性は表示されません。科目名は内容が分かるものでなければなりません。取引科目がキューブ シート上にある場合、科目特性が表示されます。特性を使用し、シートをフィルタリングおよびピボットして適切なセルを見つけることができます。この例では、"内部取引" という標準シートで内部取引を追跡します。科目は行に配置されています。

始める前に

- 連結を有効にする場合は、当社にご連絡ください。
- 内部取引消去のために特性方法を設定する。参照 ステップ: 内部取引消去の設定（1245ページ）。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

手順

1. メイン メニューから "シート" を選択します。
2. シートを開くには、"内部取引" をクリックします。
3. トップ メニューのバージョン プロンプトから "現行予算" を選択します。
4. "組織" プロンプトから "A 社" を選択します。
   "A 社" を選択し、支払パートナーのトランザクションを入力します。
5. "2023 年 1 月" および "A 社から B 社" に対応するセルに、「*4000*」 と入力します。
   シートは次のようになります。
   組織: A 社

| 科目 | 2023 年 1 月 |
|---|---|
| 内部取引債務 | |
| - A 社から B 社 | 4,000 |
| - B 社から A 社 | |
| 内部取引債権 | |
| - B 社から A 社 | |
| - A 社から B 社 | |

6. ツールバーの "保存" をクリックします。
7. "組織" プロンプトから "B 社" を選択します。
   "B 社" を選択し、受領パートナーのトランザクションを入力します。
8. "2023 年 1 月" および "A 社から B 社" に対応するセルに、「*4000*」 と入力します。
   シートは次のようになります。
   組織: B 社

| 科目 | 2023 年 1 月 |
|---|---|
| 内部取引債務 | |
| - A 社から B 社 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 科目 | 2023 年 1 月 |
| - B 社から A 社 | |
| 内部取引債権 | |
| - B 社から A 社 | |
| - A 社から B 社 | 4,000 |

9. ツールバーの "保存" をクリックします。

タスクの結果

"4,000" のトランザクションは、親会社組織の "売掛金" または "買掛金" には計上されません。

次のタスク

次のいずれかを実行できます。

- "親会社 (限定)" 組織に移動し、2 つの入力項目が互いに相殺されていることを確認します。
- "連結 > の内部取引消去" に移動し、トランザクションをレビューします。参照 連結からの内部取引消去のレビュー（1249ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 連結（1240ページ）
タスク
ステップ: 内部取引シートの作成（1036ページ）
取引先と相殺消去組織の作成（850ページ）
内部取引科目の設定（874ページ）
連結方式の選択（1257ページ）
相殺消去ルールの作成（1248ページ）

## トラブルシューティング: シートのセルがロックされているためデータを変更できない

| 原因 | ソリューション |
|---|---|
| このデータを変更する権限がありません。 | セキュリティ管理者に依頼して、以下の権限にアクセスできるようにしてください。<br>• "編集可能なシートへのアクセス"<br>• シート、科目、またはセルに給与データが含まれている場合、"給与詳細へのアクセス" |
| このバージョンはロックされています。 | ロック済ではないバージョンを選択してください。"バージョン" プロンプトでは、ロック済バージョンの横にロック アイコンが表示されます。 |
| 最下位組織科目、組織、または属性が選択されていません。 | すべてのシートの場合、展開できなくなるまで行を展開します。<br>モデル シートと標準シートの場合、ツールバーの "組織" プロンプトから、サブ組織やサブ科目のない組織または科目を選択します。サブ組織やサブ科目がある組織および科目の横に、展開/折り畳みアイコンが表示されます。<br>キューブ シートの場合、シートの上部にある各属性フィルタから、展開できない値を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | どのフィルタが属性であるか分からない場合は、管理者に問い合わせてください。 |
| シートに実績のオーバーレイが表示されています。セル内のフォントが緑色で、計画バージョンである場合、変更できない実績データが見えています。 | 当該期間の実績バージョンにアクセスし、そのデータを変更します。 |
| このデータは数式を使用して計算されます。セルがグレーで青色の三角形が付いている場合、そのデータは、他の科目に入力されたデータから計算されます。 | セルを選択し、数式バーを見て、数式内で参照されている科目を確認します。<br>別のシートでその科目にアクセスする権限を持っている場合は、元のデータを変更します。 |
| この科目はリンクされています。リンクされた科目は、別の科目からデータを引き出しており、ロック済です。 | ソース科目のデータを変更します。<br>1. 変更するセルを右クリックして、"セルを探索" を選択します。<br>2. "リンク" セクションで科目を選択します。<br>3. 新しい "セルを探索" ウィンドウで、データを変更できる可能性のあるシートを選択します。 |
| この科目は読み取り専用です。 | モデル管理者に以下を依頼してください。<br>1. "モデル管理" でこの標準シートを編集します。<br>2. "科目グループ" を選択します。<br>3. 科目を選択します。<br>4. "読み取り専用" チェックボックスをオフにします。 |
| 科目は選択された組織では読み取り専用です。 | "モデリング" の標準シートの "サブ組織のカスタマイズ" 領域にある科目のロックを解除するよう、管理者に依頼してください。<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. 標準シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "サブ組織のカスタマイズ" をクリックします。<br>5. "科目" タブから科目を選択します。<br>6. チェックマークが表示されるまで、組織の横にあるチェックボックスをクリックします。このチェックマークは、ユーザーがその組織の科目を編集できることを示します。<br>7. "保存して 閉じる"をクリックします。 |
| 科目が前提条件科目である。 | 前提条件科目のデータを変更するには、最上位組織を選択する必要があります。 |
| このモデル シートには行が含まれていません。行のないモデル シートはロックされます。 | 行を追加し、それらの行にデータを入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| これらのセルは、標準シートのモデル科目またはキューブ科目です。標準シートのモデル科目またはキューブ科目は口ックされます。モデル科目のデータは、バックグラウンドでの複雑な計算の結果です。キューブ科目のデータは多属性で複雑です。 | これらの科目では、モデル シートまたはキューブ シートのデータを変更します。<br>1. 変更するセルを右クリックして、"セルを探索" を選択します。<br>2. シートのリストから、科目のモデル シートまたはキューブ シートを選択します。 |
| このシートでは現在、ゼロと空白が表示されていません。 | 1. ツールバーで "表示オプション" を選択します。<br>2. "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" チェックボックスをオフにします。 |
| この標準シートでは、混合時間設定が使用されています。標準シートで異なる時間設定を持つ科目が使用されている場合、共通最大期間が表示されます。期間が短い科目の場合、このデータは口ック済の時間合計として表示されます。 | これらの短い期間を変更するには、科目行を右クリックし、"組織別に表示" を選択します。 |
| このキューブ シートはマージされたキューブ シートであり、含めることができるのは算出科目またはメトリック科目のみです。 | これらの算出科目およびメトリック科目では、ソース シートのデータを変更します。<br>1. 変更するセルを右クリックして、"セルを探索" を選択します。<br>2. ソース シートが表示されるまでドリルダウンします。 |
| このインスタンスでは、ワークフローおよび以下のいずれかを行ったユーザーが使用されています。<br>• 承認のために組織を送信した。<br>• 組織を承認した。 | 組織を却下するよう、ワークフローの承認者に依頼してください。ユーザー割当シートと組織割当シートの両方に科目が存在する場合、ワークフローの承認者は両方の組織を却下する必要があります。 |
| このインスタンスでは、アクセス ルールが使用されています。アクセス ルールは、データの特定の交差部分を口ックできます。 | 影響を受けるアクセス ルールを確認するよう、セキュリティ管理者に依頼してください。 |

relatedlinks
参考
トラブルシューティング: シート上でロックされた科目（905ページ）

# シート ビュー

## キューブ シート ビューの変更

始める前に

- セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

このタスクについて

キューブ シートおよびダッシュボード上のキューブ シートでは、次の操作を実行できます。

- 期間のフィルタリング
- ゼロと空白の非表示

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 代替カレンダーの表示
- 行、列、フィルタの入替
- 選択した属性および特性の非表示
- 属性または特性別のフィルタリング
- 行の展開および折り畳み

時間、科目、カスタム属性、特性はキューブ シート上で属性になります。次のように表示されます。

- シート上のドロップダウン フィルタ
- 列全体
- シートの左下。行には複数の属性と特性をネストできます。

フィルタの用途:

- 関連フィルタのフィルタリング
- 行のフィルタリング
- ロック解除されたセルの検索データを変更するには、各フィルタで最下位の属性を選択します。

シートを保存すると、変更内容は優先の表示として保存されます。いつでも元のデフォルト ビューに戻すことができます。ダッシュボード上のシートの場合、表示は所有者が設定したデフォルトに戻ります。シートでは、管理者のデフォルト表示に戻ります。

手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) "列と行を入れ替える" をクリックします。
   例: 列に時間、行に科目が入っている場合、"列と行を入れ替える" ボタンをクリックして列に科目を使用し、時間を行として使用します。
3. (任意) キューブ シートの上部から属性または特性をドラッグ アンド ドロップします。
   次のようにアイテムをドラッグできます。
   - 現在の行の属性を置き換えるには、行の最初の列にドロップする。行内のネストされた任意の属性を置き換えることもできます。
   - 列の属性を置き換えるには、列のヘッダー行にドロップする。
4. (任意) ツールバーで "属性を変更" をクリックします。
   列と行の属性を選択すると、"フィルタ" セクションで使用できなくなります。
5. (任意) 以下を考慮して、"属性を変更" ダイアログを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 列 | 属性または特性を選択します。 |
| 行 | 属性または特性を選択します。<br>追加のネストされた行プロンプトで、さらに属性を選択できます。 |
| フィルタ | 使用可能な各属性から値を選択して、シートをフィルタリングします。 |

6. (任意) シートの上のドロップダウン メニューでオプションを選択し、以下をフィルタリングします。
   - 関連フィルタ
   - 行

   フィルタを使用して、ロック解除されたセルを検索することもできます。データを変更するには、各フィルタで最下位の属性を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

7. (任意)"表示オプション" を選択して、以下を設定します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| "時間 " タブ | 表示するカレンダーと期間範囲を選択します。 |
| キューブ シートに各属性のタブが表示されます。 | 表示する属性値を選択します。 |
| "行の合計を非表示" タブ | デフォルトのシート ビューで行合計を非表示にする属性を選択します。 |
| すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない | すべてゼロの行または空白の行を非表示にする場合に選択します。 |
| すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定する | すべてのユーザーが最初にシートを開いたり、ダッシュボードでシートを作成した時に、このシート ビューをデフォルト ビューとして設定する場合に選択します。 |

8. (任意) フィルタの選択を保存するには、表示オプションを変更するか、データを変更して "保存" ボタンをアクティブにします。

例

衣類を販売する店舗の場合、キューブ シートで、以下をフィルタリングします。

- 属性ごとの行の特性
- 特性ごとの列の属性
- 関連フィルタ

モデルに "製品" という属性があります。"製品" には "グループ" と呼ばれる属性特性があります。"グループ" は製品を分類します。各製品の属性には、特性がタグ付けされています。

| グループの特性値 | トップス | ボトムス | アクセサリー |
|---|---|---|---|
| 製品の属性値 | • タンクトップ<br>• T シャツ<br>• ブラウス<br>• セーター | • レギンス<br>• ジーンズ<br>• スカート<br>• ショートパンツ | • ベルト<br>• 帽子<br>• ハンドバッグ<br>• 手袋 |

| | |
|---|---|
| 属性ごとの行の特性のフィルタリング | "トップス" グループ特性の行をフィルタリングして、"T シャツ" の製品属性データのみを表示します。<br>1. ツールバーで "属性を変更" をクリックします。<br>2. "列と行" セクションで、以下を選択します。<br>• "列" プロンプトの "科目"<br>• 最初の "行" プロンプトの "グループ"<br>3. "製品" フィルタで "T シャツ" を選択します。 |
| 特性ごとの列の属性のフィルタリング | "アクセサリー" グループ特性で "製品" 属性の列をフィルタリングします。<br>1. ツールバーで "属性を変更" をクリックします。<br>2. "列" で "製品" を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "OK" をクリックします。列にはすべての製品が含まれます。
4. "グループ" ドロップダウン フィルタから、"アクセサリー" を選択します。

関連フィルタのフィルタリング

"トップス" グループ特性ごとに "製品" フィルタで使用可能な属性をフィルタリングします。

1. ツールバーで "属性を変更" をクリックします。
2. "列と行" セクションで、以下を選択します。
   - "列" プロンプトの "時間"
   - 最初の "行" プロンプトの "科目"

   これらを選択することで、"グループ" 特性と "製品" 属性をフィルタとして使用できるようになります。
3. "OK" をクリックします。
4. "グループ" 特性フィルタから "トップス" を選択します。

## モデル シート ビューの変更

始める前に

- 参照 概念: シート タイプ（43ページ） および 概念: シート ビュー（92ページ）。
- 列を非表示にするには、管理者に顧客ケースを作成してこの機能を有効にするよう依頼してください。また、管理者は、ユーザーがこの特定のシートの列を非表示にできるよう "モデル管理" で設定を行う必要があります。
- セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

このタスクについて

モデル シートおよびダッシュボード上のモデル シートでは、次の操作を実行できます。

- 表示オプション フィルタの使用
- ツールバー フィルタの使用
- ゼロと空白の非表示
- シートの期間のフィルタリング
- 代替カレンダーの表示
- 列を非表示または再表示

シートを保存すると、変更内容が優先表示として保存されます。いつでも元のデフォルト ビューに戻すことができます。ダッシュボードでは、表示がダッシュボード所有者によって設定されたデフォルトに戻ります。シートでは、管理者のデフォルト表示に戻ります。

モデル シートには、管理者によって最大表示行数が設定されている場合があります。表示可能な行数に上限がある場合は、シートの下部に情報メモが表示されます。フィルタを使用すると、異なるデータ セットを表示したり、表示可能なシートのサイズを最小化したりできます。

手順

1. シートを開く（35ページ）.

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. (任意) ツールバー フィルタを使用すると、以下が可能です。
    - 一致するものをすべての列で検索する。
    - 一致するレコードのみを表示し、他のすべてのレコードを非表示にする。

    "表示オプション" のフィルタがアクティブになっている場合、キーワード フィルタはそれらのパラメータ内で一致するもののみを検出します。

    レコード表示の制限によってシートの一部が表示されていない場合、キーワードでフィルタリングすると、表示されていないシートの一致も検索されます。たとえば、シートに 1,000 件のレコードのうち 100 件のレコードが表示されている場合、キーワード フィルタは一致するものを 1,000 件すべてのレコードで検索します。
3. (任意) 行をフィルタリングするには、ツールバーの "表示オプション" を選択します。
4. (任意) "行をフィルタリング" タブを選択します。
5. (任意) "行をフィルタリング" タブを使用する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 列 | フィルタを適用する列を選択します。 |
| 比較タイプ | フィルタの演算子を選択します。 |
| 値を入力 | 文字、単語、または数字を入力します。列の値が日付の場合は、日付を選択します。 |
| 追加 | フィルタにルールを追加するには、プラス文字アイコンをクリックします。シートをさらにフィルタリングするには、別の列、または同じ列と別の演算子を選択します。 |
| グループを追加 | 現在の基準に「OR」ルールを追加するには、"グループを追加" をクリックします。グループを使用して、いずれかのフィルタ グループに一致するデータをシートに表示します。 |

6. (任意) 最初にシートを開いたとき、またはダッシュボードでシートを作成したときに、 すべてのユーザーに対してこのシート ビューをデフォルト ビューとして設定するには、"すべてのユーザーに対してデフォルトとして 設定する" を選択します。

## 標準シート ビューの変更

### 始める前に

セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

### このタスクについて

ダッシュボード上の標準シートには、以下の表示の変更を適用できます。

- ゼロと空白の非表示
- シートの期間のフィルタリング
- 代替カレンダーの表示
- スパークラインの表示
- フィルタによる行の切替
- 行の展開および折り畳み

シートを保存すると、変更内容は優先の表示として保存されます。いつでも元のデフォルト ビューに戻すことができます。ダッシュボード上のシートの場合、表示は所有者が設定したデフォルトに戻ります。シートでは、管理者のデフォルト表示に戻ります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. (任意) 科目が行項目になっている場合、最初の列を右クリックして、"組織別に表示" を選択します。
   組織が行項目になり、科目をフィルタリングできます。
3. (任意) 組織が行項目になっている場合、最初の列を右クリックして、"科目別に表示" を選択します。
   科目が行項目になり、組織をフィルタリングできます。
4. (任意) フィルタで組織または科目を選択します。
   保存すると、新しいビューが優先ビューになります。
5. (任意) 確認したいデータが行に表示されるまで、行をクリックして展開するか折り畳みます。
   展開および折り畳んだ行の設定を保存するには、表示オプションやデータに変更を加え、"保存" ボタンをアクティブ化する必要があります。
6. (任意)"表示オプション" を選択して、以下を設定します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| "時間 " タブ | 表示するカレンダーと期間範囲を選択します。 |
| すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない | すべてゼロの行または空白の行を非表示にする場合に選択します。 |
| すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定する | すべてのユーザーが最初にシートを開いたり、ダッシュボードでシートを作成した時に、このシート ビューをデフォルト ビューとして設定する場合に選択します。 |

relatedlinks
概念
概念: シート タイプ（43ページ）
概念: シート ビュー（92ページ）

## シート上の期間表示の変更

始める前に

- 代替カレンダーの合計を表示するには、管理者が "モデル管理" で代替カレンダーをインポートしていることを確認する。
- セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

このタスクについて

期間のあるシートの表示オプションを使用して、シート上の期間を非表示にすることができます。シートを保存すると、表示オプションの変更が優先ビューとして保存されます。デフォルト ビューにリセットすることもできます。

- シートから、管理者が設定したデフォルト ビューにリセットする。
- ダッシュボードから、ダッシュボードの所有者が設定するデフォルト ビューにリセットする。

手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. ツールバーで "表示オプション" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "時間" タブを使用する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| カレンダー | 主カレンダーとは異なる時間の合計を表示する代替カレンダーを選択します。<br>代替カレンダーを表示する際にデータの整合性を保つため、以下が禁止されています。<br>• 行を追加する。<br>• セル値をコピーして貼り付け<br>• 行をコピーして貼り付け<br>• トランザクションへのドリルイン<br>• セル エクスプローラーの使用<br>この代替カレンダーの選択は、ユーザー ビューの状態として引き続き保存できます。 |
| 開始<br>終了 | 表示する期間範囲を選択します。 |

例

現在の日付は 2017 年 5 月です。期間の表示オプションを以下のいずれかに変更するとします。

- 2017 年 1 月 に開始し、2017 年 6 月に終了する。
- 2016 年 1 月に開始し、2017 年 12 月に終了する。
- 2016 年 4 月に開始し、2017 年 5 月に終了する。
- 2016 年分は、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期を表示する。2017 年分は、2017 年 1 月、2017 年 2 月、2017 年 3 月、2017 年 4 月、および 2017 年 5 月を表示する。

| 求める結果 | 表示オプション |
|---|---|
| 2017 年 1 月 に開始し、2017 年 6 月に終了する。 | • 開始: 当年<br>• 開始のオフセット: 0<br>• 終了: 当四半期<br>• 終了のオフセット: 0<br>• 期間グリッドで、すべての年に対して "月" を選択 |
| 2016 年 1 月に開始し、2017 年 12 月に終了する。 | • 開始: 当年<br>• 開始のオフセット: -1<br>• 終了: 当四半期<br>• 終了のオフセット: 2<br>• 期間グリッドで、すべての年に対して ″月″ を選択。 |
| 2016 年 4 月に開始し、2017 年 5 月に終了する。 | • 開始: 月<br>• "開始" の下のプロンプトで、"2016 年 4 月" を選択<br>• 終了: 当月<br>• 期間グリッドで、すべての年に対して ″月″ を選択。 |
| 2016 年分は、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期を表示する。2017 年分は、2017 年 1 | • 開始: 月<br>• "開始" の下のプロンプトで、"2016 年 4 月" を選択 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 求める結果 | 表示オプション |
| --- | --- |
| 月、2017 年 2 月、2017 年 3 月、2017 年 4 月、および 2017 年 5 月を表示する。 | • 終了: 当月<br>• 期間グリッドで、以下を選択。<br>  • 2016 年では "四半期"<br>  • 2017 年では "月" |

## モデル シートでのゼロと空白の非表示

### 始める前に

セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

### このタスクについて

ゼロと空白のみのセルを含むモデル シート行を非表示にすることができます。分割のない科目行と組織行のみが表示されません。リンクのあるモデル科目は表示されません。

### 手順

1. シートを開く（35ページ）.
2. モデル シートのツールバーで "表示オプション"を選択します。
3. "行をフィルタリング" を選択します。
4. "列" プロンプトで数値を含む列を選択します。
5. "比較タイプ" プロンプトで "次の値と等しくない" を選択し、"値を入力" テキスト ボックスに「0」を入力します。
6. "グループを追加" を選択します。
7. "列" プロンプトでテキストを含む任意の列を選択します。
8. "比較タイプ" プロンプトで "は空ではない" を選択します。
9. テキストを含む各列に "は空ではない" グループを追加します。

## シートのデフォルト ビューを異常検出用に設定

### 始める前に

セキュリティ:

- "シートへのアクセス" 権限
- モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

時間合計に異常値は表示されないため、すべてのユーザーが異常値を見つけられるように、デフォルトで最小の期間を表示します。

### 手順

1. メイン メニューから "シート" を選択します。
2. シートを開く（35ページ）.
3. "表示オプション" > "時間" を選択します。
4. 使用可能な最小の期間を選択します。
5. "すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定する" チェックボックスをオンにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
タスク
ステップ: 異常検出の設定 ( 734ページ )

## 概念: シート ビュー

シート ビューを定義するために、ユーザーと管理者は以下を変更できます。

- シートに表示されるデータとメタデータ
- シートでのデータとメタデータの表示方法

以下の目的でシート ビューを変更できます。

- ロック解除済セルにアクセス、シートのサイズを縮小、スクロールを不要にするため。
- 空白データの行を非表示にするため。
- 列幅の変更
- モデル シートによって表示できる行の数に管理者が制限を設けた場合に、異なるデータセットを表示するため。
- 自分に無関係なデータを削除または非表示にするため。

シート ビューの状態には、以下の 3 つがあります。

- 管理者がシートおよびダッシュボード上のシートに設定するデフォルト ビュー
- ダッシュボードの作成者がダッシュボード上のシートに設定するデフォルト ビュー
- シートおよびダッシュボード上のシートのユーザーの優先ビュー

管理者が設定するデフォルト ビュー
管理者はシートのデフォルト ビューを設定します。これにより、ユーザーがシートを初めて開く時、またはダッシュボードでシートを作成する時のシートの表示方法を決定します。列幅の変更などの変更も含まれます。

共有ダッシュボードからシートを表示すると、ダッシュボードの所有者が設定したデフォルト ビューが表示されます。シートまたはダッシュボードから、個人の優先ビューに変更できます。"デフォルト ビューにリセット" を選択すると、管理者が設定したビューに戻ります。

ダッシュボード作成者が設定するデフォルト ビュー
ダッシュボード上のシートのデフォルト ビューは、基礎シートの管理者デフォルト ビューとは異なります。

ダッシュボード作成者は、ダッシュボードのストーリーに合わせてダッシュボード上のシートのデフォルト ビューを変更できます。ダッシュボード作成者がダッシュボードを共有またはパブリッシュすると、他のユーザーはこのデフォルト ビューで開始します。他のユーザーは優先ビューの変更や保存ができます。しかし、ダッシュボード所有者がエリアやダッシュボードを公開すると、全ユーザーの優先ビューは新しくパブリッシュされたビューに変更されます。

ダッシュボード上のシートと基になるスタンドアロンのシートのデフォルト ビューの変更は、互いに影響しません。

ユーザーの優先ビュー
シートの表示を変更して保存すると、次回シートを開いたときにこの優先ビューが表示されます。表示の変更を取り消すことはできません。再び表示を変更して保存する必要があります。

ダッシュボード上のシートと基になるスタンドアロンのシートのユーザーの優先ビューの変更は、互いに影響しません。

ダッシュボード上のシートの表示の変更は、自動的に保存されます。列や行のフィルタリングや入れ替えなど、一部の表示変更では、以下のいずれかを行った場合にのみ保存されます。

- キューブ シート内の属性変更
- 表示オプションの変更

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- データ入力の保存

ダッシュボードの所有者がエリアをパブリッシュすると、すべてのユーザーの優先ビューがダッシュボードのデフォルト ビューに戻ります。

relatedlinks
タスク
ダッシュボードでのシートの追加 ( 341ページ )
エリアの共有 ( 302ページ )
参考
トラブルシューティング: シートのセルがロックされているためデータを変更できない ( 82ページ )

### 概念: ゼロと空白の非表示

以下のシートのすべての行のセルがゼロまたは空白の場合、行を非表示にできます。

- キューブ シート ("表示オプション" を使用)
- 標準シート ("表示オプション" を使用)
- モデル シート ("表示オプション" の "行をフィルタリング" タブを使用して、ゼロと空白の行をフィルタリング)

ゼロや空白を非表示にすると、データが必要な行に新しいデータを入力できなくなります。キューブ シートでは、空白やゼロの行を非表示にしたまま、特定の行を追加できます。

シート、ダッシュボード、レポートから "セルを探索" にアクセスする際に、すべての値がゼロまたは空白であれば、ウィンドウの一番下に表示される関連する詳細は自動的に非表示になります。

ゼロが以下の結果である場合、ゼロの行が表示されることがあります。

- 数式エラー
- "小数部桁数" 科目設定での端数処理

## シート内のデータの探索、ドリル、強化

### シート内でのダッシュボード グラフの作成

始める前に

- セキュリティ:
  - "編集可能なシート アクセス" 権限
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

ダッシュボード権限を使用して、標準シートからグラフを作成し、ダッシュボードに保存します。標準シートでは、シート内のデータを使用するグラフを作成できます。他のデータを使用してグラフを作成するには、ダッシュボードを使用します。

手順

1. 標準シートを開きます。参照 シートを開く ( 35ページ )。
2. グラフに表示するセルを選択します。
3. ツールバーで "選択したセルのグラフを作成" アイコンをクリックします。右側にグラフが開きます。
4. グラフ名をクリックして編集します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. グラフの右上隅にある "グラフのオプション" アイコンをクリックして、グラフのスタイルと詳細を変更します。
6. 時間設定を調整してデータを表示します。
   ほとんどのグラフ スタイルで、以下の時間設定を選択できます。
   - 単一の期間または範囲の表示
   - 単一の期間の日付、または範囲の開始日と終了日の指定
   - 期間。例: 月、四半期、年。
7. (任意) グラフにバージョンと科目を追加します。
8. グラフの "ダッシュボードに保存" アイコンをクリックします。

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: シート（37ページ）
概念: ダッシュボード（296ページ）

## シート内の異常値の検出

始める前に

- 科目の異常検出を実行するには、科目に少なくとも 24 か月分の実績データが必要です。
- 異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）
- セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

このタスクについて

異常検出では 、機械学習アルゴリズムを使用して予測バージョンの値を算出します。その他の計画データでは、機械がこの予測に対してデータを比較します。値がアルゴリズムで予測された範囲外となる場合、標準シートではセルが紫色の枠線で強調表示されます。

異常検出を使用して会計処理の異常を特定すると、データの隠れたトレンドや外れ値を発見することができます。

異常検出が使用できるのは、以下のとおりです。

- 総勘定元帳科目およびカスタム科目のデータ
- フロー科目タイプのみ
- 計画バージョン。ただし、予測バージョンは除きます。予測バージョンには、アルゴリズムの予測が保持されます。
- 属性を持たない標準シート
- Web シート (Excel Interface for Planning シートは不可)

手順

1. シートを開く（35ページ）.

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

2. シート ツールバーで "異常を表示"を選択します。
   異常値があるセルには紫色の枠線が表示されます。"異常を表示" を再度選択すれば、紫色の異常の枠線を非表示にできます。
   シートを保存またはリフレッシュした後で異常値を表示するには、"異常を表示" をもう一度選択する必要があります。
3. (任意) 異常値があるセルにマウスを合わせると、異常検出の方法に関する情報を確認することができます。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 予測値 | その値に関するアルゴリズムの期待値についての情報を提供します。 |
| 下限<br>上限 | アルゴリズムから予測される許容値の範囲を表示します。 |

4. (任意) セルを訂正して異常として表示されないようにするには、セルを右クリックして "異常の印をはずす" を選択します。
   シートを保存すると、紫色の枠線が削除されます。

relatedlinks
タスク
異常検出予測の生成 ( 739ページ )
異常検出のための予測バージョンの作成 ( 736ページ )

## シートのスパークラインの使用

始める前に

- 標準シートまたはキューブ シートを開きます。シートを開くを参照してください。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

このタスクについて

スパークラインは、標準シートおよびキューブ シートのデータのトレンドの折れ線グラフまたは横棒グラフです。スパークラインをオンにすると、シートの最初の列に表示されます。スパークラインは、同じ行のすべてのセルのデータをグラフ化します。スパークライン セルをクリックすると、より大きく詳細なビジュアライゼーションを表示できます。シートの値がロックされていない場合、トレンドライン上でポイントをドラッグしてシート内のデータを変更できます。

手順

1. ツールバーで "表示オプション" をクリックします。
2. "スパークライン" タブをクリックします。
3. 折れ線グラフまたは横棒グラフの形式を選択します。
   スパークラインを削除するには、"なし" を選択します。
4. "OK" をクリックします。
   スパークラインはグラフの最初の列に表示されます。
5. (任意) ビジュアライゼーションを展開するには、スパークラインが含まれるセルをクリックします。
6. (任意) データを変更するには、展開したスパークラインの任意のポイントを新しい位置にドラッグします。
   変更できるのは、ロックされていないセルに対応するデータのみです。スパークラインのポイントをドラッグすると、行内の対応するセルのデータが更新されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

7. 変更内容を保存します。

## 概念: シート内のデータの検索

### シート全体の検索またはフィルタリング

標準シートおよびキューブ シートでは、"検索" ツールバー ボタンまたはフィルタを使用して、シート上の行ヘッダーまたはセルで一致する項目を検索できます。以下は検索に含まれません。

- 列ヘッダー
- 未選択のドロップダウン オプション

モデル シートでは、"表示オプション" フィルタまたはツールバー フィルタを使用して、表示するデータを絞り込むことができます。

### モデル シートと標準シートのドロップダウン リストの検索

モデル シートおよび標準シートでは、以下を検索できます。

- ツールバーのドロップダウン メニュー
- セルのドロップダウン メニュー

### バージョンの検索

どのシート タイプでも、バージョンのドロップダウン メニューで特定のバージョンを検索できます。

### キューブ シートの属性の検索

キューブ シートでは、属性を以下のいずれかとして設定できます。

- 列
- 属性フィルタ
- 行

これらの属性を検索するには、以下を使用できます。

- 行の属性の "検索" ツールバー ボタン
- 属性フィルタでの検索

列ヘッダーは検索に含まれません。

## 概念: "セルを探索" および "行の詳細"

以下に応じて、シート、レポート、またはダッシュボード グラフでデータ ポイントの詳細を表示できます。

- 権限およびアクセス
- 探索するデータのタイプ

"セルを探索" および "行の詳細" 機能を使用して、以下の操作を行います。

- Workday の実績またはオブジェクトなどの関連データ ソースにドリルスルーする。
- その他の科目、属性、および組織から関連する値にドリルダウンする。

### "セルを探索" および "行の詳細" へのアクセス方法

- シート、内部取引消去、および数式検証で、データ ポイントを右クリックして "セルを探索" または "行の詳細"を選択します。
- ダッシュボード グラフで左クリックして "データを探索"を選択します。
- レポートでハイパーリンクのデータ ポイントをクリックして "セルを探索" を開きます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

セルの探索

セルの探索では、ゼロまたは空白の行が自動的に非表示になります。表示する値に実際に関連する組織、属性、科目、特性の詳細のみが表示されます。ページの "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" の設定をクリアして、ゼロおよび空白の行を表示します。次回、"セルを探索" を起動すると、ゼロおよび空白の行は再び非表示になります。

"セルを探索" では、データ ポイントまたはセルの交差部分に関する以下の詳細を確認できます。

| 詳細 | 説明 |
| --- | --- |
| 変更履歴 | "変更履歴" が有効になっている場合は、データの変更履歴を表示する変更履歴レポートにリンクします。<br><br>変更履歴データは非同期にプロセス実行され、大規模なデータのインポート トランザクションのパフォーマンスが向上します。これらの大規模なデータ トランザクションでは、直近の値の変更が変更履歴レポートにすぐには反映されない可能性があります。 |
| その他のシート | 値を表示するその他のシートにリンクします。リンク シートには、現在のシートと同じ組織が表示されます。キューブ シートの場合、リンク シートは同じ属性および特性ピッカーを保持します (該当する場合)。 |
| ソースの詳細:<br>• トランザクションにドリルイン<br>• Workday へのドリルスルー<br>• NetSuite へのドリルスルー | 設定に応じて、以下のデータ ソースにドリルインします。<br>• "モデリング" で "トランザクション" が有効になっている場合は、Adaptive Planning のトランザクション テーブルにドリルインできます。<br>• Workday 外部システムを設定している場合は、Workday のレポートおよびオブジェクトにドリルスルーできます。<br>• NetSuite と連携している場合は、NetSuite のデータを表示できます。 |
| 属性 | 科目、組織、時間など、属性に関する情報が表示されます。ここから以下にリンクできます。<br>• 科目および組織の詳細。<br>• 科目、組織、または時間の合計値。合計データの "セルを探索" ページが開きます。<br><br>属性のすべての値を使用するマトリクス レポート データ ポイントを表示する場合、"フィルタ" セクションで以下のいずれかが実行されます。<br>• 属性の横に "すべて 表示"。<br>• 属性を表示しません。<br><br>使用されているフィルタとデータがどちらの方法でも同じである。 |
| 関連詳細<br><br>"一般設定" ページの "セル エクスプローラー関連行の制限" の設定に基づいて、一部の関連行を表 | データの関連要素に応じて、以下を実行できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 詳細 | 説明 |
| --- | --- |
| 示できます。この設定により、管理者はパフォーマンスとデータの表示を改善できます。 | • 関連する数式をレビューして、数式コンポーネントごとに "セルを探索" ウィンドウを開く。<br>• リンク元科目のソース科目をレビューして、ソース科目ごとに "セルを探索" ウィンドウを開く。<br>• 関連バージョン、科目、組織、またはカスタム属性にドリルダウンする。<br>• 選択したデータの通貨を表示する。 |

行の詳細

行の詳細には、モデル シートのモデル科目のみに関する以下のようなデータの情報が表示されます。

- 組織、バージョン、行名
- すべてのシート科目の期間ごとの値

## 概念: セル メモ

セル メモを使用すると、シート内の任意のセルをレビューしてメモを追加できます。セル メモは、科目、時間、組織、バージョンの交差部分に固定されます。

例: 以下のセルにメモを追加します。

- "6100 製品収益" 科目行
- "2023 年 1 月" 期間列
- "北部 - 営業" 組織
- "実行予算" バージョン

科目、時間、組織、バージョンがこのように交差するセルが別のシートに存在する場合、その別のシートにも同じセル メモが表示されます。一方のシートのメモを変更または削除すると、もう一方のシートのメモも変更または削除されます。

セル メモの仕組み
メモが追加されたセルの隅には、赤色の三角形が表示されます。三角形にマウスを合わせると、メモが表示されます。

セル メモは、ほぼすべてのセルに追加できます。

以下の場合は、セル メモを追加できません。

- バージョンまたは組織がロックされている。
- セルが標準データ セルではない。例: 列のヘッダー セル

セル メモは特定のバージョンに帰属します。セル メモの表示や検索は、選択したバージョンでのみ実行できます。サブバージョンのメモは、親バージョンにロールアップされません。たとえば、サブバージョンにセル メモを追加するとします。親バージョンを開いても、そのメモは表示されません。

組織のメモは、親組織にロールアップされません。

例: 組織構造に次の組織階層が含まれています。

- カナダ
    - 営業部門
    - サービス部門

カナダを選択すると、カナダのメモを表示できます。営業部門やサービス部門のメモを表示するには、それぞれのメモを選択してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

リンク科目内のセル メモは、ソース科目に保存されません。

セル メモは、シート メモ、レポート メモ、ワークフロー組織メモとは異なります。

セル メモの追加、編集、削除
開いているシートのセルを右クリックして、以下を選択できます。

- メモを追加
- メモを編集
- メモを削除

セル メモの検索
"システム監査アクセス" 権限がある場合は、組織割当シートおよび前提条件全体でセル メモを検索できます。

"シートの概要" ページの "開く" メニューからセル メモを検索できます。結果が表示されたら、虫眼鏡アイコンをクリックしてセルを表示し、メモを確認できます。

relatedlinks
概念
シート内のデータの検索と入力（120ページ）
概念: シート（37ページ）

## 概念: シート内の異常検出

異常検出では、まず実績データを使用します。実績データに基づいて、アルゴリズムが予測値のモデルを作成して、指定された機械学習予測バージョンに保存します。次に、アルゴリズムは、機械学習の予測をその他の計画バージョンと比較する承諾済データの範囲を作成します。シートでは、予測範囲外のデータは強調表示されます。ユーザーは、異常値レポートの作成もできます。

合計の異常値については、合計タイプに応じて、シートの強調表示方法が以下のとおり異なります。

| 合計タイプ | 異常に対する動作 |
|---|---|
| 科目 | アルゴリズムは、科目合計での範囲外のデータを検出しません。ただし、シートでは、関連する科目に範囲外のデータがある場合、科目合計が強調表示されます。科目合計のセルに紫色の枠線が表示されている場合は、科目を展開して強調表示された異常値を探します。 |
| 分割 | アルゴリズムは、分割合計での範囲外のデータを検出して、強調表示します。合計を範囲内にするには、個々の分割のデータを展開して変更を加えます。<br>シートでは、範囲外となる関連分割が強調表示されません。 |
| 時間、組織、属性の合計 | アルゴリズムは、これらの合計での範囲外のデータを検出しません。以下の場合も、シートでは合計が強調表示されません。<br>• 合計が範囲外の場合<br>• 関連データが範囲外の場合<br>これらの合計を展開したままにして、強調表示された異常値を探します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 概念: ドリルダウンとドリルスルー

ドリルダウンまたはドリルスルーを使用して、以下の値の詳細情報を取得できます。

- シート
- Excel Interface for Planning.
- Web レポート
- OfficeConnect.
- ダッシュボード グラフ

ドリルダウンを使用すると、モデルの属性をより深く把握できます。ドリルダウンを使用する場合、まず、科目、数式コンポーネント、組織などのさまざまなモデル属性を選択します。これにより、属性のデータが値にどう反映されたかを確認することができます。たとえば、収益データをドリルダウンして、特定の地域が合計値に対してどの程度の割合で貢献しているかを確認することができます。

ドリルスルーを使用すると、記録システムからデータを供給されている別のデータ ソースに移動します。その他のデータ ソースは通常はレポートですが、以下の場合もあります。

- Workday HCM または財務管理のトランザクション データまたはオブジェクト
- Adaptive Planning トランザクション モジュール
- NetSuite の P&L 詳細レポートや貸借対照表詳細レポート

ドリルダウンやドリルスルーには、"セルを探索" および "行の詳細" を使用します。"セルを探索" を使用すると、データの把握に役立つ情報とリンクも提供されます。

## 概念: CDC によるデータへのドリルスルー

クラウド データ コネクト (CDC) は、クラウド データ 倉庫に保存されているデータにドリルスルーする機能を提供します。これにより、集計データのみを Adaptive にロードし、コンテキスト データをクラウド データ 倉庫に保持し、ライブ クエリーによるリアルタイムのアクセスを可能にします。このアプローチでは、以下のようにインテグレーションとデータ移動の最適化ができます。

- Planning に必要な集計データのみを Adaptive にロードする。
- インテグレーションの複雑性とインテグレーション接続のポイントを削減する。
- クラウド データ 倉庫内の状況に応じた、より詳細な詳細へのリアルタイムのアクセスを管理する。

CDC ドリルスルーでは以下がサポートされています。

- CDC によって管理されたパイプライン ("インテグレーション設定" で管理された CDC 接続ではない)。
- 標準シートとキューブ シート
- 最下位組織の組織、科目、属性のセルのみ。
- 上位 1000 行をポップアップ ウィンドウに表示する
- 最大 20MB の Excel へのエクスポート (約 400,000 行)

"CDC Drill through to Data" を使用するには、データ ソースおよびドリルスルー テーブルでパイプラインを設定し、バージョンとシートを接続する必要があります。詳細については、次を参照してください: クラウド データ コネクトの設定 ( 1578ページ )

ドリルスルー方法
セルを右クリックして以下のいずれかを選択します。

- データにドリルスルーします。
- "セルをデータにドリルスルーして > データを探索"

## 参考: ドリルダウン

ドリルダウンでは、モデルのデータの詳細を掘り下げます。モデルの各領域では異なるドリルダウン方法を使用し、要件も異なります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| モデルの領域 | ドリルダウン方法 | 要件 |
| --- | --- | --- |
| シート、ダッシュボード上のシート、Excel Interface for Planning | • セルを右クリックして、"セルを探索" を選択します。<br>• モデル シートで右クリックして、"行の詳細" を選択します。<br>• 行を展開表示して、関連行がどうロールアップしているかを確認します。<br>• キューブ シートで、"属性フィルタ" を使用します。 | • Excel Interface for Planning を使用している場合、"セルを探索" および "行の詳細" を起動するには、Adaptive Planning に接続します。<br>• "セルを探索" は、モデル シートの分割合計には使用できません。 |
| Web レポート | • マトリクス レポートで、リンク元のデータ ポイントをクリックしてセルを探索します。<br>• 行ヘッダーをクリックし、使用可能な属性または特性から選択します。 | セルの探索を許可するには、"ドリルダウンを許可" レポート プロパティを選択します。<br>交差部分に以下がある場合、マトリクス レポートのセルは探索できません。<br>• 複数の科目、バージョン、組織、時間、属性、または属性特性の集計値。以下は例外です。<br>  • 科目、組織、時間の合計<br>  • 分割のあるセル<br>• 科目の比率として表示される値<br>• "カスタム"、"小計"、"差異" などのレポートの計算 |
| OfficeConnect | • セルを右クリックし、 "セルを探索" を選択します。<br>• 展開および折り畳み表示を使用して、コンテキスト内の行または列の詳細を表示または非表示にします。 | OfficeConnect レポートでのみ使用できます。 |
| ダッシュボード グラフ | • データ ポイントをクリックして、"データを探索" を選択します。<br>• データ ポイントをクリックして、"科目"、"組織"、またはリストされているカスタム属性や特性を選択します。<br>• エリアで使用するコンテキスト フィルタを選択します。 | 要件はありません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
タスク
レポートのドリル オプションの指定 ( 217ページ )

## 参考: トランザクションのドリルスルー

トランザクション モジュールでは、トランザクション テーブルのデータをさまざまな科目の値に関連づけることができます。シート、レポート、グラフでトランザクションにドリルスルーすると、トランザクション レポートが開きます。

モデルの各領域ではトランザクションのドリルスルーに異なる方法を使用し、要件も異なります。

| モデルの領域 | ドリルスルー方法 | 要件 |
|---|---|---|
| すべての領域 | 汎用的な方法はありません。 | • インスタンスでトランザクション モジュールを使用します。<br>• "トランザクションへのアクセス" 権限にアクセスします。<br>• トランザクション データから派生した実績データを使用します。<br>• 実績バージョンの "トランザクションにドリルイン" チェックボックスをオンにします。 |
| シート | • セルの 1 つを右クリックして、"トランザクションにドリルイン" を選択します。<br>• セルの 1 つを右クリックして、"セルを探索 > " (トランザクションにドリルイン)を選択します。 | • 標準シートおよびキューブ シートでのみ使用できます。<br>• インスタンスでアクセス ルール セキュリティを使用しません。 |
| Web レポートと OfficeConnect レポート | • セルの 1 つを右クリックして、"トランザクションにドリルイン" を選択します。<br>• セルの 1 つを右クリックして、"セルを探索 > " (トランザクションにドリルイン)を選択します。<br>• リンク済のデータ ポイント セルの 1 つをクリックし、"トランザクションにドリルイン" を選択します。 | マトリクス レポートの場合、レポートの編集時に "ドリルダウンを許可" チェックボックスをオンにします。 |
| ダッシュボード グラフ | データ ポイントをクリックし、"データを > トランザクションにドリルイン"を選択します。 | 要件はありません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 参考: NetSuite へのドリルスルー

NetSuite のデータは、さまざまな科目の値に関連しており、モデルのインテグレーション領域で NetSuite のデータを設定します。NetSuite にドリルスルーすると、以下のいずれかのレポートが開きます。

- NetSuite の P&L 詳細
- 貸借対照表詳細

データがマッピングする NetSuite 科目により、開くレポートは異なります。NetSuite にサインインしていない場合は、サインイン プロンプトが表示されます。

モデルの各領域では NetSuite へのドリルスルーに異なる方法を使用し、要件も異なります。

| モデルの領域 | ドリルスルー方法 | 要件 |
|---|---|---|
| すべての領域 | 汎用的な方法はありません。 | • 管理者が NetSuite へのドリルスルーを設定します。<br>• "NetSuite のインポート済数値にドリルイン" 権限にアクセスします。<br>• 総勘定元帳科目および総勘定元帳にリンクする科目を使用します。<br>• NetSuite のデータから派生した実績データを使用します。<br>• NetSuite 外部システムの最下位組織を使用します。<br>• NetSuite Basic の最下位組織または合計組織を使用します。 |
| シート | • セルの 1 つを右クリックして、"NetSuite にドリルイン" を選択します。<br>• セルの 1 つを右クリックして、"セルを探索 > " (NetSuite にドリルイン)を選択します。 | 追加の要件はありません。 |
| Web レポートと OfficeConnect レポート | • セルの 1 つを右クリックして、"NetSuite にドリルイン" を選択します。<br>• セルの 1 つを右クリックして、"セルを探索 > " (NetSuite にドリルイン)を選択します。 | マトリクス レポートの場合、レポートの編集時に "ドリルダウンを許可" チェックボックスをオンにします。 |
| ダッシュボード グラフ | データ ポイントをクリックし、"Explore Data > Drill into NetSuite"を選択します。 | 追加の要件はありません。 |

relatedlinks
概念
概念: NetSuite との連携 ( 2070ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 参考: Workday トランザクションおよびオブジェクトへのドリルスルー

Workday データ管理を介してデータが読み込まれている場合、Workday の実績トランザクションおよびビジネス オブジェクトがデータに反映されている場合があります。Workday データ管理とは、HCM と財務管理を Adaptive Planning にブリッジするために設定されたデータ ソース、データ ローダ、およびメタデータ ローダの複合体です。

以下から Workday オブジェクトにドリルスルーすることはできません。

- Web レポート
- ダッシュボード グラフ
- OfficeConnect.
- Excel Interface for Planning.

モデルの各領域では へのドリルインに異なる方法を使用する Workday 要件が異なります。

| モデルの領域 | ドリルスルー方法 | 要件 |
|---|---|---|
| すべての領域 | 汎用的な方法はありません。 | • 有効化および設定 Adaptive Planning インテグレーション<br>• 実績バージョンおよび実績のオーバーレイを使用します。<br>• "Workday にインポートされた数値にドリルインする" 権限にアクセスします。 |
| • 標準シート<br>• キューブ シート<br>• マトリクス レポート<br>• OfficeConnect および Excel Interface for Planning に接続した場合 Adaptive Planning。 | • セルを 1 つ右クリックして、"ドリルスルー" を選択します。<br>• セルの 1 つを右クリックして、"セルを探索" > "ドリルスルー" を選択します。<br><br>これらの方法を使用してドリルスルーすると、Workday の実績データを使用する Workday レポートが開きます。<br><br>キューブ シートの 2 つの異なる科目が、Workday 外部システムで構成されたドリル レポートと影響を受ける科目に基づき、異なる Workday レポートにドリルインすることができます。 | • データ ソース、データ ローダ、メタデータ ローダを介して Workday データおよびメタデータをロードします。<br>• 標準シートまたはマトリクス レポートの総勘定元帳、メトリック、カスタム科目を使用します。<br>• 属性が列またはフィルタにあり、行にはない場合、キューブ シートのキューブ標準科目を使用します。<br>• 最下位組織の組織、科目、属性のセルのみ。 |
| モデル シート | セルの 1 つを右クリックして、"詳細にドリルイン" を選択します。<br><br>• セルに関連する Workday 属性が 1 つのみの場合、その属性の Workday コンビニエンス ビューが表示されます。<br>• 複数の Workday 属性が 1 つにマッピングされてい | データ ローダおよびメタデータ ローダを介して読み込まれる Workday ビジネス オブジェクトが含まれている必要があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| モデルの領域 | ドリルスルー方法 | 要件 |
| --- | --- | --- |
| | る場合 Adaptive Planning 属性にマッピングを設定する場合は、Workday ビジネス オブジェクトのリストで Workday コンビニエンス ビューを選択します。 | |

relatedlinks
タスク
ステップ: Adaptive Planning の Workday データ ソースの設定

### FAQ: "セルを探索" ですべての関連行または属性分割を表示する方法

デフォルトでは、パフォーマンス向上のために、最大 2,000 件の関連行または属性分割が "セルを探索" に表示されます。モデル管理者は、" 管理" > "一般設定"の "セル エクスプローラー関連行の制限" フィールドでこの最大数を変更できます。 モデル管理者が設定できる最大値は 100000 です。

例: キューブ シートに、2,010 個の属性値を含む "Travel_Type" という属性が含まれています。"Travel_Type" 属性フィルタで "すべて" を選択し、この属性を含むセルを探索します。"セルを探索" では、"関連属性値" セクションに 2,000 行しかデフォルトで表示されません。 モデル管理者が "セル エクスプローラー関連行の制限" フィールドを 2,500 に変更すると、2,010 個すべての属性値の行が表示されます。

relatedlinks
参考
参考: 一般設定

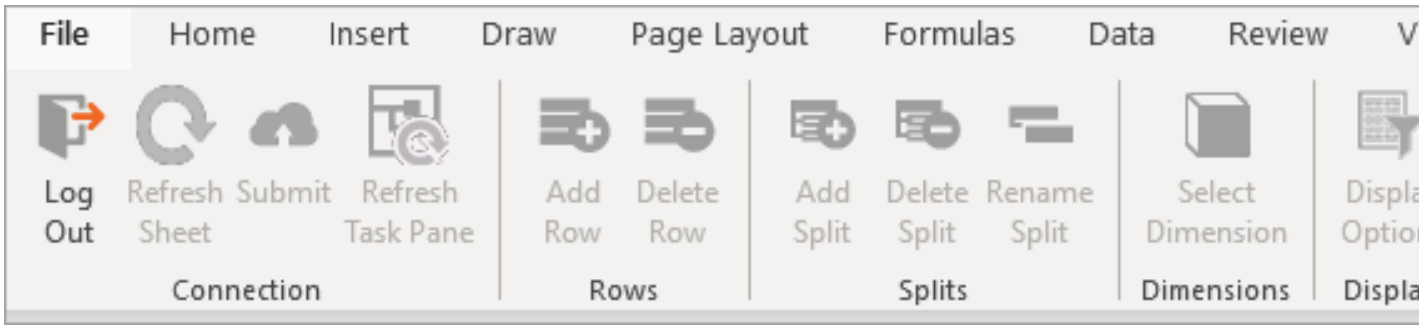
# Excel Interface をプランニングに使用

## Excel Interface for Planning の概要

### 概念: Excel Interface for Planning

Excel Interface for Planning は の機能とパワーを組み合わせます Adaptive Planning Excel を使用した

インストールすると Excel Interface for Planningに接続するには、任意の Excel スプレッドシートを開き、"Planning" タブをクリックします。 Adaptive Planningに保存されたデータを表示、入力、更新できます。 Adaptive Planning。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### Excel Interface for Planning 機能

共有先 Excel Interface for Planning 次の操作ができます。

- 接続先 Adaptive Planning アクセス Adaptive Planning Excel 形式のシート: データ、数式、書式設定がすべてロードされた状態で、オンラインで表示されます。
- シートをリフレッシュして 、他のユーザーが更新したセルにインスタント更新をロードします。
- オフラインであっても、Excel シートと同様にデータと数式を入力します。
- 更新内容を次の宛先に送信: Adaptive Planning 他のユーザーがレビューできるようにするため。
- 接続先 OfficeConnect を使用して、Excel のワークブックから Word と PowerPoint のレポートを同時に 作成します。

### 重要な概念 Adaptive Planning

これらの基本的な概念は計画がどのように機能するかを知るのに役立ちます。

#### インスタンスとモデル

インスタンスは、フル機能を装備した計画エンティティを定義する構造コンポーネントの集まりです。インスタンスは、インストールと呼ばれることもあり、科目、組織構造、バージョン、属性、特性、シート、権限、会計年度、インテグレーションの単一セットから構成されます。Workday では複数の Planning インスタンスを持つことができます。

Think of your *instance* as how your business exists within Adaptive Planning. It includes all your company's actuals and planning versions and all the related data, levels, and so on. The *model* of your instance refers to the building blocks, (the accounts, levels, assumptions and formulas).

#### Versions

There are 2 types of versions: actuals and plan versions. Actuals display real numbers of sales and costs that have already happened. Most instances have 1 root actuals. Your actuals can have more than 1 sub-version. Sub-versions roll up to the root actuals.

Plan versions contain forecasted or budgeted data. You can have more than 1 plan version.

#### 前提条件

前提条件は、自分の計画に数式を書き込むときにすべてのユーザーがアクセスできるグローバル値です。前提条件はそのときどきで異なることがあり、異なるバージョンでは値が異なります。ただし、すべての組織、すべての科目で同じ値になります。

Assumptions are often associated with user-assigned sheets. These sheets let you see and update data to which you normally do not have access. For example, expenses from the IT department are allocated to all other departments based on the number of computers in each department. The IT manager does not have access to enter data in departments outside of IT. With a user-assigned sheet, the IT manager can enter the number of computers for each departments. The data can be used to calculate the IT allocation.

#### 組織

組織はビジネスの組織構造です。たとえば、組織は部門、利益センター、コスト センター、または地理的地域を表します。

Level access is the primary way your admin controls which users can see which data. The levels a user has permission to see dictates the data they can view and update. Levels also help you filter data displayed on sheets.

#### シート

| | |
|---|---|
| Data Interface | Adaptive Planning stores information, such as general ledger actuals, forecasts, personnel |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | information and budgets. *Sheets* provide the interface for you to view, enter and update that data. With Excel Interface for Planning, you access the online sheets through Excel. |
| Values and Calculations | Values you see in a sheet may be calculated with data that is not displayed on the sheet. Likewise, data you enter or calculate in a sheet can affect values displayed in other sheets.<br><br>Adaptive Planning formulas can only be entered online. They are either embedded in the sheet's cell by an admin or you can enter the formulas yourself. You can also just enter data without calculations. In Excel Interface for Planning, you can tell that a value is calculated with an Adaptive Planning formula when the text is italicized and you can drill down to see how it was calculated.<br><br>You can't enter Adaptive Planning formulas with Excel Interface for Planning for your sheet, but you can use Excel formulas to calculate data. Although the end value is saved the online sheets, the formula you used will not be saved. You can add them to a cell note instead. |
| Sheet Access | Sheets or portions of sheets can be restricted, so you may not have access to all sheets within your organization. Or, you may see a sheet, but you may not see the rows or columns that other users can see on the same sheet. Or you may see the columns and rows and their data, but you cannot edit the cells. For example, a sales-related user may have access to the sheet's expenses, travel, and other sales-related data, but not the data used by the marketing department.<br><br>注： If you think you should be able to enter or edit data that appears locked, be sure you are accessing the correct version and the correct level of the sheet. If the problem persists, get clarification with your admin on your user permissions. |

有効化 **Excel Interface for Planning** インスタンス用

インストール後 Excel Interface for Planning, Workday カスタマー センターでサポート ケースを作成し、インスタンスのアドインを有効にします。その後、ログインしてアドインの使用を開始できます。条件 Excel Interface for Planning がすでにインスタンスで有効になっている場合、ログインして、Excel リボンの "プランニング" タブからアクセスできます。

## Excel Interface for Planning 製品のダウンロード

| | |
|---|---|
| | ダウンロードとインストールの前 Excel Interface for Planningにアクセスし、すべての技術要件を満たしていることを確認します。参考: Excel Interface for Planning の技術要件を参照してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. 最新バージョンの をダウンロードします。 Excel Interface for Planning:
    - WorkdayAdaptivePlanningExcelSetup.exe
    - WorkdayAdaptivePlanningExcelMachineSetup.exe
2. インストール Excel Interface for Planning ユーザーごとまたはマシンごと「インストール」を参照してください。 Excel Interface for Planning。

現在のバージョンの確認

チーム全体が新しいバージョンをダウンロードするようにしてください。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、より新しいバージョンのレポートを表示または編集することができません。参照 Excel Interface for Planning バージョンの確認（109ページ）。

ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴

インストール済バージョン以外の Excel Interface for Planning は、猶予期間の終了日の深夜に失効します。終了日はユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールに適用されます。強制的に更新することもできます。 インストール タイプに応じて、以下の猶予期間が設けられています。この場合、EIP を最新バージョンにアップグレードすることができます。

- ユーザーごとにインストールを行う場合、猶予期間の終了日は、更新通知から 30 日またはリリース日から 60 日のいずれか早い方になります。
- マシンごとのインストールの場合、猶予期間の終了日はリリース日から 60 日後です。

注：バージョン履歴表には、最新のリリース情報が常に反映されるわけではありません。最新情報については、Workday Community の Excel Interface for Planning のバージョンの確認と更新を参照してください。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。

| バージョン | リリース日 | ユーザーごとの猶予期間終了日 | マシンごとの猶予期間終了日 |
|---|---|---|---|
| 2024.209.1096201206<br><br>注：最新バージョンは、午前 0 時 (PT) またはリリース日の翌日の午前 0 時過ぎにダウンロード可能になります。 | 24 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| バージョン | リリース日 | ユーザーごとの猶予期間終了日 | マシンごとの猶予期間終了日 |
|---|---|---|---|
| 2024.104.25 | 4/10/2024 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴<br>次のいずれかのうち早い方:<br>• 更新通知から 30 日。<br>• リリース日から 60 日。 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴<br>リリース日から 60 日。 |
| 2024.102.28 | 3/4/2024 | | |
| 2023.214.02 | 2/2/2024 | 3/3/2024 | 4/2/2024 |
| 2023.211.09 | 11/3/2023 | 12/17/2023 | 01/16/2024 |
| 2022.211.09 | 10/27/2023 | 2022/12/18 | 2023/1/17 |
| 2022.105.27 | 8/29/2022 | 2022/7/10 | 2022/8/9 |
| 2022.104.07 | 8/2/2022 | 2022/6/13 | 2022/7/13 |
| 2022.103.01 | 7/12/2022 | 2022/5/15 | 2022/6/14 |
| 2021.210.27 | 12/6/2021 | 2021/12/12 | 2022/1/11 |
| 2021.209.30 | 11/2/2021 | 2021/11/07 | 2021/12/07 |
| 2021.209.02 | 10/7/2021 | 2021/10/11 | 2021/11/10 |
| 2021.103.03 | 4/9/2021 | 2021/4/12 | 2021/05/12 |

## Excel Interface for Planning バージョンの確認

使用しているバージョンが最新バージョンであるかどうかを確認します。

1. Excel リボンで "Planning " タブを選択します。
2. "ヘルプ" ドロップダウンで "バージョン情報" を選択します。
3. 作成したバージョンと、現在利用可能なバージョンを比較します。

   参照 製品ダウンロード（2785ページ） 最新バージョンをダウンロードし、完全なバージョン履歴をレビューします。

「インストール」を 参照してください。 Excel Interface for Planning 。

## Adaptive Planning または Work Offline への接続

### 接続先 **Adaptive Planning**

接続先の設定 Adaptive Planning、オンライン シートにアクセスして Excel で開き、最後の接続後に他のユーザーが送信した可能性のある変更を反映して Excel データをリフレッシュし、Excel で行った変更をクラウドに送信できます。

1. Excel を起動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "Planning" タブをクリックし、 ログインします 。
3. ユーザー名とパスワードを入力し、"送信"をクリックします。接続すると、"Planning" ペインが表示されます。"ログイン" は "ログアウト"に変わります。

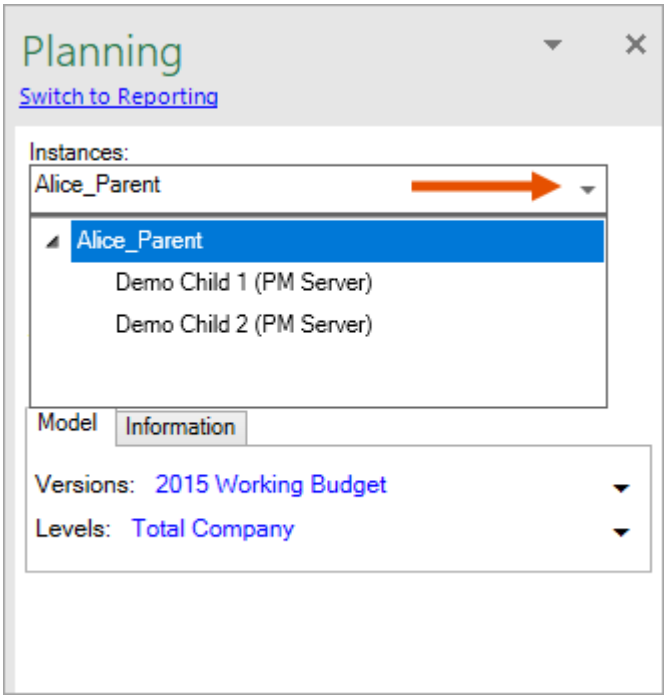
のデータ Adaptive Planning が Excel シートにロードされます。Excel で行った更新は、"送信" をクリックするまではサーバーにアップロードされません。

マルチインスタンスへの接続

ビデオを見る (1 分 19 秒):

複数のインスタンスにアクセスできる場合:

1. Excel を起動します。
2. "Planning" タブをクリックし、"ログイン" をクリックします。
3. "インスタンス" ドロップダウンからインスタンスを選択します。




4. シートを選択すると、そのワークシートに対してインスタンスがロックされます。別のインスタンスにアクセスするには、新しいタブを追加して新しいワークシートを開きます。次に、インスタンス ドロップダウンから別のインスタンスを選択します。

接続先 **Adaptive Planning** 介した **OfficeConnect**

すでにログインしている場合は、 OfficeConnectに自動的にログインすることはありません。 Excel Interface for Planning。Workday カスタマー センターでケースを作成し、次へのアクセス権をリクエストしてください。 Excel Interface for Planning。インスタンスでアドインを有効にした後、"Planning" タブを使用して にログインします。 Excel Interface for Planning。

これで、Planning とレポートの両方にアクセスできるようになり、レポート ペインと Planning ペインからそれぞれ "Planning に切り替え" または "レポートに切り替え" をクリックすると、この 2 つを切り替えることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### プランニングとレポートの切替

同じワークブック内でレポートとプランニングを同時に使用するには、データを別のシートにロードする必要があります。

1. 接続先 Adaptive Planning 介した OfficeConnect。
2. ワークシートで "Planning" ペインの "Planning に 切り替え" リンクをクリックし、Planning データをシートにロードします。
3. ワークブックに新しいシートを追加します。新しいシートの "Planning" ペインに、リンクが再度表示されます
4. "レポートに切り替え" リンクをクリックし、2 番目のシートでレポートの作成を開始します。

これで、計画のために最初のシートにデータを検索して入力し、2 番目のシートでレポートを作成できます。

### オフラインで作業

ローカル コンピュータ上の Excel シート内でオフラインで作業します。

1. Excel を起動します。
2. 接続先 Adaptive Planning。
3. "Planning" ペインで、表示または更新するシートを見つけて、適切な組織とバージョンを選択します。すべてのセルがグレーで編集不可の場合、編集する権限を持つバージョンと組織を選択したことを確認します。
4. シートをコンピュータに保存します。
5. "ログアウト" をクリックして から接続を解除します Adaptive Planning。

データを入力し 、オフラインで作業を保存できます。ログアウトすると、"Planning" ペインと "Planning" タブ リボンのツールを使用できなくなります。それ以外にはアクセスできません Adaptive Planning シート、組織とバージョンの変更、または再度ログインするまでの作業のリフレッシュと送信を設定します。

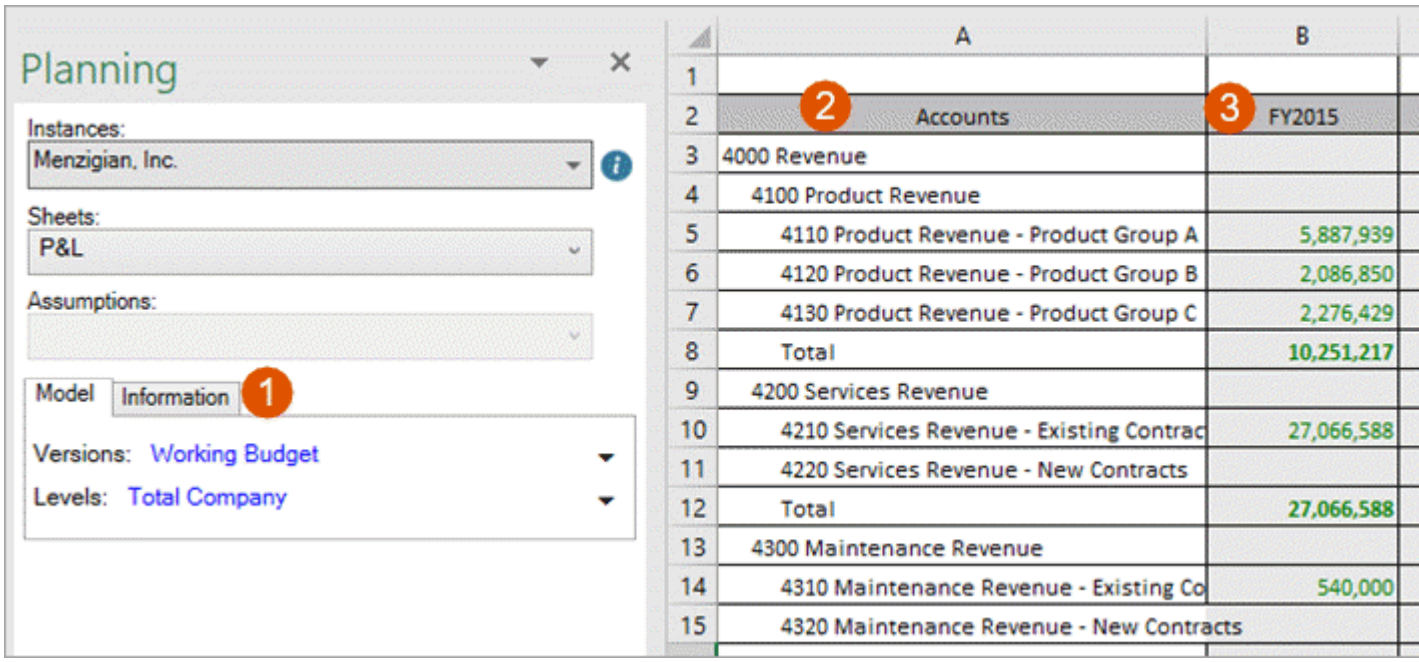
## シート タイプを特定

シートの表示方法はシートがどのように構築されているかによって異なり、シートのツールと機能にも影響します。 Excel Interface for Planning3 つすべてをサポート Adaptive Planning シート: 標準、モデル、キューブ

### 標準シート インターフェイス

最も単純なシートには、列全体に期間があり、行の下に科目または組織組織があります。管理者は、これらのシートを 標準 シートとして参照することができます。標準シートのセルが、行ヘッダーと列ヘッダーの間でデータを交差しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | "モデル" タブには、バージョンと組織または科目のみのドロップダウンの選択肢が含まれます。 |
| 2 | 行は組織または科目です。 |
| 3 | 列は時間です。 |

科目タイプが混在した標準シート

標準シートは、読み取り専用セルを含めるように設計することもできます (特に 1 つのシートに混合科目タイプが含まれている場合など)。科目が混在しているシートには、異なる時間設定の科目も含まれている可能性があります。この場合、最大期間が表示されます。時間設定が小さい科目は合計値を表示します。

たとえば、時間設定の異なる 3 つの科目タイプが含まれた標準シートの場合、

- "製品収益" は、日次で設定されるキューブ科目です。データはキューブ シートからのみ変更できます。
- "管理収益" は週次で設定されたモデル科目です。データはモデル シートからしか変更できません。
- "コミッション費用" は、数式で毎月設定される総勘定元帳科目です。他の値の計算であるため、データを直接変更することはできません。

混合時間設定のシートは含まれるすべての科目の最大の設定を表示するため、シートにはすべての科目の月のみが表示されます。"メンテナンス収益" の週次入力または "製品収益" の日次入力を表示するには、科目行を右クリックして "Planning">"組織別に表示"を選択します。列には、科目の組織別に週次または日次データが表示されます。

キューブ シート インターフェイス

シートは行と列に沿って多くの属性を含んでいる場合があり、シートをピボットすると複数の異なる方法でデータを表示できます。管理者はこれを キューブ シートと呼びます。キューブ シートのセルは、行と列ヘッダーの間でデータが交差しています。

"モデル" タブで選択可能な属性、フィルタ、オプションで提供されるさまざまな方法でシートを変更できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

モデル シートのインターフェイス

多くのシートにはラベル付きの列があり、行は単に項目をリストしたものです。既存または新規の行に新しい情報を入力し、行を削除することもできます。管理者はこれを モデル シートとみなす場合があります。

セルはリストされたデータであり、行ヘッダーはなく、列ヘッダーのみです。

## 概念: Excel Interface for Planning インターフェイス ツアー

**"Planning"** タブ、**"Planning"** ペイン、グリッド

"Planning" タブのリボン

- 接続先 Adaptive Planning。
- 用途 Adaptive Planning Excel関数
- データをリフレッシュし、更新内容を送信する 。
- Excel のすべての機能を含む、一般的な Excel タブがすべてリボンで使用できることに注意してください。

"Planning " ペイン

- Excel シートにデータを表示するインスタンス (マルチインスタンスにアクセスできる場合)、 シート、組織を選択します。
- このペインを非表示にし、ドッキングを解除し、移動させます。
- 必要に応じてセルの数式を確認します。
- 属性と特性でフィルタリングし、列と行のデータを変更します (キューブ シートのみ)。

Excel シートと Planning グリッド

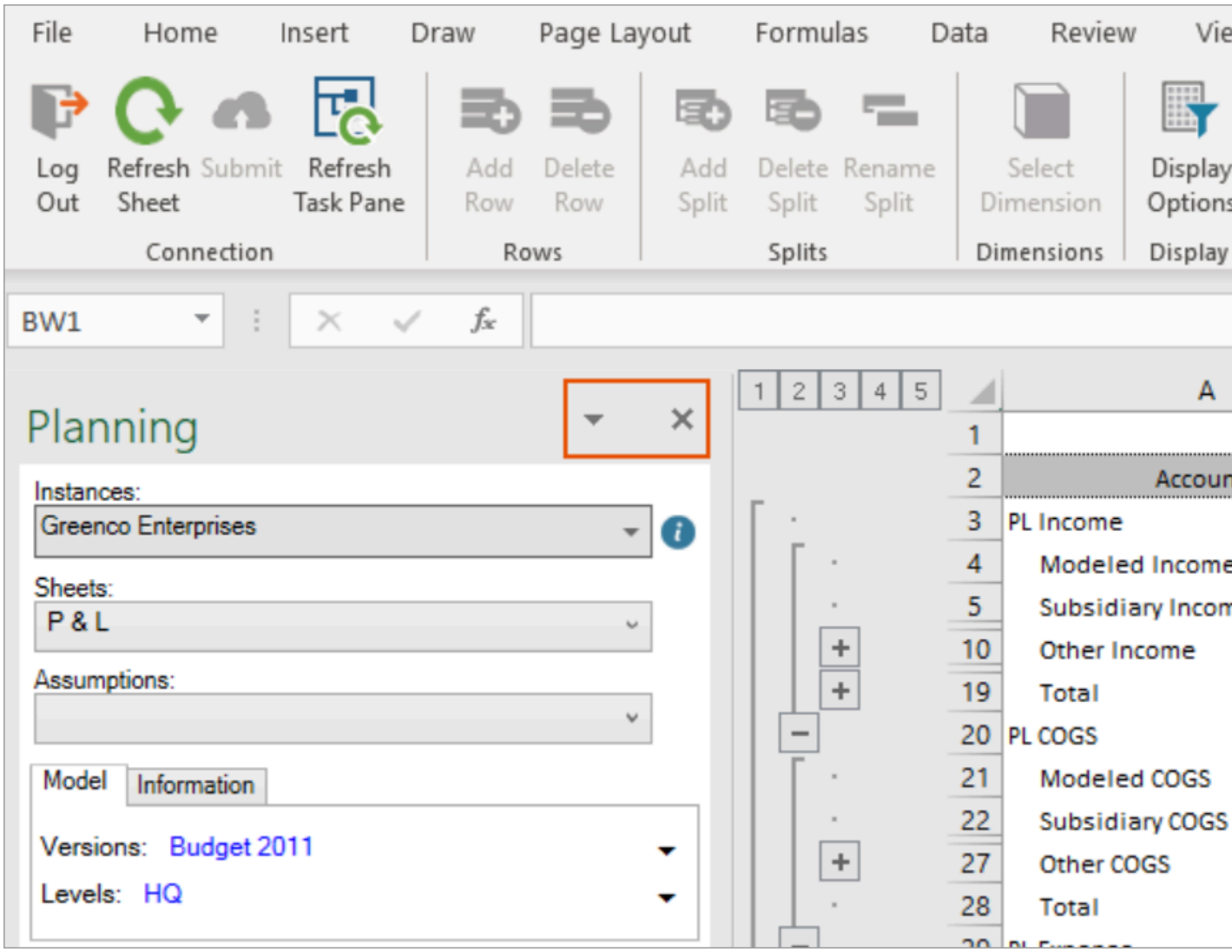
- データ ( セルの色と表記について学習) と数式をレビューします。
- Excel または を使用してデータと数式を入力します 。 Adaptive Planning 関数。
- セルの詳細にドリルダウンします。

**"Planning"** ペインの非表示、移動、表示

ビデオを見る (00 分 55 秒):

"Planning" ペインを非表示または表示するには、"Planning ペインの表示" プリファレンスを切り替えるか、"Planning" ペインの右上隅にある "x" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




"Planning" ペインのドッキングを解除するには、次をクリックします。 "Planning" ペインの右上隅にある "移動"を選択します。移動アイコンが表示されたら、ペインをクリックしてドラッグします。画面上の任意の場所にドロップして接続を解除したままにするか、グリッドの上下左右にマウスを合わせてドッキングさせることができます。

ドッキング解除済の Planning ペインが見つかりませんか？プリファレンスの "Planning ペインを表示" トグルを再びクリックします (すでにオンになっている場合)。"Planning" ペインが表示されます。

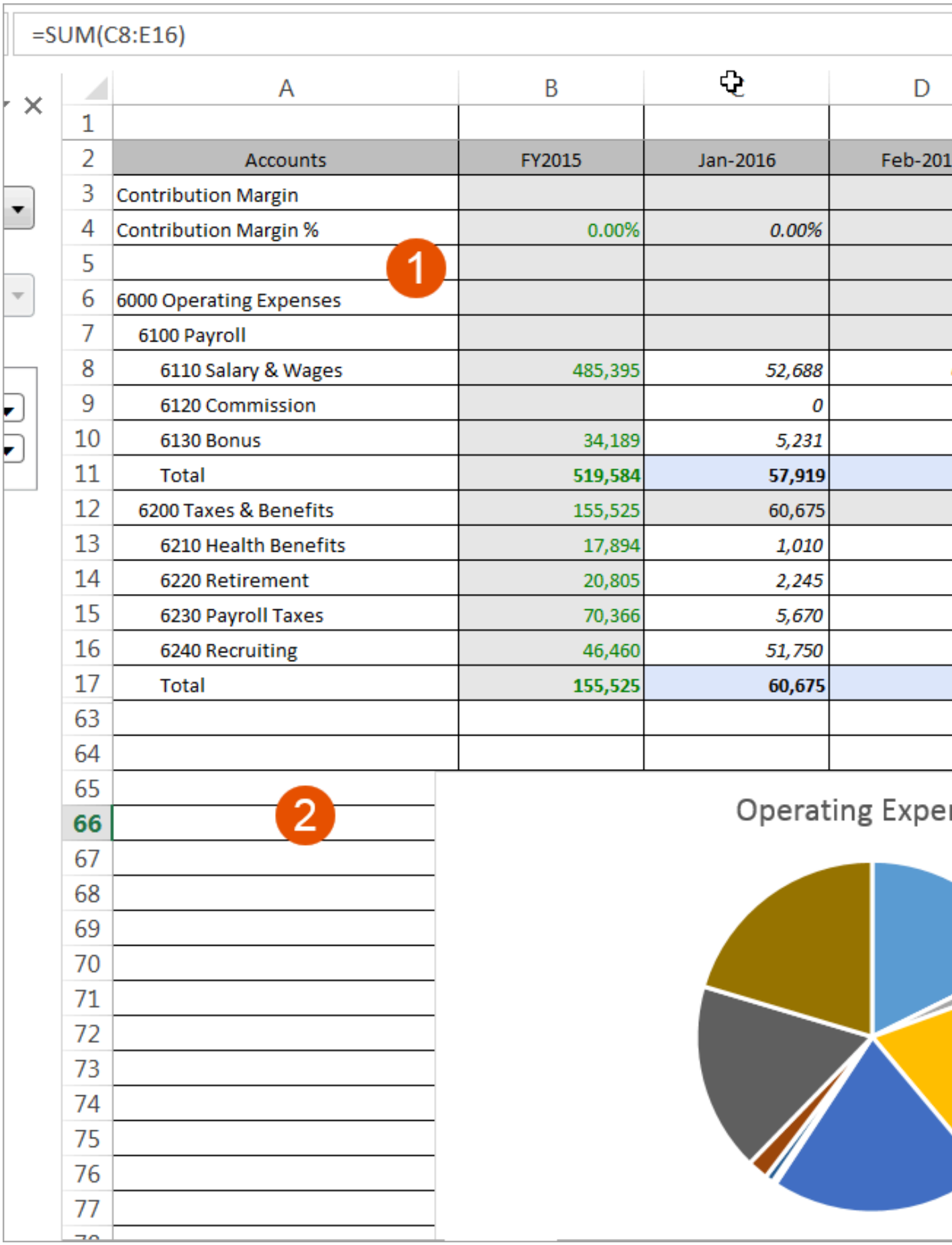
### 設定 **Adaptive Planning** および **Excel** グリッド

"Planning" ペインでシートを選択すると、シートの列、行、数式、データがペインの右側のグリッドにロードされます。

グリッドのセルを更新する際は、データを追加する場所に注意してください。内で更新するデータ Adaptive Planning グリッドは次の宛先に送信できます: Adaptive Planning。Excel グリッド内で入力または更新するデータ: ロードされたデータの範囲外の領域 Adaptive Planning、送信されていません Adaptive Planning。

注： 期間外で行った更新 Adaptive Planning グリッドを送信してクラウドに保存することはできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

1 Adaptive PlanningGrid: ここで行われた変更は、オンライン シートに同期されます。

以下のセルを右クリックすると、 Adaptive Planning グリッドにアクセスするには、メニューで "プランニング" をクリックし、 コンテキスト固有のアクションを表示および選択します。

2Excel グリッド: このデータは のパラメータの範囲外です Adaptive Planning シートここで加えた変更は Excel に保存できますが、オンライン シートと同期されません。

Excel のグリッドを右クリックすると、Excel を使用するときに通常表示されるすべてのオプションが表示されます。

この例では、ユーザーが に基づいて Excel グラフと Excel 計算 (Excel グリッド内) を作成したことに注意してください。 Adaptive Planning(上部に表示されたセルの数式を確認してください。)

Excel と の 仕組みについて学習します。 Adaptive Planning で機能 Excel Interface for Planning。

# Excel Interface for Planning のインストール

## Excel Interface for Planning のインストール

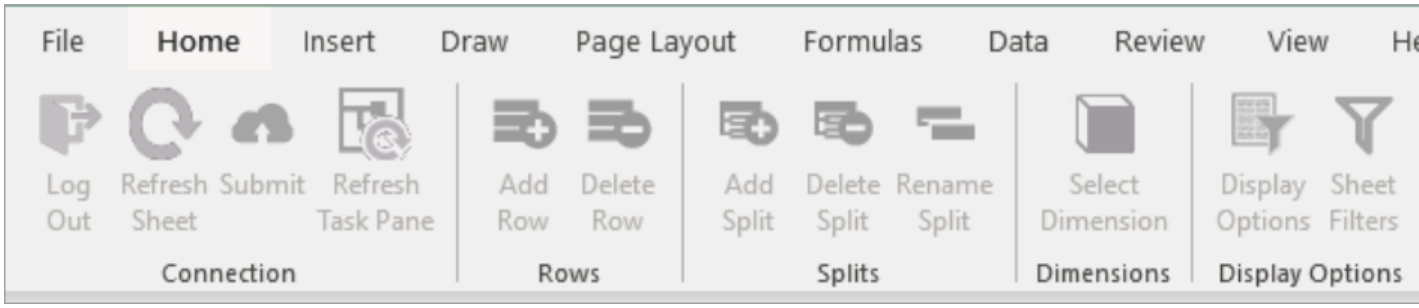
インストールする Excel Interface for Planning 初めて実行する場合は、Windows の管理権限が必要です。管理権限がない場合は、IT 担当者に相談してください。IT プロフェッショナルの場合は、この記事でユーザーごとおよびマシンごとの IT インストールの手順をお読みください。

インストールする Excel Interface for Planning:

1. 以下を確認します。 参考: Excel Interface for Planning の技術要件（118ページ） インストールの前に Excel Interface for Planning。
2. Office Runtime に Visual Studio 2010 のツールをインストールします。
3. ユーザーごとにインストールするための設定ファイルをダウンロードします。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。
4. 管理権限がある場合は、Windows のセットアップ プロンプトを受け入れます。管理権限がない場合は、管理権限を持つユーザーの認証情報を入力するよう求められます。必要なサポートについては、IT 部門にお問い合わせください。

注 : チーム全体が新しいバージョンを同時にダウンロードするようにしてください。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、レポートを表示または編集できません。

Excel Interface for Planning Excel の起動時に "Planning " タブが表示されていれば、 は正常にインストールされています。




**IT** 担当者向けのインストール手順

Excel Interface for Planning はユーザーごとまたはマシンごとにインストールできます。

前提条件

1. 技術要件 を確認します。要件は両方のタイプのインストールで同じです。両方のタイプを、サイレントでインストールするか、シス

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

テム管理ソフトウェアを使用してプッシュすることができます。
2. Office Runtime に Visual Studio 2010 のツールをインストールします。

| | |
|---|---|
| ユーザーごとのインストール | ユーザーごとに をインストール Excel Interface for Planning<br>• ほとんどのユーザーに推奨されます。<br>• ユーザーは、管理者権限なしに、自分で将来の更新をインストールできます。<br>• ファイル、レジストリ エントリ、証明書をユーザーのプロファイルにインストールします。<br>ユーザーごとのインストールの設定ファイルをダウンロードし、インストールを開始します。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。 |
| ユーザーごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースすると、各ユーザーにログイン時に更新をインストールするよう要求される Excel Interface for Planning または OfficeConnect。各ユーザーは管理権限なしに更新することができ、必要に応じて、IT は複数のユーザーに更新を密かにインストールできます。<br>プロンプトに記載されている期限前に更新をインストールしてください。一般的に、ユーザーは更新がリリースされてから必須になるまで 30 日かかります。ただし、優先度の高い更新の期限は短くなります。 |
| マシンごとのインストール | マシンごとに のインストール Excel Interface for Planning:<br>• 複数のユーザーが共有するワークステートに使用することをお勧めします。<br>• さまざまなユーザーが次を使用できるようにする Excel Interface for Planning 1 台のマシン上<br>• Windows 管理者のみにインストールを許可する Excel Interface for Planning の更新<br>• すべてのユーザーのファイル、レジストリ エントリ、証明書をインストールします。<br>• インストールに使用可能 Excel Interface for Planning リモート デスクトップ サービスで使用する Microsoft Windows Server の<br>マシンごとのインストールの設定ファイルをダウンロードし、インストールを開始します。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。 |
| マシンごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースした場合、ローカル管理者グループのメンバーに対して、特定の日付までに更新をインストールするよう求められます。通常、更新のインストール期間はリリースから 60 日です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | 最初の 45 日間は、管理権限を持つユーザーにのみ通知されます。45 日後、ユーザーには利用可能な更新に関する日次通知が表示されます。OfficeConnect および Excel Interface for Planning 通知に記載された日付までに更新をインストールするよう、ユーザーと管理者に要求する。<br><br>更新の通常の猶予期間はリリースから 60 日ですが、優先度の高い更新の場合はそれより短い場合があります。 |
| パラメータ | これらのパラメータは、ユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールで使用することができます。以下を使用します。<br><br>• `/quiet` : UI を使用せずに製品をサイレントインストールします。<br>• INSTALLFOLDER: 製品をカスタムの場所にインストールします。例: `AdaptivePlanningExcelMachineSetup.exe INSTALLFOLDER=D:\AdaptivePlanningExcel` |

## 参考: Excel Interface for Planning の技術要件

### インストールの前提条件

前提条件がまだインストールされていない場合、以下の実行中に管理権限が要求されます。 Excel Interface for Planning および OfficeConnect のインストールあるいは、IT 担当者がこれらの前提条件を事前にインストールすることで、ユーザーが管理者権限なしでインストールできるようにすることもできます。

| | |
|---|---|
| Microsoft Edge WebView2 Runtime | 必須: OfficeConnect にログインする前にインストールしてください。 |
| Microsoft .NET Framework 4.8 | 必要に応じて、事前に .NET 4.8 をインストールします。 |
| Office Runtime 用 Microsoft Visual Studio 2010 ツール | 必須: 事前に Office Runtime 用に Visual Studio ツールをインストールします。 |
| Workday イベント ログ コンポーネント | アドインのインストールでは、コンポーネントが自動的にインストールされます。<br><br>コンポーネントは、Windows のコントロール パネルの "プログラムと機能" リストに個別のアイテムとして表示されます。OfficeConnect と Excel Interface for Planning で、エラーやその他のデータを Windows イベント ログに記録できるようにします。<br><br>Workday イベント ログ コンポーネントを個別にダウンロードするには、次の URLを使用します。 |

### ハードウェアおよびソフトウェア要件

インストールする Excel Interface for Planning または OfficeConnect 初めて実行する場合は、Windows 管理権限が必要です。

次を参照してください。

- Excel Interface for Planning のインストール（116ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール ( 578ページ )
- 管理者として OfficeConnect をインストール ( 579ページ )

| | |
|---|---|
| オペレーティング システム | Microsoft Windows 10 以降<br>サーバー/デスクトップ仮想化環境 (リモート デスクトップ サービスなど)<br>注： Mac オペレーティング システムはサポートされていません。 |
| Web ブラウザ | |
| Microsoft Edge WebView2 Runtime (サインインに必要) | 最新バージョン |
| FireFox | 最新バージョン、最新の ESR |
| Chrome | 最新バージョン |
| Microsoft Office | OfficeConnect は、半年チャネルのインストールで Microsoft Office (64 ビット推奨) が必要です。<br>Microsoft Office 2019 (エンタープライズ バージョン)<br>Microsoft Office 2016 (プロフェッショナル プラス)<br>Microsoft Office 365 Pro + (32 ビットまたは 64 ビット)<br>Microsoft Office の本番環境のデプロイのみ |
| メモリ (RAM) | 4 GB 以上<br>8 GB 推奨<br>コンピュータの RAM を確認する方法について学びます (このページの下部に説明があります)。 |
| 言語、ローカライズ設定 | 英語 |
| 地域設定 | 英語 |

要件の更新

更新を直ちにインストールする Excel Interface for Planning および OfficeConnect。

| | |
|---|---|
| ユーザーごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースすると、各ユーザーにログイン時に更新をインストールするよう要求される Excel Interface for Planning または OfficeConnect。各ユーザーは管理権限なしに更新することができ、必要に応じて、IT は複数のユーザーに更新を密かにインストールできます。<br>プロンプトに記載されている期限前に更新をインストールしてください。一般的に、ユーザーは更新がリリースされてから必須になるまで 30 日かかります。ただし、優先度の高い更新の期限は短くなります。 |
| マシンごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースした場合、ローカル管理者グループのメンバーに対して、特定の日付までに更新をインストールするよう求められます。通常、更新のインストール期間はリリースから 60 日です。<br>最初の 45 日間は、管理権限を持つユーザーにのみ通知されます。45 日後、ユーザーには利用 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

可能な更新に関する日次通知が表示されます。OfficeConnect および Excel Interface for Planning 通知に記載された日付までに更新をインストールするよう、ユーザーと管理者に要求する。

更新の通常の猶予期間はリリースから 60 日ですが、優先度の高い更新の場合はそれより短い場合があります。

チェック **RAM**

コンピュータにインストールされているメモリ (RAM) を確認するには:

1. Windows の "開始" ボタンをクリックします。
2. 検索ボックスに「*ms Info32*」と入力し、Enter キーを押します。
3. "システム情報" ダイアログ ボックスの右ペインで、"インストール済の物理メモリ" にリストされている数字は、コンピュータにインストールされている RAM です。
4. 4 GB 以上であることを確認してください。最適なパフォーマンスを得るには、以下の条件を満たす必要があります。 Workday は 8 GB をお勧めします。

サポート

インストールまたは使用についてサポートが必要です Excel Interface for Planning および OfficeConnect？お問い合わせください。

relatedlinks
参考
.NETフレームワーク Web インストーラーのダウンロード
WebView2 ランタイムのダウンロード
Office Runtime 用の Visual Studio ツールをダウンロード

# シート内のデータの検索と入力

## シート内のデータの検索と入力

前提条件

以下の詳細をご覧ください:

- シート タイプ
- グリッド
- セルとテキストの色
- 異なる Excel と Adaptive Planning 使用できる関数

基本ステップ

1. 接続先 Adaptive Planning 。
2. シート、バージョン、組織を選択します。
3. 必要に応じて表示を調整し、グリッドにデータを入力します。
4. 変更内容を送信します。

シート、バージョン、組織を選択

少なくとも 1 つのシートを選択するまで、グリッドは空になります。"Planning" ペインで以下を実行します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. "シート" ドロップダウンからシートを選択すると、データがグリッドにロードされます。
2. 複数のシートのデータをワークブックにロードするには、以下の手順に従います。
    - 新しい Excel シート タブをワークブックに追加し、別のタブを選択します Adaptive Planning シートを "プランニング" ペインで選択し、Excel ワークブックで複数のオンライン シートを取得します。
    - 新しい Excel ワークブックを開いて別のワークブックを選択する Adaptive Planning シート
    - Excel の別のインスタンスを起動し、その方法で追加のシートにアクセスします。

    注 : Excel シートごとに選択できるオンライン シートは 1 つだけです。変更を送信する前に別のシートを選択した場合、新しいシートがグリッドにロードされ、前のシートの変更は失われます。
3. "バージョン" の右側の矢印をクリックし、適切な バージョンを選択します。表示権限がある任意のバージョンのデータをスクロールできます。
4. "組織" の右側の矢印をクリックし、適切な組織を選択します。
5. この時点で オフラインで作業する か、接続したままにすることができます。オフラインで作業すると、再度接続するまでバージョンや組織の調整、またはセル情報へのドリルダウンができなくなるため、オフラインで作業する前に、正しいデータにアクセスできることを確認してください。

| | |
|---|---|
| バージョンまたは組織の検索 | "バージョン"、"組織"、または "科目" ドロップダウン矢印をクリックします。オプションのリストをスクロールする代わりに、ドロップダウン メニューの上部にある検索フィールドに名称を入力します。それに応じてリストがフィルタリングされ、直接一致するものがハイライトされます。 |

表示、フィルタ、ドリルダウンの調整

以下の組み合わせを使用して表示を調整してください: Adaptive Planning データの検索と入力に役立つ Excel 関数。次の値で調整してください: Adaptive Planning ログオフおよびオフラインでの勤務の前に実行される。概念: シート ビューを参照してください。

| | |
|---|---|
| Excel 関数 | 以下の一般的な Excel 関数は、接続状態であってもオフラインであっても動作します。<br>• ペインの固定: Excel リボンの "表示" タブをクリックし、先頭行 (列ヘッダー)、最初の列 (行ヘッダー)、またはその両方を固定することで、コンテキストを失うことなくデータをスクロールできます。<br>• 行または列を非表示: 行または列を右クリックして "非表示" をクリックし、自分に直接関係しないデータを 削除 します。<br>• 行の高と列の幅の調整、グリッド線の表示、拡大縮小を行います。<br>• "検索" を使用して特定のデータを検索する。<br>Excel のフィルタおよびソート機能はグレー表示されています。"Planning" タブ リボンの "表示オプション" を使用します。 |
| プランニング関数 | Planning 機能は、シート タイプに応じて、接続されている場合にのみ機能します。<br>• 期間をフィルタリングします。<br>• ゼロを表示しない、表示しない<br>• シートの 属性、座標、軸を交換、フィルタ、および変更します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 行またはセルごとにドリルダウンすると、表示されている値の背後にある詳細を確認できます。
- グループ科目: "Planning" タブで、 グループ科目: オンにすると、グループ化された科目または組織が表示されます Adaptive Planning。グループ化を削除するには、オフにします。

セルへのデータの入力

Excel でシートの編集を開始する前に、"Planning" タブから "シートのリフレッシュ" をクリックして最新のデータをロードします。

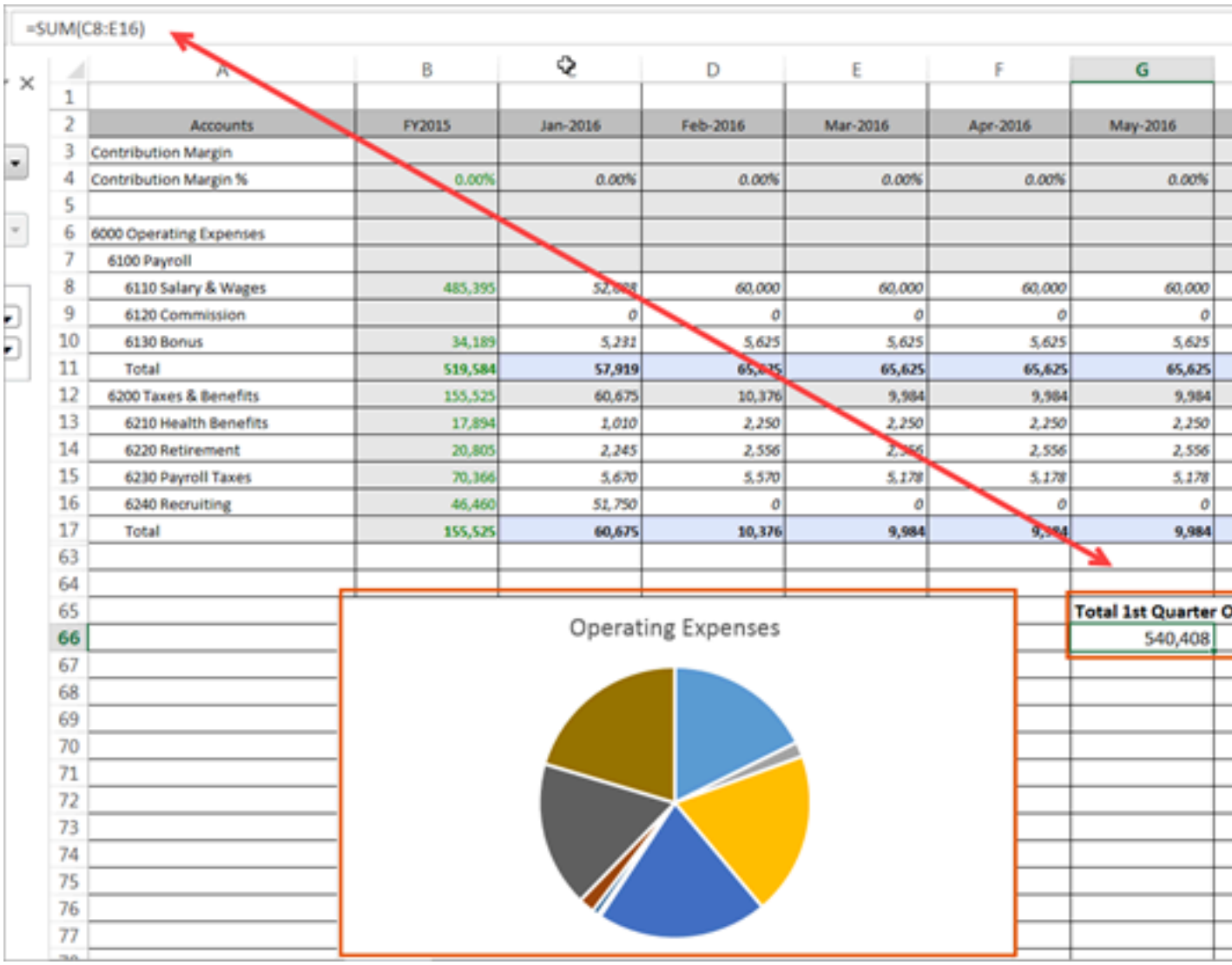
オン Adaptive Planning グリッドには、いくつかの方法でデータを入力できます。

- 数値またはその他の値をセルに直接入力する。
- データをセルにカット アンド ペーストまたはカット アンド コピーする。
- グリッド内のドロップダウン オプションから値を選択します。特性値を選択すると、対応する属性値がフィルタリングされ、データ入力が容易になります。
- Excel 数式を使用してグリッド内のデータを計算します。使用する数式と数式で参照されるセルはにアップロードされません。 Adaptive Planning, そのため、値の計算方法を他のユーザーに知らせる場合は、メモを追加してください。
- モデル シートの行を追加し 、新しい行の各セルの値を入力します。
- 分割を追加する と、入力した値 (および合計) が元の行にロールアップされます。

Excel グリッドで:

- Excel 関数を使用して、Excel グリッド上にグラフを作成します。これらのグラフはワークブックの新しいシートに保存されます。これらのファイルは次の場所にはアップロードされません: Adaptive Planningローカルに保存して共有することはできます。
- 次を使用して Excel グリッド上のデータを計算: Adaptive Planning データこのデータはオンライン シートにアップロードされませんが、ローカルに保存して共有することができます。たとえば、数か月の合計を計算します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




チェックボックスまたは切替列を使用する場合、オフの場合は 0、オンの場合は 1 のみを入力します。これらの適用値を使用すると、列がオフかオンかに基づいて計算を実行できます。例: checkbox.column=1 では計算 1 を使用し、checkbox.column=0 では計算 2 を使用する、という条件を設定した数式を作成できます。そうすることで、チェックボックスのオン/オフに応じて、モデルの行の詳細に異なる値を表示できます。

### データを編集できません

シートでセルが編集できない場合、以下のいずれかまたはすべてをチェックまたは確認します。

- 組織アクセス: アクセスできない組織を選択している可能性があります。ユーザー ID に割り当てられた組織アクセスに基づくデータのみを表示または編集できます。または、編集できない合計値のセルを表示する親組織を見ている可能性があります。その場合、組織の最小の子を選択します。
- 科目タイプが混在した標準シート: 標準シートでモデル科目またはキューブ科目を編集しようとしていることがあります。編集できるのは、総勘定元帳科目とカスタム科目のみです。
- 時間が混在している標準シート: 総勘定元帳科目またはカスタム科目の時間設定がシートの時間設定より小さい場合があります。編集する総勘定元帳またはカスタム科目を右クリックし、"プランニング" > " 組織別に表示シートには短い期間が表示され、セルが編集可能になります。
- ロック済バージョン: 完全にロックされたバージョン、または定義された期間にわたってロックされたバージョンが表示されている場合があります。バージョンがロックされると、データの変更や編集ができなくなります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- ワークフロー: ワークフロー 機能が有効になっている場合、すでに送信済みの組織が表示されている可能性があります。
- 実績のオーバーレイ: 実績データに完全に置き換えられたバージョンを表示している場合があります。
- 権限: {{corp"/>権限を管理者にチェックして、シートとシート組織へのアクセス権があることを確認します。
    - 読み取り専用モードでのみシートを表示できる "分析ユーザー" になっている可能性があります。
    - 選択したバージョンまたは組織へのアクセス権がない可能性があります。

リフレッシュ、統合、送信

変更を送信する前に、グリッドをリフレッシュして競合を管理するか、変更を取り消します。次に、"送信" をクリックします。 更新内容を送信 Adaptive Planning。

更新内容をリフレッシュして送信するタイミングと方法についての詳細情報を表示します。

## セルへのドリルダウンまたは行の詳細

接続先の設定 Adaptive Planning、セルまたは行の値の背後にあるデータにドリルダウンできます。

数式の検索

斜体のテキストは、値が数式とともに入力されたことを示します。値の背後にある次の数式が表示されます。

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning およびセルに計算値があること (テキストはイタリック体である必要があります)。
2. "Planning" ペインが表示されない場合は、"Planning " タブをクリックし、"Planning ペインを表示"の隣のチェックボックスをオンにします (オンになっている場合)。
3. "Planning" ペインで、"情報" タブをクリックします。セルに次の値がある場合、 Adaptive Planning 数式は "セル情報" の下に表示されます。

計算されていても、太字のテキストまたは水色の背景を持つセルには、別のユーザーが手動で入力した数式が存在しないため、数式は含まれません。太字のテキスト セルは自動合計で、背景が青色のセルは合計値です。セル エクスプローラーを使用して、値の元を把握します。

セルの探索

セルの値が計算されていなくても、 を使ってセルの詳細を調べることができます。参照 概念: "セルを探索" および "行の詳細" ( 96ページ ) 。

に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。次に、セルを右クリックして "Planning" >"セルを探索"をクリックします。セルの詳細情報と、さらに詳細な情報へのリンクがブラウザに表示されます。

行の詳細を使用

モデル シート ( シート タイプの識別方法) の場合、セルまたは行のいずれかを探索できます。

に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。次に、行内の任意のセルを右クリックします。"Planning">"行の詳細" をクリックします。行の詳細情報と、より詳細な情報へのリンクが、ブラウザに表示されます。

## 更新のリフレッシュ、マージ、送信

ヒント : ベスト プラクティス: 編集または変更を行う 前 、および新しいデータまたは更新を送信する 前 に 、"リフレッシュ" をクリックして サーバーから最新のデータを取得してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

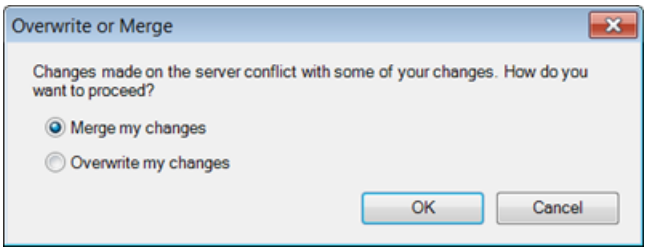
### データの送信

入力したデータを送信するには、に接続してください Adaptive Planning 送信 をクリックします。更新内容はサーバーに保存され、以前に保存または送信された既存のデータが上書きされます。送信されたデータは、管理者によってロックされるまで、自分を含む他のユーザーが引き続き編集できます。

### データのリフレッシュとマージ

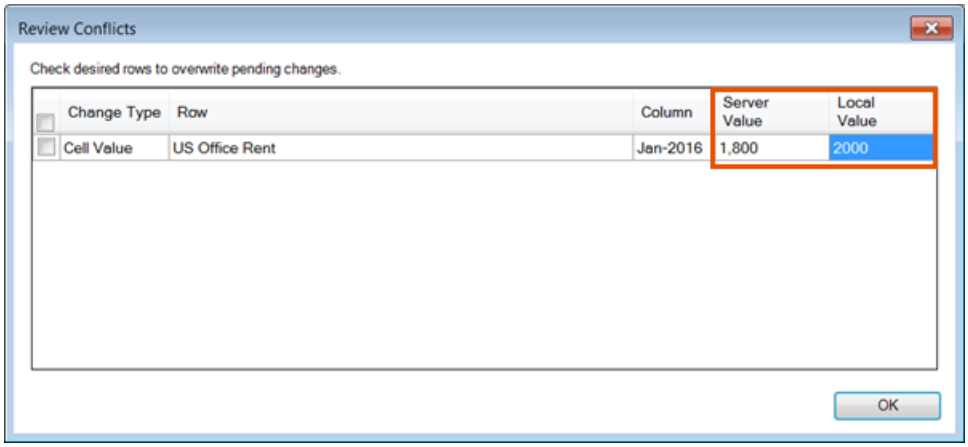
前回のリフレッシュ以降、別のユーザーによって更新されたシートで作業している可能性があります。リフレッシュにより、最新のデータを取得し、更新と最新データとの競合をマージして比較したり、更新をすべて取り消したりすることができます。

1. シートのリフレッシュ をクリックします。シートをリフレッシュすると、新しいデータや既存のデータへの編集はサーバーで「競合」と見なされ、次のメッセージが表示されます。




2. 次の横にあるラジオ ボタンを選択します。
   - 自分の変更を上書き: 行った編集内容は破棄され、データが、クラウド上で最後に保存されたものの状態に戻ります。このデータを再度編集したり、変更を送信したりすることはできます。
   - 自分の変更をマージする: 自分が更新しようとしているセルに他のユーザーが更新されていない場合、画面がリフレッシュされ、他のユーザーが行った更新がグリッドにロードされ、編集内容はシートに残り、送信準備が整います。

     自分が更新したセルを誰かが更新した場合、入力したデータと サーバーに入力したデータを比較して競合のリストが表示されます。どの値を維持し、どの値を廃棄するかを選択できます。




     チェックボックスをオンにすると、グリッドがサーバーからデータをロードし、入力したデータは削除されます。オフのままにすると、入力したデータはグリッドに残り、送信できるようになります。
3. "OK" をクリックします。

グリッドの更新を続行し、"送信" をクリックして変更をサーバーに保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**"Planning ペイン"** をリフレッシュ

でしばらくの間開いていないシートで作業している可能性があります。シートとそのすべてのデータをリフレッシュするのではなく、時間を節約して をクリックし、"Planning" ペインのみをリフレッシュします。これにより、最新のバージョン、組織、シートを使用できるようになります。

## ノートの追加と編集

セルの数 Excel Interface for Planning メモが含まれている場合、セルの右上隅に赤の三角形が表示されます。

レビュー ノート

- 赤の三角形が付いているセルにマウスを合わせます。メモがポップアップ表示されます。
- リボンの "レビュー" タブの "次" と "前" の ボタンを使用して、各コメントをスクロールします。

メモを編集

既存のメモを編集または追加するには、セルを右クリックして "コメントの編集"を選択します。"送信" をクリックします。 編集したコメントを次の場所にアップロード: Adaptive Planning。

新しいノートの追加

1. 以下の Excel のコメント関数を使用します。
    - 以下のセルを右クリックします。 Adaptive Planning グリッドに移動し、"コメントの挿入"を選択する。
    - リボンの "レビュー" タブから "新しいコメント" をクリックします。
    - Shift キーと F2 を押します。
2. コメントを入力し、クリックして終了します。
3. "送信" をクリックします。 "Planning" タブからコメントをアップロード Adaptive Planning。

メモを削除

自分または他のユーザーが作成したメモを削除するには:

1. 以下の Excel のコメント関数を使用します。
    - 赤の三角形が付いているセルを右クリックして、"コメントの削除"を選択する
    - コメントが含まれるセルをクリックし、リボンの "レビュー" タブで "削除" を クリックします。
2. "送信" をクリックします。 変更のアップロードに使用 Adaptive Planning。

## 分割と行の追加

標準シートで分割を使用してデータを追加できます。モデル シートでデータを追加するには、行を追加できます。一部のモデル シートでは、行に分割を追加できます。

始める前に

- に接続する 必要があります Adaptive Planning モデル シートまたは標準シートに分割を追加します。
- 管理者はシートでの分割を有効にする必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 分割

分割を使用すると、元の行にロールアップされる値を持つサブ行をシートに作成することができます。標準シート上の分割の追加、名前変更、削除ができます。

#### 分割の追加

1. セルを右クリックして、"Planning" >"分割を追加"をクリックします。
2. フィールドに新しい分割の名前を入力し、"OK"をクリックします。
   - 元の行の下に、作成した名前の新しい行が表示されます。
   - 元のセルはグレーに変わります (つまり、その下で作成した分割によって細分化されているため、編集できなくなります)。
   - また、作成した分割の下に "合計" という新しい行が表示されます。この合計は、分割にデータを入力した直後に分割の値を計算します。
3. 更新を送信すると、他のユーザーは元の行のセルの合計のみを表示します。ただし、組織からシートを表示しています。その場合、作成した分割と分割値が表示されます。

#### 分割名を変更

1. 分割の行内の任意の場所を右クリックします。
2. "Planning " >"分割名を変更" をクリックします。
3. 新しい名前を入力して "OK"をクリックします。
4. 更新内容を送信します。

#### 分割の削除

1. 行内の任意の場所を右クリックします。
2. "Planning " >"分割の削除" をクリックし、"OK" をクリックして分割を削除します。その分割に入力された値はすべて削除され、合計から差し引かれます。
3. 変更内容を送信します。

### モデル シートでの行の追加または分割

モデル シート の場合、行を追加できます。分割とは異なり、モデル シートに追加された行は、新しい行が独立しているため、小計されたり元の行にロールアップされません。シートの特性上、行を分割することで、元の下にサブ行を作成することができます。

#### 行の追加

1. ワークシートでセルを右クリックします。
2. 右クリック メニューで "Planning" > "行を追加"をクリックします。新しい行はリストの最後に表示されます。新しい行の一部の列には、デフォルト情報 (青のテキスト) が含まれます。
3. セルのドロップダウンから異なる値を選択して、行のセルを編集する。
4. 更新内容を送信します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 行の分割 | 分割する行を右クリックして、"Planning" >"Split Row"をクリックします。元の行の下に新しい行が字下げして表示されます。 |

行の削除

行が分割行であるか、独立した行であるかに関係なく、行の任意の場所を右クリックして "Planning" > > "行を削除" をクリックします。

削除を取り消すには、"Planning " タブの "リフレッシュ" をクリックし、"変更を上書き"を選択します。行は表示されますが、これまでに行った他の変更はすべて失われます。

注 : 行の削除を確認する機会は表示されません。

## シート ビューの変更

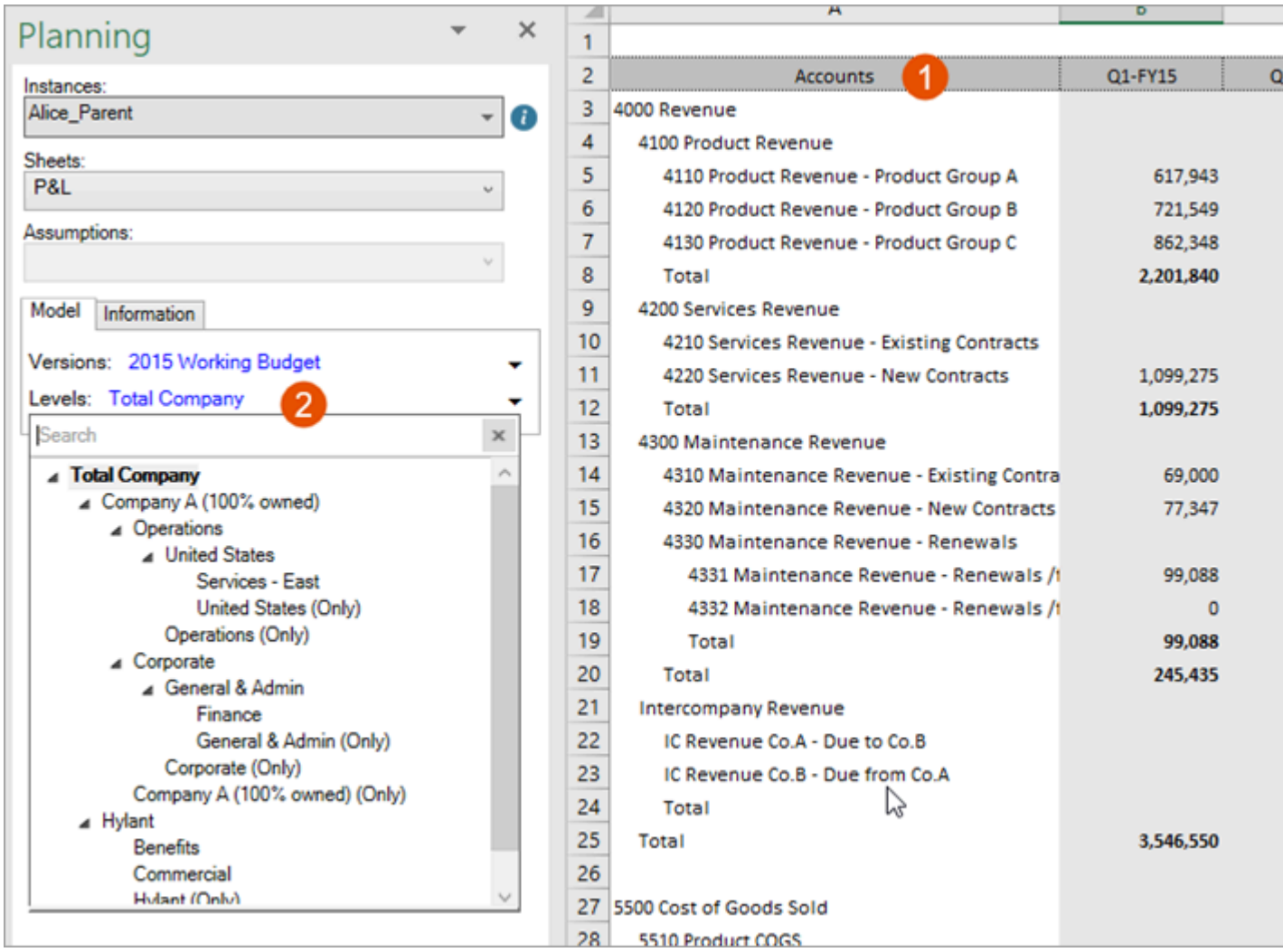
以下のオプションから選択してシートのビューを変更します。開いているシート タイプに注意する (シート タイプを識別することを学びます)。これらの機能は、に接続されている場合にのみ使用できます。Adaptive Planning:

- 軸を入れ替える
- 期間別のフィルタ
- 行のフィルタ内容
- ゼロと空白の非表示
- 属性、軸、座標の変更

標準シート内の軸を入れ替える

このオプションは標準シートでのみ使用できます。標準シート内の行と "Planning" ペイン フィルタを入れ替えることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | デフォルトでは、科目は最初の列の行にリストされています。 |
| 2 | デフォルトでは、"Planning" ペインのドロップダウンから組織を選択します。 |

フィルタと行を入れ替えるには、グリッドの最初の列を右クリックし、"Planning">"組織別に表示"を選択します。

これで、最初の列の行の下に組織が表示されます。"プランニング" ペインで科目を選択します。

### すべてのシートにおける期間の変更とフィルタ

これらの表示オプションは、期間範囲があるすべてのシートで使用できます。グリッド上の期間をフィルタするには:

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。
2. プランニングから タブのリボンで、"表示オプション" をクリックします。 。
3. "時間" タブをクリックします。
4. シートに表示する期間範囲の開始と終了を選択します。
5. リストされた年ごとに表示する列を選択します (これは "開始" と "終了" で選択したオプションに基づきます)。一覧表示された年ごとに異なる項目を選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

使用可能なオプションと設定の詳細については、 を参照してください。

期間の表示例

2017 年 5 月と仮定します。

| フィールド | 当年の開始、当四半期の終了、表示月数 | 当年度のオフセット開始、当四半期終了、表示月数 | 月の開始、当月の終了、表示月数 | 月の開始、当月の終了、表示の組み合わせ |
|---|---|---|---|---|
| 開始選択: | 現行年度<br>オフセット: 0 | 現行年度<br>オフセット: -1 | 月および 2016 年 4 月を選択 | 月および 2016 年 4 月を選択 |
| 選択の終了: | 当四半期<br>オフセット: 0 | 当四半期<br>オフセット: 2 | 当月 | 当月 |
| 列の表示: | すべての年の月 | すべての年の月 | すべての年の月 | 2016 年について、四半期を選択<br>2017 年について、月を選択 |
| 結果: | 開始: 2017 年 1 月<br>終了: 2017 年 6 月 | 開始: 2016 年 1 月<br>終了: 2017 年 12 月 | 開始: 2016 年 4 月<br>終了: 2017 年 5 月 | 2016 年の Q2、Q3、Q4、それに続いて 2017 年 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月 |

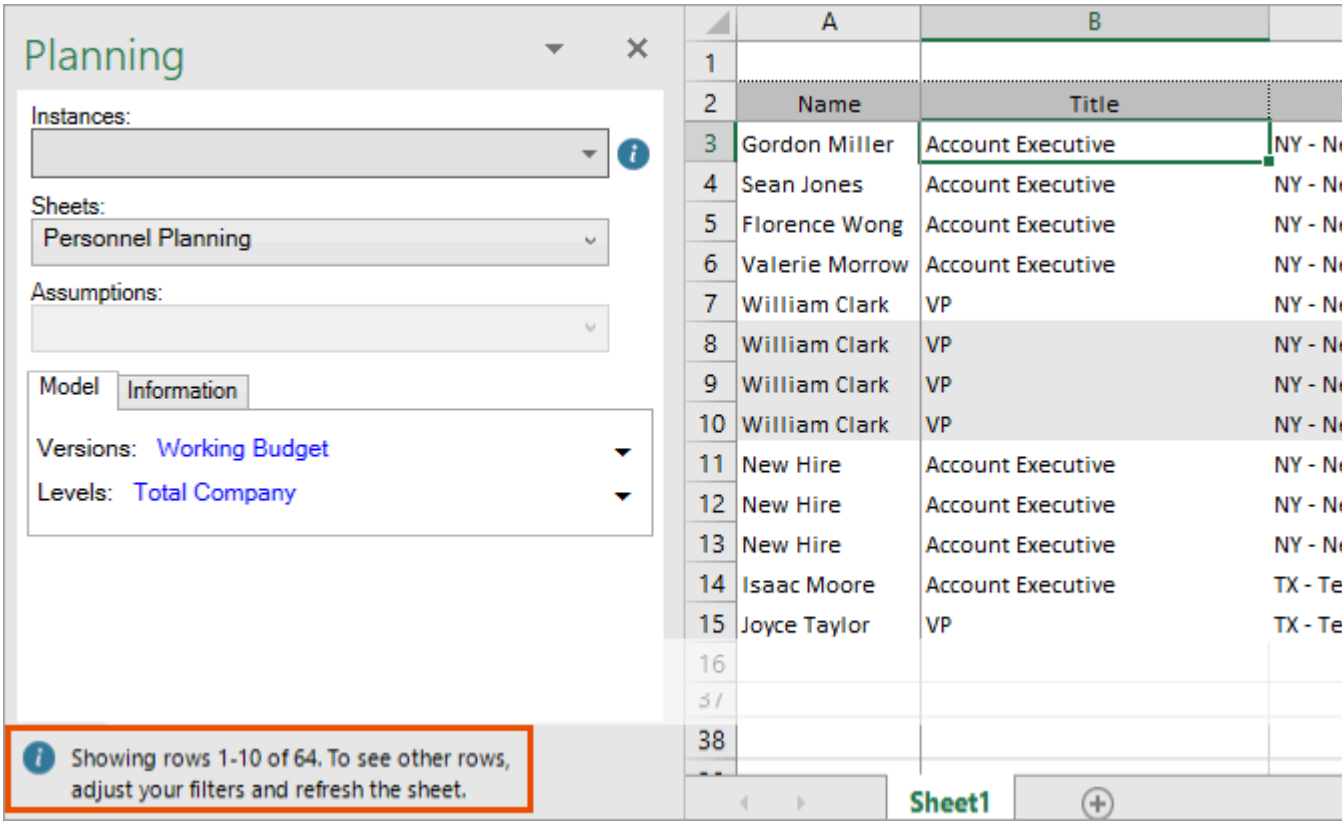
モデル シートの内容別のフィルタ

このオプションはモデル シートでのみ使用できます。多くの場合、モデル シートには多くの行が含まれます。フィルタの用途:

- 関連データの検索
- シートのサイズを縮小
- スクロールを消去

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- モデル シートが表示できる行の数に管理者が制限を設けた場合、異なるデータセットを表示する (これが該当する場合、下部に情報メモが表示されます)




注：ログインしているかどうか Adaptive Planning オンラインで、フィルタを使用するとログオフになります。でフィルタを使用する前に、オンラインで作業を保存してください Excel Interface for Planning。

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。
2. "Planning" リボンで "シート フィルタ" クリックします。
3. フィルタを適用する列を選択します。たとえば、シートに社員がリストされている場合、"名前" を選択すると、名前でフィルタリングできます。
4. フィルタ ルールの演算子を選択します。演算子には、"次の値で始まる"、"次の値で終わる"、"次の値を含む"、"次の値を含まない" などがあります。
5. 空白のフィールドに文字、単語、または数字を入力します。たとえば、"名前 と 次の値で始まる" を選択し、 「T」と入力できます。"OK"をクリックすると、名前が "T" で始まる社員のみがシートに表示されます。
6. フィルタにルールを追加するには、プラス文字アイコンをクリックします。シートをさらにフィルタリングするには、別の列、または同じ列と別の演算子を選択します。たとえば、"氏名"、" 次の値で終わる " を選択して「E」と入力すると、"OK"をクリックすると、名前が「T」で始まり「E」で終わる社員のみがシートに表示される よう になりました。
7. 現在の基準に「OR」ルールを追加するには、"グループを追加" をクリックします。たとえば、"名前" 、"次 の値で始まる" を 再度選択できます。次に "R" と入力します。ここで "OK"をクリックすると、シートには名前が "T" で始まり "E" で終わる社員 に加えて、 名前が "R" で始まる社員が表示されます。
8. "OK" をクリックします。

注：「AND」ルールを追加するにはプラス文字アイコンを使用し、「OR」ルールを追加するには "グループを追加" ボタンを使用します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

標準シートとキューブ シートでゼロと空白を表示しない

このオプションは、標準シートとキューブ シートでのみ使用できます。ゼロと空白を非表示にしたり、ゼロを表示したりするには (特に新しいデータを入力する場合)、次の手順に従います。

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。
2. プランニングから タブのリボンで、"表示オプション" をクリックします。 。
3. "時間" タブをクリックします。
4. ウィンドウの下部にある "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" をオンまたはオフにします。ゼロおよび空白が非表示になっている場合、空白のセルまたはゼロに等しいセルがある行は表示されず、その行に新しいデータを入力することはできません。

属性、軸、座標の変更

これらのオプションは、キューブ シートでのみ使用できます。Planning ではキューブ シートの オプションが増えます をクリックします。これらのシートのデータの表示方法をさらにカスタマイズできます。キューブ シートを見ているのか分かりませんか？シート タイプを識別する方法について学びます。

注 : 属性は、モデリング管理者によってキューブ シートに組み込まれます。

に接続していることを確認します。 Adaptive Planningをクリックし、"Planning" ペインでキューブ シートの利用可能な表示オプションのいずれかを変更します。

- 元の表示に戻し、変更した表示の変更をすべて元に戻します。
- 行と列を入れ替えます。たとえば、時間が列に表示され、科目が行の下に表示されている場合、このボタンをクリックすると、列全体に科目が表示され、行の下に時間が表示されます。
- 属性別にデータをフィルタリングします。Planning のドロップダウン メニューからさまざまな属性値を選択します。 ペインデータは変更されて、その属性に関連する情報のみが反映されます。
- 属性をグリッドに追加します。"属性" にリストされている任意の属性をドラッグ アンド ドロップ ボックスの日付 または行 ボックス: それらの属性のデータの値を表示します。

で属性を使用する 方法の詳細 Excel Interface for Planning 。

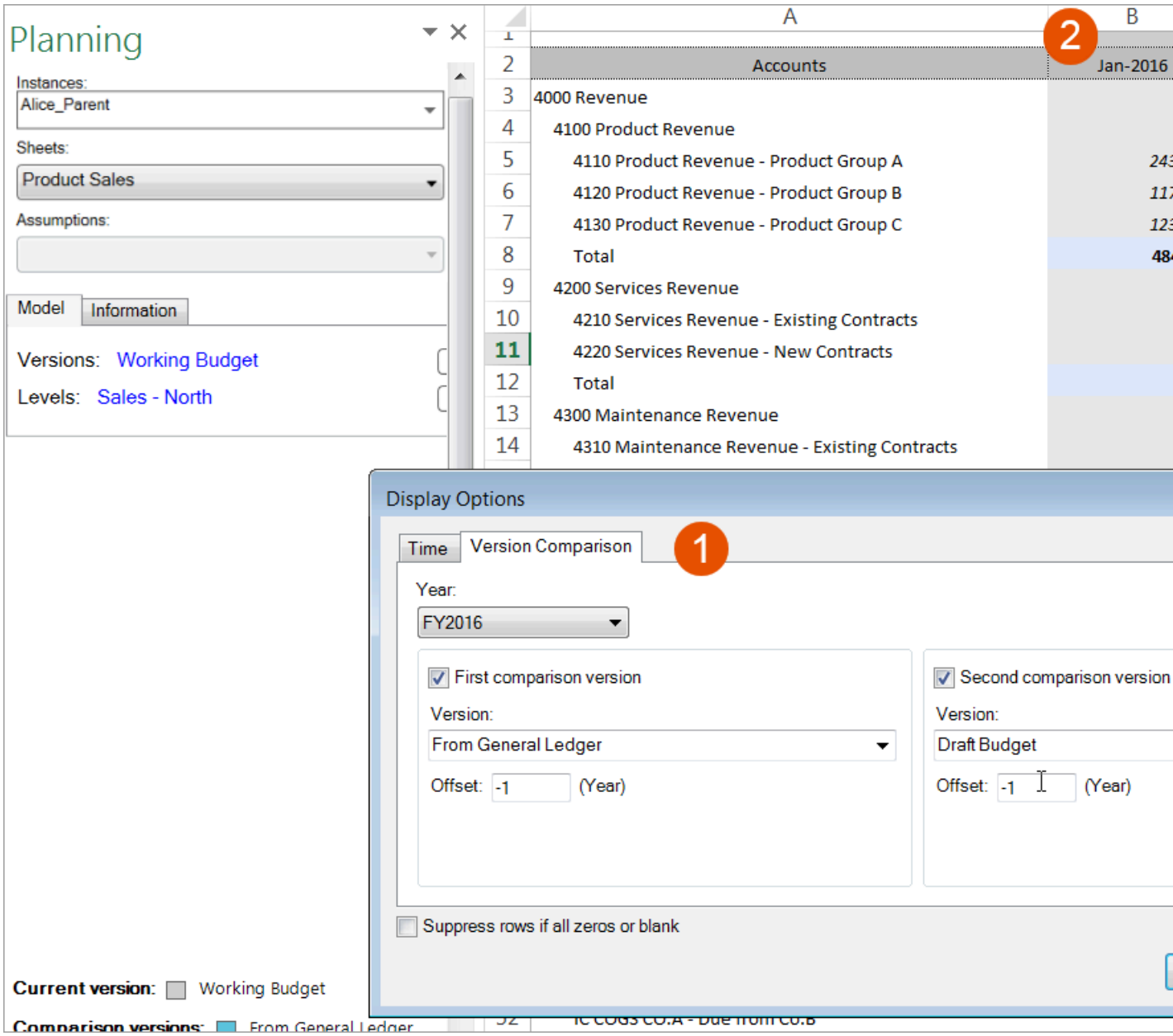
## データを他のバージョンと比較

標準シートでバージョンを比較できます。計画時にデータを比較するには、次のようにします。

1. "Planning" タブで "表示オプション をクリックし、" バージョン比較 " タブをクリックします。
2. ドロップダウンから年を選択します。
3. 実績または計画のバージョンを選択します。たとえば、今年の予算を計画する際に、前年度の実績と前年度の承認済予算を参照することができます。
4. 年のオフセットを入力できます。ドロップダウンで選択した年度より前の年度には負の数値を、以後の年度には正の数値を入力します。
5. "OK" をクリックします。

以下の例で、設定によって表示がどのように変わるかを確認してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | オンにした "バージョン比較" オプション。 |
| 2 | 色分けのない列は、現在作業している現在のシートです。この例では、2016 年の月次データです。 |
| 3 | この例では、この列は前年の総勘定元帳実績 (-1 オフセット) を示しています。 |
| 4 | この例では、この列に前年度のドラフト予算データが表示されています (-1 オフセット)。 |

## Excel Interface for Planning での属性と特性の使用

多くの企業で属性を使用してデータにコンテキストを追加します。属性は会計データを切片化するカテゴリです。多くの企業で属性を使用してデータの分析と分類を行っています。期間、組織レベル、科目、製品、地域は共通のディメンションです。属性は、入力者がさまざまなレンズを通してデータを読み取り、パターンの有無を特定するのに役立ちます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

属性と特性は、モデル内で異なるように機能しますが、オンライン シートおよび Excel Interface for Planning。特性と属性の両方に、読み取り専用としてデータに割り当てられている複数の値があるか、選択可能な選択肢または値のドロップダウン メニューが提供されています。

属性はどのシートの一部にすることもできますが、キューブ シート内でのみ動的です。つまり、属性を使用してシートの ビューをフィルタ、配置、変更できます 。 シート タイプの識別方法を学びます。

### 標準シートの属性

標準シートには組織の属性とその他のカスタム属性の両方を含めることができますが、特性を指定することはできません。標準シートの属性は時間に関連しない列です。

| | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | |
| 2 | Accounts | Product | Function | FY2015 | Jan-2016 |
| 3 | 4000 Revenue | | | | |
| 4 | 4100 Product Revenue | | | | |
| 5 | 4110 Product Revenue - Product Group A | | | | |
| 6 | Split 1 | Product B2 | | | 2,500 |
| 7 | Total | | | | 2,500 |
| 8 | 4120 Product Revenue - Product Group B | | | | |
| 9 | 4130 Product Revenue - Product Group C | | | | |
| 10 | Total | | | | 2,500 |

標準シート内の属性は、編集可能である場合と読み取り専用である場合があります。属性値を編集または選択するには:

1. これ以上展開できない組織を選択していることを確認します。
2. セルがまだグレーで表示されている場合は、対応する時間列のセルに分割を追加します。
    - セルがグレーのままの場合、読み取り専用セルです。
    - 分割を追加した後に属性セルが白に変わった場合、セルをクリックします。
3. 必要な属性値を見つけるには、"属性値" を開きます。以下のいずれかを実施します。
    - 右クリックし、"Planning">"属性値の選択" を選択します。
    - または、リボンで "属性の選択" をクリックします。
4. リストをスクロールまたは展開して折り畳んで参照するか、キーワードを入力して属性を検索します。
5. 値を選択して "OK"をクリックします。
6. シート上の変更を送信して保存します。

### モデル シートの属性

モデル シートには、あらゆる種類の属性と特性を格納できます。標準シートと同様、モデル シートのほとんどの属性と特性はドロップダウンの値を選択するセルを持つ列です。モデル シートの多くのセルにもドロップダウン メニューがあるため、モデル シートでは属性と特性を識別するのが難しい場合があります。

1. 属性値を選択するには:
2. 属性のあるセルをクリックします。
3. 以下のいずれかを実施します。

- 右クリックし、"Planning">"属性値の選択" を選択します。
- または、リボンで "属性の選択" " アイコンをクリックします。

1. リストをスクロールまたは展開して折り畳んで参照するか、キーワードを入力して属性を検索します。
2. 属性値を選択して "OK"をクリックします。
3. 変更内容を送信して保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### モデル シートのフィルタの属性と特性

属性とそれに関連する属性特性の両方がモデル シートにある場合、シートから 2 列が関連していることがわかり、それに応じて選択可能なフィルタリングが行われます。

その仕組みは次のとおりです

この例では、データ入力を容易にするために、シート内で属性と特性がどのようにフィルタリングされるかを示します。

- "製品" は 、"Slacks"、"ブラウス"、"シューズ" という値のオプションを持つ属性です。
- "色" は "製品" の属性であり、値のオプションには以下のいずれかの値があります。
- スラックスの色は、白と茶です。
- 上記以外のアイテムは、"クロッシュ" のみとなります。
- ブラウスはすべての色でご利用いただけます。

" 製品" を最初に選択し、以下を選択します。

- ブラウス: " 色の セル" に以下が事前入力されます (none) 関連していることを示す場合、青のテキストで表示される。"色" ドロップダウンで、ブラウスに関するすべてのオプションを選択できます。
- "色の セル" に以下が事前入力されている Black 青のテキストで表示されますが、それが唯一の "色" オプションであることを示します。
- "色の セル" に以下が事前入力されている場合、 (none) 青のテキスト"色" ドロップダウン矢印をクリックすると、オプションとして黒と茶のみが表示されます。

" 色" を最初に選択した場合 ("色") を選択すると次のようになります。

- 黒: 製品 セルに以下が事前入力されている (none) に関連していることを示します。"製品 " ドロップダウンで、すべてのオプションを使用できます。
- 茶: 製品 セルに以下が事前入力 (none) ドロップダウンでは、"Slacks" と "ブラウス" のみが選択可能です。
- 白色: 製品 セルに以下が事前入力されている Blouses 白で選択可能な唯一の製品であるためです。

### キューブ シートでの属性の使用

キューブ シートでは、属性が科目、時間、組織と連携して機能し、データとデータ入力をスライスします。キューブ シートを使用する場合は、使用する属性に基づいて入力したデータの「分割」がシート自体で作成されるため、分割を追加する必要はありません。

キューブ シートの属性ルール

- "Planning" ペイン > "モデル" タブにリストされた属性を検索します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 他のシートと異なり、キューブ シートの属性には、科目、時間、組織のほか、カスタム属性や特性も含まれます。
- 属性は、フィルタ、行またはサブ行、あるいは列のみのいずれかになります。
- 列の属性は 1 つのみです。
- 行またはフィルタとしてリストされた属性に制限はありません。

キューブ シートの属性タイプ

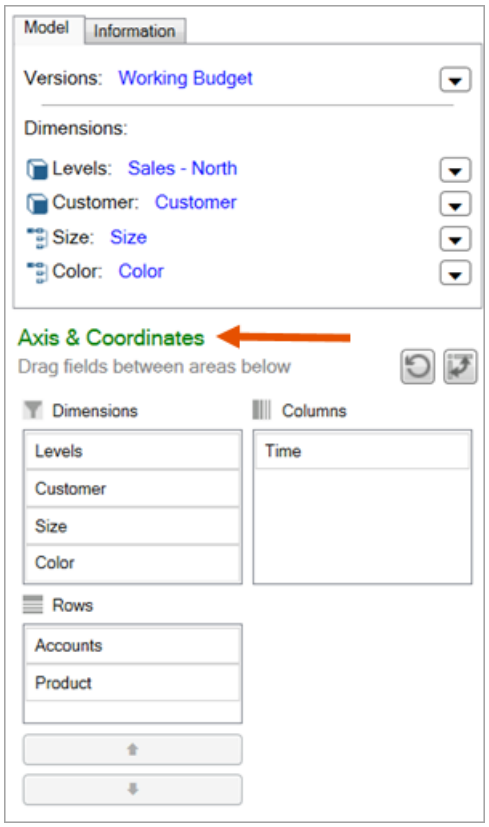
メイン Adaptive Planning カテゴリ (組織、科目、時間、製品、顧客、地域などのカスタム属性など)

特性またはサブカテゴリは、顧客タイプ、色、サイズなどの属性をさらにスライスします。

属性と特性の両方に、フィルタとして選択したり、グリッドの行や列に追加したりできる値があります。

グリッドへの属性の追加

"Planning" ペイン > "モデル" タブで、"軸と座標" セクションに移動します。

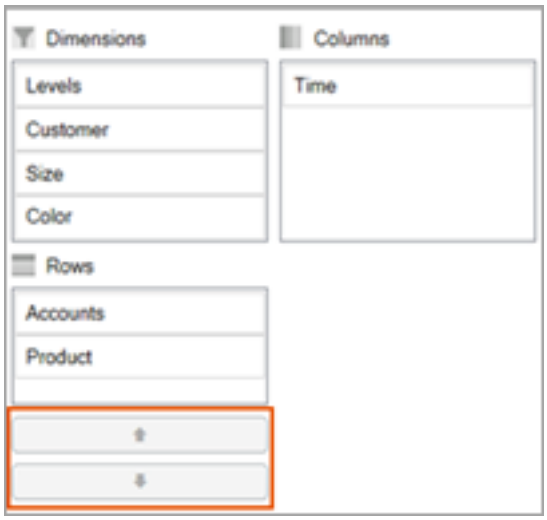



- 属性を列に追加: 属性を "属性" または "行" ボックスから "列" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。この属性は現在の列の

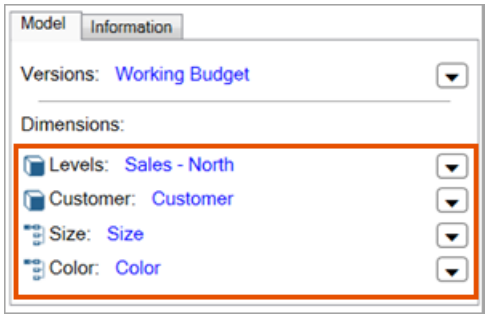
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

属性 (通常は時間) を置き換えます。属性の値が列全体にリストされています。たとえば、"製品" を "列" にドロップすると、製品の値 (ブラウス、スラックス、シューズなど) が列のヘッダーとして表示されます。

- 行への属性の追加: 属性を "属性" ボックスから "行" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。値は行の下にリストされます。たとえば、行に色を追加すると、すべての色の値 (赤、オレンジ、黄など) が行にリストされています。行に複数の属性がある場合、2 番目の属性は最初の中に、3 番目の属性は 2 番目の中に、というようにネストされます。たとえば、"製品" が "科目" の下にリストされている場合、各科目についてリストされた製品の値が表示されます。矢印を使用して順序を変更します。たとえば、"製品" を上に移動すると、科目が製品ごとにリストされています。

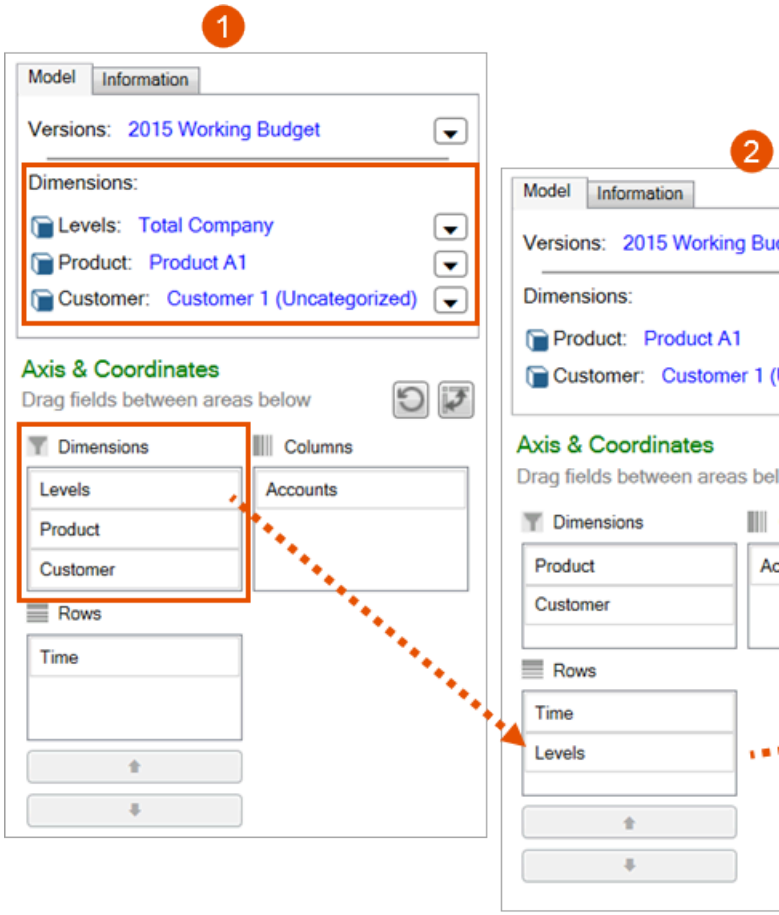



- フィルタへの属性の追加: 属性を "行" または "列" ボックスから "属性" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。属性がフィルタに属性として表示され、ドロップダウンから値を選択してデータをフィルタリングできます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

フィルタとしてリストされている属性が表示されませんか？




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 組織はフィルタリングできる属性としてリストされており、"属性" ボックスにもあります。 |
| 2 | 組織を "行" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。もうフィルタとして使用できないことに注意してください。 |
| 3 | 属性を "属性" ボックスにドラッグ アンド ドロップし、フィルタとして使用できるようにします。 |

グリッドからの属性の削除

"Planning" ペイン > "モデル" タブで、次の操作を行います。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 行からの削除: 属性にドラッグして戻す ボックス
- 列から削除: 置換を列にドラッグします ボックス: 古いものが自動的に削除されます。
- フィルタから削除: 属性のドロップダウンから "すべて" を選択し、フィルタリングを停止します。

新しい属性値の追加

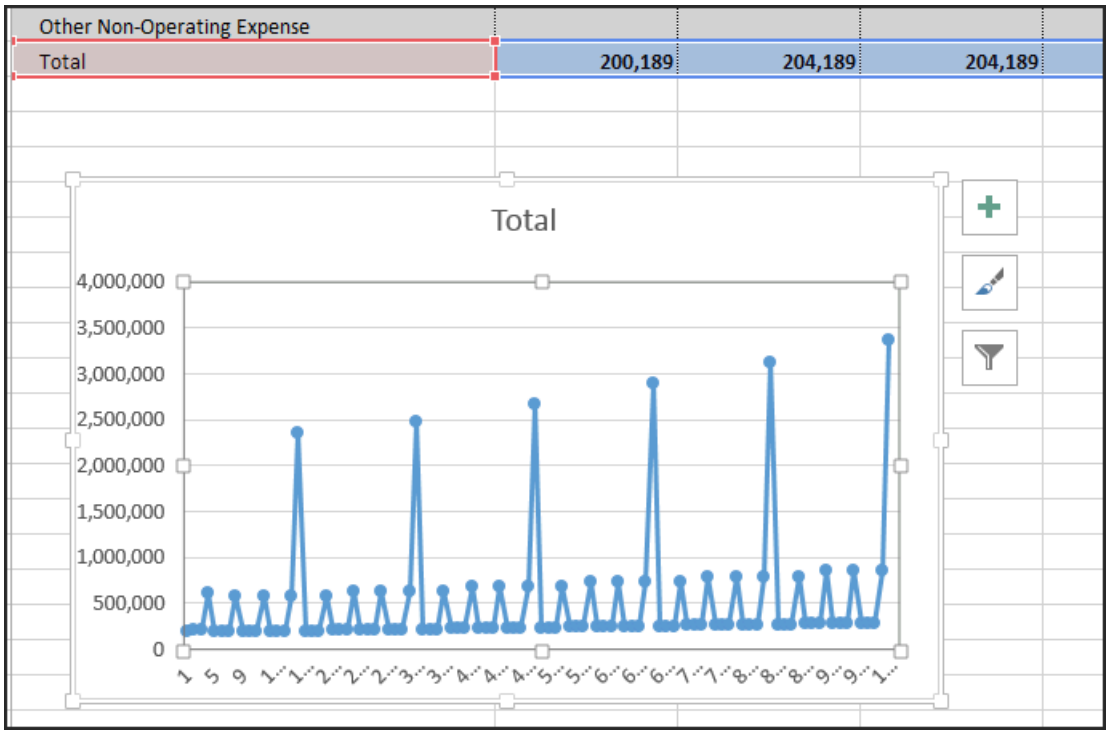
一部のモデル シートおよびキューブ シートでは、属性に新しい値を追加できます。値を追加するには、次の場所からシートにアクセスします。 Adaptive Planningではなく Excel Interface for Planning。

## Excel グラフを使用

を使用する場合 Adaptive Planning Excel のシートにデータをエクスポートすると、Planning のセル範囲外の関数やグラフ ツールなどの Excel 機能を使用して、必要に応じてローカルなレポートや分析を実行できます。このセクションでは、Excel と を使用した 2 つの例を説明します。 Adaptive Planningdata: Excel グラフと Excel 数式

これを使って **Excel** グラフを作成します **Adaptive Planning** データ

純利益の傾向を示す折れ線グラフを挿入できます。




1. 次の行からデータを選択します。 Adaptive Planning シート範囲たとえば、P&L シートで "純利益" 行を選択します。
2. Excel の範囲に折れ線グラフを挿入し、Excel グラフ ツールのオプションを使用して必要に応じて書式を設定します。

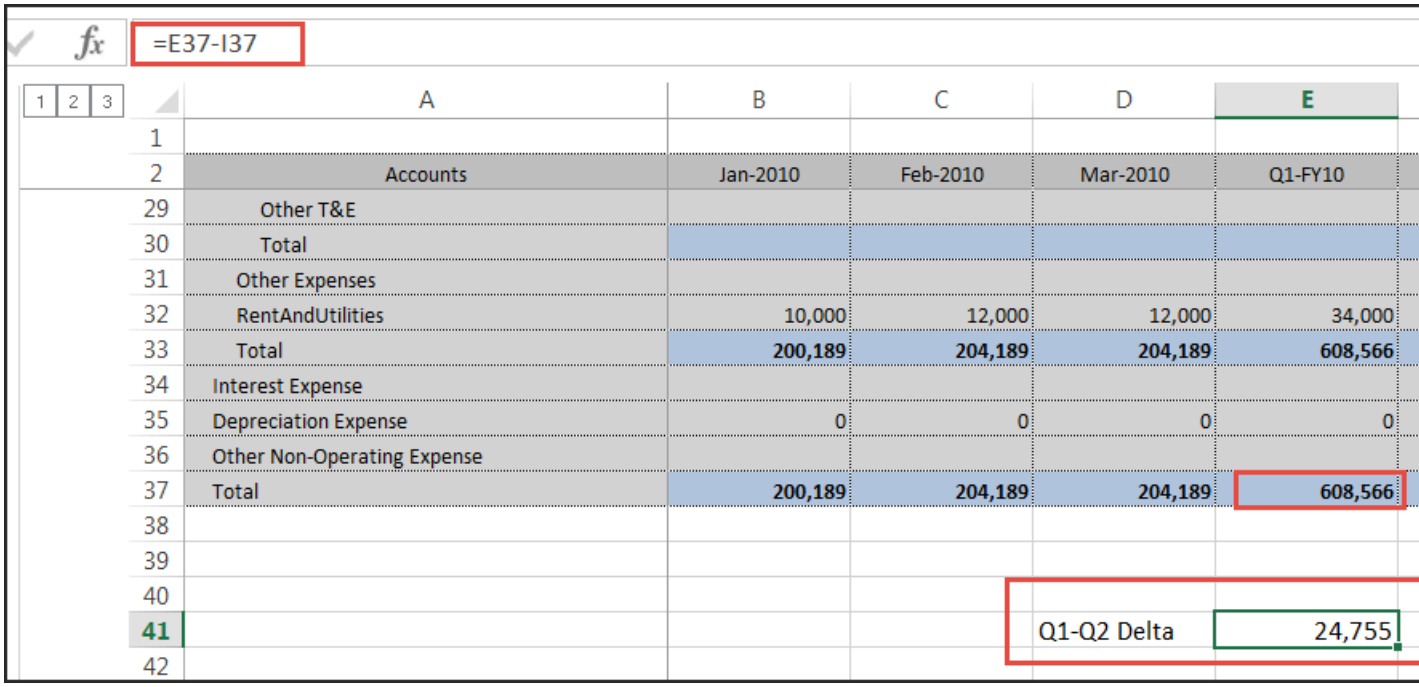
注 : 注: 組織またはバージョンを切り替えると、 Adaptive Planning グリッド領域で、ローカルな Excel 分析やレポートをオーバーライドできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

を使用した **Excel** 計算の作成 **Adaptive Planning** データ

Excel とプランニング シートのデータを使用してローカル計算を実行します。プランニング シートの外に Excel の関数または数式を挿入して参照 Adaptive Planning データ、または以下の組み合わせ Adaptive Planning Excel の範囲に入力されたデータとデータ

たとえば、第 1 四半期と第 2 四半期の純利益の差額を計算します。




Excel のセル範囲および参照内のセルに Excel の関数または数式を挿入 Adaptive Planning 計算のセル範囲

## 複数のシートとワークブックの使用

複数オープンできます Adaptive Planning シートごとに独自の Excel シート タブに表示されるため、計画の特定の領域に集中できます。たとえば、特定の部門を担当している場合、その部門組織の経費、リソース、収益のプランのみを作成できます。

複数シートのワークブックを作成するには、次のようにします。

1. 接続先 Adaptive Planning。
2. what-if 人員計画の モデル化された リソース シートを開きます。実行予算バージョンや営業組織などのバージョンと組織を選択します。
3. Excel のローカルでシートの名前を変更します。たとえば、 シート *1* の名前を次のように変更します。 `1. Headcount.`
4. 2 つ目の Excel シートで 標準シート を開きます (同じバージョンと組織を維持)。たとえば、経費シートを開いて、"シート *2*" の名前を `Expenses.`
5. 3 番目の Excel シートで キューブ シートを開きます。ローカルで シート *3* から `3. Revenue.`

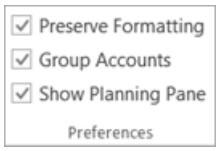
# Excel Interface for Planning のリファレンス

## 参考: Excel リボンの Planning タブ ボタン

インストールすると、Excel リボンに "Planning" タブが表示されます Excel Interface for Planning 。このページでは、ツールバーのボタンとその機能について説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**Planning** タブのボタン

| | |
|---|---|
| | ログインして接続 先 Adaptive Planning: シートにアクセスし、Excel に表示されたデータをリフレッシュして、Excel で行った変更でサーバーを更新します。ログアウトして オフラインで作業します。再度ログインして送信するまで、変更内容はサーバーに保存されません。 |
| | クリックすると、最後の接続後に他のユーザーが入力した新しいデータが取り込まれます 。新しいデータとユーザーのデータの間に競合がある場合は、競合を解決するよう求められます。 |
| | クリックして、オンライン シートに 作業を保存します 。 |
| | クリックすると、"Planning" ペインが最新のシート、組織、前提条件でリフレッシュされます 。 |
| | 特定のシートで行を追加したり削除したりする 。 |
| | 分割を追加して 、選択した行のサブカテゴリを作成します。値は元の行にロールアップされ、編集できなくなります。 |
| | 作成した 分割 を削除し て名前を変更します。 |
| | キーワードを参照して使用し、セルの属性を検索および選択します。 |
| | グリッドに表示されるデータをフィルタし たり、同じグリッドで最大 3 つのバージョン (たとえば、前年の実績、前年の予算、今日の実行予算) を比較する。 |
| | モデル シートでのみ使用可能。次の値で始まる、次の値で終わるなどの演算子を使用して、コンテンツ別に列をフィルタリングします。 |
| プリファレンスの切替<br>  | • "送信" をクリックしたときに、オンラインでシートに加えた書式設定の変更を保存するために、ローカルの書式を保持します。<br>• 科目をグループ化し、 内の会社の組織アウトラインに従って行を展開したり折り畳んだりできるようにする Adaptive Planning。<br>• "Planning" ペインを表示 (または非表示) にすると、グリッドがより多く表示されます。 |
| | ドロップダウンを使用して以下を選択します。<br>• オンライン ヘルプ: コンテキストに応じたヘルプ記事にリンクします。<br>• 概要: バージョンを確認します。以下を確認してください: 製品ダウンロード ( 2785ページ ) をクリックして、最新バージョンを使用していることを確認します。 |

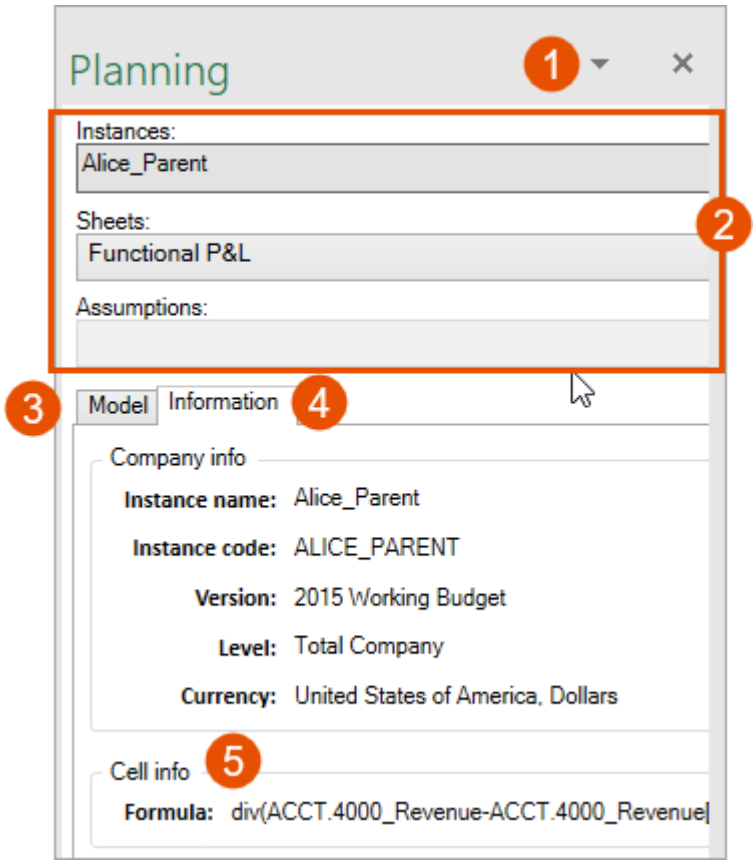
## 参考: Excel Interface for Planning の "プランニング" ペイン

"Planning" ペインは、に接続している場合のみ使用できます。 Adaptive Planning。シートが変われば、異なるオプションが提供されます。

すべてのシートのオプション

次のオプションは "Planning" ペインで使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

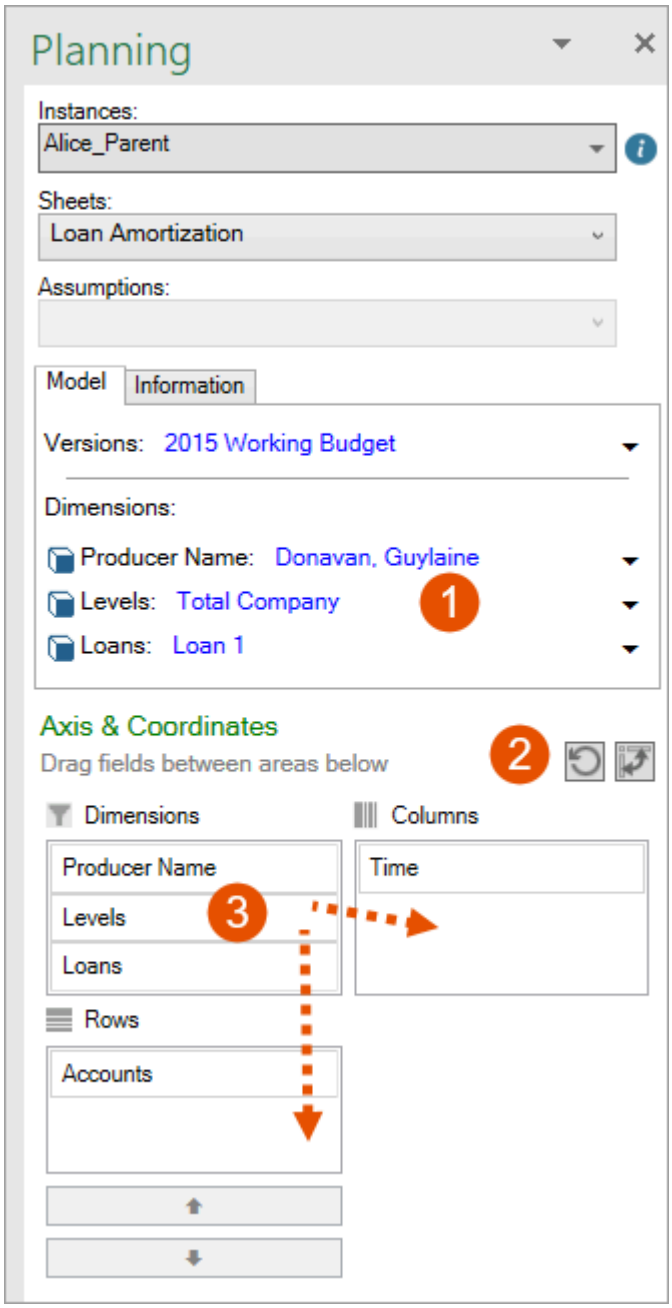



| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | X をクリックしてパネルを非表示にするか、クリックしてパネルをデタッチし、画面上でパネルを移動させます。 |
| 2 | 複数のインスタンスにアクセスできる場合は、そのインスタンスを選択します。アクセスするシートを選択します。計画時に使用する前提条件を表示または更新して選択します。 |
| 3 | "モデル" タブで、バージョンと組織または科目を選択します。これは、権限に基づいてセルが編集可能かどうかに影響します。キューブ シートの "モデル" タブには、さらに多くのオプションが用意されています。 |
| 4 | "情報" タブで、使用しているインスタンス名、バージョン、組織、通貨を表示します。 |
| 5 | "情報" タブの "セル情報" セクションには、選択したセルに入力された数式が表示されます。 |

キューブ シートのオプション

"プランニング" ペインの以下のオプションは、キューブ シートで使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 任意の属性またはすべての属性でデータをフィルタリングします。ここに属性が表示されていない場合は、列または行のボックスから属性を削除します |
| 2 | 表示を元にリセットするには、 をクリックします。 をクリックして、列と行を入れ替えます。 |
| 3 | 属性を列 (右側) または行 (下) にドラッグ アンド ドロップします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 参考: Excel Interface for Planning での右クリック操作

以下のセルを右クリックします。 Adaptive PlanningExcel および を選択するグリッド Adaptive Planningベースのアクション

選択するオプション Adaptive Planning アクションを設定し、任意のセルを右クリックしてから、右クリック メニューの上部にある "Planning" にマウスを合わせる。使用可能なアクションは、シートおよびセル タイプによって異なります。

表示されるさまざまな タイプのシート を区別する方法について説明します。

| Adaptive Planning アクション | 機能 | 使用可能な場合 |
|---|---|---|
| セルの探索 | ドリルダウンして、 このセルのデータが表示されている科目情報、関連する数式、他のシートを検索します。 | 標準シートとキューブ シートのすべてのデータ セル<br>モデル シート内の期間セル (年や四半期など)。 |
| 分割を追加<br>分割を削除<br>分割名を変更 | セルの値をサブ行に分割し 、元の値にロールアップします ( 標準シートの場合)。 | 標準シートにのみ含まれるすべての編集可能なセル |
| 属性値を選択 | キーワードを参照および使用して、属性値を検索および選択します。 | モデル シートおよび標準シートの属性を持つセル。 |
| 行を分割 | モデル シートの行を分割し 、インデントサブ行を作成します。 | モデル シートのすべての行 (シートに "分割を許可" 機能が設定されている場合) |
| 行の詳細 | ドリルダウンして 、行内のデータに関する情報を検索します。 | モデル シートのすべての行 |
| 組織別に表示/科目別に表示 | 科目別に表示 (デフォルト ビュー): 科目は最初の列に表示されます。組織は "プランニング" ペインの "モデル" タブから選択します。<br>組織別に表示: 組織は最初の列の下に表示され、"Planning" ペインの "モデル" タブで科目を選択します。 | 標準シートの 1 列目にあるすべてのセル |
| なし | 次の値はありません Adaptive Planning 可能なアクション。 | メタデータ セル (行または列のヘッダー、行項目など) |

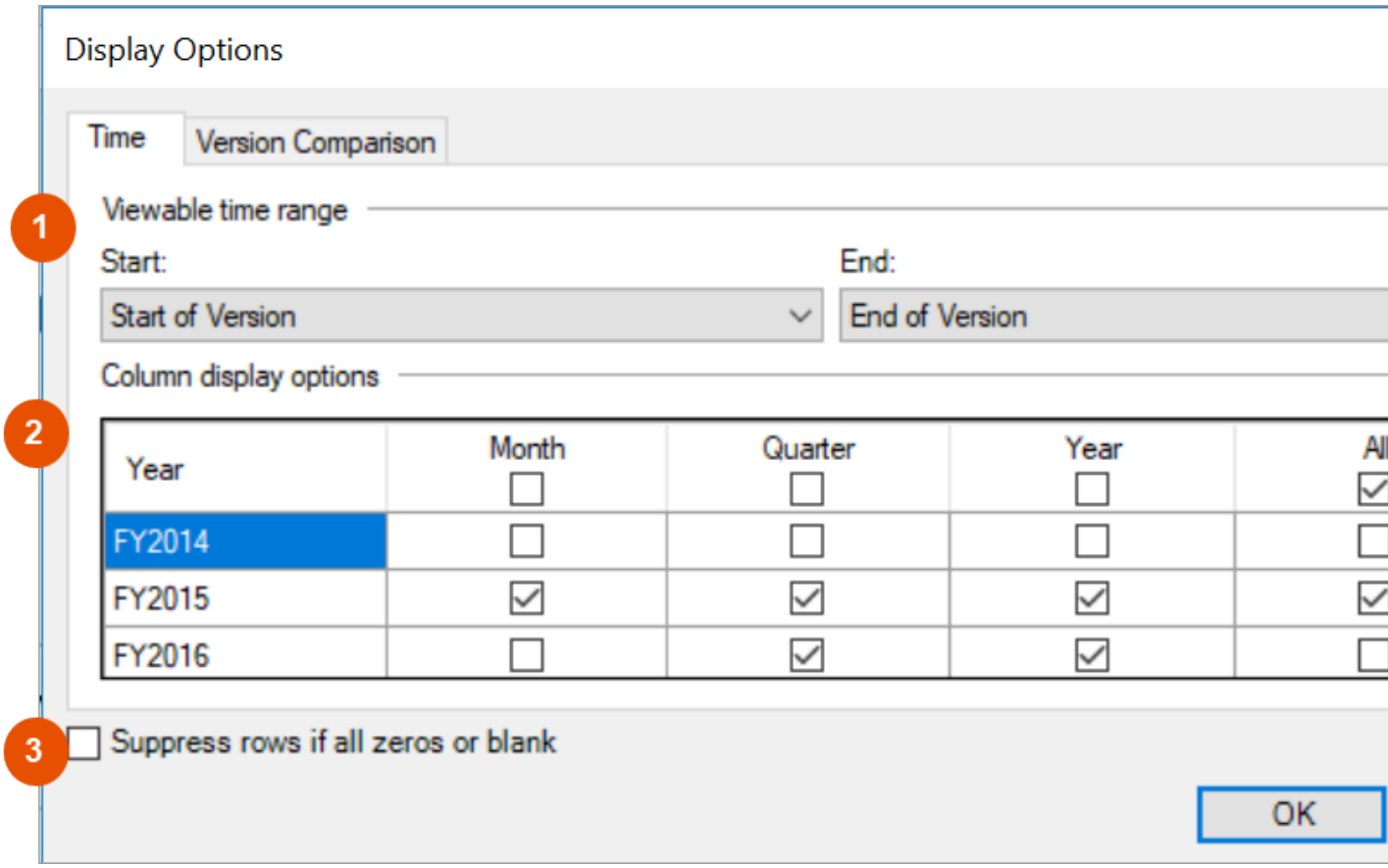
## 参考: 表示オプションの設定とフィールド

表示オプション、フィルタ、その他のツールを使用して シート ビューを変更する 方法について説明します。

表示オプション > 時間タブ

"時間" タブは、期間範囲のあるあらゆる タイプのシート で使用できます。"時間" タブの設定は主に次の 3 つです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 表示可能な期間: シートの開始と終了を選択 |
| 2 | 列表示オプション: 表示する範囲内の期間を選択します |
| 3 | すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない: データがない行またはすべてゼロの行を非表示にします。 |

表示できる期間

シートに、2010 年 1 月から将来のいくつかの年までのデータが含まれている場合があります。開始と終了を指定して、表示を絞り込むことができます。選択可能な項目について次の表で説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ドロップダウン オプション | 基準 | 開始時に表示 | 終了時に表示 | 表示対象の選択: | 選択した場合の追加フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| バージョンの開始 | 計画バージョン: "バージョン" 設定の "表示開始月"<br>実績バージョン: バージョンの開始。 | 管理者によって表示開始月として選択された日付<br>に保存された最も早い実績データの日付 Adaptive Planning。 | 該当なし | できるだけ過去まで (計画バージョンでの実績のオーバーレイを含む) | 該当なし |
| バージョンの終了 | バージョンの設定での計画またはバージョンの終了 | 該当なし | バージョンの終わりまで進める。 | できるだけ前まで。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ドロップダウン オプション | 基準 | 開始時に表示 | 終了時に表示 | 表示対象の選択: | 選択した場合の追加フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| 計画の開始 | 計画バージョン: バージョンの設定。計画データが開始され、実績のオーバーレイが停止します。<br>実績バージョン: 「バージョンの開始」と同じです。 | 計画の開始日まで遡ること。 | 該当なし | 現在の計画データのみ。 | オフセット: 負または正の数を入力し、選択した時間より前または後に開始または終了します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ドロップダウン オプション | 基準 | 開始時に表示 | 終了時に表示 | 表示対象の選択: | 選択した場合の追加フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| 現在の[期間] | カレンダーの設定。共通のカレンダーには、当月、当四半期、当会計年度が含まれる場合があります。 | 選択した期間の最小セグメント。<br>2018 年 3 月に "当年" または "当四半期" を選択した場合、シートは 2018 年 1 月に開始します。 | 選択した期間の最小セグメント。<br>2018 年 3 月に "当年度" を選択した場合、シートは 2018 年 12 月に終了します。<br>"当四半期" を選択した場合、シートは 2018 年 3 月に終了します。 | 特定の会計期間内のデータ。 | オフセット: 負または正の数を入力し、選択した時間より前または後に開始または終了します。 |
| 最小期間 | カレンダーで使用可能な最小の期間。共通カレンダーの最小期間は月です。 | 表示される追加のドロップダウン メニューから選択した内容。 | | 特定の開始日から終了日までのデータ。 | 表示されるドロップダウンから特定の時間を選択します。 |

列表示オプション

シートに表示するオプションを選択します。

- オプションには、期間の選択に基づいて、インスタンスのカレンダーの使用可能なすべての期間が含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 一部のオプションは、シートまたはシートの科目に適用されないため、選択できません。
- 表示可能な年ごとに異なるオプションを選択できます。

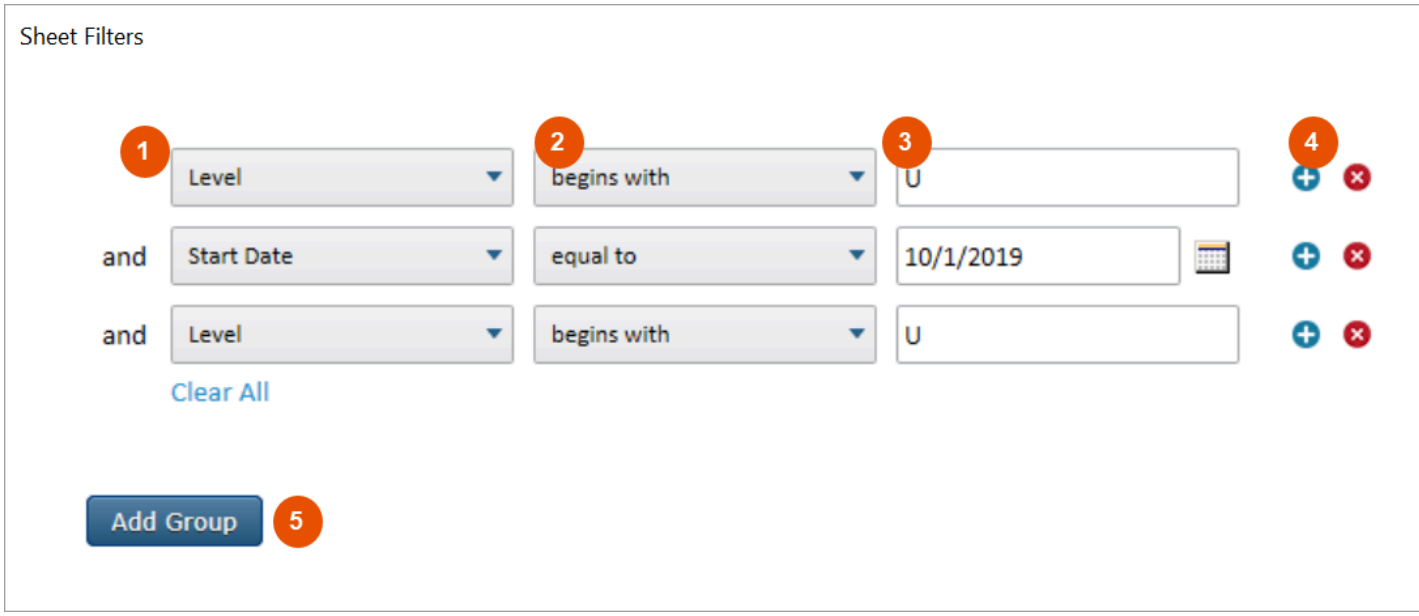
"表示オプション" > "バージョン比較" タブ

"バージョン比較" タブは 標準シート に対してのみアクティブです。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| Year | シートに対して選択された現在のバージョンで使用可能な級数が含まれます。列ごとにデータを並べて表示する年を選択します。<br><br>"時間" タブで選択した時間範囲が、ここで選択した年に対応していることを確認します。たとえば、期間をフィルタして現在の四半期のみを表示している場合、前年とのバージョン比較は表示されません。 |
| 最初の比較バージョンと 2 番目の比較バージョン | 1 つまたは 2 つのバージョンを取得してシートと比較する場合に選択します。 |
| バージョン | 使用可能なすべてのバージョンが含まれます。現在のシートと比較するバージョンを選択します。<br><br>最初と 2 番目の比較に同じバージョンを選択し、そのうちの 1 つをオフセットできます。 |
| オフセット | 正または負の数を入力して、バージョンの年を前後にオフセットします。 |

シート フィルタ

シート フィルタ はモデル シートに対してのみアクティブです。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 列を選択: 列ヘッダーをフィルタリングします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 2 | 演算子: ドロップダウンには、「が次の 値を含む」、「次の 値で始まる」など、演算子のリストが含まれます。 |
| 3 | このフィールドは、条件を入力する場所です。 |
| 4 | プラスまたはマイナスのアイコン: フィルタに「AND」ルールを追加または削除します (「AND」ルールを使用すると、行を返すためにすべての条件が満たされる必要があります)。 |
| 5 | グループを追加: フィルタに「OR」ルールを追加します (「OR」ルールを使用すると、一致した各グループのフィルタ条件のいずれかが行を返します)。 |

## 参考: Excel Interface for Planning の Excel および Adaptive Planning 関数

### Excel 関数 Excel Interface for Planning グリッド

次のテーブルでは、一部の一般的な Excel 関数が の中でどのように機能するかについて説明します。 Excel Interface for Planning グリッドであり、これを回避する方法を提供します。読む前に、 グリッド と シート タイプについてよく理解します。

Excel のグリッド内で作業している場合、Excel の関数はすべて期待どおりに機能しますが、そこでの更新は にアップロードされません。 Adaptive Planning。

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Excel グリッド上で追加または変更されたすべてのコンテンツ ( Adaptive Planning グリッド) | 条件付き | いいえ | シートの Excel グリッドは、Excel とまったく同様に機能します。<br>次の項目に許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様です。<br>許容可能な更新を送信すると、Excel グリッドが Excel シートに残ります。 | Excel ファイルを保存し、今後データを参照し続ける。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| 行と列の削除または切り取り | 条件付き | いいえ | 行と列が削除されたり、エラー メッセージが表示されたりする可能性があります。<br>次の項目に許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様です。<br>許容可能な更新はアップロードされますが、削除された行と列は Excel ファイルに再度表示されます。<br>切り取った行や列を Excel のグリッドに貼り付けた場合、それらは更新を送信した後もそこに残ります。 | "Planning" タブのリボンまたは右クリックの "Planning" メニューから "行を削除" ボタンを使用します。 |
| 行を挿入 | いいえ | 該当なし | アクションはグレーアウトされています。 | "Planning" タブのリボン、または右クリックの "Planning" メニューから "行を追加" ボタンを使用します。 |
| 数式 | はい | 条件付き | 計算は期待どおりに機能します。<br>更新を送信すると、値は計算ではなく入力値としてアップロードされます。 | 値の計算方法を説明するコメントをセルに挿入する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| 列を挿入 | いいえ | いいえ | 列を挿入すると エラー メッセージが表示されます。 Adaptive Planning グリッド。<br><br>グリッド外の列を追加した場合、送信設定に許容範囲の更新が行われていない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様。<br><br>新しい列は次の場所にアップロードされません: Adaptive Planning ただし、Excel ファイルには残ります。 | 参照のために Excel ファイルをコンピュータに保存します。 |
| フィルタとソート | いいえ | 該当なし | アクションはグレーアウトされています。 | "Planning" タブ リボンの "表示オプション" を使用します。 |
| 取消および再実行 | いいえ | 該当なし | アクションはグレー表示されています。 | 行った変更を取り消すには、"リフレッシュ" をクリックし、"上書き" を選択します。 |
| 形式 | はい | いいえ | 書式設定の更新は期待どおりに表示されます。<br><br>以下に対して許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様。<br><br>更新を次へ送信する Adaptive Planningにフォーマットはアップロードされず、ファイルにも表示されなくなります。 | 変更を送信する前に Excel ファイルを保存し、参照として保持します。 |
| 検索 | はい | 該当なし | 該当なし | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| 検索および置換 | はい | とき | データが組織、科目名、固定属性、または特性 (セルにマウスを合わせると、ドロップダウンの矢印で示される) の場合、Excel によって内容が置き換えられ、内容が元に戻り、エラー メッセージが表示されます。<br><br>ドロップダウンの値がないセルを置換した場合、エラー メッセージが表示される場合があります。"OK" をクリックすると、変更内容を保存して送信できます。<br><br>データ入力セルの値については、検索結果を期待される結果に置き換えた後、変更内容を に送信できます。 Adaptive Planning。 | 選択可能なオプションから選択して、ドロップダウンの値を変更します。 |
| 条件付き書式 | いいえ | 該当なし | アクションはグレーアウトされています。 | 該当なし |
| グラフ | はい | いいえ | 次の項目に許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様です。<br><br>許容可能な更新を送信すると、Excel グラフが Excel シートに残ります。 | グラフを作成してコンピュータに保存します。 |
| ペインの固定 | はい | いいえ | 該当なし | 該当なし |
| コメントの挿入 | はい | はい | 該当なし | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| セルの結合 | はい | いいえ | 推奨されません。<br>統合が期待どおりに表示されるか、一貫したエラー メッセージが表示される場合があります。<br>以下に対して許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様。<br>更新を次へ送信する Adaptive Planning結合したセルはアップロードされず、Excel ファイルでは元の外観に戻ります。 | 更新内容を送信する前に Excel ファイルを保存してください。 |
| 分割の名前を編集 | いいえ | はい | セルをクリックして分割名を編集した場合、クリックするとすぐに元の名前に戻ります。 | 行の任意の場所を右クリックします。"Planning" >"分割名を変更" をクリックします。 |

**Adaptive Planning の機能 Excel Interface for Planning グリッド**

以下のリストでは、一部の一般的な設定について説明します Adaptive Planning 関数が次の範囲内で機能する: Excel Interface for Planning グリッド。

| Adaptive Planning 機能 | 期待どおりに機能 | 予期しない結果 | 回避策 |
|---|---|---|---|
| 値を前方向へコピー | いいえ | このアクションは右クリック メニューからは使用できません。 | 新しいデータでセルをハイライトし、コピー機能を使用します (右クリック、ツールバー リボンまたは Ctrl + C)。1 つ以上のセルをハイライトして貼り付け機能 (右クリック メニュー、ツールバー リボン、または Ctrl + V) を使用します。 |
| 値を按分 | いいえ | このアクションは右クリック メニューからは使用できません。 | Excel 数式を使用して計算し、コメントを挿入してデータがどのように計算されたかを記録します。値の送信先 Adaptive Planningしますが、計算は |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Adaptive Planning 機能 | 期待どおりに機能 | 予期しない結果 | 回避策 |
|---|---|---|---|
| フォーミュラ アシスタント | いいえ | このアクションは使用できません | 使用できません Adaptive Planning 数式Excel 数式を使用するか、データを入力します。 |
| セル数式を見る | とき | すべてのシートで、計算に基づいた値は斜体になります。ほとんどのシートで、数式は "Planning" ペインの "情報" タブから確認できます。<br>モデル シートまたはリスト シートでは、値が期待どおりにイタリック体化されていますが、セルの数式は空白になります。 | 接続先 Adaptive Planning、斜体の値を右クリックし、"Planning" > "セルを探索"を選択します。ポップアップ ウィンドウに数式が表示されます。 |

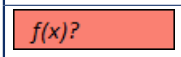
## 参考: セルの色および表記の凡例

すべてへのリンクがある目次の場合 Excel Interface for Planning 記事の使用例 Excel Interface for Planning。Web シート上のセルの色と表記に関する情報については、"シートの使用" に移動します (わずかに異なります)。

セルおよびセル内のデータには、異なる背景色とテキストの色、フォント スタイル、三角形の表示が使用されています。これにより、データに関する情報が一目でわかります。

| 表示 | 意味 |
|---|---|
| 10,000<br>白色の背景に任意の色のテキスト | 任意の色のテキストがある場合または空白の場合、データを変更します。 |
| 7,917<br>グレーの背景に任意の色のテキスト | ロック済みのセル。テキストの色またはスタイルがその理由を示している場合があります。 |
| **11,136**<br>青の背景に任意の色のテキスト | 科目の合計 (総合計)、時間、カスタム属性、分割。では、これらのセルを編集できません Excel Interface for Planningただし、このセルにロールアップされるセルは編集できます。 |
| 500<br>白または青の背景に青のテキスト | 未保存のデータ。 |
| 10,000<br>任意の色の背景に緑のテキスト | 実績データ。背景の色はデータの詳細を示しています。 |
| **10,083**<br>任意の色の背景に太字テキスト | 合計。 |
| *308,961*<br>任意の色の背景に斜体のあるテキスト | 数式が含まれています。背景は、数式の変更または置換が可能であるかどうかを示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 表示 | 意味 |
| --- | --- |
|  <br>赤の背景に f(x) があるテキストの場合。 | 数式エラーがあります。<br>または、モデル シート内の必須列のセルにデータがありません。<br>数式のエラーを修正するには、 Adaptive Planning インスタンスをオンラインにし、ナビゲーション メニューで "シート" をクリックします。 |
| <br>任意の色の背景に赤のテキスト | 数式は正しいものの、エラーが含まれるセルを示しています。<br>セル エクスプローラーを使用してエラーを探します。数式のエラーを修正するには、 Adaptive Planning インスタンスをオンラインにし、ナビゲーション メニューで "シート" をクリックします。 |
| <br>任意の色のテキストまたは背景のセルの隅に赤の三角形 | メモがあります。 |

# Web レポート

## レポートの表示と作成

### 概念: Web レポート

Web レポートを使用すると、レポート パラメータに基づいて Workday Adaptive Planning のデータを表示できます。

次の操作ができます。

- 計算および形式設定を追加する。
- すべてのシート タイプと科目タイプのデータを組み合わせる。
- レポートを実行し、複数の形式で保存する。

ロードされた変換済みの実績データ (換算通貨) を使用するには、レポートは換算通貨で有効なバージョンのみです。換算通貨なしで少なくとも 1 つのバージョンを追加すると、レポート全体で、すべてのバージョンに対して Adaptive Planning の換算レートが使用されます。

Web レポートで換算通貨を使用するには、換算通貨を有効にするバージョンのみを含めることができます。換算通貨なしで少なくとも 1 つのバージョンを追加すると、レポート全体で、すべてのバージョンの "モデリング" で設定された為替レートが使用されます。

レポート タイプ

次のレポートを作成できます。

- マトリクス: ほとんどの機能を備えた、最も広く使用されるレポート タイプです。科目や組織などのデータ要素を行と列に配置できます。パラメータを使用して、レポートの表示オプションを変更できます。
- モデル: 行またはリスト ベースのレポートです。例: 従業員レポート。モデル レポートには、モデル シートからのデータのみが表示されます。
- トランザクション: 行またはリスト ベースのレポートです。トランザクション データのみが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- パターン: 選択された値が一定の期間でどのように分散されるかを示します。これらのパターンは、モデル シートのスプレッド ルックアップ テーブルで作成します。
- 変更履歴の検索: インスタンスで変更履歴を有効にすると、レポートを使用してセル データの変更を照会できます。例: 標準シートとモデル シート、共有数式、前提条件でのセル データの変更。変更履歴の検索レポートを使用して構造の変更を照会することはできません。例: 組織や科目の追加または変更。
- レポート ブック: プレゼンテーションで使用できるさまざまなレポート タイプの集合です。
- 静的ファイル: 組織全体でコンテンツを共有するため、最大 40 MB の任意のファイル タイプをレポートとしてアップロードします。例: スケジュール、手順、トレーニング ビデオ。

## レポート内のデータ アクセス

表示できるのは、アクセス権のあるデータのみです。以下は基本的な原則です。

- レポートを作成するには、少なくとも、一部の組織の科目に対する "表示" アクセス権が必要です。
- 同じ交差でも、ユーザーによってアクセス権に基づいて異なる値が表示されます。
- "要素" タブで以下を確認できます。
    - 少なくとも一部の組織で "制限表示" アクセス権があり、表示できるすべての科目
    - アクセスできるすべての組織
- 部分的な合計は、アクセス権のない合計セルがレポートに表示されているときに発生します。表示される合計には、アクセスできる要因のみが含まれます。
- 他の交差で保護された属性値にアクセスできても、特定の交差ではアクセスできない場合、無効な交差を作成できます。これらの交差部分には、空白またはゼロが表示されます。

  例: "エンジニアリング" 組織で "費用" 科目にアクセスでき、"販売" 組織で "収益" 科目にアクセスできるとします。この場合、"販売" での "費用" は無効な交差です。
- 無効な交差が発生すると、さまざまなメッセージが表示される場合があります。表示または編集する必要があるデータにアクセスできないと感じた場合は、アクセス ルールについて管理者に相談してください。
- 共有数式、セルに入力された数式、および算出科目は、アクセス権に関係なく、すべてのユーザーに対して同じ値を評価します。
- 数式内のすべての項に対して少なくとも "制限読み取り" アクセス権がない場合、数式自体は「f(x) 制限付き」として表示されます。

レポートを保存するフォルダでも、以下のようにアクセス権が決まります。

- 個人: このフォルダに保存されたレポートには自分だけがアクセスできます。
- 共有: このフォルダに保存されたレポートは共有できます。

## レポート要素の優先順位ルール

Web レポートでは、データを表示する際に以下の優先順位ルールが使用されます。

- セルのオーバーライド行
- 行のオーバーライド列
- 列のオーバーライド レポート

レポート要素のデフォルトのプロパティを変更できます。

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート（180ページ）
タスク
静的レポート ファイルのアップロード（167ページ）
要素とレポートのプロパティの変更（247ページ）
パターン レポートの作成（169ページ）
トランザクション レポートの作成（166ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

モデル レポートの作成（241ページ）
レポート ブックの作成（167ページ）
ステップ: 異常値レポートの作成（239ページ）
スケジュールされたレポートを添付ファイルとして送信（254ページ）
参考
次のレベル: Adaptive Planning レポート ツール選択のガイダンス
例
例: 仮想バージョンによる固定通貨レポートの作成（222ページ）

## レポートからのテンプレートの作成

### 始める前に

テンプレートを使用するときにレポート データが適切に配置されるように、"レポートの情報を表示" レポート プロパティをオフにします。

### このタスクについて

既存のレポートを使用して Excel テンプレートを生成し、これに以下のような書式設定を追加できます。

- フォントの色
- フォント タイプ
- 背景色

その後、追加の書式設定が必要なレポートにこれらのテンプレートを添付できます。 Excel テンプレートを作成する場合:

- カスタマイズは常に新しいタブで追加してください。
- 新しいタブに「レポート」という名前を付けないでください。前のバージョンの Adaptive Planning では、"レポート データ"タブが "レポート" と呼ばれていましたが、これが競合の原因になる可能性があります。
- 繰り返し使用するレポートの場合は、レポートの繰り返し使用するタブごとにフォーマット タブを追加します。例: 組織構造内の 10 つの組織に基づいて繰り返す繰り返しレポートの場合、20 件のタブが必要です。組織ごとのレポート データ タブと書式設定タブ
- レポートに行を追加する場合に、基になるテンプレートを更新する必要がないように、動的参照を使用します。
- レポートに添付する前に、"レポート データ" タブのデータをすべてクリアして、機密データが公開されないようにします。
- レポートに分割がある場合、ユーザーはいつでも分割を追加できるという事実を考慮してください。
- ユーザーに応じて、ロケール固有のテンプレートを作成するか、ユーザーに英語ロケールに切り替えるよう依頼します。
- レポートのより高度な書式設定のためにマクロを含めます。

このトピックに関連するユース ケースについては、ユース ケース ライブラリの ユース ケース: Excel レポート テンプレートを使用した差異レポートの作成を 参照してください。

### 手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. ベースとして使用するレポートの "アクション" メニューから "テンプレートの添付"を選択します。
3. "空白のテンプレート" を選択し、"OK"をクリックします。
   レポート出力の変更が テンプレートに反映されます。
4. レポートを実行して、Excel ファイル形式のテンプレートとしてダウンロードします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: Web レポート（156ページ）
タスク
パターン レポートの作成（169ページ）
モデル レポートの作成（241ページ）
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）
トランザクション レポートの作成（166ページ）

## 概念: レポートのクイック ツアー

メイン ナビゲーション メニューで "レポート" を選択すると、すべてのレポート フォルダの概要とレポートの詳細を確認できます。ページの以下の機能を使用して、Web レポート内で操作を行います。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 検索 | キーワードを使用して、フォルダ内またはすべてのフォルダを検索します。検索結果に、検索条件を満たすタイトルのすべてのレポートが表示されます。検索結果は、別の検索を実行するまで、そのまま表示されています。 |
| フォルダ | 詳細を表示できるサブフォルダと保存済みレポートが含まれます。上部にあるブレッドクラムを使用して、フォルダ構造内を移動します。 |
| レポートの詳細 | 選択したフォルダ内のサブフォルダおよびレポートのリストを表示します。レポートの出力形式、オーナー、最終表示日などの詳細も表示されます。次の操作ができます。<br>• HTML レポート名をクリックして、そのレポートをレポート ビューアーに表示する。<br>• HTML 以外のレポートをダウンロードする。<br>• コンテキスト メニューを使用してフォルダまたはレポートを管理する。 |
| アクション | フォルダまたはレポートの管理に使用できるコンテキスト メニュー オプションが表示されます。 |
| レポート アイコン | レポート名の横にあるこのアイコンは、レポートまたはファイル タイプを示します。アイコンにマウスを合わせると、レポート タイプの詳細が表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### レポート フォルダ

デフォルトのフォルダを削除したり、その名前を変更したりすることはできませんが、デフォルトのフォルダ内にサブフォルダを作成することはできます。"共有" フォルダのサブフォルダは、レポートにアクセスできる全ユーザーに対して表示されます。デフォルト フォルダには以下が含まれています。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| すべて | "個人"、"共有"、"お気に入り"、"再使用可能" を含むすべてのフォルダにおける、すべてのレポートが含まれます。 |
| 個人 | 作成したレポートは、デフォルトでこのフォルダに保存されます。 |
| 共有 | 以下のレポートが含まれます。<br>• 他のユーザーが作成してあなたと共有したレポート<br>• あなたが他のユーザーと共有したレポート<br>ダッシュボードから使用できる任意のタイプの共有レポートにリンクできます。共有レポートにリンクする場合、以下のようになります。<br>• HTML 以外の出力の場合、ダッシュボードのレポート リンクからレポートのダウンロード ページに移動します。<br>• ダイアログ表示パラメータを使用している場合、ダッシュボードのレポート リンクからダイアログ表示パラメータの選択ページに移動します。<br>• 削除済みのレポートの場合、レポート リンクにエラー メッセージが表示され、レポートの概要ページに移動します。 |
| お気に入り | お気に入りに追加したレポートが含まれます。このフォルダでは、レポートのチェックボックスをオンにし、上下の矢印アイコンを使用してフォルダ内のレポートを並べ替えることができます。 |
| 再使用可能 | あなたまたは他のユーザーが再使用可能として保存したレポートが含まれます。再使用可能レポートの要素を使用して、類似した構成のレポートを作成できます。 |
| スケジュール | マトリクス レポートのスナップショットまたはライブ レポート通知に対して作成したすべてのスケジュールが含まれます。 |

### レポート ビューアー ツールバー

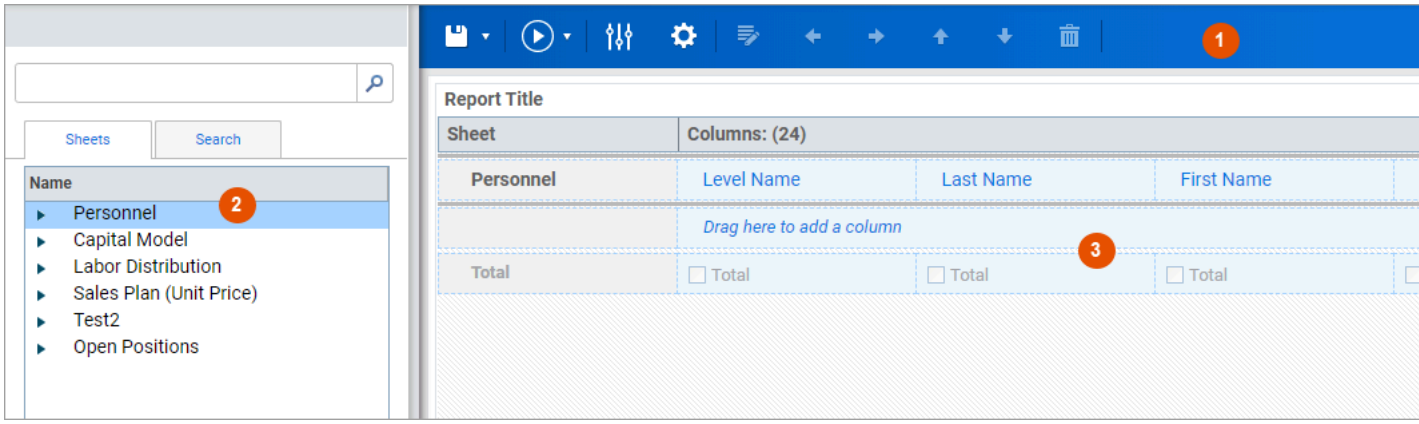
レポートをクリックすると、その中にあるデータを表示できます。モデル レポートとトランザクション レポートのオプションは、以下を除いてマトリクス レポートと同様です。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ドリルされていないレポートに戻る | このオプションは、モデル レポートとトランザクション レポートには適用されず、これらのレポート ビューには表示されません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| レポートをフィルタ | このオプションは、マトリクス レポート ビューには表示されません。このオプションは、モデル レポートおよびトランザクション レポートの結果を特定の基準でフィルタリングするために使用します。 |

レポート ビルダー
レポート タイプを作成するには、レポート ビルダーを使用します。




マトリクス、モデル、トランザクションの各種レポート用レポート ビルダー インターフェイスは、以下から構成されています。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 1 | このツールバーのアイコンは、レポート タイプによって異なる場合があります。 |
| 2 | このペインから設計領域にレポート要素をドラッグ アンド ドロップできます。 |
| 3 | レポートを作成する設計領域です。 |

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート ビューアー（182ページ）
概念: レポートのスケジューリング（256ページ）
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）
トランザクション レポートの作成（166ページ）
モデル レポートの作成（241ページ）

## 概念: トランザクション レポート

トランザクション レポートは列のみを含むという点でモデル レポートに似ています。マトリクス レポートとは異なり、行に表示する内容を指定することはできません。トランザクション レポートはトランザクション モジュールに関連付けられたデータを表示するために作成します。他のレポートと同様に、以下を行うことができます。

- トランザクション レポートをフォルダに保存する。
- さまざまな出力を使用してこれらのレポートを実行する。
- スナップショットとして保存する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 他のユーザーと共有する。

トランザクションをデータ ソースとして持つキューブまたは標準シートのセルからトランザクションの詳細を確認するには、次の条件を満たしている必要があります。

- 科目と組織の交差部分であるそのセルに、トランザクション レベルのデータが関連付けられている。
- 必要なアクセス権と権限がある。

トランザクションの詳細を表示するには、以下のいずれかのオプションを使用します。

- セル エクスプローラー
- トランザクションにドリルイン

シートまたはレポートからドリルインすると、特定のセルつまり交差部分のトランザクションの詳細が表示されます。複数の科目および組織にわたるトランザクションの詳細を確認するには、トランザクション レポートを作成します。

relatedlinks
概念
概念: "セルを探索" および "行の詳細" ( 96ページ )
概念: ドリルダウンとドリルスルー ( 100ページ )
概念: バージョン固有のトランザクション ( 1233ページ )
参考
参考: トランザクション ( 1234ページ )
参考: トランザクション フィールド タイプ ( 1236ページ )

## 概念: レポート ブック

レポート ブックを使用して、一度の要求でレポートのグループを生成し、一緒に保存します。次の操作ができます。

- E メールのリンクを使用してレポート ブック全体を配布する。複数のファイルを添付する必要がなくなります。
- レポート ブックをデスクトップにダウンロードする。財務プレゼンテーションで再利用できます。

レポート ブックは ZIP ファイルに出力され、以下のレポート タイプを含めることができます。

- ライブ レポートまたはスナップショット
- マトリクス、モデル、またはトランザクションの Excel 形式のレポート。ただし、レポートの保存時に優先出力として PDF を指定した場合を除きます。
- アップロードした形式の静的ファイル

個人レポート ブックには個人レポートと共有レポートの両方を含めることができます。共有レポート ブックには共有レポートしか含めることはできません。

relatedlinks
概念
概念: Web レポート ( 156ページ )
タスク
レポート ブックの作成 ( 167ページ )
レポートのスナップショットの作成 ( 163ページ )
トランザクション レポートの作成 ( 166ページ )
基本的なマトリクス レポートの作成 ( 197ページ )
モデル レポートの作成 ( 241ページ )
静的レポート ファイルのアップロード ( 167ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# レポートのスナップショットの作成

## 始める前に

セキュリティ:

- "レポートへのアクセス" 権限
- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限

## このタスクについて

スナップショットは、特定の時点に保存されたレポートのコピーです。マトリクス レポートとモデル レポートのスナップショットを以下の形式で保存できます。

- パラメータ化された組織を含む HTML
- Excel
- PDF

スナップショットを使用すると、インスタンスの構造的な変更によって注釈などのレポート データが影響を受けないようにレポートをアーカイブできます。使用可能な場合は、スナップショットからライブ バージョンのレポートにアクセスできます。

## 手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "個人" または "共有" レポート フォルダにアクセスします。
3. レポートを右クリックして、"スナップショットを作成" を選択します。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 説明 | レポート フォルダ内のスナップショットに表示されるホバー テキストを入力します。 |
| 組織パラメータ オプション | このオプションは、以下の場合にのみ HTML レポート用に表示されます。<br>• レポート パラメータとして組織が含まれている。<br>• ユーザーが複数の組織にアクセスできる。<br>"すべての組織を含める" をクリックして、アクセス可能な組織のデータや注釈を含む組織構造全体を取得します。 スナップショット レポートには最大 6,000 の組織を含めることができます。スナップショット レポートがこの制限を超えると、すべての組織を含めるオプションが無効になり、メッセージが表示されます。<br>注 : "すべての組織を含める" オプションは、複数選択が許可されている組織パラメータを含むレポートでも使用できません。 |
| デフォルト出力 | スナップショットのいずれかの出力タイプを選択します。<br>• HTML<br>• PDF |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • Excel<br>レポートに添付のテンプレートが含まれている場合のみ、"Excel テンプレート" を選択できます。Workday では、レポート ブックのスナップショットは ZIP ファイルとしてのみ生成されます。 |
| 作成して共有 | スナップショットを "共有" フォルダに保存する場合のみ使用できます。 |

次のタスク

スナップショットの使用状況とパフォーマンスを定期的に監視する。参照 レポート メトリックの確認（727ページ）。

relatedlinks
タスク
レポート パラメータの複数選択を有効にする（205ページ）

## レポートの共有

始める前に

- レポートを所有しているか、"すべてのレポートの変更" 権限を持っています。
- レポートを "共有" フォルダに移動します。
- セキュリティ: "共有レポートの作成" 権限

このタスクについて

作成したライブ レポートとスナップショットの両方を以下のユーザーと共有できます。

- 自分のチーム
- その他のチーム
- 関係者

共有レポートでは、ユーザーがアクセスできないデータは除外されるため、ユーザーごとに非常に異なる場合があります。以下が表示されます。

- 他者には表示されない列と行の全体
- 他者には表示されないパラメータとフィルタのオプション
- 他者には空白とゼロと表示されるデータ
- 異なる値を持つ合計。
- 特定の項へのアクセスに基づく、以下のような計算の異なる結果。
  - 異なる値
  - 部分的な合計
  - f(x) 制限付き
  - ゼロ

"すべてのレポートを変更" 権限がある場合は、他のユーザーが作成してあなたと共有したレポートを編集できます。アクセス ルールにより、アクセス権を持たない属性と属性値が削除されます。また、保存された変更により、他のユーザーの属性も削除されます。これらのレポートを実行しても、アクセスできない属性と属性値は、他のユーザーに対して保持されています。

例: 共有レポートに本社、エンジニアリング、マーケティングの組織が含まれるとします。あなたは "エンジニアリング" にのみアクセスできます。レポートを実行する場合、あなたは "エンジニアリング" のみを

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参照します。この裏では、"本社" および "マーケティング" は依然としてレポート上にあります。これらの組織へのアクセス権を持つ他のユーザーには、引き続きこれらは表示されます。

共有レポート構造に誤って変更を加えないようにするため、"すべてのレポートを変更" 権限は、モデル内の保護された属性に対するアクセス数が少ないユーザーよりもアクセス数が多いユーザーに割り当てます。

手順

1. "共有" > レポートに移動します。
2. 共有するライブ レポートまたはスナップショットを実行します。
3. レポート ビューアーのツールバーで "共有"をクリックします。
4. (任意) "アクセスできるユーザー" タブで、レポートへのアクセス権をすでに持っているユーザーを確認します。
5. "共有" タブで、以下の受信者から 1 つ以上を選択します。
    - グループのすべてのユーザーと共有する場合は、"ユーザー グループ"
    - 個人と共有する場合は、"ユーザー"
    - 任意の組織に属するすべてのユーザーと共有する場合は、"組織"
6. (任意) スナップショットのみの場合は、"詳細設定"をクリックします。"給与詳細" オプションを選択し、"給与詳細にアクセス" 権限を持つユーザーとのみスナップショット レポートを共有します。

次のタスク

- ライブ レポートまたはスナップショットがレビュー可能になったことを受信者に通知します。
- 共有レポートのパフォーマンスと使用状況を定期的に監視する。参照 レポート メトリックの確認 ( 727ページ )。

relatedlinks
参考
参考: レポートのコンテキスト メニュー オプション ( 171ページ )

## レポート通知の送信

始める前に

- レポートの共有 ( 164ページ ).
- インスタンスが Workday ユーザーと同期されている場合、管理者は Workday 通知を有効にする必要があります。
- インスタンスが Workday ユーザーと同期されていない場合は、通知を受信するために E メール アドレスをユーザー プロファイルに追加します。

  参照 Adaptive Planning のプロファイル、ホーム ページ、E メール グループの変更 ( 12ページ )。
- セキュリティ: "通知の送信" 権限

注 : "すべてのレポートの変更" 権限がある場合、自分が所有している、または他のユーザーが自分と共有している任意のレポートについての通知を送信できます。

このタスクについて

レポートのレビューが可能になると、ユーザー グループ、ユーザー、または組織に通知の E メールを送信できます。E メール通知を受け取ってもリンクからレポートが開かない場合は、レポート所有者に依頼して "共有権限" に追加してもらう必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. 共有レポートを開きます。
2. "共有" プロンプトから "通知の送信" を選択します。
3. 通知先のユーザー グループ、ユーザー、または組織を選択します。

relatedlinks
タスク
管理者ガイド: ユーザー同期後に機能を有効化
参考
参考: レポートのコンテキスト メニュー オプション（171ページ）

## トランザクション レポートの作成

始める前に

- "モデリング" でトランザクションを設定します
- セキュリティ:
  - "レポートへのアクセス" 権限
  - "システム監査アクセス" 権限
  - "個人レポートの作成" 権限
  - "共有レポートの作成" 権限 (共有フォルダに保存するため)

このタスクについて

トランザクション レポートを作成して実行し、複数の科目および組織にわたるトランザクションを確認します。トランザクション レポートに含まれる層は 1 つであるため、レポート設計領域は、横軸で構成されています。設計領域に数字要素を追加すると、合計行が表示されます。

手順

1. "レポート" に移動します。
   "概要" ページが表示されます。
2. "新規追加" をクリックし、"トランザクション" を選択します。
3. トランザクション要素を列軸内の層にドラッグ アンド ドロップします。
4. 任意:列軸で要素を右クリックして、以下を行います。
   - 列の表示タイトル名を変更します。
   - 列の形式を設定し、スタイルを定義します。
   - 列を右または左へ移動します。
5. 任意です。ツールバーの "レポートのプロパティ" をクリックして、レポート全体の表示形式と印刷パラメータを設定します。
6. 任意:"トランザクションの金額" などの数値を表示する列について、以下を行います。
   - 該当する列の合計を表示するには、"合計" チェックボックスをオンにします。
   - "合計" 要素を右クリックして、表示する合計の通貨タイプを指定します。
   - "合計" 要素を右クリックして、表示する合計の数値形式を指定します。
7. ツールバーの "保存" アイコン メニューから、"保存して実行" をクリックします。

relatedlinks
概念
概念: トランザクション レポート（161ページ）
概念: バージョン固有のトランザクション（1233ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考
参考: トランザクション ( 1234ページ )
参考: トランザクション フィールド タイプ ( 1236ページ )

## 静的レポート ファイルのアップロード

始める前に

セキュリティ:

- "レポートへのアクセス" 権限
- "ファイルのアップロード" 権限
- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限 (共有フォルダに保存するため)

このタスクについて

以下が可能です。

- Excel、Word、PowerPoint、および画像や PDF などのその他のファイルをレポート フォルダにアップロードする。
- 財務プロセス用のドキュメント リポジトリを作成する。
- 他のユーザーとファイルを共有する。

ライブ レポートと静的レポート ファイルには同じセキュリティ機能が適用されます。現在、最大 1,000 件の静的ファイルをアップロードできます。

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "新規追加" > "アップロード" を選択します。
3. "参照" をクリックしてファイルを選択します。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | レポートでの使用方法に合わせて名前を変更できます。 |
| 説明 | レポート フォルダ内のファイルに表示されるホバー テキストを入力します。 |
| アップロードして共有 | "共有レポートの作成" 権限が必要です。 |

次のタスク

静的レポートを表示するには、詳細ペインでレポート名をクリックします。

relatedlinks
タスク
レポートの共有 ( 164ページ )

## レポート ブックの作成

始める前に

- レポート ブックに追加するレポートが存在することを確認します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:
  - "レポートへのアクセス" 権限
  - "個人レポートの作成" 権限
  - "共有レポートの作成" 権限

### このタスクについて

レポートの集合としてレポート ブックを作成し、以下を行うことができます。

- 単一のレポートとして配布する。
- プレゼンテーションで再利用する。

他のユーザーとレポート ブックを共有する場合、他のユーザーは各自がアクセス権を持つレポートしか表示できません。

### 手順

1. "レポート" に移動します。
   "概要" ページが表示されます。
2. "新規追加" をクリックし、"レポート ブック" を選択します。
3. レポート詳細でユーザーが識別できるようなレポート ブック名を指定します。
4. 任意:レポート ブックの説明を入力します。このテキストは、ユーザーがレポート詳細でレポート ブック名にマウスを合わせると、ツールチップで表示されます。
5. レポート フォルダから "含まれるレポート" セクションにレポートをドラッグ アンド ドロップします。
6. レポートを個人レポートまたは共有レポートとして保存します。
7. 任意:"レポート ブックを実行" をクリックして、レポートを含む zip ファイルを生成してダウンロードします。

### タスクの結果

保存されたレポート ブックは、他のレポート タイプとともに概要ページのレポートの詳細領域に表示されます。

### 例

四半期末の結果を示す 3 つの異なるレポートをチームと共有するとします。レポートを個別に共有する代わりに、単一のレポート ブックを作成し、関連するすべてのレポートを含めます。次に、そのレポート ブックをチームと共有します。

### 次のタスク

レポート ブック内のレポートを実行するには、zip ファイルを開いてレポート ファイルをダブルクリックします。レポートにプロンプト パラメータが含まれている場合は、パラメータ値を選択してからレポートを実行してダウンロードする必要があります。レポート ブックのスナップショット レポートを作成することもできます。

relatedlinks
概念
概念: Web レポート（156ページ）
概念: レポート ブック（162ページ）
概念: レポートのクイック ツアー（159ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# パターン レポートの作成

## 始める前に

セキュリティ:

- "システム監査アクセス" 権限
- "レポートへのアクセス" 権限
- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限

## このタスクについて

パターン レポートは、一定の期間で特定の値がどのように分散されるかを示します。たとえば、ハードウェア購入が他の期間の減価償却経費にどのような影響を与えるかを示すことができます。パターン レポートはモデル シートのスプレッド ルックアップ テーブルを使用して作成されます。

パターン レポート ビルダーは他のレポート ビルダーとは異なります。レポート設定の各ステップをガイドするウィザードの形式になっています。

パターン レポートを作成するには、次の手順に従います。

## 手順

1. "レポートの > 概要" の順に移動します。
2. "新規追加" > "パターン" をクリックします。
3. (任意) "レポートのタイトル" ボックスにレポートのタイトルを入力します。
   後でレポートを保存するときにタイトルを追加できます。
4. "科目" ドロップダウンにはモデルで使用可能な科目の組み合わせのリストが含まれています。
   レポートには最初の科目から 2 つ目の科目までパターンがどのように展開されるかが表示されます。
5. リストから科目の組み合わせを選択し、"次へ" をクリックします。
6. "バージョン" ドロップダウン メニューからバージョンを選択します。
7. "バージョンの期間範囲" を選択してバージョンに含まれる範囲を使用するか、範囲を指定します。
8. ソース期間を設定します。
   これは、前のページで選択された 2 つの科目の最初の科目に含まれる期間です。
   選択されたセットが "設備配賦元 - 減価償却費" の場合、ソース科目は "設備配賦元" で、"元の期間範囲" はこの科目の期間範囲になります。
9. (任意) レポートの範囲を絞り込むフィルタを選択します。
   組織または数式のパターンを持つモデル科目をもとにフィルタを作成できます。
10. "次へ" をクリックします。
    "表示オプション" ページが表示されます。レポートでソース科目と出力科目の両方に月、四半期、年を表示するかどうかを選択できます。
11. "レポートを表示"、"繰り返しを表示"、"保存"、または "キャンセル" をクリックします。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| "表示" | レポートを表示します。 |
| "保存" | レポートを保存します。 |
| "繰り返しを表示" | 繰り返し使用するレポートを設定します。繰り返し使用するレポートでは、選択したフィルタごとに同一の繰り返しレポートがシー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ト化された Excel ワークブックが作成されます。 |

12."レポートを保存" をクリックします。

## 変更履歴レポートの実行

始める前に

- バージョンの変更履歴をオンにします。
- セキュリティ: "システム監査アクセス" 権限と、"レポートへのアクセス" または "シートへのアクセス" のいずれかの権限。

注 : インスタンスでアクセス ルールを使用しない場合、"システム監査アクセス" 権限は必要ありません。

このタスクについて

変更履歴レポートでは、あるバージョンのデータに加えられたすべての変更を確認できます。期間範囲、科目、組織、ユーザーでフィルタできます。

"シートへのアクセス" 権限があれば、"シートの概要" から変更履歴を実行できます。"レポートへのアクセス" 権限があれば、"レポートの概要" から変更履歴レポートを実行できます。

手順

1. ナビゲーション メニューから、"レポート" へ移動します。
2. "レポート" の左パネルで、"新規追加" をクリックし、"変更履歴の検索"を選択します。
3. "バージョン" プロンプトで、バージョンを選択して、このバージョンの変更履歴を検索します。
4. 次を参考にして、基本検索を完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 変更場所 | 選択した組織に加えられたすべての変更を返します。検索フィールドに組織名の一部またはすべてを入力します。<br>レポートを作成する組織をいくつか選択することをお勧めします。何も選択しなかった、またはすべてを選択した場合は、レポートはすべての組織に加えられたすべての変更を返します。 |
| 変更日時 | 定義した期間範囲内に行われたすべての変更を返します。カレンダー アイコンをクリックして、検索する期間範囲の最初と最後を選択します。または、2016/2/8 10:00 AM の形式で日時を手動で入力することもできます。 |
| ページ当たりの行数 | 表示したい 1 ページあたりの結果件数を指定します。 |

5. (任意) "詳細検索に切り替え" をクリックします。
   詳細検索には、特定の変更を検索するための追加パラメータがあります。
6. "変更履歴を検索" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

"結果" ページは変更履歴の基本検索と詳細検索で共通です。 変更履歴データは非同期にプロセス実行され、大規模なデータのインポート トランザクションのパフォーマンスが向上します。このような大規模なデータのトランザクション時には、直近の値の変更が変更履歴レポートにすぐには反映されない場合があります。

次のタスク

変更の横に虫メガネ アイコンが表示されたら、アイコンをクリックして "セルを探索" を開き、変更を含むセルにドリルダウンできます。

"印刷対応ビュー" をクリックすると、結果をスプレッドシートにダウンロードできます。

変更履歴レポートでは、印刷対応ビューで最大 50,000 行がサポートされています。50,000 行未満の結果をフィルタリングして、印刷対応ビューをエクスポートします。

relatedlinks
概念
概念: ドリルダウンとドリルスルー（100ページ）
タスク
バージョンの変更履歴の使用（840ページ）
参考
参考: 高度な変更履歴の検索のパラメータ（175ページ）

## 参考: レポートのコンテキスト メニュー オプション

レポートの概要ページでは、以下にアクセスできます。 レポートのコンテキスト メニューレポート タイプとユーザーの権限に基づいて、実行可能なアクションを表示できます。

レポートのコンテキスト メニュー オプションには、以下のものがあります。

| メニュー オプション | 説明 |
|---|---|
| お気に入りに追加 | よく実行するレポートを "お気に入り" フォルダに追加して、簡単にアクセスできるようにします。 |
| フォルダにコピー | "共有" フォルダまたは "個人" フォルダにレポートのコピーを作成します。新しいレポートは、コピー元のレポートから独立しています。"個人" フォルダから "共有" フォルダにコピーしたレポートは共有できます。 |
| フォルダへ移動 | "共有" フォルダまたは "個人" フォルダにレポートを移動します。"個人" フォルダから "共有" フォルダに移動したレポートは共有できます。 |
| 通知の送信 | レポートを個々のユーザー、ユーザー グループ、または組織と共有するときに、E メール通知を送信します。 |
| 名前の変更 | 所有しているレポートの名前を変更します。他のユーザーが所有する共有レポートの名前を変更するには、"すべてのレポートの変更" 権限が必要です。 |
| 変更 | レポート ビルダーでレポートを変更します。このオプションはライブ レポートでのみ使用できます。ユーザーが所有するレポートであればすべて変更可能です。ユーザーが所有していないレポートを変更するには、"すべてのレポートの変更" 権 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| メニュー オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 限が必要です。この権限がない場合は、まずレポートを別のレポートとして保存してから、変更を行ってください。 |
| テンプレートを添付 | テンプレートを添付してライブ レポートの形式をカスタマイズします。会社の口ゴを使用したレポートを作成できます。このオプションはライブのマトリクス、モデル、パターン、トランザクションのレポートでのみ使用できます。 |
| スナップショットを作成 | 特定の時点でのレポートのコピーを作成します。共有レポートのスナップショットを保存する際は、スナップショットを共有することもできます。 |
| ライブ レポートを検索 | スナップショットの作成に使用したライブ レポートを検索します。このオプションは、スナップショット レポートでのみ使用できます。 |
| スナップショットを検索 | ライブ レポートから作成されたスナップショット レポートを検索します。 |
| 形式を選択して実行 | 以下のようにレポート出力を選択します。<br>• HTML は、繰り返し使用するレポートを除くすべてのライブ レポート タイプで使用できます。<br>• 新規ウィンドウの HTML オプションを使用すると、モデル、トランザクション、またはマトリクス レポートを新しいウィンドウで実行できます。<br>• Excel は、"Excel にダウンロード" 権限があれば、すべてのライブ レポート タイプで使用できます。<br>• PDF は、繰り返し使用するレポートを除くすべてのライブ レポート タイプで使用できます。<br>• テンプレート は、テンプレートが添付されているレポートでのみ使用できます。<br>• Zip オプションを選ぶと、レポート ブックのコンテンツが表示されます。 |
| 開く | 静的レポートやスナップショット レポートを開きます。サーバーに保存されているファイルを実行する必要はありません。 |
| 置換 | ファイルを置換または更新します。このオプションは、静的レポートでのみ使用できます。 |
| 削除 | 所有している任意のレポートを削除します。共有レポートを削除するには、"すべてのレポートの変更" 権限が必要です。 |
| プロパティ | 以下が可能です。<br>• レポート名および説明を変更する。<br>• レポートおよびその保存場所を検索する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| メニュー オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • レポートの作成者および最後に表示された日時を確認する。 |
| 共有権限 | 利用可能なユーザー グループ、ユーザー、または組織を選択して、共有レポートのレポート権限を表示および変更します。 |

relatedlinks
タスク
レポートの共有（164ページ）
レポート通知の送信（165ページ）

## 参考: レポートのツールバー ボタン

この参照資料では、マトリクス、モデル、トランザクションのレポート ビルダーで使用できるアイコンについて解説します。

| アイコン | 説明 | レポート タイプ |
| --- | --- | --- |
| 保存 | レポートを保存したことがある場合、レポートは直ちに保存されます。保存したことがないときは、"レポートを保存" ダイアログが開き、名前を付けて保存オプションを設定できます。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| 名前を付けて保存 | レポートの名前、出力、共有オプション、場所を変更することができます。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| HTML で実行 | HTML 形式でレポート データを表示します。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| 新しいウィンドウに HTML で実行 | 新しいページに HTML 形式でレポート データを表示します。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| Excel で実行 | レポート データを Excel で開いて表示できる .xlsx ファイルを生成します。このオプションを使用するには、"Excel にダウンロード" 権限が必要です。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| PDF で実行 | PDF 形式でレポート データを表示します。PDF ドキュメントをローカル マシンにダウンロードできます。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| 保存して実行 | 変更内容を保存し、事前に入力された出力設定に基づいてレポートを実行します。初めて保存する場合は、レポートを実行する前に "レポートを保存" ダイアログが表示されます。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| シートを表示 | 繰り返し使用するレポート用のページ下部に表示される "スプレッドシート" タブ軸の表示と非表示を切り替えます。 | マトリクス |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 説明 | レポート タイプ |
|---|---|---|
| フィルタ | レポートを特定のデータ サブセットに絞り込みます。 | モデル、トランザクション |
| レポートのプロパティ | 以下のようなレポートのプロパティを管理できます。<br>• レポート全体の表示プロパティ。<br>• ヘッダーと本文の行のスタイル プロパティ。<br>• レポートの値に基づく条件付き書式設定。<br>• 数値の形式設定。<br>• 印刷プロパティ。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| プロパティの編集 | 要素のプロパティを以下のように管理できます。<br>• 行または列のタイトル名を変更します。<br>• 要素の外観、たとえば、列幅、ヘッダーのスタイル、本文のスタイルなどを定義します。<br>• ゼロや負の数の表記方法など、数値の形式設定を定義します。<br>• 日付要素の表記方法を定義します (トランザクション レポートのみ)。<br>• 通貨のタイプを選択します (トランザクション レポートのみ)。このオプションは、通貨を指定した数値の合計行で使用できます。 | マトリクス、モデル、トランザクション |

relatedlinks
概念
概念: 数値の形式設定 ( 250ページ )
タスク
要素とレポートのプロパティの変更 ( 247ページ )
マトリクス レポートの条件付き書式設定 ( 218ページ )
参考
参考: レポートのコンテキスト メニュー オプション ( 171ページ )

## 参考: トランザクション レポートのツールバー

| アイコン | 説明 |
|---|---|
| 保存 | レポートが保存されます。アイコンのドロップダウンには、以下のオプションがあります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 説明 |
| --- | --- |
| | • 保存:そのレポートをすでに保存したことがある場合、レポートは直ちに保存されます。保存したことがないときは、"レポートを保存" ダイアログが開き、名前を付けて保存オプションを設定できます。<br>• 名前を付けて保存:レポートの名前、出力、共有オプション、保存場所を変更することができます。<br>• 保存して実行:変更内容を保存し、事前に入力された出力設定に基づいてレポートを実行します。初めて保存する場合は、"レポートを保存" ダイアログが表示されます。 |
| 実行 | 以下のいずれかの出力オプションを使用してレポートを実行します。<br>• HTML ページ。<br>• 新規 HTML ページ。<br>• Excel ファイル。<br>• PDF ドキュメント。 |
| フィルタ | フィルタを作成、変更、または削除できます。 |
| レポートのプロパティ | レポート全体の表示プロパティや印刷プロパティなど、レポートのプロパティを管理できます。 |
| プロパティの編集 | 選択したトランザクション要素のプロパティを管理できます。 |

relatedlinks
概念
概念: トランザクション レポート（161ページ）
概念: バージョン固有のトランザクション（1233ページ）
タスク
トランザクション レポートの作成（166ページ）

## 参考: 高度な変更履歴の検索のパラメータ

高度な変更履歴の検索には、バージョンに加えられた変更を検索するのに役立つ追加パラメータがあります。

データ ドロップダウン プロンプトと選択ボックスのタイプ

"データのタイプ" セクションのプロンプトを使用すると、その下の選択ボックスがフィルタリングされます。これを使用すると、検索を絞り込むことができます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 総勘定元帳科目 | 選択を総勘定元帳科目に絞り込みます。 |
| モデル科目 | 選択をモデル科目に絞り込みます。該当するモデル科目が属するモデル シート名別に並びます。期間の要素はここには表示されませんが、"期間" オプションを使用して特定の期間セルを示すことができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| キューブ科目 | 選択をキューブ科目に絞り込みます。該当するキューブ科目が属するキューブ シート名別に並びます。 |
| カスタム科目 | 選択をカスタム科目に絞り込みます。 |
| 前提条件 | 選択を、任意のシート上にあるすべての前提条件科目に絞り込みます。このタイプを選択すると、"組織" フィルタが非表示になります。前提条件は特定の組織に属さないためです。 |
| 共有数式 | 選択を総勘定元帳科目とカスタム科目に絞り込み、共有数式に加えられた変更を見つけられるようにします。 |
| 値ルックアップ テーブル | モデル シート列に加えられた変更を検索します。列は、関連付けられたモデル シート別に並べ替えられています。 |
| スプレッド ルックアップ テーブル | モデル シート列に加えられた変更を検索します。列は、関連付けられたモデル シート別に並べ替えられています。 |
| 通貨の為替レート | 選択を為替レートに絞り込み、"為替レート" シートに加えられた変更を見つけられるようにします。 |
| 連結比率 | 連結 限定。"連結比率" シートに加えられた変更を見つけます。 |

その他のパラメータ

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 期間 | 期間内の特定の期間に加えられた変更を返します。例: 2022 年 1 月という期間内に科目に加えられた変更。"期間" は、定義された範囲内の特定の時点で加えられた変更を返す "変更日時" とは異なります。たとえば、チーム メンバーが 2021 年 9 月に 2022 年 1 月の "期間" セルを変更したとします。<br><br>ラベルは、カレンダーの期間と、選択ボックスから選択した科目、列、またはシートに関連付けられている期間に基づいて変更されます。 |
| 変更のソース | (任意) 選択済のユーザーが行った変更を返します。 |

## 参考: レポートのプロパティ

この参照資料では、マトリクス、モデル、トランザクションのレポート ビルダーで使用できるレポートのプロパティについて解説します。

| レポートのプロパティ | 説明 | レポート タイプ |
| --- | --- | --- |
| タイトル | レポートのタイトルを生成されたレポートの上部に表示しま | マトリクス、モデル、トランザクション、パターン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| レポートのプロパティ | 説明 | レポート タイプ |
| --- | --- | --- |
| | す。レポートのタイトルを適用してもレポート名には影響しません。 | |
| デフォルト出力 | レポートを表示するためのデフォルト フォーマットを選択できます。 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| 下部に合計行を表示 | レポートの下部に合計を表示します。 このオプションをオフにした場合、合計は合計組織で表示されます。<br><br>科目をレポートの行または列に個別にドラッグすると、合計を完全に削除できます。例: "負債" と "純資産" をドラッグするのではなく、"負債" と "純資産" を別々の科目としてドラッグします。<br><br>または、値を表示せずにカスタム ヘッダーを追加することもできます。 | マトリクス |
| 属性列のヘッダーを表示 | レポートの行に適用する属性または要素のヘッダーを表示します。<br><br>例: 科目、組織 | マトリクス |
| Excel で行ラベルを繰り返す | レポートを Excel で実行したときに、属性および属性特性の要素をタブのヘッダーとして表示します。 | マトリクス |
| レポートの情報を表示 | ビューアーのツールバーに "情報を表示" アイコンを表示します。このアイコンを選択すると、レポート タイプに基づいて以下のレポートの詳細が表示されます。<br><br>• バージョン<br>• モデル<br>• ソート順<br>• 組織<br>• 通貨 | マトリクス、モデル、トランザクション |
| 科目コードを表示 | 科目要素を、コードのプレフィックスとともにレポートに表示します。<br><br>例: [70130] 貯蓄科目 | マトリクス |
| 縦線を表示 | 列を区切る縦線をレポート ビューアーに表示します。 | マトリクス、モデル、トランザクション |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| レポートのプロパティ | 説明 | レポート タイプ |
|---|---|---|
| ロゴを表示 | 会社のロゴをレポートに表示します。 | マトリクス |
| 注記 | レポート列、フットノート、またはインラインでのライン メモの表示と非表示を切り替えます。 | マトリクス |
| セル メモを表示 | シートに追加されたセル メモをレポートに表示します。 | マトリクス、モデル |
| すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない | データがない列、またはすべてゼロの列をレポートで非表示にします。 | マトリクス |
| すべてゼロまたは空白の場合は列を表示しない | データがない列、またはすべてゼロの列をレポートで非表示にします。 | マトリクス |
| 空白列を表示しない | データがない列、またはすべてゼロの列をレポートで非表示にします。 | トランザクション |
| 科目ごとに分割額を表示 | 合計の科目に対して、分割またはサブ行を表示します。分割が含まれている科目を展開すると、分割が表示されます。 | マトリクス |
| ロールアップしない | レポート ビルダーで、展開された要素の合計を非表示にし、HTML レポートでも展開および折り畳みのコントロールを非表示にします。<br>以下をオフにして無効にします。<br>• 下部に合計行を表示<br>• 行の展開を許可 | マトリクス |
| ヘッダーを固定 | ヘッダーを固定して、レポートをスクロールした場合でも、所定の位置に表示されるようにします。アイコンのロックは、ヘッダーを固定した場合は閉じた状態、固定解除した場合は開いた状態で表示されます。 | マトリクス |
| 行と列のヘッダーを固定 (HTML のみ) | 行と列のヘッダーを固定して、レポートを水平方向または垂直方向にスクロールした場合でも、所定の位置に表示されるようにします。HTML レポートの場合にのみヘッダーを固定できます。 | モデル、トランザクション |
| ドリルダウンを許可 | ユーザーが "セル エクスプローラー" または "ドリルイン" を使 | マトリクス |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| レポートのプロパティ | 説明 | レポート タイプ |
| --- | --- | --- |
| | 用してレポート内の数値をドリルダウンできるようにします。 | |
| 行の展開を許可 | 要素の展開および折り畳みのコントロールをレポートの行に表示します。<br>ユーザーが要素の展開を許可しないようにするには、" 行の展開を許可" オプションをオフにします。 | マトリクス |
| レポートの実行を最適化 | ユーザーが特定のレポートのロード時間を短縮することを非アクティブにできるようにします。デフォルトでは、このオプションがインスタンスに対して有効になっています。これをレポート レベルで無効にして、以前のレポートの動作を維持することができます。 | マトリクス |
| 合計行数を表示 | 合計行数をレポートの下部に表示します。 | モデル、トランザクション |
| 行番号を表示 | 行番号をレポートの行の横に表示します。 | モデル、トランザクション |
| 列幅 | レポート ビューアーの列幅をピクセル単位で定義できます。<br>レポートの列幅は、レポート プロパティの "列の幅" 設定またはその列の特定の要素プロパティに基づきます。要素のプロパティ設定は、レポート レベルの設定をオーバーライドできます。また、レポート ビューアーの内容が切り捨てられたり折り返したりしないようにするためのロジックが、レポート レベルと要素レベルの両方の設定をオーバーライドすることもできます。 | マトリクス |
| ヘッダー | フォント サイズやフォントの色など、レポートのヘッダーの形式設定を定義できます。 | マトリクス |
| データ | フォント サイズやフォントの色など、レポート データの形式設定を定義できます。デフォルトでは、データの形式設定はヘッダーと一致します。 | マトリクス |
| データ ルール | レポートの値に基づいて形式設定のルールを指定できます。ルールは任意の行、列、または | マトリクス |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| レポートのプロパティ | 説明 | レポート タイプ |
|---|---|---|
| | スプレッドシート タブの要素に適用できます。 | |
| ゼロの表示 | 空白、空のセル、ダッシュ (-) の使用など、レポートでゼロを表示する方法を定義できます。 | マトリクス |
| 小数部桁数 | 小数部を含む数値を表示する場合に使用する小数部桁数を定義できます。 | マトリクス |
| 千の位の区切り (,) | 数値を表示するときに千の位の区切りを使用するかどうかを定義できます。 | マトリクス |
| 表示単位 | 数値を表示するときに使用する表示単位を定義できます。例: 数値を千単位で (1,000 で割って) 表示するには、"千単位で表示する" を選択します。 | マトリクス |
| プレビュー | 指定した小数部桁数、千の位の区切り、表示単位を使用して、数値の形式のプレビューを表示します。 | マトリクス |
| 負の数の形式設定 | レポートで負の数値を表示するための形式を定義できます。 | マトリクス |
| ドリルダウンの選択肢 | モデルから属性および特性を選択し、ドリル オプションを定義できます。レポート ユーザーは、これらのオプションを使用してレポートの詳細をドリルダウンできます。 | マトリクス |

relatedlinks
概念
概念: 数値の形式設定 ( 250ページ )
タスク
マトリクス レポートの条件付き書式設定 ( 218ページ )
要素とレポートのプロパティの変更 ( 247ページ )
トランザクション レポートの作成 ( 166ページ )

## Adaptive Planning マトリクス レポート

マトリクス レポートの概念
概念: マトリクス レポート

マトリクス レポート ルール

マトリクス レポートには、データ要素を配置できる行と列が含まれています。マトリクス レポートを作成する際は、以下のガイドラインに従ってください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- すべてのレポートには、以下の要素が必要となる。
    - 科目および科目特性
    - 時間
    - バージョン
    - 組織
- 行と列にはそれぞれ少なくとも 1 つの要素が必要となる。
- 以下のデフォルトを適用またはオーバーライドできる。
    - アクセス可能な最高組織
    - 作業中のバージョン、またはアプリケーションで選択した最後のバージョン
    - 作業中のバージョンの期間
- 同様の要素は同じ軸を共有する必要がある。列に要素を配置すると、同じ要素を行に配置することもフィルタで使用することもできなくなります。例: 流動資産を列に配置した場合、固定資産を行に配置することもフィルタとして使用することもできなくなります。このルールは行にも適用されます。
- レポートのフィルタ セクションに要素を追加すると、その要素をパラメータでは使用できるが、行、列、シート タブでは使用できなくなる。
- 要素をパラメータとして使用するには、まずレポート上の行、列、フィルタに要素を追加する。

混合時間設定

レポートの時間要素階層を管理するときは、科目の時間設定を考慮します。以下のように、科目要素の粒度に対応する時間要素を適用します。

- 時間要素を科目の時間設定に合わせます。例: レポートに月単位の科目しかない場合、"時間" 要素階層に含めるデータを月単位のみにするか、それを超える単位にするかを設定できます。
- 時間要素を科目の最も大きな時間設定に合わせます。例: 週単位の科目と月単位の科目が混在する場合、"時間" 要素階層を月単位のみで展開します。レポートには、月間の週単位の科目の合計値が表示されます。時間階層に週を含める場合、月単位の科目には週単位のセグメントが空白で表示されます。
- 異なる時間設定の科目をフィルタとして使用するときは、データがどのように表示されるのかに留意します。例: フィルタに複数の科目 (週単位と月単位が混在) が含まれている場合。"時間" 要素を、より短い時間に展開します。そのとき、レポートには次のデータが表示されます。
    - 週のセグメントには、週単位のすべての科目の合計が表示されます。
    - 月のセグメントには、週単位と月単位のすべての科目の合計が表示されます。

relatedlinks
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）
レポート パラメータの複数選択を有効にする（205ページ）
参考
参考: 前提条件科目の設定（948ページ）

概念: レポートにおける要素の階層

ほとんどの要素は階層の複数層を使用します。下位要素を持つ要素は親と呼ばれ、下位要素は子と呼ばれます。デフォルトでは、レポート ユーザーは行の要素を展開したり折り畳んだりできます。デフォルトの動作を変更するには、レポート プロパティの "行の展開を許可 " チェックボックスをオフにします。レポートのユーザーは、列の要素の展開と折りたたみはできません。

レポートに要素を追加すると、階層アイコンは状態に応じて以下のようになります。

- グレー: 要素は折り畳まれています。下位要素の合計値のみがレポートに表示されます。
- 太字: 要素は展開されています。要素および下位要素の値が表示されます。

レポート ビューアーでの要素階層の表示方法を選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 常に展開: 親とそのすべての子を表示します。
- 常に折り畳む: 親のみを表示します。
- カスタム: レポートに適用したときに要素の展開状態を表示します (展開済み、折り畳み済み、または部分的に展開済み)。デフォルト設定は "カスタム"。

  注 : このオプションは、500 以上の階層組織を含む要素では使用できません。

展開状態は、レポートに要素を追加する前、または追加した後に変更できます。

relatedlinks
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成 ( 197ページ )

概念: マトリクス レポート ビューアー

HTML モードでレポートを実行すると、レポート ビューアーに結果が表示されます。レポート ビューアーでは、以下が可能です。

- データを閲覧する。
- レポートや行アイテムにメモを追加する。
- レポートを Excel または PDF でダウンロードする。Excel の場合、"Excel にダウンロード" 権限が必要です。
- 属性をドリルダウンして、その他の詳細を確認する。
- パラメータ値を変更して、異なるデータを確認する。
- レポート内の値をクリックして、セル エクスプローラーを起動する。

レポート ビューアー ツールバー

レポート ビューアー ツールバーには、以下のオプションがあります。

- ドリルされていないレポートに戻る: レポートをドリル前の状態に戻します。
- 保存: レポートを保存できます。このオプションは、レポート ビルダーで変更を加えたものの、レポートの実行前に保存を行っていなかった場合に便利です。
- 名前を付けて保存: レポートを別の名前で保存できます。
- スナップショットを作成: 特定の時点におけるレポートのスナップショットを保存できます。
- 編集: レポート ビルダーに戻り、現在のレポートがロードされます。
- 共有: 組織内の特定のユーザー、ユーザー グループ、または組織と、レポートを共有できます。
- 通知の送信: レポートを共有したり、メッセージを記載した E メール通知を送信したりできます。このオプションを表示するには、"通知の送信" 権限が必要です。
- リフレッシュ: ページから移動せずに、レポート データをリフレッシュし、最新の変更を反映させることができます。
- Excel 形式でダウンロード: "レポートのダウンロード" ページが表示され、レポートを Excel™ ファイルとしてダウンロードできます。このオプションを使用するには、"Excel にダウンロード" 権限が必要です。
- PDF 形式でダウンロード: "レポートのダウンロード" ページが表示され、印刷可能な PDF 形式でレポートをダウンロードできます。
- 検索: 現在表示しているレポート データ内の科目名、属性、値、メモの内容を検索できます。
- ヘッダーを固定: ヘッダーを固定 (固定解除) できます。固定ヘッダーは、レポートをスクロールした場合でも、所定の位置に表示されます。アイコンのロックは、ヘッダーを固定した場合は閉じた状態、固定解除した場合は開いた状態で表示されます。
- 情報を表示: 適用されているバージョン、組織、通貨など、特定のレポート詳細や仕様の表示/非表示を切り替えることができます。
- メモ: レポート全体またはレポート行にメモを追加できます。

ダイアログ表示パラメータを含むレポートをダウンロードする場合、ダウンロード オプションから "ダイアログ表示パラメータを選択" ページへと移動します。このページからパラメータ オプションを選択し、レポートを実行できます。レポートを実行すると、同時にレポートがダウンロードされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### レポートの空白とゼロ

マトリクス レポートでは、以下の理由により空白が表示されることがあります。

- ゼロを空白として表示するように、レポートまたは要素のプロパティを設定している。
- 科目の時間設定が列の時間設定より粗いため、データのクロスセクションが存在しない。例: 列が週単位のデータを表示している場合、科目のデータは月単位のものであることがあります。科目には週単位のデータが存在しないため、空白で表示されます。

マトリクス レポートでは、以下の理由によりゼロが表示されることがあります。

- 対応するシートのセルに入力された値がゼロである。
- 対応するシートのセルに誰も値を入力していない。

### レポートのドリルダウン

レポートで子要素を表示するには、親合計要素の横にある矢印をクリックします。

子要素のない行は、リンクとして表示されます。このリンクをクリックして、"ドリルイン" メニューから属性を選択します。属性には、レポートにまだ含まれていない科目、組織、カスタム属性、または時間が含まれます。レポート ビルダーでは、属性と特性を指定してドリル オプションを制限できます。ドリルダウン オプションのいずれか (組織など) を選択すると、新しいページが開き、選択した科目における基本的な組織の詳細が表示されます。

完了したら、ツールバーの "ドリルされていないレポートに戻る" をクリックします。

### セルの探索

マトリクス レポートの探索が有効になっている場合、レポートの数字をクリックして、別の "セルを探索" ウィンドウを起動できます。セルの探索は、総勘定元帳科目、カスタム科目、モデル科目、メトリック科目、前提条件、キューブ科目で利用できます。レポート計算では利用できません。

複数のレポート パラメータ オプションが選択されている場合、レポートで "セルを探索" を使用することはできません。 "セルを探索" を使用するには、レポート パラメータの "複数選択を許可"オプションをオフにします。このオプションは、フィルタに接続されているパラメータでのみ使用できます。 参照 レポート パラメータの複数選択を有効にする（205ページ）

レポートを探索できるようにするには、以下の手順に従います。

1. ビューアーのツールバーから "編集" を選択し、レポート ビルダーを開きます。
2. ビルダーのツールバーから "レポートのプロパティ" を選択します。
3. "レポートのプロパティ" の "表示" タブから、"ドリルダウンを許可" を選択します。
4. "適用" をクリックします。
5. レポートを保存します。

### レポート メモ

レポートにメモを追加して、マトリクス レポート内の説明、コメント、質問を共同で行います。これらは、レポートに表示される特定の値とデータを説明するために追加するコメントです。メモは、レポート全体または特定の行アイテムを参照できます。スレッド コメントとして、または最終的な分散の説明としてメモを追加できます。レポートのメモはレポートの本文内に表示およびエクスポートできますが、脚注として表示およびエクスポートすることもできます。

relatedlinks
概念
概念: Web レポート（156ページ）
概念: レポートのクイック ツアー（159ページ）
概念: "セルを探索" および "行の詳細"（96ページ）
概念: ドリルダウンとドリルスルー（100ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

タスク
レポートの共有（164ページ）
レポートのスナップショットの作成（163ページ）
レポート通知の送信（165ページ）
レポートのドリル オプションの指定（217ページ）
参考
参考: レポートのツールバー ボタン（173ページ）

概念: マトリクス レポートの計算

マトリクス レポートに計算を追加する場合は、以下のガイドラインを使用します。

- 同じデータ タイプの要素のみを参照します。

  例: 科目の計算では、科目要素のみが参照されます。
- カスタム計算要素を層にドラッグする前に層を作成します。

  例: バージョンを計算するには、最初にバージョン層を作成します。次に、カスタム計算要素を層にドラッグします。
- 行、列、シート タブ、フィルタなど、レポートの任意の分野で計算を使用します。
- レポート内の他の動的要素を参照します。これらの要素は計算と同じデータ タイプである必要があります。
- レポートに記載されていないその他の絶対要素を参照します。これらの要素は計算と同じデータ タイプである必要があります。
- パラメータに接続する要素を通じてレポート パラメータを参照します。
- 同じデータ タイプの他の計算を参照します。

  例: 時間の計算では、定時に別の差異計算を参照できます。計算はバージョン、組織、または製品で別の差異計算を参照できません。

レポートに追加されていない要素の差異の計算

レポートに追加されない要素の差異を計算できます。

例: レポートに、FY 2018 と FY 2019 の純利益、およびこの 2 つの期間の差異が表示されているとします。別の "差異" 要素を追加して、前の期間の FY 2016 と FY 2017 の差異を計算します。前の期間をレポートに追加する必要はありません。"差異" 計算要素のプロパティの "差異オプション" から選択するだけです。

別の例は役員向けの月次財務差異レポートです。レポートには以下のデータが表示されます。

- 当期実績
- 前期実績に対する差額
- 予算に対する実績の差額

レポートに前の期間と予算が表示されていなくても、差異の計算には含まれています。

relatedlinks
概念
概念: カスタム計算の数式構文とルール（192ページ）
概念: マトリクス レポート ビルダー（189ページ）
タスク
マトリクス レポートへの差異の追加（200ページ）
マトリクス レポートへのパラメータの追加（201ページ）
参考
参考: 計算要素のプロパティ（219ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

概念: マトリクス レポートのパラメータ

パラメータを使用すると、レポート ビューアーでレポートの対象を絞り込むことができます。例: 組織のパラメータに、オプションとして "エンジニアリング" および "営業" が含まれています。 レポートを表示するユーザーは、パラメータのドロップダウン メニューからいずれかのオプションを選択できます。その後、レポートを再実行すると、選択した組織のデータが表示されます。

パラメータは、マトリクス レポートでのみ使用できます。

収益

レポートにパラメータを追加すると、次のことが可能になります。

- レポートの表示範囲を超えるデータが制限されることで、パフォーマンスが向上。
- 管理者は、異なるユーザーに対するレポートの反復を少なくすることが可能。

パラメータは、グラフを表示するレポートとも連携します。

パラメータの追加

パラメータを追加するには、その要素がレポートの行、列、またはフィルタにすでに含まれている必要があります。要素を行、列、またはフィルタから "パラメータ" 領域にドラッグします。

以下の要素をパラメータとして使用できます。

- 科目
- 時間
- 組織
- バージョン
- 通貨
- カスタム属性

初期の選択

パラメータの初期の選択を設定できます。初期の選択とは、ユーザーがレポートを初めて実行するときのパラメータのデフォルト値の選択です。

パラメータの初期の選択を設定する場合は、列、行、またはフィルタの関連要素を更新します。例: FY 2019 を列として追加し、時間をパラメータにすることができます。パラメータのプロパティで、初期の選択として FY 2020 を設定します。この設定を適用すると、初めて実行するレポートの列の時間要素が FY 2019 から FY 2020 に変わります。

レポート ビューアー

レポートにパラメータが含まれている場合、すべてのパラメータはオプション付きのフィールドとしてレポート ビューアーに表示されます。次の操作ができます。

- ツールバーのキャレット (矢印アイコン) をクリックして、パラメータ リストを折り畳む。カルーセルを使用して、引き続きパラメータ リストを閲覧できます。
- "すべてのパラメータを展開" をクリックして、レポートにすべてのパラメータを表示する。
- パラメータの展開状態をレポートと一緒に保存する。この展開状態は、レポートを実行した場合も保持されます。
- パラメータ オプションを選択してレポートを再実行し、レポート内の特定のデータに焦点を当てる。
- レポートを実行する前に、パラメータを以前の値にリセットする。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

複数選択パラメータ

ユーザーがフィルタからレポート パラメータを作成すると、"複数選択を許可する" オプションがデフォルトで自動選択されます。 このオプションにより、レポート ビューアーが独自の合計を作成し、データを分析できます。

例: 組織は予算レポートの複数選択パラメータです。レポート ユーザーは、選択したすべての組織の運用経費のサマリを表示できます。

複数選択パラメータはフィルタに接続されています。フィルタを削除すると、関連するパラメータも削除されます。

ダイアログ表示パラメータが複数選択されている場合、"ダイアログ表示パラメータ" ページにはすべてのパラメータ オプションが表示されます。ユーザーはレポートを実行する前にパラメータ プロンプトから複数のオプションを選択できます。

ユーザーが、複数選択を許可する組織パラメータを使ってレポートのスナップショットを作成した場合、"すべての組織を含める" オプションは無効になります。 スナップショット レポートには、ビューアーで選択された組織のみが含まれます。

relatedlinks
タスク
レポート パラメータの複数選択を有効にする（205ページ）
マトリクス レポートへのパラメータの追加（201ページ）
ダイアログ表示パラメータの追加（203ページ）
参考
参考: レポート パラメータの設定（220ページ）
例
例: パラメータを使用したアドホック差異の表示（231ページ）

概念: マトリクス レポートのフィルタおよびパラメータ

フィルタとパラメータは、どちらもレポートに表示されるデータを制限します。その仕組みには違いがあります。

フィルタ

フィルタの追加:

- レポート全体に適用し、フィルタに特有のデータを表示します。例: "エンジニアリング" と "USD" の要素でフィルタリングし、その組織と通貨のデータのみを表示します。
- レポートを実行するために使用するデータを制限することでパフォーマンスを高めます。

同じ要素をフィルタに多数追加すると、レポートはフィルタの合計値を返します。例: フィルタに "費用" と "資産" を追加します。レポート内のデータが "費用" と "資産" の合計を返します。

相対科目の合計は、以下のとおり異なる方法で計算されます。

- フィルタに相対科目のみが含まれている場合、合計は正の整数としての相対科目の合計になります。
- フィルタに相対科目と通常科目の両方が含まれている場合、合計はすべての通常科目の合計からすべての相対科目の合計を差し引いた値になります。

パラメータ

パラメータの追加:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 特定の要素は、レポートの行や列にすでに適用されています。これらの要素により、レポート全体ではなく、関連する要素にのみ表示できるデータを変更できます。レポートに以下の列があるとします。
    - 実績のオーバーレイ
    - 実行予算
    - 差異

      予算バージョンをパラメータ化し、"Working Budget" を初期選択に設定できます。その他のバージョンを、パラメータの選択肢として選択します。実行予算の列に影響を与えるのは、この選択肢だけです。異なる予算バージョンでユーザーがレポートを再実行しても、"実績" の列に変更はありません。

例: レポート フィルタの追加

フィルタを追加するには、要素を "要素" ペインから "フィルタ" 領域にドラッグします。レポートでこれらの要素がまだ使用されていないことを確認してください。

キャッシュ フロー明細レポートは、デフォルトでは Total Company (合計) レベルのデータを表示します。この例では、レポートへのフィルタとして組織を適用します。レポートを返すと、会社 A 組織のデータだけを表示します。

| | Jan 2020 | Feb 2020 | Mar 2020 | Apr 2020 | May 2020 | Jun 2020 | Jul 2020 | Aug 2020 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Beginning | 107,767,... | 101,567,... | 104,709,... | 107,635,... | 110,155,... | 113,324,... | 116,758,... | 120,521,... |
| Net Income | 3,133,633 | 3,117,311 | 3,140,967 | 3,315,371 | 3,350,255 | 3,433,622 | 3,448,027 | 3,524,233 |
| ▼ Total Ad | **-10,869,...** | **-88,984** | **-328,099** | **-908,270** | **-313,377** | **-131,568** | **162,618** | **-1,302,5...** |
| ▼ Opera | **-10,972,...** | **-128,183** | **-385,925** | **-948,022** | **-290,729** | **-188,037** | **144,394** | **-546,186** |
| (In | -10,221,1... | -382,028 | -98,664 | -401,579 | -352,987 | -155,884 | -477,828 | -95,963 |
| (In | -166,031 | -10,315 | -2,664 | -10,843 | -9,531 | -4,209 | -12,901 | -2,591 |
| (In | -818,164 | 548,640 | 71,816 | -126,621 | -2,904 | 143,888 | 33,143 | -120,204 |
| (In | 15,492 | -90,990 | 7,583 | 7,583 | 7,583 | 7,583 | -80,767 | 25,252 |
| Inc | -113,877 | 7,751 | -426 | -6,321 | -1,222 | 1,898 | -3,400 | -4,818 |
| Inc | 830,706 | -201,241 | -363,571 | -410,241 | 68,333 | -181,313 | 686,146 | -347,862 |
| Inc | -500,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ▼ Inves | **51,777** | **36,184** | **54,794** | **36,701** | **-26,229** | **52,863** | **55,363** | **55,363** |
| (In | 51,777 | 36,184 | 54,794 | 36,701 | -26,229 | 52,863 | 55,363 | 55,363 |
| ▶ Finan | **2,500** | **3,015** | **3,033** | **3,051** | **3,581** | **3,606** | **3,632** | **3,657** |
| Adjus | 49,607 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | -40,770 | -815,393 |
| Net Cash F | -7,735,463 | 3,028,327 | 2,812,869 | 2,407,101 | 3,036,878 | 3,302,053 | 3,610,645 | 2,221,673 |
| Ending Cas | 101,567,... | 104,709,... | 107,635,... | 110,155,... | 113,324,... | 116,758,... | 120,521,... | 122,862,... |

以下のステップを実行します。

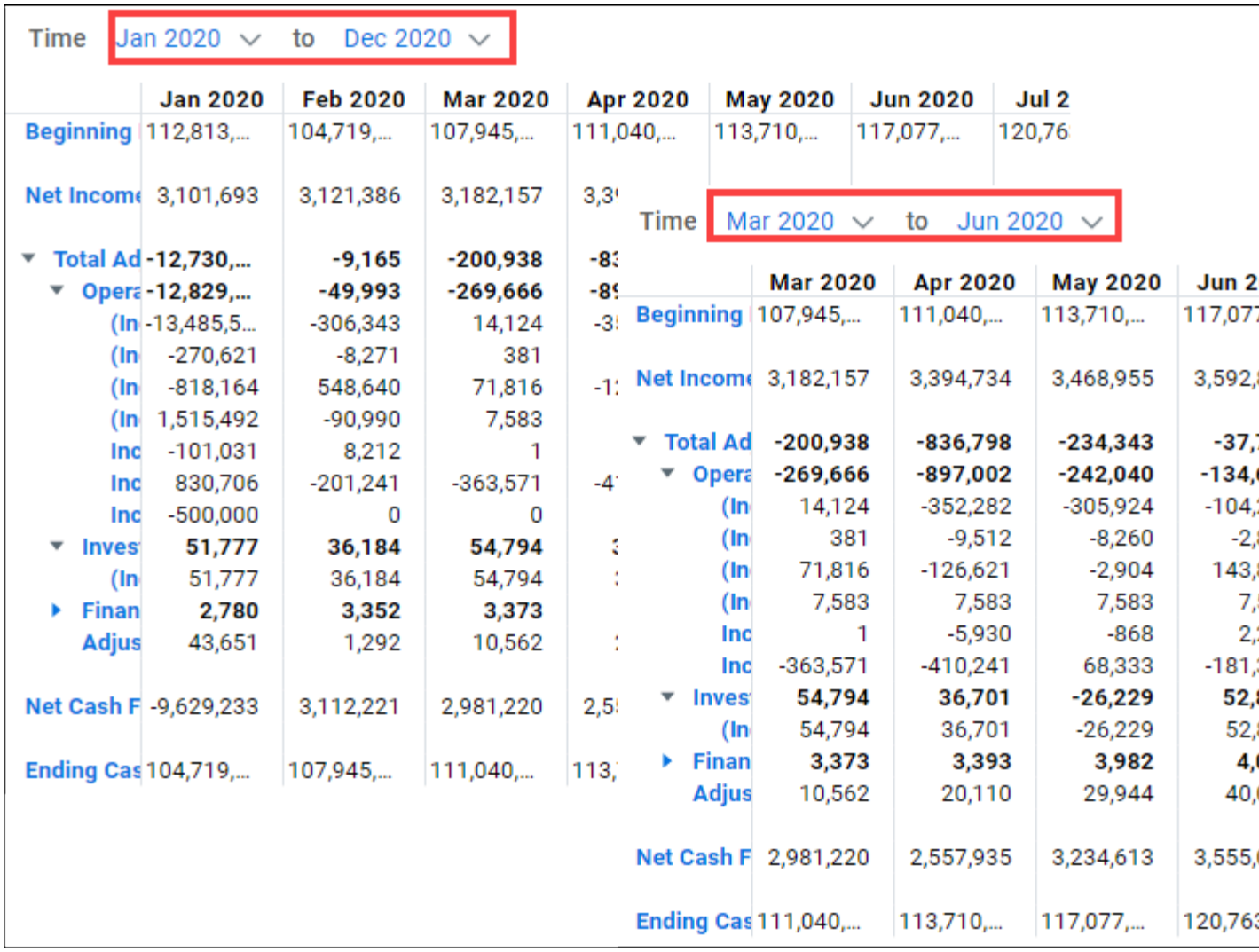
1. "編集" をクリックします。
2. "要素" ペインで、"組織" と Total Company を展開表示します。
3. 会社 A をフィルタにドラッグします。この組織は、レポート全体のフィルタとして追加されます。
4. レポートを実行します。
5. フィルタを確認するには、ツールバーの情報を表示アイコンをクリックします。レポートに適用されているフィルタやその他のデフォルト値を表示できます。なお、レポートでは会社 A 組織のみの月次データを表示しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例: レポート パラメータの追加

パラメータを追加するには、レポートの行、列、フィルタにすでにある要素をパラメータのエリアにドラッグします。

キャッシュ フロー明細レポートは、レポート内のバージョンの全期間のデータを表示します。この例では、時間をパラメータ化します。レポートを実行すると、"初期の範囲" パラメータの設定に基づいて、2020 年 1 月から 2020 年 12 月までのデータが表示されます。次に、レポートの期間内で任意の時間範囲を選択して再実行します。選択した範囲のデータのみがレポートに表示されます。




以下のステップを実行します。

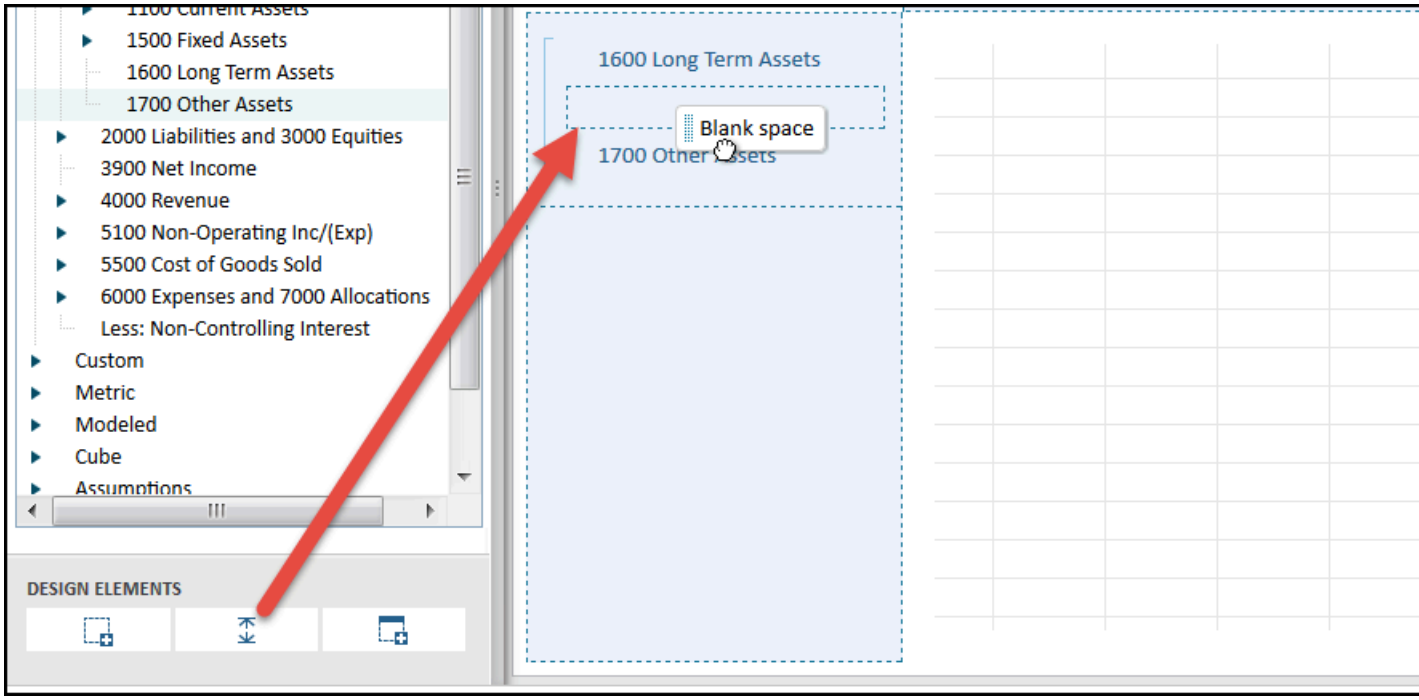
1. "編集" をクリックします。
2. レポートの列から、期間要素を "パラメータ" にドラッグします。これで、時間がパラメータになりました。
3. "時間" パラメータを右クリックし、"プロパティ" を選択します。
4. 選択肢で、表示する初期データ範囲として 2020 年 1 月から 2020 年 12 月までを選択します。
5. "適用" をクリックして、レポートを実行します。レポートでは初期時間範囲の月次データが表示されます。
6. "時間" パラメータのドロップダウンから、レポート期間内の異なる範囲を選択します。例: 2020 年 3 月から 2020 年 6 月までを選択して再実行します。レポートでは新しい時間範囲の月次データが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

概念: マトリクス レポート ビルダー

マトリクス レポート ビルダーには、レポートのセグメント、スペーサー、カスタム ヘッダーを作成できる設計要素が含まれています。設計要素は左ペインの下部にあります。

レポートで設計要素を使用するには、その設計要素を設計領域の行または列にドラッグします。




レポート層

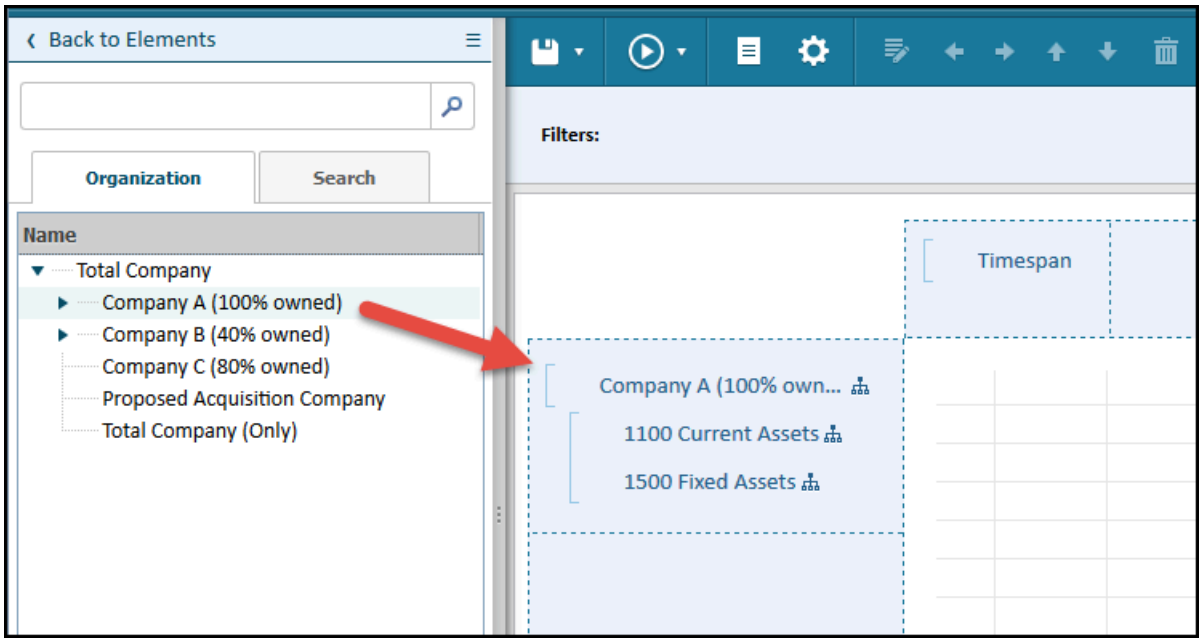
要素をレポートの行と列の他の要素内にネストして層を作成できます。 各層は、すべての科目を持つ層、すべての組織を持つ層、すべてのバージョンを持つ層など、1 種類のみの要素を含めることができます。

例: レポートで時間要素を入れ子になったバージョン層で使用すると、レポートには次のように表示されます。

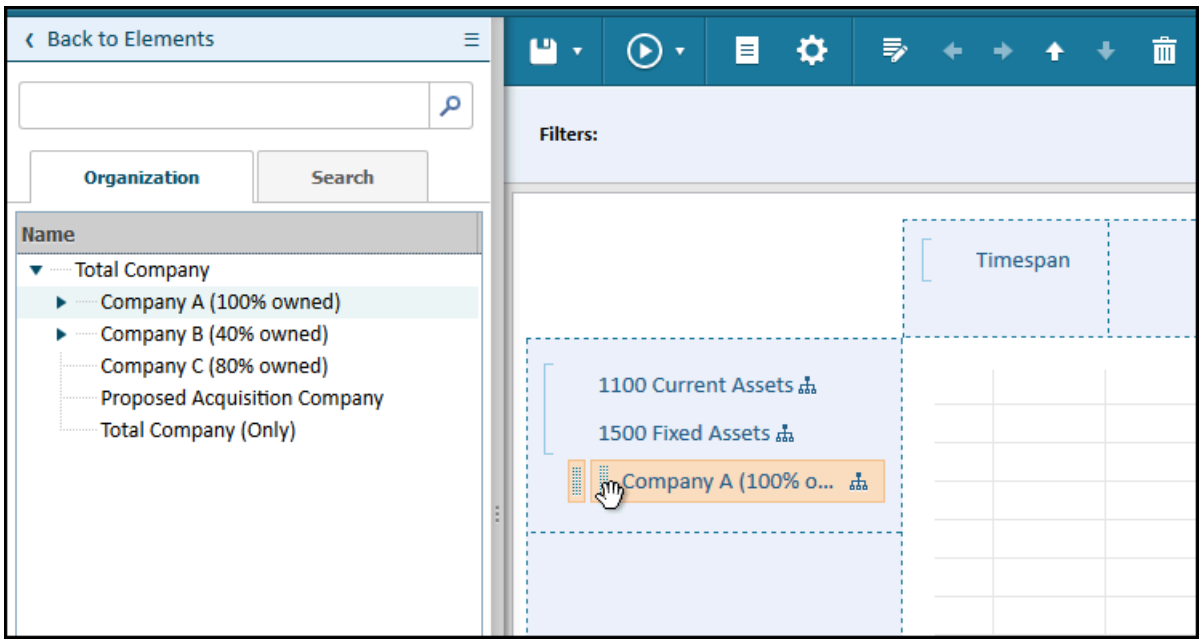
- 時間の列ヘッダー
- 時間列の下のバージョンのサブ列

要素をその他の要素の上にドラッグすると、外側の層を作成することができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




要素をその他の要素の下にドラッグすると、内側の層を作成できます。




### 要素の検索

マトリクス レポート ビルダーを使用して、モデル内の既存のすべての要素を検索できます。検索は次の場合に役立ちます。

- 類似した名前を持つすべての要素のリストを表示します。 "科目コードの表示" レポート プロパティを選択すると、コードのプレフィックスとともに科目要素をレポートに表示できます。
- 科目の名前は知っているが、その科目のタイプと場所はわかりません。
- 数式で参照されている要素を検索するが、その場所がわからない。

検索結果は要素名とその要素の位置を返します。この情報を使用して、科目がモデル シートやキューブ シートに直接存在するか、GL、カスタム、メトリック、または前提条件科目の階層に存在するかを判断できます。

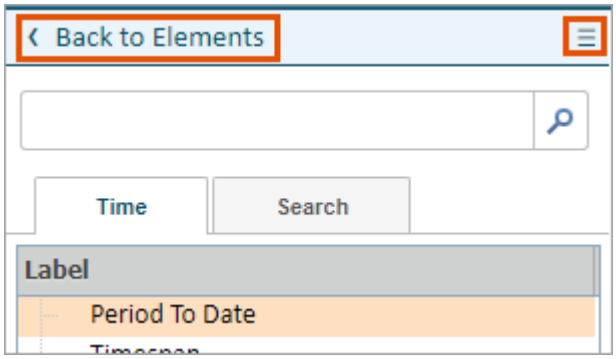
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
タスク
マトリクス レポートへのパラメータの追加 ( 201ページ )
参考
参考: レポート パラメータの設定 ( 220ページ )
例
例: パラメータを使用したアドホック差異の表示 ( 231ページ )

概念: レポート要素

レポート要素には、科目、組織、時間、バージョンなどがあります。これらの要素は "要素" パネルに個別のリストとして保存されます。レポートに追加できるアイテムを表示するには、要素リストを展開します。

要素のメインリストに戻るには "要素に戻る" またはリストのドロップダウンをクリックします。




キーワードを入力して要素を検索し、検索結果から直接ドラッグします。

| 要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 科目 | あらゆるタイプの科目がすべて含まれます。各マトリクス レポートには最低でも 1 つの科目が必要です。 |
| 時間 | 現在のモデルと以下の特殊な時間要素のすべての期間を含みます。<br>• 累計: 時間層と選択した累計を素早く指定するために使用されます。デフォルトではルート層が選択されています。<br>• 期間: 期間の範囲を素早く指定するために使用されます。<br>• バージョン。デフォルトでは、レポートでカバーされる期間は、レポート内のすべてのバージョンでカバーされる期間に基づきます。<br>• From/to: 構造の 2 つ最下位の期間範囲を選択するために使用されます。<br>• 含む: 通常は時間層 (月、四半期、年など) を選択して値を集約するために使用されます。カスタム カレンダーまたは代替カレンダーを使用している場合は、選択内容に応じてすべての時間層が表示されます。<br>レポートで期間を指定しない場合は、デフォルトでレポート バージョンの期間内の月がすべて含まれます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素 | 説明 |
| --- | --- |
| 組織 | 表示可能な組織すべてが含まれます。レポートで組織を指定しない場合は、デフォルトでレポートの実行者が表示できる組織すべてが使用されます。 |
| バージョン | 表示可能なバージョンが実績を含めすべて表示されます。バージョンを指定しない場合は、デフォルトでレポート実行者が現在作業しているバージョンが使用されます。 |
| 通貨 | インスタンスで構成されているすべての通貨を表示します。通貨が指定されていない場合は、次のルールに従ってデフォルトの通貨が使用されます。<br>• レポート データに含まれている組織がすべて同じ通貨を使用している場合は、組織の通貨がデフォルトになります。<br>• レポートに異なる通貨を使用する組織が含まれている場合は、社用通貨がデフォルトになります。 |
| 表示形式 | 次の形式で数字を表示できるようにします。<br>• 値: 通常の値として数字を表示します。<br>• 科目のパーセント: 科目ツリーで選択した科目のパーセントとして表示します。<br>• カスタム: 現在の交差部分で評価する表現を作成するためにフォーミュラ アシスタントにアクセスできるようにします。このフォーミュラ アシスタントはレポートの要素に制限されていません。カスタム要素は "表示形式" の "科目のパーセント" 要素として同一階層に配置できます。異なる行で異なる数式を使用し、値を生成する IF 表現を単一列に書くことができます。 |
| 科目特性 | 現在のインスタンスのすべての科目特性が含まれます。 |
| 組織の特性 | 現在のインスタンスのすべての組織特性が含まれます。 |
| 属性特性 | 現在のインスタンスのすべての属性特性が含まれます。 |
| 属性 | 現在のインスタンスのすべての属性が含まれます。 |
| 計算 | 他の属性要素の数字の小計を作成するための数学的な計算が含まれます。<br>• 他の要素の小計<br>• 2 つの他の要素の数字の差異<br>• 属性の要素にカスタム計算を作成するための方法<br>計算オプションはすべてレポート層内に適用され、1 件のレポート内で層をまたぐことはありません。詳細については「レポートの計算」を参照してください。 |
| 再使用可能レポート | レポート作成ブロック: ユーザーがアクセスできるレポートで再使用可能レポートと指定された全レポートが含まれます。 |

概念: カスタム計算の数式構文とルール

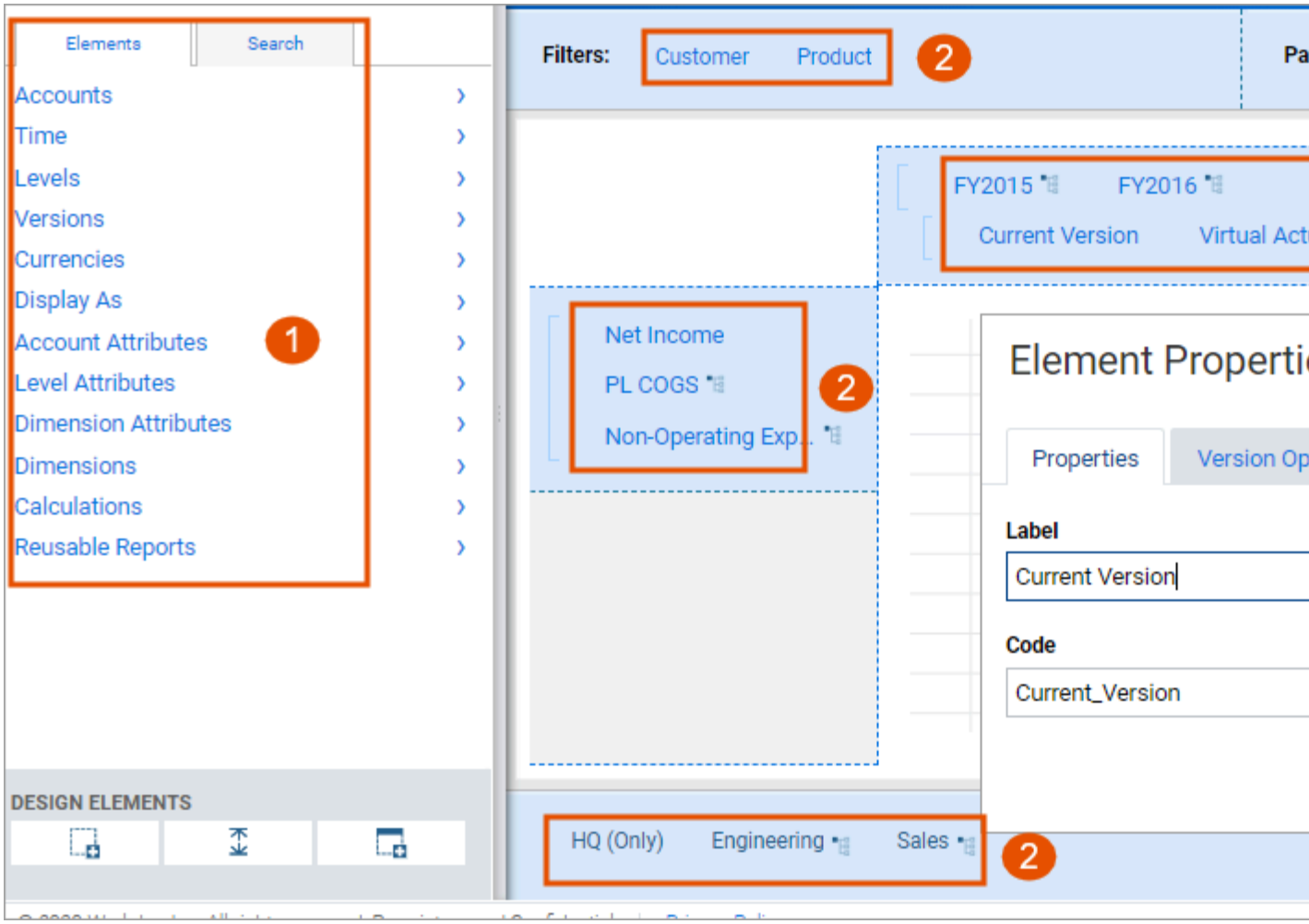
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

計算のルール

既存の層に計算を追加して、その層で計算します。例: カスタム計算を組織層に追加して組織を計算します。

注 : レポートでカスタム計算の数式を使用した後に、組織、属性、特性の表示名の形式を変更する場合は、数式を見直して正しく表示されるようにしてください。

計算数式では、レポート内の以下の要素を参照できます。




| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 1 | レポート プロパティまたはユーザーセッションに依存しない "要素" ペインの要素。これらの要素は、レポートの行、列、フィルタ、またはシートタブには含まれていません。<br><br>例: 科目で計算する場合、"要素" > "科目" の下に表示される科目と同じ科目を数式で使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 2 | 行、列、フィルタ、シート タブなどのキャンバス内の要素。これらの要素は、一部のレポート プロパティまたはユーザー セッションに依存しています。計算は、要素コードを使用してキャンバス内の要素を参照します。<br><br>例:現在のバージョンは、"バージョン" 属性の特定の値を参照しないキャンバス上の要素です。レポートの実行時に現在のユーザーが使用しているどのようなバージョンにも対応するように変更されます。 |

数式構文例

すべての標準数式演算子と関数は、レポート数式構文に加えて、レポートのみの数式構文でも使用できます。参照 参考: 数式関数 ( 1171ページ ) および 参考: 計算用の演算子と関数

"要素" タブ

これを使用して角かっこでこれらの要素を囲みます [*account code* ] または [*element name*]。 次の例を参照してください。

- 科目例: 売上総利益を計算するには、次のようにします。 [PL_Income]-[PL_COGS]。
- カスタム属性例: 米国、日本、カナダの属性を合計するには、次のようにします。 [US]+[Japan]+[Canada]。
- 組織の属性。プラスの値を使用 (+) およびマイナス (-) 親要素をロールアップするかっこで囲まれている。例:
  - [Operations(+)] 操作の合計を指します。
  - [Operations(-)] 「操作のみ」組織を指します
- Rollup().この関数を使用して、モデリングで科目に設定されている合計や平均など合計モードに基づいてデータを集計します。例: マーケティング、エンジニアリング、および営業組織のデータをロールアップするには、以下を使用します。 Rollup([Marketing], [Engineering], [Sales])。

  合計に別の値のサブセットである値が含まれる場合、関数は親の値を使用し、サブセットを無視します。

  合計に相対科目のみが含まれている場合、デフォルトの計算では科目の合計が正の整数として返されます。

  合計に相対科目と通常の科目が混在している場合、デフォルトの計算では、通常の科目の合計から相対科目の合計を差し引いた値が返されます。

  この Rollup() 関数は、レポートのカスタム計算要素でのみ使用できます。

レポート ビルダー

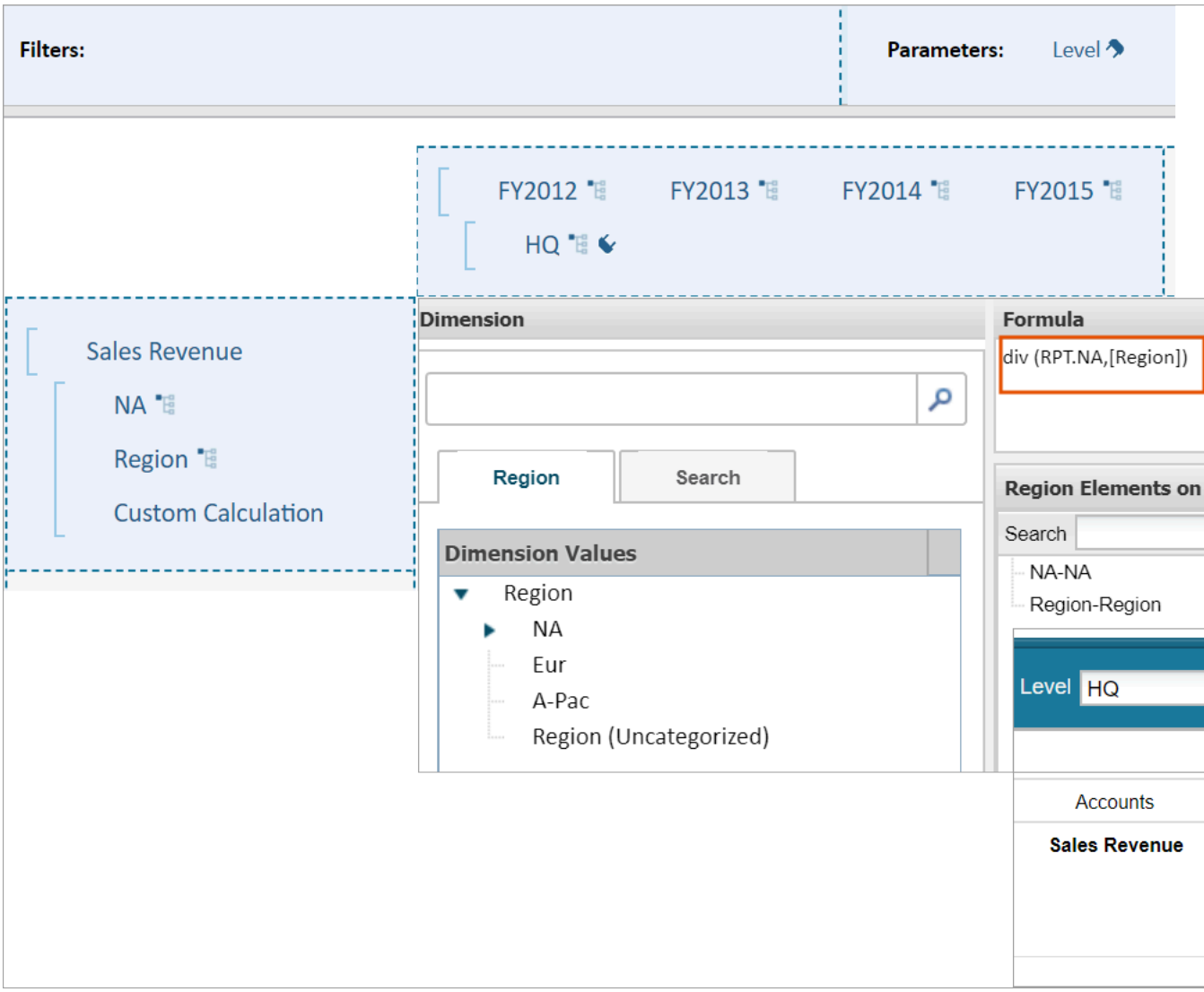
用途 RPT 構文: コードを使用してレポート ビルダー内の要素を参照します。

例:

- レポートで最初の月を参照するには、次を使用します。 RPT.FirstMonth
- 次を使用して、地域の共有の合計を計算します。 DIV(RPT.SelectRegion, [Region(+)])*100. Select.Region は、北部営業などの特定の組織のコードです。 Region(+) 操作などの特定の組織の親組織を表します。例: 北米 (NA) 地域が占める売上高総額の比率を表示する場合、このレポートを作成するには、レポート行に売上高科目および NA とその親エリアを追加します。カスタム計算をエリア層にドラッグします。列上で、時間と組織 (HQ) を追加します。カスタム計

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

算に数式を追加して、地域合計の売上高のうち、NA が占める比率を計算します。




要素はレポート パラメータ

要素がレポートパラメータである場合、パラメータ値は計算で反映されます。

例: レポートの列には時間 (1 月、2 月、3 月) が表示されます。時間はパラメータです。"小計" 列には、月の値が追加されます。パラメータを変更して 2 月、3 月、4 月を表示する場合、"小計" 列にこれらの 3 か月の値が追加されます。このレポートに表示されている 3 つの期間を合計するには以下を使用します。

`RPT.FirstMonth + RPT.SecondMonth + RPT.ThirdMonth.`

以下に注意する必要があります。 `FirstMonth`, `SecondMonth`、および `ThirdMonth` は時間要素のコードです。

概念: マトリクス レポート メモ

メモを使用して、レポート内のデータに関して共同で作業します。例: メモを使用して差異や異常を説明できます。レポートへの編集アクセス権がなくても、レポートにメモを追加できます。

レポート メモを使用すると、以下を行うことができます。

- レポート全体にレポート メモを追加する。例: レポートのサマリを追加。
- レポートの行にライン メモを追加する。
- ロック済バージョンのレポートにメモを追加して、そのレポートで他のユーザーと共同で作業する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

メモを追加すると、アクセス可能なレポートにユーザー名、日付、組織が追加されます。

### メモが表示される場所

レポート メモは、レポートの下部にあるパネルに表示されます。

インライン メモは、下部にあるパネル、列、または行に表示されます。"メモ" ボタンのドロップダウン メニューを使用すると、任意のユーザーがインライン メモの表示方法を変更できます。

### 組織が含まれていないレポートのメモ

組織には、ライン メモとレポート メモの両方が存在します。レポートの列にも行にも組織がない場合は、アクセス可能な最上位組織にメモが追加されます。

### 組織が含まれているレポートのメモ

レポート メモの場合: 組織が列または行にある場合、メモはレポートに表示されるすべての組織に追加されます。

ライン メモの場合: レポートのパラメータ、列、または行に組織がある場合、ライン メモは組織が表示される場所に基づいて表示されます。

### メモを含むレポートのエクスポート

レポートを Excel または PDF にエクスポートすると、アクセス可能なすべてのメモもレポート データとともにエクスポートされます。選択したエクスポート形式により、エクスポートされたファイルでのメモの表示方法が異なります。

- Excel 形式でダウンロード: レポート メモは "レポート メモ" ラベルの横にある新しい Excel 行に表示されます。ライン メモは、表示設定に応じて "メモ" 列内、または "フットノート" の下に表示されます。

  注 : Excel にダウンロードするには、"Excel にダウンロード" 権限が必要です。
- PDF 形式でダウンロード: レポート メモは "レポート メモ" ラベルの下に表示されます。ライン メモは "フットノート" の下に表示されます。

relatedlinks
タスク
レポート メモの追加 ( 211ページ )
レポートへのライン メモの追加 ( 212ページ )

## 概念: 再使用可能レポート

再使用可能レポートを使用すると、保存済のマトリクス レポートのレポート要素を再利用することができます。再使用可能レポートの要素の形式設定を新しいレポートで再利用できるため、時間を節約するとともに一貫性を促進できます。

この再使用可能な要素は以下の場所に追加できます。

- 列軸
- 行軸
- シート タブ軸

"レポートの概要" ページでは、次の操作を実行できます。

- レポートの詳細メニューを使用して、保存済のレポートを再使用可能レポートとして追加する。再使用可能レポートは、"お気に入り" フォルダ以外のフォルダでのみ追加できます。
- 再使用可能レポートのみが表示されるようにレポートをフィルタする。

マトリクス レポート ビルダーでは、次の操作を実行できます。

- "再使用可能レポート" 要素から再使用可能レポートにアクセスする。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- "再使用可能レポート" 要素の要素をレポート ビルダー領域に追加する。

例:

- 部門の経費レポートおよび人員レポートがすでに作成されています。人員の変更に伴う、経費の変動が表示された新しいレポートを作成するとします。これらの 2 つのレポートにおけるレポート要素を組み合わせて、新しいレポートを作成できます。
- バージョンと時間に対して同じ構成のレポートが複数あることがわかります。新しいレポートの一部として、再使用可能レポートのバージョン要素と時間要素を使用できます。

基本的なマトリクス レポートの作成

始める前に

- 使用可能な Web レポートタイプ、データ アクセス、優先順位ルールに関する知識。
- セキュリティ:
  - "レポートへのアクセス" 権限
  - "個人レポートの作成" 権限
  - "共有レポートの作成" 権限

このタスクについて

行と列を定義することで、マトリクス レポートを作成できます。有効なマトリクス レポートには、少なくとも以下が含まれている必要があります。

- 1 つの科目または科目特性要素
- 1 つの行と列

例: 損益計算書は、行に資産と負債、列に期間が含まれている一般的なマトリクス レポートです。行、列、フィルタ、パラメータ領域などに要素をドラッグすることで、複雑なマトリクス レポートを作成できます。

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "新しく追加" > "マトリクス"をクリックします。
3. "要素" ペインから以下を行います。
   - 科目または科目特性の要素を行または列に追加
   - 科目以外の要素を行または列に追加
   - (任意) フィルタとして使用する 1 つまたは複数の要素を "フィルタ" セクションに追加
   - (任意) パラメータとして使用する 1 つまたは複数の要素を "パラメータ" セクションに追加。レポート パラメータを使用すると、ビューアーでレポートを調整できます。レポート内にあるいずれかの既存の要素を使用してパラメータを作成できます。例: ビューアーでレポート上の組織を変更できるようにするには、パラメータに "組織" を追加します。
4. (任意) レポートに適用されているデフォルトのバージョン、組織、通貨などの情報を表示するには、以下の手順を実行します。
   a. ツールバーで "レポートのプロパティ" をクリックします。
   b. "表示" タブで、"レポートの情報を表示" チェックボックスをオンにして "適用" をクリックします。

      このレポート情報を非表示にするには、レポートを表示しているときに、ツールバーで "情報を非表示にする" をクリックします。
5. "レポートを実行" をクリックして、レポート ビューアーにデータを表示します。
6. レポートを保存します。"レポートの共有" フォルダの場所を選択するときに、"保存して共有" を選択して共有の詳細を指定できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
概念
概念: Web レポート（156ページ）
概念: マトリクス レポート（180ページ）
概念: マトリクス レポートのフィルタおよびパラメータ（186ページ）
概念: 再使用可能レポート（196ページ）
タスク
レポートの共有（164ページ）
マトリクス レポートへのパラメータの追加（201ページ）
レポートからのテンプレートの作成（158ページ）
例
例: 運用経費レポートの作成（233ページ）

## レポートのバージョンのオフセット

### 始める前に

- バージョン要素を持つ既存のレポート
- セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

### このタスクについて

バージョンを要素として使用するときは、レポートの時間要素に従ってデータをオフセットするように選択できます。使用可能なオプションは、インスタンスのカレンダー設定によって異なります。

例: バージョン要素が "予算 2021 年" で、バージョンを 1 年前にオフセットすると、レポートには 2020 年からのデータが表示されます。また、バージョンを 1 年先にオフセットすると、レポートには 2022 年からのデータが表示されます。

### 手順

1. メイン メニューから "レポート" をクリックします。
2. バージョン要素を含むレポートを選択します。
3. ビューアーのツールバーから "編集" を選択し、レポート ビルダーを開きます。
4. オフセットするバージョン要素を右クリックし、"プロパティ" を選択します。
5. 以下を考慮して、"バージョンのオプション" に入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 層 | バージョンをオフセットする期間を選択します。 |
| オフセット | 層に基づいて、オフセットする量を入力します。 |

6. 時間要素を基準にして、バージョン データを前にシフトするか、後にシフトするかを選択します。
7. "適用" をクリックします。

### タスクの結果

ビューアーでレポートを実行すると、バージョンのオフセットがかっこ内に表示されます。

relatedlinks
概念
概念: Web レポート（156ページ）
概念: マトリクス レポート（180ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスク
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）

マトリクス レポートへの小計の追加

始める前に

- 数式を確認します。
- 保存済みのマトリクス レポート。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス"

このタスクについて

小計要素を使用して、先行する要素の数学的な合計を表示します。この値では、"モデル管理" の下で科目に設定した時間、組織、または属性の合計が考慮されません。

手順

1. "レポート" に移動します。"概要" ページが表示されます。
2. ビューアーでマトリクス レポートを開き、"編集" をクリックします。
3. "要素" タブで "計算" 要素を展開します。
4. "小計" 要素をドラッグして、合計する要素の後ろにドロップします。
5. "設計要素" 領域から "空白スペース" 要素をドラッグして、合計する要素の上に配置します。
6. 保存して、レポートを実行します。

タスクの結果

レポート ビューアーに、合計された要素の "小計" 行が表示されます。

例

あるマトリクス レポートの行に以下の総勘定元帳科目が含まれています。

- 経費および配賦
- 売上原価
- 純利益
- 営業外収益

純利益と営業外収益の科目のみを小計するには、"空白スペース" 設計要素を "売上原価" の後ろにドラッグします。次に、"小計" 計算要素を "営業外収益" 科目の後ろにドラッグします。

| 科目 | FY 2022 |
|---|---|
| 6000 経費および 7000 配賦 | 36,167,061 |
| 550 売上原価 | 31,512,221 |
| "空白スペース" 設計要素 | |
| 3900 純利益 | 26,588,079 |
| 5100 営業外収益 | -124,879 |
| 小計 | 26,463,199 |

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポートの計算（184ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

概念: Adaptive Planning の数式の使用（1132ページ）
概念: マトリクス レポート ビルダー（189ページ）
参考
参考: 計算要素のプロパティ（219ページ）

レポートにおける要素の階層の管理

始める前に

セキュリティ:

- "レポートへのアクセス" 権限
- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限

このタスクについて

レポート要素を追加すると、デフォルトではカスタムまたは元の展開状態で表示されます。デフォルトの展開状態を変更して、親要素を以下のいずれかの形式で表示できます。

- 展開し、要素の階層とともに表示する。
- 折り畳み、階層の合計のみを表示する。

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "新規追加" > "マトリクス" をクリックします。
3. "要素" タブから、レポートの行または列に要素を追加します。
4. レポート ビルダーで要素を右クリックし、"階層を管理" をクリックします。
5. 階層の表示方法を選択します。"適用" をクリックします。

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: レポートにおける要素の階層（181ページ）

マトリクス レポートへの差異の追加

始める前に

- 数式を確認します。
- 保存済みのマトリクス レポート。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス"

このタスクについて

"差異" 計算要素を使用して、1 つの層内の 2 つの要素間の差異を計算します。

例: 2 つのバージョン間、2 つの組織間、または 2 社の顧客間の差異を計算します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. "レポート" に移動します。"概要" ページが表示されます。
2. ビューアーでマトリクス レポートを開き、"編集" をクリックします。
3. "要素" タブで "計算" 要素を展開します。
4. "差異" 要素をドラッグして、差異を表示する要素の後ろにドロップします。
   例: "実績" と "予算 - 承認済" の差異を表示するには、"差異" 要素を、レポートの行または列でこれら 2 つのバージョンの後ろにドロップします。
5. 任意です。"差異" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択し、以下のプロパティを変更します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | "差異" 要素のラベルを表示します。<br>例: 差異 |
| 符号を反転 | 特定の総勘定元帳科目の結果で、プラスまたはマイナスのインジケータを反転します。 |
| 差異オプション | どの要素からどの要素を減算するかを指定します。 |

6. "適用" をクリックします。
7. 保存して、レポートを実行します。

タスクの結果

レポートに、データの差異計算を含む "差異" 列が表示されます。

例

あるマトリクス レポートには、行に総勘定元帳科目、列に以下のバージョンが含まれています。

- 2019 年の実行予算
- 2018 年から 2020 年までの予測

2019 年と 2020 年の 2 つの期間にまたがる 2 つのバージョン間の差異を表示するとします。"予測" バージョンに FY 2019 を表示するには、"差異オプション" から以下を選択します。

- "層" = "年"
- "オフセット" = "1" および "進む"

次のタスク
relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポートのパラメータ（185ページ）
概念: Adaptive Planning の数式の使用（1132ページ）
概念: マトリクス レポート ビルダー（189ページ）
参考
参考: 計算要素のプロパティ（219ページ）

マトリクス レポートへのパラメータの追加

始める前に

- マトリクス レポートを作成または編集します。
- パラメータとして使用する要素を、レポートの行、列、またはフィルタに追加します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:
  - "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

レポート ビューアーのパラメータにはフィールドがあります。ビューアーでは、このフィールドからさまざまなオプションを選択して、レポートの対象を絞り込むことができます。

レポートの実行前に、ビューアーに対してパラメータ オプションの選択を求めるダイアログ表示パラメータ ページを表示するようレポートを設定できます。

手順

1. "レポート" に移動します。
2. 新しいマトリクス レポートを開始するか、マトリクス レポートを実行して "編集" をクリックします。
3. レポートの列、行、またはフィルタから、要素を "パラメータ" エリアにドラッグします。
4. パラメータを右クリックし、"プロパティ" を選択します。
5. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ラベル | レポートを表示するときのパラメータ プロンプトの表示名です。 |
| 表示前にダイアログを表示する | このチェックボックスをオンにすると、レポートのユーザーにパラメータの選択を求めるダイアログが、レポートの実行後のオプションとしてではなく、レポートの実行前に表示されます。レポートのダイアログ表示パラメータには、任意の数のパラメータを指定できます。 |
| 複数選択を許可する | 対象となるレポート パラメータに複数の選択肢を表示し、ユーザーがパラメータ プロンプトから選択できるようにします。 |
| (限定) をクリア | 組織パラメータにのみ適用されます。<br>パラメータ プロンプトの選択肢から、(限定) 組織を削除します。 |
| (未分類) をクリア | カスタム属性パラメータにのみ適用されます。<br>パラメータ プロンプトの選択肢から、未分類の属性値をすべて削除します。 |
| 選択肢 | オプションは、新しい値を含むパラメータ プロンプトで選択可能な選択肢として、次のいずれかに関係なく自動的に選択されます。<br>• (限定) と (未分類) を除くすべての値が選択されています。<br>• (限定) と (未分類) を含むすべての値が選択されています。<br>注 : 選択肢として特定の値を選択した場合、新しい値は自動的には追加されません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 初期の選択 | 時間パラメータのドロップダウン メニューにのみ適用されます。<br>レポートの初回実行時におけるパラメータのデフォルトの選択肢です。 |
| 初期の選択として設定 | レポートの初回実行時におけるパラメータのデフォルトの選択肢です。初期の選択を設定するには、"選択肢" リストから、すでにチェックマークがオンになっている選択肢をハイライト表示します。その状態で、"初期の選択として設定" ボタンをクリックします。 |

6. "適用" をクリックして、レポートを実行します。

タスクの結果

"表示前にダイアログを表示する" オプションをオンにした場合、ユーザーはレポートを実行する前にまずパラメータを選択する必要があります。

オンにしていない場合は、レポートを実行してから、別の選択肢に変更してデータを絞り込むことができます。

例

次のタスク

パラメータを削除するには、キャンバスでパラメータを右クリックして "削除" を選択します。

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポートのパラメータ（185ページ）
タスク
ダイアログ表示パラメータの追加（203ページ）
レポート パラメータの複数選択を有効にする（205ページ）
参考
参考: レポート パラメータの設定（220ページ）
例
例: パラメータを使用したアドホック差異の表示（231ページ）

ダイアログ表示パラメータの追加

始める前に

- マトリクス レポートを作成または編集します。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- レポート パラメータを追加します。参照 マトリクス レポートへのパラメータの追加（201ページ）。
- セキュリティ:
  - "レポートへのアクセス" 権限
  - "個人レポートの作成" 権限
  - "共有レポートの作成" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

レポート パラメータの設定を指定する際に、以下を実行できます。

- "表示前にダイアログを表示する" オプションをオンにして、"ダイアログ表示パラメータを選択" ページが開くようにする。この場合、レポート ユーザーは、レポートを実行する前にパラメータ オプションを選択する必要があります。
- "表示前にダイアログを表示する" オプションをオフのままにして、ユーザーがパラメータ オプションを選択できるレポート ビューアーを直接表示する。

ダイアログ表示パラメータを含むマトリクス レポートを HTML 以外の形式にダウンロードすると、"ダイアログ表示パラメータを選択" ページが表示され、ユーザーは以下を実行できます。

- パラメータ オプションを選択する
- レポートの実行およびダウンロードを行う

手順

1. "レポート" に移動します。
2. 新しいマトリクス レポートを開始するか、既存のレポートを実行して "編集" をクリックします。
3. プロンプトを追加するパラメータを右クリックします。"プロパティ" を選択します。
4. "初期の選択" の下にある "表示前にダイアログを表示する" をオンにして、"適用" をクリックします。
5. 保存して、レポートを実行します。
   "ダイアログ表示パラメータを選択" ページにパラメータ プロンプトが表示されます。
6. パラメータ オプションを選択して "レポートを実行" をクリックすると、ビューアーでレポートが開きます。
7. (任意) "キャンセル" をクリックすると、開始したレポート ページに戻ります。例: レポート ビルダーやレポート概要
8. (任意) "すべてのパラメータを表示" をクリックすると、ダイアログに表示されないものを含むすべてのパラメータが表示されます。

   "すべてのパラメータを表示" リンクは、ダイアログに表示されるパラメータと表示されないパラメータの両方が混在している場合にのみ表示されます。例: レポート ブック
9. (任意) レポート ブックの場合は、キャレット (矢印アイコン) を使用してレポートの展開または折り畳み、パラメータ オプションの選択操作を行います。

タスクの結果

例

次のタスク

レポート ビューアーで "名前を付けて保存" を使用すると、"名前を付けて保存" ダイアログが表示され、レポートの新しい名前と場所を選択できます。すべてのパラメータのダイアログ表示を無効にするオプションが用意されています。このオプションを選択すると、既存のダイアログ表示パラメータがすべて、パラメータの入力が求められない設定となります。現在選択しているパラメータが、パラメータの初期選択値として保存されます。

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポートのパラメータ ( 185ページ )
概念: マトリクス レポート ( 180ページ )
タスク
マトリクス レポートへのパラメータの追加 ( 201ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

レポート パラメータの複数選択を有効にする

始める前に

- 以下の要素タイプのいずれかをフィルタとして持つマトリクス レポートが作成されました。
    - Account
    - 組織
    - 属性
    - 特性

  基本的なマトリクス レポートの作成を参照してください。
- フィルタに接続されているパラメータで、複数の値またはオプションを使用できることを確認してください。
- セキュリティ:
    - "個人レポートの作成" 権限
    - "共有レポートの作成" 権限
    - "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて
フィルタから作成した新しいパラメータについては、"複数選択を許可する" オプションが自動的に選択されます。 既存のレポートのフィルタから以前に作成したパラメータについては、パラメータ設定を複数選択に変更できます。複数選択にすると、以下が可能になります。

- 複数のオプションがあるパラメータ プロンプトを表示する。
- ユーザーが複数のパラメータ オプションを選択し、サマリ データを表示できるようにする。

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. 既存のマトリクス レポートを実行し、"編集" をクリックします。
3. パラメータを右クリックし、"プロパティ" を選択します。
4. "複数選択を許可する" オプションをオンにして、"適用" をクリックします。

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
タスク
概念: マトリクス レポートのパラメータ（185ページ）
参考
次のレベル: 2023R2 のすべての項目: Adaptive Planning、レポート、Prism Analytics
例
参考: レポート パラメータの設定（220ページ）

レポートのデータ表示形式のカスタマイズ

マトリクス レポート作成者は、"表示形式" の"カスタム" 要素を使用して、レポート内のデータをカスタマイズすることができます。

例:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 値を合計科目の合計の比率として表示できます。
- 値を別の分母の比率として表示できます。
- プラスからマイナスなど、差異の値の符号を反転できます。

この記事では "表示形式" の"カスタム" 要素を使用したさまざまな使用事例を説明しています。

前提条件

- 新しいマトリクス レポートまたは保存済のマトリクス レポートを使用します。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。

ナビゲーション

レポートの概要ページでレポートを開き、"編集"を選択します。

合計の比率での値の表示

ビデオを見る: (58 秒)

たとえば、現在の "組織別給与" レポートには、米国組織すべての第 1 四半期と第 2 四半期の給与およびその合計が表示されています。これを、米国の合計に対してもっとも割合が多い部門を提示するレポートにします。

| | Q1 2019 | | Q2 2 | |
|---|---|---|---|---|
| Levels | Value | Percent of Total | Value | Per |
| **United States (Rollup)** | | | | |
| Sales - North | 122,547 | 29 | 141,459 | |
| Sales - South | 85,550 | 20 | 88,486 | |
| Sales - East | 37,500 | 9 | 38,625 | |
| Sales - West | 31,250 | 7 | 32,188 | |
| Services - East | 85,157 | 20 | 145,552 | |
| Services - West | 67,938 | 16 | 69,976 | |
| **Total United States (Rollup)** | **429,941** | **100** | **516,285** | |

以下を実行します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. "表示形式" の "値" 要素を列にドラッグします。
2. "表示形式" の "カスタム" 要素を列にドラッグします。
3. "表示形式" の "カスタム" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。
4. "数式" フィールドに次の数式を入力します。 `(ACCT.this/ACCT.this[level=United States(+)])*100`。"OK" を選択してフォーミュラ アシスタントを閉じます。
5. "表示形式" の "カスタム" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。ラベルには「全体に占める割合」と入力します。"適用" を選択します。
6. 保存して、レポートを作成します。レポートには、新たに "全体に占める割合" 列が表示されています。この列を見ると、給与計算エリアから、北部地域の営業が米国で最も高い割合を占めていることが分かります。米国のすべての組織の給与は、引き続き新しい "値" 列の下に表示されています。

各行で別の分母を使用する表示形式

たとえば、現在のレポートでは、収益行アイテムとコスト行アイテムには共に "表示形式" の "パーセント" 要素が使用されており、収益の割合として表示されています。現在、このレポート全体では単一の分母 (収益) のみが使用されています。コスト行アイテムを費用の割合として表示し、収益行アイテムを収益の割合として表示する設定にします。

| | Q1 2019 | | Q2 2019 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Accounts | Value | Percent of Total | Value | Percent of Total | |
| ⊟ Revenue | | | | | |
| Product Revenue | 12,625,405 | 57 | 13,801,165 | 59 | 14 |
| Service Revenue | 8,986,912 | 41 | 9,215,280 | 39 | 10 |
| Maintenance Revenue | 349,655 | 2 | 359,034 | 2 | |
| Total Revenue | **21,961,973** | **100** | **23,375,480** | **100** | **24** |
| ⊟ Cost of Sales | | | | | |
| Product Cost | 7,514,121 | 58 | 7,749,378 | 58 | 7 |
| Service Cost | 5,299,030 | 41 | 5,494,410 | 41 | 5 |
| Maintenance Cost | 204,734 | 2 | 231,237 | 2 | |
| Total Cost of Sales | **13,017,885** | **100** | **13,475,025** | **100** | **13** |

以下を実行します。

1. "表示形式" の "科目のパーセント" 要素を削除します。たとえば、"As % of Revenue" を削除します。
2. "表示形式" の"カスタム" 要素を "表示形式 の "科目のパーセント" 要素が配置されていた位置にドラッグします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 総勘定元帳科目コードを使用して IF ステートメントを作成します。科目コードにより科目が区別されるため、IF ステートメントでは、それぞれの行に別々の分母を指定することができます。
    a. "モデリング" > "モデル管理" > "科目" > "総勘定元帳科目" に移動します。
    b. "カスタム科目" を検索します。"P&L 科目" では、収益科目のすべての科目コードに「Rev」が付いていることに注意してください。費用科目のコードには「Rev」は含まれていません。
    c. "レポート" に戻ります。
    d. "表示形式" の "カスタム" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。
    e. 数式フィールドに、列の科目コードに「rev」が含まれているかどうかを確認する IF ステートメントを入力します。「rev」が含まれている場合は、科目を "収益" を分母として除算して、100 で乗算します。含まれていない場合は、科目が "コスト" を分母として除算され、100 で乗算されます。`if(search(this.account.code,"rev")>0, (ACCT.this/ACCT.PL_Revenue)*100, (ACCT.this/ACCT.PL_COS)*100)`
4. "OK" を選択してフォーミュラ アシスタントを閉じます。
5. "表示形式" の "カスタム" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。ラベルには「全体に占める割合」と入力します。"適用" を選択します。
6. 保存して、レポートを実行します。レポートには、"収益" の比率として収益行アイテム、"売上原価" の比率としてコスト行アイテムが表示されます。

差異の表示形式の変更

たとえば、"従業員別メトリック" レポートには、従業員あたりの "収益" および "費用" と経時的な差異が表示されています。現在、差異は両方の科目でプラス (増) で表示されています。収益ではプラスの差異は好ましい一方、費用のプラスの差異は好ましくないため、それがマイナスであることを明確にする設定にします。

| | Q1 2019 | Q2 2019 | Variance |
|---|---|---|---|
| Accounts | Value | Value | Custom |
| Revenue per Employee | 201,117 | 212,119 | 11,002 |
| Cost per Employee | 81,315 | 82,767 | -1,452 |

注 : "差異" 要素で使用できる "符号を反転" オプションは、総勘定元帳科目のみに適用されます。このオプションは、売上原価や売上総利益率などのメトリック科目には使用できません。

以下を実行します。

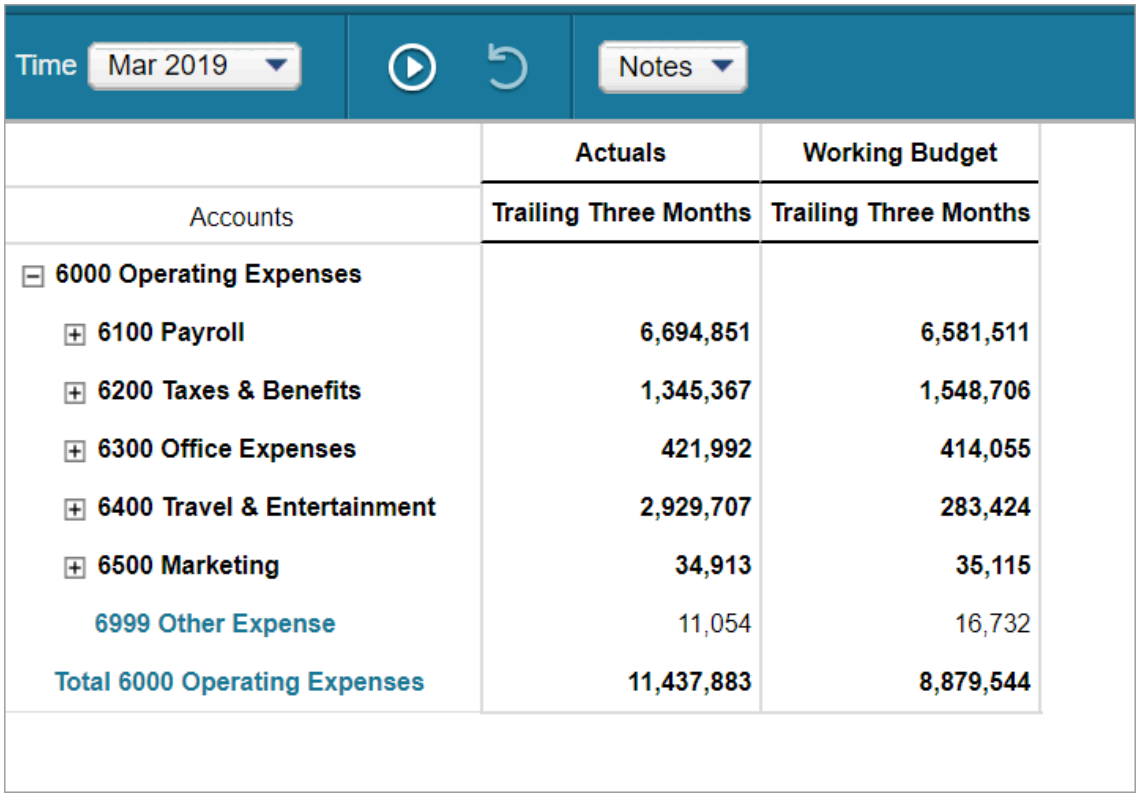
1. 新しい列セグメントを追加して、"差異" 要素 (差異) をこの新しいセグメントにドラッグします。
2. "表示形式" の"カスタム" 要素を新しいセグメント ("差異" 要素の下) にドラッグして、差異を別の方法で表示します。
3. "表示形式" の "値" 要素を最初のセグメントにドラッグして、値は引き続き四半期ごとの額を表示します。
4. メトリック科目特性を使用して IF ステートメントを作成します。
    a. "モデリング" > "モデル管理" > "科目" > "科目特性" に移動します。
    b. "はい" と "いいえ" の値を持つ新しい "ReverseSign" 科目特性を作成します。数式で使用する科目特性名にはスペースを使用できません。
    c. "科目" > "メトリック科目" に移動します。"従業員メトリック" と "従業員あたりのメトリック" を展開表示します。
    d. "従業員あたりの収益" 科目を選択して、"ReverseSign" 特性値 "いいえ" を割り当てます。
    e. "従業員あたりのコスト" 科目を選択して、"ReverseSign" 特性値 "はい" を割り当てます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

5. "レポート" に戻って、"表示形式" の"カスタム" 要素を右クリックし、"フォーミュラ アシスタント" を選択します。
6. "数式" フィールドに、科目の "ReverseSign" の特性値が "はい" であるかを確認する IF ステートメントを入力します。「はい」の場合は、その差異を次の値で乗算します。 `-1`。それ以外の場合は、そのまま科目の差異を示します。 `if(this.account.ReverseSign.name="yes", (ACCT.this*-1), ACCT.this)`
7. "フォーミュラ アシスタント" を閉じてレポートを作成します。

過去 **3** か月の値の表示

たとえば、現在の経費レポートには、特定の月 (たとえば 3 月など) の実績と予算額が表示されています。これを、過去 3 か月間 (1 月 ~ 3 月) の値を 1 つの列に集計した値を表示するレポートに変更します。




| | Actuals | Working Budget |
|---|---|---|
| Accounts | Trailing Three Months | Trailing Three Months |
| 6000 Operating Expenses | | |
| 6100 Payroll | 6,694,851 | 6,581,511 |
| 6200 Taxes & Benefits | 1,345,367 | 1,548,706 |
| 6300 Office Expenses | 421,992 | 414,055 |
| 6400 Travel & Entertainment | 2,929,707 | 283,424 |
| 6500 Marketing | 34,913 | 35,115 |
| 6999 Other Expense | 11,054 | 16,732 |
| Total 6000 Operating Expenses | 11,437,883 | 8,879,544 |

以下を実行します。

1. "表示形式" の "カスタム" 要素をバージョンの下の列 ("実績" と "実行予算") にドラッグします。
2. "表示形式" の "カスタム" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。
3. "数式" フィールドに次の数式を入力します。 `ACCT.this[time=this-2:this]`。
4. "OK" を選択してフォーミュラ アシスタントを閉じます。
5. "表示形式" の "カスタム" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。ラベルには「過去 3 か月」と入力して、"適用" を選択します。
6. 保存して、レポートを作成します。これで、バージョン列に 1 月から 3 月をロールアップした値が表示されます。このレポートでは時間がパラメータ化されているため、"時間" ドロップダウンで別の月を選択することができます。たとえば、4 月を選択すると、2 月から 4 月の合計がこの列に表示されます。

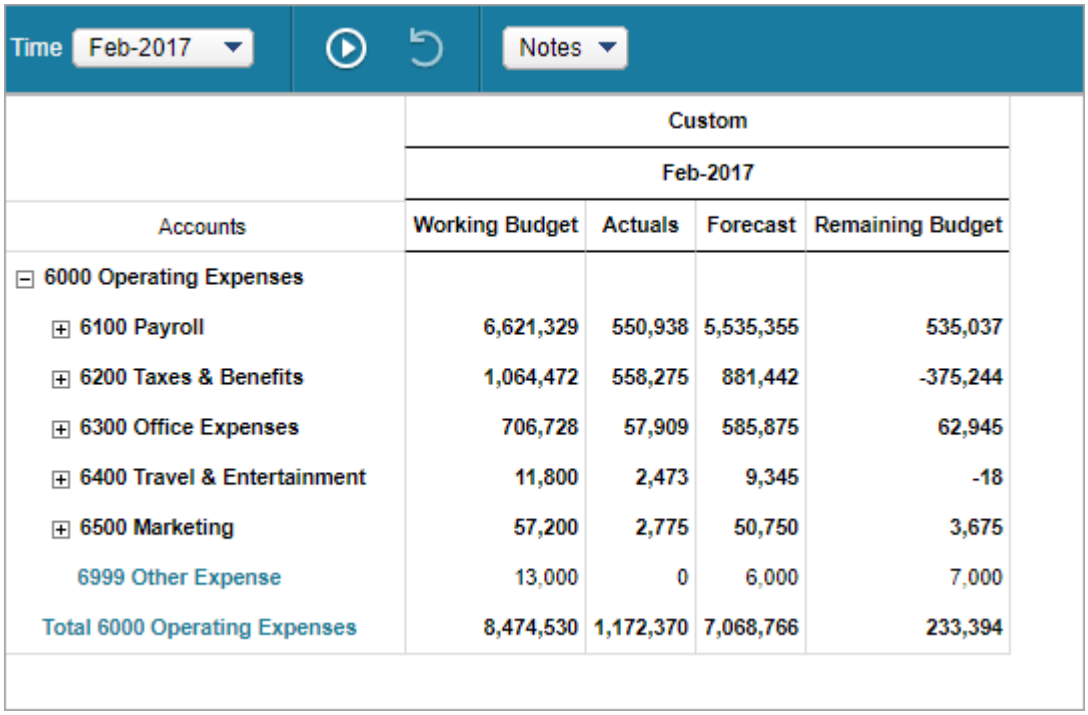
異なるバージョンに対するさまざまな期間表示

たとえば、営業費用に関する以下のデータを表示するマトリクス レポートを作成するとします。

- 通年の実行予算

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 年初から現在までの実績 (今年度期首から現在まで)
- 年内の残りの期間の予測 (今月から期末までのすべての月)
- 予算残高 (3 つのバージョンの差異)




| Accounts | Custom<br>Feb-2017<br>Working Budget | Actuals | Forecast | Remaining Budget |
|---|---|---|---|---|
| ⊟ 6000 Operating Expenses | | | | |
| ⊞ 6100 Payroll | 6,621,329 | 550,938 | 5,535,355 | 535,037 |
| ⊞ 6200 Taxes & Benefits | 1,064,472 | 558,275 | 881,442 | -375,244 |
| ⊞ 6300 Office Expenses | 706,728 | 57,909 | 585,875 | 62,945 |
| ⊞ 6400 Travel & Entertainment | 11,800 | 2,473 | 9,345 | -18 |
| ⊞ 6500 Marketing | 57,200 | 2,775 | 50,750 | 3,675 |
| 6999 Other Expense | 13,000 | 0 | 6,000 | 7,000 |
| Total 6000 Operating Expenses | 8,474,530 | 1,172,370 | 7,068,766 | 233,394 |

以下を実行します。

レポートの作成

1. 行に "営業費用" をドラッグします。
2. この列に "時間" 要素をドラッグします (たとえば、「2017 年 2 月」など)。時間要素をパラメータ化します。
3. 時間要素の下の列に、バージョンの "実行予算"、"実績"、"予測" を ドラッグします。
4. バージョンの後の列に、カスタム計算要素をドラッグします。
5. カスタム計算要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。
6. "数式" フィールドに次の数式を入力します。 `RPT.Working_Budget-RPT.Actuals-RPT.Forecast`。
7. カスタム計算要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。ラベルを「予算残高」に変更します。
8. 保存して、レポートを実行します。

レポートの変更

1. "カスタムとして表示" 要素を "バージョン" と "時間" の上の列にドラッグします。
2. "表示形式" の "カスタム" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。

```
if (search(this.version.name, "working budget")>0, ACCT.this[time=2017],
# this will show the whole year for any version whose name contains budget

if (this.version.name = "actuals", ACCT.this[time=01/2017:this],
# But YTD (start of year to this) for the actuals version

 if (month(this) = 12,0, ACCT.this[time=this+1:12/2017] ))
 # other versions (e.g. Commitments) sum all months after this to the end of the year
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "数式" フィールドに以下の IF ステートメントを入力します。番号記号 (#) を使用して、それぞれの命令文を説明するテキストを追加します。
4. "OK" を選択してフォーミュラ アシスタントを閉じます。
5. 保存して、レポートを作成します。

レポート メモ
レポート メモの追加

始める前に

- マトリクス レポート。
- レポートを保存します。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

レポート メモはレポート全体を参照し、組織に添付されます。他のユーザーは、メモが添付された組織へのアクセス権がある場合に、このメモをレビューできます。

- レポートに組織が 1 つも表示されていない場合、メモはアクセス可能な最上位の組織に添付されます。同じ組織またはそれより上位の組織へのアクセス権があるユーザーのみがこのメモをレビューできます。
- 組織が列または行に表示されている場合、メモは列または行に表示されているすべての組織に添付されます。表示されているいずれかの組織へのアクセス権があるユーザーがこのメモをレビューできます。
- パラメータに組織が表示されている場合、メモはプロンプトから選択している組織に添付されます。選択されている組織へのアクセス権があるユーザーは、パラメータのプロンプトからその組織を選択した場合も、このメモを表示できます。

レポートにメモを追加して、他のユーザーと共同で作業することができます。例: 会計基準と法的要件に基づいて、財務諸表にコメントや通知を追加します。レポート メモ:

- レポートがコピーされた場合、スナップショットが作成された場合、またはレポートが移動された場合に、注釈付きレポートに従う。
- レポート固有のものです。1 つの注釈付きレポートで作成したメモは、別のレポートには表示されません。
- 作成または編集すると自動的に保存されます。

手順

1. "レポート" に移動して、マトリクス レポートを実行します。
2. ツールバーの "メモ" ボタンをクリックし、"レポート メモを追加" を選択します。
   "レポート メモを追加" が無効になっている場合は、先にレポートを保存する必要があります。
3. メモを入力して "OK" をクリックします。
   関連付けられるメモを保存するために、レポートを保存する必要はありません。

タスクの結果

メモが下部のパネルに表示され、作成したユーザーの名前、日付、時間、および組織も表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例

1. "本社" は "営業" および "G&A" の親組織です。レポートの列、行、フィルタ、パラメータには組織が 1 つも含まれていません。

   "本社" へのアクセス権があるユーザーの場合は、以下のようになります。

   - 作成したメモは "本社" に添付されます。
   - 他のユーザーは、"本社" またはそれより上位の組織へのアクセス権がある場合にのみ、このメモをレビューできます。
   - "本社"、"G&A"、または "営業" に添付されたメモをレビューできます。

   "本社" は "営業" および "G&A" の親組織です。レポートの列、行、フィルタ、パラメータには組織が 1 つも含まれていません。

   アクセス可能な最上位の組織が "営業" であるユーザーの場合は、以下のようになります。

   - 作成したメモは "営業" に添付されます。
   - "営業" またはそれより上位の組織へのアクセス権があるユーザーのみ、このメモをレビューできます。
   - "営業" 組織に添付されたメモのみを参照できます。
2. 企業の財務部門は、実績と予算の差異を説明する期末の数値差異レポートおよび報告書を作成する必要があります。Adaptive Planning には数値レポートを作成する手段がすでに用意されています。各部門は、レポート メモとインライン メモ機能を使用して報告書の作成を支援できます。

   レポートを実行する各組織のマネージャは、自分の組織の数値のみを表示できます。予算との差異を説明するライン メモを追加できます。

   VP は、組織マネージャによって追加されたメモを表示できます。次の操作も可能です。

   - レポート パラメータを追加して、特定の組織でデータをフィルタリングしたり、その組織のデータを表示したりする。
   - ビューを全社に戻し、どこで予算を超過し、どこで目標を維持したかなどの総合的なコメントを追加する。

   財務責任者は以下を実行できます。

   - 差異レポートの全社的な合計を表示する。また、組織マネージャと VP からのすべてのコメントを表示し、E メールまたは電話でさらに調査するかどうかを決めることもできます。
   - 報告書の作成に必要な情報を収集し、気になったコメントをコピーする。
   - レポートのスナップショットを生成し、照合調整レポート用に記録ドキュメントを作成する。
   - 差異レポートのコメントをクリアし、レポート作成の次のサイクルに向けて準備を行う。

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート メモ ( 195ページ )

レポートへのライン メモの追加

始める前に

- マトリクス レポート。
- レポートを保存します。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

マトリクス レポートの行にライン メモを追加して、データに関するコメントを付けることができます。ライン メモは、そのデータの関連付けられた組織に添付されます。レポートの状態に応じて以下のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 列にも行にも組織がない場合、メモはアクセス可能な最上位の組織に添付されます。他のユーザーは、この組織またはそれより上位の組織へのアクセス権がある場合にこのメモをレビューできます。
- 列または行に組織がある場合、メモはレポートに表示されているすべての組織に添付されます。いずれかの組織へのアクセス権がある他のユーザーがこのメモをレビューできます。
- パラメータに組織が含まれている場合、メモはパラメータのプロンプトから選択した組織に添付されます。他のユーザーがこのメモをレビューするには、選択された組織へのアクセス権が必要で、さらにパラメータのプロンプトから同じ組織を選択する必要があります。

手順

1. "レポート" に移動して、マトリクス レポートを実行します。
2. ライン メモを追加する行をクリックします。

   その行でドリルが有効になっている必要があります。ドリルできる行では、テキストが青色で表示されます。

   その行の、データが始まる直前の列をクリックします。
3. "ライン メモを追加" を選択します。

   "ライン メモを追加" が無効になっている場合は、先にレポートを保存する必要があります。
4. メモを追加して "OK" をクリックします。

タスクの結果

メモがレポートに表示され、作成したユーザーの名前、作成した日付、時間、およびレポート内のアクセス可能な組織も表示されます。メモの表示方法は、メモの表示設定によって異なります。

例

最初の行にライン メモを追加するため、データの直前の列である "資産" をクリックします。

| バージョン | 組織 | 科目 | 1 月 21 日 | 2 月 21 日 | 3 月 21 日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2021 年予算 | 営業 | 資産 | 100 | 500 | 300 |
| | | 純利益 | 200 | 250 | 75 |
| | G&A | 資産 | 120 | 230 | 210 |
| | | 純利益 | 320 | 380 | 85 |
| 2020 年実績 | 営業部門 | 資産 | 460 | 170 | 600 |
| | G&A | 純資産 | 410 | 360 | 180 |

このライン メモは "営業" 組織向けであるため、"営業" へのアクセス権があるユーザーのみレビューできます。

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート ビューアー ( 182ページ )
概念: マトリクス レポート メモ ( 195ページ )

ライン メモの表示オプションの変更

始める前に

- マトリクス レポート。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

レポート ビルダーで、レポートのプロパティを使用してライン メモの表示方法を設定します。レポート ビューアーでは、表示中のセッションでのメモの表示方法を変更できます。

"すべてのレポートの変更" 権限も持っている場合、表示設定を変更すると、レポートのすべてのビューアーでのデフォルトになります。表示中のセッションで表示方法を変更することもできます。

手順

1. "レポート" に移動して、マトリクス レポートを実行します。
2. ツールバーの "メモ" ボタンをクリックします。
3. ドロップダウン メニューの "ライン メモ" セクションで表示オプションを選択する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 列で表示 | 行内の上付き文字をクリックすると、列が開いてメモが表示されます。 |
| フットノートとして表示 | 行内の上付き文字をクリックすると、下部パネルのレポート メモの後ろにメモが表示されます。 |
| インラインで表示 | 行内のプラス アイコンをクリックすると、メモがインラインで表示されます。 |
| 非表示 | メモのある行には上付き文字が表示されますが、メモを開いてレビューすることはできません。 |

4. (任意) レポートを保存して、他のビューアーでの表示設定を変更します。
   セキュリティ: "すべてのレポートの変更" 権限

例

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート メモ ( 195ページ )
概念: マトリクス レポート ビューアー ( 182ページ )

レポート内のセル メモの表示

始める前に

- マトリクス レポート。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

データを入力するシートのセルに、セル メモを追加できます。レポートで、メモが添付されているセルからデータを取得すると、それらのメモを表示できます。

メモを変更するには、データが保持されているシートに移動します。セル メモの変更には、異なる権限が必要です。

手順

1. "レポート" に移動します。
2. 任意のフォルダを開いて、レポートのリストを表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

3. マトリクス レポートを右クリックして "変更" を選択します。
4. ツールバーの "レポートのプロパティ" ボタンをクリックします。
5. "セル メモを表示" チェックボックスをオンにします。
6. "適用" をクリックします。

タスクの結果

レポートを実行すると、メモが添付されているデータの横にハイパーリンクされた数字が表示されます。 ハイパーリンクをクリックすると、レポートの下部にある "セル メモ"の下にセル メモが表示されます。

例

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート ビューアー ( 182ページ )
概念: マトリクス レポート メモ ( 195ページ )
タスク
概念: セル メモ ( 98ページ )

レポート メモとライン メモの削除または変更

始める前に

- マトリクス レポート。
- レポートを保存します
- セキュリティ:
    - "レポートへのアクセス" 権限
    - "すべてのレポートの変更" 権限

このタスクについて

追加したレポート メモおよびライン メモは編集または削除できます。必要な権限があれば他のユーザーが追加したメモを削除できますが、編集はできません。メモを編集できるのはそのメモの最初の作成者のみです。

手順

1. "レポート" に移動し、メモを含むマトリクス レポートを実行します。
2. レポート メモを削除するには、以下を行います。
    a. レポートの下部パネルにある "レポート メモ" セクションを展開します。
    b. メモを削除するには、x アイコンをクリックします。
3. ライン メモを削除するには、以下を行います。
    a. ツールバーの "メモ" ボタンをクリックして、"列で表示" または "インラインで表示" を選択します。
    b. メモを削除するには、x アイコンをクリックします。

例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## マトリクス レポートでの代替カレンダーの表示

### 始める前に

- "時間管理" で代替カレンダーをインポート
- マトリクス レポート
- セキュリティ: "レポートへのアクセス"

### このタスクについて

1 つのレポートに複数のカレンダー (デフォルト カレンダーと代替カレンダー) から時間要素を追加できます。追加すると、データを時間の粒度ごとに異なる方法でロールアップして、表示および比較できます。

例: ビジネス プランで、以下のカレンダーについてのレポートを作成する必要があるとします。

- 労働期間: 年。構造: 週 > 支給期間 > 支給年
- 会計年度。構造: 週 > 会計月 > 会計四半期 > 会計年度

レポートに両方のカレンダーから時間要素を追加して、データを 2 つのカレンダーごとに異なる方法でロールアップして表示します。

注 : 異なるカレンダーで、カスタムのレポートの計算および "表示形式" 要素を使用できます。また、次の操作もできます。

- 同じカレンダーから複数の期間を同じレポート パラメータに関連付ける。
- 時間に関連付けされ、それぞれ異なるカレンダーを示している複数のレポート パラメータを追加する。

### 手順

1. 保存済のマトリクス レポートを開くか、作成します。
2. "編集" をクリックしてレポート ビルダーを開きます。
3. "要素" タブの "時間" をクリックします。
   代替カレンダーがデフォルト カレンダーの下に表示されます。
4. 代替カレンダーを展開して、そのカレンダーの時間要素を表示します。
5. 代替カレンダーの時間要素をレポートに追加します。
6. (任意) "累計" (PTD) の時間要素をレポートに追加します。要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| カレンダー | 代替カレンダーを選択します。 |
| 層 | 代替カレンダーから時間要素を選択します。 |
| PTD as of date | 層の基準日を選択します。 |

7. (任意) "期間" の時間要素をレポートに追加します。要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| カレンダー | 代替カレンダーを選択します。 |
| 期間 | 期間を選択するか、開始日と終了日を使用してカスタムの期間範囲を指定します。 |
| 含む | 含める時間要素を代替カレンダーから選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の時間とカレンダー（793ページ）
参考
設定の考慮事項: 代替カレンダー（773ページ）
例
例: 代替カレンダーを使用したマトリクス レポートの作成（226ページ）

レポートのドリル オプションの指定

始める前に

- マトリクス レポート参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- セキュリティ:
  - "レポートへのアクセス" 権限
  - "個人レポートの作成" 権限
  - "共有レポートの作成" 権限

このタスクについて

レポートの作成時に、レポート内のデータのドリル オプションを定義できます。そうすることで、レポート ユーザーは、定義されたオプションを使用してレポートの詳細にドリルダウンできるようになります。例: レポートに 2023 会計年度の GL 科目が表示される場合。ドリル オプションとして "組織" を選択すると、モデル内のさまざまな組織別の科目データを表示できます。

ドリル オプションを指定しない場合、レポート ユーザーには、使用可能なすべての属性および特性がレポートのドリル オプションとして表示されます。ドリル時に指定したオプションによっては、有効な結果が得られないことがあります。

手順

1. "レポート" に移動します。
2. 新しいマトリクス レポートを開始するか、既存のレポートを実行して "編集" をクリックします。
3. ツールバーで "レポートのプロパティ" をクリックし、"ドリル" をクリックします。
4. ユーザーがレポート データにドリルインできる属性および特性を選択します。
5. "適用" をクリックします。

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート（180ページ）
概念: Web レポート（156ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

マトリクス レポートの条件付き書式設定

始める前に

セキュリティ:

- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限 (共有レポートの書式を設定するため)
- "すべてのレポートの変更" 権限 (任意のレポートの書式を設定するため)

このタスクについて

マトリクス レポートの可読性を改善するために、レポート値に基づいて書式設定ルールを設定できます。条件付き書式設定を使用すると、目的の値、パターン、トレンドをすばやく特定できます。マトリクス レポートは条件付きでのみ書式を設定できます。マトリクス レポートに条件付き書式設定を適用する場合、以下のいずれかに書式を設定できます。

- レポート全体
- 個別のレポート要素

レポートの条件付き書式設定は、表示や数値などのレポート形式設定と併せて使用できます。

条件付き書式設定は、任意の行、列、スプレッドシート タブの要素に適用できますが、設計要素には適用できません。単一の行または列で重要な値を目立たせるために、異なる値に別の書式設定ルールを適用できます。1 つの要素に複数のルールを割り当てられます。以下には、条件付き書式設定を適用できません。

- フィルタの要素
- パラメータ
- セグメント

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. 条件付き書式設定を行うレポートを検索して変更します。
3. 以下のいずれかを実施します。
    - ツールバーの "レポートのプロパティ" を選択して、条件付き書式設定ルールをレポート全体に適用します。
    - 条件付き書式設定を行うレポート要素を右クリックし、"プロパティ..." を選択します。要素に合計値が存在する場合、条件付き書式設定は合計値にのみ適用されます。
4. "条件付き書式設定" タブを選択します。
5. 新しい条件付き書式設定ルールを作成する、または既存のルールを編集するにあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 値が次の場合 | 数値のみを入力します。<br>パーセンテージを入力する場合は、パーセント記号を使わず小数を使用します。例: 100% の場合は「1」、30% の場合は「0.3」と入力します。 |
| 要素合計のみに適用 | 要素の合計値にのみ条件付き書式設定ルールを適用します。書式設定は合計にのみ適用され、行と列の交差部分には適用されません。<br>例: レポートでは、6100 給与計算科目とその 3 つの子科目が行として表示されています。6100 給与計算要素にテキストを赤色で表 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 示するルールを作成した場合、赤色のテキストは 6100 給与計算科目の合計行にのみ表示されます。3 つの子科目の行は赤色のテキストで表示されません。 |
| 表示 | • 標準: デフォルトでは "標準" が自動的に選択されます。 複数のルールが存在する場合、最後に "標準" ルールが適用されます。 "形式" セクションの残りの部分でテキストの書式を設定すると、その設定によってこの "標準" の選択がオーバーライドされます。<br>• 数値: 要素データを数値として表示します。<br>• 空白: 条件を満たす要素データに対して空白の値を表示します。このオプションは、実際のデータが重要でない場合に使用できます。例:"空白" オプションを使用して、セルの値や重要度を示す背景色を設定します。<br>• アイコン: 条件を満たす場合、要素データの代わりにアイコンを表示します。 |

6. "追加" を選択します。
7. (任意) 条件付き書式設定ルールを並べ替えて、ユーザーが優先する順序で適用されるようにします。
8. "適用" を選択して変更を保存します。

参考: 計算要素のプロパティ

計算要素をマトリクス レポートに追加して、データまたはメトリックとパーセントの差異を表示できます。時間の経過とともに変化する要件に対応するために、これらの要素のプロパティを管理できます。参照 要素とレポートのプロパティの変更（247ページ）。

この参照資料では、計算要素を管理するためのプロパティの一部についてのみ説明します。条件付き書式設定ルールを作成し、スタイルと数値による表示を管理することもできます。次を参照してください。

- 概念: 数値の形式設定（250ページ）
- 概念: Web レポートの書式設定（251ページ）
- マトリクス レポートの条件付き書式設定（218ページ）

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | レポートに表示される要素の名前を設定します。このフィールドはすべての計算要素に対して表示されます。 |
| コード | 参照目的のコードを設定します。たとえば、コードを使用して、カスタム数式の要素を参照します。このフィールドはすべての計算要素に対して表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 表示形式 | 結果を表示する形式を設定します。次のいずれかを選択します。<br>• 科目の表示形式。"モデリング" の下の科目の "表示形式" 設定に基づいて、結果を数値またはパーセントで表示します。総勘定元帳科目を除くすべての要素に利用できます。<br>• 値。パーセント値を数値として表示します。たとえば、5% は 0.05 と表示されます。<br>• パーセント。数値と通貨値を比率として表示します。たとえば、5 は 500% と表示されます。<br>このフィールドは、"差異" 計算要素と "カスタム" 計算要素に対してのみ表示されます。"科目の表示形式" プロパティは、"差異" 計算には適用されません。 |
| 符号を反転 | 結果の符号を負から正またはその逆に変更します。たとえば、"費用" 科目の負の分散を正の結果として表示できます。<br>このオプションは、"差異" 計算要素と "カスタム" 計算要素に対してのみ表示されます。また、バージョンや時間などの科目以外の計算でのみ使用できます。選択すると、経費、収益の反対勘定、負債、株式、資産の反対勘定などの符号が反転します。 |
| 差異オプション | 差異計算で次の要素を表す要素を設定します。<br>• 減算する数<br>• 減算する元の数<br>"差異" オプションは、"差異" 計算要素に対してのみ表示されます。 |
| 接続先パラメータ | "差異" 要素がレポート パラメータに接続されているかどうかを示します。レポート パラメータが変更されると、分散データも更新されます。<br>このフィールドは、"差異" 計算要素に対してのみ表示されます。 |

参考: レポート パラメータの設定

レポート パラメータを使用すると、マトリクス レポート ビューアーでレポート定義を変更することなくレポートを絞り込むことができます。以下の設定を使用して、レポート ビューアーでのパラメータの表示を管理します。

| パラメータ設定 | 説明 |
| --- | --- |
| ラベル | レポートを表示するときのパラメータ プロンプトの表示名です。 |
| タイプ | パラメータが制御する要素を示します。例: 組織、バージョン、時間。このフィールドは読み取り専用です。 |
| (限定) をクリア | 組織パラメータにのみ適用されます。<br>パラメータ プロンプトの選択肢から、(限定) 組織を削除します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| パラメータ設定 | 説明 |
| --- | --- |
| (未分類) をクリア | カスタム属性パラメータにのみ適用されます。<br>パラメータ プロンプトの選択肢から、未分類の属性値をすべて削除します。 |
| 表示前にダイアログを表示する | このチェックボックスをオンにすると、パラメータを選択するように求めるダイアログが、レポートの実行後にオプションとして表示されるのではなく、実行前に必須となります。レポートのダイアログ表示パラメータには、任意の数のパラメータを指定できます。 |
| 初期の選択 | レポートを初めて実行するときの属性、特性、組織、科目のデフォルト値を示す、読み取り専用のインジケータです。初期の選択は "初期の選択として設定" ボタンで変更できます。<br>時間パラメータについては、"初期の選択" プロンプトを使用してデフォルト値を変更できます。 |
| 複数選択を許可する | 対象となるレポート パラメータに複数の選択肢を表示し、ユーザーがパラメータ プロンプトから選択できるようにします。 |
| 接続 | パラメータに関連付けられているレポート要素が表示されます。このフィールドは読み取り専用です。 |
| 選択肢 | パラメータの階層リストです。チェックボックスをオンにしたパラメータを、パラメータ プロンプトの選択肢に追加します。 |
| 初期の選択として設定 | 使用可能な選択肢の 1 つを、レポートの初回実行時のデフォルトのパラメータ オプションとして設定できます。 |

時間パラメータの初期の選択

時間パラメータでは、その他のパラメータとは異なるオプションを使用できます。

| 初期の選択オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 特定の期間 | 選択した正確な期間でレポートが実行されます。例: FY-2020。 |
| 当月/四半期/年 | レポート実行時の月、四半期、または年でレポートが実行されます。 |
| 前月/四半期/年 | レポートを実行する直前の月、四半期、または年でレポートが実行されます。 |
| 翌月/四半期/年 | レポートを実行する直後の月、四半期、または年でレポートが実行されます。 |
| 会計年度の開始月 | 現在の会計年度の最初の月でレポートが実行されます。 |
| 会計年度の終了月 | 現在の会計年度の最後の月でレポートが実行されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 初期の選択オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 最初の計画データ月 | レポートで使用されるすべてのバージョンで最も早い最初の計画データ月でレポートが実行されます。 |
| 最後の実績月 | レポートで使用されるすべてのバージョンで最も遅い最後の実績月でレポートが実行されます。 |

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポートのパラメータ（185ページ）
タスク
マトリクス レポートへのパラメータの追加（201ページ）
例
例: パラメータを使用したアドホック差異の表示（231ページ）

例: 仮想バージョンによる固定通貨レポートの作成

為替レートの変動により、実際の業績メトリクスでなく、有利または不利な為替レートが原因で、データの差異分析の分析結果が左右される場合があります。会計的に言えば、ビジネスのパフォーマンスの正確な状況を把握するためにそれぞれ異なる一連のデータを比較する場合、固定通貨は為替レートの変動を相殺消去します。

ビデオを見る: 1 分 50 秒

固定通貨レポート作成の基本ステップ

1. データ セットを選択します。
2. 仮想バージョンの作成（802ページ）.
3. 仮想バージョンと為替レート バージョン間の差異を比較したマトリクス レポートを作成します。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。

以下のウォークスルーでは、例を使用して、このレポートの作成方法の詳細をステップごとに説明します。

固定通貨を使用する例のウォークスルー

このウォークスルーの例では、仮想バージョンを使用して、通貨レートを一定に固定し、2016 年の予算データと 2016 年の実績データの差異を示すレポートを作成します。

仮想バージョンの作成

固定通貨を使用して差異レポートを作成するには、常に新しい仮想バージョンと、その新しい仮想バージョンの為替レートに選択したバージョンを使用します。レポートで定義する期間とデータ セットの期間に関連性がある必要があります。これらのルールが連携する方法を以下の表で説明しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| レポートに含める差異 | 仮想バージョンのベース | 為替レートの仮想バージョン | レポートのバージョン | レポートの期間 |
|---|---|---|---|---|
| 今年度実績に対する現行予算 | 現行年度の実績 | 現行予算 | 仮想バージョンと現行予算 | 現行年度 |
| 現行年度の実績と前年度の実績 | 現行年度の実績 | 前年度の実績 (実績を 1 年前にオフセット) | 仮想バージョンと前年度の実績 | 現行年度と前年度 |

1. "モデリング" > "モデル管理" > "バージョン" に移動します。
2. リストの計画セクション内の任意の場所をクリックします。
3. ツールバーで "新しい仮想バージョンを作成" ボタンをクリックします。
4. 以下を入力します。 `Actuals at Budget Rates` "名前 " フィールドに "
5. "ベース バージョン" ドロップダウンで ″実績″を選択します。
6. "為替レート" の右側の "編集" リンクをクリックします。
7. ポップアップ ウィンドウで、2016 年の予算 (現在の予算) をドロップダウンで選択します。
8. ベース バージョンは実績バージョンであるため、"固定通貨レポートの有効化" チェックボックスはオフのままにします。

   実績バージョンの場合、このオプションは結果の値に影響しません。ベース バージョンが計画バージョンである場合、このオプションを選択して計画バージョンの為替レートを実績のオーバーレイ期間に適用します。
9. "適用" をクリックして保存します。

これで、実際の予算レートを使用した実績データの仮想バージョンが作成されました。

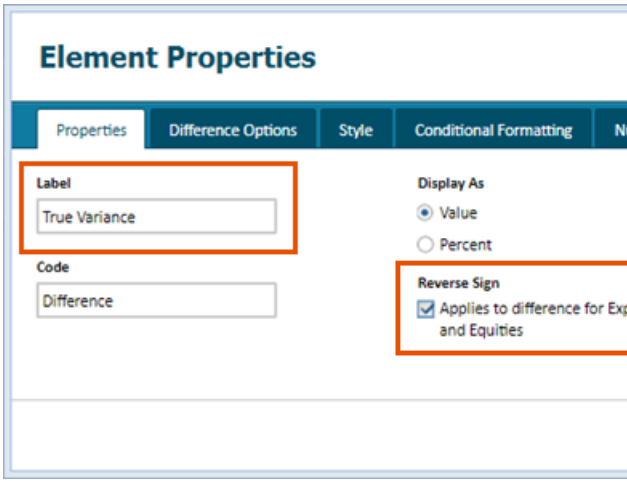
## 為替レートの変動の影響を受けない差異レポートの作成

為替レートの変動の影響を受けない実績データと現行予算間の差異レポートを作成する方法は以下のとおりです。

1. レポートの概要ページから "新規追加" をクリックし、"マトリクス" を選択します。
2. "要素" リストで "バージョン" をクリックして、"予算レートでの実績" という仮想バージョンを列セグメントにドラッグ アンド ドロップします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 2016 年の予算 (現行予算) バージョン (仮想バージョンの為替レートで使用したバージョン) をドラッグして、右側の同じ列にドロップします。
4. "要素に戻る" をクリックして、"時間" をクリックします。2016 年 (仮想バージョンで選択したベースに対応する期間) が見つかるまで展開します。2016 年を折り畳んだままドラッグして、バージョンの上の列セグメントにドロップします。2016 年を展開して、四半期または月次の差異を確認したり、フィルタ セグメントにドラッグしたりすることもできます。
5. "要素に戻る" をクリックして、"計算" をクリックします。"差異" 要素をドラッグして、列セグメント内の 2 つのバージョンの左側にドロップして、以下を実行します。
    a. レポートのグリッドの "差異" 要素を右クリックして、"プロパティ" を選択します。
    b. 以下を入力します。`True Variance` "ラベル" フィールドに入力し、"符号を反転" チェックボックスをオンにします。

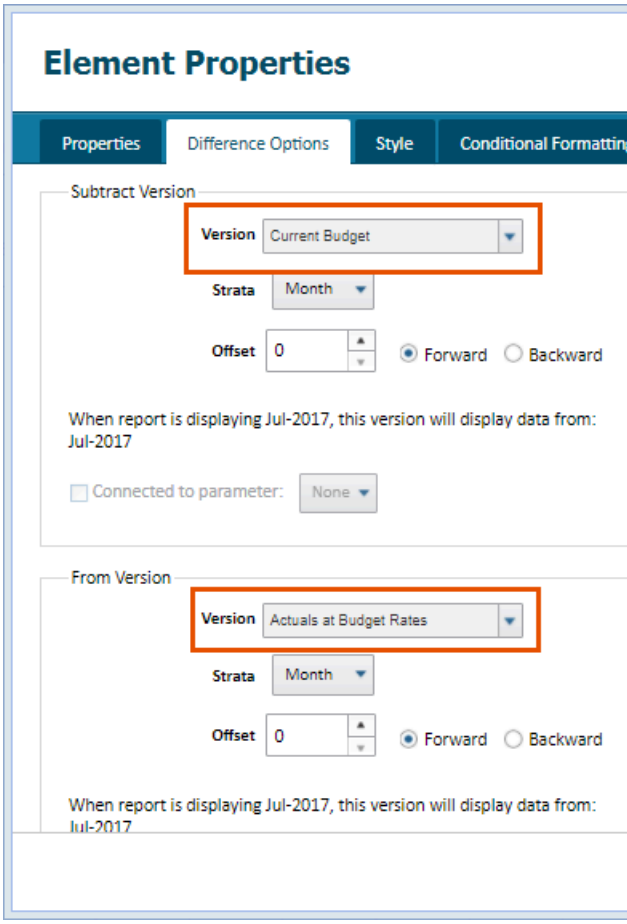



    c. "差異オプション" タブをクリックします。
    d. "比較元から差し引くバージョン" セクション内の "バージョン" ドロップダウンで "現在の予算" を選択します。"バージョン" セクション内の

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

"バージョン" ドロップダウンで "予算レートでの実績" を選択します。

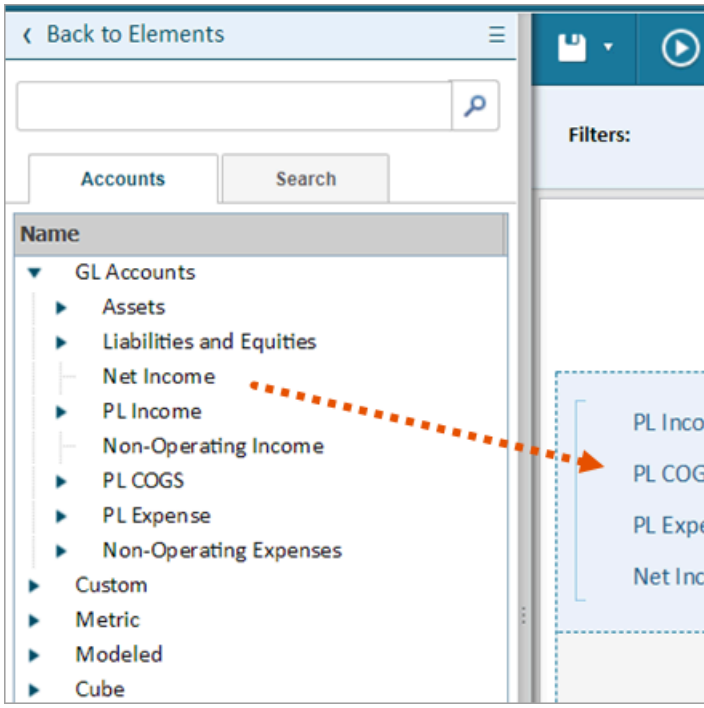
e. "適用" をクリックします。




6. "要素に戻る" をクリックして、"科目" をクリックします。
7. "PL  Income"、"PL COGS"、"PL Expense"、"Net Income" をドラッグして、

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

行セグメントにドロップします。以下のとおりのレポートが作成されます。




8. 保存して、レポートを実行します。最後の列の差異では、為替レートの影響を受けない差異が表示されます。

relatedlinks
参考
次のレベル: Adaptive Planning - レポート内の仮想バージョン

例: 代替カレンダーを使用したマトリクス レポートの作成

この例では、代替カレンダーとデフォルト バージョンのデフォルト カレンダーのデータを比較するマトリクス レポートの作成方法について説明します。

このタスクについて

"本社" はモデルの最上位組織です。

デフォルト カレンダーでは、労働年が 2 週間の支給期間で構成されています。最初の代替カレンダーには暦年の合計が表示されています。もう一方の代替カレンダーには会計年度の合計が表示されています。「週」は、デフォルト カレンダーの分岐層であり、デフォルトの層です。レポートに 2017 年のすべてのカレンダーの値を表示するとします。

Labor Periods (デフォルト)

- 構造: 週 > 支給期間 > 支給年
- ラベルの例: W1-17、P1-17、PY2017
- 2 週間の合計が 1 回の支給期間
- 26 回の支給期間の合計が 1 回の支給年
- 範囲: 2017 年 1 月 29 日 ~ 2018 年 2 月 10 日

Calendar Year:

- 構造: 週 > 暦月 > 暦四半期 > 暦年
- ラベルの例: Jan-17、Q1-CY17、CY2017

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 4 ~ 5 週間の合計が 1 か月
- 3 か月の合計が 1 四半期
- 4 四半期の合計が 1 年
- 範囲: 2017 年 1 月 1 日 ~ 2017 年 12 月 30 日

会計年度

- 構造: 週 > 会計月 > 会計四半期 > 会計年度
- ラベルの例: Feb-FY18、Q1-FY18、FY2018
- 4 ~ 5 週間の合計が 1 会計月
- 3 か月の合計が 1 四半期
- 4 四半期の合計が 1 年
- 範囲: 2017 年 1 月 29 日 ~ 2018 年 2 月 3 日

始める前に

セキュリティ:

- "レポートへのアクセス" 権限
- "すべてのレポートの変更" 権限

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "新規追加" をクリックし、"マトリクス" を選択します。
3. 以下のように行を追加します。
    a. "要素" ペインで "組織" をクリックし、最上位組織を行にドラッグします。
    b. "要素に戻る" > "科目" > "総勘定元帳科目" の順にクリックします。
    c. 以下の総勘定元帳科目を組織の下のレポート行にドラッグします。
        - PL 収益
        - 営業外収益
        - PL 売上原価
        - PL 費用
        - 営業外費用
4. 以下のように、2017 年のデフォルト カレンダーを列に追加します。
    a. "要素に戻る" をクリックし、"時間" 要素を展開します。
    b. "Labor Periods" を展開し、"PY2017" を最初の列にドラッグします。

        "設計要素" セクションから、"カスタム ヘッダー" を "PY2017" の左側にドラッグします。
    c. カスタム ヘッダーを右クリックし、"プロパティ" を選択します。
    d. "ラベル" に「労働期間」と入力し、"適用" をクリックします。
5. "設計要素" セクションから、"空白スペース" を "PY2017" の右側の列にドラッグします。
6. 以下のように、2017 年の暦年を列に追加します。
    a. "設計要素" セクションから、"セグメント" を最後のセグメントの右側の列にドラッグします。
    b. "Calendar Year" を展開します。
    c. "CY2017" を新しいセグメントにドラッグします。
    d. "設計要素" セクションから、"カスタム ヘッダー" を同じセグメントの "CY2017" の左側にドラッグします。
    e. カスタム ヘッダーを右クリックし、"プロパティ" を選択します。
    f. "ラベル" に「暦年」と入力し、"適用" をクリックします。
7. "設計要素" セクションから、"空白スペース" を "CY2017" の右側の列にドラッグします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

8. 以下のように、2018 年の会計年度を追加します。
    a. "設計要素" セクションから、"セグメント" を最後のセグメントの右側の列にドラッグします。
    b. "会計年度" を展開します。
    c. "FY2018" を新しいセグメントにドラッグします。
    d. "設計要素" セクションから、"カスタム ヘッダー" を同じセグメントの "FY2018" の左側にドラッグします。
    e. カスタム ヘッダーを右クリックし、"プロパティ" を選択します。
    f. "ラベル" に「会計年度」と入力します。
9. ツールバーで "保存" ボタンの矢印をクリックし、"保存して実行" を選択します。

タスクの結果

開始日と終了日に基づいて、カレンダーごとに異なる合計金額をレビューできます。

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の時間とカレンダー
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成 ( 197ページ )
代替カレンダーの追加 ( 783ページ )
マトリクス レポートでの代替カレンダーの表示 ( 216ページ )

例: レポート テンプレートを使用した差異レポートの作成

この例では、レポート テンプレートを使用して、科目のさまざまなバージョン (実績、予算、予測) 間の差異を表示する差異レポートを作成する方法を説明します。このトピックに関連するユース ケースについては、 ユース ケース: ユース ケース ライブラリ内の Excel レポート テンプレートを使用した差異レポートの作成を 参照してください。

このタスクについて

当年度の QA 組織について以下の詳細をマネージャに提供するとします。

- 1 月から 3 月までの実際の家賃。
- 8 月の予算貸付。
- 11 月の予測家賃。
- 予算および予測家賃と実際の家賃との差異。

貸付科目、必須期間、バージョンを使用してマトリクス レポートを作成します。Excel レポート テンプレートも添付します それ には、異なるバージョン間の差異計算が含まれます。

始める前に

- モデリングには、実績バージョンと予算および予測計画のバージョンが存在します。
- セキュリティ:
    - ″レポートへのアクセス″ 権限
    - "個人レポートの作成" 権限
    - "共有レポートの作成" 権限

手順

1. メイン ナビゲーション メニューから "レポート" を選択します。
2. "新しく追加" > "マトリクス"をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. レポートの列に以下を入力します。実績、予算、予測の各セグメント
    a) "設計要素" セクションで、セグメントをレポート列にドラッグします。
    b) レポート列に 2 つのセグメントを追加します。
4. FY 2025 の 1 月から 3 月までの実績データを表示するために、最初のセグメントに値を入力します。
    a) "バージョン" 要素を展開してから、回答実績 バージョンを最初のセグメントにマッピングします。
    b) 当年の四半期から時間要素を追加します。
    c) 1 月 ~ 3 月の 月次の時間要素を最初のセグメントにドラッグして、実績バージョンの下にドロップします。
5. 2 番目のセグメントに値が自動入力され、今年 8 月の予算データが表示されます。
    a) 予算プラン バージョンを 2 番目のセグメントにドラッグします。
    b) 8 月 の月次時間の要素を 2 番目のセグメントにドラッグして、予算計画バージョンの下にドロップします。
6. 第 3 セグメントに値を入力して、今年の 11 月の予測データを表示します。
    a) 予測計画バージョンを第 3 セグメントにドラッグします。
    b) "11 月" の月次時間の要素を第 3 セグメントにドラッグして、これを予測計画バージョンの下にドロップします。
7. "科目"、"総勘定元帳科目" 要素を展開し、" 賃借 科目" を見つけて行にドラッグします。
   "家賃" 科目を見つけるには、"総勘定元帳科目"、"PL 費用"、"営業費用" の順に展開表示します。
8. "組織" を展開し、QA 組織を列の 3 つのセグメントのそれぞれにドラッグします。 これをバージョン要素の上にドロップします。
9. 保存して、レポートを実行します。
10. 以下の手順で HTML レポートにテンプレートを添付します。
    a) レポートの概要ページに移動します。作成したレポートの "アクション" メニューから、"テンプレートの添付"を選択します。
    b) "空白のテンプレート" を選択して、 "OK"をクリックします。
    Rページをリフレッシュ。Tテンプレートに対するレポート出力の変更
    a) レポートを実行して、Excel ファイル形式のテンプレートとしてダウンロードします。
11. Excel でレポート テンプレートを編集します。
    a) ダウンロードした Excel ファイルを開きます。 レポートに含まれる内容 これらレポート データ と レポート情報 タブ。
    b) 新しいタブで開く。 C レポート データ タブのデータを にオプトインしますe 新しいタブ
    c) 競合を避けるために、新しいタブの名前を ″レポート″以外の 「差異分析レポート」に変更します。
    d) 新しいタブで、"差異" という名前のレポート列を追加します。
    e) "差異" 列に、予算と予測のデータから実績データを減算する Excel 計算を追加します。
    差異= 実績 - (予算 + 予測)。
    f) Excel ファイルを保存。
    g) Nレポートの概要ページに戻ります。
12. 更新されたレポート テンプレートをアップロードします。
    a) HTML レポートの "アクション" メニューから、″テンプレートの変更″を選択します。
    b) "ファイルの選択" を選択し、差異計算を更新した Excel ファイルを参照して選択します。
    c) "OK" をクリックします。
    d) 変更した Excel テンプレートを添付してレポートを実行します。
    レポートが Excel にダウンロードされ、そこからレポートを開いて差異列を確認できます。

タスクの結果

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

relatedlinks
タスク
実績バージョンの作成（834ページ）
計画バージョンの作成（797ページ）
科目の作成（863ページ）
ステップ: 標準シートの作成（1032ページ）
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）

例: 再使用可能レポートの要素を使用した **P&L** レポートの作成

この例では以下の方法を説明します。

- 既存のレポートを再使用可能レポートとして保存する。
- 以下を使用してレポートを作成します。 要素 再使用可能レポート。

このタスクについて

既存の "現在のバージョンと役員会承認済の比較" レポートのバージョン要素を使用して、"P&L" レポートを作成するとします。

始める前に

以下のバージョン要素を含む "現在のバージョンと役員会承認済の比較" レポートを作成します。

- 現在のバージョン
- ターゲット - 役員会承認済

モデルには、以下のグループ属性特性が含まれています。

- 製品グループ A
- 製品グループ B
- 製品グループ C

モデルには、以下の場所属性が含まれています。

- アメリカ合衆国
- カナダ

モデルには、以下の科目が含まれています。

- 総売上高
- 割引
- 純売上高
- 売上原価 - 標準原価
- 売上原価 - 差異 (運送料)
- 総売上原価
- 粗利益
- 売上総利益
- 売上総利益 %

セキュリティ:

- "レポートへのアクセス" 権限
- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. "レポート > の概要"に移動します。
2. 以下から アクション 既存の "現在のバージョン" と "役員会承認済" のメニュー 比較レポート で、″再使用可能レポートに追加″を選択します。
3. クリック 新しい の追加 > マトリクス 。
4. "要素" タブで、"再使用可能レポート" を展開します。
5. "現在のバージョンと役員会承認済の比較" を展開します。
6. 以下のバージョン要素を列に追加します。
    - 現在のバージョン
    - ターゲット - 役員会承認済
7. 以下の再使用可能グループ要素を列に追加します。
    - 製品グループ A
    - 製品グループ B
    - 製品グループ C
8. "要素に戻る" をクリックします。
9. "属性" を展開します。
10. 以下の場所要素を行に追加します。
    - アメリカ合衆国
    - カナダ
11. "要素に戻る" をクリックします。
12. 展開 GL 科目の > 科目 。
13. これに類似した科目要素を検索して行に追加 場所要素の下:
    - 総売上高
    - 割引
    - 純売上高
    - 売上原価 - 標準原価
    - 売上原価 - 差異 (運送料)
    - 総売上原価
    - 粗利益
    - 売上総利益
    - 売上総利益 %
14. "保存" をクリックします。
15. 次の値を入力または選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 損益 |
| 説明 | 利益と損失レポート |
| デフォルト出力 | *TML* レポート |
| 共有 | 共有レポート |
| 保存先 | このレポートを共有するグループ、ユーザー、および組織を選択します。 |

例: パラメータを使用したアドホック差異の表示

差異計算を要素に追加して、パラメータとして使用できます。追加した後にレポートを実行すると、別のパラメータを選択して計算した結果が更新されます。この例では、パラメータを使用した差異計算を使用して、選択したパラメータごとに異なる差異を表示する方法を説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

実績バージョンといくつかの異なる計画バージョンとの間の "経費" 科目における、年間の差異をレポートに表示するとします。バージョンには以下が含まれています。

- 実績
- 現在の予算
- 予測
- 昨年の予算

当年度は 2022 年です。

手順

1. "レポート" に移動します。
2. "新規追加" をクリックし、"マトリクス" を選択します。
3. "要素" タブで、"科目" > "総勘定元帳科目" の順にクリックします。
4. "6000 経費および 7000 配賦" を行にドラッグ アンド ドロップします。
5. "要素に戻る" をクリックします。
6. "時間" をクリックします。
7. "FY2022" を列にドラッグ アンド ドロップします。
8. "要素に戻る" をクリックします。
9. "バージョン" をクリックします。
10. 列の "FY2022" 要素の下に "実績" と "現在の予算" をドラッグ アンド ドロップします。
11. 列から、"実績" を "パラメータ" セクションにドラッグ アンド ドロップします。
12. 列から、"現在の予算" を "パラメータ" セクションにドラッグ アンド ドロップします。
13. "パラメータ" セクションで、"バージョン" を右クリックして "プロパティ" を選択します。

    このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ラベル | 「バージョン 1」と入力します。 |
| 表示前にダイアログを表示する | オフのままにします。 |
| 選択肢 | "実績" をハイライト表示して、"初期の選択として設定" ボタンをクリックします。<br>次の横にあるチェックボックスをクリックします<br>• 現在の予算<br>• 昨年の予算<br>• 予測 |

14. "適用" をクリックします。
15. "パラメータ" セクションで、"バージョン 2" を右クリックして "プロパティ" を選択します。

    このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ラベル | 「バージョン 2」と入力します。 |
| 表示前にダイアログを表示する | オフのままにします。 |
| 選択肢 | "現在の予算" をハイライト表示して、"初期の選択として設定" ボタンをクリックします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 次の横にあるチェックボックスをクリックします<br>• 実績<br>• 昨年の予算<br>• 予測 |

16. "適用" をクリックします。
17. "要素に戻る" をクリックします。
18. "計算" をクリックします。
19. "差異" を、列の "現在の予算" の右側にドラッグ アンド ドロップします。
20. 列の "差異" 要素を右クリックして、"プロパティ" を選択します。
21. "ラベル" フィールドに「差異」と入力し、"適用" をクリックします。
22. ツールバーで "保存" ボタンの横にある矢印をクリックし、"保存して実行" を選択します。
23. レポート ビューアーの上部で、各バージョン パラメータから異なるバージョンを選択し、"レポートを実行" をクリックします。

タスクの結果

4 つのバージョンの任意の組み合わせを比較できます。

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポートのパラメータ（185ページ）
タスク
マトリクス レポートへのパラメータの追加（201ページ）
参考
参考: レポート パラメータの設定（220ページ）

例: 運用経費レポートの作成

この例では、特定の期間および組織についての運用経費を表示するレポートの作成方法を説明します。

このタスクについて

当月および年初から現在までの "エンジニアリング" 組織に焦点を当てた運用経費を表示するとします。レポート ビューアーで、"エンジニアリング" 組織のどのデータを表示するかを調整できるようにします。運用経費を行、当月および年初から現在までを列とするマトリクス レポートを作成します。

始める前に

セキュリティ:

- "レポートへのアクセス" 権限
- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "新しく追加" > "マトリクス"をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "要素" タブで、以下の要素を展開して追加します。
    - "運用経費" 科目を行に追加する。
    - "累計" および当月の期間を列に追加する。
    - "エンジニアリング" 組織を "フィルタ" セクションに追加する。
4. "累計" 要素を右クリックし、"プロパティ" を選択します。"当年の初めから現在まで" を当月に設定して、年間累計が当月と一致するようにします。"適用" をクリックします。
5. "組織" を "フィルタ" セクションから "パラメータ " セクションにドラッグ アンド ドロップします。
6. "レポートを実行" をクリックして、レポート ビューアーにデータを表示します。
7. レポートを保存します。

タスクの結果

次のタスク

カスタム要素の計算例
例: 連続していない要素の小計の追加

この例では、"カスタム" 計算要素を使用して、マトリクス レポートで連続していない要素の小計を計算する方法を説明します。

このタスクについて

あるマトリクス レポートに、FY2022 についての以下の総勘定元帳科目が、記載されている順序で表示されています。総収益を表示するため、レポート内で連続していない "純利益" 科目と "営業外収益" 科目の小計を計算する必要があります。

- 資産
- 負債と純資産
- 純利益
- 経費および配賦
- 収益
- 営業外収益
- 売上原価

始める前に

- 数式を確認します。
- 保存済みのマトリクス レポート。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス"

手順

1. "レポート" に移動します。
   "概要" ページが表示されます。
2. マトリクス レポートを実行し、"編集" をクリックします。
3. "要素" タブで "計算" 要素を展開します。
4. "カスタム" 計算要素をレポートの行にドラッグして、最後の総勘定元帳科目の後ろにドロップします。
5. "カスタム計算" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

6. レポートで以下の科目要素を検索または選択して、"数式に挿入" をクリックします。
   - 純利益
   - 営業外収益

   科目が "数式" フィールドに表示されます。
7. 科目要素の間に"足す (+)" 演算子を挿入します。
   例: `RPT.3900_Net_Income+RPT.5100_Non_Operating_Income`
8. "OK" をクリックしてフォーミュラ アシスタントを閉じます。
9. レポート ビルダーで、"カスタム計算" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
10. ラベルに「総収益」と入力し、"適用" をクリックします。
11. 保存して、レポートを実行します。

タスクの結果

"総収益" 行が総勘定元帳科目の下に表示されます。"純利益" 科目と "営業外収益" 科目を合計した金額が表示されます。

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の数式の使用（1132ページ）
概念: マトリクス レポートの計算（184ページ）
概念: カスタム計算の数式構文とルール（192ページ）
参考
参考: 計算要素のプロパティ（219ページ）

例: メトリックまたはパーセンテージの追加

この例では、"カスタム" 計算要素を使用して、マトリクス レポートにメトリックまたはパーセンテージを追加する方法を説明します。

このタスクについて

あるマトリクス レポートの行に、FY2022 についての以下の科目が表示されています。

- 収益
- 売上原価
- 売上総利益

このレポートでは、 "差異" 計算要素を使用して売上総利益が計算されます。収益と売上原価の差異の金額が算出されます。別の計算を追加して、売上総利益を収益のパーセンテージとして表示するとします。

始める前に

- 数式を確認します。
- 保存済みのマトリクス レポート。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス"

手順

1. "レポート" に移動します。
   "概要" ページが表示されます。
2. マトリクス レポートを実行し、"編集" をクリックします。
3. "要素" タブで "計算" 要素を展開します。
4. "カスタム" 計算要素をレポートの行にドラッグして、"売上総利益" の後ろにドロップします。
5. "カスタム計算" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

6. 売上総利益率を計算する数式を作成します。レポートの科目要素に "割り算" 演算子および "掛ける" 演算子を使用します。
   例: `div (RPT.Difference, RPT.4000_Revenue)*100`
7. "OK" をクリックしてフォーミュラ アシスタントを閉じます。
8. レポート ビルダーで、"カスタム計算" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
9. ラベルに「売上総利益率」と入力し、"適用" をクリックします。
10. 保存して、レポートを実行します。

タスクの結果

"売上総利益率" 行がレポートに表示されます。売上総利益の金額が収益の金額に対するパーセンテージで表示されます。

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の数式の使用（1132ページ）
概念: マトリクス レポートの計算（184ページ）
概念: カスタム計算の数式構文とルール（192ページ）
参考
参考: 計算要素のプロパティ（219ページ）

例: 負の値の経費の表示

この例では、"カスタム" 計算要素を使用して、経費科目の値を負の形式で表示する方法を説明します。

このタスクについて

あるマトリクス レポートには、FY2022 の実行予算バージョンについて以下の総勘定元帳科目が表示されています。

- 純利益
- 売上原価
- 営業費用
- 収益

営業費用の金額は現在、正の値で表示されています。この金額を負の値で表示するとします。

始める前に

- 数式を確認します。
- 保存済みのマトリクス レポート。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス"

手順

1. "レポート" に移動します。
   "概要" ページが表示されます。
2. マトリクス レポートを実行し、"編集" をクリックします。
3. レポートの行で "営業費用" 科目を右クリックし、"削除" を選択します。
4. "要素" タブで "計算" 要素を展開します。
5. "カスタム" 計算要素をレポートの行にドラッグして、"営業費用" が配置されていた場所にドロップします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. "カスタム計算" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。
7. "科目" の下にある "総勘定元帳科目" を展開し、"営業費用" を選択します。科目を検索することもできます。"数式に挿入" をクリックします。
8. "数式" フィールドで、科目コード構文の後ろに次のように入力します。 `*-1`。

   例: `[3000]*-1`
9. "OK" をクリックしてフォーミュラ アシスタントを閉じます。
10. "カスタム計算" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
11. ラベルに「営業費用」と入力します。"数字" を選択してから負の数の形式設定を選択します。

    例: マイナス記号 (-) と負の値を表示するフォーマットを選択します。
12. "適用" をクリックします。
13. レポートを保存して再実行します。

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の数式の使用（1132ページ）
概念: マトリクス レポートの計算（184ページ）
概念: カスタム計算の数式構文とルール（192ページ）
参考
参考: 計算要素のプロパティ（219ページ）

例: 特定の科目に対する符号の反転

この例では、科目タイプが以下のいずれでもない科目の符号を反転する方法を説明します。

- 経費
- 負債
- 純資産

このタスクについて

あるマトリクス レポートには、FY2022 の実行予算バージョンについて以下の詳細が表示されています。

- 売上総利益
- 負債
- 純資産
- 負債と純資産の差異

このレポートは現在、以下のように設定されています。

- "差異" 計算要素を使用して、負債と純資産の差額を計算する。
- "差異" 計算要素の "符号を反転" プロパティを使用して、差異金額の符号を (プラスからマイナスに) 反転する。

損失を反映させるために、"売上総利益" 科目の符号をプラスからマイナスに反転するとします。この科目タイプは経費、負債、純資産ではないため、カスタム計算要素を使用します。

始める前に

- 数式を確認します。
- 保存済みのマトリクス レポート。参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. "レポート" に移動します。
   "概要" ページが表示されます。
2. マトリクス レポートを実行し、"編集" をクリックします。
3. レポートの行で "売上総利益" 科目を右クリックし、"削除" を選択します。
4. "要素" タブで "計算" 要素を展開します。
5. "カスタム" 計算要素をレポートの行にドラッグして、"売上総利益" が配置されていた場所にドロップします。
6. "カスタム計算" 要素を右クリックして "フォーミュラ アシスタント" を選択します。
7. "科目" の下にある "売上総利益" を見つけます。検索することもできます。"数式に挿入" をクリックします。
8. "数式" フィールドに以下を入力します。 `-1*` 科目コードの前に "売上総利益" を入力します。

   例: `-1*[PL_GM]`
9. "OK" をクリックしてフォーミュラ アシスタントを閉じます。
10. "カスタム計算" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
11. ラベルを「売上総利益」に変更します。"OK" をクリックします。
12. レポートを保存して再実行します。

タスクの結果

"売上総利益" 科目の値にマイナス記号が表示されます。

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の数式の使用（1132ページ）
概念: マトリクス レポートの計算（184ページ）
概念: カスタム計算の数式構文とルール（192ページ）
参考
参考: 計算要素のプロパティ（219ページ）

異常値レポート
異常値レポートに行を追加します。

始める前に

セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

科目をマトリクス レポートの行に配置することで、異常値レポートの作成を開始できます。予測バージョンには、総勘定元帳科目とカスタム科目の予測値が保持されます。回答レポートにこれらの科目の一部またはすべてを追加して、計画との差異を表示します。

手順

1. マトリクス レポートにアクセスします。
2. "要素 " タブの "科目" をクリックします。
3. 以下を展開します。 GL 科目 および "カスタム" 科目
4. 科目をレポートの行にドラッグ アンド ドロップします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

5. (任意) 科目をデフォルトで展開または折り畳んで表示するには、以下のように設定します。
    a. 行の科目を右クリックして、"階層を管理" をクリックします。
    b. "常に展開" または "常に折り畳む" を選択し、"適用" をクリックします。

relatedlinks
概念
概念: 科目（887ページ）
概念: マトリクス レポート（180ページ）
概念: 科目のタイプ設定（893ページ）
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）

ステップ: 異常値レポートの作成

始める前に

- 異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）.
- 異常検出予測の生成（739ページ）.
- 計画バージョンが 1 つ以上ある。 sを参照してください。
- セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

異常検出では 、機械学習アルゴリズムを使用して予測バージョンの値を予測します。異常値レポートを使用して以下を行います。

- 予測値と計画値を比較します。
- 条件付き書式設定を利用して定義した異常値にフラグを立てます。

この予測バージョンには為替レートおよび連結比率が含まれていないため、報告される以下の値に影響する可能性があります。

- 組織の合計
- 差異

注 : シートでは事前設定された範囲に基づいて異常値が検出されるため、レポートでフラグを立てた異常値はシートの異常値と一致しません。

手順

1. 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）.
2. 異常値レポートに行を追加します。（238ページ）.
3. 異常値レポートへの列とパラメータの追加（240ページ）.
4. 異常値レポートへの上限と下限の追加（240ページ）.
5. ツールバーで "レポートを保存" > "保存して実行" をクリックします。

relatedlinks
概念
概念: 科目（887ページ）
概念: 科目のタイプ設定（893ページ）
タスク
ステップ: 異常検出の設定（734ページ）
異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）
異常検出予測の生成（739ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

異常値レポートへの列とパラメータの追加

始める前に

セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

異常値レポートの列に時間およびバージョンを追加すると、以下のことが可能になります。

- 予測を別の計画バージョンの横に表示する。
- 指定した期間で各科目の値を比較する。

バージョンはレポート パラメータとして使用できます。それによってビューアーでは、さまざまな計画バージョンを選択して予測と比較できます。

手順

1. マトリクス レポートにアクセスします。
2. "要素" タブの "時間" をクリックします。
3. 任意の時間要素をレポートの列にドラッグ アンド ドロップします。
4. "要素に戻る" をクリックして、"バージョン" をクリックします
5. 予測バージョンをレポートの列の時間要素の下にドラッグ アンド ドロップします。
6. 同じ列の予測バージョンの後ろに、別の計画バージョンをドラッグ アンド ドロップします。
7. (任意) レポートの列から、任意のバージョンを "パラメータ" セクションにドラッグ アンド ドロップします。

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート（180ページ）
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）
マトリクス レポートへのパラメータの追加（201ページ）

異常値レポートへの上限と下限の追加

始める前に

セキュリティ: "レポートへのアクセス" 権限

このタスクについて

レポートの列に 2 つの差異計算を追加して、以下を表示できます。

- 計画と予測の差異
- 上限と下限の範囲外のデータ異常

その後、シートで必要に応じて値を調整することができます。

手順

1. マトリクス レポートにアクセスします。
2. "要素" タブの "計算" をクリックします。
3. "差異" 計算要素を予測バージョンと計画バージョンの後ろの列にドラッグ アンド ドロップします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. 計算要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
   次を参考にして、タスクを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ラベル | 計算について説明するラベルを入力します。<br>例: 差異 |
| 表示形式 | 差異金額をパーセンテージで表示するには、"パーセント" を選択します。 |

5. "適用" をクリックします。
6. 設定した差異の横に、別の "差異" 計算要素をドラッグ アンド ドロップします。
7. 計算要素を右クリックして "プロパティ" を選択します。
   次を参考にして、タスクを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ラベル | 計算について説明するラベルを入力します。<br>例: 異常値 |
| 表示形式 | 異常値をパーセンテージで表示するには "パーセント" を、金額で表示するには "値" を選択します。 |
| 条件付き書式設定 | 以下の条件に対して新しいルールを作成します。<br>• 次の値より大きい<br>• 次の値より小さい<br>• 次の値の間 |
| 表示 | 作成するルールごとに、アイコンを選択します。<br>例:<br>• 赤の旗を選択 データが上限または下限の範囲外であることを示します。<br>• データが許容範囲内であることを示す緑のフラグを選択します。 |

relatedlinks
概念
概念: マトリクス レポート ( 180ページ )
タスク
基本的なマトリクス レポートの作成 ( 197ページ )
マトリクス レポートへの差異の追加 ( 200ページ )
マトリクス レポートの条件付き書式設定 ( 218ページ )

## モデル レポート

### モデル レポートの作成

始める前に

セキュリティ:

- "レポートへのアクセス" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限

### このタスクについて

モデル レポートは、インスタンスのモデル シートからの情報を表示する一覧レポートです。 例: モデル レポートでは、社員の給与や福利厚生など、人員の詳細を表示できます。

モデル レポートの作成方法は次のとおりです。

- アクセス可能なモデル シートのリストからレポート用の要素を参照または検索する。
- 個々の要素または範囲を選択するか、カスタム選択を行う。
- 複数のモデル シートからのデータを組み合わせて層を作成する。 例: モデル レポートでは、"サービス収益" シートと "メンテナンス収益" シートのデータを組み合わせることができます。

モデル シートの属性特性は、レポート要素として追加できません。

モデル レポートの層には、以下の特徴があります。

- 層が作成されたシートの要素のみを含むことができる。
- 他の層で空白のデータを表示できる。 グレーの線は、異なるシートを表す層を区切る。

### 手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "新規追加" を選択し、"モデル" を選択します。
   レポート ビルダーが表示されます。
3. "シート" タブでモデル シートを展開し、使用可能なレポート要素を表示します。
4. レポートの "列" 領域に要素をドラッグ アンド ドロップします。
   "シート" 列に元のモデル シート名が表示されます。 最初、レポートには単一のモデル シートの要素を含む列の層が 1 つしかありません。
5. (任意) 列の層を他にも作成するには、"シート" タブで別のシートを展開します。このシートから "列" 領域に要素をドラッグ アンド ドロップします。
6. (任意) 層またはモデルの特定の列に対応する要素がない場合は、"空白スペース" 設計要素をその列にドラッグできます。
7. (任意) 科目または前提条件列の範囲を設定するには、列を右クリックし、コンテキスト メニューで "範囲" を選択します。要素プロパティ ダイアログの "範囲" タブが表示されます。

### 例

### 次のタスク

**参考:** モデル レポートのツールバー ボタンと右クリック アクション

### コンテキスト メニュー

レポート設計領域で要素を右クリックすると、当該要素に適用されるオプションのメニューが表示されます。次のオプションがあります。

| オプション | 説明 | 要素タイプ |
|---|---|---|
| 名前の変更 | 最上部の層にある要素に適用されると、生成されるレポートで列の名前が変わります。 | 最上部層のすべて |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 | 要素タイプ |
| --- | --- | --- |
| 形式 | ユーザーがヘッダーとこの列で生成されるデータの形式を指定できるようにします。また、表示と数字の形式設定オプションもあります。ヘッダーの種類によって次のタブが表示されることがあります。<br>• 表示: 形式設定オプションには、フォント サイズ、列の幅、太字、斜体、打消し線、下線、背景の色、フォントの色が含まれます。ヘッダーの形式を設定すると、表示される列のヘッダーが変更されます。データ領域の形式を設定すると、レポートのデータの各行でこの列に影響が出ます。<br>• 数値: 数千や数万の大きな数値をレポートで扱えるようにしたり、ゼロや負の数の表示形式を指定したり、数値の小数部桁数を設定したり、千の位の単位区切りを表示したりすることができます。詳細については 概念: 数値の形式設定を 参照してください。<br>• 範囲: 期間範囲を設定します。 | 任意 |
| 日付表示形式 | 要素が日付の場合は、オプションのドロップダウン リストから特定の日付形式を選択できます。 | 日付 |
| 範囲 | 科目または前提条件の表示されている値を計算する期間を指定します。デフォルトでは、選択範囲はレポートの基盤となっているバージョンの範囲全体になっています。 | 科目と前提条件 |

ビルダー ツールバー

レポート ビルダー領域の上部に位置するレポート ビルダー ツールバーはレポートの設計時に便利です。次のオプションがあります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 名前 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | 保存 | レポートが保存されます。メニュー (矢印アイコン) をクリックし、次を選択します。<br>• 保存 (デフォルト):レポートを保存したことがある場合、レポートは直ちに保存されます。保存したことがないときは、名前を付けて保存オプションを設定できる "名前を付けて保存" ダイアログが開きます。<br>• 名前を付けて保存: レポートの名前を変更し、出力、共有オプション、場所などを変更します。<br>• 保存して実行:変更内容を保存し、デフォルトの出力設定をもとにレポートを実行します。保存するのが初めての場合は、レポートを実行する前に名前を付けて保存するよう促すメッセージが表示されます。 |
| | 実行 | レポートを実行します。メニュー (矢印アイコン) をクリックして、レポートを実行するための形式設定を選択します。<br>• HTML で実行: レポートを実行し、生成されたレポートを同じウィンドウに表示します。<br>• 新しいウィンドウに HTML で実行: レポートを実行し、生成されたレポートを新しいウィンドウに表示します。<br>• Excel で実行: レポートを実行し、レポートを Excel™ ファイルとして保存するためのダイアログを開きます。<br>• PDF で実行: レポートを実行し、PDF ファイルとしてデスクトップにレポートをダウンロードします。 |
| | フィルタ | レポートのフィルタ ルールを定義します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 名前 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | レポートのプロパティ | レポート全体のレポート プロパティを設定します。<br>• 表示タブ: レポートの外観、たとえば、縦の線の表示、レポート情報、行番号、行数、フットノートとしてセル メモ、行の固定、列ヘッダーなどを定義します。<br>• 印刷パラメータ: Excel ファイルまたは PDF としてレポートを保存するときのパラメータを設定します。 |
| | プロパティの編集 | レポート設計領域で選択された要素のプロパティを変更します。<br>• "名前の変更" タブ: 列のタイトル名を変更します。<br>• "表示" タブ: 要素の外観、たとえば、列幅、ヘッダーのスタイル、本文のスタイルなどを定義します。<br>• 日付の表示形式: 日付要素の表示を定義します。このタブは日付要素でのみ使用できます。 |
| | 右へ移動、左へ移動、上へ移動、下へ移動 | 選択した要素を上下または左右に移動します。要素は関連付けられた層の中でのみ移動できます。 |
| | 削除 | レポートから選択した要素を除去します。 |

## Web レポートの書式設定

### マトリクス レポートの条件付き書式設定

#### 始める前に

セキュリティ:

- "個人レポートの作成" 権限
- "共有レポートの作成" 権限 (共有レポートの書式を設定するため)
- "すべてのレポートの変更" 権限 (任意のレポートの書式を設定するため)

#### このタスクについて

マトリクス レポートの可読性を改善するために、レポート値に基づいて書式設定ルールを設定できます。条件付き書式設定を使用すると、目的の値、パターン、トレンドをすばやく特定できます。マトリクス レポートは条件付きでのみ書式を設定できます。マトリクス レポートに条件付き書式設定を適用する場合、以下のいずれかに書式を設定できます。

- レポート全体
- 個別のレポート要素

レポートの条件付き書式設定は、表示や数値などのレポート形式設定と併せて使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

条件付き書式設定は、任意の行、列、スプレッドシート タブの要素に適用できますが、設計要素には適用できません。単一の行または列で重要な値を目立たせるために、異なる値に別の書式設定ルールを適用できます。1 つの要素に複数のルールを割り当てられます。以下には、条件付き書式設定を適用できません。

- フィルタの要素
- パラメータ
- セグメント

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. 条件付き書式設定を行うレポートを検索して変更します。
3. 以下のいずれかを実施します。
    - ツールバーの "レポートのプロパティ" を選択して、条件付き書式設定ルールをレポート全体に適用します。
    - 条件付き書式設定を行うレポート要素を右クリックし、"プロパティ..." を選択します。要素に合計値が存在する場合、条件付き書式設定は合計値にのみ適用されます。
4. "条件付き書式設定" タブを選択します。
5. 新しい条件付き書式設定ルールを作成する、または既存のルールを編集するにあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 値が次の場合 | 数値のみを入力します。<br><br>パーセンテージを入力する場合は、パーセント記号を使わず小数を使用します。例: 100% の場合は「1」、30% の場合は「0.3」と入力します。 |
| 要素合計のみに適用 | 要素の合計値にのみ条件付き書式設定ルールを適用します。書式設定は合計にのみ適用され、行と列の交差部分には適用されません。<br><br>例: レポートでは、6100 給与計算科目とその 3 つの子科目が行として表示されています。6100 給与計算要素にテキストを赤色で表示するルールを作成した場合、赤色のテキストは 6100 給与計算科目の合計行にのみ表示されます。3 つの子科目の行は赤色のテキストで表示されません。 |
| 表示 | • 標準: デフォルトでは "標準" が自動的に選択されます。 複数のルールが存在する場合、最後に "標準" ルールが適用されます。 "形式" セクションの残りの部分でテキストの書式を設定すると、その設定によってこの "標準" の選択がオーバーライドされます。<br>• 数値: 要素データを数値として表示します。<br>• 空白: 条件を満たす要素データに対して空白の値を表示します。このオプションは、実際のデータが重要でない場合に使用できます。例:"空白" オプションを使用して、セルの値や重要度を示す背景色を設定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • アイコン: 条件を満たす場合、要素データの代わりにアイコンを表示します。 |

6. "追加" を選択します。
7. (任意) 条件付き書式設定ルールを並べ替えて、ユーザーが優先する順序で適用されるようにします。
8. "適用" を選択して変更を保存します。

### 要素とレポートのプロパティの変更

プロパティを変更すると、以前に設定されたプロパティは、組織を問わず、常にオーバーライドされます。たとえば、ある単一要素のフォントの色を赤色に変更した後に、レポート全体のフォントの色を黒色に変更すると、すべてのフォントが黒色になります。逆の場合も同様です。レポート全体のフォントの色を赤色に変更した後に、ある要素のフォントの色を黒色に変更すると、その要素のフォントは黒色になり、残りのレポートのフォントの色は赤色になります。

### さまざまな組織でのプロパティの変更

レポートの外観と操作感を向上するには、レポート全体、各要素、要素グループで、プロパティを変更します。

1. レポート ビルダーで "プロパティ" メニューを開きます。
   - レポート全体については、"レポートのプロパティ" ボタンをクリックします。
   - 単一の要素については、その要素を右クリックして、レポート タイプに応じて、"プロパティ" または "形式" を選択します。
   - 複数の要素の場合は、"Control キー" を押しながら、同じ軸または同じ層の複数の要素を選択します。右クリックして、レポートのタイプに応じて "プロパティ" または "形式" を選択します。
2. タブをクリックして、"プロパティ" を変更します。レポートのタイプおよびプロパティへのアクセス方法に応じて、使用できるタブとオプションは異なります。
3. "適用" を一度クリックすると、複数のタブにわたるすべての変更が適用されます。
4. 変更を確認するには、"保存して実行" をクリックします。

### レポート表示の変更

レポートの "表示オプション" を変更すると、さらにレポートの読みやすさを向上することができます。たとえば、ゼロまたは空白の行と列を非表示にして、実際に値がある部分に焦点を合わせることができます。

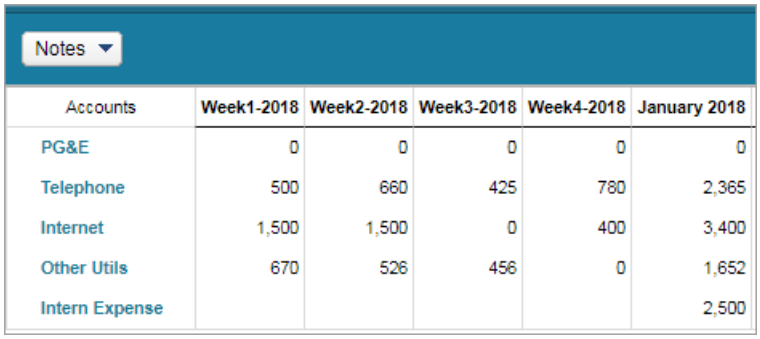
"レポートのプロパティ" ボタンをクリックして、"表示基準" タブをクリックします。

- 生成したレポートにレポート名をつけます。
- フィルタ条件や並び順などのレポート情報を表示します。
- "縦線を表示" を有効にします。
- HTML 出力の場合にのみ、数多くの列が表示されるレポートの "行ヘッダー" と "列ヘッダー" を固定することができます。

| | |
| --- | --- |
| ゼロおよび空白の表示の管理 | 対応するシートのセルに入力された値がゼロの場合、または対応するシートのセルに値がまだ入力されていない場合、ゼロが表示されます。<br><br>データのクロスセクションが存在しない場合、空白が表示されます。これは、科目の時間設定が列の時間設定より荒いことが原因で発生する場合があります。たとえば、インターン費用科目は、月次データ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

です。この科目には週単位のデータがないため、週単位の列は、空白で表示されます。




| Accounts | Week1-2018 | Week2-2018 | Week3-2018 | Week4-2018 | January 2018 |
|---|---|---|---|---|---|
| PG&E | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Telephone | 500 | 660 | 425 | 780 | 2,365 |
| Internet | 1,500 | 1,500 | 0 | 400 | 3,400 |
| Other Utils | 670 | 526 | 456 | 0 | 1,652 |
| Intern Expense | | | | | 2,500 |

レポートでのゼロの表示を管理するには、以下の手順に従います。

1. "表示" タブで、以下のチェックボックスをオンにします。
    - データがない行やすべてゼロの行を非表示にする場合は、"すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" チェックボックス
    - データがない列やすべてゼロの列を非表示にする場合は、"すべてゼロまたは空白の場合は列を表示しない" チェックボックス
2. "数字" タブをクリックして、"ゼロを表示" ドロップダウンで "科目のフォーマットを使用する"、"0"、"-"、または "空白" を選択します。
3. "適用" をクリックします。
4. 保存して、レポートを実行します。

列と行の要素のプロパティは、レポートの設定をオーバーライドします。各要素のゼロの管理方法は、以下のとおりです。

1. "要素" を右クリックして、"プロパティ" を選択します。
2. "数字" タブをクリックして、"ゼロを表示" ドロップダウンで "科目のフォーマットを使用する"、"0"、"-"、または "空白" を選択します。
3. "適用" をクリックします。
4. 保存して、レポートを実行します。

ヒント : ベスト プラクティス: ゼロを 「0」または「-」で表示して、ゼロの値と無効なデータ ポイントとを区別します。

### 列およびデータの形式設定

レポートでの列の表示オプションを設定します。ツールバーで "レポートのプロパティ" をクリックして、"スタイル" タブをクリックします。該当列を右クリックして、メニューで "プロパティ" を選択することもできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

すべての列とそのデータ要素について、以下の変更ができます。

- ピクセル単位での列幅の設定
- フォント サイズ、スタイル、バックグラウンド、フォントの色などに関する列ヘッダーと本文 (データ) の表示形式の設定
- 選択した列が数値の場合、"合計セル" 形式の設定

### 日付表示オプションの設定

日付の列には、日付フォーマットを指定できます。たとえば、トランザクション レポートの "計上日" を「2020 年 1 月 18 日」または「20/1/18」の形式で表示することができます。

ツールバーで "プロパティの編集" をクリックして、"日付の表示形式" タブをクリックします。あるいは、該当列を右クリックして、メニューで "日付表示形式" を選択して、このダイアログを表示します。

### 数値表示オプションの設定

レポートの "表示オプション" は、"要素のプロパティ" ダイアログで設定します。数値データを使用する列では、以下を設定できます。

- ゼロの値を含むデータの表示方法の指定
- 3 桁ごとの区切り記号の表示または非表示
- 正確な値を表示するための小数点の小数点以下の桁数、または千単位、百万単位、10 億単位を設定します。
- 負の数の表示形式の設定

ツールバーで "レポートのプロパティ" をクリックして、"数字" タブをクリックします。このダイアログを表示するには、該当列を右クリックして、メニューで "プロパティ" を選択することもできます。

トランザクション金額の合計など、数値を使用する列の合計セルの表示オプションを設定することができます。数値列の "合計セル" を右クリックして、"形式" または "通貨" をクリックします。

合計の表示オプションの設定は、数字列と同様です。"通貨タブ" で通貨を設定できます。

### フィルタの設定

モデルやトランザクション レポートを作成する際、"フィルタ条件" を設定して、結果をデータの特定のサブセットに絞り込むことができます。たとえば、レポートを「あ」で始まる名前で、サービスが「固定入札」の顧客に絞り込むことができます。

フィルタを使用して絞り込みを行う際に入力するテキストについては、大文字と小文字は区別されません。

ツールバーで "フィルタ" をクリックします。"フィルタを管理" ダイアログが開きます。この "フィルタ条件" は、レポート タイプにより異なりますが、手順は基本的に同じです。

1. (モデル レポートのみ) "レポートのバージョン" ドロップダウンで、非表示でない任意の "バージョン" を選択します。
2. (モデル レポートのみ) 複数のモデル シートを使用しているレポートの場合、ドロップダウンでフィルタを適用するシートを選択します。
3. フィルタ基準の対象列を選択し、フィルタ条件を選択して、値を入力します。たとえば、「あ」で始まる "顧客" 列のフィルタを定義します。
4. さらにフィルタ条件を追加するには、プラス アイコンをクリックすると、新しいフィルタ行が「AND」ステートメントとして表示されます。追加のフィルタ条件を定義します。
5. フィルタ セットを追加するには、"グループを追加" をクリックします。新しいフィルタ行が「OR」ステートメントとして表示されます。
6. "適用" をクリックします。

フィルタ条件に一致する有効なデータがない場合でも、エラー メッセージは表示されず、レポートを実行してもデータが表示されないだけです。求める結果が得られるようにフィルタを調整します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

概念: 数値の形式設定

データ タイプが数値、通貨、パーセントであるあらゆるレポート要素の数値形式を設定します。数値形式設定は、テキストや日付のような数値以外の値には影響せず、シート上のデータにも影響しません。

数値形式設定が使用可能な場所: マトリクス、モデル、トランザクション レポート

数値の形式設定

1. 要素を右クリックしてメニューから "形式" を選択します。
2. "数字" タブで要素の数字形式設定を行います (形式設定のオプションは下記で説明します)。
3. 変更をプレビューし、"適用" をクリックして変更を保存します。

レポートの競合する数値形式

数値形式設定が競合する要素がレポート上で交差する場合、数値形式設定を持つ要素の形式設定は、科目要素の形式設定をオーバーライドします。

科目ではない 2 つの要素については、次のようになります。

- 内部階層の要素は、外部階層の要素の形式設定をオーバーライドします。
- 行要素は列要素の形式設定をオーバーライドします。
- 列要素は、スプレッドシート要素の形式設定をオーバーライドします。

数値形式が交差するが、競合しない場合は、レポートは両方の形式をマージします。

ゼロの表示形式設定

次のオプションがあります。

- 科目の形式を使用する: ゼロはレポートの形式設定で使用する要素に共通した科目に選択されたゼロの表示オプションによって形式設定されます。このオプションはマトリクス レポートで科目以外の要素を形式設定しているとき、および科目以外の要素のデフォルト値の場合にのみ表示されます。
- 0: レポート上、ゼロは「0」として表示されます。デフォルト。
- -: レポート上、ゼロはダッシュ「-」として表示されます。
- 空白: レポート上、ゼロは空のセルとして表示されます。セルにデータがない場合、セルは自動的に空白で表示されます。

小数部桁数の形式設定

次のオプションがあります。

- 科目の小数部桁数を使用する: "モデリング" > "モデル管理" > "科目" ページの順にアクセスし、"科目詳細" セクションで小数点の位置の設定を使用します。キューブ科目の場合、キューブ シート ビルダーのキューブ科目ページを使用します。このオプションは科目要素を形式設定しているとき、およびそれが科目要素のデフォルト値の場合にのみ表示されます。
- 科目の形式を使用する: レポートで形式設定しようとしている要素と共通する科目の小数部桁数設定を使用します。このオプションはマトリクス レポートで科目以外の要素を形式設定しているとき、および科目以外の要素のデフォルト値の場合にのみ表示されます。
- -9 から 9: 科目と科目以外の数字要素に使用する小数部桁数を選択します。
    - 正の数の小数部桁数: 正の数は表示する小数点以下の桁数を意味します。たとえば、小数部桁数を 2 にすると、小数第 2 位まの桁を表示することを意味します。
    - 負の数の小数部桁数: 負の数は、小数点の左側の数字を、指定した桁数に四捨五入することを示します。たとえば、小数部桁数 -2 にすると、すべての値が四捨五入されて 100 の位にまとまります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

千の位の区切り **(,)** 書式設定

次のオプションがあります。

- 科目の形式を使用する: 数字は形式設定する要素と共通する科目に対して選択された、千の位の区切りで形式設定されます。このオプションはマトリクスとトランザクション レポートで、科目以外の要素に使用可能であり、科目以外の要素にはデフォルトです。
    - 千の位の区切りを表示する: ブラウザーの口ケールに指定されている設定で表示されます。これは科目要素のデフォルト設定になります。
    - 千の位の区切りを隠す: 数値は千の位の区切りなしで表示されます。

表示単位の形式

次のオプションがあります。

- 科目の形式を使用する: 数字は形式設定で使用する要素に共通した科目に選択された表示単位の形式になります。このオプションはマトリクス レポートで科目以外の要素を形式設定しているとき、およびそれが科目以外の要素のデフォルト値の場合にのみ表示されます。
- 値を表示する: データベースに格納される際、数値を表示します。これは科目要素のデフォルト設定になります。
- 千単位で表示する: 数値は 1,000 で割った千単位の数字で表示されます。
- 百万単位で表示する: 数値は 1,000,000 で割った 100 万単位の数字で表示されます。

負の数の形式設定

次のオプションがあります。

- 自動設定された文字の色で負号付き: 負の数は表示形式タブに示された文字の色で負号とともに表示されます。
- 赤字: 負の数は赤色の文字で表示されます。
- 自動設定された文字の色でかっこ付き: 負の数は表示形式タブに示された文字の色でかっこ付きで表示されます。
- 赤文字でかっこ付き: 負の数は赤文字とかっこ付きで表示されます。

これらのオプションの表示例:

```
-123.46
123.46
(123.46)
(123.46)
```

**概念: Web レポートの書式設定**

複数の書式設定タイプ (表示、数値、条件付き) を 1 つの要素に設定することができます。1 件のレポートの多くの要素には異なる書式設定が組み合わせられていることがあります。書式設定オプションに競合がなければ、いずれもマージされます。書式設定オプションが競合する場合は、競合する書式設定を解決するための予測型の手段が用意されています。次にレポートの書式設定の優先順序を示します。

- 要素に適用される書式設定は、グローバルのレポート書式設定より優先されます。
- 条件付き書式設定は、数値形式より優先されます。
- 数値形式は、表示形式より優先されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

# レポートのスケジューリング

## スケジュールの作成

### 始める前に

- 共有マトリクスまたはモデル レポート
- セキュリティ:
  - "共有レポートの作成" 権限
  - "レポート スケジュールの作成" 権限
  - "通知の送信 " 権限 この権限は、自分以外の他のユーザーに通知する場合にのみ必要です。

### このタスクについて

共有またはお気に入りのレポート フォルダから、以下をスケジュールできます。

- オプションの通知があるマトリクスおよびモデル レポートのスナップショット。
- ライブ マトリクスとモデル レポートの通知

すべての通知には、既存のライブ レポートまたはスナップショット レポートへのリンクが含まれます。

スケジュールされたスナップショットには、受信者ではなく、スケジュール作成者のアクセス権に基づいたデータが表示されます。

作成できる最大数は以下のとおりです。

- インスタンスごとに 100 件のスケジュール。
- 同時に実行する 20 件の同時スケジュール

### 手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "共有 " フォルダで、マトリクス レポートまたはモデル レポートの "アクション" メニュー (縦の 3 点ドット) をクリックし、"スケジュールの作成"を選択します。
3. 名称、スケジュール、時間などのスケジュールの詳細を指定します。 終了日を選択してスケジュールを期限切れにし、未使用のスケジュールを最小限に抑えます。

   Adaptive Planning では、次の値が自動入力されます。

   - レポート名に "Schedule -" がプレフィックスとして追加されます。
   - ローカル タイムゾーン
4. "アクション"で、これらのオプションのいずれかを選択し、"次へ"をクリックします。
   - スナップショットを作成
   - ライブ レポート通知を送信
5. (任意)"スナップショットを作成" オプションを選択した場合は、スナップショットの詳細を指定します。 このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 送信先 | スケジュールされたスナップショット レポートの受信者 (ユーザー、グループ、または組織) を指定します。受信者を指定しない場合、スケジュール担当者のみがレポートのスナップショットにアクセスできます。 |
| スナップショット名 | スケジュールされたスナップショット レポートの名前を指定します。 |
| デフォルト出力 | レポートを表示する形式を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 組織パラメータ オプション | レポートに組織パラメータが含まれている場合は、このオプションを選択すると、ライブ レポートから最大 500 までのすべての組織がスナップショットに含まれます。 |
| 給与情報を含む | このオプションを選択すると、ユーザーが "給与詳細にアクセス" 権限を持っている場合にのみ、スケジュールされたスナップショット レポートを表示できるようになります。 |
| 保存先 | スケジュールされたスナップショット レポートの保存先の共有フォルダを選択します。 |
| 通知 | 指定した受信者にレポート内容の結果を通知するオプションを選択します。通知しない場合、スナップショット レポートは指定した共有フォルダの場所から使用可能になります。 |
| メッセージ | 通知を送信する場合は、スケジュールされたスナップショットの受信者への通知に含めるメッセージを指定します。 |

6. (任意)"ライブ レポート通知を送信" オプションをオンにした場合は、受信者を選択し、通知のメッセージを指定します。
7. "保存" をクリックしてスケジュールを保存します。

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: レポートのスケジューリング（256ページ）
概念: Web レポート（156ページ）
参考
参考: 利用可能な権限（1409ページ）

スケジュールの管理

始める前に

セキュリティ:

- "レポート スケジュールの作成" 権限
- "すべてのレポート スケジュールの管理" 権限 (管理者のみ)

このタスクについて

"スケジュール" フォルダから、レポートのスケジュールを管理できます。スケジュールのリストを検索してソートできます。

スケジュールされたスナップショットを削除しても、関連付けられているスケジュールは削除されません。スケジュールのあるライブ レポートを削除すると、以下のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- スケジュールを削除する。
- すでに作成済みの、以前のスナップショットは削除されない
- 今後のスナップショットは作成されない

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "スケジュール" フォルダでスケジュールの "アクション" メニュー (縦の 3 点ドット) をクリックし、オプションを選択します。 このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| スケジュールを編集 | 所有するスケジュールを更新する。 |
| ライブ レポートを検索 | スケジュールに関連付けられているライブ レポートに移動します。 |
| スナップショットを検索 | 以前にスケジュールしたすべてのスナップショットを検索します。 古いスナップショットを複数選択して削除できます。 |
| 履歴を表示 | 以前にスケジュールされた職務および処理中の職務と、それらのステータスを表示します。失敗したジョブについては、失敗の理由を確認できます。 |

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: レポートのスケジューリング（256ページ）
概念: Web レポート（156ページ）
タスク
スケジュールの作成（252ページ）

スケジュールされたレポートを添付ファイルとして送信

始める前に

- "一般設定" の管理ページで、インスタンスに対して以下のオプションを選択します。
  - スケジュールされた通知で添付ファイルを有効にする
  - (任意) 添付ファイルへのパスワード保護を必須にします。このオプションを選択した場合は、パスワードを指定し、添付ファイルを受け取るエンド ユーザーと共有する必要があります。
- Workday と Adaptive Planning の間でユーザー同期を設定した場合は、添付ファイル付きの E メールを受信するように通知も設定する必要があります。ステップ: Workday 通知の設定を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:
  - "レポート スケジュールの作成 " 権限
  - "通知で添付ファイルを送信 " 権限
  - (任意)"すべてのレポート スケジュールを管理 " 権限。
  - *"Excel* にダウンロード " 権限スケジューラと受信者の両方にこの権限が必要です。
- 通知の受信者に E メール ID があることを確認します。

このタスクについて

E メール通知で、マトリクス レポートとモデル レポートを Excel 添付ファイルとしてスケジュールできます。 受信者は、E メール通知から添付レポートをダウンロードできます。 任意で、スケジュールにパスワード保護を適用することができます。その後、ユーザーはそのパスワードを入力して添付ファイルをダウンロードする必要があります。インスタンス レベルでパスワード保護を実施する場合、"パスワード保護" フィールドが必須として表示されます。後でパスワード保護を適用した場合、パスワードなしで作成した過去のすべてのスケジュールは失敗します。 その後でスケジュールを更新する必要があります。

以下が可能です。

- 送信者または受信者のデータ アクセスに基づいて、レポートの配布をスケジュールします。
- 受信者のデータ アクセス権を使用して、1 件のレポートを複数のユーザーにスケジュール設定および配布します。各受信者は、アクセス権に基づいて、レポートの独自のスライスを受け取ります。
- 特定のパラメータや属性に基づいてレポートを配布する。

  例: 組織をシート タブとして使用してデータを整理する繰り返しレポートを作成します。また、レポートの受信者が、表示させるデータにアクセスできるようにします。次に、受信者のアクセス権に基づいてこのレポートを配布するようスケジュールします。この場合、各受信者は、アクセス権のある組織またはシート タブのデータしか表示できません。

手順

1. メイン メニューから "レポート" を選択します。
2. "共有" フォルダまたは "お気に入り" フォルダで、マトリクス レポートまたはモデル レポートの "アクション" メニュー (縦の 3 点ドット) をクリックし、"スケジュールの作成"を選択します。
3. 名称、スケジュール、時間などのスケジュールの詳細を指定します。 スケジュールを期限切れにする終了日を選択してください。
4. "アクション"で "レポートを添付ファイルとして送信" を選択し、"次へ"をクリックします。
5. 添付ファイルの詳細を指定して保存します。以下のタスクを完了します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 送信先 | スケジュールされたレポート通知の受信者 (ユーザー、グループ、または組織) を指定します。 |
| メッセージ | 必要に応じて、受信者へのメッセージを指定する。 |
| パスワード保護 | ユーザーは Excel レポートをダウンロードできるため、任意で添付ファイルのパスワードを指定できます。インスタンス レベルでパスワード保護を実施する場合は、パスワードを指定する必要があります。E メールなど別のチャネルを使用して、このパスワードを受信者と共有します。 |
| デフォルト出力 | デフォルトでは、添付ファイルのあるすべてのスケジュールされた通知の出力は Excel です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | レポートにテンプレートが添付されている場合、デフォルト出力として "テンプレート" を選択できます。 |
| アクセス ルール | "送信者のアクセス" を選択すると、指定された受信者がスケジューラのデータ アクセスに基づいてレポート データを表示する権限が付与されます。<br>"受信者のアクセス" を選択すると、受信者のデータ アクセスに基づいてレポートを一括生成または配布できます。 |
| 確認 | 指定した受信者に、スケジューラのアクセス権に基づいてレポート データを表示する権限を与えていることを確認します。 |
| ライブレポートの URL を含める | スケジュールされた通知にライブ レポートへのリンクを含めるオプションを選択します。 |

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: Web レポート（156ページ）
参考
参考: 一般設定（1390ページ）
参考: 利用可能な権限（1409ページ）

概念: レポートのスケジューリング

レポートのスケジューリングにより、定期レポートを手動で選択したユーザーと選択して共有する必要がなくなります。レポートを定期的に生成する組織は、レポートの自動配布をスケジュールできます。

例: 財務アナリストは、実行委員会のメンバーについて毎月第 1 月曜日に損益計算書レポートを作成するようスケジュールします。ユーザーはサインイン方法に応じて、Adaptive Planning の E メールまたは Workday 通知を介して送信されたメッセージを受信します。E メールまたは通知からリンクされているレポートを開いてサインインすると、レポートを表示できます。必要な権限があれば、複数のユーザーが同じレポートをスケジュールできます。

スケジュールされたジョブの失敗

レポート用にスケジュールされたジョブが失敗すると、スケジュールの作成者に通知が届きます。通知には、失敗の理由が含まれる場合があります。スケジュールは次の理由で失敗することがあります。

- 関連付けられたスケジュールを含む共有レポートを "個人" フォルダに移動します。
- スケジュールの変更が必要となる方法でレポート定義を変更した。 例: レポート形式が HTML から繰り返しレポートに変更され、それによって出力タイプが Excel シートに変更されます。次に、関連するスケジュールが新しい形式と一致するように更新されます。
- スケジュール オーナーは Adaptive Planning から削除され、次にスケジュールされたジョブが実行されるとスケジュールは無効になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

スケジュール ステータス

スケジュールのステータスは次のとおりです。

- 進行中である。 定義された音程でスケジュールが実行されています。
- 非アクティブスケジュールの有効期限が切れています。
- 一時停止管理者またはスケジュール作成者がスケジュールを一時停止した。いつでも再開できます。
- 無効です。スケジュール オーナーが Adaptive Planning から削除されている。管理者はこのスケジュールを削除したり、別のスケジュールを作成したりすることができます。

relatedlinks
タスク
スケジュールの作成（252ページ）
スケジュールの管理（253ページ）
スケジュールされたレポートを添付ファイルとして送信（254ページ）

## レポートの FAQ およびトラブルシューティング

### FAQ: PTD レポートの列に科目の空白が表示されるのはなぜですか？

レポートに "累計 (PTD)" 列が空白で表示されている場合は、以下のオプションを確認してください。

- PTD 要素の "年間累計 "
- GL 科目の " 科目の時間層"

PTD 要素の要素プロパティをレビューするには、レポート ビルダーで要素を右クリックし、"プロパティ"を選択します。

科目の時間層をレビューするには、"モデリング > モデル管理" > "総勘定元帳科目" を選択し、科目の詳細を表示します。

モデル内の科目の時間層が、レポートの PTD 要素に対して選択した合計層と一致していなければなりません。これらのオプションが一致しない場合、レポート列には科目の空白が表示されます。

例: 2023 年 1 月時点で年間累計の 4000 売上高 GL 科目データをレポートに表示するとします。モデル内で "4000 売上高" 科目の科目の時間層が "月" として表示されていることを確認します。 レポート ビルダーで、"累計 PTD の時間要素の "年間 累計 (基準日)" フィールドで *"2023年1月"* を 選択します。

### FAQ: マトリクス レポートでどの年間累計値にドリルダウンできますか？

マトリクス レポートで値をドリルオンすると、"セルを探索" ウィンドウが表示されます。"セルを探索" を使用して、四半期や会計年度などの任意の月または月の合計にドリルダウンできます。レポートで不規則に生成された値にドリルインすることはできません。

例: 標準カレンダーの会計年度 (1 月 ~ 12 月) に、以下の値にドリルダウンできます。

- 1 月の年間累計 (シートで 1 か月をドリルダウンすることと同じです)
- 3 月の年間累計 (第 1 四半期にドリルインすることと同じ)
- 12 月の年間累計 (会計年度へのドリルインと同じ)

7 月の年初来をドリルダウンすることはできません。レポートは 7 か月のレポートで、不完全にロールアップされています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## 異なるバージョンからのさまざまな期間の小計の作成

### 質問

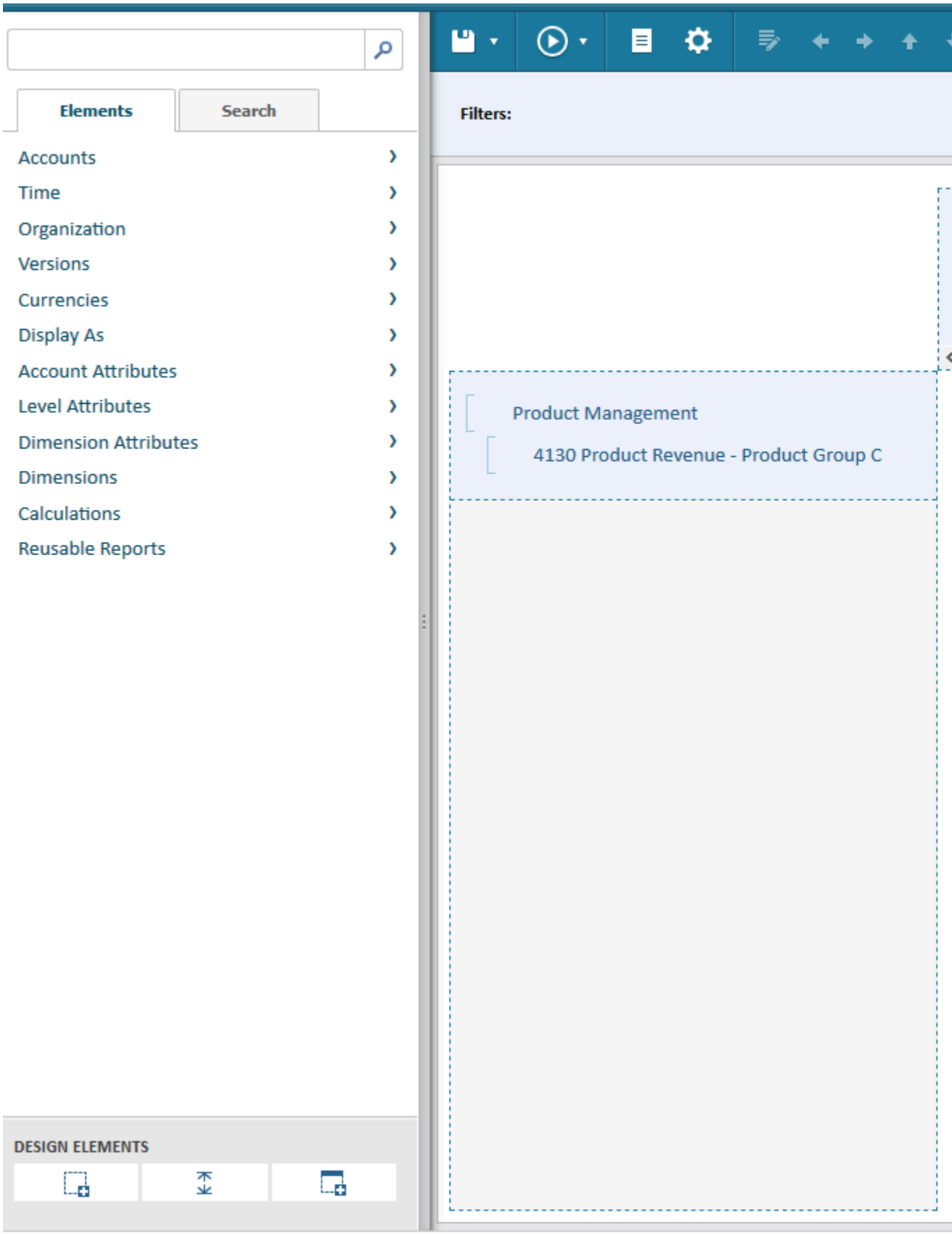
マトリクス レポートのさまざまなバージョンからさまざまな期間の小計を作成するにはどうすればよいですか？現在、異なるバージョンの異なる期間から値を小計する固有の方法はありません。たとえば、予算バージョンの特定の年度の最初の 6 か月を小計し、それらを予測バージョンの最後の 6 か月に追加する場合、この計算を行うための数式的な方法はありません。どのように表示しますか？

### 回答

はい、これはレポートの "表示形式: カスタム" 関数を使用して行うことができます。

すでに 2 つのセグメントが設定されており、1 つは 1 つの計画バージョンと最初の 6 か月で、2 番目のセグメントには別のバージョンの最後の 6 か月が含まれていると仮定すると、計算を含む 3 番目のセグメントを設定できます。この演習では、"表示形式: カスタム" および "差異" 要素を使用しま

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



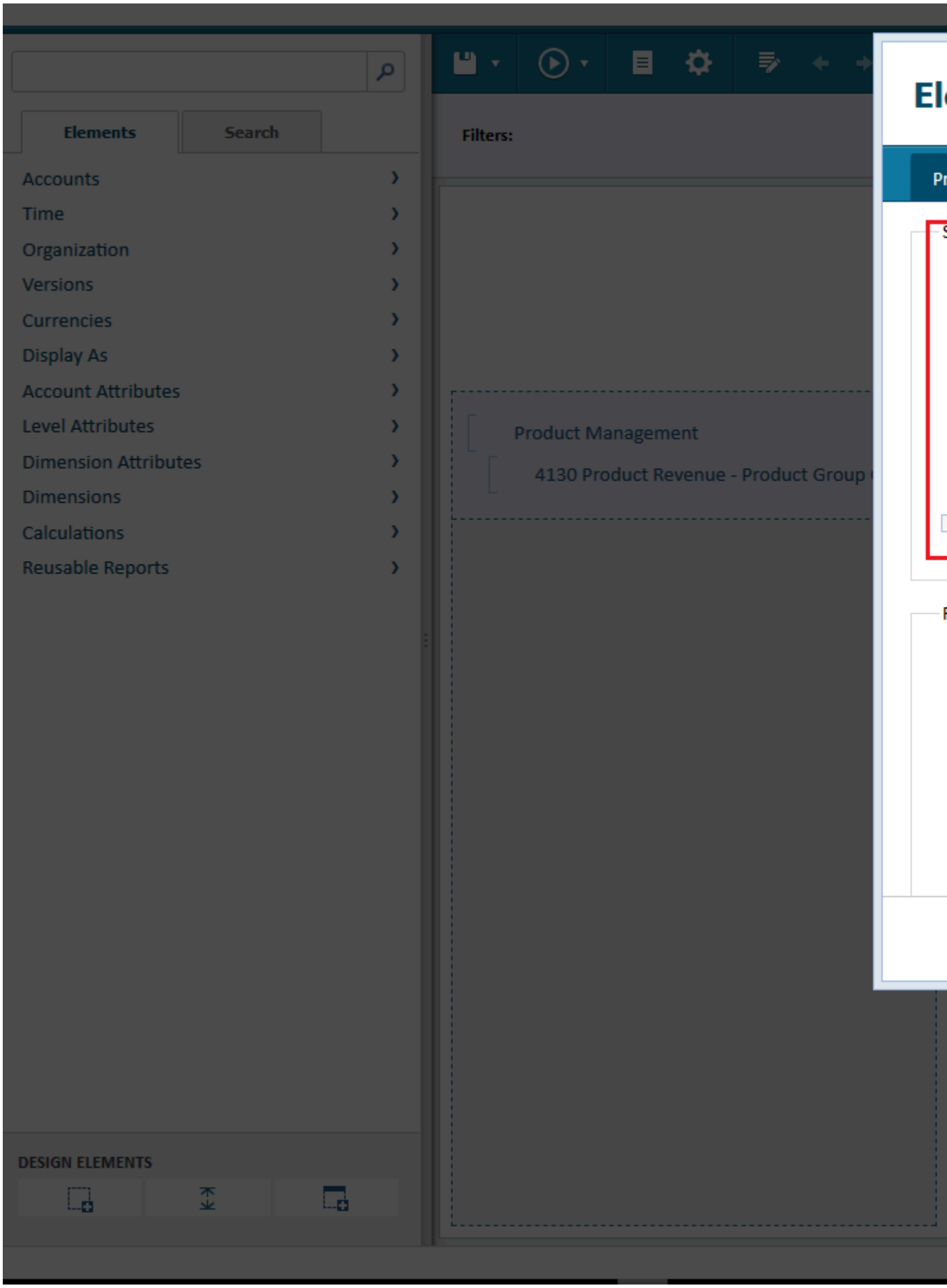

す。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

異要素に、合計する 2 つのバージョンを含めてください。"バージョンを差し引く" を 6 か月後にオフセッ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

トしてくださ

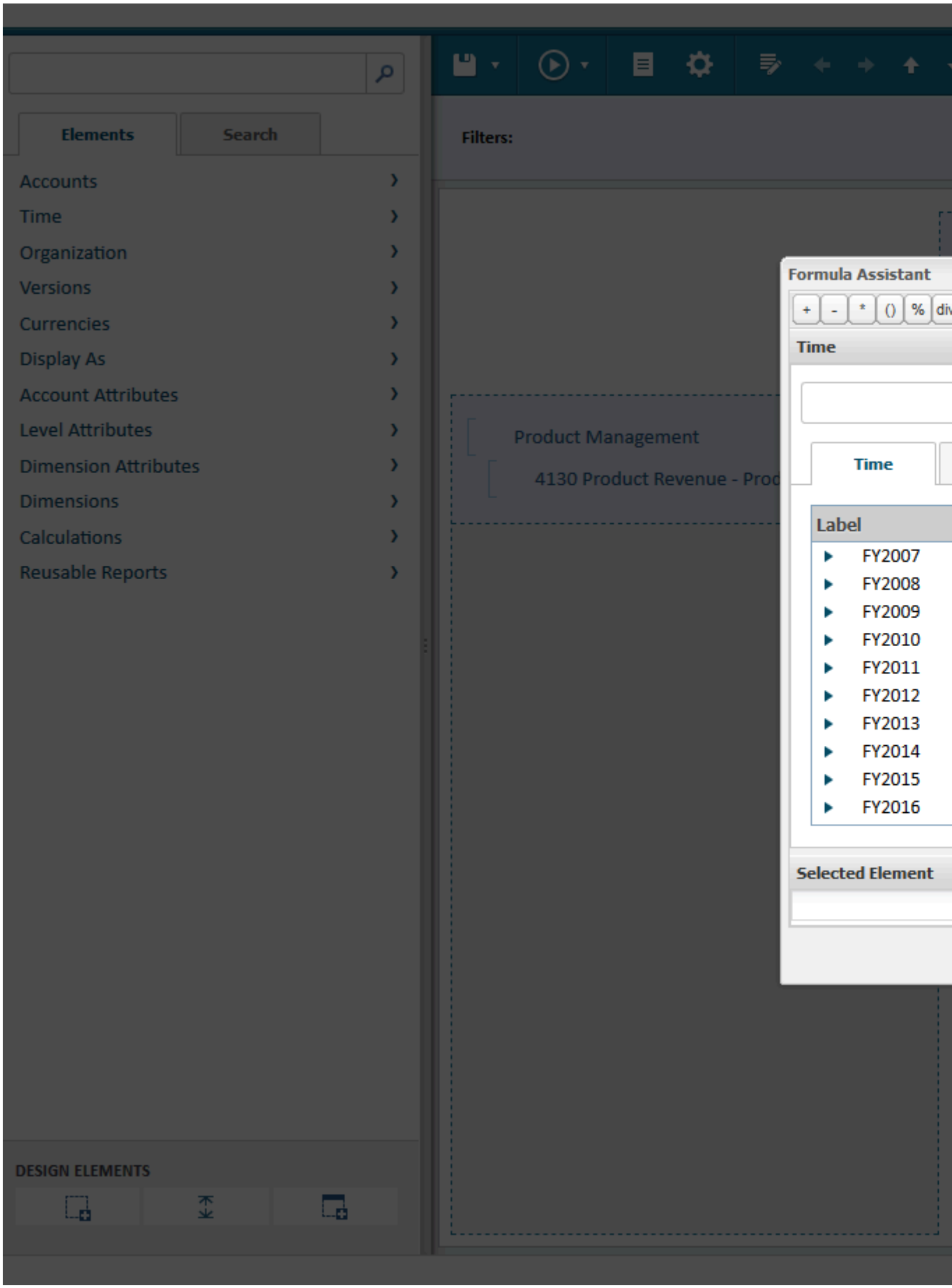



い。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次に、"差異" オプションの下にカスタム計算を配置して、過去 6 か月を合計します
が、"差異" の要素は相殺されているため、最初の 6 か月と最後の 6 か月が合計されま

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



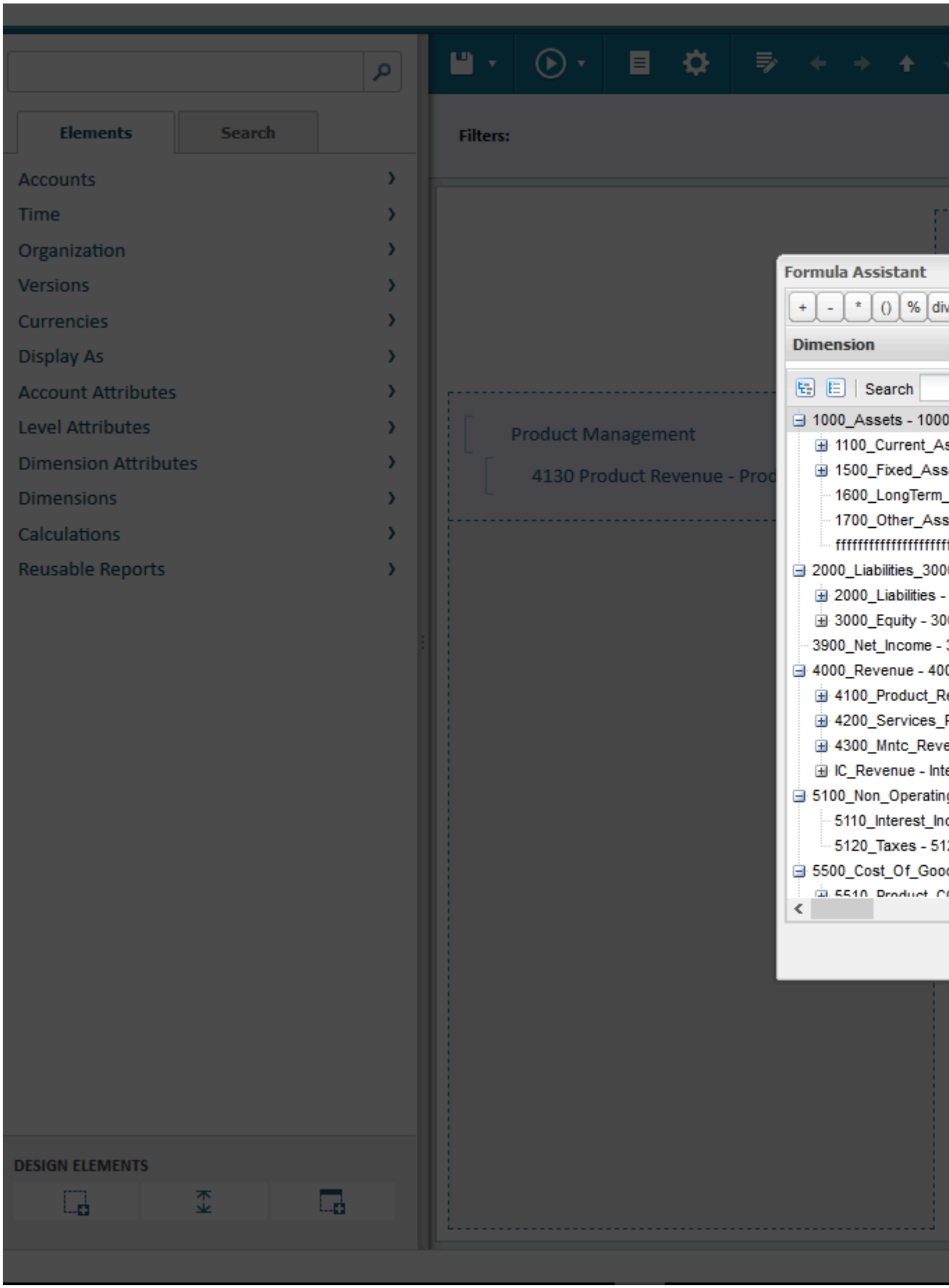

す。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

後に、3 番目のセグメントに "表示形式: カスタム" 要素を含める必要があります。この要素には数式も含めることができます。数式は次のようになります。if(this.version.name = "default

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

version", -ACCT.this, ACCT.this)。 "デフォルト バージョン" は、バージョンをオフセットす




る。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

基本的に、"差異" 要素は合計であるかのように見えています。差異を使用する理由は、単一の計算で 2 つの異なるバージョンを操作できるためです。ただし、現在のバージョンから別のバージョンの値を数式で参照することは通常不可能です。

## Excel レポートでのタイム スタンプの作成

質問

エクスポートされたレポートについて、レポートの名前、作成者、日時を入力する方法はありますか？たとえば、以下のように指定します。

2016 年 P&L サマリ

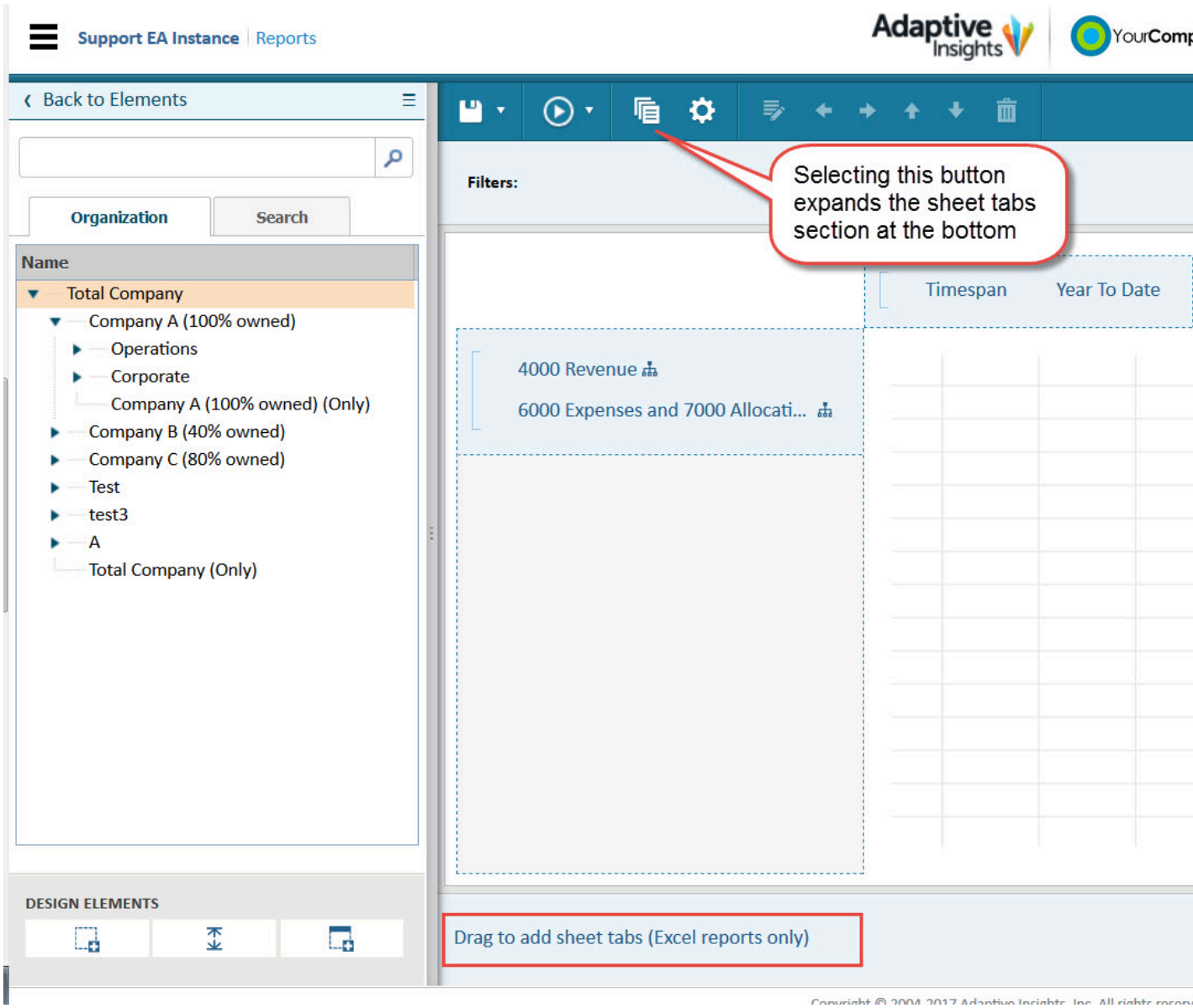
機密情報 - 配布しない

作成者: John Smith 2016/11/13 8:17 AM

回答

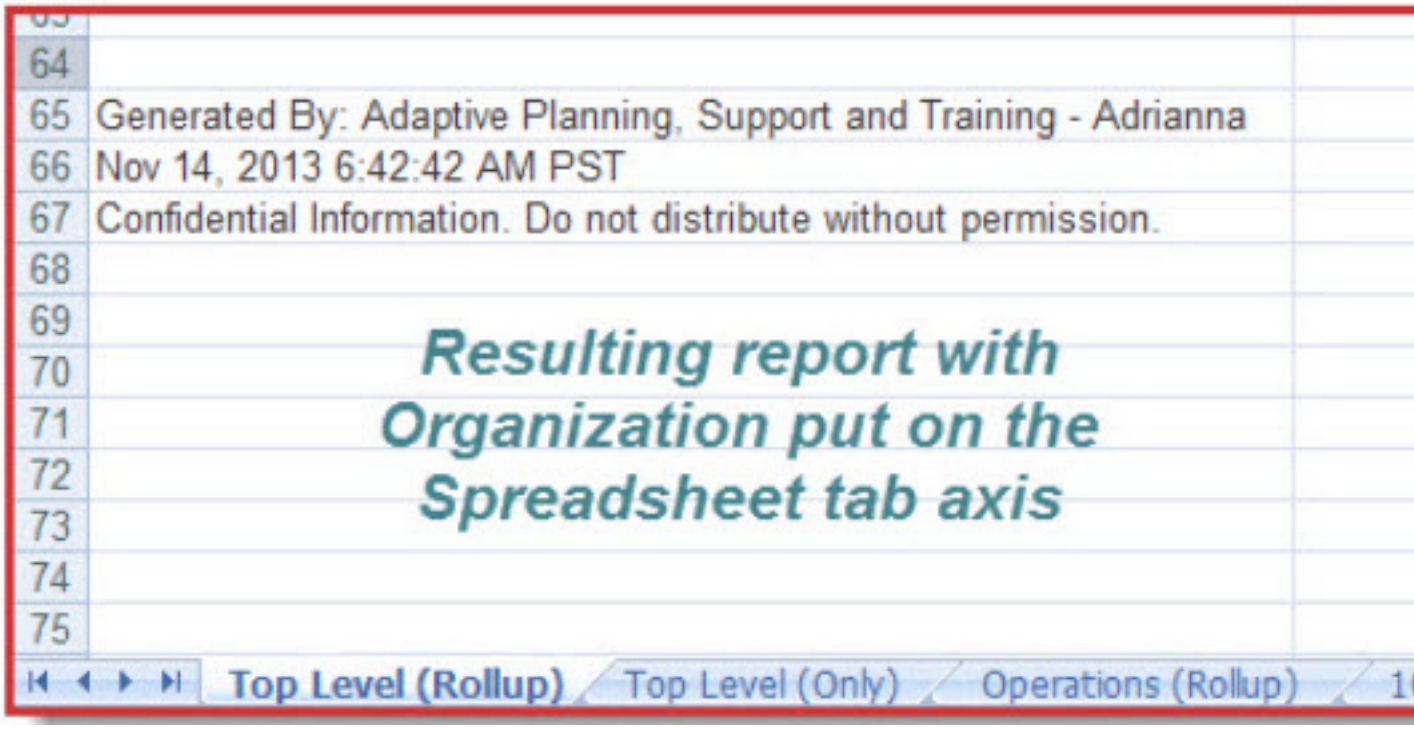
現在の機能では、繰り返しレポートのみが Excel にエクスポートされた場合にこのタイプの情報を表示します。繰り返しレポートは、レポート ビルダーのツールバーにある "繰り返しレポート" アイコンをクリックすることで作成できます。これにより、レポート ビルダーの下部に "スプレッドシート" タブが追加されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




この軸に要素を配置すると、レポートは軸の要素ごとに 1 つのタブを持つスプレッドシートになります。たとえば、スプレッドシートの軸に "組織" を完全に展開すると、構造内の組織ごとにタブが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



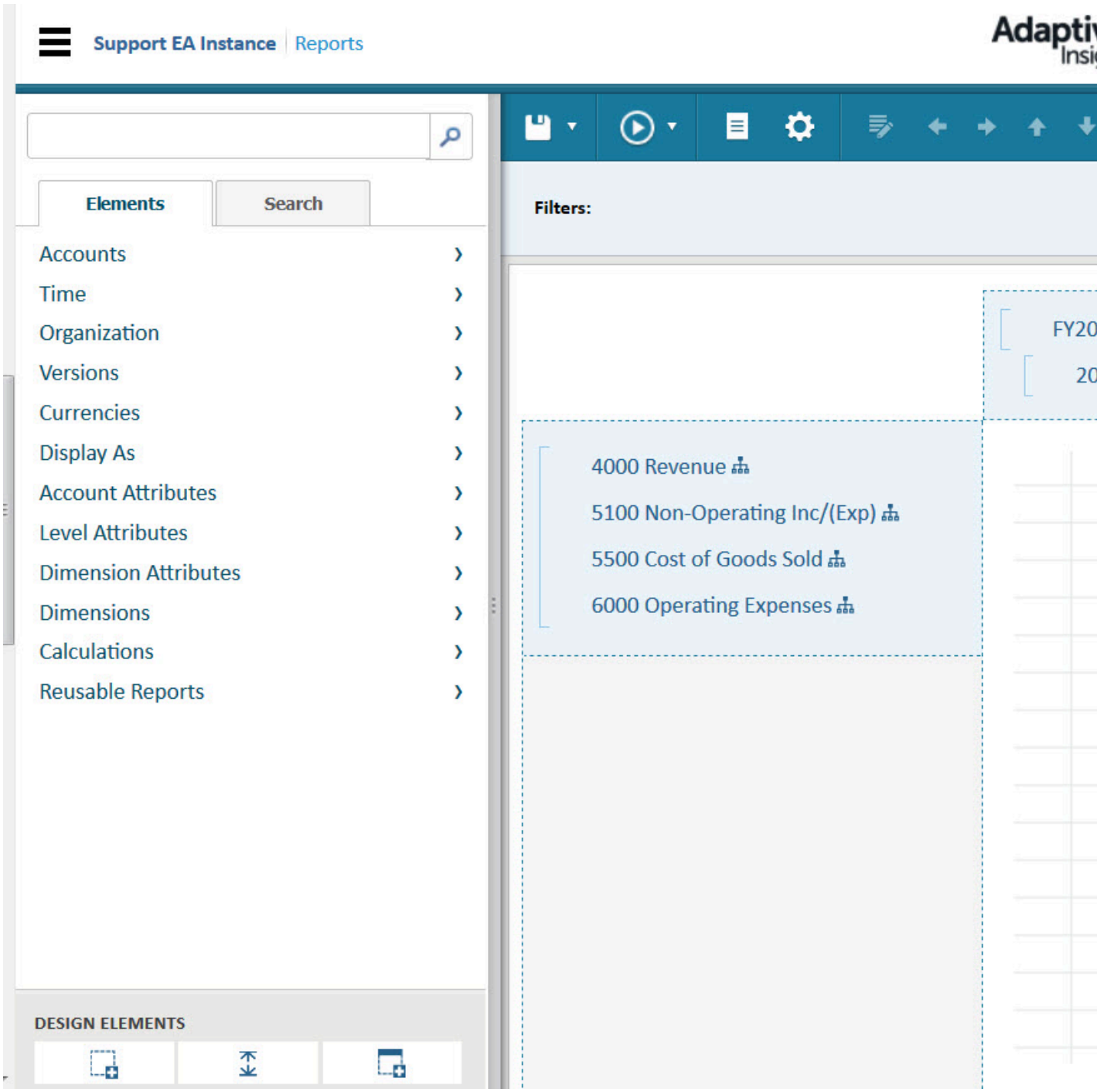

## 2 つの異なるバージョンと期間間の差異の作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

FY15 の合計予算を FY16 の合計予算と比較するレポートを作成しようとしています。これを行うために、2 つのセグメントが必要です。1 つは FY16 の時間でバージョンは "予算 2016"、もう 1 つの時間は FY15 でバージョンは "予算 2015" です。このレポートを完了するには、"差異" 列が必要ですが、Adaptive レポート内でそれを行うことができません。2 つの期間とバージョンにまたがる差異を作成する方法はありますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




回答

FY15 の 2015 年予算、FY16 の 2016 年予算、この 2 つのバージョンの差異を示すレポートを作成するには、1 つのセグメントを使用し、バージョンの 1 つを前後にシフトします。このレポートを作成するための手順は、以下のとおりです。

1. 2015 年予算と 2016 年予算の両方のバージョンを 1 つのセグメントに配置します。
2. セグメントまたはフィルタに "2015 年の時間" 要素を追加します。
3. "2016 年予算" バージョンを右クリックし、"プロパティ" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. バージョンを 12 か月先にシフトします。この方法を使うと、"予算" の 2015 年バージョンが 2015 年のデータを表示しているときに、"予測" バージョンのデータは 2016 年のデータが表示されます。
5. バージョンの横に "差異" 要素を追加します。
6. "差異" 要素を右クリックして "プロパティ" を選択し、"差異" 要素が適切な差異を作成していること、および "予算の 2016 年" バージョンが 12 か月後にシフトされていることを確認します。

結果として得られるレポートには 3 列が表示されます。1 つは 2015 年の予算、1 つは 2016 年の予算、および 1 つのバージョン間の差異を示したものです。

## レポート ブック内で動的に更新される PowerPoint の作成

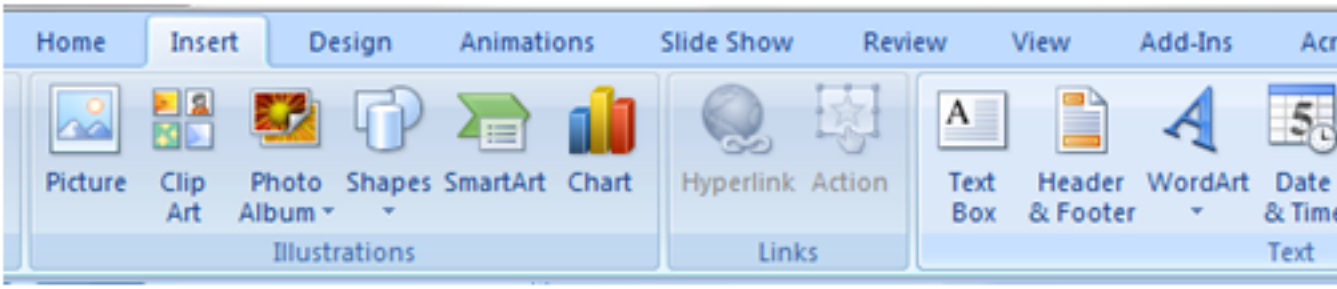
この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

レポート ブック内で動的に更新される PowerPoint を作成するにはどうすればよいですか？

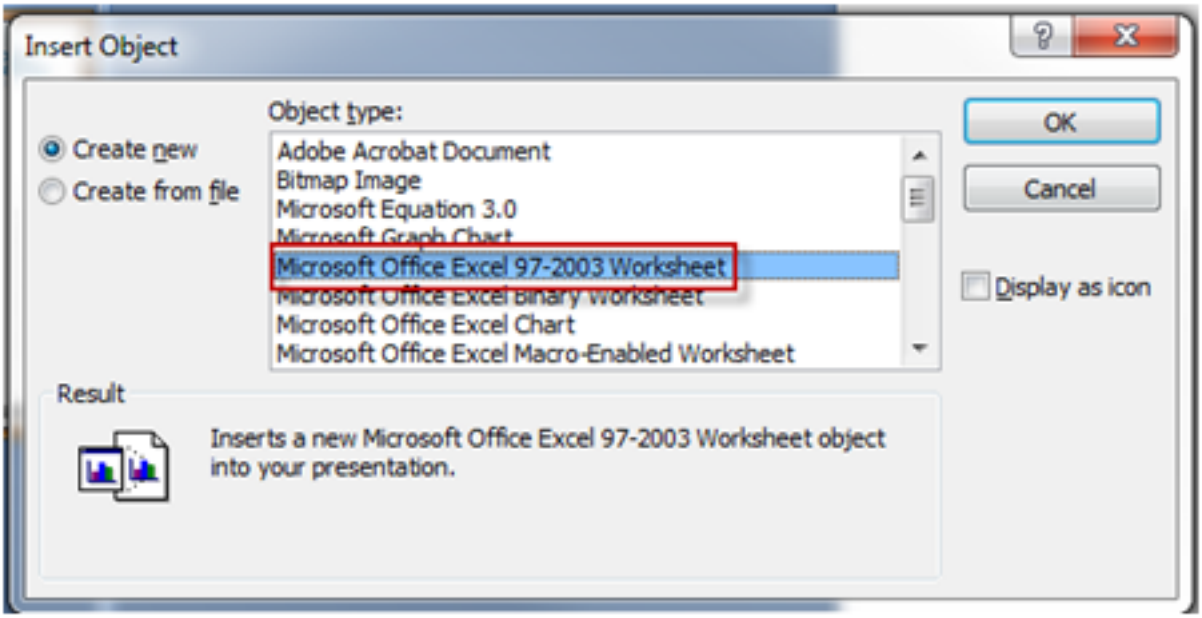
回答

1. Excel テンプレートを添付したマトリクス レポートを作成します (サンプル テンプレートが表示されています)。
    - 役に立つヒント: レポートの実行時に出力する月を選択できるように、ダイアログ表示レポートのパラメータを使用します。
2. レポートを実行し 、Excel ファイルをデスクトップに 保存します 。
3. PowerPointを開きます 。
4. "挿入 " リボンで "オブジェクト" をクリックします。

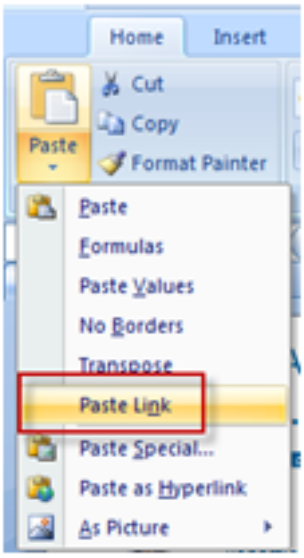



©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. "新規作成" が選択されていることを確認し、"Microsoft Office Excel 97-2003 Worksheet"を選択します。



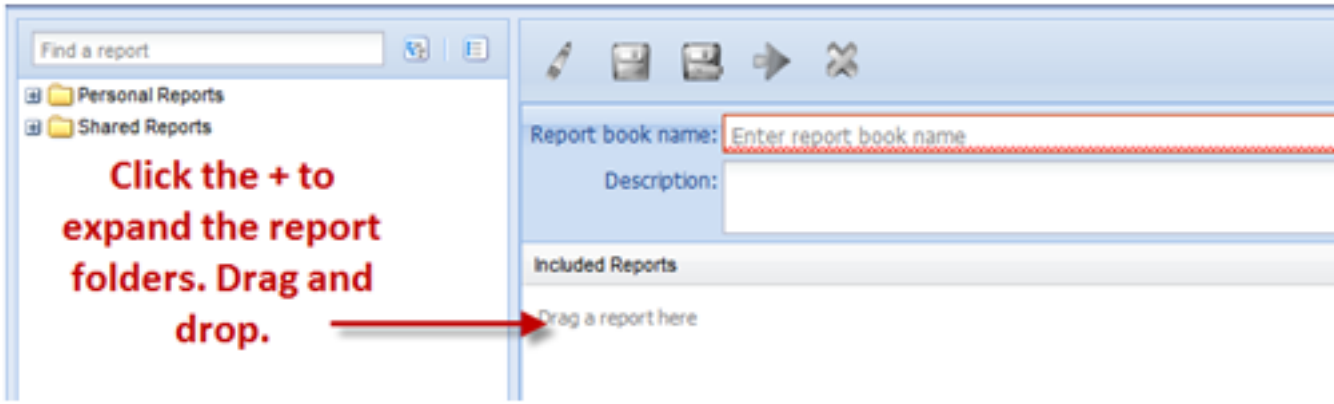

6. "OK" をクリックします。
7. Excel テンプレートの "レポート データ" タブをクリックし、PowerPoint に含めるセルの範囲をハイライトします。選択範囲をコピーします 。
8. PowerPoint に挿入したテーブルのセルをハイライトします。"ホーム " リボンで "リンクの貼り付け"を選択します。




9. PowerPoint に含めるセルの範囲に対して、ステップ 9 と 10 を繰り返します。
10. Excel テンプレートのリンクをコピーして PowerPoint のテーブルに貼り付けたら、PowerPoint を保存します 。
11. "新しいレポート" ドロップダウン メニューから "ファイルのアップロード" を クリックします。
12. ファイルに 名前を 付け、PowerPoint 用に参照します。
13. PowerPointを保存します 。
14. "新規レポート" ドロップダウンで "レポート ブック"を選択します。
15. ブックに "名称" を付けます。

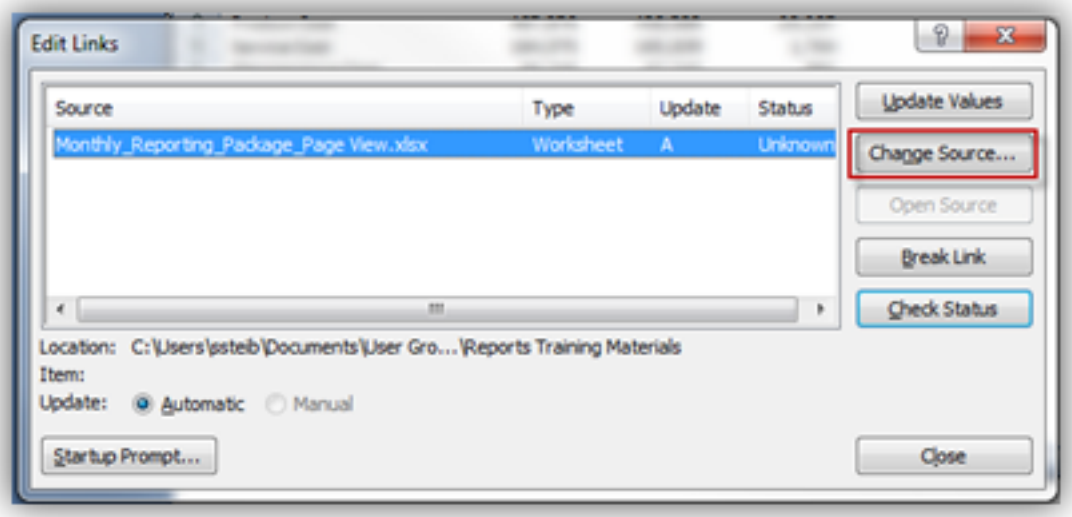
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

16. Excel テンプレート レポートと PowerPoint アップロード ファイルをレポート ビルダーにドラッグ アンド ドロップします。




17. レポート ブックを保存します 。
18. "レポート" タブをクリックし、作成したブックを探します。クリックして、任意の月のレポート ブックを実行します。
19. ZIP ファイルが開きます。Excel テンプレートと PowerPoint の両方を開きます。
20. Excel テンプレートをデスクトップに保存します (ステップ 2 で保存したテンプレートを置き換える場合は問題ありません)。
21. PowerPoint をデスクトップに保存します (ステップ 4 で保存したテンプレートを置き換える場合)。
22. PowerPoint で Excel テーブルをダブルクリックします。"データ " リボンで "リンクの編集" を クリックします。
23. "ソースの変更" をクリックして更新し、ステップ 21 で作成した Excel テンプレートを確認します。

    便利なヒント: レポート ブックを実行するたびにレポート出力を同じ場所に保存する場合、リンクを毎回更新する必要はありません。"すべてリフレッシュ"をクリックすることができます。




## Excel レポートとテンプレート レポートの違い

質問

レポートを "テンプレート" で実行することと、"Excel" でレポートを実行することの違いを説明できますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

それぞれ異なる形式になっています。たとえば、テンプレート実行としてレポートを実行すると、要約バージョンが表示されます。レポートを変更して (四半期の合計を追加するなど)、Excel で実行します。その場合、"テンプレートとして実行" を実行しても、それらの変更は取り込まれません。"テンプレートを変更する" 必要があると想定しています。これをより深く理解したいのです。

回答

テンプレートを使用すると、マトリクス レポートをさらに柔軟にフォーマットできます。テンプレートは Excel ファイルで、通常のマトリクス レポートや繰り返し使用するレポートに追加できます。テンプレートでは、フォントの色、フォント タイプ、背景の色などの書式設定を変更できます。Excel ファイルを保存し、テンプレートとしてレポートに添付できます。レポートを実行するたびに、データはテンプレートの書式設定で出力されます。ただし、テンプレートは、レポート ビルダーで変更が行われるたびに更新する必要があるため、管理が困難になることがあります。レポートを実行したときにテンプレートが自動的に更新されなかったのはこのためです。このトピックに関連するユース ケースについては、ユース ケース ライブラリの ユース ケース: Excel レポート テンプレートを使用した差異レポートの作成を 参照してください。

レポートを Excel にエクスポートすると、レポート ビルダーで指定した内容はすべて、レポート ビルダーで指定された書式設定で Excel に出力されます。一部のクライアントでは、レポートにテンプレートを添付して、ボード パッケージで表示できる、よりフォーマット済みのレポートを作成します。レポート ビルダーで行われた変更は、Excel にエクスポートすると自動的に取り込まれます。

## 繰り返しレポートのタブを **Excel** でヘッダーとして表示

質問

すべての部門が個別のタブで表示される繰り返しレポートがあります。レポートを印刷したときに、印刷されたものにタブ名は含まれません。部門名を追加してデータとともに印刷するにはどうすればよいですか？

回答

組織はレポートのスプレッドシート タブ領域に含まれているため、レポートの別の場所 (列軸など) に組織を表示することはできません。回避策として、Excel ファイルにワークシート タブの名前 (シナリオでは部門名) を表示するヘッダーを作成することをお勧めします。これは次の手順を実行することで実現できます。

1. Excel で "ページ レイアウト" > "ページ設定" > "ヘッダー/フッター" に移動します。
2. "カスタム ヘッダー" をクリックします。
3. 3 つのセクションのいずれかに「&[Tab]」 (かっこなし) と入力してください
4. "OK" をクリックして保存

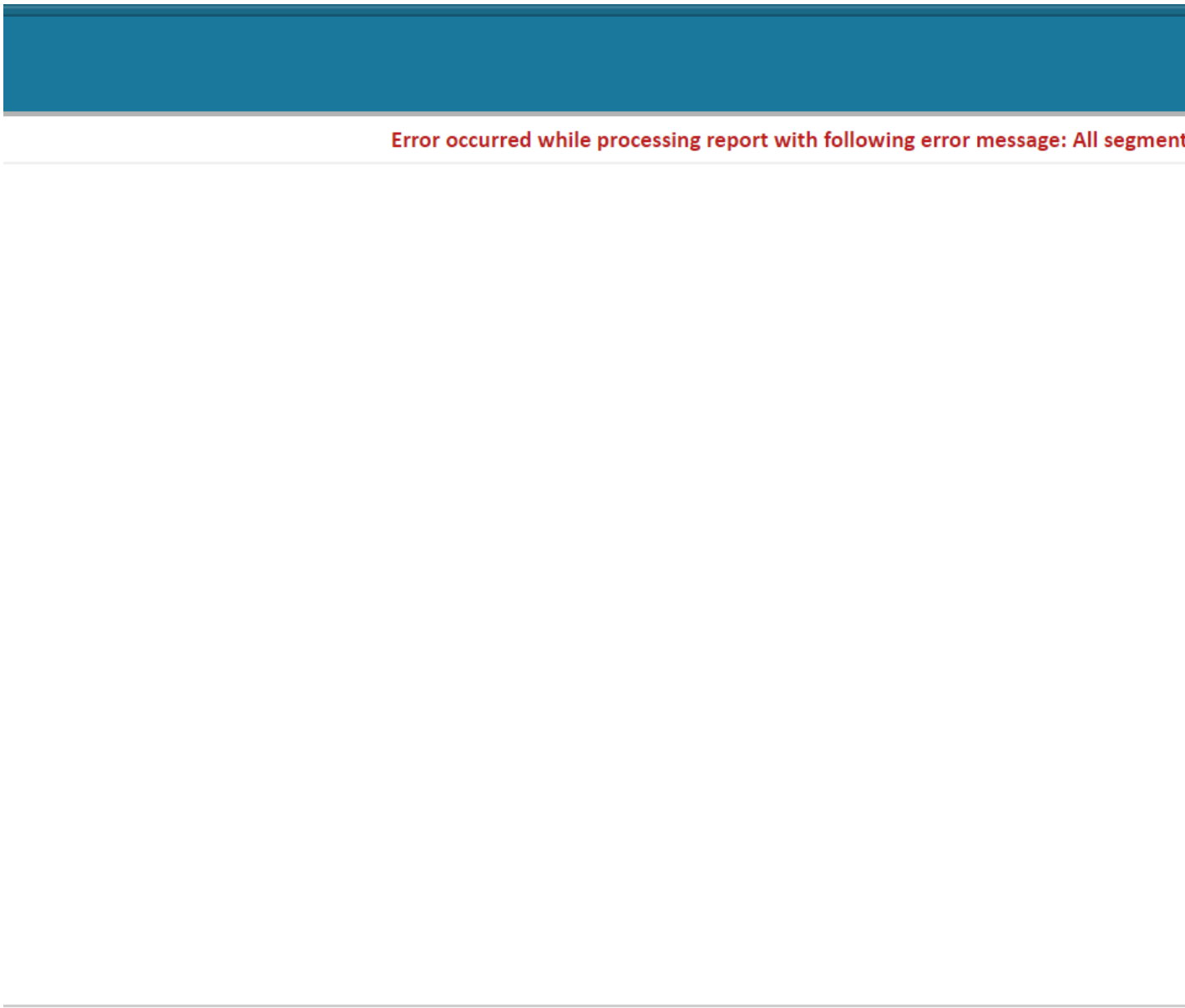
レポートがテンプレートとして作成されている場合、レポートを実行するたびにヘッダーが表示されます。Excel のすべてのタブにヘッダーをすばやく追加するには、単一のタブを右クリックして "すべてのシートを選択" を選択します。Adaptive でレポートにテンプレートを添付する前に、データをクリアしてください。

## レポートの処理中にエラーが発生しました。エラー メッセージは次のとおりです

質問

ユーザーの 1 人に "レポートの処理中にエラーが発生しました。次のエラー メッセージ: 横軸上のすべてのセグメントにバージョンが必要です。レポートを変更して、もう一度試してください。これはどのような意味ですか？レポートを表示すると、このエラーは表示されません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

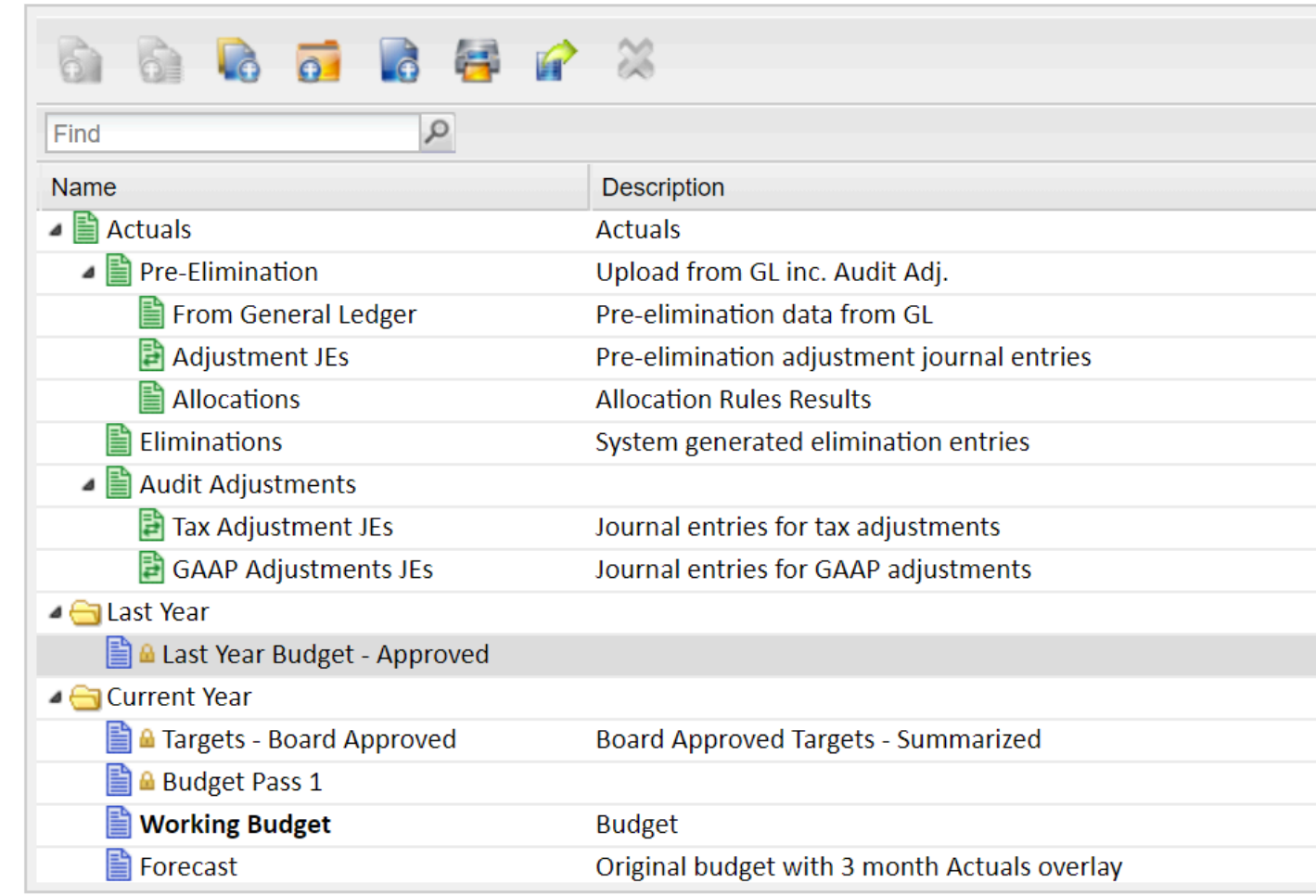



回答

このエラーは、エラーが発生したユーザーが、レポートに含まれているバージョンの少なくとも 1 つへのアクセス権がないことが原因で表示されます。"モデリング" > "バージョン" に移動すると、シートに含まれている各バージョンのアクセス設定が表示されます。ユーザーがレポートを表示できるようにする場合は、そのユーザーのバージョンが "非表示" に設定されていないことを確認する必要があります。ユーザーがレポートのすべてのバージョンにアクセスできるようになったら、レポートを正常にロードできるはずです。

注：バージョン フォルダはここでも機能します。ユーザーがバージョンを使用できるにもかかわらず、このエラーが表示される場合は、バージョンがあるフォルダがそのユーザーにも使用可能であることを確認してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




## 異なるタブ上の組織があるレポートの Excel へのエクスポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

### 質問

マトリクス レポートを作成しましたが、レポートを Excel にエクスポートしたときに各組織を別のタブで表示したいと考えています。これは可能ですか？

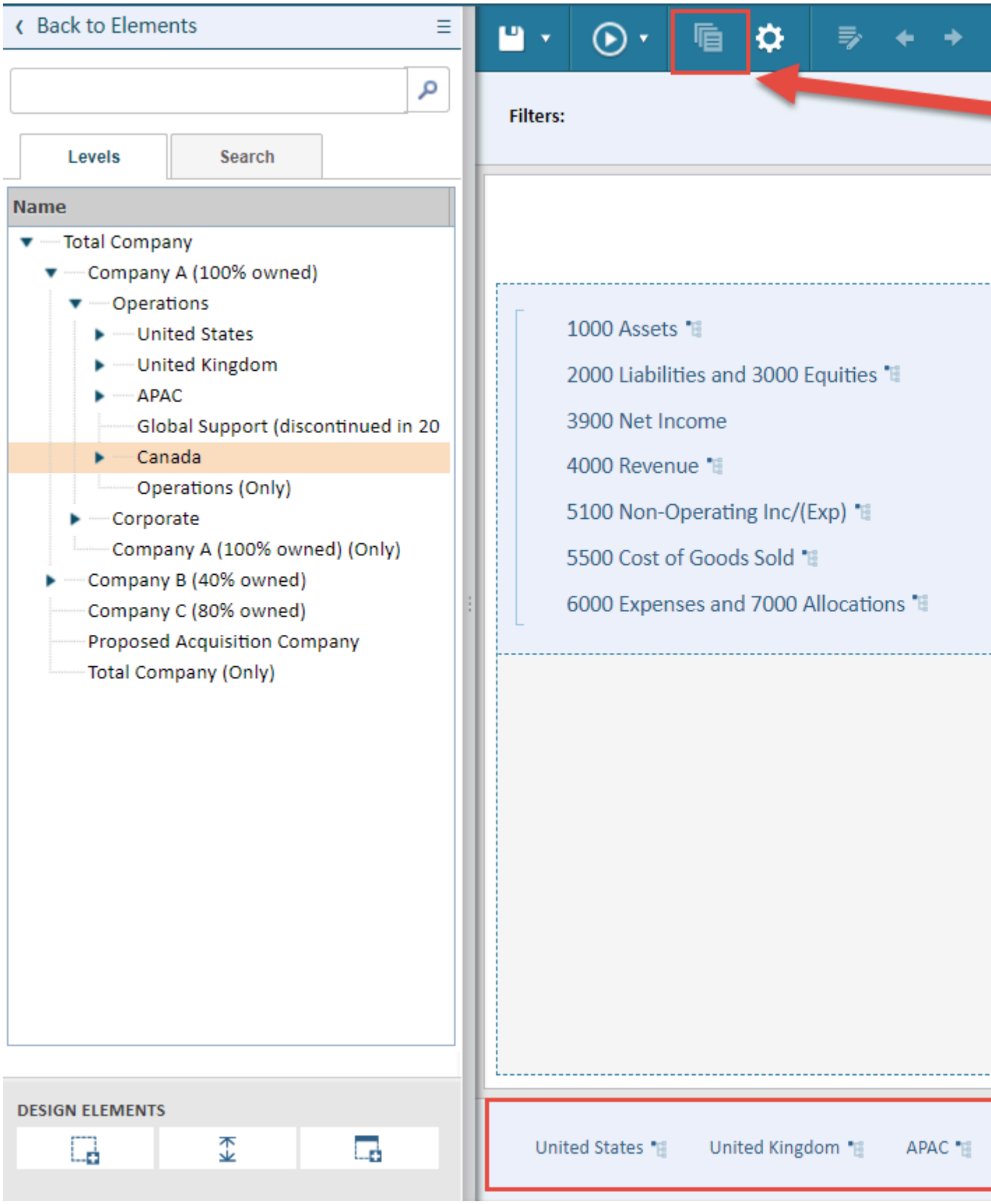
### 回答

これはマトリクス レポート ビルダーで "シートを表示" オプションを使用することで可能になります。これを繰り返しレポートと呼びます。"シートを表示" ボタン ("保存" アイコンの横) を選択すると、レポート ビルダーの下部に追加の軸が表示されます。ここで、レポートのタブとして表示したい組織をドラッグ ア

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ンド ドロップできます。Excel でレポートを実行すると、この軸に含まれている組織ごとに個別のタブが表示されます。組織のロールアップ全体を含める場合は、親組織をこの領域にドラッグしてから 右クリックして "階層を管理" を選択すると、 ロールアップ全体を展開することができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

## FAQ: 時間パラメータを自動的に更新できますか？

時間パラメータを接続して、自動的に相互更新できるようにします。接続できます 期間を除くすべての時間要素パラメータ

例: レポートには、パラメータとして独自の期間を持つ "当月"、"YTD (累計)"、"前年" の 3 つのセグメントが含まれています。これらの時間パラメータを接続して、1 つのパラメータを変更すると、残りの 2 つのセグメントが自動的に更新されます。

時間パラメータを関連付けるには:

1. レポートの行または列から、最初の時間要素を "パラメータ" 領域にドラッグします。
2. 残りの 2 つの時間要素を "パラメータ" 領域にドラッグし、最初の時間要素の上にドロップします。
3. 時間パラメータを右クリックし、"プロパティ"を選択します。 パラメータ設定ダイアログでは、以下を表示できます。
    - コネクションとしてのすべての時間要素
    - "初期の選択" プロンプトの上部にある "当月" や "最後の実績月" などのいくつかの動的オプション。

## FAQ: レポートに表示される通貨は何によって決定されますか？

レポートに表示される通貨は、レポートに含める組織に基づきます。含める要素に応じて、以下のようになります。

- 組織がない場合、値は社用通貨または最上位組織に割り当てられた通貨で表示される。
- 異なる通貨を持つ複数の組織の場合、値は社用通貨で表示される。
- すべての子組織が同じ通貨を使用している場合、値はこれらの子組織の通貨で表示されます。
- 同じ通貨で子組織をロールアップする親組織の場合、値はこれらの親組織と子組織の通貨で表示されます。 例: 親組織とロールアップされた子組織がすべて USD を使用しているため、すべての値が USD で表示されます。
- 異なる通貨で子組織をロールアップする親組織、または親組織が子との異なる通貨を使用している。子の値は親通貨で表示され、親の合計は社用通貨で表示されます。 例: 親組織は USD を使用し、子組織は NZD を使用します。子の値は USD で表示されますが、親の合計は社用通貨で表示されます。

レポート ビューアーで通貨を使用してデータをフィルタリングするには、レポートに通貨要素を含め、パラメータにすることができます。 参照 マトリクス レポートへのパラメータの追加 ( 201ページ )。

## 2 つの異なる計画バージョンからの実績とデータ間の差異の検索

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

1 月から 7 月の実績、8 月から 10 月の予算、11 月と 12 月の予測を表示するレポートと、実績 (1 月から 7 月) - 予算 (8 月から 10 月) - 予測 (11 月と 12 月) を作成する必要があります。どうすればよいですか？

回答

これを実現するためには、以下のようなさまざまなオプションを検討できます。

1. 3 つの列セグメントを使用してレポートを作成します。セグメント 1 には 1 月から 7 月までの実績バージョンがあり、セグメント 2 には 8 月から 10 月までの予算バージョンがあり、セグメント 3 には 11 月から 12 月までの予測バージョンがあります。このオプションでは、テンプレートをレポートに追加して差異を計算する必要があります。これは、時間要素の異なるセグメント間の差異を計算することができないためです。
2. 予算データと予測データを 1 つのバージョンに結合した新しいバージョンを作成します。このオプションを使用すると、予算バージョンのコピーである新しいバージョンが作成されます。次に、ア

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

プリケーションのインテグレーション領域の "エクスポート" タブを使用して予測バージョンから 11 月と 12 月のデータをエクスポートし、新しく作成した予算 + 予測バージョンにインポートします。新しいバージョンの計画の開始は必ず 8 月に設定し、新しいバージョンに 1 月から 7 月までの実績が表示されるようにしてください。このオプションを使用すると、単一セグメント内のレポートに "予算と予測" のバージョンのみを含め、"計算" を追加して予算/予測月数から実績月数を減算できます。

## サーバーとの通信中にエラーが発生しました。再試行してください。

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

レポートを保存しようとすると、"サーバーとの通信中にエラーが発生しました。もう一度試してください。このエラーに対処するにはどうすればよいですか？

回答

このエラーは、マトリクス レポートの作成中に、レポートに適用されている構造要素がレポートの保存前に編集または削除された場合に発生する可能性があります。

たとえば、科目がレポートに適用され、レポートの保存前に問題の科目が削除または名前変更されている場合、レポートを保存しようとすると問題のエラーが発生します。このエラーに対処するには、新しいレポートを作成するか (新しいレポートを作成すると、レポート要素とモデル要素が確実に同期されるようにします)、変更された要素を把握できる場合 (科目/組織が判明している場合) を使用できます。 / dimension は変更または削除されました)。レポートからその要素を削除し、もう一度保存してみてください。

## 予想以上のレポート値

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

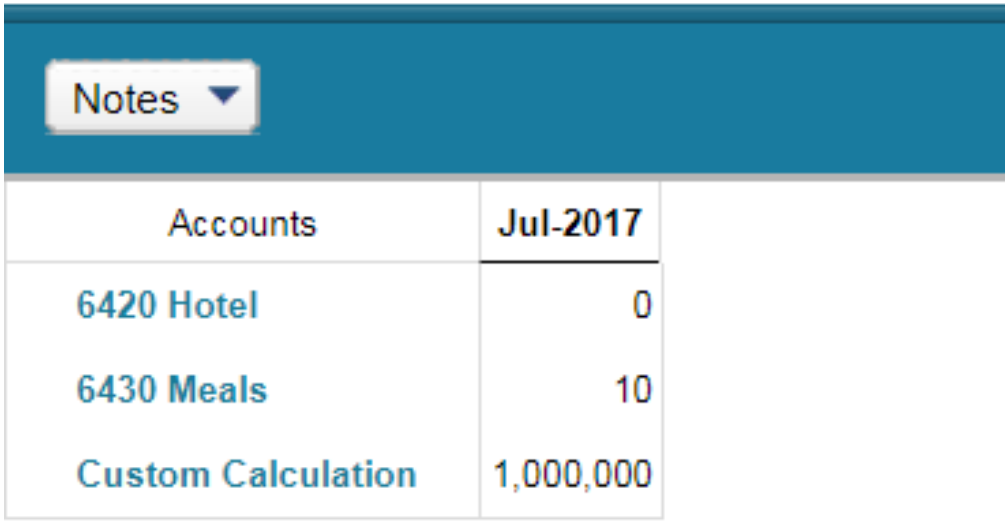
質問

レポートの計算値が 0 であると想定しているときに大きな数値が表示されるのはなぜですか？

回答

これは、表示されていない小数点以下を含む 0 の値が原因と考えられます。たとえば、数値 0.00001 は、小数点以下 5 桁未満が表示されると 0 と表示されます。以下は、科目 "6420 Hotel" の値が "0" と表示され、科目 "6430 meals" の値が "10" と表示されている例です。カスタム計算では "食事" を "6430 ホテル" で割ることで、この値は 0 になるはずですが、1,000,000 と表示されています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




これに該当するかどうかを確認するには、"レポートのプロパティ" に移動し、"数値" タブを選択して、小数部桁数をより大きな数値に変更します。この場合、小数部桁数は 7 に設定されます。

これは、計算で科目を切り捨てることで修正できます。現在、この計算は "Div(RPT.6430_Meals,RPT.6420_ Hotel)" となっています。これは「div(trunc(RPT.6430_Meals),trunc(RPT.6420_ Hotel))」に更新できます。切り捨てを適用すると、レポートに期待どおりの「0」が表示されることがわかります。

## レポートのパフォーマンスを最適化する

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

質問

レポートのロードに時間がかかっているようです。パフォーマンスを向上させるために変更できることはありますか？

回答

レポートの実行時間を短縮する際に検討すべきレポート デザインのオプションと設定の変更点を以下に示します。

**1.**セグメントを使用して合計の組み合わせを制限する

600 人のクライアント、5 つの地域、25 人の製品を含むレポートを作成しているが、これらの組み合わせのすべてが有効ではない場合は、セグメントを使用して有効な組み合わせを階層化します。ただし、この場合、新しい属性値が追加されたときにレポートを更新するためのメンテナンスとプロセスを考慮する必要があります。

**2."**レポートを検索できるようにする**"** オプションをオフにする

レポート ビューアーでパフォーマンスの遅延が発生している場合は、このオプションをオフにすることを検討してください。ページに追加の JavaScript がロードされているため、ビューアーの動作が遅くなる可能性があります。Excel テンプレートを使用する場合、これはいつでもオフにすることができます。

**3."**行を展開できるようにする**"** オプションをオフにする **(HTML** のみ**)**

レポートのユーザーが行を展開する必要がない場合は、このオプションをオフにします。このオプションがオンになっている (レポートに「+」がある) 場合、システムは、ユーザーが要素を展開した場合に限り、すべてのデータをロードします。オフになっている場合、システムはロールアップされたデータのみをロードします。Excel テンプレートを使用する場合、この設定をオフにすることができます。

**4.**スナップショット レポート

レポートをスナップショットすると、生成されたレポートのコピーがサーバーに保存されます。ユーザーが計算を待つ必要がないように、確定したバージョンの長い実行レポートをスナップショットすることをお勧めします。

重要 : レポートのスナップショットは写真を撮ることと似ていることに注意してください。そのため、データの表示権限を持つユーザーとのみスナップショットを共有することが重要です。

**5.**フィルタの使用

このフィルタは、レポート全体でフィルタで指定された項目のみを計算するように制限します。できるだけ多くの科目、期間、属性などをフィルタに配置することで、レポートの実行時間を短縮できます。

**6.**特性を使用

特性の評価は、レポートのフィルタと同様に機能します。

**7.**科目と組織を行軸に配置してみる

科目と組織が行軸にある場合、レポートは最適化されます。列軸またはフィルタにある場合、行軸に配置してテストし、パフォーマンスに違いがあるかどうかを確認します。

## FAQ: レポートに分割を表示するにはどうすればよいですか？

レポートで分割のある科目を表示するには、"科目の分割を表示" レポート プロパティを選択する必要があります。このプロパティは、科目がレポートの最も内側の層 (レポートを実行したときの行の右端の列) にある場合にのみ使用できます。

レポートに分割を表示するには、次のようにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. 既存のレポートを編集し、"レポートのプロパティ"を選択します。
2. "科目ごとに分割を表示" を選択し、"適用"をクリックします。
3. 分割を含む科目を展開するには、科目を右クリックして "階層を管理"を選択します。
4. 分割を表示する科目を展開します。"常に展開" を選択することもできます。 分割のある科目の下に省略記号が表示されています。
5. "適用" をクリックします。
6. レポートを実行します。

## FAQ: マトリクス レポートから合計を削除するにはどうすればよいですか？

合計または合計をマトリクス レポートから完全に削除するには、レポートのプロパティで "ロールアップしない" を選択します。

合計または合計を行レベルでのみ削除するには、最下位組織の子要素をレポートの行または列にドラッグします。

例:

特定の年度の予測製品単位を表示するには、以下を含むマトリクス レポートを作成します。

- 行の製品
- 列上の月

"製品タイプ" 属性には以下が含まれます。

- 複数の組織
- 最下位レベルの品番

このレポートを実行すると、合計行が各製品タイプ レベルに表示され、そのレベルの製品単位数が合計されます。行レベルの合計なしでこのレポートを実行するには、次のようにします。

- "製品タイプ" 属性の最下位レベルの特定の品番のみをドラッグ アンド ドロップします。
- 複数の製品タイプにまたがる部品番号の範囲を選択するには、キーボードの Control キーまたは Shift キーを押します。

注 : 最下位組織の要素を使用する場合、要素の階層内で変更されてもレポートに自動入力されません。例: 製品タイプの代わりに部品番号を使用する場合、新しい製品タイプが使用可能になっても、レポートには表示されません。

## レポートはお知らせに追加できません

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

"お知らせ" で一部のレポートが使用できないのはなぜですか？

回答

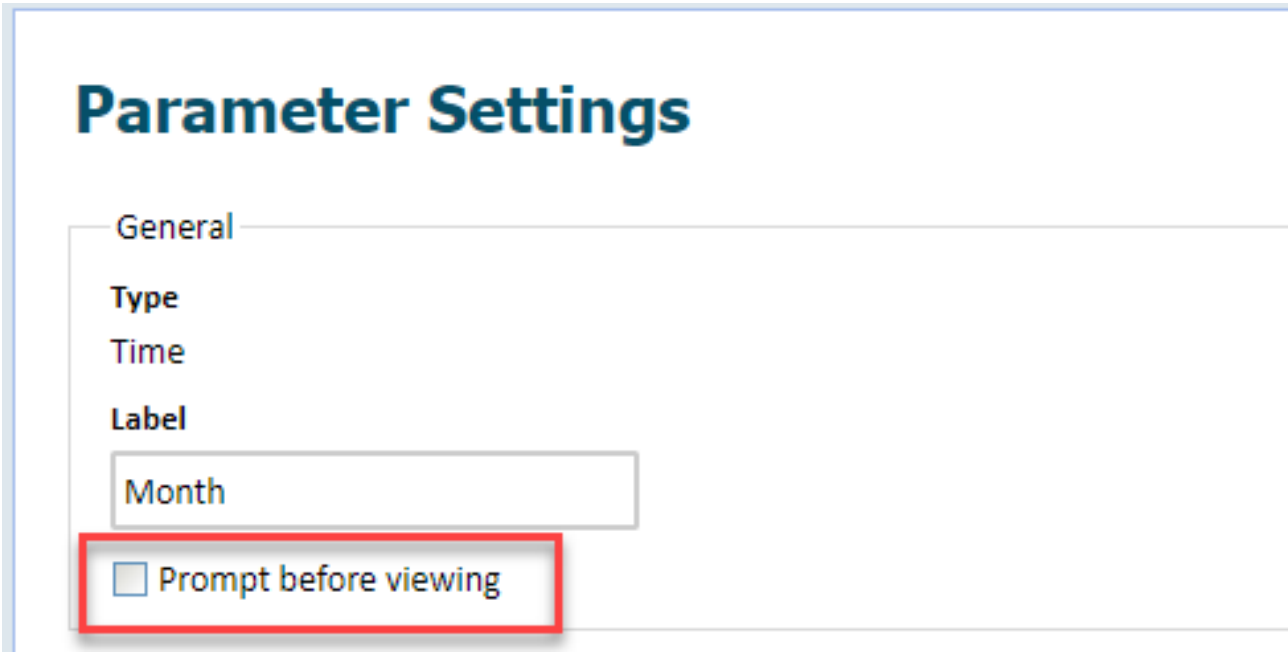
レポート内のいずれかのパラメータで "表示前にダイアログ を表示する" が選択されている場合、レポートはお知らせとして表示できません。

この設定を確認するには、次のようにします。

- "レポート" に移動し、レポートを右クリックして "変更" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- レポートに追加されたパラメータのいずれかを右クリックして "プロパティ" を選択し、前にダイアログ を表示する" が選択されているかどうかを確認します。png




## FAQ: レポートの科目値がシートの科目値と異なるのはなぜですか？

科目の値はシートとレポートのどちらで表示しているかによって異なる場合があります。

例: 損益計算書シートの純利益科目の値が正しい場合。損益計算書レポート内の同じ科目の値が異なり、誤りである。

レポートとシートの科目の値が異なる場合にはさまざまな理由があります。以下のことを確認してください。

- シートとレポートに、同じバージョン、組織のデータが表示されています。バージョンと組織がレポートにまだ含まれていない場合は、"情報を表示 " アイコンをクリックして、バージョンと組織の詳細を表示します。
- レポートが別の通貨タイプでフィルタされていない。レポートに通貨がまだ含まれていない場合は、"情報を表示 " アイコンをクリックして通貨の詳細を表示します。
- シートの科目とレポートの科目は同じ科目です。
    1. 正しいバージョンと組織でシートを開きます。
    2. 科目行の値を右クリックして、"セルを探索" を選択します。
    3. 科目コードを書き留めます。
    4. 対応するレポートを開きます。
    5. 科目行の値を左クリックします。
    6. "セルを探索" ウィンドウで科目コードがシート上のものと一致するかどうかを確認します。

## "過去 12 か月平均" レポート

質問

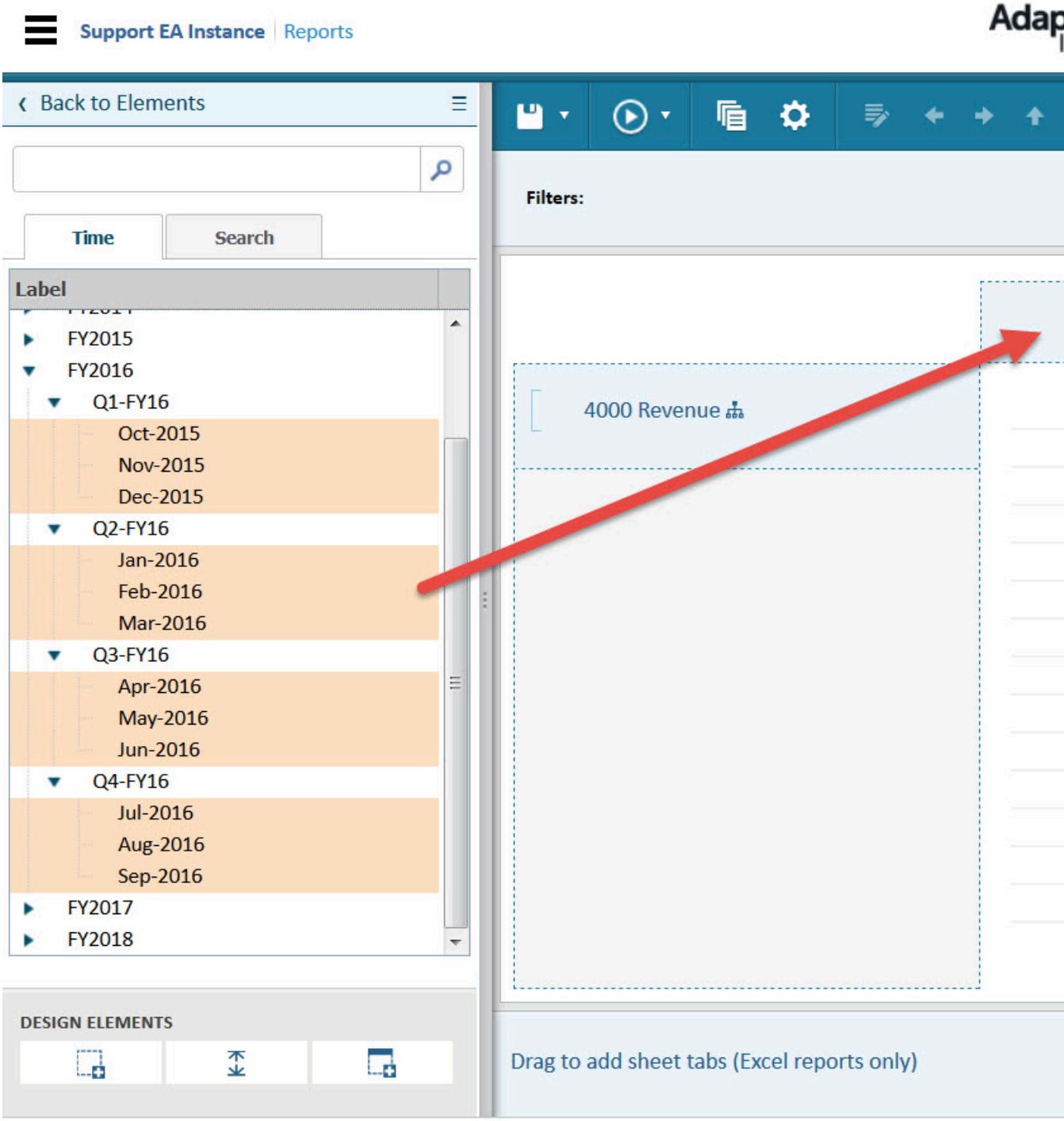
科目の連続 12 か月平均を表示するレポートを作成する方法はありますか？カスタム科目を作成するか、レポートにテンプレートを添付することでこれを行うことができることは知っていますが、レポートの HTML バージョンでそれを行うことができるかどうか知りたいです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

回答

これは下記のように、リンクされた時間パラメータとカスタム計算を使用して行うことができます。

1. レポートの "列" 軸に 12 か月すべてを追加し、"行" 軸に科目を追加します。

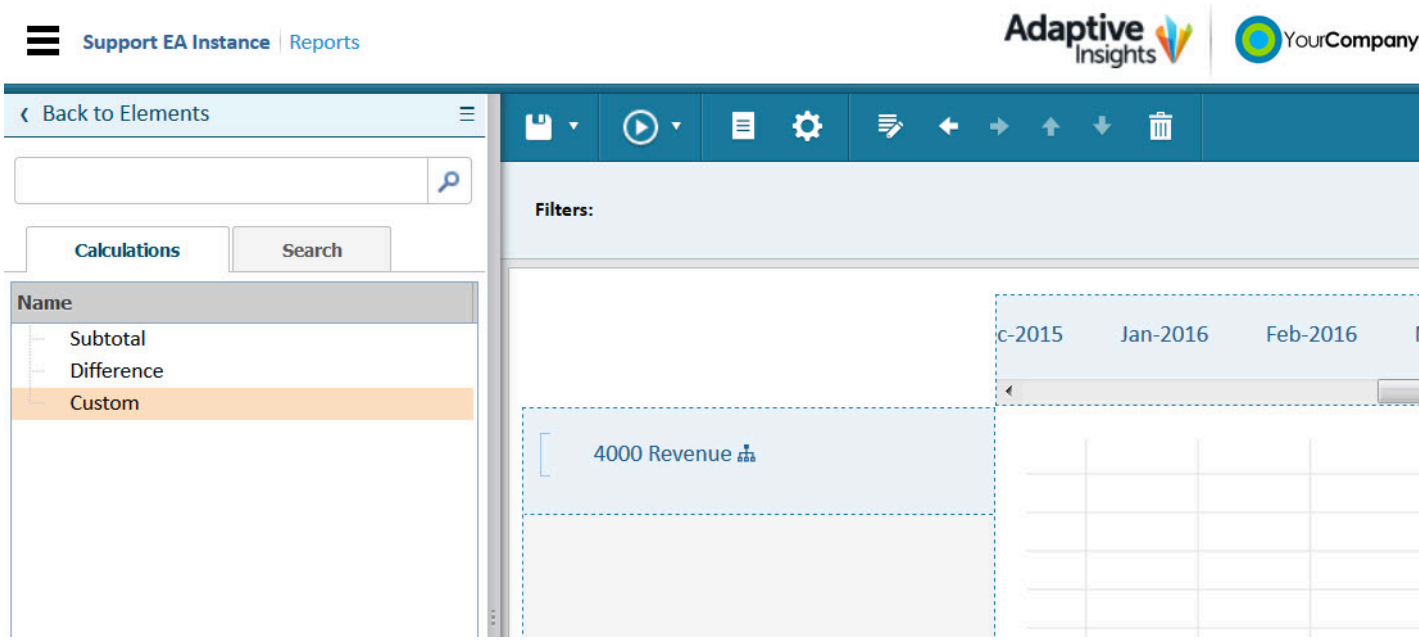



2. ステップ 1 で追加した 12 か月を 1 つの時間パラメータにリンクします。

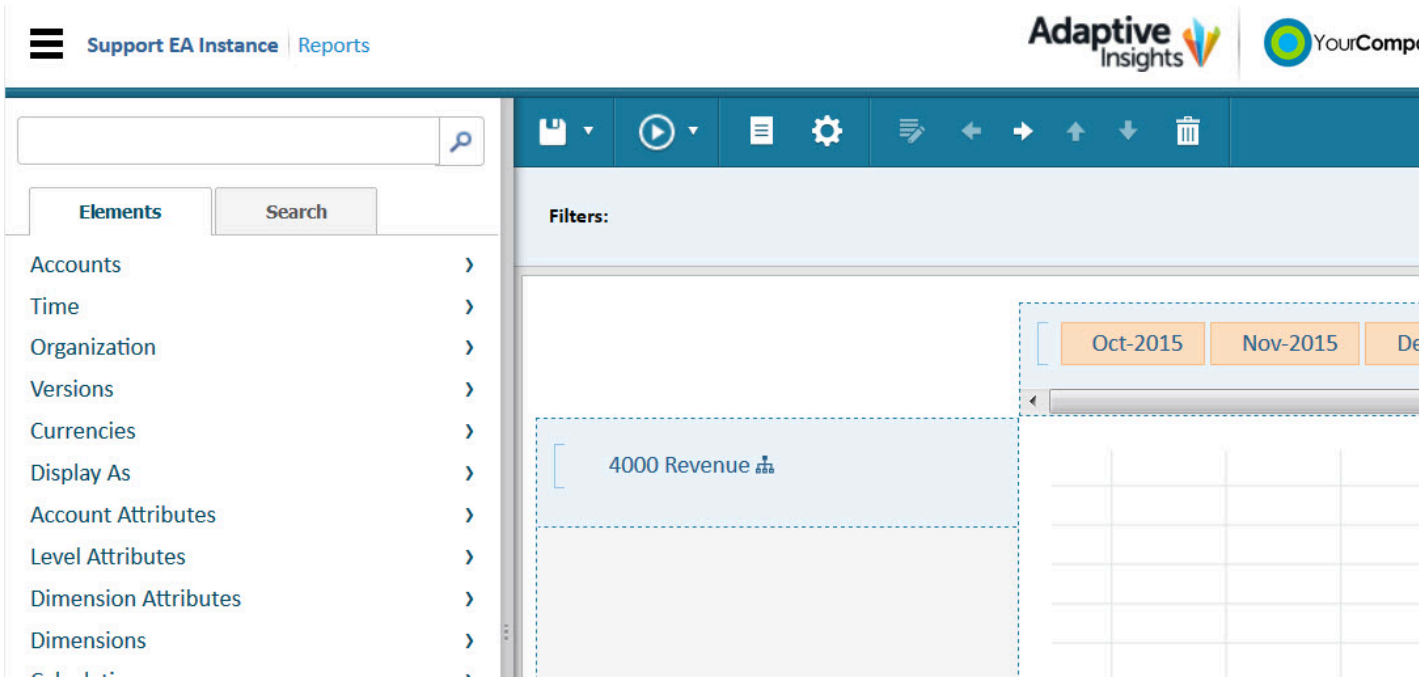
- 適切な接続を作成するために、最初に "列" 軸の最後の月をパラメータ領域にドラッグしてください。これにより、レポートには、時間パラメータで選択した月に加えて、過去 11 か月が常に表示されます。"時間" パラメータを右クリックし、"プロパティ" を選択することで、最後の月が "初期の選択" に設定されていることを確認できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ステップ 1

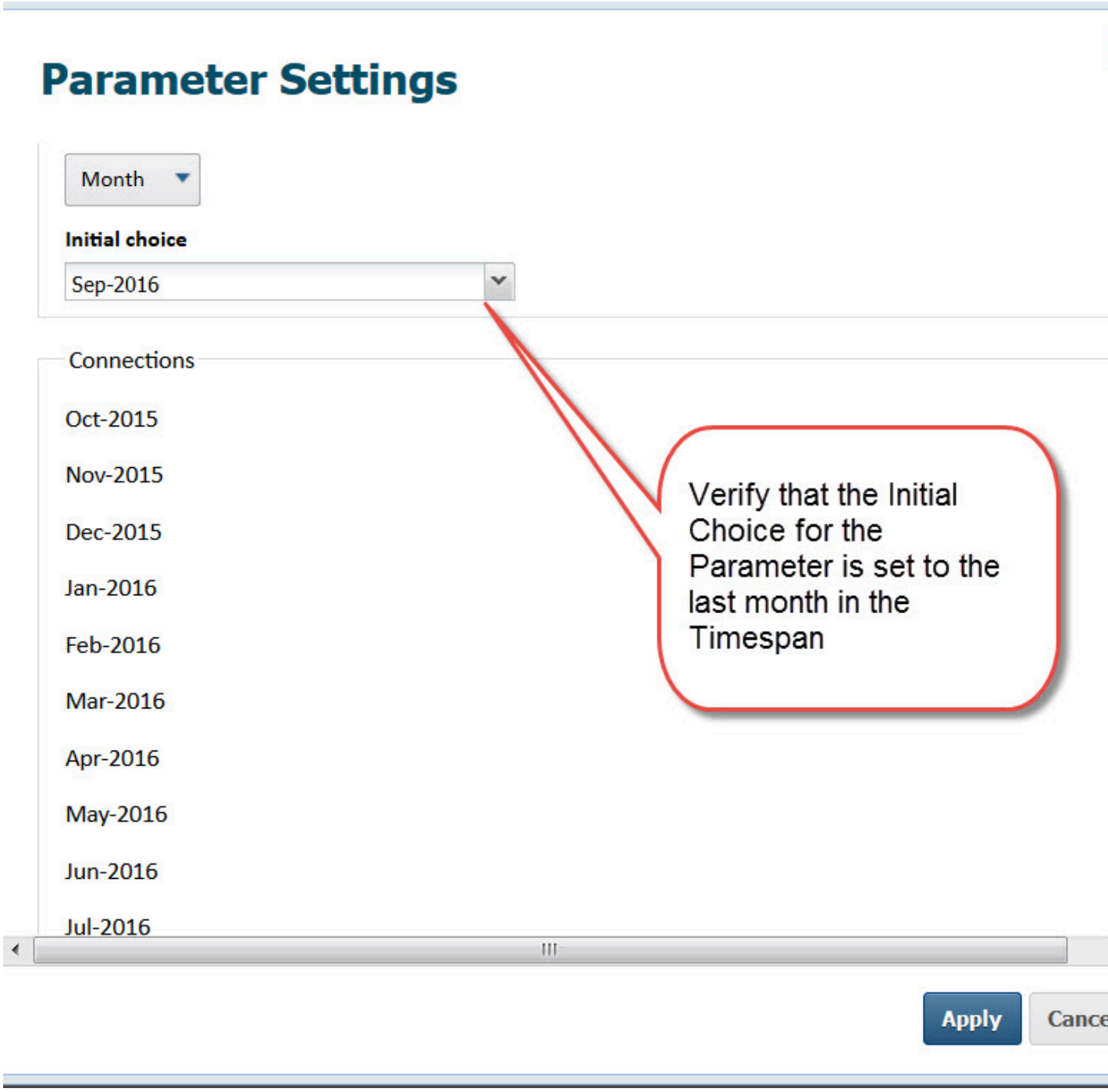



ステップ 2

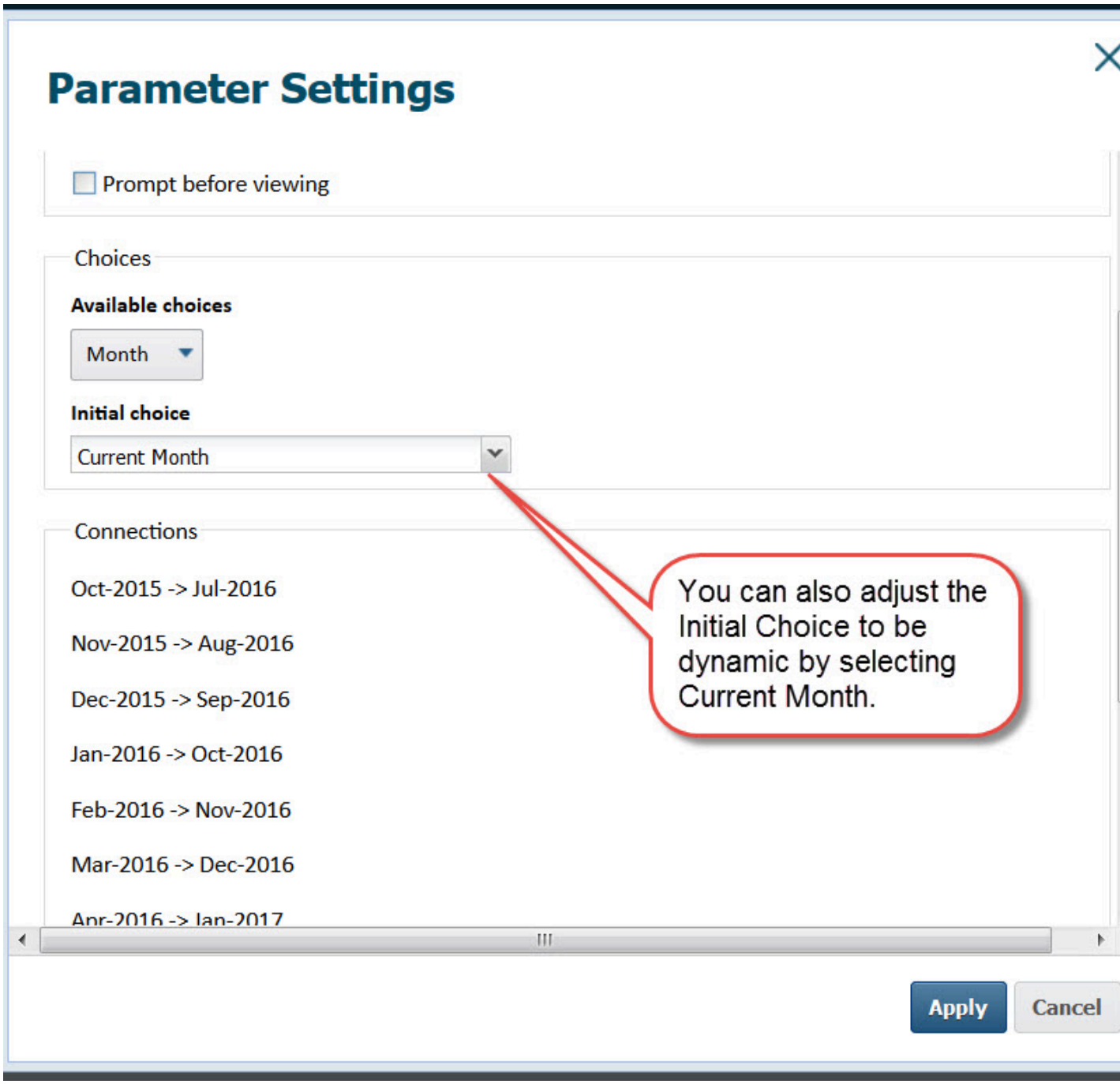



- また、"時間" パラメータの "プロパティ" で、"初期の選択" ドロップダウンを選択し、一番上までスクロールすることで、当月のような動的な選択が常にデフォルトになるようにパラメータを設定することもできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



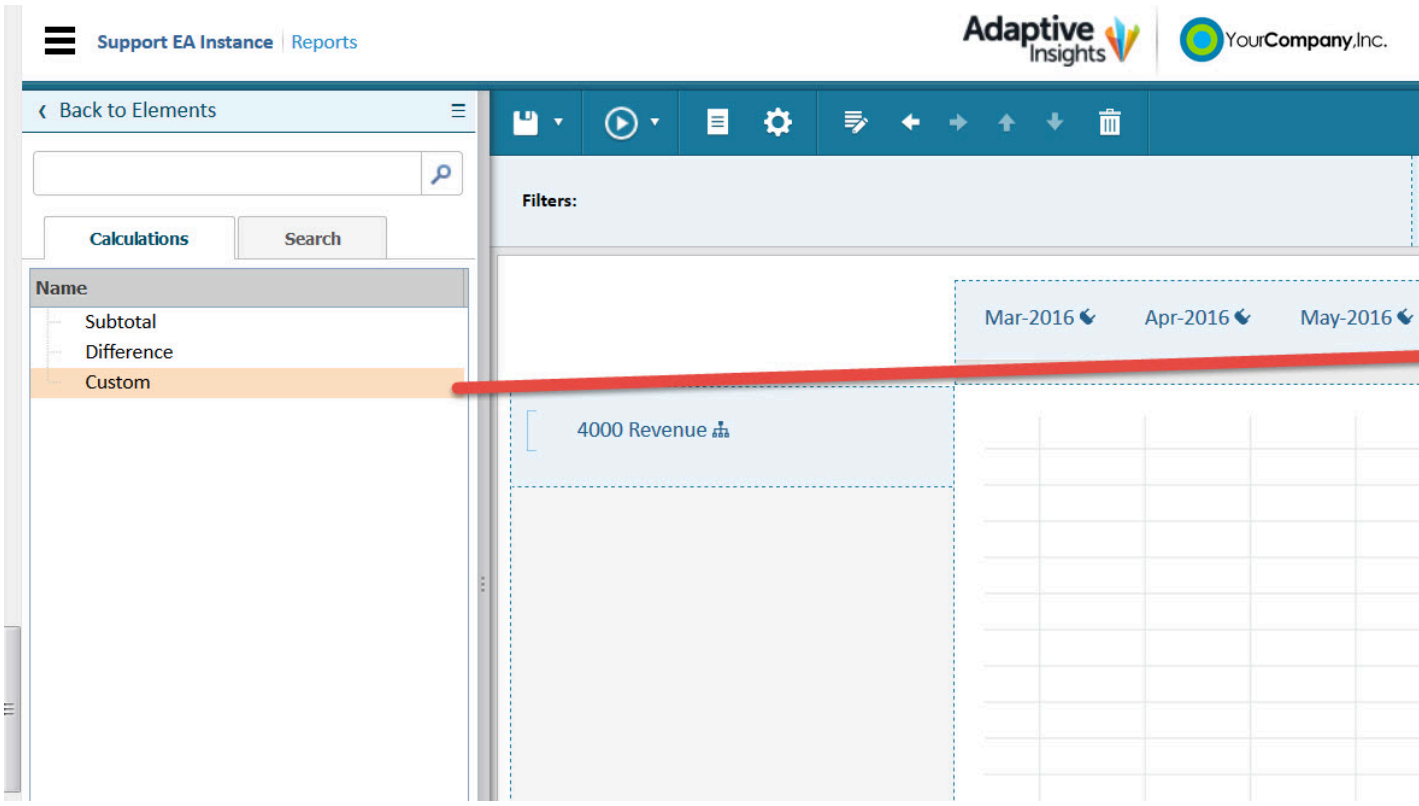

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



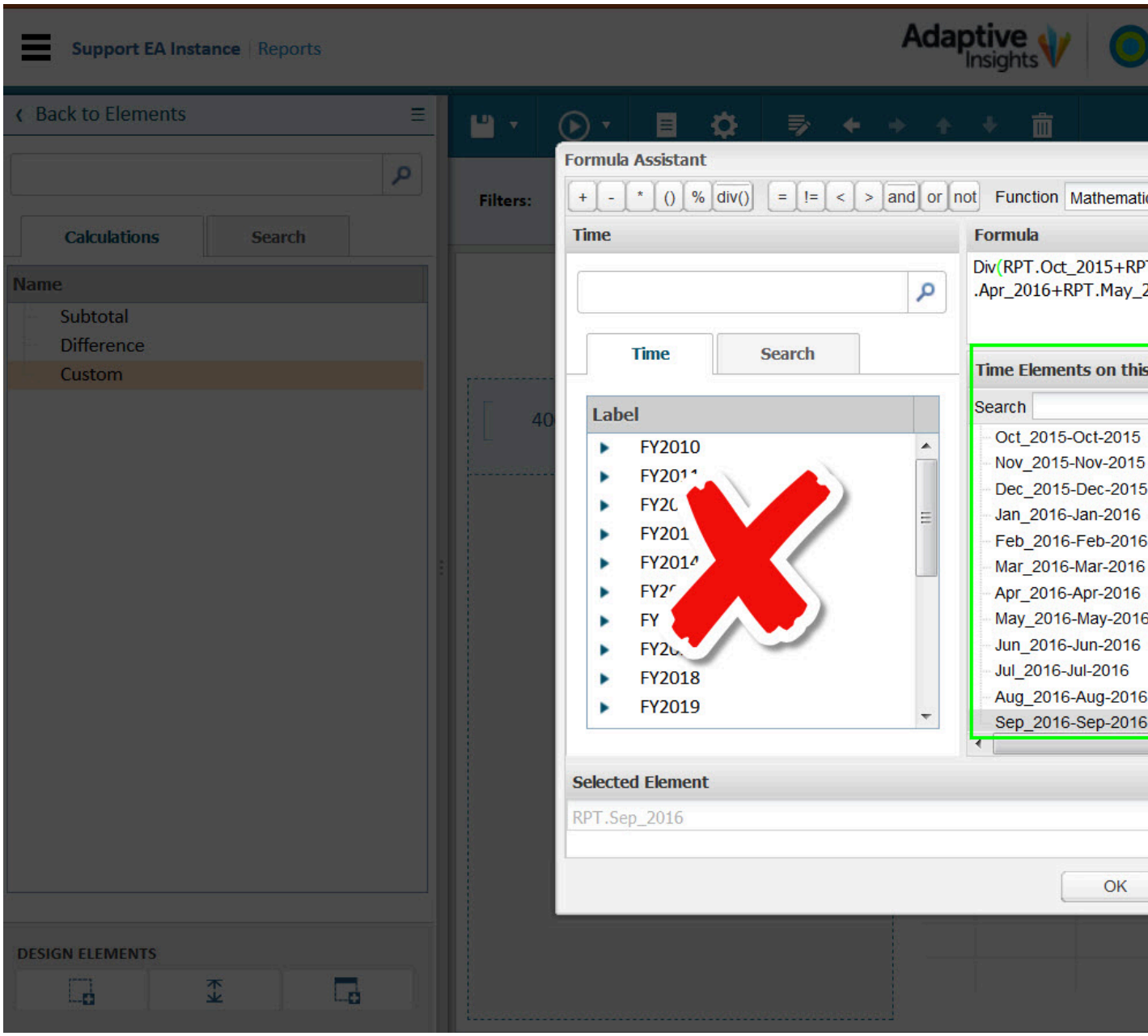

1. 12 か月の平均を計算するカスタム計算を "時間" 層に追加します。

- 計算を作成する際は、静的要素 (左側) ではなく、必ずレポート要素 (右側) を使用してください。これにより、計算が確実に動的になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




©2026 Workday, Inc. All rights reserved




## レポートのプロパティに "科目の分割を表示" オプションが含まれていない

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

### 質問

"科目の分割を表示" オプションは どこへ行ったのでしょうか？レポートの形式を設定する際、オプションが常に表示されるわけではありません。

### 回答

"科目の分割を表示" オプションをレポートのプロパティ ダイアログに表示するには、レポート ビルダーの行軸の最も内側 (右端) の層に科目要素が含まれている必要があります。参照 FAQ: レポートに分割を表示するにはどうすればよいですか？ ( 281ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 任意の組織合計の合計

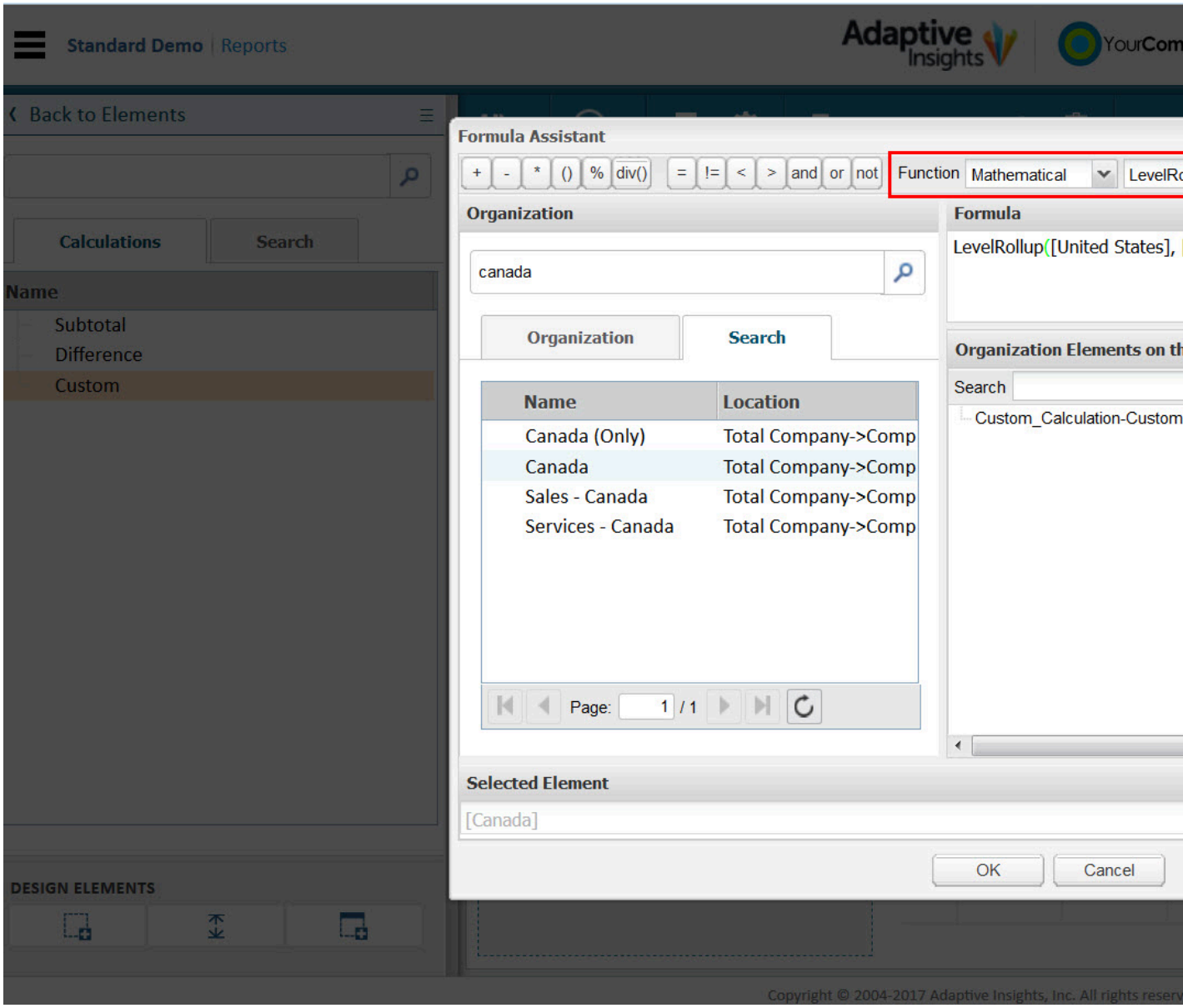
この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

### 質問

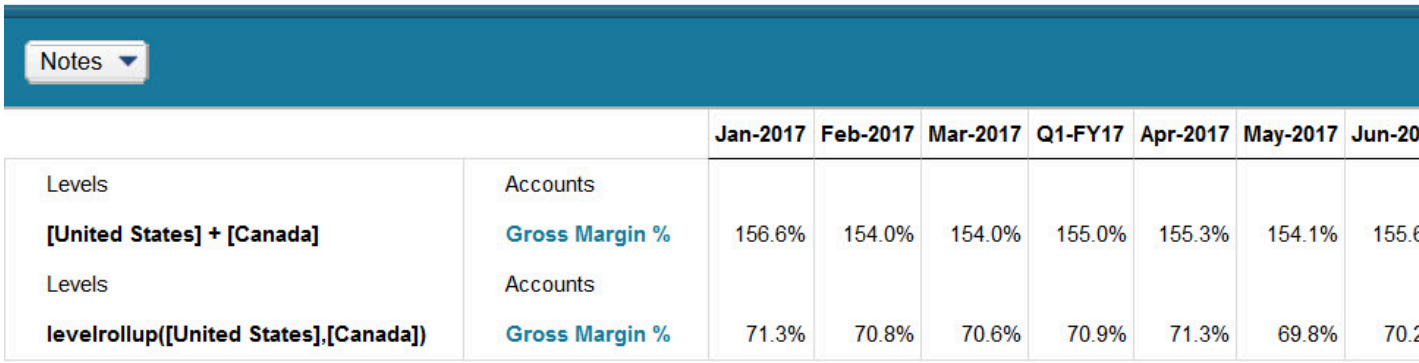
2 つの組織を合計するカスタム計算を含むレポートがあります。売上総利益率の計算では、売上総利益を計算するのではなく、売上総利益率を合計する計算が行われます。集計を使用してレポートを計算する方法はありますか？

### 回答

これは、"カスタム計算" で 2 つの組織を合計する代わりに、levelrollup 関数を使用することで実現できます。この関数は、レポートで任意の組織の合計計算を実行するために使用できます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved




## FAQ: テンプレート レポートを作成するのはなぜですか？

Excel ファイルを HTML レポートまたは繰り返し使用するレポートのテンプレートとして使用できます。Excel ファイルでは、以下のようなレポート データの形式設定や機能を追加できます。

- フォントの色、フォント タイプ、背景の色
- メモ、サマリ データ、計算
- 自動化用のマクロ。

例: 実績、予算、予測の各バージョンのデータを比較するマトリクス レポートがあります。マトリクス レポート ビルダーで、2 つの異なるバージョン間の差異のみを計算できます。3 つの異なるバージョン間の差異を計算するには、数式を含む Excel テンプレートを使用できます。このトピックに関連するユース ケースについては、ユース ケース ライブラリの ユース ケース: Excel レポート テンプレートを使用した差異レポートの作成を 参照してください。

Excel では、元の "レポート データ" タブを非表示にして、ユーザーにテンプレート バージョンのみが表示されるようにすることができます。 Excel ファイルを保存してテンプレートとして HTML レポートに添付し、テンプレート レポートを作成できます。

Excel テンプレートをレポートに添付するには:

1. レポートの概要で、該当するレポートの "アクション" メニュー をクリックし、"テンプレートの添付"を選択します。
2. "ファイルの選択" を選択してから "参照" を選択します。 テンプレートとして使用する Excel ファイルを選択します。 "OK" をクリックします。 ページがリフレッシュされ、レポート出力が HTML から テンプレートに変更されます。
3. レポートを実行すると、Excel ファイルのポップアップが表示されます。Excel ファイルには、テンプレートに基づいて書式設定されたすべてのデータが含まれます。
4. Excel テンプレートを更新したり、別のテンプレートに置き換えたりする場合は、レポートの "アクション" メニュー をクリックし、"テンプレートを変更"を選択します。

## Adaptive Planning 4.0 のフォーマットに準拠したテンプレートを選択する必要があります

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

クライアントのレポートに Excel ワークブック形式タイプのテンプレートを添付していますが、次のエラーが発生しています。

"アップロードしようとしたテンプレートは、新しいレポートでサポートされていない形式を使用しています。Adaptive Planning 4.0 のフォーマットに準拠したテンプレートを選択する必要があります。

この AP 4.0 のフォーマットについてサポートできますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

ユーザーがこのエラー メッセージを受け取った場合は、Adaptive Insights のレポートの Excel 出力をベースとしてテンプレートを作成しなかった、テンプレートから "レポート データ" タブおよび "レポート情報" タブのいずれかが削除されたことを示します。 ) は "レポート" に名前が変更されました。レポートの実行時にエラーが発生する可能性があるため、タブに "レポート" という名前を付けないことをお勧めします。

テンプレートを機能させるためには、どのタブも "レポート" という名前になっていないことを確認する必要があります。エラーが続く場合は、レポートに空白のテンプレートを添付し、テンプレートとしてレポートを実行してから、タブを追加して形式設定の変更を行う必要があります。"レポート データ" タブと "レポート情報" タブは削除できませんが、これらのタブを非表示にすることで、テンプレートがエラーなく添付されます。

### FAQ: 新しい年のモデル レポートを更新するにはどうすればよいですか？

モデル レポートには、レポート要素に対して設定したプロパティに基づいてデータが表示されます。レポートを変更してプロパティを確認できます。その後、右クリックしてコンテキスト メニューのオプションを選択することで、列の要素を変更できます。

例: モデル レポートには、2023 年 1 月から 12 月までの期間における現在のバージョンのデータが表示されます。このレポートを 2024 年に更新するには、次の手順に従います。

- "期間 " 要素の ″範囲″ プロパティを調整します。
- "フィルタ" オプションからレポートのバージョンを調整します。
- "名前を付けて 保存" オプションを 使用して新しい名前でレポートを保存し、既存の "2023" レポートが上書きされないようにします。

# ダッシュボード

## ダッシュボードの開始

### ステップ: ダッシュボードの設定

始める前に

セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

ダッシュボードは、Adaptive Planning データを含むデータのセルフサービスかつインタラクティブなビジュアライゼーションです。ダッシュボード利用時の基本的なステップは次のとおりです。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアの作成 ( 297ページ ) .
   エリアでは、ダッシュボードをグループ化します。例: 財務や販売のエリア
   エリアには、時間、組織、通貨のエリア フィルタが自動的に設定されます。追加も可能です。
3. ダッシュボードの作成 ( 301ページ ) .
   ダッシュボードでは、グラフやその他のデータ分析をグループ化します。例: 特定の件名やテーマのダッシュボード
4. ダッシュボードへのグラフの追加 ( 293ページ ) .

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. グラフを強化します。
   各グラフ タイプには、以下の設定ごとに異なるオプションがあります。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| データ設定 | 各データ系列のデータと外観を制御します。オプションにはバージョン、フィルタ、ブレークダウンが含まれます。 |
| 期間設定 | グラフに表示される時間を設定します。オプションには、層、スパン、および固定済みの時間および固定解除された時間が含まれます。 |
| 外観の設定 | 名前、凡例、スケールなどのグラフの外観を決定します。 |

6. ダッシュボードの操作（294ページ）.
   アドホック分析を実行し、データを深く掘り下げます。
7. エリアの共有（302ページ）.
   他のユーザーおよびグループに "表示" または "編集" 権限を付与します。

## ダッシュボードへのグラフの追加

始める前に

セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

グラフをダッシュボードにドラッグし、次に科目をダッシュボードにドラッグすることにより、データ系列のセットをグラフに追加できます。左のパネルは、グラフおよび科目の選択に使用します。右のパネルは、外観、データ、および時間設定を変更する際に使用します。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアをクリックして開くか、新しいエリアを作成します。
   参照 エリアの作成（297ページ）。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。
   "グラフ" タブが自動的に左側に開きます。
4. "グラフ" タブから、グラフ タイプをダッシュボードにドラッグします。
5. 左側のメニューで科目アイコンをクリックして、"科目" タブを開きます。
6. "科目" タブで、以下をクリックします。
   - 科目: モデル内のすべての科目階層を開きます。
   - ダッシュボード メトリック: ダッシュボード用に作成されたすべての計算を開きます。
7. 階層を展開して、追加する科目を見つけます。
8. 科目をグラフにドラッグします。
9. トップ メニューで "完了" をクリックします。

## ダッシュボードでの計画バージョンの比較

始める前に

- エリアの作成（297ページ）、または共有エリアへの編集アクセス権がある

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

ダッシュボードにFAN グラフを追加すると、複数の Planning のシナリオまたはバージョンを基準または参照バージョンと比較できます。比較目的には単一の科目を使用することをお勧めします。グラント グラフを使用すると、以下をビジュアル化できます。

- 結果の可能性範囲。
- リスクを理解し、それに応じてリソースを割り当てる。
- 参照バージョンと比較した予測バージョンの差異

手順

1. "編集" をクリックして、ダッシュボードを編集モードにします。
2. 左側のパネルで、 グラフ アイコンをクリックして、"Fan " グラフ タイプをダッシュボードにドラッグ アンド ドロップします。
3. 左側のパネルで、 科目 アイコンをクリックしてから、GL 科目に移動し、科目を "Fan" グラフにドラッグ アンド ドロップします。
4. "外観の設定 > " "一般"で、グラフの名前を入力します。
5. "基準値" セクションで、比較する基準値として使用するバージョンを選択します。
   例: 昨年の予算
6. "比較値" セクションで、1 つ以上のバージョンまたはシナリオを追加して、参照バージョンとの差異をビジュアル化します。
   例: 最良ケースおよび最悪ケースの予算シナリオを追加して、参照バージョンと比較した範囲をビジュアル化できます。
7. (任意) グラフを視覚的に改善するには、参照と比較バージョンにカラー コーディングを追加します。

タスクの結果

例

次のタスク

## ダッシュボードの操作

始める前に

セキュリティ: "ダッシュボードへのアクセス" 権限。

このタスクについて

ダッシュボードはインタラクティブなビジュアライゼーションです。ダッシュボードを編集する権限がない場合でも、エリアおよびダッシュボード グラフを操作して、データからインサイトを得ることができます。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
   自分が作成したエリア、または他のユーザーが自分と共有したエリアがすべてリストに表示されます。
2. リストからエリアをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

3. 次を参考にして、エリア ツールバーを操作します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 時間、組織、通貨 | さまざまなフィルタを選択して、グラフに表示するデータを変更します。フィルタ選択は、自動的にブラウザに保存されます。エリアにはさらに別のフィルタも存在する場合があります。<br>"時間" を選択しても、時間が固定されているグラフは変更されません。 |
| 編集 | ダッシュボード、コンテキスト フィルタ、グラフを編集する場合にクリックします。<br>セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限 |
| フィルタ | クリックすると、すべてのフィルタを一度に変更できます。 |
| リフレッシュ | すべてのグラフを最新のデータでリフレッシュします。 |
| スナップショット | データが変更されても変わることのない、エリア全体の静的画像を保存します。<br>セキュリティ: "スナップショットの作成とスケジュール" 権限 |
| グリッド モード | ダッシュボードに複数のグラフを一度に表示することで、グラフがどのように関連し、相互に作用しているかを確認できます。 |
| プレゼンテーション モード | 一度に 1 つのグラフをスライド デッキとして表示します。<br>• 左側のメニューを使用してスライドをクリックします。<br>• キーボードを使用してスライドをスクロールします。 |

4. 次を参考にして、各ダッシュボードまたはグラフを操作します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ダッシュボードのダウンロード | ダッシュボード全体の PNG ファイルをダウンロードするには、ダッシュボード タブ名の横にある詳細アイコンをクリックして "画像をダウンロード" を選択します。 |
| グラフのダウンロード | グラフをダウンロードするには、"グリッド モード" をクリックし、グラフにマウスを合わせ、グラフの上隅に表示される詳細アイコンをクリックします。以下のいずれかのオプションを選択します。<br>• 画像をダウンロード<br>• ダウンロード<br>• 印刷対応ビュー |
| 展開 | グリッド モードでグラフをフル サイズに展開するには、グラフにマウスを合わせ、表示される展開アイコンをクリックします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

5. 次を参考にして、グラフ内のデータを操作します。
    - サマリ情報: グラフのデータ ポイントにマウスを合わせます。
    - セルを探索: グリッド モードで、データ ポイントをクリックして "データを探索" を選択し、別のウィンドウで "セルを探索" を起動します。 "セルを探索" を使用すると、データの詳細情報と、より詳細な情報につながるリンクが表示されます。
    - ドリル: グリッド モードで、データ ポイントをクリックし、"科目" またはリストされているカスタム属性のいずれかを選択します。新しいグラフには、合計に寄与する科目または属性のブレークダウンが表示されます。
    - 時間: グラフ データの期間を変更します。参照 概念: データの分析とグラフ操作 ( 308ページ )。

relatedlinks
概念
概念: "セルを探索" および "行の詳細" ( 96ページ )

## 概念: ダッシュボード

ダッシュボードは、Adaptive Planning データを含むデータのセルフサービスかつインタラクティブなビジュアライゼーションです。

ダッシュボードはビジネス パフォーマンスを可視化し、データ主導の意思決定を可能にして、組織全体の賛同と説明責任を向上させます。

ダッシュボードでは、以下が可能です。

- ビジネス パフォーマンスを監視および推進します。
- 数値とグラフを並べてビジュアル化できます。
- ダッシュボード上のシートにデータを入力すると、グラフが動的に更新されます。
- 現在のデータを経時的に分析し、得られたインサイトを計画の改善に適用できます。
- ダッシュボード上にテキストを追加してメモを作成し、チームと連携します。

ビデオを見る: 1 分 23 秒

### エリア

エリアでは、ダッシュボードをグループ化します。例: ダッシュボードをビジネス ユニットごと、またはタスクごとにグループ化できます。エリアには、エリア内のすべてのダッシュボードにコンテキスト ビューを提供するフィルタがあります。

メイン メニューから "ダッシュボード" を選択すると、使用可能なエリアのリストが中央パネルに表示されます。このリストは並べ替えることができます。

### ダッシュボード

ダッシュボードは、エリア内のグラフやその他のデータ分析をグループ化します。ダッシュボードはテーマ別や件名別に整理できます。例: 収益のダッシュボードと費用のダッシュボードを用意できます。

エリアでは、各タブがダッシュボードであり、多くの場合、複数のグラフが表示されます。グリッド モードまたはプレゼンテーション モードを選択して、ダッシュボードにグラフを表示できます。

### グラフ

グラフはデータをビジュアル化したものです。ダッシュボードには、ダッシュボードに追加できるさまざまなタイプのグラフやその他のツールが用意されています。グラフは種類によって設定や機能が異なるため、ビジュアル化するデータに最適なものを選択できます。編集権限がなくても、グラフを操作してデータ表現を操ることはできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
参考
次のレベル: Adaptive Planning レポート ツール選択のガイダンス

# エリアおよびダッシュボード

## エリアの作成

始める前に

セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

エリアは、通常、共通の業務分野に焦点を当てたダッシュボードおよびグラフをグループ化します。たとえば財務または営業などです。 エリアを作成すると、デフォルトで個人用になります。つまり、他のユーザーはそのエリアを表示できません。エリアは他のユーザーと共有することができます。作成したすべてのエリア、またはアクセス権のあるすべてのエリアが、"すべてのエリア" フォルダに表示されます。

任意のフォルダから、以下を実行できます。

- 列ヘッダーをクリックし、エリアを名前、作成者、または作成日で昇順または降順に並べ替える。
- 表示されるエリア名にマウスを合わせ、 アクション メニュー 右側のアイコン

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
   アクセス権があるエリアの集合である "すべてのエリア" フォルダが最初に表示されます。
2. "新規追加" をクリックします。
3. 名前を入力します。
   エリアが開き、"ダッシュボード" という名前の単一のダッシュボード タブが表示されます。
4. プロンプトが表示されたら、エリア レベルのフィルタを選択します。

次のタスク

グラフおよびダッシュボードを追加します。

## エリアのコンテキスト フィルタ

エリアのコンテキスト フィルタの追加

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

エリアのコンテキスト フィルタは、ツールバーに表示され、エリア内のすべてのグラフとダッシュボードに適用されます。 属性、特性、またはその属性メンバーや特性メンバーを使用して、エリアのコンテキスト フィルタを新規作成できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. 選択ダッシュボード メイン メニューから。
2. エリアを開きます。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。
4. ツールバーのエリア名を選択します。
5. "データ設定" タブの "コンテキスト" をクリックします。
6. "組織特性"、"組織属性"、"属性特性"、または "ダッシュボードの属性" を選択し、追加するフィルタを選択します。
7. デフォルトのフィルタ値を変更するには、"データ設定" で追加したコンテキスト フィルタをクリックします。

例

特定の製品を担当する製造マネージャは、管理する製品をデフォルト値とするコンテキスト フィルタを製品属性に追加できます。エリアのすべてのグラフには、関連する製品ラインのデータが表示されます。

エリアのフィルタの一括変更

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

複数のエリアのフィルタ選択を一度に適用して、選択ごとにページがリフレッシュされるのを回避します。フィルタ選択は、自動的にブラウザに保存されます。Web ブラウザやデバイスごとに異なるフィルタ選択を保存できます。

手順

1. エリアのツールバーで "フィルタ" ボタンをクリックします。
2. エリアのフィルタを設定してから、"適用" をクリックします。
   "フィルタ" では、"デフォルトにリセット" ボタンを使って、エリアのフィルタの設定を最終パブリッシュの状態にリセットできます。

タスクの結果

すべてのグラフ、シート、その他のダッシュボード項目が更新され、変更が反映されます, フィルタの選択内容がブラウザに保存されます。

エリアのコンテキスト フィルタの保存

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - 共有エリアのフィルタを作成するための"ダッシュボードの編集" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

エリア フィルタの選択の組み合わせを保存できます。保存するフィルタは、"ダッシュボードの編集" 権限がある場合は、個人用または共有用のいずれかにすることができます。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアを開きます。
3. ツールバーで "フィルタ変更" アイコンを選択します。
4. "新しいフィルタ セット"を選択します。
5. " フィルタ名"を入力します。
6. (任意) 共有エリアがチェックアウトされている場合、"名前を付けて保存" フィールドについては、以下を参考にしてください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 個人 | フィルタを個人用エリア フィルタとして保存します。 |
| 共有 | 共有エリアにアクセスできるすべてのユーザーを含む共有エリア フィルタ セットとしてフィルタを保存します。 |

7. エリアのフィルタに変更を加えたら、新しいフィルタ セットを保存します。
8. (任意)"フィルタ デフォルトの変更 > " を選択し、ダッシュボード作成者が "エリアのデータ設定" タブで設定した最終パブリッシュの状態にエリア フィルタを設定します。

タスクの結果

保存したエリアのフィルタ セット名は 、"フィルタを変更" ドロップダウンに表示されます。

例

次のタスク

デフォルトの組織および時間のエリア フィルタの変更

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

エリアには、デフォルトのコンテキスト フィルタがあります:

- Time
- 組織
- 通貨

このエリアの "時間" および "組織" コンテキスト フィルタのデフォルト値を変更できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. 選択ダッシュボード メイン メニューから。
2. エリアを開きます。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。
4. ツールバーのエリア名を選択します。
5. "データ設定" タブで、"組織" または "時間" コンテキスト フィルタをクリックします。
6. "デフォルトをオーバーライド" トグルを有効にします。
   "時間" または "組織" のデフォルト値が表示されます。
7. "時間" または "組織" のデフォルト値をクリックして、新しい値を選択します。
8. クリック 完了

時間と通貨のエリア フィルタの非表示

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

エリアには、以下のデフォルトのコンテキスト フィルタがあります。

- 時間
- 組織
- Currency

" 時間" と "通貨" エリアのコンテキスト フィルタを非表示にできます。

手順

1. "ダッシュボード" に移動します。
2. エリアを開きます。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。
4. ツールバーのエリア名を選択します。
5. "外観の設定 " タブで " 時間を非表示" または "通貨を非表示" トグルを選択して、ダッシュボードのエリアのコンテキスト フィルタを非表示にします。

エリアの複数選択の有効化

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

複数選択が有効な場合、エリアのコンテキスト フィルタを持つ複数の組織と属性値を選択できます。 複数選択はエリア レベルで有効化されるため、複数選択を有効にするエリアごとに複数選択を有効にする必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. "ダッシュボード" に移動します。
2. エリアを開きます。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。
4. ツールバーのエリア名を選択します。
5. "外観の設定 " タブで "複数選択を許可 " トグルをオンにして、エリアの複数選択を有効にします。

## ダッシュボードの作成

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

ダッシュボードを作成して一連のグラフやシートを表示します。

手順

1. "ダッシュボード" を選択して、エリアを開きます。
2. "編集" > "新規ダッシュボード" > "新規ダッシュボード" をクリックします。
3. 新しいダッシュボードの名前を入力します。
   ダッシュボードの名前は、そのダッシュボード タブの "その他のアクション" メニューで変更できます。

次のタスク

ダッシュボードにグラフを追加します。

## ダッシュボードのコピー

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

すべてのグラフを含むダッシュボードをコピーして、任意のエリアに貼り付けることができます。

手順

1. "ダッシュボード" を選択して、エリアを開きます。
2. "編集" をクリックします。
3. コピーするダッシュボードを検索し、そのダッシュボード タブで "開く" > "コピー" をクリックします。
4. "ダッシュボードの追加" > "ダッシュボードの貼り付け" をクリックします。
   編集可能な任意のエリアに貼り付けることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

タスクの結果

新しいダッシュボードでは、名前に「コピー」という単語が追加されています。例: 四半期サマリ - コピー

コピーしたダッシュボードとグラフは、元のダッシュボードと関連付けられません。コピーしたダッシュボードとグラフは単独で編集できます。

## エリアの共有

エリアを共有すると、ダッシュボードやグラフに対する表示権または編集権をユーザーやグループに付与することにより、彼らと協力できるようになります。

エリアには、パーソナル エリアまたは共有エリアがあります。ダッシュボードの概要ページに個人エリアと共有エリアが表示されます。

エリアを共有する場合、編集アクセス権を持つあなたと他者のアクセス権は次のとおりです。

- 共有エリアをユーザーまたはユーザー グループと共有または非共有にします。
- エリアをチェックアウト、ロック、変更します。
- チェックアウトしたエリアをパブリッシュおよびアンロックします。

前提条件

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

方法を学びます ユーザー グループの作成（1512ページ）。

ナビゲーション

ダッシュボード に移動してすべてのエリアを表示します。

エリアの共有または非共有

個人 エリアは、にアクセスできるユーザーと共有できます。 ダッシュボード。エリアに対する表示権または編集権を他者に付与できます。エリアへの編集アクセス権がある場合、共有エリアを共有または非共有にできます。

エリアの共有

1. エリアでアクション メニュー アイコンを選択し、"共有" を選択します。
2. ユーザーを参照または検索します。
   - "すべて"、"ユーザー"、"ユーザー グループ"、"表示可能"、または "編集可能" でフィルタリングします。
   - ユーザーやグループを検索することができます。名前または E メール アドレスを入力します。オートコンプリートにより、入力に応じてリストがフィルタリングされます。
3. 各ユーザーまたはユーザー グループについて、"表示" または "編集" のアクセス権を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### エリアの非共有

編集アクセス権がある場合、およびそのエリアがチェックインされてパブリッシュされている場合は、エリアを非共有にできます。

エリアでアクション メニュー アイコンを選択し、"非共有" を選択します。

## 共有エリアをチェックアウト

共有エリアへの編集アクセス権を持つすべてのユーザーは、ダッシュボードやグラフなどのエリアのコンテンツを変更できます。"作成者" 列は、自分がエリアを作成した所有者であることを示します。

エリアとそれに関連付けられたダッシュボードを編集するには、共有エリアをチェックアウトする必要があります。共有エリアをチェックアウトするとエリアがロックされ、変更をパブリッシュするまでエリアの 1 つのバージョンが個人フォルダに移動されます。ロックにより、他のユーザーがエリアを編集することを防ぎます。他のユーザーは、現在のパブリッシュ済バージョンを引き続き表示できます。

### 共有エリアの内容を変更

1. 共有エリアでアクション メニュー アイコンをクリックして、"チェックアウト" を選択します。

| | |
|---|---|
| 1 | エリアをチェックアウトした人物からのビュー。共有エリアは、すべてのエリアのフォルダと共有フォルダの両方に表示されます。編集アイコンは、編集をするためにエリアがチェックアウトされたことを示します。ロック アイコンは、エリアがチェックアウトされており、他の人が変更できないことを示します。 |
| 2 | 承認者からのビュー。承認者は、他のユーザーがエリアをチェックアウトしているかどうか確認できます。ロック アイコンにマウスを合わせ、エリアをチェックアウトしたユーザーを確認します。 |

2. コンテンツにアクセスするエリアを選択します。
3. "編集" ボタンをクリックして変更し、"完了" をクリックします。

### エリアをパブリッシュ

このエリアへのアクセス権を持つ他のユーザーに変更を表示する準備ができたら、エリアをパブリッシュできます。パブリッシュしたエリアはチェック

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

インされ、他のユーザーが表示、チェックアウト、編集、削除できるようになります。編集アイコンが表示された場合は、エリアをパブリッシュできます。

エリアで "アクション メニュー" > "パブリッシュ" をクリックします。個人フォルダにエリアが表示されなくなります。

他のユーザーは変更を表示し、さらに編集するためにエリアをチェックアウトできます。

## エリアのスナップショットの作成

始める前に

- 自分が作成した、または他のユーザーと共有しているダッシュボードとグラフを含むエリア
- セキュリティ: "スナップショットの作成とスケジュール" 権限

このタスクについて

エリアのスナップショットは、エリア内のすべてのダッシュボードとグラフの静的な画像です。スナップショットを作成して他のユーザーと共有することで、定義したパラメータ内のデータを静的な画像として保存できます。

次の操作ができます。

- 自分で使用するためのスナップショットを作成する。
- 即時のワンタイム配信用のスナップショットを他のユーザーと共有する。
- 共有スナップショットを他のユーザーに自動で定期的に配信するようスケジュールする。
- 共有スナップショットのスケジュールを変更する。
- スケジュールされたスナップショットを一時停止する。

共有スナップショットの受信者は、E メールまたは Workday 通知からスナップショットへのリンクを受け取ります。受信者は、E メールで受け取ったスナップショットを表示するためにダッシュボードにアクセスする必要はありません。

受信者に "スナップショットの表示" 権限がある場合は、送信者が当該スナップショットを削除するまで "ダッシュボード" > "スナップショット" からスナップショットをダウンロードすることもできます。

すべてのスナップショットは、エリアのファイル名で PDF として保存されます。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. スナップショットとして共有したいエリアにマウスを合わせ、"アクション メニュー" アイコンを表示します。
3. "アクション メニュー" アイコンをクリックします。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新しいスナップショット | 他のユーザーと共有可能なワンタイム スナップショットを作成します。 |
| 新しいスナップショットのスケジュール | 他のユーザーと共有可能な、定期的に配信するようスケジュールされたスナップショットを作成します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| スナップショットのスケジュール | スケジュールされたスナップショットがある場合にのみ表示されます。スケジュールを確認または変更するには、表示されているスナップショットにマウスを合わせてクリックします。スケジュールを一時停止するには、"スナップショット" に移動し、"アクション メニュー" を使用します。 |

5. 次を参考にして、プロンプトに入力します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | スケジュールにのみ使用できます。スケジュール名は 50 字以内にしてください。 |
| 送信先 | スナップショットの受信者のユーザー名を入力します。 |
| 自分にコピーを送信する | スナップショットのコピーを E メールで受け取りたい場合に選択します。このオプションを選択しなくても、"ダッシュボード" > "スナップショット" でスナップショットにアクセスできます。 |
| 頻度 | スケジュールにのみ使用できます。<br>スナップショットを送信する頻度を選択します。 |
| 時間 | 5 分単位で時間を選択します。 |
| タイムゾーン | スケジュールされた時間設定のタイムゾーンを選択します。 |
| 方向 | エリアを表示するのに最適な方向 ("横" または "縦") を選択します。 スナップショットの内容は選択した PDF 形式に適合するように拡張されます。 |
| ページ サイズ | エリアのダッシュボードに最適なページ サイズを選択します。 |

次のタスク

- 作成したスナップショットを削除するには、"スナップショット" に移動し、"アクション メニュー" を使用して "削除" を選択します。作成者がスナップショットを削除した場合は、全員のフォルダからそのスナップショットのすべてのコピーが削除されます。受信したスナップショットを削除した場合は、受信者のスナップショットのコピーのみが削除されます。
- スナップショットのスケジュールを一時停止または削除するには、"スケジュール" に移動し、"アクション メニュー" を使用して "一時停止" を選択します。

## E メールからのエリアのスナップショットの表示

始める前に

Adaptive Planning のユーザー プロファイルまたは Workday プロファイルで指定された E メール アドレス

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

エリアのスナップショットは、エリア内のすべてのダッシュボードとグラフの静的な画像です。他のユーザーはスナップショットを作成してあなたと共有し、定義したパラメータ内のデータを静的な画像として保存できます。ダッシュボードへのアクセス権がない場合でも、E メールまたは Workday 通知からスナップショットにアクセスできます。ダッシュボードへのアクセス権がある場合は、"ダッシュボード" > "スナップショット" から、共有されたスナップショットを表示できます。

手順

1. E メールまたは Workday 通知を開きます。
   E メールまたは通知には、スナップショットへのダウンロード リンクが含まれています。
2. "スナップショットを開く" リンクをクリックして、コンピュータに PDF 形式でエリアをダウンロードします。
   Adaptive Planning にサインインしていない場合は、サインインを促すプロンプトが表示されます。
3. コンピュータのダウンロード フォルダから、PDF として保存されているスナップショットを探します。

## ダッシュボードからのスナップショットの表示

始める前に

セキュリティ: "スナップショットの表示" 権限

このタスクについて

エリアのスナップショットは、エリア内のすべてのダッシュボードとグラフの静的な画像です。他のユーザーはスナップショットを作成してあなたと共有し、定義したパラメータ内のデータを静的な画像として保存できます。"スナップショットの作成とスケジュール" 権限も持っている場合は、スナップショットを作成して他のユーザーと共有できます。自分が共有したスナップショット、および他のユーザーと共有しているスナップショットは、"ダッシュボード" > "スナップショット" で確認できます。ダッシュボードへのアクセス権がない場合でも、受信した E メールまたは Workday 通知からスナップショットをダウンロードできます。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. サイド メニューから "スナップショット" をクリックします。
3. スナップショットのリストでスナップショット名をクリックし、PDF をコンピュータにダウンロードします。
   また、スナップショットのリストでマウスを合わせて "アクション メニュー" アイコンを表示させることもできます。表示されたアイコンをクリックして "ダウンロード" を選択します。
4. (任意) スナップショットを削除するには、"アクション メニュー" アイコンをクリックし、"削除" を選択します。
   作成者がスナップショットを削除した場合は、全員の "スナップショット" フォルダからすべてのコピーが削除されます。受信したスナップショットを削除した場合は、受信者のスナップショットのコピーのみが削除されます。

## 概念: エリアのスナップショット

エリアのスナップショットは、エリア内のすべてのダッシュボードとグラフの静的な画像です。スナップショットは、作成者が定義したパラメータ内のデータを静的な画像として保存します。他のユーザーが後でデータを更新しても、スナップショットは変化しません。

Adaptive Planning、Workday HCM、または Workday のファイナンシャル製品にアクセスできるユーザーは誰でもスナップショットを受け取ることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### スナップショットのリスト

ダッシュボードの "スナップショット" をクリックすると、作成済みおよび共有しているスナップショットのリストを表示できます。"スナップショットの表示" 権限がある場合は、スナップショットのリストから、他のユーザーが自分と共有したスナップショットを表示できます。

フォルダから、各スナップショットに関する以下の情報を確認できます。

- スナップショットに指定された名前
- スナップショットを送信したユーザーのユーザー名
- スナップショットの日付
- 各スナップショットを受信したユーザーの数 (スナップショットを送信したユーザーを除く)
- 時間、組織、通貨などのパラメータ

### スケジュール

"スケジュール" をクリックすると、スケジュールしたすべてのスナップショットを表示できます。スケジュールのリストから、以下を実行できます。

- スケジュールされたスナップショットを一時停止または削除します。
- ライブ エリアに戻ります。

### スナップショットの共有

エリアの作成者は、定期的または 1 回限りのスナップショットを作成して送信できます。スナップショットの承認者または受信者は次のことができます。

- 送信されたスナップショットを表示します。
- "ダッシュボード" > "スナップショット" から、送信および受信したスナップショットのリストを表示します。

スナップショットを共有すると、ユーザーは E メールでリンクを受け取ります。リンクをクリックすると、スナップショットの PDF をコンピュータにダウンロードできます。

### 異なる対象者向けのスナップショット

エリアのコンテキスト フィルタを設定し、フィルタされた各ビューのスナップショットを作成できます。その後、すべて 1 つのエリアから、さまざまな対象者に向けて異なるデータ ストーリーを配信できます。

たとえば、事業利益をターゲットとするエリアにフィルタを設定することにより、CEO、CFO、および部門別営業担当 VP に対して個別に "会社概要" スナップショットを送信できます。

| 対象者 | バージョン | コンテキスト: 時間 | コンテキスト: 組織 | コンテキスト: 通貨 | コンテキスト: 製品 (カスタム) |
|---|---|---|---|---|---|
| CEO | 実績のオーバーレイ | 現在の月 - 年 | Total Company (すべての組織) | USD | すべて |
| 監査役 | 実行予算 | 現在の月 - 年 | Total Company (すべての組織) | USD | すべて |
| カナダ営業部門副社長 | 予測 | 月 - 来年度 | 営業 - カナダ | CAD | 電子機器 |

スナップショットのスケジュールを作成すると、スケジュールはフィルタを記憶し、それらのフィルタに基づいてスナップショットを送信します。送信されたスナップショットは "タイトル" ページ上のフィルタを記録し、受信者のコンテンツに関するコンテキストを提供します。

### スナップショット情報

スナップショットの PDF タイトル ページには、以下の情報が含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- エリア名
- 期間
- 組織
- 通貨

スナップショットの PDF ページのフッターには、以下の情報が含まれます。

- スナップショットを作成および送信したユーザーのユーザー名
- スナップショットの日時

## 概念: データの分析とグラフ操作

### データのリフレッシュ

グリッド モード、プレゼンテーション モード、編集モードで使用できます。

ダッシュボードとグラフを最新情報でリフレッシュできます。 エリア ツールバーにある "リフレッシュ" ボタンを選択します。

### エリアのコンテキストの変更

グリッド モード、プレゼンテーション モード、編集モードで使用できます。

視聴: コンテキスト フィルタ (1 分 35 秒)

コンテキスト フィルタを使用すると、エリアにある全グラフを評価するデータが変わります。例: 特定の組織および選択した顧客のデータのみをフィルタリングおよび表示します。フィルタ選択は、自動的にブラウザに保存されます。Web ブラウザやデバイスごとに異なるフィルタ選択を保存できます。

時間、組織、通貨は恒久的なフィルタです。時間と通貨にはデフォルトが事前設定されています。できること エリアのコンテキスト フィルタの追加 ( 297ページ ) 顧客コンテキスト フィルタなどのエリアを編集することにより、

### 時間の変更

グリッド モード、プレゼンテーション モード、編集モードで使用できます。

視聴: エリア時間の変更 (2 分 22 秒)

1 つのグラフまたはすべてのグラフのエリア レベルで時間を一時的に変更することにより、異なるデータセットを動的にビジュアル化できます。ページから移動すると、オーバーライドした内容がデフォルトに戻ります。

各グラフの下部にあるエリア ツールバーまたは時間ツールバーから、デフォルト時間をオーバーライドできます。

注 : 時間を変更する前に、動的に調整するグラフが固定されていないことを確認します。固定済グラフは変更されません。ツールバーで日付をクリックし、ドロップダウンから期間を選択します。

| グラフ時間ツールバー オプション | |
|---|---|
| | 時間のリセット: 時間をデフォルトの時間設定にリセットします。 |
| | 期間範囲: 日付範囲からデータを表示する場合に選択します。 |
| | 1 つの期間: 1 つの期間からデータを表示する場合に選択します。 単一の日付 |
| | クリックして、グラフを一時的に固定済または未固定にします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 期間設定が固定されていないグラフは、エリアの時間コンテキストに相対しています。
- 期間設定が固定されているグラフ時間は固定されており、時間コンテキストがエリアで変更されても変更されません。

日付または日付範囲

タイム: 時間の範囲を変更する。例:Cハングe 月から四半期

固定解除済グラフに関する時間変更

すべて 固定解除済グラフ 選択した期間に更新:

- 次の頻度で固定解除済グラフ: 1 期間 時間設定がエリア ツールバーから選択した期間と同じ期間に変更されます。 E例:あり6 月 20 日を選択23, および グラフ上の単一期間を 6 月、第 2 四半期、および第 20 四半期に変更23。
- 次の頻度で固定解除済グラフ: 期間 設定はグローバル オフセットと同期して前後に移動します。E例:あり時間を 2 か月先に移動すると、 ので グラフ上の期間範囲は 2 か月先に移動します: 1 月 20 日22- 12 月 20 日22 変更 - 3 月 20 日22- 2 月 20 日22。
- 期間設定はグローバル期間設定をオーバーライドするため、固定済グラフは変更または調整されません。ツールバーで時間を調整する前にグラフを一時的に未固定にすることができ、時間は調整されます。

データポイント ツールチップの表示

グリッド モード、プレゼンテーション モードで使用できます。

グラフを表示するときは、データポイントでツールチップを表示できます。データポイントにマウスを合わせると、そのデータポイントのサマリ情報が表示されます。サマリ情報には、時間とデータ値が含まれます。

データポイントの詳細を調べる

グリッド モードのみで使用できます。

データポイントの詳細は、"セルを探索" を使用すると表示できます。データポイントを選択して、ドロップダウン メニューから "データを探索" を選択します。

データポイントのドリルイン

グリッド モードのみで使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

グラフのデータポイントをドリルインすると、分析のルート ソースの特定に便利です。たとえば、製品の収益が低下した場合、データを深く掘り下げて、期待を下回る販売地域などの異常を見つけ出します。下記によりドリル操作を実行できます。

- 科目: 総勘定元帳、カスタム、メトリック、モデル、キューブ
- 属性と特性

グラフでデータ ポイントを選択して、ドロップダウンから科目または属性を選択します。"戻る" をクリックしてダッシュボードに戻ります。

relatedlinks
概念
概念: "セルを探索" および "行の詳細" ( 96ページ )

## 概念: 能力とノルマの計画の推奨ダッシュボード

能力とノルマの計画は、セールス プランニングの一般的なユース ケースの 1 つです。以下は、能力とノルマのエリアに追加できる推奨ダッシュボードです。各ダッシュボードには、能力とノルマの一般的な計画プロセスのステップが表示されます。このダッシュボードを、販売の能力とノルマの計画の開始ポイントとして使用できます。その後で、実際のプロセスに合わせて調整します。

### 目標ダッシュボード

目標ダッシュボードには、トップダウンの数値目標を表示できます。以下のグラフを追加できます。

- 営業の生産性対合意金額
- 営業担当者の人員のニーズ
- 合意金額の計画対数値目標
- セグメントごとに分割した数値目標対生産性

さらに、次の使用目的でシートを追加することもできます。

- 金額または割合で数値目標を調整
- 季節別の生産性の割合を四半期ごとに変更
- 市場セグメントまたは地域別に目標パーセントを変更

シートでデータを入力および変更すると、グラフが調整されます。

### 能力ダッシュボード

能力ダッシュボードでは、生産性や平均販売価格 (ASP) に関する概要レベルの前提条件を調整した場合の影響を確認できます。このグラフでは、平均販売価格の前提条件が、営業チームが売上を増加させる能力にどのように影響するかを確認できます。これにより、人材配置計画を詳細に検討する必要なく、市場セグメント、地域、製品ごとに、予測に基づいて生産性を変更できます。

### 人材配置ダッシュボード

人材配置ダッシュボードでは、四半期ごとの合意金額の計画対数値目標に基づいて、営業チームのヘッドカウントのニーズを表示できます。以下が可能です。

- グラフを追加して、ボトムアップの営業担当者の生産性が、目標ダッシュボードで設定されたトップダウンの数値目標と一致しているかどうかを確認します。
- シートを追加して、地域ごとの採用数と増員スケジュールを操作し、売上数値目標に見合う人材配置を行うために必要な変更を確認します。
- 増員スケジュールのシート内で新しい増員スケジュールを直接作成します。
- 新規採用や、営業担当者の削減を計画します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

**TAM (市場規模) ダッシュボード**

TAM ダッシュボードには、市場セグメントと各セグメントの市場規模が表示され、人材配置ニーズのギャップがハイライトされます。以下を追加できます。

- 使用可能な TAM と割り当てられた TAM を比較する、セグメント別の各種グラフ
- 各セグメントで計画されている将来の採用数や、各市場の現在の営業担当者を表示するシート
- 各セグメントの市場規模を営業担当者ごとにまとめたクロス集計グラフ

担当者のノルマ ダッシュボード

担当者のノルマ ダッシュボードでは、すべての営業担当者、各営業担当者の売上ノルマ、およびこれらのノルマが営業チームの目標にどのように貢献するかをリストできます。このダッシュボードを使用すると、営業担当者別、月別など、非常に詳細にノルマを分析、設定できます。以下を示すグラフを追加します。

- 前月比のトレンド
- 市場セグメントごとのノルマ
- 営業ロールごとのノルマ

シートを追加して、営業担当者別に各ノルマを変更することもできます。

ノルマ ダッシュボード

ノルマ ダッシュボードでは、営業チームの合意金額の数値目標と導入済みノルマがハイライトされ、ノルマ範囲が示されます。このダッシュボードでは、上記の担当者のノルマ ダッシュボードほど詳細ではなく、概要レベルで売上ノルマを表示できます。シートを追加すると、市場セグメント別に生産性やノルマを設定できます。

実績ダッシュボード

実績ダッシュボードでは、過去の売上業績データに基づいて、年間の経常収益と顧客数を時系列で表示できます。グラフでは、過去数年間の合意金額、顧客数、平均販売価格を、四半期別および月別に確認できます。合意金額が収益業績と平均販売価格 (ASP) に見合っているかをすばやく確認できます。

サマリ ダッシュボード

サマリ ダッシュボードでは、他の各ダッシュボードのグラフを表示できます。ボトムアップの営業人材配置計画と、トップダウンの数値目標との差異を確認できます。サマリのグラフには以下を含めることができます。

- 合意金額計画
- 導入済みノルマ
- ヘッドカウントの差
- 合意金額の計画対数値目標
- 地域別の営業担当者
- 市場規模と営業チーム全体における市場規模の割当に関するサマリ

## 例: 地域プランニング ソリューション

Adaptive Planning for Sales は、地域プランニング向けのベスト プラクティスを使用したサンプルのリファレンス ソリューションを提供します。リファレンス ソリューションはダッシュボード、シート、モデルのセットです, 地域プランニング ソリューションの機能をハイライトするインテグレーション タスク当社の地域プランニング ソリューションは、計画と日々の業務アクティビティの両方を管理するのに役立ちます。各ダッシュボードは通常、計画プロセスのステップを表します。 ダッシュボードには概要を追加して、計画プロセスや個々のダッシュボードやグラフの目的を説明するテキスト メモを表示することもできます。

ソリューションに含まれているデータ モデルとダッシュボードのセットは、以下の操作に役立ちます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- ルールを使用-ベースでの科目の区分けおよび手動での科目の割当。
- の科目を で管理 - 同一の科目ファミリー
- チーム割当に基づくロール割当秒 地域:
- 喪失した科目の再利用、科目の移転のリクエストと承認。
- 差分を 3 番目にエクスポートするためのデータ キャプチャの変更-パーティー システム
- 国のデータに地理属性を使用し、 - 米国。小。 郵便番号まで。

注 : このソリューションはすぐに使用できません。ダッシュボード、シート、モデル、インテグレーション タスクのサンプル セットが含まれており、 P専門職 小サービス秒 チームが実装可能 プランニング フローと運用フローの両方で、セールス オペレーショナル マネージャとセールス リーダーが地域を計画、管理できるようにします。

ダッシュボードには各会社固有の営業計画ワークフローが反映されることにご注意ください。

概要

当社の地域プランニング ソリューションは、計画と日々の業務アクティビティの両方を管理するのに役立ちます。 詳細については、 地域プランニング ソリューションのさまざまなダッシュボードのセット

ビデオを見る: (1 分 6 秒)

設定とデータの準備

初期段階でデータの品質と一貫性を向上 準備期間。

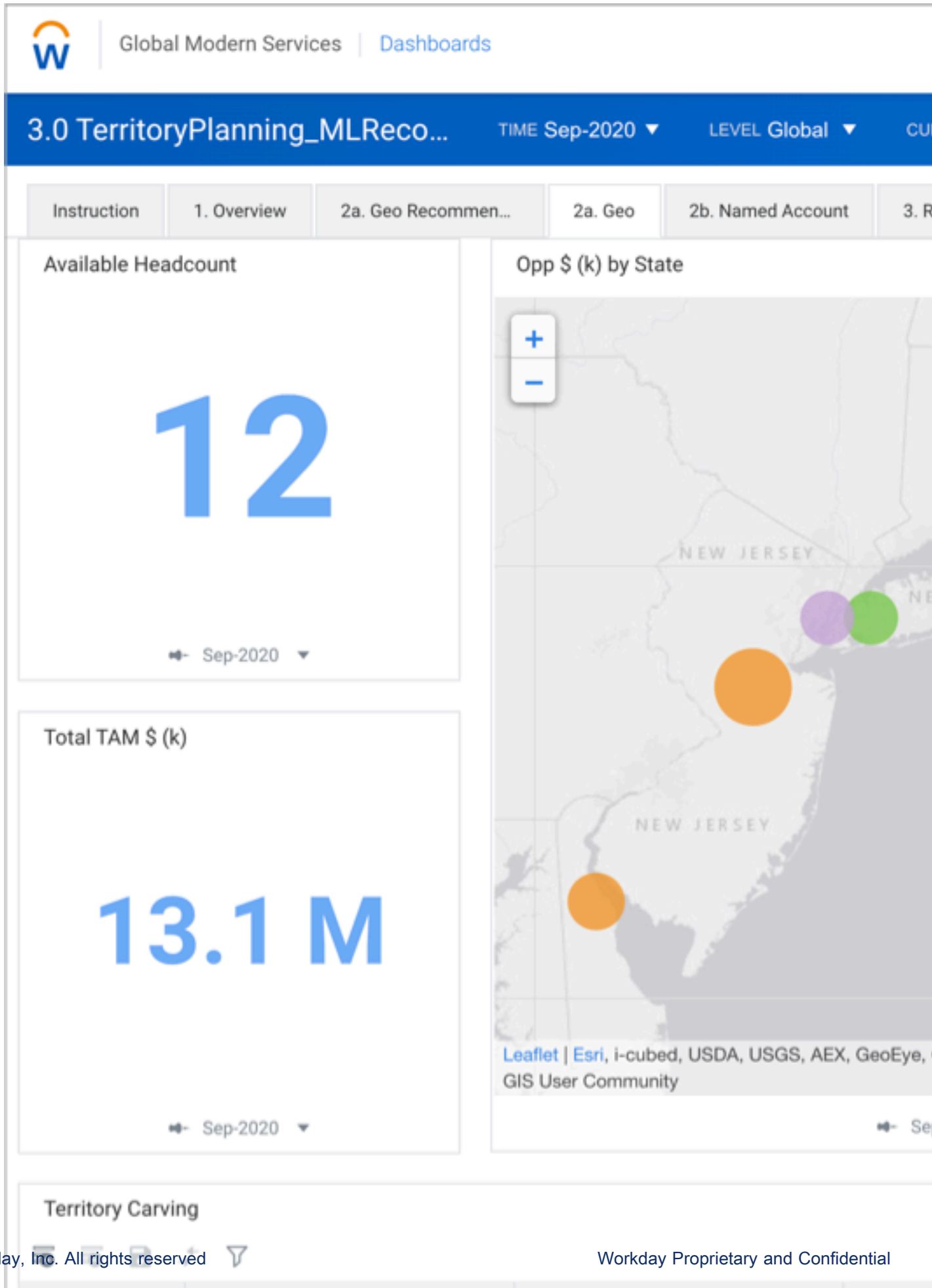
ビデオを見る: (2 分 36 秒)

計画

プランニング ソリューションは科目の区分けを管理するのに役立ちます。-下降目標の割当とチーム-地域階層に基づいた担当者の割当t を実行プランニング ステージ トップダウン プロセス。

- 属性を設定-マッピング ルール。顧客科目のプロパティに基づいて科目を地域に自動的に割り当てる。例秒: 地理情報、業種、収益、 および 社員数。
- 指定の科目について、科目を地域に手動で割り当てる。
- 現場や地域のセールス リーダーはリクエストをレビューして送信し、新しい計画が原因で喪失した科目を再利用することができる。セールス リーダーとオペレーショナル マネージャは各リクエストをレビュー、承認できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

科目の移転の変更リクエストと承認フロー

科目は計画ステージで作成された科目の区分けルールに基づいて地域に割り当てられます。 指定の科目について、セールス リーダーとオペレーショナル マネージャは手動で科目割当の変更を行うことができます。

リクエストと承認のフロー秒有効化 フィールド マネージャ 終了 地域の割り当てに対する変更リクエスト。Tヘッドカウント, セールス リーダーとオペレーショナル マネージャ ことができます 各申請をレビューし、承認する。

ビデオを見る: (2 分 22 秒)

差分をエクスポートするためのデータ キャプチャの変更

データ キャプチャの変更ソリューションは、科目や担当者の割り当ての変更の差分をキャプチャしてエクスポートするのに役立ちます。

relatedlinks
概念
概念: セールス プランニング（26ページ）
タスク
ステップ: 派生属性の設定（995ページ）
ステップ: 営業向け地域プランニングの設定（24ページ）

# グラフ

## グラフ データのフィルタ

グラフ上のフィルタの設定

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

組織、属性、または属性特性など、多くの要素タイプをフィルタ条件の一部として含めることができます。フィルタ条件に含まれる各フィルタを選択すると、その結果が展開されます。

グラフにデフォルトのフィルタを設定するには、"データ設定" タブの "科目" 設定でデータ系列を編集します。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアを開き、"編集" をクリックします。
3. グラフをクリックします。
4. "データ設定" を選択します。
5. 科目を展開します。
6. "フィルタ" をクリックします。
7. 要素を参照または検索し、フィルタを選択します。
   選択パネルには、上部にフィルタの選択項目が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

タスクの結果

例

次のタスク

グラフに多数のデータ系列がある場合、科目ごとに同じフィルタを設定することで、同じようなデータセットをビジュアル化することができます。

例

2 つのデータ系列の売上をビジュアル化し、両方ともカナダの売上のみを表示したい場合は、同じフィルタ条件を使って各データ系列にフィルタを作成します。"ノートパソコンの売上" および "デスクトップの売上" でフィルタ設定を変更して、カナダの収益のみが円グラフに表示されるようにします。

参考: グラフ上のデータの焦点の絞り込み

ビジュアライゼーションの焦点を絞り込む場合は、以下のテーブルを使用すると、要件に最適な方法を決定するのに役立ちます。

| 方法 | 表示と編集 | 閲覧のみ |
|---|---|---|
| フィルタ<br>グラフのフィルタ | グラフのフィルタを使用して、グラフのデータ系列にフィルタを設定します。グラフとエリアのコンテキストがフィルタリングに同じ属性を使用する場合、グラフ フィルタはエリア コンテキストよりも優先されます。 | アクションなし 必須。グラフを表示するユーザーは、グラフ フィルタを変更できません。 |
| エリアのコンテキスト | エリアのコンテキストを設定して、エリアのすべてのダッシュボードとグラフにデフォルトのフィルタを設定します。 | エリアのコンテキストの変更 アドホック分析選択 デフォルトに戻すオプション グラフから移動したとき。参照 概念: データの分析とグラフ操作 |
| ドリルダウン | ドリルダウンの対象は以下のとおりです。 選択可能なインスタンスの属性と特性に基づいています。以下に制限できます - ドリルダウンで使用できる属性と特性<br><br>属性がエリアのコンテキストとして使用可能な場合は、ほとんどの属性はドリルダウンに使用できません。組織、システムで定義されたエリアのコンテキストのみがドリルダウンに使用できます。 | データ ポイントにドリルダウン アドホック分析グラフから移動したときに、選択は維持されず、デフォルトに戻ります。参照 概念: データの分析とグラフ操作 |
| ブレークダウン | 用途参考: データのブレークダウン ( 316ページ ) ブレークダウン設定 のデータ系列のスライス終了 カテゴリまたはセグメントを変更して、ビジュアライゼーションと分析を向上させます。ブレークダウンはデータをフィルタしません。 参照 参考: データのブレークダウン 。 | アクションは不要です。グラフを表示するユーザーは、ブレークダウンを変更できません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 方法 | 表示と編集 | 閲覧のみ |
| --- | --- | --- |
| 並べ替えと制限 | 並べ替えと制限を使用して、データ系列のデータを昇順または降順で整理しリストアップします。最上位 N または最下位 N を表示するために、一連の大規模なデータを制限できます。 | アクションは必要ありません。グラフを表示しているユーザーは、並べ替えや制限を変更できません。 |

参考: データのブレークダウン

ブレークダウンの設定では、カテゴリまたはセグメント (期間、サブ科目、属性など) にデータがスライスされます。ブレークダウンはグラフの "データ設定" タブから設定できます。 ゲージ グラフ、KPI グラフ、クロス集計グラフ、およびスコアカード グラフを除くすべてのグラフ タイプに、データのブレークダウン オプションがあります。

| ブレークダウン オプション | 説明 | グラフのタイプ |
| --- | --- | --- |
| 属性 | 徹底的な分析のため、カテゴリ別にデータを分類します。カテゴリには "販売チャンネル"、"場所"、"製品" などがあり、その他にもさまざまなものが考えられます。 | 面、横棒、縦棒、ドーナツ、地理マップ、折れ線、円、ピラミッド |
| なし | 科目はカテゴリ別に分類されません。 | 面、横棒、縦棒、折れ線 |
| メトリック | データを科目別に定義したカテゴリに分類します。たとえば、ウォーターフォールでは、総収益、売上原価、売上総利益、管理コスト、純利益などの販売メトリック別にデータを分類できます。 | ウォーターフォール |
| 系列 | グラフに追加する科目で系列が決定し、その系列ごとにデータを分類します。たとえば、収益の円グラフで系列ごとにデータをブレークダウンすると、スライスは製品、サービス、保守の収益を示します。 | ドーナツ、ファネル、円、ピラミッド |
| 時間層または時間 | グラフで構成された "期間設定" に基づいて、月、四半期、年などの期間に科目データをブレークダウンします。 | 面、横棒、縦棒、ドーナツ、地理マップ、折れ線、円、ピラミッド、ウォーターフォール |

第 2 段階のブレークダウン

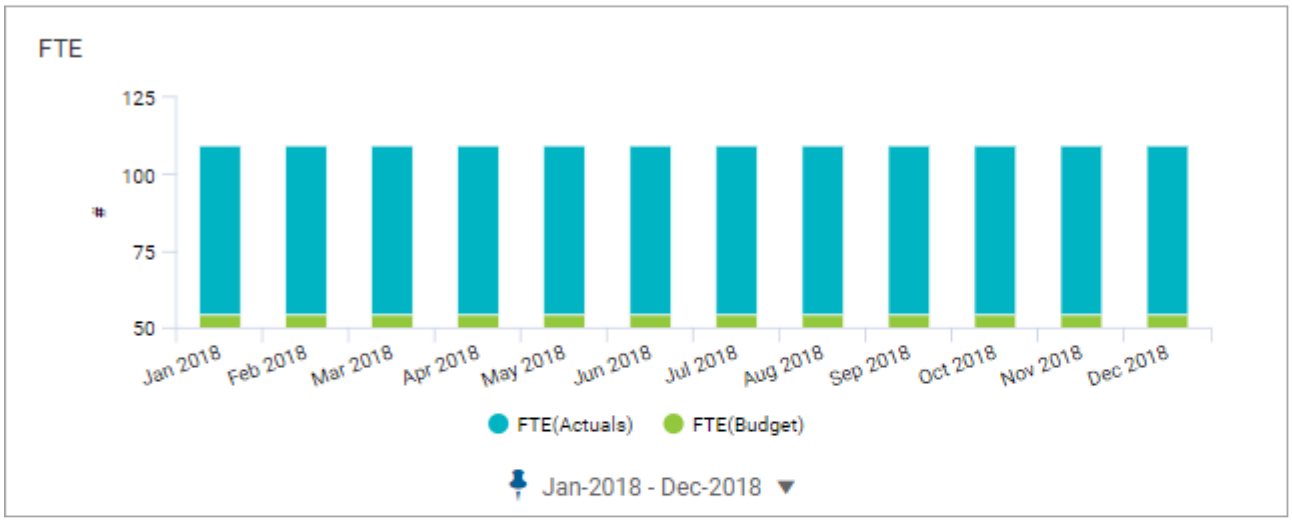
面グラフ、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフの場合、第 1 段階と第 2 段階のブレークダウンを設定して、よりきめ細かいデータのスライスをグループ化および分析できます。たとえば、四半期ごとに年間収益を分析し、場所または製品ごとにデータをさらにブレークダウンできます。

縦棒グラフと折れ線グラフのブレークダウンの例

時間でブレークダウン

この例は、時間でブレークダウンした積み上げ縦棒グラフを示しています。データ設定インセットは、ブレークダウンの "タイプ" が "時間" であり、"積み上げ" がオンであることを示しています。

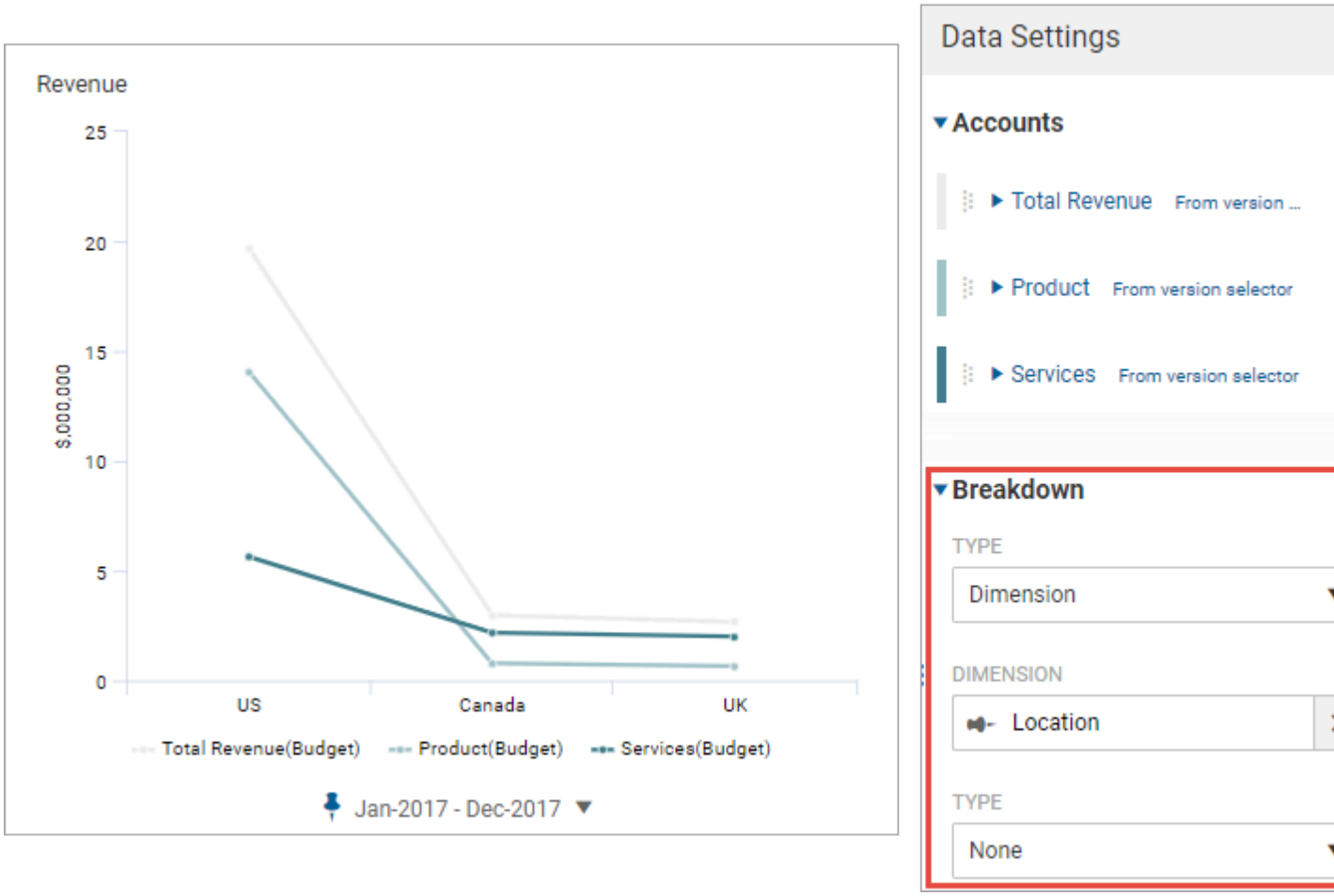
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




属性でブレークダウン

この例は、位置属性でブレークダウンした折れ線グラフを示しています。データ設定インセットは、ブレークダウンの "タイプ" が "属性" であり、選択した属性メンバーが "場所" であることを示しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




ゼロを表示しない

"データ設定" > "ブレークダウン" でグラフを属性ごとにブレークダウンするときに、ゼロを非表示にして関連データ ポイントのビジュアライゼーションに注目できるようにします。

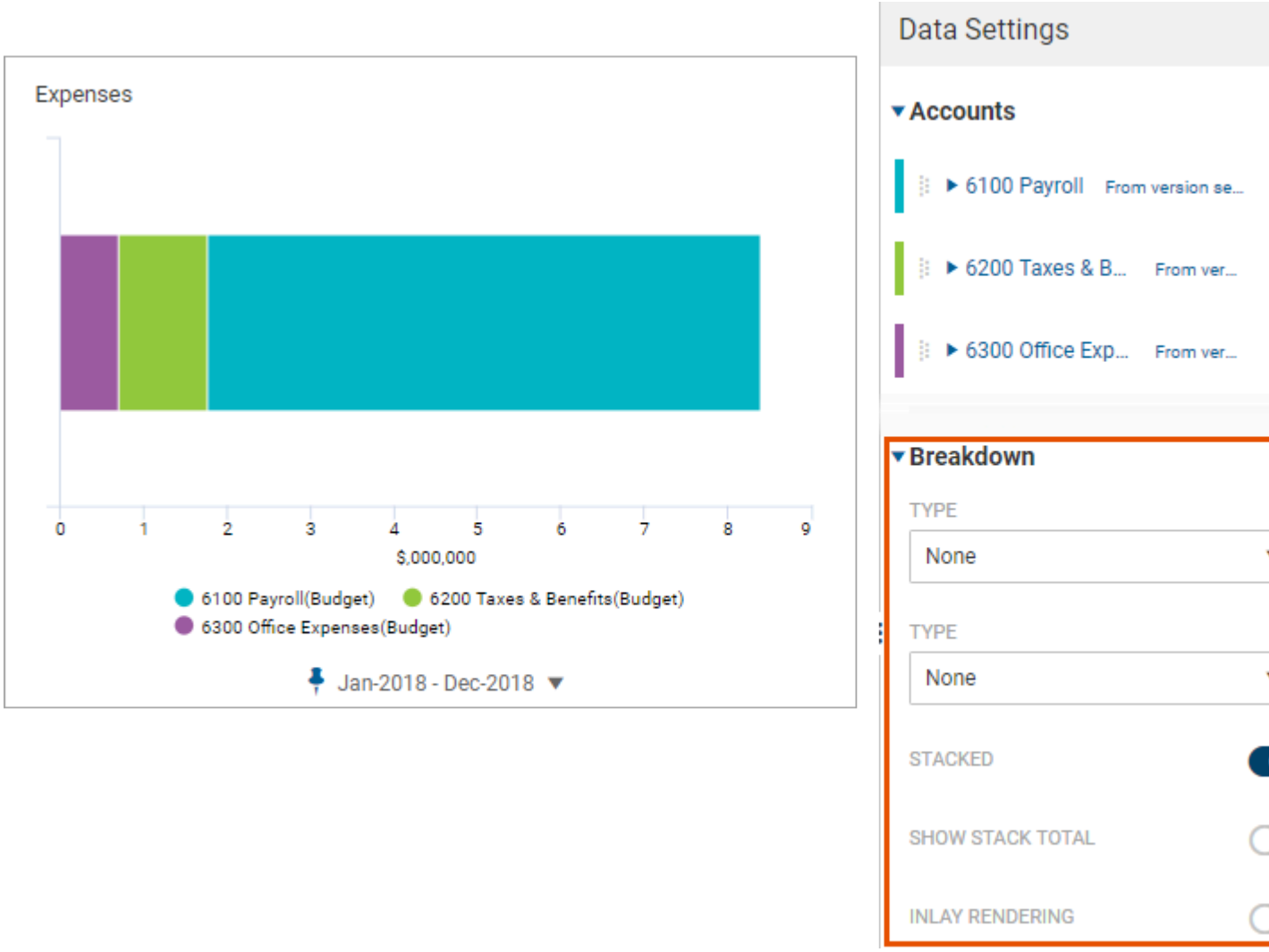
スコアカードやクロス集計にゼロを非表示にする場合:

- スコアカードの場合、"外観の設定" > "全般" でゼロを非表示にします。
- クロス集計の場合、"データ設定" > "列" または "データ設定" > "行" でゼロを非表示にします。

ブレークダウンなし

この例は、ブレークダウンのない積み上げ棒グラフを示しています。この設定は、複数のデータ系列の比率を比較するのに役立ちます。データ設定インセットは、ブレークダウンの "タイプ" が "なし" で "積み上げ" がオンであることを示しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



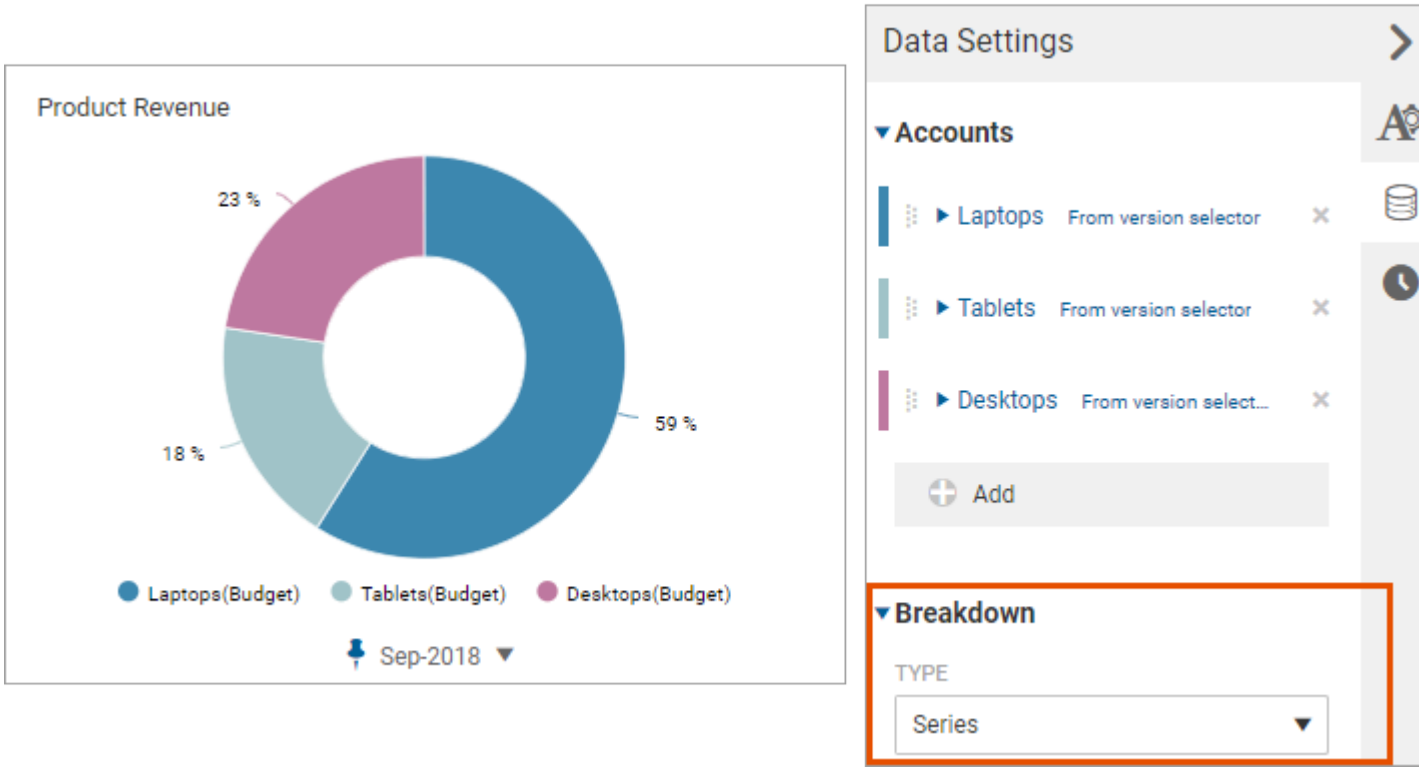

円、ドーナツ、およびピラミッド グラフのブレークダウンの例

円グラフとドーナツ グラフを系列、時間、属性でブレークダウンできます。

系列でブレークダウン

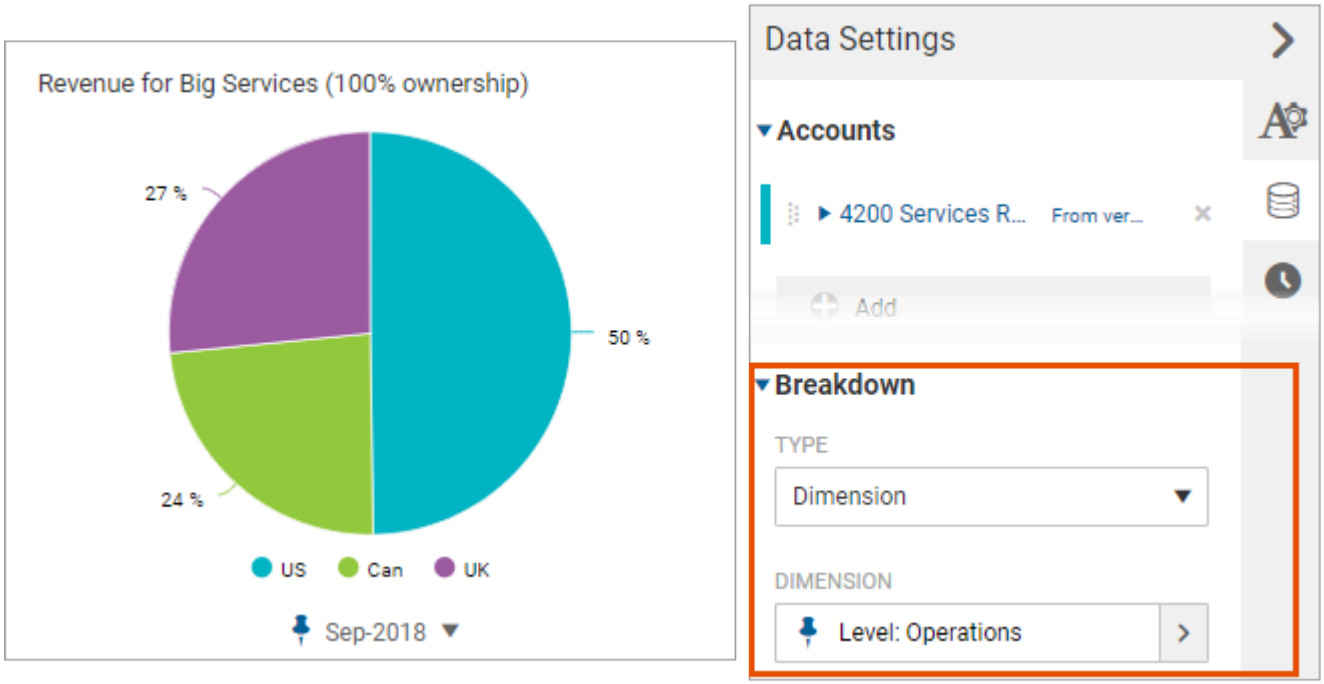
この例は、各スライスがデータ系列を表す、系列でブレークダウンしたドーナツ グラフを示しています。データ設定インセットは、ブレークダウンの "タイプ" が "系列" であることを示しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




属性でブレークダウン

この例は、属性でブレークダウンした円グラフを示しています。各スライスは、完全所有会社の場所の収益を表します。データ設定インセットは、ブレークダウンの "タイプ" が "属性" であり、選択した属性メンバーが "組織" > "大規模サービス (100% 所有)" > "運営" であることを示しています。

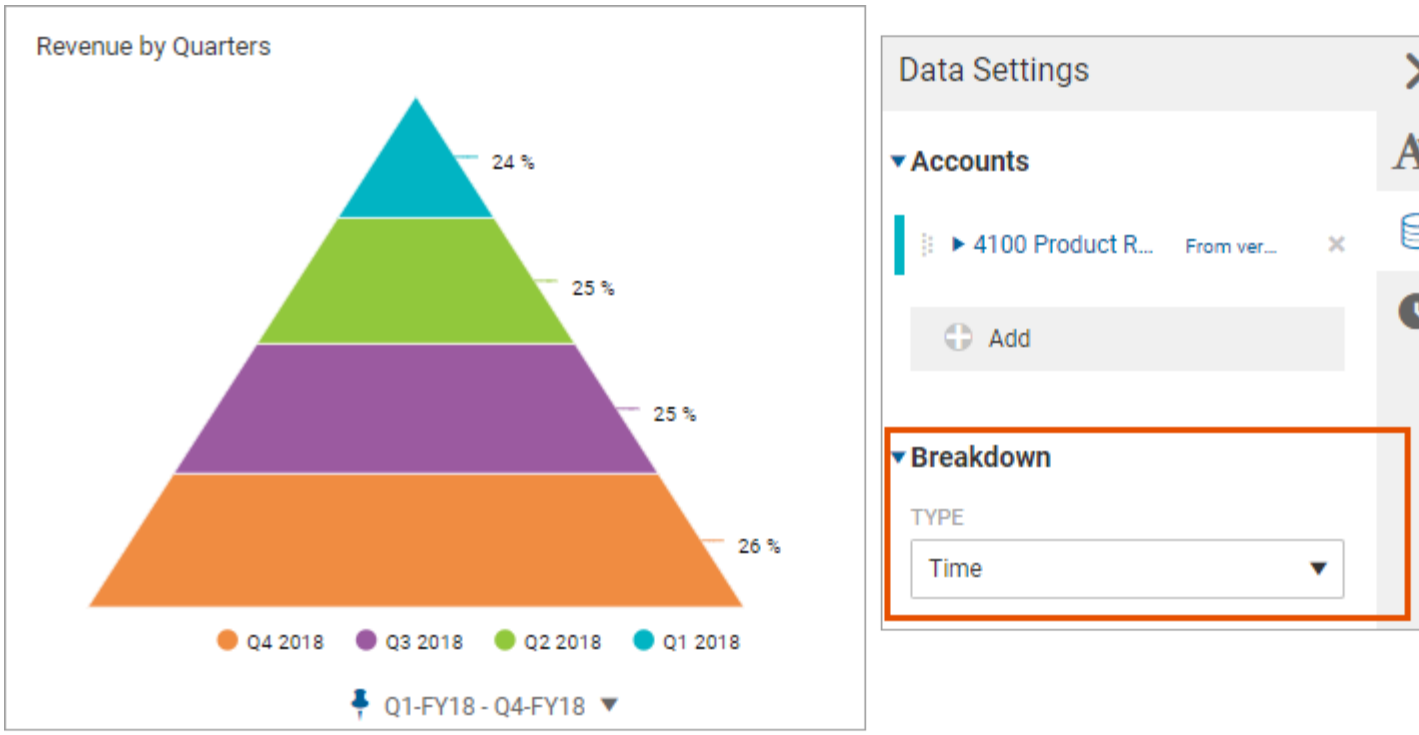



©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 時間でブレークダウン

場合によっては時間で円、ドーナツ、ピラミッド グラフのデータをブレークダウンすることにも意味があります。時間セグメントでブレークダウンしたデータ系列を表示するには、期間範囲を定義する必要があります。

この例は、時間でブレークダウンしたピラミッド グラフを示しています。各スライスは時間を表します。データ設定インセットは、ブレークダウンの "タイプ" が "時間" であることを示します。時間設定インセットは、スパンが "範囲" に設定されていることを示します。



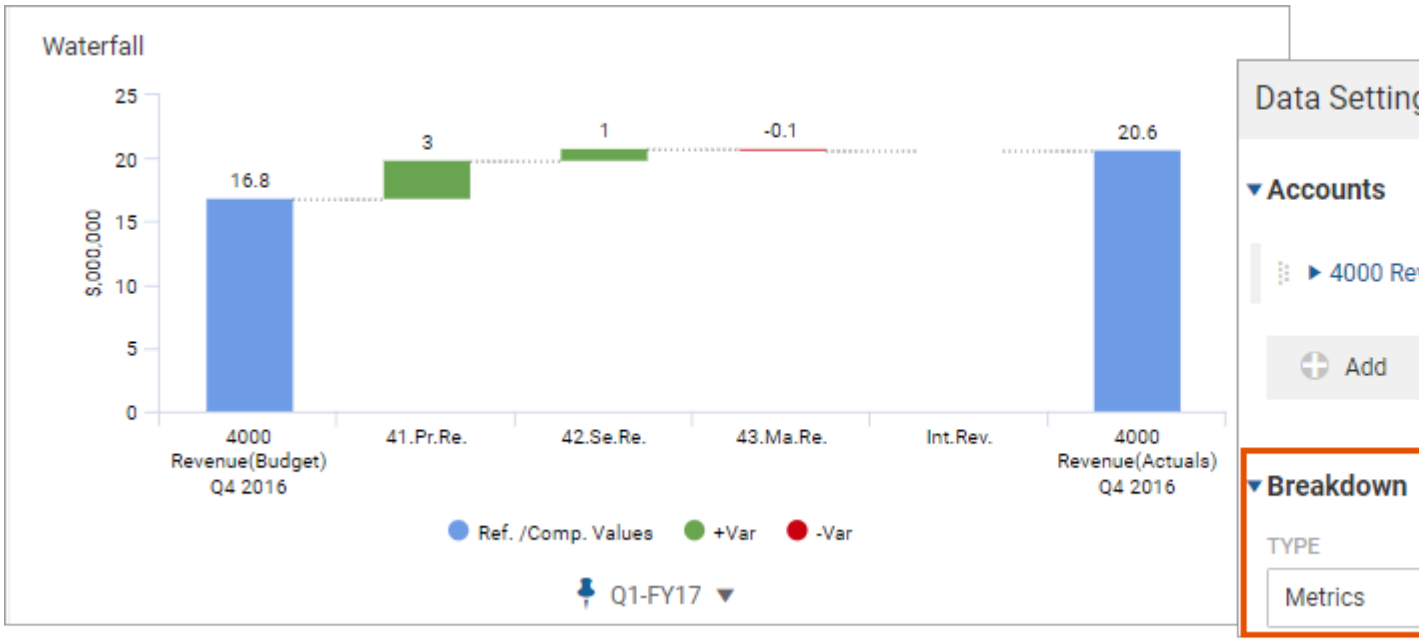

### ウォーターフォールのブレークダウンの例

ウォーターフォールのデータはメトリック、属性、または時間でブレークダウンできます。

### メトリックでブレークダウン

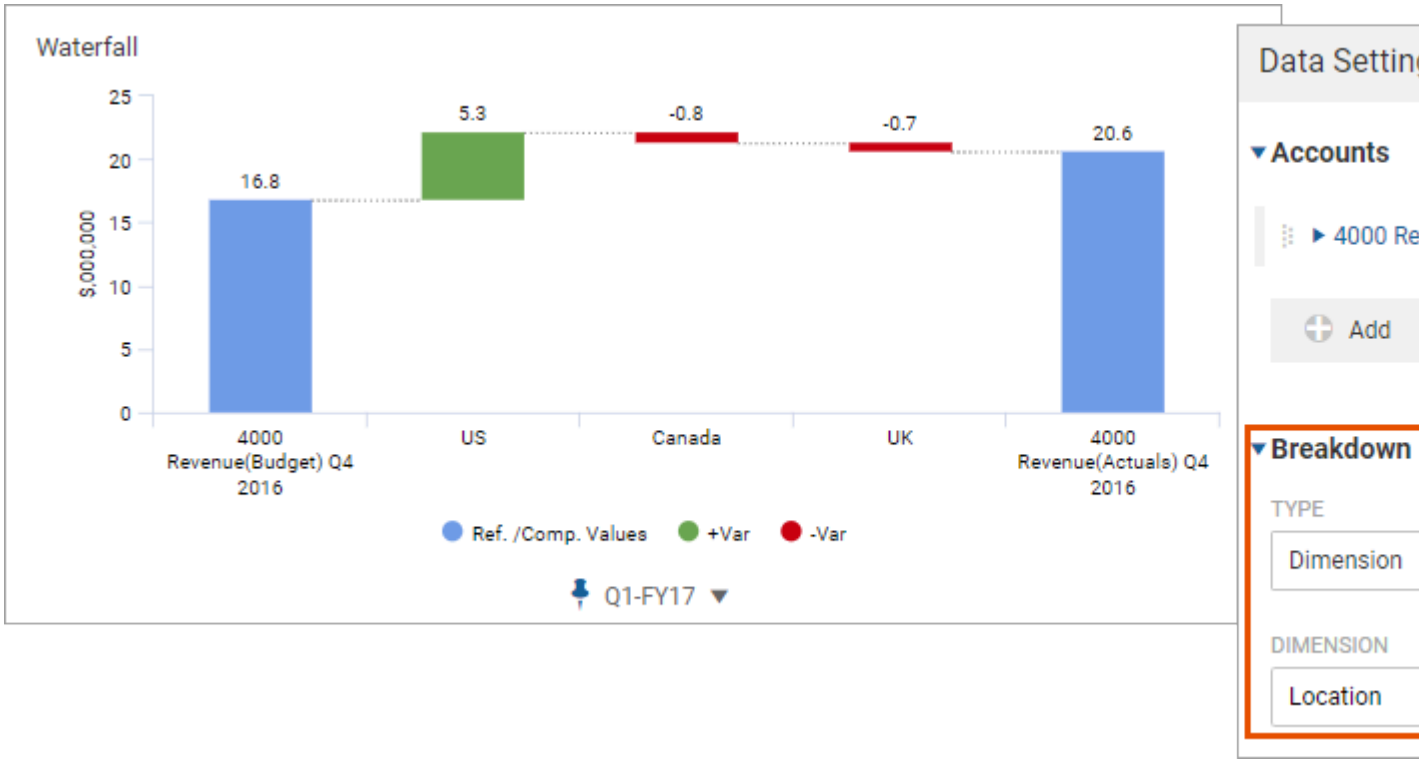
以下は、前年度の予測収益と実績を比較したウォーターフォールの例です。メトリックによるブレークダウンで、各ステップは 3 つの製品ラインの収益です。このグラフはウォーターフォール グラフのデフォルトの設定を表しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




属性でブレークダウン

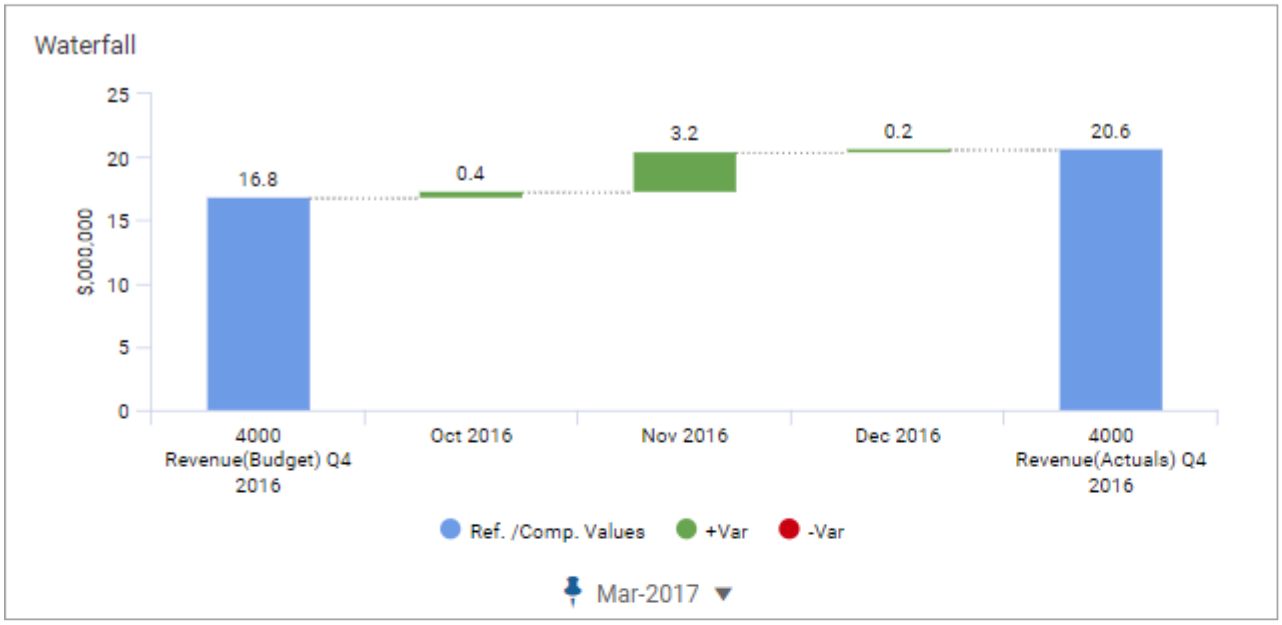
次のウォーターフォール グラフは、場所属性でブレークダウンした収益を示しています。

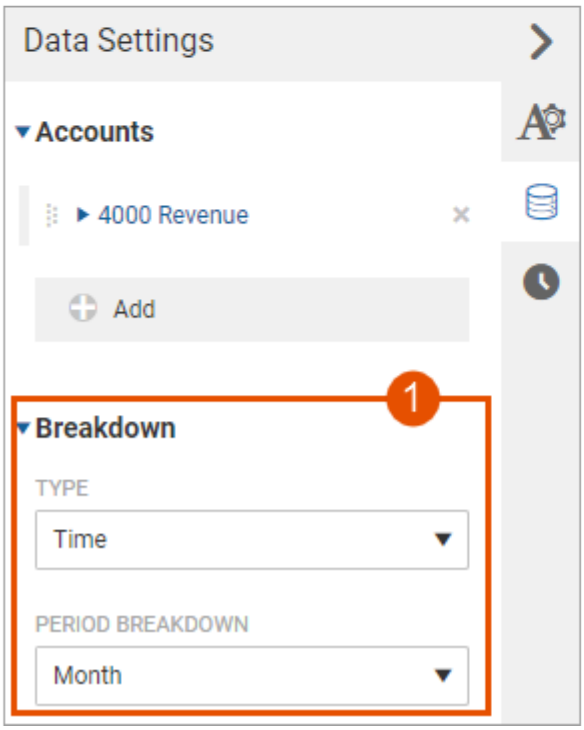


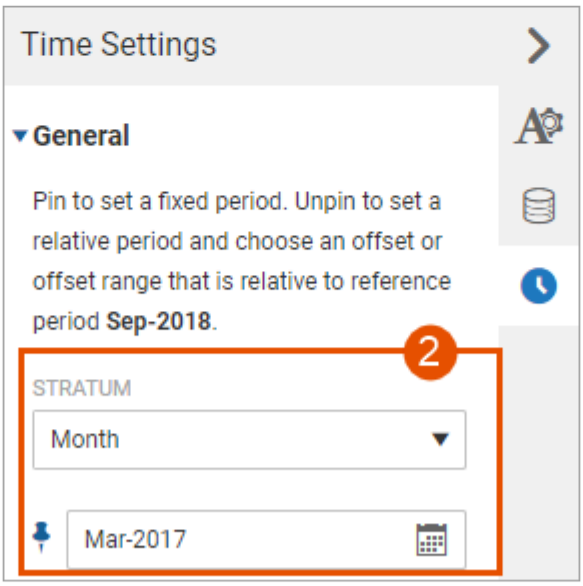

時間でブレークダウン

次のウォーターフォール グラフは時間ごとにブレークダウンしたデータを示しています。このグラフは、第 3 四半期の各月の収益がどのように認識されたかをビジュアル化するのに役立ちます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



このビジュアライゼーションを設定するには、すべての設定タイプに時間要素を設定する必要があります。

| | |
|---|---|
| 1 | データ設定: "時間" によるブレークダウンを選択します。 |
| 2 | 期間設定: "層" を "月" に設定します。 |
| 3 | 外観の設定: "基準値" の "時間の配置" を "前" に設定し、"期間" を "四半期" に、"オフセット数 を "1" に設定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# 条件付き書式設定

## 条件付き書式設定ルールの作成

### 始める前に

セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

### このタスクについて

1 つのグラフに複数の条件付き書式設定ルールを作成できます。これらのルールは最下位から評価されます。同じデータ ポイントでルールが "true" と評価される場合、ルールの順序が重要になります。ルールの順序によって、書式設定の適用方法が決まります。

### 手順

1. "外観の設定" タブから "条件付き書式設定" セクションを展開します。
2. "ルールの追加" をクリックします。
3. ルールを定義します。
4. 式を作成します
   例: `[Quick Ratio] >= 19`ここで、"当座比率" はグラフ内のデータ系列の名前です。
5. 条件が真である場合に、データ ポイントのハイライトに使用する色を選択します。
6. このルールを使用して評価するデータ系列を選択します。
7. (任意) ルールをドラッグ アンド ドロップして並べ替えます。

### タスクの結果

### 例

### 次のタスク

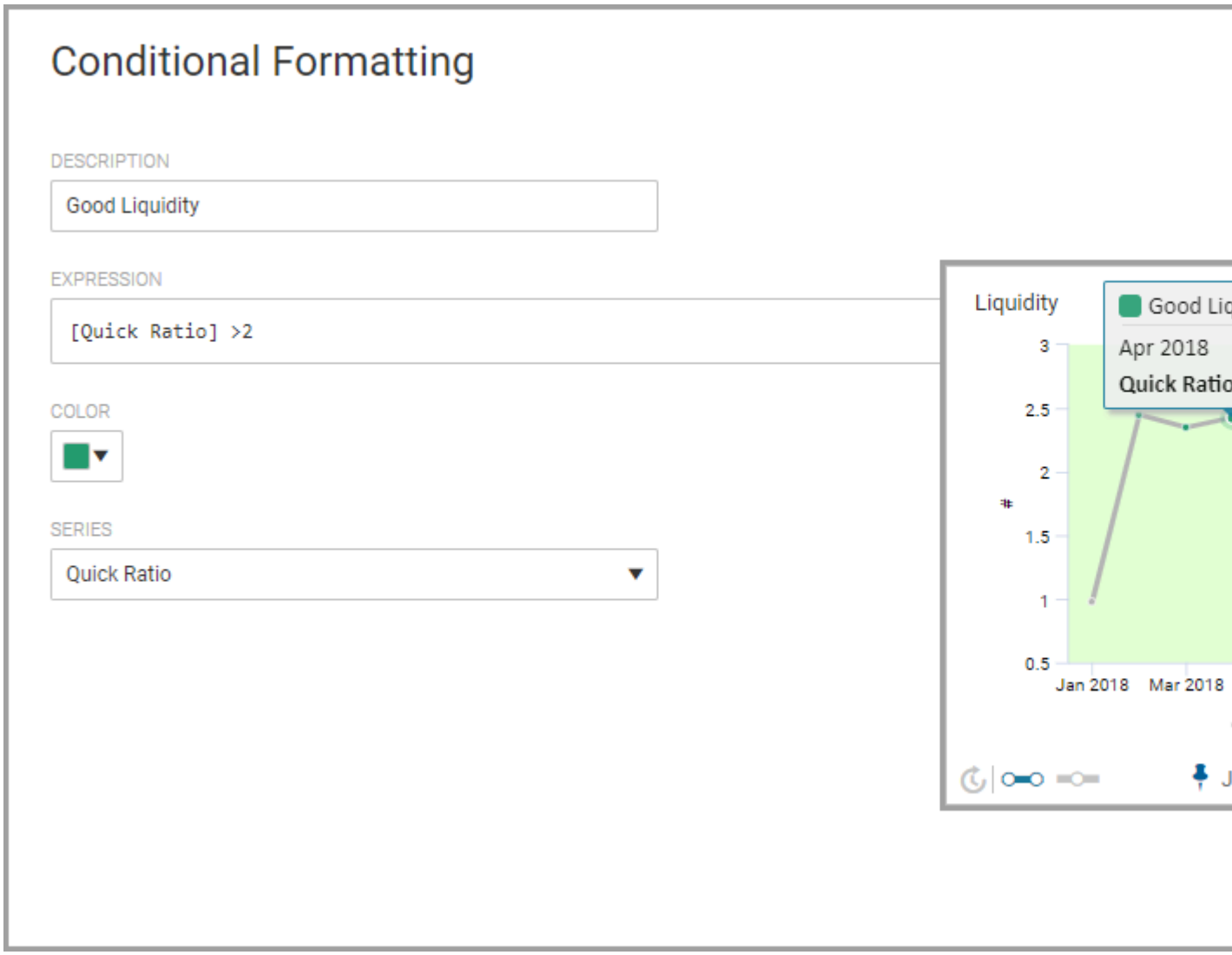
より予測可能な結果を得るには、比較演算子を使用して境界を確立します。評価したい順序にルールを並べます。

### 概念: グラフの条件付き書式設定

ウォーターフォール、シート、属性マッピングを除くほとんどの 参考: グラフのタイプに条件付き書式設定を適用できます。"外観の設定" タブを使用して、特定の条件を満たすデータの書式を設定する方法を定義します。条件付き書式設定は、True または False を評価するルールに基づいています。True の場合、条件に適合しており、データは条件に基づき指定された色で表示されます。ルールはグラフ内のデータ系列を参照する必要があります。

当座比率が 2 より高いときに、流動性が高いことをグラフで強調表示するとします。以下のように式を作成できます。 `[quick Ratio] > 2` 真または偽を評価する。True の場合、データ ポイントは緑色で書式設定されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




表示スタイル

グラフには、データが数値として表示されるか、横棒や縦棒のようなグラフィックとして表示されます。条件付きで書式設定されたデータ ポイントの表示スタイルは、グラフ タイプによって異なります。

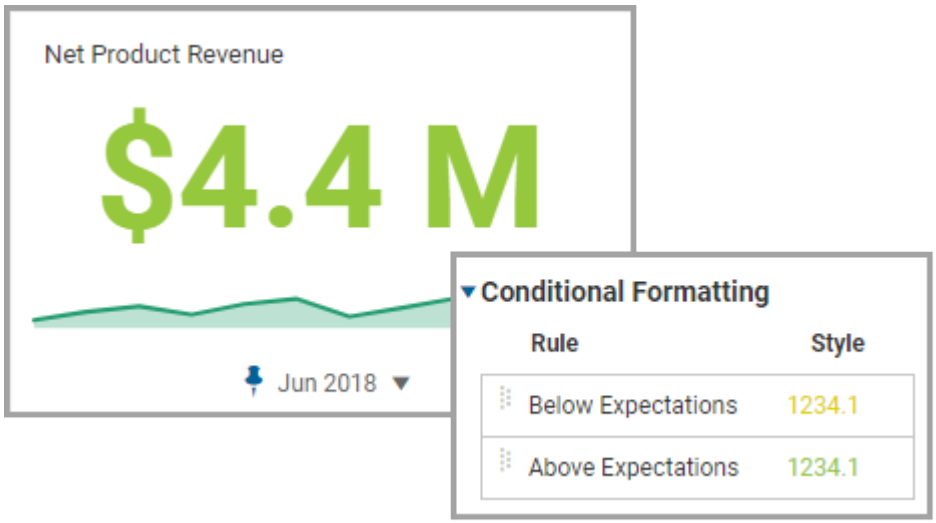
数値表示スタイルを持つグラフ

条件付き書式設定は、次のグラフの数値に適用されます。

- クロス集計
- KPI
- スコアカード

たとえば、この KPI は緑色で強調表示され、収益の 440 万ドルが期待値を上回ることを示しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

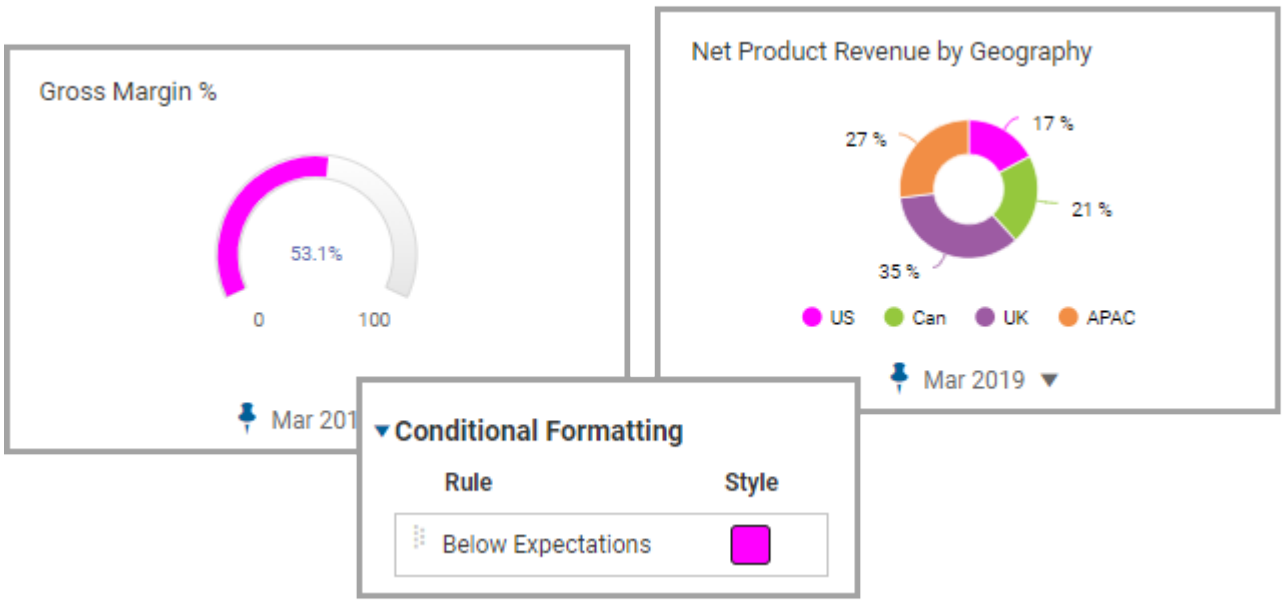



グラフィック表示スタイルのグラフ

条件付き書式設定は、次のグラフでデータをグラフィカルに表示するときに適用されます。

- 面および折れ線グラフ
- 横棒および縦棒グラフ
- 円およびドーナツグラフ
- ファネルおよびピラミッドグラフ
- ゲージおよびメーターグラフ
- 地理マップ
- 散布図

たとえば、ゲージ グラフでは、スケールが条件付きで形式設定されます。ドーナツ グラフでは、売上総利益または収益が期待値を下回った場合に、データ スライスが条件に基づきピンクで形式設定されます。



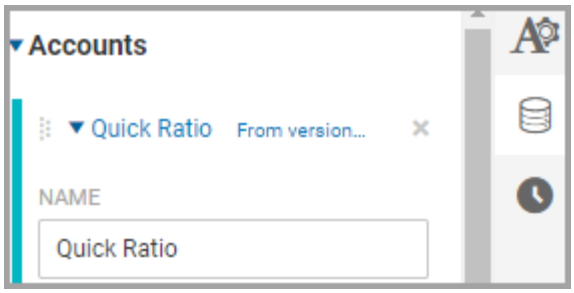

参考: 条件付き書式設定の演算子と関数

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

構文ルール

基本構文: `first-expression comparison-operator second-expression` 。 例: `([Quick Ratio] - 10) * 2 >= 19`

- 式は、科目、計算、またはカスタム メトリックからのデータを含む、グラフ内の任意のデータ系列を参照できます。次を含める必要があります:データ系列名 (コードではない) または計算名 かっこ内。E例s:`[1000 Assets]` ,`[QuickRatio]`。Tデータ系列名 表示n データ設定:




- Workday e値式 左から右;式 かっこ内 を最初に計算してください。

比較

| 演算子 | 説明 | 構文 |
|---|---|---|
| = | 2 つの値が等しいか否かをチェックします。 | `[metric1] = [metric2]` |
| <> | 2 つの値が等しくないか否かをチェックします。 | `[metric1] <> [metric2]` |
| < | 左の値が右の値より小さいか否かをチェックします。 | `[metric1] < [metric2]` |
| <= | 左の値が右の値以下であるか否かをチェックします。 | `[metric1] <= [metric2]` |
| > | 左の値が右の値よりも大きいか否かをチェックします。 | `[metric1] > [metric2]` |
| >= | 左の値が右の値以上であるか否かをチェックします。 | `[metric1] >= [metric2]` |
| BETWEEN | 値が他の 2 つの値の間にあるか否かをチェックします。最小値と最大値は範囲に含まれています。AND 演算子とともに使用します。 | `[metric1] BETWEEN 0 AND [metric2]` |
| NOT BETWEEN | 値が他の 2 つの値の間にないかをチェックします。最小値と最大値は範囲に含まれています。AND 演算子とともに使用します。 | `[metric1] NOT BETWEEN 0 AND [metric2]` |
| AND | 2 つの式を比較し、両方の式が真である場合に真を返します。 | `([metric1] >= [metric2]) AND ([metric1] >= [metric3])` |
| OR | 2 つの式を比較し、いずれかの式が真である場合に真を返します。 | `([metric1] >= [metric2]) OR ([metric1] >= [metric3])` |

数学

式と数学演算子を使用します。

| 演算子 | 説明 | 構文 |
|---|---|---|
| + | 2 つの値を追加します。 | `[metric1] + [metric2]` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 演算子 | 説明 | 構文 |
|---|---|---|
| - | 2 つの値を減算します。 | `[metric1] - [metric2]` |
| / | 2 つの値を除算します。 | `[metric1] / [metric2]` |
| * | 2 つの値を乗算します。 | `[metric1] * [metric2]` |
| % | 2つの値を除算するときの残余 (絶対値) を計算します。 | `[metric1] % [metric2]` |
| ^ | 左の値を右の値で累乗します。例: 5^ 2 = 25 | `[metric1] ^2` |

計算関数

| 関数 | 説明 | 例 |
|---|---|---|
| min(*expression*, *expression*) | 2 つの式の最小値を返します。 | `min([metric1], [metric2])` |
| max(*expression*, *expression*) | 2 つの式の最大値を返します。 | `max([metric1], [metric2])` |
| sin(*expression*) | メトリックまたは式のサインを返します。三角法で使用されます。 | `sin([metric1])` |
| cos(*expression*) | メトリックまたは式のコサインを返します。三角法で使用されます。 | `cos([metric1])` |
| tan(*expression*) | メトリックまたは式のタンジェントを返します。三角法で使用されます。 | `tan([metric1])` |
| abs(*expression*) | メトリックまたは式の絶対値を返します。負の数を正の数に変換するために使用します。 | `abs([metric1])` |
| sqrt(*expression*) | メトリックまたは式の平方根を返します。 | `sqrt([metric1])` |
| round(*expression*) | 数値を四捨五入して最も近い整数にします。中間点は四捨五入されます。例:<br>• round(10.2) は 10 に丸められる<br>• round(10.5) は 11 に丸められる<br>• round(10.7) は 11 に丸められる | `round([metric1])` |
| round(*expression*, *digits*) | 数値は四捨五入されて指定の桁数になります。正の *digits* は指定された小数位の数値に四捨五入されます。負の *digits* は最も近い 10 の倍数に四捨五入されます。例:<br>• round(2.15, 1) は 2.2 に丸められる<br>• round(70, -2) は 100 に丸められる | `round([metric1], 1)` |
| floor(*expression*) | 端数を切り下げてゼロになる数値を返します。例:<br>• floor(10.2) は 10 に丸められる<br>• floor(10.5) は 10 に丸められる<br>• floor(10.7) は 10 に丸められる | `floor([metric1], 2)` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 関数 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| floor(*expression*, *expression*) | 端数をゼロに向けて切り下げ、最も近い有意性の倍数にする数値を返します。例:<br>• floor(3.5, 2) は 2 に丸められる | `floor([metric1], 2)` |
| ceiling(*expression*) | 端数を切り上げてゼロから離れる数字を返します。例:<br>• ceiling(10) は 11 に丸められる<br>• ceiling(10.5) は 11 に丸められる<br>• ceiling(10.7) は 11 に丸められる | `ceiling([metric1])` |
| ceiling(*expression*, *expression*) | 端数をゼロから離れる方向に切り上げ、最も近い有意性の倍数にする数を返します。例:<br>• ceiling(10, 1) は 11 に丸められる<br>• ceiling(10.5, 2) は 13 に丸められる<br>• ceiling(10.7, 2) は 13 に丸められる | `ceiling([metric1], 2)` |

## グラフの計算

### グラフの計算の作成

#### 前提条件

- 計算の作成:
  - 目的や終了結果は何ですか？
  - 式にはどの科目が必要ですか？メトリック エディタを開く前に、式で参照する科目コードを書き留めます。
  - 計算はグラフに適用されるか、別の計算で再使用されますか？
- 計算のサブフォルダを作成します。インスタンスに多くの計算がある場合、フォルダは有用でブラウジングに役立ちます。計算を作成すると、移動できません。
- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

#### 計算の作成

計算を作成し、データ系列としてグラフに追加できます。

1. エリアとダッシュボードに移動します。
2. ツールバーから "編集" をクリックして、編集モードに切り替えます。
3. 左側のパネルで "科目" をクリックし、科目およびメトリックのリストを表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

4. "<インスタンス名> メトリック" フォルダにマウスを合わせます。 をクリックして詳細メニューを開き、"計算メトリックの追加"を選択します。メトリック エディタが表示され "設定" タブが開きます。

### 計算の名前付け

"設定" タブを使用して計算に名前を付けます。各計算には表示名とコードが必要です。グラフおよびその他の計算は、コードを使用して計算を一意に識別します。コードは一意である必要がありますスペースおよび特殊文字は使用できません。

- 当座比率 (有効)
- 当座_比率 (有効)
- 当座_比率_1 (有効)
- 当座-比率 (無効)
- 当座比率 (無効)

1. "設定" タブで、名前を入力します。スペースと特殊文字が使用できます。
2. 計算に一意のコードを提供します。
3. 必須ではありません。短縮名を入力します。
4. "表示形式" ドロップダウンでフォーマットを選択します
    - 通貨 (デフォルト)
    - 数値
    - パーセント
5. 小数部桁数を変更します。デフォルトは 0 です。
6. 必須ではありません。"保存" をクリックします。

注 : 計算を完了する前にキャンセルする必要がある場合、時間を節約するために、各主要なステップ (名前、式の作成、属性の制限) の完了後に保存します。

1. この時点で保存した場合、計算を再開し、計算の編集を続行します。左側のパネルで、計算の をクリックし、"編集"を選択します。

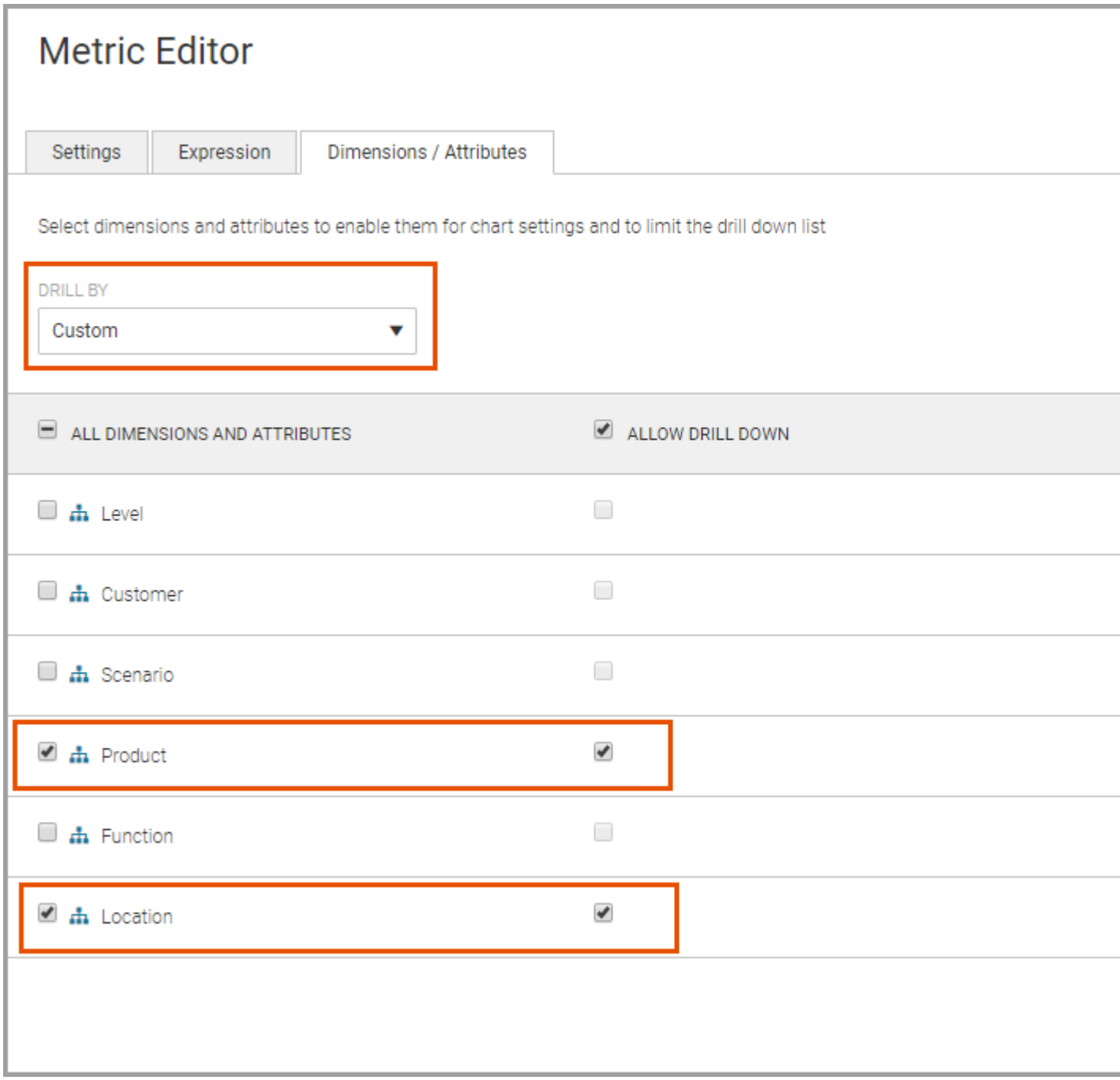
### 式の作成

"式" タブから、 演算子と関数のリストを使用して式を入力します。

### 属性と特性の制限

表示モードでグラフおよびドリルダウンでのフィルタリングとブレークダウンを制限するために、計算の属性と特性を制限できます。たとえば、計算で使用可能な属性を "製品" および "場所" 属性に制限できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




編集モードでのグラフ フィルタとブレークダウン、および表示モードでのドリルダウンで選択可能な属性と特性を制限するオプションを選択します。次のオプションがあります。

- 自動: デフォルトです。組織属性のみ。
- カスタム: すべての属性と特性が選択されました。グラフ設定とドリルダウンで選択可能な属性と特性の組み合わせを選択できます。
- すべて: すべての属性と特性が選択されました。グラフ設定で選択できる属性と特性を選択できます。すべての属性および特性はドリルダウンで使用でき、変更できません。

グラフに計算を追加してデータ設定を編集する場合、フィルタリングの選択は、メトリック エディタから選択した属性と特性に制限されます。

"製品" および "場所" による制限を選択した場合、これらの属性のみが、データ系列の属性でのブレークダウンを選択する際のフィルタリングまたは選択に使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 計算の編集

"<インスタンス名> メトリック" フォルダのいずれかの計算を編集できます。計算の上にマウスを合わせ、計算の ⋮ をクリックして "編集"を選択します。設定の編集、式または属性の変更ができます。

注 : 変更を行う前に、他のグラフで他の人がこの計算を使用している可能性があることに注意してください。

### 計算の削除

重要 : 計算を削除するときは注意してください。他のグラフで使用されている場合があります。計算を削除すると、エラーが発生したり、計算を参照するグラフの分析が変更されたりする可能性があります。

"<インスタンス名> メトリック" フォルダのいずれかの計算を削除できます。計算の上にマウスを合わせ、計算の ⋮ をクリックして "削除"を選択します。確認メッセージが表示されます。"OK" をクリックして削除します。

## グラフでの計算の作成

### 始める前に

- 計算で使用する科目コードをリストにする
- 個人エリア、または共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:"ダッシュボードの編集" および次のいずれかの権限
  - 管理アクセス
  - モデル (シート、科目、属性、数式を含む)
  - 会社のダッシュボードの編集

### このタスクについて

グラフの計算では、異なるエリアやユーザー間で再利用できる式を使います。計算はデータ系列としてグラフに追加できます。

"科目" タブの "ダッシュボード メトリック" に計算を保存し、ダッシュボードが編集モードのときにアクセスできます。インスタンスに多数の計算がある場合は、サブフォルダを作成して閲覧プロセスを簡素化できます。作成後の計算は、別のフォルダに移すことはできません。

注 : 既存の計算を変更または削除する前に、他のユーザーが個人グラフおよび共有グラフでその計算を使用している可能性があることに注意してください。

### 手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. 編集可能なエリアを開きます。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。
4. 左側のパネルで、科目 アイコンをクリックします。
5. "要素" タブで、"ダッシュボード メトリック" をクリックします。
6. (任意) 計算用のサブフォルダを作成します。
   a. 既存フォルダの名前にマウスを合わせ、関連アクション アイコン (縦の 3 点ドット) を表示します。
   b. 関連アクション アイコンをクリックし、"フォルダの追加" を選択します。
   c. フォルダの名前を入力し、"保存" をクリックします。
7. 計算を保存するフォルダ名にマウスを合わせ、関連アクション アイコンを表示します。
8. 関連アクション アイコンをクリックし、"計算メトリックの追加" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

9. 以下を考慮して、"設定" タブのフィールドを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 計算用に一意の名前を入力します。文字、数字、下線を使用できます。スペースなどの特殊文字は使用できません。 |
| コード | 計算用に一意のコードを入力します。 |
| 表示形式 | 計算値の形式を選択します。デフォルトは "通貨" です。 |
| 小数部桁数 | 小数点以下の桁数を入力します。デフォルトは 0 です。 |

10. 計算を作成するには、"式" タブをクリックします。
11. "式" フィールドに式を入力します。

    参照 参考: 計算用の演算子と関数 ( 338ページ ) 。
12. "属性/特性" タブをクリックします。

    このタブでは、グラフのフィルタリングとブレークダウンに使う属性と特性の有効と無効を切り替えられます。これらの機能は、計算を使用するグラフが編集モードの場合に使用できます。属性および特性によるドリルダウンを有効または無効にすることもできます。ドリルダウン機能は、計算を使用するグラフが表示モードの場合に使用できます。
13. (任意) "ドリル基準" プロンプトから、以下のオプションを選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 自動 | デフォルト。組織別のフィルタリングとブレークダウンのみを有効にします。このオプションにより、表示モードで組織別のドリルダウンが自動的に有効になります。 |
| カスタム | フィルタリングとブレークダウンで、特定の属性と特性を有効または無効にします。このオプションにより、使用可能にした属性と特性のドリルダウンを有効または無効にすることもできます。 |
| すべて | フィルタリングとブレークダウンで、すべての属性と特性を有効にします。このオプションにより、すべての属性と特性のドリルダウンが自動的に有効になります。 |

14. "保存" をクリックします。

次のタスク

グラフを作成すると、計算をデータ系列としてグラフにドラッグできます。

概念: グラフの計算

計算,計算メトリックとしても知られています,によって グラフにアドホック分析を適用します。基本的な数式、または複雑な条件付きロジックを含む計算を作成できます。E例:

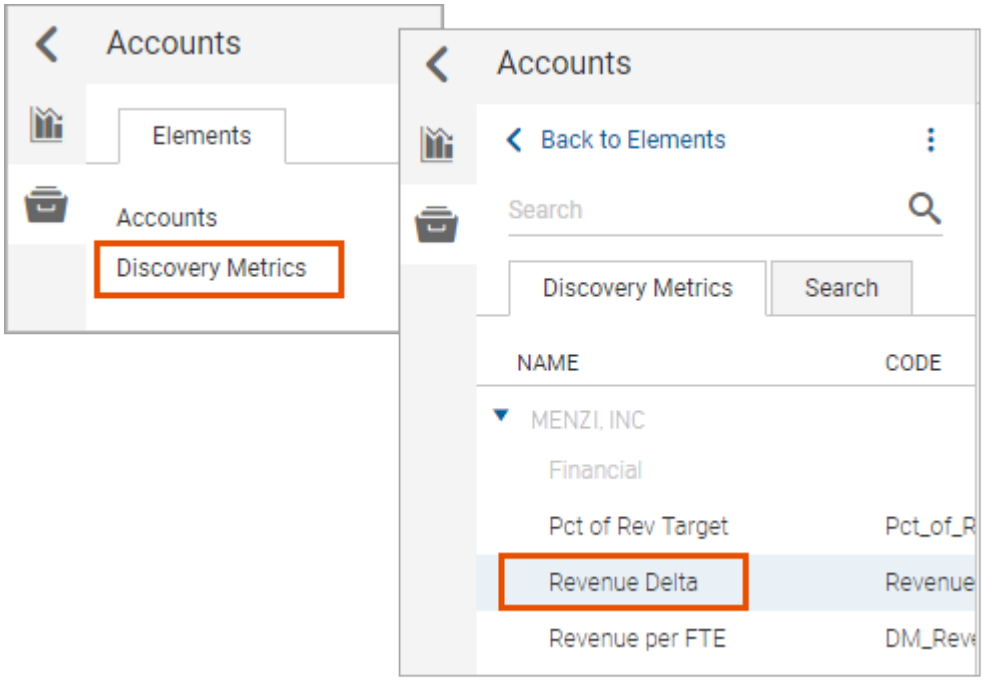
- 流動資産の合計: `[110_cash] + [120_account_receivables] + [130_shortterm_investment]`
- 取引規模に基づくコミッション: `iif([dealsize] >= 100000, [commission] * .05, [commission])`

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### 計算を管理する場所

編集モードでは、計算を以下から作成、編集、整理できます。 左パネルの "科目" タブ 移動先 ダッシュボード メトリック > <インスタンス名> メトリック計算のみに名前とコードがあります。

以下は、Menzi, Inc の一連の計算を示しています。




フォルダにマウスを合わせ、詳細メニューを開きます。以下を選択します。

- フォルダの追加。他のフォルダ内にフォルダをネストできます。
- フォルダ名を変更。<マイ インスタンス> メトリック フォルダを含む任意のフォルダ名を変更できます。
- 
- 計算メトリックの追加。参照 グラフの計算を作成します。
- 削除。 <マイ インスタンス> メトリック フォルダを削除することはできません。

計算にマウスを合わせ、詳細メニューを開きます。以下を選択します。

- 編集。計算の設定、式、または、ドリルダウン選択を変更します。
- 削除。

作成した任意の計算は、エリアを編集できる人なら誰でも使用できます。グラフに計算を追加できます。

### 計算の使用場所

#### グラフの計算

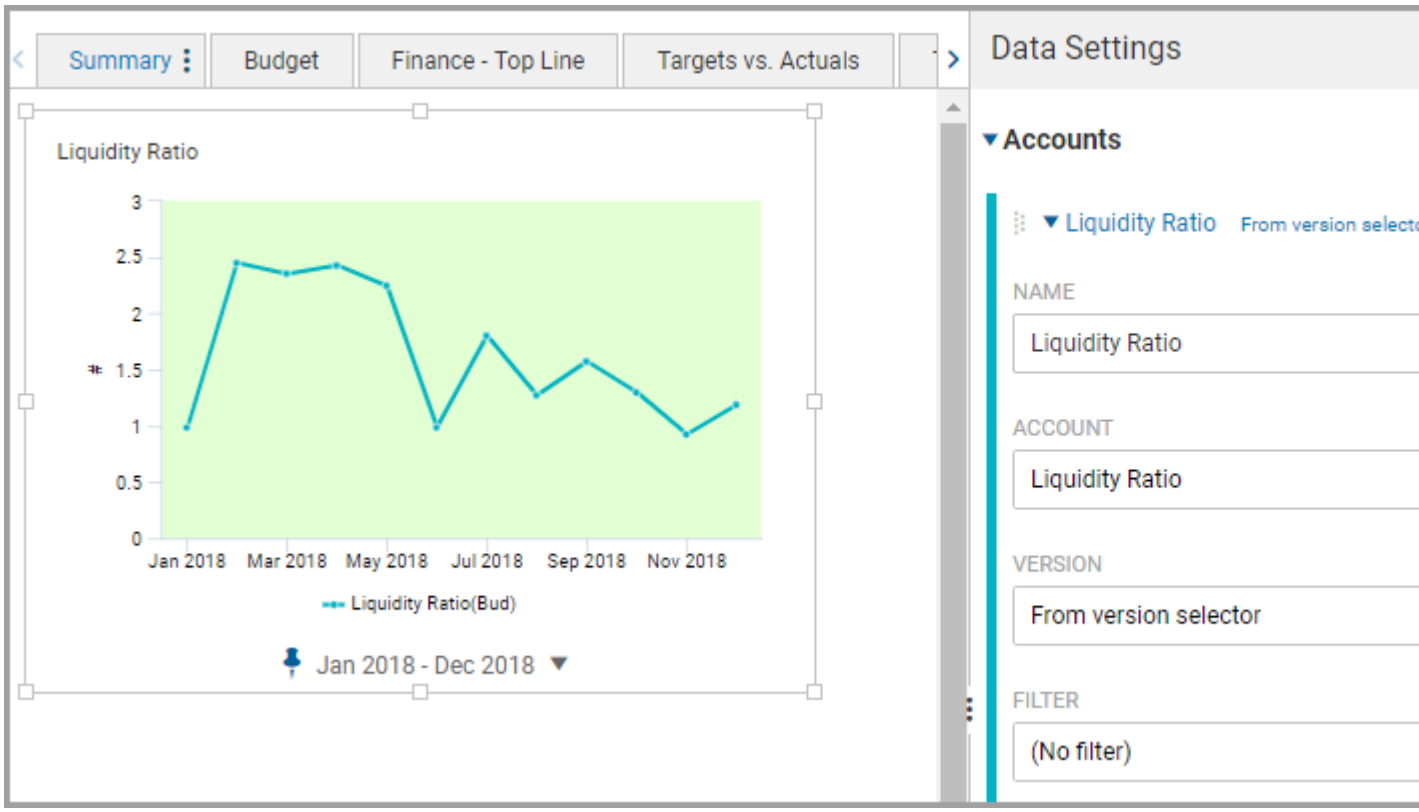
グラフに計算を追加すると、それがデータ系列になります。外観、データ設定、および時間設定を編集できます。系列。E例s:ありできること:

- フィルタを適用する。
- 色を変更します。
- 名前を変更します。

, , 、または さらに多くの設定を変更する。

グラフのデータ設定は、ソース計算への参照を継続して自動的に変更されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




他の計算内の計算

別の計算で計算を再利用して、複雑な式を作成できます byrイベントing 式内の計算コード。E例:あり資本計画計算の当座比率計算を使用できます。

```
iif([quick_ratio] > 2.5, [hardware] * 1.05, [hardware])
```

バージョンのオーバーライドと優先順位

Tバージョン グラフ上のデータ系列に含まれる自動 はインスタンスで設定された デフォルト バージョンを参照します。バージョンを指定することによって、バージョンのデフォルトをオーバーライドできます。オン:

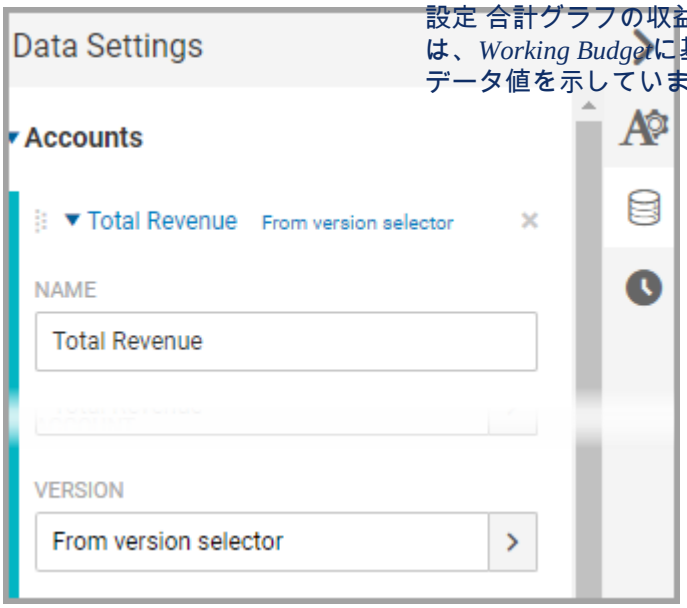
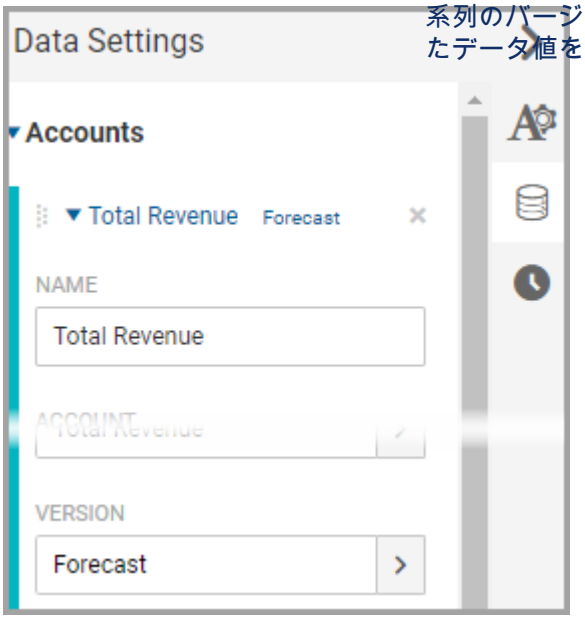
- データ系列として追加された計算。
- D系列それ自体。

設定計算で参照される最も内側の バージョンは、データ設定およびインスタンスのデフォルトより優先されます。外側から内側への優先順位は以下のとおりです。

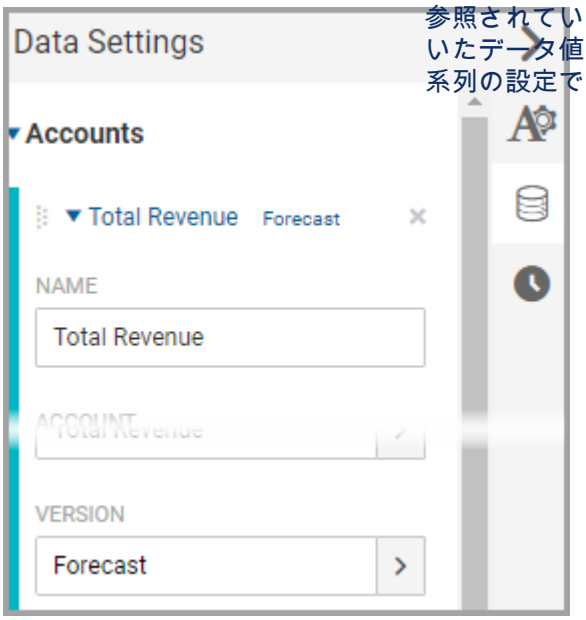
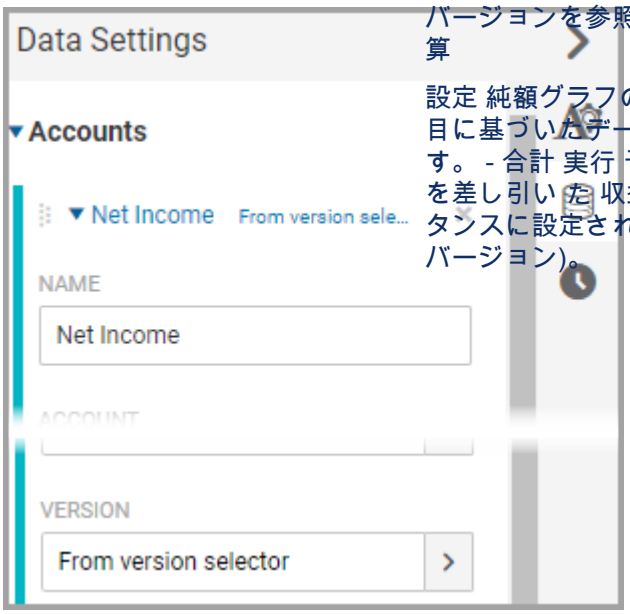
| 最も外側 (最小)<br>インスタンス | グラフのデータ系列 | 最も内側 (最高)<br>計算内の計算 |
|---|---|---|

E例:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 計算にバージョンが含まれますか？ | データ系列はデフォルト バージョンをオーバーライドしますか？ | グラフのデータ系列の用途 |
|---|---|---|
| いいえ。設定 収益合計の計算には以下を使用します - デフォルト バージョン:<br>`[4100_Product_Revenue] + [4200_Services_Revenue]` | いいえ。合計データ系列としての収益は、バージョン セレクターにデフォルト設定されます。<br>  | の vバージョン で - 計算,実行予算 に次の値がある インスタンスのデフォルト。<br>設定 合計グラフの収益 は、*Working Budget*に基づいたデータ値を示しています。 |
| いいえ。設定合計収益計算の用途 - デフォルト バージョン:<br>`[4100_Product_Revenue] + [4200_Services_Revenue]` | はい。設定合計データ系列のバージョンが 予測に設定されている収益。<br>  | の vバージョン で - 計算に次の値がある予測<br>設定 合計収益 - グラフは、データ系列のバージョン セットに基づいたデータ値を示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 計算にバージョンが含まれますか？ | データ系列はデフォルト バージョンをオーバーライドしますか？ | グラフのデータ系列の用途 |
|---|---|---|
| はい。設定 合計収益計算は "実績" バージョンを参照します。<br>`[4100_Product_Revenue] (Version=Actuals) + [4200_Services_Revenue] (Version=Actuals)` | はい:データ系列としての合計収益のバージョンは 予測に設定されています。<br>  | の vバージョン で - 計算に次の値がある実績 。<br>設定 合計収益 - グラフは、計算で参照されているバージョンに基づいたデータ値を示します。データ系列の設定ではありません。 |
| はい。設定 純額収益計算の参照情報 - 合計収益計算と総勘定元帳科目:<br>`[Total_Revenue] (Version=Working Budget) -[6000_Expenses]`<br>Wの式- 合計収益は以下のとおりです。<br>`[4100_Product_Revenue] (Version=Actuals) + [4200_Services_Revenue] (Version=Actuals)` | いいえ:データ系列としての純利益は、バージョン セレクターにデフォルト設定されます。<br>  | 設定v で使用されている - 計算に次の値がある実績 。<br>のソース式 - 合計収益は "実績" バージョンを参照し、純額収益計算<br>設定 純額グラフの収益は、次の項目に基づいたデータ値を表示します。 - 合計 実行 予算から "費用" を差し引いた 収益実績 ( インスタンスに設定されたデフォルトのバージョン)。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考: 計算用の演算子と関数

構文ルール

- 科目、計算およびカスタム メトリック。必須です。科目コード (名前ではない) を使用するか、式の計算コードを使用します。
  - かっこで囲んでください。E例:`[1000_Assets]` または `[My_Quick_Ratio]`。
- バージョン。任意です。次の構文を使用します。`[code](version = [version name])` インスタンスで定義された科目、計算、またはカスタム メトリックのバージョンを参照します。例: `[headcount_FTE](version = [Forecast 2018])`ここで、 *"Headcount_FTE"* は科目、*"予測 2018"* はバージョンです。指定されていない場合は、デフォルトのバージョンが使用されます。バージョンおよび注文優先順位の詳細は 概念: グラフの計算 を 参照してください。
  - かっこで囲んでください。
  - バージョン名にスペースがある場合は、かっこが必要です。たとえば、Working Budget はかっこで囲む必要があります。WorkingBudget はかっこを必要としません。
- 演算子の優先順位: 左から右に評価されるか、d かっこ内の値を最初に計算します。

数学演算子

| 演算子 | 説明 | 構文 |
|---|---|---|
| + | 2 つの値を追加します。 | `[metric1] + [metric2]` |
| - | 2 つの値を減算します。 | `[metric1] - [metric2]` |
| / | 2 つの値を除算します。 | `[metric1] / [metric2]` |
| * | 2 つの値を乗算します。 | `[metric1] * [metric2]` |
| % | 2つの値を除算するときの残余 (絶対値) を計算します。 | `[metric1] % [metric2]` |
| ^ | 左の値を右の値で累乗します。例: 5^ 2 = 25 | `[metric1] ^2` |

比較演算子

比較演算子は、iif 関数で使用します。E例: `iif([30_Net_Income] <= ([41_laptopRev] + [42_desktopRev] + [43_tabletRev]), [30_Net_Income], 40_Product_Revenue])` 。

| 演算子 | 説明 | 構文 |
|---|---|---|
| = | 2 つの値が等しいか否かをチェックします。 | `[metric1] = [metric2]` |
| <> | 2 つの値が等しくないか否かをチェックします。 | `[metric1] <> [metric2]` |
| < | 左の値が右の値より小さいか否かをチェックします。 | `[metric1] < [metric2]` |
| <= | 左の値が右の値以下であるか否かをチェックします。 | `[metric1] <= [metric2]` |
| > | 左の値が右の値よりも大きいか否かをチェックします。 | `[metric1] > [metric2]` |
| >= | 左の値が右の値以上であるか否かをチェックします。 | `[metric1] >= [metric2]` |
| BETWEEN | 値が他の 2 つの値の間にあるか否かをチェックします。最小値と最大値は範囲に含まれています。AND 演算子とともに使用します。 | `[metric1] BETWEEN 0 AND [metric2]` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 演算子 | 説明 | 構文 |
|---|---|---|
| NOT BETWEEN | 値が他の 2 つの値の間にないかをチェックします。最小値と最大値は範囲に含まれています。AND 演算子とともに使用します。 | `[metric1] NOT BETWEEN 0 AND [metric2]` |
| AND | 2 つの式を比較し、両方の式が真である場合に真を返します。 | `([metric1] >= [metric2]) AND ([metric1] >= [metric3])` |
| OR | 2 つの式を比較し、いずれかの式が真である場合に真を返します。 | `([metric1] >= [metric2]) OR ([metric1] >= [metric3])` |

比較関数

| 関数 | 説明 | 例 |
|---|---|---|
| iif(*comparison*, *true expression*, *false expression*) | *comparison* 式を評価します。True の場合は *true expression* を返します。それ以外の場合は、*false expression* を返します。 | `iif([metric1] > 10 AND [metric1] < 20, [metric2], [metric3])` |

計算関数

| 関数 | 説明 | 例 |
|---|---|---|
| min(*expression*, *expression*) | 2 つの式の最小値を返します。 | `min([metric1], [metric2])` |
| max(*expression*, *expression*) | 2 つの式の最大値を返します。 | `max([metric1], [metric2])` |
| sin(*expression*) | メトリックまたは式のサインを返します。三角法で使用されます。 | `sin([metric1])` |
| cos(*expression*) | メトリックまたは式のコサインを返します。三角法で使用されます。 | `cos([metric1])` |
| tan(*expression*) | メトリックまたは式のタンジェントを返します。三角法で使用されます。 | `tan([metric1])` |
| abs(*expression*) | メトリックまたは式の絶対値を返します。負の数を正の数に変換するために使用します。 | `abs([metric1])` |
| sqrt(*expression*) | メトリックまたは式の平方根を返します。 | `sqrt([metric1])` |
| round(*expression*) | 数値を四捨五入して最も近い整数にします。中間点は四捨五入されます。例:<br>• round(10.2) は 10 に丸められる<br>• round(10.5) は 11 に丸められる<br>• round(10.7) は 11 に丸められる | `round([metric1])` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 関数 | 説明 | 例 |
|---|---|---|
| round(*expression*, *digits*) | 数値は四捨五入されて指定の桁数になります。正の *digits* は指定された小数位の数値に四捨五入されます。負の *digits* は最も近い 10 の倍数に四捨五入されます。例:<br>• round(2.15, 1) は 2.2 に丸められる<br>• round(70, -2) は 100 に丸められる | `round([metric1], 1)` |
| floor(*expression*) | 端数を切り下げてゼロになる数値を返します。例:<br>• floor(10.2) は 10 に丸められる<br>• floor(10.5) は 10 に丸められる<br>• floor(10.7) は 10 に丸められる | `floor([metric1], 2)` |
| floor(*expression*, *expression*) | 端数をゼロに向けて切り下げ、最も近い有意性の倍数にする数値を返します。例:<br>• floor(3.5, 2) は 2 に丸められる | `floor([metric1], 2)` |
| ceiling(*expression*) | 端数を切り上げてゼロから離れる数字を返します。例:<br>• ceiling(10) は 11 に丸められる<br>• ceiling(10.5) は 11 に丸められる<br>• ceiling(10.7) は 11 に丸められる | `ceiling([metric1])` |
| ceiling(*expression*, *expression*) | 端数をゼロから離れる方向に切り上げ、最も近い有意性の倍数にする数を返します。例:<br>• ceiling(10, 1) は 11 に丸められる<br>• ceiling(10.5, 2) は 13 に丸められる<br>• ceiling(10.7, 2) は 13 に丸められる | `ceiling([metric1], 2)` |

検証関数

| 関数 | 説明 | 例 |
|---|---|---|
| isnull(*expression*, *null expression*) | *expression* が null であるかどうかを確認します。True の場合は *null expression* を返します。それ以外の場合は、*expression* を返します。 値。 | `isnull([metric1], [metric2])` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 関数 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| isinfinity(*expression*,*infinity expression*) | *expression* が無限 (除算) かどうかを確認します値はゼロで決定)。True の場合は、 無限大の式を返します値。それ以外の場合は、*expression* の値を返します。 | `isinfinity([metric1], [metric2])` |
| isnan(*expression*,*NaN expression*) | *expression* が数値 (ゼロをゼロで除算) でないかを確認します。True の場合は、*NaN expression*を返します。値。それ以外の場合は、*expression*を返します。値。 | `isnan([metric1], [metric2])` |
| isnrun(*expression*,*NrN expression*) | *expression* が無限、NaN、または null などの実際の数値であるかどうかを確認します。真の場合は、次を返します。- *NrN* 式 値。それ以外の場合は、*expression* を返します。 値。 | `isnan([metric1], [metric2])` |

## ダッシュボードでシートを使用する

### ダッシュボードでのシートの追加

#### 始める前に

- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限
  - "シートへのアクセス" 権限

#### このタスクについて

ダッシュボードから移動することなく、ダッシュボード上でシートを追加してデータを入力します。 シートおよびシートの一部に対するアクセスは、管理者が設定する権限、割当、データ制限によって異なります。

#### 手順

1. "編集" をクリックして、ダッシュボードを編集モードにします。
2. "グラフ" タブをクリックして、グラフを選択します。
3. "シート" を設計領域にドラッグ アンド ドロップします。
4. "外観の設定" タブでシートに名前を付けます。
   これによってシート用のコンテナにのみ名前が付けられ、シート名は変更されません。
5. "データ設定" タブの "シート" を選択します。
   アクセスできるすべてのキューブ、モデル シート、標準シートが利用可能です。

### ダッシュボードでシートにデータを入力する

#### 始める前に

- ダッシュボードが表示モードになっていることを確認します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "シートへのアクセス" 権限
  - "編集可能なシート アクセス" 権限

このタスクについて

シートをダッシュボードに追加すると、その内容を編集できます。実行可能な編集のタイプは、シート タイプによって異なります。 シートには次の 3 つのタイプがあります。

- 標準: 列に時間、行に科目または組織が入ったシンプルなスプレッドシート
- モデル: レコードのリストを含むシート
- キューブ: ピボットできる多次元シート

手順

1. エリアのコンテキストでこのシートが属する組織を選択します。
2. 編集するシート内部をクリックします。
   シートのツールバーや、右クリックで利用できるコンテキスト メニューを利用することができます。
3. "保存" をクリックします。

タスクの結果
ダッシュボード上のグラフが更新され、新しいデータが反映されます。

## ダッシュボードでのレポートの使用

概念: ダッシュボード上のレポートのベスト プラクティスのガイドライン

ダッシュボードにレポートを追加する場合、以下を行うことをお勧めします。

- 各行について 2 つずつ、最大 4 つのレポートを一度にロードします。可能であれば、エリアの他のダッシュボードにレポートを追加します。
- レポートの属性が高いとパフォーマンスが低下する可能性があるため、レポートの複雑性を評価してください。
- 2 つ目のレポートを追加する前に、まずレポートを追加してロードします。
- ダッシュボードに追加できるシートは最大 2 つです。
- 最大 10 種類のレポート パラメータを同期できます。

ダッシュボードにレポートを表示すると、次の操作ができます。

- レポートまたはライン メモをダウンロードして追加します。
- 選択可能なディメンション別にドリルダウンします。
- レポートをドラッグし、サイズを変更する。
- ダッシュボード内およびダッシュボード上でレポートをコピーして貼り付けることができます。
- グリッド モードを使用すると、レポートが展開され、ツールバー全体が表示されます。

ダッシュボードからレポートを表示する場合、次の操作はできません。

- HTML 以外の形式を使用するため、繰り返しマトリクス レポートを選択します。
- それらを編集するか、それらからスナップショットを作成します。
- ダイアログ表示パラメータを使用してレポートを実行します。これらはレポートの初期選択に基づいて、プロンプトのないものに変更され、データを表示します。

その他の制限事項については、を参照してください 参考: Adaptive Planning の制限（2770ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### レポート パラメータとエリアのコンテキスト フィルタの同期

エリアのコンテキスト フィルタは、ツールバーに表示され、エリア内のすべてのダッシュボードに適用されます。ダッシュボードのレポートにパラメータを含める場合、エリアのコンテキスト フィルタと同期されるようにこれらのパラメータを設定できます。エリアのコンテキスト フィルタの選択により、レポート結果が決まります。

レポート パラメータをエリアのコンテキスト フィルタと同期できるようにする際は、以下の動作の違いを考慮してください。

- 組織: 組織がレポートのパラメータである場合、エリアのコンテキスト フィルタと同期してレポート結果を決定できます。
- 属性と特性: レポートとそれを含むダッシュボードの両方にパラメータとして属性または特性が含まれている場合、これらのパラメータを同期して、エリアのコンテキスト フィルタを有効にしてレポート結果を決定することができます。
- 通貨: 通貨パラメータを同期して、エリアのコンテキスト フィルタがレポート結果を決定するのを有効にすることができます。ダッシュボード上の通貨は組織に基づいています。レポート パラメータで使用可能な通貨を使用して個別にレポート結果を決定するには、"通貨" パラメータのオプションを "同期しない" のままにします。
- 時間: 時間パラメータを同期して、エリアのコンテキスト フィルタがレポート結果を決定するのを有効にできます。ダッシュボードにはインスタンスの最小の時間層が含まれるため、エリアのコンテキスト フィルタによってレポートを更新し、レポートの時間層と一致させることができます。

  例: ダッシュボードで "2024/9/18" を選択し、レポートで時間パラメータ値として "月" を選択したとします。時間パラメータを同期すると、ダッシュボードで選択した 2024/9/18 によってレポート結果が更新され、2024 年 9 月のデータが表示されます。
- バージョン: レポートにバージョンがない場合は、グローバル バージョン ピッカーによってレポート結果が決定されます。また、レポート内の "現在のバージョン" 要素は、モデル レベルのグローバル バージョンに対応しています。グローバル バージョン ピッカーに基づいてレポート結果を決定するには、レポートにパラメータ値として "現在のバージョン" を追加します。"現在のバージョン" 以外にも、レポートとダッシュボードの間で他のバージョンのパラメータを同期することはできません。

エリアのコンテキスト フィルタを使用すると、ダッシュボード上のすべてのアクセス可能な属性値が表示されます。レポート定義がエリア フィルタのコンテキストの選択と合致しない場合、エラーが発生することがあります。

例:

- エリアのコンテキスト フィルタで、レポートでは使用できない属性値を選択可能な選択肢として選択します。
- エリアのコンテキスト フィルタで複数の値を持つオプションを選択しましたが、対応するレポート パラメータがパラメータ設定で複数選択に対して有効になっていません。

### ダッシュボードでのレポートの追加

始める前に

- HTML で実行できるレポートのみを追加できます。Excel で実行するために保存されたレポートを追加すると、ダッシュボード上で HTML で実行されます。繰り返し使用するレポートは HTML で実行できないため、追加することはできません。
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードにアクセス" > "ダッシュボードの編集 " 権限
  - "レポートへのアクセス" 権限

セキュリティ:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

ダッシュボード作成者は、既存の共有マトリクス レポートをダッシュボードに追加して、関連するグラフやシートとともに表示できます。このダッシュボードをユーザーと共有すると、以下が表示されます。

- アクセスできるデータ
- レポートへのアクセス権がない場合は、エラー メッセージが表示されます。

注 : ダッシュボードに追加するレポートは、通常のレポートと比べて要素が少なくなります。そのため、両者の間でデータが一致しない場合があります。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. "編集" をクリックして、ダッシュボードを編集モードにします。
3. "グラフ" タブをクリックして、グラフを選択します。
4. "レポート" を 設計エリアにドラッグ アンド ドロップします。
5. "外観の設定 " タブで、レポートに名前を付けます。 これによってレポート用のコンテナにのみ名前が付けられ、レポート名は変更されません。
6. "データ設定 " タブのレポートを選択します。
7. (任意)。"データ設定 " タブで、ダッシュボードとレポート間で同期するパラメータを選択します。
8. (任意)。ダッシュボード外の単独のライブ レポートにアクセスするには、ダッシュボードの "レポートの検索" オプションを使用します。その後、レポートを編集して保存するか、共有や通知の送信などの他のアクションを実行できます。

## 属性マッピング テーブル

### ダッシュボードでの属性マッピング テーブルの追加

始める前に

- カスタム属性の属性マッピングの有効化
- セキュリティ: "ダッシュボードへのアクセス" 権限。

このタスクについて

属性マッピング テーブルにより、ダッシュボード ユーザーは属性マッピング ルールを設定できます。属性マッピング ルールは、派生属性値をモデル シートに自動入力するロジックです。

使用する用語は次のとおりです。

- 派生属性値: シートに自動入力される属性値。
- マッピング属性値: 派生属性値の自動入力をトリガするためにユーザーがシートで選択する属性値。
- 属性マッピング ルール: マッピング属性値を派生属性値にマッピングするロジック。
- 属性マッピング: ダッシュボードまたは属性インポートを介して属性マッピング ルールを作成するプロセス。

同じ派生属性のテーブルは、異なるダッシュボードに追加できます。テーブルに対する更新は、どのユーザーが行った場合も、すべてのテーブルで保持されます。新規または更新済みのルールをインポートすると、すべてのテーブルが新しい変更内容で自動的に更新されます。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアを開きます。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

4. "グラフ" パネルから、"属性マッピング" をキャンバスにドラッグします。
5. "General Appearance Settings" で、マップ グラフの名前を入力します。
6. データ アイコンをクリックしてデータ設定を開きます。
7. "属性" ドロップダウン プロンプトから、属性マッピングに使用する属性を選択します。
   リストに表示されるのは、"マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定" の設定が有効になっている属性のみです。

タスクの結果

マップ グラフには、以下の列が事前入力されています。

- 組織。組織は必須です。
- マッピング属性
- 派生属性

テーブルを追加する前に属性マッピングをインポートすると、ルールが自動入力されます。

例

派生属性は "職務勤続" です。2 つのマッピング属性は "職務名" と "職務コード" です。

グラフを作成する際に、"データ" 設定で "職務勤続" を選択します。これにより、グラフの "組織" の後に "職務名" と "職務コード" が自動的に表示されます。編集モードではマッピング ルールを追加できません。

| 組織 | 職務名 | 職務コード | 職務勤続 |
|---|---|---|---|
| | | | |

次のタスク

両方

- 派生属性のマッピング ルールの追加 ( 345ページ )
- 属性マッピングのインポート

派生属性のマッピング ルールの追加

始める前に

- ダッシュボードでの属性マッピング テーブルの追加 ( 344ページ ) .
- セキュリティ: "ダッシュボードへのアクセス" 権限。

このタスクについて

属性マッピング ルールは、マッピング属性値のどの組み合わせが派生属性値になるかを Adaptive Planning に通知するロジックです。

使用する用語は次のとおりです。

- 派生属性値: シートに自動入力される属性値。
- マッピング属性値: 派生属性値の自動入力をトリガするためにユーザーがシートで選択する属性値。
- 属性マッピング ルール: マッピング属性値を派生属性値にマッピングするロジック。
- 属性マッピング: ダッシュボードまたは属性インポートを介して属性マッピング ルールを作成するプロセス。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

属性マッピング ルールにより、派生属性がモデル シートに自動入力されるため、データ入力の時間を節約できます。値が自動入力されると、シートのセルに緑の三角形が表示されます。セルはロック解除されたままになるため、ユーザーは派生属性値の代わりに別の値を選択することができます。

テーブルは、引き続きダッシュボードから変更できます。同じ派生属性のテーブルは、異なるダッシュボードに追加できます。テーブルに対する更新は、どのユーザーが行った場合も、すべてのダッシュボードで保持されます。新規または更新済みのルールをインポートすると、すべてのテーブルが新しい変更内容で自動的に更新されます。

注 : 派生属性を有効にすると、次のようになります。

- 2021R1 より前のバージョンでは、ルールは子組織に自動的に適用されません。
- 2021R1 以降は、親組織でのルールが自動的に子組織に適用されます。子組織のルールは引き続き変更可能です。自動化を削除するには、Workday カスタマー センターでサポート ケースを作成してください。お問い合わせを参照してください。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアを開きます。
3. 属性マッピング テーブルを検索します。属性マッピング テーブルには、識別しやすいように特定の名前が付いている場合があります。
4. バージョン プロンプトから適切なバージョンを選択します。
5. (任意) マッピング グラフで "展開" ボタンをクリックします。
6. マッピング ルールを追加するには、"行を追加" ボタンをクリックします。
7. 最初の列のドロップダウンから組織を選択します。親組織のルールを作成すると、そのルールはすべての子孫組織に適用されます。これは、子組織用に別のルールを作成することでオーバーライドできます。
8. マッピング属性値を選択します。マッピング属性値のセルを空白のままにすると、派生属性がすべてのマッピング値に自動入力されます。
9. 派生属性値を選択します。
10. (任意) 任意の 2 つのルールのマッピング属性を切り替えるには、次の手順を実行します。
    a) 切り替える 2 行のチェックボックスをオンにします。
    b) ツールバーで "2 行の間でマッピング値を移動"をクリックします。派生属性値はテキスト ボックスとして表示されます。マッピング属性値がテキスト ボックス内に表示されます。
    c) "属性" プロンプトからマッピング属性を選択します。マッピング属性が 1 つの場合は、事前入力されています。
    d) テキスト ボックスでマッピング属性値をクリックします。
    e) 矢印キーでボックス間を移動します。
    f) "OK" をクリックします。
11. (任意) ルールを削除するには、行のチェックボックスをオンにし、属性マッピング テーブルのツールバーで "削除" をクリックします。カスタム属性から派生属性機能を削除するには、すべてのルールを削除する必要があります。

タスクの結果

例

この例では、子組織が親組織の属性マッピング ルールをどのように継承するか、または継承しないかを示します。

次の組織があります。

- 親組織: エンジニアリング
- 子組織: データ サイエンスはエンジニアリングにロールアップされます

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のカスタム属性があります。

- マッピング属性: 職務コード (E2 および E3)
- マッピング属性: 職務名 (エンジニア、エンジニア II、ML エンジニア)
- 派生属性: 職務勤続 (ジュニアおよびシニア)

次の属性マッピング ルールがあります。

| 組織 | 職務コード | 職務名 | 勤続 | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| エンジニアリング | E3 | エンジニア | ジュニア | エンジニアリング組織のジュニアに E3 およびエンジニアが事前入力されます。 |
| データ サイエンス | E3 | エンジニア | シニア | データ サイエンス組織のシニアに同じ組み合わせが事前入力されます。 |
| エンジニアリング | E2 | エンジニア II | シニア | この組み合わせに相反するルールがないため、データ サイエンスはこのルールを継承します。 |
| データ サイエンス | E2 | ML エンジニア | シニア | このルールは、データ サイエンス組織に固有のものです。 |

データ サイエンス組織に対して自動入力される職務勤続の値は次のとおりです。

| 職務コード | 職務名 | 職務勤続 | 説明 |
|---|---|---|---|
| E2 | エンジニア II | シニア | エンジニアリング親組織から継承するルール。 |
| E3 | エンジニア | シニア | データ サイエンス組織で作成されたルール。 |
| E2 | ML エンジニア | シニア | データ サイエンス組織で作成され、エンジニアリングで指定されたルールをオーバーライドするルール。 |

次のタスク

モデル シートを作成し、マッピング属性と派生属性を追加します。マッピング属性列の後に派生列を追加することをお勧めします。

チームがマッピング属性値を選択すると、派生属性が自動入力され、セルに緑の三角形が表示されます。セルはロック解除されたままになるため、チームは自動入力された属性値をオーバーライドできます。別の値を選択すると、緑の三角形が非表示になり、マッピング値から派生したものではないことがわかります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## 地理マップ

### 地理マップの作成

#### 始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- カスタム属性のカスタム プロパティの作成（976ページ）.
- カスタム プロパティ値を属性値にインポート
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

#### このタスクについて

地理マップは、地理的位置を基に円を使用してデータをビジュアル化します。地理マップは、以下の属性値を持つ属性に関連付けられているすべての科目で機能します。

- カスタム プロパティを持つ。
- カスタム プロパティに地理座標情報を含む。

#### 手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアを選択します。
3. "編集" を選択し、ダッシュボードを編集モードにします。
4. "地理マップ" を "グラフ" から設計領域にドラッグします。
5. "外観の設定" に地理マップの名前を入力します。
6. "データ設定" を選択します。
7. 地理属性を含むモデル シートまたはキューブ シートから科目を選択します。

   地理属性には以下が含まれます。

   - 地理的地域を含む属性値
   - カスタム プロパティ

   属性値とカスタム プロパティは、地域の緯度と経度の座標を定義します。地理属性は、地理階層を以下のいずれかとしてモデル化します。

   - リスト属性
   - 階層属性
8. "地理属性"、"緯度プロパティ"、"経度プロパティ" を選択します。
9. (任意) 追加の科目を加えます。

   データ ポイントが地理的座標を共有する場合、円は部分的に重なります。
10. (任意) "データ系列" を選択し、非表示またはビジュアル化する科目を選択します。
11. (任意) 科目データを並べ替えまたは制限します。

    例: 地理マップ上のデータを並べ替えて制限し、GDP の高い上位 10 か国を表示します。並べ替えおよび制限では、ブレークダウンはサポートされていません。
12. (任意) 詳細な分析を行うには、"データ設定" 内で時間または属性による "ブレークダウン" を選択します。

    ブレークダウンの系列の円には自動的に色が割り当てられます。ブレークダウンでは、並べ替えまたは制限が削除されます。

    例: ブレークダウン属性として "地域の割当" を選択して、地域の割当を分析します。
13. "完了" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例

全国での収益の比較

地理マップを使用して値をビジュアル化し、マップ上の外れ値をすばやく特定します。

ビデオを見る: 1 分 59 秒

パイプラインのオポチュニティとコストの比較: Adaptive Planning for Sales

マップを使用すると、オポチュニティ、販売の可能性、割当の範囲を視覚的に特定できます。

ビデオを見る: 2 分 24 秒

relatedlinks
概念
概念: グラフの条件付き書式設定（324ページ）
参考
参考: データのブレークダウン（316ページ）
参考: 地理マップの設定（396ページ）
例
例: グラフのデータの並べ替えおよび制限（478ページ）

サイズまたはカラー スケール別の値のビジュアル化

始める前に

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- 地理マップの作成（348ページ）.
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

地理マップは、サイズまたは色で値をビジュアル化できます。

手順

1. "編集" モードで地理マップを選択します。
2. "データ設定" で科目を選択します。
3. "値の表示基準" で、"サイズ" または "2 色スケール" を選択します。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| サイズ | 異なる地域の値を比較するための円サイズの範囲を示します。大きな円は、比較的大きな値を表します。 |
| 2 色スケール | 異なる地域間で値を比較するために選択した 2 色間の動的色範囲を示します。<br>• "最小" では、比較的小さな値を表す色を選択します。<br>• "最大" では、比較的大きな値を表す色を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 科目をオーバーレイしてサイズとカラー スケールをビジュアル化

#### 始める前に

- 地理マップの作成（348ページ）.
- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

#### このタスクについて

2 つの科目をオーバーレイすることにより、同じ地理地域のサイズとカラー スケールの両方をビジュアル化できます。

#### 手順

1. "編集" モードで地理マップを選択します。
2. "データ設定" で、2 つ目の科目を追加します。
3. 円のサイズ別にビジュアル化する科目を選択します。
4. "値の表示基準" で "サイズ" を選択します。
5. カラー スケールで値を表示する科目を選択します。
6. "値の表示基準" で "2 色スケール" を選択します。
7. "サイズ別の値のオーバーレイ" で、サイズ別に表示する科目を選択します。

#### タスクの結果

オーバーレイ科目は、交差する地理的なデータ ポイントのみをビジュアル化します。

### エリアからの階層的な地理属性の移動

#### 始める前に

- 地理マップの作成（348ページ）.
- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

#### このタスクについて

エリアの地理属性を選択すると、特定の地域の合計データを表示できます。

#### 手順

1. 地理マップを含むエリアを選択します。
2. エリアのコンテキスト フィルタとして階層的な地理属性を追加します。
3. エリアの地理属性を選択します。
4. 特定の地理地域を選択してビジュアル化します。
   地理マップには、選択した属性値の子が表示されます。

#### 例

カリフォルニア州の表示では、カリフォルニア州と各郡を表す円を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
タスク
エリアのコンテキスト フィルタの追加（297ページ）

## ダッシュボードへのテキストの追加

始める前に

- エリアの作成（297ページ）、または共有エリアへの編集アクセス権がある
- セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

ダッシュボード上のテキストを使用して、ユーザーによるグラフの操作方法を改善できます。編集モードでダッシュボードにテキストを追加して以下を提供します。

- 手順
- グラフをグループ化するセクション
- サマリ分析

以下はサポートされていません。

- Mailto リンク
- 画像

表示モードでは、エリアのコンテキストや時間の変更を行ってもテキストは変更されません。

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. エリアを作成するか、エリアを開きます。
3. ツールバーの "編集" をクリックします。
4. 左側のパネルから "テキスト" をダッシュボードにドラッグします。
5. (任意) テキスト フレームのサイズを変更するには、コーナー ハンドルをドラッグします。
6. テキストを入力するには、テキスト ボックス内をクリックします。
   テキストの折り返しがテキスト ボックスの縦のサイズを超えると、垂直スクロール バーが表示されます。
7. (任意) テキストの書式を設定する場合は、テキスト ボックス内をクリックすると表示されるツールバーを使用します。
   例:
   - 箇条書きおよび番号付きリスト
   - テキストの色、サイズ、スタイル
8. (任意) テキスト ボックス ツールバーで "リンクの挿入" をクリックし、URL と共有 Web レポート リンクを作成します。
   例: トランザクション レポートへのリンクを作成できます。表示モードでトランザクション レポートを選択すると、レポートが新しいウィンドウで開きます。
9. (任意) 書式設定をクリアするには、テキストを選択してから "書式設定のクリア" アイコンをクリックします。
10. "外観の設定" の "プレゼンテーション モードで表示" を使用して、ダッシュボードが "プレゼンテーション モード" の場合のテキストの非表示または表示を設定します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## シナリオとバージョンを比較するためのFA グラフの作成

始める前に

- エリアの作成（297ページ）、または共有エリアへの編集アクセス権がある
- セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

FA グラフを使用すると、以下のことが可能です。

- 参照バージョンと比較した予測バージョンの差異をビジュアル化します。
- さまざまな結果をビジュアル化してシナリオを比較します。

手順

1. "編集" をクリックして、ダッシュボードを編集モードにします。
2. 左側のパネルで、"グラフ" タブをクリックし、左側のパネルの グラフからダッシュボードに "Fan Chart" を ドラッグ アンド ドロップします。
3. "外観の設定 " タブで、グラフに名前をつけます。
4. "データ設定 " タブをクリックします。
5. "追加" を クリックして、ビジュアル化する科目を選択します。
6. "外観の設定 " タブをクリックします。
7. "基準値" セクションで、基準値として使用する " バージョン" を選択します。
   例: 2024 年の予算
8. "比較値" セクションで、1 つ以上の値を追加して予測バージョンの差異をビジュアル化します。
   例: 最良ケースおよび最悪ケースの予算シナリオを追加して、参照バージョンと比較した範囲をビジュアル化できます。

## 散布図の作成

始める前に

- エリアの作成（297ページ）、または共有エリアへの編集アクセス権がある
- セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

このタスクについて

散布図はトレンドをデータ ポイントとして視覚化します。この場合の X 軸は時間または属性です。

散布図は折れ線グラフに似ていますが、点をつなげる直線セグメントがありません。

手順

1. "編集" をクリックして、ダッシュボードを編集モードにします。
2. 左パネルで "グラフ" タブをクリックします。次に、"散布図" を左パネルにある "グラフ" からダッシュボードにドラッグ アンド ドロップします。
3. "外観の設定" タブで、散布図に名前をつけます。
4. "データ設定" タブをクリックしてプロットする科目を選択します。
5. "期間設定" タブをクリックして、必要に応じて期間設定を調整します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## 小計を計算したウォーターフォール グラフの作成

### 始める前に

- エリアの作成 ( 297ページ )、または共有エリアへの編集アクセス権がある
- セキュリティ: "ダッシュボードの編集" 権限

### このタスクについて

ウォーターフォール グラフで 複数の差異科目を 有効にして、小計を含む複数の差異科目を追加できます。例: 現在のヘッドカウント値をビジュアル化するために、中間の小計を使用して、ヘッドカウントの初期、現在、予測の変更を表示するウォーターフォール グラフを作成できます。

### 手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. 開くエリアを選択します。
3. "編集" をクリックして、ダッシュボードを編集モードにします。
4. 左のパネルで、"グラフ" タブをクリックし、左のパネルの グラフからダッシュボードに ウォーターフォール グラフ をドラッグ アンド ドロップします。
5. "外観の設定 " タブで、"複数の差額"を選択します。
6. (任意)"小計の色" を選択して、小計列の色を設定します。
7. " データ設定" タブで、ウォーターフォール グラフの初期値として "開始科目" を追加します。
8. "差異科目"で "追加" をクリックし、差異値を追加します。
   親科目を選択すると、各子科目を個々の差異値として含めることができます。
9. "差異科目"で "追加" をクリックします。
10. "表示 " フィールドで ″小計″を選択します。
    ″小計″ オプションでは、科目が中間の小計列として表示されます。
11. ウォーターフォール グラフの最終値として使用する クローズ科目 を追加します。

### タスクの結果

### 例

### 次のタスク

## 概念: クロス集計グラフ

クロス集計は、表形式でデータを視覚的に表示します。このグラフは、多くの場合データ セット間の関係を比較するのに使用されます。

### クロス集計グラフの構造

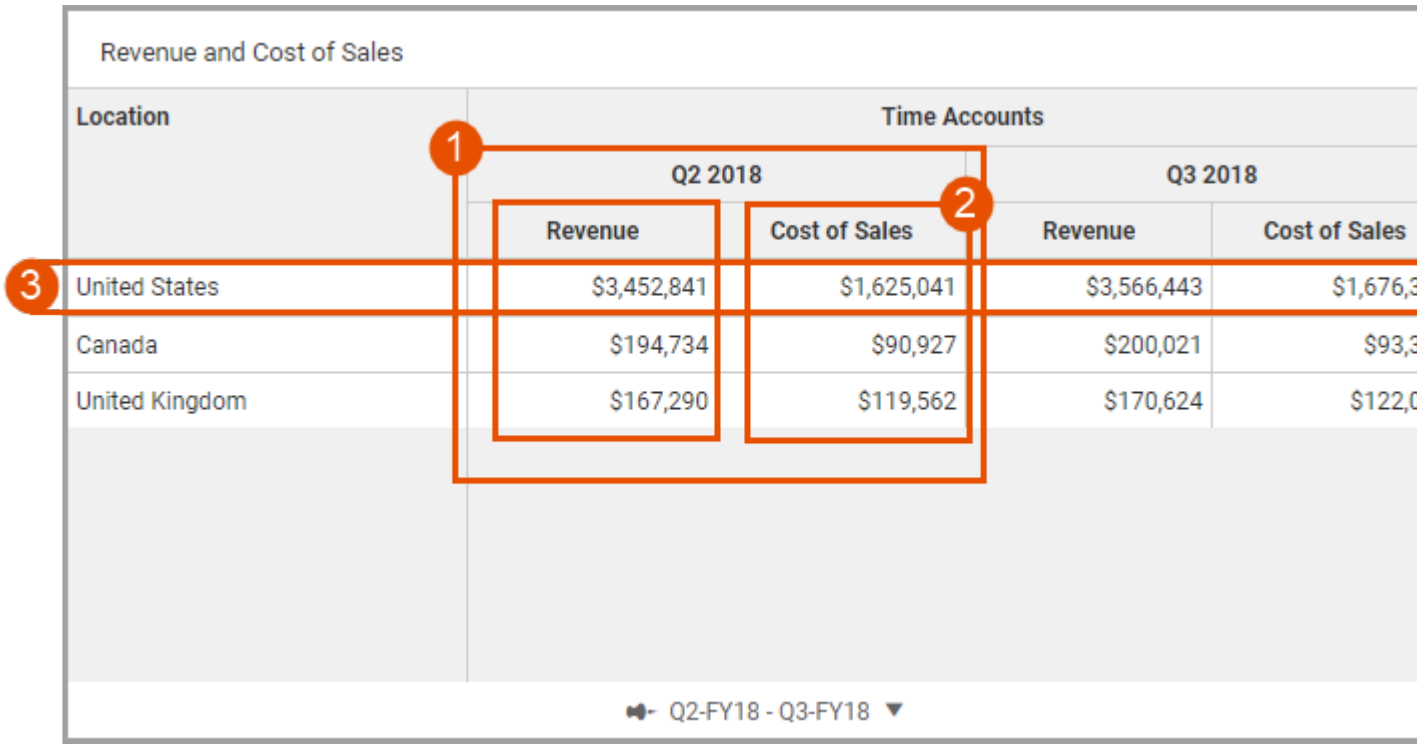
クロス集計グラフの基本構造は、少なくとも 1 つの科目とオプションの属性を含む列と行で構成されます。列と行が交差する部分は、第 4 四半期の米国の収益などの、データの切片を表します。

以下は、現行四半期に対して前四半期の収益結果を比較するクロス集計グラフです。詳細は次のとおりです。

| | |
|---|---|
| 1 | 列: 前四半期および現行四半期は、2 つの最上位の列を表します。データ設定: "時間" によるブレークダウンを選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| 2 | ネストされた列: 製品の収益および販売原価は各四半期にグループ化されるため、四半期ごとの結果を比較できます。 |
| 3 | 行: 場所の属性は行で、国別の販売地域ごとにデータを分類します。 |




科目、時間、属性のデータ系列は、列と行の "データ設定" タブでの表示順によってグループ分けされます。ハンドラー アイコンを使用して並べ替えます。

正確さを高めるためのデータの切片化

クロス集計グラフでは、データを切片化するための多数の構成オプションがあります。利用可能なオプションの理解を深めるため、クロス集計グラフを作成し、科目と属性のグループ分けを使ってテストします。

| | ルール |
|---|---|
| 科目 | 必須です。1 つ以上の科目を追加してください。同じ科目を複数回グラフに追加できます。<br><br>科目グループは、列でも行でも構いません。デフォルトでは、科目グループは列です。"データ設定" データから、"列" セクションの科目グループをドラッグして "行 "セクションにドロップし、科目を行として位置付けます。<br><br>科目グループは削除できません。 |
| 時間 | 必須ではありません。時間を列または行としてグラフに追加できるのは 1 回限りです。<br><br>グラフ内で時間を省略した場合、"期間設定" タブでの時間の選択によって、評価されるデータの範囲が決まります。<br><br>グラフから時間を削除することができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | ルール |
|---|---|
| 属性 | 必須ではありません。多数の固有の属性または属性メンバーを列または行として追加できます。<br><br>特定の属性または属性メンバーをグラフに追加できるのは 1 回限りです。<br><br>グラフから属性を削除することができます。 |

制限事項とデザインに関する考慮事項

制限: 1 つのクロス集計グラフに表示されるデータ スライスは、1,000 セル未満である必要があります。データ スライスは、クロス集計グラフの科目と属性のセルが交差する部分です。この制限を超えると、次のメッセージが表示されます。

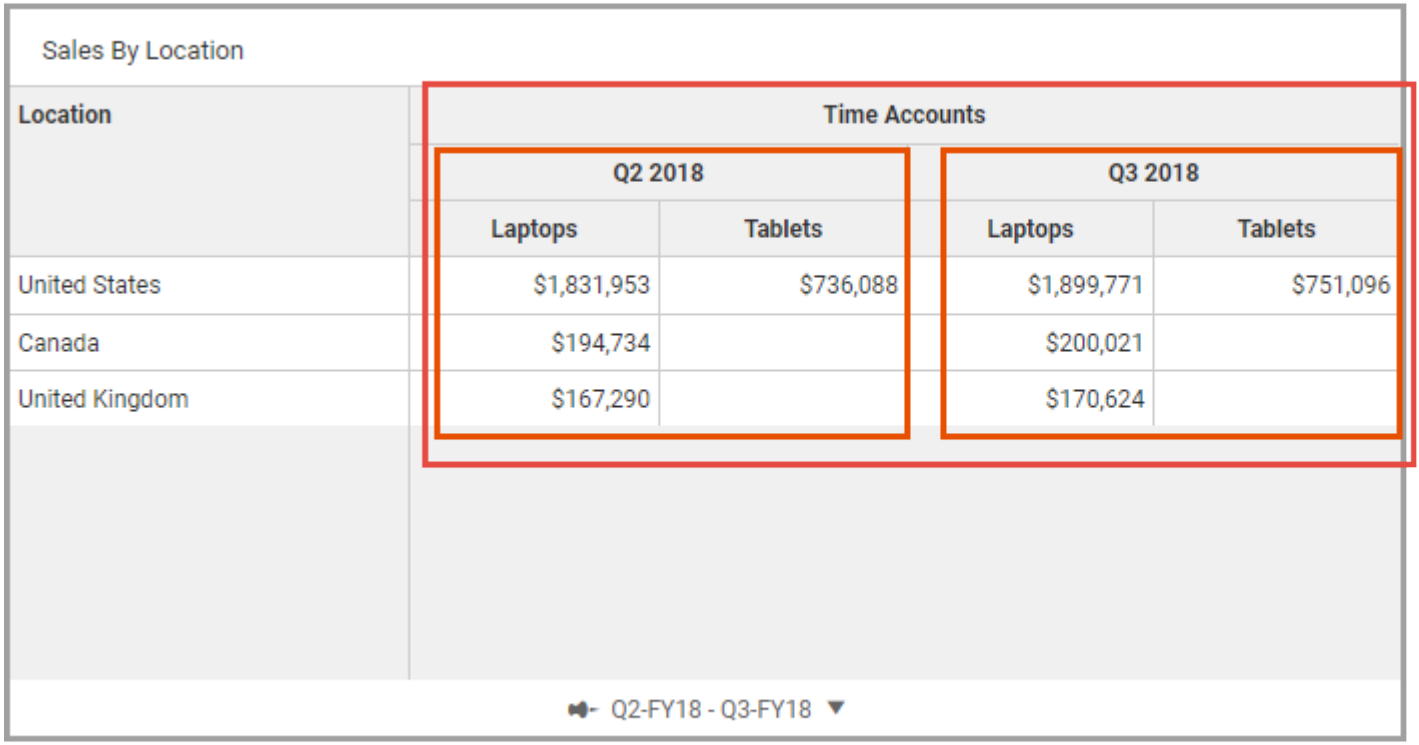
```
This Crosstab has exceeded the maximum number of allowable cells. This can
 occur when combining dimensions which have a large number of members.
```

複数列と複数行を備えたクロス集計グラフをデザインする場合、以下を考慮に入れます。

- データ切片はさらにきめ細かくなり絞り込みが進みます。
- レイアウトはさらに複雑化し、読みやすさが低下する可能性があります。

時間 - 科目列構成

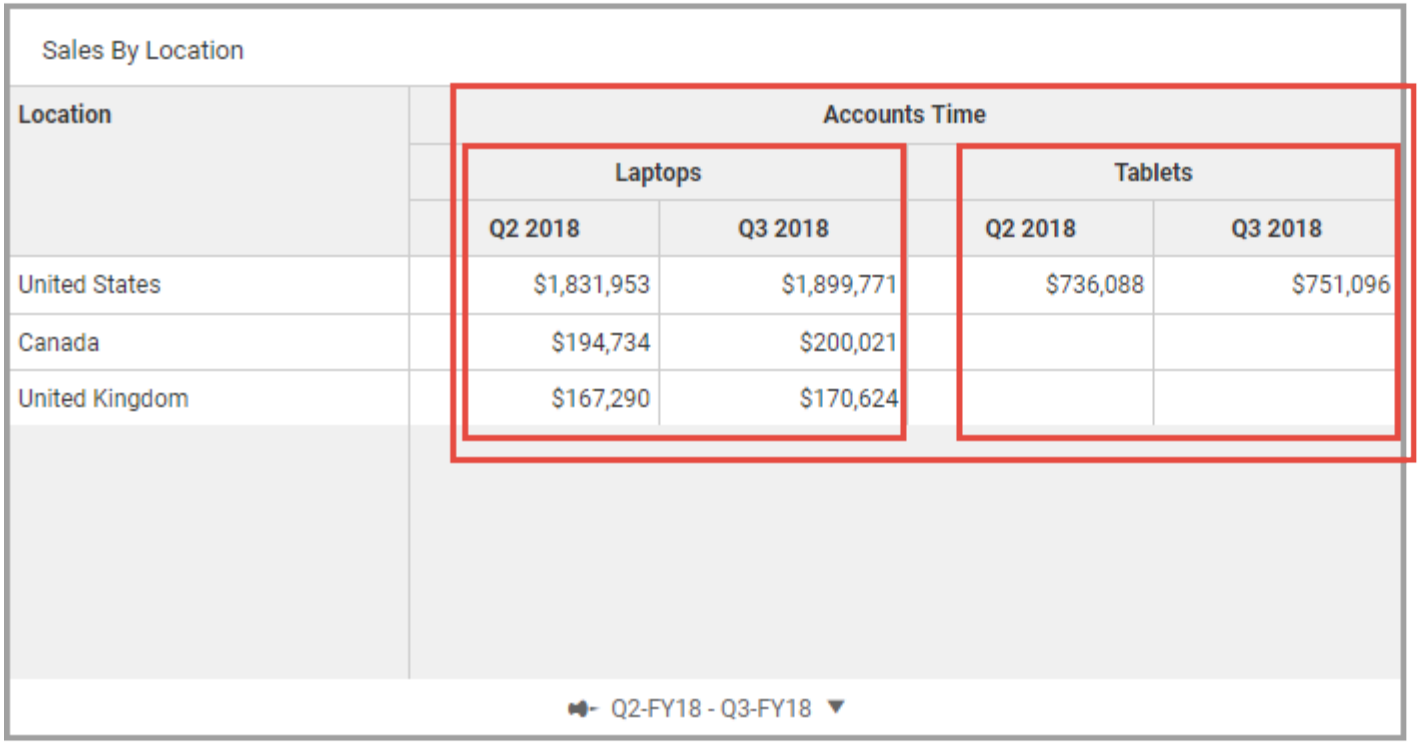
時間 - 科目の構成は、クロス集計グラフにおいてデータを切片化する通常の方法です。以下は、2 四半期のデータを視覚化する "時間 - 科目" 構成の例です。四半期ごとに、2 つの製品の販売結果を比較します。データ設定インセットは、時間が科目の前にくることを示します。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 科目 - 時間列構成

科目 - 時間の構成は、クロス集計グラフにおいてデータを視覚化する別の通常の方法です。次は、2 つの製品のデータを視覚化する "時間 - 科目" 構成を示します。製品ごとに、2 四半期の販売結果を比較します。データ設定インセットは、科目が時間の前にくることを示します。

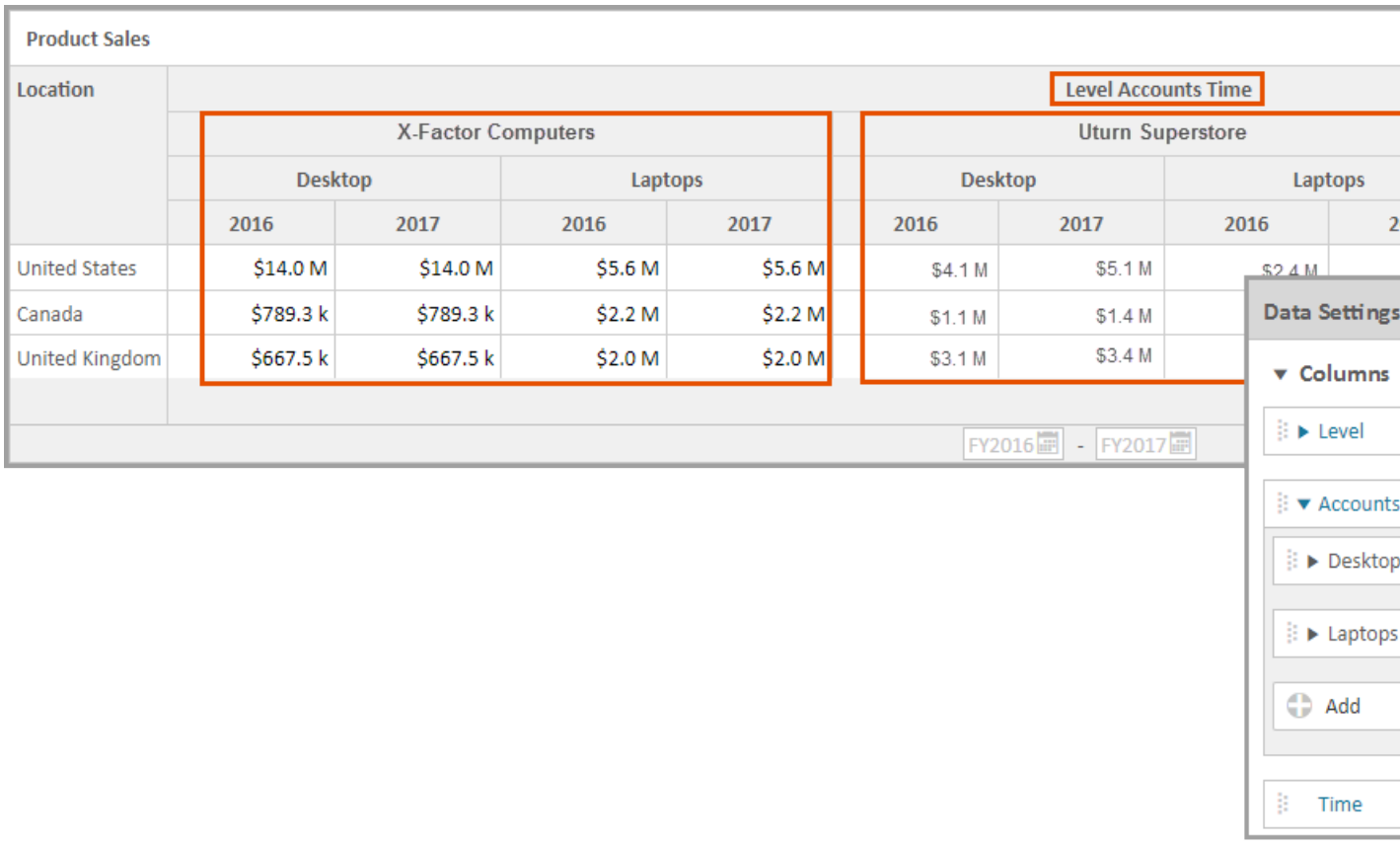



### 属性 - 科目 - 時間列構成

科目と属性をさらに追加して、データ切片をさらにきめ細かくすることができます。

以下のクロス集計グラフは、各リセラーの販売結果を比較する属性 - 科目 - 時間構成を使用しています。以下のグラフは、四半期ごとの製品別の各リセラーの販売結果を比較する属性 - 科目 - 時間構成を示しています。"データ設定" の挿入は、組織属性のほうが科目より前にあることを示しています。時間が最後になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



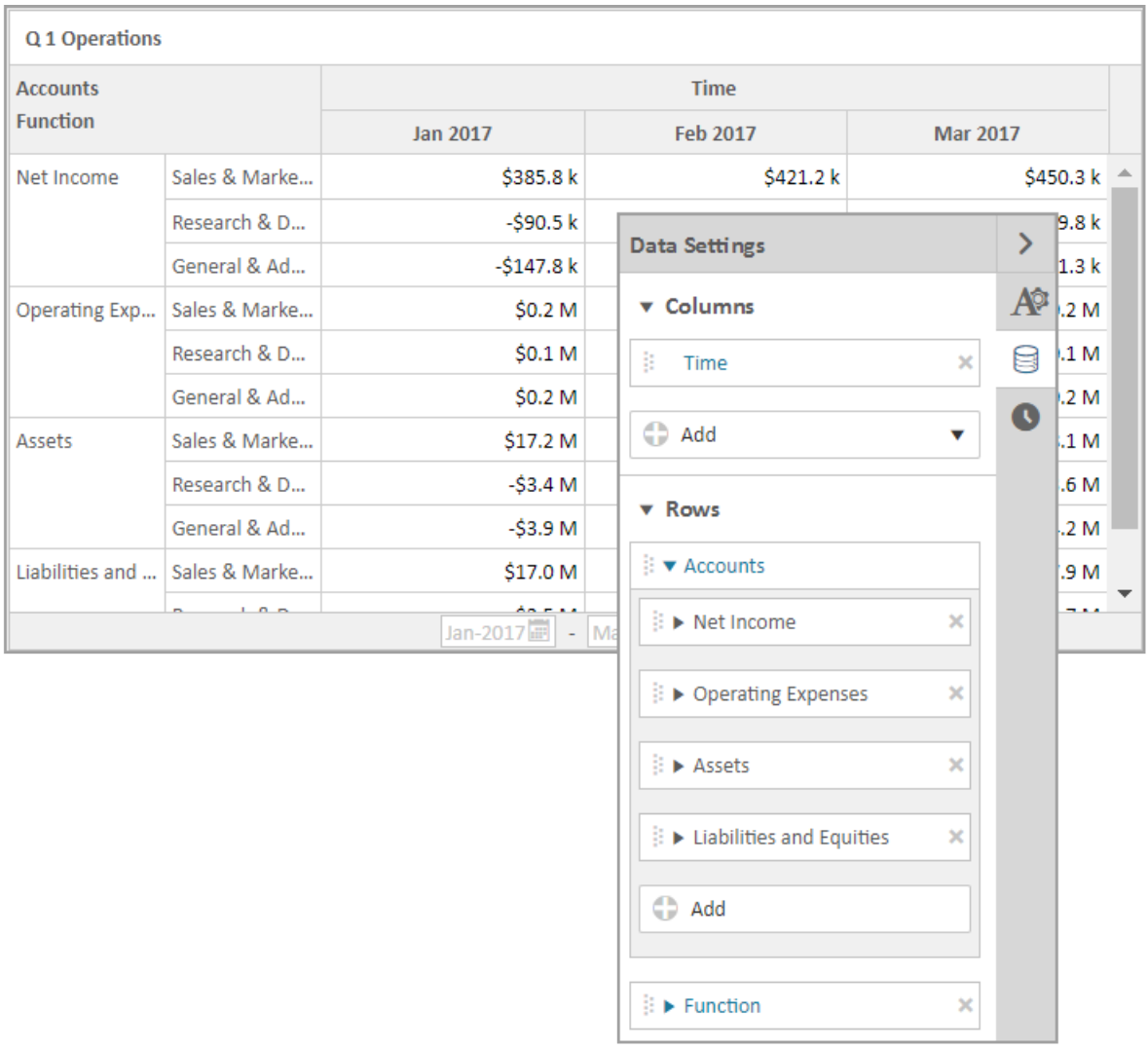

科目 - 属性行構成

デフォルトでは、科目は列としてクロス集計グラフに追加されます。場合によっては、科目を列から行に切り替えることができます。

以下のグラフは、第 1 四半期の月ごとの関数属性別の損益を比較する科目 - 行別の属性構成を示しています。

- 列: 時間 (四半期中の 3 か月)
- 行: 科目は最初にあって、純利益、営業費用、資産、負債、関数属性によって順序付けられます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

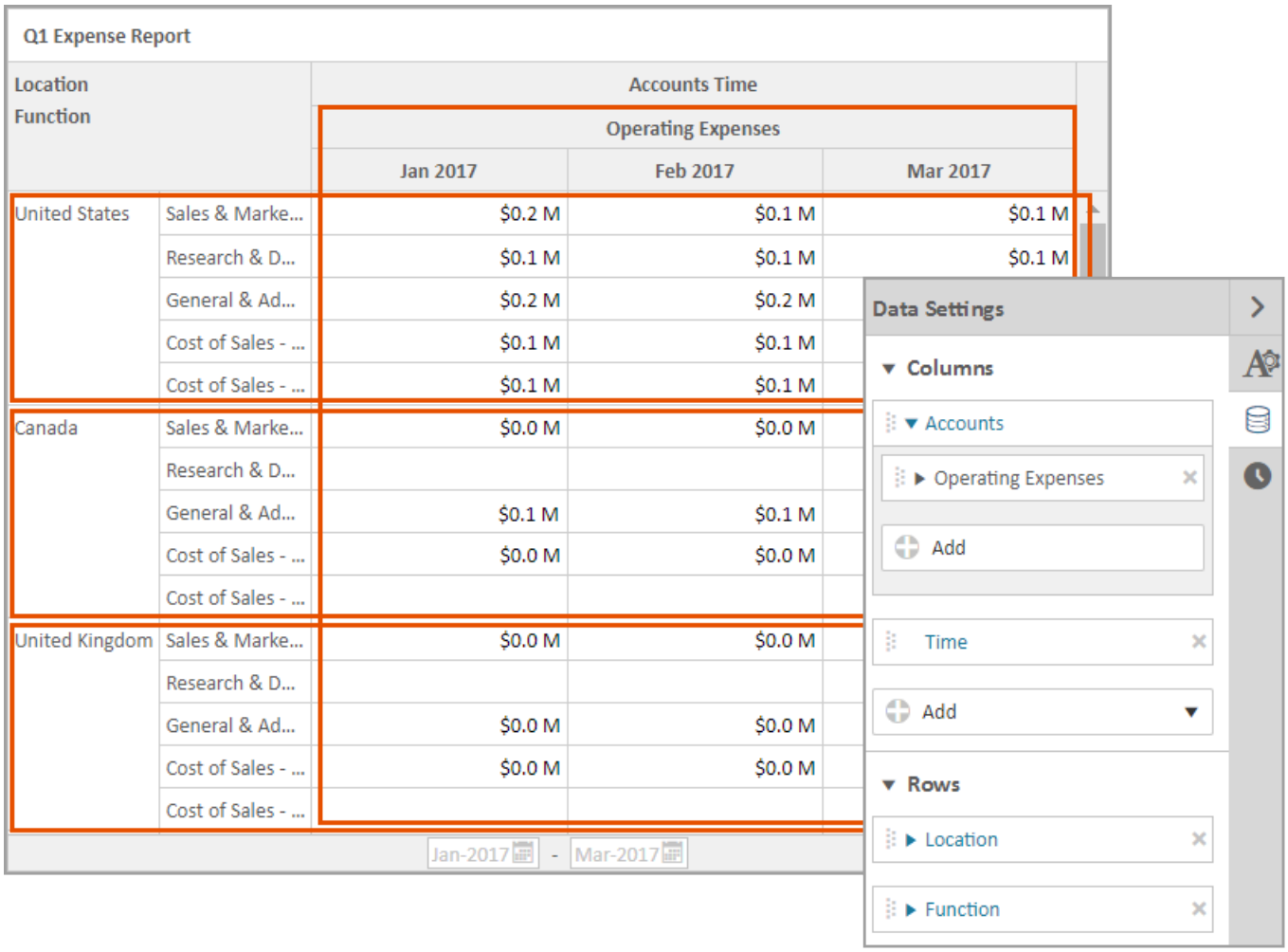



### 複数列 - 複数行の設定

次のクロス集計では、複数列、複数行構成を使用します。四半期の各月の費用を国別、部門別に比較しています。データ設定の挿入には、以下が表示されます。

- 列: 科目 (営業費用) が 1 つ目に時間が 2 つ目に一覧表示されます。
- 行: 属性 (場所) が 1 つ目、属性 (部門) が 2 つ目に一覧表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

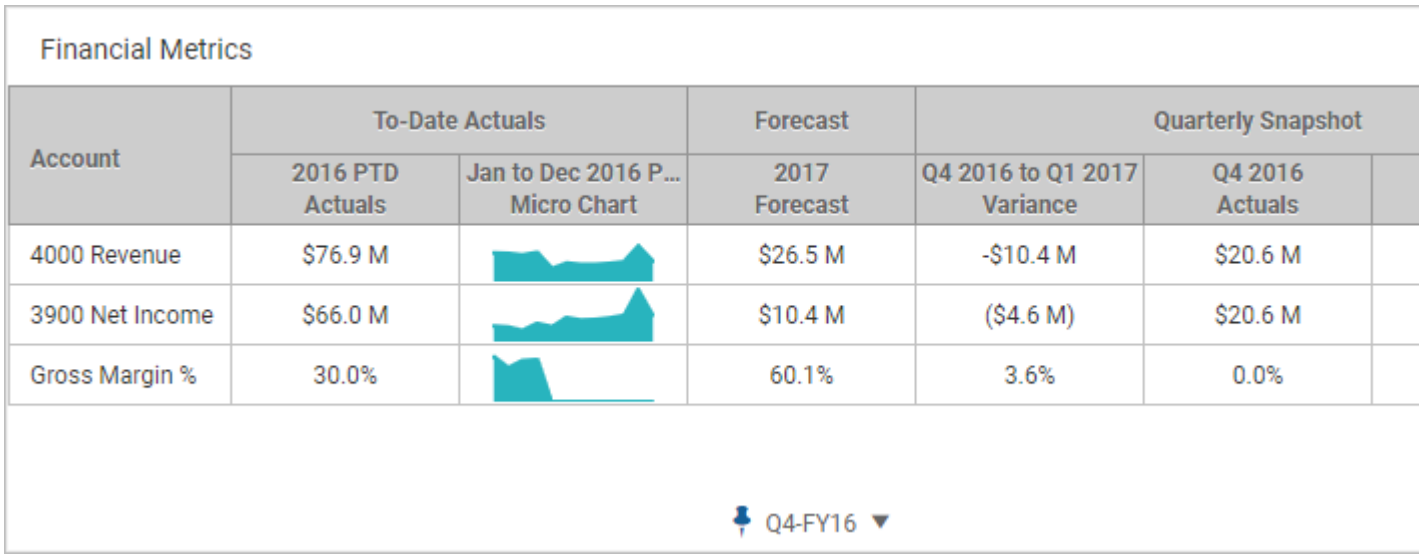



## 概念: スコアカード

スコアカードは、経営状態のビジュアル化に役立つツールです。ダッシュボードにスコアカードを追加すると、ビジネス パフォーマンスを簡潔にビジュアル化して表示することができます。

以下は、収益、純利益、売上総利益について、これまでの実績、予測、および四半期ごとの実績を示すスコアカードの例です。

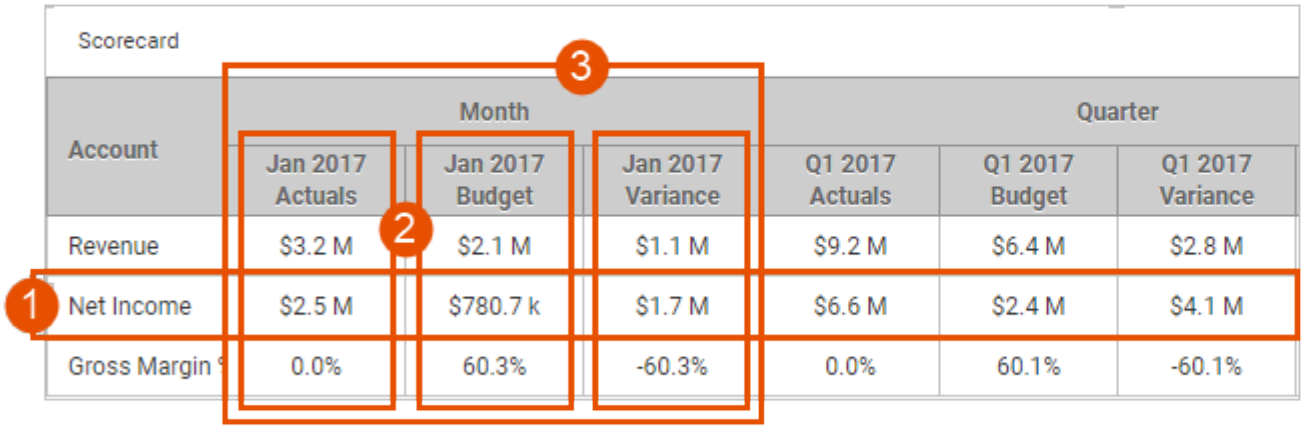
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




スコアカードとスターター列のレイアウト

スコアカードはセクション内の行および列で構成されます。

1. 行は、データ系列を表します。
2. 列はデータ タイプ、時間の配置、バージョン、およびデータ範囲に基づいたデータのスライスを表します。
3. セクションは、期間の実績、予算、分散など、データ セットのようにグループ化されます。
4. スコアカードの各セクションと列は "外観の設定" タブで設定されます。




スコアカード テンプレートのデフォルト

スコアカードに科目を追加すると、デフォルトのセクションと列が表示されます。

- 小セクション それ はインスタンスのカレンダー設定に基づきます。E例:親インスタンス カレンダーに含まれる値 "月" > "四半期" > "年" を選択した場合、スコアカードには "月"、"四半期"、"年" という名前の 3 つのセクションがあり、

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 設定 現在 時間設定。E例:親f 日付 が 2016 年 5 月 5 日の場合、スコアカードのデータが 5 月、Q2、および FY 2016 のものである場合。
- e のスターター列のセットAch 期間セクション。設定スターター列は、共通のスコアカード設定を表します。 スターター列には以下が含まれます。

| スターター列のヘッダー | スターター列の外観設定 | スターター列のデフォルト |
|---|---|---|
| [期間] 実績 | 値 実績 | 実績データは、時間設定に関連する時間の配置、期間、および日付設定の数値として表示します。 |
| [期間] [デフォルト バージョン] | 値 バージョン セレクターと同じ | デフォルト バージョンのデータを、時間設定に関連して設定された時間の配置、期間、およびデータ範囲の数値として表示します。列タイトルは、デフォルト バージョンによって異なります。 |
| [期間] 差異 | 差異 実績 | 時間設定に関連して設定された時間の配置、期間、および日付範囲の数値として、実績 (参照バージョン) とデフォルト (比較バージョン) の違いを示します。 |
| [期間] マイクロ グラフ | マイクロ グラフ 比較元バージョン | デフォルト バージョンのデータを、時間設定に関連して設定された時間の配置、期間、およびデータ範囲のマイクロ折れ線グラフとして表示します。グラフは、グラフ上の最小期間の増分を示します。<br><br>グラフ上の最小期間は表示されません。たとえば、インスタンス カレンダーの最小期間が月である場合、月のセクションにマイクロ グラフは表示されません。 |

## 概念: 能力とノルマの計画の推奨ダッシュボード

能力とノルマの計画は、セールス プランニングの一般的なユース ケースの 1 つです。以下は、能力とノルマのエリアに追加できる推奨ダッシュボードです。各ダッシュボードには、能力とノルマの一般的な計画プロセスのステップが表示されます。このダッシュボードを、販売の能力とノルマの計画の開始ポイントとして使用できます。その後で、実際のプロセスに合わせて調整します。

目標ダッシュボード

目標ダッシュボードには、トップダウンの数値目標を表示できます。以下のグラフを追加できます。

- 営業の生産性対合意金額
- 営業担当者の人員のニーズ
- 合意金額の計画対数値目標
- セグメントごとに分割した数値目標対生産性

さらに、次の使用目的でシートを追加することもできます。

- 金額または割合で数値目標を調整
- 季節別の生産性の割合を四半期ごとに変更
- 市場セグメントまたは地域別に目標パーセントを変更

シートでデータを入力および変更すると、グラフが調整されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 能力ダッシュボード

能力ダッシュボードでは、生産性や平均販売価格 (ASP) に関する概要レベルの前提条件を調整した場合の影響を確認できます。このグラフでは、平均販売価格の前提条件が、営業チームが売上を増加させる能力にどのように影響するかを確認できます。これにより、人材配置計画を詳細に検討する必要なく、市場セグメント、地域、製品ごとに、予測に基づいて生産性を変更できます。

### 人材配置ダッシュボード

人材配置ダッシュボードでは、四半期ごとの合意金額の計画対数値目標に基づいて、営業チームのヘッドカウントのニーズを表示できます。以下が可能です。

- グラフを追加して、ボトムアップの営業担当者の生産性が、目標ダッシュボードで設定されたトップダウンの数値目標と一致しているかどうかを確認します。
- シートを追加して、地域ごとの採用数と増員スケジュールを操作し、売上数値目標に見合う人材配置を行うために必要な変更を確認します。
- 増員スケジュールのシート内で新しい増員スケジュールを直接作成します。
- 新規採用や、営業担当者の削減を計画します。

### TAM (市場規模) ダッシュボード

TAM ダッシュボードには、市場セグメントと各セグメントの市場規模が表示され、人材配置ニーズのギャップがハイライトされます。以下を追加できます。

- 使用可能な TAM と割り当てられた TAM を比較する、セグメント別の各種グラフ
- 各セグメントで計画されている将来の採用数や、各市場の現在の営業担当者を表示するシート
- 各セグメントの市場規模を営業担当者ごとにまとめたクロス集計グラフ

### 担当者のノルマ ダッシュボード

担当者のノルマ ダッシュボードでは、すべての営業担当者、各営業担当者の売上ノルマ、およびこれらのノルマが営業チームの目標にどのように貢献するかをリストできます。このダッシュボードを使用すると、営業担当者別、月別など、非常に詳細にノルマを分析、設定できます。以下を示すグラフを追加します。

- 前月比のトレンド
- 市場セグメントごとのノルマ
- 営業ロールごとのノルマ

シートを追加して、営業担当者別に各ノルマを変更することもできます。

### ノルマ ダッシュボード

ノルマ ダッシュボードでは、営業チームの合意金額の数値目標と導入済みノルマがハイライトされ、ノルマ範囲が示されます。このダッシュボードでは、上記の担当者のノルマ ダッシュボードほど詳細ではなく、概要レベルで売上ノルマを表示できます。シートを追加すると、市場セグメント別に生産性やノルマを設定できます。

### 実績ダッシュボード

実績ダッシュボードでは、過去の売上業績データに基づいて、年間の経常収益と顧客数を時系列で表示できます。グラフでは、過去数年間の合意金額、顧客数、平均販売価格を、四半期別および月別に確認できます。合意金額が収益業績と平均販売価格 (ASP) に見合っているかをすばやく確認できます。

### サマリ ダッシュボード

サマリ ダッシュボードでは、他の各ダッシュボードのグラフを表示できます。ボトムアップの営業人材配置計画と、トップダウンの数値目標との差異を確認できます。サマリのグラフには以下を含めることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 合意金額計画
- 導入済みノルマ
- ヘッドカウントの差
- 合意金額の計画対数値目標
- 地域別の営業担当者
- 市場規模と営業チーム全体における市場規模の割当に関するサマリ

## 参考: グラフのタイプ

さまざまなグラフ タイプから選択し、データ ストーリーをビジュアル化します。

### 面

面グラフは、トレンドをデータ ポイントとして視覚化します。この場合 X 軸は時間または属性です。このグラフは、線と閾値の間を色で塗りつぶした折れ線グラフと似ています。

参考: 面グラフと折れ線グラフの設定を参照してください。

### 横棒

横棒グラフは複数のデータ系列を横棒で視覚化します。この場合の Y 軸は時間または属性です。このチャートは軸が入れ替わった縦棒グラフに似ています。

参考: 横棒グラフと縦棒グラフの設定 および 地域別売上に焦点を当てた横棒グラフを作成を参照してください。

### 列

縦棒グラフは、データ系列を縦棒で視覚化します。この場合の X 軸は時間または属性です。

次を参照してください。

- 参考: 横棒グラフと縦棒グラフの設定
- 例: 製品とサービスの収益に関する複数系列の縦棒グラフの作成 ( 490ページ ) .

### クロス集計

クロス集計は、表形式でデータを視覚的に表示します。このグラフは、多くの場合データ セット間の関係を比較するのに使用されます。

クロス集計グラフ、 クロス集計グラフの作成、 参考: クロス集計グラフの設定を参照してください。

### 属性マッピング

属性マッピング テーブルにより、ユーザー定義の多属性ルックアップ ルールに基づいて、データを動的にグループ化することができます。モデル シート行内の属性値は、ユーザーのルールを基に返されます。

### ドーナツ

ドーナツは、データ系列を円形のグラフとして視覚化します。このグラフは円グラフと似ていますが、中心がありません。

参考: ドーナツ グラフと円グラフの設定を参照してください。

### ファン

関数 グラフは、参照バージョンと比較した予測バージョンの差異をビジュアル化します。

参考: 送金グラフの設定を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

ゲージ

ゲージはデータをメーター (速度計) またはゲージとして視覚化します。売上総利益のパーセントや EBITDA のパーセントなどを表すのによく使用されます。ゾーンはメトリックの状況 (良好・ 普通・ 悪い) を示します。

参考: ゲージ グラフとメーター グラフの設定を参照してください。

地理マップ

地理マップは、科目を地理的なデータでビジュアル化したものです。円のサイズとカラーを使用して、さまざまな地域の値を比較対照します。

地理マップの作成を参照してください。

**KPI**

KPI (重要業績評価指標) は、設定された目標に対するビジネスの状況を理解できるようメトリックを視覚化します。

次を参照してください。

- 参考: KPI グラフ設定
- 例: 製品収益計画と実績の差異の KPI の作成 ( 488ページ ) .

折れ線

折れ線グラフは、トレンドをデータ ポイントとして視覚化します。この場合の X 軸は時間または属性です。

前期比のグラフを作成する および 参考: 面グラフと折れ線グラフの設定を参照してください。

円グラフ

円は、データ系列を円形のグラフとして視覚化し、データ値に比例するサイズのスライスを表示します。

参考: ドーナツ グラフと円グラフの設定を参照してください。

散布図

散布図はトレンドをデータ ポイントとして視覚化します。この場合の X 軸は時間または属性です。

散布図の作成 および 参考: 散布図の設定を参照してください。

スコアカード

スコアカードは、実績データと計画データの比較および差異を要約した一連のデータを、表形式で視覚化します。このグラフには、キー メトリックをハイライトするマイクロ グラフが含まれている場合がよくあります。

スコアカードをダッシュボードに追加する および 参考: スコアカード設定を参照してください。

シート

ダッシュボードから離れて探索せずに、ダッシュボード上でシートを使用してデータを入力します。シートを保存して、従属するグラフおよびダッシュボード上で変更内容を動的に表示します。

参照 ダッシュボードでのシートの追加 ( 341ページ ) 参考: ダッシュボード上のシートの設定

テキスト

ダッシュボードのテキストには、ガイド付きのサポート、使用メモ、一般的な情報、またはダッシュボードに表示するビジュアライゼーションに関するメモを表示することができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

参照 ダッシュボードへのテキストの追加 ( 351ページ ) 。

ウォーターフォール

ウォーターフォールは、開始位置、終了位置、達成方法を示すデータを視覚化します。初期値と最終値は多くの場合、縦棒全体で表され、途中の値は浮いた縦棒で表されます。

E例:回答 財務部門は分散分析を使用して収益計画と収益実績を比較し、GL 収益サブ科目全体または異なる地域にわたる、正および負の差異を示すことができます。

ウォーターフォール分散グラフを作成する および 参考: ウォーターフォール グラフ設定を参照してください。

## 参考: 時間の配置

2 つの時間設定が連携して、グラフで評価されるデータ セットを決定します。

グラフ上の時間

"期間設定" タブを使用してグラフに設定されたデフォルトの時間層、スパン、範囲。

データ系列、差異、またはマイクロ グラフの時間の配置

時間の配置は、現在 (グラフのデフォルトの時間設定)、あるいは、以前または以後の期間のオフセットに基づいています。

| 時間の配置を適用 | グラフのタイプ | 使用目的 |
|---|---|---|
| 科目 (データ系列) | 面と線、 横棒と縦棒 | 開始 - データ設定 タブ: 各データ系列に一意の時間の配置を設定します。。例: A 前期比。 |
| 差異 | ゲージおよびメーター、KPI、 スコアカード、 ウォーターフォール | 開始 - 外観の設定 タブ: 次と次の値の間の差異比較を設定します。2 データ系列以下に時間の配置を適用できます。 rイベント v評価および c比較 v値 |
| マイクロ グラフ | ゲージおよびメーター、KPI、 スコアカード、 ウォーターフォール | 開始 - 外観の設定 タブ: KPI 上のマイクロ グラフを設定します。 |

時間の配置設定は次の項目には使用できません: これらのグラフは以下のとおりです。 ドーナツと円、ファネルとピラミッド、 クロス集計

使用例

以下は、時間の配置の使用例です。

| 例 | グラフ上のデフォルトの期間 | 時間の配置設定 |
|---|---|---|
| 当年度の四半期収益を前年の四半期収益と比較する横棒グラフ。 | 時間層: 四半期スパン: 範囲: 2017 年 1 月 – 2017 年 12 月 | 以下から 2 つの収益科目を設定します。 - データ設定 タブ:<br>• 第 1 収益データ系列は以下のとおりです。 現在<br>• 第 2 収益データ系列: 前、4 か月のオフセット |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 例 | グラフ上のデフォルトの期間 | 時間の配置設定 |
|---|---|---|
| 今冬季のウェイター スタッフを前年および翌年の予測と比較する折れ線グラフ。 | 時間層: 月スパン: 範囲: 2016 年 11 月 – 2017 年 3 月 | から 3 つのヘッドカウント科目を設定-データ設定 タブ:<br>• 第 1 人員データ系列: 現在<br>• 第 2 人員データ系列: 前、12 か月のオフセット<br>• 第 3 人員データ系列: 次、12 か月のオフセット |
| 当年度の収益計画を前年の収益計画と比較するウォーターフォールグラフ。 | 時間層: 年期間: 2017 | 基準値と比較値を以下から設定します。 外観の設定 タブ:<br>基準: 値:<br>• バージョン: デフォルト<br>• 時間の配置: 現在<br>• 期間: デフォルト<br>比較値:<br>• バージョン: デフォルト<br>• 時間の配置: 前<br>• オフセット数: 1<br>• オフセット期間: 年 |
| 月でブレークダウンした当年度の資本支出計画を示すスコアカード上のマイクロ グラフ。 | 時間層: 四半期期間: Q4-2017 | 以下からスコアカードのマイクロ グラフを設定します。 外観の設定 タブ:<br>• 時間の配置: 現在<br>• 期間: 年<br>• ブレークダウン期間: 月 |

オプションと設定

選択したグラフと時間の配置オプションに応じて、以下のようになります。 提供 追加設定 対象 あなた 選択

| 時間の配置 | 詳細設定 *すべてのグラフは、時間の配置をサポートするすべてのグラフ タイプを参照する | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| オプション | 説明 | 期間 | 期間数 | オフセット数 | オフセット期間 | データ範囲 |
| 現在 | デフォルトの時間設定に基づく | すべてのグラフ* | | | | すべてのグラフ* |
| 前 | 指定した期間数まで戻る期間。例:12 か月 | すべてのグラフ* | | すべてのグラフ* | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 時間の配置 | 詳細設定 *すべてのグラフは、時間の配置をサポートするすべてのグラフ タイプを参照する | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| オプション | 説明 | 期間 | 期間数 | オフセット数 | オフセット期間 | データ範囲 |
| 次 | 指定した期間数だけ進む期間の場合。例:12 か月 | すべてのグラフ* | | すべてのグラフ* | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール |
| 過去 | グラフで選択した期間を含む、指定した過去の期間数の場合。 | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール | | | |
| 将来 | グラフで選択した期間を含む、指定した未来の期間数の場合。 | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール(基準値) | ゲージおよびメーター、KPI、スコアカード、ウォーターフォール(基準値) | | | |

## グラフ設定と UI オプション

概念: すべてのグラフ タイプの設定とオプション

グラフ内のデータに集中できるように、マウスを合わせた場合のみ、すべてのグラフ タイプの上に以下のアイコンが表示されます。

- デフォルトにリセット:元の値と書式設定に戻ります。
- "期間" を選択します。グラフに対して選択した期間に関連して、以下のアクションを提供します。
  - カレンダー層を設定します 。月、四半期、または年を選択できます。
  - 期間と範囲単一の期間または範囲を選択できます。
  - 時間の固定および固定解除選択した期間をグラフに固定できます。
- 展開。グラフを展開して表示します。
- グラフのオプショングラフで使用可能なアクションを表示します。

外観の設定

グラフのタイプの外観の設定では、次の設定を使用して、グラフ上の期間の表示方法を制御します。

- 期間を表示グラフ上の期間を表示または非表示にできます。
- ポジション期間をグラフ名の横またはグラフ名の下に配置できます。

参考: 面グラフと折れ線グラフの設定

注 : 面グラフまたは折れ線グラフのデータ ポイントに値がない場合、空のポイントにはデータ ポイントが表示されません。線は空のポイントをスキップします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
|---|---|---|
| 一般 | 名前 | グラフのタイトル。文字制限: 50 文字 |
| 一般 | グラフのタイプ | 使用するグラフのビジュアル化を選択します。 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| 軸 | | ラベルを含む、一次軸および二次軸のプレゼンテーションを定義します。一次軸と二次軸は個別に設定できます。二次軸の設定は、二次軸を設定している場合にのみ表示されます。二次軸は、"データ設定" タブの "科目" セクションにある "系列 Y 軸" フィールドから設定できます。 |
| 軸 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸のタイトル | 軸のタイトルの書式を選択します。 |
| 軸 | 一次軸の自動スケーリング | 軸が自動的に拡大縮小されるかどうかを決定します。"一次軸をゼロから開始" 設定がオフの場合、データ系列の値に基づいてスケールされます。"軸の自動スケーリング" をオフにする場合は、"軸の最小値" と "軸の最大値" を設定する必要があります。 |
| 軸 | 一次軸の最小値 | Y 軸の最初の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸の最大値 | Y 軸の最後の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸の中間値 | "一次軸の最大値" の値の 5% 以上の数値を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。例: 間隔と軸の最小値を 1000 に設定すると、軸には 1000、2000、3000 といった数値が表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 軸 | 一次軸をゼロから開始 | "軸の自動スケーリング" がオンの場合に、軸をどこから開始するかを選択します。<br>• オン: 軸はゼロから開始します。<br>• オフ: 軸はデータ セットの最小値から開始します。 |
| 軸 | 実績のオーバーレイ | グラフ上に 1 つのデータ系列がある場合、またはすべて同じバージョンの複数のデータ系列がある場合に使用できます。<br>• オン: 実績データの背景を緑色で表示します。<br>• オフ: 実績データの表示に区別はありません。 |
| 凡例 | 凡例 | グラフの凡例を表示または非表示にします。 |
| 凡例 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アク |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | ション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | バージョン | データ系列のバージョンを変更します。ツールバーで現在選択されているバージョンを使用するには、"バージョン セレクターと同じ" を選択します。例: グラフにデータ系列を 2 回追加し、それぞれのバージョンを変更して 2 つのバージョン間のデータを比較します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 系列のタイプ | グラフ上でこの科目のデータ系列がどのように表示されるかを |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 示します。グラフに多くのデータ系列がある場合、データ系列ごとに系列タイプを選択できます。<br>• グラフに合わせる: グラフの種類をもとに系列データを表示します。<br>• 折れ線: 系列データを折れ線として表示します。<br>• 縦棒: 系列データを縦棒として表示します。<br>• 面: 系列データを面として表示します。<br>• 散布図: 系列データをデータ ポイントとして表示します。 |
| 科目 | データ ラベル | • オン: グラフ要素にデータ値を表示します。例: 2017 年 1 月のバーの上に "170 万" と表示します。<br>• オフ: グラフ要素のデータ値を非表示にします。 |
| 科目 | 累積系列 | 以下の方法を示します<br>• オン: 各データ ポイントでの累積値を表示します。<br>• オフ: 各データ ポイントの正味の値を表示します。 |
| 科目 | トレンドライン | トレンドラインを表示または非表示にします。トレンドラインは、すべてのデータの増加傾向または減少傾向を示します。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色は、データ系列の色を表します。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 系列 Y 軸 | このデータ系列の y 軸がグラフの一次軸または二次軸として表示されるか否かを示します。一次軸と二次軸の表示を変更するには、"外観の設定" タブの "軸" セクションを編集します。 |
| 科目 | 時間の配置 | グラフの期間を決定します。<br>• 現在: グラフには常にデータがリアルタイムで表示されます。例: 2022 年 3 月 13 日には、グラフに 2022 年 3 月のデータが表示されます。<br>• 前: 分析を現在の時間より前の時間にオフセットします。<br>• 次: 分析を現在の時間より後の時間にオフセットします。 |
| 科目 | オフセット数 | "時間の配置" で "前" または "次" を選択した場合に使用できます。"科目の時間の配置" が "前" または "次" に設定されているときに、相対オフセットを指定する数値です。例: 現在の期間は 3 月です。"科目の時間の配置" は "次" です。4 月のデータを表示するには、「1」と入力します。 |
| ブレークダウン | タイプ | 以下の項目で、グラフ分析をブレークダウンします。<br>• 時間: 最初のブレークダウン タイプに "なし" を選択した場合にのみ使用できます。<br>• 属性: 最初のブレークダウン タイプに "時間" または "なし" を選択した場合にのみ使用できます。<br>• なし: このオプションはデフォルトで選択されています。 |
| ブレークダウン | 属性 | "タイプ" に "属性" を選択した場合に使用できます。属性のブレークダウンに使用するものを指定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| ブレークダウン | ゼロを表示しない | "タイプ" に "属性" を選択した場合に使用できます。値がゼロのデータを非表示にします。 |
| ブレークダウン | 積み上げ | 面グラフでのみ使用できます。<br>• オン: データを縦に積み上げて表示します。選択した場合は、任意で "積み上げ合計を表示" をオンにします。<br>• オフ: 縦に積み上げられたデータを非表示にします。 |
| ブレークダウン | 積み上げ合計を表示 | 面グラフでのみ使用できます。<br>"積み上げ" がオンの場合に使用できます。<br>• オン: 積み上げ合計を表示します。<br>• オフ: 積み上げ合計を非表示にします。 |
| 並べ替えと制限 | | ブレークダウン オプションを選択した場合に使用できます。<br>"並べ替えと制限" セクションを展開して、グラフ上のデータを並べ替えて制限する方法を定義します。面グラフ、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフの並べ替えと制限の結果を最適化するため、属性でブレークダウンすることをお勧めします。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え基準 | • なし: このオプションは、デフォルトで自動的に選択されます。<br>• データ系列: データ系列としてグラフに追加された科目や計算を基に並べ替えます。<br>• 属性: "ブレークダウン" での選択を基に並べ替えます。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え順序 | "ソート基準" でデータ系列または属性を選択すると表示されます。 |
| 並べ替えと制限 | 制限 | グラフに表示されるデータを制限します。"上位" または "下位" オプションを選択する場合は、数値を入力して制限する数字またはパーセントを指定します。例: |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • "下位 N" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて下位 10 件のレコードが表示されます。<br>• "上位 N %" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて上位 10% のレコードが表示されます。つまり、レコード セットが 100 の場合は、上位 10 件のレコードがグラフに表示されます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | スパン | • 範囲: 指定した期間範囲のデータを表示する場合に選択します。固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。<br>• 1 つの期間: 期間全体のデータを表示するか、ある日付までのすべての日付を表示する場合に選択します。 固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。 |
| 一般 | データ範囲 | "スパン"に "1 つの期間" を選択すると、以下が表示されます。<br>• 全期間: 期間の全日付を含めます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 指定日まで: 指定した日付までの全日付を含めます。 |
| 一般 | 時間の固定 (青) | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。例: "層" に "月" を選択し、次に、以下を実行します。<br>• "1 つの期間" の場合は、特定の日付を設定します。例: 2017 年 5 月<br>• "範囲" の場合は、開始日と終了日を選択します。例: 2017 年 5 月から 2017 年 6 月<br>。 |
| 一般 | 時間の固定解除 (グレー) | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: 横棒グラフと縦棒グラフの設定

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 名前 | グラフのタイトル。文字制限: 50 文字 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| 軸 | | ラベルを含む、一次軸および二次軸のプレゼンテーションを定義します。一次軸と二次軸は個 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 別に設定できます。二次軸の設定は、二次軸を設定している場合にのみ表示されます。二次軸は、"データ設定" タブの "科目" セクションにある "系列 Y 軸" フィールドから設定できます。 |
| 軸 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 軸 | 軸のタイトル | 軸のタイトルの書式を選択します。 |
| 軸 | 軸の自動スケーリング | 軸が自動的に拡大縮小されるかどうかを決定します。"一次軸をゼロから開始" 設定がオフの場合、データ系列の値に基づいてスケールされます。"軸の自動スケーリング" をオフにする場合は、"軸の最小値" と "軸の最大値" を設定する必要があります。 |
| 軸 | 軸の最小値 | Y 軸の最初の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 軸の最大値 | Y 軸の最後の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 軸の間隔 | "一次軸の最大値" の値の 5% 以上の数値を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。例: 間隔と軸の最小値を 1000 に設定すると、軸には 1000、2000、3000 といった数値が表示されます。 |
| 軸 | 軸をゼロから開始 | "軸の自動スケーリング" がオンの場合に、軸をどこから開始するかを選択します。<br>• オン: 軸はゼロから開始します。<br>• オフ: 軸はデータ セットの最小値から開始します。 |
| 軸 | 実績のオーバーレイ | グラフ上に 1 つのデータ系列がある場合、またはすべて同じバージョンの複数のデータ系列がある場合に使用できます。<br>• オン: 実績データの背景を緑色で表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • オフ: 実績データの表示に区別はありません。 |
| 凡例 | 凡例 | グラフの凡例を表示または非表示にします。 |
| 凡例 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。<br>"凡例" がオンの場合に使用できます。凡例のフォント タイプと色を設定します。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | バージョン | データ系列のバージョンを変更します。ツールバーで現在選択されているバージョンを使用するには、"バージョン セレクターと同じ" を選択します。例: グラフにデータ系列を 2 回追加し、それぞれのバージョンを変更して 2 つのバージョン間のデータを比較します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 系列のタイプ | グラフ上でこの科目のデータ系列がどのように表示されるかを示します。グラフに多くのデータ系列がある場合、データ系列ごとに系列タイプを選択できます。<br>• グラフに合わせる: グラフの種類をもとに系列データを表示します。<br>• 折れ線: 系列データを折れ線として表示します。<br>• 縦棒: 系列データを縦棒として表示します。<br>• 面: 系列データを面として表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 散布図: 系列データをデータ ポイントとして表示します。 |
| 科目 | データ ラベル | • オン: グラフ要素にデータ値を表示します。例: 2017 年 1 月のバーの上に "170 万" と表示します。<br>• オフ: グラフ要素のデータ値を非表示にします。 |
| 科目 | 累積系列 | 以下の方法を示します<br>• オン: 各データ ポイントでの累積値を表示します。<br>• オフ: 各データ ポイントの正味の値を表示します。 |
| 科目 | トレンドライン | トレンドラインを表示または非表示にします。トレンドラインは、すべてのデータの増加傾向または減少傾向を示します。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色は、データ系列の色を表します。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 負の数の形式設定 | グラフで負の数を表示する方法を選択します。 |
| 科目 | 系列 Y 軸 | このデータ系列の y 軸がグラフの一次軸または二次軸として表示されるか否かを示します。一次軸と二次軸の表示を変更するには、"外観の設定" タブの "軸" セクションを編集します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 時間の配置 | グラフの期間を決定します。<br>• 現在: グラフには常にデータがリアルタイムで表示されます。例: 2022 年 3 月 13 日には、グラフに 2022 年 3 月のデータが表示されます。<br>• 前: 分析を現在の時間より前の時間にオフセットします。<br>• 次: 分析を現在の時間より後の時間にオフセットします。 |
| 科目 | オフセット数 | "時間の配置" が "次" または "前" の場合に利用できます。時間を戻すか進める期間数を示します。 |
| ブレークダウン | タイプ | • 時間: 時間の設定に定義された時間別にデータを抽出します。このオプションは、デフォルトで自動的に選択されます。例: 1 年の各月でデータを抽出します。<br>• 属性: カスタム属性、組織、組織特性、およびカスタム属性特性別にデータを抽出します。例: データを場所や製品別に抽出します。選択した場合は、属性も選択します。<br>• なし |
| ブレークダウン | 属性 | ブレークダウン タイプとして "属性" を選択した場合に表示されます。属性のブレークダウンに使用するものを指定します。 |
| ブレークダウン | ゼロを表示しない | "タイプ" に "属性" を選択した場合に使用できます。値がゼロのデータを非表示にします。 |
| ブレークダウン | 積み上げ | • オン: データを縦に積み上げて表示します。選択した場合は、任意で "積み上げ合計を表示" をオンにします。<br>• オフ: 縦に積み上げられたデータを非表示にします。 |
| ブレークダウン | 積み上げ合計値を表示 | "積み上げ" がオンの場合に使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • オン: 積み上げ合計を表示します。<br>• オフ: 積み上げ合計を非表示にします。 |
| ブレークダウン | 重ね合わせ | 限度: 2 つのデータ系列。<br>• オン: 2 つのデータ系列を互いの前に埋め込んで表示します。順序は、"科目" セクションの科目の順序と同じです。最初の科目は最も後ろに配置され、2 番目の科目は最初の科目の前に配置されます。<br>• オフ: データ系列を埋め込みません。 |
| 並べ替えと制限 | | "並べ替えと制限" セクションを展開して、グラフ上のデータを並べ替えて制限する方法を定義します。面グラフ、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフの並べ替えと制限の結果を最適化するため、属性でブレークダウンすることをお勧めします。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え基準 | • なし: このオプションは、デフォルトで自動的に選択されます。<br>• データ系列: データ系列としてグラフに追加された科目や計算を基に並べ替えます。<br>• 属性: "ブレークダウン" での選択を基に並べ替えます。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え順序 | "ソート基準" でデータ系列または属性を選択すると表示されます。 |
| 並べ替えと制限 | 制限 | グラフに表示されるデータを制限します。"上位" または "下位" オプションを選択する場合は、数値を入力して制限する数字またはパーセントを指定します。例:<br>• "下位 N" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて下位 10 件のレコードが表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • "上位 N %" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて上位 10% のレコードが表示されます。つまり、レコード セットが 100 の場合は、上位 10 件のレコードがグラフに表示されます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | スパン | • 範囲: 指定した期間範囲のデータを表示する場合に選択します。固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。<br>• 1 つの期間: 期間全体のデータを表示するか、ある日付までのすべての日付を表示する場合に選択します。 固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。 |
| 一般 | データ範囲 | "スパン"に "1 つの期間" を選択すると、以下が表示されます。<br>• 全期間: 期間の全日付を含めます。<br>• 指定日まで: 指定した日付までの全日付を含めます。 |
| 一般 | 時間の固定 (青) | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。例: "層" に "月" を選択し、次に、以下を実行します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • "1 つの期間" の場合は、特定の日付を設定します。例: 2017 年 5 月<br>• "範囲" の場合は、開始日と終了日を選択します。例: 2017 年 5 月から 2017 年 6 月 |
| 一般 | 時間の固定解除 (グレー) | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: クロス集計の設定

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 名前 | グラフのタイトル。文字制限: 50 文字 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 列 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 列 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 列 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 列 | バージョン | データ系列のバージョンを変更します。ツールバーで現在選択されているバージョンを使用するには、"バージョン セレクターと同じ" を選択します。例: グラフにデータ系列を 2 回追加し、それぞれのバージョンを変更して 2 つのバージョン間のデータを比較します。<br><br>このオプションを使用すると、ダッシュボードを使用して Adaptive Planning の 2 つのバージョンを比較できます。 |
| 列 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 列 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 列 | 負の数の形式設定 | グラフで負の数を表示する方法を選択します。 |
| 列 | ゼロを表示しない | すべてゼロの列を非表示にします。 |
| 行 | 追加 | "行" セクションを展開して、グラフの行の表示、変更、削除、追加を行います。以下を追加できます。<br>• 期間<br>• 属性: 組織、カスタム属性、組織特性、属性特性を含みます。 |
| 行 | ゼロを表示しない | すべてゼロの行を非表示にします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | スパン | • 範囲: 指定した期間範囲のデータを表示する場合に選択します。固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。<br>• 1 つの期間: 期間全体のデータを表示するか、ある日付までのすべての日付を表示する場合に選択します。 固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。 |
| 一般 | データ範囲 | "スパン"に "1 つの期間" を選択すると、以下が表示されます。<br>• 全期間: 期間の全日付を含めます。<br>• 指定日まで: 指定した日付までの全日付を含めます。 |
| 一般 | 時間の固定 (青) | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。例: "層" に "月" を選択し、以下に従って設定します。<br>• "1 つの期間" の場合は、特定の月を設定します。例: 2017 年 4 月<br>• "範囲" の場合は、開始月と終了月を選択します。例: 2017 年 4 月から 2017 年 6 月 |
| 一般 | 時間の固定解除 (グレー) | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。"過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br><br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

**参考: FA グラフ設定**

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 名前 | グラフのタイトル。文字制限: 50 文字 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| データ ラベル | データ ラベルを表示 | データ ラベルを表示または非表示にします。 |
| 軸 | | ラベルを含む、一次軸および二次軸のプレゼンテーションを定義します。一次軸と二次軸は個別に設定できます。二次軸の設定は、二次軸を設定している場合にのみ表示されます。二次軸は、"データ設定" タブの "科目" セクションにある "系列 Y 軸" フィールドから設定できます。 |
| 軸 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸のタイトル | 軸のタイトルの書式を選択します。 |
| 軸 | 一次軸の自動スケーリング | 軸が自動的に拡大縮小されるかどうかを決定します。"一次軸をゼロから開始" 設定がオフの場合、データ系列の値に基づいてスケールされます。"軸の自動スケーリング" をオフにする場合は、"軸の最小値" と "軸の最大値" を設定する必要があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 軸 | 一次軸の最小値 | Y 軸の最初の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸の最大値 | Y 軸の最後の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸の中間値 | "一次軸の最大値" の値の 5% 以上の数値を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。例: 間隔と軸の最小値を 1000 に設定すると、軸には 1000、2000、3000 といった数値が表示されます。 |
| 軸 | 一次軸をゼロから開始 | "軸の自動スケーリング" がオンの場合に、軸をどこから開始するかを選択します。<br>• オン: 軸はゼロから開始します。<br>• オフ: 軸はデータ セットの最小値から開始します。 |
| 軸 | 実績のオーバーレイ | グラフ上に 1 つのデータ系列がある場合、またはすべて同じバージョンの複数のデータ系列がある場合に使用できます。<br>• オン: 実績データの背景を緑色で表示します。<br>• オフ: 実績データの表示に区別はありません。 |
| 凡例 | 凡例を表示 | グラフの凡例を表示または非表示にします。 |
| 凡例 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 凡例 | 役職 | グラフの凡例の配置をカスタマイズします。 |
| 基準値 | バージョン | 基準値として使用するバージョンを選択します。 基準値は 1 つしか設定できません。 |
| 比較値 | 追加 | 比較値を追加して、範囲を基準値と比較します。複数の比較値を追加できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | は、データ系列の色を表します。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式設定:<br>• *-123,456,789.12*: 負の値を示すのに、マイナス記号を使用します。<br>• *(123,456,789.12)*: 負の値はかっこで囲みます。 |
| 科目 | 系列 Y 軸 | このデータ系列の y 軸がグラフの一次軸または二次軸として表示されるか否かを示します。一次軸と二次軸の表示を変更するには、"外観の設定" タブの "軸" セクションを編集します。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | 時間の固定 (青) | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。例: "層" に "月" を選択し、次に、以下を実行します。<br>• "1 つの期間" の場合は、特定の日付を設定します。例: 2017 年 5 月 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • "範囲" の場合は、開始日と終了日を選択します。例: 2017 年 5 月から 2017 年 6 月<br><br>。 |
| 一般 | 時間の固定解除 (グレー) | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: ゲージ グラフとメーター グラフの設定

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 名前 | グラフのタイトル。文字制限: 50 文字 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| データ ラベル | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色。この設定では、チェックマークではなく、データ値のみが形式設定されます。 |
| レイアウト | 表示 | データの表示方法を選択します。<br>• 値: 数値<br>• 差異: "基準値"、"比較値"、"差異" セクションで定義した基準と比較の間の差異の数値。<br>• 差異パーセント: "基準値"、"比較値"、"差異" セ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | クションで定義した基準と比較の間の差異のパーセンテージ。 |
| レイアウト | スタイル | • ゲージ: 最小値と最大値のみの値を表示します。<br>• メーター: 最小値と最大値の間に等しい間隔でチェックマークが表示されます。 |
| 比率 | Autoscaling | 表示 オプションで "差異" または "差異パーセント" を選択した場合にのみ使用できます。<br>• オン: デフォルト。自動スケーリングがオンです。<br>• オフ: 手動でスケーリングを設定します。最小値と最大値も設定します。 |
| 比率 | 最小 | "表示" オプションで "値" を選択した場合、または "Autoscaling" オプションをオフにしている場合にのみ使用できます。<br>自動スケーリングがオフの場合、最小スケール値を設定します。正の数または負の数の値を入力します。<br>デフォルト: 0<br>限度: - +2,147,483,647 |
| 比率 | 最大 | "表示" オプションで "値" を選択した場合、または "Autoscaling" オプションをオフにしている場合にのみ使用できます。<br>自動スケーリングがオフの場合、最大スケールを設定します。正の数または負の数の値を入力します。<br>デフォルト: 100<br>限度: - +2,147,483,647 |
| Reference Value and Comparison Value | | これらの 2 つのセクションは、"表示" に "差異" または "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。各セクションのオプションは同じで、差異の基準値と比較値を定義します。例: 当年度の "実行予算" バージョンの値を、前年度の "実績" バージョンの値と比較します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 基準/比較値 | バージョン | 参照する差異のバージョンを選択します。デフォルト: バージョン セレクターと同じ |
| 基準/比較値 | タイムライン | 差異の基準となる期間を選択します。<br>• 現在: グラフの "時間" 設定と同じ。<br>• 前: 現在の時間より前の期間の数。<br>• 次: 現在の時間より後の期間の数。<br>• 過去: 現在の期間を含む過去の期間の数。<br>• 将来: 現在の期間を含む将来の期間の数。 |
| 基準/比較値 | 期間数 | 時間を戻すか進める期間の数として、正数を入力します。"時間の配置" で "将来" または "過去" を選択した場合に使用できます。例: "期間の配置" で "追跡" を選択し、"期間数" に「1」と入力します。当年が 2016 年の場合、データ参照は 2015 年です。 |
| 基準/比較値 | 期間 | ゲージの期間を選択します。<br>• 期間セレクターから<br>• 年<br>• 四半期<br>• 月 |
| 基準/比較値 | データ範囲 | "時間の配置" が "前"、"次"、または "現在" の場合に使用できます。<br>以下に基づいてデータを評価します。<br>• 全期間 (デフォルト)<br>• 指定日まで |
| 基準/比較値 | オフセット数 | "時間の配置" が "前" または "次" の場合に使用できます。<br>時間を後ろ向きまたは前向きにカウントするための数値を入力します。 |
| 基準/比較値 | オフセット期間 | "時間の配置" が "前" または "次" の場合に使用できます。<br>"オフセット数" の期間を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 差異 | 差異式 | "表示" が "差異" または "差異パーセント" のときに使用できます。基準と比較の間の差異を計算します。<br>• 基準値 - 比較値: 基準から比較を減算します。<br>• 比較値 - 基準値: 比較から基準を減算します。<br>• 比較値 |
| 差異パーセント | 差異パーセント表記 | 次のいずれかを使用して差異パーセントを計算します。<br>• 比較で差異を割る<br>• 基準で差異を割る<br>• 比較で基準を割る<br>• 基準で比較を割る<br>"タイプ" で "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフの |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | データ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色は、データ系列の色を表します。 |
| 科目 | 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式を設定します。<br>• -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• (123,456,789.12): 負の数はかっこで囲みます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
|---|---|---|
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | 時間の固定 (青) | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。例: "層" に "月" を選択し、次に、以下を実行します。<br>• "1 つの期間" の場合は、特定の日付を設定します。例: 2017 年 5 月<br>• "範囲" の場合は、開始日と終了日を選択します。例: 2017 年 5 月から 2017 年 6 月 |
| 一般 | 時間の固定解除 (グレー) | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: 地理マップの設定

地理マップは、地理的位置に基づいて円を持つデータをビジュアル化する地理的なグラフです。

- 外観の設定
- データ設定
- 期間設定

外観の設定

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
|---|---|---|
| 一般 | 名前 | グラフのタイトルを入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| | | 文字制限: 50 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | 条件付き書式設定ルールを追加する。 |

データ設定

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | [科目名] | グラフの科目を表示、変更、削除する、またはグラフに科目を追加するには、"科目" セクションを展開します。個々の科目はグラフ上のデータ系列を表します。<br>グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| | | • 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | Account | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | バージョン | データ系列のバージョンを変更します。ツールバーで現在選択されているバージョンを使用するには、"バージョン セレクターと同じ" を選択します。例: グラフにデータ系列を 2 回追加し、それぞれのバージョンを変更して 2 つのバージョン間のデータを比較します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 値の表示基準 | 円サイズまたは色スケール別に値を表示します。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色は、データ系列の色を表します。<br>"2 色スケール"を選択した場合、データ系列の " 最小値" と "最大値" の 色を指定できます。 |
| 科目 | サイズ別の値のオーバーレイ | 2 つの科目をオーバーレイすることによって、単一系列のサイズとカラー スケールの両方をビジュアル化できます。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| | | • #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式を設定します。<br>• -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• (123,456,789.12): 負の数はかっこで囲みます。 |
| 科目 | 地理属性 | 地理マップには、緯度および経度座標のあるカスタム属性が必要です。 |
| 科目 | 属性 | モデル シートで使用されている科目に関連する属性をリストします。この属性は、緯度および経度座標のあるカスタム プロパティが必要です。特定の階層属性値を固定し、常に子の領域を表示します。 |
| 科目 | 緯度プロパティ | 属性のすべてのカスタム プロパティをリストします。データポイントの緯度座標を提供します。 |
| 科目 | 経度プロパティ | 属性のすべてのカスタム プロパティをリストします。データポイントの経度座標を提供します。 |
| 科目 | 追加 | " 追加" を選択して、科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加します。 |
| ブレークダウン | タイプ | データを詳細なグループに分割する方法を決定します。<br>可能な値:<br>• 時間: 時間設定に定義された時間別にデータを抽出します。例: 1 年の各月または四半期ごとにデータを抽出します。<br>• 属性: 組織や特性などの属性別にデータを抽出します。このオプションを選択した場合、属性を選択する必要があります。 例: データを組織、場所、製品で抽出します。<br>• なし (デフォルト)。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| ブレークダウン | 属性 | "ブレークダウン" が属性の場合、属性を指定します。 |
| ブレークダウン | 並べ替えと制限 | このセクションを展開し、地図上のデータを並べ替えおよび制限する方法を定義します。<br>注 : ブレークダウンが選択されている場合は、並べ替えおよび制限できません。 |
| ブレークダウン | 並べ替え基準 | 並べ替える要素を指定します。<br>• なし (デフォルト)<br>• データ系列: データ系列としてマップに追加された科目や計算に基づく |
| ブレークダウン | 制限 | グラフに表示されるデータを制限する方法を示します。<br>• すべてのレコードを表示 (デフォルト):<br>• 上位 N<br>• 下位 N<br>• 上位 N %<br>• 下位 N %<br>"上位" または "下位" オプションを選択する場合は、数値を入力して制限する数字またはパーセンテージを指定します。たとえば、"下位 N" を選択して「10」と入力すると、グラフには "並べ替え基準" と "並べ替え順序" の選択に基づいて下位 10 件のレコードが表示されます。"上位 N %" を選択して 10 を入力すると、グラフには "並べ替え基準" と "並べ替え順序" の選択に基づいて最初の 10% のレコードが表示されます。レコード セットが 100 の場合、グラフには上位 10 件のレコードが表示されます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | スパン | • 範囲: 指定した期間範囲のデータを表示する場合に選択します。固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。<br>• 1 つの期間: 期間全体のデータを表示するか、ある日付までのすべての日付を表示する場合に選択します。 固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。 |
| 一般 | データ範囲 | "スパン"に "1 つの期間" を選択すると、以下が表示されます。<br>• 全期間: 期間の全日付を含めます。<br>• 指定日まで: 指定した日付までの全日付を含めます。 |
| 一般 | 時間の固定および固定解除 | グラフ上の時間を固定または固定解除として設定します。<br><br>ピンで固定 (青) して固定期間を設定します。固定済グラフの期間は、選択された層に基づきます。たとえば、次のように層を選択します。<br>• 月: 月-年に基づいて期間を選択します。<br>• 四半期: 四 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| | | 半期-年に基づいて期間を選択します。<br>• 年: 年に基づいて期間を選択します。<br><br>単一期間の場合、2017 年 5 月といった具合に具体的な日付を設定します。"範囲" では、2017 年 5 月から 2017 年 6 月といった具合に開始日と終了日を選択します。<br><br>📌固定解除 (グレー) エリア ツールバーに表示される参照期間に対する相対期間を設定します。相対期間は、選択した層に基づきます。以下を選択します。<br>• 現在: 最新の参照日付に一致します。<br>• 過去へ: 入力する数だけ前へ調整します。<br>• 将来へ: 入力する数だけ後 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 考慮事項 |
| --- | --- | --- |
| | | ろへ調整します。<br><br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: **KPI** グラフ設定

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 名前 | グラフのタイトルを入力します。<br><br>文字制限: 50 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| レイアウト | | ヘッダーを非表示にすると、そのヘッダーに関連付けられている設定を変更できません。例:"差異 " ヘッダーを非表示すると、差異を設定できません。 |
| レイアウト | 系列ヘッダー | 系列ヘッダーのデータ系列を表示または非表示にします。ヘッダーがグラフの名前 ("外観の設定" で定義) と同じである場合、系列ヘッダーを非表示にすることができます。<br><br>• オン: 系列ヘッダーを表示します。<br>• オフ: 系列ヘッダーを非表示にします。 |
| レイアウト | バージョン ヘッダー | 参照バージョンと比較バージョンに関する情報を表示または非表示にします。"差異" ヘッダーが非表示の場合、このヘッダーには参照バージョンに関する情報のみが表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • オン: バージョン ヘッダーを表示します<br>• オフ: バージョン ヘッダーを非表示にします。 |
| レイアウト | 差異 | 差異ラベルを表示または非表示にします。差異を表示する場合、以下を設定できます。<br>• 比較値<br>• 差異<br>• 差異パーセント |
| レイアウト | マイクロ グラフ | マイクロ グラフを表示または非表示にします。 |
| 基準値 | | これらの 2 つのセクションは、"表示" に "差異" または "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。各セクションのオプションは同じで、差異の基準値と比較値を定義します。例: 当年度の "実行予算" バージョンの値を、前年度の "実績" バージョンの値と比較します。 |
| 基準値 | バージョン | 参照する差異のバージョンを選択します。デフォルト: バージョン セレクターと同じ |
| 基準値 | 時間の配置 | 異なる期間のデータを比較する場合の時間調整方法を決定します。可能な値:<br>• 現在 (デフォルト)<br>• 前<br>• 次<br>• 過去<br>• 将来 |
| 基準値 | 期間 | 月、四半期、年などの、評価する期間を設定します。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| 基準値 | 期間数 | 時間を戻すか進める期間の数として、正数を入力します。"時間の配置" で "将来" または "過去" を選択した場合に使用できます。例: "期間の配置" で "追跡" を選択し、"期間数" に「1」と入力します。当年が 2016 年の場合、データ参照は 2015 年です。 |
| 基準値 | オフセット数 | "時間の配置" が "次" または "前" の場合に利用できます。時間を |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 戻すか進める期間数を示します。 |
| 基準値 | オフセット期間 | 時間調整が "次" または "前" である場合のオフセット期間を設定します。可能な値には、月、四半期、年が含まれます。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| 基準値 | データ範囲 | 以下に基づいてデータを評価します。<br>• 全期間 (デフォルト)<br>• 指定日まで |
| 基準値 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 比較値 | | 基準値と比較する値の範囲を定義します。例: 計画された収益と実績の比較。デフォルト: 実績 |
| 比較値 | バージョン | ベースライン バージョンの基準値を比較する 2 番目のバージョンの科目値。 |
| 比較値 | 時間の配置 | 異なる期間のデータを比較する場合の時間調整方法を決定します。可能な値:<br>• 現在 (デフォルト)<br>• 前<br>• 次<br>• 過去<br>• 将来 |
| 比較値 | 期間 | 月、四半期、年などの、評価する期間を設定します。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| 比較値 | 期間数 | 時間を戻すか進める期間の数として、正数を入力します。"時間の配置" で "将来" または "過去" を選択した場合に使用できます。例: "期間の配置" で "追跡" を選択し、"期間数" に「1」と入力します。当年が 2016 年の場合、データ参照は 2015 年です。 |
| 比較値 | オフセット数 | "時間の配置" が "次" または "前" の場合に利用できます。時間を |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 戻すか進める期間数を示します。 |
| 比較値 | オフセット期間 | 時間調整が "次" または "前" である場合のオフセット期間を設定します。可能な値には、月、四半期、年が含まれます。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| 比較値 | データ範囲 | 以下に基づいてデータを評価します。<br>• 全期間 (デフォルト)<br>• 指定日まで |
| 差異 | 差異式 | "表示" が "差異" または "差異パーセント" のときに使用できます。基準と比較の間の差異を計算します。<br>• 基準値 - 比較値: 基準から比較を減算します。<br>• 比較値 - 基準値: 比較から基準を減算します。<br>• 比較値 |
| 差異 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 差異パーセント | 差異パーセント表記 | 次のいずれかを使用して差異パーセントを計算します。<br>• 比較で差異を割る<br>• 基準で差異を割る<br>• 比較で基準を割る<br>• 基準で比較を割る<br>"タイプ" で "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。 |
| 差異パーセント | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| マイクロ グラフ | 時間の配置 | マイクロ グラフの時間の配置を定義します。可能な値:<br>• 現在<br>• 前<br>• 次<br>• 過去<br>• 将来 |
| マイクロ グラフ | 期間 | 月、四半期、年などの、評価する期間を設定します。デフォル |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | ト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| マイクロ グラフ | 期間数 | 時間を戻すか進める期間の数として、正数を入力します。"時間の配置" で "将来" または "過去" を選択した場合に使用できます。例: "期間の配置" で "追跡" を選択し、"期間数" に「1」と入力します。当年が 2016 年の場合、データ参照は 2015 年です。 |
| マイクロ グラフ | オフセット数 | "時間の配置" が "次" または "前" の場合に利用できます。時間を戻すか進める期間数を示します。 |
| マイクロ グラフ | オフセット期間 | 時間調整が "次" または "前" である場合のオフセット期間を設定します。可能な値には、月、四半期、年が含まれます。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| マイクロ グラフ | ブレークダウン期間 | マイクロ グラフのブレークダウン期間を設定します。可能な値:<br>• 期間セレクターから<br>• 年<br>• 四半期<br>• 月 |
| マイクロ グラフ | データ範囲 | 以下に基づいてデータを評価します。<br>• 全期間 (デフォルト)<br>• 指定日まで |
| マイクロ グラフ | 累積 | マイクロ グラフに対して選択したデータ範囲にわたる系列を累積します。 |
| マイクロ グラフ | タイプ | マイクロ グラフのチャート タイプを設定します。可能な値:<br>• 折れ線<br>• 列<br>• 面<br>• アウトライン |
| マイクロ グラフ | 色 | マイクロ グラフで使用される色を設定します。 |
| 条件付き書式設定 | | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | | グラフの科目を表示、変更、削除する、またはグラフに科目を追加するには、"科目" セクションを展開します。個々の科目はグラフ上のデータ系列を表します。 |
| 科目 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式を設定します。<br>• -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• (123,456,789.12): 負の数はかっこで囲みます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| "一般" セクション | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| "一般" セクション | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 | |
|---|---|---|---|
| "一般" セクション | 時間の固定および固定解除 | 時間の固定および固定解除 | グラフ上の時間を固定または固定解除として設定します。<br><br>ピンで固定 (青) して固定期間を設定します。固定済グラフの期間は、選択された層に基づきます。たとえば、次のように層を選択します。<br>• 月: 月-年に基づいて期間を選択します。<br>• 四半期: 四半期-年に基づいて期間を選択します。<br>• 年: 年に基づいて期間を選択します。<br><br>単一期間の場合、2017 年 5 月といった具合に具体的な日付を設定します。"範囲" では、2017 年 5 月から 2017 年 6 月といった具合に開始日と終了日を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 固定解除 (グレー) エリア ツールバーに表示される参照期間に対する相対期間を設定します。相対期間は、選択した層に基づきます。以下を選択します。<br>• 現在: 最新の参照日付に一致します。<br>• 過去へ: 入力する数だけ前へ調整します。<br>• 将来へ: 入力する数だけ後ろへ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: エリア オプション

この表は、エリアを管理するときに使用できるオプションについて説明します。以下にアクセスできます。 オプション エリアの概要で さらに アイコン エリアに関連付けられた。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| エリア オプション | エリア承認者 | 共有エリアのユーザーを表示 | 共有エリアのユーザーを編集 |
|---|---|---|---|
| 共有: ユーザーとエリアを共有して、ユーザーに表示や編集の権限を与えます。 | はい | いいえ | はい |
| 非共有: すべてのユーザーとのエリアの共有を停止します。<br><br>特定のユーザーとエリアを非共有したい場合 ユーザー, 選択 "表示" と "編集" アクセス権の共有 と 削除 これらのユーザー。<br><br>承認者の場合、すべてのユーザーとエリアを非共有にした場合のみ、エリアは "共有" から "パーソナル" に移動します。 | はい | いいえ | いいえ |
| 名前の変更: エリアの名前を変更します。 | はい | いいえ | はい |
| 削除: エリアと、エリア内のすべてのダッシュボードとグラフを削除します。 | はい | いいえ | はい |
| コピー: エリアと、エリア内のすべてのダッシュボードとグラフのコピーを作成します。あなたはコピーの承認者になります。<br><br>コピーしたアイテムは、元のエリアに関連付けされていません。元のエリア、ダッシュボード、グラフへの更新は、コピーしたアイテムには反映されません。 | はい | はい | はい |
| 小切手丸ut: 共有エリアをチェックアウトし、エリアとそのダッシュボードとグラフを編集します。限定 1 ユーザーはエリアをチェックアウトできます- 一度に, 防止ing それ以外のユーザーは保留中の変更を上書きしない。<br><br>エリアがチェックアウトされると、エリアにアクセス権のあるユーザーは、継続してダッシュボードとグラフの表示および操作ができます。 | はい | いいえ | はい |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| エリア オプション | エリア承認者 | 共有エリアのユーザーを表示 | 共有エリアのユーザーを編集 |
|---|---|---|---|
| チェックアウトを元に戻す: チェックアウトしたエリアを元に戻します。 | はい | いいえ | いいえ |
| パブリッシュ: 変更のパブリッシュ。共有エリアのアクセス権があるユーザーに、変更が表示されます。他者がエリアをチェックアウトおよび編集できるようになります。 | はい | いいえ | はい |
| 廃棄: 変更を次の時点で元に戻す チェックアウトされたエリアと、エリアに関連付けられたすべてのダッシュボードとグラフ | はい | いいえ | はい |

参考: 円グラフとドーナツ グラフの設定

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
|---|---|---|
| 一般 | 名前 | グラフのタイトル。文字制限: 50 文字 |
| 一般 | グラフのタイプ | 使用するグラフのビジュアル化を選択します。 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| データ ラベル | データ ラベル | データ ラベルを表示または非表示にします。 |
| データ ラベル | フォント | "データ ラベル" がオンの場合に使用できます。<br>ラベルのフォント書式を選択します。 |
| データ ラベル | ラベルの種類 | 表示形式を選択します。<br>• パーセント (%): パーセントを表示します。<br>• データ: 数値を表示します。 |
| 凡例 | 凡例 | グラフの凡例を表示または非表示にします。 |
| 凡例 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定しま |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | す。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | バージョン | データ系列のバージョンを変更します。ツールバーで現在選択されているバージョンを使用するには、"バージョン セレクターと同じ" を選択します。例: グラフにデータ系列を 2 回追加し、それぞれのバージョンを変更して 2 つのバージョン間のデータを比較します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色は、データ系列の色を表します。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式を設定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• (123,456,789.12): 負の数はかっこで囲みます。 |
| ブレークダウン | タイプ | 以下の項目で、データを細かいグループにブレークダウンします。<br>• 時間: 時間が値にどのように影響するかを示します。<br>• 属性: カスタム属性が値にどのように影響するかを示します。<br>• 系列: さまざまな科目が値にどのように影響するかを示します。 |
| ブレークダウン | 属性 | "タイプ" に "属性" を選択した場合に使用できます。属性のブレークダウンに使用するものを指定します。 |
| ブレークダウン | ゼロを表示しない | "タイプ" に "属性" を選択した場合に使用できます。値がゼロのデータを非表示にします。 |
| 並べ替えと制限 | | "ブレークダウン" セクションの "タイプ" に "属性" または "時間" を選択した場合に使用できます。<br>"並べ替えと制限" セクションを展開して、グラフ上のデータを並べ替えて制限する方法を定義します。面グラフ、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフの並べ替えと制限の結果を最適化するため、属性でブレークダウンすることをお勧めします。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え基準 | • なし: このオプションは、デフォルトで自動的に選択されます。<br>• データ系列: データ系列としてグラフに追加された科目や計算を基に並べ替えます。<br>• 属性: "ブレークダウン" での選択を基に並べ替えます。 |
| 並べ替えと制限 | 制限 | グラフに表示されるデータを制限します。"上位" または "下位" オプションを選択する場合 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | は、数値を入力して制限する数字またはパーセントを指定します。例:<br>• "下位 N" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて下位 10 件のレコードが表示されます。<br>• "上位 N %" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて上位 10% のレコードが表示されます。つまり、レコード セットが 100 の場合は、上位 10 件のレコードがグラフに表示されます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | スパン | • 範囲: 指定した期間範囲のデータを表示する場合に選択します。固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。<br>• 1 つの期間: 期間全体のデータを表示するか、ある日付までのすべての日付を表示する場合に選択します。 固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。 |
| 一般 | データ範囲 | "スパン"に "1 つの期間" を選択すると、以下が表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 全期間: 期間の全日付を含めます。<br>• 指定日まで: 指定した日付までの全日付を含めます。 |
| 一般 | 時間の固定 (青) | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。例: "層" に "月" を選択し、次に、以下を実行します。<br>• "1 つの期間" の場合は、特定の日付を設定します。例: 2017 年 5 月<br>• "範囲" の場合は、開始日と終了日を選択します。例: 2017 年 5 月から 2017 年 6 月<br>。 |
| 一般 | 時間の固定解除 (グレー) | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: ファネル グラフとピラミッド グラフの設定

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 名前 | グラフのタイトル。文字制限: 50 文字 |
| 一般 | グラフのタイプ | 使用するグラフのビジュアル化を選択します。 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モード |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | でグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| データ ラベル | データ ラベル | データ ラベルを表示または非表示にします。 |
| データ ラベル | フォント | "データ ラベル" がオンの場合に使用できます。<br>ラベルのフォント書式を選択します。 |
| データ ラベル | ラベルの種類 | 表示形式を選択します。<br>• パーセント (%): パーセントを表示します。<br>• データ: 数値を表示します。 |
| 凡例 | 凡例 | グラフの凡例を表示または非表示にします。 |
| 凡例 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | バージョン | データ系列のバージョンを変更します。ツールバーで現在選択されているバージョンを使用するには、"バージョン セレクターと同じ" を選択します。例: グラフにデータ系列を 2 回追加し、それぞれのバージョンを変更して 2 つのバージョン間のデータを比較します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色は、データ系列の色を表します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式を設定します。<br>• -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• (123,456,789.12): 負の数はかっこで囲みます。 |
| ブレークダウン | タイプ | 以下の項目で、データを細かいグループにブレークダウンします。<br>• 時間: 時間が値にどのように影響するかを示します。<br>• 属性: カスタム属性が値にどのように影響するかを示します。<br>• 系列: さまざまな科目が値にどのように影響するかを示します。 |
| ブレークダウン | 属性 | "タイプ" に "属性" を選択した場合に使用できます。属性のブレークダウンに使用するものを指定します。 |
| ブレークダウン | ゼロを表示しない | "タイプ" に "属性" を選択した場合に使用できます。値がゼロのデータを非表示にします。 |
| 並べ替えと制限 | | "ブレークダウン" セクションの "タイプ" に "属性" または "時間" を選択した場合に使用できます。<br>"並べ替えと制限" セクションを展開して、グラフ上のデータを並べ替えて制限する方法を定 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 義します。面グラフ、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフの並べ替えと制限の結果を最適化するため、属性でブレークダウンすることをお勧めします。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え基準 | • なし: このオプションは、デフォルトで自動的に選択されます。<br>• データ系列: データ系列としてグラフに追加された科目や計算を基に並べ替えます。<br>• 属性: "ブレークダウン" での選択を基に並べ替えます。 |
| 並べ替えと制限 | 制限 | グラフに表示されるデータを制限します。"上位" または "下位" オプションを選択する場合は、数値を入力して制限する数字またはパーセントを指定します。例:<br>• "下位 N" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて下位 10 件のレコードが表示されます。<br>• "上位 N %" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて上位 10% のレコードが表示されます。つまり、レコード セットが 100 の場合は、上位 10 件のレコードがグラフに表示されます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | スパン | • 範囲: 指定した期間範囲のデータを表示する場合に選択します。固定済みグ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | ラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。<br>• 1 つの期間: 期間全体のデータを表示するか、ある日付までのすべての日付を表示する場合に選択します。 固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。 |
| 一般 | データ範囲 | "スパン"に "1 つの期間" を選択すると、以下が表示されます。<br>• 全期間: 期間の全日付を含めます。<br>• 指定日まで: 指定した日付までの全日付を含めます。 |
| 一般 | 時間の固定 (青) | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。例: "層" に "月" を選択し、次に、以下を実行します。<br>• "1 つの期間" の場合は、特定の日付を設定します。例: 2017 年 5 月<br>• "範囲" の場合は、開始日と終了日を選択します。例: 2017 年 5 月から 2017 年 6 月<br>。 |
| 一般 | 時間の固定解除 (グレー) | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" に |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | は、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: 散布図の設定

散布図はトレンドをデータ ポイントとして視覚化します。この場合の X 軸は時間または属性です。

- 外観の設定 ( 424ページ )
- データ設定 ( 426ページ )
- 期間設定 ( 430ページ )

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | 名前 | グラフのタイトルを入力します。<br>文字制限: 50 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| データ ラベル | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 軸 | | ラベルを含む、一次軸および二次軸のプレゼンテーションを定義します。一次軸と二次軸は個別に設定できます。二次軸の設定は、二次軸を設定している場合にのみ表示されます。二次軸は、"データ設定" タブの "科目" セクションにある "系列 Y 軸" フィールドから設定できます。 |
| 軸 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸のタイトル | 軸のタイトルの書式を選択します。 |
| 軸 | 一次軸の自動スケーリング | 軸が自動的に拡大縮小されるかどうかを決定します。"一次軸をゼロから開始" 設定がオフの場合、データ系列の値に基づいてスケールされます。"軸の自動スケーリング" をオフにする場合は、"軸の最小値" と "軸の最 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 大値" を設定する必要があります。 |
| 軸 | 一次軸をゼロから開始 | "軸の自動スケーリング" がオンの場合に、軸をどこから開始するかを選択します。<br>• オン: 軸はゼロから開始します。<br>• オフ: 軸はデータ セットの最小値から開始します。 |
| 軸 | 一次軸の最小値 | Y 軸の最初の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸の最大値 | Y 軸の最後の点を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。 |
| 軸 | 一次軸の中間値 | "一次軸の最大値" の値の 5% 以上の数値を入力します。"軸の自動スケーリング" がオフの場合に表示されます。例: 間隔と軸の最小値を 1000 に設定すると、軸には 1000、2000、3000 といった数値が表示されます。 |
| 凡例 | | グラフの凡例を表示または非表示にします。 |
| 凡例 | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| 条件付き書式設定 | ルールの追加 | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | | グラフの科目を表示、変更、削除する、またはグラフに科目を追加するには、"科目" セクションを展開します。個々の科目はグラフ上のデータ系列を表します。 |
| 科目 | 科目の名前 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | バージョン | データ系列のバージョンを変更します。ツールバーで現在選択されているバージョンを使用するには、"バージョン セレクターと同じ" を選択します。例: グラフにデータ系列を 2 回追加し、それぞれのバージョンを変更して 2 つのバージョン間のデータを比較します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 系列のタイプ | グラフ上でこの科目のデータ系列がどのように表示されるかを示します。グラフに多くのデータ系列がある場合、データ系列ごとに系列タイプを選択できます。<br>• グラフに合わせる: グラフの種類をもとに系列データを表示します。<br>• 折れ線: 系列データを折れ線として表示します。<br>• 縦棒: 系列データを縦棒として表示します。<br>• 面: 系列データを面として表示します。<br>• 散布図: 系列データをデータ ポイントとして表示します。 |
| 科目 | データ ラベル | • オン: グラフ要素にデータ値を表示します。例: 2017 年 1 月のバーの上に "170 万" と表示します。<br>• オフ: グラフ要素のデータ値を非表示にします。 |
| 科目 | 累積系列 | 以下の方法を示します<br>• オン: 各データ ポイントでの累積値を表示します。<br>• オフ: 各データ ポイントの正味の値を表示します。 |
| 科目 | トレンドライン | トレンドラインを表示または非表示にします。トレンドラインは、すべてのデータの増加傾向または減少傾向を示します。 |
| 科目 | 色 | データ系列の色を示します。科目設定セクションの横にある色 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | は、データ系列の色を表します。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 科目 | 系列 Y 軸 | このデータ系列の y 軸がグラフの一次軸または二次軸として表示されるか否かを示します。一次軸と二次軸の表示を変更するには、"外観の設定" タブの "軸" セクションを編集します。 |
| 科目 | 時間の配置 | グラフの期間を決定します。<br>• 現在: グラフには常にデータがリアルタイムで表示されます。例: 2022 年 3 月 13 日には、グラフに 2022 年 3 月のデータが表示されます。<br>• 前: 分析を現在の時間より前の時間にオフセットします。<br>• 次: 分析を現在の時間より後の時間にオフセットします。 |
| ブレークダウン | | データを詳細なグループに分割する方法を決定します。例: 時間による分割 (月、四半期、年) または属性による分割 (組織、場所、製品) |
| ブレークダウン | 1 つ目の "タイプ" フィールド | • 時間: 時間の設定に定義された時間別にデータを抽出します。このオプションは、デフォルトで自動的に選択されます。例: 1 年の各月でデータを抽出します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 属性: カスタム属性、組織、組織特性、およびカスタム属性特性別にデータを抽出します。例: データを場所や製品別に抽出します。選択した場合は、属性も選択します。<br>• なし |
| ブレークダウン | 属性 | ブレークダウン タイプに "属性" を選択すると表示されます。この科目データを 2 つの属性でブレークダウンするには、両方のブレークダウン タイプで "属性" を選択します。 |
| ブレークダウン | 2 つ目の "タイプ" フィールド。 | 以下の項目で、グラフ分析をブレークダウンします。<br>• 時間: 最初のブレークダウン タイプに "なし" を選択した場合にのみ使用できます。<br>• 属性: 最初のブレークダウン タイプに "時間" または "なし" を選択した場合にのみ使用できます。<br>• なし: このオプションはデフォルトで選択されています。 |
| ブレークダウン | ゼロを表示しない | ブレークダウン タイプに "属性" を選択すると表示されます。 |
| ブレークダウン | 値のブレークダウン属性 | ブレークダウン タイプとして "属性" を選択した場合に表示されます。属性のブレークダウンに使用するものを指定します。 |
| 並べ替えと制限 | | "並べ替えと制限" セクションを展開して、グラフ上のデータを並べ替えて制限する方法を定義します。面グラフ、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフの並べ替えと制限の結果を最適化するため、属性でブレークダウンすることをお勧めします。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え基準 | • なし: このオプションは、デフォルトで自動的に選択されます。<br>• データ系列: データ系列としてグラフに追加された科目や計算を基に並べ替えます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 属性: "ブレークダウン" での選択を基に並べ替えます。 |
| 並べ替えと制限 | 並べ替え順序 | "ソート基準" でデータ系列または属性を選択すると表示されます。 |
| 並べ替えと制限 | 制限 | グラフに表示されるデータを制限します。"上位" または "下位" オプションを選択する場合は、数値を入力して制限する数字またはパーセントを指定します。例:<br>• "下位 N" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて下位 10 件のレコードが表示されます。<br>• "上位 N %" を選択して「10」と入力すると、グラフには "ソート基準" と "ソート順" の選択に基づいて上位 10% のレコードが表示されます。つまり、レコード セットが 100 の場合は、上位 10 件のレコードがグラフに表示されます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | スパン | • 範囲: 指定した期間範囲のデータを表示する場合に選択します。固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。<br>• 1 つの期間: 期間全体のデータを表示するか、ある日付までのすべての日付を表示する場合に選択 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | します。 固定済みグラフの範囲の開始と終了を選択するか、固定解除済みグラフの開始および終了オフセットを設定できます。 |
| 一般 | データ範囲 | "スパン"に "1 つの期間" を選択すると、以下が表示されます。<br>• 全期間: 期間の全日付を含めます。<br>• 指定日まで: 指定した日付までの全日付を含めます。 |
| 一般 | 固定済 | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。<br>例: "層" に "月" を選択し、以下に従って設定します。<br>• "1 つの期間" には、特定の月を選択します。例: 2017 年 4 月<br>• "範囲" には、開始月と終了月を選択します。例: 2017 年 4 月から 2017 年 6 月 |
| 一般 | 固定解除済 | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

参考: スコアカード設定

スコアカードは、実績データと計画データの比較および差異を要約した一連のデータを、表形式で視覚化します。このグラフには、キー メトリックをハイライトするマイクロ グラフが含まれている場合がよくあります。

- 外観の設定 ( 432ページ )
- データ設定 ( 436ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 期間設定 ( 438ページ )

外観の設定

| セクション | フィールド | 説明 |
|---|---|---|
| 一般 | 名前 | グラフのタイトルを入力します。<br>文字制限: 50 |
| 一般 | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| セクション | | インスタンスのカレンダー設定に基づいて、事前設定されたセクションが自動的に追加されます。これらのセクションは変更または削除できます。例: カレンダーで月、四半期、年を使用している場合、"月"、"四半期"、"年" のセクションが用意されます。 |
| セクション | 名前 | セクション タイトルに名前を付けます。 |
| セクション | これらの列設定領域の名前には、"タイプ" と "バージョン" が自動的に使用されます。これらの設定領域名はスコアカードに表示されません。 | セクション内の列を示します。各セクションには事前設定された列が自動的に追加され、変更することができます。<br>• 値 – 実績<br>• 値 – バージョン セレクターと同じ<br>• 差異 – 実績<br>• マイクロ グラフ - バージョン セレクターと同じ。この事前設定列は、最小の期間には自動的に追加されません。<br>セクションの各列にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して特定の列の設定を変更します。<br>• 列を削除するには、列の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 列を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| セクション | 名前タイプ | 列名については、以下のいずれかを使用できます。<br>• システム派生名を使用: 期間と列タイプに基づいて名前が自動的に作成されます。<br>• カスタムを使用: このオプションを選択すると、"名前" フィールドが表示されます。<br>すべての列タイプで使用できます。 |
| セクション | 名前 | 列にカスタム名を付けます。フィールドには "列"が自動的に入力されますが、名前は変更できます。<br>文字数の上限は 50 文字です。 |
| セクション | タイプ | 列のビジュアライゼーションを選択します。表示されるオプションは以下のように異なります。<br>• 値: 値を表示します。例: 指定したメトリックの金額またはパーセントを表示します。<br>• 差異: 別のバージョンや期間に対して計算した分散値を表示します。<br>• 差異パーセント: 別のバージョンや期間に対して計算した差異パーセントを表示します。<br>• マイクロ グラフ: マイクロ グラフを表示します。<br>"差異" または "差異パーセント"を選択した場合は、参照バージョンと比較バージョンも選択する必要があります。 |
| セクション | バージョン | 列のデータのビジュアル化に使用するバージョンを示します。すべての列タイプで使用できます。例: スコアカード列の期間の実績データを表示するには、バージョンとして "実績" を選択します。 |
| セクション | 時間の配置 | 列が基準としている時間のセグメントを選択します。<br>• 現在 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 前: "オフセット数" と "オフセット期間" も選択する必要があります。<br>• 次: "オフセット数" と "オフセット期間" も選択する必要があります。<br>• 過去: "期間数" と "期間" も選択する必要があります。<br>• 将来: "期間数" と "期間" も選択する必要があります。<br>すべての列タイプで使用できます。"タイプ" に "差異" または "差異パーセント" を選択した場合は、参照バージョンと比較バージョンの時間の配置も選択する必要があります。 |
| セクション | 期間数 | 時間を戻すか進める期間の数として、正数を入力します。"時間の配置" で "将来" または "過去" を選択した場合に使用できます。例: "期間の配置" で "追跡" を選択し、"期間数" に「1」と入力します。当年が 2016 年の場合、データ参照は 2015 年です。 |
| セクション | 期間 | インスタンスのカレンダー設定に基づいて期間を設定します。次のものから選択できます。<br>• 期間セレクターから<br>• 月<br>• 四半期<br>• 年<br>すべての列タイプで使用できます。 |
| セクション | データ範囲 | 全期間または指定日までのデータを視覚化するか否かを示します。すべての列タイプで使用できます。 |
| セクション | 比較バージョン<br>参照バージョン | 差異分析用の比較バージョンを設定します。デフォルト バージョンは自動的に選択されますが、選択内容は変更できます。"タイプ" で "差異" または "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。例: "実績" と "予測" を比較する場合、"参照バージョン" として |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | "実績"、"比較バージョン" として "予測" を選択します。 |
| セクション | 差異タイプ | 差異の計算方法を選択します。<br>• 基準値 - 比較値。このオプションは自動的に選択されますが、選択内容は変更できます。<br>• 比較値 - 基準値<br>• 比較<br>"タイプ" で "差異" または "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。 |
| セクション | 差異パーセント | 次のいずれかを使用して差異パーセントを計算します。<br>• 比較で差異を割る<br>• 基準で差異を割る<br>• 比較で基準を割る<br>• 基準で比較を割る<br>"タイプ" で "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。 |
| セクション | グラフ | マイクロ グラフのタイプを選択します。<br>• 折れ線<br>• 列<br>• 面<br>• アウトライン<br>"タイプ" に "マイクロ グラフ" を選択した場合に使用できます。 |
| セクション | 累積 | データ ポイントでの値を期間の累積値にするか否かを決定します。<br>• オフ: 各データ ポイントでの実績値を表示します。<br>• オン: 各データ ポイントでの累積値を表示します。このトグルをオフにすると、上昇トレンドまたは下降トレンドを簡単にハイライトできます。<br>"タイプ" に "マイクロ グラフ" を選択した場合に使用できます。 |
| セクション | 色 | マイクロ グラフの色を設定します。"タイプ" に "マイクロ グラ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | フ" を選択した場合に使用できます。 |
| セクション | ブレークダウン期間 | マイクロ グラフのデータ ポイントを分割する方法を選択します。<br>• 期間セレクターから<br>• 月<br>• 四半期<br>• 年<br>"タイプ" に "マイクロ グラフ" を選択した場合に使用できます。 |
| 条件付き書式設定 | | グラフ内のデータ系列の条件付き書式設定ルールを作成します。<br>• 説明: ルールの簡単な説明<br>• 式: 真または偽を評価するルール。真の場合、データは指定された色に変わります。質問アイコンをクリックすると、構文ルールと演算子のリストが表示されます。<br>• 色: 条件を満たすデータの色<br>• 系列: ルールを適用するデータ系列 |

データ設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | | グラフの科目を表示、変更、削除する、またはグラフに科目を追加するには、"科目" セクションを展開します。個々の科目はグラフ上のデータ系列を表します。 |
| 科目 | 科目の名前 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフの |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | データ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 科目 | 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字以下のグラフの名前を編集するときに、グラフの軸ラベルからバージョンを削除します。<br>• 面グラフ<br>• 横棒グラフ<br>• 縦棒グラフ<br>• ドーナツ グラフ<br>• ファネル グラフ<br>• 折れ線グラフ<br>• 円グラフ<br>• ピラミッド グラフ<br>例: データ系列のデフォルト名が "6200 税金および収益 (予算バージョン)" であるとします。名前を "税金および収益" に編集すると、名前をデフォルトにリセットしても、バージョン ラベル (予算バージョン) がグラフに表示されなくなります。 |
| 科目 | 科目 | グラフの科目を変更します。 |
| 科目 | フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 科目 | 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式を設定します。<br>• -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• (123,456,789.12): 負の数はかっこで囲みます。 |

期間設定

| セクション | フィールド | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 一般 | カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 一般 | 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 一般 | 固定済 | 選択した層に基づいて固定された期間を設定します。<br>例: "層" に "月" を選択し、以下に従って設定します。<br>• "1 つの期間" には、特定の月を選択します。例: 2017 年 4 月<br>• "範囲" には、開始月と終了月を選択します。例: 2017 年 4 月から 2017 年 6 月 |
| 一般 | 固定解除済 | エリアのツールバーに表示される参照期間を基準に、選択した層に基づいて時間を設定します。<br>• "現在": エリアに対して選択された日付と一致します。<br>• "過去へ": エリアの日付から、入力した数字だけ過去へ調整します。<br>• "将来へ": エリアの日付から、入力した数字だけ将来へ調整します。<br>"1 つの期間" には、グラフの相対時間を設定します。"範囲" には、範囲の開始と終了における相対時間を設定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

参考: ダッシュボード上のシートの設定

外観の設定

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | シート名を示します。文字制限: 50 文字 |

データ設定

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| シート | 表示する Adaptive Planning のシート。 |
| 前提条件 | • オン: "シート" ドロップダウン メニューにユーザー割当シートを表示します。<br>• オフ: "シート" ドロップダウン メニューに組織割当シートを表示します。 |
| シートを最適化 | • オン: より大きなシートのロード時間を改善します。シートの最適化 が有効になっているモデル シートおよびキューブ シートでは、以下が可能になります。<br>  • 列のサイズを変更する。<br>  • 値の入力、編集、削除<br>  • アクションのコピーと貼り付け<br>  • シートの変更内容の保存<br>  • セル メモの追加、編集、削除<br>• ダッシュボードが表示モードでこのオプションがオンになっている場合、ユーザーはシートを展開してデータを追加または変更する必要があります。<br>• ダッシュボードが表示モードでこのオプションがオフの場合、ユーザーは最小化されたシート上でデータを追加または変更できます。 |
| 表示オプション | シート ビューの初期表示を設定できるダイアログが開きます。ダッシュボードが表示モードの場合、シート ツールバーの "表示オプション" ボタンを使用すれば誰でもシート ビューを引き続き変更できます。 |

relatedlinks
概念
概念: シート（37ページ）
概念: シート タイプ（43ページ）
参考
参考: シート ツールバー（49ページ）
参考: シートでの右クリック操作（53ページ）

参考: ビューおよびプレゼンテーションのオプション

Wグリッド モードとプレゼンテーション モードでグラフを表示しているに設定すると、以下の操作ができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | グリッド モード | プレゼンテーション モード |
| --- | --- | --- |
| ダッシュボードの内容を閲覧します。ダッシュボードのタブをクリックすると、各ダッシュボードのグラフが表示されます。 | 使用可能 | はい |
| 左矢印アイコンまたは右矢印アイコンを使用して左または右にスクロールし、ダッシュボード タブをさらに表示します。スクロールしてすべてのダッシュボードを表示する必要がある場合のみ、矢印が表示されます。 | | |
| をスクロールすることで、表示するグラフを参照して選択します パネルまたは - キーボードを使用する。 | いいえ | はい |
| キーボード手法: スペース キーを使用して次のグラフに移動するか、矢印キーを使用して表示されているグラフを移動します。 | | |
| データをリフレッシュします。クリックリフレッシュ アイコンon tHe tツールバー。 | はい | はい |
| グラフを全画面表示します。ホバー 超 - グラフを設定してクリック最大化アイコン終了 - グラフを全画面表示します。 | はい | いいえ |
| ダウンロード回答 の画像- グラフ。ホバー 超 - グラフを設定してクリック3 点ドットのアイコンをクリックすると、詳細オプションが表示されます。次に cクリック画像をダウンロード 。 | はい | いいえ |
| ダウンロード回答 の画像 - ダッシュボードホバー 超 - "ダッシュボード" タブをクリックし、3 点ドットのアイコンをクリックすると、詳細オプションが表示されます。次に c "画像をダウンロード" をクリックします。 | はい | 使用可能 |
| データ ポイントの概要情報を表示します。ホバー データ ポイントを右クリックして、 | はい | はい |
| データポイントの詳細を調べる。 以下を選択します。 データ ポイントと 選択 データを探索 ドロップダウンから。 | はい | いいえ |
| ドリルダウン先 - データ ポイント 以下を選択します。 データ ポイントに移動し、ドロップダウンから属性を選択します。 | はい | いいえ |
| 変更 - エリアのコンテキスト | はい | はい |
| 変更 - グラフの期間範囲 | はい | 使用可能 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

参考: ウォーターフォール グラフ設定

ウォーターフォールは、開始位置、終了位置、達成方法を示すデータを視覚化します。初期値と最終値は多くの場合、縦棒全体で表され、途中の値は浮いた縦棒で表されます。

注 : ウォーターフォールのステップのデータ ポイントに値がない場合、次のようになります。 ダッシュボード は 2 つのデータ値の間に線を引き、空のポイントはスキップします。空のポイントにはデータ ポイントは表示されません。

外観の設定

右の "外観の設定" タブを選択して、選択されたグラフの外観を変更します。

| | | |
|---|---|---|
| 一般 | 複数差異科目 | "データ設定"で開始科目、終了科目、差異科目を手動で追加することにより、ウォーターフォール グラフをカスタマイズできます。 |
| | 名前 | グラフのタイトルを入力します。<br>文字制限: 50 |
| | 基準値と比較値の色 | このウォーターフォールのステップ タイプの色を設定します。 |
| | 小計の色 | "複数差額科目" を有効にした場合に表示されます。<br>このウォーターフォールのステップ タイプの色を設定します。 |
| | プラスの差異の色 | このウォーターフォールのステップ タイプの色を設定します。 |
| | マイナスの差異の色 | このウォーターフォールのステップ タイプの色を設定します。 |
| | プレゼンテーション モードで表示 | このオプションはデフォルトで選択され、グラフがプレゼンテーション モードで表示されます。プレゼンテーション モードでグラフを非表示にするには、トグルをオフに切り替えます。 |
| データ ラベル | "データ ラベル" セクションを展開して、データ ラベルの表示オプションを変更します。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | |
|---|---|---|
| | データ ラベルを表示 | データ ラベルを表示または非表示にします。 |
| | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| | ラベルの種類 | 表示形式を選択します。<br>• パーセント (%): パーセントを表示します。<br>• データ: 数値を表示します。 |
| 軸 | ラベルを含む、一次軸および二次軸のプレゼンテーションを定義します。一次軸と二次軸は個別に設定できます。二次軸の設定は、二次軸を設定している場合にのみ表示されます。二次軸は、"データ設定" タブの "科目" セクションにある "系列 Y 軸" フィールドから設定できます。 | |
| | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |
| | 軸のタイトル | 軸のタイトルの書式を選択します。 |
| | 軸をゼロから開始 | "軸の自動スケーリング" がオンの場合に、軸をどこから開始するかを選択します。<br>• オン: 軸はゼロから開始します。<br>• オフ: 軸はデータセットの最小値から開始します。 |
| 凡例 | グラフの凡例のスタイル設定を行います。 | |
| | 凡例 | グラフの凡例を表示または非表示にします。 |
| | フォント | 横軸のラベル テキストのフォント タイプと色を設定します。"凡例" がオンの場合に表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 基準値

これらの 2 つのセクションは、"表示" に "差異" または "差異パーセント" を選択した場合に使用できます。各セクションのオプションは同じで、差異の基準値と比較値を定義します。例: 当年度の "実行予算" バージョンの値を、前年度の "実績" バージョンの値と比較します。

| | |
|---|---|
| バージョン | 参照する差異のバージョンを選択します。デフォルト: バージョンセレクターと同じ |
| 時間の配置 | 異なる期間のデータを比較する場合の時間調整方法を決定します。可能な値:<br>• 現在 (デフォルト)<br>• 前<br>• 次<br>• 過去<br>• 将来 |
| 期間 | 月、四半期、年などの、評価する期間を設定します。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| 期間数 | 時間を戻すか進める期間の数として、正数を入力します。"時間の配置" で "将来" または "過去" を選択した場合に使用できます。例: "期間の配置" で "追跡" を選択し、"期間数" に「1」と入力します。当年が 2016 年の場合、データ参照は 2015 年です。 |
| オフセット数 | "時間の配置" が "次" または "前" の場合に利用できます。時間を戻すか進める期間数を示します。 |
| オフセット期間 | 時間調整が "次" または "前" である場合のオフセット期間を設定します。可能な値には、月、四半期、年が含まれます。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | |
|---|---|---|
| | データ範囲 | 以下に基づいてデータを評価します。<br>• 全期間 (デフォルト)<br>• 指定日まで |
| 比較値 | | 基準値と比較する値の範囲を定義します。例: 計画された収益と実績の比較。デフォルト: 実績 |
| | バージョン | ベースライン バージョンの基準値を比較する 2 番目のバージョンの科目値。 |
| | 時間の配置 | ウォーターフォール グラフの手順がどのように配置されるかを定義します。詳細については「時間の配置テーブル」を参照してください。<br>可能な値:<br>• 現在 (デフォルト)<br>• 前<br>• 次<br>• 過去<br>• 将来 |
| | 期間 | 月、四半期、年などの、評価する期間を設定します。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| | 期間数 | 時間を戻すか進める期間の数として、正数を入力します。"時間の配置" で "将来" または "過去" を選択した場合に使用できます。例: "期間の配置" で "追跡" を選択し、"期間数" に「1」と入力します。当年が 2016 年の場合、データ参照は 2015 年です。 |
| | オフセット数 | "時間の配置" が "次" または "前" の場合に利用できます。時間を戻すか進める期間数を示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| オフセット期間 | 時間調整が "次" または "前" である場合のオフセット期間を設定します。可能な値には、月、四半期、年が含まれます。デフォルト: 期間セレクターから (期間設定に関する層) |
| データ範囲 | 以下に基づいてデータを評価します。<br>• 全期間 (デフォルト)<br>• 指定日まで |

### データ設定

データ系列の設定を構成するには、右側のパネルで "データ設定" タブを選択します。

| | |
|---|---|
| 科目 | グラフの科目を表示、変更、削除する、またはグラフに科目を追加するには、"科目" セクションを展開します。個々の科目はグラフ上のデータ系列を表します。 |
| 科目 | グラフ内の各科目にはそれぞれの設定があります。<br>• 展開して、データ系列の設定を変更します。<br>• グラフから科目を削除するには、科目の関連アクション メニューから "削除" を選択します。<br>• 科目を並べ替えるには、ハンドラー アイコンをドラッグ アンド ドロップします。順序はグラフのデータ系列のフォーマットと配置に影響を与えます。<br>• 科目またはダッシュボード メトリックをグラフに追加するには、"追加" を選択します。 |
| 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字 |
| Account | グラフの科目を変更します。 |
| フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | 設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 開始科目 | "複数の差額科目"を有効にすると、"科目" の代わりに表示されます。 |

| | |
|---|---|
| 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字 |
| Account | グラフの科目を変更します。 |
| バージョン | デフォルト設定ではバージョン セレクターを使用します。 |
| フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

て、小数部なしで表示します。
- #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。

負の数の形式設定

負の数の表示単位の形式設定:

- -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。
- *(123,456,789.12)*: 負の値はかっこで囲みます。

時間の配置

ウォーターフォール グラフの手順がどのように配置されるかを定義します。詳細については「時間の配置テーブル」を参照してください。

可能な値:

- 現在 (デフォルト)
- 前
- 次
- 過去
- 将来

差異科目

"複数の差額科目"を有効にすると、"科目" の代わりに表示されます。

表示

- 科目: 科目を単一のデータ ポイントとして視覚化します。
- ブレークダウン: それぞれの子科目を個別にビジュアル化します。
- 小計: 科目を中間の小計列として表示します。

名前

データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字

Account

グラフの科目を変更します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| バージョン | デフォルト設定では バージョン セレクター を使用します。 |
| フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式設定:<br>• -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• *(123,456,789.12)*: 負の値はかっこで囲みます。 |
| 時間の配置 | 異なる期間のデータを比較する場合の時間調整方法を決定します。可能な値:<br>• 現在 (デフォルト)<br>• 前<br>• 次<br>• 過去<br>• 将来 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| 終了科目 | "複数の差額科目"を有効にすると、"科目" の代わりに表示されます。 |
| 名前 | データ系列の表示名を設定します。文字制限: 50 文字 |
| Account | グラフの科目を変更します。 |
| バージョン | デフォルト設定ではバージョン セレクターを使用します。 |
| フィルタ | 組織、組織特性、カスタム属性、および属性特性でデータをフィルタリングします。 |
| 表示単位 | 表示単位の形式を設定します。<br>• 科目に合わせる: 科目の表示単位設定を使用します。デフォルトではこの形式が使用されます。<br>• #,000,000 (#,##0.#): 100 万を一の位として、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。<br>• # (#,##0): 1000 に桁区切りを入れて、小数部なしで表示します。<br>• #,000 (#,##0.#): 1000 に桁区切りを入れて、小数点以下は 1 桁まで指定して表示します。 |
| 負の数の形式設定 | 負の数の表示単位の形式設定:<br>• -123,456,789.12: 負の数を表すのに、マイナス記号を使用します。<br>• *(123,456,789.12)*: 負の値はかっこで囲みます。 |
| 時間の配置 | ウォーターフォール グラフの手順がどのよう |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | に配置されるかを定義します。詳細については「時間の配置テーブル」を参照してください。<br>可能な値:<br>• 現在 (デフォルト)<br>• 前<br>• 次<br>• 過去<br>• 将来 |
| ブレークダウン | データを詳細なグループに分割する方法を決定します。例: 時間による分割 (月、四半期、年) または属性による分割 (組織、場所、製品) |
| タイプ | 可能な値:<br>• 属性: 選択した場合、組織、属性、特性値といった "属性" を選択する必要があります。<br>• メトリック<br>• 時間: 選択した場合、期間ブレークダウンを指定する必要があります。 |
| 属性 | ブレークダウン タイプに "属性" を選択した場合に必要になります。任意のブレークダウン方法でさらに分析をブレークダウンする方法を指定します。属性はブレークダウンの評価方法を指定します。 |
| 期間のブレークダウン | データを抽出するための期間を決定します。<br>可能な値:<br>• 期間セレクターから<br>• 月<br>• 四半期<br>• 年 |
| 並べ替えと制限 | ウォーターフォール グラフ上のデータを制限し、データ系列を並べ替えるための設定。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| 最大データ ポイント | X 軸の参照と比較点の間で使用できるデータ ポイントの最大数を設定します。<br>制限: 50 |
| 並べ替え順序 | データ ポイントの順序を決める方法を決定します。<br>• デフォルト (データ設定のブレークダウンをベースとする)<br>• 最大のプラスから最大のマイナスへ<br>• 最大のマイナスから最大のプラスへ<br>• 降順 (絶対)<br>• 昇順 (絶対) |

### 期間設定

右側の "期間設定" タブを選択し、選択したグラフのデータ設定を変更します。

#### "一般" セクション

| | |
|---|---|
| カレンダー | インスタンスで代替カレンダーを使用している場合に表示されます。使用するカレンダーを選択します。 |
| 層 | データ セットの時間層を選択します。 |
| 時間の固定および固定解除 | グラフ上の時間を固定または固定解除として設定します。<br> ピン (青): 期間は固定期間です。固定済グラフの期間は、選択された時間層に基づきます。たとえば、次のように層を選択します。<br>• 月: 月-年に基づいて期間を選択します。<br>• 四半期: 四半期-年に基づいて期間を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 年: 年に基づいて期間を選択します。

2017 年 5 月といった具合に具体的な日付を設定します。

固定解除 (グレー): 期間はエリアのコンテキストで示された参照期間に対する相対期間になります。相対期間は、選択した層に基づきます。以下を選択します。

- 現在: 最新の参照日付に一致します。
- 過去へ: 入力する数だけ前へ調整します。
- 将来へ: 入力する数だけ後ろへ調整します。

## ダッシュボードの例

例: 属性と時間でデータをスライスするクロス集計の作成

クロス集計は、表形式でデータを視覚的に表示します。このグラフは、多くの場合データ セット間の関係を比較するのに使用されます。

このウォークスルーでは、四半期ごとのレビュー用のクロス集計を作成する方法を説明します。以下のグラフは、場所別および製品グループ別にデータをスライスして収益をビジュアル化しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

Quarterly Revenue Results

| Location Group | | Accounts Time | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Revenue | | |
| | | Jan 2018 | Feb 2018 | Mar 20 |
| United States | Laptops | $546.5 k | $584.4 k | $ |
| | Tablets | $233.4 k | $246.4 k | $ |
| | Desktops | $283.7 k | $287.4 k | $ |
| Canada | Laptops | $61.1 k | $64.8 k | |
| | Tablets | | | |
| | Desktops | | | |
| United Kingdom | Laptops | $52.1 k | $53.7 k | |
| | Tablets | | | |
| | Desktops | | | |

Jan-2018 - Mar-2018

前提条件
概念: クロス集計グラフを読み、その構造とデータのスライス方法を確認します。

以下が必要です。

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

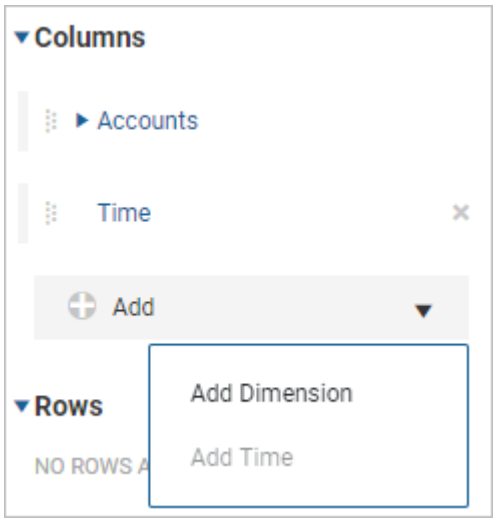
この例では、デフォルトのバージョンとして "Working Budget" を使用し、以下の科目と属性を使用します。

- 列: 収益キューブ科目
- 行: グループ属性別に分類された場所属性

列または行へのデータの追加方法

| | |
|---|---|
| 列または行の追加 | 科目、属性、または時間を列または行として追加できます。科目または時間は、列または行のいずれかのみに追加できます。列と行の両方に追加することはできません。<br><br>列セクションまたは行セクションで、追加アイコンを選択して、ドロップダウンで "属性の追加" または "期間の追加" を選択します。特定の属性または時間を列または行として使用すると、同じグラフでは再度使用することができないため、ドロップダウンで選択できなくなります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




並べ替えるには、ハンドラー アイコン を使用して属性または期間を列または行の新しいポジションにドラッグ アンド ドロップします。変更内容がグラフに反映されます。

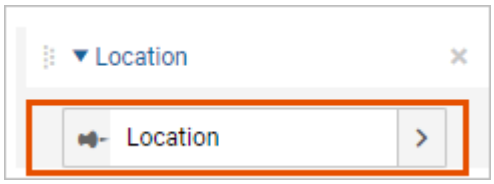
列または行としての属性

"属性の追加" を選択すると、選択パネルが表示されます。属性、特性、または属性メンバーを選択して、列または行として追加します。

内訳データがない属性メンバーを選択すると、グラフに以下のメッセージが表示されます。

```
No break down is available for the following dimension members: [member names]
```

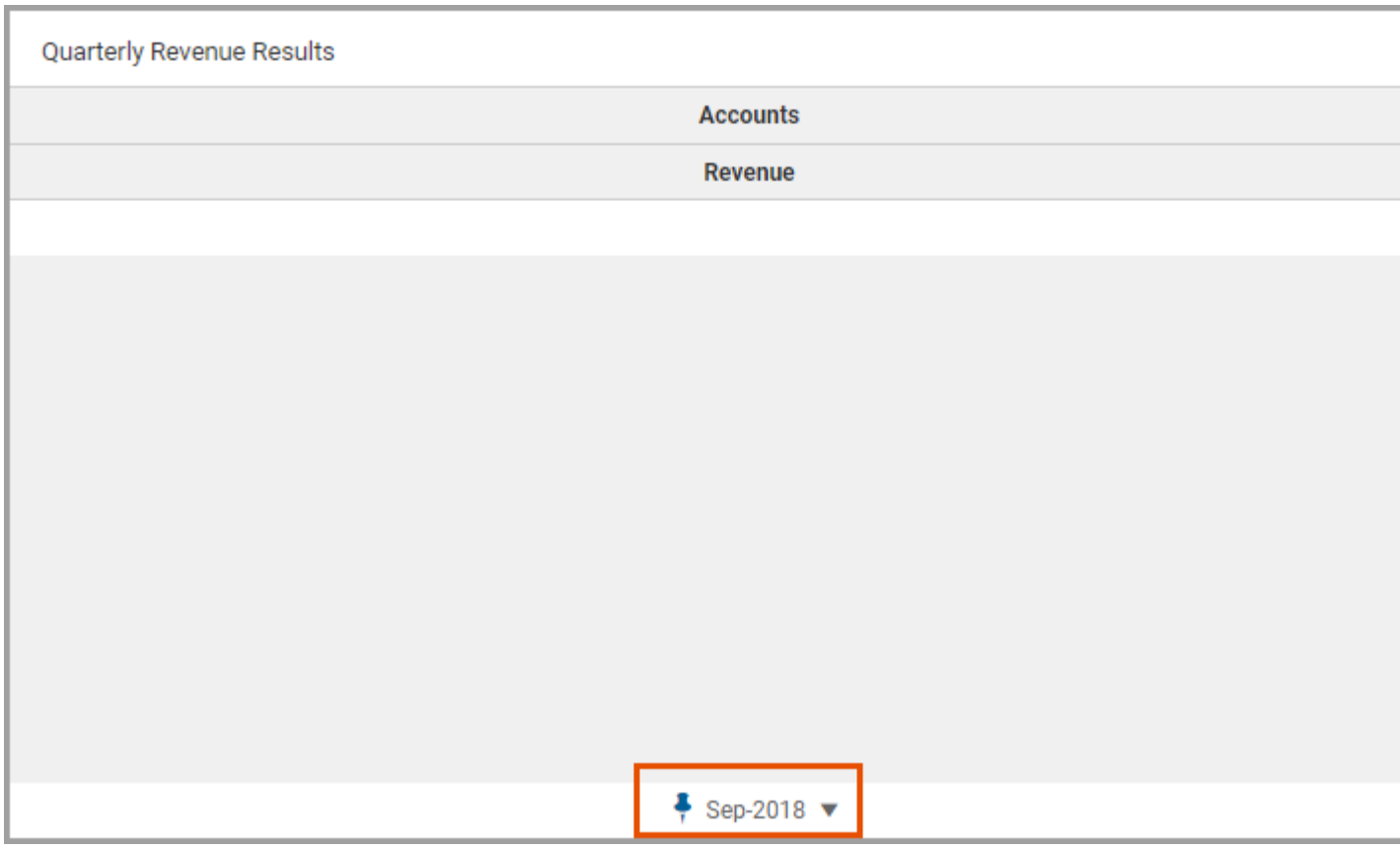
属性メンバーを削除するか、選択内容を固定して、親属性メンバーまたは属性をデフォルトに設定します。属性の横にある 固定 アイコン クリックして固定します。




クロス集計グラフの作成
このウォークスルーでは、クロス集計グラフをダッシュボードに追加し、収益科目を列として追加して、デフォルトの時間設定を変更します。

このステップを完了すると、以下のようなクロス集計グラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

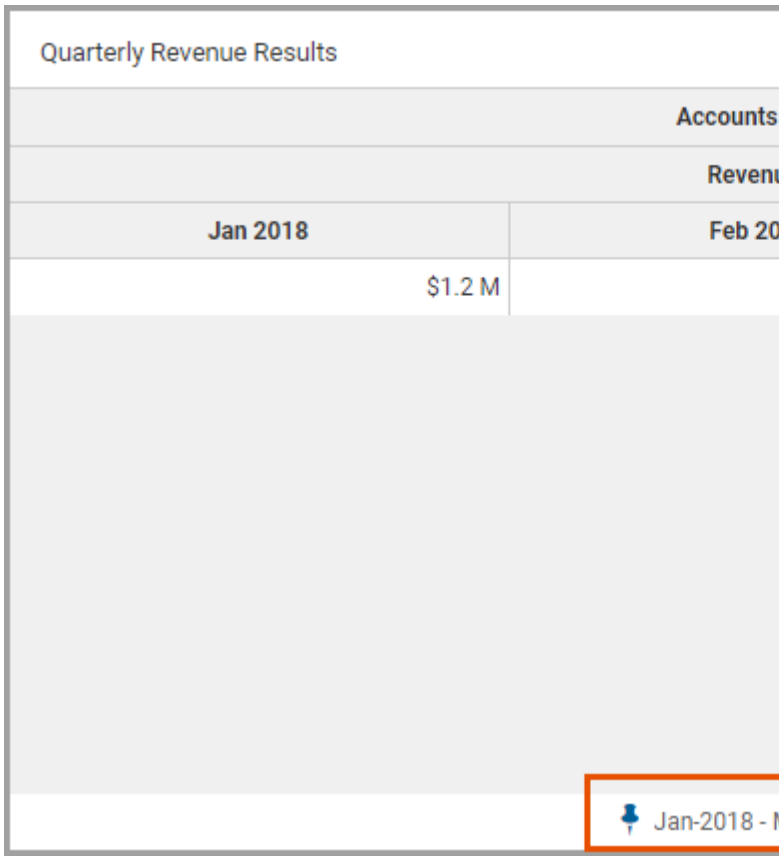



"期間設定" タブの選択内容が、時間範囲を決定します。この例では、初期期間は現在の年と月です。

1. エリアとダッシュボードに移動して新しいグラフを作成します。
2. ツールバーで "編集" をクリックして、ダッシュボードに変更を加えます。
3. 左側のパネルで "グラフ" ボタンをクリックして、グラフの種類のリストを表示します。"クロス集計" グラフを設計領域にドラッグ アンド ドロップしてクロス集計グラフを作成します。
4. 左側のパネルで "科目" ボタンをクリックして、科目のリストを表示します。収益科目をグラフにドラッグします。
5. 右側のパネルで "外観の設定" ボタンをクリックして、グラフの表示形式を変更します。
6. "データ設定" ボタンをクリックしてデータ設定内容を確認します。デフォルトでは "収益" 科目は列であり、行が定義されていないことに注意します。

| | |
|---|---|
| 列としての時間の追加 | 四半期の各月ごとの収益を表示するとします。時間属性を列として追加して、レビュー対象の四半期に対する期間設定を変更します。<br><br>このステップを完了すると、以下のようなクロス集計グラフが作成されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



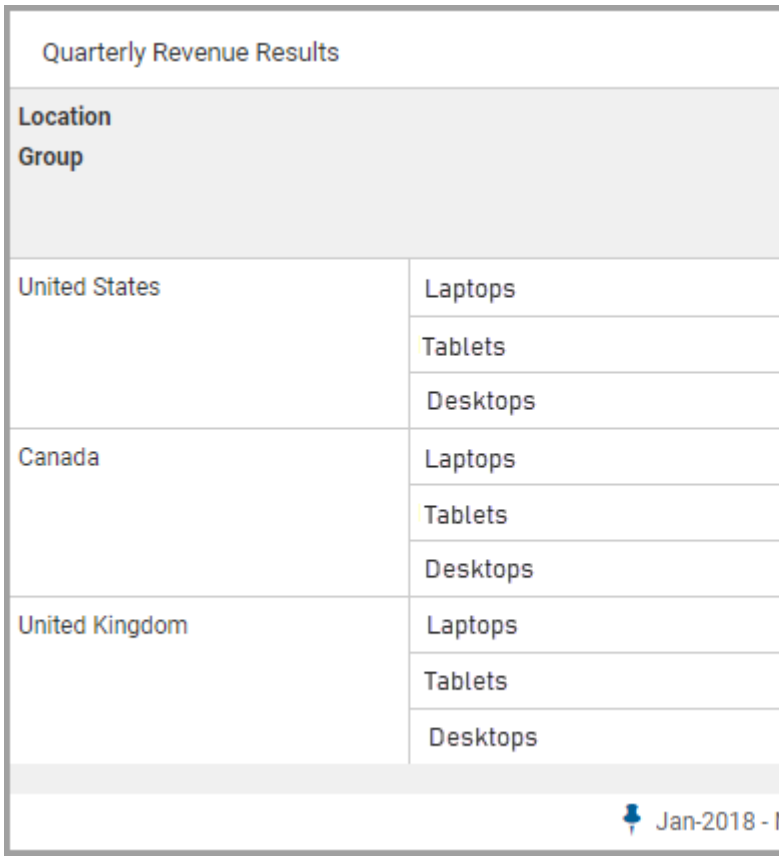

1. "データ設定" タブで "追加" を選択して、 "期間の追加" を選択します。
2. "期間設定" ボタンをクリックして、時間設定の内容を編集します。固定済時間を以下に従って変更します。
    - 時間層: 月
    - スパン: 範囲
    - データ範囲: 全期間
    - 固定済時間: 2018 年 1 月 ~ 2018 年 3 月

### 行としての場所の追加

このクロス集計グラフを、各販売拠点の製品収益の比較に利用するとします。"場所" 属性を行として追加し、"グループ" 属性を追加して、製品ラインごとにデータをブレークダウンします。

このステップを完了すると、以下のようなクロス集計グラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




"期間設定" タブの選択内容が、時間範囲を決定します。この例では、初期期間は現在の年と月です。

1. "データ設定" タブで、"行" セクションに移動します。
2. "追加" を選択して、新しい行を追加します。リストで "属性の追加" を選択します。選択パネルで、"場所" 属性に移動します。
3. 追加アイコンを選択して、"属性の追加" を選択します。選択パネルから "グループ" 属性特性に移動します。

これで、このウォークスルーは完了です。

例: 前期比の折れ線グラフの作成

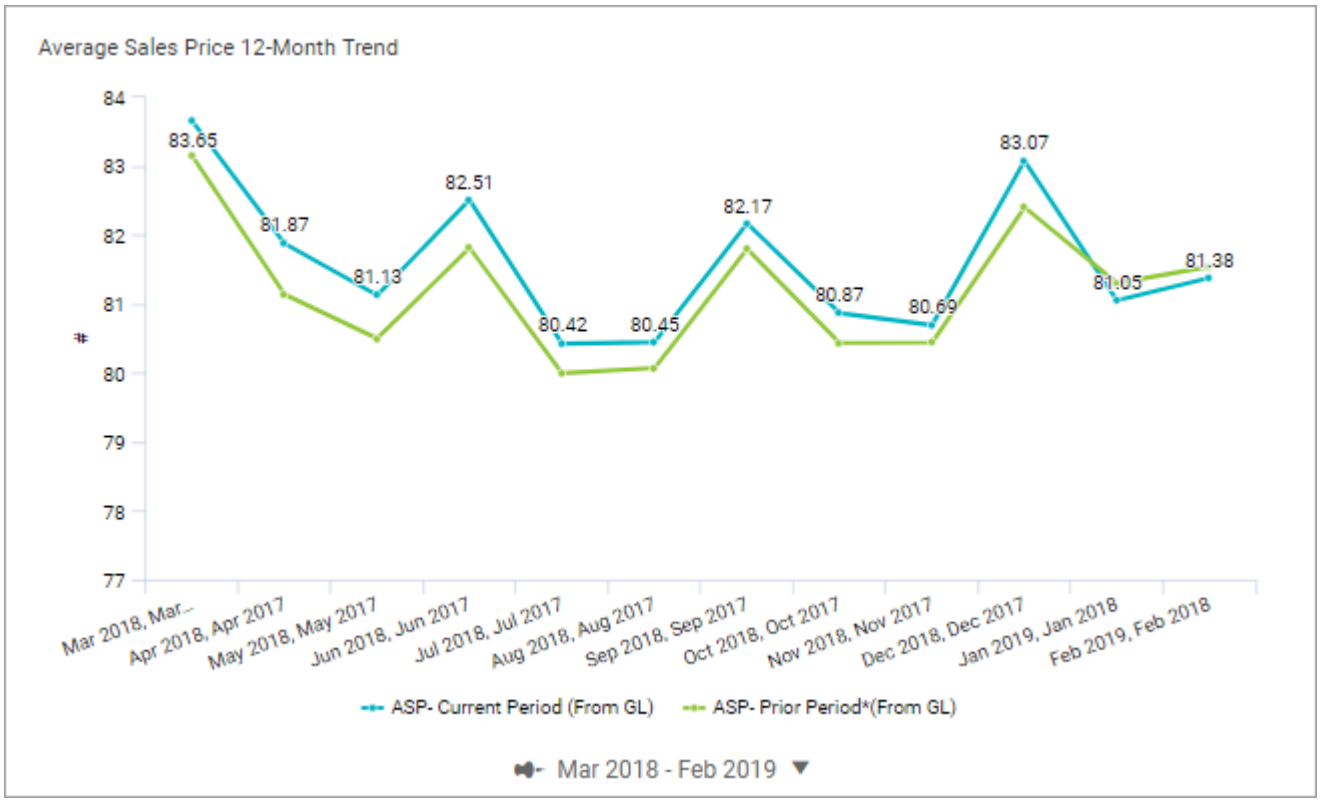
前期比グラフでは、前期と比較した今期の業績を表示することができます。前期比グラフは、ビジネスの周期的なトレンドをビジュアル化するのに役立ちます。前期比グラフを作成する場合は、縦棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフを使用するのが最適です。

このウォークスルーでは、前期比グラフの作成方法について説明します。

- 同じデータ系列 (平均販売価格) を折れ線グラフに 2 回追加します。
- 「12 か月間」、「過去 6 か月間」、「今後 5 か月間」の各期間を、固定解除して設定します。
- 今期に最初のデータ系列を設定します。
- 前期、つまり過去 12 か月間に 2 つ目のデータ系列を設定します。

以下は、過去 12 か月間と比較した今期の平均販売価格をビジュアル化した前期比の折れ線グラフです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




前提条件

前提条件:

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

このウォークスルーでは、エリアとダッシュボードがすでに作成されていることを前提としています。また、デフォルトのバージョンに「実績」、エリアのコンテキストに「2018 年 9 月」、メトリック科目に「ASP - 平均販売価格」を使用します。

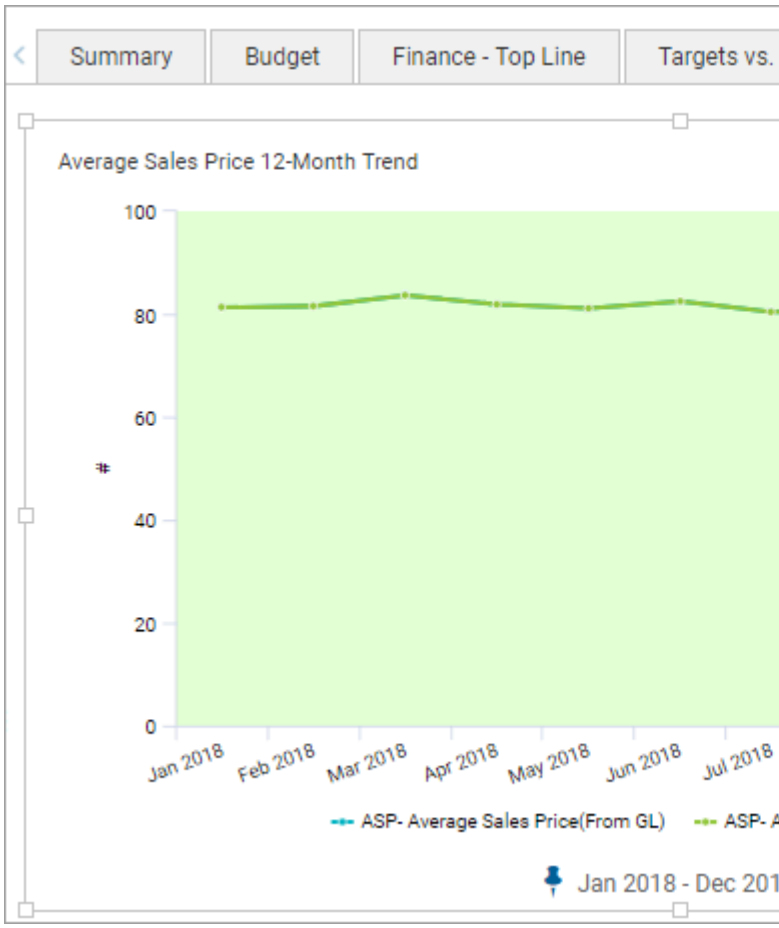
注 : お使いのバージョンとデータ ソースは、この例で使用される内容と異なる場合があります。

オプションおよび説明については 、参考: 面グラフと折れ線グラフの設定を 参照してください。

固定解除された 12 か月間の折れ線グラフの作成
折れ線グラフに同じデータ系列を 2 回追加して、それぞれの期間のビジュアライゼーションを設定します。グラフに表示するデータの期間を、今月より前の 6 か月間と、今月以降の 6 か月間の 12 か月間に設定します。期間は固定解除します。

| 折れ線グラフの作成 | このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。 |
| --- | --- |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



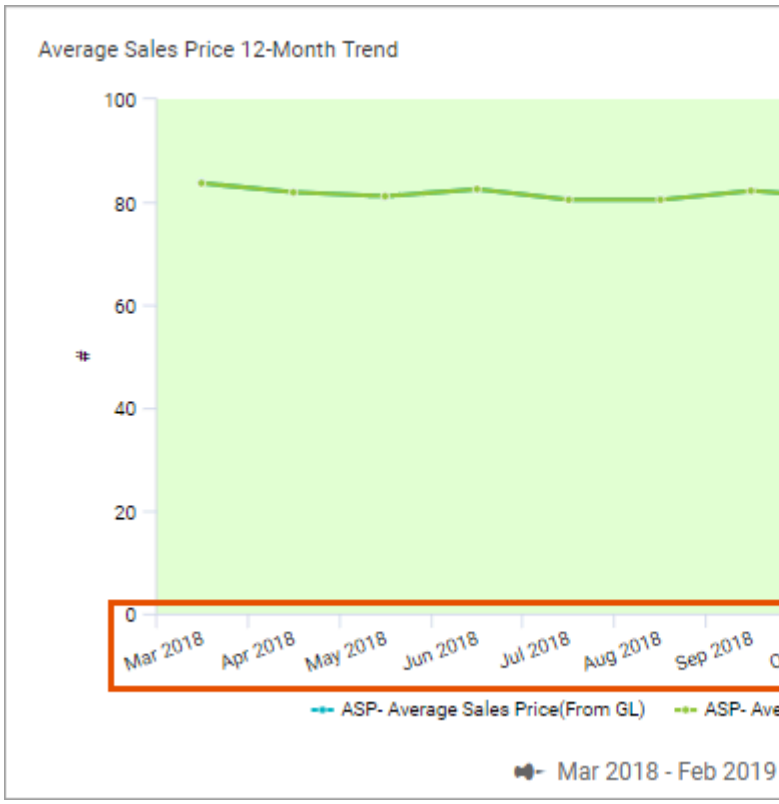

各データ系列は、デフォルトで現在の期間に配置されています。最初、各データ系列は互いに重なって配置されるため、データ系列が 1 つだけのように見えます。"データ設定" タブを開いて、2 つの同一のデータ系列がグラフに含まれていることを確認します。後のステップで、一方のデータ系列の時間の配置を変更して、前期比をビジュアル化します。

1. エリアを開いてダッシュボードに移動し、"編集" を選択します。
2. 左側のパネルで "グラフ" をクリックしてグラフを選択します。"折れ線" を設計領域にドラッグ アンド ドロップして折れ線グラフを作成します。
3. "科目" を選択して科目を選びます。"ASP - 平均販売価格" 科目を折れ線グラフにドラッグ アンド ドロップします。
4. 同じ科目をもう一度追加して、2 つ目のデータ系列を作成します。

### 固定解除された期間の設定

グラフの時間を設定して、当年度の 1 月から 12 月までの時間範囲のデータを、期間を固定解除した状態で月ごとに表示します。この時間の配置を各データ系列に設定して、前期比の配置を作成します。このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

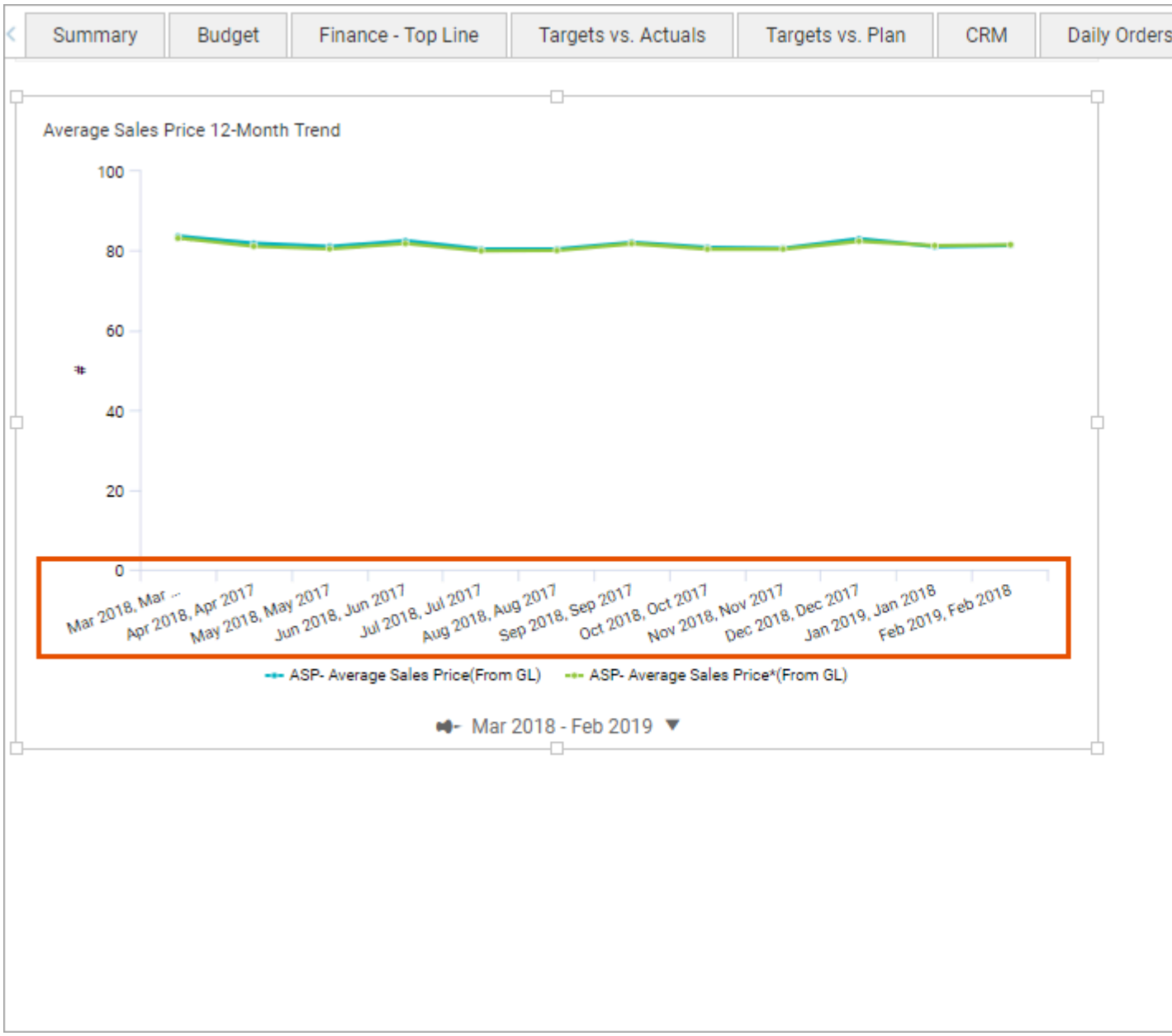



現在の期間が「2018 年 9 月」の場合、時間範囲が「2018 年 3 月から 2019 年 2 月」までとなります。

1. "期間設定" タブを選択して、グラフの期間を設定します。
    - 時間層: 月
    - スパン: 範囲
    - 時間の固定を解除します。 (グレーは固定解除済を示す): "過去の 6 か月"、"将来の 5 か月" を選択します。この設定で、現在の期間を含めて 12 か月間のデータをビジュアル化します。

データ系列の時間の配置の変更
このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




X 軸上の時間ラベルは、当年度および前年について同じ月を参照します。たとえば、それぞれ「2018 年 3 月」と「2017 年 3 月」のデータを参照します。この組み合わせが月ごとに一致しない場合は、オフセット数を調整する必要があります。

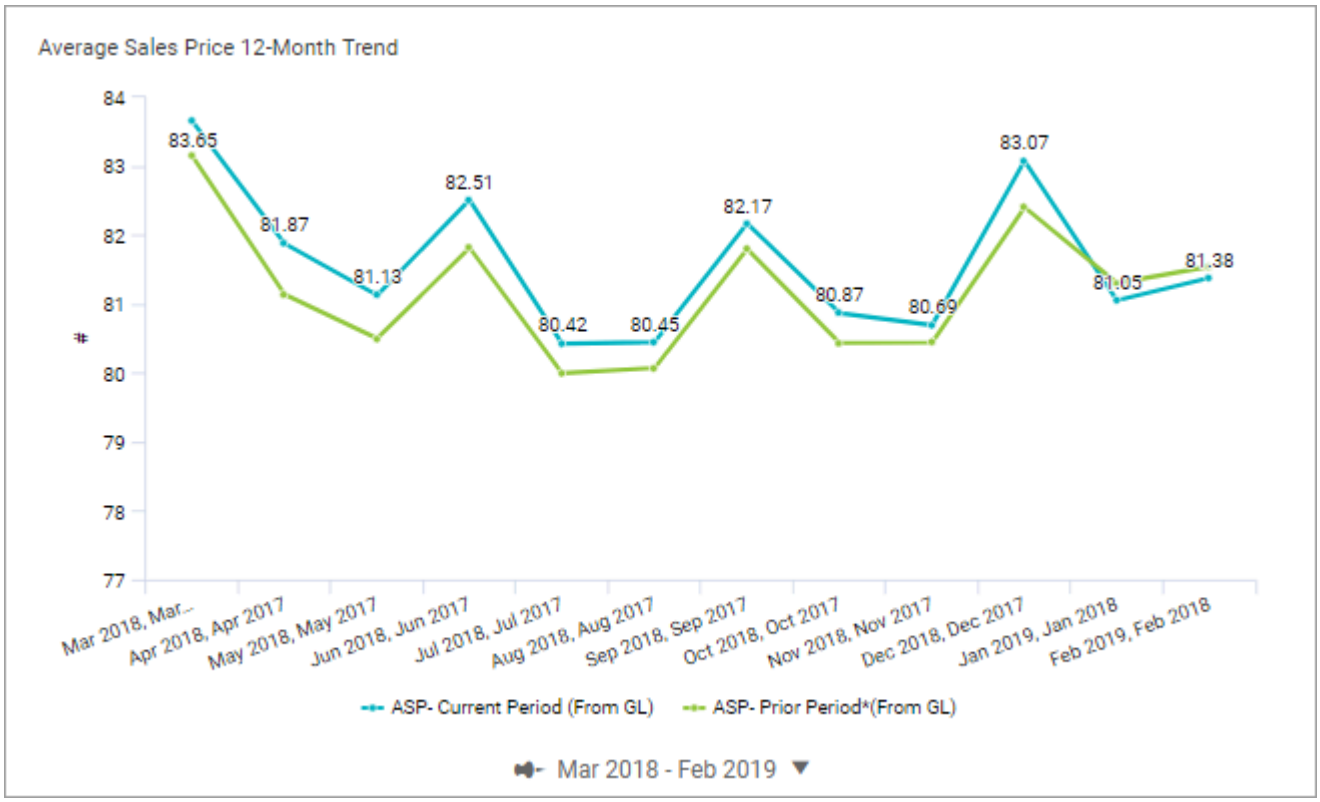
1. "データ設定" タブを選択して、データ系列のデータ設定を変更します。
2. 2 つ目の "ASP - 平均販売価格" 科目を展開して、以下に従って変更します。
    a. 時間の配置: 前
    b. オフセット数: 12。グラフの時間設定に基づき、時間の配置を過去 12 期間と設定します。

グラフの形式設定
このグラフのデータをよりインパクトのあるものにするには、以下のようにさまざまな設定を試します。

- 一次軸を拡大縮小して、主要なデータ範囲を拡大する。
- 凡例で参照されるデータ系列をトリミングする。

このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




### 一次軸のスケーリング

データ系列はデフォルトで自動スケーリングを使用し、軸はゼロから開始する設定になっています。スケールを変更して主要なデータ範囲を拡大すると、よりインパクトがあるビジュアライゼーションにすることができます。

1. グラフの外観を変更するには、右側のパネルで "外観の設定" タブを選択します。
2. "軸" セクションを展開して、"一次軸をゼロから開始" をオフにします。

   この例では、軸の開始点が「0」から「77」に変更されたことに注意してください。これにより、データ ポイント間の変化がより明確にビジュアル化されます。

   さらに拡大したい場合は、"一次軸の自動スケーリング" をオフに設定して、最低軸範囲および最大軸範囲を入力します。

### データ系列の形式設定

各データ系列の凡例ラベルを編集して、一方のデータ系列のデータ ポイントにデータ ラベルを追加して、グラフの読みやすさを向上させます。

1. "データ設定" タブを選択して、各データ系列のデータ設定を変更します。
2. 最初のデータ系列に以下の変更を加えます。
   - 名前:「ASP - 今期」
   - データ ラベル: オン
3. 2 番目のデータ系列の名前を「ASP - 前期」に変更します。

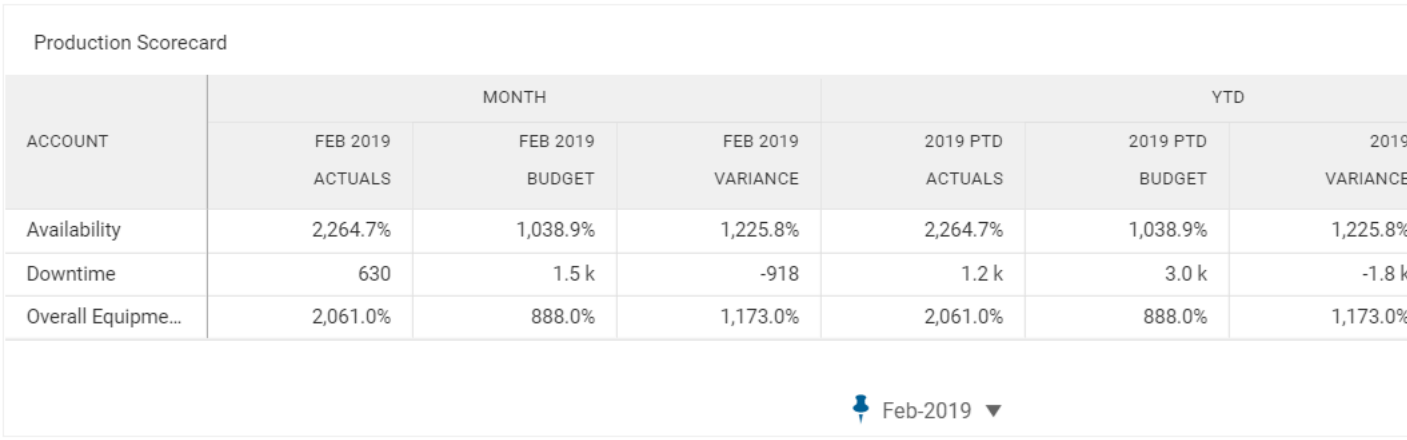
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

これで、このウォークスルーは完了です。

例: 本番データをビジュアル化するスコアカードの作成

スコアカードは、経営状態のビジュアル化に役立つツールです。ダッシュボードにスコアカードを追加すると、ビジネス パフォーマンスを簡潔にビジュアル化して表示することができます。

デフォルトのスコア テンプレートを変更して、本番データのスコアカードを作成します。


Production Scorecard

| ACCOUNT | MONTH | | | YTD | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | FEB 2019 ACTUALS | FEB 2019 BUDGET | FEB 2019 VARIANCE | 2019 PTD ACTUALS | 2019 PTD BUDGET | 2019 VARIANCE |
| Availability | 2,264.7% | 1,038.9% | 1,225.8% | 2,264.7% | 1,038.9% | 1,225.8% |
| Downtime | 630 | 1.5 k | -918 | 1.2 k | 3.0 k | -1.8 k |
| Overall Equipme... | 2,061.0% | 888.0% | 1,173.0% | 2,061.0% | 888.0% | 1,173.0% |

Feb-2019

前提条件
詳細については、 概念: スコアカードの テンプレートおよびデフォルト設定を参照してください。

以下が必要です。

- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

3 つのセクションを作成し、「当期」、「年間累計」、「予測」の計画と実績の比較をビジュアル化する列を設定する方法を説明します。このウォークスルーでは、デフォルトのバージョンである "実行予算" と、"実績" および "予測" のバージョンを追加で使用します。 Operational 指標に以下のカスタム科目も使用します。

- 使用可否
- 中断時間
- 設備総合効率

注 : お使いのバージョンとデータ ソースは、この例で使用される内容と異なる場合があります。

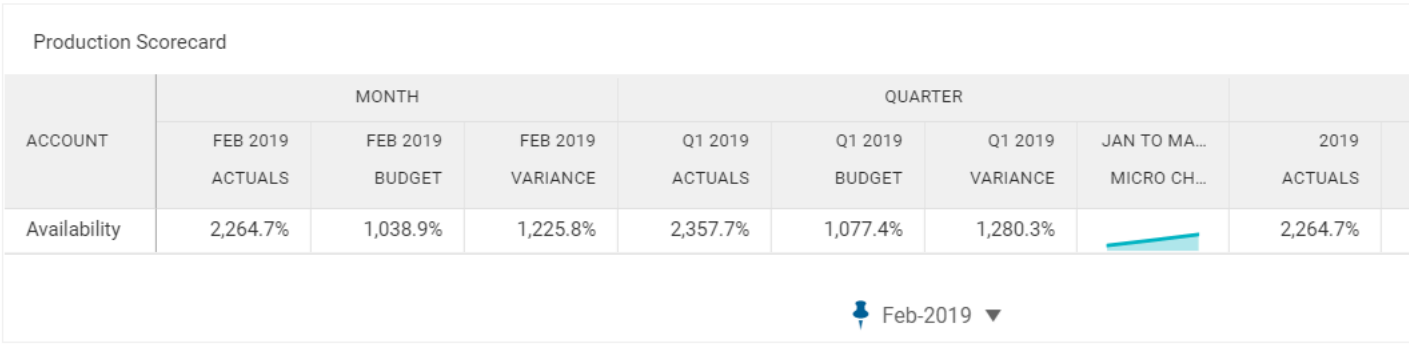
ナビゲーション

ダッシュボード に移動してすべてのエリアを表示します。

エリアを開いてダッシュボードを表示し、"編集" をクリックしてグラフを作成します。

スコアカードの作成
以下のステップは、スコアカードの作成方法とグラフへの科目の追加方法を説明しています。これらのステップを完了した後、スコアカードは次のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

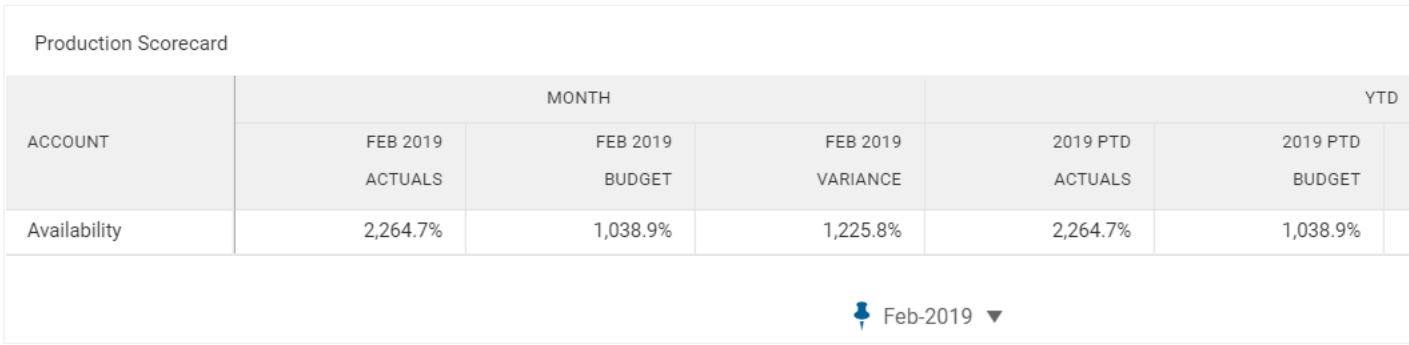



1. 左側のパネルで "グラフ" ボタンをクリックして、グラフを選択します。スコアカード グラフをドラッグ アンド ドロップして、ダッシュボードに追加します。
2. "科目" ボタンをクリックして、科目を選択します。"Custom" > "Operational Metrics" > "Availability" 科目をスコアカードにドラッグ アンド ドロップします。スコアカード テンプレートにより、デフォルトのセクションと列がグラフに追加されます。
3. 右側のパネルで "外観の設定" ボタンをクリックして、表示形式の設定を変更します。
4. "一般" セクションを展開して、スコアカード名を「本番データのスコアカード」に変更します。

スコアカード セクションの変更
このステップでは、スコアカードの構成を変更します。

- "四半期" セクションを削除します。
- "年" セクションのデータ範囲を変更します。
- "予測" セクションを追加します。

これらのステップを完了した後、スコアカードは次のようになります。




セクションの削除

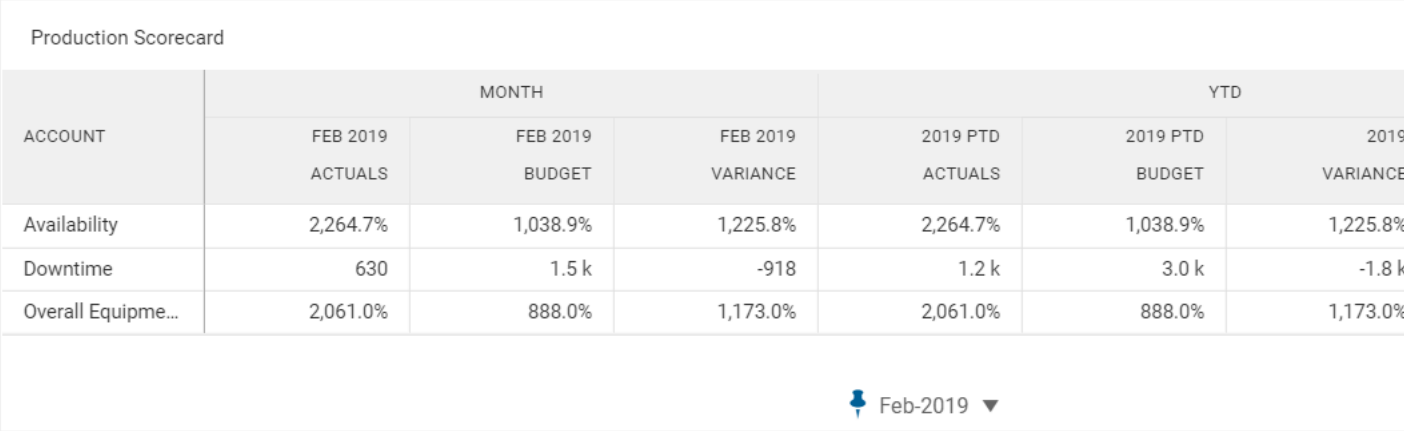
1. "外観の設定" ボタンをクリックして、"セクション" を展開します。
2. "四半期" セクションの隣の X を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

削除の確認が表示されます。

| | |
|---|---|
| "年" セクションのデータ範囲の変更 | "年" セクションを変更して、年間累計を表示します。<br>1. "セクション"、"年" セクションの順に展開し、このセクション名を "年初来" に変更します。<br>2. "年" セクションの "実績"、"予算"、"差異" 列について、"データ範囲" を "指定日まで" に変更します。このスコアカードでは、"年初来" セクション名と "実績" 列および "予算" 列の日付形式が「2019 年 PTD」に変更され、終了日データであることが示されます。<br>3. "年" セクションで、マイクロ グラフの表示形式を以下に従って変更します。<br>a. 時間の配置: 過去<br>b. 期間数: 4<br>c. 期間: 四半期<br>d. データ範囲: 指定日まで<br>e. グラフ: 折れ線 |

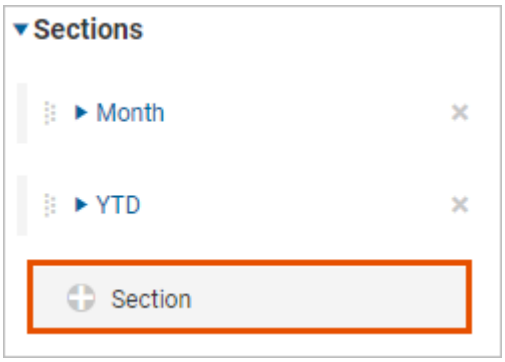
予測と終了を表示するセクションの追加
予測を表示する単一列のセクションを追加します。最後のオプションのステップとして、2 つの科目を追加します。このステップを完了すると、以下のようなスコアシートが作成されます。


Production Scorecard

| ACCOUNT | MONTH | | | YTD | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | FEB 2019 ACTUALS | FEB 2019 BUDGET | FEB 2019 VARIANCE | 2019 PTD ACTUALS | 2019 PTD BUDGET | 2019 VARIANCE |
| Availability | 2,264.7% | 1,038.9% | 1,225.8% | 2,264.7% | 1,038.9% | 1,225.8% |
| Downtime | 630 | 1.5 k | -918 | 1.2 k | 3.0 k | -1.8 k |
| Overall Equipme... | 2,061.0% | 888.0% | 1,173.0% | 2,061.0% | 888.0% | 1,173.0% |

Feb-2019

1. "外観の設定" ボタンをクリックして、"セクション" を展開します。
2. "新しいセクション" ボタンを選択して、新しいセクションを作成します。




3. 新しいセクションを展開して、セクション名を "予測" に変更します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "値" 列を展開します。以下に従って設定を変更して、次の年の予測を表示します。
    - バージョン: 予測
    - 時間の配置: 次
    - 期間: 年
    - オフセット数: 1 (当期をベースに今後 1 年の相対期間を設定します)
    - その他の設定は、すべてデフォルトのままにします

    スコアカードの列ヘッダーが、「<YYYY> 予測」に変更されます。
5. 必要に応じて、「中断時間」や「設備総合効率」などのデータ系列をいくつか追加します。 データ系列を追加する方法は、以下の 2 通りあります。
    - "データ設定" タブで追加アイコンを選択して、科目を選択します。
    - 左側のパネルの "科目" タブで選択します。

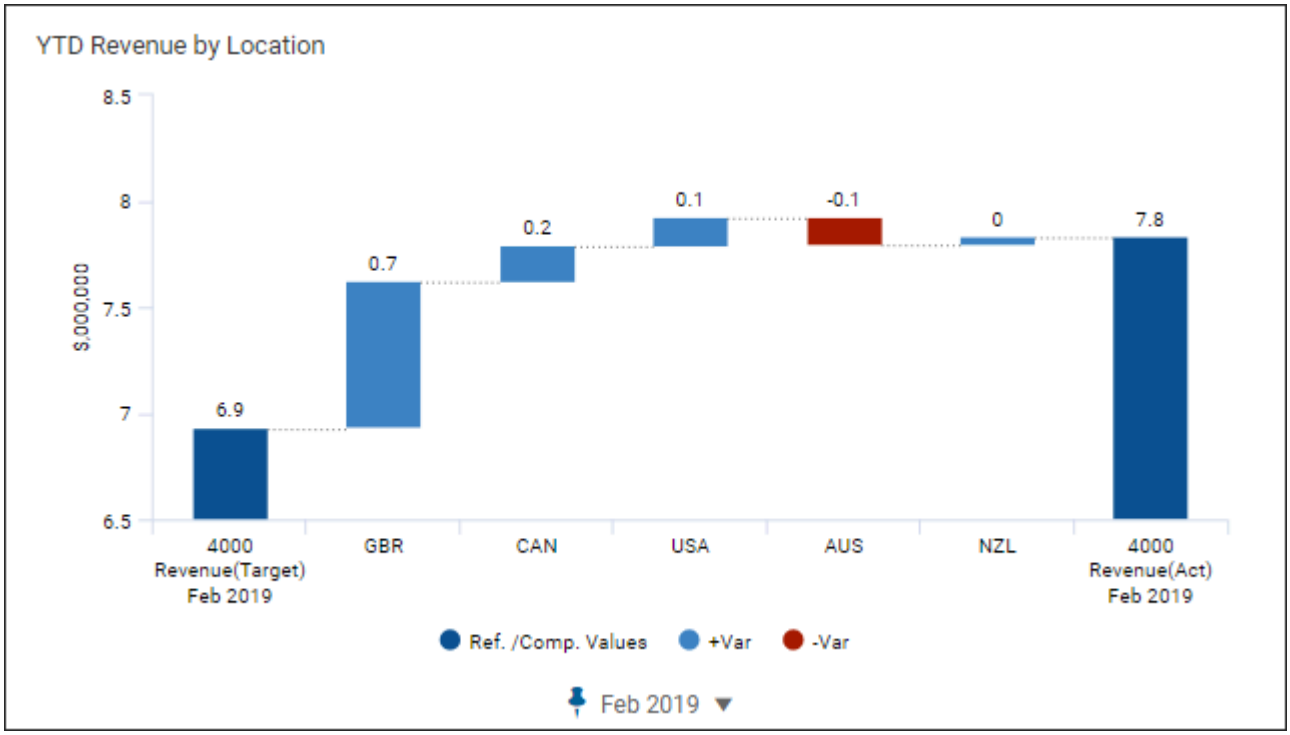
    注 : スコアカードを初めて作成する際は、随時、すべてのデータ系列を追加することができます。初めてのスコアカードでは、1 つのデータ系列を追加することから始めると、グラフが混雑するのを抑え、グラフの設計の仕方を集中して学べます。設計が完了に近づいてから、その他のデータ系列を追加することが推奨されます。

これで、このウォークスルーは完了です。

例: 場所でデータをブレークダウンしたウォーターフォール グラフの作成

ウォーターフォール グラフは、開始位置、終了位置、途中経過を示します。開始値 (参照値) と終了値 (比較値)、およびウォーターフォールのステップを指定して、ウォーターフォール グラフを設定できます。ウォーターフォールのステップは、時間、属性、またはメトリック別に ブレークダウン できます。

以下は、場所ごとの年間累計収益のウォーターフォール グラフをビジュアル化したものです。




前提条件
以下が必要です。

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

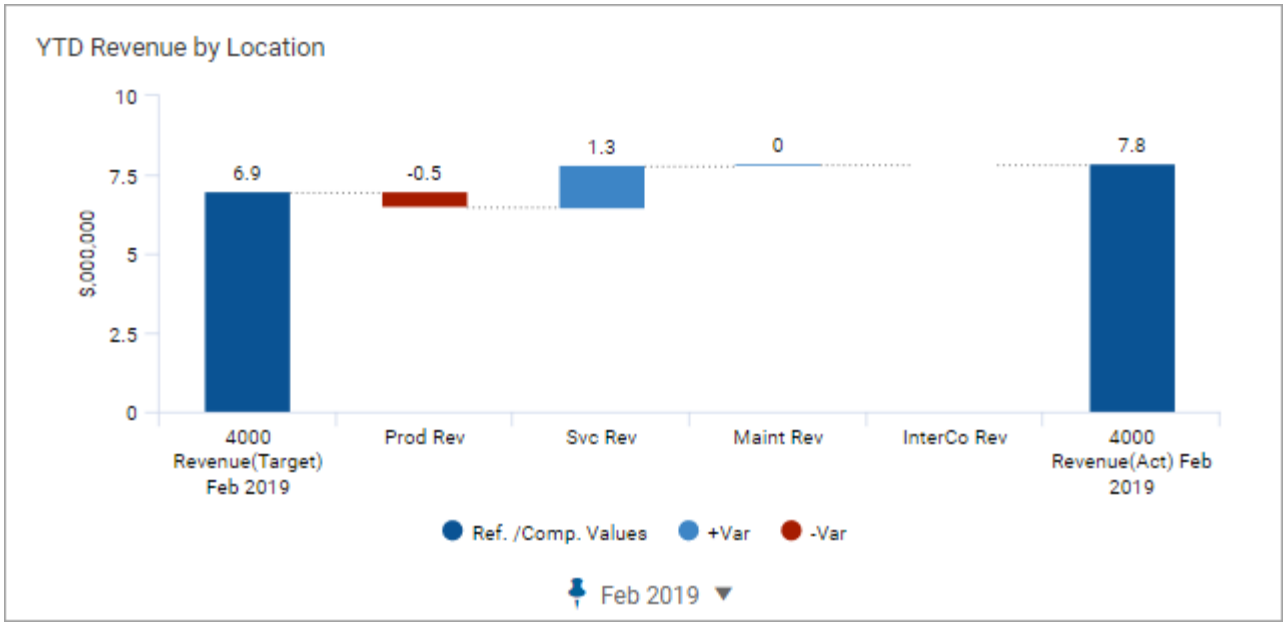
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

この例では、ウォーターフォール グラフの設定を重点的に説明します。エリアとダッシュボードは、すでに作成済みであることを前提としています。この例では、デフォルト バージョンとして、「配分先役員会承認済」を使用してデータをビジュアル化します。この例では、以下の科目と属性を使用します。

- 比較バージョンとして "実績"
- "総勘定元帳科目" > "収益"
- "場所" 属性

設定のオプションと説明については 、参考: ウォーターフォール グラフ設定を 参照してください。

ウォーターフォールの作成とデータ系列の追加
このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

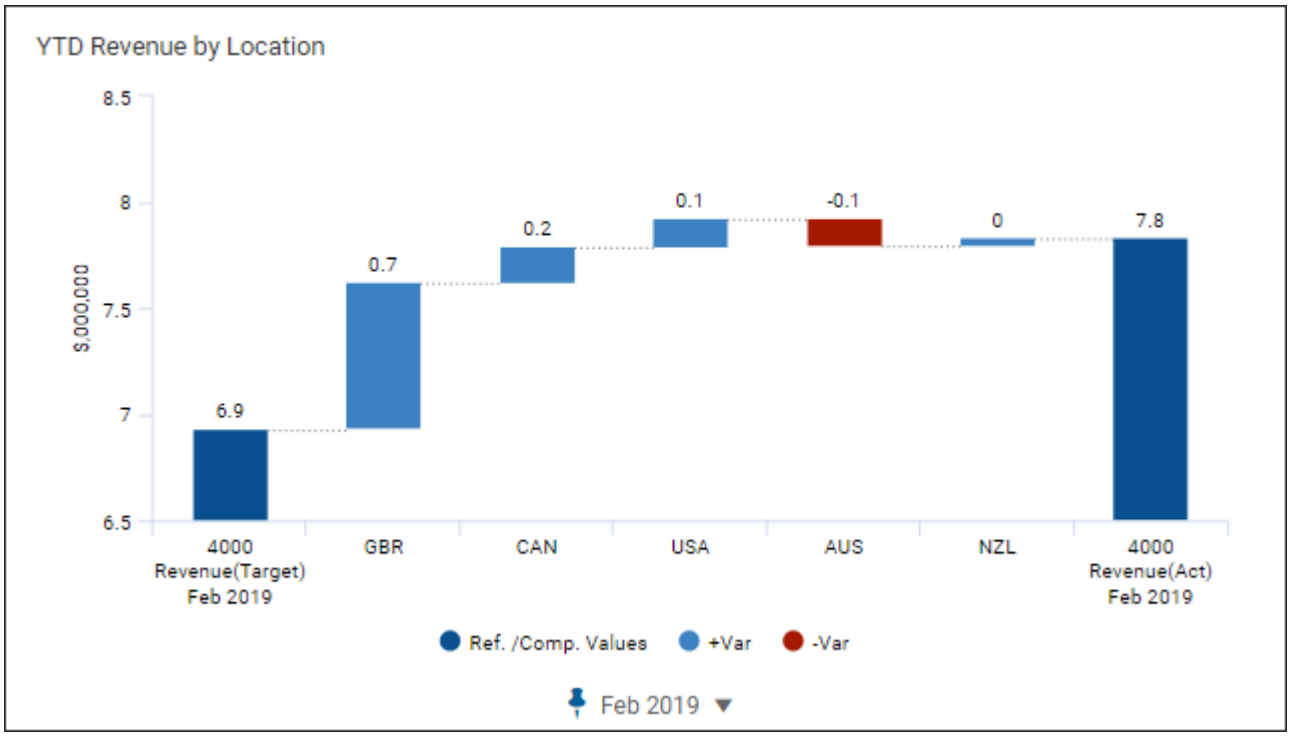



現在は、製品のサブカテゴリ別にブレークダウンされています。このブレークダウンを後のステップで変更します。

1. エリアを開いてダッシュボードに移動し、"編集" をクリックします。
2. 左側のペインで、"グラフ" タブを選択します。
3. "ウォーターフォール" を設計領域にドラッグ アンド ドロップして、ウォーターフォール グラフを作成します。
4. "科目" タブを選択します。"収益" 科目をグラフにドラッグ アンド ドロップして、データ系列を追加します。
5. 右側のペインで、"外観の設定" タブをクリックします。"一般" セクションを展開して、グラフ名を「場所別累積収益」に変更します。
6. "期間設定" タブをクリックして、以下のように変更します。
   - 時間層: 月
   - 固定期間: 2019 年 2 月

ウォーターフォールの定義
ブレークダウンを場所に変更し、ウォーターフォールの参照と比較値を指定します。このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




ブレークダウンの変更

1. "データ設定" タブを選択して "ブレークダウン" セクションに移動し、以下のように変更します。
    - タイプ: 属性
    - 属性: 属性値として "場所"
2. "並べ替えと制限" セクションを展開して、以下に従って変更します。
    - 最大データ ポイント: 6
    - 並べ替え順序: 降順 (絶対)

基準値と比較値の設定

1. "外観の設定" タブを選択します。
2. "軸" セクションを展開して、"軸をゼロから開始" をオフに変更します。
3. "基準値" セクションを確認して、メモを取ります。デフォルト設定では、デフォルト バージョンである「配分先役員会承認済」が使用されており、このグラフの時間設定に基づいて、当期が調べられます。変更は必要ありません。
    - バージョン: バージョン セレクターと同じ: 「配分先役員会承認済」
    - 時間の配置: 現在
    - 期間: 年
    - データ範囲: 指定日まで

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

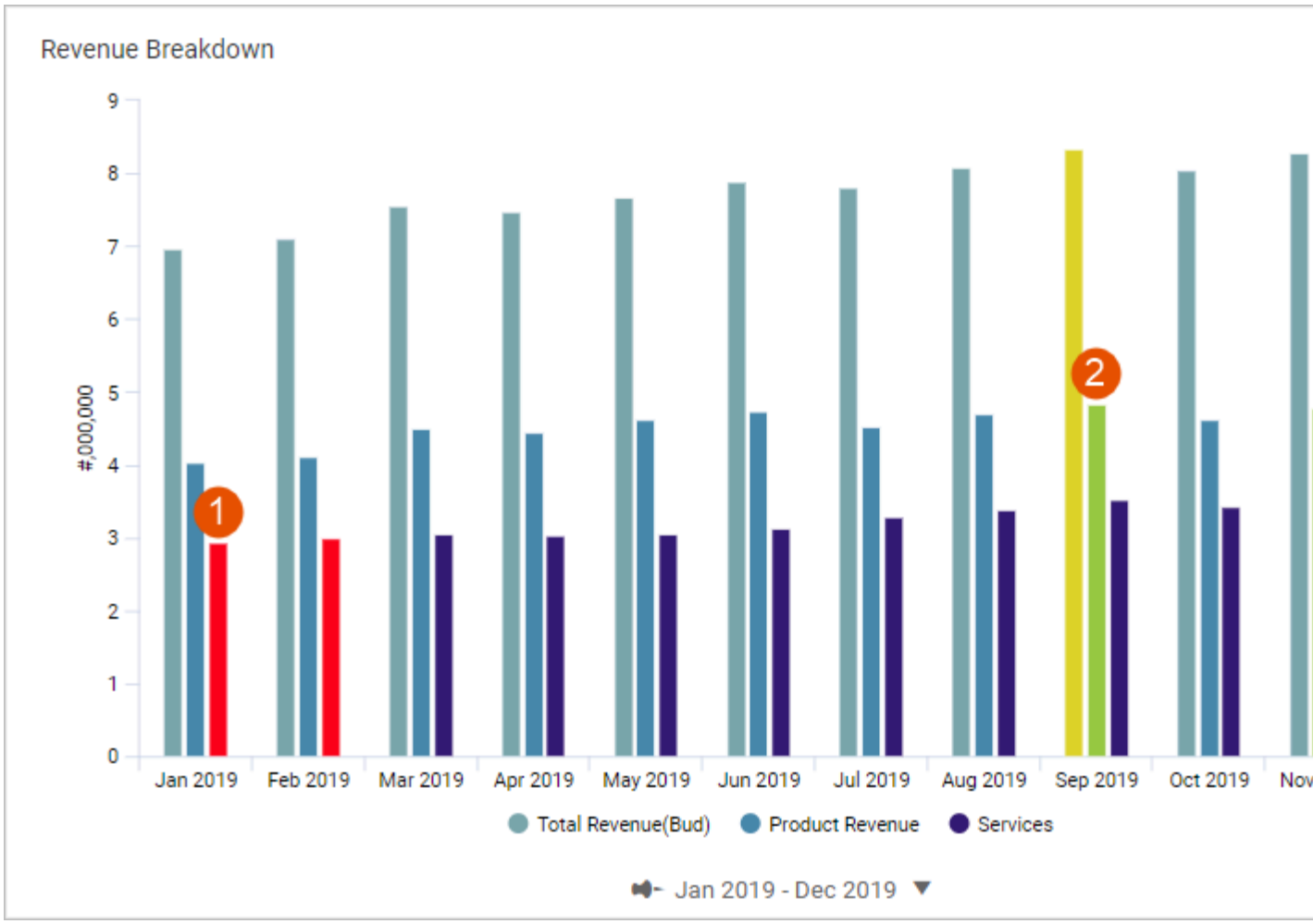
4. "比較値" セクションを展開して、以下を変更します。
    - バージョン: 実績実績と配分先を比較します。
    - 時間の配置: 現在
    - データ範囲: 指定日まで

これで、このウォークスルーは完了です。

例: 縦棒グラフの条件付き書式設定の作成

このウォークスルーでは、以下の例を使用して、縦棒グラフに条件付き書式設定ルールを作成する方法を説明します。

| | |
|---|---|
| 1 | "サービス収益" のデータ系列には、"計画値未満" をハイライトする条件形式が設定されています。 |
| 2 | "製品収益" のデータ系列には、"計画値以上" をハイライトする条件形式が設定されています。 |
| 3 | "合計収益" のデータ系列には、"計画範囲内" をハイライトする条件形式が設定されています。 |

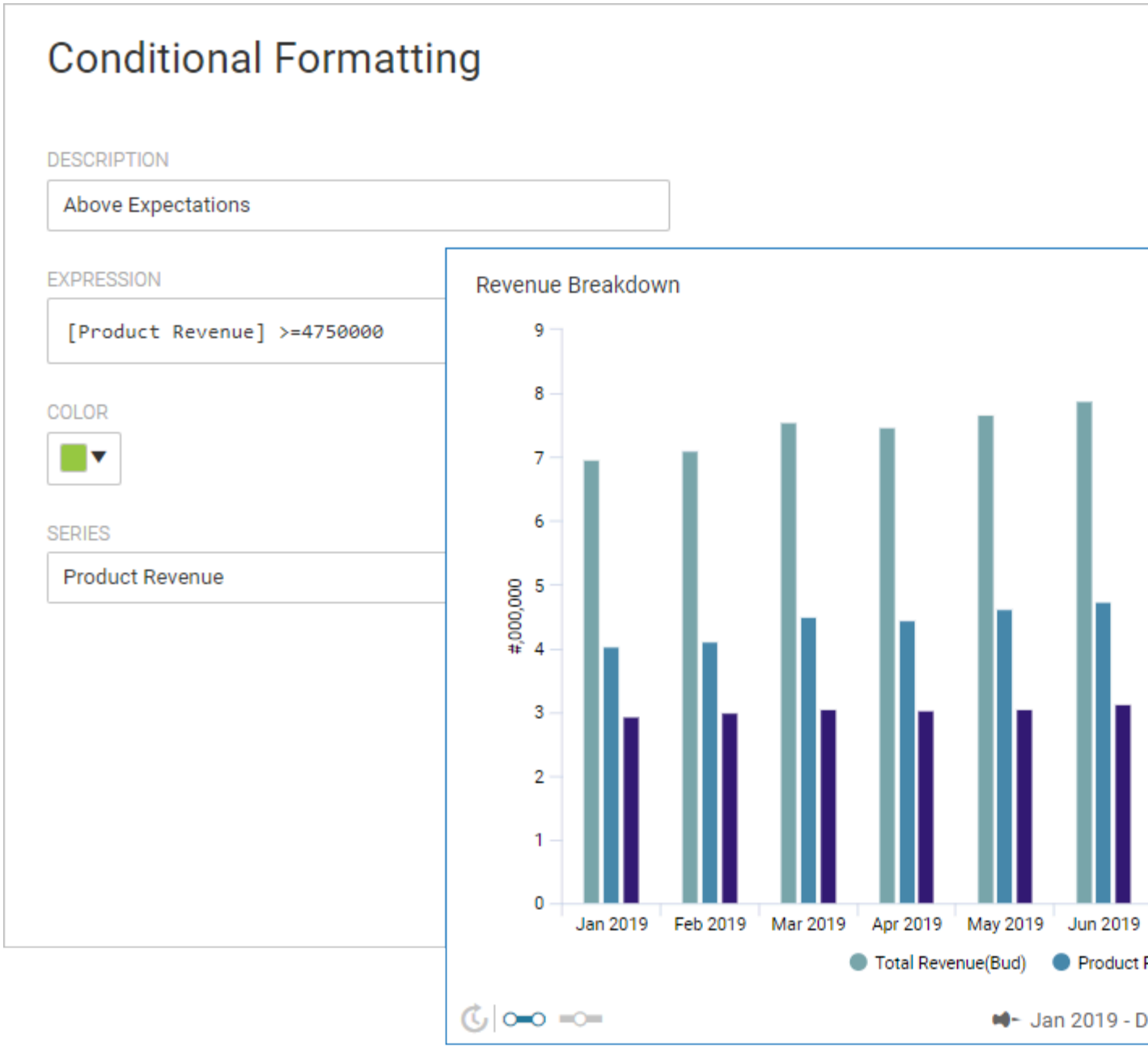



前提条件
このウォークスルーを読む前に、 条件付き書式設定 を確認してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- この例では、デフォルト バージョンの "実行予算" を使用して、以下の 2 つの科目と 1 つの計算が設定された縦棒グラフがすでにダッシュボードに存在することを前提としています。
    - 製品収益 (総勘定元帳科目)
    - サービス収益 (総勘定元帳科目)
    - 合計収益: 製品収益とサービス収益を合計する 計算
- セキュリティ:
    - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
    - "ダッシュボードの編集" 権限

計画値以上ルールの作成
製品収益データ系列に条件付き書式設定ルールを作成して、計画を上回った収益をハイライトします。このステップを完了すると、条件付き書式設定ルールと、以下のような縦棒グラフが作成されます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

注 : グラフ内のデータ系列を参照する数式をハード コードの値と置き換えることができます。例: `[Product Revenue] >= [Product Revenue] * 1.03`ここで、右側の式は成長率です。参照先はグラフ内のデータ系列である必要があります。

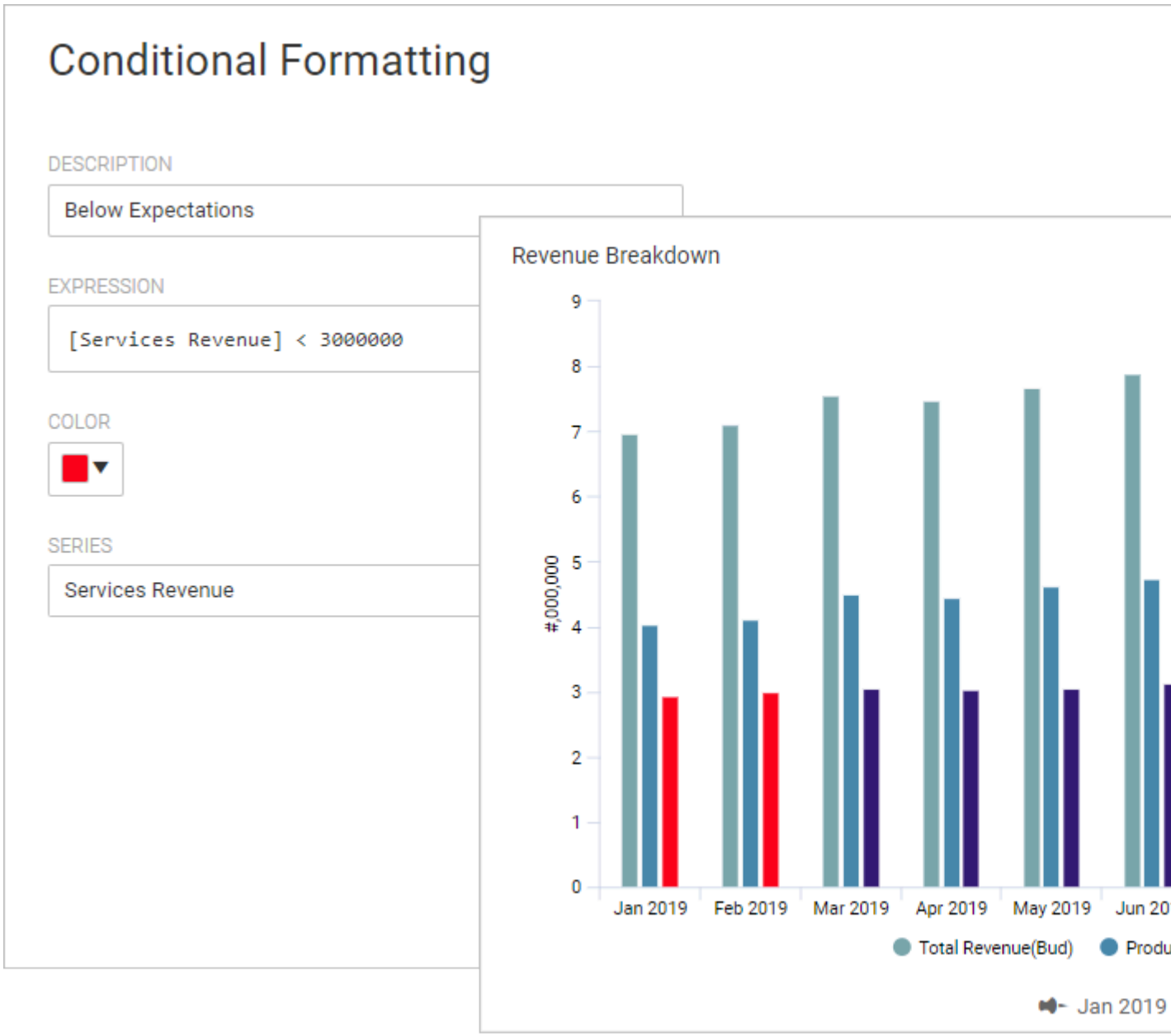
最初のルールの作成

1. "編集" モードで、縦棒グラフに移動します。
2. 右側のパネルで "外観の設定" ボタンをクリックして、"条件付き書式設定" セクションを展開します。
3. "ルールの追加" を選択すると、ダイアログが開きます。
4. ルールを定義します。構文ルールと、演算子および関数のリストを参照します。
    a. 説明の追加: 計画値以上
    b. 式の作成: `[Product Revenue] >= 4750000`
    c. 条件が真である場合に、データ ポイントのハイライトに使用する色を選択します。
    d. 系列の選択: 製品収益

計画値未満ルールの作成
"サービス収益" のデータ系列で計画値を下回る収益をハイライトする 2 番目の条件付き書式設定を作成します。

このステップを完了すると、条件付き書式設定ルールと、以下のような縦棒グラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



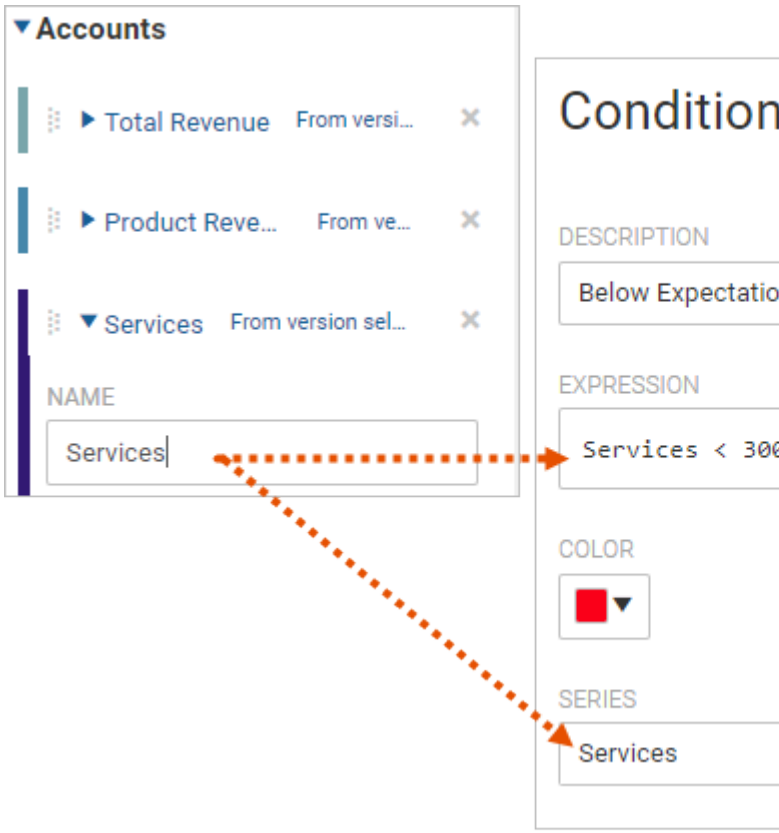

2 番目のルールの作成

1. 同じグラフで "ルールの追加" を選択すると、ダイアログが開きます。
2. 以下に従ってルールを定義します。
    a. 説明の追加: 計画値未満
    b. 式の作成: `[Service Revenue] < 1250000`
    c. ハイライトの色を選択します。
    d. データ系列の選択: サービス収益

データ系列名の変更

サービス収益のデータ系列名が長すぎるので、データ ラベルが混雑したグラフの外観となります。ルールに違反することなく、条件付き書式設定ルールが参照するデータ系列名を短縮することができます。データ系列名を変更すると、ルール名も変更されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



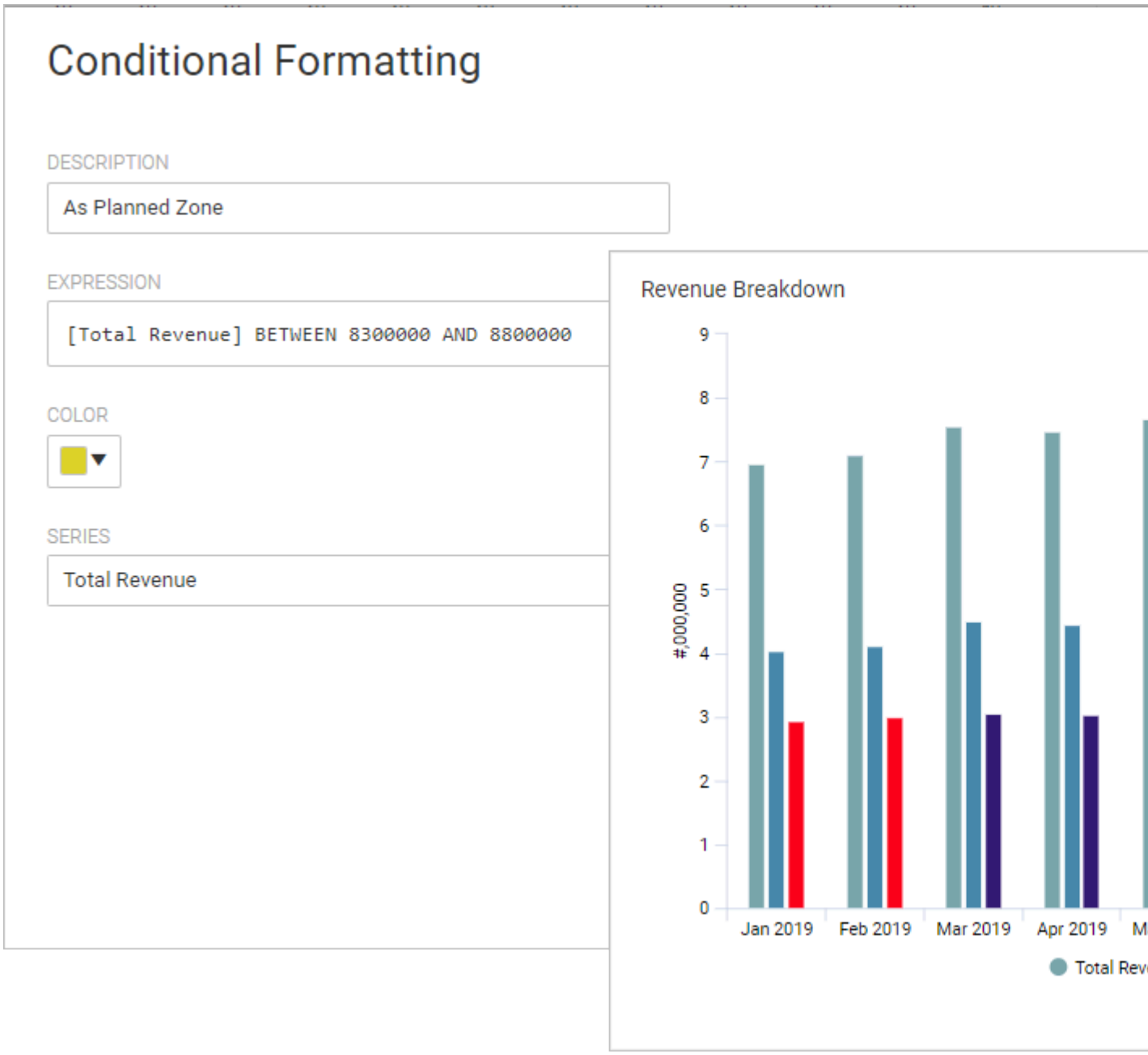

1. 右側のパネルで "データ設定" ボタンをクリックして、"科目" セクションに移動します。
2. "サービス収益" データ系列を展開します。
3. データ系列名を "サービス" に変更します。

グラフのデータ ラベルの名前が変更されます。また、名前が変更されたデータ系列を参照する条件付き書式設定ルール名も変更されます。

計画範囲内ルールの作成
一定の数値の範囲内に当てはまるデータを評価する条件付き書式設定ルールを作成することができます。「計画範囲内」の軌道をたどっているデータ ポイントをハイライトするルールを作成します。

このステップを完了すると、条件付き書式設定ルールと、以下のような縦棒グラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




1. 右側のパネルで "外観の設定" ボタンをクリックして、"条件付き書式設定" セクションを展開します。
2. "ルールの追加" を選択すると、ダイアログが開きます。
3. 以下に従ってルールを定義します。
    a. 説明の追加: 計画範囲内
    b. 式の作成: `[Total Revenue] BETWEEN 830000 AND 880000`
    c. ハイライトの色を選択します。
    d. 系列の選択: 収益合計

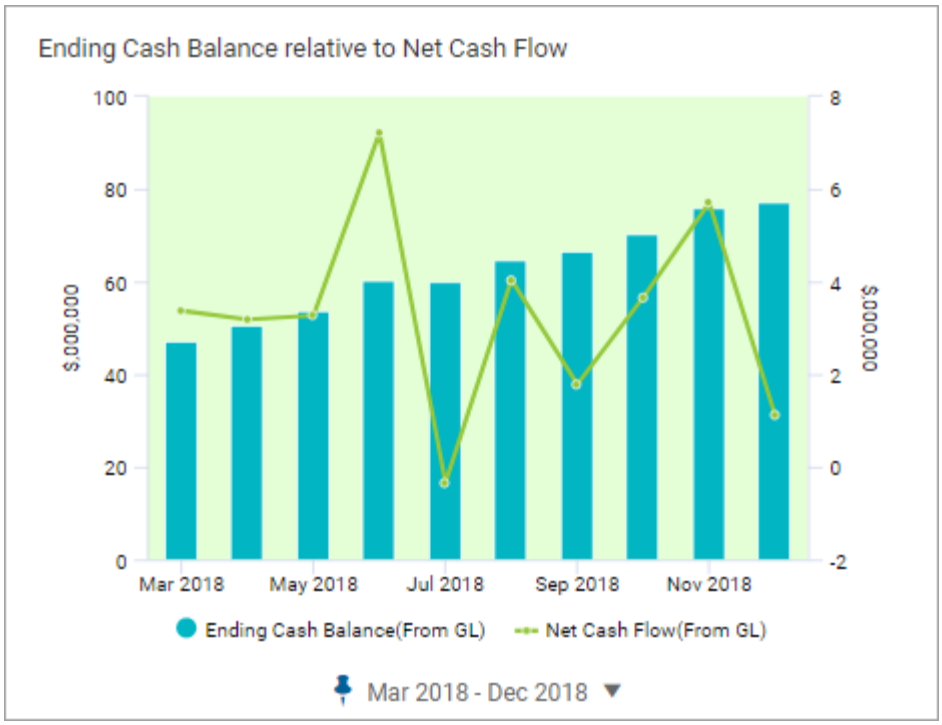
これで、このウォークスルーは完了です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

例: グラフの一次軸と二次軸の設定

ほとんどのグラフは X 軸と Y 軸で構成されています。多くの場合、データを完全に説明するにはこれで十分ですが、あるデータ系列を別のデータ系列と比較してビジュアル化する場合など、場合によっては、二次軸が必要となります。

以下のグラフでは、期末の「現金残高」を一次軸として、「純キャッシュ フロー」を二次軸として表示しています。 このグラフにこの 2 つの軸を表示することにより、純キャッシュ フローと比較した期末の現金残高についてのストーリーが完全なかたちで提供されます。二次軸のスケールのみが調整されます。




二次軸を使用して、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフを設定できます。この記事では、一次軸と二次軸の設定方法とスケールの調整方法を説明します。

前提条件
次のことが必要です。

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

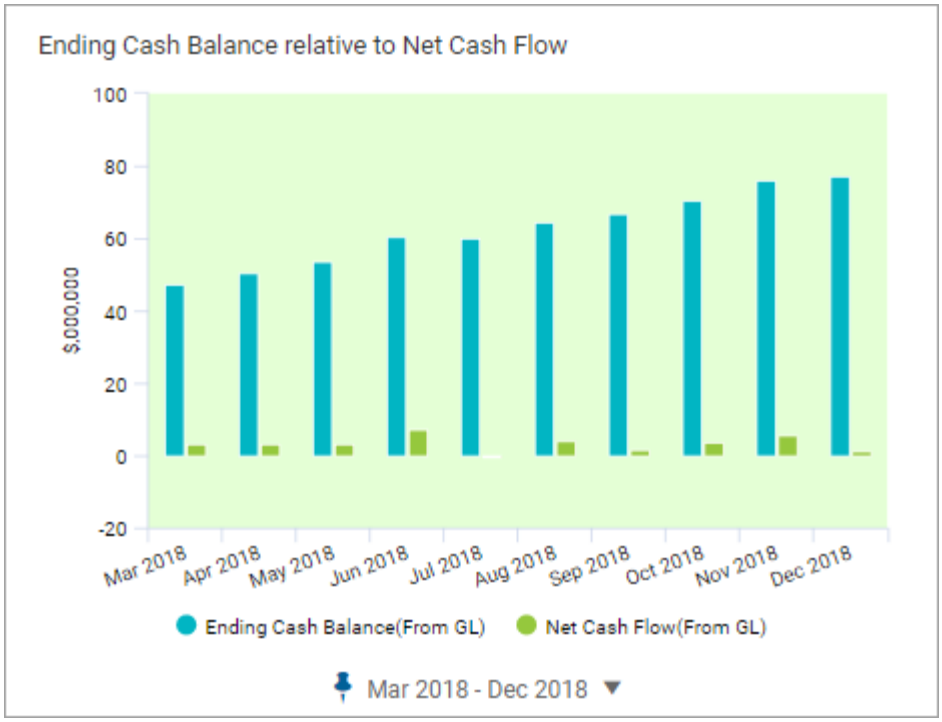
この例では、一次軸と二次軸を使用した縦棒グラフの設定を主に説明します。また、エリアとダッシュボードがすでに作成されていることを前提としています。この例は、デフォルト バージョンとして "実績" を使用してデータをビジュアル化し、以下のカスタム科目およびサブ科目を使用します。

- キャッシュ フロー科目
  - 期末現金残高
  - 純キャッシュ フロー

注 : バージョンと科目は、この例に示されているものとは異なる場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

縦棒グラフの作成
以下は、科目がともに一次軸上にある 2 つのデータ系列の縦棒グラフの例です。二次軸を定義することにより、このグラフの読みやすさを改善できます。このステップを完了すると、以下のとおりのグラフが作成されます。




1. エリアを開いてダッシュボードに移動します。
2. "編集" をクリックします。
3. 左側のパネルから、"縦棒" グラフを設計領域にドラッグして縦棒グラフを作成します。
4. 以下の 2 つの科目をグラフに追加します。
    - カスタム > キャッシュ フロー科目 > 期末現金残高
    - カスタム > キャッシュ フロー科目 > 純キャッシュ フロー
5. 右側のパネルから "外観の設定" タブを選択して "外観の設定" を開き、グラフ名を「純キャッシュ フローに対する期末現金残高」と指定します。
6. "期間設定" タブを選択して "期間設定" を開き、日付範囲を当年度の 9 か月間に変更します。たとえば、以下のように指定します。
    a. 時間層: 月
    b. スパン: 範囲
    c. 固定済期間: 2018 年 3 月 ~ 2018 年 12 月

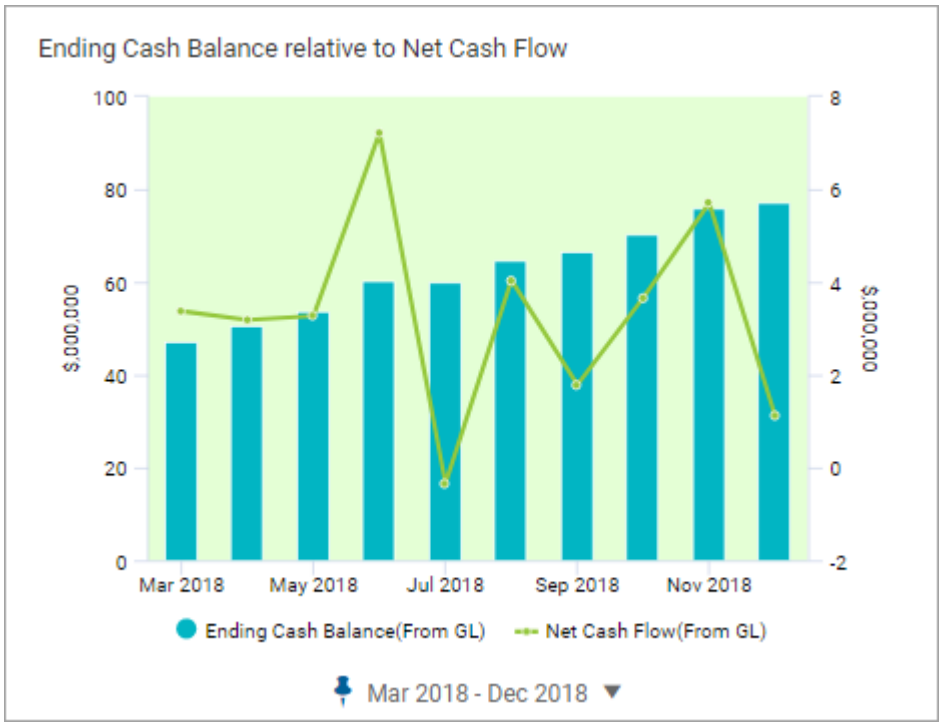
一次軸と二次軸の設定
一次軸と二次軸を使用するグラフを作成する際は、どのデータ系列が一次軸または二次軸となるかを決めます。この例では、"期末現金残高" が主要なデータ セットであり、期末の現金残高を純キャッシュ フローと比較してビジュアル化する必要があるため、純キャッシュ フローが二次軸となります。

"データ設定" タブを使って科目を一次軸または二次軸に指定して、データの表示形式のいくつかを変更します。たとえば、系列タイプを変更したり、データ ラベルを表示したり、データの色を変更したりすることができます。

二次軸の定義

"純キャッシュ フロー" データ系列を二次軸として定義し、系列タイプを "折れ線" に変更します。 このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




1. "データ設定" タブを選択して "データ設定" を開きます。
2. "期末現金残高" のデータ系列の軸を以下に従って変更します。
    a. 系列のタイプ: 折れ線
    b. 系列 Y 軸: 二次

二次軸のスケールの調整

"外観の設定" タブで一次軸と二次軸のスケールを変更すると、このグラフの視覚的なインパクトが向上します。このウォークスルーの場合、二次軸のスケールのみを変更します。

軸のスケールを設定する場合、以下の点に留意します。

- 軸はデフォルトで自動スケーリングに設定されています。軸の自動スケーリングをオフにする前に、軸の最小値と最大値をメモしておきます。この情報は、データ系列の最小値と最大値の設定に役立ちます。
- 2 つのデータ範囲が明らかに異なっている場合、目的の視覚効果を得るには、最小値と最大値の調整が必要となる場合があります。

二次軸のスケールを以下に従って変更します。

1. 二次軸の外観を変更するには、"外観の設定" タブを選択して "軸" セクションを展開します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. 二次軸を以下に従って設定します。
    a. 値の範囲をメモします。例: -2 ~ 8 (百万)
    b. "二次軸の自動スケーリング" をオフにします。
    c. "二次軸の最小値" を設定します。例: 0
    d. "二次軸の最大値" を設定します。例: 20000000

これで、このウォークスルーは完了です。

例: グラフのデータの並べ替えおよび制限

グラフ上のデータを並べ替えたり制限したりすると、主要なデータ ポイントを絞り込むことができます。最上位または最下位のパフォーマーを分析することにより、根本原因を明らかにして、対策を講じることができます。データの並べ替えと制限は、属性別にブレークダウンした面グラフ、横棒グラフ、縦棒グラフ、折れ線グラフでの使用が最適です。

- データを並べ替えると、データを昇順または降順で整理して一覧表示できます。たとえば、最も業績を上げている販売担当者ごとに収益を表示したり、売上が最も低い販売商品を拠点ごとに表示したりできます。
- 制限を追加すると、データ セット全体の上位 N 位のみ、あるいは下位 N 位のみを表示できます。たとえば、拠点別に上位 5 人の販売担当者を表示したり、売上が下位 5 つの製品を表示したりできます。データにフィルタを適用して、絞り込まれたデータを並べ替えたり制限したりすることもできます。

この記事では、第 1 四半期の製品売上をビジュアル化する横棒グラフを作成する方法について説明します。並べ替え基準を収益にし、上位の製品 5 つと最下位の製品 5 つのデータに制限します。このウォークスルーを完了すると、売上高を最上位から順に示す横棒グラフと、最下位から順に示す横棒グラフを作成することができます。

前提条件

- この例では、デフォルト バージョンの "実行予算"、"収益" キューブ科目、"製品" 属性を使用しています。
- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
    - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
    - "ダッシュボードの編集" 権限

注 : お使いのバージョンとデータ ソースは、この例で使用される内容と異なる場合があります。

ナビゲーション

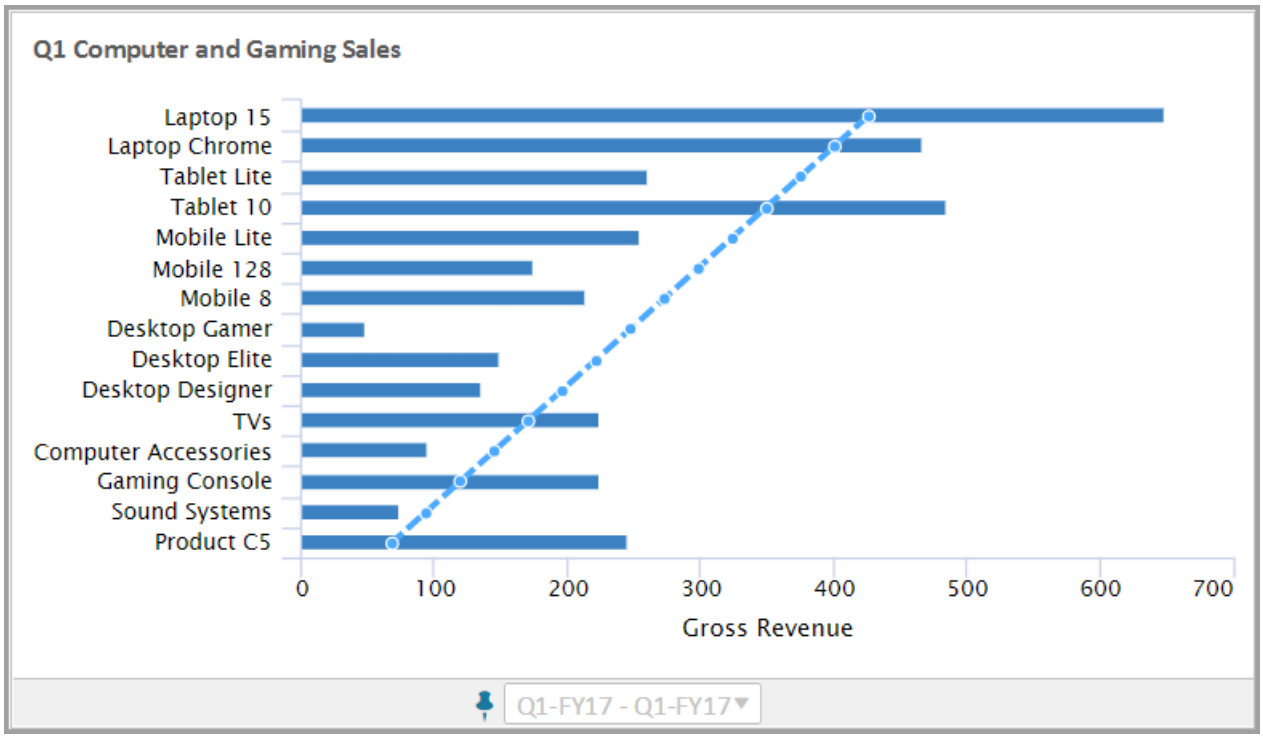
ダッシュボード に移動してすべてのエリアを表示します。

エリアを表示して "編集" を選択し、グラフを作成するダッシュボードに移動します。

横棒グラフの作成と設定
小売店の電子部署の収益を表示する横棒グラフを作成します。

このステップを完了すると、以下のとおりの横棒グラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

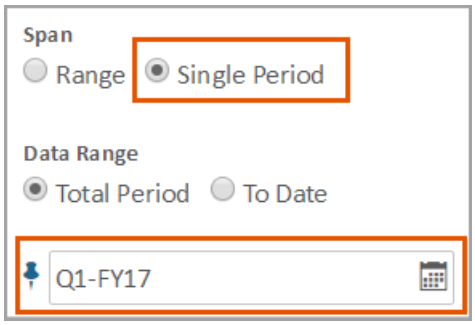



横棒グラフの作成

1. 編集モードで左側のパネルの "グラフ" ボタンを選択します。横棒グラフを設計領域にドラッグ アンド ドロップします。
2. "科目" ボタンをクリックして科目のリストを表示します。キューブ科目を展開して、収益科目をグラフにドラッグします。

期間設定の変更

1. 右側のパネルで "期間設定" ボタンをクリックして、グラフのデフォルト期間を変更します。
2. 時間層を変更します。ドロップダウン メニューで "四半期" を選択します。
3. "スパン" についてはデフォルト値のままにします (変更は必要ありません)。
4. 時間を特定の期間に固定して設定します。この固定アイコンは、固定済の場合は青色、固定が解除されている場合はグレーで表示されます。
5. 期間を変更して、第 1 四半期のみを表示します。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

外観の設定変更

1. グラフの外観を変更するには、右側のパネルで "外観の設定" タブを選択します。グラフ名を「第 1 四半期のコンピュータとゲームの売上」に変更します。
2. (任意) "外観の設定" で以下を試してみます。
   - "軸" > "一次軸のタイトル": "科目名"
   - "凡例" > "凡例": オフにする (凡例は表示されません)

データ設定の変更

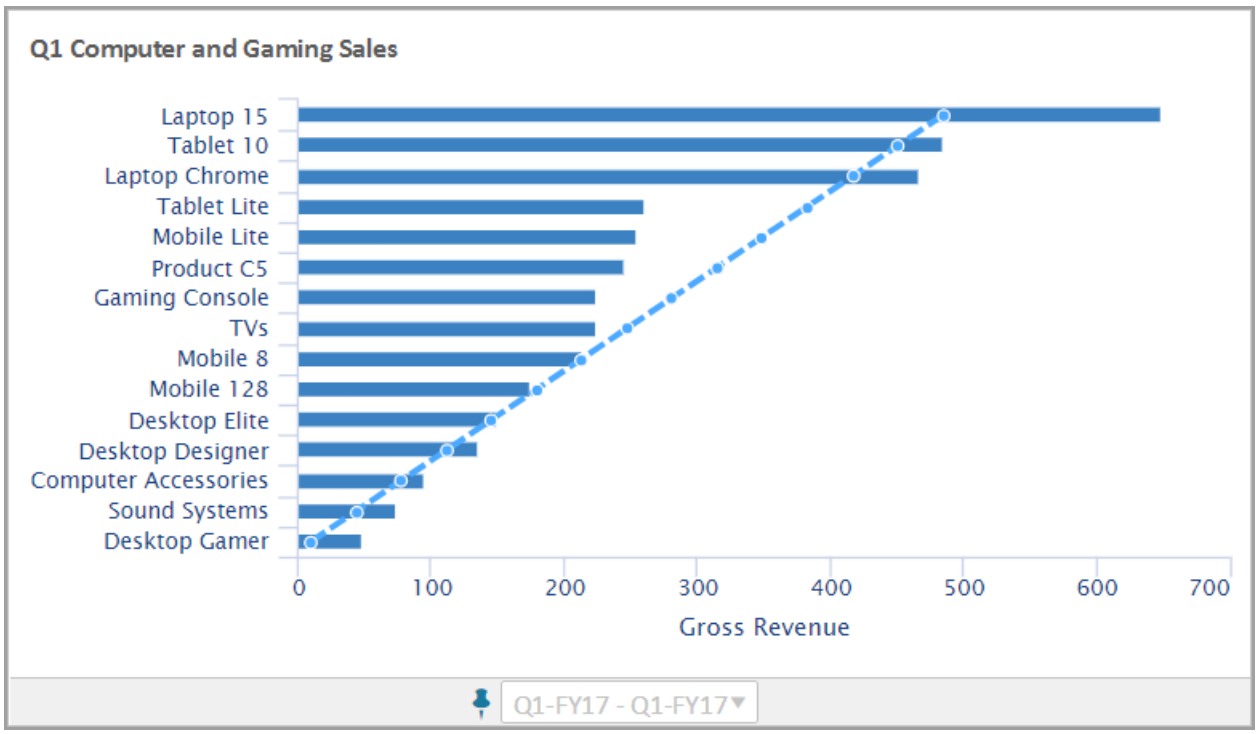
1. データ設定を編集するには、"データ設定" タブを選択します。

   "ブレークダウン" セクションを展開して、以下の操作を行います。

   a. ブレークダウンを "属性" に変更します。
   b. 属性または特性を選択します。検索または参照して "製品" を選択します。
2. "科目" セクションを展開して "収益" 科目を展開します。"トレンドライン" をオンにします。

並べ替えの設定
製品売上を最上位から順に降順で並べ替えます。

このステップを完了すると、以下のとおりの横棒グラフが作成されます。

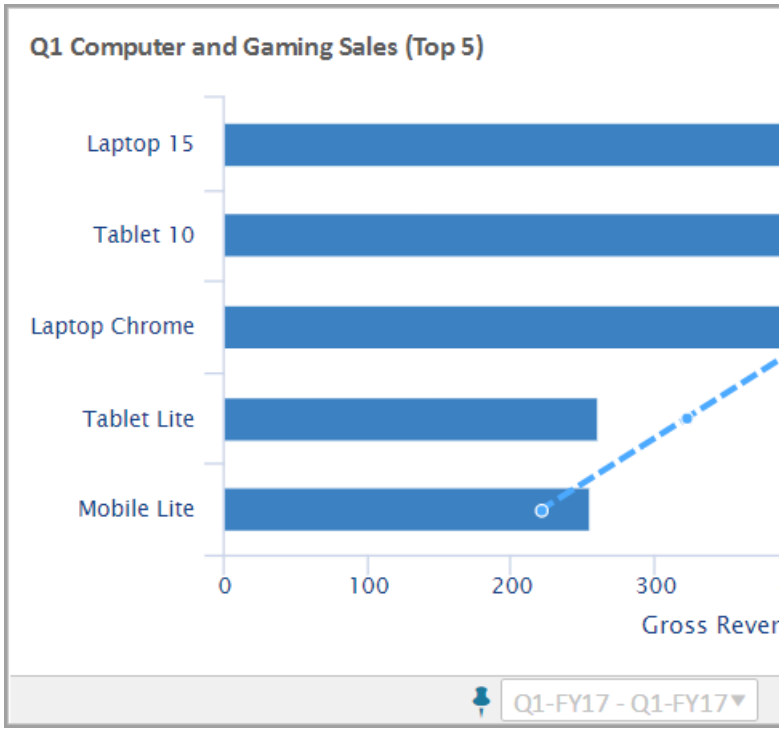



1. データ設定を編集するには、"データ設定" タブを選択します。
2. "並べ替えと制限" セクションを展開して、並べ替え基準に "収益" を選択します。
3. "降順" を選択して、並べ替え順序を設定します。
4. "制限" は "すべてのレコードを表示" のままにします (デフォルト設定)。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

制限の設定
これで、最上位および最下位の 5 つの製品売上に絞り込んで分析を行うことができます。

| | |
|---|---|
| 最上位 5 つの製品の表示 | 製品売上が高い 5 つの製品について、最上位から順に表示します。このステップを完了すると、以下のとおりの横棒グラフが作成されます。 |



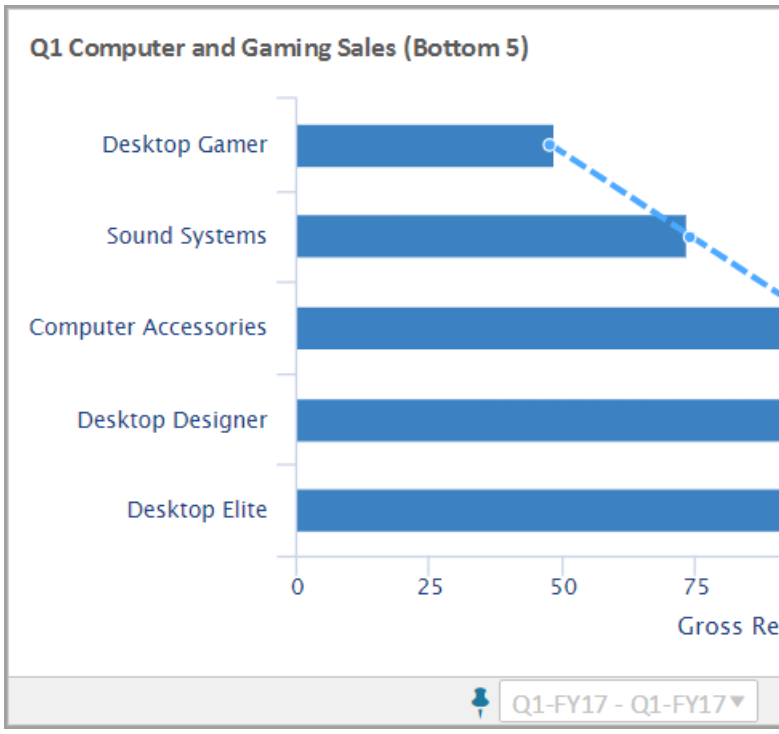

1. データ設定を編集するには、"データ設定" タブを選択します。"並べ替え基準" の設定は、"収益"、"並べ替え順序" は "降順" のままにします。
2. 上位 N を選択して以下を入力 5。これにより、データは最上位 5 つの製品に制限されます。
3. (任意) "外観の設定" タブで、グラフ名を「第 1 四半期コンピュータとゲームの売上 (上位 5 位)」に変更します。

| | |
|---|---|
| 横棒グラフのコピーの作成 | 製品売上の下位 5 位の製品を表示する 2 つ目の横棒グラフを作成します。売上が高い製品のグラフをコピーします。 |

1. グラフで、"グラフのオプション" > "コピー" をクリックします。
2. ダッシュボード領域を右クリックして、"グラフの貼り付け" をクリックします。新しいグラフが作成されてアクティブになり、編集できるようになります。

| | |
|---|---|
| 最下位 5 つの製品の表示 | 製品売上が低い 5 つの製品について、最下位から順に表示します。このステップを完了すると、以下のとおりの横棒グラフが作成されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



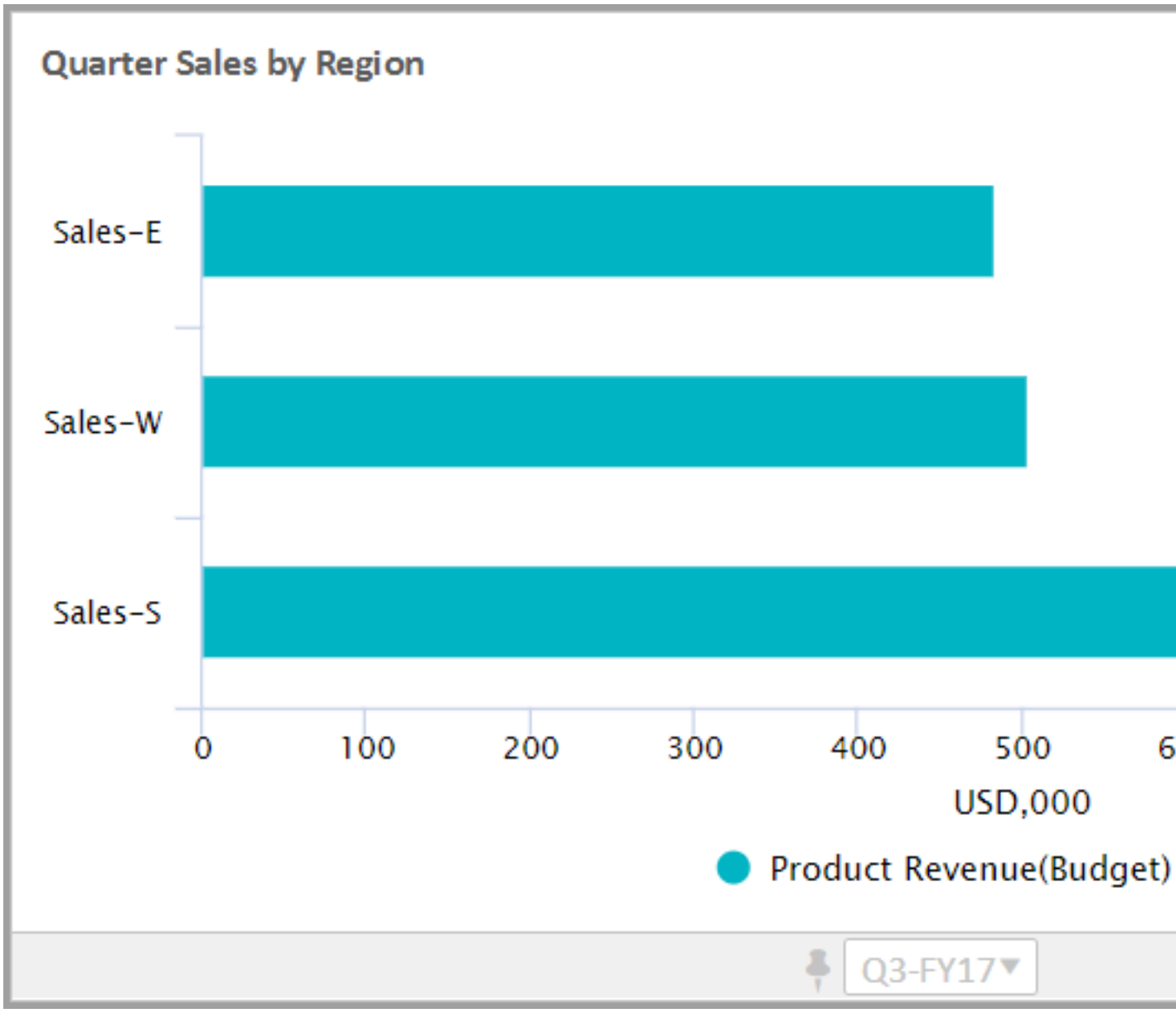

1. データ設定を編集するには、"データ設定" タブを選択します。"並べ替え基準" の設定は、"収益" のままにします。
2. "並べ替え順序" を "昇順" に変更します。
3. 下位 N を選択して保持 5 上限です。
4. (任意) "外観の設定" タブで、グラフ名を「第 1 四半期コンピュータとゲームの売上 (下位 5 位)」に変更します。

これで、このウォークスルーは完了です。

例: 横棒グラフを使用した主要なデータ ポイントへの焦点の絞り込み

米国で最も売上が低い地域をビジュアル化する場合を考えます。このウォークスルーでは、データ フォーカス手法を使用して、主要なデータ ポイントにグラフの焦点を絞りこむ方法を説明します。このウォークスルーを完了すると、次のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




このウォークスルーでは、販売地域別に細分化された前四半期の収益をビジュアル化する横棒グラフを作成する方法について説明します。以下を実行します。

- グラフ内のデータ系列にフィルタを設定します。収益をフィルタリングして、米国の販売地域のみを評価します。
- 組織属性別のデータ系列のブレークダウンを定義します。
- 並べ替えおよび制限を設定して、売上が最下位の地域を表示します。

前提条件

- 個人エリアまたは共有エリアへの編集アクセス権
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

この例では、デフォルトのバージョンである "実行予算" および以下を使用します。

- "収益" 総勘定元帳科目

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 米国販売地域を含む属性メンバーを持つ "組織" 属性

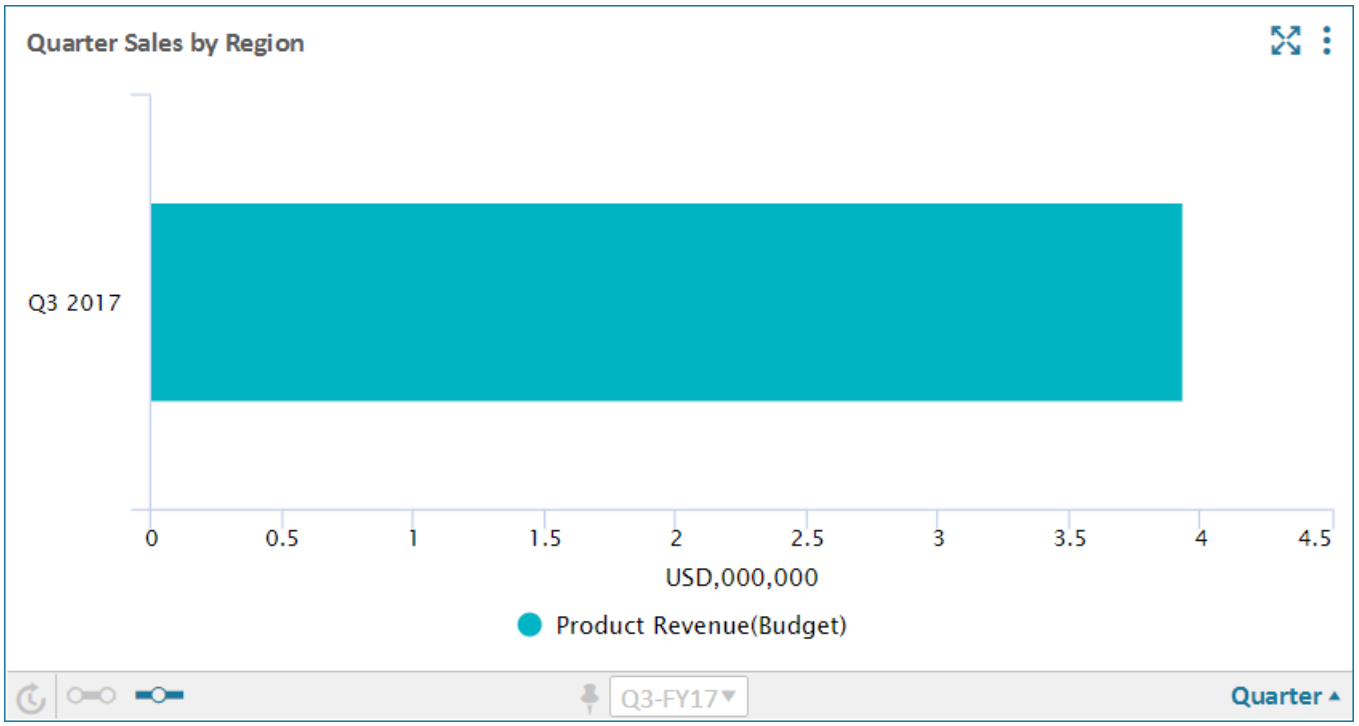
注： お使いのバージョンとデータ ソースは、この例で使用される内容と異なる場合があります。

ナビゲーション

ダッシュボード に移動してすべてのエリアを表示します。

エリアとダッシュボードに移動し、"編集" を選択してグラフを作成します。

横棒グラフの作成
横棒グラフを作成して時間設定を変更します。このステップを完了すると、次のようなグラフが作成されます。



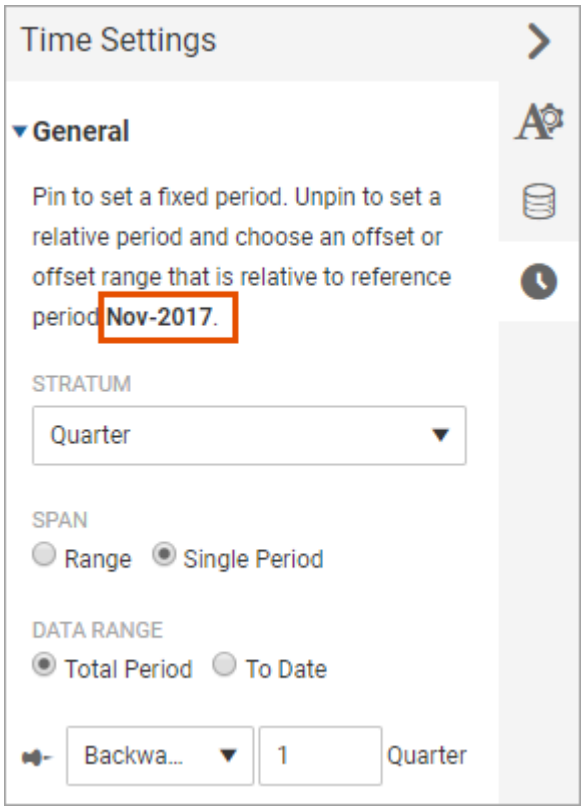

グラフの作成

1. 左側のパネルで "グラフ" タブをクリックして、グラフのタイプのリストを表示します。"横棒" グラフを設計領域にドラッグし、横棒グラフを作成します。
2. 左側のパネルで "科目" タブをクリックして、科目のリストを表示します。収益科目をグラフにドラッグします。
3. "外観設定" タブで、グラフ名を「地域別四半期売上高」に変更します。

時間の変更

時間の設定を以下のとおり変更します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




エリアのコンテキストで設定された時間は「2017 年 11 月」で、これは第 3 四半期にあたります。グラフの時間設定は、相対時間枠で設定されています。このグラフは、エリアのコンテキストで設定された時間に基づき、過去 1 四半期のデータを参照します。このグラフでは、第 2 四半期、つまり 7 月、8 月、9 月のデータをビジュアル化します。

1. "期間設定" タブをクリックし、期間を前四半期に変更します。以下の設定を変更します。
    - 時間層: 四半期
    - スパン: 1 つの期間
    - データ範囲: 変更は必要ありません
2. 時間の固定を解除して、相対時間枠で設定します (グレーで表示されたピンは固定が解除されていることを示します)。以下に従って時間を前の四半期に設定します。
    - ドロップダウン メニューで "過去へ" を選択します。
    - 「1」を入力します (1 つ前の四半期に戻る)。

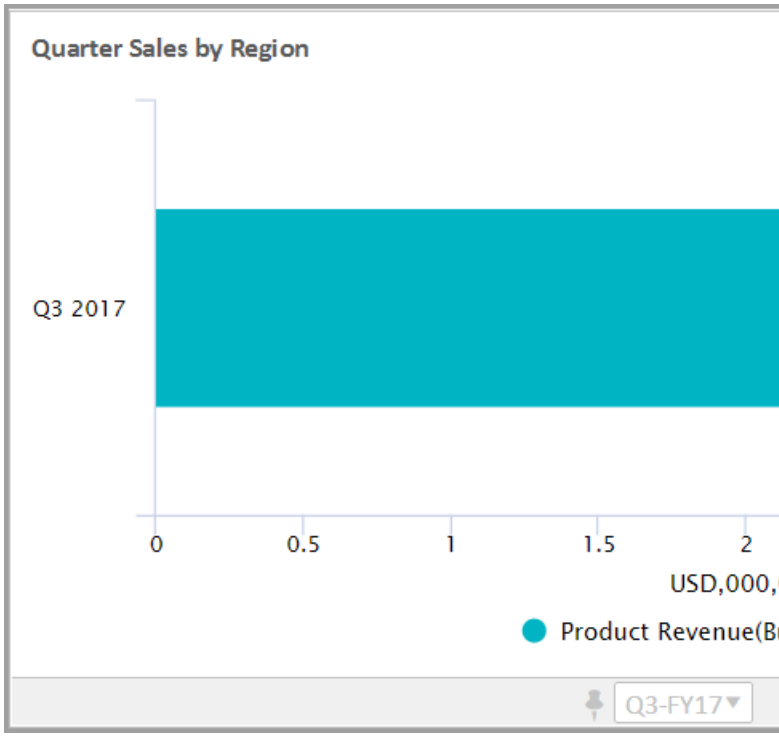
データの焦点の絞り込み
フィルタリング、ブレークダウン、並べ替え、制限を使用して、売上が最も低い販売地域に焦点を当てます。

データ系列フィルタの追加

データ設定を変更して、収益データ系列をフィルタリングします。組織属性と米国の販売地域を使用し

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

てフィルタリングします。このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。




この時点では、グラフに大きな変更がない場合もあります。差が確認できるのが、データ系列の合計値のみである場合があります。

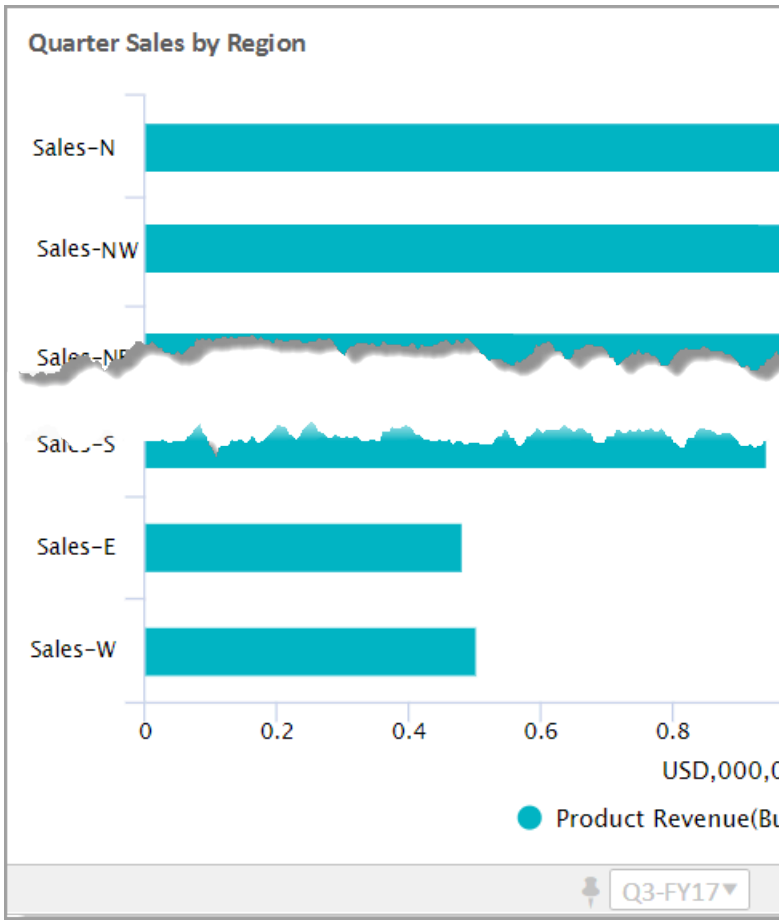
以下を実行します。

1. データ設定を編集するには、"データ設定" タブをクリックします。
2. "製品収益" 科目を展開して、データ系列の設定を変更します。
3. フィルタ設定を展開して "属性" 要素に移動して、分析対象とする個々の地域を選択します。"フィルタ" 設定に選択内容が表示されます。

### ブレークダウンの変更

ブレークダウンを使用してデータを分類 (またはグループ化) します。"組織" 属性を使用して、販売地域別に収益をグループ化します。このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




以下を実行します。

1. データ設定を編集するには、"データ設定" タブをクリックし、"ブレークダウン" セクションを展開します。
2. ドロップダウン メニューで "属性" を選択します (デフォルトは "時間")。
3. "属性" 設定を展開して、リストで "組織" を選択します。

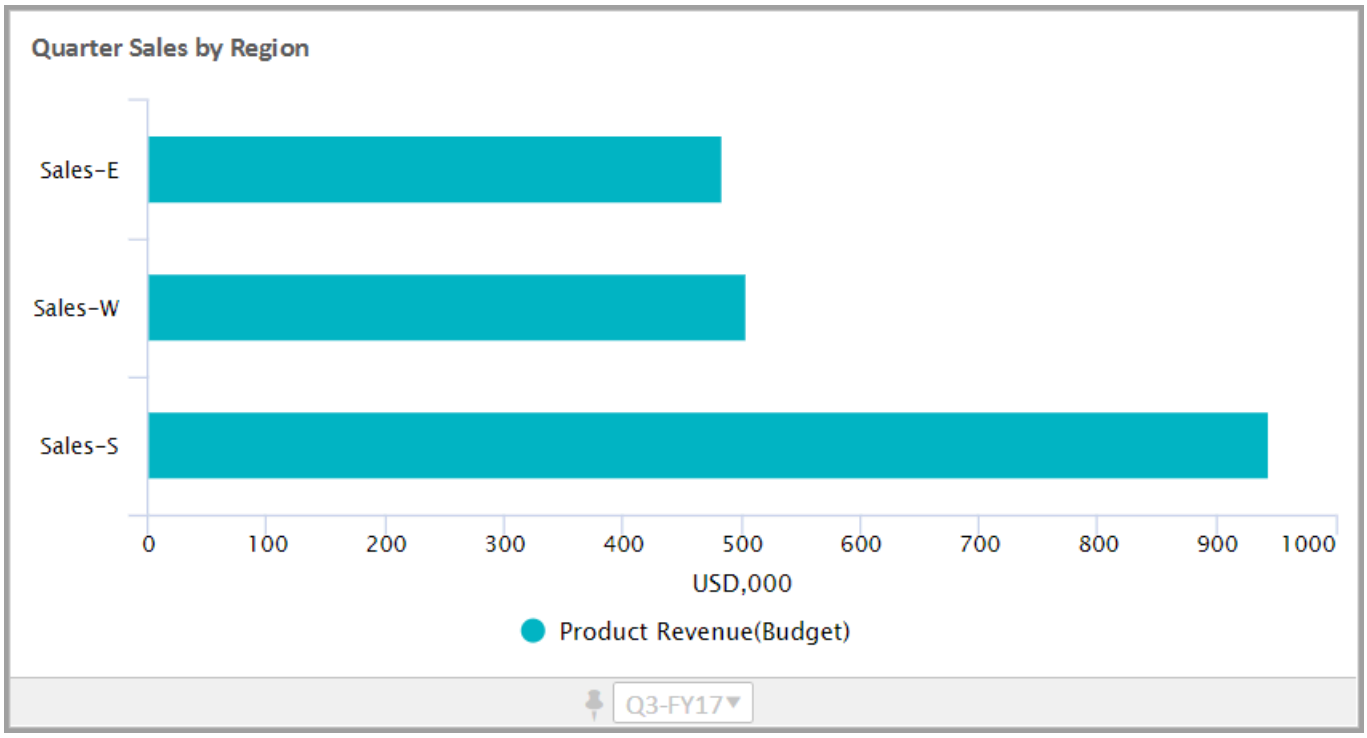
残りのブレークダウンの設定は変更する必要はありません。

データの並べ替えと制限
データは並べ替えすることができます。たとえば、収益別に最上位から順に並べ替えることができます。この分析では、売上の低い販売地域に焦点をあてます。データ設定を以下のように変更します。

- 製品収益別に昇順で並べ替えます。
- データを売上が最も低い 3 つの地域に制限します。

このステップを完了すると、以下のようなグラフが作成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




1. データ設定を編集するには、"データ設定" タブをクリックし、"並べ替えと制限" セクションを展開します。以下に従って選択します。
    - 並べ替え基準: 製品収益
    - 並べ替え順序: 昇順
2. ドロップダウンで "上位 N" を選択し、以下を入力します。 3 上限です。

これで、このウォークスルーは完了です。

例: 製品収益計画と実績の差異の **KPI** の作成

この例では、重要業績評価指標 (KPI) を作成して以下の 2 つの項目間の差異を表示する方法を説明します。

- 実績
- 製品収益計画

このタスクについて

以下について、第 3 四半期の 3 か月分の差異データを表示する KPI を作成します。

- ノートパソコンとタブレットの製品収益
- 既存契約と新規契約のサービス収益

サービス収益の KPI 作成にあたっては、製品収益の KPI を複製し、オプションをいくつか変更して、時間を節約します。

始める前に

- "販売結果" ダッシュボードを含む "エグゼクティブ サマリ" というエリアを作成します。
- デフォルトのバージョンは、実績バージョンをオーバーライド バージョンとして持つ実行予算です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- モデルでは、以下の総勘定元帳科目とサブ科目を使用します。
  - 製品収益
    - 製品収益 - ノートパソコン
    - 製品収益 - タブレット
  - サービス収益
    - サービス収益 - 既存契約
    - サービス収益 - 新規契約
- セキュリティ:
  - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
  - "ダッシュボードの編集" 権限

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. "エグゼクティブ サマリ" エリアを選択します。
3. "販売結果" ダッシュボードを選択します。
4. "編集" を選択します。
5. "グラフ" から設計領域に "KPI" をドロップします。
   "外観の設定" が右側に自動的に開きます。
6. "外観の設定" で以下の値を選択します。

| セクション | フィールド | オプション |
|---|---|---|
| レイアウト | バージョン ヘッダー | オフに切り替えます。 |
| マイクロ グラフ | 期間 | "四半期" を選択します。 |
| マイクロ グラフ | ブレークダウン期間 | "月" を選択します。 |

7. "データ設定" を開きます。
   "データ設定" は右側にあります。
8. "製品収益" 科目を追加します。
9. "製品収益" 科目を展開して、そのデータ設定にアクセスします。
10. "表示単位" プロンプトで "$ (#,##0)" を選択します。
11. "期間設定" を開きます。
    "期間設定" は右側にあります。
12. "期間設定" で以下の値を選択します。

| フィールド | オプション |
|---|---|
| 層 | "四半期" を選択します。 |
| 固定アイコン | アイコンをクリックして、時間の固定を解除します。<br>固定を解除すると、エリアの時間に対して KPI の時間が相対的になります。 |

    この KPI は、ノートパソコンとタブレットの収益について、第 3 四半期の 3 か月間の差異データを表示します。
13. "製品収益" KPI の "グラフのオプション" メニューで、"コピー" を選択します。
14. 設計領域で右クリックし、"グラフの貼り付け" を選択します。
15. "名前" を "サービス収益" に変更します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

16."データ設定" パネルを開きます。
17."科目" フィールドで、科目を "製品収益" から "サービス収益" に変更します。
この KPI は、サービス収益の第 3 四半期の 3 か月間の差異データを表示します。

例: 製品とサービスの収益に関する複数系列の縦棒グラフの作成

この例では、2 つの製品について 3 か月間の実際の収益を表示する複数系列の縦棒グラフの作成方法を説明します。

このタスクについて

以下の複数系列グラフを作成して、製品別およびサービス別の売上を比較します。

- 製品別売上グラフ: ノートパソコンおよびタブレットの製品収益を表示する。
- サービス別売上グラフ: 既存契約と新規契約のサービス収益を表示する。

サービス別売上グラフを作成するにあたっては、製品別売上グラフを複製し、オプションをいくつか変更することで時間を節約します。

始める前に

- "販売結果" ダッシュボードを含む "エグゼクティブ サマリ" というエリアを作成します。
- デフォルトのバージョンは、実績バージョンをオーバーライド バージョンとして持つ実行予算です。
- モデルでは、以下の総勘定元帳科目とサブ科目を使用します。
    - 製品収益
        - 製品収益 - ノートパソコン
        - 製品収益 - タブレット
    - サービス収益
        - サービス収益 - 既存契約
        - サービス収益 - 新規契約
- セキュリティ:
    - "ダッシュボードへのアクセス" 権限
    - "ダッシュボードの編集" 権限

手順

1. メイン メニューから "ダッシュボード" を選択します。
2. "エグゼクティブ サマリ" エリアを選択します。
3. "販売結果" ダッシュボードを選択します。
4. "編集" を選択します。
5. "グラフ" から設計領域に "列" をドロップします。
   "外観の設定" が右側に自動的に開きます。
6. "外観の設定" の "一般" セクションで、名前を "製品別売上" に変更します。
7. "データ設定" を開きます。
   "データ設定" は右側にあります。
8. 以下の科目を追加します。
    - 製品収益 - ノートパソコン
    - 製品収益 - タブレット
9. "製品収益 - ノートパソコン" 科目を展開して、そのデータ設定にアクセスします。
10."バージョン" プロンプトで "実績" を選択します。
11."製品収益 - タブレット" 科目を展開して、そのデータ設定にアクセスします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

12."バージョン" プロンプトで "実績" を選択します。
13."期間設定" を開きます。
"期間設定" は右側にあります。
14."期間設定" で以下の値を選択します。

| フィールド | オプション |
| --- | --- |
| 層 | "四半期" を選択します。 |
| スパン | "範囲" を選択します。 |
| 固定アイコン | アイコンをクリックして、時間の固定を解除します。<br>選択して入力します。<br>• 1 か月前に遡る。<br>• 1 か月先に進める。<br>これらのオプションにより、グラフが 3 か月分のデータを表示するように変更されます。<br>• 前<br>• 現在<br>• 次 |

このグラフは、3 か月間のノートパソコンとタブレットの製品収益を示します。
15."製品別売上" グラフの "グラフのオプション" メニューで、"コピー" を選択します。
16.設計領域で右クリックし、"グラフの貼り付け" を選択します。
"外観の設定" が右側に自動的に開きます。
17."外観の設定" の "一般" セクションで、名前を "サービス別売上" に変更します。
18."データ設定" を開きます。
19."製品収益 - ノートパソコン" 科目を展開して、そのデータ設定にアクセスします。
20."科目" を "サービス収益 - 既存契約" に変更します。
21."製品収益 - タブレット" 科目を展開して、そのデータ設定にアクセスします。
22."科目" を "サービス収益 - 新規契約" に変更します。
このグラフは、3 か月間のノートパソコンとタブレットのサービス収益を示しています。

# シナリオ

## シナリオを作成

始める前に

セキュリティ:

- バージョンのアクセス制御: "非 表示"を除きます。 参照 ../../model-administration/managing-the-model/versions/locked-and-hidden-versions/goe1657930337440.dita。
- 権限:"シナリオの作成"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## このタスクについて

シナリオにより、バージョンに対する変更をドラフトしてから、そのバージョンにコミットできます。シナリオは既存のバージョンに基づいています (ベース バージョンと呼びます)。後で準備ができたら、変更をベース バージョンにマージできます。

シナリオを作成すると、それは個人用になります。自分のみが、シート、レポート、ダッシュボードのバージョン セレクターからこれらのシナリオを表示し、選択することができます。シナリオをコラボレーターと共有すると、他のユーザーもバージョン セレクターを使用してこれらのシナリオを表示し、選択することができます。シナリオには、他の計画バージョンと区別する明確なアイコンがあります。

シナリオ内のデータを更新した後、シート ビューで、ベース バージョンとは異なるシナリオ内のデータがハイライトされます。Web レポート、OfficeConnect レポート、ダッシュボードを作成して、ベース バージョンを含む他のバージョンに対してシナリオを分析できます。

複製するシナリオは、元のシナリオとすべて同じデータで始まります。元のシナリオと複製元のシナリオのいずれかに変更を加えることができます。ただし、他方に影響を与えることはありません。

## 手順

1. メイン メニューから "シナリオ" を選択します。
2. "新規追加" をクリックします。

   または、既存のシナリオにマウスを合わせます。表示される 3 つのドットをクリックして、"複製"を選択します。
3. 以下のタスクを完了します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ベース バージョン | 計画バージョンを選択します。シナリオは、データが変更されるまでベース バージョンのデータで始まります。後でシナリオをマージしたときに、シナリオ内のデータでベース バージョンを更新します。<br><br>仮想バージョン、実績、または "数式値を計算" オプションが有効になっているバージョンは選択できません。<br><br>シナリオを複製している間は、ベース バージョンを変更できないため、このオプションは表示されません。 |
| シナリオ名 | 同じベース バージョンのどのシナリオにも一致しない一意の名前を入力します。最大: 64 文字。 |
| 説明 | 最大数: 2,048 文字 |

4. "作成" をクリックします。

## タスクの結果

シナリオ名がシナリオ リストに表示されます。ベース バージョンの下にネストされたバージョン プロンプトにも表示されます。

## 次のタスク

1. シートのデータに変更を加えます。
2. (任意) レポートとグラフを作成して変更を分析します。
3. (任意) シナリオの変更をダウンロードしてレビュー ( 493ページ ) 。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. (任意) ベース バージョンへのシナリオのマージ（494ページ）。マージすると、シナリオで行った変更でベース バージョンが更新され、シナリオが削除されます。

relatedlinks
概念
概念: シナリオ（497ページ）
概念: シナリオ通知（500ページ）
参考
FAQ: シナリオ（501ページ）
例
トラブルシューティング: ベース バージョンがロックされているためシナリオが統合されない（504ページ）

## シナリオの変更をダウンロードしてレビュー

始める前に

- シナリオを作成（491ページ）.
- セキュリティ:"シナリオ変更のダウンロード " 権限
- セキュリティ:"シナリオの管理" 権限 (すべてのシナリオで変更をダウンロードする権限)

このタスクについて

自分またはコラボレーターがシナリオに変更を加えた後、その変更内容を Excel ファイルにダウンロードしてレビューできます。シナリオをマージする前に、Excel ファイルの変更内容を確認することをお勧めします。Excel ファイルには以下が表示されるため、自分やコラボレーターが行った変更を独自のビューで確認できます。

- "標準"というラベルの付いた 1 つの Excel シート上で変更されたすべての総勘定元帳、前提条件、カスタム科目。
- 変更されたすべてのキューブ シートとモデル シート各シートには、シート名を持つ固有の Excel シートがあります。
- 比較しやすいように "シナリオ値" の横に " 基本値" を 追加。
- 標準 シート タブとモデル シート タブの "変更"、"追加"、または "削除" を 示す "アクション" 列。
- 変更を追加したコラボレーターのユーザー名を表示する " ユーザー名" 列

モデル シートや標準シートで分割が追加または削除された場合、スプレッドシートには以下のみが含まれます。

- "アクション " 列で"追加" または "削除"。
- 組織
- 標準シートに入力された場合の分割ラベル。
- モデル シートに対して有効になっている行キー。モデル シート内の変更を追跡するには、モデル シートで行キーを使用することをお勧めします。

共有シナリオの場合、承認者または管理者に対して、アクションは "すべての変更をダウンロード"と表示されます。コラボレーターの場合、このオプションは "My 変更をダウンロード"と表示されます。

手順

1. メイン メニューから "シナリオ" を選択します。
2. シナリオのリストで、シナリオにマウスを合わせると、3 つのドットが表示されます。
3. 3 点ドットをクリックして、"変更をダウンロード"を選択します。
4. Excel ファイルを開き、各シートをレビューします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のタスク

(任意) ベース バージョンへのシナリオのマージ ( 494ページ ) 。

relatedlinks
概念
概念: シナリオ ( 497ページ )
参考
FAQ: シナリオ ( 501ページ )
例
トラブルシューティング: ベース バージョンがロックされているためシナリオが統合されない ( 504ページ )

## ベース バージョンへのシナリオのマージ

始める前に

- 作成した既存のシナリオ 参照 シナリオを作成 ( 491ページ ) 。
- 推奨: シナリオの変更をダウンロードしてレビュー ( 493ページ ) 。
- セキュリティ:
  - ベース バージョンの "アクセス制御" セクションの"完全アクセス"
  - "編集可能なシート アクセス" 権限
  - "シナリオをマージ" 権限 ("編集可能なシート アクセス"が必要)。
  - "シナリオを管理 " 権限この権限により、ユーザーはすべてのシナリオをマージできます。
  - マージを正常に行うには、すべての変更の交差部分に対するアクセス権が必要です。すべてのデータへの "編集" アクセス権を付与するアクセス ルールを、"シナリオを管理" 権限を持つ少なくとも 1 人のユーザーに割り当てることをお勧めします。こうすることで、共有シナリオ ワークフローでブレークダウンが発生するのを防ぐことができます。

このタスクについて

数回のクリックで、自分自身またはコラボレーターがシナリオで行ったすべての変更を、ベース バージョンに追加できます。 マージには、データ値および基礎的な数式 (該当する場合) も含まれます。シナリオをマージすると以下のようになります。

- ベース バージョンのすべての変更が保存されるため、シナリオを削除します。
- シナリオはモデル全体でバージョン ピッカーに表示されなくなります。
- シナリオとそのデータは、グラフとレポートに表示されなくなります。
- シナリオは履歴レコードとして " 統合" フォルダに移動します。
- 同じベース バージョンに基づいている他のすべてのシナリオを削除するオプションがあります。

シナリオをマージすると、最大数に達したときにさらにシナリオを作成するためのスペースも確保されます。 シナリオをマージする前に、変更をダウンロードして作業を再確認します。 次の場合、統合は禁止されています。

- 誰かがベース バージョンをロックしています。
- 誰かが "ワークフロー" のバージョンの組織をロックしました。
- シナリオをマージする権限を失っています。

手順

1. メイン メニューから "シナリオ" を選択します。
2. シナリオ リストで、マージするシナリオにマウスを合わせ、3 つのドットを表示します。
3. 3 つのドットをクリックして、"統合"を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. (任意) このチェックボックスをオンにして、同じベース バージョンに基づく他のシナリオを削除します。
   このオプションは、異なる複数のシナリオをドラフトし、統合するシナリオを選択した場合に役立ちます。この時点で、他者は無関係である可能性があります。
5. "シナリオをマージ" をクリックして削除します。

タスクの結果

シナリオで加えた変更は、ベース バージョンに移行されます。シナリオは "シナリオ" ページの "統合 " フォルダに移動します。統合した日付のレコードとして機能します。

次のタスク

変更履歴レポートの実行（170ページ）. ベース バージョンで変更履歴レポートを実行して、統合によって加えられた変更をレビューできます。

relatedlinks
概念
概念: シナリオ（497ページ）
タスク
バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロックまたは非表示（816ページ）
参考
FAQ: シナリオ（501ページ）
例
トラブルシューティング: ベース バージョンがロックされているためシナリオが統合されない（504ページ）

## 共有シナリオのコラボレーションの管理

始める前に

- シナリオをコラボレーターと共有することができます。
- セキュリティ:
  - "シナリオの共有 " 権限

このタスクについて

シナリオを作成したら、変更に寄与するコラボレーターと共有できます。コラボレーターは、任意のメッセージ、シナリオ名、およびダッシュボードやシートなどのリソースへのリンクが記載された通知を受け取ります。

コラボレーティブがシナリオに変更を加えた後、関連アクションを表示できます。

- レビューのために送信: このオプションを選択すると、コラボレーターのステータスが "送信済"に更新され、変更がレビュー可能になったことをオーナーに通知が送信され、コラボレーターのシナリオのシートがロックされます。
- リコールの送信: このオプションは、コラボレーターが追加の変更や訂正を要求する場合に使用します。ステータスが "送信済" から "進行中" に反転し、シートのロックが解除され、オーナーに通知されます。
- コラボレーターの表示: このオプションでは、コラボレーターが他のコラボレーターのリストを表示したり、各自の送信ステータスを確認したりすることができます。

シナリオ所有者は、"送信の管理" ダイアログから共有シナリオのコラボレーション ステータスを管理できます。このダイアログには、以下が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- コラボレーター名: ユーザー グループと共有した場合、個々の名前が "名前" 列の下に表示されます。
- コラボレーションのステータス:
  - 進行中: コラボレーターは変更を完了していません。これは、コラボレーターが "レビュー用に送信" を選択する前の、シナリオの初期ステータスです。
  - 送信済: コラボレーターがレビューのために変更を送信しました。
  - 承認済: シナリオ オーナーが変更を承認したことを示します。オーナーがシナリオをマージ、差戻し、変更を破棄、または削除するまでシートはロックされます。
  - 差戻し: オーナーは、追加の変更のためにシナリオをコラボレーターに差し戻しました。コラボレーターのシートのロックが解除されました。シナリオは、コラボレーターが再びレビューのために送信するまで、このステータスのままになります。

管理ユーザーは、共有シナリオの送信を管理することもできます。ただし、シナリオの変更を差し戻したり承認したりすることはできません。

コラボレーションのステータスに応じて、共有シナリオに対してオーナーとして適切なアクションを実行できます。アクションを確認するときに、コラボレーターへのカスタム メッセージを含めることもできます。

手順

1. メイン メニューから "シナリオ" を選択します。
2. "共有 " フォルダを選択します。
3. 共有シナリオにマウスを合わせると、"アクション メニュー" (縦に 3 点ドットのアイコン) が表示されます。"送信内容を管理" を選択します。
4. 各コラボレーターについて、"アクション" メニューをクリックし、適切なアクションを選択します。以下のタスクを完了します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 承認 (チェックマーク) | 変更を受け入れる場合、このアクションを選択します。 |
| 差戻し (X): | コラボレーターが追加で変更できるようにシナリオのロックを解除したい場合は、このアクションを選択します。<br>差し戻したときにすべての変更を破棄することもできます。 |
| 変更をダウンロード | 変更内容を確認したい場合は、このアクションを選択し、特定のコラボレーターによって実行されたすべての変更にフィルタリングされた Excel シートをダウンロードします。 |
| 変更を破棄 | コラボレーターがシナリオに加えた変更を削除する場合は、このアクションを選択します。 |
| すべて承認 | すべてのコラボレーターによるすべての変更をレビューして受諾している場合、このオプションを選択するとすべての変更が一度に承認されます。このオプションを使用すると、すべてのコラボレーターのすべての変更を受け入れることができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

送信のステータスはコラボレーターに通知されます。その後、共有されたシナリオで必要なフォローアップ アクションを実行できます。変更をマージした場合、その変更内容がシナリオ データに反映されます。

例

次のタスク

## 概念: シナリオ

シナリオは、ベース バージョンを what-if シナリオを構築する、またはベース バージョンへの変更を管理するための開始点として使用します。これらのシナリオでは、以下のことが可能です。

- ベース バージョンに影響を与えずに、ベース バージョンのデータに対して申請の変更を加えます。
- シナリオ データのレポートおよびグラフを作成して、ベース バージョンまたは他のバージョンと比較して分析します。
- 変更に寄与できるコラボレーターとシナリオを共有します。
- 他者の変更の差戻し、破棄、または承認を行います。
- 数回のクリックで、申請の変更をベース バージョンにマージします。

現在のバージョンに最終的な数値を入力する前に、さまざまな what-if シナリオをドラフトおよび評価する必要がある会社や部門において、シナリオは適切に機能します。

シナリオのベース バージョン

すべてのシナリオにはベース バージョンが必要です。 ベース バージョンは、仮想バージョンを除き、計画バージョンのみにすることができます。シートへのデータ入力によってシナリオのデータを変更するまでは、新しいシナリオにはベース バージョンと同じデータが含まれます。 シナリオを複製すると、元のシナリオの変更されたデータがすべて新しいシナリオにコピーされます。

シナリオを選択中

シナリオを作成した後、または他のユーザーが自分とシナリオを共有した後、それらを "バージョン" プロンプトで確認できます。ベース バージョンはリスト内で展開可能になります。シナリオはベース バージョン内でネストされます。バージョン リスト内のシナリオには特殊アイコンがあります。

シナリオ コード

シナリオを作成すると、シナリオのコードが生成されます。コードを変更するには、シナリオのリストでシナリオにマウスを合わせると、3 つのドットが表示されます。ドットをクリックして "編集"を選択します。

コードは次の状態にない必要があります。

- 既存のシナリオのコードまたは既存のバージョンの名前と一致します。
- 1,024 文字を超えてください。

シナリオ内のデータ

シナリオ内のデータに変更が加えられるまで、シナリオにはベース バージョンと同じデータが含まれます。シナリオ データはまだライブです。つまり、ベース バージョンのデータを変更しても、シナリオに対してその変更が保持されます。このルールの唯一の例外は、シナリオ内の同じ交差部分に変更を加えた場合です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: シナリオを作成すると、データは次のようになります。

| Account | 2024 年 1 月 | 2024 年 2 月 | 2024 年 3 月 |
|---|---|---|---|
| 経費 | 10,000 | 12,000 | 8,000 |

シナリオで 1 月と 2 月に変更を加え、3 月はベース バージョンのままにします。

| Account | 2024 年 1 月 | 2024 年 2 月 | 2024 年 3 月 |
|---|---|---|---|
| 経費 | 8,000 | 10,000 | 8,000 |

その後、自分または他のユーザーが 3 月の値を 10,000 に、1 月の値を 9,000 に変更したとします。シナリオでは 1 月と 2 月がすでに変更されているため、シナリオでは 3 月のみが変更されます。

| Account | 2024 年 1 月 | 2024 年 2 月 | 2024 年 3 月 |
|---|---|---|---|
| 経費 | 8,000 | 10,000 | 10,000 |

これにより、変更を維持しながら、シナリオには常に最新のデータが表示されます。

データを入力するにはシートを使用する必要があります。 シートでは、シナリオ データがベース バージョンと異なる場合、セルが黄色でハイライト表示されます。

シナリオをさらに分析するために、レポートとグラフを作成し、シナリオを他のシナリオと比較、ベース バージョンと比較、または実績データと比較できます。

以下のレポート タイプでシナリオを表示または比較できます。

- マトリクス
- モデル

マトリクス レポートでは、以下のシナリオを追加できます。

- 行または列
- レポートのパラメータまたはフィルタとして。
- "差異" カスタム計算

レポートに適用するシナリオは 、"レポート情報" パネルに表示されます。レポート ビルダーの "要素" ペインに、シナリオはベース バージョン要素の子として表示されます。

レポートにシナリオを追加すると、兄弟として表示されます。親シナリオと子シナリオの両方をフィルタに追加すると、親シナリオのみが表示されます。シナリオの開始日と終了日は、親バージョンに基づきます。

OfficeConnect のレポートでは、既存のシナリオはベース バージョンの子として表示されます。属性値をレポートにドラッグできます。

"ダッシュボード" では、以下からシナリオを選択できます。

- メイン ページのバージョン ドロップダウン プロンプト。
- グラフ設定内のグラフ バージョンのドロップダウン プロンプト

ダッシュボード グラフは、選択したシナリオに基づいてデータをビジュアル化します。参照と比較バージョンをサポートするグラフについては、メイン ページのバージョン ドロップダウンからシナリオを選択して、固定済のベース バージョンと比較することができます。比較を設定するには、比較値としてベース バージョンを選択し、参照バージョンとしてバージョン セレクターからデフォルト値を使用します。

属性マッピング テーブルは、メイン ページのバージョン ドロップダウンからシナリオを選択すると表示専用になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### シナリオ ページ

権限に応じて、"シナリオ" ページが変更され、ビューをフィルタリングするためのフォルダを含むサイドパネルが表示されます。

- すべてのシナリオ: 以下を表示します。
  - ″シナリオを管理″ 権限を持つ管理ユーザーの "個人"、"共有"、"グローバル" フォルダにあるすべてのシナリオ。
  - 管理者以外のユーザーの場合は、"個人" および "共有" フォルダのすべてのシナリオ
- 個人: 作成したシナリオを表示します。共有したシナリオは、"共有" フォルダに移動します。
- 共有: あなたが他のユーザーと共有したシナリオ、または他のユーザーがあなたと共有したシナリオが表示されます。
- グローバル:
  - 管理ユーザー向けに、他のユーザーが所有する個人シナリオと、所有者または共有していない共有シナリオが表示されます。これにより、管理者はシステム内のすべてのシナリオを確認し、必要なアクションを実行できます。
  - 管理者以外のユーザーの場合は、そのユーザーが所有するすべての個人シナリオと、そのユーザーが共有したシナリオおよびそのユーザーと共有されているシナリオが表示されます。
- 統合済: 統合されたシナリオの履歴を取得します。

リストを検索して並べ替えることができます。ベース バージョンでリストをフィルタすることもできます。

縦の 3 点ドットが表示されるまで、シナリオにマウスを合わせることができます。ドットをクリックして、"アクション メニュー" を開きます。メニューには以下のオプションが含まれています。

- 詳細の表示: すべての列を表示できます。このオプションは、ウィンドウが切り捨てられている場合にのみ表示されます。
- 編集: 作成したシナリオでのみ使用できます。名前、コード、説明を編集する。シナリオを編集しても、シナリオ内の変更されたデータには影響しません。シナリオのベース バージョンは変更できません。
- 削除: 作成したシナリオ、または ″シナリオを管理″ 権限がある場合の任意のシナリオで使用できます。
- 複製: 作成したシナリオでのみ使用できます。シナリオのコピーを作成します。 複製されたシナリオには、元のシナリオで行われたデータ変更がすべて自動的に含まれます。
- 変更のダウンロード:″シナリオの変更をダウンロード″ 権限で使用できます。マージ前にシナリオに加えた変更の詳細を確認するには、変更内容を Excel ファイルにダウンロードします。
- 統合: 自分が作成したシナリオ、および ″シナリオの統合″ 権限を持つユーザーのみに使用できます。シナリオで行った変更をベース バージョンに追加します。マージすると、すべての変更がベース バージョンに移動するため、シナリオが削除されます。
- 共有: 作成したシナリオで使用可能であり、以下の操作ができます。
  - 個々のユーザーやグループを選択して、共同で作業します。
  - 必要に応じて、コラボレーターがレビューおよび変更するデータがあるダッシュボードを選択します。
  - 必要に応じて、特定の指示や詳細を含むノートをコラボレーターに追加する。
- ″送信の管理″: 管理者と承認者が利用できます。このオプションは共有シナリオでのみ表示され、コラボレーターのリスト、そのステータス、該当するアクションが表示されます。参照 共有シナリオのコラボレーションの管理 （ 495ページ ）。

### 最大シナリオ数

サポートの上限は次のとおりです。

- 各ユーザーに対して 15 件のシナリオ (バージョン全体)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- シナリオにアクセスできるすべてのユーザーについて、シナリオごとに 2,000 件のシートが保存されます。
- インスタンスごとに 5,000 件のシナリオ。

一度に 50 人を超えるコラボレーターとシナリオを共有しないことをお勧めします。

"シナリオ" ページでは、ツールバーの "シナリオの容量の使用状況 " ボタンをクリックすることで、シナリオの上限を確認できます。ベース バージョンのクローンを作成した際に、管理者がすべてのシナリオをコピーするため、シナリオ数は増える可能性があります。

最大値を超えないようにするには、以下のことを行ってください。

- シナリオを頻繁にマージまたは削除します。
- シナリオとバージョンを適切に使用します。参照 FAQ: シナリオ ( 501ページ )。

シナリオの制限

シナリオでは、以下の機能はサポートされていません。

- 手動再計算
- 変更履歴レポート シナリオの変更をベースにマージした後、ベース バージョンで変更履歴を実行して、統合によって生じた変更をレビューできます。
- インテグレーション設定を使用したシナリオ データのインポートとエクスポート
- シナリオ データの手動でのインポートとエクスポート
- インテグレーション設定におけるシナリオのデータ ソースとしてのプランニング。

シナリオでは、以下の領域を編集できません。これらの領域はベース バージョンから入力されます。

- 共有数式
- 為替レート
- デフォルトの科目数式と数式オーバーライド
- モデル シートの値とスプレッドのルックアップ
- メトリック科目
- ダッシュボードからの派生属性ルール
- 配賦ルール
- バージョンの使用可否設定など、バージョン固有のメタデータのプロパティ。

relatedlinks
タスク
シナリオを作成 ( 491ページ )
シナリオの変更をダウンロードしてレビュー ( 493ページ )
ベース バージョンへのシナリオのマージ ( 494ページ )
共有シナリオのコラボレーションの管理 ( 495ページ )
参考
FAQ: シナリオ ( 501ページ )
例
トラブルシューティング: ベース バージョンがロックされているためシナリオが統合されない ( 504ページ )

## 概念: シナリオ通知

シナリオの作成から承認まで、オーナーまたはコラボレーターとして、各ステップが通知されます。通知には以下が含まれます。

- シナリオ名
- ダッシュボードまたはエリア (含まれている場合)、または "シナリオ" ページにリンクします。
- カスタム メッセージ (指定されている場合)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

すべての通知には、アプリケーションのツールバーにあるベルのアイコンからアクセスできます。

オーナーが以下の場合に、コラボレーティブに通知が届きます。

- シナリオを共有する。
- 送信された変更を承認または差し戻す。
- 変更を破棄する。
- シナリオの変更をベース バージョンにマージします

オーナーは、以下の場合に通知を受け取ります。

- コラボレーティブは、レビューまたはリコールの送信のためにシナリオを送信します。
- すべてのコラボレーターが変更の送信を完了します。

Adaptive Planning のみのインスタンスでは、インスタンスが E メール通知用に設定されている場合、E メール通知も自動的に送信されます。HCM または財務管理との Adaptive Planning の場合、Adaptive Planning と Workday の両方を介して通知が送信されます。

## FAQ: シナリオ


- シナリオにマウスを合わせると、関連アクションが "削除" だけになるのはなぜですか？
- リストされているシナリオに対して "変更の 統合" または "ダウンロード" オプションが表示されないのはなぜですか？
- ベース バージョンのデータが変更されると、既存のシナリオではどのような変更が行われますか？
- シナリオの制限は、バージョンごとに各ユーザーに適用されますか？
- クローン化されたバージョンのすべてのシナリオをコピーすることによって、ユーザーがシナリオの最大値に達するとどうなりますか？
- 誰かがベース バージョンをロックした場合、自分のシナリオはどうなりますか？
- マージした後、シナリオで行った変更の一部がベース バージョンに含まれないのはなぜですか？
- 複数のユーザーが自分のシナリオからの変更を同じベース バージョンにマージするとどうなりますか？
- ベース バージョンへのマージされた変更を取り消すにはどうすればよいですか？
- 個人シナリオを含むレポートを共有するとどうなりますか？
- シナリオはモデルのパフォーマンスにどのように影響しますか？
- シナリオまたは新しいバージョンを作成する必要がありますか？（503ページ）


| | |
|---|---|
| シナリオにマウスを合わせると、関連アクションが "削除" だけになるのはなぜですか？ | "シナリオを管理" 権限がある場合、他のユーザーが作成したシナリオのみをレビューおよび削除できます。 |
| シナリオの "変更の 統合" または "ダウンロード" オプションがリストに表示されないのはなぜですか？ | シナリオをマージ または シナリオ変更をダウンロードする 権限がありません。 他のユーザーが作成したシナリオを表示している可能性もあります。 |
| ベース バージョンのデータが変更されると、既存のシナリオではどのような変更が行われますか？ | このシナリオでは、シナリオですでに行った変更と競合するベース バージョンへの変更は無視されます。シナリオで変更していないデータ ポイントについては、ベース バージョンに加えられた変更がすべて取り込まれます。これらの更新により、シナリオを作業する際に、ベース バージョンの最新のデータを確認できるようになります。 |
| シナリオの制限は、バージョンごとに各ユーザーに適用されますか？ | シナリオの上限は、各ユーザーあたりすべてのバージョンで 15 件です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| クローン化されたバージョンのすべてのシナリオをコピーすることによって、ユーザーがシナリオの最大値に達するとどうなりますか？ | このバージョンのクローンが作成されなかったことを示すメッセージが表示されます。次の 2 つのオプションがあります。<br>• "すべてのシナリオを移動 " チェックボックスをオンにし、バージョンを再度クローン化してみてください。元のバージョンからシナリオを移動するため、ユーザーは同じ数のシナリオを保持します。<br>• 両方のシナリオのチェック ボックスをオフのままにすると、シナリオなしでバージョンのクローンが作成されます。 |
| 誰かがベース バージョンをロックした場合、自分のシナリオはどうなりますか？ | 誰かがベース バージョンをロックした後でも、シナリオに変更を加えることができます。ロックされたベース バージョンで新しいシナリオを引き続き作成することもできます。ただし、シナリオをベースにマージするには、ベース バージョンのロックを解除する必要があります。 |
| マージした後、シナリオで行った変更の一部がベース バージョンに含まれないのはなぜですか？ | アクセス ルールによってデータの場所へのアクセスが削除された場合、統合中にシナリオ データに加えられた変更は無視されます。例: 科目へのアクセス権がなくなった場合、その科目のシナリオで行われた変更はマージされません。ほとんどの場合、マージしたシナリオからこれらの変更を取得することはできません。 |
| 複数のユーザーが自分のシナリオからの変更を同じベース バージョンにマージするとどうなりますか？ | 最新の統合が保存されます。このプロセスはシートの処理方法と似ています。1 つのシートで複数の人が一度に作業できます。最新の保存が適用されます。 |
| ベース バージョンへのマージされた変更を取り消すにはどうすればよいですか？ | マージする前に、シナリオの変更をダウンロードして Excel ファイルを保存できます。Excel ファイルには、ベース バージョンの元の値とシナリオ内の変更が含まれます。その後、元の値を手動で入力できます。<br><br>または、マージする前にベース バージョンのクローンを作成することもできます。<br>1. ベース バージョンを複製してすべてのデータをコピーします。ただし、シナリオを移動したりコピーしたりしないでください。<br>2. 新しいバージョンが特定の日付時点のコピーであることを示す名前を作成します。<br>3. 他のユーザーがデータを変更できないように、このコピーをロックします。コピーしたバージョンは、必要に応じて元のバージョンとして保持できます。<br>4. シナリオをマージした後、ベース バージョンのロック済コピーとマージ後のベース バージョンを比較する差異レポートを作成します。<br>5. 統合されたデータの影響を確認します。<br>6. そこで満足ならば、そのコピーを削除できます。満たされていない場合は、マージされた |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | バージョンを削除して、コピーのロックを解除できます。 |
| 個人シナリオを含むレポートを共有するとどうなりますか？ | 他のユーザーのシナリオからはデータが削除されます。 |
| シナリオはモデルのパフォーマンスにどのように影響しますか？ | シナリオは、バージョン全体の内容ではなく、シナリオの変更のみを保存するため、クローン化されたバージョンよりもパフォーマンスに影響を及ぼしません。以下のガイドラインに従うことをお勧めします。<br>• インスタンスごとのシナリオ数が 9,000 を超えないようにしてください。<br>• クローン化された計画バージョンにシナリオを含める場合は、" すべてのシナリオをコピー"ではなく "すべてのシナリオを移動" オプションを使用します。<br>• マージ時に、"マージ後に、 このベース バージョンに対して作成されたすべてのシナリオを削除 " チェックボックスをオンにします。<br>• シナリオを管理し、未使用のシナリオまたは古いシナリオを削除します。必要に応じて、"変更のダウンロード" を使用してシナリオの記録を保存できます。<br>• "すべてのシナリオを管理" 権限がある場合、シナリオを監視および管理します。例: 未使用のシナリオ、現在のバージョンではなくなったベース バージョンのシナリオ、ロック済バージョンのシナリオを削除します。 |
| シナリオまたは新しいバージョンを作成する必要がありますか？ | シナリオは以下の目的で使用します。<br>• シート内または科目階層内で行われる、少量の変更をテストします。<br>• 数か月ではなく、数週間以内に行う予定のさまざまな変更を試してください。<br>• モデルのサブセットに影響する変更を加えます。適正ゲージは約 10,000 セル未満です<br>使用するバージョンは以下のとおりです。<br>• インポート、ローダ、API の使用を必要とする一括変更<br>• 10,000 個を超えるセルに影響を与える可能性のある変更。 |

relatedlinks
概念
概念: シナリオ ( 497ページ )
概念: シナリオ通知 ( 500ページ )
タスク
シナリオを作成 ( 491ページ )
参考
ステップ: ワークフローの使用 ( 512ページ )
参考: 計画バージョンの設定 ( 810ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

# トラブルシューティング: ベース バージョンがロックされているためシナリオが統合されない

ロックされたベース バージョンにシナリオをマージすることはできません。エラー メッセージに基づいて、適切な権限があればバージョンのロックを解除できます。

原因:

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| ベース バージョンはバージョン管理でロックされています。 | セキュリティ:"バージョン" 権限<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "バージョン" をクリックします。<br>3. バージョン リストからベース バージョンを選択します。<br>4. "アクセス制御" セクションで "ロック済バージョン" チェック ボックスをオフにします。<br>5. "ロック済バージョン" チェック ボックスがすでにオフになっている場合、ユーザー タイプに応じて "編集可能なシート アクセス" プロンプトまたは " 管理" プロンプトから "完全アクセス" を選択します。<br>参照 ../../model-administration/managing-the-model/versions/locked-and-hidden-versions/goe1657930337440.dita。 |
| ベース バージョンはワークフローでロックされています。 | セキュリティ:"組織を承認 " 権限<br>1. メイン メニューから "ワークフロー" を選択します。<br>2. バージョン プロンプトでベース バージョンを選択します。<br>3. シナリオで変更のある組織については、ステータスを "進行中" または "却下"に変更します。 |

relatedlinks
概念
概念: シナリオ ( 497ページ )
概念: シナリオ通知 ( 500ページ )
タスク
シナリオを作成 ( 491ページ )
共有シナリオのコラボレーションの管理 ( 495ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# プロセスとワークフロー

## プロセスとプロセス タスクの作成

始める前に

- グループの標準タスクの場合、"管理" のユーザー グループにこれらのユーザーが存在することを確認します。
- タスクが割り当てられたユーザーに通知を送信するには、"管理" > "一般設定"で " ワークフローとプロセス トラッカーのアラート" チェックボックスをオンにします。
- セキュリティ:
  - "プロセス トラッカーへのアクセス" 権限
  - "自分に割り当てられたタスクの完了" 権限
  - "すべてのタスクの完了" 権限
  - "タスクの管理" 権限
  - "プロセスの管理" 権限

このタスクについて

プロセスとプロセス タスクを使用すると、チームが共同でプランニング サイクルを完了できます。チームはプロセスを使用して以下を行うことができます。

- タスクを作成、管理、完了する。
- 設定された期日に向けてチームが取り組むタスクの進捗状況を監視する。
- タスクのメモやプロセス管理者からの通知を使用して、コミュニケーションを取る。

プロセス管理者は、以下を作成できます。

- 個別のユーザーに割り当てることができる標準プロセス タスク
- ユーザー グループに割り当てることができる標準プロセス タスク
- 組織ワークフロー タスク。バージョンの特定の組織のワークフロー ステータスの変更を追跡します。
- シート ワークフロー タスク。バージョンの特定の前提条件シートのワークフロー ステータスの変更を追跡します。

これらのタスクには、タスク名、タスクの説明、タスクの期日、添付ファイル、メモを含めることができます。

標準タスクは、関連する組織割当シート、前提条件シート、レポート、ダッシュボード、またはワークフローに直接リンクできます。割り当てられたユーザーは、プロセス ガイド (プロセス トラッカーまたは通知からアクセス可能) で直接アクションを実行できます。

組織ワークフロー タスクおよびシート ワークフロー タスクは、関連する前提条件シートとワークフロー組織を参照できます。アクセス権を持つユーザーがアクションを実行するには、"シート"、"前提条件"、"ワークフロー" の各ページに手動で移動する必要があります。

既存のタスクのクローンを作成し、クローンを変更することで、時間を節約できます。

手順

1. メイン メニューから "プロセスの > 概要" を選択します。
2. プロセスを作成するには、"プロセス アクション" メニューから "プロセスの作成" を選択します。
   "プロセス アクション" メニューは "プロセスの概要" ページの右上隅の、"プロセス" プロンプトの隣にあります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 以下を考慮して、プロセスを作成します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 既存のプロセスからタスクを追加 | (任意) 既存のプロセスからすべてのタスクを追加します。新しい目標期日に合わせて期日を更新することもできます。このオプションを使用して新しいプロセスを作成した後、新しい各タスクを手動で編集して、バージョンや割当先などの詳細を変更できます。 |
| ワークフロー タスクのバージョン (全タスクに適用) | (任意) 既存のプロセスからタスクを追加する場合、組織ワークフロー タスクおよびシート ワークフロー タスクの新しいコピーでバージョンを変更できます。標準タスクの新しいコピーでは、その標準タスクのコンテンツとしてワークフローが含まれている場合でも、バージョンは自動的に更新されません。 |
| タスク通知を自動送信 | (任意) タスクの作成時および変更時に標準タスクの割当先に通知を送信するには、このチェックボックスをオンにします。<br><br>プロセスでは有効開始日は使われません。通知の有無にかかわらず、ユーザーはタスクの作成後すぐにタスクに着手し、完了できます。プロセス管理者がプロセス全体を作成し終える前にユーザーがタスクに着手できないようにするには、このチェックボックスをオフのままにします。 |

4. タスクを作成します。
   タスクを作成すると、以下のロジックに従って自動的に順序が設定されます。
   a. 期日最も早いタスクはスタックの一番上に、新しいタスクは一番下に表示されます。
   b. 期日が同じ場合は、タスク名別にソートします。
   c. 期日とタスク名の両方が同じ場合は、割当先名別に並べ替えます。
   d. 上記のすべてが同じ場合、タスク作成日別に並べ替えます。

   次を参照してください。
   - プロセスの標準タスクの作成 ( 506ページ ) .
   - プロセスの組織およびシート ワークフロー タスクの作成 ( 509ページ ) .
5. (任意) "プロセス アクション" メニューから "通知の送信" を選択して、割当先に通知し、プロセス ガイドに誘導します。
   "プロセス アクション" メニューは "プロセスの概要" ページの右上隅の、"プロセス" プロンプトの隣にあります。

   プロセスの作成時に "タスク通知を自動送信" を選択した場合、標準タスクの割当先には通知が届きますが、プロセス ガイドのリンクは送信されません。割当先のユーザーは、メイン メニューからプロセス ガイドに移動できます。

## プロセスの標準タスクの作成

始める前に

- グループ タスクの場合、"管理" のユーザー グループにこれらのユーザーが存在することを確認します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- タスクが割り当てられたユーザーに通知を送信するには、"管理" > "一般設定"で " ワークフローとプロセス トラッカーのアラート" チェックボックスをオンにします。
- セキュリティ:
  - "プロセス トラッカーへのアクセス" 権限
  - "自分に割り当てられたタスクの完了" 権限
  - "すべてのタスクの完了" 権限
  - "タスクの管理" 権限
  - "プロセスの管理" 権限

このタスクについて

プロセスとプロセス タスクを使用すると、チームが共同でプランニング サイクルを完了できます。チームはプロセスを使用して以下を行うことができます。

- タスクを作成、管理、完了する。
- 設定された期日に向けてチームが取り組むタスクの進捗状況を監視する。
- タスクのメモやプロセス管理者からの通知を使用して、コミュニケーションを取る。

プロセス管理者は、標準タスクを作成して以下に割り当てることができます。

- 個別のユーザー
- ユーザー グループ

標準タスクでは以下が可能です。

- タスク名、タスクの説明、タスクの期日、添付ファイル、メモを含める。
- 関連する組織割当シート、レポート、ダッシュボード、またはワークフローに直接リンクする。割り当てられたユーザーは、プロセス ガイド (プロセス トラッカーまたは通知からアクセス可能) で直接アクションを実行できます。

これらのユーザーは、プロセス ガイドでタスクに対してアクションを実行します。

例: "営業成績" シートをレビューするタスクを営業マネージャに割り当てます。これらの営業マネージャは、プロセス ガイド タスクで直接シートを編集し、タスクを完了としてマークできます。

既存のタスクのクローンを作成し、クローンを変更することで、時間を節約できます。

手順

1. メイン メニューから "プロセスの > 概要" を選択します。
2. プロセスに移動します。
3. "タスクを作成" を選択します。
4. 以下を考慮して、プロセス タスクを作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| タスク タイプ | "標準タスク" を選択します。 |
| 割当タイプ | 特定のユーザーまたはユーザー グループにタスクを割り当てます。タスクを作成した後、この割当タイプを変更することはできません。割当タイプが異なるタスクには、別のタスクを作成します。 |
| ステータス | タスクを作成したときに完了としてマークします。 |
| 割当先 | 検索バーで氏名、E メール アドレス、ユーザー グループを検索できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | グループに割り当てるタスクを作成した後は、グループ割当先を変更できません。グループ割当先が異なるタスクには、別のタスクを作成します。 |
| このタスクを完了する必要があるグループ メンバーは何人ですか？ | グループ タスクの完了条件を選択します。<br>• すべてのグループ メンバー: タスクを完了するには、グループ内の各ユーザーが自分の割当を完了する必要があります。例: グループ メンバー全員が経費シートでアクションを実行する必要がある計画プロセスを開始します。<br>• 任意のグループ メンバー: グループ内の 1 人のユーザーのみが割当を完了すれば、タスクを完了としてマークできます。1 つのタスクを多くのユーザーと共有します。例: ファイナンス部門のすべてのユーザーが、会社のメリット給計算率を更新できます。<br>タスクを作成した後、この値を変更することはできません。 |
| コンテンツ | 割り当てられたユーザーのタスクのコンテキストを選択します。割り当てられたユーザーは、プロセス ガイドから自分のタスクでこのコンテンツに直接アクセスできます。<br>• なし: ユーザーは Adaptive Planning を使用せずにタスクを完了できます。例: 実績を最新の状態にするために、期日までに経費レポートを提出するよう促すリマインダーの E メールを全従業員に送信します。<br>• シート: タスクの組織割当シートとバージョンを選択できます。<br>• 前提条件シート: タスクの前提条件シートとバージョンを選択できます。<br>• レポート: タスクの共有レポートとバージョンを選択できます。<br>• ダッシュボード: ダッシュボードを選択し、さらにタスクの特定のエリアやダッシュボードを選択できます。割り当てられたユーザーは、プロセス ガイドから関連するコンテキストを見ることができます。<br>• ワークフロー: ワークフローのバージョンを選択できます。ユーザーが組織を送信すると、承認者に通知されます。<br>タスクを割り当てる際には、Adaptive Planning はこれらのユーザーおよびユーザーグループにコンテンツへのアクセス権があるかどうかを検証しません。アクセス権と権限の検証は、これらのユーザーがタスクを表示 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | するためにプロセス ガイドに移動するときに実施されます。 |
| "期日" または "プロセスの目標期日までの日数*"<br><br>"期日" または "プロセスの目標期日からの日数*" | 期日、またはタスクが締め切られるプロセスの目標期日までの日数を選択します。<br><br>期日と目標期日ではタイムゾーンが考慮されます。ユーザーのローカル時刻に合わせて表示されます。例: ロサンゼルスのプロセス管理者が、1:00:00 (PST) を期日とするタスクを作成したとします。ニューヨーク市の割当先は、異なるタイムゾーンで勤務しているにもかかわらず、1:00:00 (EST) が期日と表示されます。 |

タスクの結果
タスクを作成すると、以下のロジックに従って自動的に順序が設定されます。

1. 期日最も早いタスクはスタックの一番上に、新しいタスクは一番下に表示されます。
2. 期日が同じ場合は、タスク名別にソートします。
3. 期日とタスク名の両方が同じ場合は、割当先名別に並べ替えます。
4. 上記のすべてが同じ場合、タスク作成日別に並べ替えます。

## プロセスの組織およびシート ワークフロー タスクの作成

始める前に

- タスクが割り当てられたユーザーに通知を送信するには、"管理" > "一般設定"で " ワークフローとプロセス トラッカーのアラート" チェックボックスをオンにします。
- セキュリティ:
  - "プロセス トラッカーへのアクセス" 権限
  - "自分に割り当てられたタスクの完了" 権限
  - "すべてのタスクの完了" 権限
  - "タスクの管理" 権限
  - "プロセスの管理" 権限

このタスクについて

プロセスとプロセス タスクを使用すると、チームが共同でプランニング サイクルを完了できます。チームはプロセスを使用して以下を行うことができます。

- タスクを作成、管理、完了する。
- 設定された期日に向けてチームが取り組むタスクの進捗状況を監視する。
- タスクのメモやプロセス管理者からの通知を使用して、コミュニケーションを取る。

プロセス管理者は、標準タスクか以下のいずれかを作成できます。

- 組織ワークフロー タスク。バージョンの特定の組織のワークフロー ステータスの変更を追跡します。
- シート ワークフロー タスク。バージョンの特定の前提条件シートのワークフロー ステータスの変更を追跡します。

組織ワークフロー タスクおよびシート ワークフロー タスクでは、以下が可能です。

- タスク名、タスクの説明、タスクの期日、添付ファイル、メモを含める。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 関連する前提条件シートとワークフロー組織を参照する。アクセス権を持つユーザーがアクションを実行するには、"前提条件" および "ワークフロー" の各ページに手動で移動する必要があります。

既存のタスクのクローンを作成し、クローンを変更することで、時間を節約できます。

手順

1. メイン メニューから "プロセスの > 概要" を選択します。
2. プロセスに移動します。
3. "タスクを作成" を選択します。
4. 以下を考慮して、プロセス タスクを作成します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| タスク タイプ | 次のいずれかを選択します。<br>• 組織ワークフロー タスク。<br>• シート ワークフロー タスク。 |
| "期日" または "プロセスの目標期日までの日数*"<br>"期日" または "プロセスの目標期日からの日数*" | 期日、またはタスクが締め切られるプロセスの目標期日までの日数を選択します。<br>期日と目標期日ではタイムゾーンが考慮されます。ユーザーのローカル時刻に合わせて表示されます。例: ロサンゼルスのプロセス管理者が、1:00:00 (PST) を期日とするタスクを作成したとします。ニューヨーク市の割当先は、異なるタイムゾーンで勤務しているにもかかわらず、1:00:00 (EST) が期日と表示されます。 |

タスクの結果
タスクを作成すると、以下のロジックに従って自動的に順序が設定されます。

1. 期日最も早いタスクはスタックの一番上に、新しいタスクは一番下に表示されます。
2. 期日が同じ場合は、タスク名別にソートします。
3. 期日とタスク名の両方が同じ場合は、割当先名別に並べ替えます。
4. 上記のすべてが同じ場合、タスク作成日別に並べ替えます。

## プロセスでのタスクの完了

始める前に

- 管理者から、タスクに関連する以下のコンテンツへのアクセス権がユーザーに割り当てられていることを確認します。
  - ダッシュボード
  - 組織
  - レポート
  - シート
  - バージョン。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:
  - タスクにアクセスして完了するには、以下の権限が必要です。
    - "プロセス トラッカーへのアクセス" 権限
    - "自分に割り当てられたタスクの完了" 権限
    - "すべてのタスクの完了" 権限。ユーザー本人に割り当てられていない個別またはグループ タスクの完了ステータスを変更できます。
  - タスクに関連付けられたコンテンツにアクセスするには、以下の権限が必要です。
    - ワークフローに対する "組織の承認" 権限。階層組織の承認者がプロセス トラッカーでワークフローの標準タスクを介して組織を承認できるようにします。
    - "シートへのアクセス" 権限 (シートを表示するため)
    - "編集可能なシート アクセス" 権限 (シートを編集するため)
    - Web レポートに対する "レポートへのアクセス" 権限
    - ダッシュボードに対する "ダッシュボードへのアクセス" 権限

### このタスクについて

プロセス管理者は、以下のタスクを完了させるために、次のプロセス タスクを作成します。

- ユーザーに対して完了するよう割り当てるタスク
- ユーザーが所属するグループに対して、完了するよう割り当てるタスク

プロセス管理者は、ユーザーまたはユーザーが所属するグループに割り当てられたタスクを確認、完了できるプロセス ガイドへのリンクを記載した通知をユーザーに送信することができます。

プロセス管理者は、タスク用のコンテンツを割り当てることができるため、ユーザーはプロセス ガイドで直接以下を実行できます。

- 組織割当シートの編集
- 特定のダッシュボードの表示
- レポートの表示
- 所有する組織のワークフロー ステータスの変更
- アクセス権のある前提条件シートのワークフロー ステータスの変更

プロセス管理者は、直接的なコンテキストが割り当てられていないタスクについて、プレーン テキストで指示を与えることもできます。

### 手順

1. メイン メニューから "プロセス" > "概要" を選択します。
2. "プロセス:" プロンプトで、プロセスを選択します。
3. "割当先:" プロンプトで、"自分" を選択します。
4. "プロセス ガイドに移動" を選択して、タスクのコンテンツにアクセスし、アクションを実行します。
5. 表示してアクションを実行するタスクを選択します。
6. タスクを "完了" としてマークするには、タスク タイトルの隣のチェックボックスをオンにします。

### タスクの結果

"プロセス概要" ページの "完了済のタスク" 列にこのタスクが表示されるようになりました。タスクの完了後も引き続き、以下の操作を実行できます。

- タスクのメモの追加、変更、または削除
- プロセス トラッカーまたはプロセス ガイドを使用して、完了ステータスを "未完了" に戻す

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

個人またはグループに割り当てられたタスクは、ガイド内のすべてのタスクが完了するまで引き続き表示されます。ユーザーがプロセス ガイドで割り当てられたタスクをすべて完了すると、プロセス ガイドは "プロセス" サブメニューから削除されます。プロセス ガイドに未完了のタスクがあるユーザーに対しては、引き続きプロセス ガイドが表示されます。

## ステップ: ワークフローの使用

ワークフローは任意です。ワークフロー機能を設定すると、計画バージョンや実績 (実績サブバージョンは除く) に使用できる組織を承認および却下するプロセスが簡素化されます。

前提条件

- ワークフローは追加機能です。担当者を通じてリクエストしてください。
- ワークフローを管理するために必要な権限: "組織の承認"
- 組織を送信して承認してもらうために必要な権限: "シートへのアクセス"

ナビゲーション

シートを編集できる場合、ナビゲーション メニューから "シート" >"概要"をクリックします。以下をクリックして、"ワークフローのステータス" セクションを開きます。

- 組織割当シートのツールバーにある "ワークフローのステータス" インジケータ。
- 前提条件シートのシート名の横にある "ステータス" インジケータ。

ワークフローを承認できる場合、ナビゲーション メニューから "ワークフロー"をクリックします。すべてのシートと、その中の組織またはユーザーごとのステータスを確認できます。

注 : メイン ナビゲーション メニューの "ワークフロー" オプションは、組織階層にアクセスできるユーザーのみが使用できます。最下位組織にのみアクセスできるユーザーは、プロセス タスクを使用して、ワークフローの表示、送信、承認を行うことができます。

ワークフローの仕組み
ワークフローでは、組織割当シートと前提条件シートの両方に対して、完了したシートの承認プロセスが提供されます。シートのすべてのデータ入力を完了するか、データを実績にインポートすると、これらを "シートの概要" からマネージャまたは監督者に送信して、承認を得ることができます。

承認者は E メール通知を受信した後、データをレビューし、必要に応じて却下または承認できます。承認者がステータスを変更すると、E メール通知が届きます。

ワークフローのステータスを承認できる場合は、組織割当シートと前提条件シートの両方をワークフローページから確認できます。組織割当シート ("ワークフローのステータス" タブの上部にあります) は、ワークフロー内の組織ごとに送信、レビューされます。前提条件シート ("ワークフローのステータス" タブの下部にあります) は、シートごとに送信されます。

管理するすべての組織とシートはステータスとともに表示できます。

進行中: シートはデータの入力またはインポートの準備が完了しています。特定の組織や親組織にアクセスできるユーザーと組織承認者は、シートにデータを入力したりデータをインポートしたりできます。

レビュー用に送信済み: データはレビューの準備が完了しています。組織承認者と、親組織にアクセスできるユーザーのみが、シートの行を追加、更新、置換できます。

承認済: レビュー担当者はデータをレビューして承認しました。組織を承認すると、その組織のセルがロックされます。特定の組織や親組織にアクセスできるユーザーと組織承認者がデータを編集することはできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

却下: レビュー担当者はデータをレビューして却下しました。後で何を行う必要があるかを説明したメモを残すことをお勧めします。特定の組織や親組織にアクセスできるユーザーと組織承認者は、シートにデータを入力したりデータをインポートしたりできます。

承認/ロック済: レビュー担当者が親組織を承認し、すべてのサブ組織がロックされています。特定の組織や親組織にアクセスできるユーザーと組織承認者が組織とサブ組織のデータを編集することはできません。

注 : ワークフローはバージョンと組織によって異なるため、ワークフロー関連の作業を行う場合は、必ず正しいバージョンと組織を選択してください。

### 実績のワークフローの有効化

1. "モデリング" > "バージョン" に移動します。
2. リストからルート実績を選択します。ルート実績は、リストの先頭の実績バージョンです。
3. "バージョンの詳細" ページで "ワークフローを有効化" を選択します。
4. "保存" をクリックします。

実績のサブバージョンのワークフローを有効化することはできません。

### 組織の送信、承認、または却下

組織を送信する場合は、その組織の組織割当シートをすべて送信します。

1. "シート" > "概要" に移動します。
2. 組織セレクターとバージョン セレクターの両方で正しい組織とバージョンが選択されていることを確認します。
3. 組織の "その他のアクション" メニューから、"ワークフロー ステータスの更新" を選択します。
4. 必要に応じて "メモ" を追加し、"送信"、"承認"、または "却下" をクリックします。

親組織は、その下にあるすべてのサブ組織が承認されている場合にのみ送信できます。権限がある場合は、親組織の送信の一部としてサブ組織を承認できます。

注 : 親組織を送信すると、その下のすべてのサブ組織も承認済およびロック済になります。親組織の送信を取り消さない限り、サブ組織の送信を取り消すことはできません。

### 前提条件シートの送信、承認、または却下

1. "前提条件" > "概要" に移動し、前提条件シートのリストを表示します。
2. シートの "その他のアクション" メニューから、"ワークフロー ステータスの更新" を選択します。
3. 必要に応じて "メモ" を追加し、"送信"、"承認"、または "却下" をクリックします。

### ワークフロー ステータスの変更

1. ナビゲーション バーから "ワークフロー" に移動します。
2. ツールバーの上にある バージョン ドロップダウン メニューで正しいバージョンを選択していることを確認します。
3. リストから送信する組織またはシートを選択します。
4. 必要に応じてページの右側で "メモ" を追加し、"送信"、"承認"、または "却下" をクリックします。

最上位組織へのアクセス権を持つユーザーは、特定のユーザー割当シートへのアクセス権がなくても、そのユーザー割当シートのワークフローのステータスを変更できます。

### リセット

すべてのシートと組織をリセットして "進行中" に戻します。

1. "ワークフロー" に移動します。
2. ツールバーの上にあるバージョン ドロップダウン メニューで正しいバージョンを選択していることを確認します。
3. 組織リストから "Total Company" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

4. "リセット" をクリックします。

リセットする前にシートや組織がすでに "進行中" ステータスになっていた場合、リセット時に以下のシートや組織の列は更新されません。

- 最終更新者
- 最終更新日

メモを残す
"メモ" ボックスにコメントを追加し、ステータスの変更を送信するか、"メモのみを保存" をクリックします。これにより、完了した内容、質問、または却下/承認の理由を他のユーザーに知らせることができます。 メモの最大文字数は 4,000 文字です。

## 概念: プロセスの開始、管理、終了

プロセスでは開始日を使わないため、ユーザーはタスクの作成後すぐにタスクに着手し、完了できます。プロセス全体の作成が完了する前にユーザーが着手するのを防ぐには、プロセスを作成するときに "タスク通知を自動送信" チェックボックスをオフのままにします。

プロセスが進行中であっても、プロセス管理者は引き続き以下を実行できます。

- タスクのメモの追加、変更、または削除
- 添付ファイルをタスクに追加またはタスクから削除
- グループ タスクに割り当てられたグループのグループ メンバーを追加または削除Adaptive Planning は、タスクの完了率を自動的に更新し、割当先を調整します。

  タスクが完了しているグループにメンバーを追加すると、その新しいメンバーには "完了" としてタスクが表示されます。これらのメンバーは、タスクのステータスを引き続き "未完了" に変更できます。
- タスクの内容の変更。例: タスクが P&L シートを参照している場合に、経費レポートを参照するようにタスクを変更します。
- タスクの期日の変更
- 個々のタスクの割当先の変更
- プロセスの削除
- 標準タスクを手動で "未完了" または "完了" ステータスに移行
- 割当先へのアドホック通知の送信

プロセスでは有効終了日が使われないためプロセスが重くならず、ユース ケースをより柔軟に管理できます。ユーザーがすべてのタスクを完了し、目標期日を過ぎた後も、プロセス管理者と参加者は引き続き同じ方法でタスクを操作できます。例: プロセス管理者は、目標期日を過ぎた後も今までと同じく、完了したタスクの割当先を変更できます。割当先のユーザーは引き続き、完了したタスクを未完了としてマークできます。

# プロセスとワークフローの使用

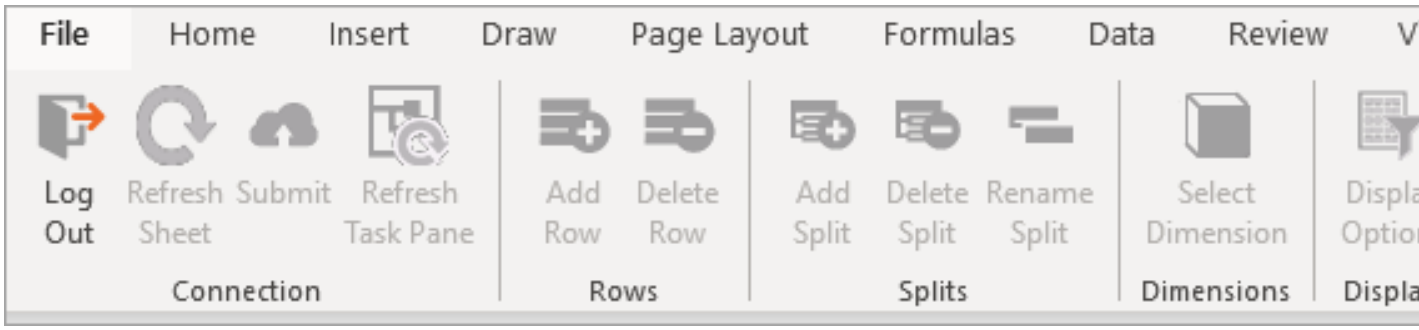
## Excel Interface for Planning の概要

### 概念: Excel Interface for Planning

Excel Interface for Planning は の機能とパワーを組み合わせます Adaptive Planning Excel を使用した

インストールすると Excel Interface for Planningに接続するには、任意の Excel スプレッドシートを開き、"Planning" タブをクリックします。 Adaptive Planningに保存されたデータを表示、入力、更新できます。 Adaptive Planning。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




### Excel Interface for Planning 機能

共有先 Excel Interface for Planning 次の操作ができます。

- 接続先 Adaptive Planning アクセス Adaptive Planning Excel 形式のシート: データ、数式、書式設定がすべてロードされた状態で、オンラインで表示されます。
- シートをリフレッシュして 、他のユーザーが更新したセルにインスタント更新をロードします。
- オフラインであっても、Excel シートと同様にデータと数式を入力します。
- 更新内容を次の宛先に送信: Adaptive Planning 他のユーザーがレビューできるようにするため。
- 接続先 OfficeConnect を使用して、Excel のワークブックから Word と PowerPoint のレポートを同時に 作成します。

### 重要な概念 Adaptive Planning

これらの基本的な概念は計画がどのように機能するかを知るのに役立ちます。

#### インスタンスとモデル

インスタンスは、フル機能を装備した計画エンティティを定義する構造コンポーネントの集まりです。インスタンスは、インストールと呼ばれることもあり、科目、組織構造、バージョン、属性、特性、シート、権限、会計年度、インテグレーションの単一セットから構成されます。Workday では複数の Planning インスタンスを持つことができます。

Think of your *instance* as how your business exists within Adaptive Planning. It includes all your company's actuals and planning versions and all the related data, levels, and so on. The *model* of your instance refers to the building blocks, (the accounts, levels, assumptions and formulas).

#### Versions

There are 2 types of versions: actuals and plan versions. Actuals display real numbers of sales and costs that have already happened. Most instances have 1 root actuals. Your actuals can have more than 1 sub-version. Sub-versions roll up to the root actuals.

Plan versions contain forecasted or budgeted data. You can have more than 1 plan version.

#### 前提条件

前提条件は、自分の計画に数式を書き込むときにすべてのユーザーがアクセスできるグローバル値です。前提条件はそのときどきで異なることがあり、異なるバージョンでは値が異なります。ただし、すべての組織、すべての科目で同じ値になります。

Assumptions are often associated with user-assigned sheets. These sheets let you see and update data to which you normally do not have access. For example, expenses from the IT department are allocated to all other departments based on the number of computers in each department. The IT manager does not have access to enter data in departments outside of IT. With a user-assigned sheet, the IT manager can enter the number of computers for each departments. The data can be used to calculate the IT allocation.

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 組織

組織はビジネスの組織構造です。たとえば、組織は部門、利益センター、コスト センター、または地理的地域を表します。

Level access is the primary way your admin controls which users can see which data. The levels a user has permission to see dictates the data they can view and update. Levels also help you filter data displayed on sheets.

### シート

| | |
|---|---|
| Data Interface | Adaptive Planning stores information, such as general ledger actuals, forecasts, personnel information and budgets. *Sheets* provide the interface for you to view, enter and update that data. With Excel Interface for Planning, you access the online sheets through Excel. |
| Values and Calculations | Values you see in a sheet may be calculated with data that is not displayed on the sheet. Likewise, data you enter or calculate in a sheet can affect values displayed in other sheets.<br><br>Adaptive Planning formulas can only be entered online. They are either embedded in the sheet's cell by an admin or you can enter the formulas yourself. You can also just enter data without calculations. In Excel Interface for Planning, you can tell that a value is calculated with an Adaptive Planning formula when the text is italicized and you can drill down to see how it was calculated.<br><br>You can't enter Adaptive Planning formulas with Excel Interface for Planning for your sheet, but you can use Excel formulas to calculate data. Although the end value is saved the online sheets, the formula you used will not be saved. You can add them to a cell note instead. |
| Sheet Access | Sheets or portions of sheets can be restricted, so you may not have access to all sheets within your organization. Or, you may see a sheet, but you may not see the rows or columns that other users can see on the same sheet. Or you may see the columns and rows and their data, but you cannot edit the cells. For example, a sales-related user may have access to the sheet's expenses, travel, and other sales-related data, but not the data used by the marketing department.<br><br>注： If you think you should be able to enter or edit data that appears locked, be sure you are accessing the correct version and the correct level of the sheet. If the problem persists, get clarification with your admin on your user permissions. |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

有効化 **Excel Interface for Planning** インスタンス用

インストール後 Excel Interface for Planning, Workday カスタマー センターでサポート ケースを作成し、インスタンスのアドインを有効にします。その後、ログインしてアドインの使用を開始できます。条件 Excel Interface for Planning がすでにインスタンスで有効になっている場合、ログインして、Excel リボンの "プランニング" タブからアクセスできます。

## Excel Interface for Planning 製品のダウンロード

| | |
|---|---|
| | ダウンロードとインストールの前 Excel Interface for Planningにアクセスし、すべての技術要件を満たしていることを確認します。参考: Excel Interface for Planning の技術要件を参照してください。<br>1. 最新バージョンの をダウンロードします。Excel Interface for Planning:<br>• WorkdayAdaptivePlanningExcelSetup.exe<br>• WorkdayAdaptivePlanningExcelMachineSetup.exe<br>2. インストール Excel Interface for Planning ユーザーごとまたはマシンごと「インストール」を参照してください。 Excel Interface for Planning。 |
| 現在のバージョンの確認 | チーム全体が新しいバージョンをダウンロードするようにしてください。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、より新しいバージョンのレポートを表示または編集することができません。参照 Excel Interface for Planning バージョンの確認（109ページ）。 |
| ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 | インストール済バージョン以外の Excel Interface for Planning は、猶予期間の終了日の深夜に失効します。終了日はユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールに適用されます。強制的に更新することもできます。 インストール タイプに応じて、以下の猶予期間が設けられています。この場合、EIP を最新バージョンにアップグレードすることができます。<br>• ユーザーごとにインストールを行う場合、猶予期間の終了日は、更新通知から 30 日またはリリース日から 60 日のいずれか早い方になります。<br>• マシンごとのインストールの場合、猶予期間の終了日はリリース日から 60 日後です。<br>注：バージョン履歴表には、最新のリリース情報が常に反映されるわけではありません。最新情報については、Workday Community の Excel Interface for Planning のバージョンの確認と更新を参照してください。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| バージョン | リリース日 | ユーザーごとの猶予期間終了日 | マシンごとの猶予期間終了日 |
|---|---|---|---|
| 2024.209.1096201106<br><br>注： 最新バージョンは、午前 0 時 (PT) またはリリース日の翌日の午前 0 時過ぎにダウンロード可能になります。 | 9/6/2024 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 |
| 2024.104.2557107204 | 4/17/2024 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 |
| 2024.102.2837942074 | 4/2/2024 | 次のいずれかのうち早い方:<br>• 更新通知から 30 日。<br>• リリース日から 60 日。 | リリース日から 60 日。 |
| 2023.214.0222252274 | 2/2/2024 | 3/3/2024 | 4/2/2024 |
| 2023.211.0923139732 | 11/30/2023 | 12/17/2023 | 01/16/2024 |
| 2022.211.0928227318 | 11/30/2022 | 2022/12/18 | 2023/1/17 |
| 2022.105.2728229210 | 7/29/2022 | 2022/7/10 | 2022/8/9 |
| 2022.104.0728228514 | 6/28/2022 | 2022/6/13 | 2022/7/13 |
| 2022.103.0128222011 | 5/27/2022 | 2022/5/15 | 2022/6/14 |
| 2021.210.2728215312 | 12/28/2021 | 2021/12/12 | 2022/1/11 |
| 2021.209.3027212008 | 12/1/2021 | 2021/11/07 | 2021/12/07 |
| 2021.209.0226213911 | 10/26/2021 | 2021/10/11 | 2021/11/10 |
| 2021.103.0328214913 | 4/28/2021 | 2021/4/12 | 2021/05/12 |

## Excel Interface for Planning バージョンの確認

使用しているバージョンが最新バージョンであるかどうかを確認します。

1. Excel リボンで "Planning " タブを選択します。
2. "ヘルプ" ドロップダウンで "バージョン情報" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 作成したバージョンと、現在利用可能なバージョンを比較します。

   参照 製品ダウンロード（2785ページ） 最新バージョンをダウンロードし、完全なバージョン履歴をレビューします。

「インストール」を 参照してください。 Excel Interface for Planning 。

## Adaptive Planning または Work Offline への接続

### 接続先 **Adaptive Planning**

接続先の設定 Adaptive Planning、オンライン シートにアクセスして Excel で開き、最後の接続後に他のユーザーが送信した可能性のある変更を反映して Excel データをリフレッシュし、Excel で行った変更をクラウドに送信できます。

1. Excel を起動します。
2. "Planning" タブをクリックし、 ログインします 。
3. ユーザー名とパスワードを入力し、"送信"をクリックします。接続すると、"Planning" ペインが表示されます。"ログイン" は "ログアウト"に変わります。

のデータ Adaptive Planning が Excel シートにロードされます。Excel で行った更新は、"送信" をクリックするまではサーバーにアップロードされません。

### マルチインスタンスへの接続

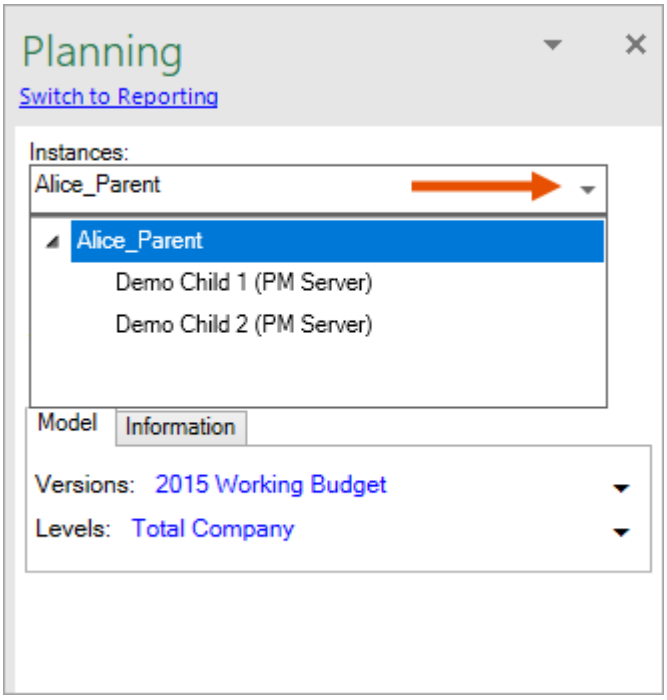
ビデオを見る (1 分 19 秒):

複数のインスタンスにアクセスできる場合:

1. Excel を起動します。
2. "Planning" タブをクリックし、"ログイン" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "インスタンス" ドロップダウンからインスタンスを選択します。




4. シートを選択すると、そのワークシートに対してインスタンスがロックされます。別のインスタンスにアクセスするには、新しいタブを追加して新しいワークシートを開きます。次に、インスタンス ドロップダウンから別のインスタンスを選択します。

接続先 **Adaptive Planning** 介した **OfficeConnect**

すでにログインしている場合は、 OfficeConnectに自動的にログインすることはありません。 Excel Interface for Planning。Workday カスタマー センターでケースを作成し、次へのアクセス権をリクエストしてください。 Excel Interface for Planning。インスタンスでアドインを有効にした後、"Planning" タブを使用して にログインします。 Excel Interface for Planning。

これで、Planning とレポートの両方にアクセスできるようになり、レポート ペインと Planning ペインからそれぞれ "Planning に切り替え" または "レポートに切り替え" をクリックすると、この 2 つを切り替えることができます。

プランニングとレポートの切替

同じワークブック内でレポートとプランニングを同時に使用するには、データを別のシートにロードする必要があります。

1. 接続先 Adaptive Planning 介した OfficeConnect。
2. ワークシートで "Planning" ペインの "Planning に 切り替え" リンクをクリックし、Planning データをシートにロードします。
3. ワークブックに新しいシートを追加します。新しいシートの "Planning" ペインに、リンクが再度表示されます
4. "レポートに切り替え" リンクをクリックし、2 番目のシートでレポートの作成を開始します。

これで、計画のために最初のシートにデータを検索して入力し、2 番目のシートでレポートを作成できます。

オフラインで作業

ローカル コンピュータ上の Excel シート内でオフラインで作業します。

1. Excel を起動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 接続先 Adaptive Planning。
3. "Planning" ペインで、表示または更新するシートを見つけて、適切な組織とバージョンを選択します。すべてのセルがグレーで編集不可の場合、編集する権限を持つバージョンと組織を選択したことを確認します。
4. シートをコンピュータに保存します。
5. "ログアウト" をクリックして から接続を解除します Adaptive Planning。

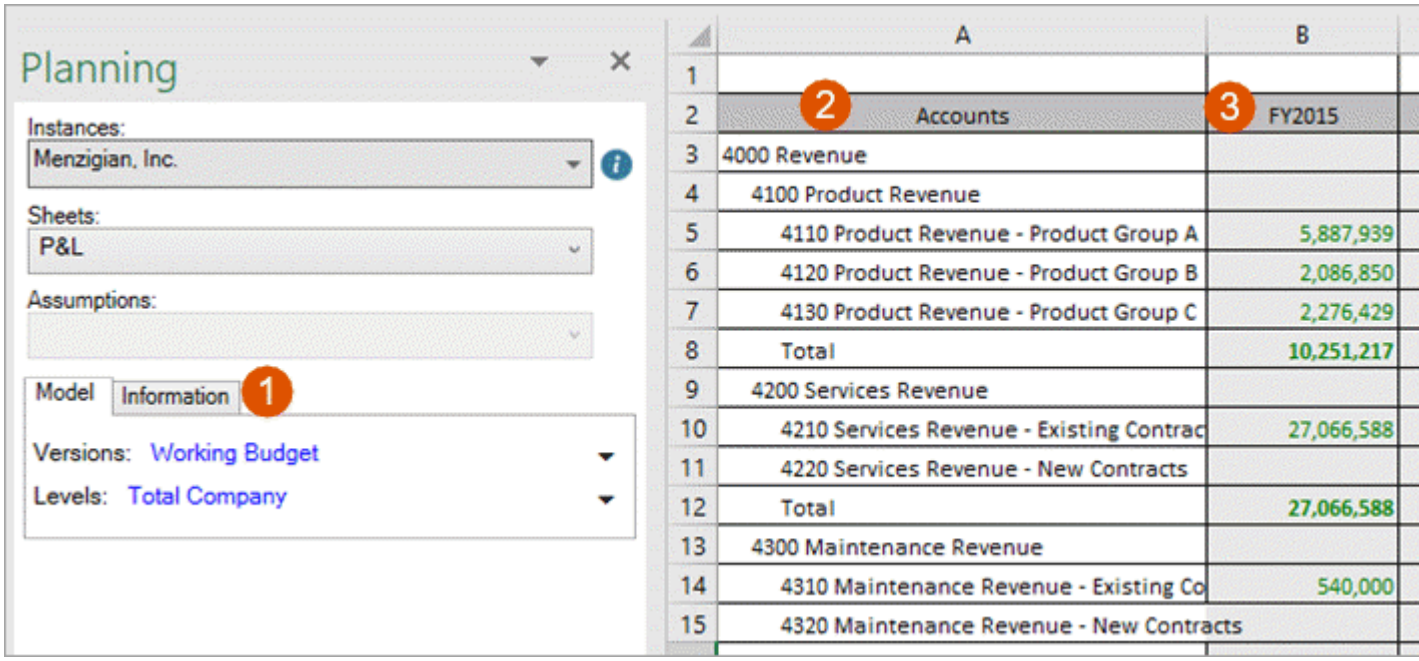
データを入力し 、オフラインで作業を保存できます。ログアウトすると、"Planning" ペインと "Planning" タブ リボンのツールを使用できなくなります。それ以外にはアクセスできません Adaptive Planning シート、組織とバージョンの変更、または再度ログインするまでの作業のリフレッシュと送信を設定します。

## シート タイプを特定

シートの表示方法はシートがどのように構築されているかによって異なり、シートのツールと機能にも影響します。 Excel Interface for Planning3 つすべてをサポート Adaptive Planning シート: 標準、モデル、キューブ

### 標準シート インターフェイス

最も単純なシートには、列全体に期間があり、行の下に科目または組織組織があります。管理者は、これらのシートを 標準 シートとして参照することができます。標準シートのセルが、行ヘッダーと列ヘッダーの間でデータを交差しています。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | "モデル" タブには、バージョンと組織または科目のみのドロップダウンの選択肢が含まれます。 |
| 2 | 行は組織または科目です。 |
| 3 | 列は時間です。 |

### 科目タイプが混在した標準シート

標準シートは、読み取り専用セルを含めるように設計することもできます (特に 1 つのシートに混合科目タイプが含まれている場合など)。科目が混在しているシートには、異なる時間設定の科目も含まれている可能性があります。この場合、最大期間が表示されます。時間設定が小さい科目は合計値を表示します。

たとえば、時間設定の異なる 3 つの科目タイプが含まれた標準シートの場合、

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- "製品収益" は、日次で設定されるキューブ科目です。データはキューブ シートからのみ変更できます。
- "管理収益" は週次で設定されたモデル科目です。データはモデル シートからしか変更できません。
- "コミッション費用" は、数式で毎月設定される総勘定元帳科目です。他の値の計算であるため、データを直接変更することはできません。

混合時間設定のシートは含まれるすべての科目の最大の設定を表示するため、シートにはすべての科目の月のみが表示されます。"メンテナンス収益" の週次入力または "製品収益" の日次入力を表示するには、科目行を右クリックして "Planning">"組織別に表示"を選択します。列には、科目の組織別に週次または日次データが表示されます。

キューブ シート インターフェイス

シートは行と列に沿って多くの属性を含んでいる場合があり、シートをピボットすると複数の異なる方法でデータを表示できます。管理者はこれを キューブ シートと呼びます。キューブ シートのセルは、行と列ヘッダーの間でデータが交差しています。

"モデル" タブで選択可能な属性、フィルタ、オプションで提供されるさまざまな方法でシートを変更できます。

モデル シートのインターフェイス

多くのシートにはラベル付きの列があり、行は単に項目をリストしたものです。既存または新規の行に新しい情報を入力し、行を削除することもできます。管理者はこれを モデル シートとみなす場合があります。

セルはリストされたデータであり、行ヘッダーはなく、列ヘッダーのみです。

## 概念: Excel Interface for Planning インターフェイス ツアー

**"Planning"** タブ、**"Planning"** ペイン、グリッド

"Planning" タブのリボン

- 接続先 Adaptive Planning。
- 用途 Adaptive Planning Excel関数
- データをリフレッシュし、更新内容を送信する 。
- Excel のすべての機能を含む、一般的な Excel タブがすべてリボンで使用できることに注意してください。

"Planning " ペイン

- Excel シートにデータを表示するインスタンス (マルチインスタンスにアクセスできる場合)、 シート、組織を選択します。
- このペインを非表示にし、ドッキングを解除し、移動させます。
- 必要に応じてセルの数式を確認します。
- 属性と特性でフィルタリングし、列と行のデータを変更します (キューブ シートのみ)。

Excel シートと Planning グリッド

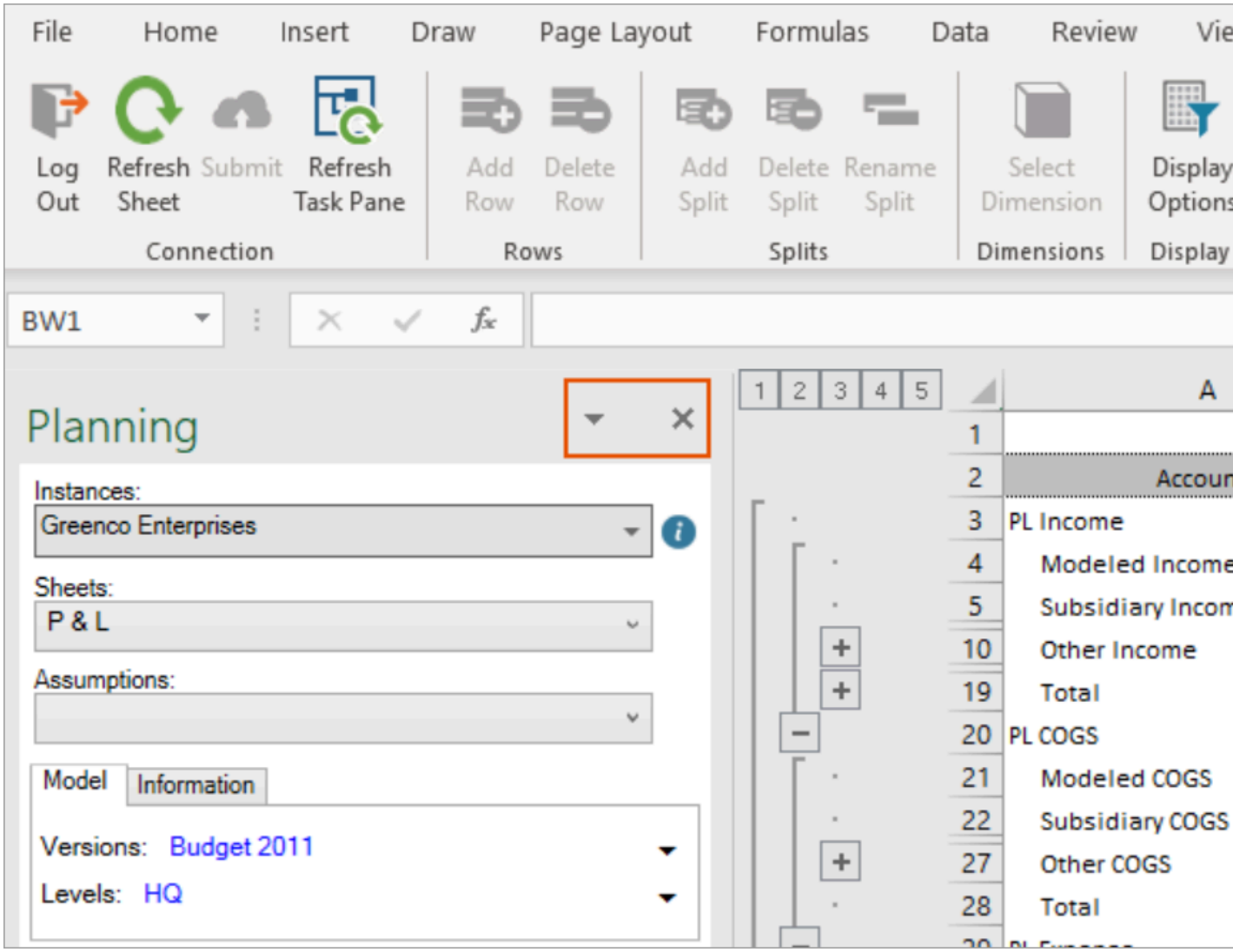
- データ ( セルの色と表記について学習) と数式をレビューします。
- Excel または を使用してデータと数式を入力します 。 Adaptive Planning 関数。
- セルの詳細にドリルダウンします。

**"Planning"** ペインの非表示、移動、表示

ビデオを見る (00 分 55 秒):

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

"Planning" ペインを非表示または表示するには、"Planning ペインの表示" プリファレンスを切り替えるか、"Planning" ペインの右上隅にある "x" をクリックします。




"Planning" ペインのドッキングを解除するには、次をクリックします。 "Planning" ペインの右上隅にある "移動"を選択します。移動アイコンが表示されたら、ペインをクリックしてドラッグします。画面上の任意の場所にドロップして接続を解除したままにするか、グリッドの上下左右にマウスを合わせてドッキングさせることができます。

ドッキング解除済の Planning ペインが見つかりませんか？プリファレンスの "Planning ペインを表示" トグルを再びクリックします (すでにオンになっている場合)。"Planning" ペインが表示されます。

### 設定 **Adaptive Planning** および **Excel** グリッド

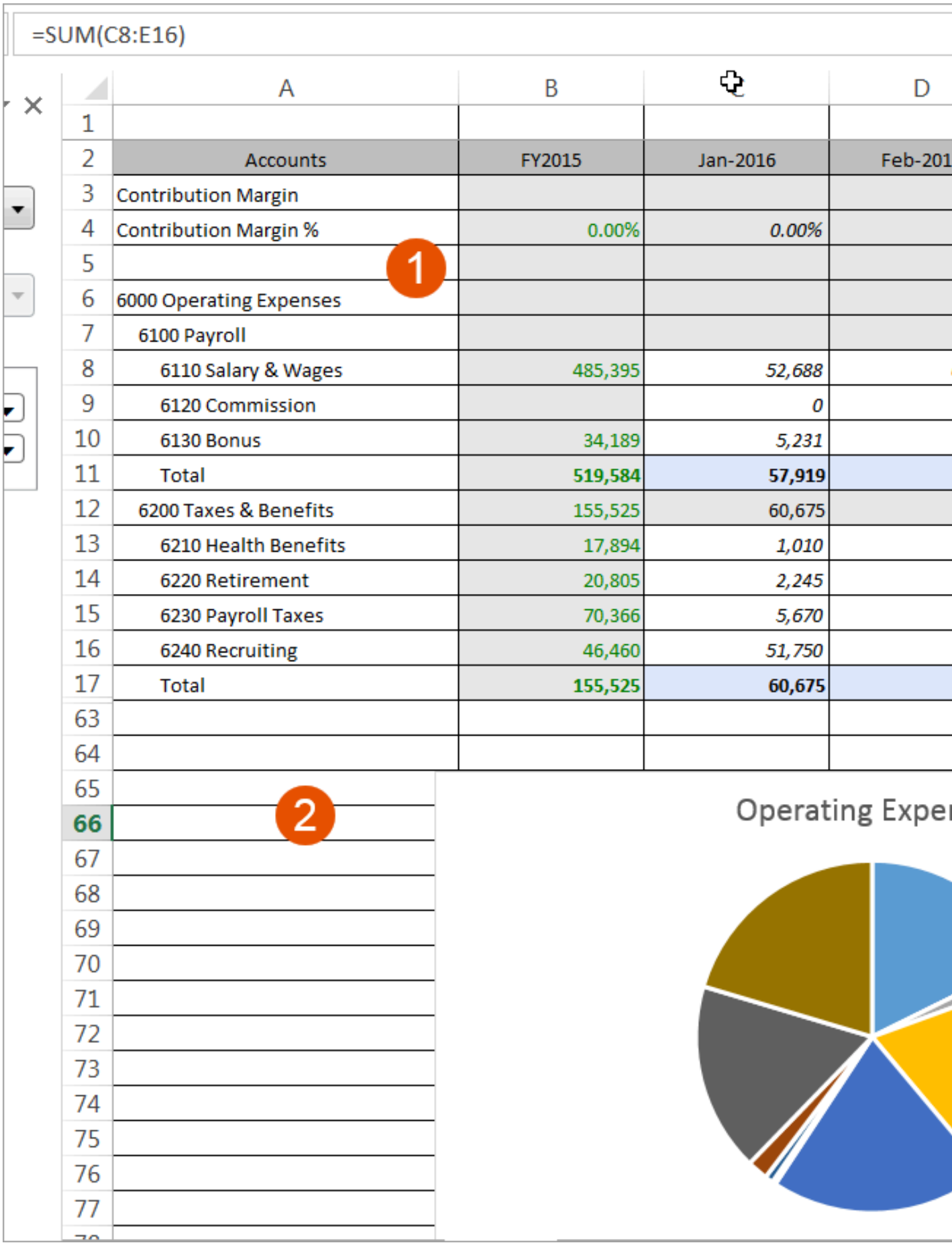
"Planning" ペインでシートを選択すると、シートの列、行、数式、データがペインの右側のグリッドにロードされます。

グリッドのセルを更新する際は、データを追加する場所に注意してください。内で更新するデータ Adaptive Planning グリッドは次の宛先に送信できます: Adaptive Planning。Excel グリッド内で入力または更新するデータ: ロードされたデータの範囲外の領域 Adaptive Planning、送信されていません Adaptive Planning。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

注： 期間外で行った更新 Adaptive Planning グリッドを送信してクラウドに保存することはできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

1 Adaptive PlanningGrid: ここで行われた変更は、オンライン シートに同期されます。

以下のセルを右クリックすると、 Adaptive Planning グリッドにアクセスするには、メニューで "プランニング" をクリックし、 コンテキスト固有のアクションを表示および選択します。

2Excel グリッド: このデータは のパラメータの範囲外です Adaptive Planning シートここで加えた変更は Excel に保存できますが、オンライン シートと同期されません。

Excel のグリッドを右クリックすると、Excel を使用するときに通常表示されるすべてのオプションが表示されます。

この例では、ユーザーが に基づいて Excel グラフと Excel 計算 (Excel グリッド内) を作成したことに注意してください。 Adaptive Planning(上部に表示されたセルの数式を確認してください。)

Excel と の 仕組みについて学習します。 Adaptive Planning で機能 Excel Interface for Planning。

# Excel Interface for Planning のインストール

## Excel Interface for Planning のインストール

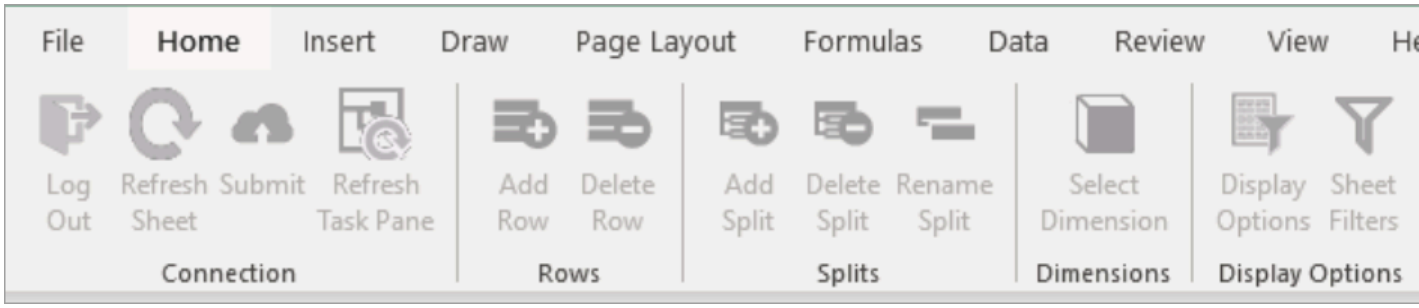
インストールする Excel Interface for Planning 初めて実行する場合は、Windows の管理権限が必要です。管理権限がない場合は、IT 担当者に相談してください。IT プロフェッショナルの場合は、この記事でユーザーごとおよびマシンごとの IT インストールの手順をお読みください。

インストールする Excel Interface for Planning:

1. 以下を確認します。 参考: Excel Interface for Planning の技術要件（118ページ） インストールの前に Excel Interface for Planning。
2. Office Runtime に Visual Studio 2010 のツールをインストールします。
3. ユーザーごとにインストールするための設定ファイルをダウンロードします。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。
4. 管理権限がある場合は、Windows のセットアップ プロンプトを受け入れます。管理権限がない場合は、管理権限を持つユーザーの認証情報を入力するよう求められます。必要なサポートについては、IT 部門にお問い合わせください。

注 : チーム全体が新しいバージョンを同時にダウンロードするようにしてください。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、レポートを表示または編集できません。

Excel Interface for Planning Excel の起動時に "Planning " タブが表示されていれば、 は正常にインストールされています。




**IT** 担当者向けのインストール手順

Excel Interface for Planning はユーザーごとまたはマシンごとにインストールできます。

前提条件

1. 技術要件 を確認します。要件は両方のタイプのインストールで同じです。両方のタイプを、サイレントでインストールするか、シス

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

テム管理ソフトウェアを使用してプッシュすることができます。
2. Office Runtime に Visual Studio 2010 のツールをインストールします。

| | |
|---|---|
| ユーザーごとのインストール | ユーザーごとに をインストール Excel Interface for Planning<br>• ほとんどのユーザーに推奨されます。<br>• ユーザーは、管理者権限なしに、自分で将来の更新をインストールできます。<br>• ファイル、レジストリ エントリ、証明書をユーザーのプロファイルにインストールします。<br>ユーザーごとのインストールの設定ファイルをダウンロードし、インストールを開始します。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。 |
| ユーザーごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースすると、各ユーザーにログイン時に更新をインストールするよう要求される Excel Interface for Planning または OfficeConnect。各ユーザーは管理権限なしに更新することができ、必要に応じて、IT は複数のユーザーに更新を密かにインストールできます。<br>プロンプトに記載されている期限前に更新をインストールしてください。一般的に、ユーザーは更新がリリースされてから必須になるまで 30 日かかります。ただし、優先度の高い更新の期限は短くなります。 |
| マシンごとのインストール | マシンごとに のインストール Excel Interface for Planning:<br>• 複数のユーザーが共有するワークステートに使用することをお勧めします。<br>• さまざまなユーザーが次を使用できるようにする Excel Interface for Planning 1 台のマシン上<br>• Windows 管理者のみにインストールを許可する Excel Interface for Planning の更新<br>• すべてのユーザーのファイル、レジストリ エントリ、証明書をインストールします。<br>• インストールに使用可能 Excel Interface for Planning リモート デスクトップ サービスで使用する Microsoft Windows Server の<br>マシンごとのインストールの設定ファイルをダウンロードし、インストールを開始します。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。 |
| マシンごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースした場合、ローカル管理者グループのメンバーに対して、特定の日付までに更新をインストールするよう求められます。通常、更新のインストール期間はリリースから 60 日です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | 最初の 45 日間は、管理権限を持つユーザーにのみ通知されます。45 日後、ユーザーには利用可能な更新に関する日次通知が表示されます。OfficeConnect および Excel Interface for Planning 通知に記載された日付までに更新をインストールするよう、ユーザーと管理者に要求する。<br><br>更新の通常の猶予期間はリリースから 60 日ですが、優先度の高い更新の場合はそれより短い場合があります。 |
| パラメータ | これらのパラメータは、ユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールで使用することができます。以下を使用します。<br><br>• `/quiet` : UI を使用せずに製品をサイレントインストールします。<br>• INSTALLFOLDER: 製品をカスタムの場所にインストールします。例: `AdaptivePlanningExcelMachineSetup.exe INSTALLFOLDER=D:\AdaptivePlanningExcel` |

## 参考: Excel Interface for Planning の技術要件

### インストールの前提条件

前提条件がまだインストールされていない場合、以下の実行中に管理権限が要求されます。 Excel Interface for Planning および OfficeConnect のインストールあるいは、IT 担当者がこれらの前提条件を事前にインストールすることで、ユーザーが管理者権限なしでインストールできるようにすることもできます。

| | |
|---|---|
| Microsoft Edge WebView2 Runtime | 必須: OfficeConnect にログインする前にインストールしてください。 |
| Microsoft .NET Framework 4.8 | 必要に応じて、事前に .NET 4.8 をインストールします。 |
| Office Runtime 用 Microsoft Visual Studio 2010 ツール | 必須: 事前に Office Runtime 用に Visual Studio ツールをインストールします。 |
| Workday イベント ログ コンポーネント | アドインのインストールでは、コンポーネントが自動的にインストールされます。<br><br>コンポーネントは、Windows のコントロール パネルの "プログラムと機能" リストに個別のアイテムとして表示されます。OfficeConnect と Excel Interface for Planning で、エラーやその他のデータを Windows イベント ログに記録できるようにします。<br><br>Workday イベント ログ コンポーネントを個別にダウンロードするには、次の URLを使用します。 |

### ハードウェアおよびソフトウェア要件

インストールする Excel Interface for Planning または OfficeConnect 初めて実行する場合は、Windows 管理権限が必要です。

次を参照してください。

- Excel Interface for Planning のインストール（116ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール ( 578ページ )
- 管理者として OfficeConnect をインストール ( 579ページ )

| | |
|---|---|
| オペレーティング システム | Microsoft Windows 10 以降<br>サーバー/デスクトップ仮想化環境 (リモート デスクトップ サービスなど)<br>注： Mac オペレーティング システムはサポートされていません。 |
| Web ブラウザ | |
| Microsoft Edge WebView2 Runtime (サインインに必要) | 最新バージョン |
| FireFox | 最新バージョン、最新の ESR |
| Chrome | 最新バージョン |
| Microsoft Office | OfficeConnect は、半年チャネルのインストールで Microsoft Office (64 ビット推奨) が必要です。<br>Microsoft Office 2019 (エンタープライズ バージョン)<br>Microsoft Office 2016 (プロフェッショナル プラス)<br>Microsoft Office 365 Pro + (32 ビットまたは 64 ビット)<br>Microsoft Office の本番環境のデプロイのみ |
| メモリ (RAM) | 4 GB 以上<br>8 GB 推奨<br>コンピュータの RAM を確認する方法について学びます (このページの下部に説明があります)。 |
| 言語、ローカライズ設定 | 英語 |
| 地域設定 | 英語 |

要件の更新

更新を直ちにインストールする Excel Interface for Planning および OfficeConnect。

| | |
|---|---|
| ユーザーごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースすると、各ユーザーにログイン時に更新をインストールするよう要求される Excel Interface for Planning または OfficeConnect。各ユーザーは管理権限なしに更新することができ、必要に応じて、IT は複数のユーザーに更新を密かにインストールできます。<br>プロンプトに記載されている期限前に更新をインストールしてください。一般的に、ユーザーは更新がリリースされてから必須になるまで 30 日かかります。ただし、優先度の高い更新の期限は短くなります。 |
| マシンごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースした場合、ローカル管理者グループのメンバーに対して、特定の日付までに更新をインストールするよう求められます。通常、更新のインストール期間はリリースから 60 日です。<br>最初の 45 日間は、管理権限を持つユーザーにのみ通知されます。45 日後、ユーザーには利用 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

可能な更新に関する日次通知が表示されます。OfficeConnect および Excel Interface for Planning 通知に記載された日付までに更新をインストールするよう、ユーザーと管理者に要求する。

更新の通常の猶予期間はリリースから 60 日ですが、優先度の高い更新の場合はそれより短い場合があります。

チェック **RAM**

コンピュータにインストールされているメモリ (RAM) を確認するには:

1. Windows の "開始" ボタンをクリックします。
2. 検索ボックスに「*ms Info32*」と入力し、Enter キーを押します。
3. "システム情報" ダイアログ ボックスの右ペインで、"インストール済の物理メモリ" にリストされている数字は、コンピュータにインストールされている RAM です。
4. 4 GB 以上であることを確認してください。最適なパフォーマンスを得るには、以下の条件を満たす必要があります。 Workday は 8 GB をお勧めします。

サポート

インストールまたは使用についてサポートが必要です Excel Interface for Planning および OfficeConnect？お問い合わせください。

relatedlinks
参考
.NETフレームワーク Web インストーラーのダウンロード
WebView2 ランタイムのダウンロード
Office Runtime 用の Visual Studio ツールをダウンロード

# シート内のデータの検索と入力

## シート内のデータの検索と入力

前提条件

以下の詳細をご覧ください:

- シート タイプ
- グリッド
- セルとテキストの色
- 異なる Excel と Adaptive Planning  使用できる関数

基本ステップ

1. 接続先 Adaptive Planning 。
2. シート、バージョン、組織を選択します。
3. 必要に応じて表示を調整し、グリッドにデータを入力します。
4. 変更内容を送信します。

シート、バージョン、組織を選択

少なくとも 1 つのシートを選択するまで、グリッドは空になります。"Planning" ペインで以下を実行します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. "シート" ドロップダウンからシートを選択すると、データがグリッドにロードされます。
2. 複数のシートのデータをワークブックにロードするには、以下の手順に従います。
   - 新しい Excel シート タブをワークブックに追加し、別のタブを選択します Adaptive Planning シートを "プランニング" ペインで選択し、Excel ワークブックで複数のオンライン シートを取得します。
   - 新しい Excel ワークブックを開いて別のワークブックを選択する Adaptive Planning シート
   - Excel の別のインスタンスを起動し、その方法で追加のシートにアクセスします。

   注 : Excel シートごとに選択できるオンライン シートは 1 つだけです。変更を送信する前に別のシートを選択した場合、新しいシートがグリッドにロードされ、前のシートの変更は失われます。
3. "バージョン" の右側の矢印をクリックし、適切な バージョンを選択します。表示権限がある任意のバージョンのデータをスクロールできます。
4. "組織" の右側の矢印をクリックし、適切な組織を選択します。
5. この時点で オフラインで作業する か、接続したままにすることができます。オフラインで作業すると、再度接続するまでバージョンや組織の調整、またはセル情報へのドリルダウンができなくなるため、オフラインで作業する前に、正しいデータにアクセスできることを確認してください。

| | |
|---|---|
| バージョンまたは組織の検索 | "バージョン"、"組織"、または "科目" ドロップダウン矢印をクリックします。オプションのリストをスクロールする代わりに、ドロップダウン メニューの上部にある検索フィールドに名称を入力します。それに応じてリストがフィルタリングされ、直接一致するものがハイライトされます。 |

表示、フィルタ、ドリルダウンの調整

以下の組み合わせを使用して表示を調整してください: Adaptive Planning データの検索と入力に役立つ Excel 関数。次の値で調整してください: Adaptive Planning ログオフおよびオフラインでの勤務の前に実行される。概念: シート ビューを参照してください。

| | |
|---|---|
| Excel 関数 | 以下の一般的な Excel 関数は、接続状態であってもオフラインであっても動作します。<br>• ペインの固定: Excel リボンの "表示" タブをクリックし、先頭行 (列ヘッダー)、最初の列 (行ヘッダー)、またはその両方を固定することで、コンテキストを失うことなくデータをスクロールできます。<br>• 行または列を非表示: 行または列を右クリックして "非表示" をクリックし、自分に直接関係しないデータを 削除 します。<br>• 行の高と列の幅の調整、グリッド線の表示、拡大縮小を行います。<br>• "検索" を使用して特定のデータを検索する。<br>Excel のフィルタおよびソート機能はグレー表示されています。"Planning" タブ リボンの "表示オプション" を使用します。 |
| プランニング関数 | Planning 機能は、シート タイプに応じて、接続されている場合にのみ機能します。<br>• 期間をフィルタリングします。<br>• ゼロを表示しない、表示しない<br>• シートの 属性、座標、軸を交換、フィルタ、および変更します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 行またはセルごとにドリルダウンすると、表示されている値の背後にある詳細を確認できます。
- グループ科目: "Planning" タブで、 グループ科目: オンにすると、グループ化された科目または組織が表示されます Adaptive Planning。グループ化を削除するには、オフにします。

セルへのデータの入力

Excel でシートの編集を開始する前に、"Planning" タブから "シートのリフレッシュ" をクリックして最新のデータをロードします。

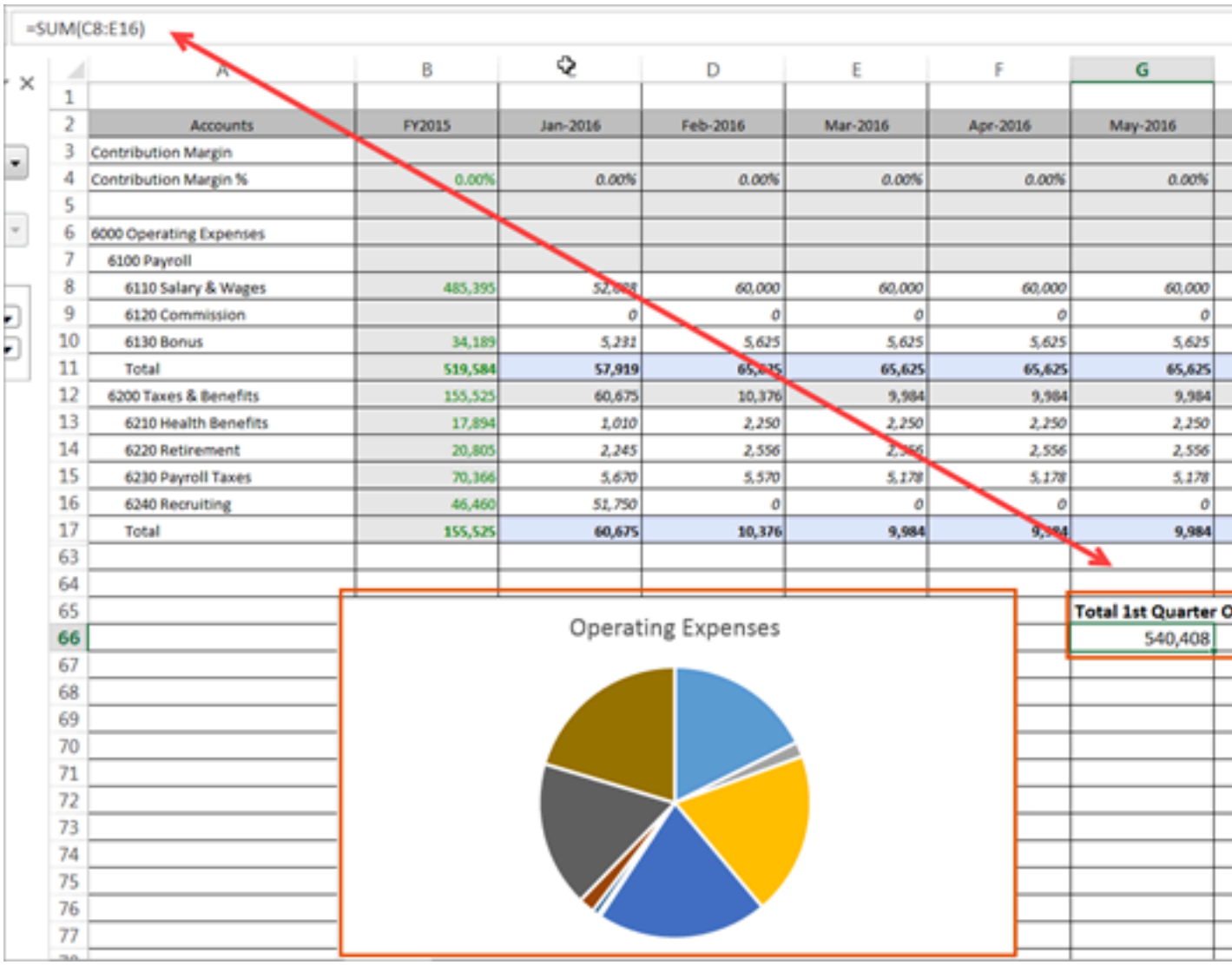
オン Adaptive Planning グリッドには、いくつかの方法でデータを入力できます。

- 数値またはその他の値をセルに直接入力する。
- データをセルにカット アンド ペーストまたはカット アンド コピーする。
- グリッド内のドロップダウン オプションから値を選択します。特性値を選択すると、対応する属性値がフィルタリングされ、データ入力が容易になります。
- Excel 数式を使用してグリッド内のデータを計算します。使用する数式と数式で参照されるセルはにアップロードされません。 Adaptive Planning, そのため、値の計算方法を他のユーザーに知らせる場合は、メモを追加してください。
- モデル シートの行を追加し 、新しい行の各セルの値を入力します。
- 分割を追加する と、入力した値 (および合計) が元の行にロールアップされます。

Excel グリッドで:

- Excel 関数を使用して、Excel グリッド上にグラフを作成します。これらのグラフはワークブックの新しいシートに保存されます。これらのファイルは次の場所にはアップロードされません: Adaptive Planningローカルに保存して共有することはできます。
- 次を使用して Excel グリッド上のデータを計算: Adaptive Planning データこのデータはオンライン シートにアップロードされませんが、ローカルに保存して共有することができます。たとえば、数か月の合計を計算します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




チェックボックスまたは切替列を使用する場合、オフの場合は 0、オンの場合は 1 のみを入力します。これらの適用値を使用すると、列がオフかオンかに基づいて計算を実行できます。例: checkbox.column=1 では計算 1 を使用し、checkbox.column=0 では計算 2 を使用する、という条件を設定した数式を作成できます。そうすることで、チェックボックスのオン/オフに応じて、モデルの行の詳細に異なる値を表示できます。

### データを編集できません

シートでセルが編集できない場合、以下のいずれかまたはすべてをチェックまたは確認します。

- 組織アクセス: アクセスできない組織を選択している可能性があります。ユーザー ID に割り当てられた組織アクセスに基づくデータのみを表示または編集できます。または、編集できない合計値のセルを表示する親組織を見ている可能性があります。その場合、組織の最小の子を選択します。
- 科目タイプが混在した標準シート: 標準シートでモデル科目またはキューブ科目を編集しようとしていることがあります。編集できるのは、総勘定元帳科目とカスタム科目のみです。
- 時間が混在している標準シート: 総勘定元帳科目またはカスタム科目の時間設定がシートの時間設定より小さい場合があります。編集する総勘定元帳またはカスタム科目を右クリックし、"プランニング" > " 組織別に表示シートには短い期間が表示され、セルが編集可能になります。
- ロック済バージョン: 完全にロックされたバージョン、または定義された期間にわたってロックされたバージョンが表示されている場合があります。バージョンがロックされると、データの変更や編集ができなくなります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- ワークフロー: ワークフロー 機能が有効になっている場合、すでに送信済みの組織が表示されている可能性があります。
- 実績のオーバーレイ: 実績データに完全に置き換えられたバージョンを表示している場合があります。
- 権限: {{corp"/>権限を管理者にチェックして、シートとシート組織へのアクセス権があることを確認します。
    - 読み取り専用モードでのみシートを表示できる "分析ユーザー" になっている可能性があります。
    - 選択したバージョンまたは組織へのアクセス権がない可能性があります。

リフレッシュ、統合、送信

変更を送信する前に、グリッドをリフレッシュして競合を管理するか、変更を取り消します。次に、"送信" をクリックします。 更新内容を送信 Adaptive Planning。

更新内容をリフレッシュして送信するタイミングと方法についての詳細情報を表示します。

## セルへのドリルダウンまたは行の詳細

接続先の設定 Adaptive Planning、セルまたは行の値の背後にあるデータにドリルダウンできます。

数式の検索

斜体のテキストは、値が数式とともに入力されたことを示します。値の背後にある次の数式が表示されます。

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning およびセルに計算値があること (テキストはイタリック体である必要があります)。
2. "Planning" ペインが表示されない場合は、"Planning " タブをクリックし、"Planning ペインを表示"の隣のチェックボックスをオンにします (オンになっている場合)。
3. "Planning" ペインで、"情報" タブをクリックします。セルに次の値がある場合、 Adaptive Planning 数式は "セル情報" の下に表示されます。

計算されていても、太字のテキストまたは水色の背景を持つセルには、別のユーザーが手動で入力した数式が存在しないため、数式は含まれません。太字のテキスト セルは自動合計で、背景が青色のセルは合計値です。セル エクスプローラーを使用して、値の元を把握します。

セルの探索

セルの値が計算されていなくても、 を使ってセルの詳細を調べることができます。参照 概念: "セルを探索" および "行の詳細" ( 96ページ ) 。

に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。次に、セルを右クリックして "Planning" >"セルを探索"をクリックします。セルの詳細情報と、さらに詳細な情報へのリンクがブラウザに表示されます。

行の詳細を使用

モデル シート ( シート タイプの識別方法) の場合、セルまたは行のいずれかを探索できます。

に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。次に、行内の任意のセルを右クリックします。"Planning">"行の詳細" をクリックします。行の詳細情報と、より詳細な情報へのリンクが、ブラウザに表示されます。

## 更新のリフレッシュ、マージ、送信

ヒント : ベスト プラクティス: 編集または変更を行う 前 、および新しいデータまたは更新を送信する 前 に 、"リフレッシュ" をクリックして サーバーから最新のデータを取得してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

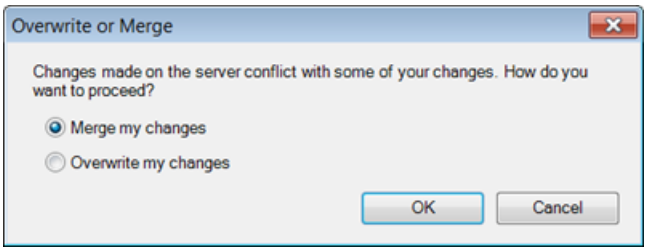
### データの送信

入力したデータを送信するには、に接続してください Adaptive Planning 送信 をクリックします 。更新内容はサーバーに保存され、以前に保存または送信された既存のデータが上書きされます。送信されたデータは、管理者によってロックされるまで、自分を含む他のユーザーが引き続き編集できます。

### データのリフレッシュとマージ

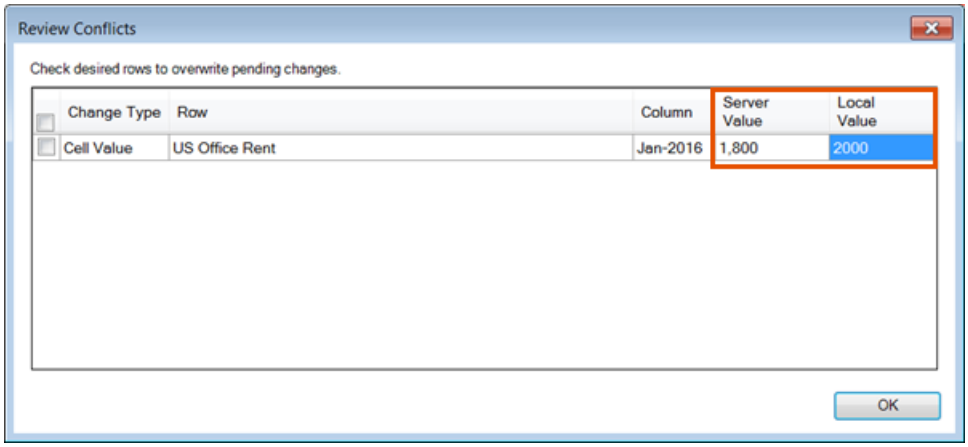
前回のリフレッシュ以降、別のユーザーによって更新されたシートで作業している可能性があります。リフレッシュにより、最新のデータを取得し、更新と最新データとの競合をマージして比較したり、更新をすべて取り消したりすることができます。

1. シートのリフレッシュ をクリックします。シートをリフレッシュすると、新しいデータや既存のデータへの編集はサーバーで「競合」と見なされ、次のメッセージが表示されます。




2. 次の横にあるラジオ ボタンを選択します。
   - 自分の変更を上書き: 行った編集内容は破棄され、データが、クラウド上で最後に保存されたものの状態に戻ります。このデータを再度編集したり、変更を送信したりすることはできます。
   - 自分の変更をマージする: 自分が更新しようとしているセルに他のユーザーが更新されていない場合、画面がリフレッシュされ、他のユーザーが行った更新がグリッドにロードされ、編集内容はシートに残り、送信準備が整います。

     自分が更新したセルを誰かが更新した場合、入力したデータと サーバーに入力したデータを比較して競合のリストが表示されます。どの値を維持し、どの値を廃棄するかを選択できます。




     チェックボックスをオンにすると、グリッドがサーバーからデータをロードし、入力したデータは削除されます。オフのままにすると、入力したデータはグリッドに残り、送信できるようになります。
3. "OK" をクリックします。

グリッドの更新を続行し、"送信" をクリックして変更をサーバーに保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**"Planning ペイン" をリフレッシュ**

でしばらくの間開いていないシートで作業している可能性があります。シートとそのすべてのデータをリフレッシュするのではなく、時間を節約して をクリックし、"Planning" ペインのみをリフレッシュします。これにより、最新のバージョン、組織、シートを使用できるようになります。

## ノートの追加と編集

セルの数 Excel Interface for Planning メモが含まれている場合、セルの右上隅に赤の三角形が表示されます。

### レビュー ノート

- 赤の三角形が付いているセルにマウスを合わせます。メモがポップアップ表示されます。
- リボンの "レビュー" タブの "次" と "前" の ボタンを使用して、各コメントをスクロールします。

### メモを編集

既存のメモを編集または追加するには、セルを右クリックして "コメントの編集"を選択します。"送信" をクリックします。 編集したコメントを次の場所にアップロード: Adaptive Planning。

### 新しいノートの追加

1. 以下の Excel のコメント関数を使用します。
    - 以下のセルを右クリックします。 Adaptive Planning グリッドに移動し、"コメントの挿入"を選択する。
    - リボンの "レビュー" タブから "新しいコメント" をクリックします。
    - Shift キーと F2 を押します。
2. コメントを入力し、クリックして終了します。
3. "送信" をクリックします。 "Planning" タブからコメントをアップロード Adaptive Planning。

### メモを削除

自分または他のユーザーが作成したメモを削除するには:

1. 以下の Excel のコメント関数を使用します。
    - 赤の三角形が付いているセルを右クリックして、"コメントの削除"を選択する
    - コメントが含まれるセルをクリックし、リボンの "レビュー" タブで "削除" を クリックします。
2. "送信" をクリックします。 変更のアップロードに使用 Adaptive Planning。

## 分割と行の追加

標準シートで分割を使用してデータを追加できます。モデル シートでデータを追加するには、行を追加できます。一部のモデル シートでは、行に分割を追加できます。

### 始める前に

- に接続する 必要があります Adaptive Planning モデル シートまたは標準シートに分割を追加します。
- 管理者はシートでの分割を有効にする必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 分割

分割を使用すると、元の行にロールアップされる値を持つサブ行をシートに作成することができます。標準シート上の分割の追加、名前変更、削除ができます。

#### 分割の追加

1. セルを右クリックして、"Planning" >"分割を追加"をクリックします。
2. フィールドに新しい分割の名前を入力し、"OK"をクリックします。
   - 元の行の下に、作成した名前の新しい行が表示されます。
   - 元のセルはグレーに変わります (つまり、その下で作成した分割によって細分化されているため、編集できなくなります)。
   - また、作成した分割の下に "合計" という新しい行が表示されます。この合計は、分割にデータを入力した直後に分割の値を計算します。
3. 更新を送信すると、他のユーザーは元の行のセルの合計のみを表示します。ただし、組織からシートを表示しています。その場合、作成した分割と分割値が表示されます。

#### 分割名を変更

1. 分割の行内の任意の場所を右クリックします。
2. "Planning " >"分割名を変更" をクリックします。
3. 新しい名前を入力して "OK"をクリックします。
4. 更新内容を送信します。

#### 分割の削除

1. 行内の任意の場所を右クリックします。
2. "Planning " >"分割の削除" をクリックし、"OK" をクリックして分割を削除します。その分割に入力された値はすべて削除され、合計から差し引かれます。
3. 変更内容を送信します。

### モデル シートでの行の追加または分割

モデル シート の場合、行を追加できます。分割とは異なり、モデル シートに追加された行は、新しい行が独立しているため、小計されたり元の行にロールアップされません。シートの特性上、行を分割することで、元の下にサブ行を作成することができます。

#### 行の追加

1. ワークシートでセルを右クリックします。
2. 右クリック メニューで "Planning" > "行を追加"をクリックします。新しい行はリストの最後に表示されます。新しい行の一部の列には、デフォルト情報 (青のテキスト) が含まれます。
3. セルのドロップダウンから異なる値を選択して、行のセルを編集する。
4. 更新内容を送信します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 行の分割 | 分割する行を右クリックして、"Planning" >"Split Row"をクリックします。元の行の下に新しい行が字下げして表示されます。 |

行の削除

行が分割行であるか、独立した行であるかに関係なく、行の任意の場所を右クリックして "Planning" > > "行を削除" をクリックします。

削除を取り消すには、"Planning " タブの "リフレッシュ" をクリックし、"変更を上書き"を選択します。行は表示されますが、これまでに行った他の変更はすべて失われます。

注 : 行の削除を確認する機会は表示されません。

## シート ビューの変更

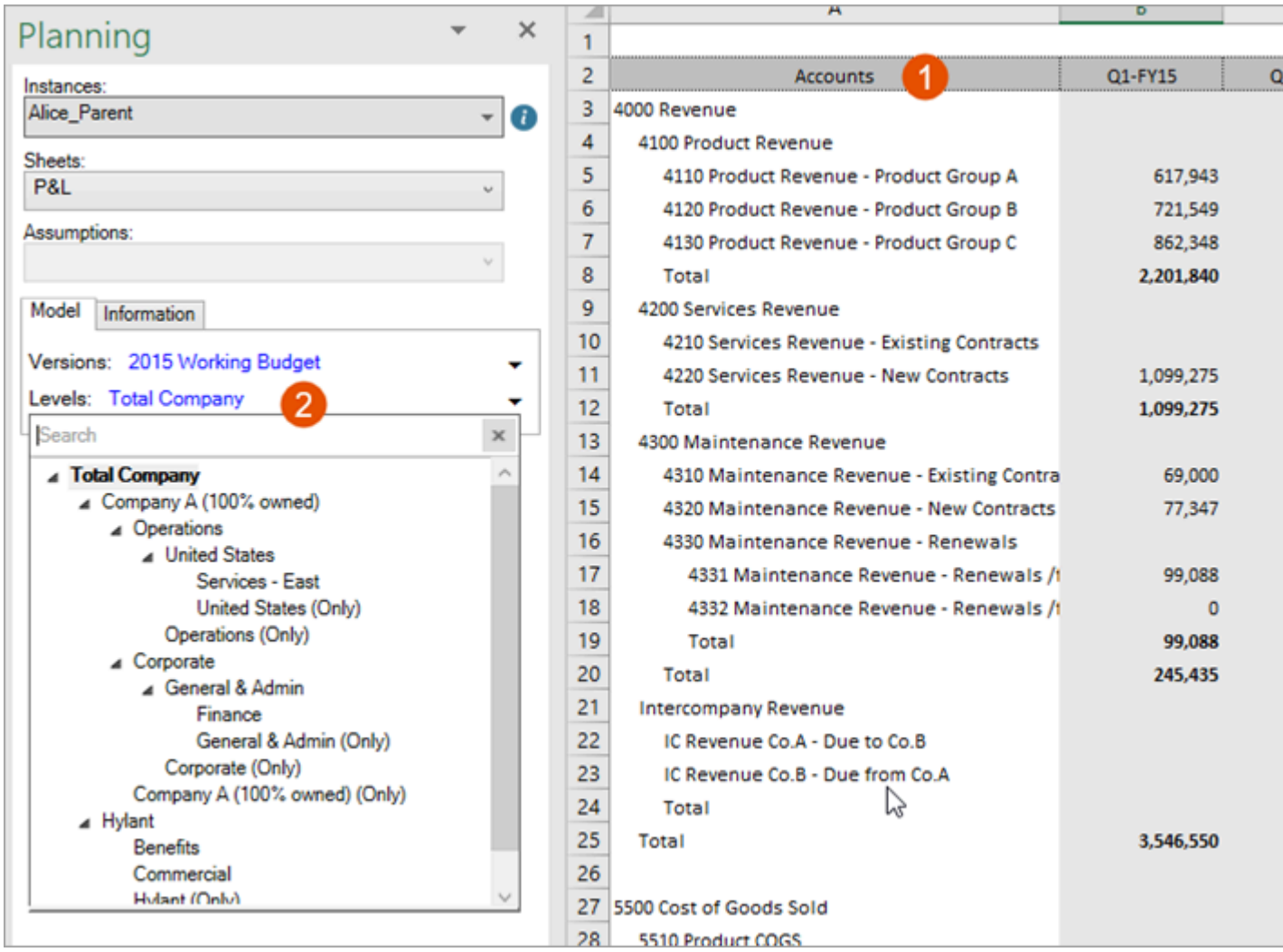
以下のオプションから選択してシートのビューを変更します。開いているシート タイプに注意する (シート タイプを識別することを学びます)。これらの機能は、に接続されている場合にのみ使用できます。Adaptive Planning:

- 軸を入れ替える
- 期間別のフィルタ
- 行のフィルタ内容
- ゼロと空白の非表示
- 属性、軸、座標の変更

標準シート内の軸を入れ替える

このオプションは標準シートでのみ使用できます。標準シート内の行と "Planning" ペイン フィルタを入れ替えることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | デフォルトでは、科目は最初の列の行にリストされています。 |
| 2 | デフォルトでは、"Planning" ペインのドロップダウンから組織を選択します。 |

フィルタと行を入れ替えるには、グリッドの最初の列を右クリックし、"Planning">"組織別に表示"を選択します。

これで、最初の列の行の下に組織が表示されます。"プランニング" ペインで科目を選択します。

### すべてのシートにおける期間の変更とフィルタ

これらの表示オプションは、期間範囲があるすべてのシートで使用できます。グリッド上の期間をフィルタするには:

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。
2. プランニングから タブのリボンで、"表示オプション" をクリックします。 。
3. "時間" タブをクリックします。
4. シートに表示する期間範囲の開始と終了を選択します。
5. リストされた年ごとに表示する列を選択します (これは "開始" と "終了" で選択したオプションに基づきます)。一覧表示された年ごとに異なる項目を選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

使用可能なオプションと設定の詳細については、 を参照してください。

期間の表示例

2017 年 5 月と仮定します。

| フィールド | 当年の開始、当四半期の終了、表示月数 | 当年度のオフセット開始、当四半期終了、表示月数 | 月の開始、当月の終了、表示月数 | 月の開始、当月の終了、表示の組み合わせ |
|---|---|---|---|---|
| 開始選択: | 現行年度<br>オフセット: 0 | 現行年度<br>オフセット: -1 | 月および 2016 年 4 月を選択 | 月および 2016 年 4 月を選択 |
| 選択の終了: | 当四半期<br>オフセット: 0 | 当四半期<br>オフセット: 2 | 当月 | 当月 |
| 列の表示: | すべての年の月 | すべての年の月 | すべての年の月 | 2016 年について、四半期を選択<br>2017 年について、月を選択 |
| 結果: | 開始: 2017 年 1 月<br>終了: 2017 年 6 月 | 開始: 2016 年 1 月<br>終了: 2017 年 12 月 | 開始: 2016 年 4 月<br>終了: 2017 年 5 月 | 2016 年の Q2、Q3、Q4、それに続いて 2017 年 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月 |

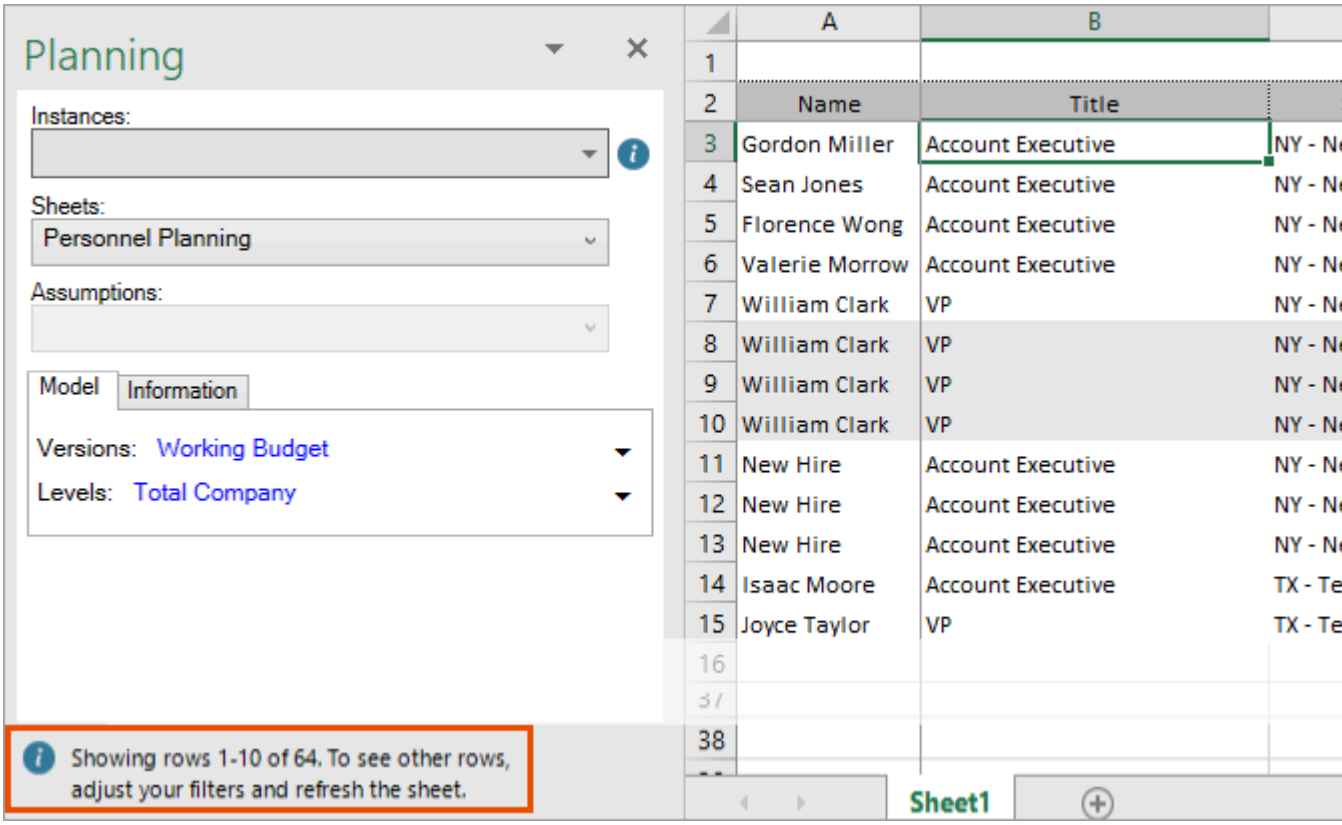
モデル シートの内容別のフィルタ

このオプションはモデル シートでのみ使用できます。多くの場合、モデル シートには多くの行が含まれます。フィルタの用途:

- 関連データの検索
- シートのサイズを縮小
- スクロールを消去

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- モデル シートが表示できる行の数に管理者が制限を設けた場合、異なるデータセットを表示する (これが該当する場合、下部に情報メモが表示されます)




注：ログインしているかどうか Adaptive Planning オンラインで、フィルタを使用するとログオフになります。でフィルタを使用する前に、オンラインで作業を保存してください Excel Interface for Planning。

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。
2. "Planning" リボンで "シート フィルタ" クリックします。
3. フィルタを適用する列を選択します。たとえば、シートに社員がリストされている場合、"名前" を選択すると、名前でフィルタリングできます。
4. フィルタ ルールの演算子を選択します。演算子には、"次の値で始まる"、"次の値で終わる"、"次の値を含む"、"次の値を含まない" などがあります。
5. 空白のフィールドに文字、単語、または数字を入力します。たとえば、"名前 と 次の値で始まる" を選択し、 「T」と入力できます。"OK"をクリックすると、名前が "T" で始まる社員のみがシートに表示されます。
6. フィルタにルールを追加するには、プラス文字アイコンをクリックします。シートをさらにフィルタリングするには、別の列、または同じ列と別の演算子を選択します。たとえば、"氏名"、" 次の値で終わる " を選択して「E」と入力すると、"OK"をクリックすると、名前が「T」で始まり「E」で終わる社員のみがシートに表示される よう になりました。
7. 現在の基準に「OR」ルールを追加するには、"グループを追加" をクリックします。たとえば、"名前" 、"次 の値で始まる" を 再度選択できます。次に "R" と入力します。ここで "OK"をクリックすると、シートには名前が "T" で始まり "E" で終わる社員 に加えて、 名前が "R" で始まる社員が表示されます。
8. "OK" をクリックします。

注：「AND」ルールを追加するにはプラス文字アイコンを使用し、「OR」ルールを追加するには "グループを追加" ボタンを使用します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

標準シートとキューブ シートでゼロと空白を表示しない

このオプションは、標準シートとキューブ シートでのみ使用できます。ゼロと空白を非表示にしたり、ゼロを表示したりするには (特に新しいデータを入力する場合)、次の手順に従います。

1. に接続していることを確認します。 Adaptive Planning。
2. プランニングから タブのリボンで、"表示オプション" をクリックします。 。
3. "時間" タブをクリックします。
4. ウィンドウの下部にある "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" をオンまたはオフにします。ゼロおよび空白が非表示になっている場合、空白のセルまたはゼロに等しいセルがある行は表示されず、その行に新しいデータを入力することはできません。

属性、軸、座標の変更

これらのオプションは、キューブ シートでのみ使用できます。Planning ではキューブ シートの オプションが増えます をクリックします。これらのシートのデータの表示方法をさらにカスタマイズできます。キューブ シートを見ているのか分かりませんか？シート タイプを識別する方法について学びます。

注 : 属性は、モデリング管理者によってキューブ シートに組み込まれます。

に接続していることを確認します。 Adaptive Planningをクリックし、"Planning" ペインでキューブ シートの利用可能な表示オプションのいずれかを変更します。

- 元の表示に戻し、変更した表示の変更をすべて元に戻します。
- 行と列を入れ替えます。たとえば、時間が列に表示され、科目が行の下に表示されている場合、このボタンをクリックすると、列全体に科目が表示され、行の下に時間が表示されます。
- 属性別にデータをフィルタリングします。Planning のドロップダウン メニューからさまざまな属性値を選択します。 ペインデータは変更されて、その属性に関連する情報のみが反映されます。
- 属性をグリッドに追加します。"属性" にリストされている任意の属性をドラッグ アンド ドロップ ボックスの日付 または行 ボックス: それらの属性のデータの値を表示します。

で属性を使用する 方法の詳細 Excel Interface for Planning 。

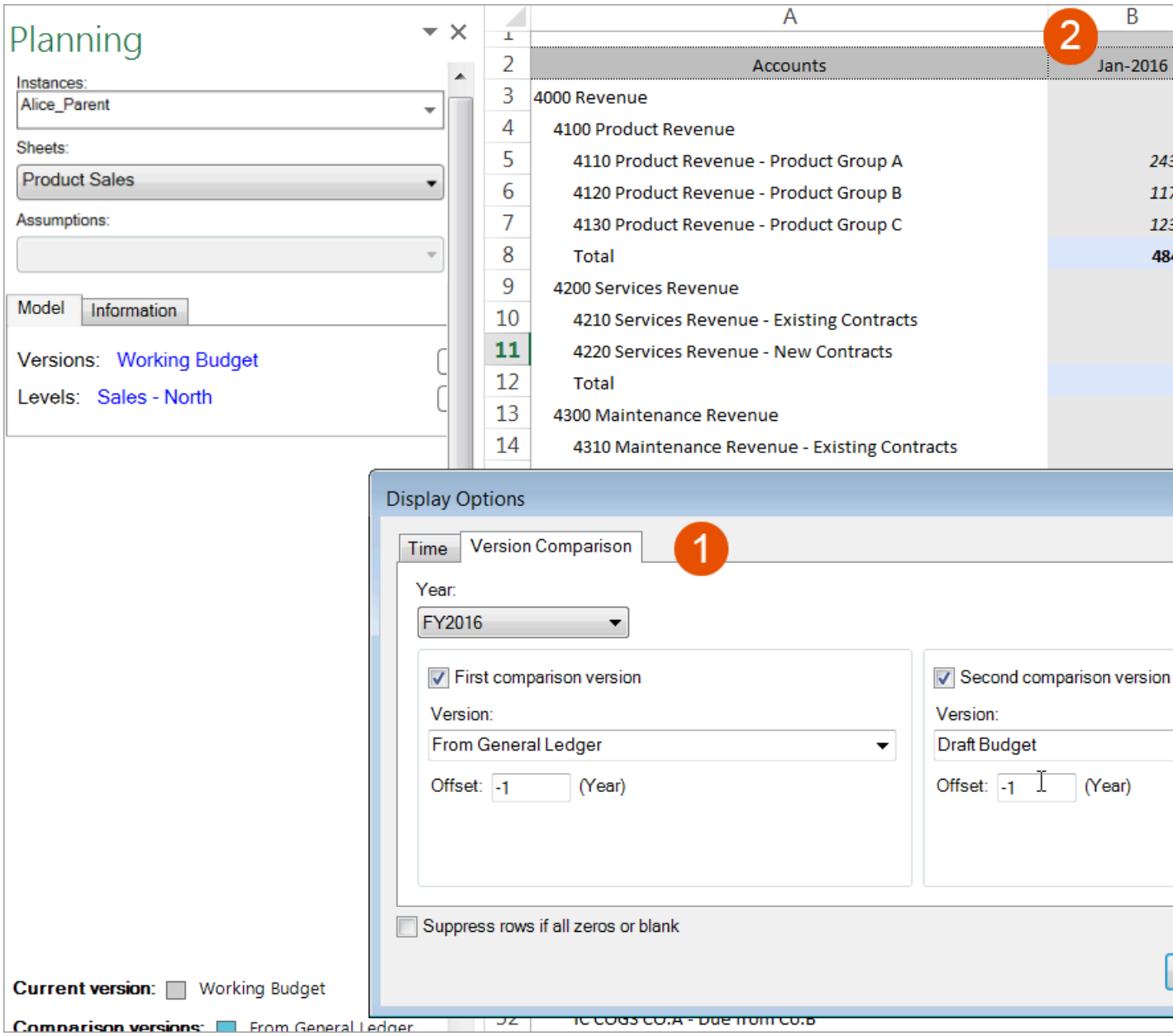
## データを他のバージョンと比較

標準シートでバージョンを比較できます。計画時にデータを比較するには、次のようにします。

1. "Planning" タブで "表示オプション をクリックし、" バージョン比較 " タブをクリックします。
2. ドロップダウンから年を選択します。
3. 実績または計画のバージョンを選択します。たとえば、今年の予算を計画する際に、前年度の実績と前年度の承認済予算を参照することができます。
4. 年のオフセットを入力できます。ドロップダウンで選択した年度より前の年度には負の数値を、以後の年度には正の数値を入力します。
5. "OK" をクリックします。

以下の例で、設定によって表示がどのように変わるかを確認してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | オンにした "バージョン比較" オプション。 |
| 2 | 色分けのない列は、現在作業している現在のシートです。この例では、2016 年の月次データです。 |
| 3 | この例では、この列は前年の総勘定元帳実績 (-1 オフセット) を示しています。 |
| 4 | この例では、この列に前年度のドラフト予算データが表示されています (-1 オフセット)。 |

## Excel Interface for Planning での属性と特性の使用

多くの企業で属性を使用してデータにコンテキストを追加します。属性は会計データを切片化するカテゴリです。多くの企業で属性を使用してデータの分析と分類を行っています。期間、組織レベル、科目、製品、地域は共通のディメンションです。属性は、入力者がさまざまなレンズを通してデータを読み取り、パターンの有無を特定するのに役立ちます。

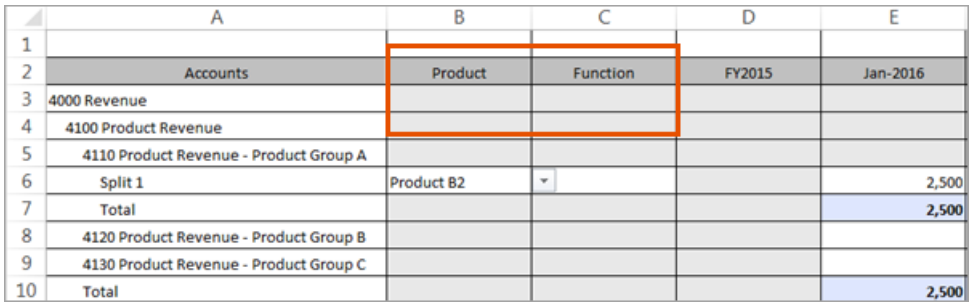
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

属性と特性は、モデル内で異なるように機能しますが、オンライン シートおよび Excel Interface for Planning。特性と属性の両方に、読み取り専用としてデータに割り当てられている複数の値があるか、選択可能な選択肢または値のドロップダウン メニューが提供されています。

属性はどのシートの一部にすることもできますが、キューブ シート内でのみ動的です。つまり、属性を使用してシートの ビューをフィルタ、配置、変更できます 。 シート タイプの識別方法を学びます。

### 標準シートの属性

標準シートには組織の属性とその他のカスタム属性の両方を含めることができますが、特性を指定することはできません。標準シートの属性は時間に関連しない列です。



| | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | |
| 2 | Accounts | Product | Function | FY2015 | Jan-2016 |
| 3 | 4000 Revenue | | | | |
| 4 | 4100 Product Revenue | | | | |
| 5 | 4110 Product Revenue - Product Group A | | | | |
| 6 | Split 1 | Product B2 | | | 2,500 |
| 7 | Total | | | | 2,500 |
| 8 | 4120 Product Revenue - Product Group B | | | | |
| 9 | 4130 Product Revenue - Product Group C | | | | |
| 10 | Total | | | | 2,500 |

標準シート内の属性は、編集可能である場合と読み取り専用である場合があります。属性値を編集または選択するには:

1. これ以上展開できない組織を選択していることを確認します。
2. セルがまだグレーで表示されている場合は、対応する時間列のセルに分割を追加します。
    - セルがグレーのままの場合、読み取り専用セルです。
    - 分割を追加した後に属性セルが白に変わった場合、セルをクリックします。
3. 必要な属性値を見つけるには、"属性値" を開きます。以下のいずれかを実施します。
    - 右クリックし、"Planning">"属性値の選択" を選択します。
    - または、リボンで "属性の選択" をクリックします。
4. リストをスクロールまたは展開して折り畳んで参照するか、キーワードを入力して属性を検索します。
5. 値を選択して "OK"をクリックします。
6. シート上の変更を送信して保存します。

### モデル シートの属性

モデル シートには、あらゆる種類の属性と特性を格納できます。標準シートと同様、モデル シートのほとんどの属性と特性はドロップダウンの値を選択するセルを持つ列です。モデル シートの多くのセルにもドロップダウン メニューがあるため、モデル シートでは属性と特性を識別するのが難しい場合があります。

1. 属性値を選択するには:
2. 属性のあるセルをクリックします。
3. 以下のいずれかを実施します。

- 右クリックし、"Planning">"属性値の選択" を選択します。
- または、リボンで "属性の選択" " アイコンをクリックします。

1. リストをスクロールまたは展開して折り畳んで参照するか、キーワードを入力して属性を検索します。
2. 属性値を選択して "OK"をクリックします。
3. 変更内容を送信して保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### モデル シートのフィルタの属性と特性

属性とそれに関連する属性特性の両方がモデル シートにある場合、シートから 2 列が関連していることがわかり、それに応じて選択可能なフィルタリングが行われます。

その仕組みは次のとおりです

この例では、データ入力を容易にするために、シート内で属性と特性がどのようにフィルタリングされるかを示します。

- "製品" は 、"Slacks"、"ブラウス"、"シューズ" という値のオプションを持つ属性です。
- "色" は "製品" の属性であり、値のオプションには以下のいずれかの値があります。
- スラックスの色は、白と茶です。
- 上記以外のアイテムは、"クロッシュ" のみとなります。
- ブラウスはすべての色でご利用いただけます。

" 製品" を最初に選択し、以下を選択します。

- ブラウス: " 色の セル" に以下が事前入力されます (none) 関連していることを示す場合、青のテキストで表示される。"色" ドロップダウンで、ブラウスに関するすべてのオプションを選択できます。
- "色の セル" に以下が事前入力されている Black 青のテキストで表示されますが、それが唯一の "色" オプションであることを示します。
- "色の セル" に以下が事前入力されている場合、 (none) 青のテキスト"色" ドロップダウン矢印をクリックすると、オプションとして黒と茶のみが表示されます。

" 色" を最初に選択した場合 ("色") を選択すると次のようになります。

- 黒: 製品 セルに以下が事前入力されている (none) に関連していることを示します。"製品 " ドロップダウンで、すべてのオプションを使用できます。
- 茶: 製品 セルに以下が事前入力 (none) ドロップダウンでは、"Slacks" と "ブラウス" のみが選択可能です。
- 白色: 製品 セルに以下が事前入力されている Blouses 白で選択可能な唯一の製品であるためです。

### キューブ シートでの属性の使用

キューブ シートでは、属性が科目、時間、組織と連携して機能し、データとデータ入力をスライスします。キューブ シートを使用する場合は、使用する属性に基づいて入力したデータの「分割」がシート自体で作成されるため、分割を追加する必要はありません。

キューブ シートの属性ルール

- "Planning" ペイン > "モデル" タブにリストされた属性を検索します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 他のシートと異なり、キューブ シートの属性には、科目、時間、組織のほか、カスタム属性や特性も含まれます。
- 属性は、フィルタ、行またはサブ行、あるいは列のみのいずれかになります。
- 列の属性は 1 つのみです。
- 行またはフィルタとしてリストされた属性に制限はありません。

キューブ シートの属性タイプ

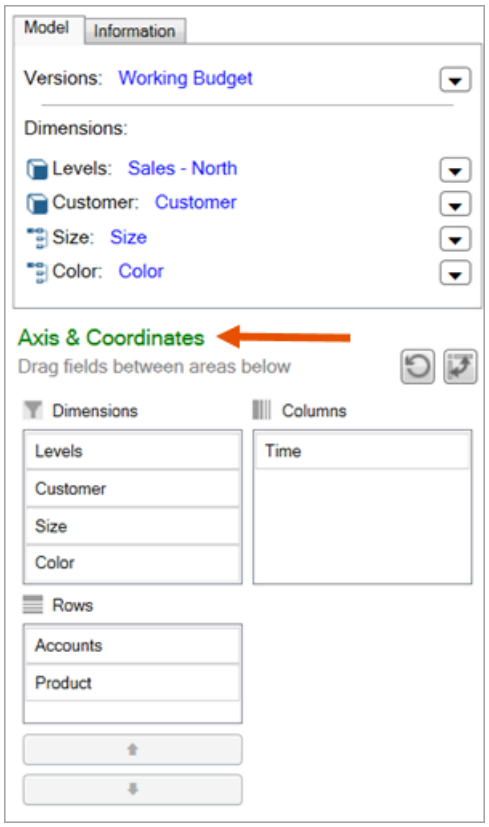
メイン Adaptive Planning カテゴリ (組織、科目、時間、製品、顧客、地域などのカスタム属性など)

特性またはサブカテゴリは、顧客タイプ、色、サイズなどの属性をさらにスライスします。

属性と特性の両方に、フィルタとして選択したり、グリッドの行や列に追加したりできる値があります。

グリッドへの属性の追加

"Planning" ペイン > "モデル" タブで、"軸と座標" セクションに移動します。

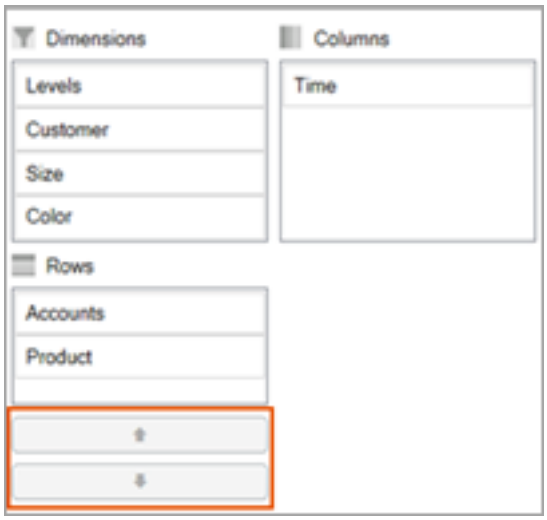



- 属性を列に追加: 属性を "属性" または "行" ボックスから "列" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。この属性は現在の列の

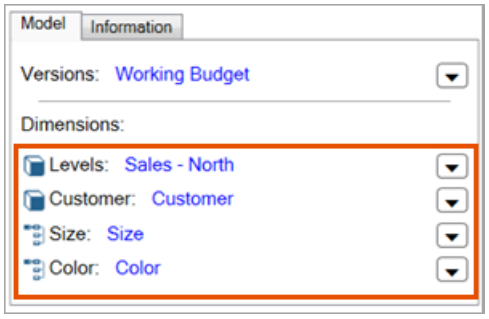
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

属性 (通常は時間) を置き換えます。属性の値が列全体にリストされています。たとえば、"製品" を "列" にドロップすると、製品の値 (ブラウス、スラックス、シューズなど) が列のヘッダーとして表示されます。

- 行への属性の追加: 属性を "属性" ボックスから "行" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。値は行の下にリストされます。たとえば、行に色を追加すると、すべての色の値 (赤、オレンジ、黄など) が行にリストされています。行に複数の属性がある場合、2 番目の属性は最初の中に、3 番目の属性は 2 番目の中に、というようにネストされます。たとえば、"製品" が "科目" の下にリストされている場合、各科目についてリストされた製品の値が表示されます。矢印を使用して順序を変更します。たとえば、"製品" を上に移動すると、科目が製品ごとにリストされています。

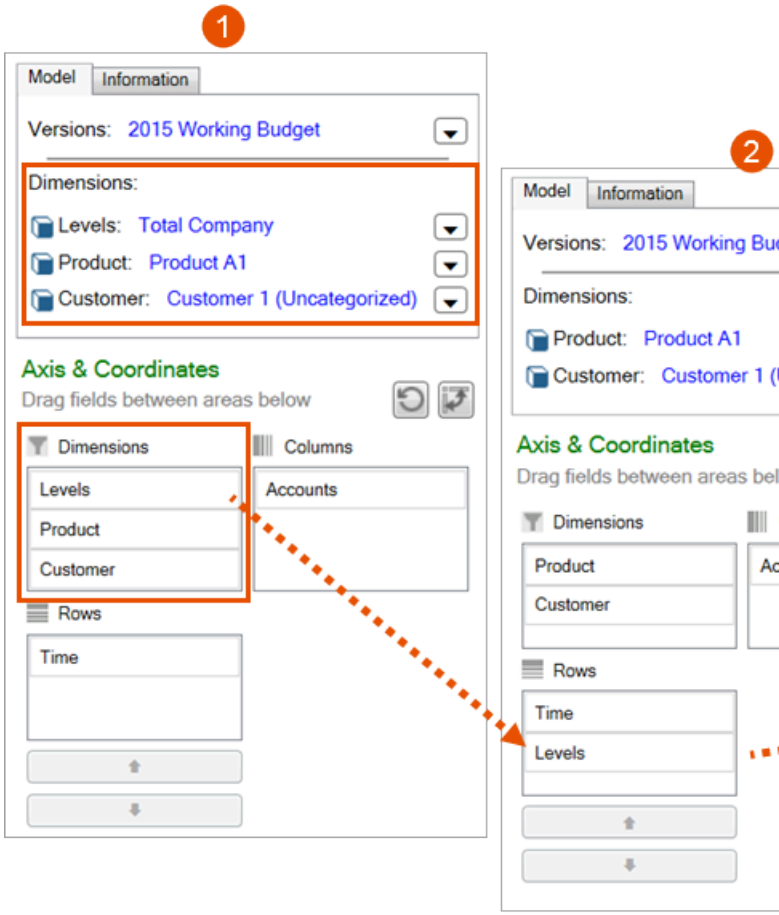



- フィルタへの属性の追加: 属性を "行" または "列" ボックスから "属性" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。属性がフィルタに属性として表示され、ドロップダウンから値を選択してデータをフィルタリングできます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

フィルタとしてリストされている属性が表示されません か？




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 組織はフィルタリングできる属性としてリストされており、"属性" ボックスにもあります。 |
| 2 | 組織を "行" ボックスにドラッグ アンド ドロップします。もうフィルタとして使用できないことに注意してください。 |
| 3 | 属性を "属性" ボックスにドラッグ アンド ドロップし、フィルタとして使用できるようにします。 |

グリッドからの属性の削除

"Planning" ペイン > "モデル" タブで、次の操作を行います。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 行からの削除: 属性にドラッグして戻す ボックス
- 列から削除: 置換を列にドラッグします ボックス: 古いものが自動的に削除されます。
- フィルタから削除: 属性のドロップダウンから "すべて" を選択し、フィルタリングを停止します。

新しい属性値の追加

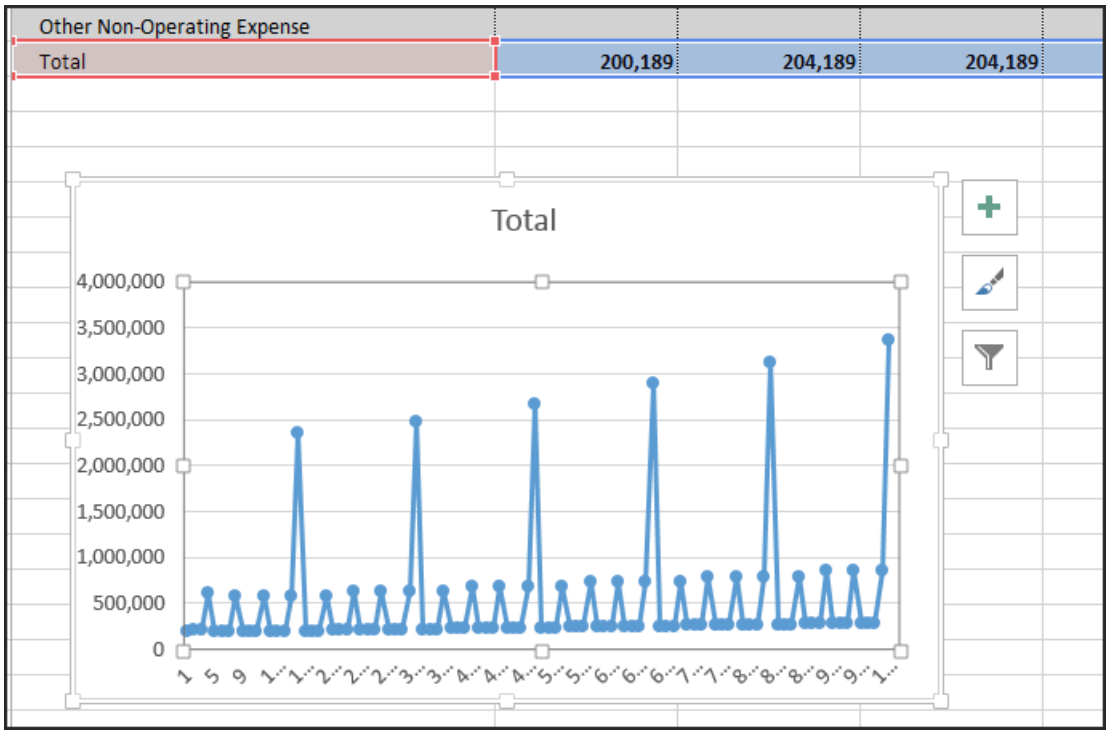
一部のモデル シートおよびキューブ シートでは、属性に新しい値を追加できます。値を追加するには、次の場所からシートにアクセスします。 Adaptive Planningではなく Excel Interface for Planning。

## Excel グラフを使用

を使用する場合 Adaptive Planning Excel のシートにデータをエクスポートすると、Planning のセル範囲外の関数やグラフ ツールなどの Excel 機能を使用して、必要に応じてローカルなレポートや分析を実行できます。このセクションでは、Excel と を使用した 2 つの例を説明します。 Adaptive Planningdata: Excel グラフと Excel 数式

これを使って **Excel** グラフを作成します **Adaptive Planning** データ

純利益の傾向を示す折れ線グラフを挿入できます。




1. 次の行からデータを選択します。 Adaptive Planning シート範囲たとえば、P&L シートで "純利益" 行を選択します。
2. Excel の範囲に折れ線グラフを挿入し、Excel グラフ ツールのオプションを使用して必要に応じて書式を設定します。

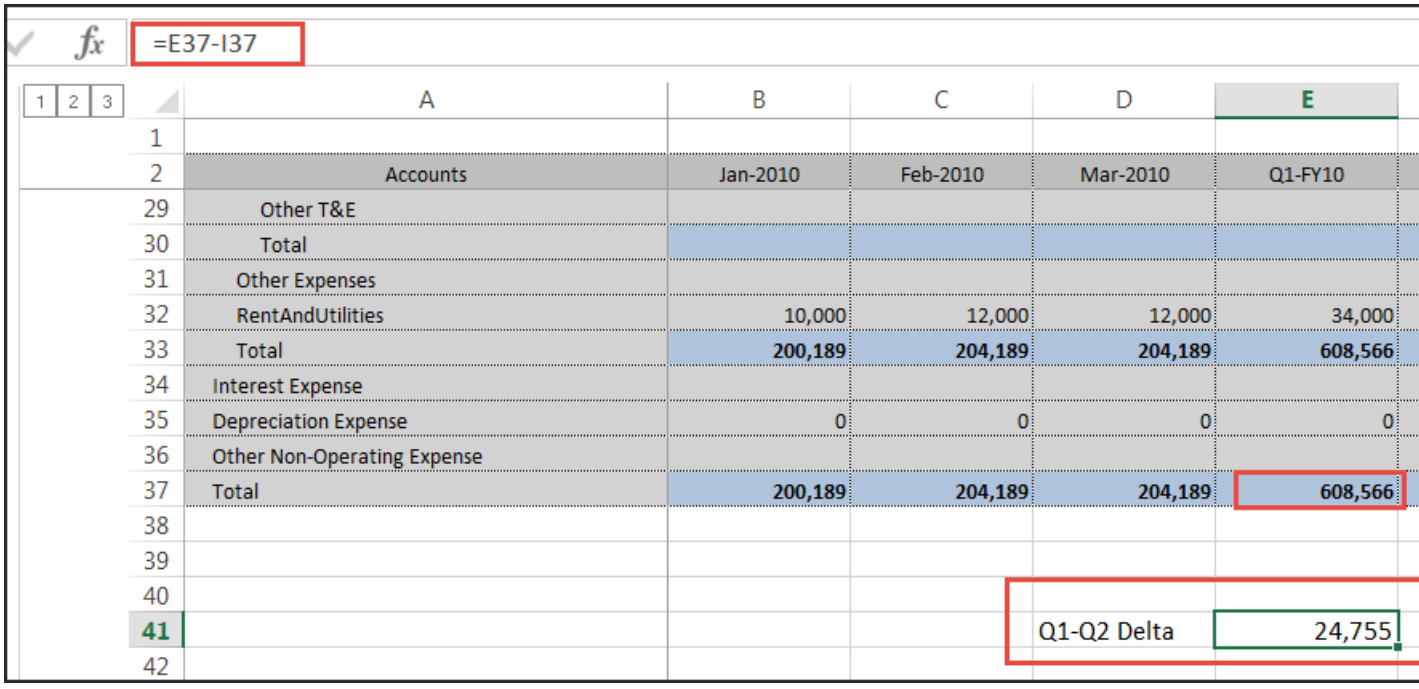
注 : 注: 組織またはバージョンを切り替えると、 Adaptive Planning グリッド領域で、ローカルな Excel 分析やレポートをオーバーライドできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

を使用した **Excel** 計算の作成 **Adaptive Planning** データ

Excel とプランニング シートのデータを使用してローカル計算を実行します。プランニング シートの外に Excel の関数または数式を挿入して参照 Adaptive Planning データ、または以下の組み合わせ Adaptive Planning Excel の範囲に入力されたデータとデータ

たとえば、第 1 四半期と第 2 四半期の純利益の差額を計算します。




Excel のセル範囲および参照内のセルに Excel の関数または数式を挿入 Adaptive Planning 計算のセル範囲

## 複数のシートとワークブックの使用

複数オープンできます Adaptive Planning シートごとに独自の Excel シート タブに表示されるため、計画の特定の領域に集中できます。たとえば、特定の部門を担当している場合、その部門組織の経費、リソース、収益のプランのみを作成できます。

複数シートのワークブックを作成するには、次のようにします。

1. 接続先 Adaptive Planning。
2. what-if 人員計画の モデル化された リソース シートを開きます。実行予算バージョンや営業組織などのバージョンと組織を選択します。
3. Excel のローカルでシートの名前を変更します。たとえば、 シート *1* の名前を次のように変更します。 `1. Headcount.`
4. 2 つ目の Excel シートで 標準シート を開きます (同じバージョンと組織を維持)。たとえば、経費シートを開いて、"シート *2*" の名前を `Expenses.`
5. 3 番目の Excel シートで キューブ シートを開きます。ローカルで シート *3* から `3. Revenue.`

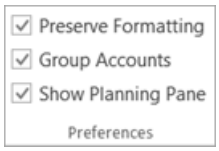
# Excel Interface for Planning のリファレンス

## 参考: Excel リボンの Planning タブ ボタン

インストールすると、Excel リボンに "Planning" タブが表示されます Excel Interface for Planning 。このページでは、ツールバーのボタンとその機能について説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**Planning タブのボタン**

| | |
|---|---|
| | ログインして接続 先 Adaptive Planning: シートにアクセスし、Excel に表示されたデータをリフレッシュして、Excel で行った変更でサーバーを更新します。ログアウトして オフラインで作業します。再度ログインして送信するまで、変更内容はサーバーに保存されません。 |
| | クリックすると、最後の接続後に他のユーザーが入力した新しいデータが取り込まれます 。新しいデータとユーザーのデータの間に競合がある場合は、競合を解決するよう求められます。 |
| | クリックして、オンライン シートに 作業を保存します 。 |
| | クリックすると、"Planning" ペインが最新のシート、組織、前提条件でリフレッシュされます 。 |
| | 特定のシートで行を追加したり削除したりする 。 |
| | 分割を追加して 、選択した行のサブカテゴリを作成します。値は元の行にロールアップされ、編集できなくなります。 |
| | 作成した 分割 を削除し て名前を変更します。 |
| | キーワードを参照して使用し、セルの属性を検索および選択します。 |
| | グリッドに表示されるデータをフィルタし たり、同じグリッドで最大 3 つのバージョン (たとえば、前年の実績、前年の予算、今日の実行予算) を比較する。 |
| | モデル シートでのみ使用可能。次の値で始まる、次の値で終わるなどの演算子を使用して、コンテンツ別に列をフィルタリングします。 |
| プリファレンスの切替<br>  | • "送信" をクリックしたときに、オンラインでシートに加えた書式設定の変更を保存するために、ローカルの書式を保持します。<br>• 科目をグループ化し、 内の会社の組織アウトラインに従って行を展開したり折り畳んだりできるようにする Adaptive Planning。<br>• "Planning" ペインを表示 (または非表示) にすると、グリッドがより多く表示されます。 |
| | ドロップダウンを使用して以下を選択します。<br>• オンライン ヘルプ: コンテキストに応じたヘルプ記事にリンクします。<br>• 概要: バージョンを確認します。以下を確認してください: 製品ダウンロード ( 2785ページ ) をクリックして、最新バージョンを使用していることを確認します。 |

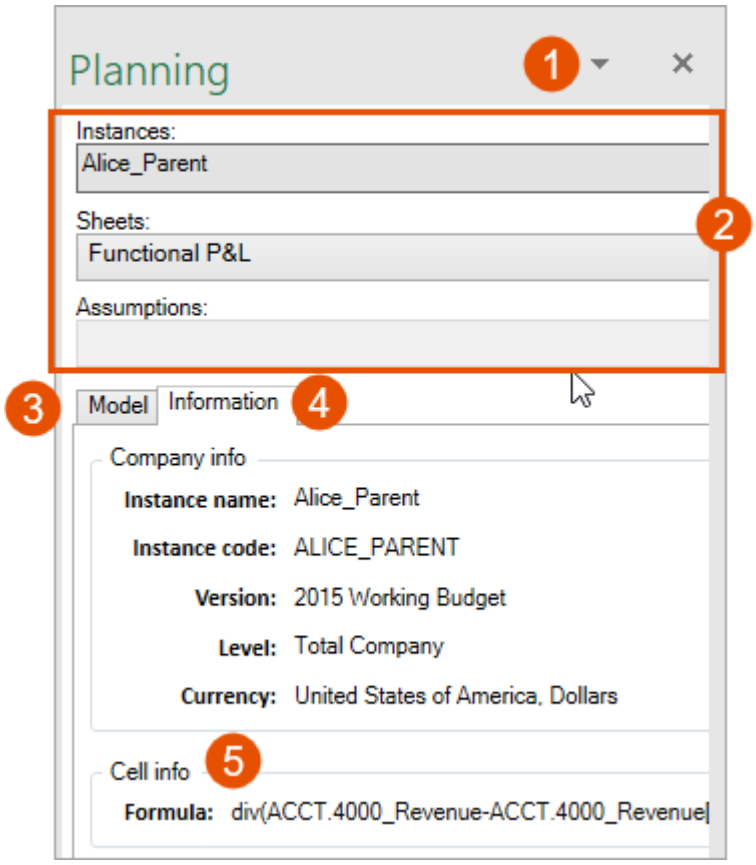
## 参考: Excel Interface for Planning の "プランニング" ペイン

"Planning" ペインは、に接続している場合のみ使用できます。 Adaptive Planning。シートが変われば、異なるオプションが提供されます。

すべてのシートのオプション

次のオプションは "Planning" ペインで使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

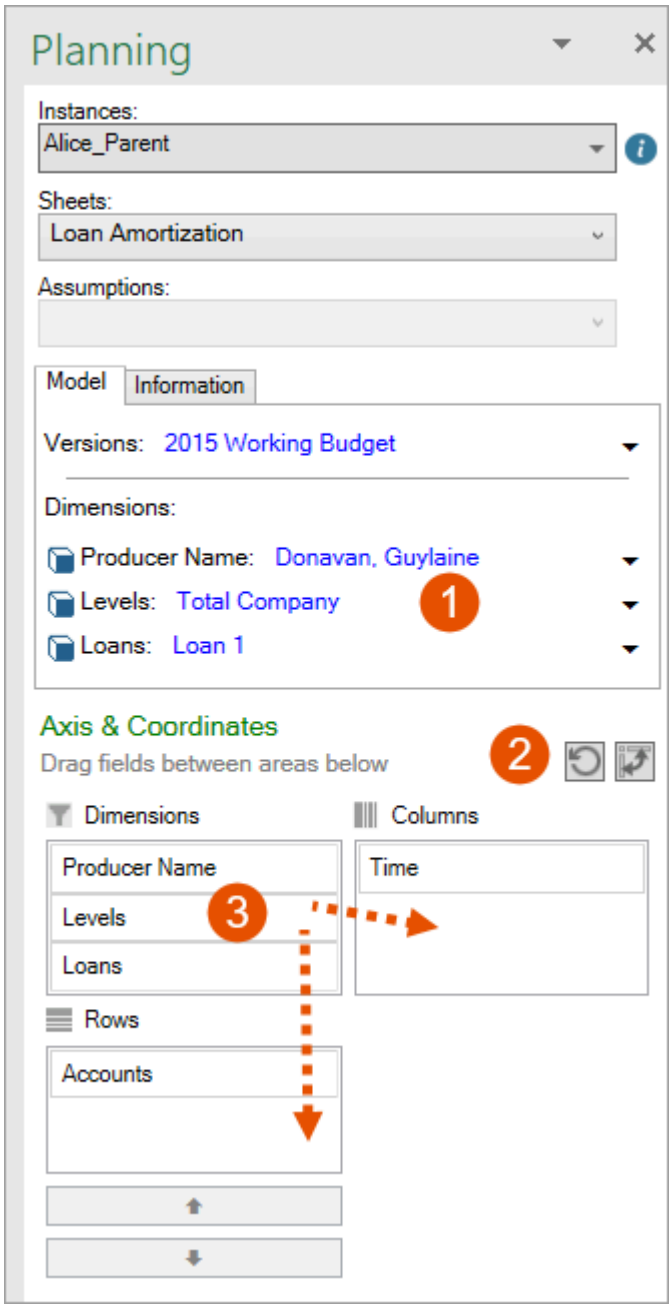



| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | X をクリックしてパネルを非表示にするか、クリックしてパネルをデタッチし、画面上でパネルを移動させます。 |
| 2 | 複数のインスタンスにアクセスできる場合は、そのインスタンスを選択します。アクセスするシートを選択します。計画時に使用する前提条件を表示または更新して選択します。 |
| 3 | "モデル" タブで、バージョンと組織または科目を選択します。これは、権限に基づいてセルが編集可能かどうかに影響します。キューブ シートの "モデル" タブには、さらに多くのオプションが用意されています。 |
| 4 | "情報" タブで、使用しているインスタンス名、バージョン、組織、通貨を表示します。 |
| 5 | "情報" タブの "セル情報" セクションには、選択したセルに入力された数式が表示されます。 |

キューブ シートのオプション

"プランニング" ペインの以下のオプションは、キューブ シートで使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 任意の属性またはすべての属性でデータをフィルタリングします。ここに属性が表示されていない場合は、列または行のボックスから属性を削除します |
| 2 | 表示を元にリセットするには、 をクリックします。 をクリックして、列と行を入れ替えます。 |
| 3 | 属性を列 (右側) または行 (下) にドラッグ アンド ドロップします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## 参考: Excel Interface for Planning での右クリック操作

以下のセルを右クリックします。 Adaptive PlanningExcel および を選択するグリッド Adaptive Planningベースのアクション

選択するオプション Adaptive Planning アクションを設定し、任意のセルを右クリックしてから、右クリック メニューの上部にある "Planning" にマウスを合わせる。使用可能なアクションは、シートおよびセル タイプによって異なります。

表示されるさまざまな タイプのシート を区別する方法について説明します。

| Adaptive Planning アクション | 機能 | 使用可能な場合 |
|---|---|---|
| セルの探索 | ドリルダウンして、 このセルのデータが表示されている科目情報、関連する数式、他のシートを検索します。 | 標準シートとキューブ シートのすべてのデータ セル<br>モデル シート内の期間セル (年や四半期など)。 |
| 分割を追加<br>分割を削除<br>分割名を変更 | セルの値をサブ行に分割し 、元の値にロールアップします ( 標準シートの場合)。 | 標準シートにのみ含まれるすべての編集可能なセル |
| 属性値を選択 | キーワードを参照および使用して、属性値を検索および選択します。 | モデル シートおよび標準シートの属性を持つセル。 |
| 行を分割 | モデル シートの行を分割し 、インデントサブ行を作成します。 | モデル シートのすべての行 (シートに "分割を許可" 機能が設定されている場合) |
| 行の詳細 | ドリルダウンして 、行内のデータに関する情報を検索します。 | モデル シートのすべての行 |
| 組織別に表示/科目別に表示 | 科目別に表示 (デフォルト ビュー): 科目は最初の列に表示されます。組織は "プランニング" ペインの "モデル" タブから選択します。<br>組織別に表示: 組織は最初の列の下に表示され、"Planning" ペインの "モデル" タブで科目を選択します。 | 標準シートの 1 列目にあるすべてのセル |
| なし | 次の値はありません Adaptive Planning 可能なアクション。 | メタデータ セル (行または列のヘッダー、行項目など) |

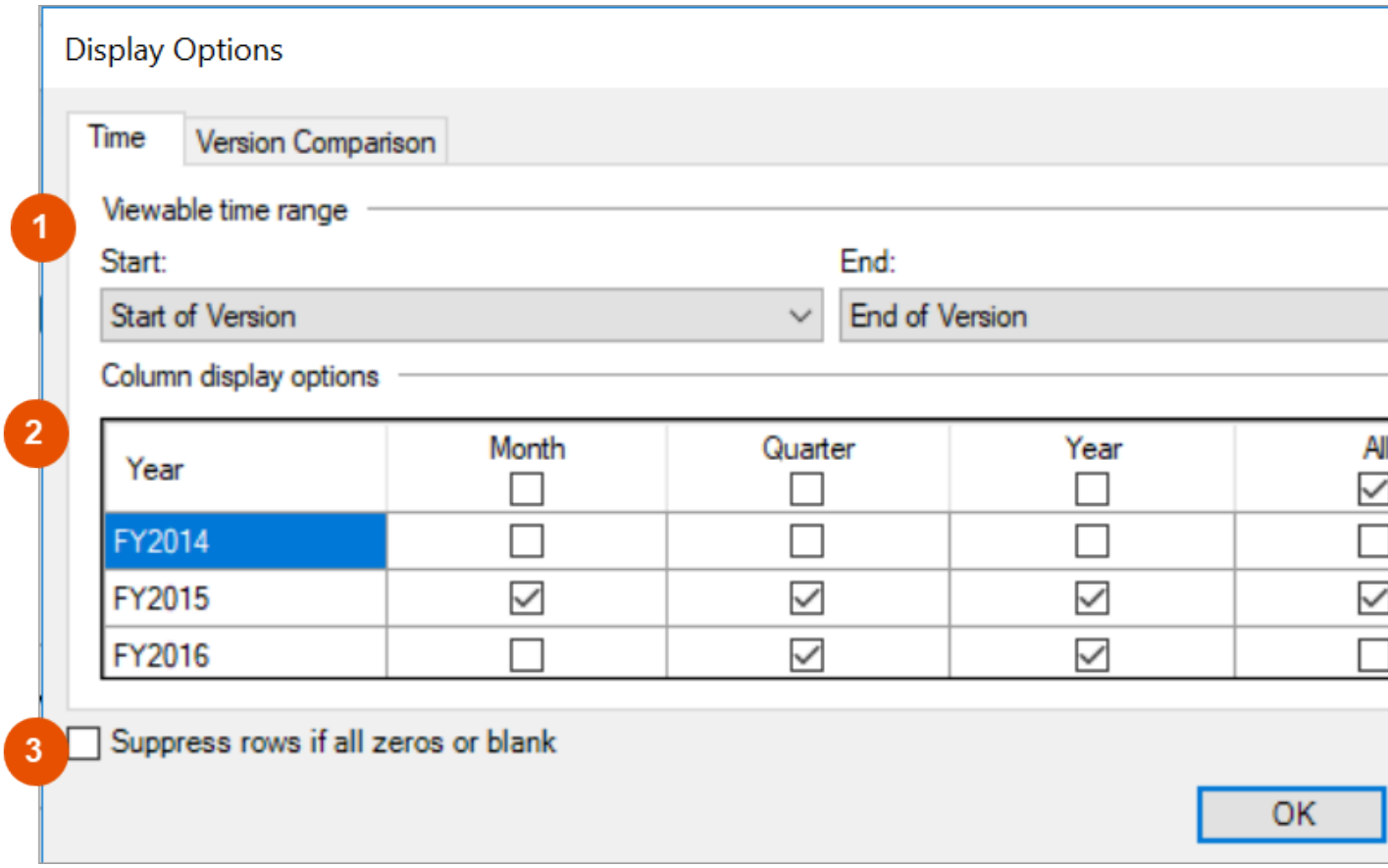
## 参考: 表示オプションの設定とフィールド

表示オプション、フィルタ、その他のツールを使用して シート ビューを変更する 方法について説明します。

表示オプション > 時間タブ

"時間" タブは、期間範囲のあるあらゆる タイプのシート で使用できます。"時間" タブの設定は主に次の 3 つです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 表示可能な期間: シートの開始と終了を選択 |
| 2 | 列表示オプション: 表示する範囲内の期間を選択します |
| 3 | すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない: データがない行またはすべてゼロの行を非表示にします。 |

表示できる期間

シートに、2010 年 1 月から将来のいくつかの年までのデータが含まれている場合があります。開始と終了を指定して、表示を絞り込むことができます。選択可能な項目について次の表で説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ドロップダウン オプション | 基準 | 開始時に表示 | 終了時に表示 | 表示対象の選択: | 選択した場合の追加フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| バージョンの開始 | 計画バージョン: "バージョン" 設定の "表示開始月"<br>実績バージョン: バージョンの開始。 | 管理者によって表示開始月として選択された日付<br>に保存された最も早い実績データの日付 Adaptive Planning。 | 該当なし | できるだけ過去まで (計画バージョンでの実績のオーバーレイを含む) | 該当なし |
| バージョンの終了 | バージョンの設定での計画またはバージョンの終了 | 該当なし | バージョンの終わりまで進める。 | できるだけ前まで。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| ドロップダウン オプション | 基準 | 開始時に表示 | 終了時に表示 | 表示対象の選択: | 選択した場合の追加フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| 計画の開始 | 計画バージョン: バージョンの設定。計画データが開始され、実績のオーバーレイが停止します。<br>実績バージョン: 「バージョンの開始」と同じです。 | 計画の開始日まで遡ること。 | 該当なし | 現在の計画データのみ。 | オフセット: 負または正の数を入力し、選択した時間より前または後に開始または終了します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| ドロップダウン オプション | 基準 | 開始時に表示 | 終了時に表示 | 表示対象の選択: | 選択した場合の追加フィールド |
|---|---|---|---|---|---|
| 現在の[期間] | カレンダーの設定。共通のカレンダーには、当月、当四半期、当会計年度が含まれる場合があります。 | 選択した期間の最小セグメント。<br>2018 年 3 月に "当年" または "当四半期" を選択した場合、シートは 2018 年 1 月に開始します。 | 選択した期間の最小セグメント。<br>2018 年 3 月に "当年度" を選択した場合、シートは 2018 年 12 月に終了します。<br>"当四半期" を選択した場合、シートは 2018 年 3 月に終了します。 | 特定の会計期間内のデータ。 | オフセット: 負または正の数を入力し、選択した時間より前または後に開始または終了します。 |
| 最小期間 | カレンダーで使用可能な最小の期間。共通カレンダーの最小期間は月です。 | 表示される追加のドロップダウン メニューから選択した内容。 | | 特定の開始日から終了日までのデータ。 | 表示されるドロップダウンから特定の時間を選択します。 |

列表示オプション

シートに表示するオプションを選択します。

- オプションには、期間の選択に基づいて、インスタンスのカレンダーの使用可能なすべての期間が含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 一部のオプションは、シートまたはシートの科目に適用されないため、選択できません。
- 表示可能な年ごとに異なるオプションを選択できます。

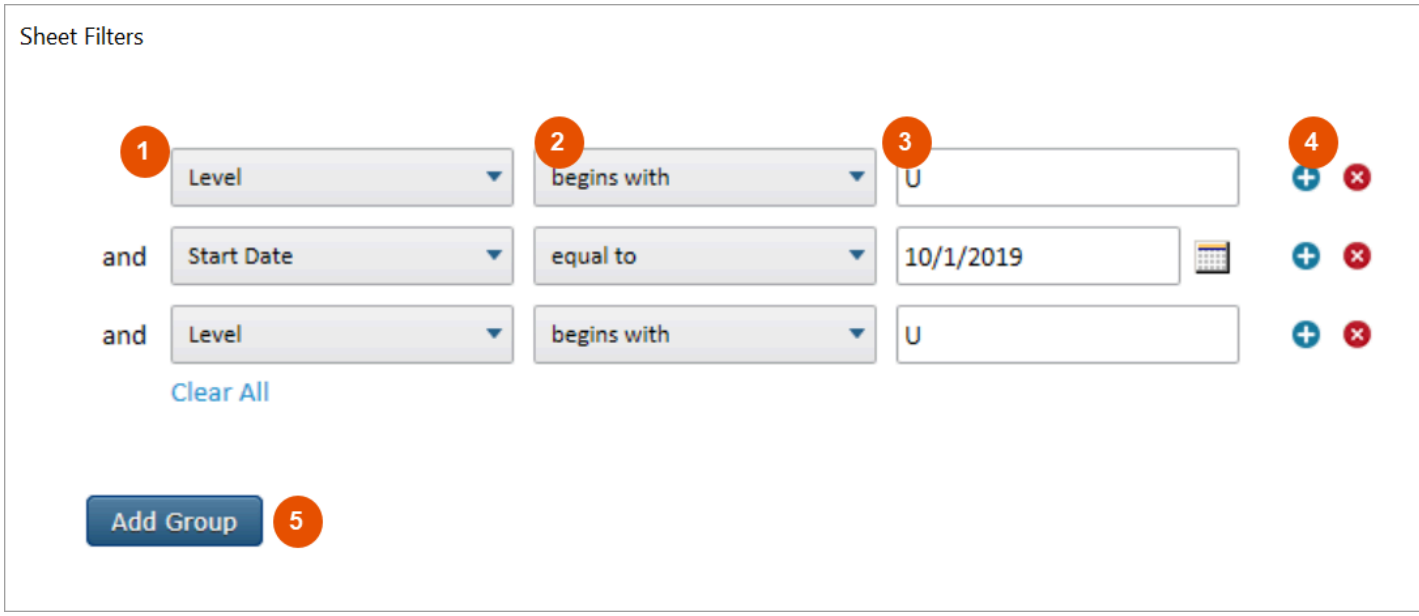
"表示オプション" > "バージョン比較" タブ

"バージョン比較" タブは 標準シート に対してのみアクティブです。

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| Year | シートに対して選択された現在のバージョンで使用可能な級数が含まれます。列ごとにデータを並べて表示する年を選択します。<br><br>"時間" タブで選択した時間範囲が、ここで選択した年に対応していることを確認します。たとえば、期間をフィルタして現在の四半期のみを表示している場合、前年とのバージョン比較は表示されません。 |
| 最初の比較バージョンと 2 番目の比較バージョン | 1 つまたは 2 つのバージョンを取得してシートと比較する場合に選択します。 |
| バージョン | 使用可能なすべてのバージョンが含まれます。現在のシートと比較するバージョンを選択します。<br><br>最初と 2 番目の比較に同じバージョンを選択し、そのうちの 1 つをオフセットできます。 |
| オフセット | 正または負の数を入力して、バージョンの年を前後にオフセットします。 |

シート フィルタ

シート フィルタ はモデル シートに対してのみアクティブです。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 列を選択: 列ヘッダーをフィルタリングします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 2 | 演算子: ドロップダウンには、「が次の 値を含む」、「次の 値で始まる」など、演算子のリストが含まれます。 |
| 3 | このフィールドは、条件を入力する場所です。 |
| 4 | プラスまたはマイナスのアイコン: フィルタに「AND」ルールを追加または削除します (「AND」ルールを使用すると、行を返すためにすべての条件が満たされる必要があります)。 |
| 5 | グループを追加: フィルタに「OR」ルールを追加します (「OR」ルールを使用すると、一致した各グループのフィルタ条件のいずれかが行を返します)。 |

## 参考: Excel Interface for Planning の Excel および Adaptive Planning 関数

### Excel 関数 Excel Interface for Planning グリッド

次のテーブルでは、一部の一般的な Excel 関数が の中でどのように機能するかについて説明します。 Excel Interface for Planning グリッドであり、これを回避する方法を提供します。読む前に、 グリッド と シート タイプについてよく理解します。

Excel のグリッド内で作業している場合、Excel の関数はすべて期待どおりに機能しますが、そこでの更新は にアップロードされません。 Adaptive Planning。

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Excel グリッド上で追加または変更されたすべてのコンテンツ ( Adaptive Planning グリッド) | 条件付き | いいえ | シートの Excel グリッドは、Excel とまったく同様に機能します。<br>次の項目に許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様です。<br>許容可能な更新を送信すると、Excel グリッドが Excel シートに残ります。 | Excel ファイルを保存し、今後データを参照し続ける。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| 行と列の削除または切り取り | 条件付き | いいえ | 行と列が削除されたり、エラー メッセージが表示されたりする可能性があります。<br>次の項目に許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様です。<br>許容可能な更新はアップロードされますが、削除された行と列は Excel ファイルに再度表示されます。<br>切り取った行や列を Excel のグリッドに貼り付けた場合、それらは更新を送信した後もそこに残ります。 | "Planning" タブのリボンまたは右クリックの "Planning" メニューから "行を削除" ボタンを使用します。 |
| 行を挿入 | いいえ | 該当なし | アクションはグレーアウトされています。 | "Planning" タブのリボン、または右クリックの "Planning" メニューから "行を追加" ボタンを使用します。 |
| 数式 | はい | 条件付き | 計算は期待どおりに機能します。<br>更新を送信すると、値は計算ではなく入力値としてアップロードされます。 | 値の計算方法を説明するコメントをセルに挿入する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| 列を挿入 | いいえ | いいえ | 列を挿入すると エラー メッセージが表示されます。 Adaptive Planning グリッド。<br><br>グリッド外の列を追加した場合、送信設定に許容範囲の更新が行われていない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様。<br><br>新しい列は次の場所にアップロードされません: Adaptive Planning ただし、Excel ファイルには残ります。 | 参照のために Excel ファイルをコンピュータに保存します。 |
| フィルタとソート | いいえ | 該当なし | アクションはグレーアウトされています。 | "Planning" タブ リボンの "表示オプション" を使用します。 |
| 取消および再実行 | いいえ | 該当なし | アクションはグレー表示されています。 | 行った変更を取り消すには、"リフレッシュ" をクリックし、"上書き" を選択します。 |
| 形式 | はい | いいえ | 書式設定の更新は期待どおりに表示されます。<br><br>以下に対して許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様。<br><br>更新を次へ送信する Adaptive Planningにフォーマットはアップロードされず、ファイルにも表示されなくなります。 | 変更を送信する前に Excel ファイルを保存し、参照として保持します。 |
| 検索 | はい | 該当なし | 該当なし | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| 検索および置換 | はい | とき | データが組織、科目名、固定属性、または特性 (セルにマウスを合わせると、ドロップダウンの矢印で示される) の場合、Excel によって内容が置き換えられ、内容が元に戻り、エラー メッセージが表示されます。<br><br>ドロップダウンの値がないセルを置換した場合、エラー メッセージが表示される場合があります。"OK" をクリックすると、変更内容を保存して送信できます。<br><br>データ入力セルの値については、検索結果を期待される結果に置き換えた後、変更内容を に送信できます。 Adaptive Planning。 | 選択可能なオプションから選択して、ドロップダウンの値を変更します。 |
| 条件付き書式 | いいえ | 該当なし | アクションはグレーアウトされています。 | 該当なし |
| グラフ | はい | いいえ | 次の項目に許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様です。<br><br>許容可能な更新を送信すると、Excel グラフが Excel シートに残ります。 | グラフを作成してコンピュータに保存します。 |
| ペインの固定 | はい | いいえ | 該当なし | 該当なし |
| コメントの挿入 | はい | はい | 該当なし | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Excel 関数 | 期待どおりに機能 | 送信先 Adaptive Planning | 調整結果 | 試してみよう |
|---|---|---|---|---|
| セルの結合 | はい | いいえ | 推奨されません。<br>統合が期待どおりに表示されるか、一貫したエラー メッセージが表示される場合があります。<br>以下に対して許容範囲の更新を行わない限り、"送信" ボタンは非アクティブになります。 Adaptive Planning グリッドも同様。<br>更新を次へ送信する Adaptive Planning結合したセルはアップロードされず、Excel ファイルでは元の外観に戻ります。 | 更新内容を送信する前に Excel ファイルを保存してください。 |
| 分割の名前を編集 | いいえ | はい | セルをクリックして分割名を編集した場合、クリックするとすぐに元の名前に戻ります。 | 行の任意の場所を右クリックします。"Planning" >"分割名を変更" をクリックします。 |

**Adaptive Planning の機能 Excel Interface for Planning グリッド**

以下のリストでは、一部の一般的な設定について説明します Adaptive Planning 関数が次の範囲内で機能する: Excel Interface for Planning グリッド。

| Adaptive Planning 機能 | 期待どおりに機能 | 予期しない結果 | 回避策 |
|---|---|---|---|
| 値を前方向へコピー | いいえ | このアクションは右クリック メニューからは使用できません。 | 新しいデータでセルをハイライトし、コピー機能を使用します (右クリック、ツールバー リボンまたは Ctrl + C)。1 つ以上のセルをハイライトして貼り付け機能 (右クリック メニュー、ツールバー リボン、または Ctrl + V) を使用します。 |
| 値を按分 | いいえ | このアクションは右クリック メニューからは使用できません。 | Excel 数式を使用して計算し、コメントを挿入してデータがどのように計算されたかを記録します。値の送信先 Adaptive Planningしますが、計算は |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Adaptive Planning 機能 | 期待どおりに機能 | 予期しない結果 | 回避策 |
|---|---|---|---|
| フォーミュラ アシスタント | いいえ | このアクションは使用できません | 使用できません Adaptive Planning 数式Excel 数式を使用するか、データを入力します。 |
| セル数式を見る | とき | すべてのシートで、計算に基づいた値は斜体になります。ほとんどのシートで、数式は "Planning" ペインの "情報" タブから確認できます。<br>モデル シートまたはリスト シートでは、値が期待どおりにイタリック体化されていますが、セルの数式は空白になります。 | 接続先 Adaptive Planning、斜体の値を右クリックし、"Planning" > "セルを探索"を選択します。ポップアップ ウィンドウに数式が表示されます。 |

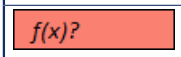
## 参考: セルの色および表記の凡例

すべてへのリンクがある目次の場合 Excel Interface for Planning 記事の使用例 Excel Interface for Planning。Web シート上のセルの色と表記に関する情報については、"シートの使用" に移動します (わずかに異なります)。

セルおよびセル内のデータには、異なる背景色とテキストの色、フォント スタイル、三角形の表示が使用されています。これにより、データに関する情報が一目でわかります。

| 表示 | 意味 |
|---|---|
| 10,000<br>白色の背景に任意の色のテキスト | 任意の色のテキストがある場合または空白の場合、データを変更します。 |
| 7,917<br>グレーの背景に任意の色のテキスト | ロック済みのセル。テキストの色またはスタイルがその理由を示している場合があります。 |
| **11,136**<br>青の背景に任意の色のテキスト | 科目の合計 (総合計)、時間、カスタム属性、分割。では、これらのセルを編集できません Excel Interface for Planningただし、このセルにロールアップされるセルは編集できます。 |
| 500<br>白または青の背景に青のテキスト | 未保存のデータ。 |
| 10,000<br>任意の色の背景に緑のテキスト | 実績データ。背景の色はデータの詳細を示しています。 |
| **10,083**<br>任意の色の背景に太字テキスト | 合計。 |
| *308,961*<br>任意の色の背景に斜体のあるテキスト | 数式が含まれています。背景は、数式の変更または置換が可能であるかどうかを示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 表示 | 意味 |
| --- | --- |
|  <br>赤の背景に f(x) があるテキストの場合。 | 数式エラーがあります。<br>または、モデル シート内の必須列のセルにデータがありません。<br>数式のエラーを修正するには、 Adaptive Planning インスタンスをオンラインにし、ナビゲーション メニューで "シート" をクリックします。 |
| <br>任意の色の背景に赤のテキスト | 数式は正しいものの、エラーが含まれるセルを示しています。<br>セル エクスプローラーを使用してエラーを探します。数式のエラーを修正するには、 Adaptive Planning インスタンスをオンラインにし、ナビゲーション メニューで "シート" をクリックします。 |
| <br>任意の色のテキストまたは背景のセルの隅に赤の三角形 | メモがあります。 |

# OfficeConnect

## OfficeConnect の使用

### OfficeConnect の概要

ステップ: 別のインスタンスへの接続

マルチインスタンスまたはサンドボックス インスタンスがあるため、複数のインスタンスにアクセスできる可能性があります。マルチインスタンスは、階層関係でリンクされたインスタンスです。インスタンスは科目マッピングと属性マッピングを介してデータを共有します。サンドボックス インスタンスは本番インスタンスのクローンです。テスト環境と what-if シナリオにクローンを使用します。

複数インスタンスの との仕組み **OfficeConnect**

ユーザー ID が複数のインスタンスにアクセスできる場合、"レポート" ペインと "プランニング" ペインにインスタンスのドロップダウンが表示されます。管理者がユーザー ID にインスタンスを割り当てます。シート、レポート、グラフのデータは、ドロップダウンで選択したインスタンスから取得されます。

新しいワークブック

- "インスタンス" ドロップダウンでデフォルトのインスタンスが常に選択されています。デフォルトインスタンスの変更方法については、以下をお読みください。
- ドロップダウンから異なるインスタンスを選択します。"レポート" ペインには、選択したインスタンスの要素が表示されます。
- ワークシートに要素を追加すると、インスタンスがロックされます。

既存のワークブック

このインスタンスにはすでにインスタンスの要素が含まれているため、インスタンスはロックされます。

複数のワークブック

- インスタンスが異なる複数のワークブックを同時に開いて作業し、データを比較および対比します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 異なるインスタンスのデータをコピー、切り取り、貼り付け、結合することはできません。
- 特定のインスタンスに対してローカルの Excel レポートで作業しているときに、別のインスタンスにログインすることができます。 OfficeConnect には、現在のインスタンスで動作するように Excel レポートを更新するよう求められます。プロンプトに "いいえ" と答えた場合、Excel ファイルが閉じられ、変更内容は失われます。

### でインスタンスを選択 **OfficeConnect**

ビデオを見る (1 分 19 秒):

1. にログインします OfficeConnect 。
2. "レポート" ペインで、ドロップダウンからインスタンスを選択します。
3. レポートの作成を開始します。

### 別のインスタンスを選択

ワークシートに要素を追加すると、ワークブックのインスタンス ドロップダウンがロックされます。

別のインスタンスを選択するには:

1. ワークブックのツールバーで、"ファイル">"新規"をクリックします。
2. "インスタンス" ドロップダウンで別のインスタンスを選択し、レポートの作成を開始します。
3. 2 つのワークブックを前後に切り替えて、必要に応じて比較対照します。

別のインスタンスを使用している既存のワークブックを開くこともできます。

### インスタンスへのアクセスの変更

アクセスするインスタンスは、ユーザー ID の設定によって異なります。これには、以下の管理者権限が必要です。

1. にログインします Adaptive Planning。
2. をクリックし、"管理" をクリックします。
3. "ユーザーと権限 " タイルで "ユーザー"をクリックします。
4. ユーザー ID を探して "編集"をクリックします。
5. "インスタンス アクセス" ドロップダウンをクリックし、選択可能なインスタンスを選択またはクリアします。
6. "デフォルト インスタンス" ドロップダウンをクリックし、デフォルト インスタンスを選択します。
7. "送信" をクリックして変更を保存します。

### **My** プロファイルのデフォルト インスタンスの変更

インスタンスへの管理者アクセス権がない場合、"My プロファイル" ページを使用してデフォルトのインスタンスを変更します。

1. "個人設定" ドロップダウンで ″設定″を選択します。
2. "デフォルト" インスタンス ドロップダウンで、デフォルト値を選択します。
3. "保存" をクリックします。

### インスタンス間でのレポートの共有

重要 : インスタンス間でレポートを共有することは可能ですが、慎重に行う必要があります。レポートはクローン化されたインスタンス間でのみ共有することをお勧めします。クローンでないインスタンス間でレポートを共有すると、要素マッピングが正しくない可能性があるため、多くの場合データが無効になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

インスタンス間でレポートを共有する最も一般的な理由は、サンドボックス インスタンスと本番インスタンスがある場合です。サンドボックス インスタンスを使用すると、本番のライブ インスタンスに影響を与えずに変更を加えることができます。サンドボックス インスタンスでレポートを作成した場合、ライブ インスタンスと共有することができます。

インスタンス間でレポートを共有することを選択した場合、レポートを開いて警告メッセージを受け取ったときに "はい" をクリックします。レポートが開き、レポートの要素構造に影響を与えることなく、現在のデフォルト インスタンスのデータが使用されます。この場合、潜在的なエラー、不一致、無効な交差に注意してください。

サンドボックスと本番環境の間でレポートを共有するには:

- クローン化したままにします。レポートを共有する前に、インスタンスが同じであることを確認します。
    - 1 つのインスタンスで変更を行った場合、もう一方のインスタンスでもまったく同じ順序で同じ変更を行います。
    - 1 つのインスタンスで行った変更を維持しない場合は、元のインスタンスと一致するように変更を元に戻します。
    - インスタンスに変更を加える前にレポートを共有する場合は、レポートをリフレッシュする前に、交差部分とデータが有効であることを確認するために、オンライン インスタンスに対してレポート要素を慎重にレビューします。
- 検証要素"レポート" ペインの "レビュー" タブの要素をレビューし、予定のデータがまだ取得されていることや、交差部分がまだ有効であることを確認します。
- ラベルを使用します。データ (特に矛盾に注目) にラベルを付けて、自分が表示している内容を自身と他のユーザーに知らせます。
- ファイル名プロトコルを開発します。ワークブック レポートに関連付けられたインスタンスを示します。
    - 変更を使ってレポートを作成し、後で元に戻したことがある場合は、レポートを削除するか、変更を加えるか、元の名前を変更します。
    - 別のインスタンスでレポートを開いた場合、保存して閉じるときに、どのインスタンスがレポートに入力されているかがわかるように、必ず適切に名前を変更してください。

要注意

- 不一致本番環境とサンドボックス環境の間で構造またはデータが異なる場合、レポートに矛盾が生じる可能性があります。
- セルの「不明」これは、一方のインスタンスからレポートに適用された要素がもう一方のインスタンスに存在しない結果である場合があります。
- さまざまな要素。あるインスタンスのレポートのグリッド内の要素と、別のインスタンスの同じレポートのグリッド内の要素が異なる場合があります。

ステップ**: OfficeConnect** レポート ワークブックの管理

複数のワークブックを開く

同じ Excel セッションで開くことができるレポート ワークブックの数に制限はありません。ログインしています OfficeConnect を開いているすべてのワークブックに一度にログインします。ログアウトすると、開いているすべてのワークブックからログアウトします。

未完了のすべてにアクセスできます OfficeConnect 現在のインスタンスのワークブック複数の親子インスタンスへのアクセス権を持っている場合は、ワークブックでこれらのインスタンスにアクセスできます。

- 以下から  OfficeConnect タブで、"ファイル" > "新規"を選択します。
- 既存のワークブックを開くには、"ファイル" > "開く"を選択します。または、ファイル名をダブルクリックします。 ファイル管理システムから

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

"Excel" > "ホーム" > "最近" オプションを使用して、最近のレポート ワークブックを表示して開きます。ワークブックのセルが空白で表示される場合は、"リフレッシュ" をクリックしてデータをロードしてください。

同じインスタンスのワークブック間で、要素、ラベル、数式をコピーして別のワークブックに貼り付けることができます。ワークブックのインスタンスが異なる場合、コピー、貼り付け、統合はできません。別のインスタンスへの接続を参照してください。

### ワークブックの保存

デフォルトでは、OfficeConnect は保存時にデータをクリアし、プレースホルダのテキスト "n/a" に置き換えます。既存のワークブックに対するこのデフォルト設定を変更するには、ワークブックのプロパティを使用します。ワークブックのプロパティで "データのクリア" のデフォルト設定を変更して、保存時に機密データがクリアされないようにすることができます。ワークブックと選択プロパティ フィールドを参照してください。

障害が発生した場合にレポート ワークブックを確実に復元できるようにするには、Excel の自動復元機能をオンにします。続いて、"AutoRecover" ファイルの場所に移動して、ファイルとメタデータを復元します。

自動復元を有効にするには、以下の手順に従います。

1. "ファイル" > "オプション" を選択します。
2. "Excel のオプション"で "保存" を選択します。
3. "ワークブックを保存" で次のように設定します。
    - "10 分ごとに自動復元情報を保存"を選択
    - 必要に応じて、自動復元情報を保存する頻度を変更します。デフォルト値は 10 分です。
    - 自動復元ファイルの保存場所を指定します。
4. "OK" を選択します。

### ワークブックの共有

情報を共有できます。 OfficeConnect ワークブック

重要 : OfficeConnect は、共有ドライブを使用して多くのユーザーが同時にワークブックを変更することをサポートしていません。これにより、保存時にレポート ワークブックのメタデータが失われる可能性があります。

1. "ファイル">"共有"を選択します。
2. 以下のいずれかを実行します。
    - OneDrive で共有するには、アカウントにサインインしてワークブックをアップロードします。
    - E メールの添付ファイルとして共有するには、"Excel ワークブック" または "PDF" を選択します。

受信者はレポートを表示してコメントを追加できます。ユーザーは以下にサインインする必要があります。 OfficeConnect をクリックしてレポートを変更します。

共有できません OfficeConnect ワークブック ("レビュー" >"ワークブックの共有")。追加したステータス OfficeConnect ワークシートを共有ワークブック ファイルにマッピングした場合、 OfficeConnect の部分は、他の編集者やレビューアに対して正しく機能しません。

### ワークブック間でのワークシートの移動またはコピー

コンテンツとレポート要素の構造をあるワークブックから別のワークブックにコピーできます。

OfficeConnect は、基になるメタデータを使用して Adaptive Planning から取得したデータを参照します。レポートを複製する場合、OfficeConnect の " レポートの移動" または "レポートのコピー" オプションを使用して、基になるメタデータもコピーします。 Excel のネイティブな移動オプションまたはコピー オプ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ションを使用する場合、メタデータをコピーすることはできません。そのため、Adaptive Planning からレポートをリフレッシュできません。 非レポート ワークシートを移動またはコピーするには、Excel のネイティブ オプションを使用できます。 レポート ワークシートと非レポート ワークシートの組み合わせを選択した場合、OfficeConnect の "レポートの移動" または "レポートのコピー" オプションは使用できなくなります。

1. 移動またはコピーするワークシートでワークブックを開きます。
2. 既存のワークブックに移動またはコピーする場合は、既存のワークブックを開きます。
3. 移動またはコピーするワークシートを選択します。複数のワークシートを選択するには、Shift キーを押します。
4. "要素" グループで "レポートの 移動 またはコピー" を選択します。
5. 選択したワークシートを移動またはコピーする新しいワークブックまたは既存のワークブックを選択します。
6. 選択したワークシートを移動またはコピーする新規のワークブックまたは既存のワークブック内の場所を指定します。同じワークブック内で移動またはコピーするには、ワークシートの場所を指定します。
7. 選択したワークシートを新しいワークブックまたは既存のワークブックにコピーするには、"コピーを作成"を選択します。コピーを作成せずにワークシートを移動する場合は、このオプションをオフのままにします。
8. "OK" を選択します。

更新 複数のワークブック内の要素

"レポート" ペインの要素構造には、管理者が設定したモデルが反映されます。管理者は、時間の経過に伴うビジネス ニーズの変化に対応するためにモデルを変更できます。

例: 組織の成長に対応するために新しい組織を追加します。または、該当しなくなったバージョンを削除します。これらの変更をレポートに反映させる必要があります。

左側の "レポート" ペインを更新して、インスタンス内の複数のワークブックにわたる最新の要素構造を反映できます。

1. "コネクション " グループで "要素を更新" を選択します。
2. "レポート" ペインで " レビュー" タブを選択します。新しい要素に使用できるアイテムをレビューします。

注 : 財務会計用に OfficeConnect を使用している場合、"要素の更新" オプションは適用されません。

relatedlinks
概念
概念: 財務モデル データ ソースのキャッシュとリフレッシュ
概念: 財務モデル データ ソースに関するレポート

**OfficeConnect** のバージョンの確認

使用しているバージョンが最新バージョンであるかどうかを確認します。

1. Excel リボンで "OfficeConnect " タブを選択します。
2. "ヘルプ" ドロップダウンで "バージョン情報"を選択します。
3. 作成したバージョンと、現在利用可能なバージョンを比較します。

   参照 製品ダウンロード ( 2785ページ ) 最新バージョンをダウンロードし、完全なバージョン履歴をレビューします。

**OfficeConnect** レポート ワークブックのセキュリティ保護

OfficeConnect はタイムアウトによってファイルのセキュリティを保護します。レポートがリフレッシュされないで 60 分 (または指定されたタイムアウトの長さ) を超えた場合、次にリフレッシュしようとしたときにパスワードを要求されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

OfficeConnect において各ユーザー権限セットのセキュリティ レベルが適用されます Adaptive Planning。ユーザーが特定の組織のデータにのみアクセスできる場合、その組織のデータのみが返されます。

注 : デフォルトでは、データは保存時に常にクリアされ、プレースホルダのテキストに置き換えられます。既存のワークブックに対するこのデフォルト設定を変更するには、ワークブックのプロパティを使用します。ワークブックと選択プロパティ フィールドを参照してください。すべての新しいワークブックに対する "データのクリア" の デフォルト設定を変更するには、ユーザー設定を使用します。ユーザー設定フィールドを参照してください。

"設計" グループで "データ のクリア" を選択します。データ フィールドは、「n/a」などのプレースホルダ テキストに置き換えられます。

データのクリア後、ワークブックを閉じることができます。ワークブックを再度開くと、レポートがリフレッシュされるまで、リンクされているセルには "n/a" が表示されたままになります。

クリア データ フィールドのプレースホルダ テキストは任意に変更できます。

クリア データ フィールドのプレースホルダ テキストを変更するには:

1. "ユーザー 設定"を選択します。
2. "一般 " タブの " セキュリティ ブロックの結果テキスト" フィールドに、 適切なプレースホルダ テキストを入力します。
3. "OK" を選択します。次に "データのクリア" を選択すると、 接続されたすべてのフィールドが新しい文字列に置き換えられます。

### 概念: **OfficeConnect** の仕組み

OfficeConnect はオプションのソフトウェアで、Adaptive Planning データ モデルのデータを使用して Microsoft Excel のレポート、Microsoft Word のドキュメント、および Microsoft PowerPoint のプレゼンテーションを作成します。

クラウド内のプランニング データを Microsoft Office 製品 (Word、Excel、PowerPoint) に接続することで、常に最新の情報を反映させることができます。

財務アナリストは、OfficeConnect を使用して、数分でリフレッシュできる財務レポート、ナラティブ レポート、ボード ブックを作成します。保存した時間を分析に費やすことができます。

OfficeConnect のレポートとドキュメントはすべて、MS Excel で始まります。OfficeConnect for Excel では、期間や科目などの要素を行と列にドラッグ アンド ドロップすることで、Adaptive Planning レポートを作成できます。

### **OfficeConnect** データ フロー

Adaptive Planning には、Microsoft Excel、Word、PowerPoint 用の強力なプラグインが用意されています。Adaptive Planning に接続するには、必ず Excel、Word、または PowerPoint のリボンにある OfficeConnect タブからサインインします。OfficeConnect は、Excel、Word、PowerPoint でサインイン認証情報を共有します。

OfficeConnect は、データを入力またはインポートするオンライン Adaptive Planning で開始されます。また、Adaptive Planning インスタンスにもデータを保存します。

OfficeConnect for Excel を開くと、オンライン インスタンスとその保存されているすべてのデータに接続できます。このデータを使用して OfficeConnect レポートを作成できます。これにより、OfficeConnect for Word または PowerPoint の強力なリンクを使用して、Excel からデータを取り込むことができます。

リンクの設定後、後続の月または他のレポート期間にわたって、リンクの再設定、数式の変更、フォーマットの変更を行う必要はありません。レポートの日付を変更し、ファイルをリフレッシュするだけで、レポートを作成することができます。リンクされている Word ドキュメントと PowerPoint プレゼンテーションをリフレッシュすると、それらも変更されます。

重要 : Adaptive Planning で直接作業する場合は、クラウドベースのセキュリティ対策によって機密情報が保護されます。企業ネットワークまたはローカル コンピュータ上にある OfficeConnect ドキュメントは、安全でない可能性があります。ファイルをクローズする前にデータを非表示にして、保護を維持でき

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ます。ファイルを再度オープンしたら、"リフレッシュ" をクリックしてデータをファイルに再ロードします。詳細については、OfficeConnect ファイルのセキュリティ保護を 参照してください。

レポート内のデータ アクセス

### OfficeConnect for Financial Management

OfficeConnect を使用して、財務管理データ ソースから財務レポートを Excel で作成することもできます。 OfficeConnect を財務会計用に設定するには、以下が必要です。

- Enable OfficeConnect for Workday Financial Managementで説明されている資格要件を満たす。
- OfficeConnect for Financial Management に対してテナントを設定します。 ステップ: OfficeConnect for Financial Management に対するテナントの設定を参照してください。
- Workday の財務レポート データ モデルを設定します。 財務レポート データ モデルの設定を参照してください。

必要な設定を完了すると、Workday 対応インスタンスから OfficeConnect にサインインできます。以下のいずれかのデータ ソースの Workday テナントに接続できます。

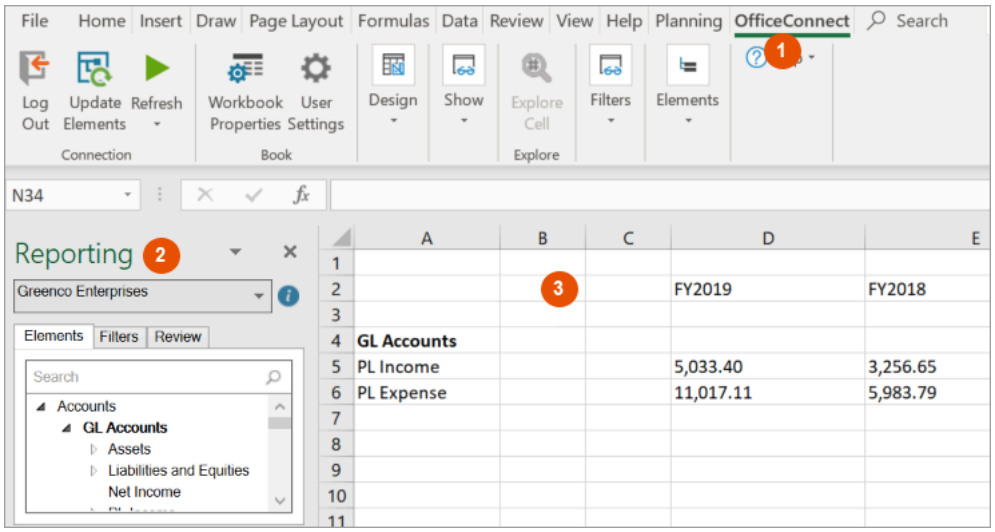
- Adaptive Planning
- 財務

OfficeConnect は接続に基づいて、レポート目的で要素と機能を表示する適切なデータ モデルを使用します。

relatedlinks
概念
概念: 財務モデル データ ソースに関するレポート
タスク
ステップ: OfficeConnect for Workday の設定
ステップ: OfficeConnect for Financial Management に対するテナントの設定
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
次のレベル: Adaptive Planning レポート ツール選択のガイダンス

### 概念: OfficeConnect for Excel Interface ツアー

OfficeConnect for Excel には 3 つの主要なセクションがあります。右クリック メニューを使用して、インターフェイスのどこにいるかに応じてさまざまなタスクを実行することもできます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 1 | OfficeConnect Excel リボンのタブ |
| 2 | データ ソース インジケータがある "レポート" ペイン。<br>例: レポート: プランニングまたはレポート: 財務会計 |
| 3 | Excel ワークシート |

**OfficeConnect Excel** リボンのタブ

フォーマットとデザインに必要なすべてのツールが見つかります OfficeConnect レポート:

- ユーザー設定 と ワークブックのプロパティを管理します。
- レポートのビューを設計および管理します。
- データの リフレッシュ とセキュリティ保護、および "レポート" ペインの要素のリフレッシュ
- レポートに要素を追加します 。
- セルを探索して データにドリルインする。
- フィルタを適用する。

注 : すべての Excel 機能を備えた、すべての一般的な Excel タブがあることを確認します。

レポート ペイン

"レポート" ペインには、使用している (Adaptive Planning または Financials) のデータ ソースが表示されます。複数の親子インスタンスにアクセスできる場合、ドロップダウンからインスタンスを選択できます。

レポートを作成するためのすべての要素を確認します。

- "要素 " タブ親要素の矢印をクリックすると、その下にある子要素が表示されます。要素を行、列、セルにドラッグ アンド ドロップします。列、行、およびセルへの要素の追加を参照してください。
- "フィルタ" タブ: フィルタを追加し、レポートにさまざまなデータを表示するために、フィルタを有効または無効にします。レポート フィルタへの要素の追加を参照してください。
- "レビュー " タブ: 行、列、またはセルのデフォルトおよび適用された要素をチェックします。"レビュー" タブの "チェック要素"を参照してください。

レポート ペインの非表示または移動

以下から OfficeConnect タブ:

- "タスク ペイン" をオフにし、"レポート" ペインを非表示にします。
- "レビュー と フィルタ" をオフにし、レポート ペインの "レビュー" タブと "フィルタ" タブを非表示にします。

"レポート" ペインのドッキングを解除するには、次をクリックします。 レポート ペインの右上隅にある "移動"を選択します。これをページの任意の場所にドロップするか、ワークシートの上下左右にマウスを合わせてドッキングします。

ドッキング解除済の Planning ペインが見つかりませんか？OfficeConnect リボンで "レポート ペインを表示" を再度クリックします (すでにオンになっている場合)。"レポート" ペインが表示されます。

**Excel** ワークシート

からのデータの表示 Adaptive Planning:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 要素をドロップしてレポートを作成し、レポートのデータを表示します。
- ソースを把握するためにデータにドリルインする。
- Excel 関数を使用してグラフや計算を作成します。

注： をインストールした場合 Excel Interface for Planningの横に "Planning" タブが表示されます。OfficeConnect タブできること Adaptive Planning または Work Offline への接続（109ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 財務モデル データ ソースに関するレポート

概念: **OfficeConnect** における財務管理と **Planning** データ ソースの違い

次の表は、OfficeConnect において、財務管理データ ソースを使用する場合と Adaptive Planning データ ソースを使用する場合の違いについて説明しています。

| 機能 | 財務データ ソース | Adaptive Planning データ ソース |
|---|---|---|
| 要素の階層 | • 勘定科目<br>• 会社<br>• 属性<br>有効な交差部分には、少なくとも以下の要素が含まれます。<br>• バージョン<br>• 会社<br>• Time<br>• 勘定科目 | • 科目<br>• Level<br>• カスタム属性<br>有効な交差部分には、少なくとも以下の要素が含まれます。<br>• バージョン<br>• Level<br>• Time<br>• 科目または科目特性 |
| ワークブックのプロパティは以下のとおりです。<br>• 表示単位<br>• レポート日<br>• データのクリア | デフォルトでは、以下のように設定されています。<br>• "端数処理なし"を選択します。<br>• "レポート日を基準に新しい時間要素を作成"をオンにしていない。<br>• "保存時に常にデータをクリア"をオンにしないでください。 | デフォルトでは、以下のように設定されています。<br>• "千"を選択します。<br>• "レポート日を基準にして新しい時間要素を作成"をオンにします。<br>• "保存時に常にデータをクリア"を選択します。 |
| グループ | 使用不可 | 使用可能 |
| セル詳細 | "詳細の表示" を使用し、セルの関連仕訳行とプラン行の詳細を表示します。 | "セルを探索" を使用して、セル データを探索します。 |
| Versions | デフォルトのバージョンは "実績" です。プラン要素は、管理者が Workday で設定した任意のプラン構造から選択できます。 | デフォルト バージョンはモデルによって異なります。バージョン要素をレポートのセル、行、または列に適用することで、デフォルト バージョンをオーバーライドできます。 |
| 展開時に相殺消去要素を除外 | ユーザー設定と展開ダイアログで使用可能 | 使用不可 |
| 時間コンテキストと時間コンポーネント | データ モデルの時間設定に基づく。 | インスタンス カレンダーに基づく収益 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 機能 | 財務データ ソース | Adaptive Planning データ ソース |
|---|---|---|
| Currency | • "ワークブックのプロパティ" の通貨設定には、次のオプションがあります。<br>  • 主元帳通貨<br>  • モデルのデフォルト通貨<br>• Workday で代替元帳通貨が有効になっている場合、ディメンションとして "元帳通貨マッピング" を使用できます。 | • "ワークブックのプロパティ" の通貨設定には、次のオプションがあります。<br>  • 組織通貨<br>  • 社用通貨<br>• 代替元帳通貨は使用できません |
| "金額タイプ" ディメンション | "期首残高"、"終了残高"、"日次平均残高" が含まれます。 | 使用できません。 時間コンテキストに期首残高が含まれている。 |
| ラベル | • モデル ラベル タイプを使用できます。<br>• 科目反対インジケータのラベル タイプ値が使用できません。<br>• 組織と属性には、以下の表示タイプの値が含まれます。<br>  • 属性の短縮名<br>  • 属性の表示名<br>• "ラベル表示しない" オプションは使用できません。<br>• 参照 ID の ラベル タイプ値は、ほとんどのラベル タイプで使用できます。 | • モデル ラベル タイプは使用できません。<br>• 科目反対インジケータのラベル タイプ値を使用できます。<br>• 組織と属性には、以下の表示タイプの値が含まれます。<br>  • 属性コード<br>  • 属性の表示名<br>  • 属性名<br>  • 属性の短縮名<br>• "ラベル非表示" オプションを使用できます。<br>• 参照 ID の ラベル タイプ値は、ラベル タイプには使用できません。 |
| ディメンション階層のレポートの有効日 | 使用可能 | 使用不可 |
| ディメンションごとに複数の階層 | 使用可能 | 時間属性でのみ使用可能 |

参考: **Excel** リボンの **OfficeConnect** タブ ボタン

設定 OfficeConnect インストール後、Excel リボンに タブが表示されます OfficeConnect。このページでは、ツールバーのボタンとその機能について説明します。

**OfficeConnect** ボタン

| | |
|---|---|
| | ログアウト: からログアウトします OfficeConnect ログイン後 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

要素の更新: 要素リストをリフレッシュして、最新の要素すべてにアクセスできることを確認します。
リフレッシュ: ワークシートに最新情報を入力 Adaptive Planning データ

ドロップダウン オプション:

- 現在の選択: 選択した列、行、セルのみをリフレッシュします。リフレッシュ時間を短縮するために、大きなレポートに最適なオプションです。
- 選択したシート (デフォルト): ワークブックのアクティブなシートをリフレッシュします。ドロップダウンにアクセスせずにボタンをクリックした場合、これがデフォルトのリフレッシュになります。
- すべてのシート: ワークブックのすべてのシートをリフレッシュします。

ワークブックのプロパティ: フィルタ、端数処理、相対時間、通貨、デフォルト表示など、ワークブック全体のデフォルトとプロパティを設定します。ワークブックのプロパティを参照してください。

ユーザー設定: 新規レポートを作成したり、レポートを開く際の個人用デフォルトを設定します。ユーザー設定を参照してください。

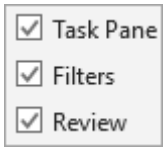
ラベル: 組織の選択したセルの ラベルを追加、編集、または削除します。 OfficeConnect レポート。

ラベル非表示: ラベルを非表示にして、画面上の実際の要素を表示します。 OfficeConnect レポート。

選択プロパティ: 選択した列、行、またはセルのプロパティを変更します。「選択プロパティ」を参照してください。

データのクリア: データを一時的に非表示にします。ユーザー設定の セキュリティ ブロックの結果テキストに入力したテキスト に置き換えられます。 Adaptive Planning 自分または別のユーザーがレポートをリフレッシュするまでは。セキュリティ保護を参照してください。 OfficeConnect ファイル インターフェイスに表示する内容を選択し、非表示にする内容をクリアします。

切替を表示




- タスク ペイン: "レポート" ペインを表示または非表示にします。
- レビュー: "レポート ペインを表示" を選択した場合、レポート ペインで "レビュー" タブを表示するか非表示にするかを選択します。
- フィルタ: "レポート ペインを表示" を選択した場合、レポート ペインのフィルタ タブを表示するか非表示にするかを選択します。

ゼロと空白の非表示: "ユーザー設定"、"ワークブックのプロパティ"、"選択のプロパティ" の設定に応じて、ゼロと空白の非表示または表示を切り替えます。ゼロと空白の管理を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リンクされているセル: 接続されているセルとラベルをハイライトに切り替えます。 Adaptive Planning 件) (ユーザー設定)データの ハイライト : Adaptive Planning。

展開: 親要素を展開して、その下にある子要素を表示します。レポートの内容を調べるを参照してください。

折り畳み: 親要素を折り畳んでその下の子要素を非表示にし、合計のみを表示します。レポートの内容を調べるを参照してください。

セルを探索: セル エクスプローラーが開き、科目、期間ごとに入力された元の値、値が表示および更新されたシートなど、セルのデータのルートを表示できます。セルの内容を探索を参照してください。

ワークシート フィルタ: ワークシートのフィルタを設定します。レポート フィルタへの要素の追加を参照してください。

繰り返しレポート: このレポートの要素を使用して繰り返しレポートを作成します。繰り返し使用するレポートの使用を参照してください。

グループ: すでにレポートに適用されている要素から要素グループを作成します。

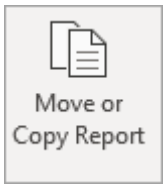
管理: レポート内の要素グループを表示、ナビゲート、更新します。

更新: ワークブック全体の要素グループをリフレッシュし、最新のデータと要素構造を反映します。

要素を選択に適用: 選択した要素をワークシートに追加します。

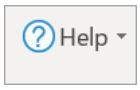
検索: キーワードを使用してレポート内の要素を検索したり、要素を置き換えたりします。レポートの要素の検索と置換を参照してください。

要素および関連データを別の列、行、またはセルに切り取り、コピーして貼り付ける。レポートの要素の変更または移動を参照してください。




移動またはコピー OfficeConnect レポート エレメントを同じワークブック内、または新規または既存のワークブックに追加する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
|  | ドロップダウンで以下を選択します。<br>• オンライン ヘルプ : コンテキストに応じたヘルプ記事にリンクします。<br>• 更新の確認: のバージョンを更新する必要があるかどうかを確認します OfficeConnect。<br>• 概要 : 現在のバージョンを確認します。 バージョン履歴 を参照し、最新バージョンを使用していることを確認します。 |

## OfficeConnect のインストールと設定

### エンド ユーザーとして **OfficeConnect** をインストール

#### 始める前に

マシンに次の必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。

- WebView2 ランタイム
- Microsoft .NET フレームワーク 4.8
- VSTO 2010
- Workday イベント ログ コンポーネント

注 :

- マシンの管理者権限がある場合は、ユーザーごとのバージョンの OfficeConnect をインストールできます。これにより、インストール プロセスの一部として前提条件もインストールされます。
- マシンに対する管理権限がない場合は、ユーザーごとの OfficeConnect バージョンをインストールする前に、前提条件をインストールするよう IT 管理者に連絡してください。

#### このタスクについて

MS Excel、Word、PowerPoint でレポートを作成するには、OfficeConnect をインストールします。エンド ユーザーは、ローカル マシンに製品をインストールできます。管理権限がない場合は、IT 部門の担当者までお問い合わせください。チーム全体が新しいバージョンを同時にダウンロードしてインストールするようにしてください。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、レポートを表示または変更できません。

#### 手順

1. ユーザーごとのインストール設定ファイル OfficeConnectSetup.exe を使用して、OfficeConnect の最新バージョンをダウンロードおよびインストールします:OfficeConnectSetup.exe
2. 管理権限がある場合は、Windows のセットアップ プロンプトを受け入れ、インストールを実行します。

   このステップは、前提条件を完了せずに OfficeConnect をインストールする場合にのみ適用されます。

#### タスクの結果

"OfficeConnect" タブが Excel、Word、PowerPoint に表示されます。

#### 例

Excel を起動してワークブックを開きます。Excel リボンに "OfficeConnect" タブが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のタスク

Excel、Word、または PowerPoint から OfficeConnect にサインインする。

relatedlinks
概念
概念: 財務モデル データ ソースに関するレポート
タスク
ステップ: OfficeConnect for Workday の設定
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
参考: OfficeConnect の技術要件 ( 591ページ )
参考: 現在のバージョンとバージョン履歴 ( 590ページ )

管理者として **OfficeConnect** をインストール

始める前に

すべてのハードウェアおよびソフトウェアの要件を完了します。

このタスクについて

ユーザーは OfficeConnect をインストールして、Microsoft Excel、Word、PowerPoint で役員会報告を作成できます。各ユーザーが自分のワークステーションで製品にアクセスする場合は、ユーザーごとのインストールを完了できます。これにより、ユーザーは管理者権限なしに自分で将来の更新をインストールできます。ユーザーごとのインストールでは、ユーザー プロファイルにインストール ファイル、レジストリ エントリ、証明書が作成されます。

複数のユーザーが 1 つのワークステーションで製品にアクセスする場合は、マシンごとのインストールを完了できます。単一のワークステーションに製品の更新をインストールできるのは、Windows 管理者のみです。

手順

1. 最新バージョンの OfficeConnect をダウンロードしてインストールします。
    - ユーザーごとにインストールする場合、次の設定ファイルをダウンロードします:OfficeConnectSetup.exe
    - マシンごとにインストールする場合、次のセットアップ ファイルをダウンロードします:OfficeConnectMachineSetup.exe
2. (任意) エンド ユーザーとのインタラクションなしで、またはカスタム フォルダの場所に OfficeConnect をインストールできます。ユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールで機能する以下のパラメータを使用します。
    - サイレント インストールするには、次を使用します。 `/quiet`

      例: インストーラーが配置されている現在のディレクトリからサイレント インストール。

      ```
      C:\users\<username>\Downloads> .\officeConnectSetup.exe /quiet
      ```
    - カスタムの場所にインストールするには、次を使用します。 `INSTALLFOLDER`。

      例: カスタム場所へのマシンごとのインストール。

      ```
      OfficeConnectMachineSetup.exe INSTALLFOLDER=D:\OfficeConnect
      ```

タスクの結果

"OfficeConnect" タブが Excel、Word、PowerPoint に表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

Excel、Word、または PowerPoint から OfficeConnect にサインインする。

relatedlinks
概念
概念: OfficeConnect の仕組み（571ページ）
タスク
エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール（578ページ）
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
参考: OfficeConnect の技術要件（591ページ）
参考: 現在のバージョンとバージョン履歴（590ページ）

ステップ**: OfficeConnect** におけるテナントの設定

始める前に

- 最新バージョンの OfficeConnect と、該当する場合は Excel Interface for Planning (EIP)。 参照 製品ダウンロード（2785ページ）。
- Workday SSO と Adaptive Planning を使用している場合は、すべての設定ステップを完了します。参照 ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定。

このタスクについて

テナントを使用して OfficeConnect にサインインするには、まずテナントを設定する必要があります。IT 管理者は、OfficeConnect のインストール中またはインストール後にテナントを設定できます。または、エンド ユーザーが OfficeConnect クライアントからテナントを手動で追加することもできます。

- IT 管理者として、以下のいずれかのオプションを使用します。
  - テナントで OfficeConnect をインストール (IT 管理者)（581ページ）.

    このオプションでは、OfficeConnect インストールの設定ファイルにテナントの詳細を指定します。
  - ユーザー マシンへの OfficeConnect テナントのデプロイ (IT 管理者)（582ページ）.

    このオプションでは、Windows レジストリを介して、新規または更新されたテナントの詳細をユーザーのマシンに展開します。
- エンド ユーザーは、以下のいずれかのオプションを使用します。
  - OfficeConnect テナントの追加 (Adaptive Planning)（585ページ）

    Workday SSO なしで Adaptive Planning を使用している場合は、このオプションを使用します。
  - OfficeConnect テナントの追加 (Workday)（586ページ）

    Workday SSO または Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) と Adaptive Planning を使用している場合は、このオプションを使用します。

タスクの結果

例

次のタスク

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### テナントで **OfficeConnect** をインストール **(IT** 管理者**)**

#### 始める前に

- 最新バージョンの OfficeConnect。 参照 製品ダウンロード（2785ページ）。
- Workday SSO または Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) で設定された Adaptive Planning テナントの認証詳細。Workday の OfficeConnect API クライアントで以下の詳細を確認できます。
  - 認証エンドポイント URL
  - REST API エンドポイント URL
  - クライアント ID
- Workday SSO を使用しない Adaptive Planning テナントの認証詳細:
  - API エンドポイント URL
  - 認証エンドポイント URL

注： インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL（29ページ）。

#### このタスクについて

OfficeConnect のインストール中に以下のテナントを含めることができます。

- ユーザーごとのインストールの場合、以下を使用します。 `OfficeConnectSetup.exe`。
- マシンごとのインストールでは、以下を使用します。 `OfficeConnectMachineSetup.exe`。

#### 手順

1. テナントの詳細が記載された XML ファイルを作成します。以下を含めることができます。
   - 複数テナント例: 本稼働環境とサンドボックス
   - 複数のテナント タイプ例: Adaptive Planning と Workday Financial Management
2. XML ファイルで OfficeConnect をインストールし、以下を指定します。 `CONNECTIONCONFIG` 資産。
   例: `C:\Files\OfficeConnectSetup.exe /quiet CONNECTIONCONFIG="C:\Files\tenants.xml"`

#### 例

例 1: Workday SSO がない Adaptive Planning テナント

```
<connection name="Production Planning">
 <PlanningApiUrl>https://uslogin1.adaptiveplanning.com</PlanningApiUrl>
 <PlanningAuthorizationUrl>https://uslogin1.adaptiveplanning.com</
PlanningAuthorizationUrl>
</connection>
```

例 2: Workday SSO を使用する Adaptive Planning テナント

```
<connection name="Sandbox">
 <WorkdayAuthorizationUrl>https://example.myworkday.com/sandboxtenant/
authorize</WorkdayAuthorizationUrl>
 <WorkdayRestApiUrl>https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/sandboxtenant</
WorkdayRestApiUrl>
 <WorkdayClientId>Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2</
WorkdayClientId>
</connection>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例 3: Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) テナントでは、以下のようになります。

```
<connection name="Financials (prod)">
 <Type>financials</Type>
 <WorkdayAuthorizationUrl>https://example.myworkday.com/prodtenant/
authorize</WorkdayAuthorizationUrl>
 <WorkdayRestApiUrl>https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant</
WorkdayRestApiUrl>
 <WorkdayClientId>Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2</
WorkdayClientId>
</connection>
```

例 4: 複数のテナントが含まれる XML ファイルでは、以下のようになります。

```
<connections>
  <connection name="Planning prod">
   <WorkdayAuthorizationUrl>https://example.myworkday.com/prodtenant/
authorize</WorkdayAuthorizationUrl>
   <WorkdayRestApiUrl>https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant</
WorkdayRestApiUrl>
   <WorkdayClientId>Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2</
WorkdayClientId>
 </connection>
 <connection name="Planning sandbox">
   <WorkdayAuthorizationUrl>https://example.myworkday.com/sandboxtenant/
authorize</WorkdayAuthorizationUrl>
   <WorkdayRestApiUrl>https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/
sandboxtenant</WorkdayRestApiUrl>
   <WorkdayClientId>abc0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2</
WorkdayClientId>
 </connection>
  <connection name="Financials prod">
   <Type>financials</Type>
   <WorkdayAuthorizationUrl>https://example.myworkday.com/prodtenant/
authorize</WorkdayAuthorizationUrl>
   <WorkdayRestApiUrl>https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant</
WorkdayRestApiUrl>
   <WorkdayClientId>Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiY123</
WorkdayClientId>
 </connection>
 <connection name="Financials sandbox">
   <Type>financials</Type>
   <WorkdayAuthorizationUrl>https://example.myworkday.com/sandboxtenant/
authorize</WorkdayAuthorizationUrl>
   <WorkdayRestApiUrl>https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/
sandboxtenant</WorkdayRestApiUrl>
   <WorkdayClientId>abc0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiY456</
WorkdayClientId>
 </connection>
</connections>
```

次のタスク

### ユーザー マシンへの **OfficeConnect** テナントのデプロイ **(IT** 管理者**)**

始める前に

- 最新バージョンの OfficeConnect。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- Workday SSO または Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) で設定された Adaptive Planning テナントの認証詳細。Workday の OfficeConnect API クライアントで以下の詳細を確認できます。
  - 認証エンドポイント URL
  - REST API エンドポイント URL
  - クライアント ID
- Workday SSO を使用しない Adaptive Planning テナントの認証詳細:
  - API エンドポイント URL
  - 認証エンドポイント URL

注 : インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL ( 29ページ ) 。

このタスクについて

新規または既存の OfficeConnect のインストールでは、テナントをユーザーに直接デプロイおよび更新できます。 グループ ポリシー、スクリプト、デプロイ ソフトウェアなど、組織が優先する任意の方法を使用して、Windows レジストリにテナントの詳細をデプロイできます。

テナント設定は、これらの登録場所のいずれかにデプロイできます。マシン上のすべてのユーザーにテナントをデプロイすることをお勧めします。

- `HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights` 個々のユーザーのテナントを管理します。
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Adaptive Insights` マシン上のすべてのユーザーのテナントを管理する場合。

手順

1. 目的のレジストリ ハイブに以下を追加します。 `SOFTWARE\Adaptive Insights\Connections` キー。
2. 下 `Connections` キー、次のキーを含む `LastUpdated` を入力し、値を現在の協定世界時 (UTC) の日時に設定します。 ユーザー テナントを更新する場合は、常にこの値を更新する必要があります。OfficeConnect の設定は、以下のたびに更新されます。 `LastUpdated` 値の変更
3. テナントごとにキーを追加します。以下を含めることができます。
   - 複数テナント例: 本稼働環境やサンドボックス環境。
   - 複数のテナント タイプ: 例: Adaptive Planning と Workday Financial Management

例

例 1: Workday SSO がない Adaptive Planning テナントのレジストリ (.reg) ファイル

```
Windows Registry Editor Version 5.00
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections]
"LastUpdated"="2024-04-24T15:10:20"
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections\production]
"PlanningApiUrl"="https://uslogin1.adaptiveplanning.com"
"PlanningAuthorizationUrl"="https://uslogin1.adaptiveplanning.com"
```

例 2: Workday SSO を使用する Adaptive Planning テナントのレジストリ (.reg) ファイル

```
Windows Registry Editor Version 5.00
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections]
"LastUpdated"="2024-04-24T15:10:20"
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections\Sandbox]
"WorkdayAuthorizationUrl"="https://example.myworkday.com/sandboxtenant/
authorize"
"WorkdayRestApiUrl"="https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/sandboxtenant"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
"WorkdayClientId"="Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2"
```

例 3: Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) テナントのレジストリ (.reg) ファイル。設定 Type=financials ファイナンシャル マネジメント テナントの場合は、値が必要です。この値がないと、テナントは Adaptive Planning 用に設定されています。

```
Windows Registry Editor Version 5.00
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections]
"LastUpdated"="2024-04-24T15:10:20"
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections\Financials (prod)]
"Type"="financials"
"WorkdayAuthorizationUrl"="https://example.myworkday.com/prodtenant/
authorize"
"WorkdayRestApiUrl"="https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant"
"WorkdayClientId"="Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2"
```

例 4: 複数のテナントを含むレジストリ (.reg) ファイルの場合、次のようになります。

```
Windows Registry Editor Version 5.00
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections]
"LastUpdated"="2024-04-24T15:10:20"
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections\Planning prod]
"WorkdayAuthorizationUrl"="https://example.myworkday.com/prodtenant/
authorize"
"WorkdayRestApiUrl"="https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant"
"WorkdayClientId"="Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2"
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections\Planning sandbox]
"WorkdayAuthorizationUrl"="https://example.myworkday.com/sandboxtenant/
authorize"
"WorkdayRestApiUrl"="https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/sandboxtenant"
"WorkdayClientId"="Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2"
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections\Financials prod]
"Type"="financials"
"WorkdayAuthorizationUrl"="https://example.myworkday.com/prodtenant/
authorize"
"WorkdayRestApiUrl"="https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant"
"WorkdayClientId"="Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2"
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Adaptive Insights\Connections\Financials
 sandbox]
"Type"="financials"
"WorkdayAuthorizationUrl"="https://example.myworkday.com/sandboxtenant/
authorize"
"WorkdayRestApiUrl"="https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/sandboxtenant"
"WorkdayClientId"="abc0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiY456"
```

例 5: レジストリ データを作成する Windows コマンド スクリプトを使用します。

```
SETLOCAL
SET BASEKEY=HKLM\Software\Adaptive Insights\Connections
reg add "%BASEKEY%" /v LastUpdated /t REG_SZ /d "2024-04-24T15:20:10" /f
reg add "%BASEKEY%\Planning prod" /v WorkdayAuthorizationUrl /t REG_SZ /d
 "https://example.myworkday.com/prodtenant/authorize" /f
reg add "%BASEKEY%\Planning prod" /v WorkdayRestApiUrl /t REG_SZ /d
 "https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant" /f
reg add "%BASEKEY%\Planning prod" /v WorkdayClientId /t REG_SZ /d
 "Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiYjU2" /f
reg add "%BASEKEY%\Financials prod" /v Type /t REG_SZ /d "financials" /f
reg add "%BASEKEY%\Financials prod" /v WorkdayAuthorizationUrl /t REG_SZ /d
 "https://example.myworkday.com/prodtenant/authorize" /f
reg add "%BASEKEY%\Financials prod" /v WorkdayRestApiUrl /t REG_SZ /d
 "https://example.myworkday.com/ccx/api/v1/prodtenant" /f
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
reg add "%BASEKEY%\Financials prod" /v WorkdayClientId /t REG_SZ /d
 "Njk0MjQwMGYtMTYxYy00YzEwLWFjZGQtNTBlN2I4YzNiY123" /f
ENDLOCAL
```

次のタスク

### OfficeConnect テナントの追加 (Adaptive Planning)

始める前に

- 最新バージョンの OfficeConnect をダウンロードします。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。
- IT 管理者と協力して、各テナントについて以下の詳細を取得します。
  - API エンドポイント URL
  - 認証エンドポイント URL
- セキュリティ: OfficeConnect へのアクセス権限

注： インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL（29ページ）。

このタスクについて

OfficeConnect でテナントを作成できます。次回サインインするときには、最後に接続したテナントのサインイン ページが表示されます。

手順

1. Excel を起動し、リボンで OfficeConnect を選択します。
2. "ログイン" をクリックします。
3. "テナントの設定" をクリックします。
4. テナントの詳細を指定して保存します。このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 接続する Adaptive Planning テナントの名前。例: 本稼働テナントまたはサンドボックス テナント。 |
| API エンドポイント URL | テナントの API エンドポイント URL。 |
| 認証エンドポイント URL | テナントの認証エンドポイント URL。 |

   テナントへの接続が正常に完了すると、Adaptive Planning のサインイン ページが表示されます。保存したテナント名が、"ログイン" ウィンドウのドロップダウン リストに表示されます。
5. (任意) ドロップダウン リストの "テナントの管理" オプションを使用して、他のテナントを追加します。リスト内の既存のテナントを編集または削除できます。
6. (任意) ドロップダウン リストから別のテナント名を選択し、別の Adaptive Planning テナントにアクセスします。
7. (任意) OfficeConnect の 接続 ユーザー設定を変更して、ユーザーがサインイン時にテナントを選択できるようにします。これは、ID プロバイダで自動的にサインインする場合に役立ちます。

タスクの結果

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例

次のタスク

組織では、Workday と統合するものとスタンドアロンのものを含む、複数の Adaptive Planning インスタンスを使用できます。

例:

- Adaptive Planning サンドボックス インスタンスの Workday への接続
- Adaptive Planning の本番インスタンスはスタンドアロンです。

スタンドアロンのインスタンスでは、Adaptive Planning の認証情報を使用して OfficeConnect に引き続きサインインできます。最後に成功したサインインに応じて、以下が表示されます。

- Workday のサインイン ページで "Log in with Adaptive Planning" をクリックし、スタンドアロンのインスタンスにサインインします。
- Adaptive Planning のサインイン ページで "Log in with Workday" をクリックし、Workday に接続するインスタンスにサインインします。 参照 OfficeConnect テナントの追加 (Workday) ( 586ページ )

**OfficeConnect テナントの追加 (Workday)**

始める前に

- 最新バージョンの OfficeConnect をダウンロードします。 参照 製品ダウンロード ( 2785ページ )。
- Workday のセキュリティ管理者と協力して、各テナント (Adaptive Planning、財務管理、またはその両方) について以下の詳細を取得します。
  - クライアント ID
  - Workday REST API エンドポイント
  - 認証エンドポイント URL
- Workday SSO が設定された Adaptive Planning テナントの場合:
  - Workday セキュリティ管理者と協力して OfficeConnect を有効化し、API クライアントを生成します。 ユーザー同期後に機能を有効化を参照してください。
  - セキュリティ:*"OfficeConnect* へのアクセス*"* 権限
- Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) の場合は、OfficeConnect から Workday にサインインするために必要なアクセス権があることを確認します。 概念: OfficeConnect におけるセキュリティの強化 を参照してください。

このタスクについて

OfficeConnect でテナントを作成できます。テナント情報を保存すると、接続が維持されます。次回 OfficeConnect にアクセスすると、最後に接続したテナントのサインイン ページが表示されます。

組織では、Workday Adaptive Planning と Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) のテナントを組み合わせて使用できます。

手順

1. Excel を起動し、リボンで OfficeConnect を 選択します。
2. "ログイン" をクリックします。
   Workday Adaptive Planning のサインイン ページが表示されます。
3. "Log in with Workday"をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. テナントの詳細を指定して保存します。
   次を参考にして、タスクを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | Workday テナントの名前。例: 本番、サンドボックス |
| データ ソース | テナント データ ソース。例: Adaptive Planning または財務管理<br>注： Workday ファイナンシャル マネジメント (財務管理) を使用するには、 財務管理の データ ソースを選択する必要があります。 |
| クライアント ID | テナントのクライアント ID。 |
| API エンドポイント URL | テナントの API エンドポイント URL。 |
| 認証エンドポイント URL | テナントの認証エンドポイント URL。 |

   テナントへの接続が正常に完了すると、Workday のサインイン ページが表示されます。 保存したテナント名が、"ログイン" ウィンドウのドロップダウン リストに表示されます。
5. (任意) ドロップダウン リストの "テナントの管理" オプションを使用して、他のテナントを追加します。 リスト内の既存のテナントを編集または削除できます。
6. (任意) ドロップダウン リストから別のテナント名を選択し、別の Workday テナントにアクセスします。
7. (任意) OfficeConnect の 接続 ユーザー設定を変更して、ユーザーが署名時にテナントを選択できるようにします。これは次の場合に役立ちます。
   - Workday Single Sign On (SSO) に複数のテナントが設定されている。
   - ID プロバイダで自動的にサインインします。
   - 財務管理と Adaptive Planning の両方のデータ ソースで OfficeConnect を使用します。

タスクの結果

**OfficeConnect for Workday SSO** の設定

以下を設定できます。 OfficeConnectWorkday シングル サインオン (SSO) のインストールWorkday Adaptive Planning その後、顧客は以下のいずれかに口グインできるようになります。 OfficeConnect または Excel Interface for Planning Workday 認証情報を使用

開始するには、Workday 認定済み実装業者と連携して進める必要があります。認定済み実装業者を利用できない場合は、カスタマー サクセス マネージャにお問い合わせの上、プロフェッショナル サービスをご利用ください。

relatedlinks
タスク
ステップ: 同期されたユーザーの Adaptive Planning への SAML SSO の設定

**OfficeConnect** に口グイン

開始前

- OfficeConnect がインストールされていることを確認します。表示 エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール（578ページ） または 管理者として OfficeConnect をインストール（579ページ）。
- OfficeConnect がインスタンスで有効になっています。
- アクセス権があります OfficeConnect 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ログイン元 **Adaptive Planning**

1. MS Excel、Word、PowerPoint を開始します。
2. 空白のワークブック、ドキュメント、またはプレゼンテーションを開きます。
3. 以下を選択します。 OfficeConnect リボンの "" タブ
4. "ログイン" を選択し、ユーザー情報を入力します。 Adaptive Planning のユーザー ID とパスワード。更新するよう求められる場合があります OfficeConnect。最新バージョンを取得するには常に "はい" をクリックしてください。

**SAML SSO** を使用したログイン

インスタンスで SAML がオンになっている場合、 にログインできます OfficeConnect SAML SSO 設定を使用して、表示 すべてのユーザーに対する SAML SSO の有効化（1550ページ）。

有効になっている SSO オプションに応じて、 にログインできます OfficeConnect 使用中 Adaptive Planning 認証情報

- SAML SSO のみを許可します。 ユーザー設定を入力してください Adaptive Planning ユーザー名または E メール。パスワード フィールドを空白のままにして、"送信"を選択します。リダイレクトされ、IDP 認証情報を使用してログインできるようになります。
- SAML SSO および Adaptive Insights への直接ログインを許可する - 。以下のいずれか 1 つ だけ を実行してください:
    - ユーザー設定を入力してください Adaptive Planning にログインするための認証情報。
    - ユーザー設定を入力してください Adaptive Planning ユーザー名または E メール アドレスを変更して、"送信"を選択します。SAML SSO を使用するには、パスワード フィールドを空白のままにします。リダイレクトされ、IDP 認証情報を使用してログインできるようになります。

**Workday** からのログイン

Workday の場合 Adaptive Planning カスタマー: のいずれかにログインできます OfficeConnect または Excel Interface for Planning 次の方法で Workday 認証情報を使用:

- IT 管理者がユーザーの設定を行います。 OfficeConnect のインストール (Workday のログイン設定を使用)
- IT インストール時に Workday ログイン設定が含まれていない場合は、OfficeConnect にログインする際にこれらの設定を手動で入力します。

ステップ: 設定を参照してください。 OfficeConnect Workday の

**OfficeConnect** の更新

条件 OfficeConnect が新しい更新をリリースすると、ユーザーと管理者は にログインした後、特定の日付までの更新をインストールするよう求められます。 OfficeConnect または Excel Interface for Planning。この記事では、権限セットとインストール タイプに基づく更新の一般的なガイドラインを提供します。参照 エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール（578ページ） または 管理者として OfficeConnect をインストール（579ページ）。

優先度の高い更新の期限は短くなります。参照 製品ダウンロード（2785ページ） 更新期限まで。

ユーザーごとの更新

各ユーザーは管理権限なしに更新することができ、必要に応じて、IT は複数のユーザーに更新を密かにインストールできます。プロンプトに記載されている期限前に更新をインストールしてください。一般的に、更新がリリースされてから必須になるまでは 30 日以内です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### マシンごとの更新

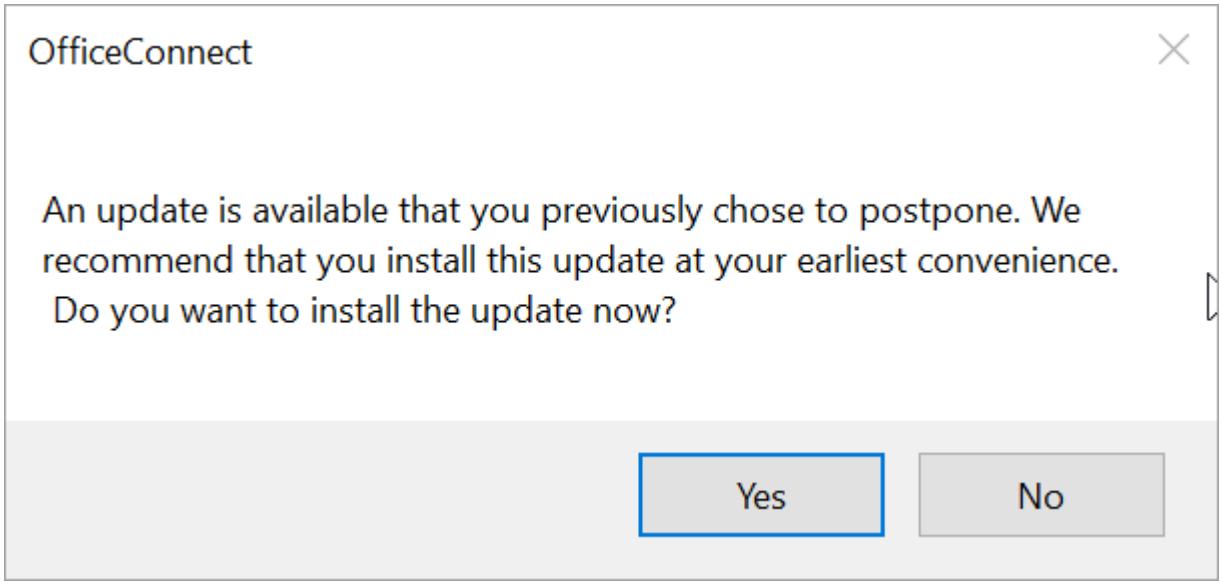
管理者であるユーザーは、特定の日付までに更新をインストールするよう求められます。通常、更新のインストール期間はリリースから 60 日です。管理権限 を持つ ユーザーは、ログインするたびに通知されます。管理権限 のない ユーザーには、過去 15 日間 のみが 通知されます。

### プロンプトの更新

の新しいバージョンの後 OfficeConnect がリリースされている場合、更新プロンプトは、ログイン後に のみ 表示されます。ユーザーごとのインストールの場合、プロンプトは毎日 1 回表示されます。マシンごとのインストールの場合、プロンプトは猶予期間の終了日の 15 日前まで表示されます。

### 日次プロンプト (ユーザーごとのインストール)

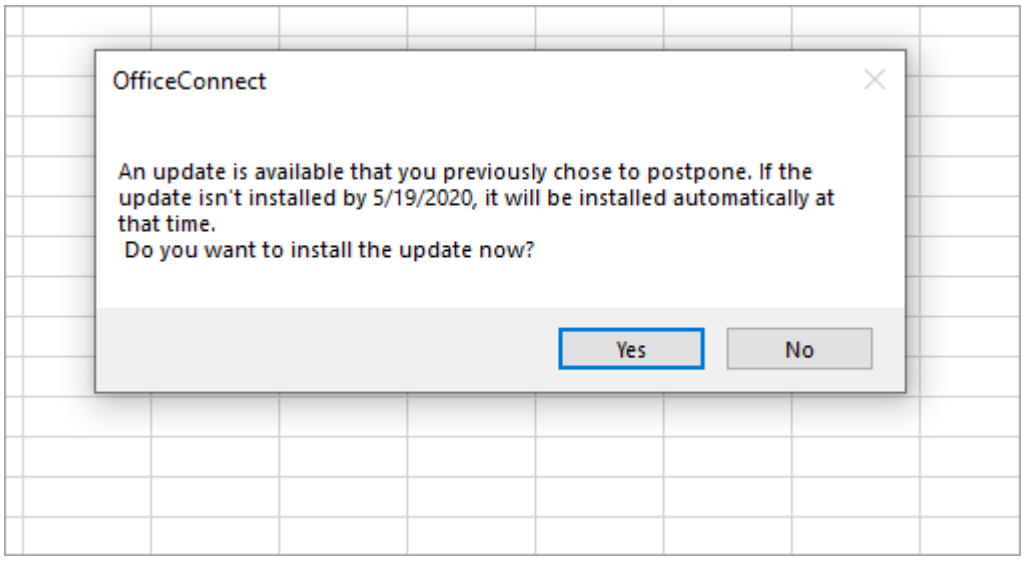
ユーザーごとのインストールでは、新しいバージョンが利用可能になった翌日、ログインしたユーザーにアップグレードを促すプロンプトが表示されます。"はい" または "いいえ" を選択できます。更新を延期し続けた場合、このプロンプトは猶予期間の終了日まで毎日表示されます。




### 猶予期間終了前にプロンプトを表示 (マシンのインストールごと)

マシンごとのインストールでは、最初のアップグレード プロンプトは、猶予期間の終了日の 15 日前に表示されます。その後、ユーザーがログインしてから過去 15 日間は、毎日プロンプトが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




参考: 現在のバージョンとバージョン履歴

| | |
|---|---|
| 現在のバージョンの確認 | 最新の OfficeConnect バージョンでの変更内容は、古いバージョンと互換性がありません。レポートの共有を継続するには、チーム全体が最新バージョンをダウンロードする必要があります。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、より新しいバージョンのレポートを表示または変更することができません。 |
| ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 | 最新でない OfficeConnect バージョンは、所定の猶予期間の最終日の深夜に期限切れとなります。終了日はユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールに適用されます。強制的に更新することもできます。 インストールのタイプに応じて、以下の猶予期間が設けられています。この場合、OfficeConnect を最新バージョンの OfficeConnect にアップグレードすることができます。<br>• ユーザーごとのインストールの場合、猶予期間の終了日は、更新通知から 45 日後、またはリリース日から 90 日のうち、どちらか早い方になります。<br>• マシンごとのインストールの場合、猶予期間の終了日はリリース日から 90 日後です。<br>注：バージョン履歴表には、最新のリリース情報が常に反映されるわけではありません。最新情報については、Workday Community の OfficeConnect のバージョンの確認と更新を参照してください。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| バージョン | リリース日 | ユーザー<br>了日 |
|---|---|---|
| 2025.209.1214.3837<br><br>注： 最新バージョンは、リリース日の翌日の午前 0 時 (PT) 以降にダウンロード可能になります。 | 9/20/2025 | セクシ<br>およびマ<br>ジョン履 |
| 2025.102.1819.1857 | 3/15/2025 | セクシ<br>およびマ<br>ジョン履 |
| 2024.209.1006.0116 | 9/21/2024 | セクシ<br>およびマ<br>ジョン履 |
| 2024.104.2517.0744 | 5/10/2024 | セクシ<br>およびマ<br>ジョン履 |
| 2024.104.0316.3119 | 4/5/2024 | セクシ<br>およびマ<br>ジョン履 |
| 2024.102.2817.4317 | 3/9/2024 | セクシ<br>およびマ<br>ジョン履 |
| 2023.214.0202.5527 | 2/2/2024 | 3/3/202 |
| 2023.211.0923.3931 | 11/17/2023 | 12/17/2 |
| 2023.208.3023.4738 | 2023/9/8 | 2023/10 |
| 2023.105.0414.0839 | 2023/5/12 | 2023/6/ |
| 2023.104.2501.1618 | 2023/4/28 | 2023/5/ |
| 2023.103.2122.0321 | 2023/3/24 | 2023/4/ |
| 2023.103.106.4039 | 2023/3/11 | 2023/4/ |
| 2022.213.701.318 | 2023/1/13 | 2023/2/ |
| 2022.211.0918.0739 | 2022/11/18 | 2022/12 |
| 2022.208.3021.2959 | 2022/9/9 | 2022/10 |
| 2022.105.2718.2929 | 2022/6/10 | 2022/7/ |
| 2022.104.0718.0345 | 2022/5/14 | 2022/6/ |
| 2022.103.0118.1220 | 2022/03/11 | 2022/5/ |

relatedlinks
概念
概念: OfficeConnect の仕組み（571ページ）
タスク
エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール（578ページ）
管理者として OfficeConnect をインストール（579ページ）
OfficeConnect のバージョンの確認（570ページ）

参考: **OfficeConnect** の技術要件

インストールの前提条件

前提条件がまだインストールされていない場合、以下の実行中に管理権限が要求されます。 Excel Interface for Planning および OfficeConnect のインストールあるいは、IT 担当者がこれらの前提条件を事前にインストールすることで、ユーザーが管理者権限なしでインストールできるようにすることもできます。

| | |
|---|---|
| Microsoft Edge WebView2 Runtime | 必須: OfficeConnect にログインする前にインストールしてください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| Microsoft .NET Framework 4.8 | 必要に応じて、事前に .NET 4.8 をインストールします。 |
| Office Runtime 用 Microsoft Visual Studio 2010 ツール | 必須: 事前に Office Runtime 用に Visual Studio ツールをインストールします。 |
| Workday イベント ログ コンポーネント | アドインのインストールでは、コンポーネントが自動的にインストールされます。<br><br>コンポーネントは、Windows のコントロール パネルの "プログラムと機能" リストに個別のアイテムとして表示されます。OfficeConnect と Excel Interface for Planning で、エラーやその他のデータを Windows イベント ログに記録できるようにします。<br><br>Workday イベント ログ コンポーネントを個別にダウンロードするには、次の URLを使用します。 |

ハードウェアおよびソフトウェア要件

インストールする Excel Interface for Planning または OfficeConnect 初めて実行する場合は、Windows 管理権限が必要です。

次を参照してください。

- Excel Interface for Planning のインストール ( 116ページ )
- エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール ( 578ページ )
- 管理者として OfficeConnect をインストール ( 579ページ )

| | |
|---|---|
| オペレーティング システム | Microsoft Windows 10 以降<br><br>サーバー/デスクトップ仮想化環境 (リモート デスクトップ サービスなど)<br><br>注 : Mac オペレーティング システムはサポートされていません。 |
| Web ブラウザ | |
| Microsoft Edge WebView2 Runtime (サインインに必要) | 最新バージョン |
| FireFox | 最新バージョン、最新の ESR |
| Chrome | 最新バージョン |
| Microsoft Office | OfficeConnect は、半年チャネルのインストールで Microsoft Office (64 ビット推奨) が必要です。<br><br>Microsoft Office 2019 (エンタープライズ バージョン)<br><br>Microsoft Office 2016 (プロフェッショナル プラス)<br><br>Microsoft Office 365 Pro + (32 ビットまたは 64 ビット)<br><br>Microsoft Office の本番環境のデプロイのみ |
| メモリ (RAM) | 4 GB 以上<br><br>8 GB 推奨<br><br>コンピュータの RAM を確認する方法について学びます (このページの下部に説明があります)。 |
| 言語、ローカライズ設定 | 英語 |
| 地域設定 | 英語 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 要件の更新

更新を直ちにインストールする Excel Interface for Planning および OfficeConnect。

| | |
|---|---|
| ユーザーごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースすると、各ユーザーにログイン時に更新をインストールするよう要求される Excel Interface for Planning または OfficeConnect。各ユーザーは管理権限なしに更新することができ、必要に応じて、IT は複数のユーザーに更新を密かにインストールできます。<br>プロンプトに記載されている期限前に更新をインストールしてください。一般的に、ユーザーは更新がリリースされてから必須になるまで 30 日かかります。ただし、優先度の高い更新の期限は短くなります。 |
| マシンごとの更新 | 条件 Workday が新しい更新をリリースした場合、ローカル管理者グループのメンバーに対して、特定の日付までに更新をインストールするよう求められます。通常、更新のインストール期間はリリースから 60 日です。<br>最初の 45 日間は、管理権限を持つユーザーにのみ通知されます。45 日後、ユーザーには利用可能な更新に関する日次通知が表示されます。OfficeConnect および Excel Interface for Planning 通知に記載された日付までに更新をインストールするよう、ユーザーと管理者に要求する。<br>更新の通常の猶予期間はリリースから 60 日ですが、優先度の高い更新の場合はそれより短い場合があります。 |

### チェック **RAM**

コンピュータにインストールされているメモリ (RAM) を確認するには:

1. Windows の "開始" ボタンをクリックします。
2. 検索ボックスに「*ms Info32*」と入力し、Enter キーを押します。
3. "システム情報" ダイアログ ボックスの右ペインで、"インストール済の物理メモリ" にリストされている数字は、コンピュータにインストールされている RAM です。
4. 4 GB 以上であることを確認してください。最適なパフォーマンスを得るには、以下の条件を満たす必要があります。 Workday は 8 GB をお勧めします。

### サポート

インストールまたは使用についてサポートが必要です Excel Interface for Planning および OfficeConnect？お問い合わせください。

### 概要 **OfficeConnect**？

OfficeConnect は Microsoft Office のアドインで、財務レポートの作成と書式設定の機能を拡張します。Adaptive PlanningMicrosoft Excel、Word、PowerPoint のデータ

オンライン インスタンスから Microsoft Excel にデータをドラッグ アンド ドロップすると、Excel の書式設定機能を使ってプレゼンテーション品質のレポートを作成できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

魅力的なエグゼクティブ プレゼンテーションの場合、 OfficeConnectExcel のレポートを のボード帳簿やその他のドキュメントに OfficeConnect Word、 のテーブルとグラフ OfficeConnect PowerPoint 用ワンクリックでこれらのドキュメントとプレゼンテーションを自動的に更新できます。コピー/貼り付けや再フォーマットは必要ありません。

データシートやビデオなどのその他の製品情報については、 Reporting Web ページを参照してください。

レポートのタイプ **OfficeConnect** 作成可能

| レポート タイプ | 説明 |
|---|---|
| レポート形式 | マトリクスとプレゼンテーションの品質 |
| 財務レポート | P&L、貸借対照表、キャッシュ フロー計算書 |
| 実績レポートと予算レポート | 実績、予算、予測など |
| ボード ブック | テキスト (ナラティブ) とマトリクス レポート (財務およびメトリック結果) を組み合わせた Word ドキュメント |
| エグゼクティブ プレゼンテーション | 取締役会、社外および社内、またはエグゼクティブ マネジメント向けのスライド プレゼンテーション。 |

でサポートされている機能 **OfficeConnect**

| 機能 | 説明 |
|---|---|
| Excel | • のデータへの接続 Adaptive Planning<br>• ドラッグ アンド ドロップ Adaptive Planning 既存の形式設定された Excel レポートにデータをインポートする<br>• の科目、バージョン、属性、カレンダーにアクセス Adaptive Planning インスタンス<br>• サマリ レベルでデータをレポートする (詳細へのドリルダウンは今後の予定です)<br>• 行と列でゼロを表示しない<br>• 動的組織パラメータを適用する Adaptive Planning レポートのラベル<br>• マルチインスタンス環境のデフォルト インスタンスに関するレポートを作成 |
| Word | • 即座に更新できるボードブックやその他のドキュメントを作成する<br>• 名前付き範囲のリンク OfficeConnect Excel to Word のテーブルとナラティブ テキスト<br>• 財務データを即時更新 Adaptive Planning 終了 OfficeConnect がドキュメントに含まれている: |
| PowerPoint | • すぐに更新できる役員会プレゼンテーションを作成する<br>• 名前付き範囲のリンク OfficeConnect Excel 形式 - スライド内のテーブルおよびグラフ<br>• からのデータを即時更新 Adaptive Planning 終了 OfficeConnect スライド内 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
参考: **OfficeConnect** の技術要件

## OfficeConnect レポート要素

### 列、行、およびセルへの要素の追加

すべてのレポートには、少なくとも時間要素と科目要素を追加する必要があります。ベーシック レポートの場合:要素を列、行、またはセルにドラッグ アンド ドロップします。さまざまな手法を使用できます。以下を追加できます。

- 単一要素を単一の列、行、またはセルに
- 複数の要素を単一の列、行、またはセルに移動して合計データを表示します。
- 複数の要素が複数の列、行、またはセルに。

### 始める前に

レポート要素 をレビューし、それらがどのようなものであり、 においてどのように機能するかを理解します OfficeConnect レポート

"デフォルト タイプ" と "優先順位ルール" をレビューし、 "バージョン" や "組織"など、設定されているデフォルトを理解します。

### 要素を追加する基本的なステップ

ヒント : 単一のセルではなく、行と列に要素を追加します。セルに別の要素を追加する場合は、必ず適切にラベルを付けてメモを追加してください。

1. グリッドで、レポート要素を適用するセル、行、または列を選択します。
2. "レポート" ペインで " 要素 " タブを選択します。
3. 要素タイプのリストをクリックして、追加する要素を確認します。単一の行または列に太字の要素を適用すると、レポートの基本的な子もそれぞれ独自の行または列に追加されます。
4. 以下のように要素をハイライトされた選択に追加します。

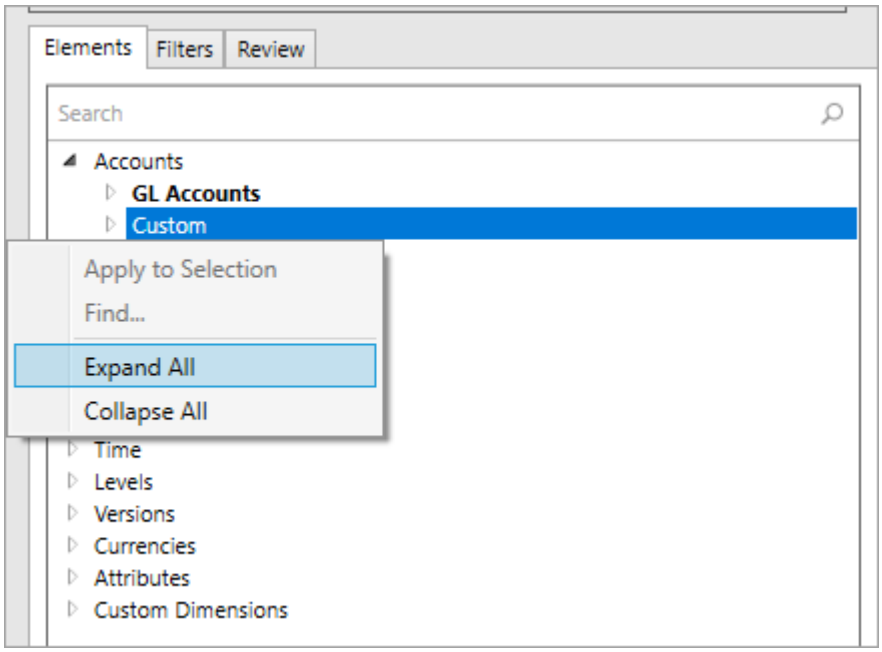
- 要素を選択したセル、行、列にドラッグ アンド ドロップします。
- 要素を右クリックして "選択に適用"を選択します。
- 要素をクリックして、ツールバーの " 選択に適用" の をクリックします。

単一のセルに要素を追加すると、次のフィールドについてプロンプトが表示されます。 OfficeConnect 対応する行または列ではなく、要素をセルにのみ追加したいことを確認してください:

### すべて展開オプション

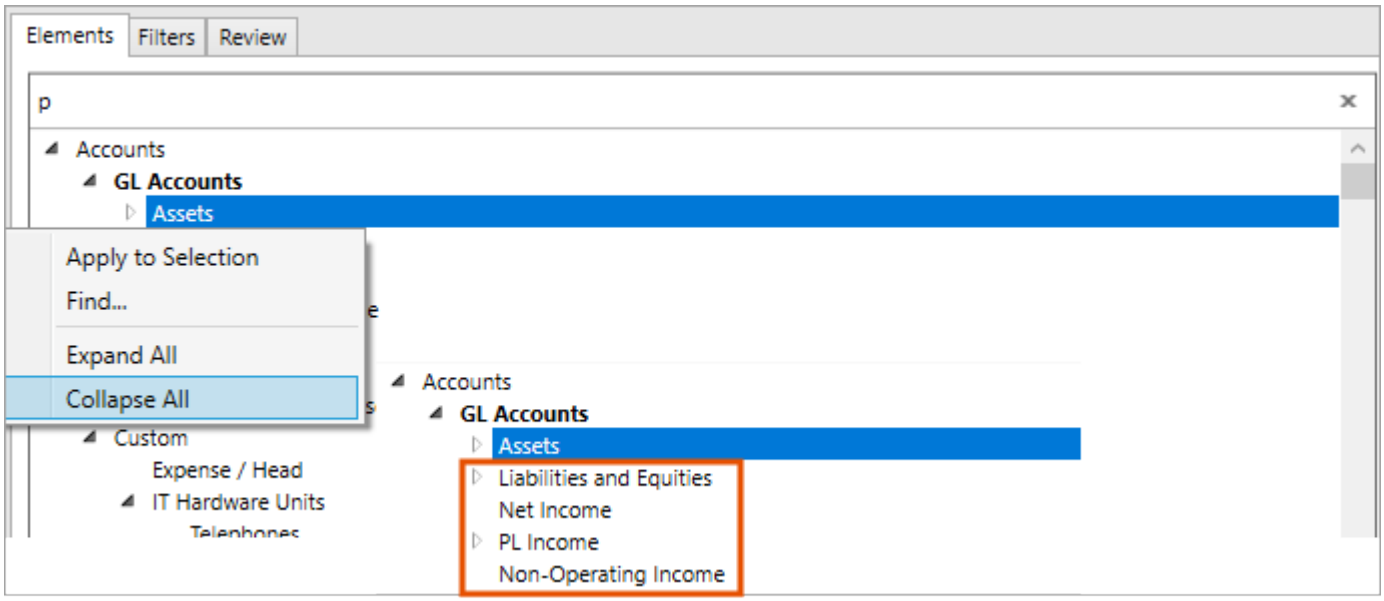
"要素" ペインで要素を右クリックし、 "すべて展開" を選択して、要素内のすべての項目を表示します。展開したアイテムにロールアップされるすべてが表示されます。この例では、すべての "カスタム" 科目を展開し、すべてのカスタム科目とその子科目も表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




すべて折り畳むオプション

"要素" ペインで要素を右クリックし、"すべて折り畳む" を選択して、要素のすべての項目を非表示にします。最上位レベルのアイテムとその兄弟 (存在する場合) のみが表示されます。この例では、"資産" を折り畳み、その子を非表示にします。これで、負債と純資産、純利益、PL 収益、営業外収益の兄弟科目が表示されます。




単一要素の単一列、行、またはセルへの追加

1. 列全体、行全体、またはセル全体をハイライトします。
2. 要素をハイライトされた領域にドラッグ アンド ドロップします。
3. "リフレッシュ" をクリックします。

注 : レポート ワークブックの結合されたセルにレポート要素またはラベルを追加する場合、 を使用してこれらのセルを更新またはリフレッシュすることはできません。 OfficeConnect。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

複数の要素を単一の列、行、またはセルに追加

1. 列全体、行全体、またはセル全体をハイライトします。
2. Ctrl キーを押しながら、必要な数の要素をクリックします。
3. 要素をハイライトされた領域にドラッグします。
4. "リフレッシュ" をクリックします。

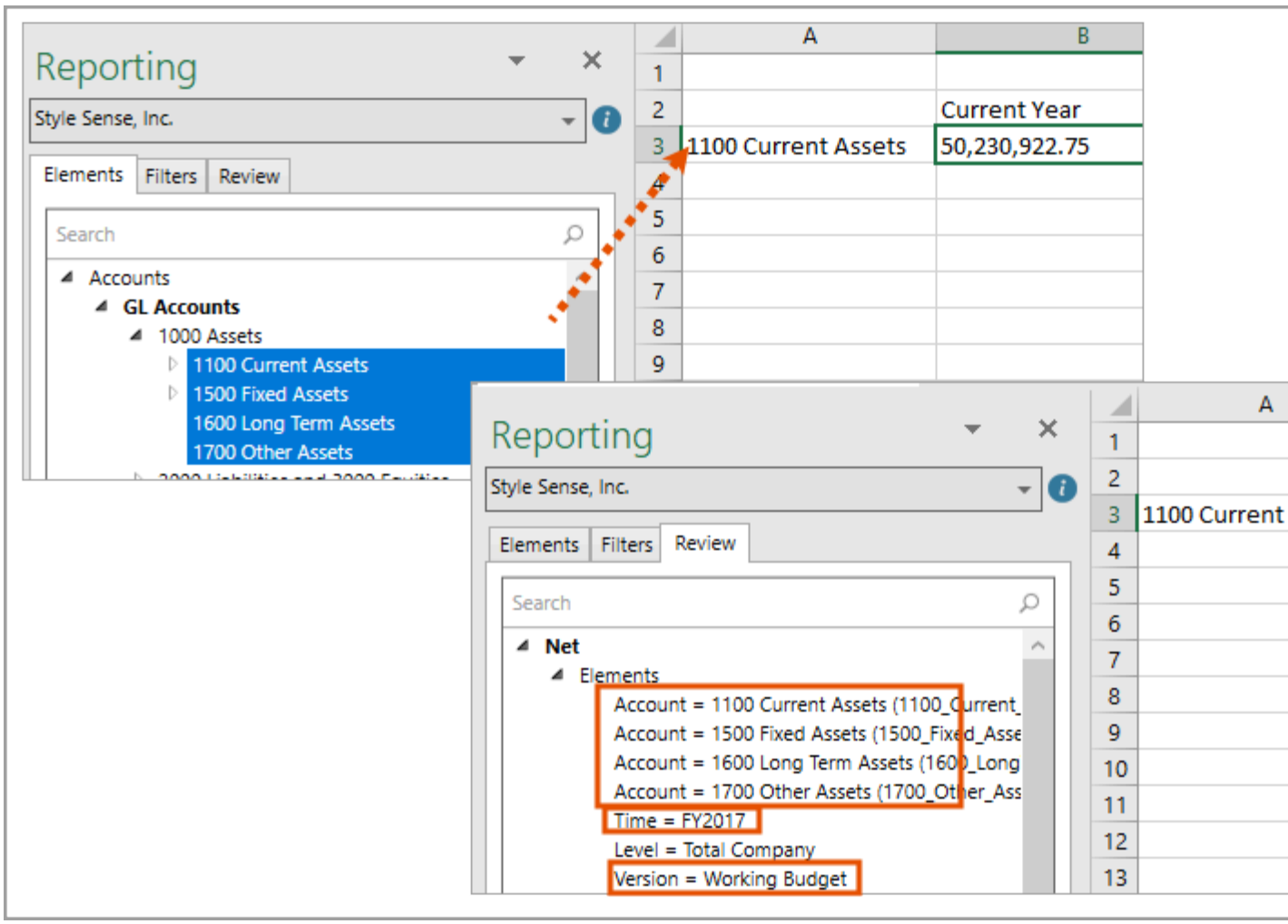
- すべての要素は 1 つの単一の列、行、またはセルに入力されます。
- データはこれらの要素をロールアップし、合計を表示します。

注： 複数の相対科目、または相対科目と通常の科目の組み合わせを追加する場合、合計は次のように計算されます。

- すべての科目が相対科目である場合、すべての相対科目の合計を正の数で返します。
- 科目が混在している場合は、すべての通常科目の合計からすべての相対科目の合計を差し引いた値を返します。

行の例: 複数の科目を単一の行に追加します。行にはすべての科目の合計値が表示されます。行をハイライトして "レビュー" タブに移動します。行セクションにはすべての科目が表示されます。

列の例: 実行予算バージョンと 2017 を単一の列にドロップします。この列には、2017 年の実行予算データが表示されます。列をハイライトして、"レビュー" タブに移動します。列セクションには、"実行予算バージョン" と 2017 年の両方が表示されます。



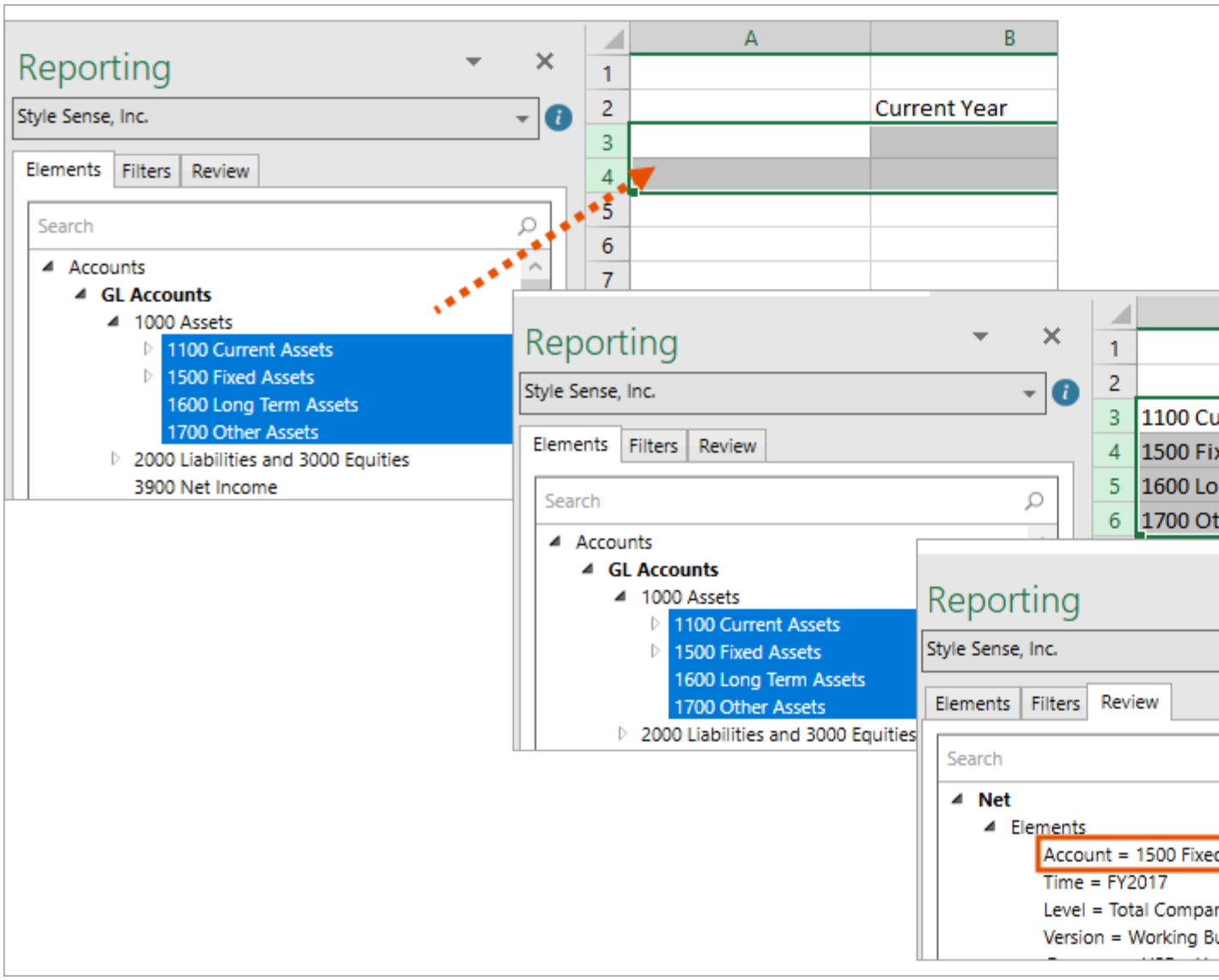

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

複数の要素を複数の列、行、またはセルに追加

1. 2 つ以上の列、行、またはセルをハイライトします。
2. Ctrl キーを押しながら、必要な数の要素をクリックします。ハイライトされた行の数と完全に一致する必要はありません。
3. 要素をワークシートのハイライトされた領域にドラッグします。
4. "リフレッシュ" をクリックします。

- 少なくとも 2 つの列、行、またはセルを選択する必要があります。 OfficeConnect 要素をそれぞれ独自の列、行、またはセルに分配します。
- 折り畳まれた太字の要素を単一の列、行、またはセルにドラッグ アンド ドロップすると、レポートがそれぞれ独自の列、行、またはセルに展開された値が追加されます。

例: 2 行を選択し、4 つの科目を 2 つの行の最後にドロップします。"リフレッシュ" をクリックすると、レポートの 4 つの行ごとに科目が入力されます。"レビュー" タブでは、レポートによって各セルに 1 つの科目のみが適用されます。




組織およびバージョン要素の追加

レポートには、デフォルトで組織およびバージョンの要素が追加されます。 デフォルト バージョンおよび組織のデフォルトを 参照してください 。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

組織とバージョンを に追加するには 3 つの方法があります。 OfficeConnect レポート:

- デフォルトをそのまま残します。
- ワークブックまたはワークシートのフィルタに追加します。フィルタに要素を追加するを参照してください。
- 行、列、またはセルに追加します。これは、組織やバージョン間で財務データを比較する場合に有用です。

時間コンテキストの追加

開始 OfficeConnectコンテキストは、レポート データに適用する期首残高または累計です。"累計" には選択した時間要素までの移動中の合計が表示され、期首残高には前期の合計が表示されます。以下が可能です。

- 科目と時間の両方の要素を持つレポートにコンテキストを追加します。
- コンテキストと時間の要素を同じ列、行、またはセルに追加する。

ヒント： 財務管理データ ソースで OfficeConnect を使用している場合、日次平均残高 (ADB) 計算を持つ時間コンテキストを使用して、以下を実行できます。

- これまでの日次 ADB の内訳をレビューします。
- サマリ スケジュールを日数に展開します。

次を参照してください。

- ../../../../../../admin-guide/ja-jp/financial-management/financial-accounting/financial-reporting-with-officeconnect/Concept--Time-Context-with-Average-Daily-Balance.dita概念: 日次平均残高と時間コンテキスト
- ../../../../../../admin-guide/ja-jp/financial-management/financial-accounting/financial-reporting-with-officeconnect/Average-Daily-Balance-Reporting-with-OfficeConnect.ditaOfficeConnect を使用した日次平均残高レポート

コンテキストを追加する基本的なステップ

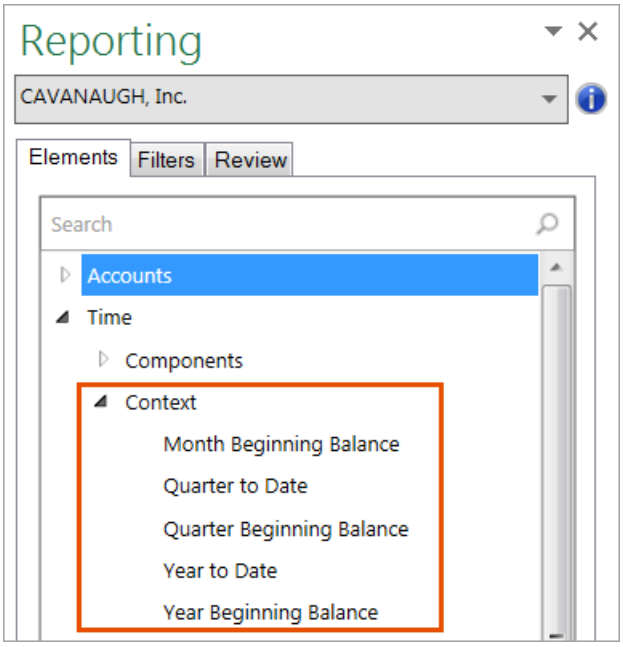
レポートにコンテキストを追加するには:

1. 開始 OfficeConnect をクリックして、新しいレポートまたは既存のレポートを開きます。
2. "レポート" ペインの "要素" タブで、"時間" をクリックして展開します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "コンテキスト" をクリックして、選択可能なオプションを確認します。

   レポートで使用可能なコンテキストは、管理者がインスタンスのカレンダーをどのように設定したかによって異なります。共通のカレンダーには、次のようなコンテキスト オプションがある場合があります。




4. 次のいずれかの方法で、コンテキスト要素をドラッグ アンド ドロップします。
   - 時間要素と同じ列、行、またはセル内。
   - 任意の列、行、またはセル (時間がワークブックまたはワークシートのフィルタである場合)
   - 時間が列である場合は任意の行、またはその列の任意のセル内
   - 時間が行の場合は任意の列内、またはその行の任意のセル内
5. レポートをリフレッシュします。

## コンテキストの仕組み

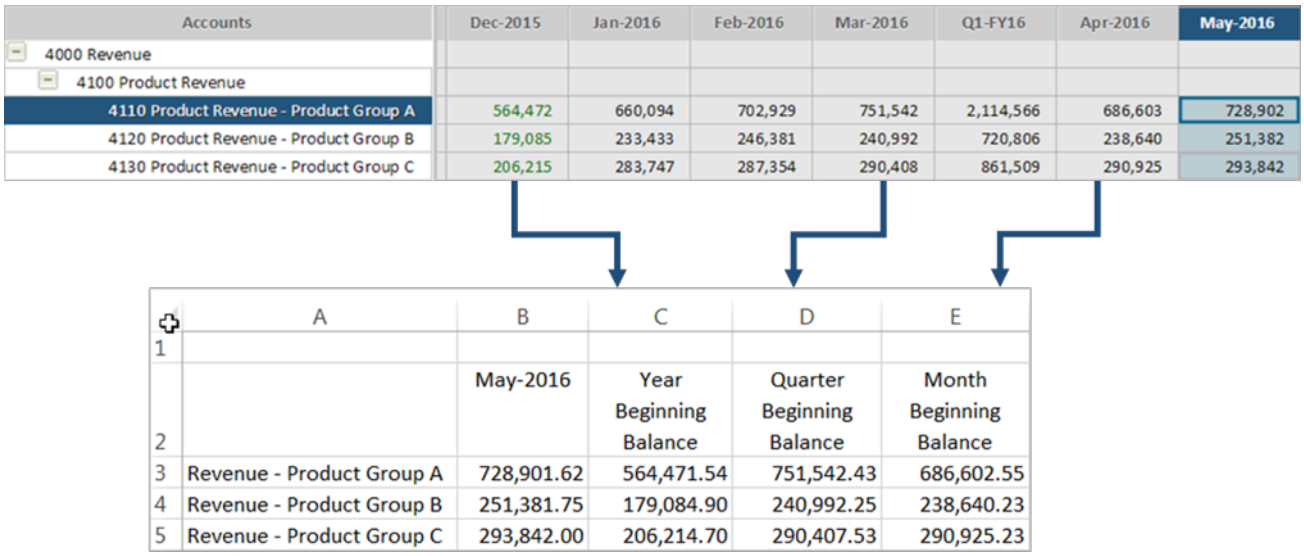
### 期首残高

開始残高は、期間の終了日ではなく開始日の残高です。例: 2017 年 5 月の期首残高は、2017 年 4 月の期末残高となります。

開始 OfficeConnect、開始残高は、インスタンスの総勘定元帳科目のデフォルトの計画期間に基づきます。GL 科目が月次で計画されている場合、"四半期の期首残高" は前の四半期の最後の月です。例: 四半期の期首残高が "2016 年 5 月" の場合、2016 年 3 月のデータが表示されます。

この例では、オンライン シートの上部にあるデータが、 OfficeConnect その下のレポートを作成します。一番下のレポートでは、ラベルに従って CE 列にある すべての 列とコンテキストに時間要素として「2016 年 5 月」が指定されています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



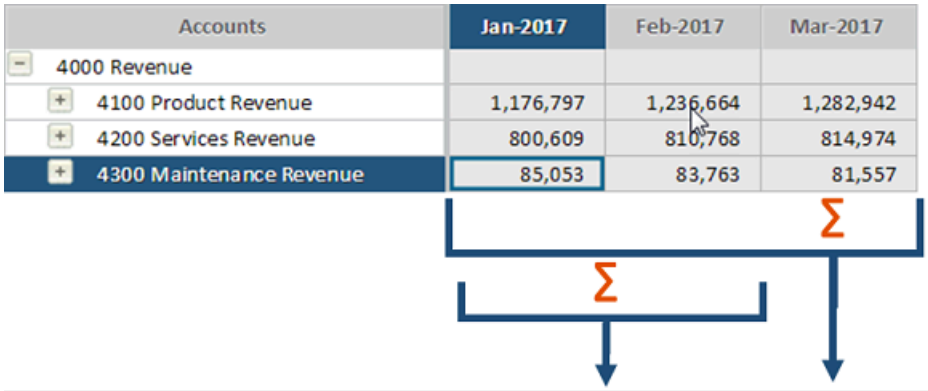
| Accounts | Dec-2015 | Jan-2016 | Feb-2016 | Mar-2016 | Q1-FY16 | Apr-2016 | May-2016 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4000 Revenue | | | | | | | |
| 4100 Product Revenue | | | | | | | |
| 4110 Product Revenue - Product Group A | 564,472 | 660,094 | 702,929 | 751,542 | 2,114,566 | 686,603 | 728,902 |
| 4120 Product Revenue - Product Group B | 179,085 | 233,433 | 246,381 | 240,992 | 720,806 | 238,640 | 251,382 |
| 4130 Product Revenue - Product Group C | 206,215 | 283,747 | 287,354 | 290,408 | 861,509 | 290,925 | 293,842 |

| | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | |
| 2 | | May-2016 | Year Beginning Balance | Quarter Beginning Balance | Month Beginning Balance |
| 3 | Revenue - Product Group A | 728,901.62 | 564,471.54 | 751,542.43 | 686,602.55 |
| 4 | Revenue - Product Group B | 251,381.75 | 179,084.90 | 240,992.25 | 238,640.23 |
| 5 | Revenue - Product Group C | 293,842.00 | 206,214.70 | 290,407.53 | 290,925.23 |

累計

"累計" は、特定の日付時点での積算合計を計算します。2017 年 5 月時点の年初来は、2017 年 1 月から 5 月までの合計を計算します。累計科目の値はすでに期間累計データを示しているため、累計科目はストック (月次差額) 科目ではなく、フロー科目での使用が最適です。

開始 OfficeConnect: 累計は、コンテキスト期間 (週、月、など) の最初から最後の時間要素の最後まで計算されます。この例では、1 月、2 月、3 月に "四半期累計" コンテキストがあるため、レポートには第 1 四半期から各月の合計が表示されます。



| Accounts | Jan-2017 | Feb-2017 | Mar-2017 |
|---|---|---|---|
| 4000 Revenue | | | |
| 4100 Product Revenue | 1,176,797 | 1,236,664 | 1,282,942 |
| 4200 Services Revenue | 800,609 | 810,768 | 814,974 |
| 4300 Maintenance Revenue | 85,053 | 83,763 | 81,557 |

| | Quarter to Date | Quarter to Date | Quarter to Date |
|---|---|---|---|
| | Jan-2017 | Feb-2017 | Mar-2017 |
| 4100 Product Revenue | 1,176,796.90 | 2,413,461.10 | 3,696,403.32 |
| 4200 Services Revenue | 800,608.90 | 1,611,376.68 | 2,426,350.35 |
| 4300 Maintenance Revenue | 85,053.35 | 168,816.03 | 250,372.85 |

ヒント： ベスト プラクティス: 累計コンテキストには、累計コンテキストの期間よりも小さい時間要素を使用します。例: 月の時間要素に "四半期累計" または "年間累計" を使用します。四半期の時間要素に "月間累計" を使用する場合、次のようになります。 OfficeConnect によって訂正されます。これについては、同等以上の期間のコンテキストを参照してください。

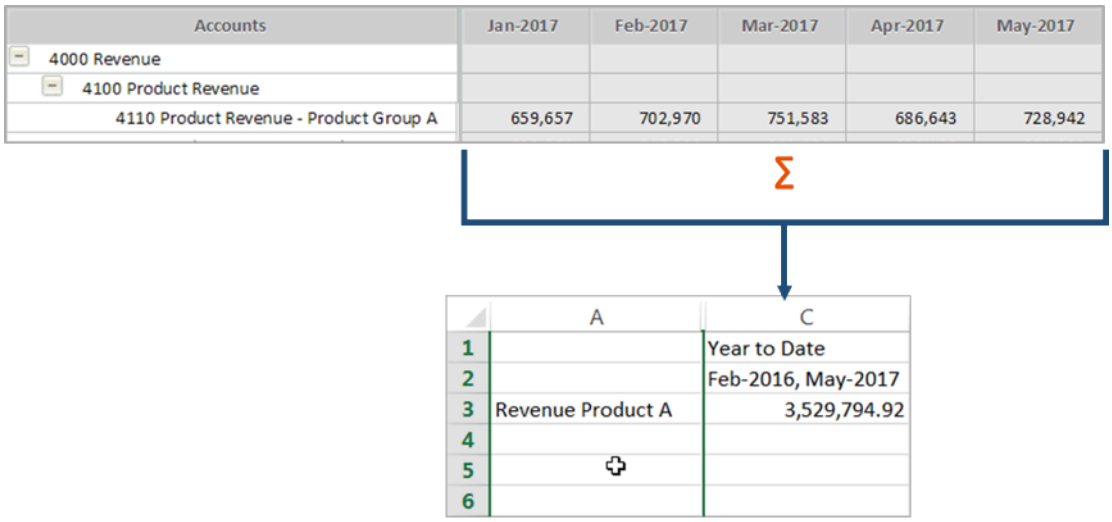
複数の時間要素を持つコンテキスト

複数の時間要素が含まれる場所にコンテキストを追加すると、レポートには最新の時間要素に基づいたデータが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

この例では、2016 年 2 月と 2017 年 5 月は、年初来コンテキストを持つ列 C にあります。レポートでは最新の時間である 2017 年 5 月にコンテキストが適用され、2017 年 1 月から 5 月までの積算が表示されます。

2016 年 2 月と 2017 年 5 月は、"四半期期首残高" コンテキストを持つ列 D にあります。レポートでは、最新の時間である 2017 年 5 月に基づいた期首残高が求められます。5 月の四半期 (第 2 四半期) の期首残高は、第 1 四半期の最終月である 2017 年 3 月です。




時間がそれ以上の長さのコンテキスト

これ以上長い期間の時間要素にコンテキストを追加する場合、 OfficeConnect 時間要素をレポート内の論理作業に変換します。

例: 累計

シナリオ: FY2016 の時間要素と "四半期累計" コンテキスト要素が含まれるレポート。

レポート ロジック:

1. コンテキストに従って、2016 年を四半期ごとに分割します。
2. 時間要素内のコンテキストの最新期間を選択します (第 4 四半期)。
3. 次の最小期間 (第 4 四半期内の月) を合計します。

レポート表示: 2016 年の QTD として 10 月、11 月、12 月の合計

例: 期首残高

シナリオ: GL のデフォルトとして "月" を持つインスタンス、および "FY2016" の時間要素と "四半期期首残高" コンテキスト要素を持つレポート。

レポート ロジック:

1. コンテキストに従って、2016 年を四半期ごとに分割します。
2. 時間要素内のコンテキストの最新期間を選択します (第 4 四半期)。
3. 前四半期の期首残高を検索します (2016 Q3)。

レポート表示: 2016 年 9 月の終了残高。

使用可能な累計コンテキスト

- "累計" のオプションには、カレンダーの最小期間を除くすべての期間が含まれます。
- 期首残高オプションには、インスタンスの GL 科目に対して設定された期間およびそれ以上の値が含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例:

| カレンダー | 総勘定元帳科目 | 期首残高オプション | 累計オプション |
|---|---|---|---|
| 月 > 四半期 > 年<br>日 > 週 > 月 > 半年 > 年 | month<br>半年 | 月、四半期、年<br>半年、年度 | 四半期、年<br>週、月、半年、年 |

コンテキストの削除

1. 削除するコンテキスト要素を含む行、列、またはセルを選択します。
2. "レポート" ペインに移動し、"レビュー" タブをクリックします。
3. コンテキスト要素を右クリックし、"削除"をクリックします。
4. レポートをリフレッシュします。

コンポーネントの日付要素の追加

コンポーネント日付は、特定のタイプのレポートに対して簡潔な方法で一意の交差部分を生成するために使用できます。たとえば、過去 3 年間の四半期ごとの収益の前年比のトレンドを表示するとします。レポートは次のようになります。

| | A | B | C | D | E | F |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **Revenue by Quarters - Last 3 Years** | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
| 5 | | | | | | |
| 6 | Revenue | FY2014 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 7 | Revenue | FY2015 | 10,593.73 | 9,650.12 | 8,826.93 | 9,147.03 |
| 8 | Revenue | FY2016 | 13,937.75 | 14,749.97 | 16,024.10 | 16,790.60 |
| 9 | | | | | | |

この結果は、時間要素からコンポーネントの日付とのセルの交差部分を作成することで得ることができます。"時間" 要素の他の期間を使用しても、同様の結果が得られますが、これは単純ではありません。

コンポーネントの日付にアクセスするには、"レポート" ペインの "要素" タブから "時間" > "コンポーネント"を展開します。

コンポーネントの日付を適用する際の考慮事項

コンポーネントの日付は、少なくとも 2 つの日付の交差、または場合によっては 3 つのコンポーネントの交差を解決する必要があります。収益トレンドの例を使用すると、7C は年コンポーネント 2015 と四半期コンポーネント Q1 の交差部分です。"年" コンポーネントは必須であるため、セルの交差部分に含める必要があります。

以下は可能な組み合わせの例です

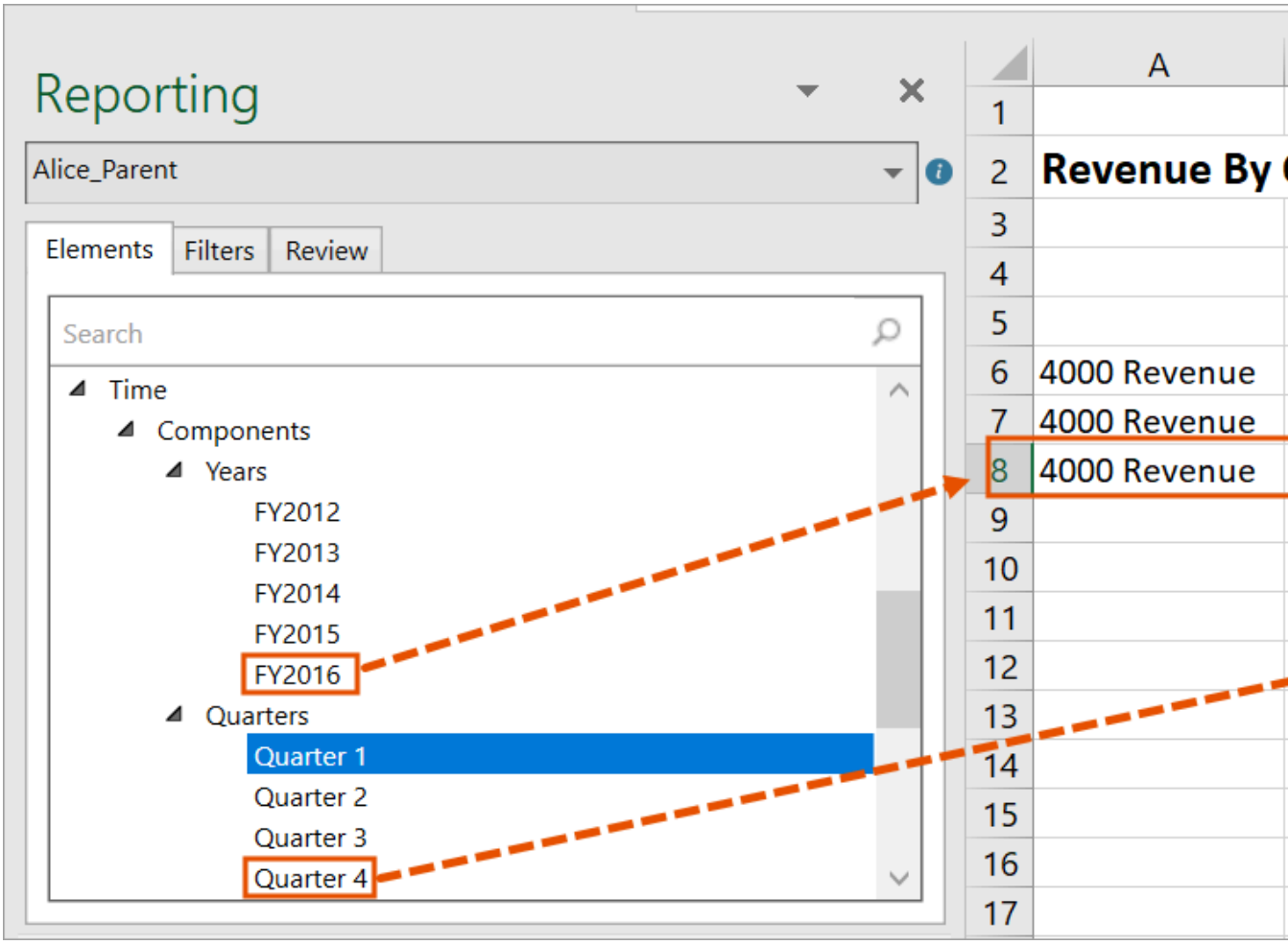
| コンポーネントの日付 | セルの交差 | 解決先 |
|---|---|---|
| 年と四半期 | 2017 年および第 3 四半期 | 2017 年第 3 四半期 |
| 年と月 | 2017 年と 3 月 | 2017 年 3 月 |
| 年、四半期、月 | 2017 年、第 1 四半期、3 月 | 2017 年 3 月 |

- 例: 年、四半期、月を組み合わせる場合、データを返すためにその四半期のいずれかの月を適用する必要があります。"2014"、"Q1"、"6 月" を選択したときにデータがないとします。6 月は第 1 四半期に含まれません。
- コンポーネントの時間要素は、同じ地域で他の時間要素と組み合わせることはできません。適用される場合、他の時間要素は、その交差部分のどのコンポーネントよりも優先されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

レポートへのコンポーネント日付の適用

1. 収益トレンド レポートなどのレポートを作成します。例: 総勘定元帳科目、収益を行 6 ~ 8 に適用します。
2. レポート ペインの "要素 " タブで、"時間" > "コンポーネント"を展開します。
3. 選択した行と列にコンポーネントの日付を適用します。これにより、その年の年および四半期のセルの交差部分が作成されます。以下は、行 8 に適用された FY2016 と列 F に適用された第 4 四半期を示しています。この組み合わせにより、2016 年第 4 四半期の収益に解決されるセルの交差が作成されます。

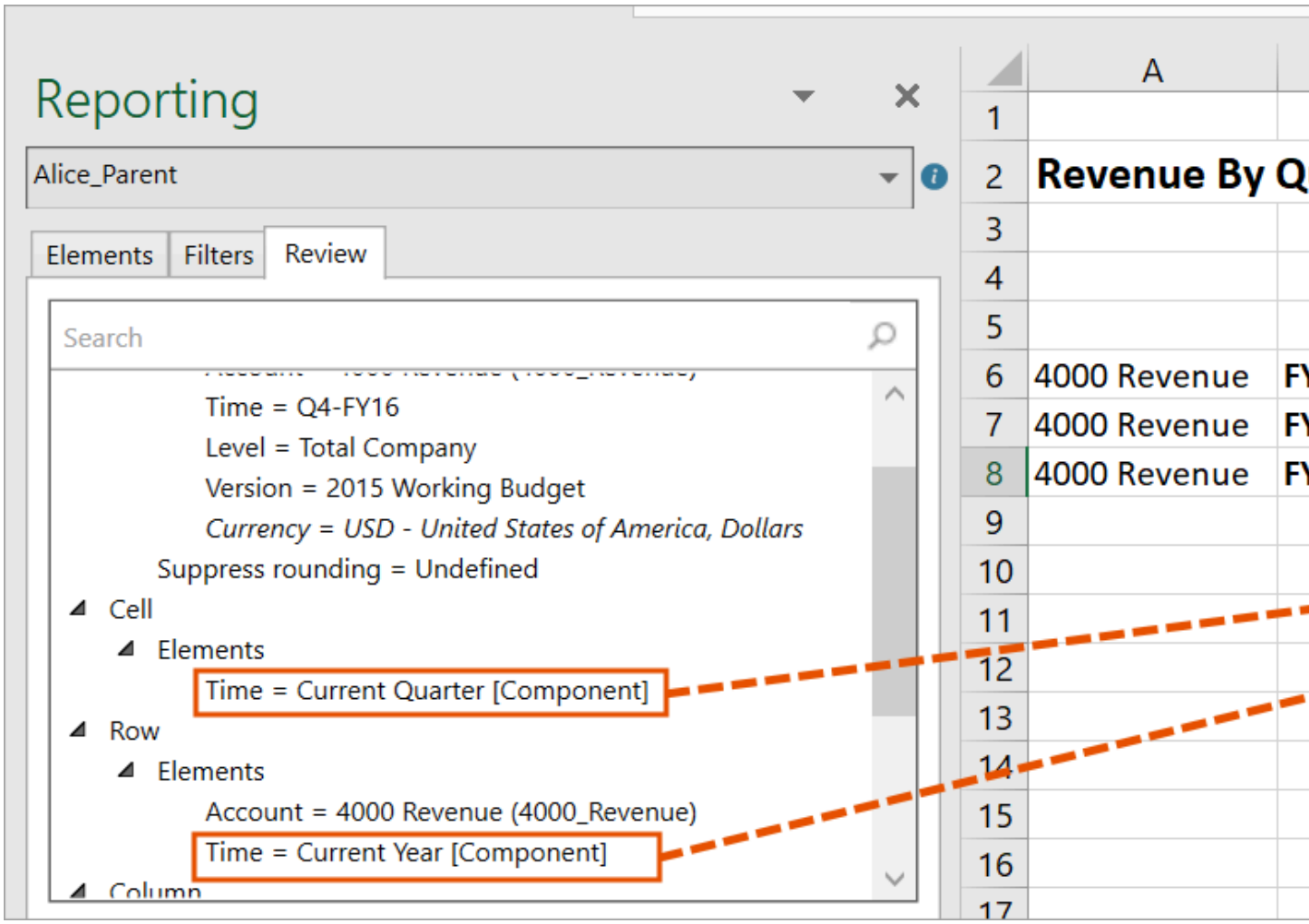



   - 各行に年を適用します。例: FY-2014 を行 6、FY-2015 を行 7、FY-2016 を行 8 に適用
   - 各列に四半期を適用します。例: 列 C に四半期 1、列 D に四半期 2、列 E に四半期 3、列 F に四半期 4 を適用します。
4. ワークシートをリフレッシュします。

レビュー ペインのコンポーネントの日付

"レビュー " ペインでは、時間要素の後に "[Component]" が追加されることで、その時間要素がコンポーネント日付であるかどうかが示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




レポート フィルタへの要素の追加

個々のワークシートまたはワークブックで フィルタ を使用する。部門や勤務地などの任意の要素をフィルタとして定義できます。フィルタを対象に適用すると、 OfficeConnect ワークシートにアクセスすると、データが動的にフィルタリングされ、一致する値のみが表示されます。

以下の少なくとも 1 つの要素でレポートをフィルタできます。

- 科目
- 組織
- バージョン
- 通貨
- 特性
- カスタム属性

レポートで要素を適用する場合など、特定の行、列、またはセルではなく、個々のワークシートまたはワークブックにフィルタが適用されます。

注： OfficeConnect のワークシートまたはワークブックに適用するフィルタは、OfficeConnect の優先順位のルールに従います。ワークシート レベルのフィルタは、ワークブック レベルのフィルタよりも優先されます。 次を参照してください。

- 概念: デフォルトのタイプと優先順位ルール
- "レビュー" タブのチェック要素

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 複数選択フィルタ

ワークシートで選択するフィルタ セットを定義します。"ワークシート フィルタ" で、フィルタを検索または参照します。要素を個別に選択するか、コンテキスト メニューを使用して複数選択することで、使用可能なフィルタのサブセットを選択します。要素を右クリックしてコンテキスト メニューを表示します。

以下からフィルタを複数選択できます。 レポート ペインの "フィルタ" タブ、"ワークシート フィルタ"、"ワークブック フィルタ"、"繰り返し使用するレポート"。フィルタが "すべて折り畳む" 状態であっても、すべての子孫が選択またはクリアされます。

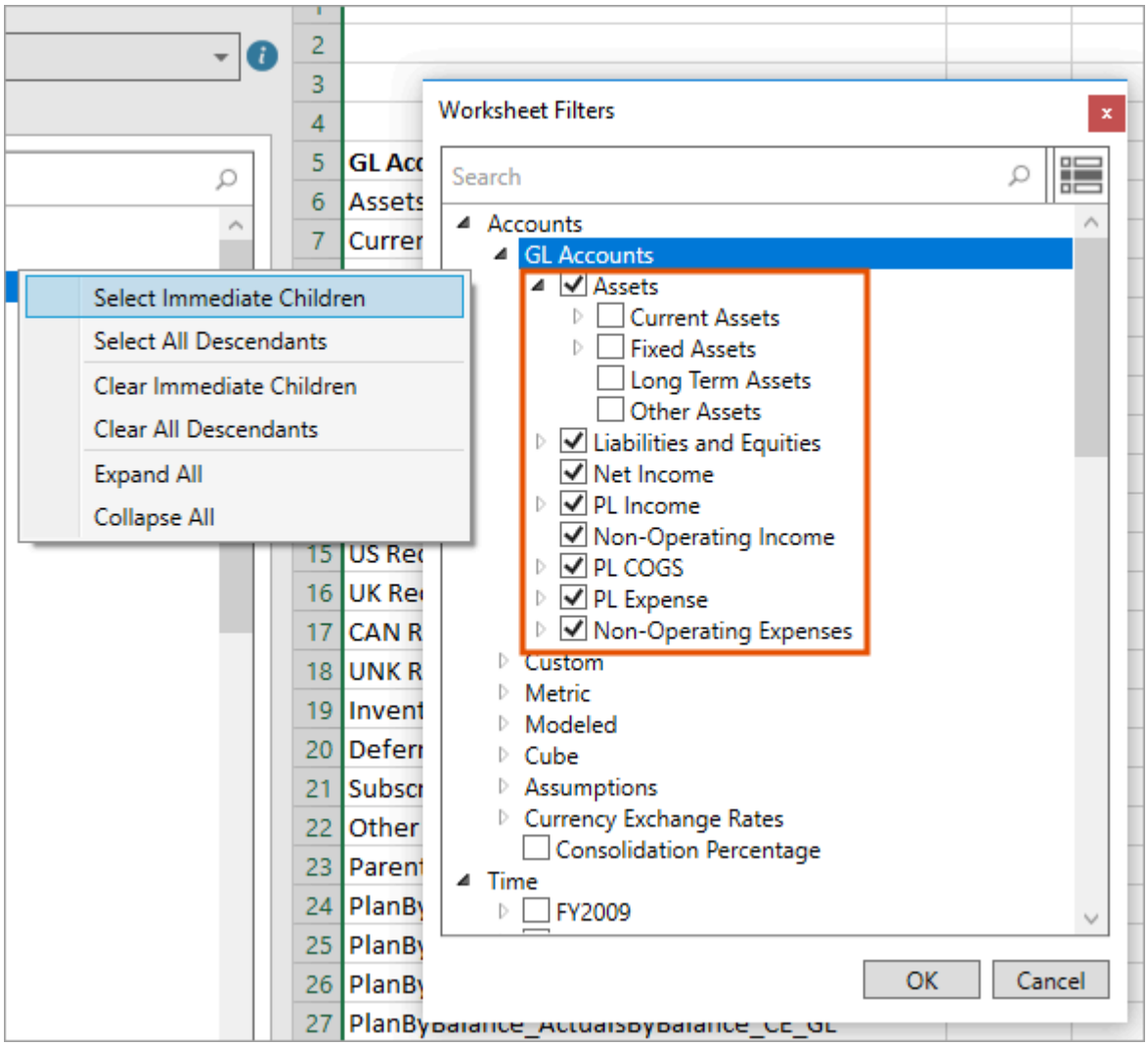
フィルタのサブセットを選択した後、次の場所からこのサブセットにアクセスできます。

- ワークシート: "レポート" ペインの "フィルタ" タブすべてのフィルタまたは選択したフィルタのみを表示するには、"フィルタ" タブと "ワークシート フィルタ" ダイアログの右上にある "フィルタの表示" アイコンを使用します。
- ワークブック: "ワークブックのプロパティ" > "フィルタ" タブ。

注 : サブセットには複数の通貨を選択できますが、ワークシートまたはワークブックでフィルタする通貨は 1 つしか選択できません。ワークシートで選択されたフィルタとしての通貨は明示的であり、組織から派生した暗黙の通貨がすべて上書きされます。

### 直接の子を選択またはクリア

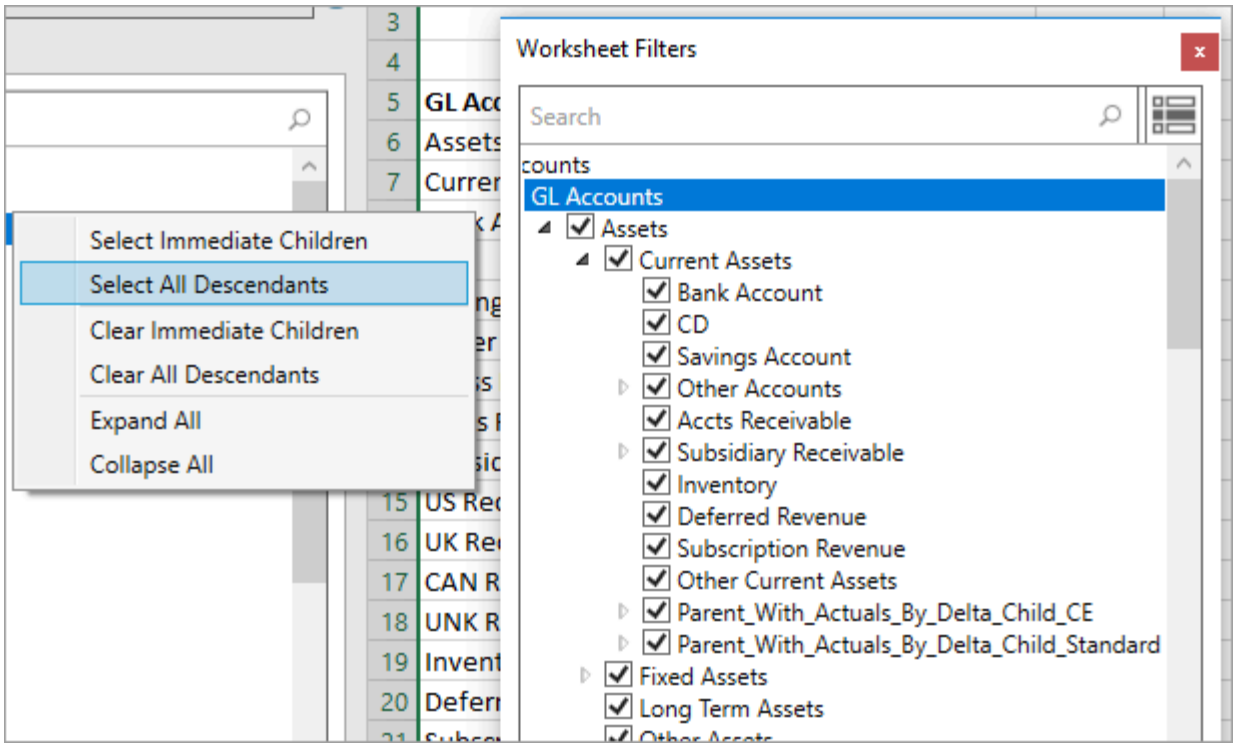
ハイライトされた要素の下のすべての直近の項目を選択またはクリアします。この例では、"GL 科目の 直接の子を選択" を選択します。"資産" のサブ科目が選択されていないことに注意してください。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

"すべての子孫" を選択またはクリア

いくつかのレベル下まで含め、アイテムにロールアップされるすべてのアイテムを選択またはクリアします。この例では、"総勘定元帳科目の すべての子孫を選択 " を選択し、"資産" のサブ科目とその子が選択されています。




すべて選択してクリア

任意の組織で、リスト内の任意の項目を右クリックして "選択" または "クリア" を選択すると、リスト全体が更新されます。

ワークブックへのフィルタの適用

ワークブックにフィルタを適用するには、次のようにします。

1. 以下を開きます。 OfficeConnect 適用された科目と時間要素を持つワークブック
2. "ワークブックのプロパティ" を選択してから " フィルタ" タブを選択します。以前に選択したフィルタは、すべてこのタブにリストされています。
3. 選択 "ワークブック フィルタ" ダイアログを開きます。
4. ワークブックをフィルタする要素を検索または参照します。例: さまざまな資産科目でワークブックをフィルタするには、「資産」を検索します。
5. フィルタに含める要素タイプを選択します。例: 資産で検索した場合、"流動資産" と "固定資産" を選択できます。
6. "OK" を選択します。ワークブック プロパティの "フィルタを有効化 " チェックボックスがオンになります。
7. フィルタリングする特定の要素タイプを選択します。例: "流動資産" を選択し、この資産タイプのみでレポート データをフィルタします。"OK" を選択します。
8. ワークブックをリフレッシュします。

ワークブックからフィルタを削除するには、次のようにします。

1. 以下を開きます。 OfficeConnect フィルタを削除するワークブック

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "ワークブックのプロパティ" を選択してから " フィルタ" タブを選択します。
3. "フィルタを有効化"をオフにします。
4. ワークブックをリフレッシュします。

### ワークシートへのフィルタの適用

ワークシートにフィルタを適用するには:

- まずサブセット フィルタをワークシートに適用します。
- 次に、サブセット フィルタを使用してワークシートをフィルタリングします。

ワークシートにサブセット フィルタを適用するには、次のようにします。

1. 以下を開きます。 OfficeConnect 適用された科目と時間要素を持つワークブック
2. (任意) フィルタを適用するワークシートを選択します。
3. "ワークシート フィルタ"を選択します。"ワークシート フィルタ" ダイアログに、以前に選択したフィルタが表示されます。
4. 検索または参照して、サブセットに含める要素タイプを選択します。例: ワークシートを組織でフィルタリングするには、"A 社 社" と "B 社" を選択します。
5. "OK" を選択します。
6. "レポート" ペインに移動し、" フィルタ " タブを選択します。サブセット フィルタがこのタブに表示されます。

ワークシートをフィルタするには:

1. "フィルタ" タブで "フィルタを有効化"を選択します。
2. ワークシートのデータをフィルタする特定の要素タイプを選択します。
3. ワークシートをリフレッシュします。

ワークシートのフィルタを削除するには、ワークシートの "フィルタ" タブに移動し、"フィルタを有効化"をオフにします。このオプションをクリアするとフィルタはオフになりますが、以前のフィルタ選択は記憶されます。

### 適用フィルタのレビューまたは確認

"レポート" ペインで "レビュー" タブをクリックし、フィルタ メタデータをレビューします。

- ワークシート フィルタについては、ワークシートに移動して展開します。
- ワークブック フィルタについては、ワークブックに移動して展開します。

適用されたフィルタは "要素" にリストされます。

## レポート内の要素の変更と移動

### 要素の切り取りまたはコピーと貼り付け

要素の切り取り、コピー、貼り付けには複数のオプションがあります。

1. 移動する要素のセル全体、行全体、または列全体を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 任意の方法で以下を切り取りまたはコピーします。
    - OfficeConnect リボン タブ

      の関数を使用します。 OfficeConnect("ホーム" タブではなく) タブ
    - 右クリックのコンテキスト メニュー

      セル、行、または列を右クリックして以下を選択します。 OfficeConnect > "要素の切り取り" または "要素のコピー" を選択し、"要素の貼り付け" を選択します。
    - - キーボードのショートカット
        - 切り取り: Shift + Ctrl + Alt + x
        - コピー: Shift + Ctrl + Alt + c
        - 貼り付け: Shift + Ctrl + Alt + v
3. 要素の移動先のセル、行、または列全体をハイライト表示する。
4. 任意の方法で貼り付けてください。

コピーまたはカット アンド ペーストする場所

このテーブルは、要素を切り取りまたはコピーできる場所と、貼り付けできる場所を示しています。

| 切り取りまたはコピー: | 貼り付け先: |
|---|---|
| セル | セル、行、または列 |
| 行 | 行または列 |
| 列 | 行または列 |

要素の追加または置換

要素をすでに要素が存在する 1 つ以上のセル、行、または列にドラッグ アンド ドロップした場合、次の操作ができます。

- 要素の追加: 既存の要素に新しい要素を追加します。例: "福利厚生費" 科目がすでに存在する行に "給与費用" 科目を追加します。レポートでは 2 つの科目の合計が対応するセルに表示されます。
- 要素の置換: 既存の要素を削除して、新しい要素と置き換えます。例: "福利厚生費" を "給与費用" 科目に置き換えると、レポートに "福利厚生費" のみが表示されます。

注 : ヘッダーの行または列に ラベルがすでに追加されて いない限り、要素を追加してもデータが変更されてもヘッダーは変更されません。ラベルを追加すると、両方の要素が反映されます。

要素を追加または置換するには:

1. 別の要素を追加する要素を含む行、列、またはセルを選択します。
2. "レポート" ペインで "要素 " タブを選択します。
3. 要素をワークシートにドラッグします。
4. ポップアップ ウィンドウで、"追加" または "置換"を選択します。
5. レポートをリフレッシュして変更内容を確認します。

要素の削除

要素を削除するにはいくつかのオプションがあります。

1. 常にセル、行全体、または列全体を選択します。
    - 行または列の場合、行または列全体を選択して要素を削除します。
    - セルの場合、特定のセルに適用されている要素のみが削除されます。行と列の要素は残ります。
    - セルの場合、行と列の要素を削除すると、セルにのみ適用されている要素が残ります。

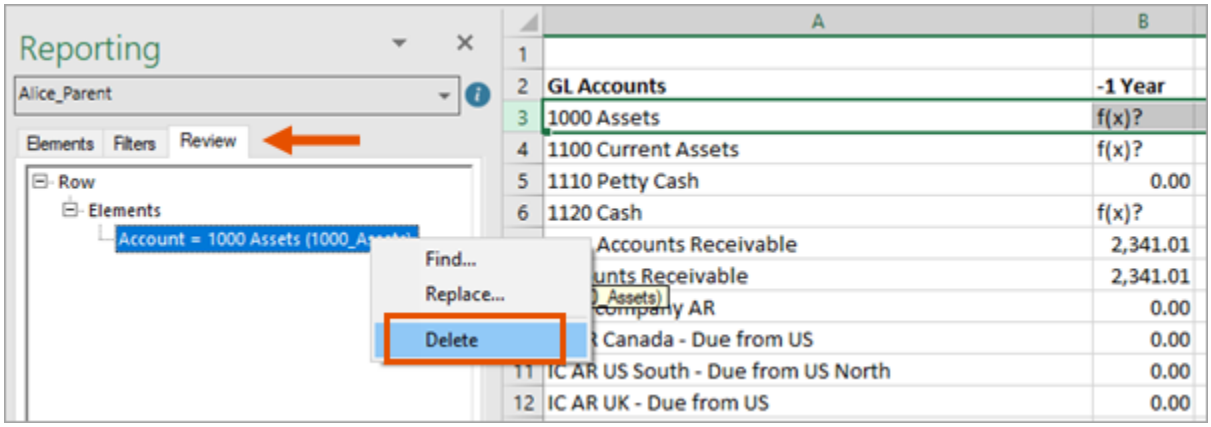
©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

2. 任意の削除方法を使用します。

- Excel 関数

  リボンの " ホーム" タブにある "削除" 機能を使用します。右クリックのコンテキスト メニューにある "削除" オプションを使用することもできます。コンテキスト メニューを表示するには、グリッドのセル、行、または列を右クリックします。
- "レビュー" タブ

  レポート ペインの "レビュー" タブで、削除する要素を右クリックし、"削除"を選択します。グリッドの要素も選択する必要があります。例: 行要素を削除するには、グリッドで行を選択します。

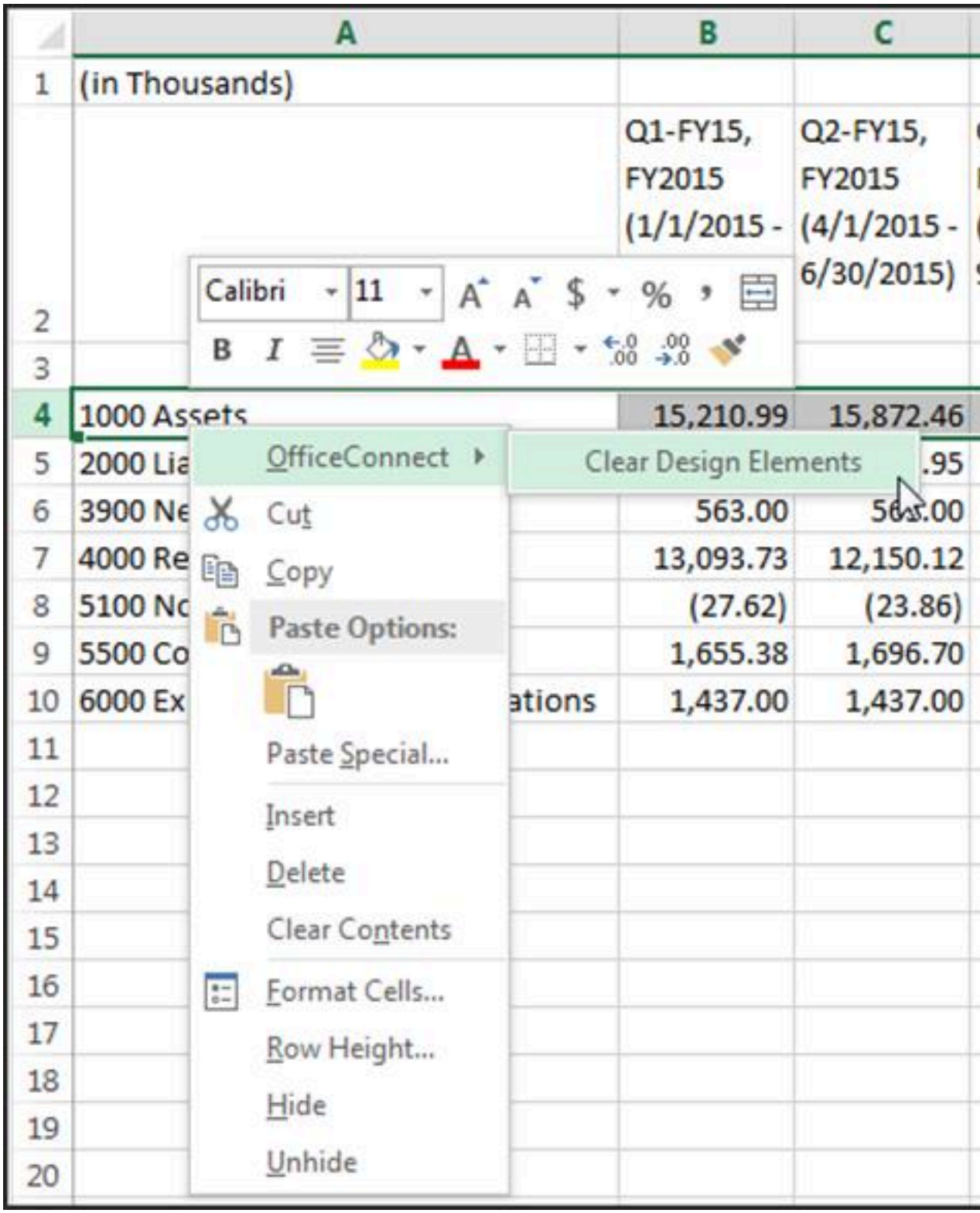



- 右クリックのコンテキスト メニュー

  セル、行、または列を右クリックして以下を選択します。 OfficeConnect > "設計要素をクリア"。

  この方法は、単一の操作で複数の行、列、またはセルに適用されたすべてのメタデータを削除する場合に有用です。レポートをリフレッシュします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




3. レポートのヘッダーにラベルがなかった場合は、デフォルトのヘッダーを削除してレポートからそれらを削除します。
4. レポートをリフレッシュします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 要素データの上書き

対応する行または列のレポート要素を削除することなくセルに表示されるデータを上書きする場合は、セルに Excel 数式を直接入力します。リフレッシュした場合、レポートは数式を保持し、 に基づいて値を再構成しません。 Adaptive Planning データ

### "レビュー" タブのチェック要素

"レビュー" タブでは、次の操作ができます。

- ワークブック内の任意の部分の要素を確認します。これにより、データ ソースがわかります。
- デフォルトをレビューし、実際に働いている優先順位ルールを確認します。
- レポートの要素を検索、置換 、または 削除します 。

セルを探索して 、Adaptive Planning のデータにドリルインすることもできます。

### "レビュー" タブの仕組み

"レビュー" タブでは、要素がレポート セクションにまとめられるため、要素がレポートに追加された場所と方法を確認できます。

表示されるセクション ("ネット"、"セル"、"行"、"列...") は、レビュー対象によって異なります。テーブルには、ワークシートで選択した内容に基づいて何が表示されるかが表示されます。

| "レビュー" タブ セクション | セルの選択 | 行を選択 | 列を選択 | 複数のセル、行、または列を選択 |
|---|---|---|---|---|
| 純額 | 常に表示<br>データにアクティブに影響を与える要素を示します。 | 非表示 | 非表示 | 非表示 |
| 行 | 常に表示<br>セルの行に追加されたすべての要素を表示します。 | 常に表示<br>行に追加されたすべての要素を表示します。 | 非表示 | 非表示 |
| 列 | 常に表示<br>セルの列に追加されたすべての要素を表示します。 | 非表示 | 常に表示<br>列に追加されたすべての要素を表示します。 | 非表示 |
| ワークシート<br>フィルタを見る | 条件に該当する場合は表示<br>ワークシート フィルタが追加され有効になっている場合は、表示されます。 | 非表示 | 非表示 | 非表示 |
| ワークブック<br>ワークブックのプロパティ と フィルタを参照してください。 | 条件に該当する場合は表示<br>ワークブック フィルタが追加され有効になっている場合は、ワークブック フィルタを表示します。 | 非表示 | 非表示 | 非表示 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| "レビュー" タブ セクション | セルの選択 | 行を選択 | 列を選択 | 複数のセル、行、または列を選択 |
|---|---|---|---|---|
| ユーザー デフォルト<br>ユーザー設定を見る | 常に表示<br>ユーザー ID に関連付けられたデフォルトの要素を表示します。 | 非表示 | 非表示 | 非表示 |

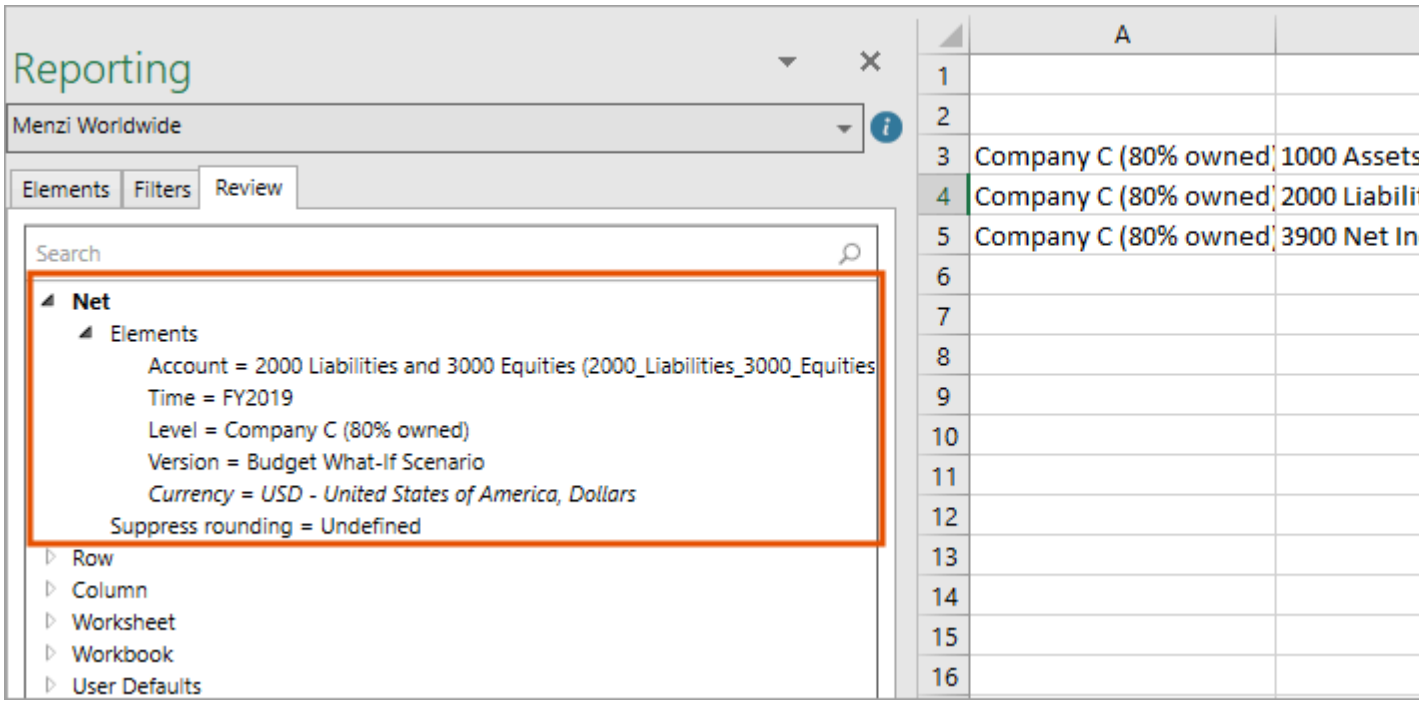
要素をレビューするための基本的なステップ

ワークシートで要素をレビューするには:

1. "リフレッシュ" をクリックしてデータを更新します。
2. セル、行、列をハイライトします。一度にレビューできるアイテムは 1 つだけです。複数のセル、行、列を選択しないでください。
3. "レポート" ペインで、"レビュー" タブをクリックします。レビュー対象として選択した内容に応じて、"ネット"、"行"、"列" などのレポート セクションのリストが表示されます。
4. レポート セクションを展開すると、それぞれの異なる要素が表示されます。

純要素のレビュー

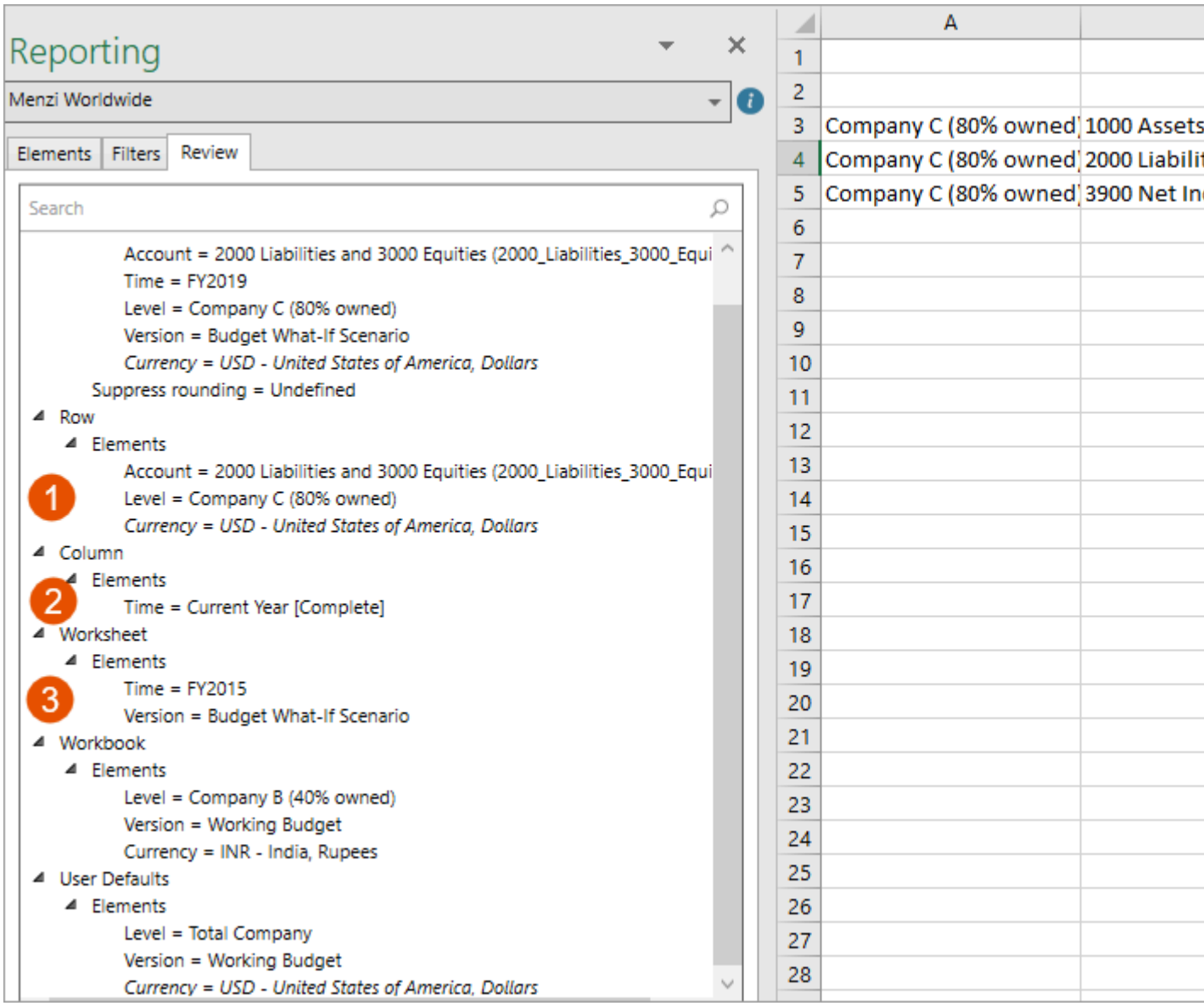
"純額" セクションは、セルを選択したときにのみ表示されます。セル内のデータにアクティブに影響を与えるすべての要素が表示されます。レポートのどこに追加されたかは表示されません。この例では、セル C4 の純データ ソースが表示されています。




要素ソースのレビュー

これらの要素がそのセルに追加された方法と場所を確認するには、"レビュー" タブの各セクションを上から順に展開します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



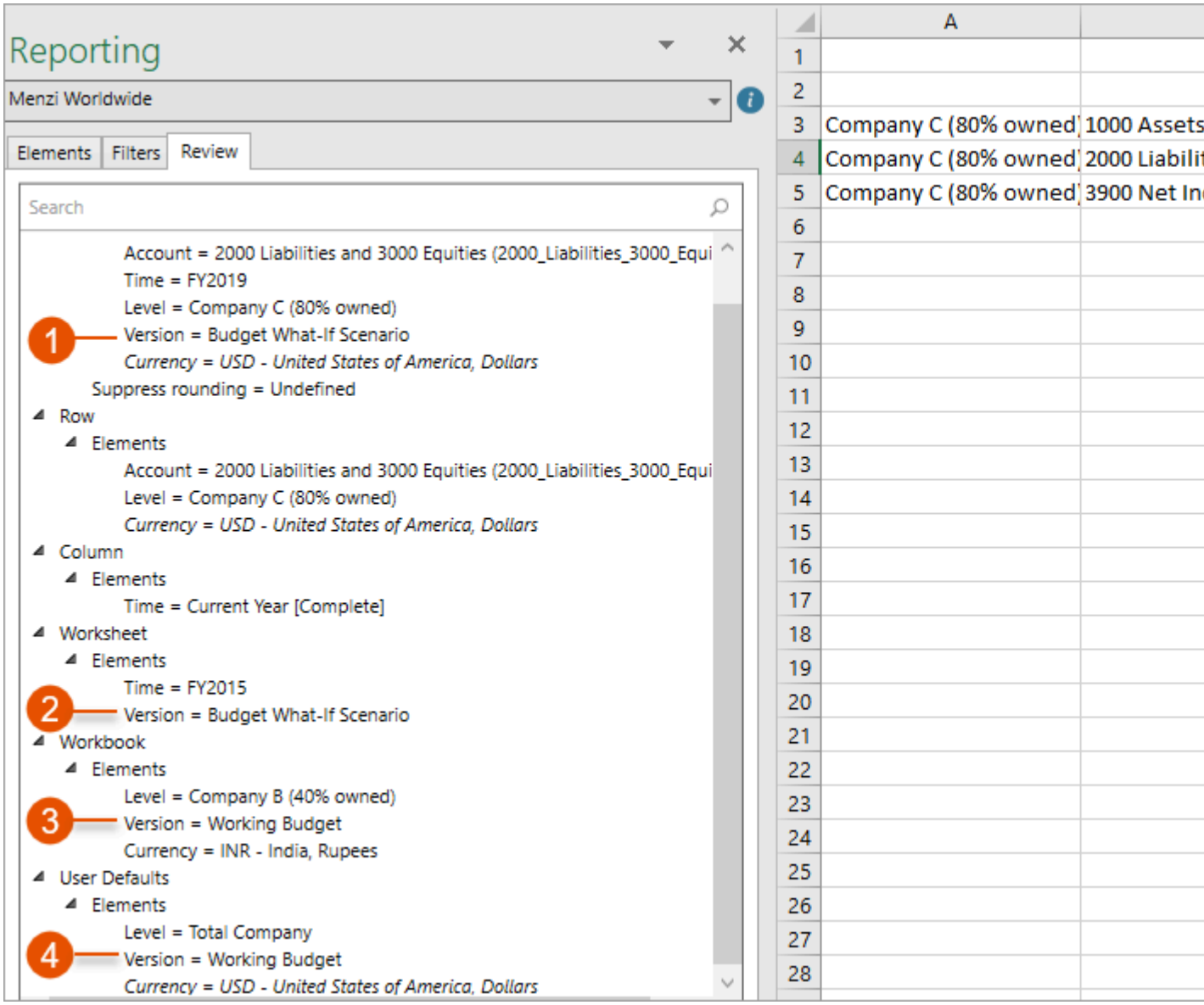

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 科目、組織、通貨が行 4 に追加されました。列 A と列 B の科目には表示されますが、レポート上の要素として通貨は表示されないことに注意してください。イタリック体化されているため、組織に関連付けられたデフォルト ルールによって通貨が行に追加されたことがわかります。 |
| 2 | 列 C に時間が追加されました。 |
| 3 | バージョンはワークシート フィルタとして追加されました。これはフィルタであるため、レポートには表示されません。 |

要素のオーバーライドについて

"レビュー" タブでは、セルが行を、行が列をオーバーライドというように、要素が定義された最上位のセクションが Net 要素のソースとなります。概念: デフォルト タイプと優先順位ルールを参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

以下の "レビュー" タブの例を使用して、行 C4 のバージョン ソースを見つけます。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | "純額" セクションに 、"予算のシナリオ"が表示されていることを確認します。 |
| 2 | 上から順に、次の定義済バージョン要素を探します。リストの最上位に定義されたものが "ワークシート" セクションにあります |
| 3 | Net セクションのバージョンと一致することに注意してください |
| 4 | リストの下をスキャンして、ワークシートのバージョンが、その 下に 定義されているさまざまなバージョンの "ワークブック" (3) と "ユーザー デフォルト" (4) をどのようにオーバーライドするかを確認します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

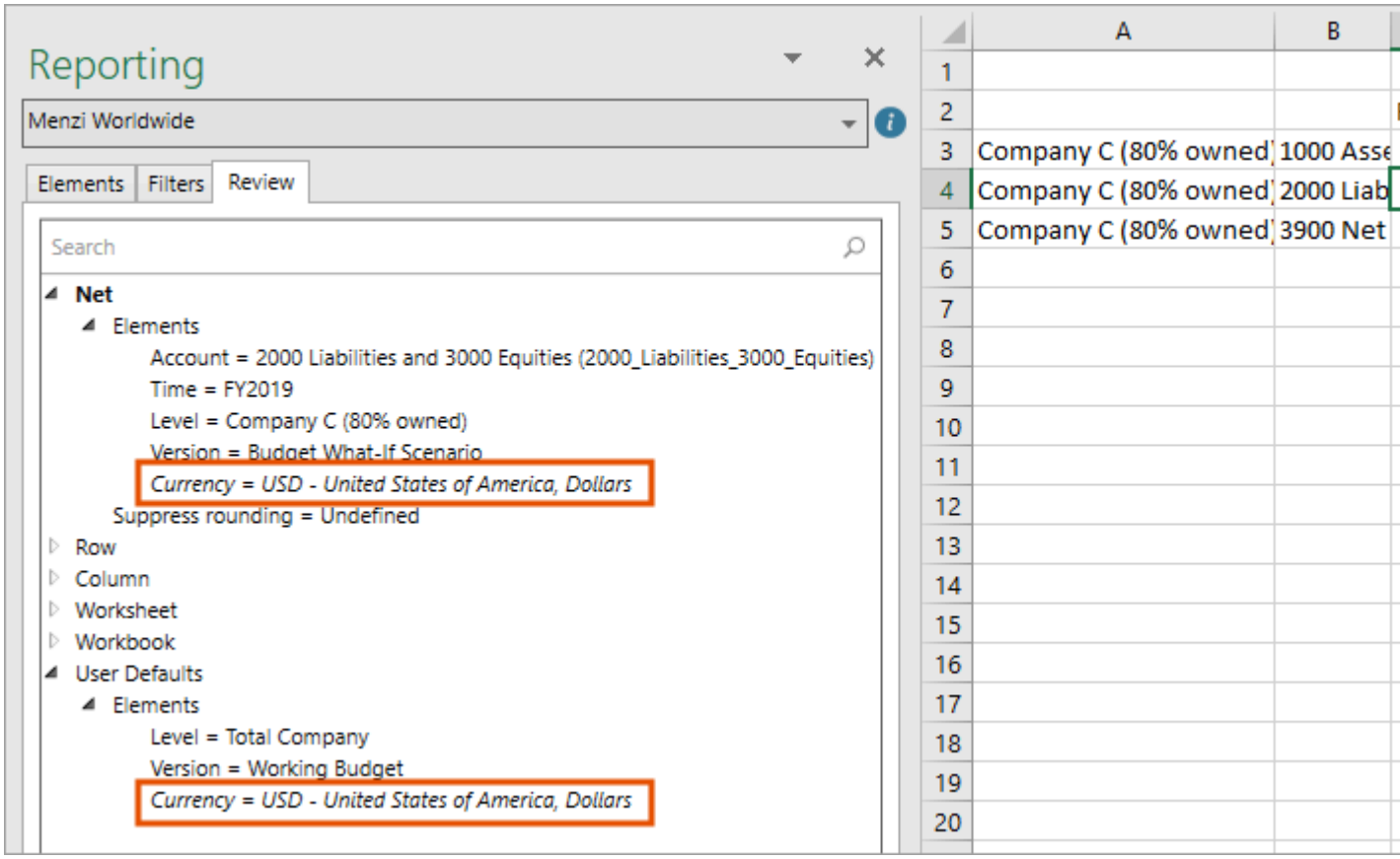
この例では、バージョンはユーザー デフォルト、ワークブック フィルタ、ワークシート フィルタです。要素が複数のレポート セクションでアクティブになっている場合、上部に最も近い要素は、セル内のデータと Net を知らせる要素 (この場合はワークシート フィルタ) です。

### 通貨要素を理解する

OfficeConnect のレポートでは、他のレポート要素と同様に通貨要素を明示的に適用できます。それ以外の場合は、ワークブック プロパティの通貨設定に基づいて暗黙的に適用されます。この場合、"レビュー" タブを使用して、イタリック体で表示され、かっこ内に通貨ソース情報が含まれているデフォルト通貨を表示できます。

### 会社デフォルトの通貨

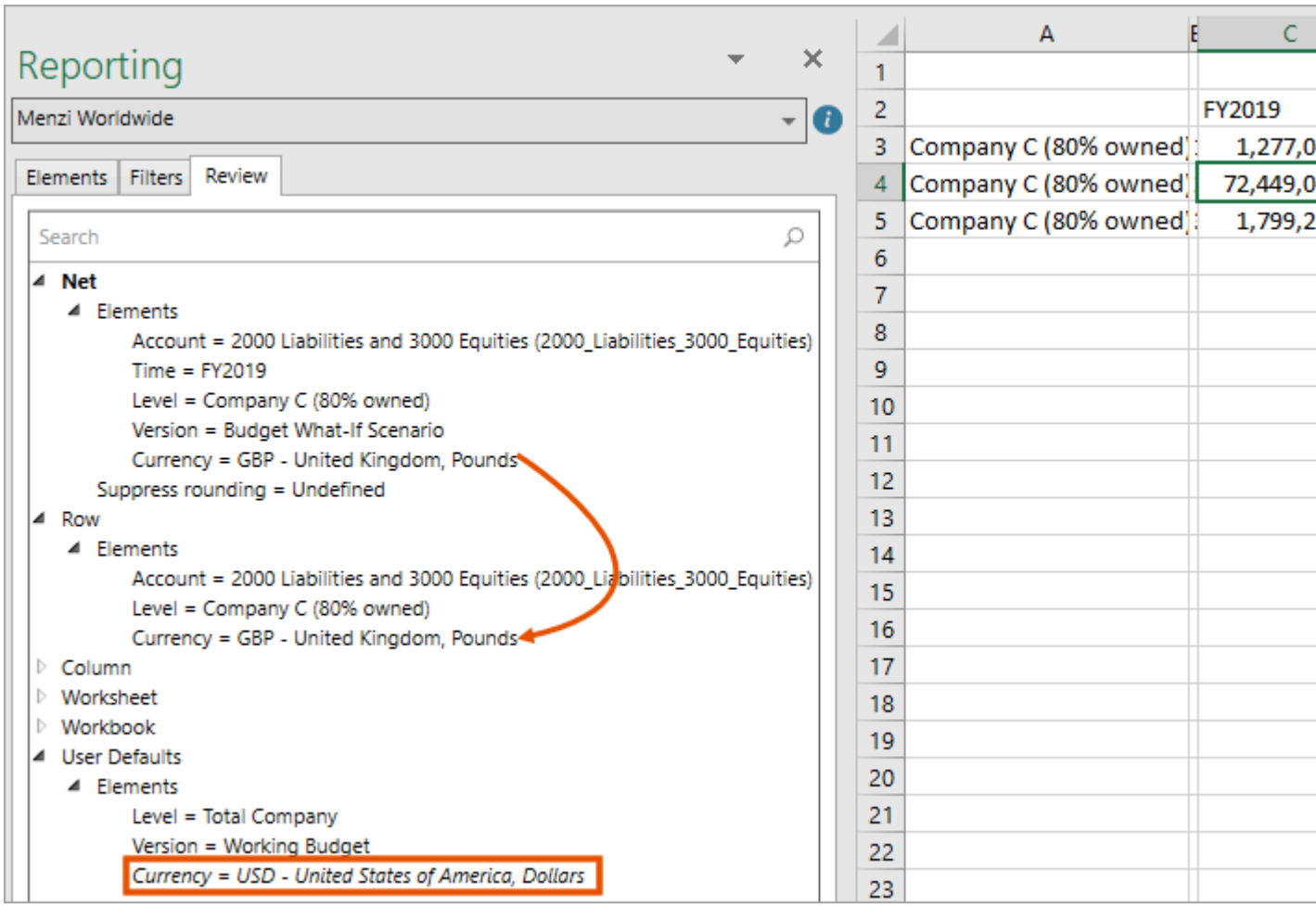
デフォルトがその会社に基づいている場合、通貨は "Net" に斜体で表示され、"ユーザー デフォルト" にのみ表示されます。このデフォルトは、フィルタ、列、行、またはセルに通貨を追加することで上書きできます。このデフォルトは、"ワークブックのプロパティ" で変更することもできます。




### 要素としての通貨

追加された通貨要素は、リストの上位のセクションに追加された場合、イタリック体がなく、デフォルト値が上書きされます。下の例では、Net 通貨のソースは列から取得され、"ユーザー デフォルト (法人から)" を上書きします。

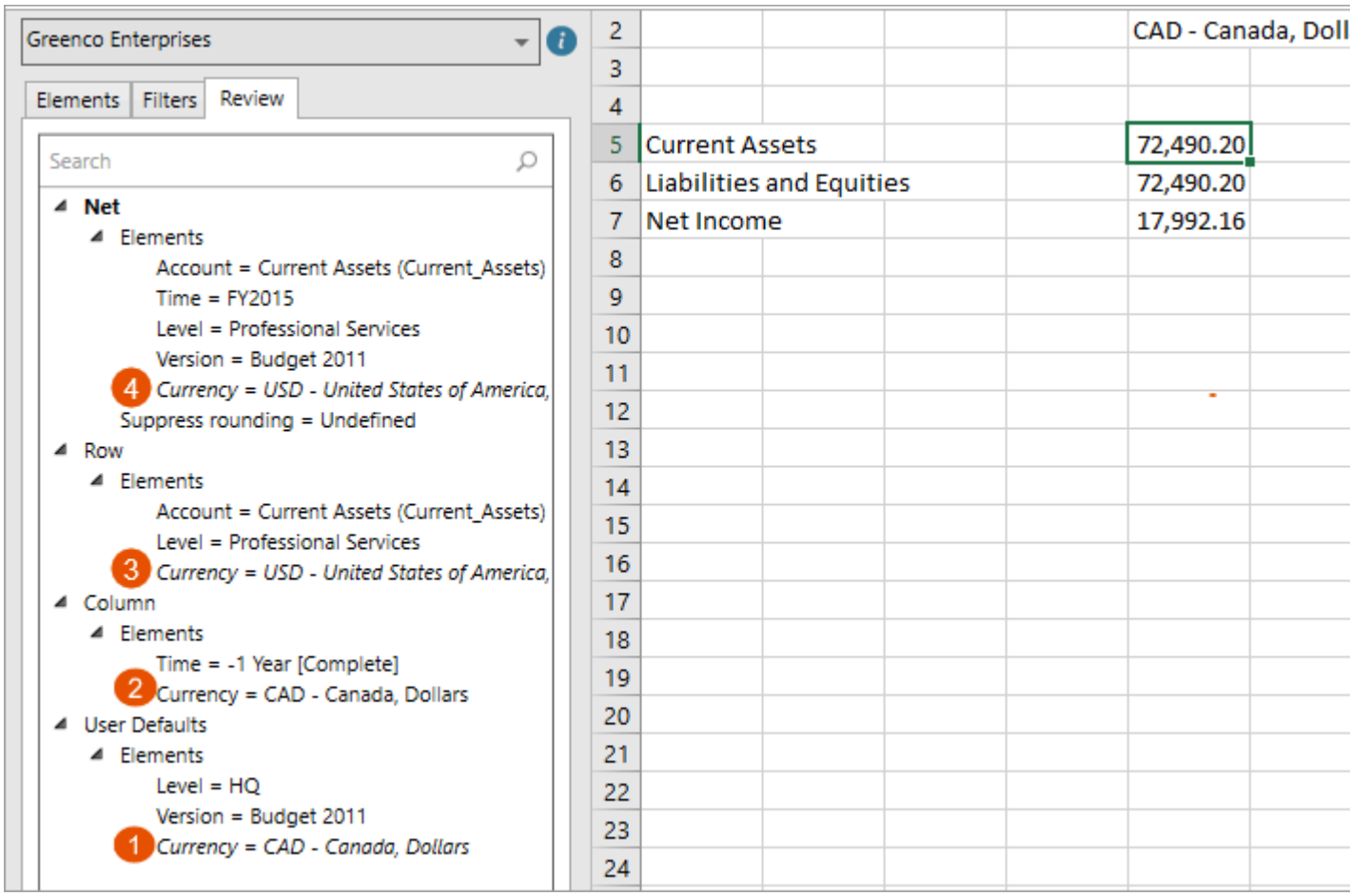
©2026 Workday, Inc. All rights reserved




通貨組織のデフォルト

デフォルトが組織に基づいている場合、組織が追加された任意のセクションに通貨が斜体で表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | Greenco Enterprises はカナダ ドル (CAD) に関連付けられており、"ユーザー デフォルト" にイタリック体で表示されています。 |
| 2 | CAD 通貨の要素が列 E に追加されました。 |
| 3 | 組織の "プロフェッショナル サービス" が行 5 に追加されました。この場合、通貨のデフォルトは組織に基づいているため、組織が追加された行の通貨はイタリック体で表示されます。この場合、プロフェッショナル サービスは USD を使用します。 |
| 4 | 行が列をオーバーライドするため、"純額" には行で定義されたとおりの USD が表示されます。Net でイタリック体になっているのは、追加された要素ではなく、組織から取得されたものであることを示しています。 |

通貨のデフォルト値の詳細をご覧ください。

要素グループの作成と管理

要素グループを作成して、レポート構造に対する最新の変更でレポートが動的に更新されるようにします。

次を基準に要素グループを作成します。

- "要素" ペインからレポートに要素をグループとして適用する。"要素" ペインからの要素グループの作成と適用を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 既存レポートの行または列の要素をグループ化する。レポートの行または列からの要素グループの作成を参照してください。

始める前に

- 概念: レポート要素のタイプと動作をレビューします。
- 要素グループを初めて使用する場合は、概念: 要素グループを参照してください。

"要素" ペインから要素グループを作成および適用

要素グループを行に適用すると、グループ内の各要素がレポートの新しい行になります。列に適用する場合、グループ内の各要素は新しい列です。

グループとしての直接の子を適用

親要素の直接の子をすべて作成し、グループとして適用するには:

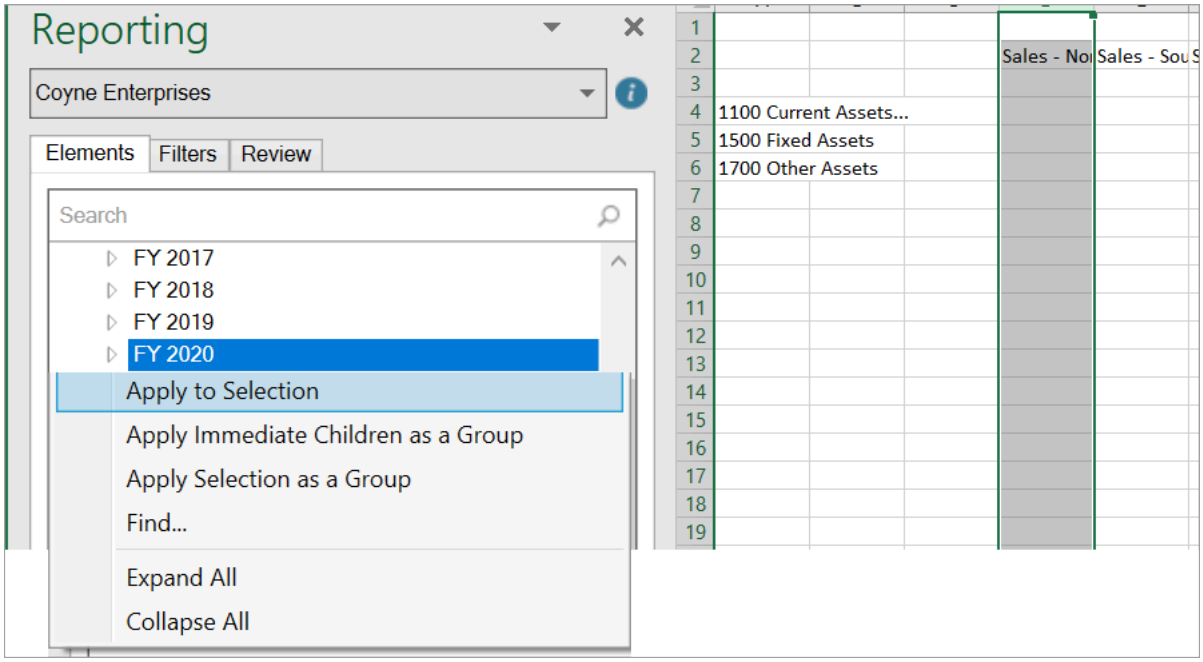
1. グループを適用する行または列を選択します。
2. タスク ペインで "資産" などの親要素を選択します。
3. 親要素を右クリックして "即時の子をグループとして適用"を選択します。親要素の直接の子はすべてグリッドに適用されます。これで、これらの要素はグループ ステータスになります。

グループとして選択を適用

同じ親要素の選択した兄弟をグループとして作成して適用するには、以下のようにします。

1. グループを適用する行または列を選択します。
2. タスク ペインで "兄弟" を選択します。Shift キーまたは Ctrl キーを使用して、連続した選択と連続していない選択を行います。例: "流動資産"、"固定資産"、"その他の資産" を選択し、"長期資産" はスキップします。
3. 選択範囲を右クリックし、 "グループとして選択を適用"を選択します。"資産" 要素の選択した兄弟のみがグループとしてグリッドに適用されます。

二次要素をグループに適用




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

すでにグループに含まれている主要素に関連付けられていない副要素を適用するには、次のようにします。

1. 既存のグループの行または列を選択します。例: 列のグループとして組織がある場合、"営業 - 北部" を選択できます。
2. タスク ペインで、既存のグループに適用する二次要素を選択します。例: この時間要素をすべての組織に適用するには、"FY 20" を選択します。
3. タスク ペインで、二次要素を右クリックし、"選択に適用"を選択します。確認メッセージが表示されます。
4. "はい" を選択すると、既存グループのすべての要素に二次要素が適用されます。この場合、既存のグループ内のすべての組織に適用されます。

### レポートの行または列からの要素グループの作成

レポートの行や列にすでに適用されている要素のグループを作成することもできます。

1. 同じ親の子要素を持つ単一または複数の連続した行または列を選択します。例: "子会社の差異" と "買掛金" を選択して、この 2 つの要素をグループ化します。
2. 右クリックして選択します OfficeConnect > グループ

展開に含める要素をグループ化できます。トピック 「Explore Reports Using Ad Hoc Analysis」の 「行または列の展開と折り畳み」 を参照してください。"レビュー" ペインの展開インジケータが、要素のグループ インジケータに置き換えられます。

### 要素グループを更新

モデル内のグループの一部である要素を追加、削除、または並べ替えることができます。モデリングでこれらの変更を加え、以下を使用します。 OfficeConnect "グループの更新" オプションを選択して、レポートに変更を反映します。レポートをリフレッシュして、すべての要素グループを最新の要素構造に更新することもできます。"リフレッシュ"から要素グループ を除外する には、 ワークブックの "グループ" プロパティを変更します。ワークブックのプロパティを参照してください。

グループの更新:

- ワークブック全体の要素グループ のみ をリフレッシュします。他のレポート データはリフレッシュされません。
- "要素" ペインに反映された最新の要素構造に基づいて、行または列を追加、削除、または並べ替えます。新しい行または列は、グループの最後の行または列から書式設定をコピーします。枠線と結合されたセルはコピーされません。
- 以前のグループから除外した要素は再追加されません。例: "資産" グループから "長期資産" を除外した場合、グループを更新しても再び追加されません。

要素グループに のみ 関連付けられたレポートの行と列をリフレッシュするには:

1. タスク ペインで、最新の要素構造が表示されていることを確認します。または、"コネクション " グループで "要素の更新" を選択し、モデルの最新の変更内容を取得します。
2. "グループ"で "グループの更新"を選択します。
3. 任意です。レポート全体を最新データに更新するには、"リフレッシュ"を選択します。

### 行や列の並べ替えに関する考慮事項

新しい行または列を挿入することにより、要素グループを含む行または列を並べ替えることができます。次の例外が適用されます。

- 列を挿入することはできません。これは、データまたは書式設定を含む列がワークシートの範囲外になることを示す例外が送られるためです。
- Excel では、データまたは書式設定を含む行がワークシートの範囲外になることを示す例外が発生するため、行を挿入することはできません。
- 行または列の範囲に 1 つ以上の統合されたセルが含まれている。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 要素グループの管理

"グループの管理" を使用して、レポート内の既存の要素グループを表示およびナビゲートします。グループを変更したり、グループの関連付けを解除したりすることもできます。

グループは、最初にワークシート別に (左から右)、次に事業地別に (行の後に列で表示) 別に表示されます。グループに関する以下の詳細を確認できます。

- グループの名前 (親から) と合計に含まれる子の数
- グループが表示されるワークシートの名前
- このグループに対して "グループの更新" が実行された最終日時。"グループの更新" により、グループに変更がない場合でも、この日付が更新されます。
- グループ構造が変更された最終日時。グループ メンバーが追加、削除、または並べ替えられていました。

新しいグループの "最終更新" および "最終変更" の日付には、グループを作成した日時が表示されます。

ヒント： ベスト プラクティス: 時間の経過とともに、モデルの変更により、グループ内の要素が不明になる場合があります。"グループの管理" には、"グループの更新" が最後に実行された日に基づいて最新の要素グループが反映されます。グループの確認や変更を行う前に、"要素の更新"、"グループの更新" の順に実行します。

要素グループを管理するには:

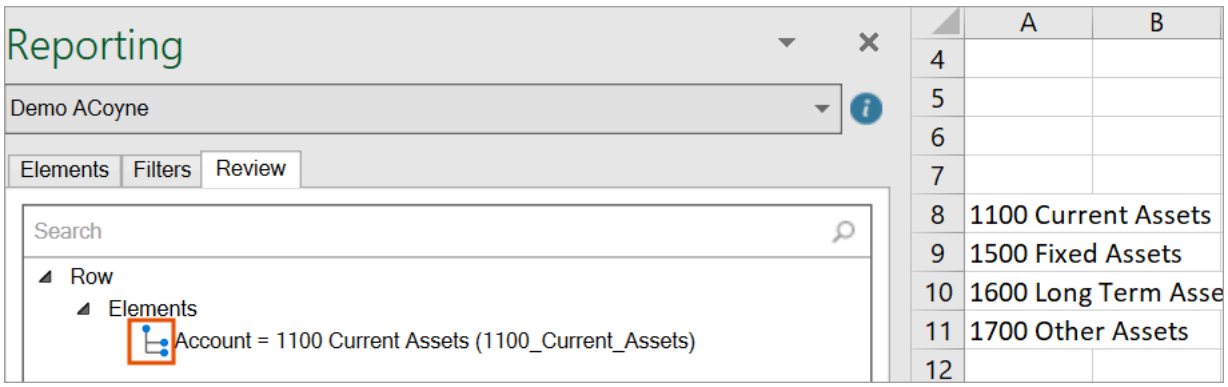
1. "グループ"から "グループを管理" を選択します。
2. 要素グループを管理します。

- 要素グループを分割するには、グループを選択し、右クリックしてから "グループを分割"を選択します。グループ メンバーはレポートに残りますが、グループの関連付けは削除されます。
- レポート内の要素グループに移動するには、グループをダブルクリックします。レポート内で要素グループがハイライト表示されます。
- 要素グループを変更するには、その横にある鉛筆のボタンをクリックします。グループから除外されたメンバーを選択して追加できます。グループからメンバーを削除することもできます。要素グループを変更すると、"グループを管理" ダイアログとレポートに変更内容が反映されます。グループ メンバーに変更を加えなかった場合でも、"最終更新" 日は変更されます。"最終変更" の日付が変わるのは、グループ メンバーに何らかの方法で変更を加えた場合のみです。

### "レビュー" タブから要素グループを特定

"レビュー" タブから要素グループを特定するには、次のようにします。

1. 単一の行または列を選択します。
2. "レビュー"を選択します。
3. 要素グループが行または列に適用される場合、グループ アイコンがその横に表示されます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

要素グループの分類: ベスト プラクティス

次のアクションにより、要素グループが破損する可能性があります。レポートには、要素は引き続き個別に表示されます。グループ ステータスが削除され、動的に更新されなくなった。

- グループ化された要素を区切る行または列の挿入
- グループ内のすべての主要素に適用されるわけではない二次要素を追加する。
- 要素グループの単一要素を置き換える。
- グループからの要素のカット アンド ペーストや削除。

レポート内の要素の検索と置換

要素の検索と置換

"検索/置換" を使用すると、次の操作ができます。

- ワークブック内の複数のワークシートまたは単一のワークシートで使用可能な要素を検索します。
- 要素の各インスタンスを一度に 1 つまたはすべてまとめて置換します。

多数のシートにわたってグローバルな変更を行う場合は、"検索" と "置換" を使用します。ワークシートに追加される次の要素を確認できます。フィルタを介して適用されたラベルと要素が見つかりません:

- 科目
- 属性
- Versions
- Time
- コンテキスト

"検索と置換" は次の領域で使用できます。

- 設定 OfficeConnect タブ"検索" ドロップダウンで、"検索" または "置換"を選択します。選択したアクションに対して "検索と置換" ダイアログ ボックスが開きます。
- レポート ペインの "要素 " タブまたは " レビュー" タブ要素を右クリックして "検索"を選択します。"検索と置換" ダイアログ ボックスが開き、選択した要素が検索ツリーに事前入力された状態で表示されます。

検索と置換の能力

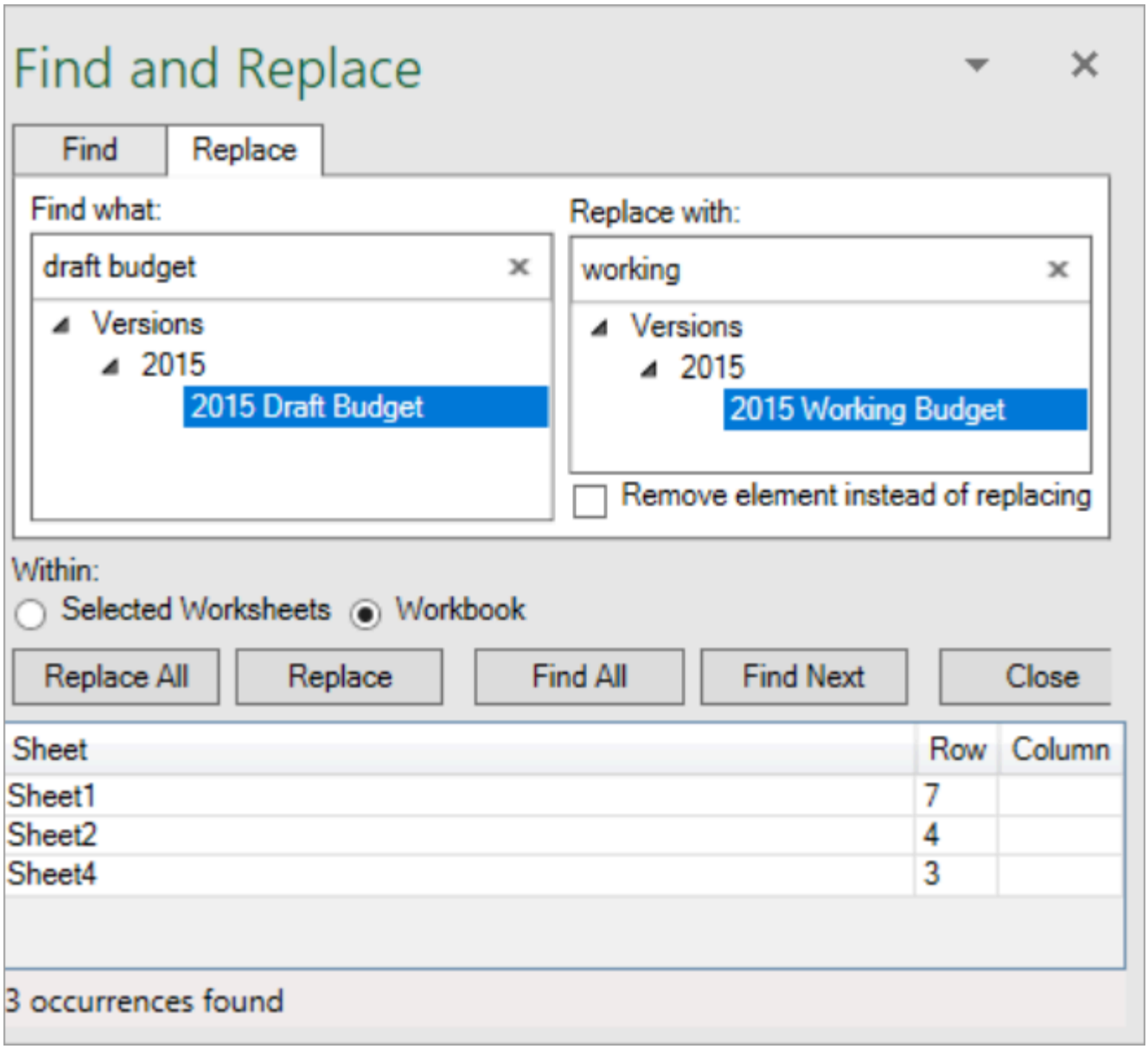
- 自動フィルタ検索: キーワードを入力する OfficeConnect ツリーをフィルタし、テキスト入力に一致する要素のみを表示します。
- 検索と置換の範囲: 選択したシートで検索するか、ワークブック全体で検索するかを選択します。
    - 選択したワークシート: 選択したワークシートにあるインスタンスを検索します。要素を検索する前に、Ctrl を押しながらワークシートの各タブをクリックします。
    - ワークブック: ワークブック内のすべてのシートでインスタンスを検索します。
- "検索" および "置換" のオプションは以下のとおりです。
    - すべて検索: すべてのインスタンスを検索します。
    - 次を検索: 次のインスタンスを検索します。
    - すべて置換: 見つかったすべてのインスタンスを置き換えます。置換が完了すると、置換されたインスタンスの数を示すメッセージが表示されます。
    - 置換: インスタンスを置き換えて、次のインスタンスに移動します。
    - 削除: 配置場所から要素を削除します。要素を削除するには、該当する要素を検索し、"置換" タブで "置き換える代わりに要素を削除"を選択し、"置換"をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

例: ワークブック内の要素のグローバル検索と置換

2015 年のドラフト予算バージョンに基づいた一連の財務レポートの開発と管理を担当しているとします。会計年度の途中で、ドラフト予算の換算を必要とする組織の変更が発生した。ワークブックのすべてのシートで古いバージョンを 「*2015* 実行予算」という新しいバージョンに置き換えます。

注 : 要素リストの上部にある "検索" ボックスを使用する場合は、レポートに追加した要素ではなく、選択可能な要素のリストを検索します。




1. "検索 " タブで、検索テキスト ボックスにキーワードを入力し、レポートに追加した要素を検索します。ツリー ナビゲーションから要素を選択し、検索する要素をハイライト表示します。例: ドラフト予算の タイプ
2. ワークブック内のすべてのシートですべてのインスタンスを検索するには、"ワークブック" を選択します。
3. "すべて検索"をクリックします。シートのリストが下ペインに表示され、要素のインスタンスがどこにあるかを示します。
4. "置換" タブの検索ボックスにキーワードを入力し、レポートに追加した要素を検索します。ツリー ナビゲーションから要素を選択し、置換する要素をハイライト表示します。例: 実行予算 を入力する

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. "すべて置換"をクリックします。完了すると、置き換えられたインスタンスの数を示すメッセージが表示されます。

概念: レポート要素のタイプと動作

"レポート" ペインには、レポートに追加できるすべての要素が表示されます。レポートのフィルタ、列、行、および個々のセルに要素を追加できます。すべてのインスタンスには、科目、時間、組織、バージョンが含まれます。そのものには通貨、特性、カスタム属性が含まれます。

ほとんどの要素はモデルの設定を反映します。

要素の機能

OfficeConnect からのデータの表示 Adaptive Planning レポート ワークシートで要素が「交差」する場所に基づいています。

各セルは、行と列の間の交差部分です。フィルタは 、3 番目の属性として、各セルに目に見えない交差部分を提供します。レポートでは、デフォルトのバージョン、組織、通貨 (該当する場合) が以下のすべてに追加されます。 OfficeConnect レポート。これらのデフォルトは、フィルタと同様、レポートの背後で機能します。

要素の交差は、レポートに要素を追加する方法と場所に基づき、 優先順位のルールに従います。データポイントの要素をチェックし、実際に働いている優先順位ルールを確認するには、"レポート" ペインの "レビュー" タブ に移動します。

エレメント要件

有効なデータを生成するには、各データ ポイントまたはセルにおいて、次の各要素が交差している必要があります。

- 科目または科目特性: 科目の要素を列、行、またはフィルタに追加します。
- 時間: 列、行、またはフィルタに時間要素を追加します。
- 組織: レポートにデフォルトの組織を使用させるか、組織の要素を追加します。デフォルトは、アクセス可能な最高組織です。
- バージョン: レポートにデフォルトを使用するか、バージョンの要素を追加します。デフォルト バージョン はユーザーによって設定されます。 Adaptive Planning 管理者 (すべてのユーザー)

フィルタとしての要素

フィルタは任意です。ワークブックとワークシートにフィルタを追加できます。 フィルタに要素を追加すると、自分も他のユーザーもフィルタを使用して、レポート内のデータのさまざまなスライスを表示できます。データに影響を与えるには、フィルタを追加し、有効にして、オンにする必要があります。

フィルタは 優先順位のルールに従います。ワークシート フィルタはワークブック フィルタをオーバーライドします。

例: FY2016 のワークブック フィルタと FY2015 のワークシート フィルタがある場合、レポートには FY2015 のデータが表示されます。

行と列の要素はオーバーライド フィルタ

たとえば、"予算バージョン" が列にあり、"実績" がフィルタである場合、列のセルに "予算" データが表示されます。

列と行の要素

有効なレポートを作成するには、行に少なくとも 1 つの要素、列に少なくとも 1 つの要素が必要です。要素の追加を参照してください。

行の要素は列の要素をオーバーライドします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

たとえば、"資産" 科目が行で、"費用" 科目が列である場合、交差するセルには "資産" データが表示されます。

セル内の要素

セルは、すべての要素のデフォルトと、フィルタ、列、行に追加された要素の組み合わせです。単一のセルまたは複数のセルに要素を追加することもできます。この要素は他の要素をオーバーライドします。

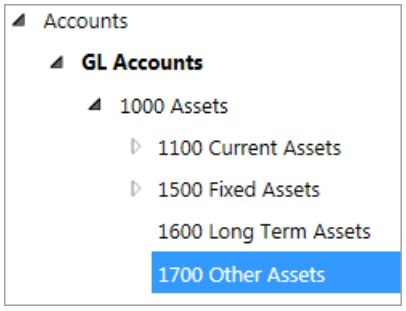
セル内のデータを置き換えて要素をオーバーライドする場合は、Excel に数式を追加します。

例: 「45」ではなく「=45」と入力します。レポートをリフレッシュすると、追加した数式によって次のデータがオーバーライドされます Adaptive Planning。

基本要素タイプ

科目

すべてのインスタンスに GL 科目があります。多くの科目はカスタム、メトリック、モデル、キューブ、前提条件科目です。レポートに "資産" を追加すると、その 4 つのサブ科目の合計値が表示されます。"資産" を展開し、各サブ科目を追加することもできます。"流動資産" や "固定資産" など、一部のサブ科目にもサブ科目があることに注意してください。




**Time**

すべてのインスタンスには、コンテキスト、コンポーネント、期間があります。

期間: カレンダー全体を追加することも、各期間を展開して、レポートに追加できる小さなセグメントを確認することもできます。カレンダー設定に従って期間が抽出されます。一般的には、各年を四半期、次に月と展開できます。インスタンスによっては、半年、週、さらには日単位になる場合もあります。

コンポーネント: コンポーネントはインスタンスのカレンダー設定に従って編成された期間です。

例: コンポーネントを展開して、年、四半期、月などをすばやくドラッグ アンド ドロップできます。年固有の時間要素を持つ 1 年より小さいコンポーネントを使用します。

コンテキスト: コンテキストは 、期首残高や累計期間など、時間要素にコンテキスト情報を提供します。年固有の時間要素を持つコンテキストを使用します。

**Level**

すべてのインスタンスに組織要素があります。組織要素はインスタンスの組織構造に対応します。折り畳んだ組織を追加すると合計値が表示されます。各サブ要素を追加して展開すると、組織ごとにブレークダウンしたデータが表示されます。組織を表示する権限がない場合、組織は "要素" タブに表示されません。

レポートに組織要素を追加しない限り、レポートではオンライン モデルに基づいた デフォルトの組織が使用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### Versions

すべてのインスタンスにはバージョン要素があります。バージョンは、インスタンス内の実績バージョンと計画バージョンの構造に対応します。非表示のバージョンは "要素" タブに表示されず、使用できません。

レポートにバージョン要素を追加しない限り、レポートでは、作成する、または開く OfficeConnect レポートに対する デフォルト バージョン が使用されます。

OfficeConnect のレポートで換算通貨を使用するには、換算通貨を有効にするバージョンのみを含めることができます。換算通貨なしで少なくとも 1 つのバージョンを追加すると、レポート全体で、すべてのバージョンの "モデリング" で設定された為替レートが使用されます。

任意のセル、行、または列に追加された要素とデフォルトのレビュー

内の任意のデータ ポイントの デフォルト要素および適用された要素を確認 できます。 OfficeConnect レポート (データのソースを理解するため)

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の時間とカレンダー（793ページ）
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
設定の考慮事項: 代替カレンダー（773ページ）

概念**:** 要素グループ

要素グループを使用して、基になるモデルが変更されたときにレポートが動的に更新されるようにします。科目、組織、属性など、グループ内の要素を追加、削除、または並べ替えることができます。グループを更新すると、これらの変更がレポートに反映されます。要素グループの作成と更新を参照してください。

エレメント グループ には以下を含めることができます。

- 親要素の直接の子。例: 流動資産の直系のすべての子をグループとして適用します。
- 同じ親要素の選択された兄弟例: グループとして "流動資産" の直系の子をすべて適用するが、在庫はスキップする。このオプションを使用して、グループから特定の要素を除外します。
- すべての主グループ メンバーに適用する二次要素:
    - 例: 流動資産の直系のすべての子をグループとして適用します。次に、"流動資産" グループの二次要素として "FY 2020" を適用します。この場合、流動資産要素がグループの主要素であり、時間は副要素です。
    - 二次要素はグループのすべてのメンバーに適用する必要があります。そうしないと、グループが分割されます。例: グループである地域に時間を適用する場合、 OfficeConnect グループ全体に適用するよう求めるプロンプトが表示されます。

要素グループを使用して、レポートの行、列、フィルタにモデルに対する最新の変更が反映されます。

- 既存の親科目に子科目を追加します。例: "固定資産" の下に新しい "特別資産" 科目が含まれます。
- 製品属性の下の製品値を削除します。例: 製品 C を販売しなくなり、モデルから削除したとします。
- 親の下の組織の並べ替え例: 米国の子組織に対して、すべてのサービス組織がすべての営業組織の前にリストされるように並べ替えます。
- 新しいカスタム属性を追加した。例: "小売顧客" の下に "Macys" を追加します。

例**:** 要素グループを使用したレポートの更新

米国オペレーションのマネージャとして、2020 会計年度について米国の特定地域におけるすべての営業費用を表示したいと考えています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| | Sales - North | Sales - South | Services - East | Services - West |
|---|---|---|---|---|
| 6100 Payroll | 707.9166535 | 621.4116615 | 656.8389181 | 316.4922522 |
| 6200 Taxes & Benefits | 81.03593111 | 71.65137551 | 90.77675149 | 43.23134649 |
| 6300 Office Expenses | 135.3306667 | 31.092 | 2.52 | 16.92 |
| 6400 Travel & Entertainment | 49.02682491 | 51.0077067 | 0 | 48.74398848 |
| 6500 Marketing | | | | |
| 6999 Other Expense | 1.2 | | | |

以下を実行します。詳細な手順については 、要素グループの作成と管理を 参照してください。

1. "グループとして選択を適用" を使用し、次の組織を列に適用します。
    - 営業 - 北部
    - 営業 - 南部
    - サービス - 東部
    - サービス - 西部
2. "即時の子をグループとして適用" を使用し、すべての営業費用タイプを行に適用します。
3. 二次要素として FY 2020 をすべての組織に適用
4. レポートをリフレッシュしてください。

米国の業務下に "営業 - 中西部" 組織を追加するリクエストが届きました。また、未分類の営業費用を計上するために、新しい経費の "各種" グループを作成する必要があります。

以下を実行します。詳細な手順についてはモデルの管理を参照してください。

1. "モデリング" > "モデル管理" の順に進み、"操作" で米国にロールアップする "営業 - 中西部" 組織を追加します。
2. "モデリング" > "モデル管理" で、"営業費用" にロールアップする "各種" GL 科目を追加します。

戻る OfficeConnectをクリックすると、要素グループが更新され、最新の要素の変更がレポートに動的に反映されます。

| | Sales - North | Sales - South | Services - East | Services - West | Sales - Midwest |
|---|---|---|---|---|---|
| 6100 Payroll | 707.9166535 | 621.4116615 | 656.8389181 | 316.4922522 | 525.7765456 |
| 6200 Taxes & Benefits | 81.03593111 | 71.65137551 | 90.77675149 | 43.23134649 | 121.9704061 |
| 6300 Office Expenses | 135.3306667 | 31.092 | 2.52 | 16.92 | 242.53 |
| 6400 Travel & Entertainment | 49.02682491 | 51.0077067 | 0 | 48.74398848 | 0 |
| 6500 Marketing | | | | | |
| 6999 Other Expense | 1.2 | 16 | 108 | 0 | 25 |
| Miscellaneous | 2500 | 135.13 | 0 | 0 | 2600.956 |

以下を実行します。

1. 開始 OfficeConnect、リボンで "コネクション" グループを見つけます。
2. "要素を更新" を選択して、最新の変更をモデルに取り込みます。
3. タスク ペインで、以下を確認します。
    - "各種" は、営業費用として表示されます。
    - "営業 - 中西部" は "オペレーション" > "米国" に表示されます。
4. リボンで "グループの更新"を選択します。以下の更新に注意してください:
    - "各種" が新しい経費行として表示されます。
    - "営業 - 中西部" が新しい組織列として表示されます。
5. "リフレッシュ"を選択します。データが更新され、追加の組織および経費科目の FY 2020 の値が表示されることに注意してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## OfficeConnect レポート ワークブック

ステップ: アドホック分析を使用したレポートの探索

レポート内の内容を調べるには、以下を使用します。

- "セルを探索" を選択する と、新しい Web ページでセルの詳細を表示し、トランザクションにドリルインできます。セルの内容を探索を参照してください。

  例: セルを探索して、FY2022 の時間合計を合計した各関連四半期の値を表示します。
- 展開 および 折り畳み 表示を使用して、アドホック分析のためにコンテキスト内の行または列の詳細を表示または非表示にします。行または列の展開と折り畳みを参照してください。

  例: 経費科目を展開して、親レベルで示された差異の原因となっている子科目を確認します。組織レベルを折り畳み、階層の最上位または親レベルでの合計を表示します。

始める前に

- アドホック分析を初めて使用する場合は、レビュー 例: アドホック分析のためのレポート要素の展開 ( 649ページ )。

セルの内容を探索

"セルを探索" を使用すると、Adaptive Planning のオンライン データ ソースから入力されたセルの内容を探索できます。

以下が可能です。

- 関連する値と時間、合計、組織、科目情報などのセルの詳細を表示します。
- ユーザーがセルに入力した変更履歴の "変更履歴" レポートを表示します。インスタンスの "変更履歴" を有効にします。
- トランザクションにドリルインして、セルのデフォルトのトランザクション詳細レポートを実行する。インスタンスで "トランザクション" を有効にします。インスタンスが Workday にインテグレーションされている場合、Workday にドリルインしてトランザクションを表示できます。

交差部分に以下がある場合、セルを探索することはできません。

- 複数の科目、バージョン、組織、または時間の集計値です。以下はこのルールの例外です。
  - 科目、組織、時間の合計
  - 分割を表示している場合は、分割行のあるセルが表示されます。
- "科目のパーセント" として表示される値。
- カスタム、小計、差分などのレポート計算

セルを探索するには、セルを右クリックし、コンテキスト メニューから OfficeConnext > "セルを探索" を選択します。このオプションは、有効なセルを選択した場合にのみアクティブになります。

行または列の展開および折り畳み

財務アナリストは、"展開" オプションを使用して以下を実行できます。

- 製品収益の詳細を子別に表示し、どの製品ラインが差異を作成しているかを把握します。
- 製品ごとに収益を探索し、どの製品が経時的に最も高い売上総利益を示しているかを確認します。次に、米国組織内のすべての販売地域でレポートをフィルタリングできます。
- 財務諸表をボードに表示し、ドリルダウンして、数値の出所を表示します。

時間コンポーネントまたは時間コンテキストではない親要素のみを展開できます。

展開:

- 子行が親の下に字下げして表示されるか、子列が親の左側に表示されます。ユーザー設定に応じて、"展開" ダイアログを使用して展開方向を選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 枠線や結合されたセル を除く すべての書式設定が、親からすべての拡張された子行または列にコピーされます。
- 親から子の行または列にコピーされる既存の Excel 数式。
- 親と子の行または列が、モデルに基づく最新のデータと要素構造でリフレッシュされます。

折り畳むことができるのは、展開した親行または列 のみです 。折り畳み時:

- 子の行または列は削除されます。
- 親は保持され、最新のデータでリフレッシュされます。

"リフレッシュ" のデフォルトの動作を変更するには、ワークブック プロパティの "探索" 設定を調整します。参考: ワークブックと選択プロパティ フィールドを参照してください。

### 行上の単一親の展開

"収益" などの親要素を展開すると、子製品とサービスの収益金額を確認できます。"製品収益" 要素を再度展開すると、子製品グループが表示されます。

行の親要素を展開するには:

1. 列を選択し、データを表示する時間要素を適用します。
2. 行を選択します。
3. "要素" ペインで、単一の親科目要素を選択します。
4. 科目要素を右クリックし、コンテキスト メニューから "適用と展開" を選択します。

   レポートがリフレッシュされ、子収益要素のデータが親に表示されます。

### 列の "単一の親" を展開します。

2020 会計年度などの親時間要素を展開すると、四半期のデータを確認できます。第 1 四半期などの四半期をさらに展開すると、その四半期の月次データが表示されます。

列上の親要素を展開するには:

1. 行を選択して科目要素を適用します。
2. 列を選択します。
3. "要素" ペインで、単一の親時間要素 (絶対または相対) を選択します。
4. 時間要素を右クリックし、コンテキスト メニューから "適用と展開" をクリックします。

   レポートがリフレッシュされ、子の時間要素が親に表示されます。
5. 展開した親要素を折り畳むには、右クリックして以下を選択します。 OfficeConnect > コンテキスト メニューから "折り畳む" 。

### 行または列上の複数の親を展開

複数の親要素を適用した行または列を展開すると、以下のオプションがあります。

- いずれかの親要素で展開する。結果として得られる展開には、展開された親の子要素ごとに行または列が含まれます。展開されていない要素の行または列も含まれます。例: "資産" と "純利益" を行に適用し、"資産" のみを

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

展開するように選択します。結果として得られる展開により、"資産" の子の行と "純利益" の行が作成されます。

- 同じタイプの複数の親要素によって展開します。結果として得られる展開には、すべての親の子が含まれます。例: "資産" の親と "負債" の親を持つ行を展開するとします。両方の親の要素タイプは "科目" です。結果として得られる展開により、"資産" の下にある子と "負債" の下にある子のフラットなリストが作成されます。
- タイプの異なる複数の親要素によって展開します。結果として得られる展開には、展開された親の子のデカウント積が含まれます。

  例: "運用経費" 科目と "エンジニアリング" および "営業" 組織を適用した行があります。以下が可能です。

  - 科目別にのみ展開し、すべての子営業費用科目からどのようにデータを口ールアップするかを表示します。
  - 組織別に展開のみを表示し、すべての子エンジニアリング組織またはすべての子営業組織からデータがどのようにロールアップされるかを表示します。
  - 科目および "エンジニアリング" 組織別に展開し、"エンジニアリング" 組織のすべての子運用経費科目のデータがどのように合計されるかを表示します。
  - 科目、および営業部門とエンジニアリング部門の両方の組織別に展開する。この展開により、"営業部門" 組織と "エンジニアリング" 組織について、すべての子 "運用経費" 科目のデータがどのように合計されるかを表示できます。

注 : 親および最下位組織の子要素を持つ行または列を展開すると、結果として得られる展開には以下が含まれます。

- 展開された親の各子要素の行または列。
- 最下位組織の子要素の行

複数の親要素を展開するには:

1. 複数の親要素が適用されている行または列を選択します。
2. 右クリックし、コンテキスト メニューから "OfficeConnect > 展開" を選択します。"展開" ダイアログが表示されます。
3. (任意)"移動" オプションを使用して、グリッド上で展開する要素に合わせて要素を並べ替えます。たとえば、科目の前にバージョンを並べた場合、グリッド上で最初にバージョンが展開され、次に科目が展開されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. 展開する要素を選択します。Shift キーを押しながら複数の要素を選択します。
5. (任意) 新規展開のデフォルト動作を変更するには、以下の手順に従います。
    - 展開の方向を選択します。
    - "データのない行を除外 " をオフにし、データのない空白行を維持します。
    - "同じ通貨を使用して合計されたレポートを作成しない" をオフにし 、"行/列の通貨を子孫に適用する" を オフにします。
    - "未分類の要素を除外" を選択して、これらの要素を削除します。
    - "相殺消去要素を除外" を選択すると、これらの要素が削除されます。

展開の一部にフォーカス

これらのオプションを使用して、展開の特定の行または列にフォーカスします。展開内の 1 つ以上の行または列を選択します。選択は連続している必要はありません。

- 保持のみ。選択範囲のみを表示し、展開の他の部分を削除します。
- 削除のみ。展開から選択が削除されます。

このいずれかのオプションを選択すると、元の展開が中断します。

例: "資産" 要素を展開し、そのすべての子を表示します。

- 流動資産
- 固定資産
- 長期資産
- 他の資産

次に、"流動資産" と "固定資産" のみを保持するように選択します。残りの 2 つの子は展開から削除されるため、保持した 2 つの子に集中できます。

逆に、展開から "流動資産" と "固定資産" のみを削除して、残りの 2 つの子を表示することを選択できます。

展開の特定の部分にフォーカスするには、次のようにします。

1. 展開から、フォーカスする要素を選択します。
2. 右クリックし、OfficeConnect コンテキストメニューから、"保持のみ" または "非表示"を選択します。

展開内のすべての子孫または最下位組織のみを表示

展開で表示する詳細レベルに応じて、以下のオプションを使用します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- "すべて展開"。選択した要素の子孫の親要素と子要素をすべて表示します。
- 最下位組織に展開選択した要素の最下位組織の子要素のみを表示します。すべての合計要素は除外されます。

すべての子孫を展開で表示するには、次のようにします。

1. 展開に含まれる親要素を選択します。
2. 右クリックし、OfficeConnect コンテキストメニューから "すべて展開" を選択します。

展開で最下位組織のみを表示するには、以下の手順に従います。

1. 展開に含まれる親要素を選択します。
2. 右クリックして OfficeConnect コンテキストメニューで "最下位組織に展開"を選択します。

複数の展開可能な要素が行または列に適用される場合、いずれかのオプションを選択すると "展開" ダイアログが開きます。ダイアログで要素を選択すると、以下のようになります。

- "すべて展開" を使用すると 、選択した要素のすべての子孫の親要素と子要素がグリッドに追加されます。
- "最下位組織に展開" は、 選択した要素の最下位組織の子要素のみをグリッドに追加します。

特定のレベルに展開

どの階層レベルを探索するかに応じて、単一の親要素を展開し、その特定の組織の要素のみを表示できます。先祖はデフォルトで除外されます。展開に先祖を含めるというデフォルトをオーバーライドできます。

例:

"負債と純資産" 科目の階層には、次の要素が含まれます。

- 負債 (レベル 1)
    - 流動負債 (レベル 2)
    - 長期負債 (レベル 2)
- 投資持分 (レベル 1)
    - 年初来の支給 (レベル 2)
    - 利益剰余金 (レベル 2)

組織 2 の "負債と純資産" 科目のみを展開するように選択します。デフォルトの展開では、"負債" および "株主資本" の下に以下の要素が表示されています。

- 流動負債
- 長期負債

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 年初来の収益
- 利益剰余金

"先祖を除外" オプションをオフにして、再度展開します。展開が更新され、親の "負債" および "純資産" 要素が追加されます。

特定の組織のみに展開するには、次のようにします。

1. レポートで、親要素が適用されている行または列を選択します。
2. 右クリックし、OfficeConnect コンテキスト メニューから " 次の値に展開" を選択します。"展開" ダイアログが表示されます。
3. 任意です。選択した場所に複数の親要素が存在する場合、"要素" ドロップダウンから、どの親要素を展開するかを選択します。
4. 展開する階層レベルを選択します。
5. 先祖を表示するには、"先祖を除外"をオフにします。
6. "OK" をクリックします。

### "レビュー" タブから展開された要素を特定

"レビュー" タブから展開に含まれる要素を特定するには、以下の手順に従います。

1. 展開に含める単一の行または列を選択します。
2. "レポート" ペインで "レビュー"を選択します。
3. その横にある展開 [+] アイコンに注意してください。

### 親子階層を無効にするアクション

以下のアクションにより、親子階層が無効になります。

- 階層内の任意の親を削除します。
- 子要素は連続していません。子の間、または親と子の間に行が挿入されました。
- 親と子のメタデータが一致しません。例: 親は "流動資産" ですが、子が "エンジニアリング" になっています。
- アクセスできないか削除されたため、親は不明の要素です。
- すでに展開に含まれている要素をグループ化します。

### 展開中の空白行の除外

要素を展開するときに、以下を適用すると "データのない行を除外" オプションが非アクティブになります。

- 行と列の両方に同じ要素タイプが入力されている。
- 要素を行内のセルにマッピングする。
- 行または列の "組織と通貨" の要素、およびワークブックのプロパティで "組織通貨" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 行と列の両方の時間要素 (絶対、相対、コンポーネント、またはコンテキスト)。

relatedlinks
概念
概念: "セルを探索" および "行の詳細" ( 96ページ )

ステップ: レポートへのグラフの追加

レポートへの **Excel** スパークラインの追加

スパークライン は、単一セルに配置された縮小グラフで、それぞれが選択範囲内のデータの行を表します。含まれるデータ、およびスパークラインのフォーマットと色を定義できます。スパークラインの基になるデータは、レポートの単一行にあります。

主な形式は、" 折れ線"、"縦棒"、"落札/損失" の スパークラインです。

スパークラインを作成するには:

1. スパークラインを挿入するセルを選択します。
2. " 挿入 " タブの "スパークライン" グループで、"折れ線"、"列"、または "落札/損失"をクリックします。"スパークラインの作成" ダイアログが表示されます。
3. カーソルを データ範囲に合わせます。スパークラインで表すデータを含むセルを選択します。
4. 勤務地の範囲をクリックします。
5. スパークラインを配置するセルを選択します。
6. "OK" をクリックします。スパークラインは指定したとおりに表示されます。

レポートへの **Excel** データ バーの追加

データ バーは 、セルの値を視覚的に表すためにセルに追加される一連の実線または影付きの棒のことです。値が高いほど、棒が長くなります。データ バーのグループ内の最高値は 100% の影になり、他の値はすべてその最高値のパーセントとして影になります。

レポートにデータ バーを追加するには:

1. 単一の評価グループに含めるセルを選択します。これらは、データ バー セット内で互いに比較されるセルです。
2. "ホーム" タブの "スタイル" グループで、次のいずれかをクリックします。 条件付き書式設定"データ バー" をポイントし、"グラデーションの塗りつぶし" または "実線の塗りつぶし" セクションから必要な色を選択します。
3. その他のオプションについては、 "ホーム" > "スタイル" > "条件付き書式設定" > "データ バー" > "その他のルール"をクリックします。"新しい書式設定ルール" ダイアログ ボックスが表示されます。データ バーに求める条件を指定します。

**Excel** アイコン セットのレポートへの追加

データ バーと同様、 アイコン セットは 条件付き書式設定オプションです。アイコン セットを使用すると、レポートを表示するユーザーがグループ内の最高値と最低値、定義された範囲内の値、または指定された基準を満たす値をすばやくビジュアル化できるようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

レポートにアイコン セットを追加するには:

1. 単一の評価グループに含めるセルを選択します。これらのセルは、アイコン セット内で相互に比較されます。
2. "ホーム " タブの "スタイル" グループで "条件付き書式設定"をクリックし、"アイコン セット" をポイントして、使用するアイコンのタイプを選択します。
3. その他のオプションについては、"ホーム" > "スタイル" > "条件付き書式設定" > "アイコン セット" > "その他のルール" をクリックします。設定 "新しい書式設定ルール" ダイアログが表示され、アイコン セットに必要な条件とオプションを指定できます。

ステップ: レポート ラベルの追加

レポートで変更を反映するために、自動的に変更されるラベルを設定できます。レポート内で変更される可能性のある相対カレンダーやその他のコンポーネントを使用する場合は、これらのラベルによって時間を節約できます。ラベルを設定しておくと、レポートの変数を変更した場合、データのリフレッシュとラベルの変更を同時に行うことができます。

必要に応じて、ラベル式に静的テキストを追加することもできます。

例: レポート作成日を表示するラベルを追加できます。このラベルを表示するセルを選択してから レポート日を表示するラベルを設定する場合は、値の前に ″レポート日″ を入力してコンテキストを提供します。

レポートの要素を追加、変更、または削除すると、関連するラベルも変更または削除されます。

ラベル タイプ

レポートに要素を追加すると、関連付けられたラベル タイプとラベル タイプ値は、以下のようにラベル定義で使用可能になります。特性名を表示するラベルを追加するには、まずレポートに特性を追加します。ラベルには、有効な交差部分についてのみ値が表示されます。

| この要素を追加 | このラベルが使用可能になる | このラベル タイプの値 |
|---|---|---|
| Account | Account | {科目コード} {科目反対インジケータ}{科目表示名} |
| Time | Time | {時間の表示名} |
| Level | Level | {組織コード} {組織表示名} {組織名} {組織の短縮名} |
| バージョン | バージョン | {バージョンの表示名} |
| カスタム属性 | *<Dimension>*<br>例: "顧客" または "製品" | {属性 コード} {属性 表示名} {属性名} {属性の 短縮名} |
| 通貨 | Currency | {通貨コード} {通貨の表示名} |

レポートのラベル タイプと値 を参照してください。

ラベルの追加

以下を定義するには、次のようにします。 Adaptive Planning ラベル:

1. ラベルを追加する行、列、セルを選択するか、複数のセルを選択します。行に適用されたラベルは、適用された要素の列にのみ影響します。
2. 以下から OfficeConnect タブで "ラベル"を選択します。
3. "ラベルのタイプ" で、レポートに追加するラベルのタイプを選択します。選択したラベル タイプの値は 、"ラベル タイプ値"の下に表示されます。

   例: レポート作成日をラベルとして表示するには、"システム変数"を選択します。
4. "ラベル タイプ値"で、ラベル値を選択します。多くの値を選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを使用します。例: レポート作成日を長形式で表示するには、{Report Date (Long)}を選択します。
5. "式の追加"を選択します。選択した値は "ラベル式" に表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

6. "ラベル式"に、選択した動的値の前後に表示する静的テキストを入力します。 例:"{Report Date (Long)}" という式の前に、「レポート作成日:」というテキストを入力します。
7. "OK" を選択します。"ラベル定義" ダイアログ ボックスが保存され、却下されます。
8. 新しく定義したラベルがレポートにまだ表示されない場合は、 "リフレッシュ"を選択します。 OfficeConnect レポートがリフレッシュされ、レポートにラベルが定義どおりに表示されます。 例: レポートに *"*レポート作成日*: 2023* 年 *12* 月 *31* 日*"*というラベルが表示されるとします。

注 : レポートをリフレッシュしたときにラベルが表示されない、または更新されない場合は、影響を受けるセルを選択し、その選択範囲を右クリックします。ショートカット メニューから "内容のクリア" を選択します。レポートをリフレッシュすると、ラベルが表示されます。

### ラベルの変更

"レポート" ペインのラベル メタデータを確認し、必要に応じて変更できます。

1. ラベルを含む行、列、またはセルを選択します。
2. "レポート" ペインで " レビュー" タブを選択します。"要素"の下に、"ラベル" メタデータがその値とともに表示されます。
3. 次の中　OfficeConnect　タブで "ラベル" を選択します。
4. ラベル定義を変更し、"OK"をクリックします。
5. レポートをリフレッシュして、変更の結果を確認します。

注 : 以下をハイライトできます。 Adaptive Planning レポート全体のセルとラベル以下の "表示 " グループで "リンクされているセル" をクリックします。 OfficeConnect タブ次のようなセルのハイライトを参照してください。 Adaptive Planning データ

### ラベルの削除

ラベルが不要になった場合、"削除" を押したり、"内容をクリア" をクリックしても、レポートからラベルが完全に削除されるわけではありません。次回レポートをリフレッシュすると、ラベルが元に戻ります。

レポートからラベルを完全に削除するには、次のようにします。

1. ラベルを含む行、列、またはセルを右クリックします。
2. 選択　OfficeConnect　>"設計要素をクリア"。
3. レポートをリフレッシュして、ラベルがレポートから削除されていることを確認します。

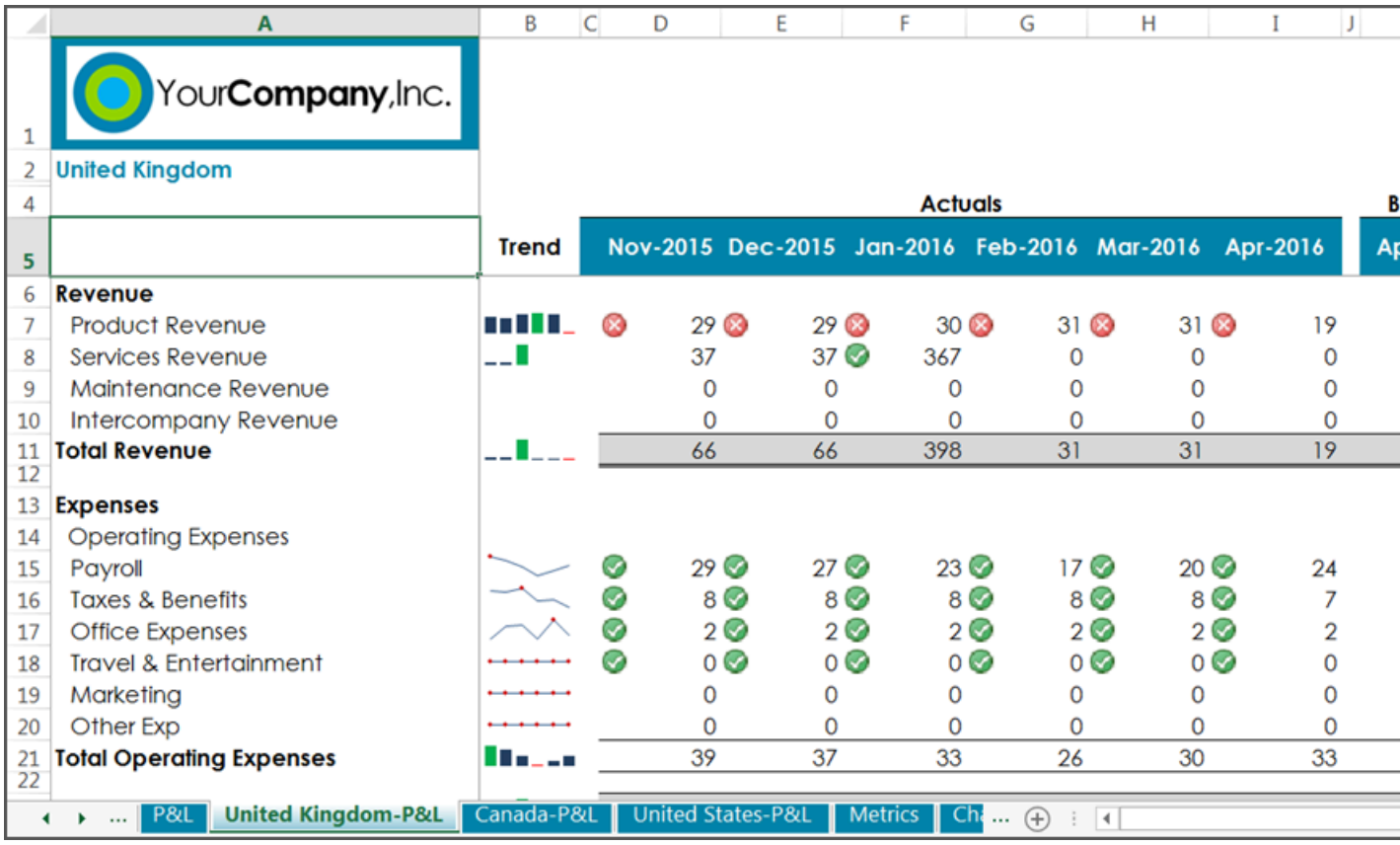
### ステップ**:** 同じワークブック内でのレポートのコピーの作成

"繰り返し使用するレポート" オプションを使用して、レポートのコピーを作成できます。

繰り返しレポートを使用すると、整形式のレポートの複数のコピーを作成し、各コピーを選択した組織や属性などの要素でフィルタリングできます。これは、部門別のレポート要件とグローバルなレポート要件の両方を満たすのに役立ちます。

以下のセットに基づいて P&L レポートを確定するとします。 Adaptive Planning データこのレポートは、企業のカラーとフォント、Excel の数式、グラフ、ミニ グラフでフォーマットされています。これで、各業務拠点別の予算レポート作成のために、このレポートを業務ヘッドカウントに配布する準備が整いました。以下は、ワークシート名で示された繰返しレポートのセットを示しています。各シートは、指定された場所の P&L 結果を報告しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




"繰り返しレポート" オプションを使用すると、コピー処理中に以下の処理が実行されます。

- ワークシートをコピーして選択した要素を列挙し、1 つの要素をフィルタとして各ワークシートに適用します。
- 組織別などのフィルタに基づいて、コピーした各レポートを自動的にリフレッシュします。後でリフレッシュすることもできます。
- ユーザー定義の命名規則に基づいて、ワークシートに名前を付けます。
- 繰り返し使用されるレポート ラベルが適用されている場合、レポートに要素ラベルを配置します。
- Excel の書式設定、スタイル、数式を維持します。
- ワークシートに適用され、"フィルタ" タブで選択されたすべてのメタデータ (ラベルと要素) を維持します。

繰り返し使用するレポートを作成すると、これらのレポートは独立したレポートになり、個別に作業を行うことができます。元のレポートにリンクされていない、または関連付けられていない。繰り返しレポートをその後の変更と元のレポートと同期するには、繰り返しレポートを削除して再作成するか、個別に作業します。

コピー用に元のレポートを準備

1. 完成したレポートを で開く OfficeConnect 次のような目的のデータとフォーマットが含まれていることを確認します。
    - Adaptive Planning データ
    - Excel の書式設定 (条件付き書式、数式、ロゴ、グラフなど)
2. (任意) ワークシート名を短縮して名前を変更します。例: ワークシート名を "損益" から "P&L" に変更します。

繰り返し使用するレポート フィルタに基づくラベルの定義

重要 : このステップは任意ですが、繰り返し使用するレポートを作成する前に実行する必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ラベルを使用すると、繰り返しレポートに各レポートに関連付けられた要素を自動入力できます。繰り返し使用するレポートの要素を指定する前に、まずラベルを定義する必要があります。ラベルの一般情報については 、レポートのラベルの定義を 参照してください。

1. ラベルを表示するセルの位置を選択します。例: セル A2 に移動
2. "ラベル" をクリックします。 OfficeConnect タブ
3. "ラベル タイプ" で "システム変数" を選択します。 `{Repeating Report Element}`"ラベル タイプ値" として"式を追加"をクリックします。

コピーのプロセス中に、このラベルはすべての繰り返しレポートに適用されますが、元のレポートには適用されません。

### 繰り返し使用するレポートを作成するための条件を設定

"繰り返しレポート" ダイアログ ボックスでは、レポートのコピー方法を指定できます。次のステップでは、組織に基づいて一連のレポートを作成する方法について説明します。

これらの要素タイプのいずれかがすでにレポートのフィルタとして使用されている場合、このダイアログ ボックスから選択することはできません。

後でワークシート データを手動でリフレッシュするには、このチェックボックスをオフにします。 Adaptive Planning 繰り返し使用する各レポートのデータは、コピーのプロセス中にクリアされます。これは、繰り返し使用するレポートを多数作成し、各繰り返しレポートを個別にリフレッシュしたい場合に適したオプションです。以下を使用します。 "リフレッシュ" オプションは次のとおりです。 OfficeConnect タブをクリックして、手動でリフレッシュします。リフレッシュの詳細については、 レポートにデータを入力するを 参照してください。

1. "OfficeConnect" タブの "フィルタ" をクリックし、"繰り返しレポート"を選択します。"繰り返しレポート" のダイアログ ボックスが開きます。
2. 要素タイプと、コピー処理に作成するワークシート タブの数とタブの名称を指示する要素を選択します。このリストから 要素を複数選択する 場合は、要素を右クリックしてコンテキスト メニューを表示します。子孫または子を選択またはクリアするか、すべてを展開するか折り畳みます。
    - 要素タイプ: 要素タイプを選択します。これらには、科目、組織、バージョン、通貨、特性 (科目、組織、属性) が含まれ、属性はフィルタするタイプとして利用できます。例: 組織の選択 これらの要素タイプのいずれかがレポートのパラメータとしてすでに使用されている場合、このダイアログ ボックスから選択することはできません。
    - 選択した要素: 少なくとも 1 つの要素を選択します。このリストには、選択した要素タイプの要素のみが表示されます。例: "業務" から "米国"、"カナダ"、"英国" を選択
3. ワークシート名を変更して繰り返し使用するレポートの要素を含む命名形式を定義します。要素と元のワークシート名を区切る区切り記号を選択することもできます。例: 英国 - P&L または P&L (カナダ)Excel の最大文字数は 32 文字まで指定できます。これに達すると、シート名が切り捨てられます。
    - 区切り文字: カンマ、ハイフン、スペース、下線の選択例: ハイフンの選択
    - シート名の形式:[シート名][delimiter][要素] または [要素][delimiter][シート名] を選択し、シート名または要素を最初に表示するかどうかを選択します。例: P&L-[Level} を選択します。
4. (任意) デフォルトで選択されている "シートのリフレッシュ" オプションが自動入力されます。 Adaptive Planning 繰り返し使用する各レポートのデータ (コピー処理中)。例: デフォルトを保持し、繰り返しレポートを自動的にリフレッシュします。後でシート データを手動でリフレッシュするには、このチェックボックスをオフにします。 これは、繰り返し使用するレポートを多数まとめて作成し、各繰り返しレポートを個別にリフレッシュしたい場合に適したオプションです。以下の "リフレッシュ" オプションを使用します。 OfficeConnect タブをクリックして、手動でリフレッシュします。リフレッシュの詳細については、 レポートにデータを入力するを 参照してください。
5. "作成" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## OfficeConnect の基本レポートの作成

OfficeConnect for Excel はのオンライン レポートに似ています Adaptive Planning。

要素をワークシートにドラッグ アンド ドロップしてフィルタを追加します。要素は交差を作成し、データのさまざまなスライスを表示します。Excel 関数を使用してレポートをフォーマットすることもできます。 Adaptive Planning ラベル、プロパティ

### 始める前に

以下のことを把握しましょう

- のインターフェイス OfficeConnect
- を作成するためのレポート要素 OfficeConnect レポート。
- デフォルト値 およびオーバーライド方法
- インスタンスと科目の時間設定を考慮します。

ベーシック レポートの場合、以下を追加する必要があります。

- 行と列に少なくとも 1 つの要素を入力します。
- 少なくとも 1 つの "時間" 要素と "1 つの科目" 要素。
- バージョン、組織、通貨はデフォルトに基づいて自動的に追加されます。

### ベーシック レポートを作成するためのステップ

ビデオを見る:(1 分 11 秒)

1. Excel を起動して にログインする OfficeConnect 。
2. 2 列をハイライトします。
3. "レポート" ペインで "時間" 要素を選択し、列にドラッグ アンド ドロップします。
4. 行ごとに繰り返し、"科目" 要素を追加します。
5. "リフレッシュ" を選択すると、 レポートにデータが自動入力されます。
6. ファイルを保存して閉じます。

次の操作も可能です。

- Excel 関数を使用して書式を設定し、 スパークラインを追加します。
- ワークブックにフィルタを追加した 後、ワークシートにフィルタを追加します。
- ラベルを追加します。
- ファイル内のデータを保護する 。

### 行または列のハイライト

要素を追加する前に、1 つ以上の行または 1 つ以上の列をハイライトします。

- ハイライト: 単一の要素または複数の要素を 1 つの列または行に追加します。
- 複数の要素を複数の行に追加するには、2 つをハイライトします。4 つの要素を 4 列に追加するには、2 列のみをハイライトします。

### 要素の選択と追加

まず要素を展開します。リストから、展開されたアイテムまたは折り畳まれたアイテムを選択します。例: "FY2016" を選択するか、展開して 2016 年の四半期と月を選択します。

複数のアイテムを選択するには、Shift キーを押しながらクリックして隣のアイテムを選択し、Ctrl キーを押しながらクリックして隣のアイテムを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 列の時間の選択

1. 2 列以上をハイライト表示します。先頭列はハイライトしないでください (先頭列は行のヘッダーです)。
2. "時間" 要素のリストを展開します。
3. "FY2016" を展開する。
4. Ctrl を押しながらクリックして、すべての四半期を選択します。
5. 時間要素を列にドラッグ アンド ドロップします。

### 科目を選択

1. 追加した列ヘッダーの下で少なくとも 2 行をハイライト表示します。
2. "科目" 要素を展開し、科目リストを表示します。
3. リスト内の太字科目では、すべての子科目を複数の行に自動的に追加できます。例: 総勘定元帳ツリー全体を追加する場合: 太字の要素 "総勘定元帳科目" を選択し、ハイライトされた単一の行にドラッグします。総勘定元帳科目の展開されたリスト全体が複数の行に入力されます。

### 検証メッセージ

行または列全体ではなく、セルまたはセルのグループを選択すると、検証メッセージが表示され、関連する行または列に要素を適用することができます。

### 混合時間設定を考慮

レポートに時間要素を追加する場合は、科目の時間設定を考慮してください。

- 科目の時間設定と一致する時間要素を追加します。例: レポートに月単位の科目しかない場合、月単位以上の要素のみを追加します。
- 科目の最大時間設定と一致する時間要素を追加します。たとえば、週単位の科目と月単位の科目が混在する場合、月単位以上の値を追加します。レポートには、月間の週単位の科目の合計値が表示されます。週を追加する場合、月単位の科目には週単位のセグメントが空白で表示されます。
- フィルタとしての科目: 異なる時間設定を持つ科目をフィルタとして使用した場合、データがどのように表示されるかに留意します。例: フィルタに多数の科目 (週単位と月単位が混在) が含まれている場合、より小さな時間要素を追加すると、レポートには次のデータが表示されます。
    - 週のセグメント: すべての週単位の科目の合計
    - 月のセグメント内: 週単位と月単位のすべての科目の合計

### レポートをリフレッシュ

レポートに表示する基本的な科目と時間データを定義した後、接続されたデータを から取得できます。Adaptive Planning をクリックし、レポートを表示します。

以下のデータをリフレッシュできます。

- 行または列の選択
- 現在のワークシート
- 選択したワークシート (複数のワークシートがある場合)
- ワークブック内のすべてのワークシート

データを取得して結果のレポートを表示するには、次のようにします。

1. "コネクション " グループで "リフレッシュ" を選択します。プログレス バーが一時的に表示されます OfficeConnect はデータを Adaptive Planning データ ソースレポート デザインに基づいて、データがワークシートのセルに表示されます。 OfficeConnect は、多数の数値に対応するために列の幅を自動的に広げます。
2. "帳簿" グループで "ワークブック"を選択します。 プロパティ
3. "列 表示" の "形式 " タブで、"リフレッシュ時に列を自動調整 " チェック ボックスをオフにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "OK" を選択します。短いデータでも列は狭まることはありませんが、必要に応じて手動で狭めることができます。

### リフレッシュの更新要素グループ

デフォルトでは、レポートをリフレッシュすると要素グループも更新され、最新の値と構造が反映されます。 要素グループの作成と管理を参照してください。

リフレッシュ:

- 選択範囲内のすべてのグループを更新する場合の選択。
- 1 つのワークシート内のすべてのグループを更新するワークシート。
- 選択したシート (選択したワークシートのすべてのグループを更新)
- "すべてのワークシート" を選択し、ワークブック内のすべてのグループを更新する。

選択をリフレッシュするときは、すべてのグループ メンバーを選択します。そうでない場合、要素グループは更新されません。部分的な選択のデータはリフレッシュされます。

リフレッシュを実行すると、Excel で削除したグループ メンバーも再度追加されます。

要素グループをリフレッシュするデフォルト設定を変更するには、"グループ" についてワークブック プロパティを変更します。ワークブックのプロパティを参照してください。

### 展開された要素の更新をリフレッシュ

デフォルトでは、レポートをリフレッシュすると、レポート内の展開された要素も最新の値と要素構造で更新されます。"リフレッシュ" を実行すると、新しい要素が含まれ、"要素" ペインの最新の構造に基づいて、展開から削除された要素が削除されます。レポートの内容を調べるを参照してください。

展開された要素をリフレッシュするデフォルト設定を変更するには、"探索" についてワークブックのプロパティを変更します。ワークブックのプロパティを参照してください。

現在の選択のリフレッシュの一環として展開の要素構造を更新するには、展開全体を選択していることを確認します。展開の一部のみを選択した場合、展開内のすべての要素は更新されません。選択したデータはリフレッシュされます。

### **Excel** のフィルタリングを再適用してリフレッシュ

OfficeConnect では、Excel のフィルタ機能を使用して、レポートの数値データをフィルタすることができます。レポートをリフレッシュすると、既存のフィルタがリフレッシュされたデータに再適用されます。

注 : これは数値フィルタリングのみに適用されます。日付フィルタは、単独で使用することも、数値フィルタと組み合わせて使用することもできません。

## レポート セルの詳細を表示

### 始める前に

- OfficeConnect for Workday Financial Management (Financials) データ ソースを有効化します。

### このタスクについて

"詳細を表示" 機能は、財務管理データ ソースでのみ使用できます。データを含む任意のレポート セルで、" 詳細を表示" オプションを使用すると、以下を実行できます。

- 新しい Excel ワークシートに関連仕訳行とプラン行の詳細を表示します。
- Workday にドリルスルーして、関連する仕訳と取引を表示する。

管理者は "財務レポートおよび分析データ モデルの設定" タスクを使用して、"詳細の表示" オプションに表示するフィールドを設定できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

詳細が多数含まれる大きなワークシートで "詳細を表示" オプションを使用した場合のパフォーマンスを向上させるために、以下を行うことをお勧めします。

- 64 ビットの Excel を使用します。
- 未使用のワークシートを削除する。

手順

1. OfficeConnect の基本レポートの作成（639ページ）.既存のレポートを実行するか、レポートを作成します。 レポートに仕訳行またはプラン行のデータが含まれていることを確認します。
2. セルの 1 つを右クリックして、OfficeConnect コンテキスト メニューから "詳細を表示"をクリックします。
   OfficeConnect は、タブ名に元のワークシートとセル参照が含まれた新しいワークシートを開きます。例: 貸借対照表_C7。
3. レポートで元のセルのコンテキストの詳細を表示するには、新しいワークシートの最初のセルを選択します。
   新しいワークシートの最初のセル:
   - OfficeConnect がデータを生成した日時が表示されます。
   - 元のセルの "レビュー" タブと同じ要素に対応します。
4. 仕訳行またはプラン行の詳細をレビューします。表示されるフィールドは 、"財務レポートおよび分析データ モデル" タスクの "詳細を表示" 設定に基づいて決定されます。
   以下の主要なフィールドを参考にして、このタスクを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 仕訳 | リンクをクリックして、Workday の仕訳入力に移動します。アクティブなセッションを実行していない場合は、サインインを促すプロンプトが表示されます。 |
| 借方から貸方を引いた額 (換算額) | サマリ金額を表示する列を選択します。以下を検証します。<br>• 列サマリの金額が、レポートの元のセルの金額と一致する。<br>• 換算通貨は、新しいワークシートの最初のセルにリストされている通貨と一致します。 |

5. (任意) 新しいワークシートの詳細をリフレッシュするには、レポートの元のセルに戻り、"詳細を表示"をクリックします。

例

次のタスク

仕訳行またはプラン行の詳細をソートまたはフィルタするか、ピボット テーブルを作成するには、Excel のネイティブ関数を使用します。

relatedlinks
タスク
財務レポート データ モデルの設定
ステップ: OfficeConnect for Financial Management に対するテナントの設定
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
2022R2 What's New Post: Journal Line Details in OfficeConnect for Financial Management

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### OfficeConnect レポートの形式設定

OfficeConnect レポートの外観はさまざまな方法で制御できます。OfficeConnect のフォーマット設定は以下の形式に使用できます。 Adaptive Planning レポート上のデータとラベルExcel のあらゆる形式の書式設定を使用することもできます。この記事では、OfficeConnect のフォーマットについて説明します。

#### フォント

Excel データが Word で期待どおりに表示されるように、書式設定を維持するには、Excel でサポートされているフォントを使用します。

- サポートされているフォント サイズ: フォント サイズはすべて 10 pt または 12 pt のみとなります。
- サポートされているフォント タイプ: すべてのフォント タイプは、Times New Roman、Ariel、Colier New のみのいずれかである必要があります。

#### 列を自動調整

OfficeConnect は、多数の数値に対応するために列の幅を自動的に広げます。これを変更するには、次のようにします。

1. "ワークブックの プロパティ クリックします。
2. "形式 " タブの "列表示"で、"リフレッシュ時に列を自動調整 " チェックボックスをオフにします。
3. "OK" をクリックします。

#### ラベルと合計行を表示しない

レポートには、Excel の機能を使用して手動で行を追加して、明確にしたり展開したりしている可能性があります。 Adaptive Planning データ典型的な例は上記のヘッダー ラベルです Adaptive Planning 以下のデータ行または合計行 Adaptive Planning データ

ただし、これらの行は Adaptive Planning に関連付けることができるデータに関連付けることができます。 Adaptive Planning 要素合計行がすべてゼロまたは空白の場合は、必要に応じてそれらの行を非表示にできます。これにより、ゼロの行と列が非表示になっても、レポートに情報が不足しているようには見えません。

ヘッダー ラベルまたは合計行を非表示にするには、次のようにします。

1. 必要に応じて、 OfficeConnect タブの " 表示 " グループで、"ゼロと空白の非表示 クリックしてオフにします。新規アイテムを作成する場合 OfficeConnect ワークブックに設定されている場合、"ゼロと空白の非表示" オプションはデフォルトでオフになっています。
2. データがすべてゼロの場合に非表示にするヘッダー ラベルまたは合計行を選択します。
3. 以下から OfficeConnect タブで "ラベルの非表示" クリックします。
4. "ラベル行 1" フィールドをクリックします。
5. 以下を含む領域を選択してください: Adaptive Planning 選択したヘッダー ラベルまたは合計行に関連付けるメタデータ

   B5:E13 などの選択した領域のセル範囲が、"ラベル行 1" ボックスに表示されます。必要に応じて、ボックス内のセル範囲を入力することもできます。行を選択するか、「2:8」などの範囲を入力して、2 行目から 8 行目を表すこともできます。

   "ラベル行 1" フィールドに情報を入力すると、行 2 に別のフィールドが表示されます。複数のセル範囲または行に対してヘッダー ラベルや合計行を非表示にする場合は、"ラベル行 2" ボックスをク

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リックしてから、2 番目のセル範囲または行のセットを選択します。必要に応じて、後続の "ラベル行" ボックスに範囲の入力を続けます。

6. "OK" をクリックします。
7. "リフレッシュ" をクリックします。
8. "OfficeConnect" タブで、"Hide Zeros $ Blanks" をクリックしてオンにします。

   ゼロの行または列に関連付けたヘッダー ラベルまたは合計行が非表示になります。

**OfficeConnect** レポートでの代替カレンダーの表示

始める前に

- "時間管理" で代替カレンダーをインポート
- インスタンスで OfficeConnect を有効にします。
- セキュリティ:*Access OfficeConnect*

このタスクについて

1 つの Excel レポートに、異なるカレンダーから複数の時間要素を追加します。時間の粒度によって、データがどのようにロールアップされるかを確認します。

例: ビジネス プランで、以下のカレンダーについてのレポートを作成する必要があるとします。

- 労働期間: 年。構造: 週 > 支給期間 > 支給年
- 会計年度。構造: 週 > 会計月 > 会計四半期 > 会計年度

手順

1. 既存のレポートを開くか、レポートを作成します。
2. "要素 " タブで " 時間" を展開し、デフォルト カレンダーと代替カレンダーを表示します。
3. 各カレンダーを展開して、そのカレンダーの時間要素を表示します。
4. 各カレンダーから、レポートの列または行に時間要素を追加します。
5. (任意) 科目要素をレポートに追加します。
6. (任意) "時間" ラベル タイプを追加して、表示するレポート データの時間粒度をさまざまにわかりやすくします。

   例: 次のラベル タイプを追加します。

   - 労働期間
   - 暦年
   - 会計年度
7. レポートをリフレッシュしてデータとラベルを確認してください。

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の時間とカレンダー（793ページ）
タスク
列、行、およびセルへの要素の追加（595ページ）
ステップ: レポート ラベルの追加（635ページ）
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
設定の考慮事項: 代替カレンダー（773ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 有効日を使用したディメンション階層のレポート

### 始める前に

OfficeConnect for Workday Financial Management (Financials) データ ソースを有効化します。

### このタスクについて

"有効日" 機能は、"財務管理" データ ソースでのみ使用できます。有効日を選択すると、次の操作ができます。

- その日付の階層に編成された属性をレポートします。
- シナリオを使用して what-if 分析を実行します。

次のタイプの有効日から選択できます。

- 動的日付以下の動的日付では、実際の日付がかっこ内に表示されます。
  - 現在の日付
  - 前期間の終了日
  - 前サマリ期間の終了日
- 一般的に使用される静的日付。管理者が財務レポート データ モデルで定義した会計スケジュールとサマリ スケジュールに基づきます。例:
  - 過去 2 年間のスケジュール終了日のサマリ。
  - 過去 12 か月における計上期間の終了日。
- 静的なカスタム日付。会社の特定のイベントを表すために、管理者が財務レポート データ モデルで指定します。例: 主要な組織変更と一致する将来または過去の日付。

静的日付は、現在の日付に関係なく同じままです。OfficeConnect では、動的日付に続いて、古いものから順にリストされます。

有効日リストは時間とともに変更されるため、それより前の有効日は使用できなくなる場合があります。開いた場合:

- 新しいワークブックの場合は、管理者が財務レポート データ モデルで指定したデフォルトの有効日が使用されます。この日付を変更してワークブックを保存すると、新しい有効日が保持されます。
- 保存したワークブック: リストに有効日が表示されなくなっても、実行してリフレッシュできます。

### 手順

1. OfficeConnect の基本レポートの作成（639ページ）.
   既存のレポートを実行するか、レポートを作成します。
2. "有効日" プロンプトから日付を選択します。
   OfficeConnect は選択に基づいて要素を口ードします。
3. レポートをリフレッシュします。
4. (任意)。レポートに有効日を表示するには、次のようにラベルを追加します。
   a. ラベルを表示するセルを選択します。
   b. "ラベル" をクリックし、"モデル " ラベル タイプを選択します。
   c. "有効日" ラベル タイプの値を選択します。
5. もう一度リフレッシュして有効日ラベルを確認してください。

### タスクの結果

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例

営業部門とマーケティング部門は、会社内の兄弟コスト センターです。 2023 年 4 月 19 日付けで、本社は "営業" の下に "マーケティング" を組織変更します。この日付のレポートを実行すると、"販売" の数値に "マーケティング" の数値が含まれます。

relatedlinks
概念
（574ページ）
概念: OfficeConnect の仕組み（571ページ）
タスク
財務レポート データ モデルの設定
ステップ: OfficeConnect for Financial Management に対するテナントの設定
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
2023R1 What's New Post: OfficeConnect for Financial Management での有効日のサポート

代替階層のレポート

始める前に

OfficeConnect for Workday Financial Management (Financials) データ ソースを有効化します。代替階層機能は、財務管理データ ソースでのみ使用できます。

このタスクについて

管理者が財務レポート データ モデルでディメンションの代替階層を選択した場合、レポートではこれらの階層のいずれかを選択して使用できます。会社、勘定科目、コスト センター ディメンションなどの要素に代替階層を使用すると、柔軟なレポート作成が可能になります。 この機能を使用して、独立した最上位レベル階層を表示および比較することもできます。

例:

- さまざまなコスト センター階層に基づいたコスト センターのレポートを作成するさまざまなチームがある。
- 現在の主連結階層の外に存在する買収からの新しい会社階層。

一部の要素は代替階層で重複できます。2 つの最上位レベル階層を集計する際、OfficeConnect では要素の一意の値のみが計算され、重複が回避されます。

手順

1. OfficeConnect の基本レポートの作成（639ページ）.
   既存のレポートを実行するか、レポートを作成します。
2. "要素" タブで、以下の要素のいずれかを展開し、代替階層を表示します。
   - 勘定科目
   - 会社
   - 属性
3. 代替の階層要素をレポート領域にドラッグしてリフレッシュします。
4. (任意) アドホック分析のために代替階層要素を展開します。
   参照 ステップ: アドホック分析を使用したレポートの探索（628ページ）。

タスクの結果

例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のタスク

relatedlinks
概念
（574ページ）
概念: OfficeConnect の仕組み（571ページ）
タスク
財務レポート データ モデルの設定
ステップ: OfficeConnect for Financial Management に対するテナントの設定
**.NET**フレームワーク **Web** インストーラーのダウンロード
2023R1 What's New Post: OfficeConnect for Financial Management での複数の階層のサポート

## **OfficeConnect** から **Adaptive Planning** への書き戻し

始める前に

- 最新バージョンの OfficeConnect。
- セキュリティ:"外部ソースからの書戻し " 権限

このタスクについて

OfficeConnect レポート内の有効な最下位組織の交差部分から、データ編集を Adaptive Planning に送り返すことができます。インスタンスで設定されたアクセス ルールに基づいて、特定の組織、科目、カスタム属性、特性に対して書き戻すことができます。

OfficeConnect から編集内容を送信する機能により、以下のことが可能になります。

- Excel を離れることなく Planning データを更新できます。
- 数式やコピー＆貼り付け関数などの Excel 機能を使用します。

書き戻しモードでは、以下のサポートされている要素についてのみ変更を編集および送信できます。

- 科目: キューブ、カスタム、GL、前提条件。
- 組織: 最下位組織のみ。
- バージョン: 実績、計画、シナリオのバージョン
- カレンダー: デフォルト カレンダーのみ。時間合計はライトバックではサポートされていません。
- 属性: キューブ科目の場合、シート上のすべての属性がレポートにも表示される必要があります。
- 特性: シート上にある属性特性とそれに対応する属性は、レポートにも表示される必要があります。

分割のある科目はライトバックに対応していません。"書戻し" モードに入ることができない場合は、元のシートをチェックして、科目が分割されていないか確認します。

OfficeConnect の "ライトバック" オプションを使用してシートの交差を更新すると、変更履歴によってその変更が追跡されます。

注： OfficeConnect Writeback を使用する場合は、Excel Interface for Planning (EIP) を同時に使用しないことをお勧めします。現在、両方のアドインを個別に認証する必要があることなど、いくつかの問題が発生しています。これらの問題は、将来のリリースで解決される予定です。

手順

1. 既存のレポートを開くか、レポートを作成します。
2. レポートで、以下を含む 1 つ以上の行または列を選択します。
    - 1 つのバージョンのみ
    - 書き戻しをサポートするセル

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. OfficeConnect のリボンで "ライトバック"をクリックします。
   OfficeConnect によってレポートがリフレッシュされ、編集可能なセルがリフレッシュされ、ハイライトされます。
4. 編集可能な範囲内で、編集する交差を選択します。
5. 編集して "送信"をクリックします。
   送信する前に、更新された値は異なる色で表示されます。送信すると、選択した範囲がリフレッシュされ、最新の更新が反映されます。 値が異なる色で表示されなくなりました。
6. (任意)。"ユーザー設定の > 色"で、以下のデフォルトの書き戻しの色を変更します。
   - 編集可能なセル
   - 保留中の編集
   - エラー
7. (任意)。"ワークブックのプロパティ" > "一般"で、"セルをハイライトとして上書き"のデフォルト設定を変更します。

参考: レポートのラベル タイプと値

一部のラベル タイプは、すべてのレポートでデフォルトで使用できます。"レポート" ペインの要素を使用して特定のレポートを作成すると、適用された要素に基づいて追加のラベル タイプが使用可能になります。

| ラベルのタイプ | 説明 |
|---|---|
| Time | インスタンスに定義されたカレンダー。 |
| Account | GL 科目コードまたは科目名例: "3900" または "純利益"。<br><br>モデルが相対科目を有する場合、{科目反対インジケータ} ラベル タイプ値を使用してレポート内でこれらの科目を識別できます。リフレッシュすると、レポート内のすべての相対科目の横にインジケータが表示されます。セル、行、列、ワークシート、ワークブックの各ノードのインジケータも "レビュー" タブに表示されます。 |
| Level | レポートに適用される組織のフルネームまたは短縮名。<br><br>例: A 社または A 社 (完全所有)。<br><br>このラベルは、レポート データを組織別にフィルタする場合に有用です。ラベルは、データをフィルタするレベルを示します。 |
| バージョン | レポートに適用されるバージョンのバージョン名。<br><br>例: 実績<br><br>このラベルは、レポート データをバージョン別にフィルタする場合に有用です。このラベルは、データ フィルタに使用されるバージョンを示します。 |
| Currency | レポートに適用可能な通貨の通貨コードまたは通貨名。<br><br>例: USD またはアメリカ合衆国、ドル<br><br>このラベルは、レポート データを通貨でフィルタする場合に有用です。ラベルは、データのフィルタリングに使用される通貨を示します。 |
| 特性 | レポートに追加された特性要素のフルネームと短縮名。<br><br>例: 組織名と組織の短縮名 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 属性 | レポートに追加されたカスタム属性の完全名と短縮名。<br><br>例: 顧客名と顧客の短縮名 |
| コンテキスト | 時間コンテキスト名。<br><br>例: 四半期累計 |
| システム変数 | この記事の システム変数ラベル タイプ を参照してください。 |

システム変数ラベル タイプ

"システム変数" ラベル タイプには、OfficeConnect ワークブックのプロパティとローカル システム設定に基づく値が含まれます。

| ラベル タイプ値 | 説明 |
|---|---|
| ワークブック名 | レポート ワークブックのファイル名。 |
| 作成日 | レポート ワークブックの作成日 |
| 作成時刻 | レポート ワークブックの作成時間。 |
| 最終更新日 | ワークブックを最後に保存した日付。 |
| 最終更新時間 | ワークブックを最後に保存した日時。 |
| 最終リフレッシュ日 | ワークブックを最後にリフレッシュした日付。 |
| 最終リフレッシュ時間 | ワークブックを最後にリフレッシュした時間。 |
| 表示単位 | ワークブックの " 端数処理先" の 設定 (千、千など)。<br><br>例: 科目の実際の値が 1,500 で、端数処理を千単位で表示するように設定すると、レポートには値が 1,500 ではなく 1.5 と表示されます。<br><br>表示単位ラベルは「千単位」を返して、レポートが実際の値の代わりに千単位の値を表示することを示します。 |
| 繰り返し使用するレポート要素 | レポート データを複数のワークシート タブに分割する方法を決定する要素。<br><br>例: 繰り返し使用するレポート要素として組織を使用する場合、レポートには各子組織の個別のタブが表示されます。<br><br>このラベルは、繰り返し使用するレポートやタブの作成に使用される要素を示します。 |
| レポート日 (長表記) | ワークブックのプロパティおよび 2014 年 9 月 29 日の形式で指定 |
| レポート日 (数値) | ワークブックのプロパティで指定され、次の形式で指定されています。09/29/2014 |
| レポート日 (短縮) | ワークブックのプロパティおよび 2014 年 9 月の形式で指定 |
| システム日付 | コンピュータの設定による日付 |
| システム時間 | コンピュータの設定によっての時間 |

relatedlinks
概念
概念: 残高タイプと相対科目（895ページ）

例: アドホック分析のためのレポート要素の展開

この例では、"展開" オプションと "折り畳み" オプションを使用して、コンテキスト内のレポート データを探索し、アドホック分析を行う方法を説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

財務会計として アナリスト 組織レベル別に運用経費を探索する必要がある場合。経費と組織の両方でデータを展開し、経費が子組織から親にどのようにロールアップされるかを確認します。目標は、比較的高いオペレーティング コストがかかる組織に焦点を当てることです。

営業費用には以下が含まれます。

- 給与計算
- 税と福利厚生
- 事務経費
- 出張および接待
- マーケティング部門
- その他の経費

組織には以下が含まれます。

- A 社 (完全所有)
- B 社 (40% 所有)
- C 社 (所有の 80%)
- 申請の取得先会社
- Total Company (限定)

始める前に

- インスタンスで OfficeConnect を有効にします。
- 親要素と子要素の関係を理解します。
- セキュリティ:*Access OfficeConnect*

手順

1. グリッド内の列を選択します。
2. "要素" ペインで "FY 2022" を右クリックし、"選択に適用"を選択します。
3. グリッドの行を選択します。
4. "要素" ペインで、Ctrl キーを使用して以下の親要素を選択します。
    - 運用経費勘定
    - 本社組織
5. ハイライトされた親要素を右クリックして、"適用と展開"を選択します。
   "展開" ダイアログが表示されます。
6. Shift キーの使用 を選択すると、科目と組織の両方の要素が展開されます。"OK" をクリックします。
   グリッドが更新され、以下の要素の交差部分がすべて表示されます。
    - "運用経費" の直下にある子科目
    - 本社直下の子組織

   そこで、給与計算と営業の交差部分に異常に高い経費が表示されていることに気付き、この行に焦点を当てることにしました。
7. "給与" と "営業" の交差が表示される行を選択します。右クリックし、コンテキスト メニューから "OfficeConnect"、"保持のみ"を選択します。
   レポートでは、"給与" と "営業" 以外のすべての交差部分が非表示になります。さらに、この交差部分を展開し、子組織の経費がすべての営業組織からどのようにロールアップされるかを確認します。
8. "給与" と "営業" の交差が表示される行を選択します。右クリックし、コンテキスト メニューから "OfficeConnect"、"すべて展開"を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

9. "展開" ダイアログで、Shift キーを使用し、科目と組織の両方の要素を展開するように選択します。

タスクの結果

レポートには、以下のようなすべての給与関連経費の内訳が表示されます。

- 給与マーケティング
- 給与 (米国) 営業
- 給与 - 全世界営業
- 福利厚生 - マーケティング
- 福利厚生 - 米国営業
- 福利厚生 - 全世界営業

レポートを見ると、全世界営業の給与費用についてはさらに調査が必要であることが明確にわかります。

relatedlinks
概念
概念: OfficeConnect の仕組み（571ページ）
概念: レポート要素のタイプと動作（624ページ）
タスク
ステップ: アドホック分析を使用したレポートの探索（628ページ）
OfficeConnect の基本レポートの作成（639ページ）

**FAQ:** 非表示のワークシートを削除するとどうなりますか？

非表示のワークシートには、OfficeConnect レポートのメタデータが含まれます。 以下の非表示のワークシートを表示して削除すると、レポートのメタデータが削除され、OfficeConnect のワークブックが破損します。

- CrossfireHiddenWorksheet
- officeConnectSuppressions
- OfficeConnectCellHighlight

代替元帳の通貨を使用したレポート

始める前に

- Workday で代替元帳と元帳通貨のマッピングを設定します。 ステップ: 代替元帳通貨の設定を参照してください。
- OfficeConnect for Workday Financial Management (Financials) データ ソースを有効化します。OfficeConnect for Financial Management に対するテナントの設定を参照してください。
- エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール（578ページ）. 最新バージョンをインストールします。

このタスクについて

代替元帳通貨は以下の場合に使用します。

- OfficeConnect で代替元帳通貨と主元帳通貨の両方に関するレポートを作成する。
- さまざまな元帳と元帳通貨のさまざまな仕訳行セットにドリルダウンする。
- より正確な法定レポートを生成する。

レポートに適用する元帳通貨マッピングによって、レポートで使用される元帳通貨が決定されます。適用する元帳通貨がデータ モデルで定義されたレポート通貨と一致する場合、通貨換算調整 (CTA) は必要ありません。デフォルトでは、すべての OfficeConnect レポートで主元帳通貨が会社の通貨として使用されます。このデフォルトは、レポート ワークブックのプロパティで変更できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. OfficeConnect の基本レポートの作成（639ページ）
   既存のレポートを実行するか、レポートを作成します。
2. "要素 " タブで "元帳通貨マッピング" 属性を展開し、通貨マッピングを公開します。
3. 必要な通貨マッピングを目的のレポート行または列にドラッグ アンド ドロップします。
4. レポートをリフレッシュします。
5. (任意) 通貨マッピングがレポートに正しく適用されていることを確認するには、"詳細を表示" オプションまたは " レビュー" タブを使用します。

タスクの結果

例

次のタスク

新しいワークシートでのセル データの表示

始める前に

- 最新バージョンの OfficeConnect をダウンロードおよびインストールします。
- セキュリティ:*"OfficeConnect* へのアクセス " 権限

このタスクについて

モデルのコンテキスト内の新しいワークシートでセル データを表示できます。その後、新しいワークシートでデータを操作し、既存のレポートを中断することなく新しいレポートを生成できます。

例: 貸借対照表レポートでは、FY2023 と FY2024 のデータが比較されます。 2024 年でどの月の資産が最も大きく変動したかをより正確に把握する必要があります。既存のレポートを変更する代わりに、"表示基準" オプションを使用して、"資産" と "FY2024" が交差する部分のデータを分類できます。FY2024 の各期間を対応する資産科目で分類するには、以下を選択します。

- 行要素として「時間」=「2024」。
- 行を組織に展開: 期間
- 列: 科目

さらに、"資産" 列に "コスト センター階層" の要素を追加します。これで、そのコスト センター別の資産データを FY 2024 期間別に分類して表示できるようになります。

手順

1. OfficeConnect の基本レポートの作成（639ページ）.
   既存のレポートを実行するか、レポートを作成します。
2. データを抽出するセルの交差を選択します。
3. "OfficeConnect" タブで、" 探索 " グループの "表示基準"をクリックします。
4. 次の要素を選択すると、新しいワークシートまたはレポートのセル データの内訳が表示されます。
   - 行に表示する要素。
   - 行要素を展開する組織。
   - 列に表示する要素。
5. "OK" をクリックします。
   セル データのブレークダウンが新しいワークシートに生成されます。
6. (任意) 要素を追加して、新しいワークシートでデータの変更を続行します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

例

次のタスク

例: 既存の **Excel** レポート形式を使用したキャッシュ フロー レポートの作成

この例では、既存の Excel キャッシュ フロー レポート形式を使用して、OfficeConnect でキャッシュ フロー レポートを作成する方法について説明します。このトピックに関連するユース ケースについては、ユース ケース ライブラリの ユース ケース: Excel を使用した OfficeConnect キャッシュ フロー レポートの作成を 参照してください。

このタスクについて

Excel に既存のキャッシュ フロー レポート形式があります。

レポート形式には次の行が含まれます。

- 期首残高
- 営業調整の合計
- 投資調整額合計
- 資金配分調整の合計
- 純利益
- 純キャッシュ フロー
- 期末残高

レポート形式には次の列が含まれます。

- 2025 会計年度の 1 月 ~ 3 月の実績
- 2025 年 3 月の予算の What if シナリオ
- 2025 年 3 月の差異金額。
- 2025 年 3 月の差異パーセント

静的な Excel レポート形式を OfficeConnect のエレメントとリンクすることで、ライブ レポートに変換します。その後、Adaptive Planning から直接データでレポートをリフレッシュできます。

注 : モデルの設定によっては、キャッシュ フロー科目がこの例で説明されている科目と完全には一致しない場合があります。同様に、組織では、四半期や毎年などのさまざまな期間と頻度でこのレポートを生成する可能性があります。

始める前に

- モデルには以下が含まれています。
  - 実績バージョンと予算バージョン
  - 2025 会計年度の第 1 四半期の月次データ。
  - シナリオにリストされている必須キャッシュ フロー科目
- データを含まない Excel 形式の既存のキャッシュ フロー レポート形式。これをライブの OfficeConnect レポートに変換するには、既存の形式を保持しながら Adaptive Planning の属性でレポートを更新します。
- セキュリティ:*OfficeConnect* へのアクセス 権限

手順

1. Excel で、既存のキャッシュ フロー レポート形式を開きます。
2. まだログインしていない場合は、"OfficeConnect" タブをクリックして、ログインします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "要素" タブで各キャッシュ フロー科目を検索し、Excel レポートの対応するキャッシュ フロー科目の行に適用します。
    a. Excel レポートで、キャッシュ フロー科目の行を選択します。例: "全体の営業調整の合計" の行を選択します。
    b. "要素" タブで、キャッシュ フロー科目を検索します。例: "オペレーティング 調整" を検索します。
    c. 検索結果から適切なキャッシュ フロー科目を選択して右クリックし、コンテキスト メニューから "選択に適用"を選択します。例: "Operating Adjustments OfficeConnect" 要素を選択して、Excel レポートの "Operating Adjustments OfficeConnect" 行に適用します。
    d. キャッシュ フロー科目ごとにこれらのステップを繰り返します。
4. "要素 " タブから各期間を見つけ、Excel レポートの対応する期間列に適用します。
    a. Excel レポートで期間列を選択します。例: "2025 年 1 月" の列を選択します。
    b. "要素 " タブで "時間 " 要素を展開し、カレンダーとその時間層を表示します。例: DefaultTimeHierarchy 要素を展開して、階層内の年、四半期、月を表示します。
    c. 適切な時間要素を選択し、選択に適用します。例: Excel レポートの "2025 年 1 月" 列に "2025 年 1 月" の "OfficeConnect" 要素を選択して適用します。
    d. FY2025 第 1 四半期の各月に対してこれらのステップを繰り返します。
5. "要素 " タブから各バージョンを検索し、Excel レポートの対応するバージョンに適用します。
    a. Excel レポートで、バージョンのある列を選択します。例: "実績" 列を選択します。
    b. "要素 " タブで "バージョン " 要素を展開し、モデル内のさまざまなバージョンを表示します。
    c. 適切なバージョン要素を選択し、選択に適用します。例: "実績の OfficeConnect" 要素を選択して、Excel レポートの "実績" 列に適用します。
    d. 予算バージョンについてこれらのステップを繰り返します。
6. ラベルを追加して月単位の期間を表示します。
    a. Excel レポートで、期間ラベルを表示するセルを選択します。例: Excel の期間ラベルが現在表示されているセルを選択します。
    b. OfficeConnect のリボンで "ラベル"を選択します。"ラベル定義" ダイアログが表示されます。
    c. "時間" ラベルを選択します。
    d. "{時間表示名} " ラベル タイプ値を選択し、"ラベル式" フィールドに追加します。"OK" をクリックします。
7. ラベルを追加してバージョンを表示します。
    a. Excel レポートで、バージョン ラベルを表示するセルを選択します。例: Excel バージョンのラベルが現在表示されているセルを選択します。
    b. OfficeConnect のリボンで "ラベル"を選択します。"ラベル定義" ダイアログが表示されます。
    c. "バージョン"ラベルを選択します。
    d. "{バージョンの表示名} " ラベルのタイプ値を選択し、"ラベル式" フィールドに追加します。"OK" をクリックします。
8. "リフレッシュ"をクリックします。

### タスクの結果

レポートが Adaptive Planning にリンクされ、モデルの最新のキャッシュ フロー データが表示されます。金額とパーセントの差異の列には、引き続き Excel の計算が使用され、最新の数値に基づいた差異データが表示されます。

### 次のタスク

新しい期間を追加したり、既存の期間を置き換えたりすることで、OfficeConnect のキャッシュ フロー レポートを随時更新し、リフレッシュして Adaptive Planning の最新データを表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## OfficeConnect レポートの設定とプロパティ

### ステップ: ゼロと空白の管理

データがない行またはゼロの行または列を、レポートでどのように表示または非表示にするかを制御できます。ユーザー、ワークブック、選択のプロパティを使用します。これらの設定は以下のとおりです。
OfficeConnect 優先順位ルール

デフォルトでは、 OfficeConnect 次の場合、レポートにはゼロが表示されます。

- 対応するシートのセルに値が入力されていません。
- データにクロスセクションは存在しません。これは、科目の時間設定が列の時間設定より粗い場合に発生します。例: 列が週単位のデータを表示している場合、科目のデータは月単位のものになります。科目には週単位のデータがないため、空白で表示されます。
- ワークシートの対応するセルに入力された値がゼロである。

実際に入力されたゼロが原因でゼロのみが表示されるように、デフォルトを変更できます。

注： Adaptive Planning にリンクされたデータの範囲内では、Excel の "非表示" 機能を使用して、行または列を手動で非表示にできます。これらの行と列は、すべてゼロが含まれている場合 のみ、 "ゼロと空白の非表示" 機能の影響を受けます。

### すべてのワークブックでゼロと空白の定義を実行

ユーザー設定によりデフォルト値が定義されます OfficeConnect ワークブック プロパティ

ユーザー設定のデフォルトを変更するには:

1. "ユーザー設定"を選択します。
2. "データのないセルにゼロを表示" オプションの横にあるチェックボックスをオフにします。新しいワークブックのプロパティでは、このデフォルトがすべて継承されます。

### 特定のワークブックでのゼロと空白の定義

特定のワークブックのユーザー設定を上書きするには、次のようにします。

1. "ワークブックのプロパティ">"形式"を選択します。
2. クリアするか、"データのないセルにゼロを表示" オプションを選択します。

このチェックボックスをオンにした場合、レポートでは以下の場合にすべてのケースでゼロが表示されます。

- 入力値がゼロである。
- 値が入力されていません。
- 交差部分にはデータがありません。

チェックボックスをオフにすると、以下の場合にレポートが空白で表示されます。

- 値が入力されていません。
- 交差部分にはデータがありません。

### ワークブックの表示オプションの定義

レポートでワークブックのゼロと空白の非表示にする方法を表示および変更するには、以下の手順に従います。

1. 以下から OfficeConnect リボンで "ワークブックのプロパティ" > "形式"を選択します。
2. "行の表示" および "列の表示"でさまざまなオプションを選択またはクリアします。
3. "OK" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ゼロと空白の非表示または表示

ワークブックで空白とゼロを表示し 、 OfficeConnect リボン

このボタンを使用すると、すべてゼロ、空白、またはその両方を表示する行または列が非表示になります。ゼロと空白を非表示にするには、このボタンを選択します。もう一度選択すると、ゼロと空白が再び表示されます。

ボタンは以下に基づいて機能します。

- ワークブックのプロパティで選択した行表示オプションと列表示オプション。
- "データのないセルではゼロを表示"のユーザー設定

行と列の表示オプションの定義

レポートの特定の行と列の選択プロパティは、ワークブックのプロパティを上書きします。レポートでゼロと空白の非表示にする方法を表示または変更するには、以下の手順に従います。

1. 1 つ以上の行または列を選択します。
2. "設計 " グループで "選択プロパティ" を選択します。 。
3. さまざまなオプションを選択またはクリアします。
4. "OK" をクリックします。

ワークブックのプロパティは、選択のプロパティと組み合わせて使用できます。

例: ワークブック プロパティを設定してすべてゼロですべての列を非表示にし、選択プロパティを使用して例外を指定し、選択した特定の列をすべてゼロで表示することができます。

ステップ: レポート日の設定

絶対日付と相対日付

時間要素または時間要素のセットを "レポート" ペインからワークシートで選択した行または列にドラッグします。これらの時間要素を絞り込み、レポートの基準となる 日付であるレポート日を基準に時間要素が絶対であるか相対であるかを指定することで、定期的なレポート作成を自動化します。

レポート日が変更されても、 絶対日 は常に同じです。相対日付　は、レポート日を変更すると更新されます。

例: レポート日付が 2014 年 10 月 1 日のレポートを設計します。次に、時間要素を適用して、科目データが 2014 年 8 月および 9 月のものであることを示します。これらが絶対日付である場合、時間要素は、レポート日付を 2014 年 12 月 1 日に変更した場合でも、常に「2014 年 8 月」および「2014 年 9 月」と表示されます。

ワークブックのプロパティのレポート日を基準にして新しい時間要素を作成するオプションを選択した場合、時間要素は "-2 か月"、"-1 か月" のように反映されます。この場合、レポート日付を 2014 年 12 月 1 日に変更すると、時間要素によって 2014 年 10 月および 2014 年 11 月のデータが動的に取得されます。

レポートは設定することで、後続の期間にわたって簡単に再利用できます。

例: 特定のタイプのレポートを毎月または四半期ごとに生成する場合、相対日付で設定します。すべての日付は、ワークブックに設定されたレポート日からの相対的な日付になります。新しい期間のワークブックを更新するには、レポート日を変更してからレポートをリフレッシュします。 OfficeConnect 新しいレポート日を基準にして、指定された日付のデータを取得します。

注 : 相対的な日付を使用して、ワークシートで「Q3-FY14」などの会計期間を示すラベルを定義できます。レポート ラベルを追加するを参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

特定のレポートでは絶対日付、別のレポートでは相対日付、さらに別のレポートでは絶対日付と相対日付の組み合わせが必要になる場合があります。このセクションでは、新規または既存のレポート、既存の時間要素、新規のレポートにおいて日付タイプを変更する方法について説明します。

### レポート日とデフォルトの日付タイプを指定

ワークブックを作成する際のデフォルトでは、時間要素はレポート日を基準としています。ほとんどの時間要素を絶対にするには、"レポート日を基準として新規の時間要素を作成" をオフにします。このデフォルトには例外を作成できます。また、レポートには絶対日付と相対日付を混在させることができます。

ワークブック内のレポートに新しい時間要素を適用すると、日付タイプが変更されます。既存の時間要素は変更されません。既存の時間要素を変更するには、この記事の 「絶対および相対日付の適用」を 参照してください。

ワークブック内の複数のワークシートにまたがる場合でも、1 つのワークブックに指定できるレポート日は 1 つだけです。

既存のワークブックでレポートの日付または日付タイプを変更するには、以下の手順に従います。

1. "帳簿" グループで "ワークブックのプロパティ"を選択します。
2. "レポート日" フィールドに、必要なレポート日を入力または選択します。デフォルトでは、これはレポートが作成された日付です。レポート日は、相対日付を使用している場合は特に重要です。時間要素を絶対から相対に変更する前に、レポート日を設定してください。
3. "レポート日を基準にして新しい時間要素を作成"をオンまたはオフにします。デフォルトでは、時間要素がレポート日を基準としていることを示します。レポートで最も使用すると予想される日付タイプに基づいて選択します。
4. "OK" を選択します。

### 絶対および相対日付の適用

絶対時間要素と相対時間要素の両方を同じレポートに適用できます。絶対日付タイプを設定し、必要に応じて時間要素に適用できます。同様に、日付タイプを「相対」に変更して時間要素に適用すると、レポート日を基準にした日付タイプを変更できます。

個々の時間要素の日付タイプを変更するには、レポートから既存の時間要素を削除し、ワークブックのプロパティで設定された日付タイプを採用するために再適用します。

重要 : 時間要素を絶対から相対に変更する前に、ワークブックのプロパティでレポート日を設定します。

既存の時間要素の日付タイプを変更するには、次のようにします。

1. 既存の時間要素を含む行、列、またはセルを選択します。たとえば、時間要素がセルに適用される場合、グリッドでそのセルを選択します。
2. "レポート" ペインで "レビュー" タブを選択します。"レビュー" ペインには、選択した行、列、またはセルの時間要素を含むメタデータが表示されます。
3. 行、列、またはセルの時間要素のメタデータ行を右クリックして、"絶対に切替" または "相対に切替"を選択します。たとえば、時間要素がセルに適用される場合、"セルの下の時間" のメタ データ行を右クリックします。
4. "リフレッシュ" を選択し、時間変更の結果を確認します。

### ステップ: 端数処理のデフォルトの設定

新しいワークブックの端数処理は、デフォルトで千単位に設定されます。セルでは、100,000 は 100、1,000 は 1、100 は .1 と表示されます。端数処理を使用してデータを読みやすくします。"ユーザー設定"、"ワークブックのプロパティ"、または "選択プロパティ" で端数処理を設定します。これらの設定は以下のとおりです。 OfficeConnect 優先順位ルール

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### ユーザー設定の端数処理デフォルトの変更

"ユーザー設定" を使用して、新しいワークブックの端数処理のデフォルトを変更します。アクティブなワークブックは変更されません。アクティブなワークブックの端数処理のデフォルトを変更するには、"ワークブックのプロパティ" を使用します。

1. 以下から "ユーザー設定" を選択します。 OfficeConnect リボン タブ
2. "丸め 先" ドロップダウンで、丸め単位を選択します。ワークブックの値に端数処理を適用しない場合は、"端数処理なし"を選択します。
3. "OK" をクリックします。

選択した端数処理のデフォルトは、ワークブックまたは選択のプロパティを変更するまで、作成した新しいワークブックすべてに適用されます。

### ワークブックの端数処理プロパティの変更

"ワークブックのプロパティ" を使用して、現在またはアクティブなワークブックの端数処理のデフォルトを変更します。ユーザー設定は変更されません。

1. 以下から "ワークブックのプロパティ" を選択します。 OfficeConnect リボン タブ
2. "形式 " タブで、"丸め先 " ドロップ ダウンの値をクリックします。
3. 端数処理の単位を選択します。ワークブック内の値に端数処理を適用しない場合は、"端数処理なし"を選択します。
4. "OK" をクリックします。
5. "リフレッシュ"を選択します。ワークブックに複数のワークシートがある場合、"リフレッシュ" > "すべてのシート"を選択します。端数処理の単位の設定はワークブック全体に適用されます。複数のワークシートがある場合は、すべてのワークシートを同時にリフレッシュすることをお勧めします。

### 列、行、またはセルの端数処理の禁止

"選択プロパティ" を使用して、特定の列、行、セルに対するワークブックの設定を上書きします。

例: 株式ごとの支給などの特定のタイプの数値を除き、レポート内のすべての数値を端数処理する場合は、例外を作成します。

1. ワークブックの端数処理単位の設定を例外とする行、列、またはセルを選択します。
2. "選択  プロパティ"を選択します。
3. "端数処理しない"を選択します。
4. "OK" を選択します。行、列、またはセルのデータは四捨五入されません。

必要に応じて、端数処理されていない数値にラベルを追加して、これらの値がレポートの一般的な端数処理設定の例外であることを明確にします。

### デフォルト通貨を設定

通貨はワークブックのプロパティであると同時に要素です。OfficeConnect のレポートでは、以下のようになります。

- 通貨要素を明示的に適用すると、"レビュー" タブの "要素"に表示されます。
- 通貨要素を明示的に適用しない場合、ワークブック プロパティの通貨設定に基づいて暗黙的に適用されます。"レビュー" タブにイタリック体で表示され、ソース情報がかっこ内に含まれます。

  例: Planning データ ソース: 通貨 = *CAD* - カナダ、ドル *(*組織*)*

  例: ファイナンシャル マネジメント データ ソース: 通貨 = *USD*- 米国ドル *(*モデル デフォルト*)*

デフォルト通貨を上書きするには、次のいずれかを行います。

- ワークブックのプロパティの通貨設定を変更します。
- 通貨要素をレポートの行、列、フィルタ、またはセルに適用します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

通貨のデフォルトと要素は優先順位のルールに従います。参照 概念: デフォルトのタイプと優先順位ルール（660ページ）。

通貨ワークブックのデフォルト

"組織通貨" と "社用通貨" の 2 つの通貨のデフォルト オプションがあります。

組織通貨

- レポートでは、組織要素に関連付けられた通貨を使用します。
- レポートに組織要素を追加しない場合、レポートではデフォルトの組織とそれに付随する通貨が使用されます。
- 組織要素を追加すると、レポートにその組織の要素の "通貨" が追加されます。

社用通貨

- レポートでは、本社に関連付けられた通貨を使用します。
- レポートに組織を追加した場合、データは引き続き同じ通貨で表示されます。

通貨デフォルトの変更

レポートで使用する通貨を選択します。

1. "ワークブックのプロパティ を選択します。
2. "一般 " タブで "組織 通貨" または "社用通貨"を選択します。
3. "OK" を選択します。

通貨要素

レポートのいずれかの部分に通貨要素を追加すると、レポートには追加した通貨が表示され、デフォルト値が上書きされます。通貨要素を理解するを参照してください。

**OfficeConnect** におけるリンクされているデータの表示

以下のリンクされているセルの ボタンを選択します。 OfficeConnect タブ リボン Adaptive Planning。デフォルトでは、次の値を含むすべてのセル: Adaptive Planning データは青でハイライトされ、すべてのデータは Adaptive Planning ラベルは緑色でハイライトされています。ハイライトをオフにするには、"リンクされているセル" を再度選択します。

注： レポート データの行と列を追加する場合は、"リンクされているセル" をオフにすることをお勧めします。"リンクされているセル" を選択すると、新しい行または列も、にリンクされていなくてもハイライトされます。 Adaptive Planning。

ハイライトの色の変更

1. "ユーザー 設定"を選択します。
2. "色" タブ を選択します。
3. "要素" ドロップダウンで、以下の異なる色を選択します。 Adaptive Planning データ セル
4. "ラベル" ドロップダウンで、以下のセルの別の色を選択します。 Adaptive Planning ラベル
5. "OK" を選択します。

注： その他のユーザーには表示される Adaptive Planning セルの色 (ユーザー設定で定義された色)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

概念: バージョンと組織のデフォルト

バージョンと組織のデフォルト値は、モデルによって異なります。これらの両方の要素は、インスタンスとユーザー ID に基づいてレポートに適用されます。次のデフォルト値は変更できません: OfficeConnect が、レポートに要素を追加することでオーバーライドできます。

組織のデフォルト値

デフォルトの組織は、ユーザー ID がアクセスできる最高組織です。同じ階層内の複数の組織へのアクセス権がある場合、レポートではセルの組織データが組み合わされます。

組織の要素をフィルタ、列、行、またはセルに追加すると、レポートのそのセクションのデフォルト値がオーバーライドされます。

複数の通貨がある場合、" デフォルト通貨"に応じて、通貨のデフォルトが組織に関連している可能性があります。通貨要素を理解するを参照してください。

バージョンのデフォルト

デフォルト バージョンは、モデルのすべてのユーザーに対するデフォルト バージョンです。これはインスタンスの "管理" セクション内で設定します。組織と同様、フィルタ、列、行、セルにバージョン要素を追加すると、レポートのこれらのセクションのデフォルト値がオーバーライドされます。

たとえば、1 つの列にのみバージョンを追加した場合、その列のセルにはそのバージョンのデータのみが表示されます。残りの行とセルには、デフォルト バージョンのデータが表示されます。ワークブックのフィルタにバージョンを追加してフィルタを有効にすると、ワークブックにはデフォルトの代わりにそのバージョンのデータが表示されます。

デフォルトのバージョンと組織の検索

1. ワークシート上の任意のセルを選択します。
2. "レポート" ペインで " レビュー" タブを選択します。
3. "ユーザー デフォルト"を検索して展開します。
4. "要素" を展開し、組織とバージョンについてリストされているデフォルトを確認します。

デフォルト バージョンを検索する別の方法

1. にログインします Adaptive Planning。
2. メイン ナビゲーション メニューから "シート"を選択します。
3. 画面の右上隅に、ドロップダウンにデフォルト バージョンが表示されます。ドロップダウンをクリックすると、デフォルト値が太字で表示されます。

概念: デフォルトのタイプと優先順位ルール

OfficeConnect はレポートでデフォルトを使用しますが、そうでない場合があります。デフォルトを理解することで、レポートに表示されるデータの分析と操作に役立ちます。これらのデフォルトは、"ユーザー設定"、"ワークブックのプロパティ"、"選択プロパティ" で変更できます。OfficeConnect ワークシートにフィルタおよび要素を追加することで、デフォルトを上書きすることもできます。

これらの変更はいずれも他の変更と競合する可能性があるため、OfficeConnect レポートは優先順位のルールに従います。これらのルールにより、データを表示する際にどの要素、設定、プロパティに従うかがレポートに指示されます。

デフォルト タイプ

デフォルト値は以下に基づきます OfficeConnect 設定とプロパティ 、またはモデルの構造

間隔 OfficeConnect レポートのデフォルトは次のとおりです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| デフォルト値としての基準 OfficeConnect 設定とプロパティ | モデルに基づくデフォルト要素 |
| --- | --- |
| "設定" と "プロパティ" の デフォルト値は、データよりもレポートの表示に影響します。ユーザー ID、ワークブック、ワークブックのさまざまな部分 (列、行、セル) に設定できます。<br>• 端数処理<br>• 空白とゼロ<br>• Adaptive Planning セル<br>• 通貨* | 要素の デフォルト値はデータに影響を及ぼし、ワークシートに追加する要素と同じように機能します。これらはワークシートには表示されませんが、"レビュー" タブには以下のデフォルト要素が表示されます。<br>• バージョン<br>• 組織 (組織)<br>• 通貨* |

*通貨はワークブックのプロパティとオンライン モデルの両方に基づく要素のデフォルト値であるため、両方のタイプとして表示されます。

設定、プロパティ、要素の優先順位ルール

両方のデフォルト タイプは、同じ優先順位ルールに従っています。

- セルのオーバーライド行
- 行のオーバーライド列
- 列のオーバーライド ワークシート
- ワークシート フィルタによるワークブック フィルタのオーバーライド
- ワークブックのプロパティにより、ユーザー設定とレポーティング要素が上書きされる

セルに追加されたプロパティと要素は、レポート上の他のすべてのアイテムよりも優先されます。

OfficeConnect レポート内のデータ ポイントの デフォルトおよび追加された要素をチェックして 、データのソースを把握できます。

参考: ユーザー、ワークブック、選択のプロパティ

"ユーザー設定"

知るべきこと

- ユーザー ID に接続されている。
- これらは、作成する新しいレポートのデフォルトになります。アクティブなワークブックには適用さ れません 。
- 開いた OfficeConnect ワークブックには、この設定が維持されます。
- ワークブックのプロパティが異なる場合は、ユーザー設定がオーバーライドされます。

注 : レポートを他のユーザーと共有すると、自分の設定ではなく、他のユーザーのユーザー設定がワークブックに適用されます。表示内容を他のユーザーにも表示したい場合は、レポート ワークブックのプロパティを設定します。

"ワークブックのプロパティ"

知るべきこと

- これは、後で作成する新しいワークブック ではなく 、アクティブな OfficeConnect ワークブックに接続されています。
- これらの設定は、自分の設定を含むすべてのビューアーのユーザー設定 をオーバーライドします 。レポートの表示方法を調整するには、常にワークブックのプロパティを変更します。
- それらに加えた変更は、他のビューアーに対してもアクティブなままです。
- ワークブックへのアクセス権があるすべてのユーザーがこのプロパティを変更できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

注 : ビューアーのユーザー設定によってレポートの表示を制御したい場合を除き、作成したレポートごとに "ワークブックのプロパティ" を使用します。

選択プロパティ"

知っておく必要があること:

- グラフが行、列、またはセルに接続されている。
- 選択のワークブック プロパティ が上書きされます 。
- セルの選択プロパティは、行と列の選択プロパティをオーバーライドします。
- 行のオーバーライド列の選択プロパティの選択プロパティ。

参考: ユーザー設定フィールド

"ユーザー設定" と "ワークブックのプロパティ" の詳細を表示し、アクション関連の指示にリンクします。

| 設定フィールド | 定義 | 上書き可能 |
|---|---|---|
| 一般 | | |
| 表示単位 | レポートで以下の単位に丸めるように指示します。<br>• 数千<br>• (デフォルト) 千<br>• 1 万<br>• 数万<br>• 百万<br>• 1,000 万<br>• 億<br>• 請求<br>• 端数処理なし: 正確な数値を表示 | はい (ワークブックと選択のプロパティに基づく) |
| データのないセルにゼロを表示 | データのないセルを表示する方法をレポートに示します。<br>• データが存在しない場合にゼロを表示する場合に選択します。<br>注 : "展開" ダイアログ内の "データのない行を除外" 設定により、実際に金額がゼロと評価される行が保持されます。ゼロと表示されるが実際にはデータのない行がフィルタリングされます。<br>• データがない空白のセルを表示するには、オフにします。<br>デフォルト: オン | はい (ワークブックのプロパティを使用) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 設定フィールド | 定義 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| セキュリティ ブロックの結果テキスト | 保存するデータの代わりに表示する内容をレポートに指示します。<br><br>"ユーザーの 保存時にデータを常にクリア" 設定をオンにした場合、レポートではデータがここに入力したテキストに置き換えられます。このセキュリティ テキストは、ユーザーがサインインして "リフレッシュ"を選択するまで表示されます。 | はい (ワークブックのプロパティを使用) |
| リフレッシュ エラーを表示 | デフォルト: 該当なし<br>選択して "リフレッシュ"をクリックすると、関連セルを参照する現在のエラーのリストが表示されます。 | いいえ |
| リフレッシュ警告を表示 | デフォルト: オン。<br>オンにすると、"リフレッシュ"をクリックするたびに、レポートへの参照を含む警告のリストが表示されます。 | いいえ |
| リフレッシュの情報メッセージを表示 | デフォルト: オン。<br>選択すると、"リフレッシュ"をクリックするたびに情報メッセージのリストが表示されます。 | いいえ |
| データのクリア | デフォルト: オン。<br>• "保存時にデータを常にクリア" を選択すると、 機密データがクリアされ、ユーザーが保存するたびにセキュリティ ブロックの結果テキストに置き換えられます。<br>• "保存時にデータをクリアしない" を指定した場合、 機密データがクリアされることはなく、ユーザーが保存したときにセキュリティ ブロックの結果テキストに置き換えられることはありません。 | はい (ワークブックのプロパティを使用) |
| リフレッシュに更新グループを含める | レポートのリフレッシュ時にすべての要素グループを自動的に更新するには、このチェックボックスをオンにします。<br><br>デフォルト: オン。 | はい (ワークブックのプロパティを使用) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 設定フィールド | 定義 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| サインイン時にテナントの選択を許可 | このチェックボックスをオンにすると、ユーザーが Workday からサインインするときにテナントを選択できるようになります。この設定は次の場合に適用されます。<br>• Workday Single Sign On (SSO) に複数のテナントが設定されている。<br>• 財務管理と Adaptive Planning の両方のデータソースで OfficeConnect を使用する必要があります。<br>• ID プロバイダにより自動的にサインインする。 | いいえ |
| "色" タブ | | |
| 要素 | 要素の交差部分のセル データをハイライトします。 | いいえ |
| ラベル | Adaptive Planning ラベルをハイライトします。 | いいえ |
| 書戻しの色<br>• 編集可能なセル<br>• 保留中の編集<br>• エラー | • 書戻しモードで編集可能なセルの色の選択を提供します。<br>• 書戻しモードで保留中の編集の色を選択できます。<br>• 書戻しモードのエラーに色の選択を提供します。 | いいえ |
| "探索" タブ | | |
| 展開/折り畳み | 展開設定を選択する。 | |
| 行または列の展開または折り畳み時にデータをリフレッシュ | • デフォルトでは、以下のデータがリフレッシュされます。<br>  • 展開された子行または列。<br>  • 折り畳み時の親行または親列 | はい (ワークブックのプロパティを使用) |
| 展開オプションを常に表示 | デフォルトでは、複数の要素を展開すると、常に "展開" ダイアログが表示されます。このオプションを選択すると、単一の要素を展開するたびに "展開" ダイアログが表示されます。その後、ダイアログから展開設定を定義できます。 | いいえ |
| 新規展開のデフォルトを選択 | この設定は、展開した新しいすべての要素にのみ適用されます。 | |
| 展開時に未分類要素を除外 | このオプションを選択すると、未分類および "限定" の要素が展開から除外されます。デフォルトでは、展開には以下の要素が含まれます。 | はい ("展開" ダイアログから)。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 設定フィールド | 定義 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| 展開時に相殺消去要素を除外 | 相殺消去要素を展開から除外するには、このオプションを選択します。デフォルトでは、展開には以下の要素が含まれます。<br><br>注：このオプションは、財務管理データ ソースでのみ使用できます。 | "展開" ダイアログから "はい" |
| 行:<br>• 上の展開<br>• 下を展開 | 親を基準にした行の展開の方向を選択します。デフォルトでは、行は親要素の下に展開されます。 | "展開" ダイアログから "はい" |
| 列:<br>• 左に展開<br>• 右に展開 | 親を基準とした列の展開の方向を選択します。デフォルトでは、列は親要素の左側で展開されます。 | "展開" ダイアログから "はい" |
| リフレッシュ | データのリフレッシュ時に行または列を最新の要素構造に更新する<br><br>デフォルトでは、"要素" タブと一致するように親子階層がリフレッシュされます。 | はい (ワークブックのプロパティを使用) |

参考: ワークブックと選択プロパティのフィールド

ユーザー設定とワークブックのプロパティの詳細、およびアクション関連の指示へのリンク

注：ワークブックまたは選択プロパティに加えた変更を保存するには、"リフレッシュ" をクリックします。

ワークブックのプロパティ

| フィールド | 説明 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| "一般" タブ | | |
| レポート日 | 日付を選択します。<br><br>レポートの時間要素が相対的な場合、レポートは選択した日付に基づいてデータをシフトします。<br><br>デフォルト: 現在日。 | いいえ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| レポート日を基準にした新しい時間要素の作成 | 新しいレポートの場合:<br><br>このチェックボックスをオンにすると、レポートに追加する時間要素がレポート日と相対になります。時間要素はレポート日付に基づいてシフトします。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、レポートに追加する時間要素がレポート日とともにシフトしないようになります。<br><br>既存のレポートの場合:<br><br>このチェックボックスをオンにすると、レポートに追加した新しい時間要素のみがレポート日付に関連するようになります。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、追加した新しい時間要素がレポート日とともにシフトしないようになります。<br><br>デフォルト: オン | いいえ |
| 通貨設定 | ワークブックのデフォルト通貨として "組織通貨" または "社用通貨" を選択します。 | 通貨要素別にはい |
| データのクリア | "保存時に常にデータをクリア" を選択すると、現在のワークブックの機密データが保存時にデフォルトのセキュリティ テキストに置き換えられます。デフォルトのセキュリティ テキストは、ユーザー設定で設定できます。<br><br>保存するたびに現在のワークブックの機密データが デフォルトのセキュリティ テキストで置き換えられないようにするには、"保存時にデータをクリアしない" を選択します。 | いいえ |
| リフレッシュに更新グループを含める | レポートのリフレッシュ時にすべての要素グループを自動的に更新するには、このチェックボックスをオンにします。<br><br>デフォルト: ユーザー設定を継承します。 | いいえ |
| ライトバックの対象セルを強調表示 | "書戻し" モードを開始すると、グリッド内の編集可能なセルの交差部分がすべてハイライトされます。デフォルトでオンになっているオプション。 | いいえ |
| "フィルタ" タブ | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| フィルタを有効化 | このチェックボックスをオンにして、ワークブック データをフィルタします。アクティブ化されたワークブック フィルタは、チェックがオンになっている場合にのみデータをフィルタリングします。<br><br>フィルタを非アクティブにするには、チェックボックスをオフにします。データがフィルタリングされていない。 | はい ("レポート" ペインのワークシート フィルタにより)。 |
| 検索 | 単語や語句を入力してフィルタのリストを絞り込みます。 | 該当なし |
| <br> | クリックすると、選択したワークブック フィルタ (チェックマークがオン) のみがウィンドウに表示されます。<br><br>クリックすると、チェックボックスがオンになっているかどうかに関係なく、すべてのワークブック フィルタが表示されます。 | 該当なし |
| | クリックすると、フィルタとして追加できるすべての要素のリストが表示されます。 | はい ("レポート" ペインのワークシート フィルタにより)。 |
| ワークシートとワークブック フィルタで不明な要素を表示 | 要素に対応する不明な要素をユーザーが表示できるようにするには、このオプションを選択します。<br><br>• にはアクセスできません。<br>• 特定の有効日の階層に存在しない演算子。 | |
| "フォーマット" タブ | | |
| 表示単位 | レポートで以下の単位に丸めるように指示します。<br><br>• 数千<br>• (デフォルト) 千<br>• 1 万<br>• 数万<br>• 百万<br>• 1,000 万<br>• 億<br>• 請求<br>• 端数処理なし: 正確な数値を表示 | はい (選択プロパティにより定義) (行、列、またはセルによって定義) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| データのないセルにゼロを表示 | データのないセルを表示する方法をレポートに示します。<br>• データがないゼロを表示する場合に選択します。<br>注："展開" ダイアログ内の "データのない行を除外" 設定により、実際に金額がゼロと評価される行が保持されます。ゼロと表示されるが実際にはデータのない行がフィルタリングされます。<br>• オフにすると、データが存在しない空白の表示になります。<br>デフォルト: オン | いいえ |
| すべてゼロの行を非表示 | 行のすべてのセルがゼロの場合、リボンで "ゼロと空白の を選択すると、行が非表示になります。<br>"データのないセルではゼロを表示する"を選択した場合、すべて空白の行もこのオプションによって非表示になるため、すべて空白の行も非表示になります。 | はい (選択プロパティにより定義) (行、列、またはセルによって定義) |
| データのない行を非表示 | 行のすべてのセルが空白の場合、リボンで "ゼロと空白の を選択すると、行が非表示になります。<br>"データのないセルでゼロを表示"を選択した場合、このオプションを選択しても、ゼロが表示されるため、それらの行は非表示になりません。 | はい (選択プロパティにより定義) (行、列、またはセルによって定義) |
| すべてゼロの列を非表示 | リボンで "ゼロと空白の非表示 )" をクリックすると、すべてのセルがゼロの場合には列が非表示になります。<br>"データのないセルではゼロを表示"を選択した場合、このオプションによってすべて空白の列も非表示になります。 | はい (選択プロパティにより定義) (行、列、またはセルによって定義) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| データのない列を非表示にする | リボンで "ゼロと空白の非表示 " をクリックすると、すべてのセルが空白の場合、列が非表示になります。<br><br>"データのないセルではゼロを表示"を選択した場合、このオプションによってすべて空白の列も非表示になります。 | はい (選択プロパティにより定義)<br>(行、列、またはセルによって定義) |
| リフレッシュ時に列を自動調整 | より大きな数値に対応するために列を拡張する場合に選択します。<br><br>オフにすると、設定した幅で列が残ります。<br><br>この設定はヘッダー行や列には適用されません。これらは手動で調整して正しく表示することができます。<br><br>デフォルト: オン | いいえ |
| "探索" タブ<br>展開/折り畳み | • 行または列の展開または折り畳み時にデータをリフレッシュ: デフォルト値はユーザー設定を継承します。このチェックボックスは、次の場合にオンにします。<br>  • 展開時に子の行または列のデータをリフレッシュします。<br>  • 折り畳んだ親行または親列のデータをリフレッシュします。 | いいえ |
| リフレッシュ | データがリフレッシュされたときに、行または列を最新の要素構造に更新します。<br><br>リフレッシュ時に "要素" ペインと一致するように親子階層を更新する場合は、このチェックボックスをオンにします。<br><br>デフォルト: ユーザー設定を継承します。 | いいえ |

選択プロパティ

| フィールド | 説明 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| 端数処理しない | ワークブックのプロパティまたはユーザー設定に従って、端数処理なしで完全な数値を表示します。 | いいえ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 | 上書き可能 |
| --- | --- | --- |
| 選択した値がすべてゼロの場合:<br><br>選択範囲にデータがない場合: | ワークブックの設定を使用する:<br><br>リボンで "ゼロと空白 " をクリックした場合、ゼロがワークブックの設定に使用されます。<br><br>行の非表示: リボンで "ゼロと空白の非表示 " ボタンをクリックした場合、すべてのセルがゼロの場合は行を非表示にします。<br><br>行の表示: リボンの "ゼロと空白の非表示 " ボタンをクリックしても、行は非表示になりません。<br>ワークブックの設定を使用する:<br>リボンで "ゼロと空白の非表示" クリックした場合、空白のワークブック設定にデフォルト設定されます。<br><br>行の非表示: リボンで "ゼロと空白の非表示 " ボタンをクリックしたとき、すべてのセルが空白の場合、行を非表示にします。<br><br>行の表示: リボンの "ゼロと空白の非表示 " ボタンをクリックしても、行は非表示になりません。 | いいえ |

## OfficeConnect for PowerPoint

### OfficeConnect for PowerPoint の開始

OfficeConnect をインストールすると、すぐに OfficeConnect for PowerPoint アドインが利用可能になります。

OfficeConnect for Excel の Workday Adaptive Planning または財務管理のデータで作成したテーブルやグラフを、Microsoft PowerPoint のスライドにリンクします。これを取締役会またはエグゼクティブ マネジメントに提出します。OfficeConnect for Excel のデータをリフレッシュすることにより、プレゼンテーション内のリンクされているテーブルやグラフを新しいデータで簡単に更新できます。

例: OfficeConnect レポートで日付を変更したり、プレゼンテーション内のリンクをすばやく更新したりできます。これにより、定期的なレポートを作成する時間が節約されます。

このセクションでは、OfficeConnect for PowerPoint を起動し、PowerPoint スライド内の OfficeConnect for Excel からテーブルとグラフをリンクし、既存のプレゼンテーションを新しいデータで更新し、前のリンクに基づいて次の期間のプレゼンテーションを更新します。

OfficeConnect for PowerPoint を起動するには、次のようにします。

1. MS PowerPoint を開始します。"OfficeConnect" タブから "ログイン" を選択します。
2. ユーザー ID とパスワードを入力します。OfficeConnect for Excel にすでにログインしている場合は、"PowerPoint に ログイン" を選択して自動的にログインします。ログインするたびに OfficeConnect によって最新バージョンがチェックされ、必要に応じてアプリケーションが更

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

新されます。インストールが正常に完了すると、OfficeConnect が OfficeConnect で起動します。PowerPoint のリボンに "OfficeConnect" タブが含まれています。

PowerPoint の "OfficeConnect" タブに含まれているコマンドはいくつかありますが、これらのコマンドはテーブルやグラフをプレゼンテーションにリンクさせるために必要なものです。PowerPoint のすべての機能は、すべてのタブで同じです。OfficeConnect for PowerPoint の使用が終了したら、" OfficeConnect " タブから "ログアウト" を 選択します。 これらの他のアプリケーションに同時にサインインしているときに OfficeConnect for PowerPoint で "ログアウト" を 選択した場合、このアプリケーションはサインアウトしません。

- OfficeConnect for Excel
- Excel Interface for Planning

名前付き範囲を使用

名前付き範囲

テーブルをリンクするには OfficeConnect Excel の場合 OfficeConnect PowerPoint の場合、テーブルを名前付き範囲として定義します。

名前付き範囲 は、Excel ファイル内のセル、行、列のユーザー定義の領域です。名前付き範囲を使用すると、その領域全体に対して操作を実行できます。

例: ワークブックのどこからでも名前付き範囲にすばやく移動できます。また、名前範囲をコピーすることもできます。 OfficeConnectExcel 形式で保存し、PowerPoint スライドでリンク付けします。

名前を指定した範囲内で、データの移動と変更、行や列の追加と削除ができます。名前が指定された範囲は、単一のオブジェクトとして整合性を維持します。Excel で名前付き範囲に加えた変更は、プレゼンテーションをリフレッシュするとすぐに PowerPoint に反映されます。

Excel オンライン ヘルプで 「名称付き範囲」 を検索すると、情報が得られます。

名前付き範囲の作成

名前付き範囲を作成するには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。

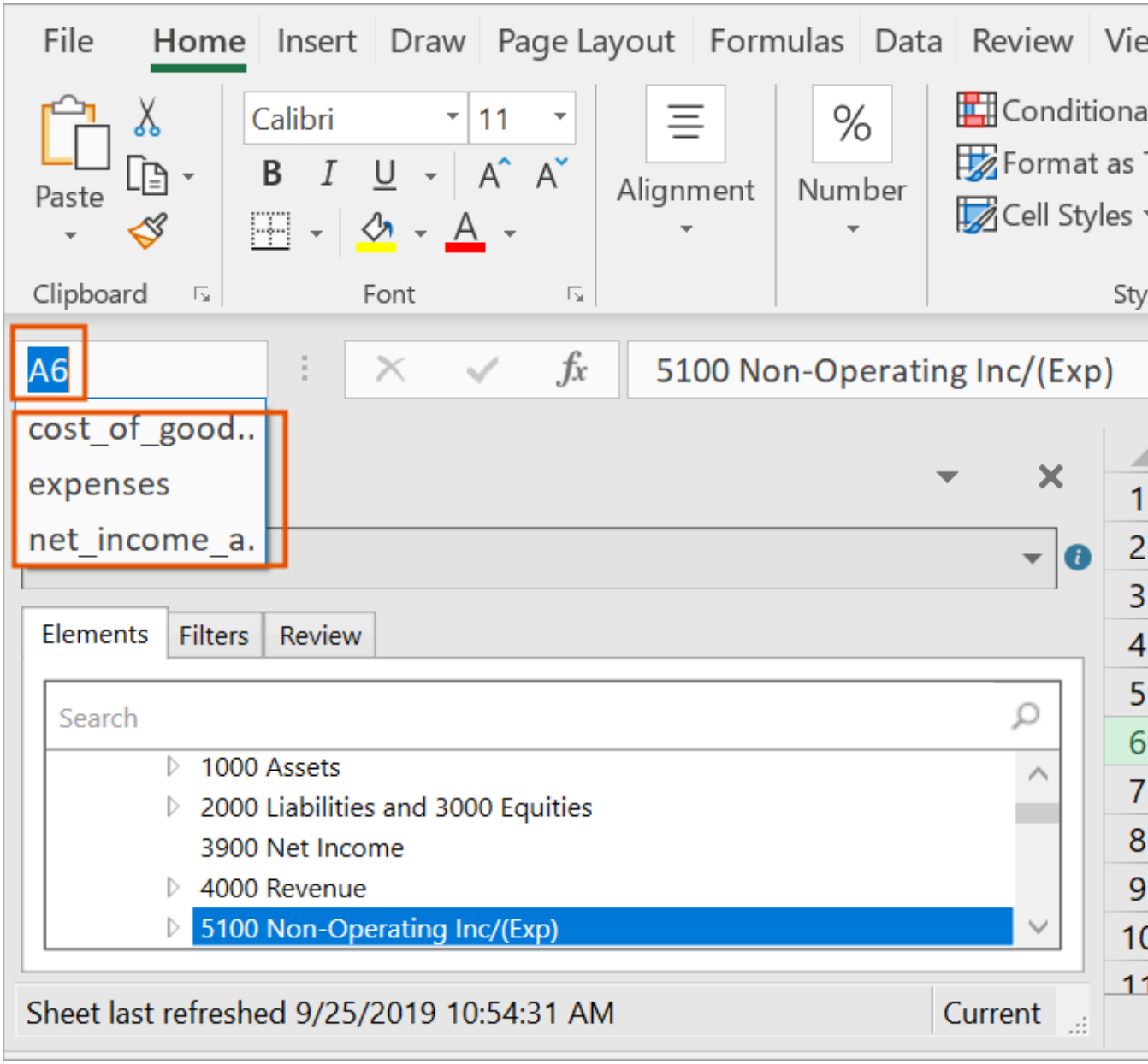
- グリッド上の領域を選択してください
- "定義名" コマンドを使用する

領域を選択して名前付き範囲を作成するには:

1. セルのセット、行、列など、範囲に含める領域を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "名前ボックス" メニューをクリックして、現在の内容を選択します。




3. この名前付き範囲に使用する名前を入力し、Enter キーを押します。名前付きの範囲が作成されます。このワークブック内の任意のシートで名前付き範囲を表示するには、"名前ボックス" メニューをクリックします。メニューで名前付き範囲を選択すると、グリッド内のその範囲の位置に移動します。

"名称の定義" コマンドを使用して名前付き範囲を作成することもできます。

"名称の定義" コマンドを使用して名前付き範囲を作成するには、次のようにします。

1. セルのセット、行、列など、名前付き範囲に含める領域を選択します。
2. リボンの "数式" タブを選択します。
3. "定義名" グループから "定義名"を選択します。
4. この名前付き範囲に使用する名前を入力します。
5. "適用範囲"で、この名前付き範囲をワークブック内の特定のワークシートから使用できるか、ワークブック全体で使用できるかを指定します。
6. "コメント"に、必要に応じてメモを追加します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

7. "参照先"で、コードがこの範囲に対して選択した領域を反映していることを確認します。グリッド内で選択するか、コードを変更して、必要に応じて訂正します。
8. "OK" をクリックします。名前付き範囲は指定したとおりに作成されます。"名前ボックス" メニューで名前付き範囲を確認できます。

### 名前付き範囲の変更

名前付き範囲を変更して、列または行を追加または削除できます。名前付き範囲は自動的に調整されます。

"名称マネージャ" を使用すると、以下のことが可能です。

- 名前の範囲の適用範囲を変更します。
- 名前付き範囲の名前を変更します。
- 名前付き範囲を削除する。

名前付き範囲を変更または削除するには:

1. リボンの "数式" タブを選択します。
2. "定義名" グループから "ネーム マネージャ"を選択します。 "氏名マネージャ" ダイアログが表示され、ワークブック内のすべての名前が付けられた範囲がリストされます。
3. 変更する名前付き範囲を選択して " 編集。名前付き範囲を削除するには、"削除" をクリックします。
4. 名前付き範囲の名前を変更します。
5. "コメント"に、名前付き範囲に関するメモを追加または変更します。
6. "参照"で、この名前付き範囲の領域を変更します。フィールドをクリックすると、範囲がグリッドに表示されます。グリッド内で選択するか、コードを変更して変更を加えます。
7. "OK" をクリックします。
8. "Name Manager" ダイアログ ボックスで "閉じる" をクリックします。名前が付けられた範囲は、指定に従って変更されます。

## **Slides** で **OfficeConnect** テーブルをリンク

リンク OfficeConnect テーブルの比較 OfficeConnect の PowerPoint プレゼンテーションの次の目的:

- オンライン インスタンスで生成されたデータを簡単に更新。
- においてテーブルのデータを形式設定する OfficeConnect Excel の場合
- の取締役会またはエグゼクティブ プレゼンテーション内のオンライン データへのリンク OfficeConnect PowerPoint 用

テーブルをリンクするプロセス OfficeConnect Excel の場合はスライドインに OfficeConnect for PowerPoint は、次の 2 つの主要なステップで構成されています。

1. リンクするテーブルを含む名前付きセルの範囲を定義します。
2. そのテーブルをコピーし、名前付きの範囲を使って PowerPoint スライドにリンクします。

名前付き範囲の使用を参照してください。

### リンク **OfficeConnect** テーブルを **PowerPoint** スライドに

でテーブルの名前付き範囲を作成した後、 OfficeConnectExcel の場合、 のテーブルをリンクする準備が整いました OfficeConnect PowerPoint 用

リンク OfficeConnect PowerPoint スライド内の Excel テーブル:

1. 開始 OfficeConnect Excel の場合、"名前ボックス" の矢印をクリックし、ドロップダウンで名前付き範囲を選択します。名前の範囲が表示され、グリッドで選択されます。
2. 名前の範囲を右クリックして、"コピー"を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 開始 OfficeConnect PowerPoint の場合は、テーブルをリンクするプレゼンテーションおよびスライドを開きます。
4. オン OfficeConnect タブの リンク グループで、"テーブルの貼り付け"を選択します。"オフィス貼り付け" コマンドの代わりに、このコマンドを使用します。"テーブルの貼り付け" コマンドを使用すると、データがリンクされ、迅速に更新できます。次へのリンクとともにテーブルがスライドに挿入されます OfficeConnect Excel の場合
5. スライド上のテーブルの位置とサイズを調整する。
6. プレゼンテーションを保存します。オープン OfficeConnect テーブルを作業するときは、PowerPoint 用の に移動し、ファイルを開きます。

   リンクされているテーブルが更新されるたびに Adaptive Planning インスタンスまたは で行った他の変更から OfficeConnect Excel の場合、PowerPoint スライド内のテーブルを簡単に更新できます。オン OfficeConnect PowerPoint の タブで、"リンク" グループの "すべてリフレッシュ" を クリックします。

**Slides で OfficeConnect グラフをリンク**

OfficeConnect for Excel からテーブルをリンクするのと同じように、インスタンスのデータに基づいてグラフをリンクできます。ワンクリックで OfficeConnect for PowerPoint のグラフを更新できます。

次の Excel グラフ タイプは、PowerPoint 用にコピーして OfficeConnect に貼り付けることはできません: ウォーターフォール、パレート、ファネル、ボックスとウィスカー、履歴、日月、ツリーマップ。

グラフのリンクはテーブルのリンクよりも迅速です。名前付き範囲を作成する必要がないからです。グラフはすでに、コピーしてリンクできる単一の個別オブジェクトとみなされます

OfficeConnect のグラフを PowerPoint スライドにリンクするには、次のようにします。

1. OfficeConnect for Excel で、リンクするグラフを右クリックし、"コピー"を選択します。
2. OfficeConnect for PowerPoint で、グラフをリンクするプレゼンテーションおよびスライドを開きます。
3. "OfficeConnect" > "Linking" > " Purchase Chart"を選択します。通常の "貼り付け" オプションの代わりにこのオプションを使用します。"グラフの貼り付け" オプションを使用すると、データがリンクされ、更新できるようになります。グラフが OfficeConnect for Excel へのリンクとともにスライドに挿入されます。
4. スライド上のグラフの位置とサイズを調整します。

これで、グラフの基になるデータがインスタンスまたは OfficeConnect for Excel で加えられた他の変更から更新されるたびに、PowerPoint スライド内のグラフをすばやく更新できるようになりました。"OfficeConnect" > "リンク" > " すべてリフレッシュ"を選択します。

ステップ: 新しいデータでのリンクの更新

ここまでで、ソース テーブルまたはグラフは とリンクされます OfficeConnect - Excel の次の場所に移動: OfficeConnectPowerPoint 用内のソース データ OfficeConnect for Excel が更新された場合、 内のリンクされているデータを更新できます。 OfficeConnect プレゼンテーションをリフレッシュする (PowerPoint)

このクイック更新ステップは、 で相対日付を使用している場合に特に強力です。 OfficeConnectExcel のレポート必要なのは、レポートの日付を変更してリフレッシュし、新しい月、四半期、またはその他の期間のレポート データを更新するだけです。これには、リンクされているテーブルやグラフのデータが含まれます。開始 OfficeConnect PowerPoint の場合は、プレゼンテーションをリフレッシュするだけで、新しい期間のレポートを作成することができます。

リンクされているテーブルとグラフの更新

プレゼンテーションをリフレッシュすると、プレゼンテーション全体のテーブルとグラフは、OfficeConnect 新しい期間の Excel レポート更新。

1. リンクされているテーブルまたはグラフを含むプレゼンテーションを開きます。
2. 選択 OfficeConnect > " すべてリフレッシュ" を選択します。
3. リンクが更新されていることを確認します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. リンクが更新されなかった場合は、ファイルを保存して閉じます。次に開いて、もう一度リフレッシュします。

相対日付 とレポート日の詳細については、絶対日付と相対日付の使用を 参照してください。

ソース ファイルの更新

リンクされている属性を移動、コピー、または名前変更した場合 OfficeConnect Excel ファイルの場合、PowerPoint でソースをすばやく変更して、レポートとプレゼンテーションを再度リンクできます。

内のリンクのソース ファイル名または場所を更新する場合 OfficeConnect PowerPoint の場合:

1. リンクを含むプレゼンテーションを開きます。
2. "ファイル" > "情報"を選択します。"情報" コマンドはデフォルトであるため、すでに表示されている可能性があります。
3. "ファイルへのリンクを編集"を選択します。
4. "リンク" ダイアログ ボックスで、更新する最初のリンクを選択します。完全なパスとファイル名を表示するには、マウスをリンクに合わせます。
5. "ソースの変更"を選択します。"ソースの変更" ダイアログ ボックスが開き、新しい場所、名前、またはコピーのレポート ファイルに移動できます。
6. 以下をダブルクリックします。OfficeConnect リンクを復元する Excel レポート ファイルのリンク リンクが新しいソースに更新され、"リンク" ダイアログ ボックスが再び表示されます。
7. 完了したら、"リンク" ダイアログ ボックスの "今すぐ更新"を選択します。新しいデータ OfficeConnect for Excel レポートが、リンクされているテーブルとグラフで更新されます OfficeConnect PowerPoint プレゼンテーション用。
8. "閉じる"をクリックします。
9. リンクされているデータを含むスライドに移動します。シートが新しい期間に更新されていることを確認します。プレゼンテーションを保存します。

リンクの接続解除

必要に応じて、次の行の間のリンクを解除できます。 OfficeConnectExcel および OfficeConnect PowerPoint 用これを行うと、テーブルまたはグラフはスライド内の静的オブジェクトのままになります。

リンクの接続を解除するには OfficeConnect Excel の場合:

1. 開始 OfficeConnect PowerPoint の場合、リンクを含むプレゼンテーションを開きます。
2. "ファイル" > "情報"を選択します。
3. "ファイルへのリンクを編集"を選択します。
4. "リンク" ダイアログ ボックスで、解除するリンクを選択します。
5. "休憩" リンクを選択します。リンク参照が "リンク" ダイアログ ボックスから削除されます。
6. "閉じる"をクリックします。

リンクが切れました。テーブルまたはグラフはスライド上でも機能しますが、 の動的データによっては更新されません。 OfficeConnectExcel の場合

## OfficeConnect for Word

### OfficeConnect for Word について

OfficeConnect for Excel のデータを Microsoft Word ドキュメントにリンクします。Word でテーブルをリンクした場合、フォーマットを変更しなくても、Excel と同様に表示できます。データは完全にリンクされています。これにより、取締役会、株主、またはエグゼクティブ マネジメント向けの定期レポートを作成する際の時間を節約できます。

数値データのほかにも、ナラティブにリンクされている「増加」や「好ましい」などの定性的な単語を自動的に更新できます。OfficeConnect for Excel からリンクしているため、ドキュメント内のリンクされたデータを迅速に更新し、後続のフロー レポートで再利用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リンクする Excel データの名前付き範囲を作成し、OfficeConnect for Excel の情報を Word ドキュメントにリンクします。リンクをレビュー、リフレッシュ、管理します。次のレポート期間に向けて、既存のリンクされているドキュメントを新しいデータで更新します。

### **OfficeConnect for Word** の開始

アドインをインストールすると、すぐに OfficeConnect for Word が使用可能になります。

OfficeConnect for Word を起動するには、次のようにします。

1. MS Word を起動します。"OfficeConnect " タブから "ログイン"を選択します。
2. Adaptive Planning のユーザー ID とパスワードを入力します。すでに OfficeConnect for Excel にサインインしている場合は、"Word に ログイン" を選択すると自動的にログインされます。ログインするたびに OfficeConnect によって最新バージョンがチェックされ、必要に応じてアプリケーションが更新されます。OfficeConnect for Word が起動し、左側の OfficeConnect リンク ペインと Word リボンに "OfficeConnect" タブが表示されます。

### ユーザー インターフェイスのナビゲート

OfficeConnect のリンク ペインには、OfficeConnect for Excel でリンクされたデータを作成および操作するために使用する " リンク詳細"、"結果の表示"、"ワークブック リンク" の タブが含まれています。OfficeConnect のリンク ペインを表示または非表示にできます。これを行うには、 "OfficeConnect " タブで、以下を選択またはクリアします。"リンク ペインを表示 " チェックボックスをオンにする。タイトル バーをドラッグすると、OfficeConnect リンク ペインを画面上の他の場所に移動することもできます。

Word リボンの "OfficeConnect" タブには、OfficeConnect for Excel ワークブックへの接続の確立と、Word ドキュメント内のリンクのリフレッシュと管理に関するコマンドが含まれています。Word の機能は、すべてのタブで同じです。

OfficeConnect for Word からサインアウトするには、"OfficeConnect" タブから "ログアウト" を 選択します。これらの他のアプリケーションに同時にサインインしているときに "OfficeConnect for Word で ログアウト" を選択した場合、アプリケーションはサインアウトしません。

- OfficeConnect for Excel
- Excel Interface for Planning

### ステップ**:** 名前付き範囲の使用

### 名前付き範囲

テーブルをリンクするには OfficeConnect Excel の場合 OfficeConnect Word の場合、テーブルを名前付き範囲として定義する必要があります。

名前付き範囲 は、Excel ファイル内のセル、行、列のユーザー定義の領域です。名前付き範囲を使用すると、その領域全体に対して操作を実行できます。強力な用途の 1 つが、ワークブック内の他の任意の場所から名前付き範囲にすばやく移動できることです。もう 1 つの用途 (このセクションで説明します) から、名前付き範囲を選択して挿入できます。 OfficeConnectExcel 形式では、 OfficeConnect- Word ドキュメント: この 2 つの間のリンクを作成します。

名前付き範囲内のデータの移動や変更、さらには行や列の追加や削除も可能で、名前付き範囲は単一オブジェクトとしての整合性を保持します。Excel で名前が付けられた範囲に変更を加えた場合、プレゼンテーションをリフレッシュするとすぐにその変更が PowerPoint に反映されます。

用途 OfficeConnect Microsoft Word を使用すると、インスタンスから生成され、 フォーマット化された簡単に更新可能なデータのコンジットを作成しています。 OfficeConnectExcel ワークブック - リンクされたデータで終了 OfficeConnect Word ドキュメントの

テーブルまたはその他のデータを からリンクするプロセス OfficeConnect Excel の場合 OfficeConnect Word の は常に、リンクするデータを含む 1 つ以上の Excel セルの名前付き範囲を定義することから始まります。これらの名前付き範囲により、2 つのアプリケーション間で情報をリンクできます。実際、Excel

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ファイルに少なくとも 1 つの名前付き範囲が設定されていない限り、この 2 つのファイルを接続することはできません。

詳細については、Excel オンライン ヘルプで "名称付き範囲" を検索してください。

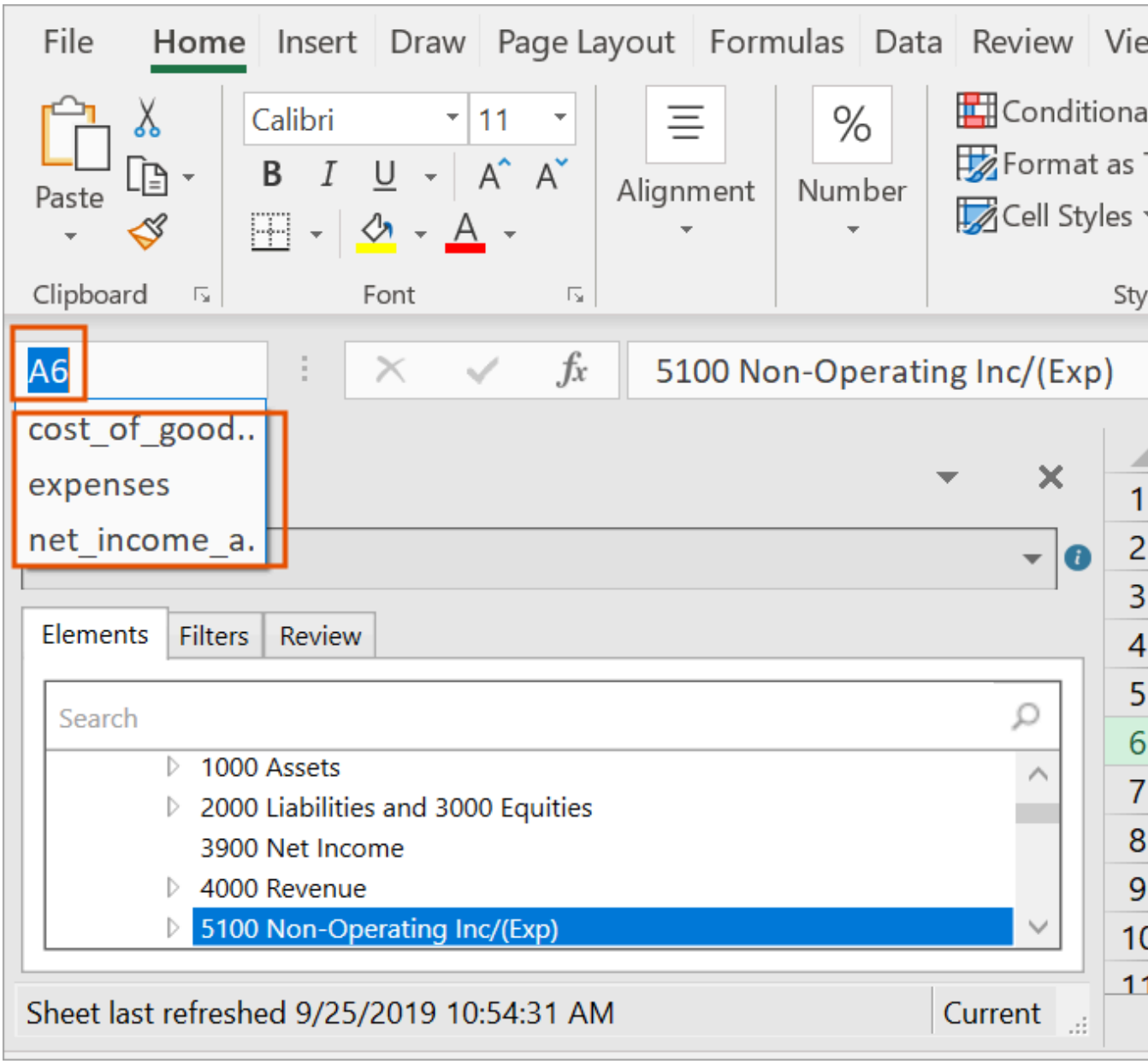
名前付き範囲の作成

名前付き範囲を作成するには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。

- グリッド上の領域を選択してください
- "定義名" コマンドを使用する

領域を選択して名前付き範囲を作成するには:

1. セルのセット、行、列など、範囲に含める領域を選択します。
2. "名前ボックス" メニューをクリックして、現在の内容を選択します。




3. この名前付き範囲に使用する名前を入力し、Enter キーを押します。名前付きの範囲が作成されます。このワークブック内の任意のシートで名前付き範囲を表示するには、"名前ボックス" メニュー

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

をクリックします。メニューで名前付き範囲を選択すると、グリッド内のその範囲の位置に移動します。

"名称の定義" コマンドを使用して名前付き範囲を作成することもできます。

"名称の定義" コマンドを使用して名前付き範囲を作成するには、次のようにします。

1. セルのセット、行、列など、名前付き範囲に含める領域を選択します。
2. リボンの "数式" タブを選択します。
3. "定義名" グループから "定義名"を選択します。
4. この名前付き範囲に使用する名前を入力します。
5. "適用範囲"で、この名前付き範囲をワークブック内の特定のワークシートから使用できるか、ワークブック全体で使用できるかを指定します。
6. "コメント"に、必要に応じてメモを追加します。
7. "参照先"で、コードがこの範囲に対して選択した領域を反映していることを確認します。グリッド内で選択するか、コードを変更して、必要に応じて訂正します。
8. "OK" をクリックします。名前付き範囲は指定したとおりに作成されます。"名前ボックス" メニューで名前付き範囲を確認できます。

### 名前付き範囲の変更

名前付き範囲を変更して、列または行を追加または削除できます。名前付き範囲は自動的に調整されます。

"名称マネージャ" を使用すると、以下のことが可能です。

- 名前の範囲の適用範囲を変更します。
- 名前付き範囲の名前を変更します。
- 名前付き範囲を削除する。

名前付き範囲を変更または削除するには:

1. リボンの "数式" タブを選択します。
2. "定義名" グループから "ネーム マネージャ"を選択します。 "氏名マネージャ" ダイアログが表示され、ワークブック内のすべての名前が付けられた範囲がリストされます。
3. 変更する名前付き範囲を選択して " 編集。名前付き範囲を削除するには、"削除" をクリックします。
4. 名前付き範囲の名前を変更します。
5. "コメント"に、名前付き範囲に関するメモを追加または変更します。
6. "参照"で、この名前付き範囲の領域を変更します。フィールドをクリックすると、範囲がグリッドに表示されます。グリッド内で選択するか、コードを変更して変更を加えます。
7. "OK" をクリックします。
8. "Name Manager" ダイアログ ボックスで "閉じる" をクリックします。名前が付けられた範囲は、指定に従って変更されます。

## **OfficeConnect** の **Excel** ファイルと **Word** ファイルの接続

名前付き範囲を作成すると、 OfficeConnectWord ドキュメントで Excel データを使用する場合、次の間の接続を確立する準備が整いました: OfficeConnectExcel ワークブックと Word ドキュメントまた、OfficeConnect 通常の Excel ファイルで名前付き範囲を持つ Word ドキュメント

### 始める前に

Excel データが Word で期待どおりに表示されるように、書式設定を維持するには、Excel でサポートされているフォントを使用している必要があります。

- サポートされているフォント サイズ: フォント サイズはすべて 10 pt または 12 pt のみとなります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- サポートされているフォント タイプ: すべてのフォント タイプは、Times New Roman、Ariel、Colier New のみのいずれかである必要があります。

**Excel** にリンク

1. OfficeConnect for Word で、OfficeConnect for Excel ワークブックに接続する Word ドキュメントを開きます。これには、新規または既存の Word ドキュメントを指定できます。
2. "コネクション" グループで "ワークブックにリンク"を選択します。"ワークブックを開く" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. リンクする名前付き範囲を含む OfficeConnect for Excel ワークブックの場所に移動します。
4. ファイル名をダブルクリックします。名前範囲が定義されていない OfficeConnect for Excel ワークブックを選択すると、アラートが表示されます。名前付き範囲を含む Excel ワークブックを選択すると、ワークブックは Word ドキュメントに正常に接続されます。"ワークブック リンク" タブには、以下が表示されます。
    - ワークブックの名前と、その名前付き範囲のリスト。
    - ワークブック名のワークシートのタブ名。
    - 回答 検索バー ここで、リンクされた氏名範囲の検索ができます。

イベントをクローズして再オープンするたびに OfficeConnect Word ファイルの場合、リンクされているテーブルとデータは保存したとおりの状態です。ソース ファイルの名前付き範囲を操作するには、リンク手順を繰り返してソース ファイルに再度接続します。詳細については、 リンクとそのソースの管理を参照してください。

複数の **Excel** ワークブックの **Word** へのリンク

複数の Excel ワークブックを単一の Word ファイルにリンクできます。

上記のステップを繰り返します。リンクされた Excel ワークブックの名前は、以下の "ワークブック リンク" タブに表示されます。 OfficeConnect ペイン各ワークブック名の下に、タブ名、テーブルのリンク、単一のリンクがあります。

ステップ**:** テーブル内の **OfficeConnect** データのリンク

Excel や Word の通常のコピー アンド リンク操作とは異なり、 OfficeConnectExcel と Word の間でテーブルをリンクさせるには、Excel のテーブルは次のようになります。 OfficeConnect- 完全にリンクされた Wordドキュメントをリフレッシュするたびに、Excel の新しい情報で Word のリンクされているデータを更新できます。

リンク先 **OfficeConnect - Excel** テーブル

1. 開始 OfficeConnect Word の場合、テーブルを挿入するページに移動します。 OfficeConnectExcel の場合
2. 次の中 OfficeConnect ペインの "ワークブック リンク" タブで、"テーブル リンク" の下にリストされている名前付き範囲を確認します。複数のセルを含む名前付き範囲は "テーブル リンク" の下にリストされ、単一のセルの名前付き範囲は "単一リンク"の下にリストされます。
3. ドキュメントに挿入するテーブルのリンクを右クリックし、"選択に適用"を選択します。

以下のようにフォーマットされたテーブル リンクが表示されます。 OfficeConnectExcel ワークブックの場合。

リンクされているテーブルの変更

テーブルを変更したり、テーブルに行や列を追加するには、に戻ります。 OfficeConnectfor Excel および Excel で変更を加える。次に、Word 内のリンクを更新します。

Word でリンクされているテーブルを変更すると、データの整合性に影響する可能性があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リンクされているテーブルの削除

入力形式 OfficeConnect Excel の場合、 で "取り消し" コマンドが機能しません OfficeConnect Wordリンクするオプションの特性 OfficeConnect が間違ったテーブルである場合は、単純に操作を元に戻すことはできません。Word 関数を使用してテーブルを削除する必要があります。

1. 削除するテーブル内の任意の場所をクリックします。
2. "レイアウト " タブの "行と列" グループで、"削除" > "テーブルの削除"を選択します。

ターゲットとソースの形式設定

テーブルをリンクすると、テーブルは Excel での表示とまったく同じになります。これは ソースの書式設定 として定義されており、元の形式設定の内容を反映しています OfficeConnect Excel ファイルの場合。形式の再設定を行う必要はありませんが、必要に応じて再設定する必要があります。

1 つの例外として、Excel のテーブルが Word のドキュメントのマージンに対して大きすぎる場合があります。この場合、リンク操作はテーブルをサイズに合うように縮小します。

テーブルを小さくしたり、方向を縦から横に変更したりするなど、Excel の書式設定を変更できます。Word でリンクをリフレッシュすると、Excel で加えた書式設定の変更が Word ドキュメントで更新されます。

Word ドキュメント内のリンクされているテーブルに対して、異なるフォントの色や列幅の適用など、フォーマットの変更を行うこともできます。

リンクされているテーブルを Word で書式設定してから Excel のソース ファイルからリフレッシュすると、書式設定の変更は失われます。リフレッシュによってこれらの変更を保持するために、このリンクに宛先の書式 を適用するよう指定できます。

リンクされているテーブルのターゲット形式を指定するには:

1. Word の関数を使用して、ドキュメント内のリンクされているテーブルの表示形式を設定します。これには、フォント サイズ、フォントの色、背景のシェーディング、列と行のサイズなどを含めることができます。
2. テーブルを右クリックし、コンテキスト メニューから "管理"を選択します。 OfficeConnectリンク"リンクを管理" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 選択したリンクの "書式設定 " 列をクリックします。ドロップダウン メニューから "誘導先"を選択します。
4. "閉じる"をクリックします。次回このリンクをリフレッシュしたときには、データはリフレッシュされますが、書式設定は Word ドキュメントで指定したとおりになります。

ステップ**: Word** ナラティブでの **OfficeConnect** 情報のリンク

リンク **OfficeConnect** 段落の値

Excel のテーブル全体や複数のセルのその他のセットを Word にリンクするだけでなく、ナラティブ内で個々の値や語句をリンクすることもできます。

例: レポートの日付と、選択した文や段落の特定の金額をリンクできます。

番号に対応する単語をリンクして更新することもできます。

例: リンクの増減、または好ましい、または好ましくない。

次の期間のレポートを更新すると、テーブルの値だけでなく、個々の日付、値、キーワードもリフレッシュされます。日付、値、およびキーワードは、 の名前付き範囲としてすでに設定されている必要があります。 OfficeConnectExcel ワークブックの場合。

始める前に

- Word でレポートを読み、 のデータにリンクする日付と番号を決定します。 OfficeConnectExcel ワークブックの場合。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- これらの日付と番号について、Excel で範囲に名前を付けていることを確認してください。必要に応じて Excel ワークブックに戻ってテンプレートを作成し、ファイルを保存します。
- Word ファイルの OfficeConnect ペインで、"ワークブック リンク " タブを選択します。Excel ファイル名を右クリックして、 "ソースの リフレッシュ " を選択します。新しく作成された名前付きの範囲がタブに表示されます。これで、ナラティブで値のリンクを開始する準備ができました。

段落内の値のリンク付け

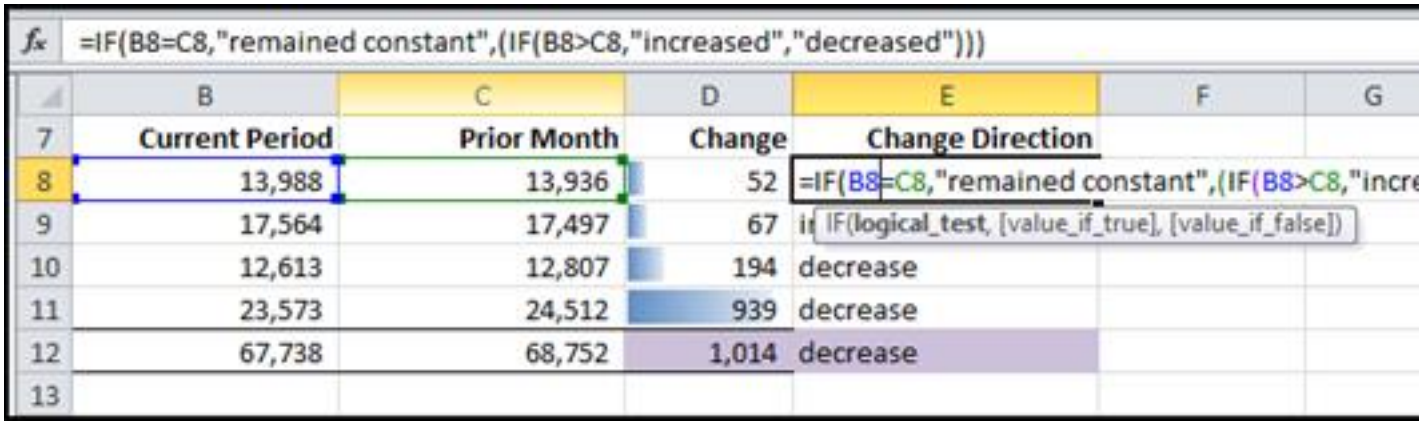
1. 社内 OfficeConnect Word ドキュメントの場合、リンクする値を選択します OfficeConnect データいくつかの単語または複数の段落を選択できます。リンクする値の前後にいくつかの単語を選択し、後でコンテキストを確認できます。
2. 選択したテキストを右クリックし、コンテキスト メニューから "段落リンクの表示"を選択します。または OfficeConnect タブの "コネクション " グループで、"段落リンク"を選択します。"段落リンク" ダイアログ ボックスが表示されます。選択したテキストに含まれる値は "値" 列に個別に表示され、値を囲むテキストは "値コンテキスト" 列に表示されます。
3. 次の中 OfficeConnect "リンク" ペインで "ワークブック リンク"を選択します。"段落リンク" ダイアログ ボックスに表示されている選択済テキスト内の値にリンクする名称範囲を探します。
4. 名前付き範囲を、値と関連するテキストを表示する行の見出しにドラッグします。名前付き範囲の現在の値は、選択したテキストの値に置き換えられます。
5. "段落リンク" ダイアログ ボックス内のその他の値をリンクするには、それらの値について上記の手順を繰り返します。名前を付けた範囲をドラッグすると、"段落リンク" ダイアログ ボックスとドキュメント内の選択したテキストの値が変更されます。選択したテキストに複数の値 (日付、通貨、その他の数値) が含まれている場合、"段落リンク" ダイアログ ボックスに値ごとに個別の行が表示されます。表示されているすべての値をリンクする必要はありません。必要な位置にリンクを適用するだけです。
6. "OK"を選択します。選択した値は、 OfficeConnectExcel ワークブックの場合。Excel ワークブックの値が変更され、Word ドキュメントをリフレッシュすると、リンクされている値が更新されます。

段落内の **OfficeConnect** 単語のリンク付け

数値によるパフォーマンスを説明したり解釈したりするのに役立つ定性的な用語をリンクさせたり更新したりできます。この用語は、レポート期間によって数値自体が変化する可能性があります。

例: 正、負、増加、減少をリンク付けします。

増加や減少といった定性的な単語の値を返すには、リンクされた自身の論理的テスト数式を設定します。OfficeConnectExcel ワークブックの場合。以下はそのような数式の例です。




論理テスト数式を含むセルは名前付き範囲として保存し、 OfficeConnectWord ドキュメントの

単語や語句をリンクするには、次のようにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. 変更する単語を一時的なプレースホルダの数字に置き換えます。 OfficeConnect は、単語または語句を値として扱います。
2. 指定範囲の単語をリンク OfficeConnect 数値パフォーマンスに関連付けられた Excel ワークブック

ナラティブ内の数値的なパフォーマンスを反映する単語をリンクするには、次のようにします。

1. 社内 OfficeConnect Word ドキュメントの場合、変更したい単語を別の値に置き換えます。 OfficeConnect111 や 1234 など、選択した任意の数字にリンクします。数字は、リンクされたテキストによって置き換えられる一時的なプレースホルダです。

   "段落リンク" ダイアログ ボックスに表示されたプレースホルダとして認識可能な番号を使用してください。
2. リンクするテキストを選択します (プレースホルダ値の横にいくつかの単語を含めるなど)。これにより、後でリンク時にコンテキストが表示されます。

   いくつかの単語または複数の段落を選択します。OfficeConnect は、プレースホルダ値を含め、選択された領域の値を識別します。
3. 選択したテキストを右クリックし、コンテキスト メニューから "段落リンクの表示"を選択します。

   "段落リンク" ダイアログ ボックスには、選択したテキストの任意の値 (プレースホルダの値を含む) の行が表示されます。
4. "ワークブックのリンク"で、目的の単語や語句を表す名前付き範囲を選択します。これを、リンクするプレースホルダ値と関連テキストが表示されている行の見出しにドラッグします。

   名前付き範囲の現在の単語または語句は、選択したテキストのプレースホルダ値を置き換えます。
5. "OK" を選択します。リンク用に指定した単語や語句が、ドキュメント内で更新されます。

ステップ: リンク位置のレビュー

に複数のテーブルとナラティブのリンクがある場合 OfficeConnect Word ドキュメントの場合、リンクがどこにあるかを簡単に識別したり、リンクにすばやく移動したりする方法が必要です。共有先 OfficeConnectをクリックすると、リンクの詳細を確認したり、ドキュメント全体でリンクされている値をハイライトしたりすることができます。リンクのリストをクリックして、目的のリンクにすばやく移動することもできます。

小切手リンクの詳細

リンクされたソース ファイルまたは名前付き範囲の名前を確認する必要がある場合があります。以下のリンクの "リンク詳細" タブを使用して、これをすばやく行います。 OfficeConnect"リンク" ペイン

リンクの詳細を確認するには、次のようにします。

1. Word ドキュメントで、リンクされているテーブルまたはテキストをクリックします。
2. 次の中 OfficeConnect " リンク詳細"を選択します。選択したリンクのソース ファイルと名前付き範囲がリストされます。

リンクされている値のハイライト

Word ドキュメント全体でリンクされている値を強調表示して、リンクが適切に更新され、前後のテキストが正しく読み取られることを確認します。リンクされた値は、ハイライト フィルタを使用して緑色で表示されます。

ドキュメント内のリンクされている値をハイライトするには:

1. オン  OfficeConnect  タブの "リンクの表示" グループで、"結果をハイライト" がオンになっていることを確認します。
2. "リンクの表示" グループで "テーブル"を選択します。ハイライト フィルタが適用され、ドキュメント内のリンクされているすべてのテーブルが緑色でハイライトされます。"テーブル" ボタンは、ツールバー上で選択済みまたはアクティブとして表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. リンクされたデータを段落内でハイライトするには、"段落"を選択します。強調表示フィルタが適用され、ドキュメント全体で段落内のリンクされているすべての値、単語、語句が緑色で強調表示されます。"段落" ボタンは、ツールバー上で選択済またはアクティブとして表示されます。

以下を使用します。 **OfficeConnect** リンク ペイン

以下を使用します。 OfficeConnect リンク ペインとハイライト: ドキュメント内のリンクにすばやく移動できます。

ドキュメント内のリンクをすばやく見つけるには、以下のことを行ってください。

1. オン OfficeConnect タブの "リンクの表示" グループで、以下を確認します。
    - "結果を強調表示" がオン
    - "テーブル" オプションと "段落" オプションがアクティブになっています。
2. 次の中 OfficeConnect リンク ペインで、"結果を表示"を選択します。リンクは、ドキュメント内で順番に名前の範囲別に表示されます。リンクされたコンテンツがハイライト表示されていない場合、これらのリンクは表示されません。
3. 移動するリンクを選択してください。 OfficeConnect は、選択されたリンクがあるドキュメント内の場所に移動します。ドキュメント内でリンクが選択されています。

"リンクの管理" オプションの使用

"リンクの管理" オプションを使用して、ドキュメント内のリンクに移動することもできます。移動中もダイアログ ボックスは開いたままになるため、この方法は、ソースの変更やリンクの接続解除など、リンクを管理するのに役立ちます。

"リンクの管理" ダイアログ ボックスを使用してリンクに移動するには:

1. オン OfficeConnect タブの "コネクション " グループで、"リンクの管理" を選択します。"リンクを管理" ダイアログ ボックスが表示され、ドキュメント内のすべてのリンクが一覧表示されます。各リンクについて、ソース ファイル、名前付き範囲、リンク タイプ (テーブルまたは段落) がリストされます。
2. 表示するリンクの "場所 " 列で "段落" または "テーブル"を選択します。このドキュメントでは、以下のようになります。 OfficeConnect は、段落またはテーブルが存在する場所に移動して、それを選択します。

ステップ: リンクとそのソースの管理

Excel データへのリンクがすでに含まれている OfficeConnect for Word ファイルを再度開いた場合は、必要に応じてソース ファイルに再接続できます。ドキュメントがリンクされているソース ファイルを変更したり、ソース ファイルとのリンクを解除することもできます。

既存のドキュメントのソース ファイルへの再接続

OfficeConnect for Word ファイルを閉じて再度開くと、リンクされているテーブルとデータは保存したとおりの状態です。ただし、ソース ファイルの名前付き範囲を操作する場合は、ソース ファイルに再度接続する必要があります。

リンクされたドキュメント内の Excel ファイルへの接続を再確立するには:

1. 1 つ以上の Excel ワークブックへのリンクを含む Word ドキュメントを開きます。
2. "OfficeConnect" タブの "コネクション" グループで、以下を選択します。 ワークブックにリンク付けする。
3. "ワークブックを開く" ダイアログ ボックスで、ソース データを含む Excel ワークブックを検索して開きます。Excel ワークブックが Word ドキュメントに再度接続されました。ソース ワークブックの名前とその名前の範囲のリストは、以前と同様に OfficeConnect のリンク ペインの "ワークブック リンク" タブに表示されます。これで、再び Word ドキュメント内の名前付き範囲を操作できるようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ソース ファイルの変更

同じデータに基づいて定期レポートを作成する場合、元の OfficeConnect for Excel ファイルを新しい名前で保存するか、新しい場所に保存して、新しい期間を反映させることができます。この場合、ソース ファイルの名前またはパスを変更して、OfficeConnect for Word ドキュメントが引き続きこのファイルを適切に参照するようにする必要があります。新しいファイルは古いファイルのコピーであるため、名前付き範囲は同じで、リンクは更新されます。リンクのソース ファイルを変更してリフレッシュすると、定期レポートの作成時間を節約できます。

リンクのソース ファイルを変更するには:

1. "OfficeConnect" タブの "コネクション " グループで、"リンクの管理"を選択します。
2. "リンクの管理" ダイアログ ボックスで、ソース ファイルを変更する各リンクの横にあるチェックボックスをオンにします。
3. "ソースの変更" をクリックします。
4. 表示された "ワークブックを開く" ダイアログ ボックスで、新しいソース ファイルの場所を参照します。
5. 新しいソース ファイルの名前をダブルクリックします。"リンクの管理" ダイアログ ボックスの "ソース ファイル" 列で、ソース ファイルが選択したリンクごとに変更されます。
6. "閉じる"をクリックします。

リンクの接続解除

"リンクの管理" ダイアログ ボックスを使用してリンクを解除できます。リンクが切れても、データはドキュメントに残ります。しかし、OfficeConnect for Excel Workbook ワークブック内のデータとのライブリンクがそのソースから切断されます。

OfficeConnect for Word ドキュメント内のリンクの接続を解除するには、以下の手順に従います。

1. "OfficeConnect " タブの "コネクション " グループで、"リンクの管理"を選択します。
2. "リンクの管理" ダイアログ ボックスで、ソース ファイルから接続を解除する各リンクの横にあるチェックボックスをオンにします。
3. "リンクを休憩"をクリックします。
4. 表示される確認メッセージで "はい"をクリックします。リンクの接続が解除され、"リンクの管理" ダイアログ ボックスからその参照が削除されます。
5. "閉じる"をクリックします。

注 : リンクの接続を解除する別の方法は、リンクをドキュメント内の別の場所にコピーすることです。リンクされている情報をすべて削除すると、リンクも解除されます。

ステップ: 定期レポートのデータの更新

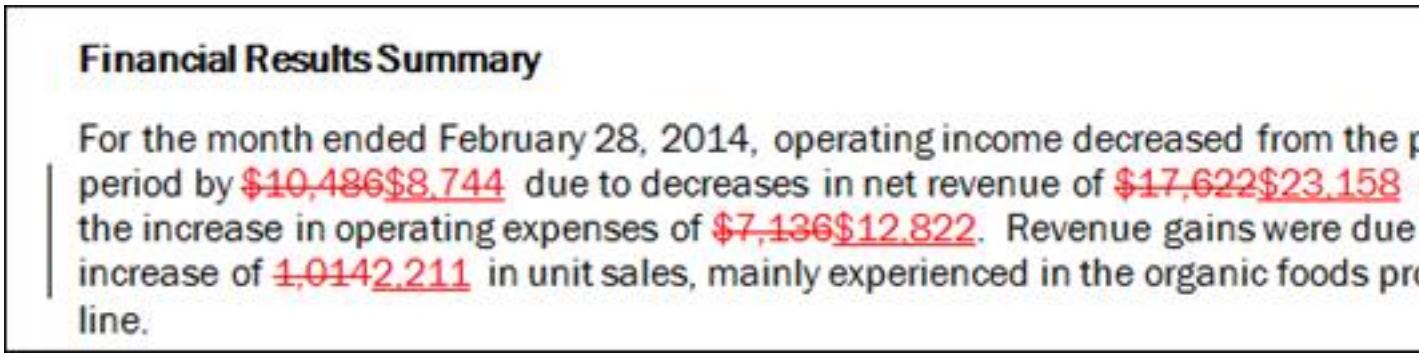
月次または四半期レポートを定期的に作成する場合は、以下を使用できます。 OfficeConnect プロセスの自動化に役立ち、時間を大幅に節約できます。すでに学習したとおり、 のソース データを更新するたびに OfficeConnect (Excel の場合) OfficeConnectWord ドキュメントの場合、対応するリンクされたデータも更新されます。

使用先と同じ OfficeConnect 後続の各期間の Excel ワークブック (相対レポート日を使用)

新しい期間のデータを更新する前に 、 OfficeConnectWord ドキュメントのこれを行うには、"レビュー" タブで、"変更の追跡"をクリックします。次に、新しい期間のデータを更新し、新しい情報でドキュメントをリフレッシュします。"変更の追跡" をオンにすると、行われた変更を確認できます。準備が整ったら、すべての変更を適用してマークアップを削除し、クリーンなドキュメントを完成させることができます。これを行うには、"レビュー " タブで "受諾"をクリックし、"ドキュメント内の すべての変更を受諾" をクリックします。

以下は、変更の追跡が次について行われるドキュメントの例です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential


Financial Results Summary

For the month ended February 28, 2014, operating income decreased from the p
period by ~~$10,486~~$8,744 due to decreases in net revenue of ~~$17,622~~$23,158
the increase in operating expenses of ~~$7,136~~$12,822. Revenue gains were due
increase of ~~1,014~~2,211 in unit sales, mainly experienced in the organic foods pr
line.

相対日付が変更された Excel ファイルから Word を更新するには:

1. を設定します。 OfficeConnectExcel レポートで (絶対ではなく) 相対日付を使用する場合。詳細については、 絶対日付と相対日付の使用を参照してください。
2. Excel レポートの日付を変更し、グリッドをリフレッシュします。接続されたインスタンスの情報により、新しい月、四半期、またはその他の期間のレポートが更新されます。
3. 以下を保存します。 OfficeConnectExcel ワークブックの場合 (ファイル名が同じ)Excel ワークブックで同じファイル名を使用すると、Excel ワークブックと Word ドキュメント間のリンクがそのまま維持されます。
4. 社内 OfficeConnect Word ドキュメントの場合は、ドキュメントをリフレッシュします。"OfficeConnect" タブの " コネクション " グループで、"リフレッシュ"の下の矢印をクリックしてから、"テーブルのリフレッシュ" または "段落のリフレッシュ" をクリックします。 (または両方) 必要に応じて。新しい期間の更新された情報が Word ドキュメントで更新されます。
5. 保存 OfficeConnect 同じ名前または新しい名前で、新しいデータを持つ Word ドキュメント接続された Word ドキュメントのファイル名を変更しても、リンクは切断されません。つまり、元のファイル "FinancialReport_Sep2014.docx" を "FinancialReport_Oct2014.docx" として保存すれば、それ以上調整する必要はありません。

別の更新方法は、既存の OfficeConnect for Excel ワークブックに基づいて新しい OfficeConnect for Excel ワークブックを保存し、新しいレポート期間のデータをリフレッシュすることです。新しいファイルですが、既存のファイルのコピーであるため、名前付き範囲は保持されます。そのため、これらの名前付き範囲は、Word ドキュメントを名前を変更した Excel ファイルにポイントした後も機能し続けます。

名前を変更したコピーされた Excel ファイルから Word を更新するには:

1. ソースを開く OfficeConnect に接続されている Excel ワークブック OfficeConnect Word ドキュメントの
2. 以下を保存します。 OfficeConnect の新しい名前の Excel ワークブック例: FinancialReport_Sep2014.xlsx を FinancialReport_Oct2014.xlsx に変更することができます。
3. Excel レポートの日付を変更し、グリッドをリフレッシュします。接続されたインスタンスの情報により、新しい月、四半期、またはその他の期間のレポートが更新されます。
4. Excel ワークブックを保存して、最近の更新を反映します。
5. 社内 OfficeConnect Word ドキュメントの場合は、"リンクの管理" ダイアログ ボックスを使用して、ソース ファイルの名前を新しい Excel ファイル名に変更します。詳細については、 リンクとそのソースの管理の「ソース ファイルの変更」セクションを参照してください。
6. "リンクの管理" ダイアログ ボックスが開いたままの状態で、新しいソース ファイルを使用するすべてのリンクの横にあるチェックボックスをオンにします。または、テーブルの見出しにあるチェックボックスをオンにして、すべてのリンクをオンにします。"リフレッシュ"をクリックします。新しい期間の更新された情報が Word ドキュメントで更新されます。
7. "閉じる"をクリックします。
8. 同じ名前または新しい名前で、新しいデータを含む Word ドキュメントを保存します。接続された Word ドキュメントのファイル名を変更しても、リンクは切断されません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リンクされているデータのリフレッシュ

インスタンスのデータが更新されると、 OfficeConnect にリンクされている Excel ワークブック OfficeConnect Word ドキュメントの場合は、ドキュメントをリフレッシュして最新のデータを表示してください。自分や他のユーザーが、名前付き範囲を追加したり、テーブルの書式設定を変更したり、データに一連の数式を追加したりして、Excel ワークブックを変更することもできます。Word ドキュメントに取り込んだデータにこれらの変更を反映するには、ドキュメントをリフレッシュします。

ドキュメントを閉じて再度開いた場合、ドキュメントは自動的にリフレッシュされません。明示的に "リフレッシュ" オプションを選択し、リフレッシュするデータのタイプを指定します。

接続ファイルから選択可能な名前付き範囲をリフレッシュするには:

1. 次の中 OfficeConnect "リンク" ペインで "ワークブック リンク"を選択します。
2. リフレッシュする Excel ファイルの名前を右クリックし、"ソースのリフレッシュ"を選択します。Excel ファイルがリフレッシュされ、新しい名前付き範囲がリストに追加されます。

ドキュメント内のテーブルまたは段落をリフレッシュするには:

1. 以下から  OfficeConnect > "コネクション " グループに "リフレッシュ" ドロップダウンをクリックします。
2. "テーブルのリフレッシュ" を選択して、リンクされているテーブルをリフレッシュします。"段落のリフレッシュ" を選択し、段落内のリンクされた値とテキストをリフレッシュします。ドキュメントに未保存の変更がある場合、それらを保存するよう促されます。結果 OfficeConnect は、接続された Excel ワークブックから指定したデータ タイプをリフレッシュします。"リンクの管理" ダイアログ ボックスが表示され、リフレッシュされたリンクが表示されます。"最終更新日" フィールドには、現在の日時が表示されます。"ステータス" フィールドは成功を示します。

ドキュメント内の選択されたリンクのみをリフレッシュするには:

1. 以下から  OfficeConnect > "コネクション " グループに "リンクの管理" を選択します。"最終更新日 " 列は、このリンクが最後にリフレッシュされた日時を示します。
2. リフレッシュするリンクを選択して "リフレッシュ"を選択します。このドキュメント内に同じソース ファイルを示している別のリンクがあることを示すアラート メッセージが表示される場合があります。"はい" または "いいえ" を選択して、そのソース ファイルを示すすべてのリンクを更新するかどうかを指定します。ドキュメントに保存されていない変更がある場合、リフレッシュ前にファイルを保存するよう促すメッセージが表示されます。"はい" または "いいえ"を選択します。ファイルがリフレッシュされ、適用した可能性のあるハイライトがすべてクリアされます。
3. "閉じる"を選択します。

個々のリンクをリフレッシュするには、 OfficeConnect リンク ペインで " ワークブック リンク" タブを選択します。リンクの名前付き範囲を右クリックし、"ソースのリフレッシュ"を選択します。

注 : リンクのリフレッシュ後にハイライトをすばやく再適用するには、 OfficeConnect タブの "リンクの表示" グループで、"結果のリフレッシュ"を選択します。最後に適用したハイライトの設定が再度適用されます。

# OfficeConnect の FAQ とトラブルシューティング

## 端数処理設定の変更

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

### 質問

OfficeConnect の端数処理設定を変更するにはどうすればよいですか？端数処理設定はワークブック全体に適用されますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

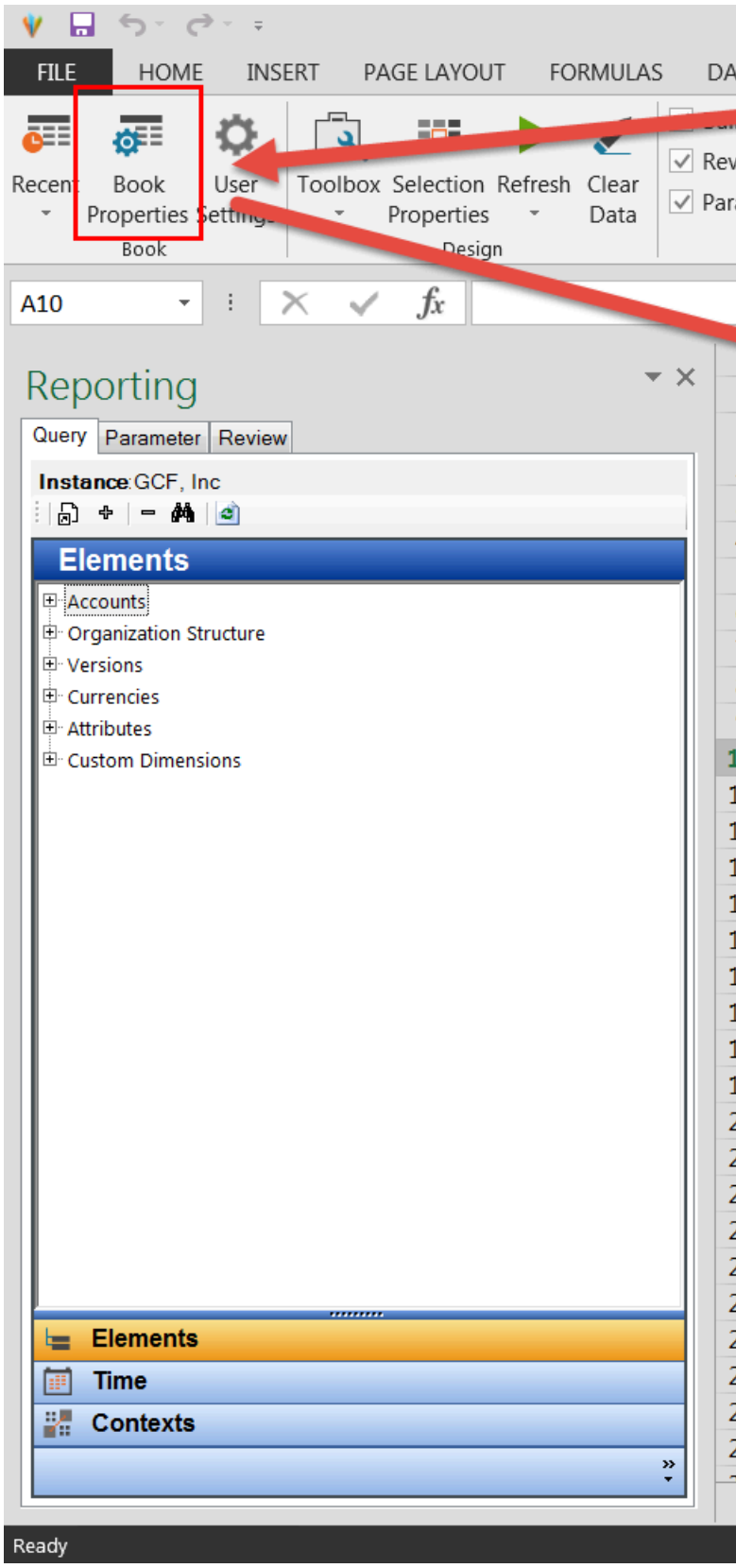
OfficeConnect では、ワークブック全体に汎用的な端数処理を適用するほか、列と行に対して選択的な端数処理も適用できます。

一律端数処理

OC Excel ワークブック全体に適用される端数処理を更新するには、以下の手順を参照してください。

1. OC for Excel にログインし、ワークブックを開きます。
2. "OfficeConnect" タブをクリックします。
3. 上部のツールバーで "帳簿のプロパティ " ボタンをクリックします。
4. ″フォーマット " タブを選択します。
5. "丸め先" ドロップダウンで、優先するフォーマット (百万単位など) を選択します。
6. "OK" をクリックします。
7. ワークブックをリフレッシュします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



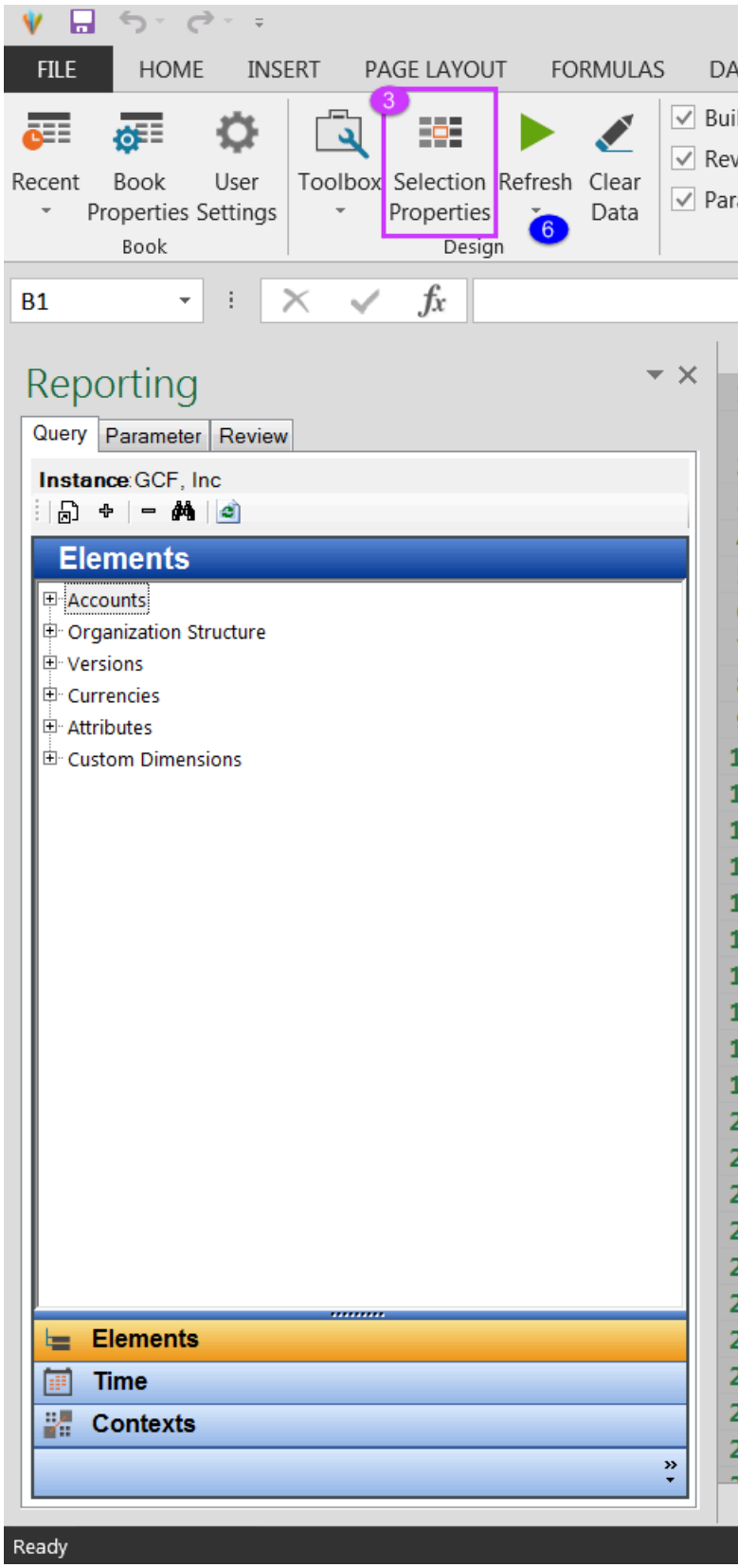

選択端数処理

ワークブックの特定の列または行における端数処理を非表示にするには、以下のステップを参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. OC for Excel にログインし、ワークブックを開きます。
2. グローバル端数処理を適用しない行/列全体をハイライト表示します。
3. "OfficeConnect" タブをクリックします。
4. 上部のツールバーで "選択プロパティ" ボタンをクリックします。
5. "端数処理しない (金額を端数処理しない)" チェックボックスをオンにします。
6. "OK" をクリックします。
7. ワークブックをリフレッシュします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



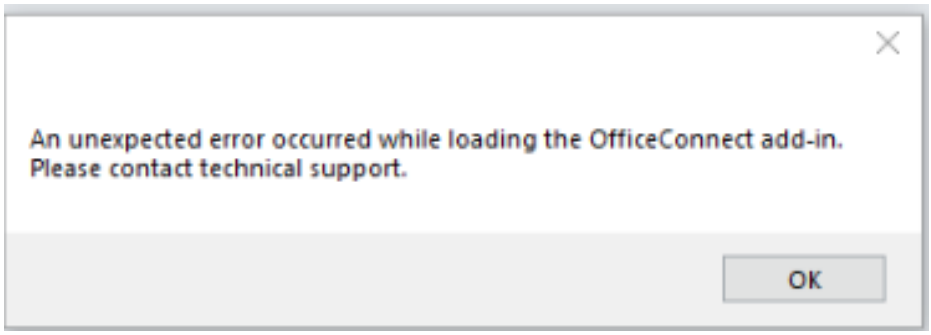

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## COM 登録エラー

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

OfficeConnect の更新またはインストールを試行すると、以下のエラーが表示されるのはなぜですか？




回答

注： OfficeConnect のインストール時または起動時にエラーが発生した場合は、 この記事 にあるトラブルシューティング ツールを実行できます。トラブルシューティング ツールは、更新/インストール プロセス中に発生する可能性のある予期しないエラーに関連する情報を含む ログ ファイルを生成します。

OfficeConnect は、Microsoft Office のインストールで正しく登録された Excel オブジェクトに依存する Excel COM アドインです。オブジェクトが登録されていない場合、またはその登録に問題がある場合、OfficeConnect は正常に機能またはインストールされません。この問題は、OfficeConnect アプリケーションだけでなく、他の Excel COM アドインにも影響する可能性があります。

場合によっては、同じマシンに異なるバージョンの MS-Office 製品 (Project 2016 と Excel 2013 など) がインストールされており、その結果、異なるバージョンの MS-VSTO ライブラリがインストールされていることがあります。このシナリオでは、OfficeConnect の更新またはインストール時に COM レジストリ エラーが発生する可能性があります。このシナリオでトラブルシューティング ツールによって生成される ログ ファイルには、次のエラー メッセージが含まれます。

- `System.InvalidCastException: Unable to cast COM object of type 'System.__ComObject' to interface type 'Microsoft.Office.Core.IRibbonUI'. This operation failed because the QueryInterface call on the COM component for the interface`

一部のユーザーから、 Microsoft Office の 修復 または再インストールによってエラーが解決されると報告されました。それ以外の場合は、特定のレジストリ キーに関してコンピュータ上でトラブルシューティング ツールのレジストリ キーの識別子に基づいた調整を行うことが訂正となります。

- 例: `Exception from HRESULT: <<REGISTRY KEY WILL BE LISTED HERE>>`
- 企業の IT 部門から、これらのレジストリ キーに関する追加情報を提供できる可能性があります。

## Excel シートのプランニングを含む OfficeConnect の作成

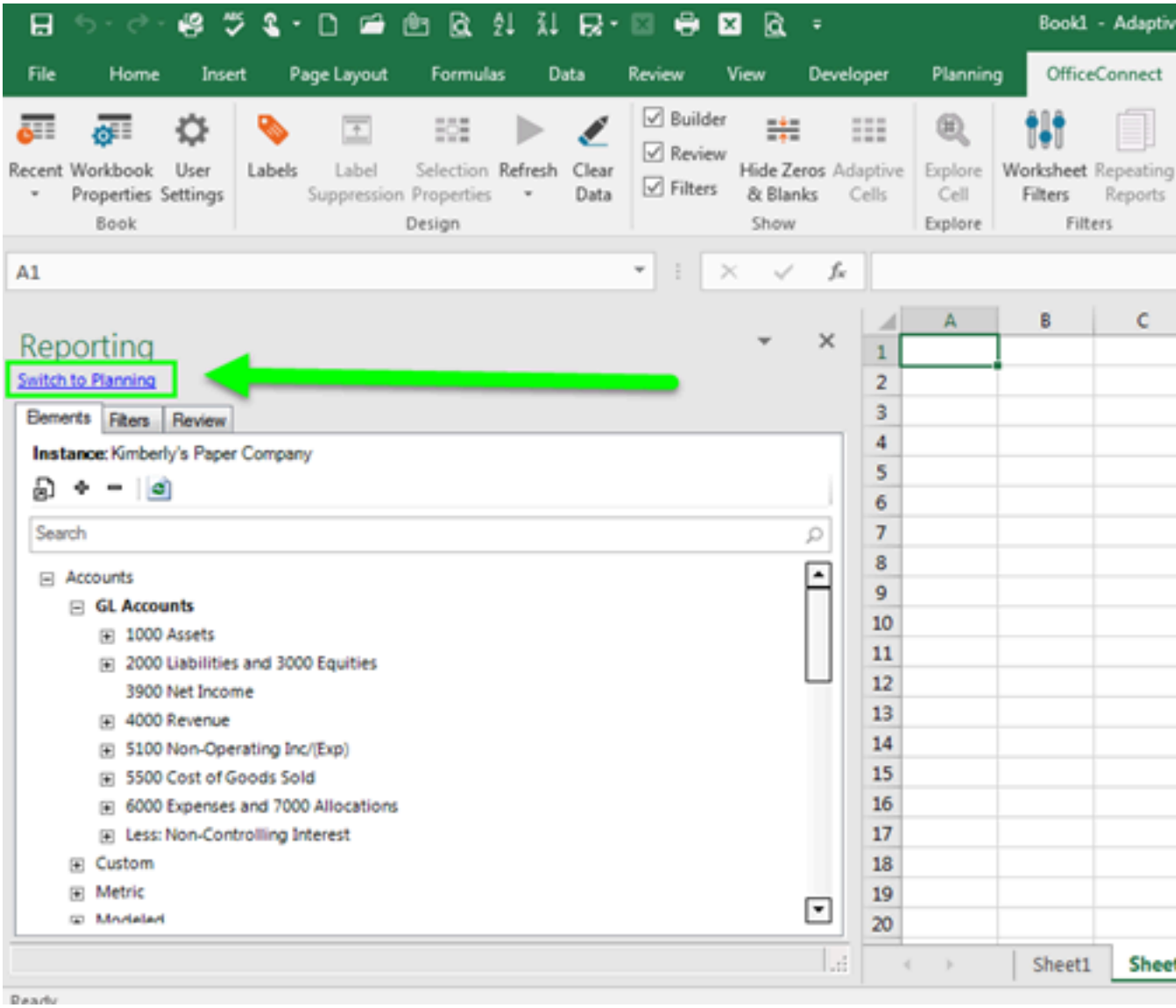
質問

Excel Interface for Planning のシートを含む OfficeConnect ワークブックを作成するにはどうすればよいですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

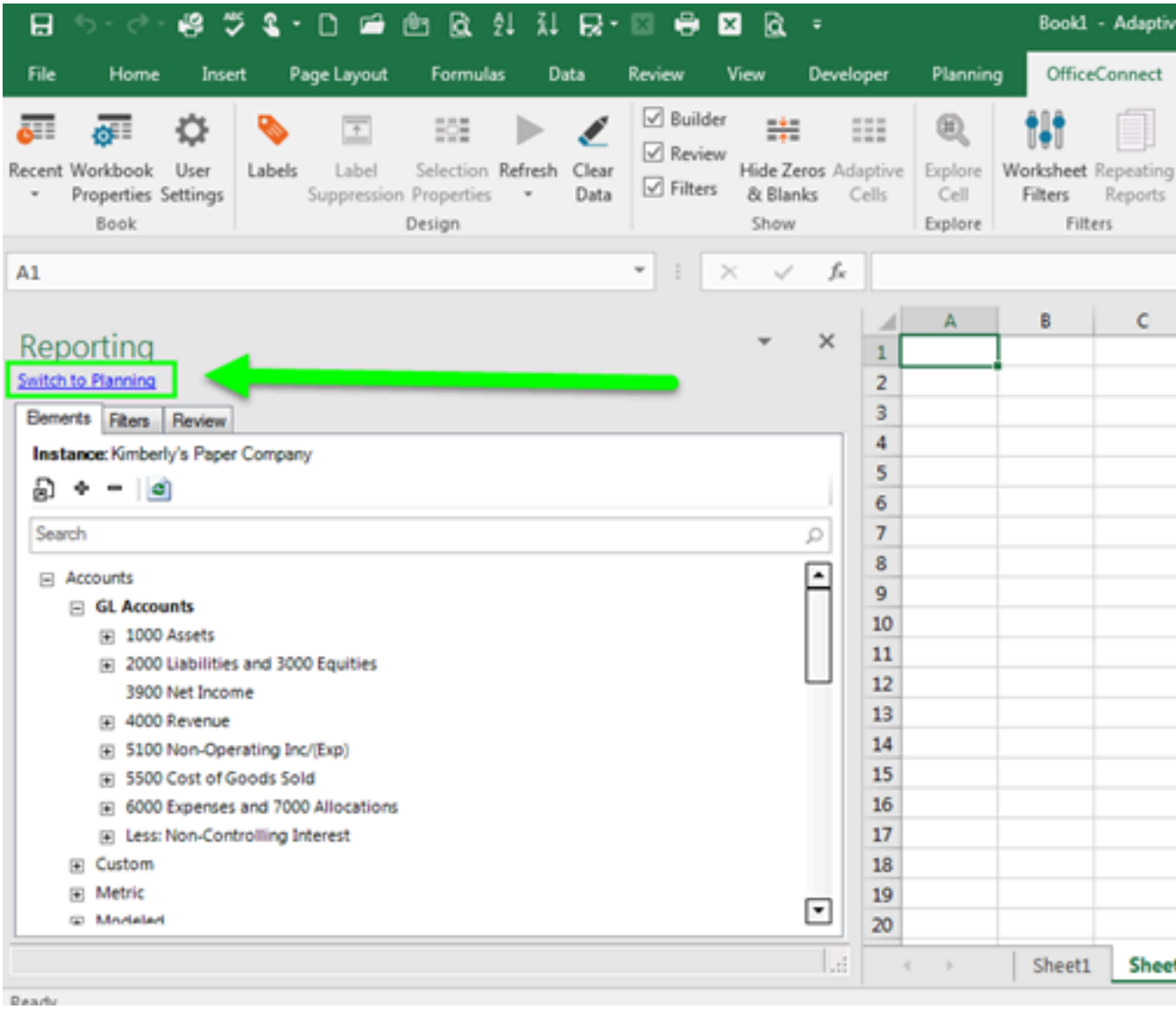
1. OfficeConnect ビルダーからシートに要素を適用




2. OfficeConnect レポートを作成したら、Excel ファイル内の新しいシートをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "Planning に切り替え" を選択します。




4. Planning からシート、バージョン、組織を選択して、Adaptive Planning for Excel タブを作成します。
5. ワークブックを保存します。

## OfficeConnect で過去 12 か月レポートを作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

OfficeConnect で過去 12 か月のレポートを作成するにはどうすればよいですか？

回答

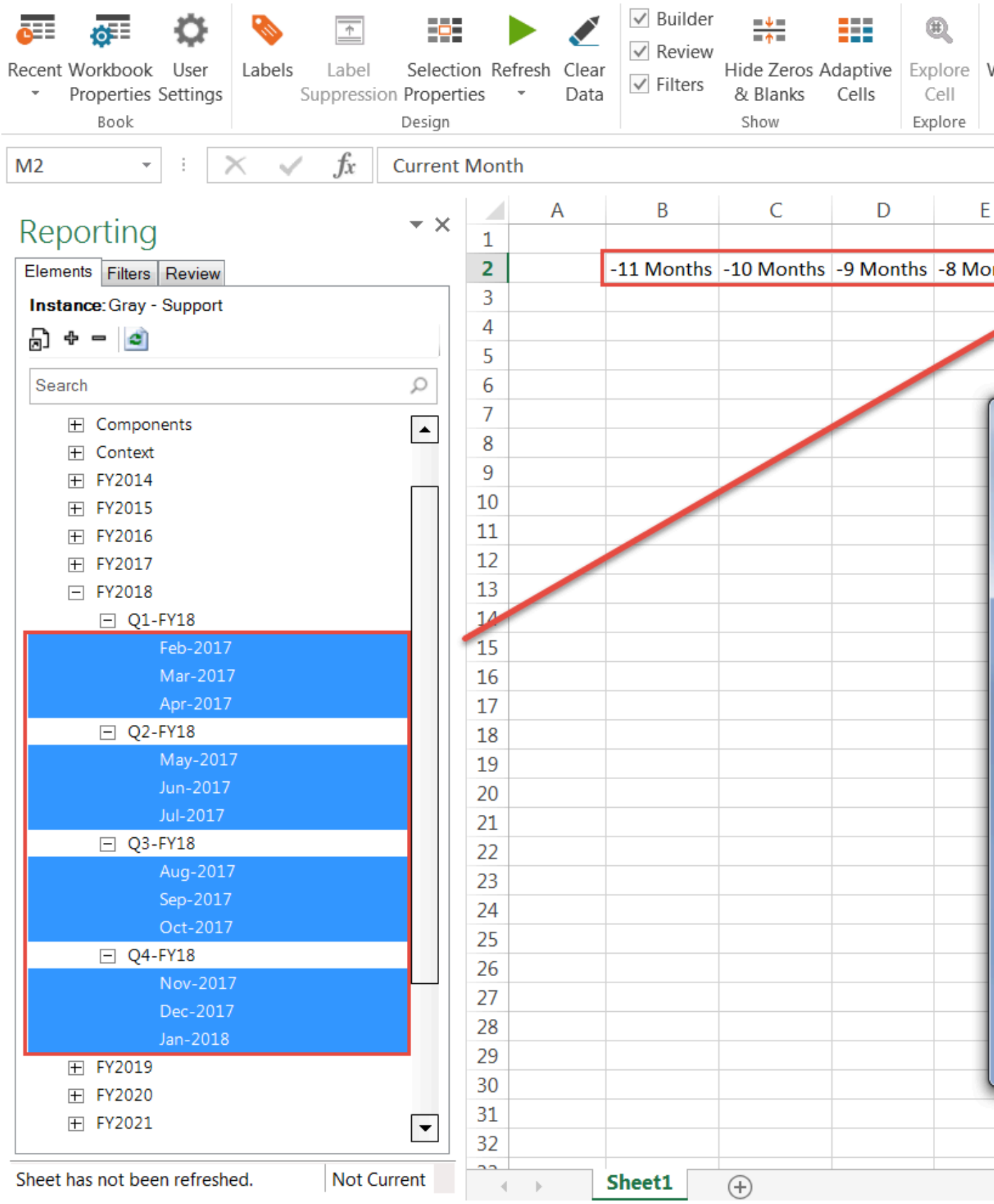
これを行うには、"レポート日を基準に時間要素を新規作成" オプションが オンになっていることを確認し、レポート日として当月を選択し、過去 11 か月を追加します。この設定はレポートに追加されるすべ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ての時間要素に影響を与えます。時間要素は、ハードコードされた期間ではなく、常に、追加された時点の現在のレポート日付を基準とします。

下のスクリーンショットでは、レポート日が 2018 年 1 月で、この月と過去 11 か月を列に追加しています。"レポートの日付を基準にして新しい時間要素を作成する" 設定が有効になっているため、これらの列は 2018 年 1 月を基準にしました (たとえば、2017 年 12 月は "当月 -1"、2017 年 11 月は "当月 -2"、その他)。次に、これらの列の時間要素は、レポート日として指定されたものを常に基準とします。この方法でレポートを設定した後は、必要に応じてレポート日付を調整するだけで、列に指定の相対日付が動的に反映されます。たとえば、ここでレポート日付を 2019 年 1 月に切り替えた場合、その前の列 (スクリーンショットの列 L) には、2017 年 12 月ではなく、2018 年 12 月のデータが反映されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 固定日付列の作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

### 質問

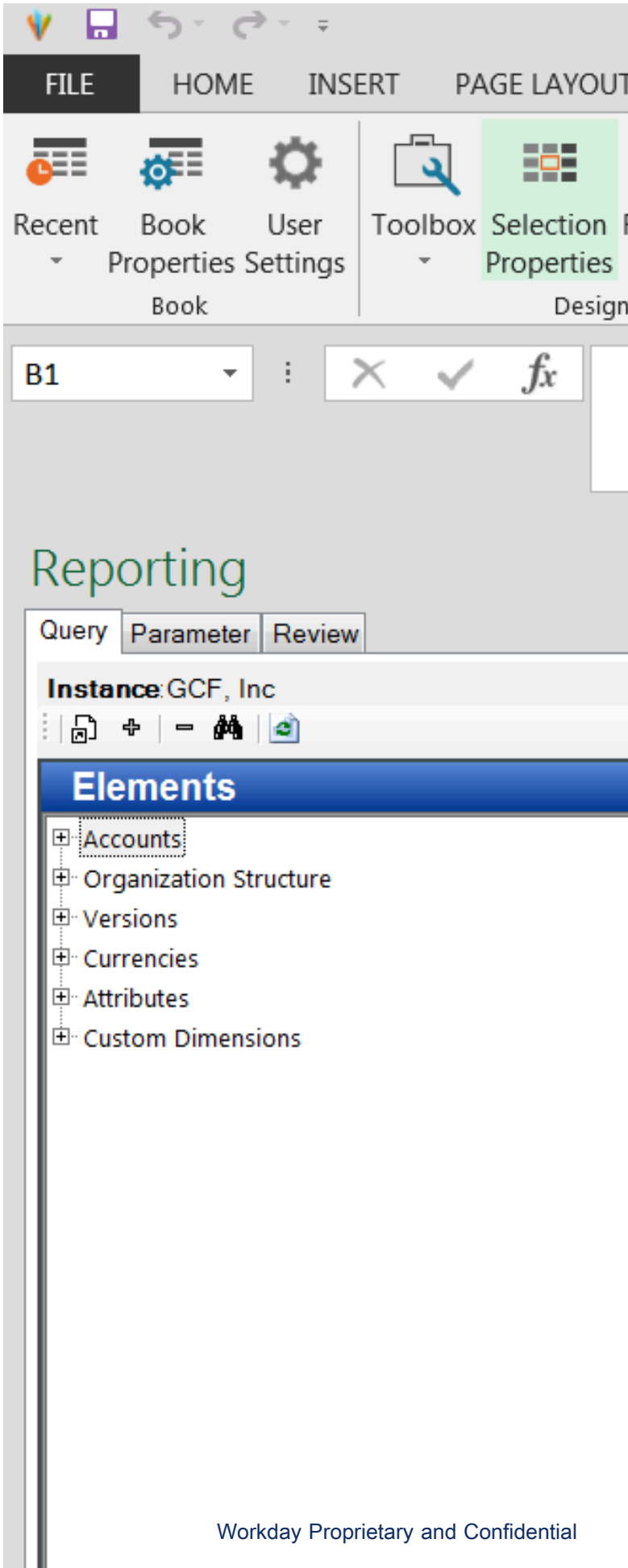
特定の日付列を固定するにはどうすればよいですか？日付が帳簿レポート日付を基準にしたくない列があります。

### 回答

特定の日付列を (レポート ブックの日付を基準にしないように) 修正するには、以下の手順を実行してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

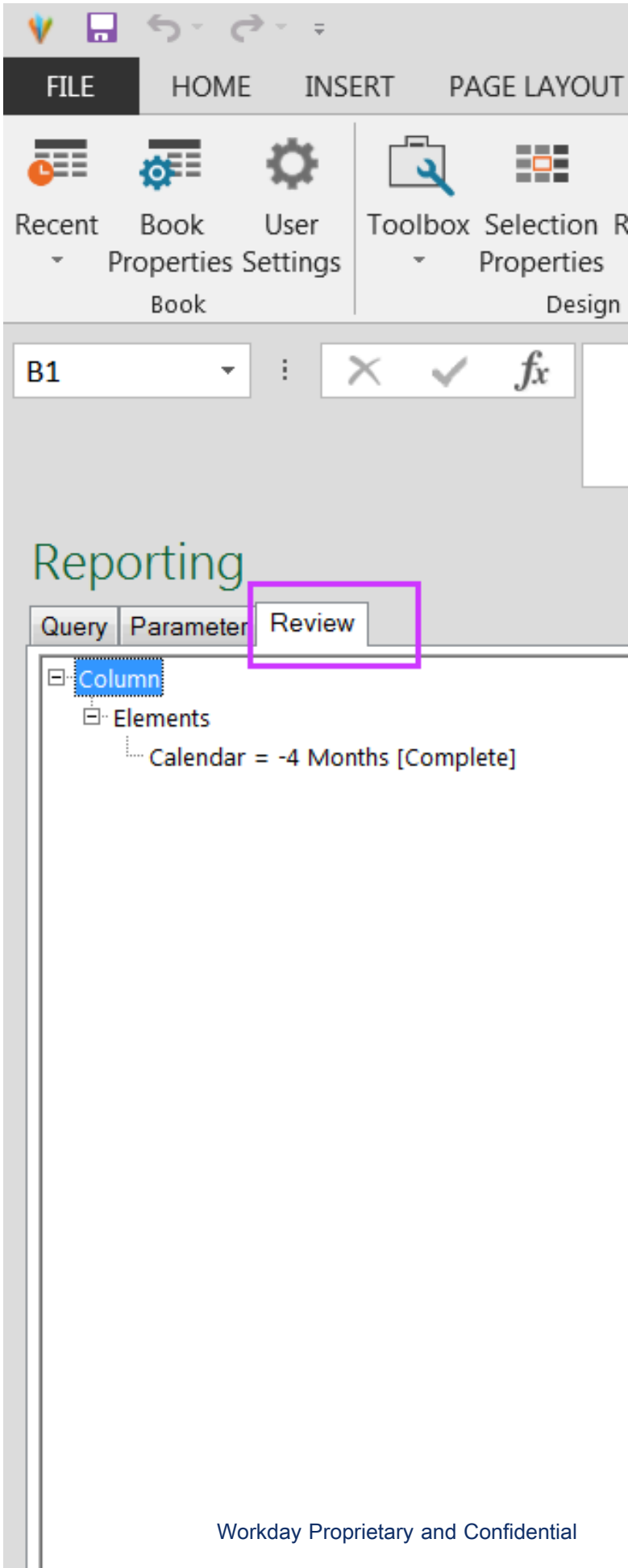
1.日付要素を含む特定の列を選択




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

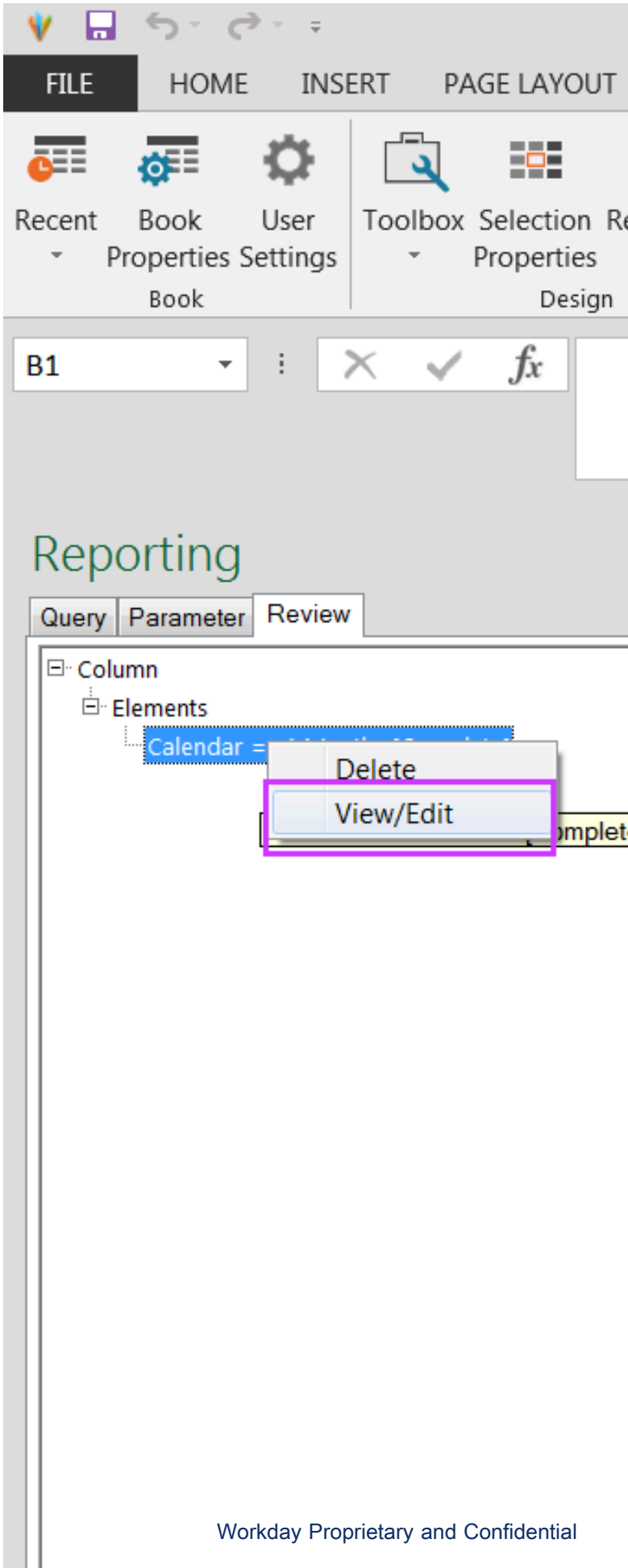
2.左ペインで "レビュー" タブをクリックします




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

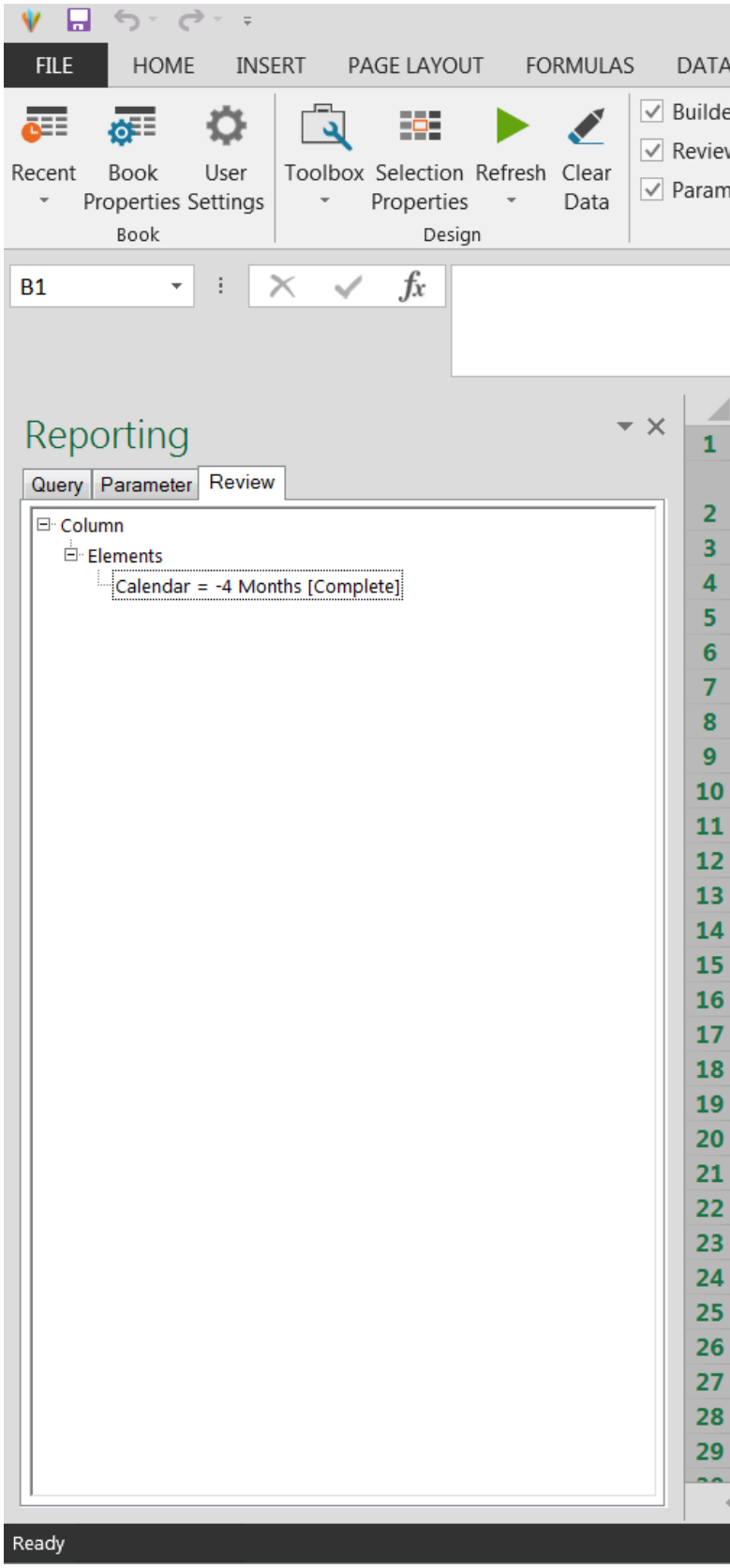
Workday Proprietary and Confidential

3.カレンダー要素を右クリックして "表示/編集" を選択します。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4."帳簿に対する日付にする" チェックボックスをオフ




5."OK" をクリックしてファイルをリフレッシュ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## OfficeConnect のパーセント値の表示

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

OfficeConnect ではパーセント値はどのように表示されますか？

回答

パーセント値 Adaptive Planning はデフォルトで小数として OfficeConnect に取り込まれます。この小数点は、Office Connect ファイルの端数処理設定によってさらに影響を受けます。たとえば、帳簿の端数処理設定が "千単位" の場合、25.25% は 0.0002525 として取得されます。これを訂正するには、2 つのオプションがあります。

| | |
|---|---|
| 1.帳簿の端数処理を "端数処理なし" に設定する | 1. "帳簿のプロパティ" > "形式" > "端数処理なし" (デフォルトは千)<br>2. パーセントで表示するセルを設定します。 |
| 2.次のパーセント値の特定のセルを設定してください: Adaptive PlanningOfficeConnect ワークブックの端数処理設定を無視する | 1. 丸め ない セルをハイライトします。<br>2. リボンの "Office Connect" タブ > "行/列/セルのプロパティ" > "端数処理しない (金額を端数処理しない)" を選択します。<br>3. Excel のネイティブ機能を使用して、セルをパーセント値に設定します。<br>4. リフレッシュ。 |

## FAQ: OfficeConnect の更新エラーを解決するにはどうすればよいですか？

OfficeConnect の更新中に、次のエラー メッセージが表示される場合があります。

"更新のダウンロード中にエラーが発生しました。詳細: 基になる接続 はクローズされました: 送信中に予期しないエラーが発生しました。

このエラーは、次の場合に発生する可能性があります。

- お使いの接続またはネットワークが原因で、更新が完了できません。IT チームと協力して、ネットワークがこの更新をサポートするようにしてください。トラブルシューティング ツールをダウンロードすることもできます。参照 トラブルシューティング ツール: OfficeConnect と Planning for Excel ( 713ページ ) 。
- Windows 7 と古いバージョンのトランスポート層セキュリティ (TLS) を実行しています。2017 年から 2019 年の間に、TLS 1.0 および 1.1 のサポートが終了しました。 IT チームと協力して、Windows 7 で TLS 1.2 をデフォルトとして有効化します。 詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。あるいは、OfficeConnect の最新バージョンをアンインストールしてから再インストールすることもできます。

## リンクされているセルを含まない OfficeConnect Excel ファイルの Excel コピーを作成する方法

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

リンクされているセルを含まない OfficeConnect Excel ファイルの Excel コピーを作成するにはどうすればよいですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

ユーザーは、Excel のネイティブな移動/コピー シート関数を使用して、OfficeConnect ファイルからメタデータおよびリンクされたセルを削除できます。

1. リンクされているセルを含む Excel タブを右クリック
2. "移動" または "コピー" を選択します。"選択したシートを移動 - ブックへ:" で (新しいブック) または別の Excel ファイルを選択し、"コピーの作成" をオンにします。"OK" を選択します。(コピーされたタブにリンクされているセルが含まれていないことに注意してください)

## OfficeConnect ワークブックから Excel ファイルにリンク

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

OfficeConnect レポート内の Excel ファイルにリンクするにはどうすればよいですか？

回答

これを行うには現在、次の 2 つの方法があります。

**1.OfficeConnect** レポートを **Excel** ファイルで一時的に開く

注： このオプションは OfficeConnect ワークシートのコピーには使用しないでください。Excel で OfficeConnect ワークシートをコピーすると、コピーしたワークシートは にリンクされなくなります。Adaptive Planning。統合 機能を活用して、ワークブック間で OfficeConnect ワークシートをコピーしてください。

1.Microsoft Excel を開いてから、"ファイル" > "開く" をクリックし、OfficeConnect レポートを選択して、ネイティブ Excel で OfficeConnect ファイルを開きます。

2.以下のプロンプトに対して "はい" と答えます。

3.レポートにリンクする Excel ファイルを開きます。ここから、2 つのファイルをより簡単にリンクできます。

4.OfficeConnect レポートを保存します (拡張子は ".xlsxai" のままです)。

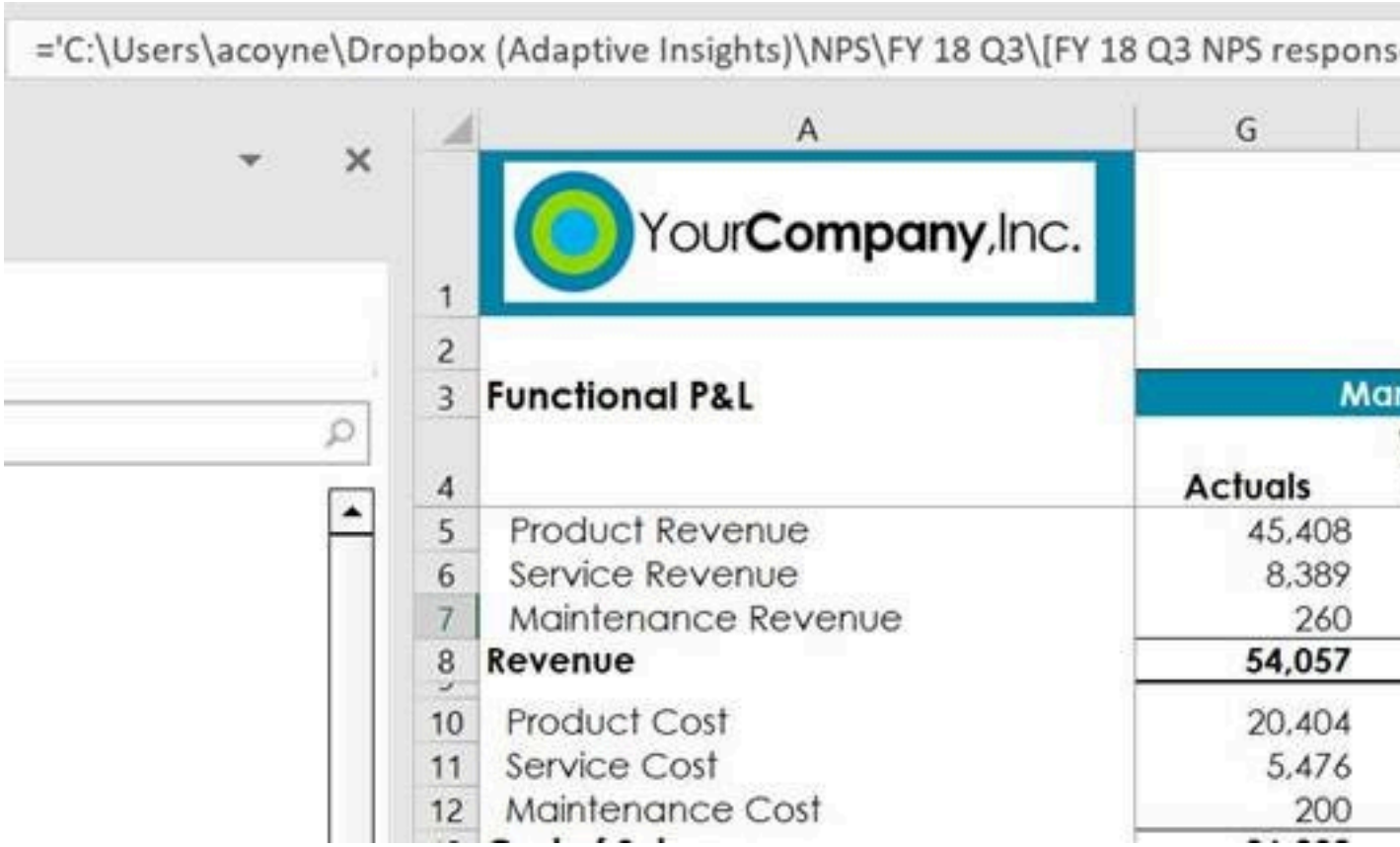
5.OfficeConnect でレポートを返すと、Excel のリンクがそのまま残ります。

**2.**手動リンク

1.でファイルを開く Adaptive Planning OfficeConnect にアクセスし、リンクを手動で作成します。

2.正しい構文を入力するとともに、Excel ファイルの場所を把握する必要があります。この例については、数式バー内の以下の画像を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




## 行の挿入後に数値が正しくシフトしない

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

### 質問

OfficeConnect に行を挿入すると、番号が正しくシフトしないのはなぜですか？

### 回答

ユーザーが OfficeConnect で行または列を挿入したときに、アドインによってデータが誤ってシフトされることがあります。このような場合、Excel の行はシフトしますが、セル メタデータ (セルの内容に関する情報) は同じようにシフトしません。

このような場合、アドインを無効にするか、ホット キーを使用すると、ユーザーは問題なく行と列を挿入できます。

問題を引き起こしている可能性のあるアドインを無効にするには、次のようにします。

1. OfficeConnect と Excel (実行中の場合) を閉じる
2. Excel を開き、"ファイル" > "オプション" > "アドイン" に移動します。
3. 一番下の "管理" で、Excel のアドインが選択された状態で "移動" をクリックします。
4. いずれかがオンになっている場合はオフにする
5. "ファイル" > "オプション" > "アドイン" に戻り、"Manage" を "COM アドイン" に変更して、"移動..." をクリックします。
6. アドインが存在する場合はオフにします ("Adaptive Planning for Excel" はオンにしたままで問題ありません)
7. すべてのアドインをオフにして、Excel を閉じます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

8. OC にログインして、問題が解決しないかどうかをテストする

ただし、アドインを有効にしたままにする場合、ユーザーは右クリック + 挿入ではなく、ホット キー の Alt + i + 右クリック を使用することで、通常、問題なく行と列を挿入できます。この方法により、ユーザーは問題のあるアドインが有効なままでも行と列を挿入できます。

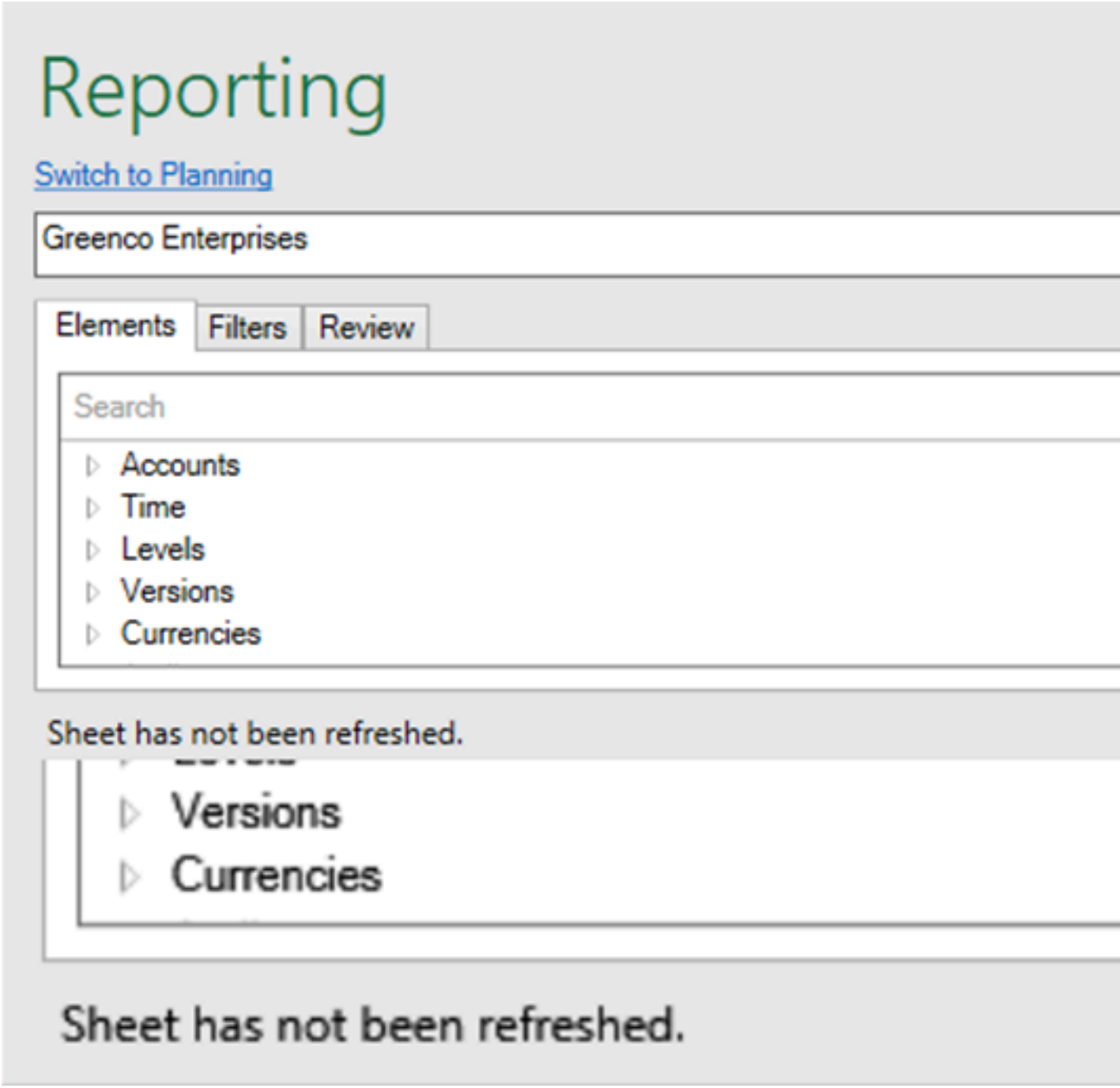
## OfficeConnect タスク ペインが正しく表示されていません

**質問: OfficeConnect** タスク ペインのサイズ変更や表示が正しくないのはなぜですか？

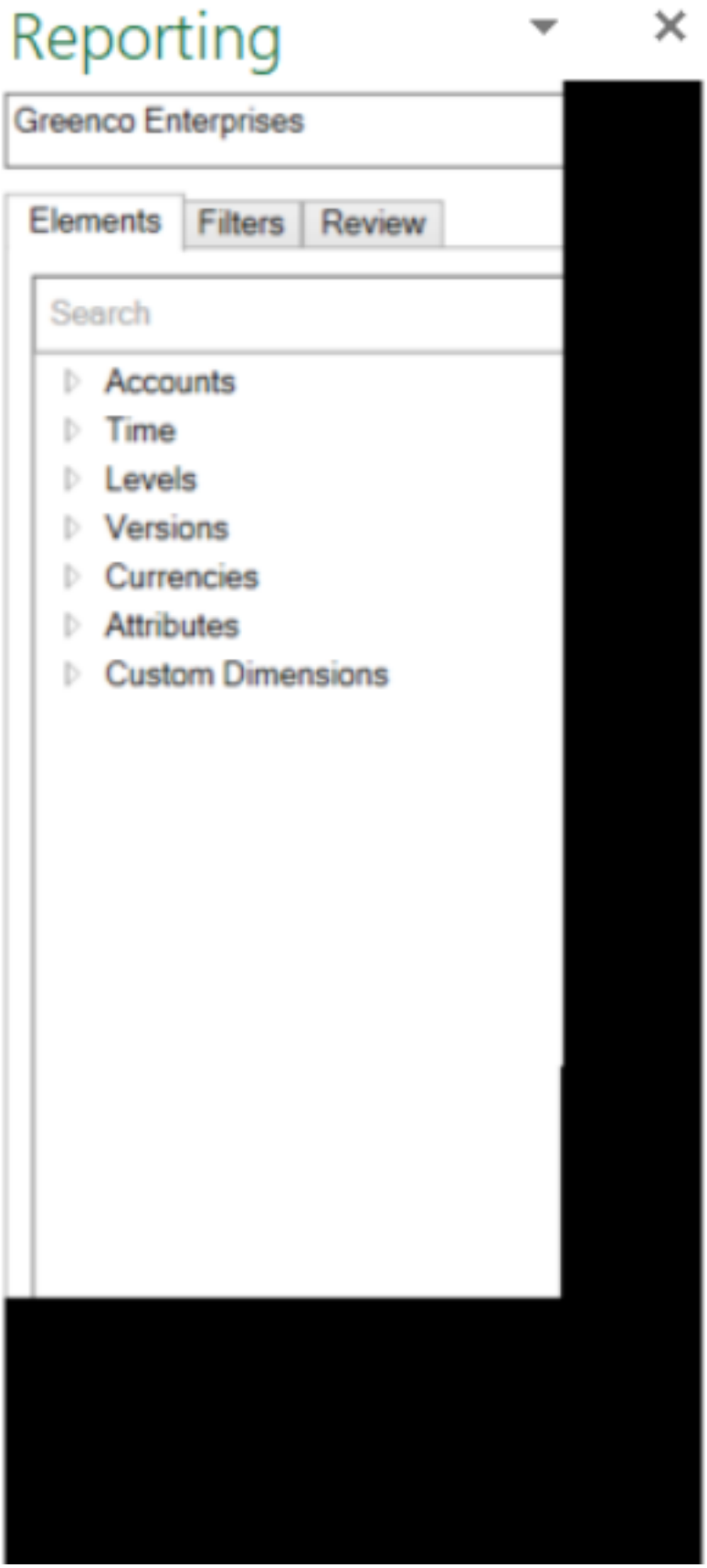
ユーザーに複数のモニタがある場合、Excel 内の設定が原因で OfficeConnect タスク ペインが正しく表示されない場合があります。一部の表示では、要素タスク ペインのセクションが灰色で表示されます。

- ユーザーに矢印が表示されていないか、タスク ペインの端が表示されていません
- 2 つのタスク ペインが 1 つに表示されている
- タスク ページに灰色のセクションが表示されます

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



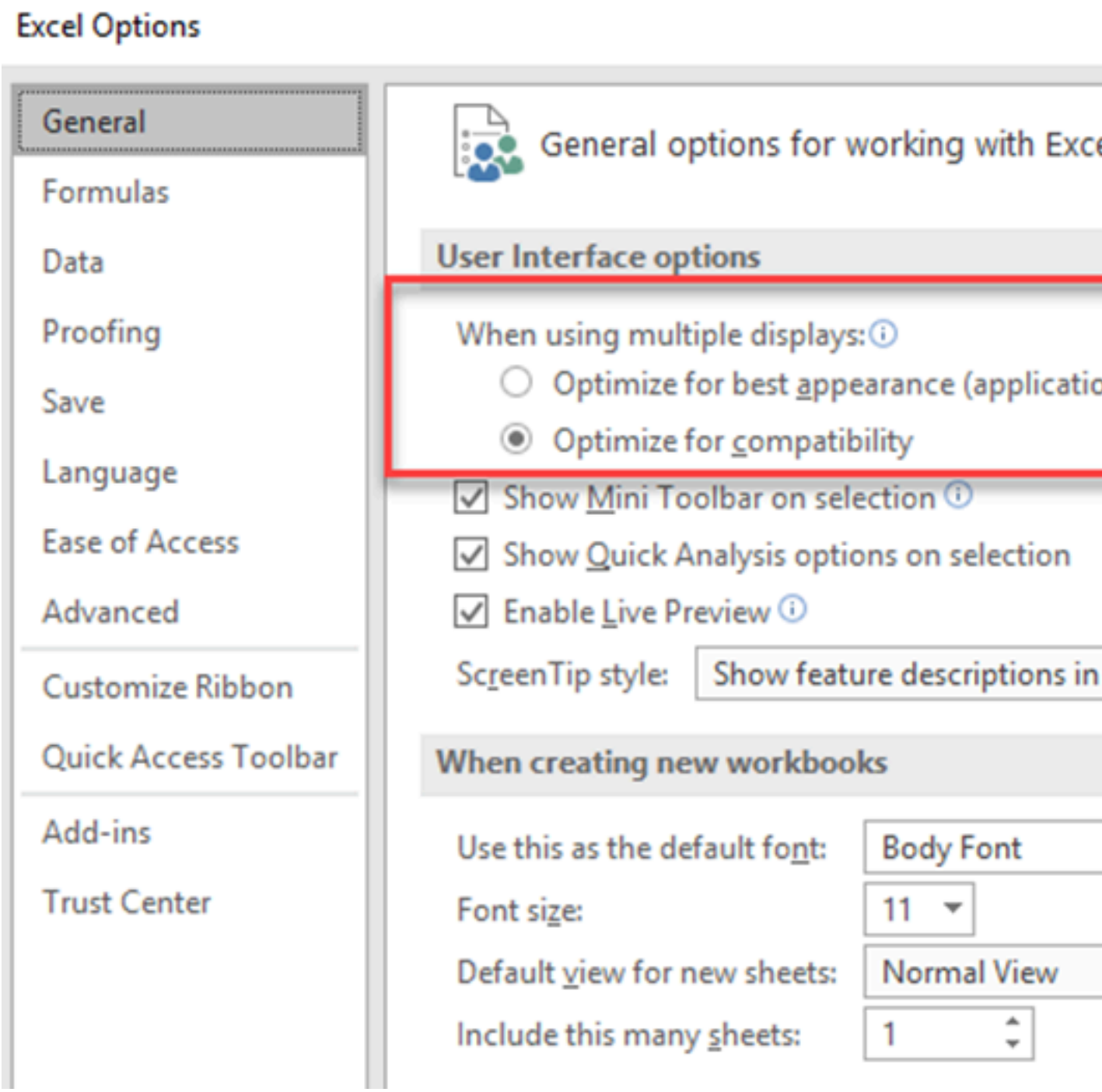

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答:

1. Excel を開く。
2. "ファイル" > "オプション" > "全般" に移動し、Excel の設定で "外観を最適化する" ではなく、"互換性を最適化する" に変更します。
3. Excel を閉じてから再起動します。




## 要素を削除

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

質問

OfficeConnect ファイルでセルの範囲に追加された要素をクリアするにはどうすればよいですか？

回答

OfficeConnect の要素を削除する場合は、要素が適用されている行、列、またはセルを選択 > 右クリック > "設計要素をクリア" を選択します。

注： ラベルは残りますが、AOC 要素はクリアされます

## ワークブックのゼロと空白の非表示または非表示にする

質問

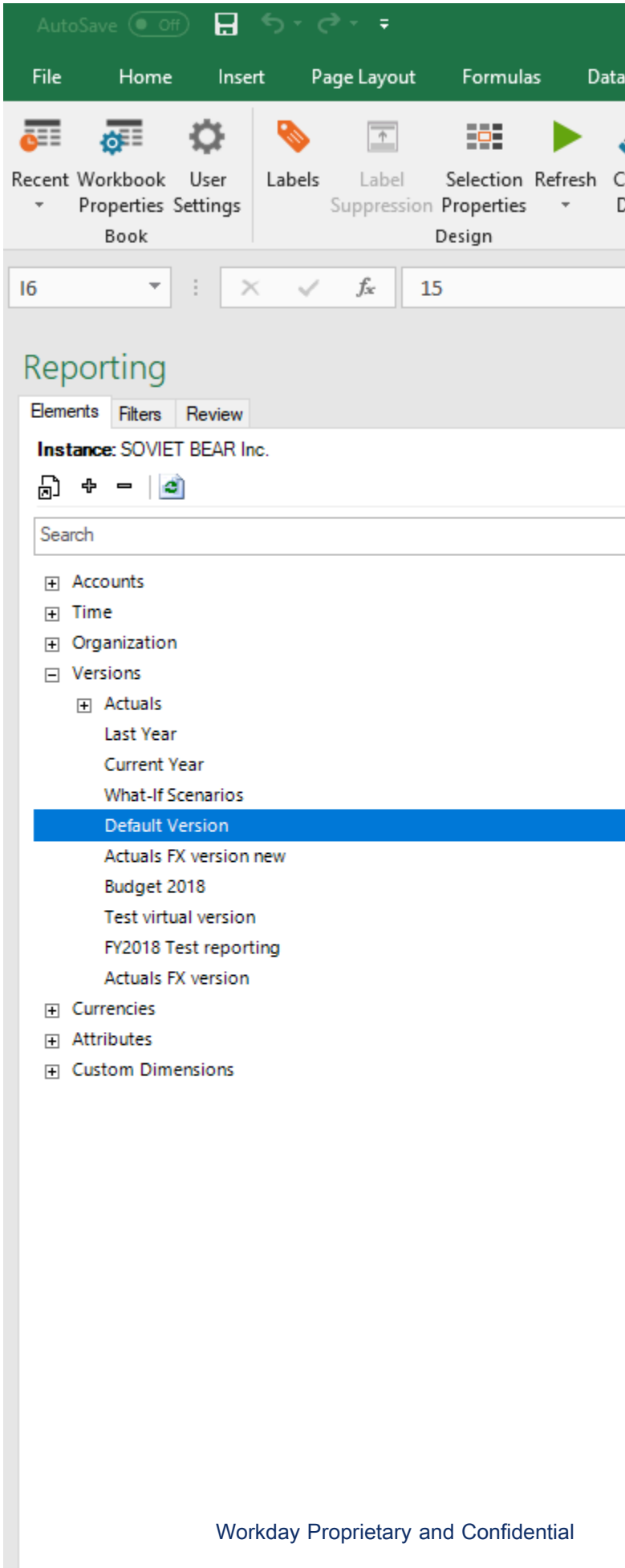
OfficeConnect ワークブック全体でゼロ行を非表示または非表示にするにはどうすればよいですか？

回答

| | |
|---|---|
| ワークブックのプロパティにおける行表示と列表示 | スクリーンショットで参照されている ワークブック プロパティ の "すべてゼロの行を非表示" オプションは、ワークブック全体でゼロ消去のデフォルト状態を定義します。このオプションがオンになっている場合は、ワークブックでデータをリフレッシュし、OfficeConnect リボンで "ゼロと空白を非表示" ボタンをクリックすることで、非表示にすることができます。<br><br>ワークブックのプロパティの "すべてゼロの行を非表示" オプションがオフになっている場合、データのリフレッシュ後に OfficeConnect リボンの "ゼロと空白を非表示" ボタンが機能しなくなります。これは、ワークブックのデフォルト状態が変更されているためです。これにより、個々の行に異なる非表示設定を選択して、ワークブックのプロパティに応じてワークブックの一部を動作させ、任意の行をゼロとして表示しないようにすることもできます。<br><br>最も簡単な用語で、ワークブックのプロパティの "すべてゼロの行を非表示" にすると、抑制機能が確実に有効になります。 |
| ゼロと空白の非表示 | リボンの "ゼロと空白の非表示" ボタンは、これらの行の非表示と表示を切り替えるだけです。<br><br>注： リンクされているデータの範囲内 Adaptive Planningでは、Excel の "非表示" 機能を使用して、行または列を手動で非表示にできます。これらの行と列は、すべてゼロが含まれている場合 のみ、 "ゼロと空白の非表示" 機能の影響を受けます。 |

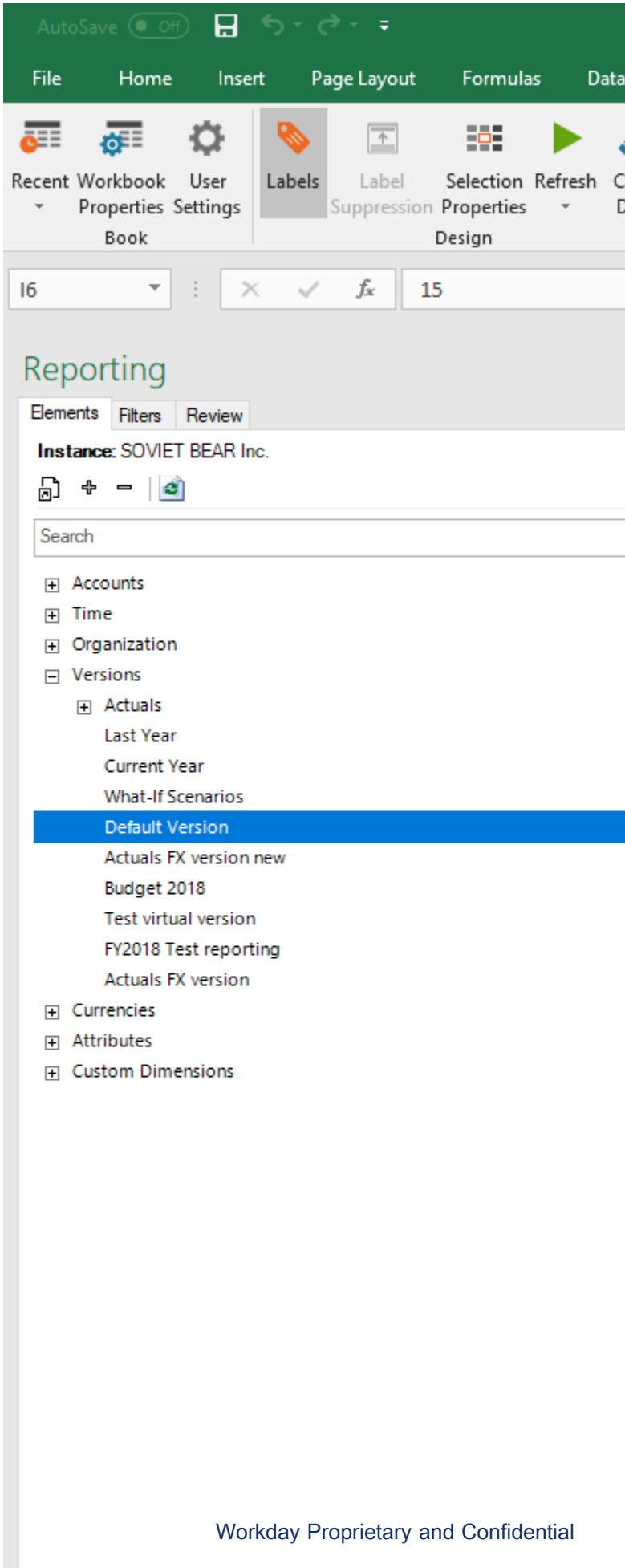
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

例: すべてゼロの行を非表示 - オン




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例: ゼロと空白の非表示 - オン




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## コンテキストのタイプ

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

OfficeConnect 内の各コンテキストはどのように機能しますか？

回答

ストック (月次差額) 科目の場合:

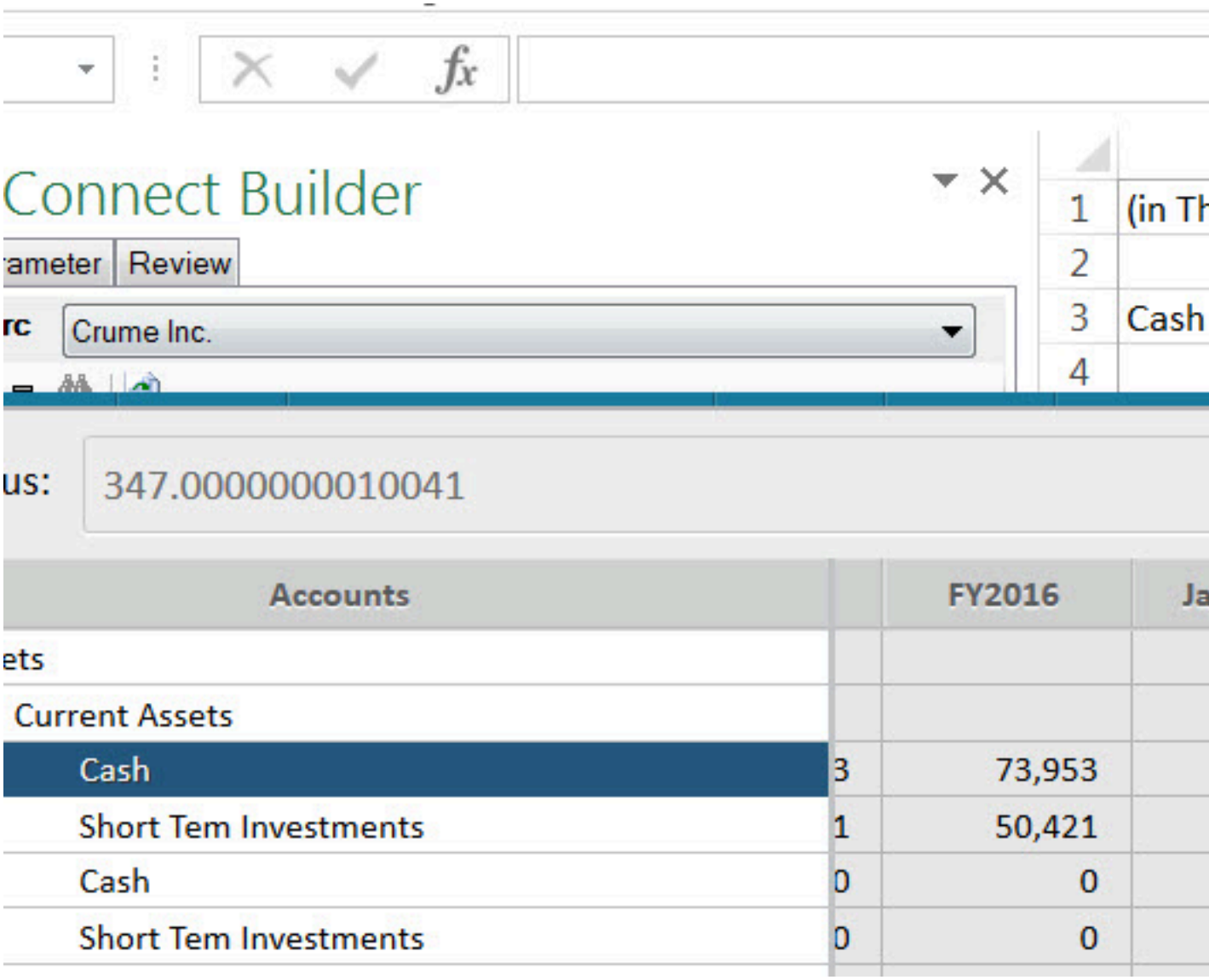
期首残高: 前月の値を表示します。

年初来: 当月の値を表示します。

年初来 残高: 前会計年度の値を表示します。

QTD: 当月の値を表示します。

QTD 残高: 前の四半期の値を表示します。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

フロー科目の場合:

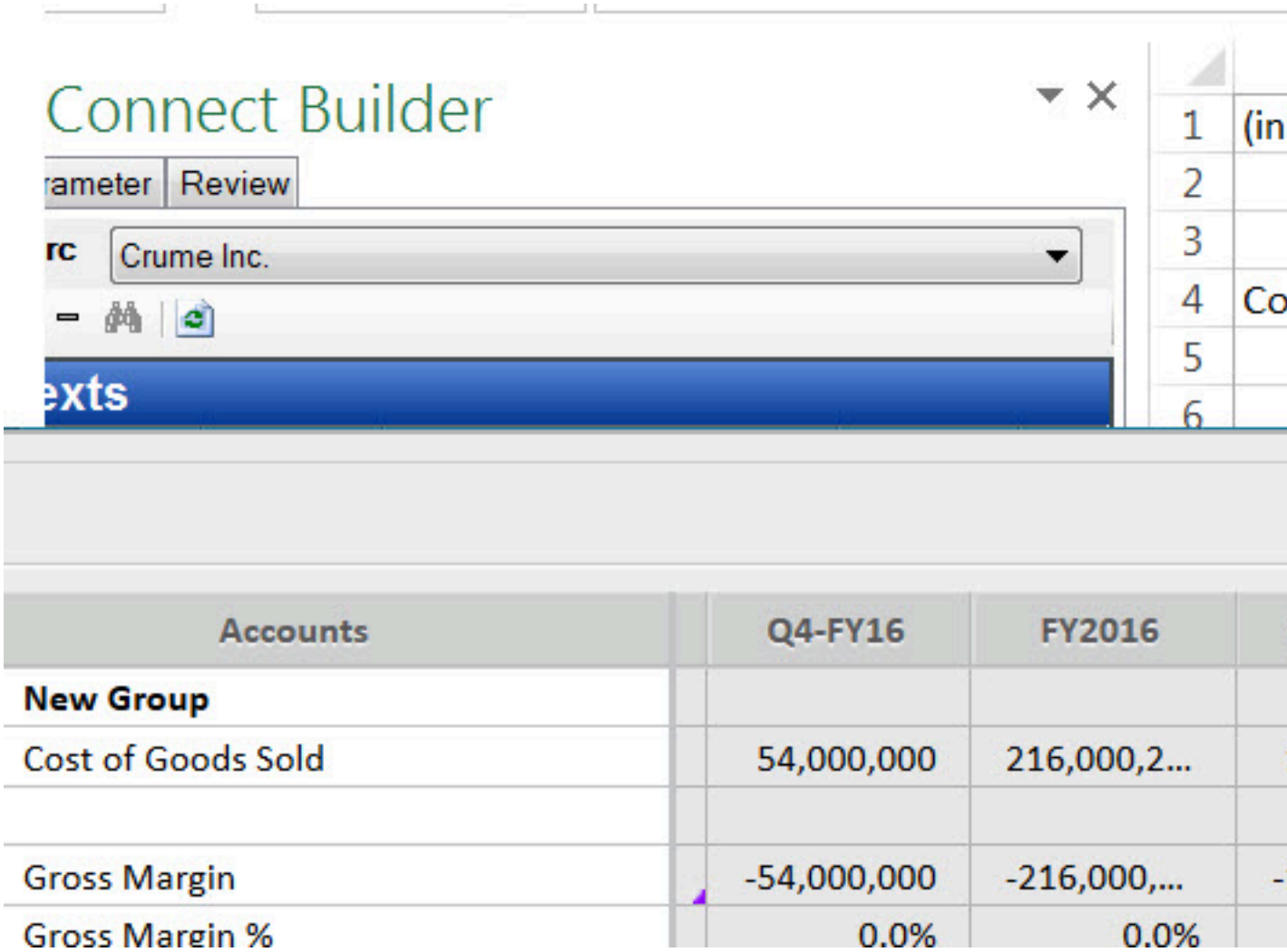
期首残高: 前月の値を表示します。

年初来: 特定の会計年度の当月までの合計値を表示します。

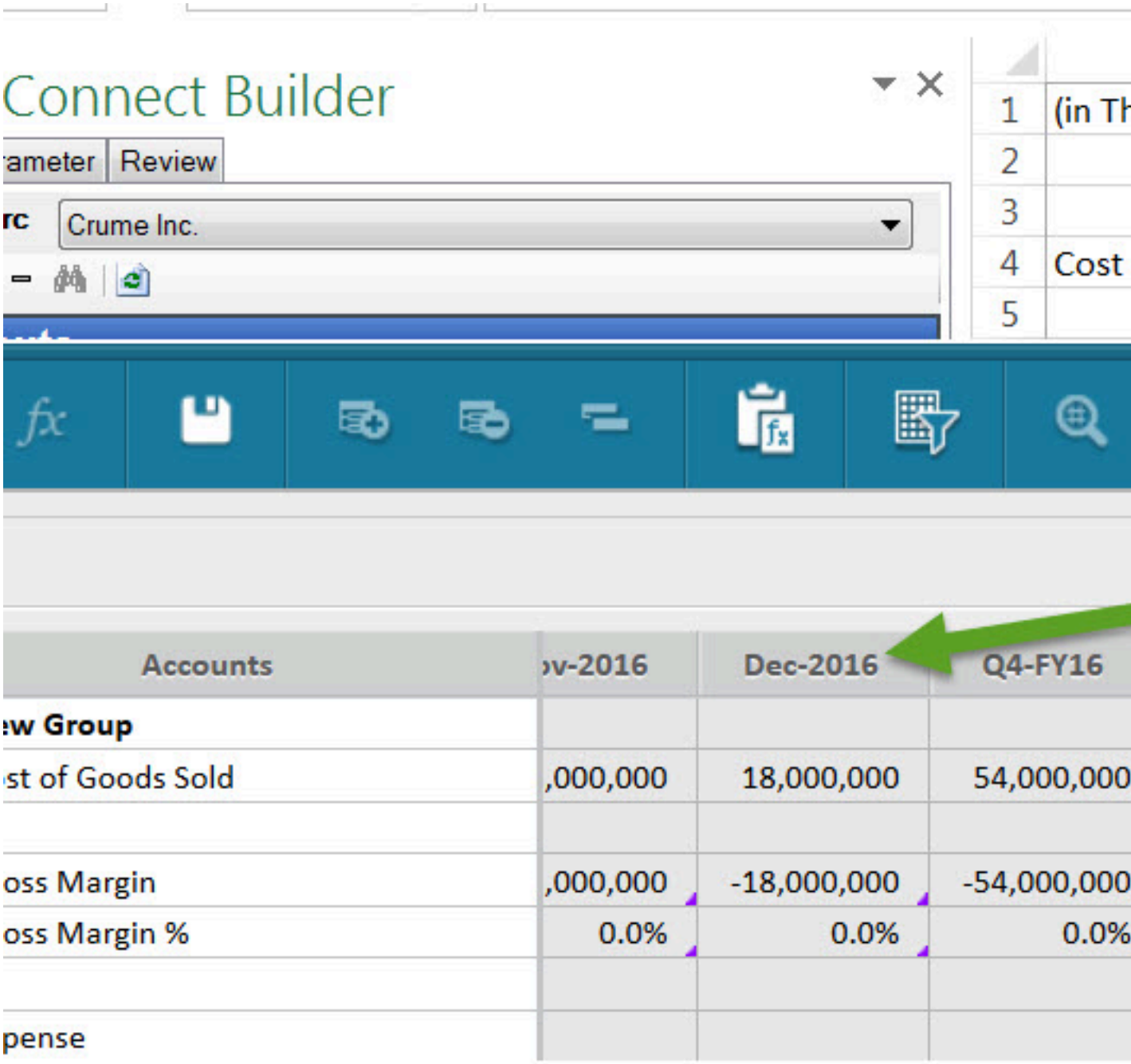
年初来 残高: 前会計年度の最後の月の値を表示します。

QTD: 特定の四半期における当月までの合計値を表示します。

QTD 残高: 前の四半期の最後の月の値を表示します。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved




## トラブルシューティング ツール: **OfficeConnect** と **Planning for Excel**

トラブルシューティング ツール: **OfficeConnect** と **Planning for Excel**

1. この記事の最後に添付されている OCSystemChecker.zip ファイルをダウンロードします。
2. 内容を展開
3. OCSystemChecker.exe プログラムの起動
4. エラーが発生したアプリケーションを選択し、"次へ" をクリックします。
    a. インストール中にエラーが発生した場合、OfficeConnect のインストールであれば "OfficeConnect for Excel" を選択できます
5. 発生した問題のタイプを選択し、"次へ" をクリックします。
    a. ファイルに固有の場合は、"ファイル固有の問題"に質問のファイルを添付してください

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

6. (重要) "Re-create Issue" ページで、 このページが開いているときに、発生したエラーを複製し、"次へ" をクリックします。
    a. たとえば、OfficeConnect のインストール中にエラーが発生した場合は、"Re-create the Issue" ウィンドウが開いているときにインストールを実行してみてください。ファイルのリフレッシュ中にエラーが発生した場合は、このウィンドウが開いているときにファイルを開いてリフレッシュしてください。
7. 最後のページには、収集された情報のサマリが表示されます。その後、"完了" をクリックすることができます。
8. Temp フォルダが開き、AdaptiveEnvironmentInfo Packageという名前のファイルが表示されます。
9. このファイルを添付して、アクティブな (または新しい) サポート チケットを送信してください。

OCSystemChecker.zip

**OfficeConnect** のトラブルシューティング

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

私は IT チームのメンバーで、OfficeConnect ユーザーから、製品の作業時の起動エラーやその他の動作についてサポートを求められることがよくあります。有用なトラブルシューティング ステップはありますか？

回答

前提条件のインストール

関連問題**: .NET**、**VSTO** などのセキュリティ例外によるインストールおよび更新のエラー

1. Office Runtime に対して .NET 4.8 および Microsoft Visual Studio (VSTO) 2010 ツールをダウンロードします。

    これらのプログラムにはマシンに対する管理者権限が必要です
2. OfficeConnect をダウンロードします。参照 製品ダウンロード ( 2785ページ )。

**Excel** アドインの確認

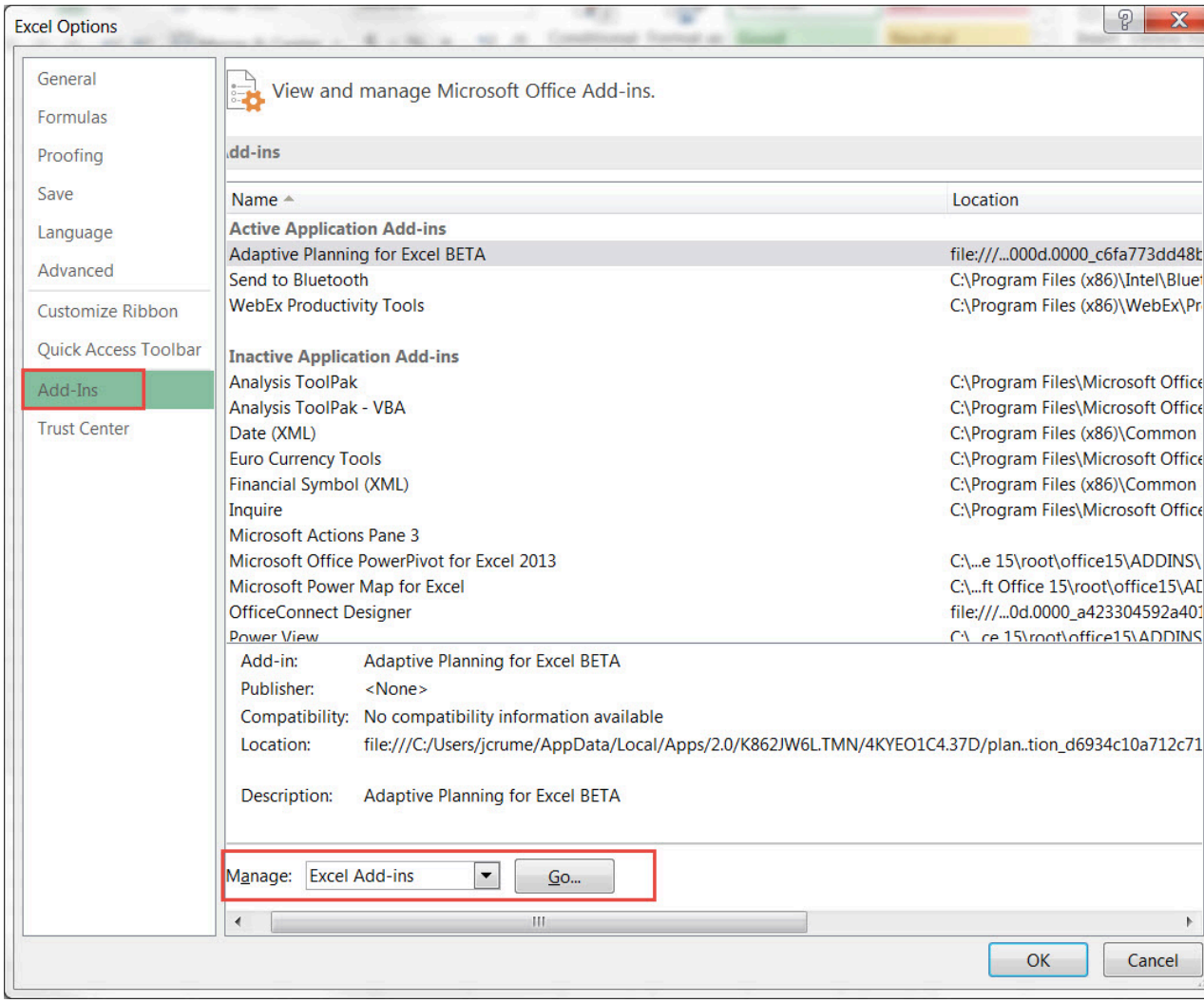
関連問題: OfficeConnect Excel の起動時にアドインが正しくロードされないなどの一般的なエラー

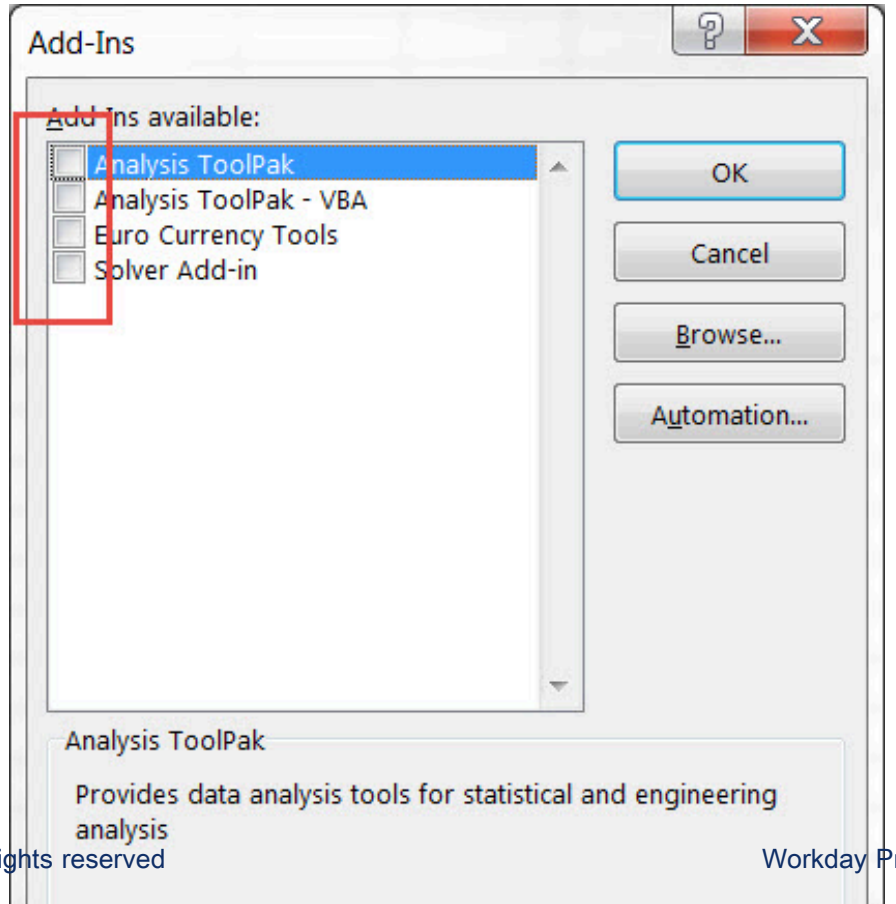
1. OfficeConnect と Excel (実行中の場合) を閉じる
2. Excel を開き、"ファイル" > "オプション" > "アドイン" に移動します。
3. 一番下の "管理" で、Excel のアドインが選択された状態で "移動" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. いずれかがオンになっている場合はオフにする

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 

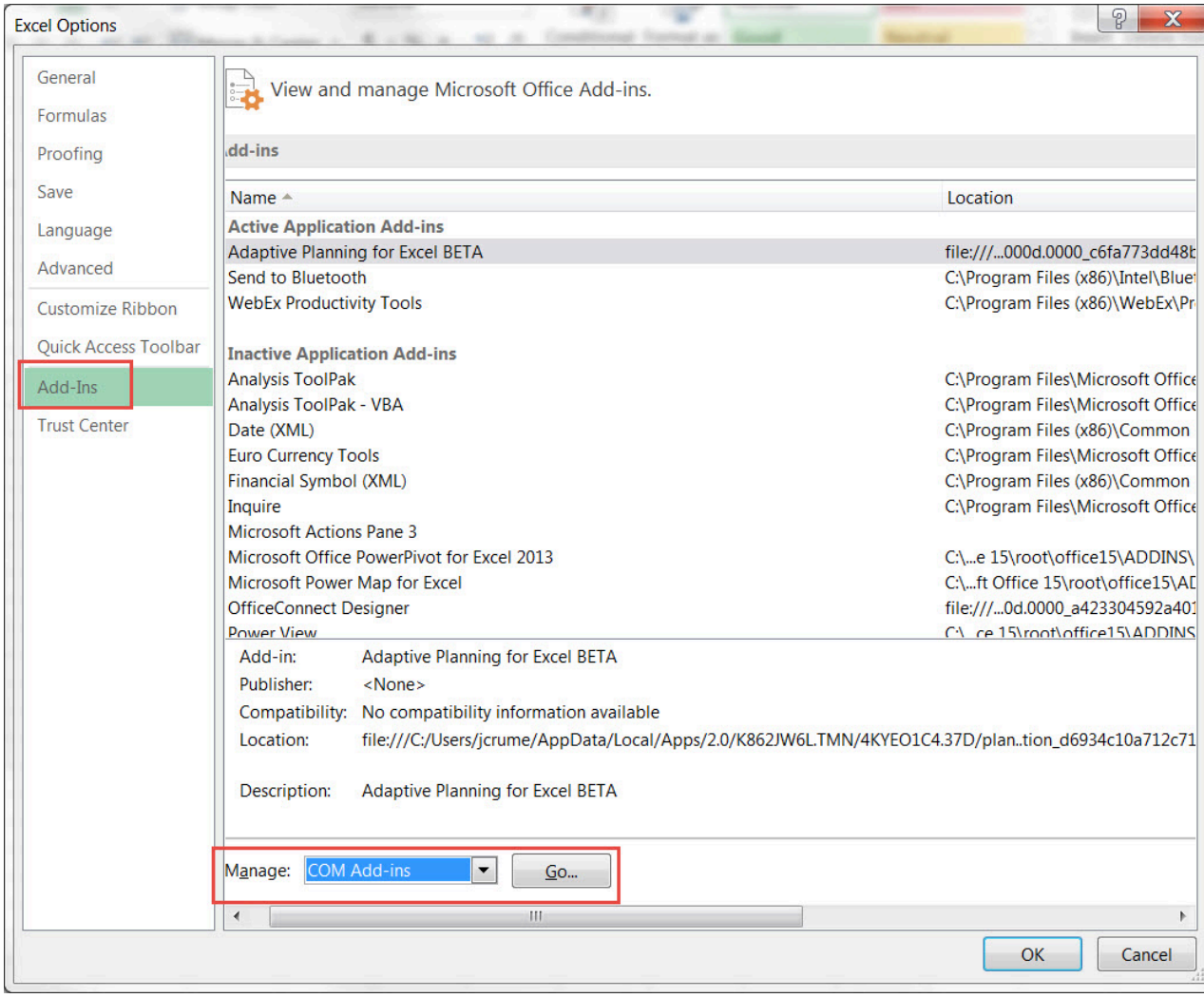



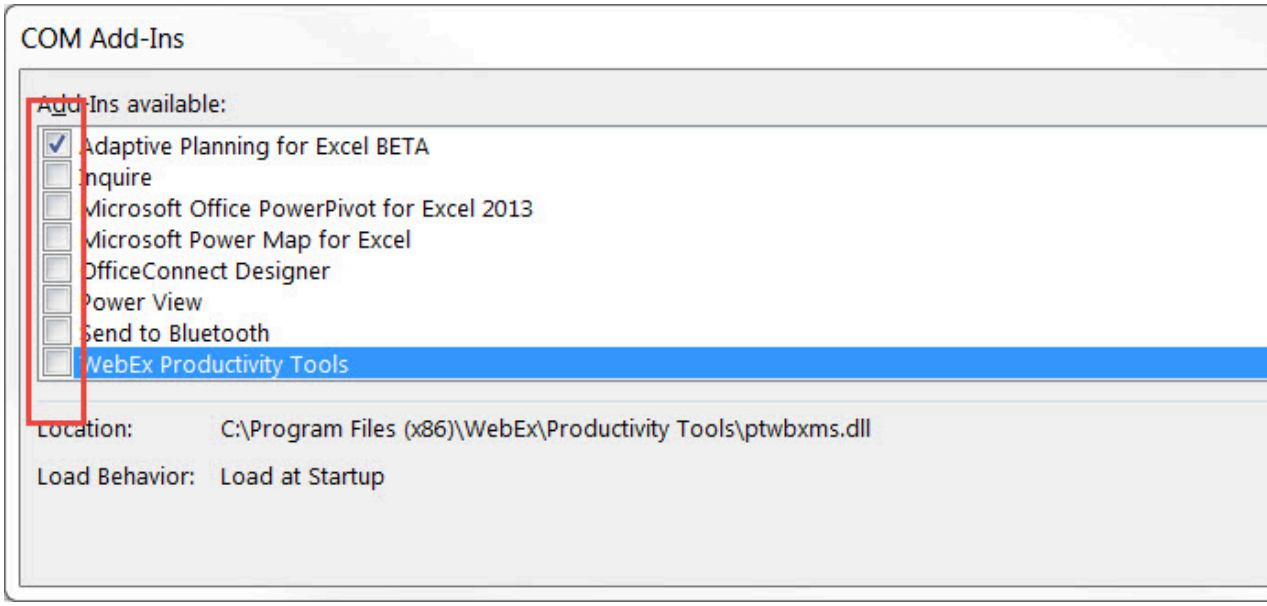

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

5. "ファイル" > "オプション" > "アドイン" に戻り、"Manage" を "COM アドイン" に変更して、"移動..." をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. アドインが存在する場合はオフにします ("Adaptive Planning for Excel" はオンにしたままで問題ありません)

- 

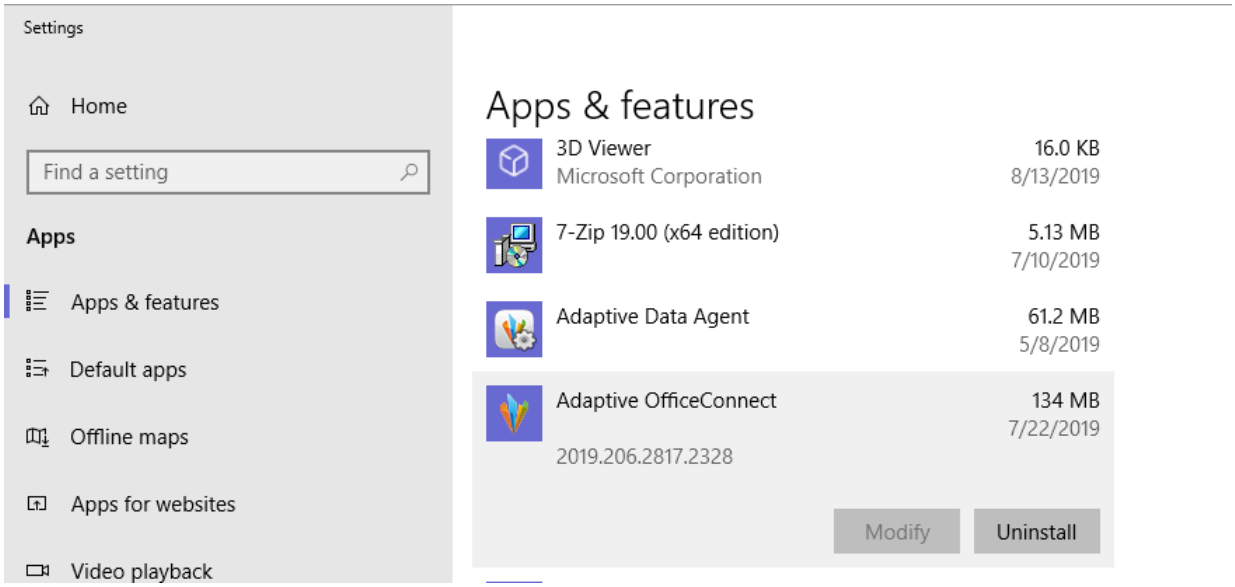

7. すべてのアドインのチェックを外すと、Excel を閉じることができます

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

8. OfficeConnect にログイン
9. 問題が解決されなかった場合は、次のステップを参照してください

アンインストール/再インストール

1. "開始" > "設定" > "アプリと機能" に移動します。
2. "OfficeConnect" > "アンインストール" を選択します。

- 

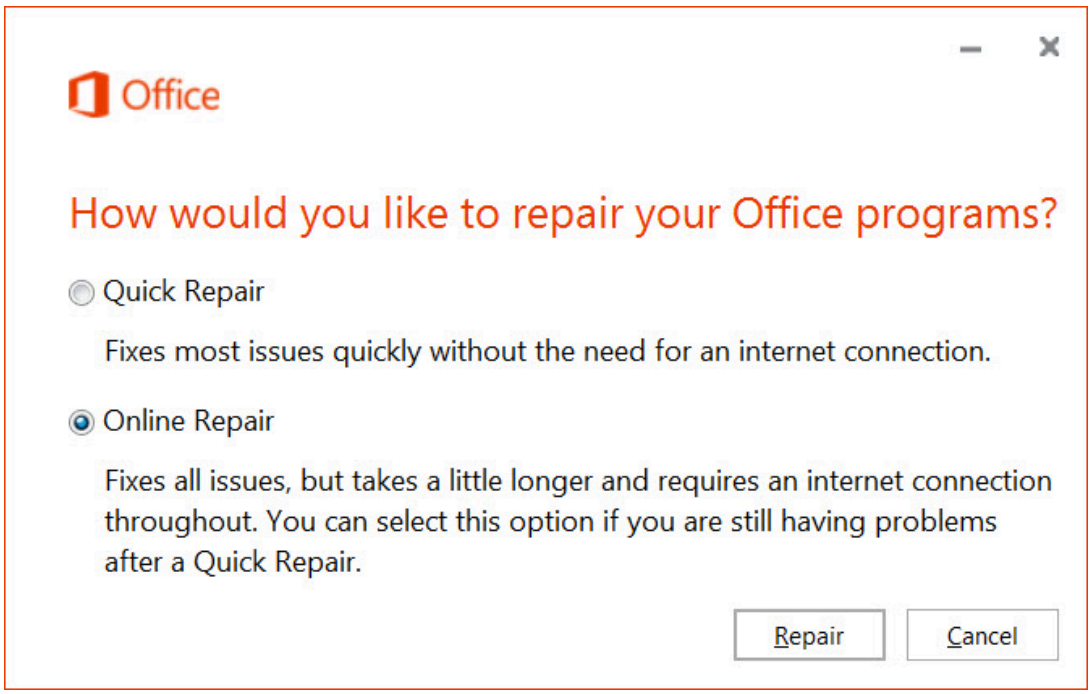

3. OfficeConnect を再インストールします。参照 製品ダウンロード（2785ページ）。
4. OfficeConnect にログイン
5. 問題が解決されなかった場合は、次のステップを参照してください

**Microsoft Office** の修復

1. "開始" > "設定" > "アプリと機能" に移動します。
2. "Microsoft Office" > "変更" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "オンライン修復" オプション > "修復" を選択します。




4. OfficeConnect にログイン

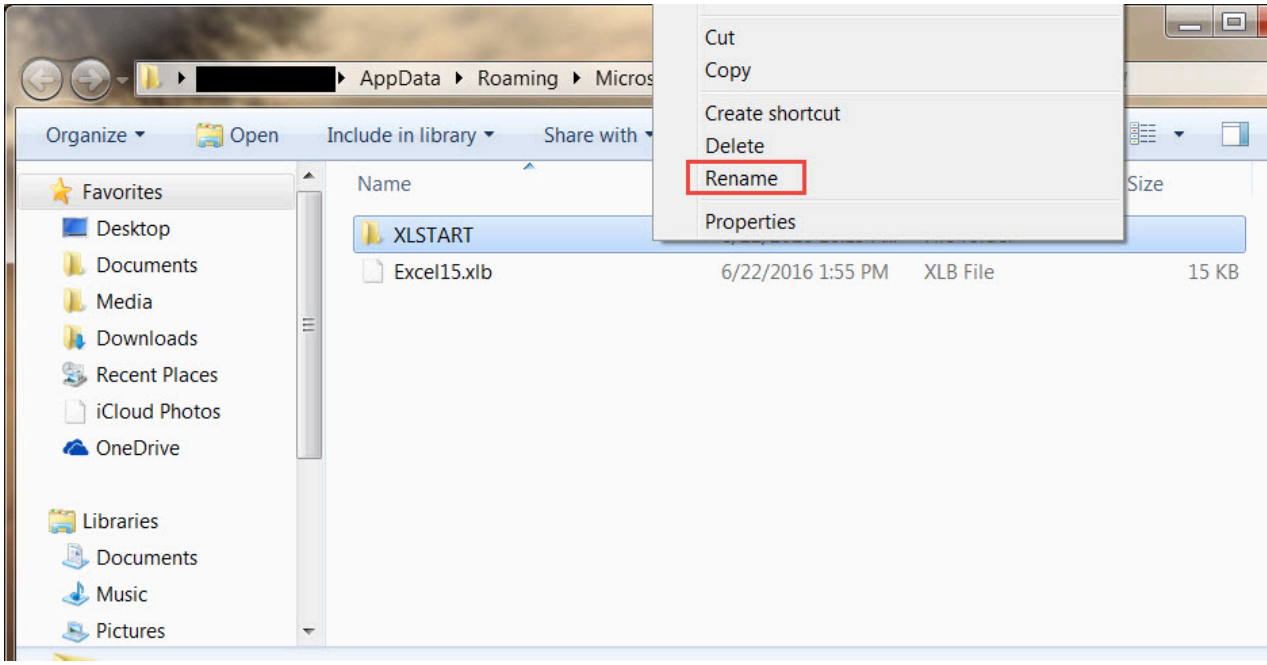
マクロの無効化

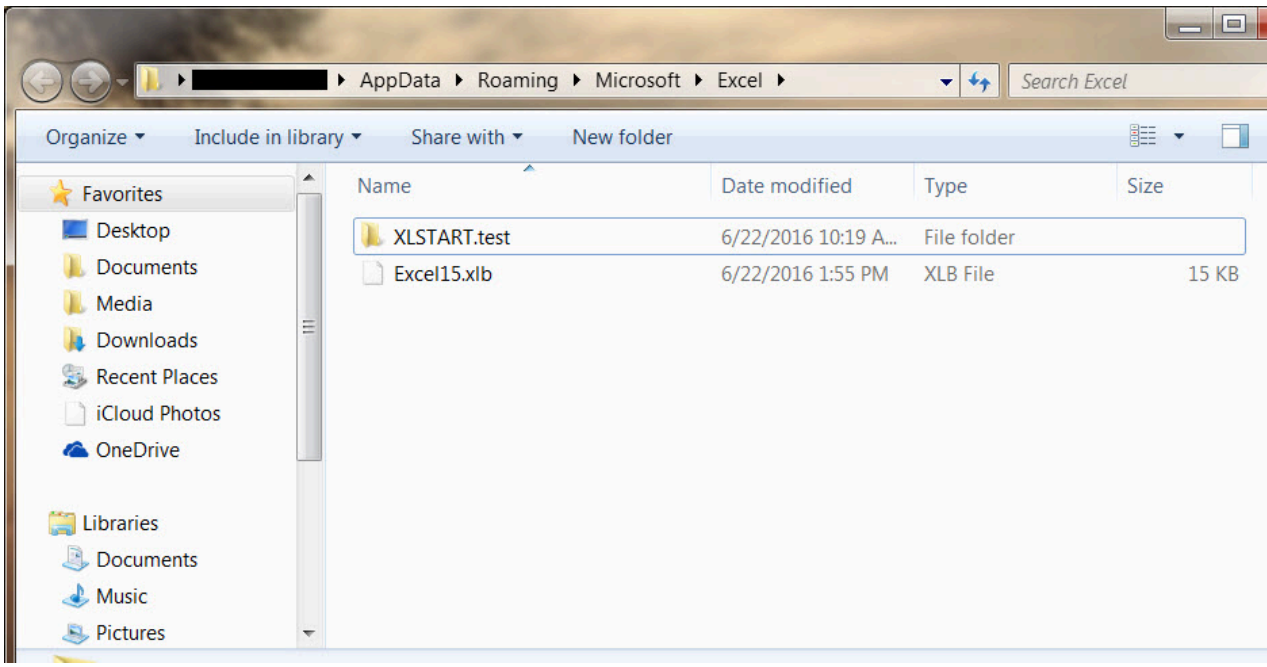
関連問題: 保存したファイルを開く時、または OfficeConnect を閉じる時の異常な動作

1. Excel および OfficeConnect が実行中の場合はそれらを閉じる
2. "スタート" > "検索" > "%appdata%\Microsoft\Excel" に移動し、"Enter" をクリックします。
3. XLStart フォルダを開く
4. フォルダにファイルがある場合は、次のステップに進みます。フォルダにファイルがない場合は、残りのステップをスキップできます。
5. 1 つ前のフォルダに戻る ("Alt + 左" をクリックするか、フォルダ パスの Excel をクリックします)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. XLStart フォルダの名前を「XLStart. test」などの名前に変更します。




7. OfficeConnect にログインし、予期しない動作となった以前のアクションを再試行してください

### 情報収集

上記のトラブルシューティング手順で問題が解決されない場合は、OfficeConnect トラブルシューティング ツール を実行し、その結果をサポートに送信してください。

- トラブルシューティング ツールは、エラーの情報やマシンに固有のその他の情報を収集します。
- Workday カスタマー センターでケースを作成し、サポートに結果を送信する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# モデリング

## モデルの管理

### モデル インサイトのプランニング センター

#### チェック設定のメトリック

##### 始める前に

セキュリティ:"プランニング センター" 権限

注 : プランニング センターは現在、シンガポールのお客様は利用できません。

##### このタスクについて

設定メトリックは 、モデルのサイズと経時的なモデルの変更を監視するのに役立ち、モデルのパフォーマンスに影響を与える可能性のある要因を詳しく分析します。モデルのパフォーマンスに影響を与える可能性のある一部の設定要素について KPI グラフを表示します。これらの要素には、バージョン、組織、属性値、リンクされた科目の数などが含まれます。

各 KPI には、時間の経過に伴う変化を示す折れ線グラフがあります。デフォルトでは、データが存在する場合、折れ線グラフは過去 30 日間を取得します。

各 KPI には、選択した時間範囲の最後の日の要素の値も表示されます。現在の値が最適化のベンチマークを上回っている場合は、色の表示でそれを確認できます。

メトリックは毎日深夜 (UTC) に収集されます。設定メトリックがグラフに読み込まれるのに 2 日かかります。グラフには、以下のメトリックのみが表示されます。

- プランニング センターがインスタンスで使用可能になった時点から。
- 現在日より少なくとも 2 日前。

##### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "プランニング センター" をクリックして、"設定メトリック" ページを表示します。
3. ツールバーで、過去 90 日間の日または 31 日間の時間範囲を選択します。
   今日の日付の少なくとも 2 日前に終了する日または範囲を選択してください。
4. KPI グラフがオレンジ色の場合は、以下のアクションを実行することを検討してください。

| KPI グラフ名 | 実行可能なアクション |
| --- | --- |
| Versions | • 古いバージョンと未使用のバージョンを削除します。<br>• 新しい計画バージョンの "表示開始月" を最小化します。参照 概念： 表示開始月（806ページ）。<br>• バージョンをロックする前に変更履歴をオフにします。参照 バージョンの変更履歴の使用（840ページ）。<br>• バージョンの "数式値を計算" を 有効にします。参照 FAQ: "数式値を計算" の廃止（831ページ）。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| KPI グラフ名 | 実行可能なアクション |
| --- | --- |
| 組織 | • 新しい組織ではなく組織の特性を使用し、組織階層を簡素化します。 参照 概念: 組織の属性と特性（1014ページ）。<br>• 連結を削除します。<br>• バージョンまたはシートで組織を使用できないようにします。 参照 組織の使用可否の変更（848ページ）。<br>• 古い未使用組織を削除します。<br>• 参照 概念: モデル設計のベスト プラクティス（731ページ）。 |
| 属性 | • 階層的な属性の代わりに特性を持つリスト属性を使用します。参照 特性の作成（1002ページ）。<br>• 未使用の属性またはバージョンで使用できないようにします。参照 カスタム属性値のバージョン使用可否の変更（974ページ）。<br>• 同じデータの異なる粒度を表す属性を削除する。 参照 未使用の属性値の一括削除（980ページ）。<br>参照 概念: モデル設計のベスト プラクティス（731ページ）。 |
| 属性値 | • 階層属性値の代わりに属性特性を使用します。<br>• さまざまな詳細レベルで計画を立てる。<br>• 未使用の値を削除する。<br>• 意味のない値を 1 つの値にグループ化します。<br>参照 概念: モデル設計のベスト プラクティス（731ページ）。 |
| 属性特性 | 未使用の特性を特定して削除します。依存関係を削除する前に解決してください。参照 特性および特性値の削除（1007ページ）。 |
| シート | シート メトリック を使用して以下を特定します。<br>• 削除できる未使用シート<br>• 実行に時間がかかるシートで、そのために変更を加えることができます。<br>ロックされたセルのみを表示するシートを削除する。代わりに、このデータを使用してレポートを作成できます。<br>参照 シート メトリックのチェック（725ページ）。 |
| スナップショット レポート | レポート メトリック を使用して、以下を特定します。<br>• 削除できる未使用のレポート。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| KPI グラフ名 | 実行可能なアクション |
| --- | --- |
| | • ロードに時間がかかりすぎるレポート。 より大きなレポートを分割し、フィルタを使用し、パラメータを使用してパフォーマンスを向上させることができます。<br><br>参照 レポート メトリックの確認 ( 727ページ )。 |
| 共有レポート | レポート メトリック を使用して、以下を特定します。<br><br>• 削除できる未使用のレポート。<br>• ロードに時間がかかりすぎるレポート。 より大きなレポートを分割し、フィルタを使用し、パラメータを使用してパフォーマンスを向上させることができます。<br><br>参照 レポート メトリックの確認 ( 727ページ )。 |
| カスタム科目 | • デフォルトの数式を有するカスタム科目の場合、実績バージョンにデータ入力オーバーライドを追加します。参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更 ( 869ページ )。<br>• 未使用の科目を特定して削除する。 科目の削除 ( 884ページ )。<br>• カスタム科目が総勘定元帳階層に存在できるか、または特定のキューブ シート上の標準キューブとして存在できるかを検討します。<br><br>参照 概念: モデル設計のベスト プラクティス ( 731ページ )。 |
| キューブ算出科目 | • 実績バージョンにデータ入力オーバーライドを使用します。 参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更 ( 869ページ )。<br>• 実績データと計画データを別々に保持する科目を組み合わせる。<br>• シートからそれらを削除します。 バックグラウンドでの計算は引き続き有効で、レポートを使用してデータをレビューできます。参照 キューブ シートにおける使用可否設定の変更 ( 1097ページ )。 |
| モデル算出科目 | • 科目の依存関係をレビューして未使用のものがないか確認し、未使用の科目を削除します。<br>• 他の科目からの計算を保存するために使用される科目を最小化する。 |
| リンク元科目 | チェーン化されているリンク元科目を削除します。例: 科目 A は科目 B にリンクされ、科 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| KPI グラフ名 | 実行可能なアクション |
| --- | --- |
| | 目 B は科目 C にリンクされます。科目 B を削除して、科目 A を科目 C に直接リンクします。<br>参照 科目へのリンクの追加 ( 908ページ ) 。 |

relatedlinks
概念
概念: Planning センター ( 730ページ )
タスク
レポート メトリックの確認 ( 727ページ )
シート メトリックのチェック ( 725ページ )

シート メトリックのチェック

始める前に

セキュリティ:"プランニング センター" 権限

注 : プランニング センターは現在、シンガポールのお客様は利用できません。

このタスクについて

シートのメトリックは、 ユーザー エクスペリエンスを詳しく分析して評価するのに役立ちます。シートのパフォーマンスと使用状況パターンをレビューできます。使用状況メトリックを使用すると、特定のシートのユーザー導入を追跡できます。パフォーマンス メトリックを使用すると、最適化によるメリットが最も大きいシートを見つけることができます。"シート メトリック" ページに、モデル内のすべてのシートが表示されます。1 日または時間範囲のメトリックをレビューできます。

プランニング センターが インスタンスで使用可能になった時点からのメトリックのみが表示されます。ユーザーが特定のシートを開いて保存すると、シート メトリック が更新されます。平均ロード時間が表示されるまでには、少なくとも 2 日のアクティビティが必要です。 現在日または前日のメトリックは表示されません。メトリックは毎日深夜 (UTC) に収集されます。

削除後にシートが使用されている場合は、削除されたすべてのシートの集計されたメトリックが 1 行表示されます。

以下が可能です。

- 検索機能を使用してシートをフィルタリングします。
- "エクスポート" をクリックして、フィルタリング済みのリストをダウンロードします。 エクスポートにはすべてのページが含まれます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "プランニング センター"をクリックします。
3. 左側のパネルから、"シート メトリック"をクリックします。
4. ツールバーで、過去 90 日間の 31 日間の時間範囲を選択するか、単一の日を選択します。
   今日の日付の少なくとも 2 日前に終了する日または範囲を選択してください。
5. 次を参考にして、使用状況メトリックをレビューします。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ビュー | シートが表示された合計回数シートの表示回数が少ない場合、シートを削除することを検討してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 個別のビュー | シートを表示したさまざまなユーザー別の表示回数このメトリック により、"表示 " メトリックにコンテキストが追加されます。例: シートのビューが 100 件であっても、異なるビューが 5 件のみの場合、そのシートの導入率は低いと判断できます。 |
| 保存 | 視聴者がシートを保存した回数このメトリックは、変更がどこで行われているかを追跡します。また、他のメトリックにコンテキストが追加されます。例: 多くのビューがあるが保存されていないシートは、主に情報の収集に使用されるシートです。レポートとして作成した方が効率的になる可能性があります。 |

使用状況メトリックは以下に役立ちます。

- トラフィックの多いシートと少ないシートを識別する。
- 削除を検討する未使用のシートを特定します。
- レポートとしてのパフォーマンスが向上する可能性があるデータを含むシートを特定します。
- 最もトラフィックが多いシートに最適化の負荷を集中させます。

6. 次を参考にして、パフォーマンス メトリックをレビューします。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 開封までの平均時間 | ユーザーがシートを選択してからロードするのにかかる平均時間 ロード時間が長い場合は、何らかの最適化を使用できる非効率なシートを示す場合があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 開封までの期間が 95% | 上位 5% を無視して異常値や外れ値を削除した後、最悪ケースのシナリオでシートをロードするのにかかります。 |

パフォーマンスを最適化するには、以下のいずれかのアクションを検討します。

- シートを開く前に、"シートの概要" ページで子組織を選択し、子組織でシートを開くことをユーザーに促します。
- 算出科目の場合、実績バージョンにデータ入力オーバーライドを使用します。
- ユーザーの初期表示を設定し、データを制限する個人的な表示を保存するようユーザーに促します。
    - フィルタを使用する。
    - キューブ シートと標準シートのゼロと空白の非表示
    - キューブ シートの行にネストされるのではなく、属性と特性をフィルタに移動します。
- シートにリンクされた科目が多数ある場合は、次の方法でシートを最適化できます。
    - チェーンにリンクされている科目を削除します。ソース データに直接リンク付けしてください。 例: 科目 A は科目 B にリンクされます。科目 B は科目 C にリンクされます。科目 A は科目 C にリンクされます。
    - 分析のためにシート上のリンクされた科目を削除します。レポートでも同じ目的を満たすことができます。
    - 使用されなくなったレガシー科目のリンクを解除して削除します。
    - 可能な場合、複数のリンクされた科目を、複数のソースにリンクされている 1 つの科目に置き換えます。
- キューブ シートの最適化オプションの詳細については、 を参照してください。 参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1111ページ）。
- モデル シートの最適化オプションの詳細については、 を参照してください。 参考: モデル シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1050ページ）。

relatedlinks
概念
ステップ: 標準シートの作成（1032ページ）
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
概念: Planning センター（730ページ）
概念: モデル設計のベスト プラクティス（731ページ）
タスク
チェック設定のメトリック（722ページ）
レポート メトリックの確認（727ページ）
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）
科目へのリンクの追加（908ページ）
参考
参考: モデル シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1050ページ）

レポート メトリックの確認

始める前に

セキュリティ:"プランニング センター" 権限

注： プランニング センターは現在、シンガポールのお客様は利用できません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

レポート メトリックは、 ユーザー エクスペリエンスに関するインサイトを提供します。共有レポートとスナップショット レポートのパフォーマンスと使用状況をレビューできます。使用状況メトリックを使用すると、特定のレポートのユーザー導入を追跡できます。パフォーマンス メトリックを使用して、最適化によるメリットが最も得られる可能性があるレポートを見つけます。"レポート メトリック" ページに、モデル内のすべての共有レポートとスナップショットが表示されます。1 日または時間範囲のメトリックをレビューできます。

プランニング センターが インスタンスで使用可能になった時点からのメトリックのみが表示されます。ユーザーが特定のレポートを実行すると、レポート メトリック が更新されます。平均ロード時間が表示されるまでには、少なくとも 2 日のアクティビティが必要です。 現在日または前日のメトリックは表示されません。メトリックは毎日深夜 (UTC) に収集されます。

削除後にレポートが使用されている場合は、削除されたすべてのレポートの集計メトリックが 1 行表示されます。

以下が可能です。

- 検索機能を使用してレポートをフィルタリングします。
- "エクスポート" をクリックして、フィルタリング済みのリストをダウンロードします。 エクスポートにはすべてのページが含まれます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "プランニング センター"をクリックします。
3. 左側のパネルから、"レポート メトリック"をクリックします。
4. ツールバーで、過去 90 日間の日または 31 日間の時間範囲を選択します。
   今日の日付の少なくとも 2 日前に終了する日または範囲を選択してください。
5. 次を参考にして、使用状況メトリックをレビューします。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ビュー | レポートが表示された合計回数です。レポートの表示が少ない場合、レポートを削除することを検討してください。 |
| 個別のビュー | レポートを表示したさまざまなユーザー別の表示回数。このメトリック により、"表示 " メトリックにコンテキストが追加されます。例: レポートに 100 件のビューが設定されていても、異なるビューが 5 つしかない場合は、そのレポートの導入度は低いと判断します。 |

   使用状況メトリックは以下に役立ちます。

   - トラフィックの多いレポートと少ないレポートを特定する。
   - 削除を検討する未使用のレポートを特定します。
   - 使用数が最も多いレポートに焦点を当てて最適化を行います。
   - 新しく共有されたレポートとスナップショットの導入を追跡する。

6. 次を参考にして、パフォーマンス メトリックをレビューします。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 開封までの平均時間 | ユーザーがレポートを選択してからロードにかかる平均時間。 ロード時間が長くなると、そのレポートが非効率であることを示し、最適化を行うことができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 開封までの期間が 95% | レポートを開くのにかかる時間の 95% が最も遅い時間です。 |

パフォーマンスの低いレポートを改善するには、次の方法があります。

- レポート内の科目を最小化する。
- ゼロと空白の非表示 参照 ../../../reporting-and-analysis/web-reporting/viewing-and-building-reports/pid1647563338439.dita。
- リンクされた科目を削除し、ソース科目を代わりに追加します。
- レポートにレポート フィルタとパラメータ プロンプトを追加します。参照 ../../../reporting-and-analysis/web-reporting/viewing-and-building-reports/matrix-reports/xwn1652830512661.dita および ダイアログ表示パラメータの追加（203ページ）。
- 大きなレポートを複数の小さなレポートに分割する。

relatedlinks
概念
概念: Planning センター（730ページ）
タスク
チェック設定のメトリック（722ページ）
シート メトリックのチェック（725ページ）

長期間実行中のプロセスの監視とキャンセル

始める前に

セキュリティ:"プランニング センター" 権限

注 : プランニング センターは現在、シンガポールのお客様は利用できません。

このタスクについて

プランニング センターの "長期間実行中のプロセス" レポートでは、30 秒以上実行されているプロセスをレビューし、キャンセルすることができます。より大きなプロセスがトラフィックのピーク時に実行されると、パフォーマンスが低下し、通常のプランニング アクティビティがブロックされる可能性があります。このような大規模なプロセスを特定し、必要に応じてそのほとんどをキャンセルし、トラフィックの少ない時間帯に再実行できるようになりました。

一部のプロセスはキャンセルできません。レポートの "アクション" 列で"キャンセル不可" と 指定されています。

レポートに以下が表示されません。

- キャンセルの完了後に処理される。
- 関連するシート、レポート、バージョン、またはモデル コンポーネント

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "プランニング センター"をクリックします。
3. "プロセス ダッシュボード" セクションで "長期実行プロセス"をクリックします。
4. 次を参考にして、レポートをレビューします。

| 列名 | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー | プロセスを実行したユーザーのユーザー名を特定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 列名 | 説明 |
| --- | --- |
| 前 | プロセスが開始されてからの時間を表示します。列を並べ替えて、最も実行時間が長いプロセスを見つけることができます。 |
| タイプ | プロセスのタイプを示します。<br>• シートのロード: ユーザーが、まだロード中のシートを開いているか保存しています。"シート メトリック" に移動してシートを特定することができます。参照 シート メトリックのチェック（725ページ）。<br>• API: ユーザーは API を実行しています。<br>• 管理者の更新: ユーザーは:<br>  • バージョンのロックまたはアーカイブ。<br>  • 大きなシートのコピーまたはインポート<br>  • 属性の高いシートの削除<br>  • カスタム属性や組織の削除または変更<br>  • シート定義を変更する。<br>• Excel エクスポート: データまたはメタデータをエクスポートしています。<br>• インポート: ユーザーはデータまたはメタデータをインポートしています。<br>• その他: リストされたオプションで取得されていないその他のすべてのプロセス。 |
| アクション | • キャンセル: クリックしてプロセスをキャンセルします。<br>• キャンセル中: キャンセル プロセスを開始しました。<br>• キャンセル不可: プロセスをキャンセルできません。 |

タスクの結果

プロセスをキャンセルすると次のようになります。

- プロセスが停止し、その結果生じるパフォーマンスのボトルネックが解消されます。
- レポートにプロセスが表示されなくなります。

relatedlinks
概念
概念: Planning センター（730ページ）

概念**: Planning** センター

プランニング センターは "モデリング" のエリアで、モデルの機能とパフォーマンスを詳しく分析して評価することができます。プランニング センターには、以下のレポートがあります。

- 設定メトリック: モデルのサイズと、時間の経過に伴うモデルの変更を監視します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- レポートのメトリック: レポートのパフォーマンスと使用状況パターンを監視する。
- シート メトリック: シートのパフォーマンスと使用状況パターンを監視します。
- 長期間実行中のプロセス: 30 秒以上実行されているプロセスを監視し、キャンセルします。

現在、プランニング センターはシンガポールのお客様に提供されていません。

relatedlinks
タスク
長期間実行中のプロセスの監視とキャンセル（729ページ）
チェック設定のメトリック（722ページ）
レポート メトリックの確認（727ページ）
シート メトリックのチェック（725ページ）

概念: モデル設計のベスト プラクティス

モデルのパフォーマンスを向上させるのに役立つ汎用的なベスト プラクティスをいくつかご紹介します。これらのガイドラインを使用して、強固な基盤を設計および構築します。モデル設計は、万能なプロセスではありません。モデルは、特定のプランニングのニーズを満たす必要があります。また、ビジネスのインフラストラクチャを反映する必要もあります。

組織属性の代わりに組織特性を使用

組織はビジネスの組織構造を反映しています。例: 組織は部門、利益センター、コスト センター、または地理的地域を表すことができます。

特性またはカスタム属性を組織に関連付けることができます。これらの点を考慮して意思決定を行います。

- 組織特性は、組織属性で可能なことをほぼそのとおり行うための迅速な方法です。
- 組織属性は、一部の特有なケースでは特性よりも多くのことができます。

属性を使おうと考えている場合、最初に特性を試してください。特性から属性への切り替えは簡単です。属性から特性への切り替えはやや困難です。

属性から切り替える場合、モデル全体でレポートと数式を精査します。履歴データを保持するために必要な調整を行う。

概念: 組織の属性と特性を参照してください。

バージョンの使用可否を適用

バージョンの使用可否とは組織設定のことです。この設定により、特定のバージョンの組織にアクセスできなくなります。データを失うことなく組織を廃止する方法です。

現在の計画バージョンで組織を使用不可にするのには以下のような目的があります。

- 組織名に "DO NOT USE" のみを追加する際のリスクである、間違いや混乱を避けてください。
- 古いバージョンの履歴データの保存。組織を削除すると、ロック済およびアーカイブ済みのバージョンを含め、すべてのバージョンの組織に関連付けられたデータが削除されます。

この設定は、実績バージョンでも機能します。実績バージョンでは、組織の非表示を開始する月と年を指定します。

参照 組織の使用可否の変更（848ページ）。

**1** 対 **1** 組織の削除

1 対 1 組織は、階層構造を強制的に一致させます。例: 米国の地理階層は "国" > "州" > "都市" です。英国の階層は "国" > "都市" です。1 対 1 組織構造は、英国の中間組織を強制的に米国に一致させます。プランニング モデルは不規則な階層をサポートしているため、強制的な 1 対 1 組織を削除して使いやすく、パフォーマンスを向上させることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| 強制的な 1 対 1 組織階層 | 理想的な組織階層 |
| --- | --- |
| アメリカ合衆国<br>• カリフォルニア州<br>• サンフランシスコ<br>• ロサンゼルス<br>英国<br>• 英国サブ<br>• ロンドン<br>• ブライトン<br>メキシコ<br>• メキシコ サブ<br>• メキシコシティー | アメリカ合衆国<br>• カリフォルニア州<br>• サンフランシスコ<br>• ロサンゼルス<br>英国<br>• ロンドン<br>• ブライトン<br>メキシコシティー |

科目プレフィックスの使用

数式のデバッグを簡素化するには、カスタム科目コードおよびメトリック科目コードにプレフィックスを使用します。すべてのメトリック科目には「M_」、すべてのカスタム科目には「C_」を使用します。プレフィックスを使用すると、数式内でこれらの科目を簡単に見つけることができます。

算出科目の使用

数値または他の科目のグループであるデータ ポイントはすべて、算出科目にすることができます。算出科目は、デフォルトの数式を使用してデータを制御します。時間と労力を節約できます。効果的に使用すると、パフォーマンスを向上させることができます。

算出科目の使用方法を以下に示します。

- シートまたはレポートに多くの数式を書き込んでいる場合は、一時的な数式を置き換えます。
- 数式がすべての組織で同じである場合、総勘定元帳科目およびカスタム科目の共有数式を置き換えます。その後、バージョン (実績を含む) ごとに数式のオーバーライドを作成できます。
- 単純な数式のメトリック科目を置き換えます。メトリック科目はすべての組織で再計算されるため、単純な数式のパフォーマンスが低下します。単純な加法減法には、デフォルトの数式を持つカスタム科目を使用します。複雑な比率のメトリック科目を予約します。

数式を最適化

- *IF* と *DIV* を それぞれ *IFF* と *DIVF*に置き換えます。*IFF* と *DIVF* にする ことで、Workday で実行しなければならない評価の回数を減らします。
- 最上位組織 *(+)* は参照しないでください。すべての組織での合計の再計算が強制されるためです。 代わりに以下の処理を実行します。
  - 数式のその部分に等しい前提条件科目を作成する。その後、数式内でその前提条件を参照する。
  - 配賦でその数式を使用する場合、配賦ウィザードを使用してルールを定義します。

例:

| 遅い | 速い |
| --- | --- |
| `divf(acct.headcount,acct.headcount[level=Top Level(+)])` | `divf(acct.headcount, assum.TotalHC)`<br>`-----`<br>`assum.TotalHC` は次の前提条件科目です:<br>`acct.headcount[level=Top Level(+)]` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### カスタム属性を最適化

カスタム属性を使用すると、独自の属性を標準属性に追加できます。標準属性は、組織、科目、時間、およびバージョンです。

- 使用していない属性と属性値をモデルから削除する時間を確保するようにします。属性リストをクリーンな状態に保つと、パフォーマンスが向上し、不要な要素が排除されます。
- 一般に、可能な場合はリスト属性を使用します。

リスト属性の長所と短所を理解してください。

| リスト属性 | 階層属性 |
| --- | --- |
| 組織属性として使用することはできない。<br>評価が速い。<br>特性とともに使用すると、代替の合計値を作成できる。<br>バージョンの使用可否がある特定のバージョンから属性値を非表示にすることができます。<br>バージョンの使用可否とは、属性値の設定のことです。特定のバージョンの属性値にアクセスできなくなります。 | 組織属性として使用できる。<br>評価の速度が遅い。<br>単一の階層でロールアップする。<br>バージョンの使用可否設定はない。 |

### 計画バージョンの整理

- フォルダを使用して計画バージョンを整理します。

  時間を節約するために、現在のバージョンをバージョン リストの一番上に移動させます。現在の計画に到達するために過去の何年分もの計画をスクロールする必要がなくなります。
- 手間を節約するため、現在の計画バージョンを 2 番目の位置にドロップします。次に、それより古いものを下にドラッグします。

### 表示開始月の更新

"表示開始月" を変更する時間を確保するようにします。これにより、バージョンのサイズが小さくなり、パフォーマンスが向上します。また、シートから関係のない期間を削除します。表示開始月の移動を参照してください。

デフォルトのバージョンについては、表示開始月は変更できません。これを回避するには、一時的に別のバージョンをデフォルトにします。

### 仮想バージョンを使用

以下の場合に仮想バージョンを作成します。

- 固定通貨のレポート。仮想バージョンは、バージョンのデータを別のバージョンの為替レートと組み合わせます。参照 例: 仮想バージョンによる固定通貨レポートの作成 ( 222ページ )。
- バージョンを比較するレポートのクイック メンテナンス。現在の予測と過去の予測など、レポートする内容について仮想バージョンを設定します。 その後、仮想バージョンを使用してレポートを作成します。仮想バージョンのベース バージョンを変更すると、すべてのレポートおよびダッシュボードも自動的に変更されます。

### ソース システムとの同期

システム オブ レコードにモデルの構造を定義させることを検討します。プラットフォームは、インテグレーション機能を通じてソース システムからのメタデータの同期をサポートしています。新しい科目、組織、または属性をソース システムに追加すると、自動的にモデルに表示されます。このアプローチは、ソース システムでデータをキャプチャした組織と同じ組織で計画を行う場合に最適です。また、アプローチを組み合わせることもできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

概念: ローダを参照してください。

注： インテグレーション機能を使用していない場合は、追加方法についてお問い合わせください。

"コード" および "名前" フィールドの命名規則

避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。

relatedlinks
概念
概念: Planning センター（730ページ）
タスク
チェック設定のメトリック（722ページ）
レポート メトリックの確認（727ページ）
シート メトリックのチェック（725ページ）
参考
参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1111ページ）
参考: モデル シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1050ページ）

## インテリジェント プランニング

異常検出
ステップ: 異常検出の設定

始める前に

- ファイナンシャル プランニング、セールス プランニング、またはワークフォース プランニング モデルを完成させる。
- 実績バージョンに 24 か月分のデータがあることを確認する。

このタスクについて

異常検出は、機械学習を利用したインテリジェント プランニング機能です。異常検出によって、利益になる機会を特定し、最大 24 期間先まで未知のリスクを回避することで、より正確な計画の構築に役立てることができます。

異常検出を使用するには、最初に予測計画バージョンに予測を生成する必要があります。アルゴリズムは、実績データに基づいて予測を計算します。 機械学習予測を生成した後は、以下を実行できます。

- 予測を予算と比較する。
- 異常値レポートを作成して、データの異常を特定する。
- シートで異常検出機能を使用する。

手順

1. デフォルトの時間層を変更します。
   デフォルトの時間層に "月" を選択します。
   セキュリティ: "カレンダーの設定" 権限
2. 異常検出のための予測バージョンの作成
   機械学習バージョンは、アルゴリズムの予測値が格納されている特別な計画バージョンです。
   セキュリティ: "バージョン" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

3. (任意) 異常値の閾値を定義します。
   モデル シートを作成することで、科目、バージョン、組織の組み合わせごとに独自の閾値を定義できます。
   セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
4. (任意) 科目を作成します。
   異常検出用に既存および新規の総勘定元帳科目とカスタム科目を設定するには、以下の科目設定を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 科目タイプ | "フロー" を選択します。 |
| データ入力シート タイプ | "標準" を選択します。 |
| 展開して開始 | 選択すると、デフォルトで科目が展開され、ユーザーが異常値を識別しやすくなります。 |

   セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
5. (任意) 標準シートを編集します。
   標準シートの科目の異常値を強調表示するには、シートからカスタム属性を削除します。
   セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
6. (任意) 異常検出用のシートのデフォルト ビューを設定します。
   セキュリティ:
   - "シートへのアクセス" 権限
   - モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
7. 異常検出予測を生成します 。
   機械学習の予測は、完了するまでに数日かかる場合があります。
   セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

タスクの結果

予測データが予測バージョンに入力されます。インテリジェント プランニングは、予測を他の計画データと自動的に比較し、標準シートの異常を強調表示します。シートでは、モデル シートで異なる閾値を定義しない限り、異常値は生成された予測値を 40% 上回る、または下回る値となります。

次のタスク

- シート内の異常値を検出します。
- 異常値レポートを作成します。異常値レポートを作成すると、定義したレポート計算に従って異常値を強調表示できます。ステップ: 異常値レポートの作成を参照してください。

relatedlinks
概念
概念: インテリジェント プランニング（26ページ）
タスク
異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）
異常値の閾値の定義（737ページ）
異常検出予測の生成（739ページ）
参考
FAQ: 異常検出（740ページ）
例
異常値の閾値の定義（737ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

異常検出のための予測バージョンの作成

始める前に

- 新規作成する前に、既存の予測バージョンを削除します。古い予測バージョンを削除すると、以前の予測と検出された異常もすべて削除されます。
- デフォルトの時間層の変更（788ページ）.デフォルトの時間層に "月" を選択します。
- セキュリティ: "バージョン" 権限

このタスクについて

異常検出の 機械学習アルゴリズムは、実績データを使用して値を予測します。予測バージョンは、結果の予測値を保持します。

予測バージョンは計画バージョンのタイプです。これは、異常検出と外れ値レポートの前提条件でもあります。

重要： 新しい予測バージョンを作成しないでこのバージョンを削除すると、異常検出 および外れ値レポートは機能しなくなります。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. ツールバーから "新しい計画バージョンを作成" をクリックして、"予測バージョンを作成" を選択します。
   このオプションは、すでに予測バージョンがある場合は使用できません。
4. ここで説明するとおりに "バージョンの詳細" セクションに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス制御 | すべてのユーザー タイプのプロンプトで、"インポートとメモのみ" を選択します。 |
| オーバーレイの実績バージョン | アルゴリズムで履歴データとして参照するバージョンを選択します。<br>実績バージョンが 1 つのみの場合、この設定は表示されません。アルゴリズムにより自動的にルート実績バージョンが参照されます。 |
| バージョンのコピーとして開始 | コピーする計画のバージョンを選択します。<br>Adaptive Planning は、既存の連結比率と為替レートを予測バージョンに自動的にコピーします。 |
| すべてのオーバーライド数式をコピー | (任意) チェックボックスをオンにして、数式を含む科目のオーバーライド数式を保持します。 |
| 計画の終了 | 予測が終了する日付を選択します。計画の開始日からの期間が以下の場合は、次のようになります。<br>• 24 期間未満の場合、予測のデータ ポイントは 24 未満になります。<br>• 24 期間を超える場合、予測のデータ ポイントは 24 になります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 計画の開始 | 実績バージョンの最も早い期間から少なくとも 24 期間後の日付を選択してください。また、日付は実績バージョンの最後の期間より前である必要があります。アルゴリズムでは、24 を超える予測が選択した日付から生成されることはありません。 |
| 表示開始月 | 計画の開始日より前の日付を選択してください。 |

次のタスク

1. (任意) 異常値の閾値を定義します。
2. 異常検出予測の生成（739ページ）.

relatedlinks
概念
ステップ: インテリジェント プランニングの設定
概念: バージョン（842ページ）
FAQ: 異常検出（740ページ）
タスク
ステップ: 異常検出の設定（734ページ）
シート内の異常値の検出（94ページ）
参考
FAQ: 異常検出（740ページ）

異常値の閾値の定義

始める前に

- 異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）.ステップ: 異常検出の設定を参照してください。
- セキュリティ: "モデル" 権限

このタスクについて

"異常検出"を使用すると、標準シートでは予測バージョンのデータの 40% の閾値を超える異常がハイライトされます。"AIML-THRESHOLD" モデル シートを作成して、閾値をグローバルに定義する、あるいはバージョンの組み合わせごと、組織ごと、および科目ごとに定義することができます。例: 20% の閾値を設定できます。

システムでの閾値のデフォルトは、任意の組織、バージョン、科目の組み合わせに対して 40% です。より具体的な閾値を指定すると、一般的な閾値がオーバーライドされます。例: すべての科目、バージョン、組織の上下の閾値として 20% を定義します。給与科目の 10% の閾値を定義します。10%という閾値は、給与科目のすべてのバージョンと組織に適用され、シートの前の行で定義した 20% がオーバーライドされます。

すでに定義済みの組織、バージョン、科目の組み合わせを定義する行を追加すると、最新の定義、またはシートの一番下にもっとも近い定義が使用されます。行のセルを空白のままにすると、その行全体が無視されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

3. "新規シート作成" をクリックします。
4. 次を参考にして、フォームに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | すべて大文字で 「*AIML-THRESHOLD*」と正確に入力します。 |
| 新しいシートの作成 | *"*モデル*"* および *"*空白のモデル シート *(*詳細*)"*を選択します。 |
| シート コード | 任意のコードを入力します。 |

5. "次へ" をクリックします。
6. シート サマリで "列と組織" をクリックします。
7. すでにキャンバスにある " 組織 " を選択します。
8. "設定" で、最下位組織、つまり子組織を持たない組織のチェックボックスを 1 つのみクリックします。

   それ以外の組織は選択しないでください。

   選択した組織が、シートを割り当てる組織となります。
9. "要素 " タブの "データ入力列"を展開します。
10. "テキスト" を 3 回ずつキャンバスにドラッグ アンド ドロップします。
11. 各 テキスト 要素の "名前" と "コード" に、最初の 1 つは「*ad_version*」、2 つ目の 1 つは「*ad_level*」、最後の 1 つは 「*ad_account*」 と入力します。
12. "数値" をキャンバスに 2 回ドラッグ アンド ドロップします。
13. 各 "数字 " 要素の設定については、次を参考にしてください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | "数字" 要素の一方に 「上限」、もう一方に「下限」 と入力します。 |
| コード | "数字" 要素の一方に 「*upper*」、もう一方に「*lower*」 と入力します。 |
| 表示形式 | 両方とも *"*数値*"* を選択します。 |
| 小数部桁数 | 両方とも *"0"* を選択します。 |

14. "保存" をクリックします。
15. メイン メニューから "シート" を選択します。
16. "組織" プロンプトで、シートに追加した最下位組織を選択します。
17. "バージョン" プロンプトで、デフォルト バージョンをクリックします。

    デフォルト バージョンが太字です。
18. シートを開くには、"AIML-THRESHOLD" をクリックします。
19. シート ツールバーで、"行を追加" ボタンをクリックします。
20. "ad_level"、"ad_account"、"ad_version" 列に、「*All*」 または組織と科目の正確なコード、およびバージョンの正確な名前を入力します。特定のバージョン、特定の組織を指定して、科目に「All」と入力すると、その組織とバージョンのすべての科目の閾値を定義することができます。

    例: すべての列に 「*All*」 と入力すると、すべての科目、組織、バージョンに対して同じ閾値が定義されます。

    機械によって認識できない名前とコードは無視されるため、正しく入力し、正確に入力してください。
21. "Upper" および "Lower" 列に整数を入力します。

    たとえば、"Upper" に 「*10*」 と入力すると、閾値は予測より 10% 増の値として定義されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
タスク
ステップ: 異常検出の設定（734ページ）
参考
FAQ: 異常検出（740ページ）

異常検出予測の生成

始める前に

- 異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）.
- 予測を入力する科目には、少なくとも 24 か月分の実績データが必要です。
- 異常検出のために独自の上限および下限を定義する場合は、モデル シートを作成します。異常値の閾値の定義を参照してください。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

異常検出 アルゴリズムは、機械学習を使用して実績データの履歴パターンに基づいて専用バージョンの予測を生成します。機械学習でより正確なモデルを作成することにより、今後 24 か月の間に回避できるリスクと利益になる機会を特定できます。

異常検出用の予測を生成すると、以下のようになります。

- 予測バージョンに予測データが入力されます。
- シートでの異常検出では、異常が強調表示されます。

注 : デフォルトのカレンダーが月をデフォルトの時間層として使用している場合のみ、機械学習予測を生成できます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "異常検出"をクリックします。
3. "予測の生成" をクリックします。
   予測の生成中、"モデリング" のこの領域から移動できます。
4. ステータスを確認するには、"モデリング > 異常検出"に戻ります。
   - 完了: 予測データによって科目の予測バージョンが入力されました。
   - 失敗: "ステータス" セクションにリストされるアクション アイテムをレビューして完了します。次に、"予測の生成" を再度クリックします。
   - 進行中: 後でもう一度確認します。予測の生成にかかる時間は、データのサイズおよび複雑さによって異なります。

次のタスク

- シート内の異常値を検出します。
- 条件付き書式設定を使用して、計画データと照らして予測データをレビューします。ステップ: 異常値レポートの作成を参照してください。

relatedlinks
タスク
ステップ: 異常検出の設定（734ページ）
シート内の異常値の検出
参考
FAQ: 異常検出（740ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

**FAQ:** 異常検出


- はじめに何をする必要がありますか？（740ページ）
- 予測バージョンにはどのような機能がありますか？（740ページ）
- 予測バージョンを編集または削除できますか？（740ページ）
- 異常値が表示されるのはどのようなシートですか？（740ページ）
- 異常値が表示されるのはどのような科目ですか？（740ページ）
- 異常値が表示されるのはどのようなバージョンですか？（740ページ）
- Excel Interface for Planning シートまたは OfficeConnect レポートの異常値を表示できますか？（740ページ）
- Adaptive Planning ではどのように異常が検出されますか？（741ページ）
- 予測はいつ開始されますか？（741ページ）
- シートに異常が表示されない場合はどうすればよいですか？（741ページ）
- 検出された異常が異常ではない場合はどうすればよいですか？（741ページ）
- 外れ値レポートにはどのような機能がありますか？（742ページ）
- シートで検出された異常は、外れ値レポートの上限と下限によって更新されますか？（742ページ）


| | |
|---|---|
| はじめに何をする必要がありますか？ | まず機械学習の予測バージョンを作成します。次に予測を生成します。参照 異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）。 |
| 予測バージョンにはどのような機能がありますか？ | 予測バージョンには機械学習アルゴリズムによって計算された予測データが格納されています。 |
| 予測バージョンを編集または削除できますか？ | 一部の設定は編集できます。必要なバージョン設定に準拠してください。準拠しない場合、アルゴリズムが失敗する可能性があります。<br>バージョンを削除することもできます。バージョンを削除すると、異常検出および外れ値レポートは機能しなくなります。<br>予測バージョンは読み取り専用であるため、予測バージョンのシート内のデータは編集できません。 |
| 異常値が表示されるのはどのようなシートですか？ | カスタム属性が含まれていない標準シートのみに表示されます。 |
| 異常値が表示されるのはどのような科目ですか？ | • 他の科目にリンクされていないフロー総勘定元帳科目とカスタム科目にのみ表示されます。<br>• "データ入力シート タイプ" の科目設定は、"標準" にする必要があります。<br>• 予期しないデータが 1 つ以上の子科目に含まれている場合、折り畳まれた科目の合計に異常のマークが表示されます。科目を展開して、異常値がどこにあるかを確認できます。 |
| 異常値が表示されるのはどのようなバージョンですか？ | 計画バージョンにのみ異常値が表示されます。 |
| Excel Interface for Planning シートまたは OfficeConnect レポートの異常値を表示できますか？ | 現時点で、異常検出の対象となるのは Adaptive Planning シートと Web レポートのみです。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| Adaptive Planning ではどのように異常が検出されますか？ | 実績バージョンのパターンを調査する予測アルゴリズムが使用されます。デフォルトでは、予測ごとに上限と下限が以下のように定義されます。<br>• UpperBound = PredictionValue + 0.4 * \| PredictionValue \|<br>• LowerBound = PredictionValue - 0.4 * \| PredictionValue \|<br>値が上限を上回るか下限を下回ると、異常値として表示されます。閾値は AIML-THRESHOLD シートを使用して変更できます。参照 異常値の閾値の定義（737ページ）。 |
| 予測はいつ開始されますか？ | 予測バージョンの "計画の開始" 設定を使用して、いつ予測を開始するかを定義します。これにより、アルゴリズムは定義した時間から 24 時間の間の値を予測します。 |
| シートに異常が表示されない場合はどうすればよいですか？ | アルゴリズムで科目の異常検出を開始するには、科目の実績バージョンに 24 個以上のデータ ポイントが含まれている必要があります。<br>また、以下を確認してください。<br>• 総勘定元帳科目またはカスタム科目を見ていること。キューブ科目、モデル科目、メトリック科目、前提条件科目では、異常値が表示されません。<br>• フロー科目を見ていること。ストック科目とリンク科目では、異常値が表示されません。<br>• 最小の期間を表示していること。例: 四半期ではなく月。アルゴリズムでは時間合計の異常値が検出されません。<br>• 子組織が含まれていない組織を見ていること。アルゴリズムでは組織合計の異常は検出されません。<br>• "異常を表示" ボタンが含まれている標準シートを見ていること。標準シートにカスタム属性が含まれている場合、このボタンは表示されません。<br>• 計画バージョンを見ていること。実績バージョンには異常値が表示されません。<br>• 予測バージョンを見ていないこと。予測バージョンには予測が格納されているため、異常値は表示されません。<br>• 分割を見ていないこと。 |
| 検出された異常が異常ではない場合はどうすればよいですか？ | • 実績バージョンをチェックし、データが正しいことを確認します。アルゴリズムでは空白のセルがゼロとカウントされ、予測に影響します。<br>• AIML-THRESHOLD シートを使用して独自の閾値を定義することを検討します。<br>• セルから異常値を示す枠線を削除するには、セルを右クリックし、"異常の印をはずす" を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 外れ値レポートにはどのような機能がありますか？ | 外れ値レポートは、予測バージョンの予測値を使ったマトリクス レポートです。スタンダード レポートの関数を使用して、カスタム定義した上限と下限に基づく外れ値を作成できます。これらの外れ値は、アルゴリズムではなく、レポート形式設定によって定義されるため、シートに表示される異常値とは一致しません。ステップ: 異常値レポートの作成を参照してください。 |
| シートで検出された異常は、外れ値レポートの上限と下限によって更新されますか？ | いいえ。シートで検出される異常には、機械学習アルゴリズムで定義された上限と下限が使用されます。異常値レポートは計画とアルゴリズムの予測との差異を分析する手段を提供します。便利ではありますが、アルゴリズムでの異常値の定義は変更されません。 |

relatedlinks
タスク
ステップ: 異常検出の設定（734ページ）
異常検出のための予測バージョンの作成（736ページ）
異常値の閾値の定義（737ページ）
異常検出予測の生成（739ページ）
シート内の異常値の検出
例
異常値の閾値の定義（737ページ）

**Predictive Forecaster**
設定の考慮事項**: Predictive Forecaster**

このトピックの内容を、Predictive Forecaster の設定と使用を計画する際の決定に役立てることができます。以下について説明します。

- 設定する理由
- Workday のその他の部分への適合
- 下流への影響および製品間のインタラクション
- セキュリティ要件およびビジネス プロセスの設定
- 実装前に考慮すべき質問および制限

完全な設定の詳細については、タスクの詳細な手順を参照してください。

概要

Predictive Forecaster は、機械学習 (ML) を搭載したインテリジェント プランニング機能です。Predictive Forecaster は、ML で生成されたデータを有する計画バージョンをシードします。これは、予算管理マネージャにとって信頼できる開始点として機能します。予測予測では、Adaptive Planning 内で定義した履歴データと回分データに基づいて時系列予測を生成するために、さまざまなアルゴリズムを選択およびテストします。

ビジネスにおけるメリット

- Adaptive Planning 内で高度な ML テクノロジーを使用します。
- ML で大量のデータ、パターン、ドライバーを処理できるようにすることで精度を高めます。
- 事前済みの ML アルゴリズムを使用して、プランニング サイクルの完了にかかる時間を短縮する。
- ほとんどの手作業で、多数の交差部分のシード データを生成します。
- スケジュールを使用して予測とローリング予測の実行を自動化し、実績データをインポートする際に予測をローリング基準で生成する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- プレビュー テナントのみ: スケジュールを使用して予測の実行を自動化します。

### ユース ケース

小売企業は、各拠点で販売する製品単位数を計画する必要があります。さらに、見込み製品を分析するとします。前年度の売上の詳細を保持するキューブ シートがあります。収益科目を保持する P&L 標準シートがあります。

以下が可能です。

- 履歴参照を定義します。履歴データには実績が含まれている必要がありますが、計画バージョンを参照とレバーに追加することもできます。例: 実績参照を 2018 年に開始し、2019 年の終わりに終了するように定義できます。2020 年は通常とは異なる年であるため、実績の 2020 年の会計期間はスキップできます。代わりに、2020 年の過去の計画バージョンを参照できます。
- データに必要な場合に、季節性をサポートするアルゴリズムを選択します。例: 年末商期の売上が増加した場合、アルゴリズムで年初の季節性パターンを考慮するよう指定できます。
- 異なるシート、または異なるバージョンでは同一のシートに異なる予測データ セットを生成する。 例: 総勘定元帳のすべての収益科目に対する P&L 標準シートの 2025 年予算計画で予測を生成できます。 特定の製品属性について、"収益キューブ" の "2025 年のシナリオ分析" に対する予測を生成することもできます。
- 組織フィルタと属性フィルタを使用して、予測データを特定する。例: "北西地域の営業" 組織と特定の製品に対する予測を実行できます。"南西地域の売上" とさまざまな製品について、個別の予測を実行する。
- 異なるデータ セットや、同じデータの異なる実行に対して、異なるアルゴリズムを使用する。例: P&L 科目の予測に Prophet アルゴリズムを選択します。予測データをレビューしたら、N-BEATS を試すことができます。予測とレポートを比較し、その特定のデータ セットに最適なアルゴリズムはどれであるかを確認します。
- プランニング サイクルの開始にあたっては、年の初めに予測を設定します。その年の実績データをさらに収集するにつれて、スケジューリングおよびローリング予測機能を使用して予測が自動的に生成されます。
- 既存の予測を複製することで時間を節約する。これにより、基本定義からすばやく変更を行うことができます。 例: 科目のみを変更して、開始期間と終了期間を複製できます。

### 考慮すべき質問

| 質問 | 考慮事項 |
| --- | --- |
| これまでの予測はどの程度正確でしたか？また、チームが予測を立てるのにどのくらいの時間を費やしていますか？ | より正確な予測と予算を取得するための、数学と数学に基づいた機械学習アルゴリズムが用意されています。ML 予測を使用すると、チーム シード データを起点として提供されるため、チームの価値のある時間を節約し、精度を向上させることができます。 |
| 実績データは Predictive Forecaster をサポートしていますか？ | • 実績データ ポイントと予測データ ポイントの比率は、3:2 にする必要があります。例: 2 年の予測には 3 年間の実績データが必要です。<br>• また、一部のアルゴリズムでは履歴データのデータ ポイントが最小限に抑えられます。参照 参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）。<br>• 各予測は、特定の標準シートまたはキューブ シートで実行されます。キューブ シートと標準シートとの間でのみデータの予測が可能です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 質問 | 考慮事項 |
| --- | --- |
| | • 総勘定元帳、カスタム、キューブの標準科目のみを予測および参照できます。 |
| 実績に多くの空白またはゼロが含まれていますか？ | 実績データが完成するほど、予測の精度は高くなります。アルゴリズムでは、履歴データの欠落や空白はゼロとして扱われ、予測に影響します。実績データが疎である場合、疎データに最適なアルゴリズムを使用します。 参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ） |
| どのような頻度で新しい実績をロードしますか？ | ローリング予測を使用して、予測の開始期間と終了期間を参照データの "次の時点 までの確定数字を表示" 日付に合わせることができます。このオプションを選択すると、予測期間と参照データが後にシフトされ、より正確な予測が可能になります。 |
| どこまで予測しますか？ | 必要な分だけ予測されるように、予測の開始期間と終了期間を設定します。予測が離れるほど、予測の精度は低下します。 |
| Adaptive Planning の実績データ以外に、予測に使用するデータは何ですか？ | 外部データは、レバー モデル シートにインポートすることによって、予測で使用できます。レバーを使用するには、次のいずれかのアルゴリズムを使用する必要があります。<br>• ARIMA<br>• AutoFit<br>• LightGBM<br>• Orbit DLT<br>• Prophet<br>AutoFit は、レバーをサポートするアルゴリズムを適用するときにのみレバー データを使用します。<br>以下のアルゴリズムを選択した場合を除き、季節性オプションを使用することもできます。<br>• クロストン法<br>• LightGBM<br>• N-BEATS |
| 季節性をどの程度快適に定義していますか？ | 季節性とは、値が繰り返しパターンとなる時間の間隔のことです。季節性パターンを定義する場合は、以下のアルゴリズムを使用します。<br>• AutoFit<br>• ホルト-ウィンターズ法<br>• Orbit DLT<br>• Prophet<br>AutoFit は、季節性をサポートするアルゴリズムを選択する際に、定義された季節性のみを使用します。<br>以下のアルゴリズムを使用して、アルゴリズム自身で季節性を取得させます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 質問 | 考慮事項 |
| --- | --- |
| | • ARIMA<br>• カルマン フィルタ<br>• LightGBM<br>• N-BEATS<br>参照 参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）。 |

推奨事項

- 少ない科目、組織、カスタム属性で予測をフィルタリングする。予測定義を制限すると、予測データの生成が速くなります。
- 予測データがプランに入力されると想定される少なくとも 1 日前に予測を実行またはスケジュールしてください。科目と組織が多い予測は、完了するまでに通常より時間がかかる場合があります。
- 疎性が原因で履歴データに多くの空白がある場合は、参照データに基づいて各データ系列のアルゴリズムを選択するクロストンまたは自動調整の使用をお勧めします。
- 予測が自動的に実行されるようにスケジュールする。または、予測を実行する時間と担当者を指定して、忘れないようにします。
- 予測に直感的な名前を使用し、再定義することなく予測を再度実行できるようにします。
- "Rolling Forecast" チェックボックスをオンにして、予測と実績データの最新ロードを同期します。このチェックボックスをオンにすると、実績データをロードするときに予測と参照が前にシフトされ、最新の実績参照が含まれます。

要件

- 履歴データおよび予測データに対して選択する標準シートまたはキューブ シートには、実績データが存在している必要があります。
- レバーを使用するには、外部データをモデル シートにインポートする必要があります。また、アルゴリズムとして ARIMA、AutoFit、lightGBM、Orbit DLT、または Prophet を選択する必要があります。
- カレンダー構造に関係なく、使用可能な場合に季節性オプションを使用するには、以下に相当するものが必要です。
    - 年次季節雇用の場合は、3 年間の実績。
    - 半年単位の季節性では 18 か月分の実績。
    - 四半期ごとの実績の 9 か月分
- 多くのアルゴリズムでは、履歴参照のデータ ポイントに最小値が設定されています。また、実績データ ポイントと予測データ ポイントの比率が少なくとも 3:2 である必要があります。例: 2 年の予測には 3 年間の実績データが必要です。
- 週単位の季節性オプションの場合、予測で参照されるすべてのバージョンの時間範囲は、日単位である必要があります。参照 FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）。

制限事項

- モデル シートやモデル科目を予測することはできません。
- シート、"セルを探索"、および変更履歴では現在、ML がデータを生成した日付は表示されません。
- リンクされた科目、メトリック科目、またはデフォルトの数式を持つ科目を予測することはできません。ただし、数式およびリンクで ML 予測データを参照することはできます。
- 最大 3 人の回帰者のみを使用できます。
- 更新された参照データが予測の実績に自動的に含まれることはありません。 更新された参照データを実績に含めるには、予測期間を手動で更新する必要があります。
- 非標準のカレンダーを使用すると、結果の精度が低くなります。例: 小売業のユース ケースでは 4-4-5 カレンダー。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- この設定が有効になっているカスタム属性を持つシートの予測は作成できません: データのインポートにより自動的に属性値を作成する。

テナント設定

影響はありません。

セキュリティ

- *"Predictive Forecaster"* 権限
- 予測に含める組織、科目、バージョンへのアクセス権。

ビジネス プロセス

影響はありません。

レポート

Predictive Forecaster で生成された予測に関するレポートを作成できます。

インテグレーション

影響はありません。

接続および **Touchpoints**

Workday には、テナントでの設定関係を理解するのに役立つリソースを備えた Touchpoints Kit が用意されています。Workday Touchpoints Kit の詳細については、Workday Community を参照してください。

その他の影響

予測を実行すると、他のインテグレーションのインポート プロセスと同様に、モデルの全体的なパフォーマンスに影響が及びます。

relatedlinks
概念
概念: Predictive Forecaster（758ページ）
タスク
機械学習予測の作成（746ページ）
Predictive Forecaster のためのレバー モデル シートの作成（756ページ）
参考
FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）

機械学習予測の作成

始める前に

実績データの要件は以下のとおりです。

- 履歴データには、アルゴリズムをサポートするのに十分なデータ ポイントが含まれています。参照 参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）。
- 実績データ ポイントと予測データ ポイントの比率が少なくとも 3:2 である。例: 2 年間を予測するには、3 年間の実績データが必要です。
- カレンダー構造に関係なく、カスタム季節性オプションを使用するには以下が必要です。
    - 年次季節雇用の場合は、3 年間の実績。
    - 半年単位の季節性では 18 か月分の実績。
    - 四半期ごとの実績の 9 か月分

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

レバーの要件:

- *AutoFit*、*ARIMA*、*lightGBM*、*Orbit DLT*、または *Prophet* の アルゴリズムを選択します。
- Predictive Forecaster のためのレバー モデル シートの作成（756ページ）.
- レバー モデル シートへのデータ入力（757ページ）.
- レバー シート上の科目、組織、日付、カスタム属性に注意してください。予測の作成には、ユーザーが必要です。

セキュリティ:

- 予測に含める組織、バージョン、科目へのアクセス権。
- *"Predictive Forecaster"* 権限

このタスクについて

機械学習 (ML) 予測を作成することで、計画の効率と精度を向上させることができます。 Predictive Forecaster は、ユーザーが選択した ML アルゴリズムを使用して、計画バージョンのシートにデータを入力します。アルゴリズムは、実績で定義した履歴の参照に基づいてデータを予測します。アルゴリズムで追加の計画バージョンを指定して、履歴データとして参照することもできます。予測を作成して保存し、後で戻って予測を実行できます。

特定の時間間隔で予測が実行されるようにスケジュールすることもできます。

実行の履歴を確認し、インスタンスで使用可能な場合は "Confidence Metrics" をレビューすることもできます。

注 : 予測は、選択した計画バージョンのシートの既存のデータを置き換えます。 予測を実行した後は、予測データを元に戻すことはできません。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "Predictive Forecaster"をクリックします。
3. "新規追加" をクリックし、"予測"を選択します。
4. 一意の "名称" を 129 文字未満で入力してください。
5. "予測" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| シート | 予測データを入力する標準シートまたはキューブ シートを選択します。 |
| 予測のバージョン | 予測データを入力する計画バージョンを選択します。 ロック済バージョンを選択しないでください。予測が失敗します。予測が失敗した後、履歴を確認して エラーをレビューできます。これにより、さらに細かく分析できます。 |
| ローリング予測 | このチェックボックスをオンにすると、以下の期間が、参照データ用に選択した実績バージョンの "次の時点 までの確定数字 を表示" 期間に自動的に調整されます。<br>• 予測開始期間<br>• 実績の開始期間<br>必要に応じて、予測バージョンの "計画の開始" を 参照期間として使用し、予測日をシフトします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 最良の結果を得るために、以下のことを行います。<br>• 新しい実績データをロードするたびに、"モデリング" > "バージョン" の "次の時点 までの確定数字を 表示" を更新します。<br>• 予測をスケジュールに追加すると、自動的に実行されます。 |
| ローリング予測期間 | "ローリング予測" チェックボックスをオンにした場合に表示されます。<br>シフトする期間を選択します。<br>シフト予測の開始期間と終了期間: 両方の期間を、実績バージョンの "次の時点 までの確定数字 を表示" または予測バージョンの "計画の開始" と同期します。最良の結果を得るために、"次の期間 までの確定数字を 表示" を定期的に更新します。<br>シフトのみの予測開始期間: このオプションにより 、"予測開始期間" が "予測終了期間"より後になる場合があります。このような場合、"スケジュール" ページに警告が表示されます。 |
| 予測開始期間 | 機械学習データを開始する時期を選択します。<br>連続予測の場合、この日付は読み取り専用で、次のどちらかの期間と同じです。<br>• 実績バージョンの "次 の時点までの確定数字を表示" から 1 期間。<br>• 予測バージョンの"計画の開始 " |
| 予測終了期間 | "予測開始期間" より後の期間を選択して、機械学習データを停止させる時期を示します。<br>ローリング予測では、"シフト予測開始期間と終了期間 " ラジオ ボタンも選択すると、この日付は " 予測開始期間"と同じ期間数だけ先に進みます。 |
| 予測範囲 | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>このチェックボックスをクリックして、追加の予測を 2 つ生成します。1 には予測値の上限が含まれます。もう 1 つは予測値の下限を含みます。このオプションを使用すると、予測の履歴を表示したときに "Confidence Metrics" タブにグラフが生成されます。グラフはこの範囲を経時的に示します。参照 概念: Predictive Forecaster を使用した予測の範囲と精度 ( 763ページ ) 。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 確度レベル | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>"予測範囲"を選択すると表示されます。<br>55 ~ 95 パーセントの間でパーセントを選択します。パーセントが高いほど、下限と上限の間の範囲が広くなります。 |
| 上限バージョン | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>"予測範囲"を選択すると表示されます。<br>予測の最も高い確度値を入力する計画バージョンを選択します。バージョンは予測の範囲内にある必要があります。 |
| 下限バージョン | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>"予測範囲"を選択すると表示されます。<br>予測の確度の最低値が入力される計画バージョンを選択します。バージョンは予測の範囲内にある必要があります。 |
| 精度メトリック | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>既存の実績に対して予測のバックテストを実行する場合は、このチェックボックスをオンにします。予測の履歴を表示すると、精度のレベルが の "Confidence Metrics" タブにパーセントで表示されます。<br>参照 概念: Predictive Forecaster を使用した予測の範囲と精度 ( 763ページ ) 。 |
| 予測の説明 | 予測の実行後に "Confidence Metrics" タブで以下のアイテムを生成するには、このチェックボックスをオンにします。<br>• 季節性、傾向、および残存のコンポーネント (該当する場合) が予測値にどのように寄与するかを表すグラフです。<br>• グラフのコンポーネントを説明するテキスト。 |

6. "フィルタ" セクションで以下の処理を実行します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 科目 | 必須です。 機械学習データを入力する科目を選択します。 |
| 組織<br>属性 | 任意です。機械学習データを入力する組織とカスタム属性を選択します。<br>組織フィルタと属性フィルタを使用して、予測内の時系列数を制限することをお勧めします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | フィルタを指定しない場合、予測はすべての組織と属性に対して実行されます。<br><br>例:"組織"からは何も選択しないでください。予測はシートに含まれているすべての組織で実行されます。 すべての組織と属性を含むシートが大きくなると、予測が完了するまでにかかる時間が長くなる可能性があります。 |

このフィルタには、"予測" セクションで選択したシート上の科目、組織、属性のみが含まれます。
各フィルタ:

- 1 つ以上の科目、組織、または属性を選択できます。
- 親を選択すると子孫も自動的に選択されます。
- "選択済 " タブで、選択内容をレビューおよび削除できます。

7. "参照データ" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 実績バージョン | アルゴリズムで履歴データとして参照する実績バージョンを選択します。 |
| 実績開始期間 | "予測終了期間"より後の期間を選択してください。 |
| 実績終了期間 | "実績の開始期間"より後の期間を選択します。 少なくとも 3:2 の実績と予測の比率が必要です。選択するアルゴリズムに必要なデータ ポイント数も必要です。<br><br>参照 参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）。<br><br>連続予測の場合、この日付は読み取り専用で、実績バージョンの "次の時点 までの確定数字 を表示" 適用日と一致します。<br><br>"次の時点 までの確定数字を 表示" 日付が空白の場合、予測バージョンの " 計画の開始" の 1 期間前に整合します。 |
| 計画バージョンの追加 | クリックすると、より多くの参照データの計画バージョンを追加できます。 プラン参照の期間が予測または実績の時間範囲と重ならないことを確認します。<br><br>例: 予測が 2023 年 1 月から開始し、2023 年 3 月に終了するとします。実績参照は 2022 年 1 月から開始し、2022 年 12 月に終了します。プラン参照は、2022 年 1 月から 2023 年 3 月までの期間と重複しないようにしてください。 |

8. "詳細設定" セクションの "アルゴリズム" サブセクションを完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アルゴリズム | アルゴリズムを選択します。データに最適なアルゴリズムを見つけるために、試行錯誤のプロセスが必要になる場合があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 詳細については、以下を参照してください。<br>参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）。 |
| 季節性の自動検出 | ML システムが参照データの季節性を自動的に検出できるようにするには、オンのままにします。季節性を手動で設定するには、このチェックボックスをオフにします。 |
| 季節性 | "季節性の自動検出" をオフにした場合に表示されます。<br>以下のアルゴリズムで使用できます。<br>• AutoFit<br>• ホルト-ウィンターズ法<br>• カルマン フィルタ<br>• Orbit DLT<br>• Prophet<br>AutoFit は、季節性をサポートするアルゴリズムに対して定義された季節性のみを適用します。<br>選択するオプションに応じて以下のようにします。<br>• 毎年、3 年間の実績データが必要になります。<br>• 半年に18 か月分の実績データが必要になる。<br>• 四半期ごとに、9 か月分の実績データが必要になります。<br>• ″なし″ を選択した場合、データに季節性はありません。<br>カルマン フィルタのアルゴリズムで、"データは季節によって異なる" チェックボックスをオンにし、季節性をモデル化することを示します。 季節性を考慮しない場合は、このチェックボックスをオフにしてください。 |
| 週単位の季節性 | 使用対象:<br>• AutoFit<br>• Prophet。<br>アルゴリズムで週単位のパターンも考慮したい場合は、このチェックボックスをオンにします。このオプションでは、予測バージョンと参照バージョンの時間範囲内の日次カレンダーが必要です。<br>"自動調整" を選択した場合、週単位の季節性は Prophet を使用するデータにのみ適用されます。 |
| 乗法的季節性 | "季節性の自動検出" をオフにした場合に表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 使用対象:<br>• AutoFit<br>• Holent-Winters<br>• Prophet。<br>このチェックボックスをオンにして、季節性がトレンドの変動に比例することを示します。 |
| 値の端数処理 | 予測に負の値が入らないようにする場合に、このチェックボックスをオンにします。 |
| レバー シート | 使用対象:<br>• AutoFit<br>• ARMA<br>• LightGBM.<br>• Orbit DLT<br>• Prophet。<br>アルゴリズムが参照する回分データを含む最大 3 つのシートを選択します。このオプションを選択する前に、以下を実行します。<br>• Predictive Forecaster のためのレバー モデル シートの作成（756ページ）.<br>• レバー モデル シートへのデータ入力（757ページ）.<br>AutoFit の場合、回分のデータは Prophet または Orbit DLT を使用するデータに適用されます。 |

9. "詳細設定" セクションの "Confidence Metrics" サブセクションを完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 予測範囲 | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>このチェックボックスをクリックして、追加の予測を 2 つ生成します。1 には予測値の上限が含まれます。もう 1 つは予測値の下限を含みます。このオプションを使用すると、予測の履歴を表示したときに "Confidence Metrics" サブセクションにグラフが生成されます。グラフはこの範囲を経時的に示します。参照 概念: Predictive Forecaster を使用した予測の範囲と精度（763ページ）。 |
| 確度レベル | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>"予測範囲"を選択すると表示されます。<br>55 ~ 95 パーセントの間でパーセントを選択します。パーセントが高いほど、下限と上限の間の範囲が広くなります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 上限バージョン | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>"予測範囲"を選択すると表示されます。<br>予測の最も高い確度値を入力する計画バージョンを選択します。バージョンは予測の範囲内にある必要があります。 |
| 下限バージョン | 数量限定: この機能の対象となるかどうかについては、お問い合わせください。<br>"予測範囲"を選択すると表示されます。<br>予測の確度の最低値が入力される計画バージョンを選択します。バージョンは予測の範囲内にある必要があります。 |
| 予測の説明 | このチェックボックスをオンにすると、予測の実行後に "Confidence Metrics" サブセクションに以下のアイテムが生成されます。<br>• 季節性、傾向、および残存のコンポーネント (該当する場合) が予測値にどのように寄与するかを表すグラフです。<br>• グラフのコンポーネントを説明するテキスト。 |

10. "実行" をクリックして予測を開始します。
    "保存" をクリックして、後で実行することもできます。

タスクの結果

以下のステータスの予測がリストに表示されます。

| ステータス | 説明 |
| --- | --- |
| 空白 | 予測のパラメータは保存されましたが、まだ実行されていません。 |
| キューに登録済 | 予測を実行したが、処理待ちの予測が完了するまでは開始できない。 |
| 進行中 | 予測が実行中です。"予測履歴" ページの "ステータス" セクションには、完了率とステータス バーが表示されます。 |
| 成功 | 予測データが計画バージョンに入力されました。予測リストからシート名をクリックし、シートを開きます。予測データに対して選択したバージョンを使用していることを確認してください。予測データをレビューします。 |
| 失敗 | 予測にエラーがありました。トラブルシューティングを行い再試行できるように、"予測履歴" ページの "ステータス" セクションにエラーのリストが表示されます。 |
| キャンセル済 | 誰かが予測の完了を停止しました。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

最良の結果を得るために、特に連続予測の場合は、予測をスケジュールに追加します。参照 機械学習予測のスケジュール（754ページ）。

relatedlinks
概念
設定の考慮事項: Predictive Forecaster（742ページ）
概念: Predictive Forecaster の履歴（760ページ）
タスク
計画バージョンの作成（797ページ）
Predictive Forecaster のためのレバー モデル シートの作成（756ページ）
参考
参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）
FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）
例
トラブルシューティング: 予測バージョンで古いデータが表示される（770ページ）

機械学習予測のスケジュール

始める前に

- 機械学習予測の作成（746ページ）.
- セキュリティ:*"Predictive Forecaster"* 権限

このタスクについて

スケジュールでは、定義した間隔で含めた予測が自動的に実行されます。同じスケジュールに多くの予測を追加できます。その後、それらはスケジュールに従って順番に実行されます。

スケジュールは、"累積予測" チェックボックスがオンになっている予測において特に重要です。ローリング予測では、実績バージョンの "次の時点 までの確定数字 を表示" 期間に一致するように、"予測開始期間" と "実績の終了期間" が 自動的に更新されます。通常、新しい実績データをアップロードするのと同じ時刻に予測が実行されるようにスケジュールできます。これにより、アルゴリズムは最新の実績データを参照することができます。また、予測自体が継続的に繰り越されるため、より正確なデータがより多くの期間に入力されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "Predictive Forecaster"をクリックします。
3. "新規追加" をクリックし、"スケジュール"を選択します。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 頻度 | スケジュールされた実行の頻度を定義します。<br>• 毎月: スケジュールの予測は月 1 回実行されます。<br>• 毎週: スケジュールの予測は週に 1 回以上実行されます。<br>• 毎日: スケジュールの予測は 1 日 1 回実行されます。 |
| 日にち | "頻度"に "毎月" を選択した場合に使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 日付を選択します。*"31"*を選択した場合、スケジュールは 31 日に満たない月をスキップします。28 または 29 より大きい数値を選択した場合、2 月の予測はスキップされます。 |
| 曜日 | "頻度"に *"*毎週*"* を選択した場合に使用できます。<br>平日の横にあるチェックボックスをクリックします。複数選択できます。 |
| Time | 予測を実行する時刻を選択します。 |
| タイムゾーン | 時刻のタイムゾーンを選択します。 |
| 予測 | "予測の追加" をクリックして、各予測名の横にあるチェックボックスをオンまたはオフにします。最大 10 件の予測をスケジュールに追加できます。<br>スケジュールに複数の予測を含める場合、以下を実行できます。<br>• それらをドラッグ アンド ドロップすると並べ替えることができます。<br>• 3 つのドットをクリックして *"*削除*"* を選択すると、スケジュールから削除されます。 |
| 1 つの予測が失敗しても、すべての予測の実行を続ける | 1 つの予測が失敗した場合に、次の予測までスケジュールを続行する場合は、このチェックボックスをオンにします。それ以外の場合は、停止します。 |

タスクの結果

スケジュールにより予測が自動的に実行されます。

次のタスク

スケジュール内の予測のステータスを確認するには、"予測" タブをクリックします。各予測のステータスがリストに表示されます。"スケジュール " 列を並べ替えて、スケジュール内のすべての予測ステータスをすばやく確認できます。

スケジュール リストで、スケジュール名にマウスを合わせると、3 つのドットが表示されます。3 つのドットをクリックして、以下を選択します。

- 実行: スケジュールされた予測を前もって実行します。
- 編集:"スケジュールの編集 " ダイアログを開きます。
- 一時停止: 次回の実行を再開するまで停止します。
- 再開: 一時停止したスケジュールを再アクティブ化します。
- 削除: スケジュールを削除します。

relatedlinks
概念
概念: Predictive Forecaster ( 758ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## **Predictive Forecaster** のためのレバー モデル シートの作成

### 始める前に

- 予測シートを識別します。予測シートは、Predictive Forecasterの "予測" セクションで選択するシートです。
- 予測シートで組織、科目、カスタム属性を確認します。これらの要素をレバー シートに追加します。
- 予測シートで使用される最小期間を特定します。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

レバー モデル シートには、機械学習 (ML) の予測に影響する回分データが格納されています。特定のアルゴリズムにレバー シートを使用できます。レバー シートに入力した値によって、予測シートに入力されるアルゴリズム計算が調整されます。

レバー シートの要素を財務 KPI に基づきます。

例: "製品収益" キューブ シートで、製品の販売単位を地域別に予測する必要があります。販売単位数は、Predictive Forecaster を使用して予測するメトリックです。製品プロモーションは、地域ごとの売上を促進するビジネス 手段です。過去および将来の昇進· 昇格を機械学習アルゴリズムに渡すために、データをレバー シートにロードします。昇進· 昇格の詳細をロードできるように、レバー シートにはキューブ シートの "売上数量" 科目、製品属性、関連する組織、期間が含まれている必要があります。

1 列目は科目のテキスト列でなければならず、2 列目は組織列でなければなりません。

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
3. "新規シート作成" をクリックします。
4. フォームに入力すると、次のようになります。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | シートの一意の名前を入力します。これは、"予測予測" ページの "アルゴリズム" セクションの "レバー シート " ドロップダウン メニューに表示される名前です。 |
| 新しいシートを作成 | "モデル"を選択します。次に、ドロップダウン プロンプトで "空白のモデル シート *(*詳細*)*"を選択します。 |
| 科目コード | 一意のコードを入力します。このコードはシートの科目コードのプレフィックスとして表示されます。 |

5. "次へ" をクリックします。
6. "列と組織" をクリックします。
7. キャンバスの "タイプ " 列で "組織" が指定さ れた行をハイライトし、以下のようにします。
    - "一般プロパティ" セクションの"名前":「組織名」を入力します。
    - "組織プロパティ" セクションの"組織" タブ: 予測シートにも存在する少なくとも 1 つの組織の横にあるチェックボックスをオンにします。予測シートにも存在する組織を追加します。予測シートに存在するすべての組織を追加する必要はありません。
8. 左側のパネルの "要素 " タブから "データ入力列" を選択すると、オプションが展開されます。
9. "組織" 行の上のキャンバスに "テキスト" をドラッグします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

10."一般プロパティ"の場合
    - "名前" フィールドに 「科目」 と入力します。
    - "コード" フィールドに意味のある値を入力します。
    - チェックボックスはオフのままにします。
11.(任意) カスタム属性を追加するには、左側のパネルで "要素に戻る" をクリックして "属性"をクリックします。
12.キャンバスの "テキスト " 行の後ろにカスタム属性をドラッグ アンド ドロップします。

    このステップをスキップすると、アルゴリズムは、レバー シートで提供された期間値をすべての属性分割に使用します。

    予測シートに存在しないカスタム属性を追加しないでください。
13."要素に戻る" をクリックし、"時間" を選択してオプションを展開します。
14.最後の行として "期間" をキャンバスにドラッグします。
15.ツールバーで "シートのプロパティ" をクリックし、" 設定 " タブを選択します。
16."このモデル シートに関連する時間層を選択" プロンプトで、予測シートで使用される最小期間を選択します。
17."保存" をクリックします。

次のタスク

レバー モデル シートへのデータ入力 ( 757ページ ) .

relatedlinks
概念
概念: Predictive Forecaster ( 758ページ )
設定の考慮事項: Predictive Forecaster ( 742ページ )
タスク
機械学習予測の作成 ( 746ページ )
参考
FAQ: Predictive Forecaster ( 767ページ )

## レバー モデル シートへのデータ入力

始める前に

- レバー モデル シートを使用する予測シートを特定します。予測シートは、"Predictive Forecaster" ページの "予測" セクションで選択したシートです。
- Predictive Forecaster のためのレバー モデル シートの作成 ( 756ページ ) .
- セキュリティ:
    - "編集可能なシート アクセス" 権限
    - シート上の組織、科目、カスタム属性への編集アクセス権を付与するアクセス ルール

このタスクについて

レバー モデル シートは、特定の標準シートまたはキューブ シートにおける機械学習 (ML) の予測に影響するデータを保持します。レバー シートに入力した値によって、シートの行にリストされている組織、科目、期間に対するアルゴリズムの計算が調整されます。一部のレバー シートにはカスタム属性も含まれます。

回帰分析データを入力する際、行の順序が重要であることを理解してください。システムは最初に見つかった最適な一致を使用し、それ以降の一致は無視します。

例:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| Account | Level | 製品 | 1 月 25 日 |
| Revenue.UnitsSold | Engineering | ジャケット | 6 |
| Revenue.UnitsSold | Engineering | | 7 |

アルゴリズムでは、科目、組織、ジャケットの属性値のすべてのデータ ポイントに 6 が適用されます。他のすべての製品属性値には、アルゴリズムにより "7" が適用されます。

シートにデータを入力するか、データをインポートできます。データを入力するには、次の手順に従ってください。

手順

1. メイン メニューから "シート" を選択します。
2. シートのリストで、レバーに使用しているシートをクリックします。
   このシートには、すべてのインスタンスに対して一意の名前が付けられます。
   a) 上部のナビゲーション メニューにあるバージョン プロンプトから、予測データを保持するバージョンと同じバージョンを選択します。
      ロック済バージョンを選択すると予測が失敗します。
   b) ツールバーで "行を追加"をクリックします。
3. 科目 列に、レバーの影響を受ける科目コードを入力します。
   予測にも選択する科目コードのみを入力してください。
4. 同じ行の "組織 " 列から、科目に対して影響を与える組織コードを選択します。
5. (任意) カスタム属性列がある場合、同じ行の科目と組織に対して影響を与える属性値を選択します。
6. 必要な数だけ行を追加してください。
7. 参照の開始から予測の終了までの期間のデータを入力します。
8. シートを保存します。

タスクの結果

予測では、レバー シートで値が欠落している交差部分のレバーの影響を受けない値が生成されます。

次のタスク

機械学習予測の作成（746ページ）.レバーをサポートする予測を作成する場合は、シートを "レバー シート" として選択します。

relatedlinks
概念
概念: Predictive Forecaster（758ページ）
設定の考慮事項: Predictive Forecaster（742ページ）
タスク
機械学習予測の作成（746ページ）
参考
FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）

## 概念: **Predictive Forecaster**

予測のための機械学習

Predictive Forecaster は、機械学習アルゴリズムを使用して、定義された履歴データに基づき、特定のバージョンのデータを入力します。 Predictive Forecaster は、データ入力にかかる時間を短縮し、より正確な計画のモデルを作成します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### Predictive Forecaster ページ

"Predictive Forecaster" ページに、以下の 2 つのタブが表示されます。

- 予測: あなたと他のユーザーが保存または実行した、モデル内のすべての予測のリスト。
- スケジュール: あなたまたは他のユーザーが作成したすべてのスケジュールのリストです。

ページの上部にある "新規追加" ボタンを使用して、新しい予測または新しいスケジュールを作成できます。

予測リストは列ごとに並べ替えることができます。リスト内の予測にマウスを合わせると、" その他のアクション″ メニューにアクセスできます。表示されている 3 つのドットをクリックします。そこから、予測のステータスに応じて、以下を選択できます。

- 詳細の表示: 予測のパラメータをレビューします。
- 履歴の表示: パラメータ、実行履歴、ステータスをレビューします。失敗した予測や 信頼度メトリック ( 利用可能な場合) に関するエラー メッセージも含まれます。
- 実行: 保存、完了、または失敗した予測を開始します。
- 編集: 保存、完了、または失敗した予測のパラメータを変更します。リストの予測名をクリックして、予測を編集することもできます。
- 複製: 同じパラメータで新しい予測を作成します。パラメータは自由に変更してください。
- 削除: リストから予測を削除します。予測を削除しても、予測によって生成された予測データは削除されません。予測の横にあるチェックボックスをオンにして、ツールバーで削除アイコンをクリックすることでも、予測を削除できます。
- キャンセル: 予測の完了を停止します。

"スケジュール " 列にスケジュールの名称が表示されます (該当する場合)。同じスケジュール内の予測ステータスを確認するには、この列を基準に並べ替えます。スケジュール内のすべての予測は、リスト内で隣り合って表示されます。

"スケジュール" タブで、スケジュールのリストを確認できます。リスト内のスケジュールにマウスを合わせると、" その他のアクション″ メニューにアクセスできます。表示されている 3 つのドットをクリックします。そこから、スケジュールのステータスに応じて以下を選択できます。

- 実行: スケジュールされた予測を前もって実行します。
- 編集:"スケジュールの編集 " ダイアログを開きます。
- 一時停止: 次回の実行を再開するまで停止します。
- 再開: 一時停止したスケジュールを再アクティブ化します。
- 削除: スケジュールを削除します。

### 予測とスケジュールのステータスのリフレッシュ

最新のステータス変更を確認するには、ページをリフレッシュしてください。

- ブラウザのリフレッシュを使用してください。
- Adaptive Planning の別の領域に移動して戻ります。

relatedlinks
概念
設定の考慮事項: Predictive Forecaster ( 742ページ )
タスク
機械学習予測の作成 ( 746ページ )
機械学習予測のスケジュール ( 754ページ )
参考
FAQ: Predictive Forecaster ( 767ページ )
参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム ( 764ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## 概念: **Predictive Forecaster** の履歴

### 実行履歴

"Predictive Forecaster" ページから、リストされた各予測の履歴にアクセスできます。履歴を開くには、3 つのドットが表示されるまで予測の上にマウスを合わせます。3 点ドットをクリックして、"履歴の表示"を選択します。

### 予測履歴パネル

"予測履歴" パネルに、予測の実行のリストが表示されます。以下が可能です。

- アイコンを使用して、各実行のステータスを一目で確認する。さまざまなアイコンが、失敗した実行と正常な実行などのステータスを示します。
- 実行を選択してパラメータとステータスをレビューします。

"予測履歴" セクションで実行をクリックすると、"パラメータ " セクションと "ステータス" セクションが表示されます。

### パラメータ セクション

"パラメータ " セクションに予測定義が表示されます。定義には以下のような詳細が含まれます。

- シート
- 期間範囲
- バージョン
- アルゴリズム
- 完了した予測の実行にかかった時間。

予測について以下のオプションのうち 1 つ以上を選択した場合にのみ、"Confidence Metrics" タブが表示されます。

- 確度範囲: 確度の上限と下限とともに予測を示す折れ線グラフを表示します。
- 精度メトリック: 既存の実績に対するアルゴリズムのバックテストの精度結果を示す KPI パーセントを表示します。この KPI のパーセントが低い場合は、予測に別のアルゴリズムを試行する必要があることを示している可能性があります。
- 予測の説明

このサブセクションでは、フィルタを使用してさまざまな方法でデータを表示できます。

"予測の説明" を有効にすると、"Confidence Metrics" タブに以下が表示されます。

- 季節性、傾向、および残存のコンポーネント (該当する場合) が予測値にどのように寄与するかを表すグラフです。
- 予測に対するレバーの影響、および各コンポーネントとレバーの影響の割合を表すグラフ (利用可能な場合)。
- グラフのコンポーネントを説明するテキスト。

### ステータス セクション

"ステータス" には以下が表示されます。

- "処理中" の実行では 、完了率が表示されます。
- 実行に失敗した 場合は、予測を再度実行する前のトラブルシューティングに役立つエラーのリストが表示されます。

relatedlinks
概念
概念: Predictive Forecaster ( 758ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

参考
FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）
例
トラブルシューティング: 予測バージョンで古いデータが表示される（770ページ）

## 概念: AutoFit アルゴリズム

### 自動調整を使用する理由

特定の時系列の予測に最適なアルゴリズムを選択するのが難しいと思われます。通常、ユーザーは各アルゴリズムを使用して試行錯誤のプロセスを繰り返します。次に、予測結果とそれに対応するエラーを比較し、最も精度の低いものが選択されます。

*AutoFit* によって 、ユーザーが試行錯誤することなく、新しい時系列に使用するアルゴリズムが予測されます。

### 自動調整プロセス

使用可能な他のアルゴリズムとは異なり、*AutoFit* は 分類モデルを使用します。分類モデルはメタ ラーニング フレームワークを活用し、時系列データの特徴に基づいて使用するアルゴリズムを特定します。数千の時系列データで学習されたモデルを使用します。

分類子は時系列の特徴を識別すると、適切なアルゴリズムを選択して適用します。*AutoFitt* では 、データの各交差部分を時系列とみなします。そのため、シート上の科目ごとに異なる機能を持つ可能性があります。この場合、*AutoFit* は 科目ごとにアルゴリズムを適用します。

*AutoFit* は 、Predictive Forecasterで使用可能なアルゴリズムからのみ選択されます。例: データの 80% の疎性がある場合、*AutoFit* では 一般的に クロストン アルゴリズムが選択されます。

relatedlinks
タスク
機械学習予測の作成（746ページ）
参考
FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）
参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）

## 概念: Predictive Forecaster の季節性

### 季節性の定義

季節性とは、周期的なパターンに従うデータの変動を説明するのに使用される用語です。アルゴリズムは、提供された履歴データとパラメータを使用して季節性のピークを決定します。そして、同じ季節性パターンが将来も繰り返されることを前提としています。Predictive Forecaster で利用できるアルゴリズムには、季節性を自動的に検出するものと、ユーザーが季節を構成する期間数を定義できるものがあります。

### Predictive Forecaster を使用したカスタム季節性

Prophet、 Holent-Winters、Orbit DLT を使用すると、季節性をカスタマイズできます。AutoFit の季節性をカスタマイズすることもできます。これは、*AutoFit* が 、カスタマイズをサポートするアルゴリズムのいずれかを使用している場合に適用されます。

カルマン アルゴリズムは一意で、ユーザーが自身で定義することなく、予測に季節性を適用するかどうかを指定できます。

Workday の ML システムで参照データの季節性を自動的に検出するか、手動で季節性を設定することができます。

Adaptive Planning には、季節性に関する以下のオプションがあります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 季節性オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 年間 | 季節性のデフォルトは、年次季節性です。以下の場合に使用します。<br>• 毎年繰り返されるデータのパターン例: 12 月は、休日のために売上が大幅に増加します。<br>• アルゴリズムが年次パターンを認識するのに、少なくとも 36 か月分の参照データが必要です。 |
| 半年 | 以下の場合に使用します。<br>• 36 か月未満のデータ。<br>• ほぼ 6 か月ごとに繰り返すパターンのデータです。 |
| 四半期 | 以下の場合に使用します。<br>• 12 か月未満のデータ。<br>• ほぼ 3 か月ごとに繰り返されるパターンのデータです。 |
| 毎週 | *Prophet* と *AutoFit* でのみ使用できます。<br>"毎年"、"半年"、または "四半期" の 季節性に加えて "週単位の季節性を追加 " チェックボックスを使用します。次の データには、週単位の季節性が最適です。<br>• 日次で収集。<br>• 毎週繰り返すパターンで。例: 売上のピークは毎週末です。 |
| 乗数 | *Prophet*、*Prophet-Winters*、*AutoFit*で使用できます。<br>季節性の変動 (季節性により異なる) チェックボックスを 使用すると、季節性の変動 (傾向に比例) が変化する場合に使用できます。 |
| なし | 次のような場合に使用します。<br>• データに季節性パターンがありません。<br>• 予測はトレンドに基づいており、季節性は無視されています。<br>• トレンドは、変動に関係なく、データが移動する全体の方向です。 |

relatedlinks
概念
設定の考慮事項: Predictive Forecaster ( 742ページ )
タスク
機械学習予測の作成 ( 746ページ )
参考
参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム ( 764ページ )
FAQ: Predictive Forecaster ( 767ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

概念: **Predictive Forecaster** を使用した予測の範囲と精度

予測範囲

"予測範囲" オプションは、予測内の各データ ポイントの予測範囲を提供します。これを実現するために、予測では、機械学習データが、指定された 3 つのバージョンに入力されます。

- 予測バージョン: 最も可能性の高い値が入力されるバージョン。
- 上限バージョン: 最も高い確度値が入力されるバージョンです。
- 下限バージョン: 最小の確値が入力されるバージョンです。

予測範囲を生成するには、予測の編集または作成時に "予測範囲" チェック ボックスをオンにします。

"確度レベル" を パーセントで指定することもできます。"確度レベル" は、 予測範囲をどの程度広げるかを示します。より高いパーセントは、範囲の確度を高めることを意味します。パーセントが高いほど、上限と下限の間の範囲が広くなります。低いパーセントは、確度の範囲を狭めることを意味します。パーセント値が低いほど、上限と下限の間の範囲は狭まります。

予測範囲をビジュアル化しやすくするために、"予測履歴" ページの "信頼度メトリック" サブセクションに、3 つの予測値がFA グラフとして表示されています。最新の実行でのみ、グラフにトレンドラインが表示されます。

シート内の 3 つのバージョンすべてをレビューするか、それらを比較するレポートを作成することもできます。

精度メトリック

"精度メトリック" オプションは、予測値が実際にどの程度近づいているかを測定します。予測を作成または編集するときに "精度メトリック" チェックボックスをオンにして、予測の精度をテストできます。このオプションを選択すると、バックテストが生成されます。バックテストでは、アルゴリズムは、参照バージョンの実績データに存在する期間の一部のデータを予測します。次に、予測の精度と実績とを比較します。結果は、アルゴリズムのスコアを反映したパーセントを持つグラフです。

例: 参照データには、2024 年 6 月から 2024 年 12 月までの予測期間における 2021 年 1 月から 2023 年 12 月までのデータが含まれます。バックテストでは、2022 年 7 月から 2022 年 12 月までの期間のデータを予測し、その予測をすでに存在する参照データと照合します。精度が 80% とは、2022 年 7 月から 2022 年 12 月までの期間中に、予測が 80% の精度であったことを意味します。

"予測範囲" と "確度レベル" は " 精度メトリック"に影響します。より高い確度レベルで予測範囲を定義した場合、精度が高くなることがあります。例:"予測範囲" が有効になっていない予測の精度が 80% の場合、アルゴリズムは正確な値を 80% の時点で予測する必要があります。"予測範囲" を有効にし、"95% の確度レベル"を指定した場合、予測は広い範囲内の値を 80% の精度で予測する必要があります。

relatedlinks
概念
概念: Predictive Forecaster ( 758ページ )
タスク
機械学習予測の作成 ( 746ページ )
参考
FAQ: Predictive Forecaster ( 767ページ )

概念: 予測の説明

"予測の説明" は、機械学習の予測をわかりやすく説明しています。視覚的に表示することで、各予測に影響した要因をレビューして理解しやすくなります。

予測予測の作成に使用するアルゴリズムによって、説明グラフのデータが異なる場合や表示されない場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| アルゴリズム | 詳細 |
| --- | --- |
| LightGBM | "拠出分の内訳" グラフは表示されません。<br>"機能の影響" グラフには、遅延とレバーの影響の割合が表示されます。 |
| カルマン フィルタ、ホルト インターバル、N超過 | "拠出分内訳" グラフには以下が表示されます。<br>• "残余" コンポーネントとしてのデータ内の雑音や不規則性の影響。<br>• 傾向と季節性予測コンポーネントが予測にどのように関連するか。 |
| Prophet、Orbit-DLT | "拠出分内訳" グラフには以下が表示されます。<br>• すべての予測コンポーネントとレバーの組み合わせの拠出分を "残余" として表示します。レバーがないと、残余の測定値が存在しません。<br>• 傾向と季節性予測コンポーネントが予測にどのように関連するか。<br>"機能の影響" グラフには、各コンポーネントとレバーが予測データにどのような影響を与えるかを示します。数が多いほど、その影響は大きくなります。 |
| ARIMA | "拠出分内訳" グラフには以下が表示されます。<br>• すべての予測コンポーネントとレバーの組み合わせの拠出分を "残余" として表示します。<br>• 傾向と季節性予測コンポーネントが予測にどのように関連するか。<br>"機能の影響" グラフには、各コンポーネントとレバーが予測データにどのような影響を与えるかを示します。数が多いほど、その影響は大きくなります。 |
| クロストン | 予測の説明チャートは表示されません。このアルゴリズムは、提供されたデータセットの平均であるすべての期間の一定値を生成します |

relatedlinks
タスク
機械学習予測の作成（746ページ）

参考: **Adaptive Planning** の機械学習アルゴリズム

Adaptive Planning には、Predictive Forecaster 用のアルゴリズムが複数用意されており、異常検出用にも 1 つが用意されています。すべてのアルゴリズムで十分な結果が得られます。ただし、データに最適なアルゴリズムを見つけるには、試行錯誤プロセスを行うことをお勧めします。

このテーブルは、選択に役立つ一般的なガイドラインと機能を提供しています。予測データの精度を常に確認してください。

アルゴリズムの比較

注： 参照データ ポイントと予測データ ポイントの 3:2 の比率に加えて、各アルゴリズムについてテーブルにリストされている最小データ ポイントも設定している必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アルゴリズム | 詳細 | 要件と機能 |
| --- | --- | --- |
| AutoFit | 分類子モデル | 季節性: 年間、半年、四半期 ("毎週" および "乗数" オプション)<br>参照時の最小データ ポイント: 15<br>レバー: はい<br>ノート: 次のようなデータに最適です。<br>• 複雑であり、データ系列ごとに異なるアルゴリズムが必要になる場合がある。<br>• わかりにくい。<br>AutoFit では、特定の機能をサポートしていないアルゴリズムを適用できます。例: AutoFit でクロックが適用される場合、季節性とレバーは使用されません。 |
| ARIMA | 自動回帰および移動平均モデル | 季節性: ユーザー定義の設定がない季節性の影響を自動的に考慮します。<br>参照時の最小データ ポイント: 10<br>レバー: はい<br>メモ:<br>• 短期の予測には最適ですが、長期の予測には適していません。<br>• 揮発性メトリックの予測に適しています。 |
| クロストン法 | 指数平滑法モデル | 季節性: いいえ<br>参照時の最小データ ポイント: 2<br>組織: いいえ<br>注:<br>• 断続的な要求がある疎なデータに最適です。<br>• 結果は期間の平均予測です。<br>• 例: 期間全体で平均 (同じ値) を取得します。 |
| ホルト-ウィンターズ法 | 加算または乗算の季節性モデル<br>指数平滑法 | 季節性: 年、半年、四半期 (乗数オプションあり)。<br>参照時の最小データ ポイント: 9<br>組織: いいえ<br>注:<br>• 最新のデータほど加重値が必要なデータに最適です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アルゴリズム | 詳細 | 要件と機能 |
|---|---|---|
| | | • 例: パンデミック中に通常とは異なるパターンの購買があったとします。ここ数年、購買パターンが標準化されました。<br>• 計算効率が高い。 |
| カルマン フィルタ | 状態空間モデル<br>時系列における既知の履歴値に基づいて将来の値を見積もります。<br>各ステップの雑音構成要素および前のステップで取得された推定値を考慮して、予測値の平均値を再帰的に推定します。 | 季節性: 季節性を考慮するかどうかを指定できるオプション。<br>参照時の最小データ ポイント: 2<br>組織: いいえ<br>注:<br>• ランダムな変動や明確なパターンがない変動に適しています。<br>• 計算効率が高い。 |
| LightGBM | 監督済ラーニング モデル<br>遅延と、その予測への影響を使用します。 | 季節性: いいえ<br>参照時の最小データ ポイント: 12<br>レバー: はい<br>メモ: 需要予測シナリオに最適です。 |
| N-BEATS | 公開データセットを用いて起動されたメタディープ ラーニング モデル。<br>過去の時系列に関する一般的な知識を持つニューラル ネットワークを作成します。<br>公開ドメインでも使用されている 60,000 を超える時系列について学習している。<br>すべての時系列に対して単一のモデルを使用するため、高速です。 | 季節性: ユーザー定義の設定がない季節性の影響を自動的に考慮します。<br>参照時の最小データ ポイント: 2<br>組織: いいえ |
| Orbit DLT | 加算トレンドと減少トレンド モデル | 季節性: 年、半年、四半期<br>参照時の最小データ ポイント: 2<br>組織: いいえ<br>ノート: 次のようなデータに最適です。<br>• トレンドをクリアします。<br>• 一貫した季節性。<br>• 外れ値がないかチェックされます。 |
| Prophet | 非線形トレンドの追加モデル<br>予測プロセスをグラフに適合する問題として定義し、季節性や外部レバに対応する。 | 季節性: 年間、半年、四半期 ("毎週" および "乗数" オプション)<br>参照時の最小データ ポイント: 2<br>レバー: はい<br>ノート: 次のようなデータに最適です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| アルゴリズム | 詳細 | 要件と機能 |
|---|---|---|
| | | • トレンドのシフト<br>• 外れ値 |

relatedlinks
概念
設定の考慮事項: Predictive Forecaster（742ページ）
概念: AutoFit アルゴリズム（761ページ）
タスク
機械学習予測の作成（746ページ）
Predictive Forecaster のためのレバー モデル シートの作成（756ページ）
参考
FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）

**FAQ: Predictive Forecaster**

- 予測生成時に手動入力したデータを保持するにはどうすればよいですか？
- 失敗した予測のトラブルシューティングはどのようにすればよいですか？
- 予測の精度を確保または向上させるにはどうすればよいですか？
- アルゴリズムを選択する際、何を考慮すればよいですか？
- AutoFit を使用するのはどのような場合ですか？
- AutoFit を使用した計算上の負荷はどのようなものですか？
- 予測の完了にかかる時間を短縮するにはどうすればよいですか？
- 予測シートに含まれている科目、組織、またはカスタム属性がレバー シートにない場合はどうなりますか？
- すべてのカスタム属性分割に同じレバー値を使用するにはどうすればよいですか？
- 週単位の季節性オプションに関して "日単位" 要件はどのような意味がありますか？
- 予測のフィルタを変更または削除するにはどうすればよいですか？
- "Confidence Metrics" タブが空なのはなぜですか？
- "累積予測" オプションは予測定義にどのように影響しますか？（769ページ）

予測生成時に手動入力したデータを保持するにはどうすればよいですか？

予測には別の計画バージョンを選択します。予測データ用に指定された計画バージョンを作成することを検討してください。レポートとダッシュボード グラフを使用して、バージョン間の違いを比較できます。

失敗した予測のトラブルシューティングはどのようにすればよいですか？

1. "モデリング">"予測予測"に移動します。
2. リストで、予測にマウスを合わせると、3 つのドットが表示されます。
3. 3 点ドットをクリックして、"履歴の表示"を選択します。
4. 左側のパネルには、その予測の実行のリストが表示されます。
5. 失敗した実行をクリックします。
6. "ステータス" セクションで、エラーのリストを確認します。

予測の精度を確保または向上させるにはどうすればよいですか？

- データに基づいて最適なアルゴリズムを適用する AutoFit を試してください。
- 多数の実績データ ポイントを参照する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | • 空白の実績を確認します。これは、アルゴリズムによりゼロとして扱われます。<br>• 実績データに空白が多数ある場合は、クロストン アルゴリズムを使用します。<br>• 必要なだけ将来のことを予測してください。<br>• 制限付きの可用性: "精度のメトリック" を有効にします。これにより、"信頼度のメトリック" タブでスコアが生成されます。 |
| アルゴリズムを選択する際、何を考慮すればよいですか？ | 参照 参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）。 |
| AutoFit を使用するのはどのような場合ですか？ | 次の場合に自動調整を使用します。<br>• Predictive Forecaster を初めて使用する。<br>• 利用可能なアルゴリズムの内部動作を十分に把握していない。<br>• データの特徴とパターンを明確に把握していない場合。<br>• 他のアルゴリズムを選択した際に期待した結果が得られない。<br>• 限定提供:"Confidence Metrics" サブセクションの " 正確性" メトリック で低いスコアを受け取った。 |
| AutoFit を使用した計算上の負荷はどのようなものですか？ | AutoFit は、予測に時間が追加される可能性がある追加のサイクルを使用します。 |
| 予測の完了にかかる時間を短縮するにはどうすればよいですか？ | • フィルタを使用して、科目、組織、カスタム属性を制限します。<br>• Holmes や Kalman フィルタなど、高速なアルゴリズムを選択します。予測データが自分の期待と一致することを常に確認してください。<br>• 数量限定:"予測範囲 " チェックボックスをオンにします。このオプションを無効にすると、予測の上限と下限が生成されなくなるため、予測の実行時間が短縮されます。 後日、再度有効化することができます。<br>• 限定提供:"精度メトリック" チェック ボックスをオフにします。このオプションを無効にすると、バックテストが不要になるため、実行時間が短縮されます。予測を実行してスコアを確認した後、無効にすることを検討してください。後日、再度有効化することができます。 |
| 予測シートに含まれている科目、組織、またはカスタム属性がレバー シートにない場合はどうなりますか？ | アルゴリズムは、レバーを使用せずに、不足している組織、科目、または属性に関連する予測データを計算します。 |
| すべてのカスタム属性分割に同じレバー値を使用するにはどうすればよいですか？ | レバー シートにカスタム属性を追加したり、特定の行のカスタム属性の列を空白のままにしないでください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| 週単位の季節性オプションに関して "日単位" 要件はどのような意味がありますか？ | 日単位の頻度は、期間範囲内の暦日と期間に基づく計算です。以下のように計算します。<br>1. 予測で定義された期間内の日数を計算します。例: "開始期間" が 2023 年 1 月だとします。終了期間は 2023 年 2 月です。一般的なカレンダーでは、1 月 1 日から 2 月 28 日までは 59 日です。<br>2. 期間範囲内にある期間の数を計算します。例: 上記と同じ "開始" と "終了" 期間を使用します。カレンダーの最小時間層は週です。1 月 1 日から 2 月 28 日までは 9 週間です。<br>3. 暦日を期間で分割します。例: 59/9 は 6.55 となります。<br>4. 週単位の季節性オプションの対象となるには、商が 2 以下である必要があります。例: 6.55 のスケジューリングは対象外です。<br>期間は必要に応じて調整できます。この要件により、一部のカレンダー構造ではこのオプションの使用が困難になることに注意してください。 |
| 予測のフィルタを変更または削除するにはどうすればよいですか？ | 1. "モデリング">"予測予測"に移動します。<br>2. 予測のリストで、予測の名前をクリックします。<br>3. "科目"、"組織"、または "属性"のプロンプトをクリックします。<br>4. "選択済 " タブをクリックします。リストには、選択したすべての値が表示されます。<br>5. 値を削除するには、値の横にある "x" をクリックします。 |
| "Confidence Metrics" タブが空なのはなぜですか？ | 予測のグラフを生成するオプションが有効になっていません。メトリックを有効にするには、予測を編集し、" 予測範囲" または "精度メトリック"をクリックします。オプションごとに異なるタスクが実行され、異なるグラフが生成されます。参照 概念: Predictive Forecaster を使用した予測の範囲と精度（763ページ）。 |
| "累積予測" オプションは予測定義にどのように影響しますか？ | ローリング予測では、予測の重要な日付が実績バージョンに整合します。正しく使用すると、実績データのロードに合わせて繰り越される動的予測定義が作成されます。予測は、直近で追加された最新の実績データを参照し、最も正確な予測が予測バージョンに継続的に入力されます。<br>連続予測とスケジューリングを組み合わせると、予測プロセスを自動化できます。<br>理想的な世界では、新しい実績をロードするたびに "次の時点 までの確定数字を 表示" が常に更新されます。この期間は通常、予測バージョンの "計画の開始" の 1 期間前です。したがって、以下のようになります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- "予測開始期間" が "次の時点まで の確定数字を表示"の 1 期後の期間と同じである。
- "実績の終了期間" が "次の 時点までの確定数字を表示" と同じ。

ただし、"次の時点 までの確定数字を 表示" 日付を追加していない場合、または "計画の開始" から "次の時点 までの確定数字を表示" 日までの間 にギャップがある場合はどうなりますか。この場合、次のようになります。

- "予測開始期間" が "計画の開始"と同じ。
- 実績の終了期間が 計画の開始の1 期前の期間と同じである。

relatedlinks
概念
設定の考慮事項: Predictive Forecaster（742ページ）
概念: Predictive Forecaster の季節性（761ページ）
タスク
機械学習予測の作成（746ページ）
Predictive Forecaster のためのレバー モデル シートの作成（756ページ）
レバー モデル シートへのデータ入力
参考
参考: Adaptive Planning の機械学習アルゴリズム（764ページ）

トラブルシューティング: 予測バージョンで古いデータが表示される

予測を実行しましたが、シートを見ると予測データではなく古いデータが表示されています。

原因:

| 原因 | 改善策 |
| --- | --- |
| 予測が外れました。 | "モデリング">"予測予測" に移動し、最新の実行のステータスを確認します。<br>• "キュー" は 、Adaptive Planning の予測がまだ開始されていないことを意味します。予測は一度に 1 つずつ実行されます。予測は、開始前に開始した予測が完了するまでは開始されません。<br>• "処理中" は、Adaptive Planning がまだ予測を実行していることを意味します。<br>• 失敗は 、再度実行する前に訂正する必要がある エラーがあることを意味します。<br>• ステータスが空白の場合、予測はまだ実行されていません。 |
| 定義された期間外を見ています。 | 1. "モデリング">"予測予測"に移動します。<br>2. リストで、予測にマウスを合わせると、3 つのドットが表示されます。<br>3. 3 点ドットをクリックして、"履歴の表示"を選択します。<br>4. "パラメータ" セクションで開始期間と終了期間を確認します。 |
| 間違ったバージョンを見ています。 | 1. "モデリング">"予測予測"に移動します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | 改善策 |
| --- | --- |
| | 2. 予測の名前をクリックします。<br>3. "パラメータ " セクションで、"予測バージョン"で選択したバージョンを探します。<br>4. シートに戻り、バージョン プロンプトから同じバージョンを選択します。 |

relatedlinks
概念
設定の考慮事項: Predictive Forecaster（742ページ）
概念: Predictive Forecaster の履歴（760ページ）
タスク
機械学習予測の作成（746ページ）
計画バージョンの作成（797ページ）
参考
FAQ: Predictive Forecaster（767ページ）
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）

概念: **Workday** に **Adaptive Planning** をリクエスト

Adaptive Planning を Workday にリクエスト (Ask Workday) は、ユーザーが自然言語を使用して Adaptive Planning を操作できる生成人工知能 (AI) 機能です。この機能には、Adaptive Planning のドキュメントから情報にすばやくアクセスできる、会話型インターフェイスを提供する "コンテキスト ヘルプ" が含まれています。

注： コンテキスト ヘルプは AI 機能であり、Adaptive Planning のオンライン ヘルプとは異なります。クエスチョン マーク アイコンからオンライン ヘルプにアクセスできますが、コンテキスト ヘルプは Workday 内でシームレスに使用できます。

"Ask Workday" では、以下のことができます。

- 自然言語で質問し、必要なときに関連するヘルプにアクセスできます。
- ワークフローを中断することなく、簡潔で状況を反映した回答を受け取る。
- ようこそ画面の "回答の検索にご協力ください" プロンプトを使用して、関連する質問を検索します。

さらに、"Ask Workday" では以下のことが提供されます。

- 先行入力の候補
- スマートなプロンプト候補
- 回答フィードバック
- 全画面モード

収益

Workday に以下をリクエストします。

- インサイトを明らかにし、コンテキストに基づいて次のステップを提案することで、より迅速で戦略的な意思決定を行う。
- 高度なプランニング ツールを直感的で、会話形式で、あらゆるスキル レベルで使用できるものにすることで、生産性とユーザーの導入を後押しします。
- 包括的な検索とコンテキスト分析を組み合わせることにより、Adaptive Planning 情報へのアクセスを効率化します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 以下のような重要なタスクについて、コンテキストに沿った使い方の情報を提供します。
  - 代替カレンダーの設定
  - 機械学習 (ML) 予測の作成
  - シナリオの変更をレビュー中
  - デフォルト通貨の変更
- ラーニングを直感的かつシームレスにすることで、サポート チームへの依存を減らす。

アクセス方法

*"Workday Assistant for Planning* にアクセス*"* 権限 を以下のタスクに割り当てます。

- 管理者。Adaptive Planning インスタンスを Workday にリクエストできるようにします。有効化すると、アプリケーション全体のグローバル ツールバーにスパークル アイコンが表示されます。
- エンド ユーザーは、"Ask Workday" にアクセスするためにグローバル ツールバーのスパークル アイコンを表示できる。

**AI** プロンプトのベスト プラクティス

最適な回答を得るのに役立つ効果的なプロンプトを構成するには、以下のベスト プラクティスに従ってください。

- 明確かつ具体的である。明確な言語を使用して明確な定義を行ってください。

  例:「マトリクス レポートを毎週実行するようにスケジュールするにはどうすればよいですか？」
- 会話言語を使用する。プロンプトを質問として要約し、自然言語で入力します。

  例:「ユーザーが持っている権限をすばやく確認するにはどうすればよいですか？」
- 正確な回答のために、コンテキストと詳細を入力します。

  例:「標準シートを表示したときに、特定の行が非表示になっている理由を確認するにはどうすればよいですか？」
- キーワードをフィルタとして使用します。

  例:「ヘッドカウント プランニングで組織別にシートを割り当てるにはどうすればよいですか？」
- 正確なページまたはメタデータ名と引用符を使用します。

  例:「数式ページで、自分の "1700 長期資産" 科目に対する数式を追加するにはどうすればよいですか？」
- 画面にコンテキストを表示します。回答をアンカーにするには、画面またはモデル内に表示される特定のデータ要素を参照します。

  例: "経費予測" シートを表示しているときに、結果をマーケティング部門のみにフィルタするにはどうすればよいですか？
- 期待を明確にする。より的を絞った回答にするには、制約またはパラメータを含めます。

  例:「インテグレーション設定とパイプラインの設定はどのように異なるのですか？」回答をテーブル ビューで表示します。

トラブルシューティング

上手に作られたプロンプトであっても、"Ask Workday" によって予期しない回答が返される場合があります。このトラブルシューティング ガイドを使用して、クエリを絞り込むか、一般的な問題を解決します。

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 回答が完了していないか、正しくありません | • 画面またはレポートをリフレッシュしてください。失効したデータは、Ask Workday からの回答に影響を与える可能性があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | • 質問をやり直します。より単純な用語またはより具体的な用語を使用すると、より適切な回答になる可能性があります。<br>例: "収益を比較" ではなく、"2024 会計年度の収益を地域別に比較" とします。<br>• メタデータの正確な名前またはコードを使用する。ガイドとしてレポートのラベルを確認します。 |
| クエリーが欠落している要素を参照しています | • 表示されたデータのメタデータを参照します。質問した科目、属性、または組織が、"Ask Workday" に提供されるページまたはモデルのデータの一部に表示されていることを確認します。<br>• 不足している要素をデータセットに追加します。ページに表示されていない特定の科目や属性について質問する場合は、その要素をデータセットに追加します。その後、クエリをやり直してください。 |
| Workday にプロンプトを理解させない | • クエリを反復します。最初の回答が役に立たない場合は、質問を絞り込んで再試行してください。<br>• アプリ内フィードバックを送信する。"問題の報告を Workday に依頼" のフィードバック オプションを使用してください。パフォーマンスを向上させるために、何を達成しようとしていたかについての詳細を含めます。 |

フィードバックの提供

フィードバックを提供するには、サムアップ アイコンまたはサムダウン アイコンをクリックします。サムネイルをクリックする場合は、詳細を入力する必要があります。次のいずれかを実行できます。

- 提供されているオプションから選択するか、"他に何か" を選択してフィードバックに入力します。入力したら、"送信" をクリックします。
- 任意の時点で X をクリックしてキャンセルできます。これまでの選択操作は引き続き保存されます。

追加のフィードバックのオプションは、チャット内の最後の回答でのみ表示されます。上にスクロールしてサムダウンをクリックすると、これらのオプションは表示されません。

## 時間とカレンダー

設定の考慮事項: 代替カレンダー

このトピックは、代替カレンダーの設定と使用を計画する際に役立てることができます。以下について説明します。

- セットアップする理由
- Workday の残りの部分に適合させる方法
- 下流への影響および製品間のインタラクション
- セキュリティ要件およびビジネス プロセスの設定
- 実装前に考慮すべき質問および制限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

完全な設定の詳細については、タスクの詳細な手順を参照してください。

### 概要

代替カレンダーを使用すると、デフォルト カレンダーとは異なる時間合計でのデータを表示できます。

### ビジネスにおけるメリット

代替カレンダーを使用すると、以下のような時間のかかる回避策の必要性を排除または軽減できます。

- 複雑なインテグレーション ローダ
- 複雑なレポート要素
- 一部のケースにおける複数のインスタンス

### ユース ケース

- データは暦年に従って入力します。1 月から 3 月までが第 1 四半期のようになります。レポートは会計カレンダーで作成します。2 月から 4 月までが第 1 会計四半期のようになります。
- 財務データには "月" > "四半期" > "年" のカレンダー構造を使用します。給与支給期間は隔週であり、給与計算年度にロールアップします ("週" > "支給期間" > "支給年")。

### 考慮すべき質問

| 質問 | 回答 |
|---|---|
| 異なるカレンダー構造が必要なのはなぜですか？ | データを異なる方法で表示するには、代替カレンダーを使用します。以下が可能です。<br>• 既存のカレンダーの構造を保持する。<br>• 既存のデータと、チームにおけるデータの入力方法を保持する。<br>• さまざまな合計を表示する。<br>異なる方法でデータを入力するには、マルチインスタンスを使用します。以下が可能です。<br>• 同じデータに対してインスタンスごとに完全に異なるカレンダー構造を使用する。<br>• インスタンスごとに異なる方法でデータをインポートおよび入力する。<br>• さまざまな合計を表示する。<br>• 2 つのデータ セットを管理する。 |
| 代替の合計は、デフォルト カレンダーの合計とどのように異なりますか？ | デフォルト構造に適合しない合計については、代替カレンダーを使用します。例: 会計年度の開始月が 1 月ではない場合。<br>既存の構造に適合する時間合計の場合は、既存のカレンダーをカスタマイズします。例: 半期の合計を "月" > "四半期" > "年" の構造に追加します。<br>場合によっては、デフォルト カレンダーの構造をカスタマイズして代替カレンダーを追加する必要があります。たとえばデフォルト カレンダーが "月" > "四半期" > "年" で、代替カレンダーが "週" > "支給期間" > "支給年" である場合、"支給期間" で集計するには "週" 以下の層でデータを入力する必要があります。そのため、デフォルト カレンダーに "週" を追加します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 質問 | 回答 |
| --- | --- |
| データはカレンダー構造でどのように適合しますか？ | カレンダー構造にすでに存在する時間層でデータを入力するには、シートごとに異なるデフォルトを使用します。この方法では、カレンダー構造を保持し、データの損失を防ぎ、総勘定元帳科目データを保持できます。<br><br>カレンダー構造には存在しないものの、構造に適合する時間層でデータを入力するには、カレンダーをカスタマイズして時間層を追加します。新しい最下位層を追加する場合は、すべてのデータを再ロードする必要があります。<br><br>存在せず、構造に適合しない時間層でデータを入力するには、マルチインスタンスを使用します。この方法では、まったく異なる時間構造にデータを入力できます。<br><br>デフォルトに存在しない別の合計でデータのみを表示するには、代替カレンダーを使用します。この方法では、データが保持され、データ入力が簡素化されると同時にさまざまな合計を表示することが可能です。 |

推奨事項

TimeStructure スプレッドシートの場合、既存のカレンダーがすべてスプレッドシートにコピーされることを回避するためにエクスポートを使用してください。

代替カレンダーが期待どおりにデータをロールアップすることをテストするには、サンドボックス インスタンスで代替カレンダーを試してください。

正確性を確保するため、代替カレンダーのインポート後にレポートまたはシートの合計データを確認してください。マルチインスタンスまたは外部ソースを使用している場合は、データをマルチインスタンスと比較して、期待どおりにロールアップされるかを確認できます。

分岐点は、代替カレンダーとデフォルト カレンダー間で最後に共通する時間単位です。分岐層を選択するには、以下の手順に従います。

- 分岐点は、データを入力する層と同じかそれより大きくします。例: "週" > "月" > "四半期" > "年" のカレンダーに対して、月にデータを入力する場合。"月" または "四半期" で分岐してください。
- 代替の合計データを標準シートで表示するには、分岐層をデフォルトの時間層と同じにするか、それ以上の時間層にします。例: デフォルトの時間層が "月" である場合。"月" 以上で分岐してください。
- キューブ科目またはモデル科目に代替の合計データを表示するには、分岐層をシートの時間層と同じにするか、それ以上の時間層にします。
- 標準シートとキューブ シートおよびモデル シートで異なる最下位層を計画する場合は、すべてに対応できる分岐点を使用してください。または、それぞれに個別の代替カレンダーを作成してください。例: 一部のシートではデフォルトが "週" になっています。他には "月" があります。両方を含めるには、分岐点を "月" にする必要があります。

空白の合計が表示されないようにするには、バージョンの範囲を代替カレンダーの範囲に合わせてください。例: 代替カレンダーの最初の月が 2016 年 12 月である場合。デフォルト カレンダーの最初の月は 2017 年 1 月です。2016 年 12 月以前のバージョンの範囲で開始してください。それ以降で開始した場合、代替カレンダーの最初の月が空白になります。また、バージョンの終了を代替カレンダーの終了に合わせてください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

要件

代替カレンダーとデフォルト カレンダーは、少なくとも最下位層および分岐点までのすべての層を共有する必要があります。

例: デフォルト カレンダーが "日" > "週" > "月" > "四半期" > "年" である場合。分岐点は "月" です。代替のロールアップを開始する前に、代替カレンダーに "日"、"週"、"月" を含める必要があります。

制限事項

- 使用できる最大数は以下のとおりです。
    - データ入力用に 1 つのデフォルト カレンダー、および 3 つの代替カレンダー
    - 各カレンダー構造で 8 つの時間層 (分岐層より下の共有期間を含む)。例: "月" > "四半期" > "年" には 3 つの時間層があります。
    - 最下位期間は 8,000 か月。例: "日" が最下位の時間層または構造内の最小の時間層である場合、カレンダーで 8,000 日を超えないようにする必要があります。最大値を増やしたい場合は、指定サポート連絡先までお問い合わせください。
- ダッシュボード、レポートまたはシートに代替カレンダーの合計が表示されているデータから "セルを探索" を起動することはできません。
- OfficeConnect の"コンポーネント" および "コンテキスト" の要素は、代替カレンダーではなく、常にデフォルト カレンダーからデータを参照します。
- デフォルト カレンダーにのみ、データを入力できるデフォルトの時間層があります。
- シートの表示オプションでは代替カレンダーが自動的に使用可能になりますが、それらを個別のレポートやグラフに追加する必要があります。

セキュリティ

カレンダーを変更するには、以下が必要です。

- "モデル管理アクセス" 権限
- "時間" 権限
- "カレンダーの設定" 権限

インテグレーション

Planning データ ソースの場合は、任意のカレンダーをキューブ シートおよびカスタム ソースの集計カレンダーとして使用できます。

接続および **Touchpoints**

Workday には、テナントでの設定関係を理解するのに役立つリソースを備えた Touchpoints Kit が用意されています。Workday Touchpoints Kit の詳細については、Workday Community を参照してください。

relatedlinks
概念
概念: Adaptive Planning の時間とカレンダー（793ページ）
概念: レガシー カレンダーとカスタム カレンダー（795ページ）
参考
2022R2 What's New Post:代替カレンダー
例
FAQ: カレンダー（795ページ）

ステップ: カレンダーの変更

始める前に

セキュリティ:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- "モデル管理アクセス" 権限
- "時間" 権限
- "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

"モデリング" の "時間" 領域では、モデルのカレンダー構造を表示および設定できます。また、時間層を他の時間層にロールアップする方法も表示されます。時間層は、構造を構成する時間単位です。例: "月" > "四半期" > "年" の場合、"月" は層になります。

"月" > "四半期" > "年" の構造では、カレンダーでデフォルトの層として "月" が使用されます。デフォルトの層は、データが存在する期間です。デフォルトの層を変更し、モデル シートおよびキューブ シートに異なるデフォルトの層を作成できます。

"時間" 領域では次の操作を行えます。

- TimeStructure スプレッドシートをダウンロードして、カレンダーを変更する。
- ロケールを管理する。
- デフォルトの時間層を変更する。
- カレンダーの名前を変更する。
- 代替カレンダーを削除する。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "時間" をクリックします。
3. (任意) カレンダー名を変更します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| カレンダー | 名前を変更するカレンダーを選択します。 |
| カレンダー名の変更 | クリックしてカレンダーの名前を変更します。避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| カレンダー コード | 文字、数字、特殊文字を任意に組み合わせて使用します。 |

4. (任意) TimeStructure スプレッドシートのダウンロード（779ページ）。
5. (任意) カレンダー構造の変更（780ページ）。
   構造を変更するには、TimeStructure スプレッドシートを使用します。
   例:
   - 標準の暦年ではなく、会計年度を使用しなければならない場合があります。
   - 月単位ではなく日単位で、より綿密な計画を立てなければならない場合があります。
   - "日" > "月" > "半期" > "年" を使って異なる方法で時間をロールアップする時間構造が必要になる場合があります。
6. (任意) 代替カレンダーの追加（783ページ）。
   代替カレンダーを追加するには、TimeStructure スプレッドシートを使用します。
   例: データは暦年に従って入力しますが、一部のデータは会計年度別に表示する必要があります。
7. カレンダーへの期間の追加（785ページ）.
   期間を追加するには、空白の TimeStructure テンプレートを使用して、それを他のカレンダー変更とは別にインポートします。
8. TimeStructure スプレッドシートのインポート（787ページ）.

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

9. (任意) デフォルトの時間層の変更（788ページ）。
   すべての標準シート、総勘定元帳科目、およびカスタム科目のデフォルトの時間層を変更します。
   新しいキューブ シート、モデル シート、および科目も、このデフォルトの層を継承します。
   デフォルトの時間層を変更するには、総勘定元帳およびカスタム科目のデータを消去する必要があります。
   その場合でも、時間層に異なるデフォルトを使用する特定のモデル シートおよびキューブ シートを作成できます。
   参照 データを含むキューブ シートおよびモデル シートでのデフォルトの時間層の変更（792ページ）。
10. (任意) ロケールを変更します。
    参照 ステップ: カレンダーのロケールの変更（778ページ）。
11. (任意) ツールバーから代替カレンダーを削除します。

次のタスク

以下に基づき、すべてのバージョンの開始日と終了日を選択します。

- レポート要件
- 表示するデータの量
- すべてのカレンダーの期間範囲

バージョンの設定が終わったら、シートに表示する時間の粒度と期間を設定できます。

カレンダーはいつでも延長できます。

relatedlinks
タスク
計画バージョンの作成（797ページ）
参考
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）

ステップ: カレンダーのロケールの変更

始める前に

- デフォルト ロケールの時間構造を設定します。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "時間" 権限
  - "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

ロケールは、各場所の言語、およびその場所に固有の日付、時間、数値の書式です。例: 米国と英国はどちらも英語を使用します。しかし、米国では「月 - 日 - 年」、英国では「日 - 月 - 年」の日付形式が使用されます。

インスタンスにはすでにデフォルト ロケールが含まれており、この初期デフォルト ロケールは常に "英語" に設定されています。ロケールを追加して他のロケールをデフォルト ロケールにしたり、ロケールを削除したりできます。また、デフォルト ロケールでもデフォルト以外のロケールでも、以下のラベルを変更できます。

- コード
- ラベル
- 短縮名

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

コード ラベルは、すべてのロケールで共通にする必要があります。このため、コード ラベルを変更するには、デフォルト ロケールのコード ラベルを変更する必要があります。

レガシー カレンダーを使用している場合、ロケールのいずれかの要素を変更すると、そのカレンダーはカスタム カレンダーに変更されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "時間" をクリックします。
3. ロケールを追加または削除するか、デフォルトのロケールを変更します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新規ロケール | Adaptive Planning では、カレンダー ラベルは新しく追加されたロケールの言語に自動的に翻訳されません。新しいロケールごとに、ローカライズされたラベルを手動で追加する必要があります。 |
| ロケールを削除 | 削除できるのは、デフォルト ロケールを除くロケールのみです。 |
| デフォルト | 新しいデフォルト ロケールを選択する前に、必ず最初にその ロケールのラベルをインポートしてください。 |

4. デフォルト以外のロケールのラベルの変更（789ページ）.
   デフォルト以外のロケールのラベルをインポートしてから、デフォルトのロケールに設定します。デフォルト ロケールに設定しないロケールでも、ラベルは変更できます。
5. デフォルト ロケールのラベルの変更（790ページ）.

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーの変更（776ページ）

**TimeStructure** スプレッドシートのダウンロード

始める前に

セキュリティ:

- "モデル管理アクセス" 権限
- "時間" 権限
- "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

TimeStructure スプレッドシートは以下で使用できます。

- 現在のカレンダー構造のエクスポート
- 手順を含む空白のテンプレート

スプレッドシートは以下の目的で使用できます。

- カレンダーの構造を変更する。
- 代替カレンダーを追加する。
- カレンダーの日付を延長する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

代替カレンダーを追加すると、元のカレンダーがデフォルト カレンダーになります。デフォルト カレンダーはデータが存在する場所です。代替カレンダーには、表示とレポートのために代替の時間合計が表示されます。

すべてのカレンダー構造の変更と代替カレンダーの追加を 1 つのスプレッドシートでインポートします。空白のテンプレートで、拡張子をカレンダーに個別にインポートします。

インポート用に Excel スプレッドシートを準備する際は、行の間に複数の空白行を残さないでください。インポートでは、2 つ目の空白行以降のすべての行が無視されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "時間" をクリックします。
3. ツールバーのボタンを使用して、TimeStructure スプレッドシートをダウンロードします。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| カレンダーをインポート | 空白のテンプレートで変更を加えられるように、"テンプレートのダウンロード" リンクが表示されます。手順は、テンプレートの最初のタブに表示されます。<br>空白のテンプレートをダウンロードして、カレンダーの日付を延長します。 |
| カレンダーをエクスポート | 既存の構造をダウンロードして、それに変更を加えられるようにします。<br>カレンダーをエクスポートして、構造を変更または代替カレンダーを追加します。 |

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ )

カレンダー構造の変更

始める前に

- TimeStructure スプレッドシートをエクスポートします。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "時間" 権限
  - "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

デフォルト カレンダーに異なる層を追加して、構造を "月" > "四半期" > "年" から変更できます。カレンダー構造を変更する必要があるのは以下の場合のみです。

- 標準カレンダーを使用しない場合
- "月" > "四半期" > "年" の構造を使用しない場合
- 代替カレンダーを追加する必要がある場合

構造を変更するには、TimeStructure スプレッドシートをインポートします。時間層は列に配置されます。各層には、"コード"、"ラベル"、"短縮名" に対する列のグループがあります。カレンダーは列へッ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ダーの最初の行にあります。この行で、カレンダー ラベルの構造をマッピングします。残りの行はカレンダーの日付です。各日付を各層のコードとラベルにマッピングします。

例: 2015 年 1 月 21 日のマッピング先:

- 月: 2015 年 1 月
- 四半期: 2015 年第 1 四半期
- 年: FY2015

Workday では、データを保護するために、サンドボックス インスタンスで新しいカレンダー構造をテストすることをお勧めします。

注 : インスタンスでカレンダーの構造を変更すると、期間を指定するバージョン 15 より古いすべての API が非アクティブになります。カレンダーをカスタマイズした後で特定の月のデータをリクエストする古い API バージョン (または同様の API コール) の使用を試みると、エラーが返されます。構造を変更するには、すべての API クライアントをアップグレードして新しいバージョン 15 の API を使用します。

手順

1. 保存済の TimeStructure スプレッドシートを開きます。
2. (任意) TimeStructure スプレッドシートで、層のラベルとマッピングを変更します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 日付 | 必須です。<br>スプレッドシートの最初の列には "日付" を含める必要があります。"日付" 列のデータには、Excel の日付形式を使用する必要があります。<br>既存の時間構造を更新する場合は、このスプレッドシートの日付範囲が既存の時間構造の日付範囲と一致していることを確認してください。カレンダーの最初のエントリから最後のエントリまでが日付範囲となります。<br>カレンダーの日付を延長するには、空白の TimeStructure スプレッドシートをダウンロードし、延長した日付を個別にインポートします。 |
| コード | 各層に必須です。<br>数式でコードを参照します。カレンダー名と同じ行に層のコードを入力し、コードを各日付にマッピングします。例:「月」と入力します。2015 年 1 月の各日付について、対応するコードを「2015/01」と入力します。<br>時間層コードには以下の特殊文字を使用できます。<br>• エンダッシュ<br>• エムダッシュ<br>• スラッシュ<br>• バック スラッシュ<br>• 下線<br>期間コードには以下の特殊文字を使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • エンダッシュ<br>• エムダッシュ<br>• スラッシュ<br>• バック スラッシュ<br>• 下線<br>• ハイフン<br>どちらのコードでも、分音符号やアクセント符号のある文字や、「this」という単語は使用できません。 |
| ラベル | 必須です。<br>時間層の表示方法と、シートおよびレポートでの時間の表示方法を示します。例: カレンダーの最初の行で、ラベルに「月」と入力します。シートの "表示オプション" に "月" が表示されます。行の各日付に「2015 年 1 月」、「2015 年 2 月」のように入力します。 シートでは、ヘッダー列に「2015 年 1 月」、「2015 年 2 月」のように表示されます。 |
| 短縮名 | 任意です。ラベルを省略する方法を示します。カレンダー要素の短縮名は、モデルに表示されません。 |

3. (任意) 層を追加または削除します。
   層の 3 列すべてを含めます。
   - コード
   - ラベル
   - 短縮名

   列の層グループを昇順で並べ替えます。

   例: "月" > "四半期" > "年" の構造に半期を追加する場合、"年" の前と "四半期" の後に 3 列を追加します。この例では、通常のテキストは既存のコンテンツを示しています。斜体のテキストは、スプレッドシートに追加する新しいコンテンツを示します。

| 日付 | コード | ラベル | 短縮名 | コード | ラベル |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 2015/01/01 | half | 半期 | HY | year | 年 |
| 2015/01/02 | half-1 | 上半期 | HY-1 | 2015 | FY-2015 |

次のタスク

カレンダーの変更が完了したら、スプレッドシートをインポートします。

relatedlinks
概念
概念: レガシー カレンダーとカスタム カレンダー ( 795ページ )
タスク
ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 代替カレンダーの追加

### 始める前に

- TimeStructure スプレッドシートのダウンロード（779ページ）.カレンダーを追加するには、既存の時間構造を開始点としてエクスポートすることをお勧めします。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "時間" 権限
  - "カレンダーの設定" 権限

### このタスクについて

代替カレンダーを使用すると、デフォルト カレンダーには存在しない時間合計でのデータを、レポート、シート、ダッシュボードで表示できます。代替カレンダーを追加するには、空白のテンプレートではなく、エクスポートを使用することをお勧めします。

レガシー カレンダーがある場合、代替カレンダーを追加するとカスタム カレンダーに切り替わります。

### 手順

1. エクスポートした TimeStructure スプレッドシートを開きます。
2. それぞれの代替カレンダーに行を挿入し、1 列目と 2 列目に代替カレンダーの名前とコードを入力します。

   デフォルト カレンダーの行と最初の日付の間に行を挿入します。

   避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。

   例: デフォルト カレンダーが労働期間の年で、代替カレンダーとして暦年および会計年度を追加するとします。この例では、通常のテキストは、エクスポートされた既存のコンテンツを示します。斜体のテキストは、エクスポートに追加する新しいコンテンツを示します。

| カレンダー名 | カレンダー コード | 日付* | コード* | ラベル* | 短縮名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 労働期間: 年 (デフォルト) | CYR | | 週 | 週 | |
| 暦年 | *CALYR* | | | | |
| 会計年度 | *FISYR* | | | | |
| | | 2016/12/30 | week52 | 52 週 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 代替カレンダーをデフォルト カレンダーと共有させる時間層について、それぞれの代替カレンダー用に挿入した新しい行に "コード" と "ラベル" をコピーします。

   代替カレンダーとデフォルト カレンダーは、以下を共有する必要があります。

   - デフォルト カレンダーの最下位時間層(最下位時間層は最小の層です)
   - 分岐層、または両方のカレンダー間の最後の共通層
   - 最下位時間層および分岐層の間のすべての層

   例: 両方の代替カレンダーについて、週の "コード" と "ラベル" をコピーして、カレンダーが "週" 層を共有するよう指定します。例を見やすくするために、"カレンダー コード" 列と "短縮名" 列を削除しています。

| | 日付* | コード* | ラベル* | コード* | ラベル* |
|---|---|---|---|---|---|
| 労働期間: 年 (デフォルト) | | week | 週 | PYear | 支給年 |
| 暦年 | | week | 週 | | |
| 会計年度 | | week | 週 | | |

4. 分岐層の後のすべての列をスキップし、デフォルト カレンダーの最後の列までスクロールします。
5. それぞれの代替の時間層に、以下の列をこの順序で追加します。

   - コード
   - ラベル
   - 短縮名

6. 代替カレンダーの行に、代替の合計ごとの時間層のコードとラベルを入力します。

   代替の合計を昇順で追加します。

   例: "暦年" の "ラベル" 列で、"支給年" の後に「暦月」、「暦四半期」、および「暦年」と入力します。 "会計年度" には、"暦年" の後に「会計月」、「会計四半期」、および「会計年」と入力します。 この例では、例を見やすくするために "ラベル" 列のみを表示しています。実際には、"コード" 列にもコードを入力する必要があります。"短縮名" の列を含める必要がありますが、セルは空白のままにすることができます。

| | 日付* | ラベル* | ラベル* | ラベル* | ラベル | ラベル | ラベル | ラベル | ラベル | ラベル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 労働期間: 年 (デフォルト) | | 週 | 支給期間 | 支給年 | | | | | | |
| 暦年 | | 週 | | | 暦月 | 暦四半期 | 暦年 | | | |
| 会計年度 | | 週 | | | 月 | | | 会計月 | 会計四半期 | 会計年 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

7. 代替の合計のコードとラベルを各日付にマッピングします。

   小さい方の層は、2 つの合計にまたがらないようにします。例: 「W1-17」のすべての行は同じ月にマッピングする必要があります。2017 年 1 月のすべての行は同じ四半期にマッピングします。

   例: 2016 年 12 月と 2017 年 1 月の日付を "暦年" および "会計年度" の合計にマッピングします。会計年度では、第 1 四半期は 2 月に開始します。例を見やすくするために "ラベル" 列のみを表示しています。

| | 日付* | ラベル* | ラベル* | ラベル* | ラベル | ラベル | ラベル | ラベル | ラベル | ラベル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 労働期間: 年 (デフォルト) | | 週 | 支給期間 | 支給年 | | | | | | |
| 暦年 | | 週 | | | 暦月 | 暦四半期 | 暦年 | | | |
| 会計年度 | | | | | 月 | | | 会計月 | 会計四半期 | 会計年 |
| | 2016/12/31 | W53-16 | P24-16 | PY2016 | 2016 年 12 月 | Q4-CY16 | CY-2016 | 2016 年 12 月 | Q4-FY16 | FY-2016 |
| | 2017/01/01 | W1-17 | P25-16 | PY2016 | 2017 年 1 月 | Q1-CY17 | CY-2017 | 2017 年 1 月 | Q4-FY16 | FY-2016 |
| | 2017/01/02 | W1-17 | P25-16 | PY2016 | 2017 年 1 月 | Q1-CY17 | CY-2017 | 2017 年 1 月 | Q4-FY16 | FY-2016 |

8. TimeStructure スプレッドシートのインポート（787ページ）.

タスクの結果

代替カレンダーは、モデル全体で "カレンダー" ドロップダウン プロンプトに表示されます。"時間" 管理ページ下部の "層合計" バナーに時間単位が表示され、デフォルトの単位と分岐の単位が示されます。

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーの変更（776ページ）

カレンダーへの期間の追加

始める前に

- デフォルト ロケールの時間構造を設定します。
- 空白の TimeStructure スプレッドシートをダウンロードします。参照 TimeStructure スプレッドシートのダウンロード（779ページ）。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "時間" 権限
  - "カレンダーの設定" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

カスタム カレンダーを延長して、これらの新しい期間の計画を開始できます。カレンダーに新しい期間を追加したら、バージョンとレポートを更新して、これらの新しい期間を表示できます。

時間構造に期間を追加するには、空白のスプレッドシート テンプレートを使用します。次に、インポートの "追加" オプションを使用します。

新しい期間を追加するためのインポートで、同時に時間層の変更や追加、代替カレンダーの追加、期間の削除は行えません。

デフォルト カレンダーから期間を削除するには、既存の時間構造をダウンロードし、"再ロード" インポート オプションを使用します。このインポート オプションでは、構造全体が削除され、すべてのカレンダー、データ、バージョンが削除されます。

デフォルト カレンダーに変更をインポートする前に、期間を慎重に選択して確認してください。

手順

1. TimeStructure スプレッドシートを開きます。
2. スプレッドシートに新しい期間の行を追加する際は、以下に留意してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 日付 | 必須です。<br>スプレッドシートの最初の列には "日付" を含める必要があります。データ列のデータには、Excel の日付形式を使用する必要があります。 |
| コード | 各層に必須です。<br>層のコードを指定します。数式でコードを参照します。層のコードを入力し、コードを各日付にマッピングします。例: コードに「月」と入力します。2015 年 1 月の各日付に「2015/01」と入力します。<br>時間層コードには以下の特殊文字を使用できます。<br>• エンダッシュ<br>• エムダッシュ<br>• スラッシュ<br>• バック スラッシュ<br>• 下線<br>期間コードには以下の特殊文字を使用できます。<br>• エンダッシュ<br>• エムダッシュ<br>• スラッシュ<br>• バック スラッシュ<br>• 下線<br>• ハイフン<br>どちらのコードでも、分音符号やアクセント符号のある文字や、「this」という単語は使用できません。 |
| ラベル | 必須です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 時間層の表示方法と、シートおよびレポートでの時間の表示方法を示します。例: カレンダーの最初の行で、ラベルに「月」と入力します。 ″月″ は、シートの "表示オプション" および "時間の管理" の "層合計" に表示されます。行の各日付に「2015 年 1 月」、「2015 年 2 月」のように入力します。 シートでは、ヘッダー列に「2015 年 1 月」、「2015 年 2 月」のように表示されます。 |
| 短縮名 | 任意です。ラベルを省略する方法を示します。カレンダー要素の短縮名はモデルに表示されません。 |

次のタスク

TimeStructure スプレッドシートのインポート（787ページ）.

期間を追加するすべてのバージョンで、そのバージョンに表示される最後の期間を変更します。

- 計画バージョンの場合は、"計画の終了" を変更します。
- 実績バージョンの場合は、"バージョンの終了" を変更します。

Excel Interface for Planning または OfficeConnect を使用する場合は、既存のレポートの要素を更新して新しい期間を表示します。

relatedlinks
概念
概念: Web レポート（156ページ）
タスク
ステップ: カレンダーの変更（776ページ）
計画バージョンの作成（797ページ）
列、行、およびセルへの要素の追加（595ページ）

## **TimeStructure** スプレッドシートのインポート

始める前に

- TimeStructure スプレッドシートに変更内容を保存します。
- セキュリティ: "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

スプレッドシートは以下の目的でインポートできます。

- カレンダーの構造を変更する。例: 層を追加したり、時間属性のラベルを変更したりできます。
- 代替カレンダーを追加する。例: シート、レポート、ダッシュボードで表示するために代替の時間合計を作成できます。
- カレンダーの期間を延長する。
- 期間を削除する。

インポート用に Excel スプレッドシートを準備する際は、行の間に複数の空白行を残さないでください。インポートでは、2 つ目の空白行以降のすべての行が無視されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "時間" をクリックします。
3. ツールバーで "カレンダーをインポート" をクリックし、プロンプトが表示されたら "はい" をクリックします。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 更新 | 常に以下の目的で使用します。<br>• 時間層のラベル、コード、または短縮名を変更する。<br>• カレンダーの層を追加するか、層を変更します。<br>• 代替カレンダーを追加する。<br>• 既存のデータを保存する。 |
| 追加 | 常に以下の目的で使用します。<br>• 追加の期間でカレンダーを延長する。例: 新しい年に日を追加して時間層にマッピングします。<br>• 既存のデータを保存する。 |
| 再ロード | 常に、デフォルトの層を変更する場合に使用します。構造全体を置き換えて、以下をすべて削除します。<br>• カレンダー<br>• データ<br>• バージョン |

4. "ファイルの選択" をクリックしてテンプレートを検索し、"アップロード" をクリックします。

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ )

デフォルトの時間層の変更

始める前に

セキュリティ:

- "モデル管理アクセス" 権限
- "モデル" 権限
- "時間" 権限
- "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

デフォルトの時間層は、標準シートで総勘定元帳、カスタム科目、および前提条件科目のデータを入力する層です。デフォルトでは、キューブ シートおよびモデル シートでもデフォルトの層でデータが表示されますが、キューブ シートおよびモデル シートごとに異なる層を選択するオプションがあります。参照 データを含むキューブ シートおよびモデル シートでのデフォルトの時間層の変更 ( 792ページ )。

標準シートを作成してデータを入力した後にデフォルトの時間層を変更した場合は、以下のいずれかを行う必要があります。

- 最初にすべての標準データ、セル メモ、検証を消去します。
- カレンダー構造全体を再ロード: すべてのデータが自動的に削除される。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

標準シートには、異なる時間層の科目を含めることができますが、データは、シートに含まれたすべての科目の最上位の時間層で表示されます。たとえば、標準シートに週、月、四半期の科目が混在している場合、シートのデータは四半期で表示されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "時間" をクリックします。
3. "削除" ドロップダウン メニューから、"標準データの消去" を選択します。
   標準データを削除しても、以下の情報は削除されません。
   - 共有数式
   - メトリック数式
   - 科目数式
4. 新しい "デフォルトの時間層" を選択します。

タスクの結果

"層合計" セクションのデフォルトの層には、"デフォルト" のラベルとアイコンがあります。

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーの変更（776ページ）

デフォルト以外のロケールのラベルの変更

始める前に

- デフォルト ロケールの時間構造を設定します。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "時間" 権限
  - "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

デフォルト以外のロケールを最初に追加する場合、新規ロケールには英語のラベルが付いています。引き続きこの英語のラベルを使用する場合でも、新規ロケールのラベルをインポートしてからデフォルト ロケールに設定する必要があります。

デフォルト ロケールおよびデフォルト以外のロケールでは、以下のラベルを変更できます。

- コード
- ラベル
- 短縮名

コード ラベルは、すべてのロケールで共通にする必要があります。このため、コード ラベルを変更するには、デフォルト ロケールのコード ラベルを変更する必要があります。

ラベルは、以下の場合でも変更できます。

- ロケールをデフォルト ロケールに設定しない場合。
- シートおよびレポートに既存のデータがある場合。ラベルの変更に応じて、シートおよびレポートが自動的に更新されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. "時間" をクリックします。
3. "時間" ペインで、ラベルを変更するデフォルト以外のロケールを選択します。
4. "ラベルをエクスポート" をクリックします。
5. スプレッドシートで、次の列の値を変更します。
    - ラベル
    - 短縮名

    期間の行に短縮名がある場合は、対応する時間層も短縮名にする必要があります。例: 会計年度の第 1 週目の "短縮名" 列に「WK1 Y2022」と入力します。スプレッドシートの上部にある "週" の行にも短縮名を入力する必要があります。

    "コード" 列の値は現在のデフォルト ロケールのコードと一致する必要があるため、変更できません。コードを変更するには、デフォルト ロケールのロケール ラベルを変更してください。
6. "ラベルをインポート" をクリックします。

    デフォルト以外の対象ロケールが選択されていることを確認します。
7. スプレッドシート ファイルを検索してアップロードします。

タスクの結果

このロケールをデフォルト ロケールに変更できるようになりました。

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーのロケールの変更 ( 778ページ )

デフォルト ロケールのラベルの変更

始める前に

- デフォルト ロケールの時間構造を設定します。
- セキュリティ:
    - "モデル管理アクセス" 権限
    - "時間" 権限
    - "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

インスタンスにはデフォルト ロケールが指定されており、自動的に英語に設定されています。デフォルト ロケールには以下のラベルが含まれています。

- コード
- ラベル
- 短縮名

デフォルト ロケールおよびデフォルト以外のロケールでは、これらのラベルを変更できます。コード ラベルは、すべてのロケールで共通にする必要があります。このため、コード ラベルを変更するには、デフォルト ロケールのコード ラベルを変更する必要があります。

以下の場合でも、デフォルト ロケールのラベルを変更できます。

- デフォルト ロケールを変更しない場合。
- デフォルト以外のロケールにラベルを追加してからデフォルト ロケールに設定したが、ラベルを再度変更したい場合。
- シートおよびレポートに既存のデータがある場合。ラベルの変更に応じて、シートおよびレポートが自動的に更新されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

時間ラベルを変更して別の日付形式または別の言語を使用する必要がある場合は、元のデフォルトの英語ロケールのラベルを変更します。ラベルとして追加する項目に関係なく、ローカル ブラウザに応じて OfficeConnect の日付形式とラベルが変更されます。OfficeConnect は Excel 形式を認識し、インポートされた内容を優先するため、使用しているロケールに関係なく、使用すべきラベルを認識できます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "時間" をクリックします。
3. "カレンダーをエクスポート" をクリックします。
4. スプレッドシートで、次の列の値を変更します。
    - ラベル
    - 短縮名

    期間の行に短縮名がある場合は、対応する時間層も短縮名にする必要があります。例: 会計年度の第 1 週目の "短縮名" 列に「WK1 Y2022」と入力します。スプレッドシートの上部にある "週" の行にも短縮名を入力する必要があります。
5. "ラベルをインポート" をクリックします。
6. スプレッドシート ファイルを検索してアップロードします。

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーのロケールの変更 ( 778ページ )

レガシー カレンダーへの期間の追加

始める前に

- デフォルト ロケールの時間構造を設定します。
- セキュリティ:
    - "モデル管理アクセス" 権限
    - "時間" 権限
    - "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

管理者は、以下のいずれかを行えるように、レガシー カレンダーに期間を追加することができます。

- 遡及的に過去の期間を追加し、履歴データを残す。
- 今後発生する新しい期間の計画を開始する。

レガシー カレンダーに期間を追加すると、デフォルトのラベルが自動的に生成されます。デフォルトのラベルは変更可能です。カレンダーに新しい期間を追加したら、バージョンとレポートを更新して、これらの新しい期間を表示できます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "時間" をクリックします。
3. 過去と未来のどちらに期間を追加するかによって、以下のいずれかのアイコンを選択します。
    - 5 年間後に延長
    - 5 年間先に延長

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

期間を追加または削除するすべてのバージョンで、そのバージョンに表示される期間を変更します。

- 計画バージョンの場合は、"計画の開始" または "計画の終了" を変更します。
- 実績バージョンの場合は、"バージョンの開始" または "バージョンの終了" を変更します。

Excel Interface for OfficeConnect を使用している場合は、既存のレポートの要素を更新して、新しい期間を表示します。

relatedlinks
タスク
計画バージョンの作成（797ページ）

データを含むキューブ シートおよびモデル シートでのデフォルトの時間層の変更

始める前に

- 時間構造を変更します。
- セキュリティ:
  - モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "時間" 権限
  - "カレンダーの設定" 権限

このタスクについて

デフォルトの時間層とは異なる時間層で表示されるように、キューブ シートおよびモデル シートを設定できます。以下のタイミングで設定できます。

- シートの作成時
- シートを作成し、データを入力した後。この場合は、すべての標準データ、セル メモ、検証を消去する必要があります。

キューブ科目およびモデル科目では、これらの科目を所有するキューブ シートとモデル シートから時間層が継承されます。モデル シートまたはキューブ シートには、時間層の異なる科目を含めることはできません。キューブ入力総勘定元帳科目およびカスタム科目では、関連付けられているキューブ シートと同じ時間層が使用されます。

手順

1. "モデリング" に移動します。
2. 次のいずれかを選択します。
   - 組織割当シート
   - ユーザー割当シート
3. キューブ シートまたはモデル シートの "編集" を選択します。
4. シートにデータが含まれている場合は、"すべてのデータを消去" を選択します。
5. シートがキューブ シートかモデル シートのいずれであるかに応じて、以下を選択します。
   - キューブ シートの場合、"属性、特性、組織" をクリックします。
   - モデル シートの場合、"列と組織" をクリックします。
6. シートのプロパティ メニューで "設定" タブを選択します。
7. "このモデル シートに関連付ける時間層を選択" プロンプトから、時間層を選択します。

例

会社では、"月" > "四半期" > "年" で標準設定されたカレンダーを使用しているとします。週単位のデータを含むキューブ シートが必要ですが、月単位のデータは消去したくありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1. "時間" で既存のカレンダーをエクスポートします。
2. エクスポートしたスプレッドシートを更新して、月列の左側にある週の必要な列 ("コード"、"ラベル"、"短縮名") を挿入します。
3. "時間" の "更新" オプションを使って、編集されたスプレッドシートをインポートします。"更新" オプションを使用することで、月単位データは消去されず、デフォルトの時間層も "月" のままになります。
4. 新しいキューブ シートを作成し、"シートのプロパティ" の "設定" タブでシートの時間層として "週" を選択します。

relatedlinks
タスク
ステップ: カレンダーの変更（776ページ）

概念: **Adaptive Planning** の時間とカレンダー

Adaptive Planning の時間属性は、カレンダーの構造または階層に従ってロールアップされます。例: カレンダーの構造が "月" > "四半期" > "年" である場合。月は四半期にロールアップされ、四半期は年にロールアップされます。

時間層

カレンダー構造は時間層で構成されています。例: "月" > "四半期" > "年" の構造では、時間層は "月"、"四半期"、および "年" になります。"月" は最小の時間層、つまり最下位層です。

デフォルト カレンダーのカスタマイズ

デフォルト カレンダー構造をカスタマイズするために、時間層の名前を追加、削除、または変更できます。例: 週および 10 年を追加するとします。構造は "週" > "月" > "四半期" > "年" > "10 年" のようになります。

デフォルト カレンダーをカスタマイズすると、インポートまたは API を介したシートへのデータの入力方法が変わります。例: "週" を追加すると、その週のデータを入力できるようになります。

デフォルトの時間層

"モデリング" > "時間"では、デフォルトの時間層は、総勘定元帳科目、カスタム科目、前提条件科目など、標準シートのデータを入力する層を示します。

シートの設定でシートごとに異なる層を指定しない限り、モデル シートおよびキューブ シートでもデフォルトの時間層が使用されます。このシートの設定により、特定のシートの小さい層または大きい層で計画を立てることができます。同時に、標準シートおよび標準科目のデフォルトの時間層を維持できます。

代替カレンダーとデフォルト カレンダー

代替カレンダーでは、元のカレンダーとは異なるロールアップ構造が提供されます。代替カレンダーを追加すると、元のカレンダーがデフォルト カレンダーになります。

デフォルト カレンダーにのみ、データの入力とインポートが可能です。代替カレンダーによって、シート、レポート、ダッシュボードでデータをロールアップする方法が変わります。

最大 3 つの代替カレンダーをアップロードできます。

代替カレンダーの層

代替の構造は、少なくともデフォルト カレンダーの最下位層を共有する必要があります。そこから、異なる合計に分岐するまで合計を共有する必要があります。

代替カレンダーで最後に一致する合計は分岐層です。分岐層から、データは異なる時間層へのロールアップを開始します。最大のものを除き、分岐層はどの時間層でも生じる可能性があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例: "週" は、会計年度の代替カレンダーの最下位層および分岐層です。

| | 日付 | ラベル* | ラベル* | ラベル* | ラベル* | ラベル* |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 労働期間: 年 (デフォルト) | 週 | 支給期間 | 支給年 | | | |
| 会計年度 | 週 | | | 会計月 | 会計四半期 | 会計年度 |

ドット表記の数式および代替カレンダー

ドット表記の数式については、特に代替カレンダーを参照する必要はありません。ユーザーが代替カレンダーに切り替えると、ドット表記の基準は選択したカレンダーに自動的に切り替わります。

カレンダーの設定のためのソリューション

次の 1 つ以上のカレンダー ソリューションの使用を検討してください。

| カレンダー ソリューション | 説明 |
|---|---|
| デフォルト カレンダーの構造を変更する。 | ビジネス モデルに合わせて合計を追加および削除します。既存のデータに影響を与えることなくインポートの "更新" オプションを使用することができます。 |
| デフォルトの時間層を変更する。 | データ入力のために現在の時間構造内の異なる層を示します。次のいずれかを実行する必要があります。<br>• 総勘定元帳、カスタム、メトリック、および前提条件科目からすべての標準データを削除する。<br>• これらの科目から標準データを自動的に削除する構造全体を再ロードします。 |
| キューブ シートおよびモデル シートの異なるデフォルトの時間層を選択します。 | シートごとのデフォルトにより、標準シートおよび標準科目における計画とは異なる方法でシート内で計画を作成できます。各キューブ シートまたはモデル シートの設定では、デフォルトとして既存の時間層を選択できます。デフォルトの時間層を変更する前に、シートの既存のデータを削除する必要があります。 |
| 代替カレンダーを追加する。 | 異なる合計を持つ異なる構造をインポートします。このソリューションは、同じデータを異なる方法でグループ化する必要がある場合に使用します。 |
| 複数のインスタンスを使用する。 | このソリューションでは、デフォルト カレンダーとは異なる期間にデータを入力およびインポートできます。 |

relatedlinks
概念
設定の考慮事項: 代替カレンダー ( 773ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

概念: レガシー カレンダーとカスタム カレンダー

レガシー カレンダーとは、リリース 2017.2 よりも前に作成されたカレンダーです。それ以降、時間の延長以外の変更は行われていません。時間の延長を除き、時間構造または口ケールを変更した時点で、レガシー カレンダーはカスタム カレンダーになります。2017.2 以降に作成されたカレンダーおよびインスタンスの場合、そのカレンダーはカスタム カレンダーであり、最新の機能が使用されています。

インスタンスで使用されているのがレガシー カレンダーかどうかを確認するには、"モデル管理" の "時間" ページでツールバーを表示します。ツールバーに次のアイコンが表示されている場合は、レガシー カレンダーです。

- 過去に向かって 5 年間延長
- 将来に向かって 5 年間延長

インスタンスでレガシー カレンダーとカスタム カレンダーのどちらを使用しているかによって、インスタンスの以下の要素が異なります。

- カレンダーで時間を延長する方法
- 口ケールを変更できるかどうか
- シートによる一部の数式の解釈方法
- キューブ シートで設定できる設定
- データをインポートまたはエクスポートするために、API で選択すべきパラメータと使用すべき形式

relatedlinks
概念
概念: versionmonth() 数式およびカスタム カレンダー（1146ページ）
概念: Day(this) 数式およびカスタム カレンダー（1147ページ）

**FAQ:** カレンダー


- デフォルト カレンダーの支給期間を隔週ではなく月 2 回に変更するには、どうすればよいですか？（795ページ）
- デフォルトの構造を変更すると、履歴データはどのように変わりますか？（795ページ）
- データがすでに存在する場合、デフォルト カレンダーの構造を変更する最善の方法は何ですか？（796ページ）
- デフォルトの合計の一部だけをスキップする代替カレンダーを作成するには、どうすればよいですか？（796ページ）
- カレンダーの構造を延長するにはどうすればよいですか？（796ページ）
- デフォルトの層が異なるキューブ シートおよびモデル シートにリンクしている総勘定元帳科目に対して、代替の合計はどのように機能しますか？（796ページ）
- 時間単位で計画できますか？（796ページ）
- 層を合計の間で分割するにはどうすればよいですか？（796ページ）
- Workday カレンダーを計画と同期できますか？（796ページ）


| | |
|---|---|
| デフォルト カレンダーの支給期間を隔週ではなく月 2 回に変更するには、どうすればよいですか？ | 毎月 1 ~ 15 日および 16 ~ 30 日、または 31 日を、支給期間の合計にマッピングできます。すでに時間層として "日" がある場合は、これを行うのが最も簡単です。"更新" オプションを使用して、変更内容をデフォルト カレンダーにインポートできます。 |
| デフォルトの構造を変更すると、履歴データはどのように変わりますか？ | デフォルト カレンダー構造に新しい層を追加する場合、インポートの "更新" オプションを使用して既存のデータを管理できます。<br><br>デフォルトの層も変更する場合は、以下のいずれかを行う必要があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | • インポートの "再ロード" オプションを使用します。"再ロード" オプションを使用すると、ロック済バージョンとロック解除済バージョンのデータがすべて削除されます。すべてのバージョンからデータをエクスポートし、カレンダーの変更後に再ロードできます。<br>• デフォルトを変更する前に、標準データを手動で削除します。標準データには、総勘定元帳、カスタム、メトリック、前提条件といった科目が含まれます。 |
| データがすでに存在する場合、デフォルト カレンダーの構造を変更する最善の方法は何ですか？ | デフォルトの層を変更しない限り、データを失うことなく任意の時間層を追加または変更できます。 |
| デフォルトの合計の一部だけをスキップする代替カレンダーを作成するには、どうすればよいですか？ | 代替カレンダーでも年にロールアップできますが、代替年でなければなりません。ロールアップをスキップした場合は、分岐層の後に代替の合計を作成する必要があります。例: デフォルト カレンダーが "月" > "四半期" > "年" である場合。四半期のない代替カレンダーは、"月" > "代替年" である必要があります。 |
| カレンダーの構造を延長するにはどうすればよいですか？ | "更新" オプションを使用して、デフォルト カレンダーに合計を追加します。例: データに影響を与えたり、代替カレンダーを追加したりせずに、"月" > "四半期" > "年" のカレンダーに "10 年" を追加します。 |
| デフォルトの層が異なるキューブ シートおよびモデル シートにリンクしている総勘定元帳科目に対して、代替の合計はどのように機能しますか？ | 代替の合計が、総勘定元帳のデフォルトの時間層と同じかそれ以上であることを確認してください。例: デフォルトの時間層が "月" である場合。キューブ シートの層は "週"、モデル シートの層は "週" になります。代替カレンダーには "月" を含めます。 |
| 時間単位で計画できますか？ | 時間に対して表示される最下位組織のセルの数には制限があります。時間単位で計画すると、これらの最大値を超える可能性があります。 |
| 層を合計の間で分割するにはどうすればよいですか？ | "週" > "月" の構造では多くの場合、週に 1 か月の終わりと次の 1 か月の始まりの日が含まれます。この週を 2 つの合計の間で分割することはできません。それぞれの週を 1 か月に、月を 1 四半期に、というようにマッピングする必要があります。その結果、1 月の日が 2 月の合計にマッピングされる可能性があります。<br><br>"日" > "月" の構造では、それぞれの日を適切な暦月にロールアップできます。 |
| Workday カレンダーを計画と同期できますか？ | 現在、Workday カレンダーとの同期プロセスはありません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

# バージョン

## 計画バージョン
## 計画バージョンの作成

### 始める前に

セキュリティ: "バージョン" 権限

### このタスクについて

計画バージョンを作成する場合に、別の計画バージョンをどの程度コピーするかを決めるオプションを選択できます。次の操作ができます。

- 設定、ルール、分割、データをコピーせずに、すべて新規でバージョンを作成します。
- データを空白のままにして、別のバージョンの設定、ルール、分割をコピーします。
- データを含む別のバージョンの設定、ルール、分割をコピーします。

何もコピーしない場合でも、新しい計画バージョンはそれぞれコピーとして開始されます。 関連シナリオがあるバージョンでは、"新しいバージョンのオプション" セクションに以下のチェックボックスがあります。

- すべてのシナリオをコピー: シナリオを元に残し、同じシナリオを新しいバージョンに追加します。
- すべてのシナリオを移動: シナリオを元のバージョンから新しいバージョンに移動します。
- シナリオを無視する。
- 両方のオプションを空白のままにすると、元のバージョンと新しいバージョンのシナリオが維持されます。

大きなバージョンをコピーすると、バージョンが完了するまでに時間がかかる場合があります。バージョンはバックグラウンドでキューに登録されるため、待つ必要はありません。バージョン リストでは、完了するまで "進行中" と表示されます。

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. (任意) 特定のバージョンのデータをコピーするには、コピーするバージョンをロックし、すべてのデータがコピーされるようにします。
   参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示 ( 816ページ )。
4. コピーするバージョンをハイライト表示します。
5. ツールバーから "計画バージョンを作成" をクリックして、"計画バージョンを作成" を選択します。
6. "一般" セクションの設定を行う際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | "モデリング" および "インテグレーション" の一部のエリアでは、非表示のバージョンであってもバージョン名が表示されます。避ける単語とその他のガイドラインについては、参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 説明 | 参照用にコピーするバージョンの名前を入力してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

7. "アクセス制御" セクションに入力します。
   参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示 ( 816ページ ) 。
8. "オプション" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 表示開始月 | 最も早い期間です。例: 2022 年 1 月にバージョンを開始する場合は、2022 年を選択します。 |
| 計画の終了 | 最後の期間です。<br>事前に選択した期間より後の期間を選択すると、ページの下部に "拡張オプション" が表示されます。値ルックアップおよびすべての科目について、計画の追加期間にコピーする項目を選択します。 |
| 計画の開始 | 計画データが開始され、実績のオーバーレイデータが停止する期間です。 |
| 次の時点までのすべての月をロック | データの期間をロックします。カスタム カレンダーの場合、このフィールド名は最小の時間層を反映して変更されます。例: 最小の時間層として週を使用する場合、設定は "次の時点までのすべての週をロック" になります。 |
| デフォルト | バージョンを、すべてのユーザーに対してデフォルト バージョンとします。デフォルトに設定できるバージョンは 1 つだけです。<br>デフォルト バージョンは、モデル全体のバージョン ドロップダウン リストで太字で表示されます。 |
| オーバーレイの実績バージョン | 実績サブバージョンがあるインスタンスで使用可能です。<br>計画データを、実績バージョン データでオーバーレイします。実績バージョンを非表示にしている場合でも、計画へのアクセス権があるすべての人に実績データが表示されます。 |

9. "新しいバージョンのオプション" セクションを完成させます。

| バージョン | チェックボックス |
| --- | --- |
| 空白 | 以下のチェックボックスをオフにします。<br>• すべてのデータをコピー<br>• GL とカスタム科目の分割をコピー<br>• モデル行をコピー<br>• セル、シート、ワークフローのメモをコピー<br>• 変更履歴の履歴をコピー: 空白のままにすると、コピーしたバージョンの変更履歴メモはコピーされません。<br>• すべてのシナリオをコピー: 空白のままにすると、元のバージョンのシナリオが残ります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| バージョン | チェックボックス |
| --- | --- |
| | • すべてのシナリオを移動: 空白のままにすると、シナリオは元のバージョンのままになります。<br><br>"ワークフローのステータスを進行中にリセット" を選択: コピーするバージョンの却下済みおよび承認済みのワークフロー ステータスを削除します。<br><br>(任意) 以下のチェックボックスをオンにします。<br>• 共有数式とルールをコピー: 参照データを入力するまでセルには f(x) が表示されます。<br>• すべてのオーバーライド数式をコピー<br>• レポートのパラメータの選択肢としてすべてのレポートに追加: バージョンでフィルタリングするレポートに新しいバージョンをオプションとして自動的に追加します。 |
| コピーされた構造 | "すべてのデータをコピー" をオフにします。<br><br>以下のチェックボックスをオンにします。<br>• GL とカスタム科目の分割をコピー: シートとレポートの、分割および関連付けられた属性の構造をコピーします。<br>• モデル行をコピー: タグ付けされた属性を含む、すべてのモデル シートのすべての行をコピーします。<br><br>(任意) 以下のチェックボックスをオンにします。<br>• 共有数式とルールをコピー: 参照データを入力するまでセルには f(x) が表示されます。<br>• すべてのオーバーライド数式をコピー |
| コピーされた構造とデータ | 以下のチェックボックスをオンにします。<br>• すべてのデータをコピー<br>• 共有数式とルールをコピー<br>• 変更履歴の履歴をコピー: コピーしたバージョンの変更履歴メモをコピーします。<br>• すべてのオーバーライド数式をコピー<br>• GL およびカスタム科目の分割をコピー: 任意の分割の構造および分割内のデータをコピーします。<br>• モデル行をコピー: モデル シートの行のデータをコピーします。<br>• セル、シート、ワークフローのメモをコピー<br><br>任意: |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| バージョン | チェックボックス |
| --- | --- |
| | • すべてのレポートに対してレポートのパラメータの選択肢として追加を選択: バージョンでフィルタリングするレポートに新しいバージョンをオプションとして自動的に追加します。<br>• "ワークフローのステータスを進行中にリセット" をオフにする: 却下済みおよび承認済みのワークフローのステータスをコピーします。<br>• "すべてのシナリオをコピー " または "すべてのシナリオを移動"を選択します。 シナリオを移動することをお勧めします。 |

タスクの結果

バージョンがキューに登録されると、以下のようになります。

- バージョンは "進行中" ステータスでバージョン リストに表示されます。
- モデルのバージョン領域にアクセスできるすべてのユーザーが、リスト内のバージョンを表示できます。 ただし、ユーザーが作成したバージョンが失敗した場合に、それを他のユーザーが却下することはできません。
- 作成したユーザーはアプリケーションの他の領域に移動できます。
- 他のバージョンを作成することはできません。ただし、他のユーザーがバージョンを作成することはできます。

その他のバージョン ステータスは以下のとおりです。

- 完了: 新しいバージョンが完了しました。"バージョン" 領域を離れず留まった場合、バージョンの完了時に表示される "リフレッシュ" ボタンをクリックします。
- 失敗: 情報アイコンをクリックし、修正できるエラーのリストを確認してから再試行してください。もう一度試してください。"X" をクリックしてバージョンを却下します。"X" は、失敗したバージョンを作成しようとした担当者である場合にのみ表示されます。

relatedlinks
概念
バージョンの変更履歴の使用（840ページ）
ステップ: ワークフローの使用
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
概念: バージョン（842ページ）
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
タスク
共有数式を作成する（1180ページ）

異常検出のための予測バージョンの作成

始める前に

- 新規作成する前に、既存の予測バージョンを削除します。古い予測バージョンを削除すると、以前の予測と検出された異常もすべて削除されます。
- デフォルトの時間層の変更（788ページ）.デフォルトの時間層に "月" を選択します。
- セキュリティ: "バージョン" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

異常検出の 機械学習アルゴリズムは、実績データを使用して値を予測します。予測バージョンは、結果の予測値を保持します。

予測バージョンは計画バージョンのタイプです。これは、異常検出と外れ値レポートの前提条件でもあります。

重要 : 新しい予測バージョンを作成しないでこのバージョンを削除すると、異常検出 および外れ値レポートは機能しなくなります。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. ツールバーから "新しい計画バージョンを作成" をクリックして、"予測バージョンを作成" を選択します。
   このオプションは、すでに予測バージョンがある場合は使用できません。
4. ここで説明するとおりに "バージョンの詳細" セクションに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス制御 | すべてのユーザー タイプのプロンプトで、"インポートとメモのみ" を選択します。 |
| オーバーレイの実績バージョン | アルゴリズムで履歴データとして参照するバージョンを選択します。<br>実績バージョンが 1 つのみの場合、この設定は表示されません。アルゴリズムにより自動的にルート実績バージョンが参照されます。 |
| バージョンのコピーとして開始 | コピーする計画のバージョンを選択します。<br>Adaptive Planning は、既存の連結比率と為替レートを予測バージョンに自動的にコピーします。 |
| すべてのオーバーライド数式をコピー | (任意) チェックボックスをオンにして、数式を含む科目のオーバーライド数式を保持します。 |
| 計画の終了 | 予測が終了する日付を選択します。計画の開始日からの期間が以下の場合は、次のようになります。<br>• 24 期間未満の場合、予測のデータ ポイントは 24 未満になります。<br>• 24 期間を超える場合、予測のデータ ポイントは 24 になります。 |
| 計画の開始 | 実績バージョンの最も早い期間から少なくとも 24 期間後の日付を選択してください。また、日付は実績バージョンの最後の期間より前である必要があります。アルゴリズムでは、24 を超える予測が選択した日付から生成されることはありません。 |
| 表示開始月 | 計画の開始日より前の日付を選択してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

1. (任意) 異常値の閾値を定義します。
2. 異常検出予測の生成 ( 739ページ ) .

relatedlinks
概念
ステップ: インテリジェント プランニングの設定
概念: バージョン ( 842ページ )
FAQ: 異常検出 ( 740ページ )
タスク
ステップ: 異常検出の設定 ( 734ページ )
シート内の異常値の検出 ( 94ページ )
参考
FAQ: 異常検出 ( 740ページ )

仮想バージョンの作成

始める前に

セキュリティ:

- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "バージョン" 権限

このタスクについて

仮想バージョンを作成して他のバージョンを統合し、シナリオベースの計画と固定通貨のレポートを作成できます。仮想バージョンは、以下の読み取り専用の複合によるものです。

- データに使用するベース バージョン。
- ベース バージョンのデータを変換する為替レートに使用する為替レート バージョン。

仮想バージョンでは、バージョン間の差異を報告する際に為替レートの変動が除外されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. 仮想バージョンを作成するバージョン フォルダを選択します。
4. ツールバーから "新しい仮想バージョンを作成" を選択します。
5. "ベース バージョン" で、データを提供するバージョンを選択します。
6. "為替レート" の横にある "編集" をクリックして、仮想バージョンを設定します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 為替レート | • 為替レート バージョン: 為替レートのバージョンを選択します。<br><br>選択するバージョンには、"ベース バージョン" で選択したバージョンのすべての期間が含まれている必要があります。例: ベース バージョンでは、"表示開始月" は 2020 年 1 月、"計画の終了" は 2020 年 12 月です。為替レート バージョンには、少なくとも 2020 年 1 月か |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ら 12 月までが含まれている必要があります。<br>• 固定通貨レポートの有効化: (任意) 実績のオーバーレイがある為替レートのバージョンの場合のみ選択できます。<br>計画バージョンの為替レートを実績のオーバーレイ データに適用する場合に選択します。実績オーバーレイがある期間に実績レートを適用するため、空白のままにしておいてください。<br>• オフセット (月): (任意) 別の期間の為替レートを使用します。<br>前後にシフトする期間の数を入力します。 |

次のタスク

仮想バージョンを使用して固定通貨レポートを作成します。

relatedlinks
概念
例: 仮想バージョンによる固定通貨レポートの作成
概念: バージョン ( 842ページ )

複数の計画バージョンの一括削除

始める前に

- バージョンがデフォルト バージョンの場合は、別のバージョンをデフォルトとして割り当てます。
- セキュリティ: "バージョン" 権限

このタスクについて

効率を高めるため、複数の計画バージョンを一度に削除する必要がある場合はフォルダを使用します。フォルダを削除すると、操作を元に戻すことはできません。以下を削除します。

- フォルダ内のすべてのバージョン
- 削除するバージョンのすべてのデータ
- 関連するすべての仮想バージョン

注 : 進行中の新しいバージョンが他にある場合は、バージョンを削除しないでください。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. バージョン リストで、任意の計画バージョンをクリックします。
4. ツールバーから "新しいフォルダを作成" をクリックします。
5. 任意の名前を追加して保存します。
6. バージョン リストで、削除するバージョンのアイコンをクリックし、フォルダ アイコンにドラッグします。
   ドラッグ アンド ドロップするには、アイコンをクリックする必要があります。
7. バージョン リストで、削除するバージョンを含むフォルダを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

8. ツールバーで "削除" をクリックします。

relatedlinks
タスク
バージョンの削除（841ページ）

バージョン フォルダの作成

始める前に

セキュリティ:

- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "バージョン" 権限

このタスクについて

フォルダを使用して、計画バージョンと仮想バージョンを整理できます。フォルダは、計画バージョンが多数ある場合に特に役立ちます。例:

- 年度ごとにフォルダを作成する。2022 年度のフォルダに、2022 年度のすべてのバージョンを保持する。
- 終了した予算、廃止された予算、または古い予算用のフォルダと、現在のプラン用のフォルダを 1 つ作成する。
- 予算、シナリオ、予測用にそれぞれフォルダを作成する。
- フォルダを作成して、複数の計画バージョンをすばやく削除する。

フォルダを有効に活用することで、現在のプランが見つけやすくなります。

注 : 新しいバージョンの処理中に新しいフォルダを作成することはお勧めしません。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. バージョン リストから計画バージョンを選択します。
4. ツールバーから "新しいフォルダを作成" をクリックします。
5. "一般" セクションの設定を行う際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 一意の名前を入力します。例:<br>• 2009 年予算<br>• 2008 年利益計画 - バージョン 2 |
| 短縮名 | 短縮名を入力しない場合、短縮されたバージョン名が自動的に表示されます。 |
| 説明 | Adaptive では、このページにのみ説明が表示されます。 |

6. "アクセス制御" セクションで、各ユーザー タイプの表示オプションを選択します。
   参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。
7. リストから、計画バージョンをフォルダにドラッグ アンド ドロップします。

relatedlinks
参考
FAQ: プラン階層の最上位にバージョン フォルダを作成できますか？（815ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: 実績のオーバーレイの設定

この例では、実績のオーバーレイの設定方法と、年の経過に応じて実績のオーバーレイを維持するために必要なさまざまなステップを示します。

このタスクについて

2022 年 10 月までの実績データが Adaptive Planning にロードされています。チームは、当年度予算計画で 2022 年の予算を完了しました。

年間を通して実績データを確定する際には、計画バージョンにそのデータを反映させたいと考えています。実績データを表示する科目と計画データを表示する科目が必要です。年度末に計画バージョンを閉じる前に、実績のオーバーレイをオフにするとします。

始める前に

使用しているカレンダーの構造: "月" > "四半期" > "年"。

使用しているバージョンは以下のとおりです。

- 実績 (ルート)
  - サブバージョン 1
  - サブバージョン 2
- 当年度予算

総勘定元帳科目は以下のとおりです。

- サービス収益
  - 既存契約
  - 新規契約

"本社" という名前の組織が 1 つあります。

サービス収益が記載された、損益の標準シートがあります。

セキュリティ:

- モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "バージョン" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "総勘定元帳科目" をクリックします。
3. 科目リストで "既存契約" をハイライト表示します。
4. "実績のオーバーレイ" 設定で、"実績を有効にする" を選択します。
   損益シートの "既存契約" に実績のオーバーレイが表示されます。
5. "保存" をクリックします。
6. 科目リストで "新規契約" をハイライト表示します。
7. "実績のオーバーレイ" 設定で、"科目用実績なし (計画データを表示)" を選択します。
   損益シートの "新規契約" には実績データは表示されません。
8. "保存" をクリックします。
9. ブレッドクラムで "モデリング" をクリックします。
10. "バージョン" をクリックします。
11. バージョン リストで、"実績 (ルート)" をハイライト表示します。
12. "次の時点までの確定数字を表示" プロンプトで、"2021 年 10 月" を選択します。
13. バージョン リストで、"当年度予算" をハイライト表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

14. "オプション" セクションで以下の値を選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 表示開始月 | 2021 |
| 計画の開始 | 2022 |
| オーバーレイの実績バージョン | 実績 (ルート) |

"既存契約" には、2021 年 1 月から 2021 年 10 月までのロック済みの実績データが損益シートに表示されます。"新規契約" には、ロック済みの計画データが表示されます。

15. 会計部署が 2021 年 12 月までの実績データを検証した後、以下に従って実績バージョンを調整します。

    a. バージョン リストで、"実績 (ルート)" をハイライト表示します。
    b. "次の時点までの確定数字を表示" プロンプトで、"2021 年 12 月" を選択します。
    c. "保存" をクリックします。

    "既存契約" には、2021 年 1 月から 2021 年 12 月までの実績データが損益シートに表示されます。"新規契約" には、引き続き計画データが表示されます。

16. 会計部署が第 1 四半期までの実績データを確認したら、以下に従って実績バージョンを調整します。

    a. バージョン リストで、"実績 (ルート)" をハイライト表示します。
    b. "次の時点までの確定数字を表示" プロンプトで、"2022 年 3 月" を選択します。
    c. "保存" をクリックします。

    実績のオーバーレイは変更されません。実績のオーバーレイは、次の 2 つの設定のうち早い方の値で停止します。

    - 計画バージョンの "計画の開始"
    - 実績バージョンの "次の時点までの確定数字を表示"

17. 第 1 四半期を通して実績のオーバーレイを確認するには、以下に従って計画バージョンを調整します。

    a. バージョン リストで、"当年度予算" をハイライト表示します。
    b. "計画の開始" プロンプトで、"2022 年 3 月" を選択します。
    c. "保存" をクリックします。

    "既存契約" には、2021 年 1 月から 2022 年 3 月までの実績データが損益シートに表示されます。"新規契約" には、引き続き計画データが表示されます。

18. 2022 年の終わりに、計画から実績のオーバーレイを削除します。

    a. バージョン リストで、"当年度予算" をハイライト表示します。
    b. "計画の開始" プロンプトで、"2022 年 1 月" を選択します。

    どちらの科目にも 2022 年 1 月から 2022 年 12 月までの計画データが表示されます。

relatedlinks
概念
概念： 表示開始月（806ページ）
参考: セルの色および表記の凡例
参考
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）

概念： 表示開始月

"表示開始月" は、計画バージョンをシートでどれだけ遡って表示できるかを制御する設定です。カレンダーで最大の時間層を選択します。会計年度が最も一般的です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例： "月"> "四半期"> "年"で、"表示開始月" が "FY-2014" の場合、シートでの表示オプションを使用して、2014 年 1 月まで遡って表示できます。

カレンダー
"表示開始月" はカレンダーの最初の期間の少なくとも 3 期間後に開始する必要があります。そうしない場合、バージョンの開始時の当初残高が正しく計算されません。

例: 2016 年 10 月から始まる月ベースのカレンダーの場合、"表示開始月" には "2017 年 1 月" 以降を選択します。

計画の開始と計画の終了
"表示開始月" は、以下の両方より前にする必要があります。

- 計画の開始
- 計画の終了

実績のオーバーレイ
"表示開始月" から "計画の開始" までの期間には、実績バージョンのデータが表示されます。

例: 計画の設定が次のようになっているとします。

- 表示開始月: FY-2014
- 計画の開始: 2015 年 1 月

シートには、2014 年 1 月から 2014 年 12 月までの実績のオーバーレイが表示されます。

実績バージョンの "次の時点までの確定数字を表示" の日付が "計画の開始" よりも前の場合は、"次の時点までの確定数字を表示" 期間までの実績のオーバーレイが表示されます。

例: 計画の設定が次のようになっているとします。

- 表示開始月: FY-2014
- 計画の開始: 2015 年 1 月

"次の時点までの確定数字を表示" の実績は "2014 年 6 月" に設定されます。

2014 年 1 月から 2014 年 6 月までの実績のオーバーレイが表示されます。

初期の残高
"表示開始月" を先に動かすと、モデル シートの初期の残高列も影響を受けます。

モデル シート内の当初残高列は支払い単価とも呼ばれる科目です。初期の残高セルには、バージョンの "表示開始月" より前の期間が表示されます。その科目では数式を使用して期間内の各期間の値を調整します。"表示開始月" を先にシフトすると、初期の残高の指定期間もシフトします。

例: "表示開始月" は "2014 年 1 月" です。初期の残高には、前の期間である 2013 年 1 月の値が表示されます。科目の数式により、期間間の値、この場合は年が増加します。

| 初期の残高 (2013 年 1 月) | 2014 年 1 月 | 2015 年 1 月 | 2016 年 1 月 |
|---|---|---|---|
| 100 | 200 | 300 | 400 |

"表示開始月" を 1 年先にシフトすると、シートは以下のように更新されます。

| 初期の残高 (2014 年 1 月) | 2015 年 1 月 | 2016 年 1 月 |
|---|---|---|
| 200 | 300 | 400 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

データの削除
"表示開始月" を先に移動する場合は、新しい "表示開始月" の日付より前にあるそのバージョンのすべてのデータが削除されます。例： "表示開始月" を "FY-2014" から "FY-2016" にシフトするとします。 そのバージョンの 2014 年と 2015 年のすべてのデータが削除されます。

デフォルト バージョン

デフォルト計画バージョンの "表示開始月" を先に進めることはできません。動かせるのは過去に向かってのみです。

relatedlinks
概念
例: 実績のオーバーレイの設定（805ページ）
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
概念: 実績バージョン（836ページ）
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）

概念: 実績のオーバーレイ

実績のオーバーレイは、計画バージョンの実績データを表示するオプションの科目設定です。

チームが計画と同じシートの数式で過去の期間の実績を参照するようにする場合は、実績のオーバーレイを使用します。

例: 2021 年に、チームは 2022 年の予算計画バージョンを作成しました。実績のオーバーレイを使用すると、年の経過に応じて計画に実績データが入力されます。計画内の数式参照がより正確になり、チームは必要に応じて今後数か月の予算を調整できます。

実績のオーバーレイを使用すると、実績データに以下の計画データが含まれます。

- 科目設定で実績のオーバーレイに対して有効にした科目。
- バージョン設定で定義した計画バージョンの期間。

実績のオーバーレイは、計画内の数式計算も対象とします。

シート内の実績のオーバーレイ

シート上では、実績のオーバーレイ データには緑色のフォントとグレーのセルの背景 (ロック済) が表示されます。

子科目で科目の実績を有効にします。同じ親を持つ科目には実績があるものとないものがあります。 実績期間の場合、親科目は実績のある子科目のみを合計します。この合計は、他の実績のオーバーレイと同様に、グレーの背景に緑色のフォントで表示されます。

科目構造をインポートするときに、推奨されていませんが、実績を持つ子科目を持つ親科目の実績を無効にすることができます。実績のオーバーレイがある期間中、親科目は実績のある子科目のみを合計しますが、シートには合計が白で表示されます。構造を再度インポートし、親実績のオーバーレイ設定を有効にすることで、緑色に戻すことができます。

実績のオーバーレイのバージョンを使用すると、実績バージョンを非表示にしている場合でも、計画を表示できるすべてのユーザーが実績データを表示できます。

実績サブバージョン

実績サブバージョンがある場合は、各計画バージョンの実績のオーバーレイに使用する実績バージョンを選択できます。 これは、オーバーレイに影響を与えずに実績を調整したい場合に特に有用です。この場合、実績のオーバーレイに使用したものとは異なる実績サブバージョンに調整を行うことができます。実績サブバージョンはルートにロールアップされ、値が合計されることに注意してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

実績のオーバーレイのバージョン設定

実績のオーバーレイを効果的に使用するには、バージョン設定を定期的に調整します。

実績のオーバーレイは、計画バージョンの "表示開始月" から、以下のどちらか早い方の期間まで表示されます。

- 計画バージョンの "計画の開始"
- 実績バージョンの "次の時点までの確定数字を表示"

実績のオーバーレイと **Planning** データ ローダ

"インテグレーション設定" で Planning データ ローダを使用すると、実績のオーバーレイを自動的に更新できます。実績データをインポートする場合、"新しい実績を表示できるようにする " チェックボックスをクリックすると、"次 の時点までの確定数字 を表示" をローダのインポートに含まれた最新月のデータと自動的に同期できます。多くの場合、実績のオーバーレイは "次の時点 までの確定数字 を表示" と一致するため、このオプションを選択すると、実績のオーバーレイも自動的に更新されます。 参照 Planning データ ローダの作成（1744ページ）。

実績のオーバーレイと数式

実績のオーバーレイは、計画バージョンの数式計算を「カバーする」。計画内のデータは置き換えられず、引き続き保存されます。しかし、実績はそれをカバーしています。これには、科目のデフォルトの数式、共有数式、またはシートに入力した数式が含まれます。計画の計算値を再び公開するには、実績のオーバーレイを削除します。参照 FAQ: 実績のオーバーレイを計画データに戻すことはできますか？（815ページ）

数式が実績のオーバーレイのあるセルを参照する場合、数式は計画データではなく実績のオーバーレイに基づいてデータを計算します。

実績データに基づいて数式を評価するには、科目の実績オーバーレイをオンにする必要があります。実績のオーバーレイがオフになっている科目の場合、実績データまたは実績のオーバーレイがあるシートのセルを参照する数式を使用すると、評価は空白となります。"セルを探索" を開いても値は空白のままですが、"評価された数式" セクションには評価が表示されます。

relatedlinks
概念
計画バージョンの作成（797ページ）
例: 実績のオーバーレイの設定（805ページ）
参考: セルの色および表記の凡例
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）

概念： デフォルト バージョン

デフォルト バージョンは常に計画バージョンです。ツールバーのバージョン プロンプトのリストでは、デフォルト バージョンは太字で表示されます。

シートを表示すると、ツールバーで別のバージョンを選択するまでデフォルト バージョンのデータが表示されます。レポートとダッシュボードを表示する場合、レポート ビルダーまたはダッシュボード ビルダーで別のバージョンが指定されていない限り、デフォルト バージョンのデータが表示されます。

バージョン設定でデフォルト バージョンを選択します。"デフォルト" オプションはオフにできません。デフォルト バージョンを変更するには、別のプランをハイライトして "デフォルト" オプションを選択します。

relatedlinks
概念
概念: バージョン（842ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

参考: 計画バージョンの設定

"一般" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 計画バージョンに一意の名前のラベルを付けます。 避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | ダッシュボードの計画バージョン名の自動省略形をオーバーライドします。 |
| 説明 | 計画バージョンについて説明しますが、"モデリング" の "バージョン" 領域にのみ表示されます。 |

"アクセス制御" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ロック済バージョン | ユーザーがシートのデータを編集できないようにし、データを保持するために科目のデフォルトの数式をロックします。このオプションを使用すると、ユーザーごとのアクセス制御が自動的に "ロック済" または "ロック済 (メモを除く)" に更新されます。<br>特定の年度のレコードの予算としてバージョンを閉じるには、このオプションを選択します。<br>科目または組織の追加や削除などのグローバルな変更も、ロック済バージョンに影響します。 |
| アーカイブ バージョン | "ロック済" バージョンである必要があります。<br>計算、実績のオーバーレイ、実績のオーバーレイに基づく計算、合計値を参照する計算、およびリンクの最下位組織のデータが保存されます。 |
| エラーの表示 | "アーカイブ バージョン"を選択すると表示されます。<br>数式エラーのサマリをダウンロードします。エラーがない場合、スプレッドシートは空白になります。 |
| 数式値の計算 | 従来のオプションは、すでにこのオプションが有効化されているバージョンでのみ使用できます。参照 FAQ: "数式値を計算" の廃止 ( 831ページ )。<br>数式を参照せずに計算値をバージョンに保存することで、ロード時間を短縮できます。<br>バージョンに "数式値を計算" を適用すると、数式に影響する構造の変更があった場合に、これらの数式を再適用する必要がある場合があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | このオプションを有効にすると、そのバージョンをベース バージョンとして使用するすべてのシナリオが削除されます。 |
| 管理者、ユーザー、編集可能なシート アクセス、グループ、アクセス レベル | 各ユーザー タイプについてバージョンをロック解除、ロック、または非表示にします。 |

オプション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 表示開始月 | 表示できる最も早い期間です。<br>例: 2022 年 1 月に開始する場合は、2022 年を選択します。<br>期間は、"計画の開始" より前である必要があります。<br>"表示開始月" を前に移動すると、新しい "表示開始月" の 日付より前にあるそのバージョンのすべてのデータが削除されます。表示開始月を動かすことにより、初期の貸借対照表も影響を受けます。<br>デフォルトのバージョンでは、" 表示開始月" を先に進めることはできません。 |
| 計画の終了 | 表示できる最後の期間です。<br>予測バージョンの場合、予測には計画の開始から最大 24 期間のみ入力されます。<br>事前に選択した期間より後の計画の終了日を選択すると "拡張オプション" が表示されます。値ルックアップとその他のすべての科目について、計画の追加年にコピーする内容を選択できます。 |
| 計画の開始 | 計画データが開始され、実績のオーバーレイ データが停止する期間です。<br>予測バージョンの場合、このフィールドは予測の開始日です。実績バージョンには、"計画の開始" で選択した期間の少なくとも 24 期間前のデータが含まれる必要があります。 |
| 次の時点までのすべての月をロック | バージョンの指定した期間のデータをロックして、ユーザーが編集できないようにします。<br>インスタンスにカスタム カレンダーがある場合、この設定では最小の期間が使用されます。例: 最小の期間に週を使用する場合、設定が "次の時点までのすべての週をロック" になります。 |
| デフォルト | 選択したバージョンを、すべてのユーザーに対してデフォルトのバージョンとします。デフォルトに設定できるバージョンは 1 つだけです。<br>"デフォルト" オプションはオフにできません。デフォルト バージョンを変更するには、別のプラン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | をハイライトして "デフォルト" オプションをオンにします。 |
| 変更履歴 | 以下のユーザーの変更を追跡します。<br>• シート内データ<br>• インポート経由<br>• 共有数式<br>ユーザーは、"レポート" で変更履歴の検索を作成できます。<br>バージョンでこのオプションをオフにすると、既存の計画バージョンに関する記録済みの過去のすべての変更履歴情報が削除されます。<br>パフォーマンスを向上させるために、バージョンにデータをインポートするときは変更履歴を無効にすることをお勧めします。 |
| 実績のオーバーレイに、利用できない組織を含める | 使用しなくなった組織も含め、すべての組織の実績のオーバーレイが表示されます。 |
| オーバーレイの実績バージョン | 実績サブバージョンがあるインスタンスで使用可能です。<br>計画データを、選択した実績バージョン データでオーバーレイします。実績バージョンを非表示にしている場合でも、計画へのアクセス権があるすべての人に実績データが表示されます。<br>予測バージョンの場合、機械学習アルゴリズムが予測の生成で使用する基本データが提供されます。 |
| トランザクションにドリルイン | トランザクション モジュールでのみ使用可能です。<br>選択したバージョンのトランザクションにドリルインできるようにします。このオプションは、トランザクション ドリルスルーに対してのみ機能し、NetSuite ドリルスルーに対しては機能しません。<br>デフォルトの設定では、未処理のトランザクション レポートが表示されます。この設定で計画バージョンのクローンを作成すると、クローンにこの設定が自動的に入力されます。 |

パブリッシュ アクセス

これらのオプションは、Workday が有効になっているインスタンスでのみ使用可能です。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 人員計画 | 人員計画を Workday ドラフト プラン テンプレートにパブリッシュするために、この計画バージョンを使用可能にします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 財務計画 | 財務計画を Workday ドラフト プラン テンプレートにパブリッシュするために、この計画バージョンを使用可能にします。 |
| ワークフォース アクション計画 | ワークフォース アクション計画を Workday ドラフト プラン テンプレートにパブリッシュするために、この計画バージョンを使用可能にします。 |

新しいバージョンのオプション

これらのオプションは、新しい計画バージョンを作成する場合にのみ表示されます。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| バージョンのコピーとして開始 | 既存の計画バージョンのデータをコピーして、新しい計画バージョンを開始します。コピーするバージョンを選択できます。 |
| すべてのデータをコピー | 既存の計画バージョンにある以下のソースから、すべての数値と数式を新しい計画バージョンにコピーします。<br>• 標準科目<br>• キューブ科目<br>• 前提条件<br>• 為替レート<br>既存の計画バージョンにモデル行がある場合、モデル シートのデータもコピーされます。 |
| 共有数式とルールをコピー | 以下をすべてコピーします。<br>• "数式" タブの共有数式<br>• ルール管理ページのルール適用範囲 |
| すべてのオーバーライド数式をコピー | 既存の計画バージョンで算出科目に設定した数式オーバーライドをコピーします ("データ入力" オプションを含む)。<br>すべての算出科目についてデフォルトの数式をコピーする場合は、このチェックボックスをオフにできます。 |
| GL とカスタム科目の分割をコピー | 総勘定元帳およびカスタム科目のすべての分割をソース バージョンからコピーします。これらの分割はすべての属性を保持します。 |
| モデル行をコピー | 既存の計画バージョンからモデル行をコピーします。すべての属性、組織、テキスト セレクター値は保持されます。<br>"すべてのデータをコピー" チェックボックスもオンにすると、以下もコピーされます。<br>• 初期の残高<br>• ドライバー値<br>• 期間値 (月に対応する行のすべての値) |
| セル、シート、ワークフローのメモをコピー | 以下をコピーします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • 既存の計画バージョンのすべてのセル、シート、ワークフローのメモ<br>• メモを最後に更新したのが誰で、いつ行われたかという情報<br><br>オフにした場合、新しい計画バージョンはメモなしで開始されます。 |
| ワークフローのステータスを進行中にリセット | 新しいバージョンのすべてのシートと他のワークフロー アイテムを "進行中" に設定します。<br><br>オフにした場合、新しいバージョンのすべてのワークフロー アイテムは、コピー時点の既存の計画バージョンの現在のステータスのままになります。例: 既存の計画バージョンのステータスが完了の場合、新しい計画バージョンは読み取り専用になります。 |
| 変更履歴の履歴をコピー | 既存の計画バージョンから変更履歴の履歴をコピーします。オフにした場合、新しい計画バージョンは変更履歴の履歴なしで開始されます。<br><br>新しい計画バージョンの変更のみを追跡する場合は、このチェックボックスをオフにできます。 |
| レポートのパラメータの選択肢としてすべてのレポートに追加 | パラメータとしてバージョンを持つすべてのレポートに、新しい計画バージョンを含めます。オフにする場合、ソース バージョンをパラメータとして持つ新しい計画バージョンのみをレポートに追加します。 |
| シートの再計算値をコピー | "要求に応じて再計算" チェックボックスをオンにしたキューブおよびモデル シートから再計算値をコピーします。 |
| すべてのシナリオをコピー | 元のバージョンにシナリオを残すとともに、新しいバージョンにもシナリオを追加します。シナリオをコピーするユーザーの最大シナリオ数を超えると、バージョンが失敗することがあります。コピーしないでシナリオを元のバージョンのままにするには、空白のままにします。 |
| すべてのシナリオを移動 | シナリオを元のバージョンから新しいバージョンに移動します。シナリオを元のバージョンのままにするには、空白のままにします。 |

拡張オプション

これらのオプションは、"計画の終了" 期間を入力した日付よりも後の日付に移動した場合に表示されます。 バージョンを延長すると、新しい期間ができます。これらのオプションは、新しいバージョンでそれらの新しい期間がどのように入力されるかを示します。" 前提条件とルックアップ" および "その他のすべての科目"では、異なる選択を行うことができます。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 最終年度を前方向へコピー *(計画データのみ)* | 必要に応じて、元のバージョンの最後の年を新しいバージョンの新しい期間にコピーし、最後までこのサイクルを繰り返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 最終期間を前方向へコピー (計画データのみ) | 元のバージョンの最後の期間の値を新しいバージョンの新しい期間にコピーし、最後まで繰り返します。 |
| 空で新年を開始 | 新しい期間を空白のままにします。 |

relatedlinks
概念
概念: バージョン（842ページ）
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
概念: マトリクス レポートのパラメータ
概念: Adaptive Planning からの計画のパブリッシュ（1288ページ）
バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）
計画バージョンの一部のロック（820ページ）
バージョンの変更履歴の使用（840ページ）
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
ステップ: ワークフローの使用
参考: トランザクション（1234ページ）

**FAQ:** プラン階層の最上位にバージョン フォルダを作成できますか？

1. 階層内の任意の場所にフォルダを作成します。
2. 新しいフォルダを最初のフォルダの上にドラッグします。
3. 適切なアイコンが表示されるまで、ドロップしないでください。このアイコンは、フォルダ内ではなく、上に移動していることを示しています。

relatedlinks
タスク
バージョン フォルダの作成（804ページ）

**FAQ:** 実績のオーバーレイを計画データに戻すことはできますか？

実績のオーバーレイによって計画データは置き換えられません。これはデータのみを対象とします。計画データを再度公開するには、科目の実績オーバーレイをオフにするか、オーバーレイ期間を調整します。

実績のオーバーレイをオフにすると、科目のすべてのバージョンから実績のオーバーレイが削除され、オーバーレイ期間を参照する計算に影響します。以下のように実績のオーバーレイをオフにします。

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. アカウント設定に移動します。以下のようにします。
    - 総勘定元帳科目
    - カスタム科目
    - メトリック科目
    - 前提条件
    - キューブ科目およびモデル科目の場合 シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ） 科目のリンクを選択します。
3. "科目リスト" で、該当科目を強調表示します。
4. "実績のオーバーレイ" で "科目用実績なし (計画データを表示)"を選択します。
5. 保存:

バージョン設定でオーバーレイ期間を調整することもできます。

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン"を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "計画の開始" プロンプトで前の日付を選択します。
4. 保存:

relatedlinks
概念
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
タスク
計画バージョンの作成（797ページ）
科目の作成（863ページ）

トラブルシューティング: クローン化されたバージョンにデータがコピーされなかった

バージョンを複製し、"すべてのデータをコピー " チェックボックスをオンにすると、新しいバージョンのデータが元のバージョンのデータと異なります。

原因:

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 誤ってデフォルト バージョンをコピーしました。<br>新しいバージョン ボタンをクリックしたときに、バージョン リストでハイライト表示したバージョンではなく、すべての新しい計画バージョンがデフォルト バージョンのコピーとして開始されます。 | "新しいバージョンのオプション" セクションで、"バージョンのコピーとして開始" プロンプトからコピーするバージョンを選択します。 |
| 元のバージョンには実績のオーバーレイがあります。<br>実績のオーバーレイではなく、計画データが新しいバージョンにコピーされます。 | 実績データをエクスポートし、計画データとして新しいバージョンにインポートできます。 |
| 元のバージョンの "計画の終了" 期間を超えて新しいバージョンを延長しました。その結果、新しいバージョンには、古いバージョンでカバーされなかった期間が含まれます。これらの期間は、"拡張オプション"のオプションに基づいて入力されます。デフォルトでは、元のバージョンの最後の年が新しい期間にコピーされ、必要に応じて繰り返されます。 | 完全にコピーするには、バージョンの開始と終了が同じままである必要があります。新しいバージョンの期間を延長する場合は、" 拡張オプション" まで下にスクロールし、最適なオプションを選択します。新しいバージョンはより多くの期間を含むため、現在のバージョンとは異なります。 |

relatedlinks
概念
概念： デフォルト バージョン（809ページ）
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
参考
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）

ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン
バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示

始める前に

- 算出科目のバージョンをロックするには、科目設定に移動し、"バージョン固有の数式設定を無効化" をオフにします。
- 数式の検証（1144ページ）.アーカイブ済バージョンでは、エラー結果の値はゼロまたは空白として保存されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:
  - モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "バージョン" 権限

このタスクについて

Adaptive Planning は、多くのバージョンのデータについて統合された動的なモデルを提供します。動的な特性により、計画は堅実で強力なものとなります。ただし、バージョンをロック、固定、または非表示にするビジネス要件があります。例: 予算プランをクローズし、変更を禁止する一方、モデルを更新します。

ユーザーがデータを表示および変更できるかどうかは、以下によっても異なります。

- アクセス ルール
- 権限
- シート設定
- 科目設定

非表示にした場合:

- 親実績バージョンの場合、すべての子孫を非表示にします。実績バージョンを表示するには、最初にそれぞれの親を表示します。
- どのバージョンも、そのバージョンとデータは "シート"、"レポート"、"ダッシュボード"で使用できません。

非表示のバージョンの名前は、以下の領域では引き続き表示されます。

- モデリング: 属性値の "依存関係を表示" およびキューブ シートのシート サマリの "容量を表示 "
- インテグレーション: データ ローダ

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. バージョン リストから、非表示化またはロックするバージョンをオンにします。
4. (任意) "アクセス制御" セクションのチェックボックスをオンにします。
   これらのオプションは、計画バージョンでのみ使用できます。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ロック済バージョン | チェックボックスをオンにして、以下を行います。<br>• "アーカイブ バージョン" オプションを有効化します。<br>• 計画バージョン全体をロックする。<br>• 算出科目のオーバーライド数式を作成する。<br>• すでに "非表示" または "ロック" になっているユーザー タイプのアクセス制御を維持する。<br>• ユーザー タイプの残りのアクセス制御を "ロック済 (メモを除く)" に更新する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ユーザー タイプごとにアクセス制御を変更するには、まず "ロック済バージョン" の設定をオフにします。 |
| アーカイブ バージョン | このチェックボックスをオンにするには、"ロック済バージョン" を選択します。<br><br>このチェックボックスをオフにすると、保存されているデータが変更され、場合によってはデータが削除される可能性があります。<br><br>このチェックボックスをオンにすると、以下も固定されます。<br>• セル、科目数式、共有数式の計算。<br>• 実績のオーバーレイと、実績のオーバーレイを参照するシート内の計算<br>• ターゲット リンク科目の値<br>• スプレッドおよび値ルックアップからの値<br><br>このチェックボックスをオンにすると、このバージョンに関連するすべての個人的シナリオが削除されます。<br><br>以下をアーカイブしないようにします。<br>• 一度に複数のバージョン。<br>• 同じバージョンが複数回使用されている。<br><br>アーカイブがまだ処理待ちかどうかわからない場合は、プランニング センターの "長期実行プロセス" レポートでステータスを確認できます。参照 長期間実行中のプロセスの監視とキャンセル（729ページ）。 |
| エラーの表示 | "アーカイブ バージョン" を選択すると表示されます。<br><br>クリックして、数式エラーのサマリをダウンロードします。エラーがない場合、スプレッドシートは空白になります。<br><br>エラーがある場合は、以下を実行できます。<br>• "保存" をクリックして、エラーを訂正せずにバージョンをアーカイブします。アーカイブ済バージョンでは、数式エラーの値がゼロまたは空白に変換されます。<br>• バージョンをアーカイブする前に、"キャンセル" をクリックして "モデリング" 領域の "数式の検証" に移動し、数式のエラーを検索して修正します。参照 数式の検証（1144ページ）。 |
| 数式値を計算 | 従来のオプションは、すでにこのオプションが有効化されているバージョンでのみ使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 共有数式およびシートに入力された数式から得られた値をロックします。このチェックボックスをオフにすると、値が再計算されます。参照 FAQ: "数式値を計算" の廃止（831ページ）。 |

5. ユーザー タイプごとにプロンプトからオプションを選択します。
このタスクの実施にあたっては、以下のユーザー タイプを考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 管理者 | "バージョン" 権限を持つ人です。 |
| ユーザー | ログイン ID とパスワードを持つ人です。 |
| グループ | 選択したユーザー グループに追加された人。管理者がユーザー グループを作成し、そのグループにユーザーを追加します。 |
| アクセス レベル | 選択したユーザー グループ内の人がアクセスできるレベル。 |
| 実績の特権アクセス | 実績バージョンおよび仮想バージョンの場合。<br>"実績の特権アクセス" 権限を持つ人です。 |
| 編集可能なシート アクセス | 計画バージョンの場合。<br>"編集可能なシート アクセス" 権限を持つ人です。 |

このタスクの実施にあたっては、以下のオプションを考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 完全アクセス | ユーザーがモデル全体でバージョンのデータを表示および変更できるようにします。<br>使用対象:<br>• 仮想バージョンを除くすべての計画バージョン<br>• 子孫バージョンがない実績バージョン |
| インポートとメモのみ | ユーザーがデータをインポートし、セル メモを追加または変更できるようにします。<br>使用対象:<br>• 仮想バージョンを除くすべての計画バージョン<br>• 子孫バージョンがない実績バージョン |
| ロック済 (メモを除く) | ユーザーがセル メモを追加または変更できるようにします。<br>使用対象:<br>• 仮想バージョンを除くすべての計画バージョン<br>• 子孫バージョンがない実績バージョン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ロック済 | ユーザーがモデル全体でデータとバージョンを表示できるようにします。実績バージョンをロックする唯一の方法が、このオプションです。<br>使用対象:<br>• 仮想バージョンを除くすべての計画バージョン<br>• 子孫バージョンがない実績バージョン |
| 表示 | ユーザーがモデル全体でデータとバージョンを表示できるようにします。<br>実績の親バージョンで使用できます。<br>実績バージョンをロックするには、最初にすべての先祖バージョンを "表示可能" にする必要があります。 |
| 非表示 | ユーザーがバージョンおよび、シート、レポート、グラフのデータにアクセスできないようにします。<br>すべてのバージョンで使用できます。<br>親の実績バージョンを非表示にすると、それらのアクセス制御に関係なく、すべての子孫バージョンが非表示になります。 |

チーム メンバーが複数のユーザー タイプに属している場合、そのバージョンに対して最も許容範囲の高いアクセス権が付与されます。

タスクの結果

結果は、内容に応じて異なります。

relatedlinks
概念
概念: バージョン（842ページ）
概念: 算出科目（889ページ）
概念: 権限セット（1407ページ）
タスク
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
参考
参考: バージョンのアクセス制御の結果（826ページ）

計画バージョンの一部のロック

始める前に

セキュリティ:

- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "バージョン" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

計画バージョンは、カレンダーの最小期間にロックできます。"次の時点までのすべての月をロック" のバージョン設定を使用して、すべてのユーザーについてバージョンの過去の期間をロックします。次に、"アクセス制御" の設定に応じて、以下を行います。

- 完全アクセス権を持つユーザーは、ロック解除された部分のみデータを変更できます。
- アクセスが制限されているユーザーは、ロック済またはロック解除されている部分のデータを変更することはできません。

インスタンスにカスタム カレンダーがある場合、一部のバージョン設定名では最小の期間が使用されます。例: 最小の期間に週を使用する場合、"次の時点までのすべての月をロック" の設定は "次の時点までのすべての週をロック" になります。

シートの期間がバージョンよりも長い場合、シートは前の期間の最後までロックされます。

例: シートは四半期単位、バージョンは月単位になります。4 月までバージョンをロックした場合、シートは第 1 四半期の終わりである 3 月までロックされます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. "バージョンの詳細" で、"次の時点までのすべての月をロック" の設定の横にあるオプションのいずれかを選択します。

   このステップの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| | |
|---|---|
| 完了月 | このオプションを選択すると、実績バージョンの "次の時点までの確定数字を表示" 設定以前の期間のデータがロックされます。 |
| 時間プロンプト | 特定の期間を選択して、以下を行います。<br>• その期間を含むそれまでのすべてのデータをロックします。<br>• その期間後のすべてのデータについては、アクセス権を持つユーザーに対してロックを解除したままにします。<br>このオプションを選択し、フィールドを空白のままにすると、アクセス権を持つユーザーのバージョンのロックが解除されます。 |

タスクの結果

例

次のタスク

relatedlinks
概念
概念: バージョン（842ページ）
タスク
計画バージョンの作成（797ページ）
参考
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考: 実績バージョンの設定（837ページ）

概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン

バージョンをロックしてデータを固定する必要がある場合は、バージョン設定の "アクセス制御" セクションで選択可能なさまざまなオプションから選択できます。

- ロック済バージョン チェック ボックス: すべてのユーザーのデータをロックし、ユーザーがシート内またはインポートを通じてデータを変更できないようにします。ただし、モデルまたは実績データへの変更は、ロック済バージョンのデータに影響を与える可能性があります。
- "アーカイブ バージョン" チェック ボックス: "ロック済バージョン" が実行するすべての処理に加えて、値を保存することでデータを固定します。これにより、モデルへの変更がデータに影響する可能性が低くなります。
- "アクセス制御" ユーザー プロンプト: ユーザー タイプごとにさまざまなレベルのロックを提供します。例: データをロックして、ユーザーがメモを入力できるようにすることができます。
- 次の時点までのすべてのユーザーをロック: ロック済バージョンと同じ制限付きで、すべてのユーザーのバージョンの過去の期間をロックします。
- バージョンを非表示: ユーザーにバージョンが表示されないようにします。

注 : ユーザーがロック済バージョンのデータを変更したり、非表示のバージョンを表示したりできる例外があります。

ロック済バージョン

バージョンをロックして、シート内またはインポートによるバージョン データへの変更を最小限に抑えることができます。

ロック済バージョンは、以下の場所で引き続き表示されます。

- ダッシュボード
- レポート
- シート

バージョンをロックすると、次のようになります。

- シートのデータは変更できません。
- ロックのオプションによっては、データをインポートできる場合があります。
- 値がすでにデータに関連付けられている場合、バージョンで属性値を使用不可にすることはできません。
- データをエクスポートできます。
- 科目の "バージョン固有の数式設定を無効化" チェックボックスをオンにしていない限り、すべての算出科目は、読み取り専用のオーバーライド数式を取得して計算値をロックします。
- バージョンのドロップダウン リストのバージョン名の横に、ロックアイコンが表示されます。

特定のバージョンでは、データが他のバージョンからのものであるため、常にデータがロックされています。チームが関連するバージョンを更新すると、データが変更されます。

| バージョン | データ変更を防ぐには |
|---|---|
| 仮想バージョン | ソース バージョンをロックします。 |
| ルート実績および親のサブバージョン | 最下位組織のサブバージョンをロックします。 |
| ロック済計画の実績オーバーレイ部分 | 実績バージョンで、"次の時点までのすべての月をロック" の "完了月" を選択します。 |

アーカイブ済バージョン

"アーカイブ バージョン" オプションを使用すると、計画の確定後にバージョンの最下位組織のデータをより完全に固定できます。最下位組織は、任意の組織、科目、またはカスタム属性における合計ではない

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

データです。この設定によってバージョンに値が保存され、将来発生する使用ベースのアクティビティによって科目が再計算されたり変更されたりすることがなくなります。

"アーカイブ バージョン" オプションは、"数式値を計算" 設定の機能に置き換えられ、改善されました。すでにこの設定を使用しているバージョンでは、古い設定が保持されます。

注： バージョンをアーカイブするプロセスはモデルのパフォーマンスに負担を与える可能性があるため、使用率が高い場合や、Adaptive Planning で素早い応答時間が必要な場合は、アーカイブしないことをお勧めします。アーカイブ プロセスが完了するまでに 30 秒以上かかる場合は、プランニング センターに "長期実行プロセス" レポートが表示されます。このページからプロセスをキャンセルできます。参照 長期間実行中のプロセスの監視とキャンセル（729ページ）。

バージョンをアーカイブすると、データが動的ではなくなるように保存することで、データの整合性を確保することができます。これにより、アーカイブ済みバージョンの値を変更することなく、モデルに変更を加えることができます。

| アーカイブ済バージョンに保存された値 | アーカイブ済のデータを変更しない変更 |
|---|---|
| 算出科目の値 | 合計値を参照する数式の場合、以下の科目タイプの計算値に影響を与えずに階層構造を変更できます。<br>• 総勘定元帳<br>• カスタム<br>• 計算モデル<br>• 計算キューブ |
| シートに入力された数式からのセル計算 | 実績のオーバーレイ データを参照する数式については、計算に影響を与えずに実績データを再設定できます。<br>数式ではなく結果の値がアーカイブ済バージョンに保存されます。 |
| 共有数式 | 共有数式によって以下を参照:<br>• 実績のオーバーレイ データ: 計算に影響を与えずに実績データをやり直すことができます。<br>• 合計: 計算値に影響を与えずに階層構造を変更できる。 |
| モデル シートの値とスプレッド ルックアップ | アーカイブ済バージョンの値に影響を与えずに、シート内のルックアップを更新することができます。 |
| リンク元科目の値 | ターゲット科目の値に影響を与えることなく、リンクの変更、追加、削除、リンク フィルタと適用された属性の変更ができます。<br>アーカイブ済のバージョンでは、リンクされた科目の分割は表示されません。ソース科目を使用してレポートを作成すると、分割にアクセスできます。 |
| 実績のオーバーレイ値 | 以下が可能です。<br>• アーカイブ済みの計画バージョンの実績のオーバーレイに影響を与えずに、更新された実績をインポートします。<br>• 計画バージョンをアーカイブした時点での実績をレポートします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アーカイブ済バージョンに保存された値 | アーカイブ済のデータを変更しない変更 |
| --- | --- |
| | また、最終的なプラン レポートは、実績の修正によって変更されることはありません。 |

アーカイブする前に、"モデリング" 領域で "数式の検証" を使用してバージョンの数式エラーを検索および修正することをお勧めします。エラーのある数式については、アーカイブ済バージョンに値がゼロまたは空白として保存されるため、バージョンをアーカイブした際に不一致が発生する可能性があります。バージョンをアーカイブした後、バージョン設定に "エラーの表示" リンクが追加されました。リンクをクリックすると、科目別および組織別の数式エラーのリストを含むスプレッドシートをダウンロードできます。エラーがない場合、スプレッドシートは空白になります。エラーを訂正する場合は、"バージョンのアーカイブ" オプションを無効にし、エラーを訂正してからバージョンを再度アーカイブすることができます。

"アーカイブ バージョン" オプションを無効にすることで、以下を行うことができます。

- バージョン全体の数式が再計算されるので、データを変更します。
- シートの使用可否設定への変更など、構造的な変更を行う前に保存したデータを恒久的に削除します。

例外のロックとアーカイブ

ロック済およびアーカイブ済のバージョンでは、一部のデータ要素が動的のままになります。これらの動的要素により、データが変化したり、データが変化しているように見えたりすることがあります。アーカイブ済バージョンの場合、2 つのオプションの目的が異なるため、ロック済バージョンより例外が少なくなります。バージョンのロックは、エンド ユーザーがデータ入力やデータ入力などでデータを変更できないようにするために最適です。アーカイブは、過去のバージョンのデータに影響を与えずに、モデルへの変更や実績の再確認を行うために、データを凍結するのに最適です。

アーカイブ済バージョンの例外

これらの構造上の変更によって、アーカイブ済みバージョンの最下位データが変更される可能性があります。

- カレンダー構造を再ロードすると、アーカイブ済バージョンを含め、計画バージョンが削除されます。
- 最下位科目の下に科目を追加すると、データが前の最下位科目から新しく作成された最下位科目に移動します。
- バージョンまたはシートから組織の使用可否を削除すると、シート、レポート、ダッシュボード、数式の関連データが非表示になります。組織を再び追加してデータを表示できます。
- キューブ シートから属性の使用可否設定を削除すると、シート、レポート、ダッシュボード、数式の関連データが非表示になります。属性値をシートに戻してデータを表示できます。
- モデル シートから属性の使用可否を削除し、指定に従ってデータを変更します。これには恒久的な削除が含まれる場合があります。属性値をシートに再び追加しても、データは取得されません。
- 科目、組織、またはカスタム属性値を削除すると、バージョン全体の関連データが削除されます。
- キューブ シートまたはモデル シートを削除すると (科目も削除されます)、すべてのバージョンのデータが削除されます。
- 科目をフローからストックに変更すると、バージョン間で値が変更されます。
- カスタム科目、総勘定元帳科目、キューブ科目、およびモデル科目で以下の科目設定を変更すると、バージョン全体でデータが変更されます。
    - 表示形式: (数値、通貨、パーセント)
    - 残高タイプ (貸方、借方)。
    - 合計タイプ
    - 為替レート タイプ
- 分割データを含むモデル シートまたは標準シートで、GL またはカスタム科目をリンク元科目に変更すると、アーカイブ済みバージョンでその分割データが消去されます。

以下の要素はアーカイブ済バージョンでも動的なままであり、それらの値は保存されません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- メトリック科目
- 相殺消去、配賦、少数株主持分、CTA などのシステム科目
- 科目、組織、属性階層内の合計値階層を再配置すると合計値が変更されますが、合計を参照する計算に基づく値は、アーカイブ済みバージョンで変更されません。

ロック済バージョンの例外

アーカイブ済バージョンに関するすべての設定に加えて、以下の構造の変更によってロック済バージョンのデータが変更される場合があります (アーカイブ済バージョンには影響しません)。

- カスタム科目、総勘定元帳科目、キューブ科目、およびモデル科目で以下の科目設定を変更する。
    - "バージョン固有の数式設定を無効化" チェックボックスをオンにすると、バージョンをロックしたときに数式がロックされません。科目の数式に変更を加えると、ロック済バージョンを含め、バージョン全体のデータが変更されます。
    - "科目タイプ" を "リンク"、または "リンク" から "ストック" または "フロー" に変更。
    - リンク ソース科目の変更または追加。
    - リンクに対する属性または属性フィルタの追加または変更。
    - 実績のオーバーレイを追加または削除する。このアクションによって、実績のオーバーレイのセルを参照する数式も変更されます。
- 組織および科目へのタグを変更すると、これらの合計を参照する計算に影響する特性および属性の合計が変更されます。
- シート定義を変更すると、以下のようになります。
    - シートの追加および名前変更
    - シート上の科目、組織、またはカスタム属性値を変更すること。
    - バージョンを指定しないキューブ制限の変更。
- 以下のモデル要素の追加、移動、親の再設定、名前の変更は、合計を参照する計算を含むデータに影響を与える可能性があります。
    - 科目
    - 特性および特性値
    - 属性および属性値
    - 組織

これらのアクションによって、ロック済バージョンのデータも変更されます。

- 計画の数式の参照先である実績データの更新。これらの変更が行われないようにするため、実績バージョンの先行月をロックすることができます。
- キューブ シートおよびモデル シートで "データの消去" オプションを使用すると、ロック済バージョンを含むバージョン内のすべてのデータが削除されます。

非表示のバージョン

バージョンを非表示にすると、チームまたはそのメンバーはそのバージョンを表示できなくなります。

バージョンを非表示にすると、次の中に含まれるデータを表示できなくなります。

- ダッシュボード
- レポート
- シート

以下からバージョンを選択することはできません。

- グラフおよびレポートの "要素" タブ
- メイン ツールバーのバージョン プロンプト

また、実績バージョンを非表示にすると、Adaptive Planning では、ロールアップされたサブバージョンと仕訳入力バージョンの "アクセス制御" は無視されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

例外の非表示

- 非表示の実績バージョンを実績のオーバーレイとして使用する場合、データは計画バージョンに表示されます。計画バージョンを表示できるすべてのユーザーが、オーバーレイしている実績データを表示できます。
- 非表示のバージョンの名前は、以下の領域では引き続き表示されます。
    - モデリング: 属性値の "依存関係を表示" およびキューブ シートのサマリの "容量を表示"
    - インテグレーション: データ ローダ。

relatedlinks
概念
概念: バージョン（842ページ）
概念: 実績バージョン（836ページ）
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
概念: 科目（887ページ）
タスク
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
参考
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）

概念: 数式値の計算

ロック済計画バージョンの場合、"数式値を計算" 設定を使用して以下を実行できます。

- ほとんどの科目で数式の計算結果を保持する。
- ロック済バージョンのパフォーマンスを向上させる。

ロック済計画バージョンでは、評価された数式が、シートや "セルを探索" に表示される計算値と一致しない場合があります。これは、実績のオーバーレイと、実績データを参照する数式の結果の相違によるものです。例: シートの数式は 12 か月の実績 (合計 = 600) を参照しており、月単位データに 50 (600/12) が表示されています。その後、バージョンをロックし、シートで計算値を保持します。バージョンのロック後に、実績が 600 から 1200 に変わります。セルを探索すると、評価された数式は、新しい実績 (合計 = 1200) で更新されます。ただし、シートおよび "セルを探索" に表示される月単位データは、50 のまま変わりません。

計算結果を保持しても、以下はロックされません。

- 期間単位の差額を計算するストック科目
- メトリック科目
- 削除された科目を参照する数式を含む科目
- シート上の行数に算出科目数を掛けた値が 25,000 を超える場合の計算済モデル科目

relatedlinks
概念
概念: バージョン（842ページ）
FAQ: "数式値を計算" の廃止（831ページ）

参考: バージョンのアクセス制御の結果

データ

このテーブルには、バージョンに対して選択されたロック方法に基づいて、エンド ユーザーが実行できることと実行できないことを示しています。

| | チェック ボックス: ロック済 | プロンプト オプ | プロンプト オプ | プロンプト オプション: イ | プロンプト オプション: | プロンプト オプ | "次の時点までのすべての月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | バージョン と アーカイブ済バージョン データ | ション: ロック済 | ション: 表示 | ンポートとメモのみ | ロック済 (メモを除く) | ション: 非表示 | をロック" 設定 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| シート内のデータの変更 | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | ロック済でない部分 |
| シート、レポート、グラフのデータの表示 | はい | はい | はい | はい | はい | いいえ | はい |
| セル メモの追加 | いいえ | はい | はい | はい | はい | いいえ | はい |
| 初期の残高の変更 | いいえ | いいえ | 該当なし | いいえ | いいえ | いいえ | はい |
| データのインポート | いいえ | いいえ | 該当なし | はい | いいえ | いいえ | はい |
| データのエクスポート | はい | はい | はい | はい | はい | はい | はい |
| 計画バージョンでの実績オーバーレイの前進 | いいえ | はい | 該当なし | はい | はい | はい | はい |
| 共有数式の追加 | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ |
| 算出科目の数式の変更 | いいえ。ロック解除バージョンのデフォルトは引き続き変更できます。 | いいえ。ロック解除バージョンのデフォルトは引き続き変更できます。 | 該当なし | いいえ。ロック解除バージョンのデフォルトは引き続き変更できます。 | いいえ。ロック解除バージョンのデフォルトは引き続き変更できます。 | いいえ。ロック解除バージョンのデフォルトは引き続き変更できます。 | はい |
| クローン化された組織へのデータと数式のコピー | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | はい |
| 新しい組織による親組織の共有数式 | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | はい |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| の継承の有効化 | | | | | | | |
| ワークフロー ステータスの変更 | いいえ | はい | 該当なし | はい | はい | はい | はい |
| 配賦および相殺消去のルールの追加 | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ | いいえ |

relatedlinks
概念
概念: バージョン（842ページ）
参考
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）

**FAQ:** バージョンのアクセス

| | |
|---|---|
| バージョンのアクセス制御で、"ユーザー" に対して "完全アクセス" を選択しました。それでも一部のユーザーがシートのデータを編集できないのはなぜですか？ | ユーザーがデータを編集するには、"編集可能なシート アクセス" 権限が必要です。この権限をユーザーに付与する場合は、"アクセス制御" セクションの "編集可能なシート アクセス" プロンプトでも "完全アクセス" を選択してください。 |
| アクセス制御で、"編集可能なシート アクセス" に対して "非表示" を選択しました。その場合でも、一部のユーザーが引き続きバージョンを表示できてしまうのはなぜですか？ | 複数のユーザー タイプに属しているユーザーは、権限範囲の最も広いアクセス権を受け取ります。例: "編集可能なシート アクセス" で "非表示" を選択し、"管理者" で "ロック済 (メモを除く)" を選択したとします。"編集可能なシート アクセス" 権限と "バージョン" 権限を持つユーザーには、"ロック済 (メモを除く)" アクセス権が付与されます。<br><br>ユーザーが、より権限範囲の広いアクセス権が付与されるグローバル ユーザー グループに属している場合もあります。 |
| すべてのアクセス制御を "完全アクセス" に設定しました。しかし一部のユーザーはデータを期待どおりに表示したり編集したりすることができません。それはなぜですか？ | この状況には、以下の理由が考えられます。<br>• アクセス ルール: ユーザーに、シート上の組織、科目、カスタム属性の特定の組み合わせに対する表示および編集アクセス権がない可能性があります。参照 概念: アクセス ルール（1452ページ）。<br>• ロック済バージョン: バージョンの先行する月がロックされている可能性があります。この設定により、他のアクセス制御に関係なく、バージョンの一部がロックされます。参照 計画バージョンの一部のロック（820ページ）。<br>• シート設定: シート自体で科目がロック済みか、アクセスが制限されている可能性があります。トラブルシューティング: シートのセ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ルがロックされているためデータを変更できないを参照してください。

| | |
|---|---|
| 特定のグループ内のユーザーを除く全員のバージョンをロックするにはどうすればよいですか？ | ユーザーが複数のユーザー タイプに属している場合、そのユーザーには最も許容範囲の高いアクセス権が付与されることに注意してください。<br>1. "ロック済バージョン" チェック ボックスをオフにします。<br>2. 以下のユーザー タイプに対して "ロック済" を選択します。"管理者"、"ユーザー"、"編集可能なシート アクセス"、および各グループ。(各グループを選択して保存)。<br>3. 特定のグループに対して "完全アクセス"を選択します。 |

relatedlinks
タスク
バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）
ユーザー グループの作成（1512ページ）
参考
参考: 利用可能な権限（1409ページ）

**FAQ:** アーカイブ済バージョンとロック済バージョン

- 計画バージョンで実績のオーバーレイをロックするにはどうすればよいですか？（829ページ）
- バージョンのロックとアーカイブのどちらを選択すればよいですか？（829ページ）
- アーカイブ済バージョンはいくつまで作成できますか？（830ページ）
- アーカイブする前にバージョンのサイズを減らすにはどうすればよいですか？（830ページ）
- "数式値を計算" が有効になっている既存のバージョンはどうすればよいですか？（830ページ）
- シートの "データの消去" オプションは、アーカイブ済バージョンのデータにどのように影響しますか？（830ページ）
- バージョンをアーカイブすると、どのような場合にデータがすぐに変更されますか？（830ページ）

| | |
|---|---|
| 計画バージョンで実績のオーバーレイをロックするにはどうすればよいですか？ | "アーカイブ バージョン" オプションを使用します。これにより、計画に実績のオーバーレイ データが保存されます。アーカイブ済のバージョンに影響を与えずに実績を再設定できます。 |
| バージョンのロックとアーカイブのどちらを選択すればよいですか？ | 一般に、バージョンをロックして、エンド ユーザーがデータを変更できないようにします。バージョンをアーカイブすることで、管理者がモデルの更新を通じてデータを変更できないようにします。<br>バージョンをロックすると、データを確定する前にレビューできます。チーム メンバーのデータが継続的に変更されるというリスクはありません。<br>アーカイブ済バージョンには、合計、実績のオーバーレイ、リンクを参照する計算を含む、アーカイブ時に表示されたとおりのデータが保存されます。アーカイブすることで、履歴バージョンのデータの整合性がより保護されます。まだ例外はあります。参照 概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン（822ページ）。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| アーカイブ済バージョンはいくつまで作成できますか？ | 保持できるアーカイブ済バージョンの数に制限はありません。ただし、アーカイブ済バージョンには、特定の量の保存域が割り当てられます。アーカイブしたバージョンのサイズによっては、その割当を超える可能性があり、それ以上のバージョンをアーカイブできなくなります。割当を超過しないようにするには、以下のことを行ってください。<br>• 不要になったアーカイブ済バージョンを削除します。<br>• アーカイブする前にバージョンのサイズを減らしてください。<br>• 必要に応じて、指定サポート連絡先はサポート リクエストを送信し、アーカイブ済バージョンの保存域の容量を増やす可能性をレビューできます。参照 参考: お問い合わせ（2783ページ） |
| アーカイブする前にバージョンのサイズを減らすにはどうすればよいですか？ | アーカイブ後、バージョンのサイズを減らす唯一の方法はアーカイブを解除して変更を行うことです。代わりに以下のベスト プラクティスに従って、アーカイブ前にバージョンのサイズを減らすことで、保存域の割当を超える可能性が低くなります。<br>• "表示開始月" から "計画の終了" までの期間を短くします。<br>• キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定（1023ページ）.<br>• バージョン内のシートおよび科目に存在する不要なデータを削除します。<br>• 不要なリンクと算出科目を削除するか、"オーバーライド数式" 設定を "データ入力" に変更します。 |
| "数式値を計算" が有効になっている既存のバージョンはどうすればよいですか？ | 現時点では、実行する必要があるアクションはありません。"数式値を計算" 機能は、2026 年 3 月を対象とした将来のリリースで廃止されるまで、そのまま保持されます。詳細については、次を参照してください: FAQ: "数式値を計算" の廃止（831ページ）。 |
| シートの "データの消去" オプションは、アーカイブ済バージョンのデータにどのように影響しますか？ | モデル シートの場合、"シート サマリ" の "データの消去" オプションを使用すると、ロック済バージョンとアーカイブ済バージョンの両方について、シートの行とモデル科目の計算値が削除されます。<br>キューブ シートの場合、"データの消去" オプションではアーカイブ済バージョンのデータは削除されませんが、ロック済バージョンのデータは削除されます。 |
| バージョンをアーカイブすると、どのような場合にデータがすぐに変更されますか？ | アーカイブ後にアーカイブ済バージョンの値がすぐに変更されるユース ケースがいくつかあります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 実績のオーバーレイ期間の配賦された値と相殺消去値は、以下の理由で変化する可能性があります。
    - 計画バージョンに関連付けられたルールが、実績のオーバーレイ期間を含むすべての期間に適用されます。実績にルールが適用されなくなりました。実績のオーバーレイ期間に実績ルールが引き続き適用されるように、この機能の改善が近日中に予定されています。データ凍結のアーカイブ済バージョン: 次のステップを参照してください。
    - 配賦および相殺消去ルールのソース科目は、実績バージョンの値を使用して値を計算します。アーカイブ済バージョンでは、実績のオーバーレイ期間からソース値を取得します。これは、ソース科目の設定が "科目の実績なし(計画データを表示)"の場合異なる場合があります。
- 計画バージョンにサブバージョンの合計である実績のオーバーレイ バージョンがある場合、複数のサブバージョンに次の値があると、計画バージョンの実績のオーバーレイ期間に加重平均合計または非空白平均合計を持つキューブ科目が変更される可能性があります。科目
- 実績の表示開始月が計画バージョンの表示開始月より前である場合、WAT (加重平均換算) 科目は計画バージョンの表示開始月より前の実績バージョン データに依存しなくなるため、変更される可能性があります。
- 数式エラーのある計算値をゼロまたは空白にします。
- アーカイブ時にすぐに変更される他の値を参照するメトリック科目の値。

relatedlinks
概念
概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン（822ページ）
スプレッドシートのインポート（2050ページ）
FAQ: "数式値を計算" の廃止（831ページ）
タスク
バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）
概念
概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン（822ページ）
スプレッドシートのインポート（2050ページ）
データのエクスポート（2064ページ）
FAQ: "数式値を計算" の廃止（831ページ）

**FAQ: "数式値を計算" の廃止**

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| "数式値を計算" が廃止されるのはいつですか？ | このオプションは、2026 年 3 月を目標に今後のリリースで廃止される予定です。 |
| 現在から廃止されるまで、"数式値を計算" オプションを持つバージョンはどうなりますか？ | すでにこのオプションを使用しているバージョンは、廃止日までこのオプションを継続して使用できます。 |
| "数式値を計算" オプションがあるバージョンは廃止時にどうなりますか？ | バージョンがロックされたまま、オプションは自動的に無効になります。この時点のバージョンは、"ロック済バージョン" オプションによって保護されていない値を再計算します。この時点以降、またはそれ以前のバージョンをアーカイブできます。 |
| "数式値を計算" から "アーカイブ バージョン" にバージョンを移行する必要があるのはなぜですか？ | • 18 か月後、そのバージョンについてレポートを作成する必要があります。<br>• 今後、データが変更されることのないようにしたいと考えています。<br>• これらのバージョンに関するレポートを作成した際のパフォーマンスが低下しています。 |
| "数式値を計算" から "アーカイブ バージョン" にバージョンを移行するにはどのようなオプションがありますか？ | 1. アーカイブするバージョンのコピーを作成します。このコピーにより、"数式値を計算" ボックスが自動的にオフになり、発生した変更をプレビューするバージョンが表示されます。<br>2. 新しいバージョンと元のバージョンを比較するレポートを作成します。<br>3. 差異が存在しない場合、新しいバージョンをアーカイブし、古いバージョンを削除します。または古いバージョンから、"数式値を計算" をオフにし、"アーカイブ バージョン" を選択します。新しいバージョンを削除します。これにより、今後のデータ保護がより強化されます。<br>4. 差異が少ない、重要でない、または説明可能な差異がある場合は、バージョンをアーカイブし、変更を文書化することを検討します。<br>5. 差異が大きく、バージョン データをそのまま保存する必要がある場合は、以下のいずれかのオプションを検討します。<br>  • "計画のパブリッシュ" 機能を使用する Workday のコア カスタマーとして、計画を Workday にパブリッシュします。パブリッシュされた Workday データに変更が反映されなくなります。<br>  • 総勘定元帳データをエクスポートし、科目の "オーバーライド数式設定" を "データ入力" に設定して、別のバージョンにインポートします。将来のリリースでは、リンクされた科目に対して同じことができます。データ入力値は新しいバージョンで計算されません。その後、新しいバージョンをアー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | カイブして、それ以上変更されるのを防ぐことができます。<br>• 総勘定元帳データをエクスポートし、科目の "オーバーライド数式設定" を "データ入力" に変更した後、同じバージョンにインポートします。将来のリリースでは、リンクされた科目に対して同じことができます。データ入力値は新しいバージョンで計算されません。その後、新しいバージョンをアーカイブして、それ以上変更されるのを防ぐことができます。<br>• 特定のデータ セットの CSV をダウンロードし、Adaptive Planning の外部にデータを保存する。<br>• OfficeConnect を使用して目的のデータをそのまま保存すると、別のシートで Adaptive における他のバージョンのライブ データと組み合わせることができます。<br>• データのスナップショット レポートを作成する。 |
| "数式値を計算" と "アーカイブ バージョン" の違いは何ですか？ | "数式値を計算" は、アーカイブ バージョンと同程度にはデータを保護しません。アーカイブ バージョンは、"数式値を計算" 機能における以下の既存のギャップに直接対処します。<br>• 計画データがまだ存在していない交差部分に実績を追加したり、計画データが以前から存在していた実績データを削除したりした場合、"数式値を計算" によってデータが保護されることはありません。<br>• 行の上限を超えるモデル シートの場合、"数式値を計算" によってシート上の計算データは保護されません。<br>• 科目のリンクを追加または変更する際、"数式値を計算" ではリンクされた科目の値が保護されません。<br>• 組織、科目、カスタム属性、特性の階層に対する構造的な変更によって変化する合計値を参照する数式がある場合、"数式値を計算" を実行してもデータは保護されません。<br>• 実績のオーバーレイおよび実績の再設定を行っても、"数式値を計算" を実行しても、実績のオーバーレイ値の変更は阻止されません。<br>• 実績のオーバーレイ データを参照する数式がある場合、実績を再計算すると、"数式値を計算" によってデータが保護されません。 |
| "数式値を計算" 機能を更新しなかったのはなぜですか？ | このオプションでは、必要な程度の値は保存されません。そのため、現在保存されている値が、オプションがアクティブ化されたときと同じであることを保証することはできません。機能を追加しても、 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

この問題は解決されません。また、新しい機能のテスト時に混乱が生じることもあります。

relatedlinks
概念
概念: 数式値の計算（826ページ）
概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン（822ページ）
タスク
バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）
参考
FAQ: アーカイブ済バージョンとロック済バージョン（829ページ）

実績バージョン
実績バージョンの作成

始める前に

セキュリティ: "バージョン" 権限

このタスクについて

すべてのインスタンスには実績バージョンが付属します。一部の企業では、連結またはサブバージョン用に仕訳入力バージョンが必要です。どちらのタイプの実績もルート実績にロールアップされます。つまり、データはルート実績に集計されます。ルート実績は合計バージョンであるため、サブバージョンまたは仕訳入力を作成すると、ルートのデータを編集できなくなります。

また、サブバージョンと仕訳入力はほとんどの設定を継承します。 例: 親の実績バージョンを非表示にすると、すべての子孫が非表示になります。実績バージョンを表示するには、最初にそれぞれの親を表示します。

新しいバージョンは、完了するまで時間がかかる場合があります。バージョンはバックグラウンドでキューに登録されるため、待つ必要はありません。バージョン リストでは、完了するまで "進行中" と表示されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. 親バージョンにするバージョンを強調表示します。
4. ツールバーから、以下のいずれかをクリックします。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 新しい仕訳入力バージョンを作成 | 連結で使用できます。実績に調整を加えることができます。 |
| 新しい実績バージョンを作成 | 実績データをスライスできます。これが最初のサブ実績の場合、ルートのデータはこのバージョンに移動し、ルートにロールアップされます。 |

5. "一般" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | "モデリング" および "インテグレーション" の一部のエリアでは、非表示のバージョンであってもバージョン名が表示されます。避ける単語とその他のガイドラインについては、 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 仕訳入力の番号付け | 仕訳入力バージョンでのみ使用できます。<br>仕訳入力の番号付け方法を選択します。<br>• なし: 仕訳入力の番号付けを相殺消去します。<br>• 自動: 仕訳入力の番号を生成します。<br>• 手動: 仕訳入力の作成者は番号を作成できます。<br>"自動" および "手動" の設定には、" プレフィックス" と " 開始番号"が必要です。 |

6. "アクセス制御" セクションを使用して、特定のユーザー タイプのバージョンを非表示またはロックします。
   選択した内容に関係なく、Adaptive Planning では、非表示の親バージョンがあるすべてのサブ実績と仕訳入力が非表示になります。バージョンを再表示するには、まず親を表示します。
   参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示 ( 816ページ )
7. "オプション" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 変更履歴 | ユーザーによる変更を追跡するには、以下のチェックボックスをオンにします。<br>• シート内データ<br>• インポート経由<br>• 共有数式<br>ユーザーは、"レポート" で変更履歴の検索を作成します。<br>バージョンでこのオプションをオフにすると、バージョンに関する記録済みの過去のすべての変更履歴情報が削除されます。 |
| トランザクションにドリルイン | (トランザクション モジュールにのみ使用できます。)<br>トランザクションのドリルスルーの生成に使用するレポートを選択します。 |

8. "換算通貨" セクションを完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 換算通貨を有効にする | 換算通貨の対象かどうかを確認するには、指定サポート連絡先から当社にお問い合わせください。参照 参考: お問い合わせ ( 2783ページ )。<br>子孫バージョンが 5 つ以下のサブバージョンでのみ使用できます。<br>このチェックボックスをオンまたはオフにします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 組織ごとの現地通貨に加えて、すべての組織に対して単一の通貨で実績データをインポートできます。<br>参照 概念: 換算通貨（1223ページ）。 |
| 選択済みの通貨 | 最初に "換算通貨を有効化 " チェックボックスをオンにする必要があります。<br>最大 1 つの通貨を選択してください。データを通貨に換算してから、すべての組織にロードします。これにより、ソース システムでの実績と一致するこの通貨のレポートが提供されます。 |

タスクの結果

バージョンがキューに登録されると、以下のようになります。

- バージョンは "進行中" ステータスでバージョン リストに表示されます。
- モデルのバージョン領域にアクセスできるすべてのユーザーが、リスト内のバージョンを表示できます。 ただし、ユーザーが作成したバージョンが失敗した場合に、それを他のユーザーが却下することはできません。
- 作成したユーザーはアプリケーションの他の領域に移動できます。
- 他のバージョンを作成することはできません。ただし、他のユーザーがバージョンを作成することはできます。

その他のバージョン ステータスは以下のとおりです。

- 完了: 新しいバージョンが完了しました。"バージョン" 領域を離れず留まった場合、バージョンの完了時に表示される "リフレッシュ" ボタンをクリックします。
- 失敗: 情報アイコンをクリックし、修正できるエラーのリストを確認してから再試行してください。 情報アイコンをクリックして、修正できるエラーのリストを確認したら、もう一度試してください。もう一度試してください。"X" をクリックしてバージョンを却下します。"X" は、失敗したバージョンを作成しようとした担当者である場合にのみ表示されます。

relatedlinks
概念
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
概念: 通貨と為替レート（1220ページ）
概念: 換算通貨（1223ページ）
タスク
通貨の追加（1216ページ）

概念: 実績バージョン

実績バージョン階層を作成する際に、ツールバーのさまざまなアイコンを使用して、各実績サブバージョン タイプを作成します。

- 実績サブバージョン
- 仕訳入力バージョン

実績バージョンは非表示にしても、計画の実績のオーバーレイに使用できます。

ルート実績バージョン

各インスタンスには実績バージョンが組み込まれています。実績サブバージョンまたは仕訳入力バージョンを作成すると、この組み込みの実績バージョンがルート実績バージョンになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ルート実績バージョンのバージョンの詳細を変更する場合は、以下のすべてについてバージョンの詳細を変更します。

- 実績サブバージョン
- 仕訳入力バージョン

サブバージョンの詳細が異なるように見えても、ルート実績バージョンの詳細が常に優先されます。

例: バージョンのアクセス制御を使用して、マーケティング チームが実績サブバージョンを表示できるようにします。マーケティング チームに対してルート実績バージョンを非表示にすると、実績サブバージョンもマーケティング チームに対して非表示になります。ルート実績のアクセス制御設定を反映するために、実績サブバージョンのアクセス制御設定が自動的に更新されることはありません。

### 実績サブバージョン

実績サブバージョンのデータは、実績バージョンに表示されているデータにロールアップされます。サブバージョンの複数のレイヤーをネストできます。サブバージョンはほとんどの設定をルートから継承するため、サブバージョンで変更できる設定の数は限られています。

実績バージョンの最初のサブバージョンを作成する場合:

- 親からのデータが新しいサブバージョンに移動します。
- アクセス制御を "完全アクセス" に設定しても、親バージョンは読み取り専用になります。データはそのサブバージョンの合計データであるため、親バージョンは読み取り専用になります。

実績バージョンの追加のサブバージョンには空白のセルが含まれます。

複数のサブバージョンのうちの 1 つを削除すると、そのデータがすべて削除され、親バージョンのデータにもそれが反映されます。

### 換算通貨

換算通貨は、すべての組織について特定の通貨での実績の完全なデータ セットをロードできる機能です。換算通貨を使用すると、通常どおり各最下位組織の現地通貨でデータをロードできます。また、すべての組織について、指定された通貨で同じデータ セットをロードできます。

### 仕訳入力バージョン

仕訳入力バージョンを使用すると、連結インスタンスはインポートした実績の整合性を維持できます。データを直接変更するのではなく、仕訳入力を作成することでデータをバランスよく調整できます。

以下について個別の仕訳入力バージョンを作成できます。

- IFRS から GAAP への調整
- 発生主義による仕訳
- 再分類

relatedlinks
概念
概念: 換算通貨（1223ページ）

参考: 実績バージョンの設定

ルート実績バージョンの設定を更新すると、継承したサブ実績バージョンと仕訳入力バージョンの設定が自動的に更新されます。

### "一般" セクション

| フィールド名 | フィールドの説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 実績バージョンに一意の名前のラベルを付けます。 避ける単語とその他のガイドラインについて |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド名 | フィールドの説明 |
| --- | --- |
| | は、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| 短縮名 | ダッシュボードのバージョン名の自動省略形をオーバーライドします。 |
| 説明 | バージョンについて説明しますが、表示されるのは "モデリング" の "バージョン" 領域にのみです。 |
| 仕訳入力の番号付け | (仕訳入力バージョンでのみ使用できます。)<br>仕訳入力の番号付けの方法を以下のように決定します。<br>• なし: 仕訳入力の番号付けを相殺消去します。<br>• 自動: 仕訳入力の番号を生成します。<br>• 手動: 仕訳入力の作成者は番号を作成できます。<br>"自動" および "手動" の設定には、"プレフィックス" と "開始番号" が必要です。 |

"アクセス制御" セクション

| フィールド名 | フィールドの説明 |
| --- | --- |
| 管理者、ユーザー、実績の特権アクセス、グループ、およびアクセス レベル | 各ユーザー タイプについてバージョンをロック解除、ロック、または非表示にします。 |

オプション セクション

| フィールド名 | フィールドの説明 |
| --- | --- |
| バージョンの開始 | (ルート実績にのみ使用できます。)<br>表示できる最も早い期間です。<br>例: 2022 年 1 月に開始する場合は、2022 年を選択します。 |
| バージョンの終了 | (ルート実績にのみ使用できます。)<br>表示できる最後の期間です。<br>例: 2022 年 12 月に終了する場合は、2022 年を選択します。 |
| スクロールの開始場所 | (ルート実績にのみ使用できます。)<br>シートを開いた時の最初の列です。バージョンの開始日にスクロールして戻すこともできます。 |
| 次の時点までの確定数字を表示 | (ルート実績にのみ使用できます。)<br>計画バージョンへの実績のオーバーレイが停止する期間です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| フィールド名 | フィールドの説明 |
| --- | --- |
| | • この期間と "計画の開始" の間が空いている場合、空いている期間には計画データが表示されます。<br>• "計画の開始" がこの期間の前にある場合、実績のオーバーレイは計画の開始時に停止します。 |
| 次の時点までのすべての月をロック | (ルート実績にのみ使用できます。)<br>バージョンの指定した期間のデータをロックして、ユーザーが編集できないようにします。<br>インスタンスにカスタム カレンダーがある場合、この設定では最小の期間が使用されます。例: 最小の期間に週を使用する場合、設定が "次の時点までのすべての週をロック" になります。 |
| 変更履歴 | 以下のユーザーの変更を追跡します。<br>• シート内データ<br>• インポート経由<br>• 共有数式<br>ユーザーは、"レポート" で変更履歴の検索を作成します。<br>バージョンでこのオプションをオフにすると、既存の実績バージョンに関する記録済みの過去のすべての変更履歴情報が削除されます。<br>実績にデータをインポートする場合、変更履歴をオフにすることをお勧めします。 |
| ワークフローを有効化 | (インスタンスでワークフローが有効になっている場合に、ルート実績にのみ使用できます。)<br>ワークフローの組織別に実績を送信できます。 |
| トランザクションにドリルイン | (トランザクション モジュールにのみ使用できます。)<br>選択したバージョンのトランザクションにドリルインできるようにします。 |

換算通貨セクション

| フィールド名 | フィールドの説明 |
| --- | --- |
| 換算通貨を有効にする | サブバージョンでのみ使用できます。<br>組織ごとの現地通貨に加えて、すべての組織の単一通貨の値で実績データをインポートできます。<br>この機能は 1 つのサブバージョンに対して有効にでき、自動的にそのバージョンのすべてのサブバージョンに対して有効になります。サブバージョンの子孫は 5 つ以下にする必要があります。 |
| 選択済みの通貨 | このフィールドをアクティブにするには、" 換算通貨を有効化" チェックボックスをオンにします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド名 | フィールドの説明 |
| --- | --- |
| | すべてのバージョンでロードする通貨。このオプションでは、実績データをこの通貨に換算してから Adaptive Planning にロードします。この機能により、ソース システムでの実績と一致するこの通貨のレポートが提供されます。<br>通貨を削除するとデータも削除されます。<br>参照 概念: 換算通貨（1223ページ）。 |

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート（1220ページ）
概念: 換算通貨（1223ページ）
タスク
実績バージョンの作成（834ページ）
通貨の追加（1216ページ）

バージョンの変更履歴の使用

始める前に

セキュリティ: "バージョン" 権限

このタスクについて

変更履歴には、シートのセルにユーザーが入力した変更の履歴が表示されます。この情報は、以下を特定するのに役立ちます。

- データの作成場所
- データの作成日
- データの最終変更者

変更履歴は、以下への変更を追跡します。

- すべてのデータ入力シート
- 日付やテキスト列など、ユーザーが任意の値を入力できるすべてのシートのセル
- "数式" 領域で作成された共有数式
- 前提条件で入力された値または数式 (グローバル、キューブ シート、モデル シートの前提条件を含む)
- モデル シート ビルダーの月次およびスプレッド ルックアップ テーブル
- ロケール シートに入力された値または数式
- セル メモ
- 通貨の為替レート

変更履歴は、個々のサインインおよびサインアウト アクションを明示的に記録、追跡しません。"ユーザー アクティビティ ログ" は、サインイン アクティビティを追跡します。

任意のバージョンの変更履歴をオンにできます。 ただし、変更履歴は慎重に使用して、モデルのパフォーマンスに不要な負担がかからないようにしてください。以下をお勧めします。

- データをインポートする任意のバージョンの変更履歴をオフにします。 変更履歴はすべてのセルに対するすべての変更を記録します。これはインポートされたデータには不要です。
- 実績バージョンの変更履歴をオフにします。一般的に、Adaptive Planning の実績バージョンは信頼できる情報源ではありません。そのため、変更履歴は不要になる可能性があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 実績サブバージョンがある場合は、変更履歴について選択的になります。手動調整があるサブバージョン、および仕訳入力バージョンに対してオンにします。ルート実績を含むデータをインポートするサブバージョンではオフにします。

変更履歴が有効になっているバージョンの場合は、新しいバージョンのクローンを作成して、以下を実行できます。

- 変更履歴の履歴をコピーする。
- 変更履歴の履歴をコピーせずにクローンを作成する。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. バージョン リストでバージョンをハイライト表示します。
4. "バージョンの詳細" の "オプション" セクションで "変更履歴" を選択してオンにします。
5. (任意) "変更履歴" をオフにします。
   変更履歴をオフにすると、そのバージョンのすべての変更履歴情報が削除されます。

次のタスク

変更履歴レポートの実行（170ページ）.

relatedlinks
概念
変更履歴レポートの実行
タスク
ユーザー アクティビティ ログの表示（1387ページ）

バージョンの削除

始める前に

- バージョンにサブバージョンがある場合は、そのサブバージョンを削除します。
- バージョンが仕訳入力である場合は、すべての仕訳入力を削除します。
- バージョンがデフォルト バージョンの場合は、別のバージョンをデフォルトとして割り当てます。
- セキュリティ: "バージョン" 権限

このタスクについて

バージョンを削除すると、操作を元に戻すことはできません。以下を削除します。

- そのバージョンのすべてのデータ
- 関連するすべての仮想バージョン

注 : 進行中の新しいバージョンが他にある場合は、バージョンを削除しないでください。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "バージョン" をクリックします。
3. バージョン リストで、該当するバージョンを選択します。
4. まだ行っていない場合は、バージョンのロックを解除します。
5. "アクセス制御" で、すべてのユーザー タイプに対して "完全アクセス" を選択します。
6. ツールバーで "削除" をクリックします。バージョンのサイズによっては、削除するのに数分かかる場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

7. 確認します。

タスクの結果

バージョンを削除するとシートのデータが削除され、そのバージョンを使用するレポートやグラフに影響します。また、そのバージョンを参照する数式も中断されます。

relatedlinks
概念
概念： デフォルト バージョン（809ページ）
仕訳入力の作成（1253ページ）
タスク
複数の計画バージョンの一括削除（803ページ）

概念: バージョン

Adaptive Planning のバージョンは、モデル内の特定の財務シナリオを表します。バージョンは、入力者がビジネス トランザクションの影響を評価するのに役立ちます。Adaptive Planning では、以下のタイプのバージョンがサポートされています。

- 実績のオーバーレイ
- 計画

1 年または複数年の暦年または会計年度に対応するバージョンを使用できます。各バージョンに含まれるデータは異なりますが、モデル内の科目、組織、属性構造は同じままです。組織とカスタム属性は、バージョンに追加したり、バージョンから削除したりできます。

実績バージョン

実績バージョンを表示すると、すでに発生している売上や経費などの実際の数値が表示されます。ほとんどのインスタンスには、1 つのルート実績があります。

次のバージョンのいずれかを追加して、ルート実績にロールアップできます。

- 仕訳入力バージョン: 仕訳入力を使用して連結機能があるインスタンスの調整を行う際に、実績を正しい情報源としてそのまま使用できます。
- サブバージョン: 実績データをスライスできます。

  実績サブバージョンがある場合は、各計画バージョンの実績のオーバーレイに使用する実績バージョンを選択できます。 サブバージョンは、オーバーレイに影響せずに実績を調整したい場合に特に有用です。この場合、実績のオーバーレイに使用したものとは異なる実績サブバージョンに調整を行うことができます。実績サブバージョンはルートにロールアップされ、値が合計されることに注意してください。

編集できるのは、子孫がない実績バージョンのデータのみです。

計画バージョン

計画バージョンには、予測されたデータ、または予算に計上されたデータが含まれます。複数の計画バージョンを設定でき、それらのバージョンをフォルダで整理できます。

Adaptive Planning では、他にも以下の計画バージョン タイプがサポートされています。

- 仮想バージョン: 2 つの異なるバージョンのデータを使用して読み取り専用の複合バージョンを作成することにより、固定通貨レポートを作成できます。
- 予測バージョン: シートの異常検出を有効にする機械学習予測を生成できます。これらのバージョンを使用して、インテリジェント プランニングを設定できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

バージョンのキュー登録

バージョンのキュー登録プロセスでは、バージョンを作成する際にさらに直感的なエクスペリエンスを提供します。 バージョンのキュー登録プロセスにより、タイムアウト エラーが防止され、バックグラウンドでバージョンが作成されるため、待機する必要はありません。

キュー登録するバージョンのバージョン名の横にステータスが表示されます。このステータスは、"バージョン" 権限を持つすべてのユーザーに表示されます。ステータスには、"進行中"、"完了"、"失敗" があります。

バージョンに失敗した場合は、誰でも、ステータスの横にある情報アイコンをクリックして、エラーのリストを確認できます。バージョンを開始したユーザーの場合は、バージョンの横に "X" も表示されます。失敗したバージョンを却下するには、"X" をクリックします。これにより、このバージョンはすべてのユーザーのバージョン リストから削除されます。 "X"が表示されない場合は、そのバージョンを開始していないため、却下することはできません。

バージョンのアクセス
以下の設定を使用して、チームによるバージョンへのアクセスを設定できます。

- バージョン設定: ユーザーのタイプごとにアクセスを変更できます。
- 組織設定: バージョンから組織を追加または削除できます。ユーザーは組織に関連付けられているため、この設定によってバージョン データへのアクセスが制御されます。

エンド ユーザーによるバージョンへのアクセス
チーム メンバーはサインインする際に、ツールバーからバージョンを選択します。チーム メンバーが表示およびアクセスできるのは、以下に基づくバージョンのみです。

- ユーザー タイプ
- ユーザーが選択する組織
- 開いたシート

relatedlinks
概念
概念: 実績バージョン（836ページ）
計画バージョンの作成（797ページ）
組織の使用可否の変更（848ページ）

**FAQ:** バージョンからユーザー編集を削除するにはどうすればよいですか？

| 目標 | 方法 |
| --- | --- |
| バージョンからすべてのユーザー データ入力を削除 | バージョンを複製し、"新しいバージョンのオプション" セクションで、すべてのチェックボックスをオフにして、完全に空白のバージョンを作成します。一部のボックスをオンにすることを検討できますが、一部のデータがコピーされる可能性があります。参照 計画バージョンの作成（797ページ）。 |
| 共有数式を置き換えたユーザー入力を削除 | これは手動で行うことができます。参照 共有数式を使用したセルからの "ユーザーの編集" の削除（1181ページ）。<br>これはインポートとエクスポート機能を使用して一括で行うことができます。参照 共有数式のインポートおよびエクスポート（1183ページ）。一括更新については、以下の手順を実行することをお勧めします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 目標 | 方法 |
| --- | --- |
| | 1. いくつかの科目と組織の組み合わせを一度にエクスポートおよびインポートします。<br>2. エクスポートされたファイルを "ユーザーの編集"列を基準に並べ替えます。<br>3. "ユーザーの編集 " 列で ″保持″ がない行をすべて削除します。"保持" が オフ の科目と組織は、ユーザー編集の対象外です。<br>4. ″保持″ を ″削除″に置き換えます。<br>5. "更新と追加 " オプションを使用してインポートします。 |

relatedlinks
参考
参考: 計画バージョンの設定（810ページ）

参考: バージョン ツールバー

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新しい実績バージョンを作成 | サブバージョンを作成します。 |
| 新しい仕訳入力バージョンを作成 | 連結のため仕訳入力バージョンを作成します。 |
| 新しい仮想バージョンを作成 | 仮想バージョンを作成します。 |
| 新しいフォルダを作成 | 計画バージョンを整理するためのフォルダを作成します。 |
| 計画バージョンを作成 | 以下のオプションが表示されます。<br>• 計画バージョンを作成<br>• 予測バージョンを作成 |
| 印刷対応ビューを生成 | バージョン リストと詳細をスプレッドシートにエクスポートします。 |
| バージョン アクセスのエクスポート | バージョン アクセス情報をスプレッドシートにエクスポートします。 |

relatedlinks
概念
計画バージョンの作成（797ページ）

参考: 構造の変更とバージョン固有の変更

モデルに加える変更の中には、バージョンに固有のものがあります。その他の変更はモデル構造に適用されます。モデル構造への変更は、一般的にロック済バージョンを含むバージョン全体のデータに影響します。

バージョン固有の変更

- 値とスプレッド ルックアップ テーブル。作成または編集するにはバージョンを選択する必要があります。
- シートにデータを入力し、バージョンを選択する必要があるためです。
- 共有数式。選択した組織とバージョンに適用されるためです。
- データのインポートでは、常にバージョンを選択するためです。
- バージョンは常にシート ビューから選択するため、データはシート上で変更されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 配賦ルール。これは、"適用範囲" タブで含めるバージョンを指定したためです。

構造の変更

構造に変更を加えると、その変更はすべてのバージョンに影響します。多くの場合、すべてのバージョンのデータ (ロック済およびアーカイブ済みのバージョンであっても) が変更されたり、変更されたように見えたりします。バージョンが確定すると、変更ができなくなる場合があります。参照 概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン ( 822ページ ) 。

構造の変更には以下が含まれます。

- 以下の追加、移動、親の再設定、名前の変更、または削除。
    - 科目
    - 特性および特性値
    - 属性および属性値
    - 組織
- カレンダーまたは組織構造を再ロードします。
- バージョンで組織と属性の使用可否を変更します。
- シートの変更:
    - シートの追加、名前変更、削除。
    - シートの科目、属性、属性値、または組織を変更する。
    - バージョンを指定しないキューブ制限を変更します。
- 以下の科目と組織の設定を変更する場合。
    - 科目のタイプ: ストックとフローの間で変更すると、値の期間の表示方法が変更されます。
    - 科目タイプ: "リンク" に変更すると、すべてのバージョンでデータが他の科目の値に置き換えられます。これらの変更が行われないようにするには、バージョンをアーカイブします。
    - リンクされた科目のソース科目: ソース科目を変更したり、ソース科目を追加したりすると、データが新しいソース データに置き換えられる。これらの変更が行われないようにするには、バージョンをアーカイブします。
    - 残高タイプ: 借方と貸方の間で変更されると、科目の親の値が変わります。
    - 特性タグと属性タグ: タグを組織と科目に変更すると、特性と属性の合計が変更されます。
    - バージョン固有の数式設定を無効化: このチェックボックスをオンにすると、バージョンをロックしたときに数式がロックされません。その結果、科目の数式を変更すると、すべてのバージョンのデータが変更されます。これを防ぐには、バージョンをアーカイブすることができます。
    - 合計タイプ: 親科目と組織での値の計算方法を変更します。これは合計を参照する計算に影響する可能性があります。計算が変更されるのを防ぐために、バージョンをアーカイブできます。
- 実績のオーバーレイを追加または削除する場合。これにより、バージョンでのデータの表示方法が変わります。このアクションによって、実績のオーバーレイのセルを参照する数式を変更することもできます。これらの変更が行われないようにするには、バージョンをアーカイブします。
- 計画の数式の参照先である実績データを更新する場合。これらの変更が行われないようにするには、実績バージョンの先行月をロックするか、バージョンをアーカイブします。
- 配賦、相殺消去、少数株主持分、CTA などのシステム科目を使用する場合。

relatedlinks
概念
概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン ( 822ページ )
タスク
バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示 ( 816ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

# 組織

## ステップ: 組織の作成

### 始める前に

セキュリティ: "組織構造" 権限

### このタスクについて

組織はすべてのデータに必須の属性であり、通常はビジネスの組織構造を表します。以下の方法で組織を作成できます。

- 手動で作成する。
- "組織" スプレッドシートを使用して、一括変更を組織階層にインポートする。
- Workday コアの Workforce Planning Configuration Manager を使用する。

親組織の設定を変更した後は、予期しない変更がないか、すべての子孫組織の設定を確認してください。親組織の設定を変更すると、継承されたすべての子孫組織の設定が自動的に変更されます。これらの設定の一部は、変更前の状態に戻すことができます。

組織のクローンを作成して、別の組織の設定、共有数式、データをコピーできます。

注 : 組織の変更は、データ、データの公開先、およびフローに影響を与えます。

### 手順

1. (任意) 組織の属性と特性を作成します。
   組織の属性または特性を使用して、代替的な組織階層を作成します。例: 組織階層の編成は部門別に行うものの、地域別の組織も計画したい場合。
   参照 概念: 組織の属性と特性 ( 1014ページ ) 。
2. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
3. "組織" をクリックします。
4. ツールバーで、以下のいずれかのボタンをクリックします。
   - 新規組織を作成: 新しい組織は、"ロールアップ先" プロンプトから選択した組織と同じ共有数式および多くの設定を取得します。
   - 組織のクローン: まずクローンを作成したい最下位組織を選択します。以下は、新しい組織でも同じになります。
     - ロック解除済みのすべての計画バージョンの設定、共有数式、データ。
     - 実績およびロック済みの計画バージョンの設定と共有数式。
   - 新規リンク組織を作成: 新しい組織は別のインスタンスの組織にリンクされます。
5. 組織の設定を行う際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | 任意の文字、数字、特殊文字を組み合わせて使用します。 |
| 名前 | 一意の名前を入力します。<br>避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| ロールアップ先 | 親組織を選択します。新しい組織は、選択した組織から多くの設定を継承します。組織をクローン化する際は、クローン化された組織 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | の共有数式を維持するために、デフォルトの親組織を維持することをお勧めします。 |

6. "保存" をクリックします。
7. (任意) 継承された設定を変更する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ワークフロー内 | この組織をワークフロー プロセスに含めるかどうかを選択します。<br>ワークフローを持つインスタンス、およびワークフローに親組織を持つ組織で使用できます。 |
| 通貨 | 組織の通貨を選択するか、"標準通貨を追加" を選択して新しい通貨を作成します。科目設定の為替レートによって、親組織の通貨が換算されます。 |
| 組織特性 | 組織に特性値をタグ付けし、組織構造の代替合計値を作成します。<br>特性が表示されない場合は、組織の特性と値を作成します。 |
| 組織属性 | 組織に属性値をタグ付けし、組織構造の代替合計値を作成します。<br>属性が表示されない場合は、組織の属性と値を作成します。 |

8. "保存" をクリックします。
9. 組織の使用可否の変更 ( 848ページ ) .
   バージョンおよびシートに組織を追加または削除します。
10. 組織を保存します。

タスクの結果

組織で使用可能にした組織割当シートに新しい組織が表示されます。また、すでに親組織が含まれているレポートやグラフにも表示されます。

次のタスク

ユーザー割当シートの場合は、新しい組織をシートに追加します。

- 標準シートの編集 ( 1038ページ ) .
- モデル シートの使用可否設定の変更 ( 1064ページ ) .
- キューブ シートにおける使用可否設定の変更 ( 1097ページ ) .

relatedlinks
概念
概念: モデル設計のベスト プラクティス ( 731ページ )
概念: 組織の属性と特性 ( 1014ページ )
タスク
組織、科目、属性からの特性タグの削除 ( 1008ページ )
参考
参考: 組織の設定 ( 857ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考: 組織の設定およびデータの継承またはクローン化（860ページ）

組織の表示形式の変更

始める前に

セキュリティ: "組織構造" 権限

このタスクについて

Adaptive Planning では、ユーザーが組織をピッキング、選択、または表示する場所のラベルとして、表示名が使用されます。デフォルトでは、組織設定で入力された名前が使用されます。表示名の形式を以下のように変更できます。

- コード
- 名前
- 名前 + (コード)
- コード + (名前)

表示名の形式を変更すると、全社の組織詳細を使用して、すべての組織の表示名形式が変更されます。

組織を参照するには、ドット表記の数式の組織コードを使用する必要があります。表示名の形式によってこの要件が変わることはありません。

手順

1. "モデリング" > "組織" に移動します。
2. 組織リストで "全社" をクリックします。
3. "組織の表示名の形式" を選択します。
   以下の名前が一意である場合にのみ、"名前" を選択することをお勧めします。
   - 特性
   - カスタム属性
   - 組織

   名前が同一の場合、または類似している場合は、他のオプションを選択することをお勧めします。

relatedlinks
概念
概念: 表示名に対する組織コード、属性コード、特性コード（1277ページ）

組織の使用可否の変更

始める前に

セキュリティ:

- "組織構造" 権限
- (任意) 一括更新をインポートする "構造インポート" 権限

このタスクについて

組織の使用可否により、バージョンやシートに組織を追加したり、組織を削除したりします。特定のバージョンまたはシートで作業している場合、使用不可の組織とそのデータは表示されません。これには、ロック済およびアーカイブ済のバージョンが含まれます。組織の使用可否は、履歴データを失うことなく古い組織を処理する 1 つの方法です。組織を削除する代わりに、新しいバージョンで組織を使用不可にし、古いバージョンで使用可能なままにすることができます。組織の使用可否設定により、無関係な組織の古いバージョンやシートで混乱を招くことなく、新しい組織を追加することもできます。新しい組織を

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

追加する場合、古いバージョンとそのデータをそのまま残しながら、新しいバージョンでのみ使用可能にすることができます。

バージョンで組織を使用不可にした場合、次のようになります。

- シート、レポート、またはダッシュボード内のデータにはアクセスできません。これには、ロック済およびアーカイブ済のバージョンが含まれます。
- ダッシュボードで組織を選択することはできます。その組織を持つシートが存在する場合、シートの使用できない組織の代わりに最上位組織のデータが表示されます。それ以外の場合、組織を選択してもダッシュボード上で何も変更されることはありません。
- バージョンと組織の交差を数式で参照できません。
- このアクションを取り消して、データを再び使用できるようにすることができます。アーカイブ済バージョンでは、データはこの時点で再計算されません。

シートから組織を削除すると、以下のようになります。

- レポート、数式、ダッシュボードを介してデータにアクセスできます。
- シート内のデータにはアクセスできません。これには、ロック済およびアーカイブ済のバージョンが含まれます。
- このアクションを取り消して、データを再び使用できるようにすることができます。アーカイブ済バージョンでは、データはこの時点で再計算されません。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織" をクリックします。
3. 組織の階層から、変更する組織を選択します。
   親組織を選択すると、すべての子孫組織の組織の使用可否を更新します。
4. "バージョン使用可否の設定" セクションで、設定を完了します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| バージョン セレクター | バージョンを選択します。<br>ドロップダウン リストには、すべての計画バージョンとルート実績が含まれます。実績サブバージョンと仕訳入力はリストに含まれず、ルート実績の使用可否と一致します。 |
| バージョンで使用可能 | バージョンに組織を追加するには、このチェックボックスをオンにします。バージョンから組織を削除するには、チェックボックスをオフにします。<br>以下は読み取り専用です。<br>• 最上位組織。常にすべてのバージョンで使用できます。<br>• 実績。すべての組織が含まれます。代わりに、開始日と終了日を変更できます。<br>• バージョンでまだ使用できない親組織を持つ組織。 |
| 実績の開始 | 実績専用です。<br>プロンプトから期間を選択します。例:「2018 年 1 月」を選択すると、実績には 2018 年 1 月以降の組織が表示されます。2018 年 1 月よ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | り前の期間における組織のバージョンの既存のデータはすべて削除されます。 |
| 実績の終了 | 実績専用です。<br>プロンプトから期間を選択します。例:「2018 年 3 月」を選択すると、実績バージョンでは 2018 年 3 月までの組織が表示されます。 |

5. 各バージョンの使用可否の設定を行うたびに "保存" をクリックします。
6. "シート" セクションで、シート名の横にあるチェックボックスをオンにすると、シートの行、列、またはフィルタに組織が表示されます。
   組織の親組織がすでに使用可能になっている場合にのみ、シート上で組織を使用可能にできます。
   組織の使用可否は、組織設定の "シート" セクション、またはシート自体から変更できます。

relatedlinks
タスク
標準シートの編集（1038ページ）
モデル シートの使用可否設定の変更（1064ページ）
キューブ シートにおける使用可否設定の変更（1097ページ）

取引先と相殺消去組織の作成

始める前に

- 連結を有効化する。
- 相殺消去法を選択する。参照 ステップ: 相殺消去法の選択（1246ページ）。
- セキュリティ: "組織構造" 権限

このタスクについて

取引先および相殺消去組織の作成は、連結機能を使用した内部取引消去を設定するための 1 つのステップです。取引先組織の作成手順は、モデルが採用している相殺消去法によって異なります。

取引先は、相互に取引を行う組織です。以下を除き、任意の組織を取引先にすることができます。

- 最上位組織
- "相殺消去組織" 設定ですでにタグ付けされている組織

"取引先" 設定では、インスタンスによって異なるラベルが表示される場合があります。

"相殺消去組織" 設定では、ルールによって取引先業務を相殺消去する組織を特定します。通常、子組織のデータは親組織にロールアップされます。ただし、親組織が相殺消去組織の場合、取引先のトランザクションはロールアップされません。代わりに相殺消去されます。相殺消去組織は、少なくとも 2 つの取引先組織の先祖組織である必要があります。

相殺消去エントリは、相殺消去組織の (限定) 組織で表示できます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織" をクリックします。
3. ツールバーで "新規組織を作成" をクリックするか、組織の階層から任意の組織を選択します。
4. "相殺消去設定" セクションで、適切なチェックボックスをオンにします。
   - 取引先。チェックボックスのラベルは、モデルによって異なる場合があります。組織のすべての子孫は取引先組織になります。
   - 相殺消去組織

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

特性方法の場合、組織名に一致する取引先の特性値を取得します。

分割方法の場合、組織名と一致する取引先の属性値を取得します。

次のタスク

内部取引科目の設定（874ページ）:

- 特性方法の場合は、科目に特性値をタグ付けします。タグ付けされた科目は、相殺消去ルールで使用できます。
- 分割方法の場合は、分割に内部取引シートの属性値をタグ付けします。内部取引シートの作成を参照してください。

relatedlinks
タスク
ステップ: 内部取引消去の設定（1245ページ）
取引先ラベルの変更（1247ページ）
相殺消去ルールの作成（1248ページ）
例
例: 分割を使用した内部取引消去の入力
例: 特性を使用した内部取引消去の入力

組織のインポートおよびエクスポート

始める前に

- "組織構造" 権限
- "構造インポート" 権限

このタスクについて

インポート機能を使用して、多くの組織を作成し、既存の組織を一括変更します。次のいずれかを実行できます。

- 現在の構造をエクスポートする (インポートする前に Excel で変更できます)。
- Excel テンプレートをダウンロードし、空白の "インポート" タブに入力する。

インポート用に Excel スプレッドシートを準備する際は、組織間に複数の空白行を残さないでください。インポートでは、2 つ目の空白行以降のすべての行が無視されます。

また、以下を変更する場合は手動で変更を行い、インポート オプションを使用しないようにします。

- コード。インポートでコードを変更すると、同じ名前と新しいコードを持つ新しい組織、属性、特性が追加されます。
- 名前。インポートで名前を変更しても、構造に変化はありません。

インポート エラーを回避するため、Workforce Planning Configuration Manager が管理する "名前" と "コード" の組み合わせは変更しないでください。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. ツールバーで、以下の適切なボタンをクリックします。
    - 印刷対応ビューを生成: 既存の構造をダウンロードします。その中に変更を加えることができます。
    - 組織構造のインポート: "テンプレートのダウンロード" リンクが表示されます。空白のテンプレートで変更を加えることができます。手順は、テンプレートの最初のタブに表示されます。

      "構造のインポート" 権限がないと "インポート" ボタンは表示されません。
4. 空白のテンプレートを完成させるか、エクスポートされたファイルを変更して、コンピュータに保存します。

   組織の間に複数の空白行を残さないでください。
5. モデリング > 組織に戻ります。
6. ツールバーで "組織構造のインポート" をクリックします。
7. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 更新と追加 | 推奨オプション:<br>• 新しい組織を追加する。<br>• インポートに含めた既存の組織を更新する。<br>• インポートに含まれていない組織をそのまま残す。 |
| 構造全体の再ロード | このオプションは以下のことに注意して使用してください。<br>• 新しい組織を追加する。<br>• 組織の階層全体を削除して置き換える。<br>• すべてのデータが削除される。<br>ロック済またはアーカイブ済のバージョンがある場合、このオプションは使用できません。 |

タスクの結果

インポートで "ロールアップ先" の値も変更すると、一部の設定に加えた変更がヌルになります。代わりに、親と一致します。

relatedlinks
タスク
組織、科目、属性からの特性タグの削除 ( 1008ページ )

組織の削除

始める前に

セキュリティ: "組織構造" 権限

このタスクについて

組織を削除すると、以下のようになります。

- すべての子孫組織と子孫組織のデータを削除します。
- ロック済およびアーカイブ済のバージョンを含むすべてのバージョンで、組織に関連付けられたデータを削除する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 親組織のデータが変更される可能性がある (ロック済バージョンやアーカイブ済のバージョンを含む)。
- ロック済バージョンを含むライブ バージョンの組織を参照する数式の休憩
- 組織または組織の親を参照する数式を含むアーカイブ済バージョンの保存値には影響しない。
- スナップショットを作成した場合を除き、組織または親組織を持つレポートとグラフを変更する。

Workforce Planning Configuration Manager によって管理されている場合は無効です。

履歴データを保存するために、バージョン、シート、またはユーザーの組織の使用可否を変更できます。次の表は、組織を削除した場合と、組織の使用可否を変更した場合の結果を示しています。

| 方法 | データ |
| --- | --- |
| 組織を削除する | • モデルから組織が削除される。<br>• すべての履歴データが削除される。<br>• アーカイブ済バージョンを除き、削除された組織を参照するすべての数式、レポート、グラフに影響する。<br>• 元に戻すことはできない。 |
| 組織設定の "バージョン使用可否の設定" を使用してバージョンから削除する | • 既存のバージョンから組織を削除した場合は、データが削除される。<br>• 新しいバージョンから組織を削除した場合、過去のバージョンではその組織を引き続き使用でき、データの管理が可能。<br>• まだ組織が存在するバージョンを参照する場合に、レポート、グラフ、数式のデータが参照可能。 |
| 組織設定の "シート" セクションを使用して、シートから組織を削除する | • グラフ、レポート、数式で履歴データを参照可能。<br>• すべてのバージョンのモデル全体を通して、数式で組織を参照可能。<br>• 指定されたシートでのデータ入力と表示ができなくなる。 |
| ユーザーのアクセス ルールを変更する | • 組織へのアクセス権を持つユーザーは、グラフ、レポート、数式で履歴データを参照可能。<br>• アクセス権のないユーザーによるデータ入力および表示は不可。 |

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織" をクリックします。
3. 組織リストから、削除する組織を選択します。
4. 設定で、"依存関係を表示" をクリックします。

   依存関係が存在する場合は、変更することを検討します。例: 他の科目または数式が、計算に組織を使用する場合、数式を削除して計算データを入力することで、エラーの生成やデータの損失を防ぐことができます。
5. ツールバーで "削除" をクリックします。
6. 警告メッセージを熟読し、プロンプトに従います。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
タスク
組織の使用可否の変更（848ページ）
アクセス ルールの作成

特性値を用いて組織をタグ付け

始める前に

- ステップ: 組織の作成（846ページ）.
- 特性値の作成（1005ページ）.
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

組織の特性は、組織の階層とは異なる方法で組織に関連付けられたデータをグループ化します。組織を特性値にタグ付けすることで、この結果を得ることができます。組織の特性の例および詳細については、 を参照してください。 概念: 組織の属性と特性（1014ページ）。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織"をクリックします。
3. タグ付けする組織をハイライト表示します。
   親組織または個々の組織にタグ付けできます。親をタグ付けすると、各子組織が自動的に同じ特性値にタグ付けされます。
4. "詳細 " パネルから " 組織特性 " セクションを展開します。
   各組織の特性は、個別のドロップダウン プロンプトです。
5. ドロップダウン プロンプトから、特性値を選択します。
6. 保存:

タスクの結果

組織のデータは特性値でタグ付けされています。これで、特性値についてレポートを作成し、その特性にタグ付けされたすべての組織のデータを取得できるようになります。

relatedlinks
タスク
組織からの属性値タグの削除（854ページ）

組織からの属性値タグの削除

始める前に

セキュリティ: "組織構造" 権限

このタスクについて

組織から属性タグを削除する理由は数多くあります。その理由の 1 つとして、使用中のカスタム属性を削除することがあります。 "依存関係 の 表示" テーブルの "組織属性 " タブの "依存関係" は、属性値が組織にタグ付けされていることを意味します。属性値または属性を削除するには、まず組織から関連付けを削除する必要があります。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. "組織" をクリックします。
3. 組織リストから組織を選択します。
   属性値の依存関係を解決する場合、"組織属性" タブに表示されているのと同じ組織を選択します。
4. 設定の "組織属性" セクションで、属性プロンプトから別の属性値を選択するか、選択をクリアします。
5. 保存:

次のタスク

依存関係を解決している間は、他の依存関係の解決を続行できます。組織の属性が唯一の依存関係である場合、属性値を削除できます。 参照 属性値を削除するための依存関係の表示の解決 ( 982ページ )。

relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性 ( 1014ページ )
タスク
特性値を用いて組織をタグ付け ( 854ページ )

概念: 組織

組織は部署、利益センター、コスト センター、または地理的地域を表します。すべてのデータ ポイントは、組織、バージョン、科目の交差部分です。組織に対する変更は、ロック済であるか非表示のバージョンであってもすべてのバージョンに適用されます。

組織の階層
組織の階層はインスタンスの組織構造です。この構造は、事業部別、機能別、部署別の場合があります。

また、組織の階層によって、科目データが各組織でどのように合計または計算されるかが決まります。科目設定によって合計の計算方法が決まります。

連結を使用している場合、組織の階層で子会社の所有権を示すこともできます。

次の場所に移動すると、組織の階層を確認できます。

- "モデリング" > "組織"
- "シート"
- "レポート" の "要素" タブ

組織の階層を説明する用語

| 用語 | 説明 |
|---|---|
| 親または先祖 | ロールアップする組織の集計値を保持する組織 |
| 子または子孫 | 別の組織にロールアップする組織 |
| 兄弟 | 同じ直接の親組織を共有する組織 |
| 最上位組織 | 構造内のすべての組織の先祖。最上位組織の設定は変更できません。 |
| (限定) 組織 | Workday はすべての親組織について、自動的に (限定) 組織を作成します。例: 親組織で、どの子組織にも属さない収益または経費が生成される場合に、(限定組織) を使用できます。(限定) 組織は組織の階層に表示されませんが、シートとレポートには表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 用語 | 説明 |
| --- | --- |
| 最下位 | 子組織のない組織。シートの最下位組織にデータを入力する必要があります。 |

組織の合計計算
科目設定の "組織/属性合計" は、組織の階層を通じてどのようにデータを合計するかを示します。

| 科目タイプ | 説明 |
| --- | --- |
| 総勘定元帳 | 親組織には、子組織の値の合計値が表示されます。 |
| カスタム、前提条件、キューブ、モデル | 複数のオプションから選択できます。 |
| メトリック | 合計組織はまず、数式に寄与する科目を合計し、その後、そのメトリック科目の計算を適用します。 |
| 連結 | 所有権の割合と、"連結" で選択した連結方式が計算に反映されます。 |

組織設定
ほとんどの組織設定は親組織で設定できます。ほとんどの子設定は親組織から設定を継承するため、読み取り専用です。

組織設定を使用して、以下を行うことができます。

- 階層を再編成する。
- バージョンに対する組織の使用可否を制限する。
- 代替組織の合計または階層を作成する。

組織承認者は、ユーザー プロファイルまたは 管理 > 関連付け で設定できます。

概念: 親組織

Adaptive Planning では、階層構造を説明するために親組織と子組織を参照します。親組織は合計組織と同じです。組織の親を変更するには、"組織の詳細" セクションの "ロールアップ先" プロンプトを使用します。

子組織を追加すると、組織は親組織になります。親組織の設定は、クローンの組織であっても、子組織に向かって継承されます。

データおよび組織の階層の変更
組織の親組織を変更すると、以下のようになります。

- 合計値は、ロック済およびアーカイブ済のバージョンであっても常に変更されます。例: "製品開発" の親組織を A 社から B 社に変更すると、A 社に影響していたデータは B 社に移動します。
- データ、数式、共有数式は組織において保持され、変更されません。例: "製品開発" のデータは "製品開発" に残ります。
- アーカイブ済バージョンの場合を除き、合計が変更されると、合計を参照する数式の値も変更されます。

組織の親組織を変更すると、データが失われる可能性があります。データの損失を防ぐために、変更を加える前にいつでもデータをエクスポートできます。もしくは、以下のガイドラインに従ってください。

- 子組織で使用できるすべてのバージョンを、目的の親組織でも使用できるようにしてください。親組織で使用できないバージョンでは、子組織のデータが完全に削除されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 目的の親組織を子組織と同じシートに追加してください。親を持たないシートは、子組織も子組織のデータも表示できません。親組織と子組織をシートに追加することで、いつでもデータを再び表示することができます。

**(限定) 組織**
子組織が存在しなかった組織に子組織を追加すると、Adaptive Planning は自動的に (限定) 子組織を作成します。

例: B 社には子組織がありません。"製品開発" を B 社の子組織として追加すると、"B 社 (限定)" という別の子組織が自動的に作成されます。B 社組織の既存のすべての共有数式とデータは、"B 社 (限定)" 組織に移動します。"B 社 (限定)" と "製品開発" の両方が B 社にロールアップされます。

relatedlinks
タスク
組織の使用可否の変更 ( 848ページ )
参考
参考: 組織の設定およびデータの継承またはクローン化 ( 860ページ )

**参考: 組織ツールバー**

| ボタン | 説明 |
|---|---|
| 新規組織を作成 | 新しい子組織を作成します。"ロールアップ先" 設定を変更しない限り、Workday は選択した親組織の下に新しい子組織を作成します。 |
| 新規リンク組織を作成 | マルチインスタンス ソリューションの別のインスタンスにリンクする組織を作成します。 |
| 組織のクローン | "ロールアップ先" 設定を変更しない限り、最下位組織のみのクローンを作成し、クローン化された組織のデータ、共有数式、設定の大部分をコピーします。 |
| 印刷対応ビューを生成 | すべての組織および各組織の設定を含む "組織" スプレッドシートをダウンロードします。スプレッドシートで変更を行い、組織をインポートできます。 |
| 組織構造のインポート | "組織" スプレッドシートで一括変更をインポートし、空白の "組織" スプレッドシート テンプレートをダウンロードできるようにします。 |

**参考: 組織の設定**

組織設定は、"モデリング" 領域の組織階層リストの横にあるパネルにあります。

組織の詳細

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | 数字、文字、および記号の一意の組み合わせによって組織を識別します。数式ではコードで組織を参照します。<br><br>Workforce Planning Configuration Manager によって管理されている場合は無効です。 |
| 名前 | モデル全体で組織の表示名に影響します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 避ける単語とその他のガイドラインについては、参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。<br><br>組織名が組織コードと異なる場合は、ドット表記の数式で組織の参照を更新します。例: IF (this.Level.Name = "Sales")。<br><br>Workforce Planning Configuration Manager によって管理されている場合は無効です。 |
| 表示名 | 最上位組織の設定で選択した "組織の表示名の形式" に基づいて、モデル全体で組織がどのように表示されるかを示します。 |
| 短縮名 | ダッシュボード グラフの組織名をオーバーライドします。 |
| 組織の表示名の形式 | 最上位組織でのみ使用できます。モデル全体ですべての組織がどのように表示されるのかを示します。 |
| ロールアップ先 | 親組織を設定します。組織の値は、親組織にロールアップされます。<br><br>最上位組織のロールアップ先は、常に "なし" です。 |
| リンク先 | マルチインスタンスのリンク組織を作成します。<br><br>マルチインスタンスでのみ使用できます。作業しているインスタンスに接続され、作業中のインスタンスの下にあるインスタンスをリストしています。<br><br>リンクを使用して科目と属性をマッピングするか、データをリフレッシュして最新データをリンク済みのインスタンスに反映させます。 |
| ワークフロー内 | "ワークフロー" を持つインスタンスで使用できます。組織が "ワークフロー" 承認プロセスの一部であるか否かを判断します。<br><br>親組織の設定が "いいえ" の場合、読み取り専用です。<br><br>最上位組織の設定は常に "はい" です。 |
| 通貨 | 組織の通貨を設定し、新しい通貨を追加できます。<br><br>最上位組織通貨は常に社用通貨です。 |
| パブリッシュ通貨 | Workday のファイナンシャル製品に設定したインスタンスで使用できます。Workday のファイナンシャル製品に財務計画をパブリッシュするときに、この組織で使用する通貨を設定します。<br><br>参照 ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定。 |
| 依存関係を表示 | モデルが組織を参照する場所を示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

相殺消去設定

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 相殺消去組織 | 取引先と相殺消去組織の作成（850ページ）<br>連結が有効なインスタンスで使用できます。取引先としてタグ付けされた子組織間のトランザクションを相殺消去します。<br>ステップ: 内部取引消去の設定を参照してください。 |
| 相殺消去の取引先。インスタンスでは、この設定にカスタム ラベルを使用している場合があります。 | 連結が有効なインスタンスで、階層の上位の先祖組織が相殺消去組織である場合に使用できます。親が相殺消去の取引先である場合、読み取り専用です。<br>この組織と他の取引先間で会社間取引が可能です。 |

バージョン使用可否の設定

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| バージョン セレクター | 組織が利用可能なバージョンを識別します。一度に 1 つのバージョンの使用可否を保存します。 |
| バージョンで使用可能 | 組織の使用可否の変更（848ページ）<br>バージョンで組織が使用可能になるタイミングを示します。<br>以下は読み取り専用です。<br>• ルート実績。ルート実績ではすべての組織が使用可能です。<br>• 最上位組織。常にすべてのバージョンで使用可能です。 |
| 実績の開始と実績の終了 | 組織の使用可否の変更（848ページ）<br>バージョン セレクターのプロンプトから実績を選択した場合に使用できます。<br>組織が実績バージョンで使用可能になるタイミングを設定します。 |

組織の特性

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 特性 | 組織の特性を作成した場合に使用できます。<br>組織に特性値をタグ付けし、代替的な組織階層を作成します。<br>参照 例: 組織特性を使用した代替組織構造の作成（1011ページ）および 概念: 組織の属性と特性（1014ページ）。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

組織属性

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 属性 | 組織の属性を作成した場合に使用できます。<br>組織に属性値をタグ付けし、代替的な組織階層を作成します。<br>参照 例: 組織属性を使用した代替組織構造の作成（991ページ）および 概念: 組織の属性と特性（1014ページ）。 |

シート

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| モデルで作成されたシート | 組織の使用可否の変更（848ページ）<br>シートの横にあるチェックボックスをオンにして、シートで組織を使用できるようにします。 |

relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）

参考: 組織の設定およびデータの継承またはクローン化

組織の設定の継承またはクローン化
子組織を新規作成すると、子組織は親組織から設定を継承します。すべての組織で、表示名の形式は最上位組織から継承されます。

実行する内容に応じて、次のようになります。

- 親組織の設定を変更すると、すべての子孫組織の設定が自動的に変更されます。
- 子組織をクローン化すると、クローン化された組織は元の子組織の設定とデータをコピーします。

注： 子組織のクローン作成中に合計組織を変更した場合、親組織の設定が元の子組織の設定をオーバーライドします。

このテーブルは、子組織の設定を変更できる場合に表示されます。

| オプション | 子組織の設定への影響 |
| --- | --- |
| 組織の詳細 | 子組織は親組織から "ワークフロー内" 設定を継承します。親組織の設定で "いいえ" オプションを選択した場合、子組織でこの設定を変更することはできません。<br>子組織の "通貨" 設定は変更できます。 |
| 相殺消去設定 | 子組織は親組織から "相殺消去の取引先" 設定を継承します。子組織ではこの設定を変更できません。 |
| バージョン使用可否の設定 | 親組織の設定で "バージョンで使用可能" チェックボックスをオフにすると、子孫組織は使用できなくなります。この変更により、そのバージョンの子組織のすべてのデータが削除されます。 |
| 組織特性 | 特性が階層化されていない場合、子組織が継承する特性を変更することはできません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 子組織の設定への影響 |
| --- | --- |
| | 以下の場合、新しい子特性を新規の子組織に割り当てることができます。<br>• 特性が階層化されている場合。<br>• 親組織に親特性がある場合。 |
| 組織属性 | 親組織に加えられた変更を子組織に継承したい場合は、"この組織のサブ組織すべてにも同じ変更を加えます" チェックボックスをオンにする必要があります。 |
| シート | |

組織データの継承またはクローン化

| データ | 新規の子組織はこのデータを継承するか？ | クローン化された子組織はこのデータをコピーするか？ |
| --- | --- | --- |
| 組織承認者 | はい。子組織にさらに承認者を割り当てることはできますが、親組織から継承された承認者を削除することはできません。 | はい。クローン作成中に合計組織を変更すると、クローン組織は親組織の組織承認者をコピーします。 |
| すべての確定解除済みバージョンの共有数式 | はい。新規の子組織は、合計組織を変更した場合でも、親組織の共有数式を保持します。<br>子組織で共有数式を変更することも可能です。 | はい。クローン化された組織は、元の組織の共有数式を保持します。クローン作成中に合計組織を変更すると、親組織の共有数式がコピーされます。<br>クローンを保存した後で合計組織を変更できます。 |
| ハードコードされた値や数式 | いいえ | はい。ただし、クローン化された組織は、ハードコードされた値や数式を以下からコピーしません。<br>• 実績バージョン<br>• ロック済バージョン |
| すべてのバージョンのシートとセル メモ | いいえ | はい |
| 変更履歴 | いいえ | いいえ |
| ルール | いいえ | はい |
| マッピングをインポートする | いいえ | いいえ |
| マッピングをエクスポートする | はい | はい |
| レポート パラメータの使用可否 | いいえ | 元の組織に応じて、次のようになります。<br>• レポート上のフィルタ オプションの場合、クローン化された組織が別のフィルタ オプションとして表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| データ | 新規の子組織はこのデータを継承するか？ | クローン化された子組織はこのデータをコピーするか？ |
|---|---|---|
| | | • レポートの行または列の場合、クローン化された組織はレポートに追加されません。<br>元の組織の親組織が行と列にもある場合、クローン化された組織がレポートに表示されます。 |
| シート | はい。 後で子組織から割当シートを削除することはできますが、新規の割当シートを子組織に追加することはできません。 | |
| バージョン使用可否 | はい。 | はい (合計を組織に変更しない限り) |
| アクセス ルール | はい。 | はい (合計を組織に変更しない限り) |
| ワークフローのステータス | はい。 | いいえ。 |
| 特性値 | はい。 | はい (合計を組織に変更しない限り) |

**FAQ:** 最上位組織にロールアップしない新しい組織を作成できますか？

すべての組織は最上位組織にロールアップされる必要があります。同じ目的を達成するために、組織の階層を調整できます。例: 組織階層は次のようになります。

- 法人 A (最上位組織)
    - 研究開発
    - 営業およびマーケティング

買収を計画する別の法人である法人 B を追加するとします。しかし、それを法人 A にロールアップしてその合計のデータに影響を与えないようにします。そのためには以下のことが可能です。

1. 最上位組織の名前を汎用的なものに変更します。
2. 最上位組織の下に新しい組織を作成し、「法人 A」という名前にします。
3. 研究開発部門と営業マーケティング部門を A 社の子組織とします。
4. 最上位組織の下に "Test Acquisition" という新しい組織を作成します。

新しい組織階層は次のようになります。

- 最上位組織
    - A 社
        - 研究開発
        - 営業およびマーケティング
    - 取得のテスト

ここで、テスト取得は法人 A の合計のデータに影響しません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

# 科目

## 科目の作成

### 始める前に

セキュリティ:

- モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- (任意) "前提条件" 権限

### このタスクについて

モデルを最初に作成する際、通常は科目構造をインポートします。その後、科目を 1 つずつ作成および編集できます。作成した科目は、子科目を追加するまで最下位科目になります。データは最下位科目にのみ存在します。

スプレッドシートのインポートを使用して、一括変更や新しい科目を構造にインポートすることもできます。

インポート エラーを回避するため、Workforce Planning Configuration Manager が管理する "名前" と "コード" の組み合わせは変更しないでください。

Workforce Planning Configuration Manager によって作成された以下の 3 つの科目の名前を変更する場合は、同じ名前で新しい科目を作成する必要があります。

- 人員
- ワークフォース コスト
- FTE

どの科目階層でもルート科目を作成または削除できません。ルート科目はすでにインスタンスに組み込まれています。

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 新しい科目の科目階層を選択します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 総勘定元帳科目 | • 標準化された階層には、組み込みのルート科目があります。 ルート科目の変更、作成、削除はできません。参照 参考: 組み込み総勘定元帳科目（898ページ）。<br>• 階層は、一般的な総勘定元帳と一致します。<br>• 作成するすべての科目は、組み込みのルートにロールアップする必要があります。<br>• 科目には、標準的な会計基準および原則に従うためのより厳密な設定があります。<br>• 科目はモデル科目またはキューブ科目にリンクできます。<br>• 科目は、相殺消去ルールで使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • 科目は、データ入力科目にすることも、デフォルトの数式を使用して算出科目にすることもできます。<br>• これらの科目は、標準シートまたはキューブ シートに追加できます。 |
| メトリック科目 | • 算出科目の個別の階層です。科目グループで整理できます。<br>• 科目は、財務比率や非財務メトリックを計算します。<br>• 科目の数式はバージョンおよび組織間で同じです。<br>• 合計は、その他の科目とは異なる合計ロジックに従います。<br>• これらの科目は標準シートに追加できます。<br>• ルートは メトリックと呼ばれます。メトリック ルートの変更や削除はできません。 |
| カスタム科目 | • 科目グループで整理できる個別の階層です。<br>• 科目は柔軟な設定が可能です。<br>• 科目はモデル科目またはキューブ科目にリンクできます。<br>• 科目は、データ入力科目にすることも、デフォルトの数式を使用して算出科目にすることもできます。<br>• これらの科目は、標準シートまたはキューブ シートに追加できます。<br>• ルートは "カスタム"と呼ばれます。カスタム ルートを変更または削除することはできません。 |
| 前提条件 | • 科目グループで整理できる個別の階層です。<br>• 科目値は最上位組織にあり、すべての組織で自動的に繰り返されます。<br>• これらの科目を使用して、組織によって変化しないドライバーを表す場合に数式参照を簡略化します。<br>• これらの科目は標準シートに追加できます。<br>• ルートは "前提条件"と呼ばれます。"前提条件 " ルートの変更や削除はできません。 |
| モデル科目 | • モデル シートごとの個別の階層です。<br>• 関連する値を計算するデータが保持されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • 以下の科目タイプが含まれます。<br>  • 前提条件<br>  • 算出<br>  • 初期の残高<br>  • 期間<br>• ルート科目にはモデル シートと同じ名前が付けられます。ルート科目の変更や削除はできません。<br>参照 ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）。 |
| キューブ科目 | • 科目グループで整理できる各キューブ シートの個別の階層です。<br>• 以下の科目タイプが含まれます。<br>  • キューブ標準<br>  • キューブ算出科目<br>  • キューブ前提条件<br>  • キューブ メトリック科目<br>• ルート科目はキューブ シートと同じ名前になります。ルート科目の変更や削除はできません。ただし、科目の表示方法を調整するために、これを削除することができます。参照キューブ ルート科目の削除（1099ページ）。<br>参照 キューブ科目の作成（1092ページ）。 |

3. 科目階層リストで、科目、グループ、またはルートをハイライト表示します。
このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 科目 | ハイライト表示した科目が、新しい科目の合計科目になります。新しい科目のデータは合計のデータに反映されます。 |
| グループ | 新しい科目はハイライト表示したグループに含まれます。 |
| カスタム、メトリック、キューブ、モデル、または前提条件のルート | 新しい科目は親科目または合計科目を持ちません。 |

4. ツールバーで、作成する科目のタイプをクリックします。
このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新規科目を作成 | 以下の階層に新しい最下位科目を作成します。<br>  • 前提条件<br>  • カスタム<br>  • 総勘定元帳<br>  • メトリック |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新規システム科目を作成 | 以下の階層に新しいシステム科目を作成します。<br>• カスタム<br>• 総勘定元帳<br>配賦ルールにはシステム科目を使用します。参照 配賦ルールの作成（1228ページ）。 以下をお勧めします。<br>• モデル内のシステム科目の数を 20 に制限します。<br>• キューブ シートまたはキューブ算出科目に入力された数式でそれらを参照しないでください。参照 FAQ: キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？（904ページ）。 |
| 新規グループを作成 | 以下の階層で科目を保持するための、フォルダのような編成ツールを作成します。<br>• 前提条件<br>• カスタム<br>• メトリック<br>• キューブ |
| 新規算出科目を作成 | モデル シートのみの科目階層です。<br>デフォルトの数式を使用して最下位科目を作成します。 |
| 新規前提条件科目を作成 | モデル シートのみの科目階層です。<br>すべての組織で同じ値のドライバー科目を作成します。 |
| 新規キューブ標準科目を作成 | キューブ シートのみの科目階層です。<br>新しい最下位科目を作成します。キューブの標準科目はカスタム科目と同じです。 |
| 新規キューブ算出科目を作成 | キューブ シートのみの科目階層です。<br>デフォルトの数式を使用して科目を作成します。特定のバージョンのデータ入力オーバーライドを作成することもできます。 |
| 新規キューブ前提条件科目を作成 | キューブ シートのみの科目階層です。<br>すべての組織で同じ値のドライバー科目を作成します。 |
| 新規キューブ メトリック科目を作成 | キューブ シートのみの科目階層です。<br>バージョンや組織間で数式を変更したくない場合に、算出科目を作成します。 |
| GL またはカスタム科目を含める | キューブ シートのみの科目階層です。<br>総勘定元帳およびカスタム階層の科目をキューブ シート階層に追加します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

5. 設定を完了します。
   科目設定によって科目の動作が変わります。
   組み合わせを変えると結果も変わります。
   組み込みの総勘定元帳科目の一部の設定はロックされています。
   設定は科目タイプごとに異なります。詳細については、以下を参照してください。
   - 参考: 科目グループの設定（958ページ）.
   - 参考: 前提条件科目の設定（948ページ）.
   - 参考: キューブ標準科目の設定（953ページ）.
   - 参考: キューブ入力科目の設定（968ページ）.
   - 参考: カスタム科目の設定（959ページ）.
   - 参考: 総勘定元帳科目の設定（941ページ）.
   - 参考: メトリック科目の設定（966ページ）.

次のタスク

シートに科目を追加して、データをロードまたは入力できるようにします。

relatedlinks
概念
概念: 科目（887ページ）
概念: 内部取引科目および相殺消去ルール（891ページ）
タスク
科目のインポートおよびエクスポート（867ページ）
組織、科目、属性からの特性タグの削除（1008ページ）
参考
参考: 組み込み総勘定元帳科目（898ページ）

## 科目のインポートおよびエクスポート

### 始める前に

- 科目または数式の追加に既存のテンプレートを使用するには、タブ名が 31 文字未満であることを確認します。使用しない場合は、タブ名の変更を避けます。
- セキュリティ: "構造インポート" 権限

### このタスクについて

インポートまたはエクスポートのオプションを使用して、科目構造を一括変更できます。以下を使用できます。

- インポート オプション。空白のテンプレートをダウンロードし、科目や数式を追加したり、更新したりできます。
- エクスポート オプション。既存の科目構造または既存の数式で始め、それらを更新できます。科目構造または数式を変更するには、空白のテンプレートではなく、エクスポートから始めることをお勧めします。

インポート用に Excel スプレッドシートを準備するときは、以下に注意してください。

- 科目の間で複数の空白行を残す。インポートでは、2 行目の空白行以降のすべての行が無視されます。
- テンプレート内の列を更新する必要がない場合でも、該当する列を削除する。
- 任意の列は無視します (特に、空白のテンプレートを使用して既存の科目を更新および変更する場合)。任意の列の多くには、空白のままにした場合に関係なくインポートされるデフォルトが設定されています。また、一部のオプション列は他の列に基づいて必須になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

Workforce Planning Configuration Manager を使用する場合は、以下のようにします。

- "名前" と "コード" の組み合わせは変更しないでください。
- Planning Configuration Manager が生成したモデル科目またはカスタム科目の名前を変更すると、Workday 内のボトムアップ ヘッドカウント プランニング ページに空白の値が表示されます。

手順

1. "モデリング" に移動します。
2. 科目構造に移動するには、以下のいずれかの科目のリンクをクリックします。
   - 総勘定元帳科目
   - カスタム科目
   - メトリック科目
   - 前提条件
3. (任意) モデル科目およびキューブ科目の場合、"シート サマリ" ページに移動し、そこで科目リンクを選択します。
   参照 シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ )
4. ツールバーで、インポートまたはエクスポートのプロンプトからオプションを選択します。このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 科目構造のインポート | 以下の場合にオプションを選択します。<br>• 既存の構造に追加または更新する。<br>• Excel テンプレートをダウンロードし、空白の "科目" タブに入力する。 |
| 数式オーバーライドのインポート | 以下の場合にオプションを選択します。<br>• 既存の数式に追加または更新する。<br>• Excel テンプレートをダウンロードし、空白の "科目" タブに入力する。 |
| 科目構造のエクスポート | 以下の場合にオプションを選択します。<br>• 既存の科目構造を更新または追加する。<br>• Excel にエクスポートしたファイルに変更を加える。 |
| 数式オーバーライドのエクスポート | 以下の場合にオプションを選択します。<br>• 既存の数式を更新または追加する。<br>• Excel にエクスポートしたファイルに変更を加える。 |

5. (任意) 残高タイプを変更するには、"残高タイプ" 列に "貸方" または "借方" を入力します。
   "相対科目" 列は、構造内の相対科目を識別するのに役立ちます。値を変更しても、科目残高タイプは更新されません。
6. 変更内容をローカルのコンピュータに保存します。
   科目の間に複数の空白行を残さないでください。
7. 科目ページに戻ります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

8. ツールバーでインポート プロンプトをクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 科目構造のインポート
    - 数式オーバーライドのインポート

    このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 更新と追加 | モデル科目、キューブ科目、数式オーバーライドでは、このオプションを選択したままにします。このオプションの機能は次のとおりです。<br>• 新しい科目および数式を追加する。<br>• 既存の科目および数式を更新する。<br>• インポートに含めなかった科目および数式をそのまま残す。 |
| 構造全体の再ロード | このオプションは、総勘定元帳、カスタム、メトリック、前提条件科目に対して選択します。このオプションの機能は次のとおりです。<br>• 既存の科目とそのデータをすべて削除する。<br>• 削除した構造をインポートした構造に置き換える。 |

9. "ファイルの選択" をクリックし、変更内容を含むスプレッドシートをアップロードします。

relatedlinks
タスク
科目の作成（863ページ）
組織、科目、属性からの特性タグの削除（1008ページ）

科目の数式およびオーバーライドの追加または変更

始める前に

- 科目の作成（863ページ）.
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

デフォルトの数式は、科目のバージョンと組織のデータを計算します。他のデータに対して計算された一貫したデータを得るためにデフォルトの数式を使用し、ユーザー エラーを防止します。数式は以下の科目で使用できます。

- 総勘定元帳科目 (オプション)
- カスタム科目 (オプション)
- 要件としての計算モデル科目
- 要件としての算出キューブ科目キューブ科目の数式でシステム科目を参照することはお勧めしません。参照 FAQ: キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？（904ページ）
- 要件としてのメトリック科目

デフォルトの数式の追加、デフォルトの数式の変更、またはデフォルトの数式のオーバーライドの作成ができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

オーバーライドには 2 つのタイプがあります。数式オーバーライドを使用すると、特定のバージョンの計算を変更することができます。データ入力オーバーライドを使用すると、特定のバージョンでのデータ入力またはインポートができます。

バージョンをロックすると、既存の数式がオーバーライド数式となります。これにより、ロック済バージョンのデータに影響を与えずに数式を更新することができます。

変更内容を科目の数式にインポートすることもできます。参照 科目のインポートおよびエクスポート（867ページ）。

| 読み取り専用またはロック済設定 | 理由 |
|---|---|
| "数式" または "デフォルトの数式" | "バージョン数式セレクター" プロンプトで、選択したバージョンのロックを解除します。バージョンのロックまたは非表示を参照してください。 |
| "バージョン数式セレクター" および "数式オーバーライド設定" | "バージョン固有の数式設定を無効化" をオフにします。 |
| "数式" または "デフォルトの数式" テキスト ボックスでなく "データ入力" テキスト ボックスの場合 | 選択したバージョンにはデータ入力オーバーライドがあります。このテキスト ボックスにはデータや数式を入力することはできません。変更を加えるには、"数式オーバーライド設定" で "数式オーバーライド" または "なし" を選択します。 |

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 変更する科目に応じて、以下のようにします。
   - "科目" メニューで "総勘定元帳科目"、"カスタム科目"、または "メトリック科目"をクリックします。
   - キューブ科目の場合、"組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。次に、その科目でキューブ シートを編集します。"キューブ科目" をクリックします。
   - モデル科目の場合、"組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。次に、科目でモデル シートを編集します。"モデル科目"をクリックします。
3. 科目リストで、合計科目またはシステム科目以外の任意の科目をクリックします。
4. 設定で "データ タイプ" セクションを見つけます。
5. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 新しいデフォルト数式の追加 | a. "数式" または "デフォルトの数式" のフィールドが空白の場合、数式を入力します。<br>b. 空白でない場合は、そのバージョンにはデフォルトの数式がすでに存在しています。この数式を変更したり、選択したバージョン向けにオーバーライドを作成したりすることができます。<br>c. プロンプトが表示されたら、以下をクリックします。<br>• 保持: 既存のすべてのバージョンにすべての共有数式とデータを保存し、すべての既存バージョンのデータ入力オーバーライドを作成します。<br>• 置換: ロック済バージョンを含む、すべてのバージョンのすべ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ての共有数式とデータを置換します。 |
| デフォルトの数式の変更 | a. "数式バージョン セレクター" で、"オーバーライド数式設定" が "なし" に設定されているバージョンを選択し、科目のデフォルト数式にアクセスします。<br>b. 数式を編集します。<br>"オーバーライド数式設定" が "オーバーライド数式"の場合、デフォルトではなくバージョンのオーバーライドを編集します。デフォルトを表示および編集するには、"なし" を持つバージョンを選択します。<br>アクションは以下のとおりです。<br>• デフォルトの数式を使用してバージョンの計算データを変更します。<br>• ロック済およびアーカイブ済のバージョンのデータを保持する。<br>• 既存のオーバーライドがあるバージョンのデータは保持されます。 |
| デフォルト数式の削除 | カスタム科目および総勘定元帳科目のみ使用できます。<br>a. "オーバーライド数式設定" で "なし" を選択し、デフォルトの数式にアクセスします。<br>b. "数式" または "デフォルトの数式" の テキスト ボックスにある数式を削除します。<br>アクションは以下のとおりです。<br>• ロック済バージョンおよび既存のオーバーライドがあるバージョンを含むすべてのバージョンで、科目のすべての計算データが削除されます。<br>• 保存された計算をアーカイブ済バージョンに保持します。<br>• データ入力オーバーライドがあるすべてのバージョンでデータを保持します。 |
| 特定のバージョンへの数式オーバーライドの追加 | a. オーバーライド設定をアクティブ化する必要がある場合は、"バージョン固有の数式設定 を無効化" をオフにして保存します。<br>b. "数式バージョン セレクター" で、オーバーライド数式のロックされていないバージョンを選択します。<br>c. "オーバーライド数式設定"から "オーバーライド数式"を選択します。<br>d. "数式のデフォルト" または "数式"で新しい数式を追加します。オーバーライド数式を削除すると、その科目の数式はデフォルト数式に戻ります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | このアクション<br>• 選択したバージョンのデータのみを変更します。<br>• ロック済バージョン、オーバーライドがある他のバージョン、デフォルトの数式を使用するバージョンのデータを保持します。 |
| 特定のバージョンのデータ入力オーバーライドを追加 | モデル科目やメトリック科目、またはマージされたキューブ シートの科目では使用できません。<br>a. オーバーライド設定をアクティブ化する必要がある場合は、"バージョン固有の数式設定 を無効化" をオフにして保存します。<br>b. "数式バージョン セレクター"で、データ入力オーバーライドのロック解除済バージョンを選択します。<br>c. "オーバーライド数式設定" で ″データ入力″を選択します。<br>アクションは以下のとおりです。<br>• データ入力のためにシートの科目のロックを解除します。<br>• データをインポートするために科目のロックを解除します。<br>• バージョンから計算データが削除されます。<br>• ロック済バージョン、オーバーライドがある他のバージョン、デフォルトの数式を使用するバージョンのデータを保持します。 |
| バージョンからのオーバーライドの削除 | a. "数式バージョン セレクター"でバージョンを選択します。<br>b. "オーバーライド数式設定" を ″なし″ に変更します。<br>アクションは以下のとおりです。<br>• 選択したバージョンのデフォルト数式に戻ります。<br>• 選択したバージョンのデータを変更します。<br>• ロック済バージョン、アーカイブ済バージョン、他のオーバーライドがあるバージョン、デフォルトの数式を使用するバージョンでデータを保持します。 |
| 科目からすべてのオーバーライドを削除 | "バージョン固有の数式設定を無効化" チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、以下のとおりとなります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • ロック済バージョンを含め、すべてのバージョンで科目の数式がデフォルト数式に戻ります。<br>• ユーザーは、その科目に対してオーバーライドの作成ができなくなります。<br>• その科目について、現在および将来のロック済バージョンの自動保護が削除されます。<br>• ロック済バージョンを含め、オーバーライドがある任意のバージョンのデータを変更します。<br>• 保存された計算をアーカイブ済バージョンに保持します。<br>• デフォルトの数式を使用して、計算データがバージョンに保持されます。 |

6. 設定を保存します。

次のタスク
データ入力オーバーライドがある算出科目には、手動でスプレッドシートをインポートしてください。以下は使用できません。

- importStandardData API
- インテグレーション設定データ ローダ

## 科目に特性値をタグ付け

### 始める前に

- 科目の作成（863ページ）.
- 特性値の作成（1005ページ）.
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

科目特性は、科目階層とは異なる方法で科目に関連付けられたデータをグループ化します。科目を特性値にタグ付けすることで、この結果を得ることができます。総勘定元帳の階層、キューブ シート、およびカスタム科目の階層に関連する科目が存在する場合、それらの科目に特性をタグ付けすることで、階層全体で特定の科目の合計値を取得できます。

例: "課税所得" という属性を作成します。次に、"はい" と "いいえ" の値を作成します。さまざまな階層のさまざまな科目に "はい" をタグ付けします。これで、"課税所得" 特性を使用して、"はい" 特性値でタグ付けされたすべての科目をレポートできるようになります。

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 科目階層に移動するには、次をクリックします。
   - 総勘定元帳科目、 カスタム科目、 前提条件、または メトリック科目
   - "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"> "シート名の 編集 " >"キューブ科目" または "モデル科目" を選択します。
3. 科目をハイライト表示します。

   親科目、科目グループ、または個々の最下位組織科目をタグ付けできます。親またはグループをタグ付けすると、すべての子科目が自動的にタグ付けされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. "詳細 " パネルから " 科目特性" セクションを展開します。
   各科目特性は、個別のドロップダウン プロンプトです。
5. ドロップダウン プロンプトで、特性値を選択します。
6. 保存:

タスクの結果

科目のデータは特性値でタグ付けされています。これで、特性値のレポートを作成し、特性値でタグ付けされたすべての科目のデータを取得できるようになります。

relatedlinks
概念
概念: 特性（1009ページ）

内部取引科目の設定

始める前に

- お問い合わせWorkday をクリックして連結を有効にします。参照 参考: お問い合わせ
- 相殺消去法を選択する。
  参照 ステップ: 相殺消去法の選択（1246ページ）。
- 取引先と相殺消去組織の作成（850ページ）.
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

内部取引科目の設定は、科目が相殺消去ルールで使用可能であることを示します。相殺消去ルールは以下のとおりです。

- 少なくとも 2 つの内部取引科目、借方、貸方科目が必要です。
- 内部取引の借方科目と貸方科目をペアにします。

例: 相殺消去ルールを使用して、買掛金科目と売掛金科目をペアにします。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "総勘定元帳科目" をクリックします。
3. 以下の残高タイプの科目を作成または選択します。
   - 借方
   - 貸方

   参照 科目の作成（863ページ）。
4. "連結" セクションを展開し、"内部取引" オプションで "はい" をクリックします。
5. 条件 特性相殺消去法を使用すると、 科目特性を選択 オン " 取引先" プロンプト。
   特性値は、取引パートナーおよび相殺消去組織としてタグ付けした組織の名前と一致します。分割相殺消去法を使用している場合は、このステップをスキップします。
6. "保存" をクリックし、"完了" をクリックします。
7. (任意) ツールバーで、"新規システム科目"をクリックします。
   相殺消去に既存の調整科目がない場合にのみ、この科目を作成します。
8. 調整科目の詳細を入力します。
9. オン " 内部取引" オプションを選択し、"はい"をクリックします。
10. "保存" をクリックし、"完了" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

- 分割方法を使用している場合は、内部取引シートを作成します。参照 ステップ: 内部取引シートの作成（1036ページ）。
- 特性方法を使用している場合は、相殺消去ルールを作成します。参照 相殺消去ルールの作成（1248ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 内部取引科目および相殺消去ルール（891ページ）
タスク
ステップ: 内部取引消去の設定（1245ページ）
参考
参考: 組み込み総勘定元帳科目（898ページ）

算出科目の数式からの属性値の削除

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

算出科目の数式から属性値を削除する理由は数多くあります。最も一般的な理由は次のシナリオです。

- 属性値を削除するときに、"依存 関係の表示" テーブルの " 算出科目" タブに依存関係が表示されているとします。
- 削除された属性値の結果として、科目の数式エラーが発生しました。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 以下の科目階層をクリックします。
    - カスタム科目
    - 総勘定元帳科目
    - メトリック科目
    - キューブおよびモデル算出科目の場合、"組織割当シート" または "ユーザー割当 シート" をクリックし、シートを編集して、科目のリンクをクリックします。

    算出科目の依存関係を削除するには、"算出科目 " タブに表示されている科目タイプをメモし、科目階層を特定します。キューブ科目またはモデル科目の場合は、タブで " 場所" として表示されているシートを開きます。
3. ツールバーで "科目構造のエクスポート" をクリックします。
4. ツールバーで "科目構造のエクスポート" の横にある矢印をクリックし、"数式オーバーライドのエクスポート" を選択します。
5. 両方のエクスポートで、Excel の検索機能を使用して、属性値に関する記述を検索します。

    依存関係を解決するには、"検索" 機能を使用して、"依存関係の表示 " テーブルの " 算出科目" タブにリストされている特定の科目を探します。
6. 数式とオーバーライド数式を更新して属性値を削除します。
7. 科目階層に戻ります。
8. 各スプレッドシートで "更新と追加" オプションを使用して、更新された構造をインポートします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

依存関係を解決している間は、他の依存関係の解決を続行できます。算出科目のみが依存である場合は、属性値を削除できます。 参照 属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）。

relatedlinks
タスク
属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）

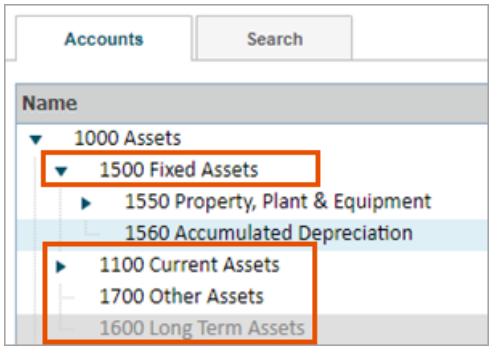
科目構造の再編成

対象者: モデルを管理する管理者

科目リストを再編成するには、次を行います。

- 順序変更: 科目の表示順を変更します。
- 親の再設定: 科目の合計階層および、データの合計方法を変更します。

次の例において、"固定資産"、"流動資産"、"他の資産"、"長期資産" の順番を変更できます。"長期資産" を移動させてそれを "固定資産" の子にした場合、その合計を変更するか、その親の再設定が行われることになります。




ルート科目または一部の総勘定元帳科目については、順番の変更や親の再設定は行えません。テンプレートを使用して新しい構造をインポートすることもできます。参照 科目のインポートおよびエクスポート（867ページ）および 参考: 組み込み総勘定元帳科目（898ページ）。

前提条件

重要： 科目の親を再設定する場合、合計データはロック済およびアーカイブ済のバージョンを含むすべてのバージョンに変更を加えます。ロック済バージョンの場合、合計を参照するすべての計算に影響します。アーカイブ済バージョンの場合、計算は保存されており、影響を受けません。

- 科目の階層がどのように機能するかを理解します。概念: 科目を参照してください。
- 必要な権限: "モデル管理" > "モデル"
- タスクに基づく追加の権限: モデル管理 > 前提条件およびモデル管理 > 構造のインポート。

総勘定元帳、カスタム、メトリック、前提条件科目に移動

ナビゲーション メニューから "モデリング" を選択します。"科目" メニューから、以下を選択します。

- 総勘定元帳科目
- カスタム科目
- メトリック科目
- 前提条件

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

モデルおよびキューブ科目に移動

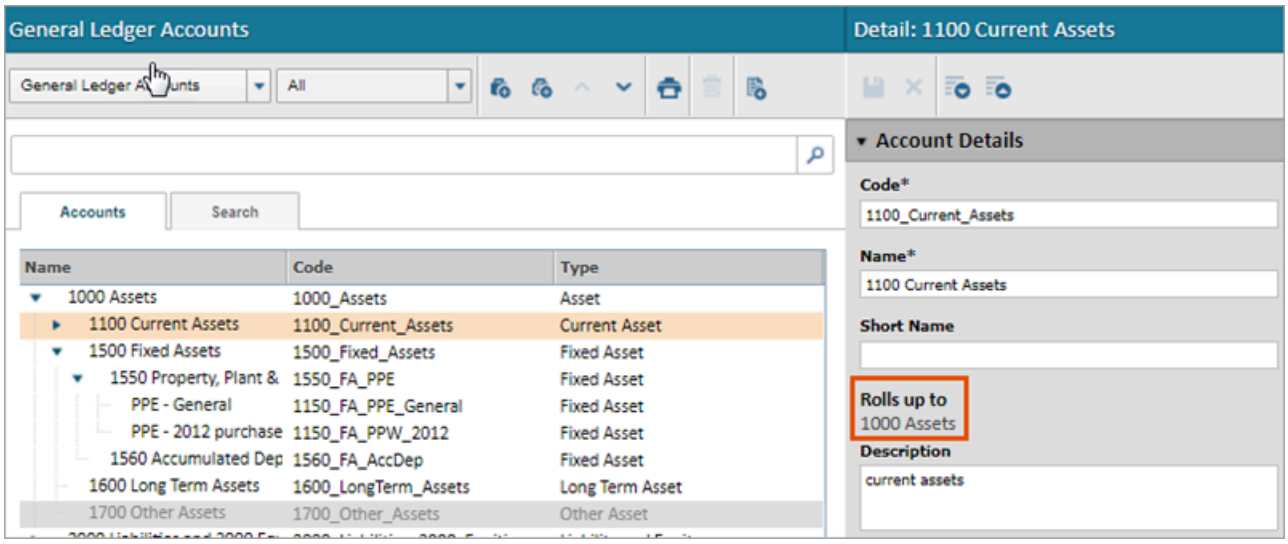
ナビゲーション メニューから "モデリング" をクリックします。"シート" メニューから、"組織割当シート" または "ユーザー割当シート" のいずれかをクリックします。キューブまたはモデル シートの横にある "編集" リンクをクリックします。"キューブ科目" リンクまたは "モデル科目" リンクを選択します。

科目リストの並べ替え
科目の順番を変更する場合、階層の同一組織内で科目を移動させることのみが可能です。

- 上下の矢印: 科目をハイライト表示し、上下のボタンをクリックすると、科目が移動します。
- カット アンド ペースト: 科目を選択し、右クリックして "切り取り" を選択します。次に、同じリストで別の子組織を選択し、右クリックして "貼り付け" を選択します。
- ドラッグ アンド ドロップ: 科目を選択します。"科目詳細" を表示した後、選択してホールドし、その科目を別の位置へドラッグします。その科目を新しいスポットにドロップします。

科目の親を再設定
科目の親を再設定する場合、科目を移動させてそれらを別の科目へ合計できるようにします。

科目の "ロール アップ 先" フィールドが読み取り専用の場合、親の再設定はできません。 参考: 組み込み総勘定元帳科目 ( 898ページ ) ):



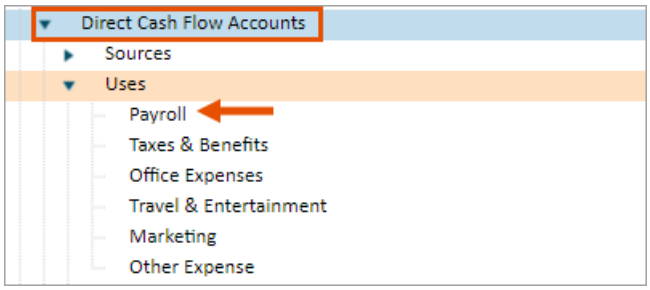

親の再設定のオプション
親の再設定方法を選択する前に、目的の合計に関する状態を検討してください。

| | |
|---|---|
| 既存の子科目を有している。<br><br>• 既存の子科目を有していない。<br>• そこにデータは一切保存されていない。<br>• 既存の子科目を有していない。<br>• そこにデータが保存されている。 | • カット アンド ペースト<br>• ドラッグ アンド ドロップ<br>• 科目設定の編集<br>一時的な子科目を作成し、"ロールアップ先" ドロップダウンに目的の合計が表示されるようにします。<br>• 目的の合計科目をその科目の兄弟にします。両方の科目を新しい合計に合計します。この方法を使用し、目的の合計に現在保存されているデータの移動を防ぎます。<br>• 別の子科目を作成し、目的の合計にデータを保持します。 |

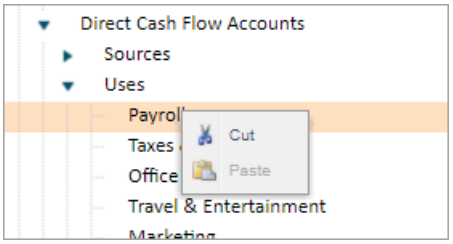
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

カット アンド ペースト

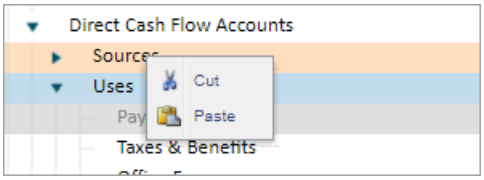
- 親の再設定を行う科目: 給与計算
- 目的の合計: 直接キャッシュ フロー
- 注: "直接キャッシュ フロー" には子科目があります。




1. リスト内の科目を選択します。
2. 右クリックして "切り取り" を選択します。

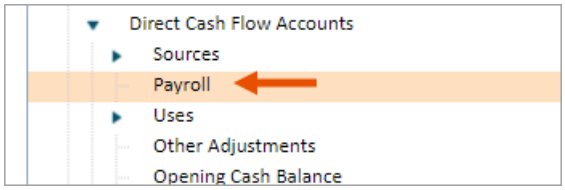



3. 目的の合計の子科目を選択します。この例では、"ソース" を選択しています。
4. 右クリックして "貼り付け" を選択します。



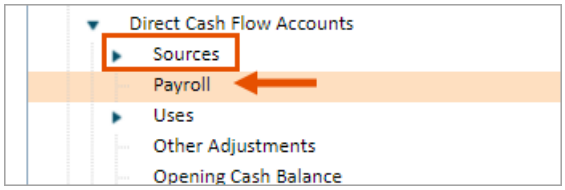

5. 警告メッセージが表示されます。"科目を移動" チェックボックスをオンにし、"保存" を選選択します。

科目は、ハイライト表示された科目の真下に移動します。




ドラッグ アンド ドロップ

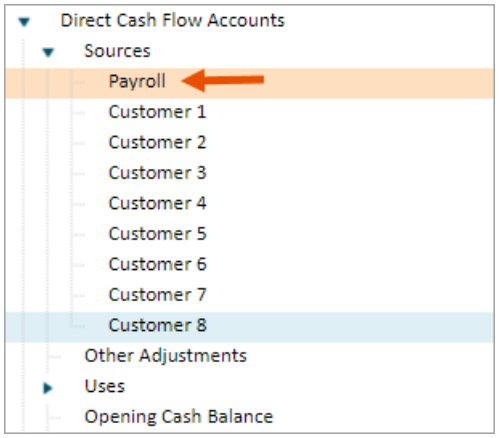
- 親の再設定を行う科目: 給与計算
- 目的の新しい合計科目: ソース
- 注: "ソース" には子科目があります。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

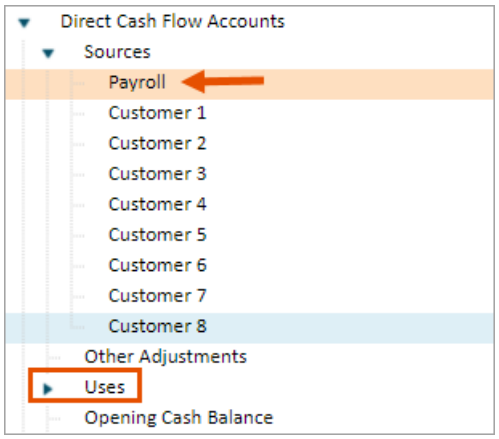
1. 目的の合計科目を展開します。
2. 親の再設定を行う科目を選択します。
3. "科目詳細" を表示した後、科目を選択してホールドしながらドラッグします。
4. 既存の子の上または下の新しいスポットで科目を解放し、ドロップします。
5. 警告メッセージにおいて、"科目を移動" チェックボックスをオンにし、"保存" を選択します。

科目は、それをドロップした場所に移動します。




科目設定の編集

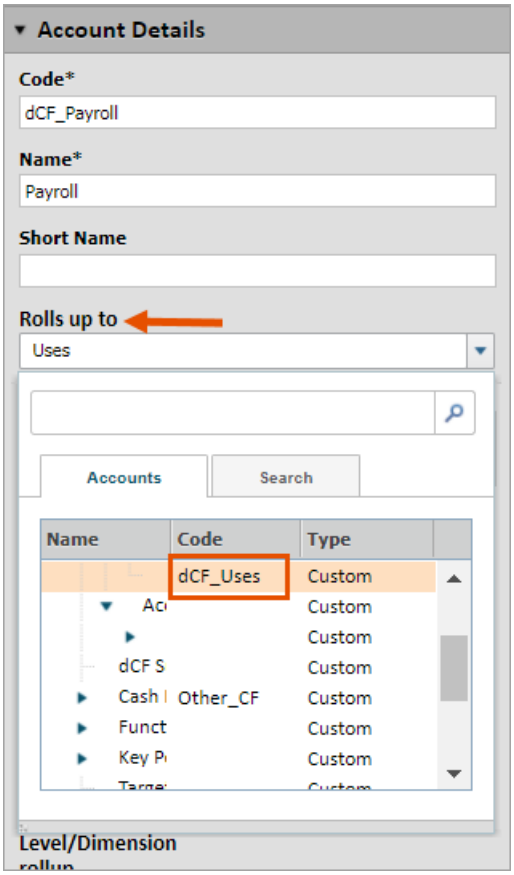
- 親の再設定を行う科目: 給与計算
- 目的の新しい合計科目: 用途
- 注: "用途" には子科目があります。



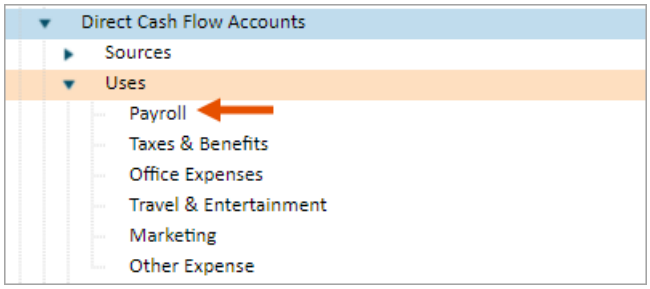

1. 親の再設定を行う科目を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "科目の詳細" パネルで "ロールアップ先" ドロップダウンから新しい合計科目またはグループを選択します。



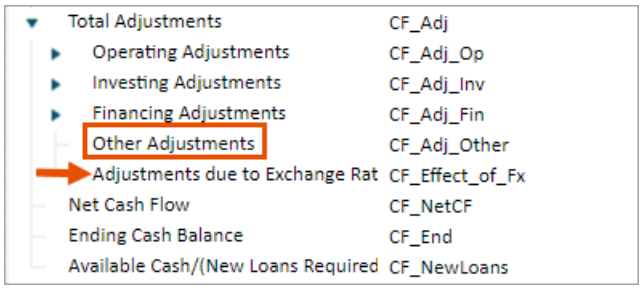

科目は、選択した合計科目の下に移動します。



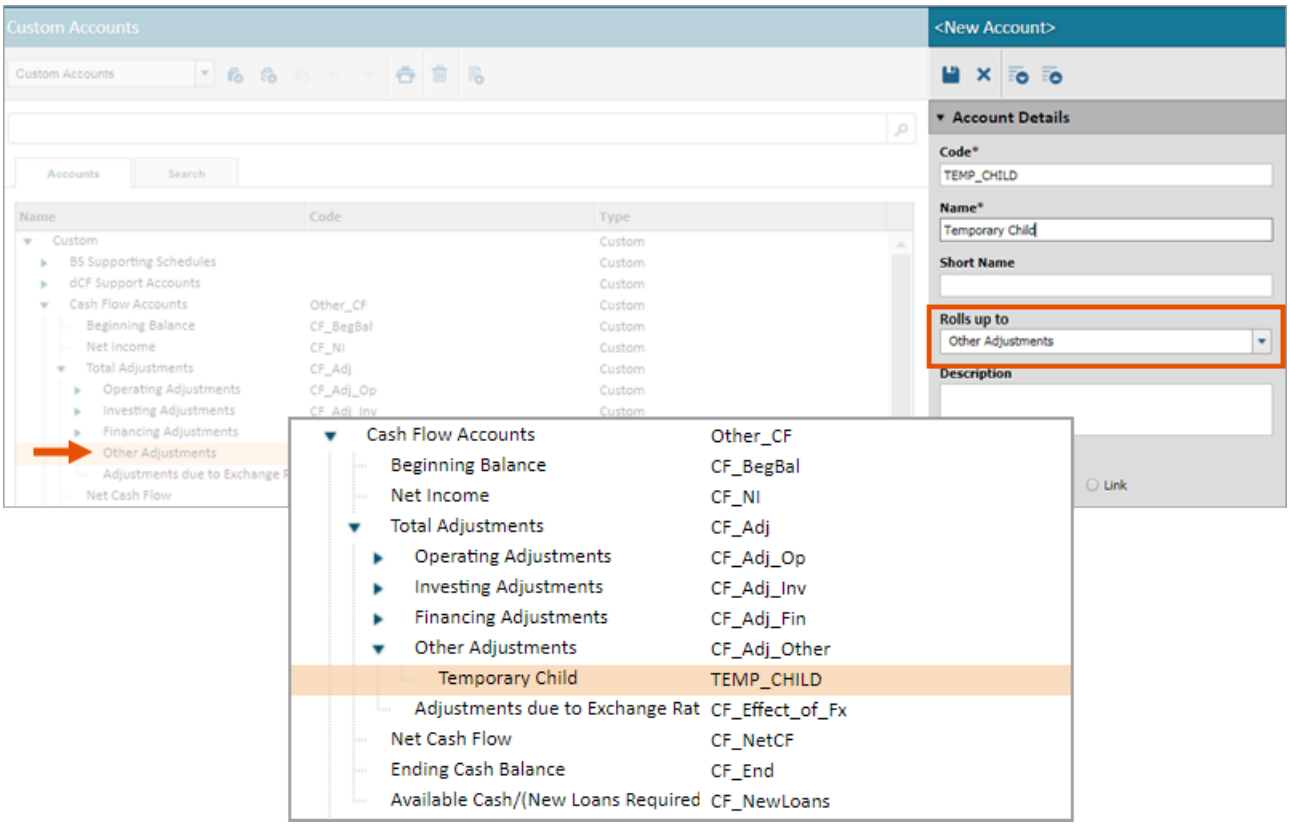

一時的な子科目の作成
目的の合計科目の一時的な子科目を作成します。すると、目的の合計は "ロールアップ先" ドロップダウンに表示されます。

- 親の再設定を行う科目: 為替レートによる調整
- 目的の新しい合計科目: その他の調整
- 注: "その他の調整" に子科目はありません。そのため、"ロールアップ先" ドロップダウンには表示されません。科目にもデータはないため、一時的な子によってデータは削除されません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

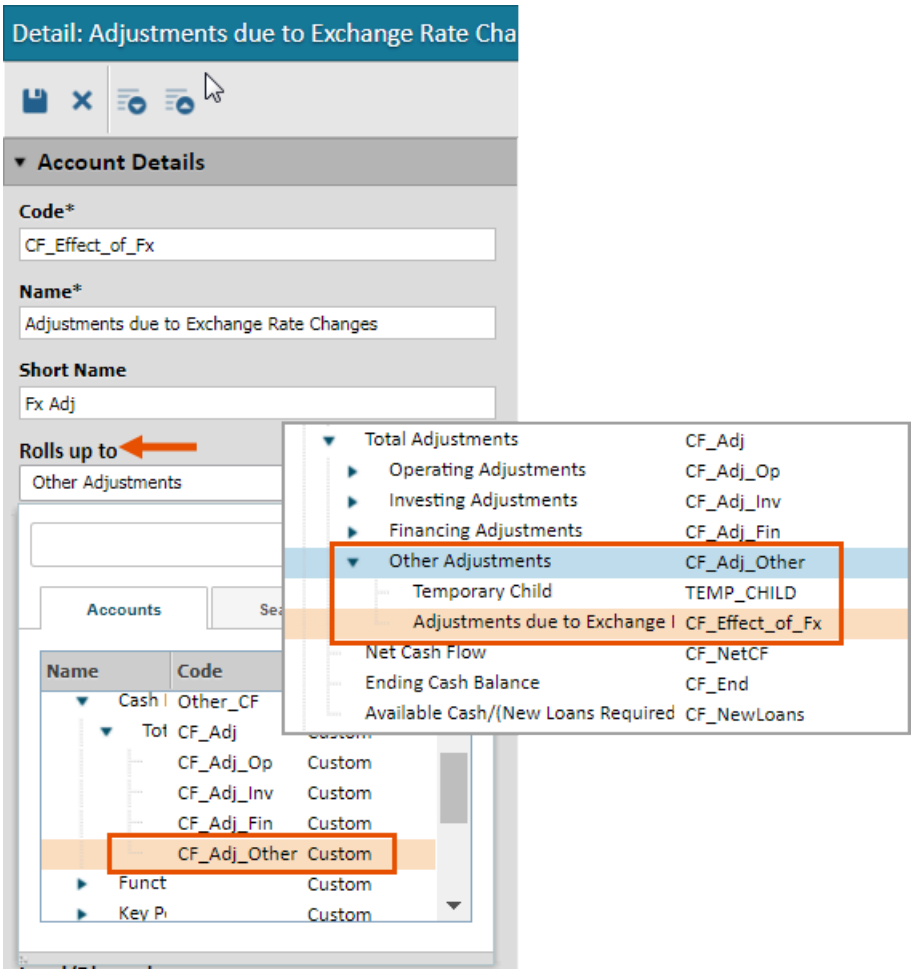



1. 一時的な子科目を追加する: 目的の合計科目を選択し、"新規科目を作成" を選択して一時的な子科目を作成します。それを保存します。



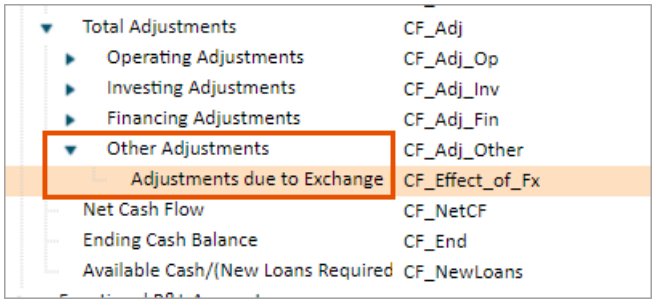

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 合計科目を変更する: 親の再設定を行いたい科目を選択します。"その他の調整" は子科目を持つようになり、それは "ロールアップ先" ドロップダウンから選択できます。目的の合計科目を選択し、保存します。




3. 一時的な子科目を削除する: 作成した一時的な子科目をハイライト表示し、ツールバーで "削除" をクリックします。

合計科目には、親の再設定を行った科目のデータが表示されます。

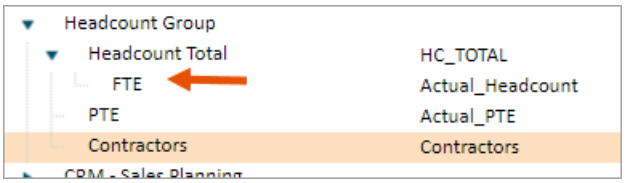



別の子科目の作成

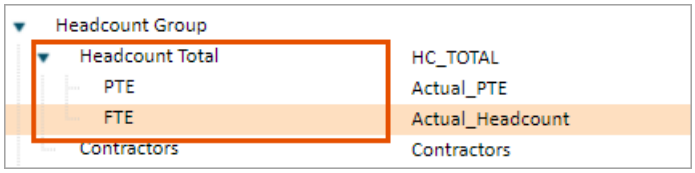
- 親の再設定を行う科目: PTE (非常勤の従業員)
- 目的の合計: 人員
- 注: "人員" は過去のデータと現在のデータがあります。"人員" には子科目がありません。子科目を作成する場合、人員からのデータは子科目へロールダウンされます。この方法では、データを失うことなく移動できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. 子科目を目的の合計科目に追加する: 合計科目を選択し、ツールバーで "新規科目を作成" をクリックして新しい子科目を作成します。それを保存します。目的の合計からのデータはこの科目に移動します。




2. 合計科目を変更する: 親の再設定を行いたい科目を選択し、"ロールアップ先" ドロップダウンから目的の合計科目を選択します。 保存します。



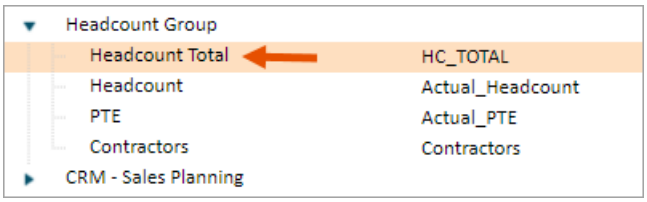

目的の合計科目は、新しい子科目と親の再設定を行った科目の合計を保持します。

目的の合計を子科目にする

- 親の再設定を行う科目: PTE (非常勤の従業員)
- 目的の合計: 人員
- 注: "人員" はデータを持っていますが、子科目は持っていません。この方法は、元の科目のデータを保持します。

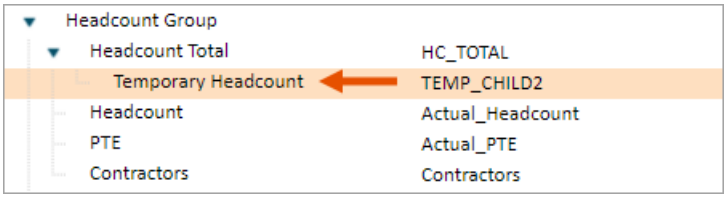
1. 新しい合計科目を追加する: 目的の合計の合計科目を選択します。

2. "新規科目を作成" をクリックし、詳細を入力し、科目を保存します。この科目は目的の合計に向けた新しい合計科目であり、また、親の再設定を望んだ科目です。任意: その名前を変更して、現在は合計であることを示します。注: 新しい合計にはこの時点でデータがありません。



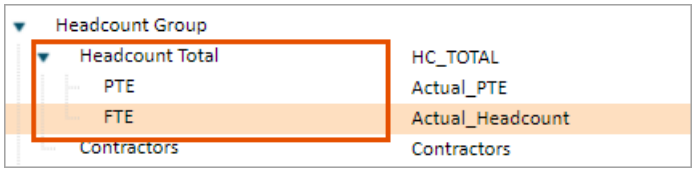

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 一時的な子科目を追加する: 新しい合計科目を選択し、"新規科目を作成" を選択して一時的な子科目を作成します。それを保存します。




4. 元の科目の親の再設定を行う: 一時的な子科目の上の、親の再設定を行いたい科目をカット アンド ペーストまたはドラッグ アンド ドロップします。任意: 目的を明確にするために名前を変更します。合計は合計を保持します。元の科目はまだデータを保持しています。
5. 目的の合計科目の親の再設定を行う: 目的の合計をカット アンド ペーストまたはドラッグ アンド ドロップし、それを新しい合計の子にします。この合計は両方の子科目を合計します。子科目はまだデータを保持しています。
6. 一時的な科目を削除する: 一時的な子科目を選択し、"削除" をクリックします。

新しい合計科目には、目的の合計および親の再設定が行われた科目の合計が含まれており、効率的に合計が組み合わされています。この例において、"人員" は "人員 (合計)" と区別するために名前が "FTE" に変更されています。




科目の削除

始める前に

- ロック済バージョンを含む履歴バージョンにデータを保存するには、科目を削除する前にエクスポートします。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

科目を削除すると、操作を元に戻すことはできません。また、すべてのバージョンの科目に関連するすべてのデータが削除されます。データの削除に関する例外の 1 つが、科目の唯一の子科目を削除する場合です。この場合、データは削除されません。代わりに、子科目のデータが親科目に移動します。

科目を削除すると、以下のようになります。

- すべての子科目と子科目のデータを削除します。
- すべての科目の分割が削除されます。
- 変更履歴データが削除されます。
- 科目マッピングが削除されます。
- アーカイブされたバージョンを除き、科目を参照する数式が機能しなくなります。

一部の総勘定元帳科目は削除できません。参照 参考: 組み込み総勘定元帳科目 ( 898ページ )。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 以下の科目階層をクリックします。
    - 総勘定元帳科目
    - メトリック科目
    - カスタム科目
    - 前提条件
    - キューブ科目およびモデル科目へのアクセス方法:
        a. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
        b. キューブまたはモデル シートの横にある "編集" をクリックします。
        c. "キューブ科目" または "モデル科目"をクリックします。
3. 階層リストで、削除する科目をハイライト表示します。
4. "科目詳細" セクションの "依存関係を表示 " リンクをクリックします。
   "依存関係を表示" リンクをクリックすると、複数のタブを含むウィンドウが開きます。各タブには、モデルが科目を使用および参照する場所が表示されます。例: 科目を参照する共有数式。タブを使用することで、科目を削除する前にこれらの領域を解決できます。
5. ごみ箱アイコンをクリックします。

タスクの結果

科目に応じて、以下のようになります。

- 子科目の場合、子科目は自動的に削除される。
- 兄弟科目がない場合、データは親科目に自動的に移動します。
- 兄弟科目の場合、ロック済およびアーカイブ済みのバージョンであっても、科目とすべてのデータが削除される。

relatedlinks
概念
概念: 科目（887ページ）
タスク
属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）
科目の作成（863ページ）
参考
参考: 組み込み総勘定元帳科目（898ページ）

例: モデル概要での科目の使用状況の検索

この例では、"モデル概要" を検索して科目を使用するシートを検索する方法を説明します。

このタスクについて

Adaptive Planning を初めて使用するユーザーが、"サービス収益" という科目を管理する必要があるとします。ユーザーは、以下について確認する必要があります。

- シート内でその科目がどこに位置するか。
- "科目" の管理ページでその科目がどこに位置するか (設定を変更するため)。
- その科目と、数式またはリンクによる他の科目との関係性

始める前に

セキュリティ:

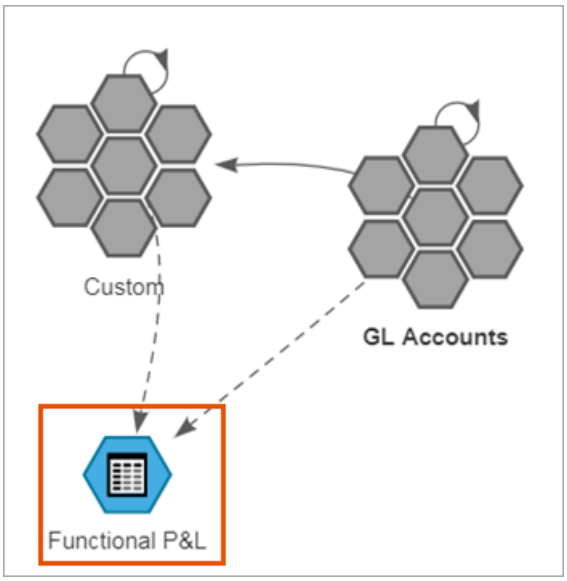
- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル概要" を選択します。
2. ツールバーのプロンプトから、バージョンと、アクセス可能な最上位組織を選択します。
3. 検索フィールドに「サービス収益」と入力します。
4. 検索結果から "サービス収益" を選択して、モデル概要をフィルタリングします。

   概要に "Functional P&L" シートが表示されます。"シート" > "Functional P&L" に移動してして、その科目のデータをレビューできます。"サービス収益" 科目に関連する以下のグラフィックのみが表示されます。




5. 科目のパスを表示するには、検索結果の "サービス収益" の "場所" 列にマウスを合わせます。

   このパスは、"サービス収益" がカスタム科目であることを示しています。パスをメモします ("カスタム" > "Functional P&L Accounts" > "収益")。
6. カスタム科目のクラスタ グラフィックをダブルクリックします。
7. "カスタム管理" リンクを選択します。

   "カスタム科目管理" が新しいタブで開きます。
8. パスをたどり ("Functional P&L Accounts" > "収益")、科目リストを "サービス収益" が見つかるまで展開します。
9. 科目設定を表示または編集するには、"サービス収益" を選択します。
10. "モデル概要" ブラウザ タブに戻ります。
11. 実線の矢印をダブルクリックします。

    科目クラスタ間の実線矢印は、リンクまたは数式を介した関係性を示します。クラスタ間のすべての参照がテーブルに表示されます。
12. テーブルで「サービス収益」を検索します。

    このテーブルは、サービス収益が "4200 サービス収益" という総勘定元帳科目を参照する数式を使用することを示します。 この参照は、総勘定元帳に入力されたデータがカスタム科目のデータを計算することを意味します。

    この数式は、科目のデフォルトの数式または共有数式である可能性があります。
13. "サービス収益" をクリックして科目の管理画面を開き、"デフォルトの数式" フィールドをオンにします。

    科目にデフォルトの数式がない場合は、メイン メニューから "数式" を選択し、ドロップダウン プロンプトから "サービス収益" を選択して共有数式を検索します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
概念
概念: 視覚的なモデル概要（1282ページ）
概念: リンク元科目（920ページ）
概念: シート
参考
参考: "モデル概要" キャンバスのアイコン（1285ページ）

概念: 科目

Adaptive Planning の科目は、実績または計画データをグループ化するコンテナです。例:

- 資産
- 費用
- 負債
- その他のビジネス メトリック

科目には主に数値と数式が含まれます。ユーザーは科目データを以下で参照できます。

- ダッシュボード グラフ
- Microsoft Excel Interface for Planning
- Microsoft OfficeConnect
- シート
- Web レポート

ユーザーは以下を使用して科目データを変更できます。

- API
- インテグレーション ローダ
- シート
- スプレッドシートのインポート

管理者として次のことが可能です。

- 新しい科目をさまざまな科目階層に作成する。
- 科目の設定を変更して、モデルでの科目の動作を変更する。
- 科目階層の構造を構成する。
- 一括変更を科目構造にインポートする。

Workforce Planning Configuration Manager によって作成された科目については、以下を実行できません。

- 科目コードの変更
- 科目特性値の名前の変更
- 科目特性値コードの変更
- 科目構造のインポート (名前とコードのマッピングが変更される場合)

科目階層

以下の階層は、モデル内のさまざまな科目階層です。

- 前提条件
- キューブ科目各キューブ シートには一意の科目階層があります。
- カスタム科目
- 総勘定元帳
- メトリック科目
- モデル科目各モデル シートには、一意の科目階層があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

計画モデルでは、科目を階層で編成します。親科目と、親科目にロールアップされる子科目があります。ルート科目には親がありません。ルート科目は階層の最上位になります。最下位科目には子科目がありません。最下位科目は階層内の最下位になります。

### ルート科目

- ルート科目を削除または作成することはできません。
- 総勘定元帳のルート科目は合計科目のように機能し、子孫科目の集計を保持します。
- カスタム、メトリック、前提条件のルート科目は、科目グループのように機能します。これらのルートはデータを保持しません。数式でこれらのルートを参照することもできません。

### 科目グループ

科目グループは、科目を含むフォルダのような編成ツールで、合計を集計しません。グループを使用して、数式の作成、シートの作成、レポートとグラフの設計時に科目を検索しやすくします。総勘定元帳科目とモデル科目を除くすべての科目タイプのグループを作成できます。

### 合計科目

合計科目は、子科目の合計を集計した親科目です。合計科目は値を表示しますが、それ自体の値を保持することはできません。総勘定元帳、カスタム、前提条件、キューブ科目には合計科目があります。メトリック科目とモデル科目には合計科目がありません。

### メトリック科目と算出科目の合計

- 算出された総勘定元帳科目またはカスタム科目としての売上総利益: この数式は、売上総利益を各組織の収益で除算します。合計科目は、各組織の合計の商を合計します。
- メトリック科目による売上総利益: 各レベルの売上総利益が合計レベルで合計されます。各組織の収益も合計組織で合計されます。その後、計算が実行されます。メトリック数式では、売上総利益が合計収益で除算されます。

| | |
|---|---|
| メトリック科目および属性特性 | メトリック科目の数式のすべての引数は、属性特性によってフィルタリングされます。想定された数値ではなくゼロが表示される場合は、特性のフィルタを削除できます。 |

### システム科目

- 総勘定元帳およびカスタム科目の階層にのみ存在できます。
- 標準シートにのみ存在できます。
- シートまたはその他の方法を使用して変更できないデータを保持します。
- シートで管理していない配賦先科目および配賦元科目に最適です。

セルまたは科目の数式において、キューブ シートのシステム科目を参照することはお勧めしません。
FAQ: キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？（904ページ）

### 科目設定

科目設定は、科目の動作、表示、データに影響します。科目のタイプに応じて最大 27 の設定を表示できます。設定では次のことができます:

- 科目の値をフローまたはストックとして定義します。
- 時間およびその他の属性に基づき、データがどのようにロール アップされ、合計されるのかを指定します。
- 加重平均換算を使用する科目を作成します。
- プライバシー設定でデータを保護します。
- 多面性を維持するために、キューブ科目またはモデル科目に科目をリンクさせます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 内部取引科目を作成します。
- 計画バージョンで実績データを表示します。
- 配賦用のシステム科目を作成します。
- 入力された数式を使用して値を計算します。オプションとして、特定のバージョンにオーバーライド数式を追加します。

組み込み総勘定元帳科目の一部の設定は変更できません。

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目（920ページ）
概念: 算出科目（889ページ）
概念: キューブ入力科目（891ページ）
概念: 内部取引科目および相殺消去ルール（891ページ）
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
科目構造の再編成（876ページ）
タスク
科目の作成（863ページ）
科目のインポートおよびエクスポート（867ページ）
科目へのリンクの追加（908ページ）
科目の削除（884ページ）
参考
FAQ: 科目の基本（900ページ）
FAQ: リンクされた科目と数式（924ページ）
FAQ: 親科目と合計科目（902ページ）
参考: 組み込み総勘定元帳科目（898ページ）
参考: 科目グループの設定（958ページ）
参考: 前提条件科目の設定（948ページ）
参考: キューブ標準科目の設定（953ページ）
参考: キューブ入力科目の設定（968ページ）
参考: カスタム科目の設定（959ページ）
参考: 総勘定元帳科目の設定（941ページ）
参考: メトリック科目の設定（966ページ）

## 概念: 算出科目

算出科目は、数式を持つ科目です。科目に数式がある場合、数式は科目のデータを計算します。算出科目は自動化されたデータ入力方法であり、データ入力の代わりとして使用できます。

次の目的で科目数式を使用します。

- 自分のチームによる科目データの入力や変更を防止するため。
- 新しい組織およびバージョンを対象としたメンテナンスを削減するため。すべての組織とバージョンにおいて科目では同じ数式が使用されます。
- バージョン間の整合性を確保するため。
- ユーザー エラーを回避するため。

### サポートされている科目

以下のタイプの科目にデフォルトの数式を追加できます。

- 総勘定元帳科目
- カスタム科目

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- キューブ入力総勘定元帳科目とキューブ入力カスタム科目

  注：すでにキューブ シートに総勘定元帳科目を追加している場合、キューブ シート ビルダーの科目設定から数式を追加する必要があります。

以下のタイプの科目には数式を追加する必要があります。

- メトリック科目。数式が必要です。
- キューブ算出科目。数式が必要です。
- モデル算出科目。数式が必要です。

数式オーバーライド
数式オーバーライドを使用すると、管理者は特定のバージョンのデフォルトの数式を変更できます。以下の場合に数式オーバーライドを使用します。

- 一部のバージョンで、科目に対して違う計算が必要になった場合
- 他のバージョンで計算したデータを保護するため。

バージョンをロックすると、算出科目の既存の数式は、ロック済みバージョンのオーバーライド数式になります。これにより、ロック済みバージョンのデータに影響を与えずに他のバージョンの数式を更新することができます。

注：科目の "バージョン固有の数式設定を無効化" により、ロック済みバージョンの自動保護が削除されます。この設定は、アーカイブ済バージョンには影響しません。

データ入力オーバーライド
データ入力オーバーライドを使用すると、特定のバージョンでのデータ入力またはインポートができます。

データ入力により下記を実施できます。

- シートの手動データ入力用科目のロックの解除
- 特定のバージョンへの、実績などの履歴データのインポート
- ロック済みバージョンの保護

データ入力のオプションは、以下には使用できません。

- マージされたキューブ シート
- モデル科目
- メトリック科目

科目設定に数式が存在する場合、同じ科目に共有数式を追加することはできません。この制限は、データ入力オーバーライドを追加する場合にも適用されます。

数式および数式オーバーライドの追加
下記の方法により、数式とオーバーライドを追加または変更します。

- 科目設定を更新する。
- "モデリング > 科目"から数式オーバーライド テンプレートをインポートする。

共有数式と算出科目の比較

| 共有数式 | 算出科目 |
| --- | --- |
| この数式は、特定のバージョンと組織の組み合わせで機能します。 | この数式はすべての組織とバージョンで機能します。管理者は、特定のバージョンのオーバーライド数式を作成するオプションを使用できます。 |
| エンド ユーザーは、引き続きシート ビューからデータを入力したり、数式を変更したりできます。 | シート内の計算データは読み取り専用です。管理者は、特定のバージョンのデータ入力オーバーライドを作成するオプションを使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
タスク
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
科目のインポートおよびエクスポート（867ページ）

概念: キューブ入力科目

キューブ入力科目は、総勘定元帳科目またはカスタム科目リストから、データ入力または表示のためにキューブ シートに追加された科目です。"データ入力シート タイプ" の科目設定で "キューブ" を選択したら、キューブ シートを編集して、総勘定元帳とカスタム科目をキューブ科目の階層に追加します。

キューブ入力科目のユースケース
総勘定元帳科目とカスタム科目をキューブ シートに追加すると、損益計算書に標準シートではなくキューブ シートを使用できます。これにより、総勘定元帳科目やカスタム科目をカスタム属性で計画し、特性でフィルタリングできます。また、総勘定元帳もそのまま維持できます。

キューブ入力科目の特性と制限事項

- キューブ入力科目は、1 つのキューブ シートと多数の標準シートに追加できます。
- 標準シートでは、キューブ入力科目は表示専用です。キューブ シートでは、チームがその科目のデータを入力します。
- デフォルトでは、キューブ入力科目は、キューブのルートにロールアップされません。ルートを削除することで、自由に科目を連結できます。
- キューブ入力科目に数式またはリンクを追加するには、科目をキューブ シートに追加してから数式を追加する必要があります。
- 一部の設定は、総勘定元帳科目またはカスタム科目の階層から変更できます。それ以外の設定は、キューブ シート科目の階層から使用できます。

次の操作は実行できません。

- マージされたキューブ シートへのキューブ入力科目の追加。
- 連結を含む相殺消去ルールでのキューブ入力科目の使用。
- 加重平均換算設定の追加。これは、"データ入力シート タイプ" 設定を "キューブ" に変更した後には設定に表示されません。

relatedlinks
タスク
キューブ シートへの総勘定元帳科目およびカスタム科目の追加（1094ページ）
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）
参考
参考: キューブ入力科目の設定（968ページ）
参考: カスタム科目の設定（959ページ）
参考: 総勘定元帳科目の設定（941ページ）

概念: 内部取引科目および相殺消去ルール

以下の場合にのみ、科目を内部取引科目としてタグ付けできます。

- 連結ソリューションを導入したインスタンス
- 総勘定元帳科目
- 最下位組織科目
- "タイプ" の設定が "フロー" または "ストック" の科目
- "データ入力シート タイプ" 設定が "標準" の科目

分割相殺消去法については、次のようにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 総勘定元帳の任意の借方科目および貸方科目を、内部取引科目としてタグ付けできます。例: 1 つの内部取引貸方科目と 3 つの内部取引借方科目を相殺消去ルールにタグ付けします。
- 差額科目には分割を追加できないため、差額科目でストックをタグ付けすることはできません。

特性の相殺消去法では、考えられるすべての取引先ペアごとに借方と貸方の科目ペアをタグ付けできます。

例: A 社、B 社、C 社、D 社が取引先の場合、特性の相殺消去法を使用するには、以下の 24 つの科目をタグ付けする必要があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| B から A への貸方 | A から B への貸方 | A から C への貸方 | A から D への貸方 |
| C から A への貸方 | C から B への貸方 | B から C への貸方 | B から D への貸方 |
| D から A への貸方 | D から B への貸方 | D から C への貸方 | C から D への貸方 |
| A から B への借方 | B から A への借方 | C から A への借方 | D から A への借方 |
| A から C への借方 | B から C への借方 | C から B への借方 | D から B への借方 |
| A から D への借方 | B から D への借方 | C から D への借方 | D から C への借方 |

内部取引科目のペアを相殺消去ルールで機能させるには、調整科目も必要です。調整科目は、貸方と借方のペア間の差額を保存します。相殺消去ルールの場合、調整科目は相殺消去ルールに追加するシステム科目である必要があります。

例: 米国に対する EU の債務は 100 ドルであるのに対し、EU からの米国の債権が 105 ドルである場合、相殺消去ルールにより、差額がシステム科目に移動します。

relatedlinks
タスク
内部取引科目の設定（874ページ）

概念: 科目グループ

科目グループはフォルダのように、合計を計算せずに科目リスト内の科目を含める組織ツールです。

グループを使用して、数式の作成、シートの作成、レポートとグラフの設計時に科目を検索しやすくします。科目グループは、科目にはロールアップできませんが、別のグループ、または前提条件科目、カスタム科目、メトリック科目のルートにロールアップできます。

グループは、総勘定元帳科目を除くすべての科目において利用できます。

グループの特定

グループと合計科目を両方とも展開し、子科目を表示します。違いを見分けるには、"科目詳細" ペインにアクセスします。グループにはタイプやその他の多くのフィールドがありません。例:

- "売掛金" は、わずかなフィールドしかないため、グループです。
- "1 日あたりの平均使用量" は、数式で使用できる値を保持することを示すタイプがあるため、合計科目です。

ヒント： グループと合計を区別するために、グループの " 名前" に "グループ" を追加します。例: "買掛金グループ"

折り畳まれているシートの場合は、以下のように見分けます。

- グループにはデータが表示されません。
- 合計科目には合計が表示されます。

フォーミュラ アシスタントではリストに科目グループが表示されますが、それらは数式では使用できません。代わりに、科目グループを展開し、その範囲内で編成されている科目を表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

科目グループの削除

重要： グループを削除すると、グループの子科目とそのすべてのデータが削除されます。

relatedlinks
タスク
科目のインポートおよびエクスポート（867ページ）
参考
参考: 科目グループの設定（958ページ）

概念: 科目のタイプ設定

メトリック科目を除き、Adaptive Planning のすべての科目には "タイプ" が設定されていますが、常に変更できるわけではありません。どのタイプを選択するかは、追跡中のデータの種類によって決まります。タイプの設定によって以下が変更されます。

- 使用可能な時間合計オプション
- チームによるシート内の科目データの入力方法
- シートでのデータの表示方法

総勘定元帳科目の場合、"タイプ" 設定には科目ファミリーが含まれ、その後にかっこで囲まれたタイプが続きます。例: 流動資産の子科目の "タイプ" には "流動資産 (ストック)" と表示されます。

科目タイプ設定の変更

この設定は、"モデリング" 領域の "科目詳細" で行うことができます。次のものから選択できます。

- フロー: 値はその期間の正味です。
- ストック: 値は経過残高です。
- リンク: 値は他のモデル科目またはキューブ科目から取得されます。

別の科目にロールアップされる科目には、読み取り専用の科目の "タイプ" 設定があります。合計科目を変更するか、合計科目の "タイプ" を変更することで、科目の "タイプ" を変更できます。

変更できない科目タイプ設定

- 前提条件、キューブおよびモデルの前提条件。これらの科目は常にフローです。
- 組み込み総勘定元帳科目
- メトリック科目およびキューブ メトリック科目

関連設定

これらの設定を選択すると、科目はフローまたはストックのいずれかのままになります。

- リンク: 科目の値は、モデルまたはキューブ科目から得られます。
- スプレッド: 別の科目からの値は、この科目の期間全体に分散されます。このオプションは、モデル シートの算出科目においてのみ利用できます。これは通常、収益認識および資産の減価償却に使用されます。

常にフローまたはストックである科目
以下の科目は常にフローです。

- 前提条件科目
- キューブおよびモデルの前提条件科目
- モデルに組み込まれている一部の総勘定元帳科目

常にストックである科目には、以下が含まれます。

- モデル シートの初期の残高科目
- モデルに組み込まれている一部の総勘定元帳科目

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

時間合計および科目タイプ
時間合計とは、一定期間の科目の値を表します。例: 四半期の合計は四半期のすべての月の値を表しています。時間合計は、カレンダーの設定に基づきます。最も一般的な設定は "月"、"四半期"、"年" です。

合計方法とは、科目での時間の合計値の表示方法を決定する科目設定です。

合計オプションには、以下の 4 つがあります。

- ロールアップした値の合計 (フローのみ)
- 最新期間の値 (ストックのみ)
- ロールアップした値の平均
- ロールアップした値の加重平均

総勘定元帳科目には時間合計のオプションがありません。総勘定元帳科目の場合、フロー タイプは常に "ロールアップした値の合計" を、またストック タイプは常に "最新期間の値" を使用します。

シート上のフロー科目のデータ
フロー科目の場合、所与の期間値は、その期間の正味アクティビティに等しくなります。

例: 収益科目の場合は、以下の通りです。

- チームは各期間の値を入力します。
- 期間の間の値は無関係です。
- 第 1 四半期の合計はその四半期の値を合計します。

| 科目 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | Q1 |
|---|---|---|---|---|
| 収益 | 100 | 50 | 400 | 550 |

シート上のストック科目のデータ
ストック科目は実行中の残高を維持します。各セルに表示される値は、期間の終了時の値です。

例: 小口現金科目はその前の期間から増加しているか減少しているかにかかわらず、時間経過で累積します。

シート内の場合は、以下の通りです。

- 期間ごとに表示される値は、前の期間の値とその増減です。
- ストック科目の値は既にそのまま合計されているため、時間の合計は最新期間の値です。

| 科目 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | Q1 |
|---|---|---|---|---|
| 小口現金 | 100 | 150 | 550 | 550 |

ストック科目には、シートでのデータの表示方法を設定する追加設定があります。

- 残高
- 差額

計画バージョンと実績バージョンには異なるオプションを選択できます。例: "累積タイプ" で "差額" を選択すると、計画バージョンのシートに各期間の差額を入力できます。シートは累計を計算します。"実績タイプ" で "残高" を選択すると、各期間の残高を表示するソースから実績データをアップロードできます。

ストック科目に "残高" を選択した場合、シートの操作はフロー科目に似ています。

- 期間ごとに経過残高を入力します。
- データのない期間は空白になります。

ストック科目に "差額" を選択した場合、以下の 2 つの方法でシートにデータを入力できます。

- 数式バーに差異を入力します。
- 経過残高をセルに入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

データの入力方法に関係なく、セルには常に経過残高が表示されます。

以下の場合に、シートから科目が "差額" であることを確認できます。

- 実行中の残高が事前に入力された将来の期間
- 数式バーに "前年の増分" が表示されます。

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目（920ページ）
タスク
科目構造の再編成（876ページ）

概念: 残高タイプと相対科目

"残高タイプ" は、総勘定元帳科目の科目設定です。この設定は、科目が貸方または借方のどちらであるかを示します。 総勘定元帳では、ルート科目の残高タイプは一般会計原則に従います。

ルート総勘定元帳の残高タイプ

総勘定元帳のルート科目の残高タイプは変更できません。

残高タイプの変更

ルート科目にロールアップする科目の残高タイプを変更できます。例: 経費は借方科目です。残高タイプが貸方の子科目を作成できます。

ルート科目と異なる残高タイプの科目を、相対科目と呼びます。

相対科目と合計計算

ほとんどの親科目は、子孫科目を合計したものを合計として集計します。例: 経費に、それぞれ 50 の値を持つ 3 つの子孫科目があります。経費の合計値は 150 で、これは 3 つの子孫の合計です。

相対科目の子孫によって、合計値が減ります。例: 経費に 3 つの子孫があり、それぞれの値は 50 です。子孫の 1 つが相対科目です。合計値は 50 です。

相対科目の利点

相対科目を使用すると、標準的な会計基準に合わせやすくなり、シートへのデータ入力が簡素化されます。合計値を減少させる場合でも、相対科目に正の整数を入力できます。

例: 資材費合計は、以下の 2 つの子科目を持つ借方科目です。

- 資材費 (借方)
- 資材割引 (貸方)

資材割引は、資材費合計の合計値を差し引く相対科目です。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 資材費合計 | | 50 | -50 | 100 |
| | 資材費 | 100 | 50 | 50 |
| | 資材割引 (貸方-相対) | 50 | 100 | -50 |

相対科目の識別

- モデリング: 科目設定の "残高タイプ" セクションで、"これは相対科目です" を探します。
- 科目構造のエクスポート: "相対" 列で "はい" を探します。
- シート、セルを探索、Excel Interface for Planning、レポート: 半分が塗りつぶされた円のアイコンを探します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- OfficeConnect: レポートに相対科目を示すラベルを追加できます。リフレッシュすると、ラベルに半分が塗りつぶされた円のアイコンが追加されます。
- 科目が行にある場合のシートのダウンロード: "相対科目" 列で "はい" を探します。
- 科目が列にある場合のシートのダウンロード: "相対科目" 行で "はい" を探します。
- ダッシュボード: グラフの科目にカーソルを合わせます。

相対科目の制限事項

- 以下の残高タイプは変更できません。
  - 組み込みのルート科目
  - 総勘定元帳階層のシステム科目
  - 為替換算調整勘定科目
  - 仕訳入力のある科目
- 相対科目は、総勘定元帳科目とキューブ入力総勘定元帳科目でのみ使用できます。

相対科目への変更

科目を相対科目に変更するには、以下を使用できます。

- 総勘定元帳科目の管理の科目設定
- 総勘定元帳科目の管理のスプレッドシート インポート
- インテグレーション Planning 科目ローダ
- updateAccounts API

下流への影響
ルートの相対科目を作成した場合、合計のデータが変更されます。合計データが変更されないようにするには、科目データをエクスポートします。正しい符号で相対科目を作成してから、再ロードします。合計値をチェックして、データが正しいことを確認します。

ダッシュボードで、ウォーターフォール グラフをメトリック別に分類すると、グラフに相対科目の差異の逆数が表示されます。

OfficeConnect の場合:

- 2 つ以上の相対科目をカスタム交差部分に適用すると、レポートは相対科目の合計を正の整数として返します。
- 通常の科目と相対科目を組み合わせて適用すると、レポートは通常の科目の合計から相対科目の合計を差し引いた値を返します。

マトリクス レポート用の Web レポートの場合:

- 2 つ以上の相対科目をフィルタに適用すると、フィルタは相対科目の値を正の整数として合計します。
- 通常の科目と相対科目を組み合わせて適用すると、フィルタは通常の科目の合計から相対科目の合計を減算します。

Web レポート用の数式計算では、デフォルトの Rollup 関数は次のように動作します。

- 2 つ以上の相対科目がある場合、数式は相対科目の合計を正の整数として返します。
- 相対科目と通常科目が混在する 2 つ以上の科目がある場合、数式は、通常科目の合計から相対科目の合計を差し引いた値を返します。

relatedlinks
タスク
Planning データ ローダの作成
参考
参考: 総勘定元帳科目の設定（941ページ）
参考: レポートのラベル タイプと値

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考: セルの色および表記の凡例
参考: 組み込み総勘定元帳科目（898ページ）

概念: 科目のデータ プライバシー設定

"データ プライバシー設定" は、 組織間で数式の科目値を参照する方法を制御します。この設定は、アクセス権のないデータを参照する数式をユーザーが作成できないようにする 1 つの方法です。例: "営業" 組織でデータを入力するユーザーは、"財務" 組織の給与科目値を参照できるようにしますか？

"データ プライバシー設定"には以下の 3 つのオプションがあります。

- 科目の値は非公開
- 科目の値は全社単位でのみ公開されます。
- 科目の値はすべての組織で公開

下の例では、組織の階層は次のようになります。

- 本社
  - 人事
  - Sales
    - 北アメリカ
    - 南アメリカ
  - R&D
    - リサーチ
    - 開発

科目の値は非公開

このオプションは、すべての科目のデフォルトになります。このオプションを選択すると、ユーザーは同じ組織または子組織の科目を参照できます。このオプションは、機密性の高いデータを含み、最大限の保護を必要とする科目に最適です。

例: ユーザーは ″科目の値は非公開″ オプションを 持つ "Act.1" を参照する "営業" 組織です。

| 数式セグメント | 有効期間 |
|---|---|
| Acct.1(level=This) | 数式は "この組織 (営業部門)" を参照するため有効です。 |
| Acct.1(level=North_America) | 数式は "営業" の子組織である "北米" 組織を参照するため有効です。 |
| Acct.1(level=HR) | HR は営業の子ではないため、無効です。HR または本社組織で数式セグメントを作成することができます。 |
| Acct.1(level=Research) | Research は Sales の子ではないため、無効です。数式セグメントは、本社、R&D、または研究組織で作成できます。 |

科目の値は全社単位でのみ公開

このオプションを選択すると、以下の科目の値を参照できます。

- 組織が同じ。
- 子組織。
- 最上位組織。すべての組織の科目の合計値を提供します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

このオプションは、合計値ではなく詳細のプライバシーが必要な科目に最適です。このオプションはアクセス ルールをオーバーライドするため、最上位組織への組織アクセス権を持っていないユーザーでも数式の値を参照できます。

例: ユーザーは " 値は最上位組織のみで公開″ オプションを持つ "Act.2" を参照する "営業" 組織にいます。

| 数式セグメント | 有効期間 |
|---|---|
| Acct.2(level=This) | 数式は "この組織 (営業部門)" を参照するため有効です。 |
| Acct.2(level=North_America) | 数式は "営業" の子組織である "北米" 組織を参照するため有効です。 |
| Acct.2(level=HR) | HR は営業の子ではないため、無効です。HR または本社組織で数式セグメントを作成することができます。 |
| Acct.2(level=Research) | Research は Sales の子ではないため、無効です。数式セグメントは、本社、R&D、または研究組織で作成できます。 |
| Acct.2(level=HQ) | どの組織からも最上位組織 (この例では本社) を参照できるため有効です。 |

科目の値はすべての組織で公開

このオプションを選択すると、すべての制限が削除されます。このオプションは、保護を必要としない科目に最適です。このオプションはアクセス ルールをオーバーライドすることに注意してください。例: 数式を使用して、アクセスできない組織を参照できます。

前提条件科目のある例外

"データ プライバシー設定" は 前提条件科目には適用されません。前提条件科目は常に 、″科目の値は最上位組織でのみ公開″ オプションがあるかのように機能します。

アクセス ルールおよびデータ プライバシー設定

"データ プライバシー設定" の両方の公開オプションにより、アクセス ルールがオーバーライドされます。組織にアクセスできないユーザーは、これらの組織に保存されたデータを数式で参照できます。データを参照できることで、データが公開されます。

relatedlinks
概念
参考: アクセス ルールとモデル
参考
参考: 数式の組織修飾子（ 1151ページ ）

参考: 組み込み総勘定元帳科目

Adaptive Planning は、共通の勘定科目階層に基づいて、インスタンスに組み込みの総勘定元帳科目を提供します。以下の科目詳細が読み取り専用かどうかを確認することで、モデル管理で組み込み総勘定元帳科目を特定できます。

- ロールアップ先
- 残高タイプ

ほとんどの組み込み総勘定元帳科目では、"タイプ" も読み取り専用です。一部の組み込み総勘定元帳科目では、"タイプ" を "リンク" に変更できます。科目をリンクする場合、機能的には科目タイプは変更されません。例: 長期資産の総勘定元帳科目がストック科目の場合、"タイプ" プロンプトで "リンク" を選択しても、科目タイプはストックのままになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

組み込み総勘定元帳科目は削除できません。

組み込み総勘定元帳科目の名前は変更できるため、これらの科目名はインスタンス内の名前とは異なる可能性があります。タイプの確認による科目の特定は可能です。

| 科目名 | 科目詳細 |
| --- | --- |
| 資産 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 資産 (ストック)<br>• 残高タイプ: 借方 |
| 流動資産 | • ロールアップ先: 資産<br>• タイプ: 流動資産 (ストック)<br>• 残高タイプ: 借方 |
| 固定資産 | • ロールアップ先: 資産<br>• タイプ: 固定資産 (ストック)<br>• 残高タイプ: 借方 |
| 長期資産 | • ロールアップ先: 資産<br>• タイプ: 長期資産 (ストック) またはリンク<br>• 残高タイプ: 借方 |
| 負債と純資産 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 負債と純資産 (ストック)<br>• 残高タイプ: 貸方 |
| 負債 | • ロールアップ先: 負債および株主資本<br>• タイプ: 負債 (ストック)<br>• 残高タイプ: 貸方 |
| 流動負債 | • ロールアップ先: 負債<br>• タイプ: 流動負債 (ストック)<br>• 残高タイプ: 貸方 |
| 長期負債 | • ロールアップ先: 負債<br>• タイプ: 長期負債 (ストック) またはリンク<br>• 残高タイプ: 貸方 |
| 純資産 | • ロールアップ先: 負債および株主資本<br>• タイプ: 純資産 (ストック)<br>• 残高タイプ: 貸方 |
| 年初来の利益 (損失) | • ロールアップ先: 純資産<br>• タイプ: 年初来の利益 (損失) (ストック)<br>• 残高タイプ: 借方 |
| 純利益 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 純利益 (フロー)<br>• 残高タイプ: 貸方 |
| 収益 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 収益 (ストック) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 科目名 | 科目詳細 |
| --- | --- |
| | • 残高タイプ: 貸方 |
| 営業外収益 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 営業外収益 (ストック)<br>• 残高タイプ: 貸方 |
| 売上原価 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 売上原価 (ストック)<br>• 残高タイプ: 借方 |
| 経費および配賦 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 経費 (ストック)<br>• 残高タイプ: 借方 |
| 営業外費用 | ルート科目<br>• ロールアップ先: なし<br>• タイプ: 営業外費用 (ストック)<br>• 残高タイプ: 借方 |

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目（920ページ）
概念: 科目のタイプ設定（893ページ）

**FAQ:** 科目の基本

- 改ページされた科目リスト内のページ間で科目を移動するにはどうすればよいですか？
- 子科目の科目特性を変更できないのはなぜですか？
- キューブ シート科目で "GL またはカスタム科目 を含める" ボタンが無効になっているのはなぜですか？
- カスタム科目で通貨換算が正常に機能しないのはなぜですか？
- データを再度インポートせずに科目の符号を反転するにはどうすればよいですか？

### 改ページされた科目リスト内のページ間で科目を移動するにはどうすればよいですか？

科目リストがページにまたがる場合、矢印を使用して階層内の科目をページ間で移動することはできません。代わりに、カット アンド ペースト機能を使用できます。

1. 移動する科目を選択します。
2. 右クリックして "切り取り"を選択します。
3. 別のページに移動する。
4. 移動した科目の前にリストで表示する科目に、クリックせずにマウスを合わせます。クリックしないでください。
5. 右クリックして "貼り付け"を選択します。科目は、マウスを合わせた科目の直後に移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| 子科目の科目特性を変更できないのはなぜですか？ | 親科目に科目特性がある場合、すべての子科目の科目特性は同じである必要があります。子科目に異なる特性を持たせる場合:<br>1. 科目リストで "親科目" を選択します。<br>2. "科目特性 " セクションで、変更する特性に対して ″なし″ を選択して保存します。すべての子科目は、すでに持っている特性を保持します。<br>3. 保存:<br>4. 変更する子科目を選択します。<br>5. "科目特性" セクションで、別の特性値を選択して保存します。 これで、1 つの子科目の特性は兄弟科目とは異なります。 |
| キューブ シート科目で ″GL またはカスタム科目を含める " ボタンが無効になっているのはなぜですか？ | これは次のことを意味します。<br>• キューブ入力用の総勘定元帳科目またはカスタム科目が設定されていません。<br>• キューブ入力用に設定されたすべての科目はすでにキューブ シートに追加されています。<br>キューブ入力用の科目を設定するには、次のようにします。<br>1. "モデリング"で "総勘定元帳科目" または "カスタム科目"を選択します。<br>2. キューブ シートに追加する科目をハイライト表示します。<br>3. "シート" セクションで、"データ入力タイプ" に ″キューブ″ を選択して保存します。 |
| カスタム科目で通貨換算が正常に機能しないのはなぜですか？ | 科目データが通貨として表示されないため、通貨換算は機能していません。修正方法:<br>1. "モデリング " 領域で "カスタム科目"をクリックします。<br>2. リストから、科目をハイライト表示します。<br>3. "表示形式"で ″通貨″を選択します。<br>4. 保存: |
| データを再度インポートせずに科目の符号を反転するにはどうすればよいですか？ | "残高タイプ" の 設定をルート科目と反対になるように変更することは、科目の符号を変更する最も早い方法です。ただし、科目に既存のデータがある場合、通常、合計を適切に機能させるために、データを再度インポートする必要があります。データのインポートを回避するために、シート ビューから値を調整できます。<br>1. メイン メニューから "シート" を選択します。<br>2. 科目があるシートを開きます。<br>3. 科目列を右クリックし、″組織別に表示″を選択します。<br>4. すべてのセルをハイライトします。<br>5. 右クリックして ″調整″を選択します。<br>6. "調整を個別に適用"を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

7. "増 " ドロップダウン メニューから ″減″を選択します。
8. "値を入力" フィールドに 「*200*」と入力します。
9. "値" ドロップダウン メニューで ″パーセント″を選択します。
10. シートを保存するには "OK" をクリックします。

**FAQ:** 親科目と合計科目

- 子科目を追加または削除すると、親科目のデータはどうなりますか？
- "ロールアップ先" ドロップダウン リストに新しい親科目が表示されないのはなぜですか？
- 総勘定元帳の親を別の総勘定元帳の親にロールアップするにはどうすればよいですか？
- デフォルトで折り畳んで表示されるように設定したときに、シートで親科目が展開されて表示されるのはなぜですか？
- 実績のオーバーレイ期間中に一部の親科目のフォントが白色に表示されるのはなぜですか？
- メトリック科目は他の科目とどのようにロールアップされますか？
- メトリック科目を変更して平均としてロールアップできますか？

| | |
|---|---|
| 子科目を追加または削除すると、親科目のデータはどうなりますか？ | • 子のみを追加した場合、データは親から子に移動します。<br>• 子のみを削除すると、データは子から親に移行されます。<br>• すでに子科目を持つ親に新しい子を追加しても、データには何も影響しません。<br>• 複数の子科目のうちの 1 つを削除すると、削除された子科目のデータのみが削除されます。 この削除されたデータにより、親科目の合計値が自動的に変更されます。 |
| ″ロールアップ先″ ドロップダウン リストに新しい親科目が表示されないのはなぜですか？ | 科目は少なくとも 1 つの子科目を持つまで、"ロールアップ先 " ドロップダウン リストに表示されません。科目を表示するには、ダミー科目を子科目として追加します。 |
| 総勘定元帳の親を別の総勘定元帳の親にロールアップするにはどうすればよいですか？ | "ロールアップ先 " オプションが 無効 になっている場合、または "なし" がある場合、その科目は総勘定元帳のルートであることを意味します。これらの科目を総勘定元帳の構造でロールアップする方法は変更できません。データを別の科目に移動するには、すべての子科目の "ロールアップ先" オプションを変更します。移動したい科目が子科目を有していない場合、その子科目を作成できます。データは新しい子に自動的に移動します。次に、子科目の "ロールアップ先 " 科目を変更します。 |
| 折り畳んで表示されるように設定したときに、シートで親科目が展開されて表示されるのはなぜですか？ | "展開して開始 " フィールドは、すべてのユーザーが初めてシートを開く際に、初期表示を設定する科目設定です。ユーザーがシートを保存すると、初期表示が独自のデフォルト表示によってオーバーライドされます。例: 収益科目が展開されて開始されるように設定したとします。ユーザーが最初にシートを開くと、"収益" が展開されています。ユーザーは収益科目を折り畳んでシートを保存します。ユー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ザーが次にシートを開くと、収益は折り畳まれています。

**実績のオーバーレイ期間中に一部の親科目のフォントが白色に表示されるのはなぜですか？**

科目構造をインポートしたときに、親科目の "実績" 列に "いいえ" を入力し、少なくとも 1 つの子科目を実績に対して有効にしました。この場合、親科目はまだ実績データを合計しますが、フォントが黒色で表示されます。

表示を緑色に変更するには:

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 親科目を保持する科目階層をクリックします。
3. ツールバーで "科目構造の エクスポート" をクリックします。
4. Excel ファイルを開き、親科目を探します。
5. "実績 " 列に、親科目に対して 「有効化」と入力し、保存します。
6. 科目階層に戻り、"科目構造のインポート" をクリックします。
7. "更新と追加" をクリックし、保存したファイルを選択します。

**メトリック科目は他の科目とどのようにロールアップされますか？**

メトリック科目は組織と時間の合計で合計されません。代わりに、メトリック科目が再評価されます。

シートの例: メトリック科目に次の数式が含まれます: =div(Acct.1, Acct.2)。"計算されたカスタム" も同じ数式になります。メトリック科目は、参照された科目の四半期の合計を次の数式に従って除算します: 9/20。"計算カスタム" では、自身の関連月からの計算が追加されます: 0.5 + 1 + .3

| Account | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 四半期 1 |
|---|---|---|---|---|
| Acct.1 | 1 | 3 | 5 | 9 |
| Acct.2 | 2 | 3 | 15 | 20 |
| メトリック科目 | .5 | 1 | .3 | .45 |
| 計算カスタム | .5 | 1 | .3 | 1.8 |

**メトリック科目を変更して平均としてロールアップできますか？**

平均を取るために合計が必要な場合、メトリック科目の代わりにカスタム科目を使用できます。合計内のデータが期待どおりに表示されることを確認します。

relatedlinks
概念
科目構造の再編成（876ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**FAQ:** キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？

数式の一部としてキューブ シートからシステム科目を参照すると、予期しないデータが取得される場合があります。システム科目を参照する必要がある場合は、以下をお勧めします。

1. キューブ算出科目を作成します。
2. "デフォルトの数式" フィールドにシステム科目を入力します。
3. 修飾子や計算は追加しないでください。
4. チームがシートから数式を作成するとき、またはモデル全体で他の計算されたキューブ科目を参照するとき、実際のシステム科目ではなく計算されたキューブを参照するよう促します。

トラブルシューティング: 科目の実績のオーバーレイが表示されない

実績のオーバーレイがシート上に緑色のテキストで表示されます。次の理由により、勘定に実績が表示されない場合があります。

- 科目の実績が有効になっていません。
- 科目に実績データが含まれていない。
- バージョン設定を調整する必要があります。

| 原因 | ソリューション |
|---|---|
| 科目の実績を有効にしませんでした。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. 科目階層をクリックするか、キューブ科目およびモデル科目のシートを編集します。<br>3. 科目リストから科目を選択します。<br>4. "科目詳細 " セクションで "実績を有効にする " ラジオ ボタンをクリックします。 |
| 科目に実績データが含まれていない。 | 1. メイン メニューから "シート" を選択します。<br>2. 科目があるシートを開きます。<br>3. 上部のナビゲーション バーにあるドロップダウン プロンプトで、実績バージョンを選択します。<br>4. 科目がある行をチェックし、データがあるかどうかを確認します。<br>5. データを入力して保存します。<br>6. 計画バージョンに戻り、実績データが緑色で表示されているかどうかを確認します。 |
| バージョン設定を調整する必要があります。 | 実績のオーバーレイが表示されない期間が表示されている場合があります。実績のオーバーレイは、計画バージョンの "表示開始月" から、以下のどちらか早い方の期間まで表示されます。<br>• 計画バージョンの "計画の開始"<br>• 実績バージョンの "次の時点までの確定数字を表示"<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "バージョン" をクリックします。<br>3. バージョン リストから、科目の実績のオーバーレイを表示していない計画バージョンを選択します。<br>4. "計画の開始"を書き留めます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | 5. バージョン リストで "実績" を選択します。<br>6. "次の期間 までの確定数字 を表示" を書き留めます。<br>7. 早い方の期間を変更して、実績を表示していないシートの期間を含めます。 |

relatedlinks
概念
概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）
概念： 表示開始月（806ページ）
例
例: 実績のオーバーレイの設定（805ページ）

トラブルシューティング: シート上でロックされた科目

ユーザーはロックされた科目のシート セルを編集できません。Adaptive Planning の "モデリング" 領域で、考えられる原因と科目のロックを解除する方法について説明します。 シート ユーザーは、シート ビューを変更したり、"セルを探索" を起動して、ロックされていないセルが見つかるまでドリルすることもできます。参照 。

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| シート上のセルに青の三角形が含まれ、セルの背景がグレーの場合、それは算出科目です。算出科目は常にロックされます。 | 特定の算出科目について、特定のバージョンの科目データ入力を作成します。<br>参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）。 |
| フォントが緑色で背景がグレーの場合、その期間には実績のオーバーレイがあります。実績のオーバーレイは常にロックされます。 | バージョン設定を通じて実績のオーバーレイを元に戻す。参照 概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）。<br>シート ユーザーは、実績バージョンを選択してそのデータを変更できます。 |
| これはリンク元科目です。リンクされた科目は常にロックされます。 | 科目のリンクを解除すると、ロック済バージョンを含むすべてのバージョンのデータが科目から削除されます。これはアーカイブ済バージョンには影響しません。参照 科目へのリンクの追加（908ページ）。<br>シート ユーザーは、右クリックして ″セルを探索″ を選択し、ソース科目を検索して、そこのデータを編集できます。 |
| 標準シートの場合、シート設定内のシートの科目は読み取り専用です。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. 標準シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "科目グループ"をクリックします。<br>5. "シートの科目 " タブの科目を選択します。<br>6. "読み取り専用" チェックボックスをオフにします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 標準シートの場合、科目は特定の組織に対して読み取り専用です。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. 標準シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "サブ組織のカスタマイズ" をクリックします。<br>5. "科目" タブから科目を選択します。<br>6. チェックマークが表示されるまで、組織の横にあるチェックボックスをクリックします。このチェックマークは、ユーザーがその組織の科目を編集できることを示します。<br>7. "保存して 閉じる"をクリックします。<br><br>シート ユーザーは、さまざまな組織を選択してロック解除されたセルを検索できます。 |
| ロック済バージョンを選択しました。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "バージョン" をクリックします。<br>3. リストから、シートでロックされている計画バージョンを選択します。<br>4. "アクセス制御" セクションで "ロック済バージョン " チェック ボックスをオフにします。<br>5. "アクセス制御" セクションで、ユーザー タイプに *"完全アクセス"* を選択します。参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。<br>6. "オプション" セクションで "次の時点 までのすべての月をロック済" を 調整し、シートのセルのロックを解除するのに十分な期間に設定します。例: 3 月以降の期間のロックを解除するには、*"2022 年 3 月"* を選択します。この設定で "完了日" が有効になっている場合、ルート実績バージョンに移動し、"次の時点 までの確定数字を表示" 設定を調整します。<br><br>シート ユーザーは、さまざまなバージョンを試すことができます。 |
| ワークフローで、誰かがステータスを "送信済" または "承認済" に変更しました。 | 組織の科目のロックを解除するには、組織ステータスを *"却下済"* に変更します。また、組織のワークフローで承認または送信されたユーザー割当シートに科目が含まれているかどうかも確認します。<br><br>シート ユーザーは、さまざまな組織を試すことができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 組織、科目、およびカスタム属性の交差部分に対する表示専用アクセス ルールがあります。 | ユーザーのアクセス ルールを更新します。参照。 |
| 科目がシステム科目であるシステム科目は、事前設定された数式で計算されます。 | アクションはありません。 |
| この科目は前提条件であり、最上位組織は選択されていません。最上位組織の前提条件科目のデータのみを変更します。 | シートのユーザーとして、最上位組織を選択する必要があります。 |

relatedlinks
例
トラブルシューティング: シートのセルがロックされているためデータを変更できない

トラブルシューティング: シートに科目がない

シートに科目を追加しましたが、エンド ユーザーがシートを開いたときに、科目がどこにもありません。 "モデリング" 領域で確認できる内容を次に示します。

"シート" 領域のシート ビューからトラブルシューティングを行う方法については、 トラブルシューティング: シートで科目を見つけられないを参照してください。

- サブ組織のカスタマイズがあります。
- キューブに制限があります。
- 科目がシートに追加されていません。

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 標準シートにサブ組織のカスタマイズがある場合。 | サブ組織のカスタマイズは、標準シートのみで使用され、特定の組織でのみ科目が表示されるようにします。 サブ組織を変更するには:<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. 変更する標準シートの横にある "編集" を クリックします。<br>4. "サブ組織のカスタマイズ" をクリックします。<br>5. "科目" タブで、科目をハイライト表示します。<br>6. "組織" タブで、組織の横にチェックマークが表示されるまで、チェックボックスをクリックします。<br>7. "保存して 閉じる"をクリックします。 |
| キューブ シートにキューブ制限があります。 | キューブの制限はキューブ シートのみで、科目とバージョン、科目と組織、科目とカスタム属性の交差部分を非表示にします。これらの制限により、科目が表示されない可能性があります。<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | 3. キューブ シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "制限" をクリックします。<br>5. 制限のリストで、制限の横の "編集" または "削除" をクリックします。 |
| 標準シートに新しい科目が追加されませんでした。 | 新しい科目を以下の合計として作成すると、新しい科目が標準シートに自動的に追加されます。<br>• シートにすでに存在するグループ。<br>• シートにすでに存在する親。<br>科目を追加するには:<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. シート リストから、標準シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "シート サマリ"で "科目グループ"をクリックします。<br>5. 科目をハイライト表示し、"グループに追加"をクリックします。<br>6. 保存: |

relatedlinks
例
トラブルシューティング: シートで科目が見つからない

リンク元科目
科目へのリンクの追加

始める前に

- 下流と即時の結果を考慮します: リンクの追加と削除は、すべてのバージョンにおいてターゲット科目から現在のデータを完全に削除します。
- 算出科目や共有数式など、他のオプションも検討します。参照 参考: リンク元科目と共有数式および算出科目との比較（923ページ）。
- ソースとターゲットのリンクの科目設定を一致させる（911ページ）.
- 実績バージョンで科目をリンクすることの長所と短所を考慮してください。参照 概念: 実績の科目のリンク付け（922ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて
リンクされた科目は、1 つ以上のキューブ科目またはモデル科目からデータを取得します。

リンクされた科目は、リンクが他の科目から値を取得するため、シートを表示するユーザーにとって読み取り専用です。

特定のバージョンのデータ入力オーバーライドを追加できます。

これにより、既存のバージョンへのリンクが維持され、履歴データを管理すると同時に他のバージョンにもデータを自由に入力できます。

データ入力オーバーライドを使用すると、以下のことが可能になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 特定のバージョンのシートに科目のデータを入力します。
- Predictive Forecaster を使用し、科目に特定のバージョンの機械学習データを入力する。
- 特定のバージョンの科目にデータを手動でインポートします。

リンクされた科目の説明に使用する用語:

- リンクされた科目は、別の科目からデータを受け取るターゲット科目です。
- リンクを追加する場所でもあります。
- ソース科目は元のデータを保持します。ターゲット科目は最大 10 のソースにリンクできます。

注 : 科目にすでにデータがある場合、リンクを追加すると、ロック済バージョンを含むアーカイブ済バージョンを除くすべてのバージョンで既存のデータが削除されます。データを復元することはできません。

リンクを追加する前に、履歴バージョンをアーカイブするか、データをダウンロードして保存するか、サンドボックス インスタンスでリンクをテストすることを検討してください。科目からリンクを削除すると、アーカイブ済バージョンを除くすべてのバージョンのデータが変更されます。リンクを元に戻すことで、これらの変更を取り消すことができます。

以下のタイプの科目にリンクを追加できます。

- カスタム科目
- キューブ入力科目
- キューブ標準科目
- 総勘定元帳科目

以下の科目にリンクできます。

- 任意のモデル科目
- すでにリンクされているキューブ メトリック、キューブ標準科目を除くすべてのキューブ科目

次の場合、複数のソース科目にリンクできません。

- NetSuite Basic (OEM) を使用します。
- ソース科目の 1 つに 、"組織/属性合計" のロール アップした値の非空白平均 があります。

"時間合計" または "組織/属性合計"の ロールアップした値に加重平均 がある科目にはリンクできません。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "総勘定元帳科目"、"カスタム科目" をクリックするか、キューブ科目階層にアクセスします。
   キューブ科目の場合:
   a. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
   b. シートの横にある "編集" を クリックします。
   c. "キューブ科目" をクリックします。
3. 最下位科目を選択します。
   最下位科目は子科目を持ちません。最下位科目へのリンクのみ追加できます。
   キューブ科目の場合、リンクは標準科目にのみ追加できます。
4. "タイプ" 設定の "リンク"をクリックします。
5. "リンク先" コンテンツ ボックスの 下にある "追加"をクリックします。
6. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| モデルの選択 | キューブ シートまたはモデル シートを選択します。これらのシートは、多くの場合モデルと呼ばれます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の選択 | 科目を選択します。"モデルを選択" プロンプトからシートを選択するまで、メニューは空です。 |
| 記号変更 +/- | 値をソース科目の逆数に切り替える場合に選択します。例: ソース科目の値が 55 だとします。ターゲット科目は「-55」と表示されます。 |
| 属性値の適用 | (任意) ソース シートに存在しない単一の属性値をソース科目ごとに追加します。属性を選択してから、プロンプトから属性値を選択します。<br>ターゲット科目がキューブ科目の場合、ターゲット キューブ シートにすでに存在する属性のみを適用できます。 |
| リンク フィルタ | (任意) リンクによってターゲット科目に取り込まれるデータを制限します。ソース シートにある特性または属性を使用できます。<br>例: 収益キューブ科目にリンクし、トップスなどの製品カテゴリ属性でフィルタリングします。"トップス" とタグ付けされた収益のみがターゲット科目に入力されます。 |

7. (任意) リンクを追加するには、プラス アイコンをクリックします。
   最大 10 件のリンクを追加できます。
8. リンクを保存するには、緑のチェックマークをクリックします。
9. "実績のオーバーレイ"では、実績バージョンでリンクをどのように機能させるかを検討します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| リンク先科目の実績を有効にする | 実績バージョンのリンクを削除します。 |
| リンク元科目の実績を表示 | ソース科目が実績がある場合、リンクを維持します。 |

10. (任意) リンクするデータ入力オーバーライドを追加するには、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 特定のバージョンのオーバーライド リンク | 科目のオーバーライド フィールドを表示します。 |
| リンク バージョン セレクター | 上書きの計画バージョンを選択します。 |
| オーバーライド リンク設定 | 以下のようにします。<br>• "なし" を 選択し、バージョンのリンクを維持します。<br>• データ入力: シート上のインポートとデータ入力を可能にします。<br>"データ入力" を選択すると、そのバージョンの科目からデータが削除されます。 |

タスクの結果
リンクを追加すると以下のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- ターゲット科目は、リンク後、読み取り専用になります。
- データはすべての計画バージョンのソース科目から入力されます。
- 標準シートでは、ソースの属性分割は表示されません。
- 属性の内訳を確認するには、"セルを探索" を使用します。

特定のバージョンのデータ入力オーバーライドを追加すると、そのバージョンのリンクされたデータが削除され、科目のデータ入力が可能になります。

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目（920ページ）
概念: 実績の科目のリンク付け（922ページ）
参考
参考: リンク元科目と共有数式および算出科目との比較（923ページ）
FAQ: リンクされた科目と数式（924ページ）

ソースとターゲットのリンクの科目設定を一致させる

始める前に

- キューブ科目シートやモデル シートを含む科目階層の作成参照 科目の作成（863ページ）。
- 下流と即時の結果を考慮します: リンクの追加と削除は、すべてのバージョンにおいてターゲット科目から現在のデータを完全に削除します。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

科目にリンクを追加する前に、ソース科目とターゲット科目の特定の設定を一致させる必要があります。設定が一致しない場合、ソース科目は選択できません。リンクは以下のターゲット科目にのみ追加できます。

- 総勘定元帳科目
- カスタム科目
- キューブ標準科目

科目を以下にリンクすることはできません。

- "時間合計" または "組織/属性合計" で ロールアップした値の加重平均 を持つ科目
- "組織/属性合計" が "ロールアップした値の非空白平均"と設定されている場合、複数の科目が表示されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "総勘定元帳科目" または "カスタム科目" をクリックします。
   キューブ科目およびモデル科目の場合は、以下の手順に従います。
   - "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
   - シートの横にある "編集" を クリックします。
   - "キューブ科目" または "モデル科目"をクリックします。
3. 次の設定に注意してください。
   - タイプ
   - カスタム科目およびキューブ科目のみのターゲット科目の時間合計 。
   - カスタム科目およびキューブ科目のみであるターゲット科目の"組織/属性合計"。
   - 表示形式

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

4. "タイプ"を一致させます。
   "タイプ" 設定を変更すると、科目内のデータの表示方法に影響します。

| ターゲット科目のタイプ | アクション |
|---|---|
| 総勘定元帳科目 | 総勘定元帳と一致するようにソースを変更します。 |
| カスタムまたはキューブ標準科目 | ソースとターゲットのいずれかを変更して一致させることができます。 |

   科目タイプ設定の変更を参照してください。
5. 時間合計を合わせます。

| ターゲット科目のタイプ | アクション |
|---|---|
| 総勘定元帳科目 | ソース科目の "時間合計" 設定を変更して、以下を行います。<br>• 累積された総勘定元帳と一致する最新期間の値<br>• フロー総勘定元帳と一致するロールアップ値の合計 。 |
| カスタムまたはキューブ標準科目 | 以下のいずれかを実施します。<br>• 設定をそのままにします。科目をリンクすると、ターゲット科目の合計は変更されてソースと一致します。<br>• リンクする前に、ターゲットと一致するようにソースを変更します。<br>ソース科目は、"時間 合計" で "合計値の加重平均" を 選択していない状態である必要があります。 |

6. "組織/属性合計"と一致します。

| ターゲット科目のタイプ | アクション |
|---|---|
| 総勘定元帳科目 | ソース科目に "ロールアップした値の合計" を選択します。 |
| カスタムおよびキューブ標準科目 | 以下のいずれかを実施します。<br>• 設定をそのままにします。科目をリンクすると、ターゲット科目の合計は変更されてソースと一致します。<br>• リンクする前に、ターゲットと一致するようにソースを変更します。<br>ソース科目は 、"組織/属性 合計" で 合計値の加重平均を 選択していない状態である必要があります。 |

7. すべてのソース科目の "表示形式" 設定にマッチさせます。

次のタスク

科目へのリンクの追加 ( 908ページ ) .

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目（920ページ）

例: 属性と収益のリンク科目

対象者: モデルを管理する管理者

属性と特性は、タグを使用してデータを分類し、データの分析、計画、記録を支援します。科目がキューブ シートまたはモデル シートにリンクされると、そのシートの属性と属性特性のすべてにもリンクされます。このリンクを使用して、セル内でのフィルタとして、そしてタグとして属性と特性を数式で活用できます。

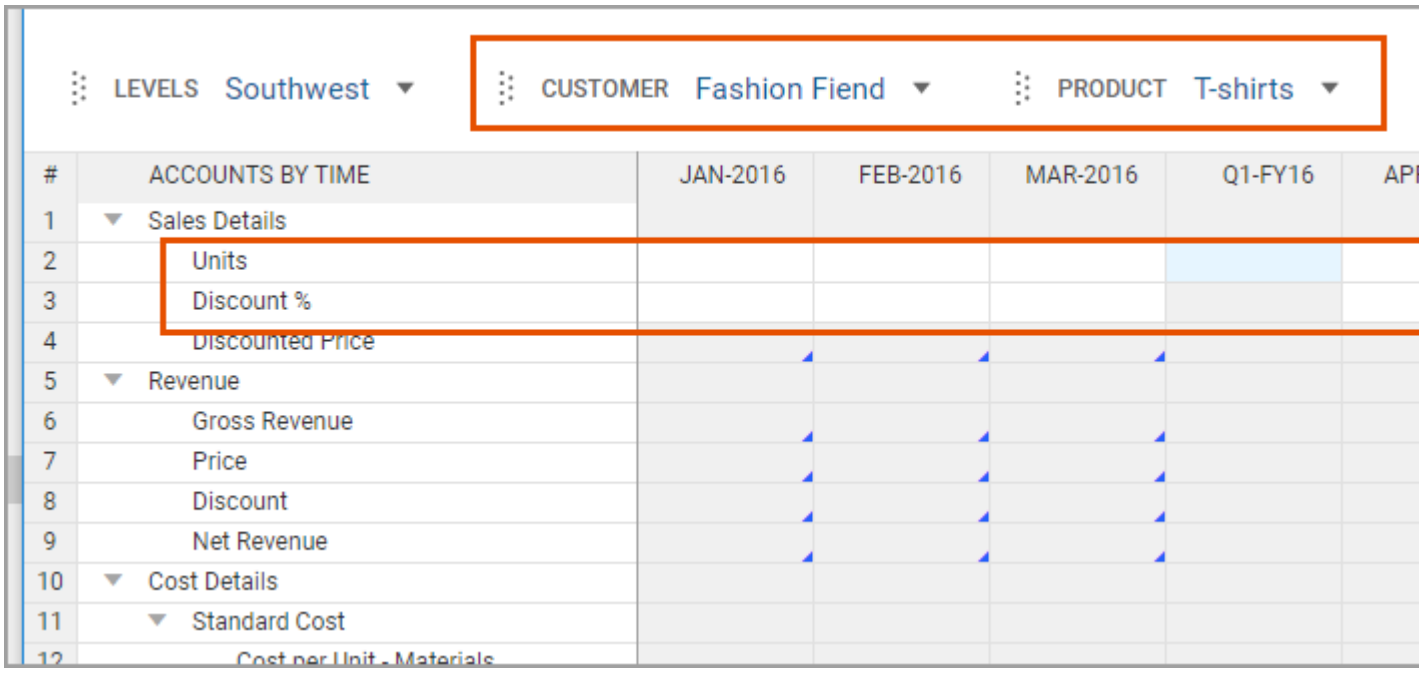
この例では、リンク元科目の属性がどのように機能するかを説明します。

属性と属性特性を使用するモデル
衣類を販売する店舗の場合、"製品" はモデルの属性の 1 つです。製品の属性値には、タンク トップ、T シャツ、ブラウス、セーター、レギンス、ジーンズ、スカート、ショートパンツ、ベルト、帽子、ハンドバッグ、手袋があります。それぞれのアイテムの収益は、複数の属性をサポートする "収益シート" キューブ シートで追跡されています。

製品には、"製品グループ" と呼ばれる属性特性があります。属性特性の値は、トップス、ボトムス、アクセサリーです。各製品の属性を適切な特性をタグ付けしていきます。製品は以下のように分類されます。

| 製品特性値 | トップス | ボトムス | アクセサリー |
|---|---|---|---|
| 製品の属性値 | • タンクトップ<br>• T シャツ<br>• ブラウス<br>• セーター | • レギンス<br>• ジーンズ<br>• スカート<br>• ショートパンツ | • ベルト<br>• 帽子<br>• ハンドバッグ<br>• 手袋 |

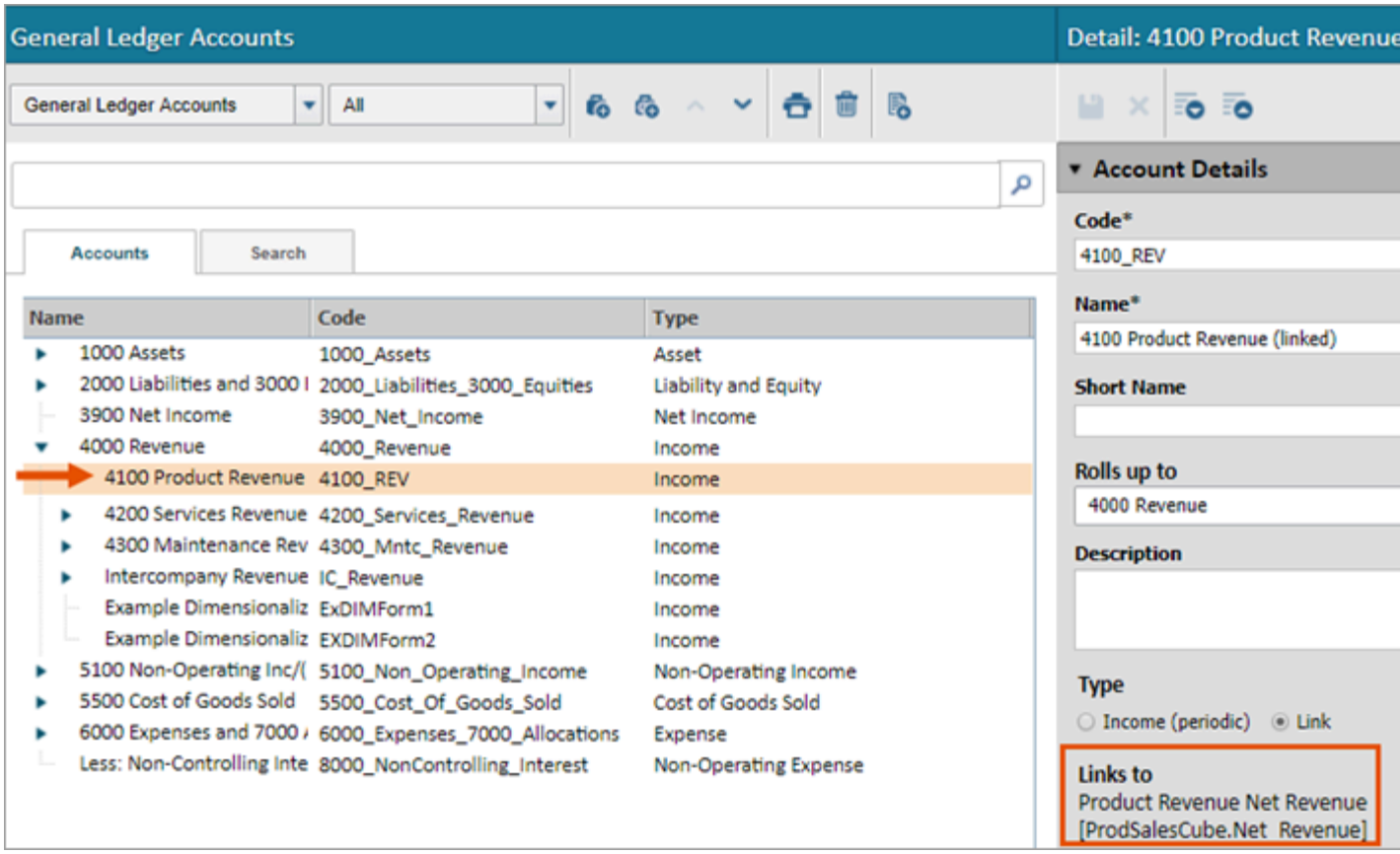
"製品収益" キューブ シートでは、チーム メンバーが、"属性"、"顧客"、"製品" のそれぞれについて、"単位" および "割引" の 2 つの科目にデータを入力します。




シート内の残りの科目は、この 2 つの科目の入力に基づき、数式と前提条件決定要因を使用して値を算出します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

簡易 **P&L** シートでの複合収益データの使用
キューブ シートを使用すると、チームはデータ入力時間を節約できます。また、キューブ シートにより、顧客および製品の分析データが提供されます。個々の顧客や製品に煩わされることなく損益シートのデータを利用するには、リンク元科目を使用します。まず、総勘定元帳で収益にロールアップする "製品収益" 科目を作成します。次に、キューブで "製品収益" 科目を "純利益" にリンクします。




"製品収益" を P&L シートに追加すると、科目は以下のようになります。

- 詳細は表示されません
- 収益にロールアップします
- 合計に反映されます
- 関連性が低い不要な属性や特性は表示されません

総勘定元帳におけるデータの「属性化」
総勘定元帳のキューブ シートから (すべてでなく) 一部の属性を取得するには、リンク科目を属性で絞り込みます。

1. それぞれの製品カテゴリの "製品収益" 内に子の総勘定元帳科目を作成します。(総勘定元帳科目がリンクされている場合は、まずリンクを解除する必要があります)。
2. それぞれの子科目について、キューブの "純利益" 科目にリンクを作成します。
3. 次に、"リンク元フィルタ" ドロップダウンを使用して、製品グループ属性で絞り込みます。属性が含まれているシートにリンクすると、すぐに属性を利用できます。

これで、損益シートの製品収益を製品グループ別に分類できます。セルを調べる場合、セル エクスプローラーを使用すると、チームはさらに詳細な属性の内訳を確認することができます。これは、リンクがキューブ シート内のすべての属性を保持しているためです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

数式での「属性化された」総勘定元帳科目の参照
ここでは数式を使用してデータを取得する場合 (属性は「保持されない」) と、リンクを使用してデータを取得する場合 (属性は「保持される」) の違いを説明します。

総勘定元帳科目にリンクの代わりに数式を使用する場合
"製品収益" は、3 つの子科目を持つ総勘定元帳科目です。このインスタンスでは、数式を使用して、3 つの子科目で総勘定元帳科目の製品グループの属性を示しています。

製品収益 - トップスは次の数式を使用 `=ACCT.ProdSalesCube.Net_Revenue[Group=Tops]`:

計算ツールは数式の「指示」に従い、以下の方法でセルにデータを入力します。

1. "製品収益" キューブ シートを探します (`ProdSalesCube`)。
2. この科目 (`Net_Revenue`)。
3. 次の属性でタグ付けされたデータのみを使用します。 `[Group=Tops]`.

属性がタグ付けされた総勘定元帳科目を使用した計算の実行
別の科目が総勘定元帳科目 "4110 製品収益 - トップス" の一部を使用しているとします。この合計を取得して、数式で製品別に合計を「属性化」します。

以下のとおり、数式に科目を入力して、製品の属性を追加します。
`=ACCT.4110_Product_Revenue_GrpTops[Product=Tank Tops].`

計算ツール計算は、以下の手順に従います。

1. 総勘定元帳科目を検索します。 `=ACCT.4110_Product_Revenue...`
2. 次の属性でタグ付けされたデータのみを使用します。 `[Product=Tank Tops]`

計算ツールは、総勘定元帳属性モデルおよび総勘定元帳科目で属性を検索しますが、いずれも属性がタグ付けされていません。この科目は数式を使用していますが、数式は関連する属性をキューブ シートから取得しません。そのため、結果は空白となります。

モデルを使い慣れている場合は、総勘定元帳の数式を確認してソース データを検索できます。総勘定元帳科目のセルを調べることもできます。ただし、このためにはまず総勘定元帳科目があるシートを見つける必要があります (この例のように、同一のシートに存在しない場合があります)。その場合のみ、ソース科目を数式でソース属性とともに使用することができます。`=ACCT.ProdSalesCube.NET_Revenue[Product=Tank Tops]` をクリックして正しいデータを取得します。

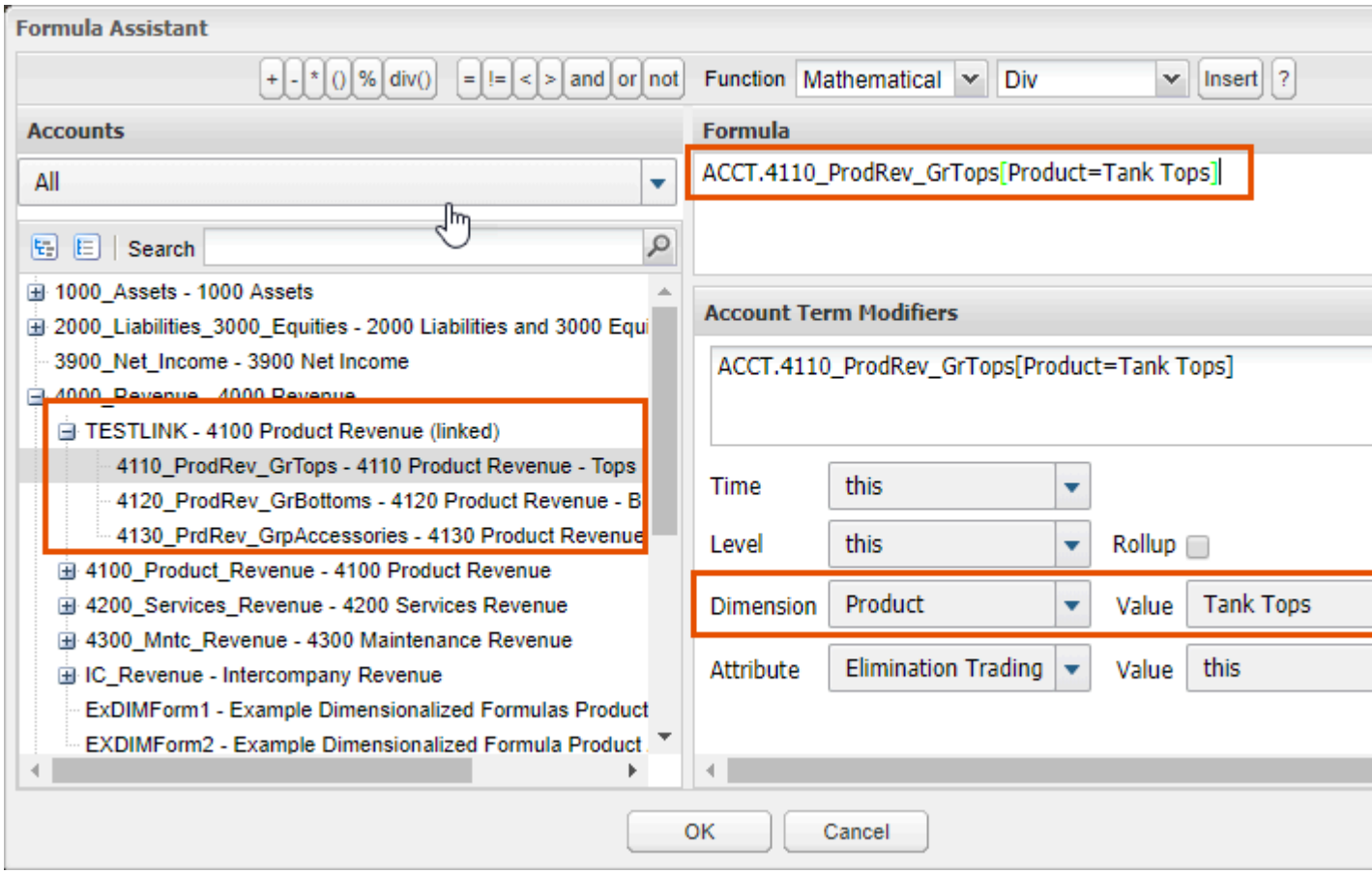
このシートでデータを使用して確認または監査を行う場合、このような数式の参照が混乱を招く場合があります。特にコードを探す作業は、総勘定元帳コードに精通していても、モデルに詳しくない場合は困難になります。

数式が総勘定元帳と総勘定元帳コードを参照している場合は、データ入力や確認作業をより直感的に行えます。

ソリューション

1. "製品収益" 科目のそれぞれの子科目をキューブ シート科目にリンクして、製品カテゴリで絞込みます。
2. 各科目で絞り込まれた属性は "製品グループ" となります。色、顧客、製品など、キューブ シートのソースに存在するその他の属性または特性は、参照することができます。
3. 数式で総勘定元帳科目を参照する場合、ソース キューブ シートに追加されている任意の属性をタグ付けできるようになりました。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




シート上では、セルは総勘定元帳コードを参照しているため、適切に計算され、チーム メンバーはこの計算を理解することができます。 `=Acct.4110_ProdRev_GrTops[Product=Tank Tops].`

インスタンス全体で、この総勘定元帳科目を数式で参照すると、ソース科目、ソース科目コード、ソース科目を使用するシートに関する知識がなくても、ソース科目の任意の属性または特性を取得できます。

数式に関するまとめ

| | |
|---|---|
| 直感的だが不正確<br>総勘定元帳で数式が使用されているため、総勘定元帳、特性、属性を参照する数式は機能しません。 | 数式のクリア:<br>`=ACCT.4110_Product_Revenue_GrpTops[Product=Tank Tops].`<br>戻り値: セル内のデータは空白 |
| 正確だが直感的でない<br>数式は数式の文字列を作成するキューブ シートのソース科目を参照する必要があります。数式の文字列は、モデルに不慣れなチーム メンバーには直感的ではありません。 | 混乱を招く数式:<br>`=ACCT.ProductSalesCube.Net_Revenue[Product=Tank Tops]`<br>戻り値: セル内のデータは適正 |
| 直感的で正確<br>数式は総勘定元帳コードを参照します。総勘定元帳科目がキューブ シートにリンクされているため、数式内の属性が機能します。 | 科目コードをクリアした数式のクリア:<br>`=ACCT.4110_Product_Revenue_Grptops[Product=Tank Tops].`<br>戻り値: セル内のデータは適正 |

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目（920ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスク
科目へのリンクの追加 ( 908ページ )

例: 適用される属性を使用した複数ソースのリンク元科目

対象者: モデルを管理する管理者

この例では、科目を複数のソース科目にリンクし、リンク元科目に属性を適用して、複数の科目を 1 つに統合する方法について説明します。

給与、給与税、福利厚生などの人件費を以下の 2 つの別々の従業員モデル シートで追跡する場合の例を使用します。

- 従業員 (現在)
- 従業員 (計画)

また、給与、給与税、福利厚生の属性値がある属性として支出カテゴリを使用することを前提としています。この属性値を使用することにより、科目のリンクを作成する際に、ソース科目のデータにタグ付けができます。属性値の適用の仕組みにより、使用する科目のソース シートで支出カテゴリが属性として追加されている必要はありません。

総勘定元帳で複数のソースを組み合わせるには、以下を使用することができます。

- 簡易な元帳を維持する数式。カスタム属性は保持しません。
- 複数の単一科目リンク。属性を維持しますが、元帳のサブ科目数を増加させます。
- 属性を保持し、複数のサブ科目を必要としない複数ソースのリンク。

単一科目のリンク
単一科目リンクの総勘定元帳科目の科目構造の例を以下に示します。

- 6700 給与費用科目
    - 6710 給与
        - 6711 給与 (現在)
        - 6712 給与 (計画)
    - 6720 給与税
        - 6721 給与税 (現在)
        - 6722 給与税 (計画)
    - 6730 福利厚生
        - 6731 福利厚生 (現在)
        - 6732 福利厚生 (計画)

属性を適用しない複数ソースのリンク
属性を適用せずに複数ソースのリンク科目を使用すると、各シートにリンクするサブ科目を削除することができ、構造を以下のように統合することができます。

- 6700 給与費用科目
    - 6710 給与
    - 6720 給与税
    - 6730 福利厚生

属性を適用した複数ソースのリンク
属性を適用した複数ソースのリンク科目を使用すると、同じ詳細と属性を保持して、はるかに単純な構造で生成することができます。複数ソースのリンクを使用すると、給与費用の 6 つの科目に対して科目リンクを追加して、複数のソースを単一の科目に統合することができます。

各リンク科目に適切な属性値をタグ付けすることにより、該当データのみを取得でき、科目構造を以下のように簡素化できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 6700 給与経費

概念: リンクされた科目、 例: 費用のリンク科目、および 例: 属性と収益のリンク科目を参照してください。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング" を選択します。"科目" メニューで "総勘定元帳科目" をクリックします。

複数リンクの追加

1. "6700 給与経費" を選択して、"科目詳細" でリンクできる科目タイプを変更します。
2. "リンク先" セクションで "追加" を選択します。
3. "リンク科目を追加" の "従業員 (現在)" のモデル シートで "給与 (現在)" 科目を選択します。
4. "科目詳細" セクションの上の + をクリックして、以下の科目リンクを追加します。要員計画モデル シートの給与 (計画) 科目、従業員の現在のモデル シートの福利厚生 (現在) 科目、要員計画モデル シートの計画福利厚生 (計画) 科目、従業員の現在のモデル シートの給与税 (現在) 科目、要員計画モデル シートの給与税 (計画) 科目。
5. "科目詳細" の上のチェック マークをクリックして、変更を適用します。
6. 保存します。

属性値の適用

1. 総勘定元帳科目管理で、複数科目のリンクを使用して作成した "6700 給料経費" 科目を選択します。
2. "リンク先" セクションで "給与 (現在)" 科目のリンクを選択します。
3. "編集" を選択します。
4. 支出カテゴリ属性を選択します。
5. 給与属性値を選択して給与科目リンクにタグ付けします。
6. チェック マークをクリックしてリンク詳細を保存します。
7. すべての科目リンクが支出カテゴリを属性として使用し、各科目リンクが関連する属性値でタグ付けされるまで、このプロセスを繰り返し、その他の科目リンクを編集します。福利厚生科目リンクは、福利厚生属性値を選択してタグ付けします。給与税科目のタグ付けには、給与税属性値を選択します。
8. "科目詳細" の上のチェック マークをクリックして、変更を適用します。
9. 保存します。

複数ソースのリンクおよび属性の適用後の結果
科目構造を調べると、給与、福利厚生、給与税の 3 つの経費領域のそれぞれに対して複数のサブ科目を持つ親科目の代わりに、単一の科目があることを確認できます。

科目リンクを選択して属性値を適用したことにより、科目は属性別に分類することができます。

複数ソースのリンクを持つ "6700 給与経費科目" をレポートに追加して、レポート列として支出カテゴリを設定すると、データが 3 種類のカスタム属性値別に分割されます。

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目 ( 920ページ )
タスク
科目へのリンクの追加 ( 908ページ )

例: 費用のリンク科目

対象者: モデルを管理する管理者

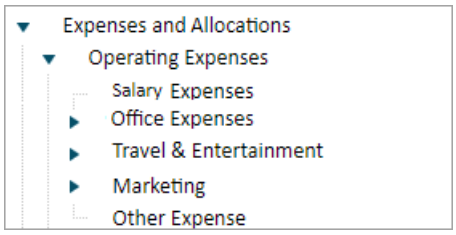
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

この例では、リンク元科目の仕組みについて説明します。

例
"要員計画" モデル シートでは、給与、人員、ロール、従業員タイプを含む従業員の情報が追跡されます。

このモデル シートが管理するものの 1 つに給与があります。給与科目は、モデル シートに表示される科目ではありません。給与は、時間/週、福利厚生プラン、昇給日、昇給率 (%)、支払い単価など、他の科目の情報に基づいて計算されます。シートには値 (West Coast 地域、East Coast 地域など) で従業員別のデータにタグ付けする場所属性があります。

総勘定元帳科目では、営業費用がいくつかの子科目に分割されます。




総勘定元帳の費用における従業員モデルの給与の使用
総勘定元帳の給与科目を従業員シートの給与科目にリンクさせると、従業員モデル シートから給与費用を取得して総勘定元帳の費用科目全体に寄与させることができます。

代替ソリューション

- デフォルトの数式または共有数式を使用します。数式とリンクの長所と短所については 、概念: リンク元科目を 参照してください。
- 総勘定元帳の給与科目とモデルの給与科目をどちらも同一の費用シートに追加します。これにより、チームはモデル科目の行データをある科目から別の科目に 1 行ずつコピーできます。

モデル データまたはキューブ データの表示のピボット
モデル シートの給与科目を総勘定元帳科目にリンクすると、モデル シートでの追跡方法と同様の方法で従業員別に給与が分類されて表示されます。シートからこれを削除したり、データをより関連性の高い属性で分類したりするには、キューブ科目にリンクして、データをピボットします。

注 : モデル シートまたはキューブ シートをピボットするには、キューブ シートに標準キューブ科目を作成する必要があります。

たとえば、従業員別でなく場所別に給与を合計する給与費用のピボット表示にするには、以下を実行します。

1. 標準キューブ科目を作成します。
2. リンクの設定を有効化します。
3. これを "要員計画" モデルおよびモデル給与科目にリンクします。
4. 次に、場所属性をキューブ シートに追加します。

キューブ シートを確認すると、すべてのモデル シートの給与行の合計が表示されます。従業員の長いリストを使用する必要はありません。これで、場所属性を使用して、データをスライスすることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| # | TIME BY LOCATION | WEST COAST REGION | EAST COAST REGION | LOCATION (UNCATEGORIZED) | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Initial Balance | | | | |
| 2 | FY2016 | | | | |
| 3 | Q1-FY16 | 51,250 | 60,000 | 623,371 | |
| 8 | Q2-FY16 | 47,500 | 60,000 | 661,197 | |
| 13 | Q3-FY16 | 47,500 | 60,000 | 665,225 | |
| 18 | Q4-FY16 | 47,500 | 60,000 | 665,225 | |
| 23 | Total | **193,750** | **240,000** | **2,615,019** | **3,** |
| 24 | FY2017 | | | | |
| 25 | Q1-FY17 | 47,500 | 60,000 | 665,225 | |
| 30 | Q2-FY17 | 47,500 | 60,000 | 665,225 | |
| 35 | Q3-FY17 | 47,500 | 60,000 | 665,225 | |
| 40 | Q4-FY17 | 47,500 | 60,000 | 665,225 | |
| 45 | Total | **190,000** | **240,000** | **2,660,900** | **3,** |

セルを確認すると、従業員ごとの給与が表示されます (給与の詳細を表示する権限がある場合)。

relatedlinks
概念
概念: リンク元科目（920ページ）
タスク
科目へのリンクの追加（908ページ）

概念: リンク元科目

リンク元科目は、キューブまたはモデル シートから単数または複数の科目に保存されたデータを使用し、総勘定元帳、カスタム、キューブ標準科目にデータを入力します。キューブ シートでは、リンクを総勘定元帳およびカスタム キューブ入力科目に追加できます。科目 の "タイプ" 設定、"リンク"を使用して、科目にリンクを追加します。

インスタンスを、いくつかのモデルとして考えてみます。 科目リンクはモデル間のデータを接続する 1 つの方法です。例: モデル シートに人事モデルが含まれています。キューブ シートに含まれている収益モデルがあります。すべての総勘定元帳科目は別のモデルと見なすことができます。

リンク元科目の仕組み
"リンク" は "タイプ" 設定の一部ですが、科目のタイプは変えず、フローまたはストックのままにします。

ターゲット科目 は、データを他の科目から取得する科目です。ターゲット科目にリンクを設定した。

ソース科目は、キューブ科目またはモデル シート内にデータがある科目です。ソース科目は、キューブ科目またはモデル科目でなければなりません。科目をリンクしたら、チームはターゲット科目ではなくソース科目にデータを入力します。

1 つの科目を最大 10 のソース科目にリンクできます。リンクする必要があるソース科目が 10 を超える場合は、サポート ケースを作成してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リンク元科目のユース ケース

| 目標 | 例 |
| --- | --- |
| モデル シートまたはキューブ シートの属性、メトリック、その他のドライバーを用いて総勘定元帳データを計算および計画します。データを総勘定元帳合計にロールアップします。 | 人事モデル シートのデータは、個々の従業員ごとの給与費用を決定付けます。総勘定元帳の給与科目を、総勘定元帳の "費用" 科目の子として作成します。その子科目を、モデル シートで生成された給与にリンクさせます。給与費用は、他のすべての費用とともに総勘定元帳の "費用" 合計に合計されます。例: 経費のリンク元科目を参照してください。 |
| モデル シートまたはキューブ シートからデータをピボットし、クリーンで明確な合計を提示する。 | 人事モデル シートには、事業地属性ごとに各従業員の給与が表示されます。そのデータをキューブ シートにピボットし、従業員を表示せずに場所ごとの給与費用の合計を表示します。例: 経費のリンク元科目を参照してください。 |
| 複数の属性を使用して計画し、別の科目においてこれらの属性の一部のみを使用する。 | キューブ シートは、製品、事業地、顧客別に収益を計画します。総勘定元帳には製品カテゴリ別の収益が必要です。各製品カテゴリの総勘定元帳収益科目を作成し、属性でフィルタリングされたキューブの収益に個々の科目をリンクさせます。例: 属性と収益のリンク元科目を参照してください。 |
| モデル シートまたはキューブシートからの属性を用い、総勘定元帳科目コードを使用して直感的な数式を作成する。 | 総勘定元帳科目をキューブ科目およびモデル科目にリンクさせます。 数式において、モデル科目およびキューブ科目の長く非直感的な科目コードを参照するのではなく、総勘定元帳科目コードを参照します。その後、属性を追加できます。例: 属性と収益のリンク元科目 |
| ERP システムに近いシンプルな総勘定元帳の階層を維持しながら、カスタム属性で計画を立てる。 | 2 つの人事モデル シートの複数の経費科目を 1 つの総勘定元帳の経費科目にリンクします。複雑な科目構造を単一の総勘定元帳科目に簡素化するには、支出カテゴリのカスタム属性値を、リンクされた各科目に適用します。例: 適用される属性を使用した複数ソースのリンク元科目を参照してください。 |

パフォーマンス制限
特定のリンクされた科目設定と使用パターンでは、パフォーマンスが低下したり、予期しない結果が生じたりする可能性が高くなります。パフォーマンスの問題が発生する可能性と発生した問題の程度を下げるために、以下の最も一般的な問題の設定や使用パターンを避けることをお勧めします。

| 設定または使用パターン | 制限 |
| --- | --- |
| リンク元科目の長いチェーン | あるシートまたは科目から別のシートまたは科目に 3 つ以上のリンクをチェーンで使用すると、特に元のシートに多くのデータが含まれている場合は、パフォーマンスが低下します。これらのチェーンでは、すべての依存シートでセルが伝達されるため、計算時間が線形的に増加します。可能な場合は中間リンクを避け、データ ソースをできるだけ移動先に離さないようにします。 |
| マージされたキューブからのリンク | マージされたキューブに科目をソースとしてリンクすると、特にインポート変更時に、パフォーマンスの問題が発生します。これは、マージされたキューブの出力を計算すると、データが上流の科目に分散されるためです。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 設定または使用パターン | 制限 |
| --- | --- |
| 循環参照 | リンクされた科目で循環参照を設定しないようにします。システムは多くのケースで循環参照について識別しアラートを表示しますが、すべてのケースではありません。循環参照は、システムがデータ パスを明確に決定できず、順序外の処理が発生するため、パフォーマンスの低下と潜在的なデータの問題につながります。 |
| パススルー シートを使用した属性のドロップまたは追加 | 属性を削除するためにパススルー シートを使用して科目をシートにリンクすると、多くの場合パフォーマンスが低下します。リンク元科目はこの点を考慮して設計されておらず、このユース ケースにより、リンク元からターゲットへとチェーン化されたリンク科目の数が増加します。 |
| 創造的なユース ケースでの適用されたディメンションの使用 | レポートの形式設定などの目的に適用された属性を使用すると、リンクの数が大幅に増加します。 |
| モデル科目またはキューブ科目以外の科目からリンク | システムは通常、メトリック科目、システム科目、またはプロバイダ科目としてカスタム科目と標準科目からのリンクをサポートしていません。これらの科目にリンクしようとすると、設定エラーや予期しない動作が発生する可能性があります。 |
| 実績を伴う設定 | 実績から取得する科目をリンクさせるとパフォーマンス低下の原因になり、多くの場合不要になります。"リンク先科目の実績を表示"を選択した場合、計画値は実績バージョンからリンクされ、パフォーマンスに影響します。計画バージョンの科目値のみが必要な場合は、"リンク元フィルタ" セクションで "リンク先の実績を有効化" を選択することをお勧めします。 |
| 指定されたシート上またはインスタンス内の多数のリンク | インスタンスや特定のシートに数百、数千のリンクを追加すると、パフォーマンスが低下します。この影響は、リンクが使用する科目のモデルがどの程度複雑かによって異なります。 |
| ルートまたは合計組織を示すプロバイダ科目 | プロバイダ科目が、ルートまたは合計組織を示す算出科目である場合、パフォーマンスに影響します。これにより、システムが追加データを計算および集計するにつれて、より多くの依存関係が作成されます。 |

relatedlinks
タスク
科目へのリンクの追加（908ページ）
ソースとターゲットのリンクの科目設定を一致させる（911ページ）
参考
参考: リンク元科目と共有数式および算出科目との比較（923ページ）

概念: 実績の科目のリンク付け

実績の科目とプランニングの科目をリンクすることも、計画バージョンの科目のみをリンクすることもできます。実績については特定の科目をリンクさせないまま残すことをお勧めします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

重要 : 実績バージョンの科目をリンクすると、宛先科目に現在保存されているすべての実績データが削除されます。また、ターゲット科目もロックされるため、データの編集やデータの科目へのアップロードは行えなくなります。ターゲット科目に入力する唯一の方法は、ソース科目を入力することです。

実績のリンク元科目の設定

実績をリンクするための科目設定は 、"実績のオーバーレイ " セクションにあります。次の 2 つのオプションがあります。

- リンク先科目の実績を有効化: 実績バージョンのリンクを削除します。
- リンク元科目の実績を表示: ソース科目に実績がある場合はリンクを維持し、ソース科目に実績がない場合はリンクを削除します。

実績バージョンの科目リンクを削除する場合

"リンク先科目の実績を有効化" によって リンクが削除され、実績バージョンでソース科目とターゲット科目のロックが解除されたままになります。このオプションを選択することをお勧めします。

- 別の総勘定元帳ソースから実績データをインポートする。
- Adaptive Planning ではターゲット科目の実績データをモデルにしないでください。
- ソース科目に実績がない場合。
- ソース科目にモデル科目を使用します。 モデル科目には通常、実績データがありません。

relatedlinks
タスク
科目へのリンクの追加 ( 908ページ )

参考: リンク元科目と共有数式および算出科目との比較

リンクされた科目、算出科目、共有数式は、1 つ以上の科目からデータを別の科目に取り込みます。このテーブルを見直して、科目に使用するオプションを決定します。

| 目標 | 共有数式 | デフォルトの数式 | リンク元科目 |
|---|---|---|---|
| 科目に別の科目のデータを入力 | はい | はい | はい |
| すべての組織とバージョンで同じデータを使用 | 可能ですが、この結果に最適なツールではありません。 | はい | はい |
| パフォーマンスを高める | いいえ | いいえ | はい |
| 入力されたデータにさらに計算を追加する。例: 科目を別の数値または別の科目で乗算する場合。 | はい | はい | いいえ |
| 複数の科目からデータを使用する | はい | はい | はい |
| 数式とレポートの属性へのオプション的なアクセスを提供する | いいえ | いいえ | はい |
| 組織ごとに異なる数式を使用 | はい | いいえ | いいえ |
| バージョンごとに異なる数式を使用 | はい | はい (数式オーバーライド オプションを使用)。 | いいえ |
| エンド ユーザーが数式をオーバーライドできるようにする | はい | はい (データ オーバーライド オプションを使用)。 | いいえ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
概念
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
概念: リンク元科目（920ページ）
概念: 算出科目（889ページ）
概念: 共有数式（1185ページ）
タスク
科目へのリンクの追加（908ページ）
共有数式を作成する（1180ページ）

**FAQ:** リンクされた科目と数式

- 科目をリンクまたはリンク解除するとどうなりますか？
- 複数の科目をリンク元科目に変更するにはどうすればよいですか？
- リンク元科目を使用すべきなのはどのような場合ですか？また、数式を使用すべき場合は？
- 履歴データを変更することなく、異なるタイプの科目の数式を更新する最善の方法は何ですか？

### 科目をリンクまたはリンク解除するとどうなりますか？

科目をリンクする場合:

- 計画バージョンのすべてのデータを、ソース科目のデータに置き換えます。これにはロック済バージョンが含まれますが、アーカイブ済バージョンは除外されます。
- 計画バージョンのすべてのセル メモと分割も削除します。
- リンクは組織と時間を超えて適用されます。
- シートでは、科目がロックされ、エンドユーザーはリンクされているデータをオーバーライドできません。
- "セルを探索" は、ソース科目へのアクセス権がある場合、ユーザーをソース科目にリンクします。
- 実績を個別に管理し、実績データがソース科目のデータと置き換わることを回避するには、"リンク先科目の実績を有効化" オプションを選択します。

科目のリンクを解除すると、次のようになります。

- すべての計画バージョン、組織、および時間のリンクを削除します。
- ロック済バージョンを含め、計画バージョン全体のすべてのデータが削除されます。これはアーカイブ済バージョンには影響しません。
- "リンク先科目の実績を表示" をオンにした場合も、実績バージョンからすべてのデータが削除されます。

### 複数の科目をリンク元科目に一度に変更するにはどうすればよいですか？

1. 科目ツールバーで印刷ボタンの横にある矢印をクリックし、"科目構造のエクスポート" を選択します。
2. ダウンロードしたスプレッドシートを開きます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "タイプ " 列で、変更する科目と同じ行に「リンク」 と入力します。
4. 同じ行の リンク元 科目列にソース科目の科目コードを入力します。ソース科目は、リンクしている科目です。
5. 科目ページに戻ります。
6. 科目ツールバーでインポート ボタンの横にある矢印をクリックし、"科目構造のインポート" を選択します。
7. スプレッドシートをアップロードします。

**リンク元科目を使用すべきなのはどのような場合ですか？また、数式を使用すべき場合は？**

一般的に、数式とリンクは同様の目的で機能します。これらの関数は、ある科目からデータを別の科目に引き出します。

| 数式の用途 | リンクを使用する場合 |
| --- | --- |
| • 組織とバージョンの組み合わせごとに異なる数式が必要な場合は、共有数式を使用します。<br>• すべての組織とバージョンで同じ計算を実行する場合は、デフォルトの数式を使用します。<br>• 数式オーバーライドを使用し、異なるバージョンのデフォルトの数式を変更します。 | 使用リンク:<br>• 組織、計画バージョン、時間にわたる同じロジックの場合。<br>• キューブ シートとモデル シートから総勘定元帳科目とカスタム科目のデータにカスタム属性を取り込む場合リンクされた科目でレポートを作成する場合、総勘定元帳とカスタム科目のデータをカスタム属性値でフィルタできます。 |
| | |

**履歴データを変更することなく、異なるタイプの科目の数式を更新する最善の方法は何ですか？**

| 科目タイプ | 履歴データの保存方法 |
| --- | --- |
| 総勘定元帳およびカスタム科目 | 以下が可能です。<br>• 共有数式を使用して柔軟性を高める: 共有数式はバージョンと組織によって異なるため、他のバージョンに影響を与えることなく、各バージョンの数式を変更できます。 参照 共有数式を作成す |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目タイプ | 履歴データの保存方法 |
| --- | --- |
| | る（1180ページ）。<br>• "オーバーライド数式設定" の使用: 科目にすでにデフォルトの数式がある場合、この設定により特定のバージョンの数式のみを変更できます。 参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）。 |
| メトリック科目とモデル算出科目 | 新しいバージョンに対して新しいメトリック科目を作成します。 メトリック科目の数式を更新すると、数式ロジックにより ロック済バージョンのデータも変更されます。 |
| キューブ算出科目 | "オーバーライド数式設定" の使用: 科目にすでにデフォルトの数式がある場合、この設定により特定のバージョンの数式のみを変更できます。 参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）。 |

relatedlinks
タスク
科目へのリンクの追加（908ページ）

加重平均換算科目
加重平均換算科目の作成

対象者: モデルを管理する管理者

加重平均換算 (WAT) はストック科目向けの科目設定です。デフォルトの数式は、フロー科目からデータを引き出してストック科目にそれを投入します。その後、加重平均換算によって、平均周期為替レートで差額の通貨を換算します。これにより、加重平均換算が提供されます。追加設定: "残高のリセット" と "リセット時に残高を移転" によってデータフローを自動化できます。

一般的に、フロー科目データを使用するストック科目の設定には "加重平均換算" 設定を使用します。例: 加重平均換算を使用したデータ フローの設定を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

前提条件

- 加重平均換算を初めて使用する場合は、概念: 科目、 概念: 複数の通貨ツール、および 概念: 加重平均換算を参照してください。
- 必要な権限: "モデル管理アクセス" > "モデル"
- 加重平均換算は、総勘定元帳およびカスタム科目の差額による累積の場合にのみ使用可能です。参照 概念: 科目のタイプ設定 ( 893ページ ) 。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング"を選択します。"科目" メニューから "総勘定元帳科目" または "カスタム科目" を選択します。

加重平均換算において要求される設定
"加重平均換算" 設定が非アクティブまたは使用不可である場合、次について確認してください。

- 科目には子科目がなければなりません。
- タイプ: ストック
- 累積タイプ、実績タイプ: 差額
- 実績のオーバーレイ: 実績を有効にします。
- 表示形式: カスタム科目の通貨。これは総勘定元帳科目では編集できません。
- デフォルトの数式: ソース科目を参照します (通常は、平均為替レートを持つフロー科目)。
- データ入力タイプ: 標準

残高を受信する科目がドロップダウン メニューにない場合、上記およびこれらの追加事項において概説したすべての設定と要件を有していることを確認してください。

- デフォルトの数式: 0 (ゼロ) を入力します。
- 時間合計 (カスタム科目のみ): 最新期間の値
- 組織/属性合計 (カスタム科目のみ): ロールアップした値の合計
- 加重平均換算: 選択済
- 残高のリセット: 未選択
- リセット時に残高を移転: 未選択

加重平均換算科目の作成
ビデオを見る (2 分 56 秒):

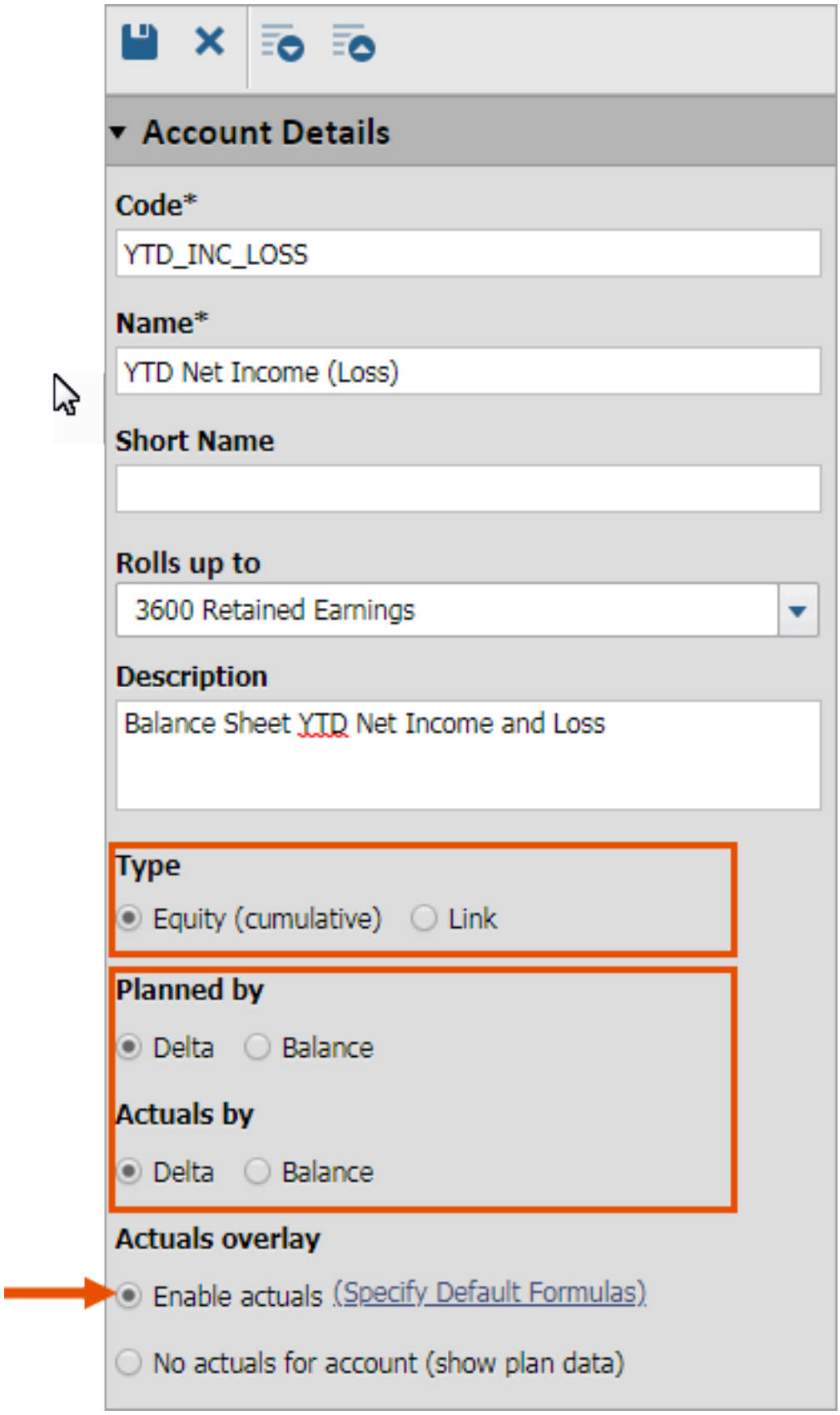
科目ページの場合

1. 子科目を持たないストック科目を選択します。または、新しい科目のストック親科目を選択して "新規作成" を選択します。"ストック" は "タイプ" に自動で設定されます。変更しないでください。
2. "科目詳細" セクションの場合
    - 累積タイプ、実績タイプ: 両方の差額を選択します。"実績タイプ" がロックされている場合、"実績のオーバーレイ" 設定までスクロールし、"実績を有効にする" を選択してその ロッ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

クを解除します。この設定は、ストックあるいはフローの合計ではなく、差額に為替レートを適用します。
- 時間合計: カスタム科目のみ。受取り科目である場合、"最新期間の値" を選択します。
- 組織/属性合計: カスタム科目のみ。受取り科目である場合、"ロールアップした値の合計" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

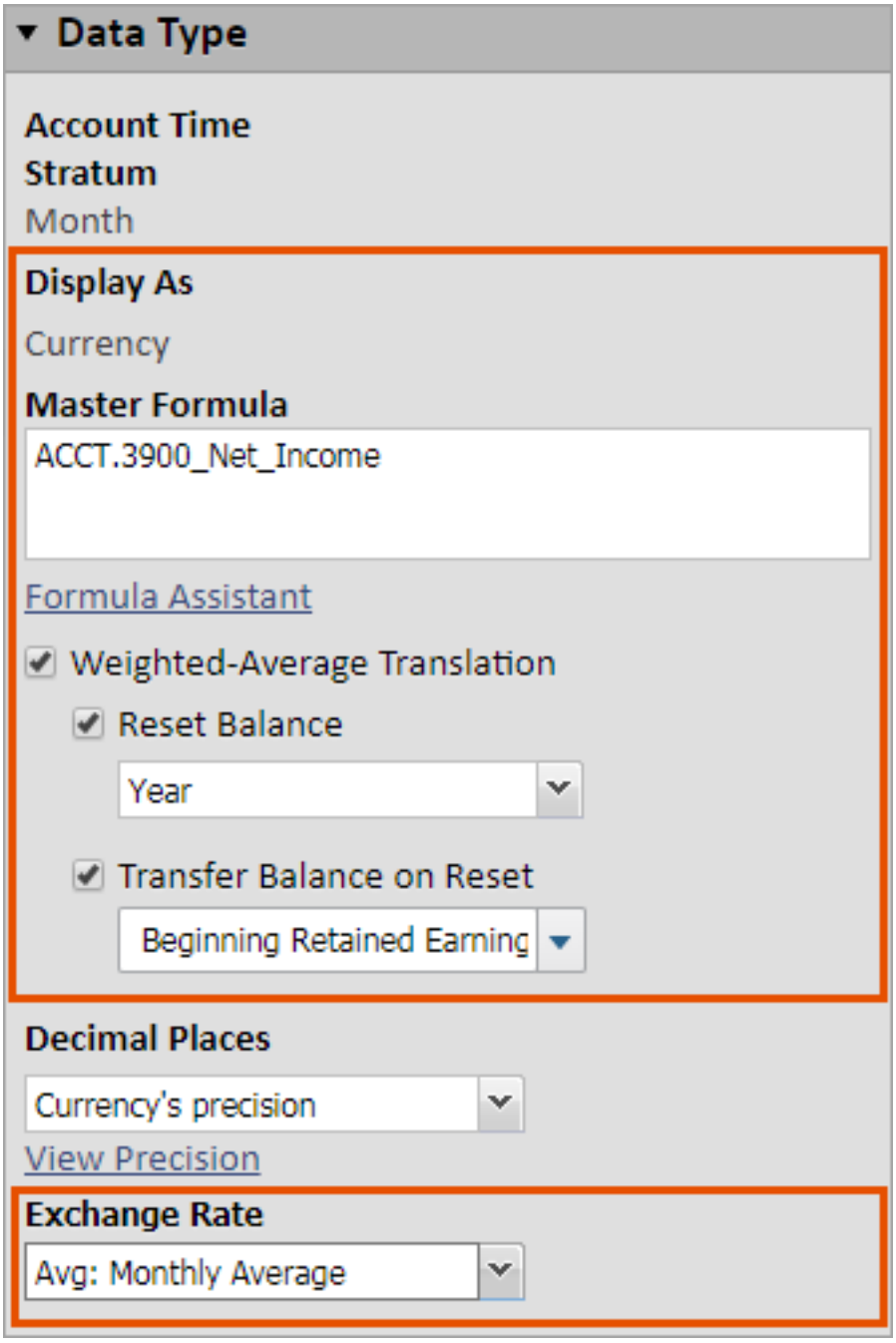



©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "データ タイプ" セクションの場合
    - 表示形式: カスタム科目の場合、"通貨" を選択します。総勘定元帳科目の場合、これは読み取り専用の設定です。これにより、個々の合計組織の通貨において値が数値として表示されます。
    - デフォルトの数式: フロー科目を参照する数式を入力します。この数式は、データ入力ではなく他の科目のデータを用いて科目の値を入力します。加重平均残高の移転における受取り科目である場合、ゼロを入力します。この数式は、関連するシートに入力された初期残高にゼロを加え、受信した移転を累積します。
    - 加重平均換算: チェックボックスをオンにします。この設定は、差額を累積する前に選択された為替レートで差額を換算します。この方法は、フロー科目のデータに一致する為替レートの影響を維持します。
    - 残高のリセット (任意。"加重平均換算" を選択した場合に使用可能): チェックボックスをオンにし、時間間隔を選択します。使用可能な間隔は、モデルのカレンダー設定に基づいて決まります。オプションは一般的に "月"、"四半期"、"年" を含みます。受取り科目の場合、このチェックボックスをオンにしないでください。この設定によって科目は累積され、ゼロにリセットされます。
    - リセット時に残高を移転 (任意。"残高のリセット" を選択した場合に使用可能): チェックボックスをオンにし、残高を受信する科目を選択します。この設定によって、科目の残高は選択された科目へ移転されます。
    - 為替レート タイプ: 通貨換算エラーを回避するため、"デフォルトの数式" フィールドで参照する科目の同じ為替レート タイプを選択します。これが受取り科目である場合、残高を移転

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

する科目と同じ為替レートを選択します。通常は、"平均: 月平均" または期間の平均である任意のカスタム レートを選択します。




4. Select Save.

概念: 加重平均換算

対象者: モデルを管理する管理者

加重平均換算 (WAT) はストック科目向けの科目設定です。デフォルトの数式は、フロー科目からデータを引き出してストック科目にそれを投入します。その後、加重平均換算によって、平均周期為替レートで差額の通貨を換算します。これにより、加重平均換算が提供されます。追加設定: "残高のリセット" と "リセット時に残高を移転" によってデータフローを自動化できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ビデオを見る (2 分 13 秒):

利益剰余金、純利益、期間終了日の純利益の科目を用いた設計を念頭に、加重平均換算はこれらの科目が通貨を換算するさまざまな方法に対応し、これらの科目間のフローを自動化します。

加重平均換算を設定しない場合、 Adaptive Planning は、期間終了日の科目の残高を累積し、通貨を換算します。加重平均換算の設定では次のようになります。 Adaptive Planning は累積前に差額の通貨を換算します。

"残高のリセット" および "リセット時に残高を移転" によってデータ フローが自動化されます。"残高のリセット" によって科目の累積は停止し、指定されたタイミングでゼロにリセットされます。"残高移転" によって、残高はリセット時に別の科目へ移動します。

加重平均換算科目の作成を参照してください。サマリー、および他の複数の通貨ツールへのリンクについては、 連結通貨ツールを 参照してください。

加重平均換算の用途
加重平均換算の設定は次の場合に使用します。

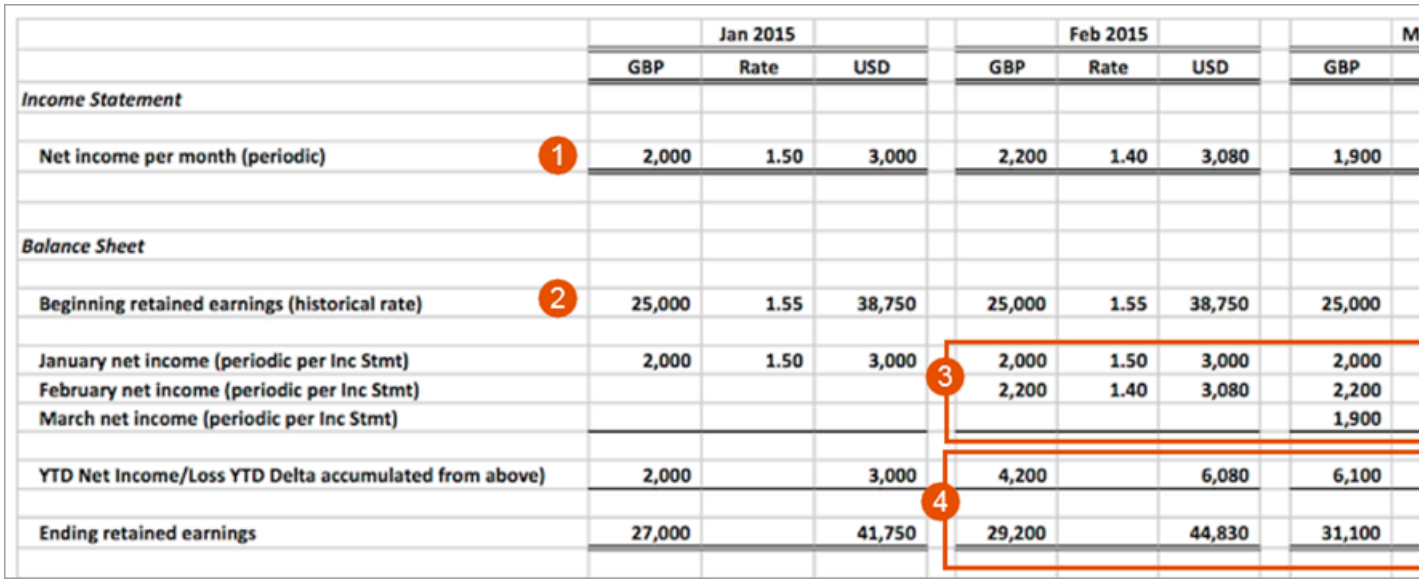
- 複数の通貨を有する場合、かつ
- ストック科目にフロー科目データを累積したい場合

最も一般的な使用例は、各会計期間における貸借対照表の利益剰余金セクションの YTD 純利益に対する損益計算書の純利益科目からのデータ フローおよび換算を自動化することです。

その他の使用例:

- 利益剰余金を通じて流動する配当金およびその他の科目
- アクティビティベースの科目 (追加、退職など) を伴う固定資産または投資ローリング予測

加重平均換算作業の仕組み



| | Jan 2015 | | | Feb 2015 | | | M |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | GBP | Rate | USD | GBP | Rate | USD | GBP |
| *Income Statement* | | | | | | | |
| Net income per month (periodic) ① | 2,000 | 1.50 | 3,000 | 2,200 | 1.40 | 3,080 | 1,900 |
| *Balance Sheet* | | | | | | | |
| Beginning retained earnings (historical rate) ② | 25,000 | 1.55 | 38,750 | 25,000 | 1.55 | 38,750 | 25,000 |
| January net income (periodic per Inc Stmt) | 2,000 | 1.50 | 3,000 | 2,000 | 1.50 | 3,000 | 2,000 |
| February net income (periodic per Inc Stmt) | | | | 2,200 | 1.40 | 3,080 | 2,200 |
| March net income (periodic per Inc Stmt) ③ | | | | | | | 1,900 |
| YTD Net Income/Loss YTD Delta accumulated from above) | 2,000 | | 3,000 | 4,200 | | 6,080 | 6,100 |
| Ending retained earnings ④ | 27,000 | | 41,750 | 29,200 | | 44,830 | 31,100 |

| | |
|---|---|
| 1 | 純利益は、希望どおりの月間平均レートに基づいてフロー値を換算します。 |
| 2 | 期首利益剰余金残高は過去のレートを使用します。"通貨タグ付き分割" を使用して、複数の通貨でこれらの値を入力することもできます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 3 | デフォルトの数式は純利益科目の個々のフロー値を取得します。加重平均換算設定は、定期的な平均為替レートを使用して差額を換算します。この値はフロー純利益値と一致しています。これらの値は、加重平均換算なしに一致することはありません。換算は、2 月のみの月末レートまたは平均レートで累積された残高に対して行われます。換算は 1 月のレートを考慮しません。 |
| 4 | 貸借対照表における年初来純利益/損失は、すべての通貨で累積されます。 |

"加重平均換算" 設定を使用するには、科目が特定の設定を有していなければなりません。加重平均換算科目の作成を参照してください。

残高のリセットとリセット時の残高移転
"残高のリセット" および "リセット時の残高移転" は、"加重平均換算" で使用するためのオプションの設定です。

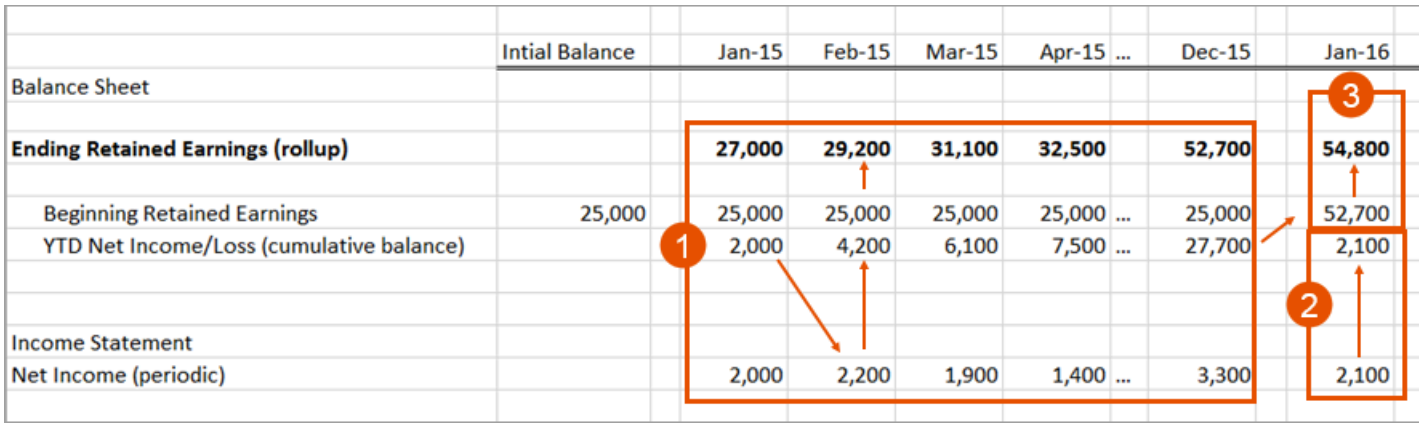
"残高のリセット" では、累積残高はリセットされてゼロになり、指定された時間において累積を再開します。たとえば、年初来純利益は年間の純利益科目からデータを累積します。次に、ゼロにリセットし、翌年 1 月の純利益データの累積を再開します。

使用可能な期間は、カレンダーの設定によって異なります。共通のオプションには、"月"、"四半期"、"年" が含まれます。

"リセット時に残高を移転" を用いると、科目の累積残高はリセットの時点で別の科目へ移転されます。たとえば、年初来純利益科目の終了残高は、年初において利益剰余金科目に移転します。

移転の受信に使用可能な科目には固有の設定があります。 加重平均科目の作成を参照してください。

残高のリセットと残高移転の例




| | |
|---|---|
| 1 | 年間累計は、年間の純利益の値を累積します。 |
| 2 | 年初において、年間累計の残高はゼロにリセットされ、累積が再開されます。 |
| 3 | 終了残高 (年末時点 ) は期首利益剰余金残高に効率的に移転されます。 |

加重平均換算を伴う場合および伴わない場合の為替レート

| 科目設定 | 調整結果 |
|---|---|
| 期間の終了または平均期間のレートを有する残高によるストック科目 | その期間の EOM または平均期間の為替レートで終了残高を換算します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目設定 | 調整結果 |
| --- | --- |
| 期間の終了または平均期間のレートを有する差額によるストック科目 | 経時的な差額を累積した後、その合計を終了期間の EOM または平均期間の為替レートで換算します。 |
| 加重平均換算および平均期間レートを有するストック科目 | 各差額を各期間の平均為替レートを用いて換算し、その後、将来的なすべての期間について換算された差額を累積します。 |
| 加重平均換算と期間終了時のレートを用いたストック科目 | 各期間の EOM レートを用いて各差額を換算した後、将来的なすべての期間について換算された差額を累積します。 |

例: 加重平均換算を使用したデータ フローの設定

加重平均換算 (WAT) はストック科目向けの科目設定です。デフォルトの数式は、フロー科目からデータを引き出してストック科目にそれを投入します。その後、加重平均換算によって、平均周期為替レートで差額の通貨を換算します。これにより、加重平均換算が提供されます。追加設定: "残高のリセット" と "リセット時に残高を移転" によってデータフローを自動化できます。

詳細については 、加重平均換算科目の作成 および 概念: 加重平均換算を 参照してください。

ステップ
この例では、カスタム科目または総勘定元帳科目を使用します。このウォークスルーでは総勘定元帳科目を使用し、一般的な総勘定元帳とカレンダーの設定について説明しています。インスタンスによっては、ここでの設定と異なる場合があります。

1. "利益剰余金 - 期首" という名前の "利益剰余金" の子科目を作成します。
2. 新しい "年初来の収益 (損失)" 科目を、"利益剰余金" の子科目として作成します。
3. "純利益" 科目の科目設定を確認して確定します。
4. "利益剰余金 - 期首" 科目用の初期貸借対照表を設定します。
5. 通貨タグ付き分割を使用して "利益剰余金 - 期首" の当初残高をシードします。
6. 貸借対照表科目を "貸借対照表" シートに追加して、データの流れを確認します。

重要 : このウォークスルーでは、"利益剰余金" 科目の保存データを計算値に置き換えます。その後、移転は自動的に累積されます。この科目の既存のデータを保存したい場合は、データを エクスポートしてください。もしくは、移行のサポートについて当社にお問合わせください。

利益剰余金の合計科目への変更
"利益剰余金" 科目は、ほとんどのインスタンスで総勘定元帳リストに含まれています。"利益剰余金" を合計科目にするには、子科目を作成します。

重要 : このステップでは、"利益剰余金" に含まれるデータを新しい子科目へ移動します。デフォルトの数式を子科目に追加するときは、データを削除します。

利益剰余金の編集

"利益剰余金" 科目を合計科目にする準備を整えます。

1. ナビゲーション メニューで "モデリング" をクリックします。次に、"総勘定元帳科目" をクリックします。
2. 科目リストで "利益剰余金" 科目をクリックします (利益剰余金科目は通常、"負債と純資産" > "純資産" にあります)。
3. 設定で以下のようにします。
    - 名前を「利益剰余金 - 期首」に変更します。
    - "為替レート" を "平均: 月平均" に変更します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "保存" をクリックします。

### "利益剰余金 - 期首科目" の作成

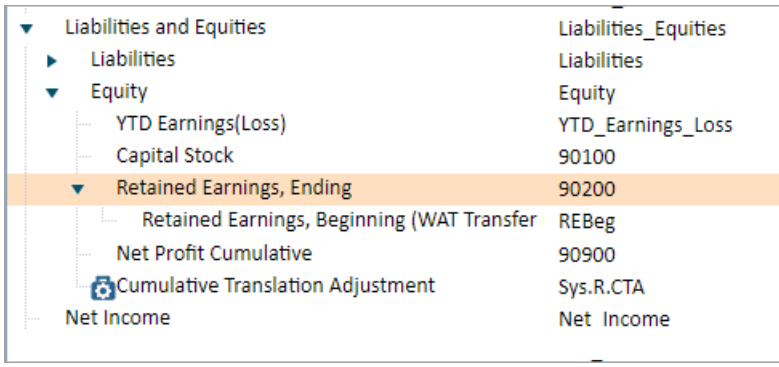
加重平均換算の移転を受け取る新しい科目を設定します。

1. 科目リストで、"利益剰余金 - 期末" をハイライト表示します。
2. ツールバーで "新規科目を作成" をクリックします。
3. 以下を設定します。
    - コード: コードは「REBeg」
    - 名前: 「利益剰余金 - 期首」
    - タイプ: ストック科目の子科目であるため、デフォルトで "ストック" と設定されています。
    - 累積タイプおよび実績タイプ: "差額" をクリックして、この科目が "年初来の収益 (損失)" から加重平均換算の移転を受け取ることを許可します。この科目にデータを入力することはないため、この設定がこの科目にその他の影響を与えることはありません。
4. "データ タイプ" は、以下に従って設定します。
    - デフォルトの数式: 数字の 0 (ゼロ) を入力します。"数式" にゼロを指定すると、この科目はシートで読み取り専用になります。この科目では、初期残高および受け取る移転の入力すべてを累積します。
    - 加重平均換算: チェックボックスをオンにして有効化すると、この科目は "年初来の収益 (損失)" 科目の期末残高を受け取ることができます。
    - 為替レート: "平均: 月平均" を選択します。当初貸借対照表に通貨タグ付き分割が追加されているため、この科目では通貨換算を行いません。ベストプ ラクティスとしては、この設定を "年初来の収益 (損失)" の為替レート タイプと一致させます。

### 結果

このステップを終了すると、総勘定元帳科目リストは、以下のようになります。

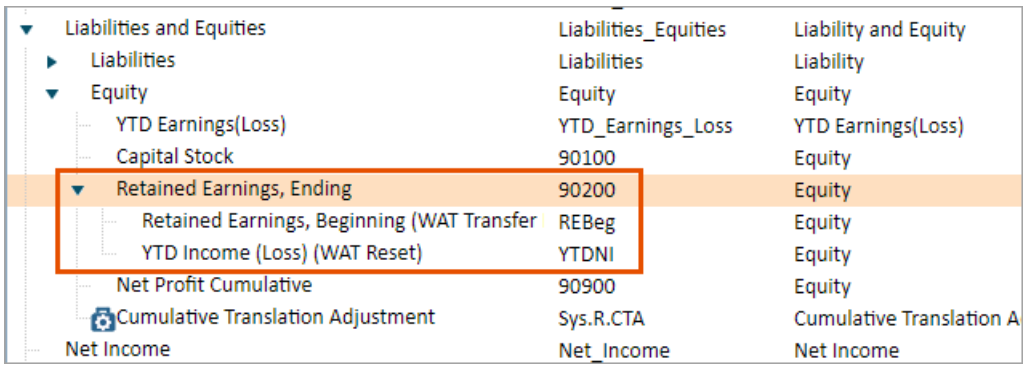
©2026 Workday, Inc. All rights reserved




新しい "年初来の収益 (損失)" 科目の作成
ほとんどのインスタンスには "年初来の純利益" が含まれています。ただしこの科目は、このウォークスルーで必要な方法で編集することができないため、適切な設定ができる新しい "年初来の収益 (損失)" 科目を作成します。

1. 科目リストで、"利益剰余金 - 期末" 科目をクリックします。
2. ツールバーで "新規科目を作成" をクリックします。
3. "科目詳細" で以下を設定します。
    - コード: 「YTDNI」
    - 名前: 「年初来の収益 (損失)」
    - ロールアップ先: 「利益剰余金 - 期末」が指定されていることを確認します。
    - タイプ: ストック科目の子科目であるため、デフォルトで "ストック" と設定されています。
    - 累積タイプと実績タイプ: "差額" を選択します。この設定では、累積あるいは定期的な合計ではなく、期間ごとの変化に対して為替レートを適用します。
    - デフォルトの数式: 純利益科目コードの「ACCT.Net_Income」を入力します。 この科目は、純利益科目から定期的に値を取得して、その値を累積します。
    - 加重平均換算: チェックボックスをオンにします。この科目では、差額を累積する前に選択した為替レートで差額を換算します。これにより、為替レートによる影響がフロー科目のデータに一致することになります。
    - 残高のリセット: チェックボックスをオンにして、"年" を選択します。この科目は、12 月末日まで累積した後、残高をゼロにリセットしてから累積を再開します。
    - リセット時に残高を移転: チェックボックスをオンにして、"利益剰余金 - 期首" を選択します。この科目では、年末時点の残高が翌年の開始時に "利益剰余金 - 期首" 科目に移転されることになります。
    - 為替レート: "平均: 月平均" を選択します。 純利益科目で使用される為替レートと一致させて、為替レートによる影響を調整します。

このステップを完了すると、科目リストは以下のようになります。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

純利益 (損失) の設定の確認
お使いのインスタンスには、損益計算書向けの "純利益" ルート科目が含まれています。ルート科目が新しい "年初来の収益 (損失)" 科目と連携する設定になっているかを確認します。

1. "純利益" 科目をハイライト表示します。
2. 設定で、為替レートに "平均: 月平均" を選択します。
3. "保存" をクリックします。

利益剰余金の初期残高用シートの作成
利益剰余金のシードにまだ通貨タグ付き分割を使用していない場合は、各組織のそれぞれ通貨の為替レートを手動で入力または計算することになります。科目のシード時に各通貨に同じ履歴値を使用する場合、通貨タグ付き分割を設定しても、このデータが変更されることはありません。この機能の概要については、初期残高の通貨タグ付き分割を 参照してください。

1. "モデリング" > "組織割当シート" に移動して、標準シートを作成します。名前には、「RE の当初残高入力」と入力します。
2. "利益剰余金 - 期首" 科目をシートに追加して、"初期の残高を表示" をクリックします。
3. 属性に "通貨 (システム)" を追加します。通貨タグ付き分割の場合、この属性がシートに必要です。
4. このシートへのアクセスを許可する組織を追加して、保存します。

このステップを完了すると、次のようなシートが表示され、通貨タグ付き分割が許可されます。

| Accounts | Currency | Initial Balance | Jan-2013 | Feb-2013 | Mar-2013 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3600 Retained Earnings | | | | | |

"利益剰余金 - 期首" の初期残高のシード
このウォークスルーでは、利益剰余金を 3 種類の通貨で追跡する組織がいくつかインスタンスに含まれています。

- 本社は、英国ポンド (GBP) を使用しています。
  - 研究開発部門は、英国ポンド (GBP) を使用しています。
  - 営業およびマーケティング部門は、米国ドル (USD) を使用しています。
    - 営業およびマーケティング部門内の部署であるカナダ営業部は、カナダ ドル (CAD) を使用しています。
    - 営業およびマーケティング部門内の部署である米国営業部は、米国ドル (USD) を使用しています。
    - 営業およびマーケティング部門内の部署であるマーケティング部は、米国ドル (USD) を使用しています。

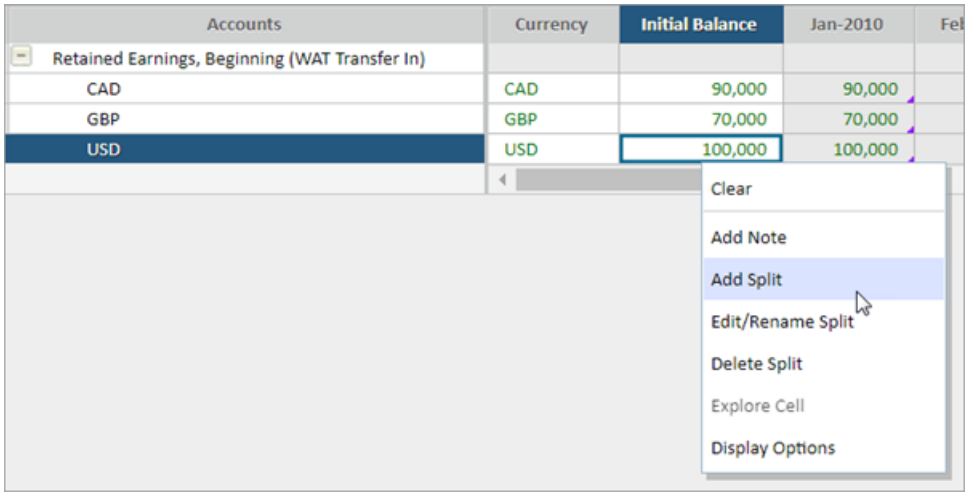
カナダ営業部は、営業およびマーケティング部門にロールアップされ、営業およびマーケティング部門は、英国本社にロールアップされます。入力が必要なのは、各通貨の最下位組織の初期残高のみです。この例では、研究開発部門、カナダ営業部、米国営業部、マーケティング部の 4 つの最下位組織 (サブ組織がない組織) があります。

初期残高をシードするには、次の手順に従います。

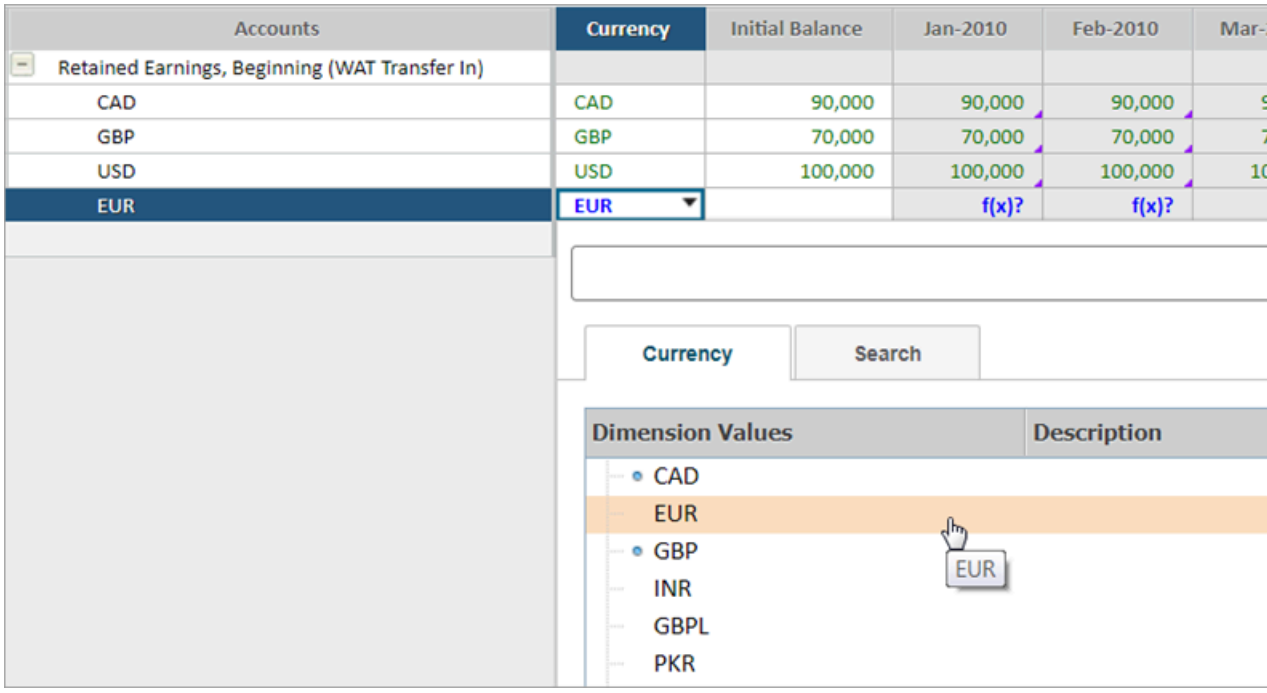
1. ナビゲーション メニューで "シート" をクリックして、"RE の初期残高入力" シートを開きます。
2. "バージョン" ドロップダウンで "実績" を選択します。"組織" ドロップダウンで最下位組織を選択します。ここではカナダ営業部を選択します。
3. カナダ営業部のすべての組織がロールアップ先に注意します。カナダ営業部は、営業およびマーケティング部門と本社の 2 つの組織にロールアップされます。それぞれのロールアップ先の組織の通貨が、GBP と USD であることに注意します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. ステップ 3 に記載の各通貨および組織の通貨の分割を追加します (ここでは、CAD を追加します)。
    a. "利益剰余金 - 期首" の "初期の残高" 列のセルを右クリックします。"分割を追加" を選択して、以下を実行します。

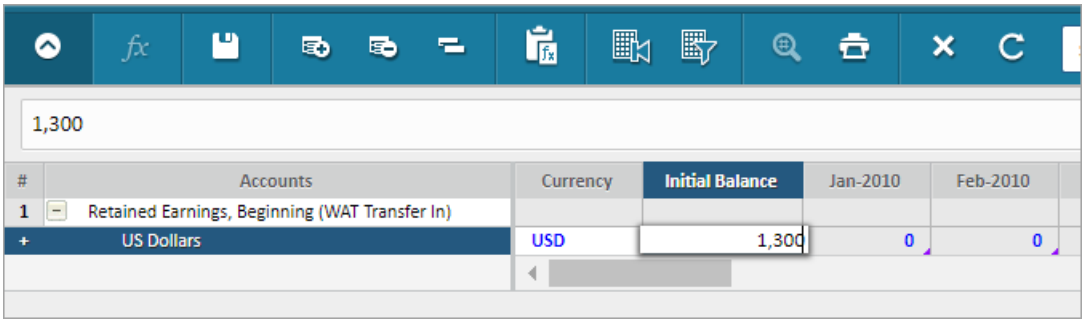



    b. 通貨に応じた分割名を入力します。CAD から始めます。
    c. "通貨" 列のセルのドロップダウンの矢印をクリックして、分割名と一致する通貨を選択します。



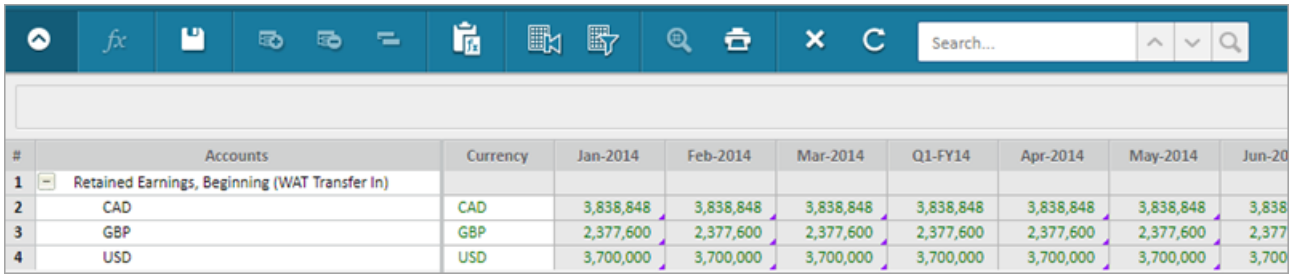

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. それぞれの通貨分割の初期残高を入力します。

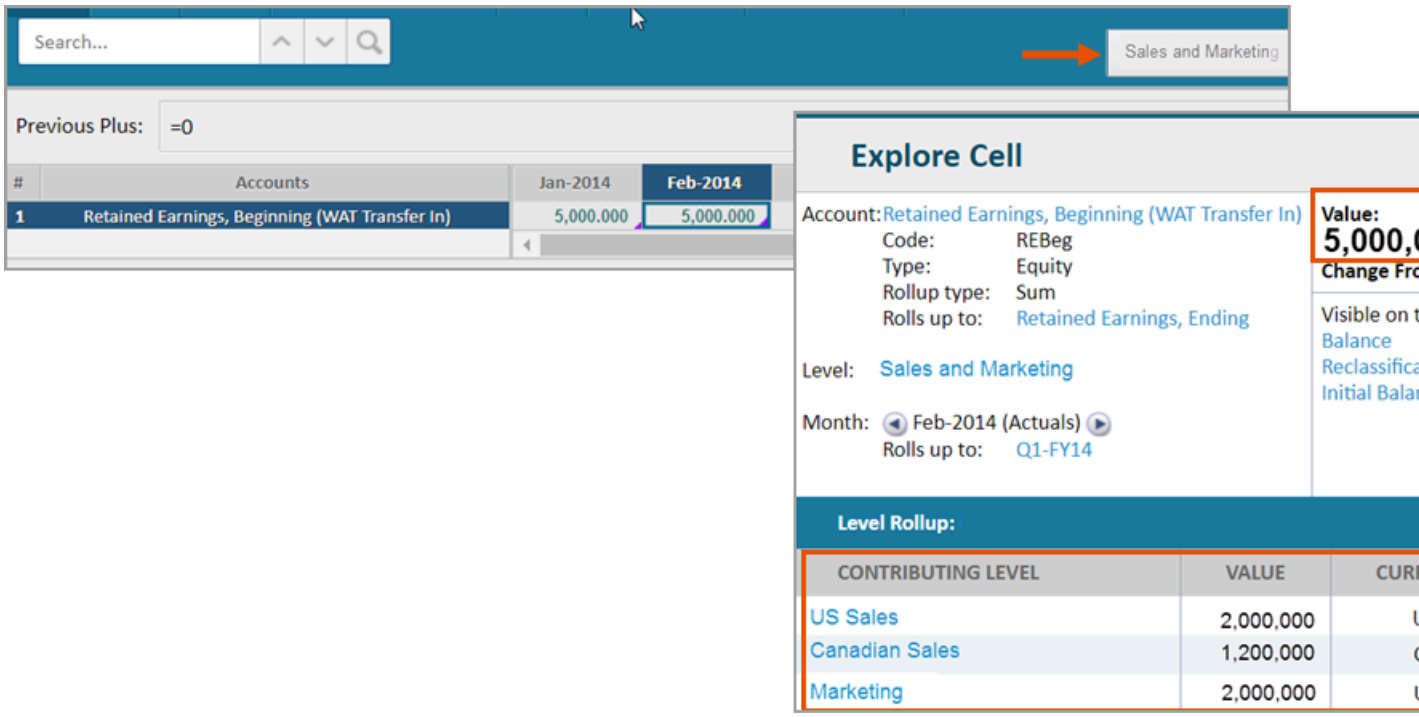



6. シートを保存します。

初期残高をシードすると、最下位組織には 3 種類の通貨すべての値が時系列で表示されます。




販売部門およびマーケティング部門などのロールアップ先の組織は、その組織の通貨でのみ合計を表示します。セルを調べて、すべての通貨についての関連組織とその値を確認します。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

結果のデータフロー
4 つの科目 ("利益剰余金"、"利益剰余金 - 期首"、"年初来の利益 (損失)"、"純利益") のうち、シートで更新する科目は "純利益" のみです。この例では、純利益は、収益と経費のアクティビティに基づく計算値です。簡略化のため、ここでは毎月の損益計算書の純利益を同一額の 75,000 米ドルとして算出します。

このデータは、デフォルトの数式から貸借対照表の "年初来の収益 (損失)" に反映されます。"年初来の収益 (損失)" のデータでは、差額について通貨換算が行われた後、年間の累積が行われます。

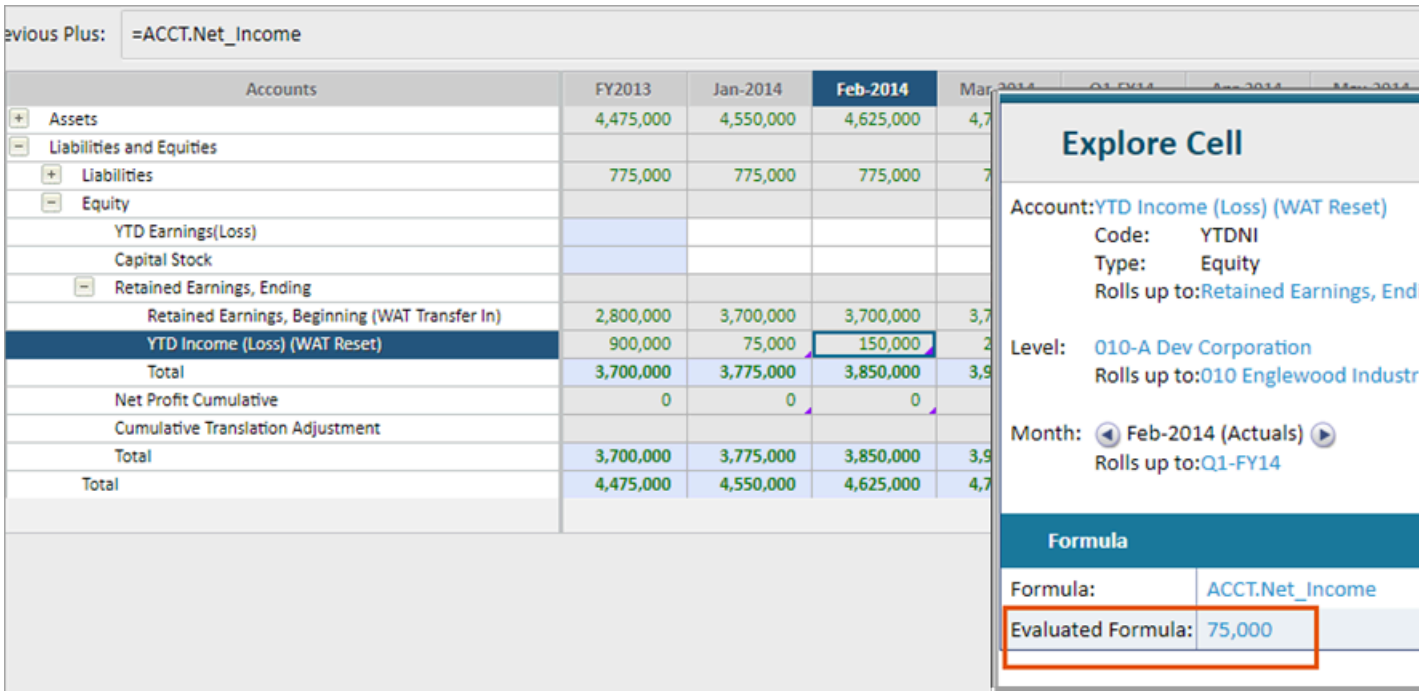
P & L Sheet Net Income

| Accounts | Jan-2013 | Feb-2013 | Mar-2013 | Apr-2013 | May-2013 | Jun-2013 | Jul-2013 | Aug-2013 | Sep-2013 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL Income | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 |
| PL COGS | 250,000 | 250,000 | 250,000 | 250,000 | 250,000 | 250,000 | 250,000 | 250,000 | 250,000 |
| PL Expense | 175,000 | 175,000 | 175,000 | 175,000 | 175,000 | 175,000 | 175,000 | 175,000 | 175,000 |
| Net Income | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 | 75,000 |

Balance Sheet YTD Income (Loss)

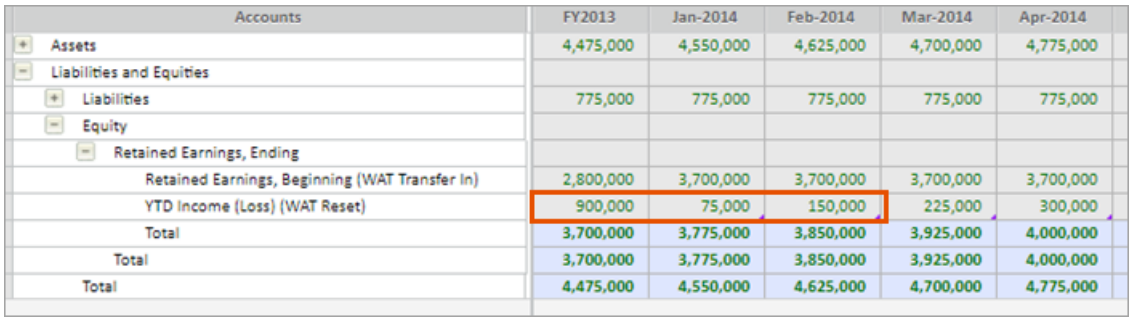
| Accounts | Jan-2013 | Feb-2013 | Mar-2013 | Apr-2013 | May-2013 | Jun-2013 | Jul-2013 | Aug-2013 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Assets | 3,650,000 | 3,725,000 | 3,800,000 | 3,875,000 | 3,950,000 | 4,025,000 | 4,100,000 | 4,175,000 |
| Liabilities and Equities | | | | | | | | |
| Liabilities | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 |
| Equity | | | | | | | | |
| Retained Earnings, Ending | | | | | | | | |
| Retained Earnings, Beginning (WAT Transfer In) | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 |
| YTD Income (Loss) (WAT Reset) | 75,000 | 150,000 | 225,000 | 300,000 | 375,000 | 450,000 | 525,000 | 600,000 |
| Total | 2,875,000 | 2,950,000 | 3,025,000 | 3,100,000 | 3,175,000 | 3,250,000 | 3,325,000 | 3,400,000 |
| Total | 2,875,000 | 2,950,000 | 3,025,000 | 3,100,000 | 3,175,000 | 3,250,000 | 3,325,000 | 3,400,000 |
| Total | 3,650,000 | 3,725,000 | 3,800,000 | 3,875,000 | 3,950,000 | 4,025,000 | 4,100,000 | 4,175,000 |

この貸借対照表では、"年初来の収益 (損失)" セルがグレーで表示されていることに注意してください。これは、チームのユーザーがデータを編集できないことを意味しています。セルには青の三角形も表示されています。これは、算出値であることを意味します。"年初来の収益 (損失)" のセルを調べて、データが純利益を取得して累積したデフォルトの数式の計算結果であることを確認してください。




"年初来の収益 (損失)" の残高は、年末にゼロにリセットされてから、累積が再開されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



| Accounts | FY2013 | Jan-2014 | Feb-2014 | Mar-2014 | Apr-2014 |
|---|---|---|---|---|---|
| Assets | 4,475,000 | 4,550,000 | 4,625,000 | 4,700,000 | 4,775,000 |
| Liabilities and Equities | | | | | |
| Liabilities | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 |
| Equity | | | | | |
| Retained Earnings, Ending | | | | | |
| Retained Earnings, Beginning (WAT Transfer In) | 2,800,000 | 3,700,000 | 3,700,000 | 3,700,000 | 3,700,000 |
| YTD Income (Loss) (WAT Reset) | 900,000 | 75,000 | 150,000 | 225,000 | 300,000 |
| Total | 3,700,000 | 3,775,000 | 3,850,000 | 3,925,000 | 4,000,000 |
| Total | 3,700,000 | 3,775,000 | 3,850,000 | 3,925,000 | 4,000,000 |
| Total | 4,475,000 | 4,550,000 | 4,625,000 | 4,700,000 | 4,775,000 |

"利益剰余金 - 期首" 科目のセルもグレーで表示されています。これは、科目に数式があり、ユーザーが編集できないデータであるためです。残高は月ごとに変化しません。会計年度の始めに、この科目は "年初来の収益 (損失)" から残高の移転を受け取り、その残高を前年度の残高に累積します。

| Accounts | Jan-2013 | Feb-2013 | Mar-2013 | Apr-2013 | May-2013 | Jun-2013 | Jul-2013 | Aug-2013 | Sep-2013 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Assets | 3,650,000 | 3,725,000 | 3,800,000 | 3,875,000 | 3,950,000 | 4,025,000 | 4,100,000 | 4,175,000 | 4,250,000 |
| Liabilities and Equities | | | | | | | | | |
| Liabilities | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 | 775,000 |
| Equity | | | | | | | | | |
| Retained Earnings, Ending | | | | | | | | | |
| Retained Earnings, Beginning (WAT | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 | 2,800,000 |
| YTD Income (Loss) (WAT Reset) | 75,000 | 150,000 | 225,000 | 300,000 | 375,000 | 450,000 | 525,000 | 600,000 | 675,000 |
| Total | 2,875,000 | 2,950,000 | 3,025,000 | 3,100,000 | 3,175,000 | 3,250,000 | 3,325,000 | 3,400,000 | 3,475,000 |
| Total | 2,875,000 | 2,950,000 | 3,025,000 | 3,100,000 | 3,175,000 | 3,250,000 | 3,325,000 | 3,400,000 | 3,475,000 |
| Total | 3,650,000 | 3,725,000 | 3,800,000 | 3,875,000 | 3,950,000 | 4,025,000 | 4,100,000 | 4,175,000 | 4,250,000 |

科目設定の参考情報
参考: 総勘定元帳科目の設定

"科目詳細" セクション

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| コード | 文字、数字、下線を独自に組み合わせたものです。スペースなどの特殊文字は使用できません。インポートのために空白のままにした場合、Adaptive Planning によりコードが自動生成されます。 |
| 名前 | シート、レポート、グラフに表示されます。名前は一意である必要はありません。 避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | 文字、数字、特殊文字の任意の組み合わせ。科目名が長い場合は、ダッシュボード グラフの科目の表示名がオーバーライドされます。 |
| ロールアップ先 | 組み込み総勘定元帳科目の場合は読み取り専用<br>親科目を示します。 |
| タイプ | 値が前の期間とどのように関連しているかを示します。<br>• ストック: 値は期間ごとにストックされます。<br>• フロー: 所与の期間値は、その期間の正味アクティビティに等しくなります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • リンク (合計科目では使用できません): モデル科目またはキューブ科目には、この科目の値を入力します。<br>参照 概念: 科目のタイプ設定 ( 893ページ ) 概念: リンク元科目 |
| 累積タイプ | 最下位のストック科目で使用できます。<br>計画バージョンのシート セルへのデータ入力方法を設定します。<br>• 差額: シートにおいて、前回の期間からの変更を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「5」と入力します。<br>• 残高: シートに現在の残高を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「25」と入力します。 |
| 実績タイプ | 最下位のストック科目で使用できます。<br>実績バージョンのシート セルへのデータ入力方法を設定します。<br>• 差額: シートにおいて、前回の期間からの変更を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「5」と入力します。<br>• 残高: シートに現在の残高を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「25」と入力します。 |
| リンク先 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>科目を総計値として入力する、モデル科目およびキューブ科目をリストします。 |
| リンク元科目の追加、またはリンク元科目の編集 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>"リンク先" コンテンツ ボックスでリンクを追加または編集するときに表示されます。プロンプトを使用してソース シートを選択し、次にシートの科目を選択します。 |
| 記号変更 +/- | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>合計以外を減算する、ハイライトされたリンクの逆数値を取得します。例: モデル シート内の減価償却累計額科目が正の値です。総勘定元帳科目にリンクするとき、総勘定元帳に負の値として表示されるように符号を反転することができます。 |
| 属性値の適用 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ハイライトされたソース シートに存在しない属性値がデータに適用されます。 |
| リンク フィルタ | 最下位のリンク元科目で使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ドロップダウン プロンプトから選択した属性または特性がタグ付けされたデータのみが取得されます。 |
| 特定のバージョンのオーバーライド リンク | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>リンク オーバーライド フィールドをアクティブ化することで、リンクされた科目に特定のバージョンのデータを入力できるようにします。 |
| リンク バージョン セレクター | 必須:"特定のバージョンのリンクをオーバーライド" チェック ボックスをオンにします。<br>計画バージョンのリストを提供します。リンクされた科目のデータ入力に対して有効にするバージョンを選択します。データ入力オーバーライドを使用すると、リンクが削除され、シート、インポート、および Predictive Forecaster を使用して科目のデータをシートに入力できるようになります。科目にリンクがない場合は読み取り専用です。 |
| リンク設定をオーバーライド | 以下のデータ入力を有効または無効にします。<br>• "なし": 選択したバージョンのリンクされたソース科目データを科目に入力します。<br>• データ入力: リンクされたソース データを削除することで、データの入力、データのインポート、または Predictive Forecaster を使用したデータの自動入力が可能になります。 |
| 時間合計 | 読み取り専用。時間合計によるデータの集計方法について説明します。<br>• ロールアップした値の合計 (フロー科目): その期間のすべての値を合計します。例: 第 1 四半期の合計の場合は、1 月から 3 月までを合計します。<br>• 最新期間の値 (ストック科目): 最新期間の値を取り、合計はしません。例: 終了人員の累積値を表示します。 |
| 組織/属性合計 | リンク元科目で使用できます。<br>ロールアップした値の合計: 組織または属性のすべての値の合計。例: 各部門の費用を合計します。 |
| 実績を有効にする | 最下位科目で使用できます。<br>リンク元科目では使用できません。計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| 科目用実績なし | リンクされていない最下位科目で使用できます。計画バージョンの計画データのみ表示されます。実績オーバーレイのない科目の数式は、数式が実績オーバーレイのあるシートのセルを含む実績 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | データを参照している場合、空白のデータになります。 |
| リンク先科目の実績をオーバーライド | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ソース科目で実績がすでに有効になっている場合に限り、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| リンク先科目の実績を表示 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ソース科目で実績がすでに有効になっている場合に限り、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| デフォルトの数式を指定 | 実績のオーバーレイがある最下位科目で使用できます。<br>実績バージョンの各組織の科目に共有数式を割り当てます。シートでは、入力した他の数式や値で共有数式をオーバーライドできます。 |
| デフォルト値と数式の設定 | 最下位科目で使用できます。<br>組織別に計画バージョンに共有数式を割り当てます。 |
| 依存関係を表示 | モデルが科目を参照する場所を示します。<br>• 算出科目: 科目設定の数式でこの科目を参照する科目をリストします。<br>• 共有数式: 共有数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別および組織別にリストします。<br>• キューブ入力: キューブ シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、キューブ シート名別にリストします。<br>• その他の入力: モデル シートおよび標準シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別、組織別、期間別にリストします。<br>• ルール: この科目を参照する配賦ルールおよび相殺消去ルールをリストします。<br>• 仕訳入力: 連結でのみ使用できます。この科目を参照する仕訳入力を、仕訳入力番号別、バージョン別、組織別にリストします。<br>• レポート: カスタム計算を使用してこの科目を参照するレポート名をリストします。 |
| 残高タイプ | 組み込み科目の場合: 読み取り専用です。標準的な会計基準に従います。<br>その他の科目の場合: 残高タイプがルートの反対側にある場合、科目は相対科目であるため、合計値が減ります。<br>すべての子孫科目の残高タイプを自動で変更します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

"科目特性" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目特性のラベルが含まれるプロンプト | モデルに科目特性がある場合に使用できます。<br>科目に特性をタグ付けします。ドロップダウン プロンプトの数は、モデルで利用可能な科目特性の数に一致します。 |

"データ タイプ" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の時間層 | データが存在する時間層の交差部分の読み取り専用表示。 |
| 表示形式 | 読み取り専用で、値の表示方法を示します。通貨は、選択した組織の通貨で表示される値を意味します。 |
| 数式バージョン セレクター | 最下位科目で使用できます。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>選択したバージョンのデフォルトの数式またはオーバーライド数式を表示するプロンプト。科目にデフォルトの数式がない場合は読み取り専用です。 |
| オーバーライド数式設定 | 最下位科目で使用できます。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>選択したバージョンに数式のオーバーライドを追加します。<br>• オーバーライド数式: オーバーライド数式を追加します。<br>• データ入力: 科目を編集可能にします。このオプションは、マージされたキューブ シートまたはモデル シートの算出科目には利用できません。<br>• なし: デフォルトの数式に戻します。<br>"バージョン固有の数式設定を無効化" チェック ボックスがオンになっている、ロック済バージョンまたはアーカイブ済バージョンの読み取り専用。 |
| バージョン固有の数式設定を無効化 | 最下位科目で使用できます。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>• ロック済バージョンを含む、アクティブなバージョンの既存の数式オーバーライドをデフォルトの数式に戻します。<br>• アーカイブ済バージョンのデータは変更されません。<br>• "数式バージョン セレクター" および "オーバーライド数式設定" をロックします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • ロック済バージョンの計算データは、数式を変更するたびに引き続き変更されます。<br><br>オフ: バージョンごとにオーバーライドを追加、またはロックするバージョン内のデータを自動的に保護します。 |
| デフォルトの数式/オーバーライド数式 | キューブ入力科目では使用できません。<br><br>最下位科目で使用できます。ロック済バージョンまたはアーカイブ済バージョンでは読み取り専用です。<br><br>すべての組織とすべてのバージョンで、数式によって科目の値を計算します。デフォルトの数式を変更したり、特定のバージョンのオーバーライドを作成したりできます。シートで数式をオーバーライドすることはできません。キューブ科目の場合、システム科目を参照する数式を作成することはお勧めしません。参照 FAQ: キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？（904ページ） |
| 加重平均換算 | 最下位組織および、"累積タイプと実績タイプ" およびデフォルトの数式で "差額" があるストック科目に使用できます。<br><br>キューブ入力科目では使用できません。<br><br>ストック科目の差額における周期ごとの平均レートで通貨を換算します。通常、デフォルトの数式のフロー科目を参照し、ストック科目内のフローデータの通貨換算方法を提供します。 |
| 残高のリセット | "加重平均換算" は必須です。<br><br>指定した期間において残高をゼロにリセットします。次の期間の開始時、科目は累積を再開します。期間を設定します。利用可能なオプションは、モデルのカレンダー設定、一般には、月、四半期、年によって決まります。 |
| リセット時に残高を移転 | "残高のリセット" がオンになっている必要があります。<br><br>累積された残高を別の科目に振り替えます。科目を選択し、残高振り替えを受け取ります。 |
| 小数部桁数 | データの小数部桁数を示します。<br><br>• 0 ~ 9 の任意の数値。<br>• 通貨の小数部桁数: 通貨の設定に従います。このリンクを使用して、すべての通貨の小数部桁数を確認できます。 |
| 為替レート | その科目についてどのような方法で通貨を換算するかを決定します。<br><br>• "平均: 月平均": 月平均の為替レートを使用して通貨を換算します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • "EOM: 月末": 通貨を月ごとに換算するために月末の為替レートを使用します。<br>• モデル用に作成した任意の追加的な為替レート タイプ。 |

"シート" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ゼロまたは空白の場合は科目を表示しなくてよい | すべての値がゼロまたは空白の場合、シート上の科目を非表示にします。 |
| ゼロまたは空白でも科目を表示する | 常にシート上に科目が表示されます。 |
| シートでの入力 | キューブ入力科目があるキューブ科目の階層へのリンク。 |
| 展開して開始 | 合計科目で使用できます。<br>• はい: シートの合計科目またはグループ科目を展開して、子科目を表示します。<br>• いいえ: シートの合計科目またはグループ科目を折り畳みます。<br>シートを開くそれぞれの人が、そのシート ビューを変更してデフォルトとして保存できます。これによってこの設定はオーバーライドされます。 |
| データ入力シート タイプ | 数式のある科目には使用できません。<br>• 標準: 科目を任意の数の標準シートに追加できます。<br>• キューブ: 科目をキューブ入力科目にします。科目を任意の数の標準シートおよび最大 1 つのキューブ シートに追加できます。<br>キューブ入力科目を内部取引科目にしないでください。キューブ入力科目が、相殺消去ルールに従って適切に消去されません。 |

"データ プライバシー" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の値は非公開 | 現在の組織および直接の子組織の科目を参照する数式を入力できます。 |
| 科目の値は全社単位でのみ公開 | 最上位の合計値を参照する任意の組織の数式を入力できます。他の組織の科目を参照すると エラーが発生します。 |
| 科目の値はすべての組織で公開 | この科目の値を参照する数式を任意の組織で入力できます。 |
| 給与の詳細を含む | "データ入力シート タイプ" が "標準" のアカウントで使用できます。リンク元科目では読み取り専用です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • はい: "給与詳細" の権限を持つ人がデータを表示できます。<br>• いいえ: 科目へのアクセス権限を持つすべての人がデータを表示できます。 |

"連結" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 内部取引 | 連結を行っている場合は、最下位科目で使用できます。<br>• はい: この科目を相殺消去ルールに使用できます。<br>キューブ入力科目を内部取引科目にしないでください。キューブ入力科目が、相殺消去ルールに従って適切に消去されません。<br>• いいえ: この科目は相殺消去ルールに使用できません。 |
| 相殺消去の取引先 | "内部取引" は "はい" である必要があります。取引先として選択する組織のリストです。 |

参考: 前提条件科目の設定

科目詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コード | 文字、数字、下線を独自に組み合わせたものです。スペースなどの特殊文字は使用できません。インポートのために空白のままにした場合、Adaptive Planning によりコードが自動生成されます。 |
| 名前 | シート、レポート、グラフに表示されます。名前は一意である必要はありません。 避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | 文字、数字、特殊文字の任意の組み合わせ。科目名が長い場合は、ダッシュボード グラフの科目の表示名がオーバーライドされます。 |
| ロールアップ先 | "新規科目を作成" を選択すると、ハイライトされた科目またはグループが自動入力されます。<br>親科目を示します。 |
| タイプ | • フロー: 所与の期間値は、その期間の正味アクティビティに等しくなります。<br>• リンク: モデル科目またはキューブ科目はこの科目の値が入力されます。<br>参照 概念: 科目のタイプ設定（893ページ） 概念: リンク元科目 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 表示形式 | キューブ前提条件科目でのみ使用可能です。科目のデータを表示できる場所を示します。<br>• 全社時のみ: 最上位組織でのみデータを表示および入力できます。<br>• すべての組織: データを入力できる最上位組織を除く、任意の組織でのみ表示します。 |
| リンク先 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>キューブ科目またはモデル科目の階層では使用できません。<br>科目を総計値として入力する、モデル科目およびキューブ科目をリストします。 |
| リンク元科目の追加、またはリンク元科目の編集 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>キューブ科目またはモデル科目の階層では使用できません。<br>"リンク先" コンテンツ ボックスでリンクを追加または編集するときに表示されます。プロンプトを使用してソース シートを選択し、次にシートの科目を選択します。 |
| 記号変更 +/- | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>キューブ科目またはモデル科目の階層では使用できません。<br>合計以外を減算する、ハイライトされたリンクの逆数値を取得します。例: モデル シート内の減価償却累計額科目が正の値です。総勘定元帳科目にリンクするとき、総勘定元帳に負の値として表示されるように符号を反転することができます。 |
| 属性値の適用 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>キューブ科目またはモデル科目の階層では使用できません。<br>ハイライトされたソース シートに存在しない属性値がデータに適用されます。 |
| リンク フィルタ | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>キューブ科目またはモデル科目の階層では使用できません。<br>ドロップダウン プロンプトから選択した属性または特性がタグ付けされたデータのみが取得されます。 |
| 時間合計 | モデルの前提条件では使用できません。科目が時間の合計値を計算する方法を設定します。<br>• ロールアップした値の合計: 期間中のすべての値の合計。例: 第 1 四半期の合計の場合は、1 月から 3 月までを合計します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • ロールアップした値の平均: 期間値の平均を取ります。例: 1 月から 3 月までの値を合計し、その第 1 四半期の合計を 3 で割ります。<br>• 合計値の加重平均: 科目または前提条件の値を使用し、平均する前に各周期の加重を行います。例: 人員の時間合計ごとの平均費用は、人員による加重を行います。 |
| 組織/属性合計 | 科目が組織と属性の合計を計算する方法を設定します。例: "Total Company" (会社全体) は、"Sales" (営業)、"Manufacturing" (製造)、"IT" の 3 つの子組織を有する組織です。各組織に対して、それぞれ 100、200、0 を入力します。最上位において、"Total Company" の合計値をどのように表示させたいかを選択します。<br>• ロールアップした値の合計: 組織または属性のすべての値の合計。例: 組織の合計は 300 (100+200+0) です。<br>• ロールアップした値の非空白平均: 空白を除く、データの平均を取ります。セルにゼロが含まれている (空白ではない) 場合、ゼロが平均値として計算されます。例: 組織の合計は 100 ((100+200)/3) です。<br>• 合計値の加重平均: 科目または前提条件の値を使用し、平均する前に各属性の加重を行います。例: 営業部門の加重を他の 2 部門の 2 倍にする場合、この部門の加重平均は 133 ((2*100+200)/3) となります。キューブ入力科目の場合、カスタム科目の階層からこのオプションを選択する必要があります。<br>• テキスト: 属性合計に指定したテキストを表示します。属性合計のデータを表示しない場合は、このオプションを選択します。<br>リンク元科目は、ソース科目の組織と属性の合計を継承します。 |
| 加重 | "組織/属性合計" が "ロールアップした値の加重平均" と同じである場合は必須です。<br>時間または属性の合計の加重平均を提供します。 |
| 表示テキスト | "組織/属性合計" が "テキスト" の場合は必須です。<br>属性合計に表示するテキストです。NA や -- といった任意の種類のテキストを入力するか、空白のままにしておきます。 |
| 実績を有効にする | 最下位科目で使用できます。<br>リンク元科目では使用できません。計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目用実績なし | リンクされていない最下位科目で使用できます。計画バージョンの計画データのみ表示されます。実績オーバーレイのない科目の数式は、数式が実績オーバーレイのあるシートのセルを含む実績データを参照している場合、空白のデータになります。 |
| リンク先科目の実績をオーバーライド | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ソース科目とターゲット科目の両方で、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| リンク先科目の実績を表示 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ソース科目で実績がすでに有効になっている場合に限り、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| 依存関係を表示 | モデルが科目を参照する場所を示します。<br>• 算出科目: 科目設定の数式でこの科目を参照する科目をリストします。<br>• 共有数式: 共有数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別および組織別にリストします。<br>• キューブ入力: キューブ シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、キューブ シート名別にリストします。<br>• その他の入力: モデル シートおよび標準シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別、組織別、期間別にリストします。<br>• ルール: この科目を参照する配賦ルールおよび相殺消去ルールをリストします。<br>• 仕訳入力: 連結でのみ使用できます。この科目を参照する仕訳入力を、仕訳入力番号別、バージョン別、組織別にリストします。<br>• レポート: カスタム計算を使用してこの科目を参照するレポート名をリストします。 |

科目特性

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| モデルで使用可能な科目特性を持つプロンプト。インスタンスごとに異なります。 | モデルに科目特性がある場合に使用できます。<br>科目に特性をタグ付けします。ドロップダウン プロンプトの数は、モデルで利用可能な科目特性の数に一致します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

データ タイプ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の時間層 | データが存在する時間層の交差部分の読み取り専用表示。 |
| 表示形式 | 必須です。子科目またはリンク元科目の場合、読み取り専用です。<br>シート上でのデータの表示形式を示します。<br>• 数値: データに数値が表示されます。<br>• パーセント: データはパーセントで表示されます。 |
| 小数部桁数 | データの小数部桁数を示します。<br>• 0 ~ 9 の任意の数値。<br>• 通貨の小数部桁数: 通貨の設定に従います。このリンクを使用して、すべての通貨の小数部桁数を確認できます。 |

シート

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ゼロまたは空白の場合は科目を表示しなくてよい | モデルの前提条件では使用できません。<br>すべての値がゼロまたは空白の場合、シート上の科目を非表示にします。 |
| ゼロまたは空白でも科目を表示する | モデルの前提条件では使用できません。<br>常にシート上に科目が表示されます。 |
| 展開して開始 | 合計科目で使用でき、キューブまたはモデルの前提条件では使用できません。シート上での合計科目の表示方法を示します。<br>• はい: シートの合計科目またはグループ科目を展開して、子科目を表示します。<br>• いいえ: シートの合計科目またはグループ科目を折り畳みます。<br>シートを開くそれぞれの人が、そのシート ビューを変更してデフォルトとして保存できます。これによってこの設定はオーバーライドされます。 |
| 按分で使用 | キューブまたはモデルの前提条件では使用できません。この前提条件をシートの時間合計のための按分オプションとして、また、"一般設定" で自動按分として使用できるようにします。 |
| シート上は読み取り専用 | キューブの前提条件でのみ使用可能です。シートの科目データをロックし、ユーザーが変更できないようにします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

データ プライバシー

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| データ プライバシー | Workday では、このフィールドは表示されません。すべての前提条件科目は、どの組織の数式でも最上位組織の合計値を参照できるように設定されますが、他の組織の組織固有の値は参照できません。 |

**参考: キューブ標準科目の設定**

科目詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コード | 文字、数字、下線を独自に組み合わせたものです。スペースなどの特殊文字は使用できません。インポートのために空白のままにした場合、Adaptive Planning によりコードが自動生成されます。 |
| 名前 | シート、レポート、グラフに表示されます。名前は一意である必要はありません。 避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | 文字、数字、特殊文字の任意の組み合わせ。科目名が長い場合は、ダッシュボード グラフの科目の表示名がオーバーライドされます。 |
| ロールアップ先 | 親科目を示します。 |
| タイプ | • ストック: 値は期間ごとにストックされます。<br>• フロー: 所与の期間値は、その期間の正味アクティビティに等しくなります。<br>• リンク (合計科目では使用できません): モデル科目またはキューブ科目には、この科目の値を入力します。<br>参照 概念: 科目のタイプ設定 ( 893ページ ) 概念: リンク元科目 |
| 累積タイプ | 最下位のストック科目で使用できます。<br>計画バージョンのシート セルへのデータ入力方法を設定します。<br>• 差額: シートにおいて、前回の期間からの変更を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「5」と入力します。<br>• 残高: シートに現在の残高を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「25」と入力します。 |
| 実績タイプ | 最下位のストック科目で使用できます。<br>実績バージョンのシート セルへのデータ入力方法を設定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • 差額: シートにおいて、前回の期間からの変更を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「5」と入力します。<br>• 残高: シートに現在の残高を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「25」と入力します。 |
| リンク先 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>科目を総計値として入力する、モデル科目およびキューブ科目をリストします。 |
| リンク元科目の追加、またはリンク元科目の編集 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>"リンク先" コンテンツ ボックスでリンクを追加または編集するときに表示されます。プロンプトを使用してソース シートを選択し、次にシートの科目を選択します。 |
| 記号変更 +/- | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>合計以外を減算する、ハイライトされたリンクの逆数値を取得します。例: モデル シート内の減価償却累計額科目が正の値です。総勘定元帳科目にリンクするとき、総勘定元帳に負の値として表示されるように符号を反転することができます。 |
| 属性値の適用 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ハイライトされたソース シートに存在しない属性値がデータに適用されます。 |
| リンク フィルタ | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ドロップダウン プロンプトから選択した属性または特性がタグ付けされたデータのみが取得されます。 |
| 特定のバージョンのオーバーライド リンク | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>リンク オーバーライド フィールドをアクティブ化することで、リンクされた科目に特定のバージョンのデータを入力できるようにします。 |
| リンク バージョン セレクター | 必須:"特定のバージョンのリンクをオーバーライド" チェック ボックスをオンにします。<br>計画バージョンのリストを提供します。リンクされた科目のデータ入力に対して有効にするバージョンを選択します。データ入力オーバーライドを使用すると、リンクが削除され、シート、インポート、および Predictive Forecaster を使用して科目のデータをシートに入力できるようになります。科目にリンクがない場合は読み取り専用です。 |
| リンク設定をオーバーライド | 以下のデータ入力を有効または無効にします。<br>• "なし": 選択したバージョンのリンクされたソース科目データを科目に入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • データ入力: リンクされたソース データを削除することで、データの入力、データのインポート、または Predictive Forecaster を使用したデータの自動入力が可能になります。 |
| 時間合計 | • ロールアップした値の合計 (フロー科目のみ): その期間のすべての値を合計します。例: 第 1 四半期の合計の場合は、1 月から 3 月までを合計します。<br>• 最新期間の値 (ストック科目のみ): 合計する前の最新期間の値を取ります。例: 第 1 四半期の合計の場合は、3 月の累積値を取ります。<br>• ロールアップした値の平均: 期間値の平均を取ります。例: 1 月から 3 月までの値を合計し、その第 1 四半期の合計を 3 で割ります。<br>• 合計値の加重平均: 科目または前提条件の値を使用し、平均する前に各周期の加重を行います。例: 人員の時間合計ごとの平均費用は、人員による加重を行います。<br>リンク元科目は、ソース科目の時間合計を継承します。 |
| 組織/属性合計 | 科目が組織と属性の合計を計算する方法を設定します。例: "Total Company" (会社全体) は、"Sales" (営業)、"Manufacturing" (製造)、"IT" の 3 つの子組織を有する組織です。各組織に対して、それぞれ 100、200、0 を入力します。最上位において、"Total Company" の合計値をどのように表示させたいかを選択します。<br>• ロールアップした値の合計: 組織または属性のすべての値の合計。例: 組織の合計は 300 (100+200+0) です。<br>• ロールアップした値の非空白平均: 空白を除く、データの平均を取ります。セルにゼロが含まれている (空白ではない) 場合、ゼロが平均値として計算されます。例: 組織の合計は 100 ((100+200)/3) です。<br>• 合計値の加重平均: 科目または前提条件の値を使用し、平均する前に各属性の加重を行います。例: 営業部門の加重を他の 2 部門の 2 倍にする場合、この部門の加重平均は 133 ((2*100+200)/3) となります。キューブ入力科目の場合、カスタム科目の階層からこのオプションを選択する必要があります。<br>• テキスト: 属性合計に指定したテキストを表示します。属性合計のデータを表示しない場合は、このオプションを選択します。<br>リンク元科目は、ソース科目の組織と属性の合計を継承します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 加重 | "組織/属性合計" が "ロールアップした値の加重平均" と同じである場合は必須です。<br><br>時間または属性の合計の加重平均を提供します。 |
| 表示テキスト | "組織/属性合計" が "テキスト" の場合は必須です。<br><br>属性合計に表示するテキストです。NA や -- といった任意の種類のテキストを入力するか、空白のままにしておきます。 |
| 実績を有効にする | 最下位科目で使用できます。<br><br>リンク元科目では使用できません。計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| 科目用実績なし | 最下位科目で使用できます。<br><br>リンクされていない最下位科目で使用できます。計画バージョンの計画データのみ表示されます。実績オーバーレイのない科目の数式は、数式が実績オーバーレイのあるシートのセルを含む実績データを参照している場合、空白のデータになります。 |
| リンク先科目の実績をオーバーライド | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br><br>ソース科目とターゲット科目の両方で、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| リンク先科目の実績を表示 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br><br>ソース科目で実績がすでに有効になっている場合に限り、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| 依存関係 | モデルが科目を参照する場所を示します。<br><br>• 算出科目: 科目設定の数式でこの科目を参照する科目をリストします。<br>• 共有数式: 共有数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別および組織別にリストします。<br>• キューブ入力: キューブ シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、キューブ シート名別にリストします。<br>• その他の入力: モデル シートおよび標準シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別、組織別、期間別にリストします。<br>• ルール: この科目を参照する配賦ルールおよび相殺消去ルールをリストします。<br>• 仕訳入力: 連結でのみ使用できます。この科目を参照する仕訳入力を、仕訳入力番号別、バージョン別、組織別にリストします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • レポート: カスタム計算を使用してこの科目を参照するレポート名をリストします。 |

科目特性

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| モデルで使用可能な科目特性を持つプロンプト。インスタンスごとに異なります。 | モデルに科目特性がある場合に使用できます。<br>科目に特性をタグ付けします。ドロップダウン プロンプトの数は、モデルで利用可能な科目特性の数に一致します。 |

データ タイプ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の時間層 | データが存在する時間層の交差部分の読み取り専用表示。 |
| 表示形式 | • 通貨: 組織の通貨に換算します。モデルが別の組織で通貨を換算するときに選択します。選択しない場合、その科目の合計には、すべての子科目の合計ではなく、最初の子科目の合計が表示されます。<br>• 数値: 数値を表示します。<br>• パーセント: パーセントを表示します。 |
| 小数部桁数 | データの小数部桁数を示します。<br>• 0 ~ 9 の任意の数値。<br>• 通貨の小数部桁数: 通貨の設定に従います。このリンクを使用して、すべての通貨の小数部桁数を確認できます。 |
| 為替レート | その科目についてどのような方法で通貨を換算するかを決定します。以下を選択します。<br>• "平均: 月平均": 月平均の為替レートを使用して通貨を換算します。<br>• "EOM: 月末": 通貨を月ごとに換算するために月末の為替レートを使用します。<br>• モデル用に作成した任意の追加的な為替レート タイプ。 |

シート

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ゼロまたは空白の場合は科目を表示しなくてよい | すべての値がゼロまたは空白の場合、シート上の科目を非表示にします。 |
| ゼロまたは空白でも科目を表示する | 常にシート上に科目が表示されます。 |
| 展開して開始 | 合計科目で使用できます。<br>• はい: シートの合計科目またはグループ科目を展開して、子科目を表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • いいえ: シートの合計科目またはグループ科目を折り畳みます。<br>シートを開くそれぞれの人が、そのシート ビューを変更してデフォルトとして保存できます。これによってこの設定はオーバーライドされます。 |
| シート上は読み取り専用 | キューブ シートの科目をロックします。 |

データ プライバシー

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の値は非公開 | 現在の組織および直接の子組織の科目を参照する数式を入力できます。 |
| 科目の値は全社単位でのみ公開 | 最上位の合計値を参照する任意の組織の数式を入力できます。他の組織の科目を参照するとエラーが発生します。 |
| 科目の値はすべての組織で公開 | この科目の値を参照する数式を任意の組織で入力できます。 |

参考: 科目グループの設定

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コード | 数字、文字、下線のあらゆる組み合わせ |
| 名前 | 文字、数字、特殊文字の任意の組み合わせ。科目名が長い場合は、ダッシュボード グラフの科目の表示名がオーバーライドされます。 |
| 短縮名 | 文字、数字、特殊文字の任意の組み合わせ。科目名が長い場合は、ダッシュボード グラフの科目の表示名がオーバーライドされます。 |
| ロールアップ先 | 親グループを識別します。グループ科目は他のグループまたはルート科目にのみロールアップされます。 |
| 科目特性 | モデルに科目特性がある場合に使用できます。<br>科目に特性をタグ付けします。ドロップダウン プロンプトの数は、モデルで利用可能な科目特性の数に一致します。 |
| 展開して開始 | • はい: シートの合計科目またはグループ科目を展開して、子科目を表示します。<br>• いいえ: シートの合計科目またはグループ科目を折り畳みます。<br>シートを開くそれぞれの人が、そのシート ビューを変更してデフォルトとして保存できます。これによってこの設定はオーバーライドされます。 |
| データ入力シート タイプ | • 標準: 科目を任意の数の標準シートに追加できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • キューブ: 科目をキューブ入力科目にします。科目を任意の数の標準シートおよび最大 1 つのキューブ シートに追加できます。 |

参考: カスタム科目の設定

"科目詳細" セクション

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コード | 文字、数字、下線を独自に組み合わせたものです。スペースなどの特殊文字は使用できません。インポートのために空白のままにした場合、Adaptive Planning によりコードが自動生成されます。 |
| 名前 | シート、レポート、グラフに表示されます。名前は一意である必要はありません。 避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | 文字、数字、特殊文字の任意の組み合わせ。科目名が長い場合は、ダッシュボード グラフの科目の表示名がオーバーライドされます。 |
| ロールアップ先 | 親科目を示します。 |
| タイプ | • ストック: 値は期間ごとにストックされます。<br>• フロー: 所与の期間値は、その期間の正味アクティビティに等しくなります。<br>• リンク (合計科目では使用できません): モデル科目またはキューブ科目には、この科目の値を入力します。<br>参照 概念: 科目のタイプ設定 ( 893ページ ) 概念: リンク元科目 |
| 累積タイプ | 最下位のストック科目で使用できます。<br>計画バージョンのシート セルへのデータ入力方法を設定します。<br>• 差額: シートにおいて、前回の期間からの変更を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「5」と入力します。<br>• 残高: シートに現在の残高を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「25」と入力します。 |
| 実績タイプ | 最下位のストック科目で使用できます。<br>実績バージョンのシート セルへのデータ入力方法を設定します。<br>• 差額: シートにおいて、前回の期間からの変更を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 月の残高が 25 の場合、3 月には「5」と入力します。<br>• 残高: シートに現在の残高を入力します。例: 2 月の残高が 20、3 月の残高が 25 の場合、3 月には「25」と入力します。 |
| リンク先 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>科目を総計値として入力する、モデル科目およびキューブ科目をリストします。 |
| リンク元科目の追加、またはリンク元科目の編集 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>"リンク先" コンテンツ ボックスでリンクを追加または編集するときに表示されます。プロンプトを使用してソース シートを選択し、次にシートの科目を選択します。 |
| 記号変更 +/- | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>合計以外を減算する、ハイライトされたリンクの逆数値を取得します。例: モデル シート内の減価償却累計額科目が正の値です。総勘定元帳科目にリンクするとき、総勘定元帳に負の値として表示されるように符号を反転することができます。 |
| 属性値の適用 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ハイライトされたソース シートに存在しない属性値がデータに適用されます。 |
| リンク フィルタ/リンク元フィルタ | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ドロップダウン プロンプトから選択した属性または特性がタグ付けされたデータのみが取得されます。 |
| 特定のバージョンのオーバーライド リンク | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>リンク オーバーライド フィールドをアクティブ化することで、リンクされた科目に特定のバージョンのデータを入力できるようにします。 |
| リンク バージョン セレクター | 必須:"特定のバージョンのリンクをオーバーライド" チェック ボックスをオンにします。<br>計画バージョンのリストを提供します。リンクされた科目のデータ入力に対して有効にするバージョンを選択します。データ入力オーバーライドを使用すると、リンクが削除され、シート、インポート、および Predictive Forecaster を使用して科目のデータをシートに入力できるようになります。科目にリンクがない場合は読み取り専用です。 |
| リンク設定をオーバーライド | 以下のデータ入力を有効または無効にします。<br>• "なし": 選択したバージョンのリンクされたソース科目データを科目に入力します。<br>• データ入力: リンクされたソース データを削除することで、データの入力、データのインポート、または Predictive Forecaster |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | を使用したデータの自動入力が可能になります。 |
| 時間合計 | • ロールアップした値の合計 (フロー科目のみ): その期間のすべての値を合計します。例: 第 1 四半期の合計の場合は、1 月から 3 月までを合計します。<br>• 最新期間の値 (ストック科目のみ): 合計する前の最新期間の値を取ります。例: 第 1 四半期の合計の場合は、3 月の累積値を取ります。<br>• ロールアップした値の平均: 期間値の平均を取ります。例: 1 月から 3 月までの値を合計し、その第 1 四半期の合計を 3 で割ります。<br>• 合計値の加重平均: 科目または前提条件の値を使用し、平均する前に各周期の加重を行います。例: 人員の時間合計ごとの平均費用は、人員による加重を行います。<br><br>リンク元科目は、ソース科目の時間合計を継承します。 |
| 組織/属性合計 | 科目が組織と属性の合計を計算する方法を設定します。例: "Total Company" (会社全体) は、"Sales" (営業)、"Manufacturing" (製造)、"IT" の 3 つの子組織を有する組織です。各組織に対して、それぞれ 100、200、0 を入力します。最上位において、"Total Company" の合計値をどのように表示させたいかを選択します。<br><br>• ロールアップした値の合計: 組織または属性のすべての値の合計。例: 組織の合計は 300 (100+200+0) です。<br>• ロールアップした値の非空白平均: 空白を除く、データの平均を取ります。セルにゼロが含まれている (空白ではない) 場合、ゼロが平均値として計算されます。例: 組織の合計は 100 ((100+200)/3) です。<br>• 合計値の加重平均: 科目または前提条件の値を使用し、平均する前に各属性の加重を行います。例: 営業部門の加重を他の 2 部門の 2 倍にする場合、この部門の加重平均は 133 ((2*100+200)/3) となります。キューブ入力科目の場合、カスタム科目の階層からこのオプションを選択する必要があります。<br>• テキスト: 属性合計に指定したテキストを表示します。属性合計のデータを表示しない場合は、このオプションを選択します。<br><br>リンク元科目は、ソース科目の組織と属性の合計を継承します。 |
| 加重 | "組織/属性合計" が "ロールアップした値の加重平均" と同じである場合は必須です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 時間または属性の合計の加重平均を提供します。 |
| 表示テキスト | "組織/属性合計" が "テキスト" の場合は必須です。<br>属性合計に表示するテキストです。NA や -- といった任意の種類のテキストを入力するか、空白のままにしておきます。 |
| 実績を有効にする | 最下位科目で使用できます。<br>リンク元科目では使用できません。計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| 科目用実績なし | 最下位科目で使用できます。<br>リンクされていない最下位科目で使用できます。計画バージョンの計画データのみ表示されます。実績オーバーレイのない科目の数式は、数式が実績オーバーレイのあるシートのセルを含む実績データを参照している場合、空白のデータになります。 |
| リンク先科目の実績をオーバーライド | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ソース科目とターゲット科目の両方で、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| リンク先科目の実績を表示 | 最下位のリンク元科目で使用できます。<br>ソース科目で実績がすでに有効になっている場合に限り、計画バージョンの計画データの上に実績データが表示されます。 |
| デフォルトの数式を指定 | 実績のオーバーレイがある最下位科目で使用できます。<br>実績バージョンの各組織の科目に共有数式を割り当てます。シートでは、入力した他の数式や値で共有数式をオーバーライドできます。 |
| デフォルト値と数式の設定 | 最下位科目で使用できます。<br>組織別に計画バージョンに共有数式を割り当てます。 |
| 依存関係を表示 | モデルが科目を参照する場所を示します。<br>• 算出科目: 科目設定の数式でこの科目を参照する科目をリストします。<br>• 共有数式: 共有数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別および組織別にリストします。<br>• キューブ入力: キューブ シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、キューブ シート名別にリストします。<br>• その他の入力: モデル シートおよび標準シートに入力された数式を使用してこの科 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 目を参照する科目を、バージョン別、組織別、期間別にリストします。<br>• ルール: この科目を参照する配賦ルールおよび相殺消去ルールをリストします。<br>• 仕訳入力: 連結でのみ使用できます。この科目を参照する仕訳入力を、仕訳入力番号別、バージョン別、組織別にリストします。<br>• レポート: カスタム計算を使用してこの科目を参照するレポート名をリストします。 |

科目特性

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| モデルで使用可能な科目特性を持つプロンプト。インスタンスごとに異なります。 | モデルに科目特性がある場合に使用できます。<br>科目に特性をタグ付けします。ドロップダウン プロンプトの数は、モデルで利用可能な科目特性の数に一致します。 |

データ タイプ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の時間層 | データが存在する時間層の交差部分の読み取り専用表示。 |
| 表示形式 | • 通貨: 組織の通貨に換算します。モデルが別の組織で通貨を換算するときに選択します。選択しない場合、その科目の合計には、すべての子科目の合計ではなく、最初の子科目の合計が表示されます。<br>• 数値: 数値を表示します。<br>• パーセント: パーセントを表示します。 |
| 数式バージョン セレクター | 最下位科目で使用できます。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>選択したバージョンのデフォルトの数式またはオーバーライド数式を表示するプロンプト。科目にデフォルトの数式がない場合は読み取り専用です。 |
| オーバーライド数式設定 | 最下位科目で使用できます。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>選択したバージョンに数式のオーバーライドを追加します。<br>• オーバーライド数式: オーバーライド数式を追加します。<br>• データ入力: 科目を編集可能にします。このオプションは、マージされたキューブ シートまたはモデル シートの算出科目には利用できません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • なし: デフォルトの数式に戻します。<br>"バージョン固有の数式設定を無効化" チェックボックスがオンになっている、ロック済バージョンまたはアーカイブ済バージョンの読み取り専用。 |
| バージョン固有の数式設定を無効化 | 最下位科目で使用できます。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>• ロック済バージョンを含む、アクティブなバージョンの既存の数式オーバーライドをデフォルトの数式に戻します。<br>• アーカイブ済バージョンのデータは変更されません。<br>• "数式バージョン セレクター" および "オーバーライド数式設定" をロックします。<br>• ロック済バージョンの計算データは、数式を変更するたびに引き続き変更されます。<br>オフ: バージョンごとにオーバーライドを追加、またはロックするバージョン内のデータを自動的に保護します。 |
| デフォルトの数式/オーバーライド数式 | 最下位科目で使用できます。ロック済バージョンまたはアーカイブ済バージョンでは読み取り専用です。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>すべての組織とすべてのバージョンで、数式によって科目の値を計算します。デフォルトの数式を変更したり、特定のバージョンのオーバーライドを作成したりできます。シートで数式をオーバーライドすることはできません。キューブ科目の場合、システム科目を参照する数式を作成することはお勧めしません。参照 FAQ: キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？（904ページ） |
| 加重平均換算 | 最下位組織および、"累積タイプと実績タイプ" およびデフォルトの数式で "差額" があるストック科目に使用できます。<br>キューブ入力科目では使用できません。<br>ストック科目の差額における周期ごとの平均レートで通貨を換算します。通常、デフォルトの数式のフロー科目を参照し、ストック科目内のフローデータの通貨換算方法を提供します。 |
| 残高のリセット | "加重平均換算" は必須です。<br>指定した期間において残高をゼロにリセットします。次の期間の開始時、科目は累積を再開します。期間を設定します。利用可能なオプションは、モデルのカレンダー設定、一般には、月、四半期、年によって決まります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| リセット時に残高を移転 | "残高のリセット" がオンになっている必要があります。<br>累積された残高を別の科目に振り替えます。科目を選択し、残高振り替えを受け取ります。 |
| 小数部桁数 | データの小数部桁数を示します。<br>• 0 ~ 9 の任意の数値。<br>• 通貨の小数部桁数: 通貨の設定に従います。このリンクを使用して、すべての通貨の小数部桁数を確認できます。 |
| 為替レート | "通貨の小数部桁数" が "小数部桁数" に設定されている場合は必須です。<br>その科目についてどのような方法で通貨を換算するかを決定します。以下を選択します。<br>• "平均: 月平均": 月平均の為替レートを使用して通貨を換算します。<br>• "EOM: 月末": 通貨を月ごとに換算するために月末の為替レートを使用します。<br>• モデル用に作成した任意の追加的な為替レート タイプ。 |

シート

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ゼロまたは空白の場合は科目を表示しなくてよい | すべての値がゼロまたは空白の場合、シート上の科目を非表示にします。 |
| ゼロまたは空白でも科目を表示する | 常にシート上に科目が表示されます。 |
| 展開して開始 | 合計科目で使用できます。<br>• はい: シートの合計科目またはグループ科目を展開して、子科目を表示します。<br>• いいえ: シートの合計科目またはグループ科目を折り畳みます。<br>シートを開くそれぞれの人が、そのシート ビューを変更してデフォルトとして保存できます。これによってこの設定はオーバーライドされます。 |
| データ入力シート タイプ | 数式のある科目には使用できません。<br>• 標準: 科目を任意の数の標準シートに追加できます。<br>• キューブ: 科目をキューブ入力科目にします。科目を任意の数の標準シートおよび最大 1 つのキューブ シートに追加できます。 |
| シートでの入力 | キューブ入力科目があるキューブ科目の階層へのリンク。 |
| シート上は読み取り専用 | キューブ標準科目でのみ使用可能です。キューブ シートの科目をロックします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

データ プライバシー

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の値は非公開 | 現在の組織および直接の子組織の科目を参照する数式を入力できます。 |
| 科目の値は全社単位でのみ公開 | 最上位の合計値を参照する任意の組織の数式を入力できます。他の組織の科目を参照するとエラーが発生します。 |
| 科目の値はすべての組織で公開 | この科目の値を参照する数式を任意の組織で入力できます。 |
| 給与の詳細を含む | "データ入力シート タイプ" が "標準" のアカウントで使用できます。リンク元科目では読み取り専用です。<br>• はい: "給与詳細" の権限を持つ人がデータを表示できます。<br>• いいえ: 科目へのアクセス権限を持つすべての人がデータを表示できます。 |

参考: メトリック科目の設定

科目詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コード | 文字、数字、下線を独自に組み合わせたものです。スペースなどの特殊文字は使用できません。インポートのために空白のままにした場合、Adaptive Planning によりコードが自動生成されます。 |
| 名前 | シート、レポート、グラフに表示されます。名前は一意である必要はありません。 避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | 文字、数字、特殊文字の任意の組み合わせ。科目名が長い場合は、ダッシュボード グラフの科目の表示名がオーバーライドされます。 |
| ロールアップ先 | 科目を保持するグループ科目を示します。科目がグループに属さないようにする場合は、"メトリック" を選択できます。 |
| 依存関係 | モデルが科目を参照する場所を示します。<br>• 算出科目: 科目設定の数式でこの科目を参照する科目をリストします。<br>• 共有数式: 共有数式を使用してこの科目を参照する科目を、バージョン別および組織別にリストします。<br>• キューブ入力: キューブ シートに入力された数式を使用してこの科目を参照する科目を、キューブ シート名別にリストします。<br>• その他の入力: モデル シートおよび標準シートに入力された数式を使用してこの科 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | 目を参照する科目を、バージョン別、組織別、期間別にリストします。<br>• ルール: この科目を参照する配賦ルールおよび相殺消去ルールをリストします。<br>• 仕訳入力: 連結でのみ使用できます。この科目を参照する仕訳入力を、仕訳入力番号別、バージョン別、組織別にリストします。<br>• レポート: カスタム計算を使用してこの科目を参照するレポート名をリストします。 |

科目特性

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| モデルで使用可能な科目特性を持つプロンプト。インスタンスごとに異なります。 | モデルに科目特性がある場合に使用できます。<br>科目に特性をタグ付けします。ドロップダウン プロンプトの数は、モデルで利用可能な科目特性の数に一致します。 |

データ タイプ

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の時間層 | データが存在する時間層の交差部分の読み取り専用表示。 |
| 表示形式 | 必須です。子科目またはリンク元科目の場合、読み取り専用です。<br>シート上でのデータの表示方法を示します。<br>• 数値: データに数値が表示されます。<br>• パーセント: データはパーセントで表示されます。 |
| 数式バージョン セレクター | 選択したバージョンのデフォルトの数式またはオーバーライド数式を表示するプロンプト。科目にデフォルトの数式がない場合は読み取り専用です。 |
| オーバーライド数式設定 | ロック済バージョンを選択した場合、または "バージョン固有の数式設定の無効化" を有効にした場合は、読み取り専用です。<br>• オーバーライド数式: 選択したバージョンにオーバーライド数式を追加します。<br>• なし: 選択したバージョンのデフォルトの数式に戻ります。<br>参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更 ( 869ページ )。 |
| バージョン固有の数式設定を無効化 | • ロック済バージョンを含む、アクティブなバージョンの既存の数式オーバーライドをデフォルトの数式に戻します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • アーカイブ済バージョンのデータは変更されません。<br>• "数式バージョン セレクター" および "オーバーライド数式設定" をロックします。<br>• ロック済バージョンの計算データは、数式を変更するたびに引き続き変更されます。<br><br>オフ: バージョンごとにオーバーライドを追加、またはロックするバージョン内のデータを自動的に保護します。 |
| 数式/オーバーライド数式 | "数式バージョン セレクター" プロンプトからロック済みのバージョンを選択する場合は読み取り専用です。<br><br>入力した数式を使用して科目の値を計算します。メトリック科目の数式は、時間、組織、属性の合計において再計算します。 |
| 小数部桁数 | データの小数部桁数を示します。<br><br>• 0 ~ 9 の任意の数値。<br>• 通貨の小数部桁数: 通貨の設定に従います。このリンクを使用して、すべての通貨の小数部桁数を確認できます。 |

シート

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ゼロまたは空白の場合は科目を表示しなくてよい | すべての値がゼロまたは空白の場合、シート上の科目を非表示にします。 |
| ゼロまたは空白でも科目を表示する | 常にシート上に科目が表示されます。 |

データ プライバシー

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 科目の値は非公開 | 現在の組織および直接の子組織の科目を参照する数式を入力できます。 |
| 科目の値は全社単位でのみ公開 | 最上位の合計値を参照する任意の組織の数式を入力できます。他の組織の科目を参照するとエラーが発生します。 |
| 科目の値はすべての組織で公開 | この科目の値を参照する数式を任意の組織で入力できます。 |

参考: キューブ入力科目の設定

科目をキューブ入力すると、一部の設定が使用できなくなります。一部の設定は以下から変更できます。

- キューブ科目の階層
- カスタムまたは総勘定元帳科目の階層
- いずれかの科目の階層

次の表は、キューブ入力された総勘定元帳科目とカスタム科目の各科目設定を変更できる場所を示しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| 設定 | 使用可能 | 総勘定元帳およびカスタム科目の階層 | キューブ科目の階層 |
|---|---|---|---|
| コード | はい | はい | いいえ |
| 名前 | はい | はい | いいえ |
| 短縮名 | はい | はい | いいえ |
| ロールアップ先 | はい | はい | いいえ |
| 説明 | はい | はい | いいえ |
| タイプ (カスタム科目のみ) | はい | はい | はい |
| 累積タイプ (ストック科目のみ) | はい | はい | はい |
| 実績タイプ (ストック科目のみ) | はい | はい | はい |
| リンク先 (リンク科目のみ) | はい | はい | はい |
| 記号変更+/- (リンク科目のみ) | はい | はい | はい |
| 属性値を適用 (リンク科目のみ) | はい | はい | はい |
| リンク フィルタ/リンク元フィルタ (リンク科目のみ) | はい | はい | はい |
| 時間合計 (カスタム科目のみ) | はい | はい (親科目のみ)。 | はい (親科目のみ)。また、この階層からは、ロールアップされた科目の加重平均を選択できません。 |
| 組織/属性合計 (カスタム科目のみ) | はい | はい (親科目のみ)。 | はい (親科目のみ)。また、この階層からは、ロールアップされた科目の加重平均を選択できません。 |
| 加重<br>(カスタム科目のみ) | はい | はい | いいえ |
| 表示テキスト<br>(カスタム科目のみ) | はい | はい | いいえ |
| 実績のオーバーレイ | はい | はい | いいえ |
| デフォルト値と数式の設定 | いいえ | 該当なし | 該当なし |
| 依存関係を表示 | はい | はい | はい |
| 科目特性 | はい | はい | いいえ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 設定 | 使用可能 | 総勘定元帳およびカスタム科目の階層 | キューブ科目の階層 |
|---|---|---|---|
| 表示形式 | はい。総勘定元帳科目の場合は読み取り専用です。 | はい | いいえ |
| 数式バージョン セレクター | はい | いいえ | はい |
| オーバーライド数式設定 | はい | いいえ | はい |
| バージョン固有の数式設定を無効化 | はい | いいえ | はい |
| デフォルトの数式/オーバーライド数式 | はい | いいえ | はい |
| 加重平均換算 | いいえ | 該当なし | 該当なし |
| 残高のリセット | いいえ | 該当なし | 該当なし |
| リセット時に残高を移転 | いいえ | 該当なし | |
| 小数部桁数 | はい | はい | はい |
| 為替レート | はい | はい | はい |
| シート上で表示しない | はい | はい | いいえ |
| データ入力シート タイプ | はい | はい | いいえ |
| データ プライバシー | はい | はい | いいえ |
| 給与の詳細を含む | いいえ | 該当なし | 該当なし |
| 内部取引 (総勘定元帳科目のみ) | はい | はい | いいえ |
| 相殺消去の取引先 (総勘定元帳科目のみ) | はい | はい | いいえ |

## カスタム属性と特性

### カスタム属性
### カスタム属性の作成

#### 始める前に

セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

#### このタスクについて

カスタム属性は値のリストを含むメタデータのグループです。組織、時間、科目に沿って、カスタム属性は特定のデータ ポイントを作成します。属性を作成したら、属性の値を作成します。その後、データに関連付けるためにシートに追加できます。

属性は以下の方法で作成できます。

- "モデリング" > "属性"で、ツールバーを使用して一度に作成するか、"インポート" ボタンを使用して複数の新しい属性と値をインポートします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- インテグレーションで、属性ローダを使用します。
- "インテグレーション" で API を使用する。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. ツールバーから "新しい属性を作成" をクリックします。
4. 以下を考慮して、"属性の詳細" を完成させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| コード | 一意のコードを入力します。数式でコードを参照して、いずれかの属性値に関連付けられたすべてのデータを含めます。 |
| 名前 | 一意の名前を入力します。<br>避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | ダッシュボードのグラフで使用する名前を短縮します。空白のままにすると、Adaptive Planning によって名前が自動的に短縮されます。 |
| 値の表示名の形式 | "名前"、"コード"、または名前とコードのさまざまな組み合わせなど、属性値の表示形式を選択します。 |
| リスト属性 | 以下を行う場合は、このチェックボックスをオンにします。<br>• カスタム属性値のバージョン使用可否の変更（974ページ）<br>• 属性値に特性値をタグ付けします。<br>以下を行う場合は、チェックボックスをオフにします。<br>• 属性を用いた組織のタグ付け<br>• 階層属性値のリストの作成 |
| 組織で使用 | このチェックボックスをオンにするには、"リスト属性" チェックボックスをオフにします。<br>このチェックボックスをオンにすると、属性が組織属性になり、組織に属性値をタグ付けできるようになります。このオプションを有効にすると、属性が組織設定でドロップダウン プロンプトとして表示されます。参照 概念: 組織の属性と特性（1014ページ）。<br>階層属性値を有効にするには、このチェックボックスをオフにします。 |
| データのインポートにより自動的に属性値を作成する | このチェックボックスをオンにすると、データのインポートで新しい属性も追加されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | "組織で使用" もオンにしている場合、このチェックボックスをオンにすると、組織のインポートで新しい属性値を追加できます。 |
| 並べ替えを維持 | 属性値をアルファベット順に並べ替えるには、このチェックボックスをオンにします。<br>チェックボックスをオフにすると、任意の順序で配置できます。<br>このオプションを選択している場合に以下を変更すると、属性値の順序が変わる可能性があります。<br>• 属性の表示名の形式<br>• 属性値の名前<br>• 属性値のコード |
| マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定 | 派生属性のマッピング基準として属性値を使用するには、このチェックボックスをオンにします。参照 カスタム属性値の作成（973ページ）。<br>無効にするには、属性マッピングを削除する必要があります。参照 インポートを使用した派生属性からの属性値の削除（999ページ）または ステップ: ダッシュボードの派生属性からの属性値の削除（1000ページ）。 |

5. (任意) "カスタム プロパティ" セクションで、"プロパティを追加" をクリックし、プロパティの名前を入力します。
   このステップを完了すると、カスタム属性値の "カスタム プロパティ" セクションにテキスト フィールドが作成されます。テキスト フィールドのラベルは、ここに入力した名前です。最大 5 つのプロパティを追加できます。プロパティはレポートとグラフには表示されません。また、数式でプロパティを参照することもできません。参照 カスタム属性のカスタム プロパティの作成（976ページ）。
6. 保存アイコンの横にある矢印をクリックして、以下を選択します。
   - 保存: 属性を保存します。
   - 保存して新規: 属性を保存し、新しい属性を開始します。

タスクの結果

属性には "未分類" の値が自動的に作成されます。モデル内の既存のデータはすべて、自動的に "未分類" の値に関連付けられます。

次のタスク

1. 属性値に特性をタグ付けするには、次の操作を行います。
   a. 特性の作成（1002ページ）
   b. 特性値の作成（1005ページ）
2. カスタム属性値の作成（973ページ）

relatedlinks
概念
次のレベル: Adaptive Planning - 新しい属性を定義する要素
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスク
組織、科目、属性からの特性タグの削除（1008ページ）
属性および属性値のインポート（977ページ）
Planning 属性ローダの作成
参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）
updateDimensions
例
例: 組織属性を使用した代替組織構造の作成（991ページ）

カスタム属性値の作成

始める前に

- カスタム属性の作成（970ページ）.
- 属性値に特性をタグ付けするには、次の操作を行います。
  - 特性の作成（1002ページ）.
  - 特性値の作成（1005ページ）.
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

属性値は属性にロールアップされます。属性と値を作成した後に、それらを標準シート、キューブ シート、およびモデル シートに追加できます。ユーザーとそのチームは、データの入力時またはインポート時に値を選択できます。次に、属性を使用してレポートとグラフを作成できます。

また、組織に属性値をタグ付けし、代替的な組織階層を作成することもできます。

すべてのカスタム属性には、作成した値に加えて、"未分類" と "すべて" の値があります。 モデル内のすべてのデータは、カスタム属性値に関連付けられます。"未分類" 値は、チームが明示的に値をタグ付けしていないデータにタグ付けされます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性リストで属性を強調表示します。
4. ツールバーから "新規属性値を作成" をクリックします。
5. "属性値の詳細" を完成させる場合、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 親 | 属性設定で "リスト属性" チェックボックスがオフになっている場合は使用できません。<br>階層属性の合計属性値を選択します。属性値を別の値にロールアップしない場合は、属性名を選択します。 |
| コード | 他のどの属性値とも一致しない一意の "コード" を入力します。 |
| 名前 | 名前を入力します。<br>避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 表示名 | 属性の "値の表示名の形式" プロンプトに基づいて、表示名の形式が表示されます。 |
| 短縮名 | グラフ用に名前を短縮します。 |
| 依存関係を表示 | "リスト属性" で使用できます。<br>リンクをクリックして、モデル内の属性値の場所を検索します。参照 属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）。 |

6. (任意) カスタム属性値のバージョン使用可否の変更（974ページ）。
   デフォルトでは、階層の値でない限り、すべてのバージョンで新しい属性値を使用できます。階層属性は、親の属性値の使用可否設定を継承します。
7. (任意) "属性特性" セクションのプロンプトから、属性値に関連付ける特性値を選択します。
   属性用に作成した属性特性ごとにプロンプトがあります。参照 特性の作成（1002ページ）。
8. (任意) "カスタム プロパティ" セクションで、各フィールドに数値テキストを入力して属性値に関連付けます。
   テキスト フィールドのラベルは、属性の "カスタム プロパティ" セクションから取得されます。セールス プランニングの場合のみ: カスタム プロパティを使用して 地理マップを作成します。
9. 保存アイコンの横にある矢印をクリックして、以下を選択します。
   - 保存: 属性値を保存します。
   - 保存して新規: 属性値を保存し、新しい属性値を開始します。

タスクの結果

データを新しい値に関連付けるまで、新しい値はどのデータにも影響を与えません。新しい値は、すべてのシート、レポート、グラフで自動的に使用できるようになります。すでに使用中の属性の場合、Adaptive Planning は以下に新しい値を自動的に追加します。

- 標準シートとモデル シート
- レポート
- ダッシュボード上のグラフ
- エリアのコンテキスト フィルタ

キューブ シートの場合、新しい値の処理はキューブ シートの設定によって異なります。各キューブ シートに新しい値を自動的に追加するかどうかを指定できます。

次のタスク

以下の手順で属性と値をシートに追加します。

- ステップ: 標準シートの作成（1032ページ）.
- モデル シートへのカスタム属性の追加（1054ページ）.
- キューブ シートへの属性および特性の追加（1095ページ）.

relatedlinks
タスク
組織、科目、属性からの特性タグの削除（1008ページ）
属性および属性値のインポート（977ページ）

カスタム属性値のバージョン使用可否の変更

始める前に

セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

属性値 "バージョンの設定" を使用して、属性値のバージョン使用可否を変更します。バージョン使用可否の設定を使用して、属性値をバージョンで表示したり、バージョンで属性値を非表示にしたりできます。属性構造のインポートを使用して、バージョン使用可否を変更することもできます。

以下の理由で属性値を非表示にします。

- 属性値を削除する代わりに非表示にする。属性値を削除するには、履歴データを含むモデルのすべての領域から属性値を削除する必要があります。現在のバージョンで値を非表示にすると、過去のバージョンの履歴データをそのまま維持できます。
- 特定のシナリオの分析に属性値を使用する。例: 属性値を what-if バージョンで使用可能にし、編集中の予算バージョンでは非表示にします。
- 組織に非表示のままにしておく理由がある場合などに、表示を管理する。例: 組織では新製品の発表準備が整っていない場合でも、予測で使用する必要があります。

使用可否の制限とデフォルトについて、以下に示します。

- この設定は、リスト属性のみに適用されます。
- 変更できるのは、計画バージョンのバージョン使用可否のみです。ルート実績の設定は読み取り専用であり、常に利用可能です。
- デフォルトで、すべての属性値は、新しいバージョンを含むすべてのバージョンに表示されます。
- "すべてのバージョン" を選択すると、属性をすべてのバージョンで表示できます。
- 属性値のみを非表示にできます。属性そのものを非表示にすることはできません。
- 属性値が既に特定のバージョンで使用されている場合、そのバージョンからその属性値を非表示にすることはできません。
- アプリケーションのユーザー インターフェイスを使用してバージョン使用可否を変更する場合は、選択した各バージョン間の属性設定を保存する必要があります。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性リストから、変更したい値を持つ属性を展開します。
   これは、"リスト属性" 設定を持つ属性である必要があります。
4. リストから属性値を選択します。
5. "バージョンの設定" セクションで "特定のバージョン" を選択し、ドロップダウン プロンプトからバージョンを選択します。
6. "バージョンで使用可能" チェックボックスについては、以下を参照してください。
   - オフにすると、バージョンで属性値は表示されません。
   - オンにすると、バージョンで属性値が使用可能になります。
   - チェックボックスが読み取り専用である場合、バージョンには既に属性値がタグ付けされたデータがあります。使用中の属性値は、使用を解決するまで非表示にできません。参照 属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）。
7. ツールバーの "保存" をクリックします。
8. 各バージョンについて繰り返します。

relatedlinks
タスク
属性および属性値のインポート（977ページ）

カスタム属性値への特性値のタグ付け

始める前に

- カスタム属性値の作成（973ページ）.

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 特性値の作成（1005ページ）.
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

属性特性は、属性に関連付けられたデータを属性階層とは異なる方法でグループ化します。この結果を得るには、特性値を使って属性値をタグ付けします。

例: "T シャツ"、"ジャケット"、"ジーンズ" は "製品" 属性値です。これらは "製品" 属性にロールアップされます。製品に関連付けられた値をグループ化するには、"トップス" という値を持つ "製品グループ" という特性を作成します。"T シャツ" と "ジャケット" に "トップス" をタグ付けすると、"T シャツ" と "ジャケット" に関連付けられているすべてのデータも自動的に "トップス" に関連付けられます。"トップス" について参照またはレポートを作成すると、モデル全体で "T シャツ" と "ジャケット" 両方の集計値が取得され、製品の代替合計が提供されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性のリストから、タグ付けする値を含む属性を展開します。
4. 値のリストから、タグ付けする属性値を選択します。
5. "詳細" 領域で "属性特性" セクションを展開します。
   このセクションには、関連するすべての特性のプロンプトがあります。
6. 特性プロンプトから、属性値にタグ付けする値を選択します。
7. 保存:

relatedlinks
概念
概念: 特性（1009ページ）
参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）

カスタム属性のカスタム プロパティの作成

始める前に

- カスタム属性値の作成（973ページ）.
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む " 権限

このタスクについて

カスタム属性ごとに最大 5 つのカスタム プロパティを作成できます。カスタム プロパティを作成すると、属性値の設定に表示されます。その後、属性値に数値プロパティを割り当てることができます。

カスタム プロパティを使用して以下を作成できます。

- 地理マップの経度値と緯度値。地理マップは、地域計画に使用できます。これは、セールス プランニングで利用できます。
- カスタム属性値の情報インジケータ。例: プロパティを使用して、外部データベースの識別子を各属性値に関連付けます。または、各製品属性の製品所有者など、所有者を各属性値に関連付けます。

カスタム プロパティはレポートで使用できないことに注意してください。

新しいカスタム プロパティはインポートできません。Excel のインポートで属性構造を更新および追加する場合、カスタム プロパティ ラベルを編集できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性リストから属性を選択します。
4. "カスタム プロパティ" 領域で "プロパティを追加" をクリックします。
5. フィールドに名称を入力します。カスタム プロパティ名は、既存の属性および特性と同じ名前にすることはできません。例: "地域" と呼ばれる属性を持つ場合、"地域" と呼ばれるカスタム プロパティを持つことはできません。
6. 保存:

タスクの結果

属性の属性値に、"カスタム プロパティ" セクションのテキスト ボックス フィールドが表示されます。テキスト フィールドには、カスタム プロパティに入力した名前がラベルとして表示されます。

例

地理マップは通常、地域計画で使用され、セールス プランニングのインスタンスで使用できます。地理マップには、実際の地理的地域に対応する属性値を持つカスタム属性が必要です。これは、カスタム プロパティを使用して緯度および経度座標を作成することでこれを行うことができます。

リスト属性または階層属性のいずれかを使用できます。地理マップの階層属性により、階層に沿ってデータを分析できます。例: 郡にロールアップ、州にロールアップ、国にロールアップされる郵便番号別の値を持つ属性を使用すると、国の集計データに関する広範な地域的エリアを表示した後、階層に基づいて絞り込むことができます。

"地理" 属性の緯度と経度のカスタム プロパティを作成するには:

1. 属性リストから ″地理″を選択します。
2. "カスタム プロパティ" セクションで "プロパティを追加" をクリックします。
3. フィールドに 「経度」と 入力します。
4. "プロパティの追加" をクリックします。
5. フィールドに 「緯度」と 入力します。
6. 保存:

次に、"地理" 属性の各値に緯度と経度の座標を割り当てます。

次のタスク

カスタム プロパティ値を属性値にインポート ( 979ページ ) .

属性および属性値のインポート

始める前に

セキュリティ:

- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "構造インポート" 権限

このタスクについて

複数の属性および属性値を作成、またはインポート機能を使用して既存のものを一括変更します。次のいずれかを実行できます。

- 現在の構造をエクスポートする (インポートする前に Excel で変更できます)。バージョン使用可否を変更する場合は、エクスポート機能を使用することをお勧めします。
- Excel テンプレートをダウンロードし、空白の "インポート" タブに入力する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

インポート用に Excel スプレッドシートを準備する際は、行の間に複数の空白行を残さないでください。インポートでは、2 つ目の空白行以降のすべての行が無視されます。

インポート エラーを回避するため、Workforce Planning Configuration Manager が管理する "名前" と "コード" の組み合わせは変更しないでください。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 印刷対応ビューを生成 | 既存の構造をダウンロードして、それに変更を加えられるようにします。 |
| 属性構造のインポート | 空白のテンプレートで変更を加えられるように、"テンプレートのダウンロード" リンクが表示されます。手順は、テンプレートの最初のタブに表示されます。 |

4. 空白のテンプレートを完成させるか、エクスポートされたファイルを変更して、コンピュータに保存します。
   行の間に複数の空白行を残さないでください。

   注 : インポートの "削除" オプションのパフォーマンスを改善するには、以下を除くスプレッドシート内のすべての列を削除します。

   - 属性 名前
   - 属性値の名前
   - 属性値のコード

5. (任意) 空白のテンプレートでバージョン使用可否を変更するには、バージョンごとに列を追加し、ヘッダー行にバージョンの正確な名前を入力します。
6. "モデリング > 属性"に戻ります。
7. ツールバーで "属性構造のインポート" をクリックします。
   "インポート" ボタンが表示されない場合、"構造のインポート" 権限がありません。
8. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 更新と追加 | 推奨オプション:<br>• 新しい属性と値を追加します。<br>• インポートに含めた既存の属性と値を更新します。<br>• インポートに含めなかった属性と値はそのまま残します。 |
| 削除 | このオプションを使用して、インポートに含めた未使用の属性値を削除します。このオプションでは、他の変更はインポートされません。 |
| 再ロード | このオプションは以下のことに注意して使用してください。<br>• 新しい属性と値を追加します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • 属性がインポート ファイルにすでに存在する場合は、属性と値を削除して置き換えます。<br>• 使用中の既存の属性を含めると失敗します。 |

9. ファイルを選択します。
10. (任意) ファイルを選択し、"更新と追加" を選択した場合、"処理時間を改善するためにバージョン使用可否列を無視" チェックボックスが表示されます。
    - このチェックボックスをオンにするとバージョン使用可否がそのまま維持され、インポートの処理時間が短縮されます。
    - インポートでバージョン使用可否を変更する場合は、このチェックボックスをオフにします。

    このチェックボックスは、"更新と追加" を選択し、アップロードするファイルを選択した後にのみ表示されます。
11. "アップロード" をクリックします。

relatedlinks
概念
次のレベル: Adaptive Planning - 新しい属性を定義する要素
タスク
組織、科目、属性からの特性タグの削除 ( 1008ページ )
例
例: 製品および顧客のカスタム属性の作成 ( 989ページ )

## カスタム プロパティ値を属性値にインポート

### 始める前に

- カスタム属性のカスタム プロパティの作成 ( 976ページ ) .
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

カスタム属性にカスタム プロパティがある場合、カスタム属性の値に数値を割り当てることができます。

カスタム プロパティ名は属性値の "カスタム プロパティ" セクションに表示されます。その横にあるテキスト ボックス フィールドに数値を入力できます。

カスタム プロパティの主なユース ケースは地域計画です。カスタム プロパティを使用して、地理マップの経度および緯度の値を作成できます。 そうしないと、カスタム プロパティはカスタム属性値の情報インジケータとして機能します。

カスタム プロパティ座標は、"モデリング"の "属性" 領域で手動で追加および編集できます。または、以下を使用して一括で実行できます。

- 属性構造テンプレート。テンプレートにより、カスタム プロパティとカスタム プロパティ値を編集できます。
- updateDimensions APIこの API はカスタム プロパティ値のみを編集できます。

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. ツールバーで "印刷対応ビューを生成"をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

4. Excel ファイルを開きます。
5. カスタム プロパティの名前と一致する列名に数値を追加します。
   例: "経度" というカスタム プロパティを作成しました。
6. 属性値の "経度" 列に経度座標を入力します。
7. スプレッドシートを保存します。
8. "モデリング" > "属性" に戻ります。
9. ツールバーで "属性構造のインポート" を選択します。
10. "更新と追加" を選択します。
11. スプレッドシートをアップロードします。

例

地理的なカスタム属性は "地理" です。この属性には、"緯度" と "経度" の 2 つのカスタム プロパティがすでに追加されています。サンフランシスコは地理の属性値です。

座標を追加するには:

1. "印刷対応ビューを生成"をクリックします。
2. スプレッドシートを開きます。
3. "サンフランシスコ" の行の "緯度 " 列に 「*37.7749*」 と入力します。
4. "経度" 列に 「*-122.431297*」と 入力します。
5. スプレッドシートを保存します。
6. "更新と追加" オプションを使用してスプレッドシートをインポートします。

調整日に関するこれらのサンプルのインポート テンプレートをダウンロードできます。ダウンロード後、必要とする地理上の地域を追加してインポートできます。

| サンプル データ | 説明 |
|---|---|
| CountryPropertiesDimensionStructure.xlsx | このサンプル データセットには、国のリストが含まれています。 |
| StatePropertiesDimensionStructure.xlsx | このサンプル データセットには、米国の州のリストが含まれています。 |

次のタスク

地理マップの作成 ( 348ページ ) .

"地理属性" フィールドの属性を使用します。

relatedlinks
タスク
組織、科目、属性からの特性タグの削除 ( 1008ページ )
カスタム属性のカスタム プロパティの作成 ( 976ページ )
地理マップの作成

未使用の属性値の一括削除

始める前に

- 推奨: 属性値を削除するための依存関係の表示の解決 ( 982ページ ) 。
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "構造インポート" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

インポート の "削除" オプションでは、インポート ファイルに含めた未使用の属性値のみを削除します。 未使用の属性値は次のいずれかです。

- モデルで一切使用されていない。
- 削除を妨げない方法で使用されている。例: レポートに含まれている場合があります。

インポートの際、使用中の属性値のみが残ります。使用されている属性値は、属性リストに青いドットとともに表示されます。青色のドットは、属性値を削除する前に依存関係を解決する必要があることを意味します。

必須でなくても、属性値を削除する前にすべての依存関係を解決することをお勧めします。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. ツールバーで、以下のいずれかのボタンをクリックします。このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 印刷対応ビューを生成 | 既存の構造をダウンロードします。変更を加えずにファイルをインポートし、未使用の属性値をすべて削除できます。 |
| 属性構造のインポート | "テンプレートのダウンロード" をクリックして、未使用の属性値と値のコードを空白のテンプレートに手動で追加します。手順は、テンプレートの最初のタブに表示されます。 |

4. テンプレートに変更を加えるか、エクスポートして保存します。
5. "モデリング > 属性"に戻ります。
6. ツールバーで "属性構造のインポート" をクリックします。
7. "削除" オプションを選択します。
8. ファイルを選択して "アップロード" をクリックします。

タスクの結果

エクスポートしたファイルに変更を加えずにインポートした場合、インポートによって未使用の属性値がすべて削除されます。

特定の属性値を入力した場合、以下のケースではスプレッドシートに入力した属性値のみがインポートによって削除されます。

- テンプレートが正しく入力されている。
- 使用中の属性値が含まれていない。

次のタスク

属性のすべての値を削除した場合は、属性も手動で削除することを検討してください。

relatedlinks
参考
FAQ: カスタム属性に指定された青いドットはどのような意味がありますか？（994ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## 属性値を削除するための依存関係の表示の解決

### 始める前に

- 属性値を持つ保存済の属性
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

" 依存関係を表示 " リンクは、属性値の設定の "属性 値の詳細" セクションにあります。リンクをクリックすると、一連のタブを含むテーブルが開きます。タブにはモデルが属性値を使用する場所が表示されます。 モデルが属性値を使用する場所を把握することで、属性値を管理しやすくなります。

情報アイコンがあるタブには、属性値を削除する前に解決する必要がある場所が含まれています。 属性リスト内の青いドットは、値を削除する前に依存関係を解決する必要があることも示します。

情報アイコンがないタブに含まれる場所は無視できます。青のドットは、これらの種類の依存関係のみを持つ属性値の属性リストに表示されません。依存関係を解決せずに削除することはできますが、モデルが変更され、エラーが発生する可能性があります。 属性値を削除する前にすべての依存関係を解決することをお勧めします。

属性値を削除したり、バージョンで使用できないようにするには、ロック済およびアーカイブ済みのバージョンであっても、データから属性値を削除する必要があります。使用中の属性値を削除する代わりに、新しいバージョンで履歴データを管理できないようにすることを検討してください。

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. リストから属性を展開し、すべての値を表示します。
4. 値に青色のドットがある場合は、リストから属性値を選択します。
5. "属性値の詳細 " セクションで、"依存関係を表示"をクリックします。
6. タブの解決にあたっては、以下を検討してください。

| タブ | 実行するアクション |
|---|---|
| 標準データ | セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限<br><br>属性値は標準シートの分割上にあるため、削除できません。分割にデータがない場合でも、分割内の属性値を削除できなくなります。解決するには、分割を削除するか、別の属性値を選択します。参照 標準シートからの属性値分割の削除（985ページ）。<br><br>分割を削除すると、分割に保存されているデータが削除されます。 |
| モデル データ | セキュリティ: "構造インポート" 権限<br><br>属性値はモデル シートの行または分割上にあるため、削除できません。行に他のデータがない場合でも、この行の属性値は削除できなくなります。解決するには、エクスポートおよびインポート機能を使用してシートから属性値を削除します。参照 モデル シートの使用可否設定の変更（1064ページ）。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| タブ | 実行するアクション |
| --- | --- |
| | モデル シートで頻繁に使用されている複数の属性値を解決する必要がある場合は、データを消去できます。"シート サマリ" で "すべてのデータを消去" をクリックします。参照 シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）。 |
| キューブ データ | 属性値はキューブ シート上にあるため、削除できません。解決するには、シートから属性値を削除します。参照 キューブ シートにおける使用可否設定の変更（1097ページ）。<br><br>キューブ シートから属性値を削除すると、関連付けられたデータが削除されます。データを保存する場合は、キューブ シートに移動して、それをフィルタリングして属性値を検索し、出現箇所ごとに属性値を置き換えます。<br><br>キューブ シートで頻繁に使用されている複数の属性値を解決する必要がある場合は、データを消去できます。"シート サマリ" で "すべてのデータを消去" をクリックします。参照 シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）。 |
| 派生属性 | セキュリティ: "構造インポート" 権限<br><br>属性値は派生属性のマッピング ルールの一部であるため、削除できません。解決するには、以下を参照してください。 インポートを使用した派生属性からの属性値の削除（999ページ）。 |
| 組織属性 | 属性値は組織にタグ付けされているため、削除できません。解決するには、タグを削除します。参照 組織からの属性値タグの削除（854ページ）。 |
| レポート | セキュリティ: "すべてのレポートの変更" 権限<br><br>属性値を削除する前に解決する必要はありません。属性値がレポート上にあるか、レポート計算が属性値を参照しています。属性値を削除すると以下のようになります。<br><br>• 属性値がレポートから自動的に削除されるため、レポートが大幅に変更される可能性があります。<br>• 属性値を参照するレポート計算は、レポートでエラーを返します。<br><br>タブでレポートが以下の場所にあることが示されている場合に、解決できます。<br><br>• 共有フォルダ: レポートを編集して数式を更新できます。レポート ビルダーから属性値を削除することもできます。<br>• 個人フォルダ: 想定される変更をユーザーに通知できます。このタブには、レ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タブ | 実行するアクション |
| --- | --- |
| | ポート所有者のユーザー名が含まれています。 |
| 共有数式 | セキュリティ: "構造インポート" 権限<br><br>属性値を削除する前に解決する必要はありません。属性値を削除すると、属性値を参照する共有数式はエラーを返します。解決するには、数式から属性値を削除します。参照 共有数式からの属性値の削除（1182ページ）。 |
| 算出科目 | 属性値を削除する前に解決する必要はありません。属性値を削除すると、属性値を参照する科目の数式はエラーを返します。解決するには、数式の参照から属性値を削除します。参照 算出科目の数式からの属性値の削除（875ページ）。 |
| トランザクション | セキュリティ: "すべての場所へのインポート" 権限<br><br>解決する必要はありません。属性値はトランザクション データにタグ付けされます。値を削除すると、トランザクション データから属性値が自動的に削除されます。 |
| リンク プロパティ | 属性値を削除する前に解決する必要はありません。科目リンクでは、属性値を "リンク フィルタ" または "適用される属性" として使用します。属性値を削除すると、それらのフィールドから属性値が自動的に削除されます。 |
| キューブ入力 | セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限<br><br>属性値を削除する前に解決する必要はありません。ユーザーは、キューブ シートのセルに入力した数式で属性値を参照しています。属性値を削除すると、これらのセルがエラーを返す可能性があります。解決するには、数式参照を持つ各セルを検索します。参照 キューブ入力数式からの属性値の削除（986ページ） |
| その他の入力 | セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限<br><br>属性値を削除する前に解決する必要はありません。以下の場所に、属性値を参照する数式があります。<br><br>• 標準シートのセル<br>• モデル シートの期間セル<br><br>属性値を削除すると、これらのセルがエラーを返す可能性があります。解決するには、数式参照を削除します。参照 モデル シートおよび標準シートのセル入力数式からの属性値の削除（987ページ）。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タブ | 実行するアクション |
| --- | --- |
| 配賦ルール | セキュリティ: "配賦ルール" 権限<br>属性値を削除する前に解決する必要はありません。属性値を削除すると、配賦ルールの基準数式または数式がエラーを返します。ルールの更新を解決する場合。参照 配賦数式からの属性値の削除（1230ページ）。 |

次のタスク

情報アイコンのあるタブを解決すると、以下を実行できます。

- 属性値の削除
- カスタム属性値のバージョン使用可否の変更（974ページ）.

relatedlinks
概念
概念: シート内のデータの検索
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
概念: Web レポート
概念: 配賦ルール（1231ページ）
タスク
ステップ: 派生属性の設定（995ページ）
キューブ シート ビューの変更
標準シート ビューの変更
属性マッピングのインポート（998ページ）
共有数式のインポートおよびエクスポート（1183ページ）
科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）
モデル シート ビューの変更
参考
FAQ: カスタム属性に指定された青いドットはどのような意味がありますか？（994ページ）

標準シートからの属性値分割の削除

始める前に

- カスタム属性値の 標準データの 依存関係を解決するために必須: タブに表示されているバージョン、組織、科目を書き留めます。参照属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

このタスクについて

標準シートから属性分割を削除する理由は数多くあります。その理由の 1 つとして、使用中のカスタム属性値を削除することがあります。 "依存関係の 表示 " テーブルの "標準データ " タブの "依存関係" は、属性値が標準シートのデータにタグ付けすることを意味します。属性値は標準シートの分割にあります。属性値または属性を削除するには、まず標準シートから関連付けを削除するか、分割を削除する必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. 科目がある標準シートを検索します。
   参照 例: モデル概要での科目の使用状況の検索（885ページ）。
   セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
2. メイン メニューから "シート" を選択し、科目があるシートを開きます。
3. メイン ツールバーからバージョンを選択します。
   カスタム属性値の "標準データ" の 依存関係を解決する場合は、"標準データ" タブに表示されているものと同じバージョンを選択します。
4. シート ツールバーから組織を選択します。
   カスタム属性値の "標準データ" の 依存関係を解決する場合は、"標準データ" タブに表示されているものと同じ組織を選択します。
5. 科目を展開して分割を表示します。
   カスタム属性値の "標準データ" の依存関係を解決する場合は、"標準データ" タブに表示されているのと同じ科目名を検索します。
6. 属性値がある各行について、行内の任意のセルをクリックします。
7. ツールバーで "分割を削除" をクリックします。分割に別の属性値を選択して、データを保存することもできます。
8. シートを保存します。

次のタスク

依存関係を解決している間は、他の依存関係の解決を続行できます。依存関係が標準データのみである場合は、属性値を削除できます。 参照 属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）。

キューブ入力数式からの属性値の削除

始める前に

- カスタム属性値の キューブ入力の 依存関係を解決するために必須: タブに表示されているバージョン、組織、科目を書き留めます。参照属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）。
- セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限

このタスクについて

キューブ シートから属性値を参照する数式を削除する理由はさまざまです。その理由の 1 つとして、使用中のカスタム属性値を削除することがあります。 "依存関係の 表示 " テーブルの "キューブ入力" タブに表示される "依存関係" は、誰かがキューブ シートのセルに数式を入力し、その数式がカスタム属性値を参照していることを意味します。

キューブ入力 に依存関係があっても、属性値の削除は妨げられません。ただし、キューブ シートでは、削除された属性を参照したすべてのセルの エラーが表示されます。属性値を削除する前に依存関係を解決することで、このエラーを防ぐことができます。

手順

1. メイン メニューから "シート" を選択します。
2. "キューブ入力" タブに表示されている科目のプレフィックスを使用してシート名を検索し、シートを開きます。
3. メイン ツールバーから、"キューブ入力" タブに表示されているバージョンを選択します。
4. シート ツールバーで "属性を変更" をクリックします。
5. フィルタを変更するには、"キューブ入力" タブに表示されている科目、期間、組織、カスタム属性を使用します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

6. 数式を計算値に置き換えて、データを保存できます。 または数式を更新することもできます。

モデル シートおよび標準シートのセル入力数式からの属性値の削除

始める前に

セキュリティ:

- "編集可能なシート アクセス" 権限
- モデル (シート、科目、属性、数式を含む)

このタスクについて

エンド ユーザーが標準シートおよびモデル シートに入力した数式から属性を削除する理由は数多くあります。最も一般的な理由は、使用中のカスタム属性値を削除することです。 "依存関係の 表示 " テーブルの "その他の入力 " タブ内の "依存関係" は、キューブ シートのセルに入力された数式が属性値を参照していることを意味します。

これらの依存関係を解決せずに、属性を削除できます。ただし、属性値を削除すると、数式はエラーを返し、下流のデータに影響を与える可能性があります。このエラーを回避するには、入力を検索し、参照を削除します。属性値の削除後にエラーを修正することもできます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. リストから属性を展開し、削除または解決する値を表示します。
4. "属性値の詳細 " セクションで、"依存関係を表示"をクリックします。
5. "その他の入力" タブをクリックします。
6. 以下の点を書き留めます。
    - 科目コード
    - 日付
    - 組織
    - バージョン
7. 科目コードを使用してシートを検索します。

    科目コードにプレフィックスがある場合、数式はモデル シートの期間セルにあります。プレフィックスを使用して、モデル シートの名前を検索します。

    プレフィックスがない場合、数式は標準シートにあります。科目がある標準シートを検索します。
    参照 例: モデル概要での科目の使用状況の検索 ( 885ページ )。
8. メイン メニューから "シート"を選択します。
9. シートを開きます。
10. メイン ツールバーから、"その他の入力" タブに表示されているバージョンを選択します。
11. 組織、科目、時間を選択するには、シート タイプに関する表に従ってください: "その他の入力" タブに表示されている組織を選択します。

| 標準シート | モデル シート |
| --- | --- |
| a. シート ツールバーで組織を選択します。<br>b. シート ツールバーで "表示オプション" をクリックします。<br>c. "時間 " タブで、" その他の入力 " タブに表示されている時間でシートをフィルタリングします。 | a. ツールバーで "表示オプション" をクリックします。<br>b. "行をフィルタリング" タブをクリックします。<br>c. "その他の入力 " タブに表示されている組織でフィルタリングする。<br>d. シート ビューに戻ります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 標準シート | モデル シート |
| --- | --- |
| d. シート ビューに戻ります。<br>e. 検索フィールドを使用して、"その他の入力" に表示されている科目を検索します。 | |

12. シートで、白または青の背景と紫色の三角形のセルを探します。
13. セルをクリックします。
14. シートの上部にある数式フィールドで、数式を変更して属性値を削除します。または、計算値を数値として入力し、数式を削除することもできます。
15. 変更内容を保存します。

relatedlinks
タスク
属性値を削除するための依存関係の表示の解決 ( 982ページ )

概念: カスタム属性

カスタム属性は値のリストを含むグループです。例: "製品" というカスタム属性には次の値が含まれます。

- ジャケット
- タンクトップ
- T シャツ

カスタム属性はメタデータです。組織、時間、科目に沿って、カスタム属性は特定のデータ ポイントを作成します。カスタム属性は実際のデータをタグ付けするため、属性値と属性の削除はより困難になります。属性値を削除したり、バージョンで使用できないようにするには、ロック済およびアーカイブ済みのバージョンであっても、データから属性値を削除する必要があります。使用中の属性値を削除する代わりに、新しいバージョンで履歴データを管理できないようにすることを検討してください。

"依存関係を表示" リンクは属性値の設定にあります。このリンクは、属性値を使用するモデル内の領域を検索し、解決するのに役立ちます。

カスタム属性のユース ケース

- 標準シートにおいて分割をカテゴリ化する。
- 連結内の相殺消去エントリを照合する。
- モデルのデータに必要な深さを追加する。
- 詳細なデータ入力のためのキューブ シートをフィルタリングする。
- 代替的な組織階層を作成する。
- モデルの他の部分にアクセスできる値を保存する。
- 属性マッピングのルールに基づいて、モデル シートの行にある値を返す。

リストと階層的な属性

階層属性とリスト属性があります。階層属性には、他の値に合計される値があります。リストには値の 1 つの組織があります。すべてのカスタム属性では、デフォルトで "リスト属性" オプションが有効になっています。このオプションは設定でオフにできます。

| 例: リスト属性 | 例: 階層属性 |
| --- | --- |
| 製品 (すべて) | 製品 (すべて) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 例: リスト属性 | 例: 階層属性 |
| --- | --- |
| • Tシャツ<br>• セーター<br>• ジャケット<br>• 未分類製品 | • Tシャツ (すべて)<br>  • グラフィックTシャツ<br>  • ソリッドTシャツ<br>  • 未分類Tシャツ<br>• セーター<br>• ジャケット<br>• 未分類製品 |

### カスタム属性のタイプ

選択するさまざまな設定は、カスタム属性のタイプを示します。

- 最も効率が高いのはリスト属性です。
- 階層属性は、階層の科目や組織のタグ付けで効果的に機能します。
- 組織属性は、レポート用の代替的な組織階層を作成します。
- 派生属性は、マッピング基準のセットを使用して属性の開始値を決定します。

### データとカスタム属性

モデル内のすべてのデータは、カスタム属性値に関連付けられます。

すべてのカスタム属性には、各カスタム属性に作成した値に加えて、"未分類" と "すべて" の値があります。 データに属性値をタグ付けしない場合、Adaptive Planning はすべてのカスタム属性の "未分類" の値をデータに自動的に割り当てます。例: "製品" 属性値のいずれにも関連付けられていないデータは、"未分類製品" の値を持ちます。

Adaptive Planning は、カスタム属性の "すべて" の値を組織、科目、およびカスタム属性の合計データに割り当てます。

### アクセス ルールとカスタム属性

カスタム属性を保護し、アクセス ルールに追加できます。その後、さまざまな属性値へのアクセス権をユーザーに付与できるようになります。

relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
タスク
カスタム属性の作成（970ページ）
カスタム属性値の作成（973ページ）
参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）

### 例: 製品および顧客のカスタム属性の作成

この例では、実行予算バージョンについて 2 つの新しいカスタム属性と関連するカスタム属性値をインポートする方法を説明します。

#### このタスクについて

次のような 2 つの追加の属性を作成するとします。

- 3 社の顧客の "顧客" 属性: Winter Wonderland、Good Day Sunshine、Fashion Fiend
- 3 つの製品の "製品" 属性: ジャケット、セーター、Tシャツ

これらの属性を使用して、マージされたキューブ シートで製品別および顧客別の収益を計画します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

始める前に

セキュリティ:

- モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "構造インポート" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. ツールバーで "属性構造のインポート" をクリックします。
4. "テンプレートのダウンロード" リンクをクリックします。
5. ファイルを開いて、2 番目のシートを開きます。
6. 次のようにスプレッドシートの列に入力します。

| 属性 名前 | 属性の表示名の形式 | 属性値のコード | 属性値の名前 |
|---|---|---|---|
| 顧客 | 名前 | | |
| | 名前 | WW | Winter Wonderland |
| | 名前 | GDS | Good Day Sunshine |
| | 名前 | FF | Fashion Fiend |
| 製品 | 名前 | | |
| | 名前 | Jack | ジャケット |
| | 名前 | Sweat | セーター |
| | 名前 | T | T シャツ |

7. スプレッドシートに「更新済属性」という名前をつけて保存します。
8. "モデリング" > "属性" に戻ります。
9. ツールバーで "属性構造のインポート" をクリックします。
10. "更新と追加" を選択します。
11. "ファイルの選択" をクリックします。
12. コンピュータに保存されたファイルを検索して、"更新済属性" ファイルを選択します。
13. "アップロード" をクリックします。

タスクの結果

新しい属性および属性値は、アクセス可能なロック解除済バージョンで使用できます。

次のタスク

シートに属性を追加できます。

次を参照してください。

- 例: 顧客ごとの購入数量のモデル シートの作成
- 例: 製品ごとの価格とミックスのキューブ シートの作成

relatedlinks
タスク
属性および属性値のインポート（977ページ）
例
各ステップの例: 製品別および顧客別の収益のマージされたキューブ シートの作成（1117ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 例: 組織属性を使用した代替組織構造の作成

この例では、組織の属性を使用してレポート目的の代替組織構造を作成する方法を説明します。

### このタスクについて

組織の機関は会社の部門的構造を反映しています。この構造を使用すると、各部門 (G&A、製品開発、営業) の合計を確認できます。部門の所在地は、米国のさまざまな地域に分散しています。部門全体の地域の合計についてレポートを作成するには、組織にカスタム属性をタグ付けして代替階層を作成します。

組織の階層は次のとおりです。

G&A

- 財務
- Human Resources
- Legal
- IT

Product Development

- Operations
- Engineering
- Product Management

Sales

- East Coast Sales
- West Coast Sales
- Midwest Sales
- South West Sales

### 始める前に

- シナリオの説明に沿って組織を作成します。
- セキュリティ:
  - "組織構造" 権限
  - "構造インポート" 権限

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. ツールバーで "属性構造のインポート" をクリックします。
4. "テンプレートのダウンロード" をクリックします。
5. Excel スプレッドシートを開き、編集を有効にして、「新しい地域属性」としてコンピュータに保存します。
6. シートの下部にある "属性" タブをクリックします。
7. 属性を作成するには、ヘッダー行の後の最初の行で以下の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 属性 名前 | 「地域の組織属性」と入力します。 |
| タイプ | 「組織」と入力します。 |
| 表示名の形式 | 「名前」と入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

8. 同じ行の以下の列に入力して、最初の属性値を作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 属性値のコード | 「WC」と入力します。 |
| 属性値の名前 | 「West Coast Region」と入力します。 |

9. 次の行の以下の列に入力して、次の属性値を作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 属性値のコード | 「EC」と入力します。 |
| 属性値の名前 | 「East Coast Region」と入力します。 |

10. "新しい地域属性" スプレッドシートを保存します。
11. "モデリング" > "属性" に戻ります。
12. ツールバーで "属性構造のインポート" をクリックします。
13. "更新と追加" を選択します。
14. "ファイルの選択" をクリックします。
15. コンピュータのファイルを参照して、"新しい地域属性" スプレッドシートを見つけて選択します。
16. "開く" をクリックします。
17. "アップロード" をクリックします。
18. ブレッドクラムから "モデリング" を選択します。
19. "組織" をクリックします。
20. ツールバーで "印刷対応ビューを生成" をクリックします。
21. "組織" の Excel スプレッドシートを開き、編集を有効にして、「組織属性を含む組織」として保存します。
22. 各組織について、以下のように入力します。

| 名前 | 地域の組織属性コード | 地域の組織属性名 |
|---|---|---|
| G&A | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| Finance | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Human Resources | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| Legal | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| IT | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| Product Development | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| Operations | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| Engineering | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Product Management | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Sales | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| East Coast Sales | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 地域の組織属性コード | 地域の組織属性名 |
|---|---|---|
| West Coast Sales | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Midwest Sales | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| Southwest Sales | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |

23. スプレッドシートを保存します。
24. "モデリング" > "組織" に戻ります。
25. ツールバーで "組織構造のインポート" をクリックします。
26. "更新と追加" を選択します。
27. "ファイルの選択" をクリックします。
28. コンピュータを参照して、"組織属性を含む組織" スプレッドシートを選択します。
29. "開く" をクリックします。
30. "アップロード" をクリックします。

### タスクの結果

"地域の組織属性" を使用して、地域別に組織の代替合計を作成できるようになりました。代替階層は次のようになります。

East Coast Region

- Legal
- Human Resources
- Operations
- East Coast Sales

West Coast Region

- Finance
- Engineering
- Product Management
- West Coast Sales

地域 (未分類)

- IT
- Midwest Sales
- Southwest Sales

### 次のタスク

新しいカスタム属性にデータを入力できます。レポートに組織属性を追加すると、地域の代替合計を表示できます。

relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
概念: 組織（855ページ）
タスク
カスタム属性の作成（970ページ）
カスタム属性値の作成（973ページ）
ステップ: 組織の作成（846ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）
例
例: 組織特性を使用した代替組織構造の作成（1011ページ）

**FAQ:** リスト属性の合計を参照できますか？

適用された特性値を参照することにより、リスト属性の合計を参照できます。 例: "製品" 属性の合計を参照するとします。

1. "モデリング"で、"製品" 属性の特性を作成し、特性に *"*合計*"*という名前を付けます。
2. 特性値を 1 つ作成し、「製品合計」という名前を付けます。
3. "製品合計" 特性値をすべての "製品" 属性値に適用します。
4. 合計が必要な場合は、次の数式で *"Acct.Revenue[Total=ProductTotal]"*という修飾子を使用します。

この数式は 、"製品合計" 特性を持つ収益データを返します。"製品合計" は すべての "製品" 属性値をタグ付けするため、この数式はいずれかの "製品" 属性値でタグ付けされたすべての収益データを取得します。 計算値は、すべての製品の収益合計となります。

relatedlinks
タスク
特性の作成（1002ページ）
特性値の作成（1005ページ）

**FAQ:** カスタム属性に指定された青いドットはどのような意味がありますか？

"モデリング" の "属性" 領域で、カスタム属性と属性値の左側に青いドットが表示されます。これは、これらが使用されていて、モデルの他の場所に依存しているために削除できないことを示します。青いドットの目的は、依存する属性と属性値が削除されるのを防ぐことで、データを保護することです。

使用中の属性値を削除できるのは、"このタブで使用中の属性値を削除することはできません。" というメッセージを表示する " 属性値の依存関係を表示 " ダイアログに表示されるタブで、依存関係を解決した後にのみです。

このダイアログを表示するには、属性値の設定の "属性値の詳細" セクションで "依存関係を表示 " リンクをクリックします。

属性値と青いドット

ほとんどの場合、属性値がデータに関連付けられると、属性値に青いドットが表示されます。このようなデータを保護するために、Adaptive Planning では、データから属性値が削除されるまで、属性値の削除はできません。

青いドットがない場合でも、モデルはその属性値を使用している可能性があります。モデルが値の削除を妨げることはありませんが、属性値を削除する前に "依存関係を表示 " リンクをクリックし、モデルのどこでも使用されていないことを確認してください。そうしないと、依存関係を解決せずに値を削除すると、数式とレポートにエラーが発生する可能性があります。

属性と青いドット

少なくとも 1 つの属性値に青色のドットがある場合、属性のドットは青色になります。そのため、属性値の依存関係を解決するまでは属性を削除することもできません。

すべての値が同じでなくても、属性に青いドットが表示される場合があります。青色のドットは、属性が以下にリンクされているため、削除できないことを示します。

- シート定義"モデリング" でシートを編集して属性を削除できます。参照 シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）。
- レポート定義レポートを編集して属性を削除できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- トランザクション定義"モデリング" でトランザクションを編集して属性を削除できます。参照 参考: トランザクション（1234ページ）。
- 配賦ルールの範囲。配賦ルールの "適用範囲" タブを編集して、"属性を保持" リストから属性を削除できます。参照 概念: 配賦ルール（1231ページ）。

relatedlinks
タスク
未使用の属性値の一括削除（980ページ）
属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）

**FAQ:** 属性インポート テンプレートに特性の列がないのはなぜですか？

テンプレートは空白のフォームであり、すべてのモデルに適用する必要があります。

インポートに特性を追加するには、モデルの属性特性ごとに列を追加する必要があります。次に、列ヘッダーに特性の正確な名前を入力します。属性値の各行について、新しい特性列に特性値を追加します。

属性構造をエクスポートすることもできます。このオプションにより、属性特性列は自動的に組み込まれます。

relatedlinks
タスク
属性および属性値のインポート（977ページ）

派生属性値
ステップ: 派生属性の設定

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

派生属性を使用すると、データ入力タスクの効率が向上します。派生属性は、マッピング ルールに基づいてモデル シートに自動入力される値を持ちます。

使用する用語は次のとおりです。

- 派生属性値: シートに自動入力される属性値
- マッピング属性値: 派生属性値の自動入力をトリガするためにユーザーがシートで選択する属性値
- 属性マッピング ルール: マッピング属性値を派生属性値にマッピングするロジック
- 属性マッピング: ダッシュボードまたは属性インポートを介して属性マッピング ルールを作成するプロセス

例: ジュニアやシニアなどの職務勤続値は、製品エンジニア、製品アソシエイト エンジニアなどの職務名と、E1 や E2 などの職務コードの組み合わせから取得されます。

マッピング ルールは、以下の条件下でのみ派生属性値を自動入力します。

- 派生属性で "リスト属性" チェックボックスがオンになっている。
- "マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定" チェックボックスを使って、派生属性を有効にする。
- 派生属性値のマッピング ルールを作成する。
- 派生属性とシートへのすべてのマッピング属性の両方を含むモデル シートを作成する。派生属性値は、モデル シートのマッピング属性にのみ接続されます。モデルの他の場所では、マッピング属性値は派生属性値を作成しません。
- 仮想バージョンまたは実績を使用していない。

手順

1. カスタム属性の属性マッピングを有効化します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. 次のいずれかの方法でマッピング ルールを作成します。
    - 属性マッピングのインポート

      セキュリティ: "構造インポート" 権限
    - ダッシュボードを使用し、以下のタスクで属性マッピング ルールを作成する。
        a. ダッシュボードでの属性マッピング テーブルの追加 ( 344ページ ) .
        b. 派生属性のマッピング ルールの追加

    セキュリティ: "ダッシュボードへのアクセス" 権限。
3. 派生属性用のモデル シートを作成します。
    a. マッピング属性を列として追加します。例: "職務名" と "職務コード" を列として追加します。
    b. マッピング属性の後に派生属性を列として追加します。例:"職務名" 列と "職務コード" 列の後に "職務勤続" を列として追加します。
    c. "モデル シートのプロパティ" > "Settings of the Columns and Levels area"で "分割を許可" チェックボックスをオフにします。 。

      参照 ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ ) 。

タスクの結果

モデル シートを開くと、マッピング属性と派生属性はドロップダウン メニューのある列になっています。マッピング属性列から値を選択すると、派生属性値が自動入力されます。

派生値を含むセルには緑の三角形が表示され、選択されている内容が他の属性値から派生したものであることを示します。属性マッピング ルールから派生した値はロック解除されたままになるため、自動選択された属性値を置き換えることができます。緑の三角形が表示されなくなると、属性値が派生した値ではなくなったことが示されます。

例

"職務名"、"職務コード"、"職務勤続" にはカスタム属性があります。以下の操作を行います。

- "職務勤続" を派生属性として有効にする
- "職務名" と "職務コード" をマッピング属性にする
- 3 つの属性すべてを従業員モデル シートに追加

属性マッピング ルールの作成後は、以下の選択に応じて自動入力されるようになります。

- "職務名" に "製品エンジニア"、"職務コード" に "E4" を選択した場合 "職務勤続" に "シニア" がシートに自動入力されます。
- "職務名" に "製品エンジニア"、"職務コード" に "E1" を選択した場合 "職務勤続" に "ジュニア" がシートに自動入力されます。

relatedlinks
概念
概念: カスタム属性 ( 988ページ )
タスク
カスタム属性値の作成 ( 973ページ )
カスタム属性の作成 ( 970ページ )

カスタム属性の属性マッピングの有効化

始める前に

- マッピング属性および派生属性として使用するカスタム属性を作成します。カスタム属性の作成を参照してください。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

派生属性を使用すると、データ入力タスクの効率が向上します。派生属性は、マッピング ルールに基づいてモデル シートに自動入力される値を持ちます。

使用する用語は次のとおりです。

- 派生属性値: シートに自動入力される属性値。
- マッピング属性値: 派生属性値の自動入力をトリガするためにユーザーがシートで選択する属性値。
- 属性マッピング ルール: マッピング属性値を派生属性値にマッピングするロジック。
- 属性マッピング: ダッシュボードまたは属性インポートを介して属性マッピング ルールを作成するプロセス

例: ジュニアやシニアなどの職務勤続値は、製品エンジニア、製品アソシエイト エンジニアなどの職務名と、E1 や E2 などの職務コードの組み合わせから取得されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性のリストで、派生属性にする属性をクリックします。
   派生属性は、シートに自動入力する値を持つ属性です。
4. "属性の詳細" セクションで、"マッピング基準を使用してモデル シートの属性値を設定" チェックボックスをオンにします。
5. 表示されるプロンプトからマッピング属性を選択します。
   ユーザーがシートでマッピング属性の値を選択すると、派生属性値が自動入力されます。
6. (任意) "属性の追加" をクリックして、別のマッピング属性を追加します。
   複数のマッピング属性を追加すると、マッピング属性値のさまざまな組み合わせに基づいて派生属性値が自動入力されます。
7. "保存" をクリックします。
8. (任意) "マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定" チェックボックスをオフにして、派生属性機能を削除するには、最初にすべての属性マッピング ルールを削除する必要があります。
   参照 派生属性のマッピング ルールの追加 ( 345ページ )。

例

職務勤続を職務名と職務コードの派生属性にするには、次のようにします。

1. 属性リストから "職務勤続" を選択します。
2. "マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定" チェックボックスをオンにします。
3. プロンプトから "職務名" を選択します。
4. "属性の追加" をクリックします。
5. 新しいプロンプトから "職務コード" を選択します。

これで、職務コードと職務名を職務勤続にマッピングできるようになりました。

次のタスク

以下のいずれかを実施します。

- 属性マッピングのインポート
- ダッシュボードでの属性マッピング テーブルの追加

relatedlinks
概念
概念: カスタム属性 ( 988ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

タスク
カスタム属性値の作成（973ページ）
カスタム属性の作成（970ページ）

属性マッピングのインポート

始める前に
セキュリティ:

- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "構造インポート" 権限

このタスクについて

複数の属性マッピングを作成、またはインポート機能を使用して既存のものを一括更新します。マッピングを削除することもできます。次のいずれかを実行できます。

- 現在の構造をエクスポートする (インポートする前に Excel で変更できます)。既存のマッピングを更新または削除する場合は、エクスポート機能を使用することをお勧めします。
- Excel テンプレートをダウンロードし、空白の "インポート" タブに入力する。

エクスポートおよびインポート機能を使用して、マッピングを削除できます。ただし、すべてのマッピングを削除する必要がある場合は、"ダッシュボード" を使用してすべてを削除する必要があります。これは、行がない場合インポートに失敗するためです。次を参照してください。

- インポートを使用した派生属性からの属性値の削除（999ページ）.
- ステップ: ダッシュボードの派生属性からの属性値の削除（1000ページ）.

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性"を選択します。
3. 属性リストで、"マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定" が有効化されている属性を選択します。

   このチェックボックスがオンになると、ツールバーのインポートと印刷のボタンの横にドロップダウンの矢印が表示されます。
4. ツールバーで、必要に応じて次のオプションのいずれかを選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 印刷 | このオプションを使用して、既存のマッピングを変更または削除します。<br>属性の既存のマッピング構造をダウンロードするには:<br>a. 印刷アイコンの横にあるドロップダウン矢印をクリックします。<br>b. "属性マッピングのエクスポート"を選択します。<br>c. "バージョン" プロンプトからバージョンを選択します。<br>d. "ダウンロード"をクリックします。 |
| インポート | このオプションを使用して、新しいマッピングを追加するか、マッピング構造全体を再ロードします。<br>空白のテンプレートにアクセスするには: |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | a. インポート アイコンの横にあるドロップダウンの矢印をクリックします。<br>b. "属性マッピングのインポート"を選択します。<br>c. "テンプレートのダウンロード"を選択します。手順は、テンプレートの最初のタブに表示されます。 |

5. 空白のテンプレートを完成させるか、エクスポートされたファイルを変更して、コンピュータに保存します。
   行の間に複数の行を空白のままにしないでください。
6. "モデリング" >"属性"に戻ります。
7. 属性のリストで、同じ属性をハイライト表示します。
8. ツールバーで、インポート アイコンの横にある矢印をクリックします。
9. "属性マッピングのインポート"を選択します。
10. フォームに入力します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 更新 | 既存のマッピングに変更をインポートする場合に、このオプションを選択します。次の場合は、このオプションを選択しないでください。<br>• マッピングが削除されました。<br>• 新しいマッピングが追加されました。 |
| 追加 | インポートに新しいマッピングのみがある場合に、このオプションを選択します。以下の場合は、このオプションを選択しないでください。<br>• 既存のマッピングが変更された。<br>• マッピングが削除されました。 |
| マッピングを再ロード | このオプションは、次の場合に選択します。<br>• インポートには、新しいマッピングと変更されたマッピングが混在しています。<br>• マッピングを削除しました。 |
| バージョン | 更新するバージョンを選択します。 |
| ファイルを選択 | クリックしてコンピュータを参照し、ファイルを選択します。 |
| アップロード | クリックして完了します。 |

インポートを使用した派生属性からの属性値の削除

始める前に

セキュリティ:

- "構造インポート" 権限
- モデルに "シート、科目、属性、数式" の権限が含まれる 。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

マッピング ルールから属性値を削除する理由は数多くあります。1 つの理由として、属性値を削除することが考えられます。"派生属性" タブで属性値が依存関係にある場合、属性値が派生属性のマッピング ルールの一部であることを意味します。属性値または属性を削除するには、まずマッピング ルールを変更または削除する必要があります。

いくつかの属性値からのみマッピングを削除する必要がある場合は、"マッピングを再ロード" オプションでインポート機能を使用できます。

属性のすべてのマッピングを削除する必要がある場合は、ダッシュボード内のマッピングを削除する必要があります。参照 ステップ: ダッシュボードの派生属性からの属性値の削除 ( 1000ページ ) 。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性のリストで、該当する属性をハイライト表示します。
4. ツールバーで印刷ボタンの横にある矢印をクリックし、"属性マッピングのエクスポート"を選択します。
5. プロンプトからバージョンを選択します。
6. "ダウンロード"をクリックします。
7. コンピュータにダウンロードされたスプレッドシートを開きます。
8. スプレッドシートの "検索" 機能を使用して、属性値のすべての出現箇所を検索します。
9. 属性値を置き換えるか、属性値がある行全体を削除します。これにより、ルールも削除されます。
10. スプレッドシートを保存します。
11. "モデリング > 属性"に戻ります。
12. 属性リストで、同じ属性をハイライト表示します。
13. ツールバーでインポート ボタンの横にある矢印をクリックし、"属性マッピングのインポート"を選択します。
14. "マッピングの再ロード" インポート オプションを使用します。

次のタスク

マッピングを削除しました。マッピングは属性値の削除を防ぐ依存関係です。マッピングを削除すると、依存関係が解決されます。すべての依存関係が解決されると、属性値を削除できます。すべてのマッピングを削除した場合は 、属性の "マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定 " チェックボックスをオフにすることもできます。

relatedlinks
タスク
未使用の属性値の一括削除 ( 980ページ )

ステップ: ダッシュボードの派生属性からの属性値の削除

始める前に

セキュリティ:"ダッシュボードへのアクセス"

このタスクについて

マッピング ルールから属性値を削除する理由は数多くあります。1 つの理由として、属性値を削除することが考えられます。"派生属性" タブで属性値が依存関係にある場合、属性値が派生属性のマッピング ルールの一部であることを意味します。属性値または属性を削除するには、まずマッピング ルールを変更または削除する必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

属性のすべてのマッピングを削除する必要がある場合は、ダッシュボード内のマッピングを削除する必要があります。マッピング テーブルがすでに存在するダッシュボードがある可能性があります。属していなければ、マッピング テーブルを作成する必要があります。これには "ダッシュボードの編集" 権限が必要です。

いくつかの属性値からのみマッピングを削除する必要がある場合は、"マッピングを再ロード" オプションでインポート機能を使用できます。参照 インポートを使用した派生属性からの属性値の削除（999ページ）。

手順

1. 属性マッピングをエクスポートします。
   参照 属性マッピングのインポート（998ページ）。エクスポートされたファイルを参照して、すべてのマッピングを削除することができます。
2. マッピング テーブルのあるダッシュボードがない場合は、マッピング テーブルを作成します。
   セキュリティ:"ダッシュボードの編集 " 権限
   a. エリアの作成（297ページ）.
   b. ダッシュボードの作成（301ページ）.
   c. ダッシュボードでの属性マッピング テーブルの追加（344ページ）.
      管理する属性を選択します。
   d. ダッシュボードを保存します。
3. マッピング テーブルを含むダッシュボードがある場合は、以下のエリアを開きます。
   a) メイン メニューから "ダッシュボード"を選択します。
   b) マッピング テーブルがあるエリアを開きます。
4. エリア ツールバーで、エクスポートされたマッピングに示されている " 組織" を選択します。
5. 属性値がある行を選択します。
6. テーブル ツールバーで "行を削除" ボタンを選択します。
   別の属性値に置き換えることもできます。
7. ツールバーで "保存"を選択します。

タスクの結果

マッピングを削除しました。マッピングは属性値の削除を防ぐ依存関係です。マッピングを削除すると、依存関係が解決されます。すべての依存関係が解決されると、属性値を削除できます。すべてのマッピングを削除した場合は 、属性の "マッピング基準を使用してモデル シートで属性値を設定 " チェックボックスをオフにすることもできます。

relatedlinks
タスク
未使用の属性値の一括削除（980ページ）

例: 属性マッピングを使用した地域ルールの設定

始める前に

- セキュリティ:
  - "編集可能なシート アクセス" 権限
  - "モデル" 権限
  - "構造インポート" 権限
  - "すべての場所へのインポート" 権限
- 外部 CRM ソース システムにアクセスして、データをエクスポートします。
- セールス プランニングの CRM データのモデル シートを作成します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### このタスクについて

営業地域階層のカスタム属性から組み込まれた派生属性値を使用して、地域ルールを作成できます。取り込む CRM 営業科目データの対応付けルールを設定すると、そのデータが正しい地域に自動的に割り当てられます。

### 手順

1. 派生属性と組み合わせるカスタム属性を作成します。
   例: 派生属性値に影響する国、州、郡/州/県属性を作成します。
2. カスタム属性の属性マッピングの有効化（996ページ）.
   例: 地区、地方、地域の派生属性値に影響するカスタム属性をマッピングします。
3. ダッシュボードでの属性マッピング テーブルの追加を行うか、属性マッピングをインポートします。
   ダッシュボードでの属性マッピングでは、ルールを使用して属性値を一括で割り当てることができます。
4. 派生属性のマッピング ルールの追加
5. CRM データをインポートして、マッピングしたカスタム属性により地域の属性値を一括で割り当てます。

### タスクの結果

CRM からインポートすると、派生属性値に関連データが自動入力されます。

### 例

地域ルールには以下を含めることができます。

- 地区: 国属性に基づく派生値を使用したカスタム属性。
- 地方: 地区、国、州属性に基づく派生値を使用したカスタム属性。
- 地域: 地方、国、州、郡/州/県属性に基づく派生値を使用したカスタム属性。

### 次のタスク

地域ルールを設定すると、セールス プランニング ダッシュボードとシートを調整して地域計画を変更できます。

relatedlinks
概念
概念: カスタム属性（988ページ）
タスク
例: セールス プランニングに向けた CRM データのモデル シートの作成（1088ページ）
属性マッピングのインポート（998ページ）

特性
特性の作成

### 始める前に

- カスタム属性特性を作成する場合は、特性をタグ付けするカスタム属性を作成します。参照 カスタム属性の作成（970ページ）。
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

特性はメタデータにタグ付けする値のリストを含むグループです。メタデータのタグ付けを使用すると、既存の階層とは異なるグループおよび階層をレポート用に作成できます。

以下の特性を作成できます。

- 科目
- カスタム属性
- 組織

データに特性を関連付けるために、シートに特性を追加する必要はありません。例: "収益" 科目に科目特性をタグ付けするとします。"収益" に対して入力またはインポートされたすべてのデータは、科目にタグ付けされた特性に自動的に関連付けられます。

特性は以下で作成できます。

- "モデリング" (一度に 1 つずつ)、またはスプレッドシートのインポート
- 特性ローダまたは API とのインテグレーション 。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 特性のセットに移動するには、以下のリンクのいずれかをクリックします。
    - 組織特性: ここで作成した特性は、組織の設定に表示されます。この設定により、組織にタグ付けすることができます。
    - 属性特性: ここで作成した特性は、選択した属性のカスタム属性設定に表示されます。この設定により、属性値にタグ付けすることができます。
    - 科目特性: ここで作成した特性は科目設定に表示されます。この設定により、科目にタグ付けすることができます。
3. (カスタム属性特性の場合のみ) 最初のツールバー プロンプトから、後で特性値をタグ付けする値を持つカスタム属性を選択します。

    ドロップダウン リストに属性が表示されない場合は、以下を確認します。

    - 属性が作成されていること
    - 属性の "属性の詳細" セクションで "リスト属性" チェックボックスがオンになっていること
4. ツールバーで特性値の作成ボタンをクリックします。

    ボタンの名前は、作成する特性のセットに応じて変わります。例: 科目特性セットを開いている場合、"新規科目特性を作成" ボタンをクリックします。
5. 以下を考慮して、"詳細" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| コード | 一意のコードを入力します。数式でコードを参照し、すべての特性値でタグ付けされたすべてのデータを含めます。 |
| 名前 | 一意の名前を入力します。<br>避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | ダッシュボードのグラフで使用する名前を短縮します。空白のままにすると、Adaptive Planning によって名前が自動的に短縮されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 値の表示名の形式 | "名前"、"コード"、または名前とコードのさまざまな組み合わせなど、特性値の表示形式を選択します。 |
| 科目のインポートにより自動的に特性値を作成する | このチェックボックスをオンにすると、以下のツールを使用して科目構造をインポートするときに新しい科目特性を追加できるようになります。<br>• インテグレーション ローダ<br>• Integration API<br>• 科目の "モデリング" 内の "インポート" ボタン |
| 属性のインポートにより自動的に特性値を作成する | このチェックボックスをオンにすると、以下のツールを使用してカスタム属性構造をインポートするときに、新しい属性特性を追加できるようになります。<br>• インテグレーション ローダ<br>• Integration API<br>• "モデリング">"カスタム属性"のインポート ボタン。 |
| 組織のインポートにより自動的に特性値を作成する | このチェックボックスをオンにすると、次のツールを使用して組織構造をインポートするときに新しい組織の特性を追加できるようになります。<br>• インテグレーション ローダ<br>• Integration API<br>• "モデリング">"組織" のインポート ボタン |
| 並べ替えを維持 | 特性値をアルファベット順に並べ替えるには、このチェックボックスをオンにします。<br>チェックボックスをオフにすると、任意の順序で配置できます。<br>このオプションを選択している場合に以下を変更すると、特性値の順序が変わる可能性があります。<br>• 特性の表示名の形式<br>• 特性値の名前<br>• 特性値のコード |

次のタスク

特性値の作成（1005ページ）.

relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）
FAQ: "モデリング領域" に "属性特性" リンクがないのはなぜですか？（1014ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

特性値の作成

始める前に

- 特性の作成 ( 1002ページ ) .
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

特性値は特性に属します。特性を使用して科目、カスタム属性、組織にタグを付けることができます。その後、レポートやグラフに特性を追加して、科目、属性、組織の階層とは異なるデータのグループや合計を作成できます。特性はメタデータにタグを付けるため、チームがデータ エントリに特性値をタグ付けする必要はありません。特性データは、科目、属性、または組織に基づいてデータに自動的に関連付けられます。

以下で特性値を作成できます。

- モデリング で一度に 1 つずつ、またはスプレッドシートのインポートを介して。
- 特性ローダおよび特性 API との インテグレーション 。
- インテグレーション (関連するメタデータを更新する場合)このオプションを使用するには、特性設定で " 科目/属性/組織のインポートで自動的に特性値を作成する" チェックボックスをオンにする必要があります。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 以下のオプションのいずれかをクリックします。
    - 科目特性
    - 属性特性
    - 組織特性
3. 特性のリストから、その特性を強調表示します。
4. ツールバーで特性値の作成ボタンをクリックします。
   ボタンの名前は、作成する特性の種類に応じて変わります。例: 科目の特性を作成している場合、ボタンは "新規科目特性値を作成" になります。
5. 以下を考慮して、オプションを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 親 | 階層値の場合は、新しい値をロールアップする先の値を選択します。特性値を別の値にロールアップしない場合は、特性名を選択します。 |
| コード | 他のどの特性値とも一致しない一意の "コード" を入力します。 |
| 名前 | 名前を入力します。<br>避ける単語とその他のガイドラインについては、 参考: 命名規則のベスト プラクティスを参照してください。 |
| 短縮名 | グラフ用に名前を短縮します。 |
| 依存関係を表示 | リンクをクリックして、モデル内の特性値の場所を検索します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

特性の種類に応じて、科目、カスタム属性、または組織に戻り、新しい特性をタグ付けします。

relatedlinks
タスク
カスタム属性値への特性値のタグ付け（975ページ）
科目に特性値をタグ付け（873ページ）
特性値を用いて組織をタグ付け（854ページ）

特性および特性値のインポート

始める前に

セキュリティ:

- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
- "構造インポート" 権限

このタスクについて

複数の特性および特性値を作成、またはインポート機能を使用して既存のものを一括変更します。次のいずれかを実行できます。

- 現在の構造をエクスポートする (インポートする前に Excel で変更できます)。
- Excel テンプレートをダウンロードし、空白の "インポート" タブに入力する。

インポート用に Excel スプレッドシートを準備する際は、行の間に複数の空白行を残さないでください。インポートでは、2 つ目の空白行以降のすべての行が無視されます。

インポート エラーを回避するため、Workforce Planning Configuration Manager が管理する "名前" と "コード" の組み合わせは変更しないでください。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 次のいずれかをクリックします。
   - 科目特性
   - 属性特性
   - 組織特性

   これらのオプションのいずれかを選択すると、ツールバーの最初のドロップダウン プロンプトを使用して他の特性に移動できます。
3. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 印刷対応ビューを生成 | 既存の構造をダウンロードして、それに変更を加えられるようにします。 |
| 属性構造のインポート | 空白のテンプレートで変更を加えられるように、"テンプレートのダウンロード" リンクが表示されます。手順は、テンプレートの最初のタブに表示されます。 |

4. 空白のテンプレートを完成させるか、エクスポートされたファイルを変更して、コンピュータに保存します。

   行の間に複数の空白行を残さないでください。
5. 適切なページに戻り、ツールバーで "インポート" ボタンをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 更新と追加 | 推奨オプション:<br>• 新しい特性および値を追加します。<br>• インポートに含めた既存の特性および値を更新します。<br>• インポートに含めなかった特性はそのまま残します。 |
| 再ロード | このオプションは以下のことに注意して使用してください。<br>• インポートに含めなかった特性および値はそのまま残します。<br>• インポートに含めた特性または値のうち、既存のものと一致するものを削除し、再ロードします。 |

7. ファイルを選択して "アップロード" をクリックします。

次のタスク

特性を再ロードした場合は、以下を再度タグ付けする必要があります。

- 属性
- 組織
- 科目

また、特性値をレポートとシートに再度追加します。

relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
概念: Adaptive Planning へのメタデータのロード
タスク
Planning 特性ローダの作成
カスタム属性値への特性値のタグ付け（975ページ）
参考
FAQ: 属性インポート テンプレートに特性の列がないのはなぜですか？（995ページ）

特性および特性値の削除

始める前に

セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

属性とは異なり、特性は使用中でも削除できます。特性と値を削除してもデータには影響しません。特性を削除すると、そのすべての特性値は削除されます。科目、属性、または組織からタグが自動的に削除されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. 次のいずれかをクリックします。
    - 科目特性
    - 属性特性
    - 組織特性
3. 特性のリストから、削除する特性を選択します。または、特性を展開し、削除する特性値を選択します。
4. (特性値の場合のみ) "依存関係を表示" リンクをクリックします。
   モデルが特性値を使用するすべての場所がテーブルに表示されます。モデルが特性を参照する場所をメモできます。特性値を削除する前または後に、これらの領域を更新できます。
5. ツールバーで "削除" をクリックします。

タスクの結果

特性を削除すると、そのすべての値が自動的に削除されます。レポート、グラフ、数式など、モデルのすべての領域から特性とその値が削除されます。

特性値を削除して特性自体は削除しない場合の影響は、以下のとおりです。

- 削除された特性値に親の値がある場合、すべてのタグが親の値に置き換えられます。
- 値に親の値がない場合は、すべてのタグが "未分類" の値に置き換えられます。

次のタスク

データを更新する必要はありません。必要に応じて、科目、属性、組織の特性タグを更新するだけです。その特性値を使用していたレポート、数式、グラフの更新が必要になる場合もあります。

relatedlinks
タスク
組織、科目、属性からの特性タグの削除 ( 1008ページ )

組織、科目、属性からの特性タグの削除

始める前に

- 特性値でタグ付けした組織、科目、またはカスタム属性
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む " 権限

このタスクについて

特性タグを削除する最も早い方法は、特性値を削除することです。特性値を削除すると、科目、カスタム属性、組織から自動的に削除されます。特性値を削除せずに特性タグを削除する場合は、それぞれの設定で手動で削除できます。しかし、複数の科目、カスタム属性、または組織から特性を削除する必要がある場合、特性値を一度に 1 つずつ手動で削除することは困難です。

タスクを一括で完了するために、インポートとエクスポート機能を利用できます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 特性階層をクリックします。
   たとえば、科目から特性を削除する必要がある場合は、"科目特性"をクリックします。
3. リストで、削除する値を持つ特性をハイライト表示します。
4. ツールバーで ボタンをクリックし、新しい特性値を入力します。
   例: 科目特性の場合、"新規科目特性値を作成"をクリックします。
5. "名前" と "コード"に 「削除」 と入力して保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. ブレッドクラムで "モデリング"をクリックします。
7. 更新する階層をクリックします。
   例: 総勘定元帳科目からタグを削除するには、"総勘定元帳科目"をクリックします。
8. ツールバーで "プリンター" ボタンをクリックします。
   ボタンにドロップダウンの矢印がある場合、構造を工クスポートするオプションを選択します。
9. ダウンロードしたスプレッドシートで、削除する特性値の代わりに 「削除」 と入力します。
10. スプレッドシートを保存します。
11. "モデリング " 領域で同じ階層に戻ります。
    例: 総勘定元帳科目に戻る
12. ツールバーで "インポート" ボタンをクリックします。
    ボタンにドロップダウンの矢印がある場合、構造をインポートするオプションを選択します。
13. "更新と追加" オプションをクリックし、保存したスプレッドシートを選択します。
14. ブレッドクラムから "モデリング"を選択します。
15. 適切な特性階層をクリックします。
    たとえば、科目から特性を削除する場合、"科目特性"をクリックします。
16. 特性を展開し、新しい ″削除″ 値をハイライト表示します。
17. ツールバーでごみ箱アイコンをクリックします。

タスクの結果

組織、属性、または科目にその特性のタグが付けられなくなっています。

relatedlinks
タスク
特性および特性値の削除（1007ページ）
カスタム属性値への特性値のタグ付け（975ページ）
ステップ: 組織の作成（846ページ）
科目の作成（863ページ）

概念: 特性

特性は値のリストを含むグループです。例: "製品グループ" という特性には次の値が含まれます。

- トップス
- ボトムス
- アクセサリー

特性はメタデータにタグ付けされます。例: 特性は科目、カスタム属性、組織にタグを付けます。メタデータにタグ付けすると、さまざまなグループや階層を作成できます。例: "製品グループ" は、製品属性をタグ付けするために使用する属性特性です。T シャツ製品には "トップス" を、ショートパンツ製品には "ボトムス" をタグ付けできます。

特性はメタデータをカテゴリ化することから、関連データをカテゴリ化する効果があります。チームが、シート内のエントリに特性をタグ付けする必要はありません。特性値は科目、属性、または組織に自動的に関連付けられます。特性は実際のデータにタグ付けされません。この点でも、特性および特性値の削除は簡単です。

特性のユース ケース

- 属性、科目、組織をレポート用のカテゴリにグループ化する。
- 代替的な組織階層を作成する。
- 詳細データ入力用のキューブおよびモデル シートをフィルタリングする。
- 科目にタグ付けし、キャッシュ フロー明細の作成と数式の簡素化を行う。
- 可能な場合、カスタム属性を置き換えてモデルのパフォーマンスを高める。

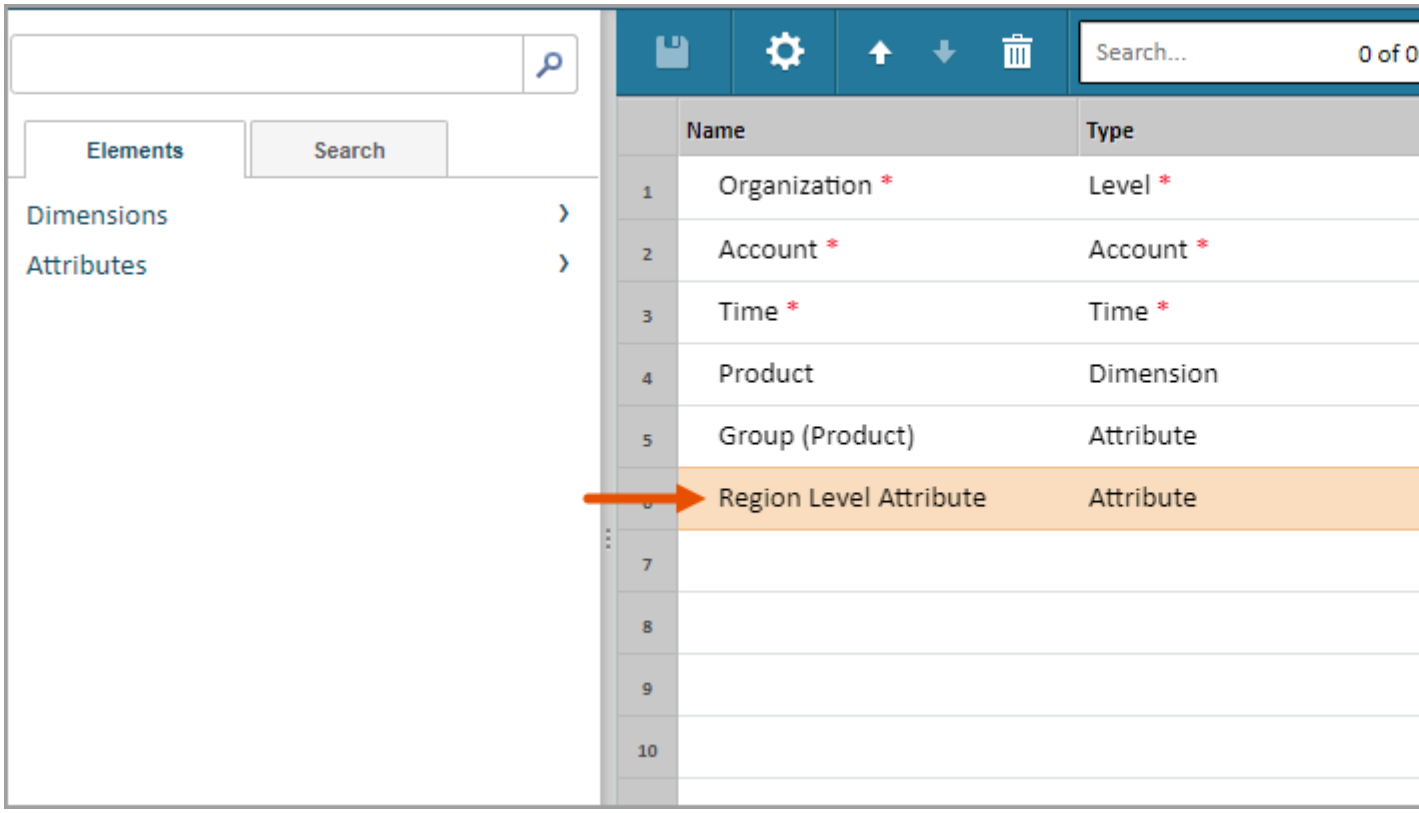
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
概念
概念: カスタム属性 ( 988ページ )
概念: 組織の属性と特性 ( 1014ページ )
参考
参考: 特性と属性の比較 ( 1015ページ )

概念: キューブ シートの部分的な特性の合計

キューブ シートに特性を追加する場合、いくつかの特性値を含めつつ他の値を除外するオプションがあります。一部の特性値のみを追加する場合は、シートに部分的な合計値を作成します。部分的な合計値は、チームが "シート" 領域からシート ビューをどのように操作するかに基づいて表示されます。

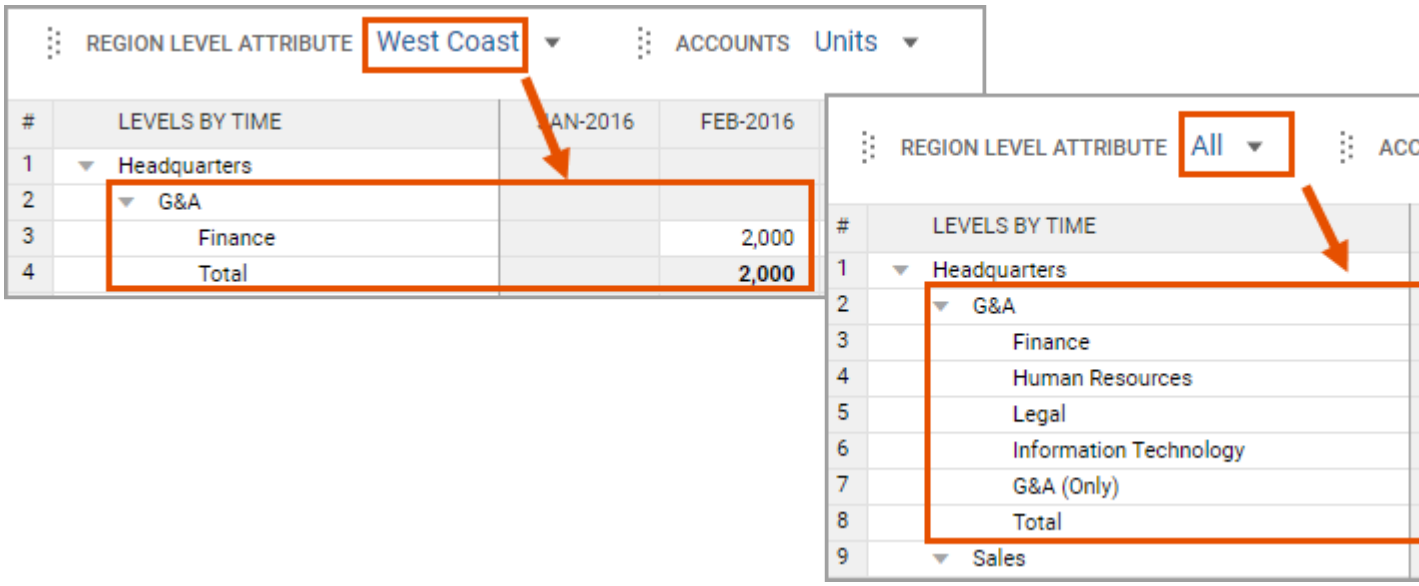
例: 以前、"財務" 組織のみに "West Coast" 特性値をタグ付けした場合、キューブ シートを作成するときは、すべての組織をシートに追加します。また、"地域の組織特性" もシートに追加します。"West Coast" 値、特性合計 ("地域の組織特性") を含め、その他の特性値は一切含めません。




キューブ シートの結果は次のようになります。

- "West Coast" がタグ付けされた組織だけでなく、以前追加したすべての組織もシートで使用できます。
- 特性のみを行にドラッグすると、"West Coast" の特性値と特性の合計のみが表示されます。合計値は部分的な合計です。合計値には、"West Coast" がタグ付けされたデータのみが含まれます。
- 特性をキューブ フィルタに移動すると、ドロップダウン リストのオプションには "West Coast" と "すべて" のみが含まれます。
    - フィルタから "West Coast" を選択した場合、組織がフィルタリングされ、"West Coast" がタグ付けされた組織のみがシートに表示されます。 合計は部分的な合計です。"West Coast" がタグ付けされたデータのみが含まれます。
    - "すべて" を選択すると、シートの行にすべての組織が表示されます。"すべて" に関する特性の合計は、シート上のすべての組織のデータを含みます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
タスク
キューブ シートへの属性および特性の追加（1095ページ）
参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）

例: 組織特性を使用した代替組織構造の作成

この例では、組織特性を使用してレポート用の代替組織構造を作成する方法を説明します。

このタスクについて

組織の機関は会社の部門的構造を反映しています。この構造を使用すると、各部門 (G&A、製品開発、営業) の合計を確認できます。部門の所在地は、米国のさまざまな地域に分散しています。部門全体の地域の合計についてレポートを作成するには、組織に特性をタグ付けして代替階層を作成します。

組織の階層は次のとおりです。

G&A

- 財務
- Human Resources
- Legal
- IT

Product Development

- Operations
- Engineering
- Product Management

Sales

- East Coast Sales
- West Coast Sales
- Midwest Sales
- South West Sales

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

始める前に

- シナリオの説明に沿って組織を作成します。
- セキュリティ:
  - "組織構造" 権限
  - "構造インポート" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織特性" をクリックします。
3. ツールバーで "組織の特性構造のインポート" をクリックします。
4. "テンプレートのダウンロード" をクリックします。
5. Excel スプレッドシートを開き、編集を有効にして、「新しい地域の組織特性」としてコンピュータに保存します。
6. シートの下部にある "組織特性" タブをクリックします。
7. ヘッダー行の後の最初の行で以下の列を完成させて、特性を作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 特性名 | 「地域の組織特性」と入力します。 |
| 表示名の形式 | 「名前」と入力します。 |

8. 同じ行の以下の列に入力して、最初の特性値を作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 特性値の名前 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| 特性値コード | 「WC」と入力します。 |

9. 次の行の以下の列に入力して、次の特性値を作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 特性値の名前 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| 特性値コード | 「EC」と入力します。 |

10. "新しい地域の組織特性" スプレッドシートを保存します。
11. "モデリング" > "組織特性" に戻ります。
12. ツールバーで "特性構造のインポート" をクリックします。
13. "更新と追加" を選択します。
14. "ファイルの選択" をクリックします。
15. コンピュータのファイルを参照して、"新しい地域の組織特性" スプレッドシートを見つけて選択します。
16. "開く" をクリックします。
17. "アップロード" をクリックします。
18. ブレッドクラムから "モデリング" を選択します。
19. "組織" をクリックします。
20. ツールバーで "印刷対応ビューを生成" をクリックします。
21. "組織" の Excel スプレッドシートを開き、編集を有効にして、「組織特性を含む組織」として保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

22.各組織について、以下のように入力します。

| 名前 | 地域の組織特性コード | 地域の組織特性名 |
|---|---|---|
| G&A | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| • Finance | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Human Resources | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| Legal | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| IT | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| Product Development | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| Operations | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| Engineering | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Product Management | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Sales | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| East Coast Sales | 「EC」と入力します。 | 「East Coast Region」と入力します。 |
| West Coast Sales | 「WC」と入力します。 | 「West Coast Region」と入力します。 |
| Midwest Sales | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |
| Southwest Sales | 空白のままにします。 | 空白のままにします。 |

23.スプレッドシートを保存します。
24."モデリング" > "組織" に戻ります。
25.ツールバーで "組織構造のインポート" をクリックします。
26."更新と追加" を選択します。
27."ファイルの選択" をクリックします。
28.コンピュータを参照して、"組織特性を含む組織" スプレッドシートを選択します。
29."開く" をクリックします。
30."アップロード" をクリックします。

タスクの結果

"地域の組織特性" を使用して、地域別に組織の代替合計を作成できるようになりました。代替階層は次のようになります。

East Coast Region

- Legal
- Human Resources
- Operations
- East Coast Sales

West Coast Region

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- Finance
- Engineering
- Product Management
- West Coast Sales

地域 (未分類)

- IT
- Midwest Sales
- Southwest Sales

次のタスク

組織にデータを入力できます。レポートに組織特性を追加すると、地域の代替合計を表示できます。

relatedlinks
概念
概念: 組織の属性と特性（1014ページ）
概念: 組織（855ページ）
タスク
ステップ: 組織の作成（846ページ）
参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）
例
例: 組織属性を使用した代替組織構造の作成（991ページ）

**FAQ: "モデリング領域" に "属性特性" リンクがないのはなぜですか？**

属性特性をサポートする属性がない場合、"属性特性" リンクは表示されません。

特性で属性を使用できるようにするには:

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性のリストで、該当する属性をハイライト表示します。
4. "属性の詳細" で "リスト属性" チェックボックスをオンにします。

チェックボックスが無効になっている場合、その属性の値は階層的な値になります。 このチェックボックスをオンにするには、値リストを階層的でないようにフラット化する必要があります。

relatedlinks
タスク
カスタム属性の作成（970ページ）

**概念:** 組織の属性と特性

組織をカスタム属性に関連付ける場合は、組織属性を作成します。組織に特性をタグ付けする場合は、組織特性を作成します。

数式の簡素化

組織の属性と特性によって、数式を簡素化します。例: 北西地域の 10 個の組織を参照する代わりに、北西地域を参照し、10 個の組織のデータすべてを自動的に含めることができます。

代替階層の作成

組織の属性と特性を使えば、組織について収集したデータをさまざまな方法で表示することもできます。このバリエーションを代替組織階層と呼びます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: テーブルの最初の列に示されるとおり、組織の機関は会社の部門的構造を反映しています。この構造を使用すると、各部門 (G&A、製品開発、営業) の合計を確認できます。部門の所在地は、米国のさまざまな地域に分散しています。部門全体の地域の合計についてレポートを作成するには、部門に "地域" 特性をタグ付けします。最後の列に示されるとおり、部門全体の地域データの合計についてレポートを作成できるようになりました。代替階層がタグ付けされていない組織は合計され、"未分類" として表示されます。

| 部門別の組織階層 | 地域別の代替組織階層 |
|---|---|
| G&A<br>• 財務 ("West Coast Region" をタグ付け)<br>• 人事 ("East Coast Region" のタグ付き)<br>• リーガル ("East Coast Region" のタグ付き)<br>• IT<br>Product Development<br>• 運用 ("East Coast Region" のタグ付き)<br>• エンジニアリング ("West Coast Region" のタグ付き)<br>• 製品管理 ("West Coast Region" のタグ付き)<br>営業部門<br>• East Coast Sales ("East Coast Region" のタグ付き)<br>• West Coast Sales ("West Coast Region" のタグ付き)<br>• Midwest Sales<br>• South West Sales | East Coast Region<br>• Legal<br>• Human Resources<br>• Operations<br>• East Coast Sales<br>West Coast Region<br>• Finance<br>• Engineering<br>• Product Management<br>• West Coast Sales<br>地域 (未分類)<br>• IT<br>• Midwest Sales<br>• Southwest Sales |

命名規則のベスト プラクティス

- 属性または特性の名前に "組織属性/特性" という単語を含めます。例: 特性名は、"地域" ではなく "地域の組織特性" です。 キューブ シートで特性を使用して組織を簡単にフィルタリングできるようになりました。レポートも読みやすくなります。
- 組織の名前を組織の属性値または特性値と区別します。例: 営業組織について、「West Coast Sales」または「West Coast Sales Level」と命名します。 属性値または特性値について、「West Coast Region」または「West Coast Region Dimension」と命名します。
- 共通数式コマンドである単語 (This など) を使用しないでください。
- 絵文字は避けてください。

relatedlinks
タスク
組織からの属性値タグの削除 ( 854ページ )

参考: 特性と属性の比較

動作の比較

カスタム属性は特性に似ていますが、モデルでは異なる目的で機能します。データが紙のシートとしてキャビネットに保管されていると想像してください。カスタム属性は紙を収納するフォルダです。特性はフォルダに付けるコードです。

モデル内の特性の動作と機能は、属性とは異なります。その 2 つのうちのどちらかを選択するには、以下のテーブルを考慮してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

機能

| 機能 | カスタム属性 | 特性 |
|---|---|---|
| 組織にタグ付けする | "属性の詳細" で "リスト属性" をオフにする必要があります。 | はい |
| 科目にタグ付けする | いいえ | はい |
| バージョンにタグ付けする | いいえ | いいえ |
| カスタム属性にタグ付けする | いいえ | はい |
| アクセス ルール用に保護する | はい | はい |
| 削除がデータに影響する | はい | いいえ |
| 簡単に削除できる | いいえ | はい |
| 階層に使用できる | 条件付 | はい |
| 標準シートに追加する | はい | いいえ |
| キューブ シートとモデル シートに追加する | はい | はい |
| 特定のバージョンからの値を非表示にする | はい | いいえ |

データに関する動作

| カスタム属性 | 特性 |
|---|---|
| 組織にタグ付けされるときもメタデータです | メタデータ (科目、カスタム属性、組織) にタグ付けします |
| 組織、時間、科目とともに、モデル内にデータの特定の交差部分を作成します | タグ付けされたメタデータで交差するデータと関連付けます |

タグ付けされた階層での動作

| カスタム属性 | 特性 |
|---|---|
| カスタム属性値をタグ付けできるのは組織のみで、属性の "リスト属性" オプションをオンにすることはできません。子組織と親組織に同じ組織属性値をタグ付けする必要はありません。兄弟組織ごとに、異なるカスタム属性値を設定できます。 | 子メタデータは親メタデータの特性を継承します。例: "G&A" 親組織に "West Coast" をタグ付けすると、 "G&A" にロールアップされるすべての組織に、自動的に "West Coast" がタグ付けされます。<br><br>組織ごとに異なる特性値をタグ付けするには、親組織を未分類のままにするか、階層の特性値リストを作成する必要があります。例: "East Coast" 特性値に 2 つの子特性値 ("Northeast" と "Southeast") があります。 "G&A" に "East Coast" をタグ付けすると、子組織には "East Coast"、"Northeast" または "Southeast" を選択できます。 |

組織に関する動作

組織のタグ付けには、特性またはカスタム属性のいずれかを使用できます。

| カスタム属性 | 特性 |
|---|---|
| 組織にカスタム属性をタグ付けする場合は、組織属性をデータに関連付ける必要があります。それ以外の場合は、組織属性の "未分類" 値をデータにタグ付けします。データに組織属性値を割り当て | 組織に特性をタグ付けすると、組織には常にその特性がつきます。組織に関連付けられているすべてのデータは、特性にも関連付けられます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| カスタム属性 | 特性 |
| --- | --- |
| ると、データは組織属性値別にさらに分割されます。 | |
| 組織の属性値をレポートに追加すると、レポートは組織と組織属性値のすべての可能な組み合わせを返します。 | 組織の特性値をレポートに追加すると、レポートは特性値がタグ付けされた組織のみを返します。 |
| シートでは、組織属性を関連する組織のデータに関連付けるには、そのシート上に組織属性が必要です。組織に関連付けられたカスタム属性値をシートからオーバーライドできます。例: "財務" 組織に "East Coast" をタグ付けします。シートで "財務" 組織を選択します。"West Coast" 属性値を選択します。データは、"財務" と "West Coast" で交差するようになります。 | 組織でデータを入力すると、組織にタグ付けする特性がシートにない場合も、その特性によってデータが自動的にタグ付けされます。特性がシート上にある場合は読み取り専用です。 |

シート上での動作

| シート タイプ | カスタム属性 | 特性 |
| --- | --- | --- |
| 標準 | データにカスタム属性値をタグ付けするには、カスタム属性がシート上にある必要があります。シート上にない場合、データはカスタム属性の "未分類" の値で自動的にタグ付けされます。 | 特性をシートに追加する必要はありません。例: "財務" 組織のすべてのデータに組織特性値の "East Coast" が自動的にタグ付けされます。 |
| モデル | • カスタム属性は、他のすべての属性と同様に機能します。行ごとに異なる値を選択できます。<br>• 組織属性の場合、組織と組織属性間の関連付けをオーバーライドできます。例: "財務" 組織について、"East Coast" にするべきであっても "West Coast" を選択できます。 | • 科目、カスタム属性、または組織を行で選択すると、関連する特性に特性値が事前入力されます。<br>• また、特性値を選択して関連付けられた属性をフィルタリングし、選択した特性値がタグ付けされた属性のみが表示されるようにすることもできます。特性設定で "属性のフィルタとして有効にする" オプションをオンにする必要があります。<br>• 組織特性の場合、特性値は読み取り専用です。 |
| キューブ | • 属性がキューブ フィルタにある場合、シートにデータを入力するには最下位組織の属性値を選択する必要があります。<br>• 組織属性の場合、組織と組織属性の関連付けをオーバーライドできます。例: "地域" 属性をフィルタに追加し、"組織" を行に追加します。キュー | • 特性を使用して、関連付けられた属性値、科目、または組織をフィルタリングします。例: "West Coast" 特性値を選択します。組織のドロップダウン リストには、"West Coast" をタグ付けした組織のみが表示されます。組織が行にある場合、行には "West Coast" |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| シート タイプ | カスタム属性 | 特性 |
| --- | --- | --- |
| | ブ フィルタから "West Coast" を選択します。"G&A" にロールアップするすべての組織にデータを入力します。そうすることにより、タグ付けされた属性に関係なく各組織で、入力したデータに "West Coast" をタグ付けできます。 | をタグ付けした組織のみが表示されます。<br>• キューブ シート上の特性には、部分的な合計値が表示される場合があります。参照 概念: キューブ シートの部分的な特性の合計（1010ページ）。 |

relatedlinks
概念
概念: カスタム属性（988ページ）
概念: 特性（1009ページ）
概念: キューブ シートの部分的な特性の合計（1010ページ）
タスク
カスタム属性の作成（970ページ）
特性の作成（1002ページ）
モデル シートへのカスタム属性の追加（1054ページ）
キューブ シートへの属性および特性の追加（1095ページ）
例
例: 製品および顧客のカスタム属性の作成（989ページ）
例: 組織特性を使用した代替組織構造の作成（1011ページ）
例: 組織属性を使用した代替組織構造の作成（991ページ）

## シート作成

### 新しいシートの開始

#### 始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

#### このタスクについて

シートを作成して、実績データおよび計画データをインポートし、チーム メンバーがデータを表示、変更できるようにします。最初のステップは、シートの開始です。次の 3 種類のシートを作成できます。

- 標準: 科目、組織、および時間の基本グリッド
- モデル: 他の科目の計算を自動化できるレコードのリスト
- キューブ: 属性化されたデータを含む複雑なグリッド

#### 手順

1. ナビゲーション メニューで "モデリング" をクリックします。
2. "シート" メニューから、シート タイプをクリックします。このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 組織割当シート | チーム メンバーは、シートに割り当てられた組織にアクセスできる場合にシートを開くことができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー割当シート | チーム メンバーは、シートが割り当てられている場合にシートを開くことができます。 |

3. シート リストの末尾にある "新規シート作成" をクリックします。
4. "シート名" フィールドに一意の名前を入力します。
   名前に絵文字は使用しないでください。
5. 残りのフィールドに入力する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新しいシートの作成 | シートを開始します。ドロップダウン プロンプトから以下を選択します。<br>• 標準<br>• モデル<br>  • 資本: 事前作成済みのテンプレートを使用します。<br>  • 従業員: 事前作成済みのテンプレートを使用します。<br>  • 販売: 事前作成済みのテンプレートを使用します。<br>  • 空白のモデル シート (詳細): 独自のモデル シートを設計します。<br>• キューブ |
| 既存のシートのクローン | モデル シートに限りコピーを開始します。ドロップダウン プロンプトから既存のモデル シートを選択します。<br>クローンできるのはモデル シートのみです。 |
| シート コード | モデル シートまたはキューブ シートの作成時に表示されます。<br>ベスト プラクティス: シート名と関連性があるコードを入力します。このコードは、シートに追加するすべての科目コードの最初の部分になります。数式を追加したり、科目の更新をインポートしたりするときには、シート コードをプレフィックスとして含む科目コードを参照します。 |
| マージされたキューブとして作成 | 新しいキューブ シートの作成時に使用できます。<br>マージされたキューブ シートでは、属性を組み合わせて、最大 3 つの他のキューブ シートまたはモデル シートのデータが使用されます。 |

6. "次" をクリックします。

タスクの結果

- 標準シートの場合: ウィザードに従って次のステップに進みます。
- キューブ シートまたはモデル シートの場合: シート サマリが表示され、次のステップへのリンクが示されます。シート サマリからシートのコンポーネントを作成および変更します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

標準シートの場合、次の操作ができます。

- 科目および科目グループの追加。
- "キャンセル" をクリックして、後で作業できるように内容を保存する。

キューブ シートの場合は、以下をクリックできます。

- キューブ科目: 科目を追加します。
- 属性、特性、組織: 列、カスタム属性、特性を追加し、シート設定を管理し、組織および属性値の使用可否設定を管理します。
- 制限: 属性の交差部分に基づいて、制限を追加します。

  例: 特定の組織またはバージョンで特定の科目を非表示にします。このオプションは、マージされたキューブ シートでは使用できません。
- アクセシビリティ: シートのデータを表示および変更できるユーザーを追加します。

  このオプションは、ユーザー割当シートでのみ使用できます。
- 完了: 後で作業できるように内容を保存します。

モデル シートの場合は、以下をクリックできます。

- モデル科目: 設定、数式、名前、コードを含む、前提条件科目および算出科目を追加します。
- 列と組織: 列、属性、特性の追加、組織の割り当て、列ごとのルックアップの作成、およびシート設定の変更をします。
- アクセシビリティ: シートのデータを表示および編集できるユーザーを割り当てます。

  ユーザー割当シートでのみ使用できます。
- 検証ルール: 列のデータ要件を作成します。
- 完了: 後で作業できるように内容を保存します。

未完了のシートはシート リストに赤で表示されます。未完了のシートを完成させる、またはシートに変更を加えるには、シート名の横にある "編集" リンクをクリックします。

シート サマリにアクセスしてシートを編集

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

モデル管理者はシートの構造を編集できます。これは、シートのデータの変更とは異なります。シートの構造には次の要素が含まれます。

- シートに表示される科目
- シートに表示される列および行
- 読み取り専用オプション
- 給与詳細の権限
- シートに表示される属性、組織、および特性

手順

1. ナビゲーション メニューから、"モデリング" へ移動します。
2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
3. シートのリストからシート名をクリックし、"シート サマリ" ページを開きます。

   シートを編集する場合は、ブレッドクラムを使用して "シート サマリ" に戻り、編集可能なシートの他の部分に移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

タスクの結果

" シート サマリ" には一連のリンクが含まれています。

次のタスク

リンクを使用してシートのさまざまな部分を編集できます。

キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て

始める前に

- ユーザーを割り当てるには、ユーザー割当シートを作成します。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

ユーザー割当シートにユーザーを割り当てて、ユーザーの組織所有権やアクセス権に関係なくデータを編集できるようにします。

モデル シートの場合のみ: シート設定の給与の詳細がアクティブである場合、ユーザーがシートを開くには、"給与詳細へのアクセス" 権限も必要です。

手順

1. ナビゲーション メニューから "モデリング" > "ユーザー割当シート" をクリックします。
2. ユーザー割当シートの "アクセス可能ユーザー" 列で "変更" をクリックします。
3. "選択可能なユーザー" ボックスで、ユーザーを選択します。
4. 右矢印を選択して、"選択済のユーザー" ボックスに追加します。

タスクの結果

追加したユーザーは、"前提条件" からシートを開いてデータを表示および変更できます。

次のタスク

シートの作成または編集を終了します。

relatedlinks
例
トラブルシューティング: メイン メニューに前提条件が表示されない（61ページ）

シート内のすべてのデータを消去

始める前に

- 既存のキューブ シートまたはモデル シート
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

"すべてのデータを消去" は、 キューブ シートおよびモデル シートの "モデリング" 領域で使用できます。"すべてのデータを消去" 機能を使用すると、ロック済バージョンを含むすべてのバージョンのすべてのデータを削除できます。

次のような理由で、キューブ シートおよびモデル シートのすべてのデータを消去する必要がある場合があります。

- 使用中の属性または属性値を削除します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- データを誤ってアップロードしました。
- 初期のモデル作成時にダミー データをロードしましたが、実際のデータをロードするためにこれを削除します。

データを消去しても、次の情報は消去されません。

- 算出科目の数式
- 科目のリンク
- 属性、科目、列などのシート定義

セルに入力された数式を含むすべてのデータが削除されます。モデル シートの場合、データを消去すると、ロック済バージョンとアーカイブ済バージョンのデータが削除されます。キューブ シートの場合、データを消去するとロック済バージョンのデータが削除されますが、アーカイブ済バージョンのデータは削除されません。

必要に応じて、特定のバージョンのデータをダウンロードし、履歴データを消去する前に保存できます。 データの量と複雑度に応じて、以下を実行できます。

- シート ビューからシートをダウンロードします。
- キューブ シートの定義と一致するマトリクス レポートを作成します。次に、レポートを Excel にエクスポートします。
- モデル シートの定義に一致するモデル レポートを作成します。次に、レポートを Excel にエクスポートします。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
3. キューブまたはモデル シートの名前の横にある "編集" を クリックします。
4. "すべてのデータを消去"をクリックします。

タスクの結果

キューブ シートの場合、データ入力セルはすべて空白になります。

モデル シートの場合、シートに行がなくなりました。

要求に応じて再計算を有効化

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

"オンデマンド再計算" はモデル シートとキューブ シートで使用できるシート設定で、大きなシートとモデル全体のパフォーマンスを向上させることができます。"要求に応じて再計算" は、Excel の "手動計算" に似ています。

シートに対してこのオプションを有効にすると、パフォーマンスに影響を与える再計算をトリガすることなくシート データを更新できます。その他のデータは、シート ツールバーで "数式を再計算" ボタンをクリックするまでは自動で更新されません。また、更新されたデータがリンクに入力されることはなく、ボタンをクリックするまでは空白が表示される場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. 新しいシートの開始（1018ページ）または シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）。
   この機能を有効にするには、新しいモデル シートまたはキューブ シートを作成するか、モデル キューブ シートを編集する必要があります。
2. 対象
   - キューブ シートで "属性、特性、組織" をクリックします。
   - モデル シートの場合、"列と組織" をクリックします。
3. ツールバーで "シートのプロパティ" をクリックします。
4. "設定" タブをクリックします。
5. "要求に応じて再計算" のチェックボックスをオンにします。
6. "OK" をクリックします。
7. シートを保存します。

タスクの結果

"シート" メニューからシートを開いたときに、シートのツールバーに "数式を再計算" ボタンが表示されるようになりました。リンク、数式、および一部の合計は、保存後にボタンをクリックするまで、新しいデータで計算されません。シート データのデータに依存しているモデル内のその他のデータも、ボタンをクリックするまで再計算されません。

relatedlinks
概念
概念: オンデマンド シート設定の再計算（1025ページ）
タスク
すべてのシートの再計算（1025ページ）

キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定

始める前に

- 以下を読む。 概念: モデル シートおよびキューブ シートの計算適用範囲（1028ページ）。
- シートを作成します。以下を参照してください。 ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）または ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）。
- セキュリティ: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ科目およびモデル シートのパフォーマンスを向上させるために、算出科目の期間範囲を設定できます。

開始時間と終了時間はバージョン設定に相対するため、通常はシートごとに適用範囲を 1 回設定するだけで十分です。

実績に設定した範囲:

- すべてのサブバージョンが含まれます。
- 実績バージョンの "次の時点 までの確定数字 を表示" 適用日を基準にします。

プランに設定する範囲は次のとおりです。

- すべての計画バージョンが含まれます。
- 各計画バージョンのそれぞれの "計画の開始 " 日を基準とします。
- " 計画の開始" が "次の時点まで の確定数字を表示 " から 1 期間以上経過する場合に、実績の "次の時点までの確定数字を表示" の日付を基準とします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）.
2. 次のいずれかをクリックします。
   - モデル シートの場合、"列と組織" をクリックします。
   - キューブ シートの場合は、属性、特性、組織
3. 中央パネルのツールバーで、"シートのプロパティ"をクリックします。
4. "適用範囲 " タブをクリックします。
5. "実績値" セクションで、範囲を定義します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| バージョンの開始 | バージョンの先頭で計算を開始します。 |
| バージョンの終了 | バージョンの最後で計算を停止します。 |
| 暦期間 | 実績バージョンの "次 の時点までの確定数字を表示" を基準に適用範囲を設定します。<br>a. 2 番目のプロンプトからオプションを選択します。使用可能なオプションは、カレンダーの設定によって異なります。最も一般的な値は、″月″、″四半期″、″年″です。<br>b. 開始または期間をオフセットする期間数を入力します。 正の数または負の数を入力できます。正の数の場合、スコープは後ろに移動します。負の数の場合、適用範囲は後ろに移動します。<br>例:″月″ を選択し、"計算を停止"に 「*-5*」 と入力します。計算は "次の時点 までの確定数字を表示" 適用 日の 5 か月前に停止します。 「*5*」 と入力すると、計算は "次の時点 までの確定数字を表示" 日から 5 か月後に停止します。 |

6. "計画値" セクションで、計画バージョンの適用範囲を定義します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 表示開始月 | 計画バージョンの "表示開始月" で計算を開始します。 |
| 計画の終了 | 計画バージョンの最後で計算を停止します。 |
| 暦期間 | 各計画バージョンの "計画の開始" を基準に範囲を設定します。<br>a. 2 番目のプロンプトからオプションを選択します。使用可能なオプションは、カレンダーの設定によって異なります。最も一般的な値は、″月″、″四半期″、″年″です。<br>b. 開始または期間をオフセットする期間数を入力します。 正の数または負の数を入力できます。正の数の場合、スコープは後ろに移動します。負の数の場合、適用範囲は後ろに移動します。<br>例:″月″ を選択し、"計算を停止"に 「*-5*」 と入力します。計算は "計画の開始 " 日の 5 か月前 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | に停止します。「5」と入力すると、計算は "計画の開始 " 日から 5 か月後に停止します。 |

タスクの結果

シート内の数式は、各バージョンに対して定義された範囲内でのみ値を計算および表示します。スコープ外のセルは空白でロックされ、青の三角形が表示されます。

次のタスク

以下のバージョン設定は最新の状態に保つようにしてください。

- 次の時点までの確定数字を表示
- 計画の開始

relatedlinks
タスク
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）

すべてのシートの再計算

始める前に

- 要求に応じて再計算を有効化（1022ページ）.
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

"すべてのシートを再計算 " ボタンを使用すると 、"要求に応じて計算" オプションですべてのシートを再計算することができ、時間を節約できます。ワンクリックで、すべての組織のオプションを使用して、すべてのシートのすべての計算をトリガできます。ボタンは次の場合にのみ表示されます。

- "オンデマンドで計算" オプションが有効になっているシートがあります。
- 作業中のバージョンは計画バージョンです。実績バージョンを開いても、" すべてのシートを再計算" オプションは表示されません。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
3. "すべてのシートを再計算"をクリックします。

relatedlinks
概念
概念: オンデマンド シート設定の再計算（1025ページ）
タスク
要求に応じて再計算を有効化（1022ページ）

概念: オンデマンド シート設定の再計算

"オンデマンド再計算" はモデル シートとキューブ シートで使用できるシート設定で、大きなシートとモデル全体のパフォーマンスを向上させることができます。"要求に応じて再計算" は、Excel の "手動計算" に似ています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### モデル内の計算の仕組み

一般的な Adaptive Planning のインスタンスでは、シートを保存するとモデル内のすべてのデータが再計算されます。例: P&L シートで収益の子科目の値を更新します。シートを保存するとすぐに、科目別、組織別、時間別のすべての合計が更新されます。さらに、科目または合計のいずれかを参照するすべての数式も再計算されます。この利点は、モデルのどこにいても、データは常に最新であるということです。このコストは、モデル (特にモデルが大きい場合) のパフォーマンスに大きな負担を掛けることです。

### "要求に応じて再計算" の仕組み

"オンデマンド再計算" では、キューブ シートとモデル シート内のデータを分離することで、この負担を軽減します。シート ツールバーからボタンをクリックして手動で再計算するまでは、データに変更を加えてもモデルは再計算されません。"オンデマンド再計算" を使用するメリットはモデルとシートのパフォーマンスを向上させることです。これは、更新が多い期間中に役立ちます。コストは、データが最新ではなく、"要求に応じて再計算" が設定されている各シートを手動で再計算する必要があることです。

"オンデマンドで計算" が有効になっているすべてのシートを再計算することもできます。

この設定は、結果として、手動の再計算を行う管理的作業に見合ったパフォーマンスの向上がある場合にのみ有効にしてください。

注 : この機能を有効にした場合、シートのツールバーで "数式を再計算" をクリックするまで、シートには計算されたデータまたはリンクされたデータが表示されません。

### メリットとユース ケース

"一致した場合再計算" の設定を有効化して、特定の行の変更時に再計算する他の行を示すことで、関連行が変更されるときに、モデル シートの他の行を再計算できます。

"要求に応じて再計算" は次の場合に役立ちます。

- 非常に複雑かつ計算集中型のモデル。例: 各従業員の給与の一部が、部署または訓練のための総人事支出に依存している、数千人の従業員を載せた人事シート
- めったに変更されるデータのないシート上。例: 前年度の売上または費用に基づいて比率を計算するキューブ シート

### オンデマンド再計算のあるシートの動作

"要求に応じて再計算" の有無にかかわらず、合計は数式ベースではないため、常に計算されます。"数式を再計算" ボタンをクリックして合計を更新する必要はありません。"要求に応じて再計算" では、シートまたはモデル内のその他の場所に表示されている数式ベースのデータを更新するために、ボタンをクリックする必要があります。

モデル シートの場合、"要求に応じて再計算" を使用しない場合、新しい行や既存の行への変更は、シート内のすべての行と科目の再計算をトリガできます。

"要求に応じて再計算" を使用すると、次のことができます。

- シートの残りの部分で再計算をトリガすることなく、行の変更、行の削除、新しい行の追加を行います。
- 親行で再計算をトリガすることなく、行に分割を追加します。

シート ツールバーの "数式を再計算" ボタンは、組織ごとに再計算されます。すべての組織を再計算するには、ボタンをクリックする前に、最上位組織を選択していることを確認してください。

### モデル シートに一致した場合再計算

モデル シートの設定では、単一の行が変更された場合にどの行を再計算するかを決定することもできます。カスタム属性列とテキスト セレクター列では、"一致した場合再計算" チェックボックスをオンにできます。このオプションを使用すると、行の編集時に、値が一致する他の行が自動的に再計算されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: シートに "製品" 属性があります。行を編集して、"製品" のセル値を「セーター」から「T シャツ」に変更します。セーターと T シャツを持つシート上のすべての行が、変更に基づいて再計算されます。"数式を再計算" ボタンをクリックする必要はありません。

ビデオ: オンデマンドの再計算

ビデオを見る: 1 分 9 秒

relatedlinks
タスク
要求に応じて再計算を有効化（1022ページ）
すべてのシートの再計算（1025ページ）

概念: シートの作成

シートを管理する場合、シートを設計してそれをユーザーや組織に割り当てます。組織割当シートは組織に割り当てられます。組織またはその子組織の承認者がこのシートを開くことができます。ユーザー割当シートはユーザーに割り当てられます。これらのユーザーは、シート上のすべての組織にアクセスできます。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング" を選択します。"シート" メニューで、"ユーザー割当シート" または "組織割当シート" を選択して自分のモデル内にあるシートのリストを表示します。

シート リスト

"ユーザー割当シート" または "組織割当シート" を選択して自分のモデル内にある全シートのリストを表示します。ここから次の操作ができます。

- シート リストの順序変更: 上下の矢印を使用してリスト内のシートの位置を変更できます。
- シートの編集、削除、名前の変更が可能。
- 新しいシートを作成する。

組織割当シートとユーザー割当シート

組織の承認権に関係なく特定ユーザーに対するアクセスを分離したい場合、ユーザー割当シートを作成します。一般的な使用例としては、会社全体の前提条件が含まれるシート、または IT 要員が会社全体のプランニングに使用するシートです。

組織の承認権によって制御されるシートに対するアクセスを希望する場合、組織シートを作成します。

ユーザー割当シートと組織割当シートは、両方ともナビゲーション メニューの "前提条件" または "シート" から見つけられます。左側のパネルを使用して、この 2 つのシートを切り替えることができます。概念: シートのクイック ツアーを参照してください。

インスタンスがアクセス ルールを使用する場合、シートへのアクセス方法が異なります。参考: アクセス ルールとモデルを参照してください。

シート タイプ

シートには 4 つのタイプがあります。

- 標準シート: 列全体に時間を持つ、科目と組織に基づく基本的な入力シートを作成したい場合に使用します。チームは行に分割を追加でき、また、シートにカスタム属性を追加する場合、分割に属性をタグ付けすることができます。標準シートの作成を参照してください。
- モデル シート: 他の科目の計算を主導する詳細リストをチームに入力させたい場合に使用します。概念: モデル シートの作成を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- キューブ シート: チームが複数の属性を通じてシートをピボットできるようにしたい場合に使用します。概念: キューブ シートの作成を参照してください。
- マージされたキューブ シート: 複数のシートに集められたデータを複数の属性で計算する場合に使用します。参照 ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成 ( 1089ページ )。

作成後の各シートの表示を確認するには 、"シート タイプの特定" を 参照してください。

概念: モデル シートおよびキューブ シートの計算適用範囲

シート内の計算

デフォルトでは、数式はバージョン全体のシート内のデータを計算します。モデル シートやキューブ シートに多くの数式がある場合、シートのパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。数式には以下が含まれます。

- 算出科目
- ユーザーがシートのセルに入力した数式。

計算に対する適用範囲の使用

パフォーマンスを向上させるために、" シートのプロパティ"の " 適用 範囲" タブ内のすべての計算の期間を設定できます。計算の時間範囲を減らすと、算出科目の適用範囲が絞り込まれ、パフォーマンスが向上します。 ユーザーがセルに入力した数式の適用範囲は制限されません。

スコープの期間

期間はバージョンの時間設定に従ってオフセットされるため、動的です。 実績バージョンと計画バージョンの両方、またはいずれかの範囲を設定できます。

適用範囲は以下のとおりです。

- 実績は、実績バージョンの "次の時点 までの確定数字 を表示" 期間を基準にします。
- 計画バージョンは、各計画バージョンの "計画の開始 " 期間を基準とします。

通常、ロック解除バージョンの "計画の開始" は、 実績の "完了値" 期間の直後の期間です。"計画の開始" が 1 期間以上後である場合、計画バージョンの参照点として "次の期間 までの確定数字を 表示" が使用されます。

例:

| 計画の開始 | 次の時点までの確定数字を表示 | 計画バージョンの範囲の参照点 |
|---|---|---|
| '25 年 1 月 | '24 年 12 月 | '25 年 1 月 |
| '25 年 1 月 | '24 年 6 月 | '24 年 6 月 |

スコープ外の計算

ユーザーがセルに入力する数式は計算の範囲に含まれません。これらの数式は、常にバージョン全体に対して計算します。

シート ビューで、範囲外の算出科目があるセルは以下のようになります。

- データが数式ベースであることを示す青の三角形
- グレーの背景: 数式があるため、セルが読み取り専用であることを示します。
- 空白: シートのデータが範囲外であるため、データを計算していないことを示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

動的適用範囲の例

*2020* 年予算 は、2020 年 1 月に開始する計画バージョンです。 *"2021* 年予算*"* は、2021 年 1 月に開始する計画バージョンです。

*"*収益 " キューブ シートの適用範囲を設定します。

"計算を開始"では、デフォルトの " 表示開始月*"* のままにします。"計算の停止" では *"*月*"* を選択し、「*12*」と入力します。

2020 年の予算バージョンを選択すると、2020 年 1 月から 12 月までの収益 キューブ シートが計算されます。*"2021* 予算 " バージョンを選択すると、シートで 2021 年 1 月から 12 月までのセルが計算されます。

任意の計画バージョンで "計画の開始" を調整すると、シート内のそのバージョンの計算も調整されます。

relatedlinks
タスク
キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定（1023ページ）
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）

トラブルシューティング: メイン メニューに前提条件が表示されない

原因: メイン メニューに "前提条件" オプションを表示するには、少なくとも 1 つのユーザー割当シートへのアクセス権が必要です。

ソリューション: セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "モデル管理" を選択します。
3. "ユーザー割当シート" を選択します。
4. 割り当てるシートについて、"アクセス可能ユーザー" 列で "変更" を選択します。
5. 矢印ボタンを使用して、"選択済のユーザー" リストにユーザーを移動します。

relatedlinks
タスク
キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て
キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て（1021ページ）

トラブルシューティング: シートに科目がない

シートに科目を追加しましたが、エンド ユーザーがシートを開いたときに、科目がどこにもありません。 "モデリング" 領域で確認できる内容を次に示します。

"シート" 領域のシート ビューからトラブルシューティングを行う方法については、 トラブルシューティング: シートで科目を見つけられないを参照してください。

- サブ組織のカスタマイズがあります。
- キューブに制限があります。
- 科目がシートに追加されていません。

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 標準シートにサブ組織のカスタマイズがある場合。 | サブ組織のカスタマイズは、標準シートのみで使用され、特定の組織でのみ科目が表示されるようにします。 サブ組織を変更するには:<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | 2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. 変更する標準シートの横にある "編集" を クリックします。<br>4. "サブ組織のカスタマイズ" をクリックします。<br>5. "科目" タブで、科目をハイライト表示します。<br>6. "組織" タブで、組織の横にチェックマークが表示されるまで、チェックボックスをクリックします。<br>7. "保存して 閉じる"をクリックします。 |
| キューブ シートにキューブ制限があります。 | キューブの制限はキューブ シートのみで、科目とバージョン、科目と組織、科目とカスタム属性の交差部分を非表示にします。これらの制限により、科目が表示されない可能性があります。<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. キューブ シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "制限" をクリックします。<br>5. 制限のリストで、制限の横の "編集" または "削除" をクリックします。 |
| 標準シートに新しい科目が追加されませんでした。 | 新しい科目を以下の合計として作成すると、新しい科目が標準シートに自動的に追加されます。<br>• シートにすでに存在するグループ。<br>• シートにすでに存在する親。<br>科目を追加するには:<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. シート リストから、標準シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "シート サマリ"で "科目グループ"をクリックします。<br>5. 科目をハイライト表示し、"グループに追加"をクリックします。<br>6. 保存: |

relatedlinks
例
トラブルシューティング: シートで科目が見つからない

トラブルシューティング: シート上でロックされた科目

ユーザーはロックされた科目のシート セルを編集できません。Adaptive Planning の "モデリング" 領域で、考えられる原因と科目のロックを解除する方法について説明します。 シート ユーザーは、シート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ビューを変更したり、"セルを探索" を起動して、ロックされていないセルが見つかるまでドリルすることもできます。参照 。

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| シート上のセルに青の三角形が含まれ、セルの背景がグレーの場合、それは算出科目です。算出科目は常にロックされます。 | 特定の算出科目について、特定のバージョンの科目データ入力を作成します。<br>参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）。 |
| フォントが緑色で背景がグレーの場合、その期間には実績のオーバーレイがあります。実績のオーバーレイは常にロックされます。 | バージョン設定を通じて実績のオーバーレイを元に戻す。参照 概念: 実績のオーバーレイ（808ページ）。<br>シート ユーザーは、実績バージョンを選択してそのデータを変更できます。 |
| これはリンク元科目です。リンクされた科目は常にロックされます。 | 科目のリンクを解除すると、ロック済バージョンを含むすべてのバージョンのデータが科目から削除されます。これはアーカイブ済バージョンには影響しません。参照 科目へのリンクの追加（908ページ）。<br>シート ユーザーは、右クリックして "セルを探索" を選択し、ソース科目を検索して、そこのデータを編集できます。 |
| 標準シートの場合、シート設定内のシートの科目は読み取り専用です。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. 標準シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "科目グループ"をクリックします。<br>5. "シートの科目 " タブの科目を選択します。<br>6. "読み取り専用" チェックボックスをオフにします。 |
| 標準シートの場合、科目は特定の組織に対して読み取り専用です。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。<br>3. 標準シートの横にある "編集" をクリックします。<br>4. "サブ組織のカスタマイズ" をクリックします。<br>5. "科目" タブから科目を選択します。<br>6. チェックマークが表示されるまで、組織の横にあるチェックボックスをクリックします。このチェックマークは、ユーザーがその組織の科目を編集できることを示します。<br>7. "保存して 閉じる"をクリックします。<br>シート ユーザーは、さまざまな組織を選択してロック解除されたセルを検索できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| ロック済バージョンを選択しました。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "バージョン" をクリックします。<br>3. リストから、シートでロックされている計画バージョンを選択します。<br>4. "アクセス制御" セクションで "ロック済バージョン " チェック ボックスをオフにします。<br>5. "アクセス制御" セクションで、ユーザー タイプに *"完全アクセス"* を選択します。参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示 ( 816ページ ) 。<br>6. "オプション" セクションで "次の時点 までのすべての月をロック済" を 調整し、シートのセルのロックを解除するのに十分な期間に設定します。例: 3 月以降の期間のロックを解除するには、*"2022 年 3 月"* を選択します。この設定で "完了日" が有効になっている場合、ルート実績バージョンに移動し、"次の時点 までの確定数字を表示" 設定を調整します。<br><br>シート ユーザーは、さまざまなバージョンを試すことができます。 |
| ワークフローで、誰かがステータスを "送信済" または "承認済" に変更しました。 | 組織の科目のロックを解除するには、組織ステータスを *"却下済"* に変更します。また、組織のワークフローで承認または送信されたユーザー割当シートに科目が含まれているかどうかも確認します。<br><br>シート ユーザーは、さまざまな組織を試すことができます。 |
| 組織、科目、およびカスタム属性の交差部分に対する表示専用アクセス ルールがあります。 | ユーザーのアクセス ルールを更新します。参照 。 |
| 科目がシステム科目であるシステム科目は、事前設定された数式で計算されます。 | アクションはありません。 |
| この科目は前提条件であり、最上位組織は選択されていません。最上位組織の前提条件科目のデータのみを変更します。 | シートのユーザーとして、最上位組織を選択する必要があります。 |

relatedlinks
例
トラブルシューティング: シートのセルがロックされているためデータを変更できない

標準シート
ステップ: 標準シートの作成

科目と組織に基づく基本的な入力用標準シートを作成します。分割を使用して、属性によるデータのタグ付けや、行ごとのサブカテゴリの作成を行います。

標準シートの作成には、シートの作成をサポートするウィザードを使用します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

前提条件

以下を作成します。

- シートに追加する科目、属性、組織
- ユーザー割当シート用のユーザー プロファイル

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

基本ステップ

1. 新しいシートの開始（1018ページ）.
2. 科目グループを作成して、科目を追加します。
3. (任意)カスタム属性を追加します。
4. 初期表示を設定します。
5. 組織に組織割当シートを割り当てるか、ユーザーにユーザー割当シートを割り当てます。
6. ユーザー割当シートの場合のみ、組織をシートに追加します。
7. (任意)各科目への各組織のアクセス権限をカスタマイズします。

科目グループの作成と科目の追加

- "シートの科目" セクションには、シートに表示されるグループと科目が含まれています。初めてシートを作成する場合、このボックスには単一の科目グループが提供されています。
- "科目詳細" または "グループ詳細" セクションには、"シートの設定"、"科目の設定"、または "グループの設定" が含まれています。
- "科目を選択" セクションには、お使いのモデルのすべての科目が含まれています。これらの科目をグループに追加してシートに表示することができます。

科目とグループを追加し、設定を変更するには、次のようにします。

1. シートで初期残高を表示するか、非表示にするかを選択します。
2. (任意) デフォルトの "新しいグループ" のグループ名を変更します。
3. (任意) シートに "新しいグループ" を追加して、"グループの設定" で "見出しと小計を表示する" を選択します。
4. シートに "科目グループ" を配置します。
5. "科目" を "グループ" に追加します。
6. (任意) すべての組織について科目を読み取り専用に設定します。
7. "次へ" を選択します。

初期残高の表示または非表示

多くの科目には初期残高があります。"グループ詳細" または "科目詳細" の上の "初期残高を表示" チェックボックスをオンにして、初期残高をシートの列として表示します。この列を非表示にするには、チェックボックスを空白のままにします。

最初の科目グループ名の変更

1. "シートの科目" ボックスで "新しいグループ" を選択します。
2. "グループ詳細" セクションで "見出し" フィールドにグループ名を入力します。

新しいグループの追加

1. "新しいグループ" ボタンを選択します。
2. "見出し" フィールドにグループ名を入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

3. 任意のチェックボックスをオンにします。
    - 見出しを表示: 科目グループの見出しがシートに表示され、ユーザーが科目グループに追加した科目がグループ化されます。
    - 小計を表示: グループ内のすべての科目の小計がシートに表示されます。
4. "グループ詳細" セクションの "保存" ボタンを選択します。

### グループの配置

科目ではなく科目グループを並べ替えて、シート上でどう表示されるかを制御できます。

1. "シートの科目" ボックスでグループを 1 つ選択します。
2. ボックスの下部にある "上へ移動" または "下へ移動" ボタンを選択します。

### グループへの科目の追加

1. "シートの科目" ボックスでグループを 1 つ選択します。
2. 右側の "科目の選択" ボックスで追加する科目を選択します。簡単に追加するには、以下に従って、親科目を追加して自動的に子孫科目を含めます。
    - "タイプ" ドロップダウンを使用して一覧を絞込みます。
    - "検索" フィールドにキーワードまたは科目コードを入力します。
3. "グループへ追加" ボタンを選択します。左側の "シートの科目" ボックスに科目とその子孫科目が表示されます。

### 科目を読み取り専用にする

グループに科目を追加した後、シートを閲覧する任意のユーザーに対して特定の科目を「読み取り専用」にすることができます。このシート上では、いかなるユーザーも科目のデータを編集できません。

親科目はすべての子孫科目の合計値を表示するため、常に読み取り専用です。親科目を読み取り専用にすると、その子孫科目は非表示となります。

1. "シートの科目" ボックスで科目を 1 つ選択します。
2. "科目詳細" セクションで "読み取り専用" チェックボックスをオンにします。
3. "保存" を選択します。
4. 科目を追加したら "次へ" を選択します。

### 属性の追加

属性をシートに追加することができます。属性は、計画データの分類と分析のためのカスタム フィルタを提供します。属性を使用すると、データを表示したり、属性を数式に含めたりすることができます。追加した属性は、シートの先頭列の後に表示されます

属性をシートに追加するには、次のようにします。

1. "選択可能な属性" で、属性を 1 つ選択します。
2. 右矢印 >> を選択して、属性をシートの "選択済の属性" に追加します。
3. すべての属性を追加した後、"上へ移動"、"下へ移動" を使用して、シート上の属性の順序を指定します。
4. "次へ" を選択します。

### 初期表示の設定

シートを最初に開いた時のシートの初期表示を選択することができます。シートを開けた時の表示オプションは、各ユーザーが変更できます

- 組織別に表示モードで開始: 行の下に組織を表示します。これを選択しない場合、シートには科目が行の下に表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない: 値がゼロの行または値がない行を非表示にします。

"次へ" を選択します。

### 初期表示の詳細設定

シートを作成した後、以下の両方の権限を持つユーザーの場合は、さらに詳細にデフォルト表示を管理することができます。

- "モデル管理アクセス" > "モデル" 権限
- シートへのアクセス権限

どのユーザーに対しても最初にシートを開いた時に定義どおりの表示が提供されるように、初期表示を設定します。ユーザーは シート ビューの変更は引き続き可能ですが、シート ツールバーの "デフォルト ビューにリセット" ボタンを使用して表示をデフォルトにリセットすることもできます。

1. ナビゲーション メニューの "シート" を選択してシートを選びます。
2. ツールバーで "表示オプション" をクリックします。
3. このタブで、"時刻"、"バージョン比較"、"スパークライン" の表示オプションを変更します。
4. "すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定する" チェックボックスをオンにします。
5. "適用" を選択します。シートを調べて、好ましい表示であるかを確認します
6. "保存" を選択します。

### 組織またはユーザーへの割り当て

- 組織割当シートを使用すると、組織をシートに割り当てることができます。
- ユーザー割当シートを使用すると、ユーザーをシートに割り当てることができます。

組織割当シートは、ナビゲーション メニュー > "シート" から見つけることができます。ユーザー割当シートのリストを開くには、左側のパネルを展開して "前提条件" をクリックします。

### 組織への割り当て

このステップは、組織割当シートの場合にのみ表示されます。以下に注意する必要があります。

- 親組織のみを割り当てる場合、ユーザーは科目のデータを編集できません。
- 親組織は、子組織を割り当てずに割り当てることができます。親組織でシートを閲覧する場合、チームのユーザーは、セルを探索して子組織の関係性を確認できます。子組織にのみアクセス権限があるユーザーは、シート自体を開けることができません。
- 子組織を割り当てると、その親とすべての先祖組織が自動的に割り当てられます。
- "サブ組織をカスタマイズ" オプションを使用して、各科目に対する各組織のアクセス権限をカスタマイズします。以下を参照してください。

組織を割り当てるには、以下の手順に従います。

1. 必要に応じて組織のリストを展開表示します。
2. このシートにアクセスできる組織を選択します。親組織を選択して、その子孫組織を選択しない場合、シートには "(限定) 組織" が表示されます。このデータはロールアップされたデータではなく、"(限定) 組織" に固有のデータです。
3. "シートを作成" を選択して完了するか、"サブ組織をカスタマイズ" を選択してそのシートに対する組織のアクセス権限を追加で定義します。

### ユーザーへの割り当て

このステップは、ユーザー割当シートにのみ表示されます。

1. "選択可能なユーザー" ボックスで、一度につき 1 人のユーザーを選択します。
2. 右矢印をクリックしてユーザーを割り当てます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

3. (任意)お使いのインスタンスがワークフローを使用している場合、このシートをワークフローから外すには、"ワークフローから除外済" を選択します。詳細については、 ステップ: ワークフローの使用を 参照してください。
4. "次へ" を選択します。

ユーザー割当シートへの組織の追加

このセクションは、ユーザー割当シートのみに適用されます。

シートに割り当てられているユーザーは、シートに追加した組織すべてを閲覧できます。ユーザーが編集できるのは、最下位組織、つまり子組織を持たない組織のみです。

1. 必要に応じて、組織リストを展開表示します。
2. シートに追加する組織を選択します。子組織を選択すると、先祖組織は自動的にシートに追加されます。
3. "シートを作成" を選択して完了するか、 "サブ組織をカスタマイズ" を選択してそのシートに対する組織のアクセス権限を追加で定義します。

サブ組織をカスタマイズ
各科目への各組織のアクセス権限をカスタマイズします。

以下のルールが適用されます。

- カスタマイズできるのは、ユーザーが割り当てられている組織か、すでにシートに追加されている組織のみです。
- 科目が親組織で非表示になっている場合、子組織でも非表示となります。
- 科目がシート ビルダーの "科目を選択" ページで "読み取り専用" とマークされている場合、ここで編集権限を与える設定はできません。設定できるのは、"非表示" または "読み取り専用" のみです。

サブ組織をカスタマイズするには、次のようにします。

1. 左のボックスで科目を選択します。一覧にはシートに追加されているすべての科目が含まれています。科目グループは選択できません。
2. 組織一覧を展開表示して、以下に従ってチェックボックスをオンにして、必要な表示形式を定義します。
    - ボックスが空白の場合、選択された科目はその組織では非表示となります。
    - ボックスが青色の場合、選択された科目はロックされます。
    - チェックマークがついている場合、その組織では選択された科目を編集できます。
3. "保存して閉じる" を選択します。

次のステップ

シートの使用状況とパフォーマンスを定期的に監視する。参照 シート メトリックのチェック（725ページ）。

ステップ: 内部取引シートの作成

内部取引シートは、内部取引の消去に分割法を使用する場合に作成する標準シートです。これは、ユーザー割当または組織割当のいずれかです。取引先との間で消去データを入力および追跡するために使用します。

前提条件

- 連結機能を利用するには、専門サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。
- 内部取引シートの作成は 、ステップ: 内部取引相殺消去の設定の場合は 1 ステップです。
- 消去法で分割法を選択している必要があります。ステップ: 相殺消去法の選択を参照してください。
- 以下も必要です。 取引先と相殺消去組織の作成（850ページ） および 内部取引科目の設定（874ページ）。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 必要な権限: "モデル管理アクセス" > "モデル"

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング" を選択します。"シート" メニューで、"ユーザー割当シート" または "組織割当シート" を選択して自分のモデル内にあるシートのリストを表示します。

シートの作成

すべての内部取引データのための 1 つのシート、または特定の組織や科目のための複数のシートを作成することができます。すでにシートが存在する場合は、シート リストからシート名の横にある "編集" をクリックします。"シート サマリ" ページが表示されます。そこから、リンクをクリックしてシートを編集します。

以下のリストを用意します。

- 内部取引科目
- 取引先組織
- 相殺消去組織

シートを作成するには、次のようにします。

1. シート リストの下部にある "新規シート作成" ボタンをクリックします。
2. "シート名" フィールドに、シートの名前を入力してください。目的に合った名前を付けます。たとえば、「内部取引」とします。
3. "新しいシートを作成" ラジオ ボタンをクリックし、ドロップダウンから "標準" を選択します。
4. "次へ" を選択します。

グループの作成および科目の追加

ベスト プラクティスとして、科目のグループ化を検討してください。借方科目を関連する貸方科目と一緒にグループ化したり、すべての借方科目とすべての貸方科目を一緒にグループ化することができます。

また、差分のシステム科目を追加する必要があります。

科目グループの作成

1. すでにシートが存在する場合は、"シート サマリ" から "科目グループ" をクリックします。
2. "シートの科目" タブの下にある "新しいグループ" ボタンをクリックします。
3. "グループ詳細" セクションで "見出し" フィールドにグループ名を入力します (借方または貸方など)。
4. (任意) ベスト プラクティスとして、"見出しを表示" チェックボックスをクリックします。これで、シートにグループの見出し名が表示されるようになりました。
5. "見出し" フィールドのすぐ下にある "保存" ボタンをクリックします。

科目の追加

- 親科目を追加すると、その子科目もすべて追加されます。
- 親科目を削除しない限り、子科目を削除することはできません。
- 同一の科目を複数のグループに追加することはできません。
- ベストプラクティス: 内部取引科目のみをシートに追加します。

科目を追加するには、次のようにします。

1. "シートの科目" タブで、グループをハイライトします。これは、科目を追加するグループです。
2. "科目を選択" セクションでは、"タイプ" フィルタまたは "検索" フィールドを使用して科目を検索します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 科目をハイライトし、"グループへ追加" ボタンをクリックします。貸方、借方、システム差額の科目を追加します。
4. すべての科目を追加したら、"次へ" をクリックします。

### 取引先属性の追加

1. すでにシートが存在する場合は、"シート サマリ" 画面から "属性" をクリックします。
2. "選択可能な属性" のリストから、取引先の属性を見つけます。
3. 属性をハイライトし、前方の矢印をクリックして "選択済の属性" リストに追加します。
4. 新しいシートを作成する場合は "次へ" を、編集する場合は "保存" をクリックします。

取引先の属性名は、インスタンスにより異なる場合があります。管理者が "一般設定" で名前を入力しました。取引先ラベルの変更を参照してください。

### 初期表示の設定

初期表示は、ユーザーがシートを開いたときの表示を設定します。シートの行の下を、組織または科目のいずれかにすることができます。ユーザーはこの 2 つを切り替えることができます。行の下を科目にすると、組織ごとのすべての科目データを簡単に確認することができます。行の下を組織にすると、ユーザーはデータを簡単に監査することができ、組織が間違った科目のデータを追跡していないことを確認することができます。

行の下に組織を表示するには、"組織別に表示モードで開始" をクリックします。"行の下に科目を表示する" オプションをオフにします。次に、新しいシートを作成する場合は "次へ" を、編集する場合は "保存" をクリックします。

### 組織の追加

モデルのすべての取引先と相殺消去組織のリストを用意します。ベスト プラクティス: 相殺消去組織を追加して、適切な組織でルールの消去が成功したことを確認できるようにします。

1. シートを編集する場合は、"シート サマリ" から "組織の使用可否" をクリックします。
2. ツリー内の矢印をクリックすると、組織リスト全体が展開されます。
3. 取引先と相殺消去組織の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. "保存" をクリックします。

### 次のステップ

シートに内部取引データを入力します。次を参照してください。

- 例: 特性を使用した内部取引消去の入力
- 例: 分割を使用した内部取引消去の入力

### 標準シートの編集

組織割当シートとユーザー割当シートは、ともに標準シートとして使用することができます。標準シートの作成を参照してください。

### 前提条件

セキュリティ: "モデル" 権限

### ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング" を選択します。"シート" メニューで、"ユーザー割当シート" または "組織割当シート" を選択して自分のモデル内にあるシートのリストを表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 編集の開始

1. 編集するシートの "編集" リンクを選択してシート サマリを開きます。
2. 編集する内容に応じて、リンクのいずれかを選択します。
3. セクションの編集後、ブレッドクラムを使用して、サマリ画面に戻り、別のセクションへのリンクを選択します。

### 科目グループ名の変更

1. "シート サマリ" 画面で "科目グループ" リンクを選択します。
2. 左側の "シートの科目" ボックスでグループを選択します。グループを見つけるには、科目を折り畳みます。表示されるリスト アイテムがグループです。
3. 右側の "グループ詳細" セクションで、"見出し" フィールドに別のグループ名を入力します。
4. 同じセクションで "保存" ボタンを選択します。
5. "完了" を選択します。

### 科目のシートへの追加

親科目を追加すると、すべての子孫科目が自動的に追加されます。子科目を持たない最下位組織の科目を追加することもできます。

1. "シート サマリ" 画面で "科目グループ" リンクを選択します。
2. 右側の "科目を選択" ボックスで追加する科目を選択します。科目を検索するには、"タイプ" フィルタまたは "検索" フィールドを使用します。
3. "グループへ追加" ボタンを選択します。
4. "完了" を選択します。

### シートからの科目の削除

親科目を削除すると、すべての子孫科目が削除されます。親の削除後に子孫を追加することができます。

1. "シート サマリ" 画面で "科目グループ" リンクを選択します。
2. 左側の "シートの科目" ボックスで親科目または科目グループを選択します。
3. "削除" ボタンを選択すると、選択した科目とすべての子孫科目がシートから削除されます。グループを削除する場合は、グループ内のすべての科目が削除されます
4. "完了" を選択します。

### シートのすべてのユーザーに対する科目のロックまたはロック解除

1. "シート サマリ" 画面で "科目グループ" リンクを選択します。
2. "シートの科目" ボックスで科目を検索して、選択します。
3. 右側の "科目詳細" セクションで "読み取り専用" チェックボックスをオンにします。
4. すでにオフに設定されているにもかかわらず、科目がシートでロックされている場合は、ブレッドクラムで "シート サマリ" リンクを選択します。
5. "サブ組織のカスタマイズ" リンクを選択し、このセクションの説明に従って、組織ごとに科目のロックを解除します。

### 組織ごとの科目のロックまたはロック解除

1. "シート サマリ" 画面で "サブ組織のカスタマイズ" を選択します。すでにサブ組織を選択している場合に限り、リンクが表示されます。
2. 左側の科目グループを展開します。
3. 科目を選択します。
4. 適切なチェックマークが表示されるまで、組織の横にあるチェックボックスをオンにします。
    - 空白: 該当組織では非表示の科目
    - 青色: ロック済で表示される科目
    - チェックマーク: 編集可の科目

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

5. チェックボックスがロックされていて選択できない場合、ブレッドクラムで "シート サマリ" を選択します。
6. "組織の使用可否" リンクを選択して、このセクションでの "組織の追加または削除" の指示に従います。
7. 組織をシートに追加して "サブ組織のカスタマイズ" に戻り、もう一度試してください。

シートでの組織の追加または削除

1. "シート サマリ" 画面で "組織の使用可否" を選択します。
2. 以下に従ってチェックボックスをオンにします。
    - チェックマーク: 組織をシートに割り当てるか、追加します。
    - 空白: シートから組織を削除します。

組織とすべての子孫を追加することもできます。

1. ブレッドクラムで "モデリング" を選択します。
2. "組織" を選択します。
3. 組織リストで親組織を選択します。
4. 設定の "シート" セクションで、シートの横にあるチェックボックスをオンにして保存します。

これで、このシートの組織およびすべての子孫組織への割当は完了です。

初期残高列の表示または非表示

1. "シート サマリ" 画面で "科目グループ" リンクを選択します。
2. 画面上部の "初期の残高を表示" チェックボックスをオンにします。

科目グループ小計の表示または非表示

1. "シート サマリ" 画面で "科目グループ" リンクを選択します。
2. 左側の "シートの科目" ボックスで科目グループを選択します。グループを見つけるには、科目を折り畳みます。表示されるリスト アイテムがグループです。
3. 右側の "グループ詳細" で "小計を表示" を選択します。

カスタム属性の追加または削除

1. "シート サマリ" 画面で "属性" リンクを選択します。
2. 選択可能な属性からカスタム属性を選択し、選択した属性に移動して追加します。
3. 選択した属性でカスタム属性を選択して、選択可能な属性に移動すると、属性は削除されます。属性を削除すると、その属性がタグ付けされたデータはすべて削除されます。

組織または科目の行でのデフォルト表示
これは、ユーザーが初めてシートを開く際にのみ使用される表示形式の設定です。ユーザーのデフォルト表示形式を作成するには、 標準シートの作成の 「初期表示の設定 」セクションを参照してください。

1. "シート サマリ" 画面で "初期表示" リンクを選択します。
2. 以下に従って設定します。
    - 組織を表示するには、"組織別に表示モードで開始" チェックボックスをオンにします。
    - 科目を表示するには、"組織別に表示モードで開始" チェックボックスをオフにします。

ユーザー割当シートへのユーザーの割当または削除

1. "ユーザー割当シート" リストで "アクセス可能ユーザー" 列の変更リンクを選択します。
2. 矢印を使用してユーザーを削除または追加します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ワークフローからのユーザー割当シートの除外

1. "ユーザー割当シート" を選択します。
2. シートの隣の "リンクの編集" を選択します。
3. "アクセシビリティ" リンクを選択します。
4. "選択可能なユーザー" ボックスの下にある "ワークフローから除外済" チェックボックスをオンにします。ワークフローに含める場合は、オフに設定します。

モデル シート
ステップ: モデル シートの作成

始める前に

- シートに追加する予定の属性値、特性値、組織を作成します。 次を参照してください。
  - カスタム属性値の作成 ( 973ページ ) .
  - 特性値の作成 ( 1005ページ ) .
  - ステップ: 組織の作成 ( 846ページ ) .
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - ″組織構造 " 権限

このタスクについて

モデル シートは、データを制御するレコードを保持します。標準シートとキューブ シートでは、期間ごとに科目にデータを入力します。モデル シートで、詳細を含む行を追加します。行の各列に選択および入力する詳細によって、モデル科目の計算が決まります。モデル シートでは、科目がバックグラウンドで計算されます。通常、値は行に表示されません。代わりに、行の詳細を調べて生成された値を確認できます。

モデル シートは、組織割当またはユーザー割当のいずれかで作成できます。モデル シートを作成または管理するときに、" シート サマリ" には 変更可能な以下の領域へのリンクが表示されます。

- モデル科目: モデル シート上の科目を管理します。 ユーザーは、期間科目と初期残高科目の値のみを入力します。これらの科目は、列として追加すると自動的に作成されます。それ以外の場合は、計算科目と前提条件科目を作成できます。前提条件科目はシートに表示されません。算出科目は、表示列として追加した場合にのみ表示されます。
- 列と組織: シートに表示される列、シートに割り当てられた組織、シートのプロパティを管理します。 列は、ユーザーが行に詳細を追加するためのインターフェイスを提供します。このように、データは科目の値を決定付けます。
- アクセシビリティ (ユーザー割当シートの場合のみ): シートを表示および編集できるユーザーを追加または削除します。
- スプレッド ルックアップ: 列にスプレッド ルックアップを追加した後に表示されます。スプレッド ルックアップは、1 つの科目から別の科目の期間にわたって値を配分するために作成した式を使用します。
- 値ルックアップ: 列に値ルックアップを追加した後に表示されます。値ルックアップは、1 つの科目の期間に定義した値をドライブします。自動入力される値は、ユーザーが列から選択したオプションに基づきます。
- 前提条件: 前提条件科目を作成した後に表示されます。このリンクからアクセスできるシートに前提条件科目の値を入力します。算出科目の数式は、正確な値を生成するために前提条件を参照します。

モデル シートを作成するには、次の方法があります。

- 従業員、資本、および販売のテンプレートを使用する。
- 既存のモデル シートのクローンを作成する。
- 空白のシートで開始します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- エクスポートした既存のモデル シートをアップロードします。参照 モデル シートのアップロード（1045ページ）。

新しいモデル シートの作成を開始する前に、シートで何を達成するかを検討します。モデル シートは、多くのプランニングを必要とする複雑なデータ モデルです。

手順

1. 新しいシートの開始（1018ページ）.
2. 次のいずれかをクリックします。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新しいシートで開始 | a. 最初のプロンプトから "モデル"を選択します。<br>b. 2 番目のプロンプトで、テンプレートを選択するか、"空白のモデル シート"を選択します。 |
| 既存のシートのクローン | ドロップダウンから既存のモデル シートを選択します。 クローンによって列、属性、ルックアップ、シート プロパティ、すべての科目 (名前とコードを含む) がコピーされます。重複を防ぐために、新しいシートの完全な科目コードに新しいシート コードが含まれます。 |
| シート コード | 入力したコードは、シートに追加するモデル科目コードのプレフィックスになります。このコードをアクセス ルールに使用すると、ルール内のすべてのモデル科目が含まれます。 |

3. "列と組織" をクリックします。
4. 歯車アイコンをクリックしてシート プロパティを変更します。

   ヒント: 列を追加する前にシートのプロパティを変更します。 シートのプロパティに基づいて、分割などの特定の列の詳細を使用することはできません。

   シートのプロパティには、計算、分割などの適用範囲が含まれます。参照 キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定（1023ページ）。

   参照 モデル シートのシート プロパティの変更（1045ページ）。
5. 中央のパネルに列を追加するには、"要素" タブのカテゴリを展開し、要素を中央のキャンバスにドラッグします。

   ヒント: 科目は列コードを参照する必要がある可能性があるため、科目を作成する前に列を追加します。列はシートに表示されています。

   キャンバスに要素を追加した後、列を必須にするか、ユーザーが分割を追加できるようにするか、ユーザーが列を非表示にできるようにするかなど、列のプロパティを設定できます。

   使用可能な列タイプは次のとおりです。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 組織 | 組織はシートに自動的に追加され、必須となっています。以下が可能です。<br>• 列の名前を変更します。<br>• "読み取り専用" を選択し、ユーザーの組織列をロックします。<br>• "分割" を選択すると、ユーザーが組織ごとに行を分割できるようになります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • モデル シートの使用可否設定の変更 ( 1064ページ ) . |
| データ入力列 | 以下が可能です。<br>• モデル シートへの期間と初期残高列の追加 ( 1062ページ ) .<br>• モデル シートへのテキスト列と日付列の追加 ( 1059ページ ) .<br>• モデル シートへのテキスト セレクターの追加 ( 1060ページ )<br>• モデル シートへのチェックボックス列の追加 ( 1053ページ ) .<br>• モデル シートへの数値列の追加 ( 1058ページ ) . |
| 属性 | 属性 を展開すると、カスタム属性のリストが表示されます。以下が可能です。<br>• モデル シートへのカスタム属性の追加 ( 1054ページ ) .<br>• モデル シートの使用可否設定の変更 ( 1064ページ ) . |
| 特性 | "特性" を展開すると、特性のリストが表示されます。参照 モデル シートへの特性列の追加 ( 1052ページ ) 。 |
| 表示列 | 以下を追加できます。<br>• 組織通貨: ユーザーが選択した組織の通貨を表示します。<br>• 算出科目の値を表示する科目科目を作成するまで、キャンバスに科目を追加することはできません。<br>参照 モデル シートへの表示列の追加 ( 1056ページ ) 。 |

列の詳細を変更するには、中央のパネルで列を選択します。 詳細が右のパネルに表示されます。

列の順序を並べ替えるには、中央パネルの別の場所にドラッグします。ツールバーの矢印を使用することもできます。

列を削除するには、中央パネルで列を選択し、ツールバーでごみ箱アイコンをクリックします。

6. (任意) モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加 ( 1070ページ ) 。
7. (任意) モデル シートへの値ルックアップの追加 ( 1072ページ ) 。
8. "保存" をクリックして、列、列の詳細、またはシートの設定に加えた変更を保存します。
9. ブレッドクラムでシート サマリ リンクをクリックします。
10. "モデル科目"をクリックします。
11. 手動またはインポートを介して科目を作成します。

次を参照してください。

- モデル シートの前提条件科目の作成 ( 1069ページ ) .
- モデル シートの算出科目の作成 ( 1066ページ ) .
- 算出科目のスプレッド ルックアップの参照 ( 1074ページ ) .

科目を追加した後、"列と組織" に戻り、科目の表示列を追加する必要がある場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

12. ブレッドクラムを使用してシート サマリ ページに戻ります。
13. ユーザー割当シートの場合のみ、以下のようになります。 キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て（1021ページ）。
    シートに割り当てたユーザーは、シートに追加したすべてのデータ、科目、組織、属性に完全にアクセスできます。アクセス ルールはユーザー割当シートには適用されません。
14. (任意) モデル シート データ検証ルールの設定（1074ページ）。
    検証ルールでは、列の要件を設定します。例: 列のセルに数値の代わりに記号が含まれている場合は、変更を保存できません。
15. シートのデフォルト ビューを設定します。
    保存したデフォルト ビューは、ユーザーが最初にシートを開いたときに表示されるビューです。ユーザーは、ビューを調整して個人のデフォルトを変更できます。 参照 モデル シート ビューの変更（87ページ）。
    セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限

タスクの結果

ユーザーは次の場所からシートを開くことができます。

- 組織割当シートの場合は"シート メニュー"
- ユーザー割当シートの場合は"前提条件" メニュー

ユーザーは行を追加して科目内のデータを制御できます。その後、これらの科目についてレポート、OfficeConnect、ダッシュボードでレポートを作成できます。

次のタスク
"シート" メニューから、ユーザーはシートのデータを入力および変更できます。

- モデル シートでの行の追加
- モデル シートへの分割の追加

インテグレーションから、ユーザーはデータをシートにインポートしてロードできます。

- ImportConfigurableModelData.
- Planning データ ローダの作成
- スプレッドシートを使用してデータをインポートします。スプレッドシートのインポートを参照してください。

シートの使用状況とパフォーマンスを定期的に監視する。次を参照してください。

- シート メトリックのチェック（725ページ）.
- 参考: モデル シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1050ページ）.

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成（1047ページ）
概念: モデル シートの行キー（1049ページ）
タスク
モデル シートのアップロード（1045ページ）
例: セールス プランニングに向けた CRM データのモデル シートの作成（1088ページ）
参考
参考: モデル シート サイズの制限（1052ページ）
例: 地域最適化の距離を計算（1085ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## モデル シートのアップロード

### 始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

以前にダウンロードしたシートは、その名前を変更することによって新しいシートとしてアップロードできます。

このプロセスは、サンドボックスまたは開発インスタンスからモデル シートをインポートするときに可能です。このプロセスにより、シートを手動で再作成する必要がなくなります。

### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "ユーザー割当シート" または "組織割当シート"をクリックします。
3. "シート" リストで、アップロードするモデル シートを見つけます。
4. モデル シート名の横にある "ダウンロード" リンクをクリックします。
5. .xml ファイルをコンピュータに保存します。
   ファイルにデータではなくシート定義が含まれます。
6. "モデリング" に戻り、"ユーザー割当シート" または "組織割当シート"をクリックします。
7. "新規モデル シートをアップロード"をクリックします。
8. ファイルを選択し、"アップロード"をクリックします。

### 次のタスク

シートに必要な変更を加えるには、次の方法を使用して行に更新をインポートします。

- スプレッドシートのインポート
- Planning データ ローダ
- importConfigurableModelData API.

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

## モデル シートのシート プロパティの変更

### 始める前に

- モデル シートを開始します。参照 ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

モデル シートのシート プロパティを設定して、次のようなものを制御できます。

- 列の分割を有効にする。
- 列の固定
- 時間層
- シートのパフォーマンスを改善するための計算の適用範囲

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を選択します。
2. モデル シートのシート ビルダーにアクセスするには、以下のいずれかを選択します。
   - 組織割当シート
   - ユーザー割当シート
3. モデル シートの横にある "編集" を選択します。
4. "列と組織"を選択します。
5. ツールバーの歯車アイコンをクリックします。
6. "詳細 " タブで、シートの "名前"、"シート コード"、"説明" を変更できます。
   " シート コード" は、シートに追加するすべてのモデル科目の科目プレフィックスです。
7. シート内の個人情報を保護する場合は、"セキュリティ" タブでチェックボックスをオンにします。″給与詳細にアクセス″ 権限を持つユーザーのみがシートを表示できます。
8. "設定 " タブを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 固定する列数を設定 | ユーザーが右にスクロールした場合に、ページに固定される左からの列数を指定します。 |
| 行キーに設定する列の選択 (詳細) | 各行のレコードとして表示するテキスト列を選択します。複数の列を選択できます。人事シート上で、このオプションを使って数式内の行レベルの給与詳細へのアクセス権を制限します。 |
| 分割を許可 | シートの列で "分割" オプションを使用できるようにする場合に選択します。分割を有効にするには、列のプロパティに移動します。 |
| 組織の合計の表示中に編集を許可 | ユーザーが合計組織の行を追加できるようにする場合に選択します。 |
| 実績バージョンで利用可能 | 実績バージョンでモデル シートを使用できるようにする場合に選択します。 |
| 要求に応じて再計算 | "手動再計算" 機能で利用可能です。要求があるまで、すべての計算を保持します。この設定は、計算に時間がかかる大きなモデル シートに対して有用です。手動再計算を参照してください。 |
| このモデル シートに関連付ける時間層を選択 | 期間において表示する期間を選択します。一般的なオプションには、月、四半期、年が含まれますが、これはカレンダーのセットアップによって異なります。<br>シートに期間列がある場合に使用できます。 参照 モデル シートへの期間と初期残高列の追加 ( 1062ページ )。<br>注 : シートの時間層を変更するには、既存のデータを削除する必要があります。 参照 シート内のすべてのデータを消去 ( 1021ページ )。 |

9. (任意) シート内の計算の範囲を制限するには、"適用範囲"をクリックします。
   参照 キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定 ( 1023ページ )。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの行キー（1049ページ）
タスク
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）

概念: モデル シートの作成

モデル シートはプラン担当者から取得した入力の結果を自動的にモデル化します。 モデル シートはレコードに基づいてデータをモデル化するのに最適です。モデル シートの最も一般的な使用方法は次のとおりです。

- キャピタル プランニング。各資産とその資産の関連情報を一覧表示できます。
- 要員計画。社員または職務を一覧表示できます。

モデル シートでの作業方法

モデル シートにはデータ列を伴うレコード行が含まれています。レコード用にデータを入力するか、列からデータを選択します。科目向けのデータは入力しません。代わりに、シートは科目設定で定義した数式に基づいて科目の値を計算します。モデル シートの科目の数式は以下を評価します。

- 列に入力するデータ。
- 列に追加するルックアップ。
- シート向けに作成する前提条件。
- 算出科目に追加する数式

モデル シート作成のオプション

モデル シートを作成するさまざまな方法から選択します。

- "資本"、"従業員"、または "販売" テンプレートを使用して、論理および計算が組み込まれたモデル シートを作成する。その後、シートを編集できます。
- モデル シートをアップロードする。 最初に既存のシートをダウンロードする必要があります。 参照 モデル シートのアップロード（1045ページ）。
- モデル シートのクローンを作成する。 クローンするモデル シートが必要です。
- 一から開始して自分のシートを作成する。

モデル シートの列タイプ

- データ入力列により、 ユーザーはシートを開いた時にデータをセルに入力できます。各データ入力列にはコードがあり、シートの数式ベースの科目でこのコードを参照できます。数式がその列を参照する場合、計算に影響を与えるスプレッドや値ルックアップを列に追加することもできます。データ入力列は、モデル シート外からは参照できません。
- "カスタム属性" 列および "特性 " 列を使用すると、既存のカスタム属性および特性をモデル シート上に配置できます。これは、ユーザーがシートをフィルタするために使用することも、入力データの一部として使用することもできます。カスタム属性には、データ計算に影響を与えるルックアップを含めることもできます。
- 表示列は、シートが計算する値を読み取り専用で表示します。
- 組織 はデフォルトの列です。組織列は必須であり、削除できませんが、シートで使用したい組織を選択し、設定を管理します。

モデル シートの科目タイプ

- "算出科目" は数式を使用し、列データとルックアップに基づく個々の値を計算します。
- "前提条件科目" は、データを制御するフロー科目です。管理者のみがシートのサマリ ページから前提条件科目にデータを入力できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- "初期の残高科目" は、 "初期の残高 " データ入力列を追加すると自動的に作成されます。 初期残高はストック科目のシードされます。
- "期間" は 、期間データ入力列をシートに追加すると自動的に作成されます。 期間を使用すると、ユーザーはモデルの期間のデータを入力できるようになります。例: 2023 年 1 月、2023 年 2 月など。

### モデル シートのルックアップ

テキスト セレクタ、またはドロップダウンおよび属性列であるデータ入力列にルックアップを追加します。ルックアップは、データ入力時にシートのドロップダウンから作成した選択に基づく論理を提供します。その後、それらの列を参照する算出科目向けの数式を作成できます。

ルックアップのタイプ:

- 値ルックアップは行からの選択を時間ベースの値に変換します。例: 給付の選択肢 (HMO や PPO など) を適切な割合に関連付けることができます。次に、パーセントと給与を乗算して給付額を計算できます。給付の選択肢とその割合は、値ルックアップ内にあります。
- スプレッド ルックアップは、別の科目の後続の期間にわたって値をひとつの科目に分散させます。行からの選択は時間の経過とともに広がる値 (スプレッド値) に変換されます。例: 資本支出科目に基づいて、減価償却方法を使用して減価償却費科目に値を広げます。

### モデル シートの管理

モデル シートの構造を変更または更新するには、"モデリング" 領域に移動します。シートの編集時に、そこから "シート サマリ" に移動できます。" シート サマリ" は、 最初にシートの作成を開始したとき、およびシートを編集したときに表示されます。サマリには以下のリンクが表示されます。

- モデル科目: 設定、数式、名前、コードを含む、前提条件科目および算出科目を作成、編集、削除します。
- 列と組織: シートに表示される列、シートに割り当てられた組織、列ごとのルックアップ、シート設定を管理します。
- データ検証ルール: シートのセルにユーザーが入力したデータの要件を設定します。
- アクセシビリティ (ユーザー割当シートの場合のみ): シートを表示および編集できるユーザーを追加または削除します。

以下の追加リンクは、すでにシートに存在する場合に表示されます。

- スプレッド ルックアップ: 属性列またはテキスト セレクター列にスプレッド ルックアップを追加した後に表示されます。このリンクを選択し、式とスプレッドを編集します。参照 モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加 ( 1070ページ ) 。
- 値ルックアップ: 属性列またはテキスト セレクター列に値ルックアップを追加した後に表示されます。このリンクを選択し、ルックアップ シートの値を入力または編集します。参照 モデル シートへの値ルックアップの追加 ( 1072ページ ) 。
- 前提条件: 前提条件科目を作成した後に表示されます。このリンクを選択すると、すべての前提条件科目を持つシートが開きます。期間ごとに前提条件科目の値を編集または入力します。以下の「前提条件科目データの入力」セクションを参照してください。

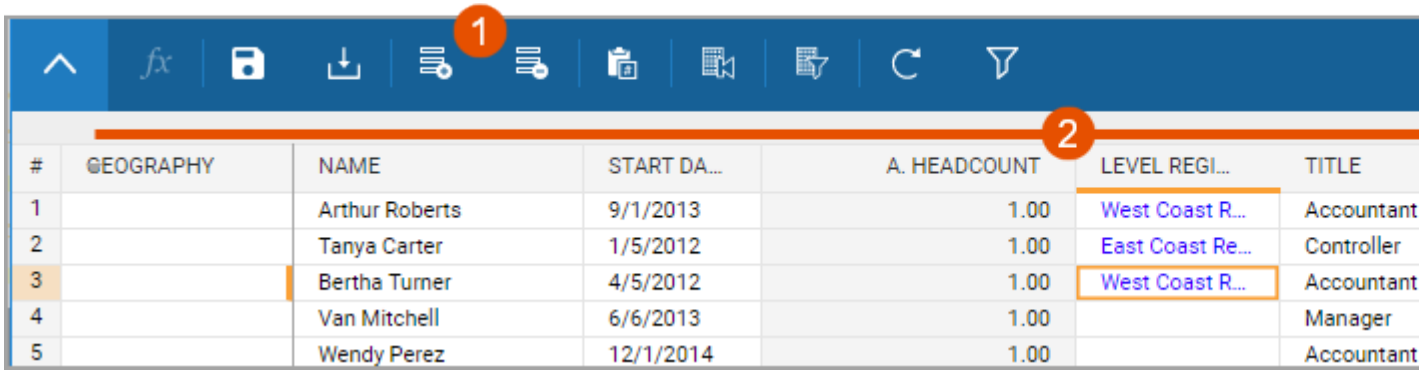
### ユーザビリティとパフォーマンスの管理

モデル シートは多くのレコードと列を保持することができますが、エンドユーザーには複雑に思われる可能性があります。 Adaptive Planning には、使いやすさとパフォーマンスの向上に役立つ複数のオプションが用意されています。 次を参照してください。

- シート メトリックのチェック ( 725ページ ) .
- 参考: モデル シートのパフォーマンスとユーザビリティ ( 1050ページ ) .

### シート領域におけるモデル シートの外観

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 分割の追加、削除、名前変更ボタンに加え、あるいはそれらの代わりとなる "行を追加" および "行を削除" ボタンが表示されます。 |
| 2 | ラベル付き列は画面の上部に存在し、レコードは行の下にリストされています。列のタイプによってデータの入力方法が決まります。フィールドに入力するか、ドロップダウンから選択できます。行ヘッダーはなく、列ヘッダーのみです。 |

新しい情報を既存の行に入力するか、新しい行を追加できます。管理者は、モデル シートで一度に表示できる最大行数を設定できます。シートが最大行数になっている場合、全体で何行を表示できるかを示すメッセージが表示されます。フィルタを使用して、異なるデータ セットを見つけます。

relatedlinks
タスク
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）
モデル シートのアップロード（1045ページ）
参考
参考: モデル シート サイズの制限（1052ページ）

概念: モデル シートの行キー

行キーのユース ケース

モデル シートの " シート プロパティ" で行キーとして列を指定できます。行キーは基本的に行のラベルまたは識別子です。 モデル シートでは、各行が同じシート上の各算出科目内の分割です。例:"社員名 " 列は従業員シートの行キーです。給与科目は、各従業員レコードによって分割されます。

行の主要な候補

意味のあるキーを得るために、行キーとして列を組み合わせる場合は十分に注意してください。 例: 従業員シートでは、行キーとして次のすべての列を使用します。

- 名
- 姓
- タイトル

行キーは特にシナリオに役立ちます。シナリオ内のモデル シートに変更を加え、その変更をダウンロードする場合、行キーによってシートのどこで変更が行われたかを識別できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

行キーの制限

- 行キーは テキスト 列でのみ使用できます。
- 行キーである列の分割は有効にできません。
- 行キーにする前に列の分割を無効にしてください。
- 複数の列を行キーにすることができます。

行キーとレポート

マトリクス レポートに行キーを正しく表示するには、次の手順に従います。

- モデル科目をレポートの最も内側の行に追加します。
- レポートに分割を表示します。
- デフォルトで科目を展開します。

relatedlinks
概念
概念: 個人シナリオ
タスク
モデル シートのシート プロパティの変更 ( 1045ページ )
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

参考: モデル シートのパフォーマンスとユーザビリティ

モデル シートには多くのレコードと列を保持できるため、エンド ユーザーには複雑に思われる可能性があります。 ユーザビリティとパフォーマンスを向上させるために利用可能な多くのオプションを使用できます。

パフォーマンスの修正

以下のテーブルを使用して、シートのパフォーマンスを最適化する方法を見つけてください。

| オプション | どのような効果があるか |
|---|---|
| プランニング センターでシート メトリックをレビューします。 | 保存数や表示回数などの使用状況、ロード時間などのパフォーマンスをチェックします。参照 シート メトリックのチェック ( 725ページ )。 |
| 計算の範囲を設定 | デフォルトでは、時間フィルタが用意されている場合でも、モデル シートはバージョンの最初から最後まですべての科目数式を計算します。バージョンに多くの期間が含まれている場合は、関連する期間に計算を制限することを検討してください。 参照 キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定 ( 1023ページ )。 |
| 最大行数をリセット | "管理" 領域の "一般設定" にある "モデル シートの最初のページ サイズ" で、モデル シートに表示される最大行数を制限します。参考: 一般設定を参照してください。 |
| 表示オプションにフィルタを初期表示として保存 | 1. シート 領域でシートを開きます。<br>2. "表示オプション"をクリックします。<br>3. 各タブに移動し、さまざまなフィルタでビューを最適化します。<br>4. "すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定" チェックボックスをオンにします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | どのような効果があるか |
| --- | --- |
| | 5. シートの同様にフィルタされたビューを保存するようユーザーに促します。<br>モデル シート ビューの変更を参照してください。 |
| 要求に応じて再計算 | デフォルトでは、モデル シートは、ユーザーがデータを入力しシートを保存するにつれて計算されます。ユーザーがボタンをクリックするまで計算を完全に一時停止することで、計算の多いシートの負担を軽減します。<br>参照 概念: オンデマンド シート設定の再計算（1025ページ）。 |
| シートを開く前に、"シートの概要" ページから子組織を選択するようユーザーに促します。 | シートにロードするレコードが少なくなります。 |

ユーザビリティの修正

以下のテーブルを使用して、以下の一般的な問題を解決します。

| 出庫 | 修正 |
| --- | --- |
| 列が非常に多いため、ユーザーは左右にスクロールする必要があります。 | • ユーザーが特定の列を非表示にできるようにします。このオプションは、中央のパネルから列をハイライトすると、右側のパネルで見つけられます。<br>• 列を固定: ユーザーがスクロールした場合でも、列が常に表示されるようにします。 この設定は "シートのプロパティ"の "設定" タブで確認します。<br>• 必要に応じて列幅を変更するようユーザーに促し、シート ビューの一部として保存できます。<br>参照 モデル シートのシート プロパティの変更（1045ページ）。 |
| ユーザーがセルに誤った種類のデータを入力した。 | ユーザーが正しい種類のデータを入力できるように、エラーや警告を提供する検証ルールを作成します。このオプションは "シート サマリ" リンクで確認できます。参照 モデル シート データ検証ルールの設定（1074ページ）。 |
| ユーザーがセルを空白のままにしていることがよくあります。 | 列のセルを必須にします。この要件により、必須列のセルが空白の場合、ユーザーはシートを保存できません。<br>このオプションは、中央のパネルから列をハイライトすると、右側のパネルで見つけられます。ユーザーが必須列を非表示にできるようにすることはできません。 |

relatedlinks
タスク
シート メトリックのチェック（725ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考: モデル シート サイズの制限

モデル シート行

モデル シートは最大 500,000 行をサポートします。シートが 500,000 行に達すると、それ以上行をインポートしたり、手動で行を追加したりすることができなくなります。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成（1047ページ）
タスク
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）

モデル シート列
モデル シートへの特性列の追加

始める前に

- 特性値の作成（1005ページ）.
- シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

組織およびカスタム属性特性を列としてモデル シートに追加できます。

特性 列により、セルのドロップダウン メニューが提供されます。ユーザーはドロップダウン オプションから特性の値を選択できます。 シートをフィルタリングするように特性を設定できます。ユーザーが特性値を選択すると、シートで特性にタグ付けされていない組織またはカスタム属性値がフィルタリングされます。このフィルタは逆の場合にも機能します。例。″製品属性″ 値をタグ付けする ″製品グループ″ という特性があります。トップス 特性でタグ付けされた セーター と Tシャツの 製品属性モデル シートでは、"製品グループ " 列から トップス を選択すると、 セーター と Tシャツ のみが "製品"に表示されます。同様に、"製品"から ″セーター″ を選択すると、"製品グループ" の デフォルト値は ″トップス″になります。

手順

1. "シート サマリ"で "列と組織"をクリックします。
2. "要素 " タブの "特性"をクリックします。
   特性は属性によって編成されます。例: "製品" という属性の特性を持つモデルには、"製品特性"が表示されます。
3. 属性の横に展開矢印が表示されている場合は、特性を展開します。
4. 特性をキャンバスにドラッグします。
   関連する属性がまだキャンバスにない場合、属性は自動的に追加されます。
5. 次を参考にして、"一般プロパティ"を完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 読み取り専用 | ユーザーが列内のセルに変更を加えないようにする場合に選択します (インポートを除く)。 |
| 分割 | " シートのプロパティ"で分割を有効にした場合にのみ表示されます。参照 モデル シートのシート プロパティの変更（1045ページ）。<br>ユーザーが行を分割して列に異なる値を入力できるようにします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 注： すでにデータが含まれているシートの列の分割を有効化する場合は注意してください。他の列によって分割された行の既存のデータが削除される場合があります。 |
| 属性のフィルタとして有効にする | 特性と関連する属性または組織間のフィルタ機能を有効にします。 |
| ユーザーが表示オプションで列を非表示にできるようにする | このオプションを有効にするには、顧客ケースを送信してください。<br>• 選択すると、ユーザーが自分のビューで列を非表示にできるようになります。<br>• オフにして、シートのユーザーが列を非表示にできないようにします。 |

タスクの結果

シート上で、特性は列であり、特性名がヘッダーにあります。ユーザーがセルをクリックすると、ドロップダウン メニューに値が表示されます。

relatedlinks
概念
概念: 特性（1009ページ）
概念: モデル シートの作成（1047ページ）
タスク
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）
特性の作成（1002ページ）

モデル シートへのチェックボックス列の追加

始める前に

- シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

チェックボックス 列は、モデル シートに表示されます。ユーザーは、このボックスをクリックして変更できます。チェックボックスをオンにすると時間を節約し、データ入力エラーを防ぐことができるためです。シートでは、入力やドロップダウン メニューからの選択が 1 つのクリックに置き換えられます。

ユーザーがチェックボックスをクリックまたはオフにすると、バックグラウンドでブール値が入力されます。ボックスを選択するかオンの位置に切り替えると値 1 が入力されます。チェックを外すかオフの位置に切り替えると値 0 が入力されます。その後、数式のチェックボックスを参照して、モデル シートでデータを制御できます。例: 従業員シートに、"福利厚生"という チェックボックス 列があります。ユーザーがこのチェックボックスをクリックすることにより、社員が福利厚生を有していることが示されます。"収益費用" 科目については、行のチェックボックスをオンにします。 社員に福利厚生がない場合は 0 を返し、福利厚生がある場合は値を計算します。

手順

1. "シート サマリ"で "列と組織"をクリックします。
2. "要素 " タブの " データ入力列"を展開します。
3. チェックボックス をキャンバスにドラッグします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "チェックボックス " 列をオンにします。
5. 次を参考にして、"一般プロパティ"を完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | チェックボックスの列名を入力します。名前は列ヘッダーとして表示されます。 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| コード | 列の一意のコードを入力します。数式でコードを参照してデータを制御できます。 |
| 切替スイッチを表示 | チェックボックスの代わりに切替スイッチを表示する場合に選択します。 |
| ユーザーが表示オプションで列を非表示にできるようにする | このオプションを有効にするには、顧客ケースを送信する必要があります。<br>• 選択すると、ユーザーがその列を非表示にできるようになります。<br>• オフにして、シートのユーザーが列を非表示にできないようにします。 |

タスクの結果

シートに列が表示され、ユーザーがクリックしてオン/オフできる切替スイッチまたはチェックボックスが表示されます。 Excel Interface for Planning では、トグルおよびチェックボックスは表示されません。オンの場合は 1、オフの場合は 0 を入力する必要があります。

次のタスク

ROW.CheckboxColumnCode を使用して、算出科目の "チェック ボックス" 列を参照します。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

モデル シートへのカスタム属性の追加

始める前に

- 新しいシートの開始 ( 1018ページ ) または シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) 。
- カスタム属性値の作成 ( 973ページ ) .
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

モデル内の任意のカスタム属性を列としてモデル シートに追加できます。モデル シートに列としてカスタム属性を追加すると、ユーザーはシート セルのドロップダウン メニューから属性値を選択できるようになります。カスタム属性値は、値とスプレッド ルックアップ、算出科目内の計算を実行したり、情報を提供したりすることができます。数式で参照することもできます。

手順

1. "シート サマリ" で "列と組織"をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "要素 " タブから "属性"を展開します。
   リストには、すべてのカスタム属性が表示されます。
3. カスタム属性をキャンバスにドラッグします。
4. 次を参考にして、右側のパネルのフィールドに入力します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 名前のデフォルトは、カスタム属性名です。別の名前を入力できます。名前はシートのヘッダー列として表示されます。 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| コード | 読み取り専用です。カスタム属性のコードは "モデリング">"属性"で変更できます。 |
| 読み取り専用 | シート ユーザーが (インポートを除く) データを変更できないように、列のデータをロックする場合に選択します。<br>"必須の列" チェックボックスをオンにする場合は、このチェックボックスをオフにします。 |
| シート上で属性を編集 | 選択すると、列のセルのドロップダウン リストに " 属性の編集 " オプションが追加されます。"シート上で属性を編集" の 権限を持つユーザーは、リストの新しい選択を作成したり、選択を変更したりできます。 スプレッドまたは値ルックアップも追加する場合、シート ユーザーがオプションを追加できるようにすると、スプレッドおよび値ルックアップが空白のままになります。 |
| 一致した場合再計算 | 以下の場合に使用できます。 要求に応じて再計算を有効化 ( 1022ページ ) 。<br>属性値が一致する他の行の自動再計算をトリガします。 |
| 分割 | " シートのプロパティ"で分割を有効にした場合にのみ表示されます。参照 モデル シートのシート プロパティの変更 ( 1045ページ ) 。<br>ユーザーが行を分割して列に異なる値を入力できるようにします。<br>注 : すでにデータが含まれているシートの列の分割を有効化する場合は注意してください。他の列によって分割された行の既存のデータが削除される場合があります。 |
| 必須の列 | ユーザーが行の属性値を選択しない限り保存できないようにする場合に選択します。列を空白のままでも、データはインポートできます。この設定を保存するには、"読み取り専用" チェック ボックスをオフにします。<br>Excel Interface for Planning を使用するインスタンスでは使用できません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザーが表示オプションで列を非表示にできるようにする | ユーザーは、" 表示オプション" で列の表示/非表示を切り替えられるようになります。<br>このチェックボックスをオンにするには、"必須の列" チェックボックスをオフにします。<br>このオプションを有効にするには、カスタマー サポート ケースを送信する必要があります。 |
| 属性のプロパティ | 参照 モデル シートの使用可否設定の変更（1064ページ）。 |

5. (任意) モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加（1070ページ）。
   オプションごとに式を追加します。式によって、ソース科目の値が同じシート内の算出科目に分配されます。
6. (任意) モデル シートへの値ルックアップの追加（1072ページ）。
   別の科目に入力される各オプションの値を追加します。
7. 変更内容を保存します。

タスクの結果

列がモデル シートに表示されます。ユーザーがセルをクリックすると、ドロップダウンの矢印が表示されます。矢印をクリックすると、選択できるカスタム属性値のリストが表示されます。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成（1047ページ）
概念: カスタム属性（988ページ）
タスク
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）
モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加（1070ページ）
算出科目のスプレッド ルックアップの参照（1074ページ）
モデル シートへの値ルックアップの追加（1072ページ）
カスタム属性の作成（970ページ）

モデル シートへの表示列の追加

始める前に

- モデル科目を表示列として追加するには、科目を作成します。参照 モデル シートの算出科目の作成（1066ページ）。
- シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

表示列はモデル シートのオプションです。表示オプションには、次の 2 つのオプションがあります。

- モデル シート内の算出科目の読み取り専用の値です。
- 組織通貨

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. "シート サマリ"で "列と組織"をクリックします。
2. "要素 " タブで "表示列"を展開します。
3. 科目または 組織通貨 をキャンバスにドラッグします。
   算出科目を作成していない場合、それらはリストに表示されません。
4. 次を参考にして、"一般プロパティ"を完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | シートのヘッダー行に表示する名前を入力します。 |
| コード | 文字、数字、下線を任意に組み合わせて使用します。科目の場合、列コードとモデル科目コードは一致しません。 |
| 読み取り専用 | ユーザーが列内のセルに変更を加えないようにする場合に選択します (インポートを除く)。 |
| 編集モードで表示 | ユーザーが組織通貨列を表示できるようにする場合に選択します。 |
| 下部に合計を表示 | シート ユーザーに表示される読み取り専用行を追加する場合に選択します。この行は列内のデータを合計します。<br>親行と子行の両方の分割がシートで表示されている場合、親行のみが合計されます。 |
| ユーザーが表示オプションで列を非表示にできるようにする | このオプションを有効にするには、顧客ケースを送信してください。<br>• 選択すると、ユーザーが自分のビューで列を非表示にできるようになります。<br>• オフにして、シートのユーザーが列を非表示にできないようにします。 |

5. "表示プロパティ" セクションは、算出科目のみ表示されます。次を参考にして、"表示プロパティ"を完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 参照期間 | 科目値を評価する期間の開始を選択します。<br>• 最初の実績でない期間: 実績バージョンにおける "次の時点までの 確定数字 を表示" 設定の後の最初の期間に日付を設定します。<br>• 計画の開始月: 計画バージョンの "計画の開始" 設定の日付を設定します。 |
| 合計範囲の開始 | 参照する月、四半期、または年を基準にどこで評価を開始するかを定義します。 |
| 合計範囲内の期間数 | "合計範囲の開始"として定義された月から開始して、合計する月数を定義します。 |
| 科目詳細 | シートを保存すると、科目詳細にリンクできます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

タスクの結果

表示列はモデル シート内の情報を提供する読み取り専用列です。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

モデル シートへの数値列の追加

始める前に

- シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) または 新しいシートの開始 ( 1018ページ )。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

数値 列を使用すると、ユーザーはモデル シートのセルにデータを入力することができます。ユーザーが数字や単語を入力できる "テキスト" 列とは異なり、"数値" 列はユーザーが数値データを入力するように制限されます。

手順

1. "シート サマリ"で "列と組織"をクリックします。
2. "要素 " タブの "データ入力列"を展開します。
3. "数値" を中央のパネルにドラッグします。
4. "数値" パネルを選択します。
5. 次を参考にして、"一般プロパティ"を完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | チェックボックスの列名を入力します。名前は列ヘッダーとして表示されます。 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| コード | 列の一意のコードを入力します。数式でコードを参照してデータを制御できます。 |
| 読み取り専用 | ユーザーが列内のセルに変更を加えないようにする場合に選択します (インポートを除く)。 |
| 下部に合計を表示 | シート ユーザーに表示される読み取り専用行を追加する場合に選択します。この行は列内のデータを合計します。<br>親行と子行の両方の分割がシートで表示されている場合、親行のみが合計されます。 |
| 分割 | " シートのプロパティ"で分割を有効にした場合にのみ表示されます。参照 モデル シートのシート プロパティの変更 ( 1045ページ )。<br>ユーザーが行を分割して列に異なる値を入力できるようにします。<br>注 : すでにデータが含まれているシートの列の分割を有効化する場合は注意してくだ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | さい。他の列によって分割された行の既存のデータが削除される場合があります。 |
| ユーザーが表示オプションで列を非表示にできるようにする | このオプションを有効にするには、顧客ケースを送信してください。<br>• 選択すると、ユーザーが自分のビューで列を非表示にできるようになります。<br>• オフにして、シートのユーザーが列を非表示にできないようにします。 |

6. 次を参考にして、"数値プロパティ" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 表示形式 | 以下のようにします。<br>• 通貨: 組織の通貨に換算します。モデルが別の組織で通貨を換算するときに選択します。選択しない場合、その科目の合計には、すべての子科目の合計ではなく、最初の子科目の合計が表示されます。<br>• 数値: 数値を表示します。<br>• パーセント: パーセントを表示します。 |
| 小数部桁数 | 数値データの小数点以下の桁数を示します。以下のようにします。<br>• プロンプトの 0 ~ 9 の任意の数値。<br>• 通貨の小数部桁数 は、通貨の設定に従います。 |

タスクの結果

列がモデル シートに表示されます。ユーザーは、このセルにのみ数値を入力できます。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

モデル シートへのテキスト列と日付列の追加

始める前に

- シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) または 新しいシートの開始 ( 1018ページ )。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

モデル シートのテキスト 列を使用すると、ユーザーは列のセルに任意のテキストを入力できます。例: 従業員シートで、"名" のテキスト列と "姓"の別のテキスト列を使用できます。

"日付 " 列により、ユーザーはカレンダー選択ツールから日付を選択できます。 例: 従業員シートで、従業員の雇用の開始日と終了日を追跡するとします。2 つの "日付 " 列を追加して、"開始" と "終了"というラベルを付けることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. "シート サマリ"で "列と組織"をクリックします。
2. "要素 " タブの "データ入力列"を展開します。
3. "日付" または "テキスト" の 要素を中央のキャンバスにドラッグします。
4. キャンバスから要素を選択し、"一般プロパティ"を完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | シートの列ヘッダーとして表示される名前を入力します。 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| コード | 一意のコードを入力します。 このコードは、算出科目の数式とスプレッドで参照します。 |
| 読み取り専用 | ユーザーが列内のセルに変更を加えないようにする場合に選択します (インポートを除く)。 |
| 分割 | " シートのプロパティ"で分割を有効にした場合にのみ表示されます。参照 モデル シートのシート プロパティの変更 ( 1045ページ ) 。<br>ユーザーが行を分割して列に異なる値を入力できるようにします。<br>注 : すでにデータが含まれているシートの列の分割を有効化する場合は注意してください。他の列によって分割された行の既存のデータが削除される場合があります。 |
| ユーザーが表示オプションで列を非表示にできるようにする | このオプションを有効にするには、顧客ケースを送信する必要があります。<br>• 選択すると、ユーザーがその列を非表示にできるようになります。<br>• オフにして、シートのユーザーが列を非表示にできないようにします。 |

タスクの結果

シートに新しい列が表示されます。テキスト列のセルに、ユーザーはあらゆる種類の情報を入力することができます。"日付" 列では、ユーザーがセルをクリックし、カレンダー ピッカーから日付を選択します。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

モデル シートへのテキスト セレクターの追加

始める前に

- 新しいシートの開始 ( 1018ページ ) または シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) 。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

テキスト セレクター はモデル シートの列タイプで、ユーザーはシート セルのドロップダウン メニューからオプションを選択できます。テキスト セレクターは、 値ルックアップとスプレッド ルックアップ、算出科目内の計算、または行内の単純な情報をドライブできます。"テキスト セレクター " 列を追加する場合は、オプションも追加する必要があります。追加したオプションはドロップダウン メニューに表示され、シート ユーザーが行を追加するときに選択できます。

例: "資本管理計画" シートには、"資産タイプ" という "テキスト セレクター " 列があります。以下のオプションを追加します。″電子機器″、″オフィス設備″、″不動産″などです。 後でスプレッド ルックアップを追加して、各資産の減価償却を経時的に追跡します。

手順

1. シート サマリで "列と組織"をクリックします。
2. "要素 " タブの "データ入力列"を展開します。
3. "テキスト セレクター" をキャンバスにドラッグします。
4. 次を参考にして、"一般プロパティ"を完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 列の名称を入力します。名前は、モデル シートの列のヘッダーとして表示されます。 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| コード | テキスト セレクターの一意のコードを入力します。このコードは数式で参照できます。 |
| 読み取り専用 | 選択すると、ユーザーがデータを変更できないようになります (インポートを除く)。 |
| シート上のテキスト セレクターを編集 | 選択すると、列のセルのドロップダウン リストに ″テキスト セレクターの編集″ オプションが追加されます。このオプションを使用すると 、″シート上で属性を編集″ の 権限を持つユーザーが、リストに対する新しい選択を作成したり、選択を変更したりできるようになります。 スプレッドまたは値ルックアップも追加する場合、シート ユーザーがオプションを追加できるようにすると、スプレッドおよび値ルックアップが空白のままになります。 |
| 一致した場合再計算 | 以下の場合に使用できます。 要求に応じて再計算を有効化 ( 1022ページ ) 。<br>テキスト セレクターのオプションが一致している他の行の自動再計算をトリガします。 |
| 分割 | " シートのプロパティ"で分割を有効にした場合にのみ表示されます。参照 モデル シートのシート プロパティの変更 ( 1045ページ ) 。<br>ユーザーが行を分割して列に異なる値を入力できるようにします。<br>注 : すでにデータが含まれているシートの列の分割を有効化する場合は注意してください。他の列によって分割された行の既存のデータが削除される場合があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| テキスト セレクター | このセクションで、ユーザーに選択させるオプションを入力し、"追加" をクリックします。使用可能にするすべてのオプションについて繰り返します。<br>オプションを追加すると、次のことが可能になります。<br>• 歯車アイコンをクリックして、オプション名を変更します。<br>• 矢印を使用してリストの順序を変更します。<br>• ごみ箱アイコンをクリックすると、オプションが削除されます。ユーザーがシートの行ですでに使用したオプションを削除することはできません。まず行を削除するか、編集してオプションを削除します。 |

5. (任意) モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加 ( 1070ページ ) 。
   オプションごとに式を追加します。式によって、ソース科目の値が同じシート内の算出科目に分配されます。
6. (任意) モデル シートへの値ルックアップの追加 ( 1072ページ ) 。
   別の科目に入力される各オプションの値を追加します。
7. 変更内容を保存します。

タスクの結果

シートに新しい列が表示されます。列のセルで、ユーザーはドロップダウンの矢印をクリックしてオプションを選択します。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )
モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加 ( 1070ページ )
モデル シートへの値ルックアップの追加 ( 1072ページ )
算出科目のスプレッド ルックアップの参照 ( 1074ページ )

モデル シートへの期間と初期残高列の追加

始める前に

- シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) または 新しいシートの開始 ( 1018ページ ) 。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

モデル シートの期間 列は、期間を列として表示します。 また、チームがセルにデータを入力することもできます。"期間" 列を追加すると、モデル シートの科目階層に期間科目が自動的に作成されます。例: 資産計画シートで、 期間 列に 「購買価格」という名前を付けます。その後、ユーザーは月ごとにさまざまな資産のコストを列に入力します。 その後、期間科目を参照して、資産の評価額を "資産の減価償却" 科目に配分するスプレッド ルックアップを実行できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

"初期残高 " 列は、モデル シートのデータ入力列として表示されます。例: 従業員シートで、"初期残高" 列に 「支給レート」という名前を付けます。ユーザーは、各社員の支給レートを入力して人件費を計画できます。

手順

1. シート サマリで "列と組織"をクリックします。
2. "要素 " タブの "データ入力列"を展開します。
3. "期間" または "初期の残高" を中央のパネルにドラッグします。
4. 中央のパネルから "期間" または "初期の残高" の 要素を選択します。
5. 次を参考にして、"一般プロパティ"を完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 列の名称を入力します。シートの列ヘッダーとして表示されます。 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| コード | 一意のコードを入力します。このコードは数式で参照できます。 |
| 読み取り専用 | ユーザーがデータを変更できないように、列内のセルをロックする場合に選択します。 |
| 下部に合計を表示 | シート ユーザーに表示される読み取り専用行を追加する場合に選択します。この行は列内のデータを合計します。<br>親行と子行の両方の分割がシートで表示されている場合、親行のみが合計されます。 |
| 分割 | " シートのプロパティ"で分割を有効にした場合にのみ表示されます。参照 モデル シートのシート プロパティの変更 ( 1045ページ ) 。<br>ユーザーが行を分割し、これらの列に異なる値を入力できるようにします。<br>注 : すでにデータが含まれているシートの列の分割を有効化する場合は注意してください。他の列によって分割された行の既存のデータが削除される場合があります。 |
| ユーザーが表示オプションで列を非表示にできるようにする | このオプションを有効にするには、顧客ケースを送信する必要があります。 初期残高 のみ。<br>• 選択すると、ユーザーがその列を非表示にできるようになります。<br>• オフにして、シートのユーザーが列を非表示にできないようにします。 |
| 科目詳細 | 保存後に使用できます。モデル シートの科目階層内の科目詳細にリンクできます。 |

タスクの結果

"期間" および "初期の残高 " 列を追加すると、対応するデータ入力科目が自動的に作成されます。

モデル シートに列が表示されます。ユーザーは、このセルに数値データを入力できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )
モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加 ( 1070ページ )
算出科目のスプレッド ルックアップの参照 ( 1074ページ )

モデル シートの使用可否設定の変更

始める前に

- 組織の場合、組織を作成します。参照 ステップ: 組織の作成 ( 846ページ )
- カスタム属性の場合:
  - カスタム属性値の作成 ( 973ページ ) .
  - 属性を列としてシートに追加します。 参照 モデル シートへのカスタム属性の追加 ( 1054ページ )。
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "構造インポート" 権限

このタスクについて

使用可否設定により、モデル シートに組織と属性値が追加されます。組織または属性値を削除するには、該当する組織や属性値をシートで使用不可にします。モデル シートの組織の使用可否は、手動またはインポートを介して変更できます。

使用可否設定の変更は、モデルの構造的な変更に該当します。構造の変更は、バージョン間でモデルに影響します。その結果、これらの変更によってロック済バージョンおよびアーカイブ済バージョンのデータが削除されるか、良くても非表示になる可能性があります。

モデル シートにおける組織の使用可否の変更

- ロック済およびアーカイブ済みのバージョンを含め、すべてのバージョンに影響します。
- シートから組織を削除します。
- 関連データを保存します。データに関するレポートは引き続き作成できます。
- 逆仕訳可能である。組織をシートに追加して戻すと、データが再び表示されます。

使用中の属性値をすべての行およびすべてのバージョン (アーカイブ済バージョンを含む) から削除するまでは、モデル シートからこの値を削除することはできません。最も簡単な方法は、関連付けられたデータをどのように処理するかを指定できる "インポート" オプションを使用して、使用可否設定を変更することです。アクションを元に戻すことはできません。使用中の属性値を削除すると次のようになります。

- インポート経由でのみ使用可否の変更ができます。
- データをどのように処理するかを指定する必要があります。 この変更は、ロック済およびアーカイブ済みのバージョンを含め、すべてのバージョンに影響します。
- データの削除を選択すると、ロック済バージョンとアーカイブ済バージョンを含むすべてのバージョンのデータが削除されます。
- アクションを元に戻してもデータは取得できません。属性値をシートに追加し直してもデータは再表示されません。

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) .
   新しいシートを作成する場合は、ブレッドクラムを使用して "シート サマリ" を選択します。
2. "列と組織" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. キャンバスの "タイプ" 列で、"属性" または "組織" の行を選択します。
4. "プロパティ" セクションで、組織または属性値の追加と削除を行います。このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| エクスポート | 現在の使用可否設定をスプレッドシートにエクスポートします。一括して変更します。次に、"インポート" リンクを使用して変更をインポートします。<br><br>インポートの誤りを避けるために、スプレッドシートで変更しない行を削除することをお勧めします。<br><br>カスタム属性の場合、インポートを使用して、シート上のデータにすでに関連付けられている属性値を削除できます。インポートで使用可否設定を ″はい″ から ″いいえ″ に変更するときに、関連データをどのように処理するかを指定する必要があります。"データが存在している場合のアクション " 列に以下を入力します。<br><br>• 削除: ロック済バージョンを含め、すべてのバージョンからデータが削除されます。 このアクションを元に戻すことはできません。<br>• 次の使用可能な先祖に移動: ロック済バージョンを含め、すべてのバージョンの合計属性にデータを追加します。<br>• ″なし″ に設定: ロック済バージョンを含め、すべてのバージョンの未分類の属性値にデータを追加します。<br>• 混乱を避けるために、インポートで変更していない行を削除することをお勧めします。<br><br>重要: 以下の場合は、すべての行で "データが存在している場合のアクション " 列を空白のままにします。<br><br>• 空き状況を変更していない。 混乱を避けるために、インポートで変更していない行を削除することをお勧めします。<br>• 使用可否設定を ″いいえ″ から ″はい″に変更した。 |
| インポート | 空白のスプレッドシート テンプレートをダウンロードします。テンプレートで使用可否設定を変更します。スプレッドシートをインポートします。<br><br>カスタム属性の場合、エクスポートと同じオプションを使って関連データをどのように処理するかを指定できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| チェックボックス付きの組織または属性値の構造 | シートでの組織または属性値の使用可否を示します。各チェックボックスをクリックして、組織または値をシートに追加したり、シートから削除したりします。<br><br>チェックボックスを使用して属性値を手動で削除するには、まず "シート" 領域のシート ビューから関連データを削除する必要があります。 |

タスクの結果

- 追加した組織と値がシートに表示されます。
- 削除した組織と値はシートに表示されなくなります。
- 削除した組織に関連付けられたデータは、シートには表示されなくなりますが、引き続き数式やレポートでデータを参照することはできます。
- 削除した属性に関連付けられたデータは、他の属性値に移動されるか、削除されます。

次のタスク

次の操作ができます。

- シートの他の列、またはシートの設定を管理します。
- ブレッドクラムを使用してシート サマリ に戻ります。"シート サマリ" でリンクを使用して、シートにその他の変更を加えることができます。
- ナビゲーション メニューから "シート" に移動して、シート データを表示します。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成（1047ページ）
タスク
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）
モデル シートへのカスタム属性の追加（1054ページ）

モデル科目
モデル シートの算出科目の作成

始める前に

- シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
- モデル シート列を作成します。参照 ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

通常は、モデル科目構造をインポートすることができます。モデル シートの算出科目は、行に基づいてデータを計算および保存します。科目を表示列としてシートに追加しない限り、シートに計算は表示されません。代わりに、行の詳細、またはレポートやダッシュボードを調べると、計算が表示されます。

手順

1. "シート サマリ"で "モデル科目"をクリックします。
2. ツールバーで "新規算出科目を作成" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "アカウント詳細" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | 一意のコードを入力します。シート コードにコードが追加されます。 |
| 名前 | 一意の名前を入力します。 参考: 命名規則のベスト プラクティスを 参照してください。 |
| タイプ | 以下のようにします。<br>• フロー: 月ごとに入力した金額は、その月のアクティビティを表します。<br>• ストック: 月ごとに入力した額は、その月の終わりの時点での科目残高を表します。<br>• スプレッド: 選択されたソース科目の金額を算出科目内の複数の期間にわたって配分します。"スプレッド"を選択すると、さらにフィールドが表示されます。参照 算出科目のスプレッド ルックアップの参照 ( 1074ページ )。 |

4. (任意)"科目特性" セクションで、科目に関連付ける特性の値を選択します。
5. "データ タイプ" セクションに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 科目の時間層 | フィールドはロックされます。設定を変更するには、次を参照してください。 モデル シートのシート プロパティの変更 ( 1045ページ )。 |
| 表示形式 | 以下のようにします。<br>• 通貨: 組織の通貨に換算します。モデルが別の組織で通貨を換算するときに選択します。<br>• 数値: 数値を表示します。<br>• パーセント: パーセントを表示します。 |
| 数式バージョン セレクター | 数式 を追加して科目を保存するまでロックされています。保存した後、ドロップダウンからバージョンを選択し、特定のバージョンにオーバーライド数式を追加できます。参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更 ( 869ページ )。 |
| オーバーライド数式設定 | 数式 を追加して科目を保存するまでロックされています。保存した後、以下を選択できます。<br>• なし: デフォルトの数式を使用します。<br>• オーバーライド数式: 選択したバージョンに別の数式を追加します。<br>参照 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更 ( 869ページ )。 |
| バージョン固有の数式設定を無効化 | バージョンごとにオーバーライドを追加できるように、チェックボックスはオフにして |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | おいてください。このオプションを選択すると、ロックしたバージョンの計算データも自動的に保護されます。<br>チェックボックスをオンにして、以下を行います。<br>• ロック済バージョンを含むすべてのライブ バージョンの既存の数式オーバーライドをデフォルトの数式に戻します。<br>• "数式バージョン セレクター" および "オーバーライド数式設定"をロックします。<br>• "数式" フィールドを変更するたびに、ロック済バージョンの計算データを変更します。<br>バージョンをアーカイブしても、このオプションに関係なく、計算値は保存されます。 |
| 数式 | 数式を入力します。フォーミュラ アシスタントの リンクを使用してサポートを受けることができます。ROW または数式の列コードを参照することもできます。 |
| 小数部桁数 | 小数点以下を表示する桁数を指定します。<br>• 0 ~ 9 の任意の数値を入力します。<br>• 通貨の設定に従い、"通貨の小数部桁数" を選択します。このリンクを使用して、すべての通貨の小数部桁数を確認できます。 |

6. "データ プライバシー" オプションを選択します。
   参照 概念: 科目のデータ プライバシー設定（897ページ）。
   "給与の詳細を含む"を変更するには、シートのプロパティを変更します。参照 モデル シートのシート プロパティの変更（1045ページ）。

次のタスク

(任意) モデル シートへの表示列の追加（1056ページ）。

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成（1047ページ）
タスク
ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）
モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加（1070ページ）
モデル シートへの値ルックアップの追加（1072ページ）
モデル シートへのチェックボックス列の追加（1053ページ）
算出科目のスプレッド ルックアップの参照（1074ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# モデル シートの前提条件科目の作成

## 始める前に

- シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
- モデル シート列を作成します。参照 ステップ: モデル シートの作成（1041ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

## このタスクについて

モデル シートの前提条件科目は、算出科目のデータを制御します。前提条件を使用すると、算出科目が参照できる期間の特定のデータを入力できます。前提条件を作成した後、シート サマリ ページから特別なシートにデータを追加する必要があります。

## 手順

1. "シート サマリ"で "モデル科目"をクリックします。
2. ツールバーで "新規前提条件科目を作成" をクリックします。
3. "アカウント詳細" セクションを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | 一意のコードを入力します。シート コードにコードが追加されます。 |
| 名前 | 一意の名前を入力します。 |

4. (任意)"科目特性" セクションで、科目に関連付ける特性の値を選択します。
5. "データ タイプ" セクションに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 科目の時間層 | フィールドはロックされます。設定を変更するには、次を参照してください。 モデル シートのシート プロパティの変更（1045ページ）。 |
| 表示形式 | 以下のようにします。<br>• 数値: 数値を表示します。<br>• パーセント: パーセントを表示します。 |
| 小数部桁数 | 小数点以下を表示する桁数を指定します。<br>• 0 ~ 9 の任意の数値を入力します。<br>• 通貨の設定に従い、"通貨の小数部桁数" を選択します。このリンクを使用して、すべての通貨の小数部桁数を確認できます。 |

6. 保存:
7. ブレッドクラムを使用して "シート サマリ" ページに戻ります。
8. "前提条件"をクリックします。
   モデル シート上のすべての前提条件科目が行に表示されます。
9. 期間内の前提条件のデータを入力し、シートを保存します。

## 次のタスク

これで、前提条件を参照してモデル シート内の計算を実行できるようになりました。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: モデル シートの作成 ( 1047ページ )
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

モデル シート内のルックアップ
モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加

始める前に

- カスタム属性値の作成 ( 973ページ ) 。 (スプレッド ルックアップにカスタム属性を使用している場合)
- モデル シートへのテキスト セレクターの追加 ( 1060ページ ) .(スプレッド ルックアップにテキスト セレクターを使用している場合)
- 新しいシートの開始 ( 1018ページ ) または シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) 。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

スプレッド ルックアップは、オプションのモデル シート関数です。 スプレッド ルックアップを使用し、ある科目の合計値を別の科目の時間軸でどのように配分するかを示す式を作成します。"属性 " 列または "テキスト セレクター " 列にスプレッド ルックアップを追加できます。スプレッド式は常に 1 である必要があります。

例: この式で 1:10=1/10 を使用し、値を 10 か月にわたって均等にスプレッドすることができます。式が 1 であることを確認するには、次のようにします。

1/10*10

10/10

1

より複雑な式を作成することもできます。例: スプレッドが 20 か月で、式は「1:10=1/40,11:20=3/40」です。値の 1/4 は最初の 10 か月に均等に配分され、値の 3/4 は最後の 10 か月に均等に配分されます。 式が 1 であることを確認するには、次のようにします。

(1/40*10) + (3/40*10).

10/40+ 30/40

40/40=1

スプレッド ルックアップには以下が必要です。

- モデル シート
- 属性 または テキスト セレクター 列: スプレッド ルックアップを列に追加します。シート ビューから、ユーザーはスプレッド式をトリガするオプションの 1 つを選択します。 例: 属性 "資産クラス" には、"電子機器"、"設備"、"不動産"の 3 つの値があります。
- スプレッド式: 属性値またはテキスト セレクター オプションごとに式を作成します。ユーザーがモデル シートから値を選択すると、モデルは使用する式を認識します。 例: 電子機器は 10 か月にわたって購入価格の 1/10 で減価償却されます。式は 1:10=1/10 です。
- ソース科目: ソース科目の値は、スプレッド ルックアップによって時間の経過とともに分配されたものです。 例:"期間" 列に 「購買価格」という名前を付けます。それにより、ユーザーは月ごとのさまざまな資産のコストを入力します。
- 算出科目: 算出科目は数式フィールドのスプレッド ルックアップを参照します。算出科目は、ソース科目の配布された値を保持します。例: 算出科目に 「減価償却」という名前を付けます。購買価格 の値は、一定の期間にわたって 減価償却 科目に配分されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

スプレッド ルックアップのユース ケースには以下のようなものがあります。

- 資本減価償却: さまざまな資産は減価償却式に関連付けられた属性値です。ユーザーは期間に購買価格を入力し、減価償却科目はスプレッド ルックアップの減価償却式に従ってスプレッドを計算します。
- 売上の収益認識: 異なる売上は行のテキスト セレクターであり、収益認識の式に関連付けられています。ユーザーは売上高を入力し、収益科目は認識式に従ってスプレッドを計算します。
- 営業請求: さまざまな請求書タイプはテキスト セレクターであり、請求式に関連付けられます。ユーザーは期間に売上高を入力し、売掛金は請求書の式に従ってスプレッドを計算します。

手順

1. "シート サマリ"で "列と組織"をクリックします。
2. キャンバスで、カスタム属性またはテキスト セレクターをハイライト表示します。
3. "スプレッド ルックアップ " セクションで、"新しいスプレッド ルックアップを追加"をクリックします。
4. ルックアップの名前を入力します。
   この名前は、配布された値を保持する算出科目内で参照するものです。
5. シートを保存します。
   スプレッド ルックアップに式を追加する前にシートを保存する必要があります。
6. スプレッド ルックアップがあるテキスト セレクター列またはカスタム属性列をハイライト表示します。
7. "スプレッド ルックアップ" セクションで、スプレッド ルックアップ名の横にある 編集 アイコンをクリックし、属性値またはテキスト セレクターのオプションのリストを表示します。
8. 各値について、以下を追加します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| スプレッド | 値を分散する期間数を入力します。 例: 最小期間が "月" のカレンダーの場合、「6」と入力できます。これは、値を 6 か月にわたって分散することを意味します。 |
| スプレッド式 | 合計が 1 になるように数式を入力します。<br>• コロンを使用して開始期間と終了期間を定義します。例: 2:6 は、スプレッド値がデータ入力期間の 1 つ後の期間に開始し、6 番目の期間に終了することを意味します。1 月に入力されたデータの場合、スプレッドによって 2 月から 6 月に分配されます。<br>• 開始期間と終了期間の後に等号を入力します。例: 2:6=<br>• 分数または小数を使用して配分を定義し、必ず 1 になるようにします。例: 2:6=1/5。最初の月はスキップするため、値を 5 か月に分散する必要があります。<br>• 別の式を追加するには、ロケールに応じてカンマまたはセミコロンで式を区切ります。米国の場合はカンマを使用します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

同じモデル シートのいずれかの算出科目で " タイプ" に "スプレッド" を選択すると、スプレッド ルックアップの名前がドロップダウン メニューで表示されません。このオプションを選択すると、スプレッド ルックアップ式に従ってソース科目の値を計算する必要があることを示すことができます。

例

| スプレッド (月数) | スプレッド式 | 説明 |
|---|---|---|
| 12 | 3=1/4,6=1/4,9=1/4,12=1/4 | 値を 4 か月 (3 月、6 月、9 月、12 月) に均等にスプレッドします。 |
| 12 | 1=1/6,3=1/6,5=1/6,7=1/6,9=1/6,11=1/6 | 次の 12 か月間の値を 1 か月ごとに均等にスプレッドします。 |

次のタスク
算出科目のスプレッド ルックアップの参照 ( 1074ページ ) .

スプレッド ルックアップを編集するには:

1. "シート サマリ" 画面で "スプレッド ルックアップ" をクリックします。
2. 編集するスプレッド ルックアップをクリックします。
3. 値のリストから、変更する値をハイライト表示します。
4. 左側のパネルから、式を編集して保存します。

モデル シートへの値ルックアップの追加

始める前に

- カスタム属性値の作成 ( 973ページ ) 。 (値ルックアップにカスタム属性を使用している場合)
- モデル シートへのテキスト セレクターの追加 ( 1060ページ ) .(値ルックアップにテキスト セレクターを使用している場合)
- 新しいシートの開始 ( 1018ページ ) または シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) 。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

値ルックアップは、オプションのモデル シート関数です。ユーザーがシートで選択したオプションに値を割り当てます。値が計算され、同じシート上の別の科目に入力されます。"属性 " 列または "テキスト セレクター " 列に値ルックアップを追加できます。属性の場合、オプションは使用可能な属性値です。テキスト セレクターで使用できるオプションを作成します。

例: 従業員モデル シートで、各従業員の福利厚生を追跡します。"Medical Benefit" というテキスト セレクターがあり、オプションは *"Family"*、*"Single"*、*"None"*です。その年の各オプションに値を割り当てます (*"*単発*"*では *"200"*、*"*家族*"*では *"600"*、*"*なし*"*では *"0"*)。次に 、"医療費負担額"という算出科目を作成します。数式は値ルックアップを参照します。ユーザーが "医療補償" オプションのいずれかを選択すると、"医療補償費" 科目で年間を通して負担分が自動的に計算されるようになりました。

値ルックアップを使用するメリットは、時間の経過とともに値を調整できることです。例: 年度の途中で福利厚生負担分が増加した場合。値ルックアップの値を変更して計算の正確性を維持できます。

値ルックアップには以下が必要です。

- モデル シート
- 属性 または テキスト セレクター 列: 値ルックアップを列に追加します。属性値は、属性で使用できるオプションです。"テキスト セレクター"では、オプションを作成する必要があります。 シート ビューから、ユーザーはオプションの 1 つを選択して値ルックアップをトリガします。 例: テキ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

スト セレクターの "Medical Benefit"には、*"Single"*、*"Family"*、*"None"*の 3 つのオプションがあります。
- 値ルックアップ シートのセルに入力された値。シート ビルダーの属性またはテキスト セレクター列の設定で値ルックアップを編集すると、値ルックアップ シートに移動します。
- 算出科目: 算出科目はモデル シート内の行の値ルックアップを保持します。

手順

1. "シート サマリ"で "列と組織"をクリックします。
2. キャンバスで、カスタム属性またはテキスト セレクターをハイライト表示します。
3. "値ルックアップ" セクションで、"新しい値ルックアップを追加"をクリックします。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 値ルックアップの名前を入力します。算出科目の数式で値ルックアップ名を参照します。 |
| 表示形式 | "数値" または "パーセント" を選択して、値ルックアップ シートに値を入力する方法を示します。 |
| 小数部桁数 | 値ルックアップ シートに入力できる小数点以下の桁数を選択します。 |

5. シートを保存します。
   値ルックアップ シートを開く前に、シートを保存する必要があります。
6. 値ルックアップがあるテキスト セレクター列またはカスタム属性列をハイライト表示します。
7. "値ルックアップ " セクションで、値ルックアップ名の横にある 編集 アイコンをクリックします。を選択して、属性値またはテキスト セレクターのオプションのリストを表示します。
   このアクションにより、値ルックアップ シートが開きます。各属性値またはテキスト セレクターのオプションが行に表示されます。列には期間が表示されます。
8. セルの各行に値を入力します。
   時間の経過とともに一貫した値を維持するためのベスト プラクティスとして、最初の列に値を入力し、右クリックして "前方向へコピー"を選択します。
9. シート ツールバーで、"保存"をクリックします。
10. 値を保持するために算出科目を作成または編集する場合:
    "数式"については、"ROW" を使用して値ルックアップ テーブルの名前を参照します。例:*ROW.BenefitLookup*。 この数式は、*"BenefitLookup"*という値ルックアップがある列の同じ行で、選択されたオプションを確認します。各期間のルックアップ テーブルで割り当てられた値に基づいて値を計算します。

タスクの結果

算出科目には、各行で選択したオプションに基づいて、値ルックアップ テーブルで割り当てた値が入力されます。 モデル シートでの計算はバックグラウンドで発生します。科目内でこれらの値を表示するには、科目を表示列としてモデル シートに追加するか、シート ビューで行を右クリックして "行の詳細"を選択します。また、科目を使ってグラフやレポートを作成することもできます。

次のタスク

値ルックアップを編集するには:

1. "シート サマリ" 画面で "値ルックアップ" をクリックします。
2. 値ルックアップをクリックしてシートを開きます。
3. シートの値を変更して保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

算出科目のスプレッド ルックアップの参照

始める前に

- 新しいシートの開始（1018ページ）または シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）。
- モデル シートへのスプレッド ルックアップの追加（1070ページ）.
- 同じモデル シートでソース科目を作成する。ソース科目は算出科目または "期間" です。 参照 モデル シートの算出科目の作成（1066ページ）または モデル シートへの期間と初期残高列の追加（1062ページ）。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

モデル シートのスプレッド ルックアップを機能させるには、モデル シートで算出科目を作成する必要があります。算出科目は、ソース科目からの配分値を保持します。

例: スプレッド ルックアップは、資産の価値を一定期間で配分し、減価償却を追跡します。"購買価格" はソース科目で、エンド ユーザーが各資産の購買価格を入力します。 "資産タイプ" はカスタム属性列です。エンド ユーザーは、スプレッド ルックアップをトリガする属性値を選択します。各資産タイプには、減価償却の式があります。 "資産の減価償却" は、減価償却のスプレッドを行う算出科目です。

手順

1. "シート サマリ" で "モデル科目" をクリックします。
2. ツールバーで "新規算出科目を作成" をクリックするか、科目のリストで既存の算出科目をハイライト表示します。
3. フィールドに入力する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| タイプ | ″スプレッド″を選択します。 |
| ソース科目 | スプレッドする値を持つ科目を選択します。 |
| 次を使用したスプレッド | カスタム属性またはテキスト セレクターに追加したスプレッド ルックアップの名前を選択します。 |

スプレッド ルックアップ自体が計算であるため、数式を作成する必要はありません。

タスクの結果

科目は、時間に対するソース科目値の配分を計算し、それらの配分値を適切な期間に保持します。 モデル シートでの計算はバックグラウンドで発生します。科目でこれらの値を表示するには、以下のいずれかを行います。

- 科目を表示列としてモデル シートに追加します。 参照 モデル シートへの表示列の追加（1056ページ）。
- シート ビューで行を右クリックし、″行の詳細″を選択します。

また、科目を使ってグラフやレポートを作成することもできます。

モデル シートの検証ルール
モデル シート データ検証ルールの設定

始める前に

- "管理"の "外観のユーザー設定 " ページで "シート内のデータ検証 " チェックボックスをオンにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 検証ルールで使用する列について、"モデル管理" の列コードからスペースを削除します。
- Planning Configuration Manager アプリケーションを使用してデータ検証済のモデル シートを管理するには、"Workforce Planning 設定の管理 " タスクで、"アプリケーションの 目的" に *"Adaptive Planning* の計画*"* を選択します。既存の応募情報でこの選択を変更することはできません。
- セキュリティ: モデルに *"*シート、科目、属性、数式を含む " 権限

このタスクについて

モデル管理者は、モデル シートのセルにユーザーが入力したデータに対するデータ検証ルールを作成することで、以下のことを確認できます。

- データの精度。
- データの整合性。

これらの検証ルールは、以下に対して適用できます。

- モデル シート
- ダッシュボード上のモデル シート
- モデル シート データの API によるインポート
- モデル シートにインポートする Planning データ ローダ

これらのルールは、モデル シートのすべてのバージョンに適用されます。既存のデータを含むシートの検証ルールを作成した場合、次にシートを開くかリフレッシュしたときにデータが検証されます。

検証をトリガすると、以下が表示されます。

- 重大な警告をトリガする行を囲む赤の枠線 無効なデータを修正するまではシートを保存できません。
- 行を囲むオレンジ色の枠線は、ソフト警告をトリガします。この無効なデータを含むシートを保存できます。

無効なデータの修正に役立つカスタム ヘルプ テキストを表示するように検証を設定できます。 より迅速な訂正のために、無効なデータでフィルタすることもできます。

手順

1. メイン メニューから "モデル管理" を選択します。
2. モデル シートのシート ビルダーにアクセスするには、以下のいずれかを選択します。
    - 組織割当シート
    - ユーザー割当シート
3. モデル シートの横にある "編集" を選択します。
4. "データ検証ルール"を選択します。
5. 次を参考にして、検証ルールを作成または編集します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 式 | このフィールドに行のドット表記のブール式を手動で入力するか、"式ビルダー"を使用します。式で列を参照する場合、それらの列のコードを使用します。次の列のコードに基づいてデータが評価されます。<br>• 特性列<br>• 属性列<br>• 初期残高データ入力列。対応する科目のコードに基づいて評価されます。<br>• テキスト セレクターのデータ入力列 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | データ検証ルールは、データがこの式の許容値内にあるかどうかをチェックします。 データが許容値の範囲外である場合、そのセルに対して違反がトリガされます。<br><br>保存時に、文字列が自動的に小文字に設定されます。文字列では大文字と小文字が区別されないため、この小文字は検証に影響しません。<br><br>例: モデル シートに "行 ID" 列が含まれており、すべての行 ID を 4 文字にしたいと考えています。「*Length (ROW.ID) = 4*」と入力します。 |
| 式ビルダー | 式ビルダー アイコンをクリックすると、次のいずれかの操作ができるようになります。<br><br>• 行のドット表記のブール式を手動で入力します。 正しい数式を入力するために、ドロップダウン メニューで利用可能なオプションを参照できます。<br><br>例:"列" ドロップダウン メニューを表示し、列に正しいコードを使用していることを確認します。<br>• ドロップダウン メニューを使用して、行のドット表記のブール式のさまざまな部分を挿入します。 |
| ヘルプ テキスト | ヘルプ テキストは 128 文字未満で入力してください。 |
| 名前 | ルール名を 65 文字未満で入力します。 |
| タイプ | • *True*: データが条件を満たさない場合にエラーが表示されます。例: 支給レートが 100,000 を超えているかどうかをチェックするルールでは、支給レートが 100,000 を下回ったときにエラーが表示されます。<br>• 偽: データが条件を満たした場合にエラーが表示されます。 例: 支給レートが 100,000 を超えているかどうかをチェックするルールでは、支給レートが 100,000 を超えると エラーが表示されます。 |
| アクション | • 重大なエラー: 行に赤い枠線が表示されます。 無効なデータを修正するまではシートを保存できません。<br>• 警告: 行にオレンジ色の枠線が表示されます。この無効なデータを含むシートを保存できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. (任意) ルールの "その他のアクション" メニューから、検証ルールをアクティブ化または非アクティブ化します。
   存在できるアクティブなルールは 15 件までです。非アクティブなルールをドラフトとして使用できます。

タスクの結果

シート ビューに現在表示されている行にのみ検証が適用されます。重大なエラーが存在するときに有効な行を保存するには、シート ビューを変更して無効な行をフィルタリングしてから保存します。

ユーザーがすでにロードしたシートに対して検証ルールを追加、変更、または削除した場合、その変更を適用するにはそのユーザーがシートをリフレッシュする必要があります。

検証をトリガしたときに、無効なデータにマウスを合わせると、以下のような内容が表示されます。

- これが重大なエラーの検証か警告の検証か。
- ルールの検証ヘルプ テキスト。

importConfigurableModelData API を使用してモデル シート データをインポートするときに、検証ルールを適用するかスキップするかを選択できます。検証ルールの適用を選択すると、データが分析され、ルールに失敗したすべてのセルが特定されてからインポートされます。 重大なエラーが存在する場合は、以下の処理が行われます。

- インポートしないでください。
- エラーのある行のリストを提供する。これにより、データ ソースに移動して問題を修正できます。

データ インポートの検証ルールを使用するには、"管理"の "外観のユーザー設定 " ページで "データのインポートでのデータ検証 (シートでのデータ検証が必要)" チェックボックスをオンにする必要があります。

relatedlinks
参考
外観のユーザー設定の変更（1383ページ）
参考: モデル シートの検証ルール（1077ページ）

## 参考: モデル シートの検証ルール

モデル シートの検証ルールを作成する場合、行のドット表記のブール式と列コードを使用します。 読みやすくするために、行と間隔を追加できます。 # を使用してコメントを含めることもできます。

無効な式を入力すると、エラー メッセージが表示され、問題の解決に役立つ可能性があります。

式で正しいデータ タイプの列を使用することを手動で確認する必要があります。 これらの関数は、以下のデータ タイプでサポートされます。

| 関数 | サポートされているデータ タイプ |
|---|---|
| day | 日付 |
| div | 数値またはチェックボックス |
| 条件 | 論理 |
| isblank | すべてのデータ |
| 長さ | String |
| month | 日付 |
| 四半期 | 日付 |
| 部分文字列 | String |
| switch | 日付、数値、文字列 |
| toDate | 日付 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 関数 | サポートされているデータ タイプ |
|---|---|
| toNumber | String |
| year | 日付 |

検証ルールの例

| ルール | 式 | タイプ |
|---|---|---|
| ラベルは 4 文字以上である必要があります。 | length(ROW.Label) > 4 | True |
| "価格設定の例外" に値がある場合を除き、"販売価格" は "購入価格" 以上の値である必要があります。 | if (isBlank(ROW.pricing_exception), ROW.purchase_price, ROW.selling_price) >= ROW.purchase_price | True |
| "終了日" は "開始日" と同じかそれ以降の日付を指定する必要がありますが、これは "終了日" が入力されている場合に限ります。 | if (not(isblank(ROW.end_date)),ROW.end_date, ROW.start_date) >= ROW.start_date | True |
| 開始日は、2020 年 12 月 21 日より前である必要があります。 | ROW.StartDate < to date (2020, 12, 21) | True |
| 開始日は CY2023 以降である必要があります。 | year(ROW.StartDate) >= 2023 | True |
| "ラベル" 列に入力されるすべての値が、必須接頭辞 "required-prefix" で始まることを必須にします。 | if (isblank(ROW.Label),"required-prefix",substring(ROW.Label, 1, 15)) = "required-prefix" | True |
| 採用日が第 3 四半期または第 4 四半期にある場合は、"採用の例外" を入力する必要があります。 | not (isblank(if (quarter(ROW.hire_date) >= 3,ROW.hiring_exception,"exception_not_required"))) | True |
| "変更リクエスト" が選択されている場合、"コメント" は空欄にできません。 | ROW.ChgRqst=0 または (ROW.ChgRqst = 1 and not(isblank (ROW.comment))) | True |
| Level が QA の場合、社員には年間給与が必要です。 | ROW.Level!="qa" または (ROW.Level = "qa" and ROW.per = "yr") | True |
| 空白でない場合、"社員数" は 1 より大きい値でなければなりません。 | isblank(ROW.numEmployee) or (not(isblank(ROW.numEmployee)) and ROW.numEmployee > 1) | True |
| TAM の値が収益より大きい必要があります。 | ROW.tam > ROW.Rev | True |
| 週あたりの時間数は、20 ~ 40 の間でなければなりません。 | ROW.HoursPerWeek >= 20 および ROW.HoursPerWeek <= 40 | True |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ルール | 式 | タイプ |
|---|---|---|
| "承認済" の場合、"Fieldmarkscore" は 1 より大きい必要があります。 | Row.Approval != "yes" or (ROW.Approval = "yes"amd ROW.fieldMgrScore >=1) | True |
| すべての社員 ID (テキスト列) は、200 未満の数値で開始する必要があります。 | tonumber (ROW.EmployeeID) <200 | True |
| 給与が 10% 増加した場合は、コメントが必要です。 | (div(ROW.Input_Total_Base_Pay - ROW.Total_Base_Pay, ROW.Total_Base_Pay) <0.1) or not isblank(Row.Memo) | True |
| 経費勘定科目が入力されると、"リクエスト者の氏名" と "コスト センターの所有者" も入力する必要があります。 | isblank(ROW.ExpenseAccount) or not (isblank(ROW.ExpenseAccount) or isblank(ROW.NameOfRequestor) or isblank(ROW.Cost CenterOwner)) | True |
| 資産クラス値は IT 製品と関連付ける必要があります。 | Switch (ROW.AssetClass, " Hardware", "it Product", "software", "it Product", "non IT Product") = "IT 製品" | True |
| 役員の新規採用を計画している場合、コメントが必須です。 | ROW.Position_Status="open" かつ ROW.Supervisory_Organization = "Supervisory_execury_management_group" かつ isblank(ROW.Memo) | False |
| TAM を空白にすることはできません。 | isblank(ROW.tam) | False |

relatedlinks
タスク
モデル シート データ検証ルールの設定 ( 1074ページ )

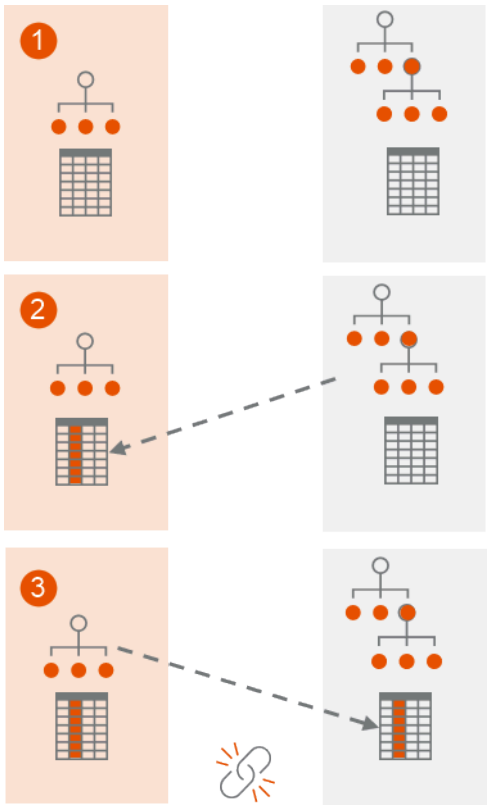
リンクされたモデル シート
組織構造が一致しない場合のモデル シートのリンク

多くの企業において、販売組織は、財務チームによる構造の管理とは異なる方法で組織構造を運用しています。たとえば、財務にはコスト センターとして使用する多数の組織がある一方で、販売には 1 つの組織があるだけです。販売チームには、財務のコスト センターとは重複しない独自の組織構造がある場合があります。財務インスタンスとセールス プランニング インスタンスを作成すると、そこにこの差異が反映される可能性があります。

組織構造が一致しない場合、属性列をリンクさせるシート (送信シート) およびリンクされるシート (受信シート) の両方に配置することにより、モデル シートをリンクさせることができます。これらの列の属性は、リンクされたシートの組織構造を模倣する必要があります。

以下のプロセスでは、左に受信シート、右に送信シートが表示されています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




| | |
|---|---|
| 1 | 受信シートと送信シートの組織構造を識別します。識別するシートは同一の名前である必要はありません。 |
| 2 | 送信シートの組織構造を模倣する受信シートで属性を作成します。受信シートの列としてそれを追加します。 |
| 3 | 受信シートの組織構造を模倣する送信シートで属性を作成します。これを送信シートの列として追加してから、受信シートを送信シートにリンクさせます。 |

前提条件

- セキュリティ: "モデル管理アクセス"、"モデル"、および "管理アクセス"
- モデル シート リンクの作成方法を理解します。インスタンスに リンク組織が含まれていること、およびリンクする必要がある組織に対するアクセス権があることを確認します。
- 両方のインスタンスに対して、参照として組織 (組織構造) の印刷対応ビューを生成します。
- 受信モデル シートと送信モデル シートを識別します。

送信シートの組織を模倣
受信モデル シートでは、販売地域などの属性を使用して送信シートの組織を模倣します。属性名は自由に設定します。

これらのステップは、"財務" と命名された受信シートのインスタンスで実行されます。送信シートのインスタンスは "販売" です。

1. インスタンスのドロップダウンを確認します。リンク元のモデル シートを含む受信シートのインスタンスにあることを確認します。
2. ナビゲーション メニューから、"モデリング" > "モデル管理" に移動して、"属性" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 送信シート インスタンスの組織を模倣する受信インスタンスで属性を作成します。たとえば、送信 "販売" インスタンスにリンクさせる場合、その属性に "販売地域" と命名し、それに対して、WW、EU、NA、East、Central、West、APAC という子属性値を与えて "販売" 組織を模倣します。
4. ブレッドクラムから、"モデル管理" > "組織割当シート" をクリックして、リンク元のシートのシート名を選択します。
5. "モデル シートの概要" で "列と組織" をクリックします。
6. 作成した属性を列として追加します。

受信シートの組織を模倣
送信モデル シートで、属性を使用して受信シートの組織を模倣します。属性名は自由に設定します。

これらのステップは、"販売" と命名された送信シートのインスタンスで実行されます。受信シートのインスタンスは "財務" です。

1. インスタンス ドロップダウンを使用して、リンク先のモデル シートのインスタンスに移動します。
2. ナビゲーション メニューから "モデリング" をクリックして "属性" を選択します。
3. 受信シート インスタンスの組織構造を模倣する送信シート インスタンスで属性を作成します。たとえば、属性に "部門" と命名し、それに対して、"販売"、"エンジニアリング"、"マーケティング" の子属性値を与えることができます。
4. ブレッドクラムから、"モデル管理" > "組織割当シート" をクリックして、販売インスタンスのリンク先のシートのシート名を選択します。
5. "モデル シートの概要" で "列と組織" をクリックします。
6. 作成した属性を列として追加します。
7. このモデル シートの "組織" 列の名前を変更し、販売インスタンスで作成した属性名に一致させます。例として、名前を "販売地域" に変更します。
8. "保存" を選択します。
9. シートに移動し、作成した列の属性値が空白ではないことを確認してください。
10. これらの受信シートと送信シートの間にリンクを作成します。

ユース ケースと例
*Predictive Forecaster* のためのレバー モデル シートの作成

始める前に

- 予測シートを識別します。予測シートは、Predictive Forecasterの "予測" セクションで選択するシートです。
- 予測シートで組織、科目、カスタム属性を確認します。これらの要素をレバー シートに追加します。
- 予測シートで使用される最小期間を特定します。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

レバー モデル シートには、機械学習 (ML) の予測に影響する回分データが格納されています。特定のアルゴリズムにレバー シートを使用できます。レバー シートに入力した値によって、予測シートに入力されるアルゴリズム計算が調整されます。

レバー シートの要素を財務 KPI に基づきます。

例: "製品収益" キューブ シートで、製品の販売単位を地域別に予測する必要があります。販売単位数は、Predictive Forecaster を使用して予測するメトリックです。製品プロモーションは、地域ごとの売上を促進するビジネス 手段です。過去および将来の昇進· 昇格を機械学習アルゴリズムに渡すために、データをレバー シートにロードします。昇進· 昇格の詳細をロードできるように、レバー シートにはキューブ シートの "売上数量" 科目、製品属性、関連する組織、期間が含まれている必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1 列目は科目のテキスト列でなければならず、2 列目は組織列でなければなりません。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
3. "新規シート作成" をクリックします。
4. フォームに入力すると、次のようになります。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | シートの一意の名前を入力します。これは、"予測予測" ページの "アルゴリズム" セクションの "レバー シート " ドロップダウン メニューに表示される名前です。 |
| 新しいシートを作成 | "モデル"を選択します。次に、ドロップダウン プロンプトで "空白のモデル シート (詳細)"を選択します。 |
| 科目コード | 一意のコードを入力します。このコードはシートの科目コードのプレフィックスとして表示されます。 |

5. "次へ" をクリックします。
6. "列と組織" をクリックします。
7. キャンバスの "タイプ " 列で "組織" が指定さ れた行をハイライトし、以下のようにします。
   - "一般プロパティ" セクションの"名前":「組織名」を入力します。
   - "組織プロパティ" セクションの"組織" タブ: 予測シートにも存在する少なくとも 1 つの組織の横にあるチェックボックスをオンにします。予測シートにも存在する組織を追加します。予測シートに存在するすべての組織を追加する必要はありません。
8. 左側のパネルの "要素 " タブから "データ入力列" を選択すると、オプションが展開されます。
9. "組織" 行の上のキャンバスに "テキスト" をドラッグします。
10. "一般プロパティ"の場合
    - "名前" フィールドに 「科目」 と入力します。
    - "コード" フィールドに意味のある値を入力します。
    - チェックボックスはオフのままにします。
11. (任意) カスタム属性を追加するには、左側のパネルで "要素に戻る" をクリックして "属性"をクリックします。
12. キャンバスの "テキスト " 行の後ろにカスタム属性をドラッグ アンド ドロップします。

    このステップをスキップすると、アルゴリズムは、レバー シートで提供された期間値をすべての属性分割に使用します。

    予測シートに存在しないカスタム属性を追加しないでください。
13. "要素に戻る" をクリックし、"時間" を選択してオプションを展開します。
14. 最後の行として "期間" をキャンバスにドラッグします。
15. ツールバーで "シートのプロパティ" をクリックし、" 設定 " タブを選択します。
16. "このモデル シートに関連する時間層を選択" プロンプトで、予測シートで使用される最小期間を選択します。
17. "保存" をクリックします。

次のタスク

レバー モデル シートへのデータ入力 ( 757ページ ) .

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
概念
概念: Predictive Forecaster ( 758ページ )
設定の考慮事項: Predictive Forecaster ( 742ページ )
タスク
機械学習予測の作成 ( 746ページ )
参考
FAQ: Predictive Forecaster ( 767ページ )

異常値の閾値の定義

始める前に

- 異常検出のための予測バージョンの作成 ( 736ページ ).ステップ: 異常検出の設定を参照してください。
- セキュリティ: "モデル" 権限

このタスクについて

"異常検出"を使用すると、標準シートでは予測バージョンのデータの 40% の閾値を超える異常がハイライトされます。"AIML-THRESHOLD" モデル シートを作成して、閾値をグローバルに定義する、あるいはバージョンの組み合わせごと、組織ごと、および科目ごとに定義することができます。例: 20% の閾値を設定できます。

システムでの閾値のデフォルトは、任意の組織、バージョン、科目の組み合わせに対して 40% です。より具体的な閾値を指定すると、一般的な閾値がオーバーライドされます。例: すべての科目、バージョン、組織の上下の閾値として 20% を定義します。給与科目の 10% の閾値を定義します。10%という閾値は、給与科目のすべてのバージョンと組織に適用され、シートの前の行で定義した 20% がオーバーライドされます。

すでに定義済みの組織、バージョン、科目の組み合わせを定義する行を追加すると、最新の定義、またはシートの一番下にもっとも近い定義が使用されます。行のセルを空白のままにすると、その行全体が無視されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" をクリックします。
3. "新規シート作成" をクリックします。
4. 次を参考にして、フォームに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | すべて大文字で 「*AIML-THRESHOLD*」と正確に入力します。 |
| 新しいシートの作成 | "モデル" および "空白のモデル シート (詳細)"を選択します。 |
| シート コード | 任意のコードを入力します。 |

5. "次へ" をクリックします。
6. シート サマリで "列と組織" をクリックします。
7. すでにキャンバスにある " 組織 " を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

8. "設定" で、最下位組織、つまり子組織を持たない組織のチェックボックスを 1 つのみクリックします。
   それ以外の組織は選択しないでください。
   選択した組織が、シートを割り当てる組織となります。
9. "要素 " タブの "データ入力列"を展開します。
10. "テキスト" を 3 回ずつキャンバスにドラッグ アンド ドロップします。
11. 各 テキスト 要素の "名前" と "コード" に、最初の 1 つは「*ad_version*」、2 つ目の 1 つは「*ad_level*」、最後の 1 つは 「*ad_account*」 と入力します。
12. "数値" をキャンバスに 2 回ドラッグ アンド ドロップします。
13. 各 "数字 " 要素の設定については、次を参考にしてください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | "数字" 要素の一方に 「上限」、もう一方に 「下限」 と入力します。 |
| コード | "数字" 要素の一方に 「*upper*」、もう一方に 「*lower*」 と入力します。 |
| 表示形式 | 両方とも *"数値"* を選択します。 |
| 小数部桁数 | 両方とも *"0"* を選択します。 |

14. "保存" をクリックします。
15. メイン メニューから "シート" を選択します。
16. "組織" プロンプトで、シートに追加した最下位組織を選択します。
17. "バージョン" プロンプトで、デフォルト バージョンをクリックします。
    デフォルト バージョンが太字です。
18. シートを開くには、"AIML-THRESHOLD" をクリックします。
19. シート ツールバーで、"行を追加" ボタンをクリックします。
20. "ad_level"、"ad_account"、"ad_version" 列に、「*All*」 または組織と科目の正確なコード、およびバージョンの正確な名前を入力します。特定のバージョン、特定の組織を指定して、科目に「All」と入力すると、その組織とバージョンのすべての科目の閾値を定義することができます。
    例: すべての列に 「*All*」 と入力すると、すべての科目、組織、バージョンに対して同じ閾値が定義されます。
    機械によって認識できない名前とコードは無視されるため、正しく入力し、正確に入力してください。
21. "Upper" および "Lower" 列に整数を入力します。
    たとえば、"Upper" に 「*10*」 と入力すると、閾値は予測より 10% 増の値として定義されます。

relatedlinks
タスク
ステップ: 異常検出の設定（734ページ）
参考
FAQ: 異常検出（740ページ）

例: 顧客ごとの購入数量のモデル シートの作成

この例では、各顧客が購入する製品数を追跡するモデル シートの作成方法を説明します。

このタスクについて

各顧客が期間ごとに購入した製品の合計数を追跡するとします。シートをシンプルにするため、どの製品が購入されたのかは追跡しません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

次に、このシートで収集したデータを使用して、マージされたキューブ シートで計算を実行します。マージされたキューブ シートでは、製品ごとに各顧客の収益が計算されます。

始める前に

- 顧客属性を作成します。参照 例: 製品および顧客のカスタム属性の作成 ( 989ページ )。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" をクリックします。
3. "新規シート作成" をクリックします。
4. 次のようにフォームに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 新しいシートの作成 | "モデル" および "空白のモデル シート (詳細)" を選択します。 |
| シート名 | 「数量」と入力します。 |
| シート コード | 「QTY」と入力します。 |

5. "次" をクリックすると、"シート サマリ: 数量" ページが開きます。
6. シート サマリ ページで "列と組織" をクリックします。
7. 中央のキャンバスで "組織" 列を選択します。
8. "組織プロパティ" セクションの "組織" タブで、"名前" の横にあるチェックボックスを選択します。
   "名前" を選択するとすべての組織が選択され、シートに追加されます。
9. "要素" タブで "属性" をクリックして、"組織" の下のキャンバスに "顧客" をドラッグ アンド ドロップします。
10. "要素に戻る" をクリックします。
11. "要素" タブで "データ入力列" をクリックして、"顧客" の下のキャンバスに "期間" をドラッグ アンド ドロップします。
12. ツールバーの "保存" をクリックします。

次のタスク

"シート" メニューから "数量" シートを開きます。実行予算バージョンに 3 つの行を追加し、以下についてそれぞれデータを入力します。

- 組織: HQ
- 顧客: 行ごとに異なる顧客を選択
- 期間: 2022 年の各期間に顧客が購入した製品の数を入力

マージされたキューブを作成するときに、このシートをソース シートとして選択します。参照 各ステップの例: 製品別および顧客別の収益のマージされたキューブ シートの作成 ( 1117ページ )。

relatedlinks
例
各ステップの例: 製品別および顧客別の収益のマージされたキューブ シートの作成 ( 1117ページ )

例: 地域最適化の距離を計算

営業担当者と地域間の距離の把握は営業地域の割り当て時に役立ちます。営業担当者を近隣の地域に割り当てることで、次が可能になります。

- コスト削減

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 移動時間の短縮
- 営業サイクルの高速化

距離を自動計算するには、地域と営業担当者を郵便番号の属性値に関連付けます。次に、郵便番号の説明フィールドに地理座標を提供します。算出科目の三角数式を使用して郵便番号の間の距離をマイルで生成します。モデル シートの表示列に距離の計算結果を表示します。

前提条件

- セキュリティ: "モデル" 権限
- 営業科目の地域と営業担当者の位置の郵便番号について緯度と経度を取得します。複数のオンライン ソースによって郵便番号の座標が提供されます。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング"を選択します。

ステップ

1. 営業科目の郵便番号の属性を作成します。
2. 営業担当者の郵便番号の属性を作成します。
3. モデル シートに計算を追加します。
    a. モデル シートに属性を追加します。
    b. モデル算出科目を作成します。
    c. 距離の表示列を追加します。
4. シートを表示して計算された距離を確認します。

営業科目の郵便番号の属性を作成

"モデリング" メニューから "属性"を選択します。

1. AccountZipCode 属性を作成し、属性詳細の "リスト属性" をオフにします。この属性は階層的でなければなりません。
2. 個々の営業科目の郵便番号とまったく同じ名前を付けた属性値を作成します。たとえば、郵便番号が 11411 であれば、属性値の名前を 11411 にするといった具合です。
3. その属性値の "説明" フィールドに個々の郵便番号の座標を入力します。たとえば、郵便番号が 11411 の場合、座標値は次のようになります。 `40.694021,-73.736216.`

営業担当者の郵便番号の属性を作成

1. RepZipCode 属性を作成し、属性詳細の "リスト属性" をオフにします。この属性は階層的でなければなりません。
2. 個々の営業担当者の郵便番号とまったく同じ名前を付けた属性値を作成します。たとえば、郵便番号が 11422 であれば、属性値の名前を 11422 にするといった具合です。
3. その属性値の "説明" フィールドに個々の郵便番号の座標を入力します。たとえば、郵便番号が 11422 の場合、座標値は次のようになります。 `40.66006,-73.736012.`

シートに郵便番号の属性を追加

ブレッドクラムから "モデリング"を選択します。"シート" メニューで "ユーザー割当シート" または "組織割当シート" をクリックします。

1. 距離計算を含めたいモデル シートの横にある "編集" リンクを選択します。
2. "列と組織" を選択します。
3. 営業科目の郵便番号の AccountZipCode 属性をモデル シート ビルダー キャンバスにドラッグします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. AccountZipCode の下にある営業担当者の郵便番号の RepZipCode 属性をモデル シート ビルダー キャンバスにドラッグします。
5. シートを保存します。

モデル算出科目を作成
この科目は、説明フィールドで提供する座標を評価することによって 2 つの郵便番号間の距離を計算します。たとえば、2 つの座標セット間の距離を評価する一般的な数式には 三角関数が必要です。

```
ACOS(
  COS(
      RADIANS(90-Lat1))
      *COS(
          RADIANS(90-Lat2))
      +SIN(
          RADIANS(90-Lat1))
      *SIN(RADIANS(90-Lat2))
      *COS(
          RADIANS(Long1-Long2)))
* 3958.756
```

Lat1 および Long1 が最初の位置の緯度と経度である場合、 Lat2 および Long2 は 2 番目の勤務地です。郵便番号の属性値については、説明に緯度と経度の座標が含まれています。算出科目において必要な数式には、説明フィールドから座標を引き出すための追加的なテキスト処理が必要です。

1. ブレッドクラムを使用して "サマリ" に戻ります。
2. "モデル科目" を選択します。
3. ツールバーで "新規算出科目を作成" をクリックして、科目の詳細を入力します。
    - コード: 距離
    - 名前: 距離 (m)
    - タイプ: 計算 (フロー)
4. 科目に対し、これらのデータ タイプの設定を提供します。
    - 表示形式: 数値
    - 数式:

```
acos(
  cos(
      radians(90-

 tonumber(substring(this.AccountZipCode.description,0,search(this.AccountZipCo
              * cos(radians(90-

 tonumber(substring(this.RepZipCode.description,0,search(this.RepZipCode.descr
              + sin(radians(90-

 tonumber(substring(this.AccountZipCode.description,0,search(this.AccountZipCo
              * sin(radians(90-

 tonumber(substring(this.RepZipCode.description,0,search(this.RepZipCode.descr
              * cos(radians(

 tonumber(substring(this.AccountZipCode.description,search(this.AccountZipCode
 -

 tonumber(substring(this.RepZipCode.description,search(this.RepZipCode.descrip
  )
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
* 3958.756
```

- 小数部桁数: 4

5. 科目を保存します。

距離の表示列を追加

1. ブレッドクラムを使用してシート サマリに戻ります。
2. "列と組織" を選択します。
3. "要素" のリストから "表示列" を展開します。
4. "距離" (m) を、RepZipCode 属性のちょうど下にあるキャンバスへドラッグします。
5. 保存します。

シートを表示させて距離を確認
ナビゲーション メニューから "シート" を選択し、郵便番号属性列と表示列を含むシートを開きます。"距離 (m)" 列は、営業科目と営業担当者の郵便番号間の距離を示します。
relatedlinks
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

例: セールス プランニングに向けた *CRM* データのモデル シートの作成

始める前に

- 組織を作成します。
- 営業担当者属性および地理属性を作成し、それぞれ属性値を作成します。

このタスクについて

地域プランニングの一環として、モデル シートを使用して顧客関係管理 (CRM) データを保管します。モデル シートを使用した販売データの保管には、次のようなメリットがあります。

- データ用に 5 つ以上のモデル シートを利用できる。
- 定義済みの販売地域を使用して、販売属性の組み合わせにマッピングできる。

手順

1. 新しいシートの開始 ( 1018ページ ) .
   "新しいシートの作成" プロンプトで "空白のモデル シート (詳細)" を選択して、空白のモデル シートを作成します。
2. 列を追加します。
   モデル シートを作成すると、自動的に "組織" 列がキャンバスに表示されます。その他の列はすべて、"要素" ペインから中央のペインに手動でドラッグ アンド ドロップして列を設定します。

   セールス プランニングに向けた CRM データのモデル シートを作成するには、以下の列を設定します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| "組織" 列 | 子組織を選択するには、親組織を展開してから、手動で子組織を選択します。 |
| 営業担当者属性および地理属性の列 | 各属性のすべての値を選択します。 |
| CRM からインポートする各データ フィールドの列 | 各列を "数値" 列として設定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 各列の "名前" には、作成したマッピング キーを使用して、そのフィールド用に作成した科目コードを入力します。 |
| 一意の識別子列 | "数値" 列または "テキスト" 列のいずれかを使用して、一意の識別子列を設定します。<br>"名前" には、データ ソースに関連付けられているレコードの一意の識別子を入力します。 |

3. シートを保存して CRM データをインポートします。

   スプレッドシートのインポートを参照してください。

タスクの結果

シートのデータを表示および変更できるようになりました。

次のタスク

このモデル シート内のデータにリンクしている科目を使用して、地域階層のキューブ シートを作成します。

relatedlinks
タスク
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )

キューブ シート
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成

始める前に

- シートに追加したい属性、特性、組織を作成します。 参照 特性の作成 ( 1002ページ ) , カスタム属性の作成 ( 970ページ ) 、および ステップ: 組織の作成 ( 846ページ ) 。
- マージされたキューブ シートを作成する場合は、ソース シートを作成します。ソース シートは、モデル シートまたはキューブ シートである場合があります。最大 3 シート マージできます。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ シートおよびマージされたキューブ シートを作成して、チームのための複雑な予想をモデリングします。キューブ シートには、指定された属性のセットにわたって入力された多属性データを格納できます。シート ユーザーが必要なセルを見つけるのに役立つ、いくつかの表示オプションとフィルタが用意されています。

手順

1. 新しいシートの開始 ( 1018ページ ) .
2. (マージされたシートのみ) マージされたキューブ シートのソース シートの選択 ( 1091ページ ) 。
3. (任意) キューブ シートの科目グループの作成 ( 1091ページ ) 。

   グループはシート上の科目を整理するのに役立ちます。例: データ入力科目と算出科目を別々にグループ化できます。
4. キューブ科目の作成 ( 1092ページ ) .
5. キューブ シートへの総勘定元帳科目およびカスタム科目の追加 ( 1094ページ ) .

   科目をキューブ入力した後、総勘定元帳科目およびカスタム科目をキューブ シートに追加できます。 科目設定で "データ入力シート タイプ" の "キューブ" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. キューブ シートへの属性および特性の追加（1095ページ）.
   シートにカスタム属性や特性を追加する必要がない場合は、カスタム科目で標準シートを作成することを検討してください。
7. キューブ シートの期間の選択（1096ページ）.
   デフォルトでは、シートはすべての期間で使用可能です。
8. シートに組織、科目、属性、および特性を追加します。
   キューブ科目を非表示にして、シートに表示されないようにすることもできます。
   参照 キューブ シートにおける使用可否設定の変更（1097ページ）。
9. (任意) ツールバーで "シートのプロパティ"をクリックします。
   "シートのプロパティ" では、次の操作ができます。
   - キューブ ルート科目の削除（1099ページ）.
   - キューブ シートの初期表示を設定（1100ページ）.
   - キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定（1023ページ）.
   - 時間層を設定します。
   - シートの詳細を変更します。
   - シートのパフォーマンスと使いやすさの向上に役立つその他の設定を管理します。

     参照 参考: キューブ シートのシート プロパティ（1113ページ）および 参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1111ページ）。
10. (任意) キューブ シートの制限の設定（1102ページ）。
    特定のデータ ポイントを非表示にします。マージされたキューブ シートでは、キューブの制限を設定できません。
11. (ユーザー割当シートの場合のみ) ユーザーをシートに割り当てます。
    参照 キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て（1021ページ）。

タスクの結果

シートにデータを入力する準備が整いました。作成したシートは、"シートの概要" で確認できます。

次のタスク

次の方法でキューブ シートにデータを取得します。

- スプレッドシートを使ってデータをインポートします。
- インテグレーション ローダを使ってデータをインポートします。
- "シート" メニューからシートにデータを入力します。

シートの使用状況とパフォーマンスを定期的に監視する。次を参照してください。

- シート メトリックのチェック（725ページ）.
- 参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1111ページ）.

relatedlinks
概念
概念: キューブ入力科目（891ページ）
概念: マージされたキューブ シート（1108ページ）
タスク
カスタム属性の作成（970ページ）
特性の作成（1002ページ）
シート タイプを特定
スプレッドシートのインポート
キューブ シート ビューの変更
Planning データ ローダの作成

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考
参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1111ページ）

マージされたキューブ シートのソース シートの選択

始める前に

- ソース シートを作成します。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

マージされたキューブ シートにはソース シートが必要です。マージされたキューブ シートでは、属性を組み合わせて、最大 3 つの他のキューブ シートまたはモデル シートのデータが使用されます。

手順

1. 新しいシートの開始（1018ページ）または シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）。
2. シート サマリで "属性、特性、組織" をクリックします。
3. ツールバーの歯車アイコンをクリックします。
4. "設定" タブをクリックします。
5. ソースとして使用する、モデル シートとキューブ シートの横にあるチェックボックスをクリックします。
   合計 3 シートまで選択できます。

次のタスク

ソース シートの共通する属性を、マージされたキューブ シートに追加します。参照 キューブ シートへの属性および特性の追加（1095ページ）。

relatedlinks
概念
概念: マージされたキューブ シート（1108ページ）
タスク
科目へのリンクの追加（908ページ）

キューブ シートの科目グループの作成

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ シートへの科目グループの追加は任意です。科目グループを使用してキューブ シート科目を編成し、フォーミュラ アシスタントの使用またはレポートとグラフの作成時にそれらを簡単に発見できるようにします。シート上で、グループを展開するか折り畳んで大規模なキューブ シートを管理できます。科目グループはその科目の合計値を表示しません。

キューブ シートには、シートと同名の「ルート」科目グループが付属しています。「ルート」グループの名前は編集できず、シートにも表示されません。シートの総勘定元帳科目とカスタム科目を除く、シート上のすべてのキューブ科目はこのルートに合計されます。

総勘定元帳科目とカスタム科目を統合するには、シートの設定でルート グループ科目を削除します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. シート サマリで、"キューブ科目" をクリックします。
3. ツールバーから "新規グループを作成" ボタンをクリックします。
4. 一意の "コード" と " 名称"を入力します。
5. "展開して開始" で、以下を選択します。
    - いいえ: 科目グループは折り畳まれた状態でシートに表示されます。
    - はい: 科目グループは展開された状態でシートに表示されます。
6. グループに科目を追加するには、"科目の作成" ボタンを選択する前に、リストからグループを選択します。または、科目の設定において、"ロールアップ先" ドロップダウン プロンプトからグループを選択します。

タスクの結果
グループが科目リストおよびシートに表示されます。

例

"販売の詳細" 科目グループは、"収益" キューブ シートの科目グループです。このグループには、"数量"、"割引 %"、および "割引価格" という科目が含まれています。

次のタスク

キューブ科目を作成してグループに追加します。

キューブ科目の作成

始める前に

- 属性を使って科目にタグ付けする場合は、属性および属性値を作成します。参照 特性の作成（1002ページ）および 特性値の作成（1005ページ）。
- 属性フィルタまたは属性によるタグ付けを使用する、リンク元科目を作成する場合は、属性および属性特性を作成して、ソース科目を作成します。参照 カスタム属性の作成（970ページ）および カスタム属性値の作成（973ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ シート内でキューブ科目を作成します。キューブ シートの各科目は、科目コードの一部としてシート コードを使用します。これらのコードはモデル全体で、数式によって参照できます。

科目設定を使って、キューブ標準科目を別のモデル科目または別のキューブ シートのキューブ科目にリンクできます。

また、科目構造のインポートや、インポートを利用した一括変更もできます。

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. シート サマリから "キューブ科目" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. ツールバーから "科目" ボタンを選択します。このステップの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新規キューブ標準科目を作成 | • シートから数値または数式を科目に入力するために使用します。<br>• 他の科目とのリンクなど、柔軟な設定ができます。<br>• 通常のキューブ シートには少なくとも 1 つの標準キューブ科目が必要です。 |
| 新規キューブ算出科目を作成 | • シート内で収集したデータを使用して、科目のデータを主導したい場合に使用します。<br>• 科目は読み取り専用です。なぜなら、科目の設定において入力する数式がデータを計算するからです。<br>• キューブ算出科目の数式は、モデル内の科目のみを参照できます。<br>• 通常のキューブ シートでは、算出科目には同じシート上に少なくとも 1 つのキューブ標準科目のデータが必要です。データがない場合、数式はゼロと評価されます。一方、マージされたキューブ シートはソース シートのデータを使用します。<br>• マージされたキューブ シートでは、1 つ以上の算出科目が必要です。 |
| 新規キューブ前提条件科目を作成 | • 前提条件は、グローバル組織でデータを主導します。<br>• 科目設定を使用し、すべての組織または最上位組織のみのいずれかで前提条件科目を表示できるようにします。<br>• マージされたキューブ シートでは前提条件科目を使用できません。 |
| 新規キューブ メトリック科目を作成 | • シートからこれらの科目に数字や数式を入力できません。<br>• 合計は最初に数式のコンポーネントを合計し、数式を計算します。 |
| GL またはカスタム科目を含める | • キューブ シートからのデータを総勘定元帳科目またはカスタム科目に入力するために使用します。<br>• 総勘定元帳科目およびカスタム科目の設定の "データ入力タイプ" で、"キューブ" を選択する必要があります。<br>• これらの科目は、キューブ科目シートに標準科目として表示されます。 |

4. 科目設定において、科目の一意のコードと名前を入力し、残りの設定を完了させます。
   設定は科目タイプごとに異なります。

タスクの結果

新しい科目はキューブ シートに自動的に表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

次の操作ができます。

- 残りの設定を変更します。
- 科目をシートで使用できるようにします。参照 キューブ シートにおける使用可否設定の変更（1097ページ）。
- シートの作成または変更を続行します。

relatedlinks
概念
概念: 科目（887ページ）
タスク
科目のインポートおよびエクスポート（867ページ）
参考
参考: キューブ科目の科目設定（1117ページ）
参考: 総勘定元帳科目の設定（941ページ）
参考: カスタム科目の設定（959ページ）
参考: キューブ標準科目の設定（953ページ）
参考: メトリック科目の設定（966ページ）
参考: 前提条件科目の設定（948ページ）

キューブ シートへの総勘定元帳科目およびカスタム科目の追加

始める前に

- 総勘定元帳科目またはカスタム科目を作成します。参照 科目の作成（863ページ）。
- 総勘定元帳科目およびカスタム科目の設定の "データ入力シート タイプ" で、"キューブ" を選択します。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ入力科目は、総勘定元帳またはカスタム科目リストから、データ入力または表示のためにキューブ シートに追加できる科目です。キューブ入力科目では、総勘定元帳にも含む必要があるデータを、キューブ シートのカスタム属性および特性を使って計画できます。

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. シート サマリから "キューブ科目" を選択します。
3. ツールバーから "GL またはカスタム科目を含める" ボタンをクリックします。
4. リストから、キューブ シートに追加する科目をクリックします。
   このリストには、キューブ入力として設定され、まだキューブ シートにない利用可能な科目がすべて含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

5. 設定では、次の操作ができます。
    - 科目にリンクを追加したり、リンクに属性を適用したり、リンクをフィルタリングしたりすることができます。ステップ: 他の科目に対するモデル シート データまたはキューブ シート データのリンクを参照してください。
    - デフォルトの数式やバージョンごとのオーバーライドを追加します。科目の数式およびオーバーライドの追加または変更を参照してください。
    - 表示する "小数部桁数" を選択します。
    - "為替レート" を選択します。

    その他の設定については、総勘定元帳科目またはカスタム科目リストにアクセスする必要があります。

タスクの結果

キューブ科目リストおよびキューブ シートに科目が表示されます。これであなたのチームは、キューブ シートからこの科目にデータを入力できます。

次のタスク

次の操作ができます。

- 科目をシートで使用できるようにします。参照 キューブ シートにおける使用可否設定の変更（1097ページ）。
- キューブ科目ツリー内でキューブ入力科目を移動させます。参照 キューブ ルート科目の削除（1099ページ）。
- シートの作成または変更を続行します。

relatedlinks
概念
概念: キューブ入力科目（891ページ）
概念: リンク元科目（920ページ）
例
参考: キューブ入力科目の設定（968ページ）

キューブ シートへの属性および特性の追加

始める前に

- カスタム属性の作成（970ページ）.
- 属性値、科目、または組織に特性をタグ付けする場合は、特性および特性値を作成します。参照 特性の作成（1002ページ） および 特性値の作成（1005ページ）。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ シートへのカスタム属性および特性の追加は必須ではありません。どちらも追加する理由がない場合は、キューブ シートではなく標準シートの作成を検討してください。

注： すでにデータがあるキューブに属性を追加する場合、各データ ポイントは自動的に "未分類" の属性値にタグ付けされます。このため、属性を削除する前に、シート内のすべてのデータを削除する必要があります。アクションを元に戻すことはできません。また、後でデータを復元することもできません。

特性とカスタム属性を追加するタイミング:

- カスタム属性を使用すると、カスタム属性別にデータを計画し、レポートを作成できます。
- 特性は、チーム メンバーがシートをフィルタリングして、自分にとって重要なセルを確認するのに役立ちます。特性によって、科目、組織、およびカスタム属性をフィルタリングできます。特性がタグ付けされたデータに関するレポート作成もできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

最大 10 のカスタム属性を追加でき、特性は無制限に追加できます。通常のキューブ シートでは、モデル内のすべてのカスタム属性および特性を使用できます。

マージされたキューブ シートでは、ソース シートにあるカスタム属性のみ使用できます。すべてのソース シートに共通のカスタム属性が、キャンバスに自動的に表示されます。カスタム属性は削除できます。また、選択可能な属性に関連付けられた特性のみ追加できます。

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. シート サマリで "属性、特性、組織" をクリックします。
3. "要素" タブで、属性または特性のいずれかを展開します。
4. リストから、属性または特性をキャンバスにドラッグ アンド ドロップします。
   特性をキャンバスにドラッグすると、関連付けられた属性 (科目またはカスタム属性) は自動的にキャンバスに表示されます。キャンバスの場合と同じ順序でシートに属性が表示されます。

タスクの結果

キューブ シートに入力またはインポートしたデータはすべて、未分類のカスタム属性値と特性に関連付けられます。カスタム属性を削除するには、まずキューブ シート内のすべてのデータを消去する必要があります。

次のタスク

- シートでカスタム属性および特性を使用できるようにします。参照 キューブ シートにおける使用可否設定の変更（1097ページ）。
- シートの作成または変更を続行します。

relatedlinks
概念
概念: カスタム属性（988ページ）
概念: 特性（1009ページ）
概念: キューブ シートの部分的な特性の合計（1010ページ）
参考
参考: 特性と属性の比較（1015ページ）

キューブ シートの期間の選択

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ シートの初期表示に、カレンダーのどの期間を表示するかを選択できます。

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. シート サマリで "属性、特性、組織" をクリックします。
3. キャンバスから "時間" 要素をクリックします。
4. "時間のプロパティ" で、シートに表示する期間をクリックします。
   選択できるオプションは、カレンダーの設定と、キューブ シートの一般設定で選択した時間層によって異なります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

5. (任意) "初期の残高" をクリックし、ストック科目をシードするシートに列を追加します。

タスクの結果

チームが初めてシートを開くと、時間属性にはデータ入力用に選択した期間が表示されます。チーム メンバーはそれぞれ、"表示オプション" を使って他の期間を表示できます。また、指定した表示オプションをデフォルト ビューとして保存できます。"デフォルト ビューにリセット" ボタンをクリックして、選択した期間を表示できます。

例

カレンダーには "日"、"週"、"月"、"年" が含まれています。キューブ シートの設定の "このキューブ シートに関連付ける時間層を選択" プロンプトで、"月" を指定します。 "時間プロパティ" で、"月" と "年" を選択してシートに表示できます。 時間層の設定を "週" に変更すると、"週"、"月"、および "年" を選択してシートに表示できます。 "年" チェックボックスをクリックします。チームが初めてシートを開くと、時間属性にはデータ入力用の年単位のみが表示されます。チームは、"表示オプション" を使って月単位および週単位で表示できます。シート設定の時間層で "日" は選択されていないため、日単位では表示されません。

次のタスク

次の操作ができます。

- 組織、科目、属性、および特性の使用可否設定を変更します。
- シートの作成または変更を続行します。

キューブ シートにおける使用可否設定の変更

始める前に

- 組織の場合、組織を作成します。参照 ステップ: 組織の作成 ( 846ページ )。
- カスタム属性の場合:
  - カスタム属性の作成 ( 970ページ ) .
  - カスタム属性値の作成 ( 973ページ ) .
  - 属性を列としてシートに追加します。
- 特性の場合:
  - 特性の作成 ( 1002ページ ) .
  - 特性値の作成 ( 1005ページ ) .
  - 特性に関連付けられたカスタム属性をシートに追加します。例: "製品" 属性の "製品グループ" 特性を追加するには、まずシートに "製品" 属性を追加する必要があります。
  - 特性を列としてシートに追加します。
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "構造インポート" 権限

このタスクについて

使用可否設定によって、キューブ シートに科目、組織、属性値、および特性値を追加します。科目、組織、属性値、および特性値を削除するには、シートで使用不可に設定します。

使用可否設定の変更は、モデルの構造的な変更に該当します。構造の変更は、バージョン間でモデルに影響します。その結果、これらの変更によって、ロック済バージョンおよびアーカイブ済バージョンのデータが削除 (最悪の場合でも非表示) になる可能性があります。

科目、組織、属性、および特性は、キューブ シートで以下のように表示されます。

- 列: 各値が 1 つの列です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 行: 各値が 1 つの行であり、行は属性にロールアップされます。
- フィルタ: 各値がドロップダウン メニューに表示されます。

インターフェイスを使って使用可否設定を変更するか、テンプレートまたはエクスポートを使って変更内容をインポートできます。

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集 ( 1020ページ ) .
   新しいシートを作成する場合は、ブレッドクラムを使用して "シート サマリ" を選択します。
2. "属性、特性、組織" をクリックします。
3. キャンバスから、"タイプ" 列に "科目"、"属性"、"組織"、または "特性" が入っている行を選択します。
4. "プロパティ" セクションで、科目、組織、属性値、特性値を追加および削除します。
   組織およびカスタム属性で、親または合計がシートに値を表示するようにするには、親、ルート、または合計をシートに追加する必要があります。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| チェックボックス | 組織、科目、値を手動で追加または削除します。 |
| エクスポート | 現在の使用可否設定をスプレッドシートにエクスポートします。一括して変更します。次に、"インポート" オプションを使用して変更をインポートします。 |
| インポート | 空白のスプレッドシート テンプレートをダウンロードします。テンプレートで使用可否設定を変更します。スプレッドシートをインポートします。 |
| (未分類) をクリア | 属性値の場合のみ、属性階層内の未分類の値をすべてシートから削除します。 |

タスクの結果

組織、科目、属性値は以下のとおりです。

- 追加したアイテムがシートに表示されます。
- 削除したアイテムはシートに表示されなくなります。これには、ロック済およびアーカイブ済のバージョンが含まれます。
- 親組織を追加しなかった場合、シートの行の組織合計は空白になります。
- カスタム属性のルートを追加しなかった場合、シートの行の属性合計は空白になります。

組織と科目を削除すると、データは次のように変更されます。

- シートに関連付けられたデータが表示されなくなります。これには、ロック済およびアーカイブ済のバージョンが含まれます。
- 引き続き数式やレポートでデータを参照することはできます。
- 組織および科目をシートに追加して戻すと、データが再びシートに表示されます。
- 属性値についてはデータが削除されるため、レポート、ダッシュボード、または数式で参照することはできません。このアクションは属性値に対して不可逆であり、ロック済バージョンも対象となります。アーカイブ済バージョンは例外で、データは引き続き保存されます。

属性値を削除すると、データは次のように変更されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- ロック済バージョンを含むライブ バージョンでは、シート、レポート、ダッシュボード内の関連する値が削除されます。
- ロック済バージョンを含め、ライブ バージョンではこのアクションを元に戻すことはできません。属性値をシートに追加し直してもデータは再表示されません。
- アーカイブ済バージョンでは、値は引き続き保存されます。シートには表示されませんが、レポート、ダッシュボード、数式で参照できます。

次のタスク

以下が可能です。

- シートの他の列、またはシートの設定を管理します。
- ブレッドクラムを使用してシート サマリ に戻ります。"シート サマリ" でリンクを使用して、シートにその他の変更を加えることができます。
- ナビゲーション メニューから "シート" に移動して、シート データを表示します。

キューブ ルート科目の削除

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

キューブ シート内の科目階層をより自由にするために、キューブ ルートを削除できます。キューブ科目の階層には、キューブ ルートと呼ばれる科目グループがあります。 シートのキューブ科目はすべてキューブ ルート科目に属しています。

例: "製品収益" キューブ シートの科目階層は次のようになります。

- 製品収益
  - 口座 A
  - 口座 B
  - 口座 C

シートと同じ名前の科目グループとして "製品収益" が自動的に作成されます。 キューブ ルート グループ内のキューブ科目を任意の順序で並べ替えることができます。

総勘定元帳科目およびカスタム科目をキューブに追加すると、それらはキューブ ルート グループの前または後に表示されますが、グループ内には表示されません。

例:

| ルートの前では以下のようになります。 | ルートの後は以下のようになります。 |
| --- | --- |
| • 総勘定元帳 1<br>• 総勘定元帳 2<br>• 製品収益<br>  • 口座 A<br>  • 口座 B<br>  • 口座 C | • 製品収益<br>  • 口座 A<br>  • 口座 B<br>  • 口座 C<br>• 総勘定元帳 1<br>• 総勘定元帳 2 |

キューブ科目内で総勘定元帳科目を移動するには、ルートを削除します。

例:

- 口座 A
- 総勘定元帳 2
- 口座 B

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 総勘定元帳 1
- 口座 C

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. シート サマリで "属性、特性、組織" をクリックします。
3. ツールバーの歯車のボタンをクリックします。
4. "設定" タブで "GL 科目とカスタム科目を再配置" をクリックします。

タスクの結果
キューブ ルートは階層に表示されなくなります。

例

次のタスク

シート サマリから "キューブ科目" に移動し、総勘定元帳科目とカスタム科目を科目階層内の任意の場所または任意のグループにドラッグ アンド ドロップします。総勘定元帳科目またはカスタム科目を別のキューブ科目にロールアップすることはできません。

キューブ シートの初期表示を設定

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

初期表示は、すべてのユーザーが初めてキューブ シートを開いたときのシートの表示方法です。大きなシートや複雑なシートがチームにとって使いやすくなるように設定します。チーム メンバーは引き続き、デフォルトのシート ビューを変更できます。

手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. シート サマリで "属性、特性、組織" をクリックします。
3. キャンバス ツールバーから歯車アイコンをクリックします。
4. "初期表示" タブをクリックします。
5. フィールドに入力する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 横軸 | 列全体で表示する属性をクリックします。 |
| 縦軸 | 最初のプロンプトで、行として下方向に表示する属性をクリックします。残りのプロンプトは、キューブ フィルタの順序を制御します。2 番目のプロンプトが最初のキューブ フィルタになります。それ以降は同様です。 |
| 最大列幅 | 列の最大ピクセル数を入力します。 |
| すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない | すべてゼロ、すべて空白、またはこの両方の組み合わせを含む行を非表示にするか表示します。空白またはゼロの行を非表示にした場 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 合、チーム メンバーは "行を追加" ボタンを使用して、データ入力のために空白のセルを検索できます。 |

6. シートを保存します。
7. "シート" に移動してシートを開きます。
   セキュリティ: "シートへのアクセス" 権限
8. "表示オプション" ボタンをクリックします。
9. 表示オプションを更新する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 開始日および終了日 | シートに表示される期間範囲です。 |
| 期間のチェックボックス | シートに表示されるさまざまな期間と合計です。 |
| すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない | すべてゼロ、すべて空白、またはゼロと空白が組み合わさった行を非表示または表示します。 |
| その他のタブ | シートには、組織や科目など、各属性のタブがあります。フィルタ、行、または列に表示する値を選択できます。 |
| スパークライン | データの折れ線グラフまたは横棒グラフを表示する列を追加します。グラフ上のポイントをドラッグしてシートのデータを変更できます。 |

10. "すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定する" チェックボックスをオンにします。
11. シートを保存するには "OK" をクリックします。

タスクの結果

シートは、初めてシートを開いたすべてのユーザーに対して、定義したとおりに表示されます。キューブ シート ツールバーの "デフォルト ビューにリセット" ボタンでも、設定した初期表示に戻ります。

例

次のタスク

シートの作成または変更を続行できます。

relatedlinks
概念
概念: シート ビュー
タスク
キューブ シートでの行の追加
キューブ シートの容量の表示 ( 1102ページ )
キューブ シート ビューの変更
参考
参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ ( 1111ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### キューブ シートの制限の設定

#### 始める前に

- マージされたキューブ シートでは使用できません。
- シートにカスタム属性または特性が必要です。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

#### このタスクについて

データの交差部分へのアクセスを制限することで、データを保護し、キューブ シートを簡素化します。キューブ制限を設定することで、計画が柔軟になり、計画のプライバシーも保護されます。

#### 手順

1. シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）または 新しいシートの開始（1018ページ）。
2. "制限" をクリックします。
3. "新規追加" ボタンをクリックします。
4. 左側のボックスから、制限を決定する属性を選択します。
5. 右側のボックスから、制限したい属性を選択します。
   リスト内のグレーのアイテムは次を意味します。
   - この組み合わせにはすでに制限が存在します。
   - 左側のボックスにおいて選択された属性を持つ属性を制限できません。例: 科目を使用して科目特性を制限することはできません。
6. "次へ" をクリックします。
7. 右側から、制限する要素をクリックします。
8. 左側から、制限する要素をクリックします。

#### タスクの結果

シートの制限した交差部分が非表示になります。

#### 例

新しい "製品" 属性値として "帽子" を加えました。"帽子" は what-if シナリオのために作成したものです。チームが今年の予算を準備するにあたり、チームを混乱させたり、作業を煩雑にしたりしたくありません。そこで、キューブ制限で、制限する "バージョン" と "製品" を選択します。"次" をクリックした後、バージョン リストから今年の予算バージョンをクリックします。"製品" 属性リストから "帽子" を選択します。今年の予算バージョンで作業している場合には、ユーザーがシートを開いたときに、"帽子" 属性値が表示されません。

#### 次のタスク

シートの作成または変更を続行できます。

### キューブ シートの容量の表示

#### 始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

#### このタスクについて

キューブ シートが容量を超えると、データの表示または変更ができなくなります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

モデル作成者は、各バージョンのキューブ シートのサイズ容量を表示して、データ制限を超えないようにすることができます。容量はバージョンごとにパーセントで表示されます。パーセントは、ゼロを含む最も近い整数に四捨五入されます。

現在の容量がわかれば、キューブ シートへの変更についてより適切な判断ができます。

ユーザーがシートを表示する際も、シートが容量の上限を超えている場合には警告メッセージが表示されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を選択します。
2. キューブ シートへのアクセス権の割当方法に応じて、以下のいずれかを選択します。
   - 組織割当シート
   - ユーザー割当シート
3. シート リストからシート名の横にある "編集" をクリックします。
4. "容量を表示" を選択します。
5. バージョンを選択します。
   アクセス権の有無に関係なく、すべてのバージョンが表示されます。
6. "表示" を選択して、選択したバージョンのシート容量を計算します。
   別のバージョンの容量を表示するには、もう一度 "表示" を選択する必要があります。

次のタスク

キューブ シートの容量を超えないようにするには、シートまたはモデルを変更して容量を減らします。

relatedlinks
概念
概念: ロック済、アーカイブ済、非表示のバージョン（822ページ）
参考
参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ（1111ページ）
トラブルシューティング: キューブ シートの容量を削減（1121ページ）

概念: キューブ シートの作成

キューブ シートには、指定された属性のセットにわたって入力された多属性データを格納できます。キューブ シートの一般的なユース ケースは次のとおりです。

- 製品の収益計画。
- オペレーション メトリック。

キューブ シートの仕組み
キューブ シートとマージされたキューブ シートで、エンド ユーザーは追加されたすべての属性と特性を使用してシートをピボットし、フィルタリングできます。一般的に、ユーザーはカスタム属性によって特定の科目にデータを入力し、シートを保存するとすぐに算出科目の更新を確認します。

エンド ユーザーが シート 領域からシートを開くと、以下の方法でシートをピボットできます。

- 属性を列に移動します。
- 行に複数の属性をネストします。
- 属性をフィルタに移動する。

エンド ユーザーはマージされたキューブ シートにデータを入力できません。マージされたキューブは、他のシートで収集されたデータとそのデータに基づく計算の複合物です。マージされたキューブ シートは、常に読み取り専用です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### キューブ シート作成のオプション

キューブ シートを作成するときに、シートをマージされたキューブにするオプションがあります。マージされたキューブ シートは、ソース シートのデータの存在を結合するタイプのキューブ シートです。シートの作成を開始したら、" シート サマリ" を使用して以下にリンクできます。

- キューブ科目: 科目と科目設定を管理します。参照 キューブ科目の作成（1092ページ）。
- 属性、特性、組織: シートで属性を追加および削除し、それぞれの設定を管理します。 参照 キューブ シートへの属性および特性の追加（1095ページ）および 参考: キューブ シートのシート プロパティ（1113ページ）。
- 制限: データのさまざまな交差に対する制限を設定します。参照 キューブ シートの制限の設定（1102ページ）。
- すべてのデータを消去: すべてのデータを削除します。これは、キューブから属性を削除する場合に必要です。参照 シート内のすべてのデータを消去（1021ページ）。
- 容量の表示: バージョンごとにシートの現在の容量をレビューします。参照 キューブ シートの容量の表示（1102ページ）。

### キューブ シートの属性

キューブのすべての要素は 1 つの属性とみなされます。" シート サマリ"で "属性、特性、組織" をクリックすると、これらの要素を管理できます。

キューブ シートで利用できる属性には以下があります。

- 時間 (必須): シートに表示される期間を管理できます。
- 組織 (必須): 組織の使用可否を変更できます。参照先
- 科目 (必須): キューブ シートのデータ入力には、少なくとも 1 つの標準科目が必要です。算出科目をシートで表示または非表示にできます。
- 属性: 最大 10 のカスタム属性をシートに追加できます。属性と属性値が多すぎるとシートのパフォーマンスに影響が及ぶ能性があります。
- 特性: ユーザーがシートをフィルタしやすくするために特性を追加できます。

通常のキューブ シートにカスタム属性を追加すると、キューブ シートによってユーザーはカスタム属性値のデータを入力させられます。データは常に属性によって切片化されています。そのため、グラフとレポート付きのデータを簡単にレポートできます。

キューブ シートを作成すると、" 時間"、"組織"、"科目" がすでにキャンバスにあります。その後、他の属性をキャンバスにドラッグできます。

デフォルトでは、 時間 は列、 科目 は行です。その他の属性はすべてフィルタです。"シートのプロパティ">"初期表示"で表示を変更できます。ユーザーは自身のシートのデフォルト ビューを保存できます。

### キューブ科目

"シート サマリ"で "キューブ科目" をクリックすると、各科目のタイプを含むキューブ科目のリストを確認できます。

| 科目タイプ | 説明 |
| --- | --- |
| キューブ | 以下が キューブ標準科目です。<br>• 通常のキューブ シートには少なくとも 1 つのキューブ標準科目が必要です。<br>• シートから数値または数式を科目に入力するために使用します。<br>• 設定はカスタム科目の場合と同じです。"シート" セクションには追加の "シート上は読み取り専用" チェック ボックスがあります。参照 参考: カスタム科目の設定（959ページ）。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目タイプ | 説明 |
| --- | --- |
| | • モデル全体において、これらの科目を数式で参照できます。 |
| 算出 | これらは キューブ算出科目です。<br>• シート内のデータを使用して科目のデータを主導したい場合に使用します。<br>• 科目は読み取り専用です。なぜなら、科目の設定において入力する数式がデータを計算するからです。<br>• 算出科目の数式は、モデル内の科目のみを参照できます。<br>• 通常のキューブ シートでは、算出科目には少なくとも 1 つの標準キューブ科目のデータが必要です。データがない場合、数式はゼロと評価されます。マージされたキューブ シートはソース シートのデータを使用します。<br>• モデル全体で数式のキューブ算出科目を参照できます。 |
| リンク済 | 以下は、他の科目にリンクする キューブ標準科目です。<br>• 他のキューブ シートまたはモデル シートのデータを表示するために使用します。概念: リンク元科目を参照してください。<br>• 科目の " タイプ" で、任意の標準科目をリンク元科目にすることができます。<br>• リンク元科目のデータは読み取り専用です。チームでこれらのセルを探索してソース シートを特定し、データを編集できます。<br>• リンク元 タイプは、他の元帳からではなく、他のモデルやキューブにリンクする科目に表示されます。 |
| 標準 | 以下は、キューブ入力総勘定元帳またはカスタム科目です。<br>• キューブ シートからのデータを総勘定元帳科目またはカスタム科目に入力するために使用します。<br>• 総勘定元帳科目とカスタム科目は 、"データ入力タイプ"で選択された ″キューブ″ を持たなければなりません。 |
| 前提条件 | 以下が キューブ前提条件科目です。<br>• 前提条件は、グローバル組織でデータを主導します。<br>• 科目設定を使用し、すべての組織または最上位組織のみのいずれかで前提条件科目を表示できるようにします。<br>• キューブ算出科目の数式またはモデル全体においてキューブの前提条件を参照します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目タイプ | 説明 |
| --- | --- |
| | • マージされたキューブ シートでは前提条件科目を使用できません。 |
| メトリック | 以下は キューブ メトリック科目です。<br>• キューブのメトリック科目は、標準シート上のメトリック科目のように機能します。シートからこれらの科目に数字や数式を入力できません。<br>• キューブ メトリックの数式は、モデル内の科目を参照できます。<br>• 合計は最初に数式のコンポーネントを合計し、数式を計算します。 |

マージされたキューブ シートでは、下記のみを作成できます。

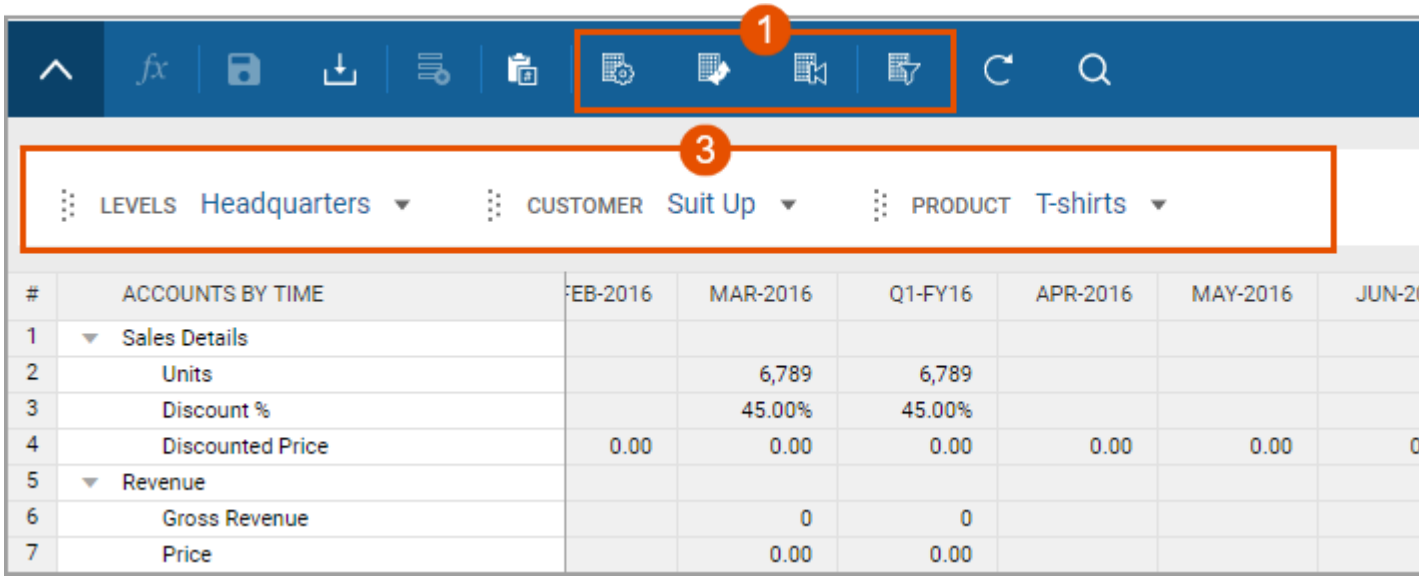
- キューブ算出科目 (少なくとも 1 つが必要)。この科目では、データ入力オーバーライド オプションは使用できません。
- キューブ メトリック科目

パフォーマンスとユーザビリティの管理

キューブ シートは多くの属性を保持でき、数万以上のセルを作成できます。エンド ユーザーにとっては複雑に思われる場合があります。Adaptive Planning には、シートのパフォーマンスと使いやすさの向上に役立つ多くのオプションが用意されています。 次を参照してください。

- シート メトリックのチェック ( 725ページ ) .
- 参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ ( 1111ページ ) .

シート領域でのキューブ シートの表示




| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 1 | ツールバーにさらにオプションを表示できます。シートをピボットし、複数の方法でデータを表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 2 | ツールバーに組織のドロップダウン リストがありません。組織は、フィルタ、列、または行として使用する属性です。 |
| 3 | 代替属性: データをフィルタして列と行にドラッグ アンド ドロップし、行に最大 5 つの属性をネストします。 |

マージされたキューブ シートは、常に読み取り専用です。これらのシートでは、他のシートに存在するデータを結合して計算済データを表示します。

キューブ シートのユース ケースでは複雑かつ多属性な営業予測をモデリングしていますが、このキューブ シートはほぼすべての多属性モデルのプランニングに使用できます。

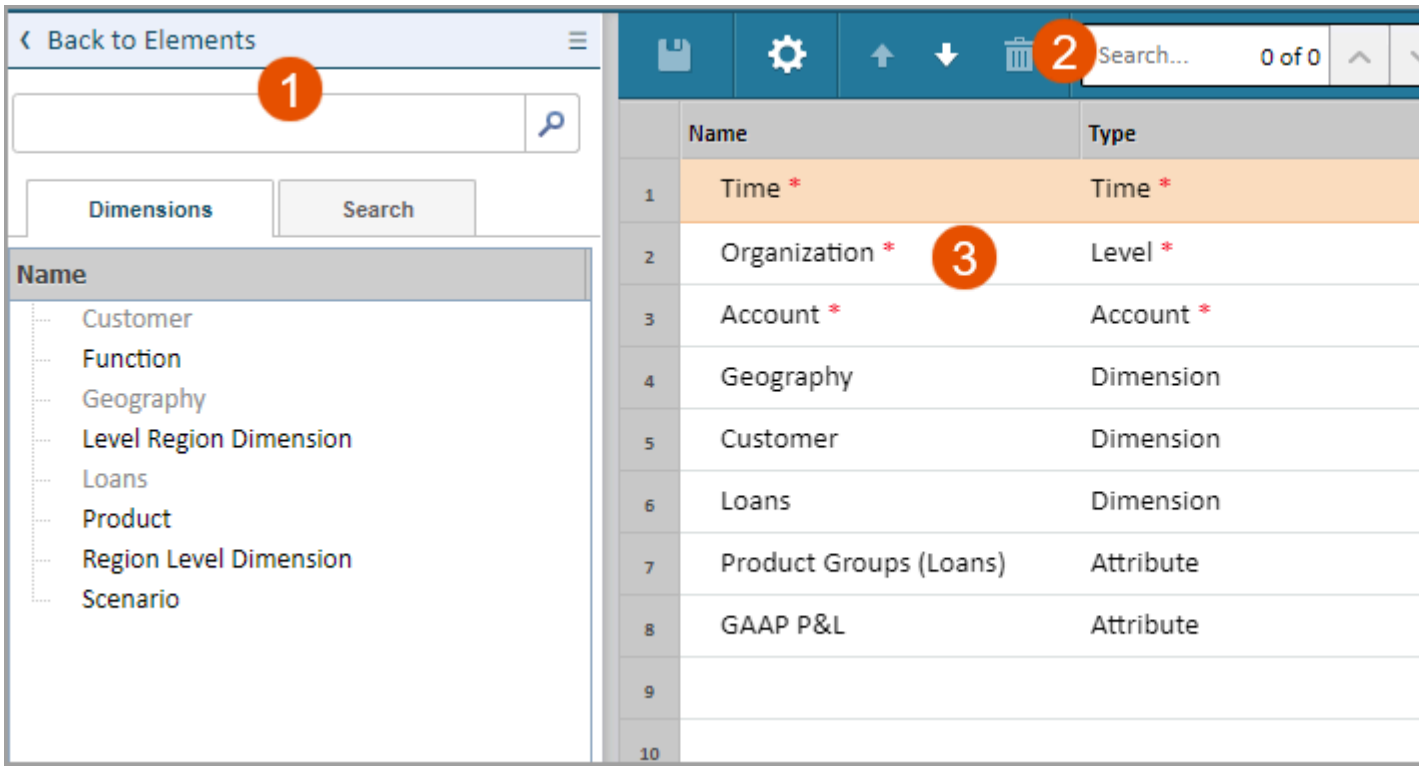
relatedlinks
概念
概念: 科目（887ページ）
タスク
シート タイプを特定
キューブ シート ビューの変更

概念: キューブ シート作成のクイック ツアー

キューブ シートとマージされたキューブ シートは、複雑な予測をモデリングするために設計されています。これらのシートには、指定された属性のセットにわたって入力された多属性データを格納できます。3 つのペインを持つユーザー インターフェイスであるキューブ シート ビルダーを使用してキューブを定義します。

| | |
| --- | --- |
| 1 | すべてのカスタム属性および特性を一覧表示します。それらをキャンバスにドラッグ アンド ドロップしてシートに追加します。 |
| 2 | シートを保存し、属性を削除し、シートのプロパティに移動します。 |
| 3 | 各行はシート上の属性です。赤いアスタリスク (*) が付いたものは削除できません。 |
| 4 | キャンバスから行を選択し、要素の設定を編集します。各要素のタイプ別に違う設定を使用できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




概念: マージされたキューブ シート

マージされたキューブ シートでは、属性を組み合わせて、最大 3 つの他のキューブ シートまたはモデル シートのデータが使用されます。

マージされたキューブ シートを使用する理由

下記の理由で、マージされたキューブ シートを使用します。

- シートにデータがなくても、算出科目を作成できます。通常、キューブの標準科目のデータがないと、数式の評価がゼロになってしまいます。マージされたキューブ シートは、ソース シートのデータを使用することで、このルールを回避します。
- 必要な属性だけが含まれた簡潔なソース シートを使って計画を行います。次に、簡潔なシートをマージして、ソース シートの複数の属性にわたる複雑なデータをまとめます。

他の方法でも、マージされたキューブ シートを使用できます。ただし、モデルが複雑になり、予期せぬ動作を引き起こす可能性があります。

- 数式を使用した属性値の配賦。
- 他のキューブ シートで自分のキューブ計算を有効にするための計算識別子のソース。
- 一連のマージされたキューブ。例: マージされたキューブ 2 のソースとして使用されるマージされたキューブ 1。

マージされたキューブ シートの例
収益を算出するためには、顧客、地域、製品など複数の属性における数量と価格を知る必要があります。これらの属性に複数の値がある場合、1 つのシート内でまとめて完成させるには時間がかかります。プランニングを 1 つまたは 2 つの属性の簡潔なシートに分解できます。

- 数量を予測するために顧客属性のみでモデル シートを作成します。各顧客が購入する製品の合計を、製品ごとに分けずに入力またはインポートします。
- キューブ シートを製品属性のみで作成し、顧客ごとに分けずに製品ごとの価格とミックスを予測します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- マージされた収益シートでは、この 2 つのシートをまとめて、顧客や製品ごとに数量と価格を掛けたものを確認できます。

特性
マージされたキューブ シートは、キューブ シートの一種です。通常のキューブ シートと同じ方法で作成しますが、いくつかの追加ステップと制限があります。

マージされたキューブ シート:

- データ入力に対応していません。常に読み取り専用です。
- 1 つ以上の算出科目が必要です。この科目では、データ入力オーバーライド オプションは使用できません。
- 科目グループ、算出科目、メトリック科目のみを許可します。
- 最大 3 つのソース シートを組み合わせることができます。ソース シートは、モデル シートまたはキューブ シートでなければなりません。上限を増やす必要がある場合は、お問い合わせください。
- 既にソース シートにある属性以外を含めることはできません。
- すべてのソース シートに共通する属性を含める必要があります。例: 両方のシートに製品属性が含まれている場合、マージされたキューブにも製品属性が含まれている必要があります。
- キューブは制限できません。
- ソース シートのデータが入力されている属性の交差部分のみを計算します。

概念: キューブ シート計算はゼロと評価する必要がある

この警告は、キューブ計算がシート ビューからエラーとして表示されていることを示します。 この エラーによって、キューブ シートは引き続き実行されます。

ゼロへの評価のメリット

キューブ シートをディナー テーブルと考え、セルをテーブルの席と考えます。ホストは棚卸しされた席で食事を提供します。同様に、数式が空のセルを参照する場合、キューブは計算を実行しません。代わりに、キューブはゼロと計算されるか、給仕されません。

このシステムは、参照された科目が同じキューブにある場合にすべて正常に機能します。しかし、参照された科目が同じキューブにない場合、キューブはゼロと評価するタイミングがわかりません。

これは、食事時にホストに目盛りを適用するようなものです。プレートがどこにあるか分からないまま食事を提供しなければならない場合、ホストは食事とエネルギーを廃棄します。同様に、ゼロと評価される時期を知るためにキューブがすべての交差を検索する必要がある場合は、シートのパフォーマンスに負担がかかります。

代わりに、ホストはサービスを拒否します。同様に、キューブは計算を拒否し、代わりにエラーを返します。

同じキューブ シート内の計算

この例では、同じシート内の科目を参照する場合にキューブ シートの計算がどのように機能するかを示します。

- ACCT.CubeCalc と ACCT.Cube_001 が同じキューブ シートに存在します。
- ACCT.Cube_001 はデータ入力科目です。
- ACCT.CubeCalc には、キューブ科目を参照する次の数式が含まれています: ACCT.Cube_001 * 5

| Account | 1 月 | 2 月 |
|---|---|---|
| ACCT.Cube_001 | 5 | |
| ACCT.CubeCalc | 25 | 0 |

ACCT.Cube_001 には 2 月のデータがないため、キューブ計算の評価は 0 になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### キューブ外を参照する計算

この例では、キューブ シート外で科目を参照する場合にキューブ計算がどのように機能するかを示します。

- ACCT.CubeCalc は、キューブ シート外の総勘定元帳である ACCT.002 を参照します。
- ACCT.CubeCalc には、総勘定元帳を参照する次の数式が含まれています:*div (ACCT.002, 2)*。

"モデリング"でキューブ算出科目を保存すると、次のエラーが発生します: キューブ計算の数式はゼロと評価される必要があります。このエラーによってシートを保存することはできます。ただし、シートでは、以下のセルにエラーが表示されます。

| Account | 1 月 | 2 月 |
|---|---|---|
| ACCT.CubeCalc | エラー | エラー |

ACCT.002 の科目はキューブ シートにないため、キューブ計算では、この科目が 1 月または 2 月にパネルにあるかどうかがわかりません。キューブは、提供される可能性のあるすべての席で食事を提供するのではなく、すべての交差部分を検索しますが、食事の提供をすべて拒否します。これはエラーを返します。

### キューブ シート内の科目をトリガ

このエラーを解決するには、次の方法があります。

- 別のキューブ科目をトリガ科目として参照し、数式に 「*isblank*」 条件を追加します。構文 「*ACCT.account_code*」 を使用し、「*account_code*」を モデルの有効な科目コードに置き換える必要があります。*account.this* は使用できません。
- 総勘定元帳科目またはカスタム科目をキューブ入力科目としてキューブに追加します。 参照 キューブ シートへの総勘定元帳科目およびカスタム科目の追加（1094ページ）。
- マージされたキューブ シートを作成する。トリガー科目は不要です。参照 概念: マージされたキューブ シート（1108ページ）。

トリガーは、キューブ メトリック科目を除く、同じキューブ上の任意の科目にすることができます。トリガは、テーブルに想定されている版がどこにあるかをキューブ計算に伝えます。ACCT,CubeCalc の数式のエラーを削除するには、次のように更新します。

- 古い数式: div (ACCT.002, 2)
- 新しい数式: if (isblank (ACCT.Cube_Trigger), 0, div (ACCT.002, 2))

新しい数式は、トリガ科目 が空白の場合はゼロを返す、というものです。それ以外の場合は、総勘定元帳科目を 2 で割ります。シートからエラーを削除します。この計算は、総勘定元帳にデータがあっても、トリガにプレートがある場合にのみ機能します。

| Account | 1 月 | 2 月 |
|---|---|---|
| ACCT.CubeCalc | 3500 | 0 |
| ACCT.Cube_Trigger | 1 | |

トリガーで 2 月にデータを追加すると、総勘定元帳内のデータが検索され、2 月の計算が行われます。

### キューブ トリガ科目の制限事項

キューブ メトリック科目はトリガとして機能しません。キューブ メトリックは、キューブ内のすべての交差で計算します。これらの関数は、すべての最下位の交差部分の交差を計算するだけでなく、親の交差部分のすべての置換も計算します。

キューブ メトリックにより、招待客が数人しかいない場合でも、ホストは相当な規模の夕食を提供することを強制されます。キューブ メトリックに 10 人の招待客が入った場合、10,000 個の食事が提供されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

そのため、メトリックをトリガとして使用すると、キューブ シートに不要な負荷がかかります。

トリガーは通常、システムに負荷を加える可能性があります。現在使用されていない交差部分にトリガを追加しないように注意してください。

効率的なトリガは、必要な交差のみを作成します。例: Planning データ ソースを使用して、特定の属性値のトリガをロードします。または、過去の組み合わせを使用して将来の値を示します。

relatedlinks
タスク
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）

参考: キューブ シートのパフォーマンスとユーザビリティ

キューブ シートの使いやすさとパフォーマンスを向上させるために使用できる多くのオプションを使用できます。キューブ シートは多くの属性を保持できるため、数千以上のセルを作成できます。エンド ユーザーには複雑に思われる可能性があります。以下のテーブルを使用して、エクスペリエンスを向上させます。

| オプション | 機能 |
| --- | --- |
| プランニング センター ()のシート メトリックをレビューしてください。 | 保存や表示の数などの使用状況や、ロード時間などのパフォーマンスを確認します。表示 シート メトリックのチェック（725ページ）。 |
| シートの容量をレビュー | バージョンごとの容量を定期的にレビューして、シートにデータが表示されないように変更を加えることができます。表示 キューブ シートの容量の表示（1102ページ）。 |
| ゼロと空白の非表示 | 初期表示でゼロや空白を非表示にすることができますが、チームが保存済み表示用にキューブ シートを配置する際にチームとのベスト プラクティスを後押しすることもできます。<br>ゼロまたは空白を非表示にすることで、以下のことが可能になります。<br>• 関連する交差部分を見つけるための時間制限のないスクロールを削減します。<br>• "行を追加" ボタンを有効にして、特定の空白セルを表示します。<br>• ロードするセルが少ないため、ロードが改善され、時間を節約できます。<br>表示  および キューブ シート ビューの変更 |
| 合計を非表示 | デフォルトでは、キューブはすべての属性の合計を計算します。シートに属性が多数ある場合は、合計を非表示にして、読み込みと時間を節約することを検討します。"ダッシュボード"、"Web レポート"、および OfficeConnect を使用して、常に合計に関するレポートを作成できます。<br>表示 参考: キューブ シートのシート プロパティ（1113ページ）。 |
| 計算範囲を設定 | デフォルトでは、時間フィルタが設定されている場合でも、キューブはバージョンの開始から終了まですべての科目数式を計算します。キューブに多くの計算が含まれている場合は、計算を関連期間に制限することを検討してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 機能 |
| --- | --- |
| | 表示 キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定（1023ページ）。 |
| フィルタに属性を保持 | 行ではなくフィルタ内の属性の大半を保持する初期表示を設定すると、シートのパフォーマンスが向上します。ユーザーがシート ビューを保存するときに、フィルタ内の属性をできるだけ維持するようユーザーに促します。<br>表示 および キューブ シート ビューの変更 |
| 初期表示でフィルタを使用 | 初期表示のフィルタから値を選択します。時間、属性、特性、組織でシートをフィルタリングすると、シートの読み込み時間が短縮されます。シートのフィルタリング済みビューを保存するようユーザーに促します。<br>表示 および キューブ シート ビューの変更 |
| 列幅を調整 | "シート" 領域でシートを確認し、列が広すぎたり、狭すぎたりしていないか状態を確認します。最適な幅を設けることで、使いやすさが向上します。<br>表示 参考: キューブ シートのシート プロパティ（1113ページ）。 |
| 要求に応じて再計算 | デフォルトでは、ユーザーがデータを入力してシートを保存すると、キューブ シートが計算されます。ユーザーがボタンをクリックするまで計算がすべて一時停止されるようにして、計算量が多いシートの負担を軽減します。<br>表示 概念: オンデマンド シート設定の再計算（1025ページ）。 |
| 科目の最適化 | • トリガ科目またはフラグ科目の使用を最小限にする。表示 概念: キューブ シート計算はゼロと評価する必要がある（1109ページ）。<br>• 算出科目の場合、実績バージョンのデータ入力オーバーライドを使用します。表示 科目の数式およびオーバーライドの追加または変更（869ページ）。<br>• リンク元科目の場合:<br>  • チェーンにリンクされた科目を削除する。代わりに、ソース データに直接リンク付けしてください。 例: 科目 A を科目 B にリンクします。科目 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 機能 |
| --- | --- |
| | B を科目 C にリンクします。科目 A を科目 C にリンクします。<br>• 分析目的でシート上のリンク元科目を削除する。レポートを使用して同じ目的を設定できます。<br>• 使用されなくなった旧口座のリンクを解除して削除します。<br>• 可能な場合、複数のリンク元科目を複数のソースにリンクする 1 つの科目に置き換えます。<br>• 表示 科目へのリンクの追加（908ページ）。 |
| 使用可否設定の管理 | 科目、属性値、組織、および特性値のシートの使用可否設定を減らす。シートに算出科目を表示させる必要がない場合もあります。ダッシュボード、Web レポート、OfficeConnect を使用して、組織のレポートを作成することもできます。表示 キューブ シートにおける使用可否設定の変更（1097ページ）。 |

relatedlinks
概念
概念: キューブ シートの作成（1103ページ）
概念: キューブ シート作成のクイック ツアー（1107ページ）
タスク
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）

参考: キューブ シートのシート プロパティ

キューブ シートの設定を開くには、シート サマリから "属性、特性、組織" リンクをクリックします。次に、ツールバーの歯車のボタンをクリックします。"設定" ダイアログには 3 つのタブがあります。

**"詳細" タブ**

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | シート名を入力します。 |
| 説明 | (任意) シートの目的を記述します。 |
| コード | シート内のすべての科目のプレフィックスとして使用されます。 |

**"設定" タブ**

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| このキューブに関連する時間層を選択します。 | レガシー カレンダーでは使用できません。<br>シートに表示される最小期間を示します。オプションは、カレンダーの設定によって異なります。通常は、"月"、"四半期"、"年" です。 |
| GL 科目とカスタム科目を再配置 | 通常のキューブ シートでのみ使用可能です。<br>キューブのルート科目を削除します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 参照 キューブ ルート科目の削除（1099ページ）。 |
| 合計を非表示にしてシートのパフォーマンスを改善 | 科目の合計を非表示にして、シートの読み込み時間を短縮します。 |
| ソース モデル シート | マージされたキューブ シートでのみ使用可能です。<br>全モデル シートのリストが含まれます。チェックボックスをクリックして、ソース シートの属性をマージされたキューブに取り込みます。ソース モデル シートとソース キューブ シートの両方で、合計 3 枚まで選択できます。 |
| ソース キューブ シート | マージされたキューブ シートでのみ使用可能です。<br>マージされた他のキューブ シートを含む、すべてのキューブ シートのリストが含まれます。チェックボックスをクリックして、ソース シートの属性をマージされたキューブに取り込みます。ソース モデル シートとソース キューブ シートの両方で、合計 3 枚まで選択できます。 |
| 要求に応じて再計算 | 手動再計算が有効になっているインスタンスで使用可能です。<br>ユーザーがシート ビューから "数式を再計算" ボタンをクリックするまで、計算結果が保持されます。<br>ステップ: 手動再計算の設定を参照してください。 |

"初期表示" タブ

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 横軸 | 列として横方向に表示される属性を示します。 |
| 縦軸 | 行として下方向に表示される属性を示します。 |
| 最大列幅 | 各列の最大のピクセル数を示します。 |
| すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない | データのない行を非表示にします。 |

"適用範囲" タブ

"適用範囲" タブには、同じオプションを持つ 2 つのセクションが含まれています。

適用範囲を設定すると、シートでの計算の期間が指定され、シートのパフォーマンスの向上に役立ちます。 参照 キューブ シートおよびモデル シートでの計算の適用範囲の設定（1023ページ）。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 実績値 | 実績バージョンでシート上の計算の期間を設定します。<br>デフォルト:"バージョンの開始" から "バージョンの終了"までのシート上の数式を計算します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | プロンプトを使用して、数式の計算を実績バージョンの "次の時点 までの確定数字 を表示" 日付でオフセットします。 |
| 計画の値 | 計画バージョンでシートの計算の期間を設定します。<br>デフォルト: シート上の数式を "表示開始月" から "バージョンの終わり"まで計算します。<br>プロンプトを使用して、数式の計算を各計画バージョンの "計画の開始 " 日でオフセットします。 |

参考: キューブ シートの列のプロパティ

キャンバス行は、シートの列、行、フィルタに対応します。キャンバスには、常に時間、科目、組織が表示されます。また、カスタム属性や特性を追加することもできます。キャンバスの行タイプごとに設定が異なります。キャンバスのアイテムをクリックすると、設定を確認および変更できます。

時間のプロパティ

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 初期の残高 | シートのストック科目に、科目に取り込まれる初期残高の列があることを示します。 |
| 月、四半期、年 | 時間属性としてシートに表示される期間と時間合計を示します。このオプションは、カレンダー設定およびシート設定の時間層設定に基づきます。 |

科目のプロパティ

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| エクスポート | 現在の科目の使用可否設定をスプレッドシートにエクスポートします。構造と設定を一括で変更します。次に、"インポート" オプションを使用して変更をインポートします。 |
| インポート | 空白のスプレッドシート テンプレートをダウンロードします。テンプレートで科目の使用可否設定を変更します。スプレッドシートをインポートします。 |
| チェックボックス付きのキューブ アカウント構造 | シート内の科目の使用可否設定を示します。各チェックボックスをクリックして、科目をシートに追加したり、シートから削除したりします。<br>科目は少なくとも 1 つ選択してください。 |

組織プロパティ

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| エクスポート | 現在の組織の使用可否設定をスプレッドシートにエクスポートします。構造と設定を一括で変更します。次に、"インポート" オプションを使用して変更をインポートします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| インポート | 空白のスプレッドシート テンプレートをダウンロードします。テンプレートで組織の使用可否設定を変更します。スプレッドシートをインポートします。 |
| チェックボックス付きの組織構造 | シートにおける組織の使用可否設定を示します。各チェックボックスをクリックして、組織をシートに追加したり、シートから削除したりします。<br>組織の合計値を行に表示するには、親組織も選択します。<br>組織ベースのセキュリティを使用している場合、組織割当シートでは、オンにした組織に割り当てられたユーザーのみがシートを開くことができます。ステップ: 組織ベースのセキュリティの設定を参照してください。 |

属性のプロパティ

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| シート上で属性を編集 | チーム メンバーがシートから属性の値を追加および変更できます。 |
| シートですぐに使用可能 | 新しい属性値がシート上で自動的に使用可能になることを示します。 |
| シートで使用不可 | 新しい属性値がシート上で使用可能にならないことを示します。 |
| シートで親を使用できる場合にのみ使用可能 | 階層的な属性にのみ適用されます。<br>親の値がすでにシート上にある場合にのみ、新しい子の属性値がシート上で使用可能になることを示します。 |
| エクスポート | 現在の属性値の使用可否設定をスプレッドシートにエクスポートします。構造と設定を一括で変更します。次に、"インポート" オプションを使用して変更をインポートします。 |
| インポート | 空白のスプレッドシート テンプレートをダウンロードします。テンプレートで属性値の使用可否設定を変更します。スプレッドシートをインポートします。 |
| チェックボックス付きの属性構造 | シートにおける属性値の使用可否設定を示します。各チェックボックスをクリックして、値をシートに追加したり、シートから削除したりします。<br>カスタム属性の合計値を行に表示するには、ルート属性を選択します。<br>データが関連付けられている属性値を削除すると、関連付けられているデータも削除されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

特性のプロパティ

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| シートですぐに使用可能 | 誰かが新しい特性値を追加したときに、その値が自動的にシート上で使用可能になることを示します。 |
| シートで使用不可 | 新しい特性値がシート上で使用可能にならないことを示します。 |
| シートで親を使用できる場合にのみ使用可能 | 階層的な特性にのみ適用されます。<br>親の値がすでにシート上にある場合に、新しい子の特性値がシート上で使用可能になることを示します。 |
| エクスポート | 現在の特性値の使用可否設定をスプレッドシートにエクスポートします。構造と設定を一括で変更します。次に、"インポート" オプションを使用して変更をインポートします。 |
| インポート | 空白のスプレッドシート テンプレートをダウンロードします。テンプレートで特性値の使用可否設定を変更します。スプレッドシートをインポートします。 |
| チェックボックス付きの特性値リスト | シートにおける特性値の使用可否設定を示します。各チェックボックスをクリックして、値をシートに追加したり、シートから削除したりします。 |

参考: キューブ科目の科目設定

キューブ科目設定

キューブ科目の設定を確認するには、シート サマリから "キューブ科目" をクリックします。参照 シート サマリにアクセスしてシートを編集（1020ページ）。

| 科目タイプ | 参考へのリンク |
| --- | --- |
| キューブ算出科目 | 参考: カスタム科目の設定（959ページ） |
| キューブ標準科目 | 参考: キューブ標準科目の設定（953ページ） |
| キューブ科目グループ | 参考: 科目グループの設定（958ページ） |
| キューブ メトリック科目 | 参考: メトリック科目の設定（966ページ） |
| キューブ前提条件科目 | 参考: 前提条件科目の設定（948ページ） |
| キューブ入力総勘定元帳科目とキューブ入力カスタム科目 | 参考: キューブ入力科目の設定（968ページ） |

各ステップの例: 製品別および顧客別の収益のマージされたキューブ シートの作成

この例では、顧客別および製品別の収益を計算するマージされたキューブ シートの作成方法を説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

"製品" と "顧客" という 2 つの新しいカスタム属性を使用して計画を行うとします。顧客および製品ごとに収益を計算する必要があります。シートのパフォーマンスを向上させるために、両方のカスタム属性を持つ単一のキューブ シートは必要ありません。

始める前に

セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

手順

1. 属性値を持つ製品および顧客のカスタム属性を作成します。
   参照 例: 製品および顧客のカスタム属性の作成（989ページ）。
2. 各顧客が購入する製品の数を予測するためのモデル シートを作成します。
   参照 例: 顧客ごとの購入数量のモデル シートの作成（1084ページ）。
3. 購入する製品の価格とミックスを予測するためのキューブ シートを作成します。
   参照 例: 製品ごとの価格とミックスのキューブ シートの作成（1119ページ）。
4. "モデリング > 組織割当シート"をクリックします。
5. "新規シート作成" をクリックします。
6. 次のようにフォームに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 新しいシートの作成 | "キューブ" を選択します。 |
| シート名 | 「統合収益」と入力します。 |
| シート コード | 「MREV」と入力します。 |

7. "マージされたキューブとして作成" をクリックします。
8. "次" をクリックすると、"シート サマリ: 統合収益" ページが開きます。
9. "属性、特性、組織" をクリックします。
   "時間"、"科目"、"組織" の列が中央のキャンバスに表示されます。
10. ツールバーの歯車のアイコンをクリックします。
11. "設定" タブで、プロンプトから以下のシートを選択します。
    - ソース モデル シートの "数量"
    - ソース キューブ シートの "価格とミックス"
12. "OK" をクリックします。
13. "要素" タブで "属性" をクリックして、"顧客" と "製品" をキャンバスにドラッグします。
14. 中央のキャンバスで "科目" を選択します。
15. "科目のプロパティ" セクションの "科目" タブで、"統合収益" の横にあるチェックボックスをオンにします。
16. ブレッドクラムで "統合収益サマリ" をクリックします。
17. "キューブ科目" をクリックします。
18. ツールバーで "新規キューブ算出科目を作成" をクリックします。
19. 次のように設定項目を入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | 「PRxQTY」と入力します。 |
| 名前 | 「数量×価格」と入力します。 |
| 数式 | 「ACCT.PRC.prc[Product=this, Customer=(-)]<br>*ACCT.PRC.mix[Product=this, Customer=(-)] |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | *ACCT.QTY.Timespan[Customer=this, Product=(-)]」と入力します。 |

注 : この数式は、"顧客" 属性では計画されなかった、"価格とミックス" シート科目の未分類の "顧客" 属性値を参照します。この数式は、"製品" 属性では計画されなかった、"数量" シートの未分類の製品を参照します。

20."保存" をクリックします。

次のタスク

マージされたキューブでソース シートの属性値を使用して計算するには、ソース シートの各属性値にデータを入力します。

"シート" メニューから "統合収益" シートを開きます。製品ごとに各顧客の収益を確認できます。

relatedlinks
例
例: 顧客ごとの購入数量のモデル シートの作成 ( 1084ページ )

例: 製品ごとの価格とミックスのキューブ シートの作成

この例では、購入する製品の価格とミックスを追跡するためのキューブ シートを作成する方法を説明します。

このタスクについて

各製品の価格と、販売された製品の合計のうち各製品が占める割合を追跡するとします。キューブをシンプルにするため、製品を購入する顧客は追跡しません。

次に、このシートで収集したデータを使用して、マージされたキューブ シートで計算を実行します。マージされたキューブ シートでは、製品ごとに各顧客の収益が計算されます。

始める前に

- 製品属性を作成します。参照 例: 製品および顧客のカスタム属性の作成 ( 989ページ )。
- セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "組織割当シート" をクリックします。
3. "新規シート作成" をクリックします。
4. 次のようにフォームに入力します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 新しいシートの作成 | "キューブ" を選択します。 |
| シート名 | 「価格とミックス」と入力します。 |
| シート コード | 「PRC」と入力します。 |

5. "次" をクリックすると "シート サマリ: 価格とミックス" ページが開きます。
6. "キューブ科目" をクリックします。
7. ツールバーで "新規キューブ標準科目を作成" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

8. 次のように設定項目を入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | 「prc」と入力します。 |
| 名前 | 「価格」と入力します。 |
| 表示形式 | "通貨" を選択します。 |
| 小数部桁数 | "通貨の小数部桁数" を選択します。 |

9. "保存" をクリックします。
10. ツールバーで "新規キューブ標準科目を作成" をクリックします。
11. 次のように設定項目を入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | 「mix」と入力します。 |
| 名前 | 「ミックス」と入力します。 |
| 表示形式 | "パーセント" を選択します。 |

12. "保存" をクリックします。
13. ブレッドクラムで "価格とミックスのサマリ" をクリックします。
14. "属性、特性、組織" をクリックします。
15. 中央のキャンバスで "時間" 列を選択します。
16. "時間のプロパティ" セクションで、"初期の残高" および "四半期" のチェックボックスをオフにします。
17. 中央のキャンバスで "組織" を選択します。
18. "組織プロパティ" セクションの "組織" タブで、"名前" の横にあるチェックボックスをオンにします。

    "名前" を選択するとすべての組織が選択され、シートに追加されます。
19. "要素" タブの "属性" をクリックします。
20. "製品" を "組織" の下のキャンバスにドラッグします。
21. ツールバーの "保存" をクリックします。

次のタスク

"シート" メニューから "価格とミックス" シートを開きます。以下の項目に、データを次のように入力します。

- 組織: HQ
- バージョン: 実行予算
- 科目: ミックスと価格
- 期間: 2022 年のすべての期間

マージされたキューブを作成するときに、このシートをソース シートとして選択します。参照 各ステップの例: 製品別および顧客別の収益のマージされたキューブ シートの作成（1117ページ）。

relatedlinks
例
各ステップの例: 製品別および顧客別の収益のマージされたキューブ シートの作成（1117ページ）
例: 製品および顧客のカスタム属性の作成（989ページ）
例: 顧客ごとの購入数量のモデル シートの作成（1084ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

トラブルシューティング: キューブ シートの容量を削減

キューブ シートが容量を超えると、データの表示または変更ができなくなります。キューブ シートが容量を超える原因として、キューブ シート自体の問題またはモデルの問題が考えられます。

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| キューブ シートに以下のいずれかの算出科目が含まれている。<br>• 使用されていない組織<br>• バージョンに必要ありません。 | セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限<br>1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を 選択します。<br>2. キューブ シートへのアクセス権の割当方法に応じて、以下のいずれかを選択します。<br>• 組織割当シート<br>• ユーザー割当シート<br>3. シート リストからシート名の横にある "編集" をクリックします。<br>4. "キューブ科目" を選択します。<br>5. 算出科目を選択します。<br>6. バージョンに不要な算出科目を変更するには、次のようにします。 を選択します "数式バージョン セレクター" フィールドのバージョン<br>7. "データ タイプ" セクションの "オーバーライド数式設定" フィールドで、"データ入力" を選択します。<br>一般的には、実績バージョンのデータ入力オーバーライドを設定することをお勧めします。 |
| キューブ シートに非アクティブまたは不要な組織が含まれている。<br>キューブ シートがデフォルトでキューブ前提条件を使用する場合、これらのキューブ前提条件は含まれるすべての組織に適用されます。キューブ前提条件により、キューブ シートで使用されるデータ量が増加します。 | セキュリティ:<br>• "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限<br>• "組織構造" 権限<br>1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を 選択します。<br>2. キューブ シートへのアクセス権の割当方法に応じて、以下のいずれかを選択します。<br>• 組織割当シート<br>• ユーザー割当シート<br>3. シート リストからシート名の横にある "編集" をクリックします。<br>4. "属性、特性、組織" を選択します。<br>5. 中央のキャンバスから組織属性を選択します。<br>6. "組織プロパティ" セクションの "組織" タブで、非アクティブまたは不要な組織のチェックボックスをオフにします。 |
| キューブ シートに含まれるリンク元科目が、以下のいずれかにあてはまる。<br>• 十分なデータがフィルタリングされていない (シート上で不要な計算が強制的に実行される) | 例: 1 つの特性値または属性値のデータのみを取り込みたい場合は、その値のみを取り込むようにリンクを変更します。<br>同じ科目から複数の属性値を取得するには、その科目に複数回リンク付けすることをお勧めしま |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| • 非効率にリンク付けされている | す。各リンクで、次の属性値を選択します。この方法は、フィルタを使用せずに科目に 1 回リンク付けするよりも効率的です。<br><br>セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限<br><br>1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を 選択します。<br>2. キューブ シートへのアクセス権の割当方法に応じて、以下のいずれかを選択します。<br>• 組織割当シート<br>• ユーザー割当シート<br>3. シート リストからシート名の横にある "編集" をクリックします。<br>4. "キューブ科目" を選択します。<br>5. リンク元科目を選択します。<br>6. "リンク先" セクションで、フィルタリングするリンク元科目を選択します。<br>7. "編集" をクリックします。<br>8. 以下のセクションのフィールドで選択を変更します。<br>• 属性値の適用<br>• リンク フィルタ<br>9. 同じ科目に対してリンクをさらに作成する場合は、以下のようにします。<br>• "リンク科目を追加" セクションで、同じシートおよび科目を選択する。<br>• "リンク フィルタ" セクションで、別の属性値を選択する。<br><br>参照 科目へのリンクの追加（908ページ）。 |
| バージョンの期間が長すぎる。 | バージョンには、計画バージョンと実績バージョンの両方に必要な期間のみを含めるようにします。<br><br>計画バージョンについては、以下を行うことをお勧めします。<br><br>• 表示開始月をバージョンの最初の会計年度に設定する。<br><br>注： 表示開始月を先に進めると、新しい表示開始月より前に存在するバージョンのすべてのデータが削除されます。<br>• 計画の終了を現在の会計年度以前に設定する。<br>• 空の会計年度を削除する。<br><br>実績バージョンについては、以下を行うことをお勧めします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | • バージョンの開始をバージョンの最初の会計年度に設定する。<br><br>注： バージョンの開始を先に進めると、新しいバージョンの開始より前に存在するバージョンのすべてのデータが削除されます。<br>• バージョンの終了を現在の会計年度以前に設定する。<br>• 空の会計年度を削除する。<br><br>セキュリティ: "バージョン" 権限<br><br>1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を 選択します。<br>2. "バージョン" を選択します。<br>3. リストから該当するバージョンを選択します。<br>4. バージョン タイプに応じて、以下のフィールドの値を変更して期間を短くします。<br><br>• 表示開始月<br>• 計画の終了<br>• バージョンの開始<br>• バージョンの終了<br><br>参照 概念： 表示開始月（806ページ）。 |
| 組織構造に以下のような組織が存在している。<br><br>• 使用されていない組織<br>• 現在の計画バージョンで非アクティブに設定されていない組織<br>• 現在も実績を使用している組織<br><br>これらの組織を非アクティブにしないと、引き続き計算に含まれてしまいます。 | バージョンで組織の使用可否設定を変更して、これらの組織を使用できないようにします。<br><br>参照 組織の使用可否の変更（848ページ）。 |
| キューブ シート全体の適用範囲が広すぎる。 | キューブ シートを 2 つの小さなシートに分割します。<br><br>参照 ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成（1089ページ）。 |

relatedlinks
タスク
キューブ シートの容量の表示（1102ページ）

モデル シート テンプレート
資本シートの作成

資本シートのテンプレートを使ってシートを作成し、ユーザーはドロップ ダウンリストから資産クラス (例:"設備") を選択、資産コストを入力、および期間列の単位を入力します。資産クラスの選択に基づき、シートは自動的に各行に適切な減価償却タイミングを関連付けます。各行に地域やプロジェクトなど他の識別子を割り当てることもできます。

このトピックでは、資本シートの例を設定する方法について説明します。"資本" のモデル シート テンプレートから始め、カスタマイズします。シートの作成およびカスタマイズには、必要なタスクがいくつかあります。詳細については目次を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

前提条件
セキュリティ: "モデル" 権限

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング" を選択します。"シート" メニューで、"ユーザー割当シート" または "組織割当シート" を選択して自分のモデル内にあるシートのリストを表示します。

新規資本シートの作成
資本テンプレートは列とともに読み込まれます。これらの列は編集、並べ替え、または削除できます。列および列タイプは以下のとおりです。

- 資産クラス (テキスト セレクター)
- ラベル (テキスト)
- 組織 (必須の列)
- 経費 (数値)
- 資産量 (期間)

テンプレートは算出科目とともに読み込まれます。これらの科目は変更または削除できますが、変更は以下に提案されるものにとどめておくことが推奨されます。

科目は以下のとおりです。

- 値: `ROW.cost * ROW.Quantity` この数式は資本購入の値を計算するのに使用されます。
- 減価償却: スプレッド ルックアップを使用した科目値の拡がり Depr_Spread この算出科目には、資本価値の減価償却の拡がりの結果が記されます。

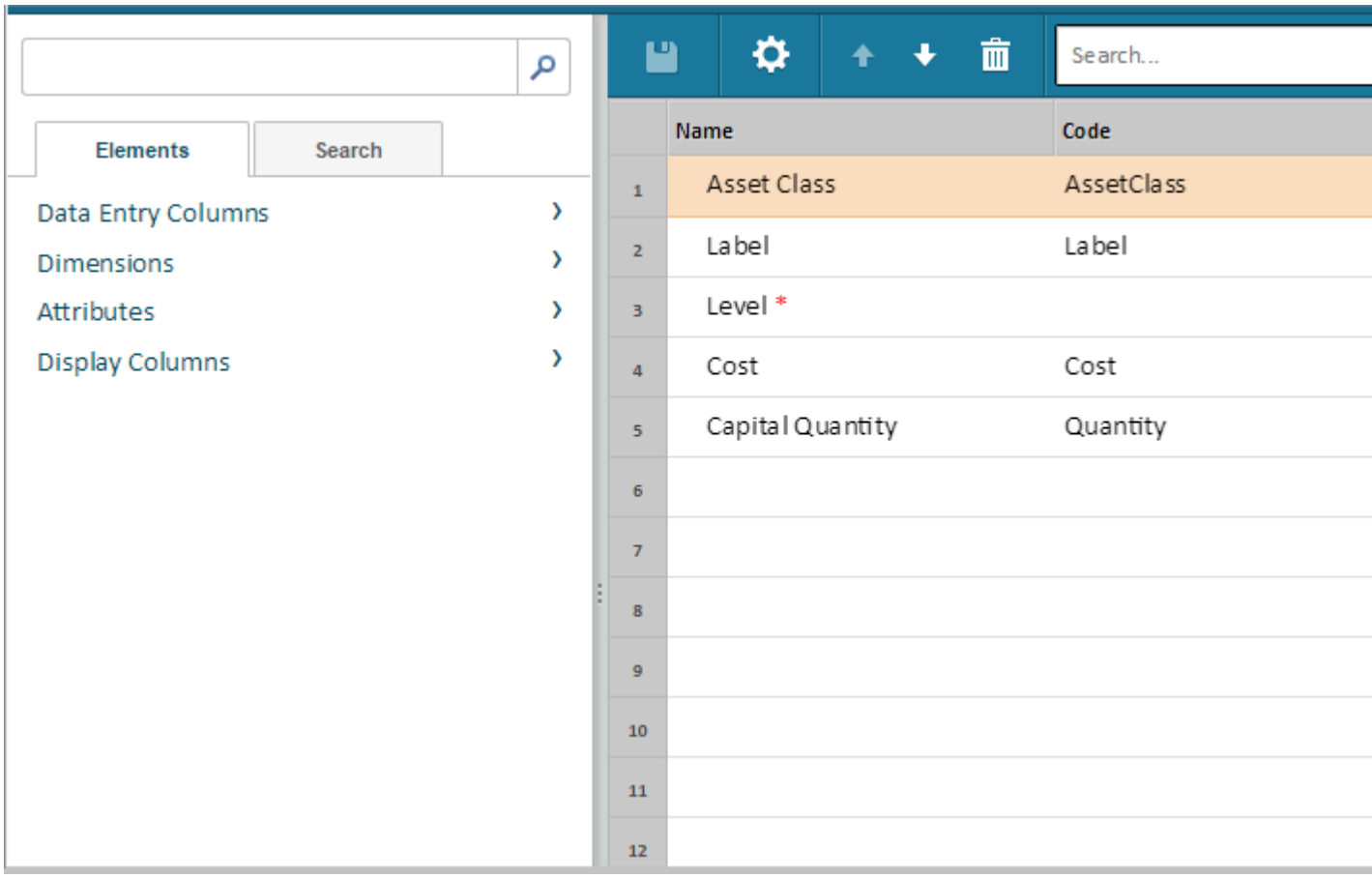
新規資本シートを作成するには、次のようにします。

1. シート リストから "新しいシート" ボタンを選択します。
2. シート名を入力します。
3. "新しいシートを作成" ラジオボタンを選択し、ドロップダウンから "モデル" および "資本" を選択します。
4. 科目コード プレフィックスを追加し、"次へ" を選択します。

シート サマリが表示されます。これでモデル資本シート を定義できます。

資産クラスの作成
この資本シートは、「設備」、「オフィス機器」、「コンピュータ」、「賃借店舗内装設備」などの異なる資産クラスを記載できるようデザインされています。クラスごとに、異なる減価償却年数を設定できます。設備と備品と賃借店舗内装設備の 2 つの資産クラスが元から設定されています。この 2 つはすぐ使用できるよう "資産 クラス" 列にすでに作成されています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




これらの資産クラスの名前を変更したり、また他のクラスを "テキスト セレクター" 列に追加したりできます。これで、シートで作業を行う他のユーザーがドロップダウン メニューからこれらの資産クラスを利用できます。

注：資産クラスをこのシート外の数式から参照する必要がある場合は、テキスト セレクターではなく、資産クラスのカスタム属性列を使います。

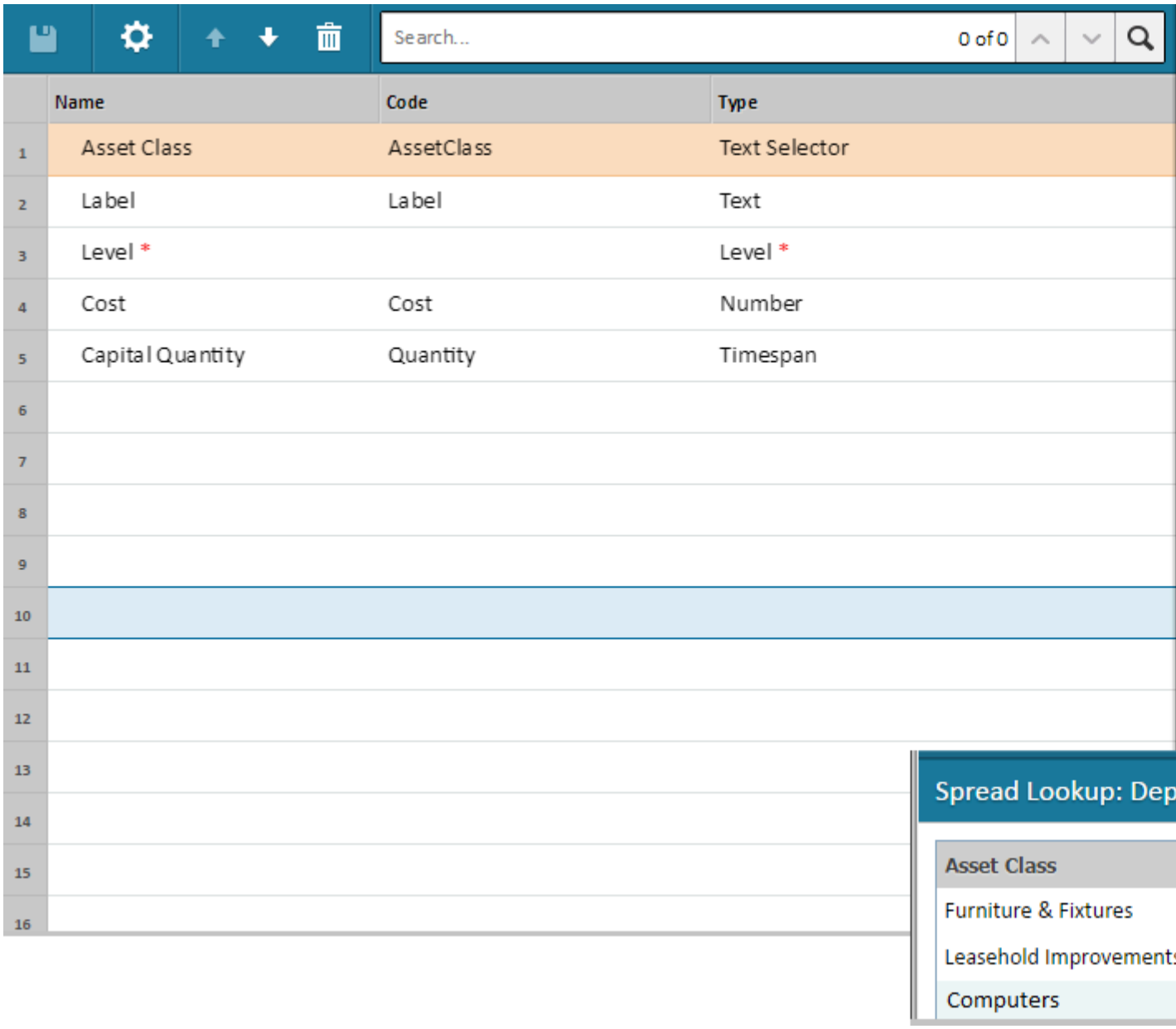
新規資産クラスを作成するには、次のようにします。

1. サマリから "列と組織" を選択し、シートの要素を表示します。
2. 中央パネルから (中央ペインにある) "資産クラス" 列を選択します。
3. "テキスト セレクター" で、展開コントロール (右ペイン) で、"新規値を入力" フィールドに新規資産クラスの名前を入力し、"追加" を選択します。新規資産クラスを追加したら、次のステップでは資産クラスの「減価償却ルックアップ」を定義します。

注：アイコンを使って、テキスト セレクター値を編集、削除、または並べ替えることができます。ユーザーが "資本" シートに新しい行を追加した場合、リストの最初の選択肢がデフォルト値です。

減価償却ルックアップの編集
資産クラスごとの減価償却パターンは、Depr_Spread スプレッド ルックアップで定義されています。スプレッド ルックアップは、入力したテキストまたは選択した属性を、時間の経過とともに広がった値 (スプレッド値) に変換します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




資産クラスの減価償却情報を追加するには、次のようにします。

1. "資産クラス" 列 (右ペイン) の "スプレッド ルックアップ" を展開します。
2. Depr_Spread ルックアップの隣の編集アイコンをクリックします。資産クラスのスプレッド ルックアップ一覧が表示されます。

   注 : "スプレッド ルックアップ" は "シート サマリ" からも編集できます。
3. 資産クラス (左ペイン) を選択し、減価償却の "スプレッド (月)" および "スプレッド式" を定義します。
   - スプレッド (月): 減価償却が行われる月数です。たとえば、「設備と備品」の使用年数が 3 年であれば、36 を入力します。"スプレッド (月)" の数のみを入力して保存すると、入力した月数にわたって均等に分布するスプレッド式が自動的に作成されます。
   - スプレッド式: 「1:36=1/36」のような範囲および分数です。各資産クラスの行の残りのセルに、月ごとの比率が設定されます。スプレッド式はパターンに従います。「A:B=n/d,C:D=n/d」で A と C は開始月番号、B および D は終了月番号を示します。　スプレッド比率 は「n/

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

d」です。スプレッド比率は、たとえば、「1/40」と分数で、または「.025」の数字で指定できます。

各範囲をロケール固有の区切り文字で区切ります。区切り文字はロケールにより、コンマ (,) あるいはセミコロン (;) となります。1 つの範囲のみ必要です。スプレッド式では、千単位の区切り文字は使用できません。

4. 資産クラスのスプレッド (月) およびスプレッド式を追加し終わったら、保存します。

シート プロパティの設定

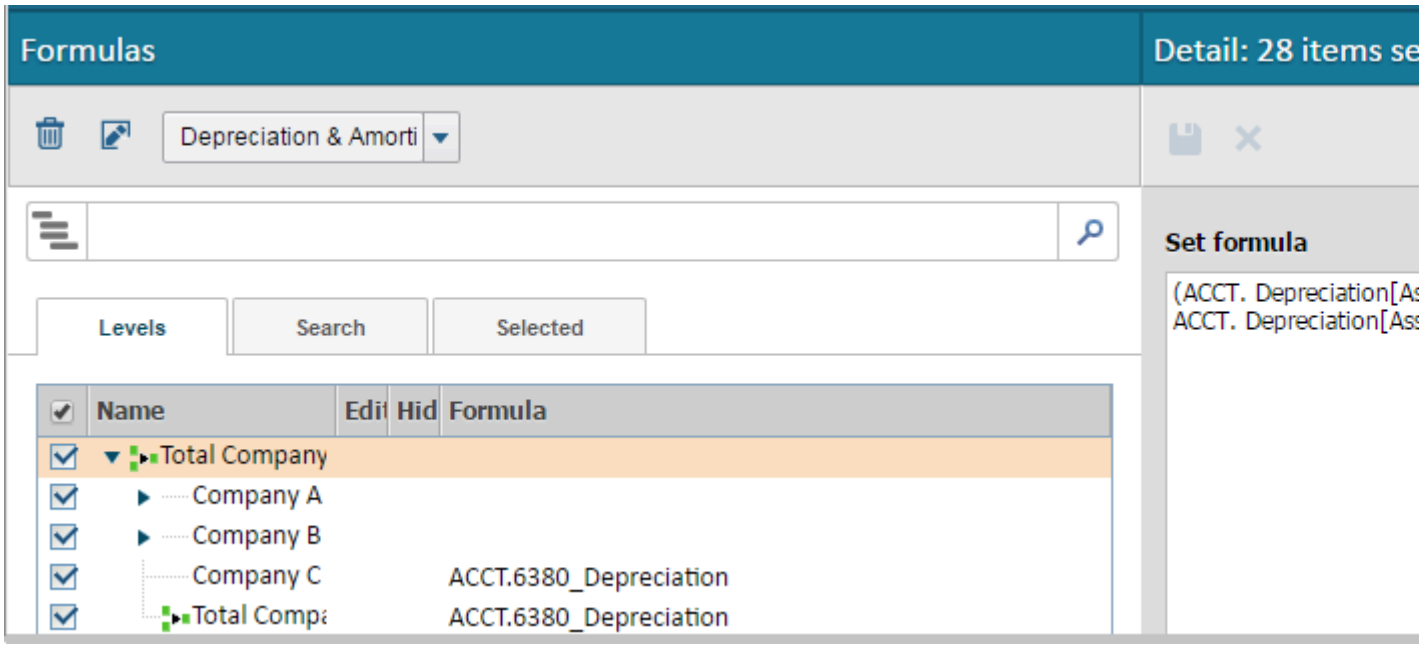
1. "資本" シートの "シート サマリ" で、"列と組織" を選択します。
2. ツールバーの歯車のボタンをクリックします。
3. 必要に応じて、シートの "詳細"、"セキュリティ"、および "設定" プロパティを定義します。 シート プロパティの設定 を参照してください。
4. "OK" を選択し、"モデル シートのプロパティ" を終了します。
5. "保存" をクリックして、シートへの変更をすべて保存します。

総勘定元帳科目をモデル科目にリンク
作成した "資本" シートの算出科目内の値を総勘定元帳科目にロールアップさせるには、この 2 つをリンクさせる必要があります。

資本シートを総勘定元帳科目にリンクするには、次のようにします。

1. ナビゲーション メニューから "数式" を選択します。
2. 各々の減価償却科目 (適切な部門ごとに 1 つ、つまり複数ある場合が多い) において、"資本" シートの減価償却計算結果を表示させる数式を設定します。
3. "科目" ドロップダウン メニューで減価償却科目を選択します。
4. すべての組織を選択します。
5. 数式を入力 (右ペイン) し、科目を資本シートの適切なモデル科目にリンクします。必要に応じて フォーミュラ アシスタントを使用します。例: `(ACCT. Depreciation[Asset Class=Computers] + ACCT. Depreciation[Asset Class=LHI]+ ACCT. Depreciation[Asset Class=Furniture])`

   注 : ここでは、テキスト セレクター列ではなくカスタム属性列として存在する資産クラスのみを参照できます。
6. 保存:




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

また数式をともなった資本資産貸借対照表科目を、このシートの算出科目にリンクすることもできます。詳細については 数式の概要を 参照してください。

資本支出値 – もう 1 つの方法
資本シート テンプレートは、ユーザーが資産価格および資産量を入力できるように設計されています。このシートでは、資本支出が「価格×数量」として自動的に計算されます。別の計画方法を使用する場合は、シートを "標準" のままにできますが、資産 1 つ分の価格を入力して"資産量" 列に資本支出予測を入力するようユーザーに指示します。シートをそのままの状態で残すことで、ユーザーは "価格×数量" 法を使うかどうかを選択できます。

"価格×数量" 法を使いたくない場合は、ユーザーが資本支出予測を入力できるよう変更してください。

シートを変更するには、次のようにします。

1. 作成した "資本" シートを検索し、"編集" をクリックします。
2. "シート サマリ" において、 "列と組織" を選択します。
3. "経費" 列にあるごみ箱ボタンをクリックします。警告メッセージが表示されたら "続行" を選択します。
4. "資本量" 列を選択し、"一般プロパティ" (右ペイン) で "資産量" (または類似した名称) に変更します。
5. 保存します。
6. "シート サマリ" に戻り、"モデル科目" を選択します。
7. "値" 算出科目内で数式を変更します。数式はデータ タイプの展開コントロール内にあります。
   `ROW.CapitalSpending`
8. 保存:

従業員シートの作成

このトピックでは、一般的な従業員シートを設定する方法について説明します。従業員向けのモデル シート テンプレートを作成してから、それをカスタマイズします。シートの作成およびカスタマイズには、必要なタスクがいくつかあります。

前提条件

- 必要な権限: "モデル管理アクセス" > "モデル"
- モデル シートの作成を参照してください。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング"を選択します。

従業員属性の作成
シートを作成する前に必要な従業員関連の属性を作成すると、時間を節約することができます。

"モデリング" メニューから "属性"を選択します。

1. 地域、ジョブ コードなど、従業員を特定するための属性を作成します。属性タイプを選択する必要はありません。
2. 各属性の値を作成します。たとえば、地域と呼ばれる属性は、北米、南米、アジアといった値を使用できます。

新しい従業員シートの作成

"モデリング" メニューから "組織割当シート" を選択します。

1. "新しいシート" ボタンを選択します。
2. シート名を入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "新規シートの作成" ラジオボタンを選択し、ドロップダウンから "モデル" および "従業員" を選択します。
4. 科目コードのプレフィックスを入力し、"次へ" を選択します。
5. "列と組織" を選択し、シートにすでに含まれている列を表示します。これらの列は好きなように編集、並べ替え、削除できます。列は、"姓" (テキスト)、"名" (テキスト)、"ID" (テキスト)、"組織" (必須の列)、"収益" (テキスト セレクタ)、"開始日" (日付)、"終了日" (日付)、"時間/週" (数)、"支払い単価" (初期の残高)、"/" (テキスト セレクター)" です。
6. 従業員シート テンプレートには算出科目が含まれます。左側のパネルから "表示列" を選択します。

これらの科目をシートに追加し、変更できます。これらの科目は、"収益" の計算を修正したい場合を除き、そのまま残すことをお勧めします。ブレッドクラムを使用して収益を修正し、シート サマリに戻ることができます。次に、"モデル科目" を選択します。

以下の科目が自動作成されます。

- 一部社員 `monthfraction(ROW.StartDate,ROW.EndDate,this,30)` この数式は、社員に支払われるべき月の割合を計算します。採用月 (開始日の月) では、月の一部になる可能性が高くなります。
- ヘッドカウント `if(month(this) >= month(ROW.StartDate) and (isblank(ROW.EndDate) or month(this) <= month(ROW.EndDate)), 1, 0)` この数式は人員を計算します。
- 時間 `ROW.HrPerWeek*ROW.PartialHeadcount` この数式は、時給社員の月あたりの作業時間数を計算します。
- 給与 `ROW.PartialHeadcount* if(ROW.per="Hr",ROW.HrPerWeek*(2080)/(480), 1/12) * ROW.PayRate` この数式は社員の月給を計算します。
- 福利厚生 `ROW.Salary * if(ROW.Benefits="Yes", (10)/(100), 0)` この数式は、福利厚生を給与の割合で計算します。

"支払い単価" は別の算出科目です。この科目は初期値の要素に関連付けられており、デフォルトで従業員シートに含まれています。

- 支給レート `if((month(this) > 0) AND ROW.Headcount=1 AND (((month(this) - month(ROW.StartDate) > 1) AND ASSUM.RaiseMonth = 0 AND fiscalmonth(this) = fiscalmonth(ROW.StartDate)) OR (ASSUM.RaiseMonth = Month(this))),ROW.PayRate[time=THIS-1]*ASSUM.RaisePct, 0)` この数式は、計画された昇給を含む社員の支給レートを計算します。ユーザーは個々の従業員の初期の支払い単価を入力できます。以後の月の支払い単価は、前月の賃金と昇給の前提条件に基づいて計算されます。

収益費用のレビューと更新
テンプレート従業員シートにおいて、収益費用は収益が有効になっているすべての従業員の場合、給与の 10% として計算されます。収益の選択肢は以下のとおりです。

- `No` (新規社員の場合はデフォルト)
- `Yes`

この収益計算は変更または削除できます。

"収益" (中央パネル) を選択し、その選択内容を (右パネルで) 確認します。"はい" と "いいえ" のデフォルトの選択肢の名前を変更し、新しい選択肢を追加し (例: フルタイム、パートタイム)、矢印キーを使用して選択肢を再編成できます。ユーザーが従業員シートに新しい行を追加した場合、リストの最初の選択肢がデフォルトになります。

これらの収益の選択肢は "収益" と呼ばれる算出科目で以下の数式とともに使用されます。

```
ROW.Salary * IF(ROW.BenefitsSelector="Yes", (10)/(100), 0)
```

"収益" の選択肢を修正する場合、この数式も修正が必要になる可能性があります。たとえば、単純な "はい" と "いいえ" 以外の選択肢を追加する場合、ルックアップを参照するために値ルックアップをこの列に追加し、算出科目を更新する必要がある場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

収益の修正

1. ブレッドクラムを使用してシート サマリに戻り、"列と組織" を選択します。
2. "収益" 列を選択し、テキスト セレクター アイテムを更新します。

任意の新しいアイテムを追加し (例: パートタイムまたはカナダ)、既存の "はい" や "いいえ" のアイテムを編集または置き換えます。

注 : テキスト セレクター アイテムのいずれかがシートで使用されている場合、削除や名前の変更を行うことはできません。

値ルックアップの追加
値ルックアップを使用して、ユーザーがシートに入力した情報を算出科目の値に変換できます。カスタム属性またはテキスト セレクターにルックアップは月次ルックアップを追加できます。たとえば、"収益" 用の "はい"/"いいえ" テキストの選択です。

さらなる "収益" の選択肢 ("はい" または "いいえ" 以外) を追加するためにシートを編集した場合、ルックアップを追加する必要があります。

"収益" 向けに値ルックアップを追加する場合

1. "収益" (中央ペイン) を選択し、"値ルックアップ" (右パネル) へスクロールダウンします。
2. "値ルックアップ" を展開し、"新しい値ルックアップを追加" を選択します。
3. ルックアップの名前を追加します (例: BenChoices)。
4. "表示形式" および "小数部桁数" を指定します。
5. "OK" を選択して新しいルックアップを追加した後、"保存" を選択してシートに対する変更を保存します。
6. "収益" > "値ルックアップ" を選択し、(BenChoices の横にある) 鉛筆アイコンを選択します。ページが、作成した各収益の選択肢の行 ("はい"、"いいえ" など) とともに表示されます。
7. それぞれの収益の選択肢について望ましい値 (数式または数字) を入力して保存します。

算出科目の更新
ルックアップを作成した後は、"収益" 算出科目を修正して BenChoices ルックアップをその数式に組み込みます。

1. 従業員シートのシート サマリに戻ります。新しい "値ルックアップ" リンクがこのページに表示されることに注意してください。このリンクは、値ルックアップを追加したため表示されます。
2. "モデル科目" を選択します。科目ページが表示されたら、"収益" 算出科目を選択します。
3. "データ タイプ" (右パネル) までスクロールします。
4. 給与に新しいルックアップを掛ける新しい数式を入力します。たとえば、以下のように指定します。

   ```
   ROW.Salary*ROW.BenChoices
   ```
5. "保存" を選択し、シートに対する変更を保存します。

注 : / 列の選択肢は、"収益" 列に関する説明と同じ方法で修正できます。デフォルトの選択肢は、"年" および "時間" です。これらの / 列の選択は、"給与" と呼ばれる算出科目において使用されます。"/" の選択肢が変更されると、"給与" 科目の数式も変更する必要がある可能性があります。

昇給前提条件のレビュー
従業員テンプレートには、従業員の給与および賃金が時間の経過とともにどの程度自動的に引き上げられるかを決定するように設計された、2 つのシート前提条件がすでに含まれています。これらの前提条件は変更または削除できます。

この前提条件には値が一切含まれていません。そのため、給与が自動的に引き上げられるように更新する必要があります。

1. シート サマリから "前提条件" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. 次の 2 つのシナリオに適合するよう、引き上げの前提条件を入力できます。
    - シナリオ 1: すべての従業員が同じ月に昇給します。たとえば、毎年 3 月に 5% 昇給するとします。この引き上げを設定するには、昇給月というタイトルの付いた前提条件のすべてのセルに月の数字 (この例では 3) を入力します。昇給率というタイトルの付いた前提条件のすべてのセルに昇給率を入力します。
    - シナリオ 2: すべての従業員が定例月に昇給します。この場合、昇給月というタイトルの付いた前提条件行のすべてのセルに月の数字をゼロとして入力します。昇給率というタイトルの付いた前提条件のすべてのセルに昇給率を入力します。
3. 保存します。

注 : また、従業員が定例日に昇給するための論理を持つ算出科目を作成することも可能です。

カスタム属性の追加 **(任意)**
モデルによっては、従業員シートにカスタム属性を含めることが有用である可能性があります。人員データの並べ替えとレポート作成のための属性を使用できます。

カスタム属性をシートに追加するには以下を実行してください。

1. シート サマリから "列と組織" を選択します。
2. "属性" (左パネル) を選択し、シートで利用可能な属性のリストを表示します。
3. 追加したい属性を 1 つずつ選択し (右パネル)、それらをシートのキャンバス (中央パネル) にドラッグします。"属性のプロパティ" で、個々の属性に含める属性値を指定します。
4. ユーザーが "シート ビューアー" から変更できるようにする個々の属性について、属性を選択し、"シート上で属性を編集" を選択します。

シート プロパティの設定
シートのプロパティを設定するには、以下を行います。

1. ツールバーの歯車のアイコンをクリックして、シート プロパティを設定します。
2. "セキュリティ"を選択します。必要に応じて、"このシートまたはその行の表示には給与組織詳細の権限が必要" を選択します。これによってシート ユーザーは、権限がない限り給与関連情報を閲覧できません。
3. "設定" を選択し、必要に応じて変更します。シート プロパティの設定を参照してください。
4. "OK" を選択し、プロパティの変更を保存します。
5. 保存します。

総勘定元帳科目のモデル科目へのリンク設定
算出科目の値は、適切な総勘定元帳 (GL) 科目へのリンクが作成されるまでは、損益 (P&L) には合計されません。すべての部門における GL 給与科目 (例: 7000_01 給与賃金) は数式を用いて読み込み、それを "給与" の算出科目にリンクさせることができます。

総勘定元帳科目を従業員シートの算出科目にリンクさせる数式を作成する場合

1. ナビゲーション メニューから "数式" を選択します。
2. 従業員シートの計算結果を表示する GL 給与科目を選択します。
3. "数式を設定" > "フォーミュラ アシスタント" を選択します。
4. フォーミュラ アシスタント を使用し、GL 給与科目を適切なモデル科目にリンクさせる数式を作成します。
5. "OK" を選択します。

職位別に人員を入力
テンプレートから作成された従業員シートには期間要素がありません。ユーザーは、人員が存在するすべての計画月に値を入力する必要はありません。ユーザーは個々の従業員ごとに計画を指定し、各従業員の開始日、年間給与または時給を指定します。その後、従業員シートは適切な期間におけるすべての結果の値を計算します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

予算マネージャは、特定期間に雇用された従業員グループを計画することがあります。たとえば、ユーザーは 1 月に 4 名の新規営業担当者を雇用し、3 月にさらに 3 名を雇用する計画であるといった具合です。

これを解決するには、異なる種類のヘッドカウント プランニングについては別の従業員シートを作成します。従業員シート上の既存の人員は、上記で説明したように、人員ごとに計画できます。その後、別の従業員シートを作成し、新規採用者に職位別に対応することができます。

## 数式

### 数式の基本の開始
概念: **Adaptive Planning** の数式の使用

数式を使用すると次のことができます。

- モデルの計算を自動化することで時間を節約する。
- ドライバーから値を作成する
- 科目間の複雑な相互関係を作成する

フォーミュラ アシスタントは、数式を入力できるすべての場所で使用できます。構文エラーを回避するためにフォーミュラ アシスタントを使用することをお勧めします。

### 数式を使用するさまざまな場所

モデルで数式を使用するさまざまな方法が用意されています。

- シートでの一時的な変更: シートのセルに数式を入力して、Excel と同様の一時的な計算を作成します。参照 概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力（1137ページ）。
- 算出科目: 組織全体を計算するために科目に数式を追加します。オプションで、バージョンごとに異なる数式を作成できます。参照 概念: 算出科目（889ページ）。
- 共有数式: 共有数式は、科目の計算結果として機能します。バージョンや組織ごとに異なる数式を作成できます。参照 共有数式を作成する （1180ページ）。
- レポートの数式: レポートに数式を追加して、レポート値を計算できます。例: 同じ階層にない科目の合計を計算できます。参照 概念: マトリクス レポートの計算（184ページ）。

データの移動や結合に、数式ではなくリンクを使用する場合があります。算出科目、共有数式、リンクを比較および対比するには、 を参照してください。 参考: リンク元科目と共有数式および算出科目との比較（923ページ）。

### 一般的な使用例

| 目標 | 数式の例 | 数式の説明 |
|---|---|---|
| 在庫回転率を計算する。 | Div (ACCT.5500, ACCT.1150)<br>5500: 売上原価の科目コード。<br>1150: 在庫の科目コード。 | 販売した商品のコストを在庫で除算します。 |
| 従業員シート上の各従業員について、会計年度の最初の月における昇給を計算します。 | Iff (this.Year.PositionOf(this.Month) = 1, ROW.ExpectedRaise, 0) | それが年度の最初の月である場合、"昇給予想" 科目の値をこの行に適用します。それ以外の場合は、0 を返します。 |
| 営業車両に対するサービス契約の売上の割合を計算します。 | Divf (ACCT.Sales[ProductType = ServiceContract], ACCT.Sales[ProductType = Vehicle]) * 100<br>"製品タイプ" はカスタム属性です。 | "サービス契約" でタグ付けされたデータを "車両" でタグ付けされたデータで除算します。次に、100 で乗算します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

概念: 数式の基本要素

数式を説明する用語

数式に以下が含まれます。

- オペランド: 計算される要素です。オペランドと演算子を区別します。Adaptive Planning のオペランドには以下が含まれます。
  - 参考: 修飾子、前提条件、行 (モデル シートの列) を含む科目
  - 定数: 数式に直接入力される数値またはテキスト値。
- 修飾子: 特定の時間、組織、属性値、または特性値への参照を指定する追加の指示です。
- 演算子: 実行する計算のタイプを指定します。以下を使用できます。
  - 記号例: アスタリスク (*) 演算子は数値を乗算します。ほとんどの記号はフォーミュラ アシスタントに含まれているか、キーボードを使用して入力することができます。
  - 関数: オペランドと演算子を組み合わせた正確な構文のテンプレート。変数は独自の参照、修飾子、式に置き換える必要があります。例: 端数処理関数 "Round (N)" では、"N" を複雑な計算に置き換え、最も近い整数に丸めます。

また、これらの用語は数式の部分を示します。

- 式: 数式の特定の部分を記述します。例: この論理数式 Iff ((ACCT.001 > ACCT.002, 1, 0) では、"ACCT > ACCT.002" が式になります。
- 期間: 参照と修飾子の組み合わせ。例: ACCT.001 [time = this - 1] は用語です。
- 構文: 有効な数式を作成するためにモデル内のデータを参照する必要がある方法。例: 科目を参照する場合の構文は「ACCT.<account_code>」です。
- ドット表記: モデルの要素を指し、追加の機能を使用できる一連の高度な構文ルール。ドット表記の主なユース ケースは Iff ステートメントです。例: this.Month.NumberOfDays < 30 を Iff ステートメントに追加して、2 月に別の計算を適用できます。

ドキュメントの構文について

ドキュメントの構文に関する注意事項をいくつか以下に示します。

- 変数を示すのに、(N) のようなかっこ内の大文字、または <account_code> のようなかっこ内のテキストを使用します。変数は有効な定数、科目参照、または数式に置き換える必要があります。
- 多くの国の基準に従って、カンマを使用して項を区切ります。ブラウザで小数点としてカンマが使用されている場合は、項をセミコロンで区切る必要があります。
- 数式を読みやすくするために空白が追加されますが、必須ではありません。スペースを追加したり、数式から除外したりすることもできます。
- Divf などの関数は資産計上され、ACCT などの要素にはすべて大文字が使用されますが、数式は大文字と小文字が区別されません。

例: 科目に組織修飾子を追加するための構文は、ACCT.<code> [level = <level_code>] です。以下の処理が必要です。

- ACCT を使用する。科目を参照する場合。
- <コード> を実際の科目コードに置き換えます。かっこ記号も削除してください。
- 角かっこを使用して修飾子を定義します。
- 組織別に変更するには、level = を使用します。
- <level_name> を組織の実際のコードに置き換えて、かっこを削除します。

オペランド: 参照と定数

参照はオペランドのタイプです。Adaptive Planning では、この参照によってモデルの他の場所から数式に値が取り込まれます。例: 科目を参照できます。科目参照は、特定のバージョン、組織、および時間についてその科目の値を取り込みます。以下の基本参照を数式に追加できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 基準 | 構文 | 例 |
|---|---|---|
| 総勘定元帳、カスタム、またはメトリック科目 | ACCT.<AccountCode> | ACCT.6113<br>ここで、6113 は科目コードです。 |
| キューブ科目とモデル科目 | ACCT.<SheetCode.AccountCode> | ACCT.RevenueCube.003<br>ここで、収益キューブはシート コード、003 は科目コードです。 |
| 前提条件科目 | ASSUM.<AccountCode> | ASSUM.123<br>ここで、123 は科目コードです。 |
| モデル シート上の列<br>モデル算出科目でのみ使用できます。 | ROW.<column_code> | ROW.StartDate<br>StartDate は、モデル シートの "開始日" フィールドの列コードです。 |
| モデル シート内のスプレッドと値ルックアップ<br>モデル算出科目でのみ使用できます。 | ROW.<lookup_name> | Row.BenefitLookup<br>ここで、"収益ルックアップ" は値ルックアップ テーブルの名前です。 |
| 定数 | 任意の数値 | 500 |

取得方法を使用してシートのセルを参照することもできます。取得方法により、数式に科目と、時間や組織などの現在の修飾子が入力されます。参照 概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力 ( 1137ページ ) 。

修正率

科目または行を参照する場合、修飾子を使用して小数部桁数を追加できます。修飾子は、科目のデータの特定のスライスを検索します。例: 特定の組織または期間の科目の値が必要であるとします。

以下のように修飾子を追加します。

- 科目参照の横 (スペースなし)
- 角かっこ内。
- 小数点にカンマを使用する場合は、カンマまたはセミコロンで区切ってください。
- モデルに存在する正確なコードと名前を使用する。

| 修正率 | 構文 | 例 |
|---|---|---|
| Time | [time = <strata_code>] | ACCT.001 [time = 2023]<br>ここで、2023 は年の合計層です。科目の 2023 年の合計値を取得します。 |
| 組織 | [level = <level_code>] | ACCT.001 [level = sales]<br>ここで、" Sales" は組織コードです。営業組織の科目のみの値を取得します。 |
| カスタム属性 | [<dimension_code> = <dimension_value_code>] | ACCT.001 [product =加えてシャツ] |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 修正率 | 構文 | 例 |
| --- | --- | --- |
| | | ここで、製品は属性コード、"シャツ" は属性値コードです。"シャツ" にタグ付けされた科目データを取得します。 |
| 特性 | [<attribute_code> =<attribute_value_code>] | ACCT.001 [productgroup = Tops]<br>ここで、"productgroup" は "製品" 属性の特性、"tops" は特性値です。<br>トップスの特性値に対応する任意の属性値でタグ付けされた科目データを取得します。 |
| 複数の修正率 | [<modifier1> = <code>, <modifier2> = <code>, <modifier3> = <code>] | ACCT.001 [time = 2023, 組織 = 営業, 製品 = シャツ]<br>シャツの営業組織における 2023 年の時間合計を取得します。 |

参照ごとに複数の修飾子を設定できますが、修飾子ごとに設定できる値は 1 つだけです。そのため、複数の組織の値を取得する場合は、次のようにします。

- 誤: ACCT.001 [level = Sales, Marketing]
- 誤: ACCT.001 [level = Sales, level = Marketing]
- 訂正: ACCT.001 [level = Sales] + ACCT.001 [level = Marketing]

修飾子の追加は、数式全体に対して必要なすべての場合があります。

演算子: 共通数学記号

演算子は、計算を提供する数学記号です。キーボードのキーを使用して基本的な数式を使用できます。フォーミュラ アシスタントでは、ツールバーの最初のセットのボタンは単純な数学演算子を提供し、数式の項間に挿入できます。

数式の最も単純なオペランドは数字です。最も単純な演算子は、キーボードにある演算子です。オペランドと演算子の間にスペースは必要ありませんが、数式を読みやすくするためにスペースを追加できます。単純な数式を、科目や修飾子を参照するより複雑な数式に組み込むこともできます。

使用できる簡単な数式の例をいくつか以下に示します。

| 数学演算子 | 数式の例 |
| --- | --- |
| 加算 (+) | ACCT.001 + ACCT.002 |
| 減算 (-) | ACCT.001 - ACCT.002 |
| 乗算 (*) | ACCT.001 * ACCT.002 |
| 部門 (Divf) | Divf (ACCT.001, ACCT.002)<br>ACCT.001 (被除数) を ACCT.002 (除数) で割る |
| モジュロ (%) | 10 % 3<br>商の残りを計算します。10 の除算 3 = 3 の残りの部分は 1 であるため、1 を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 数学演算子 | 数式の例 |
| --- | --- |
| かっこ () | (ACCT.001 + ACCT.002) * 12<br>操作の順序を決定します: 科目を追加してから 12 にする。 |
| Round(N) | 円形 (ACCT.001)<br>四捨五入して最も近い整数にします。この例では、「ACCT.001」の値が 5.75 の場合、数式は「6」を返します。 |

数式関数

数式関数は、さまざまな演算子と変数を使用するテンプレートです。関数を使用する場合、変数を参照、定数、または完全な数式に置き換えます。関数が単独で機能することはほとんどありません。代わりに、関数を連続して数式を作成します。

例: "費用" 科目に前年の値を使用し、通常は前提条件科目に保存する物価上昇率を適用します。空白セルが参照されるのを回避するために、論理ステートメントを使用して IF ステートメントを作成できます。テンプレートは次のとおりです: Iff (EXPR, T, F)。

この関数を使用して数式を作成する方法は次のとおりです。

| 変数の置換 | 例 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| 関数内の関数を作成する IsBlank 論理関数に 「*EXPR*」を置き換えます。 | Iff (isBlank (N), T, F) | True および False の計算の基準となる上記のいずれかの定数。 |
| *N* を 、科目コードが infl であるインフレーション レートの前提条件に置き換えます。 | Iff (isBlank (ASSUM.Inf), T, F) | 上昇率の前提条件が空白の場合... |
| *T* を 、EXPR が真の場合にトリガされる計算に置き換えます。 | Iff (isBlank (ASSUM.Infl),ACCT.this [time = this - 12] * (1.05), F) | インフレーション レートの前提条件が空白の場合、12 か月前のこの科目の値を取得して、1.05 を掛けます。 |
| *F* を、 EXPR が偽の場合にトリガされる計算に置き換えます。 | Iff (isBlank (ASSUM.Infl), ACCT.this [time = this - 12] * (1.05),ACCT.this [time = this - 12] * ASSUM.Infl) | 昇給率の前提条件が空白でない場合は、12 か月前のこの科目の値を取得して、昇給率の前提条件で乗算します。 |

フォーミュラ アシスタントでは、数式の関数は以下のグループに分類されます。

- 数学
- 論理
- 日付
- String

カテゴリを選択し、使用可能なテンプレートを数式フィールドに事前入力できます。参照 参考: 数式関数 ( 1171ページ ) 。

グリッドの配置

Adaptive Planning のグリッドに数式が存在します。一般的なスプレッドシートには科目と時間の 2 つの軸があります。科目は行で、時間は列です。各セルは、科目と期間の間の特定の交差部分を表します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Adaptive Planning では、グリッドは多属性です。つまり、画面に表示されている 2 属性シートの外に 3 つ以上の軸があります。例: 収益のデータは、"販売" 組織、2025 年バージョンの "予算"、"総勘定元帳階層" の "収益" 科目、"製品" カスタム属性値 "シャツ"、"2025 年 1 月" の期間などの交差部分に存在します。数式のデータ ポイントを参照する場合、各軸または属性を参照しています。属性を指定しない場合、数式の の場所に基づいて特定のデフォルトが適用されます。以下の属性は、データの各交差部分に関連しています。

| 属性 | リファレンスのデフォルト |
|---|---|
| 時間と組織 | 時間または組織で参照を変更しない限り、現在の事業地と同じ。<br>例: "ACCT.001" の数式は "ACCT.002 * 10" です。<br>2024 年 1 月の場合、この数式は 2024 年 1 月の "ACCT.002" の値を取得します。"2024 年 2 月" の場合、数式内の時間に対して別のものを指定しない限り、2 月 24 日の値を取得します。<br>組織についても同様です。計算では、現在計算している組織と同じ組織の値が取得されます。 |
| Currency | 現在の組織の定義された通貨。 |
| Account | 別の科目を参照しない限り、現行科目 |
| 各カスタム属性 | 現在の場所の属性値。現在の場所に属性値が存在しない場合、デフォルト値は "未分類" 値です。 |

relatedlinks
参考
FAQ: 数式の組織修飾子（1149ページ）
参考: 数式の組織修飾子（1151ページ）

概念: シートのセルにおける基本的な数式の入力

数式はシートのセルに直接入力できます。構文エラーを回避するために、常にフォーミュラ アシスタントを使用することをお勧めします。有効な数式には少なくとも 1 つのオペランドが含まれます。オペランドはデータを取得します。最も基本的な数式計算には、少なくとも 1 つのオペランドと 1 つの演算子が必要です。最も基本的なオペランドは数値です。最も基本的な演算子は、プラスやマイナスなどの数学記号です。例: 1+1。

ほとんどの場合、数式を編集可能な数値セルに追加できます。セルに数式を入力するには、まずセルをクリックする必要があります。次の操作ができます。

- セルに数式を直接入力します。
- シートの上部にある数式バーに数式を入力します。
- ツールバーで "フォーミュラ アシスタント" ボタンをクリックして、エラーのない数式を作成します。参照 フォーミュラ アシスタントの使用（1143ページ）。

基本的な数学の関係式の作成

キーボードのキーを使用して基本的な数式を使用できます。単純な数式の最も単純なオペランドは数字です。最も単純な演算子は、キーボードにある演算子です。単純な数式を、科目や修飾子を参照するより複雑な数式に組み込むこともできます。フォーミュラ アシスタントでは、最初のボタン セットは数式に挿入できる単純な数学演算子を提供します。

セルに数式を入力する場合:

- 常に等号で始めます。
- 最良の結果を得るために、シンプルにしてください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

単純な数学の場合、数式をセルに直接入力する方が簡単です。ただし、フォーミュラ アシスタントを使用する場合、等号を入力する必要はありません。

| 数学演算子 | 数式の例 |
|---|---|
| 追加 | 数式: =760+500<br>結果: 1260。 |
| 減算 | 数式: =760-500<br>結果: 140。 |
| 乗算 | 数式: =760*10<br>結果: 7,600。 |
| 部門間 | 数式: =divf(760,10) 結果: 76 |
| パーセント | 数式 =200*.05<br>(200 のうち 5%)<br>結果: 10 |
| 操作順序 | 数式: =divf(70,10)*12<br>結果: 84。 |

記録方法の使用

シート上の他のセルを参照する数式を作成できます。これを行うには、Excel と同じようにセルをクリックします。ただし、若干の違いはあります。

数式バーは使用できません。セルに直接入力する。数式は常に等号で開始します。セル キャプチャの間に演算子とカンマを入力する必要があります。フォーミュラ アシスタントからのキャプチャ方法は使用できません。

最良の結果を得るには、この取得方法を使用して値を取得します。次に、数式バーを使用して構文をチェックし、複雑さを追加します。

| ユース ケース | ステップ |
|---|---|
| 単一セルのキャプチャ。 | 等号の後、シート上の任意のセルをクリックします。 |
| セルをキャプチャして数学を追加 | 1. 等号の後ろに、シート上の任意のセルをクリックするか、数字を入力します。<br>2. スペースを追加せずに、単純な数学演算子を入力します。<br>3. スペースを追加せずに、別のセルをクリックするか、数値を入力する。 |
| セルを取得して複雑性を追加 | 1. 等号の後ろに、divf などの数学関数を入力します。<br>2. スペースを追加せずに開始かっこを入力します。<br>3. セルを取得するか、数値を入力します。<br>4. カンマを入力して、次の番号またはキャプチャを追加します。<br>5. 右かっこを入力します。<br>6. 数式バーをチェックして、入力内容を確認します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| ユース ケース | ステップ |
| --- | --- |
| | 7. 必要に応じて、そこからさらに複雑さを追加します。 |

数式への参照の追加

数式参照はデータを指します。データをポイントすると、値が数式に取り込まれます。フォーミュラ アシスタントの左側には、正しい科目コードを持つすべての科目階層があり、適切な構文で参照を追加するのに役立ちます。

このドキュメントでは、変数を記号で囲んだ構文を提供しています。かっこと内部のテキストを、特定のモデルの実際の要素に置き換える必要があります。

最も一般的な参照とその構文は以下のとおりです。

| 基準 | 構文 | 例 |
| --- | --- | --- |
| 科目 (総勘定元帳、カスタム、メトリック) | ACCT.<account_code> | ACCT.6113<br>ここで、6113 は科目コードです。<br>キューブ シートのセルからシステム科目を参照することはお勧めしません。参照 FAQ: キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？ ( 904ページ ) |
| 科目 (キューブおよびモデル) | ACCT.<sheetcode.account_code> | ACCT.RevenueCube.003<br>ここで、収益キューブはシート コード、003 は科目コードです。 |
| 前提条件科目 | ASSUM.<account_code> | ASSUM.123<br>ここで、123 は科目コードです。 |
| 定数 | 任意の数値 | 500 |

数式への修飾子の追加

修飾子は、数式が科目または列から取得した値をフィルタリングします。参照の後に角かっこを付けると、その参照を変更できます。次に、かっこ内に修飾子を追加します。例: ACCT.001[level=this]フォーミュラ アシスタントの右側には、適切な構文を使って修飾子を追加するのに役立つ一連のドロップダウン プロンプトが用意されています。

一般的な修飾子を以下に示します。

| 修正率 | 構文 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Time | [time = <strata_code>] | ACCT.001 [time = 2023]<br>ここで、2023 は年の合計層です。科目の 2023 年の合計値を取得します。 |
| 組織 | [level = <level_code>] | ACCT.001 [level = sales] |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 修正率 | 構文 | 例 |
| --- | --- | --- |
| | | ここで、" Sales" は組織コードです。営業組織の科目のみの値を取得します。 |
| カスタム属性 | [<dimension_code> = <dimension_value_code>] | ACCT.001 [product =加えてシャツ]<br>ここで、製品は属性コード、"シャツ" は属性値コードです。"シャツ" にタグ付けされた科目データを取得します。 |
| 特性 | [<attribute_code> =<attribute_value_code>] | ACCT.001 [productgroup = Tops]<br>ここで、"productgroup" は "製品" 属性の特性、"tops" は特性値です。<br>トップスの特性値に対応する任意の属性値でタグ付けされた科目データを取得します。 |
| 複数の修正率 | [<modifier1> = <code>, <modifier2> = <code>, <modifier3> = <code>] | ACCT.001 [time = 2023, 組織 = 営業, 製品 = シャツ]<br>シャツの営業組織における 2023 年の時間合計を取得します。 |

参照ごとに複数の修飾子を設定できますが、修飾子ごとに設定できる値は 1 つだけです。そのため、複数の組織の値を取得する場合は、次のようにします。

- 誤: ACCT.001 [level = Sales, Marketing]
- 誤: ACCT.001 [level = Sales, level = Marketing]
- 訂正: ACCT.001 [level = Sales] + ACCT.001 [level = Marketing]

数式に対する基本的な **IF** ステートメントの作成

IF ステートメントの結果の可能性は 2 つあります。式が真の場合、数式は一方の式を計算し、偽の場合、もう一方の式を計算します。Iff ステートメントの基本構文は Iff (EXPR, T, F) です。フォーミュラ アシスタントのツールバーには、式に挿入できる以下のボタンがあります。

| ボタン | 例 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| = | Iff (ACCT.001 = 100, 0, 1) | 式の値が別の式の値と正確に等しい場合。<br>この例では、次のように計算します。<br>• 値が 1000 の場合は 0。<br>• その他の値はすべて 1。 |
| != | Iff (ACCT.001 != 1000, 0, 1) | 式の値が別の式の値と等しくない場合。<br>この数式では次のように計算されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| ボタン | 例 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • 値が 1000 の場合は 1。<br>• それ以外の値はすべて 0。 |
| < | Iff (ACCT.001 < 1000, 0, 1) | 式の値が別の式の値より小さい場合。<br>この数式では次のように計算されます。<br>• 1000 未満の値はすべて 0。<br>• 1000 以上のすべての値は 1。 |
| <= | Iff (ACCT.001 <= 1000, 0, 1) | 式の値が別の式の値以下の場合。<br>この数式では次のように計算されます。<br>• 1000 以下の値はすべて 0。<br>• 1000 を超える値はすべて 1。 |
| > | Iff (ACCT.001 > 1000, 0, 1) | 式の値が別の式の値より大きい場合。<br>この数式では次のように計算されます。<br>• 1000 を超える値はすべて 0。<br>• 1000 以下のすべての値は 1。 |
| >= | Iff (ACCT.001 >= 1000, 0, 1) | 式の値が別の式の値以上の場合。<br>この数式では次のように計算されます。<br>• 1000 以上の値はすべて 0。<br>• 1000 未満のすべての値に 1。 |
| および | Iff (ACCT.001 = 1000 AND ACCT.002 = 2000, 0, 1) | すべての式が真である場合。<br>この数式では次のように計算されます。<br>• ACCT.001 が 1,000 で、ACCT.002 が 2,000 の場合は、両方とも 0 になります。<br>• ACCT.002 が 2000 で、ACCT.001 が 1000 でない場合は 1。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ボタン | 例 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | • ACCT.001 が 1000 で、ACCT.002 が 2000 でない場合は 1。 |
| または | Iff (ACCT.001 = 1000 または ACCT.002 = 2000, 0, 1) | 少なくとも 1 つの式が真である場合。<br>この数式では次のように計算されます。<br>• ACCT.001 が 1,000 で、ACCT.002 が 2,000 の場合はどちらも "0"。<br>• ACCT.001 が 1000 で、ACCT.002 が任意の値の場合は 0。<br>• ACCT.002 が 2000 で、ACCT.001 が任意の値の場合は 0。<br>• どの科目も一致しない場合は 1。 |
| NOT | Iff (NOT (組織 = HQ, 0, 1) | 式は除外されます。<br>この数式では次のように計算されます。<br>• 組織が本社でない場合は「0」。<br>• その他の組織ではすべて "1"。 |

数式および数式エラーの保存

数式を入力するとセルに "(fx)?" と表示されます。シートを保存すると、数式によって値が計算され、表示されます。セルの隅には、値が数式で計算されたことを示す青い三角形も表示されています。

数式に構文エラーまたは許容できない参照がある場合、シートを保存できません。数式エラーがある場合はシートを保存できますが、セルにエラーが表示されます。

シートを保存した後に数式をレビューするには、次の方法があります。

- セルをクリックし、数式バーを確認します。
- セルを右クリックして "セルを探索" を選択します。

セルの色が青の三角形とグレーの背景がある場合、シートから数式を変更することはできません。管理者によってこれらの数式が科目自体に追加されました。特定のバージョンでは、管理者が計算をロックし、ユーザーが値や数式を編集できないようにしています。

リソースとその他のガイダンス

- 概念: 数式の基本要素 ( 1133ページ ) .
- 概念: 数式記述のヒント ( 1143ページ ) .
- 参考: プロパティのドット表記 ( 1176ページ ) .
- 参考: 数式関数 ( 1171ページ ) .
- 参考: 科目参照および修飾子の数式構文 ( 1154ページ ) .

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

数式の例

一般的な数式の構造を確認する参考用に使用できる数式の例を、いくつかご紹介します。場合によっては、これらの数式を自身のモデルの開始ポイントとして使用できます。数式をコピーする場合は、モデルの実際の要素を反映するために参照を更新することを常に確認してください。

- 例: 共通財務比率の計算 ( 1189ページ ) .
- 例: 従業員と報酬の計算 ( 1190ページ ) .
- 例: 従業員と人員の計算 ( 1206ページ ) .
- 例: 従業員と支払い単価の計算 ( 1208ページ ) .

概念: 数式記述のヒント

期待される結果の改善

- 数式を小さなチャンクに分割し、保存し、テスト結果をテストします。次に、複雑性を一度に追加します。
- カンマを使用して項を区切ります。カンマが小数点と同等とみなされる特定のブラウザでは、セミコロンを使用して項を区切ります。
- 複数の月 (特に実績が計画期間を上書きする場合) に渡って検証します。

可読性と理解性の向上

- 状況を説明するコメントを数式に追加する。ハッシュタグの間にコメントを入力してください。例: ACCT.Rent[time=this-12] 50%増加 # 昨年の家賃 * 1.5 #
- 特殊文字を利用します。数式は大文字と小文字が区別されないため、大文字を使用して項を強調表示できます。
- 可読性を高めるためにインデント、空白、改行を使用する。数式バーの入力中に Alt + Enter キーを押して改行します。

  例: 数式を複数の行に分割します。

  ACCT.Rent

  [time = this - 12]

  50% 増加

  # 昨年の家賃 * 1.5 #

パフォーマンスの向上

- IF 関数と DIV 関数を使用して数式をテストします。これらの関数が機能していることを確認したら、IFF と DIVF を使用してパフォーマンスを向上させます。
- 最上位の組織構造への参照は避けてください。代わりに、常に最上位レベルで評価する前提条件科目を作成します。

フォーミュラ アシスタントの使用

フォーミュラ アシスタントは構文的に正しい数式を作成するのに役立ちます。手動で科目項や項の修飾子を入力して数式を定義する必要はありません。

ステップ

1. フォーミュラ アシスタントを開くには、次の操作を行います。
   - シートで、ツールバーの "フォーミュラ アシスタント" ボタンをクリックします。
   - レポートのカスタム計算で要素を右クリックし、"フォーミュラ アシスタント" を選択します。
   - 算出科目と共有数式の場合は、設定の"フォーミュラ アシスタント" リンクをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

2. 左側の "科目" セクションで、科目または列をクリックします。

   科目を選択すると、科目名およびコードが "科目項の修飾子" セクションに表示されます。キューブ シートのセルまたはキューブ科目からシステム科目を参照することはお勧めしません。参照 FAQ: キューブ シートからシステム科目を参照する最善の方法は何ですか？（904ページ）。

   モデル シートの列を選択すると、"科目項の修飾子" セクションに ROW.ColumnName が表示されます。
3. (任意) "科目項の修飾子" セクションで、ドロップダウン プロンプトを使用して、時間、組織、カスタム属性、特性の修飾子を追加します。

   ROW 構文を使用して列を参照するモデル科目の修飾子を選択することはできません。行を参照すると、特定の行に入力された修正子が数式で使用されます。
4. 緑のチェックマークをクリックします。

   科目項が "数式" セクションに移動します。
5. 数式関数を選択します。

   上部にあるボタンをクリックして、"数式" セクションに共通の関数を追加します。

   または、"関数" ドロップダウン メニューを使用して "数式に挿入" をクリックします。
6. 引き続き科目項と関数を追加し、数式を完了します。

例

| 数式 | 説明 |
|---|---|
| `ACCT.Personnel.Headcount +ACCT.Actual_Headcount` | 2 つの科目の値を追加します。 |
| `div(ACCT.4000_Revenue-ACCT.4000_Revenue[time=this-12],ACCT.4000_Revenue[time=this-12])` | 時間修飾子を使用して 1 つの科目の値を別の科目で除算します。 |
| `if (FiscalMonth(this)=1,ROW.ExpectedRaise,0)` | 論理関数を使用して、会計年度の最初の月に適用および昇給を行います。 |

ヒント: 複数の計算書を含む数式を準備するときは、カーソルを "数式" 領域の正しい位置に合わせていることを確認してから、緑色のチェックマークをクリックするか、"数式に挿入" をクリックします。そうしないと、コピーして貼り付けて計算書を正しい順序で取得する必要が生じることがあります。カーソルは、細い垂直バー (|) として表示されます。

数式の検証

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

"数式の検証" は、バージョンごとの数式エラーを検出し、エラーのトラブルシューティングと解決に役立つリンクと詳細を提供します。数式の作成時に、数式の正しい構文や循環参照などの検証が行われます。ただし、モデル構造に変更を加えると、数式エラーが生じる可能性があります。これには、以下への変更が含まれます。

- カレンダー
- Versions
- 組織
- 科目
- シート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

"モデリング" の "数式の検証" 機能を使用して、科目の数式およびシートに入力された数式を含むすべての数式をチェックできます。レポート上で数式は検出されません。

検証の実行後、"サマリ" セクションに以下の情報が表示されます。

- 必要な計算の合計: 選択したバージョン内の計算の合計量
- 実行された合計計算: 検出された最大エラーの上限に達するためにチェックされた計算の数。指定した値です。
- 検出されたエラー: エラーのある場所の合計数。この数は 、"参照エラーを除外"を選択した場合に表示されるエラーとは異なる場合があります。

"必要な計算の合計" が "実行された計算の合計"より大きい場合、エラーの最大値に達しています。数式の検証は、最大エラーが見つかると、残りの数式の計算の実行を停止します。まず表示されたエラーを解決してから、検証を再度実行する必要があります。

"エラー詳細 " セクションに、科目、組織、期間に関するエラーのリストが表示されます。エラー メッセージは "セルを探索" へのリンクです。そこからクリックしてエラーを解決できます。科目のデフォルト数式については、すべての組織のエラーがリストされます。科目設定のエラーを解決すると、すべての組織のエラーが修正されます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "科目" セクションで "数式の検証" を選択します。
3. 次のオプションを使用して検証を絞り込みます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| バージョン プロンプト | 上部のナビゲーション メニューで、検証するバージョンを選択します。 |
| 最大エラー数 | 最大 500 まで選択してください。これは表示される最大値であり、確認した結果の最大値ではありません。 |
| 参照エラーを除外 | エラーのある別のセルまたは科目を参照する有効な数式を削除します。エラーのソースを修正すると、参照エラーが自動的に解決されます。これにより、組織と科目の合計のエラーも除外されます。 |

4. "リフレッシュ" をクリックします。
5. Ctrl を押しながらエラー メッセージをクリックし、別のブラウザ タブで "セルを探索" を開きます。

   "セルを探索" を別のタブで開くと、"数式の検証" に戻って検索をリフレッシュできます。
6. "セルを探索" では、以下の操作ができます。
   - シートにリンクして数式エラーを修正します。
   - 科目設定にリンクして、 デフォルトの数式を訂正します。
   - "セルを探索" をドリルスルーし、エラーの原因を特定します。
7. 共有数式を修正するには、メイン メニューから "数式" を選択します。

数式のトラブルシューティング

よくある数式エラー

- 誤った構文。たとえば、次のような除算:
  - `div(N,D)` (正しい構文)
  - `N/D` (誤った構文)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- データのプライバシー。他の組織を参照するには、科目がすべての組織で公開の状態でなければなりません。
- 無効なリンク科目。入力した科目名の綴りが正しいことを確認します。フォーミュラ アシスタントを使用して、科目の構文エラーを防止します。

トラブルシューティングのヒント
このセクションでは、数式エラーの訂正のためのトラブルシューティングのヒントをいくつか示しています。

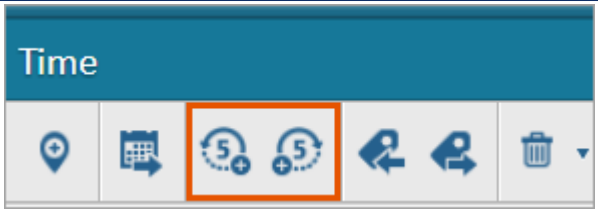
| | |
|---|---|
| 問題: バージョンの共有数式を編集できない | "管理者" 権限を持っているが、バージョンの共有数式が編集不能な場合は、"モデリング" > "バージョン" に移動し、以下の点をチェックします。<br>• そのバージョンに対して管理者が "完全アクセス" 権限を持っていることを確認します。<br>• そのバージョンがロック済み ("ロック済バージョン") かどうかを見て確認します。ロック済バージョンでは共有数式を編集できません。<br>• そのバージョンに対して "先行月から次までロック済" が設定されているかどうかを確認します。共有数式は期間をまたいで動作する必要があるため、この機能でいずれかの月が設定されると、"共有数式" ページ全体がロックされます |
| 問題: "リテラル数値が必要です" エラーが表示される | 通常、このエラーが表示されるのは、等号 (=) が数式に含まれています。フォーミュラ アシスタントを使用する場合、この記号は必要ありません。= 記号を削除し、やり直してください。 |
| 問題: 共有数式に加えた変更が、すべての場所では表示されない | 共有数式を更新する場合、ユーザーがシート上の共有数式をオーバーライドしたかどうかを確認します。数式を更新する場合、更新の一環として "ユーザー編集を削除" するオプションが提供されます。 |

数式の修飾子および参照
概念: **versionmonth()** 数式およびカスタム カレンダー

組織がレガシー カレンダーからカスタム カレンダーへスワップしたい場合は、数式をチェックして を使用する必要があります。 `versionmonth()`。レガシー カレンダーからカスタム カレンダーにスワップすると、次について異なる結果になります。 `versionmonth()` 同一のセルに

レガシー カレンダーは、2017.2 リリースより前に作成され、"時間管理領" 域内で変更されていないカレンダーです。参照 ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ )。

カレンダーがレガシーであるかどうかを最も簡単な方法で判断するには、"時間管理" ツールバーを表示します。レガシー カレンダーにのみ後方ボタンと前進ボタンがあります。

| レガシー カレンダー時間管理ツールバー | カスタム カレンダー時間管理ツールバー |
|---|---|
|  | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

条件は 3 つあります versionmonth() カスタム カレンダーに移行したときにインスタンス内の番号が変更されないように、数式が一致している必要があります。

- versionmonth() 数式には、定義されたカレンダーに表示される "月" と呼ばれる時間層が必要です。
- versionmonth() 数式は月の時間層の科目にのみ存在する必要があります。
- versionmonth() 数式は、相対位置の比較に使用する必要があります。絶対位置の比較に使用すると正しい結果を得られません。
    - if(versionmonth(this)=versionmonth(ROW.Date), "value if true", "value if false") は引き続き機能します
    - if(versionmonth(this)>0, "value if true", "value if false")は以前とは異なる結果になりますが、エラーにはなりません。

この基準に適合していれば、 versionmonth() カスタム カレンダーの数式

**versionMonth()** 関数の計算方法

| | |
|---|---|
| カスタム カレンダー | 一般に、カスタム カレンダーでは versionmonth 関数は、バージョンが 2001 年 1 月に開始されたかのように機能します。つまり、versionmonth(this)=0 が 2001 年 1 月に設定されている。 |
| レガシー カレンダー | レガシー カレンダー内 versionmonth(this) はバージョンの初月からの月数を返します。 |

概念: **Day(this)** 数式およびカスタム カレンダー

2017.2 リリースにおいて柔軟な時間モデリングが導入されたことにより、 day(this) 数式内の は、インスタンスのレガシー カレンダーまたはカスタム カレンダーの有無によって解釈が異なります。レガシー カレンダーは、2017.2 リリースより前に作成され、"時間管理領" 域内で変更されていないカレンダーです。参照 ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ ) 。

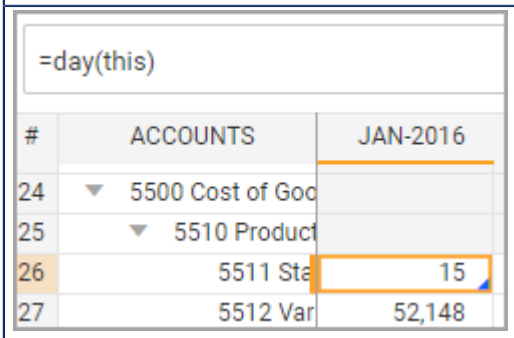
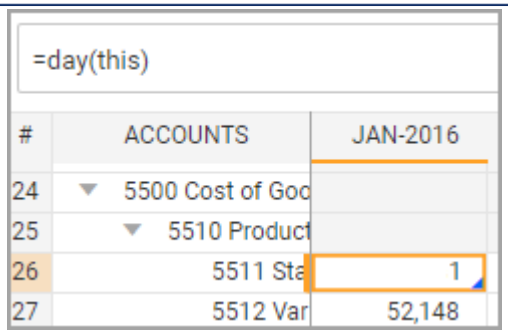
カレンダーがレガシーであるかどうかを最も簡単な方法で判断するには、"時間管理" ツールバーを表示します。レガシー カレンダーにのみ後方ボタンと前進ボタンがあります。

| レガシー カレンダー時間管理ツールバー | カスタム カレンダー時間管理ツールバー |
|---|---|
| | |

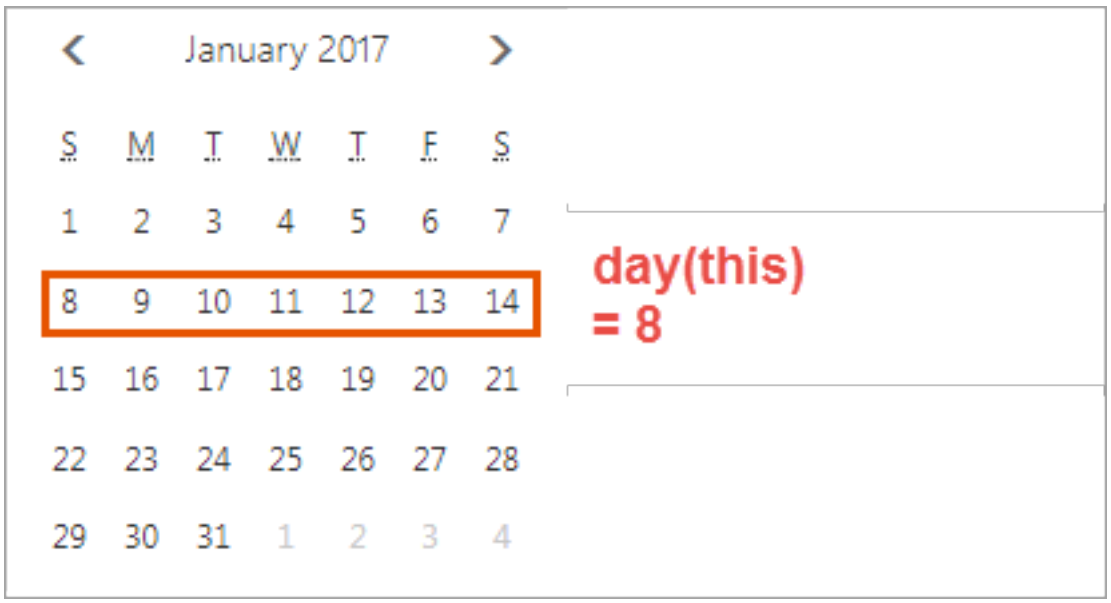
レガシー カレンダーは以下を解釈します。 day(this) 数字の 15 として機能します。

レガシー カレンダーを延長するか、そのラベルを変更するか、時間層を追加または削除すると、カスタム カレンダーになります。Release 2017.2 の後に作成されたすべてのインスタンスは、それが月次であっても、デフォルトでカスタム カレンダーとして自動的に機能します。レガシー カレンダーは常に数字の 15 を返しますが、 day(this), カスタム カレンダーの解釈 day(this) を含む期間の最初の日の整数

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| レガシー カレンダーの day(this) | カスタム カレンダーの day(this) |
|---|---|
|  |  |
| 2016 年 1 月の戻り値 = 15 | 2016 年 1 月の戻り値 = 1 |

たとえば、週で設定されたカスタム カレンダーにおいて、年の第 1 週が 1 月 1 日から始まる場合、次のようになります。 day(this)in week 2 は数字 8 を返します。1 月 8 日は第 2 週の初日です。




方法 **(this)** 次の値との比較で解釈されます **IF** ステートメント
レガシー カレンダーの場合 (this) 数式内の は、次の比較として使用される場合、任意の月の 15 日を示します。 IF ステートメント

カスタム カレンダー内 （this） 期間の開始日を示します。

たとえば、次の数式 IF(this>toDate(2016,1,1),1,0) は、2016 年 1 月に開始するレガシー カレンダーで 1 を返します。カスタム カレンダーにおいて、この数式は 2016 年 2 月から開始される 1 を返します。

レガシー カレンダーの 2016 年 1 月に (this)「2016 年 1 月 15 日」を意味し、カスタム カレンダー (this) は、2016 年 1 月 1 日を意味します。

| IF (this>toDate (2016,1,1),1,0) | 2016 年 1 月 | 2016 年 2 月 |
|---|---|---|
| レガシー<br>カスタム | 結果 = 1<br>結果=0 | 結果=1<br>結果=0 |

編集方法 **day (this)** 新規カレンダーで使用するレガシー カレンダーの数式
Release 2017.2 の後に作成したカスタム カレンダーまたはインスタンスで数式を使用する場合、その数式によって期待される結果を得られるか確認するための 2 つのステップがあります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1. すべての数式内で、次のすべてのインスタンスを置き換える: `day(this)` 数字が 15 のレガシー カレンダーの
2. 以内 `IF` レガシー カレンダーのステートメントにこの単語を置き換えてください `(this)` - 相手: `toDate(this.year,this.month,15).`

概念: 数式における相対時間

時間の経過に伴って数式の管理にかかる時間を短縮するために、関連する時間を参照する数式を作成できます。関連する時間は、セルの期間に基づいて変化します。期間のどこに移動しても、絶対時間は同じままです。

関連する時間を参照するには、時間の式として [time=this] を 使用します。 *versionmonth*(this) によって変更された *versionmonth*(this) を使用することもできます。

絶対時間と相対時間数

| 絶対時間 | 関連時間 |
|---|---|
| Acct.Expenses[time=12/2018]<br>期間内のどのセルについても、数式は常に 2018 年 12 月からの同じ値を取得します。 | Acct.Expense[time=this-1]<br>期間内のすべてのセルについて、数式は常に前の期間の値を取得します。 2018 年 3 月については、2018 年 2 月が取得されます。2023 年 8 月は 2023 年 7 月に取得されます。 |
| Acct.Expense[time=2018]<br>期間内のすべてのセルについて、この数式は常に年である 2018 の合計値を取得します。 | Acct.Expense[time=this.year]<br>期間内のすべてのセルについて、数式は常に同じ期間の合計の値を取得します。2018 年 3 月については、2018 年の合計を取得します。2023 年 8 月については、2023 年の合計を取得します。 |

ヘッドカウント プランにおける動的時間の例

モデル シートで個人データを追跡します。モデル シートに "新規採用" という科目があります。各月の新規採用数を計算するには、"新規採用" 科目に次のような数式を使用します。

If(versionmonth(this) = versionmonth(ROW.StartDate),1,0).

この数式は、この行の開始日のバージョンが現在のセルと同じバージョンの月であれば、新規採用に 1 を入力することを示します。同じでない場合は、ゼロと計算します。

以下のモデル シート行です。

| 社員の氏名 | 開始日 |
|---|---|
| Jane Doe | 2023 年 1 月 |
| ジョン マウス | 2022 年 7 月 |
| Mary Joe | 2023 年 2 月 |
| ジャック 茶 | 2022 年 6 月 |

バージョン月が「2023 年 1 月」の場合、2023 年 1 月における新規採用は Jane のみであるため、新規採用科目の値は 1 になります。

**FAQ:** 数式の組織修飾子

- フォーミュラ アシスタントの組織ドロップダウン プロンプトに組織がないのはなぜですか？
- 組織修飾子を使用して複数の組織の合計値を取得するにはどうすればよいですか？
- 組織修飾子が合計値を取得しないのはなぜですか？
- 親コードの修飾子に (+) を追加するのはどのような場合ですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### フォーミュラ アシスタントの組織ドロップダウン プロンプトに組織がないのはなぜですか？

変更しようとしている科目参照には、非公開のデータ プライバシー設定があります。以下を試してください:

セキュリティ:モデルに "シート、科目、属性、数式を含む" 権限

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. 科目階層をクリックします。例:"総勘定元帳科目"をクリックします。
3. 科目リストから科目を選択します。
4. "詳細 " セクションで "データ プライバシー設定" を見つけます。
    - 科目の値は非公開: 科目に組織修飾子を使用することはできません。
    - 科目の値は最上位組織のみに公開: 最上位組織または これを使用してのみ科目を変更できます。
    - 科目の値はすべての組織で公開: 科目は任意の組織修飾子を使用して変更できます。

### 組織修飾子を使用して複数の組織の合計値を取得するにはどうすればよいですか？

これは次の 3 つの方法で行うことができます。

- 親組織の修飾子。
- 組織特性の修飾子。
- 個別の組織修飾子。

テーブル内の例では、この組織階層と以下の値がACCT.02 に対して使用されます。

| 組織 [code] | 2025 年 1 月 |
|---|---|
| - Sales [sales] | |
| 北部営業 [SN] | 50,000 |
| 南部営業 [SS] | 100,000 |
| 営業 (限定) [N/A] | 20,000 |
| 合計 | 170,000 |

| 方法 | 例 |
|---|---|
| 親組織の修飾子 | ACCT.02 [level = Sales]<br>戻り値: 170,000 |
| 特性の修飾子 | モデルには "地域" という名前の特性があり、*"East"* と *"West"* の値があります。北部営業と南部営業は *"West"*にタグ付けされています。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 方法 | 例 |
| --- | --- |
| | ACCT.02 [region = west]<br>戻り値: 150,000 |
| 個別の組織の修飾子 | ACCT.02 [level = SN] + ACCT.02 [level = Sales (-)]<br>戻り値: 70,000 |

組織修飾子が合計値を取得しないのはなぜですか？

- 数式修飾子は (+) によって組織コードを参照する必要があります。level = <***parent_code***> ***(+)*** です 。
- 組織は親組織である必要があります。子科目を持たない組織の組織コードを参照する場合、(+) は無視されます。
- ***level*** = ***this (+)*** を使用している場合は、 ***level*** = <親コード> ***(+)*** に置き換えます。level = this (+) は、 同じ親の (限定) 組織の数式に対してのみ有効です。例: "営業" (限定) 組織の場合、"営業" の親組織を参照するには、 ***level*** = ***this (+)*** を入力できます。選択しない場合、「***level*** = ***Sales (+)***」 と入力する必要があります。

親コードの修飾子に (+) を追加するのはどのような場合ですか？

(+) なしで親組織コードを参照できますが、親の関連する (限定的) 組織では予期しない結果が生じます。(+) がないと、同じ親の (限定) 組織での合計値は返されません。例: "営業 (限定)" 組織の "Level = Sales" は、"売上" の合計値ではなく、"営業 (限定)" 組織の値を返します。

このため、科目のデフォルトの数式を入力する場合は特に (+) を追加する必要があります。これは、(限定) 組織を含むすべての組織で有効なためです。フォーミュラ アシスタントでは、問題を回避するために親組織の修飾子を選択する際に (+) が自動的に追加されます。

relatedlinks
概念
概念: 数式の基本要素 ( 1133ページ )
参考
参考: 数式の組織修飾子 ( 1151ページ )

参考: 数式の組織修飾子

組織修正率の定義

組織修飾子は科目からデータをスライスして、特定の組織の値のみを含めます。

ドキュメントの構文

ドキュメントの構文に関する注意事項をいくつか以下に示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 変数を示すには、(N) のようなかっこ内の大文字、または <account_code> のようなかっこ内のテキストを使用します。変数は有効な定数、科目参照、または数式に置き換える必要があります。
- 多くの国の基準に従って、カンマを使用して項を区切ります。ブラウザで小数点としてカンマが使用されている場合は、項をセミコロンで区切る必要があります。
- 数式を読みやすくするために空白が追加されますが、必須ではありません。スペースを追加したり、数式から除外したりすることもできます。
- Divf などの関数は資産計上され、ACCT などの要素にはすべて大文字が使用されますが、数式は大文字と小文字が区別されません。

### 組織修飾子の制限事項

- 次の場合、Adaptive Planning シートに有効な数式のエラーが表示されます。
  - アクセス ルールによりアクセスできない組織別に変更します。
  - 非公開の "データ プライバシー設定"がある科目参照に組織修飾子を追加します。例: ACCT.001 の設定で、この数式が有効になるためには、"データ プライバシー設定" が "科目の値はすべての組織で公開" になって いる必要があります: ACCT.001 [level = level_code]。参照 概念: 科目のデータ プライバシー設定（897ページ）。
  - 制限された単語を使用した参照組織コード。参照 参考: メタデータのコードと名前のベスト プラクティス（1289ページ）。
  - 現在のバージョンの使用可否で使用できない組織を参照します。参照 組織の使用可否の変更（848ページ）。
- 前提条件科目はすべての組織に対して同じ値になるため、前提条件科目には組織の修飾子は適用されません。
- 組織修飾子はモデル シートの ROW 参照には適用できません。ROW は行内の組織を参照する必要があるためです。ただし、組織修飾子を使用してモデル科目を別のシートから変更することはできます。

### 組織 **(+)** と 組織 **(-)**のベスト プラクティス

- 親組織を参照するには、常に ***level*** = <***parent_code***> ***(+)*** を使用します。
- (限定) 組織を参照するには、常に ***level*** = <***parent_code***> ***(-)*** を使用します。
- ***level*** = ***this (+)*** は 避けてください。これは、同じ親の (限定) 組織の数式に対してのみ有効です。代わりに ***level*** = <***parent_code***> ***(+)*** に置き換えてください。
- ほとんどの場合で有効ですが、 ***level*** = <***parent_code***> は避けてください。親の合計から (+) をドロップすると、関連する (限定) 組織での合計値の代わりに (限定) 組織の値が返されます。
- どのような理由でも 、***level*** = ***this (-)*** を使用しないでください。

***level*** = <***parent_code***> ***(+)*** は、 (限定) 組織を含むすべての子組織の合計値を含みます。フォーミュラ アシスタントでは、選択した任意の親組織の修飾子に自動的に (+) が追加されます

### 組織修飾子の構文と例

テーブルの例では、"ACCT.02" の組織の階層と値は次のとおりです。

| 組織 [code] | 2025 年 1 月 |
|---|---|
| - 営業 [Sales] | |
| 北部営業 [SN] | 50,000 |
| 南部営業 [SS] | 100,000 |
| 営業 (限定) [N/A] | 20,000 |
| 合計 - 売上 | 170,000 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| 組織 = これ | 任意の組織で使用して、現在の交差部分と同じ組織を参照します。<br>別の組織を指定しない限り、デフォルトでは組織が「この 組織」であることを意味するため、ほとんどの場合 これを 使用する必要はありません。 | 数式の場所:<br>"ACCT.001" (営業南部組織)<br>数式:<br>ACCT.02 [level = this]<br>戻り値: 100,000 |
| level = this (+) | (限定) 組織でのみ使用し、親組織の合計値を参照します。<br>(限定) 組織以外のすべての組織については、[level = this] の値を返します。 | 数式の場所:<br>"ACCT.001" (営業南部組織)<br>数式:<br>ACCT.02 [level = this (+)]<br>戻り値: 100,000<br>数式の場所:<br>ACCT.001 (営業 (限定) 組織)<br>数式:<br>ACCT.02 [level = this (+)]<br>戻り値: 170,000 |
| level = this (-) | 使用しないでください。予期しない結果を返すか、無視します。 | 該当なし |
| level = <level_code> | 任意の組織を参照する任意の組織で使用します。モデル内の <level_code> (かっこ記号を含む) を正確な組織コードに置き換える必要があります。<br>参照された科目に公開の データ プライバシー設定がない場合は、エラーが発生します。<br>親組織を参照する場合は、自動的に (+) が含まれます。これを削除しても、(限定) 組織の合計値は返されません。 | 数式の場所:<br>ACCT.001 (任意の組織)<br>数式:<br>ACCT.02 [level = SN]<br>戻り値: 50,000 |
| level = <level_code> (+) | 親組織を持つ科目を変更する場合に使用します。モデル内の <level_code> (かっこ記号を含む) を正確な親組織コードに置き換える必要があります。<br>すべての子組織の合計値を返します。子組織がない場合、変更は削除されます。 | 数式の場所:<br>ACCT.001 (任意の組織)<br>数式:<br>ACCT.02 [level = Sales (+)]<br>戻り値: 170,000 |
| level = <level_code> (-) | 親組織を持つ科目を変更する場合に使用します。モデル内の <level_code> (かっこ記号を含 | 数式の場所:<br>ACCT.001 (任意の組織)<br>数式: |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| | む) を正確な親組織コードに置き換える必要があります。<br>親組織の (限定) 組織の値を返します。(限定) 組織には特定のコードがないため、これは (限定) 組織の科目値を参照する唯一の方法です。 | ACCT.02 [level = Sales (-)]<br>戻り値: 20,000 |

relatedlinks
概念
概念: 数式の基本要素 ( 1133ページ )
概念: 科目のデータ プライバシー設定 ( 897ページ )
参考
FAQ: 数式の組織修飾子 ( 1149ページ )
参考: 科目参照および修飾子の数式構文 ( 1154ページ )

参考: 科目参照および修飾子の数式構文

数式内の科目参照および修飾子に対して使用できる構文ルールとオプションについて説明します。科目参照は、ACCT、ASSUM、ROW で表されます。

時間、組織、属性、または特性の修飾子を使用して、総勘定元帳、カスタム、キューブ、メトリック、および前提条件の科目を変更できます。科目参照ごとにさまざまな修飾子を使用できます。

数式では、行に入力されたデータが自動的に修飾子として使用されるため、修飾子は ROW 参照には使用できません。

科目の参照

- 総勘定元帳科目、カスタム科目、メトリック科目の参照は、次の形式に従います。ACCT.*Account_Code*
- キューブ科目およびモデル科目の参照は、次の形式に従います。ACCT.*Sheet_Prefix.Account_Code*
- 用途 ACCT.this が現行科目を参照する数式に含まれている。そうすれば、数式で現行科目を参照する必要がある場合に、複数の科目において同じ数式を使用できます。これにより、大規模な科目ブロック間での数式のコピーが格段に容易になります。(使用することもできます) this) 現在の組織または属性値を参照します。)

前提条件の参照
グローバル前提条件科目の参照は、次の形式に従います。 ASSUM.*Account_Code* :

モデル シート入力列の参照

モデル シートの行の参照は、次の形式に従います。

- ROW.*Input_Column*
- ROW.*Lookup_Table*
- ROW.*Attribute_Name*

特性修飾子を ROW 項で使用すると、特性値の文字列に解決されます。分割は現在のモデル行に対応します。変更できるのは、スペースやその他の終了文字を含まない特性名のみです。

時間修飾子

- ACCT.Personnel.Headcount[time=this-1]

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- ACCT.Personnel.Salary[time=this.year-1]

次のオプションがあります。

- this (現在の期間)
- this+*n*　(ここで、*n* は将来の期間の数)
- this-*n*　(ここで、*n* は過去の期間の数)
- this.year (現在の期間から参照される年度)
- this.qtr (現在の期間から参照される四半期)
- this.year-1 (現在の期間から遡る前年)
- 範囲:
    - コロンで区切った 2 つの時間参照です。
    - 範囲の両端は、同じ粒度でなければなりません。
    - 科目タイプと科目の "時間合計" 設定に基づいて値を合計します。例: this.year-2:this.year ロールアップした値を合計するために " 時間合計" を設定したフロー カスタム科目の 3 年間を合計します。ロールアップした値を平均するために "時間合計" を設定する場合、これは同一科目に平均を与えます。"時間合計" の設定が固定されている科目の場合、数式は固定された設定に基づいて値を生成します。

注 : 分かりやすくするために、テーブルの例ではカンマ区切り文字を使用して数式を示します。ブラウザの設定によっては、セミコロンで区切る必要があります。

| 完全な数式の例 | 説明 |
|---|---|
| IFF(this.month.IsUnder(ToDate(ROW.Year,12,31),Quarter),ASSUM.HigherQuota,ASSUM.NormalQuota) | 設定 ROW.Year は、ASSUM 数式がモデル シート内にあることを示します。そこでは、モデル シートの行に "Year" 列があると想定されます。月が 12 月 31 日のある年の四半期内にある場合、大きいノルマの前提条件値が戻されます。それ以外の場合、通常のノルマの前提条件が戻されます。 |
| IFF(this.Year.NumberOfDays>365,ASSUM.DailySpreadAmt[time=this-48],ASSUM.DailySpreadAmt[time=this-1]) | この数式は、うるう年かどうかを検出し、うるう年であれば 4 年前の値の前提条件を使用します。そうでない場合、前年の値を使用します。 |

属性と特性
特定の属性および特性でタグ付けされた科目からデータを取得できます。

例: 人員は従業員モデル シートの科目です。"従業員タイプ" はカスタム ディメンションです。 "社員タイプ" のディメンション値の 1 つが "常勤" です。人員科目の "常勤" 属性値でタグ付けされたデータのみを参照するには、「ACCT.Personnel.Headcount[Employee_Type=Full Time]」と入力します。

ガイドライン:

- 角かっこ [.....] を付けた修飾子を ACCT の後に付加します。
- これは 、現在の属性値を参照するための属性値として使用します。例: ACCT.6110[Product=this])
- 複数の属性または特性を、カンマで区切って追加できます。例: 数式は "製品" と "顧客" 属性を参照します。ACCT.6110[Product=Zips, Customer=WinterWonderland]
- 同じ属性修飾子に対して複数の属性値をリストしないでください。複数の値をリストした場合、数式はリストの最後にある値 1 つだけを返します。例: この数式は、"シャツ" ではなく "セーター" にタグ付けされた科目 "6110" のデータのみを返します。また、"シャツとセーター" も返しません。ACCT.6110[Product=Zips, Product= すべてセーター]

relatedlinks
参考
参考: 数式の組織修飾子 ( 1151ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved　Workday Proprietary and Confidential

数式の関数と操作
概念: 数式を使用した端数処理

Adaptive Planning の数式では、端数処理と切り捨てがサポートされています。

端数処理

小数を含む値を四捨五入して最も近い整数にするには、"端数処理" 関数を使用します。端数処理関数は、数値を切り上げまたは切り捨てます。

例: Round(ACCT.001)。

| ACCT.001 の値: | 数式は以下を返します。 |
|---|---|
| 3.45 | 3 |
| 7.798 | 8 |

切り捨て

切り捨てによって、小数点以下の数字が削除されます。この関数では、常に最も近い整数に切り捨てられます。

例: Trunc(ACCT.001)。

| ACCT.001 の値: | 数式は以下を返します。 |
|---|---|
| 3.45 | 3 |
| 7.798 | 7 |

高度な端数処理

1 の位または 10 の位などに丸めるには、高度な数式で "端数処理" 関数を使用できます。

例: Round(divf(ACCT.001,10))*10

この数式は、まず値を 10 で除算し、その結果を四捨五入して最も近い整数にすることを示しています。最終的に、結果に 10 を掛けます。

| ACCT.001 の値: | 数式は以下を返します。 |
|---|---|
| 43 | 40:<br>1. 43/10 = 4.3<br>2. 4.3 を四捨五入 = 4<br>3. 4*10 = 40 |
| 876 | 880:<br>1. 876/10 = 87.6<br>2. 87.6 を最も近い整数に丸め = 88<br>3. 88*10 = 880 |

10 の位を四捨五入するには、両方の 10 を 100 に置き換えます。10 の位を四捨五入するには、両方の 10 を 1000 に置き換え、以下同様です。小数点以下を四捨五入できます。小数点以下を四捨五入するには、10 の位を .1 に置き換えます。1 の位を .01 などに置き換えて、1 の位を四捨五入します。

高度な切り捨て

10 の単位または最も近い 100 の単位などに切り捨てを行うには、高度な数式で Trunc 関数を使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: Trunc(divf(ACCT.001,10))*10

この数式は、科目を 10 で除算することを示します。その後、結果を切り捨てます。最終的に、結果に 10 を掛けます。

| ACCT.001 の値: | 数式は以下を返します。 |
|---|---|
| 47 | 40:<br>1. 47/10 = 4.7<br>2. 4.7 小数点以下を切り捨て = 4<br>3. 4*10 = 40 |
| 133 | 133:<br>1. 133/10 = 13.3<br>2. 13.3 を整数に切り捨て = 13<br>3. 13*10 = 130 |

10 の単位に切り上げるには、両方の 10 を 100 で置き換えます。1,000 の単位に切り捨てるには、両方の「10」を「1,000」に置き換え、以下同様にします。 小数点以下を切り捨てることもできます。小数点以下を四捨五入するには、10 の位を .1 に置き換えます。1 の位を .01 などに置き換えて、1 の位を四捨五入します。

relatedlinks
参考
参考: 数式関数 ( 1162ページ )

概念: **IRR** 数式関数

**IRR** の定義と方法

IRR は投資の内部収益率を計算する数式関数です。例: 資産、貸付、不動産など。IRR は、すべてのキャッシュ フローの正味現在価値 (NPV) をゼロにする割引率です。

IRR を計算するためのユース ケース

- 貸付金を利用し、一時払金を受け取ります。指定した期間にわたって一貫した支払が行われることを確認できます。例: 貸付金額は 100,000 ドルで、3 年間 (36 期間) にわたって毎月 3,500 ドルで支払われるとします。この結果の IRR は 1.31% になります。
- 将来予想されるキャッシュ フローと引き換えに先行資本が必要なビジネスを開始します。現在の値、期間数、予想されるキャッシュフローが入力され、IRR 数式が収益率を提供します。

IRR は単純な数式ではありません。IRR は、適切な値に収按分するために反復する目標探索関数です。Adaptive は IRR の計算に Newton-Rapson 法を使用します。この方法の詳細については、インターネットで確認できます。

**Adaptive Planning** の **IRR** 要件

モデルで IRR 関数を使用するには、投資の有効期間がバージョンの期間を超えないようにする必要があります。この制限の理由は、Adaptive Planning の IRR 関数では、投資に関連するすべてのキャッシュフローを順番に入力する必要があるためです。

IRR の数式に必要なコンポーネントは次のとおりです。

- キャッシュフロー科目または行
- 参照する期間を指定する期間範囲。一連の科目または行である可能性があります。期間の引数として個々の科目または行を選択するのではなく、単一のキャッシュフロー科目の期間を指定することをお勧めします。
- IRR 推定。これは、必要な IRR に対する最良の推測です。正しいポイントが複数ある場合、この推定値は正しい IRR への収按をガイドします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### IRR 関数を使用した数式の引数

IRR 数式には、カンマで区切った引数があります。IRR の場合、引数は科目、数値、または関数固有の変数です。IRR 数式は、単一または複数の引数を使って設定できます。

| 引数 | 例 |
| --- | --- |
| 単一 | IRR(引数 1) |
| 複数 | IRR(引数 1, 引数 2, 引数 3) |

### 単一引数の IRR 数式

単一の引数は、時間範囲を持つ単一のキャッシュフローを必要とします。単一引数の IRR 数式は 0.1 と想定されているため、推定 IRR を入力する必要はありません。

例: IRR(ROW.Cashflow[time=this:this+36])

数式のコンポーネントの説明

- IRR 関数の後のかっこ内の数式は、モデル シート内の "キャッシュフロー" と呼ばれる行を参照します。
- キャッシュフロー行の時間修飾子を使用します。これは、行の期間に 36 を加えた期間を参照するよう指定されています。
- IRR 見積を入力する必要はありません。単一引数の IRR 数式では、IRR 推定値は常に 0.1 です。

### IRR 見積の指定

引数を追加して独自の IRR 見積を指定する。常に、数式の最後の引数として IRR 見積を追加する必要があります。

例: IRR(ROW.Cashflow[time=this:this+36], 0.2)

数式コンポーネントの説明。

- 最初の引数からカンマで区切って、独自の IRR 推定値を追加しました。
- 数式には 2 つの引数が含まれ、最後の引数は IRR 推定値の 0.2 です。

### IRR 数式の複数の引数

複数のキャッシュフロー入力に対して 1 つではなく複数の引数を作成することもできます。IRR の数式の場合、一般的に、関連するすべてのキャッシュフローを含める必要があります。この場合、最後の引数として IRR 見積を追加してください。そうしないと、参照する最後のキャッシュフローが IRR 見積のように機能します。

例: IRR(ROW.CashFlow1, ROWCashFlow2, ROW.CashFlow3, 0.1)

数式コンポーネントの説明

- 複数の引数に複数のキャッシュフローが含まれます。この場合、計算は 3 つのキャッシュフロー行で表される 3 つの期間を対象とします。
- 4 番目の引数に IRR 推定値として「0.1」と入力します。複数の引数の見積の入力に失敗した場合、最後のキャッシュフローの値が IRR の見積になります。

### IRR 見積変数

数学的に正しい IRR は複数存在する可能性があります。IRR 関数は、正味現在値 (NPV) が 0 になる割引率を求めようとします。これらの数式は、通常、非線形グラフを生成します。グラフには通常、数学的に正しい値が設定された上限値がその上限値の前後に表示されます。IRR 推定値は、最も適切な、数学的に正しい値にこの関数が収差されるのに役立ちます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

単一引数の数式では IRR 見積に 0.1 を使用します。利益の内部レート 0.1 は、それが適切な投資であると仮定した場合の正しい推測です。ただし、これは、予測される IRR が負である場合は特に、数式の最適な前提条件であるとは限りません。

数式が 0 または意味のない値を返す場合、数式が適切な値に収ドされるように別の推定 IRR を試してください。

**Workday と Excel IRR の違い**

| 動作または機能 | Adaptive Planning | Excel |
|---|---|---|
| 反復回数 | Workday は 600 回インターバルします。結果が見つからない場合は、0 が返されます。その後、新しい IRR 見積を試行できます。 | Excel は .00001% 以内の精度の結果が見つかるまで、20 回反復します。Excel はこの精度の範囲内で結果が見つからない場合、#NUM! を返します。エラーその後、新しい IRR 見積を試行できます。 |
| IRR 見積の前提条件 | 単一引数の場合は 0.1複数の引数に対してユーザーが指定しました。 | 単一引数の場合は 0.1複数の引数に対してユーザーが指定しました。 |
| IRR 法 | Newton – Rapson 法 | Excel では、使用する方法は明示的には示されません。* |

* Excel では異なる結果になる可能性があります。同じ変数を与えられた場合、Adaptive Planning では 0 の値が生成され、Excel では 0 以外の値が生成されるというケースが発生しています。Adaptive Planning で生成された数値は、Newton-Rapson 法を使用して数学的に正しいことを確認できますが、Excel が使用している方法と結果の数学的な正確性を確認することはできません。

relatedlinks
参考
参考: 数式関数 ( 1162ページ )

概念: スプレッド数式関数

スプレッドは、一定期間における値の偏った配分を処理することを目的としています。一般的なユースケースでは、1 年 (12 か月) に 52 週が含まれます。

スプレッド関数を使用する理由

52 週間を 12 か月に均等に配分することはできません。ただし、週を各四半期に均等に配分することができます。

52 週/4 四半期 = 各四半期に 13 週間

各四半期は 3 か月であるため、13 週間を 3 か月で分割できます。

13 週間/3 か月 = 毎月 4 週間、残りは 1 です。

四半期ごとの追加月はどのように計上しますか？

4-4-5、4-5-4、5-4-4 の構造を使用できます。これらの構造では、各四半期の最初の月 (5-4-4)、2 番目の月 (4-5-4)、または 3 番目の月 (4-4-5) に追加週を配置します。「長い」月は、4 週間ではなく 5、または 5 週間の月で表されます。

スプレッド関数で値が他の期間に配分されることはありません。代わりに、仮想のスプレッド内の位置に基づいて特定の期間の値を返します。値を分配するには、デフォルトの数式または共有数式にスプレッド関数を入力し、各期間でこの関数が繰り返されるようにします。これにより、値を効果的に分配できます。または数式をすべての期間にコピーすることもできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### **Adaptive Planning** のスプレッド関数

Adaptive Planning には、次の 3 つのスプレッド関数があります。

- Spread445 (N, M)
- Spread454 (N, M)
- Spread544 (N, M)

N は割り当てる値で、M は値を分散させる期間数です。M を削除すると、この関数が 12 か月のスプレッドで計算されます。スプレッド関数は、M に入力した値を使用して、月 > 四半期の単位 (各四半期に 13 週) に基づいて週数を計算します。

#### スプレッド関数の計算方法

M には、12 に均等に分割する値または 12 の倍数の値を入力することをお勧めします。他の数値を使用することもできますが、計算はそこまで単純ではありません。

計算の仕組みは次のとおりです。

1. M の値に基づいて週数を計算します。
    - 3 = 1 四半期 = 13 週
    - 6 = 2 四半期 = 26 週
    - 12 = 4 四半期 = 52 週
    - 24 = 8 四半期 = 104 週
    - その他。
2. "N" の値を計算した週数で除算します。
3. 当期の場所とスプレッド関数に応じて、4 または 5 で乗算します。
    - 4-4-5 の場合: 3 月、6 月、9 月、12 月に 5 を掛ける。他のすべての期間には 4 を掛けます。
    - 4-5-4 の場合: 2 月、5 月、8 月、11 月に 5 を掛ける。他のすべての期間には 4 を掛けます。
    - 5-4-4 の場合: 1 月、4 月、7 月、10 月に 5 を掛ける。他のすべての期間には 4 を掛けます。

#### スプレッド関数の数学の例

| 式 | 最初の月の結果: 1 月、4 月、7 月、10 月 | 2 月、5 月、8 月、11 月の 2 か月間の結果 | 3 月、6 月、9 月、12 月の結果 |
|---|---|---|---|
| Spread445 (10,000) | = (10,000 / 52) * 4<br>= 769 | = (10,000 / 52) * 4<br>= 769 | = (10,000 / 52) * 5<br>= 962 |
| Spread445 (10,000, 6) | = (10,000 / 26) * 4<br>= 1,538 | = (10,000 / 26) * 4<br>= 1,538 | = (10,000 / 26) * 5<br>= 1,923 |
| Spread454 (12,000) | = (12,000 / 52) * 4<br>= 923 | = (12,000 / 52) * 5<br>= 1,154 | = (12,000 / 52) * 4<br>= 923 |
| Spread454 (12,000, 3) | = (12,000 / 13) * 4<br>= 16,000 | = (12,000 / 13) * 5<br>= 20,000 | = (12,000 / 13) * 4<br>= 16,000 |
| Spread544 (200, 3) | = (200 / 13) * 5<br>= 77 | = (200 / 13) * 4<br>= 62 | = (200 / 13) * 4<br>= 62 |
| Spread544 (200, 24) | = (200 / 104) * 5<br>= 10 | = (200 / 104) *4<br>= 8 | = (200 / 104) *4<br>= 8 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
参考
参考: 数式関数 ( 1162ページ )

概念: フロー値に基づいた年初来の計算

フロー科目とストック科目

多くの場合、損益計算書勘定の値は貸借対照表勘定の値に影響します。例: 純利益は、貸借対照表の年初来純利益を制御するフロー科目です。時間修飾子とともにドット表記を使用すると、月ごとの YTD 科目を正確に計算できます。

科目の例

| サンプル科目 | シートとタイプ | 科目コードの例 |
|---|---|---|
| 純利益 | 損益計算書 - フロー | ACCT.NetIncome |
| 年初来純利益 | 貸借対照表 - ストック | ACCT.YTDNetIncome |

数式の例

"Acct.YTDNetIncome" の場合、次の数式をセルに入力するか、デフォルトの数式に入力できます。

=if(this.year.positionof(this.month) = 1, ACCT.NetIncome, ACCT.NetIncome + ACCT.YTDNetIncome[time=this-1])

内訳は以下のとおりです。

| 数式 | 意味 |
|---|---|
| =if(this.year.positionof(this.month) = 1, | 今月が当年度の最初の会計月である場合。 |
| ACCT.NetIncome, | 損益計算書の純利益科目の値を使用する。 |
| ACCT.NetIncome + ACCT.YTDNetIncome[time=this-1]). | それ以外の場合は、前月の "年初来純利益" に "純利益" の値を追加します |

シート上の結果の例

1 月が会計年度の最初の月である場合は、次のようになります。

| 科目 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|---|---|---|---|
| 純利益 | 500 | 200 | 400 |
| 年初来純利益 | 500 | 700 | 1100 |

relatedlinks
参考
参考: 数式関数 ( 1162ページ )

**FAQ:** 平均数式関数はありますか？

現在、数式の平均関数はサポートされていません。ただし、コンポーネントを追加し、コンポーネントの数で割ることにより、数学的に平均を計算することはできます。

relatedlinks
参考
参考: 数式関数 ( 1162ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

**FAQ: Div、Divf、/ 記号の違いは何ですか？**

この 3 つはすべて除算演算子です。

"N/D" は機能しますが、使用しないことをお勧めします。N または D が複雑な計算である場合や、0 に等しい場合、エラーが発生する可能性が高くなります。また、モデルのパフォーマンスに負担をかける可能性もあります。

Div (N, D) は数式エラーを防止します。Div では、0 の分母はエラーではなく 0 の値になります。これにより、作業を保存し、後で値を D に入力することができます。

Divf (N, D) は、分子が 0 のときに分母を評価しないため、パフォーマンスが向上します。Divf では、0 の分子は 0 の値になります。作業を保存し、後で N の値を入力することができます。

次のプロトコルをお勧めします。

1. Div を用いて数式をテストします。
2. 数式が期待どおりに評価されることを確認します。
3. パフォーマンスを向上させるために Div を Divf に置き換えます。

relatedlinks
参考
参考: 数式関数 ( 1162ページ )

参考**:** 数式関数

Adaptive Planning の数式は、単純な数学関数と複雑な数学関数をサポートします。フォーミュラ アシスタントを使用して、すべての数学関数にアクセスできます。

ドキュメントの構文

ドキュメントの構文に関する注意事項をいくつか以下に示します。

- 変数を示すには、(N) のようなかっこ内の大文字、または <account_code> のようなかっこ内のテキストを使用します。変数は有効な定数、科目参照、または数式に置き換える必要があります。
- 多くの国の基準に従って、カンマを使用して項を区切ります。ブラウザで小数点としてカンマが使用されている場合は、項をセミコロンで区切る必要があります。
- 数式を読みやすくするために空白が追加されますが、必須ではありません。スペースを追加したり、数式から除外したりすることもできます。
- Divf などの関数は資産計上され、ACCT などの要素にはすべて大文字が使用されますが、数式は大文字と小文字が区別されません。

単純な数学関数
フォーミュラ アシスタントでツールバーのボタンを使用するか、キーボードで数学記号を入力することで、簡単な数学関数を見つけることができます。

| 数学演算子 | 数式の例 |
|---|---|
| 加算 (+) | ACCT.001 + ACCT.002 |
| 減算 (-) | ACCT.001 - ACCT.002 |
| 乗算 (*) | ACCT.001 * ACCT.002 |
| 部門 (Divf) | Divf (ACCT.001, ACCT.002)<br>ACCT.001 (被除数) を ACCT.002 (除数) で割る |
| モジュロ (%) | 10 % 3<br>商の残りを計算します。10 の除算 3 = 3 の残りの部分は 1 であるため、1 を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 数学演算子 | 数式の例 |
| --- | --- |
| かっこ () | (ACCT.001 + ACCT.002) * 12<br>操作の順序を決定します: 科目を追加してから 12 にする。 |
| Round(N) | 円形 (ACCT.001)<br>四捨五入して最も近い整数にします。この例では、「ACCT.001」の値が 5.75 の場合、数式は「6」を返します。 |

### 複雑な数学関数

フォーミュラ アシスタントの "関数 " プロンプトで "数学" を選択すると、複雑な数式を検索することができます。"関数 " プロンプト の横にあるドロップダウン メニューに関数が表示されます。

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Div (N, D)<br>Divf (N, D) | N を D で割ります。<br>N は分子です。D は分母です。<br>次のようなメトリックと比率の計算に使用します。<br>• 負債から資本への換算。<br>• 株式ごとの支給。<br>• 価格対収益。<br>• 自己資本利益率。<br>参照 FAQ: Div、Divf、/ 記号の違いは何ですか？（1162ページ）。 | "N" と "D" の両方を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br>既存の値:<br>ACCT.001 = 7.8<br>ACCT.002 = 4.2<br>式:<br>Divf (ACCT.001, ACCT.002)<br>計算<br>= Divf (7.8, 4.2)<br>= 1.86 |
| 端数処理 (N) | N を最も近い整数に丸めます。<br>計算を簡略化するために、または分数が意味をなさない計算値に使用します。<br>参照 概念: 数式を使用した端数処理（1156ページ）。 | "N" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br>既存の値:<br>ACCT.001 = 7.8.<br>式:<br>円形 (ACCT.001)<br>計算<br>円形 (7.8)<br>= 8 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Trunc(N) | 小数点以下の桁数をドロップします。<br><br>計算を簡略化するために、または分数が意味をなさない計算値に使用します。<br><br>参照 概念: 数式を使用した端数処理 ( 1156ページ ) 。 | "N" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br><br>既存の値:<br><br>ACCT.001 = 7.8<br><br>ACCT.002 = 4.2<br><br>式:<br><br>Trunc (ACCT.001 * ACCT.002)<br><br>計算<br><br>= トランク (7.8 * 4.2)<br><br>= トランク (32.76)<br><br>= 32 |
| floor (N) | N を最も近い整数に切り捨てます。<br><br>小数値では意味がないので、整数に切り捨てたい場合に使用します。<br><br>例: 単位が分数でない場合に、販売単位あたりの価格を計算します。 | "N" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br><br>既存の値:<br><br>ACCT.001 = 23.89<br><br>ACCT.002 = 4.75<br><br>式:<br><br>floor (Divf (ACCT.001, ACCT.002))<br><br>計算<br><br>= floor (Divf (23.89, 4.75))<br><br>= 階数 (5.688)<br><br>= 5<br><br>"Floor (-5.688)" の場合、-6 は -5.688 より小さいため、結果は "-6" になります。 |
| Ceil (N) | 最も近い整数に切り上げられます。<br><br>分数値が意味をなし、切り上げたい場合に使用します。<br><br>例: 予測売上に基づいてヘッドカウント カバレッジを計算します。答えが「1.3」である場合、店舗への人材不足を防ぐには、2 人の従業員が必要です。 | "N" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br><br>既存の値:<br><br>ACCT.001 = 23.89<br><br>ACCT.002 = 4.2<br><br>式:<br><br>Ceil (Divf (Acct.001, Acct.002))<br><br>計算<br><br>= Ceil (Divf (23.89, 4.2))<br><br>= Ceil (5.688)<br><br>= 6 セル<br><br>(-5.688) は -5 は -5.688 より大きいため、-5 です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Power (N, E) | N の値を指数 E で累乗します。指数は数値 N に特定の回数を乗算します。<br><br>N は正の数、E は整数である必要があります。<br><br>特定のデータ セットの指数関数的な増加または減少を測定するために使用します。<br><br>例: 年間複利レートによる投資の将来価値の計算 | "N" と "E" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br><br>既存の値:<br><br>金利: ASSUM.001 = 2%<br><br>資産: ACCT.001 = 100<br><br>年数 = 3<br><br>式:<br><br>ACCT.001 * (Power (1+ASSUM.001, 3))<br><br>計算<br><br>= 100 × (Power (1 + .02, 3))<br><br>= 100 × (Power (1.02, 3))<br><br>= 100 * (1.02 * 1.02 * 1.02)<br><br>= 100 * 1.061<br><br>= 106.12 |
| Ln (N) | N の自然対数、または指数関数の逆数を計算します。Ln は、Euler 定数 (約 2.718) を N の値にするのに必要な指数を計算します。<br><br>N は正の数である必要があります。<br><br>Ln を使用して、指数関数的な増加または減少を測定します。<br><br>例: 時間に対する収益の継続的な複合成長率を計算します。 | "N および" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br><br>既存の値:<br><br>2024 年の収益: ACCT.001 = 100,000<br><br>目標値: 500,000<br><br>目標値に達するまでの期間 = 4。<br><br>式:<br><br>Divf (Ln (Divf (500,000, ACCT.001 [time = 2024]), 4)<br><br>計算<br><br>= Divf (Ln (Divf (500,000, 100,000)), 4<br><br>= Divf (Ln (5), 4)<br><br>= Divf (1.609, 4)<br><br>= .402<br><br>パーセントに換算: 40.2% の複合成長 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Greatest (N1, N2, ...) | セルに一連の最大値を入力します。<br>"最高値" を使用して、複数のオプション間の最大値を特定します。<br>例: 最低給与も提供する場合は、コミッション ベースの報酬を計算します。 | "N1"、"N2" などを科目参照、数値、または数式に置き換え、各項をカンマで区切ります。<br>既存の値:<br>最低給与: ASSUM.001 = 30,000<br>総売上高: ACCT.001 = 50,000<br>コミッション レート: 20%<br>式:<br>Greatest (ASSUM.001, (ACCT.001 * .2))<br>計算<br>= Greatest (30,000, (50,000 * .2))<br>= Greatest (30,000, 10,000)<br>= 30,000 |
| Least (N1, N2, ...) | セルに一連の最小値を入力します。<br>"最小" を使用して、複数のオプションの最小値を特定します。<br>例: 競争相手を超えない価格を計算します。 | "N" を科目参照、数値、または数式に置き換え、各項をカンマで区切ります。<br>既存の値:<br>コスト: ACCT.001=200<br>競合他社の価格: ACCT.002 = 250<br>価格設定ストラテジー: 最低利益 20%。<br>式:<br>最小 ((ACCT.001 + (ACCT.001 * .2), ACCT.002)<br>計算<br>= 最小 ((200 + (200 * .2)), 250)<br>= 最小 ((200 + 40), 250)<br>= 最小 (240, 250)<br>= 240 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Spread445 (N, M)<br>Spread454 (N, M)<br>Spread545 (N, M) | 4-4-5、4-5-4、または 5-4-4 の会計カレンダーを使用して、指定された月数 (M) にわたる別の値の論理的配分に基づいて値を返します。<br>例: 特定の期間の配分に基づいて収益を計算するために使用します。参照 概念: スプレッド数式関数 ( 1159ページ ) 。 | "N" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。M を期間数に置き換えるか、12 期間のスプレッドにわたって計算するよう削除します。<br>既存の値:<br>収益: ACCT.001 = 100,000<br>式:<br>Spread445 (ACCT.001, 6)<br>計算は以下のとおりです。<br>ステップ *1*。期間の週数を計算します。<br>= 6 か月<br>= 2 四半期 (各 13 週間)<br>= 2 * 13<br>= 26 週間<br>ステップ *2*。週あたりの値を計算します。<br>= 100,000 / 26<br>= 3,836.<br>ステップ *3*。現在の期間に基づいて 4 または 5 で乗算されます。<br>四半期の最初または 2 番目の月 (1 月、2 月、4 月、5 月、7 月、8 月、10 月、11 月) の場合、次のようになります。<br>= 3836 * 4<br>= 15,386<br>四半期の 3 番目の月 (3 月、6 月、9 月、12 月) の場合:<br>= 3836 * 5<br>= 19,231 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Npv (discount_rate, value1, value2, ..., valueN) | 将来のキャッシュ フローの現在の価値を現在の値に割引して返します。<br><br>数式では、最初の値が割引率に 1 を加えた値になります。2 番目の値が、割引率 + 1 の累乗で除算されます。3 番目の値が、割引率 + 1 の累乗で割られて以降、同様に割られます。<br><br>Adaptive Planning の NPV 機能では、初期投資コストが考慮されません。正確な正味現在値を取得するには、このコストを個別に減算する必要があります。純支給額の計算の精度は、予測されるキャッシュ フローと設定された割引率の精度に大きく依存します。<br><br>例: 資本コストを考慮し、時間の経過とともに累積された割引率を考慮して、投資の潜在的な収益性を計算します。<br><br>おすすめの方法:<br>• 期間の範囲を指定して単一科目を変更し、値 1、値 2 などを置き換えます。<br>• 投資の初期値が計算から減算されます。 | 割引レートを、投資を正当化するために必要な最低収益率に置き換えます。value1, value2,...value N を、時間範囲によって変更されたキャッシュフロー科目に置き換えて、経時的な戻り値の可能性を取得します。<br><br>既存の値:<br><br>Discount_rate = 8%<br><br>キャッシュフロー: ACCT.001 =<br><br>1 年目は 100<br><br>2 年目は 200<br><br>3 年目に 300<br><br>式:<br><br>NPV(0.08, ACCT.001 [time = this.year : this.year+2]<br><br>value1 の計算:<br><br>= 100 / 1.08<br><br>= 92.59<br><br>value2 の計算:<br><br>= 200 / (1.08 * 1.08)<br><br>= 200 / 1.17<br><br>= 170.94<br><br>value3 の計算:<br><br>= 300 / (1.08 * 1.08 * 1.08)<br><br>= 300 / 1.26<br><br>= 238.10<br><br>完全な計算:<br><br>値 1 + 値 2 + 値 3<br><br>= 92.59 + 170.94 + 238.10<br><br>= 501.63<br><br>正の整数は、将来のキャッシュフローがコストを上回ることを示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 構文 | 説明 | 例 |
| --- | --- | --- |
| Irr (value1, value2, ..., valueN, estimated_irr) | 一連のキャッシュ フローの内部収益率を見積もります。最大 600 回の反復を使用して、内部的な戻り率の実際の値に近似します。<br><br>投資またはプロジェクトの収益性を評価するために使用します。<br><br>参照 概念: IRR 数式関数 ( 1157ページ ) 。 | value1 を、特定の時間範囲で変更されたキャッシュフロー科目に置き換えるか、各値を異なるキャッシュフロー科目に置き換えます。「Estimated_irr」を自分の見積に置き換えるか、削除してデフォルトの 0.1 を使用します。<br><br>既存の値: 該当なし<br><br>式:<br><br>IRR(ROW.Cashflow[time=this:this+36], 0.2)<br><br>計算: 該当なし |
| Abs (N) | 任意の数の正の値を返します。<br><br>計算での負の数を避ける必要がある場合に使用します。<br><br>例: 利益か損失かに関係なく、純利益の分散レベルを特定します。 | "N" を科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br><br>既存の値:<br><br>2023 年の純利益: ACCT.001 = 100,000<br><br>2022 年の純利益: ACCT.001 = 150,000<br><br>式:<br><br>Abs ((ACCT.001 [time = FY2023]) - (ACCT.001 [time = FY2022]))<br><br>計算<br><br>= 絶対 (100,000 - 150,000)<br><br>= 絶対 (-50,000)<br><br>= 50,000 |
| 平方 (N) | 数字 (N) の平方根を計算します。<br><br>例: 月次変動率を年次変動率に変換します。 | "N" を差異を取得する科目参照、数値、または数式に置き換えます。<br><br>既存の値:<br><br>月次変動率: ACCT.001 = 5%<br><br>式:<br><br>ACCT.001 * 平方 (12)<br><br>計算<br><br>= 0.05 * Sqrt (12)<br><br>= .05 * 3.46<br><br>= .17<br><br>= 17% |

三角関数

三角関数を使用して、以下のようなデータの周期的パターンを測定します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 売上の季節的傾向
- 株式の価格変動。
- 地域マッピングの距離参照 例: 地域最適化の距離を計算（1085ページ）。

| 構文 | 説明 | 例 |
|---|---|---|
| Radians (N) | 円 (3.14) を使って角度 N の度数をラジアンに変換します。<br>ラジアン = (N * 円グラフ) / 180<br>他の三角関数と組み合わせて使用します。Radians 関数は、サインやコサインなどの他の三角関数を計算できるように、度数をラジアンに変換します。 | N を度数で角度を示す式に置き換えます。<br>式:<br>ラジアン (270)<br>計算<br>= (270 * 3.14) / 180<br>= 847.8 / 180<br>= 4.71 |
| Sin (N) | 直角三角形のサインを計算します。N はラジアンに換算された角度の次の値です。<br>サインイン = 商<br>• 反対側の長さ、または三角形の短い側<br>• 斜辺の長さ、または直角の反対側の値 | N をラジアンを計算する式に置き換えます。<br>式:<br>Sin ( Radians(30))<br>計算<br>= .5 |
| Cos (N) | 直角三角形のコサインを計算します。N はラジアンに換算された角度です。<br>コサイン = 商<br>• 隣の側の長さ、または三角形の長い側の値。<br>• 斜辺の長さ、または直角の反対側の値 | N をラジアンを計算する式に置き換えます。<br>式:<br>Cos ( Radians (60))<br>計算<br>= .5 |
| Asin (N) | 直角三角形のアークサインを計算します。N はサインです。<br>アークサインは、反対側と斜辺の角度を計算します。 | N をサインインを計算する式に置き換えます。<br>式:<br>Asin (-0.5)<br>計算<br>= -0.52 |
| Acos (N) | 直角三角形のアークコサインを計算します。N はコサインです。<br>アークコサインは隣の辺と斜辺の角度を計算します。 | N をコサインを計算する式に置き換えます。<br>式:<br>Acos (-0.5)<br>計算<br>= 2.09 |

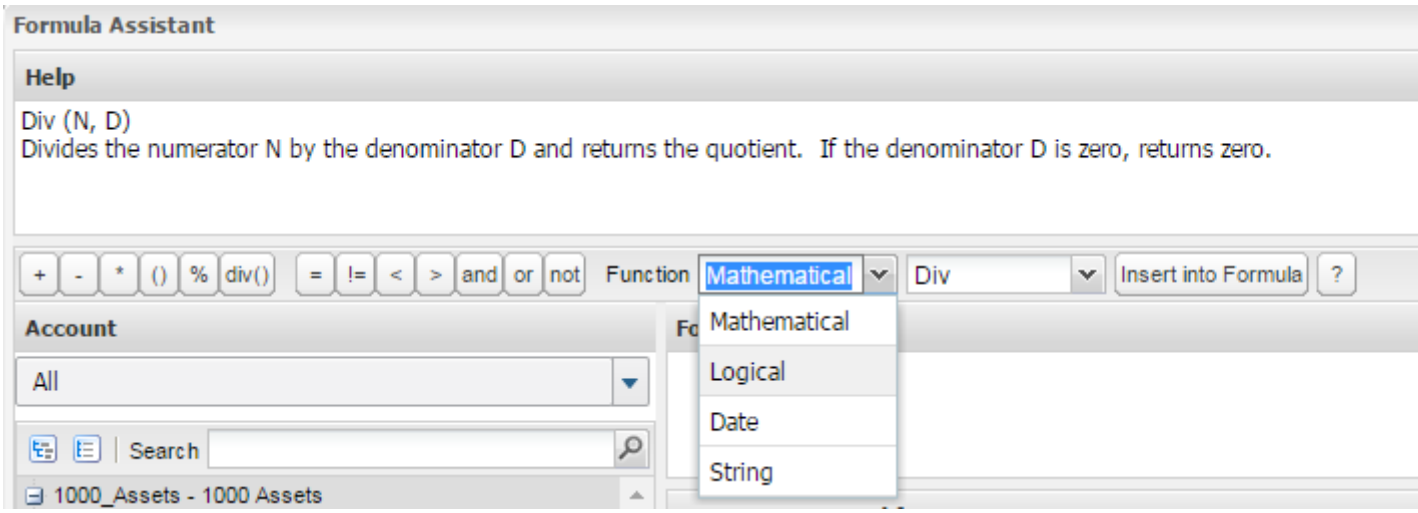
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: 数式の基本要素（1133ページ）
概念: フロー値に基づいた年初来の計算（1161ページ）
概念: スプレッド数式関数（1159ページ）
概念: 数式を使用した端数処理（1156ページ）
概念: IRR 数式関数（1157ページ）
参考
FAQ: 平均数式関数はありますか？（1161ページ）
FAQ: Div、Divf、/ 記号の違いは何ですか？（1162ページ）

参考: 数式関数

数式の関数は、4 つのカテゴリ (数学、論理、文字列、日付) に分類されます。このトピックで各関数とその簡単な説明を定義します。

注：分かりやすくするために、テーブルの説明ではカンマ区切りを使用して数式を示します。ブラウザの設定によっては、セミコロンで区切る必要があります。構文列には両方のバージョンが表示されます。




数学関数
数学関数は、ボタンとして使用できます。たとえば、加算 (+)、減算 (-)、乗算 (*) などがあります。追加の選択オプションは 、"関数" > "数学"から選択できます。

参照 参考: 数式関数（1162ページ）。

論理関数
対象イベントの一部に含める If ステートメントでは、基本的な論理関数、比較がボタンとして利用可能です。たとえば、論理積 (AND)、論理演算子 (OR)、および論理的否定 (NOT)。次の値と等しい比較 (=) ((>) (<)、または (!=)。(<>) ≠

追加の選択オプションは、"関数" > "論理" から選択できます。

| 構文 | 説明 |
| --- | --- |
| Blank() | 以下を返します。 Blank 値。この値は (ゼロではなく) 空白として表示されますが、数式の目的のためにはゼロと同一に評価されます。ゼロの場合とは異なり、次のようになります。IsBlank() 返す関数 TRUEがゼロと同様に、シートまたはレポートで "空の行を非表示にする" が有効な場合に非表示にすることができます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

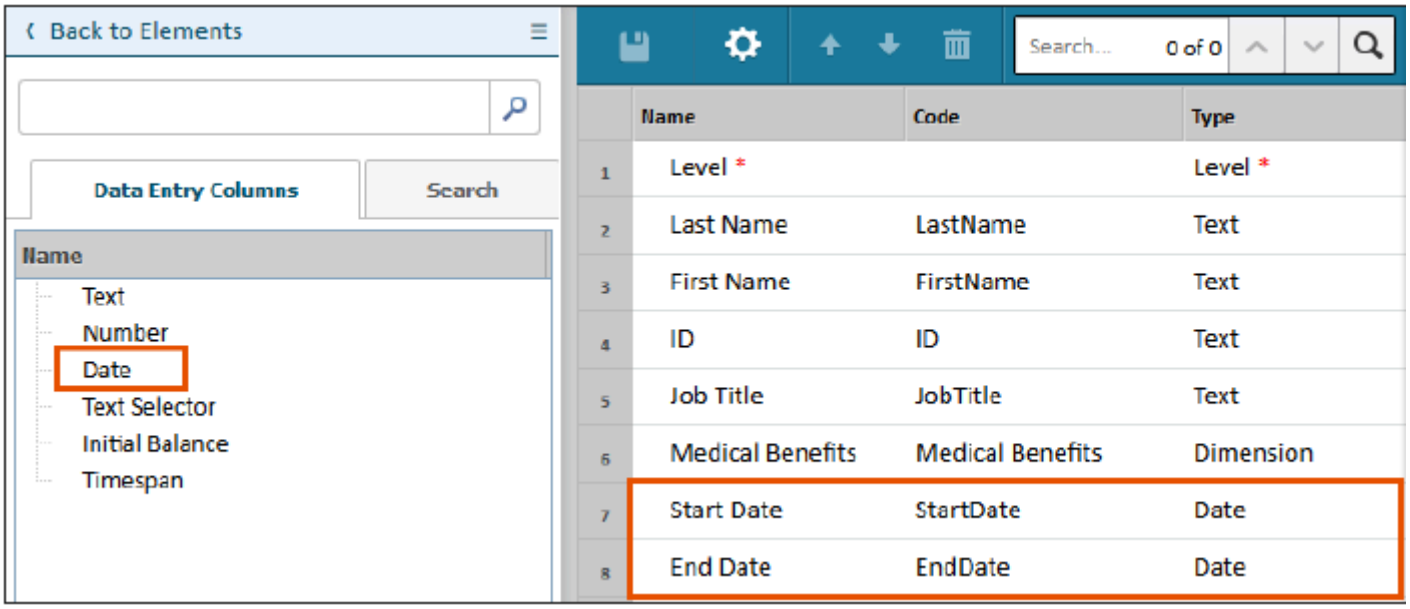
| 構文 | 説明 |
| --- | --- |
| `Error ()` | 実行時の評価エラーの原因になります。<br><br>例: `IF(ACCT.EffectiveHeadcount < 0, Error(), ACCT.EffectiveHeadcount +ACCT.AddlHeadcount)`<br><br>有効人員が 0 未満の場合は、根本的な問題を解決するために工エラーを返します。 |
| `If (EXPR, T, F)`<br>`If (EXPR; T; F)` | 数値 (T) if ブール式 (EXPR) が真の場合、それ以外の場合は数値 (F)。ブール演算子と比較演算子を使用して、ブール式を作成できます。 |
| `Iff (EXPR, T, F)`<br>`Iff (EXPR; T; F)` | "高速" または短絡の形式の `If` 関数。次と同じ値を返します`If`。ただし、条件が true の場合、関数の 3 番目の引数は評価されません。同様に、条件が偽の場合、2 番目の引数は評価されません。これは、2 番目または 3 番目の引数に工エラーが含まれている可能性はあるが、結果は`Iff` 工エラーのある引数は評価されないため、有効なままです。<br><br>例:<br>• `IFF (this.Version.isActuals, ACCT.TravelExp, ACCT.Personnel.EstimatedTravel)`<br>• `IFF (this.Qtr.PositionOf (this.Month) = 2, 100000, 0)` |
| `IsBlank (N)` | 引数が空白か空であった場合は真を、それ以外の場合は偽を返します。式の引数 (EXPR) に`If` 関数。例: `If(IsBlank(Row.StartDate),0,1)` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 構文 | 説明 |
| --- | --- |
| `Switch (Orig_EXPR, Case1, Case2, ..., Default)`<br><br>`Switch (Orig_EXPR; Case1; Case2; ...; Default)` | 複雑なネストされた式の代わりに使用できるコンパクトな式を作成する方法を提供します `If` ステートメント。<br>• 最初の引数 (`Orig_EXPR`) は最初に評価されるオリジナルの式 ( 制御式と呼ばれることもあります) です。<br>• 後続の引数は次のとおりです。`Cases`(値および対応する式)。どのケースが元の式の値と一致するかに応じてアクティブ化されます。<br>• 1 つ以上のケースを定義できます。各ケースは値 (`N`) および式 (`EXPR`) カンマで区切って入力してください。構文を展開すると、次のようになります。`Switch (Orig_EXPR, N1, EXPR1, N2, EXPR2, ..., Default)`<br>• たとえば、オリジナルの式の値が で定義されている値と一致する場合、`Case1`に関連付けられた式`Case1` が返されます。ただし、オリジナルの式の値が一致する場合、`Case2`に関連付けられた式`Case2` が返され、以降同様です。<br>• 一致する値がない場合、次のようになります。`Switch` を返します`Default` 式。<br>• すべての式 (`EXPR`)`Switch` ステートメントは、同じデータ タイプ (文字列、日付、番号など) である必要があります。式のデータ タイプに差異がある場合、次のエラーが表示されます。`Inconsistent` 返品タイプの切替<br>• 単一の値の代わりに (`N`) それぞれのケースについて、 `Range(L,U)` の値 `L` は範囲の下限であり、 `U` は範囲の上限です。たとえば、範囲に複数の年が含まれる場合があります。`Range(2014,2017)` 元の式の値がこの範囲に収まる場合、その範囲に関連付けられた式がアクティブ化されます。<br>• 範囲に対する各引数は、同じデータ タイプでなければなりません (たとえば、`7` のような数字、次のような文字列定数) `Engineering` または既存の数式を使用して作成された日付定数 `Date()` 適切なデータ タイプに解決される関数または式 ( *`this.Version.Name`* または *`ACCT.Rent`* )。<br><br>例:<br><br>• `Switch (ROW.DAY,1,"Sunday",2,"Monday",3,"Tuesday","match")` 条件 `ROW.DAY` が `2` の場合、月曜日は値 `2` に対応する式であるため、次のようになります。 `Switch` 結果は月曜日です。<br>• `Switch (ToNumber (ROW.CaseQty), Range (0,11), 0, Range (12,24), 1, Range (24,48), 4, 0)` この `2` 番目の例では次の値が返されます。`0`、`1`、または`4` (次の値の場合)`CaseQty` セレクター。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

日付と時刻の関数
多くの場合、日付関数は、モデル シートの "日付" 列と組み合わせて使用されます。日付関数は、モデル シートの算出科目でのみ表示されます。




日付関数は、"月" > "四半期" > "年" の設定を持つカレンダーに適用されます。異なる構造を使用しているカレンダーの場合、これらの関数の多くがエラーを返します。代わりに、this.version.positionOf(D.strata) の使用を検討してください。D を yyyy,mm,dd の形式のカレンダー日付に置き換え、層をカレンダーで使用する層に置き換えます。例: this.version.positionOf(2024,01,02.week) は、2024 年の最初の週を返します。

| 構文 | 説明 |
|---|---|
| `D.Month.NumberOfDays` | その月の日数を返します D 発生. |
| `D.Year.PositionOf(D.Month).` | 日付が指定されている会計年度の月を返します D 発生します。 |
| `D.Year.PositionOf(D.Qtr)` | 会計年度の四半期を返します。 D 発生します。 |
| `(Date).stratum_code` | 以下を返します。 `Timeperiod` (単一、グレゴリオ暦) 日付を含む、リクエストされた層タイプの任意のデータを層コードのベースとして使用できます。例: `ToDate (2016,8,5).Qtr` 2016 年 8 月 5 日が入った会計年度カレンダーの四半期を返します。 |
| `Day (D)` | 日付 (D)。 |
| `DaysInMonth (D)` | 日付 D がある月の日数を返します。カスタム カレンダーの場合、エラーまたは不正な値を返すことがあります。用途 `D.Month.NumberOfDays` 代わりに。 |
| `FiscalMonth (D)` | 日付 (D) が発生する。カスタム カレンダーの場合はエラーになることがあります。用途`D.Year.PositionOf(D.Month).` |
| `FiscalQuarter (D)` | 日付 (D) が発生する。カスタム カレンダーの場合はエラーになることがあります。用途 `D.Year.PositionOf(D.Qtr).` |
| `FiscalYear (D)` | 日付 (D) が発生する。カスタム カレンダーの場合はエラーになることがあります。年と次を使用する数字と完全に一致する数字で年をコーディングしてみてください。`ToNumber (D.Year.code).` |
| `Month (D)` | 日付 (D) が発生する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 構文 | 説明 |
| --- | --- |
| `Quarter (D)` | 日付が四半期である四半期を返します (D) が発生する。上記は、貴社の会計年度の四半期と同じでない場合もあります (以下を参照)。 |
| `this.Version.PositionOf(D.Month)` | 日付 D があるバージョン内の月 (最初の月 = 0)。日付 D がバージョンの開始時点より前の場合は、この番号は負数である可能性があります。 |
| `this.Version.PositionOf(D.Year)` | 日付 D があるバージョン内の年 (最初の年 = 0)。日付 D がバージョンの開始時点より前の場合は、この番号は負数である可能性があります。 |
| `TimeFraction (D1, D2, D, Dx)`<br>`TimeFraction (D1; D2; D; Dx)` | 開始日 (D1) と終了日 (D2)。任意の日付 (D) が指定されている場合は、次の月を使用します。 D 月の代わりに発生する。任意の固定日数パラメータ (Dx) が指定されている場合、の期間をオーバーライドします。 D 数値とともに。<br><br>カスタム カレンダーなしで設定されたインスタンスでは、以下を実行できます。MonthFraction の代わりにTimeFraction。 |
| `ToDate (Y, M, D)`<br>`ToDate (Y; M; D)` | 特定の年によって指定された日付を返します (Y)、月 (M)、日 (D)。条件 D が省略されている場合、 15 使用されています。返された値は、日付を取る他の関数の引数として使用できます。 |
| `VersionMonth (D)` | 日付 (D) 発生 (最初の月 = 0)。この数は負数である可能性があります。D) はバージョンの開始時点より前。 |
| `Version.PositionOf (timeperiod)` | カスタム カレンダーの場合は工ラーになることがあります。用途this.Version.PositionOf(D.Month).<br>バージョンの全期間内で、指定された期間の相対的な順序を返します。バージョンにおいて最初の期間は 1 から始まります。期間がバージョンの開始時点より前であれば、順序番号は負数である可能性があります。この関数は、バージョンの終わりを超える期間に対しても機能します。 |
| `VersionYear (D)` | 日付 (D) が発生する (最初の年 = 0)。この数は負数である可能性があります。D) はバージョンの開始時点より前。 |
| `Year (D)` | カスタム カレンダーの場合は工ラーになることがあります。用途this.Version.PositionOf(D.Year)。<br>日付 (D) は、カスタム カレンダーの使用の有無にかかわらず発生します。 |

文字列関数

| 構文 | 説明 |
| --- | --- |
| `Concat (text1, text2, ...)`<br>`Concat (text1; text2; ...)` | 複数のテキスト文字列を結合して、連結した文字列を返します。例: Concat ("hello", "world")" を返すhelloworld"。 |
| `Length (text)` | テキスト文字列内の文字数を返します。例: Length ("Now, is the winter of our discontent. Made glorious summer by this son or York.") 返品79。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 |
| --- | --- |
| `Search (source_text, search_text)`<br>`Search (source_text; search_text)` | の開始位置を返しますsearch_text で source_text。返品 0 条件search_text が見つかりません。Search では大文字と小文字は区別されません。例: `Search ("Now is the winter of our discontent.", "Winter")` 返品 12。`Search ("Now is the winter of our discontent.", "Summer")` 返品 0. |
| `Substring (source_text, start_position, length)`<br>`Substring (source_text; start_position; length)` | で見つかった文字を含むテキスト文字列を返しますsource_text 開始start_position (position が 1 はテキスト文字列の最初の文字) であり、実行対象length (またはテキスト文字列の最後までの、どちらか先に検出された方)。<br>選択するアクションstart_position の 0 以下の場合は、ポジションであるものとして扱われます 1。次の桁数を選択: 0 以下の場合は、次の長さとして扱われます 0 空の文字列を返します。選択するアクションstart_position は次の終了後です:source_text 空の文字列を返します。 |
| `ToNumber (text)` | 数字を表すテキスト文字列を数値に変換します。文字列の先行部分を非数値文字の検出位置まで変換します。先頭文字が数値以外の場合、エラーになります。例: `ToNumber ("7")` 返品 7。`ToNumber ("2017-12-31")`2017 (数値) を返します。`ToNumber ("Sample")` エラーを返します。 |

例
以下に、従業員モデル シートの人員数式を示します。これは、複数の関数をどのように組み合わせるかを示す好例です。この数式はバイナリ結果を返します。 1 または 0。

```
If(this.Version.PositionOf(this.Month) >=
this.Version.PositionOf(ROW.StartDate.Month) # if this month is after
the person's start date and (isblank(ROW.EndDate) # and either they
have no termination date or this.Version.PositionOf(this.Month) <=
Version.PositionOf(ROW.EndDate.Month)), # or the current month is before
termination date 1, # return 1 for their headcount in this month 0) #
otherwise, return 0
```

relatedlinks
参考
参考: 数式関数 ( 1162ページ )

参考: プロパティのドット表記

プログラミング言語のオブジェクト参照のように、数式ではドット表記を使用できます。ドット表記は、次の数式で特に役立ちます IFF 現在の場所に基づいて数式が異なる可能性があるためです。たとえば、次の数式では、計画バージョンとは異なる方法で実績バージョンのメトリックが計算されます。

例: 次の数式は実績と計画バージョンの 2 つの方法でメトリックを計算します。
`IFF(this.Version.IsActuals, ACCT.ActualsValue, ACCT.PlanValue)`

例: 小数点としてカンマが使用されるブラウザでは次のようになります。
`IFF(this.Version.IsActuals; ACCT.ActualsValue; ACCT.PlanValue)`

注 : ドット表記プロパティを使用して属性値、特性値、および組織を参照する数式は、名前が一致するものとの混同を避けるため、"コード" を使って属性値、特性値、および組織を参照する必要があります。属

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

性値、特性値、または組織の "コード" を変更した場合は、変更後のコードに一致するように数式を更新してください。

オペランド
オペランド数式の構文は、標準化された this セルの現在の位置を示す用語。

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| this.Version | バージョン オブジェクトを返します。バージョン オブジェクトは追加のドット (.) 以下のようなプロパティthis.Version.Name。以下の「オブジェクト タイプ」を参照してください。 |
| this.Level | 組織オブジェクトを返します。組織オブジェクトは追加のドット (.) プロパティ。 |
| this.Account | 科目オブジェクトを返します。追加のドット (.) プロパティ。 |
| this.*dimension_name* | 指定した属性の現在のセルの属性値を返します。指定した属性の現在のセルに値がない場合は、空 (空白) オブジェクトを返します。属性の名前が適切な識別子 (数字以外の文字で始まり、文字、数字、下線のみで構成される) である場合にのみ、このプロパティにアクセスできます。識別子以外の名前の属性 (名前に複数の単語が含まれている属性など) は、数式で取得できません。 |
| this.*attribute_name* | 指定した特性で、現在のセルの特性値を返します。指定した特性の現在のセルに値がない場合は、空のオブジェクトを返します。特性の名前が適切な識別子 (数字以外の文字で始まり、文字、数字、下線のみで構成される) である場合にのみ、このプロパティにアクセスできます。識別子以外の名前の特性 (名前に複数の単語が含まれている属性など) は、数式で取得できません。 |
| this.<stratum_code> | 以下を返します。Timeperiod 現在のセルの時間座標を含むリクエストされた層タイプの要求された層が現在のセルの層よりも小さい場合 (より細かい場合)、この関数は 最初の層を返します。Timeperiod 件の層が現在のセルの層の範囲で見つかった。 |

オブジェクト型
データ型はオブジェクトを表します。「ドット表記法」を使うと、それらのオブジェクト プロパティにアクセスできます。使用可能なオブジェクト プロパティは次のとおりです。

バージョン
内の現在のバージョンのさまざまなプロパティを参照します IF ステートメント

例: IF (this.Version.Name = "Budget 2018", x, y)

例: 小数点としてカンマが使用されるブラウザでは次のようになります。 IF (this.Version.Name = "Budget 2018"; x; y)

| プロパティ | 説明 |
|---|---|
| Version.Name | バージョンの名前を表す文字列を返します。実際のセルが計画バージョンにオーバーレイされている場合、実際のバージョンは、そのセルのバージョンと見なされます。 |
| Version.ShortName | バージョンの短縮名を表す文字列を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| Version.Description | バージョンの説明を表す文字列を返します。 |
| Version.Type | 以下で返される、バージョンのタイプを表す文字列を返します。exportVersionsAPI次のいずれかを返します。PLANNING, ACTUALS, VERSION_FOLDER, JOURNAL_ENTRY。 |
| Version.StartDate | バージョンの開始となる、期間の最初の日を表す日付値を返します。 |
| Version.EndDate | バージョンの終了となる、期間の最後の日を表す日付値を返します。 |
| Version.PositionOf | バージョンの全期間内で、指定された期間の相対的な順序を返します。最初の順序は 0 (1 ではない) から始まります。期間がバージョンの開始時点より前であれば、順序番号は負数である可能性があります。この関数は、バージョンの終わりを超える期間に対しても機能します。 |
| Version.IsActuals | このバージョンが実績バージョンかどうかを示すブール値を返します (これにはタイプが含まれます)ACTUALS, SUBACTUALS、およびJOURNAL_ENTRY)。 |
| Version.IsGroup | このバージョンがバージョン グループであるかどうかを示すブール値を返します (データを含むバージョンではない)。 |
| Version.IsParent | このバージョンに子バージョンがあるかどうかを示すブール値を返します。 |
| Version.Parent | このバージョンの親であるバージョンを返します。 |

**Level**
組織の現在の組織のさまざまなプロパティを参照します IF ステートメント

例: IF (this.Level.Name = "Sales", x, y)

例: 小数点としてカンマが使用されるブラウザでは次のようになります。 IF (this.Level.Name = "Sales"; x; y)

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| Level.Code | 組織のコードを表す文字列を返します。 |
| Level.Name | 組織の名前を表す文字列を返します。 |
| Level.ShortName | 組織の短縮名を表す文字列を返します。 |
| Level.InWorkflow | 組織がワークフローに含まれているかどうかを表すブール値を返します。ワークフローが無効であるインスタンスの場合、すべての組織が false を返します。 |
| Level.IsElimination | 組織が相殺消去組織であるかどうかを表すブール値を返します。相殺消去機能がないインスタンスの場合、すべての組織が false を返します。 |
| Level.IsTradingPartner | 組織が相殺消去の取引先組織であるかどうかを表すブール値を返します。相殺消去機能がないインスタンスの場合、すべての組織は false を返します。 |
| Level.Currency | 組織の ISO 通貨コードを表す文字列を返します (例:EUR またはUSD)。 |
| Level.Parent | 組織を返します コード この組織に親がない (ルート組織である) 場合、この組織の親または特殊「null」組織オブジェクト |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| `Level.IsLeaf` | 組織が最下位組織であるかどうかを示すブール値を返します (つまり、組織に子がない場合、このプロパティは true を返します)。 |

**Account**
現在の科目のさまざまなプロパティ (値ではない) を参照します。 `IF` ステートメント

例: `IF (this.Account.IFRS_Category.Name = "Assets", 1, 0)`

例: 小数点としてカンマが使用されるブラウザでは、次のようになります。 `IF (this.Account.IFRS_Category.Name = "Assets"; 1; 0)`

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| `Account.Code` | 科目コードを表す文字列を返します。 |
| `Account.Name` | 科目の名前を表す文字列を返します。 |
| `Account.ShortName` | 科目の短縮名を表す文字列を返します。 |
| `Account.Description` | 科目の説明を表す文字列を返します。 |
| `Account.Parent` | この科目に親がない (ルート科目である) 場合、この科目の親である科目、または特殊な「null」科目オブジェクトを返します。 |
| `Account.<attribute_name>` | 指定した特性に関連付けられた属性値オブジェクトを返します。特性の名前が適切な識別子 (数字以外の文字で始まり、文字、数字、下線のみで構成される) である場合にのみ、このプロパティにアクセスできます。識別子以外の名前の特性 (名前に複数の単語が含まれている属性など) は、数式で取得できません。 |
| `Account.isCredit` | 科目に以下がある場合に、ブール値を返します。BalanceType ofCREDIT かどうか。一部の科目 (例: メトリック科目) は "借方"、"貸方" のいずれでもない点に注意してください。 |
| `Account.isDebit` | 科目に以下がある場合に、ブール値を返します。BalanceType ofDEBIT かどうか。一部の科目 (例: メトリック科目) は "借方"、"貸方" のいずれでもない点に注意してください。 |

属性と特性

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| *`DimensionValue`*`.Code` | 指定した属性で、属性値のコードを表す文字列を返します。例: `IF (this.Region.Code = "East01", 1, 0)` |
| *`DimensionValue`*`.Name` | 指定した属性で、属性値の名前を表す文字列を返します。例: `IF (this.Region.Name = "East", 1, 0)` |
| *`DimensionValue`*`.ShortName` | 属性値の短縮名を表す文字列を返します。 |
| *`DimensionValue`*`.Description` | 属性値の説明を表す文字列を返します。 |
| *`DimensionValue`*`.Parent` | この値の親が属性内にない (例: その「親」が属性自身のルートである) 場合、この値の親である属性値または特殊な空白のオブジェクトを返します。例: `this.DimensionValue.Parent.Name` はこの属性値の親の名前を返します。 |
| *`DimensionValue`*`.IsLeaf` | 指定した属性の属性値がその属性の最下位値であるかどうかを示すブール値を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| *DimensionValue*.<*attribute_code*> | 指定した (属性値に対応した) 特性の値コードを返します。 |
| *DimensionValue*.<*attribute_name*> | 指定した (属性値に対応した) 特性の値を返します。 |
| *AttributeValue*.Code | 特性値のコードを表す文字列を返します。 |
| *AttributeValue*.Name | 特性値の名前を表す文字列を返します。 |
| *AttributeValue*.ShortName | 特性値の短縮名を表す文字列を返します。 |
| *AttributeValue*.Description | 特性値の説明を表す文字列を返します。 |
| *AttributeValue*.Parent | 特性値を返します コード 値が属性内に親を持たない (例: その「親」が属性自身のルートである) 場合、この値の親または特殊空のオブジェクトです。 |
| *AttributeValue*.IsLeaf | 最下位値であるかどうかを示すブール値を返します。 |

期間
期間は構成されたカレンダー層の特定の期間を表します。期間のデータ型は、他のデータ型と比較できません。

例: `IF (this.Month.NumberOfDays > 30, 1, 0) IF (this.Year.PositionOf (this.Month) > 6, "Past sixth month", "Not") IF (this.Quarter.PositionOf (this.Week) = 1, "First week of qtr", "Not")`

| プロパティ | 説明 |
| --- | --- |
| *Timeper*.Code | 期間のコードを返します。時間判別式で期間を参照する方法と一致します。 |
| *Timeper*.NumberOfDays | 期間の総日数を返します。例: `IF (this.Month.NumberOfDays > 30, 1, 0)` |
| *Timeper*.Parent | 現在の期間を含み、層連続で 1 つ高い (粗い) 層である期間を返します。上位の層がない場合は、現在の期間を返します。 |
| *Timeper*.StartDate | 期間の最初の日を表す日付を返します ( Version.StartDate). |
| *Timeper*.EndDate | 期間の最終日を表す日付を返します (以下と同じ) Version.EndDate). |
| *Timeper*.PositionOf(tp) | 期間の位置を表す整数を返します (tp(その層の他のメンバーと比較した) ソース期間内の返品 0 - 指定した期間 (tp) は次の層よりも小さくはない) *Timeper* が指定されているか、 tp 次の範囲内にない *Timeper* 指定されている。 |

共有数式
共有数式を作成する

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

共有数式は、総勘定元帳科目とカスタム科目に適用される計算です。バージョンのスパン全体にわたって、指定した組織および科目に適用します。

下記を実行するには、共有数式を使用します。

- 引き続きチームが別のデータを入力できるようにした状態で、シート内の値を計算する。
- 組織またはバージョンごとに異なる数式を指定する。

"数式" ページから、以下のように数式を更新できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 一度に 1 つの科目、組織、およびバージョン。
- 同じ科目とバージョンに対して同じ数式を持つ多くの組織。
- 親組織: すべての子組織にコピーされます。

"ユーザーの編集" セクションを使用して、ユーザーが入力した履歴データが変更されないようにすることができます。

手順

1. メイン メニューから "数式" を選択します。
2. ツールバーの上のドロップダウン プロンプトから、バージョンを選択します。
   この数式は、選択したバージョンにのみ適用されます。
   ロック済またはアーカイブ済のバージョンに共有数式を追加することはできません。
3. ツールバーのドロップダウン プロンプトから科目を選択します。
   一部の科目には共有数式を追加できません。
4. "組織" タブで、チェックボックスを使用して組織を選択します。
   複数の組織の数式を一度に追加または変更するには、必要な数の組織を選択します。
   親組織を選択すると、そのすべての子孫組織に対して同じ数式が自動的に作成されます。
   一部の組織には共有数式を追加できません。
5. "数式を設定" テキスト ボックスに数式を入力します。
6. (任意)。"フォーミュラ アシスタント" リンクをクリックすると、数式の作成に関するヘルプが表示されます。
7. "ユーザーの編集" セクションに入力します。
   組織の横にある "編集" 列にアイコンが表示されているときは、ユーザーが組織、科目、バージョンに対してデータまたは異なる数式を入力しています。
   セクションを完了させる際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 保持 | 既存のデータおよび異なる数式を持つセルをスキップします。例: この科目に共有数式がなかった過去の年度のバージョンがあり、そのデータを新しい計算で置き換えたくない場合。 |
| 削除 | すべての既存データを共有数式の計算に置き換えます。例: 多くのユーザーが誤って共有数式ではなく無効なデータを入力した場合。 |

タスクの結果

数式の計算値は、組織と科目の交差部分にバージョンの期間にわたって自動入力されます。

"ユーザーの編集" で "保持" を選択した場合、計算値には空白のセルのみが自動入力されます。

共有数式を使用したセルからの "ユーザーの編集" の削除

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

共有数式を作成すると、チームはシートのセルから計算値を直接オーバーライドできます。ユーザーは共有数式をデータ入力または別の数式に置き換えることができます。ユーザーが共有数式をオーバーライド

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

した場合、"数式" ページの "編集" 列の組織の横にアイコンが表示されます。アイコンは選択した科目とバージョンに対して表示されます。

すべての科目にわたるバージョンのユーザー編集をすべてレビューする場合、ツールバーの印刷ボタンを使用して "すべての科目の数式" を選択すれば、Excel ファイルをダウンロードできます。

ユーザー編集を削除すると、選択した科目と組織のバージョンの期間全体にわたるすべての編集が削除されます。ユーザー編集はただちに削除されます。このアクションのキャンセルや取り消しはできません。

以下の理由により、ユーザー編集を共有数式の計算値に戻す必要が生じる可能性があります。

- ユーザーが誤って編集した。
- 管理者がバージョンのクローンを作成した際に、誤って編集内容をコピーした。
- 期間全体のすべてのセルにデフォルトの数式を再度設定したい。

手順

1. メイン メニューから "数式" を選択します。
2. ツールバーの上のドロップダウン プロンプトから、バージョンを選択します。
   ロック済みバージョンからユーザー編集を削除することはできません。
3. ツールバーのドロップダウン プロンプトから科目を選択します。
4. 組織リストを展開して、すべての組織を表示します。
   組織がグレー表示の場合、ワークフロー ステータスによって組織がロックされているため、ユーザー編集を削除できません。
5. 元に戻すユーザー編集を含む組織を選択します。
6. ツールバーから "ユーザー編集を削除" をクリックします。

共有数式からの属性値の削除

始める前に

- カスタム属性値を参照する共有数式。
- セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

共有数式から属性値を削除する理由は数多くあります。最も一般的な理由は次のシナリオです。

- バージョンに属性値を参照する共有数式があり、そのバージョンで属性を使用しないことにします。
- 属性値を削除する際に、"依存 関係 の表示" テーブルの " 共有数式 " タブに依存関係が表示されているとします。
- 属性値が削除された結果、共有数式エラーが発生しました。

手順

1. メイン メニューから "数式" を選択します。
2. ツールバーで印刷ボタンの横にある矢印をクリックし、"すべての科目の数式" を選択します。
3. には、スプレッドシートの "検索" 機能を使用し、属性値へのすべての参照を検索します。
4. 共有数式を削除してセルを空白にするか、数式を更新します。
5. スプレッドシートを保存します。
6. "数式" に戻ります。
7. ツールバーで "インポート" をクリックします。
8. "更新と追加" オプションを使用して、保存したスプレッドシートをアップロードします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

依存関係を解決している間は、他の依存関係の解決を続行できます。共有数式が唯一の依存である場合、属性値を削除できます。 参照 属性値を削除するための依存関係の表示の解決 ( 982ページ )。

共有数式の削除

始める前に

セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

共有数式はただちに削除されます。このアクションのキャンセルや取り消しはできません。共有数式は、選択した科目および組織のバージョンの期間全体で削除されます。

数式を削除しても、同じ交差部分のユーザー編集は自動的に削除されません。ユーザー編集も削除する場合は、まずユーザー編集を消去してから、共有数式を削除します。

手順

1. メイン メニューから "数式" を選択します。
2. ツールバーの上のドロップダウン プロンプトから、バージョンを選択します。
   ロック済またはアーカイブ済のバージョンから共有数式を削除することはできません。
3. ツールバーのドロップダウン プロンプトで、科目を選択します。
4. 組織リストを展開して、科目とバージョンのすべての共有数式を表示します。
5. (任意) 共有数式からのユーザー編集を削除します。
   アイコンは、ユーザー編集がある組織の横の "編集" 列に表示されます。
   科目および組織のバージョンから既存のデータをすべて削除する場合は、ユーザー編集も消去する必要があります。
6. 削除する共有数式を持つ組織の横にあるチェックボックスをオンにします。
7. ツールバーで "削除" をクリックします。

タスクの結果

ユーザー編集と数式を削除すると、バージョン期間の科目と組織の値が空白に置き換えられます。

共有数式のインポートおよびエクスポート

始める前に

- 科目、組織、バージョンを作成します。
- セキュリティ:
  - エクスポート: モデルに "シート、科目、属性、数式を含む " 権限
  - インポート:"構造インポート " 権限

このタスクについて

複数の共有数式を作成、またはインポート関数を使用して既存の数式を一括変更します。 以下が可能です。

- 現在の共有数式をエクスポートして一括レビューします。
- Excel テンプレートをダウンロードし、入力します。
- 共有数式をインポートして追加、削除、または更新
- マルチインスタンスがある場合は、別のインスタンスに数式をインポートします。
- インポートする前に Excel を使用して数式を一括変更する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

インポート用の Excel スプレッドシートを準備する場合、行の間に複数の空白行を残さないでください。Workday Adaptive Planning では、2 行目の空白行以降のすべての行が無視されます。

1,000,000 以下の共有数式をエクスポートする場合、Workday Adaptive Planning によって Excel ファイルにエクスポートされます。 1,000,000 を超える共有数式をエクスポートする場合、Workday Adaptive Planning により CSV ファイルにエクスポートされます。

エクスポートされたファイルには、"エクスポート" を選択するときに選択したバージョン名が含まれます。ユーザー編集 列の値はユーザー編集と交差する 領域 を示します。

手順

1. メイン メニューから "数式" を選択します。
2. 次を参考にして、続行します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 印刷 | 矢印をクリックして、次のいずれかを選択します。<br>• 選択した科目の数式: 選択した科目とバージョンのすべての組織のための数式を取得します。<br>• すべての科目の数式: 選択したバージョンのすべての科目と組織のための数式を取得します。 |
| 共有数式をインポート | "テンプレートのダウンロード"を選択します。 |

3. 空白のテンプレートを完成させるか、エクスポートしたファイルに変更を加えます。
   次を参考にして、変更を行います。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| Account | 科目コードを入力します。 |
| Level | • 親組織の (限定) 組織に共有数式をインポートするには、親組織名を入力します。<br>• 子組織を含めるには、数式のある各子組織を別の行にリストします。 |
| 数式 | 数式を入力します。数式を削除するには、それを空白のままにするか行全体を削除します。 |
| ユーザーの編集 | • 数式を変更していなくても、空白のままにするか *"preserve"* と入力してユーザー編集を保存します。<br>• *"remove"* と入力して、その数式で既存のデータをすべて置換します。 |

4. 数式 画面に戻り、適切なバージョンを選択します。
5. ツールバーで "共有数式をインポート"を選択します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 更新と追加 | このオプションは次の目的で使用します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • 数式の追加: 数式を含まない組織と科目の組み合わせを入力します。"数式" 列に数式を入力します。<br>• 数式の削除: 既存の数式の組織と科目の組み合わせを入力して、 数式 列を空白のままにします。または、エクスポートファイルから、組織と科目の組み合わせを見つけ、 数式 列から数式を削除します。<br>• 数式を変更: 既存の数式の組織と科目の組み合わせを入力して、 数式 列に更新済みの数式を入力します。 またはエクスポート ファイルから、組み合わせを見つけて 数式 列の数式を編集します。 |
| 構造全体の再ロード | 現在共有されているすべての数式を削除して、インポート内の数式に置き換えます。Workday Adaptive Planning では、インポート ファイル内にない組織と科目の組み合わせに対するユーザー編集すべてが保存されます。 |

6. "アップロード"を選択します。

実績の計算

以下のとおり、数式を作成して実績を計算できます。

1. "モデリング" > "科目" に移動します。
2. "科目" タイプ (たとえば "総勘定元帳") を選択して、該当する科目に移動します。
3. 設定で、"実績のオーバーレイ" の "実績を有効にする" が選択されていることを確認します。
4. "デフォルトの数式を指定" をクリックして、"数式" 画面を開きます。
5. 科目の実績の計算に使用する数式を入力します。

注 : 各バージョンで追加できる数式の数には上限が設けられています。科目と組織の交差部分に入力される共有数式は 200,000 件まで、科目/組織/時間の共通部分に入力できる共有数式は 1,000 万件までです。

概念: 共有数式

共有数式は、総勘定元帳科目とカスタム科目に割り当てられた計算です。バージョンのスパン全体にわたって、指定した組織および科目に共有数式を適用します。

共有数式の交差部分

共有数式では、次の交差部分でデータを計算します。

- ツールバー上のバージョン ドロップダウンから選択したバージョン
- ツールバーの科目ドロップダウンから選択した科目
- チェックボックスを使用して組織リストから選択した組織

共有数式に使用可能な科目

共有数式は、以下を使わずに総勘定元帳科目およびカスタム科目に適用できます。

- デフォルトの数式
- 科目の "タイプ" 設定で選択された "リンク"
- "データ入力シート タイプ" 設定で選択された "キューブ"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### 共有数式の最大値

- 科目と組織の交差部分で 20 万
- 科目、組織、時間の交差部分で 1,000 万

### 共有数式のオーバーライド

以下の場合に、共有数式をオーバーライドできます。

- 科目にデフォルトの数式を追加します。デフォルトの数式を追加することで、すべての組織とバージョンの科目から共有数式が削除されます。デフォルトの数式は科目のデータを計算します。ロック済バージョンであっても、計算値は既存のデータと置き換えられます。計算値は、アーカイブ済バージョンのデータを置き換えません。
- 科目を他の科目にリンクします。リンクはソース科目から値を取得します。ロックされたバージョンであってもすべてのデータを置き換えます。
- シートで交差部分を編集します。ユーザー編集で科目が利用可能である場合は、シートで共有数式をオーバーライドできます。ユーザーが共有数式をオーバーライドすると、"数式" ページの組織の横にアイコンが表示されます。

### シート内の共有数式

シートでは、共有数式があるセルには隅に青い三角マークが表示されます。他の算出科目と違い、共有数式があるセルは、読み取り専用です。生データや、共有数式をオーバーライドする別の数式を入力できます。

### モデルおよび共有数式の更新

子組織を追加すると、デフォルトで親組織の共有数式が継承されます。子組織の共有数式は、引き続き後から変更できます。

新しい計画バージョンを追加する際は、別のバージョンから共有数式をすべてコピーするか、またはコピーしないように選択できます。

参考: 共有数式ツールバー

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 数式を削除 | 選択した組織、科目、バージョンの交差部分から計算値を削除します。空白のセルに置き換えられます。 |
| ユーザー編集を削除 | 選択した組織からユーザー編集を削除し、データを共有数式の計算値に戻します。 |
| ドロップダウン プロンプト (ラベルなし) | 総勘定元帳科目とカスタム科目のリストを提供します。共有数式を変更または作成する科目を選択します。 |
| 選択した科目の数式 | 共有数式を Excel ファイルにエクスポートします。ファイルに変更を加えてインポートすることで、迅速に更新できます。ボタンの横にある矢印をクリックして、以下を選択します。<br>• 選択した科目の数式: 選択した科目およびバージョンのすべての組織のための数式をダウンロードします。<br>• すべての科目の数式: バージョン全体のすべての科目および組織のための数式をダウンロードします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 共有数式をインポート | 一括更新をインポートし、空白のインポート テンプレートへのリンクを提供します。 |

トラブルシューティング: 共有数式

共有数式の管理では、次のような問題が発生する場合があります。

- 科目ドロップダウン メニューに科目がない、またはグレーアウトしている。
- 組織リストに組織が表示されない。
- "数式を設定" フィールドがロックされている。

グレー表示の組織を選択できない

原因: ワークフロー管理者が組織のステータスを "承認済" に変更しました。

ソリューション: ワークフローのステータスを "進行中" に変更します。 ステップ: ワークフローの使用を参照してください。

セキュリティ: "組織の承認" 権限

組織が組織リストに表示されない

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 選択したバージョンで使用できない組織である | 組織のバージョンの使用可否を変更します。組織の使用可否の変更を参照してください。<br><br>セキュリティ: "組織構造" 権限 |
| 組織がリンク組織である | リンク組織には子インスタンスの組織合計データが含まれるため、リンク組織の共有数式は作成できません。 |

グレー表示の科目をドロップダウン メニューから選択できない

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 科目がリンク元科目である | 以下のとおり、科目のリンクを解除します。<br><br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "総勘定元帳科目" または "カスタム科目" を選択します。<br>3. 科目リストから科目を選択します。<br>4. "タイプ" セクションで、"フロー" または "ストック" を選択してリンクを削除します。<br><br>総勘定元帳の場合、これらの用語は親科目名の横にかっこ付きで表示されます。<br>5. 保存します。<br><br>科目のリンクを解除すると、ロック済みバージョンや非表示のバージョンも含め、すべての組織とバージョンのデータが変更されます。<br><br>セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 科目にデフォルトの数式がある | デフォルトの数式を削除します。科目の数式およびオーバーライドの追加または変更を参照してください。<br>科目のデフォルトの数式を削除すると、ロック済みバージョンや非表示のバージョンも含め、すべての組織とバージョンのデータが変更されます。<br>セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限 |
| 科目がグループ科目である | カスタム科目は通常、グループに属します。グループはフォルダのようなものです。グループに数式を追加することはできません。 |
| 科目が親科目である | 共有数式は最下位科目にのみ追加できます。最下位科目は子科目を持ちません。 |
| 科目がシステム科目である | システム科目に共有数式を追加することはできません。これは、Adaptive Planning がバックグラウンドで計算を適用するためです。 |

科目のドロップダウン メニューに科目が表示されない

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| ドロップダウン メニューに表示されるのは総勘定元帳科目とカスタム科目のみであり、他の科目では共有数式はサポートされない | 共有数式ではなく、デフォルトの数式の科目への追加を試してください。科目の数式およびオーバーライドの追加または変更を参照してください。<br>セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限 |
| 科目の "データ入力シート タイプ" に "キューブ" が選択されている | キューブ シートからキューブ入力科目を削除します。<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "総勘定元帳科目" または "カスタム科目" をクリックします。<br>3. "科目リスト" で、該当科目を強調表示します。<br>4. "シート" セクションで、"データ入力シート タイプ" に "標準" を選択します。<br>キューブ シートからキューブ入力科目を削除すると、その科目に関連付けられているすべてのデータが完全に削除されます。<br>セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限 |

"数式を設定" フィールドを編集できない

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| 科目プロンプトから科目グループを選択した | グループ内の科目の 1 つを選択します。 |
| 内部取引科目としてタグ付けされた科目と、相殺消去組織としてタグ付けされた組織を選択した | 以下のいずれかを削除できます。<br>• 科目の内部取引タグ<br>• 組織の相殺消去タグ<br>どちらのアクションでも相殺消去ルールにエラーが発生し、内部取引の相殺消去のロジックが壊れる可能性があります。<br>科目から内部取引タグを削除するには、次の操作を実施します。<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "総勘定元帳科目" をクリックします。<br>3. 科目リストから科目を選択します。<br>4. "連結" セクションを展開します。<br>5. "内部取引" オプションで "いいえ" を選択します。<br>組織から相殺消去タグを削除するには、次の操作を実施します。<br>1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "組織" をクリックします。<br>3. リストで組織を強調表示します。<br>4. "相殺消去設定" セクションを展開します。<br>5. "相殺消去組織" チェックボックスをオフにします。<br>6. 保存します。<br>セキュリティ: "連結" 権限 |
| ロック済みバージョンまたは部分的にロックされているバージョンを選択した | バージョンのロックを解除します。次を参照してください。<br>• バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロックまたは非表示<br>• 計画バージョンの一部をロックします。<br>セキュリティ: "バージョン" 権限 |

数式の例
例: 共通財務比率の計算

売上債権回転日数

注： 分かりやすくするために、例では用語にカンマ区切り文字を使用しています。ブラウザの設定によっては、セミコロンで区切る必要があります。

売上債権回転日数 (DSO) は、平均回収期間の計算に使用されます。DSO は、会社の売掛金がどの程度適切に管理されているかを示す財務比率です。

以下の科目が必要です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 売掛金 (合計) | AccountsReceivable | 流動資産 - ストック |
| 収益 | Income | 収益 - フロー |
| 月の暦日の日数 | CalendarDaysInMonth | 前提条件 - フロー |

数式: `DIVF(ACCT.AccountsReceivable, ACCT.Income)*ASSUM.CalendarDaysInMonth`

仕入債務回転日数
仕入債務回転日数 (DPO) は、1 日の平均売上原価に対する買掛金の比率です。

以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 買掛金 (合計) | AccountsPayable | 流動負債 - ストック |
| 売上原価 | CostOfGoodsSold | 売上原価 - フロー |
| 月の暦日の日数 | CalendarDaysInMonth | 前提条件 - フロー |

数式: `DIVF(ACCT.AccountsPayable, ACCT.CostOfGoodsSold)*ASSUM.CalendarDaysInMonth`

在庫回転率
企業が在庫を販売できる速度は、ビジネス パフォーマンスの重要な指標です。低い回転率は販売力の低迷を意味します。したがって、在庫が超過状態になります。高い率は、強力な販売力や大幅な割引を意味します。

以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 売上原価 | CostOfGoodsSold | 売上原価 - フロー |
| 在庫 | Inventory | 流動資産 - ストック |

数式: `DIVF(ACCT.CostOfGoodsSold, ACCT.Inventory)`

例: 従業員と報酬の計算

配賦対象給与

注 : 分かりやすくするために、例では用語にカンマ区切り文字を使用しています。ブラウザの設定によっては、セミコロンで区切る必要があります。

支給計算 - 26 回の支給期間

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 週 (月単位) | WeeksInMonth | 前提条件 - フロー[1] | 数値 |
| 週 (年単位) | WeeksInYear | 前提条件 - フロー[2] | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の合計
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
4. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

5. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary<br>数式<br>`ROW.PartialHeadcount*IF(ROW.Per=`<br>`(ROW.HrPerWeek*ASSUM.WeeksInMont`<br>`DIV(ASSUM.WeeksInMonth,ASSUM.Wee`<br>`* ROW.PayRate` | モデル - フロー - 通貨 |

支給計算 - 24 回の支給期間

1. 以下のグローバルな前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 週 (年単位) | WeeksInYear | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の平均
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

4. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary<br>数式<br>`ROW.PartialHeadcount*IF(ROW.Per=* ROW.PayRate` | モデル - フロー - 通貨 |

支給計算 - 勤務日数

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 月あたりの支給日数 | PayDaysInMonth | 前提条件 - フロー 1 | 数値 |
| 年あたりの支給日数 | PayDaysInYear | 前提条件 - フロー 2 | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の合計
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

5. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary<br>数式<br>`ROW.PartialHeadcount*IF(ROW.Per=DIV(ASSUM.PayDaysInMonth,ASSUM.P* ROW.PayRate` | モデル - フロー - 通貨 |

支払い計算 - 俸給従業員のみ

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary<br>数式<br>`ROW.PartialHeadcount*DIV(1,12)* ROW.PayRate` | モデル - フロー - 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 配賦非対象給与 (異動の場合に限定)

支給計算 - 26 回の支給期間

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 週 (月単位) | WeeksInMonth | 前提条件 - フロー[1] | 数値 |
| 週 (年単位) | WeeksInYear | 前提条件 - フロー[2] | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の合計
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
4. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

5. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部配賦非対象社員 | Unallocated_PartialHeadcount | モデル - フロー - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary<br><br>数式<br><br>ROW.Unallocated_PartialHeadcount*IF(RO<br>(ROW.HrPerWeek*ASSUM.WeeksInMonth)<br>DIV(ASSUM.WeeksInMonth,ASSUM.Weeks<br>* ROW.PayRate | モデル - フロー - 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 支給計算 - 24 回の支給期間

1. 以下のグローバルな前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 週 (年単位) | WeeksInYear | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

4. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部配賦非対象社員 | Unallocated_PartialHeadcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー - 通貨 |

数式

```
ROW.Unallocated_PartialHeadcount
DIV(1,12)) *
ROW.PayRate
```

### 支給計算 - 勤務日数

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 月あたりの支給日数 | PayDaysInMonth | 前提条件 - フロー [1] | 数値 |
| 年あたりの支給日数 | PayDaysInYear | 前提条件 - フロー [2] | 数値 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の平均
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の合計
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
4. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

5. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部配賦非対象社員 | Unallocated_PartialHeadcount | モデル - フロー - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー - 通貨 |

数式

```
ROW.Unallocated_PartialHeadcount
DIV(ASSUM.PayDaysInMonth,ASSUM.P
* ROW.PayRate
```

支払い計算 - 俸給従業員のみ

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 一部配賦非対象社員 | Unallocated_PartialHeadcount | モデル - フロー - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー - 通貨 |

数式

```
ROW.Unallocated_PartialHeadcount * ROW.PayRate
```

配賦対象時間外労働

時間外労働計算 - 個別従業員

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| 月あたりの支給日数 | PayDaysInMonth | 前提条件 - フロー[1] | 数値 |
| 年あたりの支給日数 | PayDaysInYear | 前提条件 - フロー[2] | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の合計
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
4. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |
| 支払い単価 | PayRate | 初期残高 | 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 時間外労働 | OT | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | IF(ROW.Per="hr",ROW.OT_Pct*ROW.S | |

時間外労働計算 - グローバル

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 月あたりの支給日数 | PayDaysInMonth | 前提条件 - フロー[1] | 数値 |
| 年あたりの支給日数 | PayDaysInYear | 前提条件 - フロー[2] | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の合計
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
4. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間/週支払い単価 | HrPerWeekPayRate | 数値 初期残高 | 数値 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 時間外労働 | OT | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | IF(ROW.Per="hr",ASSUM.Global_OT_ | |

例 **4:** 配賦非対象時間外労働 **(**異動の場合に限定**)**

時間外労働計算 - 個別従業員

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |
| 時間外労働率 (%) | OT_Pct | 数値 | パーセント |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 配賦非対象時間外労働 | Unallocated_OT | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | IF(ROW.Per="hr",ROW.OT_Pct*ROW.U | |

時間外労働計算 - グローバル

1. 以下のグローバルな前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| グローバル時間外労働 % 給与 | Global_OT_Pct_Salary | 前提条件 - フロー | 数値 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の平均
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| / | Per | テキスト セレクター。値は以下のとおりです。<br>• 時間<br>• 年 | 該当なし |

4. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象時間外労働 | Unallocated_O | モデル - フロー - 通貨<br>数式<br>`IF(ROW.Per="hr",ASSUM.Global_OT_` |

### 例 5: 配賦対象賞与

賞与計算 - 年額 ($)

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 年間賞与 ($) | Bonus_Dol | 数値 | 通貨 |
| 賞与達成率 (%) | Bonus_Attainment | 数値 | パーセント |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 賞与 | Bonus | モデル - フロー - 通貨<br>数式<br>`DIV(ROW.Bonus_Dol*ROW.Bonus_Atta` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

賞与計算 - 給与の割合 (%)

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 年間賞与率 (%) | Bonus_Pct | 数値 | パーセント |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 賞与 | Bonus<br>数式<br>`ROW.Salary*ROW.Bonus_Pct` | モデル - フロー - 通貨 |

賞与計算 - グローバル

1. 以下のグローバルな前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| グローバル賞与率 (%) | Global_Bonus_Pct | 前提条件 - フロー | パーセント |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 賞与 | Bonus<br>数式<br>`ASSUM.Global_Bonus_Pct*ROW.Salar` | モデル - フロー - 通貨 |

**例 6: 配賦非対象賞与 (異動の場合に限定)**

賞与計算 - 年額 ($)

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 年間賞与 ($) | Bonus_Dol | 数値 | 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 賞与達成率 (%) | Bonus_Attainment | 数値 | パーセント |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部配賦非対象社員 | Unallocated_Partial_Headcount | モデル - ストック |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象賞与 | Unallocated_Bonus | モデル - フロー - 通貨 |

数式

```
DIV(ROW.Bonus_Dol*ROW.Bonus_Atta
```

賞与計算 - 給与の割合 (%)

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 年間賞与率 (%) | Bonus_Pct | 数値 | パーセント |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象賞与 | Unallocated_Bonus | モデル - フロー - 通貨 |

数式

```
ROW.Unallocated_Salary*ROW.Bonus_
```

賞与計算 - グローバル

1. 以下のグローバルな前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| グローバル賞与率 (%) | Global_Bonus_Pct | 前提条件 - フロー | パーセント |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 配賦非対象賞与 | Unallocated_Bonus | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | ASSUM.Global_Bonus_Pct*ROW.Unall | |

例 **7:** 配賦対象コミッション

コミッション計算 - 年額 ($)

1. 以下のグローバルな前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| 年あたりの支給日数 | PayDaysInYear | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| 年間コミッション ($) | Comm_Dol | 数値 | 通貨 |
| コミッション達成率 (%) | Comm_Attainment | 数値 | パーセント |

4. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| コミッション | Comission | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | DIV(ROW.Comm_Dol*ROW.Comm_Attain | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

コミッション計算 - 給与の割合 (%)

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 年間コミッション (%) | Comm_Pct | 数値 | パーセント |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給与 | Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| コミッション | Comission | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | `ROW.Salary*ROW.Comm_Pct` | |

**例 8: 配賦非対象コミッション (異動の場合に限定)**

コミッション計算 - 年額 ($)

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 年間コミッション ($) | Comm_Dol | 数値 | 通貨 |
| コミッション達成率 (%) | Comm_Attainment | 数値 | パーセント |

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 一部配賦対象人員 | Allocated_Partial_Headcount | 元帳 - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象コミッション | Unallocated_Comission | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | `DIV(ROW.Comm_Dol*ROW.Comm_Attain` | |

コミッション計算 - 給与の割合 (%)

1. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 年間コミッション (%) | Comm_Pct | 数値 | パーセント |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象コミッション | Unallocated_Commission | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | ROW.Unallocated_Salary*ROW.Comm_ | |

**例 9:** 課税対象報酬

課税対象報酬

以下の科目が必要です

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 賞与 | Bonus | モデル - フロー | 通貨 |
| コミッション | Commission | モデル - フロー | 通貨 |
| 時間外労働 | OT | モデル - フロー | 通貨 |
| 給与 | Salary | モデル - フロー | 通貨 |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 課税対象報酬 | TaxableComp | モデル - フロー - 通貨 |
| | 数式 | |
| | ROW.Salary +ROW.Allocated_Bonus +ROW.Commission+ROW.OT | |

配賦非対象課税対象報酬 (異動の場合に限定)

以下の科目が必要です

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 配賦非対象賞与 | Unallocated_Bonus | モデル - フロー | 通貨 |
| 配賦非対象コミッション | Unallocated_Commission | モデル - フロー | 通貨 |
| 配賦非対象時間外労働 | Unallocated_OT | モデル - フロー | 通貨 |
| 配賦非対象給与 | Unallocated_Salary | モデル - フロー | 通貨 |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 配賦非対象課税対象報酬 | Unallocated_TaxableComp | モデル - フロー - 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| | 数式<br>`ROW.Unallocated_Salary`<br>`+ROW.Unallocated_Bonus`<br>`+ROW.Unallocated_Commission`<br>`+ROW.Unallocated_OT` | |

例 **10:** 累ストック報酬

異動なし

以下の科目が必要です

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| 課税対象報酬 | TaxableComp | モデル - フロー | 通貨 |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| ストック報酬 | CumulativeComp | モデル - フロー - 通貨<br>数式<br>`IFF(month(this)>1,ROW.TaxableComp`<br>`+ROW.CumulativeComp[time=this-1],ROW` |

異動あり

以下の科目が必要です

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| 配賦非対象課税対象報酬 | Unallocated_TaxableComp | モデル - フロー | 通貨 |

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| ストック報酬 | CumulativeComp | モデル - フロー - 通貨<br>数式<br>`IFF(month(this)>1,ROW.Unallocated_Ta`<br>`+ROW.CumulativeComp[time=this-1],`<br>`ROW.Unallocated_TaxableComp)` |

例**:** 従業員と人員の計算

異動なしの場合

1. 以下のグローバル前提条件科目 (常勤換算 (FTE)、週あたりの時間数) を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| FTE 時間/週 | FTE_HrPerWeek | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 採用日 | HireDate | 日付 | 該当なし |
| 終了日 | EndDate | 日付 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |

4. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 開始人員 | Headcount | モデル - ストック |
| 新規採用 | NewHire | モデル - フロー |
| 退職 | Termination | モデル - フロー |
| 終了人員 | EndingHeadcount | モデル - フロー |
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |
| FTE | FTE | モデル - ストック |

5. 以下の数式を作成します。

- 開始ヘッドカウント: `IF (VersionMonth(this) > VersionMonth(ROW.HireDate) AND (IsBlank(ROW.EndDate) OR VersionMonth(this) <= VersionMonth(ROW.EndDate)), 1,0)`
- 新規採用: `IF (VersionMonth(this) = VersionMonth(ROW.HireDate), 1, 0)`
- 終了: `IF (VersionMonth(this) = VersionMonth(ROW.EndDate), 1, 0)`
- 終了ヘッドカウント: `ROW.Headcount+ROW.NewHire-ROW.Termination`
- 一部社員: `MonthFraction(ROW.HireDate,ROW.EndDate, this)`
- FTE: `DIVF (ROW.HrPerWeek, ASSUM.FTE_HrPerWeek)*ROW.PartialHeadcount`

**異動あり**

1. 以下のグローバル前提条件科目 (正社員、週あたりの時間数)を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| FTE 時間/週 | FTE_HrPerWeek | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. この科目が以下の科目設定であることを確認します。

- 時間合計 = 合計値の平均
- 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

3. 以下の列を含む必要があります。

| 科目名 | 科目コード | 要素タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 採用日 | HireDate | 日付 | 該当なし |
| 終了日 | EndDate | 日付 | 該当なし |
| 異動日 (入) | TransferIn | 日付 | 該当なし |
| 異動日 (出) | TransferOut | 日付 | 該当なし |
| 時間/週 | HrPerWeek | 数値 | 数値 |

4. 以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 開始人員 | Headcount | モデル - ストック |
| 新規採用 | NewHire | モデル - フロー |
| 退職 | Termination | モデル - フロー |
| 終了人員 | EndingHeadcount | モデル - フロー |
| 一部社員 | PartialHeadcount | モデル - ストック |
| 一部配賦非対象社員 | Unallocated_PartialHeadcount | モデル - ストック |
| FTE | FTE | モデル - ストック |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

5. 以下の数式を作成します。
    - 開始ヘッドカウント: `IFF ((VersionMonth(this)=0 AND (VersionMonth(this) > VersionMonth(ROW.HireDate) AND IsBlank (ROW.TransferIn) OR VersionMonth(this)>=VersionMonth(ROW.TransferIn))) OR VersionMonth(this)=VersionMonth(ROW.TransferIn) AND (IsBlank(ROW.EndDate) AND IsBlank(ROW.TransferOut) OR ((VersionMonth(this) <= VersionMonth(ROW.EndDate) AND IsBlank (ROW.TransferOut)) OR VersionMonth(this)<=VersionMonth(ROW.TransferOut))), 1, 0)`
    - 新規採用: `IF (VersionMonth(this) = VersionMonth(ROW.HireDate) AND IsBlank(ROW.TransferIn), 1, 0)`
    - 終了: `IF (VersionMonth(this) = VersionMonth(ROW.EndDate) and isBlank(ROW.TransferIn), 1, 0)`
    - 終了ヘッドカウント: `IFF (IsBlank(ROW.EndDate) AND IsBlank(ROW.TransferOut) OR (VersionMonth(this)<VersionMonth(ROW.EndDate) AND IsBlank(ROW.TransferOut)) OR VersionMonth(this)<VersionMonth(ROW.TransferOut), ROW.Allocated_BeginningHeadcount +ROW.NewHire-ROW.Termination, 0)`
    - 一部社員: `MonthFraction(IF(IsBlank(ROW.TransferIn),ROW.HireDate,ROW.TransferIn),IF(IsBlan`
    - FTE: `DIVF (ROW.HrPerWeek, ASSUM.FTE_HrPerWeek)*ROW.PartialHeadcount`

例: 従業員と支払い単価の計算

このトピックでは、支給レート計算に使用できる数式の例をいくつか示します。

注 : 分かりやすくするために、例では用語にカンマ区切り文字を使用しています。ブラウザの設定によっては、セミコロンで区切る必要があります。

入社月日およびグローバル増加月における支払い単価のグローバルな増加

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 昇給月 | RaiseMonth | 前提条件 - フロー | 数値 |
| 昇給率 (%) | RaisePct | 前提条件 - フロー | パーセント |
| 勤続月数 - 昇給資格 | Months_of_Service | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の平均
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 人員 | Headcount | モデル - フロー |
| 支払い単価 | PayRate | モデル - 初期の残高要素 |
| 開始日 | StartDate | モデル - 日付要素 |

4. 次の数式を作成します。`IF ((VersionMonth(this) > 0) AND ROW.NewHire=0 AND ROW.Headcount>0 AND VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.HireDate)>=ASSUM.Months_of_Service AND ((ASSUM.RaiseMonth=0 AND Month(this) = Month(ROW.HireDate)) OR (ASSUM.RaiseMonth = Month(this))),ROW.PayRate[time=this-1]*ROW.RaisePct,0)`

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

入社月日のみの支払い単価のグローバルな増加

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 昇給率 (%) | RaisePct | 前提条件 - フロー | パーセント |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 人員 | Headcount | モデル - フロー |
| 支払い単価 | PayRate | モデル - 初期の残高要素 |
| 開始日 | StartDate | モデル - 日付要素 |

4. 次の数式を作成します。
```
IF (VersionMonth(this) > 0 AND ROW.Headcount>0
AND VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.HireDate) > 1 AND
FiscalMonth(this)=FiscalMonth(ROW.HireDate),ROW.PayRate[time=this-1]*ASSUM.RaisePct,
0
```

グローバル増加月のみの支払い単価のグローバルな増加

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 昇給月 | RaiseMonth | 前提条件 - フロー | 数値 |
| 昇給率 (%) | RaisePct | 前提条件 - フロー | パーセント |
| 勤続月数 - 昇給資格 | Months_of_Service | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 人員 | Headcount | モデル - フロー |
| 支払い単価 | PayRate | モデル - 初期の残高要素 |
| 開始日 | StartDate | モデル - 日付要素 |

4. 次の数式を作成します。
```
if(VersionMonth(this)>0 AND ROW.Headcount>0 AND
VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.HireDate)>1 AND VersionMonth(this)-
VersionMonth(ROW.HireDate)>=ASSUM.Months_of_Service AND
ASSUM.RaiseMonth=FiscalMonth(this),
ROW.PayRate[time=this-1]*ASSUM.RaisePct, 0)
```

個別の増加月における支払い単価のグローバルな増加

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 昇給月 | RaiseMonth | 前提条件 - フロー | 数値 |
| 昇給率 (%) | RaisePct | 前提条件 - フロー | パーセント |
| 勤続月数 - 昇給資格 | Months_of_Service | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 人員 | Headcount | モデル - フロー |
| 昇給日 | RaiseDate | モデル - 日付要素 |
| 昇給率 (%) | RaisePct | 前提条件 - フロー |
| 支払い単価 | PayRate | モデル - 初期の残高要素 |
| 開始日 | StartDate | モデル - 日付要素 |

4. 次の数式を作成します。 `if(VersionMonth(this)>0 AND ROW.Headcount>0 AND VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.HireDate)>1 AND FiscalMonth(this) = FiscalMonth(ROW.RaiseDate),ROW.PayRate[time=this-1]*ASSUM.RaisePct, 0)`

グローバル月における支払い単価の個別の増加

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 昇給月 | RaiseMonth | 前提条件 - フロー | 数値 |
| 勤続月数 - 昇給資格 | Months_of_Service | 前提条件 - フロー | 数値 |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 人員 | Headcount | モデル - フロー |
| 昇給率 (%) | RaisePct | モデル - 数字要素 (パーセント) |
| 支払い単価 | PayRate | モデル - 初期の残高要素 |
| 開始日 | StartDate | モデル - 日付要素 |

4. 次の数式を作成します。 `if(VersionMonth(this)>0 AND ROW.Headcount>0 AND VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.HireDate)>1 AND VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.HireDate)>=ASSUM.Months_of_Service AND ASSUM.RaiseMonth=FiscalMonth(this), ROW.PayRate[time=this-1]*ROW.RaisePct, 0)`

個人的な増加月における支払い単価の個別の増加

1. 以下の科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 人員 | Headcount | モデル - フロー |
| 昇給日 | RaiseDate | モデル - 日付要素 |
| 昇給率 (%) | RaisePct | モデル - 数字要素 (パーセント) |
| 支払い単価 | PayRate | モデル - 初期の残高要素 |
| 開始日 | StartDate | モデル - 日付要素 |

2. 次の数式を作成します。 `if(VersionMonth(this)>0 AND ROW.Headcount>0 AND VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.HireDate)>1 AND FiscalMonth(this) = FiscalMonth(ROW.RaiseDate),ROW.PayRate[time=this-1]*ROW.RaisePct, 0)`

例: 支払い単価用数式の作成

注 : 分かりやすくするために、例では用語にカンマ区切り文字を使用しています。ブラウザの設定によっては、セミコロンで区切る必要があります。

この例では、支払い単価の数式は、前提条件である "昇給月" および"昇給率" (%) に入力された値を参照します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

支払い単価の計算について理解しておくべき事項:

- "支払い単価" 列は、月次差額が蓄積される初期の残高 (ストック) 要素です。つまり、プランニング側から入力されたデータは、その後、バージョン内のすべての期間に繰り越されます。この要素に対する計算結果はこの科目の前月の残額に追加されます。
- の IF ステートメントの構文 Adaptive Planning Excel とは以下のように異なります。
  - Adaptive Planning 例: `if(ACCT.A6=1 and ACCT.B6=0,X,0)`
  - Excel の例: `if(and(A6=1, B6=0),X,0)`
- 支払い単価関連の計算には、時間に関する参照が 3 種類あります。各参照により、バージョン内の各月に番号が割り当てられます。この番号は、日付列をバージョン内の割当済の月番号と比較する際に使用できます。
  - Month (月): 各月は、暦年に基づいて (1 ~ 12 の) 番号が割り当てられます。この割当は、バージョン全体を通して繰り返されます。
  - Fiscalmonth (会計月): 各月は、会社の会計年度に基づいて (1 ~ 12 の) 番号が割り当てられます。この割当は、バージョン全体を通して繰り返されます。
  - Versionmonth (バージョン月): 各月に単一の番号が割り当てられます。バージョンの最初の月は「0」です。この番号は (繰り返されることなく) 経時的に継続していきます。正数は、今後の月、負数 (-) は過去の月を示します。

支払い単価の計算は以下のとおりです。

```
IF((VersionMonth(this) > 0) AND ROW.Headcount>0 AND (((VersionMonth(this)
- VersionMonth(ROW.StartDate) > 1) AND ASSUM.RaiseMonth = 0 AND
FiscalMonth(this) = FiscalMonth(ROW.StartDate)) OR (ASSUM.RaiseMonth =
Month(this))), ROW.PayRate[time=THIS-1]*ASSUM.RaisePct, 0)
```

この計算内の各ステートメントの詳細内容を以下の表で説明しています。

| ステートメント | 説明 |
|---|---|
| `VersionMonth(this)>0` | このステートメントは、バージョン全体で任意の指定された期間において割り当てられた月番号が、実際にバージョンの最初の月の後であるかを確認するものです。これにより、バージョンの最初の月に昇給が発生することを回避することができます。ここでは、最初の月に従業員の給与が初期給与として入力されていると仮定しています。 |
| `ROW.Headcount>0` | 従業員が、支給レートの昇給が適用されるべき雇用状態であることを確認します。 `Headcount` 従業員の開始日と終了日の列に基づきます。これは、次の結果を返すバイナリ トリガーです。 `0` または `1` 従業員が各期間に雇用中であったこと (または雇用されていなかったこと) を示します。 |
| `VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.StartDate)>1` | 従業員の雇用開始日以前に昇給が適用されることを避けるため、毎月この数式が適用され、確認されます。設定 `VersionMonth` 各期間に割り当てられた値が、 `VersionMonth` が社員の開始日に割り当てられている。差が「1」より大きい (該当期間が従業員の雇用開始後の) 場合、その他のすべてが満たされていれば、従業員は昇給を受けることができます。 and ステートメントが満たされている。 |
| `ASSUM.RaiseMonth = 0` | 毎月以下のことを確認します。 `RaiseMonth` 次の前提条件 `0`。年次昇給の場合、昇給月には「0」となります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ステートメント | 説明 |
| --- | --- |
| FiscalMonth(this)=FiscalMonth(ROW.StartDate) | それぞれをチェック FiscalMonth 割り当てられた値と比較します FiscalMonth 日:例: 従業員の開始日の日付 8/12/2016 組織の会計年度が暦年と同じで、割当月が FiscalMonth(ROW.StartDate) は 8 になります。毎年 1 月 FiscalMonth(this) を返す 1。2 月の戻り値 2その他この数式は次の場合にのみ真です。 FiscalMonth は次の値と同じです: FiscalMonth 従業員の雇用開始日から。この方法で、いかなる年であっても、毎年定例の日付に関する計算ができます。 |
| ASSUM.RaiseMonth = Month(this) | 入力した番号が正しいことを確認します。 RaiseMonth この前提条件は現在の月番号と一致します。たとえば、2017 年 4 月に昇給を設定する場合、 4 前提条件内 RaiseMonth 2017 年 4 月 |
| ROW.PayRate[time=THIS-1]*ASSUM.RaisePct | 「true」句の定義です。前の記述が真であれば (すべての and ステートメントと次のいずれかを選択する or ステートメント) に一致する場合、すべて IF 条件が満たされており、昇給 (ASSUM.PaisePct) が適用されている。<br><br>設定 PayRate 数式 a は前の期間を参照 [time=THIS-1](当期ではなく)その理由は、以下のとおりです。<br><br>• 設定 PayRate 計算は当初残高の要素です。プランニング側から列に入力された残高 (および前月額) を繰り越します。当初残高の要素にここで説明されるような数式がある場合、前月額に対する追加額が計算されます。<br>• 初期残高の要素は、自動的に残高が繰り越され、新しい計算結果がすべてそれに加算されます。当月評価されるすべての値も加算されます。したがって、循環参照を避けるため、昇給については前月の支払い単価の残高に基づいて計算されます |
| 0 | 「false」句の定義です。次の 1 つ (または複数) の場合 IF 条件が満たされていない場合、昇給は 0 残数には何も追加されません。 |

この数式を文章にすると、以下のとおりです。

「この月がこの予算バージョン内の月にあたり、この従業員は雇用中の状態であり、現在の期間がこの従業員の雇用開始日より後であり、前提条件にゼロの値があり、今月が従業員の雇用開始日と同じであるか、前提条件の当月の月番号と今月の月番号が一致する場合、昇給が与えられます。それ以外の場合は、昇給は与えられません。」

代替昇給オプション

通常、組織は、昇給月あるいは入社月日を基準に昇給を提供しません。ほとんどの組織では、これまでに説明された昇給計算でなく、よりシンプルなバージョンを使用します。

オプション 1: 昇給月に昇給を提供する場合、数式は以下のとおりです。

```
if(VersionMonth(this)>0 and ROW.Headcount>0 and VersionMonth(this)-
VersionMonth(ROW.StartDate)>1 and ASSUM.RaiseMonth=fiscalmonth(this),
ROW.PayRate[time=THIS-1]*ASSUM.RaisePct, 0
```

この計算での変更点は以下のとおりです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ステートメント | 説明 |
| --- | --- |
| `ROW.Headcount>0` | 以前と同様、 `Headcount` 値が次の値と等しくなるのではなく、ゼロより大きい値にしてください `1`。これにより、特定の行において、人員が 1 人に満たない場合の分割従業員のすべての行での計算が機能します。 |
| `ASSUM.RaiseMonth=FiscalMonth(this)` | 設定 `RaiseMonth` が会社の会計月と比較される。これにより、暦年に強制されることなく、会社の会計年度に基づいて前提条件を満たす従業員が考慮されます。 |
| `fiscalmonth(this) = fiscalmonth(ROW.StartDate)) or ASSUM.RaiseMonth = Month(this)` | いいえ `or` 入社月日の明細。昇給は昇給月にのみ適用されます。 |

オプション 2: 昇給日が毎年定例の場合、数式は以下のとおりです。

```
if(VersionMonth(this)> 0 AND ROW.Headcount>0 AND
VersionMonth(this)-VersionMonth(ROW.StartDate)> 1
AND FiscalMonth(this)=FiscalMonth(ROW.StartDate),
ROW.PayRate[time=THIS-1]*ASSUM.RaisePct, 0)
```

追加の支払い単価オプションについては 、数式例: 従業員の支払い単価の計算を 参照してください。

例: 従業員の福利厚生計算

**401k** 給与比例年金計算

注 : 分かりやすくするために、例では用語にカンマ区切り文字を使用しています。ブラウザの設定によっては、セミコロンで区切る必要があります。

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ |
| --- | --- | --- |
| 401(k) 給与比例マッチ | 401K_FLAT_Match | パーセント |

2. 以下の数式を使用します。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ | 数式 |
| --- | --- | --- | --- |
| 401(k) 従業員選択 | 401kEmployeeElection | モデル - フロー - 通貨 | `ASSUM.401K_Flat_Match* ROW.TaxableComp` |

**401k** 計算 **-** 最大値のマッチ

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
| --- | --- | --- | --- |
| 401(k) 最大値 | 401K_Max | フロー - 平均 | 数値 |
| 401(k) 最初の x% のうち 100% | Match_100Perc | フロー - 平均 | パーセント |
| 401(k) 次の x% のうち 50% | Match_50Perc | フロー - 平均 | パーセント |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 以下のモデル科目が必要です。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 課税対象報酬 | TaxableComp | モデル - フロー | 通貨 |

4. 数式は以下のとおりです。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 401(k) 企業負担 100% - ストック | Comp_Match_100<br>数式<br>IFF(month(this)=1,ROW.TaxableComp*ASSUM.Match_100Perc,<br>ROW.Comp_Match_100[time=this-1] + ROW.TaxableComp<br>*ASSUM.Match_100Perc) | モデル - フロー - 通貨 |
| 401(k) 企業負担 50% - ストック | Comp_Match_50<br>数式<br>IFF(month(this)=1,ROW.TaxableComp*DIVF(ASSUM.Match_50Perc,2),<br>ROW.Comp_Match_50[time=this-1] + ROW.TaxableComp<br>*DIVF(ASSUM.Match_50Perc,2)) | モデル - フロー - 通貨 |
| 401(k) 企業負担合計 - ストック | Comp_Match_Total<br>数式<br>ROW.Comp_Match_100+ROW.Comp_Match_50 | モデル - フロー - 通貨 |
| 401k 費用 | 401k_Expense<br>数式<br>IFF(ROW.Comp_Match_Total<=ASSUM.401k_Max,<br>(ROW.TaxableComp*ASSUM.Match_100Perc)+(ROW.TaxableComp*divf(ASSUM<br>IFF(ROW.Comp_Match_Total>ASSUM.401k_Max and<br>ROW.Comp_Match_Total[time=this-1]<=ASSUM.401k_Max,<br>ASSUM.401k_Max-ROW.Comp_Match_Total[time=this-1],0)) | モデル - フロー - 通貨 |

医療、歯科、眼科の福利厚生
ほとんどの企業では、医療、歯科、および眼科の福利厚生について、従業員が選択したプランを採用して、それぞれに対する個別の比率を管理および維持する機能が必要です。

"福利厚生" 属性の設定方法は、以下のとおりです。標準設定を管理して、"リスト属性" が選択されていることを確認します。ただし、"組織で使用"、"データのインポートにより自動的に属性値を作成する"、"並べ替えを維持" が選択されていないことを確認します。

1. 属性内で、以下の属性値を設定します。
    - 従業員のみ
    - 従業員 + 配偶者
    - 従業員 + 子
    - 従業員 + ファミリー
2. 最上位組織 (限定) で使用可能なユーザー割当のキューブ シートを設定して、以下に従って 3 つの標準キューブ科目を作成します。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| 医療レート | Medical | フロー | 通貨 |
| 歯科レート | Dental | フロー | 通貨 |
| 眼科レート | Vision | フロー | 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の平均
    - 組織合計= 合計値の非空白平均
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
    - 表示形式 = 通貨
    - データ プライバシー + 科目の値はすべての組織で公開
4. キューブ科目の設定後、"福利厚生" 属性をキューブ シートに追加します。
5. 必要となる月次ルックアップ テーブルは以下のとおりです。

| 科目名 | 科目コード | 列 | 入力値 |
|---|---|---|---|
| 福利厚生受給資格者 | Benefits_Eligible | 従業員タイプ - テキスト セレクター | 関連するすべての組み合わせに「1」を入力 |

6. 次に、従業員モデル シートに以下の算出科目を設定します。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ | 数式 |
|---|---|---|---|
| 医療費 | Medical_Expense | モデル - フロー - 通貨 | `ACCT.Beneft_Rates.Medical[le Level(-), Benefit=this]*Row.Headcount*` |
| 歯科医療費 | Dental_Expense | モデル - フロー - 通貨 | `ACCT.Beneft_Rates.Dental[lev Level(-), Benefit=this]*Row.Headcount*` |
| 眼科医療費 | Vision_Expense | モデル - フロー - 通貨 | `ACCT.Beneft_Rates.Vision[lev Level(-), Benefit=this]*Row.Headcount*` |

生命保険
ほとんどの企業では、X ドルの給付ごとに固定レートが使用される生命保険プランを採用しています。

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 給付 $X あたりの生命保険料率 | Life_Rate | 数値 |
| レートに適用する $ (あたりの) 金額 | Life_per_Dollar | 数値 |
| 生命保険の乗数 (年収) | Life_Multiplier | 数値 |
| 生命保険最大給付 | Life_Max_Benefit | 数値 |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
    - 時間合計 = 合計値の平均
    - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 数式は以下のとおりです。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ |
|---|---|---|
| 生命保険 | Life_Insurance<br>数式<br>`IFF(DIV(ASSUM.Life_Max_Benefit,ASSUM.Life_per_Dollar)* ASSUM.Life_Rate> DIV(((ROW.Headcount*ROW.Salary*ASSUM.Life_Multiplier)),ASSUM.Life ASSUM.Life_Rate,DIV(((ROW.Headcount*ROW.Salary)* ASSUM.Life_Multiplier),ASSUM.Life_per_Dollar)* ASSUM.Life_Rate,div(ASSUM.Life_Max_Benefit,ASSUM.Life_per_Dollar) Row.Benefits_Eligible` | モデル - フロー - 通貨 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**長期/短期障害 (LTD/STD)**
ほとんどの企業では、補償範囲の $ あたりのレートに基づいて、従業員の傷害補償を支払います。

1. 以下のグローバル前提条件科目を作成します。

| 前提条件名 | 前提条件コード | 科目タイプ | 表示形式 |
|---|---|---|---|
| $100 あたりの補償レート | LTD_RatePer100 | フロー - 平均 | 数値 |
| $10 あたりの補償レート | STD_RatePer10 | フロー - 平均 | 数値 |

2. 上記科目が以下の科目設定になっていることを確認します。
   - 時間合計 = 合計値の平均
   - 実績のオーバーレイ = 科目用実績なし (計画データを表示)
3. 数式は以下のとおりです。

| 科目名 | 科目コード | 科目タイプ | 数式 |
|---|---|---|---|
| LTD 費用 | LTD_Expense | モデル - フロー - 通貨 | `DIVF(ROW.Salary,100) * ASSUM.LTD_RatePer100 * Row.Benefits_Eligible` |
| STD 費用 | STD_Expense | モデル - フロー - 通貨 | `DIVF(ROW.Salary,10) * ASSUM.STD_RatePer10 * Row.Benefits_Eligible` |

## 通貨

### 通貨の追加

#### 始める前に

セキュリティ: "通貨" 権限

#### このタスクについて

標準通貨またはカスタム通貨を作成できます。カスタム通貨を使用すると、通貨を必要に応じて定義できます。事業で複数の通貨を使用している場合は、通貨を作成します。次の目的でカスタム通貨を作成します。

- 異なるバージョンにおける同一通貨を区別する。例: ユーロに関して契約上定義された複数の異なる通貨レートがあるとします。それぞれに対してカスタム通貨を作成できます。
- 為替レートによって影響を受ける最良ケースと最悪ケースのシナリオを分析します。例: 最良ケースのシナリオとして好ましいレートを有するカスタム CAD を使用し、あるいは最悪ケースのシナリオとして望ましくないレートを有するカスタム CAD を使用します。

通貨を追加すると、次のことができます。

- それらを組織に割り当てます。通貨は "モデリング"の " 組織" 領域の "通貨 " ドロップダウン メニューに表示されます。 シートには、常に組織の通貨が表示されます。シートに入力されたデータは、常にその組織の通貨になります。
- レポートとダッシュボードに適用して、任意のデータ ポイントを特定の通貨に換算します。

#### 手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "通貨"をクリックします。
3. "通貨" セクションで、以下を選択します。
   - "標準通貨を追加" を選択します。Adaptive Planning が提供する標準通貨のリストから選択します。
   - "カスタム通貨を追加" を選択して 、独自の通貨コードを定義します。
4. 次を参考にして、タスクを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 通貨名 | 標準通貨の場合、選択可能な通貨のリストから選択します (自動的にコードが含まれます)。コードまたは国で検索できます。<br>カスタム通貨の場合は、通貨の名称を入力します。 |
| 通貨コード | 標準通貨の場合、通貨を選択するとコードが自動的に追加されます。<br>カスタム通貨の場合は、4 ~ 8 文字を入力します。文字、数字、下線を独自に組み合わせて入力できます。 |
| 小数部桁数 | 通貨を使用して組織に入力された値の小数点以下の桁数を選択します。科目設定では、" 小数部桁 数" フィールドで "通貨の小数部桁数" を選択できます。 |
| デフォルトのレポート レートの作成 | • ほとんどの通貨では空白のままにします。 レポートとダッシュボードで、組織の通貨は社用通貨に換算されます。その後、レポート通貨に換算されます。<br>• Adaptive Planning が組織の通貨とレポート通貨の間で直接換算を行うようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションでは、この通貨と各追加通貨間の為替レートを追加する必要があります。 |

次のタスク

必須: 為替レートの追加 ( 1218ページ ) :

次の操作も可能です。

- 組織に通貨を割り当てます。参照 ステップ: 組織の作成 ( 846ページ ) 。
- レポートとダッシュボードで通貨を使用する。

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート ( 1220ページ )
概念: 複数通貨のツール ( 1227ページ )
概念: 換算通貨 ( 1223ページ )
タスク
実績バージョンの作成 ( 834ページ )
参考
参考: 実績バージョンの設定 ( 837ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

為替レート タイプを追加

始める前に

セキュリティ: "通貨" 権限

このタスクについて

為替レート タイプは、為替レートの計算方法の 1 つです。モデルには、削除できない次の 2 つの為替レート タイプが含まれています。

- 月平均: 総勘定元帳科目階層内の損益計算書科目のデフォルトです。 月次平均では、各月の平均レートをインポートできます。
- 月末。これは、総勘定元帳科目階層の貸借対照表科目のデフォルトです。 月末の場合、その月の最終日のレートをインポートできます。

ビジネス ニーズに合わせてさらにタイプを追加できます。例: 四半期ごとのデータを入力するキューブ科目があるとします。 四半期平均為替レートを追加できます。

レートを適用して値を変換する前に、為替レートをインポートする必要があります。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "通貨"をクリックします。
3. "為替レート タイプ" セクションで "新規追加"をクリックします。

タスクの結果

為替レート タイプを追加すると、以下が表示されます。

- 科目の "通貨" 設定のオプションとして。
- 通貨の為替レート シートの行として。

次のタスク

- 為替レート タイプは各科目に割り当てることができます。 参照 科目の作成（863ページ）。
- 以下が必要です。 為替レートの追加（1218ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート（1220ページ）
概念: 複数通貨のツール（1227ページ）

為替レートの追加

始める前に

- 通貨の追加（1216ページ）.
- セキュリティ:"通貨"権限

このタスクについて

為替レートを追加するには、インテグレーションを介してインポートするか、"モデリング"の " 通貨" 領域にある "通貨の為替レート シート" に為替レートを手動で入力する必要があります。次ごとに為替レートを含める必要があります。

- 通貨を社用通貨に換算する。
- 為替レート タイプ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- レポート通貨を社用通貨にマッピングする。

期間の通貨為替レートが空の場合、期間はゼロと表示されます。

通貨の為替レートをインポートするには、"インテグレーション" >"データのインポート"に移動します。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "通貨"をクリックします。
3. シートを開くには、"通貨" セクションで "通貨の為替レートを入力" をクリックします。
4. 適切なセルに移動するには、以下のいずれかのオプションを使用します。
    - 表示オプション: 時間で列をフィルタし、"OK"をクリックします。
    - 検索: 入力を開始し、シート上の一致を探します。虫眼鏡アイコンをクリックして、次の一致を検索します。
    - 表示: プロンプトから行をフィルタするオプションを選択し、"フィルタ"をクリックします。
5. 期間の為替レート、通貨ペア、為替レートを入力します。
6. "保存" をクリックします。

タスクの結果

Adaptive Planning は、組織階層の上位とレポート内の通貨換算に為替レートを適用します。

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート（1220ページ）
概念: 複数通貨のツール（1227ページ）

四半期科目の四半期の為替レート タイプの作成

為替レートは、常に総勘定元帳科目の時間層で入力されます。ほとんどの組織の場合、これはレートが月ごとに入力されていることを意味します。モデル依存時間を使用すると、総勘定元帳科目が "月" に設定されている場合、デフォルトの時間層として四半期を使用する科目 (四半期科目) を作成できます。異なる時間設定で科目を設定すると、通貨の為替レートが期待通りの結果にならないことがあります。

この記事では、期待通りの通貨為替レート結果を得られるように、すべての四半期科目で選択する四半期の為替レート タイプを作成する方法を説明します。

前提条件
通貨を初めて使用する場合は、概念: 通貨を参照してください。

セキュリティ: "通貨" 権限

ナビゲーション

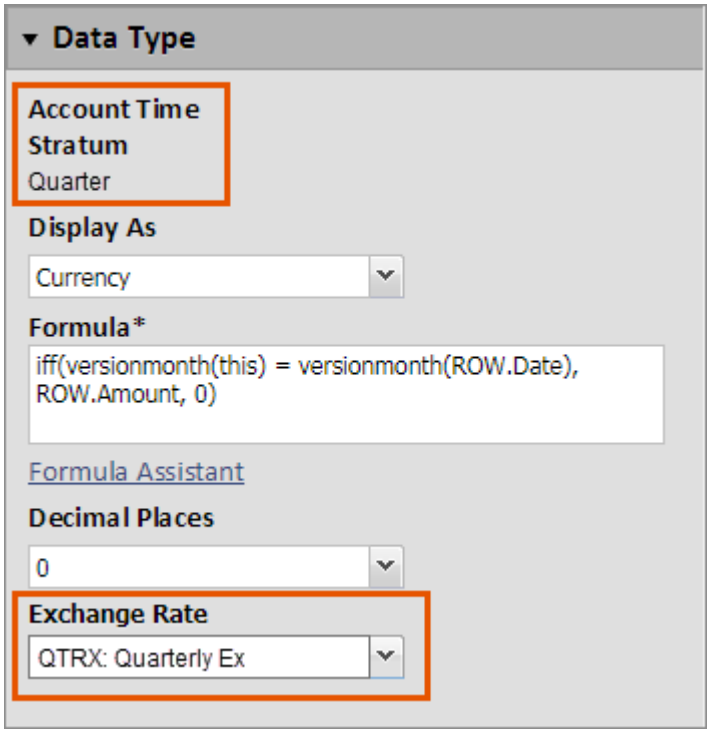
ナビゲーション メニューから "モデリング"を選択します。"その他" メニューから "通貨" を選択します。

四半期の為替レートの作成

1. "為替レート タイプ" で "新規追加" を選択します。
2. 為替レート タイプを、総勘定元帳科目以外の科目であることを明確に示すコード、略語、名前を使用して作成します。
3. 用途の説明を入力します。
4. 保存します。
5. "通貨の為替レートを入力" を選択します。
6. 為替レート シートで、四半期ごとの最後の月に四半期の値を入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

7. 保存します。
8. 科目を作成するときに、この科目の時間層と一致する、ステップ 3 で作成した "為替レート タイプ" を選択します。




relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート（1220ページ）

概念: 通貨と為替レート

Adaptive Planning では、多くの通貨を使用できます。組織に通貨を割り当てます。この割り当てられた通貨をその組織のローカル通貨と呼びます。データを入力またはインポートする場合、データはその組織の通貨を表します。

Adaptive Planning は、ロードした為替レートを適用して通貨間の値を換算します。通貨間の換算は以下のように発生します。

- 親組織の現地通貨が子組織の現地通貨と異なる場合、組織階層内例: 営業 組織 (EUR) は 本社 組織 (USD) の子組織です。Adaptive Planning は、 営業 組織の値を USD に変換してから、本社の合計値に反映させます。
- 表示される組織の通貨と異なる通貨のレポート例: 営業 組織 (EUR) のデータを含むレポートを作成します。レポートは最高責任者レベルのエグゼクティブ向けであるため、レポートに USD 通貨を追加します。Adaptive Planning により、売上は EUR から USD に換算されます。

通貨換算を管理するのに役立つ次のツールを提供しています。レポート通貨と換算通貨。

社用通貨

社用通貨は、モデルの最上位組織に割り当てられた通貨です。この割当は、モデルの初回実装時に発生します。すべての組織の通貨が同じ場合、最上位組織の通貨を変更すると、社用通貨が自動的に変更されます。

組織の通貨が異なる場合、すべての組織を同じ通貨に割り当てるまで、最上位組織の通貨を変更することはできません。その後、最上位組織の通貨を変更すると、社用通貨が自動的に変更されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 標準通貨

海外のビジネス ニーズがある場合、通貨をさらに追加する必要がある場合があります。例: 米国を拠点とするビジネスがインドにオフィスを開設するとします。あるいは、メキシコで製品を販売する計画のある欧州ビジネスがあるとします。

Adaptive Planning では、標準通貨コードを持つ標準通貨が提供されます。小数点以下の桁数を定義し、通貨のレポート レートを使用するかどうかを選択できます。通貨を追加すると、"モデリング"の " 組織" 領域で組織に割り当てることができるようになります。

### カスタム通貨

カスタム通貨を追加することもできます。 カスタム通貨は実際の通貨に対応する必要はありません。コード、説明、為替レートを作成できます。 カスタム通貨は以下の目的で使用します。

- 異なるバージョンにおける同一通貨を区別する。例: ユーロに関して契約上定義された複数の異なる通貨レートがあるため、それぞれに対してカスタム通貨を作成できます。
- 為替レートによって影響を受ける最良ケースと最悪ケースのシナリオを分析します。例: 最良ケースのシナリオとして好ましいレートを有するカスタム ユーロを使用し、あるいは最悪ケースのシナリオとして望ましくないレートを有するカスタム ユーロを使用します。

ビデオを見る:

### 為替レート タイプ

為替レート タイプは、データ値に為替レートを適用する方法です。インスタンスには、以下のような一般的な方法があります。

- 月平均: 総勘定元帳科目階層内の損益計算書科目のデフォルトです。
- 月末。これは、総勘定元帳科目階層の貸借対照表科目のデフォルトです。

追加も可能です。例: 四半期平均レートを追加するとします。

実績レートを追加する責任があります。

### レポート通貨

すべての通貨が社用通貨に換算されます。例: 社用通貨が USD である。CAD と EUR も持っています。為替レート タイプごとに、以下の通貨の為替レートをロードする必要があります。

- USD と CAD
- USD と EUR

CAD を EUR に換算するには、まず CAD を社内通貨である USD に換算します。次に、USD を EUR に換算します。または EUR から USD、さらに USD から CAD

CAD または EUR、あるいはその両方をレポート通貨にすることで、レポートに関するこのプロセスを変更できます。通貨がレポート通貨である場合、直接換算が行われます。これにより、レポートでより正確な交換が可能になります。

このオプションを選択した場合、すべてのレポート通貨の為替レートをロードする必要があります。例: USD と CAD のレポート通貨を使用します。為替レート タイプごとに、以下のペアのレートをロードする必要があります。

- USD から CAD
- USD から EUR
- CAD から USD
- CAD から EUR

このオプションはレポートのパフォーマンスに影響する可能性があるため、慎重に使用することをお勧めします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

## 換算通貨

換算通貨は、すべての組織について特定の通貨での実績の完全なデータ セットをロードできる機能です。換算通貨を使用すると、通常どおり各最下位組織の現地通貨でデータをロードできます。また、すべての組織について、指定された通貨で同じデータ セットをロードできます。

## モデリングの通貨領域

通貨 権限がある場合は、"モデリング" 領域の "通貨" ページにアクセスできます。"通貨" ページで実行するアクションはほとんどありませんが、これらのアクションはモデルに大きな影響を与えます。次の 3 つのセクションがあります。

- 通貨
- 為替レート タイプ
- 設定

"通貨"では、次の操作ができます。

- モデルにすでに追加されている通貨のリストを確認します。
- 緑のチェックマークから、どの通貨が デフォルトのレポート レート でどの通貨が カスタムなのかを判断します。
- "通貨" セクションの右下にある " 社用通貨" を 確認します。
- 通貨の編集または削除
- 標準通貨またはカスタム通貨を追加します。
- 組織 にリンクし、組織に通貨を割り当てることができます。
- リンクを使用して "通貨の為替レート" シートを開き、個々の通貨ペアとタイプの為替レートを入力します。

行には、各通貨ペアについてリストされているすべての為替レート タイプが表示されます。シートを使用して、月次の実績レート値を入力します。 このシートは、 通貨 権限を持つユーザーのための特殊シートです。このシートにアクセスできるのは、"モデリング"の "通貨" ページからのみです。

為替レートは、"インテグレーション" 領域の"インポート" タブを使用してインポートすることもできます。

"為替レート タイプ" セクションでは、次の操作ができます。

- モデルがすでに使用している為替レートのタイプをレビューします。
- 為替レート タイプを編集または削除します。
- 新しい為替レート タイプを追加します。

為替レート タイプを追加すると、これらの為替レート タイプが "通貨" セクションにある "為替レート タイプ" シートに表示されます。実際の為替レートをシートに追加する必要があります。また、科目に割り当てることもできます。

"設定" セクションには 3 つのオプションがあります。以下が可能です。

- 為替レートの方法を設定します。
- 為替換算調整勘定 (CTA) を有効にします。
- CTA を有効にしている場合は、"科目管理" で CTA システム科目にリンクさせます。

為替レートの方法として ″乗数″ を 選択すると、ソースの値に為替レートを乗算して、ターゲット通貨の値を取得します。″除数″を選択すると、ソースの値が為替レートで除算され、ターゲット通貨の値が取得されます。

CTA を有効にすると、"純資産" の親科目と "資産と負債" の親科目内で異なる為替レート タイプが存在することによって生じる差異を処理する科目が "純資産" 科目の合計に作成されます。この科目にデータを編集したりインポートしたりすることはできません。科目を有効化すると、総勘定元帳科目の階層で科目の名前やその他の設定を編集できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
概念
四半期科目の四半期の為替レート タイプの作成（1219ページ）
概念: 換算通貨（1223ページ）
概念: 複数通貨のツール（1227ページ）
概念: カスタム カレンダーと為替レート（1226ページ）
タスク
通貨の追加（1216ページ）
為替レート タイプを追加（1218ページ）
為替レートの追加（1218ページ）
実績バージョンの作成（834ページ）
参考
FAQ: 換算された通貨データを消去するにはどうすればよいですか？（2068ページ）
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）

概念: 換算通貨

換算通貨を使用すると、すべての組織の実績データを単一の通貨でロードできます。

換算通貨の仕組み

Adaptive Planning では、データのロードまたは入力は常に最下位組織で行います。最下位組織は、子組織を持たない組織です。インスタンスに複数の通貨がある場合、すべての組織に通貨を割り当てます。親組織は、子孫組織と異なる通貨を持つことができます。最下位組織のローカル通貨でデータをロードします。その後、Adaptive Planning は、データを組織階層にロールアップする際に、値を各親組織のローカル通貨に換算します。

換算通貨は、組織階層を通じて通貨換算を回避するために、実績サブバージョンで有効化できるオプションです。また、このオプションにより、実績データのレポートでの通貨換算も回避されます。

換算通貨を有効にすると、ソース データが選択した単一の通貨に換算されてから、Adaptive Planning にロードされます。これは、Adaptive Planning では複製できない、トランザクション レベルでの実績データの通貨換算に特に役立ちます。

その後、"インテグレーション設定" で手動のインポートまたはデータ ローダを使用して、各最下位組織のローカル通貨で実績データを通常どおりロードできます。また、すべての組織について、単一の通貨で、同じデータ セット、同じバージョンにロードできます。データがすでに単一の通貨に変換されているため、その通貨で実績データをレポートでき、その値がソース データと一致します。

換算通貨での実績データのロード

手動でインポートするか、"インテグレーション設定"のデータ ローダを使用して、換算通貨で実績データをインポートできます。Workday の "Financial Planning 設定の管理 " タスクを使用してローダを作成し、換算通貨のデータをロードすることもできます。

"インテグレーション設定"で、換算通貨を有効にしたバージョンには、バージョン名の最後に通貨がタグ付けされたネストされたオプションがあります。

例:"インテグレーション設定" のバージョン セレクターは次のようになります。

- 実績のオーバーレイ
    - 元帳のインポート
        - 元帳 USD をインポート

各最下位組織のローカル通貨でデータをロードするには、"バージョン パラメータ"で *"*元帳のインポート*"* を選択します。すべての組織のデータを USD でロードするには、*"*元帳 *USD* をインポート*"*を選択します。各セットを別々にロードする必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 換算通貨を使用してセルを探索

ダッシュボード上のシートを含め、シートでは常に組織のローカル通貨でデータが表示されます。換算通貨をシートに表示する方法はありません。シートから起動した場合、"セルを探索" の値も組織のローカル通貨で表示されます。"セルを探索" で組織をドリルダウンすると、各組織のローカル通貨が値に反映されます。

ただし、レポートに特定の通貨が適用されているレポートまたはダッシュボード グラフから "セルを探索" を起動すると、以下の 2 つの異なる動作になります。

- 通常のデータでは、"セルを探索" の値がレポートに表示される値と常に一致するわけではありません。"セルを探索" を実行すると、組織のローカル通貨で値が表示されます。この通貨は、レポートの通貨とは異なる場合があります。例: USD のレポートには、営業組織 (EUR) のデータが表示されます。セルの値は 20 USD で、レポート通貨を示しています。"セルを探索" の値は 18.5 EUR で、組織のローカル通貨を示しています。
- 換算通貨の場合、"セルを探索" の値には、現地通貨ではなく、レポートと同じ値が表示されます。"セルを探索" は、値が換算通貨の場合に示されます。

### CTA 科目

換算通貨を有効にしている場合、実績データに CTA システム科目を使用することはお勧めしません。代わりにソース データから CTA 値をロードしてください。

CTA システム科目を使用する場合、換算通貨のあるバージョンでは値が 0 と表示されます。これは、その通貨に為替レートを適用していないためです。データには適切な換算値がロードされているため、Adaptive Planning によって実績バージョンの換算通貨に対する為替換算調整勘定は計算されません。

### 換算通貨の制限事項

バージョン設定で次の操作を行います。

- 複数の換算通貨を選択することはできません。
- この機能はサブバージョンでのみ有効にする必要があります。サブバージョンの子孫は 5 つを超えることはできません。
- ルート実績または仕訳入力バージョンで換算通貨を有効にすることはできません。

インテグレーションでは、次の操作はできません。

- "インテグレーション マネジメント" の "データの消去" 機能を使用して、換算された通貨データを直接削除します。この関数を使用して親バージョンのデータを消去すると、換算通貨バージョンのデータも消去されます。
- Planning データ ローダで "消去設定 " タブを使用します。代わりに ″置換モードを有効化″ オプションを使用してください。
- インポートした翻訳データをエクスポートします。

"モデリング" では、次の操作はできません。

- 換算通貨が有効になっているバージョンで、リンク組織をリフレッシュします。

レポートとダッシュボードでは以下のようになります。

- ダッシュボードの通貨セレクターに換算された通貨が表示されない場合があります。ダッシュボードには、組織に関連付けられた通貨と、最上位レベルの通貨のみが表示されます。
- レポートの ″科目の分割を表示″ 設定が有効になっている場合、組織の現地通貨が実績として表示され、換算値は表示されません。
- ロードされた変換済みの実績データを使用するため、レポートでは換算通貨で有効な実績バージョンのみを使用できます。換算通貨 (計画または実績) のないバージョンを少なくとも 1 つ追加すると、レポート全体で、すべての実績バージョンに対して Adaptive Planning の換算レートが使用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: 換算通貨の使用

組織階層は次のようになります。

- 売上 (USD)
    - 欧州営業 (EUR)
    - 米国営業 (USD)
    - メキシコ営業 (MEX)

元帳のインポートは、換算通貨として USD を持つ実績のサブバージョンです。ソース データには以下の 2 つのセットがあります。

- 最下位組織ごとの現地通貨
- すべての組織の USD 通貨

インテグレーション設定で、"元帳のインポート" バージョンを選択してローカル通貨のバージョン パラメータを設定します。このローダを使用して現地通貨データをロードします。

次に、"元帳のインポート" の下にある "元帳のインポート (USD)" を選択して、換算通貨のバージョン パラメータを設定します。ソース データですでに USD に変換されている実績をロードします。USD の実績に関するレポートは、"元帳のインポート USD" にロードされたデータを自動的に取得するようになりました。報告データがソース データと一致している。

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート（1220ページ）
概念: 複数通貨のツール（1227ページ）
タスク
通貨の追加（1216ページ）
実績バージョンの作成（834ページ）
参考
FAQ: 換算された通貨データを消去するにはどうすればよいですか？（2068ページ）
参考: 実績バージョンの設定（837ページ）

概念: 為替換算調整勘定システム科目

定義と目的

資産や負債など、貸借対照表の科目は通常、月末の為替レート (EOM) を使用します。しかし、貸借対照表の "純資産" セクションの一部の科目では、割り当てられた為替レートが使用されます。為替レートは時間とともに変動するので、貸借対照表は収支が合わなくなります。

為替換算調整勘定 (CTA) は会計ツールです。為替レート計算を考慮して貸借対照表を調整します。差額を為替換算調整勘定と呼ばれる特別な科目に移します。

Adaptive Planning および Close インスタンスの場合、または実績バージョンで換算通貨を有効にしている場合は、CTA にシステム科目を使用することはお勧めしません。代わりに、ソースから CTA 値をカスタム科目にロードしてください。

**CTA** 科目

CTA は "モデリング"の "通貨" 領域で有効にできます。CTA を有効にすると、総勘定元帳階層にシステム科目が作成されます。科目が 資本 ルート科目の子科目である。これは、為替レート タイプ間の差異を計算する定義済みの数式を有しています。

この数式または科目設定は編集できません。使用する数式は次のとおりです。

(割り当てられた為替レート タイプを使用して換算された資産) - (EOM を使用して換算された資産) - (割り当てられた為替レート タイプを使用して換算された負債と純資産) - (EOM を使用して換算された負債と純資産)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

CTA 科目によって、通貨換算の発生後に貸借対照表の収支が合っていることが確認されます。

### シート上の為替換算調整勘定

管理者は各組織に通貨を割り当てます。 シートでは、選択した組織の通貨が、入力または表示するデータの通貨になります。組織を切り替えると、通貨も切り替えて換算されます。

CTA 科目がシートにある場合、組織通貨間の換算時に行われた調整が CTA 科目のシート セルに反映されます。CTA セルで "セルを探索" を使用すると、表示される値がシートのセルの値と一致します。

### レポートの為替換算調整勘定

レポートでは、CTA 科目に以下が表示されます。

- データはすでにターゲット通貨を使用してロードされているため、換算通貨の値はありません (ゼロ)。そのため、為替レートは適用されません。
- 非換算通貨の値または換算差額。換算の差額には、適用可能な為替レートに基づく値が表示されます。
- "セルを探索" に表示される値とは一致しない可能性がある値。この不一致は、"セルを探索" で組織の通貨を使用しているために発生します。組織の通貨は、レポート定義で定義された通貨と必ずしも一致しないからです。例: 営業組織の通貨は CAD です。MXN 通貨で営業組織をレポートに追加します。CTA の値は MXN 通貨で 20 です。値 20 は、CAD (組織通貨) から MXN (その列のレポート通貨) に換算するときの換算差額を表します。"セルを探索" を使用してこの値をドリルダウンすると、"Empty CAD" と表示されます。これは通貨の差額がないためです。

relatedlinks
概念
概念: 複数通貨のツール（ 1227ページ ）

## 概念: カスタム カレンダーと為替レート

総勘定元帳 (GL) 科目では、カスタム カレンダーを使用しない限り、デフォルトの期間として月が使用されます。その他の科目 (モデル科目とキューブ科目など) は、週または四半期など別のデフォルトの時間設定を使用できます。Workday では、科目のデフォルトの期間が異なる場合に、期待される通貨為替レート結果を得るために 2 つの方法を使用します。

### GL より短い期間を使用する科目

科目が、GL 科目の期間よりも短い期間を使用する場合、その科目は合計期間の為替レート値を使用します。例: 科目が週単位を使用し、GL 科目に月単位を使用している場合、Workday では月単位の為替レートを使用します。

### GL よりも長い期間を使用する科目

科目が GL 科目の期間よりも長い期間を使用する場合、その科目は GL の期間で最後に適用された期間の為替レート値を使用します。 例: 科目が四半期を使用し、GL 科目に月単位を使用している場合、Workday では各四半期の最後の月の為替レートが使用されます。

注： 四半期のすべての科目に別々の為替レートを使用する場合、四半期の為替レート タイプを作成し、各四半期の最後の月に四半期の為替レートを入力できます。為替レート科目ごとにその為替レート タイプを選択してください。

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート（ 1220ページ ）
概念: 複数通貨のツール（ 1227ページ ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### 概念: 複数通貨のツール

インスタンス内のデータが異なる通貨で複数の組織にロールアップされている場合、または、プランニングおよびレポートにおいて複数の通貨を単純に管理する必要がある場合、通貨の換算に関する問題の解決に役立つこれらのツールの使用を検討してください。

### 換算通貨

換算通貨は、すべての組織について特定の通貨での実績の完全なデータ セットをロードできる機能です。換算通貨を使用すると、通常どおり各最下位組織の現地通貨でデータをロードできます。また、すべての組織について、指定された通貨で同じデータ セットをロードできます。

参照 概念: 換算通貨（1223ページ）。

### レポート通貨

レポートでより正確な通貨換算を行うために、レポート通貨を使用します。通貨がレポート通貨である場合、レポートの直接換算が行われます。これにより、レポートでより正確な交換が可能になります。

参照 概念: 通貨と為替レート（1220ページ）。

### 固定通貨レポート

仮想バージョンを使用して固定通貨レポートを作成します。

為替レートの変動によっては、実際の業績メトリクスではなく、為替レートが好ましいか好ましくないかに基づいてデータの分散が良くも悪くも見える場合があります。決算期に、"固定通貨" によって、分散を分析する際の為替レートの変動がなくなります。為替レートに影響を与えることなくビジネスの業績を把握できます。

固定通貨レポート および 連結バージョンを参照してください。

### 為替換算調整勘定 (CTA)

CTA を使用し、通貨換算の発生後に貸借対照表の収支が合っていることを確認します。

資産や負債など、貸借対照表の科目は一般的に "期末" 為替レートを使用します。一方、貸借対照表の "純資産" セクションの一部の科目はその期間の平均為替レートを使用します。これによって貸借対照表は通貨換算発生後に収支が合わなくなります。CTA を有効にするとシステム科目が作成されます (デフォルトは "為替換算調整勘定"。名前は変更できます)。この科目は純資産科目の子科目です。これは、為替レートタイプ間の差異を計算する定義済みの数式を有しています。

参照 概念: 為替換算調整勘定システム科目（1225ページ）。

### 初期残高用通貨タグ付き分割 (CTS)

CTS を使用して、過去の為替レートの使用を回避するために任意およびすべての最下位組織に向けた複数の通貨の初期残高をシードします。

インスタンス内のデータが異なる通貨を用いて複数の組織にロールアップされている場合、通貨ごとの分割として各通貨の残高を入力します。その後のすべての期間について、各組織で値はその組織の通貨で表示されます。

初期残高の通貨タグ付き分割を参照してください。

### 加重平均換算科目 (WAT)

加重平均換算科目の設定を有効化し、フロー科目からデータを使用するストック科目の通貨を換算します。

この科目設定はデフォルトの数式と連動します。デフォルトの数式は "純利益" などのフロー科目からデータを引き出し、貸借対照表の "年初来純利益" などのストック科目に取り込みます。加重平均換算を行っ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

てから、平均周期為替レートで差額における通貨を換算します。先へ進み、"残高のリセット" を使用してストック科目の累積を停止させ、周期間隔においてゼロにリセットします。たとえば、"年初来純利益" は新年開始時にゼロにリセットできます。"リセット時に残高移動" を使用し、リセット時に残高を別の科目 ("期首利益剰余金" など) へ自動移転します。

加重平均換算の概要 、 加重平均換算科目の作成 、および 加重平均換算のウォークスルーを参照してください。

カスタム通貨

カスタム通貨を使用して、異なる為替レートでカスタム通貨を作成します。

カスタム通貨について、一意の名前、説明、英数字コードを作成します。独自の為替レートを入力し、それを使用して計画、予測、予算、連結を行います。

通貨の追加を参照してください。

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート ( 1220ページ )
概念: 換算通貨 ( 1223ページ )
概念: 為替換算調整勘定システム科目 ( 1225ページ )
概念: カスタム カレンダーと為替レート ( 1226ページ )
タスク
通貨の追加 ( 1216ページ )
為替レート タイプを追加 ( 1218ページ )
為替レートの追加 ( 1218ページ )

## 配賦ルール

配賦ルールの作成

始める前に

- 組織を作成します。参照 ステップ: 組織の作成 ( 846ページ )。
- 配賦するデータの科目階層を完成させます。参照 科目の作成 ( 863ページ )。
- 条件付き: 科目特性を計画する場合、配賦を必要とする科目に配賦の科目特性をタグ付けします。
- セキュリティ: "配賦ルール" 権限

このタスクについて

配分は、会社内のさまざまな部門やアクティビティにコストを分割します。 Adaptive Planning では、配賦ルールによってシステム科目を持つ組織間で値が自動的に配分されます。

ルールには定義と適用範囲があります。適用範囲は、ルールを適用する場所とタイミングを示します。 この定義は、会計処理の借方と貸方について説明します。借方はソース組織から取得され、貸方はターゲット組織に入力されます。

合計値がターゲット組織全体で均等に配分されないようにする場合、加重値を適用できます。例: "人員" 科目を使用して、組織の "人員" に基づいて配賦を配分できます。

モデルのパフォーマンスを維持するために、モデルを 10 の配賦ルールに制限することをお勧めします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

手順

1. 配賦借方データおよび配賦貸方データに対応するシステム科目を作成します。
   科目は、総勘定元帳階層またはカスタム科目階層のシステム科目である必要があります。
   以下をお勧めします。
   - すべての配賦科目は、階層内の親配賦科目にロールアップされます。
   - 各配分タイプに対応する配分ペアがあります。例: "Facilis Allocation-In" および "Facilis Allocation-Out"

   すべてのシステム科目と同様、配賦科目はシート上では読み取り専用です。また、配賦科目にデータをインポートすることもできません。ルールで指定された配分のみがこれらの科目に入力されます。
   参照 科目の作成（863ページ）。
2. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
3. "配賦ルール" をクリックします。
4. "新しいルール"をクリックします。
   新しいルールには、少なくとも組織のペアと配賦科目のペアが必要です。
5. 次を参考にして、"定義 " タブを完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | わかりやすい名前を入力します。ルールの名前は、"配賦ルール" リストと "セルを探索"に表示されます。 |
| 説明 | ルールとその目的についての自身の理解に役立つ説明を入力します。 |
| ソース組織 | 組織を選択して、配賦する値がどの組織に含まれているかを示します。 |
| ターゲット組織 | 組織を選択して、どの組織が配賦を受け取るかを示します。 |
| 配賦元科目 | ソース組織で配賦の借方を保持する科目を選択します。システム科目のみ表示されます。 |
| 配賦先科目 | ターゲット組織で配賦の貸方を保持する科目を選択します。システム科目のみ表示されます。 |
| 配賦元科目の値 | 数式または特性を使用して、配賦科目に配分する値を保持している科目を示します。<br>• 数式: 少なくとも 1 つの科目参照を入力します。 複数の科目を参照でき、配賦ルールによってそれらすべての科目の値が移動します。 例:*Acct.6470_OfficeRent*<br>特性を持つ科目: 特性値を選択します。ルールにより、特性値にタグ付けされたすべての科目の合計値が移動します。 |
| 基準数式 | ターゲット組織間で値を配分する方法を説明します。例:「*Access.Personnel.Headcount*」と入力し、各組織の人員値に基づいて分布に加重値を指定します。加重数式は各ターゲット組織で評価されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 均等に配分するには、このフィールドを空白のままにします。 |
| 通貨を基準とする | " 加重数式" が 通貨科目を参照するときに、このチェックボックスをオンにします。例: 収益。 ターゲット組織に適用する前に、すべての加重値を最上位組織の通貨に換算します。<br>加重数式が通貨科目を参照しない場合は、このチェックボックスをオフにします。例: ヘッドカウント |

6. "適用範囲 " タブをクリックします。
7. 次を参考にして、"適用範囲" タブを完了させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| バージョンに適用する | 配賦ルールのバージョンを選択します。 |
| 実績バージョン | 連結および実績サブバージョンのインスタンスの場合、"移動 元実績" を選択して、どのサブバージョンに移動するソース金額が含まれているかを示します。"移動先実績" ドロップダウンを使用して、配賦貸方のサブバージョンを選択します。 |
| ルールの期間 | "開始" と "終了"を選択します。 カレンダーに従って特定の期間を選択するか、"バージョンの開始" と "バージョンの終了" を選択することができます。 |
| 属性を保持 | 値が配賦先科目に値を移転するときに保持する属性値を選択します。そうしないと、値はカスタム属性を失います。 |

8. 配賦ルールの名前の横にある矢印を使用して、配賦ルールの順序を変更します。
   ページ上のルールの順序は、トリガの順序を表します。1 つのルールの出力が他のルールの入力に影響を与える場合があります。目的の結果を得るために、ルールが正しい順序になっていることを確認してください。

タスクの結果
配賦は組織間で自動的に移動します。各組織の配賦科目の移動をレビューできます。
relatedlinks
概念
概念: 配賦ルール（1231ページ）
概念: 連結（1240ページ）

配賦数式からの属性値の削除

始める前に

セキュリティ: "配賦ルール" 権限

このタスクについて

配賦の加重数式または数式が属性値を参照している場合、属性値を削除する前に数式を更新することを検討できます。そうしないと、配賦ルールの数式がエラーを返し、下流データに影響を与える可能性があり

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ます。配賦ルールの名称は、"依存 関係の表示 " テーブルの "配賦ルール" タブに表示されます。参照 属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）

属性値を削除した後でも、数式を変更してエラーを削除できます。ただし、エラーのあるルールを見つけるのは簡単ではありません。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "配賦ルール" をクリックします。
3. "配賦ルール" タブに表示されている名前を含むルールの横にある鉛筆アイコンをクリックします。
4. "定義" タブをクリックします。
5. "基準数式" から属性値を削除します。
6. "配賦元 数字" セクションの "数式" フィールドから属性値を削除します。

relatedlinks
タスク
属性値を削除するための依存関係の表示の解決（982ページ）

概念: 配賦ルール

配分は、会社内のさまざまな部門やアクティビティにコストを分割します。 Adaptive Planning では、配賦ルールにより、システム科目を使用して値が組織間で自動的に配分されます。 ルールには定義と適用範囲があります。適用範囲は、ルールを適用する場所とタイミングを示します。この定義は、値がどこから取得され、どこに入力されるべきかを示します。

配賦科目は移動の会計処理を提供し、科目の残高を維持します。 ルールにより、配賦科目は自動的に管理されます。

配賦ルールの管理ページ

"配賦ルールの管理" ページに 配賦ルールの リストが表示されます。 ルールは、モデルに適用された順序で表示されます。リストから、以下を確認できます。

- ルールの名前と説明。
- 各ルールが影響するバージョン
- ルールの開始期間と終了期間。

以下が可能です。

- 鉛筆アイコンをクリックしてルールを編集
- 赤い X のアイコンをクリックしてルールを削除
- 上下の矢印を使用してルールの位置を調整。必要な結果を得るために、ルールが正しい順序になっていることを確認してください。

ソース組織と配賦元科目

組織と科目により配賦のソースが定義されます。 配賦ルールとともに値が移動する科目を示します。次のどちらかを使用できます。

- 1 つ以上の科目を参照する数式
- 科目特性

ルールは特定の組織におけるこれらの科目の値を取得します。 これらの組織は "ソース組織"と呼ばれます。

このルールでは 、"ソース組織" の配賦の値が配賦元システム科目に配分されます。 配賦元システム科目は、これらの値を借方として ソース組織に保持します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

ターゲット組織および配賦先科目

配賦ルールによって、値が特定の組織に移動します。これらの組織は "ターゲット組織"と呼ばれます。

このルールでは 、"ターゲット組織" の配賦の値が "配賦先" システム科目に配分されます。配賦先システム科目は 、ターゲット組織の貸方として値を保持します。

合計値がターゲット組織全体で均等に配分されないようにする場合、加重値を適用できます。例: "人員" 科目を使用して、"人員" に基づいて配賦を配分できます。

配賦ルールのユース ケース

コンピュータ部品に対する企業予算は 5,000 ドルと計画されています。ルールを使用して、その予算を部門間で均等に配分できます。各部門は、コンピュータ部品に 1,000 ドルを支出できることを把握できます。

会社が、IT 部門とエンジニアリング部門を収容する新しいビルをリースします。4,000 ドルの管理経費は、2 つの部門間で配分できます。エンジニアが 100 人、IT プロフェッショナルが 25 人います。ヘッドカウントの加重値を追加できます。エンジニアリング部門は 3,000 ドル、IT 部門は 1,000 ドルを受け取ります。

パフォーマンスと管理のベスト プラクティス

配賦ルールの複雑性と、影響を受けるシステム科目の数は、両方ともモデルの全体的なパフォーマンスに影響を及ぼします。以下を制限することをお勧めします。

- 配賦ルールを 10 件のルールにマッピングする。
- 対応するシステム科目の最大数は 20 (配賦ルールごとに 1 入力 1 検出システム科目)。

より効率的に管理するために、数式ではなく科目特性を使用することをお勧めします。科目特性を使用する場合、今後作成され、特性値が設定された科目は、自動的に配賦ルールに従います。科目から特性を削除することで、ルールから科目を削除できます。数式を使用する場合、科目の追加や削除を行うルールを編集する必要があります。

relatedlinks
タスク
配賦ルールの作成 ( 1228ページ )

トラブルシューティング: 配賦ルール

配賦ルールを変更しようとすると、ロックされた月に関する以下のエラーが発生します。

- このルールは *1* つ以上のバージョンのロック済月に影響します。
- ロックされた月を範囲に追加または削除しようとしました...

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| バージョンには、ユーザー タイプに対して " 非表示 " アクセス制御が設定されており、範囲には表示されません。 | 1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。<br>2. "バージョン" をクリックします。<br>3. ツールバーで "バージョン アクセスのエクスポート"をクリックします。<br>4. スプレッドシートを開きます。<br>5. Excel の検索機能を使用して、"非表示" を検索します。<br>6. "非表示"があるバージョンについては、次のいずれかを実行できます。<br>• ユーザー タイプのバージョンのアクセスを "完全アクセス"に更新します。 参照 バージョンのアク |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 原因 | ソリューション |
| --- | --- |
| | セス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。<br>• すでに "完全アクセス" を持つユーザーを取得して配賦ルールの範囲をレビューし、必要に応じてそのバージョンを削除します。<br>• ロック解除済バージョンにのみ適用される新しいルールを作成します。 |
| バージョンは次の設定でロックされます。<br>• "ロック済バージョン" チェック ボックス。<br>• ユーザー タイプの"アクセス制御"。<br>• "次の時点までのすべての月をロック" オプション。 | ユーザー タイプのバージョン アクセスを "完全アクセス"に更新するか、バージョンのロックを解除します。 参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。<br>または、ロックされた月を更新します。参照 計画バージョンの一部のロック（820ページ）。 |

relatedlinks
タスク
配賦ルールの作成（1228ページ）

## トランザクション

概念: バージョン固有のトランザクション

カスタマイズされたトランザクション レポートをバージョンに接続することにより、トランザクションをバージョン固有にすることができます。"モデリング" 領域の " バージョンの詳細" にある "トランザクションに ドリルイン" オプションを使用すると、カスタマイズされたレポートをバージョンに接続できます。 トランザクション データは、デフォルトではバージョンに接続されません。 代わりに、組織、時間、科目別にのみデータの交差を示します。

### トランザクション定義へのバージョンの追加

トランザクションの定義は "モデリング" 領域で管理します。 トランザクション定義にバージョン フィルタを追加するには、次の方法があります。

- 各バージョンに対応する属性値を作成し、その属性をトランザクション定義に追加します。
- トランザクションの定義にテキスト フィールドを追加します。バージョン名を入力できます。
- トランザクション定義にテキスト セレクターを追加します。次に、バージョンに対応するテキスト セレクターのオプションを作成します。

トランザクションをインポートする場合、それぞれの交差をバージョンと関連付けて、そのバージョンを新しいフィールドにインポートできます。

### トランザクション レポートへのバージョン フィルタの追加

トランザクション レポートは "レポート" 領域で作成します。 レポートにバージョン フィルタを追加するには、次のようにします。

- バージョン属性、テキスト フィールド、またはテキスト セレクターを列に追加します。
- "フィルタ" ボタンを使用し、必要な特定のバージョンを選択します。

バージョンごとに異なるレポートを作成できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### バージョンへのレポートの接続

カスタマイズされた各レポートは、"モデリング" 領域の関連するバージョンに接続できます。 "バージョンの詳細" で "トランザクションにドリルイン" プロンプトを使用して、同じバージョンでフィルタしたレポートを選択します。 例: トランザクション レポート *"Transactions Budget 2023"*を作成し、バージョンでフィルタリングした "Budget 2023"。"トランザクション にドリルイン" オプションの *"2023* 年予算*"* を選択します。

### トランザクションへのアクセス

シートまたはレポートから "セルを探索" を起動し、"トランザクションにドリルイン"をクリックすると、トランザクションにアクセスできます。ドリルによって事前定義されたトランザクション レポートが実行されます。レポートは、現在表示しているバージョンでフィルタリングされます。

relatedlinks
概念
概念: トランザクション レポート（161ページ）
タスク
トランザクション レポートの作成（166ページ）
参考
参考: トランザクション レポートのツールバー（174ページ）

### 参考: トランザクション

トランザクションは通常、タイムスタンプ付きの注文、請求書、販売プロセス活動、または支払いに関連するデータです。トランザクションは、NetSuite や Salesforce といったさまざまな外部システムから受け取ります。次を目的としてトランザクション フィールドを定義し、トランザクションを " インポート " できます。

- プランニング インスタンスでは、トランザクション テーブル 1 つのみについてトランザクション フィールドの定義を管理します。

トランザクション行アイテムは、通常、タイプや日付など、トランザクションに関連付けられた一連のデータによって表されます。顧客名、品目の数量、合計など、ライン項目が個々のラインに関連付けられることがあります。 Adaptive Planning はこれらのトランザクションとこれらのトランザクション ラインが区別されません。それらを処理するには、"トランザクション ビルダー" でトランザクション フィールドの定義を作成します。

### 前提条件

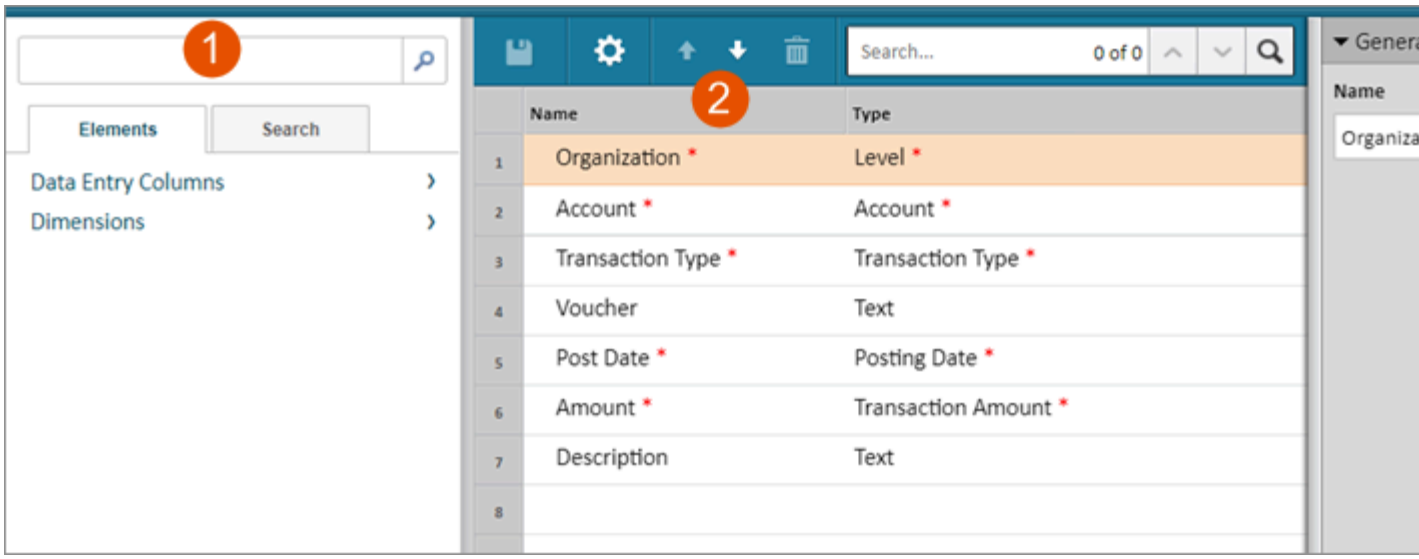
- トランザクションはアドオンです。詳細についてはお問い合わせください。
- この記事は、モデルを作成または管理する管理者向けです。
- セキュリティ:
  - "トランザクションへのアクセス" 権限
  - "モデル" 権限
  - "トランザクション" 権限

### ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "モデリング"を選択します。"その他" のメニューで "トランザクション" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

トランザクション ビルダー




| | |
|---|---|
| 1 | トランザクション定義リストにドラッグするデータ入力列フィールドまたはカスタム属性を参照します。 |
| 2 | ここにドロップすることにより、トランザクション定義リストに要素を追加します。 |
| 3 | トランザクション定義リストで選択されたフィールドのプロパティを設定します。 |

"トランザクション ビルダー" で、リストから特定の要素を選択し、設計エリアにドラッグ アンド ドロップできます。赤色のアスタリスク * で示される必須フィールドはプリセットされており、すでにリストに含まれています。要素セレクタから必要な追加の "データ" フィールドまたは"属性" フィールドをドラッグ アンド ドロップできます。

トランザクションの定義には最大 200 のフィールドを含めることができます。

フィールドのオプションおよび説明については 、参考: トランザクション フィールド タイプを 参照してください。

トランザクション定義ツールバー

| アイコン | 説明 |
|---|---|
| | トランザクション定義リストに加えられたすべての変更を保存します。 |
| | トランザクションの詳細レポートに表示されるメッセージを確認し、変更します。 |
| | リストで選択フィールドを上下に移動させます。 |
| | 定義から選択した要素を削除します。 |

トランザクションの構造と形式、および行アイテムを定義

"トランザクション定義" を設定するための高度な手順を次に示します。

1. インポートするトランザクションに関連付けるフィールドを判別します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. デフォルト フィールドを確認し、必要に応じて定義を適用します。必要に応じてフィールド パネルから新しいフィールドを追加できます。たとえば、製品を追加する場合、これはたいていの場合、"属性" フィールドです。消費税を表示するためにフィールドを追加するには、このフィールドは数値フィールドになる可能性が最も高くなります。"説明" フィールドを追加する場合は通常、"テキスト" フィールドになります。
3. 各フィールドのタイトルは編集できます。このタイトルは、シートと "セルを探索" からドリルスルーするとき、トランザクションの詳細レポートに表示されます。タイトルはトランザクションのインポート テンプレートに表示されます。
4. ツールバーの "トランザクション定義プロパティ" を選択して編集します。ユーザーがトランザクションをドリルインするときに詳細レポートに表示されるデフォルト メッセージを確認し編集できます。"OK" を選択して変更を適用し、ダイアログを閉じます。
5. 保存します。

### データ入力列の追加

データ入力列は、シート上で作業するユーザーのデータ入力ポイントです。たとえば、社員 ID は、人事モデル シートのデータ入力列として一般的に使われます。一般的には、各々のデータ入力列はシート上では単一の列として表示されます。

1. "要素" パネルで "データ入力列" を選択します。
2. 設計エリアに必要なデータ入力タイプをドラッグします。データ入力タイプの詳細については 、参考: トランザクション フィールド タイプを 参照してください。
3. "プロパティ" パネルにおいて、このフィールドのプロパティを入力します。
4. 保存します。

### 属性の追加

カスタム属性列は、カスタム属性から値を選択するのに使われます。たとえば、"職務権限" は人事シート上のカスタム属性として使用できます。その場合ユーザーは、値を選ぶことで職務権限を任意の社員に関連付けることができます。

1. "要素" パネルの "属性" を選択します。
2. 設計エリアに必要な属性をドラッグします。
3. "プロパティ" パネルにおいて、このフィールドのプロパティを入力します。
4. 保存します。

### フィールド定義の管理

"トランザクション フィールドの定義" はいつでも更新でき、新しいフィールドの追加や不要なフィールドの削除も可能です。

重要 : フィールドを削除すると、以前、そのフィールドにインポートされたすべてのデータが削除されます。

詳しくは、 トランザクション レポートの作成を 参照してください。

### 参考: トランザクション フィールド タイプ

必須フィールドは定義に常に存在しなければならず、削除できません。これらの必須フィールドは常に定義し、読み込む必要があります。

| フィールド カテゴリ | 説明 |
| --- | --- |
| 組織フィールド | 必須です。<br><br>組織レベルを示します。トランザクションや行アイテムはこのフィールドに属します。トランザクションはリンク組織と関連付けられません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド カテゴリ | 説明 |
| --- | --- |
| 科目フィールド | 必須です。<br><br>トランザクションや行アイテムが属す科目を示します。実績データを保持している以下の科目には、トランザクション行アイテムを関連付けることができます。<br><br>• 前提条件<br>• キューブ入力総勘定元帳<br>• データ入力でオーバーライドした計算済みキューブ<br>• キューブ標準<br>• カスタム<br>• 総勘定元帳 |
| トランザクションのタイプ フィールド | 必須です。<br><br>テキスト セレクターで、請求書、インボイス、仕訳入力などのトランザクションのタイプを指定できます。このリストにはトランザクション タイプ値の共通リストが事前に読み込まれますが、必要に応じて項目を追加、変更、削除できます。 |
| 転記日 | 必須です。<br><br>トランザクションが GL に転記された日付を示します。これは、トランザクションが属する年や月を特定する日付フィールドです。 |
| トランザクションの金額 | 必須です。<br><br>トランザクション中の行アイテムの金額を示します。これは数値フィールドです。 |
| テキスト | 任意の文字を入力でき、各トランザクション ラインのフィールドごとに、1,000 文字まで入力できます。フィールドに入力できる 1,000 文字を超える文字をインポートしようとすると、フィールドは切り詰められ、その旨を示す警告メッセージが表示されます。 |
| 数値 | 数値データのみを含みます。表示形式 (数字、通貨、パーセント) と小数部桁数を指定できます。 |
| 日付 | 日付データのみを含みます。 |
| テキスト セレクター | ドロップダウン リストとして事前定義された値のセットが含まれます。管理者はテキスト セレクター リストに表示する一連の値を指定できます。 |
| 属性 | モデル内の任意のカスタム属性を使用して、トランザクションのフィールドとすることができます。これらのカスタム属性は、フィールド パネルで一覧表示できます。各属性はトランザクションの定義中 1 回しか使用できません。 |

## 連結

### ステップ: 初期残高の通貨タグ付き分割の設定

インスタンス内のデータが、様々な通貨を使用する複数の組織に合計される場合、過去の為替レートではなく初期の残高の通貨タグ付け分割を使用します。そうすれば、時間の節約になり、より正確なデータが得られます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

加重平均換算のウォークスルーを参照してください。これは、 通貨タグ付き分割および 加重平均換算を使用してデータ フローと自動化を改善する詳細なウォークスルーです。

通貨タグ付け分割の仕組み
通貨タグ付け分割で過去の値を考慮するのは、初期の残高を入力するときのみです。その後は、通貨ごとに自動的に変換処理されます。たとえば、3 種類の通貨における利益剰余金を追跡する 3 つの組織がインスタンスにあるとします。

- 本社は、英国ポンド (GBP) を使用しています。
- 営業およびマーケティング部門は、米国ドル (USD) を使用しています。
- 営業およびマーケティング部門内の部署であるカナダ営業部は、カナダ ドル (CAD) を使用しています。

カナダ営業部は営業部とマーケティング部に合計され、その後、英国本社に合計されます。

通貨タグ付け分割を使って初期の残高を入力する場合、過去のレートに基づいて各通貨の額を入力します。その値は、先に進みながら計算され、利益余剰金シートで自動的に変換されます。

- カナダ営業組織は、CAD での初期の残高に基づいて CAD 値を表示します。
- 営業およびマーケティングの組織は、サブ組織の変換済みの CAD 値を含め、算出した値を USD で表示します。
- 本社組織は、複数通貨のサブ組織から変換済みの CAD 値と USD 値を含め、入力された GBP での初期の残高に基づいて GBP 値を表示します。

重要 : 初期の残高をすでにセットアップしている場合、過去のデータの正確性を保持するには、初期の残高に入力する値が、過去のレートを使って前に計算された金額に一致していなければなりません。

前提条件

通貨タグ付け分割を有効にするには、次のものが必要です。

- 複数通貨
- 初期の残高を使用する科目
- 加重平均換算科目
- 通貨 (システム) 属性を備えた標準シート

ステップ

1. 加重平均換算科目を作成する加重平均換算科目の作成を参照してください。
2. 初期残高のみの標準シートを作成します。
    a. 加重平均換算科目を追加します。
    b. 通貨 (システム) 属性を追加します。
3. シートを開き、インスタンスで使用する通貨ごとに通貨タグ付け分割を追加します。
4. 分割ごとに初期の残高を追加します。初期残高を別の方法ですでにセットアップしている場合、前に使用した過去のレートに基づいて、各通貨の正確な金額を入力します。

加重平均換算科目の作成
科目に初期の残高が必要な場合、通貨タグ付け分割の加重平均換算科目を作成する必要があります。使用する科目のよくある例は、利益余剰金です。段階的な指示については 加重平均換算科目の作成を 、一般的な情報については 概念: 加重平均換算を 参照してください。

初期残高の標準シートの作成
加重平均換算科目の初期残高のシートを作成します 。ベスト プラクティスとしては、通貨タグ付け分割を使用して、初期の残高を必要とする科目のみを備えた標準シートを作成します。

1. "モデリング " > "組織割当シート" を進み、標準シートを作成します。
2. 加重平均換算科目または作成した科目を追加します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "選択可能な属性" ボックスで、"通貨 (システム)" をクリックし、二重矢印をクリックします。すると、"選択済の属性" フィールドに "通貨 (システム)" 属性が表示されます。"次へ" をクリックします。
4. 完了したら、"シートを作成" をクリックします。

シートを開いて通貨タグ付き分割を追加
通貨タグ付き分割を各最下位組織 (サブ組織なしの組織) の新しいシートに追加します。

1. "シート" に移動し、作成したシートを選択します。
2. 最下位組織を選択します。選択された組織が合計される先の組織をリストし、個々の合計の通貨をリストします。
3. 通貨ごとに次の手順を実行します。
    a. 加重平均換算科目の初期の残高セルにおいて "分割を追加" をクリックします。
    b. "分割名" フィールドに通貨タイプを入力します。
    c. "通貨" 列で、通貨タグ付け分割に入力する値に対応する通貨をドロップダウン リストから選択します。
    d. 当初残高を入力します。
4. 様々な組織を選択し、各組織のデフォルト通貨がシートのセルに表示されていることを通知します。

再分類の管理

注： Adaptive Planning では、再分類ルールが仕訳入力に置き換わりましたが、再分類ルールをアクティブに使用するインスタンスの機能は引き続きサポートされます。

再分類ルールは、1 つまたは複数の組織科目の残高全体を、選択したバージョンの別の科目と選択した期間に移動します。再分類ルールを使用して、科目間で資金を移動し、間違いを訂正したり、特性を変更したりできます。

"再分類ルール" ページを使用して、すべての再分類ルールのリストを表示し、再分類ルールを作成、編集、または並べ替えることができます。

再分類ルールの作成

1. "モデリング" > "モデル管理" > "再分類ルール"に移動します。
2. "新しいルール" をクリックします。
3. "定義" タブのフィールドに情報を入力し、科目と組織を選択します。タブ間をクリックしてもデータは失われません。タブの詳細については、この記事の最後にある「再分類フィールドの説明」を参照してください。
4. "適用範囲" タブで、再分類を適用するバージョンとルール期間を選択します。
5. 保存して再分類ルールのリストに戻ります。

再分類ルールの管理
再分類ルールは、表示、編集、並べ替え、または削除できます。再分類ルールの順番がリストされ、処理される順番が決定されます。

ナビゲーション: "モデリング" > "モデル管理" > "再分類ルール"

"アクション" 列にあるアイコンを使用して、以下を実行します。

- ルールを編集: ルール名をクリックするか、 クリックします。"再分類ルールの編集" ページが表示されます。
- ルールを削除: 赤い X をクリックします。削除を確認するメッセージが表示されます。
- ルールの位置を並べ替えます。

無効なルールや未完成のルールは赤いテキストで表示され、適用されないことを示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

再分類ルールの制限
再分類ルールには、次の制限が適用されます。

- 再分類できる科目は、残高タイプ (借方または貸方) が同じである場合のみです。ページのフィルタを使用して、貸方または借方の科目のみを表示することができます。
- リンクされた科目、システム科目、為替換算調整勘定 (CTA) 科目を再分類、または再分類先に指定することはできません。
- 再分類できる、または再分類先に指定できる科目は、最下位科目 (子科目のない科目) のみです。
- ルールの一部は、ロックされた期間、ロック済バージョン、またはアーカイブ済のバージョンに適用される場合、編集できない場合があります。
- "定義" 画面と "適用範囲" 画面はクリックして切り替えることができます。切り替えても変更内容は失われません。

**"再分類定義" タブ**

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 必須です。ルールの名前。 |
| 説明 | 必須ではありません。複数の管理者が再分類ルールを処理する場合に役立ちます。 |
| 科目 | ツリーをブラウズするか検索して、科目を選択します。<br>1. 科目を選択し、"再分類" をクリックします。ダイアログが表示されます。<br>2. ソース科目を再分類する別の科目を選択します。"再分類" をクリックします。 |
| 組織 | ロールアップ中に再分類が発生する組織を選択します。 |

**"再分類適用範囲" タブ**

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| バージョンに適用する | 検索または参照して、ルールが適用されるバージョンを選択します。<br>バージョンは、2017 年度予算などの特定の計画シナリオ、または将来的な買収やダウン サイジングなどの効果を評価するための what-if 計画を表します。 |
| ルールの期間 | 特定の月を選択、またはバージョンの開始と終了を選択します。定期的にこの設定に戻り、必要に応じて更新します。 |

**概念: 連結**

連結 機能は、複数の組織を持つ企業の GAAP で要求される財務活動と財務記録をサポートします。連結を開始するには、Workday のプロフェッショナル サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。

| ユース ケース | 連結ソリューション |
|---|---|
| 組織にはお互いに取引する子会社がある。 | 内部取引科目設定、組織設定、および相殺消去ルール。ステップ: 内部取引消去の設定を参照してください。 |
| 組織は他の組織または子会社の 100% 未満を所有している。 | 連結方式の選択および少数株主持分の追跡のための連結比率シート。連結の所有権の設定を参照してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ユース ケース | 連結ソリューション |
| --- | --- |
| 組織は複数の ERP システムを使用している。 | 仕訳入力バージョンと仕訳入力。概念: 仕訳入力と仕訳入力バージョンを参照してください。 |

relatedlinks
例
次のレベル: Adaptive Planning への連結データのロード

概念: 連結バージョン

実績バージョンと計画バージョンのほかに、連結を使用するインスタンスは、複雑なデータの管理と分析を行うために特別バージョンを使用することがよくあります。それには、サブバージョン、仕訳入力バージョン、仮想バージョンが含まれます。それぞれに連結の目的があります。

サブバージョン

サブバージョンとは、バージョン ツリーで既存の実績バージョンの下に作成された実績のスライスのことです。各サブバージョンのデータは、実績として表示されるデータにロールアップされます。つまり、データは重複しません。サブバージョンは実績の下にいくつでも作成でき、サブバージョンがさらにサブバージョンを持つこともできます。実績サブバージョンを作成して、実績をさまざまな方法で編成およびフィルタします。

サブバージョンでの合計値と編集可能バージョン

バージョン階層

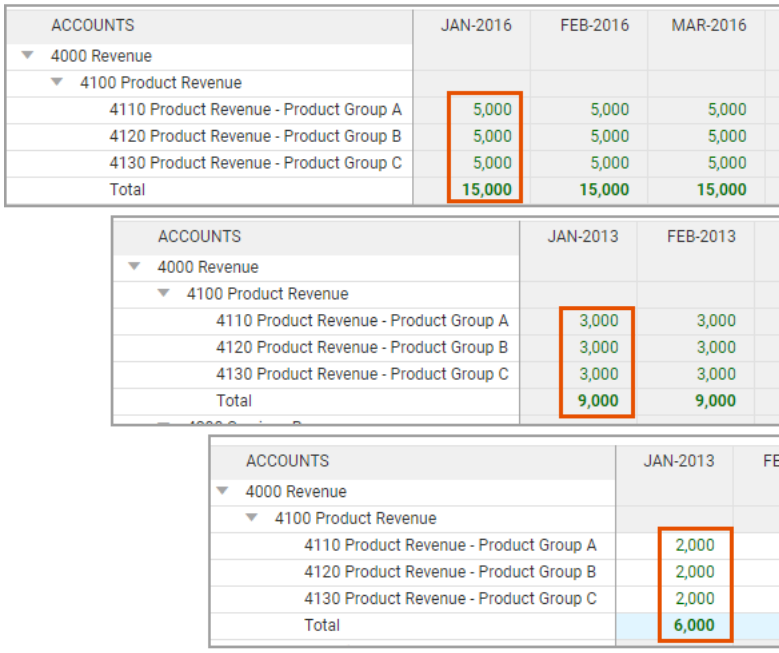
バージョンのドロップダウンは、バージョンが実績にロールアップされる様子を把握する上で役に立ちます。たとえば、以下のようなバージョン リストになります。

- 実績のオーバーレイ
  - 事前相殺消去
    - 総勘定元帳から
    - JE 調整
    - 配賦
  - 相殺消去

実績の 2 つのサブバージョン: 事前相殺消去および相殺消去。事前相殺消去には 3 つのサブバージョンがあります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

バージョンの値



| ACCOUNTS | JAN-2016 | FEB-2016 | MAR-2016 |
|---|---|---|---|
| 4000 Revenue | | | |
| 4100 Product Revenue | | | |
| 4110 Product Revenue - Product Group A | 5,000 | 5,000 | 5,000 |
| 4120 Product Revenue - Product Group B | 5,000 | 5,000 | 5,000 |
| 4130 Product Revenue - Product Group C | 5,000 | 5,000 | 5,000 |
| Total | 15,000 | 15,000 | 15,000 |

| ACCOUNTS | JAN-2013 | FEB-2013 |
|---|---|---|
| 4000 Revenue | | |
| 4100 Product Revenue | | |
| 4110 Product Revenue - Product Group A | 3,000 | 3,000 |
| 4120 Product Revenue - Product Group B | 3,000 | 3,000 |
| 4130 Product Revenue - Product Group C | 3,000 | 3,000 |
| Total | 9,000 | 9,000 |

| ACCOUNTS | JAN-2013 | FE |
|---|---|---|
| 4000 Revenue | | |
| 4100 Product Revenue | | |
| 4110 Product Revenue - Product Group A | 2,000 | |
| 4120 Product Revenue - Product Group B | 2,000 | |
| 4130 Product Revenue - Product Group C | 2,000 | |
| Total | 6,000 | |

| | |
|---|---|
| 1 | ルート実績にはすべてのサブバージョンの合計が表示されます。 |
| 2 | 相殺消去サブバージョンのセルは白 (編集可能) です。なぜなら、階層に示されているように、相殺消去にはサブバージョンがないからです。 |
| 3 | 事前相殺消去サブバージョンのセルはグレー (読み取り専用) です。なぜなら、事前相殺消去にはそのサブバージョンの合計値が表示されるからです。 |

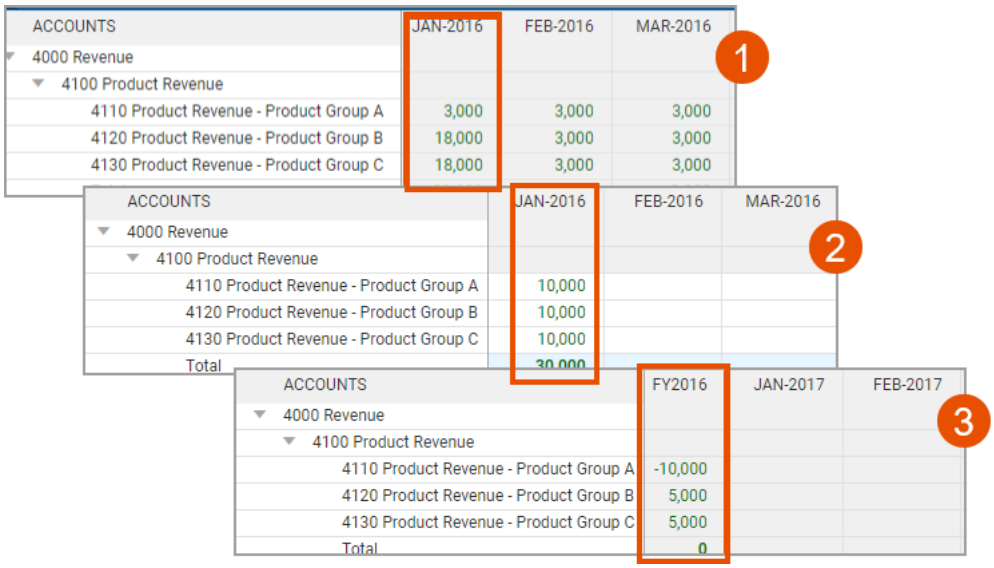
仕訳入力バージョン

仕訳入力バージョンは、インポートした実績の整合性を連結インスタンスが保持できるようにするためのサブバージョンのタイプです。データを変更するのではなく、データを調整する仕訳入力を作成します。そのような調整は均衡がとれている必要があります。つまり、仕訳入力を転記する前に、調整におけるすべての借方の合計は、すべての貸方の合計に等しい必要があります。IFRS から GAAP への調整、発生主義による仕訳、再分類用に複数の仕訳入力バージョンを作成します。

仕訳入力での合計値

仕訳入力バージョンでは標準サブバージョンと同じ方法でバージョン階層をロールアップしますが、一部の重要な違いがあります。

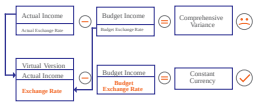
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




| | |
|---|---|
| 1 | 親として、事前相殺消去には合計値が表示されます。これには、仕訳入力サブバージョンで実行された調整が含まれます。 |
| 2 | 配賦は編集可能なバージョンです。各製品グループに 10,000 が入力されています。 |
| 3 | 調整 JE サブバージョンでは、"連結" > "仕訳入力" > "新規" で値に調整が加えられます。製品グループ A は、10,000 ドルの借方となりました。それに対応する貸方は、製品グループ B と C の間で分割されました。仕訳入力バージョンには調整が表示されます。 |

仮想バージョン

仮想バージョンは、2 つの異なるバージョンからデータを使用して読み取り専用の複合バージョンを作成する計画バージョンです。仮想バージョンを用い、1 つのバージョンのデータを使用して別のバージョンの為替レートを適用できます。これによってレート変動を排除できます。仮想バージョンを作成し、固定通貨レポートの作成を可能にします。



これで、2 つのデータ セット間の収益を比較すると、「本当の」差異だけが示されます。為替レートは固定されたままだからです。

概念: 通貨用の連結ツール

インスタンス内のデータが異なる通貨で複数のレベルに合計されている場合、または計画や報告においてすべての通貨を単純に検討する必要がある場合、通貨の換算に関する問題を管理する上で役に立つ次のツールの使用を検討してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 換算通貨

換算通貨は、すべての組織について特定の通貨での実績の完全なデータ セットをロードできる機能です。換算通貨を使用すると、通常どおり各最下位組織の現地通貨でデータをロードできます。また、すべての組織について、指定された通貨で同じデータ セットをロードできます。

参照 概念: 換算通貨（1223ページ）。

### レポート通貨

レポートでより正確な通貨換算を行うために、レポート通貨を使用します。通貨がレポート通貨である場合、レポートの直接換算が行われます。これにより、レポートでより正確な交換が可能になります。

参照 概念: 通貨と為替レート（1220ページ）。

### 固定通貨レポート

仮想バージョンを使用して固定通貨レポートを作成します。

為替レートの変動によっては、実際の業績メトリクスではなく、為替レートが好ましいか好ましくないかに基づいてデータの分散が良くも悪くも見える場合があります。決算期に、"固定通貨" によって、分散を分析する際の為替レートの変動がなくなります。為替レートに影響を与えることなくビジネスの業績を把握できます。

固定通貨レポート および 連結バージョンを参照してください。

### 為替換算調整勘定 (CTA)

CTA を使用し、通貨換算の発生後に貸借対照表の収支が合っていることを確認します。

資産や負債など、貸借対照表の科目は一般的に "期末" 為替レートを使用します。一方、貸借対照表の "純資産" セクションの一部の科目はその期間の平均為替レートを使用します。これによって貸借対照表は通貨換算発生後に収支が合わなくなります。CTA を有効にするとシステム科目が作成されます (デフォルトは "為替換算調整勘定"。名前は変更できます)。この科目は純資産科目の子科目です。これは、為替レートタイプ間の差異を計算する定義済みの数式を有しています。

参照 概念: 為替換算調整勘定システム科目（1225ページ）。

### 初期残高用通貨タグ付き分割 (CTS)

CTS を使用して、過去の為替レートの使用を回避するために任意およびすべての最下位組織に向けた複数の通貨の初期残高をシードします。

インスタンス内のデータが異なる通貨を用いて複数の組織にロールアップされている場合、通貨ごとの分割として各通貨の残高を入力します。その後のすべての期間について、各組織で値はその組織の通貨で表示されます。

初期残高の通貨タグ付き分割を参照してください。

### 加重平均換算科目 (WAT)

加重平均換算科目の設定を有効化し、フロー科目からデータを使用するストック科目の通貨を換算します。

この科目設定はデフォルトの数式と連動します。デフォルトの数式は "純利益" などのフロー科目からデータを引き出し、貸借対照表の "年初来純利益" などのストック科目に取り込みます。加重平均換算を行ってから、平均周期為替レートで差額における通貨を換算します。先へ進み、"残高のリセット" を使用してストック科目の累積を停止させ、周期間隔においてゼロにリセットします。たとえば、"年初来純利益" は新年開始時にゼロにリセットできます。"リセット時に残高移動" を使用し、リセット時に残高を別の科目 ("期首利益剰余金" など) へ自動移転します。

加重平均換算の概要 、 加重平均換算科目の作成 、および 加重平均換算のウォークスルーを参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

カスタム通貨

カスタム通貨を使用して、異なる為替レートでカスタム通貨を作成します。

カスタム通貨について、一意の名前、説明、英数字コードを作成します。独自の為替レートを入力し、それを使用して計画、予測、予算、連結を行います。

通貨の追加を参照してください。

相殺消去
ステップ: 内部取引消去の設定

内部取引消去は、共通の親に財務上の影響を与えないように、2 つ以上の科目残高の財務的影響を取り消すプロセスです。相殺消去ルールのトリガには、分割または特性を使用できます。お客様の ERP システムに最適な方法を選択してください。ご不明点がございましたら、専門サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。

内部取引消去を使用する理由
会社全体の結果を正確に報告するために、相殺消去を使用します。たとえば、ある会社が A 事業部と B 事業部を所有しているとします。A 事業部が B 事業部に 10,000 個の商品を販売した場合、この販売は A 事業部の利益と B 事業部のコストとして表示されます。親会社の場合、一方の事業部の利益がもう一方の事業部のコストを相殺する必要があります。以下の 2 つの記述は、相殺消去することで、親会社にとってより正確な記録が得られることを示しています。

1

| | *Division A* | *Division B* | *Total* |
|---|---|---|---|
| Outside sales | 50,000 | 25,000 | 75,000 |
| Internal sales | 10,000 | | 10,000 |
| Total Sales | 60,000 | 25,000 | 85,000 |

2

| | *Division A* | *Division B* | *Eliminations* |
|---|---|---|---|
| Outside sales | 50,000 | 25,000 | |
| Internal sales | 10,000 | | (10,000) |
| Total Sales | 60,000 | 25,000 | (10,000) |

| | |
|---|---|
| 1 | この計算書では、親会社は部門間の 1 万件の取引を総売上高として報告しています。 |
| 2 | この記述では、1 万の取引は相殺消去されています。会社全体では、この取引を利益のある販売としてカウントしていません。 |

用語
相殺消去法は、連結のためにモデルに用意されている 2 つの方法 (特性方式と分割方式) を指します。

取引先とは、同じ会社内で別のエンティティと取引を行うエンティティのことです。お客様のモデルでは、取引先には組織が指定されています。

相殺消去組織とは、両方の取引先が合計される先祖の組織のことです。相殺消去組織とは、取引先のトランザクションによる財務上の影響を相殺消去する組織です。

内部取引科目とは、取引先の内部取引データを保持する科目のことです。科目の設定は、それが内部取引科目であることを示します。

内部取引シートは、分割法で作成する必要のある標準シートです。シートには内部取引のデータが格納されています。

特性方法
特性を選択すると、モデルと一緒に特別な特性を得ることができます。特性名は、管理者が "一般設定" で選択したラベルとマッチします。特性値は、取引先として指定された組織に対応しています。この方法では、取引先組織ごとに科目を作成しなければなりません。科目に取引先の特性値をタグ付けする必要があ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ります。次に、これらの科目のみを使用して、内部取引を記録します。たとえば、この方法では、取引先の組織のペアごとに買掛金と売掛金を作成することができます。次に、それらの科目のみを使って、取引先間の内部取引を記録します。

分割方法
分割では、システムで定義された属性をモデルで得ることができます。属性の名前は、管理者が "一般設定" で選択したラベルとマッチします。属性値は、取引先として指定された組織に対応しています。この方法では、科目を内部取引科目に指定し、取引先システム属性を設定した標準シートを作成します。次に、シート上のすべての内部取引を、適切な取引先の属性値がタグ付けされた分割として入力します。

前提条件

- 連結機能を利用するには、専門サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。
- 相殺消去は、連結ソリューションの 1 つです。概念: 連結を参照してください。
- セキュリティ: 各記事に記載されている権限

ステップ

1. 相殺消去法を選択します。
2. (任意) 取引先ラベルを変更します。これは、取引先の属性や特性、組織や科目の設定に表示されるラベルです。
3. 取引先と相殺消去組織の作成 ( 850ページ ) .これにより、対応する取引先の特性や属性の値が作成されます。
4. 内部取引科目の設定 ( 874ページ ) .
5. (分割法のみ) 内部取引シートを作成します。
6. 相殺消去ルールを作成します。
7. 取引先のトランザクションをシートに入力します。次を参照してください。
    - 例: 分割を使用した内部取引消去の入力
    - 例: 特性を使用した内部取引消去の入力
8. 連結からの内部取引消去のレビュー ( 1249ページ ) .

ステップ: 相殺消去法の選択

相殺消去法は、取引先を消去して連結する際に、モデルに用意されている 2 つの方法のうちの 1 つです。特性方式と分割方式から選択できます。

前提条件

- 連結機能を利用するには、専門サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。
- 相殺消去法の選択は 、ステップ: 内部取引消去の設定の場合は 1 ステップです。
- セキュリティ: "一般設定" 権限
- 選択した方法は、ERP システムに一致している必要があります。方法の選択については、専門サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから "管理" >"一般設定"に移動します。

相殺消去法の選択

"セットアップ詳細" セクションで、"取引先科目の識別" 設定を見つけ、以下のいずれかを選択します。

- 科目特性を使用 (デフォルト)
- 分割を使用

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

相殺消去法の変更

追加のセキュリティ: "連結" および "組織構造" 権限

相殺消去法を変更すると、取引を消去するためにすべてを再構築しなければなりません。データはすべてそのまま残りますが、ロジック、ルール、タグは削除されます。

分割から特性への変更

1. すべての相殺消去ルールを削除します。これにより、すべてのロジックとデータの動きが削除されます。これを行うには、ロックされたすべてのバージョンのロックを一時的に解除する必要がある場合があります。相殺消去ルールの作成を参照してください。
2. すべてのシートから取引先組織の属性を削除します。これにより、分割からすべての属性タグが削除されます。標準シートの編集を参照してください。
3. 相殺消去法を変更するには、"管理" > "一般設定" へ移動します。
4. 取引先と相殺消去組織の作成（850ページ）.取引先や相殺消去組織の設定を適切な組織に再設定します。取引先組織に適切な取引先特性値をタグ付けします。
5. 内部取引科目の設定（874ページ）.取引先ごとに科目を作成します。科目に適切な取引先特性値をタグ付けします。
6. 相殺消去ルールを作成します。

特性から分割への変更

1. すべての相殺消去ルールを削除します。相殺消去ルールの作成を参照してください。
2. 相殺消去法を変更します。
3. 取引先と相殺消去組織の作成（850ページ）.取引先や相殺消去組織の設定を適切な組織に再設定します。
4. 内部取引科目の設定（874ページ）.取引先ごとに科目を作成します。科目に"内部取引" ラジオ ボタンをタグ付けします。
5. 内部取引シートを作成します。
6. 相殺消去ルールを作成します。

取引先ラベルの変更

取引先ラベルとは、内部取引の相殺消去を実行するための科目と組織の設定です。消去方法に応じて、科目特性またはカスタム属性のいずれかになる場合もあります。この設定は、インスタンスが連結を使用している場合に利用できます。

デフォルトのラベルは "取引先" ですが、変更できます。

前提条件

- 連結機能を利用するには、専門サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。
- 取引先ラベルの変更は、内部取引相殺消去を設定するときの任意のステップです。 ステップ: 内部取引消去の設定を 参照してください。
- セキュリティ: "一般設定" 権限

ステップ

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "一般設定" をクリックします。
3. "セットアップ詳細" セクションで、"取引先ラベル" フィールドに名前を入力します。

結果
このラベルはそれぞれの相殺消去方法に応じて異なる場所に表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 組織設定: 組織の設定には、分割方法および特性方法の両方に対して、取引先ラベルが表示されます。分割の場合、この設定により、組織名と一致する属性値が作成されます。特性の場合、この設定により、組織名と一致する科目特性が作成されます。
- 特性方法の場合: "内部取引" ラジオ ボタンを選択すると、取引先ラベルが科目設定として表示されます。ドロップダウンで、取引先組織と一致する値の特性を選択します。

  レポート作成に使用可能な科目特性としても表示されます。
- 分割方法の場合: 属性が取引先ラベルを使用します。レポートおよびシート作成時に、"要素" > "属性" に移動します。

相殺消去ルールの作成

相殺消去ルールは、内部取引相殺消去を行う際に、貸方、借方、差方の科目を接続します。科目をルールに接続すると、システムは取引先組織上の科目内のデータを検索します。そして、相殺消去組織としてタグ付けされた最も近い共通の先祖組織を探します。このシステムでは、相殺消去 (限定) 組織で貸方と借方の両方のデータを消去し、貸方と借方の間の差異金額を差引勘定に移します。

バージョンごとに異なるルールを作成できます。ルールの開始日と終了日も設定できます。

前提条件

- 連結機能を利用するには、専門サービスまたは導入パートナーにお問い合わせください。
- 内部取引科目の設定は 、ステップ: 内部取引相殺消去の設定の場合は 1 ステップです。
- 相殺消去法を選択します。
- 取引先と相殺消去組織の作成 ( 850ページ ) .
- 内部取引科目の設定 ( 874ページ ) .
- セキュリティ: "モデル" および "連結" 権限

ナビゲーション

ナビゲーション メニューで "モデリング" をクリックします。"ルール" メニューから "相殺消去ルール" を選択します。

相殺消去ルールの作成または編集

相殺消去ルールを作成するには、"定義" と "適用範囲" の 2 つのタブのフォームに記入します。"定義" タブで、トランザクションを保持する科目を選択します。ここに表示されるのは、"内部取引" 科目の設定で "はい" が選択されている科目のみです。"適用範囲" タブで、ルールに適用するバージョンを選択します。

内部取引入力のタイプに従ってルールを策定します。たとえば、ベスト プラクティスとして、売掛金と買掛金に関連する借方と貸方科目のための 1 つのルールと、収益と COGS に関連するすべての借方と貸方科目のための別のルールを作成します。可能性のあるペアごとにルールを作る必要はありません。

ルールを作成するには、次のようにします。

1. 画面最下部にある "新しいルール" ボタンをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

2. "定義" タブで、次の操作を行います。
    a. 明確でわかりやすい名前を使用してください。名前に絵文字は使用しないでください。ルール名は、ルール リストと "セルを探索" に表示されます。

       例: 販売オフセットはわかりにくい名前です。これは、"相殺消去ルールの管理" ページのコンテキストでは明確ですが、"セルを探索" のコンテキストではあまり役に立ちません。内部取引販売オフセットという名前にした方がよりわかりやすくなります。
    b. 内部取引借方科目リストから、このルールで消去する借方科目の隣にあるチェックマークを選択します。

       キューブ入力科目は選択しないでください。
    c. 内部取引貸方科目リストから、選択した借方に対して消去する貸方科目の隣にあるチェックマークを選択します。

       キューブ入力科目は選択しないでください。
    d. 内部取引調整科目リストから、借方と貸方間の差異を支持するシステム科目を選択します。
3. "適用範囲" タブをクリックします。
    a. "適用先バージョン" リストで、ルールのすべてのバージョンを選択します。実績バージョンを選択した場合は、表示されるドロップダウンからターゲットとなる実績サブバージョンを選択します。選択するサブバージョンは、相殺消去計算が表示される場所です。子バージョンがないバージョンだけが表示されます。
    b. (任意) "ルールの期間" セクションで、ルール適用の開始日と終了日を選択します。
    c. (任意) 内部取引データにカスタム属性値をタグ付けした場合、オプションの照合属性で活用できます。カスタム属性を選択すると、照合属性値がタグ付けされたデータを相殺消去できます。たとえば、製品属性 には、ノートパソコン、デスクトップ、サーバーの属性値があります。オプションの照合属性で製品を選択した場合、このルールは一致する値がタグ付けされた貸方と借方のデータを相殺消去します。次に相殺消去レポートを実行し、ノートパソコン、デスクトップ、およびサーバーの相殺消去入力を確認できます。
4. 保存します。

ルールを編集するには、鉛筆アイコンをクリックします。

重要 : ルール用に選択した内部取引科目に共有数式またはデフォルトの数式がある場合は、その数式が他のルールと科目にどのように影響するかを考慮してください。数式を有する科目を持つルールは、それらの数式に応じた科目を持つルールに優先しなければなりません。

相殺消去ルールの変更順序

リストの相殺消去ルールの順番は、処理される順番です。順番を入れ替えると、データの消去方法が変わる場合があります。

連結からの内部取引消去のレビュー

始める前に

- 連結を有効にする場合は、当社にご連絡ください。
- 内部取引消去を設定します。参照 ステップ: 内部取引消去の設定 ( 1245ページ ) 。
- セキュリティ: "連結" 権限

このタスクについて

"内部取引消去" テーブルで、取引先のトランザクションの借方および貸方をレビューできます。入力された各トランザクションついて、テーブルには 貸方 1 つ、借方 1 つの 2 つのペアで行が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. 取引先のトランザクションをシートに入力します。
   次を参照してください。
   - 例: 特性を使用した内部取引消去の入力
   - 例: 分割を使用した内部取引消去の入力
2. メイン メニューから "連結" の横にある矢印を選択します。
3. フライアウト メニューで "内部取引消去" を選択します。
4. "検索条件" を使用して、相殺消去を検索します。

例: 特性の相殺消去の基本

以下のとおりのシンプルな組織構造を使用します。

- Hydra International 社
  - Trask Robotics 社
  - Advanced Idea Mechanics 社

Trask Robotics 社と Advanced Idea Mechanics 社では、内部取引アクティビティが行われています。Trask Robotics 社は、Advanced Idea Mechanics (AIM) 社から 100,000 ドルの商品を購入しました。Trask Robotics 社が財務レポートを生成すると、100,000 ドルの内部取引負債が表示されます。AIM 社が財務レポートを生成すると、100,000 ドルの内部取引売掛金が表示されます。

Hydra International 社は、財務諸表を作成する必要があります。Hydra International 社は、社自体で、売掛金が 200,000 ドル、買掛金が 50,000 ドルあります。

- Hydra International 社の内部取引買掛金は、50,000 ドルで、内部取引売掛金は、200,000 ドルです。
  - Trask Robotics 社の内部取引買掛金: 100,000 ドル
  - Advanced Idea Mechanics 社の内部取引売掛金: 100,000 ドル

Hydra International 社にロールアップされると、子会社間の内部取引アクティビティは、単に同じ組織内での資金と商品の移転であり、Hydra International 社の社外での販売や債務は発生していません。子会社の内部取引取引額が相殺消去されないと、Hydra International 社は、売掛金 300,000 ドルと買掛金 150,000 ドルを報告することになり、それぞれ 100,000 の過大報告となってしまいます。Hydra International 社がレポートを作成する前に、Trask Robotics 社と Advanced Idea Mechanics 社間のアクティビティを相殺消去する必要があります。

これを処理するには、Hydra International 社の管理者が、 連結 インスタンスは、内部取引科目を内部取引としてマークし、Advanced Idea Mechanics 社の内部取引売掛金科目と Trask Robotics 社の内部取引買掛金科目をペアにする相殺消去ルールを作成します。

1. "モデリング" > "相殺消去ルール" を選択します。
2. "新しいルール" をクリックします。
3. "定義" タブのフィールドに以下のとおり入力します。
   - 名前: 内部取引買掛金/売掛金
   - 内部取引売掛金 - 対 Trask 社
   - 内部取引貸方科目: Trask 社内部取引買掛金 - AIM 社への債務
   - 内部取引調整科目: 内部取引売掛金残高
4. "適用範囲" タブのフィールドに以下のとおり入力します。
   - 適用先バージョン: 実績、2014 年度実行予算
   - 実績バージョン: 移動元実績: 実績。移動先実績: 相殺消去
   - ルールの期間: バージョンの開始、バージョンの終了
   - オプションの照合属性: なし

100,000 ドルの売掛金は、100,000 ドルの買掛金によって相殺されます。"内部取引消去" 画面には、選択したバージョンの期間中に相殺消去された買掛金科目および売掛金科目の残高が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: 複雑な特性の相殺消去

この例では、3 つのレベルの所有権があり、すべての子会社が、相互に取引を行っています。

会社全体の組織構造は、以下のとおりです。

- Crawford's Sports Unlimited 社
    - Graham's Fishing Equipment 社
        - Winston Bait 社
        - Poles for Everyone 社
    - Lecter's Fine Sportswear 社
        - Raven & Stagg Fabrics 社

標準的な会計基準では、Winston Bait 社と Poles for Everyone 社間のアクティビティは、通常、Graham's Fishing Equipment 社では相殺消去されます。開始 連結、組織を同時に相殺消去組織と内部取引先の両方にすることはできません。

同様に、Graham's Fishing Equipment 社と Lecter's Fine Sportswear 社間の取引のアクティビティは、いずれの会社も子会社の相殺消去組織としてフラグが付けられていない場合にのみ可能です。

Graham's Fishing Equipment 社と Lecter's Fine Sportswear 社は、Crawford's Sports Unlimited 社の組織で相殺消去ができるように思われますが、Graham's Fishing Equipment 社が独自の連結決済の報告義務がある場合は、レポートを作成する方法がありません。

要するに、子会社自体が、子会社のさらなる組織の子会社の親として機能していない場合にのみ、その子会社の相殺消去を処理できます。

ソリューション
上記の状況を処理する方法は、グラフのさらに下位の子会社に対して、特別な相殺消去組織を作成することです。

- Crawford's Sports Unlimited 社 - Crawford 社の相殺消去
    - バーチャル子会社 - Graham 社の相殺消去
        - Graham's Fishing Equipment 社
            - Winston Bait 社
            - Poles for Everyone 社
    - バーチャル子会社 - Lecter 社の相殺消去
        - Lecter's Fine Sportswear 社
            - Raven & Stagg Fabrics 社

以下は、さまざまな取引が相互消去される場所のサマリです。

| 取引先 1 | 取引先 2 | 相殺消去組織 |
|---|---|---|
| Winston Bait 社 | Poles for Everyone 社<br>または<br>Graham's Fishing Equipment 社 | Graham 社の相殺消去 |
| Poles for Everyone 社 | Graham's Fishing Equipment 社 | Graham 社の相殺消去 |
| Raven & Stagg Fabrics 社 | Lecter's Fine Sportswear 社 | Lecter 社の相殺消去 |
| Raven & Stagg Fabrics 社 | Poles for Everyone 社<br>または<br>Winston Bait 社<br>または<br>Graham's Fishing Equipment 社 | Crawford's Sports Unlimited 社 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

いずれかの子会社が、Crawford's Sports Unlimited 社と取引を行っている場合は、Crawford's Sports Unlimited 社より上位の組織が必要となります。これにより、Crawford's Sports Unlimited 社と社が取引する子孫組織間の相殺消去が維持されます。

トラブルシューティング: 科目設定に相殺消去属性が表示されない

科目を取引パートナー特性にタグ付けしたいと考えていますが、科目設定にオプションがありません。

| 原因 | ソリューション |
|---|---|
| 設定の間違ったセクションが表示されています。 | 科目階層内の科目をハイライトしたら、"連結" セクションを展開します。"内部取引" 設定の下にあるプロンプトには、自分または管理者が作成したラベルの付いた取引先の属性が表示されます。 |
| 科目が内部取引科目ではない。 | "連結" セクションで、"内部取引"に ″はい″ を 選択します。 |
| モデルが特性方法を使用していません。 | "内部取引" 設定の下に特性プロンプトが表示されない場合、分割方法が使用されています。参照 ステップ: 相殺消去法の選択（1246ページ）。 |

仕訳入力
仕訳入力サブバージョンの作成

仕訳入力は、 仕訳入力によってのみ更新できる特殊タイプのサブバージョンに配置されています。これにより、使い慣れた会計スタイルの仕訳入力形式で提示しながら、バランスの取れた入力のみを受け入れるように手動調整を制限できます。

シートで仕訳入力バージョンを表示すると、セルは無効になるので、直接編集できません。また、仕訳入力バージョンは、他のバージョンと同じセキュリティ メカニズムを使用するため、残高仕訳入力を使用して実績へのすべての更新を行うルールを強制できます。

仕訳入力サブバージョンの作成

仕訳入力サブバージョンを作成するには、"モデリング" > "バージョン" へ進みます。

1. 仕訳入力の親を選択するには、ルート実績または任意のサブバージョンを選択します。
2. ツールバーで "新しい仕訳入力バージョンを作成" をクリックします。
3. 仕訳入力の識別方法を選択します。
    - 自動: 新しい仕訳入力ごとに識別番号シーケンスが自動的に生成されます。"プレフィックス" と" 開始番号" を入力します。識別番号は開始番号に基づいて構成されます。
    - なし: 新しい仕訳入力には識別番号がありません。
    - 手動: 仕訳入力を作成するタイミングで識別番号を入力します。番号の "プレフィックス" を選択します。
4. 各ユーザー タイプの "アクセス制御" を選択します。バージョンを非表示にし、計画上の実績のオーバーレイに対してそれを選択すると、計画バージョンを閲覧できるすべての人がオーバーレイデータを閲覧できます。
5. "変更履歴" をオンにして有効にするか、オフのままにします。
6. "保存" またはキャンセルします。
7. 実績リスト内にのみ新規バージョンをドラッグ アンド ドロップします。実績のサブバージョン内にもネストすることができます。

仕訳入力の番号付け
自動的に番号を付けるように、仕訳入力を設定できます。番号付けは、通常、仕訳入力のサブバージョンの作成中に設定されますが、サブバージョンが作成された後に設定することもできます。

注： 番号付けを使用するように既存の仕訳入力サブバージョンを変更すると、変更後に作成された新しい入力のみが番号付けされます。既存の仕訳入力には、番号は付いていません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

仕訳入力サブバージョンの番号付けを設定するには、次の操作を行います。

1. "モデリング" > "バージョン" に移動します。
2. バージョン リスト中の仕訳入力サブバージョンをクリックします。
3. "バージョンの詳細" ペインで、次の操作を行います。
    - "自動" を "仕訳入力の番号付け" ドロップダウンでクリックし、自動番号付け用のプレフィックスと開始番号を入力します。
    - あるいは、"仕訳入力の番号付け" ドロップダウンで "手動" をクリックし、プレフィックスを入力します。
4. "保存" をクリックします。

注 : 仕訳入力の番号付け方法を選択して実装した後で、その方法を変更することはできません。たとえば、特定のバージョンの仕訳入力に自動的に番号を付けるように設定した場合、後で仕訳入力に手動で番号付けるようにバージョンを変更することはできません。これは、バージョンに割り当てられた番号書式の整合性を保持するためです。

仕訳入力の作成

始める前に

- 仕訳入力サブバージョンの作成 ( 1252ページ ) .
- セキュリティ: "連結へのアクセス" 権限

このタスクについて

仕訳入力によって総勘定元帳科目の値を調整できます。これにより、使い慣れた会計スタイルの仕訳入力形式でバランスの取れた調整が提供されます。

シートで仕訳入力バージョンを表示すると、セルは無効になるので、直接編集できません。

以下の方法を使用して仕訳入力を作成できます。

- 仕訳入力を一度に 1 つずつ作成する。
- インポート テンプレートを使用して、一度に複数の仕訳をまとめて一括インポートする。

連結で仕訳入力を定義する際は、以下のガイドラインを使用してください。

- 貸方と借方の金額でバランスが取れている必要がある
- 仕訳入力バージョンが必要である
- 仕訳入力に会社間勘定は使用できません。
- 仕訳入力は、選択された組織の有効通貨で転記される
- 必要に応じて、定期的な期間限定オプションを使用できる
- 仕訳入力の変更は、以下の場合に可能になる
    - 仕訳が転記されている期間がロックされていない (クローズされていない)
    - 仕訳入力バージョンがロックされていない
- 開始期間がバージョンの最終期間でない場合は、次の期間に仕訳入力を繰り越すことができる

自動番号付けが有効になっている場合、このフィールドには、そのバージョンで作成された次の仕訳入力の入力番号が表示されます。ただし、これは編集できません。

手順

1. メイン メニューから "連結" の横にある矢印をクリックします。
2. "仕訳入力" を選択します。
3. "新規" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. 次を参考にして、"仕訳ヘッダー" のフィールドに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 仕訳入力バージョン | 仕訳入力のバージョンを選択します。 |
| 日付 | 仕訳入力の日付を入力します。 |
| Level | 組織を選択します。組織によって、仕訳入力とその行の通貨も決まります。 |
| 発生 | 仕訳入力を自動的にトリガする "繰り返し期間" の期間を選択します。"自動逆仕訳" も選択すると、期間は逆仕訳入力によって決定されます。<br>このドロップダウンは、"繰り返し期間" および "自動逆仕訳" 機能に影響します。 |
| 自動逆仕訳 | このオプションを選択すると、翌期に仕訳入力が自動で逆仕訳されます。ロックされた期間の逆仕訳は計上されません。 |
| 仕訳番号: | 手動で番号を付ける場合に使用できます。<br>仕訳入力番号を設定します。<br>自動逆仕訳には「-R」が自動的に追加されます。保存した手動仕訳入力番号は変更できません。 |
| プレフィックス | 手動で番号を付ける場合、仕訳番号のプレフィックスが表示されます。プレフィックスは編集できません。 |
| 繰り返し期間 | 自動番号付き仕訳入力でのみ使用できます。仕訳入力を毎期間自動的に繰り返す場合は、繰り返しの終了期間を選択します。 |
| 説明 | 仕訳入力の説明を入力します。これは "仕訳入力リスト" ページに表示されます。 |

5. "仕訳行" 領域の "科目" 列で行をクリックし、すべての科目のドロップダウン リストを表示します。
6. このラインが影響する科目を見つけてクリックします。このプロセスを高速化するには、検索ボックスを使用します。
7. "借方" または "貸方" 列のいずれかをクリックし、貸方または借方の金額を入力します。
8. 仕訳入力が完了するまで、仕訳行の作成を続行します。
9. 行を削除するには、"削除" をクリックします。

仕訳入力をインポート

多数の仕訳入力をアップロードするには、仕訳入力インポートを使用します。

仕訳入力は、ソースの ERP システムや会計システムからロードまたは入力されたデータを調整するために使用されます。これらは、バージョン、期間、組織に応じた固有の入力です。指定日に繰り返すこともできます。また、後続の期間に自動的に逆仕訳するように設定することもできます。

ナビゲーション: 連結> "仕訳入力" に移動し 、リスト ページから "インポート" を クリックします。

インポートを使用して新しい仕訳入力を作成するには以下を実行します。

1. "仕訳入力をインポート" ダイアログから "テンプレートのダウンロード" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. 仕訳入力テンプレートを完成させます。後述の「テンプレートのインポート手順」を参照してください。

   テンプレートにある各入力の最初の行はヘッダー行です。ヘッダー行のすべての列は完全でなければなりません。手動で番号付けした仕訳では、ヘッダー行のすべての列が完全でなければなりません。自動番号付けされている、または番号付けが必要でない場合は、この列を空白のままにできます。自動逆仕訳は、仕訳入力インポート テンプレートではオプションの列です。仕訳入力インポートの自動逆仕訳を設定するには、このオプションの列に、"Y" を入力します。
3. インポート テンプレートを保存します。
4. "ファイルの選択" をクリックし、保存したインポート テンプレートを選択します。
5. "アップロード" をクリックします。

テンプレートのインポート手順
テンプレートのインポート手順は、インポート テンプレートの最初のタブに表示されます。これにはインポートの例が含まれています。

| テンプレート列 | 使用可能な値 | 説明 |
|---|---|---|
| 仕訳入力バージョン | 入力が転記される仕訳入力バージョンの名前 | 必須です。「標準仕訳」や「IFRS から GAAP への調整」など、仕訳入力の実績サブバージョンの名前を示します。 |
| 仕訳入力番号 | この入力に割り当てられる手動仕訳番号 | 手動で番号を付けることを許可する仕訳入力に必要です。"自動" または "なし" の仕訳入力のサブバージョンでは、このフィールドに値を入力する必要はありません。[4、5] |
| 組織 | 仕訳が割り当てられる組織の名前 | 必須です。仕訳入力がどの組織に転記されるかをインポート プロセスが認識している必要があります。 |
| 説明 | 仕訳入力の説明 | 必須です。すべての仕訳入力に説明が必要であり、最大文字数は 256 文字です。特定の仕訳の各行の説明は、同じである必要があります。[2] |
| 日付 | 仕訳入力の日付。 | 必須です。日付は、mm/dd/yy の形式でなければなりません。 |
| 科目 | 入力により調整される科目のコード | 必須です。この行で調整される科目のコードです。 |
| 借方 | 指定した科目で借方となる金額 | 必須です。指定した科目で調整される借方の金額を示します。[1] |
| 貸方 | 指定した科目で貸方となる金額 | 必須です。指定した科目で調整される貸方の金額を示します。[1] |
| 逆仕訳 | 仕訳を次の期間で逆仕訳する場合は、行に "Y" を入力する。 | 任意です。"Y" を入力すると、仕訳は後続の期間の初日に逆仕訳されます。入力しない場合、逆仕訳は行われません。[3] |
| 発生 | 自動逆仕訳の時間層の頻度を選択します。 | この列はヘッダー行にのみ任意で指定します。最下位時間層以 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| テンプレート列 | 使用可能な値 | 説明 |
| --- | --- | --- |
| | | 外の時間層コードが入力された場合、自動反転は指定された層で発生します。 |

メモ:

[1] 各行に、借方または貸方の金額を入力する必要があります。借方と貸方の両方で行を空にしたり、借方と貸方の両方に金額を入力することはできません。

[2] 仕訳の最初の行のみに説明が含まれている場合は、その説明がすべての行に適用されます。

[3] 仕訳の最初の行のみに "Y" が含まれている場合は、その仕訳の各用で逆仕訳が行われます。

[4] このフィールドが "自動" または "なし" の仕訳入力サブバージョンに設定されている場合、仕訳入力番号は無視されます。

[5] バージョンの仕訳番号付けが "自動" または "なし" の場合、インポート テンプレートの仕訳番号は無視されます。

仕訳入力インポートのルール
このリストは、仕訳入力をインポートする際の最も一般的なエラーを回避するのに役立ちます。インポート テンプレートを準備する際には、これらのルールを念頭に置いてください。

| ルール |
| --- |
| 仕訳入力バージョンを最初に作成する必要がある |
| 仕訳入力番号のプレフィックスは、仕訳入力バージョンの定義と一致する必要がある (手動仕分入力のみ) |
| 仕訳入力番号は、手動仕訳入力バージョンへのインポートにのみ必要 |
| 必要な貸方および借方の数値 |
| 貸借一致仕訳入力が必要 |
| 有効な総勘定元帳科目が必要 |
| 総勘定元帳科目への組織アクセスが必要 |
| 日付はバージョンの開始と終了の範囲内にする |

概念: 仕訳入力と仕訳入力バージョン

仕訳入力によって、総勘定元帳科目のデータを調整します。受動組織を使用して、総勘定元帳科目間でデータを移動します。

仕訳入力は、ヘッダー行と明細行で構成されます。ヘッダーには、入力に関するコンテキスト情報が含まれます。行には詳細 (総勘定元帳科目と金額) が含まれます。行には貸方および借方があり、各行には貸方額または借方額のいずれかが含まれます。貸方と借方の金額の貸借が一致している必要があります。

仕訳入力リスト

仕訳入力リストは、仕訳入力を管理するためのメイン ページです。以下が可能です。

- 仕訳入力を手動で作成する。
- 仕訳入力のコピーと削除
- 仕訳入力をインポートまたはエクスポートする。
- 仕訳入力のリストを Excel スプレッドシートにエクスポートします。

仕訳入力の検索
上部にあるフィルタを使用すると、多数の仕訳入力から、希望する入力を見つけやすくなります。下記によりフィルタリングできます。

- 仕訳入力バージョン
- 期間
- 説明に次が含まれる

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 組織
- 通貨
- 仕訳入力番号に次が含まれる
- 科目
- 次の金額より大きい
- 次の金額より小さい

仕訳入力の逆仕訳
場合によっては、その期間のソース システムの台帳が確定された後で、仕訳入力が会計期間の終了時に転記されることがあり、これは次の期間にソース システムにも転記されます。この場合、この転記のタイミングにより、重複エントリが転記されることがあります。

この複製の影響を無効にするには、次のオプションがあります。

- 連結で逆仕訳を行い、重複を相殺します。
- 自動的に逆仕訳するよう、元の仕訳入力を設定します。仕訳入力に自動逆仕訳設定を適用すると、それ以降の期間で元の仕訳入力が自動的に相殺されます。

仕訳入力情報
仕訳入力バージョンを表示しているときに、セル エクスプローラーに仕訳入力情報が表示され、仕訳入力にドリルダウンできます。

仕訳入力は完全に監査対応です。誰が入力を作成、編集、または削除したかを確認できます。変更履歴は、仕訳入力ヘッダーと行の両方の変更を取得します。

仕訳入力を閲覧あるいは編集できるか否かを判断するには、ユーザーの権限を確認してください。

仕訳入力で使用されている科目は削除できません。

逆仕訳された元の仕訳入力 (または親) を管理する場合、仕訳入力ページには逆仕訳へのリンクが含まれます。逆仕訳入力には、親仕訳へのリンクが含まれます。

概念: 貸借対照表の仕訳入力

最も効率的な設定を行うため、貸借対照表勘定に対して 2 つの子科目を作成することをお勧めします。仕訳入力に 1 つの科目を使用する。他の科目で数式を使用して残高を繰り越します。例: "売掛金" の場合、以下の 2 つの子科目を作成します。

- "AR-JE"。仕訳入力を 1 回入力します。
- AR-残高と次の数式: ACCT.Accounts_Receivable[time=this-1]

その結果、"売掛金" の合計値は、毎月の仕訳入力を反映し、残高を繰り越します。

**FAQ:** 内部取引科目の仕訳入力に追加するにはどうすればよいですか？

できません。内部取引科目は相殺消去ルールであり、そのため仕訳入力には対応していません。代わりに、以下を試してください。

1. この科目の " 内部取引 " 設定で ″いいえ″ を選択します。
2. この科目にロールアップされる 2 つの子科目を追加します。
3. 子科目の 1 つについて、"内部取引" 設定で ″はい″ を選択します。 相殺消去ルールでこの科目を使用します。
4. もう一方の子科目の " 内部取引 " 設定で ″いいえ″ を選択します。 仕訳入力にこの科目を使用します。

これで、新しい子科目の親科目は、2 つの子科目の合計を保持します。

連結方式
連結方式の選択

対象者: 連結モデルを管理する管理者

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

連結方式は、子会社の科目を親会社の科目にロールアップする方法を決定します。

前提条件

- 使用するモデルに連結機能が必要です。詳細についてはお問い合わせください。
- セキュリティ: "モデル" および "連結"
- 組織を整理して、子会社を親会社にロールアップします。

| | |
|---|---|
| トリガの考慮事項 | • 完全な連結は、指定された所有権の割合 (%)でトリガされます。<br>• 完全な連結は、特定の方法に従って行われます。アクティブ化されると、指定した所有権の範囲に該当するすべての組織に適用されます。<br>• 完全な連結の所有権の範囲に該当しない組織に適用する方法もアクティブ化する必要があります。完全な連結が 50% でトリガされる場合、範囲が 50% 未満の組織に適用する方法を選択する必要があります。 |
| 完全な連結の前提条件 | 純利益は、以下の子科目を持つ合計科目である必要があります。<br>• 純利益 (調整前)<br>• 少数株主持分調整用のシステム科目 |

ナビゲーション

ナビゲーション メニューで "モデリング" をクリックします。"その他" メニューで "連結比率" をクリックし、シートを開きます。

方式の選択および定義
ビデオを見る (0 分 55 秒):

1. シート ツールバーで、"設定" をクリックします。
2. アクティブ化する方法の隣のラジオ ボタンを選択します。
3. "開始 ( % )" フィールドで、方法をトリガする所有権の最低割合を入力します。たとえば、「70%」と入力すると、70% 以上を所有する組織で方法がトリガされます。
4. "終了 ( % )" フィールドの範囲は、アクティブ化されたすべての方法で、「100%」と事前入力されます。これは方法の所有権の終了範囲を定義します。この例では、所有権の割合が「69.99%」以下のすべての組織には、非連結の方法が適用されることになります。
5. "完全" を選択する場合は、以下の手順を実行します。
    a. "少数株主持分科目" ドロップダウンで、算出調整を保持するシステム科目を選択します。
    b. "総勘定元帳科目" で、調整の計算に使用する純利益科目を選択します。これは親純利益科目である必要があります。
6. "適用" をクリックします。
7. シートを保存します。

relatedlinks
概念
概念: 通貨用の連結ツール ( 1243ページ )
概念: 連結 ( 1240ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

所有権の割合の入力

対象者: 連結モデルを管理する管理者

"連結比率" シートでは、組織間の所有権の割合をパーセントで定義します。このシートには、モデルのすべての組織が行にリストされています。シートの設定で、各連結方式をトリガする所有権の割合を指定します。

前提条件

- 使用するモデルに連結機能が必要です。詳細についてはお問い合わせください。
- 連結を初めて使用する場合は、概念: 連結 および 概念: 連結の所有権を参照してください。
- セキュリティ: "モデル" および "連結" 権限
- 組織を整理して、子会社を親会社にロールアップします。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューで "モデリング" をクリックします。"その他" メニューで "連結比率" をクリックして、シートを開きます。

基本階層への比率の入力
個々の子組織について、直接の親組織の所有割合を入力します。親組織の完全子会社の組織については、「100%」を入力するか、セルを空白のままにします。

たとえば、Total Company が、B 社の 55% を所有する場合、B 社の行のセルに「55%」と入力します。

| # | Levels | Jan-2017 | Feb-2017 | Mar-2017 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Total Company | | | |
| 2 | Company A | 80% | 80% | 80% |
| 24 | Company B | 55% | 55% | 55% |
| 25 | Company C | 20% | 20% | 20% |

複合階層への比率の入力
上の図の A 社や C 社のように、子会社の行が読み取り専用である場合、その組織には子組織があります。子組織は、子会社または社内部門である場合があります。

Total Company の A 社および C 社の所有割合 (%) を入力するには、(限定) 行に割合を入力します。

1. 組織の隣のプラス記号をクリックして、それ以上展開できなくなるまで展開します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. 親組織の (限定) 行を検索します。子組織を持つすべての組織に (限定) 行があります。

| # | Levels | Jan-2017 | Feb-2017 | Mar-2017 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Total Company | | | |
| 2 | Company A | | | |
| 3 | Company A (Only) | 80% | 80% | 80% |
| 4 | G&A | | | |
| 5 | G&A (Only) | 100% | 100% | 100% |
| 6 | Finance HQ | 100% | 100% | 100% |
| 7 | Human Resources HQ | 100% | 100% | 100% |
| 8 | Legal | 100% | 100% | 100% |
| 10 | Product Development HQ | | | |
| 11 | Product Development HQ (Only) | 100% | 100% | 100% |
| 12 | Operations | 100% | 100% | 100% |
| 13 | Engineering | 100% | 100% | 100% |
| 14 | Product Management HQ | 100% | 100% | 100% |
| 16 | Sales HQ | | | |
| 17 | Sales HQ (Only) | 100% | 100% | 100% |
| 18 | Sales - Southwest | 100% | 100% | 100% |
| 19 | Sales - East | 100% | 100% | 100% |
| 20 | Sales - West | 100% | 100% | 100% |
| 21 | Sales Midwest | 100% | 100% | 100% |
| 24 | Company B | 55% | 55% | 55% |

3. (限定) 行に割合 (%) を入力します。たとえば、Total Company が A 社の 80% 所有している場合、A 社の (限定) 行のセルに「80%」と入力します。
4. シートを保存します。

初期の残高列
シートには、インスタンス内の初期の残高の列が含まれています。

1. ツールバーの歯車アイコンをクリックして、それぞれの方法のトリガを表示します。
2. 初期の残高列に、以下に従って割合 (%) を入力します。
   - 初期残高をロールアップしない場合、"非連結" をトリガする割合 (%) 入力します。
   - 初期残高を所有権に比例してロールアップする場合は、"持分比率" の範囲内の割合を入力します。
   - 残高すべてをロールアップする場合、「完全連結」をトリガする割合を入力します。
3. シートを保存します。

時間と組織の合計
合計セルは、シートで青色で表示されているセルであり、時間と組織の合計または平均を示しますが、連結比率シートの合計セルは、それとは異なります。

| | |
|---|---|
| 組織の合計 | このシートに入力した値は親組織にロールアップされません。たとえば、会社 A の各子組織に「100%」と入力して、会社 A の (限定) 行に「80%」と入力することができます。会社 A を折り畳むと、合計値ではなく「80%」と表示されます。 |
| 時間合計 | 四半期や年などの時間合計では、最後の関係行と同じ値が表示されます。このシートの時間合計には重要な情報は含まれていません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

時間の合計を非表示にするには、ツールバーで "表示オプション" をクリックします。"列表示オプション" で、最小の時間以外のすべての期間のチェックをオフにします。モデルのカレンダーによりますが、ほとんどのモデルでは、最小は数か月です。

概念: 連結の所有権

対象者: 連結が有効化されたモデルを管理する管理者

複数の事業体を有する企業において、親会社は子会社の一部の割合を所有しています。親会社は連結方式を使用して所有権の説明責任を負うことができます。所有権が一定の割合を超える場合 (通常は 50% 超)、親組織は支配持分を有しています。子会社は非支配持分 (少数株主持分) を有しています。

会社の連結方式は、適用される会計基準によって異なります。一般的に連結方式によって、親組織に口ールアップされる子会社の科目、口ールアップされるタイミング、口ールアップの方法が決まります。

連結方式は任意で組み合わせて使用できます。

- 原価法: 親組織がその会社のごく一部を所有している場合に使用されます。
- 持分法: 親組織がその会社の重要な部分を所有するものの、支配持分を有していない場合に使用されます。手動の仕訳入力を用いて、投資持分の取込を計上します。
- 持分比率: 親組織が一定の割合の子会社の科目の値を所有している場合に使用されます。欧州、アジア、合弁企業でよく使用されています。
- 全部連結法: 親会社が支配持分を有し (通常は 50% 超)、少数株主持分調整で子会社のすべての資産と負債を所有している場合に使用されます。

連結所有権の仕組み
Adaptive Planning 連結は次の組み合わせを使用しています。

- 組織階層: 親会社と子会社の間の関係を決定します。
- 連結比率シート: 親組織の所有権の割合を示します。
- 連結法: 親組織において、科目を口ールアップする方法とタイミングを決定します。

組織階層と所有権
連結の所有権の設定は組織の階層から始めます。連結では、組織階層は、複数の事業体を有する企業の所有権の階層をモデル化します。親組織は、子組織の一部の割合を所有する親会社です。子組織は子会社です。

例:

Total Company

- A 社
    - マーケティング
    - 開発
- B 社
- C 社

A 社、B 社、C 社は Total Company の子会社です。A 社、B 社、C 社の科目データは Total Company 向けに表示されたデータに口ールアップされるか、それに寄与します。

子組織は必ずしも子会社とは限りません。A 社には、子会社ではなく、部門を代表する子組織があります。

連結所有権の割合
次に、連結比率シートにおける所有権の割合を定義します。

| 組織 | 1 月 | 2 月 |
| --- | --- | --- |
| Total Company | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| A 社 | |
| A 社 (限定) | 80% |
| マーケティング | 100% |
| 開発 | 100% |
| B 社 | 55% |
| C 社 | 20% |

- "その他" メニューの "モデリング" でシートを見つけます。
- このシートは、モデルで連結をアクティブ化するときに、事前に組み込まれ、事前に定義されています。シートの構造は編集できません。
- シートの行にはすべての組織があり、列全体に最小の期間が含まれています。

この例では、1 月時点で、Total Company は A 社の 80%、B 社の 55%、C 社の 20% を所有しています。A 社の子組織は、子会社ではなく部門です。A 社はこの部門の 100% の所有権を有しています。つまり、親組織が部門を完全に所有しているということです。

連結方式
連結方式は子会社の科目を親組織にロールアップする方法を決定します。各方法について、その方法の根拠となる所有権の割合を定義します。所有権の割合に基づいて異なる方法を実行できます。

**非連結**

非連結の場合、子会社組織のどの科目も親にロールアップされません。持分法または原価法を使用している場合、この方法を実行します。

- 持分法は、親組織が株式の 20 ~ 50% を所有している場合に最適です。この方法では、資産科目に投資額を入力します。子会社で利益が発生している場合、仕訳入力を使用して投資額を借方に、利益を貸方に記入します。
- 原価法は、親組織が株式の 20% 未満を保有している場合に一般的に使用される方法です。低価法 (LCM) の資産として登録されている投資を有している場合があります。LCM 資産については、仕訳入力を使用して損失のみを調整します。

**持分比率連結法**

持分比率連結法は、すべての科目の一部を親組織にロールアップする簡便な方法です。この割合は所有権の割合に比例します。親会社が子会社の 80% を所有している場合、その会社の全科目の 80% がロールアップされます。

次の表では、科目ツリー、および比例連結法で値をロールアップする方法を簡易的に示します。

| 科目ツリー | A 社 (80%) | Total Company |
|---|---|---|
| 資産 | 100,000 | 80,000 |
| 費用 | 100,000 | 80,000 |
| 純利益 | 100,000 | 80,000 |

**全部連結法**

全部連結法は、子会社の過半数を所有する親会社で一般的な標準連結会計原則を反映しています。

- 100% の合計: 子会社組織のすべての科目の値の 100% が親組織にロールアップされます。
- 少数株主持分の自動計算: 計算には、所有権の割合と純利益科目の値を使用します。Total

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Company が A 社の 80% を所有し、A 社の純利益が 100,000 ドルの場合、少数株主持分調整は 100,000 ドルの 20%、すなわち 20,000 ドルです。
- 少数株主持分調整システム科目: システム科目は計算された調整を保持します。システム科目を設定し、"純利益" にロールアップします。符号は純利益とは逆になります。たとえば、システム科目の値は貸方科目の -$20,000 になります。
- 自動純利益調整: 純利益について 2 つの子科目を作成します。1 つは調整前の純利益、もう 1 つは少数株主持分調整システム科目です。

次の表では、科目ツリーおよび、全部連結法で値をロールアップする方法を簡易的に示します。

| 科目ツリー | A 社 | Total Company |
|---|---|---|
| 資産 | 100,000 | 100,000 |
| 費用 | 100,000 | 100,000 |
| 純利益 | 100,000 | 80,000 |
| 純利益の事前調整 | 100,000 | 100,000 |
| 少数株主持分調整 (システム科目) | 0 | -20,000 |

relatedlinks
概念
概念: 組織 ( 855ページ )

ステップの例: 完全な連結による少数株主持分の自動化

この例では、完全な連結方式を使用して少数株主持分調整を自動化する方法を示します。少数株主持分調整を自動化すると、データは損益計算書から貸借対照表に自動的に送られます。データは、適切な少数株主持分調整によって親会社にもロールアップされます。

このタスクについて

親会社は、Child Company という子会社の 80% を所有しています。損益計算書の純利益科目が貸借対照表の純資産科目に適切に送られるようにします。また、所有権に基づいて調整したデータを親会社にロールアップします。

モデル:

- 実績バージョン
- カレンダーは、"月"、"四半期"、"年" で設定されます。
- 損益計算書は、純利益の総勘定元帳科目を含む標準シートです。
- 貸借対照表は、資本の総勘定元帳科目を含む標準シートです。

始める前に

- 連結を有効にするには、Workday に連絡してください。参考: お問い合わせを参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "連結" 権限

手順

1. 子会社の所有権を反映するため、組織階層を作成します。
   階層によって、子会社のデータが親会社にロールアップされます。
   参照 例: 完全な連結のための組織の設定（1264ページ）。
2. 純利益科目を設定します。
   損益計算書の純利益には、フロー収入が表示されます。純利益にロールアップする子科目を 2 つ作成します。子科目の 1 つは、少数株主持分調整を計算するシステム科目です。次に、子会社の所有権の割合に基づいて、親の純利益が減額されます。
   参照 例: 完全な連結のための純利益の設定（1265ページ）。
3. 純資産科目を設定します。
   純資産は、貸借対照表の科目です。YTD (累計) 少数株主持分は、純利益科目からデータを取得して累積し、一定の間隔でゼロにリセットします。
   参照 例: 完全な連結のための純資産の設定（1267ページ）。
4. 所有権の割合を設定します。
   "モデリング" 領域の専用シートを使用して所有権の割合を指定します。これらの割合により、純利益システム科目が少数株主持分調整を計算する方法を制御します。
   参照 例: 完全な連結の設定および所有権の割合の割り当て（1268ページ）。
5. 純資産の初期貸借対照表を作成し、初期の残高をシードします。
   参照 例: 完全な連結のための初期貸借対照表の作成（1269ページ）。
6. 貸借対照表および損益計算書にデータを入力します。
   参照 例: 完全な連結のための純利益データの入力（1270ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 連結（1240ページ）
概念: 科目（887ページ）
タスク
シート内のデータの検索と入力（120ページ）

例: 完全な連結のための組織の設定

この例では、子会社を所有する親会社の作成方法を示します。完全な連結の一環として完了したデータは、適切な少数株主持分調整を加えて組織階層にロールアップされます。

このタスクについて

親会社は、Child Company という子会社の 80% を所有しています。損益計算書の純利益科目が貸借対照表の純資産科目に適切に送られるようにします。また、所有権に基づいて調整したデータを親会社にロールアップします。

モデル:

- 実績バージョン
- カレンダーは、"月"、"四半期"、"年" で設定されます。
- 損益計算書は、純利益の総勘定元帳科目を含む標準シートです。
- 貸借対照表は、資本の総勘定元帳科目を含む標準シートです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

始める前に

- 連結を有効にするには、Workday に連絡してください。参考: お問い合わせを参照してください。
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "連結" 権限

手順

1. "モデリング" に移動して "組織" をクリックします。
2. ツールバーで "新規組織を作成" をクリックし、設定で以下を行います。
   - 名前: 「親」と入力します。
   - バージョン セレクター: "実績" を選択し、"バージョンで使用可能" チェックボックスをクリックします。
   - "シート" セクション: "損益計算書" および "貸借対照表" の横にあるチェックボックスをクリックします。
3. "保存" をクリックします。
4. "新規組織を作成" をクリックし、設定で以下を行います。
   - 名前: 「子」と入力します。
   - ロールアップ先: ″親″ を選択します。
5. "保存" をクリックして警告のチェックボックスをオンにし、保存できるまで "次へ" をクリックします。

タスクの結果

シートを開くと、"組織" のドロップダウン リストに組織が表示されます。"親" には "子" と "親 (限定)" という 2 つの子があります。データを入力できるのは、以下の場所だけです。

- 親 (限定)
- 子

入力したデータは、親組織に集計されます。

次のタスク

所有権の調整を自動化するには、完全な連結の対象となる純利益科目を設定します。

例: 完全な連結のための純利益の設定

この例では、データが貸借対照表に送られるように、総勘定元帳で純利益科目を設定する方法を示します。子科目を 2 つ作成し、総勘定元帳の純利益科目にロールアップします。完全な連結の一環として完了したデータは、適切な少数株主持分調整を加えて組織階層にロールアップされます。

このタスクについて

親会社は、Child Company という子会社の 80% を所有しています。損益計算書の純利益科目が貸借対照表の純資産科目に適切に送られるようにします。また、所有権に基づいて調整したデータを親会社にロールアップします。

モデル:

- 実績バージョン
- カレンダーは、"月"、"四半期"、"年" で設定されます。
- 損益計算書は、純利益の総勘定元帳科目を含む標準シートです。
- 貸借対照表は、資本の総勘定元帳科目を含む標準シートです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

始める前に

- 連結を有効にするには、Workday に連絡してください。参考: お問い合わせを参照してください。
- 組織を設定します。参照 例: 完全な連結のための組織の設定 ( 1264ページ ) 。
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "連結" 権限

手順

1. "モデリング" に移動し、"総勘定元帳科目" をクリックします。
2. 科目リストから、"純利益" 科目をハイライト表示し、ツールバーの "新規科目を作成" をクリックします。
3. 警告メッセージを読み、"はい" をクリックします。
4. 設定で以下を行います。
   - コード: 「*NI_PreAdj*」と入力します。
   - 名前: 「純利益 (事前調整済み)」と入力します。
   - タイプ: "フロー" を選択します。
   - 為替レート: "平均: 月平均" を選択します。
5. "保存" をクリックします。
6. 科目リストから、"純利益" をハイライト表示し、ツールバーの "新規システム科目を作成" をクリックします。
7. 設定で以下を行います。
   - コード: 「*MI_Adj*」と入力します。
   - 名前: 「少数株主持分調整」と入力します。
   - 為替レート: "平均: 月平均" を選択します。システム科目の為替レートは、常に純利益科目と一致していなければなりません。
8. "保存" をクリックします。

タスクの結果

"純利益" 科目には、次の 2 つの子科目があります。

- 純利益 (事前調整済み)
- 少数株主持分調整 (システム科目)

どちらの科目も親科目がすでにシートに存在するため、損益計算書シートに自動的に表示されます。

データの流れは次のとおりです。

- "純利益" 科目が"純利益 (事前調整済み)" 科目に移動します。
- 親組織での合計は、調整前の子会社の生データの合計と同じです。

これらの科目を完全な連結方式の一部として定義すると、システム科目によって少数株主持分が自動的に計算されます。その後、科目では親組織での合計値から少数株主持分を減算します。例: 親が子の 80% を所有している場合、システム科目では純利益に 20% を掛けて、親の合計の値を減算します。

次のタスク

損益計算書から貸借対照表へのデータ フローを自動化するには、純資産科目を設定します。

relatedlinks
概念
概念: 科目 ( 887ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 例: 完全な連結のための純資産の設定

この例では、総勘定元帳の資本勘定に科目を設定して完全に連結する方法を示します。デフォルトの数式と加重平均換算の設定を使用します。完全な連結の一環として完了したデータは、適切な少数株主持分調整を加えて組織階層にロールアップされます。

#### このタスクについて

親会社は、Child Company という子会社の 80% を所有しています。損益計算書の純利益科目が貸借対照表の純資産科目に適切に送られるようにします。また、所有権に基づいて調整したデータを親会社にロールアップします。

モデル:

- 実績バージョン
- カレンダーは、"月"、"四半期"、"年" で設定されます。
- 損益計算書は、純利益の総勘定元帳科目を含む標準シートです。
- 貸借対照表は、資本の総勘定元帳科目を含む標準シートです。

#### 始める前に

- 連結を有効にするには、Workday に連絡してください。参考: お問い合わせを参照してください。
- 純利益科目を設定します。参照 例: 完全な連結のための純利益の設定（1265ページ）。
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "連結" 権限

#### 手順

1. "モデリング" に移動し、"総勘定元帳科目" をクリックします。
2. 総勘定元帳科目のリストから "資本" をハイライト表示します。
3. "新規科目を作成" をクリックし、設定で以下を行います。
   - コード:「*NetAssets*」と入力します。
   - 名前:「純資産」と入力します。
4. ツールバーの "保存" をクリックします。
5. 科目リストで "純資産" をハイライト表示します。
6. "新規科目を作成" をクリックし、設定で以下を行います。
   - コード:「*NetAssets_Beg*」と入力します。
   - 名前:「純資産、開始」と入力します。
   - 累積タイプ、実績タイプ: "差額" をクリックします。
   - デフォルトの数式: 数字の「*0* (ゼロ)」を入力します。

     "数式" にゼロを指定すると、この科目はシートで読み取り専用になります。
   - 加重平均換算: チェックボックスをオンにします。
   - 為替レート: "平均: 月平均" を選択します。
7. "保存" をクリックします。
8. 科目リストで "純資産" をハイライト表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

9. ツールバーで "新規科目を作成" をクリックし、設定で以下を行います。
    - コード: 「*YTD_MI*」と入力します。
    - 名前: 「YTD (累計) 少数株主持分」と入力します。
    - 累積タイプ、実績タイプ: "差額" を選択します。
    - デフォルトの数式: 「*-ACCT.MI_Adj*」と入力します。
    - 加重平均換算: チェックボックスをオンにします。
    - 残高のリセット: チェックボックスをオンにして、"年" を選択します。
    - リセット時に残高を移転: チェックボックスをオンにして、"純資産、開始" を選択します。
    - 為替レート: "平均: 月平均" を選択します。
10. "保存" をクリックします。

### タスクの結果

シートにはすでに資本が存在するため、新しい科目は貸借対照表の標準シートに自動的に表示されます。

"YTD (累計) 少数株主持分 " 科目の数式は、データを取得し、少数株主持分調整科目の値の符号を入れ替えます。ストック科目であるため、値は期間を通して累積されます。

加重平均換算の設定により、翌年の初めに年度末の値が "純資産、開始" 科目に移動します。年の初めに、"YTD (累計) 少数株主持分" はゼロにリセットされ、再び累積が開始されます。

両方の科目が、"資本" の一部として "純資産" 科目にロールアップされます。

### 次のタスク

少数株主持分の調整を自動化するには、完全な連結方式を設定し、所有権の割合を割り当てます。

relatedlinks
概念
概念: 科目（887ページ）

## 例: 完全な連結の設定および所有権の割合の割り当て

この例では、完全な連結のための所有権トリガの定義方法を説明します。完全な連結の一環として完了したデータは、適切な少数株主持分調整を加えて組織階層にロールアップされます。

### このタスクについて

親会社は、Child Company という子会社の 80% を所有しています。損益計算書の純利益科目が貸借対照表の純資産科目に適切に送られるようにします。また、所有権に基づいて調整したデータを親会社にロールアップします。

モデル:

- 実績バージョン
- カレンダーは、"月"、"四半期"、"年" で設定されます。
- 損益計算書は、純利益の総勘定元帳科目を含む標準シートです。
- 貸借対照表は、資本の総勘定元帳科目を含む標準シートです。

### 始める前に

- 連結を有効にするには、Workday に連絡してください。参考: お問い合わせを参照してください。
- 純資産科目を設定します。参照 例: 完全な連結のための純資産の設定（1267ページ）。
- セキュリティ:
    - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
    - "連結" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. "モデリング" に移動し、"その他" メニューから "連結比率" をクリックします。
2. シート ツールバーで、歯車アイコンをクリックします。
3. "持分比率" チェックボックスをオフにします。
4. "全部" および "非連結" のチェックボックスをクリックします。
5. "全部" の横の "開始 (%)" フィールドに、「*50.000000001*」と入力します。
6. "少数株主持分科目" のドロップダウンリストから、"少数株主持分調整" を選択します。
   "少数株主持分調整" は、"純利益" で作成したシステム科目です。
7. "総勘定元帳科目"で、"純利益" を選択します。
   正しく機能させるには、システム科目の親科目を選択する必要があります。
8. "適用" をクリックします。
9. 2018 年 1 月の "子" 行に「80%」と入力します。
   この値は、親会社が子会社の 80% を所有していることを意味します。
10. 右クリックして、"前方向へコピー" > "最後までコピー" を選択します 。
11. シート ツールバーで、"保存" をクリックします。

タスクの結果

システム科目の "少数株主持分調整" は、少数株主持分を自動的に計算し、親組織の合計で "純利益 (事前調整済み)" の値から減算します。例: 親が子の 80% を所有している場合、システム科目では純利益に 20% を掛けて、親の合計の値を減算します。

次のタスク

純資産科目の初期貸借対照表を作成し、初期の残高をシードします。

relatedlinks
タスク
所有権の割合の入力（1259ページ）

例: 完全な連結のための初期貸借対照表の作成

この例では、完全な連結のための初期貸借対照表の作成方法を説明します。初期貸借対照表は、純利益を毎年累積する標準シートです。この例では、純資産科目の初期の残高をシードする方法も示します。完全な連結の一環として完了したデータは、適切な少数株主持分調整を加えて組織階層にロールアップされます。

このタスクについて

親会社は、Child Company という子会社の 80% を所有しています。損益計算書の純利益科目が貸借対照表の純資産科目に適切に送られるようにします。また、所有権に基づいて調整したデータを親会社にロールアップします。

モデル:

- 実績バージョン
- カレンダーは、"月"、"四半期"、"年" で設定されます。
- 損益計算書は、純利益の総勘定元帳科目を含む標準シートです。
- 貸借対照表は、資本の総勘定元帳科目を含む標準シートです。

始める前に

- 連結を有効にするには、Workday に連絡してください。参考: お問い合わせを参照してください。
- 完全な連結を設定し、組織の所有権の割合を定義します。参照 例: 完全な連結の設定および所有権の割合の割り当て（1268ページ）。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "連結" 権限

手順

1. "モデリング" に移動します。
2. "シート" メニューから "組織割当シート" をクリックします。
3. "新規シート作成" ボタンをクリックします。
4. 名前 には、「純資産の初期残高」と 入力し、"次へ" をクリックします。
   "新しいシートの作成" ドロップダウン プロンプトのデフォルトは"標準" であるため、指定する必要はありません。
5. "科目を選択" セクションで、"タイプ" ドロップダウン プロンプトから "資本" を選択します。
6. 結果から、"純資産、開始" 科目をハイライト表示し、"グループへ追加" をクリックします。
   "初期の残高を表示" チェックボックスは、自動的に有効になります。
7. "次へ" をクリックします。
8. 属性の追加をスキップするには、もう一度 "次へ" をクリックします。
9. "組織別に表示モードで開始" チェックボックスをクリックし、"次へ" をクリックします。
10. 組織リストで、"親" と "子" の横にあるチェックボックスをクリックし、"シートを作成" をクリックします。
11. "シート" へ移動します。
12. "バージョン" プロンプトで、"実績" を選択します。
    サブ実績バージョンを使用する場合は、データ入力にサブ実績を選択する必要があります。
13. "組織" プロンプトから "親" を選択します。
14. シート リストから "純資産の初期残高" をクリックし、シートを開きます。
15. 科目のプロンプトから、"純資産、開始" を選択します。
16. "親 (限定") 行と "子" 行の "初期の残高" 列に「$0$」と入力します。
17. 科目のプロンプトから、"YTD (累計) 少数株主持分" を選択します。
18. "親 (限定") 行と "子" 行の "初期の残高" 列に「$0$」と入力します。
19. "保存" ボタンをクリックします。

タスクの結果

両方の科目の貸借対照表の各表示値は、このシートに入力した初期の残高を基に、期間が経過するまで累積されていきます。

次のタスク

純利益科目にデータを入力します。

relatedlinks
概念
概念: シートの作成 ( 1027ページ )
タスク
ステップ: 標準シートの作成 ( 1032ページ )
標準シートの編集 ( 1038ページ )

例: 完全な連結のための純利益データの入力

この例では、完全な連結のためにデータのフローと合計が期待どおりになるようにデータを入力する方法を説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

祖父母会社は、Parent Company という子会社の 80% を所有しています。親会社は、Child Company という子会社の 80% を所有しています。損益計算書の純利益科目が貸借対照表の純資産科目に適切に送られるようにします。また、所有権に基づいて調整したデータを親会社にロールアップします。

モデル:

- 当年バージョン
- カレンダーは、"月"、"四半期"、"年" で設定されます。
- 損益計算書は、純利益の総勘定元帳科目を含む標準シートです。
- 貸借対照表は、資本の総勘定元帳科目を含む標準シートです。

始める前に

- 連結を有効にするには、Workday に連絡してください。参考: お問い合わせを参照してください。
- 純資産科目の当初の残高を入力します。参照 例: 完全な連結のための初期貸借対照表の作成 ( 1269ページ ) 。
- セキュリティ:
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
  - "連結" 権限

手順

1. "シート" へ移動します。
2. "組織" プロンプトから "親" を選択します。
3. シート リストから "損益計算書" をクリックしてシートを開きます。
4. 最初の列で右クリックし、"組織別に表示" を選択します。
5. "科目" ドロップダウン プロンプトから、"純利益 (事前調整済み)" を選択します。
   この科目は、各会社が作成した生の純利益データを保持していることに注意してください。
6. 各行に、以下の値を入力します。
   - 子:「*100,000*」と入力して右クリックし、"前方向へコピー" > "最後までコピー" を選択します。
   - 親 (限定):「*200,000*」と入力して右クリックし、"前方向へコピー" > "最後までコピー" を選択します。
7. "保存" ボタンをクリックします。
8. 最初の列で右クリックし、"科目別に表示" を選択します。
9. "組織" ドロップダウンから "親" を選択します。
   "純利益" 合計の行の値は280,000 です。
10. "純利益" を展開し、関連する値を確認します。

| 科目 | 2018 年 1 月 |
|---|---|
| 純利益 | |
| - 純利益 (事前調整済み) | 300,000 |
| - 少数株主持分調整 | -20,000 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 科目 | 2018 年 1 月 |
|---|---|
| - 合計 | 280,000 |

- "純利益 (事前調整済み)" の値は 300,000 です。この値は、親が生み出した純利益 (200,000) と子が生み出した純利益 (100,000) を合計したものです。
- 少数株主持分調整の値は -20,000で、自動生成されます。この値は、"純利益 (事前調整済み)" 科目で子に入力した 100,000 および、連結比率シートに入力した 80% の所有権から算出されます。参照 例: 完全な連結の設定および所有権の割合の割り当て（1268ページ）。

11. ブレッドクラムで "シート" をクリックします。
12. シート リストから "貸借対照表" をクリックして開きます。

    すでに親組織にいます。
13. ツールバーで "表示オプション" をクリックします。
14. "すべて" チェックボックスをオフにすると、すべての期間がクリアされます。次に、"2018" 行と "2019" 行の "四半期" 列のチェックボックスをクリックします。
15. "OK" をクリックします。
16. 行の "純資産" を展開し、自動生成されたデータを確認します。

| 科目 | 2018 年第 1 四半期 | 2018 年第 2 四半期 | 2018 年第 3 四半期 | 2018 年第 4 四半期 | 2019 年第 1 四半期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 純資産 | | | | | |
| - 少数株主持分、開始 | 0 | 0 | 0 | 0 | 120,000 |
| - YTD (累計) 少数株主持分 | 30,000 | 60,000 | 90,000 | 120,000 | 30,000 |
| - 合計 | 30,000 | 60,000 | 90,000 | 120,000 | 150,000 |

- "少数株主持分、開始" には、年間を通してゼロの初期残高が表示されます。
- "YTD (累計) 少数株主持分" には、作成したデフォルトの数式が使用されます。値は、少数株主持分のシステム科目から -10,000 の符号を入れ替えたものです。これは、月ごとに累計され、四半期ごとに 30,000 になります。
- 2019 年第 1 四半期には、"YTD (累計) 少数株主持分" の累計値が、"少数株主持分、開始" に移動します。

relatedlinks
概念
概念: シート タイプ（43ページ）
概念: シートのクイック ツアー（40ページ）
タスク
シート内のデータの検索と入力（120ページ）

**FAQ:** 特定の科目の影響または連結比率を削除するにはどうすればよいですか？

組織に連結比率を追加すると、その組織の総勘定元帳とカスタム科目のすべての値にパーセントが適用されます。

以下のように連結比率の影響を排除します。

- メトリック科目を使用します。メトリック科目は設計上連結比率を無視します。
- 親科目の (限定) 組織の数式を使用し、値を再調整します。

  例: 会社 A 組織の連結比率は 50% です。"費用" 科目を連結比率で調整したくありません。次の共有数式を "会社 A (限定)" 組織に追加します: =ACCT.Expense[level=LowerLevelName]*0.5 。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: 連結の所有権（1261ページ）
所有権の割合の入力（1259ページ）

## レポート ダッシュボードとお知らせ

### **Adaptive Planning** お知らせの作成

#### 前提条件

- レポートの共有（164ページ）.
- セキュリティ:"お知らせ " 権限

#### コンテキスト

Adaptive Planning のお知らせは、Workday で提供される多くのお知らせの 1 つです。Adaptive Planning お知らせでは、ユーザー向けの特別ページに Adaptive Planning 共有レポートを掲載できます。

チームが Adaptive Planning アプリケーションを開いてメイン メニューから "お知らせ" を選択したときに表示される複数のお知らせページを作成できます。ユーザーによっては、"お知らせ" ページがホームページになっている場合があります。

お知らせを組織に割り当てます。組織へのアクセス権を持つユーザーのみがお知らせをレビューできます。お知らせページには、"レポート" の "共有" フォルダにある以下のファイルのいずれかを含めることができます。

- HTML ファイル (.html)。
- テキスト ファイル (.tx)

#### ステップ

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "お知らせページ"をクリックします。
3. "新しいお知らせページ"をクリックします。
4. さまざまなレポートをキャンバスにドラッグします。
5. "表示日" プロンプトで、組織を選択します。組織へのアクセス権を持つユーザーのみがお知らせをレビューできます。
6. "変更内容を保存する" をクリックします。次に、"完了" を選択します。

#### 次のステップ

お知らせは編集、削除、名前の変更ができます。削除するとお知らせページのみが削除されます。お知らせの作成に使用したレポートは、"共有レポート" で引き続き利用できます。

### お知らせとしてのライブ レポートの廃止の準備

#### 始める前に

- 以下のトピックを読み、ダッシュボードまたはプロセスとプロセス タスクについて確認してください。
  - ステップ: ダッシュボードの設定
  - プロセスとプロセス タスクの作成
- エリアの作成、または共有エリアへの編集アクセス権がある

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- セキュリティ:
  - "ダッシュボードの編集" 権限
  - "プロセス トラッカーへのアクセス" 権限
  - "自分に割り当てられたタスクの完了" 権限
  - "すべてのタスクの完了" 権限
  - "タスクの管理" 権限
  - "プロセスの管理" 権限

このタスクについて

ライブ レポートをお知らせとして含める Workday の機能は、将来のアップデートで廃止される予定です。廃止後は、お知らせとして静的 HTML ファイルおよびテキスト ファイルを引き続き作成できます。 または、以下を使用することもできます。

- ダッシュボード上の Web レポート リンク
- プロセス トラッカーとプロセス ガイド

手順

1. (任意) ダッシュボードに共有 Web レポート リンクを追加します。
   ユーザーがダッシュボードからレポート リンクをクリックすると、ライブ レポートが表示されるか、以下のページに移動します。
   - HTML 以外の出力用のレポートのダウンロード ページ
   - プロンプト パラメータを含む、レポートの "ダイアログ表示パラメータを選択" ページ

   ダッシュボードにテキストを追加するを参照してください。
2. (任意) ユーザーがプロセス管理ページからプロセス ガイドに移動し、関連するすべてのレポートを 1 か所で表示できるようにします。
   a) ユーザーに関連するすべてのレポートに固有のプロセスを作成します。
   b) "コンテンツ" オプションの "レポート" を使用して標準タスクを作成し、関連するレポートを選択します。 タスクを適切なユーザーまたはユーザー グループに割り当てます。
   c) ユーザーがプロファイルから "ホームページ" のオプションとして "プロセス" を選択できるようにします。

タスクの結果

例

次のタスク

共有レポート ダッシュボードの作成

重要 : レポート ダッシュボードは "お知らせ" に移行されました。既存のレポート ダッシュボードには、メイン ナビゲーション メニューの "お知らせ" オプションからアクセスできます。参照 Adaptive Planning お知らせの作成 ( 1273ページ ) 。

ダッシュボード管理権限を持つ管理者である場合、組織構造においてダッシュボードを作成し、共有し、組織へ割り当てる方法を学びます。メイン ナビゲーション メニューの "レポート" > "レポート ダッシュボード" で新しく共有されたダッシュボードのリンクを表示するには、ログアウトしてアプリケーションに再びログインします。

注 : ここで参照されているレポート ダッシュボードは、メイン ナビゲーション メニューから利用できるダッシュボードに関連付けられていません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### 標準ダッシュボードの共有

標準ダッシュボードには 9 つのグラフ レポートを収めることができます。グラフ レポート オプションがオンになっている共有マトリクス レポートのみを含めることができます。ダイアログ表示パラメータが指定されたグラフ レポートは標準ダッシュボードに追加できません。

標準ダッシュボードを作成する場合

1. "モデリング" > "モデル管理" > "その他" > "レポート ダッシュボード" の順に移動します。 共有標準ダッシュボードの一覧が表示されます。このページでダッシュボードの作成、編集、削除ができます。
2. "新規ダッシュボード" を選択します。
3. ダッシュボードの名前を入力します。これは "レポート ダッシュボード" メニューにおいてユーザー向けに表示される名前です。
4. ダッシュボードが表示される組織を指定し、"完了" を選択します。
5. ダッシュボードのレイアウト (行 x 列) を指定します。
6. "共有レポート" フォルダ内を移動して、ダッシュボードに追加するレポートを見つけます。レポートの検索もできます。
7. レポートをレイアウト エリアにドラッグします。
8. レポートのヘッダーを入力し、ヘッダーの色を指定します。
9. レポートをレイアウトに追加し終わったら、変更を保存します。

### レポート ダッシュボードの共有

レポート ダッシュボードには 1 つのレポートのみが含まれます。繰り返しレポート、静的レポート (.txt と .html タイプのファイルを除く)、レポート ブック、またはパラメータの入力を求めるレポート以外の共有レポートをレポート ダッシュボードに含めることができます。

レポート ダッシュボードを作成する場合

1. "モデリング" > "モデル管理" > "その他" > "レポート ダッシュボード" の順に移動します。共有レポート ダッシュボードのリストが表示されます。このページでダッシュボードの作成、編集、削除ができます。
2. "新規レポート ダッシュボード" を選択します。
3. ダッシュボードの名前を入力します。これは "レポート ダッシュボード" メニューにおいてユーザー向けに表示される名前です。
4. ダッシュボードが表示される組織を指定し、"完了" を選択します。
5. "共有レポート" フォルダ内を移動して、ダッシュボードに追加するレポートを見つけます。レポートの検索もできます。
6. レポートをレイアウト エリアにドラッグします。
7. 変更内容を保存します。

### 概念: レポート ダッシュボード

重要 : レポート ダッシュボードは "お知らせ" に移行されました。既存のレポート ダッシュボードには、メイン ナビゲーション メニューの "お知らせ" オプションからアクセスできます。参照 Adaptive Planning お知らせの作成 ( 1273ページ ) 。

レポート ダッシュボードは必要な情報を表示します。個人用に作成することも、チームと共有して重要な情報をわかりやすい画像で表示することもできます。ダッシュボードでは計画データや実績データを使用し、重要な業績メトリクスを絞り込むことができます。

詳細な手順が必要な場合は、共有ダッシュボードの作成を参照してください。

注 : レポート ダッシュボードは現在、レガシー機能となっています。業務の運営には、メイン ナビゲーション メニューから利用可能なダッシュボードを使用してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

ダッシュボードの仕組み

ダッシュボードには 2 種類のカテゴリがあります。

- 共有ダッシュボード:管理者はこれらのダッシュボードを作成し、さまざまな組織のユーザーへプッシュします。たとえば、管理者は販売ダッシュボードを作成し、すべての販売組織が利用できるようにすることができます。
- 個人ダッシュボード:ユーザーはレポート アクセス権限を使用して、これらのダッシュボードを作成できます。たとえば、販売マネージャはカスタマイズされた個人ダッシュボードを作成し、販売担当者に重要な特定のメトリックを表示できます。

ダッシュボードの表示

- ユーザーは独自の個人ダッシュボードを作成し、グラフ タイプのレポート プロパティを持つマトリクス レポートのみを表示できます。表示するには、メイン ナビゲーション メニューから、"レポート" > "レポート ダッシュボード" > "個人" を選択します。
- 管理者は共有ダッシュボードを作成し、選択した共有レポートのグラフを表示できます。共有ダッシュボードは組織アクセス権に基づいてユーザー間で共有されます。表示するには、メイン ナビゲーション メニューから、"レポート" > "レポート ダッシュボード" を選択し、共有ダッシュボードの名前を選択します。

**Troubleshooting: External Links on Announcements Page Don't Work**

When you click the links to external resources from an announcement, this error message displays: "This content is blocked. Contact the site owner to fix the issue."

The links are valid. If you right-click the links and open them in new tabs, the external web pages display without errors.

原因: `X-Frame-Options="sameorigin"` is set in the response header of the sites.

ソリューション:

Work with your administrator to configure the announcement page by adding this attribute to HTML tag of each link: `target=“_blank”` .

## 表示名に対する組織コード、属性コード、特性コード

名前およびコードを使用したメタデータのインポート

始める前に

- セキュリティ:
  - "モデル" 権限
  - "構造インポート" 権限
  - "すべての場所へのインポート" 権限
  - "データ デザイナー" 権限
- インスタンスで表示名を有効にする前に、Adaptive Planning のメタデータ ローダおよびデータ ローダを正常に設定し、実行します。
- 組織管理画面で任意のサブ組織を選択し、"組織の詳細" の "コード" フィールドと "名前" フィールドを表示して、Adaptive Planning インスタンスが表示名をサポートしていることを確認します。
- 組織管理画面に "コード" フィールドと "名前" フィールドがあることを確認したら、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" に移動して、既存の組織、特性、科目、および属性のメタデータ ローダのすべてを 1 回実行します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

すべてのインスタンスで表示名を有効にすると、インテグレーション ローダおよび手動のメタデータのインポートには、コードを含めるための調整が必要になります。Workday データ管理のデプロイでは、これらのコードに Workday 参照 ID を使用することをお勧めします。Workday データ管理を使用しない場合は、ソース システムからコードを取得します。

手順

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" に進んで組織ローダの "列マッピング" タブに移動し、"組織 コード" をソース テーブルの適切な ID に更新します。"ソース列" フィールドでコードとして選択します。

   例: "ソース列" のコードに参照 ID を使用する。
2. 組織ローダを実行し、"データのインポートを省略" を選択して実行します。
3. "モデリング" > "モデル管理" > "組織" の順に移動して、更新済みの要素を確認し、"コード" フィールドでローダのコードを使用します。
4. 他の属性ローダおよび特性ローダについてもこのプロセスを繰り返し、"列マッピング" タブを更新してソース テーブルでコード (参照 ID) を使用します。

   例: "場所" ローダで "場所コード" をコード (参照 ID) に更新し、"データのインポートを省略" を選択してから、属性管理で "コード" フィールドに参照 ID が入力されていることを確認します。
5. Planning データ ローダの "列マッピング" タブに移動します。
   - Workday データ管理のデプロイでは、"ソース表示名" 列を関連する属性の参照 ID にマッピングします。
   - その他のデプロイでは、ソース システムからの入力に応じて、"ソース ID" をコードにマッピングすることをお勧めします。
6. 必要に応じて、Planning データ ローダの "データ ソース設定" タブで、"自動マッピング" を "ソース表示名をコードに自動マッピング" に設定します。
7. Planning データ ローダの "データ マッピング" タブで、ソース値が正しくマッピングされていることを確認します。
8. データを手動でインポートする場合は、コードでマッピングする必要があります。インスタンスで表示名を有効にすると、名前でマッピングするオプションは使用できなくなります。

   モデル シートに移動し、メイン メニューから "ダウンロード" を選択して、組織、属性、および特性のコードを含めてダウンロードします。"印刷対応ビュー" を選択すると、Adaptive Planning で表示されるとおりにシートをダウンロードできます。

概念: 表示名に対する組織コード、属性コード、特性コード

Workday Adaptive Planning で表示名を有効にすると、複数の組織、カスタム属性値、または特性値に同じラベルを使用できます。この機能をオンにすると、以下のようになります。

- Workday 財務管理、Workday ヒューマン キャピタル マネジメント、またはその他の外部システムからの構造のロードが簡素化される。
- Adaptive Planning でラベルを一意にするために、Workday またはその他のインポートにおけるラベルと参照 ID を連結する必要がなくなる。
- ラベルが一致する場合に、簡略化されたメタデータのロード プロセスが提供される。

表示名の有効化
各組織、カスタム属性値、特性値には一意のコードが付与されます。

このコードはキーとして機能します。

組織、属性値、特性値を含む数式の場合 code に置き換えられる name 不明確にならないようにするため。インテグレーション ローダはそのまま動作し、自動的にコードを列マッピングに使用します。

注 : 表示名を有効にすると、異常検出の閾値が 40% にリセットされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

メタデータのコード
表示名が導入される前は、組織、カスタム属性、または特性内の名前に一意性が求められていました。

既存のインスタンスの場合、すでに作成した名前を再利用してコードが自動生成されます。

Workday Adaptive Planning において、コードは常にかっこ内に表示されるため、簡単に識別できます。例: [westeu01]。

表示名と表示名の形式

表示名を有効にすると、組織、属性値、特性値に読み取り専用の "表示名" フィールドが導入されます。表示名は、Workday Adaptive Planning 全体でメタデータ要素 (以前は名前フィールド) に表示されるラベルとして機能します。メタデータ要素を選択したり、表示したりすると、表示名が表示されます。

既存の Workday Adaptive Planing インスタンスの場合、表示名の形式として "名前" が自動入力されます。組織、属性、特性の管理ページでは、表示名の形式として以下のいずれかを選択できます。

- 名前
- コード
- 名前 [コード]
- [コード] 名前

表示名の形式は、属性ルートで、属性ごとに設定できます。値ごとに対応するコードが表示されます。

表示名とコードは、それぞれ 2,048 文字、組み合わせた場合は 4,096 文字を使用できます。

注 : 表示名のコンポーネントを変更すると、"並べ替えを維持" が有効になっている場合でも、属性管理または特性管理で要素のソート順が変わる可能性があります。

構造インポートの表示名

組織、カスタム属性、特性の構造をインポートする際は、コードがサポートされており、インポート テンプレートに表示名の形式、値のコード、値の名前の列が必要となります。名前列が値のコード列と値の名前列に置き換わります。

常に新しいインポート テンプレートをダウンロードし、最初のシートの指示に従ってください。表示名を有効にすると、テンプレートの必須列と列名が変更されます。古いテンプレートや、表示名が有効になっていないインスタンスのテンプレートを再利用しないでください。

組織の名前やコードを変更する目的でインポートを使用しないでください。これらの変更は、アプリケーションで手動で行う必要があります。

階層の場合は、親のコードを参照して親の値を指定します。

構造インポートでは、表示名をサポートするために以下の列が必要です。

組織のインポート

- 組織の表示名の形式
- 組織 コード
- 特性値コード
- 特性値の名前

属性のインポート

- 属性の表示名の形式
- 属性値のコード
- 属性値の名前
- 特性値コード
- 特性値の名前

特性のインポート

- 特性の表示名の形式

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 特性値コード
- 特性値の名前

科目のインポート

- 特性値コード
- 特性値の名前

組織、属性、特性の印刷対応ビューにはすべて、表示名、値のコード、値の名前の列が含まれています。

インテグレーションにおける表示名の要素

Workday Adaptive Planning インテグレーションにメタデータ コードを導入することで、以下に役立ちます。

- マッピング: ユーザーが外部メタデータ要素と Workday Adaptive Planning の内部要素を関連付けられるようになります。
- 情報の表示: インテグレーション ユーザーが重複するラベルを区別できるようになります。
- 検索: ユーザーがメタデータ コードに基づいて特定の要素を見つけられるようになります。

マッピング、表示、検索は、データ ソース、データ ローダ、メタデータ ローダの作成中およびメンテナンス中に行われます。

**Planning** データ ソースにおける表示名の要素

Planning データ ソースで共有パラメータを作成すると、以下が可能になります。

- 組織、属性値、特性値の表示名とコードを確認する。
- 表示名またはコードで共有パラメータを検索する。

管理対象ソースに対してコードを含めるかどうかを設定

既存のインスタンスで表示名を有効にして、"ソースの管理" をクリックすると、以下のソースの "コードを含める" をオンにできます。これにより、組織、属性、特性を追加したり、組織、属性、特性でフィルタリングしたりできるようになります。

- カスタム:
- キューブ シート
- モデル シート

いったん "コードを含める" をオンにすると、無効にすることはできません。

表示名を有効にすると、作成した新規の管理対象ソースでは、デフォルトで "コードを含める" が自動的にオンになります。

インテグレーション ローダにおける表示名の要素

表示名を有効にすると、属性、特性、組織のローダが列マッピングのコードに自動マッピングされます。列を自動マッピングする必要がある場合は、コード別または名前別に自動マッピングするように選択できます。

Planning データ ローダの列マッピング

データを送信すると、データは名前別ではなくコード別にロードされます。"列マッピング" タブを使用して列をマッピングする場合は、ソース ID 列をコードにマッピングします。ソース表示名列を名前にマッピングします。

Planning データ ローダのデータ マッピング

"データ マッピング" タブをクリックすると、以下の列別にすべての列または選択した列を自動マッピングできます。

- ソース ID 列
- ソース表示名列

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

"データ マッピング" タブからマッピングをダウンロードする場合、テンプレートではソース ID 列のコードが使用されます。マッピングをアップロードする場合、テンプレートではソース ID 列のコードが必要になります。

Planning データ ローダのデータ ソース設定

Planning データ ローダの "データ ソース設定" タブには、自動マッピングのセクションが含まれています。このセクションでは、ローダの実行時に、新しい科目、組織、または属性値を任意で自動マッピングできます。"組織を自動マッピング" と "属性を自動マッピング" ではコードがサポートされており、以下のオプションがあります。

- ソース ID をコードに自動マッピング
- ソース表示名をコードに自動マッピング

**API における表示名の要素**

表示名を有効にした API でメタデータをサポートできるようになりました `code` 条件:

- 呼び出しに API v30 以上を使用している。
- 以下を含めます。 `displayNameEnabled=1` パラメータ `dimensions` 要素 `attributes` 要素および `levels` 要素

含む `displayNameEnabled=0` ある要素に対する はその要素の表示名を無効にし、 を使用できなくなります。 `code` および用途 `name` 代わりに。

これらのバルク API によるサポート `code` 表示名を有効にして、すべて ID をキーとして使用している場合は、以下のようになります。

- updateAttributes
- updateDimensions
- updateLevels
- importDimensionMapping

これらのデータ API によるサポート `code` 表示名を有効にした場合、以下のようになります。

- eraseData
- exportConfigurableModelData
- exportData
- importConfigurableModeleData
- importStandardData
- importCubeData
- importTransactions

リクエストおよびレスポンスにおける表示名の要素の使用に関する詳細については、API の各ドキュメント ページを参照してください。

メタデータ バルク API による特性のタグ付け (API v32 および v33)

これらのバルク API によるサポート `valueCode` および `valueName` 表示名と使用状況が導入された API v32 および API v33 `displayNameEnabled=1`:

- `updateLevels` 上位目標 `valueCode` および `valueName` 次の中 `dimension` および `attribute` 要素
- `updateAccounts` 上位目標 `valueCode` および `valueName` 次の中 `attribute` 要素
- `updateDimensions` 上位目標 `valueCode` および `valueName` 次の中 `attribute` 要素
- `exportLevels` 上位目標 `valueCode` および `valueName` 次の中 `dimension` および `attribute` 要素
- `exportAccounts` 上位目標 `valueCode` および `valueName` 次の中 `attribute` 要素
- `exportDimensions` 上位目標 `valueCode` および `valueName` 次の中 `attribute` 要素

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

表示名を有効にして API v32 または API v33 を使用すると、これらの API により はサポートされなくなります。 name 特性要素内の

単一メタデータ API

以下の単一メタデータ API では、表示名はサポートされていません。

- updateDimension
- updateDimensionValue
- updateLevel
- createDimension
- createDimensionValue
- createLevel

数式における表示名の要素

表示名を有効にすると、数式で組織、カスタム属性値、または特性値を参照するときに、コードを使用する必要があります。以前に名前が表示されていたフォーミュラ アシスタントの任意の場所に、表示名が表示されます。

フォーミュラ アシスタントの要素ピッカーは、表示名とコードの両方に基づいて検索結果を生成します。数式の一部になるのは要素のコードのみです。

プロパティにおける表示名要素と数式のドット表記

表示名を有効にすると、 code プロパティにおける数式のドット表記プロパティにドット表記を使用して数式を作成すると、 によって組織、カスタム属性値、特性値を参照できます。 code。

注 : ドット表記では、既存の項目を手動で変更する必要があります。 .name への参照 .code (表示名が有効になっている場合)

表示名をドット表記にすると、計算時に一意性を確保できないため、使用できません。

レポートでカスタム計算の数式を使用した後に、表示名の形式を変更する場合は、数式を見直して正しく表示されるようにしてください。

シートにおける表示名の要素

表示名を有効にした場合、モデル シートのデータをダウンロードするには以下の 2 つのオプションがあります。

- ダウンロード: シート上の組織、属性値、特性値のコードを エクスポートします。モデル シートにデータをインポートして戻す場合は、このオプションを使用します。
- 印刷対応ビュー: 組織、属性値、特性値の設定済み表示名を エクスポートします。スプレッドシートを現在の "表示オプション" と一致させる場合は、このオプションを使用します。このバージョンのスプレッドシートをインポートすることはできません。

これらのオプションのいずれかを選択するには、以下を実行します。

- "シートの概要" からモデル シートを開く場合は、"ダウンロード" ボタンの横にある矢印をクリックします。
- ダッシュボードからモデル シートを開く場合は、詳細アイコンをクリックします。

標準シートとキューブ シートでは、"ダウンロード" オプションを使用すると、組織、属性値、特性値の表示名が引き続き エクスポートされます。また、シートで定義した "表示オプション" と引き続き一致しています。

レポートにおける表示名の要素
レポート ビルダーでは、選択した表示名の形式を使用して、以下のレポートで表示名別にメタデータ要素が表示されます。

- マトリクス レポート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- モデル レポート

レポートを表示する際、要素は表示名でロードされます。要素をビルダーにドラッグしてレポートを作成すると、表示名のみが表示されます。

マトリクス レポートのフォーミュラ アシスタントでは、ピッカーの要素が表示名別に表示されます。カスタム計算の数式では、選択した要素のコードが常に使用されます。

モデル レポートのフィルタでは、表示名が使用されます。

リンク組織のリフレッシュでの表示名要素

マルチインスタンス環境で親インスタンスと子インスタンスの表示名を有効にすると、リンク組織のリフレッシュによって名前が表示名に置き換えられます。

**OfficeConnect** の表示名

すべての OfficeConnect レポート要素について、ラベル定義におけるラベルのタイプ値として "表示名" を使用できます。このラベルのタイプ値は、Adaptive Planning での重複メタデータ名をサポートします。

テンプレートのインポート

"インテグレーションの > インポート データ" 内のインポート テンプレートの形式と手順が示すように、以下のインポートでは一意の識別子としてコードが必要になります。

- 標準データのインポート
- モデル シート データのインポート
- キューブ シート データのインポート
- トランザクション データのインポート

属性列が 2 列に分割されている場合:

- 属性 コード
- 属性 名前

"属性 名前" 列は任意です。この列が存在しない場合は、"属性 コード" が "属性 名前" になります。属性コードが異なる場合、属性名の値が重複する可能性があります。

"組織" 列ヘッダーは以下を示します。

- 組織 コード

"科目" 列ヘッダーは、ラベルとして以下のいずれかをサポートします。

- 科目コード
- 科目

注 : "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" を選択して、"コード" フィールドと "名前" フィールドに列のないテンプレートをインポートできます。このオプションを使用して、表示名が導入される前に作成された古いテンプレートからインポートすることもできます。 "一般設定" で "表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化" をオンにすると、アプリケーション全体で "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" が適用され、"インポート" ページのオプションが非表示になります。

## モデル概要

**概念: 視覚的なモデル概要**

"モデル概要" は、 "モデリング"をクリックすると、メイン メニューのフライアウト メニューに表示されるオプションです。以下についてのインサイトが得られます。

- シートの定義とタイプ
- シート上の科目

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 科目とシート間のデータフロー
- 科目階層

### モデル概要インターフェイス

"モデル概要" には以下が含まれます。

- モデル キャンバス: モデルの設計とデータ フローを示す図です。
- ツール バー: バージョン プロンプトと組織プロンプトを使用して、キャンバスをフィルタリングできます。
- "要素" パネル: 科目を選択してキャンバスをフィルタリングできます。

新しいシートを作成するか、科目への新しいリンクを作成すると、キャンバスが自動的に更新され、モデルで新しい接続が反映されます。

### モデル概要の操作方法

さまざまな方法でモデルを操作できます。

キャンバスでは、次の操作ができます。

- 拡大/縮小する。
- 異なる エリアでモデルの要素をドラッグして再配置する。
- ドラッグして任意の方向にスクロールします。
- 方向矢印をダブルクリックすると、リンクされている詳細 (ソース科目とターゲット科目など、数式と科目リンクの間) を表示するデータ フロー テーブルが開きます。 例:"モデリング" 内の科目にリンクすると、その科目の設定を表示または変更できます。
- シートをダブルクリックすると、科目、組織、属性、特性、前提条件、制限などのシート コンポーネントのリストが表示されます。"モデリング" でシート ビルダーにリンクすると、さらに探索したり変更を加えることができます。
- 科目クラスタをダブルクリックして、"モデル管理"の階層にリンクします。
- 図をキャンバスの中心に再配置する。

"要素" パネルでは次の操作ができます。

- キャンバスをフィルタリングする科目を選択します。"モデル概要" は、 総勘定元帳科目とカスタム科目を持つすべてのシートを検索する唯一の方法です。これは、どのキューブ シートに汎用科目とカスタム科目があるかを確認する最も早い方法です。
- リストを展開して科目階層を表示し、科目の合計ロジックを理解します。

注 : 行やオブジェクトをダブルクリックすると、フィルタを適用している場合でも、その行やオブジェクトのすべての詳細が表示されます。

relatedlinks
概念
概念: 科目 ( 887ページ )
タスク
科目の作成 ( 863ページ )
ステップ: キューブ シートおよびマージされたキューブ シートの作成 ( 1089ページ )
ステップ: モデル シートの作成 ( 1041ページ )
参考
参考: "モデル概要" キャンバスのアイコン ( 1285ページ )
例
標準シートの編集 ( 1038ページ )
例: モデル概要での科目の使用状況の検索 ( 885ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: モデル概要での科目の使用状況の検索

この例では、"モデル概要" を検索して科目を使用するシートを検索する方法を説明します。

このタスクについて

Adaptive Planning を初めて使用するユーザーが、"サービス収益" という科目を管理する必要があるとします。ユーザーは、以下について確認する必要があります。

- シート内でその科目がどこに位置するか。
- "科目" の管理ページでその科目がどこに位置するか (設定を変更するため)。
- その科目と、数式またはリンクによる他の科目との関係性

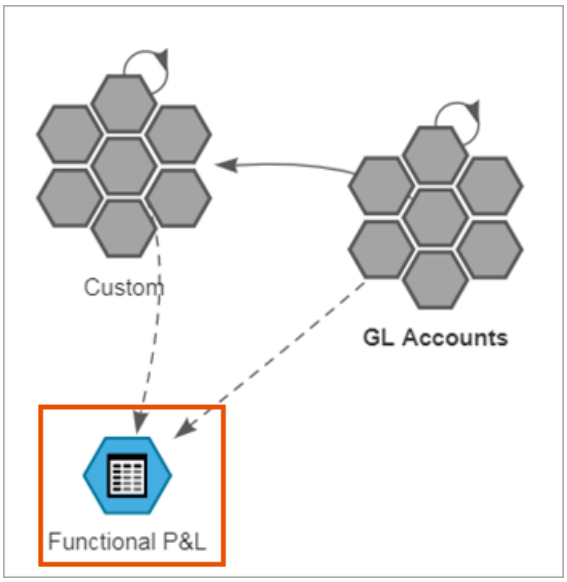
始める前に

セキュリティ:

- "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

手順

1. メイン メニューから "モデリング" > "モデル概要" を選択します。
2. ツールバーのプロンプトから、バージョンと、アクセス可能な最上位組織を選択します。
3. 検索フィールドに「サービス収益」と入力します。
4. 検索結果から "サービス収益" を選択して、モデル概要をフィルタリングします。
   概要に "Functional P&L" シートが表示されます。"シート" > "Functional P&L" に移動してして、その科目のデータをレビューできます。"サービス収益" 科目に関連する以下のグラフィックのみが表示されます。




5. 科目のパスを表示するには、検索結果の "サービス収益" の "場所" 列にマウスを合わせます。
   このパスは、"サービス収益" がカスタム科目であることを示しています。パスをメモします ("カスタム" > "Functional P&L Accounts" > "収益")。
6. カスタム科目のクラスタ グラフィックをダブルクリックします。
7. "カスタム管理" リンクを選択します。
   "カスタム科目管理" が新しいタブで開きます。
8. パスをたどり ("Functional P&L Accounts" > "収益")、科目リストを "サービス収益" が見つかるまで展開します。
9. 科目設定を表示または編集するには、"サービス収益" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

10."モデル概要" ブラウザ タブに戻ります。
11.実線の矢印をダブルクリックします。
科目クラスタ間の実線矢印は、リンクまたは数式を介した関係性を示します。クラスタ間のすべての参照がテーブルに表示されます。
12.テーブルで「サービス収益」を検索します。
このテーブルは、サービス収益が "4200 サービス収益" という総勘定元帳科目を参照する数式を使用することを示します。 この参照は、総勘定元帳に入力されたデータがカスタム科目のデータを計算することを意味します。
この数式は、科目のデフォルトの数式または共有数式である可能性があります。
13."サービス収益" をクリックして科目の管理画面を開き、"デフォルトの数式" フィールドをオンにします。
科目にデフォルトの数式がない場合は、メイン メニューから "数式" を選択し、ドロップダウン プロンプトから "サービス収益" を選択して共有数式を検索します。

relatedlinks
概念
概念: 視覚的なモデル概要（1282ページ）
概念: リンク元科目（920ページ）
概念: シート
参考
参考: "モデル概要" キャンバスのアイコン（1285ページ）

参考: "モデル概要" キャンバスのアイコン

| アイコン | 説明 |
| --- | --- |
| | 総勘定元帳、カスタム、前提条件などの標準科目階層 このアイコンをダブルクリックして、"モデル管理"で階層をリンクします。<br>キューブ科目およびモデル科目の階層では、シートのアイコンをダブルクリックします。<br>参照 概念: 科目（887ページ） 科目の詳細については、 を参照してください。 |
| | 標準シートダブルクリックしてシート定義をレビューします。"モデル管理"でシート定義のさまざまな部分にリンクできます。参照 標準シートの編集（1038ページ）。 |
| | モデル シート ダブルクリックしてシート定義をレビューします。 "モデル管理"で、科目階層を含むシート定義のさまざまな部分にリンクできます。参照 概念: モデル シートの作成（1047ページ）。 |
| | キューブ シートダブルクリックしてシート定義をレビューします。"モデル管理"で、科目階層を含むシート定義のさまざまな部分にリンクできます。参照 概念: キューブ シートの作成（1103ページ）。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アイコン | 説明 |
| --- | --- |
| | 科目がシートにあることを示します。シートとの間で接続された場合:<br>• 科目階層: 科目がシート上にあることを意味します。ダブルクリックすると、シートに表示されている階層内の科目が表示されます。<br>• 他のシートの場合、両方のシートが科目を共有していることを意味します。例: 総勘定元帳科目がキューブ シートと標準シートにある場合。 ダブルクリックすると科目が表示されます。 |
| | 以下を介した科目間の接続を示します。<br>• 数式参照<br>• 科目のリンク |

relatedlinks
概念
概念: 視覚的なモデル概要 ( 1282ページ )
例
例: モデル概要での科目の使用状況の検索 ( 885ページ )

## ステップ: カスタム按分の設定

### このタスクについて

シートの合計セルにデータを入力する場合、按分方法を使用して、その加重値に従ってその値を関連セルに自動的に配分できます。 シートの設定方法に応じて、以下の按分方法が自動的に提供されます。

- 比率
- 比率 (過去の年の値を使用)
- 均等
- 加重 *4-4-5*
- 加重 *4-5-4*
- 加重 5-4-4
- 作成したカスタム按分方法。

カスタム按分方法の加重値を設定するには、この按分方法専用の前提条件科目を作成します。この前提条件科目を標準シートに追加した後、この科目のシート セルを編集して加重値を設定します。 プラン担当者は、カスタム按分の前提条件科目が追加されていないシートを含め、あらゆるシートでこのカスタム按分方法を使用できます。

### 手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
   セキュリティ: "管理アクセス" 権限
2. "一般設定"を選択します。
   セキュリティ: "一般設定" 権限
3. "自動按分" プロンプトで ″なし″を選択します。
   参照 参考: 一般設定 ( 1390ページ )。
4. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を 選択します。
   セキュリティ:″モデル管理アクセス″ 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. "科目 " セクションで "前提条件"を選択します。
   セキュリティ:"前提条件" 権限
6. ツールバーの "新規科目を作成" アイコンを選択します。
7. 次を参考にして、カスタム按分に使用する新しい前提条件科目を作成します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 入力者がシートで使用する按分方法を選択すると、この科目名が表示されます。 |
| 按分で使用 | このチェックボックスをオンにします。 |

8. "保存" を選択します。
9. メイン メニューから "モデリング" > "モデル管理" を 選択します。
   セキュリティ:"モデル管理アクセス" 権限
10. カスタム按分方法の加重値を設定する標準シートへのアクセス権の割当方法に応じて、以下のいずれかを選択します。
    - 組織割当シート
    - ユーザー割当シート

    ユーザー割当シートにカスタム按分科目を追加すると、加重値を変更できるユーザーへのアクセスをより簡単に制限できます。

    セキュリティ: "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限
11. 標準シートの横にある "編集" を 選択します。
12. "科目グループ" を選択します。
13. (任意)"新しいグループ" を選択して、按分前提条件科目をこのシートの他の科目と区別して分類します。
14. 按分前提条件科目を追加する科目グループを選択します。
15. "科目を選択" セクションで按分前提条件科目を検索します。
16. "グループに追加"を選択します。
17. "完了"を選択します。
18. 按分前提条件科目をユーザー割当シートに追加した場合、シートにアクセスできることを確認するために "アクセシビリティ" を 選択します。
19. シートを開く（35ページ）.
    按分前提条件科目を追加したシートを開きます。
20. 按分の前提条件科目のセルに、加重値を入力します。
    セキュリティ: "編集可能なシート アクセス" 権限
21. "保存" を選択します。

タスクの結果

プラン担当者がこのカスタム按分方法を使用してデータを入力した後でも、加重値を変更できます。 その方法をすでに使用した後で加重値を変更した場合は次のようになります。

- 入力者がすでにカスタム按分方法を使用していたセルには、新しい加重値は自動的には適用されません。
- プラン担当者が次回カスタム按分方法を使用するときに、新しい加重値が適用されます。

古い加重値を使用して入力されたセルと新しい加重値を使用したセルは、同じシートに存在できます。

relatedlinks
タスク
時間合計でのデータの按分（69ページ）
科目、組織、属性の合計でのデータの按分（71ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## 概念: Adaptive Planning からの計画のパブリッシュ

パブリッシュ用の計画は、以下を含む Adaptive Planning 計画バージョンです。

- 日付範囲
- 組織
- 科目
- 属性
- 1 つ以上のシート

パブリッシュする場合、Adaptive Planning バージョンのデータをドラフトとして Workday HCM、財務管理、または Adaptive Planning および連結 (AP&C) の財務予算に送信します。次の操作ができるように、計画をパブリッシュします。

- Workday で計画をプレビューする。
- 管理報告を生成する。
- レビューを必要とせずに迅速にポジションを作成する。

財務計画または人員計画をパブリッシュする前に、Workday の計画管理者は計画構造を構築して計画テンプレートを作成する必要があります。計画テンプレートには、Adaptive Planning バージョンの開始日と終了日に一致する属性、勘定科目、期間、開始日と終了日が含まれます。

ワークフォース プランニング アクションをパブリッシュする前に、Workday の計画管理者が "ワークフォース プランニング アクション イベント" タスクを設定します。

Adaptive Planning バージョン管理内で、管理者がバージョンを選択し、以下の計画タイプの 1 つ以上に対するパブリッシュ アクセスを有効にします。

- 財務: AP&C と Workday の財務管理で機能します。
- 人員
- 従業員

管理者ロールと以下の権限の少なくとも 1 つが割り当てられている場合、Adaptive Planning のメイン ナビゲーション メニューから "計画のパブリッシュ" にアクセスできます。

- Workday に財務計画をパブリッシュする
- Workday に人員計画をパブリッシュする
- Workday にワークフォース アクション計画をパブリッシュする

パブリッシュの権限によって、パブリッシュできる計画のタイプが決まります。パブリッシュ先の計画を選択し、設定とマッピングを設定してパブリッシュします。

要員計画はポジションのモデル シートから直接パブリッシュできるため、パブリッシュ時に計画を構成するフィルタ済の行を表示できます。

パブリッシュでは、ワークタグを選択すると自動的に他のワークタグが選択される "Worktag Type Precedence" はサポートされていません。

### 財務計画

財務計画を使用すると、Adaptive Planning で予算を計画し、そのデータをドラフト予算として Workday にパブリッシュできます。財務計画をピーク時以外の時間帯にパブリッシュするようにスケジュールできます。

### 人員計画

人員計画を使用すると、Adaptive Planning で新規ポジションを集約して計画し、その情報を ヒューマン キャピタル マネジメントにパブリッシュできます。 ワークフォース コスト (CoW) 科目の値をパブリッシュする際に、Workday のリアルタイムの情報を計画と比較できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ワークフォース プランニング アクション

ワークフォース プランニング アクションでは、Adaptive Planning で新規ポジションを計画し、ヒューマン キャピタル マネジメントにパブリッシュできます。これにより、以下が可能になります。

- Adaptive Planning から計画された新規ポジションの情報をパブリッシュする。
- ワークフォース プランニングのアクションを直接ヒューマン キャピタル マネジメントに送り、下流のレビューをスキップする。
- ポジション作成のために送信する前に、パブリッシュされたデータをレビューして充実させる。
- 新規作成されたポジションを照合調整し、モデル シートに戻す。

ワークフォース プランニング アクションは、"ポジションの作成" または "職務補充依頼の作成" ビジネス プロセスの開始アクションのデータのみをサポートします。 ワークフォース プランニング アクションでは、サブ ビジネス プロセスはサポートされていません。

relatedlinks
概念
ステップ: Adaptive Planning からの財務計画のパブリッシュ
ステップ: Adaptive Planning からの人員計画のパブリッシュ
ステップ: Adaptive Planning からのワークフォース プランニング アクションのパブリッシュ

## 参考: メタデータのコードと名前のベスト プラクティス

すべてのメタデータに関する一般的なガイドライン

特定のガイドライン

メタデータの名前とコードには、以下の名前とコードが含まれます。

- 科目
- 特性および特性値
- カレンダー
- カスタム属性および属性値
- 組織
- モデル シートのテキスト セレクター列
- バージョン。
- シート

モデル全体のすべてのメタデータ名とコードについて、以下のことを避けてください。

- 絵文字: 意図したとおりに表示されません。
- 異なる要素に同じ単語を使用すること: 数式に不正確な参照が作成される可能性があります。例: "組織" 名として "エンジニアリング" を使用する場合、カスタム属性名として "エンジニアリング" を使用することは避けてください。

次の名前とコードを作成する際に避けるべきその他の文字と単語があります。

- 特性と値
- カスタム属性と値
- 組織
- モデル シートのテキスト セレクター列

名前またはコードでこれらの文字と単語を使用すると、数式計算または数式要素に同じ文字と単語が一致するため、数式エラーやその他の予期しない結果が生じる可能性があります。文字または単語が名前またはコードの先頭または末尾にある場合、エラーや予期しない結果が発生する可能性が高くなります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| 単語または文字 | 避けるべき理由 |
| --- | --- |
| • Time<br>• Year<br>• QTR<br>• Month<br>• Day<br>• Week<br>• カレンダーでカスタム時間層に使用するすべての単語 | 数式とドット表記は、これらの単語を使用してバージョンまたは時間要素を参照します。 |
| • Level<br>• Only<br>• (Only)<br>• Dim | 数式は、これらの単語を使用して組織またはカスタム属性要素を参照します。 |
| • Acct<br>• Account<br>• Local<br>• Uncategorized<br>• Assum<br>• 分割<br>• ラベル<br>• 合計 | 数式は、これらの単語を使用して科目要素を参照します。 |
| • アスタリスク *<br>• キャレット ^<br>• カンマ ,<br>• 中かっこ {}<br>• ドル $<br>• 等号 =<br>• フォワード スラッシュ /<br>• 大なり ><br>• ハッシュタグ #<br>• ハイフン -<br>• 小なり <<br>• プラス +<br>• 引用符 "<br>• 角かっこ [] | 数式は、これらの記号を関数要素および構文要素として使用します。 |
| Row | 数式は、この単語を使用してモデル シートの行を参照します。 |
| This | 数式は、ドット表記の参照にこの単語を使用します。 |
| smape | Predictive Forecaster は、社内で "Confidence Metrics" という用語を使用しています。 |

## 参考: ワークフォース ファンデーション モデル

Adaptive Planning では、Workday ヒューマン キャピタル マネジメントによるワークフォース プランニングのファンデーション モデルを使用します。各モデル コンポーネントとこれらのコンポーネント間の相互関係を理解して、モデルで変更できるもの、および変更できないものを確認してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

重要 : 各セクションの許可および禁止事項に従い、モデルの基盤となるロジックが壊れないようにしてください。

バージョン
モデルには実績バージョンと次の 3 つの計画バージョンが含まれています。

- 現在作業中の計画: このバージョンのデータはデータ ローダによってロードします。
- 当年度の年間ヘッドカウント プラン
- YYYY 戦略的要員計画

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • 追加の計画バージョンを作成する。<br>• 既存のバージョンの設定を編集する。<br>• YYYY 戦略的要員計画の「YYYY」を年に置き換えて更新する。 | • 既存のバージョンを削除する。 |

科目
モデルには、標準的な総勘定元帳科目と、ワークフォース プランニングに特化した一連のキューブ科目およびモデル科目が含まれています。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • 総勘定元帳科目を使用する。<br>• カスタム科目を作成する。<br>• 作成した新しいシートに任意の科目を追加する。 | • 既存のキューブ科目またはモデル科目の科目設定を削除または変更する。 |

組織

次の 3 つのいずれかをマッピングできます。 Workday 属性 Adaptive Planning 組織:

- 会社組織。組織の優先属性です。
- コスト センター組織
- 監督組織

組織にマッピングしなかった残りの 2 つの属性は、カスタム属性としてロードできます。これにより、さまざまなワークフォース シナリオをモデリングするために必要な柔軟性を確保できます。

組織ローダを実行すると、選択した属性が組織階層に反映されます。 WorkdayHCM

カスタム属性

モデルには複数のカスタム属性が含まれています。ローダは多数の属性の属性値を作成します。属性はワークフォース プランニング シートの列として表示される場合があります。ユーザーまたはユーザーのチームは、セルのドロップダウン メニューから値を選択できます。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • 新しい属性を作成する。<br>• 新しい属性を新しいシートに追加する。<br>• 禁止事項のリストに含まれていない属性の属性値を作成または編集する。 | • 既存の属性を削除する。<br>• 既存の属性の設定を編集する。<br>• 既存のシートに既存の属性や新しい属性を追加する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| | • 以下の属性の属性値を追加、編集、削除する。<br>  • 会社 (組織に使用していない場合)<br>  • コスト センター (組織に使用していない場合)。<br>  • 社員タイプ<br>  • 職務補充依頼<br>  • 職務プロファイル<br>  • 勤務地<br>  • 管理組織<br>  • ポジション<br>  • ポジションのステータス<br>  • 監督組織 (組織に使用していない場合)<br>  • 従業員 |

特性
Adaptive Planning では、組織、科目、属性特性を使用できます。特性は組織、科目、属性値にタグ付けされます。特性を使用すると、データをさまざまにグループ化してレポートを作成できます。

属性ローダを実行すると、2 つの特性が属性とともにロードされます。特性値は で事前設定され、定義されています。 Workday カスタム レポート:

- 勤務地の国は場所属性にタグ付けされます。値は場所属性ローダを使用してロードされます。
- 従業員タイプは従業員属性にタグ付けされます。値は従業員属性ローダを使用してロードされます。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • 特性や値を作成する。<br>• タグ属性がロードされなかった元 Workday HCM | • ロードした特性を削除または変更する。<br>• ロードした特性の特性値を作成、変更、削除する。<br>• からロードされた属性の特性を変更 Workday HCM |

シート

モデルには事前構築済みのシートが含まれています。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • データをすべてのシートに追加する。<br>• 新しいシートを作成する。<br>• シートに表示列を追加する。 | • 既存のシートを削除する。<br>• シートの列、科目、または属性を削除する。<br>• 属性や特性を既存のシートに追加する。<br>• 既存のシートから特性を削除する。<br>• 今後のワークフォース プランニング モデルの開発用のシートを使用する。 |

relatedlinks
概念
概念: HCM を使用したワークフォース プランニング ( 27ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

## 参考: Financial Planning の基本モデル

Adaptive Planning は、Workday 財務管理を使用した財務計画の基本モデルを提供します。各モデル コンポーネントとこれらのコンポーネント間の相互関係を理解して、モデルで変更できるもの、および変更できないものを確認してください。

### Versions

モデルには実績バージョンと次の 3 つの計画バージョンが含まれています。

- デフォルト バージョン
- 現在のバージョン
- 現在の予測

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • 追加の計画バージョンを作成する。<br>• 既存のバージョンの設定を編集する。 | • 既存のバージョンを削除する。 |

### Time

モデルには、次の時間層のデフォルト カレンダーが指定されています。

- 会計期間
- 四半期
- 会計年度

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • カレンダー名を変更して、コア テナントの会計スケジュール名と一致させます。<br>• コア テナントと Adaptive Planning の間で時間層を常に調整する。 | • コア テナント以外の時間層を追加してください。<br>• コア テナントにないカレンダーを追加する。 |

### 科目

モデルには、標準の総勘定元帳科目と、財務計画に特化した一連のキューブ科目およびモデル科目が含まれています。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • カスタム科目を作成する。<br>• 作成した新しいシートに任意の科目を追加する。 | • 既存のキューブ科目またはモデル科目の科目設定を削除または変更する。 |

### 組織

最大 3 つの Workday 組織を Adaptive Planning の組織にマッピングできます。会社は必須です。選択した 3 つの組織のいずれかである必要があります。

### カスタム属性

モデルには複数のカスタム属性が含まれています。ローダは多数の属性の属性値を作成します。属性は財務計画シートの列として表示される場合があります。ユーザーまたはユーザーのチームは、セルのドロップダウン メニューから値を選択できます。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • 新しい Planning 専用属性を作成します。これらは、コア テナント内の組織または | • 既存の属性を削除する。<br>• 既存の属性の設定を編集する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| ワークタグではないディメンションになります。<br>• 新しい属性を新しいシートに追加する。<br>• 禁止事項のリストに含まれていない属性の属性値を作成または編集する。 | • 既存のシートに既存の属性や新しい属性を追加する。<br>• 以下の属性の属性値を追加、編集、削除する。<br>  • Asset_Class<br>  • 顧客<br>  • 資金<br>  • 職務プロファイル<br>  • 勤務地<br>  • 役職<br>  • ポジション ステータス<br>  • プログラム<br>  • プロジェクト<br>  • 収益カテゴリ<br>  • 支出カテゴリ<br>  • 監督組織<br>  • サプライヤ<br>  • 従業員 |

特性
Adaptive Planning では、組織、科目、属性特性を使用できます。特性は組織、科目、属性値にタグ付けされます。特性を使用すると、データをさまざまにグループ化してレポートを作成できます。

属性ローダを実行すると、2 つの特性が属性とともにロードされます。属性値は事前設定され、Workday カスタム レポートで定義されています。

- "会社" および "コスト センター階層" の属性は、"組織" 構造にタグ付けします。値は、FIN PCM または事前設定された組織ローダを使ってロードされます。
- "国" は "場所" 属性をタグ付けします。値は場所属性ローダを使用してロードされます。
- 従業員タイプは従業員属性にタグ付けされます。値は従業員属性ローダを使用してロードされます。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • 特性や値を作成する。<br>• Workday FIN または HCM からロードされていないタグ属性。 | • ロードした特性を削除または変更する。<br>• ロードした特性の特性値を作成、変更、削除する。<br>• Workday FIN または HCM からロードされた属性の特性を変更する。 |

シート
モデルには事前構築済みのシートが含まれています。

| 許可事項 | 禁止事項 |
| --- | --- |
| • データをすべてのシートに追加する。<br>• 新しいシートを作成する。<br>• シートに表示列を追加する。 | • 既存のシートを削除する。<br>• シートの列、科目、または属性を削除する。<br>• 属性や特性を既存のシートに追加する。<br>• 既存のシートから特性を削除する。<br>• 今後の財務計画モデルの開発用のシートを使用する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: Financial Planning の設定

## 参考: セールス プランニング ソリューションへのリンク

| トピック | リンク |
| --- | --- |
| 地域プランニングの概要。<br>地域プランニング ソリューションの機能をハイライトするダッシュボード、シート、モデル、インテグレーション タスクのサンプル セットをレビューします。当社の地域プランニング ソリューションは、計画と日々の業務アクティビティの両方を管理するのに役立ちます。 | 例: 地域プランニング ソリューション |
| ダッシュボード上のシート<br>以下の方法を学びます。<br>• ユーザー プリファレンスの保存<br>• 期間を管理する。<br>• ダッシュボード エリアのコンテキスト フィルタの操作 | • アクティブ ダッシュボードの概要<br>• アクティブ ダッシュボードの機能強化のビデオ<br>• ビデオ表示の異なるシート グラフの作成<br>• ダッシュボード上のシートのビデオに関するエクスペリエンスが強化されました<br>• ダッシュボードでのシートの追加 |
| 科目リストと科目情報<br>以下の方法を学びます。<br>• エリアをフィルタリングします。<br>• 単語ベースの検索を実行する。<br>• 複数条件のフィルタリングを使用する。<br>• フィルタリング済みリストのダウンロード<br>• ソート。 | 科目リストの管理と科目情報の探索 |
| 派生属性を使用した科目の区分け。<br>以下について学習します。<br>• スケーラビリティを考慮した自動ルールベースの科目割当設計<br>• 多段階トップダウンの科目区分のカスケード ルール<br>• 科目の手動割当<br>• 属性マッピング ルールのインポートとエクスポート<br>• データ アクセスの制御 | ビデオ:<br>• 派生属性の概要<br>• 属性と販売インセンティブ報酬の例のビデオ<br>• 組織の継承と UI の機能強化<br>参考:<br>• ステップ: 派生属性の設定（995ページ）.<br>• カスタム属性の属性マッピングの有効化（996ページ）<br>• ダッシュボードでの属性マッピング テーブルの追加<br>• 派生属性のマッピング ルールの追加 |
| 地理マップによる地理空間分析<br>以下の方法を学びます。<br>• ヒートマップ形式の地理コード マップによる地域割当をビジュアル化します。<br>• 地理階層に沿って郵便番号まで地理空間分析を実施する。 | 地域階層の管理 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| トピック | リンク |
| --- | --- |
| 科目の変更リクエストと承認フロー。<br>以下の方法を学びます。<br>• 科目の地域変更リクエストを送信します。<br>• 科目の変更リクエストをレビューおよび承認します。 | 科目の移転の変更リクエストと承認フロー |
| セキュリティ<br>セキュリティの設定方法を学びます。 | アクセス ルール |
| インテグレーション<br>以下について学習します。<br>• Planning データ ソース<br>• データ ソース<br>• ローダ<br>• タスクとスケジュール | データ ソース:<br>• 概要: データ ソースとしての Adaptive Insight<br>• ステップ: Salesforce データ ソースの設定<br>• ステップ: Planning データ ソースの設定<br>• 概念: データ ソース<br>ローダ:<br>• カスタム クラウド ローダ<br>• 概念: ローダ<br>• Planning データ ローダの作成<br>• Planning 属性ローダの作成<br>• インテグレーション タスクの作成 |

relatedlinks
概念
概念: セールス プランニング ( 26ページ )

# モデリングの FAQ とトラブルシューティング

## バージョンと時間に関する FAQ

予算データをカバーしない実績のオーバーレイ

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
予算で "計画の開始" を先に進めた後、"実績" のオーバーレイが更新されないのはなぜですか？

回答
ロック済バージョンで "計画の開始" を前に移動した場合、データは引き続き元の "計画の開始" 設定から開始されます。計画の開始を更新するには、"ロック済バージョン" チェックボックスを一時的にオフにし、バージョンを保存して、もう一度ロックします。

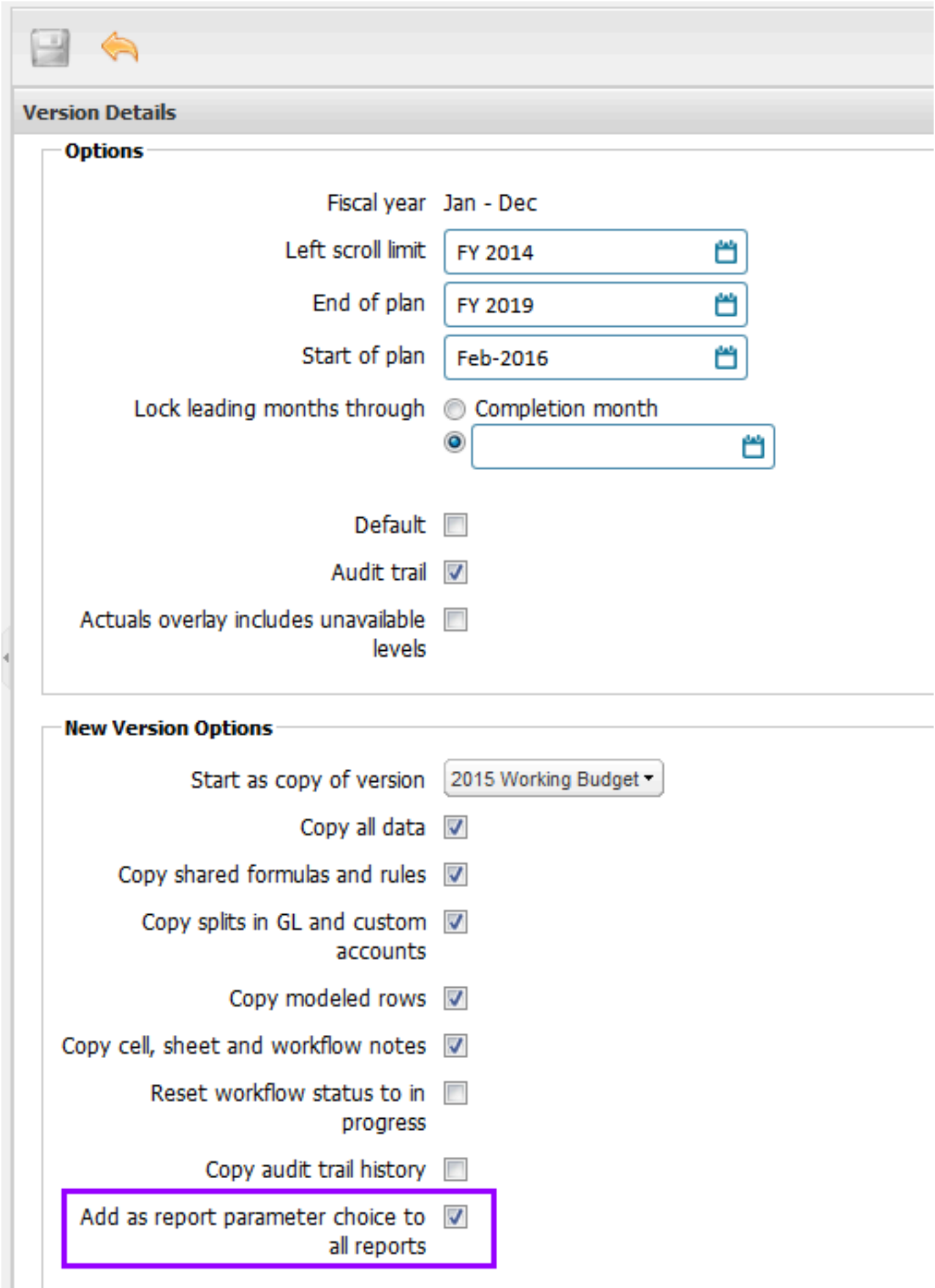
デフォルトでのレポート パラメータへの新しいバージョンの追加

質問
デフォルトでレポート パラメータに新しいバージョンを追加するにはどうすればよいですか？

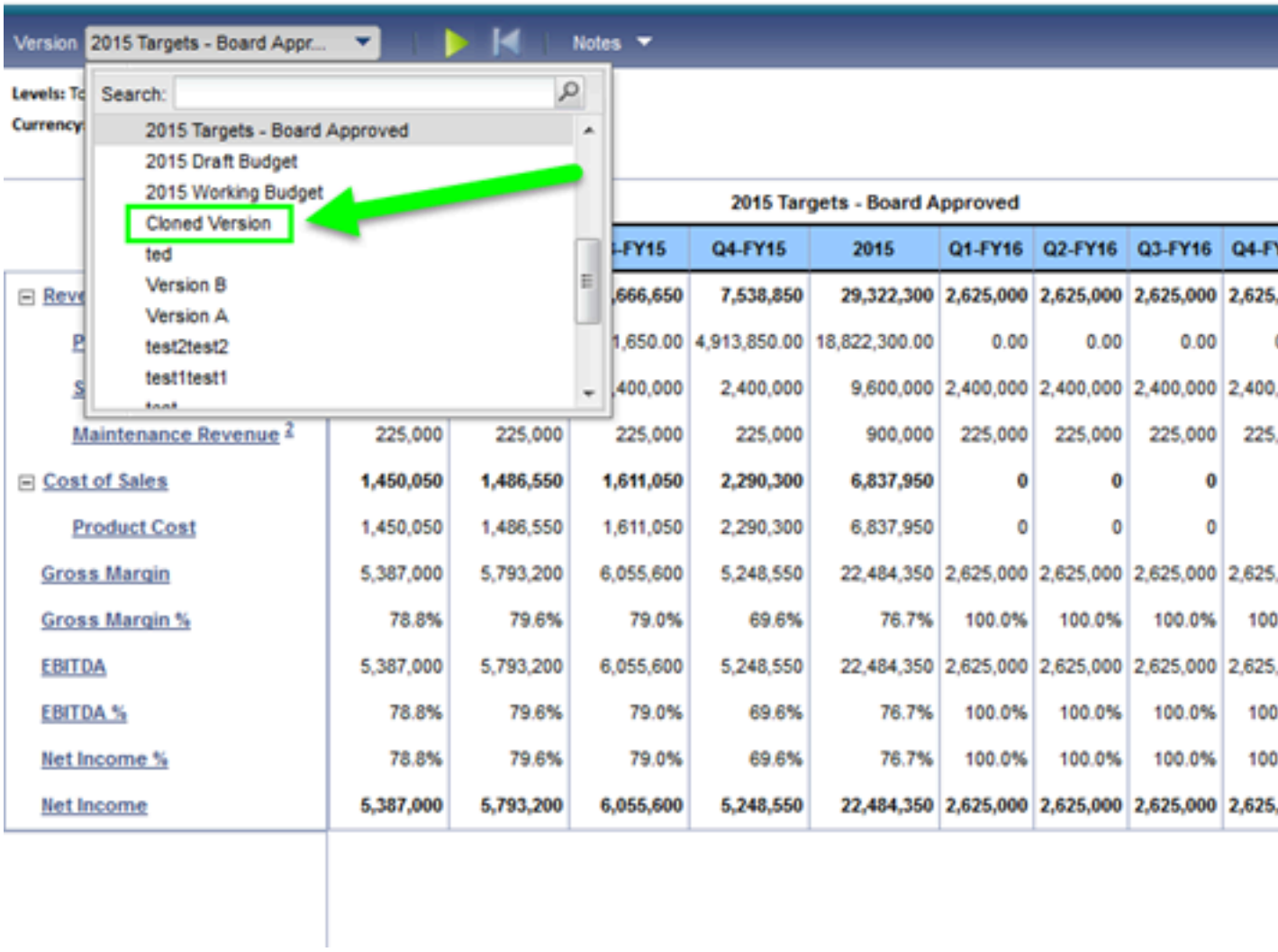
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答
管理者がバージョンのクローンを作成すると、新しいバージョンをレポート パラメータに自動的に追加できます。"レポートのパラメータの選択肢としてすべてのレポートに追加" チェックボックスがオンになると、パラメータとしてバージョンが指定されているすべてのレポートに新しいバージョンが追加されます。このチェックボックスがオフの場合、ソース バージョンがレポートのパラメータ ドロップダウン内で現在使用可能な場合にのみ、新しいバージョンがレポートのパラメータに追加されます。以前は、チェックボックスがオンでない場合、レポートのパラメータにバージョンは追加されませんでした。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



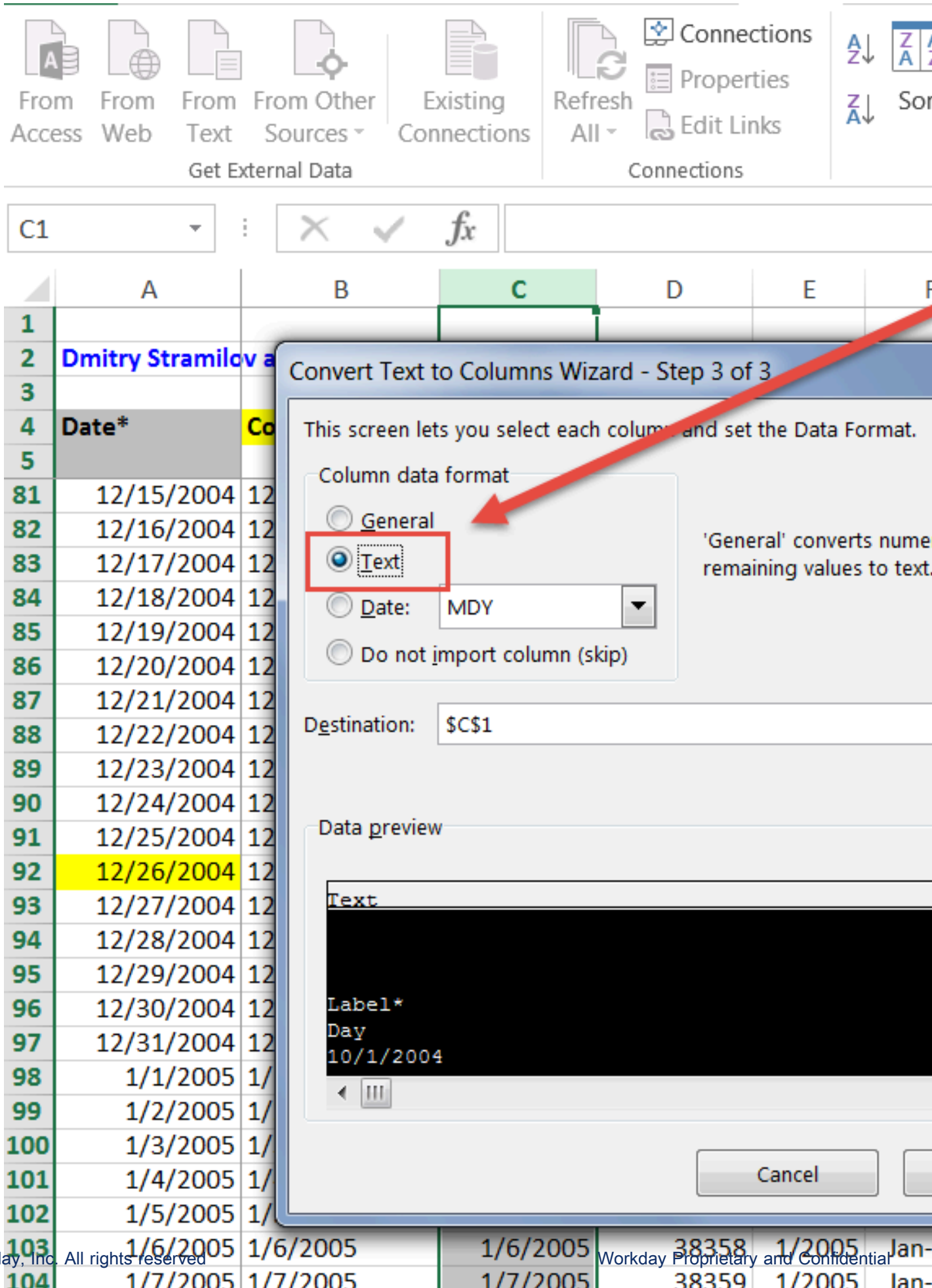

カレンダーの時間コードに日付ではなく数値が表示される

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
カレンダーを更新していますが、インポート後、時間コードが日付の代わりに数値で表示されているのが表示されます。

回答
これは、コード列が日付の形式になっている場合に発生する可能性があります。これは、インポートによって Excel の日付形式が Excel の日付の数値に変換されるためです。これを修正するには、列の値をテキストに変換してから、再度インポートを実行します。これを行う簡単な方法の 1 つが、Excel 内で "テキスト形式で列を表示" オプションを使用することです。

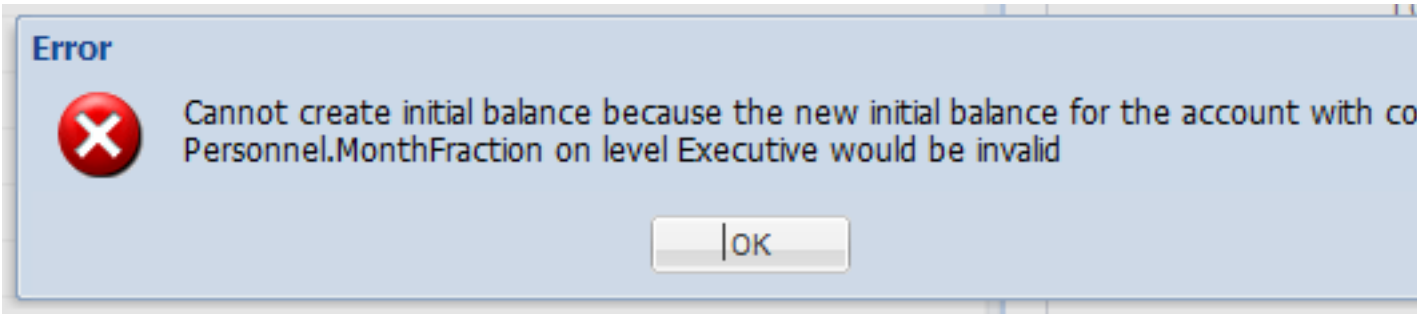
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

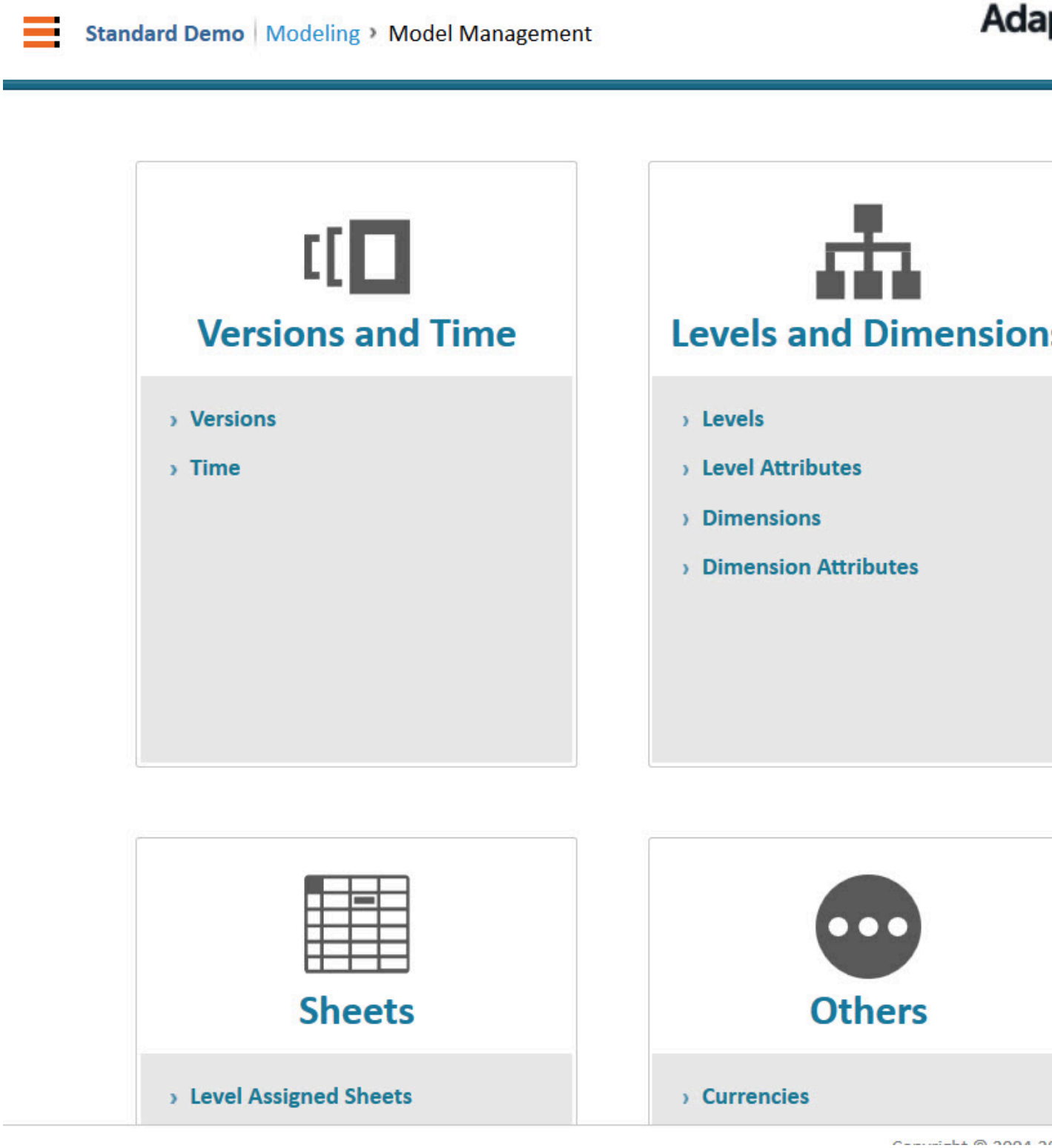
コードのある科目の初期残高が新しいため、初期残高を作成できません。

質問
新しいバージョンを作成しようとしましたが、このエラーが続いています。原因は何ですか？




回答
通常、このエラーが表示されるのは、数式エラーのために科目の初期の残高が新しいバージョンで無効になるからです。数式エラーを特定するには、"モデル管理" から "数式の検証" レポートを実行します。数式エラーが修正されたら、新しいバージョンを作成できるようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




新しいバージョンへの実績のコピー

質問

実績バージョンを計画バージョンにコピーする方法はありますか？一定の FX で実績の結果を分析したいので、コピーを作成する必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

現在、Adaptive Insights には実績バージョンを別のバージョンに自動的にコピーする機能はありません。実績バージョンからデータをエクスポートしてから、計画バージョンにデータをインポートする必要があります。この機能に対する拡張リクエストが提出されています。

現在のバージョンの検索

質問
レポートは "現在のバージョン" で実行されていますが、レポートのデータがシートのデフォルトの "バージョン" のデータと一致しません。現在のバージョンについて説明していただけますか？

回答
"現在のバージョン" は常に、"バージョン" ドロップダウン セレクターで現在選択されているバージョンになります。これは、"現在のバージョン" が、常にモデルのデフォルトの "バージョン" になるわけではないことを意味しています。レポートの実行時にセレクターに表示される「バージョン」、つまりレポートが「現在のバージョン」でフィルタリングされている場合に、レポートでデータの取得元となる「バージョン」

注：レポート ビルダーにバージョンが含まれていない場合、レポートは常に "現在のバージョン" で実行されます。

"次の時点までのすべての月をロック" のバージョン設定

質問
"次の時点までのすべての月をロック" 設定はどのように制御され、"完了月" はどのような意味ですか？また、ロックされた月でどのような変更が防止されますか？

回答

- "次の時点までのすべての月をロック" フィールドが空白に設定されている場合、"バージョン" のどの月もロックされません。
- "完了月" に設定した場合、"次の時点までの確定数字を表示" 設定で選択された月は、バージョン内のすべての月とともにロックされます。"次の時点までの確定数字を表示" 設定は、"実績バージョン" の詳細にあります。
- 特定の月に設定した場合、システムは、選択された月およびそれ以前の月のバージョンのデータに対するすべての変更を防止します。月をロックすると、その他のすべてのバージョンのアクセス制御がオーバーライドされます。これは、バージョンに対するインポート権限または完全アクセス権限を持つユーザーが、そのバージョンのロックされた月のデータを変更できないことを意味しています。

ロックされた月に防止 される 変更:

- 標準/キューブ シートの初期残高 (これには、モデル シートの "初期残高" 列は含まれませ ん )
- データのインポート
- 手動データ入力
- バージョン内の "共有数式" に加えられた変更。
- バージョン内のロック済月の値を変更するような方法で配賦ルールまたは相殺消去ルールの内容を変更すること。

注：月をロックしても、ユーザーはその月のデータに変更を加えることができないだけです。ロックされた月のデータを表示または参照しようとした場合、ロックされていることによる影響は受けません。ロックされた月は、動作に変更なく、引き続きレポートまたはエクスポートで使用できます。

妨げ られない 変更:

- 組織のワークフローのステータス
- 構造要素 ("組織" または "科目構造")

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- ロック済月の数式が将来のロック解除済月を参照している場合でも、将来の月の値。

この機能には、別のバージョンに表示される実績データ、または実績値から取得する数式に基づいて計算される予算バージョンのデータに対する変更を防止することは含まれません。今後、実績データに変更が加えられることが分かっており、実績に基づいて他のバージョンのデータが変更されるのを望まない場合は、暫定の実績値を予算バージョンにインポートしてから月をロックすることを検討できます。この方法では、計画バージョンに影響を与えることなく、実績への変更を続けることができます。

バージョンからユーザー編集を削除

質問
モデルでメンテナンスを実行しているため、既存のユーザー編集をすべて削除したいと考えています。これを行う唯一の方法として認識されているのは、"数式" タブに移動し、各科目について、すべての組織をハイライトして "ユーザー編集を削除" ボタンをクリックすることです。モデルに多くの科目が含まれているため、このプロセスに時間がかかる可能性があります。ドロップダウンの各科目を手動でクリックする必要がないように、これをより迅速に行う方法はありますか？

回答
計画 (実績以外) バージョンの場合、次のことが機能する可能性があります。

"モデリング" > "バージョン"で、すべてのユーザー編集をクリアするバージョンを選択します。"計画の開始" を現在の "計画の開始" より前の日付に戻す (2007 年 1 月など)。"計画の終了" を 2007 年 12 月に、"表示開始月" を 2007 年 1 月に移動します。保存:次に、"計画の開始"、"計画の終了"、"表示開始月" の日付をバージョンで求められる値に移動します。これにより、シートに入力されたすべてのデータがクリアされますが、"数式" タブの数式には影響しません。

## 組織、属性、特性に関する FAQ

予測に対する実績の年換算

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
実際の経費の平均を計算して、会計年度全体の経費の見積を算出したいと考えています。たとえば、5 か月分の経費 (7 月および 11 月) がある場合、経費 (7 月 ~ 11 月) を 5 か月で割り、それに 12 か月を掛けることで経費 (7 月 ~ 6 月) を求めます。

回答
通常、予測のために実績を年換算したいと考えているクライアントは、前提条件とカスタム科目を使用してこれを行います。

この例では、計画バージョンの収益科目を予測するために実績を年換算するとします。

1. 以下の 2 つの前提条件科目を作成します。
    - フラグの入力
    - 実績月数 `=12-ASSUM.Flag[time=this.year]` 計画バージョン
2. 次の数式を使用して、"年初来の収益の実績" のカスタム科目を作成します。
    - 実績バージョン `=ACCT.Revenue[time=this.year]` これにより、"実績" バージョンの "収益" 科目の年初来値が計算されます。
    - 計画バージョン `=ACCT.YTD_Revenue_Actuals[time=this-1]` これにより、"収益" 科目の "年初来の実績" の値が計画バージョンに取り込まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 次の数式を使用して、Planning バージョンで "年換算収益" 科目の数式を作成します。
    - `=div (ACCT.YTD_Revenue_Actuals, ASSUM.NumberofActualsMonths)` これにより、"収益" 科目の "年初来" 実績が現在の "実績" 月数で除算されます。
    - 役立つヒント: 上の数式は、当年度の "収益" 科目の年換算の実績値のみを計算します。この例では、これは 2013 年になります。値を他の Planning 年度に繰り越す場合は、数式ロジックを追加できます。`if (ASSUM.NumberofActualsMonths>0,div(ACCT.YTD_Revenue_Actuals,ASSUM.NumberofActua` これは、当年度に実績月がある限り、上記の数式に従って計算することを意味しています。実績月がない場合は、実績がある年度の最後の月の勘定の値を繰り越します。

セル エクスプローラーを使用すると、2013 年 8 月において、数式によって "収益" 科目の "年初来の実績" 値が 7 か月の "実績" で除算されていることを確認できます。

注 : 便利なヒント:"数式" タブを使用して、ステップ 2 と 3 で作成した数式を、科目を年換算する必要があるすべての組織に入力します。

最上位組織の通貨を変更

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
Adaptive 内で社用通貨を変更することは可能ですか？どのようにすればよいですか？

現在、階層の最上位にカナダのエンティティがあり、その下に USD と GBP があります (連結にロールアップ)。USD レポートに移行します。そのため、これが最上位レベルであり、ここに CAD と GBP がロールアップされている必要があります。

これらの変更を行うために必要なプロセスについてアドバイスしてください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答
まず、プランの通貨を変更する必要があるか、または別の通貨でレポートを作成するだけで十分かどうかを検討します。レポート作成だけが必要な場合、レポートで属性を使用することをお勧めします。

それ以外の場合は、"モデリング" ページの "通貨" リンクをクリックして社用通貨を変更できます。社用通貨を CAD から USD に変更する前に、まず追加の通貨 (USD、GBP) を削除する必要があります。社用通貨を指定したら、他の通貨 (CAD や GBP) で再度追加できます。

社用通貨を変更するためにすべての通貨を削除しても、標準シートに存在するデータには影響しません。データの再インポートが必要になる唯一の状況は、最初はある通貨 (米ドルなど) でデータをインポートし、今度は別の通貨 (カナダ ドルなど) でデータを表示する場合です。

建設中の減価償却

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
対象の特定の資産は CIP に含まれており、年のさまざまな日付に購入されましたが、供用日 (2017/1/1) に減価償却を開始する必要があります。これはどのように実現できますか？

回答

供用日より前に減価償却費を計上するには、複数の数式を作成する必要がありました。

資産の評価額は、"期間" の "行.数量" にあります。

資産の評価額を繰り越すために、減価償却のスプレッドに含めるために、"累積数量" (row.cuquantity) 科目を作成する必要があります。

数式:
```
ROW.CumQty[time=THIS-1]+ROW.QuantityExpend
```

供用数量 (row.insvcQty) は "減価償却のスプレッド" で使用されます。この数式は、2017 年 1 月の時点で購入されたすべての資産の値 (row.sumQuantity) を示します。また、後月は先月の資産値を減算します。これは、row.cuquantity が前のプラス科目であるためです。2017/1/2 より前の日付の場合、この数式は「0」を返します。

```
if(versionmonth(this) <
versionmonth(ROW.InService), 0,
if(versionmonth(this)=versionmonth(ROW.InService)
ROW.CumQty[time=THIS-1]))
```

Row.CIPDepreciation は ルックアップ テーブルである CapEx_Asset を使用して Row.InsvcQty をスプレッドします。

CIP 減価償却の最終行。CIPDepre: この数式は "供用数量" と非常によく似ていますが、代わりに "供用日" に達したときに、"値" ではなく "減価償却のスプレッド" を返します。

```
if(versionmonth(this)<versionmonth(ROW.InService)
0,if(versionmonth
(this)=versionmonth(ROW.InService),ROW.CIPDepreci
ROW.CIPDepreciation-
ROW.CIPDepreciation[time=THIS-1]))
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 表示列が誤ってゼロを返す

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

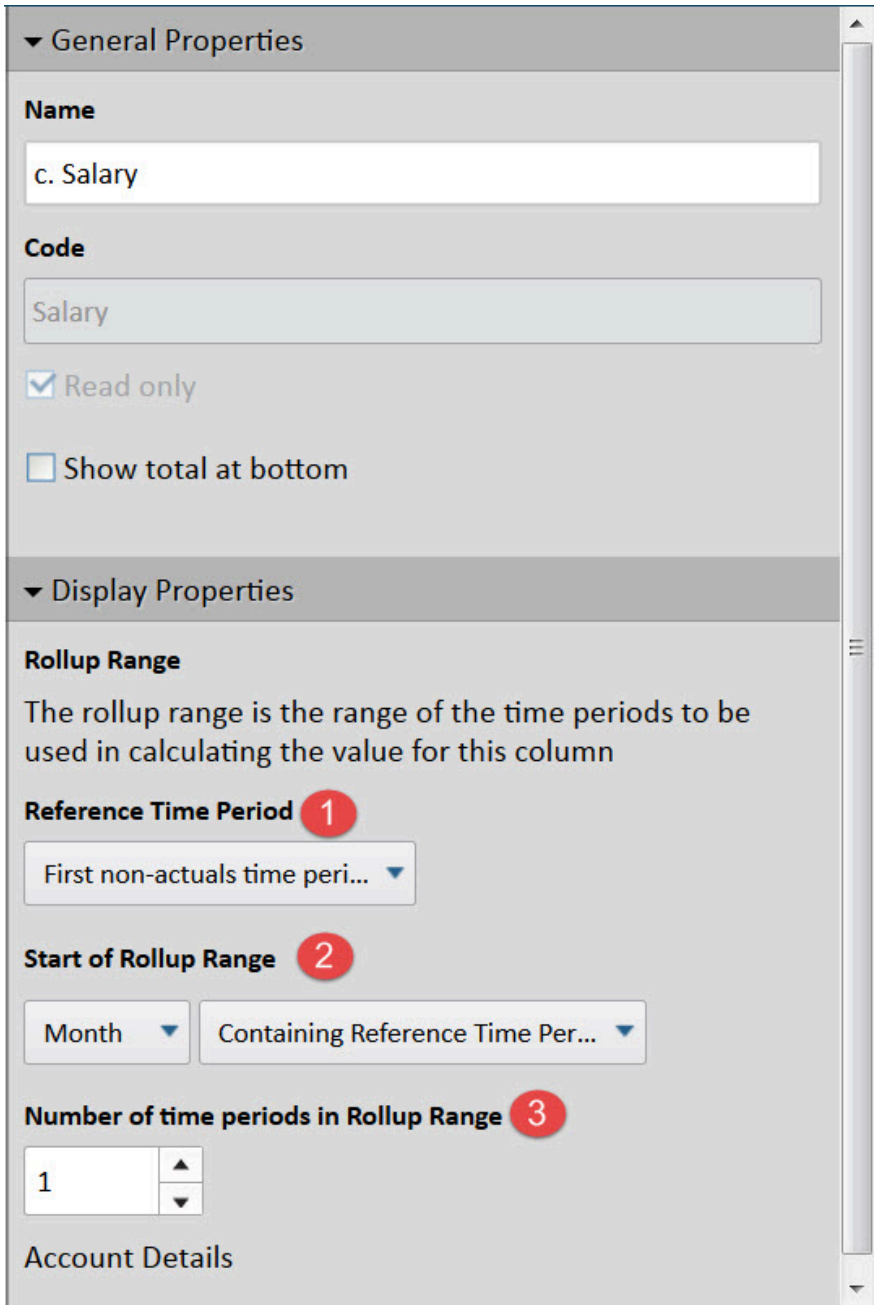
### 質問
従業員シートの "月収" 列がゼロを返すのはなぜですか？

### 回答
この列は表示列である可能性があります。モデル シートの "表示列" は、特定の算出科目が特定の時間制限を与えられた行をどのように評価するかを示します。たとえば、列がバージョンの最初の実績でない月の値を表示するように設定されたり、バージョンの "計画の開始" の前の会計年度から始まる 12 か月の合計が表示されたりすることができます。

ゼロを返す理由がただの表示設定なのか、またはデータを返すべき科目の計算が実際にゼロと評価されているのかを確認するひとつの迅速な方法は、モデル シートの行を右クリックし、 "行の詳細" を選択します。"行の詳細" は、その特定の行について、シート上の各算出科目がどのように評価されているかを示します。このウィンドウには、シートに表示されている列を表す行が 1 つ表示されている必要があります。

この科目が "行の詳細" で正しく評価されているにもかかわらず、列にゼロが表示されている場合、これは列の設定が原因である可能性があります。"モデリング" > "組織割当シート" (または "ユーザー割当シート") > "編集" を選択し、モデル シートの横にある "列と組織" を選択します。この列には、表示する月の値を決定するための 3 つの関連設定があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




1. 参照月: 実績でない最初の月または計画の開始月
2. 合計範囲の開始: 参照月に関連するデータの表示を開始する月
3. 合計範囲の月数: 上の 2 つの設定の当月から開始し、それ以降の月を合計する月数

インスタンスの会計年度変更の影響

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
現在のモデルは 6 月 30 日を会計年度末として設定しており、現在の予算サイクルは 2011 年 7 月 1 日から 2012 年 6 月 30 日まで実行されます。ただし、会計年度末を 12 月 31 日に設定し、2012 年 1 月 1 日から 2012 年 12 月 31 日までの予算期間を計画する必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

会計年度の終了日が異なるためにモデリングが複雑になっています。モデルの会計年度末を 12 月 31 日に変更したいと考えています。

1. この変更は、現在設定されているデータまたはモデリングのいずれかに影響しますか？
2. 会計年度末の変更にはどのくらい時間がかかりますか？

変更が行われた後も、2011 年 7 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日までのデータをレポートする必要があります。これは、これらの数値をレポートするバージョンが利用可能であることを確認するものです。

回答
標準のカレンダー (インスタンスが 2017 年より前に作成されているなど) の場合、 Adaptive Planning サポートによってモデルの会計年度が変更されます。この変更は事実上グローバルであるため、会計年度によってインスタンス内のすべてのバージョンが更新されることに注意してください。

会計年度の変更を行ってもデータは失われませんが、データの損失がないことを確認するために、一部の会計年度に追加の月が含まれます。変更が完了したら、クライアントはバージョン管理画面の日付が、バージョンに表示される期間に対応していることを確認する必要があります。

変更が完了するまでの時間は長くはかかりません。これは 4 時間という時間枠内で発生する可能性のあることで、実際には更新に数分しかかかりません。

旧会計年度のレポートを引き続き作成する場合は、レポートの期間をカスタマイズする必要があります。月 (四半期と会計年度の合計は新しい会計年度に合わせます) と小計のみで時間範囲をカスタマイズする必要があります。

会計年度を更新する必要がある場合は、サポートにリクエストを送信して、更新を行うことができます。何らかの理由でそれが受け入れられない場合は、いつでも元に戻すことができます。

インスタンスにカスタム カレンダーがある場合 (たとえば、2017 年 1 月以降に作成) を参照してください。 ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ ) は、カスタム カレンダーの設定に関するステップです。これらの変更は実際にはグローバルなものであることに注意してください。コンサルタントと協力し、最初にサンドボックス インスタンスでテストすることをお勧めします。

## アカウントの FAQ

時間修飾子がメトリック科目に対して機能しない

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
数式の時間修飾子を使用してメトリック科目が正しく評価されないのはなぜですか？

回答
時間修飾子 [time=this-X] は、現在の期間を基準に計算されます ("this" は問題となっているシートの最小時間層です)。メトリック科目は合計期間で再評価されるように設計されており、その場合、"this-1" などの値は合計期間として意味をなしません ("this" が一部のセルでは四半期または全体の場合もあります。 (最小の時間層は "月")。その結果、メトリック科目はこの形式の時間修飾子をサポートしておらず、時間合計期間で評価するときに時間修飾子をドロップします。

回避策として、シートで別個の科目を作成して時間シフト計算を実行し、メトリック科目でそれらの新しい科目を参照することができます (メトリック自体から時間修飾子を削除します)。

たとえば、ACCT.Example[time=this-1] は メトリック科目では正しく評価されません。ただし、新しいカスタム科目を作成し、その科目と同じ数式をデフォルトとして配置することができます。その後、必要に応じてメトリック科目の数式として 「ACCT.New_Custom」 を設定できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

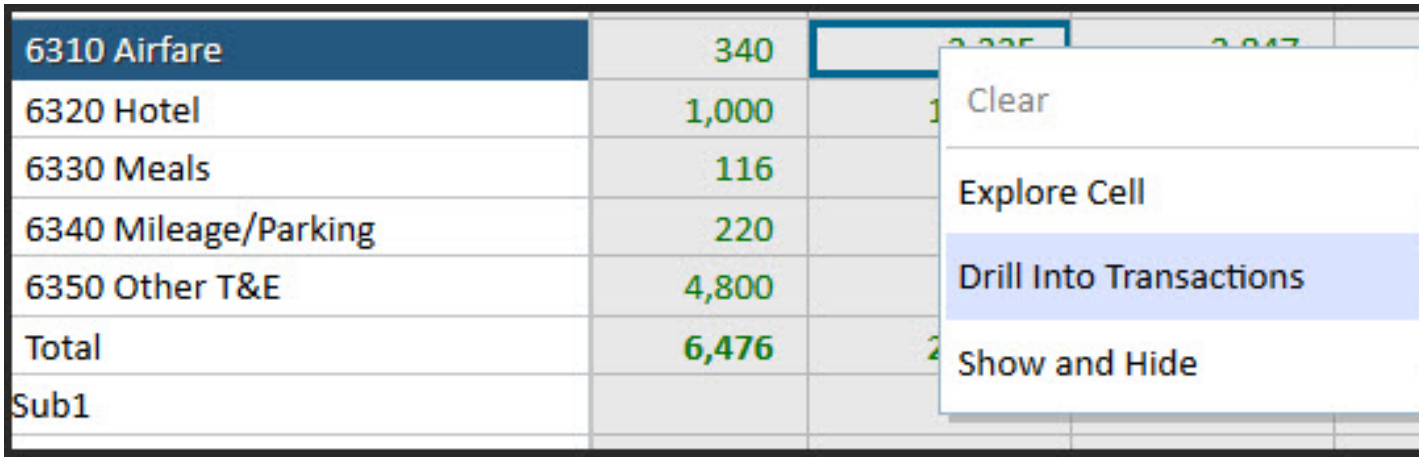
## 配賦ルールと配賦取引に関する FAQ

### トランザクションにドリルイン

質問
どこでどのようにトランザクションにドリルインできますか？

回答
トランザクションにドリルインするリンクが表示される場所は 2 つあります。

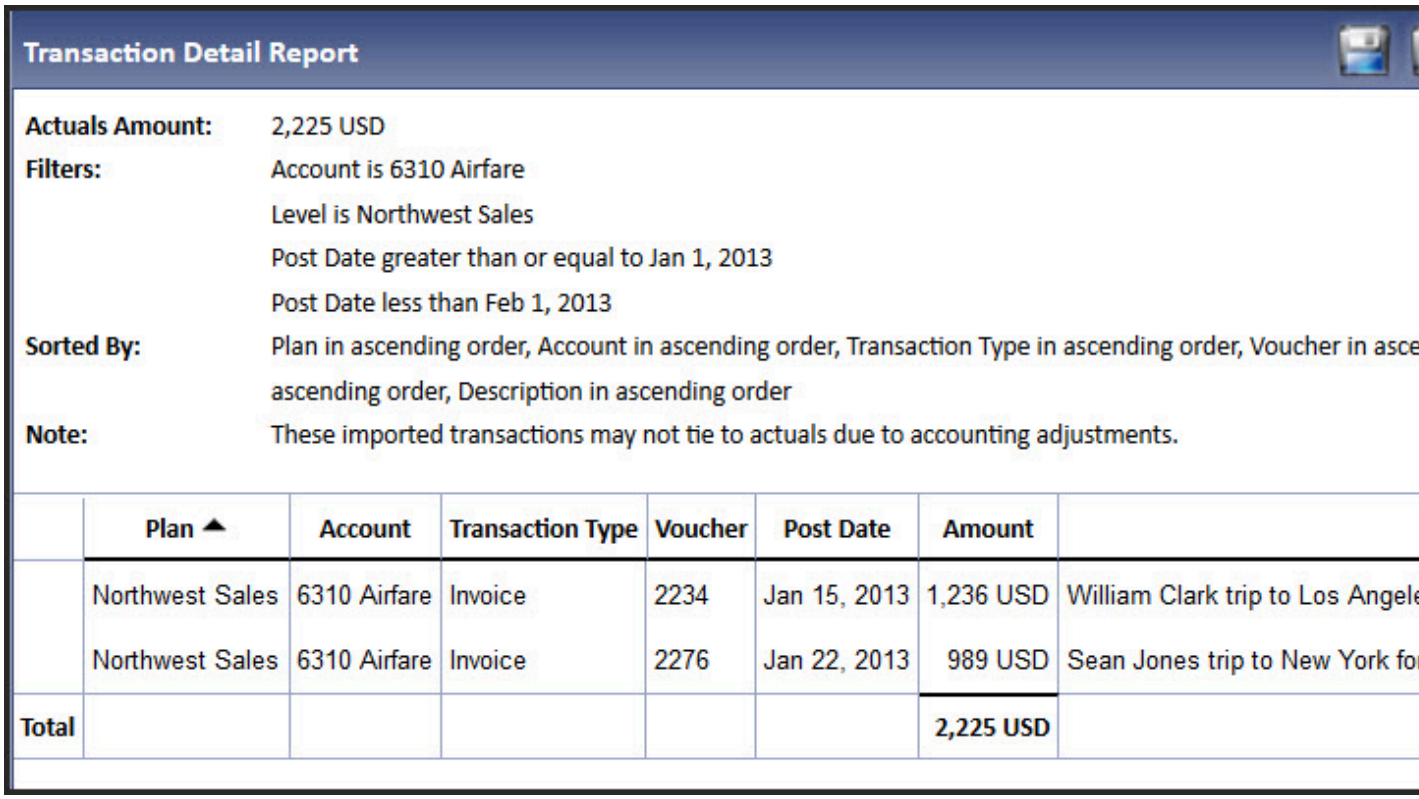
標準シートの "実績" または "計画" のセルの右クリック メニュー内




セル エクスプローラー (実績または計画番号を表示する場合)

トランザクションにドリルインするオプションは、少なくとも 1 つのトランザクションがインポートされている科目/組織/期間の場所にのみ表示されます。トランザクションにドリルインすると、その場所のトランザクションのデフォルト レポートが生成されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



**Transaction Detail Report**

**Actuals Amount:** 2,225 USD

**Filters:** Account is 6310 Airfare
Level is Northwest Sales
Post Date greater than or equal to Jan 1, 2013
Post Date less than Feb 1, 2013

**Sorted By:** Plan in ascending order, Account in ascending order, Transaction Type in ascending order, Voucher in asce
ascending order, Description in ascending order

**Note:** These imported transactions may not tie to actuals due to accounting adjustments.

| | Plan ▲ | Account | Transaction Type | Voucher | Post Date | Amount | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Northwest Sales | 6310 Airfare | Invoice | 2234 | Jan 15, 2013 | 1,236 USD | William Clark trip to Los Angele |
| | Northwest Sales | 6310 Airfare | Invoice | 2276 | Jan 22, 2013 | 989 USD | Sean Jones trip to New York fo |
| **Total** | | | | | | **2,225 USD** | |

レポートからトランザクションにドリルインすることもできます。マトリクス レポート (HTML 形式) の任意の値をクリックするだけで、"セルを探索" ウィンドウが開き、関連するトランザクションにドリルダウンできます。レポートのオプションで "レポートを検索できるようにする (HTML のみ)" が有効になっていることを確認します。

注：科目、組織、または属性合計にドリルインすると、合計の下のすべての子のトランザクションが表示されます。

## 連結の FAQ

プロセス トラッカーのレビュー サイクルに添付ファイルを追加

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
プロセス トラッカーでは、プロセスのレビュー サイクルの一部として添付ファイルを追加したり、変更のために添付ファイルのバージョン管理を管理したりすることができますか？

回答
はい。各タスクに複数の添付ファイルを追加することができます。

任意のプロセスの各タスクに、最大ファイル サイズが 5 MB までの最大 3 つの添付ファイルを追加できます。ファイルを添付すると、ファイルをアップロードしたユーザーと日時がシステムによって追跡されます。ワークフロー タスクを作成した場合、タスクは特定の組織とバージョンに関連付けられます。"ワークフロー" のステータスが変わると (つまり "レビュー用に送信済" が "完了" に)、ワークフロー タスクのステータスもそれに合わせて更新されます。ワークフロー タスクは組織とバージョンに関連付けられているため、プロセス トラッカーで直接編集することはできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## 数式の FAQ

### 数式でのデータの年換算

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
比率を作成していますが、分子を年換算する必要があります。たとえば、5 月中に、1 月から 5 月までの "純利益" を 5 で割り、12 で乗算すると、予測年間所得が算出されます。毎月、1 か月を追加して、6 月は 1 月から 6 月までの純利益を 6 で割り、12 で乗算するといった具合です。Adaptive でこれを行うために数式を作成できますか？

回答
月を表す前提条件を作成する必要があります。たとえば、次のようになります。

| Accounts | Q4-FY10 | FY2010 | Jan-2011 | Feb-2011 | Mar-2011 | Apr-2011 | May-2011 | Jun-2011 | Jul-2011 | Aug-2011 | Sep-2011 | Oct-20 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Month | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | |

次に、予測金額を計算する数式を作成します。予測数式を作成する科目のコードは "サンプル" です。

```
if(month(this)=1, div(ACCT.Net_Income, ASSUM.Month)*12, div(ACCT.Net_Income
+ACCT.Sample[time=this-1], ASSUM.Month)*12)
```

### FTE とヘッドカウントの計算

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
従業員シートから FTE 対 ヘッドカウントをレポートする方法はありますか？

回答

人員は、従業員シート上のデフォルト計算です。ほとんどのクライアントは、合計時間数を取得し、社員がフルタイムとみなされるためには週あたり勤務する必要がある時間数で割ることで FTE を計算しています。

この数式は、モデルの従業員シートの算出科目として作成できます。ロジックは次のとおりです。

```
div(ROW.Hours,40)
```

行ごとに FTE を評価するため、"ACCT.Personnel.Hours" ではなく "ROW.Hours" を参照します。

### モデル シートの算出科目の数式構文

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
日付列と 3 つの数値列 (労務費、部品、計画) を含むモデル シートがあります。システムで 3 列の数値列を合計し、日付要素に基づいて該当する月の値を経費として計上する必要があります。下の例では、2013 年 2 月に 170 万という値を表示させるとします。これを実行するにはどうすればよいですか？

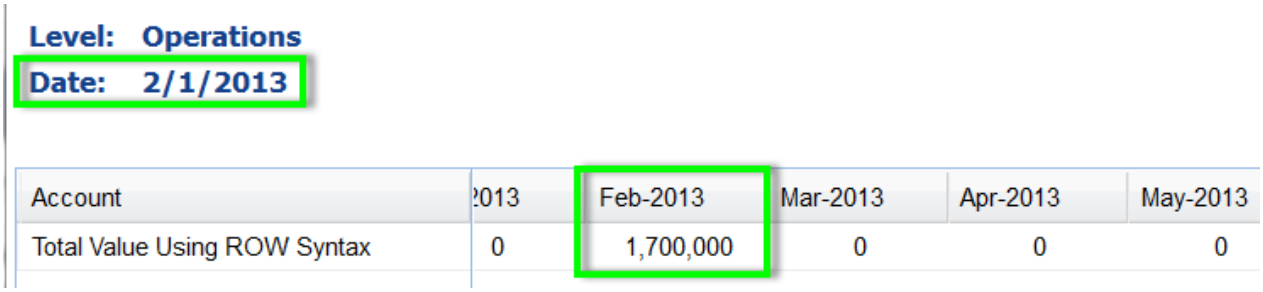
回答
算出科目でロジックを作成してから、レポートまたは標準シートに科目を表示する必要があります。以下は、指定した月にデータを入力する数式ロジックの例です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
if(versionmonth(this)=versionmonth(ROW.Date), (ROW. Labor+ROW.Parts
+ROW.Planning),0)
```

ROW. ACCT ではなく 構文が使用されています。 構文。これは、ACCT であるためです。の構文は、組織の科目の値全体を、その組織のシートの各行の計算に取り込みます。ROW を使用構文では、行のデータのみが取得されます。

次にシートを表示して行を右クリックし、"行の詳細" を選択すると、値 1,700,000 が 2013 年 2 月に表示されていることが確認できます。




キャッシュ フロー値が最上位組織の実績の貸借対照表値と一致しない

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
キャッシュ フロー科目の値は、合計組織の実績バージョンの貸借対照表を参照する数式の正確な結果を表示しません。合計組織の下の親組織の値が正しいこと。親組織は合計組織とは異なる通貨でタグ付けされており、合計組織で最上位組織の通貨に換算されています。

たとえば、合計の下の複数の親組織に関する次の数式があります。

```
ACCT.Fixed_Assets[level=this(+), time=this-1]-ACCT.Fixed_Assets[level=this(+)]
```

これが矛盾の原因であると考えられます。親通貨の貸借対照表に基づいてキャッシュ フローに計算を実行させる方法はありますか？

回答

| | |
|---|---|
| オプション 1 | 2018.2 リリース時点で、加重平均換算科目はリセット機能で使用できます。 |
| オプション 2 | この数式は、前の期間の親組織の下にあるすべての子組織から貸借対照表の固定資産科目の値を取り、現在の期間の親組織の下にあるすべての子組織から貸借対照表の固定資産科目の値を引く期間この数式の両方の値が最上位レベルにロールアップされると、当期の為替レートを使用します。これが、貸借対照表の最上位の合計レベルにある固定資産科目の期間間の差異の正確な値を値が表示していない理由です。この問題の回避には、2 つの異なるソリューションを使用できます。<br><br>為替レートの差異を回避するために、最上位の "会社 (限定)" 組織で別の数式を入力し、為替レートの差異を考慮することができます。前の期間の固定資産を前の期間の為替レートで換算し、当期の固定資産を当期の為替レートで換算するには、前の期間の "固定" における当期と前期の為替レートの差額を現在の期間に資産を追加する必要がある場合。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1 つ目の解決方法は、最上位の "会社 (限定) 組織" のみにこの数式を適用することです。これにより、最上位組織の通貨を使用して数式を評価できます。このオプションは、組織構造の最上位レベルにあるキャッシュ フロー科目のみをレポートしたい場合に使用します。

たとえば、次の組織構造と為替レートがあるとします。

| Example Level Structure: | Currency on |
|---|---|
| Company Inc | USD |
| Division A | CAD |
| Division B | USD |
| Division C | GBP |

| | Exch |
|---|---|
| Exchange Rate Type: | |
| CAD to USD EOM rate | |
| GBP to USD EOM rate | |

貸借対照表の実績値は以下のとおりです。

| | Fixed Assets - |
|---|---|
| | Theses are the Actuals values i |
| **Level:** | |
| Division A (CAD) | 758 |
| Division B (USD) | 889 |
| Division C (GBP) | 3 |
| **Total at Company Inc (USD)** | **1,689** |
| **Difference between periods** | |

キャッシュ フロー シートの値は、以下の値と同様になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| (In/Dec) in Fix |
| --- |
| These values are calculated using the followi 1 |
| Level: |
| Division A (CAD) |
| Division B (USD) |
| Division C (GBP) |
| Total at Company Inc (USD) |

前の期間の固定資産における現在の期間と前の期間の為替レートの差は、次のような数式を使用して求められます。

```
((ASSUM.ExchangeRate.CAD.USD.E[time=this-1]-
ASSUM.ExchangeRate.CAD.USD.E)*ACCT.Fixed_Assets[
A,
time=this-1])+((ASSUM.ExchangeRate.GBP.USD.E[time
ASSUM.ExchangeRate.GBP.USD.E)*ACCT.Fixed_Assets[
C, time=this-1])
```

この数式が合計の組織に含まれている場合、合計組織の合計は期待と一致する必要があります。数式は "Company Inc (限定) 組織" または別の調整組織に追加できます。

| Difference in exchange rate * previous Fixed Asse |
| --- |
| Total at Company Inc (USD) |

ロジックの構築方法の例については、添付ファイルの "キャッシュ フローと為替レート" ワークシートを参照してください。このソリューションに関するご質問は、サポート チームまでお問い合わせください。

オプション 3

月ごとの為替レートを正しく計算するために、月ごとの加重平均為替レートが必要になります。これは Adaptive Planning の新しい為替レート タイプになります。CTA 機能がモデルで有効になっている場合、加重平均換算と EOM レートの差額が CTA に自動的に入力されます。

任意の科目の月単位および AUD から NZD への為替レートで以下の値があるとします。

| Jan-14 | Feb-14 | Mar-14 |
| --- | --- | --- |
| 1000 | 500 | 800 |

| AUD to NZD | | |
| --- | --- | --- |
| Jan-14 | Feb-14 | Mar-14 |
| 1.01 | 1.02 | 1.03 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

加重平均レートの計算方法は次のとおりです。

1 月 = 1.01 2 月 = (1000/1500)*1.01+(500/1500)*1.02 3 月 = (1000/2300)*1.01+(500/2300)*1.02+(500/2300)*1.03

| Weighted Avg AUD to NZD | | |
|---|---|---|
| Jan-14 | Feb-14 | Mar-14 |
| 1.01 | 1.01333333 | 1.01913043 |

これは Excel で簡単に実行でき、各通貨の新しい為替レートに貼り付けることができます。開始するには、添付の "加重平均為替レート" テンプレートを使用します。

注： 加重平均為替レート

キャッシュ フローと為替レート

数式での動的時間参照の作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
次のように機能する数式を作成する必要があります。 ACCT.IT_Expense[time=01/2017] 例外として、2017 年ではなく、毎年報告に使用される 1 月を参照します。このように機能する時間修飾子を作成するにはどうすればよいですか？

回答
現在の機能では、今年の最初の月を動的に参照する構文はありません。たとえば、次のような数式を作成することはできません。 ACCT.IT_Expense[time=1/this.year]。ただし、IF ステートメントを使用しても、同様の結果を得ることができます。数式は次のようになります。

```
iff(year(this)=2016,ACCT.IT_Expense[time=01/2016],iff(year(this)=2017,ACCT.IT_Expense[tir
```

固定月および相対年の科目参照の作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
固定月および相対年の科目を参照するにはどうすればよいですか？つまり、毎月、前の 1 月/2 月/3 月の値を取得するにはどうすればよいですか？

回答

ネストされた IF ステートメント

当月をチェックする入れ子式の IF ステートメントを作成し、当月が特定されると以下を使用します。 [time=this-x] 修飾子を使用して、目的の固定月の値を取得する前の x か月から科目の値を取得します。

固定月からのみ値を持つ追加科目

固定月に固定月の値のみを保存する追加の科目を作成します (他の月にはゼロが保存されます)。出力科目の数式は、次の方法により、年間の追加科目の値を合計します。 [time=this.year] 修正率

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 科目 1: 毎月必要な値が保持されます。
- 科目 2: 科目 1 と等しいが、固定月の値のみ `(if(month(this) = x, Account 1, 0))`。
- 科目 3: 次と等しい `ACCT.Account2[time=this.year]`この値は、その年の固定月の値に等しくなります。

**5** 年プランにおける給与の昇給の数式の作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
5 か年のプランを作成し、毎年 7 月にすべてのスタッフの年次給与昇給を含める必要があります。給与の数式は次のとおりです。

```
ROW.PartialHeadcount* if(ROW.Per="hr",ROW.HrPerWeek*(2080)/(480), 1/12) *
ROW.PayRate * (1+ASSUM.DC_Staff.RaisePct)
```

2010 年 7 月から 2015 年 12 月までにおける各セルの昇給額の前提条件には、「5%」と入力されます。

- 毎年 7 月の "昇給月" に「1」を入力すると、給与は 7 月に昇給し、その後、毎年 8 月に戻ります。
- 2010 年 7 月から 2015 年 12 月まで毎月「昇給」月に「1」を入力した場合、2010 年 7 月に 5% 昇給し、その後、毎年 1 月に 5% 昇給を受けることになります。
- 昇給月に何も入力しなかった場合、各個人は採用日に 5% の昇給を受けます。

毎年 7 月に昇給のみを支給する場合、数式をどのように修正する必要がありますか？

回答
デフォルトの支払い単価の数式には、以下を考慮に入れるロジックが組み込まれています。

```
if((versionmonth(this) > 0) and ROW.Headcount>0 and (((versionmonth(this)
- versionmonth(ROW.StartDate) > 1) and ASSUM.Personnel.RaiseMonth=
0 and fiscalmonth(this) = fiscalmonth(ROW.StartDate)) or
(ASSUM.Personnel.RaiseMonth=month(this))),ROW.PayRate[time=THIS-1]*ASSUM.Personnel.RaiseP
0)
```

支払い単価科目は、残高科目による累積プランです。7 月にすべての社員に昇給を与える場合は、2010 年 7 月から開始される "昇給月の前提条件" に "7" を追加し、その値を前方向にコピーします。次に、2010 年 7 月に 5% を追加し、前方向にコピーします。これにより、期待通りの結果が得られるはずです。給与科目も必ずデフォルトの数式に戻してください。

給与昇給の数式の作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
社員に初年度の比例配分で昇給を与える場合、その計算式はどのようになりますか？また、通常の年次昇給とは別にメリット昇給を社員に支給するにはどうすればよいですか？社員の勤続期間を返す数式がありますが、昇給計算にその値を使用できますか？

回答

| | |
|---|---|
| 比例配分された昇給の最初の年 | `if(versionmonth(this)-versionmonth(ROW.HireDate)>0` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | and versionmonth(this)-<br>versionmonth(ROW.HireDate)<12,<br>((versionmonth(this)-<br>versionmonth(ROW.HireDate))/12)*ASSUM.Raise_Pct,0<br><br>この数式は次のように翻訳されます。バージョン月が採用日より後で、採用初年度の場合は、ゼロ以下の比例配分昇給を付与します。この算出科目は、支給レートまたは給与科目と関連して使用できます(乗算対象)。 |
| メリット給に対する固定日の支給レート昇給 | if(versionmonth(this) ><br>0 and ROW.Headcount>0 and<br>(versionmonth(this) -<br>versionmonth(ROW.StartDate) > 1) and<br>versionmonth(this)>=versionmonth(ROW.RaiseDate)<br>and fiscalmonth(this) =<br>fiscalmonth(ROW.RaiseDate),ROW.PayRate[time=this-<br>0)<br><br>この数式は次のように翻訳されます。バージョンが開始され、従業員が採用され、少なくとも 1 か月雇用され、昇給日に達した場合、先月のレートにゼロを差し引いた昇給率を掛けます。<br><br>1 回限りの金額には次の数式を使用することもできます。<br><br>if(versionmonth(this) ><br>0 and ROW.Headcount>0 and<br>(versionmonth(this) -<br>versionmonth(ROW.StartDate) > 1) and<br>versionmonth(this)=versionmonth(ROW.RaiseDate),RO<br>0)<br><br>これらの数式は、既存の支給レート数式に追加できます。 |
| 勤続期間 | if(monthfraction(ROW.StartDate,ROW.EndDate)>0,<br>(todate(year(this), month(this),<br>daysinmonth(this)) -<br>ROW.StartDate)/365, 0)<br><br>この数式は次のように変換されます。部分的なヘッドカウントが 0 より大きい場合は、この日付から開始日の値が差し引かれ、365 (年数を返す) で割った 0 未満の値になります。<br><br>この算出科目を、昇給率を勤続年数に基づいて決定する階層システムの一部として使用することができます。たとえば if(ACCT.LenthInService<=5,<br>ASSUM.LessThan5,if(ACCT.LengthInService>5,ASSUM.C |

前年比成長率を計算する数式の作成

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

質問
前年の成長率を示す数式を作成するにはどうすればよいですか？

回答

1. 12 か月前の総勘定元帳科目 (または他のタイプの科目) を参照するカスタム科目を作成します。時間と組織の合計設定は合計に設定されます。たとえば、以下のような数式が表示されることがあります。カスタム = `ACCT.Expenses[time=this-12]`(当年度の合計は前年の合計と等しくなります)
2. 前年比の成長を計算するメトリック科目を作成します。これにより、合計が前の期間の合計を正しく参照することができます。"表示タイプ" が "パーセント" に設定されていることを確認します。経費の前年比 = `DIV((ACCT.Expenses-ACCT.Custom),ACCT.Custom)`

モデル算出科目の日付関数

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
時間修飾子 "this"、またはモデル シートの日付列と併用できる関数は何ですか？

回答
次の関数は、this の時間修飾子、または ROW.StartDate などのモデル シートの日付列と使用できます。Day(01/15/2013.) などのリテラルの日付文字列とともに使用することはできません。

| | |
|---|---|
| ToDate (Y, M, D) | • 年 Y、月 M、日 D で指定した日付を返します。D を省略すると、15 が使用されます。返された値は日付を取得する他の関数の引数として使用できます。<br>• 例: この数式は、従業員の開始日からのその従業員の日数 (従業員がこの会社に入社している各月の終わり時点) を返します。<br>• `= If(ROW.partialheadcount>0, todate(year(this), month(this), daysinmonth(this)) - ROW.StartDate,0)` |
| Day (D) | • 日付 D の日を返します。<br>• 例: この数式は、従業員が勤務を開始する月の日を返します。開始日が 2010/07/15 の場合、この数式の評価は 15 になります。<br>• `= Day(ROW.StartDate)` |
| Month (D) | • 日付 D がある月を返します。<br>• 例: この数式は、従業員が雇用を開始する月を返します。開始日が 2010/07/15 の場合、この数式の評価は 7 になります。<br>• `= Month(ROW.StartDate)` |
| Quarter (D) | • 日付 D がある四半期を返します。<br>• 例: この数式は、最初または最後の四半期に該当する月のシートに入力された単位に調整を適用します。<br>• `= If(Quarter(this) = 1 or Quarter(this) = 4, ACCT.Units` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | `* ASSUM.SeasonalAdjustment, ACCT.Units)` |
| Year (D) | • 日付 D がある年を返します。<br>• 例: この数式で計算されている年度が 2010 年より後であれば "新しい前提条件" が使用され、計算対象の年度が 2010 年以前であれば "旧前提条件" が使用されます。このとき、使用された前提条件は現在の期間の給与の値で乗算されます。<br>• `= Iff (Year(this) > 2010, ASSUM.New, ASSUM.Old) * ROW.Salary` |
| FiscalMonth (D) | • 日付 D がある会計年度の月を返します。<br>• 例: この数式は、従業員が開始する会計月を返します。会計年度が 7 月に開始し、従業員の雇用開始日が 2010/07/15 の場合、この数式の評価は「1」となります。<br>• `= FiscalMonth(ROW.StartDate)` |
| FiscalQuarter (D) | • 日付 D がある会計年度の四半期を返します。<br>• 例: この数式は、従業員が開始する会計年度の四半期を返します。会計年度が 7 月に開始し、従業員の雇用開始日が 2010/07/15 の場合、この数式の評価は「1」となります。<br>• `= FiscalQuarter(ROW.StartDate)` |
| FiscalYear (D) | • 日付 D がある会計年度を返します<br>• 例: この数式は、従業員が開始する会計年度が数式の存在する会計年度より前であれば、従業員の人員を返します。そうでないと、この数式はゼロを返します。<br>• `= If (FiscalYear(this) > FiscalYear(Row.StartDate), ROW.Headcount, 0)` |
| VersionMonth (D) | • バージョンの N 月目に発生する日付 D の N-1 を返します。D がバージョンの開始時点より前の場合は、負数である可能性があります。バージョンの最初の月は、VersionMonth の基準では "0" に相当します。バージョンが 2013 年 1 月に開始され、社員の採用日が 2013 年 3 月である場合、VersionMonth は "2" になります。<br>• 例: この数式は、従業員が採用された月に「1」と評価されます。<br>• `= If(VersionMonth(this) = VersionMonth(ROW.StartDate), 1, 0)` |
| VersionYear (D) | • バージョンの N 番目の年の日付 D に対して N-1 を返します。D がバージョンの開始時点 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | より前の場合は、負数である可能性があります。バージョンの最初の年は VersionYear "0" です。<br>• 例: バージョンの最初の年が 2013 年である場合、この数式は、開始日が 2014/02/05 の社員に対して "1" と評価されます。<br>• `= VersionYear(ROW.StartDate)` |
| DaysInMonth (D) | • 日付 D がある月の日数を返します。<br>• 例: この数式は、従業員が採用された月の日数を返します。<br>• `= DaysInMonth(ROW.StartDate)` |
| MonthFraction (D1, D2, D) | • 開始日 D1 から終了日 D2 までの当月の部分を返します。任意の日付 D が指定されている場合は、当月の代わりに D のある月を使用します。<br>• 例: この数式は、社員が雇用の開始月と終了月中にその会社に在籍している月の割合を評価します。開始日が 2013/06/15 の場合、この数式は 2013 年 6 月時点で「.5」と評価されます。<br>• `= MonthFraction(ROW.StartDate, ROW.EndDate, this, 30)` |

**IF と IFF の違い**

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
数式で IF と IFF を使用することの違いは何ですか？

回答

IFF は条件を満たす数式のパスのみを評価しますが、IF は数式の両方の部分を評価します。IFF と IF を使って数式を作成する場合も、構文は同じです。最初に IF ステートメントで数式を作成し、数式の両方の部分が有効であることを確認し、両方のパスをテストすることをお勧めします。数式を設定してテストしたら、数式が複雑で計算に時間がかかっている場合は、IFF を試してください。これによりパフォーマンスが向上するかどうかを確認してください。IFF ステートメントを使用することで、時間を参照する数式内の循環参照を回避できる場合があります。

**エラー: 数式が許容しがたい組織を参照しています**

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

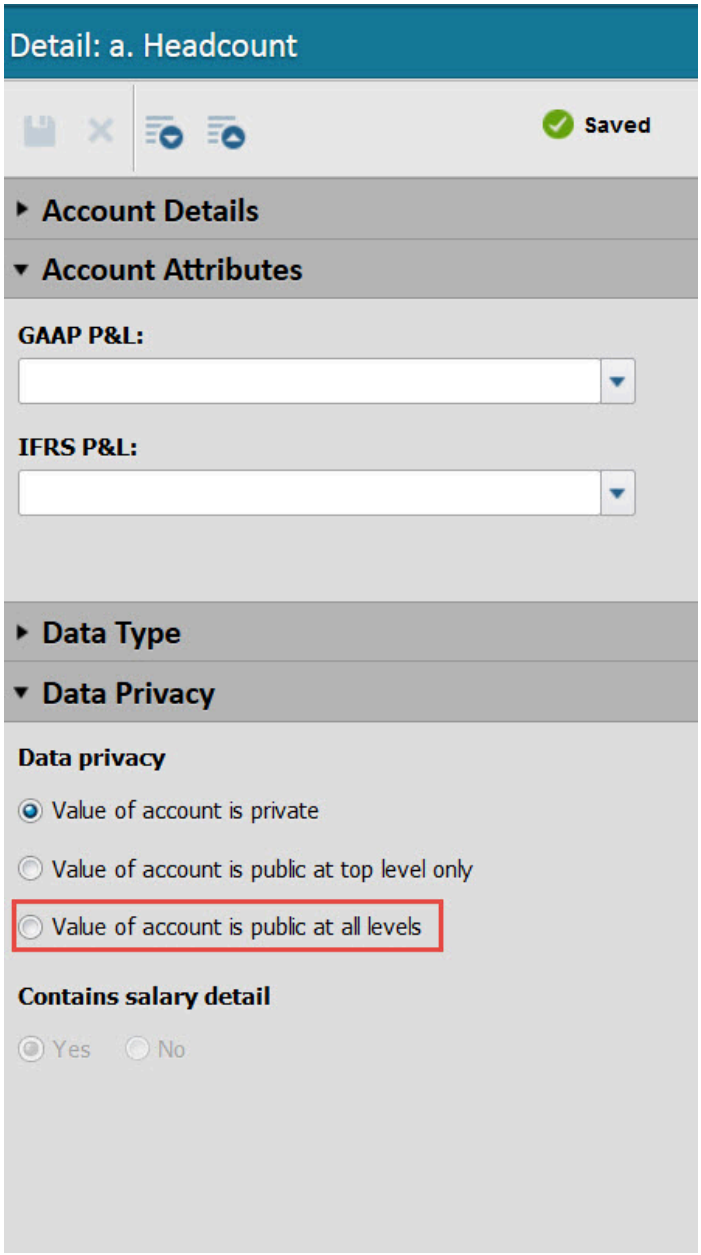
質問
マーケティング部門組織で次の数式を入力しています。
`ACCT.Personnel.Headcount[level=Sales]`。これをシートで表示すると、セルが赤になります。私が間違っているのは何ですか？

回答
このエラーが発生する理由は、"マーケティング" 組織の "販売" 組織のデータを参照していることです。すべての科目のデフォルトのプライバシー設定は非公開です。これは、その科目が他の組織で書かれた数式で使用できないことを意味します。"マーケティング" 組織の "営業" から "人員" 科目を参照するには、す

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

べての組織で "人員" 科目を使用できるようにする必要があります。これを行うには、モデル シートに移動し、データ プライバシー設定を非公開から人員科目のすべての組織で使用可能なものに変更します。これを実行すると、エラー メッセージは表示されなくなり、セルが赤にならなくなります。

他のすべてのタイプの科目については、"モデリング" > "科目" に移動することで行うことができます。




エラー: このバージョンに含まれる数式が多すぎます

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
バージョン内の数式が多すぎるとエラーが表示されるのはなぜですか？さらに数式を追加する必要があるので、この上限を増やすことはできますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

回答
エラー: "このバージョンに数式が多すぎます。このバージョンにこれ以上数式を追加することはできません」というメッセージが数式タブに表示されます 数式がデフォルトの上限を超えた場合。

許可されている共有数式のデフォルトの最大数は 200,000 で、予測される共有数式の デフォルトの最大数は *1,000 (*バージョンごと*)*です。最大値は、モデルの最適なパフォーマンスを確保するために適用されます。

- 共有数式の数は、"組織" の数に "科目" の数を掛けた値に等しくなります。
- 共有数式の数にバージョン内の期間数を掛け、予測される共有数式の数を計算します。

モデルのサイズを減らす際の考慮事項を以下にいくつか示します。

- バージョンで期間数を減らすことはできますか?
- より高いレベルで計画を立てるために、レベルの数を減らすことができますか?
- すべての組織で同じ数式を持つ科目がある場合、それらの科目をメトリック科目として作成できますか?
- 特定の組織で数式が不要な場合、数式を削除できますか?

これらの項目をレビューした後、お使いのモデルでパフォーマンスの問題が発生していない場合は、サポートまでご連絡ください。制限額が引き上げられる可能性があります。

数式のエクスポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
モデル内のすべての数式をエクスポートするにはどうすればよいですか ?

回答
現在の機能では、モデル内のすべての数式を一度にエクスポートするために実行できるレポートまたはエクスポートは 1 つもありません。ただし、以下の手順で、科目タイプごとに数式のスナップショットを取得できます。

GL とカスタム科目

- 共有数式 - "数式" ページ (ナビゲーション メニュー > "数式") に表示される数式は、各バージョンの、現在選択されている科目またはバージョン内のすべての科目の印刷対応ビューを介してダウンロードできます。
- 標準科目 - 数式ページにない GL およびカスタム科目の数式の場合、シートで、セルのグループを選択して Excel にカット アンド ペーストすると、データではなく数式が取り込まれます。数式はバージョンや組織によって異なる場合があり、GL/カスタム数式のすべてが単一の場所にあるわけではないことに注意してください。
- "リンク元科目"  "モデリング" > "GL" または "カスタム科目" に移動して、"印刷対応ビュー" を選択します 。これにより、GL/カ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | スタム科目のモデル科目またはキューブ科目のソースが表示されます。 |
| メトリック科目 | • "モデリング" > "メトリック科目" に移動し、"印刷対応ビュー" を選択します 。Excel ファイルにはすべてのメトリック科目の数式が表示されます。 |
| キューブ科目 | • キューブ算出科目 と キューブ メトリック 科目の場合は、"モデリング" > "組織割当シート" (または "ユーザー割当シート") に移動し、問題のあるキューブ シートを選択します。"キューブ科目" > "印刷対応ビュー" を選択します。数式が Excel の "数式" 列に表示されます。<br>• 標準科目と前提条件科目のセル数式の場合、すべての科目が行として表示されるようにシートを表示します。数式バーで数式を選択し、Excel に貼り付けます。 |
| モデル科目 | • モデル算出 科目の場合は、"モデリング" > "組織割当シート" (または "ユーザー割当シート") に移動し、問題のあるモデル シートを選択して > "モデル科目" > "印刷対応ビュー" を選択します。数式が Excel の "数式" 列に表示されます。 |

数式の多くの属性に対するフィルタ科目

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
フォーミュラ アシスタントで複数の属性を使用して数式をフィルタリングできますか?たとえば、特定のタイプの顧客 (つまり、属性が新しい = はい) と特定のタイプの収益 (つまり、収益タイプ = ホスティング) の収益を計算する場合、両方を含める方法はありますか？数式ロジックに含まれていますか？その場合、かっこ、カンマなどはどこに送られますか？

回答
はい、現在、数式の科目を複数の属性でタグ付けされた値にフィルタすることができます。選択したすべての修飾子は、カンマで区切られて数式内の角かっこに含まれます。これらの修飾子は、このかっこ内で任意の順序にすることができます。以下は、複数の修飾子が設定された場合の数式の例です。

```
ACCT.Revenue[New=Yes, Revenue Type=Hosting]
```

フォーミュラ アシスタントを使用する場合、"属性タイプ"、"値" を選択し、"属性を追加" をクリックして科目に修飾子を追加します。"数式に挿入" を選択して複数の修飾子を追加する前に、属性ごとにこれを行います。

共有数式をオーバーライドするユーザー編集の特定

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
ユーザーが共有数式をセルで直接オーバーライドするとどうなりますか？ユーザーの変更を特定するにはどうすればよいですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

たとえば、純利益に関する数式は次のとおりです。

```
ACCT.4000_Revenue - ACCT.5500_Cost_Of_Goods_Sold -
ACCT.6000_Expenses_7000_Allocations + ACCT.8000_NonControlling_Interest +
ACCT.5100_Non_Operating_Income
```

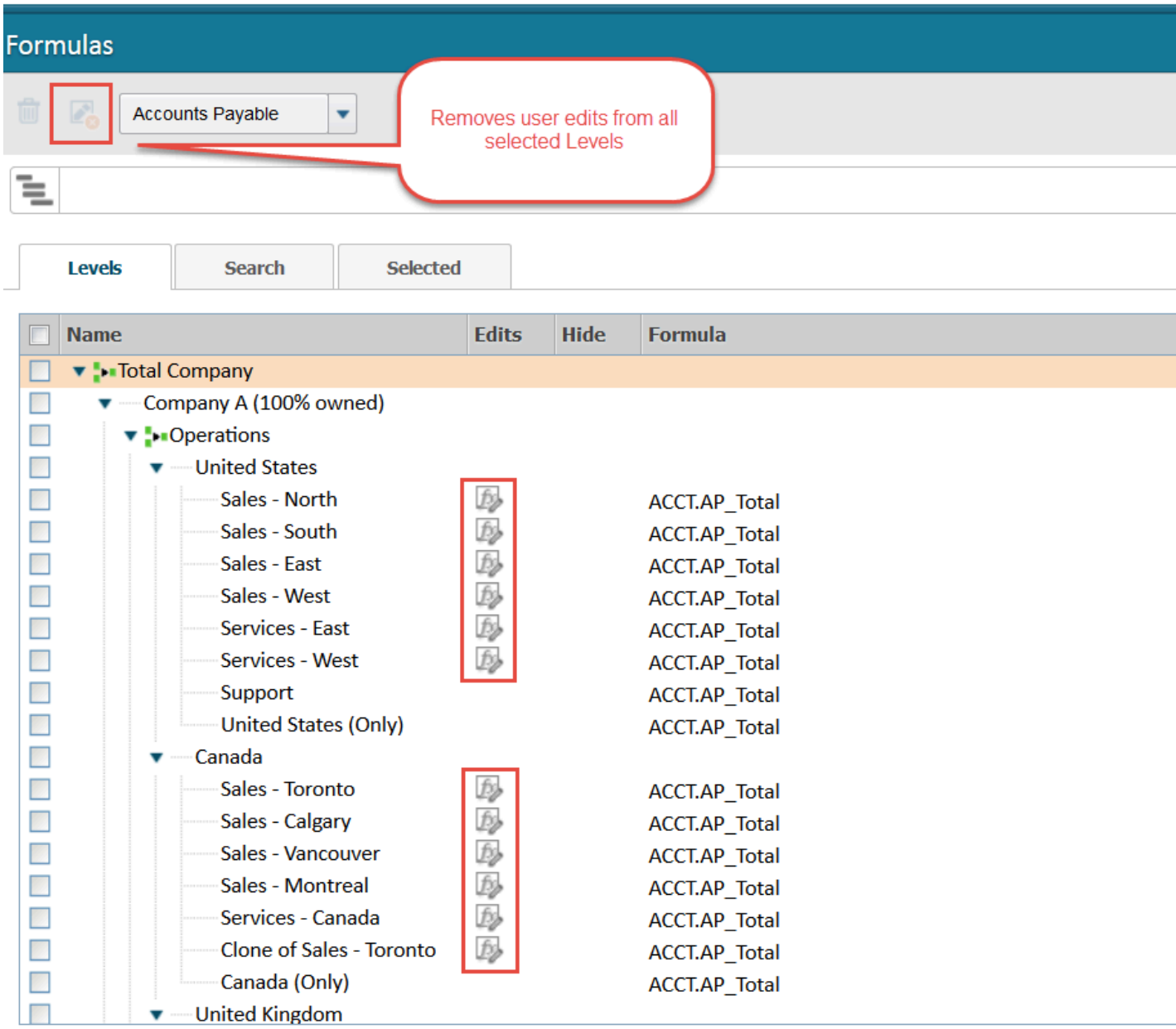
ユーザーがこの数式をオーバーライドし、ある組織のシートに値を直接入力した場合、最上位組織の純利益科目が異なります。ただし、この場合、収益科目や費用科目など、純利益の数式を構成する科目の値は変更されません。これにより、純利益が最上位レベルの数式の科目の合計と等しくなくなります。

回答
科目に共有数式がある場合 (つまり、数式がすべてのシートで同じ)、これを行う 1 つの方法は、"数式" ページに移動して目的の科目を選択することです。小さな fx 記号は、別の数式または値を表すためにシート上で数式が変更された場所を表します。ユーザー編集には、手動入力されたデータ、インポートされたデータ、またはシート内の手動入力された数式が含まれます。ユーザー編集を消去すると、指定した組織/科目のバージョンのすべての期間のデータがクリアされ、基になる共有数式が科目値を決定します。ユーザー編集は、"数式" 画面で次の 2 つの方法のいずれかの方法で削除できます。

- 1 つ目の方法は、"数式" ページ内の目的の組織を選択し、左上にある "ユーザー編集を削除" オプションを選択することです。

- 2 番目の方法は、"詳細" パネルの "ユーザーの編集" で選択された "削除" オプションを使用して既存の数式を編集することです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




計画バージョンの すべての 編集/データをクリアする場合は、"モデリング" > "バージョン" に移動して、すべてのユーザー編集をクリアするバージョンを選択できます。ここから "計画の開始" を現在の "計画の開始" より前の日付 (たとえば 1 年前) に移動してから、"計画の終了" を元の "計画の開始" に戻すことができます。 "表示開始月" を "計画の開始" と一致させ、保存します。次に、"計画の開始"、"計画の終了"、"表示開始月" の日付をバージョンで求められる日付に移動します。これにより、シートに入力された すべての データがクリアされますが、"数式" タブの数式には影響しません。

数式ページはユーザーの編集を確認する最も早い方法ですが、数式が共有数式でない場合 (数式がシート上で直接作成された場合) は役に立たない可能性があります。この場合、各値を 1 ページにビジュアル化したレポートを作成できます。

テスト レポートを作成するには、横軸で拡張組織構造を、縦軸で対象の科目を作成します。これにより、科目の横にカスタム計算を作成して、正しい数式のあるべき形と一致させることができます。レポートを実行すると、科目と組織別の正しい数式の両方が評価されます。これは、これが変更された組織を追跡するのに役立ちます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

数式をインポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
自分の科目に数式をインポートできますか?

回答
数式は以下にインポート できます 。

- メトリック科目 ("構造のインポート" 機能を使用)
- モデル シートの期間要素
- 標準キューブと前提条件キューブ科目

数式を以下にインポートする ことはできません :

- 標準シートの総勘定元帳科目とカスタム科目
- モデルおよび算出キューブ科目 (数式はそれぞれのシートに書かれなければなりません)

モデル シート、モデル シートの期間、またはキューブ シートの標準科目またはカスタム科目に数式をインポートするには:

1. インポート テンプレートをダウンロードします。
2. テンプレートの "期間" に、数式を配置します。たとえば、モデル シートの "期間" に「acct.Personnel.Salary」という数式が必要だとします。インポート テンプレートの数式は「Acct.Personnel.Salary」になります。"=" を含める必要は ありません 。これはキューブ シート科目にも当てはまります。

注 : モデル シートのインポート ファイルのサンプル

異なる期間の参照科目値

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
異なる期間の科目の値を参照する方法はありますか？その場合、どうすればよいですか？

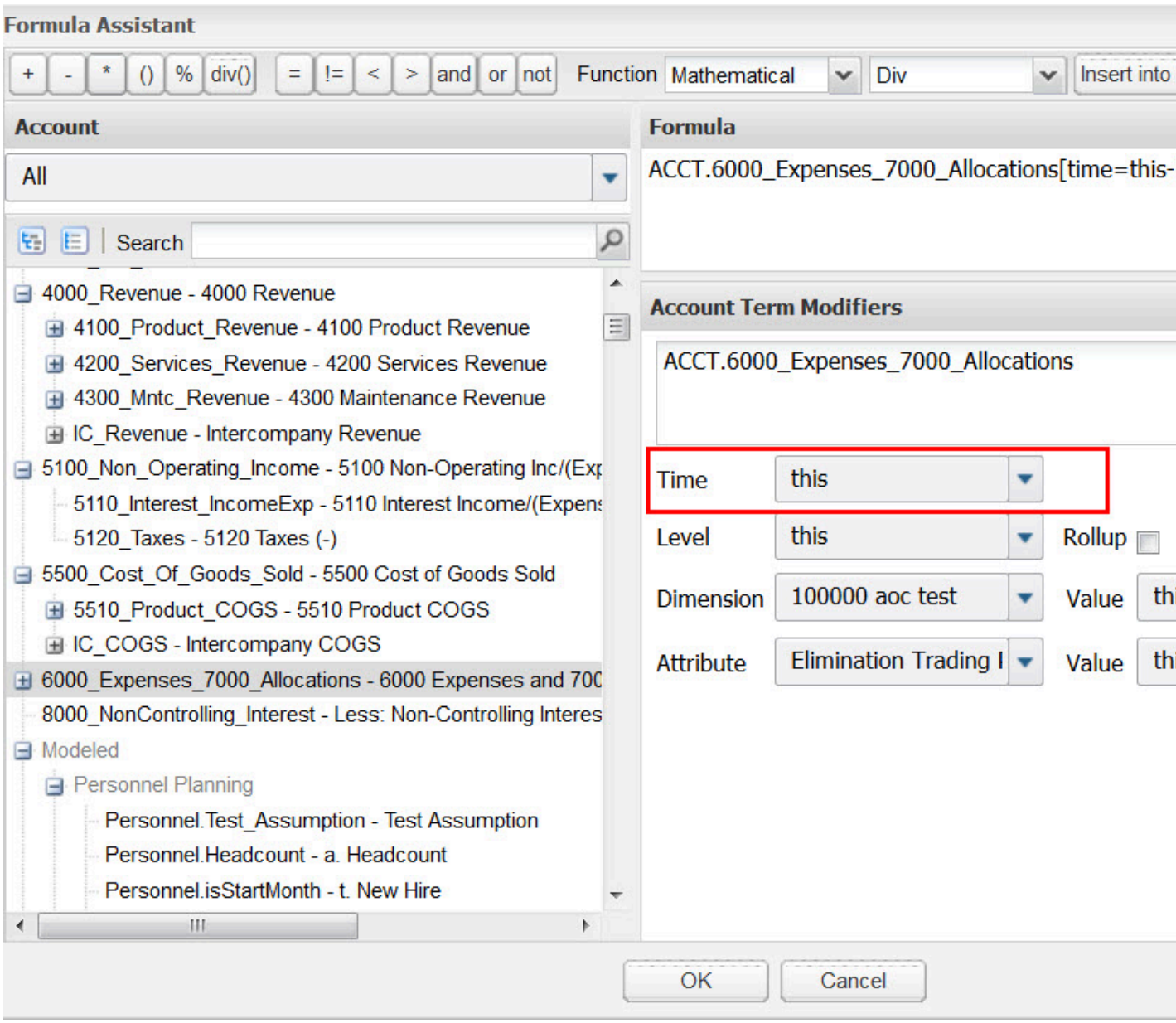
回答
時間修飾子を数式で使用して、異なる期間の科目の値を参照できます。これらの修飾子は数式に手動で入力するか、"項の修飾子" 領域の "時間" ドロップダウン セレクターからフォーミュラ アシスタントで選択できます。たとえば、次のようになります。 `ACCT.Expenses[Time=this-1]` は前の期間の費用科目の値を参照します。以下は、"時間" 修飾子のドロップダウン リストに表示される選択肢の一部です。

- これは 同じ月の科目の値を参照します。
- this+1 は 翌月の科目の値を参照します。この修飾子の 1 は、将来の任意の期間を参照して変更できます。
- This-1- 前月の科目の金額を参照します。この修飾子の 1 は、過去の期間を参照して変更できます。
- this.year は 科目の会計年度値を参照します。構文に「-1」または「+1」を追加すると、前年または翌年の会計年度合計を参照できます。たとえば、[time=this.year-1] は科目の前会計年度の合計を参照します。1 は任意の数字に変更することもできます。
- This.qtr この四半期の科目の値を参照します。構文に -1 または +1 を追加して、前の四半期または次の四半期の合計を参照できます。たとえば、次のようになります。 `[time=this.qtr+1]` は次の四半期の科目の合計を参照します。1 は任意の数字に変更することもできます。
- 2017/01 は 、特定の月と年の科目の値を参照します。修正率の月と年は変更できます。
- 2017 年 は特定の年の科目の値を参照します。年度は手動で調整できます。
- Q1-2017 この年の第 1 四半期の値を参照します。四半期の番号と年は手動で入力できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- This-12:This-1 相対的な期間範囲の科目の合計値を参照します。12 と 1 は任意の数字に変更できます。

時間修飾子はすべて、開始期間と、それに続くコロン (:)、その後ろに終了期間を含めることで、特定の期間範囲を参照できます。たとえば、次のようになります。 `ACCT.Salaries [time=01/2017:06/2017]` は、2017 年 1 月から 6 月までの給与科目の合計値を参照します。フロー科目 (収益と費用など) の場合、この数式は 6 つの期間を合計します。ストック科目 (人員または貸借対照表科目など) の場合、範囲内の最後の期間から値を返します。




社員の終了日後の個人計算の停止

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
従業員シートに現在含まれている数式を調整して、計算を従業員の退職日に依存させることはできますか？現在、この福利厚生科目は、月の日数に基づいて年間全体に配分されています。しかし、終了日が 2017/03/31 に設定された社員がいます。他の "従業員" 科目はこの日付で計算を停止しますが、"福利厚生"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

科目は引き続きこの日付でスプレッドされます。これを修正するにはどうすればよいですか？システムで現在使用されている算出科目に何か追加できるものはありますか？

回答
はい。数式に、社員の終了日後に計算を停止するようロジックを組み込むことができます。たとえば、既存の福利厚生科目の計算に "一部社員" を掛けることができます。これが完了すると、科目の値は、社員にヘッドカウントがある月の値のみになります。

- "一部社員" は、開始月と終了月の両方に社員が雇用されている月の大まかな割合 (パーセント) を計算します。この科目は、従業員の開始日より前の月および従業員の終了日より後の月に対してゼロと評価される必要があります。

カンマからの構文エラー

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
コードが ACCT.Personnel.Salary のモデル科目があります。カスタム科目のポジション属性でフィルタリングするとします。数式は次のとおりです。ACCT.Personnel.Salary[Position= RN, Triage]フォーミュラ アシスタントを使用していますが、常に構文エラーが発生します。この数式を機能させるにはどうすればよいですか？

回答
問題は、最も可能性が高い属性値名のカンマにあります。以下の内容をいくつか試してみます。

- "属性の定義" 画面で、カンマが含まれないように属性値名を変更します。属性値名を更新すると、参照先のすべての数式が更新されます。
- バックスラッシュを使用して構文内のカンマをエスケープすることができます。`ACCT.Personnel.Salary[Position=RN\, Triage]` 数式を保存すると表示されるので、数式を変更した場合は再度追加する必要があります。

  この問題は、モデル シートでは構文が若干異なるため、発生しません。

ソリューション #1 をお勧めします。一般に、ユーザーは属性値名にカンマ/セミコロンを使わないようにする必要がありますが、システムは入力を妨げません。

算出科目のバージョン固有の数式変更

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
モデル シートの算出科目で、数式にバージョン固有の変更を行うことはできますか？

回答
この場合、2 つのオプションがあります。1 つ目は、ドット表記を使用して特定のバージョン名または説明を参照することです。これについては上記で詳細に説明しています。これはシートの前提条件よりも推奨されます。if(search(this.version.description,"New")>0,New_Formulation,Old_Formulation) のような数式を作成することにより、バージョンの説明を見て、その中に「New」という単語が含まれているかどうかを確認できます。説明に "新規" が含まれていない過去のバージョンでは、古い数式が引き続き使用されます。

オプション 2 は前提条件を使用しています。シートの前提条件はバージョン固有であるため、以下に示すプロセスを使用すると、数式変更のバージョンを固有のものにすることができます。最初のステップはトリガとして機能するシートの前提条件を追加することであり、2 番目のステップは算出科目の数式を変更してこの数式を参照することです。この例では、現在の数式として以下の数式を使用します。

```
ROW.Salary+(ROW.Salary*ROW.Commissions)
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

新しい数式として以下の数式を作成します。

```
Row.Salary+(Row.Salary*Row.Commissions*Row.Adjustment)
```

シートの前提条件を追加するには、次の手順を実行します。

1. "モデリング" > "組織割当シート"に移動します。適切なシートを選択します。この例では、従業員シートを選択しました。
2. 左下の "シート前提条件" タブをクリックします。
3. "+" 記号をクリックして、新しいシート前提条件を追加します。この例では、シートの前提条件を「トリガ」と呼びます。
4. 新しい数式で計算するバージョンの期間の新しいシートの前提条件を 1 に入力します。
5. バージョンの "表示開始月" が計画の開始と同じでは なく 、変更する数式が当初残高の要素 (支給レートなど) である場合、次のようになります。 バージョンで使用可能なすべての期間にトリガを入力することが重要です。そのためには、"表示と非表示" オプションをクリックし、"表示可能な時間" として "すべての月" を選択します。 範囲。すべての期間についてトリガを 1 つに設定します。

シートの前提条件が追加されたら、シートを保存します。その後、シート ビルダーに戻り、実際の数式を変更します。

現在の数式は次のとおりです。 `ROW.Salary+(ROW.Salary*ROW.Commissions)`

数式を変更するには、以下の構文を追加します。 `If(Assum.Personnel.Trigger=1, New Formula Syntax, Old Formula Syntax)`

これは、作成したトリガの期間に 1 が入力されているものとして変換でき、新しい数式を使用できます。1 がない場合、古い数式を使用します。シートの前提条件トリガはバージョン固有であるため、新しい数式は「1」を入力したバージョンでのみ発生します。

最終的な数式は次のようになります。

```
If(Assum.Personnel.Trigger=1, Row.Salary
+(Row.Salary*Row.Commissions*Row.Adjustment), ROW.Salary
+(ROW.Salary*ROW.Commissions))
```

この新しい数式はバージョン固有のものになり、トリガ シートの前提条件として 1 が入力されているバージョンでのみ計算されます。

## シートとワークフローの FAQ

### シートに科目がありません

質問

シートで特定の科目またはデータを表示できません。何が原因でしょうか？

回答
この科目が表示されない可能性のあるアイテムがいくつかあります。

ゼロを非表示 (シートの表示オプションにあります): これがデータのない新しい科目である場合、シートに対して "ゼロの非表示" がオンになっているかどうかを確認できます。シートをロードした後、ツールバーの "表示オプション" ボタン (下に表示) をクリックすると、このウィンドウの下部にある "すべてゼロの空白の場合は行を表示しない" がオンになっているか確認できます。シートがキューブ シートの場合、他のタブをチェックして、科目がここから表示できるように設定されているかを確認することもできます。

サブ組織のカスタマイズ (シートの設定にあります): これは "モデリング" > "組織割当シート" (または "ユーザー割当シート") > "シート名" > "サブ組織のカスタマイズ" から見つけることができます。このページでは、科目を編集可能、読み取り専用、非表示にするかどうかを組織ごとに制御できます。より低いレ

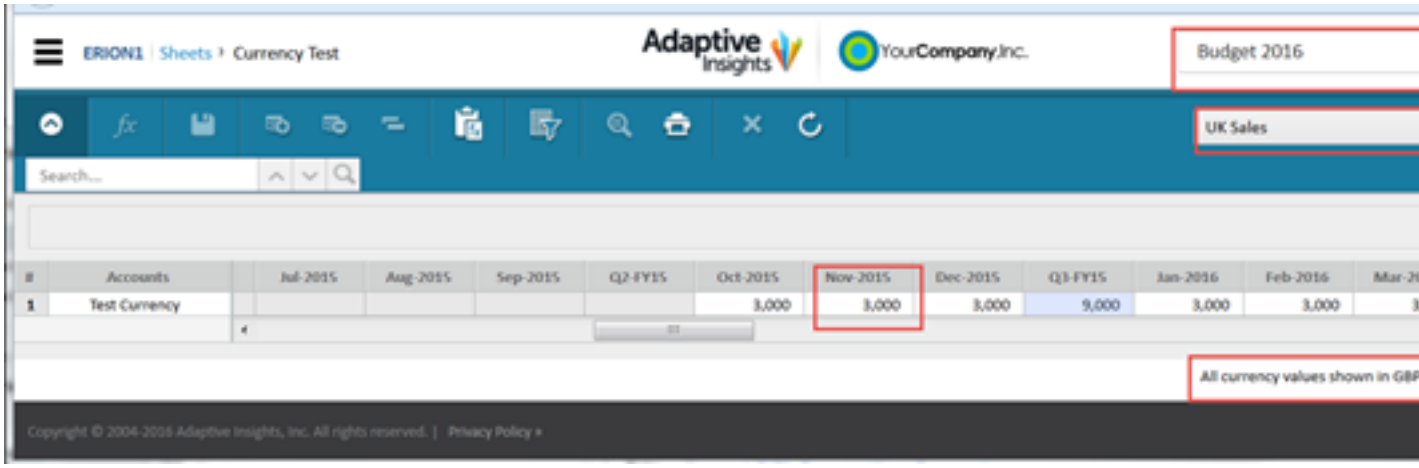
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

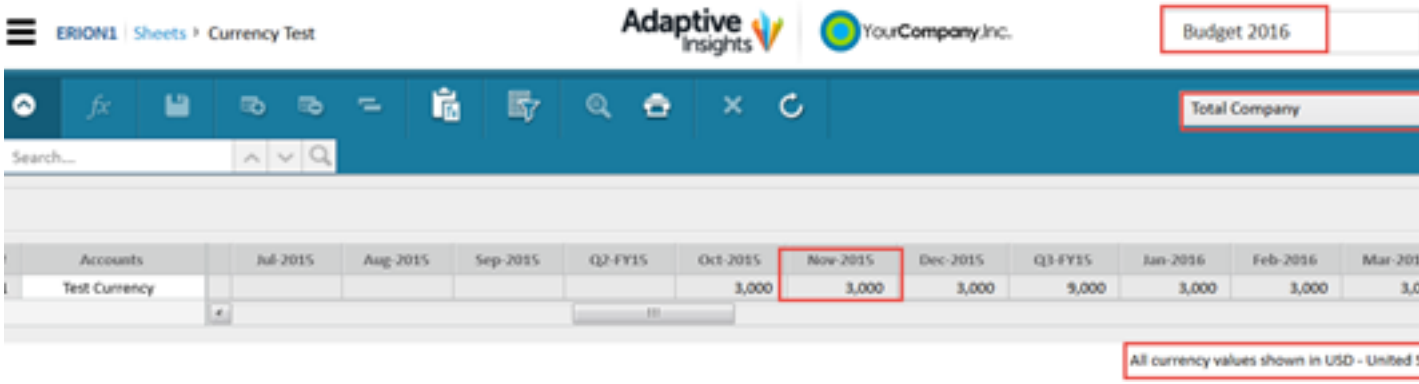
ベルにドリルダウンするには、列見出しをクリックします。新しく追加された科目の親科目が読み取り専用または非表示になっている場合、子科目も非表示になります。

科目グループ (シートの設定にあります): 標準シートの場合、"モデリング" > "組織割当シート" (または "ユーザー割当シート") > "シート名" > "科目グループ"から新しい科目を追加できます。親または科目グループをシートに追加すると、そのグループの下にあるすべての子または科目が自動的に追加されます。新しい子が親に追加された場合、または新しい科目がグループに追加された場合、シートは自動的に更新され、これらの新しい科目が組み入れられます。科目が、親またはグループが追加されたのではなく、個別に追加された場合、シートに新しい科目が自動的に含まれることはありません。

誤った通貨換算を使用している口座

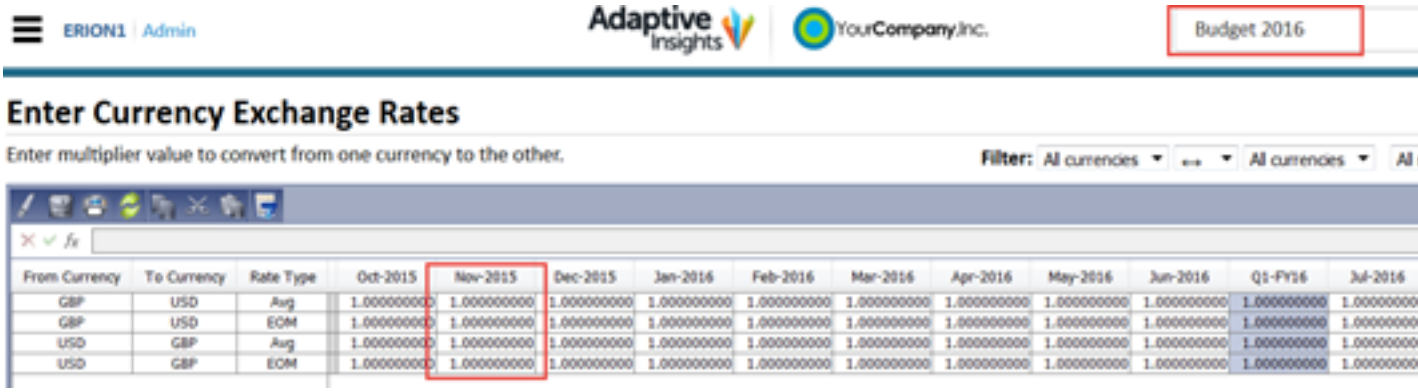
質問
科目が正しく変換されないのはなぜですか？スクリーンショットでわかるように、最上位組織では 3000 が 3000 ドルに換算されています。



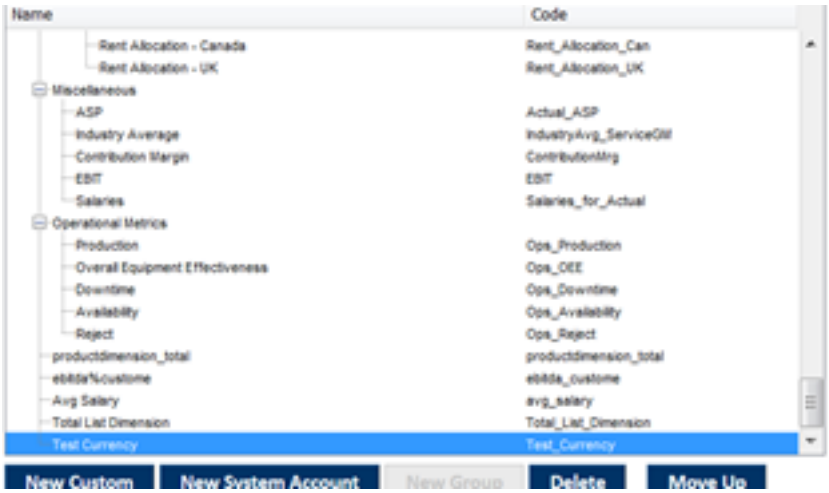



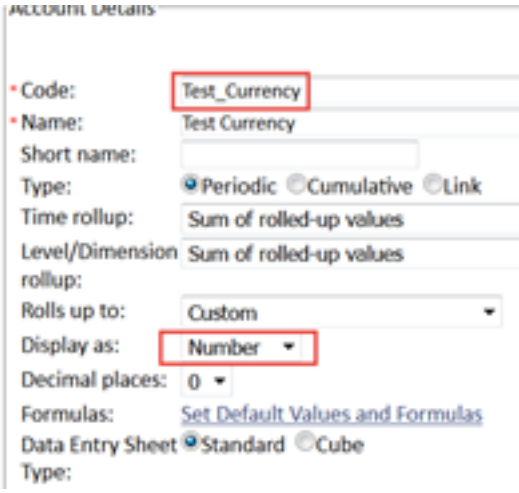

回答
まず確認すべきことは、問題になっている期間の為替レートが正しく入力されていること、および GBP/USD のレートが 1 や 0 に設定されていないことです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




問題になっている期間の為替レートが正しい (GBP/USD である) 場合、影響を受ける科目の "科目設定" をチェックして、この科目が "通貨として表示" に設定されていることを確認し、通貨換算が行われるようにすることができます。




これを通貨に変更すると、動作が修正され、正しい計算が実行されることがわかります。

先祖要素に含まれる要件

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
キューブ シートの制限を編集しようとしていますが、組織を選択すると「先祖要素には制限が含まれています」というメッセージが表示されます。先祖を選択しています"

回答
子組織の制限を編集するにあたり、親組織が子組織の制限を編集することはできません。これは、子を編集するには、親組織ですべての要素を使用できるようにする必要があることを意味しています。これは、親組織で "すべて" オプションを選択することで実現できます。

文字制限

質問
Adaptive のノートの文字数にはどのような制限がありますか？この制限はすべてのタイプのノートで同じですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答
セル、シート、レポート、プロセス トラッカーのメモには、超えることはできない文字数の制限があります。それぞれの制限は次のとおりです。

- セル メモ - 4,000 文字
- シート メモ - 4,000 文字
- レポート メモ - 1,024 文字
- プロセス トラッカー ノート - 2,048 文字

ユーザーがこの制限を超えようとすると、アプリケーションはエラーを返します。

キューブ シート間でのデータのコピー

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
あるキューブ シートから別のキューブ シートにデータをコピーするにはどうすればよいですか？

回答
モデル内の 1 つのキューブ シートからモデル内の別のキューブ シートにデータを転送するには、次の手順に従ってください。

1. データの取得元のキューブ シートをエクスポートします。
2. 新しいキューブ シートのインポート テンプレートにデータを入力します。
3. テンプレートの科目名と属性名を変更して一意にしてください。これは、一意のマッピング セットを作成するために必要です。
4. データの転送先のキューブに新しい Excel テンプレートをインポートし、新しいマッピングを作成します。

たとえば、属性 "価格" が "価格キューブ 1" にマッピングされている場合、テンプレートでそれを "価格 2" などの一意の名前に変更してから、インポート時に "価格キューブ 2" にマッピングする必要があります。

キューブ メトリック 科目を使用して、あるキューブ シートからデータを別のキューブ シートに移動させる数式を作成することもできます。

キューブ シートには キューブ メトリックと呼ばれる利用可能な科目タイプがあります。これにより、キューブ シート内にあるキューブ外の科目を直接参照できます。キューブのメトリック科目には任意の数式を含めることができ、"トリガ" 科目は不要です。

キューブ計算とキューブ メトリック科目

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
キューブ計算科目とキューブ メトリック科目の違いは何ですか？

回答
キューブ計算科目とキューブ メトリック科目は、主にデータをロールアップする方法で異なります。キューブ計算科目はパフォーマンス面でのメリットもあります。これは、キューブ メトリック科目はすべての交差を自動的に評価するわけではないためです。

- キューブ計算 科目は、標準のカスタム科目と同じ方法でデータを合計します。デフォルトでは、組織、属性、時間の合計で合計されます。しかし、必要に応じてその合計タイプを「平均」や「加重平均」に変更することもできます。
- キューブ メトリック 科目は、標準のメトリック科目と同じ方法でロールアップされ、財務比率によく使用されます。ロールアップ期間になると、これらの関数は、各関連する月および組織での計算を合計するのではなく、数式を再評価します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

たとえば、評価する数式が div(ACCT.A, ACCT.B)だとします。

1 月、2 月、3 月では、ACCT.A = 1、同じ期間では ACCT.B = 2。

- キューブ計算 科目の場合、四半期は個々の月の評価を合計します。
  - 1 月 = 1/2、2 月 = 1/2、3 月 = 1/2
  - Q1= .5+.5+.5 = 1.5
- キューブ メトリック 科目の場合、第 1 四半期の合計での評価を別々に実行し、両方の科目を合わせた各月の値を取得して計算を実行します。
  - 1 月 = 1/2、2 月 = 1/2、3 月 = 1/2
  - Q1 = (1+1+1)/(2+2+2) = 3/6 = .5

キューブ シート サイズの上限

キューブ シート サイズの上限
キューブ シートには、データ、行、セルに制限があります。制限を超えたキューブ シートをロードしようとすると、ユーザーに警告メッセージが表示されます。

- サイズ: バージョンごとに 5 ギガバイト
- 行:15,000 行
- セル: 7,500 万セル

注 : 行とセルの制限は、列、行、属性に対して選択された要素の組み合わせであるシートの現在のビューに基づきます。

キューブ シート サイズ
キューブ シートにはバージョンごとに 5 GB のサイズ制限があります。キューブ シートのサイズは、キューブ シートのサマリ ページ ("モデリング" > "シート") で監視できます。1 つ以上のバージョンでキューブ シートが 50% の容量を超えた場合、"サマリ" ページにパーセントを示した警告メッセージが表示されます。

- 5 GB を超えるキューブ シートについてサマリ ページで警告する: このキューブ シートはデータが多すぎるため、1 つ以上のバージョンで表示できなくなります。
- 5 GB を超えるキューブ シートを表示しようとすると警告が表示されます: "このシートはデータが多すぎて表示できません"

キューブ シート サイズを縮小

- バージョンの年数を減らしてください。
- キューブで使用可能な科目または属性の数を減らします。
- キューブを 2 つの小さなキューブ シートに分割します。

キューブ シートの行とセル
キューブ シートには 15,000 行の制限と 7,500 万セル ベースの制限があり、選択した要素 (組織、属性、期間) の組み合わせであるキューブ シートの「現在のビュー」で表示できるデータの量が制限されます。
列、行、属性

キューブ シートの行とセルの削減

- "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" を有効化
- キューブ制限の作成
- フィルタを使用してシートの初期表示を調整する

組織別表示モードでのデータ変更

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

質問
組織別の表示に切り替えると、シートのデータが変更されるのはなぜですか？

回答
組織別に表示する場合、"通貨として表示" に設定された科目は、最上位組織の通貨 (社用通貨など) にロールアップされる際に組織ツリーの通貨を介して換算されます。

たとえば、以下の構造があり、"孫" 組織に 100 USD の科目があるとします。

- 最上位組織 - EUR
    - 子組織 - CAD
        - 孫組織 - USD

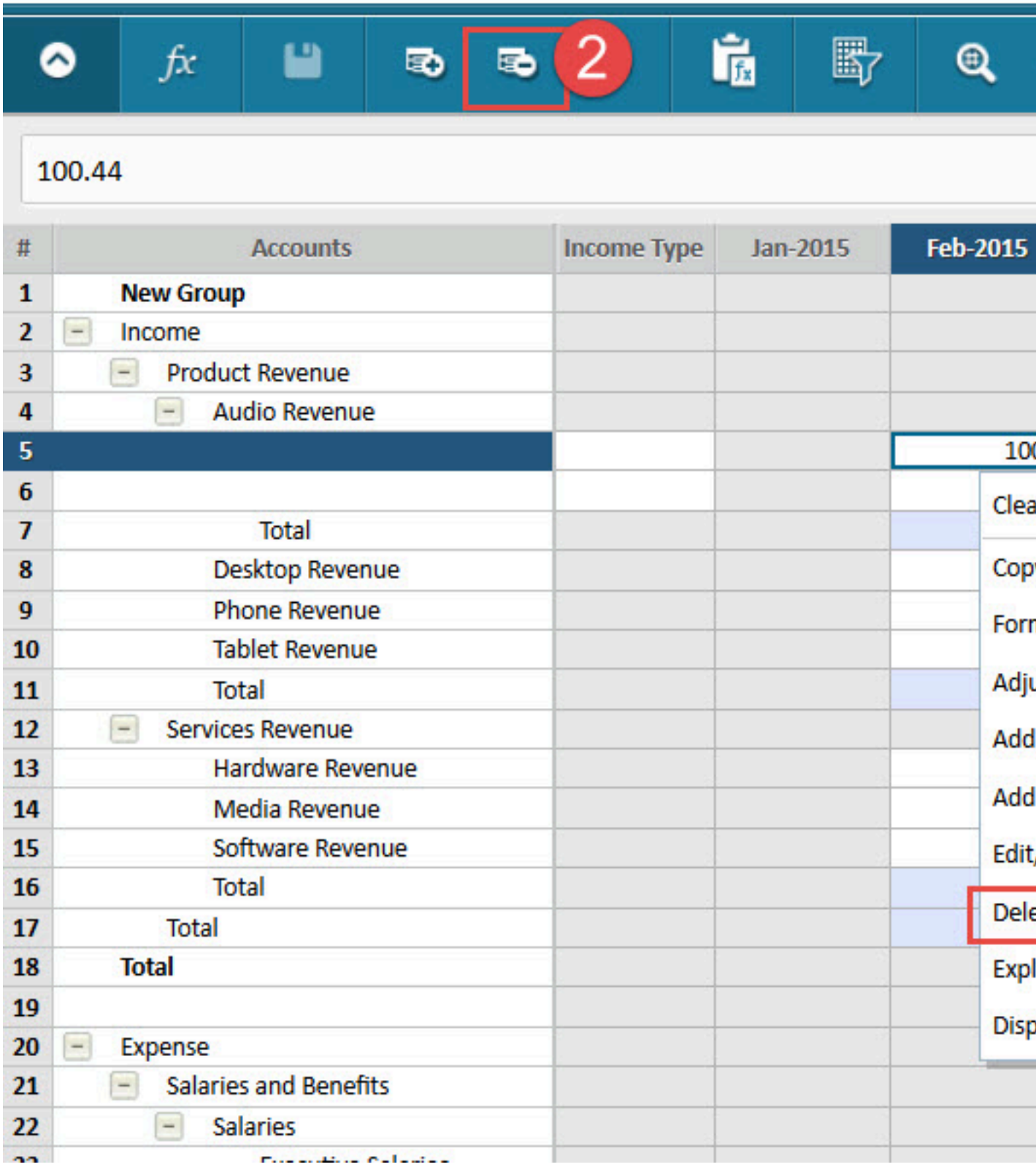
孫組織で 100 USD の値を持つ科目は、USD から CAD への 為替レートを使用して子組織にロールアップされます。その後、CAD から EUR への 為替レートを使用して、値が最上位組織にロールアップされます。標準シートで 組織別に表示する ように切り替えると、各ローカル組織は EUR に変換されます。

分割の削除

質問
分割を削除するにはどうすればよいですか？

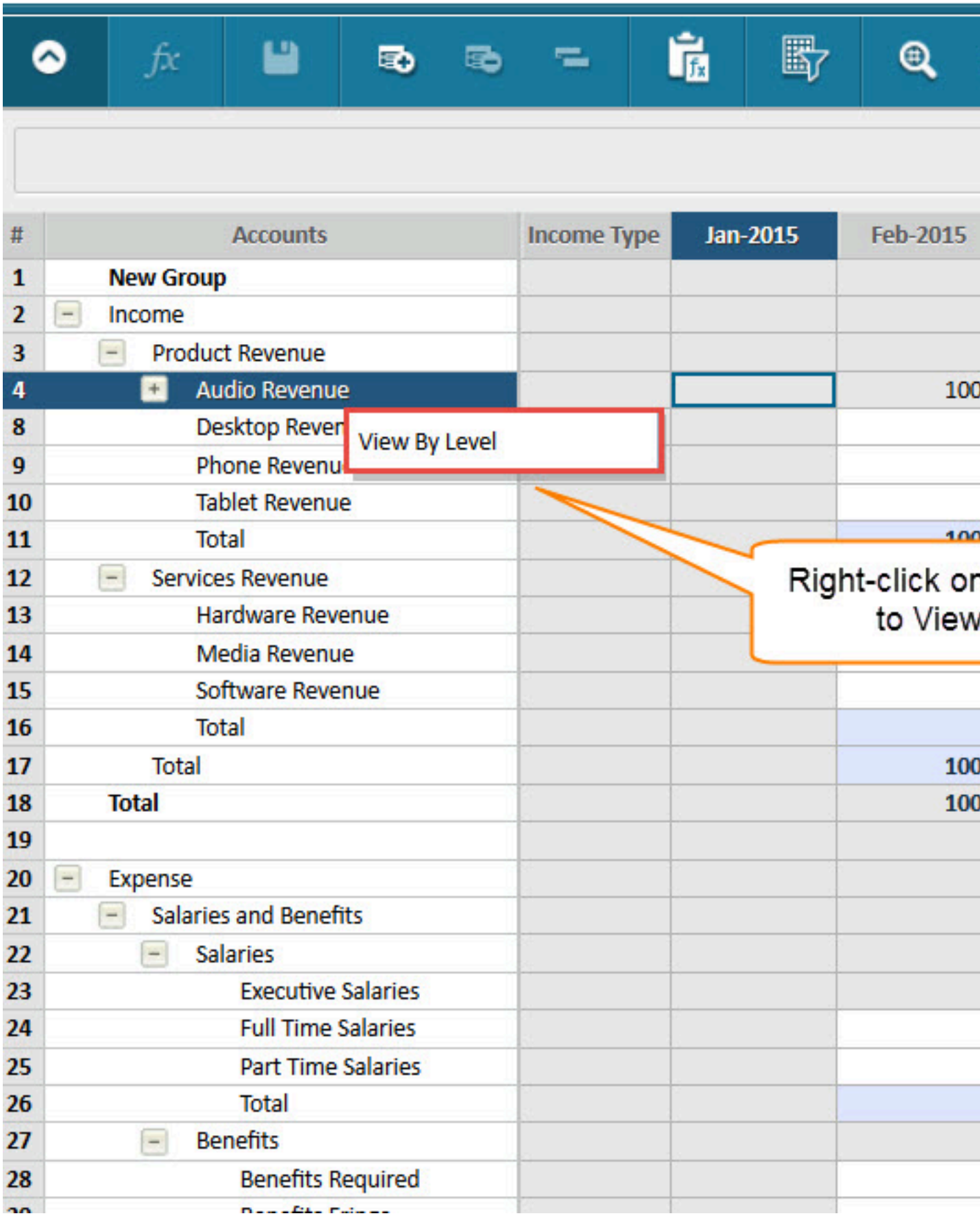
回答
分割が予算バージョンにある場合は、分割を右クリックし、ドロップダウン メニューで "削除" を選択し、シート自体で削除する必要があります。ツールバー (マイナス記号付きの行として表示) には分割を削除するボタンもあります。分割がグループ化されている場合、複数を一度にハイライトして削除できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



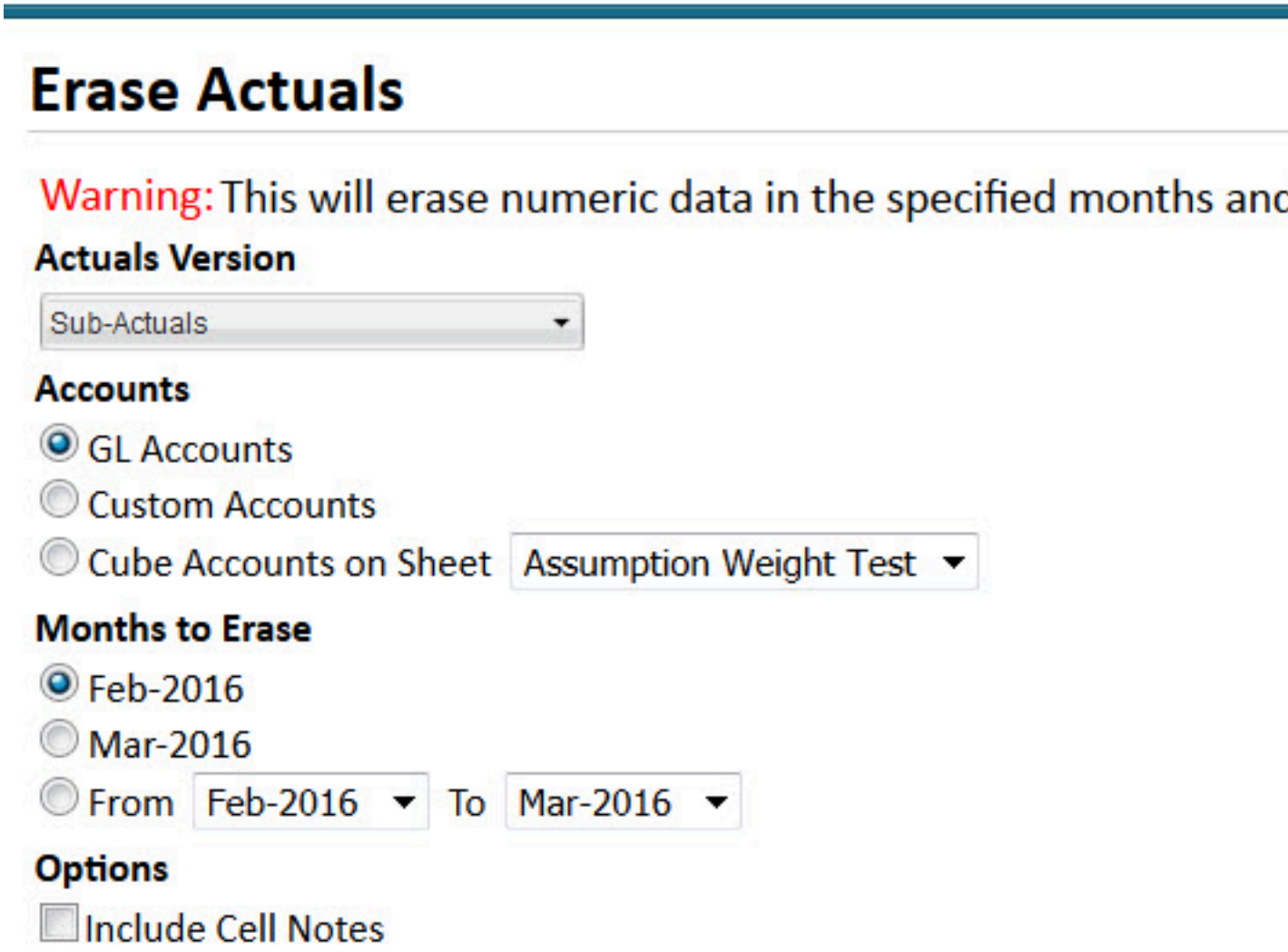

分割の場所/頻度に応じてプロセスを高速化するための 1 つのオプションは、"組織別に表示" または "科目別に表示" に切り替えることです。これを行うには、標準シートの Y 軸上の科目または組織を右クリックし、選択可能なオプションを選択します。場合によっては、軸に組織があると削除プロセスが迅速になり、別の場合において科目を軸に配置する方が効率的になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

分割が "実績" バージョンにある場合、"データの消去" という機能が役立つ可能性があります。ナビゲーション メニュー > "インテグレーション" > "データの消去"から実行できます。"実績の消去" によって分割が 空白に なった場合、分割は自動的に削除されます。"実績の消去" は、選択した期間 (単一の月または月の範囲) の実績バージョンで ALL GL またはカスタム科目に適用されます。これは、特定の時間範囲内の科目からすべてのデータを完全にクリアするため、システムに再インポートできる実績データが必要になります。




キューブ シートのすべてのデータを消去

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

質問
初期設定を実行していますが、キューブ シートに誤った期間にデータがインポートされました。"すべてのデータを消去" ボタンをクリックできますか？このアクションによってキューブ内の数式が削除されますか?

回答
キューブ算出科目の場合、数式は削除されません。数式が標準科目または前提条件キューブ科目にインポートされた場合、それらの数式は失われます。

エラー: キューブ計算の数式はゼロと評価される必要があります

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
キューブ算出科目を作成しようとしましたが、「キューブの他の科目がゼロの場合、キューブ計算の数式はゼロと評価される必要があります。」という数式エラーが表示されます。私が間違っているのは何ですか？

回答

キューブ科目で作成できる数式には固有の制限があります。キューブ計算科目の数式は、キューブのすべての入力科目がその位置で空の場合、キューブの特定の位置で常にゼロと評価される必要があります。このルールを満たさない数式を入力しようとすると、キューブ計算の保存は次のエラーで失敗します。「キューブの他の科目がゼロの場合、キューブ計算の数式はゼロと評価される必要があります。

その理由は、キューブ シートが、モデル内の他の領域のデータを表示またはレポートする方法として意図されていないためです (モデル シートや他のキューブは表示目的のみ)。キューブ シートは、複数の属性が交差する部分のデータ入力に使用できるツールとして設計されています。その後、"キューブ計算" 科目を使用して、現在のキューブ内のデータ入力を計算できます。

キューブ計算科目で有効な数式を作成するには、現在のキューブ シートの別の科目に基づいて科目を条件付けする必要があります。たとえば、次のような数式を作成できます。

```
if(isblank(ACCT.CurrentCube.XXX),0,(ACCT.OutsideOfCurrentCube))
```

キューブ メトリックを使用すると、該当するキューブの外にある科目を直接参照できます。キューブのメトリック科目には任意の数式を含めることができ、"トリガ" 科目は不要です。

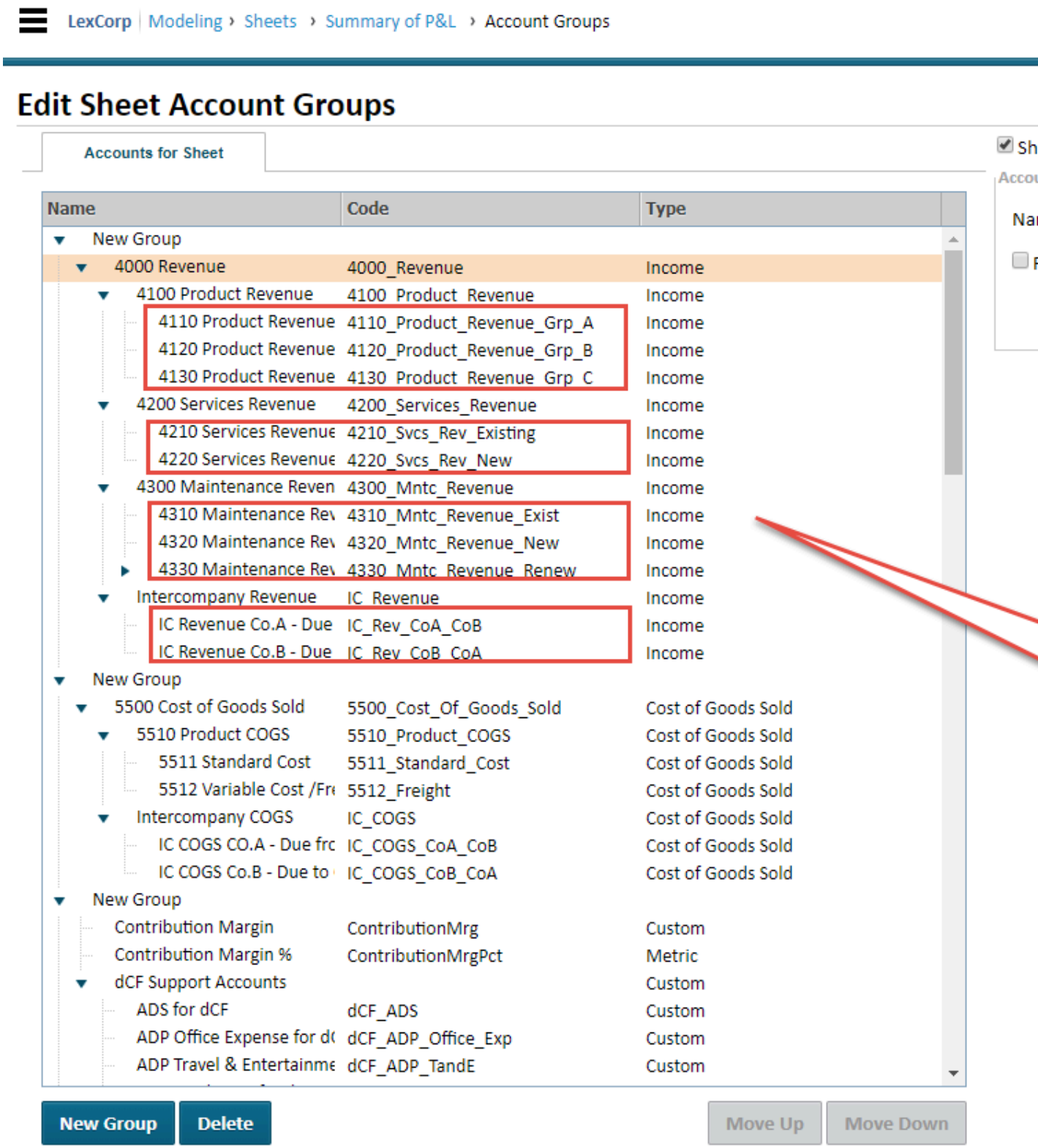
注 : メトリック科目の合計は、標準メトリック科目の合計に似ています。また、キューブ メトリック科目では、時間修飾子がある場合でも、科目が数式で自身を参照することはできません。これは、メトリック科目が時間合計 (四半期と会計年度) に集計される方法に起因しています。

シートから子科目を除外

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
シートに科目を配置したいのですが、この科目の下のサブ科目も含めないと追加できません。サブ科目が追加されないようにするにはどうすればよいですか？

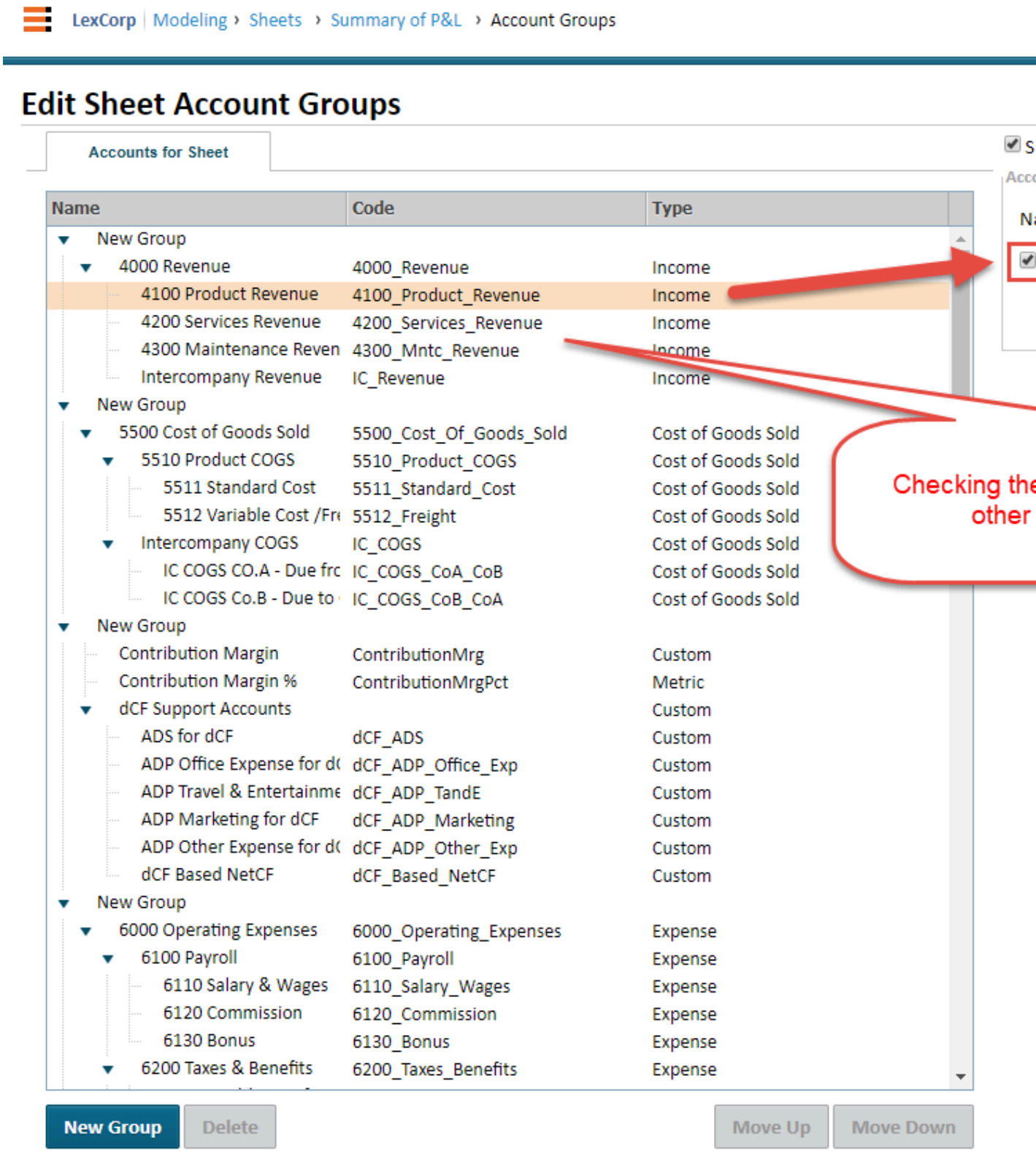
©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

回答
下のスクリーンショットのように、親科目の "シート設定" ページで "読み取り専用" チェックボックスをオンにすることで、サブ科目を除外できます。ただし、シート上で親科目自体を編集することはできません。親科目に値を入力する唯一の方法は、いずれかの子科目を使用することです。

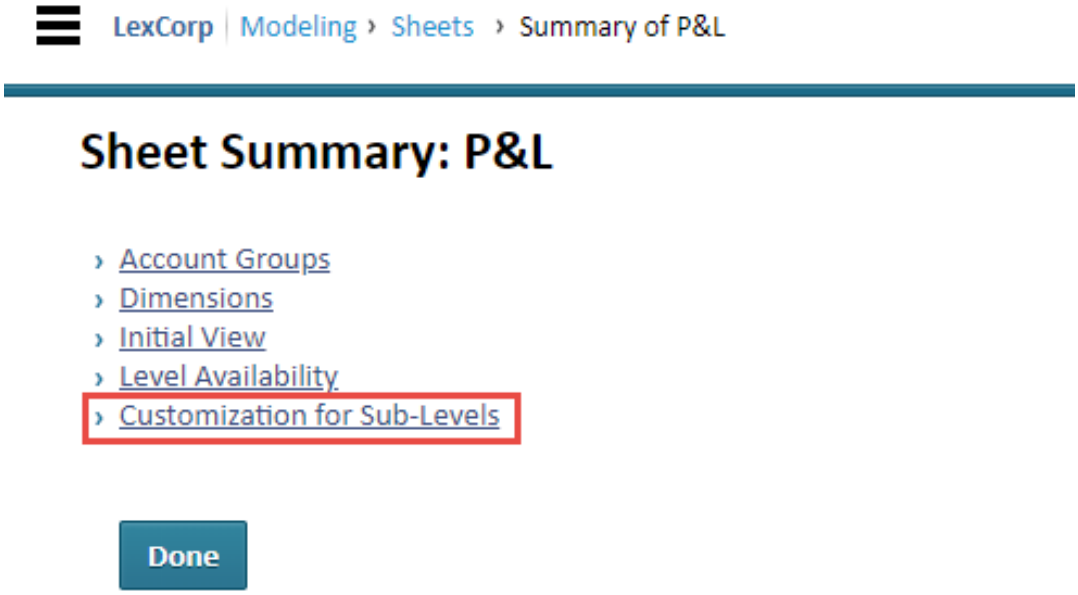
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

科目構造をカスタマイズして、一部の組織では科目が非表示 (または読み取り専用に設定) で、それ以外では非表示にしないようにする場合、シート ビルダーの "サブ組織のカスタマイズ" 領域でこれを行うことができます。




異なる通貨の間でヘッドカウントの分割

質問
従業員シートで、通貨 (USD と CAD) が異なる複数のプラン間で数人の社員を分割しようとしています。すべての USD プラン内で他の社員を分割しましたが、割り当てられた給与は各プランに正しく表示されます。しかし、社員の給与を USD プランと CAD プランで分割しようとしましたが、分割は USD プランのみに表示され、CAD プランには表示されません (配分率が 0 でない場合)。これを適切に機能させるにはどうすればよいですか？

回答
支払い単価の換算に使用される為替レートは、バージョンの初期の残高計画期間、具体的には月末の為替レートから取得されます。計画バージョンの初期の累積期間の CAD 為替レートを確認します。バージョンに実績が表示されている場合、計画期間 (実績期間ではない) の当初残高で為替レートを入力できるように、"計画の開始" を後ろに移動しなければならない可能性があります。

モデル シートに表示する通貨の特定

質問
すべてのキューブ シートと標準シートで、組織の通貨がシートの下部に表示されていることがわかりました。モデル シートの値が表示されている通貨を確認するにはどうすればよいですか？

回答
合計の表示モードでは、モデル シート上に異なる組織と通貨が混在している可能性があります。モデル シート行には、常に行の組織通貨で通貨値が表示されます。標準シートとは異なり、モデル シートは各行の通貨値を、選択した組織の通貨に換算しません。

行に表示されている通貨のタイプをユーザーが識別しやすくするために、"組織通貨" 表示列が追加されました。この表示列は、モデル シート ビルダーの "表示列" セクションの最初のアイテムとして表示されます。"組織通貨" 列は読み取り専用列で、行に関連付けられた通貨のタイプを表示します。合計される列のタイプが通貨の場合、合計値は組織セレクターで選択されたプランの通貨で表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

この列は 1 つのモデル シートに複数回配置できます。デフォルトでは、組織通貨列は、組織列と同様に合計の表示モードでのみ表示されます。ただし、"組織通貨" 列には "編集モードで表示" オプションがあり、これにより子組織または親 (限定) 組織を表示したときに列が表示されます。

モデル シート列の分割ボックスをオフのままにする

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
分割行を含むモデル シートがありますが、列の 1 つを分割する必要がなくなりました。列の "分割" ボックスをオフにするとどうなりますか？

回答
モデル シート列の分割ボックスがオフになっている場合、シート ビルダーを保存すると、その列の分割行に入力された値は削除されます。これにより、列の親行に空白の値が表示されます。以前に分割されていない行の値は、列に残ります。次に "分割" ボックスを再度オンにすると、列の分割行の値が再び表示されます。分割行の値は、その分割行が削除されるまでデータベースに残ります。シートのプロパティの "分割を許可" 設定は、すべての分割行が削除されるまでオフにできません。

行キーとして設定された列は分割できません。これは、列が分割されて "行キー" に設定される場合、"分割" ボックスが自動的にオフになることを意味しています。"行キー" 列の分割行に入力された値は、シート ビルダーが保存されると削除されます。

ユーザーがキューブ シートから新しい属性値を追加できるようにする

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

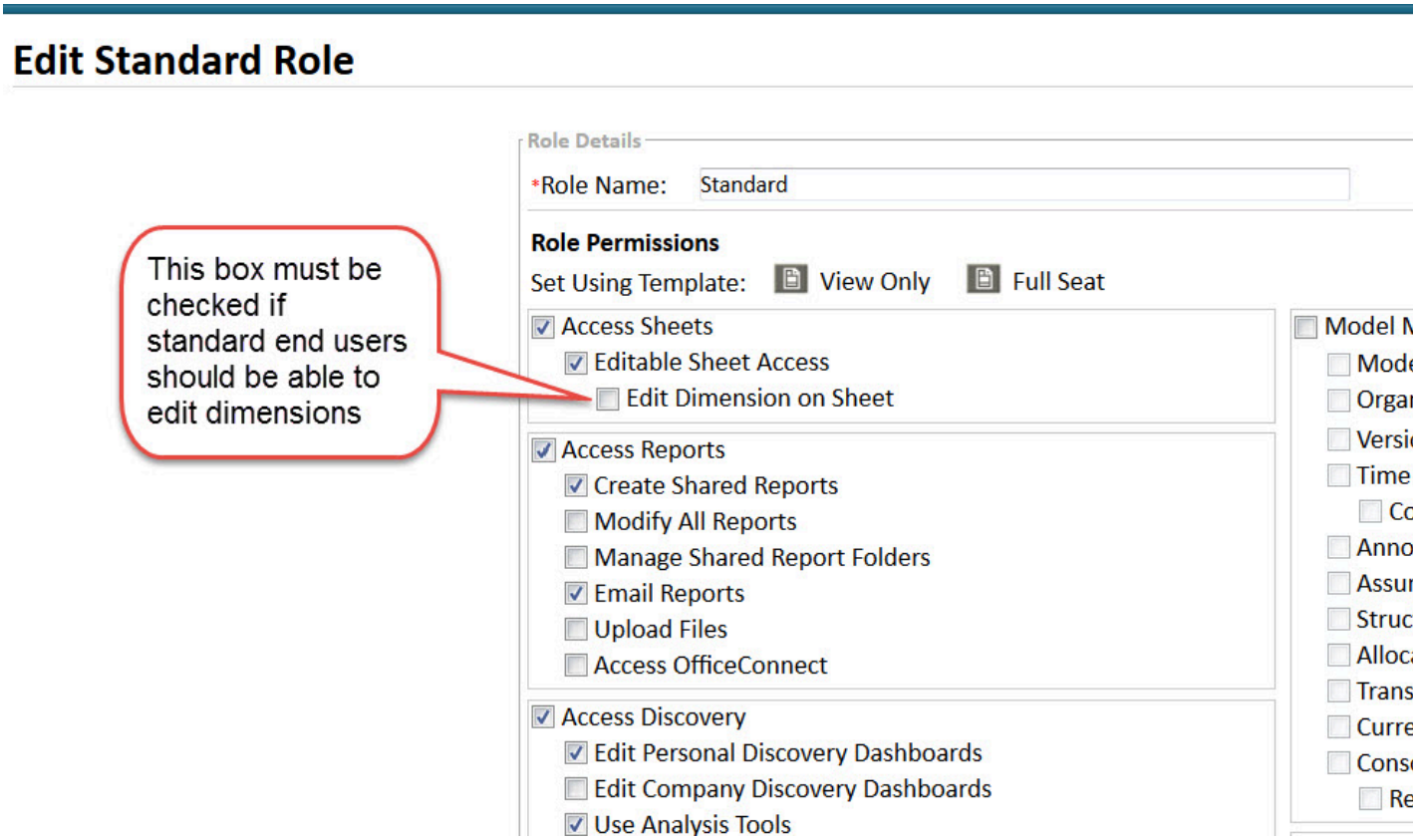
質問
予算承認者 (管理者ではない) から、キューブ シートで属性値を作成できるようにしてもらいたいという最近のリクエストがあります。それを安全に有効にするためにはどのユーザー プロファイルを使用すればよいですか？

回答

これはユーザーのロールの権限とキューブ シートの追加のオプションを使用して行うことができます。一意のロールを作成して、この権限が必要な標準ユーザーに割り当てることができます。

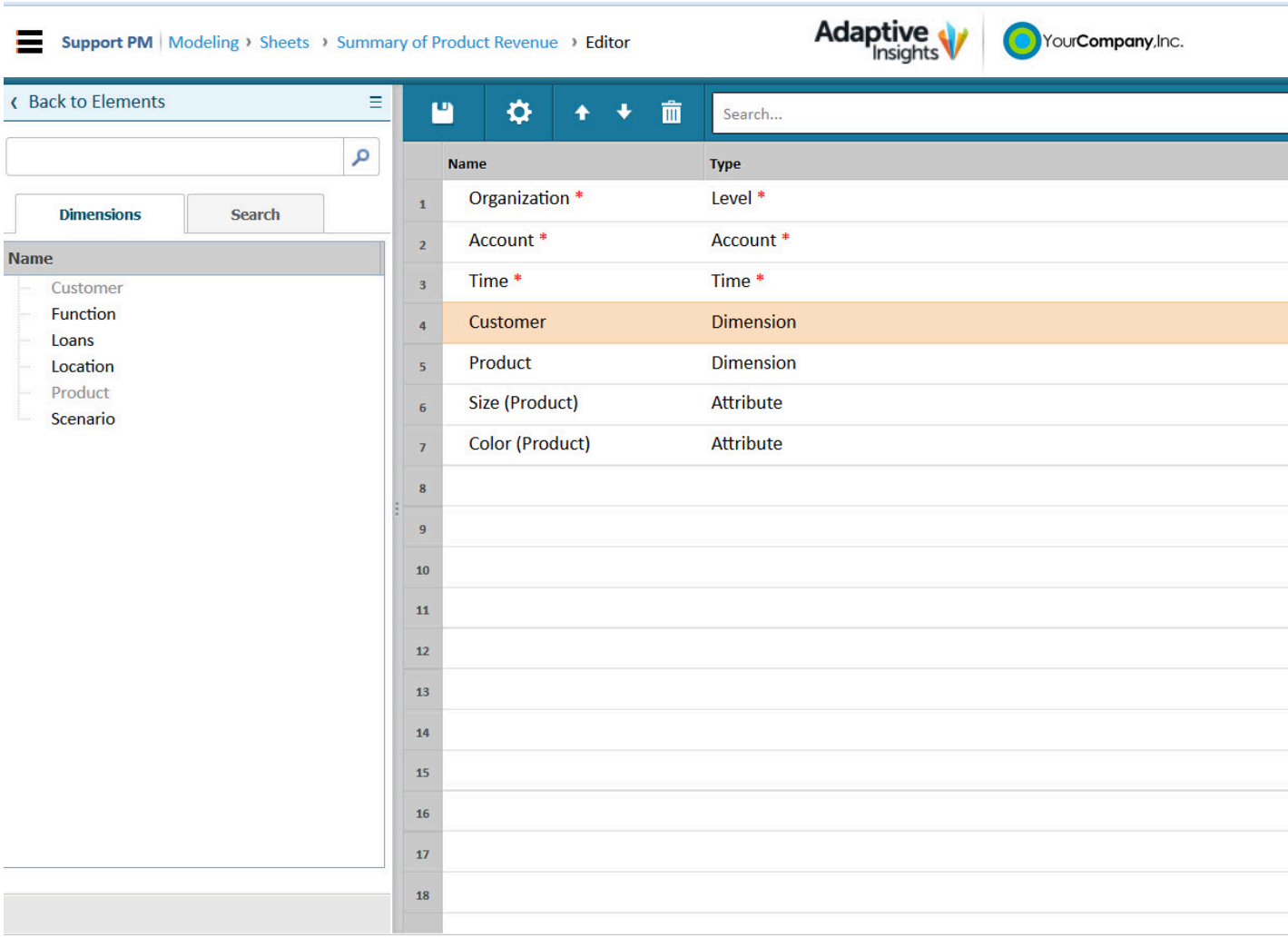
"シート上で属性を編集" という権限があります。このチェックボックスをオンにする必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




キューブ シートでは、"シート上で属性を編集" ボックスもオンにする必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



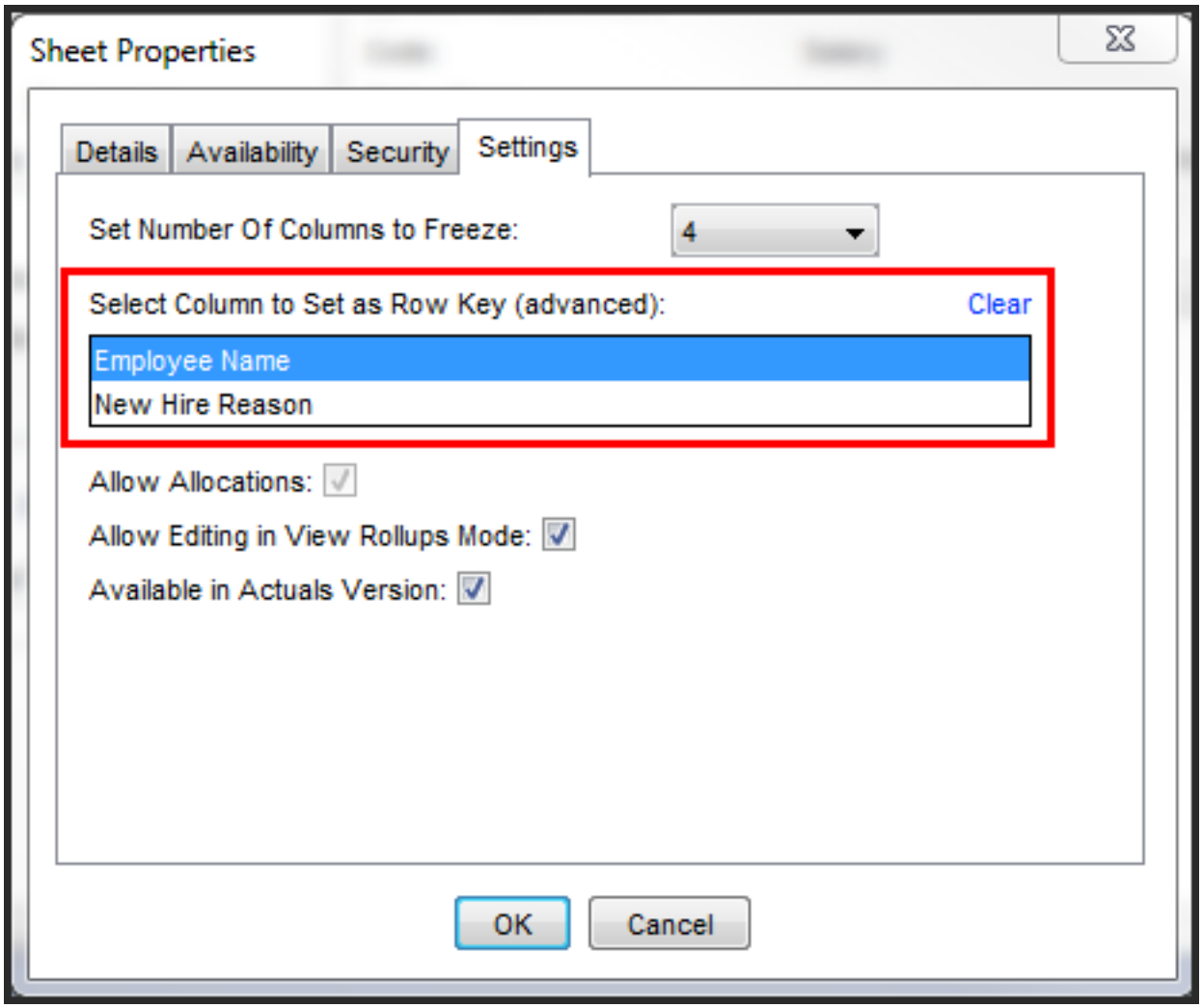

モデル シートの属性は、上記の手順に従って編集可能にすることもできます。

モデル シートのテキスト フィールドで使用できる最大文字数

質問
モデル シートのテキスト フィールドに使用できる最大文字数はどのくらいですか？これはすべてのタイプのテキスト フィールドで同じですか？

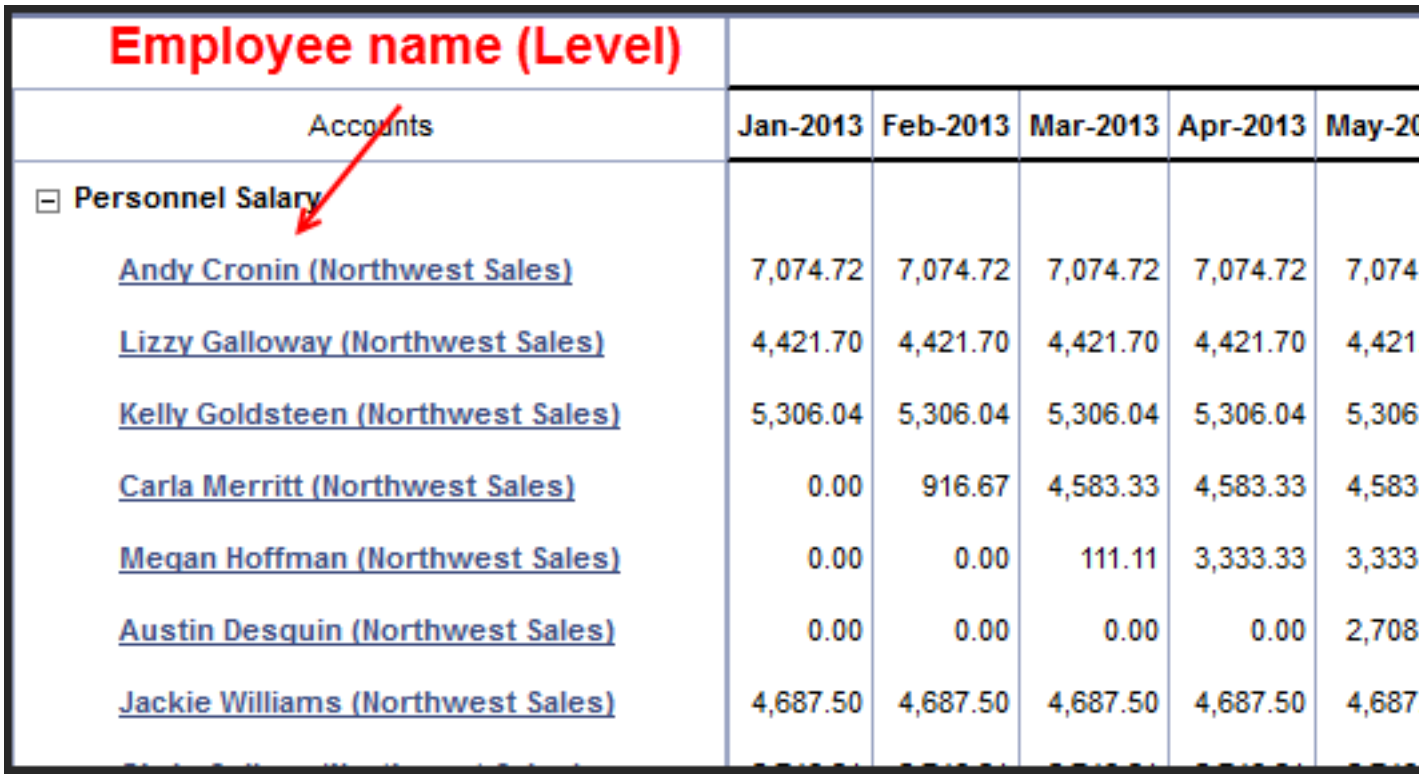
回答
テキスト フィールドが "行キー" として選択されている場合を除き、テキスト フィールドに入力できる最大文字数は 2048 文字です。2048 文字を超える文字を入力するとエラーが発生します。テキスト フィールドが "行キー" として選択されて いる 場合、最大文字数は 500 文字です。行キーはシートのプロパティに表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




行キーの目的は、標準シートの分割ラベルのように機能する行ラベルをシートに持たせることです。行キーは通常、レポート目的で使用されます。モデル算出科目の分割がレポートに表示される場合、行キーを使用して分割にラベルを付けます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



| Employee name (Level) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Accounts | Jan-2013 | Feb-2013 | Mar-2013 | Apr-2013 | May-20 |
| ⊟ Personnel Salary | | | | | |
| Andy Cronin (Northwest Sales) | 7,074.72 | 7,074.72 | 7,074.72 | 7,074.72 | 7,074 |
| Lizzy Galloway (Northwest Sales) | 4,421.70 | 4,421.70 | 4,421.70 | 4,421.70 | 4,421 |
| Kelly Goldsteen (Northwest Sales) | 5,306.04 | 5,306.04 | 5,306.04 | 5,306.04 | 5,306 |
| Carla Merritt (Northwest Sales) | 0.00 | 916.67 | 4,583.33 | 4,583.33 | 4,583 |
| Megan Hoffman (Northwest Sales) | 0.00 | 0.00 | 111.11 | 3,333.33 | 3,333 |
| Austin Desquin (Northwest Sales) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 2,708 |
| Jackie Williams (Northwest Sales) | 4,687.50 | 4,687.50 | 4,687.50 | 4,687.50 | 4,687 |

モデル シート前提条件とグローバル前提条件

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
モデル シートでシート前提条件またはグローバル前提条件を使用するべきですか？

回答
シート前提条件科目とグローバル前提条件科目は同様の目的で使用されますが、これらの前提条件タイプには主に 4 つの違いがあります。

1. シートの前提条件はモデル シートの設定で直接作成されますが、グローバル前提条件は "前提条件科目" モデリング ページで作成されます。
2. シートの前提条件はシート ビルダー自体で設定されるため、 モデル ロール権限 (管理権限) を持つユーザーのみがこれらの科目の値を編集できます。一方、グローバル前提条件は、ユーザー割当シートなど、ユーザーがアクセスできる任意のシートで設定できます。最上位組織のアクセス権を持つ標準ユーザーは、前提条件科目がリストされているユーザー割当シートまたは組織シートを表示する権限が付与されると、これらの値を編集できます。
3. シートの前提条件では、常に計画バージョンで設定された値が使用されます。これは、実績データのオーバーレイを許可するために計画の開始が変更されている場合でも当てはまります。つまり、過去の計画データに対する実績のオーバーレイがある場合でも、シートの前提条件ではそれらの月の計画バージョンの値が適用されます。グローバル前提条件は実績のオーバーレイによって影響を受けるため、これらの値は実績バージョンの値を使用して更新する必要がある場合があります。
4. シート前提条件科目はマトリクスまたは OfficeConnect レポートで表示できませんが、グローバル前提条件科目は表示できます。

モデル シート表示列の設定

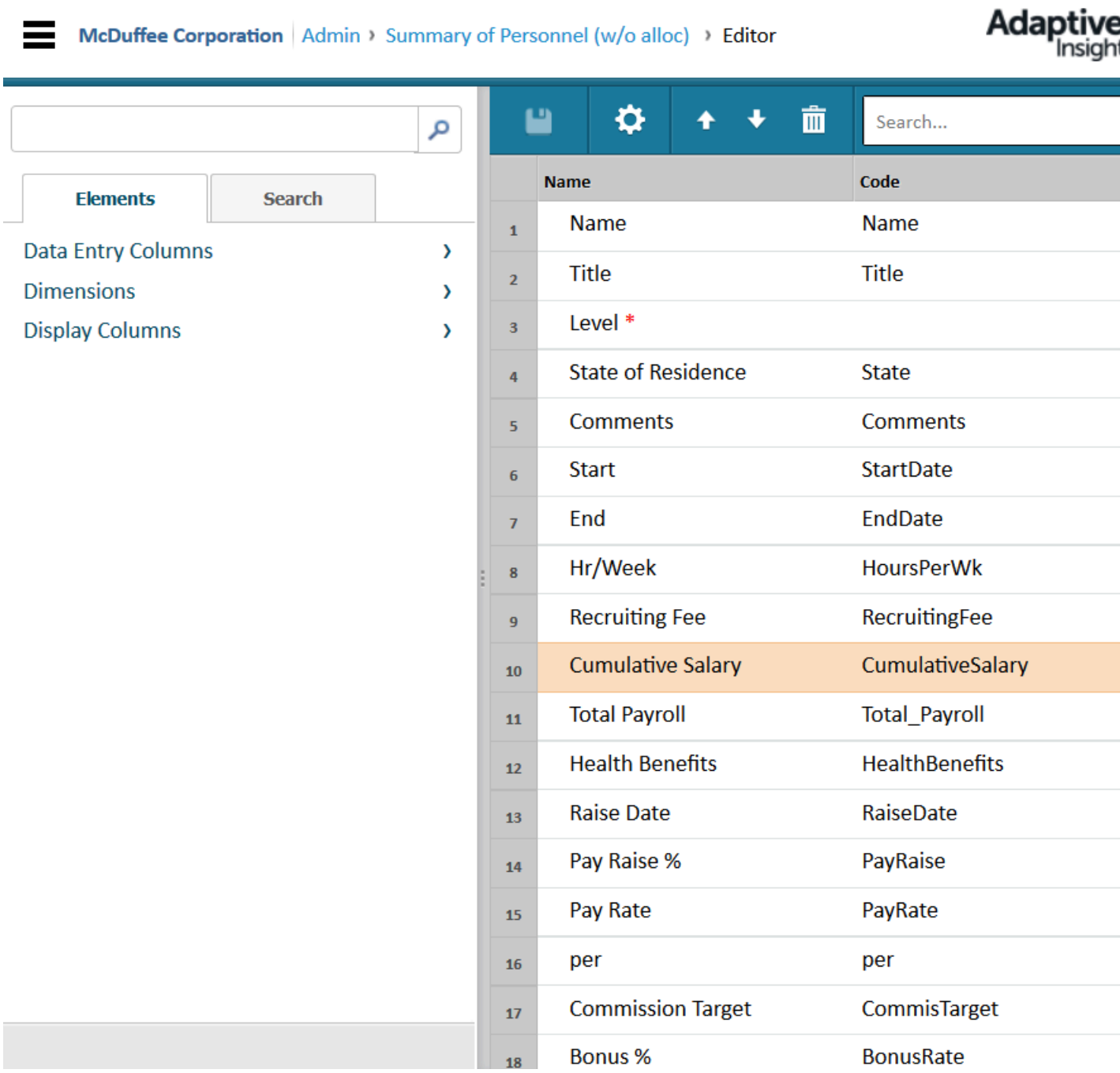
質問
モデル シートに表示されているデータの月を確認するにはどうすればよいですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

回答
これは、 参照月、 合計範囲、 合計範囲の開始の3 つの設定に依存します。これらの設定は、モデル シートの列ごとにカスタマイズできます。

設定を編集するには:

"管理" >"組織のシートの管理"> "シート名" > "列と組織"に移動します。 "表示列"をクリックすると、以下の画像に示されているように、ページの右側にある表示列のプロパティにアクセスできます。



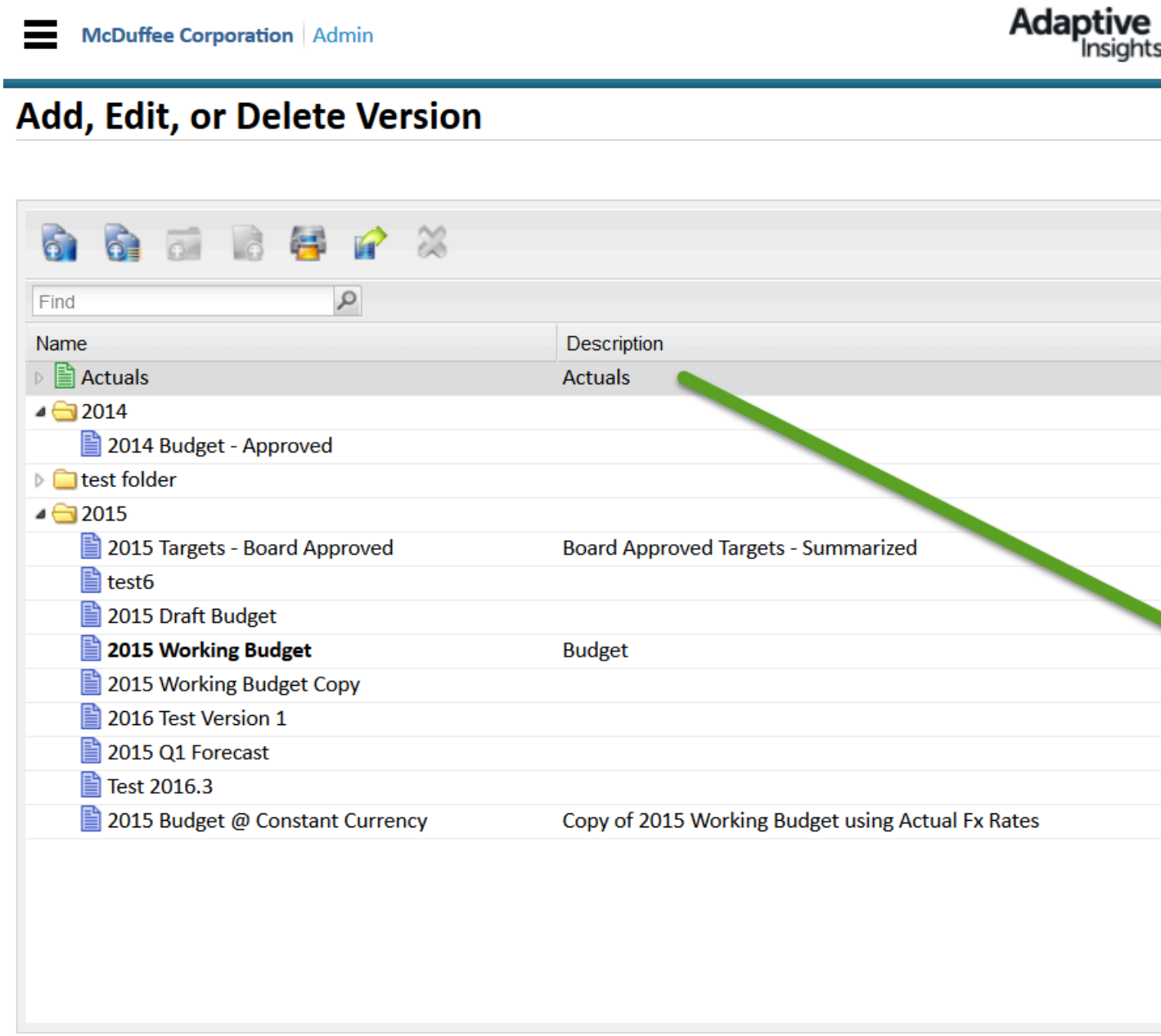

各オプションの意味は以下のとおりです。

- 参照月: 最初の実績でない月: これは、"管理" > "バージョンの管理" の実績バージョンにある "次の時点までの確定数字を表示" フィールドに設定された月の翌月です。
- 計画の開始月: 表示されている特定のバージョンで "計画の開始" に設定されている月を表します。

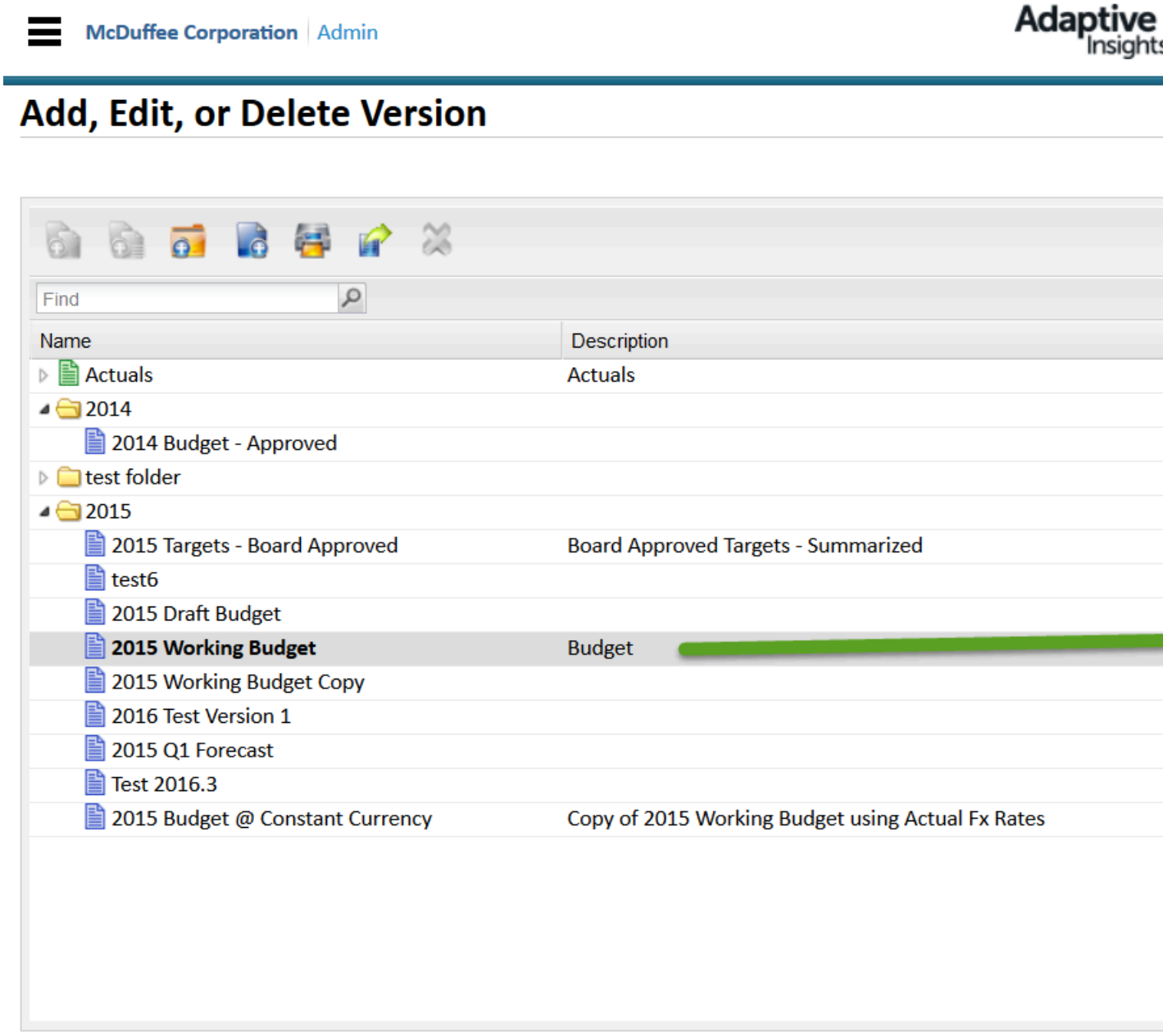
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 合計範囲: この設定により、表示列に合計される月数が決まります。これは通常、データの月または年のそれぞれ 1 または 12 に設定されます。
- 合計範囲の開始: これは合計範囲の開始日を表し、各オプションは "参照月" に相対しています。次のオプションがあります。
    - 参照月
    - 参照月が含まれる四半期の開始月
    - 参照月が含まれる財務年度の開始月
    - 参照月の前月
    - 参照月の前に終了する四半期の開始月
    - 参照月の前に終了する財務年度の開始月
    - 参照月の翌月
    - 参照月の後の四半期の開始月
    - 参照月の後の財務年度の開始月

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

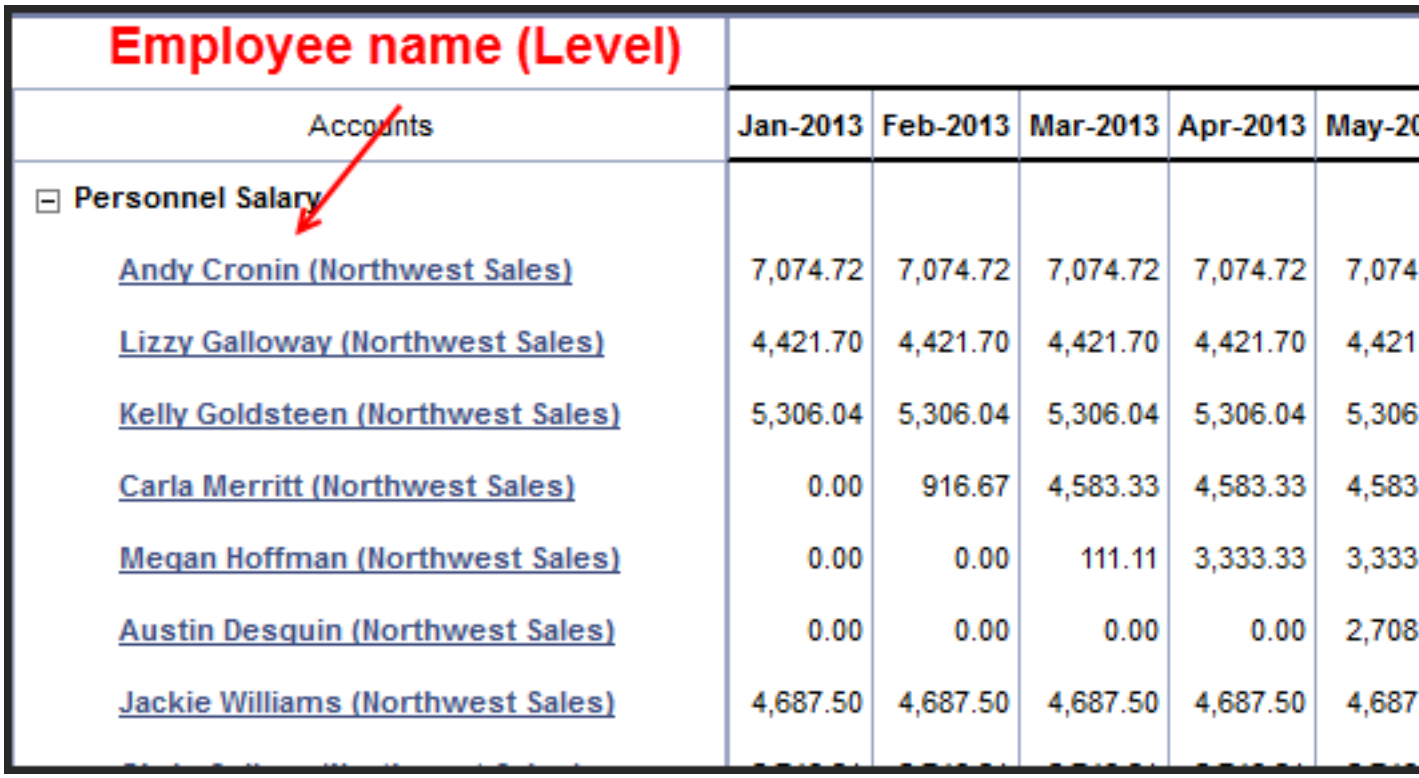



モデル シートの行キー

質問
行キーは何に使用されますか？

回答
行キーの目的は、ユーザーがモデル シートの行にラベルを割り当てられるようにすることです。これは標準シートの分割ラベルと同様に機能します。モデル シート上の行は基本的に計算されたモデル科目の分割です。モデル科目がシートまたはレポートに表示されると、行は行キーで識別されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

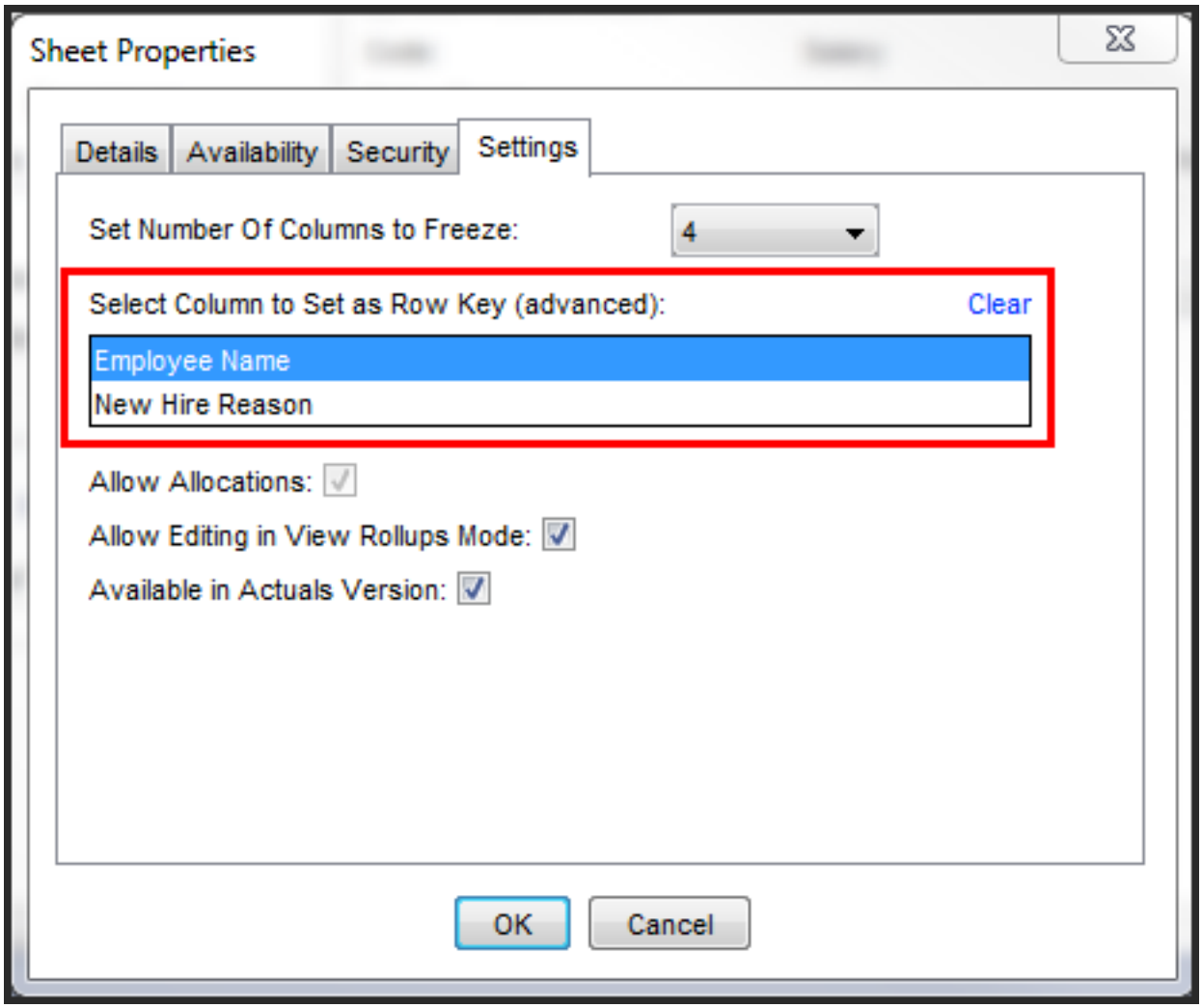


| Employee name (Level) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Accounts | Jan-2013 | Feb-2013 | Mar-2013 | Apr-2013 | May-20 |
| ⊟ Personnel Salary | | | | | |
| Andy Cronin (Northwest Sales) | 7,074.72 | 7,074.72 | 7,074.72 | 7,074.72 | 7,074 |
| Lizzy Galloway (Northwest Sales) | 4,421.70 | 4,421.70 | 4,421.70 | 4,421.70 | 4,421 |
| Kelly Goldsteen (Northwest Sales) | 5,306.04 | 5,306.04 | 5,306.04 | 5,306.04 | 5,306 |
| Carla Merritt (Northwest Sales) | 0.00 | 916.67 | 4,583.33 | 4,583.33 | 4,583 |
| Megan Hoffman (Northwest Sales) | 0.00 | 0.00 | 111.11 | 3,333.33 | 3,333 |
| Austin Desquin (Northwest Sales) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 2,708 |
| Jackie Williams (Northwest Sales) | 4,687.50 | 4,687.50 | 4,687.50 | 4,687.50 | 4,687 |

モデル シートで分割されていないテキスト列のみを行キーとして設定できます。列を "行キー" として設定するには、次の手順を実行します。

1. "モデリング" > "組織割当シート"に移動します。
2. モデル シート名をクリックします。
3. "シート プロパティ" アイコン ("i" アイコン) を選択します。
4. "設定" タブを選択します。
5. 列名をクリックし、行キーとして設定する列を選択します
6. "OK" をクリックし、シートを保存します

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

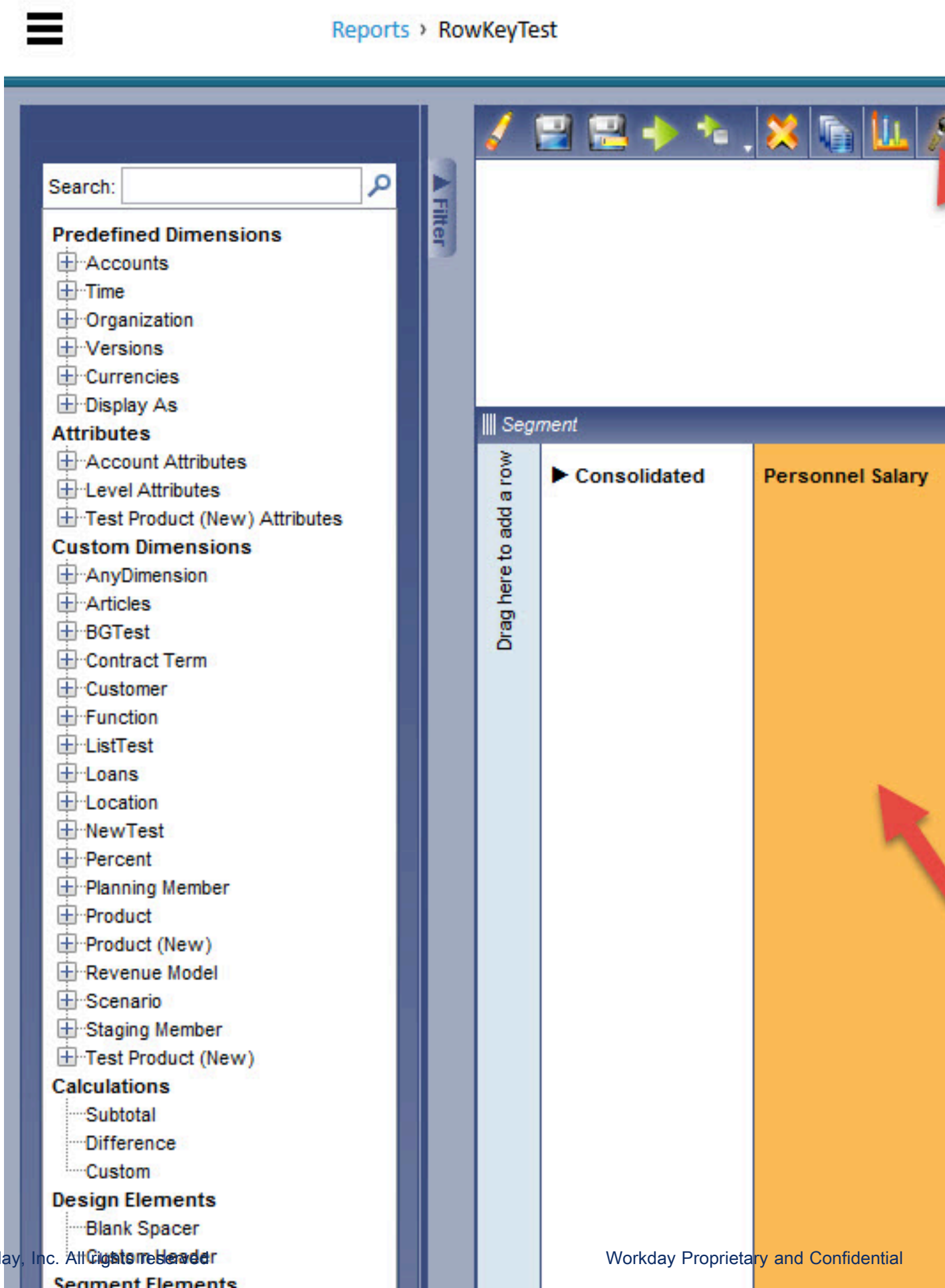



分割列に関する重要な注意事項:"行キー" に設定された列は分割できません。つまり、列の "分割" ボックスがオンになっていて、それを "行キー" に設定すると、"分割" ボックスは自動的にオフになります。分割行に入力されたテキストは、シートが行キーとして設定された列とともに保存されると削除されます。その後、列の "分割" ボックスを再度オンにするか、"行キー" 設定を列から削除すると、分割行の値が再び表示されます。また、列が "行キー" に設定されると、"分割" ボックスはオンになりません。これは、行に複数のラベルを設定できないためです。

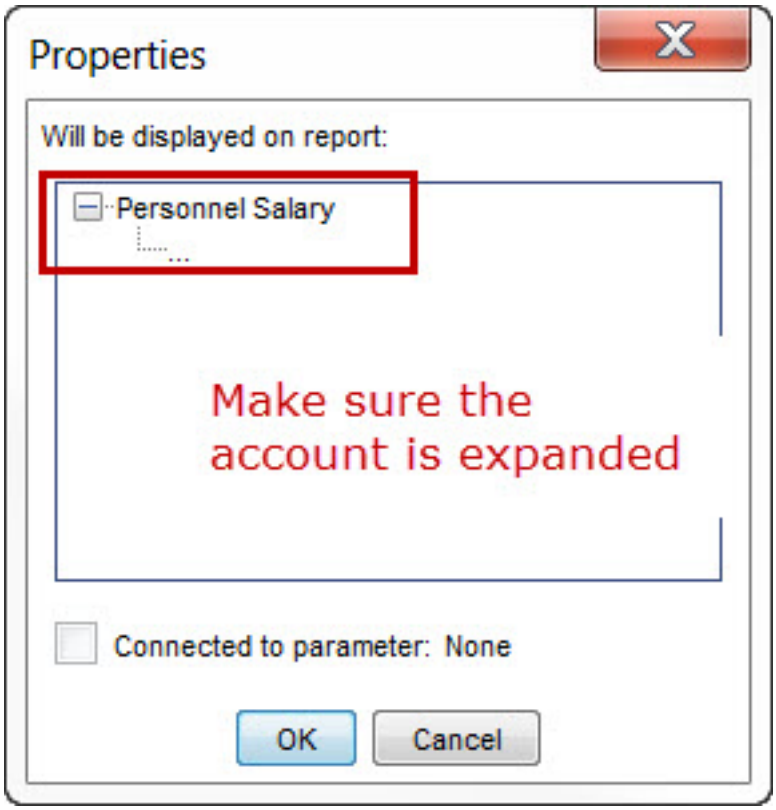
マトリクス レポートに行キーを表示: マトリクス レポートに行キー情報を表示するには、次の点を確認してください。

- 科目要素が行軸の最も内側の行層にあることを確認してください
- レポートの "形式" タブで、"科目ごとに分割を表示" チェックボックスをオンにします。
- レポートの編集画面で科目を右クリックし、"プロパティ" を選択します。(+) をクリックして科目を展開し、分割を表示します

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




標準シートの親合計に含まれない新しい科目

質問
新しい科目を作成したものの、シートに表示されません。既存のシートに新しい科目を追加するにはどうすればよいですか？

回答
"科目" ページで作成された新しい科目は、 にインポートしてレポートで表示できますが、デフォルトでシートには存在しません。

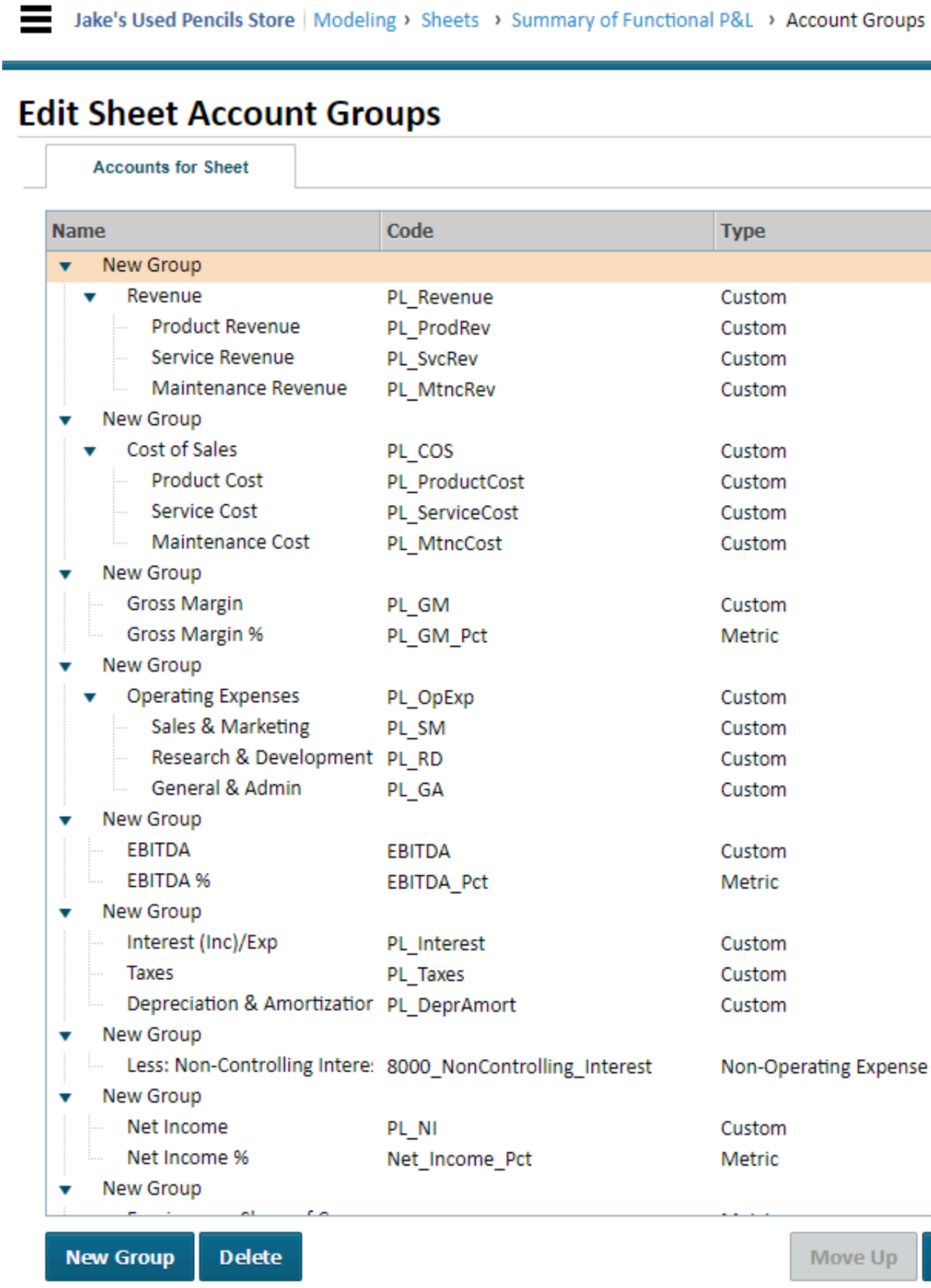
新しい科目を既存の標準シートに追加するには、次のようにします。

1. "モデリング" > "モデル管理" > "組織割当シート" > "シート名" > "科目グループ"に移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. このページでは、2 つの科目表が表示されます。左側には、この特定のシートに存在する科目 (およびグループ) が表示されています。右側のテーブルには、シートに追加できる利用可能な科目 (新しく作成された科目を含む) がすべて表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

3. この科目で新しいグループを作成する場合は、左下の "新しいグループ" をクリックします。既存のグループ ヘッダーをクリックし、新しい科目を右側のボックスで検索してから、"グループへ追加" をクリックすると、新しい科目が表示されます。
4. この科目を再編成するには、左側のテーブル内の科目をクリックし、必要に応じて "上へ移動" または "下へ移動" を選択します。

ノート タイプ

質問
セル メモ、シート メモ、レポート メモの違いは何ですか？

回答

セル メモ

セル メモを使用すると、ユーザーはシートのセルにメモを追加し、そのシートとともに保存して後で表示することができます。その目的は、ユーザーが編集または表示しているセルの値に関する追加情報を提供することです。これらのメモは、シート、セル エクスプローラー、レポートで表示できます。

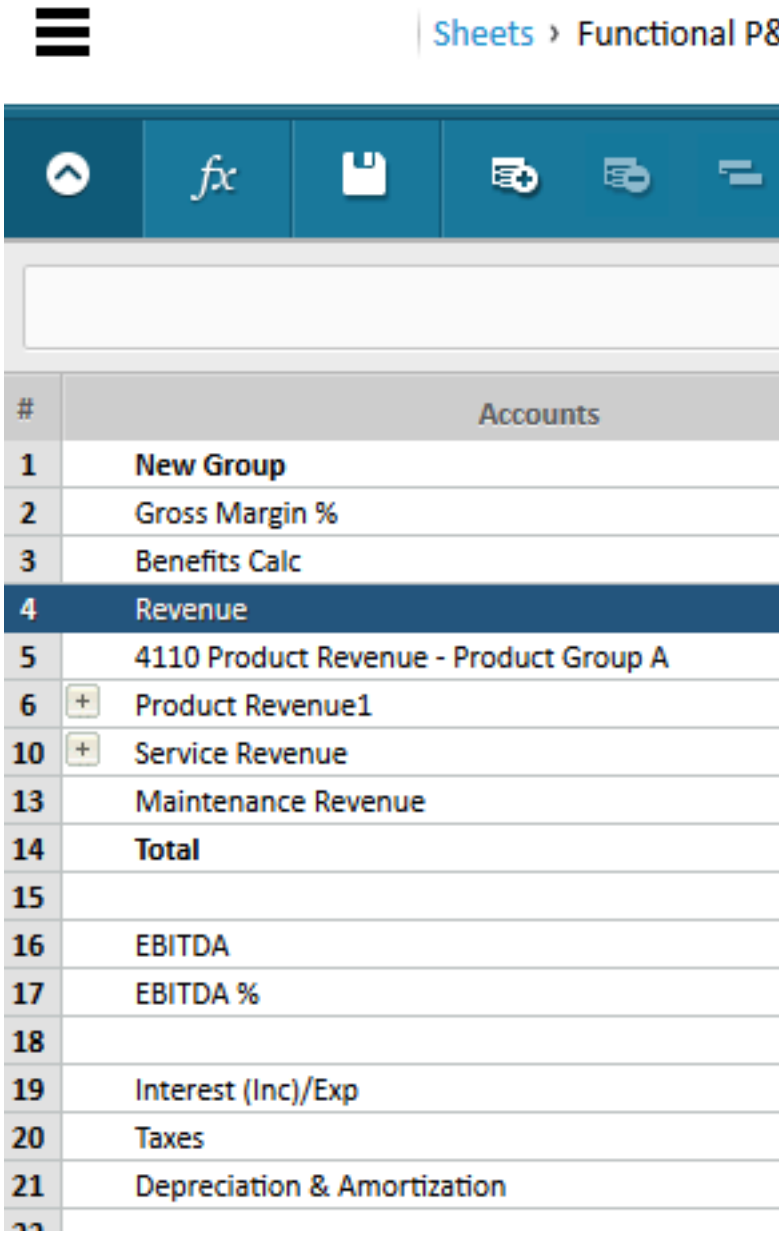
- セルに科目、科目の分割 (任意)、時間、計画、バージョンの座標があるセルごとに 1 つのメモ
- セルには 1 つのメモのみが含まれ、これはすべてのユーザー間で共有されます。既存のメモを編集すると、他のユーザーが入力した内容が変更されます。
- セルの編集権限を持つすべてのユーザーがセル メモを編集できます。セルを表示できるすべてのユーザーがセル メモを表示できます。
- セル メモはバージョン固有です。
- 新しいバージョンの詳細で "セル、シート、ワークフローのメモをコピー" ボックスがオンになっている場合、バージョンのクローンが作成されます。バージョンを作成する際、このボックスはデフォルトでオンになっています。
- 親セルのメモに子セルのメモは含まれません。
- メモが保存されると、詳細が保存されたユーザーと、メモが編集された日時を取得します。
- セル メモにはシート メモと同様にサイズ制限があり、約 4,000 文字に制限されます。
- セルが編集可能な場合は、セル メモも編集可能です。
- ユーザーが現在実績バージョンを編集している場合は、この実績バージョンでメモを編集できますが、それ以外の場合は編集できません。これは、ユーザーが実績期間を記録するためには実績の特権アクセス権を必要とすることを意味しています。
- 実績が計画の数値の上にオーバーレイ表示されている場合 (たとえば、特定の月にわたる

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

緑色の読み取り専用の数字)、 実績の これらのセルに対するメモが計画のそのセルの読み取り専用メモとして計画シートに表示されます。

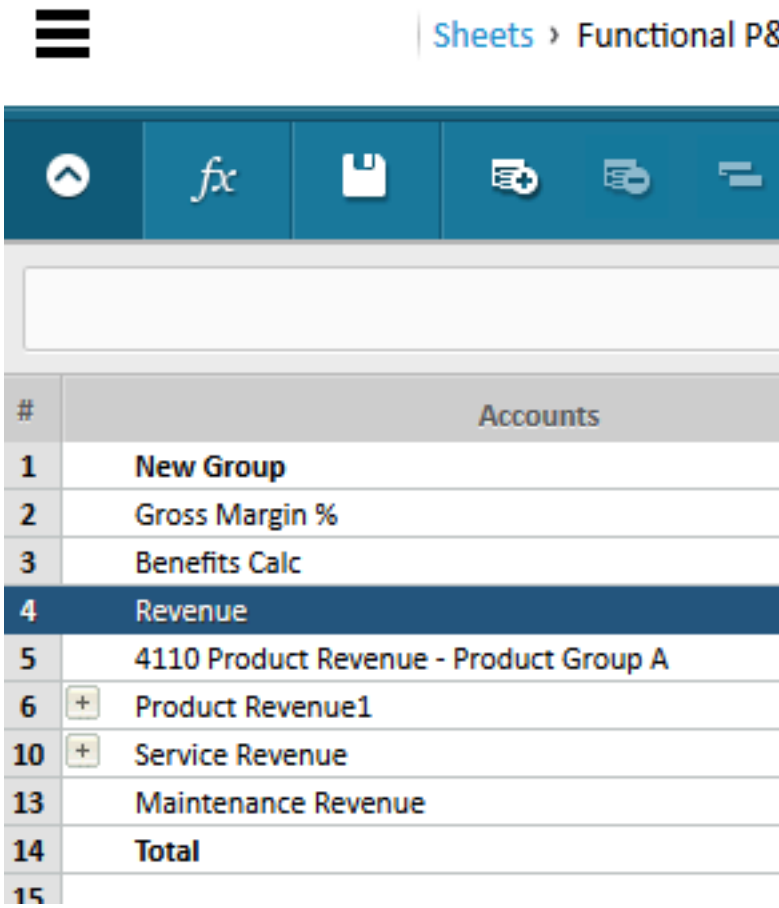
- マトリクスとモデルの両方のレポートで、セル メモを表示する場合、レポートのプロパティにアクセスして "セル メモを表示" オプションを選択することで実現できます。セル メモは、レポート上のフットノートとして表示されます。

## セル メモの作成



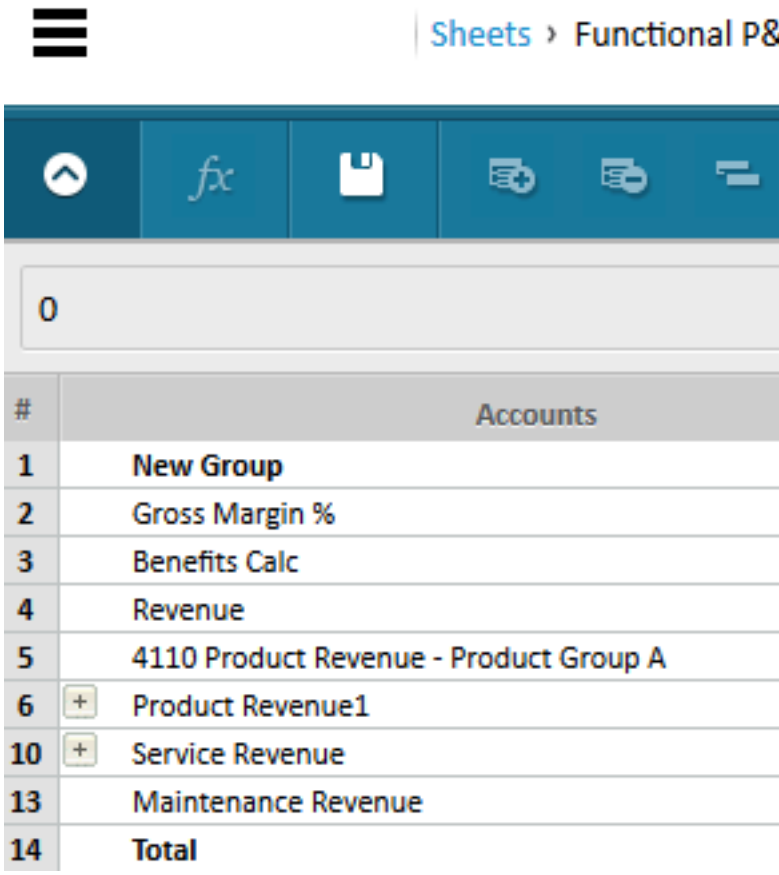

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

セル メモの入力



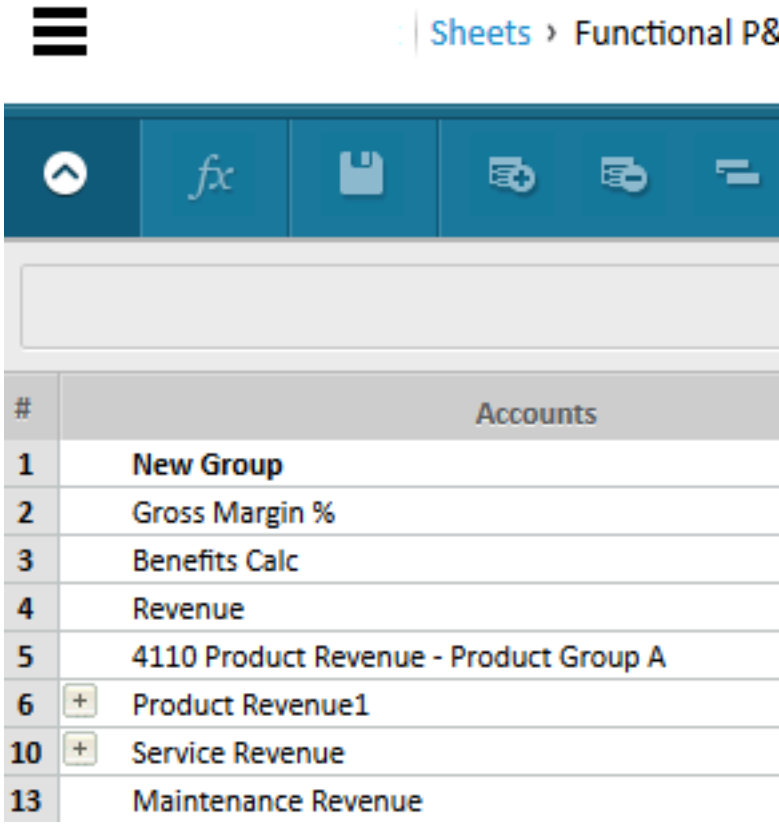

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

セル メモが存在するかどうかの判定



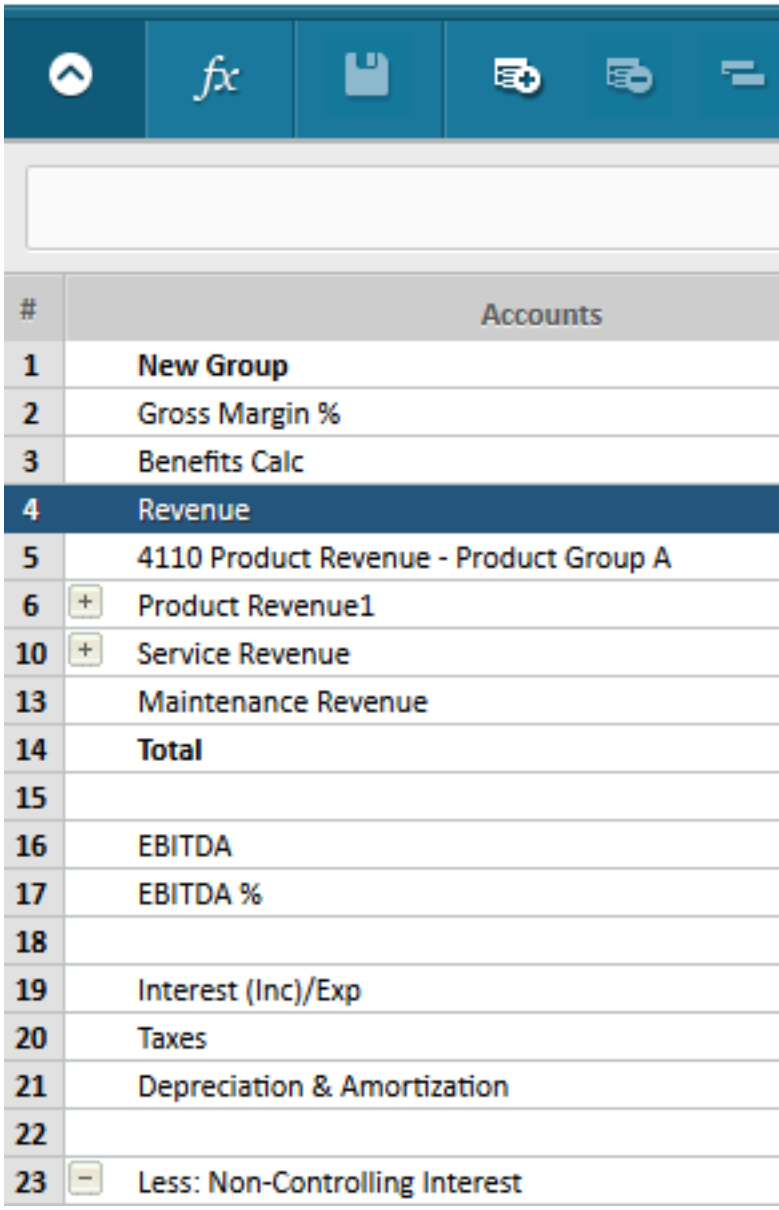

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

セル メモの作成者と日時の特定




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

既存のセル メモで使用可能なオプション

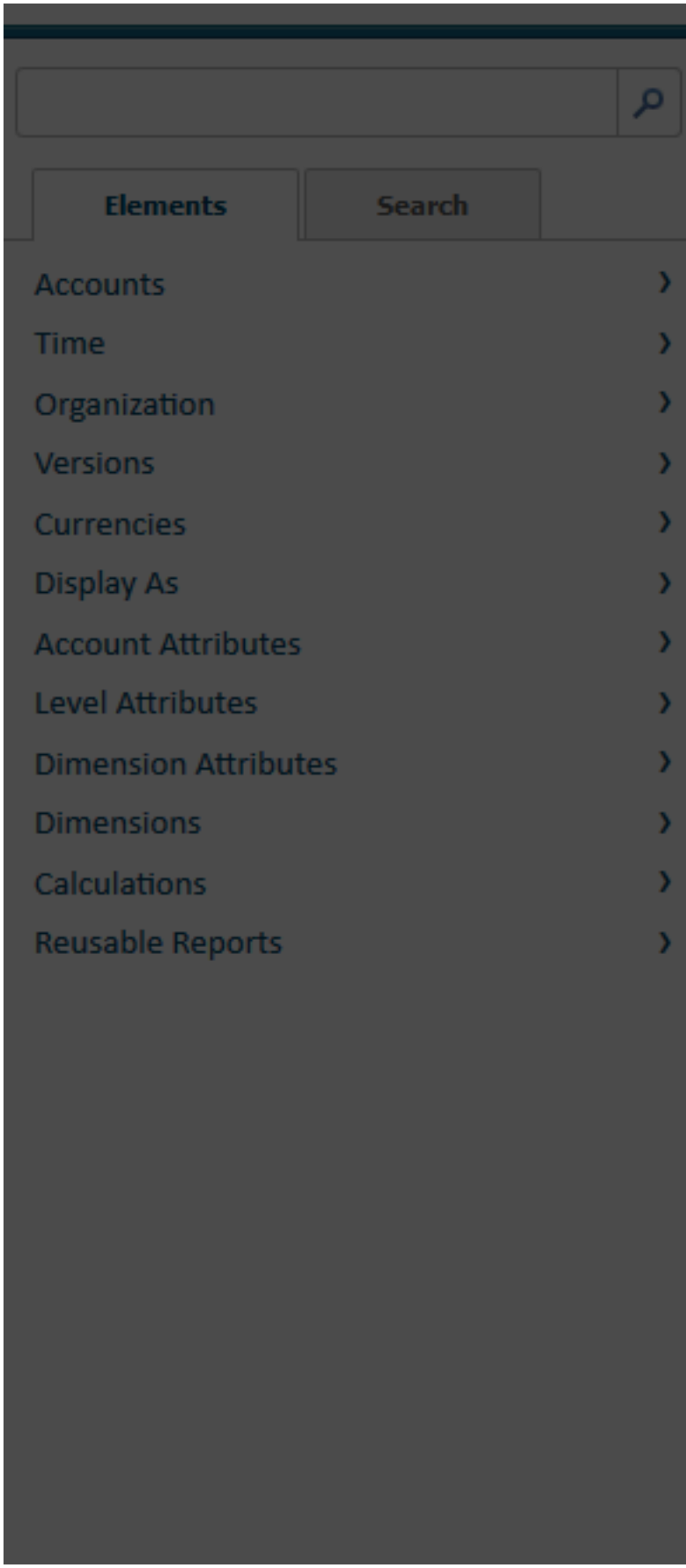


| # | | Accounts |
|---|---|---|
| 1 | | **New Group** |
| 2 | | Gross Margin % |
| 3 | | Benefits Calc |
| 4 | | Revenue |
| 5 | | 4110 Product Revenue - Product Group A |
| 6 | + | Product Revenue1 |
| 10 | + | Service Revenue |
| 13 | | Maintenance Revenue |
| 14 | | **Total** |
| 15 | | |
| 16 | | EBITDA |
| 17 | | EBITDA % |
| 18 | | |
| 19 | | Interest (Inc)/Exp |
| 20 | | Taxes |
| 21 | | Depreciation & Amortization |
| 22 | | |
| 23 | − | Less: Non-Controlling Interest |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

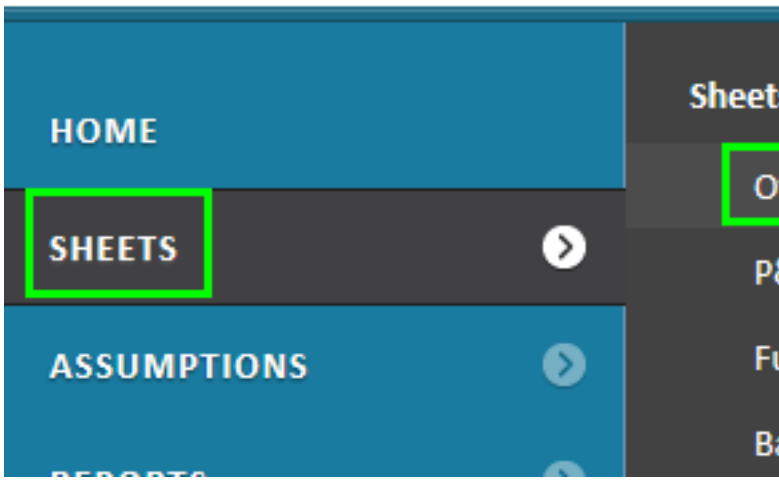
レポート内のセル メモの表示



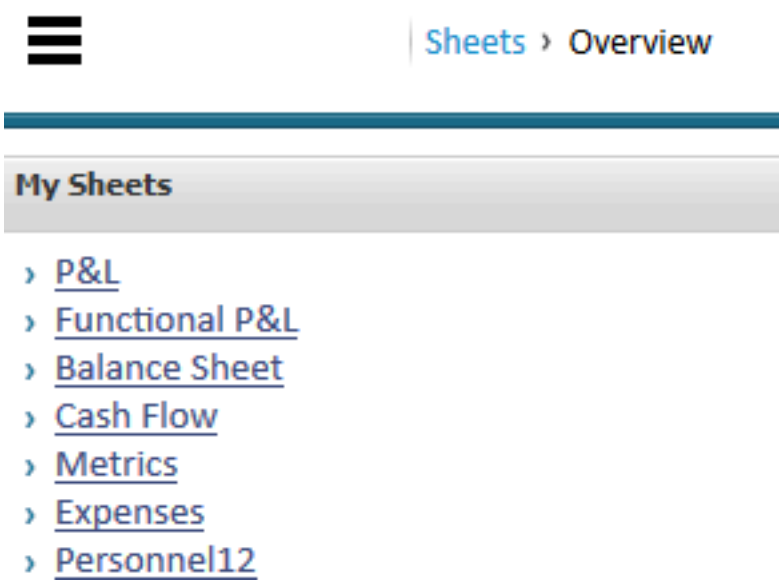

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

セル メモの検索

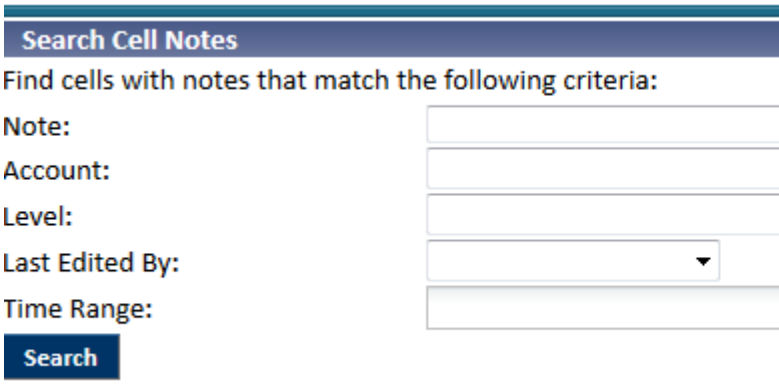
"シート" > "概要" に移動します。




"セル メモの検索" をクリックします




検索パラメータを入力



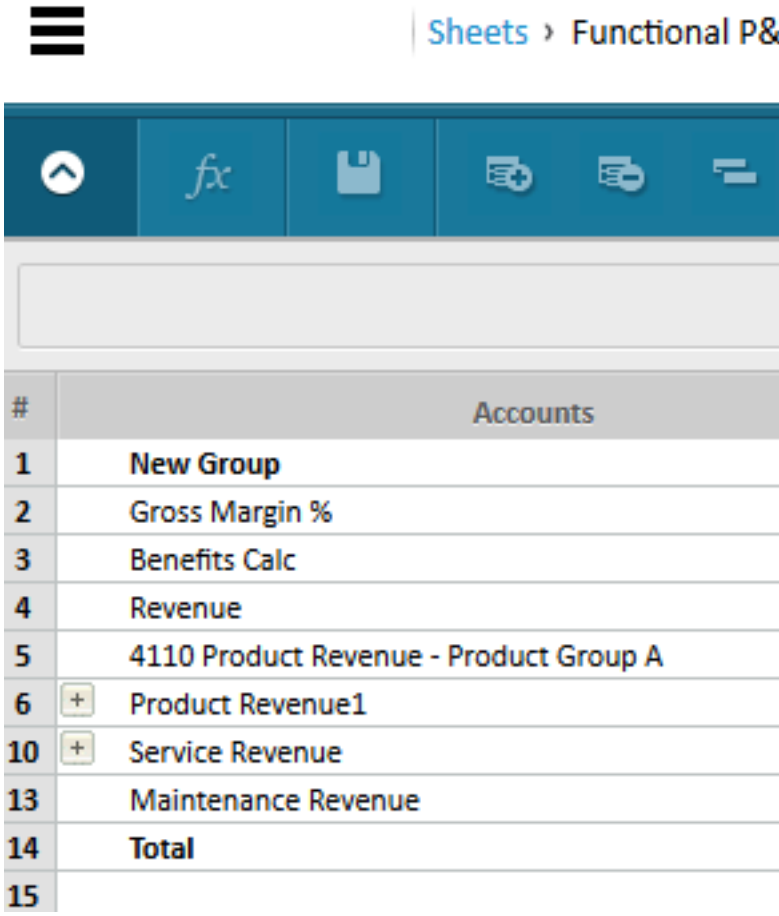

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## シート メモ

この機能を使用すると、編集可能なシート アクセス権を持つユーザーは、そのシートに関連付けられた自由形式のテキスト メモを入力できます。

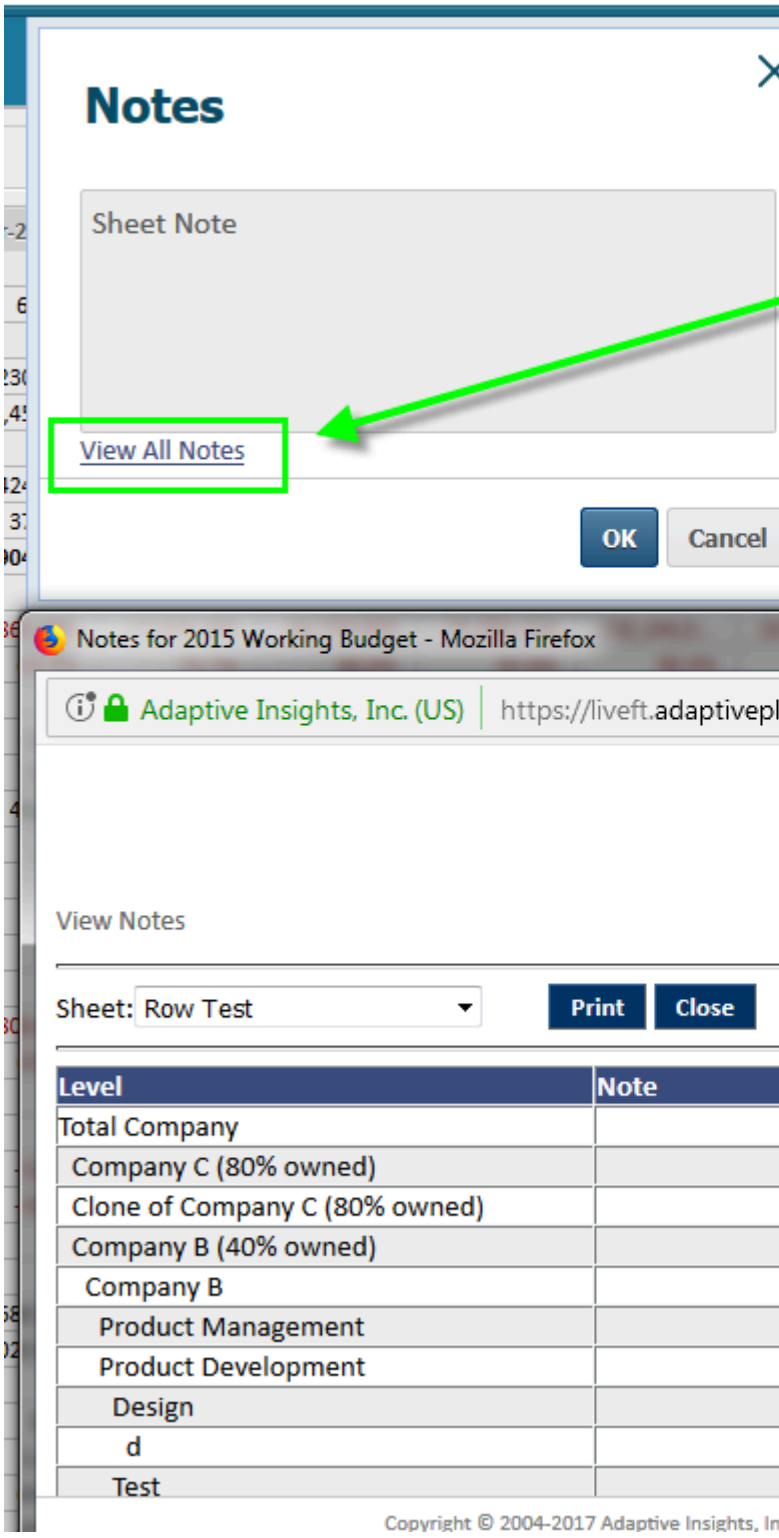
- メモはシート/組織に対して一意になります
- シートごとに 1 つのメモのみ
- 文字数の制限は約 1 文字です。 4000 文字
- ノートが追加されると、日付/氏名のスタンプが表示されます。
- シート上のメモは編集可能
- メモはバージョン固有です
- 新しいバージョンの詳細で "セル、シート、ワークフローのメモをコピー" ボックスがオンになっている場合、バージョンのクローンが作成されます。バージョンを作成する際、このボックスはデフォルトでオンになっています。
- 編集可能なシート アクセス権を持つユーザーのみがメモを追加または変更できます。表示専用アクセス権を持つユーザーは、表示のみ可能になります。
- レポートにメモを含めることはできません

## シート メモを入力する場所と最終更新者を検索




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

すべてのシート メモにアクセス




レポート メモ

レポート メモは、マトリクス レポートの HTML ビューに追加されるテキスト コメントで、レポートの特定の行またはレポート全体のいずれかに関連付けられます。

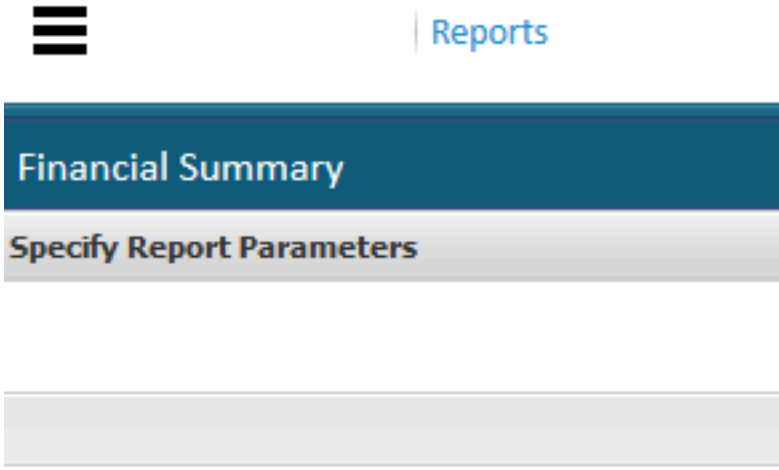
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

- レポート メモを使用すると、ユーザーは個々のレポート ライン項目とレポート全体 (インライン メモとレポート メモ) の両方にコメントできます。
- レポート メモは、エクスポートされた PDF バージョンまたは Excel バージョンのレポートで表示できます。
- 各レポート メモの最大長は 1024 文字です。
- レポートがコピーされた場合、スナップショットが作成された場合、またはレポートが移動された場合、レポート メモは注釈が付けられたレポートに「追従」します。
- レポート メモはレポート固有のものです。1 つの注釈付きレポートで作成されたメモは、別のレポートには表示されません。
- レポート メモは、ユーザーが作成または編集すると自動的に保存されます。
- レポートが保存されていない場合、"レポート メモを追加" の選択は無効になります。レポート メモ オプションをアクティブ化するには、まずレポートを保存する必要があります。
- パラメータの変更

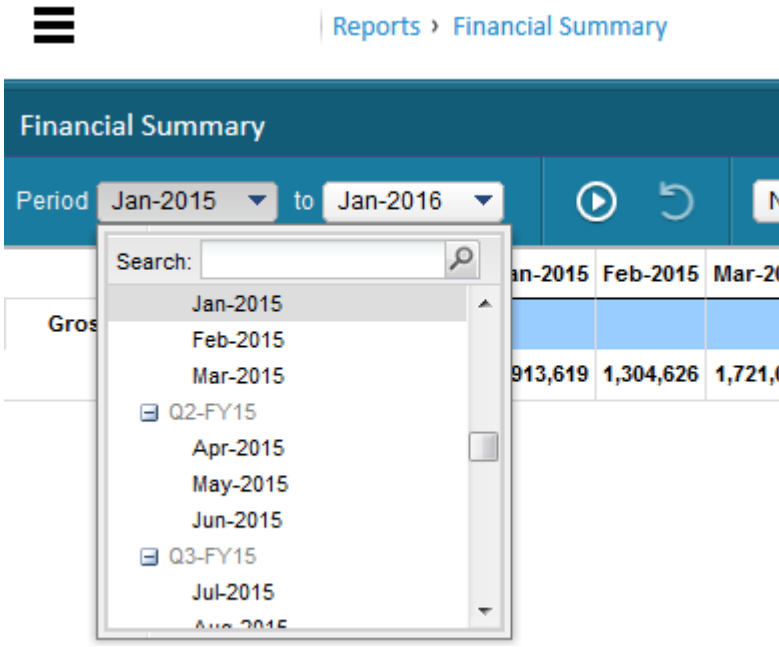
異なるレポート パラメータの組み合わせを選択した場合でも、レポートの基になる定義は同じままです。どのパラメータを選択しても、レポート要素は割り当てられた軸上にあることがわかります。ただし、パラメータを変更した後は、レポート メモを追加する前に保存する必要があります。これは想定どおりの動作であり、レポート定義が変更されていないため、レポート メモが失われることはありません。

パラメータの変更




OR

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

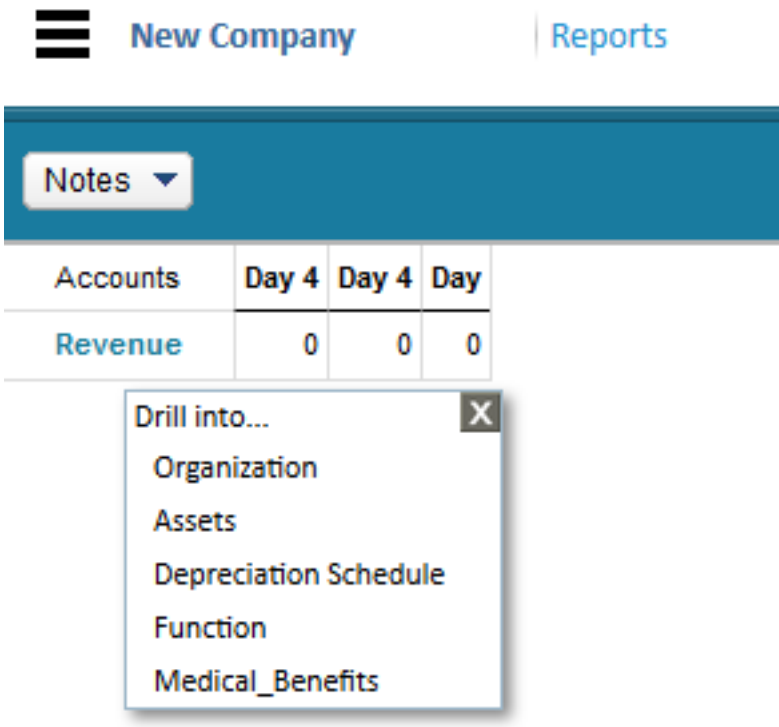



## レポート要素のドリルイン

レポートで科目をクリックしてドリルインすると、レポート定義が変更されます。テスト レポートを作成して科目にドリルインすると、軸上の要素が変更されているのにを見ることができます。レポート定義の変更後に保存した場合、データの以前の交差部分に入力されたセル メモはすべて失われます。これは、新しい交差部分にはメモが存在しないためです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

レポート要素にドリルインした後の表示




シート上のその他の実績フィールド

質問
損益計算書に "その他の実績" というフィールドがあります。これはどのような意味がありますか？これを削除するにはどうすればよいですか？

回答
読み取り専用の "その他の実績" 行は、実績バージョンに分割があり、各分割のタグ付けされた属性値に基づいて、計画バージョンのどの分割にも一致しない場合、計画バージョンに自動的に表示されます。たとえば、次の分割が実績バージョンに存在する場合、計画バージョンを表示すると次の結果が表示されます。

実績バージョン: 事務経費

- 分割 A (500)
- 分割 B (500)

プラン バージョン: 事務経費

- 分割 X (300)
- 分割 Y (200)
- その他の実績 (1,000)

"その他の実績" 分割には、"実績" バージョンのデータのみが表示されます。計画バージョンの分割と一致しない分割が実績バージョンにある場合、自動的に作成され、編集や削除はできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## 算出モデル科目から値を特定の月のモデル シート期間に取得

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

### 質問

モデル シートの算出科目から特定の月について、モデル シートの期間に値を取り込むユース ケースは何ですか？また、どのようにすればよいですか？

### 回答

場合によっては、モデル シートの算出科目の値をモデル シートの "期間" に取り込むのが有用です。

以下のケースを使用します。

- 受注書の収益/キャッシュ フロー
- 社員の給与

これらの値をモデル シートの期間に取り込むには、まず以下が必要になります。

1. 行キー
    - この例では "ID" を使用します。
2. モデル シートの算出科目
    - この例では、シート コード (CSCF) と契約販売キャッシュ フローの "収益" を使用します。

販売注文の収益/キャッシュ フローを期間に配置する最初のユース ケースを見てみましょう。売上の一時払金があり、その金額を行に入力された月数にわたってスプレッドするとします。また、売却の日付から入力した月数までの期間の値を表示すると仮定します。

期間の値が必要な月ごとに 1、それ以外の場合は 0 を指定するには、追加の算出科目を作成する必要があります。つまり、行に入力された、売却の日付とその日付からの月数に対して 1 を返す数式が必要です。

次に例を示します。

versionmonthlookup: `if(versionmonth(this)>=ROW.Versionmonth_Dateofsale and versionmonth(this) <= ROW.versionmonth_extended, 1, 0)`

ここで、versionmonth_dateofsale は日付列で、 Row.Versionmonth_extended は販売日 + 月数です。`versionmonth(ROW.Date_of_sale)+ROW.Months`

これにより、収益算出科目に versionmonthlookup を掛けることができます。たとえば、以下のように指定します。

収益=`div(ROW.Price,ROW.Months)*ROW.versionmonthlookup`

この算出科目が完成したら、期間にそれを取り込むだけです。このシートの行キーは "ID" であることに注意してください。期間の数式は次のとおりです。`=ACCT.CSCF.Revenue[split=20]`

`=ACCT.ModeledSheetGroupCode.CalculatedAccount[split=Row Key]`

これは、次のように翻訳できます。My 契約販売のキャッシュ フロー シートの収益科目の合計値を確認し、ID が「20」である行の値を返します。この方法で、この特定の行の収益結果がフィルタリングされます。その他の例については、下のスクリーンショットを参照してください。数式は次のとおりです。

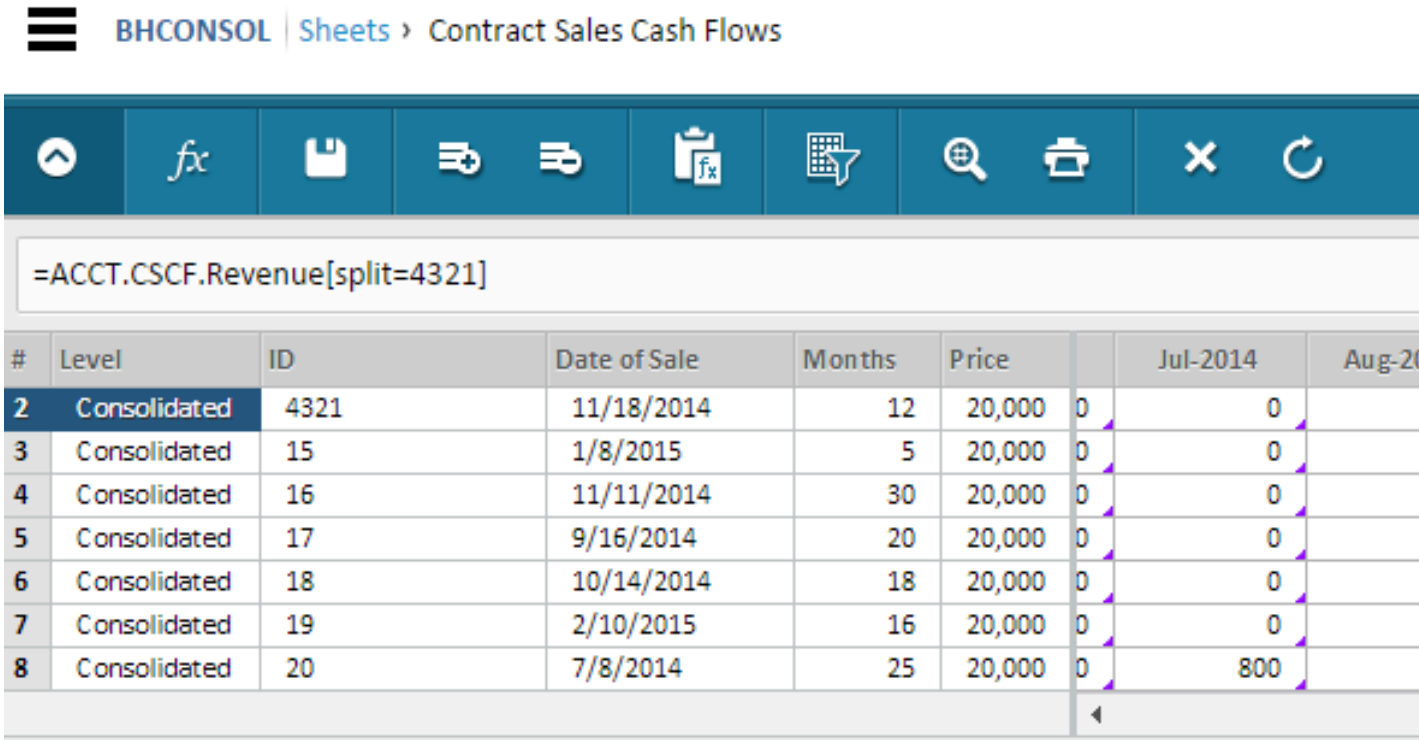
`ACCT.CSCF.Revenue[split=4321]`

`ACCT.CSCF.Revenue[split=15]`

`ACCT.CSCF.Revenue[split=16]`

etc...

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




| # | Level | ID | Date of Sale | Months | Price | | Jul-2014 | Aug-2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | Consolidated | 4321 | 11/18/2014 | 12 | 20,000 | 0 | 0 | |
| 3 | Consolidated | 15 | 1/8/2015 | 5 | 20,000 | 0 | 0 | |
| 4 | Consolidated | 16 | 11/11/2014 | 30 | 20,000 | 0 | 0 | |
| 5 | Consolidated | 17 | 9/16/2014 | 20 | 20,000 | 0 | 0 | |
| 6 | Consolidated | 18 | 10/14/2014 | 18 | 20,000 | 0 | 0 | |
| 7 | Consolidated | 19 | 2/10/2015 | 16 | 20,000 | 0 | 0 | |
| 8 | Consolidated | 20 | 7/8/2014 | 25 | 20,000 | 0 | 800 | |

キューブ シートからの属性の削除

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
キューブ シートに属性を追加しましたが、現在はその必要がありません。キューブから属性を削除するにはどうすればよいですか？

回答
キューブ シートから属性を削除するには、シート上のすべてのデータを削除する必要があります。これを行うには、サマリ ページに移動し、"すべてのデータを消去" をクリックします。キューブ内のすべてのデータを消去したくない場合は、キューブ シートで属性を使用不可に設定できます。これにより、すべてのバージョンでシート内のその属性に関連付けられたすべてのデータが削除されます。

注：これらのタイプの更新は、構造の変更によってデータが削除されるため、変更履歴には追跡されません。

働いていないすべてのユーザーに対するデフォルトとして設定する

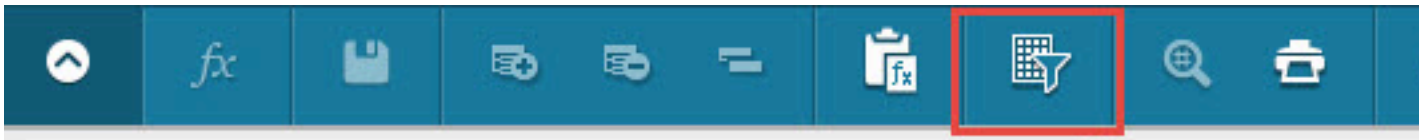
質問
シートの "表示オプション" で "すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定" をオンにしても、自分や他の現在のユーザーの表示設定が更新されないのはなぜですか？

回答
"すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定する" (下のスクリーンショットに表示) は、シートにアクセスする新しいユーザーにのみ適用されます。インスタンス内の各ユーザー科目には、それぞれのシート ビュー設定があります。ユーザーはシートに表示したい内容 (年、月、四半期、および "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" がオンかどうか) をカスタマイズするオプションがあります。これらの表示設定は各ユーザー アカウントに保存されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

"すべてのユーザーに対してデフォルトとして設定する" が選択されている場合、新しい表示設定を行っているユーザーまたは以前にシートにアクセスしたユーザーには適用さ れません 。これは、シートをロードして自分の "表示オプション" を保存していない真新しいユーザーにのみ適用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



| # | Accounts | 2013 | Q1-FY1 | Apr-2013 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Assets | | | |
| 2 | Current Assets | | | |
| 3 | Cash | 1 | 1 | 22 |
| 4 | WIP | '3,709 | 5,573,709 | 573,709 |
| 5 | Short Tem Investments | 6,411 | 256,411 | 6,411 |
| 6 | Accounts Receivable | '2,943 | 4,972,943 | 4,9 943 |
| 7 | Inventory | | | |
| 8 | Raw Materials | 3,247 | 12,423,247 | 12,423,2 |
| 9 | Finished Goods | .5,806 | 3,715,806 | 3,715,806 |
| 10 | Total | 9,054 | 16,139,054 | 16,139,054 |
| 11 | Prepaid | 2,304 | 352,304 | 352,304 |
| 12 | Total | 4,423 | 27,294,423 | 27,294,444 |
| 13 | Fixed Assets | | | |
| 14 | Land | 0,000 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 15 | Buildings | 3,333 | 3,233,333 | 3,233,333 |
| 16 | Equipment | 0 | 0 | 0 |
| 17 | Accumulated Depreciation | | | |
| 18 | Accumulated Depreciation Buildings | 6,667 | 766,667 | 766,667 |
| 19 | Accumulated Depreciation Equipment | 0 | 0 | 0 |
| 20 | Total | 6,667 | 766,667 | 766,667 |
| 21 | Total | 0,000 | 6,000,000 | 6,000,000 |
| 22 | Long Term Assets | | | |
| 23 | Other Assets | | | |
| 30 | Total | 4,423 | 33,294,423 | 33,294,444 |
| 31 | | | | |
| 32 | Liabilities and Equities | | | |
| 33 | Liabilities | | | |
| 34 | Current Liabilities | | | |
| 35 | Salaries and Benefits Payable | | | |
| 36 | Salaries Payable | | | |
| 37 | Executive Salaries Payable | '5,000 | 175,000 | 175,000 |
| 38 | Full Time Salaries Payable | '5,000 | 875,000 | 875,000 |
| 39 | Part Time Salaries Payable | 0,000 | 700,000 | 700,000 |
| 40 | Total | 0,000 | 1,750,000 | 1,750,000 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

実績のオーバーレイがある計画バージョンを表示した場合の分割

質問
シートに実績と予算バージョンの分割を表示できますか？

回答
シートの予算バージョンの実績データを表示すると、次のようになります。

1. 実績の分割自体は、予算バージョンに行として表示されることはありません。これは、"実績" バージョンに "Rev_ DepartmentA" および "Rev_ DepartmentB" と呼ばれる分割が存在するものの、予算バージョンに分割がない場合、"実績" から 2 つの分割が予算バージョンに表示されないことを意味しています。これは、データが属性でタグ付けされているかどうかに関係なく当てはまります。
2. 実績の分割と予算バージョンの分割の間に分割ラベルの一致がない。たとえば、実績バージョンに分割 A と分割 B の 2 つの分割があり、予算バージョンに分割 A のみがある場合、実績バージョンには分割 A の数値が予算バージョンの数値と一致することはありません。実績バージョンと予算バージョンの分割は個別に扱われます。
3. "属性" にタグ付けされた分割は、"実績" および "予算" バージョンの属性割当に従って対応付けられます。科目に関連付けられた属性があり、同じ属性値が選択されている "実績" に 1 つの分割、"予算" に 1 つの分割がある場合、データが対応付けられ、それぞれの分割行に表示されます。
4. 予算バージョンで "その他の実績" がロックされた暗黙的な分割が表示されることがあります。この分割は、予算バージョンまたは実績バージョンのいずれの実際の分割でもありません。これは、連結実績の分割データを別の行に表示する暗黙的な分割です。この分割には予算バージョンにはデータは含まれません。この分割には、"実績" の部分にデータが存在する場合にのみデータが含まれます。行は常に編集できません。

ワークフローで複数の組織を一度に送信

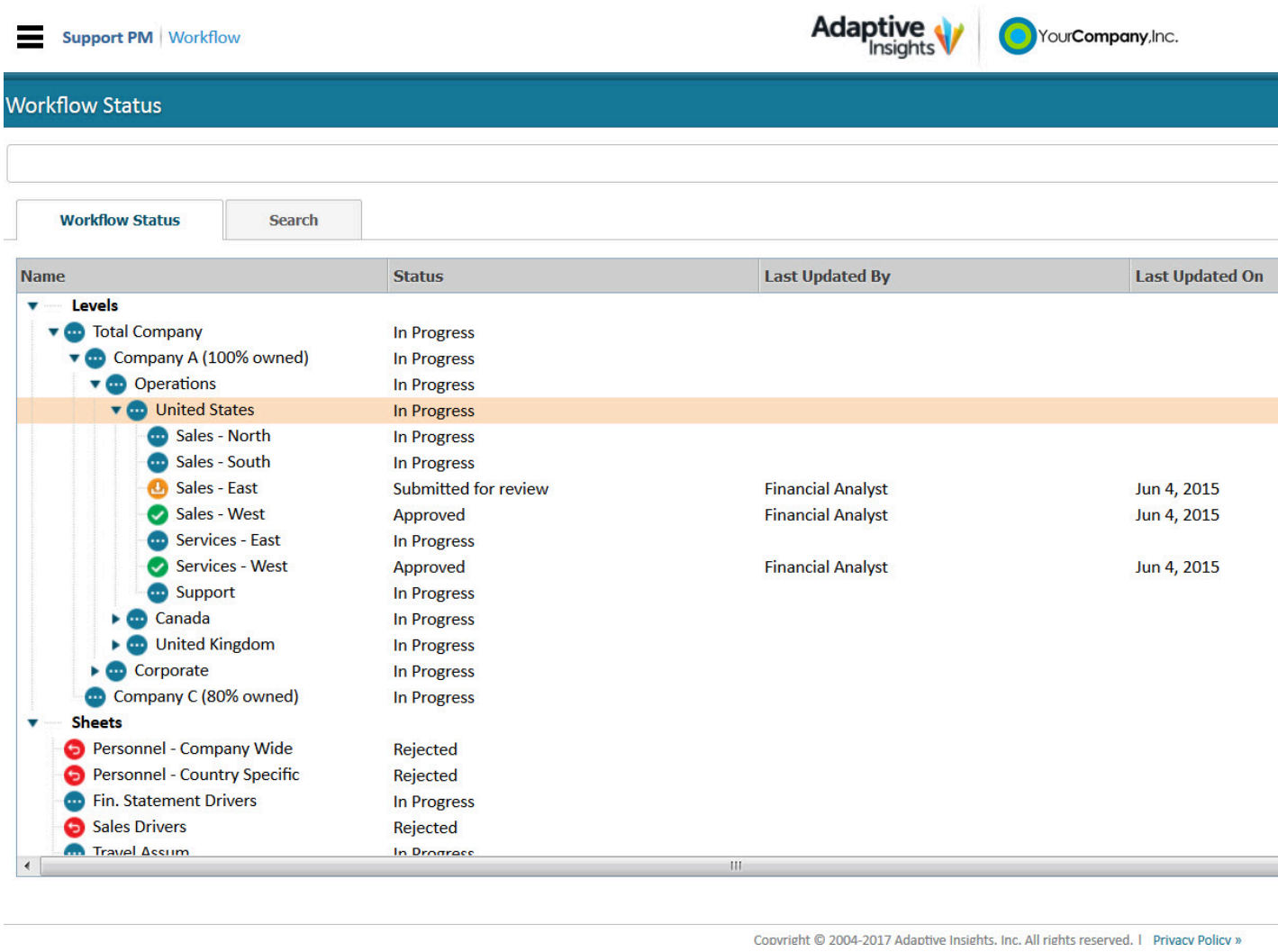
この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
ワークフローで複数の組織を一度に送信して承認するにはどうすればよいですか？

回答
以下に示すように、組織ツリー全体を送信して承認できます。

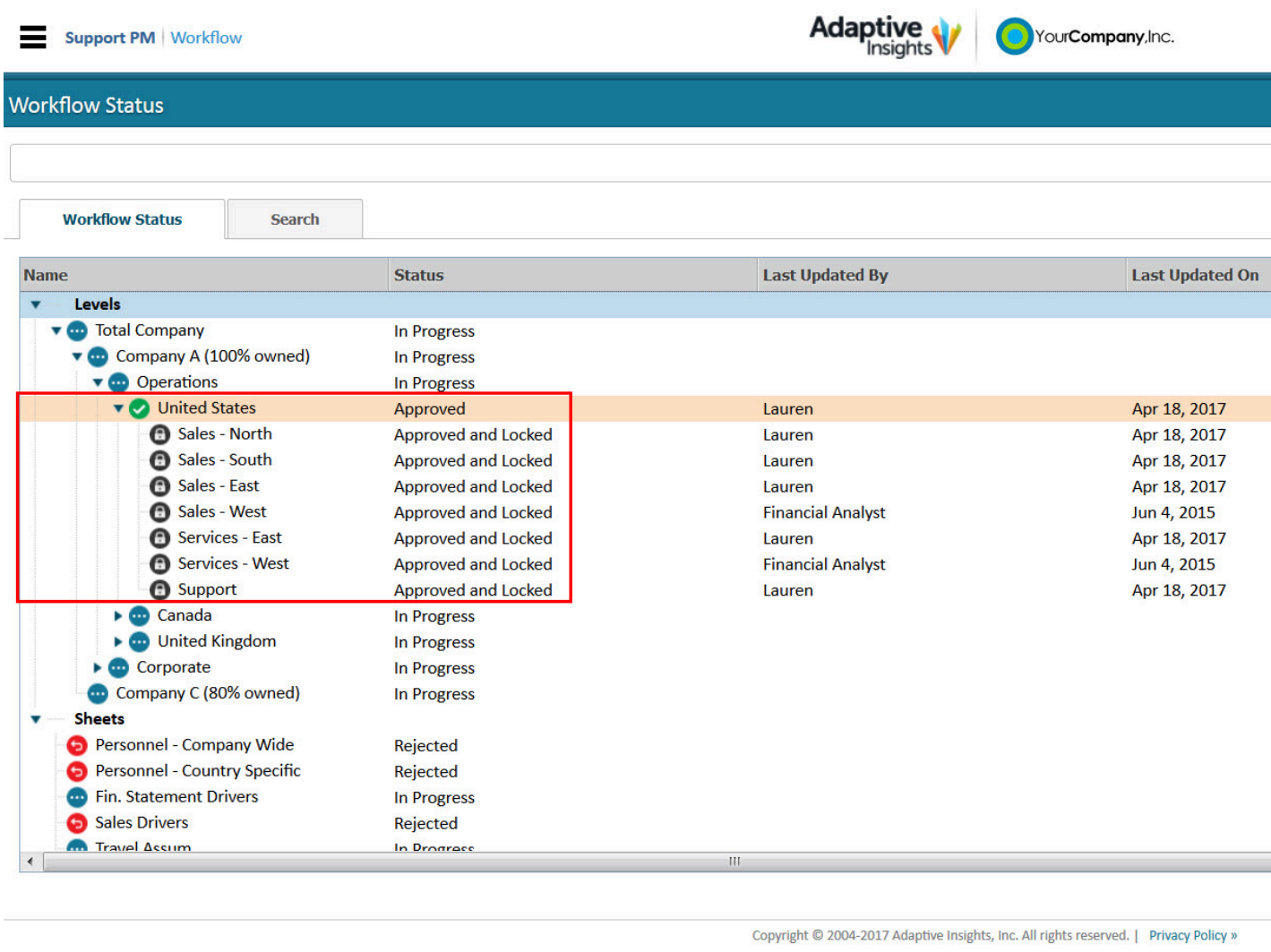
ユーザーが親組織を承認し、レビューのために親組織を送信した場合、すべてのサブ組織が承認およびロックされ、親組織がレビューのために送信されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




ユーザーが親組織を承認した場合、すべてのサブ組織が "承認済" および "ロック済" になり、親組織が "承認済" になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




キューブ シートの使用

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
キューブ シートを使用するのはどのような場合ですか？

回答
キューブ シートは、モデル デザイナーが多属性データ入力をモデル化する必要がある場合にはいつでも使用できるシート タイプです。

以下のような一般的なキューブ シート アプリケーションがあります。

- セールス マネージャは、月、地域、製品ライン、顧客グループでブレークダウンした見積売上を、単位と価格で入力する必要があります。
- 組織構造の管理者は、特定の月のデータを、複数の地域別に分類された複数の前提条件について入力する必要があります。キューブ シートでは、これは横に前提条件、上にある地域、ドロップダウン セレクター内の月とともに表示されます。
- 企業は、製品関連のディメンションでブレークダウンした製品関連経費を計画する必要があります。製品の製造原価は、地域、製品、使用する製造機械、顧客によって異なる場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 会社は、人員別ではなく集計して人件費を計画したいと考えています (大規模なバッチの人員モデリング。個々の人員は識別されませんが、代わりに合計ヘッドカウントが異なる地域、部門、職務コードなどに分割されて報告されます)。

シートとレポートのロードに時間がかかる問題の回避策

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
シートとレポートのロードに時間がかかっています。ロード時間が長くなる原因は何かわかりますか？

回答
インスタンス内のデータのロードと計算にかかる時間に影響を与える要因は数多くあります。これには、組織の数、科目の数、バージョンの年数、科目内の数式の複雑性などの要素が含まれる場合があります。データベースからロードする必要があるデータの量や、データを表示するために実行する必要がある計算数に影響する要素は、インスタンスのパフォーマンスに影響します。

この記事では、一般的なトラブルシューティングの手順と、追加のサポートが必要な場合にどのような情報を提供するかについての概要を提供します。

何らかの数式エラーがあると、評価に不要な処理時間が追加される可能性があります。"数式の検証" オプションを使用すると、エラーをすばやく特定して修正できます。循環参照エラーが追加されると、パフォーマンスに大きな影響を与える可能性があります。

インスタンスの数式エラーをチェックして削除します。

1. "管理" > "数式を検証" に移動します。
2. "リファレンス エラーを除外" オプションを選択します
3. "リフレッシュ" をクリックします。

遅延に影響している科目を特定します。

標準シートで作業している場合、ビューを "組織別に表示" モードに切り替え、各科目を個別にロードすることで、ボトルネックを特定できます。キューブ シートで、科目を属性セレクターの要素として配置し、科目を 1 つずつロードします。科目を特定したら、科目タイプ、属性/組織合計設定などを書き留めます。

さらにサポートが必要な場合は、以下の情報を収集し、サポート チケットを送信してください。

1. 動作が観察された日時。
2. 動作と何が起こっているかの説明が表示されている画面
3. 処理にかかる時間。
4. 実行/ロードに通常かかる時間、および最後にレポートを実行したとき、またはパフォーマンスが期待されるシートをロードしたとき。シートまたはレポートをロードするのが初めてである場合はお知らせください。
5. これが通常の動作からの変更である場合、インスタンスに対する最近の変更に注意してください。つまり、収益インスタンスに新しい科目が追加されたばかり、収益モデルの数式ロジックが更新された、新しい配賦が追加された、収益にデータがインポートされたなどです。初めてシートに移動する場合など

ワークフローの承認

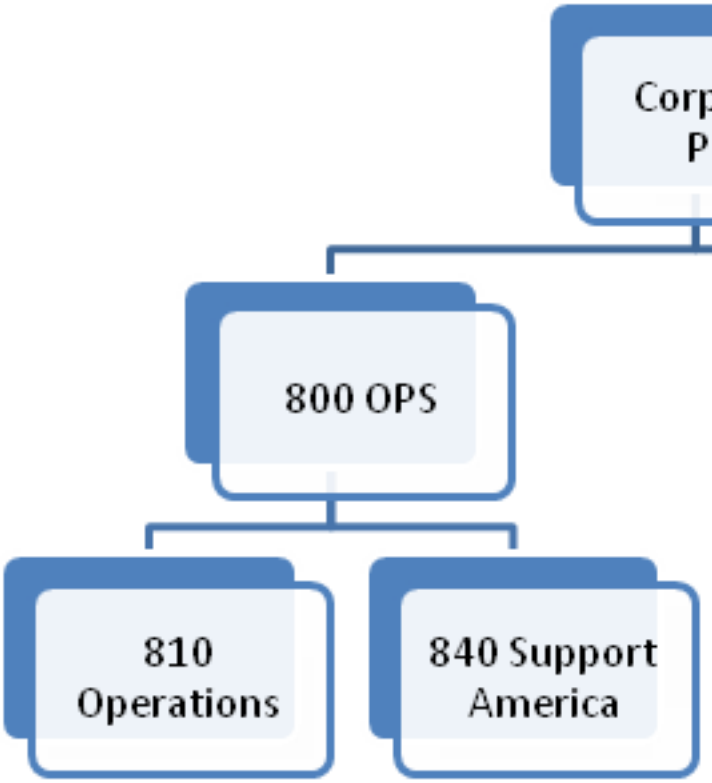
この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
ワークフローの承認プロセスの概要を教えてください。また、ワークフローで組織を承認する権限は誰にありますか？また、複数の組織のステータスを一度に変更することはできますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

構造とワークフロー




上記の組織構造では、法人プラン、800 OPS、900 MKTG にアクセスできるユーザーをワークフローの承認者にすることができます。これらのユーザーは、複数の組織のステータスを一度に変更し、適切な権限が有効であれば、自分が承認する組織からステータスの更新を受け取ることができます。

ワークフロー権限

ワークフローで組織を承認するには、ユーザーに以下が必要です。

- 親組織へのアクセス権がある (この図では、親組織は 800 OPS、900 MKTG、Corporate Plan です)。
- ″組織を承認″ 権限を持っています。

ユーザーに親組織へのアクセス権があるものの、"組織を承認" 権限がない場合、ユーザーに送信できるのは組織の送信とリコールのみです。予算を承認および却下するには、ユーザーに "組織を承認" 権限が必要です。

複数の組織のステータスの変更

承認者が複数のレベルのステータスを更新できます。たとえば、オペレーション マネージャは部門 810 と 840 の予算を一度に承認できます。これを行うには、承認者が以下の手順に従います。

1. "ワークフロー" タブをクリックし、ツリー内の "800 OPS" をハイライト表示します。
2. "組織ワークフローのステータス" ペインで、"承認" ボタンをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. ダイアログ ウィンドウが開き、すべてのサブ組織が承認されることを確認するよう求められます。続行するには "はい" をクリックします。
4. 子組織のステータスが "承認済" と "ロック済" に変わり、親組織のステータスが "ロック済" になります。承認者を含むすべてのユーザーがシートのデータを編集できません。

| | |
|---|---|
| 組織が更新された場合のアラート | "管理" の "一般設定" の下にあるチェックボックスを使用して、ワークフローのアラートを有効にできます。組織が変更されたときにユーザーが E メールアラートを受信するには、次の条件が満たされている必要があります。<br>• インスタンスで E メールとワークフローが有効になっている必要があります。<br>• ユーザーには有効な E メール アドレスが入力されている必要があります (E メール アドレスは "管理"、"ユーザーを編集" で設定可能)。<br>組織のステータスが変更されると (予算がレビュー用に送信された、予算所有者が送信をリコールしたなど) 場合、承認者に E メール通知が届きます。 |
| ワークフローからの組織の除外 | 管理者は組織構造でワークフローから組織を除外できます。たとえば、組織が 2013 会計年度に非アクティブ (ただし、会計年度 2010 ~ 2012 会計年度の実績は含まれている) である場合、管理者は、この組織が "ワークフロー" タブのツリーに表示されないように選択できます。<br>これを行うには、管理者が組織構造内で組織を特定し ("モデリング" > "組織")、"ワークフローから除外" というボックスをオンにする必要があります。 |

## ワークフローの E メール通知

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
ワークフロー通知のメッセージをカスタマイズできますか？また、ワークフローの通知を受け取るユーザーと受け取らないユーザーがいるのはなぜですか？通知を誰がいつ受け取るかは何によって決定されるのですか？

回答
現在、ワークフローの E メール通知でメッセージをカスタマイズすることはできません。

ステータスが "承認" または "却下" に変更された場合は、組織への直接アクセス権を持つユーザーに通知が送信されます。ステータスが "送信" または "リコール" に変更された場合は、ステータスが変更された組織の親への直接アクセス権を持つユーザーに通知が送信されます。送信されました。組織への直接アクセスは、"組織構造の管理" 画面で定義されます。これは、ユーザー プロファイルに割り当てられた組織アクセスとは異なる場合があります。たとえば、次の "組織構造" を見てみましょう。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

"北西部" 営業組織がレビューに送信されると、管理ユーザーは親組織である "北西部" の承認者であるため、E メール通知が届きます。その後、管理ユーザーが "北西部の営業" 組織を承認すると、通知が "北西部の営業ユーザー" に送信されます。

南東地域営業組織がレビューのために送信された場合、マネージャ ユーザーは E メール通知を受け取ります。これは、直接の親組織である "Southeast" の承認者がいないためです。そのため、システムから次の親組織である "国内" の承認者に通知が送信されます。

E メール アラートをオンにするには、次のようにします。

"管理" の "一般設定" の下にあるチェックボックスを使用して、ワークフローのアラートを有効にできます。組織が変更されたときにユーザーが E メールアラートを受信するには、次の条件が満たされている必要があります。

- インスタンスで E メールとワークフローが有効になっている必要があります。
- ユーザーには有効な E メール アドレスが入力されている必要があります (E メール アドレスは "管理" > "ユーザーを編集"で設定できます)。

ワークフローのステータス

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
ワークフローにはどのようなステータスがありますか？また、各ステータスはシートまたはユーザーにどのように影響しますか？

回答

進行中: これはバージョンが最初に作成され、予算の承認者が予算サイクルのデータを入力しているときのステータスです。このステージでは、予算の承認者とマネージャがシートのデータを編集できます。

レビュー用に送信済: 予算所有者がデータの入力を完了すると、予算はマネジメントによるレビューと承認の準備が整います。組織が送信されると、シートはロックされ、予算承認者 (子組織にアクセスできるユーザー) はデータを編集できなくなります。マネジメント (親組織へのアクセス権を持つユーザー) は、必要に応じてデータを編集できます。予算の送信後に予算所有者が更新を行いたい場合は、"概要" タブの "リコール レベルの送信" ボタンを使用できます。シートは再び予算承認者が編集できるようになります。このステージでは、承認者 (マネジメント) がシートを編集できます。

却下済: 送信された予算がマネジメントによって却下された場合、予算の承認者はシートを編集できます。多くのクライアントが、特定のコメントが更新された場合に予算所有者を支援するために、メモ フィールドを活用しています。更新が行われたら、予算承認者は予算を再度送信します。このステージでは、承認者 (マネジメント) もデータを編集できます。

承認済: マネジメントが予算を承認するとシートはロックされ、予算の承認者やマネジメントの人が編集できなくなります。

ロック済: データがロックされ、予算の承認者と管理者が編集できない状態になっています。

ナビゲーション メニューにワークフロー タブがありません

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問
"ワークフロー" タブが表示されず、"ダッシュボード"、"シート"、"レポート" のタブのみ表示されるユーザーがいます。他のユーザーは "ワークフロー" タブを表示できます。ユーザー設定には、これを原因とするものはありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

回答

"ワークフロー" タブは、親組織にアクセスでき、"組織を承認" 権限を持つユーザーにのみ表示されます。親組織にアクセスできないユーザー、または "組織を承認" 権限がないユーザーは 、"シート" > "概要" に移動して、ワークフローを介して作業を送信します。親組織へのアクセス権があり、組織を承認する権限があるにもかかわらず "ワークフロー" タブが表示されない場合は、実績以外のバージョンを表示していることを確認してください。

# セキュリティと管理

## 管理の使用

### システム設定

外観のユーザー設定の変更

外観のユーザー設定を使用して以下を行います。

- 最新のユーザー インターフェイスの更新を以前のリリースに戻します。
- シートおよびシートのインポート時に、モデル シートの検証ルールを使用できます。
- グリッド線を濃くし、色を明るくすることで、投影されたシートの表示を改善します。
- 上部のナビゲーション バーに会社の口ゴを表示します。Adaptive Planning およびその他の Workday 製品を使用している場合は、口ゴをアップロードできません。
- チーム メンバーがそれぞれのプロファイルでアバターを使用できるようにします。

前提条件

セキュリティ: "一般設定" 権限

最新のインターフェイスの更新のオプトアウト
Adaptive Planning では、ほぼすべてのリリースでユーザー インターフェイスの改善が行われています。任意の更新された機能から一時的にオプトアウトできます。

注 : オプトアウトするオプションは、1 つのリリースにのみ適用されます。次のリリースでは、新しいユーザー インターフェイスがデフォルトになり、無効にすることはできなくなります。

最新の更新を一時的にオフにするには、以下の操作を行います。

1. ナビゲーション メニューから、"管理" へ移動します。
2. "外観のユーザー設定" をクリックします。
3. 以下の機能について、"最新のユーザー インターフェイスの更新を適用" チェックボックスをオフにします。
    - シート、レポート、ダッシュボード
    - ダッシュボードの "シートを最適化" のトグル
    - "インテグレーション概要" ページを使用する
    - 通知を有効化

    このチェックボックスの横に表示されていた新規のインターフェイスの更新がインターフェイスから消え、以前のリリース時のインターフェイスに戻ります。

モデル シートの検証ルールを有効化

1. ナビゲーション メニューから、"管理" へ移動します。
2. "外観のユーザー設定" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "ユーザー インターフェイス " セクションで、以下のチェックボックスをオンにします。
    - シートのデータ検証
    - インポート データのデータ検証 (シートでのデータ検証が必要)

モデル シートの検証ルールを設定するには、 モデル シート データの検証ルールの設定を参照してください。

### 管理ページのインターフェイスの更新を有効にする

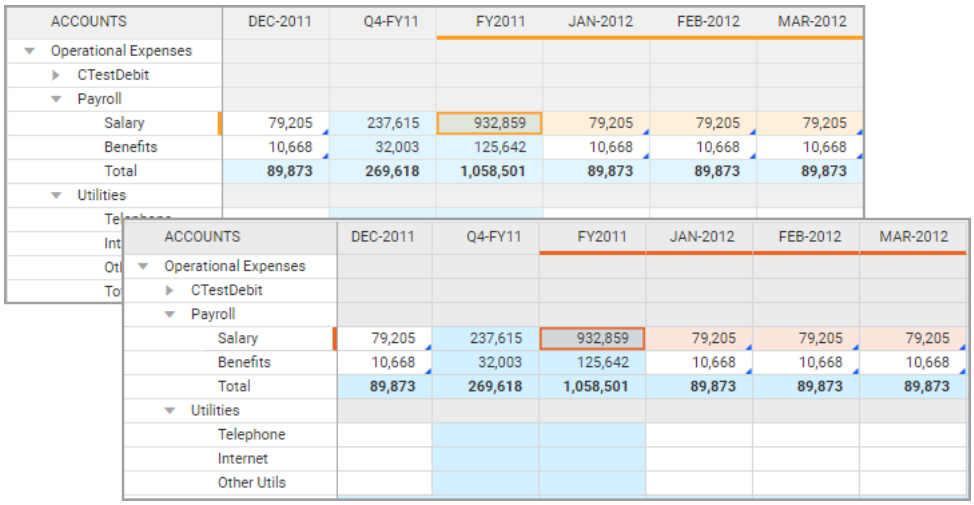
管理ランディング ページおよびユーザー ページで更新されたインターフェイスを使用するには、最初にそれらを有効にする必要があります。

1. ナビゲーション メニューから、"管理" へ移動します。
2. "外観のユーザー設定" をクリックします。
3. "ユーザー インターフェイス " セクションで、以下のチェックボックスをオンにします。
    - 管理ランディング
    - 管理ユーザー

### シートの表示の改善

1. ナビゲーション メニューから、"管理" へ移動します。
2. "外観のユーザー設定" をクリックします。
3. "表示設定" セクションで、"シートの視覚的コントラストを強化" チェックボックスをオンにします。

このオプションを選択することで、インスタンスのすべてのユーザーがグリッド線を濃くし、シートの色を明るくすることができます。シートの細部がプロジェクターで見やすくなります。



| ACCOUNTS | DEC-2011 | Q4-FY11 | FY2011 | JAN-2012 | FEB-2012 | MAR-2012 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Operational Expenses | | | | | | |
| CTestDebit | | | | | | |
| Payroll | | | | | | |
| Salary | 79,205 | 237,615 | 932,859 | 79,205 | 79,205 | 79,205 |
| Benefits | 10,668 | 32,003 | 125,642 | 10,668 | 10,668 | 10,668 |
| Total | **89,873** | **269,618** | **1,058,501** | **89,873** | **89,873** | **89,873** |
| Utilities | | | | | | |
| Telephone | | | | | | |
| Internet | | | | | | |
| Other Utils | | | | | | |

### 会社ロゴの変更

1. ナビゲーション メニューから、"管理" へ移動します。
2. "外観のユーザー設定" をクリックします。
3. "顧客ロゴ" セクションで、"ファイルをインポート" を選択します。
4. "ファイルの選択" をクリックします。
5. 会社のロゴを 40MB 以下の .JPEG または .PNG ファイル形式でアップロードします。上部のナビゲーション バーに ロゴが表示されます。

### アバターの有効化

1. ナビゲーション メニューから、"管理" へ移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "外観のユーザー設定" をクリックします。
3. "ユーザー アバター" セクションで、"アバターの許可" をクリックします。をクリックします。あなたとそのチームはユーザーのプロフィールに画像をアップロードすることができます。プロファイル、ホーム ページ、E メール グループの変更を参照してください。

ダッシュボードのユーザー設定の変更

始める前に

セキュリティ: "管理アクセス" 権限

このタスクについて

ダッシュボードのユーザー設定では、以下の設定を行います。

- ダッシュボード グラフのデフォルト色
- ダッシュボードのバックエンド設定へのカスタマー サポートのアクセス

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "ダッシュボードのユーザー設定" をクリックします。
3. (任意) "ユーザー設定" タブで、"サポート アクセス" を有効にします。
   このトグルを有効にすると、ダッシュボード インスタンスのバックエンドにカスタマー サポートの担当者がアクセスできるようになります。デフォルトでは無効のままにしておいて、必要な場合にのみ有効にすることもできます。
4. (任意) "テーマ" タブから、カラー ピッカーを使用するか 16 進数の値を入力して、テーマのデフォルトの 10 色を設定します。
   選択した色は、以下のデフォルトの色となります。
   - グラフのデータ系列
   - グラフの条件付き書式設定

   1 番目の色は、1 番目のデータ系列または 1 番目の条件付き書式設定ルールのデフォルトの色となります。グラフに 10 を超えるデータ系列または条件付き書式設定ルールがある場合、11 番目の項目にはテーマの 1 番目の色がデフォルトで設定されます。グラフの "外観の設定" でも色を変更できます。
5. (任意) "テーマ" タブで "リセット" をクリックすると、Adaptive Planning のデフォルトの色に戻すことができます。

relatedlinks
タスク
ステップ: ダッシュボードの設定 ( 292ページ )

**Workday** データ センター **IP** アドレスの一般設定への追加

始める前に

- Adaptive Planning インスタンスを Workday にインテグレーションしていること。
- インスタンスの "IP 制限" フラグが有効化されていること。

このタスクについて

Workday と Adaptive Planning のインテグレーションを機能させるためには、Workday データ センターの IP アドレスを "一般設定" 管理ページに追加します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. Community の "Workday データ センター" ページにアクセスします。
2. Workday の URL をもとに、Workday テナントが配置されている Workday データ センターのリンクを見つけてクリックします。
3. "本稼働テナントの DNS 名および IP アドレス" テーブルに移動します。
4. "アウトバウンド" 行について、次の列の IP アドレスを特定して保存します。
   - IP アドレス
   - IP アドレス (災害復旧計画)
5. "インバウンド (インテグレーションおよび顧客の SMTP)" 行までスクロールします。この行の次の列からすべての IP アドレスを保存します。
   - IP アドレス
   - IP アドレス (復旧プラン)
6. Adaptive Planning で "管理"、"一般設定"の順に進みます。
7. "パスワード管理"で "次の IP アドレスからのみログインできるようにする" を選択します。
8. 先ほど保存した Workday データ センターの IP アドレスを入力します。

例

Workday の URL が https://community.workday.com/datacenter/WD10 であれば、Workday テナントは WD10 データ センターに配置されています。Community の "Workday データ センター" ページで、"カナダ地域 - WD10 データ センター" のリンクをクリックします。

relatedlinks
参考
参考: 一般設定 ( 1390ページ )
Community: Workday データ センター

作業開始アシスタントの使用

始める前に
セキュリティ: "管理アクセス" 権限

このタスクについて

作業開始アシスタントは最上位チェックリストで、メイン管理エリアの設定をサポートします。設定の進捗状況の追跡に役立ちます。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. システム メニューから "一般設定" をクリックします。
3. 一番下までスクロールして、"作業開始アシスタントのリセット" をクリックします。
4. もう一度 "管理" をクリックすると、チェックリストが表示されます。
5. 完了したら、"作業開始アシスタントを終了" をクリックします。

タスクの結果

例

次のタスク

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## ユーザー アクティビティ ログの表示

### 始める前に

"管理">"一般設定"で、インスタンスの "ユーザー アクティビティ ログ" が有効になっていることを確認します。

### このタスクについて

"ユーザー アクティビティ" により、ユーザー サインイン アクティビティのタイムスタンプ ログを表示、フィルタ、検索、ダウンロードできます。現在この機能は OfficeConnect のログアウト アクティビティは追跡していません。

"ユーザー アクティビティ " のリストで、以下のソート可能な列を表示できます。

- 名前: アクティビティに関連付けられたユーザーの名前。
- アクション: サインインまたはサインアウト操作。
- 説明: アクティビティがある場合はその説明。
- 日付: アクティビティの日付と時間を。ユーザー プロファイルのタイムゾーン設定を使用して表示します。

### 手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "システム" メニューから "ユーザー アクティビティ" をクリックします。
3. ツールバーのフィルタリングおよびその他のオプションを使用して、以下を行います。
    - すべてのフィルタをクリアし、現在のログを表示します。
    - ログをリフレッシュして最新のアクティビティを表示します。
    - 特定のユーザーだけを探す、または全ユーザーを表示する。
    - ログインのみ、ログアウト アクティビティのみを検索するか、すべてのアクティビティを表示します。
    - フィルタの開始日を選択します。
    - フィルタの終了日を選択します。
    - フィルタ設定を含むフィルタ ログのスプレッドシートをダウンロードします。

### タスクの結果

### 例

### 次のタスク

## アプリとの通知インテグレーションの設定

### 始める前に

Slack コラボレーション アプリへのアクセス。

### このタスクについて

管理者は、Adaptive Planning インスタンスを Slack などのコラボレーション アプリと統合できます。これ を使用すると、ユーザーが目的のアプリで通知にアクセスして管理できるようになります。インテグレーションが正常に完了すると、Adaptive Planning インスタンスが Slack に統合されたことを示す通知が以下のページに表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 通知設定
- 通知を管理

注： この機能では、以下がサポートされています。

- Workday テナントに接続されて いない Adaptive Planning スタンドアロン インスタンス。
- Adaptive Planning マルチインスタンス通知用に各インスタンスを個別に設定する必要があります。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "システム" メニューで "通知プリファレンスの設定 " リンクをクリックします。
   Slack アプリが "通知設定" ページに表示されます。
3. "追加" をクリックします。
   Slack に統合されている最初の 10 件の Adaptive インスタンスについてのみ、Slack 承認ページが表示されます。
4. Slack の承認ページが表示されたら、"許可"をクリックします。
5. Adaptive Planning にサインインし、インテグレーションをリクエストしている管理ユーザーとして認証される。

タスクの結果

例

次のタスク

Slack に接続するには、エンド ユーザーが通知設定で個々の認証情報を認証する必要があります。参照 通知のアプリ接続の設定（16ページ）。

概念: 管理パブリッシュ

以下のようなメリットがあります。

- 多数の変更がすべて一度に適用される。
- 管理者は変更をテストし、変更がどのようにモデルに影響するのかを確認できる。
- 変更が保留中であっても、他のユーザーはデータの入力、レポートの作成、グラフの表示、ユーザーと権限セットの管理ができる。

ヒント： ベスト プラクティス: システムで作業を行っているユーザーが少ないときに、一度に変更をパブリッシュします。システムでモデルが更新され、最新の変更が反映されるまで待機しなければならないユーザー数を減らすことで、ユーザーへの影響を抑えることができます。

管理パブリッシュをオンまたはオフにする

セキュリティ: "管理アクセス" 権限

1. インスタンスにログインします。
2. "管理" をクリックし、"管理" ページにアクセスします。
3. "一般設定" をクリックします。
4. "機能を有効化" で "管理パブリッシュ" チェックボックスを選択し、オフまたはオンにします。

一度に多数の構造的な変更を行うことがわかっているときには、管理パブリッシュをオンにできます。変更がパブリッシュされた後、管理パブリッシュをオフにできます。これで、後から個別の変更を行う際に、パブリッシュ プロセスが実行されません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### モデルのロック

組織、科目、通貨、為替レートを変更するときには、その変更をパブリッシュするまでモデルがロックされ、他の変更を行えなくなります。

処理待ちの変更がある場合、下記の編集や作成はできません。

- カスタム属性または値
- 組織、属性、科目の特性または値
- 組織割当シートとユーザー割当シート
- モデル科目とキューブ科目

また、下記の操作も実行できません。

- 科目と組織の完全なテンプレートのインポート。
- ユーザー プロファイルの承認組織の変更または追加。
- "一般設定" にある一部のフィールドの編集。これらはロックされています。
- バルク API 更新の実行。

ロックされた機能があるページの上部には、自分を含めたユーザーに、パブリッシュされていない変更が存在することを示す警告メッセージが表示されます。

まだ変更できる場所には、下記が含まれます。

- パブリッシュされていない変更としての組織
- パブリッシュされていない変更としての総勘定元帳、カスタム、メトリック、前提条件科目
- パブリッシュされていない変更としての通貨および為替レート タイプ
- 即時変更としてのユーザーと権限のセット
- 即時変更としての "一般設定" 内のロックされていないフィールド
- シート、レポート、グラフ
- 為替レート

### パブリッシュされていない変更の実行

セキュリティ: "管理者の変更のパブリッシュ" 権限

1. "モデリング" から、"組織"、"総勘定元帳科目"、"カスタム科目"、"メトリック科目"、"前提条件"、または "通貨" に移動します。
2. 設定または構造を変更して、保存します。
3. ページ上部にある警告メッセージのラジオ ボタンを使います。
    - 現在の内容を表示: 変更をパブリッシュする前に、構造や設定を表示します。
    - 編集: 構造と設定に対する処理待ちの変更を表示するか、さらに変更を加えます。

### すべてのパブリッシュされていない変更のパブリッシュまたは破棄

1. "モデリング" から、"組織"、"総勘定元帳科目"、"カスタム科目"、"メトリック科目"、"前提条件"、または "通貨" に移動します。
2. ページ上部にある警告メッセージから、"変更の管理" をクリックします。
3. 処理待ちの変更のリストを確認します。

- "すべて破棄" 処理待ちの変更をすべて削除します。
- "すべてパブリッシュ" すべての変更を現在のインスタンスに適用します。

### 概念: ファイルのアップロードに対するウイルス対策スキャン

顧客システムが悪用される可能性を防ぐために、Adaptive Planning ではファイルを安全にアップロード、処理、ダウンロードできます。アプリケーションは以下を実行します。

- ファイル サイズが 50 MB 以下の場合、アップロードされたすべてのファイルにウイルス スキャンを実行する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 管理者が "一般設定" で設定した使用可能なファイル拡張子のリストに照らして、ファイル拡張子を検証する。

ユーザーは、ファイルをアップロードすると同時に以下のタスクを実施できます。

- "外観のユーザー設定" に会社のロゴ画像を追加する。
- ユーザー プロファイルにアバターを追加する。
- ドキュメントを添付してタスクを処理する。
- IDP 証明書をアップロードする。
- ファイルをレポートとしてアップロードする。

アップロードが試行されると、Adaptive Planning は業界標準のウイルス スキャン ツールを使用してファイルをスキャンします。ツールがすべてのファイルをスキャンすること、またはすべてのウイルスを検出することを保証するものではありません。

ファイルのウイルス スキャンが実行された場合、スキャンによって以下の応答が返される可能性があります。

- "Infected"。 ファイルがウイルスに感染しています。ユーザーは別のファイルのアップロードを試すことができます。
- "無効"。 スキャンできないファイルです。以下の理由が考えられます。
  - ファイル サイズが大きすぎる。
  - ファイル形式がサポートされていない。
- "失敗"。内部エラーのため、スキャンが完了しませんでした。

スキャンでファイルにウイルスが検出されなかった場合、応答は返されません。

参考: 一般設定

"一般設定" を使用して、以下を含むインスタンスに関する基本情報を表示および更新します。

- セッション タイムアウト値
- パスワードのルール
- サイト管理者の連絡先の詳細

ユーザーの権限セットによって、表示される設定は異なります。概念: 権限セットを参照してください。

ダッシュボードの特定の設定については、以下を参照してください。 ダッシュボードのユーザー設定の変更（1385ページ）。

セットアップ情報

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| コード | インスタンスを識別します。プロフェッショナル サービスまたはサポートへのご相談時に、この情報が必要になる場合があります。 |
| 氏名 と 住所 | 会社名と代表の住所を入力します。 会社名の指定は必須です。 |

連絡先詳細

インストールに関する問題について、会社の代表管理者連絡先に使用する名前、電話番号、住所、および E メール アドレスを入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

セットアップ詳細

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| ディスク使用量 | インスタンスが使用する保存域の容量を示します。この情報は表示専用です。 |
| セッション タイムアウト | 非アクティブ時間が最大何分続くとユーザーが自動的にサインアウトされるかを設定します。空白の場合、60 分がデフォルトです。5 から 500 分が選べる範囲です。<br>"保存"をクリックする前にセッションがタイムアウトした場合は、Adaptive Planning によりサインイン ページにリダイレクトされます。再びサインインすると、変更が保存されます。サインイン ページから移動した場合、再度サインインすると変更は保存されません。 |
| トランザクション | トランザクション モジュールにアップロードされたファイルが使用する保存域の容量を説明します。トランザクションのみです。この情報は表示専用です。 |
| レポート ファイル | レポート メニューにアップロードされたファイルが使用している保存域の容量を説明します。この情報は表示専用です。 |
| ローカル | ロケール シートの名前と小数部桁数を指定します。必須です。 |
| 連結比率 | "連結比率" シート上の科目の表示名と小数部桁数を指定します。連結のみです。必須です。 |
| 自動按分 | 合計期間に値を入力するときは常に、すべての科目のデフォルトの按分方法を設定します。<br>以下のようにします。<br>• 均等: 合計を均等に分割するか、平均をすべての関連セルにコピーします。<br>• 比率: 関連セルの既存の値の比率で分配します。<br>• 比率: 過去の年の値の比率で分配します。それぞれの関連セルに前年の値の比率で分配します。<br>• スプレッド *4-4-5*: 3 番目のセルごとに最大の重み付けが適用されます。<br>• スプレッド *4-5-4*: 2 番目のセルに最大の重み付けが適用され、以降 3 番目のセルごとに最大の重み付けが適用されます。<br>• スプレッド *5-4-4*: 最初のセルに最大の重み付けが適用され、以降 3 番目のセルごとに最大の重み付けが適用されます。<br>• 前提条件: インスタンス用にカスタム作成された按分方法を選択するプロンプト。ステップ: カスタム按分の設定を参照してください。<br>• なし: 按分方法を選択できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 取引先ラベル | モデルの取引先に使用されるラベルを特定します。連結のみです。必須です。 |
| 取引先科目の識別 | 科目特性または分割を使用して、取引先の科目を特定する方法を決定します。連結のみです。 |
| システム通貨属性ラベル | システム通貨のラベルを特定します。 |
| 拡張子に基づいてファイルのアップロードを制限 | 特定のファイル タイプをアップロードできます。<br>xls、xlsx、xlsm、csv、txt、pdf、doc、docx、ppt、pptx、html、などのファイル拡張子を追加することをお勧めします。 。<br>リスト内をクリックして拡張子を追加すると、ユーザーがそのファイル タイプをアップロードできるようになります。 |
| レポート E メールには no-reply を使用 | レポート E メールを送信ユーザーの E メール アカウントからではなく、*"no-reply@adaptiveinsights.com"* アカウント |
| インポート ジョブのリストの上限 | "インテグレーション">"インポート履歴" にアクセスした際に表示されるインポートの最大数を表示します。デフォルト: 1000。サポートにお問い合わせいただくと、件数は 9,999 まで増やすことができます。この情報は表示専用です。 |
| モデル シートの最初のページ サイズ | すべてのモデル シートで表示される最大行数を設定します。最大値を下げるとロード時間が短縮され、フィルタを使用して異なるデータ セットを表示するよう強制されます。最大値を上げるとロード時間が増加し、フィルタなしですべてのデータを表示できるようになります。 |
| セル エクスプローラー関連行の制限 | "セルを探索" で表示される行数の上限を設定します。 |

機能を有効化

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| "お知らせ" タブを有効にする | "お知らせ" ページに簡単なレポートとメッセージを表示できます。 |
| ワークフローとプロセス トラッカーのアラート | 次の場合にユーザーに E メール アラートを送信します。<br>• ユーザーにプロセス トラッカー タスクが割り当てられた場合。<br>• ユーザーがアクセスできる組織またはシートのワークフロー ステータスが変更された場合。 |
| 管理パブリッシュ | ユーザーの中断を最小限に抑えるには、後で公開するための管理者変更を保持します。 |
| ユーザー アクティビティ ログ | ユーザーがサインインおよびサインアウトした日時を追跡および保存します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| インテグレーション | 新しいデータ ソースを作成するデータ デザイナー向けに、事前設定済みのアダプタの使用可否を設定します。インテグレーションのみ。<br>• Workday: データ デザイナーが新規の Workday データ ソースを構成できるようにします。。<br>• Intacct: データ デザイナーが新規の Intacct データ ソースを構成できるようにします。。<br>• MS Dynamics GP: データ デザイナーが新規の Microsoft Dynamics GP データ ソースを構成できるようにします。<br>• NetSuite: データ デザイナーが新規の NetSuite データ ソースを構成できるようにします。。<br>これは推奨される NetSuite への接続方法です(NetSuite に格納されているデータへのアクセスが最大化されるため)。<br>• Salesforce: データ デザイナーが新規の Salesforce データ ソースを構成できるようにします。。 |
| インテグレーション ローダを有効化 - データの消去 | Planning データ ローダで "データの消去" タブの利用可能性を設定します<br>注 : 非仮想化プランまたは実績データを消去すると、指定した月および科目から数値データが削除され、元に戻すことはできません。システム科目および数式を含むセルの値を消去することはできません。 |
| NetSuite カスタマー | NetSuite カスタマー用の追加オプションを設定します。<br>• NetSuite Basic: NetSuite データへの基本アクセスを有効にし、NetSuite 固有のメニューをインテグレーション メニュー内で利用可能にします。これは推奨される NetSuite への接続方法ではありません。 |
| Elastic Hypercube | パフォーマンスのコンピューティング リソースを動的に配賦する Elastic Hypercube テクノロジーがインスタンスで有効であるかどうかを示します。この情報は表示専用です。 |
| 表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化 | 以下について Excel インポート テンプレートに 1 列のみ必要があるかどうかを示します。<br>• 組織<br>• 属性<br>• 特性<br>以下の場合、セルに値を含むヘッダー列としての属性または特性のみが必要です。<br>• 科目構造のインポート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | • 属性構造のインポート<br>• 組織のインポート<br>• 標準データのインポート<br>• トランザクションのインポート<br>• キューブ データのインポート<br>• モデル データのインポート<br><br>値はインポート時のコードになります。<br><br>データ エクスポートでは、属性、組織、特性に対して 1 列のみが生成されます。<br><br>特性を以下にタグ付けする際に、"名称" および "コード" というサフィックスは不要です。<br><br>• 科目構造のインポート<br>• 属性構造のインポート<br>• 組織のインポート<br><br>注 :<br><br>"表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化"をオンにすると、"インテグレーション" > "インポート" で 、表示名設定の "コードと名前なしのインポート" が非表示 になります。 |
| インポートしたグループを編集可能にする | dataSource=EXTERNAL の場合、importGroups API を介して作成されたグループを Adaptive Planning UI で編集できます。これらのグループはグローバル グループとして扱うことで、以下を行うことができます。<br><br>• グループにメンバーを追加します。<br>• グループからメンバーを削除します。<br>• グループを削除します。<br>• グループ名を変更します。<br><br>この設定はデフォルトで無効になっており、importGroups によってロードされたグループとメンバーは UI で のみ表示されます 。 |

パスワードの管理

重要 : 企業方針と個人データの保護と一貫性がある要件を設定します。必要なルールが多いほど、パスワードが安全になります。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 最小文字数 | パスワードで必要な文字の最小数を設定します。 |
| 英字の最小文字数 | パスワードに必要な英字 (a ~ z) の最小数を設定します。 |
| 数字の最小文字数 | パスワードに必要な数字 (0 ~ 9) の最小数を設定します。 |
| 大文字と小文字の混在を必須とする | 少なくとも 1 つの大文字および 1 つの小文字の英字 (a ~ z) が必要です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| 同じ文字を 3 つ以上続けて使用できない | *sss*や *111*など、2 文字を超える文字の使用を制限します。 |
| 英数字以外を 1 文字以上使用する | ! などの特殊文字が少なくとも 1 つ必要です。@、#、$、%、^、&、*。 |
| パスワードの有効期間 | ユーザーがパスワードを再設定しなければならない日数または月数を設定します。 |
| パスワードの変更禁止期間 | ユーザーがパスワードを再度変更できるようになるまでの日数または月数を制限します。 |
| 許容試行回数 | ユーザーが一定時間内にサインインに失敗した場合、ロックアウトされるまでの回数を制限します。ユーザーがロックアウトされると、"ユーザーを編集" ページにアクセスできる管理ユーザーのみが科目をアンロックできます。試行回数と分数を入力します。<br><br>これらのフィールドが空白の場合、デフォルト値である 1440 分 (24 時間) に 10 回の試行回数が適用されます。 |
| 有効期限切れの警告 | ユーザーが有効期限に関する警告の受信を開始するタイミングを設定します。パスワードの有効期限が切れるよう設定されている場合にのみ適用されます。日数を入力します。 |
| 使用済パスワードの再利用を禁止 - 過去 | 同じパスワードを繰り返し使用できるタイミングを制限します。古いパスワードを再使用できるようになるまでに、新たに作成する必要があるパスワードの数を入力します。 |
| ユーザーがログイン ページでパスワードをリセットできるようにする | サインイン ページに "パスワードをお忘れですか？" リンクを追加して、ユーザーがパスワードをリセットできるようにします。このオプションを設定しない場合、ユーザー パスワードをリセットできるのは管理者のみとなります。 |
| 次の IP アドレスからのみログインできるようにする | このフィールドを表示するには、インスタンスの IP 制限 フラグを有効にする必要があります。<br><br>ユーザーがインスタンスにアクセスできるコンピュータまたはネットワークを制限します。1 つ以上の承認された IP アドレスを入力します。コンマを使って複数の IP アドレスを区切ります。IP アドレスの範囲を指定するには、ハイフンで区切られた 2 つの有効なアドレスを入力します。このフィールドは最大 2048 文字を許容できます。<br><br>ネットワーク IP アドレスを使用して、同じネットワーク IP アドレスを共有する複数のユーザーのアクセスを制限することもできます。<br><br>Adaptive Planning インスタンスを Workday に統合する場合は、Workday データ センターの IP アドレスまたは IP アドレスの範囲も指定する必要があります。Workday データ センターの IP アドレスは、Community の "データ センター" ペー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| | ジで確認できます。参照 Workday データ センター IP アドレスの一般設定への追加 ( 1385ページ )。<br><br>IP の不一致によってユーザーが拒否された場合、セキュリティ上の理由から、"IP Address" という語句を語っていないエラー メッセージが表示されます。代わりに、「無効なネットワーク」によりログインが拒否されたことを示しています。 |
| ユーザーは初回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。 | 初回ログイン後、ユーザーはパスワードを変更する必要がある。 |

**Adaptive Planning** サポート管理

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| Workday を許可するログインする Adaptive Planning サポート担当者 | このオプションを選択すると、Adaptive Planning のサポートがインスタンスにアクセスできるようになります。条件サポートがインスタンスへのアクセスを必要とする場合は、追加の認証が必要です。 |

relatedlinks
タスク
スケジュールされたレポートを添付ファイルとして送信 ( 254ページ )
作業開始アシスタントの使用 ( 1386ページ )
ユーザー アクティビティ ログの表示 ( 1387ページ )

概念: パブリッシュされていない変更の管理

パブリッシュされていない変更を管理し、保留中の変更をレビュー、パブリッシュ、または破棄できます。

含まれる列:

- 名前: 影響を受けるオブジェクトの名前
- タイプ: 影響を受けるオブジェクトのタイプ (組織、科目など)
- アクション: 変更によって実行されるアクション (新規作成、削除、追加、名前変更など)
- ステータス: 変更のステータス (保留中、エラー)

変更は常に、変更が行われた順序でパブリッシュされます。すべての変更は同時にパブリッシュまたは破棄する必要があります。部分的なパブリッシュや破棄はできません。

エラーが発生した場合、エラーが発生する前にパブリッシュされた変更はパブリッシュされたまま残ります。残りの変更はパブリッシュされません。

変更によっては、その変更がパブリッシュされるまでユーザーが機能を使用できなくなる場合があります。これらの機能は次のとおりです。

- 管理ページ
- 属性
- 科目特性
- 組織の特性
- 組織
- 科目
- 組織割当シート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- ユーザー割当シート
- ユーザーの追加または編集

構造を変更 (組織の追加や科目特性の編集など) すると、この機能のすべてが使用できなくなります。

注 : 通貨または通貨の為替レートへの変更は公開まで保留されますが、ユーザーはこの機能を引き続き使用できます。変更内容はパブリッシュ後にのみ表示されます。

## ユーザーと権限セット

セキュリティ構造
ステップ: アクセス ルール セキュリティの設定

アクセス ルールのセキュリティ構造により、ユーザー プロファイルとグループ、権限、およびルールはさまざまな設定と連携してデータを保護します。シート、科目、組織、およびバージョンでこれらの設定を管理します。

アクセス ルールは、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差部分を定義します。

注 : インスタンスが組織ベースのセキュリティを使用している場合は、 ステップ: 組織ベースのセキュリティの設定に進みます。

前提条件
必要な権限:

- "管理アクセス" > "ユーザー"
- "管理アクセス" > "権限セット"
- "モデル管理アクセス" > "モデル"
- "モデル管理アクセス" > "組織構造"
- "モデル管理アクセス" > "バージョン"

ナビゲーション

各ステップで説明されている、インスタンスのさまざまな領域に移動します。

基本ステップ

管理

- 可能な場合は、ユーザー ID とパスワードを作成し、グループを作成し、ユーザーをグループに割り当てます。ユーザーの作成 と ユーザー グループの作成を参照してください。
- 共通のセキュリティ組織またはタスクに基づいて、グループにアクセス ルールを作成し、割り当てます。グループに適合しないユーザーにアクセス ルールを作成し、割り当てます。また、組織承認者に基づいた動的なアクセス ルールを作成することもできます。また、新しいユーザーを管理グループに割り当てると、自動的にすべてのデータにアクセスできるようになります。アクセス ルールの作成を参照してください。
- 権限セットに権限を割り当て、権限セットをユーザーに割り当てます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | バージョン設定<br>• ユーザー タイプごとにアクセス制御を設定します。ユーザー タイプは権限に基づいています。<br>• バージョンをロックまたは非表示にします。参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。 |
| | 組織設定<br>• 各バージョンの組織の使用可否を設定します。参照 組織の使用可否の変更（848ページ）。 |
| | シートおよび科目設定<br>• シート設定: 読み取り専用科目、サブ組織のカスタマイズ、キューブの制限、および給与の詳細。<br>• 科目設定: データのプライバシーおよび給与の詳細。ステップ: 機密データの保護を参照してください。 |

新規インスタンス

新しいインスタンスには、最低でも以下が含まれます。

- ユーザー: admin@instancecode.com
- 権限セット: "フル シート" は大半の利用可能な権限に含まれ、管理ユーザーに割り当てられます。
- ユーザー グループ: "組織承認者" グループ。新しいユーザーをこのグループに追加することで、迅速にアクセスを設定することができます。
- 2 つのアクセス ルール: 1 つ目のルールは、モデルのすべてのデータに対する admin@instancecode.com の編集アクセスを許可します。もう 1 つは、"組織承認者" グループのすべてのユーザーに、所有するすべてのレベルの編集権限を与えます。

重要： モデルおよびデータへのアクセスを維持するため、"フル シート" 権限セットや admin@instancecode.com のアクセス ルールを変更したり削除したりしないでください。

新規ユーザーのための管理アクセスの設定

ユーザーがモデルに完全にアクセスできるようにするには、次のようにします。

1. ユーザー プロファイルとパスワードを作成し、そのユーザーに "管理" 権限セットを割り当てます。"管理" > "ユーザー" に移動します。
2. 管理ユーザーのルールをコピーして、追加の管理ユーザーに割り当てます。"管理" > "アクセス ルール" に移動します。

新規ユーザーのためのクイック組織アクセスの設定

1. ユーザー プロファイルとパスワードを作成します。"管理" > "ユーザー" に移動します。
2. 権限セットを作成し、ユーザーに割り当てます。"管理" > "権限セット" へ移動します。
3. "組織承認者" グループにユーザーを追加します。"管理" > "グローバル ユーザー グループ" に移動します。
4. ユーザーに組織承認者を割り当てます。"管理" > "関連付け" に移動します。

インスタンスには "組織承認者" グループ用のルールが用意されているので、ユーザー用のルールを作成する必要はありません。このルールでは、グループ内のユーザーに、承認組織のすべてのデータに対する編集アクセス権が与えられます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 基本ビュー アクセスの設定

ユーザーがデータを表示できるようにするには、次のようにします。

1. ユーザー プロファイルとパスワードを作成します。"管理" > "ユーザー" に移動します。
2. (任意のベスト プラクティス) 表示専用グループを作成し、新しいユーザーを表示専用グループに追加します。"管理" > "グローバル ユーザー グループ" に移動します。
3. アクセス ルールを作成します。"管理" > "アクセス ルール" に移動し、テンプレートを使用して、ユーザーまたは表示専用グループの "全表示" アクセス ルールを作成およびアップロードします。
4. データを表示する権限をユーザーに付与します。"管理" > "権限セット" 少なくとも "シートへのアクセス"、"レポートへのアクセス"、または "ダッシュボードにアクセス" 権限を持つ権限セットをユーザーに割り当てます。
5. アクセス ルールに割り当てられた組織がアクセス可能なバージョンで表示されるようにします。"モデリング" > "組織" に移動し、ユーザーまたはグループに割り当てられた組織のうち少なくとも 1 つを選択します。バージョン セレクターのドロップダウンからアクセス可能なバージョンを選択し、チェックボックスをオンにします。参照 組織の使用可否の変更 ( 848ページ )。
6. ユーザーがシート上のデータを表示するには、組織割当シートに組織を追加します。"モデリング" > "組織" に移動し、承認組織を選択します。"シート" セクションから、シートの横にあるチェックボックスをオンにして、組織を追加します。これにより、組織のすべての子組織がシートに自動的に追加されます。

これらの手順が完了すると、非表示されていないバージョンはすべて新しいユーザーに表示されます。チェックするには、"モデリング" > "バージョン" に移動し、"ユーザー" のドロップダウンの選択内容を確認します。ユーザーをグループに追加した場合、"グループ" ドロップダウンからグループを選択して、その下の "組織へのアクセス" を表示します。

### 計画バージョンへの編集アクセスの設定

ユーザーが計画バージョンの編集もできるようにするには、次を追加します。

1. データを編集する権限をユーザーに付与します。"管理" > "権限セット" へ移動します。"編集可能なシート アクセス" 権限を含む権限セットを割り当てます。
2. ユーザーに "編集" ルールを付与します。"管理" > "アクセス ルール" に移動し、ユーザーまたはグループの "編集" ルールを更新または追加します。
3. バージョンへの編集アクセス権をユーザーに付与します。"モデリング" > "バージョン" に移動します。"編集可能なシート アクセス" の "アクセス制御" セクションから "完全アクセス" を選択します。

または "給与の詳細" シートの設定を使用せずに、ユーザー割当シートを割り当てます。

### 実績への編集アクセス権を制限

特定のユーザーのみが実績を編集できるようにする場合、特定の権限セットを作成してバージョン アクセスを絞り込みます。これにより、権限セットのない他のユーザーが実績バージョンを編集できなくなります。

実績アクセス用の特権的な権限セットを作成するには、次のようにします。

1. 新しい権限セットを作成します。"管理" > "権限セット" > "新しい権限セット" へ移動します。"権限セット名" には、"実績アクセス" や "特権アクセス" などの名前を入力します。 "編集可能なシート アクセス" を選択してから、"実績の特権アクセス" を選択します。次に、実績を編集できるユーザーに新しい権限セットを割り当てます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

2. 実績バージョンへのアクセス権限を特権ユーザーにのみ付与します。"モデリング" > "バージョン" に移動します。実績バージョンの設定の "アクセス制御" セクション内で以下を行います。
    a. "実績の特権アクセス" ドロップダウンから "完全アクセス" を選択します。
    b. 他のすべてのユーザー タイプのドロップダウンについては、"完全アクセス" 以外のオプションを選択します。
    c. すべての実績、または少なくとも最下位組織の実績に対して作業を繰り返します。最下位組織の実績のみ編集可能です。最下位組織の実績は、その実績に合計されないサブバージョンを持つ実績です。
3. 実績バージョンを使用できるようにします。"モデリング" > "組織" に移動します。ユーザーに割り当てられた組織の場合、"バージョン セレクター" ドロップダウン リストから、任意の最下位組織の実績バージョンを選択します。チェックボックスをオンにします。

ここで、この新しい権限セットを持つユーザーのみが、アクセス可能な組織で利用可能な実績バージョンを編集できます。

既存の管理権限セットのみ実績の編集を許可するには、次のようにします。

1. "管理" > "権限セット" に移動し、管理権限セットの横にある "編集" を選択します。"モデル" > "バージョン" および "編集可能なシート アクセス" を選択して保存します。
2. "モデリング" > "バージョン" に移動します。"管理" ユーザー タイプの場合のみ、各最下位組織の実績バージョンの "完全アクセス" を選択します。

ここで、実績バージョンを編集することができるのは、管理権限セットを持つユーザーのみです。

表示アクセス権および編集アクセス権の絞り込み

- 制限表示アクセス ルールの作成: ユーザーまたはグループは分割を表示できません。
- "給与の詳細" 設定を使用する: "給与詳細へのアクセス" 権限を持つユーザーのみが科目の詳細またはモデル シートを表示および編集できるようにします。
- 標準シートの科目を非表示またはロックする: 非表示にするには "モデリング" > "組織割当シート" に移動します。標準シートを選択して "サブ組織のカスタマイズ" を選択します。ロックするには、シートを選択して "科目グループ" を選択します。左のボックスで科目を選択します。右の "読み取り専用" チェックボックスをオンにします。参照 ステップ: 標準シートの作成 ( 1032ページ )。
- キューブ制限の設定: すべてのユーザーのキューブ シート内のデータの交差を非表示にします。参照 概念: キューブ シートの作成 ( 1103ページ )。

ステップ: 組織ベースのセキュリティの設定

組織ベースのセキュリティ構造により、ユーザー プロファイル、権限、さまざまなアクセス制御、設定が一体となりデータを保護します。これらの設定と制御を、シート、科目、組織、およびバージョンで管理します。

注 : インスタンスでアクセス ルール セキュリティを使用する場合は、 概念: アクセス ルール と ステップ: アクセス ルール セキュリティの設定に移動します。

ナビゲーション

各ステップで説明されている、インスタンスのさまざまな領域に移動します。

前提条件

ユーザーと権限セットを参照してください。

必要な権限:

- "管理アクセス" > "ユーザー"
- "管理アクセス" > "権限セット"
- "モデル管理アクセス" > "モデル"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

- "モデル管理アクセス" > "組織構造"
- "モデル管理アクセス" > "バージョン"

組織ベースのセキュリティ構造

| | |
|---|---|
| | 管理<br>• ユーザー ID とパスワードを作成します。ユーザーの作成を参照してください。<br>• 権限セットに権限を割り当て、権限セットをユーザーに割り当てます。参照 権限セットの作成 ( 1404ページ ) 。<br>• 組織承認者を割り当てます。参照 関連付けをインポート ( 1514ページ ) 。 |
| | バージョン設定<br>• ユーザー タイプごとにアクセス制御を設定します。ユーザー タイプは権限に基づいています。<br>• バージョンをロックまたは非表示にします。参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示 ( 816ページ ) 。 |
| | 組織設定<br>• 各バージョンの組織の使用可否を設定します。参照 組織の使用可否の変更 ( 848ページ ) 。<br>• (シート アクセスの場合はオプション) 承認組織をシートに割り当てます。 |
| | シートおよび科目設定<br>• シート設定: 読み取り専用科目、サブ組織のカスタマイズ、キューブの制限、および給与の詳細。<br>• 科目設定: データのプライバシーおよび給与の詳細。ステップ: 機密データの保護を参照してください。 |

基本ビュー アクセスの設定

ユーザーがデータを表示できるようにするには、次のようにします。

1. ユーザー プロファイルとパスワードを作成します。"管理" > "ユーザー" に移動します。
2. データを表示する権限をユーザーに付与します。"管理" > "権限セット" へ移動します。少なくとも "シートへのアクセス"、"レポートへのアクセス"、または "Discovery へのアクセス" 権限を持つ権限セットをユーザーに割り当てます。
3. ユーザーがバージョンにアクセスできるようにします。"モデリング" > "バージョン" に移動します。"ユーザー" ドロップダウンで "ロック済み "、"ロック済 (メモを除く)"、または "表示" を選択します。
4. 組織の承認権をユーザーに付与します。"管理" > "ユーザー" に移動します。
5. アクセス可能なバージョンで組織が表示されるようにします。"モデリング" > "組織" に移動し、承認組織を選択します。バージョン セレクターのドロップダウンからアクセス可能なバージョンを選択し、チェックボックスをオンにします。
6. ユーザーがシート上のデータを表示するには、組織割当シートに組織を追加します。"モデリング" > "組織" に移動し、承認組織を選択します。"シート" セクションから、シートの横にあるチェックボックスをオンにして、組織を追加します。これにより、組織のすべての子組織がシートに自動的に追加されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 計画バージョンへの基本編集アクセス権の設定

ユーザーがデータを編集できるようにするには、以下を追加します。

1. データを編集する権限をユーザーに付与します。"管理" > "権限セット" へ移動します。権限セットの "編集" をクリックし、"編集可能なシート アクセス" を選択します。
2. バージョンへの編集アクセス権をユーザーに付与します。"モデリング" > "バージョン" に移動します。"編集可能なシート アクセス" の "アクセス制御" セクションから "完全アクセス" を選択します。

または "給与の詳細" シートの設定を使用せずに、ユーザー割当シートを割り当てます。

### 実績への基本編集アクセス権の制限

特定のユーザーのみが実績を編集できるようにする場合、特定の権限セットを作成してバージョン アクセスを絞り込みます。これにより、権限セットのない他のユーザーが実績バージョンを編集できなくなります。

実績アクセス用の特権的な権限セットを作成するには、次のようにします。

1. 新しい権限セットを作成します。"管理" > "権限セット" > "新しい権限セット" へ移動します。"権限セット名" には、"実績アクセス" や "特権アクセス" などの名前を入力します。 "編集可能なシート アクセス" を選択してから、"実績の特権アクセス" を選択します。次に、実績を編集できるユーザーに新しい権限セットを割り当てます。
2. 実績バージョンへのアクセス権限を特権ユーザーにのみ付与します。"モデリング" > "バージョン" に移動します。実績バージョンの設定の "アクセス制御" セクション内で以下を行います。
    a. "実績の特権アクセス" ドロップダウンから "完全アクセス" を選択します。
    b. 他のすべてのユーザー タイプのドロップダウンについては、"完全アクセス" 以外のオプションを選択します。
    c. すべての実績、または少なくとも最下位組織の実績に対して作業を繰り返します。最下位組織の実績のみ編集可能です。最下位組織の実績は、その実績に合計されないサブバージョンを持つ実績です。
3. 実績バージョンを使用できるようにします。"モデリング" > "組織" に移動します。ユーザーが承認する組織については、"バージョン セレクター" ドロップダウン リストから、任意の最下位組織の実績バージョンを選択します。チェックボックスをオンにします。

ここで、この新しい権限セットを持つユーザーのみが、アクセス可能な組織で利用可能な実績バージョンを編集できます。

既存の管理権限セットのみ実績の編集を許可するには、次のようにします。

1. "管理" > "権限セット" に移動し、管理権限セットの横にある "編集" を選択します。"モデル" > "バージョン" および "編集可能なシート アクセス" を選択して保存します。
2. "モデリング" > "バージョン" に移動します。各最下位組織の実績バージョンの "管理者" ユーザー タイプについてのみ、"完全アクセス" を選択します。

ここで、実績バージョンを編集することができるのは、管理権限セットを持つユーザーのみです。

### 表示アクセス権および編集アクセス権の絞り込み

- "給与の詳細" 設定を使用する: "給与詳細へのアクセス" 権限を持つユーザーのみが科目の詳細またはモデル シートを表示および編集できるようにします。
- 標準シートの科目を非表示またはロックする: 非表示にするには "モデリング" > "組織割当シート" に移動します。標準シートを選択して "サブ組織のカスタマイズ" を選択します。左側の選択ボックスで科目を選択します。右の選択ボックスの組織とサブ組織をオフにします。それらの組織のみにアクセスできるユーザーのシートで、オフになっている組織の科目データを非表示にします。ロックするには、シートを選択して "科目グループ" を選択します。左のボックスで科目を選択します。右の "読み取り専用" チェックボックスをオンにします。
- キューブ制限の設定: すべてのユーザーのキューブ シート内のデータの交差を非表示にします。参照 概念: キューブ シートの作成 ( 1103ページ )。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

### 概念: セキュリティ構造

インスタンスは、組織ベースのアクセスまたはアクセス ルールの 2 つのセキュリティ構造のうちいずれかを使用します。

#### 組織ベースのセキュリティ

組織ベースのセキュリティは、関連付けである組織所有権に依存しています。組織ベースのセキュリティを使用すると、自分自身の組織のデータしか表示できません。

ステップ: 組織ベースのセキュリティの設定を参照してください。

#### アクセス ルール セキュリティ

アクセス ルール セキュリティにより、組織ベースのセキュリティに取って代わるルールの柔軟なレイヤーを追加します。組織ベースのセキュリティとアクセス ルールを組み合わせるには、ルールで承認組織を使用します。組織所有権が変わると、これらのルールは動的に更新されます。

ステップ: アクセス ルール セキュリティの設定を参照してください。

注 : アクセス ルールに切り替えると何が変わるかについては、アクセス ルールへの移行を 参照してください。

#### 認証情報

認証情報は、ユーザー ID とパスワードの組み合わせです。チーム メンバーの認証情報を作成するには、ユーザー プロファイルを作成します。そのプロセスの一環として、権限セットと承認組織を割り当てます。

参照 ユーザーの作成 ( 1520ページ ) 。

#### 権限

権限を使用して、さまざまな権限セットを作成します。各権限セットには、広範囲の機能を制御する権限が含まれています。これにより、各ユーザーに権限セットを割り当てて、ユーザーがモデルのどこに該当するのかを制御します。

参照 参考: 利用可能な権限 ( 1409ページ ) 。

### アクセス制御

| | |
|---|---|
| アクセス ルール | アクセス ルールは、ユーザーまたはグループが変更または表示できるデータの特定の交差部分を定義します。 保護された属性は交差部分を定義します。保護された属性には、組織、科目、および最大 3 つのカスタム属性が含まれます。<br>概念: アクセス ルール および アクセス ルールの作成を参照してください。 |
| 組織 | • 組織所有権: アクセス ルール セキュリティを使用して、組織所有権から、組織に対する特別な管理権限が付与されます。<br>• 承認組織を使用したアクセス ルール: 承認組織に基づいてアクセス ルールを作成します。これによって、自分たちの全承認組織へユーザー データ アクセスが割り当てられます。ユーザーが承認組織を更新すると、ルールも動的に更新されます。アクセス ルールの作成を参照してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | • 組織の使用可否: この組織設定により、特定のバージョンで組織とそのデータを表示できるようになります。参照 組織の使用可否の変更（848ページ）。 |
| Versions | バージョン アクセス制御を使用して、広く定義されたユーザー タイプのバージョン全体を非表示またはロックすることができます。または、バージョンの一部をロックします。<br>参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。 |
| 科目設定 | 科目のアクセス権を制御するには、次の 2 つの設定を使用します。<br>• "データ プライバシー" 設定を使用して、数式の科目値を参照する方法を制御します。現在の組織のみ、最上位組織、または任意の組織で値を参照できます。この科目設定では、他の方法ではアクセスできない可能性がある他の組織のデータを明らかにします。<br>• 科目を "給与の詳細" としてフラグ付けします。給与の詳細権限を持つユーザーのみが科目の分割と詳細を表示できます。ステップ: 機密データの保護を参照してください。 |
| シート | • 標準シートに科目を追加した後、これらを読み取り専用としてマークできます。これにより、そのシート上のデータは誰も変更できなくなります。参照 標準シートの編集（1038ページ）。<br>• サブ組織に対してシート全体を非表示にすることもできます。<br>• キューブ シートについて、特定の交差へのアクセスをブロックするキューブ制限を追加できます。<br>• モデル シートに "給与の詳細" のフラグを立てます。給与の詳細権限を持つユーザーのみがシートを開くことができます。<br>参照 概念: モデル シートの作成（1047ページ）をクリックして開始します。 |

権限セット
権限セットの作成

始める前に

セキュリティ:"管理アクセス" > "権限セット"

次を参照してください。

- 概念: 権限セット
- 参考: 利用可能な権限（1409ページ）.

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### このタスクについて

権限セットは、Adaptive Planning へのユーザー アクセスを定義します。サインインするには、各ユーザーに割り当てられた権限セットが必要です。

権限セットを作成すると、最も一般的な権限が事前に選択された標準テンプレートが表示されます。

### 手順

1. メイン メニューから "管理" をクリックします。
2. "ユーザーと権限" メニューから "権限セット" をクリックします。
3. "新しい権限セット" をクリックし、権限セットの名前を入力します。
4. (任意): "閲覧のみ"、"コントリビュータ"、"AI 実装者"、"パワー ユーザー" など、さまざまなテンプレートを選択できます。
5. 各権限にマウスを合わせると、ツールチップが表示されます。権限を選択またはクリアするか、デフォルトのテンプレートをそのまま使用します。
6. "送信"をクリックします。
7. 作成した権限セットの横にある "割当" リンクをクリックします。
8. 選択可能なユーザーを選択し、権限セットの選択済ユーザー リストに移動します。
9. "送信"をクリックします。

### タスクの結果

### 例

### 次のタスク

### 権限セットの変更

### 始める前に

セキュリティ:"管理アクセス" > "権限セット"

### このタスクについて

権限セットを変更すると、その権限セットに割り当てられているすべてのユーザーのアクセス権が変更されます。

### 手順

1. メイン メニューから "管理" をクリックします。
2. "ユーザーと権限" メニューから "権限セット" をクリックします。
3. 必要な権限セットの横の "編集" リンクをクリックします。
4. 必要に応じて権限を選択またはクリアしてください。
5. "送信"をクリックします。

### タスクの結果

### 例

### 次のタスク

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

権限セットの割当の変更

始める前に

セキュリティ:

- "管理アクセス" > "ユーザー"
- "管理アクセス" > "権限セット"

このタスクについて

権限セットからユーザーを削除すると、別の権限セットを割り当てることができます。ユーザーが Adaptive Planning にサインインするには、権限セットの割り当てが必要です。

手順

1. メイン メニューから "管理" をクリックします。
2. "ユーザーと権限" メニューから "権限セット" をクリックします。
3. 権限セット名のリンクをクリックします。
4. 一番下までスクロールすると、権限セットに割り当てられたユーザーのリストが表示されます。ユーザー名の横にある "編集" リンクをクリックします。
5. "権限セット" プロンプトで、別のオプションを選択します。
6. "送信"をクリックします。

タスクの結果

例

次のタスク

権限セットの削除

始める前に

セキュリティ:"管理アクセス" > "権限セット"

このタスクについて

権限セットを削除すると、割り当てられたすべてのユーザーから関連する権限が削除されます。これらのユーザーには別の権限セットを割り当てることで、Adaptive Planning からロックアウトされないようにできます。

手順

1. メイン メニューから "管理" をクリックします。
2. "ユーザーと権限" メニューから "権限セット" をクリックします。
3. 権限セット名の横の "削除"リンクをクリックします。
4. 削除を確認します。割り当てられたすべてのユーザーがリスト表示されます。
5. ユーザーごとに新しい権限セットを選択します。"未割当"を選択した場合、ユーザーは Adaptive Planning にサインインできなくなります。
6. "送信"をクリックします。

タスクの結果

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例

次のタスク

ユーザー権限の変更

始める前に

セキュリティ:

- "管理アクセス" > "ユーザー"
- "管理アクセス" > "権限セット"

このタスクについて

権限セットからユーザーを削除すると、別の権限セットを割り当てることができます。ユーザーが Adaptive Planning にサインインするには、権限セットの割り当てが必要です。

手順

1. メイン メニューから "管理" をクリックします。
2. "ユーザーと権限" メニューから "ユーザー" をクリックします。
3. リスト内のユーザーを検索し、"ログイン (ユーザー名)" の横の "編集" を クリックします。
4. "権限セット" プロンプトで、別のオプションを選択します。
5. "送信"をクリックします。

タスクの結果

例

次のタスク

概念: 権限セット

権限セットをユーザーに割り当てて、Adaptive Planning のエリアにアクセスできるようにします。権限セットには、ユーザーが Adaptive Planning で表示および実行できる内容を定義する権限が含まれています。例: "管理" 権限セットには通常、ほぼすべての使用可能な権限があります。予算担当者はシートにアクセスするだけで、他には何も必要ありません。この権限セットには、いくつかの権限が含まれている場合があります。

概念: ロールと権限および 参考: 利用可能な権限 ( 1409ページ )。

1 つの権限セットは複数のユーザーに割り当てることができますが、各ユーザーが持てる権限セットは 1 つだけです。

管理者として次のことが可能です。

- 権限セットを必要な数だけ作成する。
- 既存の権限セットを変更する。
- ユーザーに権限セットを割り当てる。

すべてのインスタンスには、ライセンスに応じて事前定義された権限セットがあります。権限セットをレビューし、必要に応じて権限を更新するか、追加の権限セットを作成します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

権限とデータ アクセス

権限は、ユーザーが実行できるアクション、および Adaptive Planning ユーザーが表示またはアクセスできるアクションを制御します。これには、特定のフィールド、セクション、サービスが含まれます。例: "管理アクセス" 権限を持たないユーザーは、"管理" ページに移動できません。

データ アクセスは、ユーザーが表示できるデータを制御します。たとえば、ユーザーに表示する組織とバージョンと表示しない組織とバージョンを選択できます。組織、バージョン、科目、シートの設定でデータ アクセスを管理します。インスタンスがアクセス ルールを使用する場合、ルールは制御の特定の層を追加します。

組織承認者は、ユーザー プロファイルまたは "管理" > "関連付け" で設定します。バージョン アクセスは、 バージョンを作成または編集するときに設定します。アクセス ルールは、アクセス ルールが有効になっているときに "管理" > "アクセス ルール" で設定します。

次を参照してください。

- 概念: アクセス ルール
- ユーザーを作成します。
- 計画バージョンの作成 ( 797ページ ) .

権限テンプレート

権限テンプレートにより、自分の一連の権限が事前に選択されます。権限テンプレートはインスタンスごとに異なります。通常、これらには "閲覧のみ" と "フル シート" が含まれます。また、コントリビュータ、システム実装者、およびパワー ユーザーを含めることもできます。

各テンプレートに含まれる権限を表示するには、新しい権限セットを作成し、テンプレートをクリックします。選択に応じて権限を削除および追加します。参照 参考: 利用可能な権限 ( 1409ページ ) 。

| 権限テンプレート | 説明 |
| --- | --- |
| 閲覧のみ権限 | データに対して表示アクセス権限のみを付与する必要があるユーザーの場合は、"閲覧のみ" テンプレートを使用します。また、これは、制限付き権限セットを作成する、または最初から権限セットを構築するための開始点としても適しています。 |
| コントリビュータ権限 | データを入力または変更する必要があるユーザーの場合は、コントリビュータ テンプレートを使用します。コントリビュータ テンプレートには、管理およびモデリングに適した権限が含まれていません。他のいくつかの高度なアクセス権限の他、コントリビュータ テンプレートには以下が含まれていません。<br>• インテグレーション オペレーター<br>• モデル管理アクセス<br>• 管理アクセス |
| システム実装者権限 | 期間限定でモデルを管理するユーザーには、 システム実装者テンプレートを使用します。たとえば以下のような内容があります。<br>• Adaptive Planning 内でまだ特定の権限を持たない Workday SAML SSO ユーザー<br>• サードパーティの実装者<br>システム実装者テンプレートで選択されていない権限: |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限テンプレート | 説明 |
| --- | --- |
| | • インテグレーション開発者: ユーザーが API を使用してデータ コネクタを作成できるようにします。<br>• エクスポート機能: ユーザーがエクスポートできるようにします。<br>• 組織の承認: ユーザーがワークフロー内の組織を承認できるようにします。<br>• プロセス トラッカー: ユーザーがプロセス トラッカーにアクセスして管理できるようにします。 |
| フル シートおよびパワー ユーザーの権限 | "フル シート" および "パワー ユーザー" テンプレートには、ほぼすべての使用可能な権限があります。これらのテンプレートを管理者ユーザーに使用します。"フル シート" および "パワー ユーザー" テンプレートで選択されていない権限:<br>• インテグレーション開発者: ユーザーが API を使用してデータ コネクタを作成できるようにします。<br>• 時間: ユーザーがカレンダーの設定を更新できるようにします。<br>• 構造のインポート: ユーザーが組織や科目などのモデル構造をインポートできるようにします。 |

**参考:** 利用可能な権限

シートの権限

概要情報については 概念: 権限セットを 参照してください。 権限セットの作成 ( 1404ページ ) 段階的な指示については、一部の権限では、アクセス ルールで保護されているデータや属性が公開されます。詳細については アクセス ルールへの移行を 参照してください。

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
| --- | --- | --- | --- |
| シートへのアクセス | メイン メニューからシートのページを開きます。<br>組織割当シートを表示します。 | | |
| 編集可能なシート アクセス | 表示できる組織割当シートのデータを入力および編集します。 | シートへのアクセス | |
| シート上で属性を編集 | シートで許可されている場合、モデル シートとキューブ シートの属性ドロップダウン リストに属性値を追加します。 | "編集可能なシート アクセス"<br>"モデル" のシートに属性を追加するときは "シート上で属性を編集" をクリックします。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| Excel にダウンロード | 任意のタイプのシートを Excel 形式でダウンロードするか、印刷対応ビューを使用します。 | シートへのアクセス | |
| 外部ソースからの書き戻し | 書戻しに対して有効になっている交差部分を表示および編集し、変更内容を Adaptive Planning に送信します。 | シートへのアクセス | |

レポート権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| レポートへのアクセス | メイン メニューからレポート ページを開きます。<br>他のユーザーが共有しているレポートの表示、PDF のダウンロード、スナップショットの作成を行います。 | | |
| 個人レポートの作成 | 個人用のあらゆるタイプのレポートを作成し、任意のフォルダに保存します。 | レポートへのアクセス | |
| 共有レポートの作成 | 他のユーザーがレポートを表示および編集できるように、レポートを "共有" フォルダに保存します。<br>最初に作成した共有レポートに変更を加えます。 | レポートへのアクセス、個人レポートの作成 | |
| すべてのレポートの変更 | 他のユーザーが作成した共有レポートに変更を加えます。<br>共有レポートに変更を保存すると、他のユーザーは変更を自動的に確認できます。<br>別のユーザーが作成したレポートまたはライン メモを削除します。<br>以下の場合、レポートはグレー表示されます。 | レポートへのアクセス | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | • "すべてのレポートを変更" 権限を持っています。<br>• レポート内のいずれの要素にもアクセスできない。<br>例: バージョンへのアクセス権がなく、レポートにそのバージョンのみが含まれている場合、レポートはグレー表示されます。 | | |
| Excel にダウンロード | 以下から任意のタイプのレポートを Excel 形式でダウンロードします。<br>• レポート ビューアー<br>• レポート ビルダー<br>• レポートの URL | レポートへのアクセス | |
| 共有レポート フォルダの管理 | "共有レポート" フォルダを名前変更、削除、作成します。レポートのアクセス権を持つすべてのユーザーがこれらの変更を表示できます。 | レポートへのアクセス | |
| 通知の送信 | あらゆる種類の共有レポートについて、他のユーザーに通知を送ることができます。<br>ユーザーのグループにレポートを送信するには、個人用 E メール グループを作成します。 | レポートへのアクセス | |
| ファイルをアップロードする | コンピュータからファイルをアップロードして保存します。以下を参照してください。 静的レポート ファイルのアップロード（167ページ） | レポートへのアクセス | |
| レポート スケジュールを作成 | 独自のスケジュールを作成する。 | | |
| すべてのレポート スケジュールを管理 | 管理者は以下のことが可能になります。 | レポート スケジュールを作成 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
| --- | --- | --- | --- |
| | • インスタンスのすべてのスケジュールを表示します。<br>• スケジュールを変更せずに削除する。<br>• スケジュールの一時停止と再開 | | |
| OfficeConnect へのアクセス | Excel、Word、PowerPointで Adaptive Planning OfficeConnect を使用して作成するAdaptive Planning のデータを使用したレポート、文書、プレゼンテーション。 | レポートへのアクセス | で OfficeConnect を購入および有効化"管理" > "セットアップ" を選択します。 |

ダッシュボード権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
| --- | --- | --- | --- |
| ダッシュボードへのアクセス | • メイン メニューから "ダッシュボード" にアクセスします。<br>• 共有エリアを表示します。<br>• グラフを表示し、グラフ データを分析します。<br>• 画像としてグラフを個人のマシンにダウンロードします。 | | ダッシュボードのリクエスト |
| ダッシュボードの編集 | • エリアとグラフを作成し、他のユーザーと共有します。<br>• 共有エリアを複製します。<br>• 編集可能な共有エリアをチェックアウトしてパブリッシュします。<br>• 編集可能なエリアを削除します。 | ダッシュボードへのアクセス | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| スナップショットの表示 | • "スナップショット" フォルダにアクセスします。<br>• 共有されたスナップショットを表示およびダウンロードします。 | ダッシュボードへのアクセス | |
| スナップショットの作成とスケジュール | • "スケジュール" フォルダにアクセスします。<br>• 新しいスナップショットと新しいスナップショットのスケジュールを作成します。 | • ダッシュボードへのアクセス<br>• スナップショットの表示 | |
| 会社のダッシュボードの編集 | 追加の管理者権限またはモデル権限のないユーザーが、計算メトリックを作成したり、科目のドリル オプションを変更したりできるようにします。<br>"管理アクセス" または "モデル" を持つユーザー: "シート"、"科目"、"属性"、"数式" の 権限はすでに、計算済みメトリックを作成し、ドリル オプションを変更できます。 | ダッシュボードへのアクセス | |

シナリオ権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| シナリオにアクセス | メイン メニューから "シナリオ" を開きます。 | | |
| シナリオを作成 | 計画バージョンに基づいて新しいシナリオを作成します。 | シナリオ マネージャへのアクセス | |
| シナリオを共有 | シナリオをコラボレーターと共有します<br>Workday コアを使用して Adaptive Planning のセキュリティを管理する場合は、"シナリオの共有" アクションを | シナリオを作成 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | 手動で有効にする必要があります。他のすべてのインスタンスについては、"シナリオの管理" を含む権限セットについて "シナリオの共有" 権限が自動的に有効になります。 | | |
| シナリオをマージ | シナリオの変更をベース バージョンにマージします。 | • 編集可能なシート アクセス<br>• シナリオを作成 | |
| シナリオを管理 | "シナリオ" ページから "グローバル" フォルダにアクセスします。<br>送信内容の共有、統合、管理、変更の破棄を行う。"変更のダウンロード" 権限がある場合は、すべてのシナリオの変更をダウンロードすることもできます。<br>"シナリオを管理" 権限を持つユーザーは、以下からブロックされます。<br>• シート、レポート、ダッシュボードでのシナリオ データの表示。変更内容をダウンロードしてレビューすることはできます。<br>• 通知を受信する。すべての通知はオーナーとコラボレーターに送信されます。<br>• 送信内容の承認または差戻し。ただし、変更をマージすることはできます。 | • シナリオをマージ<br>• シナリオを共有 | |
| シナリオの変更をダウンロード | シナリオに加えられた変更を Excel ファイルにダウンロードします。 | シナリオ マネージャへのアクセス | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

インテグレーション権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| インテグレーション オペレーター | メイン メニューからインテグレーション ページを開きます。<br>保存したインテグレーション タスクを実行します。<br>「実行履歴」を参照してください。 | | |
| データ デザイナー<br>アクセス ルールまたは組織所有権による制限なし | インテグレーションのデータ ソース、ローダ、タスク、ユーザー権限を設定します。<br>すべての組織、科目、属性にデータを読み込む API を実行します。 | インテグレーション オペレーター | |
| インテグレーション開発者<br>アクセス ルールまたは組織所有権による制限なし | JavaScript を使用して、標準データ ソースの各アクション (接続テスト、構造のインポート、データのインポート、データのプレビュー) の動作を定義します。<br>ステージング テーブルのすべての科目、組織、属性を表示します。 | データ デザイナー | |

モデリング権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| モデル管理アクセス<br>アクセス ルールまたは承認組織による制限なし | | 追加の "モデル アクセス" 権限を選択し、ユーザーにモデリングへのアクセス権を付与します。 | |
| モデル (シート、科目、属性、数式を含む) | メイン メニューからモデリング ページを開きます。<br>属性、属性値、属性の特性を作成、編集、削除します。<br>GL、メトリック、カスタム科目、および科目特性を作成、編集、削除します。 | モデル管理アクセス<br>(任意) "インテグレーション オペレーター" > "データ デザイナー" を選択し、データ デザイナーのインテグレーションでモデルのすべての部品を表示します。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | 組織割当シートとユーザー割当シートを作成、編集、削除、割り当てます。<br>メイン メニューから "数式" を開きます。<br>モデルの共有数式を書き込みます。<br>すべての属性と科目を表示します。<br>ダッシュボード メトリックを作成します。<br>インテグレーション設定のすべてのタスクを表示して実行します。 | | |
| 組織構造<br>"承認組織のみ" オプションのある承認組織による制限あり。 | "モデリング" の "組織と属性" メニューから組織ページを開きます。<br>組織を作成、編集、削除します。<br>関連付けを表示、作成、および変更します (条件付き)。<br>組織承認者を割り当てます。<br>• すべての組織: 承認組織によって制限されていません。<br>• 承認組織のみ: 承認組織によって制限されます。 | モデル管理アクセス<br>"管理アクセス" > "ユーザー" で関連付けを管理します。 | |
| Versions | "モデリング" の "バージョンと時間" メニューからバージョンページを開きます。<br>バージョンを作成、編集、削除、非表示にします。 | モデル管理アクセス | |
| Time | "モデリング" の " バージョンと時間" メニューから時間ページを開きます。<br>ロケールの作成、ラベルの追加と編集、インスタンスの定義済みカ | モデル管理アクセス | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | レンダーの延長などを行います。 | | |
| カレンダーの設定 | 新しいカレンダーをインポートして、既存のカレンダーを置き換えます。<br>モデルで標準データをクリアします。 | Time | この権限は、ダッシュボードを購入した場合は表示されませんC PM |
| お知らせ | "モデリング" の " その他 " メニューから "お知らせページ" を開きます。<br>お知らせを作成、編集、削除、他のユーザーと共有する。 | モデル管理アクセス<br>レポートへのアクセス | |
| 前提条件 | "モデリング" の "科目" メニューから "前提条件" ページを開きます。<br>前提条件科目を作成、編集、削除します。 | | |
| 構造インポート | "モデリング" メニューから、組織、科目、特性、属性構造をインポートします。 | モデル管理アクセス<br>モデル - シート、科目、属性、数式を含む | |
| 配賦ルール | "モデリング" の "ルール" メニューから配賦ルール ページを開きます。<br>"配賦ルール" を作成、編集、削除します。 | モデル管理アクセス | |
| トランザクション | "モデリング" の "その他" メニューからトランザクション ページを開きます。<br>トランザクションの列とフィールドを定義します。 | モデル管理アクセス | |
| 通貨 | "モデリング" の " その他" メニューから "通貨" ページを開きます。<br>モデルで使用する通貨を作成、編集、削除します。 | モデル管理アクセス | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | 通貨の為替レート タイプを作成、編集、削除します。<br>為替レート シートに料金を入力します。 | | |
| Predictive Forecaster<br>アクセス ルールまたは承認組織による制限なし 。 | "モデリング"の "インテリジェント プランニング " メニューから "予測予測" を開きます。<br>機械学習予測を作成、編集、実行して計画バージョンを決定します。 | モデル管理アクセス | |
| 連結 | 連結を管理します。<br>"モデリング" の "ルール" メニューから相殺消去ルール ページを開きます。<br>相殺消去ルールを作成、編集、削除します。<br>"モデリング" の " その他" メニューから連結比率ページを開きます。 | モデル管理アクセス | 購入して連結を有効にする |
| Workday に財務計画をパブリッシュする<br>承認組織による制限なし | 財務計画のバージョンをドラフトとして Workday にパブリッシュします。 | モデル管理アクセス | Workday で Adaptive Planning を設定します。参照 ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定。 |
| Workday に人員計画をパブリッシュする<br>承認組織による制限なし | 人員計画のバージョンをドラフトとして Workday にパブリッシュします。 | モデル管理アクセス | Workday で Adaptive Planning を設定します。 参照 ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定。 |
| Workday にワークフォース アクション計画をパブリッシュする<br>承認組織による制限なし | ワークフォース アクション計画のバージョンをドラフトとして Workday にパブリッシュします。 | モデル管理アクセス | Workday で Adaptive Planning を設定します。 参照 ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定。 |
| 有効な計画タイプのすべてのパブリッシュ履歴を表示する<br>承認組織による制限なし | 任意のユーザーがパブリッシュしたプランのパブリッシュ履歴を表示します。監査目的で使用します。 | "モデル管理アクセス" および少なくとも 1 つの "パブリッシュ" プラン タイプ権限。 | Workday で Adaptive Planning を設定します。 参照 ステップ: HCM と財務管理に向 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | | | けた Adaptive Planning の設定。 |
| Planning センター | "モデリング" 領域から "プランニング センター" を開き、以下を表示します。<br>• 設定メトリック。<br>• シート メトリック<br>• レポート メトリック。 | "モデル管理アクセス" | |

管理権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| 管理アクセス<br>アクセス ルールまたは組織所有権による制限なし。 | | 追加の "管理" 権限を選択して、ユーザーに "管理" へのアクセス権を付与します。 | |
| ユーザー | ナビゲーション バーから "管理" を開きます。<br>ユーザーとプロファイルを作成、編集、削除します。<br>ユーザーのパスワードと ID を変更します。<br>承認組織をユーザーに割り当てます (条件付き)。<br>ユーザーに権限セットを割り当てます (条件付き)。<br>アクセス ルールを作成します。<br>関連付けを表示、追加、変更します (条件付き) | 管理アクセス<br>(任意) "モデル管理アクセス" > "組織構造" を選択し、ユーザーに組織を割り当てたり、関連付けを管理したりします。<br>(任意) "管理アクセス" > "権限セット" でユーザーに権限セットを割り当てます。 | |
| 権限セット | ナビゲーション バーから "管理" を開きます。<br>権限セットを作成および削除します。<br>権限セットの権限を変更します。<br>ユーザーに権限セットを割り当てたり、ユー | 管理アクセス<br>(任意) "管理アクセス" > "ユーザー" でユーザーに権限セットを割り当てます。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | ザーから権限セットを削除したりできます (条件付き)。 | | |
| グローバル ユーザー グループの管理 | ナビゲーション バーから "管理" を開きます。<br>ユーザー グループを作成、編集、削除します。<br>グループからユーザーを追加および削除します。 | 管理アクセス | |
| 一般設定 | "管理" の "システム" メニューを開きます。<br>インスタンスの "一般設定" を更新します。<br>インスタンス内の機能を有効または無効にします。<br>会社の口ゴなど外観のユーザー設定を変更します。<br>ユーザー プロファイルでのアバターの使用を有効または無効にします。 | 管理アクセス | |

プロセス トラッカーの権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| プロセス トラッカーへのアクセス | ナビゲーション バーからプロセスを開きます。<br>他者および自分に割り当てられたプロセス、未完了のタスクおよび完了済みのタスクを表示します。 | | 購入ワークフロー |
| 自分に割り当てられたタスクの完了 | 独自のタスクを完了または未完了としてマークします。 | プロセス トラッカーへのアクセス | |
| すべてのタスクの完了 | 任意のユーザーのタスクを完了としてマークします。<br>• ユーザーがタスクの割当先ではなく、プロセス ガイドにも表示 | 自分に割り当てられたタスクの完了 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
| --- | --- | --- | --- |
| | されていない場合でも、グループ タスク (任意またはすべて) に完了のマークを付けます。<br>• 完了したグループ タスクを "未完了" とマークし、"任意" または "すべて" オプションで再度開きます。 | | |
| タスクの管理 | プロセス内のタスクを作成、編集し、任意のユーザーに割り当てます。<br>添付ファイルを追加または削除する。 | すべてのタスクの完了 | |
| プロセスの管理 | タスクのプロセスを作成および編集します。 | タスクの管理 | |

インポートおよびエクスポート権限

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
| --- | --- | --- | --- |
| 連結アクセス<br>アクセス ルールによる制限なし<br>組織所有権による制限あり | "ナビゲーション" メニューから "連結" を開きます。<br>承認組織の仕訳入力を作成および送信します。<br>内部取引消去ルールを表示します。<br>承認組織のすべての科目を表示します。 | | インスタンスで連結を購入して有効にします。 |
| 給与詳細へのアクセス | 他の部分では非表示になっている給与データ (シート、レポート、および科目内) を参照してください。<br>"給与の詳細設定" を使用して、モデル シートのデータを開いて入力します。<br>"給与の詳細設定" を使用して、GL およびカスタム科目の分割の値を表示および編集します。<br>モデル シートの給与詳細設定を編集します。 | (任意) シートを表示するには、"シート アクセス権" も必要です。<br>(任意) レポートを表示するには、"レポート アクセス権" も必要です。<br>(任意) 給与詳細設定を編集するには、"モデル管理アクセス" > "モデル シート、科目、属性、数式を含む" が必要です。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| | モデル シートの値ルックアップを編集します。 | | |
| 実績の特権アクセス | シートのバージョン セレクターから実績バージョンを選択します。<br>実績バージョン シートのデータを編集します。 | シート アクセス | |
| トランザクションへのアクセス | インポートされたトランザクション データを表示するには、シート、レポート、およびセル エクスプローラーからドリルします。 | シートを表示するには、"シート アクセス権" も必要です。<br>レポートを表示するには、"レポート アクセス権" も必要です。 | "トランザクション" モジュールを購入 |
| システム監査アクセス<br>アクセス ルールまたは承認組織による制限なし | パターンおよびトランザクション レポートを作成します (条件付き)。<br>変更履歴レポートを作成および実行します (条件付き)。<br>セル メモを検索します (条件付き)。 | "レポート" にアクセスして、パターンおよびトランザクション レポートを作成します。<br>"シート" にアクセスして、変更履歴レポートを実行し、セル メモを検索します。 | アクセス ルールの有効化 |
| オンラインのユーザーを見る | インスタンスに現在ログインしているユーザーの数とそのユーザーが誰であるかを確認します。 | | |
| NetSuite セットアップ | NetSuite の初期設定Adaptive をリンクするための基本接続NetSuite に対する Planning インスタンス"管理" にあるアカウント | | NetSuite Basic の購入 |
| NetSuite にドリルイン インポートされた数値 | からインポートした数値にドリルインNetSuite | シート アクセス | |
| Workday にドリルイン インポートされた数値 | Workday からインポートされた数値にドリルイン。 | シート アクセス | Workday で Adaptive Planning を設定します。 参照 ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定。 |
| 予算を NetSuite にエクスポート | NetSuite 予算モジュールに直接データをエクスポートできます。"エクスポート機能" 権限が必要です。 | エクスポート機能 | NetSuite Basic の購入 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | ユーザーができること | 前提条件の権限 | 一般設定 |
|---|---|---|---|
| 組織の承認<br>組織所有権による制限あり | ナビゲーション バーから "ワークフロー" を開きます。<br>"ワークフロー" 内の組織とシートを承認または却下します。 | | インスタンスの "ワークフロー" を購入して有効にします。 |
| SAML | SAML の管理Single Sign On の設定 | | SAML オプションの購入 |
| インポート機能 | アクセス可能な場所にインポートします。 | | |
| すべての場所へのインポート | 場所や組織アクセスに関係なく、すべてのエリアにインポートします。<br>API インポートまたは通常のインポートを介して、モデルのすべての交差部分のデータを編集します。 | | |
| データの消去 | ロックされた組織を含め、Adaptive Planning 全体で実績または計画データを消去します。<br>"データの消去" は、アクセス ルールと組織所有権の制限をオーバーライドします。データを削除できるのは、データ入力オーバーライドがある算出科目のみです。 | すべての場所にインポート | |
| エクスポート機能 | アクセス可能な場所からエクスポート | | |

アクセス ルール
設定の考慮事項: アクセス ルール

このトピックの内容を、アクセス ルールの設定と使用を計画する際の決定に役立てることができます。以下について説明します。

- 設定する理由
- Workday のその他の部分への適合
- 下流への影響および製品間のインタラクション
- セキュリティ要件およびビジネス プロセスの設定
- 実装前に考慮すべき質問および制限

完全な設定の詳細については、タスクの詳細な手順を参照してください。

概要

アクセス ルールは、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差を定義します。Workday には、現在の組織ベースのセキュリティを模倣するデフォルトのアクセス ルールが用意さ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

れています。これらのデフォルト ルールは、"管理"の " アクセス ルール" ページで表示できます。 要件に基づいて、以下を実行できます。

- デフォルトのアクセス ルールを変更します。
- 追加のアクセス ルールを設定します。

ビジネスにおけるメリット

- ユーザーが関連する分割と詳細を表示することを防止します。科目、組織、およびカスタム属性値も非表示にできるため、ユーザーがそれらを見ることは決してありません。
- ユーザーが部門全体のデータを表示したり、別の部門のデータを編集したりできるようにします。
- 組織構造を正確に反映できるように、組織を解放します。
- シート内の行、列、およびセルへのユーザー アクセスを制御します。
- ユーザー割当シートを削除し、代わりにアクセス ルールを使用することで、オーバーヘッドを削減します。

ユース ケース

- ユーザーがモデルの一部の領域で一部の科目または属性にアクセスできるようにします。その後、他の領域ではそれらを制限するか、非表示にします。
- レポートを作成して多くのユーザーと共有します。レポートでは、各ユーザーが表示できないデータがフィルタリングされます。
- 新しい属性を導入し、限られたユーザー グループが使用できるようにする。例: 新しい製品属性や取得レベルをテストし、実装する前に複数の利害関係者と計画を立てる。

考慮すべき質問

| 質問 | 考慮事項 |
| --- | --- |
| 組織と科目のみ、またはカスタム属性も保護しますか？ | 詳細なルールで複雑なセキュリティを設定したい場合のみ、カスタム属性の保護を検討してください。下流への影響を完全に把握するには、 参考: アクセス ルールとモデルを参照してください。<br><br>いずれの場合も、カスタム属性を保護することによる影響を理解し、以下のガイドラインを使用してスムーズなプランニングを行ってください。<br><br>• シートでは、特定の交差での値は誰が見ても同じです。<br>• レポートやグラフでは、同じ交差でも他の人に表示されるものとは値が異なる場合があります。<br>• シートの合計交差にあるすべての関連データにアクセスできない場合、合計が空白になります。<br>• レポートにアクセス権のない合計セルが表示される場合、部分的な合計が発生します。合計には、アクセスできる要因のみが含まれます。<br>• 交差部分によって保護された属性値へのアクセス権を持っているが、他の部分ではアクセスできない場合、無効な交差が発生す |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 質問 | 考慮事項 |
| --- | --- |
| | る可能性があります。例: 次の交差部分へのアクセス権があるとします。<br>• "エンジニアリング" 組織の経費科目<br>• "営業" 組織の "収益" 科目<br>この場合、"販売" 組織の "費用" 科目は無効な交差です。<br>• 自分にとって無効なレポート、シート ビュー、および数式で交差が作成され、エラーや空白のデータが発生する可能性があります。 無効な交差が発生すると、さまざまなメッセージが表示されます。表示または編集する必要があるデータにアクセスできないと感じた場合は、アクセス ルールについて管理者に問い合わせてください。<br>条件 カスタム属性の保護:<br>• すべてのアクセス ルールには、すべてのカスタム属性の未分類の値が自動的に含まれます。すべてのデータが、すべてのカスタム属性で交差します。カスタム属性を指定しない場合、データは各カスタム属性の "未分類" の値で交差します。<br>• 分割合計を含むすべての合計値が、各カスタム属性の "すべて" 値で交差します。<br>• 保護されたカスタム属性の "すべて" 値にアクセスできない場合、数式と科目の機能、およびシートのデータへのアクセスが制限されます。レポート、トランザクション、グラフ |
| 現在、カスタム属性と属性値はいくつありますか？ | 以下の最大数を確保できます。<br>• 3 つのカスタム属性<br>• 属性ごとに 10,000 の値。<br>保護する追加のカスタム属性および値がある場合は、Workday カスタマー ケアに連絡してユースケースのレビューをリクエストしてください。 |
| ユーザーが実行する必要があるタスクから、どのレベルのアクセスが必要ですか？ | ユーザー グループに割り当てたアクセス ルールにより、グループ メンバーは職務を完了できるようになります。<br>ユーザー グループが組織の職務グループを正確に反映していることを確認してください。たとえば、プラン担当者がサインインしてレポートを実行しているときは、"プラン担当者" ユーザー グループを作成できます。次に、レポートを生成するための権限をプラン担当者グループに付与するアクセス ルールを作成して割り当てます。<br>ありは、ユーザーのさまざまなニーズに基づいて、さまざまな程度の権限をユーザーに割り当てることができます。例: 組織割当標準シートおよびキューブ シート上で、ユーザーに以下を許可します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 質問 | 考慮事項 |
| --- | --- |
| | • 関連する詳細なしでサマリ データのみを表示する場合。組織と科目への "制限表示" アクセス権を付与します。<br>• 分割を表示し、組織と科目への "全表示" アクセス権を付与します。<br>• データを編集する場合 (組織と科目への "編集" アクセス権を付与します) |
| ユーザーのアクセス権を一括管理する方法は？ | ユーザー グループを作成し、共通の目標を持つグループにアクセス ルールを割り当てることができます。<br>例: 部門別にアクセスを制限する場合、営業部門やエンジニアリング部門など、部門別にユーザー グループを作成できます。次に、アクセス ルールを作成してこれらのユーザー グループに割り当て、部門へのアクセスを提供します。<br>アクセス ルールを作成するよりも、ユーザー グループにユーザーを追加する方が簡単です。<br>ユーザーが多くない場合は、アクセス ルールを個々のユーザーに直接割り当てることができます。ただし、管理を容易にするユーザー グループを使用することをお勧めします。 |
| アクセス ルール以外にもデータを保護する方法はありますか？ | アクセス ルールに加えて、以下の補足オプションを考慮してください。<br>• GL 科目にリンクする前に、機密データを含む科目間のリンクを削除し、中間キューブを使用して慎重に扱う必要がある属性を削除する。<br>例: 人事モデル シートには、従業員 ID、勤務地、および職務タイプの属性が含まれます。このシートを GL 科目に直接リンクするのではなく、まず社員 ID 以外同じ属性を含む中間キューブ シートにリンクさせます。 次に、キューブ シートを GL 科目にリンクします。中間キューブを使用して機密性の高い属性を削除すると、ユーザーは以下を実行できなくなります。<br>  • 社員 ID 別に給与費用 GL 科目などのデータを分割する。<br>  • 給与の詳細などの機密データを公開する。<br>• アクセスを制限する権限を使用する。例: ユーザーがモデルの構造を管理できるようにするには、ユーザーに十分な権限を割り当てるだけです。ユーザーにデータの表示または編集アクセス権を付与する必要はありません。<br>• "制限表示" アクセス権を使用して、ユーザーが給与計算情報などの詳細にドリルダウンせずに合計を表示できるようにする。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 質問 | 考慮事項 |
| --- | --- |
| | • 給与の詳細には、総勘定元帳とカスタム科目設定、モデル シートのプロパティ、および共有スナップショット レポートにある給与の詳細設定を使用します。この設定は " 給与詳細にアクセス" 権限で機能します。ステップ: 機密データの保護を参照してください。 |
| 管理者またはモデル作成者がモデルを管理するためにアクセス ルールは必要ですか？ | モデリング 管理権限により、ユーザーは組織、科目、カスタム属性の階層全体を表示できます。モデラーがモデルの構造を管理できるようにするには、この権限だけで十分です。モデル内のデータ変更をテストしてもらいたい場合を除き、データの表示や編集のアクセス権を付与する必要はありません。 |
| Adaptive Planning の計画をヒューマン キャピタル マネジメント (HCM) またはファイナンシャル マネジメントにパブリッシュしますか？ | ユーザーがプラン全体を別のプラットフォームにパブリッシュできるようにするには、モデル内の固定されたすべての属性値への編集アクセス権を与えます。 |
| "インポート機能" および "すべての場所にインポート"権限を持つユーザーまたはグループはありますか？ | これらの権限を持つユーザーがデータまたはメタデータのインポートを検証できるようにするには、少なくとも、モデル内のすべての保護された属性値への "全表示" アクセス権を付与します。そうしないと、シートとレポートにインポートしたデータの一部を見ることができず、インポートが失敗したと判断される可能性があります。 |

推奨事項

- アクセス ルールはできるだけシンプルにしてください。最初は、すべての組織を保護すれば十分です。 階層内の特定の組織に対する表示または編集に対するアクセス権をユーザーに付与します。次に、アカウントを保護します。 このため、モデルへの変更はわずかであると想定できます。
- アクセス ルールをどのように使用するかによって、設定のアプローチが若干異なります。
    - 組織のみを保護する場合:
        - 研修を検討する。
        - プロフェッショナル サービスに連絡する。
        - (任意) サンドボックスでテストする。
    - 科目を保護するには:
        - 研修を完了する。
        - プロフェッショナル サービスへの連絡を検討する。
        - サンドボックスでのテストを検討する。
    - カスタム属性を保護するには:
        - 研修を完了する。
        - プロフェッショナル サービスに連絡する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- すべてのカスタム属性と属性値のルールを維持することは、下流に大きな影響を与える多大な労力になる可能性があるため、以下を考慮してください。
    - 不要になった既存の未使用のカスタム属性および属性値を保護する前に削除する。
    - 保護するカスタム属性を慎重に選択し、ルールがユーザーのモデルにどのような影響を与えるかを理解してください。
    - サンドボックスでアクセス ルールをテストし、レポート、ダッシュボード、シートをチェックする。
- ユーザー グループにルールを割り当てた後は、"管理"の " グローバル ユーザー グループ " ページの " 選択可能な組織" リストを使用してグループを更新しないでください。この方法でグループに追加されたユーザーは、アクセス ルールに自動的に含まれません。
- 成果主義を採用する。カスタム属性を保護する前に、組織および科目のアクセス ルールに複雑性を加えてみてください。
- 組織、科目、カスタム属性へのアクセスを制御するには、特性を使用する方が管理が容易です。動的アクセス ルールの作成を参照してください。

  例: "West Coast Regions" 特性は、モデル内の 100 個の異なる組織をグループ化します。アクセス ルールでは、すべての組織をリストアップするのではなく、これらの組織をグループ化する特性のみをリストできます。特性は、組織を追加または削除する場合にも役立ちます。その変更を反映するためにアクセス ルールを更新する必要はありません。
- 関連付けコードを使用してアクセス ルールを作成します。アクセス ルールの代わりに関連付けを更新すると、ユーザー アクセスを更新することができます。Workday レポートを使用してロールを Adaptive Planning にインポートすると、関連付けを自動的に管理し、それらを使用してロールベースのルールを作成できます。動的アクセス ルールの作成を参照してください。

  例: 組織所有権は、ユーザーを組織に関連付ける事前構築済みの関連付けです。新しい組織へのアクセス権を追加するために、既存のルールを更新する必要はありません。組織所有権を更新することができます。
- 一部のユーザーやグループを除くほとんどの権限を付与するには、"すべて付与 (例外)" ルールを使用します。逆に、より多くの権限をクローズし、いくつかの権限のみを付与するには、"すべて付与 " ルールを使用します。

要件

- アクセス ルールを作成する前に、組織、科目、カスタム属性を含むモデル構造を完成させる必要があります。

制限事項

- インスタンスのアクセス ルールを有効にした後、無効にすることはできません。
- ユーザー割当シートは、アクセス ルールをオーバーライドします。 ユーザー割当シート上のすべてのデータ交差部分への編集アクセス権があります。
- 属性を保護し、アクセス ルールとして使用しているにもかかわらず、すべての属性にアクセスできます。
- モデル シートで、保護されたすべての親属性の組み合わせに対する "全表示" アクセス権がある場合、アクセスが制限されている属性を持つものも含め、すべての分割行を表示できます。
    -
- 以下の設定がアクティブなカスタム属性を保護することはできません。
    - 組織で使用
    - データのインポートにより自動的に属性値を作成する
    - モデル シートまたはキューブ シートに追加された属性値を編集する
- 時間、子会社、バージョン、通貨属性を含むシステム属性は、アクセス ルールの対象にはなりません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- アクセス ルールを使用して連結比率シートを制限することはできません。 ユーザーが連結比率シートを開いて編集できるようにするには、"モデル管理アクセス" > "連結" の 権限を持つ権限セットをユーザーに割り当てます。
- アクセス ルールのみを使用すると、データのセキュリティが完全には保護されません。アクセス ルールとともにこれらのその他のセキュリティ機能を使用することを検討してください。参照 概念: アクセス ルール（1452ページ）。
    - 権限
    - 組織所有権 (以前の組織アクセス)
    - バージョンのアクセス制御
    - 給与の詳細設定
    - シートの設定と制限
- これらの権限は、保護された要素と場合によってはデータを公開することにより、アクセス ルールを回避します。参照 概念: アクセス ルール（1452ページ）。
    - "インポート機能" および "すべての場所にインポート"
    - システム監査アクセス
    - "インテグレーション" > "データ デザイナー" および "インテグレーション" > "インテグレーション開発者" を選択します。
    - リンク組織をリフレッシュします。
    - "連結" にアクセスします。

### テナント設定

新規のお客様の場合、アクセス ルールはすべての Adaptive Planning インスタンスに対して有効になります。既存のお客様は、Workday カスタマー センターでケースを作成して、インスタンスのアクセス ルールを有効化できます。

### セキュリティ

アクセス ルールを作成するには、"管理アクセス" > "ユーザー" 権限が必要です。

### ビジネス プロセス

影響はありません。

### レポート

影響はありません。

### インテグレーション

updateAccessRules API を使用して、スプレッドシート ファイル内の既存のアクセス ルールのセットを更新または置換できます。参照 updateAccessRules（2361ページ）。

### 接続および **Touchpoints**

Workday には、テナントでの設定関係を理解するのに役立つリソースを備えた Touchpoints Kit が用意されています。Workday Touchpoints Kit の詳細については、Workday Community を参照してください。

### その他の影響

アクセス ルールがモデルの各領域にどのように影響するかについては、 を参照してください。 参考: アクセス ルールとモデル（1465ページ）。

relatedlinks
概念
概念: アクセス ルール（1452ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

概念: アクセス ルールのクイック ツアー ( 1456ページ )
概念: 階層およびアクセス ルール ( 1461ページ )
概念: キューブ シート内で実際に使用されているアクセス ルール ( 1459ページ )
ステップ: アクセス ルールの作成 ( 1430ページ )
アクセス ルールへの移行 ( 1448ページ )
参考
参考: アクセス ルール ツールバー ( 1465ページ )

ステップ: アクセス ルールの作成

前提条件

読むべきドキュメント:

- テンプレートは、すべての保護された属性の階層ロジックを使用します。概念: 階層とアクセス ルールを参照してください。
- データへのアクセスは、モデル全体でさまざまなアクセス制御に依存します。ひと通りの手順については、 ステップ: アクセス ルール セキュリティの設定を参照してください。
- ベスト プラクティスについては、 参考: アクセス ルールとモデルを参照してください。
- 従来の組織ベースのセキュリティから移行する場合は、「アクセス ルールへの移行」を参照してください。

完了するアクション:

- 組織、科目、特性、カスタム属性を含むモデルの構造を完成させます。
- ルールを作成するときに、組織、組織の特性、科目、およびカスタム属性階層を表示できるようにします。組織、属性値、特性値のコードが必要です。モデル科目を除くすべての科目に対して科目コードが必要です。モデル科目の場合はシート名が必要です。
- ルールを関連付ける場合は、すべての関連付けを完了させ、ルールを作成する際にコードを表示できるようにしておきます。
- ユーザーとグループを作成します。
- セキュリティ: "ユーザー" 権限

ヒント : 多くのユーザーがいる場合、または頻繁に新しいユーザーを追加する場合、ユーザー グループ用のルールを作成します。次に、各ユーザーをグループに追加して、適切なアクセス権をすぐに付与します。グループごとにルールを更新し、グループ内のすべてのユーザーのアクセス権を更新します。

コンテキスト

アクセス ルールは、モデル内のデータへのアクセスをユーザーに提供します。

アクセス ルールを使用すると、組織、科目、特性、カスタム属性を保護できます。その後、保護された属性を使用して、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差を定義します。

スプレッドシート テンプレートを使用してルールを作成します。既存のすべてのルールをテンプレートと置き換えるか、ルールを更新および追加できます。

注 : アクセス ルールは、モデル内の属性の特定の交差について説明します。ユーザーのルールが特定の交差で互いに競合する場合、アクセスはデフォルトでより寛容なルールになります。

ステップ

1. 必須ではありません。 アクセス ルールの対象となるカスタム属性の作成 ( 1432ページ ) 。カスタム属性を保護する予定である場合は、設定を変更する必要がある場合があります。
2. メイン メニューから "管理" を選択します。
3. "アクセス ルール"をクリックします。
4. アクセス ルールの属性と特性の保護 ( 1433ページ ) .属性と特性を使って、アクセス ルールを定義します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

5. アクセス ルールのエクスポートまたはアクセス ルール テンプレートのダウンロード（1434ページ）.
6. アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加（1435ページ）.テンプレートを完成するか、エクスポートしたルールを変更します。各ルールでさらに許可することで、ユーザーのアクセス権を設定します。承認組織、関連付け、特性タグに基づいて、ルールを作成することもできます。
7. アクセス ルールのインポート（1441ページ）..
8. テーブル上のアクセス ルールを見直します。

新しい組織の追加、階層の再編成、属性値の削除など、モデルに変更を加えた場合のルールを定期的に検証します。

アクセス ルールの削除

1. ツールバーから "エクスポート" を選択します。
2. ファイルを開き、スプレッドシートからルールを削除します。他のルールに変更を加えないでください。
3. スプレッドシートを保存します。
4. アクセス ルール ページに戻ります。
5. ツールバーから "インポート" を選択します。
6. "すべて置換" ラジオ ボタンを選択します。
7. "すべて置換" ボタンを選択して確認します。テンプレートには、削除したくなかったルールがすべて含まれています。
8. 成功メッセージが表示されたら、"完了" を選択します。

無効なアクセス ルールの監査と修正

モデルを更新すると、関連するルールが階層に従って自動的に更新されます。

| モデルに対する変更 | ルールへの影響 |
|---|---|
| 科目、組織、または属性値の作成または親の再設定 | • 親にアクセスできる交差では、新しい子にもアクセスできます。<br>• 親にアクセスできない交差では、新しい子にもアクセスできません。これは、新しい子のすべての兄弟にアクセスできる場合でも同様です。 |
| 科目または組織の削除 | 削除されたアイテムはルールから取り除かれます。それがリストされている唯一のアイテムである場合、ルールが削除されます。また、削除されたルールがユーザーに割り当てられた唯一のルールであった場合も、ユーザーはすべてのデータにアクセスできなくなります。 |
| 属性値の削除 | • "付与" 列にリストされている属性値については、ルールが引き続き有効になります。属性の未分類の値のみを含めるようにルールが更新されます。<br>• "付与の例外" 列にリストされた属性値については、削除されたアイテムがルールから削除されます。それが唯一のアイテムとしてリストされている場合、ルールは削除されます。削除されたルールが自分に割り当てられた唯一のルールである場合は、すべてのデータにもアクセスできなくなります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

無効なアクセス ルールを検索および修正するには、次の操作を行います。

1. "管理" > "アクセス ルール" に移動します。
2. "エクスポート" をクリックします。
3. ファイルを保存し、ルールに変更を加えないでください。
4. アクセス ルール画面から "インポート" をクリックします。
5. エクスポートしたファイルをボックスにドラッグ アンド ドロップします。
6. 無効なルールがある場合、エラーが発生し、エラー レポートへのリンクが表示されます。レポートを使用して、ルール内のエラーを修正し、再度インポートします。

relatedlinks
概念
概念: アクセス ルール（1452ページ）
概念: 階層およびアクセス ルール（1461ページ）
概念: アクセス ルールのクイック ツアー（1456ページ）
概念: 動的アクセス ルール（1457ページ）
タスク
アクセス ルールの対象となるカスタム属性の作成（1432ページ）
アクセス ルールの属性と特性の保護（1433ページ）
アクセス ルールのエクスポートまたはアクセス ルール テンプレートのダウンロード（1434ページ）
アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加（1435ページ）
アクセス ルールのインポート（1441ページ）
例
次のレベル: Adaptive Planning: アクセス ルール

アクセス ルールの対象となるカスタム属性の作成

始める前に

セキュリティ:

- ユーザー 権限
- モデルにシート、科目、属性、数式の権限を含む

このタスクについて

アクセス ルールによって属性を保護しているときに、保護するカスタム属性が表示されない場合があります。このような場合、カスタム属性はアクセス ルールの対象にはなりません。カスタム属性は、以下の理由で対象外となります。

- カスタム属性に 10,000 の値を超えています。
- 3 つのカスタム属性がすでに保護されています。4 つ以上のカスタム属性が必要な場合はお問い合わせください。
- "組織で使用" または "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" 設定がカスタム属性に有効になっています。
- この属性は、ユーザーがシートの属性値を編集することを可能にするシート設定を持つモデル シートまたはキューブ シート上にある場合があります。

設定を変更して対象にすることができます。

手順

1. メイン メニューから "モデリング" を選択します。
2. "属性" をクリックします。
3. 属性のリストから、アクセス ルールに対して保護する属性を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "属性の詳細 " セクションで、以下のチェックボックスをオフにします。
    - 組織で使用
    - データのインポートにより自動的に属性値を作成する。
5. 保存:
6. メイン メニューで "モデリング" の 横にある矢印をクリックし、"モデル概要"を選択します。
7. 属性があるすべてのモデル シートとキューブ シートのリストを作成します。
    a. 各モデル シートのアイコンをダブルクリックします。
    b. テーブルの "列詳細" をチェックして属性を探します。
    c. 各キューブ シートのアイコンをダブルクリックします。
    d. 属性を見つけるには、"属性詳細" を チェックします。
8. メイン メニューで "モデリング" の 横にある矢印をクリックし、"モデル管理"を選択します。
9. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート"をクリックします。
10. 属性のある各シートについて、"編集"をクリックします。
11. モデル シートの場合は "列と組織" を、キューブ シートの場合は "属性、特性、組織"をクリックします。
12. キャンバスで保護する属性を選択します。
13. "一般プロパティ" セクションで "シート上で属性を編集"のチェックボックスをオフにします。

タスクの結果

他のブロッカーがいずれも該当しない場合、属性を保護できます。

次のタスク

アクセス ルールの属性と特性の保護（1433ページ）.

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成（1430ページ）

アクセス ルールの属性と特性の保護

始める前に

- 組織、科目、特性、カスタム属性を含むモデルの構造を完成させます。
- カスタム属性を保護するには、設定の変更が必要になる場合があります。参照 アクセス ルールの対象となるカスタム属性の作成（1432ページ）。
- セキュリティ:ユーザー 権限

このタスクについて

属性を保護すると、アクセス ルールで属性を使用できます。アクセス ルールを使用して、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差部分を定義できます。

組織 (デフォルトで保護) に加えて、以下を保護できます。

- 科目
- 科目特性 (保護された科目がある場合のみ)
- 組織の特性
- 最大 3 つのカスタム属性。
- カスタム属性特性 (関連するカスタム属性も保護されている場合のみ)

保護するカスタム属性が表示されない場合、そのカスタム属性はアクセス ルールの対象にはなりません。カスタム属性は、以下のさまざまな理由で対象外となります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- カスタム属性に 10,000 の値を超えています。
- 3 つのカスタム属性がすでに保護されています。4 つ以上のカスタム属性が必要な場合はお問い合わせください。
- "組織で使用" または "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" 設定がカスタム属性に有効になっています。
- この属性は、ユーザーがシートの属性値を編集することを可能にするシート設定を持つモデル シートまたはキューブ シート上にある場合があります。

属性を削除すると、すべてのユーザーがその属性とその値に完全にアクセスできます。特性を削除すると、組織とカスタム属性へのアクセス権を持つユーザーは、タグによりフィルタリングされたアクセス権がなくなります。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "アクセス ルール" をクリックします。
3. ツールバーで "管理" をクリックします。

   リストには組織、科目、使用可能なカスタム属性が含まれます。特性はタグ付けられた属性の下にネストされます。一部のカスタム属性は、設定が不適格であるため使用できません。参照 アクセス ルールの対象となるカスタム属性の作成（1432ページ）。
4. 項目の横にあるチェックボックスをクリックします。
5. "完了" をクリックします。
6. (任意) 属性を削除するには、以下の手順に従います。
   a. ツールバーで "管理"をクリックします。
   b. チェックボックスをオフにします。特性はタグ付けされた属性にネストされます。
   c. "完了" をクリックします。

タスクの結果

追加した属性と特性は、ページの列として表示され、テンプレートまたはエクスポートにも表示されます。

次のタスク

1. アクセス ルールのエクスポートまたはアクセス ルール テンプレートのダウンロード（1434ページ）.
2. アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加（1435ページ）.
3. アクセス ルールのインポート（1441ページ）.

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成（1430ページ）

アクセス ルールのエクスポートまたはアクセス ルール テンプレートのダウンロード

始める前に

- アクセス ルールの属性と特性の保護（1433ページ）.
- セキュリティ:ユーザー 権限

このタスクについて

アクセス ルールを作成するには、以下のいずれかを使用する必要があります。

- 空白のテンプレート。
- エクスポートされたアクセス ルール。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "アクセス ルール"をクリックします。
3. ツールバーで、以下のいずれかをクリックします。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| インポート | "テンプレートのダウンロード" リンクをクリックして、空白のテンプレートを開きます。<br>手順は最初のタブに表示されます。<br>2 番目のタブはルールを作成する場所です。 |
| エクスポート | 既存のルールをスプレッドシートにダウンロードします。<br>ルールを変更したり、新しいルールを追加したりできます。 |

次のタスク

1. アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加（1435ページ）.
2. アクセス ルールのインポート（1441ページ）.

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成（1430ページ）

アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加

始める前に

- 関連付けを使用するには、関連付けコードが必要です: "管理" > "関連付け" に移動します。コードはテーブルのリストにあります。自分のルールを作成しながら、簡単にアクセスできるように、これらのコードをエクスポートできます。
- 科目を使用するには、次の科目コードが必要です。
  - exportAccounts API を使用してすべての科目コードを取得
  - モデル科目コードにはシート名の使用
  - 科目コードは "モデリング" 領域の科目階層に表示されます。
  - 為替レート科目の場合、"モデリング" > "通貨" に移動して通貨コードと為替レート タイプ コードを検索し、次のパターンを使用して科目コードを作成します。`Assum.Exchangerate.FromCurrencyCode.ToCurrencyCode.RateCode.`
- アクセス ルールのエクスポートまたはアクセス ルール テンプレートのダウンロード（1434ページ）.
- セキュリティ: ユーザー 権限

このタスクについて

ユーザー名またはグループ名のいずれかのルールを作成できます。保護された各属性と特性には、"付与" 列と "付与の例外" 列があります。ルール内の保護された属性や特性ごとに、"付与" 列または "付与の例外" 列にデータを入力します。すべての権限をリストアップするか、すべての例外をリストアップする方がより効率的かどうかを自問してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

| | A | B | C | D | E | F | G |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **Access Rules** | | | **Dimensions** | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | OR | | OR | | OR |
| 4 | **Access Type** | **Username** | **Group Name** | **Level (Grant)** | **Level (Grant All Except)** | **Account (Grant)** | **Account ( All Except** |
| 5 | Edit | storemanager@cavanaugh.com | | Design | | Sales Details | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |

複数の値をリストアップする場合、各値に新しい行を追加します。複数の行によって 1 つのルールを作成できます。

| | A | B | C | D | E | F | G |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **Access Rules** | | | **Dimensions** | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | **Access Type** | **Username** | **Group Name** | **Level (Grant)** | **Level (Grant All Except)** | **Account (Grant)** | **Account ( All Except** |
| 5 | Edit | storemanager@cavanaugh.com | | Design | | Sales Details | |
| 6 | | | | | | General Ledger | |
| 7 | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | |

次のルールでは、最後のリスト属性の下の行に "アクセス タイプ" を入力します。

| | A | B | C | D | E | F |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **Access Rules** | | | **Dimensions** | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | **Access Type** | **Username** | **Group Name** | **Level (Grant)** | **Level (Grant All Except)** | **Account (Grant)** | **Accoun All Exce** |
| 5 | Edit | storemanager@cavanaugh.com | | Design | | Sales Details | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | Next Rule Here | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

重要 : 各ルール間に複数の空白行を追加しないでください。2 つの完全に空白である行よりも後のコンテンツは、インポートされません。

リストされている科目は、同じルールにリストされた組織とカスタム属性値のみでアクセス可能で、その逆も同様です。例: ルールの 1 つは、"販売" 組織の "販売の詳細" 科目グループへのアクセス権を John Doe に割り当てます。もう 1 つのルールは、"G&A" 組織の "経費" 科目グループへのアクセス権を John Doe に割り当てます。この場合 John Doe は、"G&A" 組織の "販売の詳細" 科目や "販売" 組織の "経費" にはアクセスできません。

多くのルールが連携して、ユーザーまたはグループごとにアクセス権を作成します。

例: 次の 2 つのルールの連携により、John Doe にデータ アクセス権が付与されます。

| Access Rules | | | Dimensions | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Access Type | Username | Group Name | Level (Grant) | Level (Grant All Except) | Account (Grant) | Account (Gra All Except) |
| Edit | johndoe@cavanaugh.com | | | FP&A | (+) | |
| | | | | | | |
| Edit | johndoe@cavanaugh.com | | FP&A | | | Salaries |
| | | | | | | Personnel |

これらのルールは、単独ではそれぞれ異なるアクセス権を付与します。

- 最初のルールは、John には FP&A 組織へのアクセス権がないことを示しています。他のすべての組織に対しては、John はすべての科目と製品属性にアクセスできます。
- 2 番目のルールは、John は FP&A 組織にのみアクセスでき、他の組織にはアクセスできないことを示しています。John が編集できない唯一の科目は給与および従業員科目です。

しかし、これらのルールを組み合わせた場合は別の結果が生じます。John は、FP&A 組織の給与および従業員科目を除くすべてを編集できます。

手順

1. エクスポートされたルールがあるテンプレートまたはスプレッドシートを開きます。
2. 次を参考にして、列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス タイプ | 以下を入力します。<br>• 編集<br>• 全表示<br>• 制限表示 |
| ユーザー名 | ユーザーの ユーザー名を入力します。グループに対してルールを作成する場合は、この列を空白のままにします。 |
| グループ名 | ユーザー グループの名前を入力します。単一のユーザーに対してルールを作成する場合は、この列を空白のままにします。 |
| 組織 (付与) | このルールで "組織 (付与の例外)" 列を空白のままにしている場合のみ、この列に入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | 1 行あたり 1 つの組織値を入力します。以下へのアクセス権を付与する場合:<br>• すべての組織の場合 *("+")* または最上位組織のコードを入力します。<br>• 組織およびその子孫の場合、親組織のコードを入力します。これには、先祖は含まれません。<br>• ユーザーまたはグループの承認組織:「*(~)*」と入力します。<br>• 組織関連付けにリストされている組織の場合は、組織関連付けコードをかっこ内に入力します。<br>注 : "(限定)" と示されている組織へのアクセス権を付与するには、親およびすべての子孫へのアクセス権を付与するしかありません。<br>組織の特性によって組織アクセスをフィルタリングするには、組織の特性の列に入力します。列のヘッダーに組織の特性名が表示されます。特性値を使用してルールを作成する前に、組織の特性も保護する必要があります。 |
| 組織 (付与の例外) | "組織 (付与)" 列を空白のままにする場合のみ、この列に入力します。<br>親組織または子組織のコードをリストします。これにより、リストされている組織、その先祖、および子孫へのアクセス権が削除されます。その他のすべての組織へのアクセス権が付与されます。ここにリストアップした組織の子孫へのアクセス権を提供する他のルールを作成できます。<br>この列に関連付けコードや (~) は入力できません。 |
| 科目 (付与) | "科目 (付与の例外)" 列を空白のままにしている場合のみ、この列に入力します。<br>行ごとに 1 つの科目コードを入力します。以下へのアクセス権を付与する場合:<br>• すべての科目の場合、「*(+)*」と入力します。<br>• 科目階層全体:「総勘定元帳科目」、「カスタム」、「メトリック」、「前提条件」、「キューブ」、または 「モデル」と入力します。<br>• グループ内のすべての科目の場合、科目コードを入力します。<br>• キューブ シートまたはモデル シートのすべての科目に、シートの名前を入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • 科目とそのすべての子孫の場合、親科目の科目コードを入力します。これには、先祖は含まれません。<br><br>また、科目特性を通じて科目へのアクセス権を付与することもできます。対応する科目特性列に特性値を入力します。列のヘッダーに科目特性の名前が表示されます。特性値を使用してルールを作成する前に、科目特性も保護する必要があります。 |
| 科目 (付与の例外) | "科目 (付与)" 列を空白のままにしている場合のみ、この列に入力します。<br><br>科目コード、科目グループ コード、階層名、またはキューブとモデル シート名をリストします。これにより、リストされている科目、その先祖、およびその子孫へのアクセス権が削除されます。その他のすべての科目へのアクセス権が付与されます。ここにリストされている子孫に異なる交差でアクセス権を付与する他のルールを作成できます。 |
| カスタム属性 (付与)<br><br>列ヘッダーには、"カスタム属性" の場所に属性の名前が表示されます。 | 対応する "付与の例外" 列を空白のままにする場合にのみ、この列に入力します。<br><br>行ごとに 1 つの属性値コードを入力します。以下にアクセスできます。<br><br>• すべての属性の値に 「*(+)*」と入力します。これには、すべての値、または属性の合計が含まれます。<br>• 標準シート上の組織、科目、分割合計の値には *(+)*と入力します。アクセス ルールとモデルを参照してください。<br>• 特定の属性値の場合は、値コードを入力します。これには、階層的な属性のすべての値、または合計、および親値は含まれません。また、組織、科目、分割の合計も除外されます。<br>• ユーザーまたはグループ内のユーザーに関連付けられた属性値のみに、カスタム属性の関連付けコードをかっこ内に入力します。<br>• ルートの未分類 値のみに「-」を入力します。<br><br>注 : ルールはすべて、カスタム属性のルート未分類値へのアクセス権を自動的に付与します。<br><br>属性特性を通じてカスタム属性値へのアクセス権を付与することもできます。対応する属性特性列に特性値を入力します。列のヘッダーに属性特性の名前が表示されます。特性値を使用してルールを作成する前に、属性特性を保護する必要があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| カスタム属性 (付与の例外)<br>列ヘッダーには、"カスタム属性" の場所に属性の名前が表示されます。 | 対応する (付与) 列を空白のままにする場合のみ、この列に入力します。<br>各行に 1 つの値コードをリストします。これには、すべての値は含まれません。階層属性の場合、親コードをリストアップして、親、その子孫、および先祖へのアクセス権を削除します。この列にルート未分類値はリストできません。ルート未分類値からアクセス権を削除する方法はありません。<br>この列に属性の関連付けを入力することはできません。 |
| 組織の特性 (付与)<br>列ヘッダーでは、"組織特性" の代わりに特性名が表示されます。 | この列に入力するのは、対応する (付与の例外) 列を空白のままにしていて、"組織 (付与)" 列に入力している場合のみです。<br>付与された組織へのアクセスをフィルタリングするには、次のように入力します。<br>• 行ごとに 1 つの特性値特性値でタグ付けされた付与組織へのアクセス権を付与します。<br>• かっこ内の特性関連付けコード。関連付けで特性値とタグ付けされた権限付与組織へのアクセス権を付与します。 |
| 組織の特性 (付与の例外)<br>列ヘッダーでは、"組織特性" の代わりに特性名が表示されます。 | 対応する (付与) 列を空白のままにする場合のみ、この列に入力します。<br>行ごとに 1 つの特性値を入力します。"組織 (付与)" 列にリストされた組織をフィルタリングし、特性値でタグ付けされたすべての組織を削除します。<br>"付与の例外" 列に関連付けコードを入力することはできません。 |
| 科目特性 (付与)<br>列ヘッダーでは、"科目特性" の代わりに特性名が表示されます。 | 対応する "付与の例外" 列を空白のままにする場合にのみ、この列に入力します。<br>各行に 1 つの特性値を入力し、その特性値でタグ付けされたすべての科目へのアクセス権を付与します。科目列に科目がリストされている場合、特性によってアクセスがフィルタリングされます。 |
| 科目特性 (付与の例外)<br>列ヘッダーでは、"科目特性" の代わりに特性名が表示されます。 | 対応する (付与) 列を空白のままにする場合のみ、この列に入力します。<br>各行に 1 つの特性値を入力すると、その特性値でタグ付けされたすべての科目へのアクセス権が削除されます。科目列に科目がリストされている場合、特性によってアクセスがフィルタリングされます。 |
| 属性特性 (付与)<br>列ヘッダーでは、"属性特性" の代わりに特性名が表示されます。 | 対応する "付与の例外" 列を空白のままにする場合にのみ、この列に入力します。<br>以下を入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • 各行に 1 つの特性値を入力し、特性値でタグ付けされた属性値へのアクセス権を付与します。<br>• かっこ内の特性関連付けコード。関連付け内の特性値でタグ付けされた属性値のみへのアクセス権を付与します。 |
| 属性特性 (付与の例外)<br>列ヘッダーでは、"属性特性" の代わりに特性名が表示されます。 | 対応する (付与) 列を空白のままにする場合のみ、この列に入力します。<br>各行に特性値を 1 つ入力すると、その特性値にタグ付けされたすべての属性値へのアクセス権が削除されます。属性列にカスタム属性値が含まれている場合、その特性によってアクセスがフィルタリングされます。<br>この列に関連付けコードを入力することはできません。 |

3. スプレッドシートを保存します。
   テンプレート ファイルの名前を変更できます。拡張子、シート名、または列ヘッダーは変更しないでください。

次のタスク

アクセス ルールのインポート（1441ページ）.

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成（1430ページ）
概念: アクセス ルール（1452ページ）
概念: アクセス ルールのクイック ツアー（1456ページ）
概念: 動的アクセス ルール（1457ページ）

アクセス ルールのインポート

始める前に

- アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加（1435ページ）
- セキュリティ: ユーザー 権限

このタスクについて

ルールをインポートする場合、次のいずれかを実行できます。

- すべて置換。
- 更新と追加。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "アクセス ルール" をクリックします。
3. ツールバーから "インポート" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

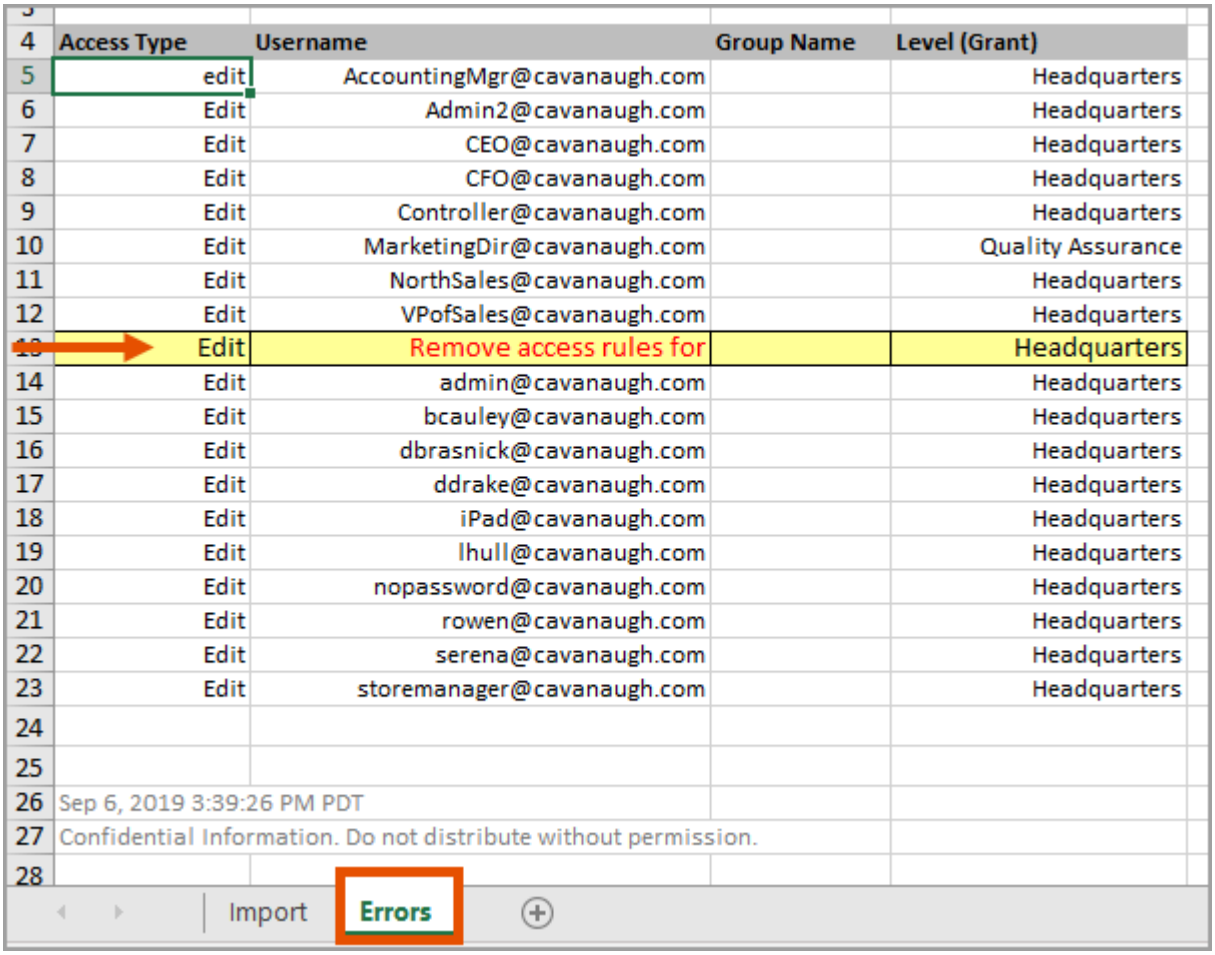
4. 以下のようにします。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| すべて置換 | 既存のすべてのルールを削除し、テンプレート内のルールを追加します。 |
| 更新と追加 | • ユーザーまたはグループの対応するルールを既存のルールに置き換えます。例: "会計士" グループのテンプレートに 1 つのルールを追加します。 "更新と追加" により、"会計士" グループの既存のルールがすべて新しいルールに置き換わります。このグループに追加ルールを追加する場合、既存のルールをエクスポートしてから 1 つのルールを追加します。この場合、インポートには、既存のルールと新しいルールが含まれます。<br>• 新規ユーザーまたはグループのルールを追加します。例: テンプレートには、以前はルールがなかった新規ユーザーまたはグループのルールのみがあるとします。"更新と追加" により、 新しいルールが追加され、既存のルールがすべてそのまま残ります。 |

5. 保存したファイルを四角形にドラッグ アンド ドロップするか、四角形の任意の場所をクリックして保存したファイルを選択します。
6. エラー メッセージが表示された場合は、エラー メッセージの下にある "レポートのダウンロード" リンクをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

7. ファイルを開いて、"エラー" シートを開きます。
   エラーがある行は黄色です。エラー メッセージはセルに赤いテキストで表示されます。



| | Access Type | Username | Group Name | Level (Grant) |
|---|---|---|---|---|
| 5 | edit | AccountingMgr@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 6 | Edit | Admin2@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 7 | Edit | CEO@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 8 | Edit | CFO@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 9 | Edit | Controller@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 10 | Edit | MarketingDir@cavanaugh.com | | Quality Assurance |
| 11 | Edit | NorthSales@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 12 | Edit | VPofSales@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 13 | Edit | Remove access rules for | | Headquarters |
| 14 | Edit | admin@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 15 | Edit | bcauley@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 16 | Edit | dbrasnick@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 17 | Edit | ddrake@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 18 | Edit | iPad@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 19 | Edit | lhull@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 20 | Edit | nopassword@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 21 | Edit | rowen@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 22 | Edit | serena@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 23 | Edit | storemanager@cavanaugh.com | | Headquarters |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | Sep 6, 2019 3:39:26 PM PDT | | | |
| 27 | Confidential Information. Do not distribute without permission. | | | |
| 28 | | | | |

Import | Errors

8. エラーのあるセルをクリックして、メッセージをすべて読みます。
9. "インポート" シートを開き、対応するルールを見つけます。このルールは "エラー" シートでエラーがある行と同じ行にあります。
10. エラーを修正し、ファイルを保存します。
11. もう一度インポートしてみてください。

タスクの結果
画面のルールはテンプレート内のルールと同じように見えます。各属性には 2 つの列があります。1 つは "付与"、もう 1 つは "付与の例外" です。組織列が空白の場合、ルールはどの組織にもアクセス権を付与していないことを意味します。科目またはカスタム属性列が空白の場合、ルールによって すべての 科目とカスタム属性値へのアクセス権が付与されます。

次のタスク

チームと協力して、新しいアクセス ルールがどのように影響するかを確認します。必要に応じてルールを調整します。

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成（1430ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## ユーザーのアクセス権限の計算

ユーザー アクセス カルキュレーターは、アクセス ルールとバージョンのアクセス設定に基づいて、ユーザーのアクセスを把握するうえでのサポートを提供します。

### 前提条件

セキュリティ: "ユーザー"

### ナビゲーション

ナビゲーション メニューで "管理" >"ユーザー アクセス カルキュレーター"に移動します。

### 属性リスト

アクセス ルールによるセキュリティ保護の設定状態を問わず、お使いのモデルの 組織、科目、バージョン、および各カスタム属性のリストが提供されます。

"計算" をクリックする前に、以下が必要となります。

- バージョンを選択して、ユーザーのバージョンのアクセス制御を計算します。バージョンのアクセス制御は、アクセス ルールよりも優先されます。
- 保護された各属性から値を選択します。これにより、アクセス ルールが計算されます
- 保護されていないその他の属性値を選択します。これには、科目と任意のカスタム属性が含まれる場合があります。これによる影響はありませんが、続行するには必要なステップです。

### 座標へのアクセス権限の確認

以下の手順を実行すると、カルキュレーターがユーザーに付与された特定の座標に対するアクセス権限に関する情報を提供します。

1. "ユーザー" ドロップダウン リストでユーザー名を選択します。
2. 各リストからの値をクリックします。
3. "モード" は、"座標指定" をクリックします。
4. "計算" をクリックします。

ユーザーのアクセスが、ポップアップ ウィンドウで説明されます。

### 属性指定へのアクセスの確認

以下の手順を実行すると、カルキュレーターにより、特定の属性に対してユーザーがアクセスできる値の情報が提供されます。ここから特定の座標を取得するうえでの計算のピボットが利用できます。

1. "ユーザー" ドロップダウン リストでユーザー名を選択します。
2. "モード" は、"属性指定" をクリックします。
3. 表示された "属性指定" プロンプトで、計算する属性を選択します。たとえば、いずれかの場所でユーザーがアクセスできるすべての科目を表示する場合は、"科目" を選択します。
4. 各属性リストから値をクリックします。検索するリストから属性を選択しても影響はありませんが、必要なステップです。たとえば、プロンプトで "科目" を選択した場合、"科目リスト" でいくつか科目をクリックする必要があります。検索結果には、引き続きユーザーがアクセスできるすべての科目が表示されます。
5. "計算" をクリックします。

ポップアップ ウィンドウに表が表示されます。"名前" 列には、プロンプトで選択した単一の属性に関して、ユーザーがアクセスできるすべての値のリストが提供されます。たとえば、"科目" を選択すると、"名前" 列の交差部分にユーザーがアクセスできる科目すべてのリストが提供されます。 "アクセス" 列では、科目に対するユーザーのアクセス権限の種類が、リストで選択した他の座標に表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

例: 属性指定計算のピボット

例: お使いのモデルは、組織と科目を保護しています。

| 組織構造 | 科目構造 |
| --- | --- |
| 本社<br>• 営業部門<br>• マーケティング部門<br>• G&A | • 収益<br>• 経費<br>• 在庫 |

組織構造:

たとえば、"ユーザー 1" のアクセス権限を調べるとします。

アクセスできるすべての組織の検索方法

1. "ユーザー" ドロップダウン リストで "ユーザー 1" を選択します。
2. "属性指定" をクリックして、"属性指定" プロンプトで "組織" を選択します。
3. "組織リスト" の任意の組織、"バージョン リスト" の任意のバージョンをクリックします。
4. "科目リスト" で "収益" をクリックします。

結果は以下のとおりです。

| 科目名 | アクセス権限 |
| --- | --- |
| 販売部門 | なし |
| マーケティング | なし |

このユーザーのアクセス権限

- モデル全体で、"営業部門" と "マーケティング部門" の 2 つの組織に対してなんらかのアクセス権限を持っています。
- 収益科目については、いずれの組織に対してもアクセス権限がありません。

営業部門組織の科目へのアクセス権限の検索

この 2 つの組織についてアクセスできる座標を検索することが、次のステップです。以下を実行することができます。

- 科目リストの科目をクリックしていき、各科目について再計算します。
- 検索結果をピボット化します。

ピボット化するには、以下の手順に従います。

1. "属性指定" プロンプトで "科目" を選択します。これは、"ユーザー 1" がアクセスできるすべての組織については把握済みであるためです。
2. "ユーザー 1" が "営業部門" へのアクセス権限があることはすでに分かっているので、科目リストで "営業部門" を選択します。
3. 他のリストの選択はそのままにします
4. "計算" をクリックします。

結果は以下のとおりです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 科目名 | アクセス権限 |
| --- | --- |
| 経費 | 書込み |
| 在庫 | 読取り |

これで、ユーザー 1 の営業部門でのアクセス権限および何らかのアクセス レベルがある科目すべてについて、以下のとおり把握できました。

- モデル全体で、何らかのアクセス レベルがあるのは、"経費" および "在庫" の 2 つの科目に対してのみです。
- "営業部門" の組織で、"経費" のデータ変更、"在庫" のデータ表示ができます。

マーケティング部門組織の科目へのアクセス権限の検索

1. "組織リスト" で "マーケティング部門" をクリックします。
2. その他については、すべてそのままにします。

結果は以下のとおりです。

| 経費 | 書込み |
| --- | --- |
| 在庫 | なし |

これにより、マーケティング部門の組織では、"ユーザー 1" は、1 つの科目、つまり "経費" のみのデータ変更のアクセス権限があることが分かります。

これで、ユーザー 1 のアクセス権限がすべて判明しました。

- "営業部門" および "マーケティング部門" 組織での "経費" のデータ変更
- "営業部門" 組織での "在庫" の表示

アクセス計算の結果

計算結果として、アクセス ルールとバージョンのアクセス制御を組み合わせたアクセス権限の情報が得られます。バージョンのアクセス制御は、バージョン設定で定義されます。バージョンのアクセス制御は、アクセス ルールより優先されます。

| 計算結果 | 意味 | 根拠 |
| --- | --- | --- |
| WRITE | データ、分割、モデル シート行および詳細の追加と変更<br><br>セル メモの追加 | 以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 編集アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: 完全アクセス |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 計算結果 | 意味 | 根拠 |
| --- | --- | --- |
| READ_EXCEPT_NOTES | データ、分割、モデル シート行および詳細の表示<br>メモの追加 | 以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 編集アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: ロック済 (メモを除く)<br>または、以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 全表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: 完全アクセス<br>または、以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 全表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: インポートとメモのみ<br>または、以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 全表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: ロック済 (メモを除く) |
| READ | データ、分割、モデル シート行および詳細の表示<br>メモの追加不可 | 以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 全表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: ロック済または表示<br>または、以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 編集アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: ロック済または表示 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 計算結果 | 意味 | 根拠 |
| --- | --- | --- |
| READ_NOSPLITS_WRITENOTES | 分割、モデル シート行、または詳細の表示不可<br><br>セル メモの追加 | 以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 制限表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: 完全アクセス<br><br>または、以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 制限表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: インポートとメモのみ<br><br>または、以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 制限表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: ロック済 (メモを除く) |
| READ_NOSPLITS | データの表示<br><br>分割、モデル シート行、または詳細の表示不可<br><br>セル メモの追加不可 | 以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 制限表示アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: ロック済または表示 |
| NONE | データの表示または変更不可 | 以下のいずれかが付与されています。<br>• アクセス ルールでは、選択した座標へのアクセスは許可されません<br>• このユーザーの選択したバージョンのアクセス制御は、"非表示" に設定されています |
| IMPORT_AND_NOTES | インポート経由のみのデータ変更<br><br>データ、分割、モデル シート行および詳細の表示<br><br>メモの追加 | 以下の両方が付与されています。<br>• アクセス ルール: 編集アクセス<br>• バージョンのアクセス制御: インポートおよびメモ |

アクセス ルールへの移行

組織ベースのアクセス セキュリティからアクセス ルールへの移行時に何が変わるのかについて学びます。

アクセス ルールは、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差部分を定義します。

アクセス ルールに移行する場合:

- 一部の機能が廃止、変更、制限されています。事前にアクションを実行する必要がある場合があります Workday でアクセス ルールを有効化できます。
- デフォルト ルールが自動的に作成され、現在の組織ベースのセキュリティが模倣されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- アクセス ルールの作成は、2 ステップのプロセスです。最初に属性を保護し、次に保護された属性を使用してルールを作成します。属性を保護しても、ルールを作成するまでアクセスに影響しません。

アクセス ルールを初めて使用する場合は、概念: アクセス ルール インターフェイス ツアーを参照してください。

重要 : 1 回 Workday がインスタンスのアクセス ルールを有効にし、オフにすることはできません。

移行の基本ステップ

1. 廃止、制限、または変更された機能をレビューします。アクセス ルールの準備に必要なアクションを実行します。
2. サポート リクエストを送信します。アクセス ルールをテストするためにサンドボックスをリクエストできます。
3. デフォルトのルールを表示または変更します。
4. (任意) サンドボックスからライブ インスタンスにアクセス ルールを移行します。

廃止、制限、または変更された機能

| | |
|---|---|
| 廃止 | アクセス ルールでは、以下の機能は廃止されました。<br>• Discovery Classic<br>• 共有レポート ダッシュボード<br>• 再分類ルール<br>• 共有レポートの "データの表示" オプション<br>• サンプル レポート<br>• SOAP API<br>該当する場合、リクエストを送信する前に次の手順に従います。<br>• すべての Discovery Classic グラフをダッシュボードに転送します。<br>• "お知らせ" を使用して、共有レポート ダッシュボードを再作成します。"レポート" の個人フォルダですべての個人レポート ダッシュボードを検索します。<br>• すべての再分類ルールを削除します。これにより、ルールに関連付けられているすべてのデータが削除され、実績バージョンの履歴データが変更されることがあります。<br>以下の点に注意してください。<br>• 共有レポートを保存すると、"データの表示" オプションが表示されます。このオプションを使うと、組織所有権に関わりなく、すべてのレポート データがユーザーに表示されます。アクセス ルールを使用すると、このオプションは表示されなくなります。ユーザーは、以前に共有したレポートを実行できない可能性があるか、異なるデータが表示される場合があります。 |
| 制限または変更された機能 | API バージョン<br>以下の API は、API v22 以降でのみ、アクセス |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | ルールの互換性を検証します。<br>• exportAccounts（2161ページ）<br>• exportActiveCurrencies（2174ページ）<br>• exportAttributes（2177ページ）<br>• exportDimensions（2227ページ）<br>• exportLevels（2245ページ）<br>• exportTime（2305ページ）<br>• exportVersions（2330ページ） |
| 権限の変更 | • 以下を実行するには、新しい権限 "システム監査アクセス" が必要です。<br>  • 変更履歴レポートの実行<br>  • パターン レポートの作成<br>  • トランザクション レポートの作成または編集<br>  • セル メモの検索<br>• "モデル管理アクセス" > "配賦ルール" 権限を使用すると、アクセス ルールで許可されていないものも含め、すべての組織およびすべての科目で配賦を管理できます。<br>• "トランザクションへのアクセス" 権限では、シートからデータにドリルインしたときに、トランザクション レポートを編集できなく |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | なりました。トランザクション レポートを編集するには、"システム監査アクセス" 権限が必要で、ナビゲーション メニューからレポートに移動する必要があります。 |
| 設定の変更 | • モデル シートおよびキューブ シートの設定:"シート上で属性を編集" は 保護されたカスタム属性に対して無効になっています。<br>• 属性設定: "組織で使用" と "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" は、保護されたカスタム属性に対して無効になっています。 |
| 組織承認者 | • アクセス ルールがない場合、自分が承認する組織のシートおよびレポート内のデータを表示できます。<br>• アクセス ルールがある場合、承認権はアクセス権を制御しません。組織割当シートを開くために組織を承認する必要はなくなりました。代わりに、アクセス ルールでシートの少なくとも 1 つの組織に対するアクセス権を付与する必要があります。<br>• 組織所有権の管理特権は変更されません。 |

### アクセス ルール作成のユース ケース

アクセス ルールは、モデルと計画方法に大きな影響を与える可能性があります。アクセス ルールの使用方法に応じて、設定タスクが若干異なる場合があります。

| 組織のみの保護 | 科目の保護 | カスタム属性の保護 |
|---|---|---|
| 1. 文書を読む。<br>2. Workday カスタマー センターでサポート ケースを作成する。<br>3. 研修を検討する。<br>4. (任意) プロフェッショナル サービスに連絡する。 | 1. 文書を読む。<br>2. Workday カスタマー センターでサポート ケースを作成する。<br>3. 研修を完了する。 | 1. 文書を読む。<br>2. Workday カスタマー センターでサポート ケースを作成する。<br>3. 研修を完了する。<br>4. プロフェッショナル サービスに連絡する。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 組織のみの保護 | 科目の保護 | カスタム属性の保護 |
| --- | --- | --- |
| 5. (任意) サンドボックスでテストする。 | 4. プロフェッショナル サービスへの連絡を検討する。<br>5. サンドボックスでのテストを検討する。 | 5. プロフェッショナル サービスに相談する。 |

デフォルト アクセス ルールの表示および変更

アクセス ルールを有効にすると同時に、 Adaptive Planning 組織を保護し、ルールを作成します。ルールは、各ユーザーに対する組織所有権のアクセス権を模倣します。ユーザー エクスペリエンスを同じ状態に保つために、新しいルールにより、承認組織に "編集" アクセス権が割り当てられます。

ルールを見直して変更できます。

デフォルト アクセス ルールの表示

1. ナビゲーション メニューで "管理" を選択します。
2. "アクセス ルール" を選択します。

テーブルには、各ユーザーの組織ベースのデフォルト ルールが表示されます。

例: "販売担当 VP" は、"販売" 組織を承認済み。デフォルトのルールは、"販売" 組織およびすべての "販売" の子組織への "編集" アクセス権です。子組織はリストアップされていませんが、常に含まれています。さらにルールを定義するまでは、"販売担当 VP" は、すべての科目とすべての属性への "編集" アクセス権を保持します。

"管理" ルールを参照すると、"管理" には最上位組織である本社への "編集" アクセス権があるため、モデル全体への "編集" アクセス権があることがわかります。

デフォルト アクセス ルールの変更

1. テーブルに追加することによってより多くの属性を保護します。属性を追加すると、テーブルの列として表示されます。
2. ルールをエクスポートして更新します。アクセス ルールの作成を参照してください。
3. 機能が変更されたため、各ユーザーが承認する組織を再考することを検討してください。

relatedlinks
例
次のレベル: Adaptive Planning: アクセス ルール

概念: アクセス ルール

アクセス ルールは、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差を定義します。組織、科目、カスタム属性の保護と、ルールへの特性の追加を行うことができます。その後、保護された属性と組織の特性を使用して、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差部分を定義します。

アクセス ルールを使用して、データの各交差部分へのアクセスを制御します。

例: "東部販売" 組織で "収益" 科目の交差部分を表示できます。"西部販売" 組織で "収益" 科目の交差部分を編集できます。"北部販売" 組織では "収益" 科目の交差部分を表示できません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

相互に構築される複数のアクセス ルールを使用してアクセス権を作成します。

### アクセス ルールのユース ケース

- 機密情報の保護: ユーザーが関連する分割と詳細を表示することを防止します。科目、組織、およびカスタム属性値も非表示にできるため、ユーザーがそれらを見ることは決してありません。
- 柔軟性の提供: ユーザーが部門全体を表示し、別の部門を編集できるようにします。
- 条件付きアクセスの作成: ユーザーがモデルの一部の領域で一部の科目または属性にアクセスできるようにします。その後、他の領域ではそれらを制限するか、非表示にします。
- 組織の解放: アクセス ルールを使用する場合、組織を使用してデータ アクセスを制限する必要がなくなります。組織は組織構造を正確に反映できます。
- データ入力の簡素化: アクセス ルールによってシートがフィルタリングされます。ユーザーには、表示させたい行、列、およびセルのみが表示されます。
- レポート作成の簡素化: 1 つのレポートを作成し、多くのユーザーと共有します。レポートでは、各ユーザーが表示できないデータが除外されます。

### 組織ベースのアクセスによる従来のセキュリティ

組織所有権を使用する従来のセキュリティ構造がインスタンスでまだ使われている可能性があります。 カスタマー サポートをリクエストすることで、アクセス ルールに切り替えることができます。リクエストを作成する前に、 アクセス ルールへの移行を確認してください。

### アクセス ルールに適用可能な属性

組織 (必須)、科目、および最大 3 つのカスタム属性を保護できます。特性はいくつでも使用できます。特性は、関連する属性と同じルールでリストに記載する必要があります。

カスタム属性は以下のようにする必要があります。

- それぞれ 10,000 未満の値があること。
- "組織で使用" 設定がアクティブになっていないこと。参照 概念: 組織の属性と特性 ( 1014ページ )。
- "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" 設定がアクティブになっていないこと。
- "属性値の編集" 設定がアクティブになっているモデル シートまたはキューブ シート上にないこと。参照 概念: シートの作成 ( 1027ページ )。

システム属性は対象外です。これには時間、子会社、通貨の属性が含まれます。

### アクセス ルールの定義内容

アクセス ルールは、以下を介したデータへのアクセスを定義します。

- ルールの割り当て先のユーザーまたはグループ
- 保護された属性の交差部分これは承認組織と同じくらい簡潔な場合があります
- アクセス レベル: 制限表示、全表示、または編集

### アクセスのレベル

- なし: 割り当てられたルールがないか、少なくとも 1 つの組織へのアクセス権を付与するルールがありません。
- 制限表示: モデル シート内の分割、トランザクション、行など、データのサポート詳細を表示できません。
- 全表示: データおよびサポートされているすべての詳細を表示できます。
- 編集: データを編集できます。

ルールが重複するとき、ほとんどの場合、アクセスは最も寛容なルールに従います。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### 動的アクセス ルール

動的アクセス ルールでは、主要機能を活用することでアクセス ルールを簡単に作成できます。動的アクセス ルールは、モデルに加えられた変更に基づいてユーザーのアクセスを更新するので、モデルを更新するたびにルールを更新する必要はありません。

以下を使用して動的アクセス ルールを作成できます。

- ユーザーの関連付け (承認組織を含む)
- 組織、科目、カスタム属性の特性

動的アクセス ルールの作成を参照してください。

### アクセス ルールの例外

アクセス ルールは以下に適用されます。

- シート
- グラフ
- レポート
- Excel Interface for Planning
- OfficeConnect
- ほとんどの API

アクセス ルールは以下には適用されません。

- モデリング
- 管理
- 共有数式
- 連結

これらの権限は、保護された要素のほか、場合によってはデータを公開することで、アクセス ルールを回避します。

| 権限 | データ編集の許可 | データの公開 | 保護された属性の公開 |
|---|---|---|---|
| "インポート機能" > "すべての場所へのインポート" | モデルの任意の領域にインポートすることにより、すべてのデータを編集できます。<br><br>"すべての場所へのインポート" がない "インポート機能" 権限により、アクセス可能な場所にインポートできます。 | いいえ | インテグレーションのマッピング エリア内のすべての科目、組織、カスタム属性 |
| 連結アクセス | 仕訳入力を使用して、承認する組織のすべての科目のデータを更新できます。<br><br>承認する組織のすべての科目に対する内部取引消去を確認できます。 | すべての承認組織の相殺消去マッチング ビューアー内 | 以下のすべての科目と承認組織:<br>• "連結" > "仕訳入力"<br>• "連結" > "内部取引消去" |
| システム監査アクセス | いいえ | トランザクション レポート、変更履歴レポート、セル メモの検索内 | トランザクションおよびパターン レポートのレポート ビルダーのすべての科目、組織、カスタム属性。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 権限 | データ編集の許可 | データの公開 | 保護された属性の公開 |
| --- | --- | --- | --- |
| "インテグレーション" > "データ デザイナー" および "インテグレーション" > "インテグレーション開発者" | API を介してデータを編集できます。 | ステージング テーブル内 | ステージング テーブル内のすべての科目、組織、カスタム属性 |
| すべての "管理者" 権限 | なし | なし | "管理" 内のすべての科目、組織、カスタム属性 |
| すべての "モデル" 権限 | なし | なし | "モデリング" のすべての科目、組織、カスタム属性 |
| Predictive Forecaster | はい。予測にデータが入力されます。 | 信頼度メトリック | "組織構造の追加" > "承認組織" で組織をすべての承認組織に制限<br>はい。すべての科目、組織、カスタム属性は予測定義で公開されます。 |
| リンク組織のリフレッシュ | データ同期を使用して可能 | いいえ | いいえ |

以下の状況では、データまたは保護された属性が公開されます。

- 組織の特性が保護されていてアクセス ルールとして使用されていても、すべての組織の特性にアクセスできます。
- ユーザー割当シート上のすべてのデータ交差部分への編集アクセス権があります。
- "データのプライバシー" 科目設定をアクティブ化すると、その科目にアクセスできるユーザーは誰でも、あらゆる組織の数式でその科目を使用できます。
- モデル シートの親行内のすべての保護された属性の組み合わせに対する "全表示" アクセス権が少なくともある場合、すべての分割行も表示できます。通常はアクセスできない属性が分割行にある場合も、このことが当てはまります。
- "すべての場所へのインポート" 権限が必要な API を使用すると、すべての場所でデータを編集できます。"モデル管理アクセス" 権限が必要な API を使用すると、保護されたすべての属性を表示できます。これらの権限がある場合 API を実行できますが、結果の表示を許可するアクセス ルールがないと、シートとレポートに結果を表示できません。

### アクセス ルールおよびその他のセキュリティ

アクセス ルールは、権限、組織の承認権、バージョン アクセス制御、給与詳細設定、その他のシート設定を処理することにより、データを保護します。

- 権限: アクセスには、権限とアクセス ルールが必要です。例: "編集" アクセス権を持っていても、"シートを編集" 権限がなければシート上のデータを編集できません。編集ルールがないと、権限を持っていてもシートを編集できません。
- 組織の承認権 (以前の組織アクセス): 組織の承認権はアクセス ルールとして使用すると組織へのアクセスのみを制御します。例: ルールとして承認組織を使用しない場合、承認しない組織にはアクセスできますが、承認している組織へのアクセス権はありません。
- バージョン アクセス制御: アクセス ルールとバージョン アクセス制御は互いに制限できます。例: データの表示または編集アクセス権がある場合でも、非表示バージョンを表示したり、ロックしたバージョンを編集したりすることはできません。一方、バージョン アクセス制御によってデータのインポートが許可されている場合でも、編集アクセス権が必要です。
- 給与詳細の設定: アクティブな給与詳細での科目、レポート、シートの設定には、"給与詳細へのアクセス" 権限とデータの表示または編集アクセス権の両方が必要です。データ アクセス権はあっても権限がない場合、給与の詳細を表示できません。権限はあってもアクセス権がない場合、給与の詳細を表示できません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- シート設定とシートの制限。編集アクセス権がある場合でも、科目はこのシートでは読み取り専用です。キューブの制限は、アクセス ルールによって必ずしもブロックされない交差部分へのアクセスをブロックします。

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成（1430ページ）
タスク
アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加（1435ページ）

概念: アクセス ルールのクイック ツアー

アクセス ルールは、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差部分を定義します。 アクセス ルールは、"管理" 領域の "アクセス ルール" ページのテーブルに表示されます。

アクセス ルールの列

以下の列があります。

- "タイプ" と "名前": ルールの対象は、ユーザー名が表示される場合は 1 人のユーザー、グループ名が表示される場合はグループとなります。
- "アクセス": 各ルールで付与されるアクセス権のレベルは、"編集"、"全表示"、または "制限表示" です。
- "組織 (付与)": ルールで許可された組織には、リストアップされていないすべての子組織が含まれます。組織は常にアクセス ルールで保護されています。
- "組織 (付与の例外)": ルールから除外される組織です。組織は、"組織 (付与)" 列またはこの列のいずれかに表示され、両方に表示されることはありません。
- 残りの列は、使用しているインスタンスと保護された属性および特性に特有のものです。属性または特性ごとに、"付与" 列と "付与の例外" 列の両方があります。

列では、次の操作ができます。

- 空白列の非表示: ツールバーの "管理" をクリックし、"値がない列を表示しない" をクリックして、ビューをクリーンアップできます。
- アクセス ルールからの科目、属性、または特性の削除: アクセス ルールから科目、属性、または特性を削除すると、すべてのユーザーに完全なアクセス権が付与されます。ツールバーの "管理" をクリックして、属性、科目、または特性の横にあるチェックボックスをオフにすることができます。または、列ヘッダーにマウスを合わせます。3 点ドットをクリックし、"削除" を選択します。
- 並べ替え: "タイプ"、"名前"、"アクセス" 列のヘッダー付近をクリックします。表示される矢印をクリックすると、昇順と降順を切り替えることができます。
- 幅の調整: 列ヘッダーにマウスを合わせます。その後、表示された縦線をドラッグします。

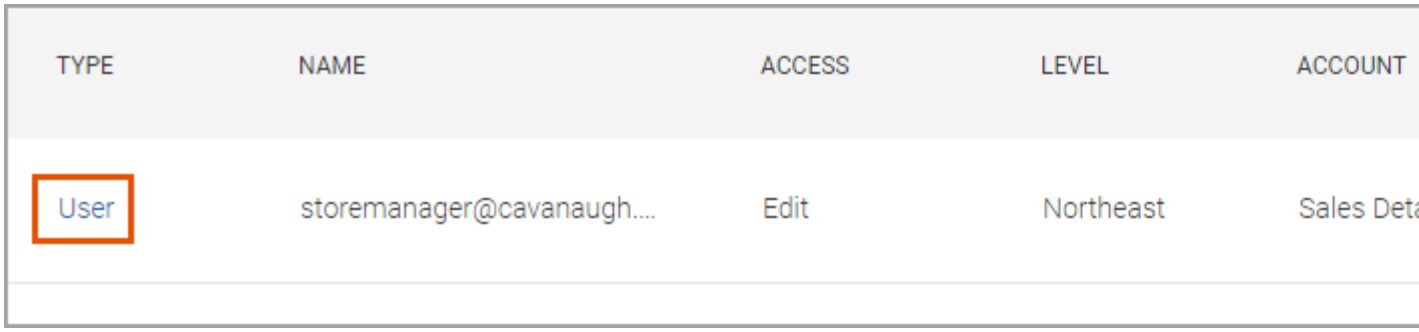
アクセス ルールの行

- このエリアは、アクセス ルール テーブルとも呼ばれます。
- 各行はルールです。
- ほとんどユーザーまたはグループが、適切なアクセスを作成するために多くのルールを所有しています。"名前" 列で並べ替えるか、ツールバーの検索を使用して、グループまたはユーザーに割り当てられているすべてのルールを表示します。
- ルールに組織が表示されていない場合、ユーザーまたはグループはシート、レポート、またはグラフのデータにアクセスできません。
- [承認組織] と表示されている場合は、そのグループまたはユーザーのすべての承認組織へのアクセスがルールによって許可されています。
- 科目またはカスタム属性値がルールに表示されていない場合、ユーザーはすべての科目またはカスタム属性値にアクセスできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ルール詳細の表示

すべての属性または特性がテーブルに収まらない場合、リストの最後に省略記号が表示されます。




ルールをすべて表示するには、"タイプ " 列で " ユーザー" または "グループ" リンクを選択してルールの詳細を開きます。ルール詳細には完全なリストが表示されます。

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成 ( 1430ページ )
タスク
アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加 ( 1435ページ )

概念: 動的アクセス ルール

動的アクセス ルールは、モデルに加えられた変更に基づいてユーザーのアクセスを更新するので、モデルを更新するたびにルールを更新する必要はありません。アクセス ルールを動的にするには、次を使用します。

- かっこ内のチルダを使った承認組織
- 付与された組織をフィルタリングする組織特性
- 科目特性: 特性値でタグ付けされた科目へのアクセス権を付与します。
- 属性特性: 特性値でタグ付けされた任意の属性値へのアクセス権を付与します。
- かっこ内の関連付けコードを使った関連付け組織の特性の関連付けの場合、関連付けによって付与された組織がフィルタリングされます。属性特性の関連付けの場合、関連付けは、関連付けの値でタグ付けされた属性値を付与します。

例: 全承認組織にアクセスを付与します。それから、同じルールの特性 "付与" 列に、組織特性の値を入力します。これにより、承認済みかつ値がタグ付けされている組織へのアクセスが制限されます。 組織への特性タグの削除や追加によりアクセス ルールを更新する必要なく、組織へのアクセスを更新できます。

アクセス ルールでの関連付けは、ユーザーまたはグループを一連の組織、科目、およびカスタム属性にマッピングします。アクセスを変更するには、ルールに影響を与えることなく関連付けを更新できます。

例: 特性を持つアクセス ルール

特性タグが付いた組織階層:

- USA
  - ニューヨーク (タグ: East)
  - カリフォルニア (タグ: West)
- カナダ
  - アルバータ (タグ: West)
  - ニューファンドランド (タグ: East)

アクセス ルール:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| アクセス タイプ | ユーザー名 | 組織 (付与) | 組織 (付与の例外) | 組織の特性 (付与) | 組織の特性 (付与の例外) |
|---|---|---|---|---|---|
| Edit | Jsmith | US<br>Canada | | west | |

結果:JSmith は アルバータ と カリフォルニア 組織のデータを変更できます。JSmith は、アメリカ合衆国とカナダの両方のデータについて、その表示も変更もできません。

モデルを変更します。 米国の下に オレゴン という新しい組織を追加し、*West* 特性でタグ付けします。

新しい結果:JSmith は 自動的に オレゴンへのアクセスを得ます。同様に、アルバータから West タグを削除します。JSmith はアルバータへアクセスできなくなりました。

例: アクセス ルールの関連付け

"Jsmith" と "Janedoe" は、"ニューヨーク" ユーザー グループの一部です。

カスタム属性ツリーは次のようになります。

- Tシャツ
- セーター
- パンツ
    - ジーンズ
    - レギンス

関連付け:

| コード | 属性 | 関連付け名 | 属性値 | ユーザー |
|---|---|---|---|---|
| A-PROD | Product | Product Associations | Pants<br><br>Sweaters<br>Jeans<br>Leggings | Jsmith<br><br><br>JaneDoe |

アクセス ルール:

| アクセス タイプ | ユーザー グループ | 組織 (付与) | 組織 (付与の例外) | 製品 (付与) | 製品 (付与の例外) |
|---|---|---|---|---|---|
| Edit | New York | (~) | | (A-PROD) | |

結果:

- "Jsmith" は親の値 "パンツ" に関連付けられているため、すべての承認組織で "ジーンズ"、"レギンス"、"セーター" の交差部分のデータを編集できます。パンツに はすべての子孫が含まれます。
- "Janedoe" は "ジーンズ" と "レギンス" のみに関連付けられているため、すべての承認組織でそれらの製品を編集できます。

関連付けの変更:Janedoe を セーターの 関連付けに追加します。

新しい結果: ルールの (A-PROD) により、JaneDoe に "セーター"へのアクセス権が自動的に付与されます。

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成 ( 1430ページ )
タスク
アクセス ルール スプレッドシートへのルールの追加 ( 1435ページ )

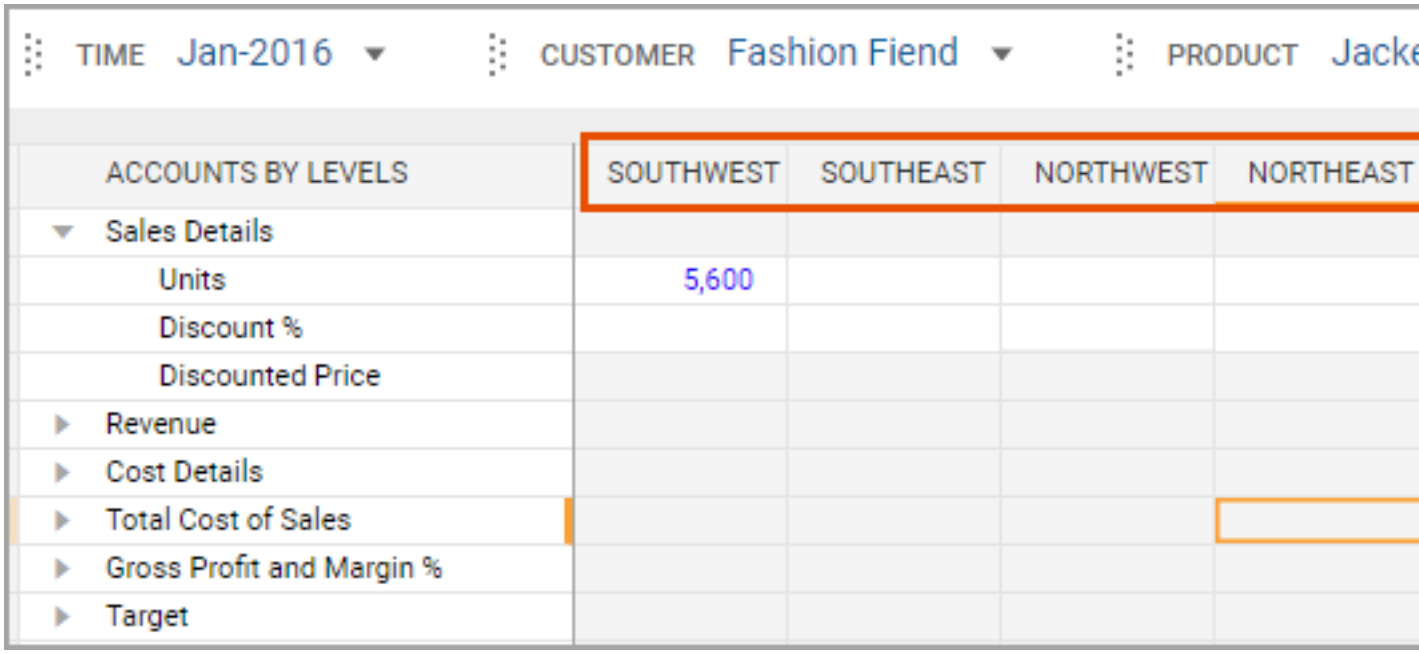
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

概念: キューブ シート内で実際に使用されているアクセス ルール

営業部門 VP、北部地域マネージャ、店舗マネージャは、"収益" キューブ シートのデータの追加およびレビューを行います。それぞれがデータの異なる交差部分にアクセスできます。"収益" シートの外観はユーザーごとに異なります。

営業部門 **VP**

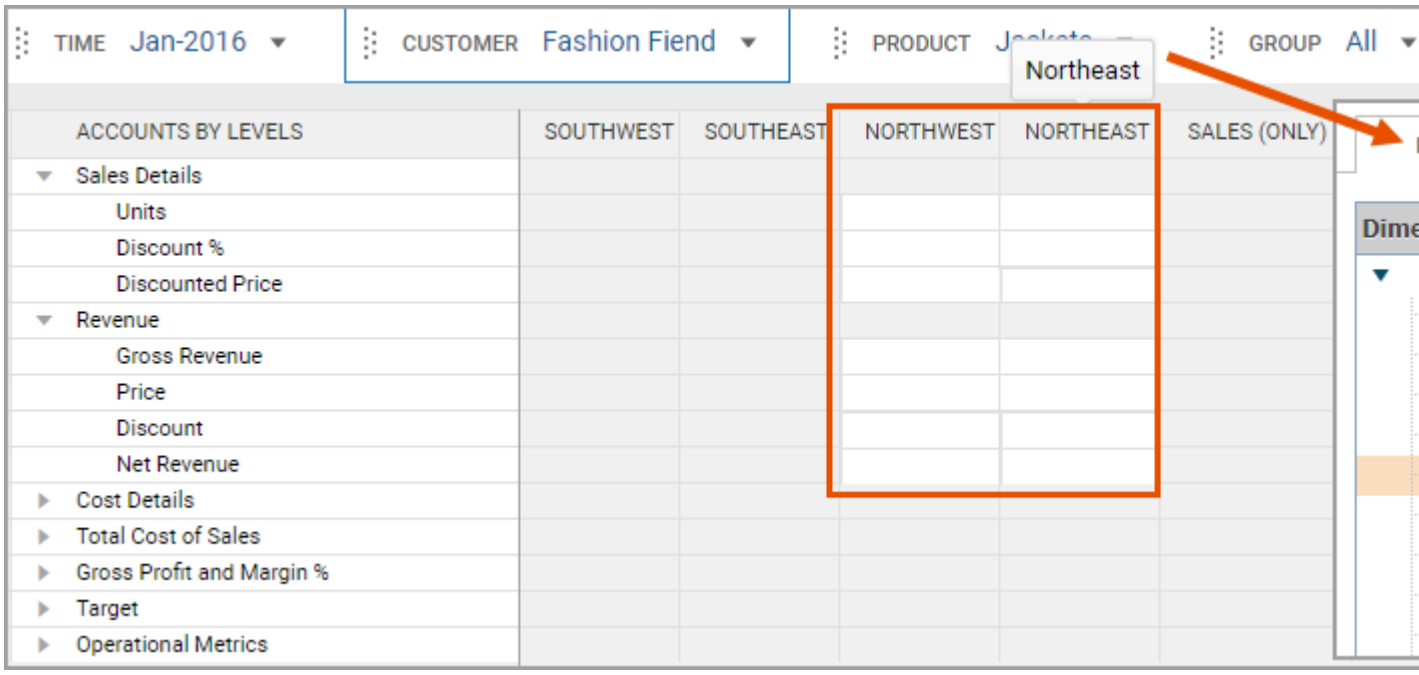
営業部門 VP は、すべての科目、顧客、および製品を "営業" 組織でのみ編集できます。列に表示される唯一の組織は "販売 " 組織です。




北部地域マネージャ

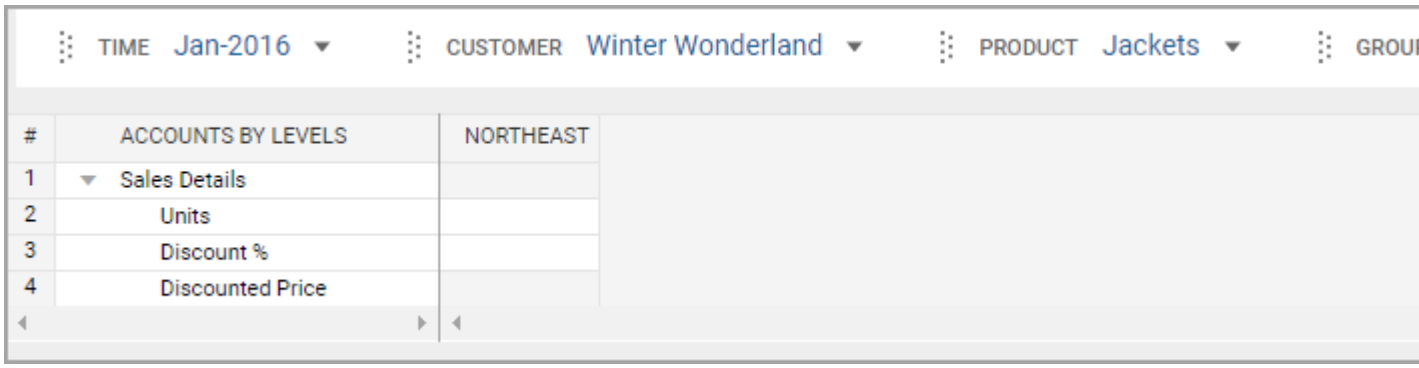
北部地域マネージャは "営業" 組織のすべての科目、顧客、製品を表示できます。北部地域マネージャは、"北東" および "北西" 組織のデータのみを編集できます。すべての "営業" 組織が列に表示されますが、編集できるのは "北西" と "北東" 組織のみです。製品ドロップダウンの挿入には、すべての製品が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



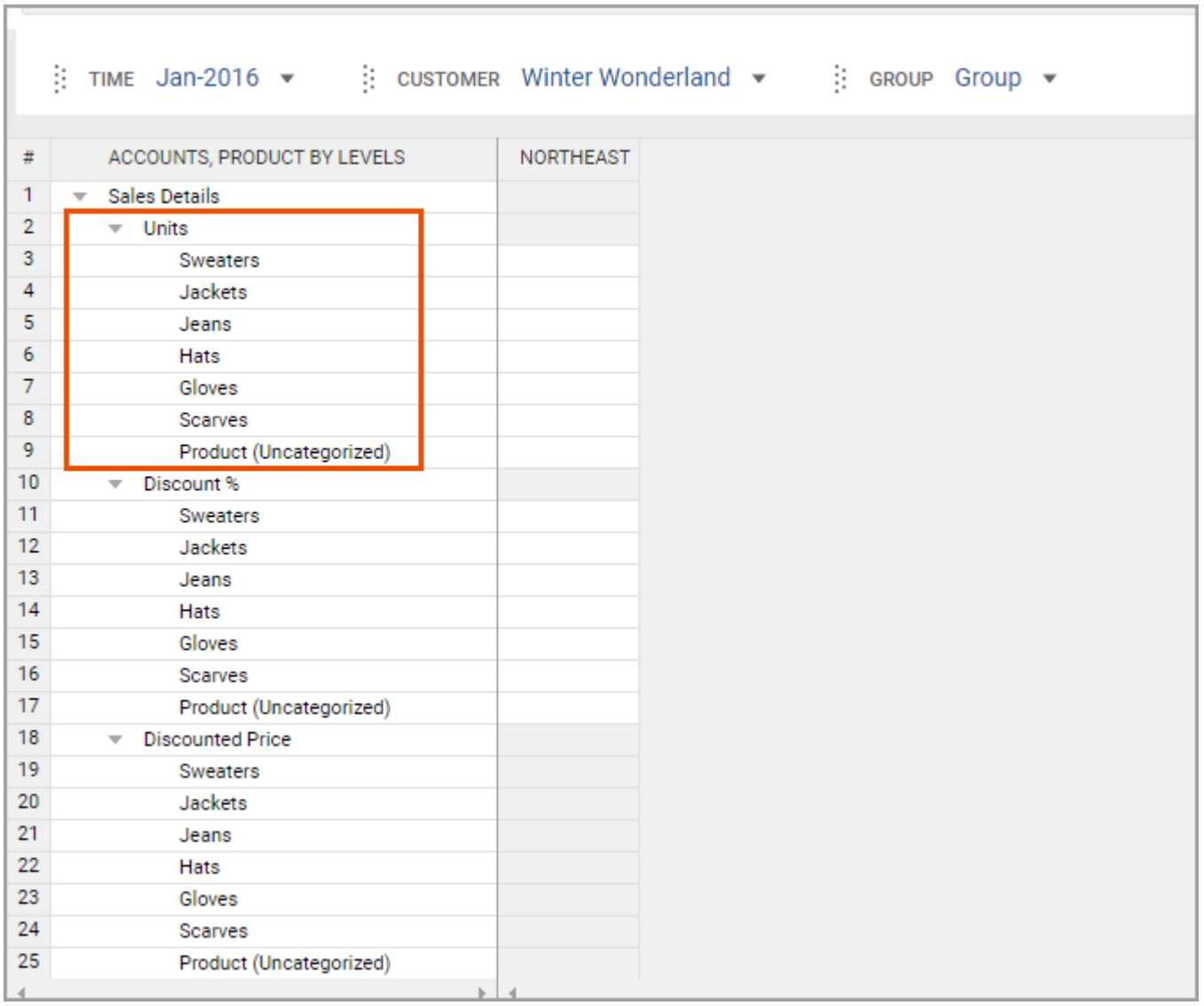

ストア マネージャ

店舗マネージャは、北東地域でスキーウェアの店舗を運営しています。マネージャは、 単位科目 および 割引 科目の 北東 組織のみを表示および編集できます。




店舗マネージャは、店舗で販売されている製品のみを表示できます。科目の下の行でネストされた製品属性には、店舗で販売されている製品のみが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




概念: 階層およびアクセス ルール

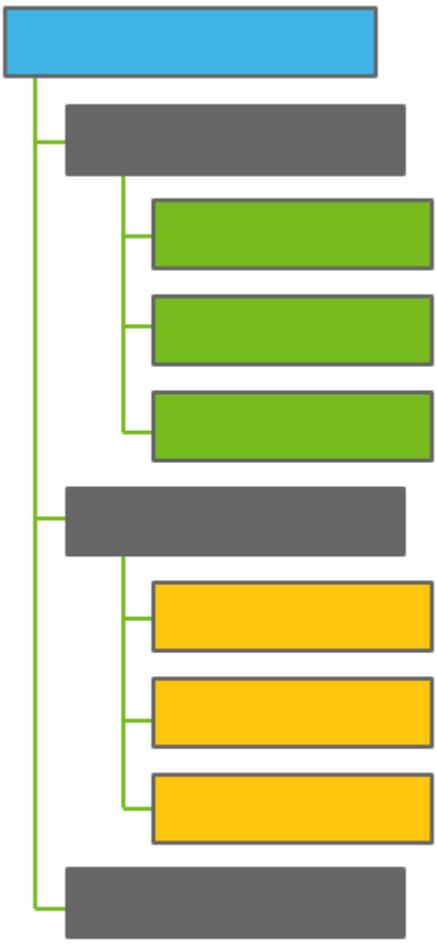
アクセス ルールは、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差部分を定義します。

アクセス ルールは、階層ロジックを使用してアクセスの交差を定義します。保護する組織、科目、属性の階層を理解する必要があります。階層は、作成したアクセス ルールに影響します。

階層用語

| 色スキーム階層 | 一般階層用語 |
| --- | --- |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved



青

- 灰色の親です。
- 灰色、緑色、黄色の先祖です。

灰色

- 青色の子、または子孫です。
- その他の灰色の兄弟です。
- 緑色または黄色の親または先祖です。

緑色と黄色

- 緑色は最初の灰色の子または子孫です。
- 黄色は 2 番目の灰色の子または子孫です。
- 同色のその他の兄弟です。
- 青色の子孫です。

最下位組織

黄色、緑色、および最後の灰色には、子がないため、階層内の最下位組織です。

科目階層の詳細

総勘定元帳、カスタム、メトリック、および前提条件の科目には個別の科目階層があります。また、各キューブとモデル シートには、独自の科目階層があります。科目の場合、青色は科目のタイプか、キューブまたはモデル シートの名前です。

灰色の科目に子がある場合、科目は科目グループまたは科目の合計のいずれかです。科目グループは合計を保持していません。科目の合計により、子孫科目の合計が保持されます。科目に子孫がない場合、科目は最下位組織科目です。

組織階層の詳細

各モデルには、組織構造とも呼ばれるひとつの組織階層があります。一部のインスタンスには、代替組織階層を作成するための組織属性 (組織設定を持つカスタム属性) が使用されます。組織の属性を保護できないため、組織へのアクセス権を付与する唯一の方法は、メインの組織階層を通じて行う方法です。

青色は常に最上位組織で、管理者によって任意の名前が付けられます。すべての親組織には、(限定) 組織があります。これは親組織にロールアップされま

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

す。最後の灰色は、最上位組織 (限定) です。最後の緑色と最後の黄色は、それぞれの灰色の親に対する (限定) 組織です。

### カスタム属性階層の詳細

階層属性とリスト属性があります。階層属性には、他の値に合計される値があります。リストには値の 1 つの組織があります。

| リスト属性例<br>製品 (すべて) | 階層属性例<br>製品 (すべて) |
|---|---|
| • Tシャツ<br>• セーター<br>• ジャケット<br>• 未分類製品 | • Tシャツ (すべて)<br>  • グラフィックTシャツ<br>  • ソリッドTシャツ<br>  • 未分類Tシャツ<br>• セーター<br>• ジャケット<br>• 未分類製品 |

青色は属性の名前、属性の合計、または "すべて" 値です。灰色は属性値です。リストと階層的な属性の両方に対して、最後の灰色はルート未分類値です。 ルート未分類値は、属性値を明示的にタグ付けされていないデータ ポイントにタグ付けします。例では、"製品未分類" がルートです。

リスト属性には灰色のみがあります。例のTシャツのような階層的なカスタム属性の場合、子孫を持つすべての値には未分類値と "すべて" 値があります。

### 階層およびアクセス ルール

アクセスのための一般階層ルール:

- 親へのアクセスには、すべての子孫が含まれます。親へのアクセスを許可すると、その他のルールを使用して子孫へのアクセスを削除できなくなります。
- 子へのアクセスに先祖に含まれません。そのため、子科目と組織へのアクセスのみを許可することで、ユーザーが合計を閲覧することを制限できます。
- すべてのルールには、保護された属性のルートの未分類値へのアクセスが含まれます。
- (限定) 組織にアクセスする唯一の方法は、親へのアクセス権を付与することです。

これらのテーブルは、組織に関する以下の例の階層を使用して、テンプレート内の各ルールまたは一連のルールの結果を示します。

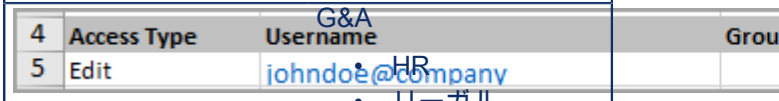
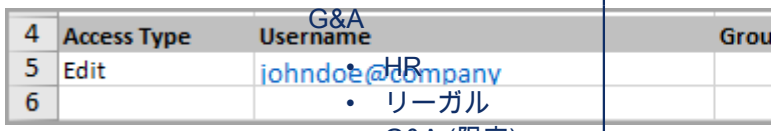
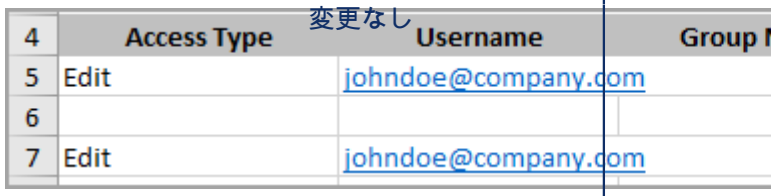
本社

- G&A
  - 人事
  - リーガル

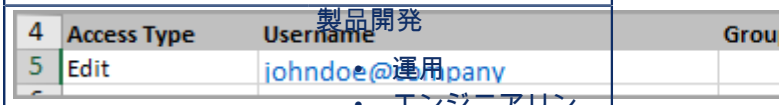
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 製品開発
    - Operations
    - エンジニアリング

"付与" 列を使用する場合:

| 付与された組織を持つルール | ユーザーの結果の組織階層 |
| --- | --- |
|  説明: G&A を付与する場合、すべての子孫が付与されますが、先祖は付与されません。 | G&A<br>• HR<br>• リーガル<br>• G&A (限定) |
|  説明: また、運用も付与する場合、その兄弟や先祖は付与されません。 | G&A<br>• HR<br>• リーガル<br>• G&A (限定)<br>運用 |
|  説明: 新規ルールは無効です。付与された親の子孫を制限するルールを追加することはできません。 | 変更なし |

"付与の例外" 列を使用する場合

| 付与の例外組織のあるルール | ユーザーの結果の組織階層 |
| --- | --- |
|  説明: G&A を除いてすべてを付与する場合、G&A の先祖と子孫も除外します。 | 製品開発<br>• 運用<br>• エンジニアリング<br>• 製品開発 (限定) |
| 説明: 制限付き親の子を許可するルールを追加できます。 | HR<br>製品開発<br>• 運用<br>• エンジニアリング<br>• 製品開発 (限定) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

保護されたカスタム属性と交差

すべてのデータ ポイントが、特定の組織、科目、期間、およびバージョンで交差します。すべてのデータが、モデルのすべてのカスタム属性でも交差します。カスタム属性の場合:

- データにカスタム属性値をタグ付けしない場合、データはルートの未分類値で交差します。
- データは、すべての組織、科目、およびカスタム属性合計のすべてのカスタム属性のすべての値で交差します。

シート上の任意の合計値を表示するには、すべての合計のすべての子孫にアクセスする必要があります。レポートでは、メトリック科目でない限り、部分的な合計値を表示できます。シートで合計にアクセスできない場合は、科目または組織が一切表示されない可能性があります。レポートおよびグラフでは、合計に一部の合計値が表示されます。一部の合計値には、アクセスできる関連値のみが含まれます。

詳細については アクセス ルールとモデルを参照してください。

relatedlinks
概念
ステップ: アクセス ルールの作成 ( 1430ページ )

参考: アクセス ルール ツールバー

| オプション | 説明 |
|---|---|
| インポート | ルールを追加または更新した Excel スプレッドシートをインポートします。また、"テンプレートのダウンロード" リンクをクリックして、ルールを作成するための空白のテンプレートを取得することもできます。 |
| エクスポート | レビューや編集のために、ロールを Excel にエクスポートします。次に "インポート" ボタンを使用してルールを更新します。 |
| 管理 | アクセス ルールでの使用向けにセキュリティ保護されている属性または特性を追加または削除できるダイアログが開きます。アクセス ルールの作成を参照してください。 |
| 検索 | 虫眼鏡アイコンをクリックして、検索語を入力します。 |

参考: アクセス ルールとモデル

アクセス ルールは、モデル、およびチームがモデルを使用する方法に影響します。インスタンスが組織のみ、または組織と科目のみを保護する場合、モデルへの変更はわずかであると想定できます。インスタンスがカスタム属性も保護している場合は、モデルの変更が顕著になると想定できます。どちらの場合も、影響を理解し、スムーズな計画のためのベストプラクティスを使用してください。

指針

データ値:

- シートでは、特定の交差での値は誰が見ても同じです。
- レポートやグラフでは、同じ交差でも他の人に表示されるものとは値が異なる場合があります。

合計:

- 合計交差にあるすべての関連データにアクセスできない場合、シートに空白の合計が発生します。
- 部分的な合計は、レポートでアクセス権のない合計セルを表示する必要がある場合にのみ発生します。表示される合計には、アクセスできる要因のみが含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

無効な交差: 他の交差で保護された属性値にアクセスできても、特定の交差ではアクセスできない場合、無効な交差が発生することがあります。例: "エンジニアリング" 組織で "費用" 科目にアクセスでき、"販売" 組織で "収益" 科目にアクセスできるとします。この場合、"販売" での "費用" は無効な交差です。

メッセージ: 無効な交差が表示されると、さまざまなメッセージが表示される場合があります。自分にとって無効なレポート、シート ビュー、および数式で交差を作成できる場合があります。この結果、エラーまたは空白のデータが発生します。表示または編集する必要があるデータにアクセスできないと感じた場合は、アクセス ルールについて管理者に相談してください。

モデリング、管理エリア、および権限

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 一般的に、モデリングと管理の権限により、組織、科目、カスタム属性の階層全体を表示できます。<br>• 例外として、パブリッシュ プランの権限があります。この権限により、ユーザーは自分が編集権限を持っている エリアのみをパブリッシュできます。 | • ユーザーにモデルの構造を管理させるには、この権限だけで十分です。データの表示または編集権限を与える必要はありません。<br>• ユーザーがプラン全体を別のプラットフォームにパブリッシュできるようにするには、モデル内の固定されたすべての属性値への編集アクセス権を与えます。 |

参照 参考: 利用可能な権限 ( 1409ページ ) を参照してください。

インポートおよびインポート権限

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • "インポート機能" > "すべての場所へのインポート" 権限がある場合、API インポートまたは通常のインポートを介してモデルのすべての交差でデータを編集できます。<br>• 権限だけでは、データの交差をシートやレポートで表示できません。<br>• モデル シート データのインポートをスプレッドシートごとに開始する場合、インポート モードのオプションが若干異なります ( スプレッドシートのインポート ( 2050ページ ) ):<br>  • シートにインポートした行を追加する: インポートした行を追加し、既存の行はそのまま残します。<br>  • 編集可能なすべての行を置換: 既存のすべての行を、インポートした行に置き換えます。<br>  • 一致する保護された属性が含まれる行のみを置換: 組織または固定されたカスタム属性に一致する既存の行をすべて置き換えます。一致がない場合は、行を追加します。<br>  • 既存行を更新: インポート キーに一致する既存の行の特定のデータを更新します。"分割を許可" が選択されているシートでは利用できません。<br>  • 既存の行を更新し、新しい行を追加: インポート キーに一致する既存の行の特定のデータを更新します。一致 | この権限を持つユーザーがデータまたはメタデータのインポートを検証できるようにするには、少なくとも、モデル内の保護されたすべての属性値への "全表示" アクセス権を付与します。そうしないと、シートとレポートにインポートしたデータの一部を見ることができず、インポートが失敗したと見なされる可能性があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| がない場合は、行を追加します。"分割を許可" が選択されているシートでは利用できません。 | |

保護された科目を持つモデル

組織割当標準およびキューブ シート

シートと Excel Interface for Planning シート

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 標準シートとキューブ シートでは、アクセスできない交差が削除されます。その結果、選択をしてシートをピボットすると、行、列、およびドロップダウン オプションが非表示になってから再表示されます。<br>例: 組織のドロップダウンから組織を選択すると、その組織でアクセスできない科目は行で非表示になります。<br>• キューブ シートでは、"属性の変更" ボタンをクリックしても、ドロップダウンから選択したオプションにより、他のドロップダウンで使用可能なオプションがフィルタリングされません。場合によっては、無効な交差を作成できます。すべての交差が無効な場合、エラーが発生します。 | • ユーザーがデータを表示できるようにするには、シートの 1 つの組織と 1 つの科目への "制限表示" アクセス権をユーザーに付与します。<br>• ユーザーが分割を表示できるようにするには、科目と組織への "全表示" アクセス権をユーザーに付与します。<br>• ユーザーが分割を表示できないようにするには、科目と組織への "制限表示" アクセス権をユーザーに付与します。合計は表示されますが、関連する分割は表示されません。 |

組織割当モデル シート

シートと Excel Interface for Planning シート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • モデル シートへのアクセス権を与えると、そのシートのすべての科目が含まれます。また、期間や当初残高を含む各科目へのアクセス権を与えることもできます。<br>• 行は表示されますが、アクセスできない科目が含まれている場合は、関連する詳細を見ることができません。<br>• 科目が列になっていたり、表示列になっていたりすると、アクセスによってデータの表示や編集ができなくなることがあります。どの組織の科目にもアクセスできない場合は、列は表示されません。<br>• アクセスできない組織の行は、シートで非表示になります。<br>• 表示できない科目の列は、シートで非表示になります。<br>• アクセスできない属性が分割内にあっても、親行への "全表示" アクセス権がある場合、すべての分割行を表示できます。<br>• "初期の残高" へのアクセス権がない場合は、どの行にも分割を追加できません。 | • すべての科目へのアクセス権を付与または制限するには、アクセス ルール テンプレートにモデル シート名を入力します。<br>• ユーザーがモデル シートを開けるようにするには、少なくとも 1 つの組織と 1 つのモデル科目に対する全表示のアクセス権を与えてください。<br>• ユーザーが行を追加または削除できるようにするには、モデル シート名の "編集" アクセス権を付与します。<br>• "表示" アクセス権をモデル シートの一部の科目のみに制限するには、表示するモデル科目にリンクする総勘定元帳科目またはカスタム科目を作成することを検討してください。ユーザーにはリンク科目へのアクセス権を付与しますが、ソースへのアクセス権は付与しないでください。以下の「リンクされた科目とソース科目」セクションを参照してください。<br>• ユーザーがアクセスできない組織や科目を表示できないようにするには、モデ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| | ル シート科目への "制限表示" アクセス権を付与します。ユーザーは合計行は今までどおり表示できますが、関連する分割は表示できません。<br>• 親行の混乱を防ぐため、分割を追加する前に親属性値を編集するようチームに伝えます。分割それぞれが異なる値を持つ場合は、親の選択を空白のままにしておくのが最適です。<br>• "初期の残高" を含むシートの場合は、ユーザーが任意の行を分割できるようにするため、"初期の残高" への編集アクセス権をユーザーに付与します。 |
| 共通の先祖組織を持たない組織へのアクセス権を持つユーザーは、関連する行を表示するために組織を切り替える必要があります。 | ユーザーが関連するすべての行を 1 つの表示で見られるようにするには、ダミーのカスタム科目を作成します。ダミー科目で、ユーザーのすべての組織の最も近い共通の先祖へのアクセス権を与えます。 |

ユーザー割当シート

シートと Excel Interface for Planning シート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| ユーザー割当シートをユーザーに割り当てると、以下のようになります。<br>• ユーザーは、アクセスできない科目を含め、そのシートのすべてのデータを表示および編集できます。<br>• ユーザーは、表示された科目へのアクセス権がなければ、その科目を参照することはできません。<br>ユーザー割当シートの科目へのアクセス権を付与する場合、以下のようになります。<br>• ユーザーは、モデル内の任意の場所にある数式で科目を参照できます。<br>• ユーザーにシートを割り当てていない場合、ユーザーはユーザー割当シートを開くことができません。 | ユーザーをユーザー割当シートに割り当てる場合は注意してください。<br>シートをユーザーに割り当てている場合は、シート上の科目へのアクセス権をユーザーに付与することを検討してください。 |

リンクされたモデル シートをリフレッシュ

シートに適用されます。

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| リンクされたモデル シートをリフレッシュするとき、2 つのインスタンス間でデータを同期します。受信インスタンスのすべてのシートの属性値への編集アクセス権が必要です。作業を検証するには、ソース インスタンス内のすべてのシートの属性値に対する | • リンクされたモデル シートをリフレッシュできるユーザーに、受信シートのすべての保護された属性値に対する "編集" アクセス権を付与します。そうしないと、同期は失敗します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| "全表示" アクセス権が必要です。 | • ユーザーが自分の作業を検証できるようにするには、少なくとも、ソース シートのすべての保護された属性値に対する "全表示" アクセス権を付与します。これで、受信シートに対してこれをチェックできます。 |

連結比率シート

シートに適用されます。

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| 連結比率シートはアクセス ルールによって制限されていません。 | ユーザーが連結パーセント シートを開いて編集できるようにするには、"モデル管理アクセス" > "連結" の権限セットをユーザーに割り当てます。 |

時間合計按分方法

シートに適用されます。

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • モデルが自動按分の前提条件を使用している場合、前提条件またはその項にアクセスすることなく、誰でも自動按分をトリガできます。<br>• 前提条件リストから選択できる場合、前提条件をオプションとして表示するには、前提条件内のすべての項に対する "制限表示" アクセス権が必要です。 | • ユーザーがシート内の按分の前提条件を選択できるようにするには、少なくとも、前提条件内のすべての項に対する "制限表示" アクセス権を付与します。<br>• 按分の前提条件で、誰もがアクセスできない項を使用している場合は、"一般設定" で自動按分の使用を検討してください。自動按分は、どのユーザーにも自動的に数式を適用します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## レポートとグラフの作成

### レポートと OfficeConnect レポート

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • レポートを作成するには、少なくとも、一部の組織の科目に対する "表示" アクセス権が必要です。<br>• "要素" タブでは、少なくとも一部の組織に対する "制限表示" アクセス権を持つすべての科目を表示できます。また、アクセス権を持つすべての組織を表示できます。<br>• これらの属性をレポートにドラッグできるため、アクセスできない無効な交差でも作成できます。<br>• 交差が無効でも、必ずしもレポートの実行を妨げるとは限りません。<br>• 交差が無効なレポート セルには、空白またはゼロが表示されます。 | ユーザーが混乱しないように、どの組み合わせが無効であるかを伝えます。 |

## 共有レポートとグラフの表示

レポートに適用されます。 OfficeConnect レポート、グラフ

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 共有レポートやグラフでは、アクセスできないデータは除外されます。共有レポートやグラフは、ユーザーごとに非常に異なる場合があります。 | "管理" > "一般設定" に移動し、"レポートのデータ アクセス メッセージ" フィールドにメッセージを入力します。このメッセージは、すべてのレポートの情報ノートに表示されるため、レポートに表示されるデータに |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 以下が表示されます。<br>  • 他者には表示されない列と行の全体<br>  • 他者には表示されないパラメータとフィルタのオプション<br>  • 他者には空白とゼロと表示されるデータ<br>  • 異なる値を持つ合計。<br>• 特定の項にアクセスできないため、レポート計算ではユーザーごとに異なる結果が表示されます。計算フィルタでは、アクセスできない項を除外します。これにより、異なる数値、部分的な合計、f(x) の制限、およびゼロになる可能性があります。 | アクセス ルールがどのように影響するかをユーザーが理解するのに役立ちます。 |

共有レポートの変更

レポートと OfficeConnect レポート

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| 権限がある場合は、他のユーザーが作成してあなたと共有したレポートを編集できます。<br><br>レポートを実行すると、自分がアクセス権を持たない属性と属性値はレポートから削除されますが、他のユー | 共有レポートの構造に誤って変更を加えないようにするために、モデル内の保護された属性に対するアクセス数が少ないユーザーよりもアクセス数が多いユーザーに "すべてのレポートの変更" 権限を付与します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| ザーに対しては保持されます。<br><br>レポートを編集すると、アクセス ルールにより、アクセス権を持たない属性と属性値が削除されます。また、保存された変更により、他のユーザーの属性も削除されます。<br><br>例: レポートに "本社"、"エンジニアリング"、 "マーケティング" の組織が含まれるとします。<br><br>あなたは "エンジニアリング" にのみアクセスできます。レポートを実行する場合、あなたは "エンジニアリング" のみを参照します。この裏では、"本社" および "マーケティング" は依然としてレポート上にあります。これらの組織へのアクセス権を持つ他のユーザーには、引き続きこれらは表示されます。<br><br>例: 共有レポートには、組織全体の費用が表示されます。あなたがアクセスできるのは "エンジニアリング" 費用のみです。レポートを編集すると、ビルダーの "エンジニアリング" のみが表示されます。あなたは他の組織がレポートに記載されていることを知りません。レポートを共有フォルダに保存すると、裏では全員の "エンジニアリング" 以外のすべての組織が削除されています。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| シート、レポート、およびグラフでの数式によるデータ処理 | シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ<br><br>**知るべきこと**<br>モデルでデータを表示している場合、以下のようになります。<br>• 共有数式、セルに入力された数式、および算出科目は、アクセス権に関係なく、すべてのユーザーに対して同じ値を評価します。<br>• 数式内のすべての項に対して少なくとも "制限読み取り" アクセス権がない場合、数式自体は「f(x) 制限付き」として表示されます。<br><br>**ベスト プラクティス**<br>該当なし |
| シートの数式の書き込み | シートに適用されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 各科目に対して参照できる組織の制限は、科目のデータ プライバシー設定によって制御されます。次の「データ プライバシー」セクションを参照してください。<br>• 数式で項を使用するには、項に対して少なくとも "制限表示" アクセス権が必要です。<br>• アクセスできない項を入力した場合、シートを保存するときに、数式エラーが発生します。このエラーはすべてのユーザーに対して再発します。<br>• フォーミュラ アシスタントを使用する場合、フォーミュラ アシスタント リストにすべてのアクセス可能な属性が表示されます。例: ルールにより、"エンジニアリング" 組織の収益科目を表示できません。フォーミュラ アシスタントでは、科目リストに "収益"、組織リストに "エンジニアリング" が表示されます。"エンジニアリング" および "収益" を使用した数式を試行できますが、フォーミュラ アシスタントでは数式を保存できません。 | ユーザーがエラーを回避できるように、無効な組み合わせをユーザーに伝えてください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### レポートでの数式の書き込み

レポートと OfficeConnect。

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| シートでの数式の書き込みに関する上記の情報に加えて:<br>• "% として表示" 計算では、デフォルトで "費用" 科目が使用されます。"費用" へのアクセス権が一切ない場合、数式では総勘定元帳科目リスト内の次の総勘定元帳科目が使用されます。要素プロパティを編集して変更できます。<br>• レポートに無効な交差を作成できるため (「レポートの作成」セクションを参照)、これらの無効な交差を参照するレポート計算を作成できます。この場合、計算では無効な交差をゼロとして扱います。 | 該当なし |

### リンクおよびソース科目

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフリンクされた科目の一般情報については、を参照してください。 概念: リンク元科目（ 920ページ ）。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • リンクされた科目は読み取り専用です。リンクされた科目への "編集" アクセス権の結果、"全表示" アクセスになります。<br>• リンクされた科目のデータを表示するためにソース科目へのアクセス権は必要ありません。<br>• リンクされた科目のデータにドリルインするには、ソース科目へのアクセス権が必要です。<br>• リンクされた科目とソース科目の両方へのアクセス権がある場合、レポート内の科目ごとに異なる値が表示される場合があります。これは、リンクされた科目内またはレポートのカスタム属性フィルタが原因である可能性があります。また、科目ごとにアクセス ルールの結果が原因である可能性もあります。 | • リンクされた科目に表示されるデータをユーザーが編集できるようにするには、ソース科目への "編集" アクセス ルールを作成します。<br>• 科目の詳細と属性のブレークダウンのユーザー ビューを制限するには、ソース科目ではなく、リンクされた科目に対してのみ "全表示" または "制限表示" のアクセス権を付与します。<br>• レポートを作成する権限を持つユーザーの場合、リンクされた科目とソース科目の両方に "全表示" アクセス権を付与します。ソースを制限している場合でも、ユーザーはレポートを使用して、リンクされた科目のデータのカスタム属性のブレークダウンを表示できます。 |

前提条件科目

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 前提条件のデータは、すべての組織に対して同じであり、最上位組織 (限定) で編集できます。 項については 概念: 階層およびアクセス ルールを 参照してください。<br>• 任意の 1 つの組織の前提条件科目への "表示" アクセス権がある場合、編集可能な任意の組織で数式の前提条件を参照できます。例: "エンジニアリング" 組織で "前提条件科目" へのアクセス権があるとします。また、 "販売" 組織で、"収益" などのその他科目へのアクセス権があるとします。数式では、"販売" または "エンジニアリング" のいずれかの "前提条件" を参照できます。これは、前提条件の値がすべての組織で同じであるためです。 | • ユーザーが前提条件科目値を編集できるようにするには、すべての組織で科目へのアクセス権をユーザーに付与する必要があります。<br>• 前提条件科目へのアクセス権を付与するルールについては、管理者に明確にするために、ユーザーまたはグループがアクセスできるすべての組織を含めます。 |

システム科目

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| システム科目へのアクセス権がある場合、表示される値は、シート、グラフ、レポート間で異なる場合があります。 | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| CTA、配賦、消去差異科目は、数式ベースの科目のルールに従っています。科目の価値をシートで確認するためには、数式のすべての項にアクセスする必要はありません。レポートやグラフでは、アクセスできない数式の項がフィルタリングされています。 | |

為替レート科目

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| "為替レート シート" にアクセスするには ("モデリング" > "為替レート")、"モデル管理アクセス" > "通貨" 権限が必要です。アクセス ルールは必要ありません。<br><br>シート、レポート、およびグラフで "為替レート" 科目にアクセスするには、科目への "表示" アクセス権が必要です。為替レート科目の科目コードを見つける方法については アクセス ルールの作成を参照してください。 | 該当なし |

科目のデータ プライバシー設定

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • データ プライバシーは、ユーザーが数式で科目を参照する方法を制御する科目設定です。<br>• ルールごとの科目と組織の交差により、科目データへのアクセス権を定義します。"データ プライバシー" 科目設定により、数式で科目を使用する方法を定義します。 | 特定の組織が存在することをユーザーに知らせたくない場合は、"すべての組織で公開" データ プライバシー設定を持つ科目へのアクセス権を付与しないでください。 |

"販売" 組織の "収益" 科目へのアクセス権がある場合のアクセス権とデータ プライバシーの組み合わせの例:

| 収益のデータ プライバシー設定 | 結果 |
| --- | --- |
| すべての組織で公開:<br>任意の組織から科目データを参照できます。 | "エンジニアリング" を含む、モデルのすべての組織から "収益" を参照する数式を作成できます。<br>フォーミュラ アシスタントで、モデルの組織階層全体を表示できます。 |
| 最上位組織のみ:<br>会社の合計の収益を参照できます。 | すべての組織の合計を含む、"収益" の最上位組織の合計値を参照する数式を作成できます。<br>明示的なアクセス権を超える組織階層を表示することはできません。 |
| 非公開:<br>すべての科目のデフォルト。現在の組織 (およびその子孫) からの科目のみを参照できます。 | "販売" 組織でのデータについて、"販売" 組織または "販売" 組織の子孫のいずれかから "収益" を参照できます。<br>他の組織から科目を参照することはできません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

保護されたカスタム属性を持つモデル

モデルがカスタム属性を保護する場合:

- すべてのアクセス ルールには、すべてのカスタム属性の未分類の値が自動的に含まれます。
- すべてのデータが、すべてのカスタム属性で交差します。カスタム属性が指定されていない場合、データは各カスタム属性の "未分類" の値で交差します。
- 分割合計を含むすべての合計値が、各カスタム属性の "すべて" 値で交差します。
- 保護されたカスタム属性の "すべて" 値にアクセスできない場合、使用できる機能は数式、科目、シートのデータへのアクセス、レポート、トランザクションおよびグラフに制限されます。

"すべて" および "未分類" の値については 、概念: 階層およびアクセス ルールを 参照してください。

アクセス ルールの対象となるカスタム属性については、 概念: アクセス ルールを 参照してください。

保護された科目および組織を持つモデルに関してリストされている上記のベスト プラクティスに加えて、以下のベスト プラクティスを考慮してください。

組織割当標準およびキューブ シート

シートと Excel Interface for Planning シート

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • リンク、組織、科目階層、または分割を通じて合計を表示するセルは、すべてのカスタム属性の "すべて" の値で交差します。<br>• 保護されたカスタム属性の "すべて" の値へのアクセス権がない場合、行が分割されると、合計行は一切表示されなくなります。これにより、アクセスできる科目と組織がシートで非表示になります。 | 保護された各カスタム属性の "すべて" の値を含むルールを作成すると、ユーザーは以下を実行できるようになります。<br>• 分割を追加または編集します。<br>• 任意の分割合計または関連分割を表示します。<br>• 標準シート上のキューブ科目およびモデル科目を表示します。<br>エラーを防ぐには、チーム メンバーにどの属性の組み合わせが有効であるかを伝えてください。<br>混乱を防ぐため、標準シートよりもキューブ シートを使用してください。 |

組織割当モデル シート

シートと Excel Interface for Planning シート

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 行を表示するには、組織、およびその行に対して選択されたすべてのカスタム属性値に対す | エラーを防ぐには、ユーザーにどの組み合わせが有効であるかを伝えてください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| る "全表示" アクセス権が必要です。<br>• アクセスできない組み合わせの行は、シートから非表示になります。<br>• 行では、エラーにより、無効な交差を作成する属性値を選択できなくなります。別の値を使用して再試行できます。<br>• シート上で固定されたカスタム属性の値を変更するには、すべてのモデル科目にアクセスする必要があります。 | ユーザーが行のカスタム属性値を変更できるようにするには、シート上のすべての科目に対する編集アクセス権を与えます。 |

### 分割を含む組織割当モデル シート

シートと Excel Interface for Planning シート

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 親行にカスタム属性の未分類の値があると、その行のすべての子行が表示され、編集可能になります。<br>• 保護された属性が含まれる行を分割すると、親行の選択した属性が保存時にロックされます。<br>• 保護された属性の場合は、親行に "複数" が表示されません。親行には選択した内容が表示されますが、多くの場合で空白となります。 | • ユーザーがキューブ シートのエラーを回避できるように、どの組み合わせが無効であるかを伝えます。<br>• 親行の混乱を防ぐため、分割を追加する前に親属性値を編集するようチームに伝えます。分割それぞれが異なる値を持つ場合は、親の選択を空白のままにしておくのが最適です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| に変わります。 | |

配賦科目

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| 配賦科目がカスタム属性を保持する場合、これらはカスタム属性の "すべて" の値で交差します。 | 配賦科目を含むルールのすべてのカスタム科目属性の "すべて" の値を含めます。 |

保護されたカスタム属性を持つリンクされた科目

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 標準シートでは、リンクされた科目は、すべての保護されたカスタム属性の "すべて" の値で交差します。<br>• キューブ シートでは、リンクされた科目は、シート自体ではなく、保護されたカスタム属性の "未分類" の値で交差します。<br>• レポートやグラフでは、レポートにより、リンクされた科目データがフィルタリングされます。リンクされた科目には、各ユーザーがアクセスできるカスタム属性値がタグ付けされたデータのみが表示されます。 | • リンクされた科目へのアクセス権限を標準シートで表示するには、アクセス ルールにすべてのカスタム属性の "すべて" の値を含めます。<br>• キューブ シート内のリンク元科目への表示アクセスについては、ソース シートのすべての保護された属性の "すべて" の値を含めます。<br>• ソース科目はしばしばカスタム属性値を使用し、データを抽出します。ユーザー データのブレークダウンを表示できるようにするには、ソース科目をルールから除外します。ユーザーは、リンクされた科目表示を通じてソー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| | スの合計値を表示できますが、ソース科目の詳細にドリルインできません。<br>• ユーザーが保護されたすべてのカスタム属性の "すべて" の値にアクセスできない場合は、ソース科目のみに対するアクセス権をユーザーに付与してください。これにより、ユーザーは、アクセスできるカスタム属性値のみのキューブまたはモデル シートの科目データを表示できるようになります。<br>• 総勘定元帳科目またはカスタム リンク科目へのレポートの表示アクセスの場合、ユーザーがアクセスするカスタム属性値のみを含めます。 |

メトリック科目

シートに適用されます。 Excel Interface for Planning シート、レポート OfficeConnect レポート、グラフ

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 標準シートのメトリック科目は、すべてのカスタム属性における "すべて" (ルート合計) の値で交差します。<br>• キューブ メトリック科目 (キューブ シートのメトリッ | • ユーザーが標準シートまたはモデル シートでメトリック科目を表示できるようにするには、保護されたすべてのカスタム属性の "すべて" の値へのアクセスを含めます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| ク科目) は、キューブ シート自体ではなく、すべての保護されたカスタム属性における "すべて" (ルート合計) の値で交差します。 キューブ シート上の保護されたカスタム属性の場合、各セルは選択した属性値で交差します。 | |

属性マッピングの表示と編集

ダッシュボードやモデリングに適用されます。

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| 属性マッピング テーブルの行を表示するには、以下が必要です。<br>• 行内の属性値の組み合わせへの全表示アクセス。行の固定された属性値の一部の組み合わせのみへの "全表示" アクセス権がある場合、それらの組み合わせの属性値のみが表示されます。<br>• 属性マッピング テーブルで使用される属性を含むモデル シートの少なくとも 1 つに全表示アクセスできます。<br>属性マッピング テーブルの行を編集するには、以下が必要です。<br>• 行内の属性値の組み合わせに対する編集アクセス。<br>• 属性マッピング テーブルで使用 | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| される属性を含むすべてのモデル シートへの編集アクセス。モデル シートが "給与の詳細" 権限を必要とする場合は、この権限を持っている必要があります。<br><br>"モデル管理" の "属性" ページから属性マッピングを直接エクスポートおよびインポートする場合:<br>• 属性値への定義されたアクセスは必要ありません。<br>• スプレッドシートで任意の編集を行い、それをインポートできます。<br>• "モデル管理アクセス" > "モデルと構造インポート" 権限が必要です。 | |

数式

シートに適用されます。

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • 標準およびモデル シートでは、記述する式は、デフォルトですべてのカスタム属性の "すべて" の値を参照します。"すべて" の値に対するアクセス権がない場合、アクセス権を持つ属性値を使用して数式を評価する必要があります。評価しない場合、エラーが発生します。 | 誤りや混乱を避けるため、チームに求められることを伝えてください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| • キューブ シートでは、同じキューブ シート上の科目を参照するキューブ科目セルに対して記述する数式は、属性が「これ」に等しいことを意味します。 | |

トランザクション

ドリル機能があるシート、レポート、ダッシュボードに適用されます。

| 知るべきこと | ベストプラクティス |
| --- | --- |
| キューブ シートからトランザクションへのドリルインを有効にするには、トランザクション ビルダーとキューブ シートに保護された属性が含まれている必要があります。ユーザーは少なくとも一部の属性値へのアクセス権が必要です。 | 保護された属性を以下の両方に追加します。<br>• トランザクション ビルダー<br>• キューブ シート |

レポートとグラフの作成と共有

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| 保護されたカスタム属性の "すべて" の値にアクセスできない場合:<br>• "要素" タブでカスタム属性を確認できます。レポートやグラフにドラッグできます。<br>• レポートを実行したり、グラフを表示したりするとき、要素には、アクセス権を持つ値のみが保持されます。<br>例: "製品" の属性値である "T シャツ" にのみアクセスできると | レポートおよびグラフ ビルダーが共有しているレポートで保護されたカスタム属性全体を使用するよう彼らに促します。アクセス ルールは、各チーム メンバーのデータと計算をフィルタリングします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベスト プラクティス |
| --- | --- |
| します。"製品" 属性を、"収益" 科目があるレポートにドラッグ アンド ドロップします。"T シャツ" の収益が表示されます。<br><br>レポートを共有する場合、別のユーザーが "T シャツ" と "セーター" にアクセスできます。このユーザーには、"T シャツ" と "セーター" の両方の "収益" が表示されます。<br><br>• 同じロジックがレポート数式に影響します。 | |

アクセス ルールでの特性の使用

| 知るべきこと | ベストプラクティス |
| --- | --- |
| 組織、科目、およびカスタム属性特性を使用して、同じルールで付与された関連する組織、科目、またはカスタム属性を制限できます。<br><br>特性を使用すると、誰でも、特性のドロップダウンリストや行で、使用可能なすべての特性値を見ることができます。 | 特性値を使用して、保護された属性と関連する属性 (科目、組織、カスタム) を制限します。 |
| ルールで特性を使用すると、同じルールに記載されている、特性値がタグ付けされている関連属性へのアクセスが許可されます。<br><br>例: "Canada" 組織には "North" がタグ付けされ、"USA" 組織はタグ付けされていません。ルールで "North" という特性が、"USA" と "Canada" の組織に付与されている場合、米国ではなくカナダにアクセスできます。<br><br>別の例: "Western Hemisphere" は、"Canada"、"USA"、"Mexico" の親です。ルールでは、3 つの組織すべてに "North" という特性が付与されます。すべての組織に "North" タグ付けすると、すべての組織にアクセスできるようになります。"Mexico" タグを削除すると、"Mexico" にアクセスできなくなります。再度、"Mexico" に "North" タグを追加すれば、再びアクセスできるようになります。 | アクセス ルールの特性は、関連する属性ツリーの大部分へのアクセスを許可する場合に最適です。その後、特性を使ってさらにアクセスをフィルタリングします。そうしないと、特性タグの変更に合わせてルールを更新しなければならない場合があります。 |
| ルールが属性へのアクセスを許可し、特性値の列を空白にしている場合、特性値に関係なく、許可された属性値へのアクセスが可能になります。 | タグ付けされているかどうかに関わらず、常に組織やカスタム属性へのアクセスが必要なユーザーに対しては、アクセスを許可するルールに特性を記載しないようにします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 知るべきこと | ベストプラクティス |
| --- | --- |
| ルールで属性と特性値へのアクセスを許可した後、属性から特性タグを削除すると、属性へのアクセスができなくなります。<br><br>既存の属性に新しい特性値をタグ付けすると、その特性を使用する属性に対する既存のルールがある場合に、ユーザーのアクセス権が削除される可能性があります。 | アクセス ルールの特性は、関連する属性ツリーの大部分へのアクセスを許可する場合に最適です。その後、特性を使ってさらにアクセスをフィルタリングします。そうしないと、特性タグの変更に合わせてルールを更新しなければならない場合があります。新しい保護された特性値を追加してタグ付けする際には、ルールを検証して更新します。 |

relatedlinks
例
次のレベル: Adaptive Planning: アクセス ルール

例: アクセスの設定
ステップの例: *6* 人のユーザー向けアクセスの設定

アクセス ルールと権限を使用して、6 人の異なるユーザーを基にしたさまざまなタイプのアクセスを作成します。

このタスクについて

6 人のユーザーは次のとおりです。

- モデルを管理し、すべてのデータを変更する権限を必要とする管理者
- レポートとダッシュボードを使用してデータを提示する役員。すべてのデータを閲覧できる必要がありますが、データを変更する必要はありません。 また、個々の社員の給与の詳細をレビューする必要もありません。"従業員" モデル シートでは、この非公開データが保存されます。
- 給与の詳細を含む、部門のすべてのデータを編集する必要がある財務アナリスト。さらに、レポート作成や比較のために会社全体のデータを閲覧する必要があります。財務部門以外では、総勘定元帳に給与経費の合計が表示されていれば、給与の詳細を閲覧する必要はありません。
- レポート作成や比較のために会社全体のデータを閲覧し、担当部門内のデータを編集する必要がある営業部門 VP。営業部門 VP は担当部門の給与の詳細も編集する必要がありますが、会社全体の給与合計は閲覧のみで構いません。
- 会社がまだ展開していない提案済み製品を除く、特定の科目および製品について、担当地域のデータを編集する必要がある地域マネージャ。
- 担当部門が販売する製品について、担当部門の特定の科目のデータを編集する必要がある店舗マネージャ。

始める前に
セキュリティ:

- "ユーザー" 権限
- "権限セット" 権限

。

手順

1. 例: アクセス ルールに対する科目と製品属性の保護
   科目と製品属性をセキュリティ保護して、アクセス ルールで使用できるようにします。 組織は自動的に使用可能になります。
2. 例: 管理者のアクセスの設定 ( 1492ページ ) .
   権限セットを作成して管理者に割り当て、管理者のアクセス ルールを作成します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 例: 役員向けアクセスの設定 ( 1493ページ ) .
   権限セットを作成して役員に割り当て、役員向けのアクセス ルールを作成します。
4. コントリビュータ向けアクセスの設定
   a. 例: 権限セットの作成とコントリビュータへの割り当て ( 1495ページ ) .
      ユーザーがレポート、ダッシュボード、シートにアクセスできるようにする権限セットを作成します。次に、同じ権限セットを財務アナリスト、営業部門 VP、地域マネージャに割り当てます。 後から、アクセス ルールを使用して各ユーザーのデータ アクセスを絞り込みます。
   b. 例: 財務アナリスト向けアクセス ルールの設定 ( 1497ページ ) .
      財務アナリスト向けのアクセス ルールのセットを作成します。
   c. 例: 営業部門 VP 向けアクセス ルールの設定 ( 1499ページ ) .
      営業部門 VP 向けのアクセス ルールのセットを作成します。
   d. 例: 地域マネージャ向けアクセス ルールの設定 ( 1500ページ ) .
      地域マネージャ向けのアクセス ルールのセットを作成します。
5. 例: 店舗マネージャ向けアクセスの設定 ( 1502ページ ) .
   権限セットを作成して店舗マネージャに割り当て、店舗マネージャ向けのアクセス ルールを作成します。

例: アクセス ルールの属性の保護

アクセス ルールの作成に使用できるように、属性をセキュリティ保護します。

このタスクについて

6 人の異なるユーザーにそれぞれ違うアクセスを作成するには、アクセス ルールで使用できるように属性をセキュリティ保護する必要があります。会社は、科目、組織、製品と呼ばれるカスタム属性をセキュリティ保護したいと考えています。Adaptive Planning は組織を自動的にセキュリティ保護します。製品と科目の追加はユーザー自身が行います。属性をセキュリティ保護したら、6 人の異なるユーザーに特定の組織、科目、属性値へのアクセス権を付与できます。

始める前に
セキュリティ: "ユーザー" 権限

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "アクセス ルール" をクリックします。
3. ツールバーの "管理" をクリックします。
4. リストから "科目" と "製品" を選択します。
5. "完了" をクリックします。

タスクの結果

アクセス ルール テーブルには、以下の "付与" 列および "付与の例外" 列が表示されます。

- 組織
- 科目
- 製品

次のタスク

例: 管理者のアクセスの設定 ( 1492ページ ) .

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定（1490ページ）

例: 管理者のアクセスの設定

権限とアクセス ルールを使用して、管理者が必要とする一般的なアクセスを設定します。

このタスクについて

管理者は、以下の操作を行う必要があります。

- モデルのすべての領域にアクセスする。
- モデルの構造を変更する。
- すべてのデータを編集する。

アクセスを設定する方法は、次のとおりです。

- 使用可能なすべての権限を割り当てる。
- すべてのデータに対する編集権限を付与します。

始める前に

- 例: アクセス ルールの属性の保護（1491ページ）.
- セキュリティ:
  - "ユーザー" 権限
  - "権限セット" 権限

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "権限セット" をクリックします。
3. "新しい権限セット" をクリックします。
4. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 権限セット名 | 「管理ロール」と入力します。 |
| 使用するテンプレートの設定 | "パワー ユーザー" をクリックします。 |
| 残りのチェックボックス | オフになっているチェックボックスをオンにします。 すべての権限を選択すると、管理者がモデル内のすべてのタスクを完了でき、メイン メニューからあらゆる領域にアクセスできるようになります。 |

5. "送信" をクリックします。
6. ブレッドクラムで "管理" をクリックします。
7. "ユーザー" をクリックします。
8. "新しいユーザー" をクリックします。
9. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 「管理者」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「admin@company.com」と入力します。 |
| パスワード/パスワードを再入力 | 任意のパスワードを入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 権限セット | "管理ロール" を選択します。 |

10. "送信" をクリックします。
11. ブレッドクラムで "管理" をクリックします。
12. "アクセス ルール" をクリックします。
13. ツールバーで "インポート" をクリックします。
14. ダイアログで "テンプレートのダウンロード" リンクを選択します。
15. ファイルを開いて、2 番目のシートを選択します。
16. 以下を考慮して、行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクセス タイプ | 「編集」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「admin@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「(+)」と入力して、モデル内のすべての組織へのアクセス権を付与します。 |
| 製品 (付与) | 「(+)」と入力して、製品のすべての属性値へのアクセス権を付与します。 |

17. テンプレートを ″新しいアクセス ルール″として保存します。
18. Adaptive Planning > 管理 > アクセス ルールを返します。
19. ツールバーで "インポート" をクリックします。
20. "更新と追加" を選択します。
21. 雲アイコンをクリックして、コンピュータ フォルダから "新しいアクセス ルール" スプレッドシートをアップロードします。
22. "完了" をクリックします。

    このアクセスにより、モデル内のすべてのデータを編集する権限が付与されます。

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定（1490ページ）

例: 役員向けアクセスの設定

権限とアクセス ルールを使用して、役員タイプのロールが必要とする一般的なアクセスを設定します。

このタスクについて

会社の CEO の権限セットとユーザー プロファイルを作成します。ほとんどの役員と同様に、CEO は以下の操作を行う必要があります。

- レポートおよびダッシュボードを共有する。
- シートを表示する、ただしデータの編集はしない。
- 給与の合計データを含むすべてのデータを表示する。
- "従業員" モデル シートに保存されている社員個人の給与の詳細は、表示できないようにする。
- 給与合計を会社の費用として表示する。

このモデルの情報は、次のとおりです。

| 総勘定元帳 | 従業員モデル シート |
| --- | --- |
| 経費<br>• 給与 (従業員モデル シートにリンク) | • 各社員の詳細に基づいて給与を計算し、モデル シートの "給与" 科目に入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 総勘定元帳 | 従業員モデル シート |
| --- | --- |
| • 在庫<br>収益<br>• 数量<br>• 割引率 (%) | • このシートの "給与" 科目を、総勘定元帳の "給与" 科目にリンクさせます。<br>• 給与の詳細設定が有効になります。つまりこの設定の場合、このシートを開くには "給与の詳細" 権限が必要です。 |

CEO を設定するには、以下を行う必要があります。

- シート、レポート、ダッシュボードに対する CEO の権限を制限する。
- 従業員 モデル シート上の給与の詳細を保護しながら、すべてのデータへの全表示アクセス権を付与します。

始める前に

- 例: アクセス ルールの属性の保護 ( 1491ページ ) .
- アクセス ルール スプレッドシートを 「新しいアクセス ルール」として保存します。
- セキュリティ:
  - "ユーザー" 権限
  - "権限セット" 権限

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "権限セット" をクリックします。
3. "新しい権限セット" をクリックします。
4. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 権限セット名 | 「役員ロール」と入力します。 |
| 使用するテンプレートの設定 | "閲覧のみ" をクリックします。 |
| 選択する追加の権限 | • "レポートへのアクセス" の中で、チェックされていないサブ権限をすべてオンにします。<br>• "ダッシュボードへのアクセス" で、チェックされていないサブ権限をすべてオンにします。<br>• アクセス ルールを作成することにより、シート上の詳細へのアクセスが防止されるため、この "給与の詳細" 権限の選択はオンのままにします。 |

5. "送信" をクリックします。
   この権限セットにより、役員はシート、OfficeConnect、Web レポート、ダッシュボードにアクセスできます。
6. ブレッドクラムで "管理" をクリックします。
7. "ユーザー" をクリックします。
8. "新しいユーザー" をクリックします。
9. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 名前 | 「CEO」と入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー名 | 「ceo@company.com」と入力します。 |
| パスワードおよびパスワードを再入力 | 任意の値を入力します。 |
| 権限セット | "役員ロール" を選択します。 |

10. "送信" をクリックします。
11. コンピュータのファイルから、"新しいアクセス ルール" スプレッドシートを開きます。
12. 以下を考慮して、次の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクセス タイプ | 「全表示」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「ceo@company.com」と入力します。 |
| 組織 | 「(+)」と入力して、CEO にすべての組織へのアクセス権を付与します。 |
| 科目 (付与の例外) | 「従業員」と入力して、"従業員" シートのすべての科目を除外します。CEO は引き続き総勘定元帳で "給与" 科目を表示できます。総勘定元帳科目には、組織ごとの給与の総経費は表示されますが、各社員の詳細は表示されません。 |
| 製品 (付与) | 「(+)」と入力して、CEO に "製品" 属性のすべての属性値へのアクセス権を付与します。 |

13. スプレッドシートを保存します。
14. Adaptive Planning > 管理 > アクセス ルールを返します。
15. ツールバーで "インポート" をクリックします。
16. "更新と追加" を選択します。
17. 雲アイコンをクリックして、コンピュータ フォルダから "新しいアクセス ルール" スプレッドシートをアップロードします。
18. "完了" をクリックします。

    このルールにより、CEO は　"従業員" シートの給与の詳細を除くすべての科目を表示できます。

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定（1490ページ）

例: 権限セットの作成とコントリビュータへの割り当て

ユーザーがシート内のデータの編集とレポートおよびグラフの作成を行えるように、権限セットを作成します。

このタスクについて

3 人のコントリビュータ ユーザーがいるため、これらのユーザーに適用できる広範な権限セットが必要です。 後から、それぞれ異なるアクセス ルールを使用して各ユーザー向けのデータ アクセスを絞り込むことができます。

"コントリビュータ" 権限セットを以下のユーザーに適用します。

- 財務アナリスト
- 営業部門 VP
- 地域マネージャ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved　Workday Proprietary and Confidential

3 人のユーザー全員が、レポートとグラフを作成し、シート上の少なくとも一部のデータを編集する必要があります。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "権限セット" をクリックします。
3. "新しい権限セット" をクリックします。
4. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 権限セット名 | 「コントリビュータ」と入力します。 |
| 使用するテンプレートの設定 | "コントリビュータ" を選択します。 |

5. "送信" をクリックします。
6. ブレッドクラムから "管理" を選択します。
7. "ユーザー" をクリックします。
8. "新しいユーザー" をクリックします。
9. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 「財務アナリスト」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「fin.analyst@company.com」と入力します。 |
| パスワードおよびパスワードを再入力 | 任意の値を入力します。 |
| 権限セット | "コントリビュータ" を選択します。 |

10. "送信" をクリックします。
11. "新しいユーザー" をクリックします。
12. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 「営業部門 VP」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「vpsales@company.com」と入力します。 |
| パスワードおよびパスワードを再入力 | 任意の値を入力します。 |
| 権限セット | "コントリビュータ" を選択します。 |

13. "送信" をクリックします。
14. "新しいユーザー" を選択します。
15. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 「北部地域マネージャ」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「nregion@company.com」と入力します。 |
| パスワードおよびパスワードを再入力 | 任意の値を入力します。 |
| 権限セット | "コントリビュータ" を選択します。 |

16. "送信" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

各ユーザーのアクセス ルールを作成します。次を参照してください。

- 例: 財務アナリスト向けアクセス ルールの設定（1497ページ）.
- 例: 営業部門 VP 向けアクセス ルールの設定（1499ページ）.
- 例: 地域マネージャ向けアクセス ルールの設定（1500ページ）.

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定（1490ページ）

例: 財務アナリスト向けアクセス ルールの設定

財務アナリスト向けのアクセス ルールのセットを作成します。

このタスクについて

財務アナリストには、コントリビュータ権限があります。財務アナリストが以下を実行できるようなアクセス ルールを作成する必要があります。

- 財務組織のすべての科目のデータを編集する。
- 財務組織でのみ給与の詳細を編集する。
- 総勘定元帳で会社全体の給与経費のサマリ データを表示する。

このモデルの情報は、次のとおりです。

| 組織 | 総勘定元帳科目 | 従業員モデル シート |
|---|---|---|
| 本社<br>• G&A<br>  • 財務<br>  • 人事<br>• 営業部門<br>  • 営業北東<br>  • 営業北西<br>  • 営業南東<br>  • 営業南西 | 経費<br>• 給与 (従業員モデル シートにリンク)<br>• 在庫<br>収益<br>• 数量<br>• 割引率 (%) | このシートの情報:<br>• 各社員の業務内容に基づいて給与を計算します。<br>• このシートの "給与" 科目は、総勘定元帳の "給与" 科目にリンクされています。<br>• このシートの "給与の詳細" 設定は、オンに設定されています。この設定は、このシートを開くには、 給与詳細の 権限が必要であることを意味します。 |

始める前に

- 例: アクセス ルールの属性の保護（1491ページ）.
- "コントリビュータ " 権限セットを "財務アナリスト" に割り当てます。参照 例: 権限セットの作成とコントリビュータへの割り当て（1495ページ）。
- "新しいアクセス ルール"という名前のスプレッドシートにアクセス ルールを保存します。管理者と CEO のアクセス ルールはすでに作成済みです。
- セキュリティ: "ユーザー" 権限

手順

1. コンピュータから "新しいアクセス ルール" スプレッドシートを開きます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 以下を考慮して、次の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス タイプ | 「編集」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「fin.analyst@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「財務」と入力します。 |
| 科目 (付与) | 「(+)」と入力して、"財務" 組織のすべての科目への編集アクセス権を付与します。 |
| 製品 (付与) | 「(+)」と入力して、"財務" 組織のすべての製品への編集アクセス権を付与します。 |

-

3. 以下を考慮して、次の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス タイプ | 「全表示」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「fin.analyst@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「(+)」と入力します。 |
| 科目 (付与の例外) | 「従業員」と入力して、財務を除くすべての組織で "従業員" シートのすべての科目へのアクセスを制限します。財務組織は、前のルールによって例外となります。財務アナリストは、引き続き総勘定元帳で給与の合計データを表示できます。 |
| 製品 (付与) | すべての製品へのアクセス権を付与するには、「+」 を入力します。 |

| 1 | Access Rules | | | Dimensions | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | Access Type | Username | Group Name | Level (Grant) | Level (Grant All Except) | Account (Grant) |
| 5 | Full View | ceo@company.com | | (+) | | |
| 6 | Edit | fin.analyst@company.com | | Finance | | (+) |
| 7 | Full View | fin.analyst@company.com | | (+) | | |

4. スプレッドシートを保存します。
5. Adaptive Planning > 管理 > アクセス ルールに戻ります。
6. ツールバーで "インポート" をクリックします。
7. "更新と追加" を選択します。
8. 新しいルールをアップロードするには、雲アイコンをクリックし、コンピュータ フォルダから "新しいアクセス ルール" スプレッドシートを選択します。
9. "完了" をクリックします。

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定（1490ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例: 営業部門 *VP* 向けアクセス ルールの設定

営業部門 VP 向けのアクセス ルールを作成します。

このタスクについて

営業部門 VP は以下の操作を行う必要があります。

- すべての営業組織のすべての科目データを編集する
- すべての組織の総勘定元帳科目を表示する
- 営業組織を除くすべての組織の給与詳細を表示しない

モデル構造は次のとおりです。

| 組織 | 総勘定元帳科目 | 従業員モデル シート |
|---|---|---|
| 本社<br>• G&A<br>  • 財務<br>  • 人事<br>• 営業部門<br>  • 営業北東<br>  • 営業北西<br>  • 営業南東<br>  • 営業南西 | 経費<br>• 給与 (従業員モデル シートにリンク)<br>• 在庫<br>収益<br>• 数量<br>• 割引率 (%) | このシートの情報:<br>• 各社員の業務内容に基づいて給与を計算します。<br>• このシートの "給与" 科目は、総勘定元帳の "給与" 科目にリンクされています。<br>• このシートの "給与の詳細" 設定は、オンに設定されています。つまりこの設定の場合、このシートを開くには "給与の詳細" 権限が必要です。 |

始める前に

- 例: アクセス ルールのための属性の保護
- "コントリビュータ" 権限セットを営業担当 VP に割り当てます。 例: 権限セットの作成とコントリビュータへの割り当てを参照してください。
- "新しいアクセス ルール" という名前のスプレッドシートにアクセス ルールを保存します。管理者、CEO、財務アナリスト向けのアクセス ルールはすでに作成済みです。
- セキュリティ: "ユーザー" 権限

手順

1. コンピュータ フォルダから、"新しいアクセス ルール" スプレッドシートを開きます。
2. 以下を考慮して、最初の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス タイプ | 「編集」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「vpsales@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「営業」と入力します。 "営業" は親科目であるため、"営業" のすべての子組織が自動的にルールに含まれます。 |
| 科目 (付与) | 「(+)」と入力して、"営業" 組織のすべての科目へのアクセス権を付与します。 |
| 製品 (付与) | 「(+)」と入力して、すべての製品へのアクセス権を付与します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 以下を考慮して、次の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス タイプ | 「制限表示」と入力します。 制限表示により、VP は、分割表示ができません。 |
| ユーザー名 | 「vpsales@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「(+)」と入力して、"営業" を除くすべての組織に対する制限表示を付与します。 "従業員" シートの給与の詳細はすべて分割されているため、VP はすべての組織について合計値のみを表示できます。以前のルールにより、VP は営業組織の分割を確認できます。 |
| 科目 (付与) | 「(+)」と入力して、すべての組織のすべての科目への制限表示アクセスを許可します。 |
| 製品 (付与) | すべての製品へのアクセス権を付与するには、「+」 を入力します。 |

| Access Rules | | | Dimensions | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Access Type | Username | Group Name | Level (Grant) | Level (Grant All Except) | Account (Grant) |
| Full View | ceo@company.com | | (+) | | |
| Edit | fin.analyst@company.com | | Finance | | (+) |
| Full View | fin.analyst@company.com | | (+) | | |
| Edit | vpsales@company.com | | Sales | | (+) |
| Limited View | vpsales@company.com | | (+) | | (+) |

4. シートを "新規アクセス ルール"として保存します。
5. Adaptive Planning > 管理 > アクセス ルールに戻ります。
6. ツールバーで "インポート" をクリックします。
7. "更新と追加" を選択します。
8. 雲アイコンをクリックして、コンピュータ フォルダから "新しいアクセス ルール" スプレッドシートをアップロードします。
9. "完了" をクリックします。

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定（1490ページ）

例: 地域マネージャ向けアクセス ルールの設定

地域マネージャ向けのアクセス ルールを作成します。

このタスクについて

マネージャは、北部地域のすべての店舗を統率します。マネージャにはコントリビュータ権限がすでに付与されているため、マネージャが以下を実行できるようにするアクセス ルールを作成する必要があります。

- すべての組織の在庫科目を表示する。
- 担当地域の組織で、給与の詳細を含むすべての科目を編集する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- スカーフなど見込み製品にはアクセスできない

モデルには以下が含まれます。

| 組織 | 総勘定元帳科目 | 従業員モデル シート | 製品のカスタム属性 |
|---|---|---|---|
| 本社<br>• G&A<br>  • 財務<br>  • 人事<br>• 営業部門<br>  • 営業北東<br>  • 営業北西<br>  • 営業南東<br>  • 営業南西 | 経費<br>• 給与 (従業員モデル シートにリンク)<br>• 在庫<br>収益<br>• 数量<br>• 割引率 (%) | このシートの情報:<br>• 各社員の業務内容に基づいて給与を計算します。<br>• このシートの "給与" 科目は、総勘定元帳の 科目にリンクされています。<br>• このシートの "給与の詳細" 設定は、オンに設定されています。つまりこの設定の場合、このシートを開くには "給与の詳細" 権限が必要です。 | T シャツ<br>タンクトップ<br>セーター<br>ジャケット<br>帽子<br>手袋<br>スカーフ (プランニング目的のみの見込み製品) |

始める前に

- 例: アクセス ルールの属性の保護 ( 1491ページ ) .
- ″コントリビュータ″ 権限セットを地域マネージャに割り当てます。参照 例: 権限セットの作成とコントリビュータへの割り当て ( 1495ページ ) 。
- ″新しいアクセス ルール″という名前のスプレッドシートにアクセス ルールを保存します。管理者、CEO、財務アナリスト、営業部門 VP 向けのアクセス ルールはすでに作成済みです。
- セキュリティ: "ユーザー" 権限

手順

1. コンピュータ フォルダから、"新しいアクセス ルール" スプレッドシートを開きます。
2. 以下を考慮して、最初の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス タイプ | 「全表示」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「nregion@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「(+)」と入力します。 |
| 科目 (付与) | 「在庫」と入力して、すべての組織でこの科目に対してのみ全表示アクセス権を付与します。 |
| 製品 (付与の例外) | 「スカーフ」と入力して、"在庫" 科目およびすべての組織で "スカーフ" を除くすべての製品へのアクセス権を付与します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. 以下を考慮して、次の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| アクセス タイプ | 「編集」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「nregions@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「営業北東」と入力します。このエントリの下のセルに、「営業北西」と入力します。必ず、別の行に追加の組織を入力してください。 |
| 科目 (付与の例外) | 「(+)」と入力して、"営業北西" および "営業北東" 組織のすべての科目への編集アクセス権を付与します。 |
| 製品 (付与の例外) | 「スカーフ」と入力して、マネージャに対してモデル内で "スカーフ" が表示されないように制限します。 |

4. シートを保存します。
5. Adaptive Planning > 管理 > アクセス ルールに戻ります。
6. ツールバーで "インポート" をクリックします。
7. "更新と追加" を選択します。
8. 雲アイコンをクリックして、コンピュータ フォルダから "新しいアクセス ルール" スプレッドシートをアップロードします。
9. "完了" をクリックします。

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定 ( 1490ページ )

例: 店舗マネージャ向けアクセスの設定

権限セットとアクセス ルールを使用して、店舗マネージャに共通のアクセスを設定します。

このタスクについて

店舗マネージャは、北東地域で冬物衣料を販売する店舗を管理しています。店舗マネージャは、以下の操作を行う必要があります。

- メイン メニューからシートを編集する。
- レポートおよびダッシュボードを表示する。
- 北東地域の組織に関してのみ収益、在庫、および給与の詳細を編集する
- 担当するストアで販売される冬物製品のみを編集する

モデルには以下が含まれます。

| 組織 | 総勘定元帳科目 | 従業員モデル シート | 製品のカスタム属性 |
|---|---|---|---|
| 本社<br>• G&A<br>  • 財務<br>  • 人事 | 経費<br>• 給与 (従業員モデル シートにリンク)<br>• 在庫 | このシートの情報:<br>• 各社員の業務内容に基づいて給与を計算します。 | T シャツ<br>タンクトップ<br>セーター<br>ジャケット |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 組織 | 総勘定元帳科目 | 従業員モデル シート | 製品のカスタム属性 |
|---|---|---|---|
| • 営業部門<br>  • 営業北東<br>  • 営業北西<br>  • 営業南東<br>  • 営業南西 | 収益<br>  • 数量<br>  • 割引率 (%) | • このシートの "給与" 科目は、総勘定元帳の "給与" 科目にリンクされています。<br>• このシートの "給与の詳細" 設定は、オンに設定されています。つまりこの設定の場合、このシートを開くには "給与の詳細" 権限が必要です。 | 帽子<br>手袋<br>スカーフ (プランニング目的のみの見込み製品) |

始める前に

- 例: アクセス ルールのための属性の保護
- "新しいアクセス ルール" という名前のスプレッドシートにアクセス ルールを保存します。管理者、CEO、財務アナリスト、営業部門 VP、地域マネージャ向けのアクセス ルールはすでに作成済みです。
- セキュリティ:
  - "ユーザー" 権限
  - "権限セット" 権限

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "権限セット" をクリックします。
3. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 権限セット名 | 「データ入力」と入力します。 |
| 使用するテンプレートの設定 | "閲覧のみ" を選択します。 |
| 編集可能なシート アクセス | ボックスをクリックします。 |

   この権限セットにより、ユーザーはシート内のデータを編集したり、他のユーザーが共有したレポートやダッシュボードを表示したりできるようになります。
4. "送信" をクリックします。
5. ブレッドクラムを使用して "管理" を選択します。
6. "ユーザー" をクリックします。
7. "新しいユーザー" をクリックします。
8. 以下を考慮して、フォームを完成させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | 「店舗」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「store@company.com」と入力します。 |
| パスワードおよびパスワードを再入力 | 任意の値を入力します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 権限セット | "データ入力" を選択します。 |

9. "送信" をクリックします。
10. コンピュータ フォルダから、"新しいアクセス ルール" スプレッドシートを開きます。
11. 以下を考慮して、最初の空白行の列を完成させます。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| アクセス タイプ | 「編集」と入力します。 |
| ユーザー名 | 「store@company.com」と入力します。 |
| 組織 (付与) | 「営業北東」と入力して、この特定の組織へのアクセス権のみを付与します。 |
| 科目 (付与) | 「従業員」と入力して、"営業北東" 組織の "従業員" シートのすべての科目への編集アクセス権を付与します。<br>下のセルに「在庫」と入力して、"営業北東" 組織の "在庫" 科目への編集アクセス権を付与します。<br>"在庫" の下のセルに「収益」と入力して、"営業北東" 組織の "収益" への編集アクセス権を付与します。 |
| 製品 (付与) | "従業員" と同じ行のセルに「セーター」と入力します。<br>"セーター" の下のセルに「ジャケット」と入力します。<br>"ジャケット" の下のセルに「帽子」と入力します。<br>"帽子"　の下のセルに「手袋」と入力します。<br>これらの入力により、同じルールにリストされた科目と組織でのみこれらの製品への編集アクセス権が付与されます。 |

| Access Type | Username | Group Name | Level (Grant) | Level (Grant All Except) | Account (Grant) | Accou All Ex |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Full View | ceo@company.com | | (+) | | | Perso |
| Edit | fin.analyst@company.com | | Finance | | (+) | |
| Full View | fin.analyst@company.com | | (+) | | | Perso |
| Edit | vpsales@company.com | | Sales | | (+) | |
| Limited View | vpsales@company.com | | (+) | | (+) | |
| Edit | regional@company.com | | Sales Northeast | | (+) | |
| | | | Sales Northwest | | | |
| Edit | storemanager@company.com | | Sales Northeast | | Personnel | |
| | | | | | Inventory | |
| | | | | | Revenue | |
| | | | | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

12. シートを保存します。
13. Adaptive Planning > 管理 > アクセス ルールに戻ります。
14. ツールバーで "インポート" をクリックします。
15. "更新と追加" を選択します。
16. 雲アイコンをクリックして、コンピュータから "新しいアクセス ルール" スプレッドシートをアップロードします。
17. "完了" をクリックします。

relatedlinks
例
ステップの例: 6 人のユーザー向けアクセスの設定（1490ページ）

機密データ
ステップ: 機密データの保護

給与の詳細設定とは、総勘定元帳とカスタム科目設定、モデル シート プロパティ、および共有スナップショット レポートにあるアクセス制御です。この設定は "給与詳細へのアクセス" ユーザー権限で機能します。この権限によって、特権のあるユーザーのみが、個人情報、給与、住所などの機密データまたは個人データの詳細を表示または編集できるようになります。この権限によって、モデル シートのルックアップ値を編集することもできます。

科目で保護されている詳細は分割です。科目設定は、ユーザーが科目の分割を展開し、すべての組織割当シート、レポート、およびグラフのセル エクスプローラーの分割にリンクすることを阻止します。この設定は総勘定元帳およびカスタム科目にのみあります。モデル科目の場合、設定は読み取り専用であり、モデル シート プロパティによって異なります。

ユーザー割当および組織割当のモデル シートでは、このプロパティにより、ユーザーがシートを表示することが阻止され、シート内のすべてのモデル科目の科目設定が自動的にアクティブになります。"給与詳細へのアクセス" 権限のないユーザーはシートを開けませんが、レポート、グラフ、科目数式、リンクされた科目などを介して科目にアクセスする多くの方法があります。この記事に記載されているベスト プラクティスを使用し、違反を回避してください。

共有スナップショット レポートでは、プロパティにより、ユーザーが共有レポートを表示することを阻止します。

給与詳細の仕組み

一般に、 Adaptive Planning モデルは、給与科目などの機密データを次の 2 つの方法のいずれかで処理します。

- 標準シート分割: 給与科目は標準シート上にあります。給与科目に分割を追加して、個々の給与を入力します。これらの分割は、給与科目の合計に含まれます。給与詳細科目設定を使用して科目を保護します。
- 従業員モデル シート: モデル シートの行には、従業員ごとに給与を計算する機密データが含まれています。モデル シートでは、すべての行が分割されます。給与詳細シートのプロパティを使用してシート全体を保護します。

給与詳細設定によって保護されない内容

- レポートとグラフを作成する権限を持つすべてのユーザーが、保護された総勘定元帳、カスタム、およびモデル科目を使用できます。
- 保護された科目を持つシート、グラフ、またはレポートにアクセスできるユーザーは、保護された科目の合計値を表示し、アクセスできる組織にドリルできます。

前提条件

必要な権限については、この記事の各セクションを参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ナビゲーション

ナビゲーションについては、この記事の各セクションを参照してください。

機密データを保護するための基本的な手順

1. "給与詳細へのアクセス" 権限を持つ特権的な権限セットを作成します。機密情報を表示できるユーザーにこの権限セットを割り当てます。
2. "給与の詳細を含む" 設定を使用して科目を保護します。
3. 給与詳細プロパティを使用してモデル シートを保護します。
4. ベスト プラクティスを使用して、モデル シートの詳細を保護します。
5. 共有レポート設定を使用して、特権ユーザーとのみスナップショットを共有します。

特権的権限セットの作成

給与詳細設定が意味を持つのは、権限セットを選択するために "給与詳細へのアクセス" 権限を制限する場合のみです。

必要な権限: "管理アクセス" > "権限セット" および "管理アクセス" > "ユーザー"

ナビゲーション メニューから "管理" >"権限セット"を選択します。

権限セットを作成するには、以下の手順に従います。

1. "新しい権限セット" ボタンを選択します。既存の権限セットを編集することもできます。
2. "給与の詳細" や "特権的データ" などの "権限セット名" を入力します。
3. "給与詳細へのアクセス" 権限を検索して選択します。
4. この権限セットを持つユーザーがシート、レポート、グラフを表示および編集できるようにする他の権限を追加します。
5. "送信" を選択します。

ユーザーに権限を割り当てるには:

1. 権限セットのリストから、新しい権限セットの横の "割当" リンクを選択します。
2. "選択可能なユーザー" リストから選択して、権限セットの "選択済のユーザー" リストに追加します。
3. "送信" を選択します。

総勘定元帳およびカスタム科目分割の保護

給与科目が総勘定元帳またはカスタム科目である場合、科目設定で "給与の詳細を含む" チェックボックスをオンにします。

"給与の詳細を含む" 科目設定がオンである場合、"給与詳細へのアクセス" 権限のないユーザーは、シート、レポート、グラフ内の科目合計のみを表示できます。時間と組織をドリルできますが、属性や分割はドリルできません。ユーザーが関連値と分割をドリルまたは検索するには、この権限を持つ必要があります。

科目設定の有効化

必要な権限: "モデル管理アクセス" > "モデル"

ナビゲーション メニューから "モデリング"を選択します。

1. "総勘定元帳科目" または "カスタム科目" を選択します。給与科目はいずれかにある可能性があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 科目リストから給与科目を選択します。
3. 右側の設定で "データ プライバシー" セクションを見つけて、"給与の詳細を含む" ラジオ ボタンを選択します。
4. "保存" を選択します。

### 科目のベスト プラクティス

キューブ科目: キューブ科目またはキューブ シートを保護することはできません。機密科目は、データを保護できるように、総勘定元帳科目、カスタム科目、またはモデル科目である必要があります。

リンク元科目: 科目をリンクする場合、"給与の詳細を含む" 設定は読み取り専用で、ソース科目によって異なります。保護されたモデル シートでモデル科目にリンクする場合、設定がアクティブになります。保護されているシートに含まれていないキューブ科目またはモデル科目にリンクする場合、設定はオフです。

科目数式: 科目数式または共有数式で保護された科目を使用する場合、科目の詳細を保護するために "給与の詳細を含む" 設定は必要ありません。オフのままにしておくと、権限のないユーザーが、保護された科目に到達するまで、リンクされた科目のデータを探索できます。

## モデル シートの保護

インスタンスが従業員モデル シートを使用している場合、給与詳細シート プロパティを有効にします。

これにより、"給与詳細へのアクセス" 権限を持つユーザーのみがシートを開くことができます。権限のないユーザーは、シートを表示できません。

### シート設定の有効化

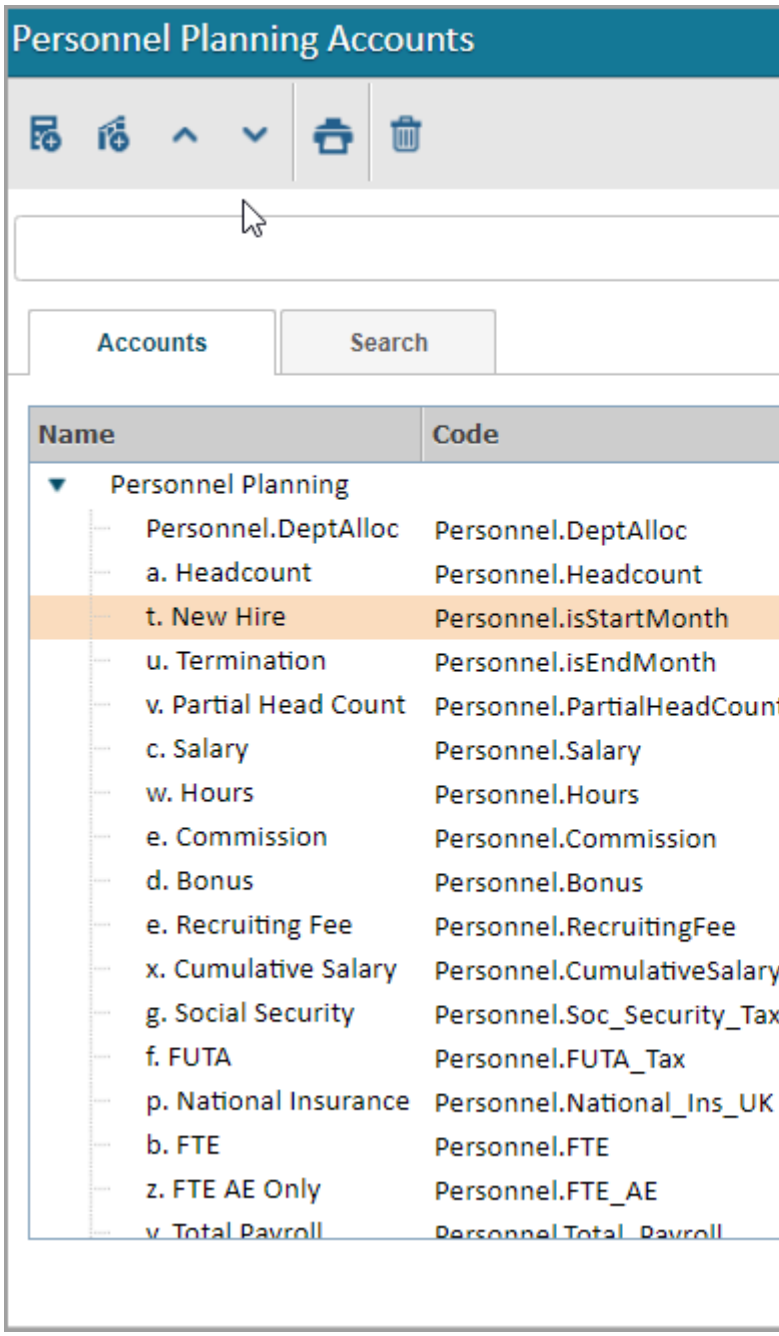
必要な権限: "モデル管理アクセス" > "モデル" および "給与詳細へのアクセス"

ナビゲーション メニューから "モデリング"を選択します。

1. "組織割当シート" または "ユーザー割当シート" を選択します。
2. シート リストから、従業員シートの名前の横の "編集" リンクを選択します。
3. "列と組織" を選択します。
4. ツールバーで "シートのプロパティ" 選択します。
5. "セキュリティ" タブを選択し、"このシートまたはその行を表示するには、給与詳細の権限が必要です" チェックボックスをオンにします。
6. シートを保存します。

すべての科目の "給与の詳細を含む" 設定がアクティブになり、読み取り専用になりました。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




レポートおよびグラフ内の科目を使用するか、その他の科目をモデル科目にリンクする場合、権限を持つユーザーのみがデータを検索できます。権限のないユーザーは、合計のみを表示できます。

ユーザーに直接割り当てられたユーザー割当シートであっても、すべてのユーザーにシートを開く権限が必要です。

### 属性およびモデル科目を使用したベスト プラクティス

保護されたモデル シートに注意深くカスタム属性を追加します。

"給与詳細へのアクセス" 権限を持たないユーザーは、シート、レポート、グラフ内の保護されたモデ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ル科目のデータを探索できます。これらのユーザーは、時間と組織を通じてのみ検索できます。詳細であると見なされる、属性の抽出を表示することはできません。

ただし、レポートでは、誰でもカスタム属性をレポートにドラッグできます。これにより、保護されたモデル科目のデータが属性ごとに抽出され、場合によっては保護するデータを公開できます。

例: 従業員シート内の地域の属性を使用すると、ユーザーは各従業員に地域をタグ付けできます。レポートでは、属性により、地域ごとに給与科目が抽出されます。この場合、機密データが公開されることはありません。

従業員シートの従業員名または従業員の役職の属性を使用すると、シート内のユーザーは各行に名前または役職をタグ付けできます。レポートでは、属性により、給与科目が名前別に抽出され、個人の給与が役職別に公開されるか、グループまたは個人の給与が公開されます。

ヒント : 保護されたモデル シートでは、従業員名、役職などの機密データにカスタム属性を使用しないでください。データ入力列を使用して、データ保護を維持します。

## スナップショット レポートの保護

スナップショット レポートを使用すると、自分と同じ表示形式のレポートを異なるアクセス制御を持つ他のユーザーと共有できます。これにより、機密データが表示されてしまう可能性があります。給与詳細スナップショット設定を使用すると、権限を持つユーザーのみがレポートを開くことができるようスナップショットを保護できます。

### 保護されたスナップショットの共有

必要な権限: "レポートへのアクセス" > "共有レポートの作成"

ナビゲーション メニューから "レポート"を選択します。

1. 新しい共有レポートを作成して保存するか、スナップショットする既存の共有レポートを開きます。
2. ツールバーで "スナップショットを作成"を選択します。
3. スナップショット レポートの詳細を指定し、"作成と共有"をクリックします。
4. "詳細設定" をクリックし、"このファイルを使用できるのは、給与の詳細を閲覧できるユーザーのみ" を選択します。
5. "OK" をクリックします。

権限を持つユーザーのみがレポート共有フォルダでスナップショットを見つけることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

概念: 機密データ

これらの方法を任意に組み合わせて、機密データを保護できます。機密データの例としては、給与の詳細、社会保障番号、社員の住所などがあります。

- 給与の詳細の権限と設定
- アクセス ルール
- ユーザー割当シート

ヒント : 方法を組み合わせることで、最高の保護効果が得られます。期待通りの効果が得られるように、常に結果を確認してください。サポートが必要な時は、お問い合わせください。

この記事の例は、社員のデータが含まれた従業員モデル シートです。このシートには、社会保障番号や住所などの機密情報も含まれています。また、給与明細などの慎重な取扱いが必要な科目データも計算されます。給与科目は、シートの総勘定元帳科目にフィードされ、経費として報告されます。

- HR マネージャはシート上のすべてを知る必要があります。
- 販売部門の VP は、販売部門の給与の合計経費を知る必要があります。VP は、各社員の給与額を知る必要はありません。
- 在庫マネージャは給与情報を確認する必要はありません。

ユーザー割当シート

| | |
|---|---|
| | ユーザー割当シートでは、そのシートに割り当てられたユーザーのみがシートにアクセスできます。<br><br>この方法では、シートに集められた情報のみを保護できます。情報には、社会保障番号と住所が含まれています。この方法では、この情報によって生成された科目データは保護されません。他のシート、レポート、グラフに表示される給与明細は、他の人も見ることができます。 |
| 方法 | 1. 自分の個人シートとして、ユーザー割当シートを作成します。<br>2. シートに HR マネージャを割り当てます。シートに他のユーザーを割り当ててはいけません。<br>3. 機密データを含む列を行キーとして使用しないでください。 |
| 結果 | • HR マネージャはシートとその全データにアクセスできます。<br>• VP および在庫マネージャ:<br>  • シートを開くことができません。<br>  • 社員の社会保障番号と住所を閲覧できません。<br>  • 自分の承認組織でレポート、グラフ、その他シートの給与科目を閲覧できません。<br>  • 給与科目詳細を検索して、自分の承認組織の各社員の給与を確認できます。<br>  • 数式で給与科目を参照できます。 |
| 始める前に | 概念: シートの作成（1027ページ）<br><br>キューブ シートおよびモデル シートへのユーザーの割り当て（1021ページ） |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 給与の詳細の権限と設定

| | |
|---|---|
| | 給与の詳細設定とは、総勘定元帳とカスタム科目設定、モデル シート プロパティ、および共有スナップショット レポートにあるアクセス制御です。この設定は "給与詳細へのアクセス" ユーザー権限で機能します。<br><br>この方法は、機密情報と慎重な取扱いが必要な科目詳細の両方を保護します。同時に、この方法では、他のユーザーは給与の総費用のみにアクセスできます。"給与詳細へのアクセス" 権限により、モデル シートのルックアップ値を編集することもできます。 |
| 方法 | 1. モデル シートに給与の詳細設定のタグを付けます。これにより、全モデル シート科目に給与の詳細設定をタグ付けします。<br>2. 科目を使用するスナップショット レポートに給与の詳細の設定をタグ付けします。<br>3. ”給与詳細へのアクセス” 権限は HR マネージャのみに付与します。 |
| 結果 | • HR マネージャ:<br>  • モデル シートを開くことができます。<br>  • モデルからすべての科目と詳細を閲覧および参照できます。<br>  • モデル シートのルックアップ値を編集できます。<br>• VP および在庫マネージャ:<br>  • シートやタグ付けされたスナップショット レポートを開くことができません。<br>  • 社員の社会保障番号と住所を閲覧できません。<br>  • 社員の給与は、給与科目詳細の検索から確認することはできません。<br>  • 自分の承認組織では、レポート、グラフ、その他シートの給与科目のみを表示できます。<br>  • レポートを実行し、承認組織の給与科目の合計のみを参照できます。 |
| 始める前に | ステップ: 機密データの保護 |

### アクセス ルール

| | |
|---|---|
| | アクセス ルールでは、ユーザーまたはグループが編集または表示できるデータの特定の交差部分を定義します。<br><br>この方法では、ユーザーごとに保護レベルが異なります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 方法 | 1. HR マネージャの編集アクセス ルールを作成します。全組織でのモデル シート名を付与します。<br>2. VP の全表示アクセス ルールを作成します。営業部門でモデル シートの給与科目を付与します。<br>3. VP の制限表示アクセス ルールを作成します。全組織でのモデル シート名を付与します。<br>4. 在庫担当マネージャのルールを作成します。ルールにモデル シートは含めません。 |
| 結果 | • HR マネージャは全シートを開いて、全科目詳細を編集できます。<br>• VP:<br>  • モデル シート全体を閲覧できます。<br>  • 給与科目を検索して、営業部門組織の社員給与を閲覧できます。<br>  • 他のすべての組織の給与科目の合計のみを閲覧できます。<br>  • 営業部門組織の社員給与と他のすべての組織の合計を表示するレポートやグラフを実行できます。<br>• 在庫マネージャがモデル シートを開いたり、数式やレポート、グラフで科目を表示または使用したりすることはできません。 |
| 始める前に | 概念: アクセス ルール |

その他の保護形式

- バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）.
- 組織所有権

全体の仕組みを確認するには、 概念: セキュリティ構造から着手してください。

ユーザー グループの作成

前提条件

必要な権限: "管理アクセス" > "グローバル ユーザー グループの管理"

コンテキスト

ユーザー グループ 情報の共有、タスクの割り当て、アクセス権の割り当てが可能になります。 ユーザー グループでは、次のことができます。

- ダッシュボード エリアの共有 参照 エリアの共有（302ページ）。
- レポートを共有する。 受信者は、レポートへのリンクが含まれた通知を受け取ります。参照 レポートの共有（164ページ）。
- プロセス タスクを割り当てます。タスクを完了しなければならない任意またはすべてのメンバーを指定できます。参照 プロセスとプロセス タスクの作成（505ページ）。
- バージョンへグループ アクセスを割り当てます。参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。
- アクセス ルールをグループに割り当てたり更新したりします。アクセス ルールにグループを使用すると、新しいユーザーをグループに追加することによって新しいユーザーにアクセスを割り当てることもできます。概念: アクセス ルール および アクセス ルールの作成を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

既存のグループを変更するには、グループ名の横にある鉛筆アイコンをクリックします。グループを削除するには X アイコンをクリックします。ユーザー グループを変更または削除する前に、そのグループがプロセス タスクに割り当てられていないこと、またはアクセス ルールで使用されていないことを確認します。

ステップ

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "グローバル ユーザー グループ"をクリックします。
3. "新しいグループ"をクリックします。
4. "ユーザー グループ名"には、グループの名前を入力します。
5. タブをクリックしてグループにユーザーを追加します。
    - 選択可能なグループ: 既存のユーザー グループをハイライトし、前方の矢印をクリックして、グループ内の全ユーザーを新しいグループに追加します。追加したグループが更新されると、新しいグループが自動的に更新されます。

      注： この方法でユーザー グループをネストすると、モデルのパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。
    - 選択可能なユーザー: 個々のユーザーをハイライト表示し、前方の矢印をクリックすると新しいグループに追加されます。
    - 選択可能な組織: 組織をハイライト表示し、前方の矢印をクリックして、すべての組織承認者をグループに追加します。

      注： アクセス ルールにグループを使用する場合、この方法でグループにユーザーを追加することはお勧めしません。これは、ユーザーがグループのアクセス ルールに自動的に追加されないためです。
6. "OK" をクリックします。

外部ユーザー グループ

importGroups API を使用して外部ユーザー グループをインポートした場合、"グローバル ユーザー グループを管理" ページでインポートしたグループを表示できます。外部ユーザー グループは読み取り専用です。外部ユーザー グループのメンバーシップは、ソース システムでのみ編集できます。これらの外部ユーザー グループに対する最新の変更を Adaptive Planning に反映するには、importGroups API を使用します。

外部ユーザー グループの特徴は、以下のとおりです。

- 組織や他のグループではなく、個々のユーザーで構成されます。
- 必ずしも一意ではないグループ名が表示されます。
- userName、userGUID、Workday ID (wid) などの一意の ID を持つユーザーを含みます。

外部ユーザー グループは、以下の目的で使用します。

- アクセス ルールの定義
- バージョンのアクセス制御の付与
- ターゲットを絞った通知
- グループ ベースのプロセス タスクの割り当て
- レポートおよびダッシュボードの共有

relatedlinks
参考
importGroups（2343ページ）

ユーザーおよび権限セットのエクスポート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### ユーザーと特性のエクスポート

ユーザー リストを Excel ファイルにエクスポートし、ローカル コンピュータにダウンロードすることができます。このファイルには、すべてのアクティブなユーザーとその属性 (権限など) がリストされます。

1. "管理" に移動して "ユーザー" を選択します。
2. ページの下部で "ユーザー リストをエクスポート" を選択します。

### 権限セットをエクスポート

ユーザー権限を Excel ファイルにエクスポートして、ローカル コンピュータにダウンロードできます。これにより、アクティブな各権限セットのすべての権限がリストされます。

1. "管理" に移動して "権限セット" を選択します。
2. ページの最後で "ユーザー権限をエクスポート" を選択します。。
3. スプレッドシートで、権限セット名別に並べ替えてセットのすべての権限を表示するか、権限別に並べ替えて同じ権限セットに属するすべての権限を表示します。

## 関連付け
## 関連付けをインポート

### 始める前に

- 関連付けするユーザー名、組織、カスタム属性値、および関連する特性のリストを用意します。これらのリストをエクスポートして手元に置くことができます。
- セキュリティ:
  - "管理アクセス" > "ユーザー" 権限
  - "すべての組織" が選択された "組織構造" 権限
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

### このタスクについて

関連付けは、組織、カスタム属性、または関連する特性をユーザーに結びつけます。次に、関連付けコードを使って、ユーザーやグループ用のアクセス ルールを作成できます。アクセス ルールに関連付けを使用した場合、ルールの代わりに関連付けを更新することで、ユーザー アクセスを更新できます。

組織所有権は、ユーザーを組織に結びつけるタイプのユーザー関連付けです。通常の組織関連付けと異なり、組織所有権には他の権限も付属します。

親組織、親属性値、または親特性との関連付けにより、ユーザーは親のすべての子孫に自動的に関連付けられます。子組織、特性値、または属性値の関連付けを作成する必要はありません。インポートで、重複している関連付けや、既存の関連付けにすでに含まれている関連付けは無視されます。

例: ユーザー jdoe@company.com に対して本社組織への関連付けが存在します。"営業" 組織について "jdoe@company.com" の新しい組織の関連付けを追加します。売上は本社にロールアップされます。"本社" の既存の関連付けにはすでに "営業" が含まれているため、この関連付けは無視されます。

組織所有権の関連付けを作成する際、以下を実行する必要があります。

- "コード" フィールドは空白のままにします。
- 関連付けられた属性の "組織" を入力します。

組織、特性、またはカスタム属性の関連付けを作成する場合、コードを指定する必要があります。

注 : テンプレートおよびエクスポートされたスプレッドシート内の「属性」という用語は、一般的に組織、カスタム属性、特性を指します。

関連付けをインポートする場合、空白のテンプレートから作業するか、既存の関連付けをダウンロードして更新することができます。

関連付けを作成する他の方法については、以下を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- Planning 関連付けローダの作成 ( 1770ページ ) .
- updateAssociations ( 2405ページ ) .

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "関連付け" をクリックします。
3. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| インポート | 空白のテンプレートで変更を加えられるように、"テンプレートのダウンロード" リンクが表示されます。手順は、テンプレートの最初のタブに表示されます。 |
| エクスポート | 既存の関連付けをダウンロードして、変更や追加を行うことができます。 |

4. ダウンロードしたスプレッドシートを開きます。
   空白のテンプレートの場合、 関連付け シートを開きます。
5. 次を参考にして、スプレッドシートの列を完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| コード | • この列は組織所有権用として空白のままにします。<br>• 組織、特性、カスタム属性関連付けに対する一意のコードを入力します。コードには数字、文字、スペース、および記号を含めることができます。 |
| 関連付けられた属性 | 以下を入力します。<br>• 組織の関連付けおよび組織所有権のための組織<br>• カスタム属性関連付けのためのカスタム属性名。<br>• 特性関連付けの特性名。 |
| 関連付け名 | 以下を入力します。<br>• 組織所有権の関連付けのための組織所有権<br>• 組織、特性、およびカスタム属性関連付けのすべての名前。<br>関連付け 名に 、コードのない実際の組織所有権の関連付け以外の "組織所有権" を使用しないでください。 |
| 属性値のコード | 「1」と入力します。<br>• 組織コード<br>• 組織特性値のコード<br>• カスタム属性値のコード<br>• 属性特性値のコード<br>親コードを入力すると、関連付けに子が常に含まれます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー名 | 値コードに関連付けられた最初のユーザーを入力します。<br>他のすべてのユーザーを各行に 1 つずつ入力し、前の列は空白のままにします。以下の例を参照してください。 |

6. 最後のユーザー名の後の行の、"属性値コード" 列に次の値コードを入力します。
7. その属性値コードに関連付けられたすべてのユーザーが、各行に 1 つずつ一覧表示されます。
8. 新しいルールを開始するには、以前のルールにリストされた最後のユーザーの後に "コード"を入力します。
9. スプレッドシートを保存します。
10. "管理">"関連付け"に戻ります。
11. ツールバーで "インポート" をクリックします。
12. ラジオ ボタンを選択します。このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 置換 | 各コードの既存の関連付けすべてを削除して置き換えます。 |
| 更新と追加 | 既存の関連付けを変更し、新しい関連付けを追加します。 |

13. 保存したファイルを四角形にドラッグ アンド ドロップするか、四角形の任意の場所をクリックして保存したファイルを選択します。
14. 成功メッセージが表示されたら "完了" を クリックします。
15. インポートに失敗した場合は、次のようになります。
    a. エラー メッセージの下の "レポートのダウンロード" リンクをクリックします。
    b. ファイルを開いて、"エラー" シートを開きます。エラーがある行は黄色です。エラーが発生したセルにエラー メッセージが赤いテキストで表示されます。
    c. エラーが発生したセルを選択して、メッセージをすべて読みます。
    d. "インポート " シートを開き、対応するルールを見つけます。このルールは "エラー" シートでエラーがある行と同じ行にあります。
    e. エラーを修正し、ファイルを保存します。
    f. もう一度インポートしてみてください。

例

LManager は、組織マネージャと呼ばれる組織の関連付けのコードです。 jsmith と janedoe は "営業" 組織に関連付けられています。janedoe の場合は、最初の 4 列が空白であることに注意してください。janedoe は LManagers の 販売 関連付けの一部です。本社組織値の場合は、最初の 3 列が空白であることに注意してください。本社は LManager 関連付けの一部のままです。PManager は次の関連付けルールです。

| コード | 関連付けられた属性 | 関連付け名 | 属性値のコード | ユーザー名 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| LManager | 組織 | 組織マネージャ | 営業部門 | jsmith@company.com<br>janedoe@company.com |
| | | | 本社 | CEO@company.com<br>HR@company.com |
| | | | G&A | Marketing@company.com |
| PManager | 製品 | 製品マネージャ | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

relatedlinks
概念
概念: 関連付け（1518ページ）
タスク
関連付けの削除（1517ページ）

関連付けの削除

始める前に

- セキュリティ:
  - "ユーザー" 権限
  - "すべての組織" が選択された "組織構造" 権限
  - "モデル - シート、科目、属性、数式を含む" 権限

このタスクについて

関連付け全体を削除するか、関連付けからユーザーを削除できます。ユーザーを削除するには、関連付けをエクスポートし、Excel の検索機能を使用して関連付けからユーザー名を検索して削除します。次に、インポートに " 更新と追加" オプションを使用します。

すべてのユーザーの関連付け全体を削除するには、ここにある手順に従ってください。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "関連付け" をクリックします。
3. ツールバーで "インポート" をクリックします。
4. "テンプレートのダウンロード" をクリックします。
5. 関連付けテンプレートから、"関連付け" タブを開きます。
6. 削除する関連付けに対して、次の値を指定します。
   - コード
   - 属性
   - 関連付け名
   - 他のすべての列は空白のままにすることができます。
7. Adaptive Planning で "関連付け"に戻ります。
8. ツールバーで "インポート" をクリックします。
9. "削除" オプションを選択します。
10. 更新したファイルを添付します。

relatedlinks
概念
概念: 関連付け（1518ページ）

関連付けにおける組織承認者の確認

始める前に

セキュリティ: "ユーザー" 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

このタスクについて

組織承認者は、Adaptive Planning で特別な権限を有します。組織の承認者は、"管理" の "関連付け" 領域で確認できます。任意のユーザーのユーザー プロファイルに移動して、そのユーザーがどの組織を所有しているかを確認することもできます。

ユーザーおよび組織が多い場合は、関連付けをエクスポートして組織承認者を確認できます。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "関連付け" をクリックします。
3. "コード" を持たない関連付けで、"詳細を表示" をクリックします。
4. 次のいずれかをクリックしてタスクを実施します。
    - ユーザー名別に表示: ユーザーが所有するすべての親組織を表示します。ユーザーは、所有する親組織のすべての子孫組織を所有します。
    - 組織別に表示: 各組織のすべての承認者を表示します。

次のタスク

組織所有権を変更します。参照 関連付けをインポート（1514ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 組織所有権（1519ページ）

概念: 関連付け

関連付けは、組織、カスタム属性、または関連する特性をユーザーに結びつけます。次に、関連付けコードを使って、ユーザーやグループ用のアクセス ルールを作成できます。アクセス ルールに関連付けを使用した場合、ルールの代わりに関連付けを更新することで、ユーザー アクセスを更新できます。

組織所有権は、ユーザーを組織に結びつけるタイプのユーザー関連付けです。通常の組織関連付けと異なり、組織所有権には他の権限も付属します。

関連付けのユース ケース

- 組織ベースのセキュリティとの関連付け。関連付けは、全組織承認者を表示する単一インターフェイスを提供します。組織所有権は一括更新できます。
- アクセス ルール セキュリティとの関連付け。関連付けは、動的アクセス ルールを作成するためのショートカットを提供します。アクセス ルール テンプレートの対応する属性の "付与" 列にコードを入力します。
- 同期した Workday ユーザーとアクセス ルールとの関連付け。関連付けでは、Workday ロールと Adaptive Planning のユーザーを適合させます。Planning 関連付けローダは、カスタム レポートから関連付けを作成します。それから、各ロールに対して作成された関連付けコードを使って、アクセス ルールを作成できます。

関連付けの作成

下記を使って関連付けコードを作成します。

- 関連付けインポート テンプレート関連付けをインポートを参照してください。
- Planning 関連付けローダ参照 Planning 関連付けローダの作成（1770ページ）
- API: を参照してください。 updateAssociations（2405ページ）。

コードをインポートすると、ユーザーが組織、特性、またはカスタム属性に接続されます。コードは各値に対して指定されている全ユーザー間の関連付けを維持します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

関連付けページ

- 各行は関連付けです。
- 各インスタンスには、既存の組織承認者に基づいた組織所有権が関連付けられています。組織所有権の関連付けにはコードがありません。

ツールバーで以下をクリックできます。

- ツールバーからインポートして テンプレートをダウンロードし、更新済みのテンプレートをインポートします。
- ツールバーからエクスポートして 、既存の関連付けをダウンロードします。

行から "詳細の表示" を クリックすると、関連付けにより作成されたすべてのコネクションが表示されます。

- "ユーザー名別に表示 " タブでは、ユーザーが 1 列に表示されます。次の列には、関連付けがユーザーと接続するすべての組織、特性、または属性がリストされます。
- "組織/属性値別に表示" タブには、各組織、属性、または特性と、その値に関連付けられた全ユーザーが表示されます。

relatedlinks
概念
関連付けをインポート ( 1514ページ )
概念: 動的アクセス ルール ( 1457ページ )
概念: 組織所有権 ( 1519ページ )
概念: 関連付けと Workday ロール
タスク
ユーザー同期後に関連付けをロード

概念: 組織所有権

組織所有権とは、関連付けのタイプの 1 つです。これにより、モデル全体でユーザーに特別な権限が付与されます。組織アクセス セキュリティを使用する場合は、組織所有権によってデータへのアクセスも制御されます。

組織所有権は、"管理" の "関連付け" または "ユーザー" 領域で管理できます。組織所有権は、組織階層の上から下方向に継承されます。親組織を所有するユーザーは、その子組織、各子組織の子というように所有します。

特別な権限

組織承認者には、セキュリティ設定に関係なく、所有する組織に対する特別な権限があります。組織承認者として、以下のことが可能です。

- ワークフローの組織を承認する。
- 組織の承認権を他のユーザーに割り当てる。
- 所有する組織の仕訳入力を作成して表示する。
- モデリング メニューから承認組織を管理する。
- "共有レポート" フォルダにおいて組織共有レポートを受信する。
- 連結を使用している場合は、承認組織の "内部取引消去" の借方と貸方をレビューする。

データへのアクセス

インスタンスが組織ベースのセキュリティを使用している場合、データへのアクセスを制御する方法は組織所有権によって決まります。特別な権限に加えて、適切なセキュリティ権限があれば、以下を実行できます。

- 1 つ以上の組織のデータを所有している場合にデータにアクセスする。
- 所有する組織に割り当てられた組織割当シートを開く。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 組織のデータをグラフやレポートで表示する。

以下の場合、組織所有権がなくても組織を表示できます。

- "組織構造" > "すべての組織" 権限を持っている場合、 組織の階層から組織の設定を変更できます。シートおよびレポートの組織に関連するデータは表示できません。
- ユーザー割当シートに組織が含まれている場合、組織内のデータの入力および編集ができます。
- 組織の列を持つモデル シートを変更し、行を分割します。セルにあるドロップダウン プロンプトから任意の組織を選択し、データを入力または変更できます。
- フォーミュラ アシスタントを使用するか、"すべての組織 で公開" プライバシー設定を持つ科目のセルを探索します。所有していない組織を組織のドロップダウン プロンプトから選択し、任意の組織でその科目を参照し、組織のソース データを詳しく調べることができます。
- データ デザイナーの権限を持っている場合、インテグレーション内のすべての組織を表示できます。
- その組織を含む共有レポートまたは共有グローバル レポートのスナップショットを表示します。

アクセス ルールに対する組織所有権の使用

チルダを使って、承認組織でアクセス ルールを定義できます。その後、この動的ルールで多数のユーザーにアクセスを付与できます。例: ユーザー グループのために、全承認組織にアクセスを付与するルールを作成できます。グループ内の各ユーザーは、それぞれの全承認組織へのアクセス権を取得します。ユーザーの承認組織を変更する場合、ルールはユーザーの現在の承認組織を動的に適用するため、ルールを変更する必要はありません。

relatedlinks
概念
概念: 関連付け ( 1518ページ )
関連付けをインポート ( 1514ページ )
関連付けにおける組織承認者の確認 ( 1517ページ )
概念: 動的アクセス ルール ( 1457ページ )
ステップ: アクセス ルール セキュリティの設定 ( 1397ページ )
ステップ: 組織ベースのセキュリティの設定 ( 1400ページ )
タスク
ユーザーの作成 ( 1520ページ )

ユーザーの管理
ユーザーの作成

始める前に

- ユーザーを作成する前に、まず権限セットを作成するか、インスタンスの各権限セットに対する権限を十分理解します。参照 参考: 利用可能な権限 ( 1409ページ )。
- セキュリティ:
    - "管理アクセス" > "ユーザー" 権限
    - "モデル管理アクセス" > "組織構造 " 権限
    - "管理アクセス" > "権限セット " 権限

このタスクについて

ユーザーを作成すると、会社がライセンス契約で購入した使用可能なシートの 1 つを埋めることになります。ユーザーを削除すると、将来の新しいユーザーがシートを再び使用できるようになります。

すべてのユーザーに権限セットを割り当てる必要があります。権限が設定されていないと、ユーザーはサインインできません。権限は、ユーザーが持っているシートのタイプ、およびインスタンスで何ができるかを定義します。例: シート、モデリング、またはその両方にアクセスできますか ?

各ユーザーが有効な E メール アドレスに関連付けられることで、以下の操作ができるようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- サインイン ページの "パスワードを忘れた場合 " リンクを使用してパスワードをリセットする。
- サポート リクエストを送信し、回答を受け取る。
- Adaptive Planning 内のレポートを E メールで送信する。

すべてのユーザーが自分のプロファイルを更新し、パスワードを変更できます。Adaptive Planning のプロファイル、ホーム ページ、E メール グループの変更を参照してください。

アクセス ルールを使用する場合、ユーザーにアクセス ルールを割り当てるか、既にアクセス ルールが定義されているグループにユーザーを追加する必要があります。そうしないと、ユーザーは Adaptive Planning のデータにアクセスできません。概念: アクセス ルールを参照してください。

Workday からユーザーを同期する場合、Workday 内でユーザーを管理する必要があります。Adaptive Planning では、同期されたユーザーの権限セットと承認組織のみを編集できます。その他のユーザー詳細はすべて読み取り専用です。ユーザーの同期が開始される前に管理者がユーザー プロファイルの編集を開始し、ログアウトしない場合、そのユーザー プロファイルは管理者がログアウトするまで編集可能のままになります。ステップ: 同期されたユーザーの Adaptive Planning への SAML SSO の設定を 参照してください。

統合アクセス管理 (UAM) を設定している場合は、Workday から権限の割当を管理できます。UAM では、Adaptive Planning でユーザーに権限を割り当てる機能が無効になっています。また、UAM では、permissionSets API は無関係になります。ステップ: 統合アクセス管理 (UAM) の設定 および 概念: 統合アクセス管理 (UAM) を参照してください。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "ユーザーと権限" メニューから "ユーザー" を選択します。
3. "新規追加" をクリックします。
4. 新しいユーザーの詳細を入力します。このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー名 | 代替の E メール アドレスを入力するか、ユーザーの E メールにユーザー名を設定してください。 |
| 権限セット | Adaptive Planning へのアクセス権を付与する権限セットをユーザーに割り当て、認証情報をアクティブ化します。 |
| 承認組織 | 検索フィールドに組織名を入力するか、組織リストを展開して折り畳みます。 Adaptive Planning でユーザーに表示されるようにする組織の横にあるチェックボックスをオンにします。<br>• 折り畳んだ組織を選択すると、その内部のすべてのサブ組織を含めることができます。<br>• さらに正確に選択するために、折り畳んだ組織を展開します。<br>子組織を持つ組織を選択すると、ユーザーはその組織とそのすべての子組織にアクセスできるようになります。 |

5. "保存" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のタスク
ユーザーを作成した後、"ユーザー リスト" ページからユーザーを管理できます。ユーザーの編集、E メール送信、または削除を行うには、"アクション" メニュー (縦の 3 点ドットで表示) を使用します。
relatedlinks
概念
概念: ユーザーの削除について（1524ページ）
タスク
権限セットの作成（1404ページ）
参考
参考: ユーザー フィールドの追加（1524ページ）

## ユーザーのパスワードのリセットまたはロック解除

### 始める前に

セキュリティ:"管理アクセス" > "ユーザー"

### このタスクについて

次の場合に、ユーザーのパスワードをリセットできます。

- パスワードを忘れた場合。
- 退職する。

作成したパスワードでユーザーがサインインすると、パスワードの変更を促すプロンプトが表示される場合があります。パスワード要件の設定を参照してください。

ユーザーが 24 時間以内に 10 回サインインに失敗すると、アカウントがロックされます。"許容試行回数" のデフォルト設定は変更できます。パスワード要件の設定を参照してください。"ユーザー リスト" からロックされたアカウントを表示できます。

パスワードは、"一般設定" ページで定義したパスワード要件に準拠している必要があります。

### 手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "ユーザーと権限" メニューから "ユーザー" を選択します。
3. (任意) パスワードをリセットするには、次のようにします。
    a) リスト内のユーザーを探します。
    b) カーソルを行に合わせると、" アクション メニュー" (縦の 3 点ドット) が表示されます。
    c) メニューから "編集" オプションを選択します。
    d) "認証情報" セクションまでスクロールし、"新しいパスワード" と "新しいパスワードの確認" フィールドにパスワードを入力します。
4. (任意) パスワードのロックを解除するには、以下の手順に従います。
    a) リスト内のロックされたパスワードを持つユーザーを検索します。
    "ログイン状態" 列にユーザーの "ロック済" の 値が表示されます。
    b) ユーザーの "アクション" メニュー (縦の 3 点ドット) をクリックし、"編集" オプションを選択します。
    c) "認証情報 " セクションで "状態" フィールドから "ロック解除"を選択します。
5. "保存" をクリックします。

### タスクの結果

### 例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

次のタスク

パスワード要件の設定

始める前に

セキュリティ:"管理アクセス"

このタスクについて

新しいパスワード要件は、既存のユーザーが次にパスワードを変更する必要がある場合にのみ適用されます。 ユーザーにパスワードの変更を要求するために、以下のフィールドを一時的に調整できます。

- パスワードの有効期間
- 有効期限切れの警告

例: 5 日を指定した場合、ユーザーはその期間だけパスワードを変更できます。サインイン時にそうするように求められます。指定した時間が完了したら、設定を延長できます。

重要 : 常に最新のパスワード管理慣行を調査および使用してください。

手順

1. メイン メニューから "管理" を選択します。
2. システム メニューから "一般設定" を選択します。
3. "パスワードの管理" セクションのフィールドに入力します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 最小文字数 | 8 以上を入力してください。 |
| 数字 | パスワードに少なくとも 1 つの数字の使用を要求する場合は、1 以上を入力します。 |
| 大文字と小文字の混在を必須とする | パスワードに対して大文字と小文字の両方を使用する場合に選択します。 |
| パスワードの有効期間 | 少なくとも 90 日または 3 か月と入力します。 |
| 許容試行回数 | 4 ~ 10 の数字を入力してください。次に、右側のフィールドに最大 1440 分 (24 時間) を入力します。24 時間以内にユーザーが 10 回サインインしようとすると、アカウントはロックされます。オプションを設定すると、"管理" のユーザー インターフェイスにこの列が表示されます。 |
| 使用済パスワードの再利用を禁止 - 過去 | 最大 10 件まで選択してください。 |
| ユーザーは初回ログイン時にパスワードを変更する必要がある | ユーザーにパスワードの変更を要求する場合に選択します。 |

4. "保存" をクリックします。
   すべてのフィールドの説明については、 を参照してください。 参考: 一般設定 ( 1390ページ )。

タスクの結果

例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のタスク

概念: ユーザーの削除について

社員が以下の場合、Adaptive Planning からユーザーを削除できます。

- 退職する。
- 社内で Adaptive Planning を使用していない別の組織に異動する。

参照 ユーザーの作成（1520ページ）。

ユーザーを削除する前に、これらのユーザーとしてサインインし、作成した個人のレポート、エリア、ダッシュボードを共有フォルダに移動します。以下のアイテムは、ユーザーを削除した後も残ることに注意してください。

- ユーザーに関連付けられた変更履歴。
- ユーザーが作成したセルとシートのメモ
- ユーザーが作成した共有レポート。

管理ユーザーは、ユーザーを作成し、パスワードを変更できます。そのため、これらのユーザーが退職した場合、次の操作ができます。

- それらをユーザーとして削除します。
- セキュリティの追加ステップとして、すべてのエンド ユーザーのパスワードを変更します。

ユーザーを削除しても次のものは削除されません。

- 入力されたデータ。
- 作成した共有レポート。
- 作成した変更履歴。
- アクション ログ。例: インポート履歴、ユーザー アクティビティ ログイン履歴。

作成した個人的なレポートはすべて削除されます。

重要： ユーザーが複数のインスタンスにアクセスできる場合、それぞれから削除する必要があります。

relatedlinks
参考
参考: レポートのコンテキスト メニュー オプション（171ページ）
例
エリアの共有（302ページ）

参考: ユーザー フィールドの追加

段階的な手順:

- 管理については、 ユーザーの作成を参照してください。
- ユーザーについては、 プロファイル、ホーム ページ、E メール グループの変更を参照してください。

Workday から同期されたユーザーは、Workday 内でのみ詳細を編集できます。

| フィールド | 説明 | 管理に対してのみ使用可能 |
|---|---|---|
| 名前 | ユーザーのフルネーム。この名前は、"ユーザー" リスト ページの "名前" の下に表示されます。 | いいえ |
| 役職 | ユーザーの役職名またはポジション | いいえ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| フィールド | 説明 | 管理に対してのみ使用可能 |
| --- | --- | --- |
| タイムゾーン、国、州 | ユーザーに関する場所情報。タイム スタンプには、ユーザーに対してここで選択したタイム ゾーンが使用されます。 | いいえ |
| 承認組織 | ユーザーがアクセスできる組織子組織を持つ組織を選択した場合、ユーザーは親組織とそのすべての子組織にアクセスできます。<br>アクセス ルールがない場合、ユーザーが のデータにアクセスできるようにするには、このフィールドが必要です。 Adaptive Planning<br>ユーザーが組織を承認する場合、その下のすべてのサブ組織も承認されます。組織を展開すれば、より正確に操作できます。ユーザーが組織を承認する場合、シートおよびレポート内の組織データにアクセスできます。<br>注 : アクセス ルールが有効になっている場合、承認組織の機能が異なります。 | はい |
| ユーザー名 | "ユーザー名" には、ユーザーの会社の E メール アドレスを使用して、簡単に思い出せて連絡しやすいようにします。<br>1 文字目にハイフンやマイナス記号 (-) を使用しないでください。 | はい |
| ユーザー名を E メールとして使用 | このオプションは、次の場合に選択します。<br>• ユーザー名は E メール アドレスです。<br>• ユーザーの E メールがユーザー名と同じ。<br>代替 E メールは指定できません。 | いいえ |
| E メール | ユーザー名とは異なる。代替 E メールを指定できます。"ユーザー リスト" ページからユーザーに E メールを送信するには、またはユーザーをユーザー グループに追加するには、プロファイルを E メール アドレスにリンクする必要があります。 | いいえ |
| SAML フェデレーション ID | 設定 ユーザーの SAML 識別情報。<br>注 : このフィールドは、次の場合にのみ表示されます。 SAML オプションは "SAML SSO 設定" ページで有効に設定されています。 | はい |
| "新しいパスワード" および "新しいパスワードの確認" | Adaptive Planning にログインするためのユーザー パスワード。パスワード要件は "管理">"一般設定"で設定します。<br>SAML が有効になっている場合、ユーザーがこのパスワードを使用することはありません。 | いいえ |
| 権限セット | ユーザーに割り当てられた権限セット<br>プロファイルを保存するために、このフィールドは必須ではありませんが、ユーザーが にサインインできるためには必須です。 Adaptive Planning | はい |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 | 管理に対してのみ使用可能 |
| --- | --- | --- |
| | このフィールドを表示するには、"管理アクセス" > "権限セット" が必要です。 | |
| ホーム ページ | ユーザーが最初にログインしたときに表示されるアプリケーション ページです。この値は、ユーザーがプロファイル設定から変更することができます。<br><br>インスタンスで "ダッシュボード" がオンになっている場合、"ダッシュボード" をユーザーのホーム ページとして設定できます。また、特定のエリアやダッシュボードをランディング ページとして選択することも可能です。エリアは共有エリアでなければなりません。<br><br>エリアのみを選択し、"ダッシュボード" フィールドを空白にした場合、ユーザー ホーム ページにはそのエリアの最初のダッシュボードが表示されます。<br><br>ユーザーが選択した特定のダッシュボードやエリアへのアクセス権を持っていない場合は、"ダッシュボードの概要" ページに表示されます。 | いいえ |
| インスタント アクセス | ユーザーがアクセスできるすべてのインスタンスを選択します。現在のインスタンスに合計するインスタンスのみを選択します。ベスト プラクティスとして、上位の "親" インスタンスにログインして、その下のすべてのインスタンスを表示します。<br><br>注 : このフィールドは、マルチインスタンスのみに表示されます。 | はい |
| デフォルト インスタンス | ログイン時にユーザーがアクセスするデフォルトのインスタンスです。<br><br>注 : このフィールドは、マルチインスタンスのみに表示されます。 | いいえ |
| 失敗した試行回数 | ユーザーが誤ったパスワードでログインしようとした回数を示します。<br><br>このフィールドが表示されるのは、"許容試行回数 " が定義されている場合のみです。 | はい |
| 状態 | "最終ログイン" の右側に表示され、以下を示します。<br><br>• 特定のユーザーについて失敗したサインイン試行の回数<br>• アプリケーションによってユーザーがロックアウトされているかどうか。<br><br>"ログイン状態" フィールドは、指定された試行回数の失敗後にユーザーをロックアウトするようにインスタンスを設定した場合にのみ表示されます。 | はい |
| Salesforce ユーザー名 | 設定 ユーザーの Salesforce ログイン ID<br><br>注 : このフィールドは次の場合にのみ表示されます: Salesforce SSO インスタンス | はい |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 | 管理に対してのみ使用可能 |
|---|---|---|
| NetSuite ログイン E メール | 設定 ユーザーの NetSuite ログイン ID<br>注 : このフィールドは次の場合にのみ表示されます。 NetSuite SSO は "一般設定" で有効になっています。 | はい |

relatedlinks
タスク
ユーザーのパスワードのリセットまたはロック解除 ( 1522ページ )
ユーザーの作成 ( 1520ページ )

## マルチインスタンス

### マルチインスタンスの設定

以下はマルチインスタンス機能の設定と使用についての概要です。

1. クライアントは Account Executive に連絡し、追加のインスタンスを購入し、新規または既存のインスタンスを接続します。新科目部門がクライアントから依頼されたインスタンスを作成し、依頼された通りの階層にそのインスタンスを連結し、クライアントにアクセス権を付与します。
2. 管理者がデータをリンクしてリフレッシュするユーザーのアクセス権を設定します。管理者は親インスタンスに存在するユーザーに子インスタンスへのアクセスを割り当てます。このリンクが確立されたら、共有ユーザーが子インスタンスから親インスタンスへデータをリフレッシュするため、子インスタンスの管理者は共有ユーザーにアクセス権を付与する必要があります。
3. 管理者は親インスタンスの中に、 1 つまたは複数のリンク組織を作成します。
4. 親 (ターゲット) インスタンスのリンク組織に、特定の情報を取り入れるために、管理者は子 (ソース) インスタンスと親 (ターゲット) インスタンスの科目、属性、属性値の間にマッピングを確立します。
5. リンク組織をリフレッシュするアクセス権を持っているユーザーは、リンク組織が該当する子 (ソース) インスタンスの最新データを反映するよう更新できます。リンク組織をリフレッシュするユーザーは、子 (ソース) インスタンスのどのバージョンを親インスタンスの特定バージョンに引き入れるか選択できます。

### ソースからターゲット インスタンスへの科目のマッピング

ソース インスタンスから現在の (ターゲット) インスタンスに科目をマッピングできます。

- ソース科目: この列には、リンク元サブインスタンスの科目 (総勘定元帳、カスタム、メトリック、モデル、キューブ、前提条件) がすべて表示されます。
- ターゲット科目: この列には、現在の (ターゲット) インスタンスの総勘定元帳科目およびカスタム科目がすべて表示されます。

ソース科目とターゲット科目のコードが一致したら、"自動マッピング" ボタンをクリックして、マッピングされていない科目のマッピングをシステムに作成させます。総勘定元帳科目およびその他の科目のコードは、インスタンスごとに異なります。リンクされている 2 つのインスタンスで科目コードが異なる場合は、手動でマッピングを設定できます。

ソース科目とターゲット科目の間でマッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. マッピングするソース科目を見つけてクリックし、選択します。検索ボックスを使うと、リスト内でソース科目をすばやく見つけられます。
2. この画面の "マッピング詳細" セクションで、ターゲット科目を見つけてクリックし、選択します。検索ボックスを使うと、リスト内で科目をすばやく見つけられます。複数のソース科目を単一のターゲット科目にマッピングすることができます。
3. ターゲット科目を見つけたら、"適用" をクリックして、次に "保存" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

注 : "印刷対応ビュー" ボタンをクリックすると、Excel™ スプレッドシートとして科目マッピングのエクスポートをこの画面に表示することができます。

ソース インスタンスからターゲット インスタンスへの属性値のマッピング

この画面では、ソース インスタンスからターゲット インスタンスに属性値をマッピングできます。このようなマッピングは、作成場所である各リンク組織に関連付けられており、他のリンク組織のマッピングや他のインポートまたはエクスポート マッピングの影響を受けません。参照 概念: 組織 ( 855ページ ) 。

マッピング テーブルには 2 つの列があります。

- ソース属性値: この列には、リンク元子インスタンスで選択された属性の属性値がすべて表示されます。
- ターゲット属性値: この列には、現在のインスタンス (親インスタンス) で選択された属性の属性値がすべて表示されます。

ソースおよびターゲット属性値の名前が一致したら "自動マッピング" ボタンをクリックして、マッピングされていない属性値のマッピングをシステムに生成させます。リンクされている 2 つのインスタンスで属性値が異なる場合は、手動でマッピングを設定できます。ソース属性値とターゲット属性値の間でマッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. マッピングするソース属性値を見つけてクリックし、選択します。検索ボックスを使うと、リスト内でソース属性名をすばやく見つけられます。
2. この画面の "マッピング詳細" セクションで対応するターゲット属性値を見つけてクリックし、選択します。検索ボックスを使うと、リスト内で属性値名をすばやく見つけられます。単一のターゲット属性値に対して複数のソース属性値をマッピングできます。
3. ターゲット属性値を見つけて選択したら、"保存" をクリックします。

注 : "印刷対応ビュー" ボタンをクリックすると、Excel ファイルとしてこの画面に属性値マッピングのエクスポートを表示できます。

ソース インスタンスからターゲット インスタンスへの属性のマッピング

この画面では、ソース インスタンスから現在の (ターゲット) インスタンスに属性をマッピングできます。

- ソース属性 - この列には、リンク元サブインスタンスの属性がすべて表示されます。
- ターゲット属性 - この列には、現在の (ターゲット) インスタンスの属性がすべて表示されます。

ソース属性とターゲット属性の間でマッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. マッピングするソース属性を見つけてクリックし、選択します。検索ボックスを使うと、リスト内でソース属性名をすばやく見つけられます。
2. この画面の "マッピング詳細" セクションで、ターゲット属性を見つけてクリックし、選択します。検索ボックスを使うと、リスト内で属性名をすばやく見つけられます。各ターゲット属性は、単一のソース属性にのみマッピングできます。ターゲット属性がすでにマッピングされている場合は、"マッピング詳細" セクションで無効として表示されます。特定のソース属性に対して複数のマッピングを作成できます。ソース属性をクリックした後、Ctrl を押しながらクリックすると、複数のターゲット属性を選択することができます。
3. ターゲット属性を見つけて選択したら、"保存" をクリックします。
4. ソース属性とターゲット属性の間でリンクを確立すると、"Dimension Value Mapping for ..." リンクが "マッピング詳細" セクションに表示されます。これらのリンクをクリックすると、属性値マッピングを確立できます。

注 : "印刷対応ビュー" ボタンをクリックすると、Excel ファイルとしてこの画面に属性マッピングのエクスポートを表示できます。

マルチインスタンスのリンク組織の作成

マルチインスタンスの設定を完了したら、子インスタンスの最上位組織を親インスタンスのいずれかの組織にリンクできます。親インスタンスの組織管理ページでは、次の操作ができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- リンク組織を作成して、いずれかの子インスタンスの最上位組織にリンクします。
- リンク組織の内容をリフレッシュして最新のデータを取り込みます。

例: 親インスタンスには以下が含まれます。

- HQ (最上位組織)
- A 社
- B 社

A 社を表す子インスタンスには以下が含まれます。

- HQ (会社 A の最上位組織)
- エンジニアリング組織
- 営業組織

親インスタンスの "会社 A" をリンク組織にすることで、以下を行うことができます。

- 子インスタンスのすべての組織から得られたすべてのデータをロールアップします。
- 親インスタンスの "A 社" のリンク組織のデータを保存します。

参照 概念: 組織（855ページ）。

新しいリンク組織を作成するには、以下を実行します。

1. リンク組織を作成する予定の親インスタンスにログインします。
2. "モデリング" > "モデル管理" に移動して、"組織" をクリックします。
3. リンク組織のロールアップ先の組織を選択します。
4. "新しいリンク組織" をクリックします。
5. 組織詳細エリアの中に新しい組織の詳細を明記します。 参照 参考: 組織の設定（857ページ）。
6. "リンク先 " フィールドで、リンク組織のどのインスタンスからデータを取得するかを指定します。
7. "保存" を クリックします。

注： また、"組織構造のインポート" を使用して、リンク組織を作成できます。参照 組織のインポートおよびエクスポート（851ページ）。

relatedlinks
タスク
ステップ: 組織の作成（846ページ）

親インスタンスでデータをリフレッシュして子インスタンスと同期

前提条件

- リフレッシュするバージョンのロックを解除します。参照 バージョンのアクセス制御を使用したバージョンのロック、アーカイブ、または非表示（816ページ）。
- セキュリティ:"リンク組織をリフレッシュ " 権限

コンテキスト

注： Adaptive Planning ではリンク組織機能を引き続き使用できます。ただし、インテグレーション設定と計画データ ソースの方がパフォーマンスが向上し、より多くの設計シナリオで機能します。 参照 概念: インテグレーション（1607ページ）。

親インスタンスでデータをリフレッシュして、子インスタンスのデータと同期させることができます。

- リフレッシュは各バージョンで別個に実行できます。
- 組織は個別でも全体でもリフレッシュできます。
- 計画バージョンのリフレッシュには追加の手順があります。

リフレッシュ時には通貨換算は行われません。リンク元計画内の通貨が、子インスタンス内の社用通貨に合致することを確認します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

"組織のリフレッシュ" ページの列は 1 つの組織をリフレッシュするか、すべてをリフレッシュするかで異なります。表示される可能性のある列は次のとおりです。

- バージョン名: この列には、現在の ( 親 ) インスタンスのターゲット バージョンが列記されます。ロック済バージョンとアーカイブ済バージョンがリストに表示されますが、"リフレッシュ" ボタンがないのでリフレッシュできません。
- デフォルト: この列のチェックマークは、バージョンがインスタンスのデフォルト バージョンであることを示します。
- 最終リフレッシュ: このバージョンで最後にリフレッシュを実行したユーザーの名前と、最終リフレッシュの日時。
- ソース バージョン: 最後のリフレッシュ中にデータが引き出されたリンク元インスタンスのバージョン。ターゲット バージョンがソース バージョンからリフレッシュされていない場合、この列は空白になります。
- リフレッシュ: この列の "リフレッシュ" ボタンをクリックするとダイアログが表示され、子インスタンスからソース バージョンを選択できます。その後、親インスタンスで、選択した行のバージョンをリフレッシュできます。

ステップ: 実績バージョンの組織のリフレッシュ

1. "モデリング" > "モデル管理" に移動して、"組織" をクリックします。
2. リストを展開して、リフレッシュする組織を選択します。
3. その他のアクション" の矢印をクリックして、次を選択します。
   - "リンク組織をリフレッシュ" を選択し、選択した組織をリフレッシュします。
   - すべての組織のリフレッシュ" を選択し、すべてのリンク組織をリフレッシュします。
4. バージョンのリストから、リフレッシュするバージョンの横の "リフレッシュ" をクリックします。これにより、選択したバージョンの組織が更新されます。

ステップ: 計画バージョンの組織のリフレッシュ

1. "モデリング" > "モデル管理" に移動して、"組織" をクリックします。
2. リストを展開して、リフレッシュする組織を選択します。
3. その他のアクション" の矢印をクリックして、次を選択します。
   - "リンク組織をリフレッシュ" を選択し、選択した組織をリフレッシュします。
   - すべての組織のリフレッシュ" を選択し、すべてのリンク組織をリフレッシュします。
4. バージョンのリストから、リフレッシュするバージョンの横の "リフレッシュ" をクリックします。
5. "ソース バージョン" ドロップダウンから、同期するバージョンを選択します。
6. (任意) "実績にインポート" ドロップダウンから、リフレッシュする実績バージョンを選択します。
7. "リフレッシュ" をクリックします。

概念: マルチインスタンス

Adaptive Planning は、ホストされたシステムの 複数のインスタンス をまとめて接続する機能を提供します。マルチインスタンスを使用すると、インスタンス間でデータをシームレスにコピーできます。さらに、ユーザーは一度に複数のインスタンスにアクセスして、インスタンス間を容易に移動できます。異なるインスタンスの場合でも、 Adaptive Planning このソリューションを使用すると、(連結など) の機能をリンクできます。

この機能は次を含む、様々な状況で役立ちます。

- 複合企業の連結
- 根本的に違う会社のプロセスのモデリング

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 合弁と合併
- セールス プランニング、マーケティング プランニングなど機能グループのプランニング
- 詳細な what-if プランニングのサンドボックスの設定
- 金融関係外のメトリック/データの収集と報告
- 投資ポートフォリオの管理
- 親会社にロールアップされるまでの子会社の科目グラフまたは会計年度の保持

### 要件

マルチインスタンス設定のすべてのインスタンスが、同じデータ センターでホストされる必要があります。 Adaptive Planning データ センターは、米国、英国、アジア太平洋、カナダにあります。

### 定義・専門用語

- インスタンス: 会社またはモデルと呼ばれることもあり、インスタンスは実在物を定義する構造的コンポーネントの集まりです。インスタンスは科目、組織構造、バージョン、属性、特性、シート、権限、会計年度、インテグレーションなどが各 1 セットで構成されています。
- インスタンス ツリー: 階層またはツリー内でインスタンスをリンクさせるマルチインスタンス機能です。インスタンス ツリーには、あらゆる組織の階層で任意の数のインスタンスを格納できます。
- リンク組織: リンク組織は、子 (ソース) インスタンスの最上位組織のデータを部分的またはすべて継承する親 (ターゲット) インスタンスの組織です。

### マルチインスタンス ユーザー

の複数のインスタンスにアクセスできるユーザー Adaptive Planning の最上部に示された名前の右側にある特別な「インスタンス セレクター」を参照してください。 Adaptive Planning。このセレクターから、のいずれかのインスタンスに移行できます。 Adaptive Planning にアクセスできます。アクセス権限のある各インスタンスで異なる権限セットや組織アクセス権を持つようにユーザーを設定できます。マルチインスタンス システムの管理者は、"ユーザーを編集" ページでコントロールにアクセスできます。これを使ってユーザーの各インスタンスへのアクセス権限の割り当てや、デフォルト インスタンス (ユーザーが最初にログインした際に表示されるインスタンス) の定義ができます。

### マルチインスタンス データの転送

インスタンス間でデータを転送するには、"インテグレーション設定" で Planning データ ソースを作成してインスタンスをリンクします。Planning データ ソース:

- ローダを使用してデータをロードし、インスタンス間でデータを引き出します。 これらのローダは、アドホックで実行することも、タスクでスケジュールして実行することもできます。
- リンク組織と比較した場合、パフォーマンスが向上し、使用上の制限が軽減されます。

参照 ステップ: Planning データ ソースの設定 ( 1668ページ )

### マルチインスタンスの使用

の複数のインスタンスを接続する機能 Adaptive Planning 製品によって、 Adaptive Planning ソリューションにより、多くの複雑な状況をシンプルかつ容易にモデリングできます。

- 財務情報を連結親会社にロールアップする子会社は、別個の科目グラフ、予算サイクル、会計年度、ユーザーおよび権限セットを使い、完全に自律したかたちでロールアップを実施できます。
- 企業は異なる形式の計画を実行して結果を容易に組み合わせることができます。たとえば、バージョン、ユーザー、組織の異なる別個のセールス プランニング インスタンスでも、その販売予測結果を主要予算インスタンスにロールアップできます。
- 異なるモデルの構築を試すことができるサンドボックス インスタンスの作成が、以前より簡単になりました。生産とサンドボックス インスタンス双方への同時アクセス権限を、1 人または複数のユーザーに与えられるようになったためです。異なるシステムへの口グインや、異なる資格情報を使用する必要はありません。インスタンス セレクターから表示したいインスタンスを選択するだけで済みます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

注： この機能はアドオンとして使用できます。

概念: マルチインスタンスのデータ同期方法

1 つの組織のマルチインスタンスをリンクして、マルチインスタンスやドメインを設定できます。参照 概念: マルチインスタンス（1530ページ）。

マルチインスタンスの設定は、次のユースケースを満たします。

- 機能プランニング 組織では、ファイナンシャル プランニング用のインスタンスとは別に、機能プランニング用のインスタンスを用意したいと考えています。一般的な機能プランニングの要件には、下記が含まれます。
    - セールス プランニング
    - ワークフォース プランニング
    - マーケティング プランニング
- 部門組織プランニング 組織内の大規模な部門では、予算や計画のライフサイクルを各自で管理したいと考えています。プランを管理する人とプランにアクセスする人を部門が完全に制御できるようにすることで、部門はコントロールを維持できます。部門の計画は他の部門や法人プラン担当者と共有できます。

インスタンスにおけるデータとメタデータの同期

複数のインスタンスを設定することで、同じ組織内の違うプランニング ニーズに対応できます。通常、組織では違うインスタンス間のデータを同期したいと考えています。例: 子インスタンスで計算された部門別の経費を、企業組織のレポートのために親インスタンスにロールアップする必要がある場合があります。

インスタンス間で メタデータ を同期したい場合もあります。たとえば、すべてのインスタンスに同じ科目表を持たせたい場合があります。また、科目への変更をすべてのインスタンスで同期させたい場合もあります。メタデータの変更は、科目が管理されている親インスタンスからカスケード表示されます。階層内の残りのインスタンスは、これらの変更を取り込みます。

注： Adaptive Planning インスタンスが Workday に対応している場合、一括配布のアプローチを使用することはお勧めしません。自動切替では、Workday ID を正しく設定する際に問題が発生する可能性があります。

これらの方法を使って、マルチインスタンス構成を同期できます。

- リンク組織のリフレッシュ インスタンスがマルチインスタンス設定の一部である場合、子インスタンスから親インスタンスへのデータ同期を設定できます。子インスタンスの組織を親インスタンスの組織にリンクします。また、リンクされたインスタンスにデータが流れたときの属性値のマッピングも設定できます。 マルチインスタンスのリンク組織の作成 を参照してください。

  注： メタデータとデータの同期には、インテグレーション フレームワークを使用することをお勧めします。 リンク組織は、以下のような固有の状況にのみ使用します。

    - インテグレーション フレームワークを使用しない要件
    - 管理とセキュリティの責務が非常に厳密に分離されている。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- IntegrationFramework インテグレーション フレームワークにより、インスタンス間でデータとメタデータを転送できます。インテグレーションにより、Planning データ ソースを使用して、ソース Planning システムからステージングへの情報を取得できます。
    - 標準シート データ。
    - キューブ シート データ
    - モデル シート データ
    - 科目メタデータ
    - 組織メタデータ
    - 属性メタデータ
    - 特性メタデータ

    参照 ステップ: Planning データ ソースの設定（1668ページ）。

    ステージング エリアに入ってきたデータやメタデータは、ローダを使って現在のインスタンスにローディングできます。任意で、データやメタデータは、カスタム クラウド ローダを介して、別のインスタンスやサードパーティ製システムにもローディングできます。

    次を参照してください。

    概念: ローダ（1782ページ）

    カスタム クラウド ローダの作成（1724ページ）

    概念: インテグレーション（1607ページ）

リンクされたモデル シートのリフレッシュ **(セールス プランニングのみ)**

セールス プランニングがある場合、モデル シートの特定の条件を満たすと、インスタンス内モデル シート間でデータを移動できます。

マルチインスタンス同期方法の比較

このテーブルを使うと、マルチインスタンスの設定に応じたデータとメタデータの同期方法を理解できます。

| | リンク組織のリフレッシュ | インテグレーション フレームワーク | リンクされたモデル シート (セールス プランニングのみ) |
|---|---|---|---|
| 子から親インスタンスへのデータ同期 | はい | はい | いいえ |
| 親から子インスタンスへのデータ同期 | いいえ | 可 | いいえ |
| 兄弟インスタンス間のデータ同期 | いいえ | 可 | いいえ |
| モデル シート間のデータ同期 | いいえ | はい | 両方のインスタンスで一致する名前の列と属性値が必要です。<br>以下はサポートしていません。<br>• 組織の特性<br>• 属性特性<br>• 科目特性 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | リンク組織のリフレッシュ | インテグレーション フレームワーク | リンクされたモデル シート (セールス プランニングのみ) |
|---|---|---|---|
| | | | • 列のタイプ<br>  • テキスト セレクター<br>  • 初期の残高<br>  • モデル シート科目 (列を表示) |
| キューブ シート間のデータ同期 | いいえ | 可 | いいえ |
| 標準シート間のデータ同期 | はい | はい | いいえ |
| 同期中のデータ変換 | いいえ | 可 | いいえ |
| インスタンス間のメタデータ同期 | いいえ | 可 | いいえ |
| マルチインスタンスに必要なインテグレーション実装プロジェクト | いいえ | 可 | いいえ |
| (スケジュール化された) 自動同期 | いいえ | 可 | いいえ |

概念: マルチインスタンス ユーザー管理

インスタンスへのユーザーアクセスは "インスタンス アクセス" 中の "ユーザーを編集" 画面で管理者が決定します。

ユーザーが親インスタンスに追加され、親組織で子インスタンスへのアクセス権が付与されても、子インスタンスではそれと同じアクセス権は許可されません。子インスタンスでユーザーと権限セットへのアクセス権を持つ管理ユーザーは、ユーザーに子インスタンスでの権限セットと組織アクセス権を割り当てる必要があります。

子インスタンスで新しいユーザーを作成すると、親または兄弟インスタンスでユーザーを作成するアクセス権がなくなります。親インスタンスですでに存在するログインを持つユーザーを作成すると (E メール アドレス)、ユーザー アカウントはリンクされます。

現在のインスタンスからはユーザーを削除できません。1 つ以上のインスタンスにアクセス権のあるユーザーを削除しようとすると、警告メッセージが作成されます。

管理者以外のユーザーは、優先するデフォルトのインスタンスをプロファイル ページで選択できます。これはユーザーがログインする時に選択するインスタンスです。このオプションは、1 つ以上のインスタンスにアクセス権があるユーザーにのみ表示されます。

ヘッダーのユーザーとインスタンス名

表示されるインスタンスはナビゲーションの隣にあります。マルチインスタンスにアクセスできるユーザーにとって、インスタンス名がドロップダウン メニューと同じ役割を果たします。メニューを使用して、どのインスタンスを表示するかを選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

概念: マルチインスタンス シートの表示とセル エクスプローラー

マルチインスタンス シートのビューアー

リンク組織上では、シートは常に読み取り専用です。リンク組織がリフレッシュされると、最新の更新日時と、リフレッシュを行ったユーザーの名前が表示されます。

マルチインスタンスのセル エクスプローラー

セル エクスプローラーを使用し、サブインスタンスからリンク組織の数字を表示すると、結果は現在のリンク組織のマッピングを基に表示されます。セル エクスプローラーの詳細ペインのサブインスタンスから科目を絞ることで、セル エクスプローラーを使用してさらに検索できますが、これはユーザーにサブインスタンスの権限がないとできません。ユーザーがアクセス権を持っていない組織から情報を表示しようとすると、権限がない旨のメッセージが表示されます。

## SAML シングル サインオン

ステップ: **Okta** を使用した **SAML SSO** の設定

Okta のインスタンスから SAML SSO トークンを受け入れるように Adaptive Planning を設定します。Okta インスタンスは ID プロバイダで、Adaptive Planning はサービス プロバイダです。Okta を使用した Adaptive Planning で SAML SSO を設定するには、2 つのアプローチがあります。

- Okta で検証された Adaptive Planning アプリケーションを使用する。これは推奨されるアプローチです。
- Adaptive Planning に接続する Okta アプリケーションを作成します。 このアプローチは、標準の Adaptive Planning アプリケーションを使用して SAML SSO を設定できない場合に推奨されます。

設定には Okta と Adaptive Planning で完了する必要のあるステップが含まれているため、2 つのブラウザタブで両方のアプリケーションを並べて開いたままにしてください。

前提条件

- 管理権限のある Okta アカウント。
- 管理権限のある Adaptive Planning アカウント
- SAML がインスタンスでプロビジョニングされたことを示す Adaptive Planning からの確認 E メール

**Okta** によって検証された **Adaptive Planning** アプリケーションを使用

すべてが正しく設定されていれば、Okta により Adaptive Planning にリダイレクトされます。設定のテストが正常に完了したら、Adaptive Planning でユーザーの SAML SSO を有効にできます。ですべてのユーザーに対して SAML SSO を有効化を 参照してください。

1. Okta 管理にサインインし、"管理"をクリックします。
2. "Applications " タブをクリックします。
3. "App Catalog の参照" をクリックし、"Adaptive Insights" を検索します。検索結果から "Adaptive Insights SAML"を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. "インテグレーションの追加" をクリックし、次の詳細を入力します。
    a. アプリケーション ラベル デフォルト値は Adaptive Insights です。デフォルト値をアプリケーション ラベルとして設定することができます。
    b. Adaptive Planning SSO URLAdaptive Planning で " 管理 > SAML SSO 設定の > SSO URL"から URL をコピーして貼り付けます。
    c. NameID 形式デフォルト値の "未指定"のままにします。
    d. アプリケーションの表示設定:
        - ユーザーにアプリケーション アイコンを表示しません。このオプションはデフォルトでオフになっています。このオプションはビジネス要件に合わせて選択できます。
        - "Do not display application icon in the Okta Mobile App": このオプションはデフォルトでオフになっています。 このオプションはビジネス要件に合わせて選択できます。
5. "完了" をクリックします。

### Adaptive Planning で Okta を ID プロバイダとして設定

1. 前のセクションで Okta に追加したアプリケーションで "Sign On" タブをクリックします。
2. "SAML 設定手順の表示" をクリックします。
3. Okta からの SAML 2.0 リクエストを受け入れるように Adaptive Planning の設定を完了するには、"SAML 設定の手順の表示" ページの手順に従ってください。

### Okta から Adaptive Planning への SAML SSO のテスト

1. Okta で、"Okta で Adaptive Planning アプリケーションを追加"で追加したアプリケーションをクリックします。 .
2. "割当 " タブをクリックし、"ユーザー " タブを選択します。
3. "割当" をクリックし、"Assign to People"を選択します。
4. 自分およびアクセス権を必要とする他のユーザーにアプリケーションを割り当てます。
5. 管理者の認証情報で Adaptive Planning にサインインします。
6. "管理" > "ユーザーを編集" に移動して、アプリケーションへのアクセスを許可するユーザーを選択します。
7. アプリケーションへのアクセスが必要な他のユーザーに対しても、同じ操作を行います。
8. Okta で "My アプリ" をクリックします。
9. 作成したアプリケーションの名前が付いているアイコンを探し、クリックします。

### Adaptive Planning に接続する Okta アプリケーションを作成します。

1. Okta にサインインし、"管理"をクリックします。
2. "Applications " タブをクリックします。
3. 
4. "Create App Integration" をクリックし、"SAML 2.0"を選択します。 "次へ"をクリックします。
5. "アプリ名"にアプリケーションの名前を入力します。例: Adaptive Planning
6. "Do not display application icon to users" オプションは、デフォルトでオフになっています。ビジネス要件に合わせてオプションを選択できます。
7. "Do not display application icon in Okta Mobile app" オプションは、デフォルトでオフになっています。ビジネス要件に合わせてオプションを選択できます。
8. "次へ" をクリックします。
9. "Single sign-on URL"で、Adaptive Planning の SSO URL をコピーして貼り付けます。"管理 > " "SAML SSO 設定 > " SSO URLに移動します。
10. "Use this for Recipient URL and Destination URL" オプションはオンのままにします。
11. "Audience URI (SP Entity ID)" に、Adaptive Planning からコピーしたのと同じ SSO URL を入力します。
12. "Default Relay State" フィールドは空白のままにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

13."Name ID format"で "未指定"を選択します。
14."アプリケーション ユーザー名"で、"E メール"を選択します。
15."次へ" をクリックします。
16.内部アプリを追加している Okta カスタマーです。この設定を選択して、このアプリケーションがインスタンス外のユーザーに表示されないようにすることが重要です。詳細については Okta のドキュメントを参照してください。
17."完了" をクリックします。
18."SAML Signing Certificates" で "SHA-2" タイプの "アクション" をクリックし、"証明書のダウンロード"を選択します。 覚えやすい場所に証明書を保存します。

**Adaptive Planning で Okta を ID プロバイダとして設定**

Okta 内にアプリケーションを作成すると、Adaptive Planning の ID プロバイダとして Okta を設定できます。

1. 管理者権限を持つユーザーとして Adaptive Planning インスタンスにサインインします。
2. メイン メニューから "管理"を選択します。"Users and Permissions"で "SAML SSO Settings"をクリックします。
3. 次の SAML SSO の詳細を入力します。
    a. "ID プロバイダ名"に...
    b. "ID プロバイダのエンティティ ID" で、"ID プロバイダの発行元" の値をコピーして貼り付けます。 この情報を見つけるには、以前に作成したアプリケーションをクリックし、Okta の "Sign On" タブをクリックします。次に "SAML 設定の指示" をクリックします。

       この情報は Okta で確認できます。
    c. "ID プロバイダ SSO URL"で、"ID プロバイダ シングル サインオン URL" をコピーして貼り付けます。この URL を見つけるには、Okta の "Sign On" タブをクリックし、"SAML 設定の手順の表示" をクリックします。
    d. (任意)"カスタム ログアウト URL" に、Adaptive Planning アプリケーションでユーザーが "ログアウト" を クリックした場合に、ユーザーをリダイレクトする URL を入力します。
    e. "SAML ユーザー ID" として "User's Adaptive Planning ユーザー名" を選択します。
    f. "SAML ユーザー ID の場所"で、"件名の NameID のユーザー ID"を選択します。
    g. "SAML nameID 形式"で、Okta で設定したのと同じ名前 ID 形式を選択します。例: 未指定
    h. 特性のユーザー ID
    i. "証明書のダウンロード" をクリックします。
    j. "SAML の有効化" セクションで、 "SAML SSO および Adaptive Planning への直接ログインを許可"を選択します。
4. "保存" をクリックします。

設定のテスト

Okta から Adaptive Planning への SAML SSO サインインをテストできます。

1. Okta で、作成したアプリケーションをクリックします。
2. "割当" タブをクリックし、"ユーザー" をクリックします。
3. "割当" をクリックし、"Assign to People"を選択します。
4. 自分およびアクセスを必要とする他のユーザーにアプリケーションを割り当てます。
5. 管理者の認証情報で Adaptive Planning にサインインします。
6. メイン メニューから "管理"を選択します。"ユーザー と権限" に移動するには、"ユーザー"をクリックします。 アプリへのアクセス権を付与するユーザーの横にある "編集" をクリックします。
7. "SAML フェデレーション ID"に、Okta アカウントのユーザーの E メール アドレスを入力します。
8. "送信"をクリックします。
9. アプリケーションへのアクセスが必要な他のユーザーに対しても、同じ操作を行います。
10.Okta で "My Applications" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

11. 作成したアプリケーションの名前が付いているアイコンを探し、クリックします。すべてが正しく設定されていれば、Okta により Adaptive Planning にリダイレクトされます。

設定のテストが正常に完了したら、ユーザーの SAML SSO を有効にできます。参照 すべてのユーザーに対する SAML SSO の有効化（1550ページ）。

### Excel Interface for Planning および OfficeConnect への SSO

SAML SSO の設定およびテストが正常に完了すると、Excel Interface for Planning および OfficeConnect ユーザーは自分のユーザー名のみを使用してサインインできるようになります。パスワード フィールドは空白のままで構いません。

### ステップ: Microsoft Entra ID を使用した SAML SSO の設定

Microsoft (MS) Entra ID を設定して、ID プロバイダと Adaptive Planning 間の SAML ベースの SSO を有効にします。 概念: SAML SSOを参照してください。 この設定には両方のアプリケーションで完了する必要のあるステップが含まれているため、それらのステップは 2 つのブラウザ タブで並べて開いたままにしてください。

注： Microsoft (MS) Entra ID は、以前は Azure Active Directory (AD) として認識されていました。

#### MS エントラ ID の設定

1. MS Azure ポータルから、"Microsoft Entra ID"を選択します。
2. "Enterprise applications"を選択してから "New application" を選択します。
3. 検索ボックスで、「Adaptive」と入力します。検索結果から "Adaptive Insights"を選択します。 Adaptive Insights Enterprise Application の概要ページが表示されます。

#### Microsoft Entra ID Single Sign On (SSO) の設定

1. Adaptive Planning にサインインし、メイン メニューから "管理" を選択します。
2. "Users and Permissions"で "SAML SSO Settings"をクリックします。
3. ページの下部にある "SSO URL" セクションまでスクロールし、Adaptive Planning の SSO URL をコピーします。 後のステップで使用するためにこの URL を保存します。
4. Microsoft Entra ID で、Adaptive Insights Enterprise Application の概要ページから Single sign-onをクリックします。
5. シングル サインオン方法として "SAML" を選択します。"SAML の基本設定" の横で、"編集"をクリックします。
6. "Identifier (Entity ID)"で、"ID の追加" リンクをクリックし、前のステップで Adaptive Planning からコピーした Adaptive Planning SSO URL を貼り付けます。
7. "返信 URL (Assertion Consumer Service URL)" で、"返信 URL の追加 " リンクをクリックし、Adaptive Planning の SSO URL を再度貼り付けます。次に "保存"をクリックします。
8. "SAML 証明書 " セクションで "Certificate (Base64)" をクリックし、証明書をダウンロードしてコンピュータに保存します。
9. 後のステップで使用するために、"Adaptive Insights の設定 " セクションで以下の値をコピーします。
    - ログイン URL
    - Microsoft Entra ID

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

10. Adaptive Planning の "SAML SSO 設定" ページで、以下のフィールドに入力します。
    a. "ID プロバイダ名"に、設定の名前を入力します。
    b. "ID プロバイダ エンティティ ID"で、前のステップで MS エントラ ID からコピーした Microsoft Entra Identifier を貼り付けます。
    c. "ID プロバイダ SSO URL"に、前のステップで "MS Entra ID" からコピーした "ログイン URL" を貼り付けます。
    d. "ID プロバイダ証明書"の横で "ファイルの選択" をクリックし、前のステップで MS Entra ID からダウンロードした SAML 証明書をアップロードします。
    e. "SAML ユーザー ID"の横で、"ユーザーの Adaptive Planning ユーザー名"を選択します。
    f. "SAML ユーザー ID の場所"の隣で、"件名の NameID のユーザー ID"を選択します。"SAML NameID 形式" で "E メール アドレス"を選択します。
    g. "SAML の有効化" セクションで、"SAML SSO および Adaptive Planning への直接ログインを許可する"を選択します。
    h. "保存" をクリックします。

**MS エントラ ID テスト ユーザーの作成**

1. "MS Entra ID" の左側のナビゲーション ペインで、"ユーザー"をクリックします。
2. "ユーザー" ページで、"すべてのユーザー"をクリックします。次に、"新しいユーザー" > "新しいユーザーを作成"を選択します。
3. ユーザーのプリンシパル名と E メール アドレスを入力します。 後のステップで使用するために E メール アドレスをコピーします。
4. テスト ユーザーの表示名を入力します。
5. "パスワード"の横で、"クリップボードにコピー" を クリックして、後のステップで使用します。
6. "レビュー + 作成"をクリックします。

**Adaptive Planning テスト ユーザーの作成**

1. 管理者として Adaptive Planning にサインインします。
2. "管理"に移動します。
3. "ユーザー" をクリックします。
4. "新しいユーザー" をクリックします。
    a. プロビジョニングする有効な MS エントラ ID ユーザーの名前、ログイン、E メール、パスワードを入力します。
    b. 権限セットを選択します。
    c. "送信" をクリックします。

**MS エントラ ID テスト ユーザーの割当**

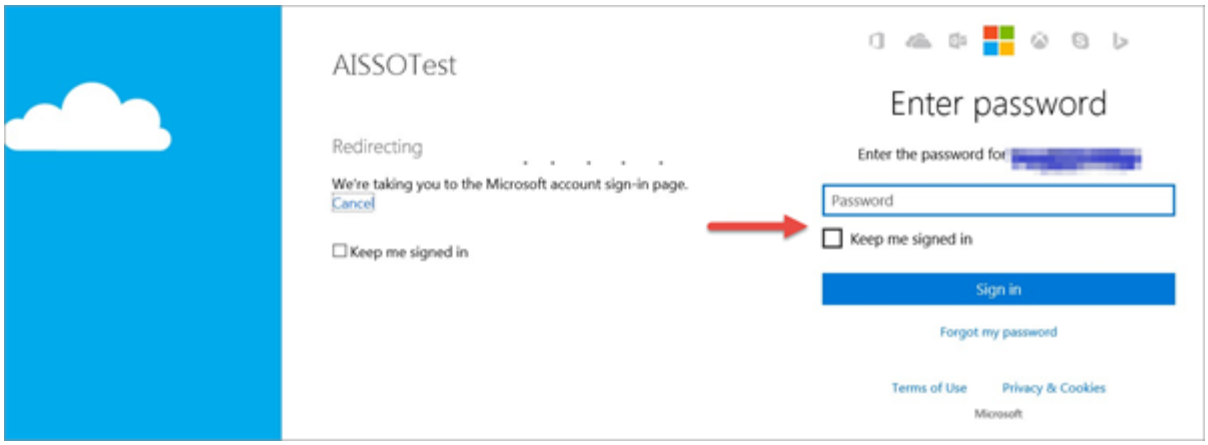
これにより、作成した MS エントラ ID のテスト ユーザーが、シングル サインオンを使用して Adaptive Planning にアクセスできるようになります。

1. "MS Entra ID" の左側のナビゲーション ペインで、"Enterprise applications" をクリックします。
2. すべてのアプリケーションのリストで、作成した Adaptive Insights アプリケーションを選択します。
3. 左側のナビゲーション ペインで "ユーザーとグループ" をクリックしてから、ページの上部にある "ユーザー/グループを追加" をクリックします 。
4. "ユーザー" で "選択なし"をクリックします。次に、ユーザー リストからテスト ユーザーを選択します。
5. "Add Assignment" で "Assign" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### SSO のテスト (サービス プロバイダによる処理)

パスワードなしでユーザー名を使用して Adaptive Planning にサインインします。Microsoft SSO のサインイン ページにリダイレクトされます。




認証情報を入力し、SSO サインインを完了します。これで Adaptive Planning にログインできます。

### SSO のテスト (ID プロバイダによる処理)

1. "MS Entra ID" の左側のナビゲーション ペインで、"プロパティ"をクリックします。
2. ユーザー アクセス URLをコピーします。
3. 新しいブラウザ ページを開き、ユーザー アクセス URL を URL バーに貼り付けて Enter キーを押します。

### Excel Interface for Planning および OfficeConnect への SSO

MS Entra ID を使用した SAML SSO の設定とテストが正常に完了すると、ユーザーは Adaptive Planning のユーザー名で OfficeConnect および Excel Interface for Planning にサインインでき、"パスワード" フィールドを空白のままにすることができます。 Microsoft ログイン ページで、MS ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

### ステップ: MS-AD FS 2.0 を使用した SAML SSO の設定

設定方法について説明します Adaptive Planning Microsoft Active Directory Federation Services 2.0 (AD FS 2.0) のインスタンスから SAML SSO トークンを受諾する。AD FS のインスタンスは ID プロバイダであり、 Adaptive Planning はサービス プロバイダです。このステップを完了すると、ID プロバイダ起動 SSO サインインを AD FS 2.0 インスタンスから に設定することができます。 Adaptive Planning。

前提条件

- マシン:
  - Windows Server 2008 R2 と AD FS 2.0 がインストールされている。
  - AD FS 2.0 Rollup 2 ホットフィックスがインストールされ、 が使用されている。 `RelayState` パラメータが有効。詳しくは、AD FS 2.0 Rollup 2 ホットフィックスを参照してください。
  - ドメインに含まれている。
- 回答 Adaptive Planning 管理者権限のあるアカウント
- 確認 E メールの送信者: Adaptive PlanningSAML が でプロビジョニングされたことを示します Adaptive Planning インスタンス。
- 認証機関によって認可されたトークン署名証明書。

MS AD FS トークン署名証明書をエクスポートするには、次の手順に従います。

1. "MS AD FS Management Console" > "Service" > "Certificates" に移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "Certificates" リストの "Token-Signing" を右クリックし、"View Certificate" をクリックします。
3. "Details" タブに移動し、"Copy to File" をクリックします。
4. "Certificate Export Wizard" が表示されたら、"Next" をクリックします。
5. "DER encoded binary X.509 (.cer)" を選択し、"Next" をクリックします。
6. ファイルに名前を付けて保存するディレクトリを選択し、"Next" をクリックします。
7. "Finish" をクリックします。

注： 本書では、AD FS ウェブサイトを参照するため、テキストで ADFS_HOST をプレースホルダとして使用しています。これは各自の AD FS 2.0 の Web サイト アドレスに置き換えてください。

| | |
|---|---|
| AD FS 2.0 Rollup 2 ホットフィックス | ホットフィックスをインストールしていない場合、こちらで入手できます。<br><br>http://support.microsoft.com/kb/2681584<br><br>ホットフィックスをインストール後、ID プロバイダ起動 SSO の RelayState パラメータの使用を有効にします。<br><br>1. 以下を開きます。 `inetpub\adfs\ls\web.config` エディタ内のファイル<br>2. 次で始まるセクションを探します `<microsoft.identityServer.web>`<br>3. このセクションに次の行を追加します。 `<useRelayStateForIdpInitiatedSignOn enabled="true" />`<br>4. そのファイルを保存します。 |

設定 **Adaptive Planning** 証明書利用者として

証明書利用者とは、Web アプリケーションまたは Web サービスのことです。これは、STS (セキュリティ トークン サービス) が発行するトークンから抽出されるクレームに依存します。 Adaptive Planning 証明書利用者で、AD FS 2.0 インスタンスが STS です。

1. AD FS 2.0 管理コンソールへ移動します。
2. "AD FS 2.0" をクリックし、"Trust Relationships" を展開します。
3. "Relying Party Trusts" を右クリックし、"Add Relying Party Trust" をクリックします。
4. "Select Data Source" ページで、"Enter data about the relying party manually" を選択し、"Next" をクリックします。
5. 表示名には、任意の適切な名前を指定します。例: AdaptivePlanning。必要に応じてメモを入力し、"Next" をクリックします。
6. "AD FS 2.0 Profile" を選択します。
7. 証明書設定ステップはスキップします。
8. 以下を設定します。 Adaptive PlanningSSO URL ("SAML 設定" ページから取得)。例: `https://login.adaptiveplanning.com:443/samlsso/VkdHUkVFTkNPQURGUoMzNA==`
9. "Configure Identifiers" ページで、の "SAML 設定" ページから取得した URL を入力します。Adaptive Planning を識別子として選択し、"追加"をクリックします。
10. 次のページで、"Permit all users access to this relying party" を選択します。このアプリケーションを後で特定のユーザーに割り当てる場合は "Deny" を選択し、"Next" をクリックします。
11. "Ready to Add Trust" ページで、"Next" をクリックします。
12. "Finish" ページの、"Open the Edit Claims Rules dialog for this relying party trust when the wizard closes" をクリアし、"Close" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

クレーム ルールの設定

いくつかのサンプルのクレーム ルールを作成します。クレーム ルールは SAML 認証の要件を満たせるよう変更することができます。

サンプルのクレーム ルール #1

このクレーム ルールでは、ユーザーの "Email-Address" の値は特性ステートメントとして SAML 応答で送られます。その特性が個々にユーザーを識別できる限り、SAML トークンではどの LDAP 特性も使用できます。同じように、"Outgoing Claim Type" では、名前のリストまたはタイプから 1 つ選択します。

1. "Relying Party Trusts" リストの中の "Adaptive Planning" エントリを右クリックし、"Edit Claim Rules" を選択してください。
2. "Issuance Transform Rules" タブの "Add Rule" をクリックします。
3. "Claim Rule" テンプレート ドロップダウンから、"Send LDAP Attribute as Claims" を選択します。
4. "Next" をクリックします。
5. 「Email as Claim」のような名前をつけます。
6. "Attribute Store" フィールドを "Active Directory" に、"LDAP Attribute" を "Email-Addresses" に、"Outgoing Claim Type" を "Email Address" に設定します。
7. "Finish" をクリックします。

サンプルのクレーム ルール #2

このクレーム ルールでは、クレーム ルール #1 で設定された E メール アドレスを "NameID" の件名として送信します。

1. "Add Rule" をクリックします。
2. クレーム ルール テンプレートが使用するものとして、"Transform an Incoming Claim" を選択します。
3. これに名前をつけます。この例では、"Email Address to Name ID" を使用しています。
4. 受信クレーム タイプは、"E-mail Address" である必要があります (またはサンプル クレーム ルール #1 で使用した送信クレーム タイプと一致する必要があります)。
5. "Outgoing claim type" を "Name ID" に、"Outgoing name ID format" を "Email" に設定してください。
6. "Pass through all claim values" を選択します。
7. "Finish" をクリックします。

このルールで、ユーザーの E メール アドレスの値を件名の NameID として次のフォーマットで送信します

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

`urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress`。

### で **AD FS** を **ID** プロバイダとして設定 **Adaptive Planning**

このセクションでは、 Adaptive Planning インスタンスにアクセスし、AD FS 2.0 インストールから SAML/SSO トークンを受け入れる。このセクションのステップでは、上記のサンプル クレーム ルールを使用します。別のルールを作成した場合は、それに応じてこれらの手順を変更する必要があります。

1. ユーザーにサインインする Adaptive Planning インスタンスに、"ユーザー管理者" 権限を持つユーザーとして。
2. "管理" > "SAML SSO 設定の管理" に移動します。
3. 次の設定を入力します。
    a. ID プロバイダ名: AD FS 2.0 のサーバー名をここに入力します。
    b. ID プロバイダ エンティティ ID: FS Server AD FS 2.0 管理コンソールに表示されている値を入力します。これを探すには、"サービス" を右クリックし、"Federation Services プロパティを編集" をクリックして、"Federation Service ID" フィールドの値をコピーします。
    c. ID プロバイダ シングル サインオン URL:MS AD FS 側から に直接ログインするための URL を入力します。 Adaptive Planning 以下に類似`https://ADFS_HOST/adfs/ls`。
    d. カスタム ログアウト URL : 必須ではありません。ユーザーが から "ログアウト" をクリックしたときに読み込む URL を入力します Adaptive Planning。URL を指定しない場合、Adaptive Planning サインイン ページは使用されます。
    e. ID プロバイダ証明書: "前提条件" に含まれる証明書ファイルを選択します。
    f. SAML ユーザー ID タイプ : ユーザー フェデレーション ID を選択します。ユーザーの E メール アドレスを使用するというクレーム ルールを設定してあり、そのアドレスがユーザー プロファイルのログイン フィールドと同じなら、"ユーザーの Adaptive Planning "SAML ユーザー ID"のユーザー名
    g. SAML ユーザー ID の場所: 証明書利用者のクレーム ルールで、サンプル クレーム #1 のみを設定した場合は、"特性のユーザー ID" を選択してください。サンプル クレーム ルール #2 を設定した場合は、"件名の名前 ID" に "ユーザー ID" を選択してください。
    h. "SAML 特性" および "SAML NameID 形式": これらのどれか 1 つを入力する必要があります。
        - サンプル クレーム ルール #1 のみを設定したのであれば、"SAML 特性" のフィールドにサンプル クレーム ルール #1 からの送信クレーム タイプを入力します。"SAML NameID 形式" フィールドは空白のままにします。
        - サンプル クレーム ルールを両方とも設定した場合は、"SAML 特性" フィールドをスキップして "SAML NameID" フィールドに入力します。サンプル クレーム ルール #2 (E メール) の送信名 ID 形式を使用します。
    i. SAML の有効化: "無効" を選択します (これがデフォルトの値です)。設定をテストしたら、このページに戻って他のユーザーの SAML を有効にします。
4. "保存" をクリックします。設定 Adaptive Planning 管理の概要ページがロードされます。
5. 検索対象 Adaptive Planning ページの下部にあるSSO URL をクリックし、文字列値全体をコピーします。次のセクションでこの値が必要になるので、保存してください。例:

```
https://login.adaptiveplanning.com:443/samlsso/VkdHUKVFTkNPQURGU0MzNA--
```

### **AD FS** の証明書利用者の設定の完了

このセクションでは、「Adaptive Planning を証明書利用者として設定」で開始した AD FS の証明書利用者の設定を完了します。

1. AD FS 2.0 管理コンソールに戻ります。
2. "Relying Party Trusts" リストの "AdaptivePlanning" を右クリックし、 "Properties" を選択します。
3. "Endpoints" タブをクリックしてから "Add" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "Endpoint Type" を "SAML Assertion Consumer" に設定します。
5. "Binding" を "POST" に設定します。
6. 次の値を貼り付け: Adaptive Planning「Adaptive Planning で MS AD FS を ID プロバイダとして設定」のステップ 6 でコピーした SSO URL を "URL" フィールドにマッピング
7. "OK" をクリックし、プロパティ ダイアログの "Apply" をクリックします。

設定のテスト

AD FS 2.0 から への SAML - SSO サインインをテストします (AD FS 2.0) Adaptive Planning。

1. AD FS および Adaptive Planning。設定 Adaptive Planning ユーザーには "SAML 管理者" 権限が必要です。
2. ユーザーの E メール アドレス (またはクレーム ルール #1 で選択された LDAP 特性) を AD FS に入力します。
3. 開始 Adaptive Planningにアクセスし、"管理" > "ユーザー" ページでユーザーの "SAML フェデレーション ID" フィールドに E メール アドレスを入力し、"送信"をクリックします。
4. Active Directory ドメインの一部を成すコンピュータにその AD FS ユーザーをログインします。
5. そのコンピュータ上の Web ブラウザ内で、以下に移動します。 `https://login.adaptiveplanning.com/app`

   注 : インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL ( 29ページ )。
6. すべてが正しく設定できていれば、以下にリダイレクトされます。 Adaptive Planning ウェルカム ページ。サインイン ページでユーザー名を入力し、パスワード フィールドは空白のままにします。"送信" をクリックします。

設定のテストが正常に完了したら、ユーザーの SAML SSO を有効にできます。Adaptive Planning ですべてのユーザーに対して SAML SSO を有効化を参照してください。

### Excel Interface for Planning および OfficeConnect への SSO

SAML SSO の設定およびテストが正常に完了すると、Excel Interface for Planning および OfficeConnect ユーザーは自分のユーザー名のみを使用してサインインできるようになります。パスワード フィールドは空白のままで構いません。

ステップ: **MS-AD FS 3.0** を使用した **SAML SSO** の設定

の設定の手順を提供します Adaptive Planning Microsoft Active Directory Federation Services 3.0 (MS AD FS 3.0) のインスタンスから SAML SSO トークンを受諾する。SAML の用語では、MS AD FS のインスタンスは ID プロバイダであり、 Adaptive Planning はサービス プロバイダです。次のステップを完了すると、MS AD FS 3.0 インスタンスから に対して、ID プロバイダ起動 SSO ログインを設定することができます。 Adaptive Planning。

前提条件

- 以下のコンピュータ:
  - Windows Server 2008 R2 または RelayState パラメータが有効になっている。詳細については、MS AD FS 3.0 RelayState を参照してください。
  - ドメインに含まれている
- 回答 Adaptive Planning 管理者権限のあるアカウント
- 確認 E メールの送信者: Adaptive PlanningSAML がインスタンスでプロビジョニングされていることを示しています
- 認証機関によって認可されたトークン署名証明書

MS AD FS トークン署名証明書をエクスポートするには、次の手順に従います。

1. "MS AD FS Management Consol" > "Service" > "Certificates" に移動します。
2. 証明書リストで "Token-Signing" を右クリックし、"View Certificate" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

3. "Details" タブに移動し、"Copy to File..." をクリックします。
4. "Certificate Export Wizard" が表示されたら、"Next" をクリックします。
5. "DER encoded binary X.509 (.cer)" を選択し、"Next" をクリックします。
6. ファイルを保存するディレクトリを選択し、名前を付け、 "Next" をクリックします。
7. "Finish" をクリックします。

注 : 本書では、MS AD FS ウェブサイトを参照するため、テキストで ADFS_HOST をプレースホルダとして使用しています。それを各自の MS AD FS 3.0 の Web サイト アドレスに置き換えてください。スクリーンショットはテスト サーバーのアドレスを示しています。

**MS AD FS 3.0 RelayState**

このステップに従うことによる ID プロバイダ起動の SSO:

1. ADFS 3.0 の場合は、次のファイルをノートブックで開きます。 `%systemroot%\ADFS\Microsoft.IdentityServer.Servicehost.exe.config`
2. 次のように、"microsoft.identityServer.web" セクションに "useRelayStateForIdpInitiatedSignOn" の列を追加し、変更を保存します。

```
<microsoft.identityServer.web>

...

<useRelayStateForIdpInitiatedSignOn enabled="true" />

</microsoft.identityServer.web>
```

3. そのファイルを保存します。
4. "Active Directory Federation Services" (adfssrv) サービスを再起動します。

設定中 **Adaptive Planning** 証明書利用者として

証明書利用者は、クレームに依存する Web アプリケーションまたは Web サービスで、STS (セキュリティ トークン サービス) によって発行されたトークンから抽出されます。Adaptive Planning が証明書利用者で、MS AD FS 3.0 インスタンスが STS です。

1. MS AD FS 3.0 管理コンソールへ移動します。
2. "MS AD FS 3.0" をクリックし、"Trust Relationships" を展開します。
3. "Relying Party Trusts" を右クリックし、"Add Relying Party Trust" をクリックします。
4. "Select Data Source" ページで、"Enter data about the relying party manually" を選択し、"Next" をクリックします。
5. 表示名には、任意の適切な名前を指定します。例: AdaptivePlanning。必要に応じてメモを入力し、"Next" をクリックします。
6. AD FS プロファイルを選択します。
7. 証明書設定ステップはスキップします。
8. 以下を設定します。 Adaptive PlanningSSO URL (の "SAML 設定" 画面から取得) Adaptive Planning。例: `https://login.adaptiveplanning/samlsso/R0xPQk8==`
9. "ID の設定" ページで以下を入力します。 URL (の "SAML 設定" 画面から) Adaptive Planning を識別子として選択し、"追加" をクリックします。
10. 次のページで、"Permit all users access to this relying party" を選択し (のちにこのアプリケーションを特定のユーザーに割り当てる場合は、"Deny" を選択)、"Next" をクリックします。
11. "Ready to Add Trust" ページで、"Next" をクリックします。
12. "Finish" ページの、"Open the Edit Claims Rules dialog for this relying party trust when the wizard closes" をクリアし、"Close" をクリックします。

クレーム ルールの設定

いくつかのサンプルのクレーム ルールを作成します。SAML 認証の要件を満たせるようクレーム ルールの変更を選択することができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

サンプルのクレーム ルール #1

このクレーム ルールでは、ユーザーの "Email-Address" の値は特性ステートメントとして SAML 応答で送られます。その特性が個々にユーザーを識別できる限り、SAML トークンではどの LDAP 特性も使用できます。同じように、"Outgoing Claim Type" では、名前のリストまたはタイプから 1 つ選択します。

1. "Relying Party Trusts" リストの中の "Adaptive Planning" エントリを右クリックし、"Edit Claim Rules" を選択してください。
2. "Issuance Transform Rules" タブの "Add Rule" をクリックします。
3. "Claim Rule" テンプレート ドロップダウンから、"Send LDAP Attribute as Claims" を選択します。
4. "Next" をクリックします。
5. 「Email as Claim」のような名前をつけます。
6. "Attribute Store" フィールドを "Active Directory" に、"LDAP Attribute" を "Email-Addresses" に、"Outgoing Claim Type" を "Email Address" に設定します。
7. "Finish" をクリックします。
8. SAML attribute: クレーム ルール #1 のみ設定している場合は、クレーム ルール #1 から送信クレーム タイプを入力してください。
    a. 送信クレーム タイプを探すには、ADFS 管理コンソールに移動してください。
    b. "Service" > "Claim Descriptions" をクリックします。
    c. 使用しているクレーム タイプを右クリックし、プロパティをクリックします。
    d. "Claim Type" の値をコピーし、SAML 特性名に貼り付けます。次のようになります。`http://schemas.xmlsoap.org/ws/2005/05/identity/claims/emailaddress` または入力した短縮名

サンプルのクレーム ルール #2

このクレーム ルールでは、クレーム ルール #1 で設定された E メール アドレスを "NameID" の件名として送信します。

1. "Add Rule" をクリックします。
2. クレーム ルール テンプレートが使用するものとして、"Transform an Incoming Claim" を選択します。
3. これに名前をつけます。この例では、"Email Address to Name ID" を使用しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. 受信クレーム タイプは、"E-mail Address" である必要があります (またはサンプル クレーム ルール #1 で使用した送信クレーム タイプと一致する必要があります)。
5. "Outgoing claim type" を "Name ID" に、"Outgoing name ID format" を "Email" に設定してください。
6. "Pass through all claim values" を選択します。
7. "Finish" をクリックします。

このルールで、ユーザーの E メール アドレスの値を件名の NameID として次のフォーマットで送信します `urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress`。

### で **MS AD FS** を **ID** プロバイダとして設定 **Adaptive Planning**

このセクションでは、MS AD FS 3.0 インストールから SAML/SSO トークンを受け入れるように Adaptive Planning インスタンスを設定します。このセクションのステップでは、上記で説明されたサンプル クレーム ルールを使用します。別のルールを作成している場合は、それに従って手順を変更する必要があります。

1. "ユーザー管理者" 権限を持つユーザーとして Adaptive Planning インスタンスにログインします。
2. "管理" > "SAML SSO 設定" に移動します。
3. 次の設定を入力します。
    a. ID プロバイダ名 : MS AD FS 3.0 のサーバー名をここに入力します。
    b. ID プロバイダ エンティティ ID : FS Server MS AD FS 3.0 管理コンソールに表示されている値を入力します。これを探すには、"サービス" を右クリックし、"Federation Services プロパティを編集" をクリックして、"Federation Service ID" フィールドの値をコピーします。
    c. ID プロバイダ シングル サインオン URL: 次のような URL を入力します (これは MS AD FS 側から Adaptive Planning に直接ログインするための URL です)。 `https://ADFS_HOST/adfs/ls`
    d. カスタム ログアウト URL: 必須ではありません。ユーザーが Adaptive Planning から "ログアウト" を クリックしたときに読み込む URL を入力します。URL が指定されていない場合、Adaptive Planning ログイン ページが使用されます。
    e. ID プロバイダ証明書: "前提条件" で説明される証明書ファイルを選択します。
    f. SAML ユーザー ID タイプ: ユーザーのフェデレーション ID を選択します。ユーザーの E メール アドレスを使用するというクレーム ルールを設定してあり、そのアドレスがユーザーのプロファイルのログイン フィールドと同じなら、"SAML ユーザー ID" に "ユーザーの Adaptive Planning ユーザー名" を選択できます。
    g. SAML ユーザー ID の場所 : 証明書利用者のクレーム ルールでサンプル クレーム #1 のみを設定した場合は、"特性のユーザー ID" を選択します。サンプル クレーム ルール #2 を設定した場合は、"件名の名前 ID" に "ユーザー ID" を選択してください。
    h. "SAML 特性" および "SAML NameID 形式": これらのどれか 1 つを入力する必要があります。サンプル クレーム #1 のみを設定したのであれば、"SAML 特性" のフィールドをサンプル クレーム #1 からの出力クレーム タイプで入力し、"SAML NameID 形式" フィールドは空白にしておいてください。両方のサンプル クレーム ルールを設定したのであれば、"SAML 特性" フィールドをスキップし、"SAML NameID" フィールドにサンプル クレーム ルール #2 (E メール) からの出力名前 ID 形式で入力します。
    i. SAML の有効化 : "無効" を選択します (これがデフォルトの値です)。設定をテストしたら、この画面に戻って他のユーザーのために SAML を有効にします。
4. "保存" をクリックします。管理の概要が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. "SAML SSO の設定" ページに戻り、設定が正常に保存されたことを確認します。ID プロバイダ証明書の発行者と有効性を確認します。
6. ページの下部にある "Adaptive Planning の SSO URL" を検索し、文字列値全体をコピーします。次のセクションでこの値が必要になるので、保存してください。

### MS AD FS の証明書利用者の設定完了

このセクションでは、「*Adaptive Planning* を証明書利用者として設定」で開始した MS AD FS の証明書利用者の設定を完了します。

1. MS AD FS 3.0 管理コンソールに戻ります。
2. "Relying Party Trusts" リストの "AdaptivePlanning" を右クリックし、 "Properties" を選択します。
3. "Endpoints" タブをクリックしてから "Add" をクリックします。
4. "Endpoint Type" を "SAML Assertion Consumer" に設定します。
5. "Binding" を "POST" に設定します。
6. Adaptive Planning の SSO URL の値を "URL" フィールドに貼り付けます。ステップ 「 *Adaptive Planning* で *MS AD FS* を *ID* プロバイダとして設定」 で URL をコピーしたことに注意してください。
7. "OK" をクリックし、プロパティ ダイアログの "Apply" をクリックします。

#### 設定のテスト

MS AD FS 3.0 から Adaptive Planning への SAML/SSO ログインをテストします。

1. MS AD FS 側と Adaptive Planning 側のユーザーを選択します。設定 Adaptive Planning ユーザーには "SAML 管理者" 権限が必要です。
2. ユーザーの E メール アドレス (またはクレーム ルール #1 で選択された LDAP 特性) を MS AD FS に入力します。
3. Adaptive Planning で、"管理" > "ユーザーを編集" ページのユーザーの "SAML フェデレーション ID" フィールドに E メール アドレス (おそらく同じ値) を入力します。
4. Active Directory ドメインの一部を成すコンピュータにその AD FS ユーザーをログインします。
5. そのコンピュータ上の Web ブラウザで、以下にアクセスします。 `https://login.adaptiveplanning.com/app`

   注 : インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL ( 29ページ )。
6. すべてが正しく設定できていれば、Adaptive Planning のウェルカム ページへリダイレクトされます。ユーザー名を入力しますが、ログイン ページのパスワード フィールドは空白のままにします。"送信" をクリックします。

設定のテストが正常に完了したら、ユーザーの SAML SSO を有効にできます。Adaptive Planning ですべてのユーザーに対して SAML SSO を有効化を参照してください。

### Excel Interface for Planning および OfficeConnect への SSO

SAML SSO の設定およびテストが正常に完了すると、Excel Interface for Planning および OfficeConnect ユーザーは自分のユーザー名のみを使用してサインインできるようになります。パスワード フィールドは空白のままで構いません。

### PingOne を使用した SAML SSO の設定

の設定の手順を提供します Adaptive Planning PingOne のインスタンスから SAML SSO トークンを受諾します。PingOne インスタンスは ID プロバイダであり、 Adaptive Planning はサービス プロバイダです。

#### 前提条件

- 管理権限を持つ PingOne アカウント

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 回答 Adaptive Planning 管理者権限のあるアカウント
- 確認 E メールの送信者: Adaptive PlanningSAML がインスタンスでプロビジョニングされていることを示しています

### 追加 **Adaptive Planning PingOne**

1. PingOne にログインします。
2. "Applications" > "My Applications" に移動します。
3. "Add New Application" をクリックします。
4. "Search Application Catalog" を選択します。
5. 検索テキスト ボックスで、次のように入力します。 Adaptive Planning。
6. 選択 Adaptive Planning をクリックし、アプリケーションの設定を開始します。
7. SAML メタデータをダウンロードし、PingOne から SAML メタデータ xml ドキュメントを開きます。

8. ダウンロードした SAML メタデータ XML ドキュメントから ID プロバイダ エンティティ ID をコピーし、 で使用します。 Adaptive Planning "管理" > "SAML SSO 設定" の "ID プロバイダ エンティティ ID" フィールド

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

9. ダウンロードした SAML メタデータ XML ドキュメントから IDP SSO URL (Bindings-POST を使用) をコピーします。この URL は で使用します。 Adaptive Planning"ID プロバイダ SSO URL" フィールドを設定する際
10. PingOne から、署名証明書をダウンロードし、覚えやすい場所に証明書を保存します。
11. 開始 Adaptive Planning、"管理" > "SAML SSO 設定 " 画面に移動し、ダウンロードした PingOne 署名証明書をアップロードします。
12. "保存" をクリックします。
13. PingOne でエンティティ ID を設定します。
    a. 開始 Adaptive Planningをコピー Adaptive Planning SSO URL は "管理" > "SAML SSO 設定 " 画面の下部に表示されます。
    b. PingOne で、次の項目の "SAML 設定" に移動します。 Adaptive Planning.app を選択し、URL を "ACS URLS" と "Entity ID" フィールドの両方に貼り付けます。
14. PingOne から、"シングル サインオン (SSO) URL を開始" をコピーし、ブラウザに貼り付けて SSO を試行します。

設定のテストが正常に完了したら、ユーザーの SAML SSO を有効にできます。Adaptive Planning ですべてのユーザーに対して SAML SSO を有効化を参照してください。

### Excel Interface for Planning および OfficeConnect への SSO

SAML SSO の設定およびテストが正常に完了すると、Excel Interface for Planning および OfficeConnect ユーザーは自分のユーザー名のみを使用してサインインできるようになります。パスワード フィールドは空白のままで構いません。

PingOne SAML SSO の制限事項

PingOne を ID プロバイダとして設定するユーザーは、 に接続するたびにログイン認証情報の再入力が必要になる場合があります Adaptive Planning、 OfficeConnect および Excel Interface for Planning。

### すべてのユーザーに対する SAML SSO の有効化

IdP を使用した SAML SSO の設定とテストが完了すると、すべてのユーザーに対して SAML SSO を有効にすることができます。

SAML SSO を有効にしない場合、標準ユーザーは Adaptive Planning の標準サインイン ページからサインインできます。例: https://login.adaptiveplanning.com/app

注： インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL ( 29ページ ) 。

### フェデレーション ID の入力

SAML SSO 設定の管理ページで SAML ユーザー ID として "SAML フェデレーション ID" を選択した場合、アプリケーションにアクセスするユーザーごとにフェデレーション ID を入力する必要があります。これには、手動で個別に行う方法と、スプレッドシートをアップロードして一括で行う方法の 2 つの方法があります。

フェデレーション ID 以外の SAML ユーザー ID を選択した場合は、"すべてのユーザーに対する SSO の有効化" セクションに移動します。

#### 手動でのフェデレーション ID の追加

1. 開始 Adaptive Planning "管理" > "ユーザーを編集" に移動して、アクセス権を付与するユーザーを選択します。
2. このユーザーの SAML フェデレーション ID として、Okta または PingOne アカウントから E メール アドレスを入力します。
3. アクセス権が必要なユーザーごとに、この手順を繰り返します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

フェデレーション ID のスプレッドシートのアップロード

1. にログインします Adaptive Planning。
2. "管理" > "SAML SSO 設定" に移動します。リンクが有効でない場合は、Workday カスタマー センターでサポート ケースを作成してください。
3. 右上の "ユーザーの更新" をクリックすると、"ユーザーの更新" ダイアログが開きます。
4. コンピュータにテンプレートをダウンロードし、ユーザーのリストのフェデレーション ID を入力します。
5. "ユーザーの更新" ダイアログで、"参照" をクリックします。
6. 上記の手順で入力したテンプレート ファイルを選択します。
7. "開く" をクリックします。
8. "保存" をクリックします。

### すべてのユーザーに対する **SSO** の有効化

設定をテストし、必要に応じてフェデレーション ID を入力すると、 からすべてのユーザーに対して SSO を有効にすることができます。 Adaptive Planning。

1. "管理" > "ユーザーを編集" に移動して、SAML フェデレーション ID が、すべてのユーザーに存在していることを確認します。
2. "管理" > "SAML SSO 設定" に移動します。
3. "SAML の有効化" セクションで、以下のいずれかを選択します。 "SAML SSO のみを許可する" または "SAML SSO および Direct を許可する" Adaptive Planning ログインして インスタンス全体で SAML SSO を有効にします。

### 暗号化された **SAML** アサーションのための **IDP** の設定

SAML アサーションは、ID プロバイダが に送信する XML ドキュメントです。 Adaptive Planning、サービス プロバイダこのドキュメントには、ユーザー権限が含まれています。ユーザーがにログインするとき Adaptive Planning SAML SSO を使用すると、プレーン アサーションのみが署名検証でサポートされます。アサーションは暗号化されません。

SAML SSO 設定にセキュリティ層を追加できます。セキュリティとプライバシーを強化するには、サービス プロバイダだけがユーザー情報にアクセスできるようにアサーションも暗号化します。担当者をダウンロード Adaptive Planning 公開鍵証明書を使用します。SAML SSO の実行中 Adaptive Planning 秘密キーを使用して SAML アサーションを復号化し、署名を検証します。検証および認証が正常に完了すると、ユーザーは にログインできます。 Adaptive Planning。

Adaptive Planning は SAML アサーションの署名と暗号化について、次の設定をサポートします。

- 署名済回答 + 暗号化された署名済アサーション
- 未署名回答 + 暗号化された署名済アサーション
- 未署名回答 + 署名済アサーション

Adaptive Planning は公開キー証明書を使用し、次の暗号化アルゴリズムをサポートします。

- 暗号化アルゴリズム: AES-256-CBC
- キー トランスポート アルゴリズム: RSA-OAEP
- 秘密キー ビット: 2048 ビット
- 秘密キー ダイジェスト アルゴリズム: SHA512

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

始める前に

以下を検証します。

- プロビジョニングによってインスタンスの SAML SSO が有効になっている。 すべてのユーザーに対する SAML SSO の有効化を参照してください。
- 設定しました Adaptive Planning インスタンスにアクセスし、ID プロバイダ (IDP) とやりとりします。参考: SAML SSO 設定を参照してください。

**SAML** 暗号化証明書のダウンロード

1. 開始 Adaptive Planningに移動します。"管理" > "SAML SSO 設定" に移動します。
2. "証明書" セクションまでスクロールし、"証明書のダウンロード" をクリックします。証明書はローカルのファイル システムに保存されます。

**SAML** アサーションの暗号化

管理者として IDP を設定し、 への SSO で暗号化アサーションを使用します。 Adaptive Planning インスタンス。

注 : この手順では、例として Okta を使用します。IDP 設定は Okta 設定とは異なる場合もあります。

1. "Okta"> "Admin"> "Applications" に移動して、特定のアプリケーションを選択します。
2. "General" で "SAML Settings" に移動し、次の詳細設定を編集します。
3. に接続するには、次の設定を行ってください。 Adaptive Planning:
    - Assertion Signature:SAML アサーションをデジタル署名するには、"Signed" を選択します。これにより、IDP のみがアサーションを生成できるようになります。
    - Signature Algorithm: SAML アサーションをデジタルで署名するために使用するアルゴリズムを選択します (RSA-SHA 256 など)。
    - Digest Algorithm: SAML アサーションをデジタルで署名するために使用するダイジェスト アルゴリズムを選択します (RSA-SHA512 など)。
    - Assertion Encryption: SAML アサーションを暗号化するには、"Encrypted" を選択します。これにより、送信者と受信者のみがアサーションを理解するようになります。
    - Encryption Algorithm: SAML アサーションを暗号化するために使用するアルゴリズムを選択します (AES256-CBC など)。
    - Key Transport Algorithm: SAML アサーションを暗号化するために使用するキー トランスポート アルゴリズムを選択します (RSA-OAEP など)。
4. "暗号化された証明書 " フィールドに、ダウンロードした証明書をアップロードします。 Adaptive Planning を使用して、暗号化された SAML アサーションを送信します。
5. "Users"> "People" に移動し、 へのアクセスを許可するユーザーごとに移動します。 Adaptive Planning、"SAML フェデレーション ID" とパスワードを指定して、IDP アカウントを作成します。
6. "Applications" に戻り、設定した Okta アプリケーションにユーザーを割り当てます。

これでユーザーは にログインできるようになります。 Adaptive PlanningSAML SSO を使用する。サービス プロバイダによって開始されたログインでは、 Adaptive Planning ユーザー名を変更し、パスワード フィールドを空白のままにします。IDP のログイン画面にリダイレクトされたら、IDP のユーザー名とパスワードを入力します。

概念**: SAML SSO**

SAML (Security Assertion Markup Language) は、オープンスタンダードの XML ベース形式で、ID プロバイダとサービス プロバイダ間で認証と許可をやり取りするためのものです。その利点のひとつは複数のオンライン サービス間でシングル サインオン (SSO) を利用できることです。

このドキュメントでは、Microsoft Active Directory Federation Services 2.0 または 3.0 (MS-AD FS 2.0 または MS-AD FS 3.0)、Okta、PingOne、 など、ID プロバイダ間での SAML 2.0 および SAML 3.0 ベースの SSO の設定について説明します。 Adaptive Planning。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

別の ID プロバイダで SAML 2.0 または SAML 3.0 ベースの SSO を設定する場合は、以下と同様のステップに従ってください。ID プロバイダが SAML 2.0 または SAML 3.0 をサポートしていること、および ID プロバイダ起動 SSO またはサービス プロバイダ起動 SSO のいずれかをサポートしていることを確認する必要があります (これらは によってサポートされているモードです) Adaptive PlanningAuthentication)。

このドキュメントでは、 Adaptive Planning。

この記事の一部のリンクは Workday Community に移動します。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。

- ステップ: Azure AD を使用した SAML SSO の設定
- ステップ: MS-AD FS 2.0 を使用した SAML SSO の設定
- ステップ: MS-AD FS 3.0 を使用した SAML SSO の設定
- ステップ: Okta を使用した SAML SSO の設定
- PingOne を使用した SAML SSO の設定
- すべてのユーザーに対する SSO の有効化
- Workday から Adaptive Planning への SAML SSO
    - Steps: Set Up SAML Single Sign-On (SSO) into Adaptive Planning without User Sync
    - Steps: Set Up SAML Single Sign-on (SSO) into Adaptive Planning for Synced Users

**参考: SAML SSO 設定**

SAML (Security Assertion Markup Language) は、オープンスタンダードの XML ベース形式で、ID プロバイダとサービス プロバイダ間で認証と許可をやり取りするためのものです。その利点のひとつは複数のオンライン サービス間でシングル サインオン (SSO) を利用できることです。

"SAML SSO 設定" ページでは、 Adaptive Planning をクリックし、ID プロバイダとやりとりします。SAML SSO の設定の詳細については、SAML SSO ドキュメントを 参照してください。

このページの "SAML 設定" フィールドを次に示します。

- SAML バージョン: ID プロバイダとやりとりするために使用する SAML のレベル
- ID プロバイダ名: にリンクしている ID プロバイダの名前 Adaptive Planning
- ID プロバイダのエンティティ ID: ID プロバイダの ID。これは通常、ID プロバイダの提供するインターフェイスの管理セクションで見つけることができます。
- ID プロバイダ SSO URL: に直接ログインするために、ID プロバイダによって使用される URL Adaptive Planning。通常、次のような形式になります。
- `https://ADFS_HOST/adfs/ls/idpinitiatedsignon.aspx?logintoRP=AdaptivePlanning`
- カスタム ログアウト URL: 必須ではありません。ユーザーが からログアウトするときにロードする URL を入力します。 Adaptive Planning。
- ID プロバイダ証明書: "ファイルの選択" をクリックして、ID プロバイダのインターフェイスからダウンロードした証明書をアップロードします。
- SAML ユーザー ID : 使用するユーザー ID タイプを選択します。ユーザーの Adaptive Planning ユーザー名またはそのフェデレーション ID
- SAML ユーザー ID の場所: ユーザー ID がある SAML トークンの場所を選択します。

"SAML の有効化" メニューを使用して SAML SSO を有効または無効にするか、SAML SSO と の両方を有効にすることもできます。 Adaptive Planning ログインにログインするには、 Adaptive Planning ログインページ (SAML SSO) を使用すると、ユーザーはパスワード フィールドを空のままにして、認証のために ID プロバイダに転送できます。

SAML SSO を有効にすると、SAML 権限を付与された管理ユーザーは、SAML SSO または Adaptive の認証情報を使用してログインできます。

この画像を IDP タイルとして使用することができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

Workday Adaptive Planning

## インスタンス ライフサイクル管理

### インスタンスのリフレッシュ リクエストの送信

#### 始める前に

- リフレッシュを開始またはスケジュールする前に、Workday カスタマー ケア チームは必要な情報をすべて確認し、指定サポート連絡先 (NSC) から承認を受ける必要があります。
- リクエストが NSC 以外 (コンサルタント、カスタマー サクセス マネージャ、管理者以外のユーザーなど) によって送信された場合は、顧客の管理ユーザーによる書面による承認が必要です。
- Workday Adaptive Planning インスタンス ポリシーのレビュー
- Adaptive Planning インスタンスが Workday テナントに接続された場合は、 ステップ: リフレッシュ後の Adaptive Planning テナントの設定を参照してください。

#### このタスクについて

インスタンスの一意のコードは 、"設定情報"の "管理 > ""一般設定 > " コード から確認できます。次の詳細が必要です。

- 別のインスタンスにコピーするソース インスタンスの一意のコード。ソース インスタンスは変更されず、上書きされません。
- リフレッシュする宛先インスタンスの一意のコード。ターゲット インスタンスは、ソース インスタンスのコピーで上書きまたはリフレッシュされます。
- リフレッシュのデータと時間。 日時を指定しない場合、リフレッシュはスタッフが最も早い空き状況から開始されます。
- リフレッシュ後に新しいサインイン認証情報を受け取る必要がある管理ユーザー。

リフレッシュは月曜日から金曜日の午前 8:00 から午後 6:00 (CT) まで可能です。完了するまでに数時間から 7 営業日かかる場合があります。リフレッシュの完了時間は、以下によって異なります。

- Workday カスタマー ケア チームの対応可否。
- インスタンスのサイズ。 通常、以下のインスタンスのリフレッシュには時間がかかります。
    - マルチインスタンス サンドボックス
    - 50 GB を超えるインスタンスからクローン化されたサンドボックス。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

Workday Community から、"Customer Care"、"Adaptive Instance Management"、"Adaptive Refresh Instance" のリクエストを送信します。

概念: **Adaptive Planning** の非本稼働インスタンス

Adaptive Planning の非本番インスタンスには現在、以下の条件を満たすサンドボックス インスタンスのみが含まれています。

- 本番インスタンスまたは空白の非入力インスタンスのクローン。
- 本番インスタンスから完全に独立している。一方で行った変更は、もう一方には影響しません。

非本稼働インスタンスは以下の目的で使用します。

- ライブ データや本番データに影響を与えることなく、組織の構造、科目、または数式に対する大幅な変更をビルドおよびテストできます。
- 新しいインテグレーションのインポートを開発および検証する。
- 構造に大きな変更を加える前に、本番インスタンスのクローンをアーカイブしてください

非本稼働インスタンスを購入するには、指定サポート連絡先 (NSC) までご連絡ください。

非本稼働インスタンスのリフレッシュ

非本番インスタンスのリフレッシュには、本番インスタンスのクローン作成が含まれます。非本番インスタンスで以前に行った変更はすべて失われます。リフレッシュ後、非本番インスタンスは本番インスタンスの複製になりますが、以下の項目が含まれません。

- トランザクション
- インポート履歴
- 変更履歴
- スナップショット レポート

非本稼働インスタンスのリフレッシュをリクエストするには、NSC と連携して Workday カスタマー ケア リクエストを作成します。

非本稼働インスタンスを使用した本稼働インスタンスのリフレッシュ

非本番インスタンスをコピーして使用し、本番インスタンスをリフレッシュすることもできます。これらのタイプのリフレッシュでは、ソースの非本番インスタンスの正確なコピーを使用します。本番インスタンスの SAML SSO 設定とユーザーは、非本番インスタンスの設定とユーザーで上書きされます。このリクエストを行う前に、SAML SSO 設定を取得する責任はあります。本稼働インスタンスまたは非本稼働インスタンスのいずれかが Workday テナントに接続されている場合、これらのタイプのリフレッシュは実行できません。

**FAQ:** 同じ **IdP** を使用して、**SAML SSO** を使用して本番インスタンスと非本番インスタンスにサインインできますか？

マルチインスタンス設定に含まれない個々のインスタンスについて、以下を行う必要があります。

- 独自の SAML SSO を設定する。
- IdP に一意の SAML URL を設定します。

ユーザーが OKTA や Azure などの IDP にサインインするときに、ユーザーは非本番か本番かという 2 つのオプションから選択できます。 IDP は一意の URL を使用して、ユーザーをそれぞれのインスタンスにリダイレクトします。

以下のように、2 つの一意のユーザー セットが 2 つのインスタンスに対して認証されるようにします。

- 本番インスタンスでは、ユーザーの E メール アドレスなどのユーザー名を使用します。
- 非本稼働インスタンスでは、ユーザーに関連付けられたフェデレーション ID を使用します。

一部の IDP は以下を使用してアプリケーションの変換を実行できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- ユーザーの IDP データベース
- ドメイン名

例: サンドボックス インスタンスのユーザー John@adaptive.sandbox.com は、IDP データベースのユーザー john@adaptive.com に対応します。サンドボックス Adaptive アプリケーションの場合、IDP は john@adaptive.com を John@adaptive.sandbox.com に変換し、サンドボックス インスタンスに署名します。この場合でも、本番アプリケーションでは john@adaptive.com から john@adaptive.com への認証が必要です。本番インスタンス。

## Amazon Aurora PostgreSQL での Adaptive Planning の独自キーの使用 (BYOK) の設定

### Adaptive Planning の独自キーの設定 (BYOK)

始める前に

- BYOK SKU を取得し、適用される条件に同意する。
- Amazon Web Services (AWS) Key Management Service (KMS) を設定します。
- 指定サポート連絡先 (NSC) は、Workday Community でサポート ケースを作成し、Adaptive Planning に対して Amazon リソース名 (ARN) を使用する必要があります。`arn:aws:iam::123456789123: user/workday-kms-user` をクリックしてこの機能を有効にします。

このタスクについて

Adaptive Planning BYOK は、企業がデータの暗号化に使用するキーの所有権と制御権を取得できるようにする暗号化キー管理機能です。"Bring Your Own Key Customer Key Encryption Key" (BCTEK) は、ユーザーが生成して AWS KMS に保存したルート キーです。BCKEK は、キー階層内の顧客キー暗号化キー (CCEK) に置き換えられ、データ暗号化キー (DEK) の暗号化と復号化に使用されます。

注： Adaptive Planning の BYOK のデプロイ後は、Adaptive Planning が発行した暗号化キーを使用するように元に戻すことはできません。

BCEK として使用する Adaptive Planning の主キーを作成する必要があります。

手順

1. AWS アカウントで、主対象キーを作成します。
2. キー ポリシーを編集して、以下のように Adaptive Planning の本番科目 ID に適切な権限を割り当てます。

```
"Sid": "Allow use of the key",
         "Effect": "Allow",
         "Principal": {
             "AWS": [
                 "arn:aws:iam::244702149041:root"
             ]
         },
         "Action": [
             "kms:Encrypt",
             "kms:Decrypt",
             "kms:ReEncrypt*",
             "kms:GenerateDataKey*",
             "kms:List*",
             "kms:Get*",
             "kms:CreateGrant",
             "kms:ListGrants",
             "kms:RevokeGrant",
             "kms:DescribeKey"
         ],
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "Allow attachment of persistent resources",
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "AWS": [
                    "arn:aws:iam::244702149041:root"
                ]
            },
            "Action": [
                "kms:CreateGrant",
                "kms:ListGrants",
                "kms:RevokeGrant"
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "Bool": {
                    "kms:GrantIsForAWSResource": "true"
                }
            }
        }
```

3. 合意日にデータベースがプロビジョニングされたら、新しいキーが問題なく機能することを確認します。

次のタスク

キーをローテーションする場合は、AWS KMS 内で行うことができます。

Adaptive Planning からキーへのアクセス権を削除するには:

- AWS KMS 内のキーを無効化します。
- キーは有効なままで、キー ポリシー内の Adaptive Planning 権限を削除します。

BCEK を削除しないでください:

- 使用中の BCheck を削除すると、Adaptive Planning がデータベース内のデータを復元できなくなります。
- 古い BCheck を削除した場合、その BCheck の使用中に作成したバックアップは復元できません。

安全性を高めるため、Adaptive Planning では古い BCTEK を削除しないことをお勧めしています。この古いキーは無効な状態のままにしておくと、使用されなくなりますが、緊急の場合に再度アクティブにすることができます。

relatedlinks
参考
Workday 独自キー (BYOK) の設定 - Amazon Web Services (AWS)

## 管理の FAQ とトラブルシューティング

### 為替換算調整勘定はどのように機能しますか？

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

CTA はどのように機能しますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

CTA (為替換算調整勘定) は、科目構造の単一の想定される部分内で合計換算に使用されるさまざまな為替レート タイプに起因する為替レートの差異を調整するために使用されるシステム科目です。以下の通貨条件と為替レートの違いが適用されると、CTA は子組織に対して評価を行います。"組織別に表示" でシートを表示し、レポート上で子組織が異なる通貨で子組織を示している場合 (レポートに EUR の子組織を配置し、 CAD に換算)

CTA 値は、従来の意味で「ロールアップ」されません。組織内の特定の親組織の CTA 値は、すべての子組織の CTA の合計ではありません。代わりに、シートで選択された親組織で CTA が計算されます。計算が発生している親組織に異なる通貨を持つ子組織 がない 場合、為替換算調整勘定は存在しません。これは、為替換算調整勘定が空白になることを意味しています。計算が発生している親組織に異なる通貨の子組織 が ある場合、CTA は次のように計算します。"資産" 合計の下のすべての科目について、"為替レートタイプ" EOM を使用していないすべての科目を検索します。EOM を使用していた場合の値を計算し、割り当てられた為替レート タイプを使用してその値を減算し、差額を探します。これらの値をすべて合計して 1 つの数値にします。次に、"負債と純資産" の合計の下のすべての科目に同じ計算を実行します。資産科目の差異値を負債と純資産の差異の値から減算します。これは親組織の通貨での、親組織における為替換算調整勘定の値になります。為替換算調整勘定の数式で使用される ロジックは、システムで自動的に作成され、編集できません。この値はシート上で上書きすることもできません。数式は以下のようになります。(割り当てられた為替レート タイプを使用して換算された資産 - EOM を使用して換算された資産) - (割り当てられた為替レート タイプを使用して換算された負債と純資産 - EOM を使用して換算された負債と純資産)

為替換算調整勘定をオンにするには、次の手順に従います。

1."モデリング" > "通貨 2" に移動します。"為替換算調整勘定 (CTA) を有効化" ボックス 3 をオンにします。"OK" をクリックします。

為替換算調整勘定は、総勘定元帳構造内の資本合計に配置されます。

## 管理者に関する FAQ

シートの変更を特定の予算バージョンに制限できますか？

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

シートに変更を加えた上で、それらの変更を適用するバージョンを制限できますか?

回答

構造の変更はすべてのバージョンに適用されますが、その他の変更はバージョンごとに固有です。どの変更がすべてのバージョンに適用されるか、またどの変更がバージョンごとに異なるかについては、以下のリストを参照してください。

構造の変更 (すべてのバージョンに適用)

- プラン ツリーでのプランの追加、削除、名前の変更、移動
- 科目ツリーでの科目の追加、削除、名前の変更、移動
- シートの追加と削除
- キューブ算出科目、モデル科目、メトリック科目の数式ロジックの変更
- 標準シートに表示される科目の変更
- シートにアクセスできるプランの変更
- 標準シート上のサブプランのカスタマイズ
- キューブの制限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| バージョン固有の変更 | • ルックアップ テーブルの値と前提条件の更新<br>• "数式" タブの数式<br>• データのインポート<br>• シート上のデータ入力 |

**FAQ:** 作業開始アシスタントによってユーザーがサインインできないのはなぜですか？

メイン メニューで "管理" をクリックすると、以下の場合に "はじめに" ページが表示されます。

- 基本サブスクリプション契約 (MSA) に同意した管理者が存在しません。 ユーザーがインスタンスにサインインできるようにするために、別の管理者が MSA に同意する必要があります。
- 誰かが "管理 > ""一般設定" で "作業開始アシスタントのリセット" を クリックしましたが、"作業開始アシスタント" を終了しませんでした。アプリケーションにサインインし、"作業開始アシスタント" を終了する必要があります。

ディスク使用量情報

質問

ディスク使用量の上限はどのくらいですか？これはどのように計算され、上限を超えるとどうなりますか？

回答

最大ディスク ストレージの配分は、顧客によって異なります。 保管先に影響する主アイテムは、次の組み合わせです。

- 履歴/計画バージョンの年数
- 変更履歴の使用
- Workday Adaptive Planning へのドキュメントのアップロードとして広く使用されています。

現在のディスク使用量は、"管理" > "一般設定" で確認できます。表示されている数値は、モデル内のアクティビティがある毎晩再計算されます。少なくとも翌日までには、前日のアクティビティを反映してディスク使用量が更新されている必要があります。

**SAML SSO** の有効化

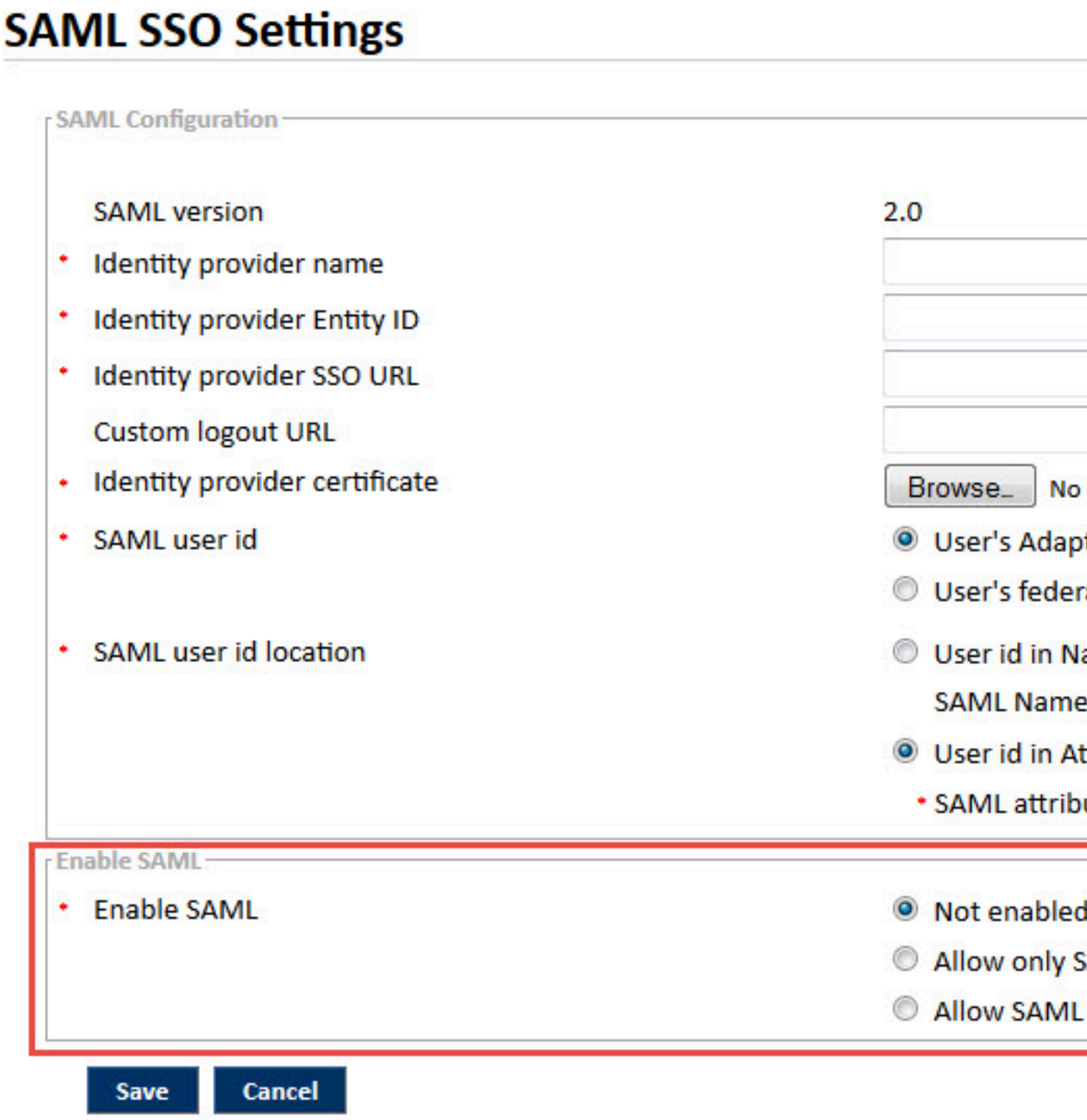
質問

SAML SSO を購入したばかりです。SAML を有効化するにはどうすればよいですか？また、どのような設定で使用できますか？

回答

"管理" > "SAML SSO 設定の管理" を選択し、一番下の "SAML の有効化" は、さまざまなユーザーがシステムにアクセスする方法を制御します

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




無効

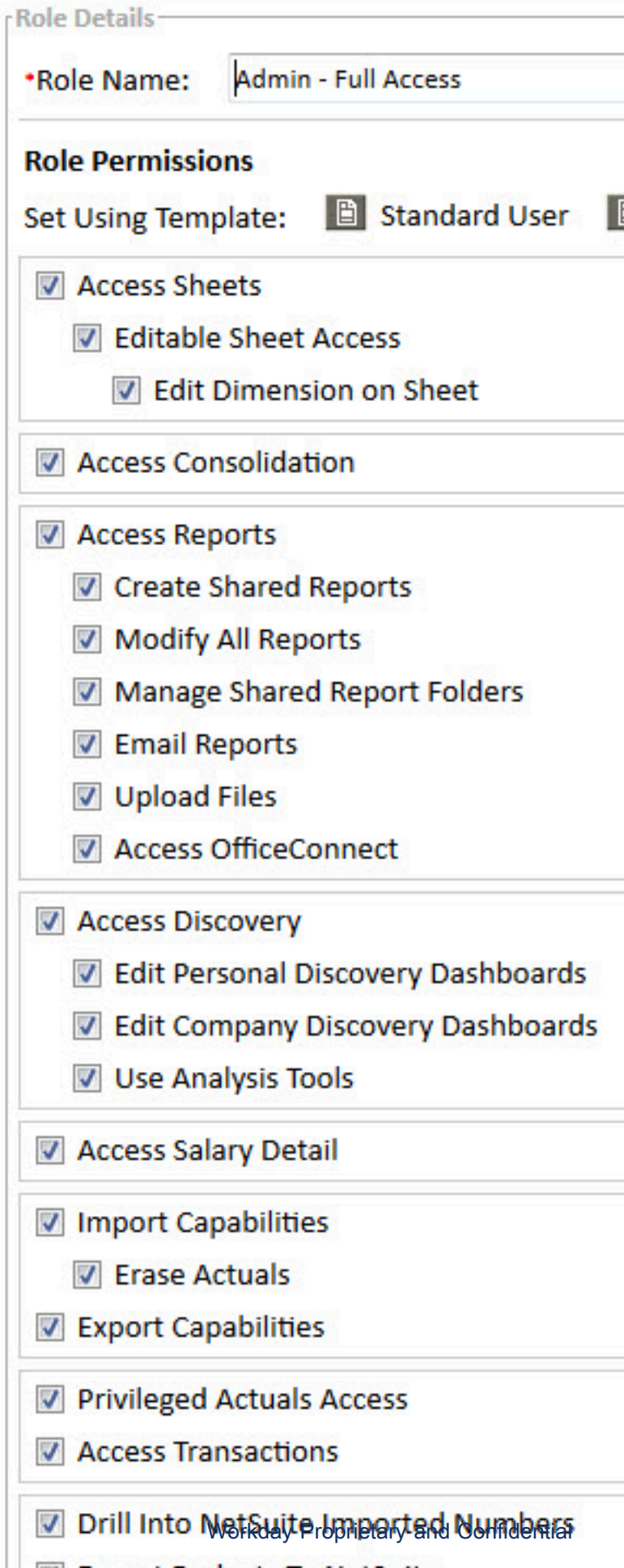
- 標準ユーザーは、標準の Adaptive ログインページ (https://login.adaptiveplanning.com/appなど) からログインします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | • SAML 権限[1] を持つ管理ユーザーは、SAML SSO を使用してログインするか、Adaptive の標準ログイン ページを使用してログインできます。 |
| SAML SSO のみを許可する | • 標準ユーザーは SAML SSO を使用してのみログインできます。ログイン ページからログインすることができません。<br>• SAML 権限[1] を持つ管理ユーザーは、SAML SSO を使用してログインするか、標準の Adaptive ログイン ページを使用してログインできます |
| SAML SSO および Adaptive Insights への直接ログインを許可する | • SAML 権限[1] を持つ管理ユーザーおよび標準ユーザーの両方が、SAML SSO を使用してログインするか、標準の Adaptive ログイン ページを使用してログインできます |

[1] つの 管理 SAML SSO 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

従業員シートへの読み取り専用アクセスの付与

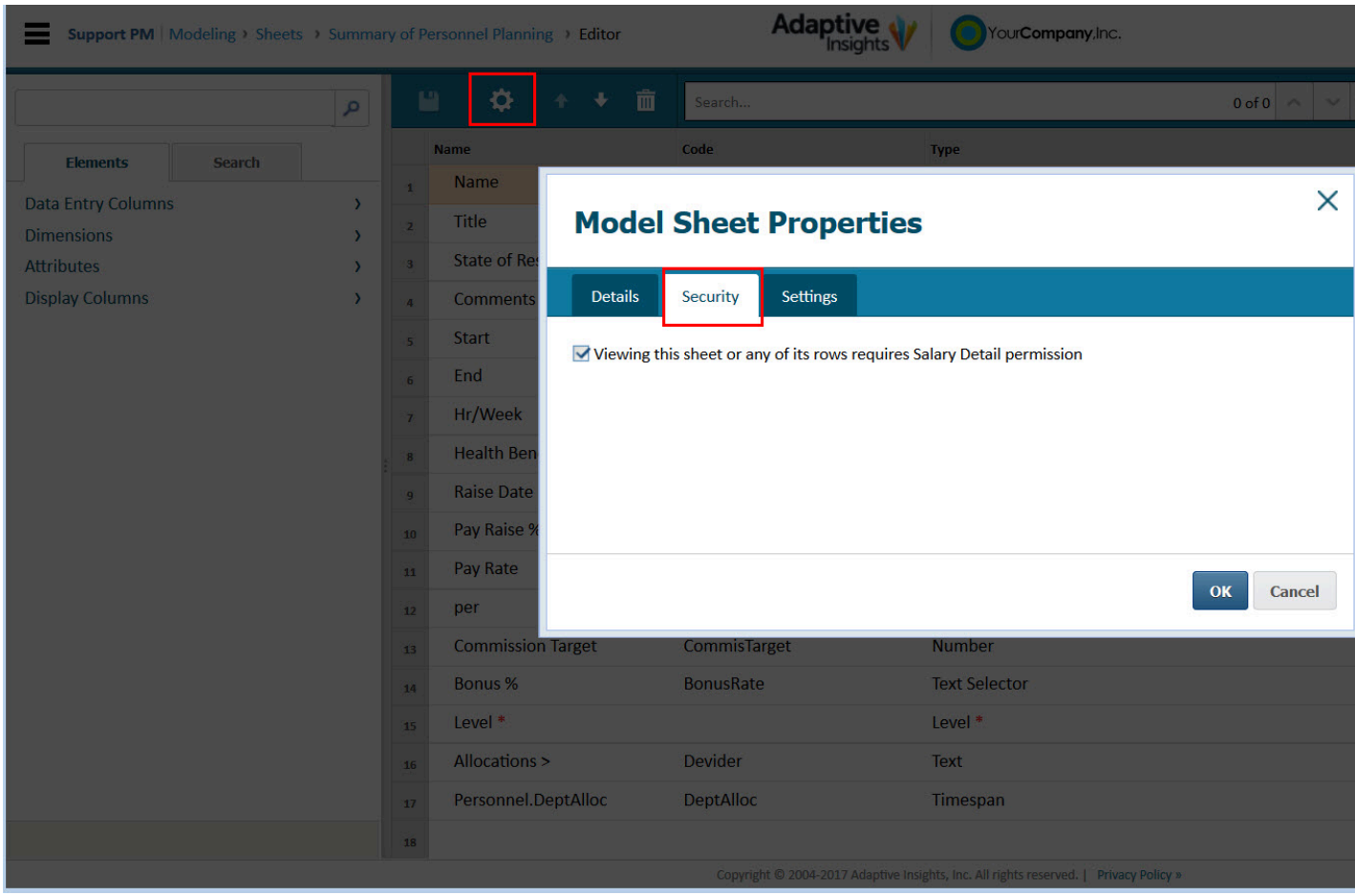
この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

ユーザーに従業員シートへのアクセス権を付与したいのですが、編集ができないようにしてください。どうすればよいですか？

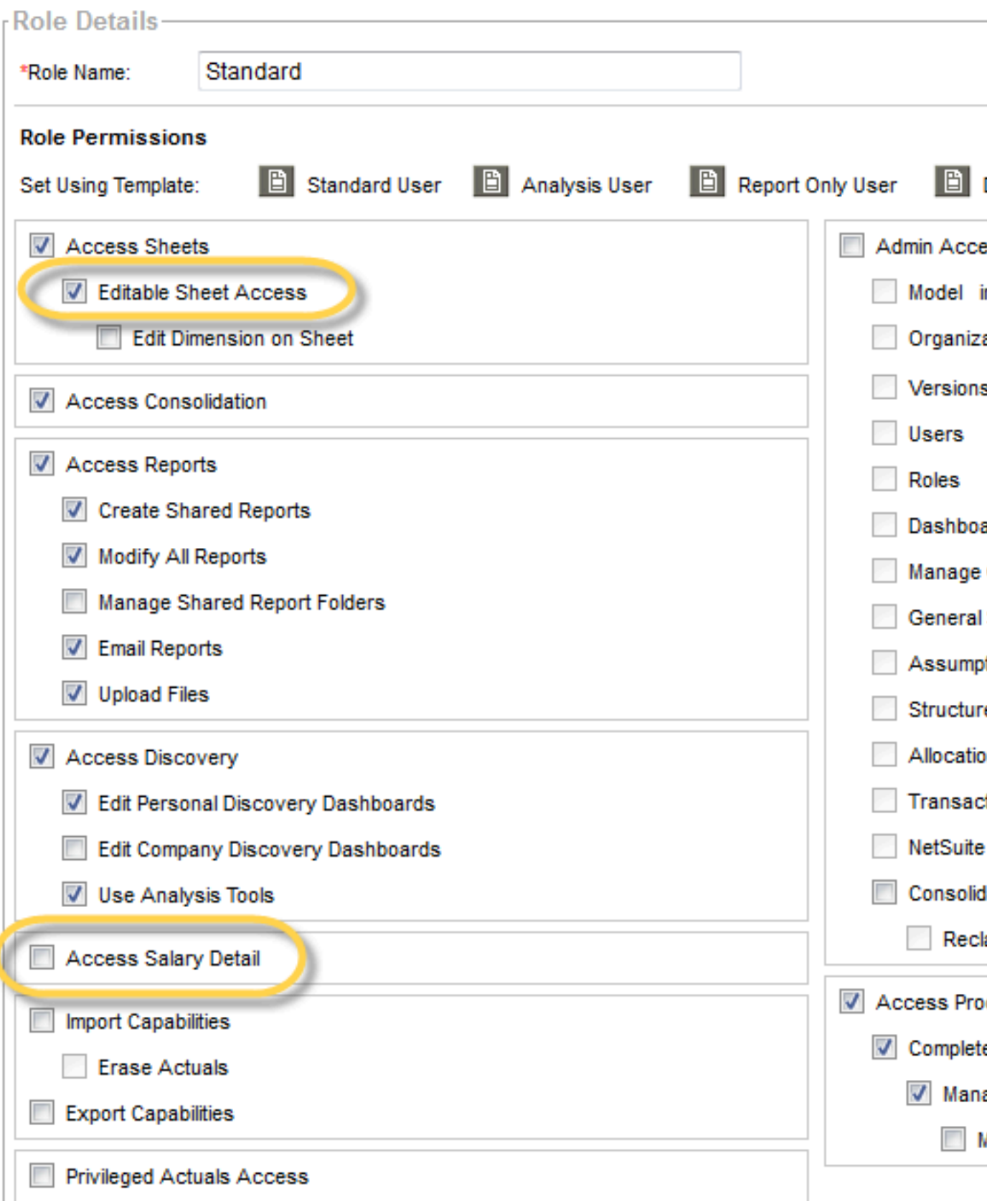
回答

通常、従業員シートは、シートまたはその行を表示するために、ユーザーに "給与詳細にアクセス" ロール権限を必要とするように設定されています。この設定は "モデリング" > "組織割当シート" > "編集" 従業員シート > "列と組織"のシート プロパティ メニューの "セキュリティ" タブで調整できます。




"給与詳細にアクセス" 権限は "管理" > "ロールと権限"からロールに割り当てることができます。ユーザーがシートを編集できるようにするには、"編集可能なシート アクセス" ロールの権限も必要です。"編集可能なシート アクセス" ロール権限は、ユーザーがアクセスできるすべてのシートに適用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




特定のユーザーに従業員シートへの読み取り専用アクセス権を付与するものの、モデル内の他のすべてのシートを編集できる場合は、以下に示すように、いくつかの異なるオプションがあります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1. 従業員シートの情報を含むモデル レポートを作成します。このような場合、"給与詳細にアクセス" 権限のないユーザーはレポートを表示できません。レポートの PDF または Excel スナップショットを作成して、そのレポートをマシンに保存できます。その後、ファイルをアップロードし、アップロードしたレポート ファイルを必要なユーザー組織と共有できます。
2. 従業員シートへの読み取り専用アクセスを必要とするユーザーに、2 つ目のログインを作成します。2 番目のログインには "給与詳細にアクセス" ロール権限が含まれますが、"編集可能なシート アクセス" 権限は含まれません。
3. モデル シート ビルダーから従業員シートのすべての列を読み取り専用にします。ユーザーは、引き続き従業員シートで行を追加および削除できますが、既存の行を編集することはできません。シート ビルダーからの読み取り専用設定はすべてのユーザーに適用されるため、情報を入力するユーザーは、データを編集またはインポートする (UI を介して変更しない) ために、読み取り専用設定を一時的に無効にする必要があります。

**FAQ:** シートへのユーザー アクセスを制限するにはどうすればよいですか？

ユーザーがアクセスできるシートを制限するには、制限付き権限とユーザー割当シートを組み合わせて使用します。

以下が可能です。

- これらの権限を除外する場合は、これらのユーザーの権限セットを作成します。
    - シートへのアクセス
    - 編集可能なシート アクセス
    - シート上で属性を編集
- ユーザー割当シートにユーザーを追加します。

ユーザー割当シートにユーザーを追加すると、そのユーザーはメイン メニューの " 前提条件" オプションにアクセスできるようになります。これにより、ユーザーの組織アクセス権に関係なく、ユーザー割当シートで利用可能なすべての組織と科目のデータを表示、編集できるようになります。 メイン メニューの "シート" 領域にはアクセスできません。

シート上の特定の組織からの科目の非表示化

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

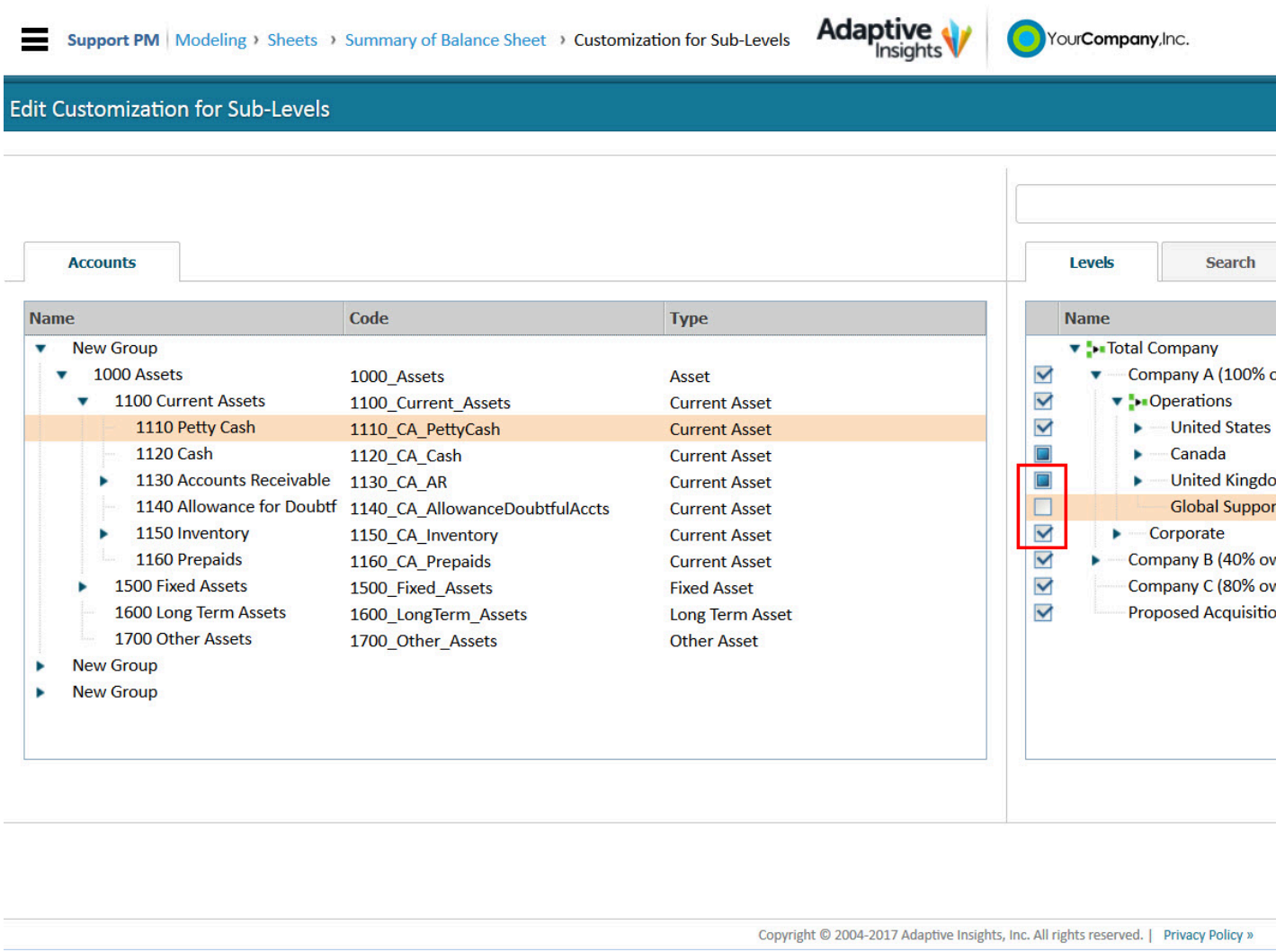
特定の組織に対して科目を非表示にし、同じシート上の他の組織では利用できるようにするにはどうすればよいですか？

回答

標準 シートで作業している場合、次のようにします。

"モデリング" > "シート" > "シートを編集" > "Edit" Customization for Sub-Levels"に移動します。科目が左側に、組織が右側に表示されています。左側の科目を展開してから、組織の使用可否をカスタマイズする科目を選択します。次に、右側の組織を展開します。科目には、"非表示"、"読み取り専用"、"編集可能" の 3 つのオプションがあります。親組織で制限して、プロセスを迅速化できます (設定は子組織に継承されるため)。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




キューブ シートで作業している場合、各組織の科目の使用可否を制限する制限を作成できます。これを行うには、"モデリング" > "シート" > "キューブ シートを編集" > "制限を編集"に移動します。組織と科目の制限を作成して、それをカスタマイズできます。

**1** 人のユーザーに対してバージョンを非表示にする

質問

あるユーザーに対して非表示にするバージョンがあるため、グローバル ユーザー グループを作成し、ユーザーを追加してから、そのグループのバージョンの "アクセス制御" 設定を "非表示" に変更しました。ユーザーがそのバージョンにアクセスできるのはなぜですか？

回答

ユーザーが複数のグループに属している場合、ユーザーにはそのグループ メンバーとして許可されている最上位レベルのアクセス権が付与されます。

この場合、問題のあるユーザーは、ロール権限に応じて、"ユーザー" グループまたは "編集可能なシート アクセス" グループのいずれかのメンバーになります。ユーザーが割り当てられているロールの "編集可能なシート アクセス" ボックスがオンになっている場合、ユーザーは "編集可能なシート アクセス" グループに属しています。"編集可能なシート アクセス" ボックスがオンになっていない場合、"ユーザー" グループになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

このユーザーに対してバージョンを非表示にするには、彼が属するグループに応じて、"ユーザー" または "編集可能なシート アクセス" のいずれかを "非表示" に設定する必要があります。その場合、"ユーザー" または "編集可能なシート アクセス" グループのユーザーをグローバル ユーザー グループに割り当ててから、上位レベルのアクセス権限を付与する必要があります。

注 : 詳細については、「バージョン アクセス」および 「バージョンのアクセス制御」の 記事を参照してください。

特定のユーザーに対するバージョンの非表示化

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

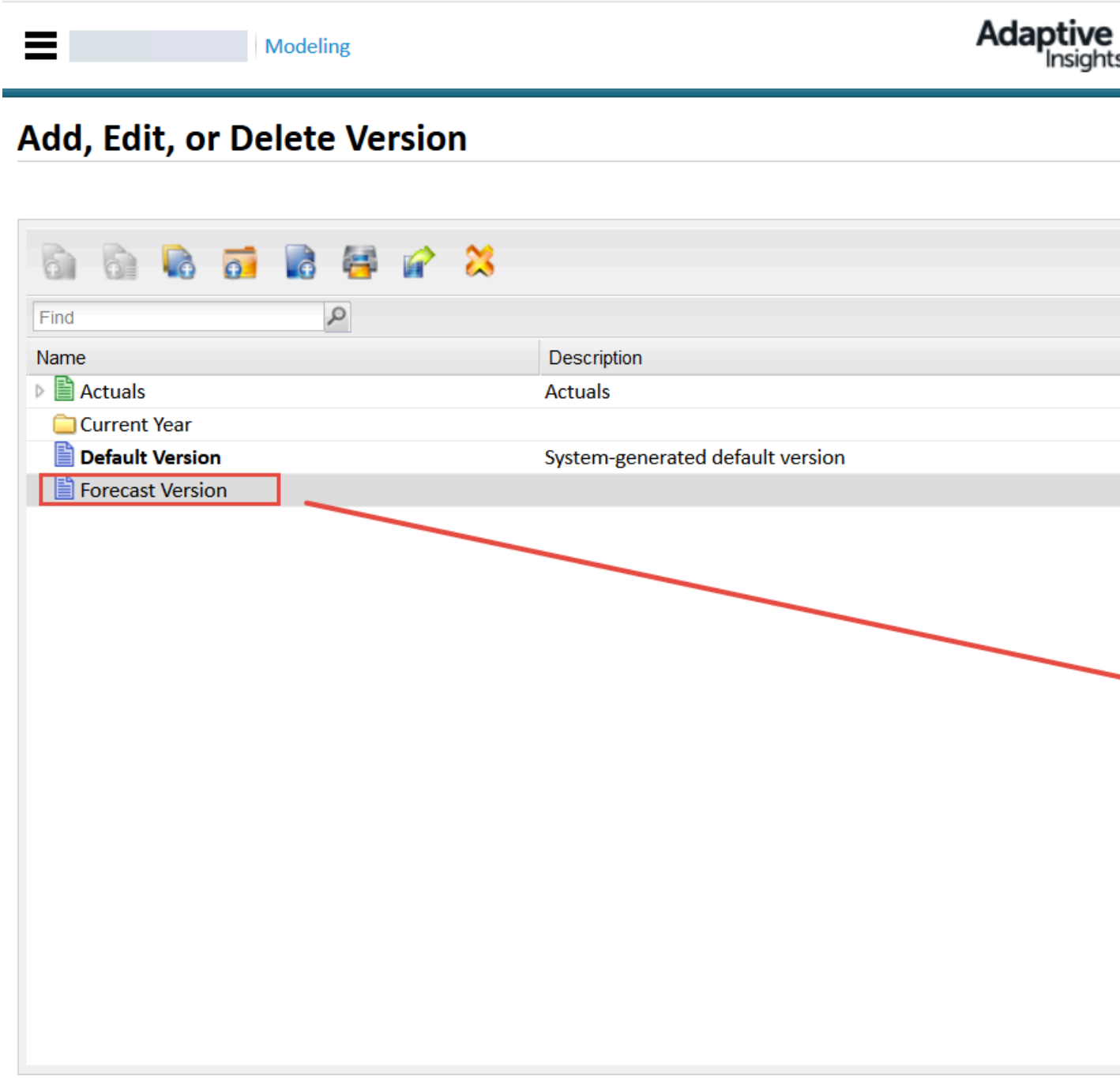
質問

特定のバージョンを非表示にしながら、他のすべてのユーザーには同じバージョンへのアクセス権を付与したいユーザーがいます。これを実行するにはどうすればよいですか？

回答

ユーザーが複数のグループ (管理者、ユーザー、編集可能なシート アクセス、グループ) に含まれている場合、ユーザーにはそのグループ メンバーシップで許可されている最上位レベルのアクセス権が付与されます。したがって、この場合、質問したユーザーを 除く すべてのユーザーを特定の グローバル ユーザー グループに割り当てるのが最適な方法となります。これは、" 管理" > "グローバル ユーザー グループ" > "新しいグループ" に移動することで、"グローバル ユーザーグループの管理" を持つユーザーが実行できます。次に、バージョンのアクセス制御設定内で、この新しく作成された "グローバル ユーザー グループ" を除くすべてのグループのアクセス権を削除します。これにより、バージョンは、必要に応じてこのグループに含まれていないユーザーに対して非表示になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




ユーザー情報の更新

質問

自分の Adaptive Insights ユーザー アカウント固有の情報はどこで更新できますか？

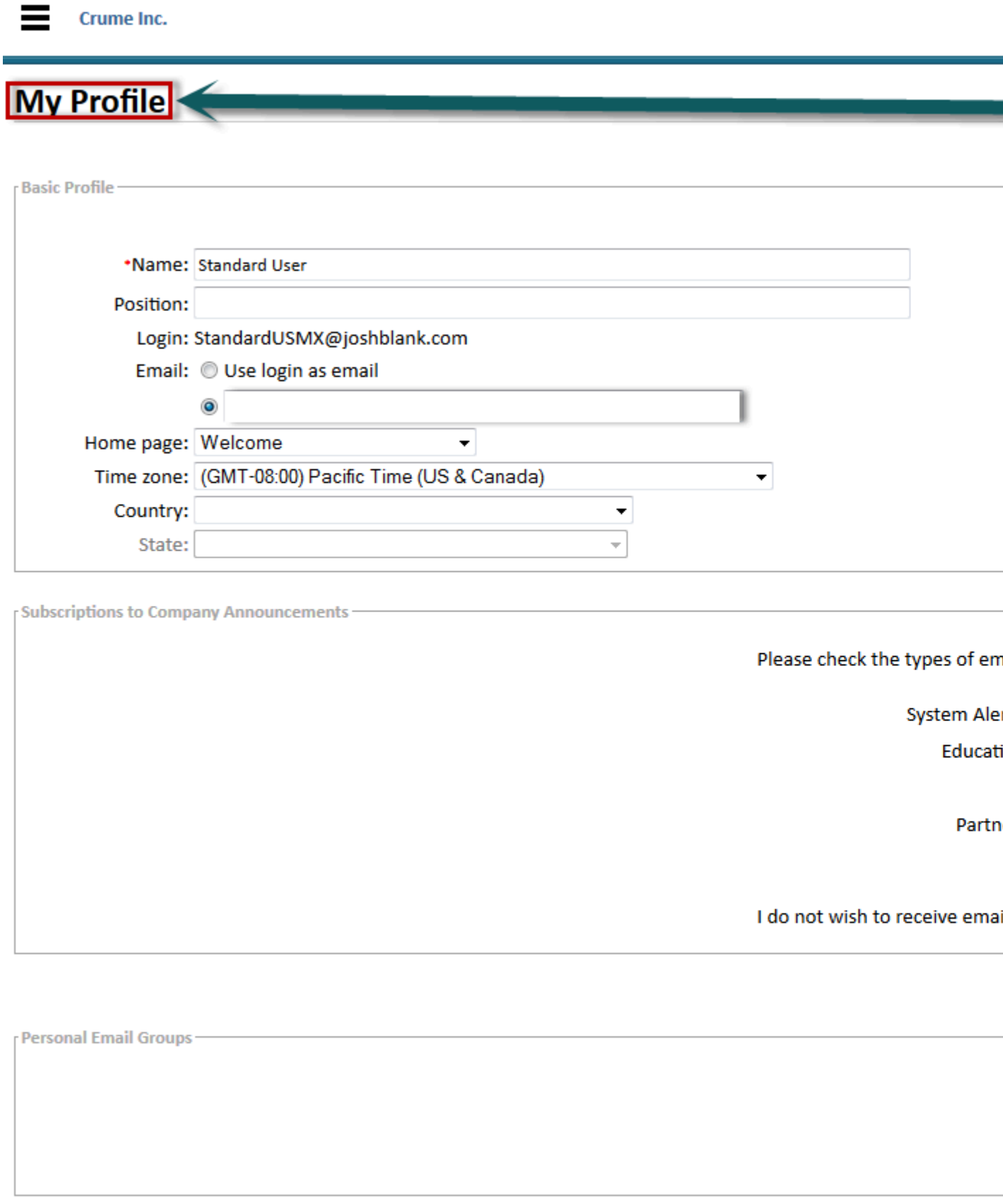
回答

Adaptive の右上にあるユーザーの選択と "設定" から、ユーザーは自分のプロファイルに固有の情報を更新できます。これにはユーザーの以下の情報が含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 名前
- E メール
- ホーム ページ (Adaptive にログインするときに読み込まれる最初のページ)
- タイムゾーン
- 勤務地
- パスワード
- アバター
- E メール受信

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ユーザーが期限切れになるとどうなりますか？

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

"管理" > "ユーザーを編集"でユーザーの 1 人が期限切れになっています。これはどのような意味ですか？

回答

パスワードは 、"管理" > "一般設定"に設定された "パスワードの設定" に基づいて失効させることができます。

ユーザーのパスワードの有効期限が切れている場合、期限切れの正しいパスワードを使ってログインすると、ただちにパスワードをリセットするよう促されます。この場合、"パスワードの変更" ページに "パスワードの期限が切れています。新しいパスワードを入力してください。パスワードが変更されるまで、ユーザーはアプリケーション内の他のページに移動できません。

パスワードの有効期限が切れ、ユーザーがパスワードを記憶できない場合、ユーザーは "パスワードを忘れた場合" リンクを使用できなくなるため、管理者がパスワードをリセットする必要があります。

唯一の管理者が退職した場合

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

社内で唯一の管理者が退職したばかりで、管理者ロールを作成したり、他のユーザーに管理者ロールを割り当てたりしていません。私に管理者ロールを割り当ててもよろしいですか？

回答

Workday Adaptive Planning インスタンスの唯一の管理者が退職した場合、財務部門 VP 以上 (CFO、CEO) からの E メールがサポート チームに送信され、特定のユーザーに管理権限を割り当てるようリクエストされます。リクエストでフルネームを使用してください)。

説明文は以下のとおりです。

*[INSERT NAME]* にこのモデルの管理組織のアクセス権を付与することをリクエストしています。*Workday Adaptive Planning* の管理アクセス権の一部として、*[INSERT NAME]* に組織の給与レベルの詳細が付与されることを理解しています。

重要： これは、クライアントのマネジメントによって特別に指定されない限り、機密データを非公開のままにするためのセキュリティ手段です。

または、指定サポート連絡先 (NSC) に協力を依頼し、カスタマー ケア リクエストを送信することもできます。 ケースの作成を参照してください。

ユーザーのログアウト後に、"ユーザー アクティビティ" パネルにユーザーがアクティブであることが表示されるのはなぜですか？

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

Adaptive からログアウトしてから 5 分以上経過しているのに、Adaptive にログインしたままのことがユーザー アクティビティ パネルに表示されるのはなぜですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

回答

"ユーザー アクティビティ" パネルには、ユーザーがインスタンスで最後にアクティブであった日付に関する説明が含まれます。システムはユーザーのアクティビティをミリ秒単位で追跡しますが、ユーザーの空白期間は次のカテゴリのいずれかに分類されます。

- 進行中
- 数秒前
- 数分前
- 5 ~ 10 分前
- 10 ~ 20 分前
- 20 ~ 30 分前
- 30 分以上前

たとえば、ユーザーがシステムで 45 分間アクティブになっていないとします。「30 分以上前」という説明は、そのユーザーの名前の横に表示されます。アクティブなユーザーは、1 時間以内の最新のアクティビティから最も古いアクティビティへとソートされます。タイムアウト時間は 60 分であるため、1 時間を超えることはありません。

データのロードを管理してパフォーマンスを最適化
データのロードを管理してパフォーマンスを最適化

質問

レポート、ダッシュボード、シートのロード時間やパフォーマンスを改善するにはどうすればよいですか？

回答

リフレッシュした場合 OfficeConnect レポートの実行、Web レポートの実行、シートまたはダッシュボードのロードには時間がかかる場合があります。これは、アクションに基になるデータ モデルの完全なロードが含まれるか、部分的にロードされるかによって異なります。

レポートまたはシートが完全にロードされる場合、ロードにかかる時間が長くなることがあります。たとえば、以下のように指定します。

- モデルに加えられた変更。
- 実績データに対する変更
- "管理" 内の "一般設定" ページの更新
- 更新送信先 概念: 共有数式 ( 1185ページ ) 任意のバージョン

部分的なロードのみの場合、レポートまたはシートのロードは比較的速くなります。たとえば、以下のように指定します。

- 予算データの変更 (シートおよび前提条件へのデータのインポートと入力を含む)

パフォーマンスを高速化するには、以下のベスト プラクティスをお勧めします。

- アクティビティのピーク時に完全ロードをトリガするアクションを最小限に抑える。
- 管理パブリッシュ を使用して、後続のモデリング更新を延期します。
- 変更の処理中に、パフォーマンスの一貫性が欠落していることをユーザーに通知する。
- 完全ロードと部分ロード間の差異をテストし、ユーザーへの影響を把握します。差異が大きいほど、影響は大きくなります。

パフォーマンスを最適化するための管理者の変更の管理

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

質問

モデルのワークフローに影響を与えずに管理者による変更を行うには、どうすればよいですか？

回答

特定の "管理" 変更が行われた後、インスタンスのメモリに保存されている計算は削除されます。これは、次回シートがロードされたとき、またはレポートが実行されたときに、データを再ロードして再計算するためです。これは、データが最新の状態になるために行われます。計算がより複雑であるインスタンスや、非常に大きなデータ セットがあるインスタンスでは、エンド ユーザーに顕著な影響を与える可能性があります。

管理者の変更がエンド ユーザーに顕著な影響を与える場合は、エンド ユーザーが更新を行ったりレポートを実行したりしている時間外で管理者変更をスケジュールすることをお勧めします。"管理パブリッシュ" というオプションがあり、これを使用すると管理者が更新を行い、後でそれらを公開できます。

管理パブリッシュの詳細とモデルでの有効化方法については、 管理パブリッシュ を参照してください

# インテグレーション

## API メソッド (XML)

### API メソッド

**API メソッド**
Adaptive Planning API では次のメソッドがサポートされています。

| | |
|---|---|
| メタデータとデータの作成、更新、読み取り方法 | • createAccount: ユーザーが新しい GL、カスタム、または前提条件科目を作成できるようにします<br>• createDimension: ユーザーが新しい属性を作成できます。<br>• createDimensionValue: ユーザーが新しい属性値を作成できます。<br>• createLevel: ユーザーが新しい組織を作成できるようにします。<br>• createUser: ユーザーが新しいユーザーを作成できます<br>• customReportValues: リクエストされたインスタンス内のリクエストされたレポート条件のデータ セットを返します<br>• exportAccounts: システム内の科目に関するメタデータを取得<br>• exportActiveCurrencies: システムで設定された通貨に関するメタデータを取得<br>• exportAttributes: システム内のすべてのカスタム特性のメタデータを取得<br>• exportCalendar（2183ページ）: カレンダー情報のメタデータを取得します。<br>• exportConfigurableModelData: 要求されたバージョンとインスタンスの要求されたモデル シートから行のセットを取得します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- exportCustomerLogo: 顧客ロゴの取得に使用できる URL を取得
- exportData: 特定のバージョンから一連の値を取得します
- exportDimensionFamilies: 属性がシステム内の科目にどのように関連するかについてのメタデータを取得します
- exportDimensions: システムのカスタム属性に関するメタデータを取得
- exportDimensionMapping: ユーザー定義の属性マッピング ルールをエクスポートします。
- exportGroups: 指定されたインスタンスに対して定義されたすべてのグループの完全なリストを取得します。
- exportInstances: ユーザーがアクセスできるインスタンスに関するメタデータを取得します (ユーザーが複数のインスタンスにアクセスできる場合)
- exportLevels: システムの組織に関するメタデータの取得
- exportLocales: 会社のすべての口ケールのリストを返します。
- exportModeledSheet: 特定のモデル シートの定義を返します
- exportRoles: システム内のロールに関するメタデータの取得
- exportPermissionSets: システムの権限セットに関するメタデータを取得
- exportSecurityAudit: 指定した時間範囲のセキュリティ イベント監査ログを取得します
- exportSheetDefinition: モデル シートまたはキューブ シートの定義を取得します
- exportSheets: タイプ、ID、名前があるすべてのシートのリストを取得します
- exportTime: 特定のバージョン、または指定されていない場合はすべてのバージョンの時間メタデータを返します
- exportTransactionDefinition: トランザクション シートの定義を取得
- exportUsers: システムのユーザーに関するメタデータを取得
- exportVersions: システム内のバージョンに関するメタデータを取得
- importDimensionMapping: 派生属性値をインポートします。
- importGroups ( 2343ページ ) : ユーザー グループ セットをインポートします。
- importModeledSheet: 指定されたモデル シートをインポートします
- publishChanges: ユーザーがパブリッシュされていない変更をパブリッシュできるようにします

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | • uncategorizedChangesStatus: 管理パブリッシュが有効かどうか、またパブリッシュされていない変更の数をユーザーが判断できるようにします。<br>• updateAccessRules: アクセス ルール セキュリティを使用するインスタンスのアクセス ルールを更新できます。<br>• updateAccount: ユーザーが既存の GL、カスタム、または前提条件科目のプロパティを更新できるようにします。<br>• updateAssociations ( 2405ページ ) : ユーザーがユーザー組織の所有権とユーザー属性の関連付けを更新できるようにします。<br>• updateDimension: ユーザーが既存の属性のプロパティを更新できるようにします。<br>• updateDimensionValue: ユーザーが既存の属性値のプロパティを更新できるようにします。<br>• updateLevel: ユーザーが既存の組織のプロパティを更新できるようにします。<br>• updateUser: ユーザー情報を更新できる (Workday から同期されると機能しません)。 |
| メタデータの一括更新 | • updateAccounts: ユーザーは XML ファイルをアップロードすることによって、GL 科目を一括更新できます。<br>• updateAttributes: ユーザーは XML ファイルをアップロードすることによって特性値を一括更新できます。<br>• updateDimensions: ユーザーは XML ファイルをアップロードすることによって、属性と属性値を一括更新できます。<br>• updateLevels: ユーザーは XML ファイルをアップロードすることによって、組織を一括更新できます。 |
| データ送信方法 | • importConfigurableModelData : submit a set of rows for a modeled sheet<br>• importCubeData: キューブ シートに挿入するデータ セットを送信<br>• importStandardData: 標準科目 (GL 科目、前提条件、またはカスタム科目) に挿入されるデータ セットを送信する<br>• importTransactions: トランザクション データに挿入されるトランザクション セットを送信します (トランザクション機能が有効になっている場合)<br>• eraseActuals: 実績バージョンの指定した期間および科目の数値データを消去します。<br>• eraseData: 特定の時間枠における指定された科目のセットについて、計画または実績のバージョンから数値データを消去します。<br>• recalculateSheet: "要求に応じて再計算" プロパティを使用してシートを再計算します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## 内部 ID 参照

API リクエストに内部 ID を含めることで、作成、更新、読み取り方法のメタデータを取得できます。これらのメソッドのリクエストを行う場合は、関連する Export API コールを使ってリクエストに必要な ID を取得します。以下のテーブルのすべての API に対するリクエストには、認証情報要素が必要です。

例
updateDimensionsAPI リクエストで属性を更新するには、属性 ID を渡す必要があります。属性 ID "7" を渡すと、"学歴" 属性を更新できます。

```
<dimensions>
      <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
      -------------------------
      </dimension>
</dimensions>
```

"学歴" の属性 ID "7" は、exportDimensionsAPI 応答から取得されます。

```
<response success="true">
 <output>
   <dimensions>
     <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="0" keepSorted="0" useOnLevels="1" seqNo="35">
      ------------------------------------------
    </dimension>
  </output>
 </response>
```

**API および応答 ID のエクスポート**

| API | Adaptive Planning 回答に含まれる内部 ID | 取得済メタデータ |
|---|---|---|
| exportAccounts | "科目 ID" と "科目特性 ID"<br><br>科目 ID は、exportDimensionFamilies などの他の API 呼び出しで科目を識別するために使用できます。<br><br>シート要素は任意です。シート要素を含める場合は、リクエストにシートの内部システム ID を渡す必要があります。exportSheets を参照してください。 | すべての科目タイプ (前提条件、キューブ科目、カスタム科目、総勘定元帳科目、メトリック科目、モデル科目) を含むすべての科目のリストです。 |
| exportActiveCurrencies | 通貨 ID<br><br>これは通貨を一意に識別するために使用でき、customReportValuesAPI で使用できます。 | システムで設定されているすべての通貨のリスト |
| exportAttributes | "特性 ID" と "attributeValue" の要素 ID | システム内のすべての特性のリスト。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| API | Adaptive Planning 回答に含まれる内部 ID | 取得済メタデータ |
|---|---|---|
| exportDimensions | 属性 ID とその dimensionValue 要素 ID<br><br>これは、exportDimensionFamilies などの、他の API コールで属性を識別するために使用できます。 | システム内のすべての属性のリスト。 |
| exportGroups | ユーザー グループ ID と、このユーザー グループを所有するユーザー ID (isGlobal="false" の場合にのみ設定)。 | 指定されたインスタンスに対して定義されたすべてのグループのリストです。これには、インスタンス全体でグローバルに定義されたグループと、ユーザーによって定義されたグループが含まれます。 |
| exportLevels | 組織 ID | システムにおけるすべての組織のリスト。 |
| exportPermissionSets<br><br>API v25+ で使用できます。 | 権限セット ID<br><br>これは、exportUsers API コールでユーザーに割り当てられた権限セットを識別するために使用されます。 | インスタンス内のすべての権限セットのリストです。 |
| exportRoles<br><br>API v25 以前で使用できます。<br><br>API v25+ では使用できません。 | ロール ID<br><br>これは、exportUsers API コールでユーザーに割り当てられたロールを識別するために使用されます。 | インスタンス内のすべてのロールのリスト。 |
| exportSheets | シート ID (標準、キューブ、モデル シートの要素)<br><br>これは、exportSheetDefinition などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。 | 指定されたインスタンスに定義された全シートのリストです。これには、"未完了" シートだけでなく、ユーザー割当シートも含まれます。 |
| exportTime | 初期の残高期間 ID | 特定のバージョンまたは指定されていない場合はすべてのバージョンの時間メタデータ。 |
| exportTransactionDefinition | 属性、テキスト セレクター、値の要素の ID。 | インスタンス内のトランザクションの定義 (使用可能な列)。 |
| exportUsers | このユーザーに割り当てられたユーザー ID とロール ID | インスタンス内の全ユーザーのリストです。 |
| exportVersions | バージョンまたはフォルダ ID<br><br>すべての ID は、すべてのバージョン、サブバージョン、およびフォルダ間で一意になります。 | 検証後にリクエスト元ユーザーに対して非表示にされることのない、インスタンス内で定義されたすべてのバージョンのセットを示す XML ドキュメント。 |

# データ インテグレーションの管理

## クラウド データ コネクト

**概念: クラウド データ コネクト**

Cloud Data Connect は、外部のデータ 倉庫から Adaptive Planning にデータをロードするパイプラインをすばやく作成するための標準化された接続を提供します。この機能は、すでに強力なデータ ガバナンスを実践している大規模な企業向けに設計されています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

パイプラインを作成すると、次のことを実行できます。

- Adaptive Planning 内のパイプラインのロード先を選択します。
- テンプレートをダウンロードして倉庫管理者に提供し、管理者が倉庫内でソース ビューと、場合によってはドリルスルー ビューを作成できるようにします。
- 倉庫とそのデータへの接続を設定します。
- コネクション情報をレビューします。

各パイプラインは、インテグレーション設定のデータ ソース、ローダ、タスクがバンドルされているかのように機能します。パイプラインの作成中にこのバンドルをオプトアウトすると、各コンポーネントを個別に管理できます。

パイプラインは以下の目的で表示および管理できます。

- 接続ステータスを確認してください。
- まだ接続していないドラフト パイプラインを編集します。
- パイプラインの複製と削除
- パイプライン タスクを実行およびスケジュールして、Adaptive Planning にデータをロードします。

クラウド データ コネクトの設定

始める前に

- 分割を含まない Adaptive Planning の標準シートまたはキューブ シート。
- Incorta、Microsoft Fabric、または Snowflake の環境を設定します。
- 接続するクラウド データ 倉庫の認証および承認の詳細。

  注 : 認証情報に、関連するスキーマおよびテーブルへのアクセス権が付与されていることを確認します。
- Incorta、Microsoft Fabric、Snowflake でビューを作成できる管理者へのアクセス権。
- 組織がドメインまたは IP アドレスを使用して外部サイトへのアクセスを制限している場合は、以下を参照してください。 Adaptive Planning のドメインおよび IP アドレス ( 2762ページ )。組織に強力なデータ ガバナンス モデルが存在するか、データ ガバナンスの慣例に精通した IT スタッフを配置することを強くお勧めします。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - ″クラウドのインポート済数値にドリルイン " 権限(ドリルスルー機能を使用する場合)

このタスクについて

以下のいずれかを使用して、Adaptive Planning 標準シートまたはキューブ シートにデータをロードするパイプラインを作成できます。

- Incorta
- Microsoft Fabric.
- フローレーク。

裏では、パイプラインを作成すると、Adaptive Planning インテグレーション設定に以下のコンポーネントが自動的に生成され、バンドルされます。

- データ ソース
- ローダ
- インテグレーション タスク。

パイプラインをバンドルとして管理することをオプトアウトし、"インテグレーション設定" で各コンポーネントを個別に手動で管理できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手順

1. メイン メニューから "インテグレーション" を選択します。
2. "パイプラインの設定"を選択します。
3. データのロード元を選択します。
4. "目的地の選択" ページに入力します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| パイプライン名 | パイプラインの名称を入力します。<br>"オプトイン パイプラインの管理 " チェックボックスをオフにした場合、"インテグレーション設定" で分割された各コンポーネントの前にこの名前が追加されます。 |
| バージョン | Adaptive Planning のバージョンを選択します。 |
| シート | Adaptive Planning シートを選択します。<br>現在、選択できるのは以下のとおりです。<br>• キューブ シート<br>• 標準シート<br>パイプラインは、分割を含むシートへのロードをサポートしていません。 |

注 : ドラフトを作成、編集、または複製する場合、すべての管理パイプラインに一意のターゲット (バージョンとシート) を指定する必要があります。

5. "テーブル テンプレートのダウンロード" をクリックします。
6. クラウド データ 倉庫の管理者にテンプレートを提供し、次の操作を行えるようにします。
   - テンプレートの形式および説明と完全に一致するビューを作成します。
   - 必要に応じて、ドリルスルー テーブルを作成します。このテーブルには、テンプレートに詳細に記載されている必須の列と構造、およびその他のコンテキスト情報を含むカスタム列を含める必要があります。
7. 管理者が以下のことを確認します。
   - テンプレートからビューを作成した。
   - パイプラインに使用されている認証情報に対する新しいビューへのアクセス権が付与されました。
8. "接続の設定 " ページを完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 認証情報 | 既存の認証情報を選択するか、新しい認証情報を作成します。既存の認証情報を使用して、パイプライン接続で再利用できます。<br>ダウンロードしたテーブル テンプレートに基づくビューにアクセスできる認証情報を管理者に依頼してください。<br>すべてのコネクタで、認証用のユーザー名とパスワードがサポートされています。さらに、以下も実行します。<br>• Microsoft Fabric では、アプリケーション ID とクライアント シークレットがサポートされています。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | • Snowflake では、以下がサポートされています。<br>  • OAuth 2。参照 クラウド データ コネクトの Snowflake OAuth2 認証情報の設定（1618ページ）。<br>  • パスワードとしての個人アクセストークン |
| サーバー | Incorta または Microsoft Fabric 環境のリンクを入力します。 |
| ポート | Incorta 環境のポート番号を入力します。 |
| Account | Snowflake 環境リンクを入力します。 |
| データベース | クラウド データ 倉庫環境の関連するテーブルを含む倉庫名を入力します。 |
| データ ソース テーブル | ダウンロードしたテーブル テンプレートの形式と一致する環境で作成されたテーブルを選択します。 |
| ドリルスルー テーブル | (任意) カスタム列とともに、テンプレートで示されている構造に準拠している環境のテーブルを選択します。 |

9. 設定をレビューします。
10. (任意) このコネクションをパイプラインとして管理しない場合は 、"オプトイン パイプラインの管理 " チェックボックスをオフにします。

    このチェックボックスをオフにした場合は、自動的に作成されたデータ ソース、ローダ、タスクを "インテグレーション設定" で管理する必要があります。

    注： Adaptive Planning は、インテグレーション設定で管理される CDC 接続ではなく、CDC で管理されるパイプラインの "データへのドリルスルー" のみをサポートします。
11. "完了" をクリックします。
12. "パイプライン " ページで "パイプライン" をクリックしてページをリフレッシュし、"接続済 " ステータスを確認します。

    新しいパイプラインの接続には数分かかる場合があります。
13. "すべてのタスク"を選択します。
14. パイプラインに基づいて名前が付けられたタスクを選択します。

    このタスクは、パイプラインの作成時に自動的に生成されたインテグレーション タスクです。上部に検索語を入力して、タスクをフィルタできます。
15. "新しいタスク インスタンスの起動" をクリックします。
16. 期間範囲と計画バージョンを確認します。
17. "実行"を選択します。

    "ステータス " 列の更新には数分かかる場合があります。この列は次のいずれかになります。

    - 成功を確認する。
    - エラーを記録します。
18. Adaptive Planning シートでデータを確認します。

タスクの結果

Incorta、Microsoft Fabric、Snowflake のデータが目的のシートにロードされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 既存のパイプラインでのクラウド データ コネクト ドリルスルーの設定

#### 始める前に

既存のクラウド データ コネクト パイプラインを設定した場合。詳細については、以下を参照してください。 クラウド データ コネクトの設定（1578ページ）。

- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "クラウドのインポート済数値にドリルイン " 権限

#### このタスクについて

既存のパイプラインにクラウド データ コネクト パイプラインの "ドリルスルー" を設定するには、既存のパイプラインを複製し、元のパイプラインを削除します。

#### 手順

1. メイン メニューから "インテグレーション" を選択します。
2. "パイプラインの設定"を選択します。
3. "複製"を選択します。
4. "Configure Connection" ページで "ドリルスルー テーブル" を選択します。
5. "保存して終了" を選択し、パイプラインをドラフトとして保存します。
6. "パイプラインの管理" ページに移動します。
7. "削除" を選択します。
8. "パイプラインの設定 " ページに移動します。
9. "パイプラインの作成" ページで、ドラフトとして保存したパイプラインを選択します。
10. "レビュー " ページで "完了" を選択するとパイプラインが接続されます。

### CDC パイプライン タスクの実行とスケジュール設定

#### 始める前に

既存のパイプラインが作成され接続されました。

- "モデル管理アクセス" 権限
- "インテグレーション オペレーター" 権限

#### このタスクについて

パイプラインを接続すると、自動的に "CDC パイプライン タスク" を取得できます。これらのタスクにより、クラウド 倉庫に設定されたソース テーブルからデータを簡単にインポートし、目的の送信先に直接送信できます。これにより、最小限の労力でデータの最新性と同期性を維持できます。

これらのタスクを自動的に実行するようスケジュールしたり、必要に応じてオンデマンドで実行したりすることで、データ フローを完全に制御できます。

#### 手順

1. メイン メニューから "インテグレーション" > "パイプラインの管理" を 選択します。
2. "タスク"を選択します。
3. リストから関連するタスクを選択します。
   パイプライン タスクには、"パイプライン名_インテグレーションタスク" という名前が自動的に付けられます。
4. "情報とスケジュール " タブの "パイプライン" タスクが開きます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

5. オンデマンドでタスクを実行するには、"タスク を実行 " をクリックします。
    a) 必須の "期間範囲"を選択します。
    b) 必須の "実績バージョン"を選択します。
    c) "実行"をクリックします。
6. スケジュールを作成するには、"スケジュールの追加" をクリックします。
7. "スケジュールの追加" フィールドに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | スケジュールの名称を入力します。 |
| 頻度 | 頻度を選択します。<br>• 毎日<br>• 毎週<br>• 毎月 |
| 曜日 | "頻度" に "毎週" を選択した場合に使用できます。複数の日を選択できます。 |
| 月の通算日 | "頻度" に "毎月" を選択した場合に使用できます。デフォルト値は 1 です。 |
| Time | タスクを実行する時間を選択します。 |
| タイムゾーン | タスクを実行する時間帯を選択します。 |
| スケジュール ステータス | 定義したスケジュールでタスクを実行するには、"アクティブ" チェックボックスをオンにします。"アクティブ" チェックボックスをオフにして、スケジュールを非アクティブにし、タスクの実行を停止します。 |

8. "追加" をクリックします。
    パイプライン タスクには最大 5 つのスケジュールを設定できます。

### タスクの結果

CDC パイプライン タスクを実行すると、設定されたソース テーブルからデータが目的の保存場所にインポートされ、データのリフレッシュと同期が維持されます。タスクをスケジュールすると、定義した頻度でタスクが自動的に実行されます。

### 次のタスク

タスクの実行履歴を表示するには、"最近の実行" タブを選択します。特定の実行を選択すると、その詳細が表示されます。

### 参考: クラウド データ コネクトでサポートされているデータ タイプ

クラウド データ コネクト (CDC) は、Incorta、 Fabric、Snowflake などのさまざまなクラウド データ プラットフォームからのデータのインポートをサポートします。これらの倉庫では、特定のビジネス ケースをサポートするために、データ タイプごとに異なる名前と定義を持つデータ テーブルを使用します。パイプラインやドリルスルーなどの CDC 機能では、以下のデータ タイプがサポートされています。

| クラウド データ倉庫 | データ タイプ カテゴリ | データ タイプ | CDC はサポートされていますか？ | 注記 |
|---|---|---|---|---|
| Snowflake | 数値タイプ | NUMBER | はい | 32 ビット整数として読み取ります。そのため、小数点以下の桁数の |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| クラウド データ倉庫 | データ タイプ カテゴリ | データ タイプ | CDC はサポートされていますか？ | 注記 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 最大値は次のとおりです。<br>`NUMBER(10, 0)`<br>.より大きな値の場合は、BIGENTの使用を検討してください。 |
| Snowflake | 数値タイプ | DECIMAL | はい | 128 ビット値として読み取ります。したがって、小数部桁数の最大値は 28、スケールの最大値は 29 になります。 |
| Snowflake | 数値タイプ | NUMERIC | はい | 別名同一<br>`DECIMAL`<br>. |
| Snowflake | 数値タイプ | INT | はい | 32 ビット整数として読み取ります。Snowflake では、これらの値を次のように保存します。<br>`NUMBER(38, 0)`<br>-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 の範囲外の値の場合は、エラーが発生する可能性があります。 |
| Snowflake | 数値タイプ | INTEGER | はい | 整数と別名同一。 |
| Snowflake | 数値タイプ | BIGINT | はい | 64 ビット整数として読み取ります。Snowflake では、これらの値を次のように保存します。<br>`NUMBER(38, 0)`<br>-9,223,372,0m36,854,775,808 ~ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| クラウド データ倉庫 | データ タイプ カテゴリ | データ タイプ | CDC はサポートされていますか？ | 注記 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 9,223,372,036,854,775,807 の範囲外の値の場合は、エラーが発生する可能性があります。 |
| Snowflake | 数値タイプ | SMALLINT | はい | 16 ビット整数として読み取ります。Snowflake では、これらの値を次のように保存します。<br>`NUMBER(38, 0)`<br>-32,768 ~ 32,767 の範囲外の値のエラーが発生する可能性があります。 |
| Snowflake | 数値タイプ | TINYINT | はい | |
| Snowflake | 数値タイプ | バイト | はい | |
| Snowflake | 数値タイプ | FLOAT | はい | |
| Snowflake | 数値タイプ | FLOAT4 | はい | |
| Snowflake | 数値タイプ | FLOAT8 | はい | |
| Snowflake | 数値タイプ | DOUBLE | はい | |
| Snowflake | 数値タイプ | 倍精度 | はい | |
| Snowflake | 数値タイプ | REAL | はい | |
| Snowflake | 文字列とバイナリ タイプ | VARCHAR | はい | |
| Snowflake | 文字列とバイナリ タイプ | CHAR | はい | |
| Snowflake | 文字列とバイナリ タイプ | CHARACTER | はい | |
| Snowflake | 文字列とバイナリ タイプ | STRING | はい | |
| Snowflake | 文字列とバイナリ タイプ | TEXT | はい | |
| Snowflake | 文字列とバイナリ タイプ | BINARY | いいえ | |
| Snowflake | 文字列とバイナリ タイプ | VARBINARY | いいえ | |
| Snowflake | 論理タイプ | BOOLEAN | はい | |
| Snowflake | 日付と時間タイプ | DATE | はい | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| クラウド データ倉庫 | データ タイプ カテゴリ | データ タイプ | CDC はサポートされていますか？ | 注記 |
|---|---|---|---|---|
| Snowflake | 日付と時間タイプ | DATETIME | はい | |
| Snowflake | 日付と時間タイプ | TIME | はい | |
| Snowflake | 日付と時間タイプ | TIMESTAMP | はい | |
| Snowflake | 日付と時間タイプ | TIMESTAMP_LTZ | いいえ | |
| Snowflake | 日付と時間タイプ | TIMESTAMP_NTZ | はい | |
| Snowflake | 日付と時間タイプ | TIMESTAMP_TZ | いいえ | |
| Snowflake | その他 | バリアント | いいえ | |
| Snowflake | その他 | オブジェクト | いいえ | |
| Snowflake | その他 | ARRAY | いいえ | |
| Snowflake | その他 | MAP | いいえ | |
| Snowflake | その他 | ファイル | いいえ | |
| Snowflake | その他 | 地理 | いいえ | |
| Snowflake | その他 | 地理 | いいえ | |
| Snowflake | その他 | ベクター | いいえ | |
| Incorta | 数値タイプ | 整数 | はい | |
| Incorta | 数値タイプ | Long | はい | |
| Incorta | 数値タイプ | 小数 | はい | |
| Incorta | 数値タイプ | Double | はい | |
| Incorta | 数値タイプ | 日付 | はい | |
| Incorta | 文字列とバイナリタイプ | String | はい | |
| Incorta | 文字列とバイナリタイプ | テキスト | はい | |
| Incorta | 日付と時間タイプ | タイムスタンプ | はい | |
| Incorta | その他 | 地理 | いいえ | |
| Incorta | その他 | ヌル | いいえ | |
| Fabric | 数値タイプ | bit | はい | ブール値として解析 (True/False) |
| Fabric | 数値タイプ | smallint | はい | |
| Fabric | 数値タイプ | int | はい | |
| Fabric | 数値タイプ | bigint | はい | |
| Fabric | 数値タイプ | decimal | はい | 小数部桁数の最大数は 28 です。最大スケールは 29 です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| クラウド データ倉庫 | データ タイプ カテゴリ | データ タイプ | CDC はサポートされていますか？ | 注記 |
|---|---|---|---|---|
| Fabric | 数値タイプ | numeric | はい | 別名同一 `DECIMAL` . |
| Fabric | 数値タイプ | float | はい | |
| Fabric | 数値タイプ | real | はい | |
| Fabric | 文字列とバイナリ タイプ | char | はい | |
| Fabric | 文字列とバイナリ タイプ | varchar | はい | |
| Fabric | 文字列とバイナリ タイプ | varbinary | いいえ | |
| Fabric | 日付と時間タイプ | date | はい | |
| Fabric | 日付と時間タイプ | time | はい | |
| Fabric | 日付と時間タイプ | datetime2 | はい | |
| Fabric | その他 | uniqueidentifier | はい | |

ステップの例: **Planning** データ ソースとカスタム クラウド ローダを使用した **Microsoft** 生地へのエクスポート

この例では以下の方法を説明します。

- Adaptive Planning シートの Planning データ ソースを作成します。この例ではモデル シートを使用しますが、Planning データ ソースがサポートする任意のシート タイプを使用できます。
- Microsoft Entra にアプリケーションを登録します。
- カスタム クラウド ローダを作成します。
- カスタム クラウド ローダを実行またはスケジュール設定します。

このタスクについて

Adaptive Planning の設計インテグレーションを使用して、Adaptive Planning のモデル シートから Microsoft Fabric にデータをロードします。そのデータをロードするには、以下の操作が必要です。

- Planning データ ソース (PDS) を設定します。
- PDS から Microsoft Fabric にエクスポートするカスタム クラウド ローダ (CCL) を設定します。

CCL に用意されている JavaScript を使って以下を実行します。

- Adaptive Planning のモデル シートからデータを読み取ります。
- 指定されたクライアント ID とクライアント シークレットを使用して、" client_credentials" 付与タイプを使用して OAuth アクセス トークンを作成します。
- Adaptive Planning と Microsoft Fabric 間の接続をテストします。
- CSV ファイルを使用して Microsoft Fabric にデータをロードします。
- OneLake API を活用してください。

始める前に

- Microsoft Entra 管理センターにアプリケーションを登録するためのアクセス権。
- Microsoft Fabric の認証情報。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:"インテグレーション開発者" 権限

手順

1. モデル シートの Planning データ ソースを作成します。
   インポートする Adaptive Planning ソースを選択するときは、シートを選択します。
   参照 ステップ: Planning データ ソースの設定（1668ページ）。
2. OAuth 用の Adaptive Planning CCL で使用するアプリケーションを Microsoft Entra 管理センターに登録します。
   このアプリケーションに「CustomCloudLoaderMSFarbric」という名前を付けます。
   クイック スタート: Microsoft Entra ID でのアプリケーションの登録を参照してください。
3. 以下の "Microsoft Graph" 権限を、Microsoft Entra で登録済みのアプリケーションに割り当てます。

| API または権限の名前 | タイプ | 説明 |
|---|---|---|
| Files.Read.All | アプリケーション | すべてのサイト コレクションにあるファイルを読み取る。 |
| Files.ReadWrite.All | アプリケーション | すべてのサイト コレクション内のファイルの読み取りと書き込み。 |
| Files.ReadWrite.AppFolder | アプリケーション | サインイン ユーザーなしでアプリケーションのフォルダに完全にアクセスできる。 |
| Files.SelectedOperations.Selected | アプリケーション | サインインしたユーザーなしで、選択したファイルにアクセスします。 |
| User.Read | 委任済 | サインインおよびユーザー プロファイルの読み取り |

   クイック スタート: Web API のアプリ権限の設定を参照してください。
4. コントリビュータ以上のアクセス レベルで、ワークスペースへの Microsoft Entra アプリケーション アクセスを提供します。
5. カスタム クラウド ローダの作成（1724ページ）.
   "デザイナー設定" タブで次の設定を追加します。

| 名前 | 設定コンポーネント |
|---|---|
| ターゲット ワークスペース | 静的テキスト |
| ターゲットのレークアップ | 静的テキスト |
| テナント ID | 静的テキスト |
| クライアント シークレット | パスワード |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 設定コンポーネント |
| --- | --- |
| クライアント ID | 静的テキスト |

"スクリプト" タブで次のスクリプトを作成します。

- AzureCloudUtil
- EnvSettings
- MsFabricCCL1

| | |
| --- | --- |
| AzureCloudUtil Script | このスクリプトには、以下のユーティリティ メソッドが含まれています。<br>• requestNewToken: 指定されたクライアント ID とクライアント シークレットを用いて、" client_credentials" 付与タイプを使用して OAuth アクセス トークンを生成します。<br>• getWorkspace: 指定したワークスペースの WorkspaceIdentifier を使用して、そのワークスペースに関する情報を取得します。<br>• getWorkspaces: 指定された認証情報についてアクセス可能なすべてのワークスペースを取得します。<br>• getWorkspaceItems: ワークスペースの Workspace_ID を使用して、そのワークスペース内のすべてのアイテムをリストします。<br>• getLakeuse: ワークスペース内の指定されたレーティング アイテムに関する情報を取得します。そのアイテムのレーク アイテムの識別子を使用します。<br>• UploadRowsInto FabricTable: CSV ファイルの行をレークアイテム テーブルにロードします。<br>• createFileResource: ファイル リソースを作成するため、action=file を指定して OneLake Files/<file Resource> エンドポイントを呼び出します。<br>• UploadFileContent: CSV 行をアップロードするため、action=append を指定して OneLake Files/<file Resource> エンドポイントを呼び出します。<br>• 要因: ChangeResetFileContent:OneLake Files/<file Resource> エンドポイントを action=f 自分で呼び出し、すべての CSV 行を確定とコミットします。<br>• TrackJobProcess: レイク ホーム テーブルへの CSV ファイルの行のロードの進捗状況を監視する。<br>• MakeHttpsReq: HTTP リクエストを送信します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

スクリプトとして次のテキストを入力します。

```
const azureCloudUtil = {

   requestNewToken:
 function (scope =
 EnvSettings.default_scope) {
       var tenant_id =
 EnvSettings.tenant_id;
       var client_id =
 EnvSettings.client_id;
       var client_secret =
 EnvSettings.client_secret;

       var method = 'POST';
       var body =
 'grant_type=client_credentials&client_id='+
 client_id +'&scope=' + scope;

       var headers = {
           "Content-Type":
 'application/x-www-form-
urlencoded',
           "Authorization":
 'Basic ' +
 ai.util.encodeBase64(client_id +
 ':' + client_secret, "")
       };

       var response = null;
       try {
           var url =
 EnvSettings.token_url.replace('{tenant_id}',
 tenant_id);
           response =
 makeHttpsReq(method, url, body,
 headers, null, false);
          //
 ai.log.logInfo('requestNewToken
 HTTP response ',
 JSON.stringify(response.getBody()));
       }
       catch (exception) {

 ai.log.logError('requestNewToken:
 HTTPS Request failed', '' +
 exception);
           return null;
       }

       if (response.getHttpCode()
 == '200') {
           var responseBody =
 response.getBody();
           return
 JSON.parse(responseBody);
       } else {

 ai.log.logError('requestNewToken:
 responseBody', responseBody);

 ai.log.logError('requestNewToken:
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 HttpCode: ' ,
 response.getHttpCode());
            return null;
        }
    },
    getWorkspace: function
 (workspaceIdentifier) {
        var response =
 azureCloudUtil.getWorkspaces();
        if (!
isSuccessStatusCode(response)) {
            throw new
 Error("Unable to fetch workspace
 information!");
        }

        var responseBody =
 response.getBody();
        var workspaceList =
 JSON.parse(responseBody);
        if (!workspaceList
 || !workspaceList.value || !
Array.isArray(workspaceList.value))
 {
            throw new
 Error("Invalid input JSON.
 Expected a structure with a
 'value' array.");
        }

        const
 lowerWorkspaceIdentifier =
 workspaceIdentifier.toLowerCase();
        const foundWorkspace = (

 workspaceList.value.find(entry =>

 entry.id.toLowerCase() ===
 lowerWorkspaceIdentifier ||

 entry.displayName.toLowerCase()
 === lowerWorkspaceIdentifier
            ) || null
        );

        if (foundWorkspace ===
 null) {
            throw new Error(`The
 resource '${workspaceIdentifier}'
 could not be found or you may not
 have the required permissions to
 access it.`);
        }

        return foundWorkspace;
    },
    getWorkspaces: function () {
        var targetUrl =
 EnvSettings.ms_fabric_base_url +
 '/workspaces'
        var method = 'GET';

        return makeHttpsReq(method,
 targetUrl, '', null);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
  },
  getWorkspaceItems: function
(workspace_id) {
      var targetUrl =
EnvSettings.ms_fabric_base_url +
'/workspaces/' + workspace_id +
'/items'
      var method = 'GET';

      return makeHttpsReq(method,
targetUrl, '', null);
  },
  getLakehouse: function
(workspace, lakehouse_identifier)
{
      var response =
azureCloudUtil.getWorkspaceItems(workspace.i
      if (!
isSuccessStatusCode(response)) {
          throw new Error("Unable
to fetch workspace items!");
      }

      var responseBody =
response.getBody();
      var workspaceItems =
JSON.parse(responseBody);

      if (!workspaceItems
|| !workspaceItems.value || !
Array.isArray(workspaceItems.value))
{
          throw new
Error("Invalid input JSON.
Expected a structure with a
'value' array.");
      }

      const
lower_lakehouse_identifier =
lakehouse_identifier.toLowerCase();

      var foundItem = (

workspaceItems.value.find(entry
=>
              entry.type ===
"Lakehouse" &&

( entry.id.toLowerCase() ===
lower_lakehouse_identifier ||

entry.displayName.toLowerCase()
=== lower_lakehouse_identifier )
          )  || null);

      if (foundItem === null) {
          foundItem = (

workspaceItems.value.find(entry
=>

entry.id.toLowerCase() ===
lower_lakehouse_identifier ||
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 entry.displayName.toLowerCase()
 === lower_lakehouse_identifier
           )  || null);
       }

       if (foundItem === null) {
           throw new
 Error(`The resource
 '${lower_lakehouse_identifier}'
 could not be found or you may not
 have the required permissions to
 access it.`);
       }

       if (foundItem.type !==
 "Lakehouse") {
           throw new
 Error(lakehouse_identifier + ' is
 of type ' + foundItem.type + ',
 not Lakehouse.');
       }

       return foundItem;
   },
   uploadRowsIntoFabricTable:
 function(workspaceId,
 lakehouseId, tableName,
 inputCsvFile) {
       const targetUrl = `
${EnvSettings.ms_fabric_base_url}/
workspaces/${workspaceId}/
lakehouses/${lakehouseId}/tables/
${tableName}/load`;

       const headers = {
           "Content-Type":
 "application/json",
       };

       const body = {
           relativePath: `Files/
${inputCsvFile}`,
           pathType: "File",
           mode: "overwrite",
  // Mode can be "overwrite",
 "append", "update", or "upsert"
           formatOptions:{
                   header: true,
                   delimiter: ",",
                   format: "CSV"
           }
       };

       const triggerResponse =
 makeHttpsReq("POST", targetUrl,
 JSON.stringify(body), headers);

       if
 (isSuccessStatusCode(triggerResponse))
 {

 ai.log.logInfo('uploadRowsIntoFabricTable:
 ' + tableName, `Copy from the
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 CSV file 'Files/${inputCsvFile}'
 initiated.`);
       } else {

 ai.log.logError('uploadRowsIntoFabricTable:
 ' + tableName, 'An error occurred
 while starting the copy process.'
 + triggerResponse.getBody());
           return false;
       }

       const terminalStates =
 ["Succeeded", "Failed"];
       const
 recentJobStatusResponse =
 trackJobProgress(triggerResponse,
 terminalStates, 'Copy CSV file');
       if
 (isSuccessStatusCode(triggerResponse))
 {

 ai.log.logInfo('uploadRowsIntoFabricTable:
 ' + tableName, `Successfully
 copied all rows from the CSV file
 'Files/${inputCsvFile}'.`);
       } else {

 ai.log.logError('uploadRowsIntoFabricTable:
 ' + tableName, 'Failed to
 copy rows from the CSV file
 ' + inputCsvFile + '. ' +
 triggerResponse.getBody());
           return false;
       }

       return true;
   },
   createFileResource:
 function(workspace, lakehouse,
 inputCsvFile) {
       const
 encodedWorkspaceName =
 workspace.displayName.replace(/ /
g, "%20");
       const targetUrl = `
${EnvSettings.onelake_dfs_base_url}/
${encodedWorkspaceName}/
${lakehouse.displayName}.lakehouse/
Files/${inputCsvFile}?
resource=file`;

       const headers = {
           "Content-Type":
 "application/json",
       };


       //
ai.log.logInfo('createFileResource:
 targetUrl' , targetUrl);

       const response
 = makeHttpsReq("PUT",
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 targetUrl, '', headers,
 EnvSettings.azure_storage_scope);

       if (!
isSuccessStatusCode(response)) {

 ai.log.logError('createFileResource:
 ' + inputCsvFile, 'Failed to
 create the file resource.' +
 response.getBody());
           return false;
       }


 ai.log.logInfo('createFileResource:
 ' + inputCsvFile, `Created a file
 resource.`);

       return true;
   },
   uploadFileContent: function
 (workspace, lakehouse,
 inputCsvFile, inputCsvFileBody,
 position) {
       const
 encodedWorkspaceName =
 workspace.displayName.replace(/ /
g, "%20");
       const targetUrl = `
${EnvSettings.onelake_dfs_base_url}/
${encodedWorkspaceName}/
${lakehouse.displayName}.lakehouse/
Files/${inputCsvFile}?
action=append&position=
${position}`;
       const contentLength =
 getByteLength(inputCsvFileBody);
       const headers = {
           "x-ms-version":
 "2021-06-08",
           "Content-Type": "text/
csv",
           "Content-Length":
 contentLength
       };

       const response =
 makeHttpsReq("PATCH", targetUrl,
 inputCsvFileBody, headers,
 EnvSettings.azure_storage_scope);

       if (!
isSuccessStatusCode(response)) {

 ai.log.logError('uploadFileContent:
 ' + inputCsvFile, 'Failed to
 upload the file content.'+
 response.getBody());
           return -1;
       }


 ai.log.logInfo('uploadFileContent:
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 ' + inputCsvFile, `Uploaded file
 content.`);

       return contentLength;
   },
   flushAndFinalizedFileContent:
 function(workspace, lakehouse,
 inputCsvFile, fileContentLength)
 {
       const
 encodedWorkspaceName =
 workspace.displayName.replace(/ /
g, "%20");
       const targetUrl = `
${EnvSettings.onelake_dfs_base_url}/
${encodedWorkspaceName}/
${lakehouse.displayName}.lakehouse/
Files/${inputCsvFile}?
action=flush&position=
${fileContentLength}`;

       const headers = {
           "Content-Type":
 "application/json",
           "x-ms-version":
 "2021-06-08"
       };

       const response =
 makeHttpsReq("PATCH",
 targetUrl, '', headers,
 EnvSettings.azure_storage_scope);

       if
 (isSuccessStatusCode(response)) {

 ai.log.logInfo('flushAndFinalizedFileContent
 ' + inputCsvFile, `The file
 content flushed and finalized.`);
           return true;
       } else {

 ai.log.logError('flushAndFinalizedFileConten
 ' + inputCsvFile, 'Failed to
 flush and finalize the file
 content.');
           return false;
       }
   }

}

function
 makeHttpsReq(httpMethodType,
 targetUrl, httpBody,
 httpHeaders, scope =
 EnvSettings.default_scope,
 addAuthHeader = true) {

   var method = httpMethodType;
   var headers = httpHeaders || {
       'Content-Type':
 'application/json'
   };
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
  if
(EnvSettings.use_attached_oauth
=== false && addAuthHeader ===
true) {

      var tokenResponse =
azureCloudUtil.requestNewToken(scope);
      if (tokenResponse === null
|| tokenResponse === undefined
          ||
tokenResponse['access_token']
=== null ||
tokenResponse['access_token'] ===
undefined ) {
          throw new Error('Unable
to generate access token.
Check for invalid credentials,
incorrect scopes, or
misconfigured endpoints.');
      }


EnvSettings.accessTokenResponse =
tokenResponse;
      headers = {
          'Content-Type':
'application/json',
          'Authorization':
'Bearer '+
EnvSettings.accessTokenResponse['access_toke
      };
  }

  var response = null;
  try {
      //
ai.log.logInfo('targetUrl with
method', targetUrl + '  ' +
method);
      //
ai.log.logInfo('httpBody',
JSON.stringify(httpBody));
      //
ai.log.logInfo('headers',
JSON.stringify(headers));

      if
(EnvSettings.use_attached_oauth
=== true) {
          response =
ai.https.authorizedRequest(targetUrl,
method, '' + httpBody, headers);

      } else {
          response =
ai.https.request(targetUrl,
method, '' + httpBody, headers);

      }
      // ai.log.logInfo('Response
Body : ', response.getBody());
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      if (!
isSuccessStatusCode(response)) {

 ai.log.logError('makeHttpsReq:
 HTTP response code',
 response.getHttpCode());
      }
  } catch (exception) {

 ai.log.logError('makeHttpsReq:
 HTTPS Request failed', '' +
 exception);
      throw new Error('An
 unexpected communication failure
 occurred. ' + exception);
  }

  return response;

}

function
 isSuccessStatusCode(response) {

  if (response === null ||
 response === undefined) {
      return false;
  }

  if
 (isNaN(response.getHttpCode())) {
      return false;
  }

  var responseCode =
 parseInt(response.getHttpCode());

  return responseCode >= 200 &&
 responseCode < 300;

}

function sleepX(milliSeconds) {
  var startTime = new
 Date().getTime();
  while (new Date().getTime() <
 startTime + milliSeconds);
}

function
 trackJobProgress(triggerResponse,
 terminalStates, jobName) {

      var httpUrlLocation =
 triggerResponse.getHeaders()
['Location'];
      var method = 'GET';

      const headers = {
          "Content-Type":
 "application/json",
      };
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
      var maxCheckLimit =
EnvSettings.max_check_status_limit;
      var jobStatusResponse =
null;
      var jsonJobStatus = null;
      var lcaseLatestJobStatus =
null;
      do {
          if
(lcaseLatestJobStatus !== null) {

ai.log.logInfo(jobName,
lcaseLatestJobStatus);
              sleepX(1000 * 5);
          }

          jobStatusResponse
= makeHttpsReq(method,
httpUrlLocation, '', headers);
          maxCheckLimit--;

          jsonJobStatus = {};
          lcaseLatestJobStatus =
'unknown';
          if
(jobStatusResponse !== null &&
isSuccessStatusCode(jobStatusResponse))
{
              jsonJobStatus =
JSON.parse(jobStatusResponse.getBody());

lcaseLatestJobStatus =
jsonJobStatus.status.toLowerCase();
          }
      } while(maxCheckLimit
> 0 && jsonJobStatus !== null
&& !(terminalStates.some(word
=> word.toLowerCase() ===
lcaseLatestJobStatus)));

      if (maxCheckLimit > 0){
          ai.log.logInfo(jobName,
'The job has been completed.');
      } else {
          ai.log.logInfo(jobName,
`Terminated status check as
max limit ${maxCheckLimit}
reached.`);
      }
      ai.log.logInfo(jobName
+ ' - final status',
jsonJobStatus.status);
      if (jsonJobStatus.Error !
== null && jsonJobStatus.Error !
== undefined &&
jsonJobStatus.Error.trim().length()
> 0) {
          ai.log.logError(jobName
+ ' - error',
JSON.stringify(jsonJobStatus.Error));
      }

      return jsonJobStatus;
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
function getByteLength(str) {
   let byteLength = 0;

   if (str !== null && str !==
 undefined) {

       for (let i = 0; i <
 str.length; i++) {
           const charCode =
 str.charCodeAt(i);

           if (charCode <= 0x7f) {
               byteLength += 1;
           } else if (charCode <=
 0x7ff) {
               byteLength += 2;
           } else if (charCode <=
 0xffff) {
               byteLength += 3;
           } else {
               byteLength += 4;
           }
       }
   }

   return byteLength;
}
```

EnvSettings Script

このスクリプトには、次の項目の CCL 設定を含む JSON オブジェクトが含まれています。

- batchSize: 各アップロード バッチで許可される最大行数を決定します。
- max_check_status_limit: プロセスを終了するまでにジョブの進捗状況を確認する最大回数を設定します。

スクリプトとして次のテキストを入力します。

```
var EnvSettings = {
   ms_fabric_base_url:'https://
api.fabric.microsoft.com/v1',
   onelake_dfs_base_url:'https://
onelake.dfs.fabric.microsoft.com',

 ms_fabric_workspace_url:'https://
api.fabric.microsoft.com/v1/
workspaces',
   default_scope: 'https://
api.fabric.microsoft.com/.default',
   items_scope: 'https://
api.fabric.microsoft.com/
Workspace.ReadWrite.All https://
api.fabric.microsoft.com/
Item.ReadWrite.All',
   onelake_scope: 'https://
onelake.dfs.fabric.microsoft.com/.default',
   azure_storage_scope: 'https://
storage.azure.com/.default',
   batchSize: 1000,
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
 target_workspace_identifier:null,
   target_lakehouse_identifier:
 null,
   max_check_status_limit:25,
   use_attached_oauth: false,
   token_url: 'https://
login.microsoftonline.com/
{tenant_id}/oauth2/v2.0/token',
   tenant_id:null,
   client_id:null,
   client_secret:null,
   accessTokenResponse: null,
};
```

MsFabricCCL1 Script

このスクリプトは、指定されたクライアント ID とクライアント シークレットを使用して MS 生地ワークスペース リストを取得できるかどうかを確認することで、接続をテストします。

このスクリプトは、CCL スクリプト内の exportData(context) コールバックを実装し、提供されたコンテキストを利用して PDS リーダーにアクセスします。リーダーの ReadRow() メソッドは、MS Fabric Late にアップロードする CSV データを準備します。

バッチ行サイズの上限に達すると、スクリプトは OneLake API を活用してデータをプッシュします。最大バッチ サイズは EnvSettings ファイルで設定できます。

スクリプトとして次のテキストを入力します。

```
'use strict';
/
*****************************************
* MainFunction
*****************************************
import { ai } from '/
Script/Source/Integration2/
CustomCloudScripts/
CustomCloudScriptApi.js';


//
 *****************************************
// Test Connection
//
 *****************************************
function testConnection(context) {
   var dataSource =
 context.getDataSource();
   initSettings(dataSource);

   var testConnectionResult =
 false;
   var workspaceList  =
 azureCloudUtil.getWorkspaces();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   if (workspaceList === null ||
 workspaceList === undefined) {
      ai.log.logInfo('Workspace
 List', 'Empty or undefined');
   } else {
       var workspaceItems =
 JSON.parse(workspaceList.getBody());

       if (!workspaceItems
 || !workspaceItems.value || !
Array.isArray(workspaceItems.value))
 {

 ai.log.logError('Invalid
 response', "Invalid response
 JSON. Expected a structure with a
 'value' array.");
       } else {
           testConnectionResult =
 true;
       }

   }

   return testConnectionResult;
}

function exportData(context) {
   var reader =
 context.createTableReader();
   var dataSource =
 context.getDataSource();
   initSettings(dataSource);

   var sourceTableName =
 'PersonnelModelSheet';
   var csvFileName = `
${sourceTableName}.csv`;


   var workspace =
 azureCloudUtil.getWorkspace(EnvSettings.targ
   // ai.log.logInfo('workspace',
 workspace.id);

   var lakehouse =
 azureCloudUtil.getLakehouse(workspace,
 EnvSettings.target_lakehouse_identifier);
   // ai.log.logInfo('lakehouse',
 lakehouse);

   var totalLineCount =
 generateAndPushCSVData(reader,
 workspace, lakehouse,
 sourceTableName, csvFileName);

   ai.log.logInfo('exportData',
 'Pushed ' + totalLineCount + '
 lines');

}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
function
 generateAndPushCSVData(reader,
 workspace, lakehouse,
 sourceTableName, csvFileName) {
   const tagetBatchSize =
 EnvSettings.batchSize;
   var headers = null;
   var totalColumnCount = null;
   var csvColumnCount = null;


   let row;
   var csvRows = [];
   var lineCount = 0;
   var totalByteSize = 0;
   var recentCallResult = false;
   var recentUploadByteSize = 0;
   while ((row =
 reader.readRow()) !== null &&
 row !== undefined) {

       if (totalColumnCount ===
 null) {

           totalColumnCount =
 row.length;
           csvColumnCount =
 row.length - 2;
           headers =
 createHeaderRow(csvColumnCount);

           if (!
Array.isArray(headers) ||
 headers.length === 0) {
               throw new
 Error("Headers must be a non-
empty array.");
           }

           // Add headers as the
 first row of the CSV
           csvRows =
 [headers.join(",")];

           var result =
 azureCloudUtil.createFileResource(workspace,
 lakehouse, csvFileName);
           if (result === false) {
               return 0;
           }
       }

       if (!Array.isArray(row) ||
 row.length < headers.length) {
           throw new Error("Each
 row must be an array with the
 same number of columns as the
 headers.");
       }

       // Escape values and join
 them with commas
       const escapedRow =
 row.map(value =>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            typeof value ===
 "string" ? `"${value.replace(/"/
g, '""')}"` : value
        );

 csvRows.push(escapedRow.join(","));
        lineCount++;

        // reached batch limit
        if (lineCount >=
 tagetBatchSize && (lineCount %
 tagetBatchSize) === 0){
            var csvData =
 prepareCsvData(csvRows,
 totalByteSize);
            recentUploadByteSize =
 azureCloudUtil.uploadFileContent(workspace,
 lakehouse, csvFileName, csvData,
 totalByteSize);
            if
 (recentUploadByteSize < 1) {
                throw new Error("An
 error occurred while uploading
 rows.");
            }
            totalByteSize +=
 recentUploadByteSize;
            csvRows = [];
        }
    }


    if (csvRows.length > 0 ){
        var csvData =
 prepareCsvData(csvRows,
 totalByteSize);
        recentUploadByteSize =
 azureCloudUtil.uploadFileContent(workspace,
 lakehouse, csvFileName, csvData,
 totalByteSize);
        if (recentUploadByteSize <
 1) {
            throw new Error("An
 error occurred while uploading
 rows.");
        }
        totalByteSize +=
 recentUploadByteSize;

    }

    if (lineCount > 0) {
        recentCallResult =
 azureCloudUtil.flushAndFinalizedFileContent(
 lakehouse, csvFileName,
 totalByteSize);

        if (recentCallResult ===
 true) {
            recentCallResult =
 azureCloudUtil.uploadRowsIntoFabricTable(wor
 lakehouse.id, sourceTableName,
 csvFileName);
        } else {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
 ai.log.logError('generateAndPushCSVData
 - table load status ', 'Failed to
 flush and finalize the uploaded
 rows. Check the system and try
 again.');
       }

       if (recentCallResult ===
 false) {
           return 0;
       }
   }

   return lineCount;
}

function prepareCsvData(csvRows,
 totalByteSize){
   if (csvRows === null || csvRows
 === undefined || csvRows.length
 === 0 ) {
       return "";
   }

   var csvData = null;
   if (totalByteSize === 0) {
       csvData =
 csvRows.join("\n");
   } else {
       csvData = ("\n" +
 csvRows.join("\n"));
   }

   return csvData;
}


function
 createHeaderRow(columnCount) {
   if (columnCount <= 0 || !
Number.isInteger(columnCount)) {
       throw new Error("Column
 count must be a positive
 integer.");
   }

   const headerRow =
 Array.from({ length:
 columnCount }, (_, index) =>
 `Column${index + 1}`);
   return headerRow;
}


function
 initSettings( dataSource ) {

 EnvSettings.target_workspace_identifier
 = getSetting(dataSource, "Target
 Workspace");

 EnvSettings.target_lakehouse_identifier
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 = getSetting(dataSource, "Target
 Lakehouse");
   EnvSettings.tenant_id =
 getSetting(dataSource, "Tenant
 Id");
   EnvSettings.client_id =
 getSetting(dataSource, "Client
 Id");
   EnvSettings.client_secret =
 getSetting(dataSource, "Client
 Secret");
}


function getSetting(dataSource,
 propKey, defaultValue = null) {
   var setting =
 dataSource.getSetting(propKey)
   if (setting === null || setting
 === undefined) {
       return     defaultValue;
   }

   var value =
 dataSource.getSetting(propKey).getValue();

   if (value === null || value ===
 undefined) {
       return     defaultValue;
   }

   return value.trim();
}
```

6. ローダの実行（1722ページ）
   カスタム クラウド ローダを手動で実行するか、インテグレーション タスクとしてスケジュールします。

トラブルシューティング: クラウド データ コネクト

このトピックでは、Incorta、Microsoft Fabric、Snowflake 用クラウド データ コネクトに関する以下の問題を診断および解決するための手順について説明します。

エラーが表示され、テーブルがロードされないか、選択できません。

| 原因 | ソリューション |
|---|---|
| Adaptive Planning Cloud Data Connect に入力されたユーザー認証情報が、Incorta、Microsoft Fabric、Snowflake に入力されたものと一致しません。 | 1. ユーザー認証情報が正しいことを確認します。詳細を入力する代わりにコピーして貼り付けることができます。これに失敗した場合は、"インテグレーション設定" で認証情報を編集します。<br>2. クラウド データ 倉庫のログを調べて、より詳細な情報を確認し、認証に失敗した理由を理解してください。 |
| Microsoft Fabric ユーザーは、Incorta、Microsoft Fabric、Snowflake のテーブルにはアクセスできません。 | 1. Cloud Data Connect に入力されたユーザー詳細に、Incorta、Microsoft |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | Fabric、Snowflake の適切な権限が付与されていることを確認します。<br>2. クラウド データ 倉庫のログを調べて、より詳細な情報を確認し、認証に失敗した理由を理解してください。 |
| 接続を認証できません。 | 1. 認証情報が有効であり、その認証情報にスキーマ、テーブル、ビューへのアクセス権があることを確認します。<br>2. アプリケーション ID とクライアント シークレットがある Microsoft Fabric 環境を使用している場合は、認証情報を確認します。<br>• クライアント シークレット ID ではなく、アプリケーション ID を使用している。<br>• 最新のクライアント シークレットの値が含まれています。<br>3. 認証情報とアクセス権を検証するために独立したサードパーティ ツールの使用を検討します。<br>4. クラウド データ 倉庫のログを調べて、より詳細な情報を確認し、認証に失敗した理由を理解してください。 |
| サーバーにアクセスできません。 | 1. クラウド データ 倉庫サーバーの詳細が正しいことを確認します。<br>2. クラウド データ 倉庫のログを調べて、より詳細な情報を確認し、認証に失敗した理由を理解してください。 |
| Incorta、Microsoft Fabric、Snowflake が IP アドレスまたはドメインからの受信接続をブロックしている。 | Adaptive Planning IP アドレスが Incorta、Microsoft Fabric、または Snowflake 環境の IP 許可リストに追加されていることを確認します。<br>参照 ../../../product-support/txn1623709774129.dita。 |

接続に失敗しました

| 原因 | ソリューション |
|---|---|
| テンプレートの詳細が正しく入力されていません。 | 選択したシートのテンプレート内の必須列が、選択した Incorta、Microsoft Fabric、または Snowflake テーブル内で完全に一致することを確認します。これは、パイプライン接続が失敗する最も一般的な原因です。 |
| その他の理由で接続できませんでした。 | テンプレート内の必須列が完全に一致し、正しい場合は、Adaptive Planning サポート ケースを作成し、ログを確認します。 |

値がマッピングされていないため、データはインポートされませんでした

| 原因 | ソリューション |
|---|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| キューブ シート科目の科目 ID は提供されましたが、キューブ シート コードが科目プレフィックスとして指定されていません。 | キューブ シートにインポートするには、"科目コード" 列の値にシートのプレフィックスと科目コードが必要です。例: キューブシートコード.キューブアカウントコード |

## インテグレーション設定

### インテグレーションの概要
概念: インテグレーション

インテグレーション フレームワークは、さまざまなデータ ソースから にデータとメタデータをインポートするための安全なブリッジとして機能します。 Adaptive Planning。データ ソースにはスプレッドシート、データベース、クラウドベースまたはオンプレミスのシステムを含めることができます。それらのソースからの情報をフィルタリング、クリーンアップ、マッピング、およびマージし、潜在的なインポート エラーを排除できます。また、タスクと業務のスケジュールを設定できるため、特定の時間にデータを自動的にインポートすることができます。

のアーキテクチャ Adaptive Planning インテグレーション フレームワークは次のフローをサポートします。

1. ソースへの接続、 Adaptive Planning、Workday、NetSuite、Salesforce、SAGE Intacct、MSDGP などのクラウド システムOracle などのオンサイト システムから直接データをロードするための、オンプレミス エージェントの作成。アップロードした .XLSX ファイルから直接ロードするための、スプレッドシートのインポート。
2. Adaptive Planning モデル、科目、シート、トランザクション、またはグラフを更新するための、および Consolidation、またはダッシュボードによるロードされたデータまたはメタデータの取得。
3. ソース システムのデータまたはメタデータを の対応する位置にマッピングするローダ Adaptive Planningそれをロードしています。ソース システムからの抽出物のデータ準備のためのステージング領域。手動のタスクまたはスケジュールされたタスクによる、ステージング領域のデータをローダに渡すための、フォーマットおよびフィルタリング。データ ソースおよびアダプタによる、ソース システムからのデータ抽出。

Adaptive Planning と Workday HCM および財務管理のインテグレーションについては、以下を参照してください。 ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定。

### インテグレーションのビジネス ユーザー: 開発者、実装者、およびアナリスト

このアーキテクチャは、以下のタイプのビジネス ユーザーにおけるワークフローをサポートし、作業を次の順序で次から次へとシフトします。

1. 開発者 (カスタム クラウド データ ソースにのみ必要)
2. 実装者
3. アナリスト

各グループは、において権限を持つ権限セットを取得します。 Adaptive Planning。各タイプのビジネス ユーザーは、インテグレーション ワークフロー全体に貢献します。ほとんどのビジネス ユーザーは、実装者およびアナリストとして機能します。実装者は、アナリストがタスクを実行できるようにデータ ソースを構成します。Web アクセス可能なシステムからデータを引き出すためにカスタム クラウド データ ソース (CCDS) が必要な場合、開発者はデータをインポートするために JavaScript を記述してワークフローを開始します。その後、ワークフローは実装者、そして最終的にアナリストにシフトします。

### 開発者のワークフロー

#### インテグレーション開発者権限

開発者ユーザーが必要になるのは、Web アクセス可能なシステムからデータをインポートするためにカスタム クラウド データ ソース (CCDS) が必要な場合に限られます。開発者にはインテグレーション開発者の権限が付与されます。開発者ユーザーは、データを に取り込む API を使用するには、経験豊富な javaScript プログラマーである必要があります。 Adaptive Planning。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1. パラメータを定義します。
2. スクリプトを作成し、テストします。
3. CCDS をデータ デザイナーにリリースします。

全体の CCDS ワークフローを確認するには、CCDS のドキュメントを参照してください。

実装者のワークフロー

データ デザイナーの権限

実装者は、データ デザイナーのインテグレーション権限を使用して、アナリストがタスクを実行するために使用するデータ ソースを作成します。実装者は以下の手順に従ってください。

- テーブルの列からデータを選択します。
- そのデータをフィルタリングします。
- データをプレビューします。
- そのデータを他のデータとマージします。
- アナリスト ユーザー向けにデータを準備します。

アナリスト ユーザーは、そのデータに対してタスクを実行できます。実装者は、ユーザーまたはグループにタスクを実行する権限を付与することもできます。権限を付与することで、実装者は、下位組織のデータ入力スタッフが他のデータにアクセスせずに特定のタスクを実行するように制限することができます。

CCDS が必要な場合、データ デザイナーはインテグレーション開発者に依頼して、まず JavaScript を書いてテストしてもらいます。

1. データ ソースを定義します (変換とマッピングを含む)。
2. ローダを作成します。
3. タスクを作成します。

アナリストのワークフロー

インテグレーション オペレーターの権限

インテグレーション オペレーターの権限を持つアナリスト ユーザー (多くの場合 FP&A スタッフ) は、 にデータを取り込むための手動のタスクまたはスケジュールされたタスクを実行します Adaptive Planning。アナリストは、実装者ユーザーによって付与された起動権限に基づいてのみタスクを表示および実行できます。

1. 手動のタスクまたはスケジュールされたタスクを実行します。
2. 通知を管理します。
3. での結果の確認 Adaptive Planning シート

概念: インテグレーションのクイック ツアー

インテグレーションを使用している場合、ナビゲーション メニューには、インテグレーション管理の下に下記の 3 つのオプションが表示されます。

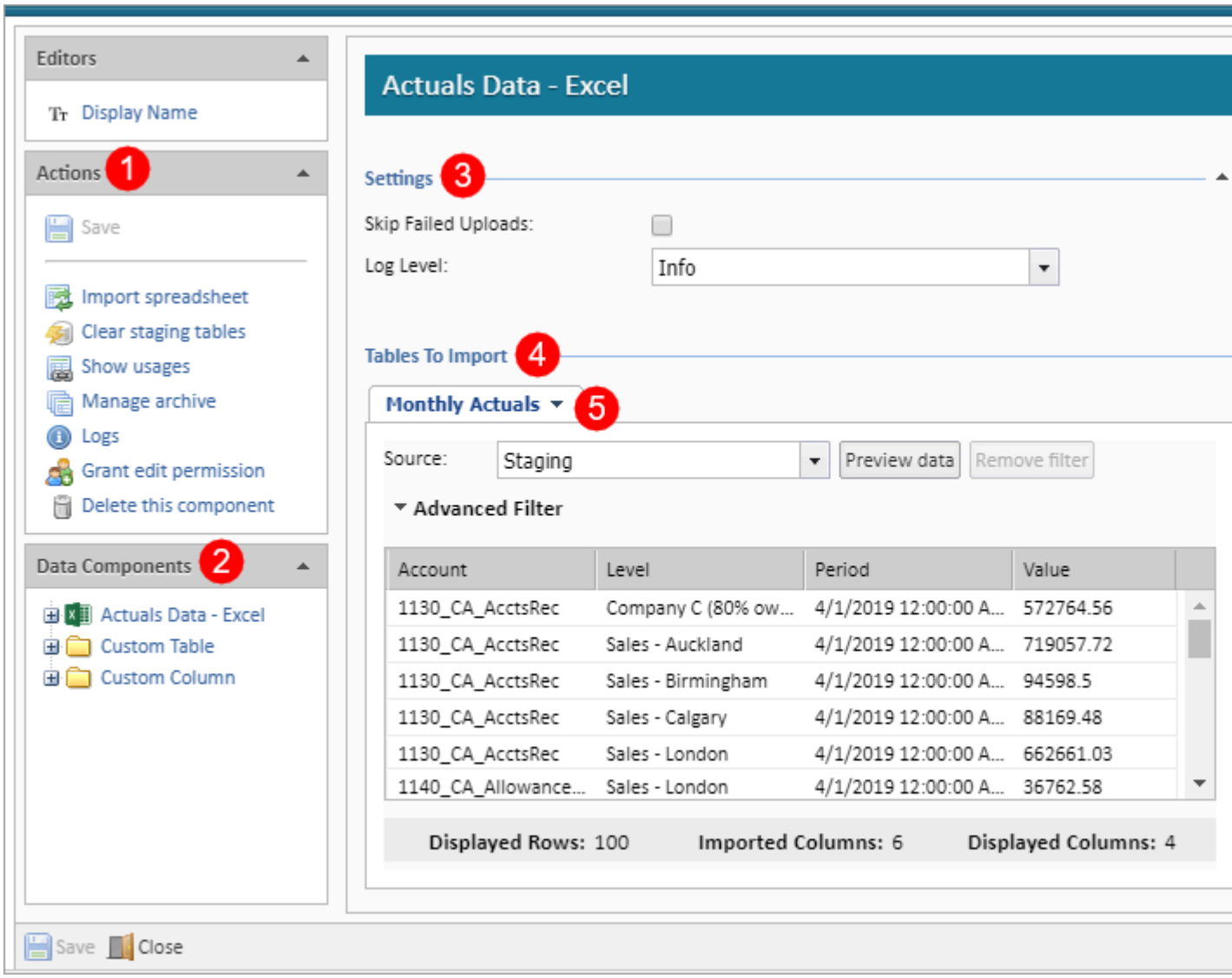
- タスクの実行
- インテグレーション設定
- 通知ログ

これらのリンクを表示するには、インテグレーション タスクおよびデータ デザイナーの権限が必要です。

"タスクの実行" を選択して、すべてのインテグレーション タスクの "タスクの概要" ページに移動します。

データ デザイナーを表示するには、"インテグレーション設定" を選択します。データ デザイナーを使用して、データ ソース、ローダ、インテグレーション タスク、データ エージェント、外部システム、データ ソースの認証情報を作成、管理、編集します。データ デザイナーに表示される内容は、 コンポーネント ライブラリで選択した内容によって異なります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | "アクション" ペイン: 設定の保存、ソースまたはローダからの構造とデータのインポート、ログの表示、編集権限の付与、データ ソース オブジェクトまたはレポートの管理などを実行します。 |
| 2 | "データ コンポーネント" ペイン: データ ソース テーブル列を表示し、それらをステージング領域にドラッグして、カスタム列をインポートまたは作成します。 |
| 3 | 設定: データ ソース、ローダ、タスク、外部システム、および認証情報の設定を選択および編集します。 |
| 4 | インポートのためのテーブル (ステージング テーブル) : データ ソースからのデータのプレビューを表示し、"データ コンポーネント" ペインから列をドラッグします。ローダの場合、列とテーブルの へのマッピング方法を管理しますAdaptive Planning 組織、科目、属性、特性など。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 5 | ステージング データ: データ ソースからインポートした後、ローダに取り込む前に表示してフィルタリングします。 |
| 6 | コンポーネント ライブラリ: データ ソース、ローダ、インテグレーション タスク、データ エージェント、外部システム、データ ソースの認証情報を管理または作成します。 |

参考: インテグレーションにおけるデータ プライバシーのベスト プラクティス

この表は、ユーザーの責任に基づいて権限を割り当てるための推奨事項を示しています。"管理" > "権限セット" で、インテグレーション ユーザーの権限を割り当てます。参照 概念: 権限セット ( 1407ページ )。

ベスト プラクティス: データのプライバシーを守るため、管理者はユーザーにそのポジションに合わせた必要最小限の権限のみを割り当ててください。

| | インテグレーション オペレーターの権限 | データ デザイナーの権限 | インテグレーション開発者の権限 |
| --- | --- | --- | --- |
| できること | 手動またはスケジュールされたタスクの実行<br>通知の管理<br>での結果の確認Adaptive Planning | インテグレーション オペレーターのすべてのタスクを実行可能<br>データ ソースの定義 (変換とマッピングを含む)<br>ローダの作成<br>タスクの作成 | インテグレーション オペレーターとデータ デザイナーのすべてのタスクを実行可能<br>次を使用したスクリプトの作成:Adaptive PlanningWeb アクセス可能なシステムからデータをインポートする API |
| 推奨される追加権限 | すべての場所へのインポート<br>データの消去 | 管理者アクセス権 (ユーザー、グループの追加と管理)<br>給与詳細へのアクセス | 管理者アクセス権 (ユーザー、グループの追加と管理) |
| あなたのポジション | 会計士、財務チーム メンバー | アナリスト | システム管理者、IT 担当者、開発者 |

データ ソース
ステップ: スプレッドシート データ ソースの設定

始める前に

- スプレッドシート データ ソースを使用してデータをインポートする前に、ブラウザの言語を米国英語に設定しておきます。
- スプレッドシートで、列内のすべてのセルに同じデータ タイプが含まれていることを確認します。Adaptive Planning インテグレーションのデータ タイプは列全体の内容に基づきます。
- セキュリティ: 必須:
    - "データ デザイナー" 権限
    - "インテグレーション オペレーター" 権限

このタスクについて

インテグレーション データ ソースを使用して Excel スプレッドシートからデータを抽出できます。インポートできる列の数は最大で 100 です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

スプレッドシートを読み込むと、Adaptive Planning は列の内容からデータ タイプを判断します。以下の操作を行ってローカル ファイルを変更してから再インポートすると、スプレッドシートの構造が変わる場合があります。

- シート名の変更
- 列名の変更
- 列の削除
- 列順序の変更
- 既存の列に異なるタイプのデータを追加

整数の列の 1 つのセルが実数に変更された場合、再インポート時に列全体のデータ タイプが変更されます。このデータ ソースに依存しているローダが正しく動作しないことがあります。

手順

1. 新しいデータ ソースの作成（1620ページ）.
2. "設定" セクションのフィールドに入力する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 失敗したアップロードのスキップ | テーブルの 1 つで失敗した場合、次のテーブルでインポートを続行できます。 |
| ログ レベル | ログに記録する詳細のレベルを指定します。<br>• エラー: エラーのみ。<br>• 情報: データ ソースの最終更新日などの基本情報。<br>• 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報。デバッグまたは監査に適しています。 |

3. "アクション" セクションで "スプレッドシートのインポート" を選択し、アップロードするファイルを選択します。

   インポートにより、各列にデフォルトのデータ タイプが割り当てられますが、各スプレッドシート列に関連付けられた書式設定ルールは反映されません。

   "データ コンポーネント" メニューにスプレッドシートが表示されます。スプレッドシートを展開すると、各ワークシートが表示されます。各ワークシートを展開すると、各列が表示されます。各列にはデータ タイプを示すアイコンがあります。スラッシュが付いたアイコンは、ステージング テーブルから列が除外されていることを示します。
4. このデータ ソースを使用して、インポートするデータのステージング テーブルと列を設定します。

   "インポートするテーブル" セクションにあるステージング テーブルで、構造とデータをレビューして絞り込むことができます。スプレッドシートの各ワークシートは、ステージング テーブルのタブとしてインポートされます。ワークシートのすべての列が各タブに自動的に入力されます。

   参照 ステップ: スプレッドシート データ ソースのステージング テーブルと列の設定（1611ページ）

次のタスク

ローダを作成または使用します。

ステップ: スプレッドシート データ ソースのステージング テーブルと列の設定

始める前に

- スプレッドシートのデータ ソースをインポートします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- セキュリティ:
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

ステージング テーブルは、データ ソースからインポートしたあとに "インポートするテーブル" セクションのタブに表示されます。ステージング テーブルを使用すると、インポートしたデータとデータ ソースの構造を確認できます。データをモデルにロードする前に、構造を確認して調整できます。

ステージング テーブルでは、以下を行うことができます。

- ソースをステージング テーブルの結果と比較する。
- 詳細フィルタを使用して、構造とデータの細部を確認する。
- テーブル設定を変更する。
- インポートに対してステージング テーブルを追加および削除する。
- インポートに対して列を追加および削除する。
- 列のデータを並べ替える。
- 列の設定を管理する。たとえば、カスタム列のデータ タイプを変更できます。
- 各ステージング テーブルからデータをダウンロードする。

手順

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。
2. "データ ソース" セクションから、スプレッドシート データ ソースを選択します。
3. (任意) "ソース" プロンプトで 2 つのオプションを切り替えて、ソースとステージング テーブルを比較します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ステージング | ステージング テーブルでデータを表示します。 |
| スプレッドシート | スプレッドシートのソースでデータを表示します。 |

4. (任意) "データ コンポーネント" セクションで、コンポーネントをステージング テーブルにドラッグアンド ドロップします。
   - "カスタム テーブル" を展開するときの結合テーブルとユニオン テーブル
   - "カスタム列" を展開するときの SQL 列とサブクエリー列
5. (任意) ステージング テーブルのタブのプロンプトをクリックします。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 列を管理 | インポートで列を追加および削除します。 |
| テーブル設定 | • データ インポート モード:<br>  • データのインポートが実行されるたびにすべてのレコードを置き換える: デフォルト。スプレッドシートは、ステージング領域の前のバージョンに置き換えられます。<br>  • キー列を使って、受け取った行をマージ (追加、更新) する: スプレッドシートは、キー列を照合す |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | ることによって既存のデータと統合されます。このオプションを選択してから、"キー列" 領域を設定できます。<br>• 受け取ったすべての行を新規として追加する: スプレッドシートはテーブルに追加され、既存のデータはすべてそのまま残ります。<br>• シートにヘッダー行がある: データではなくヘッダーとなる行を指定する場合に選択します。<br>• 最初のヘッダー/データ行: 最初のヘッダー行 (ヘッダー行がある場合) または最初のデータ行の行番号を入力します。<br>• 解析エラーを無視する: 日付列にテキストが含まれるなどのエラーのあるセルを無視する場合に選択します。エラーのあるセルは空でインポートされます。解析エラーを無視しない場合は、エラーがあるとインポートが失敗します。<br>エラー ログを使用すると、解析の問題を特定できます。 |
| キー列 | スプレッドシート データをマージする際に一致させるキー列を選択します。 |
| インポートからテーブルを除外 | インポートからワークシートを削除します。 |
| テーブルを削除 | テーブル全体を削除します。 |
| データをダウンロード | ステージング テーブルの構造に従ってデータをダウンロードします。 |

6. (任意) 各列のプロンプトをクリックします。
   "列の設定" のタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 列のタイプ | 列で使用されるデータのタイプを選択します。 |
| 列タイプを変換 | 列のデータ タイプを変換します。 |

7. (任意) ステージング テーブルの詳細フィルタの作成 ( 1622ページ ) 。
   詳細フィルタを使用すると、ステージング テーブルを絞り込む際に、構造のサブセットをレビューできます。

例

次のタスク

ローダを作成または使用します。

relatedlinks
タスク
ステップ: Salesforce データ ソースの設定 ( 1614ページ )

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

参考
参考: SQL 式 ( 1693ページ )
例
ステップ: SQL 結合テーブルと列の追加 ( 1663ページ )

ステップ: **Salesforce** データ ソースの設定

始める前に

- Salesforce インスタンスを設定します。
- セキュリティ:
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

Salesforce データ ソースを設定し、以下の目的で Adaptive Planning で Salesforce インスタンスのデータを使用できるようにします。

- セールス プランニング
- 売上予測

Salesforce の実績データを使用して、そのデータを予測に使用できます。

例: ユーザーが Salesforce にホット リード、注文レコード、または予測売上に関するデータを入力する場合。Adaptive Planning にインポートすると、ダッシュボードを使用して、販売ノルマを達成するために営業リソースを分析および調整できます。

以下はインポートできません。

- Salesforce インスタンス内のアプリケーション インテグレーションを通して作成されたレポートやデータ。
- サブクエリーが必要な Salesforce オブジェクト (例: ActivityHistory)。このようなデータは、カスタム オブジェクトを通して公開することをお勧めします。サブクエリーが必要なオブジェクトにアクセスしようとすると、"Invalid Type for Operation" というエラー メッセージが表示される場合があります。

手順

1. 新しいデータ ソースの作成 ( 1620ページ ) .
2. "設定" セクションのフィールドに入力する際は、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー名 | Salesforce のユーザー アカウントのユーザー名を入力します。 |
| パスワード | ユーザー名に関連付けられているパスワードを入力し、Salesforce セキュリティ トークンを追加します。<br>例: パスワードが redrover1492 で、セキュリティ トークンが lv4l$Qyfj54gdvzu $9rXLRqUu((G である場合、redrover1492lv4l $Qyfj54gdvu$9rXLRqUu((G と入力します。 |
| サンドボックスを使用する | このオプションを選択して、Salesforce サンドボックス インスタンスを使用します。実装する過程で、データ インポート プロセスの一部としてサンドボックス内のデータをテス |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | トする必要がある場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。<br><br>実稼働状態の Salesforce インスタンスからデータを取得する必要がある場合は、このチェックボックスをオフにしてください。 |
| ログ レベル | ログに含める詳細のレベルを選択します。<br><br>• エラー: エラーのみ。<br>• 情報: 基本情報のみ。例: データ ソースが更新された日時をログに記録します。<br>• 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報。 |

3. (任意) "接続テスト" を選択して、この Salesforce データ ソースを使用して Salesforce インスタンスへの接続をテストします。
4. "アクション" セクションで "保存" をクリックします。
5. "アクション" セクションで "構造のインポート" を選択します。

   構造をインポートすると、Adaptive Planning ではインポート可能なすべてのデータ テーブルとデータ列が "データ コンポーネント" セクションに自動で入力されます。アイコンにあるスラッシュは、その列がステージング テーブルにないことを示します。
6. このデータ ソースを使用して、インポートするデータのステージング テーブルと列を設定します。

   参照 ステップ: Salesforce データ ソースのステージング テーブルと列の設定（1615ページ）。
7. "アクション" セクションで、データをインポートします。
8. (任意) "アクション" セクションで、ステージング テーブルをクリアします。

次のタスク

ローダを作成または使用します。

## ステップ: Salesforce データ ソースのステージング テーブルと列の設定

始める前に

- Salesforce 構造をインポートします。
- セキュリティ:
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

ステージング テーブルは、データ ソースからインポートしたあとに "インポートするテーブル" セクションのタブに表示されます。ステージング テーブルを使用すると、インポートしたデータとデータ ソースの構造を確認できます。データをモデルにロードする前に、構造を確認して調整できます。

ステージング テーブルでは、以下を行うことができます。

- ソースをステージング テーブルの結果と比較する。
- 詳細フィルタを使用して、構造とデータの細部を確認する。
- テーブル設定を変更する。
- インポートに対してステージング テーブルを追加および削除する。
- インポートに対して列を追加および削除する。
- 列のデータを並べ替える。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 列の設定を管理する。たとえば、カスタム列のデータ タイプを変更できます。
- 各ステージング テーブルからデータをダウンロードする。

手順

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。
2. "データ ソース" セクションから、Salesforce データ ソースを選択します。
3. インポートするテーブルを "データ コンポーネント" セクションから "インポートするテーブル" セクションにドラッグ アンド ドロップします。
   ドラッグ アンド ドロップしたテーブルごとに新しいタブが追加されます。
4. (任意) 各テーブル タブのドロップダウン メニューで "列を管理" を選択し、インポートするテーブルの列を変更します。
   データ ソースによってシステムで生成されたフィールドのインポートを制限することはできません。例: isDeleted。
5. (任意) 各テーブル タブのドロップダウン メニューで "テーブル設定" > "SQL フィルタを入力" を選択し、データ インポートをフィルタリングまたはフォーマットする SQL 式を入力します。
   このデータ インポート フィルタを使用して、ステージング データをさらに細かく制御できます。このフィルタは、ステージング領域のプレビュー データではなく、データベース内の実際のデータに適用されます。

   すべてのデータ ソース タイプが同じレベルの SQL フィルタリング機能をサポートしているわけではありません。
6. (任意) テーブルの各列ヘッダーのドロップダウン メニューを使用して、列のプロパティを変更したり、列を削除したりします。
7. (任意) ステージング テーブルの詳細フィルタの作成 ( 1622ページ )。

次のタスク

"アクション" セクションで、データをインポートします。

ステップ: **Cloud Data Connect** データ ソースの設定

始める前に

- Incorta、Microsoft Fabric、Snowflake のクラウド データ 倉庫環境。
- 接続する環境の認証および許可の詳細。
- 環境でビューを作成できる管理者へのアクセス権。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

Adaptive Planning でクラウド データ 倉庫のデータを使用できるように、クラウド データ コネクトのデータ ソースを設定します。

手順

1. 新しいデータ ソースの作成 ( 1620ページ ).
2. 新しいクラウド データ ソースの "設定" セクションを完了します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 認証情報 | データ 倉庫への接続に関連する認証情報を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| | すべてのコネクタで、認証用のユーザー名とパスワードがサポートされています。さらに、以下も実行します。<br>• Microsoft Fabric では、アプリケーション ID とクライアント シークレットがサポートされています。<br>• Snowflake では、以下がサポートされています。<br>  • OAuth 2。参照 クラウド データ コネクトの Snowflake OAuth2 認証情報の設定（1618ページ）。<br>  • パスワードとしての個人アクセス トークン |
| ログ レベル | ログに含める詳細のレベルを選択します。<br>• エラー: エラーのみ。<br>• 情報: 基本情報のみ。例: データ ソースが更新された日時をログに記録します。<br>• 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報。 |
| 種類 | 接続する関連するデータ 倉庫ソースを選択します。 |
| 接続詳細 | Incorta:<br>• ホスト名: Incorta 環境リンクを入力します。<br>• ポート: Incorta 環境のポート番号を入力します。<br>• データベース: 環境の関連するテーブルを含む倉庫名を入力します。<br>• テーブル名: Schma.Tablename を入力します。<br>Microsoft Fabric:<br>• ホスト名: 生地環境リンクを入力します。<br>• データベース: 環境の関連するテーブルを含む倉庫名を入力します。<br>• テーブル名: Schma.Tablename を入力します。<br>ノースフレーク:<br>• 科目: サーベイ環境の科目識別子を入力します。<br>• データベース: 環境の関連するテーブルを含む倉庫名を入力します。<br>• テーブル名: Schma.Tablename を入力します。 |

3. (任意)"接続テスト" を選択し、このクラウド データ ソースに定義された詳細を使用して、クラウド データ 倉庫環境への接続をテストします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "アクション" セクションで "保存"を選択します。
5. "アクション" セクションで "構造のインポート"を選択します。
   構造をインポートすると、Adaptive Planning ではインポート可能なすべてのデータ テーブルとデータ列が "データ コンポーネント" セクションに自動で入力されます。アイコンにあるスラッシュは、その列がステージング テーブルにないことを示します。
6. このデータ ソースを使用して、インポートするデータのステージング テーブルと列を設定します。
7. "アクション" セクションで "データのインポート"を選択します。
8. (任意) "アクション" セクションで、ステージング テーブルをクリアします。

次のタスク

ローダを作成または使用します。

クラウド データ コネクトの **Snowflake OAuth2** 認証情報の設定

始める前に

- Snowflake クラウド データ 倉庫環境
- 接続する環境の認証および許可の詳細。
- 環境でビューを作成できる管理者へのアクセス権。
- 新しいデータ ソースの作成（1620ページ）.

セキュリティ:

- "インテグレーション オペレーター" 権限
- "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

Snowflake コネクタ用クラウド データ コネクト (CDC) は、OAuth2 認証をサポートします。インテグレーション設定を使用して、CDC の OAuth2 認証情報を作成することができます。その後、"インテグレーション設定" の CDC パイプライン インターフェイスまたは CDC 接続のいずれかで認証情報を選択できます。

注： Snowflake でのスクリプトの実行に関するヘルプについては、そのドキュメント、または Skillsフレキシブル管理者もしくはアカウント マネージャに問い合わせてください。

手順

1. Adaptive Planning で、メイン メニューから "インテグレーション > 設定" を選択します。
2. "OAuth 2" > "新しい認証情報の作成"を選択します。
3. リダイレクト URIをコピーします。
4. Snowflake で、次の SQL スクリプトを "ACCOUNTADMIN" として実行します。

```
CREATE SECURITY INTEGRATION MY_OAUTH_INTEGRATION
    TYPE = OAUTH
    ENABLED = TRUE
    OAUTH_CLIENT = CUSTOM
    OAUTH_CLIENT_TYPE = 'CONFIDENTIAL'
    OAUTH_REDIRECT_URI = 'https://your-app.com/callback'
    OAUTH_ISSUE_REFRESH_TOKENS = TRUE
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    OAUTH_REFRESH_TOKEN_VALIDITY = 86400;
```

- 複数のユーザーが同じ XML 環境を使用している場合は、「My_OAUTH_Integration」という名前を一意に変更します。
- "https://your-app.com/callback" を、ステップ 2 の実際のリダイレクト URI に置き換えます。
- リフレッシュ トークンの有効期間は 86400 秒 (24 時間) に設定されています。この値は必要に応じて変更できます。

5. OAuth 設定の詳細を取得するには、次の SQL スクリプトを実行し、参照用の CSV ファイルをダウンロードします。

```
DESC SECURITY INTEGRATION MY_OAUTH_INTEGRATION;
```

スクリプトは以下を返します。

- OAUTH_CLIENT_ID (認証に必要)。
- OAUTH_AUTHORIZATION_ENDPOINT (ユーザーが認証する場所)
- OAUTH_TOken_ENDPOINT (認証コードをアクセス トークンと交換する場合)

6. 以下の SQL スクリプトを実行してクライアント シークレットを取得します。

```
SELECT SYSTEM$SHOW_OAUTH_CLIENT_SECRETS('MY_OAUTH_INTEGRATION');
```

スクリプトは 2 つのシークレットを返します。認証にはどちらか 1 つを使用できます。

7. この SQL スクリプトを実行して、以下を承認するユーザーにデフォルトの倉庫を設定します。

```
ALTER USER <your_user_name> SET DEFAULT_WAREHOUSE = '<your_user_name>';
```

8. (任意) 以下の SQL スクリプトを実行して、"スコープ" として使用する管理ロールを作成し、後で OAuth2 認証情報を使用した管理操作を許可します。

```
CREATE ROLE MyRole1;

GRANT ROLE ACCOUNTADMIN TO ROLE MyRole1;

ALTER ACCOUNT SET OAUTH_ADD_PRIVILEGED_ROLES_TO_BLOCKED_LIST = false;

ALTER SECURITY INTEGRATION MY_OAUTH_INTEGRATION
    SET PRE_AUTHORIZED_ROLES_LIST = ('MyRole1', 'PUBLIC',
 'ACCOUNTADMIN', 'SYSADMIN');

GRANT ROLE MyRole1 TO USER username;

ALTER USER username SET DEFAULT_ROLE = 'MyRole1';
```

9. Adaptive Planning で "インテグレーション > 設定" を選択し、次の値を入力します。
   - コンシューマー キー
   - コンシューマー シークレット
   - 認証リダイレクト
   - URL アクセス トークン サービス HTTP メソッド: POST
   - アクセス トークン サービス エンドポイント
10. 保存して "認証のリクエスト"を選択します。
11. Snowflake にサインインし、"許可"を選択します。

タスクの結果

CDC Snowflake パイプラインで使用する OAuth2 認証情報を選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

新しいデータ ソースの作成

始める前に

セキュリティ:

- "インテグレーション オペレーター" 権限
- "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

データ ソースを設定して、外部ソースから Adaptive Planning モデルにデータを抽出できます。

手順

1. メイン メニューから "インテグレーション > 設定""インテグレーション" を選択します。
2. "コンポーネント ライブラリ"で、"データ ソース" > "新しいデータ ソースの作成" を クリックします。
3. 作成するデータ ソースのタイプを選択します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| クラウド データ ソース | クラウド データ コネクト ソースのデータ。<br>参照 概念: クラウド データ コネクト ( 1577ページ ) 。 |
| Planning データ ソース | 同じまたは別の Adaptive Planning インスタンスのデータです。<br>別の Adaptive Planning 認証情報を作成する必要があります。このデータ ソースは、複数のインスタンスがある組織や、外部システムにエクスポート予定のある組織で役立ちます。 |
| Workday | Workday テナントのレポートのデータです。<br>Workday アダプタおよび Workday 認証情報が必要です。<br>このオプションを使用して Workday 外部システムも作成する場合は、計画をパブリッシュして Adaptive Planning シートとレポートから Workday にドリルインできます。 |
| カスタム クラウド データ ソース (CCDS) | JavaScript でオーサリングされる、カスタム データ ソースを作成し、データをインターネットのアドレス指定可能なシステムに接続します。<br>以下からデータを抽出できます。<br>• Google Docs<br>• Uber<br>• Weather Underground<br>• Yahoo! ファイナンス<br>• JavaScript によるデータの取得が可能なその他のサイト<br>"インテグレーション開発者" 権限が必要です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| Intacct | SAGE Intacct アカウントのデータです。<br>SAGE Intact アダプタが必要です。 |
| JDBC データベース | JDBC 準拠のデータベースのデータです。<br>データを抽出するコンピュータに、少なくとも 1 つのデータ エージェントがインストールされている必要があります。データ エージェントは、データ エージェント サービス マネージャを使用してファイアウォールの背後に設定するアプリケーションで、ソース システムと通信できるようにします。 |
| Microsoft Dynamics GP | Microsoft Dynamics GP (MSDGP) アカウントのデータです。<br>Microsoft Dynamics GP アダプタが必要です。 |
| NetSuite | NetSuite アカウントのデータです。<br>NetSuite アダプタと NetSuite 認証情報が必要です。<br>このオプションを使用して NetSuite 外部システムも作成する場合は、Adaptive Planning シートとレポートから NetSuite にドリルインできます。 |
| Salesforce | Salesforce アカウントのデータです。<br>Salesforce アダプタが必要です。 |
| スクリプト化されたデータ ソース | 記述した Kettle ELT の手順に基づいてデータを抽出します。<br>複雑なカスタム データの抽出と変換のシナリオを独自に作成できるようになります。<br>Pentaho Kettle スクリプトの記述と、Spoon UI の使用に関する高度な経験が必要です。 |
| スプレッドシート | スプレッドシートの各ワークシートでは、個別のステージング テーブルが作成されます。 |
| テーブル グループ | さまざまなデータ ソースに存在する既存のステージング テーブルのデータです。<br>異なるデータ ソース間でテーブルの結合を作成できます。 |
| ユニオン テーブル | 複数の既存のステージング テーブルのデータです。<br>異なるデータ ソースのテーブルである場合、テーブルの行データを組み合わせたり、重ねたりすることができます。 |

4. "名前" を入力します。
   Adaptive Planning では、すべてのサポート言語でこの名前が自動的に使用されます。
   データ ソースの作成時に名前を入力しない場合は、"エディタ" セクションの "表示名" をクリックします。各サポート言語の表示名を変更することもできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. "作成" をクリックします。

タスクの結果

新しいデータ ソースが "データ ソース" メニューに表示されます。

例

次のタスク

データ ソースの設定を定義します。

ステージング テーブルの詳細フィルタの作成

始める前に

- Salesforce 構造をインポートします。
- セキュリティ:
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

詳細フィルタを使用すると、ステージング テーブルのデフォルト ビューでは表示されない特定の行を表示できます。ステージング テーブルは以下のように表示されます。

- デフォルトでは上位 100 行
- 最大行数 1,000

フィルタのプロパティを変更すると、プレビューも変更されます。フィルタによって以下のデータが変更されることはありません。

- ステージング領域のデータ
- データ ソースからローダにロードされるデータ

手順

1. メイン メニューから "インテグレーション > 設定""インテグレーション" を選択します。
2. "データ ソース" を展開し、データ ソースを選択します。
3. "インポートするテーブル" セクションのタブで、"詳細フィルタ" プロンプトをクリックします。
4. フィルタを追加します。
   このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 個別の行 | チェックボックスをオンにして、重複データがある行を非表示にします。 |
| 最大行数 | プレビューに表示する行数を入力します。最大行数は 1,000 です。 |
| 列 | プレビューの列の表示と非表示を切り替えます。プレビューで列を非表示にしても、ステージング テーブルから列は削除されません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| SQL フィルタを入力 | SQL 式を入力してプレビューの行を制限します。フィルタの SQL 構文をチェックするには "適用" をクリックします。 |

5. "データのプレビュー" をクリックしてデータをプレビューします。
6. (任意) "フィルタを削除" をクリックして、新しいビューを開始します。

relatedlinks
参考
参考: SQL 式 ( 1693ページ )

ステップ: **JDBC** データベース データ ソースの設定

以下を使用できます。 Adaptive PlanningJDBC 準拠のデータベースから情報を抽出するインテグレーション。会計や財務アプリケーションに使用されるデータベースの多くは、JDBC (Java database connectivity) 準拠のデータベースです。JDBC は、Java プログラミング言語を使用して幅広いデータベースへの接続を提供するための標準です。

JDBC 準拠のデータベースのデータ ソースにはドライバーが必要です。次の表は、一般的な JDBC ドライバーの情報を示しています。

注 : Adaptive Planning データ エージェントは、オンプレミス データベースにのみ接続します。エージェントを使用したクラウド データベースへの接続はサポートされていません。

| JDBC ソース | 概要 | プロバイダの jar ファイル | ドライバー クラス | JDBC/URL の例 | JDBC の URL 情報 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Oracle | の概要Oracle データベース | ojdbc6-11.2.0.3.jar<br>このファイルは、Oracle Web サイトまたは Oracle の Maven リポジトリから取得できます。 | oracle.jdbc.OracleDriver | jdbc:oracle:thin:@<host>:<port>:<SID><br>win-db:1521:ANACONDA | OracleDriver クラス |
| SQL Server | Microsoft SQL Server | jtds-1.3.1.jar (データ エージェント プラグイン フォルダ内で分配)。<br>統合セキュリティを参照してください: JDBC データ ソース (dll の場所の詳細) | net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver | jdbc:jtds:sqlserver://<host>:<port>/<database_name>;domain=<domain_name>;instance=<instance_name><br>jdbc:jtds:sqlserver://DB27.0.0.1:1433/AGENT_TEST;domain=ADAPTIVE;instance=SQLEXPRESS | TDS 7.0 ～ 7.1 ～ 7.2 ～ 7.3 ～ 7.4 ～ 8.0 ～ 8.1 ～ 8.2 ～ 8.3 ～ 8.4 ～ 8.5 ～ 8.6 ～ 8.7 ～ 8.8 ～ 8.9 ～ 8.10 ～ 8.11 ～ 8.12 ～ 8.13 ～ 8.14 ～ 8.15 ～ 8.16 ～ 8.17 ～ 8.18 ～ 8.19 ～ 8.20 ～ 8.21 ～ 8.22 ～ 8.23 ～ 8.24 ～ 8.25 ～ 8.26 ～ 8.27 ～ 8.28 ～ 8.29 ～

| JDBC ソース | 概要 | プロバイダの jar ファイル | ドライバー クラス | JDBC/URL の例 | JDBC の URL 情報 |
|---|---|---|---|---|---|
| MySql | MySQL リファレンス マニュアル | mysql-connector-5.1.17.jar | com.mysql.jdbc.Driver | jdbc:mysql://localhost:3306/AGENT_TEST | URL 構文 |
| h2 | H2 データベース エンジン | Workday Adaptive Planning データ エージェント サービス マネージャの配布から h2*.jar を探します。データ エージェントのバージョンが 7.1.44 以前の場合は、Adaptive データ エージェント サービス マネージャの配布から h2.jar を探します。 | org.h2.Driver | jdbc:h2:/data/test | H2 の参照シート |

jar ファイルは次の場所にあります。 `C:/Program Files/Workday Adaptive Planning Data Agent/Plugins`. 7.1.44 以前のデータ エージェントの場合は、以下を使用します。 `C:/Program Files/Adaptive Data Agent/Plugins` データ エージェント サービスをホストするマシン上の ディレクトリ。

jar ファイルを追加したら、ローカル サービスに移動してデータ エージェント サービスを再起動する必要があります。

注 : ローカル データベースからデータ ソースを設定する前に、以下を示すデータ エージェントを作成する必要があります。 Adaptive Planning インテグレーションがデータベースと通信する方法。データ エージェントの作成方法については を参照してください。 データ エージェントの作成 ( 1709ページ )。

JDBC データベースのデータ ソースを設定するには:

1. "インテグレーション" > "データ デザイナー" に移動し、データ デザイナーにアクセスします。
2. 画面の右側にある "コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" フォルダで、"新しいデータ ソースを作成" をクリックします。"新規作成" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. JDBC データ ソースの種類としてデータベースを選択します。データベース名を入力し、このデータ ソースに使用するエージェントを選択します。
4. "作成" をクリックします。画面の中央エリアに新規データ ソースの設定およびその他の情報が表示されます。
5. データ ソースの情報を入力します。
    - 関連エージェント: 接続先の Adaptive Planning データ エージェントを選択します。このリストには "コンポーネント ライブラリ > データ エージェント"にあるすべてのデータ エージェントが含まれています。
    - ドライバー クラス: データベースのドライバー クラスを入力します。(この情報はデータベース ベンダーから入手できます。)
    - URL: データベースの URL を入力します。
    - ユーザー名: データベースへのアクセスに使用するユーザー名を入力します。
    - パスワード: ユーザー名に関連するパスワードを入力します。
    - スキーマ フィルタ: データをインポートするスキーマの名前を入力します。複数のスキーマの名前を入力する場合は、スキーマ名をセミコロンで区切って入力します。このフィール

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ドを使用して、 においてリフレッシュする必要があるテーブルの数を制限します Adaptive Planning インテグレーションこのフィールドは任意です。
- ログ レベル: ドロップダウン リストからログ レベルを選択し、このデータ ソースをどこまで詳細に記録するかを指定します。次のオプションがあります。
  - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
  - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
  - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くのログ情報が生成される可能性があります。)

6. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

新しいデータ ソースで接続情報をテストするには、"アクション" メニューの "接続テスト" をクリックします。システムは、データ ソース フィールドの情報を使用してデータベースへの接続を試みます。システムがデータベースに接続できる場合は "OK" をクリックします。接続に問題がある場合は、エラーを修正してもう一度試してください。

データベースに接続できたら、データ構造をインポートできます。データベース内のテーブルおよび列が表示されます。

注 : サポートされているタイプの列のみが表示されます。サポートされている列のタイプ は、さまざまなタイプのデータベースでサポートされている列のタイプを一覧表示します。

JDBC データベースの構造をインポートするには:

1. "アクション" メニューで "構造のインポート" をクリックします。テーブルと列が "データ コンポーネント" メニューに表示されます。

   データ インポート モードは、データの同期方法に影響します。JDBC データ ソースのデフォルトのインポート モード (すべてのレコードを置き換え) は次のとおりです。
2. JDBC データをインポートします。
3. JDBC ソースからのデータがステージング テーブルに追加されます。
4. カスタムの SQL フィルタがある場合、データベース サーバーからインポートするデータに適用して、インポートするデータのサブセットを決定します。

インポートした情報を追加することもできます。その場合はインポートしたデータを既存のステージング テーブルに追加するか、インポートした情報を結合します。結合する場合、JDBC データの既存の行がステージング領域の行に結合されます。

### JDBC データ ソースにテーブルを追加

データベースの構造をインポートしたら、データベースからインポートする情報を指定できます。"インポートするテーブル" セクションでは、データベースからインポートするデータを設定できます。

データベースからインポートするテーブルを指定するには、次の手順を実行します。

1. "データ コンポーネント" メニューでデータ ソースのエントリを展開します。

   データベースの各テーブルは別々のアイテムとして表示されます。
2. インポートするテーブルを、画面中央の "インポートするテーブル" セクションにドラッグ アンド ドロップします。

   各テーブルを "インポートするテーブル" セクションにドラッグするとテーブルのタブが表示され、"インポートするテーブル" セクションにデータベースの情報が表示され、追加した情報の種類が確認できます。各テーブルのタブにはドロップダウン メニューがあり、名前の横にある矢印をクリックすることでアクセスできます。

### 列の管理

作業しているテーブルに列が多数ある場合は、"列を管理" を使用してどの列をインポートするかをすばやく編集できます。"列を管理" ダイアログ ボックスにはテーブルの列が表示されるため、インポートする列をオンまたはオフにすることができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

インポートする列を管理するには:

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。
2. フローティング メニューで "列を管理" をクリックします。
3. インポートする列の横にあるチェックボックスをオンにします。

   列をオンにすると、ポップアップの内容を保存した後でプレビュー ウィンドウに列が表示されます。列をオフにすると、プレビュー ウィンドウから列が削除されます。

個々の列のインポート ステータスは、以下の方法で変更することもできます。

- 列のプロパティを選択してプロパティを設定する。
- 列をデザイナーにドラッグ アンド ドロップする。

isDeleted などの、システムが生成するフィールドのインポート ステータスを変更することはできません。

### テーブルのカスタマイズ

テーブルごとにデータのインポート方法をカスタマイズできます。

テーブル設定をカスタマイズするには、次のようにします。

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。
2. フローティング メニューで "テーブル設定" をクリックします。
3. テーブル設定を入力します。
   - データ インポート モード: ドロップダウン リストからのオプションのうち 1 つを選択します。
     - データのインポートが実行されるたびにすべてのレコードを置き換える: これがデフォルトです。ステージング テーブル内のデータを、ソースからインポートされたデータに置き換えます。
     - リモート キャッシュを使用し、変更されたレコードをインポート時に識別、送信: 変更または新規のデータベース レコードのみインポートされます。変更されたレコードは、ステージング領域の既存のレコードを上書きします。新しいレコードは、ステージング領域の情報の最後に追加されます。
     - 送信された期間範囲内にあるすべてのレコード: 指定した期間範囲内のレコードはすべてインポートされます。インポートされた期間と対応するステージング テーブルのレコードは、ソースから最新のデータをインポートする前に削除されます。
   - データ インポートのフィルタ: インポートしている情報をフィルタリングまたはフォーマットする SQL 式を入力します。SQL フィルタはデータベースからデータを抽出する前に適用され、インポートする必要があるデータの量を削減するとともに、ステージング領域に取り込むデータをさらに細かく制御できます。フィールドをクリックすると、"SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックスが表示されます (ここで入力したフィルタは、ステージング領域のプレビュー データではなく、データベース内の実際のデータに適用されます)。すべてのデータ ソースが同じレベルの SQL フィルタリング機能をサポートしているわけではありません。
4. "適用" をクリックして設定を適用します。
5. 各テーブルに対して手順 1〜3 を繰り返します。

   注 : データベース テーブルにキーが定義されている場合、この情報もステージング テーブルに取り込まれます。この情報は、必要に応じて確認、編集できます。
6. "保存" をクリックして、データ ソースに設定を保存します。

### 列のオプション設定

"インポートするテーブル" セクションの使用中は、データ ソースまたはインポート後のステージング領域にある状態でのデータのプレビューを表示できます。各列のオプションを変更するには、見出しにマウスを合わせ、その名前の横にあるドロップダウン メニューをクリックします。オプションは次のとおりです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 昇順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を昇順で並べ替えます。
- 降順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を降順で並べ替えます。
- 列の設定: このダイアログを使用して、ステージング テーブル内の列のプロパティを変更します。
    - 名前: ヘッダーに表示される列の名前。
    - 列のタイプ: 列で使用されるデータのタイプ。
    - 列タイプを変換: このドロップダウン メニューから新しいタイプを選択します。
- インポートから列を除外: インポートするデータからこの列を削除する場合に選択します。
- カスタム列を削除: このオプションを選択して列を削除します。(カスタム列でのみ使用可能です。)

ステージング テーブルからデータをダウンロード

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードできます。

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードするには:

1. "インポートするテーブル" セクションのテーブルの見出しにある下矢印をクリックします。
2. "データをダウンロード" を選択します。
3. "この操作により、データをダウンロードするための URL を含む E メールが送信されます" というプロンプトで、"送信" をクリックします。

   Adaptive Planning データ デザイナーに関連付けられた E メール アカウントに、URL を記載した E メールがインテグレーションから送信されます。
4. E メールを開いて URL をクリックします。

   データは .csv 形式でダウンロードされます。

詳細フィルタの使用

"ソース" ドロップダウン メニューの下にある "詳細フィルタ" をクリックすると、"インポートするテーブル" プレビュー領域にデータのフィルタリング用オプションが表示されます。"詳細フィルタ" は、ステージング テーブル内のデータのサブセットをステージング テーブル内で、あるいは ("ソース" ドロップダウン メニューから JDBC データベースを選択した場合) リモート ソースから直接、表示および閲覧できるツールを提供します。フィルタのプロパティを変更すると、ステージング領域のデータを変更することなく、プレビュー ウィンドウに表示されるデータ表示を変更できます。

プレビュー領域は、ステージング領域 (または JDBC データベース) のデータの小さな一部分をプレビューする専用領域です。JDBC データ ソースで利用できるデータを探索し、ステージング領域をチェックすることで、予定のデータが入手できることを確認できます。この機能を使用して、使用するデータ インポートのフィルタを絞り込むこともできます。(プレビュー機能で設定されたフィルタは、ステージング領域の実際のデータには影響しません。)

"詳細フィルタ" には以下のものが含まれます。

- 個別の行: 重複する行を非表示にするには、このボックスをオンにします。
- 最大行数: プレビュー領域に表示される行数を制限するには、テキスト ボックスに数値を入力します。
- 列: このドロップダウン メニューの列をオンまたはオフにし、列を表示または非表示にします。

  注 : このリストから列を削除しても、その列はインポート リストから削除されません。
- SQL フィルタ: 大型のテキスト ボックスをクリックし、 "SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックスを表示します。ここで SQL フィルタを入力し、プレビューする行を制限することができます。"適用" をクリックして、フィルタの SQL 構文を自動的にチェックします。(エラーがある場合は、式にエラー箇所が示されます。)入力した式は、"詳細フィルタ" フィールドに表示されます。詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションで オンライン ヘルプをクリックしてください 。

"フィルタを削除" ("ソース" ドロップダウン メニューの横) をクリックして、詳細フィルタの設定をすべてクリアします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

注 : テーブルのカスタマイズ プロセスの一環として、SQL 式を使用して結合テーブルとカスタム列を作成することもできます。

**JDBC** データベースからデータをインポート

JDBC データ ソースを設定して保存すると、データをインポートできます。

JDBC データベースからデータをインポートするには:

1. "アクション" メニューから、"データのインポート" をクリックします。

   選択したデータは、任意の SQL 式でフィルタリングされ、ステージング領域に読み込まれます。ステージング領域でデータをプレビューできます。

情報は手動でクリアするまで、またはその後のデータ ロードでインポート モードによりクリアされるまで、ステージング領域に残ります。

ステージング領域からデータをクリアするには:

1. "アクション" メニューの "ステージング テーブルをクリア" をクリックします。データ ソース内のすべてのテーブルのステージング領域がクリアされます。

JDBC データ ソースの "入力テキスト ストリーム" から特定の文字を削除するには:

JDBC および Microsoft Dynamics GP の入力テキスト ストリームから特定の文字を削除する を参照してください

**JDBC** データ ソースの別の **Adaptive Planning** データ エージェントへの関連付け
JDBC データ ソースに関連付ける Adaptive Planning データ エージェントを変更できます。

1. に接続するデータ エージェントが "コンポーネント ライブラリ" > データ エージェントに含まれていることを確認します。
2. "インテグレーション設定" 内の "JDBC データ ソース" に移動します。
3. "設定" セクションの "関連付けられたエージェント" フィールドでデータ エージェントを選択します。

**JDBC** データ ソース除外スキーマ

Oracle または MS SQL Server に接続する JDBC データ ソースは、財務データに関連していないスキーマ データを明示的に除外します。

**Oracle** の **JDBC** データ ソース除外スキーマ

CTXSYS、MDSYS、SYSTEM、SYS、XDB

**MS SQL Server** の **JDBC** データ ソース除外スキーマ

INFORMATION_SCHEMA、SYS

トラブルシューティングのヒント

データ ソースに関する問題には、すぐには分からなくても解決できる問題がいくつかあります。

データベースの構造をインポートする際、データベースのテーブル数が 1000 を超える場合は、テーブル リストをフィルタリングするよう通知するエラーが表示されます。このエラーは次のいずれかの方法で回避できます。

- JDBC データ ソースの編集およびスキーマ フィルタの入力。
- サーバーへのアクセスに使用する、ログインに関連したアクセス権の変更。これにより、そのログインを通じてアクセス可能なテーブルの数が減ります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Oracle データベースの構造をインポートする際、次のスキーマは構造の一部としてインポートされません。 CTXSYS, MDSYS, SYSTEM, SYS, および XDB。これらは Oracle システム スキーマであり、データ インテグレーションの目的では必要ありません。

MS SQL データベースの構造をインポートする際、スキーマ INFORMATION_SCHEMA および sys は構造の一部としてインポートされません。これらは MS SQL システム スキーマであり、データ インテグレーションの目的には必要ありません。

**JDBC** データ ソースの統合セキュリティの有効化

2 種類の JDBC ドライバー (JTDS および MS SQL ドライバー) により、MS SQL Server との統合セキュリティがサポートされています。

データ ソース/データ エージェントで統合セキュリティを有効にするには、標準の設定手順以外に追加のタスクを実行する必要があります。

統合セキュリティを使用したデータ エージェント サービスの設定

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" で、ホスト PC からのエージェントのプロビジョニングを解除します。
2. データ エージェント サービスを停止します。
3. Windows サービスを再設定して、ネットワーク/DB 認証情報がある Windows アカウントとして実行します。

   Adaptive データ エージェント サービス (64 ビット) のプロパティの例 (ローカル コンピュータ)

   - "Log On" タブ設定
   - この科目の特徴は以下のとおりです。 `yourcompanydomain\yourusername`

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. 必要な DLL をインストールします。

   JTDS または JDBC のいずれか用

   設定 `sqljdbc_auth.dll` にファイルがインストールされ、V5.1.17.8415 以降のエージェントでは、データ エージェント インストーラーの一部として にインストールされます。 `C:\Program Files\Workday Adaptive Planning Data Agent\lib\mssqljdbc\x64`。

   注 : V5.1.17.8415 以前のエージェントの場合は、手動でインストールする必要があります `sqljdbc_auth.dll`。設定 `sqljdbc_auth.dll` ファイルは、Microsoft ダウンロード センター https://www.microsoft.com/en-US/download/Details.aspx?id=11774から入手できます。

   JTDS 用

   以下を配置します。 `sqljdbc_auth.dll` ファイルの場所 `PATH`など `C:\Windows\System32`。

   エージェントのバージョンに関わらず、手動で をインストールする必要があります。 `ntlmauth.dll`。

   必須 `ntlmauth.dll` JTDS の JDBC ドライバー (使用する JVM に応じて、x32 または x64 バージョンを選択) は に配置する必要があります。 `C:\Program Files\Workday Adaptive Planning Data Agent\lib\mssqljdbc\x64\`(64 ビットの JVM の場合)。

   データ エージェント バージョン 7.1.44 以前の場合は、 `C:\Program Files\Adaptive Data Agent\lib\mssqljdbc\x64\`(64 ビット JVM の場合)

   または

   `C:\Program Files\Workday Adaptive Planning Data Agent\lib\mssqljdbc\x86\` (32 ビット JVM の場合)。

   設定 `ntlmauth.dll` ファイルは、以下の JTDS のダウンロード ページから入手できます。

   - JTDS 1.2.5 https://sourceforge.net/projects/jtds/files/jtds/1.2.5/
   - JTDS 1.2.8 https://sourceforge.net/projects/jtds/files/jtds/1.2.8/
   - JTDS 1.3.1 http://sourceforge.net/projects/jtds/files/

   JDBC の場合

   JDBC ドライバーが必要です `sqljdbc_auth.dll`。

   手動で `sqljdbc_auth.dll` 次の中 `<java>\jre\bin` フォルダ設定 `<java>` ディレクトリは、エージェントのインストール時に使用したものと同じである必要があります。

   エージェントの設定ファイルを調べることで、使用するディレクトリを正確に確認できます `C:\Program Files\Workday Adaptive Planning Data Agent\ AgentService64.ini`。検索 `"JRE Path"` このファイル内の [Java Runtime Environment] にあります。コピー `sqljdbc_auth.dll` にリストされているディレクトリに `JRE Path`。
5. データ エージェント サービスを再起動します。
6. エージェントを再度プロビジョニングします。

   データ エージェント サービス マネージャで "Provision a New Agent" を選択します。

**JDBC** データ ソースの作成

"新しいデータ ソースの作成 " メニューを使用して JDBC データ ソースを作成する場合、`integratedSecurity=true`JDBC のURL

| | |
|---|---|
| MS SQL Server の場合は、以下のように設定します。 | ドライバー クラス: `com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver`<br>JDBC の URL: `jdbc:sqlserver://<server>:<port>;integratedSecurity=true` |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | 例: `jdbc:sqlserver://dev-gp2013-r2:1433;integratedSecurity=true`<br>ユーザー名: 空のままにします。<br>パスワード: 空のままにします。 |
| JTDS ドライバーの場合は、以下のように設定します。 | ドライバー クラス: `net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver`<br>JDBC の URL: `jdbc:jtds:sqlserver://<server>:<port>;integratedSecurity=true;domain=<domain name>`<br>例: `jdbc:jtds:sqlserver://DEV-GP2013-R2:1433;integratedSecurity=true;domain=ADAPTIVE`<br>ユーザー名: 空のままにします。<br>パスワード: 空のままにします。 |

**Salesforce** バージョン **51** エンドポイントへのアップグレード

始める前に

- Salesforce データ ソースを作成します。
- Salesforce 構造をインポートします。
- Salesforce バージョン 32 以前のエンドポイントを使用します。
- セキュリティ:
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

新しい Salesforce データ ソースはすでに Salesforce バージョン 51 エンドポイントを使用しているため、アップグレードは不要です。

Salesforce が次のような場合は、エンドポイントをアップグレードできます。

- すべての顧客にこのエンドポイントの使用を強制する。
- 使用したい機能を追加する。この新機能をサポートするエンドポイント バージョンにアップグレードする必要があります。Adaptive Planning がサポートする最新のエンドポイントは、バージョン 51 です。

手順

1. "インテグレーション > 設定" "インテグレーション"に移動します。
2. Salesforce データ ソースを選択します。
3. "アクション" セクションで、"API をバージョン 51 にアップグレード" を選択します。
4. "テーブル構造の比較" を選択します。
5. (任意) スキーマ変更サマリを確認して、このアップグレードのインテグレーションの依存関係を特定します。
6. "アップグレード" を選択します。

タスクの結果

Salesforce からデータ構造が再インポートされ、データ ソース エンドポイントがバージョン 51 に変わります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

**NetSuite** データ ソース
ステップ*: NetSuite* データ ソースの設定

インテグレーションを使用して、NetSuite インスタンスから情報を抽出することができます。 Adaptive Planning ユーザーは、NetSuite アダプタを介して NetSuite インスタンス内のデータにアクセスできます。

NetSuite のデータ ソースを設定するには、次の手順を実行します。

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。
2. "コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" フォルダを展開します。

   NetSuite データ ソースは個別にライセンスされています。データ ソースの一覧にこのアダプタが表示されない場合は、Workday カスタマー センターでケースを作成してください。
3. "NetSuite データ ソース" をクリックします。

   画面の中央エリアに新規データ ソースの設定およびその他の情報が表示されます。
4. データ ソースの情報を入力します。
   - トークン に基づく認証 (TBA) を有効化: 最新の NetSuite バージョンに更新すると、デフォルトでチェックボックスがオンになります。NetSuite 管理者が NetSuite UI で生成したコンシューマー キー、コンシューマー シークレット、トークン ID、およびトークン シークレットを含む NetSuite 認証情報を選択する必要があります。
   - 認証情報: 管理者が UI で生成したコンシューマー キー、コンシューマー シークレット、トークン ID、およびトークン シークレットを含む NetSuite 認証情報を選択します。NetSuite 認証情報を設定する方法については、 ここに移動してください。
   - アカウントのタイムゾーン: ドロップダウン リストから、アカウントの正しいタイムゾーンを選択します。(ここで選択するタイム ゾーンは、このユーザー アカウントの NetSuite ユーザー インターフェイス内で使用されているタイムゾーンと同一でなければなりません。NetSuite で "Home" > "Set Preferences" > "Localization" に移動します。)
   - データ入力のバッチ期間: データ入力のバッチ時間を選択します。デフォルト値は 1 週間 (168 時間) です。この値は、差分インポートされた NetSuite テーブルの一度の更新パスで抽出されるデータの時間数です。これにより、スケジューラのチャンクを設定し、大規模なバッチジョブと小規模なバッチ ジョブとのバランスを維持できます。NetSuite データが非常に大量にある場合は、この値を下げてください。値が小さいほど、特定のカレンダー期間に必要な穴埋めのループが多くなります。

     注 : 入力する値は、ジョブ サイズ、小規模ジョブと大規模ジョブの割合、所要時間、システム リソースなど、サイト固有の変数に大きく左右されます。
   - ログ レベル: ドロップダウン リストからログ レベルを選択し、このデータ ソースをどこまで詳細に記録するかを指定します。次のオプションがあります。
     - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
     - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
     - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くのログ情報が生成される可能性があります。)
5. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

新規エージェントの接続情報をテストするには、"アクション" メニューで "接続テスト" をクリックします。システムは、データ ソース フィールドの情報を使用して NetSuite への接続を試みます。システムが NetSuite に接続できる場合は "OK" をクリックします。接続に問題がある場合は、Workday カスタマー センターでケースを作成してください。

NetSuite に接続できたら、データ構造をインポートできます。これで、NetSuite 内のテーブルおよび列が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### NetSuite データ ソースから構造をインポート

1. "アクション" メニューで "構造のインポート" をクリックします。テーブルと列が "データ コンポーネント" メニューに表示されます。

データは、以下の容量で NetSuite ユーザー アカウントと同期されます。

- インテグレーションは、最適な同期方法を選択します。
- インテグレーションは、最初は差分データの取得を試みます。
- 元のデータ ソースが差分データの取得をサポートしていない場合、インテグレーションは、ステージング領域のデータの完全なリフレッシュを行います。

NetSuite の構造のインポートおよび Adaptive 転記トランザクションのサマリ テーブル

インテグレーションには、AdaptivePostingTransactionSummary テーブルと呼ばれる NetSuite 向けの基本事項のテーブルがついてきます。

AdaptivePostingTransactionSummary および関連するテーブルは、構造のインポート中はデフォルトで表示されます。このテーブルは、NetSuite ソース システムからもっとも頻繁に要求されるデータ要素を示しています。このテーブルは、PostingTransactionSummary テーブルと関連テーブルを自動的に結合します。その結果、最も頻繁に要求される NetSuite カテゴリのビジネス フレンドリ名が公開されます。

- 科目
- 分類
- アイテム
- 部門
- 場所
- 子会社
- 顧客

"名称" 列は各テーブルに含まれます。"科目タイプ" 列は、"科目" タブから自動的に有効化されます。カテゴリ テーブルは、"構造のインポート" の実行時に自動的にインポートされます。

必要のない科目タイプは、「SQL フィルタの作成」で説明されているように、"Planning ローダ" の SQL フィルタを使って除外する必要がある場合もあります。

結合テーブルで利用できるデフォルトの属性のうち 1 つ以上を削除することもできます。お使いのモデルに必要なカテゴリだけを選んでください。それ以外のカテゴリはすべて結合から取り除き、元の列も PostingTransactionsSummary からのインポートから除外しましょう。

### NetSuite データ ソースにテーブルを追加

データの構造をインポートしたら、インポートする情報を指定できます。NetSuite の標準テーブル セットは、すでに有効になっています。他のテーブルを追加でインポートしたい場合は、画面の "インポートするテーブル" セクションを使って、インポートされた NetSuite データの設定を行ってください。

ユーザー アカウントからインポートするテーブルを指定するには:

1. "データ コンポーネント" メニューでデータ ソースのエントリを展開します。

   各テーブルは、個別のアイテムとして表示されます。
2. インポートするテーブルを、画面中央の "インポートするテーブル" セクションにドラッグ アンド ドロップします。

   各テーブルを "インポートするテーブル" セクションにドラッグすると、テーブルのタブが表示され、テーブルの情報が "インポートするテーブル" セクションに表示され、追加した情報のタイプを確認できます。各テーブルのタブにはドロップダウン メニューがあり、名前の横にある矢印をクリックするとアクセスできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 列の管理

作業しているテーブルに列が多数ある場合は、"列を管理" を使用してどの列をインポートするかをすばやく編集できます。"列を管理" ダイアログ ボックスにはテーブルの列が表示されるため、インポートする列をオンまたはオフにすることができます。

インポートする列を管理するには:

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。
2. フローティング メニューで "列を管理" をクリックします。
3. インポートする列の横にあるチェックボックスをオンにします。

   列をオンにすると、ポップアップの内容を保存した後でプレビュー ウィンドウに列が表示されます。列をオフにすると、プレビュー ウィンドウから列が削除されます。

   isDeleted などの、システムが生成するフィールドのインポート ステータスを変更することはできません。

   個々の列のインポート ステータスは、以下の方法で変更できます。

   - 列のプロパティを選択してプロパティを設定する。
   - 列をデザイナーにドラッグ アンド ドロップする。

### テーブルのカスタマイズ

テーブルごとにデータのインポート方法をカスタマイズできます。

テーブル設定をカスタマイズするには、次のようにします。

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。
2. フローティング メニューで "テーブル設定" をクリックします。
3. テーブル設定を入力します。
   - データ インポート モード: ドロップダウン リストには以下のオプションのみが表示されます。
     - 最適な同期方法を自動的に選択するデータ ソース: これがデフォルトです。データ ソースが NetSuite を確認し、最適な方法でステージング領域のデータを NetSuite 内の情報と同期します。(毎回全体を読み取るテーブルもあれば、差分更新を使用するテーブルもあります。)
   - データ インポートのフィルタ: インポートしている情報をフィルタリングまたはフォーマットする SQL 式を入力します。SQL フィルタは NetSuite からデータを抽出する前に適用され、インポートする必要があるデータの量を削減します。それによってステージング領域に取り込まれるデータをさらに細かく制御できます。フィールドをクリックすると、"SQL 式を編集" ダイアログ ボックスが表示されます。(ここで入力したフィルタは、ステージング領域のプレビュー データではなく、NetSuite 内の実際のデータに適用されます。)すべてのデータ ソースが同じレベルの SQL フィルタリング機能をサポートしているわけではありません。
   - 期間パラメータ:NetSuite のテーブル `PostingTransactionBalance` および `PostingTransactionSummary` はデフォルトでインポートします。インポートの前に期間パラメータの構成が必要です。インポートを選択する `ConsolidatedExchangeRate` または `BudgetExchangeRate` テーブルでは、期間パラメータの構成も必要です。このようなテーブルに対して期間パラメータを構成しないと、インポートは次のようなメッセージとともに失敗します。

     ```
     Required parameter is not configured
     ```

     注 : NetSuite には、きわめて限定的ながら非 SQL フィルタリング機能があります。非常に単純な式のみがサポートされています。
4. "適用" をクリックして設定を適用します。
5. 各テーブルに対して手順 1〜3 を繰り返します。
6. "保存" をクリックして、データ ソースに設定を保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 列のオプション設定

"インポートするテーブル" を使用中は、データ ソースまたはインポート後のステージング領域に存在する状態でのデータのプレビューを表示できます。各列のオプションを変更するには、見出しにマウスを合わせ、その名前の横にあるドロップダウン メニューをクリックします。

- 昇順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を昇順で並べ替えます。
- 降順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を降順で並べ替えます。
- 列の設定: このダイアログを使用して、ステージング テーブル内の列のプロパティを変更します。
    - 名前: ヘッダーに表示される列の名前。
    - 列のタイプ: 列で使用されるデータのタイプ。
    - 列タイプを変換: このドロップダウン メニューから新しいタイプを選択します。
- インポートから列を除外: インポートするデータからこの列を削除する場合に選択します。
- カスタム列を削除: このオプションを選択して列を削除します。(カスタム列でのみ使用可能です。)

### サブクエリー列の作成

サブクエリー列を使い、他の関連テーブルの条件に基づいて NetSuite の行をフィルタリングできます。たとえば NetSuite の "オポチュニティ" レコードを、1 つ以上の "見積もり" レコードの有無をもとにフィルタリングできます。

サブクエリーの列を使用して以下を行うことができます。

- 主テーブル/列と関連テーブル/列を選ぶ。
- 関連テーブルの特定の条件をチェックする。
- そのチェックの結果をもとに牽引テーブルに適切な値を挿入する。

テーブルごとにデータのインポート方法をカスタマイズできます。

サブクエリー列を作成するには、次のようにします。

1. "データ コンポーネント" メニュー内で、データ ソースの "カスタム列" フォルダを展開します。
2. "サブクエリー列" コンポーネントを、画面中央の "インポートするテーブル" セクションにドラッグ アンド ドロップします。
3. 列の設定を入力します。
    - 名前: サブクエリー列の名前を入力します。
    - 列のタイプ: この表示専用フィールドは、ブール値列として識別されます。
    - 関連テーブル: 比較に使用する関連テーブルを選択します。
    - 結合式: このフィールドをクリックし、結合条件を入力します。"SQL 結合式を編集" ダイアログ ボックスが表示されます。(SQL 結合の作成に関する詳細情報は 、ステップ: SQL 結合テーブルと列の追加を参照してください。)
    - 結合値のルール: ドロップダウン リストから、以下の SQL 結合値オプションのうち 1 つを選択します。"存在する"、"存在しない"、"合計"、"カウント"、"最小"、または "最大"。
4. "適用" をクリックして設定を適用します。
5. "保存" をクリックして、データ ソースに設定を保存します。

### ステージング テーブルからデータをダウンロード

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードできます。

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードするには:

1. "インポートするテーブル" セクションのテーブルの見出しにある下矢印をクリックします。
2. "データをダウンロード" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "この操作により、データをダウンロードするための URL を含む E メールが送信されます" というプロンプトで、"送信" をクリックします。

   データ デザイナーに関連付けられた E メール アカウントに、URL を記載した E メールがインテグレーションから送信されます。
4. E メールを開いて URL をクリックします。データは .csv 形式でダウンロードされます。

詳細フィルタの使用

"ソース" ドロップダウン メニューの下にある "詳細フィルタ" をクリックすると、"インポートするテーブル" プレビュー領域にデータのフィルタリング用オプションが表示されます。"詳細フィルタ" は、ステージング テーブル内のデータのサブセットをステージング テーブル内で、あるいは ("ソース" ドロップダウン メニューから "NetSuite" を選択した場合) 遠隔ソースから直接、表示および閲覧できるツールを提供します。

プレビュー領域は、特にステージング領域 (または NetSuite) のデータのごく一部をプレビューするためのものです。"スプレッドシート" 科目で利用できるデータを探索して、ステージング領域をチェックすることで予定のデータが入手できることを確認できます。この機能を使用して、使用するデータ インポートのフィルタを絞り込むこともできます。(プレビュー機能で設定されたフィルタは、ステージング領域の実際のデータには影響しません。)

"詳細フィルタ" のオプションは次のとおりです。

- 個別の行: 重複する行を非表示にするには、このボックスをオンにします。
- 最大行数: プレビュー領域に表示される行数を制限するには、テキスト ボックスに数値を入力します。
- 列: このドロップダウン メニューの列をオンまたはオフにし、列を表示または非表示にします。

注 : このリストから列を削除しても、その列はインポート リストから削除されません。

- SQL フィルタ: 大型のテキスト ボックスをクリックし、(先に示した) "SQL 式を編集" ダイアログ ボックスを表示します。ここで SQL フィルタを入力し、プレビューする行を制限することができます。"適用" をクリックして、フィルタの SQL 構文を自動的にチェックします。(エラーがある場合は、式に エラー箇所が示されます。)入力した式は、"データ インポートのフィルタ" フィールドに表示されます。詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションでこちらをクリックしてください 。NetSuite には、きわめて限定的ながら非 SQL フィルタリング機能があります。非常に単純な式のみがサポートされています。

"フィルタを削除" ("ソース" ドロップダウンの隣) をクリックし、プレビュー ウィンドウの設定をクリアします。

注 : NetSuite は特定の列をキー列に指定します。この情報はステージング テーブルに持ち込まれます。この情報は変更しないでください。

**NetSuite** からデータをインポート

NetSuite データ ソースを設定して保存すると、データをインポートできます。

NetSuite からデータをインポートするには:

1. "アクション" メニューから、"データのインポート" をクリックします。選択したデータは、任意の SQL 式でフィルタリングされ、ステージング領域に読み込まれます。ステージング領域でデータをプレビューできます。

情報はクリアするまでステージング領域に残ります。

ステージング領域からデータをクリアするには:

1. "アクション" メニューの "ステージング テーブルをクリア" をクリックします。データ ソース内のすべてのテーブルのステージング領域がクリアされます。

ヒント : ベスト プラクティス:NetSuite トランザクション タイプをインポートする場合、 対応する NetSuite トランザクション タイプのみを使用してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### NetSuite 保存済の検索条件のインポート

注： "NetSuite 保存済の検索条件" からのインポートは、2024 年 8 月 12 日より前に NetSuite インテグレーションを設定した場合のみ利用できます。

保存済の検索条件のインポートには、NetSuite アダプタが必要です。このデータ ソースの SSO 認証も設定する必要があります。

NetSuite 保存済の検索条件をインポートするには、データ デザイナーで保存済の検索条件を設定し、保存済の検索条件の構造をインポートする必要があります。インテグレーション内の保存済の検索条件は、NetSuite のカスタム レコード、カスタム フィールド、およびカスタム セグメントをサポートします。

データ デザイナーで保存済の検索条件を設定

1. "アクション" メニューから、"保存済の検索条件の管理" をクリックします。
2. "保存済の検索条件の管理" ダイアログ内で、ナビゲーション ツリーの下の "アクション" ボタンをクリックして "保存済の検索条件を追加" を選択するか、"保存済の検索条件" フォルダを右クリックして "保存済の検索条件を追加" を選択します。保存済の検索条件に "名前" をつけます。
3. "NetSuite レコード タイプ" を選択します。
4. "NetSuite 保存済の検索条件" を選択します。
5. "適用" をクリックします。

保存済の検索条件の構造をインポート

1. "管理された保存済の検索条件" ダイアログ内で、以前に作成した "保存済の検索条件" をクリックして選択します。
2. ナビゲーション ツリーの下の "アクション" ボタンをクリックして、"アクション" メニューの "構造のインポート" を選択するか、"保存済の検索条件" を右クリックして、"構造のインポート" を選択します。
3. "保存済の検索条件" 構造のインポートが成功したら、"管理された保存済の検索条件" ダイアログを閉じます。
4. ステージング領域に、インポートした保存済の検索条件構造が個別のタブに表示されます。

"アクション" ペイン内の "構造のインポート" をクリックすると、"データ コンポーネント" パネル内のすべての "保存済の検索条件" がインポートされることに留意してください。

ヒント： ベスト プラクティス: "保存済の検索条件" 構造のインポートの結果が "NetSuite サマリ結果" の列を含まないことを確認してください。これは NetSuite Web サービス API による制限です。

注： インポートできる "NetSuite 保存済の検索条件" の数は最大で 1000 です。

"NetSuite 保存済の検索条件データ インポート モード" を選択

1. ステージング領域で、タブ内の矢印アイコンをクリックし、"NetSuite 保存済の検索条件" のテーブルを表示します。
2. ドロップダウンから "テーブル設定" を選択します。

   以下の 2 つのオプションが利用できます。

   - データのインポートが実行されるたびにすべてのレコードを置き換える: これがデフォルトです。インポート実行時にすべてのデータを置き換えられます。
   - 送信された期間範囲内のあるすべてのレコード: パラメータを使って期間範囲を選択し、パラメータが適用される "保存済の検索条件" テーブルの日時列を選択できます。このダイアログ内の "パラメータを編集" をクリックし、使用する期間範囲パラメータを作成します。期間範囲のインポートを選択する場合、期間パラメータを設定する必要があります。設定しないと、インポートは失敗します。
3. "適用" をクリックします。
4. "アクション" パネルで "保存" をクリックします。

保存済の検索条件からデータをインポート

1. "アクション" パネルから、"データのインポート" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "NetSuite 保存済の検索条件" データはステージング領域にインポートされます。

NetSuite 保存済の検索条件の消去

1. "アクション" ペインから、"管理された保存済の検索条件" をクリックします。
2. "管理された保存済の検索条件" から保存済の検索条件を右クリックし、"削除" を選択します。保存済の検索条件は "保存済の検索条件の管理" ダイアログ一覧からは削除されますが、検索の構造は "構造のインポート" を再び実行するまで "データ コンポーネント" ペインおよび "ステージング" 領域に残ります。

NetSuite 内で NetSuite 保存済の検索条件が削除された場合、構造のインポートを実行する時にその検索は利用できない旨を告げるメッセージが表示されます。インテグレーション内ですでにデータ インポートに使用中の保存済の検索条件が NetSuite で変更された場合、以降のデータ インポートの成功は保証されません。

ヒント： ベスト プラクティス: NetSuite 内で、特にインテグレーションで使うための保存済の検索条件を作成し、他の NetSuite ユーザーに変更または削除されないように名前をつけます。

ヒント： ベスト プラクティス: NetSuite において、保存済の検索条件の結果から返ってくるコンテンツを表示できる適切な権限を持っていることを確認してください。コンテンツを表示できる権限がない場合は、検索はゼロ レコードを返し、エラー メッセージは表示されません。これは NetSuite のオンラインヘルプに記載されている NetSuite の制限です。 `If you reference a saved search for which you do not have the permission, the exception is ignored and fields have no value (are not in the SOAP response at all).`

インポートする **NetSuite** ファイル キャビネットのファイルの選択
NetSuite ファイル キャビネットの CSV ファイルを管理、選択して、ステージング テーブルとしてインポートできます。

参照 インポートする NetSuite ファイル キャビネットのファイルの選択（1642ページ）。

ドリルスルーの実行元 **Adaptive Planning NetSuite** に戻る

注： NetSuite ドリルスルーは、2024 年 8 月 12 日より前に NetSuite インテグレーションを設定した場合のみ利用できます。

NetSuite からインポートしたデータのドリルスルーを有効化することができます。ドリルスルーのリンクは、Planning シートおよび NetSuite からインポートされた実績のレポートで利用可能になります。NetSuite のドリルスルーを設定するためには、内部識別子が Planning ローダ内の列マッピングの一部として使われていることを確認してください。NetSuite 外部システムを設定し、Planning ローダが使用するプロファイルに対応させる必要があります。

NetSuite 側の複数の列を単一の "計画" 属性にマッピングするよう設定する場合は、タプル SQL 列を使ってそれらの NetSuite 列をデータ ソース内で 1 つにまとめる必要があります。

詳細については、Planning データ ローダの作成のマッピング プロファイルの理解に関するセクションを参照してください。

| | |
|---|---|
| Planning から NetSuite へのドリルスルーを有効化するステップの概要 | 作業を開始する前に、Planning の "インテグレーション" > "NetSuite セットアップ" メニュー内の "強化されたバンドルベースのドリルスルー" チェックボックスがオンになっていることを確認します。<br><br>属性マッピングを定義する NetSuite 外部システムを設定します。<br><br>定義済みの属性マッピングに必要なデータ ソースの調整を行います。<br><br>1. 同じ Planning 属性に複数の NetSuite カテゴリがマッピングされている場合は、NetSuite データ ソースに再度アクセスして、列の多 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

対 1 マッピング向けの "タプル SQL 列" を追加します。
2. "インポートするテーブル" 内で "Adaptive 転記トランザクションのサマリ" テーブルをクリックします。
3. "Adaptive 転記トランザクションのサマリ" のドロップダウンで "列を管理" を選択します。
4. 有効化 `AccountInternalId`。
5. 以下を有効にします。 `InternalIds` ドリルする予定の他の属性
6. データ ソースを保存します。

属性マッピングのデータ ソースの調整を使用して、必要なローダ調整を行います。

1. 上記の NetSuite データ ソースの設定が完了したら、NetSuite 実績データをインポートするように Planning データ ローダ を設定します。
    - "NetSuite 外部システムの設定" 手順において設定した外部システムにプロファイルをリンクします。
    - このプロファイルを Planning ローダに添付します。
2. "列マッピング" タブをクリックします。
3. 科目行の場合:
    - "ソース ID" 列で以下を選択します。 `accountInternalId` ソース テーブルの
    - "ソース表示名" 列で表示名を選択します。
4. ドリルしたい他の標準属性のそれぞれについて、上記の手順を繰り返します。
5. ローダを保存します。

これらの手順をすべて完了すると、ドリルできるようになります。

ステップ*: NetSuite* 認証情報の設定

NetSuite 認証情報は、NetSuite エンドポイントに接続する際にパスワードと同様の役割を果たす NetSuite からのトークンベースの認証キーの集合です。NetSuite 認証情報は、NetSuite ログイン情報を一元的に再利用する方法として 1 つまたは複数の NetSuite データ ソースと関連付けることができます。

NetSuite 認証情報には次のものが含まれます。

- NetSuite アカウント ID
- トークン ID
- トークン シークレット

重要 : トークンベースの認証キーは NetSuite アカウントのパスワードとまったく同様に機能するため Adaptive Planning 入力した瞬間に値が表示されるのを防ぎます。トークンベースの認証キーは、常にパスワードと同様に取り扱うようにしてください。

注 : NetSuite のトークンベースの認証は HMAC-SHA256 署名方法を採用しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

前提条件

NetSuite の場合

- NetSuite でトークンベースの認証キーを生成（2083ページ） Adaptive Planning に統合するユーザーで、キーが使用可能な組織。

Adaptive Planning の場合

- 必要な権限: "インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"
- 既存の NetSuite データ ソースがある場合は、最新の NetSuite バージョンに更新することをお勧めします。
- 新しい NetSuite データ ソースを作成すると、自動的に最新の NetSuite バージョンのエンドポイントが使用されます。アップグレードすることなく、認証情報を作成することができます。

ナビゲーション

インテグレーション" > "インテグレーション設定"

基本ステップ

1. 新しい NetSuite 認証情報を作成します。
2. NetSuite 認証情報に名前を付け、NetSuite アカウント ID とトークンベースの認証キーを入力します。
3. 認証情報を、少なくとも NetSuite 2020.1 エンドポイントを使用する NetSuite データ ソースに関連付けます。

**NetSuite** 認証情報の作成

1. コンポーネント ライブラリ内で "認証情報" を選択します。
2. "認証情報" メニューから "新しい認証情報を作成" を選択します。
3. "NetSuite 認証情報" を選択します。
4. 認証情報用に一意の名前を入力します。
5. NetSuite アカウント ID を入力します。このフィールドは保存後も表示されます。
6. NetSuite で生成した "トークン ID" と "トークン シークレット" を入力します。これらのシークレット フィールドは、セキュリティ上の理由から、Adaptive Planning に入力した瞬間に非表示になります。
7. "アクション" パネルで "保存" を選択します。

**NetSuite** 認証情報を **NetSuite** データ ソースに関連付ける

1. "コンポーネント ライブラリ" で "データ ソース" を選択します。
2. 最新の NetSuite バージョンにアップグレードされたエンドポイントを使用する NetSuite データ ソースを選択します。
3. "認証情報" のドロップダウンで "NetSuite 認証情報" を選択します。
4. データ ソースを保存します。

参照 NetSuite データ ソースのアップグレード（1643ページ）。

ステップ*:* スケジュールされた *NetSuite* 保存済の検索条件と検索結果のファイル キャビネットへのエクスポートの設定

始める前に

- NetSuite データ ソースを設定します。
- NetSuite で NetSuite ファイル キャビネットが有効になっている。
- NetSuite へのアクセス。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- スケジュールで実行する保存済みの検索条件を作成します。
- "保存済の検索条件" ファイル キャビネット スケジューラ スクリプトをダウンロードします。JS ファイルにアクセスするには、提供されている ZIP ファイルを展開します。保存済の検索条件 (ファイル)は、キャビネットのスケジューラ スクリプト.zip を参照してください。

このタスクについて

NetSuite スクリプトを手動でデプロイすると、以下を自動化できます。

- 保存済みの検索条件のスケジュールされた実行。保存済の検索条件は、NetSuite で定義されたレポートです。
- 保存済みの検索結果ファイルの NetSuite ファイル キャビネットへのエクスポート。ファイル キャビネットは NetSuite ファイル保管場所です。NetSuite データ ソースを使用して、保存済みの検索結果ファイルを Adaptive Planning にインポートできます。

ダウンロードして使用するスクリプトが用意されています。コーディングの専門知識は必要ありません。

このスクリプトをデプロイすることを強くお勧めします。Oracle は、2024 年 8 月 12 日付けで NetSuite SuiteCloud 開発者ネットワーク (SDN) パートナー プログラムへの Workday の参加を終了したためです。Workday SuiteCloud 開発者ネットワーク プログラムの更新を参照してください。この日付を過ぎると、SDN テクノロジーを使用して、保存済みの検索条件の自動実行および NetSuite ファイル キャビネットへの検索結果のエクスポートをスケジュールすることができなくなります。

以前、Suitelet Bundle を提供して、保存済みの検索条件の実行と保存済みの検索結果のエクスポートを自動化し、プロセスを簡素化しました。SAML パートナー契約の終了に伴い、このバンドルを配布できなくなりました。代わりに、Workday が提供する同等のスクリプトを手動でデプロイすることができます。

手順

1. Access NetSuite.
2. 保存済み検索結果のエクスポートを保存するために使用するファイル キャビネットを作成します。
   このファイル キャビネットのデフォルト値および選択を使用します。

   ファイル キャビネットの概要を参照してください。
3. ファイル キャビネットの内部 ID、および実行するすべての保存済みの検索条件の内部 ID を書き留めます。
   これらの内部 ID は、保存済み検索条件の実行とエクスポートをスケジュールするスクリプトを設定する際に必要になります。

   保存済の検索条件リストの使用を参照してください。
4. ダウンロードした JS ファイルを使用してスクリプト レコードを作成します。
   スクリプト レコードの作成を参照してください。

   以下の正確なスペルと大文字の入力を使用して、スクリプトの "パラメータ" タブを完成させます。

| ラベル | ID | タイプ |
|---|---|---|
| 出力ファイル名 | evitpada_outputfilename | 自由形式テキスト |
| ファイル キャビネット ID | evitpada_filecabinetid | 整数 |
| 保存済の検索条件 ID | evitpada_savedsearchid | 整数 |

5. スクリプトのデプロイを作成し、スケジュールします。
   保存済みの検索条件ファイルごとに、個別のスクリプト デプロイを作成する必要があります。

   次を参照してください。

   - スクリプトをデプロイする方法
   - スケジュールされたスクリプト デプロイメント レコード

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

スクリプトを複数回実行し、複数の CSV ファイルを生成すると、NetSuite は毎回同じ出力ファイル名を使用します。ファイルは内部 ID を使用して互いに区別できます。

次のタスク

ファイルの内部 ID を使用して、保存済みの検索結果の CSV ファイルを Adaptive Planning にインポートします。

relatedlinks
例
トラブルシューティング: NetSuite 保存済の検索条件のファイル キャビネットへのエクスポート（1657ページ）

インポートする *NetSuite* ファイル キャビネットのファイルの選択

始める前に

- セキュリティ:
  - インテグレーション オペレーター
  - データ デザイナー
- Adaptive Planning の NetSuite データ ソースが NetSuite 2021.1 以上のエンドポイントにアップグレードされている。
- NetSuite で "NetSuite ファイル キャビネット" が有効になっていて、NetSuite キャビネット フォルダに CSV ファイルをロード済みである。

このタスクについて

NetSuite ファイル キャビネットから CSV ファイルを選択して、NetSuite データ ソースからインポートできます。CSV ファイルは、それぞれ別個のステージング テーブルとしてインポートされます。個々の CSV ファイルのサイズは 250 MB を超えることはできません。

最初の 1,000 行で、インポートする列のタイプが決まります。

手順

1. "コンポーネント ライブラリ" で NetSuite データ ソースを選択します。
2. "アクション" ペインで、"ファイル キャビネットを管理" をクリックします。
3. "ファイル キャビネット" を右クリックして、"アクション" > "ファイル キャビネットの追加" を選択します。
4. NetSuite からインポートする CSV ファイルの "NetSuite 内部 ID" を入力します。
   NetSuite 内で "ドキュメント" に移動して、ファイルの NetSuite 内部 ID を表示、コピーできます。
   例: 5667
5. "適用" をクリックします。
6. データ ソースを保存します。

タスクの結果

追加した CSV ファイルがリストに表示され、インポートできるようになります。

例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のタスク

"構造のインポート" と "データをインポート" を選択して、NetSuite ファイル キャビネットのファイルをステージング テーブルとしてインポートします。

*NetSuite* データ ソースのアップグレード

始める前に

- NetSuite データ ソース
- インスタンスでインテグレーションが有効になっている
- セキュリティ: "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

Adaptive Planning は、NetSuite サポートの継続性を確保するために、NetSuite データ ソースの Web サービスのバージョンを定期的に更新しています。Adaptive Planning が新しいバージョンをサポートするようになると、アップグレード用のリンクが表示されます。

NetSuite SOAP Web サービス 2025.1 へのアップグレードがサポートされています。

手順

1. メイン メニューから "インテグレーション > 設定""インテグレーション" を選択します。
2. "コンポーネント ライブラリ"で NetSuite データ ソースを選択します。
3. "アクション" ペインの "Netsuite にアップグレード" リンクをクリックします。
   リンク テキストには、アップグレードできるバージョンが示されています。
4. 必要に応じて、アップグレード メッセージに従ってアクションを実行します。
   アップグレードは常にアクションを必要とするわけではありません。
5. アップグレードを続行します。

タスクの結果

このデータ ソースでは、Adaptive Planning がサポートする NetSuite SOAP Web Services 2025.1 が使用されます。古いバージョンは使用できなくなります。

例

次のタスク

参考: *NetSuite* データ ソース テーブルとデータ タイプ

サポートされる **NetSuite** テーブル

下表は、NetSuite インテグレーションでサポートされているテーブルに関する情報を示します。このテーブルの列は、次の情報を示します。

- インテグレーション テーブル: インテグレーション データ ソースに示されているテーブルの名前。
- テーブル ソース: スキーマ ブラウザで使用されている NetSuite テーブルの名前。
- アクセス: それぞれの NetSuite テーブルのアクセス メカニズム。タイプは次のとおりです。
    - 「検索」とは、インテグレーションが指定された API を使用して、検索条件に一致するすべてのレコードを取得することを意味します。「制限付き検索」とは、インテグレーション

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

が、NetSuite が課す可能性のある検索の制限に加えて、検索に追加の制限を課すことを意味します。
    - 「すべてを取得」とは、インテグレーションが指定された API を使用して、すべてのレコードを取得することを意味します。
    - 「差分」とは、インテグレーションが変更されたデータのみを取得することを意味します。
- コメント: テーブルに関するコメント。

インテグレーションは、NetSuite Web サービス API によって公開されるカスタム NetSuite テーブルもサポートします。それぞれにインポートするテーブル/列を選択できます。

| インテグレーション テーブル | テーブル ソース | アクセス | コメント |
|---|---|---|---|
| Account | AccountSearchRowBasic | 検索 | |
| AccountingPeriod | AccountingPeriodSearchRowBasic | 検索 | |
| AdaptivePostingTransactionSummary | | | インテグレーション データ ソースで作成されたテーブルで、 で使用することはできません。NetSuite以下に結合します。標準カテゴリ テーブル (科目、期間、子会社、部署、クラス、場所、品目、顧客) を備えた "PostingTransactionSummary" テーブル |
| AllCustomLists | CustomList | すべてを取得 | |
| Budget | BudgetSearchRowBasic | 検索 | |
| BudgetExchangeRate | Special:getBudgetExchangeRate | 制限付き検索 | |
| CalendarEvent | CalendarEventSearchRowBasic | 検索 | |
| Campaign | CampaignSearchRowBasic | 差分 | |
| CampaignCategory | CampaignCategory | すべてを取得 | |
| CampaignFamily | CampaignFamily | すべてを取得 | |
| Classification | ClassificationSearchRowBasic | 検索 | |
| ConsolidatedExchangeRate | Special:getConsolidatedExchangeRate | 制限付き検索 | |
| Contact | ContactSearchRowBasic | 検索 | |
| Currency | Currency | すべてを取得 | |
| CustomerCategory | CustomerSearchRowBasic | 差分 | |
| CustomerStatus | CustomerCategorySearchRowBasic | 検索 | |
| DeletedRecord | 特殊: getDeleted | 制限付き検索 | エンド ユーザーによる使用はできません |
| Department | DepartmentSearchRowBasic | 検索 | |
| Employee | EmployeeSearchRowBasic | 差分 | |
| EntityGroup | EntityGroupSearchRowBasic | 差分 | |
| ExpenseCategory | ExpenseCategorySearchRowBasic | 検索 | |
| Item | ItemSearchRowBasic | 差分 | |
| Job | JobSearchRowBasic | 差分 | |
| JobStatus | JobStatusSearchRowBasic | 検索 | |
| JobType | JobTypeSearchRowBasic | 検索 | |
| Location | LocationSearchRowBasic | | |
| NetSuiteServerTime | 特殊:getServerTime | | |
| オポチュニティ | OpportunitySearchRowBasic | | |
| Partner | PartnerSearchRowBasic | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| インテグレーション テーブル | テーブル ソース | アクセス | コメント |
|---|---|---|---|
| PostingTransactionBalance | Special:getPostingTransactionBalance | 制限付き検索 | インテグレーション ソースで作成されたテーブルで、 で使用することはできません。NetSuiteこのテーブルには、期末残高が含まれています。 |
| PostingTransactionSummary | Special:getPostingTransactionSummary | 制限付き検索 | |
| ProjectTask | ProjectTaskSearchRowBasic | 差分 | |
| PromotionCode | PromotionCodeSearchRowBasic | 検索 | |
| SalesTaxItem | SalesTaxItem | すべてを取得 | |
| Subsidiary | SubsidiarySearchRowBasic | 検索 | |
| SupportCase | SupportCaseSearchRowBasic | 差分 | |
| SupportCasePriority | SupportCasePriority | すべてを取得 | |
| SupportCaseStatus | SupportCaseStatus | すべてを取得 | |
| SupportIssue | IssueSearchRowBasic | 検索 | |
| SupportSolution | SolutionSearchRowBasic | 検索 | |
| SupportTopic | TopicSearchRowBasic | 検索 | |
| Task | TaskSearchRowBasic | 検索 | |
| TaxGroup | TaxGroup | すべてを取得 | |
| TaxType | TaxType | すべてを取得 | |
| Timebill | TimeBillSearchRowBasic | 差分 | |
| Transaction | TransactionSearchRowBasic | 差分 | |
| Vendor | VendorSearchRowBasic | 差分 | |

インテグレーションで一般的に使用されているテーブル

次のテーブルは、NetSuite アダプタですぐにインポートできるようになっています。

- AdaptivePostingTransactionSummary (プランニング用のプライマリ ソース テーブル)
- Account (マッピング先 Adaptive Planning 科目)
- Classification (任意のマッピング)
- Customer (任意のマッピング)
- Department (任意のマッピング)
- Items (任意のマッピング)
- Location (任意のマッピング)
- トランザクション転記のサマリ
- Subsidiary (通常は次のようにマッピングされます) Adaptive Planning 組織)

注： AdaptivePostingTransactionSummary および PostingTransactionSummary テーブルは月次差額を返す一方、PostingTransactionBalance テーブルは期末残高を返します。AdaptivePostingTransactionSummary および PostingTransactionSummary テーブルは、標準カテゴリ (科目、期間、子会社、部署、クラス、場所、アイテム、顧客) をサポートします。追加のカテゴリが必要な場合は、トランザクション テーブルを使用する必要があります。

差分更新されたテーブル

現在の NetSuite データ ソースで、次のテーブルが差分更新されます。

- Campaign
- Customer
- Employee
- EntityGroup
- Item
- Job

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- Opportunity
- Partner
- ProjectTask
- SupportCase
- TimeBill
- Transaction
- Vendor

さらに、すべてのカスタム レコード タイプも差分更新されます。差分更新されたテーブルのデータ インポート フィルタで差分日付列を使用することはできません。システムはこれを試みることを妨げませんが、差分更新メカニズムのエラーが発生します。

「探索中」、つまり列とフィルタ設定を変更する際に、差分テーブルにインポートされるデータの量を制限できます。データ ソースには、差分データの完全負荷を短絡するためのメカニズムがあります。

下表には、すべての差分テーブルとその差分および作成日列が含まれています。

| テーブル | 差分日付列 | 作成日付列 |
|---|---|---|
| Campaign | LastModifiedDate | CreatedDate |
| Customer | LastModifiedDate | DateCreated |
| CustomRecord (*) | LastModified | Created |
| Employee | LastModifiedDate | CreatedDate |
| EntityGroup | LastModifiedDate | -- なし -- |
| Item | Modified | Created |
| Job | LastModifiedDate | DateCreated |
| Opportunity | LastModifiedDate | DateCreated |
| Partner | LastModifiedDate | DateCreated |
| ProjectTask | LastModifiedDate | CreatedDate |
| SupportCase | LastModifiedDate | CreatedDate |
| TimeBill | LastModified | DateCreated |
| Transaction | LastModifiedDate | DateCreated |
| Vendor | LastModifiedDate | DateCreated |

(*) - これはすべてのカスタム レコードに適用されます。

テーブルの "作成日" 列で、「～より大きい」または「～以上」のフィルタを指定すると、コードは完全なインポートをバイパスし、指定された日時から差分更新のみを行います。これはインポートされたデータを制限する際に役立ちます。差分アップロードされた大きなテーブルの探索を開始する場合に、最後の数日 (または数週間) 分のデータのみを抽出するようにフィルタを設定できます。この種のロードは非常に迅速に実行されます。そうすると、必要な列や使用したいその他のフィルタ条件がわかります。そこで満足ならば、作成日フィルタを削除して、全データのロードを再開できます。

注： 一部のテーブルについては、特定の日付より古いレコードが必要になることはないでしょう。それらのテーブルでは、適切な値で作成日フィルタを引き続き使用できます。

### サポートされている **NetSuite** データ タイプ

NetSuite からのデータがインテグレーションにインポートされると、そのデータの「タイプ」は、インテグレーションでサポートされているデータ タイプのいずれかにマッピングする必要があります。

#### 標準 NetSuite データ フィールド

「検索済み」テーブル内の標準 NetSuite データ フィールドには、次のマッピングを使用します。

| NetSuite 標準検索データ タイプ | インテグレーション データ タイプ |
|---|---|
| SearchColumnStringField | テキスト |
| SearchColumnSelectField | テキスト |
| SearchColumnEnumSelectField | テキスト |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| NetSuite 標準検索データ タイプ | インテグレーション データ タイプ |
|---|---|
| SearchColumnDoubleField | 浮動小数 |
| SearchColumnBooleanField | ブール値 |
| SearchColumnLongField | 整数 |
| SearchColumnTextNumberField | テキスト |
| SearchColumnDateField | DateTime |

テーブル内の標準 NetSuite データ フィールド

テーブル内の標準 NetSuite データ フィールド (常に完全に取得されます) には、次のマッピングを使用します。

| NetSuite 標準データ タイプ | インテグレーション データ タイプ |
|---|---|
| String | テキスト |
| RecordRef | テキスト |
| Double | テキスト |
| ブール値 | 浮動小数 |
| Long | ブール値 |
| System.DateTimeFloat | 整数 |

カスタム フィールド

NetSuite データ ソースは可能性のある NetSuite カスタム フィールドのサブセットに対応します。

カスタム フィールドは次のレコード タイプに対応しています。

- CRM カスタム フィールド
  - CalendarEvent
  - Campaign
  - SupportCase
  - SupportIssue
  - SupportSolution
  - ProjectTask
- タスク
- カスタム エンティティ フィールド
  - Contact
  - Customer
  - Employee
  - Entity Group
  - Job
  - Partner
  - Vendor
- カスタム アイテム フィールド
  - Item
- カスタム トランザクション フィールド
  - Transaction Body
  - Transaction Column
  - Transaction Item

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- その他のカスタム フィールド
  - Account
  - Classification
  - Department
  - Location
  - PromotionCode

NetSuite Web サービス API でフィールドを表示するには、カスタム フィールドの "店舗価格" 特性をオンにする必要があることに注意してください。

### カスタム フィールド データ タイプ

インテグレーションは、定義済みのすべての NetSuite カスタム フィールド データ タイプをサポートします。ただし、インテグレーションは内部で 5 つの基本データ タイプのみを実装するため、NetSuite カスタム フィールド データ タイプは最も適切なインテグレーション データ タイプにマッピングされます。下表は、このマッピングを示しています。

| NetSuite データ タイプ | インテグレーション データ タイプ | コメント |
|---|---|---|
| _checkBox | 浮動小数 | |
| _currency | 日時 | |
| _date | 日時 | |
| _decimalNumber | 浮動小数 | |
| _document | テキスト | 別のレコードの参照 |
| _eMailAddress | テキスト | |
| _freeFormText | テキスト | |
| _help | テキスト | StoreValue が設定されていません。NetSuite はこのタイプの取得を許可しません。 |
| _hyperlink | テキスト | |
| _image | テキスト | 別のレコードの参照 |
| _inlineHTML | テキスト | |
| _integerNumber | 整数 | |
| _listRecord | テキスト | 別のレコードの参照 |
| _longText | テキスト | |
| _multipleSelect | テキスト | 指定されたタイプの他のゼロ以上のレコードの参照 |
| _password | テキスト | |
| _percent | 浮動小数 | |
| _phoneNumber | テキスト | |
| _richText | テキスト | |
| _textArea | テキスト | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| NetSuite データ タイプ | インテグレーション データ タイプ | コメント |
|---|---|---|
| _timeOfDay | 日時 | |

### その他の情報

次のセクションでは、NetSuite データにアクセスするための追加の考慮事項について説明します。

#### データ インポートのフィルタ

検索の各フィールドには、最大 1 つのフィルタを含めることができます。検索クエリが実行されると、フィルタは NetSuite によって「AND」で結合されます。

「検索」メカニズムを介してアクセスされるテーブルのみに、同期フィルタを設定できます。

また、[TableName]SearchRowBasic と [TableName]SearchBasic の両方に存在するフィールドのみが同期フィルタで使用できます。

#### ステージングから直接 NetSuite をクエリ

NetSuite に対して直接クエリを実行する場合 (NetSuite からステージングにインポートされたレコードにクエリを行う場合ではなく)、フィルタ式は NetSuite が Web サービスを通じて公開する機能に限定されます。

- 比較式と論理式を持つ単純な列フィルタは、NetSuite に対してクエリを実行する場合に使用できます。
- フィルタは「AND」で結合できますが、「OR」で結合することはできません。
- 演算子 (+、-、/、*、$、||) を使用することはできません。
- スカラー関数は使用できません。
- CASE ステートメントは使用できません。
- カスタム列をフィルタリングするには、インポートするカスタム列にマークを付ける必要があります。
- 一部の列フィルタでは、フィルタを動作させるために特定の NetSuite 機能を有効にする必要があります。

一部のテーブルおよび一部の列は、フィルタリングをサポートしていません。

#### 除外フィールド

さまざまな理由により、多くの NetSuite フィールドがインポートから除外されています。下表は、除外されたフィールドの一部を示しています。

| NetSuite フィールド | 除外の理由 |
|---|---|
| 顧客:ccExpDate | プライバシー保護のため、クレジット カード情報は除外されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| NetSuite フィールド | 除外の理由 |
| --- | --- |
| Customer:ccInternalId | プライバシー保護のため、クレジット カード情報は除外されます。 |
| Employee:socialSecurityNumber | プライバシー保護のために除外されています。 |
| SalesTaxItem: zip | 郵便番号の区切りリスト。このテキスト フィールドは非常に長くなる場合があり (テキスト フィールドのデフォルトの 1,024 文字の制限より長い)、インテグレーション操作に特に有用ではありません。 |
| 取引:ccExpDate | プライバシー保護のため、クレジット カード情報は除外されます。 |

### フィールドに関する情報

NetSuite 標準およびカスタム フィールドに関する追加情報:

- テキスト フィールドの最大サイズは 1,024 文字に制限されています。
- NetSuite 標準フィールドのカスタマイズはサポートされていません。
- カスタムの非表示フィールドが表示されます。(NetSuite の Web サービスを通じて表示されます。)
- "店舗価格" 特性が設定されている NetSuite カスタム フィールドのみがインテグレーションにインポートされます。

### 保存済の検索条件

NetSuite 保存検索を構成するには、「ステップ: NetSuite データ ソースの設定」の「NetSuite 保存済の検索条件のインポート」セクションを参照してください。

### ドリルスルーの実行元 Adaptive Planning NetSuite に戻る

NetSuite カスタマーは NetSuite からインポートしたデータのドリルスルーを有効化することができます。ドリルスルーのリンクは、Planning シートおよび NetSuite からインポートされた実績のレポートで利用可能になります。NetSuite のドリルスルーを設定するためには、内部識別子が Planning ローダ内の列マッピングの一部として使われていることを確認してください。NetSuite 外部システムを設定し、Planning ローダが使用するプロファイルに対応させる必要があります。

NetSuite 側の複数の列を単一の "計画" 属性にマッピングするよう設定する場合は、タプル SQL 列を使ってそれらの NetSuite 列をデータ ソース内で 1 つにまとめる必要があります。詳細については、

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

列/データ マッピングとプロファイルのインテグレーション セクションを参照してください。

## ヒントとベスト プラクティス

### GL 実績のインポートのプランニングを設定するためのベスト プラクティス

トランザクション テーブルを使用して GL 実績をインポートするには、プランニングの総勘定元帳科目を "月次差額ごとの実績" に設定します。科目管理に移動し、GL 科目を選択し、科目の詳細を表示すると、"実績タイプ" のセクションが見つかります。この方法では、プランニングが貸借対照表科目の累積額を処理します。

### NetSuite タイムアウト メッセージを処理するためのベスト プラクティス

以下は NetSuite から返される可能性があるエラーの 1 つです。

検索がタイムアウトしました。検索に「contains」演算子が含まれる場合は、代わりに「hasKeywords」を使用してみてください。検索に広範な検索条件が含まれる場合は、条件を絞り込んでみてください。

このエラーは、NetSuite において処理に時間がかかり過ぎていることを示しています。この状態は通常、リクエストのフィルタ条件が非常に大きな結果を作成するために発生します。NetSuite では、1 つのリクエストに対して約 3 分の処理時間を設けています。(これは、NetSuite 内の実際のデータベース クエリを処理できる時間です。結果が返されるのに必要な時間は、NetSuite のトラフィック ポリシーによって制御されるため、はるかに長くなる可能性があります)。

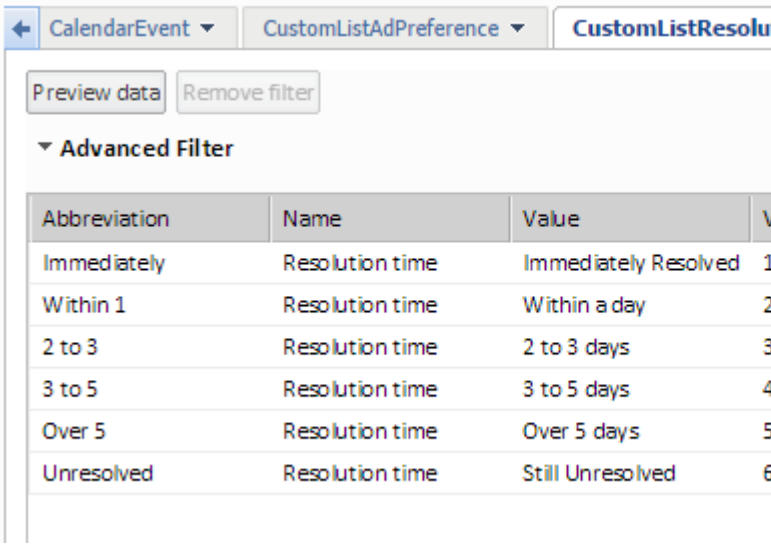
このエラーに対処する方法はいくつかあります。望ましい一般的なガイドラインは、生成されるリクエストをできるだけ具体的なものにすることです。たとえば、ローダによって実際に使用されるトランザクション タイプのみを含めるようにします。このエラーを防止または解決する別の方法は、"データ入力のバッチ期間" プロパティを使用することです。差分更新されるテーブルの場合、このプロパティは更新チャンクのサイズを決定します。データ入力のバッチ期間のデフォルト設定は 168 時間 (1 週間) です。ただし、高密度データのリクエストを処理している場合、この値は高すぎる可能性があります。この値を下げると、時間フィルタが絞り込まれ、個々のリクエストのサイズが小さくなるため、このエラーを防止または解決できます。

"データ入力のバッチ期間" プロパティの最小値は 1 時間です。ここでのトレードオフは、データを素早く大量に取り込むのではなく、少量のデータを取り込んでいることです。つまり、更新を完了するには、NetSuite にさらに多くのリクエストを送信する必要があります。たとえば、168 を 24 に減らすことは、一度に 1 日分のみを取り込もうとしてい

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | ることになります。ただし、それはリクエストの回数が 7 倍になることを意味します。<br><br>データの密度を事前に知る実用的な方法はないため、クエリを試して、必要に応じて "データ入力のバッチ期間" プロパティを調整して問題に対処することができます。 |
| AllCustomLists ステージング テーブルから個々のリストを作成 | 結合テーブルを使用して、AllCustomLists ステージング テーブルから個々のリストを抽出/フィルタリングできます。たとえば、Resolutiontime の名前が付いたリスト (InternalId 19 付き) のメンバーを含むテーブルを作成する場合は、以下のようになります。<br><br>この結合式では、InternalId 値は、必要とする特定のカスタム リストを選択する「セレクター」です。<br><br>• 新しい結合テーブルを作成します。テーブルの合理的な名前は、「CustomList[*]」となります。[*] は抽出するリストの「名前」値です。したがって、この例では、名前は「CustomListResolutiontime」となります。<br>  • 主テーブルを "AllCustomLists" に設定します。<br>  • 結合式を追加します。<br>  • 主テーブル: AllCustomLists<br>  • 結合テーブル: AllCustomLists<br>  • タイプ: Inner<br>  • 列のプレフィックス: (空白)<br>  • 結合式: `P."InternalId" = '19' and R."InternalId" = '19' and P."ValueId" = R."ValueId"`<br><br>この結合式では、InternalId 値は関数であり、必要とする特定のカスタム リストを選択する「セレクター」です。<br><br>結合テーブルでは、必要とする主テーブルからの列のみを選択できます (通常は "Value" および "ValueId" のみ)。<br><br>次のスクリーンショットは、この結果をキャプチャしたものです。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




### 科目および組織データ作成のためのヒント

科目および組織データは顧客ごとに異なりますが、ここでは、プランニングに読み込む前に、データデザイナーがステージング領域で SQL 列を作成し、データを準備する方法を示す例をいくつか示します。

科目:

```
CASE WHEN "acct.Number" is null
 THEN TRIM("acct.Name") ELSE
 TRIM("acct.Number") END
```

組織:

```
 CASE WHEN "Department.Name" is
 null THEN 'No Department' ELSE
 TRIM("Department.Name") END || ' '
 || "Location.Name"
```

### ビジネス ルールを使用するためのヒント

データ デザイナーでは、簡単に読み込むためのビジネス ルールを作成できます。以下は、科目情報に関連するルールを取り扱うためのヒントです。

- 科目コードは、元に戻す総勘定元帳科目の範囲を簡単に追加できるようにするため、数値とする必要があります。
- これらの種類の科目には下線を使用しないでください。下線を使用する場合、符号の変更に必要なすべての科目コードを手動で追加する必要があります。
- 科目コードにスペースを使用することはできません。

### タイムゾーンの設定

インテグレーションにおける NetSuite データ ソースのアカウントのタイムゾーンは、"設定" > "タイムゾーンのローカライズ" 下の NetSuite の GUI のタイムゾーンと一致していなければなりません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

これら 2 つが一致しない場合、以下のいずれかを行います。

- インテグレーション内でアカウントのタイムゾーンを変更してそれらを一致させる。
- データ ソースに関連付けられているユーザーについて、NetSuite 内のタイムゾーン設定を変更してそれらを一致させる。

外部参照

NetSuite API のコア リソースは、NetSuite ウェブサイト (http://www.netsuite.com) のオンライン ヘルプ システムです。NetSuite は、製品の各リリースに伴い、このオンライン ヘルプの PDF を生成します。最新版は、SuiteTalk (Web サービス) 記録ガイドを検索することで取得できます。

NetSuite の情報は、https://www.oracle.com/technical-resources/ で確認できます。アカウントを登録する場合は、NetSuite の対象領域へのアクセス権を申請できます。

*参考: NetSuite* トランザクションのタイプ

以下は、 内の NetSuite アダプタによって NetSuite エンドポイント経由でサポートされる NetSuite トランザクション タイプの一覧です。 インテグレーション。トランザクション テーブルまたは NetSuite に保存済みの検索条件に、NetSuite Web サービスによってサポートされていないトランザクション タイプが含まれている場合、保存済みの検索の結果によっては予期しない結果が生じることがあります。

詳細については、NetSuite のヘルプ センター https://system.na1.netsuite.com/app/help/helpcenter.nl を参照してください (NetSuite へのログインが必要です)。

サポートされている **NetSuite** トランザクションのタイプの値

| サポートされている NetSuite トランザクションのタイプの値 |
|---|
| _assemblyBuild |
| _assemblyUnbuild |
| _binTransfer |
| _binWorksheet |
| _cashRefund |
| _cashSale |
| _check |
| _creditMemo |
| _custom |
| _customerDeposit |
| _customerPayment |
| _customerRefund |
| _deposit |
| _depositApplication |
| _estimate |
| _expenseReport |
| _inventoryAdjustment |
| _inventoryCostRevaluation |
| _inventoryTransfer |
| _invoice |
| _itemFulfillment |
| _itemReceipt |
| _journal |
| _opportunity |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| サポートされている NetSuite トランザクションのタイプの値 |
| --- |
| _paycheckJournal |
| _purchaseOrder |
| _requisition |
| _returnAuthorization |
| _salesOrder |
| _transferOrder |
| _vendorBill |
| _vendorCredit |
| _vendorPayment |
| _vendorReturnAuthorization |
| _workOrder |
| _workOrderClose |
| _workOrderCompletion |
| _workOrderIssue |

参考*: NetSuite* データ ソースのカスタム ロールに必要な権限

注： これらの権限は、インテグレーション内の NetSuite データ ソースのみで使用できます。NetSuite Basic の権限については こちらにお進みください。

NetSuite 内でカスタムの "NetSuite Web Services Only Role" を作成する場合、このロールには通常、NetSuite のテーブル、列、レコード、フィールドを含むデフォルト セットを で使用するための共通の権限セットが必要です。 Adaptive Planning。

前提条件

- 管理者として NetSuite にログインする
- NetSuite から にロードするために必要なものを確認する Adaptive Planning 組織の

**NetSuite** でロールを編集する方法

1. 管理者として NetSuite にログインします。
2. "Setup" > "Users/Roles" > "Manage Roles" の順に移動します。
3. 該当するロールで "Edit" をクリックします。
4. ロール ページ下部の "Permissions" をクリックします。権限のタイプがタブとして表示されます。

**NetSuite** テーブルのデフォルト セットの権限

- Lists > Perform Search - FULL
- Lists > Accounts - VIEW
- Lists > Classes - VIEW
- Lists > Customers - VIEW
- Lists > Departments - VIEW
- "Lists" > "Employee Record" - "VIEW" (顧客に "Advanced Employee Permission" 機能がある場合に必要)
- Lists > Employees - VIEW
- Lists > Items - VIEW
- Lists > Jobs - VIEW
- Lists > Locations - VIEW
- Lists > Projects - VIEW

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- Lists > Vendors - VIEW
- Lists > Subsidiaries - VIEW (複数の子会社がある場合に必要)
- Reports > Financial Statements - VIEW
- Setup > Accounting Lists - VIEW
- Setup > Deleted Records - FULL
- Setup > Login using Access Tokens - FULL (NetSuite 2020.1 で必要)
- Setup > User Access Tokens - FULL (NetSuite 2020.1 で必要)
- Setup > Manage Accounting Periods - VIEW
- Setup > SOAP Web Services - FULL
- Transactions > Find Transactions - VIEW
- "Transactions" > プロセスを実行する "Each transaction type" (例: Journal Entry、Opportunity など) には、表示アクセスを有効にする権限も必要です。

注： 権限の名前は NetSuite 内で変更できます。このリストに権限が表示されない場合は、NetSuite で "Setup" > "Company" > "Rename Records/Transactions" の順に移動し、変更済みの名称を確認します。たとえば、Class が Classification に名称変更されている可能性があります。エラー メッセージには元の名称が使用されます。

### 子会社の権限

複数の子会社を含む NetSuite OneWorld 科目の場合、NetSuite にアクセスするロールについて、すべての子会社にアクセス権を付与します。ロール ページの " Subsidiary Restrictions" セクションで、アクセス可能な子会社を "ALL" に設定します。

### カスタム フィールドの権限

これらの権限は、NetSuite からカスタム フィールドを取得する場合にのみ必要です。

- Setup > Custom Body Fields - VIEW
- Setup > Custom Column Fields - VIEW
- Setup > Custom Entity Fields - VIEW
- Setup > Custom Event Fields - VIEW
- Setup > Custom Item Fields - VIEW
- Setup > Other Custom fields - VIEW

### カスタム レコードの権限

この権限は、NetSuite からカスタム フィールド レコードを取得する場合にのみ必要です。

- Setup > Custom Record Types - VIEW

### カスタム セグメントの権限

NetSuite の "Custom Segment" がある場合は、NetSuite のセグメント設定で NetSuite にアクセスするロールに権限を付与する必要があります。"Custom Segment" 権限の詳細については、NetSuite ヘルプ システムの "Searches and Reports" で、トピック "Granting Roles Permission to Use Segments" を検索してください。

"Custom Segment" 権限を使用して、以下に示すイベント ログのエラーを解決することができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
Permission Violation: You need a higher permission for value management of
custom segment <segment name> to access this page. Please contact your account
administrator.
```

NetSuite での手順:

1. "Custom Segment" を編集します。
2. "Permissions" サブタブを選択します。
3. アクセスが必要なロールを "Permissions" サブリストで参照します。
4. サブリストを確認し、そのロールが既に存在するかどうかを確認します。
    - そのロールがない場合は、サブリストに行を 1 つ追加します。"Role" 列でそのロールを選択します。"Search/Reporting Access Level" 列で、必要なアクセス レベルを選択します。"Value Management Access Level" および "Record Access Level" 列で、このロールの値を表示します。"Value Management Access" 権限を十分に確認します。ユーザーは、この権限によって値を作成することができます。"Add" を選択します。
    - ロールは既にリストされているものの、値を管理できない場合は、ロールのアクセスを編集します。サブリストでロールを検索します。"Search/Reporting Access Level" 列の対応する値を "Edit" に設定します。"OK" を選択します。
5. "Default Search/Reporting Access Level" リストで、デフォルトの検索/レポート アクセス レベルを設定します。このアクセス レベルは、特定のアクセス レベルがある "Permissions" のサブリストに表示されないロールに適用されます。
6. "Save" を選択します。

トラブルシューティング*: NetSuite* 保存済の検索条件のファイル キャビネットへのエクスポート

エラー メッセージを確認するには、メイン メニューから "スクリプト実行ログの > モニタリング " を選択します。

**NetSuite** スクリプトでエラーが発生したか、ターゲットの **NetSuite** ファイル キャビネットにファイルが生成されませんでした。

原因: 次のアイテムのいずれかに対して、誤った内部 ID を入力しました。

- ファイル キャビネット
- 保存済の検索条件ファイル
- 保存検索ファイル内のファイル オブジェクト。

ソリューション: NetSuite スクリプトで正しい内部 ID を入力します。

原因: 間違った NetSuite スクリプトをアップロードしました。

ソリューション: 正しい NetSuite スクリプトをアップロードします。

手順

1. メイン メニューから "カスタマイズ > スクリプト" を選択します。
2. "SavedSearchToFileCabinet" スケジューラ スクリプトを表示し、正しい NetSuite スクリプトをアップロードしたことを再確認します。

原因: NetSuite 保存済の検索条件のエクスポートの設定中に、誤った値を選択または入力しました。以下の値は、スクリプト パラメータ ID について特に重要です。

- evitpada_outputfilename
- evitpada_filecabinetid

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- evitpada_savedsearchid

ソリューション: スケジュールされた NetSuite 保存済の検索条件と検索結果のファイル キャビネットへのエクスポートを設定する方法をレビューし、入力した値を再確認します。
relatedlinks
タスク
ステップ: スケジュールされた NetSuite 保存済の検索条件と検索結果のファイル キャビネットへのエクスポートの設定 ( 1640ページ )

ステップ: テーブル グループの設定

テーブル グループとは、多くの異なるソースからのテーブルを 1 つにまとめたデータ ソースのことです。たとえば、販売データの入ったスプレッドシート、人員または在庫情報の入ったいくつかの JDBC データベース、NetSuite の他部署からの製造情報などのテーブルをすべて SQL 結合と追加フィルタリングでリンクし、テーブルの 1 つにスクリプティングをかけて複雑なフィルタリングや計算をしたい場合があるかもしれません。

異なる場所からのテーブルをインポートするテーブル グループを設定し、SQL 結合や他の操作を行うことで情報のフィルタリングや選択ができます。必要なデータ ソースはあらかじめ設定しておく必要があります。たとえば、JDBC ベースのテーブルからインポートする場合は、データ エージェントを含む、データベースにアクセスできる JDBC データ ソースをあらかじめ設定しておく必要があります。

テーブル グループ データ ソースを設定するには:

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" に移動し、データ デザイナーにアクセスします。
2. 画面の右側にある "コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" フォルダで、"新しいデータ ソースを作成" をクリックします。"新規作成" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. データ ソースの種類として "テーブル グループ" を選択し、データ ソース名を入力します。
4. "作成" をクリックします。画面の中央エリアに新規データ ソースの設定およびその他の情報が表示されます。
5. データ ソースの情報を入力します。
    - ログ レベル: ドロップダウン リストからログ レベルを選択し、このデータ ソースをどこまで詳細に記録するかを指定します。次のオプションがあります。
        - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
        - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
        - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くの口グ情報が生成される可能性があります。)
6. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

テーブル グループにテーブルを追加

ログ レベルを設定すれば、インポートしたい情報を指定する準備完了です。

テーブル グループへのテーブルの追加:

1. "データ コンポーネント" メニューの "カスタム テーブル" エントリを展開します。
2. "結合テーブル" アイテムを "インポートするテーブル" 領域にドラッグ アンド ドロップします。
3. インポートするテーブルを、画面中央の "インポートするテーブル" セクションにドラッグ アンド ドロップします。アイテムをドロップすると、"結合テーブル" ダイアログ ボックスが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. 結合テーブルの情報を入力します。
    - 名前: テーブルの名前を入力します。デフォルトの名前が提供されます。
    - 主テーブル: このフィールドの右側の矢印をクリックし、このログインに現在関連するデータ ソースをすべて表示します。データ ソースのうち 1 つを展開し、そこから主テーブルとして使用するテーブルを 1 つ選択します。
    - 結合テーブル: このフィールドの右側の矢印をクリックし、このログインに現在関連するデータ ソースをすべて表示します。データ ソースのうち 1 つを展開し、そこから結合テーブルとして使用するテーブルを 1 つ選択します。
    - タイプ: ドロップダウン リストから "内部結合"、"右結合"、または "左結合" を選択します。
    - 結合式: このフィールドをクリックし、結合条件を入力します。"SQL 結合式を編集" ダイアログ ボックスが表示されます。SQL 結合の作成に関する詳細情報については 、SQL 結合テーブルの追加を 参照してください。
5. "適用" をクリックしてこのテーブルの基本情報を保存して後で編集するか、"結合を追加" をクリックして SQL 結合の情報を追加できます。
6. "保存" をクリックして変更をテーブル グループ データ ソースに保存します。

テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックして、個々のテーブルを編集できます。テーブルの "結合テーブル" ダイアログ ボックスが表示されます。

### テーブル グループにインポートしたデータを使った作業

テーブル グループは他のデータ ソースからのテーブルを使用するため、テーブル グループ データ ソースに直接はデータをインポートしません。代わりにテーブル グループは、コンポーネント テーブルのステージング領域にある情報を使用します。テーブル グループに表示されるテーブルの情報をクリアまたはリフレッシュするには、コンポーネント テーブルのデータ ソースに移動し、クリアまたはリフレッシュしてください。

### 列のオプション設定

"インポートするテーブル" セクションを使用している間は、インポート後のステージング領域にある状態でのデータのプレビューを表示できます。各列のオプションを変更するには、マウスを見出しに合わせて、その名前の横にあるドロップダウン メニューをクリックします。オプションは次のとおりです。

- 昇順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を昇順で並べ替えます。
- 降順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を降順で並べ替えます。
- 列の設定: このダイアログを使用して、ステージング テーブル内の列のプロパティを変更します。
    - 名前: ヘッダーに表示される列の名前。
    - 列のタイプ: 列で使用されるデータのタイプ。
    - 列タイプを変換: このドロップダウン メニューから新しいタイプを選択します。
- インポートから列を除外: インポートするデータからこの列を削除する場合に選択します。
- カスタム列を削除: このオプションを選択して列を削除します。(カスタム列でのみ使用可能です。)

### 詳細フィルタの使用

"ソース" ドロップダウン メニューの下にある "詳細フィルタ" をクリックすると、"インポートするテーブル" プレビュー領域にデータのフィルタリング用オプションが表示されます。"詳細フィルタ" は、ステージング テーブルのデータのサブセットを表示および参照するためのツールを提供します。フィルタのプロパティを変更すると、ステージング領域のデータを変更することなく、プレビュー ウィンドウに表示されるデータ表示を変更できます。

プレビュー領域は、特にステージング領域のデータのごく一部をプレビューするためのものです。スプレッドシートで利用できるデータを探索して、ステージング領域をチェックすることで期待するデータが入手できることを確認できます。この機能を使用して、使用するデータ インポートのフィルタを絞り込むこともできます。(プレビュー機能で設定されたフィルタは、ステージング領域の実際のデータには影響しません。)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

"詳細フィルタ" のオプションは次のとおりです。

- 個別の行: 重複する行を非表示にするには、このボックスをオンにします。
- 最大行数: プレビュー領域に表示される行数を制限するには、テキスト ボックスに数値を入力します。
- 列: このドロップダウン メニューの列をオンまたはオフにし、列を表示または非表示にします。

注 : このリストから列を削除しても、その列はインポート リストから削除されません。

- SQL フィルタ: 大きなテキスト ボックスをクリックすると、"SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックスが表示されます。プレビューされる行を制限する SQL フィルタを入力することができます。"適用" をクリックして、フィルタの SQL 構文を自動的にチェックします。(エラーがある場合は、式にエラー箇所が示されます。)入力した式は、"データ インポートのフィルタ" フィールドに表示されます。詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションでオンライン ヘルプをクリックしてください。

"フィルタを削除" ("ソース" ドロップダウン メニューの横) をクリックして、詳細フィルタの設定をすべてクリアします。

注 : テーブルのカスタマイズ プロセスの一環として、SQL 式を使用して結合テーブルとカスタム列を作成することもできます。

ステップ**: SAGE Intacct** データ ソースの設定

インテグレーションを使用して SAGE Intacct からデータをインポートできます。

**SAGE Intacct** における総勘定元帳と会社モジュールへの完全な読み取りアクセス権限を持つ **Web** サービス ユーザーの設定

SAGE Intacct において以下の設定と権限を持つ Web サービス ユーザーの設定を行います。このユーザーは、SAGE Intacct から にデータを引き出すためにのみ存在します。 Adaptive Planning。

- ユーザー名: xml_gateway_adaptive
- E メール: E メールアドレスを使用
- 科目ユーザーのタイプ: ビジネス ユーザー
- 科目は管理者権限を必要としません
- 科目は総勘定元帳モジュールと企業モジュールへの完全な読み取りアクセスを必要とします

科目を作成すると、ユーザー名、企業コード、仮パスワードを含む SAGE Intacct へのウェルカム E メールが届きます。これらをコピーして、Intacct データ ソース設定に貼り付けます。

**SAGE Intacct Web** サービス認証アクセスの許可

SAGE Intacct では、Web サービス接続を必要とするすべてのインスタンス向けに、新しい組織のセキュリティが追加されました。そのため、お客様は Intacct インスタンスに接続し、データをリクエストするために、Web サービス送信者 ID の権限を与える必要があります。

グラント Adaptive Planning SAGE Intacct インスタンスに接続するためのインテグレーション権限

1. SAGE Intacct 内で、"Company" > "Company Info" > "Security" タブに移動します。"Edit" をクリックします。
2. "Web Services Authorization" セクションで、テーブルの右上隅にある + アイコンをクリックします。
3. "Web Services Sender Information" ポップアップで、"adaptiveplanning" と入力します。送信者 ID は大文字と小文字が区別されます。小文字のみを使用してください。
4. "Save" をクリックします。

**SAGE Intacct** データ ソース設定の入力

1. インテグレーションで、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. 画面の右側にある "コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" フォルダで、"新しいデータ ソースを作成" をクリックします。"新規作成" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. データ ソース タイプとして "Intacct" を選択し、データ ソースの名前を入力します。
4. "作成" をクリックします。画面の中央エリアに新規データ ソースの設定が表示されます。
5. データ ソースの情報を入力します。
    - アクティブな非転記属性を含める: 非転記属性を結果に含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
    - ログ レベル: ドロップダウン リストからログ レベルを選択し、このデータ ソースをどこまで詳細に記録するかを指定します。次のオプションがあります。
        - エラー: エラーのみを記録します。
        - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
        - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くの口グ情報が生成される可能性があります。)
    - ユーザー名: Intacct Web サービス アカウントのユーザー名を入力します。
    - パスワード: ユーザー名に関連付けられたパスワードを入力します。
    - 企業 ID: ユーザー名に関連付けられた企業 ID を入力します。
    - クライアント ID: ユーザー名に関連付けられたクライアント ID を入力します。(必須ではありません。)
    - 場所 ID: ユーザー名に関連付けられた場所 ID を入力します。(必須ではありません。)
6. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

新規エージェントの接続情報をテストするには、"アクション" メニューで "接続テスト" をクリックします。システムは、データ ソース フィールドの情報を使用して SAGE Intacct への接続を試みます。SAGE Intacct アカウントにシステムが接続できたら "OK" をクリックします。接続に問題がある場合は、Workday カスタマー センターでケースを作成してください。

SAGE Intacct に接続できたら、データ構造をインポートできます。データベース内のテーブルおよび列が表示されます。

SAGE Intacct の構造をインポートするには:

1. "アクション" メニューで "構造のインポート" をクリックします。インポートする構造に関する情報がダイアログ ボックスに表示されます。
2. "OK" をクリックします。インテグレーションにより構造がインポートされます。進行状況を示すダイアログ ボックスが表示されます。
3. インポートが完了したら "閉じる" をクリックします。テーブルと列が "データ コンポーネント" メニューに表示されます。
4. "閉じる" をクリックして "Intacct のインポート" ダイアログ ボックスを閉じます。
5. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

### **Intacct** データ ソースにテーブルを追加

Intacct の構造をインポートしたら、インポートする情報を指定できます。画面の "インポートするテーブル" セクションでは、Intacct からインポートしたデータを設定できます。Intacct からインポートするテーブルを指定するには、次の手順を実行します。

1. "データ コンポーネント" メニューでデータ ソースのエントリを展開します。アイコンに斜線が入ったデータ コンポーネントは、現在のインポートに含まれません。
2. インポートするテーブルを、画面中央の "インポートするテーブル" セクションにドラッグ アンド ドロップします。各テーブルを "インポートするテーブル" セクションにドラッグすると、テーブルのタブが表示され、スプレッドシート科目の情報が "インポートするテーブル" セクションに表示されます。これにより、追加した情報の種類が表示されます。(テーブルの例が下にいくつか表示されます。)各テーブルのタブにはドロップダウン メニューがあり、名前の横にある矢印をクリックすることでアクセスできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### 列の管理

作業しているテーブルに列が多数ある場合は、"列を管理" を使用してどの列をインポートするかをすばやく編集できます。"列を管理" ダイアログ ボックスにはテーブルの列が表示されるため、インポートする列をオンまたはオフにすることができます。

インポートする列を管理するには:

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。いくつかのオプションを含むフローティング メニューが表示されます。
2. フローティング メニューで "列を管理" をクリックします。
3. インポートする列の横にあるチェックボックスをオンにします。列をオンにすると、ポップアップの内容を保存した後でプレビュー ウィンドウに列が表示されます。列をオフにすると、プレビュー ウィンドウから列が削除されます。isDeleted などの、システムが生成するフィールドのインポート ステータスを変更することはできません。個々の列のインポート ステータスは、列のプロパティを選択してプロパティを設定するか、列をデザイナーにドラッグ アンド ドロップして変更することもできます。

### テーブルのカスタマイズ

テーブルごとにデータのインポート方法をカスタマイズできます。

テーブル設定をカスタマイズするには、次のようにします。

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。いくつかのオプションを含むフローティング メニューが表示されます。
2. フローティング メニューで "テーブル設定" をクリックします。
3. テーブル設定を入力します。
    - データ インポートのフィルタ: インポートしている情報をフィルタリングまたはフォーマットする SQL 式を入力します。SQL フィルタはデータベースからデータを抽出する前に適用され、インポートする必要があるデータの量を削減するとともに、ステージング領域に取り込むデータをさらに細かく制御できます。フィールドをクリックすると、"SQL 式を編集" ダイアログ ボックスが表示されます。(ここで入力したフィルタは、ステージング領域のプレビュー データではなく、データベース内の実際のデータに適用されます。)すべてのデータ ソースが同じレベルの SQL フィルタリング機能をサポートしているわけではありません。
4. "適用" をクリックして設定を適用します。
5. 各テーブルに対して手順 1〜3 を繰り返します。
6. "保存" をクリックして、データ ソースに設定を保存します。

### 列のオプション設定

"インポートするテーブル" セクションの使用中は、データ ソースまたはインポート後のステージング領域にある状態でのデータのプレビューを表示できます。ドロップダウンから "Intacct" または "ステージング テーブル" を選択してデータをプレビューします。

各列のオプションを変更するには、マウスを見出しに合わせて、その名前の横にあるドロップダウン メニューをクリックします。オプションは次のとおりです。

- 昇順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を昇順で並べ替えます。
- 降順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を降順で並べ替えます。
- 列の設定: このダイアログを使用して、ステージング テーブル内の列のプロパティを変更します。
    - 名前: ヘッダーに表示される列の名前。
    - 列のタイプ: 列で使用されるデータのタイプ。
    - 列タイプを変換: このドロップダウン メニューから新しいタイプを選択します。
- インポートから列を除外: インポートするデータからこの列を削除する場合に選択します。
- カスタム列を削除: このオプションを選択して列を削除します。(カスタム列でのみ使用可能です。)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### ステージング テーブルからデータをダウンロード

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードできます。

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードするには:

1. "インポートするテーブル" セクションのテーブルの見出しにある下矢印をクリックします。
2. "データをダウンロード" を選択します。
3. "この操作により、データをダウンロードするための URL を含む E メールが送信されます" というプロンプトで、"送信"をクリックします。 Adaptive Planning がデータ デザイナーに関連付けられている E メール アカウントに、URL を記載した E メールを送信します。
4. E メールを開いて URL をクリックします。データは csv 形式でダウンロードされます。

### 詳細フィルタの使用

"ソース" ドロップダウン メニューの下にある "詳細フィルタ" をクリックすると、"インポートするテーブル" プレビュー領域にデータのフィルタリング用オプションが表示されます。"詳細フィルタ" は、ステージング テーブルのデータのサブセットを表示および参照するためのツールを提供します。フィルタのプロパティを変更すると、ステージング領域のデータを変更することなく、プレビュー ウィンドウに表示されるデータ表示を変更できます。

プレビュー領域は、特にステージング領域のデータのごく一部をプレビューするためのものです。"スプレッドシート" 科目で利用できるデータを探索して、ステージング領域をチェックすることで予定のデータが入手できることを確認できます。(プレビュー機能で設定されたフィルタは、ステージング領域の実際のデータには影響しません。)"詳細フィルタ" を使用することで、プレビューでさまざまなデータの絞り込みを試した上で、データ インポートのフィルタを設定できます。

"詳細フィルタ" のオプションは次のとおりです。

- 個別の行: 重複する行を非表示にするには、このボックスをオンにします。
- 最大行数: プレビュー領域に表示される行数を制限するには、テキスト ボックスに数値を入力します。
- 列: このドロップダウン メニューの列をオンまたはオフにし、列を表示または非表示にします。

注 : このリストから列を削除しても、その列はインポート リストから削除されません。

- SQL フィルタ: 大きなテキスト ボックスをクリックすると、"SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックスが表示されます。

フィールドに SQL 式を入力します。これは、プレビューされる行を制限するフィルタです。"適用" をクリックして、フィルタの SQL 構文を自動的にチェックします。(エラーがある場合は、式にエラー箇所が示されます。)詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションでオンライン ヘルプをクリックしてください。入力した式は、プレビュー ウィンドウの "詳細フィルタ" セクションに表示されます。

"フィルタを削除" ("ソース" ドロップダウン メニューの横) をクリックして、詳細フィルタの設定をすべてクリアします。

注 : テーブルのカスタマイズ プロセスの一環として、SQL 式を使用して結合テーブルとカスタム列を作成することもできます。

### ステージング領域のクリア

情報はクリアするまでステージング領域に残ります。

ステージング領域のデータをクリアするには、"アクション" メニューの "ステージング テーブルをクリア" をクリックします。データ ソース内のすべてのテーブルのステージング領域がクリアされます。

### ステップ: SQL 結合テーブルと列の追加

スプレッドシートまたはデータベースからデータ テーブルと列が直接使用できることに加え、SQL 結合を使用してテーブルを作成することもできます。列内のデータに SQL 式を使用することもできます。すべてのデータ ソースで SQL 結合テーブルと列を使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### SQL 結合テーブルを追加

SQL 結合テーブルを使用すると、情報の抽出やフィルタリングにおける柔軟性が向上します。

SQL 結合テーブルを追加するには:

1. "データ コンポーネント" メニューで "カスタム テーブル" フォルダを展開します。
2. "結合テーブル" をデータ ソースにドラッグして、テーブル領域にドロップします。
3. 結合テーブルの情報を入力します。
    - 名前: 結合テーブルに、デフォルトの名前を使用するか別の名前を入力します。
    - 主テーブル: ドロップダウン リストから SQL 結合の主テーブルを選択します。
4. "結合を追加" をクリックします。
5. ドロップダウン リストから "新規結合を作成" を選択します。
6. 新規結合の情報を入力します。
    - 結合名: 結合の名前として、デフォルトの名前を使用するか別の名前を入力します。(1 つのテーブルに複数の結合を設定できます)。
    - 主テーブル: ドロップダウン リストから主テーブルを選択します。
    - 結合テーブル: 主テーブルを結合するテーブルをドロップダウン リストから選択します。
    - タイプ: ドロップダウン リストから SQL 結合タイプ ("内部"、"左結合"、"右結合") を選択します。
    - 列のプレフィックス: オプションの列のプレフィックスを入力します。列のプレフィックスは短い文字列値で、結合テーブル内のそれぞれの列名に追加されます。これにより、結合テーブルの列一覧に表示される特定の列の起源を識別できます。
    - 結合式: このフィールドをクリックします。"SQL 結合式を編集" ダイアログ ボックスが表示されます。
7. SQL 結合式を入力します。利用可能な列の一覧がダイアログ ボックスの左側に表示されます。"適用" をクリックし、結合式の SQL 構文を自動的にチェックします。入力した式は、"結合式" フィールドに表示されます。詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションでこちらをクリックしてください 。

   例:

| 結合名 | 主テーブル | 結合テーブル | タイプ | 列のプレフィックス | 結合式 |
|---|---|---|---|---|---|
| 借手の結合 | dbo.vAll $GL_acct | dbo.vORIGIN | 内部 | | P."Loan Number_"=R."Loan Number_" |

8. "結合テーブル" ダイアログ ボックスで新しい結合バーを作成し、"適用" をクリックして変更を適用してください。
9. プロセスを繰り返してこのテーブルに別の結合を追加できます。または、ダイアログ ボックスの下部にある "適用" をクリックすると、変更が結合テーブルに保存されます。

完成した結合テーブルがデータ ソースのテーブルのリストに表示されます。(インポートする列を含めるには、データ ソースのテーブルのリストから新しく作成した結合テーブルを探します。結合テーブルを開き、インポートに含める列を探します。選択した列をプレビュー領域の結合テーブルにドラッグ アンド ドロップします。)

テーブルの設定を編集するには、テーブル名の横にある矢印をクリックします。これにより、他のテーブルの標準の "テーブル設定" ダイアログ ボックスではなく、先ほど説明した "結合フィルタ" ダイアログ ボックスが表示されます。

### SQL 列の追加

SQL 列は、ローダによって Discovery に簡単にロードできる新しい値を作成するために使用されます。(ローダについては、 こちらで説明しています。)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

SQL 列を追加するには、以下の手順に従ってください。

1. "データ コンポーネント" メニューから、"カスタム列" フォルダを展開します。
2. "SQL 列" をデータ ソースにドラッグし、テーブル領域のテーブルにドロップします。
3. 以下の通り、SQL 列の情報を入力します。
    - 名前: デフォルトの名前を使用するか、SQL 列に別の名前を入力します。
    - 列のタイプ: この表示専用フィールドには、その列のデータ タイプが表示されます。
    - 列タイプを変換: 新しい列を変換するデータ タイプを選択するか、選択を "(変換しない)" のままにして、"列のタイプ" に表示されるデータ タイプとして列を保持します。
    - SQL 式: このフィールドをクリックすると、先ほど説明した "SQL 式" ダイアログ ボックスが表示されます。フィールドに SQL 式を入力します。式の SQL 構文を自動的にチェックするには "適用" をクリックします。(エラーがある場合は、式にエラー箇所が示されます。)入力した式が "列の設定" ダイアログ ボックスの "SQL 式" フィールドに表示されます。詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションで こちらをクリックして ください。
4. "列設定" ダイアログ ボックスの "適用" をクリックします。

完成した列が選択したテーブルに表示されます。列の設定を編集するには、列名の横にある矢印をクリックします。これにより、他の列の標準の "列設定" ダイアログ ボックスではなく、先ほど説明した "列設定" ダイアログ ボックスが表示されます。

カスタム クラウド データ ソース

カスタム クラウド データ ソース (CCDS) の設定に興味がある場合は、 を参照してください。 カスタム クラウド データ ソース (CCDS) の設定 ( 1812ページ ) 。

ステップ: ユニオン テーブルの設定

ユニオン テーブルでは、異なるデータ ソースのテーブルでも、テーブルの行データを組み合わせたり、重ねたりすることができます。結合では、あるテーブルの行と別のテーブルの行を組み合わせて、より大きな 1 つのテーブルを作ります。各列のデータは、同じデータ タイプでなければなりません。たとえば、地域ごとに異なる ERP システムを使用している小売チェーンでは、すべての ERP データを 1 つの大きなテーブルにまとめたいと考えています。

前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション"、"データ デザイナー"
- データ ソースに少なくとも 2 つのステージング テーブルをインポートしたことを確認します。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

基本ステップ (任意)

1. データ ソースのテーブルを選択します。
2. データ ソースのテーブルの列を選択します。

データ ソース テーブルの選択

1. データ ソースの "データ コンポーネント" ペインで "カスタム テーブル" を選択します。
2. "ユニオン テーブル" を "インポートするテーブル" にドラッグ アンド ドロップします (ステージング領域)。
3. ユニオン テーブルの名前を入力します。
4. "テーブル" タブを選択します。
5. 結合にテーブルを追加するには、"+" ボタンを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. "テーブル" 列の "(選択)" をクリックすると、利用可能なデータ ソースのリストが展開され、テーブルが選択されます。
7. (任意) "フィルタ" 列で "(空)" を選択すると、ポップアップが起動し、このテーブルから列をフィルタリングするための SQL 式を記述することができます。SQL 式に追加したい "使用できる列" をそれぞれクリックします。"オンライン ヘルプ" をクリックすると、使用できるすべての関数と演算子について "SQL 式リファレンス" が表示されます。
8. 前述の 3 つのステップを繰り返し、結合に含めたいテーブルをすべて追加します。

データ ソース テーブル列の選択

1. "列" タブを選択します。
2. "+" ボタンを選択し、結合したいテーブルの列のデータ タイプを選択します。選択したデータ ソース テーブルは、それぞれグリッドの列ヘッダーとして表示されます。
3. 各列のヘッダーの下にある "(選択)" をクリックすると、各テーブルから列を選択することができます。
4. 前述の 2 つの手順を繰り返して、結合に含めるデータ ソース テーブルの列をすべて選択します。
5. (任意) 列名をクリックして名前を変更します。
6. "OK" を選択すると、ユニオン テーブルの設定が保存され、結合の結果が表示されます。
7. データ ソースを保存します。

ステップ: **CCDS** および **Planning** データ ソースの認証情報を **Workday** 認証情報と交換

セキュリティと機能性を高めるために、以下の JWT Bearer 付与トークンで認証する Workday 認証情報に交換することができます。

- OAuth 2 認証情報で Workday に接続するカスタム クラウド データ ソース (CCDS)
- Planning データ ソース (Adaptive Planning- データ ソースとして) ユーザー名とパスワードで認証される

前提条件

| | |
|---|---|
| Workday の場合 | • 公開 API を有効にし、ISU を作成します。<br>• ドメインでセキュリティ ポリシーを有効にする Adaptive Planning 作成した新しい公開 API ISU が存在するグループの "API アクセス" およびプロビジョニング<br>• ユーザー同期を有効にして、少なくとも 1 回はユーザーを同期させます。<br>• 以下を有効にします。 Adaptive Planning 業務分野 (まだ設定されていない場合)。保留中のセキュリティ ポリシーの変更をアクティブ化します。 |
| 開始 Adaptive Planning | • 作成した ISU に "インテグレーション設定" 権限とデータ アクセス権を持つ権限セットを与えます。 |

ステップ

1. で Workday 認証情報を作成 Adaptive Planning。
2. JWT Bearer 付与により、Workday API クライアントを登録します。
3. "Planning データ ソース" と "CCDS" で、認証情報を交換します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### で **Workday** 認証情報を作成 **Adaptive Planning**

内で 1 つの Workday 認証情報を関連付けることができます Adaptive Planning 1 つ以上の Workday データ ソース、CCDS またはローダを伴う。

1. 先ほど公開 API 用に作成した ISU でログインします。
2. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。
3. コンポーネント ライブラリ内の "認証情報" ペインを展開して、"新しい認証情報を作成" を選択します。
4. "認証情報" メニューから "Workday 認証情報" を選択します。
5. 接続先の Workday テナントとユーザーを識別するための一意の名前を入力します。
6. "作成" を選択します。"クライアントの付与タイプ" として "Jwt Bearer 付与" を検証します。
7. 接続で "外部" を選択して、この認証情報を使用する Workday テナントの "リモート テナント ID"、"リモート UI URL"、および "リモート REST URL" を指定します。"リモート テナント ID"、"リモート UI URL"、"リモート REST URL" の各フィールドは、大文字と小文字を区別します。

### **JWT Bearer** 付与による **Workday API** クライアントの登録

1. "証明書を表示" を選択して、x.509 証明書をコピーします。Workday で API クライアントを登録するには、この証明書が必要です。
2. 新しいブラウザ ウィンドウを開き、API クライアントを登録できるユーザーとして、Workday に口グインします。
3. "API クライアントの登録" を検索し、選択します。
4. この API クライアントが と統合されることを明確に示す " クライアント名" を指定します。Adaptive Planning。
5. クライアントの付与タイプとして "Jwt Bearer 付与" を選択します。
6. "x509 公開キーを作成" を選択し、Workday データ ソースの証明書表示リンクからコピーした証明書を貼り付けます。
7. リダイレクト URI をコピー Adaptive Planning。これは必須フィールドですが、JWT Bearer 付与がこの URL を呼び出すことはありません。
8. アクセス トークン タイプ "Bearer" を選択します。
9. 適用範囲 (業務分野) の設定 Adaptive Planning。
10. "OK" を選択すると、クライアント ID、および新しいインテグレーション クライアントを識別するその他の詳細情報が生成されます。
11. "クライアント ID" をコピーして、 で Workday 認証情報に貼り付けられるようにします。 Adaptive Planning。

で Workday 認証情報を入力 Adaptive Planning - JWT Bearer 付与

1. のブラウザ ウィンドウに戻る Adaptive Planning 未入力の Workday 認証情報が含まれている。
2. この 認証情報に関連付ける Workday ISU ユーザー名を入力します。
3. Workday からコピーした "クライアント ID" を貼り付けます。
4. "アクション" ペインで "接続テスト" を選択し、"テスト" を選択します。接続が成功したかどうかを示すメッセージが表示されます。

### **Planning** データ ソースと **CCDS** での認証情報の交換

1. 認証情報を交換する CCDS または Planning データ ソースを選択します。
2. 作成した新しい Workday 認証情報を選択します。
3. CCDS の場合は、次のトークンを で取得するように CCDS スクリプトの内容を更新します。
   `ai.oauth.getPlanningTokenFromWorkday()`

注： データ ソースの定義は、同じ Adaptive Planning 環境に接続した場合、"データ ソースの既存の定義は、認証情報が変更されると無効になります。続行しますか？" という警告メッセージにかかわらず、変更されません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ステップ: **Planning** データ ソースの設定

Adaptive Planning をデータ ソースとして使用して、現在のインスタンスまたは別のインスタンスからメタデータやデータをインポートできます。Planning データ ソースをセットアップする場合は、Adaptive Planning 認証情報を作成する必要があります。Adaptive Planning 認証情報を使用することで、より多くの Adaptive Planning データ ソースやローダで認証詳細を再利用できます。

ビデオを見る: 3 分 16 秒

前提条件

- Adaptive Planning データ ソース認証情報の作成
- このデータ ソースに対して選択した Adaptive Planning 認証情報に、必要なメタデータおよびデータに対する権限と属性アクセスが割り当てられていることを確認します。
- 必要な権限: "インテグレーション オペレーター" > "データ デザイナー"

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

基本ステップ

1. Adaptive Planning 認証情報を作成します。
2. Planning データ ソースを作成します。
3. シート、属性、組織、科目、特性、期間、バージョンなど、インポートする Adaptive Planning ソースを選択します。
4. シートまたは科目から Adaptive Planning 構造をインポートします。
5. ステージング テーブルから Adaptive Planning データをインポートします。
6. インテグレーション タスクを使用して Adaptive Planning のインポートを自動化します。

**Adaptive Planning** 認証情報の作成

ステップに従って 、Adaptive Planning データ ソース認証情報の作成を行います。

**Planning** データ ソースの作成

1. コンポーネント ライブラリ内のデータ ソースを展開して、"新しいデータ ソースの作成" を選択します。
2. "Planning データ ソース" を選択します。
3. データ ソースの一意の名前を入力し、"適用" を選択します。
4. 既存の Adaptive Planning 認証情報を選択します。認証情報が存在しない場合、前述の手順を使用して作成します。Workday から同期した Adaptive Planning ユーザーの場合は、Workday 認証情報を選択できます。
5. データ ソースの設定を保存します。
6. "接続テスト" を選択し、認証情報設定が機能していることを確認します。

インポートする **Adaptive Planning** ソースの選択

設定 Adaptive Planning は、選択したソースからのみインポートします。

1. 未選択の場合は、たった今コンポーネント ライブラリで作成した Planning データ ソースを選択します。
2. "アクション" ペインで "ソースの管理" を選択します。
3. "ソースの管理" ダイアログで "ソース" フォルダを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. 以下のものを選択するには、"ソース" フォルダの下で "追加" を選択するか、"ソース" フォルダを右クリックして、"追加" を選択します。
    - ソースを整理するコンテナを作成するためのフォルダ
    - 科目ソース
    - 特性ソース
    - キューブ シートとその組織、バージョン パラメータ、および期間範囲
    - 属性
    - 組織ソース
    - モデル シートとその組織、バージョン パラメータ、オプションの期間パラメータ
    - 属性、科目、組織、バージョン、期間範囲等、あらゆるインスタンスから選択したカスタム ソース。詳細については、「カスタム ソースにおけるフィルタ パラメータの作成」セクションを参照してください。(任意) 科目合計や組織合計も含めることができます。科目合計は、すべての既存または新しい Planning データ ソースでデフォルトで有効化されます。組織合計はデフォルトで無効化されます。
    - 時間ソース
    - バージョン ソース
5. ソースに使用方法を示す名前を付け、"適用" を選択します。たとえば、このソースに 2019 年の経費シートが含まれている場合は、"経費シート 2019" と名前を付けることができます。
6. これらのステップを繰り返して、インポートするすべての Adaptive Planning シートおよびモデル要素を追加します。各ソースは、ステージング領域において個別のテーブルになります。
7. (任意) お使いのインスタンスで表示名がサポートされている場合、属性値、特性値、組織のコードを含めるには、"コードを含める" を選択します。
8. "アクション" ペインで "保存" を選択します。

## 属性ソースにおけるフィルタのパラメータの作成

属性フィルタ パラメータを選択するとき、インポート属性データはフィルタされた属性のみを返します。次のものから選択できます。

- Planning 認証情報が外部インスタンスに接続されている場合は、外部属性パラメータのみ。
- Planning 認証情報が自己インスタンスに接続されている場合は、共有属性パラメータ。

バージョン フィルタ パラメータを選択するとき、インポート属性データはバージョン フィルタされた属性のみを返します。次のものから選択できます。

- Planning 認証情報が外部インスタンスに接続されている場合は、外部バージョン パラメータのみ。
- Planning 認証情報が自己インスタンスに接続されている場合は、共有実績バージョン パラメータまたは共有計画バージョン。

注：属性パラメータは自動では選択されません。

属性フィルタやバージョン フィルタのパラメータを作成するには、以下の手順に従います。

1. 属性ソースに関し、"設定" タブで "パラメータを編集" を選択します。Planning 認証情報がローカル インスタンスに接続されている場合は、共有パラメータも選択できます。これにより、使用可能な共有パラメータを他のデータ ソースに再使用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "ローカル" フォルダを右クリックし、"パラメータを編集" ダイアログで選択 "追加" を選択します。
    - "外部バージョン" を選択して、使用するバージョンを選択します。
    - 単一の組織を選択するには、"外部組織(単一)" を選択します。
    - 複数の組織を選択するには、"外部組織(複数)" を選択します。
    - "外部科目" を選択して、使用したい科目を選択します。
    - "期間範囲" を選択して、固定または動的期間範囲を設定します。
3. パラメータに使用目的が分かる名前を付けます。
4. "適用" を選択します。

これでローカル パラメータが作成され、属性ソースにおいて、科目、組織、バージョン、および期間範囲のフィルタに使用できるようになりました。

### カスタム ソースにおけるフィルタのパラメータの作成

カスタム ソースを作成する場合、認証情報によって接続している Adaptive Planning インスタンスで、科目、組織、バージョン、および期間範囲のパラメータを選択します。選択する前にパラメータを作成する必要があります。これらのパラメータは、外部の Adaptive Planning インスタンスで選択できる項目に関連します。

これらのパラメータの作成時に表示される "外部" という語は、外部の Adaptive Planning インスタンスに対してパラメータを作成しているということを通知しています。Planning 認証情報がローカル インスタンスに接続されている場合は、共有パラメータも選択できます。これにより、使用可能な共有パラメータを他のデータ ソースに再使用できます。

1. 当該カスタム ソースに関し、"設定" タブで "パラメータを編集" を選択します。
2. "ローカル" フォルダを右クリックし、"パラメータを編集" ダイアログで選択 "追加" を選択します。
    - "外部バージョン" を選択して、使用するバージョンを選択します。
    - 単一の組織を選択するには、"外部組織(単一)" を選択します。
    - 複数の組織を選択するには、"外部組織(複数)" を選択します。
    - "外部科目" を選択して、使用したい科目を選択します。
    - "期間範囲" を選択して、固定または動的期間範囲を設定します。
3. パラメータに使用目的が分かる名前を付けます。
4. "適用" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | これでローカル パラメータが作成され、カスタム ソースにおいて、科目、組織、バージョン、および期間範囲のフィルタに使用できるようになりました。 |
| 集計 | キューブ ソースおよびカスタム ソースについて、時間層に沿ってデータを集計する方法を選択できます。いずれかのカレンダーを "集計カレンダー" として選択し、そのカレンダーから "集計層" を選択します。カレンダーを選択しない場合、デフォルト カレンダーが自動的に入力されます。 |

### **Adaptive Planning** ソースからの構造のインポート

インポートする Adaptive Planning シートとモデル要素を選択したら、データをインポートする前に、その構造をインポートします。

重要： 構造のインポートにはユーザーによる手動操作が必要になり、"データのインポート" を選択した場合、自動では実行されません。構造が変更された後に構造をインポートしないと、構造を更新するために再度構造をインポートすることを促すエラーが表示されます。

1. "構造のインポート" を選択すると、インポートの進行状況が表示されます。
2. "構造のインポート" ダイアログを閉じます。
3. インポートしたテーブルと列のデータ コンポーネントを表示します。"ソースの管理" から選択したすべてのソースもステージング領域に自動的に表示されるため、含まれているデータをプレビューできます。
4. データ ソースを保存します。

| | |
|---|---|
| テーブル設定のカスタマイズ | それぞれの Adaptive Planning テーブルからデータをインポートする方法をカスタマイズできます。<br>1. ステージング領域でテーブル名の横にある三角形を選択します。<br>2. "テーブル設定" を選択します。<br>3. 設定を変更します。選択肢は、テーブル列によって異なります。<br>• データ インポート モード:<br>• データのインポートが実行されるたびにすべてのレコードを置き換える<br>• 受け取ったすべての行を新規として追加する<br>• 送信された期間範囲内にあるすべてのレコード (ソース シートに期間が含まれている場合にのみ利用可能) |
| 時間層別のキューブ シート データのページング | 期間パラメータを設定した場合は、キューブ シートに表示される時間層別にキューブ シートのインポート データをページングすることができます。たとえば、そのシートに年、月、または四半期の時間層が存在する場合は、これらから選択できます。ページングはインポート リクエストを時間層別に分割し、大きなキューブ シートのインポートをよ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

り効率的にします。インポートの進行状況は、各ページのロードのステータスを示します。

### Adaptive Planning からのデータのインポート

Adaptive Planning シートおよびモデル要素構造のインポートが完了すると、そのデータをインポートできます。

1. 追加する Adaptive Planning テーブルを、データ コンポーネント領域からステージング領域までドラッグします。
2. "アクション" ペインで "データのインポート" を選択します。インポート フィルタとパラメータによってデータが処理されます。
3. 実行時に表示されるパラメータ プロンプトに必要な値を入力します。
4. インポート エラーまたはメッセージがないか、インポートの進捗状況を表示します。
5. ステージング領域でデータを確認します。インポートされたデータは、"アクション" ペインで "ステージング テーブルをクリア" を選択してクリアするまでそこに残ります。

ステージング テーブルにインポートした後、 ローダを使用して、ステージングから Adaptive Planning にロードできます。

| | |
|---|---|
| 実行時のソース バージョンの指定 | "外部バージョン" パラメータを実行時に変更してフィルタ データを返し、更新されたフィルタ値で "データのインポート" を実行できます。"アクション" パネルの "ソースの管理" に移動し、外部バージョン パラメータを設定します。<br>例: シート ソースのバージョン フィルタを外部バージョン パラメータに設定して "データのインポート" を実行するとき、計画バージョンのドロップダウン リストに、外部バージョン構成中に使用可能なバージョンが投入されます。 |
| 属性管理で属性値を削除した後に再インポート | 属性管理で属性値を削除した後に再インポートすると、削除した属性値の行がステージング領域に表示されます。この行には、ステージング テーブルのプレビューで True に設定された非表示の isDeleted 列があります。<br>この行を削除するには、ステージング テーブルをクリアしてからリロードしてください。 |

### インテグレーション タスクを使用してインポートを自動化

データ ソースの設定により、このローダを計画的かつ自動的に実行するインテグレーション タスクを作成できます。

インテグレーション タスクには、1 つ以上のローダを組み込むことができます。タスクには、Planning データ ローダ、Planning 科目ローダ、スクリプト化されたローダなど、他のタスクを含めることができます。

ヒント： ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。

タスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータがプロンプトに表示されます。タスク内のローダに共通または共有パラメータがある場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。

ただし、タスクがスケジュールで実行される場合は、デフォルトのパラメータ値が使用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

データ ソースのインタラクション
次のレベル: Planning データ ソースのインタラクションを参照してください。
ステップ: **Planning** データ ソース認証情報の設定

用途 Adaptive Planning をインテグレーション内のデータ ソースとして使用する場合は、認証情報を作成して選択する必要があります。認証情報に入力したユーザー名がマルチインスタンス環境にアクセスできる場合は、以下も選択します。 Adaptive Planning に選択します。パスワードの対象 Adaptive Planning 認証情報はインテグレーション内に保存されません。有効な値を入力すると、 Adaptive Planning 認証時のユーザー名とパスワード 内部トークンがデータ ソースを使用するユーザーを認証します。

注 : インスタンスが Workday に対応しており、Workday のユーザーを と同期させた場合、 Adaptive Planningをクリックすると、Planning データ ソースの Workday 認証情報を選択するか、"現在ログイン中のユーザーを使用"を選択して Planning 認証情報を作成する必要があります。

前提条件

- 必要な権限: "データ デザイナー"
- 以下を取得します。 Adaptive Planning ユーザー名とパスワード
- ユーザーが存在し、にログインできることを確認します。 Adaptive Planning アクセスするインスタンスにアクセスします。
- ユーザーに、 の領域に対するインスタンス内の適切な権限があることを確認します。 Adaptive Planning を作成および実行するローダが必要になります。
- 既存のフィールド内でのユーザー名の変更 Adaptive Planning データ ソースの認証情報によって、認証情報が使用するインスタンス コードが変更されることがあります。その認証情報を使用する既存のデータ ソースは無効になります。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

レポートの作成 **Adaptive Planning** 認証情報

1. コンポーネント ライブラリ内の "認証情報" ペインを展開します。
2. "新しい認証情報を作成" を選択します。
3. "Planning 認証情報" を選択し、一意の名前を入力します。
4. "作成" を選択します。
5. "ログ レベル" を選択します。
    - オフ: エラーを記録しません。これはデフォルトのログ レベルです。
    - エラー: エラーのみを記録します。
    - 情報: エラーやその他の認証情報を記録します。
    - 詳細: デバッグおよびトラブルシューティングに関するすべてのエラーとメッセージを記録します。このログのレベルは、通常有用とされるものを上回るログ情報を作成することができます。
6. "アクション" ペインで "認証" を選択します。
7. 以下を入力します。 Adaptive Planning のユーザー名とパスワード、またはワンクリックで認証することができます。
8. "認証" を選択します。
9. このユーザーがマルチインスタンス環境に存在する場合は、そのインスタンスを選択します。
10. 認証情報を保存します。

現在のユーザーの認証

認証情報を作成したら、"アクション" ペインから "認証" を選択します。"現在ログイン中のユーザーを使用" を選択すると、自分自身を現在の認証ユーザーとして選択することができます。これにより、ローカル インスタンスへの接続が可能になります。このオプションを使用して設定された認証情報は、ローカル

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

接続として機能するため、異なる Planning データ ソース設定で共有パラメータを使用することができます。必要なデータ ソースへのアクセスを確保します。

### 認証情報の使用

入力が完了すると、 Adaptive Planning 認証情報 ( 設定時に選択可) Adaptive Planning をデータ ソースとして。

### 認証情報の編集

1. "コンポーネント ライブラリ" の "認証情報" ペインを展開します。
2. 編集する認証情報のメニュー アイコン を選択します。
3. 認証情報の設定を編集します。
4. "アクション" ペインの "接続テスト" を選択し、これらの認証情報が機能することを確認します。
5. 認証情報を保存します。

重要 : 既存のフィールド内でのユーザー名の変更 Adaptive Planning データ ソースの認証情報によって、認証情報が使用するインスタンス コードが変更されることがあります。その認証情報を使用する既存のデータ ソースは無効になります。

### 認証情報を編集できるユーザーの制限

1. "コンポーネント ライブラリ" の "認証情報" ペインを展開します。
2. 制限する認証情報を選択します。
3. "アクション" ペインで "編集を許可する" を選択します。
4. この認証情報を編集できる "グループ"、"ロール"、"ユーザー" を選択します。
5. 権限を保存します。

### 認証情報の削除

重要 : 認証情報を削除すると、認証情報を使用するすべてのデータ ソースから削除されます。別の認証情報を選択するか、すべての認証情報のデータ ソースに対して新しい認証情報を作成する必要があります。関連データ ソースに認証情報を付与していない場合、手動のローダと計画されたローダは実行されません。

1. "コンポーネント ライブラリ" の "認証情報" ペインを展開します。
2. 削除する認証情報を選択します。
3. "アクション" ペインで "使用状況を表示" を選択し、この認証情報を使用しているすべてのデータ ソースのリストを確認します。
4. コンポーネント ライブラリで、削除する認証情報のメニュー アイコン を選択します。
5. "削除" を選択します。
6. 削除することを確認します。

### ステップ: Microsoft Dynamics GP データ ソースの設定

インテグレーションを使用して、Microsoft Dynamics GP からデータをインポートできます。Adaptive Planning は、Microsoft Dynamics GP バージョン 2015 以降 (2015、2016、2018) をサポートしています。

Microsoft Dynamics GP 2010、2013、2013R2 の延長サポートは、2023 年 4 月に終了しました。 Adaptive Planning は Microsoft Dynamics GP 10.0 をサポートしていません。

Microsoft Dynamics GP のデータ ソースを設定するには:

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" に移動し、データ デザイナーにアクセスします。
2. 画面の右側にある "コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" フォルダで、"新しいデータ ソースを作成" をクリックします。"新規作成" ダイアログ ボックスが表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. データ ソース タイプとして "Microsoft Dynamics GP" を選択し、データ ソースの名前を入力します。
4. "作成" をクリックします。画面の中央エリアに新規データ ソースの設定が表示されます。
5. データ ソースの情報を入力します。
    - 関連エージェント: ドロップダウン リストからエージェントを選択します。
    - サーバー: サーバーを入力します。
    - ポート: ポートを入力します。
    - インスタンス: インスタンスを入力します。
    - ユーザー名: Microsoft Dynamics GP アカウントのユーザー名を入力します。
    - パスワード: ユーザー名に関連付けられたパスワードを入力します。
    - 企業データベース: (任意) インポートする Microsoft Dynamics GP 企業をセミコロンで区切って入力します。このフィールドを空白のままにすると、すべての企業がインポートされます。
    - ログ レベル: ドロップダウン リストからログ レベルを選択し、このデータ ソースをどこまで詳細に記録するかを指定します。次のオプションがあります。
        - エラー: エラーのみを記録します。
        - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
        - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くのログ情報が生成される可能性があります。)
6. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

新規エージェントの接続情報をテストするには、"アクション" メニューで "接続テスト" をクリックします。システムは、データ ソース フィールドの情報を使用して Microsoft Dynamics GP への接続を試みます。Microsoft Dynamics GP アカウントにシステムが接続できたら "OK" をクリックします。接続に問題がある場合は、Workday カスタマー センターでケースを作成してください。

Microsoft Dynamics GP に接続できたら、データ構造をインポートできます。データベース内のテーブルおよび列が表示されます。

Microsoft Dynamics GP の構造をインポートするには:

1. "アクション" メニューで "構造のインポート" をクリックします。テーブルと列が "データ コンポーネント" メニューに表示されます。
2. "閉じる" をクリックして "構造のインポート" ダイアログ ボックスを閉じます。
3. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

Microsoft Dynamics GP の入力テキスト ストリームから特定の文字を削除するには:

JDBC および Microsoft Dynamics GP の入力テキスト ストリームから特定の文字を削除するを参照してください。

### Microsoft Dynamics GP データ ソースへのテーブルの追加

Microsoft Dynamics GP の構造をインポートすれば、インポートする情報を指定できます。画面の "インポートするテーブル" セクションでは、Microsoft Dynamics GP アカウントからインポートするデータを設定できます。

Microsoft Dynamics GP アカウントからインポートするテーブルを指定するには、次の手順を実行します:

1. "データ コンポーネント" メニューでデータ ソースのエントリを展開します。アイコンに斜線が入ったデータ コンポーネントは、現在のインポートに含まれません。
2. インポートするテーブルを、画面中央の "インポートするテーブル" セクションにドラッグ アンド ドロップします。各テーブルを "インポートするテーブル" セクションにドラッグすると、テーブルのタブが表示され、スプレッドシート科目の情報が "インポートするテーブル" セクションに表示されます。これにより、追加した情報の種類が表示されます。各テーブルのタブにはドロップダウン メニューがあり、名前の横にある矢印をクリックすることでアクセスできます。基本テーブル、カ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

スタム SQL 式、またはサブクエリー列から列を追加すると、"アカウント サマリ" テーブルを拡張できます。

Microsoft Dynamics GP アカウントが複数の会社を含む場合は、データ ソースにも ALL.Adaptive Account Summary という名前のユニオン テーブルが含まれます。

### 列の管理

作業しているテーブルに列が多数ある場合は、"列を管理" を使用してどの列をインポートするかをすばやく編集できます。"列を管理" ダイアログ ボックスにはテーブルの列が表示されるため、インポートする列をオンまたはオフにすることができます。

インポートする列を管理するには、以下の手順に従います。

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。いくつかのオプションを含むフローティング メニューが表示されます。
2. フローティング メニューで "列を管理" をクリックします。
3. インポートする列の横にあるチェックボックスをオンにします。列をオンにすると、ポップアップの内容を保存した後でプレビュー ウィンドウに列が表示されます。列をオフにすると、プレビュー ウィンドウから列が削除されます。isDeleted などの、システムが生成するフィールドのインポート ステータスを変更することはできません。個々の列のインポート ステータスは、列のプロパティを選択してプロパティを設定するか、列をデザイナーにドラッグ アンド ドロップして変更することもできます。

### テーブルのカスタマイズ

テーブルごとにデータのインポート方法をカスタマイズできます。

テーブル設定をカスタマイズするには、次のようにします。

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。いくつかのオプションを含むフローティング メニューが表示されます。
2. フローティング メニューで "テーブル設定" をクリックします。"テーブル設定" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. テーブル設定を入力します。
    - データ インポートのフィルタ: インポートしている情報をフィルタリングまたはフォーマットする SQL 式を入力します。SQL フィルタはデータベースからデータを抽出する前に適用され、インポートする必要があるデータの量を削減するとともに、ステージング領域に取り込むデータをさらに細かく制御できます。フィールドをクリックすると、先ほど示した "SQL 式を編集" ダイアログ ボックスが表示されます。(ここで入力したフィルタは、ステージング領域のプレビュー データではなく、データベース内の実際のデータに適用されます。)すべてのデータ ソースが同じレベルの SQL フィルタリング機能をサポートしているわけではありません。
4. "適用" をクリックして設定を適用します。
5. 各テーブルに対して手順 1〜3 を繰り返します。
6. "保存" をクリックして、データ ソースに設定を保存します。

### 列のオプション設定

"インポートするテーブル" セクションの使用中は、データ ソースまたはインポート後のステージング領域にある状態でのデータのプレビューを表示できます。ドロップダウンから "Microsoft Dynamics GP" または "ステージング テーブル" を選択してデータをプレビューします。

各列のオプションを変更するには、マウスを見出しに合わせて、その名前の横にあるドロップダウン メニューをクリックします。オプションは次のとおりです。

- 昇順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を昇順で並べ替えます。
- 降順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を降順で並べ替えます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 列の設定: このダイアログを使用して、ステージング テーブル内の列のプロパティを変更します。
  - 名前: ヘッダーに表示される列の名前。
  - 列のタイプ: 列で使用されるデータのタイプ。
  - 列タイプを変換: このドロップダウン メニューから新しいタイプを選択します。
- インポートから列を除外: インポートするデータからこの列を削除する場合に選択します。
- カスタム列を削除: このオプションを選択して列を削除します。(カスタム列でのみ使用可能です。)

### ステージング テーブルからデータをダウンロード

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードできます。

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードするには:

1. "インポートするテーブル" セクションのテーブルの見出しにある下矢印をクリックします。
2. "データをダウンロード" を選択します。
3. "この操作により、データをダウンロードするための URL を含む E メールが送信されます" というプロンプトで、"送信"をクリックします。 Adaptive Planning がデータ デザイナーに関連付けられている E メール アカウントに、URL を記載した E メールを送信します。
4. E メールを開いて URL をクリックします。データは .csv 形式でダウンロードされます。

### 詳細フィルタの使用

"ソース" ドロップダウン メニューの下にある "詳細フィルタ" をクリックすると、"インポートするテーブル" プレビュー領域にデータのフィルタリング用オプションが表示されます。"詳細フィルタ" は、ステージング テーブルのデータのサブセットを表示および参照するためのツールを提供します。フィルタのプロパティを変更すると、ステージング領域のデータを変更することなく、プレビュー ウィンドウに表示されるデータ表示を変更できます。

プレビュー領域は、特にステージング領域のデータのごく一部をプレビューするためのものです。"スプレッドシート" 科目で利用できるデータを探索して、ステージング領域をチェックすることで予定のデータが入手できることを確認できます。(プレビュー機能で設定されたフィルタは、ステージング領域の実際のデータには影響しません。)"詳細フィルタ" を使用することで、プレビューでさまざまなデータの絞り込みを試した上で、データ インポートのフィルタを設定できます。

"詳細フィルタ" のオプションは次のとおりです。

- 個別の行: 重複する行を非表示にするには、このボックスをオンにします。
- 最大行数: プレビュー領域に表示される行数を制限するには、テキスト ボックスに数値を入力します。
- 列: このドロップダウン メニューの列をオンまたはオフにし、列を表示または非表示にします。

注 : このリストから列を削除しても、その列はインポート リストから削除されません。

- SQL フィルタ: 大きなテキスト ボックスをクリックすると、"SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックスが表示されます。

フィールドに SQL 式を入力します。これは、プレビューされる行を制限するフィルタです。"適用" をクリックして、フィルタの SQL 構文を自動的にチェックします。(エラーがある場合は、式にエラー箇所が示されます。)詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションでオンライン ヘルプをクリックしてください。入力した式は、プレビュー ウィンドウの "詳細フィルタ" セクションに表示されます。

"フィルタを削除" ("ソース" ドロップダウン メニューの横) をクリックして、詳細フィルタの設定をすべてクリアします。

注 : テーブルのカスタマイズ プロセスの一環として、SQL 式を使用して結合テーブルとカスタム列を作成することもできます。

### ステージング領域のクリア

情報はクリアするまでステージング領域に残ります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ステージング領域からデータをクリアするには:

1. "アクション" メニューの "ステージング テーブルをクリア" をクリックします。データ ソース内のすべてのテーブルのステージング領域がクリアされます。

**MS SQL Server** 統合セキュリティとの相互運用性の設定

Microsoft Dynamics GP の事前設定済みのアダプタ経由で MS SQL サーバー データベースに接続している間は、MS SQL サーバーの統合セキュリティ機能との相互運用が求められる場合があります。インテグレーションを統合セキュリティ機能と連動させるためには、次の手順を実行する必要があります。

1. データ エージェント サービスの "ログオン" プロパティを、ドメイン ユーザー (アカウント名に \ が入っている必要があります) を使うように設定します。"パスワード" および "パスワードの確認" フィールドに、設定したドメイン ユーザーのパスワード値を含める必要があります。
2. データ デザイナーの Microsoft Dynamics GP アダプタ設定で、"ユーザー名" フィールドに \ を、"パスワード" フィールドに welcome をそれぞれ入力します。これらの値を入力することによって、インテグレーションは、データ エージェント サービスの "ログオン" 認証情報に入力された認証情報を使って MS SQL Server データベースに接続します。データ デザイナー内で入力された値は、ソース データベースへの接続には使用されません。

ステップ**:** スクリプト化されたデータ ソースの設定

スクリプト化されたデータ ソースを使用すると、複雑なカスタム データの抽出と変換シナリオを独自に作成できるようになります。Kettle ETL スクリプトを書いてデータの抽出元となる情報ソースを指定し、抽出したデータに顧客固有のビジネス ルールを適用できます。スクリプト化されたデータ ソースを設定する前に、ネットワーク上のオンプレミス Windows サーバーにデータ エージェントをインストールする必要があります。参照 概念: データ エージェント ( 1718ページ ) を参照してください。

Kettle 内で使用されるプラットフォームまたはスクリプトは、自動でアップグレードまたは移行されません。レガシー データ エージェントを (Kettle 4.4 で) 使用する場合、インテグレーションのエージェント UI で、"従来型エージェントをダウンロード" セクションのリンクを使用する必要があります。Kettle 6 にアップグレードする場合、Kettle バージョンをこれまでにインストールしたことがないシステムでは、新しいデータ エージェントと新しい Kettle バージョンを再インストールする必要があります。

注 : スクリプト化されたデータ ソースは、Pentaho Kettle スクリプトの作成方法や Spoon UI の使用方法に精通した上級 ETL ユーザー向けです。Pentaho Kettle や Spoon に関する詳細なドキュメントやチュートリアルなどの詳細については、https://docs.hitarchivevantara.com/p/pentaho-DIAを参照してください。

スクリプト化されたデータ ソースを設定するには、以下の手順に従います。

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" に移動し、データ デザイナーにアクセスします。
2. 画面の右側にある "コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" フォルダで、"新しいデータ ソースを作成" をクリックします。"新規作成" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. データ ソースの種類として "スクリプト化されたデータ ソース" を選択し、データ ソース名を入力します。
4. "作成" をクリックします。画面の中央エリアに新規データ ソースの設定およびその他の情報が表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

5. データ ソースの情報を入力します。
    - 関連エージェント: ドロップダウン リストからエージェントを選択します。
    - エントリ ポイント: ドロップダウン リストからエントリ ポイントを選択します。エントリ ポイントはシステムの ETL スクリプトです。これは後で編集できます。
    - ログ レベル: ドロップダウン リストからログ レベルを選択し、このデータ ソースをどこまで詳細に記録するかを指定します。次のオプションがあります。
    - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
    - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
    - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くのログ情報が生成される可能性があります。)
    - ソース URI: 接続先の URI をセミコロン (;) で区切って入力します。このフィールドは、基礎を成すソース システムを特定し文書化する際の補助としてのみ使用します。ソフトウェアでは、その他の目的には使用されません。
6. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

### Spoon の開始

スクリプト化されたデータ ソースの基本情報を保存し終わったら、ETL スクリプト エディタの Spoon の開始、スクリプトを使った作業、およびスクリプト化されたデータ ソースへのテーブルの追加ができます。

スクリプトを表示および編集するには:

1. Windows "スタート" メニューから、"すべてのプログラム" をクリックします。
2. Workday Adaptive Planning のデータ エージェント フォルダを開きます。データ エージェントのバージョン 7.1.44 以前の場合は Adaptive データ エージェント フォルダを開きます。
3. "Adaptive Script Editor" をクリックします。Pentaho スプラッシュ画面と開始ヒントに続き、Spoon 画面が表示されます。
4. 以下の情報を入力します。 Adaptive Planning ログイン E メールとパスワードを選択し、"Login Now/Refresh Tenant List" をクリックします。Workday からユーザーを同期させた場合は、Workday の認証情報でデータ エージェントおよびスクリプト エディタにログインするを参照してください。
5. ドロップダウンからテナントを選択します。通常、テナントは 1 人だけです。Spoon はテナント リストをリフレッシュします。
6. ドロップダウンから、このデータ ソースに使用しているエージェントを選択します。Spoon はエージェント リストをリフレッシュします。
7. "Edit Script" のドロップダウンから、作成したばかりのスクリプト化されたデータ ソースを選択します。

ログインが完了し、使用するエージェントとデータ ソースを Spoon に設定したら、スクリプトの編集作業を開始できます。

1. Spoon 画面の右上にある "データ インテグレーション" リンクをクリックします。Spoon のインテグレーション エリアが表示されます。
2. "File" > "Open" を選択し、表示･編集したいスクリプトに移動したら、"OK" をクリックします。インテグレーションに含まれているスクリプト化されたデータ ソースのサンプル スクリプトから、スクリプトの構造やデータベース接続について学ぶことができます。これらの情報は、今後、自身でスクリプトを開発する際に役立ちます。
3. 必要に応じてスクリプトを編集し、保存します。
4. 右上にある "Adaptive" をクリックし、"Adaptive Perspective" に戻ります。Spoon 画面が再度表示されます。
5. "Publish Agent Changes" をクリックします。これにより、スクリプトは Adaptive Planning サーバーに配置され、スクリプト リポジトリに保存されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

以下のデータ インポート モードがサポートされています。この設定はテーブルにより異なる場合があります。

- データのインポートを実行するたびに、レコードがすべて置き換えられます。
- データの同期が必要なときは毎回、リモート エージェントがすべてのソース レコードをスキャンし、変更されたレコードを送信します。
- 特定の期間範囲内のすべてのレコードを送信します。

スクリプト化されたデータ ソースへのテーブルおよび列の追加

スクリプトが完成したら、インテグレーションのデータ ソースにテーブルと列を追加できます。

注 : データ ソースで定義されている列と ETL スクリプトで定義されている列は、完全に一致している必要があります。一致していない場合はデータ ロードに失敗します。

スクリプト化されたデータ ソースにテーブルを追加するには:

1. "データ コンポーネント" メニューの "カスタム テーブル" エントリを展開します。
2. "スクリプト化されたテーブル" アイテムを "スクリプト化されたテーブル" 領域にドラッグ アンド ドロップします。このアイテムをドロップすると、"スクリプト化されたテーブル" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. テーブル設定を入力します。
    - 名前: テーブルの名前を入力します。
    - データ インポート モード: 以下のインポート モードから 1 つを選択します。
        - データのインポートが実行されるたびにすべてのレコードを置き換える: これがデフォルトです。データをインポートする際、ステージング領域のレコードのすべてが必ず置き換えられます。
        - リモート キャッシュを使用し、変更されたレコードをインポート時に識別、送信: インテグレーションはステージング領域のデータを確認し、スプレッドシートまたはデータベース内のレコードと比較し、変更されたレコードのみをインポートします。
        - 送信された期間範囲内にあるすべてのレコード: このモードを選択すると、期間範囲とその期間範囲を適用する列のインテグレーションを入力するよう促されます。この選択基準を満たす列はすべてインポートされます。
    - データ インポートのフィルタ: インポートしている情報をフィルタリングまたはフォーマットする SQL 式を入力します。SQL フィルタはデータベースからデータを抽出する前に適用され、インポートする必要があるデータの量を削減するとともに、ステージング領域に取り込むデータをさらに細かく制御できます。フィールドをクリックすると、先ほど説明した "SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックスが表示されます。(ここで入力したフィルタは、ステージング領域のプレビュー データではなく、データベース内の実際のデータに適用されます。)
4. "適用" をクリックして設定を適用します。

スクリプト化されたデータ ソースに列を追加するには:

1. "データ コンポーネント" メニューの "カスタム列" エントリを展開します。
2. "インポートするテーブル" 領域に列タイプの 1 つをドラッグ アンド ドロップします。このアイテムをドロップすると、"カスタム列" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 列の設定を入力します。
    - 名前: 列の名前を入力します。列の名前は大文字やスペースの使用を含め、Spoon のスクリプトで指定された列の名前と完全に一致している必要があります。
    - 列のタイプ: 列タイプを識別する表示専用フィールドです。
    - 列タイプを変換: この値は、SQL 列以外では変更できません。SQL 列では、6 種類の変換オプションからどれでも選択できます。
4. "適用" をクリックして設定を適用します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 列の管理

作業しているテーブルに列が多数ある場合は、"列を管理" を使用してどの列をインポートするかをすばやく編集できます。"列を管理" ダイアログ ボックスにはテーブルの列が表示されるため、インポートする列をオンまたはオフにすることができます。

インポートする列を管理するには:

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。いくつかのオプションを含むフローティング メニューが表示されます。
2. フローティング メニューで "列を管理" をクリックします。"列を管理" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. インポートする列の横にあるチェックボックスをオンにします。列をオンにすると、ポップアップの内容を保存した後でプレビュー ウィンドウに列が表示されます。列をオフにすると、プレビュー ウィンドウから列が削除されます。以下のようなシステムが生成するフィールドのインポート ステータスを変更することはできません。 `isDeleted`。個々の列のインポート ステータスは、列のプロパティを選択してプロパティを設定するか、列をデザイナーにドラッグ アンド ドロップして変更することもできます。

### テーブルのカスタマイズ

テーブルごとにデータのインポート方法をカスタマイズできます。

テーブル設定をカスタマイズするには、次のようにします。

1. テーブル名の右にあるタブの矢印をクリックします。いくつかのオプションを含むフローティング メニューが表示されます。
2. フローティング メニューで "テーブル設定" をクリックします。
3. "適用" をクリックして設定を適用します。
4. 各テーブルに対して手順 1〜3 を繰り返します。
5. "保存" をクリックして、データ ソースに設定を保存します。

### 列のオプション設定

"インポートするテーブル" セクションの使用中は、データ ソースまたはインポート後のステージング領域にある状態でのデータのプレビューを表示できます。各列のオプションを変更するには、マウスを見出しに合わせて、その名前の横にあるドロップダウンをクリックします。オプションは次のとおりです。

- 昇順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を昇順で並べ替えます。
- 降順で並べ替え: この列に基づいてテーブル全体を降順で並べ替えます。
- 列の設定: このダイアログを使用して、ステージング テーブル内の列のプロパティを変更します。
- 名前: ヘッダーに表示される列の名前。
- 列のタイプ: 列で使用されるデータのタイプ。
- 列タイプを変換: このドロップダウン メニューから新しいタイプを選択します。
- インポートから列を除外: インポートするデータからこの列を削除する場合に選択します。
- カスタム列を削除: このオプションを選択して列を削除します。(カスタム列でのみ使用可能です。)

### ステージング テーブルからデータをダウンロード

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードできます。

単一のステージング テーブルからデータをダウンロードするには:

1. "インポートするテーブル" セクションのテーブルの見出しにある下矢印をクリックします。
2. "データをダウンロード" を選択します。
3. "この操作により、データをダウンロードするための URL を含む E メールが送信されます"というプロンプトで、"送信"をクリックします。 Adaptive Planning がデータ デザイナーに関連付けられている E メール アカウントに、URL を記載した E メールを送信します。
4. E メールを開いて URL をクリックします。データは .csv 形式でダウンロードされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### 詳細フィルタの使用

"ソース" ドロップダウン メニューの下にある "詳細フィルタ" をクリックすると、"インポートするテーブル" プレビュー領域にデータのフィルタリング用オプションが表示されます。"詳細フィルタ" は、ステージング テーブル内で、またはスクリプトを使って、データのサブセットを表示および参照するためのツールを提供します。("ソース" ドロップダウンから "スクリプト" を選択すると、処理対象のプレビュー リクエストがエージェントに送信されます。)フィルタのプロパティを変更すると、ステージング領域のデータを変更することなく、プレビュー ウィンドウに表示されるデータ表示を変更できます。

プレビュー領域は、特にステージング領域のデータのごく一部をプレビューするためのものです。スプレッドシートで利用できるデータを探索して、ステージング領域をチェックすることで期待するデータが入手できることを確認できます。(プレビュー機能で設定されたフィルタは、ステージング領域の実際のデータには影響しません。)

"詳細フィルタ" のオプションは次のとおりです。

- 個別の行: 重複する行を非表示にするには、このボックスをオンにします。
- 最大行数: プレビュー領域に表示される行数を制限するには、テキスト ボックスに数値を入力します。
- 列: このドロップダウン メニューの列をオンまたはオフにし、列を表示または非表示にします。

注 : このリストから列を削除しても、その列はインポート リストから削除されません。

- SQL フィルタ: 大型のテキスト ボックスをクリックし、(先に示した) "SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックス を表示します。ここで SQL フィルタを入力し、プレビューする行を制限することができます。"適用" をクリックして、フィルタの SQL 構文を自動的にチェックします。(エラーがある場合は、式に エラー箇所が示されます。)詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションでオンライン ヘルプをクリックしてください。

"フィルタを削除" ("ソース" ドロップダウン メニューの横) をクリックして、詳細フィルタの設定をすべてクリアします。

注 : テーブルのカスタマイズ プロセスの一環として、SQL 式を使用して結合テーブルとカスタム列を作成することもできます。

### パラメータの追加と編集

パラメータを使って、基になる Kettle スクリプトに情報を渡すことができます。パラメータはデフォルト値を使って設定できます。そのうえでスクリプトはパラメータを使い、ETL スクリプト内の変換およびフィルタリングを制御できます。

パラメータを追加するには:

1. "パラメータ" の見出しの右側にあるパラメータを編集アイコンをクリックします。"パラメータ エディタ" のダイアログ ボックスが表示されます。
2. 左ペインの、パラメータを追加したいフォルダをクリックします。フォルダ名が右ペインに表示されます。
3. "追加" をクリックし、フローティング メニューに表示される以下のオプションの 1 つを選択します。
    - フォルダ: 新規フォルダを作成します。
    - ブール値: ブール値のパラメータ (true/false) を作成します。
    - 整数: 整数のパラメータを作成します。
    - テキスト: テキスト値のパラメータを作成します。
    - パスワード: パスワードのパラメータを作成します。
    - 期間範囲: 期間範囲のパラメータ (開始日/終了日) を作成します。
    - 属性: 属性を作成します。
    - 実績バージョン: 実績バージョンを作成します。
    - 計画バージョン: 計画バージョンを作成します。
4. 右ペインで、選択したオプションの情報を入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

5. "適用" をクリックします。

個々のパラメータを編集するには、編集したいアイテムを左ペインでダブルクリックし、フィールド内の情報を編集します。編集が終了したら "適用" をクリックして変更を保存します。

パラメータをグループ化するには、フォルダを作成し、そのフォルダにパラメータをドラッグします。

スクリプト化されたデータ ソースによるデータのインポート

スクリプト化されたデータ ソースを設定して保存すると、データをインポートできます。

スクリプト化されたデータ ソースによってデータをインポートするには:

1. "アクション" メニューから、"データのインポート" をクリックします。選択したデータは、ETL スクリプトおよび SQL 式でフィルタリングされ、ステージング領域に読み込まれます。ステージング領域でデータをプレビューできます。

情報はクリアするまで、またはその後のデータ読み込みで有効な "データ インポート モード" 設定に基づいてクリアされるまで、ステージング領域に残ります。

ステージング領域からデータをクリアするには:

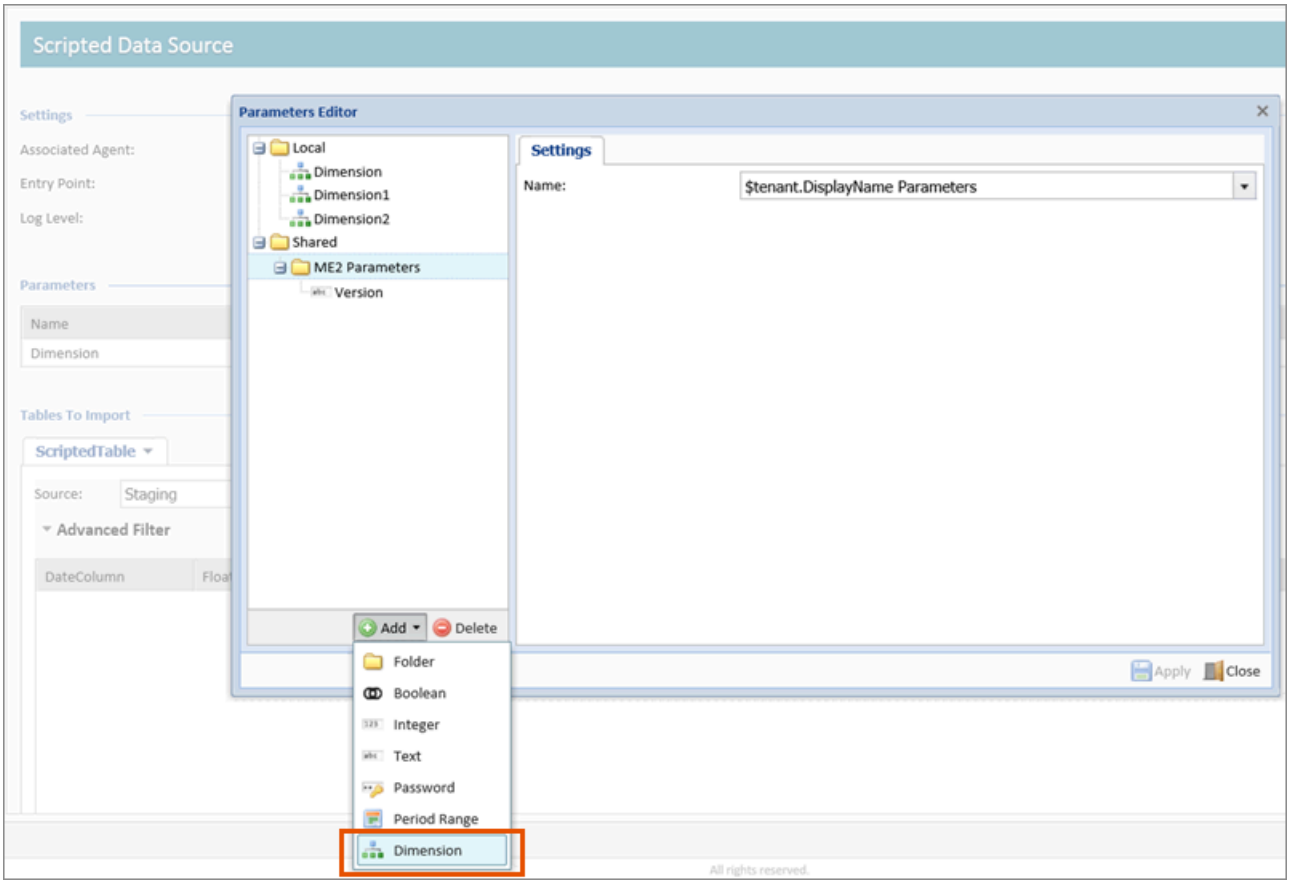
1. "アクション" メニューの "ステージング テーブルをクリア" をクリックします。データ ソース内のすべてのテーブルのステージング領域がクリアされます。

バージョン パラメータを属性パラメータとして **Pentaho** にインポート

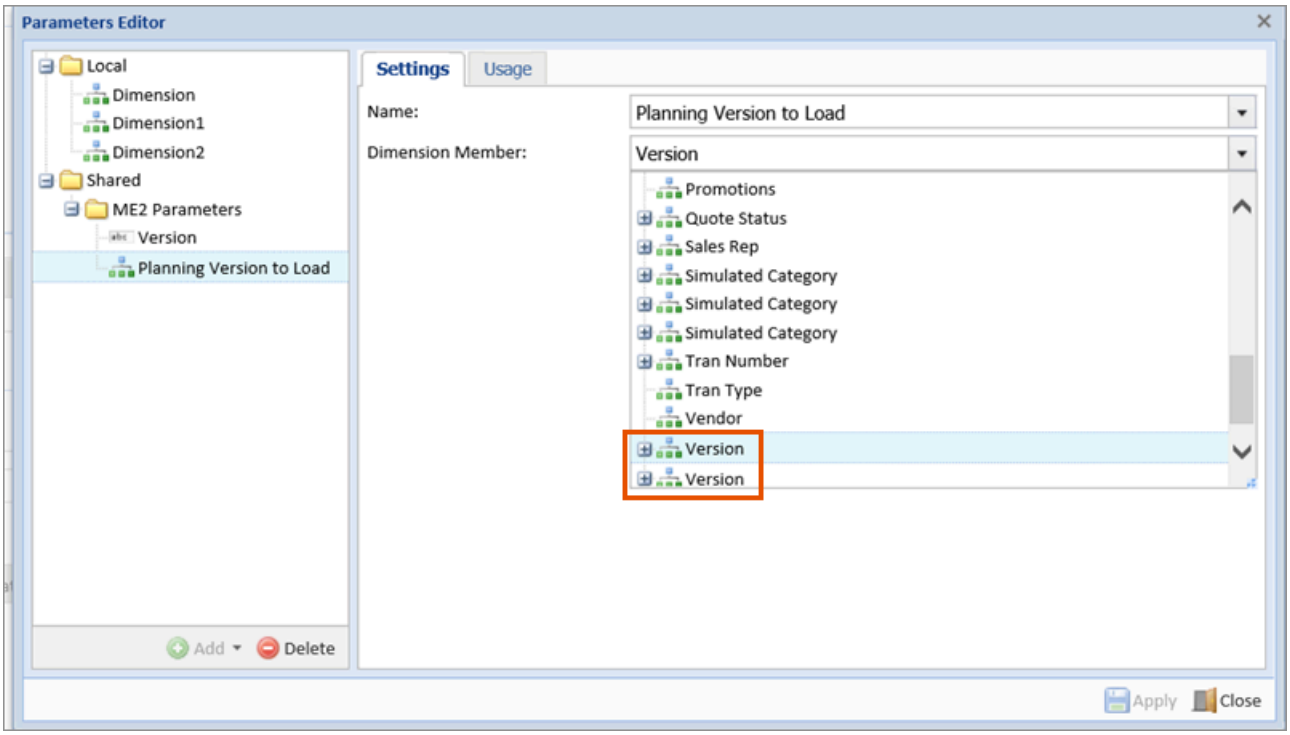
スクリプト化されたローダまたはスクリプト化されたデータ ソースにパラメータが含まれる場合、通常そのパラメータは環境変数として Pentaho に引き渡されます。バージョン パラメータを環境変数として Pentaho に渡すことはできません。バージョン パラメータは、属性パラメータとしてエージェントに引き渡す必要があります。バージョン用の属性パラメータが作成されたら、実行時にそれをオーバーライドできます。それにより、バージョンのリストからの選択が可能になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1. スクリプト化されたデータ ソース内で、新しい属性パラメータを作成します。

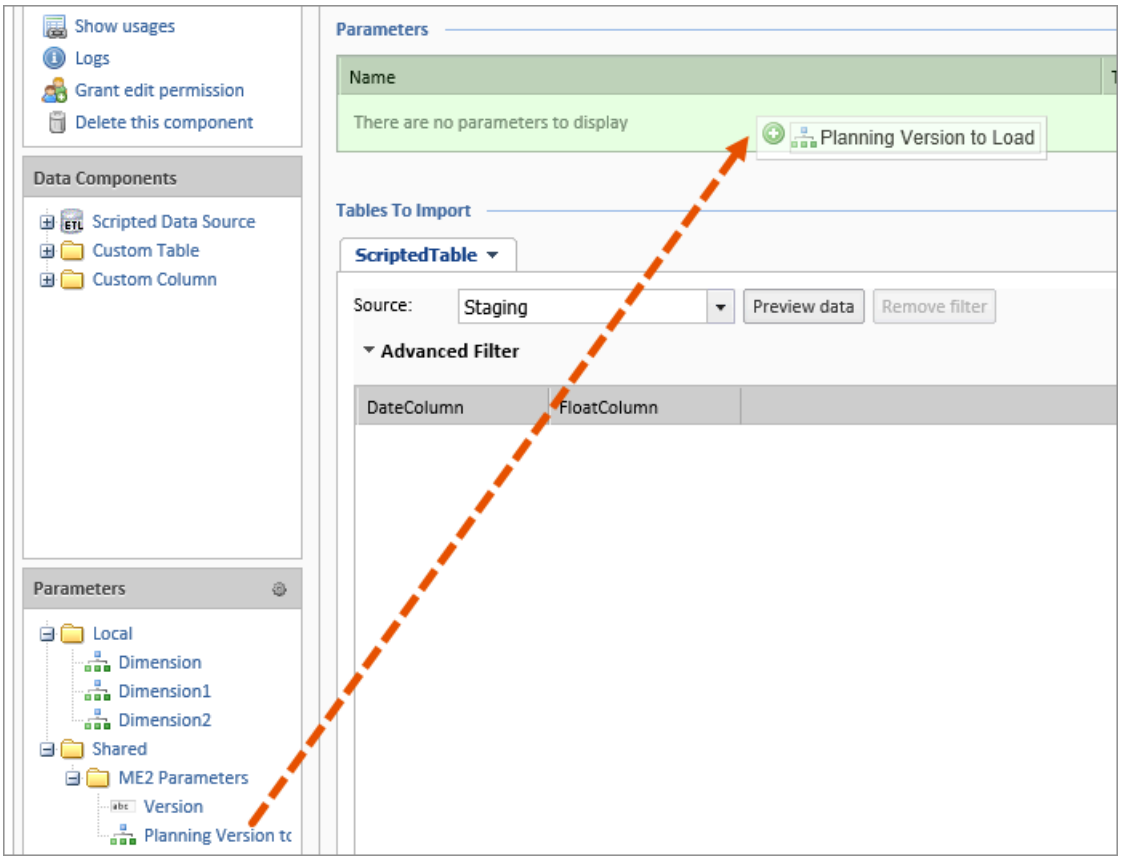



2. そのパラメータに、"Planning Version to Load" のような表示名を付けます。
3. 選択した属性に入れるメンバーを選択します。バージョン属性の最上位ノードを選択することは、デフォルトの計画バージョン属性値を選択することと同じです。

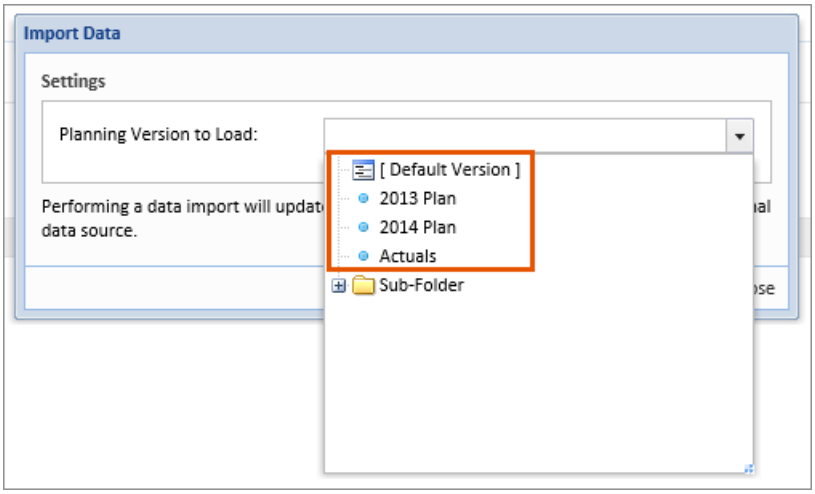



©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. データ デザイナーは、パラメータのキャンバスの "パラメータ" 領域にパラメータをドラッグして、スクリプト化された特定のローダおよびスクリプト化された特定のデータ ソースに属性パラメータを関連付けることができます。




5. スクリプト化されたデータ ソースに属性パラメータが関連付けられている場合に、ユーザーがデータ デザイナー画面の "データのインポート" をクリックすると、ステップ 3 で選択したメンバーを尋ねるプロンプトが表示されます。デフォルト値は、別のバージョンを選択することによってオーバーライドすることができます。インテグレーション内のインテグレーション オペレーター開始タスク画面でも、これと同じ動作が可能です。




- 選択した属性が計画バージョンであった場合、特殊値 "デフォルト バージョン" が組み入れられます。つまり、計画アプリケーションで現在選択されているデフォルト バージョンを使用するということです。計画バージョンを選択した場合、属性ツリーのフォルダ スタイル メンバーは選択できません。

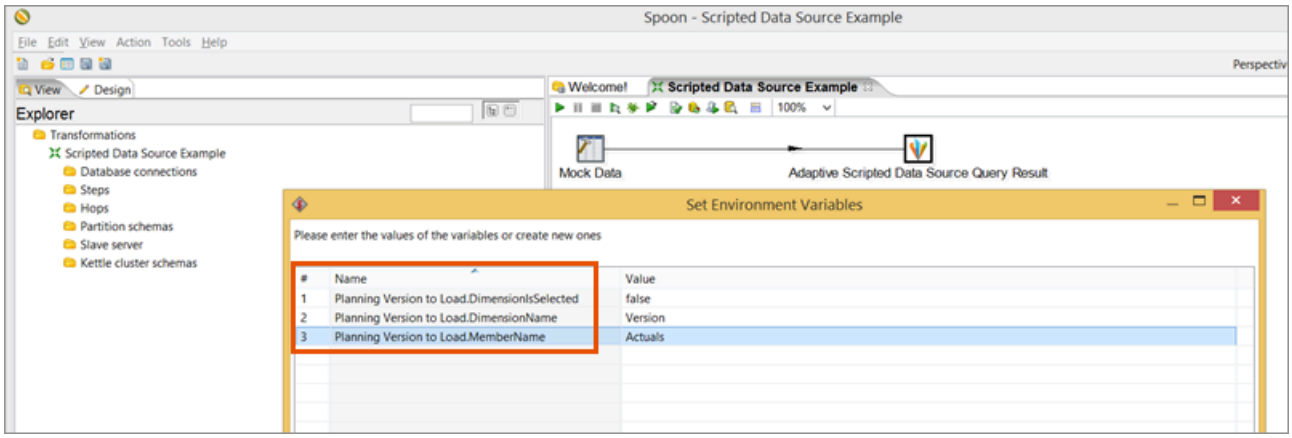
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

6. Pentaho Kettle スクリプトが実行されるとき、kettle 環境では各属性パラメータに対して 3 つの変数、<display name>.DimensionIsSelected、<display name>.DimensionName、<display name>.MemberName を利用できます。Pentaho Kettle スクリプトは、スクリプトに対して適切なものであれば、これらの変数をどのようにでも使用できます。

スクリプト化されたデータ ソース内の属性バージョン パラメータの例

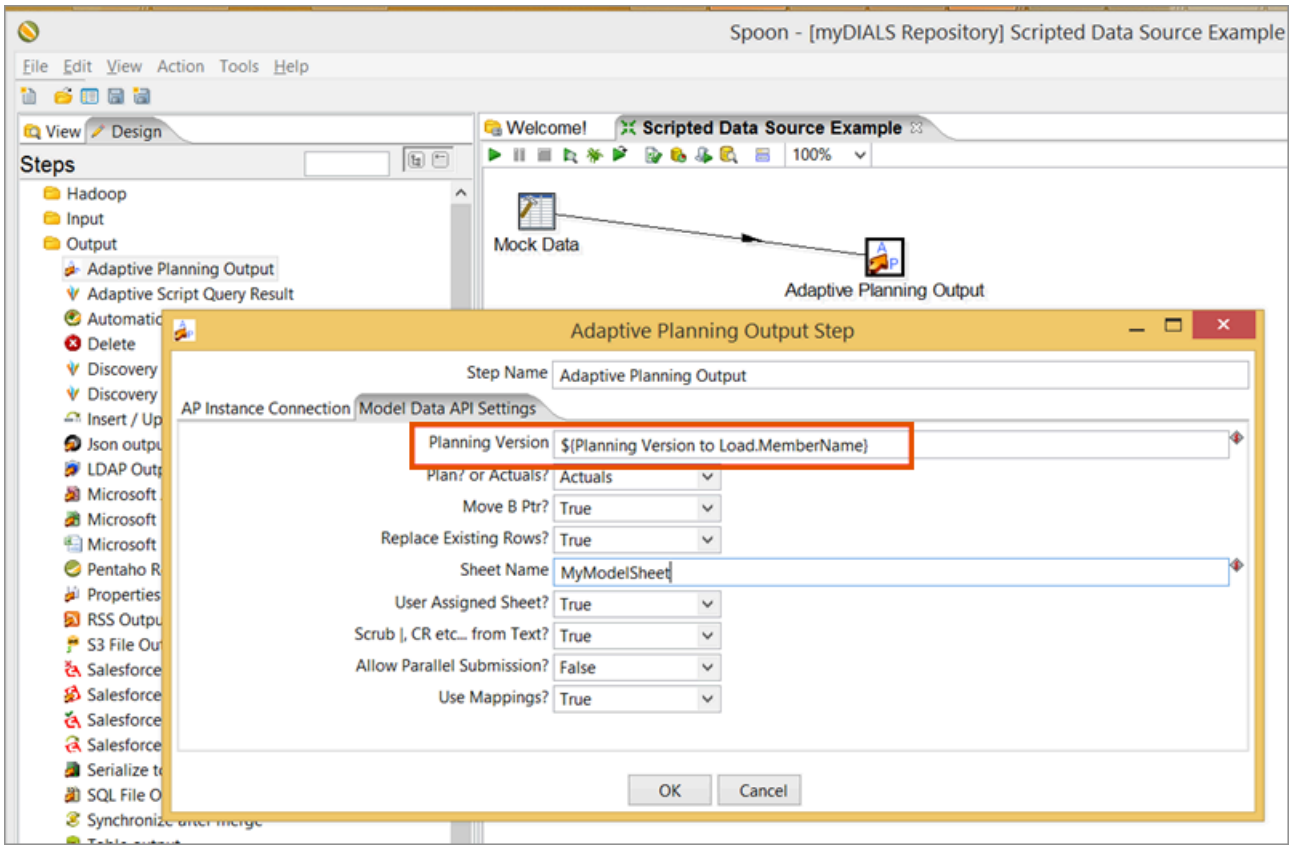
以下の例では、"Planning Version to Load" は、ステップ 2 でデータ デザイナーで設定したパラメータの表示名です。

- Load.MemberName に対する計画バージョン: 選択したメンバーの表示名です。
    - ルート組織メンバー (属性自身) を選択した場合、この値は空白になります。
- Load.DimensionName に対する計画バージョン: パラメータに関連付けられた属性の表示名です。
- Load.DimensionIsSelected に対する計画バージョン: true または false の値を持ち、選択されたメンバーが、属性自身であるルート組織メンバーかどうかを示します。




バージョン属性値の一般的な使用先は次のとおりです Adaptive Planning 以下に示す Spoon の出力ステップ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




概念: データ ソース

"インテグレーション設定" でデータ ソースを作成して、他のソースから Adaptive Planning にデータを抽出できます。データ ソースを使用すると、Adaptive Planning にロードされるデータを整理、管理、維持できます。また、Adaptive Planning にデータをロードする前に、データをレビューして変更することもできます。

一部のデータ ソースはブランド アダプタです。ソース システムがアップグレードまたは更新されても、アダプタの Adaptive Planning との互換性は維持されます。

一部のデータ ソースを使用する場合は、"インテグレーション設定" で認証情報の設定が必要になる場合があります。認証情報には、ソース システムでの認証に必要な情報が含まれます。

作成するデータ ソースのタイプに応じて、次のようなさまざまな情報を入力するプロンプトが表示されます。

- 認証情報またはサインイン情報
- 抽出するテーブルまたは列に関する設定情報
- 接続ログで必要な詳細のレベル
- Adaptive Planning がデータにアクセスするために必要なその他の設定

データ ソースのユース ケース

複数のデータ ソースを作成できます。たとえば、1 つのデータ ソースは販売注文のインポート用、2 番目のデータ ソースは販売費用のインポート用、3 番目のデータ ソースは売上高のインポート用として使用できます。3 つのデータ ソースすべてが同じソース システムを使用することも、各データ ソースが異なるシステムを使用することもできます。

データ ソースを使用して、以下を実行できます。

- 抽出されたデータから派生した新しい列を作成する。
- SQL フィルタとテーブル結合を使用して、インポートするデータを選択する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 抽出されたデータのデータ タイプを変更する。例: 整数からテキストに切り替えることができます。

作成できるデータ ソースのタイプ

- Adaptive Planning
- カスタム クラウド データ ソース
- JDBC
- Microsoft Dynamics GP
- NetSuite
- スクリプト化されたデータ ソース
- Sage Intacct
- Salesforce
- スプレッドシート
- テーブル グループ
- ユニオン テーブル
- Workday HCM と財務管理

relatedlinks
参考
Kettle と Spoon に関するドキュメントとチュートリアル

参考: **Microsoft Dynamics GP** データ ソース テーブル

Microsoft Dynamics GP データ ソースの設定では、 事前設定済みのアダプタを使用して Microsoft Dynamics GP 用のデータ ソースを設定する基本を説明しています。このトピックでは、Microsoft Dynamics GP の事前設定済みのアダプタを設定するデータ デザイナーのための技術情報を解説します。インテグレーションは Microsoft Dynamics GP バージョン 2010、2013、2015 をサポートしていますが、旧バージョンの Microsoft Dynamics GP 10.0 はサポートしていません。

Microsoft Dynamics GP をデータ ソースに使用することの重要な違いは、複数の会社をサポートするという点です。Microsoft Dynamics GP データ ソースを設定する際、データ ソース設定タブの "企業データベース" フィールドに、インポートしたい企業をセミコロンで区切って入力することができます。このフィールドを空白のままにすると、すべての企業がインポートされます。

サポートされた **Microsoft Dynamics GP** テーブル

Microsoft Dynamics GP の事前設定済みのアダプタにより、以下のテーブルのメタデータが取り込まれます。"はい" と記録されているテーブルはデフォルトで有効になっています。有効なテーブルについては、インテグレーションによりデフォルトで最も一般的なフィールドが取り込まれます。ユーザーはその後、必要に応じてフィールドの選択を編集できます。

システム テーブルはアスタリスクで示されています。

| 物理名およびフレンドリ名 | デフォルトで有効 | メモ |
|---|---|---|
| GL00100 Account Master | はい | |
| GL00102 Account Category Master | はい | |
| GL10110 Account Current Summary Master | | |
| GL10111 Account Summary History | | |
| GL20000 Year-to-Date Transaction Open | はい | |
| GL30000 Account Transaction History | はい | |
| SY40100 Period Setup | はい | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 物理名およびフレンドリ名 | デフォルトで有効 | メモ |
| --- | --- | --- |
| SY40101 Period Header | はい | |
| SY01500 Company Master * | はい | |
| $ADP_ACCOUNTSUMMARY - Account Summary | はい | このテーブルはエージェントよって作成されます。GP のネイティブ データベース テーブルではありません。 |
| GL00105 Account Index Master | | |
| GL00200 Budget Master Header | | |
| GL00201 Budget Master Detail | | |
| GL40200 Segment Description Master | | |
| DTA10100 MDA Transaction Groups | | |
| DTA10200 MDA Transaction Codes | | |
| GL01201 Budget Summary Master View | | |
| GL11110 Open Year Summary Master | | |
| GL11111 Historical Year Summary Master | | |
| SY02200 Posting Journal Destinations | | |
| SY02300 Posting Settings | | |
| SY03300 Payment Terms Master | | |
| SY04200 Comment Master | | |
| TX00101 Tax Schedule Header Master (header) | | |
| TX00102 Tax Schedule Master (detail) | | |
| TX00201 Tax Detail Master | | |
| TX30000 Tax History | | |
| SY003001 Account Definition Header * | | |
| SY00302 Account Definition Detail * | | |
| SY00801 Resource Activity * | | |
| SY01400 Users Master * | | |
| SY01402 System User Defaults * | | |
| SY00800 Batch Activity * | | |
| SY60100 User Access * | | |
| SOP10100 Unposted/Work Transactions (header) | | |
| SOP10200 Unposted/Work Transactions (line detail) | | |
| SOP10101 Commissions Work and History | | |
| SOP10102 GL Distributions Work and History | | |
| SOP10103 Payment Work and History | | |
| SOP10104 Process Holds Work and History | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 物理名およびフレンドリ名 | デフォルトで有効 | メモ |
|---|---|---|
| SOP10105 Sales Taxes Work and History<br>SOP10106 User Defined Work and History<br>SOP10107 Tracking Numbers Work and History<br>SOP10201 Serial/Lot Work and History<br>SOP10202 Line Comment Work and History<br>SOP30200 Historical Transactions (header)<br>SOP30300 Historical Transactions (line detail)<br>SOP60100 SOP-POP Link<br>SOP60300 Customer Item Numbers<br>GL10000 Transaction Work/ Unposted (header)<br>GL10001 Transaction Work/ Unposted (line detail) | | |

### その他の考慮事項

これらは、Microsoft Dynamics GP のデータにアクセスする際の注意点です。Microsoft Dynamics GP への問い合わせには、比較式や論理式を用いたシンプルな列フィルタを使用することができます。

- 演算子 (+、-、/、*、$、||)、スカラー関数、case ステートメントは使用できません。
- 設定はプロフェッショナル サービスで利用できる高度な設定でさらにカスタマイズできます。
- MS SQL Server のインテグレーション セキュリティとインテグレーションの相互運用性に関する情報については、MS SQL Server のインテグレーション セキュリティとの相互運用性を参照してください。

### 参考: サポートされている **JDBC** 準拠のデータ タイプ

インテグレーションは JDBC 準拠のデータ タイプのサブセットのみをサポートしています。サポートされていないデータ タイプは、構造のインポート プロセス中にサーバーに報告されません。

JDBC ドライバーは基になるデータ タイプを JDBC タイプにマップするため、サポートされている DBMS のタイプを理解するには、特定の DBMS の文書を参照する必要があります。このセクションには、一般的な JDBC 準拠のデータベース、Oracle、SQL サーバー、H2 データベースでサポートされているデータ タイプを紹介します。

### サポートされている **JDBC** データ タイプ

| JDBC タイプ | DISCOVERY タイプ |
|---|---|
| CHAR | STRING |
| VARCHAR | STRING |
| LONGVARCHAR | STRING |
| BIT | BOOLEAN |
| BOOLEAN | BOOLEAN |
| TINYINT | LONG |
| SMALLINT | LONG |
| INTEGER | LONG |
| BIGINT | LONG |
| REAL | DOUBLE |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| JDBC タイプ | DISCOVERY タイプ |
|---|---|
| DOUBLE | DOUBLE |
| FLOAT | DOUBLE |
| DATE | DATE |
| TIME | DATE |
| TIMESTAMP | DATE |

重要： 次の JDBC タイプはサポートされていません:
BINARY、VARBINARY、LONGVARBINARY、DECIMAL、NUMERIC。

サポートされている **MS SQL Server** のデータ タイプ

| SQL Server | JDBC | サポート |
|---|---|---|
| bigint | BIGINT | あり |
| bit | BIT | あり |
| decimal | DECIMAL | なし |
| int | INTEGER | あり |
| money | DECIMAL | なし |
| numeric | NUMERIC | なし |
| smallint | SMALLINT | あり |
| smallmoney | DECIMAL | なし |
| tinyint | TINYINT | あり |
| float | DOUBLE | あり |
| real | REAL | あり |
| date | VARCHAR | あり |
| datetime2 | VARCHAR | あり |
| datetime | TIMESTAMP | あり |
| datetimeoffset | VARCHAR | あり |
| smalldatetime | TIMESTAMP | あり |
| time | VARCHAR | あり |
| char | CHAR | あり |
| varchar | VARCHAR | あり |
| text | CLOB | なし |
| nchar | CHAR | あり |
| nvarchar | CLOB | なし |
| ntext | CLOB | なし |
| binary | BINARY | なし |
| image | BLOB | なし |
| hierarchyid | BLOB | なし |
| sql_variant | VARCHAR | あり |
| timestamp | BINARY | なし |
| uniqueidentifier | CHAR | あり |
| xml | CLOB | なし |

サポートされている **Oracle** データ タイプ

| Oracle | JDBC | サポート |
|---|---|---|
| CHAR | CHAR | あり |
| VARCHAR2 | VARCHAR | あり |
| NCHAR | OTHER | なし |
| NVARCHAR2 | OTHER | なし |
| NUMBER | DECIMAL | なし |
| FLOAT | FLOAT | あり |
| BINARY_FLOW | | なし |
| BINARY_DOUBLE | | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| Oracle | JDBC | サポート |
|---|---|---|
| RAW | VARBINARY | なし |
| DATE | TIMESTAMP | あり |
| TIMESTAMP | TIMESTAMP | あり |
| INTERVAL_YEAR_TO_MONTH | | なし |
| INTERVAL_DAY_TO_SECOND | | なし |
| BLOB | BLOB | なし |
| CLOB | CLOB | なし |
| NCLOB | OTHER | なし |
| BFILE | | なし |
| CHARACTER | CHAR | あり |
| VARCHAR | VARCHAR | あり |
| NATIONAL_CHARACTER | OTHER | なし |
| NATIONAL_CHAR | OTHER | なし |
| NUMERIC | DECIMAL | なし |
| DECIMAL | DECIMAL | なし |
| DEC | DECIMAL | なし |
| INTEGER | DECIMAL | なし |
| INT | DECIMAL | なし |
| SMALLINT | DECIMAL | なし |
| DOUBLE_PRECISION | FLOAT | あり |
| REAL | FLOAT | あり |

サポートされている **H2** データ タイプ

| H2 | JDBC | サポート |
|---|---|---|
| INT | INTEGER | あり |
| INTEGER | INTEGER | あり |
| MEDIUMINT | INTEGER | あり |
| INT4 | INTEGER | あり |
| SIGNED | INTEGER | あり |
| BOOLEAN | BOOLEAN | あり |
| BIT | BOOLEAN | あり |
| BOOL | BOOLEAN | あり |
| TINYINT | TINYINT | あり |
| SMALLINT | SMALLINT | あり |
| INT2 | SMALLINT | あり |
| YEAR | SMALLINT | あり |
| BIGINT | BIGINT | あり |
| IDENTITY | BIGINT | あり |
| DECIMAL | DECIMAL | なし |
| NUMBER | DECIMAL | なし |
| DEC | DECIMAL | なし |
| NUMERIC | DECIMAL | なし |
| DOUBLE | DOUBLE | あり |
| FLOAT | DOUBLE | あり |
| FLOAT4 | REAL | あり |
| FLOAT8 | DOUBLE | あり |
| REAL | REAL | あり |
| TIME | TIME | あり |
| DATE | DATE | あり |
| TIMESTAMP | TIMESTAMP | あり |
| DATETIME | TIMESTAMP | あり |
| SMALLDATETIME | TIMESTAMP | あり |
| BINARY | VARBINARY | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| H2 | JDBC | サポート |
|---|---|---|
| VARBINARY | VARBINARY | なし |
| LONGVARBINARY | VARBINARY | なし |
| RAW | VARBINARY | なし |
| BYTEA | VARBINARY | なし |
| OTHER | OTHER | なし |
| VARCHAR | VARCHAR | あり |
| LONGVARCHAR | VARCHAR | あり |
| VARCHAR2 | VARCHAR | あり |
| NVARCHAR | VARCHAR | あり |
| NVARCHAR2 | VARCHAR | あり |
| VARCHAR_CASESENSTIVE | VARCHAR | あり |
| VARCHAR_IGNORECASE | VARCHAR | あり |
| CHAR | CHAR | あり |
| CHARACTER | CHAR | あり |
| NCHAR | CHAR | あり |
| BLOB | BLOB | なし |
| TINYBLOB | BLOB | なし |
| MEDIUMBLOB | BLOB | なし |
| LONGBLOB | BLOB | なし |
| IMAGE | BLOB | なし |
| OID | BLOB | なし |
| CLOB | CLOB | なし |

参考: **SQL** 式

SQL 式は、さまざまなデータ インテグレーションの目的に使用できます。サポートされる SQL 言語機能は、SQL ステートメントが実行されるシステムによって異なります。以下にいくつか例を挙げます。

- ステージングにインポートされたデータに対するクエリで、すべての SQL 言語機能を使用できます。
- NetSuite などの外部システム向けのクエリでは、SQL フィルタを活用して簡易な機能のセットを使用できます。

データ ソース タイプの固有の制限事項および使用上の注意については、このドキュメントの後半のセクションを参照してください。

- NetSuite SQL フィルタ
- スプレッドシート SQL フィルタ
- JDBC SQL フィルタ
- Salesforce SQL フィルタ
- Intacct SQL フィルタ
- Microsoft Dynamics GP SQL フィルタ

サポートされる SQL 式は限られています。インテグレーション設定では、他の演算子も別の方法でサポートされます。例: SQL 結合を作成するには、"データ コンポーネント" の "カスタム テーブル" フォルダから "結合テーブル" をデータ ソースのテーブル領域にドラッグすると、SQL 結合テーブルと列を追加できます。

リテラル値

固定の DateTime 値またはリテラル値を使用した式にある、不変の文字列/数値などの埋め込み定数。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| データ タイプ | 構文 | 説明 | 使用例 |
|---|---|---|---|
| テキスト | '*****' | シングル クォートで囲まれたテキスト文字列。テキスト内にシングル クォートを含めるには、シングル クォートを 2 つ使用して エスケープする必要があります | 'It''s hot outside' |
| 整数 | # | 表示されるとおり正確に入力します | 999 |
| 浮動小数 | #.# | 小数部分が 0 である場合でも、浮動小数値には必ずピリオド (.) を含める必要があります | 7.7 |
| 日時 | TIMESTAMP '*****' | キーワード TIMESTAMP の後の、シングル クォートで囲まれた一定の長さの yyyy-mm-dd hh:mm:ss.SSS 形式の日付<br>分数秒には 3 桁の精度を指定できます。最大値は 6 桁です。 | TIMESTAMP '1934-11-09 17:05:12.012345'<br>TIMESTAMP '2013-01-02 03:14:05.006006'<br>TIMESTAMP '2013-01-02 03:14:05.006'<br>TIMESTAMP '2013-01-02 03:14:05' |
| 日付 | DATE '*****' | キーワード DATE の後の、シングル クォートで囲まれた一定の長さの yyyy-mm-dd 形式の日付 | DATE '1879-03-14' |
| ブール値 | TRUE (または FALSE) | キーワード TRUE または キーワード FALSE | FALSE |

演算子

数値演算子は、数値 (整数、浮動小数、ビット) の式、値または列で算術演算を実行します。テキスト演算子は、2 つ以上のテキスト式、値、または列を結合します。

| 適用先 | 演算子 | 説明 | 使用例 |
|---|---|---|---|
| 数字 | + | 2 つの数値を加算します | MyNumericColumn + 1000 |
| 数字 | - | 左側の値から右側の値を減算します | MyNumericColumn - 1000 |
| 数字 | / | 左側の値を右側の値で除算します | MyNumericColumn / 1000 |
| 数字 | * | 2 つの値を乗算します | MyNumericColumn * 1000 |
| テキスト | \|\| | 2 つのテキスト値を連結します | MyTextColumn \|\| ' a suffix' |

比較式と論理式

これらの式は、1 (true) または 0 (false) になり、テーブル結合式または CASE WHEN [expr] THEN [value] END 比較の [expr] として使用できます。比較式および論理式は、テキスト、数値または日時列で演算できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 適用先 | 構文 | 説明 | 使用例 |
|---|---|---|---|
| 任意 | = | 2 つの値または式が等しいかどうかをチェックします | MyColumn1 = MyColumn2 |
| 任意 | <> | 2 つの値または式が等しくないかどうかをチェックします | MyColumn1 <> MyColumn2 |
| 任意 | IS NULL | 値または式が NULL であるかどうかをチェックします。NULL は空の文字列と等価ではありません | MyColumn1 IS NULL |
| 任意 | IS NOT NULL | 値または式が nonNULL 値に解決されるかどうかをチェックします | MyColumn1 IS NOT NULL |
| 任意 | < | 左側の値または式が右側の値または式よりも小さいかどうかをチェックします | MyColumn1 < MyColumn2 |
| 任意 | <= | 左側の値または式が右側の値または式以下かどうかをチェックします | MyColumn1 <= MyColumn2 |
| 任意 | > | 左側の値または式が右側の値または式よりも大きいかどうかをチェックします | MyColumn1 > MyColumn2 |
| 任意 | >= | 左側の値または式が右側の値または式以上かどうかをチェックします | MyColumn1 >= MyColumn2 |
| 任意 | IN | 値または式がセット内に含まれているかどうかをチェックします | MyColumn1 IN (1, 2, 3) |
| 任意 | NOT IN | 値または式がセット内に含まれていないかどうかをチェックします | MyColumn1 NOT IN (1, 2, 3) |
| テキスト | LIKE | テキスト値または式がパターンに一致するかどうかをチェックします。% 文字はワイルドカードとして動作します | MyColumn1 LIKE '%Apple' |
| テキスト | NOT LIKE | テキスト値または式がパターンに一致しないかどうかをチェックします。% 文字はワイルドカードとして動作します | MyColumn1 NOT LIKE '%Apple' |
| 比較 | AND | 2 つの比較を評価し、両方の式が真である場合にのみ true を返します | MyColumn1 >= MyColumn2 AND MyColumn1 IN (1, 2, 3) |
| 比較 | OR | 2 つの比較を評価し、いずれかの式が真である場合に true を返します | (MyColumn1 >= MyColumn2) OR MyColumn1 IN (1, 2, 3) |

スカラー関数

スカラー関数は、入力値を受け取り、単一の値を返します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 使用例 |
| --- | --- | --- |
| ビット関数 | | |
| CAST(expr AS BIT) | テキスト/浮動小数/整数値をビット (0 または 1) 値に変換します | CAST('1' AS BIT) => 1 |
| 整数関数 | | |
| CAST(expr AS INTEGER) | テキスト/浮動小数/ビット値を整数値に変換します | CAST('2' AS INTEGER) => 2 |
| TIMESTAMPDIFF([datepart] FROM [datetime_expr1] TO [datetime_expr2]) | [datetime_expr1] から [datetime_expr2] までの [datepart] の (DAY) の数値を取得します | TIMESTAMPDIFF(DAY FROM TIMESTAMP '2013-02-01 00:00:00.000' TO TIMESTAMP '20130210 00:00:00.000') => 9 |
| DATEDIFF([datepart] FROM [date_expr1] TO [date_expr2]) | [date_expr1] から [date_expr2] までの [datepart] の (DAY) の数値を取得します | DATEDIFF(DAY FROM DATE '2013-02-01' TO DATE '2013-02-10') => 9 |
| EXTRACT([datepart] FROM [datetime_expr]) | [datetime_expr] から [datepart] (年/月/日/時/分/秒) を取得します | EXTRACT(MONTH FROM DATE '2013-02-01') => 2 |
| LENGTH([text_expr]) | [text_expr] の長さを取得します | LENGTH('Hello') => 5 |
| POSITION([find_text_expr] IN [search_text_expr]) | [search_text_expr] の中で [find_text_expr] の最初のインデックスを取得します。最初の文字は 1 です。 | POSITION('at' IN 'hat') => 2 |
| POSITION([find_text_expr] IN [search_text_expr] FROM [start]) | [search_text_expr] の中で、[start] より後の [find_text_expr] の最初のインデックスを取得します ([start] が -1 の場合は、最後のインデックスを検索します)。最初の文字は 1 です。 | POSITION('a' IN 'a hat' FROM 1) => 4 |
| 浮動小数関数 | | |
| CAST(expr AS FLOAT) | テキスト/整数/ビット値を浮動小数値に変換します | CAST('1.01' AS FLOAT) => 1.01 |
| テキスト関数 | | |
| CAST(expr AS NVARCHAR) | 浮動小数/整数/ビット値をテキスト値に変換します | CAST(1.01 AS NVARCHAR) => '1.01' |
| TRIM([text_expr]) | [text_expr] から先頭と末尾のスペースを削除します | TRIM(' xxx ') => 'xxx' |
| SUBSTRING([text_expr] FROM [start_int_expr]) | ポジション [start_int_expr] から [text_expr] の一部を抽出します。最初の文字はポジション 1 です。 | SUBSTRING('aaabbbccc' FROM 3) => 'abbbccc' |
| SUBSTRING([text_expr] FROM [start_int_expr] FOR [len_int_expr]) | ポジション [start_int_expr] から [text_expr] の [len_int_expr] 文字を抽出します。最初の文字はポジション 1 です。 | SUBSTRING('aaabbbccc' FROM 3 FOR 3) => 'abb' |
| REPLACE([text_expr_1] WITH [text_expr_2] IN [text_expr_3]) | [text_expr_3] の中で [text_expr_1] のすべてのインスタンスを [text_expr_2] の値に置き換えます。 | REPLACE('z' WITH 'a' IN 'zba') => 'aba' |
| REGEX_REPLACE([text_expr_1] WITH [text_expr_2] IN [text_expr_3]) | [text_expr_3] で正規表現 [text_expr_1] に一致するすべてのインスタンスを [text_expr_2] に置き換えます。 | REGEX_REPLACE('[0-9]' WITH 'a' IN 'a7b5c') => 'aabac'<br><br>unicode の空白を含むすべての空白を削除または置換するには、[\s] の代わりに次の構文を使用します。[\u0009\u0020\u00A0\u1680\u2000-\u200A\u202F\u205F\u3000] |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 使用例 |
| --- | --- | --- |
| SPLIT_PART([string],[delimiter], [part]) | 特定の文字で文字列を区切り、インデックスで設定した値を選択します。これにより、あるパターンの n 番目の出現箇所が抽出され、それが返されます。最初の要素は 1 から始まります。インデックスが範囲外の場合、式は空の文字列を返します。 | SPLIT_PART('Plan\|1991\|Tennis', '\|', 2) =>'1991' SPLIT_PART('Plan\|1991\|Tennis', '/', 1) => 'Plan\|1991\|Tennis' SPLIT_PART('Plan\|1991\|Tennis', '/', 2) => '' |
| TO_ACCOUNT_CODE([text_expr_1]) | 値が Planning の "科目コード" フィールドと互換性があることを確認します。すべてのスペースを削除し、英数字以外の文字をアンダースコアに置き換え、2048 文字を超える値を切り捨てます | TO_ACCOUNT_CODE('A - 860+') => 'A_860' |
| 日時関数 | | |
| CAST([text_expr] AS TIMESTAMP FROM '[timestamp_format]') | 既知の構造/形式のテキスト値を日時値に変換します。特定の [timestamp_format] 値のみが許可されます (下記を参照してください) | CAST('2013-01-02' AS TIMESTAMP FROM 'yyyy-mm-dd') => TIMESTAMP '2013-01-02 00:00:00.000' |
| TRUNCATE_TIMESTAMP([datetime_part] FROM [datetime_expr]) | 日時 [datetime_expr] を、年/月/日/時間のグレゴリオ暦 [datetime_part] に切り詰めます | TRUNCATE_TIMESTAMP(MONTH FROM TIMESTAMP '2013-11-22 12:13:14.015') => TIMESTAMP '2013-11-01 00:00:00.000' |
| 日付関数 | | |
| CAST([text_expr] AS DATE FROM '[date_format]') | 既知の構造/形式のテキスト値を日付値に変換します。特定の [date_format] 値のみが許可されます (下記を参照してください) | CAST('2013-01-02' AS DATE FROM 'yyyy-mm-dd') => DATE '2013-01-02 00:00:00.000' |
| TRUNCATE_DATE([date_part] FROM [date_expr]) | 日付 [date_expr] を、年/月/日/時間のグレゴリオ暦 [date_part] に切り詰めます | TRUNCATE_DATE(MONTH FROM DATE '2013-11-22') => DATE '2013-11-01 00:00:00.000' |

時定数

インテグレーションは、SQL 式で使用できる現在の日付と時刻に関連する以下の 2 つの定数をサポートしています。

| 構文 | 説明 | 使用例 |
| --- | --- | --- |
| CURRENT_TIMESTAMP | 現在の日時を取得して、日時オブジェクトが使用されているすべての場所で使用できます。 | EXTRACT(YEAR FROM CURRENT_TIMESTAMP) |
| CURRENT_DATE | 現在の日付を取得して、日付オブジェクトが使用されているすべての場所で使用できます。 | (DATEDIFF(DAY FROM CURRENT_DATE TO [column_reference])) <= 30 |

**CASE** ステートメント

Case ステートメントは、多くの言語の if ステートメントと同様に、他の値に基づいて値を選択するのに使用されます

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 構文 | 説明 | 使用例 |
| --- | --- | --- |
| CASE WHEN [logic_expr1] THEN [result_expr1] WHEN [logic_expr#] THEN [result_expr#] ELSE [result_expr_def] END | true を返す最初の [logic_expr] から [result_expr] が返されます | CASE WHEN 1>2 THEN 'x' ELSE 'y' END => 'y' |
| CASE [expr] WHEN [expr1] THEN [result_expr1] WHEN [expr#] THEN [result_expr#] ELSE [result_expr_def] END | [expr] に等しい最初の [expr#] から [result_expr] が返されます | CASE 2 WHEN 1 THEN 'x' ELSE 'y' END => 'y' |

**COALESCE** ステートメント

Coalesce は、引数を順番に評価し、定義された引数リストから最初の非 null 値を返します。Coalesce は SQL 列、ローダ内の SQL フィルタ、および結合式で使用できます。Coalesce は、ステージング テーブルのインポート フィルタでは使用できません。

| 構文 | 説明 | 使用例 |
| --- | --- | --- |
| COALESCE ([expr]) | [expr] で最初の非 null を返します | COALESCE (NULL,NULL,20,NULL,NULL,10) => 20 |

テーブル リレーションシップの式

"テーブル リレーションシップ" 項目を使用してテーブルを結合する場合、結合式を指定する必要があります。

結合しようとしているテーブルには、同じ名前の列が含まれている可能性があります。同じ名前の列が存在する場合は、以下を使用してそれらの列を区別する必要があります。

- 主テーブルの列: 「P」例: P. “MyColumn”
- その他のテーブルの列には "R"。例: R. “MyColumn”

CAST ([text_expr] AS TIMESTAMP FROM '[timestamp_format]') 関数で、以下の [timestamp_format] の値を使用できます。

- 'mon dd yyyy hh:mitt'
- 'mm/dd/yyyy'
- 'yyyy.mm.dd'
- 'yyyy-mm-dd'
- 'dd/mm/yyyy'
- 'dd.mm.yyyy'
- 'dd-mm-yyyy'
- 'dd mon yyyy'
- 'mon dd yyyy'
- 'mon dd yyyy hh:mi:ss:mmmmmmtt'
- 'mm-dd-yyyy'
- 'yyyy/mm/dd'
- 'yyyymmdd'
- 'dd mon yyyy hh:mi:ss:mmmmmm'
- 'yy-mm-dd hh:mi:ss'
- 'yy-mm-dd hh:mi:ss.mmmmmm'
- 'yy-mm-ddThh:mi:ss.mmmmmm'
- "yyyymondd"
- "yyyy-mon-dd"
- "ddmyyyy"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- "mm/dd/yy"
- ‘yy.mm.dd’
- "dd/mm/yy"
- ‘dd.mm.yy’
- "dd-mm-yy"
- "dd month yy"
- "mon dd yy"
- "mm-dd-yy"
- "yy/mm/dd"
- "yymmdd"

### データ ソース固有のデータ インポート フィルタ SQL の制限事項および使用上の注意

データ ソース固有のデータ インポート フィルタ SQL の制限事項および使用上の注意を以下に記載しています。

| | |
|---|---|
| NetSuite データ ソース テーブル | NetSuite に対して直接クエリを実行する場合 (NetSuite からステージングにインポートされたレコードにクエリを行う場合ではなく)、フィルタ式は NetSuite が Web サービスを通じて公開する機能に限定されます。<br>• 比較式と論理式を持つ単純な列フィルタは、NetSuite に対してクエリを実行する場合に使用できます。<br>• フィルタは AND で結合できますが、OR で結合することはできません。<br>• 演算子 (+、/、*、$、\|\| など) は使用できません。<br>• スカラー関数は使用できません。<br>• CASE ステートメントは使用できません。<br>• カスタム列をフィルタするには、インポートするカスタム列にマークを付ける必要があります。<br>• 一部の列フィルタでは、フィルタを動作させるために特定の NetSuite 機能を有効にする必要があります。<br>• 一部のテーブルおよび一部の列は、フィルタリングをサポートしていません。 |
| スプレッドシート データ ソース テーブル | スプレッドシート ファイルを直接クエリする場合 (スプレッドシートからステージングにインポートされた記録をクエリするのではなく)、フィルタ式はクエリ対象のファイルのアップロード ID のみを指定できます。アップロード ID が指定されていない場合は、インポートされた最新のファイルからのデータが表示されます。 |
| JDBC データ ソース テーブル | • 比較式と論理式を持つ単純な列フィルタは、JDBC データ ソースをクエリする場合に使用できます。<br>• 演算子 (+、/、*、$、\|\| など) は使用できません。<br>• スカラー関数は使用できません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | • CASE ステートメントは使用できません。 |
| Salesforce データ ソース テーブル | • 比較式と論理式を持つ単純な列フィルタは、Salesforce をクエリする場合に使用できます。<br>• 演算子 (+、/、*、$、\|\| など) は使用できません。<br>• スカラー関数は使用できません。<br>• CASE ステートメントは使用できません。 |
| Intacct データ ソース テーブル | • 比較式と論理式を持つ単純な列フィルタは、Intacct をクエリする場合に使用できます。これには、IN(..)、IS NULL、IS NOT NULL、LIKE および NOT LIKE ステートメントが含まれます。<br>• Intacct では演算子 <> をサポートしていないため、代わりに NOT IN() の比較を使用します。<br>• 演算子 (+、/、*、$、\|\| など) は使用できません。<br>• スカラー関数は使用できません。<br>• CASE ステートメントは使用できません。<br>• ブール値列に対するフィルタでは、true/false キーワードを使用する必要があります。これは、Intacct では 1/0 が true/false と同じであると認識されないためです。 |
| Microsoft Dynamics GP データ ソース テーブル | • 比較式と論理式を持つ単純な列フィルタは、Microsoft Dynamics GP をクエリする場合に使用できます。<br>• 演算子 (+、/、*、$、\|\| など) は使用できません。<br>• スカラー関数は使用できません。<br>• CASE ステートメントは使用できません。 |

データ エージェント
ステップ: **Workday Adaptive Planning** データ エージェント マネージャの設定

始める前に

セキュリティ: "データ デザイナー" 権限

Adaptive Planning への接続に必要なローカル Windows コンピュータの管理者権限

このタスクについて

Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを設定し、データ エージェントを使用して以下から情報を抽出できます。

- JDBC 準拠のデータベース
- スクリプト化されたデータ ソース
- 他のデータ ソースにアクセスできないリモートおよびオンプレミスのソース

また、データ エージェントは、アプリケーションへの安全なアクセスを提供し、Adaptive Planning インスタンスへの接続を管理します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのインストール（1701ページ）.
2. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャの設定（1704ページ）.
3. データ エージェントのストレージ E メール アラートの設定（1708ページ）.
4. データ エージェントの作成（1709ページ）.
5. データ エージェントのバックアップと復元（1710ページ）.

次のタスク

データ エージェントから Adaptive Planning インテグレーション ローダにデータまたはメタデータをロードします。

**Workday Adaptive Planning** データ エージェント マネージャのインストール

データ エージェントを介して Adaptive Planning に接続する予定の Windows コンピュータに、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャをインストールします。通常、1 回のインストールですべてのソース システムに接続できます。1 回のインストールですべてのソース システムに接続できない場合は、ソース システムに接続できる他のコンピュータに Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャをインストールします。別のシステムで Pentaho データ インテグレーション (PDI) スクリプトが必要な場合は、スクリプトを含む各システムにインストールします。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション" > "データ デザイナー"
- コンピュータにソフトウェアをインストールする管理権限があることを確認します。
- 参考: インテグレーション データ エージェントの技術要件を参照して、コンピュータにサポートされた 64 bit Java Environment があることを確認します。 優先 JDK は Azul です。
- インスタンスの Adaptive Planning ユーザーまたは Workday ユーザーのユーザー名とパスワードを取得します。
- コンピュータに Pentaho Data Integration (PDI) をインストールした場合、そのインストール ディレクトリをメモします。

ステップ

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのインストーラーをダウンロードします。
2. インストーラーを実行します。

**Workday Adaptive Planning** データ エージェント マネージャのインストーラーのダウンロード

Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのダウンロード リンクにアクセスするには、エージェント作成プロセスを開始する必要があります。

1. コンポーネント ライブラリで "データ エージェント" を選択します。
2. "新しいデータ エージェントの作成" を選択します。
3. このデータ エージェントを一意に識別できる名前を入力します。
4. "作成" を選択すると、ダウンロード リンクが表示されます。
5. Pentaho Data Integration を使用するかどうかを決定します。

| | |
|---|---|
| Pentaho Data Integration (PDI) で使用するインストーラーのダウンロード | スクリプト化されたデータ ソース または スクリプト化されたローダ を起動するには、Pentaho Data |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Integration 9.3 を使用して、https://hitaxed1.jfrog.io/ui/native/pntpub-maven-Release/org/pentaho/di から (PDI.*zip* ファイル) をダウンロードします。 /pdi-ce/9.3.0.0-428/ :

1. "今すぐダウンロード"を選択します。
2. 確認に同意し、"続行" を選択してダウンロードを開始します。
3. 下にスクロールして "バージョン" を選択します:Pentaho 9.3。
4. "ダウンロード" を選択して Pentaho Data Integration 9.3 を選択します。
5. コンピュータ上で PDI ダウンロードを抽出します。
6. Pentaho へのフル パスをメモします。`data-integration` フォルダPDI で使用する Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャをインストールするには、このパスが必要です。

Pentaho Data Integration をインストールすると、エージェント サービスは PDI ETL 実行インスタンスのプールを管理します。

### データ エージェント インストーラーのダウンロード

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのインストーラーをダウンロードします。
2. 既存の Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャがある場合は、次のようにしてアンインストールします。
   - データ エージェント ウィンドウ サービスを停止します。
   - "スタート" > "すべてのプログラム" > "Workday Adaptive Planning データ エージェント" > "アンインストール" を選択します。データ エージェント バージョン 13.0.274 以前の場合は、"スタート" > "すべてのプログラム" > "Adaptive データ エージェント" > "アンインストール" を選択します。
3. コンピュータを再起動して、古いインストール ファイルをクリアします。

### インストーラーの実行

1. ダウンロードしたインストーラーを起動します。
2. セットアップ ウィザードを続行します。Java Environment (JE) または Java Runtime Environment (JRE) を含むフォルダを参照します。設定 `JAVA_HOME` システム環境変数がデフォルトで入力されます。
3. "機能" および "インストール フォルダ" タブが表示されるまで "次へ" を選択します。
4. Pentaho Data Integration も使用するかどうかを決定します。

### Pentaho データ インテグレーション (PDI) なしで使用するためのインストール

1. PDI を使用しない場合は 、"カスタム データをインポートするスクリプト エンジン" をオフにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | 2. "次へ" を選択してインストールを続行します。 |
| Pentaho データ インテグレーション (PDI) とともに使用するためのインストール | 1. "カスタム データ インポート用のスクリプト作成エンジン" を選択して "次へ" を選択します。<br>2. PDI のインストール フォルダを参照し、以下を選択します。 `data-integration` ディレクトリ。<br>3. "次へ" を選択してインストールを続行します。 |
| インストールの完了 | 1. インストール後に、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを起動します。<br>2. Adaptive Planning または Workday のユーザー名でログインし、"Provision a New Agent"を選択します。<br>3. "テナントとエージェント" 、次に "プロビジョニング" を選択します。<br>4. Adaptive Planning 内で "データ エージェント" ページがリフレッシュされて、 エージェントのステータスが "実行中"に更新されるまで数分待ちます。<br>重要 : コンピュータ 1 台につき持つことができる Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのインスタンスは 1 つに限られています。<br>5. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャの設定のステップが完了します。 |

## データ エージェント用に **Oracle JDK** から **OpenJDK** に交換

### 始める前に

- OpenJDK をインストールするためのローカル権限がコンピュータにあることを確認します。
- データ エージェント サービス マネージャのバージョンをメモします。
- Pentaho Kettle で使用する 64 ビットの OpenJDK ビルドをダウンロードします。

### このタスクについて

データ エージェントをアンインストールすることなく、Oracle JDK から OpenJDK (Azulzulu JDK) に交換することができます。Oracle から交換することで、Oracle JDK を使用する際のライセンス料を回避することができます。2024R1 より前では、デフォルトでは、データ エージェント インストーラーは、システム上で有効な JDK が検出されない場合、Oracle JRE をインストールしていました。

Azulzulu OpenJDKAzulzul OpenJDK のダウンロード を強くお勧めします。

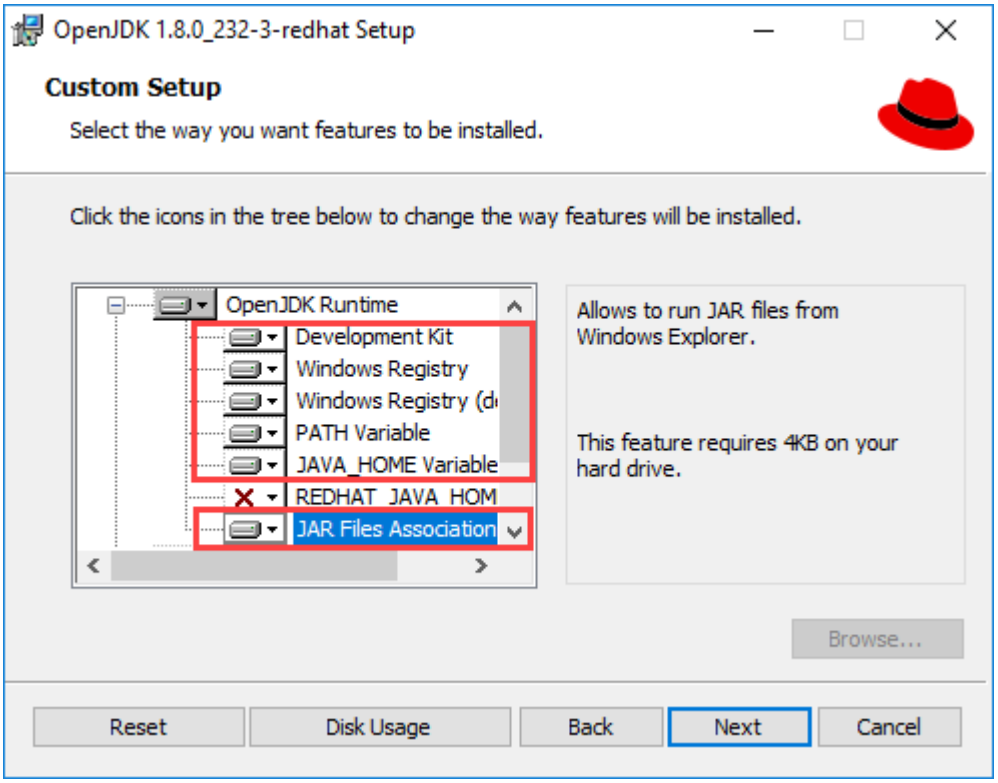
これらのステップは、ローカル コンピュータ上で実行されます。

### 手順

1. Windows サービス マネージャで Adaptive Agent Service を停止します。
2. "データ エージェント サービス マネージャ" と "Adaptive スクリプト エディタ"を終了します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. Oracle JRE/JDK をアンインストールして、コンピュータを再起動します。
4. OpenJDK をダウンロードしてインストールします (.msi または .exe)。
5. インストール ウィザードの "カスタム セットアップ" で、以下の OpenJDK インストール オプションが選択されていることを確認します。
    - *JAVA_HOME*
    - *JAR* ファイルの関連付け
    - レジストリ




6. インストールを完了します。
7. コンピュータを再起動します。
8. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを開き、既存のデータ エージェントが起動していることを確認します。

### Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャの設定

Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャをお使いのパソコンにインストールした後、起動して設定を行う必要があります。

前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション" > "データ デザイナー"
- ダウンロードして インストールした Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを確認します。
- Adaptive Planning の有効な ユーザー名とパスワードへのアクセス権があることを確認します。
- お使いのネットワークで許可されていることを確認してください `*.adaptiveplanning.com` ドメイン、およびコンピュータ上でポート 443 が開いていること。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ステップ

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを起動し、接続を確認します。
2. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを設定します。

**Workday Adaptive Planning** データ エージェント マネージャの起動と接続の確認

1. ローカル コンピュータで Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを検索して起動します。
2. ログイン プロンプトで "Diagnose and Configure Network" を選択して、設定およびクラスタ URL ダイアログを開きます。
3. ネットワークで必要な場合はプロキシ設定を行い、"プロキシ設定の更新" を選択して保存します。
4. "サービス インターネット アクセスのテスト"、"インターネット アクセスのテスト" の順に選択し、接続を確認します。
5. "クラスタ URL" を選択し、設定を確認します。デフォルトでは、管理者およびサーバー URL は以下を使用します。 Adaptive Planning `adaptiveplanning.com` ドメイン
6. 有効な ID でログインしてください Adaptive Planning ユーザー名とパスワードを入力して、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを開きます。インスタンスが Workday に対応しており、Workday のユーザーを と同期させた場合、 Adaptive Planningにアクセスするには、Workday 認証情報を使用する必要があります。Workday の認証情報を使用したデータ エージェントおよびスクリプト エディタへのログインを参照してください。
7. "サービス インターネット接続" フィールドで、サービス インターネット接続のステータスが明るい緑色で表示されていて、正常な状態になっていることを確認します。

データ エージェント マネージャの "セットアップ" タブから "リフレッシュ" を選択し、選択したサーバーへの接続を再確立します。 "Diagnose and Configure Network" を選択して、ネットワーク設定を調整することもできます。

注： Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを実行しているコンピュータは、ポート 443 を使用して .adaptiveplanning.com にアクセスできる必要があります。

(任意) アプライアンス クラスタ ベース URL の設定

"診断と構成 " ボタンを使用すると、アプライアンス クラスタ ベースの URL を設定できます。 ダッシュボード カスタム クラスタでアプライアンスとして実行します。このボタンでは、 Adaptive Planning サーバー情報変更する前に Adaptive Planning サポートにご連絡ください。

1. "このクラスタに必要なセットアップ" を選択し、クラスタ ベース URL への変更を保存します。
2. "クラスタ設定の適用" を選択し、以下への変更を保存します。 Adaptive Planning サーバー情報を復元するか、"デフォルトを復元" を選択してデフォルト値を復元します。
3. データ エージェント マネージャの "セットアップ" タブの "サービス インターネット接続" フィールドが緑色に変わり、正常な状態になっていることを確認します。

ゲートウェイ URL と地理

ゲートウェイ URL フィールドと地理フィールドは、エージェントのインストールとプロビジョニング時に自動的に入力されます。

"セットアップ" タブの "推奨アクション" がゲートウェイの地理的競合を示している場合、"クラスタ URL" タブで "地理の切り替え" ボタンがアクティブになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

重要 : ゲートウェイ設定や地理設定を変更する前に、Workday カスタマー センターでケースを作成してください。

### Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャの設定

ネットワーク接続を確立した後、以下の手順を実行します。

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャで "サービス情報とオプション" を選択します。
2. ネットワーク設定を調整しても変更を確認できない場合は、"リフレッシュ" を数回選択します。
3. 設定をレビューします。
    - リモート アクセス URL (ホストのヒント):(読み取り専用) URL は、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャとインテグレーション サーバーを接続するゲートウェイを一意的に識別します。
    - データ エージェント サービス ID: (読み取り専用) 特定のエージェント サービスを一意的に識別します。エージェント サービス ID がリモート アクセス URL に追加されると、特定のデータ エージェント サービスを指定する完全な URL が生成されます。
    - エージェント当たりの最大ディスク ストレージ (MB): 各エージェントによって抽出された情報を保存するためのメガバイト単位のディスク ストレージです。無制限の場合は「-1」を入力します。
    - Kettle ジョブ ランナーの数: このコンピュータで許可されている Kettle ジョブ ランナーの数 (通常は 1)。ランナーが多いほど RAM が使用されるため、数は少なくすることをお勧めします。
    - ジョブ ランナー当たりの最大メモリ (MB): ジョブ ランナーごとの最大メモリ (メガバイト単位)。
    - ジョブ ランナー当たりの最大テンポラリ ディスク容量 (MB): ジョブ ランナーごとの最大テンポラリ ディスク容量 (メガバイト単位)。無制限の場合は「-1」を入力します。
    - 信頼済みテナント: このコンピュータにログインせずに、インターネット経由でこのコンピュータに新しいエージェントを作成することを許可されているテナントです。"任意のテナントのユーザーがこのパソコンでエージェントを作成できる" を選択することもできます (推奨されません)。ただし、データへのアクセスを制御できない場合があります。
    - ジョブ ランナーによるファイルへのアクセスの制限: デフォルトで選択されます。データ エージェントのコントロール下でローカル ファイルへのアクセスを制限します。ファイル システムのすべてのファイルにアクセスするには、オフにします。
    - 詳細ロギング: 詳細ロギングを選択します。
    - すべての通信を記録: すべてのデータベースの入力および、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャとエージェント間のネットワーク通信を記録します。
    - 印字不可文字をスクラブ: 入力テキスト ストリームから不正な XML 文字や不要な文字を削除または変換します。必須 `scrubbingRules.txt` ファイル (不要な文字をさらに削除する場合)詳細については、次のセクション「JDBC および Microsoft Dynamics GP の入力テキスト ストリームから指定された文字を削除」を参照してください。
4. "データ エージェント サービス ログの表示" を選択してログ ファイルを表示することにより、接続の問題をトラブルシューティングします。
5. "データ エージェント サービス設定の適用" を選択して、変更を適用します。
6. データ エージェントの作成を続行します。

#### JDBC および Microsoft Dynamics GP の入力テキスト ストリームから指定された文字を削除

データ エージェントが JDBC データ ソースまたは Microsoft Dynamics GP データ ソースを介してデータをロードする場合、データは XML としてローカル ハード ディスクに書き込まれます。この XML には制御文字が含まれている場合があります。

- タブ (0x9)

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 改行 (0xA)
- キャリッジ リターン (0xD)
- その他の印字不可文字

データ エージェントは、エンコードせずにこれらの XML ファイルにデータをストリーミングします。XML 文字範囲外の制御文字がストリーミングされると、エラーが表示されます。以下を使用して、入力テキスト ストリームから不正な XML やその他の不要な文字を削除または変換できます。`scrubbingRules.txt` ファイル

1. 次の名前のテキスト ファイルを作成 `scrubbingRules.txt` で `C:\Program Files\Workday Adaptive Planning Data Agent`. データ エージェント バージョン 7.1.44 以前を使用 `C:\Program Files\Adaptive Data Agent`
2. 削除または変換する文字を以下のリストにリストします: `scrubbingRules.txt` ファイル
   - 各行には、「=」で区切られた変更前の文字と変更後の値を含める必要があります。
   - 文字を削除する場合は、変更後の値を空のままにします。各文字は Unicode 値で表されなければなりません。
   - # で始まる行はコメントとして扱われます。

   例 `scrubbingRules.txt` ファイル コンテンツ:

   ```
   #Tab, New Line and CR
   0009=
   000A=
   000D=
   #|=_
   007C=005F
   ```
3. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを起動します。
4. "サービス情報とオプション" タブを選択し、"印字不可文字をスクラブ" を選択します。
5. "データ エージェント サービス設定を適用" を選択します。

   重要：″印字不可文字をスクラブ″を選択した場合、すべての不正な XML 文字は、入力データに表示されない場合も

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

含め、入力データから消去されます。
`scrubbingRules.txt` ファイル
6. データ エージェント ウィンドウ サービスを再起動します。

"印字不可文字をスクラブ" が スクリプト化されたデータ ソースに影響を与えることはありません。スクリプト作成を使用して、必要に応じて文字を削除または変換します。

データ エージェント問題のトラブルシューティングに関連するログの検索

問題のトラブルシューティングが必要な場合や、サポートからトラブルシューティングを要求された場合は、以下でログを見つけることができます。

```
C:Windows\System32\config\systemprofile\AppData\Local\Adaptive AgentService
\Agents\<agentId>\Logs\AgentLog.txt
```

```
C:Windows\System32\config\systemprofile\AppData\Local\AdaptiveDaemon
\DaemonLog.txt
```

データ エージェントのストレージ **E** メール アラートの設定

ハードディスクが指定された空き容量の閾値を下回った場合に、1 人または複数の受信者にアラートを E メールで送信するように Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを設定できます。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

前提条件

- Workday Adaptive Planning のデータ エージェントがインストールされていることを確認します。
- 必要な権限: "インテグレーション" > "データ デザイナー"
- のユーザー名とパスワードを取得します。 Adaptive Planning"データ デザイナー" 権限を持つインスタンスのユーザー

**Adaptive** データ エージェントの **E** メールアラートのセットアップ

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを起動します。
2. でログインします Adaptive Planning ユーザー名とパスワード
3. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャで "Email Alerts" タブを選択します。
4. フィールドに入力します。
    - Alerts Enabled: E メール アラートを有効にします。オフになっている場合、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャは E メール アラートを送信しません。
    - Alert Recipients: 1 つまたは複数の E メールアドレスをセミコロンで区切って入力します。
    - SMTP Server: smtp.someservername.com など、 SMTP サーバー URL を入力します。
    - SMTP Port: SMTP サーバーに接続するためのポート (通常はポート 25) を入力します。
    - Use SSL: SSL を使用する場合、選択します。
    - User Name: SMTP サーバーにアクセスするためのユーザー名を入力します。
    - Password: ユーザー名に関連付けられたパスワードを入力します。
    - Drives to Monitor (; sep): モニタリングしたいドライブを、セミコロンで区切って入力します。
    - Threshold (MB): アラートをトリガする閾値組織をメガバイト単位で入力します。
5. これらの設定を使用して、"Send Test Email" を選択し、テスト E メールを送信します。
6. "Apply Alert Settings" を選択して、変更を適用して保存します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

## データ エージェントの作成

### 始める前に

- ローカル コンピュータに Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャが設定されていることを確認します。
- インスタンスの Adaptive Planning ユーザーのユーザー名とパスワードを取得します。

  ユーザーを Adaptive Planning に同期する Workday テナントについては、 を参照してください。Workday 認証情報でデータ エージェントおよびスクリプト エディタにログイン ( 1712ページ ) 。
- セキュリティ: "データ デザイナー" 権限

### このタスクについて

パソコン上で Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを設定した後、新しいデータ エージェントを作成できます。個々のデータ エージェントを 1 つまたは複数の JDBC またはスクリプト化されたオンプレミス データ ソースに関連付けることができます。

同じデータベースに対して複数のデータ エージェントを使用することができます。各データ エージェントは、異なるプロパティを持つことができます。また、異なるコンピュータ上のデータ エージェントを持つこともできます。たとえば、全国のオフィスで従業員が Adaptive Planning Integration を使用している会社で勤務している場合があります。各従業員は自身のコンピュータに情報を提供するデータ ソースに関連付けられているデータ エージェントを使用できます。

### 手順

1. メイン メニューから "インテグレーション > 設定""インテグレーション" を選択します。
2. コンポーネント ライブラリで "データ エージェント" を選択し、エージェントのリストを表示します。
3. "新しいデータ エージェントの作成" を選択します。
4. "データ エージェントのプロビジョニング"を選択します。
5. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを起動します (まだ開いていない場合)。
6. テナントに対するデータ デザイナー権限を持つ Adaptive Planning ユーザーとしてログインします。

   ユーザーを Adaptive Planning に同期する Workday テナントについては、Workday の認証情報でデータ エージェントにログインするを参照してください。
7. "Provision a New Agent"を選択します。
8. Adaptive Planning のパスワードを入力します。
9. リストからテナントを選択します。

   通常、1 つのテナントのみが表示されます。各顧客には、すべての構成とデータを含む専用のデータベース スキーマを持つテナントがあります。テナントは、Adaptive Planning アーキテクチャのインスタンスの概念と同じです。
10. "エージェント名" ドロップダウン リストで、プロビジョニングするエージェントを選択します。
11. "プロビジョニング" を選択し、Adaptive Planning のパスワードを入力します。
12. "OK"を選択します。

    この時点で、データ エージェントは、オンプレミスのソース システムおよび Adaptive Planning Integration と通信することができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

13. データ デザイナーで "設定の更新" を選択し、クラウド上のエージェント関連のプロパティとオンプレミスの Adaptive Planning データ エージェントを同期させます。
    - オンプレミス エージェントのインメモリの AgentConfig インスタンス オブジェクトがリフレッシュされます。
    - プロパティが更新されると、エージェント デバイスの設定と、対応するクラウド上のエージェント プロパティがリフレッシュされます。

データ エージェントのバックアップと復元

エージェントの設定後、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを構成して、エージェントのバックアップを行います。

前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション" > "データ デザイナー"
- 使用するコンピュータの管理権限があることを確認します。
- のユーザー名とパスワードを取得します。 Adaptive Planning インスタンスのユーザー
- Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを起動します。
- 以下を入力します。 Adaptive Planning ユーザー名とパスワード

データ エージェントのバックアップ

すべてのデータ エージェントを一括でバックアップしたり、個々のデータ エージェントを 1 つずつバックアップしたりできます。

すべてのエージェントの一括バックアップ

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャで "Backup/Unprovision" タブを選択します。
2. ディレクトリ選択ダイアログで "Backup Destination Folder" を選択するか、フィールドにパスを入力します。最初からやり直すには、"Clear" を選択して、ディレクトリ パスを削除します。
3. "Full Backup Now" を選択すると、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャは、すべてのデータ エージェントおよび関連情報を指定されたバックアップ フォルダにバックアップします。

データ エージェントの個別バックアップ

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャで "Backup/Unprovision" タブを選択します。
2. "Select Active Agent" ドロップダウンでデータ エージェントを 1 つ選択します。
3. "Backup Now" を選択すると、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャは、指定されたデータ エージェントと関連情報をバックアップ フォルダにバックアップします。

データ エージェントの復元

すべてのデータ エージェントを一括復元するか、個別復元するかのオプションが提供されています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

すべてのデータ エージェントの一括復元

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャで "Backup/Unprovision" タブを選択します。
2. ディレクトリ選択ダイアログボックスで "Full Restore Source Folder" を選択して、復元するディレクトリを選択します。
3. バックアップ実行時に使用したバックアップ パスワードを入力します。"Get Backup Password" を選択して、バックアップ パスワードに対応する暗号化されたパスワードのバージョンを から取得することもできます。 Adaptive Planning インテグレーション サーバー

   注 : バックアップ パスワードは、バックアップの暗号化キーとして機能します。このパスワードは、ローカルで作成されたバックアップごとに、このインテグレーション サーバーで保存されます。
4. "Full Restore Now" を選択すると、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャが、すべてのデータ エージェントおよび関連情報を指定された復元フォルダに復元します。

データ エージェントの個別復元

1. Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャで "Backup/Unprovision" タブを選択します。
2. ディレクトリ選択ダイアログ ボックスの "Select Agent Backup to Restore From" を選択して、復元するバックアップ ファイルを選択します。
3. バックアップ実行時に使用したバックアップ パスワードを入力します。
4. "Restore Now" を選択すると、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャが、指定されたデータ エージェントと関連情報を復元します。

データの常駐要件とドメインのアクセス

データ エージェントは、すべてと通信できる必要があります。 Adaptive Planning ドメイン名「*.adaptiveplanning.com」をポート 443 (暗号化された SSL ポート) で送信する。組織の社内ネットワークにファイアウォールおよび/または HTTP プロキシ、またはその両方が含まれている場合、ファイアウォール/HTTP プロキシ設定で、エージェント サービスのユーザー アカウントに へのアクセスを許可する必要があります。 Adaptive Planning サーバー

ポート 443 でのすべての「*.adaptiveplanning.com」ドメインを許可することは、ヨーロッパ、オーストラリア、カナダで発信されたデータが、完全に該当地域内のサーバーに確実に格納されるうえでの要件です。ポート 443 ですべての「*.adaptiveplanning.com」の接続を許可しない場合、トラフィック バランシングやデータ主権の変更は実行できません。

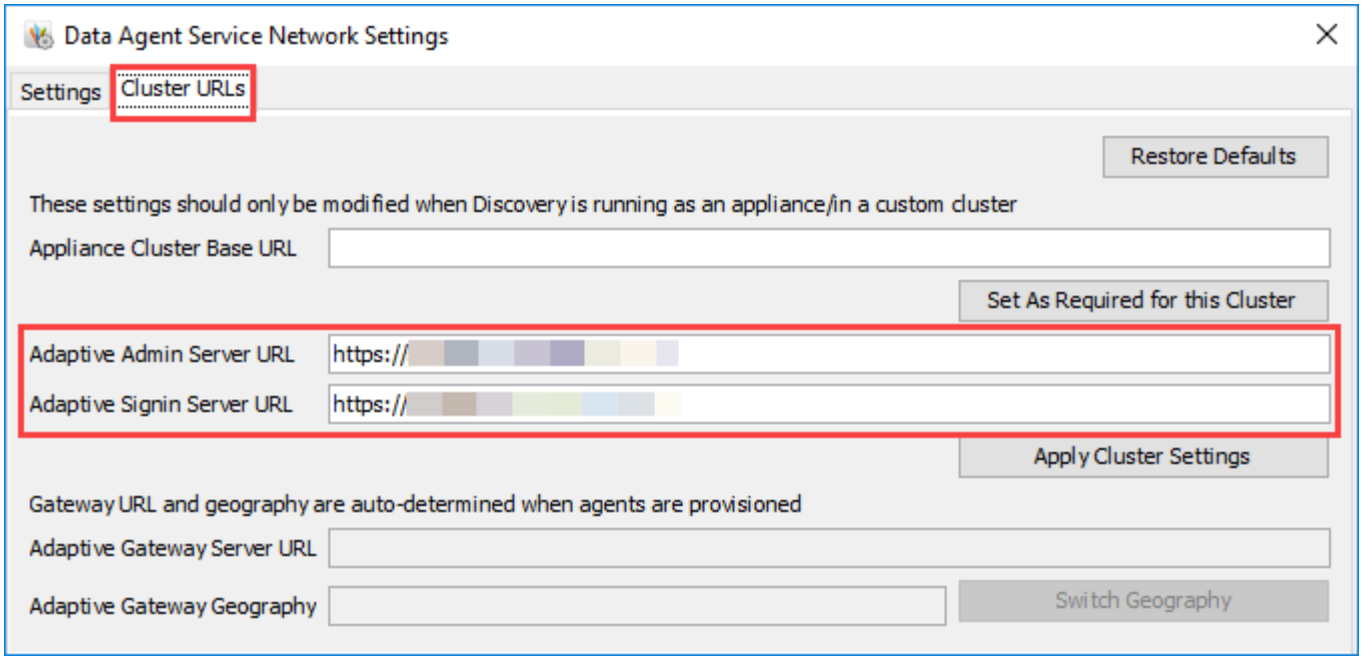
エージェント サービスを実行するマシン 1 台では、複数の地域のテナントにサービスを提供することはできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

地域認証と **API** ゲートウェイへのデータ エージェントの接続

地域の認証および API ゲートウェイに接続するには、ローカル コンピュータ上の Adaptive データ エージェントの Adaptive 管理サーバー URL と Adaptive サインイン サーバー URL を更新します。

注：インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL（29ページ）。




前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション" > "データ デザイナー"
- ローカル コンピュータに Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャがインストールされていることを確認します。
- インスタンスの Adaptive Planning ユーザーのユーザー名とパスワードを取得します。

**Adaptive** 管理およびサインイン サーバー **URL** の変更

1. ローカル コンピュータ上で Workday Adaptive Planning のデータ エージェント を起動します。データ エージェントがバージョン 7.1.44 以前の場合は、ローカル コンピュータ上で Adaptive データ エージェントを起動します。
2. ログイン ダイアログで "Diagnose and Configure Network" を選択します。
3. "クラスタ URL" タブを選択します。
4. Adaptive 管理サーバー URL と Adaptive サインイン サーバー URL に新しい URL を入力します。
5. "クラスタ設定の適用" を選択します。
6. "Diagnose and Configure Network" ダイアログを閉じます。
7. ユーザー名とパスワードを Adaptive データ エージェント ログイン ダイアログに入力して、ログインします。

**Workday** 認証情報でデータ エージェントおよびスクリプト エディタにログイン

この記事の一部のリンクは Workday Community に移動します。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。

次の条件を満たす場合、エージェントの作成時に Workday 認証情報で Adaptive データ エージェントにログインすることができます。

- Workday テナントからユーザー同期が完了する。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- データ エージェントの API クライアントを登録し、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャにその情報を提供する。

このプロセスでは、次の 2 つの異なる Workday API 登録付与タイプが必要です。

- Adaptive Planning ユーザーによるユーザー インターフェイス ログインのために、データ エージェントをプロビジョニングするための認証コード付与。
- エージェントをプロビジョニングした後、Adaptive Planning ユーザー インターフェイス ログインに依存しないインテグレーション サービス アカウントとして、非ユーザー インターフェイス トークンに対する JWT Bearer 付与が行われます。

前提条件

Adaptive Planning の場合

セキュリティ: "データ デザイナー" 権限

Workday の場合

- API クライアントを登録するには、セキュリティが必要です。
- "テナント設定 " レポートの "Adaptive Planning" タブで公開 API を有効化します。ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定を参照してください。
- Data Agent v12.0.240 以降の場合は、ISU を作成します。ステップ: ユーザーの同期後に Planning データ ソースを有効にする のISU のステップを参照してください。

  データ エージェント 12.0.240 以降では、サインインするユーザーに Workday の *"Setup: Adaptive Planning API Access"* ドメイン セキュリティ ポリシーは必要ありません。
- ISU を Adaptive ISU セキュリティ グループに割り当てます。

データ エージェントおよび Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャをホストするネットワークの場合

- ファイアウォールおよびネットワーク設定が Workday IP アドレスにアクセスできることを確認します。参照 Adaptive Planning のドメインおよび IP アドレス ( 2762ページ ) 。

**Workday Adaptive Planning** データ エージェント マネージャに **Workday API** クライアントの詳細を入力

1. Workday テナント設定の "Adaptive Insights" タブ内で、"公開 API の有効化" がオンにされていることを確認します。
2. 特にデータ エージェントのために Workday で API クライアントを登録します。これには Bearer アクセス トークンと "承認コード付与" を使用します。この認証コード付与は、エージェント サービスへのログイン、およびユーザー インターフェイスでのエージェントのプロビジョニングに使用されます。API クライアントの登録を参照してください。
   a. "無期限のリフレッシュ トークン"を選択します。
   b. 適用範囲 (業務分野) を "システム" に設定し、"Adaptive Planning"を追加します。
   c. "OK" を選択すると、キー、シークレット、および新しいインテグレーション クライアントを識別するその他の詳細情報が生成されます。
   d. 認証エンド ポイント、トークン エンド ポイント、クライアント ID、 および クライアント シークレット をコピーし、データ エージェント マネージャが起動したら入力します。
3. ローカル コンピュータ上で Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを開始します。
4. "Diagnose and Configure Network" を選択します。
5. "Workday" タブを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. API クライアントを Workday で登録した時に生成された以下の情報を入力します。
    - 認証エンド ポイント
    - トークン エンド ポイント
    - Workday からコピーされたクライアント ID
    - Workday からコピーされたクライアント シークレット
    - リダイレクト URL は、 リダイレクト URI と一致している必要があります `https://www.workday.com` API クライアントの登録時に入力したもの。
7. "Sign in with Workday" を選択し、データ エージェント マネージャにサインインします。

    データ エージェント 12.0.240 以降では、サインインするユーザーに Workday の "Setup: Adaptive Planning API Access" ドメインのセキュリティ ポリシーは必要ありません。
8. データ エージェント 12.0.239 以前を使用している場合は、ここまでです。データ エージェント 12.0.240 以降の場合は、次のステップに進みます。
9. "Diagnose and Configure Network Options"を選択します。
10. "Workday インテグレーション" タブを選択します。
11. "Workday インテグレーション " タブを設定し、データ エージェント用に Workday で API クライアントを登録します。API クライアントの登録を参照してください。API クライアントを登録するとき、Adaptive Planning ユーザー インターフェイス ログイン ユーザーに依存しないユーザー インターフェイス以外のトークン交換には、JWT Bearer アクセス トークンを使用します。
    a. "x509 Certificate" セクションで "Create x509 Public Key"を選択して名前を指定し、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャの "Workday インテグレーション" タブからコピーした 証明書 を貼り付けます。
    b. 適用範囲 (業務分野) を "システム" に設定し、"Adaptive Planning"を追加します。
    c. "OK" を選択すると、クライアント ID、トークン エンド ポイント、および新しいインテグレーション クライアントを識別するその他の詳細情報が生成されます。
    d. クライアント ID と トークン エンド ポイントをコピーします。Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを開始すると、これらが必要になります。
12. Workday で "JWT Bearer" アクセス トークンの API クライアントを登録したときに生成された以下の情報を入力します。
    - クライアント ID (Workday からコピー)。
    - Workday の > テナント > 設定 からコピーされたISU(Adaptive Planning 公開 API)。必要に応じて、管理者に ISU の提供を依頼します。
    - Workday からコピーされたトークン エンド ポイント。
    - 証明書 (読み取り専用)。
13. "Workday インテグレーション設定の適用"を選択します。

### Workday 認証情報で Adaptive スクリプト エディタにログイン

データ エージェントの API クライアント情報を入力すれば、それを Adaptive スクリプト エディタの Workday タブにコピーすることができます。

1. ローカル コンピュータ上で Adaptive スクリプト エディタを起動します。"Adaptive Data Agent">"Adaptive Script Editor"に移動します。
2. スクリプト エディタで "Workday" タブを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. データ エージェントから以下のフィールドに貼り付けます。
    - 認証エンド ポイント
    - トークン エンド ポイント
    - クライアント ID (Workday からコピー)
    - クライアント シークレット (Workday からコピー)
    - リダイレクト URL は、 リダイレクト URI と一致している必要があります `https://www.workday.com` API クライアントの登録時に入力したもの。
4. "インテグレーション " タブを選択します。
5. "Sign In with Workday"を選択します。
6. Workday 認証情報を入力します。
7. データ エージェント 12.0.239 以前を使用している場合は、ここまでです。
8. データ エージェント 12.0.240 以降の場合は、"Workday インテグレーション" タブを設定します。
9. Workday で "JWT Bearer" アクセス トークンの API クライアントを登録したときに生成された以下の情報を入力します。
    - クライアント ID (Workday からコピー)。
    - Workday の > テナント > 設定 からコピーされたISU(Adaptive Planning 公開 API)。必要に応じて、管理者に ISU の提供を依頼します。
    - Workday からコピーされたトークン エンド ポイント。
    - 証明書 (読み取り専用)

### Workday 認証情報で Adaptive スクリプト エディタの Adaptive Planning Input および Output プラグインのインストール

スクリプト エディタ内の Adaptive Planning Input および Output プラグインは、ユーザー インターフェイスを介さずに実行されます。Adaptive Planning Input および Output プラグインでは毎回サインインしないため、JWT bearer の付与とインテグレーション システム ユーザー (ISU) が必要です。

1. ローカル コンピュータ上で Adaptive スクリプト エディタを開いてサインインします。
2. 新しい変換またはジョブを作成、または既存のものを開きます。
3. Adaptive Planning Output または Adaptive Planning Input プラグインをドラッグし、右クリックして "編集"を選択します。
4. "Instance Connection" タブで、"Login method" を "Workday"に変更します。
5. "証明 書" フィールドの内容をすべてコピーします。この証明書は、このプラグインが Workday と通信するために認証済みであるこ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | とを識別します。Workday で API クライアントの登録とエディタ プラグインの設定を完了するまで、スクリプト エディタを閉じないでください。 |
| Workday で API クライアントを登録 | 1. ブラウザを開いてスーパー ユーザーとして Workday にサインインします。<br>2. Workday で "API クライアントの登録"を検索します。<br>3. "クライアントの付与タイプ" を "JWT Bearer Token" に設定します。<br>4. "x509 Certificate" セクションで、"Create x509 Public Key" を選択して名前を指定し、Adaptive Planning データ エージェント サービス マネージャの "Workday インテグレーション" タブからコピーした証明書を貼り付けます。<br>5. "適用範囲" を "Adaptive Planning"に設定します。<br>6. 以下を入力します。 `https://www.workday.com` "リダイレクト URL"に「.」を入力します。<br>7. "OK" を選択して保存し、 クライアント ID と トークン エンド ポイント をコピーできるように、このページを開いたままにします。 |
| スクリプト エディタでプラグインのセットアップを完了 | API クライアント ID、トークン エンド ポイント、および ISU を使用してプラグインのセットアップを完了します。<br>1. Adaptive スクリプト エディタに戻り、" クライアント ID" および "トークン エンド ポイント" を Workday から貼り付けます。<br>2. Workday の > テナント > 設定 からコピーされたISU(Adaptive Planning 公開 API)。必要に応じて、管理者に ISU の提供を依頼します。ISU の作成の詳細については 、ステップ: Adaptive Planning にデータをインポートするための Workday の設定 を 参照してください。<br>3. "OK" を選択して保存します。 |

### ユーザーの同期と既存のデータ エージェント

Workday とのユーザー同期を実行する前と後に以下のステップを実行することで、データ エージェントが中断されることなく実行し続けるようにします。

#### ユーザー同期の実行前

Workday とのユーザー同期を実行する前に、データ エージェント マネージャをアップグレードして、既存のデータ エージェント バージョンが 12.0.240 以降になるようにし、以下の手順に従って Workday タブを設定します。Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのアップグレードを 参照してください。

1. ローカル コンピュータ上で Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを開始します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. "Diagnose and Configure Network" を選択します。
3. "Workday" タブを選択します。
4. API クライアントを Workday で登録した時に生成された以下の情報を入力します。
    - 認証エンド ポイント
    - トークン エンド ポイント
    - クライアント ID (Workday からコピー)
    - クライアント シークレット (Workday からコピー)
    - リダイレクト URL は、 リダイレクト URI と一致している必要があります `https://www.workday.com` API クライアントの登録時に入力したもの。

ユーザー同期の実行後

ユーザーの同期後に "Workday インテグレーション" タブを設定します。

1. "Workday インテグレーション" タブを選択します。
2. JWT Bearer アクセス トークンを使用して、データ エージェント用に Workday で API クライアントを登録します。API クライアントの登録を参照してください。
    a. x509 公開キー を作成し、Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャの "Workday インテグレーション " タブからコピーした 証明書 を貼り付けます。
    b. 適用範囲 (業務分野) に "システム" と "Adaptive Planning" を設定します。
    c. "OK" を選択すると、クライアント ID、トークン エンド ポイント、および新しいインテグレーション クライアントを識別するその他の詳細情報が生成されます。
    d. クライアント ID、ISU、 トークン エンド ポイントをコピーします。Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを開始すると、これらが必要になります。
3. ローカル コンピュータ上で Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを開始します。
4. "Diagnose and Configure Network" を選択します。
5. "Workday インテグレーション" タブを選択します。
6. Workday で "JWT Bearer" アクセス トークンの API クライアントを登録したときに生成された以下の情報を入力します。
    - クライアント ID (Workday からコピー)。
    - Workday の > テナント > 設定 からコピーされたISU(Adaptive Planning 公開 API)。必要に応じて、管理者に ISU の提供を依頼します。
    - Workday からコピーされたトークン エンド ポイント。
    - 証明書 (読み取り専用)。
7. データ エージェントを起動して "Sign in with Workday" を選択しサインインします

**Workday Adaptive Planning** データ エージェント マネージャのアップグレード

始める前に

- セキュリティ: "データ デザイナー" 権限。
- アップグレードが必要な Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャを含むコンピュータでインストールを行うための管理者権限があることを確認します。
- コンピュータが最小の技術要件を満たしていることを確認します。参照 参考: インテグレーション データ エージェントの技術要件 ( 1719ページ )
- ローカル コンピュータに Kettle をインストールした場合、そのインストール ディレクトリをメモします。

このタスクについて

データ エージェント サービスのインストール後は、リリースされるたびに新しいバージョンにアップグレードできます。インテグレーション内の "データ エージェント" ページに新しいバージョンのダウンロードが掲載されます。Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャが実行されるパソコ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ンに新しいバージョンをダウンロードしてインストールします。また、ソフトウェア開発キット (SDK) を使用してカスタム コネクタを開発し、それらをエージェント サービスに展開することもできます。

ビデオを見る: 1 分 59 秒

手順

1. 既存のデータ エージェントをアンインストールし、再起動することで、古いインストールファイルをクリアします。

   データ エージェント ウィンドウ サービスを停止します。

   "すべてのプログラム > を開始する > ""Workday Adaptive Planning" "データ エージェント > のアンインストール" を選択します。

   データ エージェント バージョン 13.0.274 以前の場合は、"開始" > "すべてのプログラム" > "Adaptive データ エージェント" > のアンインストール"を選択します。
2. (任意) 最新バージョンの Pentaho をダウンロードします。

   Pentaho Data Integration (Kettle) を使用している場合は、最新バージョンを からダウンロードできます。 https://www.hitachivantara.com/en-us/products/pentaho-plus-platform/data-integration-analytics/pentaho-community-edition.html。Pentaho へのフル パスをメモします。 `data-integration` フォルダKettle とともに使用するデータ エージェント サービス マネージャをインストールするには、このパスが必要です。
3. 最新の Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのインストーラーをダウンロードします。

   移動先 Adaptive Planning "インテグレーション > 設定" "インテグレーション" に変更し、" コンポーネント ライブラリ"から既存のデータ エージェントを選択します。"アクション" ペインで "最新のエージェントをダウンロード" をクリックします。
4. インストーラーを実行します。

   注 : データ エージェントの証明書の発行元は 2020 年 7 月に更新されました。それ以降にデータ エージェントを更新していない場合、新しいインストールを実行すると、認識されないアプリに関するプロンプトが Windows に表示される場合があります。インストールを続行するには、以下を行います。

   - プロンプトで "詳細" をクリックし、アプリおよび発行元を表示します。
   - "実行" をクリックして更新済み発行元に同意し、インストールを続行します。
5. セットアップ ウィザードを続行します。

   Java Environment (JE) または Java Runtime Environment (JRE) へのフォルダ パスは自動で入力されます。入力されない場合は、Java Environment (JE) または Java Runtime Environment (JRE) を含むフォルダを参照します。設定 `JAVA_HOME` システム環境変数がデフォルトで入力されます。
6. "機能" および "インストール フォルダ" タブが表示されるまで "次へ" を選択します。
7. Pentaho Data Integration (Kettle) を使用しない場合は、次のステップに進んでください。

   Pentaho Data Integration (Kettle) を使用する場合は、"カスタム データ インポート用のスクリプト エンジン" が自動的に選択されます。Kettle のインストール フォルダを参照して以下を選択します。 `data-integration` ディレクトリにアクセスし、"次へ" を選択してインストールを完了します。
8. データ エージェントを起動します。

   内でデータ エージェント ページがリフレッシュされるまで数分待ちます Adaptive Planning をクリックし、 エージェントのステータスが "実行中"に更新されるようにします。

概念: データ エージェント

注 : NetSuite Basic は、推奨されるインテグレーション方式ではなくなりました。最適なパフォーマンスと最新の機能へのアクセスのために、NetSuite インテグレーションへの移行をお勧めします。NetSuite インテグレーションの詳細については、 を参照してください 概念: NetSuite との連携 ( 2070ページ )。

データ エージェントは、以下の目的でコンピュータにインストールする拡張可能なコンポーネントです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 以下から情報を抽出します。
  - JDBC 準拠のデータベース
  - スクリプト化されたデータ ソース
  - 他のデータ ソースにアクセスできないリモートおよびオンプレミスのソース
- アプリケーションへの安全なアクセスを提供し、Adaptive Planning インスタンスへの接続を管理します。

注 : Adaptive Planning データ エージェントは、オンプレミス データベースにのみ接続します。エージェントを使用したクラウド データベースへの接続はサポートされていません。

### **Workday Adaptive Planning** データ エージェント マネージャ

Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのインストールには、デスクトップ ユーティリティである Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャが含まれており、以下を可能にします。

- Java アプリケーションとしてインストールし、Windows サービスとして実行します。
- データ エージェント サービスを設定できるようにします。
- ファイアウォールの背後からデータ エージェントを管理します。
- リクエストした特定のデータへのアクセスを提供します。

インストールするデータ エージェント サービスの各インスタンスは、1 つまたは複数のデータ エージェントをホストします。

### **Adaptive Planning** ゲートウェイ

データ エージェント サービスを実行すると、Adaptive Planning ゲートウェイが長期間ポーリングされます。ゲートウェイは以下を実行します。

- ファイアウォールを介してデータ エージェント サービスへの通信を仲介するサーバーとして実行します。
- サービスによってホストされるすべてのデータ エージェントに代わって Adaptive Planning からリクエストを受信します。

relatedlinks
タスク
ステップ: スクリプト化されたデータ ソースの設定 ( 1678ページ )
Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャのインストール ( 1701ページ )
Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャの設定 ( 1704ページ )
データ エージェントの作成 ( 1709ページ )

参考: インテグレーション データ エージェントの技術要件

データ エージェント

データ エージェントは、Adaptive Planning カスタマーのオンプレミス サーバーで実行されるインテグレーションのコンポーネントです。データ エージェントは、JDBC 準拠のデータベースまたはカスタム スクリプト化されたデータ ソースから情報を抽出します。また、データ エージェントは Adaptive Planning からデータをエクスポートします。データ エージェントにはカスタマーのファイアウォールの背後に展開された Windows を実行するコンピュータが必要であり、ホストされたサービスとして実行されます。データ エージェントは、オンプレミス アプリケーションへのアクセスと、クラウド上の Adaptive Planning への接続を管理します。

データ エージェント サービス (エージェント サービス) は、データ エージェントを管理します。このサービスは Windows サービスとして実行され、カスタマーのファイアウォールの背後にインストールされた Java アプリケーションを起動します。エージェント サービスは、Adaptive Planning ゲートウェイを長期間ポーリングします。ゲートウェイ サーバーは、ファイアウォールを介してエージェント サービスのオ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

ンプレミス インスタンスへの通信を仲介します。このゲートウェイは、サービスのそのインスタンスによってホストされるすべてのデータ エージェントに代わって Adaptive Planning サーバーからリクエストを受信します。エージェント サービスのインストールされた各インスタンスは、複数のデータ エージェントをホストできます。

インストールには Workday Adaptive Planning データ エージェント マネージャが含まれます。これは、カスタマーがエージェント サービスを最初に設定および構成するために使用するデスクトップ ユーティリティです。インストールにはオプションで Pentaho Kettle と Kettle ETL Designer である Spoon が含まれます。オプションの Pentaho Kettle コンポーネントが使用されている場合、エージェント サービスは Kettle ETL 実行インスタンス (ジョブ ランナー) のプールを管理します。各実行インスタンスは、独自のプロセスで実行される Java 仮想マシンです。エージェント サービスは、起動するすべての Kettle ETL スクリプトを独立したジョブ ランナーに委任します。Adaptive Planning には、Spoon 環境と Adaptive Planning Integration 間のデザイン タイム接続を可能にするプラグインが用意されています。これらのプラグインにより、Adaptive Planning のクラウド インスタンスへの認証、クラウドへのスクリプトのパブリッシュ、および Kettle UI 内からのスクリプト ベースのインテグレーションのテストが可能になります。オプションの Pentaho コンポーネントは、Pentaho Kettle スクリプトを使用してデータを抽出することが要求されている場合にのみ必要です。データ エージェントが Adaptive Planning JDBC データ ソースを使用して JDBC 準拠のデータベースからデータを抽出する場合、これらのコンポーネントは必要ありません。

オンプレミス データ エージェントは、エージェント UI を使用してクラウドから管理および制御されます。エージェント UI は Adaptive Planning データ デザイナーの一部であり、Web ブラウザからアクセスします。データ デザイナーでエージェントが作成されると、オプションの Pentaho Kettle コンポーネントと共に、データ エージェントの最新バージョンをダウンロードしてインストールできます。エージェント UI は、エージェントの現在のステータスとバージョンの詳細を表示し、カスタマーがデータ エージェントをプロビジョニング/プロビジョニング解除/一時停止/再開できるようにします。エージェント UI を介してデータ エージェントのより新バージョンにアップグレードすることもできます。インテグレーションの概念を参照してください。

### 技術仕様

データ エージェントが存在するマシンには、次の技術仕様が推奨されています。正確な仕様はデータ量に依存するため、Adaptive Planning のプロフェッショナル サービスのコンサルタントと検証する必要があります。

オペレーティング システム

対応するプラットフォーム:

- Windows 2022 Server
- Windows 2019 Server
- Windows 2016 Server
- Windows 11
- Windows 10

Pentaho Kettle および Java バージョンのデータ エージェント サポート:

| データ エージェントのバージョン | Java バージョン (64 ビット推奨) | Pentaho データ インテグレーション (Kettle) バージョン |
|---|---|---|
| 2025R1 データ エージェント v19 | OpenJDK 11, Azul Zulu OpenJDK 11 | 9.3 |
| 2024R2 データ エージェント v18 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.3 |
| 2024R1 データ エージェント v17 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.3 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| データ エージェントのバージョン | Java バージョン (64 ビット推奨) | Pentaho データ インテグレーション (Kettle) バージョン |
|---|---|---|
| 2023R2 データ エージェント v16 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.3 |
| 2023R1 データ エージェント v15 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.3 |
| 2022R2 データ エージェント v14 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.3 |
| 2022R1 データ エージェント v13 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.3 |
| 2021R2 データ エージェント v12 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.3 |
| 2021R1 データ エージェント v12 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.2 |
| 2020R2 データ エージェント v10 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.2 |
| 2019.3 データ エージェント v8 | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 8.2 |
| 2017.1 データ エージェント v6 および v7x | OpenJDK 8, Azul Zulu OpenJDK 8 | 6.1 |
| v6 より前の従来のデータ エージェント - サポートされていません | サポートされていません | サポートされていません |

Kettle スクリプトを使用しない場合は、Java バージョン 11 を使用することもできます。

ディスク容量

データ エージェントをインストールし、一時ファイルおよびキャッシュ データを保存するための容量として、C ドライブに 60GB の空き容量を確保することをお勧めします。別のドライブを代わりに使用することはできません。

- データ エージェント専用に少なくとも 2GB が必要です。
- 一時ファイルおよびキャッシュ データに必要な追加のディスク容量は、実装状況によって異なります。

メモリ

少なくとも 8GB を推奨しています。仮想マシンを使用してデータ エージェントをホストする場合、12GB を推奨します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 接続性 | データ エージェントは、HTTPS を使用して Adaptive Planning サーバーと通信します。ポート 443 (HTTPS のデフォルト ポート) は、データ エージェント サービス マネージャによって Adaptive Planning サーバーおよび他の Web ベースのソースと通信するために使用されます。 |
| 地理 | エージェント サービスを実行するマシン 1 台では、複数の地域のテナントにサービスを提供することはできません。 |
| ドメインによるアクセス制限 | トラフィックのバランス処理およびデータ主権/データ常駐管理には、へのアクセス権が必要です。 `*.adaptiveplanning.com` ドメイン |

ローダ
ローダの実行

ローダ を手動で実行するには、ローダ自体から実行するか、インテグレーション タスクの一部として実行します。

前提条件
ローダ内部から手動でローダを実行

- 必要な権限: "モデル"、"インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"
- ローダにデータ ソースがあることを確認します。
- ローダのマッピングを確認します。

インテグレーション タスクからローダを手動で実行

- 必要な権限: "インテグレーション オペレーター"
- "インテグレーション" > "データ デザイナー" の権限を持つ人物が、表示するタスクの 設定を設定していること を確認します。
- "インテグレーション" > "データ デザイナー" の権限を持つ人物が、実行したいタスクの 起動権限を付与されたことを確認します。

ローダ内部から手動でローダを実行

1. ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。
2. "コンポーネント ライブラリ" でローダを選択します。
3. ローダの設定を確認します。
4. (任意) 読み込みエラーを確認するには、"アクション" ペインで "ローダ出力のプレビュー" を選択します。
5. "アクション" ペインで "手動で実行" を選択します。
6. (任意) ステージング テーブルを使用せずにデータ ソースから直接読み込む場合は、"データ インポートをバイパス" を選択します。スプレッドシートやスクリプトを使用したローダでは使用できません。このオプションは、ソース システムが頻繁に更新され、ステージング テーブルがローダの実行中に期限切れになる場合に役立ちます。

インテグレーション タスクからローダを手動で実行

1. ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "タスクの実行" へ移動します。
2. ローダ タスクをダブルクリックします。
3. "実行" を選択します。
4. 必要なパラメータを入力します。
5. (任意) ステージング テーブルを使用せずにデータ ソースから直接読み込む場合は、"データ インポートをバイパス" を選択します。スプレッドシートやスクリプトを使用したローダでは使用でき

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ません。このオプションは、ソース システムが頻繁に更新され、ステージング テーブルがローダの実行中に期限切れになる場合に役立ちます。
6. "実行履歴" を選択すると、実行時間、期間、ステータスを確認できます。

ローダが自動的に実行されるようにスケジュール設定
また、インテグレーション タスクの一部としてローダを自動的に実行するようにスケジュール設定することもできます。スケジュール設定されたローダでは、データのインポートをバイパスすることはできません。

インテグレーション タスクの作成を参照してください。

スクリプト化されたローダの作成

スクリプト化されたローダは、ETL スクリプトを使用して複雑な計算や分析を実行します。

スクリプト化されたローダは、異なる送信ステップを使用するという点で、スクリプト化されたデータ ソースとは異なります。スクリプト化されたローダには以下の 2 つのタイプの送信があります。

- ダッシュボード の設定の更新
- ダッシュボード メトリックの送信。

メトリックの送信は、スクリプト化されたデータ ソースよりも前のメトリックを更新するためのメカニズムです。データはメトリック データストアに直接送信されます。ステージング領域は使用されません。

注 : スクリプト化されたローダは、Planning への送信、および、Planning からのエクスポートにも使用できます。

スクリプト化されたローダを新規作成する方法

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" に移動し、データ デザイナーにアクセスします。
2. 画面の右側にある "コンポーネント ライブラリ" の "ローダ" フォルダから、"新しいローダの作成" をクリックします。"新規作成" ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ローダ タイプとして "スクリプト化されたローダ" を選択し、ローダの名前を入力します。
4. "作成" をクリックします。画面の中央エリアに新規ローダの設定およびその他の情報が表示されます。
5. スクリプト化されたローダの情報を入力します。
    - 関連エージェント: ドロップダウン リストからデータ エージェントを選択します。
    - エントリ ポイント: ドロップダウン リストからスクリプトを選択します。
    - ログ レベル: ドロップダウン リストからログ レベルを選択し、このデータ ソースをどこまで詳細に記録するかを指定します。次のオプションがあります。
        - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
        - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
        - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くのログ情報が生成される可能性があります。)
6. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

ローダの基本設定を保存したら、パラメータを追加できます。パラメータを使って、スクリプトに実行時情報を渡すことができます。

ローダにパラメータを追加するには:

1. パラメータを "パラメータ" メニューからドラッグして、"メトリック設定" テーブルにドロップします。
2. "アクション" メニューから、"保存" をクリックします。

パラメータの追加と更新

スクリプト化されたローダのパラメータの追加や変更ができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

パラメータを追加するには:

1. "パラメータ" の見出しの右側にあるパラメータを編集アイコンをクリックします。
2. 左ペインの、パラメータを追加したいフォルダをクリックします。

   フォルダ名が右ペインに表示されます。
3. "追加" をクリックし、フローティング メニューに表示される以下のオプションの 1 つを選択します。
   - フォルダ: 新規フォルダを作成します。
   - ブール値: ブール値のパラメータ (true/false) を作成します。
   - 整数: 整数のパラメータを作成します。
   - テキスト: テキスト値のパラメータを作成します。
   - パスワード: パスワードのパラメータを作成します。
   - 期間 範囲: の時間構造から期間を使用して、期間範囲パラメータ (開始日と終了日) を作成します。 Adaptive Planning。
4. 右ペインで、選択したオプションの情報を入力します。
5. "適用" をクリックします。

個々のパラメータを変更するには、変更するアイテムを左ペインでダブルクリックし、フィールド内の情報を変更します。変更が終了したら "適用" をクリックして変更を保存します。

フォルダを作成してパラメータをグループ化し、パラメータをフォルダにドラッグできます。

カスタム クラウド ローダの作成

重要 : カスタム クラウド ローダを作成するには、JavaScript のプログラミングに関する十分な知識と経験が必要です。経験豊富な JavaScript プログラマーを利用できない場合は、カスタム クラウド ローダの作成を開始してはいけません。カスタム クラウド ローダを作成する前に、"管理" > "権限セット" の "インテグレーション開発者" 権限を割り当てる必要もあります。

カスタム クラウド ローダでエクスポートできるのは Adaptive Planning 計画データをサードパーティのクラウド システムに直接送信する。

ビデオを見る: 3 分 16 秒

基本ステップ

1. データ ソース設定を入力します。
2. パラメータを定義します。
3. 以下の CCDS API を使用して JavaScript を書き込みます。 ai 名前空間 ( 1827ページ )。
4. ビジネス ルールを定義します。
5. ローダを実行またはスケジュール設定します。

前提条件

- インテグレーション開発者権限があることを確認します。
- 次のことを確認してください Adaptive Planning エクスポートしたい 計画データは、ステージング テーブルにすでに存在します。
- 外部システムの OAuth 認証情報を作成するか、JavaScript に明示的に含めることができる認証情報を取得します。
- 外部システムに転送する必要があるパラメータが何であり、外部システムが想定しているデフォルトが何であるかを確認します。
- 外部システムのエンドポイントに書き込む方法を理解します。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### データ ソース設定の入力

データ ソース設定により、インスタンスのステージング データから使用するソース テーブルを選択し、使用する認証情報、およびローダの実行中に記録するログ詳細のレベルを決定できます。

### 新規カスタム クラウド ローダの作成

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" に移動し、データ デザイナーにアクセスします。
2. コンポーネント ライブラリの "ローダ" フォルダで "新しいローダの作成" を選択します。
3. ローダのタイプとして "カスタム クラウド ローダ" を選択し、名前を入力します。

   カスタム クラウド ローダがオプションの 1 つとして表示されない場合は、このインスタンスに関して有効化されていないか、アクセスに必要なインテグレーション開発者権限がありません。
4. "作成" を選択します。

### "ソース テーブル"、"認証情報"、"ログ レベル" を選択

1. カスタム クラウド ローダの情報を入力します。
   - ソース テーブル: を含むステージング テーブルを選択 Adaptive Planning エクスポートする Planning データ
   - 必要な認証情報: 外部システムが OAuth を必要とするかどうかを選択し、適切な OAuth 認証情報を選択するにあたりインテグレーション オペレーター権限を持つユーザーが必要であるかどうかを選択します。
   - 認証情報: 既存の OAuth 認証情報を選択します。
   - ログ レベル: ローダの実行時にどの程度の詳細を記録するかを選択します。
     - エラー: エラーのみを記録します。
     - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
     - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。典型的な使用方法よりも多くのログ情報を生成する可能性があるため、主にデバッグや監査に使用されます。
2. "アクション" メニューで "保存" をクリックします。

### パラメータの定義

JavaScript でエクスポートする必要があるパラメータを定義します Adaptive Planning のデータを外部システムに追加します。パラメータには、 の接続 URL、ユーザー名、パスワード、属性を含めることができます。 Adaptive Planningその他の情報パラメータ化された設定により、実行時に値を変更できます。ローダの実行中は静的設定が保持されます。

1. "デザイナー設定" を選択します。
2. パラメータ化された設定アイテムまたは静的設定アイテムを "設定コンポーネント" ペインから "デザイナー設定" にドラッグします。
   - ローダの実行時に別の値を入力しない場合、ここに入力されたパラメータ化された設定値がローダのデフォルトになります。
   - ここに入力した静的設定は、ローダが実行されるたびに使用され、実行時に入力する必要はありません。
   -
     - ブール値: 1 またはゼロとして表される値です。
     - 属性: 内の属性管理の属性 Adaptive Planning。
     - 整数: 負ではない整数です。
     - パスワード: パスワード。値は、いったん保存されると表示できません
     - 期間範囲: 内からの期間範囲 Adaptive Planning。
     - テキスト: 英数字の値です。
3. パラメータ アイテムをダブルクリックすると、名前の入力や値の変更ができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. 必要に応じて JavaScript で参照するアイテムをいくつでもドラッグできます。
5. ローダを保存します。
6. 参照するには、JavaScript 内のパラメータの名前を使用します。

**JavaScript** の書き込み

1. "スクリプト" を選択します。
2. 既存のテンプレートを選択して変更するか、"新規スクリプト" を選択して独自に作成します。
3. 以下の CCDS API を使用して、ローダで実行する JavaScript を書き込みます。 ai 名前空間 ( 1827ページ ) 。
4. スクリプトに必要なものが含まれていることを確認します。
    - `testConnection` 外部システムへの https ポスト リクエストを作成する関数
    - `exportData` 関数 Adaptive Planning。 Adaptive Planning 関数トピックの データのエクスポート関数 (カスタム クラウド ローダのみ) を参照してください。
5. "デザイナー設定" で作成したパラメータを名前で参照します。
6. スクリプトを保存します。

注 : キーボード ショートカットの CTRL + Shift + B を使用して、エディタでスクリプトの書式を設定し、整えることができます。Ctrl+H を押すと、検索と置換が起動します。

長いスクリプトを複数のファイルに分離することにより、メンテナンスを簡単にできます。

例: たとえば、 `testConnection` と呼ばれる 1 つのスクリプト内のロジック `testconnectionscript`。という 2 つ目のスクリプト `exportdatascript`、次のすべてを含めることができます: `exportData` ロジック

同じ関数が複数のスクリプトで宣言されている場合、最後に追加されたスクリプトからのものが使用されます。

カスタム クラウド ローダ スクリプトにおける **OAuth** の使用

カスタム クラウド ローダの "認証情報が必要" を選択した場合、スクリプトに以下が含まれている必要があります: `ai.https.authorizedRequest.`

OAuth 認証情報を作成する方法については 、OAuth を使用した認証を 参照してください。

認証情報を参照してカスタム クラウド ローダを実行する場合は、以下のようにする必要があります。

1. ローダを実行する前に "認証をリクエスト" を選択します。
2. 適用範囲など、外部システムのエンドポイントに必要な追加の認証情報を入力します。
3. "接続テスト" を選択して、OAuth 認証情報がエンドポイントに正常に送信されたことを確認します。
4. 認証ステータスの認証日およびユーザー ID を記録します。認証の有効期限は、外部システムにより異なります。"アクション" パネルの "認証のリセット" を選択して、必要に応じて再認証を行います。

ビジネス ルールの定義

ビジネス ルールを使用して、外部システムにエクスポートするステージング データを制限する SQL 式を作成できます。フィルタ基準を満たすレコードのみがロードされます。

"ビジネス ルール" タブには、SQL を入力するためのテキスト領域が含まれています。

1. "ビジネス ルール" タブを選択します。
2. "編集" を選択します。
3. SQL 式を入力します。"使用できる列" でアイテムをクリックすると、タイピングせずに、その列を SQL 式に持ってくることができます。
4. "適用" を選択して、構文を確認します。エラーが発生すると、式を囲む線が赤に変わります。式の上にマウスを合わせて、構文エラー情報を確認します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. 構文のエラーを修正し、"適用" を選択します。SQL 式に一致するステージング行のみがロードされます。

### インテグレーション タスクにカスタム クラウド ローダを含める

カスタム クラウド ローダは、インテグレーション タスクとして実行する必要があります。どの場合でも 1 つまたは複数のローダを含めることができます。他のインテグレーション タスクおよびローダを 1 つのタスクに含めることもできます。参照 インテグレーション タスクの作成（1806ページ）。

ヒント： ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。

1 つのタスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータが表示されます。タスク内のローダで共通/共有パラメータが使用されている場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。

スケジュールに基づいて実行されるタスクの場合、ローダが作成された際に保存されたパラメータのデフォルト値が使用されます。

### サンプル **CCL** スクリプト

下記の例を使って、スプレッドシートのデータをエクスポートして表示するために、AWS S3 インスタンスに接続します。バケット名、キー、アクセス キー、秘密キー、地方値が必要になります。詳細とコードの例については、ai.awss3 を参照してください。

1. スプレッドシート データ ソースを設定します。
2. "ローダ" ペインで、新規カスタム クラウド ローダを作成します。
3. "データ ソース設定" タブに移動して、"ソース テーブル" フィールドでスプレッドシートのデータ ソースを選択します。
4. "スクリプト" タブで、以下のサンプル スクリプトをコピーします。

```
 // Manually invoke this method via 'Test connection'
function testConnection(context) {
    return true;
}
// Manually invoke this method via 'Run manually'
function exportData(context) {
   //"xxx" is the name of your Amazon S3 bucket.
    var bucketName = 'xxx';
    //Name of the sample CSV file to which data from your spreadsheet
 data source is exported
    var key = 'exampleTest.csv';
    //"xxxx" is the access key for your AWS S3 bucket.
    var awsAccessKey = 'xxxx';
    //"xxxx" is the secret key of your AWS S3 bucket.
    var awsSecretKey = 'xxxx';
    var region = 'us-west-1';
    // Step 1: Get the data
    var reader = context.createTableReader();
    // Step 2: Process and export the data
    var result = "Column,Heading,Names\n";
    var row = null;
    while ((row = reader.readRow()) !== null) {
       // remove meta columns we don't need
       row.length = row.length - 2;
       result += row.join() + '\n';
   }
    ai.awss3.putFile(bucketName, key, result, region, awsAccessKey,
 awsSecretKey);
}
```

5. "アクション" ペインで "保存" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

6. スクリプトを実行するには、"アクション" ペインで "手動で実行" を選択します。

**Planning** 科目ローダの作成

注： メタデータ ローダは、ソース システムからプランニング モデルの階層に階層情報を同期させます。同期させる前に、ソース システムにすでに階層が存在している必要があります。

Planning 科目ローダでは、ステージング領域の総勘定元帳科目に関するメタデータを にマッピングできます。 Adaptive Planning。科目ローダを使用して、外部システムから科目を一括インポートし、同期させることができます。これにより、科目管理で 1 つずつ科目を作成する必要がなくなります。ローダを作成したら、手動で実行、またはローダの一部として実行するようスケジュールを設定できます。 インテグレーション タスク。

ビデオを見る: 1 分 36 秒

基本ステップ

- データ ソース設定の入力
- 列マッピングの設定
- ビジネス ルールの作成
- ローダ出力のプレビュー
- ローダの実行またはスケジュール設定

前提条件

Planning 科目ローダには、既存のデータ ソースのインポートからのステージング データが必要です。どのデータ ソースを使用するかを書き留めます。

必要な権限: "モデル"、"インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

データ ソース設定の入力

データ ソース設定では、インテグレーション ステージング データから使用するソース テーブルを選択し、新しい科目を自動的に作成するかどうかを指定することができます。

ヒント： ベスト プラクティス: ローダを作成および更新する際は頻繁に保存します。"アクション" パネルで "保存" をクリックします。保存されていない変更を廃棄するには、"閉じる" をクリックし、続いて "いいえ" をクリックします。

1. コンポーネント ライブラリの "ローダ" セクションで "新しいローダの作成" を選択します。
2. ローダ タイプとして "Planning 科目ローダ" を選択します。ローダの名前を入力します。
3. "作成" を選択します。
4. 以下のとおり、科目ローダの一般プロパティ情報を入力します。
    - ソース テーブル: ドロップダウン リストからソース テーブルを選択します。リストには、ステージング領域で使用できるアクセス可能なすべてのテーブルが含まれています。
    - Planning 科目: 子科目をロードする GL 科目を選択します。GL 科目ツリー全体をロードするには、"科目" ドロップダウンで "総勘定元帳科目" を選択します。GL 科目ツリー全体を口ー

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ドするには、 で定義されたすべての GL ルート ノードがデータ ソースに含まれている必要があります。 Adaptive Planning。
- 保留中の管理パブリッシュでの変更をパブリッシュする: 概念: 管理パブリッシュ（1388ページ）に保留中のワークフローの変更がある場合、ローダを実行するときにそれらの変更を公開する場合に選択します。
- Planning に見つからない場合は科目を作成する: ソース システムで見つかったものの、"モデリング" > "モデル管理" > "科目" では見つからなかった新しい科目を自動的に作成する場合に選択します。この選択を解除すると、モデル内の既存の GL 科目のみが更新されます。
- Planning での順序を維持: Adaptive Planning ですでに使用されている既存の科目の並べ替え順序を維持する場合に選択します。
- 警告のまま続行: 科目の親を再設定し、特性値を親科目の特性と互換性があるようにする場合に選択します。選択されていない場合、ペイロードに親科目の特性と互換性がない子科目特性の値が含まれていると、ローダのエラーが発生します。
- ログ レベル: ローダを実行するときにキャプチャする詳細のタイプを選択します。
    - オフ: エラーは記録されていません。
    - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
    - 情報: ローダが更新された場合など、基本情報を記録します。
    - 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報。主にデバッグまたは監査用に使用されます。

列マッピングの設定

列マッピングを使用すると、データ ソースの列を "モデリング">"モデル管理" > "科目" で使用可能な科目プロパティにマッピングできます。列のマッピングを解除すると、ロードしたくないステージング データを無視できます。また、ローダの実行後に列のマッピングを 1 つずつ解除して、ログにエラーを生成する列をトラブルシューティングすることもできます。

マッピングする列が複数ある場合、"表示" フィルタを使用して、以下を選択します。

- すべて: Planning 列をすべて表示します。
- 必須: "親 ID" と "科目" など、必要な Planning 列をすべて表示します。
- マッピング解除済: マッピングが解除された Planning 列をすべて表示します。
- マッピング済: マッピング済みの Planning 列をすべて表示します。

"カテゴリ" を使用して、以下を選択します。

- 科目詳細: 科目詳細に関連する列を表示します。
    - 科目コード
    - 短縮名
    - ロールアップ先
    - 説明
    - タイプ
    - 加重
    - 表示テキスト
    - 累積タイプ
    - 実績タイプ
    - 実績のオーバーレイ
    - 残高タイプ
    - ワークフロー内

      "ワークフロー内" は、true の場合は 1、または false の場合は 0 のブール値である必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- すべて: すべての列を表示します。"データ入力タイプ" は、"すべて" カテゴリでのみ表示できます。
  - "データ入力タイプ" の有効な値は、STANDARD、CUBE、または「空白」です。
  - 空白の場合、"データ入力タイプ" は親科目のタイプを継承します。
  - 親の "データ入力タイプ" が CUBE の場合、新しい科目はデフォルトで CUBE になります。それ以外の場合、新しい科目はデフォルトで STANDARD になります。
  - 最下位科目以外に対する "データ入力タイプ" の変更は無視されます。システムによって、最下位科目以外のすべての科目に対する新しい "データ入力タイプ" が自動的に計算されます。
- データ タイプ: "科目の時間層"、"表示形式"、"デフォルトの数式"、"加重平均換算"、"残高のリセット"、"リセット時に残高を移転"、"小数部桁数"、"為替レート" など、科目データのタイプの設定に関連する列を表示します。
- シート: "シート上で表示しない"、"展開して開始" など、科目がシートに表示される方法に関連する列を表示します。
- 科目: 科目に関連付けられているすべての科目特性のリストなど、科目特性に関連する列を表示します。
- データ プライバシー: "給与の詳細を含む" など、科目のデータの公開または非公開に関連する列を表示します。
- 連結: "内部取引"、"相殺消去の取引先"、"子会社" の設定など、連結設定に関連する列を表示します。連結が有効になっているインスタンスでのみ使用できます。

"検索" フィールドを使用して列を見つけることができます。完全な名前または部分的な名前を入力して検索し、虫眼鏡をクリックします。検索に一致するステージング列は、結果に表示されます。

### 列をマッピング

1. "列マッピング" をクリックします。
2. ドロップダウンからマッピングされていない列を選択します。マッピングに使用できる列がリスト内に表示されます。列をマッピングすると、ステータス インジケータが感嘆符 からチェック マーク に変わります。

"列マッピング" タブには、次の列があります。

- ステータス: チェックマーク マッピングされた列を示します。感嘆符  マッピングされていない列を示します。
- Planning 列: マッピングできる Planning 列をすべて表示します。Planning 列のリストには、必須の Planning 列と、それに続く他のすべての Planning 列が含まれています。必須の Planning 列は、アスタリスクを使用した太字のテキストで示され、値列を含みます。必須ではない列には、短縮名と説明が含まれます。
- ソース ID 列: "データ ソース設定" で選択したステージング テーブル内の列を表示します。
- ソース科目コード列: マッピング プロセスを簡素化する科目コード列を示します。のすべての科目 Adaptive Planning には科目コードが必要です。

"データのインポートにより自動的に属性値を作成する" が有効になっている場合は、コードごとに属

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

性をマッピングできます。この場合、属性名が自動的にコードになります。

| | |
|---|---|
| 科目の親のマッピング | "親 ID" 列は、科目の親の ID を示します。階層内の最高の科目にロードするには、ソース データの親 ID 値を空にする必要があります。親 ID は、最上位組織の下に子科目を作成する場合にも空にする必要があります。 |
| 列のマッピングを解除 | 列のマッピングを解除するには、"マッピング解除" をクリックして、以下を選択します。<br>• すべてマッピング解除: 列のマッピングをすべて解除します。<br>• 選択項目をマッピング解除: 選択した列のみマッピングを解除します。<br>列のマッピングを解除すると、ステータス アイコンが感嘆符 に変わります。<br>ヒント : ベスト プラクティス: エラーのトラブルシューティングのためのマッピング解除と列の無視とともに、マッピング解除を変更管理に役立てることができます。データ ソースに新しい列が導入されると、古い列をマッピング解除して新しい列をマッピングできます。 |

マッピングのダウンロードおよびアップロード

ローダのマッピングをダウンロードして変更し、アップロードすることで、マッピングのエラーを迅速に解決できます。アップロードを実行すると、すべてが置換されます。アップロード時に処理できるファイルのマッピング シートは 1 枚のみです。マッピング シートが複数あるとエラーになり、アップロードがキャンセルされます。

1. "アクション" ペインで "メンバー マッピングをダウンロード" をクリックします。
2. .XLSX ファイルをダウンロードします。また、マッピング ファイルのダウンロード リンクが記載された E メールまたは Workday 通知が届きます。
3. ファイルを開いて、エラーの原因となっているマッピング シートのステージング テーブルの値を調べます。

   "Planning のコード" 列または "Planning の名前" 列で "(無効)" とマークされたセルは、このコードが Workday Adaptive Planning に存在しないことを示しています。
4. エラーを修正し、"メンバー マッピングのアップロード" をクリックしてファイルをロードします。"読み取り専用" 列はアップロードされません。
5. ローダを再度実行します。

注 : 導入パートナーまたは Workday Adaptive Planning サポートによる指示がない限り、"メンバー マッピングをクリア" はクリックしないでください。

ビジネス ルールの作成

ビジネス ルールを使用して、ロードに使用できるステージング データを制限する SQL 式を作成できます。フィルタ基準を満たすレコードのみがロードされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

"ビジネス ルール" タブには、SQL を入力するためのテキスト領域が含まれています。

SQL フィルタを作成するには、次のようにします。

1. "ビジネス ルール" タブで "SQL フィルタ" を選択します。"編集" をクリックします。
2. SQL 式を入力します。

   "使用できる列" リストでアイテムをクリックすると、タイピングせずに、その列を SQL 式に持ってくることができます。
3. "適用" をクリックして、SQL 構文を確認します。構文のエラーが発生すると、式を囲む線が赤に変わります。SQL エディタの上にマウスを合わせて、構文エラー情報を確認します。

   SQL 構文の詳細なヘルプについては、"SQL フィルタを編集" の "メモ" セクションの "オンライン ヘルプ" をクリックします。詳しくは SQL 式参照 を参照してください。
4. 構文のエラーを修正し、"適用" をクリックします。

   ローダを実行すると、SQL 式に一致するステージング行のみがインポートされます。

### ローダ出力のプレビュー

ローダを実行する前に、ローダの出力をプレビューしてマッピングを確認し、検証エラーを修正できます。

ローダ出力のプレビュー時または手動によるロード実行時に、ソース データのエラーが検証されます。検証の例には、次の場合のチェックが含まれます。

- サブ科目が親科目を示すことなしに作成されています。
- 科目特性に見つからない特性値が割り当てられています。
- データにおいて科目のソース ID 値が欠落しています (空欄) 。
- データにおいて、ソース ID または科目名が重複している場合、ソース ID は一意である必要があります。
- ParentId がデータのソース ID と同じである場合、列はそれ自体をその親として参照しています。
- サブ科目をインポートする場合、サブ科目のルートは、 の既存のノードにマッピングされます。Adaptive Planning。parentID は に導入された新しいノードのソース データに存在しません。Adaptive Planning。
- 既存のノードが新しいノードの下に移動し、"新規作成" フラグが無効になります。ローダが新しい科目を作成しないように設定されている場合、既存の科目は新しいノードに移動します。
- データの階層に周期的参照があります。ParentId がその子を親として参照しています。

プレビュー出力を XML ファイルとしてダウンロードし、ロードする前に要件に対してデータ ソースから科目を手動で確認することもできます。

1. "アクション" パネルで "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。
2. (任意) "ローダ出力のプレビュー" 設定を入力します。入力できる情報は、この Planning 科目ローダで選択したデータ ソースによって異なります。ここで設定を変更すると、ステージング テーブルおよび列に新しいデータがインポートされます。
3. "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

すべての移行およびビジネス ルールを含め、ローダが実行されます。ステータス ポップアップは、ローダが実行するステップを表示します。ロード可能な科目がある場合、ローダは XML ファイルを作成し、それを Zip 形式にした XML 添付ファイルを含む E メール通知を送信します。科目がロードされない場合、ZIP フォルダにはロードされたものがないことを示すメッセージが含まれます。

ローダが成功した後、追加のポップアップで、"ローダ出力のプレビュー" を Zip された XML ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードのポップアップは、科目の数とファイルのサイズに応じて、表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。

これは、ダウンロードされた解凍済みの XML ファイルの一例です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

Metadata To Import.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<accounts proceedWithWarnings="0">
  <account id="1" code="Assets" name="Assets" shortName="" description="Total
  Assets" planBy="Delta" actualsBy="Balance" enableActuals="1"
  balanceType="Debit" decimalPrecision="0" exchangeRateType="End of Month"
  suppressZeroes="1" startExpanded="1" dataPrivacy="Private">
    <account id="16" code="Current_Assets" name="Current Assets" shortName=""
    description="current assets" planBy="Delta" actualsBy="Balance"
    enableActuals="1" balanceType="Debit" decimalPrecision="0"
    exchangeRateType="End of Month" suppressZeroes="1" startExpanded="1"
    dataPrivacy="Private">
      <account id="57" code="70110" name="Bank Account" shortName=""
      description="Wells Fargo account" planBy="Balance" actualsBy="Balance"
      enableActuals="1" balanceType="Debit" decimalPrecision="0"
      exchangeRateType="End of Month" suppressZeroes="1" startExpanded="1"
      dataPrivacy="Private" hasSalaryDetail="0">
        <attribute name="AP Eligible" value="" />
        <attribute name="Product Line" value="" />
        <attribute name="Subsidiary" value="" />
      </account>
      <account id="59" code="70120" name="CD" shortName="" description="BankOne
```

ローダの実行

必要な設定で Planning 科目ローダを保存した後、ローダを手動で実行するか、スケジュールされたインテグレーション タスクとして実行します。

重要： 次の確認のため、各 Planning 科目ローダの実行の間には、約 15 ~ 30 分の待機時間をおきます。Adaptive Planning はインポートと同期する時間を確保します。より大きなインポートは同期するのにより長い時間がかかります。待機時間はモデル サイズやその他の要因によって異なります。

ローダを手動で実行するには、"アクション" パネルで "手動で実行" をクリックします。

ソース システムから科目を直接ロードすることも、すでにインポートされたステージング値を使用してローダを実行することもできます。ローダの実行時に、これらの動作のどれを使用するかを選択します。既存のステージング テーブルをロードに使用するには、"データ インポートを省略" を選択します。データ ソースとしてスプレッドシートを使用する場合は、"データ インポートを省略" は使用できません。

実行プロセスの一部として、ローダは、ステージング テーブルのデータが正しくマッピングされていることを確認します。ロード中に複数の検証が適用されます。ロード中に発生するエラーは、正常なインポートのために何を解決する必要があるかを示します。

### インテグレーション タスクに Planning 科目ローダを追加

インテグレーション タスク には、1 つまたは複数のローダを組み込むことができます。タスクには、Planning データ ローダやスクリプト化されたローダなど、他のインテグレーション タスクが含まれる場合があります。

ヒント： ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。

タスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータがプロンプトに表示されます。タスク内のローダに共通または共有パラメータがある場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。

計画実行されるタスクの場合、ローダ用のパラメータのデフォルト値が使用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

## Planning 科目ローダでの相対科目のロード

### 始める前に

- Workday 財務管理の場合: Adaptive Planning 用に Workday データ ソースの科目をロードするために使用するレポートに、"通常借方残高の勘定科目" カスタム レポート フィールドを追加します。

  注 : このフィールドは、プレビュー テナントでのみ使用可能です。
- 相対科目をロードする他のすべてのデータ ソースについては、科目の "借方" または "貸方" のいずれかの値を含む列を含めます。 これらの値に対して、データ ソース内にカスタム SQL 列を作成できます。
- セキュリティ:
  - "モデル管理アクセス" 権限
  - "モデル" 権限
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

### このタスクについて

Planning 科目ローダでは、以下の場合に相対科目をロードできます。

- データ ソースで "借方" または "貸方" の値を持つ列をインポートする。
- その列が "ソース ID 列" の "残高タイプ" にマッピングされる。

### 手順

1. "インテグレーション > 設定" に移動し、総勘定元帳科目のデータ ソースを選択します。
2. "構造のインポート" を選択します。
3. "データのインポート" を選択します。
4. Workday 財務管理のデータ ソースの場合、"通常借方残高の勘定科目" という新しいカスタム レポート フィールドがステージング テーブルに正しく表示されていることを確認します。

   このフィールドは、プレビュー テナントでのみ使用可能です。
5. Workday 財務管理以外のデータ ソースの場合、"借方" または "貸方" の値の列がステージング テーブルに正しく表示されていることを確認します。
6. データ ソースから総勘定元帳科目をロードするために使用する科目ローダを選択します。
7. "列マッピング" を選択します。
8. "残高タイプ" 行を確認し、"ソース ID 列" を更新して、"借方" または "貸方" の値を含む新しい列を選択します。

   Workday 財務管理のデータ ソースの場合は、"通常借方残高の勘定科目" を選択します。
9. 保存し、"ローダ出力のプレビュー" を選択します。
10. "手動で実行" を選択するか、ローダに関連付けられているインテグレーション タスクを実行します。
11. "モデリングの > 総勘定元帳科目" に移動し、科目構造を エクスポートして "相対科目 (変更不可)" 列の "はい" でフィルタすることで、相対科目を確認します。

### タスクの結果

科目を相対から非相対、または非相対から相対に変更しても、Adaptive Planning の既存の値は変更されません。値は同じままになります。集計時の値のロールアップ方法は変更されます。

### 例

相対科目の変更前は、以下のとおりです。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 経費 5 (10+ -5)
    - 資材費 10
    - 相対資材費 -5

相対科目の変更後は、以下のようになります。

- 経費 15 (10- -5)
    - 資材費 10
    - 相対資材費 -5

相対資材費は、ロールアップ時の集計で減算になったため、正の 5 として再ロードする必要があります。

次のタスク

"残高タイプ" を "相対" に変更した後、既存のデータがある科目のデータを削除して再ロードします。

**Planning** 特性ローダの作成

注 : メタデータ ローダは、ソース システムからプランニング モデルの階層に階層情報を同期させます。同期させる前に、ソース システムにすでに階層が存在している必要があります。

Planning 特性ローダでは、ステージング エリアの特性に関するメタデータを にマッピングできます。Adaptive Planning。特性ローダを使って、外部システムから特性を一括インポートし、同期させることができます。これにより、特性管理で 1 つずつ特性を作成する必要がなくなります。ローダを作成したら、手動で実行するか、またはインテグレーション タスクの一部として実行するようスケジュールを設定できます。

ビデオを見る: 1 分 32 秒

基本ステップ

- データ ソース設定の入力
- 列マッピングの設定
- ビジネス ルールの作成
- ローダ出力のプレビュー
- ローダの実行またはスケジュール設定

前提条件
Planning 特性ローダには、既存のデータ ソースのインポートからのステージング データが必要です。どのデータ ソースを使用するかを書き留めます。

必要な権限: "インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"、"モデル"

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

データ ソース設定の入力
データ ソース設定では、ステージング データから使用するソース テーブルを選択し、新しい特性を自動的に作成するかどうかを指定することができます。

ヒント : ベスト プラクティス: ローダを作成および更新する際は頻繁に保存します。"アクション" パネルで "保存" をクリックします。保存されていない変更を廃棄するには、"閉じる" をクリックし、続いて "いいえ" をクリックします。

1. コンポーネント ライブラリの "ローダ" セクションで "新しいローダの作成" を選択します。
2. ローダ タイプとして "Planning 特性ローダ" を選択します。ローダの名前を入力します。
3. "作成" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. 以下のとおり、特性ローダの一般プロパティ情報を入力します。
    - ソース テーブル: ドロップダウン リストからソース テーブルを選択します。リストには、ステージング領域で使用できるアクセス可能なすべてのテーブルが含まれています。
    - Planning 特性: 次の範囲内の特性を選択します: Adaptive Planning にロードします。
    - Planning に見つからない場合は特性値を作成する: ソース システムで見つかったものの、"モデリング" > "モデル管理" > "特性" では見つからなかった新しい特性値を自動的に作成する場合に選択します。この選択を解除すると、モデル内の既存の特性値のみが更新されます。
    - 保留中の管理パブリッシュでの変更をパブリッシュする: 概念: 管理パブリッシュ（1388ページ）保留中のワークフローの変更がある場合、変更を公開する場合に選択してください。
    - ログ レベル: ローダを実行するときにキャプチャする詳細のタイプを選択します。
        - オフ: エラーは記録されていません。
        - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
        - 情報: ローダが更新された場合など、基本情報を記録します。
        - 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報。主にデバッグまたは監査用に使用されます。

列マッピングの設定
列マッピングを使用すると、データ ソースの列を "モデリング" > "モデル管理" > "特性" で使用可能な特性プロパティにマッピングできます。列のマッピングを解除すると、ロードしたくないステージング データを無視できます。また、ローダの実行後に列のマッピングを 1 つずつ解除して、ログにエラーを生成する列をトラブルシューティングすることもできます。

マッピングする列が複数ある場合、"表示" フィルタを使用して、以下を選択します。

- すべて: Planning 列をすべて表示します。
- 必須: 親 ID と特性など、必要な Planning 列をすべて表示します。
- マッピング解除済: マッピングが解除された Planning 列をすべて表示します。
- マッピング済: マッピング済みの Planning 列をすべて表示します。

"カテゴリ" を使用して、以下を選択します。

- すべて: すべての列を表示します。特性はカテゴリを使用しません。

"検索" フィールドを使用して列を見つけることができます。完全な名前または部分的な名前を入力して検索し、虫眼鏡をクリックします。検索に一致するステージング列は、結果に表示されます。

列をマッピング

"列マッピング" タブには、次の列があります。

- ステータス: チェックマーク マッピングされた列を示します。感嘆符 マッピングされていない列を示します。
- Planning 列: シートにマッピングできる Planning 列をすべて表示します。Planning 列のリストには、必須の Planning 列と、それに続く他のすべての Planning 列が含まれています。必須の Planning 列は、アスタリスクを使用した太字のテキストで示され、値列を含みます。必須ではない列には、説明が含まれます。
- ソース列: "データ ソース設定" で選択したステージング テーブル内の列を表示します。

1. "列マッピング" をクリックします。
2. ドロップダウンからマッピングされていない列を選択します。マッピングに使用できる列

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | がリスト内に表示されます。列をマッピングすると、ステータス インジケータが感嘆符 からチェック マーク に変わります。 |
| 特性の親のマッピング | "親 ID" 列は、特性値の親の ID を示します。階層内の最高の特性にロードするには、ソース データの親 ID 値を空にする必要があります。親 ID は、最上位組織の下に子特性値を作成する場合にも空にする必要があります。 |
| 列のマッピングを解除 | 列のマッピングを解除するには、"マッピング解除" をクリックして、以下を選択します。<br>• すべてマッピング解除: 列のマッピングをすべて解除します。<br>• 選択項目をマッピング解除: 選択した列のみマッピングを解除します。<br>列のマッピングを解除すると、ステータス アイコンが感嘆符 に変わります。<br>ヒント : ベスト プラクティス: エラーのトラブルシューティングのためのマッピング解除と列の無視とともに、マッピング解除を変更管理に役立てることができます。データ ソースに新しい列が導入されると、古い列をマッピング解除して新しい列をマッピングできます。 |

マッピングのダウンロードおよびアップロード

ローダのマッピングをダウンロードして変更し、アップロードすることで、マッピングのエラーを迅速に解決できます。アップロードを実行すると、すべてが置換されます。アップロード時に処理できるファイルのマッピング シートは 1 枚のみです。マッピング シートが複数あるとエラーになり、アップロードがキャンセルされます。

1. "アクション" ペインで "メンバー マッピングをダウンロード" をクリックします。
2. .XLSX ファイルをダウンロードします。また、マッピング ファイルのダウンロード リンクが記載された E メールまたは Workday 通知が届きます。
3. ファイルを開いて、エラーの原因となっているマッピング シートのステージング テーブルの値を調べます。

   "Planning のコード" 列または "Planning の名前" 列で "(無効)" とマークされたセルは、このコードが Workday Adaptive Planning に存在しないことを示しています。
4. エラーを修正し、"メンバー マッピングのアップロード" をクリックしてファイルをロードします。"読み取り専用" 列はアップロードされません。
5. ローダを再度実行します。

注 : 導入パートナーまたは Workday Adaptive Planning サポートによる指示がない限り、"メンバー マッピングをクリア" はクリックしないでください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### ビジネス ルールの作成

ビジネス ルールを使用して、ロードに使用できるステージング データを制限する SQL 式を作成できます。フィルタ基準を満たすレコードのみがロードされます。

"ビジネス ルール" タブには、SQL を入力するためのテキスト領域が含まれています。

SQL フィルタを作成するには、次のようにします。

1. "ビジネス ルール" タブで "SQL フィルタ" を選択します。"編集" をクリックします。
2. SQL 式を入力します。"使用できる列" リストでアイテムをクリックすると、タイピングせずに、その列を SQL 式に持ってくることができます。
3. "適用" をクリックして、SQL 構文を確認します。構文のエラーが発生すると、式を囲む線が赤に変わります。SQL エディタの上にマウスを合わせて、構文エラー情報を確認します。

   SQL 構文の詳細なヘルプについては、"SQL フィルタを編集" の "メモ" セクションの "オンライン ヘルプ" をクリックします。詳しくは 参考: SQL 式を 参照してください。
4. 構文のエラーを修正し、"適用" をクリックします。ローダを実行すると、SQL 式に一致するステージング行のみがインポートされます。

### ローダ出力のプレビュー

ローダを実行する前に、ローダの出力をプレビューしてマッピングを確認し、検証エラーを修正できます。

ローダ出力のプレビュー時または手動によるロード実行時に、ソース データのエラーが検証されます。検証の例には、次の場合のチェックが含まれます。

- 特性値が親の特性を示すことなしに作成されている。
- 特性に見つからない特性値が割り当てられている。
- データにおいて特性のソース ID 値が欠落している (空欄)。
- データにおいて、ソース ID または特性名が重複している。ソース ID は一意である必要があります。
- ParentId がデータのソース ID と同じである場合、列はそれ自体をその親として参照しています。
- 既存のノードが新しいノードの下に移動し、"Planning に見つからない場合は特性値を作成する" が無効になっています。ローダが新しい特性値を作成しないように設定されている場合、既存の特性は新しいノードに移動します。
- データの階層に周期的参照があります。ParentId がその子を親として参照しています。

プレビュー出力を XML ファイルとしてダウンロードして、ロードする前に要件に対してデータ ソースから特性を手動で確認することもできます。

1. "アクション" パネルで "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。
2. (任意) "ローダ出力のプレビュー" 設定を入力します。入力できる情報は、この Planning 特性ローダで選択したデータ ソースによって異なります。ここで設定を変更すると、ステージング テーブルおよび列に新しいデータがインポートされます。
3. "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

すべての移行およびビジネス ルールを含め、ローダが実行されます。ステータス ポップアップは、ローダが実行するステップを表示します。ロード可能な特性がある場合、ローダは XML ファイルを作成し、それを Zip 形式にした XML 添付ファイルを含む E メール通知を送信します。特性がロードされない場合、ZIP フォルダにはロードされたものがないことを示すメッセージが含まれます。

ローダが成功した後、追加のポップアップで、"ローダ出力のプレビュー" を Zip された XML ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードのポップアップは、特性の数とファイルのサイズに応じて、表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。

### ローダの実行

必要な設定で Planning 特性ローダを保存した後、ローダを手動で実行するか、スケジュールされたインテグレーション タスクとして実行します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

重要： 次のように、各 Planning 特性ローダの実行の間には、約 15 ~ 30 分の待機時間を置きます。Adaptive Planning はインポートと同期する時間を確保します。より大きなインポートは同期するのにより長い時間がかかります。待機時間はモデル サイズやその他の要因によって異なります。

ローダを手動で実行するには、"アクション" パネルで "手動で実行" をクリックします。

ソース システムから特性を直接ロードすることも、すでにインポートされたステージング値を使用してローダを実行することもできます。ローダの実行時に、これらの動作のどれを使用するかを選択します。既存のステージング テーブルをロードに使用するには、"データ インポートを省略" を選択します。データ ソースとしてスプレッドシートを使用する場合は、"データ インポートを省略" は使用できません。

実行プロセスの一部として、ローダは、ステージング テーブルのデータが正しくマッピングされていることを確認します。ロード中に複数の検証が適用されます。ロード中に発生するエラーは、正常なインポートのために何を解決する必要があるかを示します。

| | |
|---|---|
| インテグレーション タスクに Planning 特性ローダを追加 | インテグレーション タスクには、1 つ以上のローダを組み込むことができます。タスクには、次のような他のインテグレーション タスクを含めることができます。 ダッシュボード メトリック ローダとスクリプト化されたローダ<br><br>ヒント： ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。<br><br>タスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータがプロンプトに表示されます。タスク内のローダに共通または共有パラメータがある場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。<br><br>計画実行されるタスクの場合、ローダ用のパラメータのデフォルト値が使用されます。 |

**Planning** 組織ローダの作成

注： メタデータ ローダは、ソース システムからプランニング モデルの階層に階層情報を同期させます。同期させる前に、ソース システムにすでに階層が存在している必要があります。

Planning 組織ローダでは、ステージング領域の組織階層に関するメタデータを にマッピングできます。Adaptive Planning。組織管理画面で 1 つずつ組織を作成するのではなく、Planning 組織ローダを使用して組織を一括インポートします。ローダを作成したら、手動で実行、またはローダの一部として実行するようスケジュールを設定できます。 インテグレーション タスク。

ビデオを見る: 1 分 36 秒

基本ステップ

- データ ソース設定の入力
- 列マッピングの設定
- ビジネス ルールの作成
- ローダ出力のプレビュー
- ローダの実行またはスケジュール設定

前提条件
Planning 組織ローダには、既存のデータ ソースのインポートからのステージング データが必要です。どのデータ ソースを使用するかを書き留めます。

必要な権限: "インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

データ ソース設定の入力
データ ソース設定では、インテグレーション ステージング データから使用するソース テーブルを選択し、新しい組織を自動的に作成するかどうかを指定することができます。

ヒント： ベスト プラクティス: ローダを作成および編集する際は頻繁に保存します。"アクション" パネルで "保存" をクリックします。保存されていない変更を廃棄するには、"閉じる" をクリックし、続いて "いいえ" をクリックします。

1. コンポーネント ライブラリの "ローダ" セクションで "新しいローダの作成" をクリックします。
2. ローダ タイプとして "Planning 組織ローダ" を選択します。ローダの名前を入力します。
3. "作成" をクリックします。
4. 以下の通り、Planning 組織ローダ一般プロパティ情報を入力します。
    - ソース テーブル: ドロップダウン リストからソース テーブルを選択します。リスト内のソース テーブルは、アクセス権を持つステージング領域内で利用できるすべてのテーブルです。
    - Planning に見つからない場合は組織を作成する: ソース システムで見つかったものの、"モデリング > モデル管理 > 組織"では見つからなかった新しい組織を自動的に作成する場合にオンにします。オフにすると、モデル内の既存の組織のみが更新されます。
    - 該当する組織の更新を子にも適用します: オンすると、変更がプロパティのカスケードに関連する場合に子組織が更新されます。オフになっている場合、明示的に更新された組織のみが変更されます。
    - ワークフローを無効にするときは、ワークフロー アイテムを削除します: ワークフローを無効にする場合は、オンにするとワークフロー内のアイテムが削除されます。オフになっている場合、ワークフローを無効化してもワークフロー アイテムが削除されません。
    - 組織の使用可否を更新するときは、アクセスできない実績データを削除します: 実績をアクセス不可にするために組織の実績の開始日または終了日が変更された場合は、アクセスできない実績データを削除します。
    - 保留中の管理パブリッシュでの変更をパブリッシュする: 概念: 管理パブリッシュ（1388ページ）保留中のワークフローの変更がある場合、その変更を公開する場合にオンにします。
    - Maintain existing order in Planning: Adaptive Planning ですでに使用されている既存の組織の並び順を維持する場合に選択します。
    - 警告のまま続行: 警告メッセージが表示されてもロードを続行する場合に選択します。
    - ログ レベル: ローダを実行するときにキャプチャする詳細のタイプを選択します。
        - オフ: エラーは記録されていません。
        - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
        - 情報: ローダが更新された場合など、基本情報を記録します。
        - 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報。主にデバッグまたは監査用に使用されます。

列マッピングの設定
"列マッピング" を使用すると、データ ソースの列を "モデリング > モデル管理 > 組織"で選択可能にマッピングできます。列のマッピングを解除すると、ロードしたくないステージング データを無視できます。また、ローダの実行後に列のマッピングを 1 つずつ解除して、ログにエラーを生成する列をトラブルシューティングすることもできます。

重要： 既存の組織 ID のリストを取得する唯一の方法は、exportLevelsAPI を使用することです。組織 ID は、アプリケーション UI のどこにも表示されません。組織のソース ID 列は、ロードすると組織 ID になります。

マッピングする列が複数ある場合、"表示" フィルタを使用して、以下を選択します。

- すべて: Planning 列をすべて表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- 必須: "親 ID" と "組織" など、必要な Planning 列をすべて表示します。
- マッピング解除済: マッピングが解除された Planning 列をすべて表示します。
- マッピング済: マッピング済みの Planning 列をすべて表示します。

"カテゴリ" を使用して、以下を選択します。

- 組織の詳細: "短縮名"、"通貨"、"ワークフロー内"、など、組織の詳細に関連する列を表示します。"ワークフロー内" は、true の場合は 1、または false の場合は 0 のブール値である必要があります。
- 相殺消去設定: 相殺消去組織、相殺消去取引先など、相殺消去設定に関連する列を表示します。これらのブール値は、true の場合は 1、false の場合は 0 である必要があります。
- バージョン設定: 実績の開始、実績の終了など、バージョン設定に関連する列を表示します。これらの値は、01/01/2010 のような日付形式である必要があります。
- 組織特性: 組織の特性に関連する列を表示します。
- 組織属性: 組織の属性に関連する列を表示します。

"検索" フィールドを使用して列を見つけることができます。完全な名前または部分的な名前を入力して検索し、虫眼鏡をクリックします。検索に一致するステージング列は、結果に表示されます。

列をマッピング

1. "列マッピング" をクリックします。
2. ドロップダウンからマッピングされていない列を選択します。マッピングに使用できる列がリスト内に表示されます。列をマッピングすると、ステータス インジケータが感嘆符 からチェック マーク に変わります。

"列マッピング" タブには、次の列があります。

- ステータス: チェックマーク マッピングされた列を示します。感嘆符 マッピングされていない列を示します。
- Planning 列: シートにマッピングできる Planning 列をすべて表示します。Planning 列のリストには、必須の Planning 列と、それに続く他のすべての Planning 列が含まれています。必須の Planning 列は、アスタリスクを使用した太字のテキストで示され、値列を含みます。必須ではない列には、短縮名と通貨が含まれます。
- ソース列: "データ ソース設定" で選択したステージング テーブル内の列を表示します。

"データのインポートにより自動的に属性値を作成する" が有効になっている場合は、コードごとに属性をマッピングできます。この場合、属性名が自動的にコードになります。

| | |
|---|---|
| 組織の親をマッピング | "親 ID" 列は、組織の親の ID を示します。階層内の最高の組織にロードするには、ソース データの親 ID 値を空にする必要があります。親 ID は、最上位組織の下に子組織を作成 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | する場合にも空にする必要があります。<br><br>組織とその親を Planning にマッピングする方法については、例: スプレッドシートのデータ ソースからの組織のロードを 参照してください。 |
| 列のマッピングを解除 | 列のマッピングを解除するには、"マッピング解除" をクリックして、以下を選択します。<br>• すべてマッピング解除: 列のマッピングをすべて解除します。<br>• 選択項目をマッピング解除: 選択した列のみマッピングを解除します。<br><br>列のマッピングを解除すると、ステータス アイコンが感嘆符 に変わります。<br><br>ヒント : ベスト プラクティス: エラーのトラブルシューティングのためのマッピング解除と列の無視とともに、マッピング解除を変更管理に役立てることができます。データ ソースに新しい列が導入されると、古い列をマッピング解除して新しい列をマッピングできます。 |

マッピングのダウンロードおよびアップロード

ローダのマッピングをダウンロードして変更し、アップロードすることで、マッピングのエラーを迅速に解決できます。アップロードを実行すると、すべてが置換されます。アップロード時に処理できるファイルのマッピング シートは 1 枚のみです。マッピング シートが複数あるとエラーになり、アップロードがキャンセルされます。

1. "アクション" ペインで "メンバー マッピングをダウンロード" をクリックします。
2. .XLSX ファイルをダウンロードします。また、マッピング ファイルのダウンロード リンクが記載された E メールまたは Workday 通知が届きます。
3. ファイルを開いて、エラーの原因となっているマッピング シートのステージング テーブルの値を調べます。

   "Planning のコード" 列または "Planning の名前" 列で "(無効)" とマークされたセルは、このコードが Workday Adaptive Planning に存在しないことを示しています。
4. エラーを修正し、"メンバー マッピングのアップロード" をクリックしてファイルをロードします。"読み取り専用" 列はアップロードされません。
5. ローダを再度実行します。

注 : 導入パートナーまたは Workday Adaptive Planning サポートによる指示がない限り、"メンバー マッピングをクリア" はクリックしないでください。

ビジネス ルールの作成
ビジネス ルールを使用して、ロードに使用できるステージング データを制限する SQL 式を作成できます。フィルタ基準を満たすレコードのみがロードされます。

"ビジネス ルール" タブには、SQL を入力するためのテキスト領域が含まれています。

SQL フィルタを作成するには、次のようにします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1. "ビジネス ルール" タブで "SQL フィルタ" を選択します。"編集" をクリックします。
2. SQL 式を入力します。"使用できる列" リストでアイテムをクリックすると、タイピングせずに、その列を SQL 式に持ってくることができます。
3. "適用" をクリックして、SQL 構文を確認します。構文のエラーが発生すると、式を囲む線が赤に変わります。SQL エディタの上にマウスを合わせて、構文エラー情報を確認します。

   SQL 構文の詳細なヘルプについては、"SQL フィルタを編集" の "メモ" セクションの "オンライン ヘルプ" をクリックします。詳しくは SQL 式参照 を参照してください。
4. 構文のエラーを修正し、"適用" をクリックします。ローダを実行すると、SQL 式に一致するステージング行のみがインポートされます。

### ローダ出力のプレビュー

ローダを実行する前に、ローダの出力をプレビューしてマッピングを確認し、検証エラーを修正できます。

ローダ出力のプレビュー時または手動によるロード実行時に、ソース データのエラーが検証されます。検証の例には、次の場合のチェックが含まれます。

- 親組織を示すことなく、サブ組織が作成されている。
- 組織の特性に見つからない特性値が割り当てられている。
- データにおいて組織のソース ID 値が欠落している (空欄)。
- データにおいて、ソース ID または組織名が重複している。ソース ID は一意である必要があります。
- ParentId がデータのソース ID と同じである場合、列はそれ自体をその親として参照しています。
- サブ組織をインポートする場合、サブ組織のルートは、 の既存のノードにマッピングされます。Adaptive Planning。parentID は に導入された新しいノードのソース データに存在しません。Adaptive Planning。
- 既存のノードが新しいノードの下に移動し、"新規作成" フラグが無効になります。ローダが新しい組織を作成しないように設定されている場合、既存の組織は新しいノードに移動します。
- データの階層に周期的参照があります。ParentId がその子を親として参照しています。
- 組織は相殺消去取引先として設定され、その子組織の 1 つが相殺消去組織として設定されます。相殺消去の取引先として設定された組織は、相殺消去組織である子を持つことはできません。

プレビュー出力を XML ファイルとしてダウンロードして、ロードする前に要件に対してデータ ソースから組織を手動で確認することもできます。

1. "アクション" パネルで "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。
2. (任意) "ローダ出力のプレビュー" 設定を入力します。入力できる情報は、この Planning 組織ローダで選択したデータ ソースによって異なります。ここで設定を変更すると、ステージング テーブルおよび列に新しいデータがインポートされます。
3. "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

すべての移行およびビジネス ルールを含め、ローダが実行されます。ステータス ポップアップは、ローダが実行するステップを表示します。ロード可能な組織がある場合、ローダは XML ファイルを作成し、それを Zip 形式にした XML 添付ファイルを含む E メール通知を送信します。組織がロードされない場合、ZIP フォルダにはロードされたものがないことを示すメッセージが含まれます。

ローダが成功した後、追加のポップアップで、"ローダ出力のプレビュー" を Zip された XML ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードのポップアップは、組織の数とファイルのサイズに応じて、表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。

### ローダの実行

必要な設定で Planning 組織ローダを保存した後、ローダを手動で実行するか、スケジュールされたインテグレーション タスクとして実行します。

重要 : 次のように、各 Planning 組織ローダの実行の間には、約 15 ~ 30 分の待機時間を置きます。Adaptive Planning はインポートと同期する時間を確保します。より大きなインポートは同期するのにより長い時間がかかります。待機時間はモデル サイズやその他の要因によって異なります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ローダを手動で実行するには、"アクション" パネルで "手動で実行" をクリックします。

ソース システムから組織を直接ロードすることも、すでにインポートされたステージング値を使用してローダを実行することもできます。ローダの実行時に、これらの動作のどれを使用するかを選択します。既存のステージング テーブルをロードに使用するには、"データ インポートを省略" を選択します。データ ソースとしてスプレッドシートを使用する場合は、"データ インポートを省略" は使用できません。

実行プロセスの一部として、ローダは、ステージング テーブルのデータが正しくマッピングされていることを確認します。ロード中に複数の検証が適用されます。ロード中に発生するエラーは、正常なインポートのために何を解決する必要があるかを示します。

| | |
|---|---|
| インテグレーション タスクに Planning 組織ローダを追加 | インテグレーション タスクには、1 つ以上のローダを組み込むことができます。タスクには、スクリプト化されたローダなど、他のインテグレーション タスクを含めることができます。<br><br>ヒント： ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。<br><br>タスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータがプロンプトに表示されます。タスク内のローダに共通または共有パラメータがある場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。<br><br>計画実行されるタスクの場合、ローダ用のパラメータのデフォルト値が使用されます。 |
| メッセージと警告のトラブルシューティング | 参照 参考: Planning 組織ローダのログ メッセージ（1795ページ） ロード中に記録されたメッセージの説明。 |

名前またはコードの一括更新

次のレベル: カスタム属性名/コードの一括更新への Adaptive Integration の使用を参照してください。

**Planning** データ ローダの作成

インテグレーションは、Planning データ ローダを使用して Adaptive Planning にデータをロードします。

この記事の一部のリンクは Workday Community に移動します。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。

前提条件

Planning データ ローダには、既存の データ ソースのインポートからのステージング データが必要です。どのデータ ソースを使用するかを書き留めます。

ステップ

1. データ ソース設定を入力します。
2. マッピング プロファイルを選択します。
3. 列マッピングを設定します。
4. データ マッピングを設定します。
5. ビジネス ルールを作成します。
6. ローダを実行またはスケジュール設定します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

データ ソース設定の入力

"データ ソース設定" では、以下を選択できます。

- ソース テーブル
- 期間の設定
- 実績の消去方法
- 科目、組織、属性の自動マッピング方法

ヒント： ベスト プラクティス: ローダを作成および更新する際は頻繁に保存します。"アクション" パネルで "保存" を選択します。保存されていない変更を廃棄するには、"閉じる" を選択してから "いいえ" を選択します。

1. コンポーネント ライブラリの "ローダ" セクションで "新しいローダの作成" を選択します。
2. ローダ タイプとして "Planning データ ローダ" を選択します。ローダの名前を入力します。
3. "作成" を選択します。ページの中央エリアに、新規ローダ設定およびその他の情報が表示されます。
4. 以下のとおり、Planning データ ローダの全般プロパティ情報を入力します。
    - ソース テーブル: ドロップダウン リストからソース テーブルを選択します。リスト内のソース テーブルは、このユーザーのステージング領域内で利用できるすべてのテーブルです。
    - インポートの種類: ドロップダウン リストからインポートの種類を選択します。
        - 実績: Adaptive Planning の実績バージョンにデータをロードできます。
        - 計画: Adaptive Planning で定義された任意の計画または予算バージョンにデータをロードできます。(この種のインポートは、連結のみのインスタンスでは使用できません。)
    - トランザクション: Adaptive Planning の "トランザクション" モジュールにデータをロードできます。複数のトランザクション テーブルが存在する場合、ドロップダウンから適切なトランザクションを選択できます。このオプションには、インスタンスの "トランザクション" モジュールが必要です。
    - シートにインポート: 次のいずれかのオプションを使用して、データをロードする Planning シートを指定します。
        - "標準" を選択して、標準科目 (総勘定元帳科目、カスタム科目、または前提条件科目) にデータをロードする。
        - ラジオ ボタンをクリックして、ドロップダウン リストからモデル シートまたはキューブ シートを選択する。重大なエラーをトリガするモデル シートの検証ルールでは、データはインポートされず、無効な行を示すログ エラーも生成されます。

      注： 既存のローダでシートの選択を変更すると、列とメンバーのマッピングに影響するという警告が表示されます。"OK" をクリックすると、すべての列とデータのマッピングがローダから削除されます。新しいシートに対応するために、ローダの新しいマッピングを作成する必要があります。
    - バージョン パラメータ: このローダを実行しているユーザーが、インポートするバージョンを選択できるようにします。あらかじめ定義済みのバージョン パラメータから選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

インポートの種類によって、リストに表示されるパラメータは異なります。"バージョン パラメータ" は複数のローダで使用できます。

- インポート オプション: モデル シートのインポート中にデータを更新する方法を選択できます。
    - 新しいデータの追加: モデル シートの既存の行を変更せずに新しい行を追加します。
    - シートの既存データを置き換える: モデル シート内の行の更新や照合を行わずに、シート内のすべてのデータをインポートしたデータに置き換える。
    - 既存行を更新: モデル シートに対してキーが存在し、既存の行が一致する場合、データを更新する。行がインポートしたデータと一致しない場合、行の更新や追加は行われません。必要な列は "インポート キー" と、更新される少なくとも 1 つの列のみです。"分割を許可" が選択されているシートは、更新をサポートしていません。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。
    - 既存の行を更新し、新しい行を追加: モデル シートに対してキーが存在し、行が一致する場合、データを更新する。行がインポートしたデータと一致しない場合、新しい行を作成します。新しい行を追加しない場合でも、"インポート キー"、"組織"、およびすべてのテキスト セレクターのみが必須列となります。"分割を許可" が選択されているシートは、更新をサポートしていません。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。
- インポート キー列: モデル シートの属性列または組織列を、インポート時に行を照合するためのキーとして示す。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。
- インポート二次列: モデル シートの属性列または組織列を、"インポート キー列" と一致しない行の二次キーとして示す。このオプションはワークフォース プランニングをサポートしており、以下の場合に使用できます。
    - インスタンスが Workday HCM または財務管理用に設定されている。
    - "インポート キー列" でパブリッシュ ID を使用している。
    - 次のいずれかのインポート オプションが選択されている。
        - 既存行のみを更新する。
        - 既存の行を更新し、新しい行を追加する。
- 新しい実績を表示できるようにする: "インポートの種類" に "実績" を選択した場合にのみ使用できます。オンになっている場合、"実績" バージョンの "次の時点までの 確定数字 を表示" の日付が、インポートで見つかったデータの最終月に設定され、インポートされたデータが自動的に計画バージョンの計画データのオーバーレイに使用可能になります。これを有効にしてインポートすると、"実績のオーバーレイ" が変更されます。パラメータとして "新しい実績を表示できるようにする" にアクセスして、インテグレーション タスクを実行しているユーザーがこの設定をオーバーライドできるようにすることもできます。インポートされている期間の範囲と、実績のバージョンに設定されている現在の日付によっては、インポートによって "完了" 日が後ろに移動する可能性があります。
- 既存のトランザクションを削除: "インポートの種類" に "トランザクション" を選択した場合にのみ使用できます。オンになっている場合、"期間" パラメータに関連付けられている既存のトランザクションがすべて削除されます。オフにする特定の理由がある場合を除き、オン

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

にしておいてください。特定の期間のデータを再度インポートする場合にオフになっていると、トランザクション レコードが重複することになります。

- ログ レベル: ログ レベルを選択し、このローダをどこまで詳細に記録するかを指定します。ログは 1 週間後に自動的に消去されます。デバッグにログが必要な場合は、ダウンロードします。
    - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
    - 情報: ローダが更新された場合など、すべての基本情報を記録します。
    - 詳細: すべてのフェーズとアクションに関する非常に詳細な情報を提供します。(このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くのログ情報が生成される可能性があります。)
- 総勘定元帳科目:"管理" > "一般設定"で "データの消去" 設定が設定されておらず、"インポートの種類" が "実績"に設定されている場合にのみ使用できます。"総勘定元帳科目" が選択されている場合、ローダで新しいデータが読み込まれる前に、ローダで選択された期間の総勘定元帳科目の全データが消去されます。パラメータとして "総勘定元帳科目" にアクセスして、実行時にオーバーライドすることもできます。"総勘定元帳科目" を選択すると、総勘定元帳科目のデータだけが削除されます。カスタム科目およびセル メモのデータは変更されません。
- カスタム科目:"管理" > "一般設定"で "データの消去" 設定が設定されておらず、"インポートの種類" が "実績"に設定されている場合にのみ使用できます。"カスタム科目" が選択されている場合、ローダで新しいデータが読み込まれる前に、ローダで選択された期間のカスタム科目の全データが消去されます。パラメータとして "カスタム科目" にアクセスして、実行時にオーバーライドすることもできます。"カスタム科目" を選択すると、カスタム科目のデータだけが削除されます。総勘定元帳科目およびセル メモのデータは変更されません。
- キューブ科目:"管理" > "一般設定"で "データの消去" 設定が設定されておらず、"インポートの種類" が "実績"に設定されている場合にのみ使用できます。"キューブ科目" が選択されている場合、ローダで新しいデータが読み込まれる前に、ローダで選択された期間のキューブ科目の全データが消去されます。パラメータとして "キューブ科目" にアクセスして、実行時にオーバーライドすることもできます。"キューブ科目" を選択すると、カスタム科目だけが削除されます。総勘定元帳科目、カスタム科目、セル メモのデータは変更されません。
- セル メモ:"管理 > の一般設定"で "データの消去" 設定が設定されておらず、"インポートの種類" が "実績"に設定されている場合にのみ使用できます。"セル メモ" が選択されている場合、ローダで新しいデータが読み込まれる前に、ローダで選択された期間の総勘定元帳科目の全データが消去されます。パラメータとして "セル メモ" にアクセスして、実行時にオーバーライドすることもできます。"セル メモ" を選択すると、セル メモだけが削除されます。総勘定元帳科目およびカスタム科目のデータは変更されません。
- 置換モードのインポート設定

  置換モードを有効化: (任意) データを消去せずに置換します。"消去設定" タブが削除され、"手動消去" オプションが無効になります。換算通貨データを消去するには、この設定を選択する必要があります。モデル シート、キューブ シート、標準シートの置換モードでは、インポート時に空の値が除外され、スキップされた空の行がログに示されます。置換モードでは、プレビュー ローダ出力に名前の代わりに ID が表示されます。

  注 : "置換モードを有効化" は、モデル シート、キューブ シート、標準シートへのインポートにのみ使用できます。

  置換モードを使用すると、特に交差部分やデータが変更された場合に、Planning システム データがより高速かつクリーンに更新されます。置換モードでは、すべてのデータを消去し

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

てから新しいデータをロードするのではなく、インポートした内容とすでに入力されているデータがインテリジェントに比較されます。置換モード:

- 新しいデータを追加します。
- インポートに含まれないデータは削除される。

変更されていないデータはそのまま残ります。これにより、以下のことを防止できます。

- 不要な変更履歴エントリ。
- 変更前の情報を削除し、再作成する際のパフォーマンス コスト

ほとんどのインポート状況 (特にシステムにすでに多くのデータが存在する場合) をより迅速かつ合理的なプロセスにするため、単一の "置換モード" ローダ ステップを使用することを強くお勧めします。

FAQ: Planning データ ローダにおけるキューブまたは標準シートの置換モードを参照してください。

- 科目パラメータ: 科目パラメータを使用して置き換える科目を選択します。キューブ シートの場合、シートにすべてのキューブ科目を含めたり、新しい科目パラメータを作成して特定の科目を置き換えたりすることができます。標準シートの場合、新しい科目パラメータを作成して、特定の総勘定元帳、カスタム、または前提条件科目を置き換えることができます。
- 組織パラメータ: 組織パラメータを使用して置き換える組織を選択します。すべての組織を含めたり、新しい組織パラメータを作成して特定の組織を置き換えたりすることができます。標準データのインポートの場合、"すべての総勘定元帳科目" と "すべてのカスタム科目"を選択できます。
- セル メモ: 置換時にセル メモを消去します。

5. 以下のとおり、Planning ローダのデフォルト期間設定を入力します。
    - 期間パラメータ: Adaptive Planning にロードする期間の範囲を指定できます。期間パラメータの作成方法の詳細については、"期間パラメータの作成" セクションを参照してください。"期間パラメータ" は複数のローダで使用できます。
    - 開始日: この表示専用フィールドには、"期間パラメータ" で選択された開始期間が表示されます。
    - 終了日: この表示専用フィールドには、"期間パラメータ" で選択された終了期間が表示されます。
    - 時間層: この表示専用フィールドには、"インポートの種類" での選択に基づいた時間層が表示されます。インポートの種類が "実績" または "計画" の場合、時間層は、インポート先のシートで利用可能性がもっとも低い時間層に設定されます。インポートの種類が "トランザクション" の場合、時間層は "日" には設定されません。
    - 期間列: "インポートの種類" が "トランザクション" の場合に使用できます。このドロップダウンには、"ソース テーブル" フィールドで選択されたソース テーブルで使用可能な Date 型または DateTime 型のすべての列が表示されます。これらの基準を満たす列が 1 つしかない場合、その列がこのフィールドのデフォルトになります。"期間列" は、ステージング テーブルから Adaptive Planning で定義されている期間までの期間データのマッピングを制御します。ステージング値のデータ値を Adaptive Planning の期間に合わせる必要があります。
    - 転記日: "インポートの種類" が "トランザクション" の場合に使用できます。転記日の Date または DateTime の値を含むステージング列を示します。転記日は、Adaptive Planning に送信されたトランザクション データをドリルスルーする際に、該当するトランザクションを識別して見つけるために役立ちます。
6. バージョン パラメータを作成します。

    バージョン パラメータを使用して、データをロードするバージョンを実行時に指定する必要があります。バージョン パラメータにより、実行時にデフォルト以外のバージョンを選択できるようになるため、Planning データ ローダを設定する際の柔軟性が向上します。

    ローダ用にバージョン パラメータを一度作成するだけで済みます。ローダにアクセスできるユーザーは、バージョン ツリー内の使用可能なバージョンを選択して、パラメータの値を選択できま

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

す。選択できるバージョン ツリーはパラメータのタイプによって異なります。実行時に表示されるバージョンは、ローダを実行しているユーザーに基づいて制限されます。

### 実績バージョン パラメータの作成

実績または計画タイプのバージョン パラメータを設定できます。異なるタイプは、データをロードする場所を指定します。

1. "バージョン パラメータ" のドロップダウンの下にある "パラメータを編集" をクリックします。
2. 左側のペインからフォルダを選択します。

   ユーザーまたはローダ間でパラメータを共有したい場合は、"共有" 領域からフォルダを選択します。パラメータを現在のローダでのみ使用できるようにするには、"ローカル" 領域からフォルダを選択します。
3. "追加" をクリックします。
4. コンテキスト メニューから、"実績バージョン" をクリックします。
5. 実績パラメータ情報を以下の通り入力します。
   - 名前: パラメータの名前を入力します。ここに入力された名前は、実行時に Planning ローダと関連タスクが表示するラベルです。
   - 実績バージョン: ドロップダウンから、バージョンのデフォルト値を選択します。

     注 : 連結については、デフォルトとしてどの "実績" サブバージョンを使用するかを選択します。Planning の場合、"実績" バージョンは 1 つしかなく、このダイアログで唯一使用できる選択肢です。
6. "適用" をクリックして設定を適用します。
7. "閉じる" をクリックして、"パラメータ" エディタのダイアログ ボックスに戻ります。作成した実績のバージョン パラメータは、"バージョン パラメータ" ドロップダウン リストに表示されます。

### 計画バージョン パラメータの作成

計画バージョン パラメータを設定するプロセスは、実績バージョン パラメータを作成するプロセスと同様です。

1. "バージョン パラメータ" のドロップダウンの下にある "パラメータを編集" をクリックします。
2. 左側のペインからフォルダを選択します。

   ユーザーまたはローダ間でパラメータを共有したい場合は、"共有" 領域からフォルダを選択します。パラメータを現在のローダでのみ使用できるようにするには、"ローカル" 領域からフォルダを選択します。
3. "追加" をクリックします。
4. コンテキスト メニューから、"計画バージョン" をクリックします。
5. 計画バージョン パラメータの情報を以下の通り入力します。
   - 名前: パラメータの名前を入力します。ここに入力された名前は、実行時に Planning ローダと関連タスクが表示するラベルです。
   - 計画バージョン: ドロップダウン リストから、バージョンのデフォルト値を選択します。
6. "適用" をクリックして設定を適用します。
7. "閉じる" をクリックして、"パラメータ" エディタのダイアログ ボックスに戻ります。作成した計画バージョン パラメータは、"バージョン パラメータ" ドロップダウン リストに表示されます。

### 期間パラメータの作成

期間パラメータは、Adaptive Planning にデータをロードする期間の範囲を指定します。実行時に割り当てられた期間をオーバーライドできます。1 つの期間を選択するか、開始期間と終了期間を動的または固定のいずれかに設定できます。スケジュールされたタスクの実行時には、これらの設定を使用して、インポートする期間を決定します。動的な日付は、月の経過に伴って自動的に調整されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### 動的期間

動的期間では、設定済みの Planning カレンダーの現在の時刻からのオフセットを設定できます。

- オフセット: 現在の日付からオフセットする時間層の数を表す正の整数。
- 時間層セレクター: Planning カレンダーに設定されている時間層のドロップダウン リスト (月、四半期、週、年など)。
- 方向: 現在の時刻から前または後に移動する、オフセットの方向。

### 固定期間

固定期間では、Planning の設定されたカレンダーにある時間値を選択することで、時間階層をナビゲートできます。

1. "期間パラメータ" のドロップダウンの下にある "パラメータを編集" をクリックします。
2. 左側のペインからフォルダを選択します。

   ユーザーまたはローダ間でパラメータを共有したい場合は、"共有" 領域からフォルダを選択します。パラメータを現在のローダでのみ使用できるようにするには、"ローカル" 領域からフォルダを選択します。
3. "追加" をクリックします。
4. コンテキストメニューから、"期間範囲" をクリックします。
5. 期間範囲パラメータ情報を以下の通り入力します。
   - 1 つの期間: 日付範囲に単一の期間を指定したい場合は、このボックスをオンにします。
   - 期間の開始:
     - 前の四半期、月、年、または (カスタム カレンダーを使用している場合) その他の層のような期間の開始の動的日付を Planning カレンダーから選択するには、"動的" を選択します。
       - オフセット整数を入力して、前方または後方を選択します。現在の時間層を選択するには 0 を使用します。
     - Planning の時間構造から期間を指定するには、"固定" を選択します。自分の選択に対して解決された日付が、ドロップダウンの下に表示されます。
   - 期間の終了:
     - 前の四半期、月、年、またはその他の層 (カスタム カレンダーを使用している場合) のような期間の終了の動的日付を Planning カレンダーから選択するには、"動的" を選択します。
       - オフセット整数を入力して、前方または後方を選択します。現在の時間層を選択するには 0 を使用します。
     - Planning の時間構造から期間を指定するには、"固定" を選択します。自分の選択に対して解決された日付が、ドロップダウンの下に表示されます。
6. "適用" をクリックして設定を適用します。
7. "閉じる" をクリックして、"パラメータ" エディタのダイアログ ボックスに戻ります。

   作成した期間範囲パラメータが、"期間パラメータ" ドロップダウン リストに表示されました。

### 動的期間の例

現在の月が 4 月と仮定します。

期間の開始は、前月の最初の日である 3 月 1 日となります。期間の終了は、翌月の最初の日である 5 月 1 日となります。

### 固定期間の例

固定期間の開始が 2016 年 11 月 1 日で終了が 2017 年 3 月 31 日の場合、Adaptive Planning で設定済みのカレンダーから期間の開始と終了を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

自動マッピング

自動マッピング オプションを選択し、ローダ実行時間において検出される新しいデータ要素を自動的にマッピングできます。自動マッピングでは、"データ マッピング" タブで行う手動の手順を次に置き換えることができます。

- 科目
- 組織
- 属性

既存のローダおよび作成したすべての新しいローダは、デフォルトでは自動マッピングを行いません。

データ マッピングにソース表示名列の選択が含まれていない場合、以下の内容の自動マッピングが可能です。

- 科目名または科目コード別の科目
- コードに対するソース ID 別の組織
- 名前に対するソース ID 別の組織
- コードに対するソース ID 別の属性
- 名前に対するソース ID 別の属性

データ マッピングにソース表示名列の選択が含まれていない場合、以下の内容の自動マッピングが可能です。

- 科目名に対するソース ID 別の科目
- 科目コードに対するソース ID 別の科目
- 名前に対するソース ID 別の組織
- コードに対するソース ID 別の組織
- 名前に対するソース表示名別の組織
- コードに対するソース表示名別の組織
- 名前に対するソース ID 別の属性
- コードに対するソース ID 別の属性
- 名前に対するソース表示名別の属性
- コードに対するソース表示名別の属性

ローダが自動マッピング不可のデータ要素に遭遇した場合、ローダ エラーが発生します。

データ消去設定
"消去設定 " タブは、 "管理 > ""一般設定"で "インテグレーション ローダを有効化 - データの消去" を選択した後にのみ表示されます。

注： 実績データを消去するには、Adaptive Planning で "インポート機能の > 実績の消去" 権限が有効になっている必要があります。"実績の消去" とは、ロック済み組織を含め、Adaptive Planning 全体で実績データまたは計画データを消去することができるスーパーユーザー権限です。"実績の消去" を実行すると、アクセス ルールおよび組織所有権の制限がオーバーライドされます。

ロード中のデータに関係なく、計画データや実績データを消去できます。特定の期間、バージョン、組織、科目のデータを消去することもできます。換算された通貨データを消去することはできません。代わりに "置換モードを有効化" チェックボックスをオンにしてデータを置換してください。

データの消去の詳細

- "データの消去" で消去されるのは、非仮想化プランまたは実績バージョンのデータのみです。
- "データの消去" では、データ入力が設定されているバージョンで、データ入力をオーバーライドして算出科目からデータを消去できます。
- 親組織を選択すると、その子組織にあるデータはすべて削除されます。
- 合計科目を選択すると、その子科目にあるデータはすべて消去されます。
- 数式は削除されない。

1. "消去設定" タブをクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

2. "データ消去を有効化" チェックボックスをオンにしてデータを消去します。
3. "アクション" ペインで "パラメータを編集" を選択して、"バージョン" および "期間" のパラメータを作成します。

   "データ ソース設定" タブで指定された "バージョン" または "期間" パラメータを使用することもできます。
4. データを消去する科目を選択します。

   シートのすべての総勘定元帳科目、すべてのカスタム科目、すべてのキューブ科目を含めることができます。あるいは、新しい科目パラメータを作成して、特定の科目を消去することもできます。使用可能なすべての科目のオプションを組み合わせて選択することもできます。
5. データを消去する組織を選択します。

   すべての組織を選択することも、特定の組織用に新しい組織パラメータを作成することもできます。
6. "アクション" ペインの "手動消去" を使用してローダを手動で実行します。もしくは、ローダをスケジュールして、タスクの一部として実行します。

   タスク内に複数の Planning ローダが存在する場合、各消去オプションは、含まれるローダごとに使用可能になります。ローダ名が付いたオプション タグは、消去オプションのソースを識別するのに役立ちます。

注 : "消去設定" では、キューブ前提条件科目からデータを消去できます。リクエストに前提条件と科目の両方で使用される科目コードが含まれている場合、ローダはエラーを返し、消去は行われません。

### マッピング プロファイルの選択

別々の GL/ERP/CRM システムから同様の科目/属性値情報を持つデータをロードする必要がある場合があります。そのため、複数ある一意のマッピングの一部として、同様の名前が付けられたソース側のメンバーが必要になる場合があります。これにより、同様の名前が付けられたソース メンバーが異なるシートにロードされます。

列マッピングを実行する前に、ユーザーはリンクされたプロファイルを定義する必要があります。

重要 : デフォルトのプロファイルを使用するには、たとえそれが唯一使用できるプロファイルであっても、明示的にリンクさせる必要があります。

Planning ローダ内でデフォルトで作成されているマッピングについては、すべてのマッピングがデフォルトのグローバル マッピング セットに含まれています。つまり、作成済みのすべてのマッピングは統合された単一のマッピング セットに含まれており、Adaptive Planning の動作と同様に、同じソース メンバー名を持つ 2 つの異なるマップが存在することはありません。

Planning ローダの科目/組織/属性値のマッピングを各ローダの新しいマッピング プロファイルに保存し、名前を割り当てることができます。ローダを作成すると、デフォルトのプロファイルまたは新しいマッピング プロファイルを添付できます。これは、非常に多くの Planning ローダを作成する場合に便利です。

たとえば、Workday、NetSuite、Salesforce などの複数の異なるシステムから情報を抽出する場合や、複数の子会社がある場合は、マッピング プロファイルを使用して多数のマッピングを簡単に作成できます。同じインテグレーション インスタンスに複数の Planning ローダがある場合、ローダをデフォルトのマッピング プロファイルにリンクすることも、別のマッピング プロファイルにリンクすることもできます。

大半のユーザーはデフォルトのマッピング プロファイルしか使用する必要はありません。これを使用する必要がないと思われる場合は、実際に必要ないことがほとんどです。

### マッピング プロファイルについて

ソースと Planning の側に次のメンバーがあるとします。

Source1:

- Acct1
- Acct2

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Source2:

- Acct1
- Acct3

Planning:

- Acct10
- Acct11
- Acct12

以下のようなマッピングを作成できます。

- ローダ 1: プロファイル 1: Acc1 <-> Acct10
- ローダ 2: プロファイル 2: Acc1 <-> Acct11

### マッピング プロファイルの使用

ローダ作成プロセスの一環として、マッピング プロファイルを Planning ローダにリンクします。

1. "データ ソース設定" での設定が完了したら、"プロファイル" タブを選択します。
2. 使用したいマッピング プロファイルを選択します。

新しいマッピング プロファイルを作成するには、ページの下部にある "新規" をクリックします。その後、新しいマッピング プロファイルの名前を入力してから "保存" をクリックします。また、既存のマッピング プロファイルからプロファイルをクローンすることもできます。

クローンによって、既存のプロファイルから新しくクローンされたプロファイルにすべてのマッピングがコピーされます。これは、既存のプロファイルからマッピングを継承し、元のプロファイルに影響を与えないマッピングの一部を変更する場合に便利です。プロファイルのクローンを作成するには、"クローン" ボタンをクリックして、クローン元のプロファイルと新しいプロファイルの名前を指定します。

### マッピング プロファイルのヒント

- ローダが作成されると、"プロファイル" タブで別のプロファイルを指定しない限り、デフォルトのプロファイルがリンクされます。
- 新しいプロファイルを作成すると、最初は空白となっています。デフォルトのプロファイルからのマッピングは、そのプロファイルにコピーされません。マッピングを複製する必要がある場合は、"クローン" を使用する必要があります。
- リンクされたプロファイルを名前付きプロファイルからデフォルト プロファイルに変更すると、新しいマッピングのみがインポートされます。インテグレーションは競合をチェックしません。ただし、このローダにマッピングされているステージング列に存在するステージング値がデフォルトのプロファイルにない場合は、"データ マッピング" タブをクリックすると、これらのステージング値がマッピングされていない値としてデフォルトのプロファイルに取り込まれます。

## 外部システム

"プロファイル" タブにあるプロファイルをダブルクリックすると、そのプロファイルを外部システムと関連付けて、Adaptive Planning シートおよびレポート データ上でドリルスルーできます。

ユーザーがドリルスルー リンクをクリックすると、Adaptive Planning が外部システムに接続され、データの基になっているトランザクションが表示されます。

プロファイルと外部システムの関連付けは任意で、Workday へのドリルバックまたは Adaptive Planning で NetSuite へのドリルスルーを有効化する際にのみ、外部システムを設定します。

警告： Adaptive Planning でドリルスルーを使用する予定がない場合は、プロファイルを外部システムに関連付けないでください。

### 外部システムを作成するための基本ステップ

- 外部システムを作成し、名前を付けます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- Adaptive Planning が接続先や、使用するアカウントおよび認証情報を把握できるように、外部システム設定を設定します。
- 外部属性マッピングを設定して、外部システム マップの属性がどのようにして Adaptive Planning の属性にマッピングされるかを特定します。
- 複数の外部列が 1 つの Adaptive Planning 属性にマッピングされる場合には、タプル SQL 列を設定します。

**Workday** 外部システムの設定

こちらで説明されている手順に従います。

**NetSuite** の外部システムの設定

こちらで説明されている手順に従います。

列マッピングの設定

"プロファイル" タブでプロファイルをリンクしたら、ステージング列を Adaptive Planning の列にマッピングする必要があります。

重要 : プロファイルをリンクするまで列マッピングを実行することはできません。

ステージング列を Adaptive Planning 列にマッピングするには:

"列マッピング" ページには 4 つの列があります。ソース ID 列だけでマッピング プロセス全体を完了できます。唯一の要件は、ソース ID 列にデータ ソースの一意の値が含まれている必要があることです。"ソース ID 列" の情報がわかりやすい場合や、識別子が表す内容にさらにコンテキストが必要な場合は、ソース値のマッピングを容易にするため、オプションのソース表示名列を含めることができます。マッピングで "ソース表示名列" を使用すると、その値はメンバー マッピング UI で使用されます。それ以外の場合は、"ソース ID 列" の値が使用されます。

1. "列マッピング" タブを選択します。
    - ステータス: 特定の Planning 列がマッピング済みかどうかを示します。
    - キー: Planning 列がモデル シートの "インポート キー" にあるかどうかを、キー アイコンの表示で示します。
    - Planning 列: シートにマッピングできる Planning 列をすべて表示します。Planning 列のリストには、必須の Planning 列、およびそれに続いて、モデル内で定義されている他のすべての属性が含まれています。Planning 列の中でインポートする属性のみをマッピングします。マッピングされていない列は、ローダ実行時に何もインポートしません。"必須の Planning" 列は太字でアスタリスク付きで示され、値の列 (インポートの種類が "実績" の場合は "実績バージョン値"、インポートの種類が "Planning" の場合は "Planning バージョン値" とラベル付けされています)、"科目"、"組織"、その他の特定のシートに指定された必須列が含まれています。ローダで科目マッピングを作成すると、シートやレポートに科目名が表示されます。例外として、マトリクス レポートでは、科目名の横に科目コードを表示するオプションがあります。必須ではない列には、シート上の他の Planning 列 (通常はすべてのカスタム属性) が含まれます。"実績" または "計画バージョン値" (インポートの種類が "計画" の場合)、"科目"、"組織"、その他必須列が特定のシートに指定されています。
    - ソース ID 列: データ ソース設定で選択したステージング テーブル内のすべての列を表示します。
    - ソース表示名列: マッピング処理を簡略化するための、オプションの表示名を表示します。
2. マッピングされていない列を選択し、下矢印をクリックします。マッピングできる列のリストが次のようにドロップダウンに表示されます。
3. 列をマッピングすると、ステータス インジケータが赤から緑に変わります。すべての属性をマッピングする必要はありません。インポートする必要があるもののみをマッピングします。マッピングされていない列はインポートされません。

マッピングする Planning 列が多い場合は、ページの左上にある "表示" フィルタを使用できます。以下のオプションのどれでも選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- すべて: Planning 列をすべて表示します。
- 必須: 必要な Planning 列をすべて表示します。
- マッピング解除済: マッピングが解除された Planning 列をすべて表示します。
- マッピング済: マッピング済みの Planning 列をすべて表示します。

"検索" フィールドを使用してステージング列を見つけることができます。完全な名前または部分的な名前を入力して検索し、虫眼鏡をクリックします。検索に一致するステージング列は、ステージング列に表示されます。

注 : "列マッピング" において必須ではない Planning 列に赤色の感嘆符が表示されている場合、それらはエラーを示すものではありません。赤の感嘆符は、マッピングが行われておらず、ローダ実行時にそれらの Planning 列には何もインポートされないことを意味するに過ぎません。

### データ マッピングの設定

ローダの設定を構成し、ステージング列を Planning 列にマッピングしたら、それらの列内の科目、組織、属性メンバーを Adaptive Planning の対応する Planning 列メンバーにマッピングします。データ マッピングの概要は、マッピング済、マッピング解除済、および無効なステージング メンバーを要約し、それぞれについて番号を表示します。そのカテゴリのデータ マッピング ページとマッピングのステータスに移動するには、番号を選択します。

"データ マッピング" タブ内の科目マッピング、組織マッピング、または属性マッピング ページに移動すると、そのカテゴリのすべてのメンバーのマッピング ステータスを確認できます。

重要 : マッピングされていない値を含む記録を除外するには、すべての科目、組織、属性をマッピングするか、明示的なビジネス ルールを作成します。最終インポート時にローダがマッピングされていない値を検出すると、ローダのステータスは "失敗" となり、エラーになります。

### NetSuite へのデータ マッピングおよびドリルの要件

重要 : NetSuite からデータをインポートしており、"科目"、"期間"、"子会社"、"部門"、"クラス"、"所在地"、"アイテム"、および "顧客" の NetSuite の標準カテゴリに基づいて NetSuite へのドリルスルーを設定したい場合は、列とデータ マッピング手順の一環として、これらの各属性についての NetSuite の内部識別子を設定する必要があります。

### データ マッピング ステータス

科目、組織、または属性データ マッピング カテゴリの各メンバーのステータスは次のいずれかになります。

- マッピング済: Adaptive Planning で Planning メンバーにマッピングされているステージング メンバー。
- 解除済マッピング解除済: Adaptive Planning で Planning メンバーにマッピングされていないステージング メンバー。
- 無効: ある時点で Planning メンバーにマッピングされたものの、Adaptive Planning でその Planning メンバーが削除されたステージング メンバー。

### 科目、組織、および属性ステージング列メンバーのマッピング

ステージング列内の個々の科目、組織、または属性メンバーを、Adaptive Planning の対応する Planning メンバーにマッピングできます。

プランのバージョンに応じて、データ入力をオーバーライドして算出科目をインポートし、マッピングできます。

1. "データ マッピング" を選択します。
2. "データ マッピングの概要" ページでリンクされた番号を選択するか、"科目マッピング"、"組織マッピング"、または "属性マッピング" のカテゴリ リンクを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "表示" ドロップダウンでマッピング ステータスを選択します。"表示" は、デフォルトですべてのマッピングを表示します。
4. (任意) "検索" に条件を入力して、前の手順での表示選択の結果をフィルタリングします。
5. Adaptive Planning の階層ビューを閲覧または検索して、ステージング値の Planning 値を選択します。
6. "適用" を選択します。
7. "保存" を選択します。

### 新しいデータ マッピングの作成

新しいステージング メンバーを含む新しいデータのインポートを予想してマッピングを新規作成することができます。新しいマッピングは、特定のメンバー値が将来のインポートで表示されることが分かっている場合に、スケジュールされたローダの実行に役立ちます。新しいマッピングを完了すると、マッピングされていない値または無効な値によってローダが失敗することを防止できます。

1. "データ マッピング" 内で、"科目マッピング"、"組織マッピング"、または "属性マッピング" ページに移動します。
2. マッピングの設定のため、歯車アイコン 選択します。
3. "新しい科目"、"組織"、または "属性マッピング" を選択します。
4. 将来のインポートに表示されると予想されるステージング値を正確に入力します。新しい科目マッピングの場合、当該科目のステージング表示値も入力します。
5. 前のステップで選択したステージング値にマッピングする Planning 値を選択します。
6. "適用" を選択します。
7. "保存" を選択します。

### データ マッピングのアップロード

マッピング テンプレートをダウンロードして、科目データ マッピング、組織データ マッピング、または属性データ マッピングのマッピングをアップロードできます。

1. "データ マッピング" 内で、"科目マッピング"、"組織マッピング"、または "属性マッピング" ページに移動します。
2. マッピングの設定のため、歯車アイコン 選択します。
3. "マッピングのアップロード" を選択します。
4. "マッピングのアップロード" ダイアログで "テンプレートのダウンロード" を選択します。
5. ダウンロードしたテンプレートの Excel ファイルを開き、最初のシート タブの指示に従い、マッピングによってシート内の 2 番目のシート タブを読み込みます。テンプレートを保存します。
6. "参照" を選択し、ローカル コンピュータで編集済みの Excel テンプレート ファイルを見つけます。
7. "インポート" を選択します。
8. "適用" を選択します。
9. "保存" を選択します。

### 一括編集用にデータ マッピングをダウンロード

マッピングをダウンロードして一括編集とアップロードを行うことができます。ダウンロードしたマッピング ファイルを使用して、ダウンロードしたテンプレート ファイルに入力します。ダウンロード可能な科目データ マッピング、組織データ マッピング、または属性データ マッピングの場合:

- すべてのマッピング
- マッピング済のみ
- マッピング解除済のみ
- 無効のみ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1. "データ マッピング" 内で、"科目マッピング"、"組織マッピング"、または "属性マッピング" ページに移動します。
2. マッピングの設定のため、歯車アイコン 選択します。
3. "マッピングをダウンロード" を選択します。
4. ダウンロード フィルタを選択し、システムがダウンロードを準備するまで待機し、"ダウンロード" ボタンを有効にします。
5. "ダウンロード" を選択します。
6. 歯車アイコンをもう一度選択し、"マッピングのアップロード" を選択します。
7. "テンプレートのダウンロード" を選択します。これで、マッピング ファイルとテンプレート ファイルの 2 個のファイルをダウンロードできました。

### ダウンロードしたマッピングの更新および **Excel** テンプレート ファイルへの貼り付け

1. ダウンロードしたマッピングの Excel ファイルを開き、すべての変更を行います。
2. このファイルからすべてのコンテンツをコピーします。
3. ダウンロードしたテンプレートの Excel ファイルのシート 2 にコンテンツを貼り付けます。
4. 読み込み済みの Excel テンプレート ファイルを保存します。

### 読み込み済みの **Excel** テンプレート ファイルのアップロード

1. 歯車アイコン を選択し、科目、組織、または属性の Planning データ ローダのデータ マッピング ページで "マッピングのアップロード" を 選択します。
2. "参照" を選択し、更新済みの Excel テンプレート ファイルを選択します。
3. "インポート" を選択します。
4. "適用" を選択します。
5. "保存" を選択します。

## 自動マッピング、マッピング解除、データ マッピングの削除

### データ マッピングを自動マッピング

ステージング メンバーを Planning メンバーに自動マッピングすることができます。システムは、ステージング メンバーに一致する Planning メンバーを名前で検索します。科目の場合、システムは科目コードまたは科目名で照合します。自動マッピングは、マッピングされていない、または無効なマッピングの両方をマッピングすることを試みます。完全一致が発生すると、ステージング メンバーが自動的にマッピングされます。

1. メンバー行のチェックボックスをオンにして、自動マッピングするメンバーを選択します。
2. "自動マッピング" を選択します。
3. "選択項目を自動マッピング" を選択します。

"すべて自動マッピング" を選択して、マッピングされていないすべてのメンバーを自動マッピングします。

科目の場合、ソース ID 列またはソース表示名列による自動マッピングを選択できます。両方とも、科目コードまたは科目名で自動マッピングできます。

注 : カスタム属性メンバーは、常に属性メンバー名を使用して自動マッピングされます。属性メンバーを自動マッピングする場合、"自動マップ" ダイアログは表示されません。

### データ マッピングのマッピング解除

"マッピング解除" を選択し、次に "選択項目をマッピング解除" を選択して、1 つまたは複数のマッピングを解除します。マッピング解除により、ステージング メンバーと Planning メンバー間のマッピングの接続が解除されます。"すべてマッピング解除" を選択すると、すべてのマッピングを一度に解除できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### データ マッピングの削除

"削除" を選択し、次に "選択項目を削除" を選択すると、マッピングとメンバー情報を削除できます。削除するとメンバー情報が完全に削除されるため、別のステージング テーブルのインポートからやり直すことができます。"すべて削除" を選択し、すべてのメンバーとその情報を削除します。

重要 : 削除されたマッピングから情報を取得することはできません。

### メンバー データ マッピングのインポートに関する制限

#### 科目

- グループ科目、親 (合計) 科目、システム科目、メトリック科目はマッピングできません。
- モデル シートにインポートできますが、モデル科目は数式ベースで読み取り専用であるため、インポートできません。
- 標準インポートを使用して、キューブ シートに入力された総勘定元帳 (GL) 科目またはカスタム科目にデータをインポートすることはできません。カスタム科目が表示されるキューブ シートの場合は、キューブ シートのインポートを使用する必要があります。

#### 組織

- インポート機能権限を持つユーザーは、組織の承認権/アクセス権に関係なく、すべての組織にデータをインポートできます。
- リンク組織はマッピングやデータのインポートができません。
- キューブおよびモデル シートは、すべての組織階層が表示されますが、選択できるのはこれらのシートに割り当てられた組織のみです。組織に関してシートが使用できない場合、そのシートはその組織のデータを保持できません。

#### 属性

- 標準科目 (GL、カスタム、および前提条件科目) の任意の属性にマッピングできます。
- キューブ科目は、キューブ シート上の属性値および属性にのみマップできます。
- モデル シート セレクターのマッピングを作成できます。
- 属性値のためのインポート マッピング名前空間は、標準、キューブ、およびモデル シート間で共有されます。
    - 属性の属性値の標準インポートのマッピングを作成し、その属性値もキューブ シート上にある場合、標準インポートのマッピングがその属性値に適用されます。
- データのインポート時に属性メンバーを自動的に作成するように属性が設定されている場合、その属性にマッピングされたステージング列をマッピングする必要はありません。これらの属性は、インポート時に自動作成されるため、"属性マッピング" ページには表示されません。

### ビジネス ルールの作成

ビジネス ルールでは、データのインポート方法を指定できます。次の 3 つのタイプを作成できます。

- スキップ科目ルール
- 記号変更ルール
- SQL フィルタ

### スキップ科目ルールの作成

数値形式の科目の場合、データの読み込み処理中にスキップする必要がある科目または科目の範囲を指定できます。これらの科目には、数字のみを含めることができます。ローダは、ソース科目をスキップ科目ルール内で指定されたコードと照合し、それらのレコードを Adaptive Planning へのアップロードから廃棄します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

注 : このルールはソース科目に適用されます。このルールでは、ステージング行に科目コードが含まれており、マッピングがステージング科目コードと計画科目コードの間にあることを想定しています。

アルファベット、数字、および次のような一部の特殊文字を指定する科目コードを使用して、個々の科目をスキップするためのルールを設定できます。

- ピリオド (.)
- アンダーライン (_)
- ハイフン (-)
- コロン (:)

科目範囲のルールで使用できるのは数字だけです。スキップ科目のビジネス ルールは必要な数だけ作成できます。英数字フォーマットの科目をスキップするには、"ビジネス ルール" で SQL フィルタを使用します。

1. "ビジネス ルール" で "スキップ科目" を選択します。
2. "追加" を選択して、"科目コードの　スキップの範囲を追加" ダイアログ ボックスを開きます。
3. 科目番号または科目番号の範囲を入力します。
4. "ルールを保存" を選択します。"ビジネス ルール" ページに、保存されたスキップ科目ルールが表示されます。

注 : 複数のスキップ科目ルールを一度に作成するには、"Create Another" を選択します。次に "ルールを保存" をクリックするとスキップ科目ルールが保存され、"科目コードのスキップの範囲を追加" ダイアログ ボックスは開いたままになります。

### 記号変更ルールの作成

ソース科目を指定して、値の符号が変わるようにすることができます。

記号変更ルールを作成するプロセスは、スキップ科目ルールを作成するプロセスと事実上同じです。記号変更ルールで指定した科目は、Planning に読み込まれる際に符号が逆になります。

### SQL フィルタの作成

この機能を使用して、ステージング テーブルのどの行が Planning にロードできるかを指定する SQL ステートメントを作成できます。フィルタ基準を満たす記録は、Planning にロードするよう選択されます。

SQL フィルタを作成する方法

1. "ビジネス ルール" タブから、"SQL フィルタ" を選択します。
2. "編集" をクリックします。
3. フィールドに SQL WHERE 句の式を入力します。

   これは、式と一致しないステージング行をロードから除外します。"適用" をクリックして、フィルタの SQL 構文を自動的にチェックします。(エラーがある場合は、式にエラー箇所が示されます。)詳細な SQL 構文のヘルプについては、"メモ" セクションのリンクをクリックしてください。入力した式は、"ビジネス ルール" ページに表示されます。

詳細については、"SQL フィルタを編集" ダイアログ ボックスの "メモ" セクションの "オンライン ヘルプ" リンクをクリックしてください。

### ヒントとテクニック

#### 変更内容を保存中

"保存" をクリックすることで、Planning ローダに行った変更をいつでも保存できます (変更は頻繁に保存することをお勧めします)。"閉じる" をクリックしてから、ダイアログ ボックスの "いいえ" をクリックすると、保存していない変更を破棄できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

### ローダの実行またはスケジュール設定

必要なすべての設定を含む Planning データ ローダを保存すると、手動で実行するか、インテグレーション タスクとして実行するようスケジュールを設定できるようになります。

他のローダと同様に、ソース システムからデータをインポートすることも、すでにインポートされたステージング値を使用してローダを実行することもできます。実行時に、"データのインポートを省略" パラメータをオンまたはオフにして、ロードで既存のステージング テーブルを使用するかどうかを設定することにより、これらの動作のいずれかを選択できます。

重要： スプレッドシートのデータ ソースの場合は、"データのインポートを省略" は使用できません。

実行プロセスの一部として、ローダはこれらのルールを使用して、ステージング テーブルのデータが正しくマッピングされていることを確認します。

- 空の科目/組織値を含む行があると、ローダは失敗ステータスで完了します。ローダは、可能な限りすべてのデータのインポートを完了します。ローダがインテグレーション タスクの一部である場合、失敗ステータスによってタスクが終了します。失敗ステータスのローダの後には、追加のローダは実行されません。
- 空白の属性値を含む行については、(属性が空白のものも含め) ローダはすべての行を Planning に送信します。Planning は空白の属性値の "未分類" 値を使用してそのデータをインポートしようとします。
- 標準およびキューブ シートの科目/組織/属性のマッピングが欠落している行を処理する場合、インテグレーションはその行をスキップし、Planning に書き込みません。また、問題の詳細を記録します。モデル シートの場合、マッピングが欠落している行が検出されると、インテグレーションは Planning に書き込まれたデータがない状態でロードを中断し、タスクが "失敗" と報告されます。

注： 組織の親を再設定するときにロードに失敗し、組織に関する 次の警告が表示される場合 `levelname` "警告のまま続行" が "0" に設定されている場合は移動できません。"警告のまま続行" を選択し、再度ローダを実行してください。

### Planning ローダの出力のダウンロード

Planning ローダの出力は、Planning にデータをロードせずにスプレッドシートにダウンロードできます。これにより、データをロードする前に要件に対して手動で照合できます。

Planning ローダの出力をダウンロードするには:

1. "アクション" ペインで "ローダ出力のプレビュー" を選択します。
2. ローダ出力のプレビュー情報を入力します。

   入力が必要な情報は、作成している Planning ローダによって異なります。
3. "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

ローダが実行され、すべての変換とビジネス ルールが実行の一部として適用されます。ステータス ポップアップは、ローダ実行の一部として実行される手順を表示します。ロードするデータがある場合、ローダはスプレッドシートを作成し、ローダの出力をスプレッドシートの添付ファイルとして E メール通知を送信します。

### インテグレーション タスクに Planning ローダを追加

データ ソースの設定により、このローダを計画的かつ自動的に実行するインテグレーション タスクを作成できます。

インテグレーション タスクには、1 つ以上のローダを組み込むことができます。タスクには、Planning データ ローダ、Planning 科目ローダ、スクリプト化されたローダなど、他のタスクを含めることができます。

ヒント： ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。

タスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータがプロンプトに表示されます。タスク内のローダに共通または共有パラメータがある場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ただし、タスクがスケジュールで実行される場合は、デフォルトのパラメータ値が使用されます。

relatedlinks
参考
FAQ: 換算された通貨データを消去するにはどうすればよいですか？（2068ページ）

ドリルスルー用に **NetSuite** 外部システムを設定

外部システムを設定し、それを Planning データ ローダのマッピング プロファイルに関連付けると、 からのドリルスルーが可能になります。 Adaptive Planning シートおよびレポートのデータが NetSuite にインポートされます。ユーザーがドリルスルー リンクをクリックすると、以下のようになります。 Adaptive Planning がシステムに接続され、データの基になっているトランザクションを明らかにします。

マッピング プロファイルと外部システムの関連付けは任意です。ドリルスルーを有効化する際にのみ設定してください Adaptive Planning を NetSuite に設定する。

NetSuite 外部システムは、ロールアップ組織ではなく最下位組織からのドリル機能だけをサポートします。NetSuite Basic はロールアップ組織からのドリル機能をサポートします。

前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション"、"データ デザイナー"
- インスタンス内の NetSuite データ ソースにアクセスできることを確認します
- トークンベースの認証用の NetSuite 認証情報を作成したことを確認します
- ドリル用に新しいデータ ソースを作成する場合、 のデータにマッピングする NetSuite 列を書き留めます。 Adaptive Planning。
- 科目、組織、顧客、アイテム、および部署の標準 NetSuite 属性 (カテゴリ) のみがドリルを許可します。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

基本ステップ

1. 外部システムを作成し、名前を付けます。
2. 外部システム設定を設定し、次のようにします。 Adaptive Planning 接続方法、および使用するアカウントや認証情報を把握しておく必要があります。
3. 外部属性マッピングを設定して、外部システムの属性がどのようにして の属性にマッピングされるかを特定します。 Adaptive Planning。
4. 複数の外部列が 1 つにマッピングされる場合には、タプル SQL 列を設定します。 Adaptive Planning 属性

ヒント： ベスト プラクティス: データ ソースのための計画ローダを設定する前に、NetSuite の外部システムを設定します。外部システムを作成した後は、ドリルスルーのセットアップを完了するため、NetSuite データ ソースに戻る必要があります。

警告： NetSuite からデータをインポートしており、"科目"、"期間"、"子会社"、"部署"、"クラス"、"ロケーション"、"アイテム"、および "顧客" の標準カテゴリに基づいて NetSuite へのドリルスルーも設定したい場合は、Planning データ ローダの列とデータのマッピング手順の一環として、これらの各属性についての NetSuite 内部識別子を設定する必要があります。

外部システムの作成:

1. 画面の右側にある "コンポーネント ライブラリ" パネルで、"外部システム" を拡張します。
2. "新しい外部システムの作成" をクリックします。
3. "新規...を作成" ダイアログで新しい名前を入力して "作成" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

**NetSuite** の外部システム設定のセットアップ:

1. "外部システム設定" タブで "外部ソース システム" を選択します。"NetSuite" を選択し、NetSuite で使用しているアカウント ID を入力します。
2. "外部属性" を選択し、外部システムの属性とドリルスルー パラメータ名のリストを表示します。

**NetSuite** の外部属性設定のセットアップ

1. "外部属性マッピング" タブをクリックします。
2. "Planning 属性" をダブルクリックします。ダイアログで、"外部属性" を選択してそれをマッピングします。"適用" をクリックします。
3. 緑のステータス チェックマークは、Planning 属性が少なくとも 1 つの外部属性に正常にマッピングされていることを示します。"保存" をクリックします。

外部属性マッピング

外部属性マッピングは、外部システムから 2 つ以上の属性をドリルスルー用に 1 つの Planning 属性にマッピングする場合に役立ちます。

1. "コンポーネント ライブラリ" にリストされている外部システムを選択し、追加の外部属性を単一の Planning 属性にマッピングします。
2. "外部属性マッピング" タブを選択してから "Planning 属性" をダブルクリックして、マッピング エディターを起動します。
3. 外部属性を選択してください。選択された属性はリストの一番上に移動し、スクロール アップしないと表示されない場合があります。
4. (任意) 上に移動する選択した属性をドラッグ アンド ドロップして並べ替えます。設定した順序が、NetSuite からの読み込みを想定する順序と一致していることを確認してください。
5. マッピング エディタで、区切り記号を入力します。複数の外部属性が選択されている場合は、区切り記号が必要です。
6. 区切り文字の長さは 5 文字を超えることはできません。また、属性値で使用される文字 (後述のタプル マッピング済み列の実際の値) と一致しないようにしてください。"適用" をクリックします。
7. "外部属性" 列は、複数の外部属性が 1 つの Planning 属性にマッピングされていることを示します。
8. Planning 属性の外部属性のマッピングを完了した後、"アクション" パネルで "保存" をクリックします。

**NetSuite** のタプル **SQL** 列の構成

NetSuite から複数の列を Planning で属性指定にマッピングする場合は、Planning ローダで公開するステージング テーブルにタプル SQL 列を作成する必要があります。

複数の NetSuite 列から同じ Planning 属性にデータを移動する必要がない場合は、データ ソースにタプル SQL 列を作成する必要はありません。

既存の NetSuite データ ソースを再利用してドリルスルーを有効にする予定で、複数の NetSuite 列を単一の Planning 属性に配置する必要がある場合は、タプル SQL 列を使用してマッピングをやり直す必要があります。ローダを再構成して、インテグレーション タスクが有効であることを確認します。テスト環境でこれらのタイプの変更を行い、本番システムにローリングする前に変更を検証します。

ドリルスルー用にタプル SQL 列を設定するには、次のすべての手順を完了する必要があります。これらの手順は、複数の NetSuite 列から単一の Planning 属性にデータをインポートする必要がある場合にのみ実行します。

次の順序: Adaptive Planning さまざまなデータ項目をソースの NetSuite カテゴリに分類するには、このデータを Planning にインポートする前に、どの NetSuite ソース列を組み合わせて 1 つの列を作成するかを指定する必要があります。

異なる NetSuite 列が結合する順序と指定された区切り文字は、NetSuite 外部システムでの多対 1 列マッピングの指定方法に一致している必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

構成されている NetSuite 列と、その基礎となる NetSuite カテゴリを示すことで、 Adaptive Planning はプランニング シートにドリルスルー URL を構成します。

重要： タプル SQL 列を作成する前に、NetSuite 外部システムで多対 1 列マッピングを設定していることを確認してください。

1. "コンポーネント ライブラリ" で NetSuite データ ソースを選択します。
2. 左側の "データ コンポーネント" パネルでドリルスルーを有効にしたいテーブルを選択します。
3. このテーブルは、"ステージング領域" でフォーカスされます。"データ コンポーネント" のカスタム列フォルダを展開します。
4. "タプル SQL 列" を "ステージング領域" にドラッグ アンド ドロップします。この列は、外部システムで少なくとも 1 つのタプル マッピングが定義されている場合に使用できます。
5. 名前を追加し、以前に設定した外部システムを選択し、前のセクションで実行した外部属性マッピングに対応する Planning 属性を選択します。
6. "マッピング" タブを選択します。
7. 外部属性ごとに、対応するテーブルの列をマッピングします。
8. "適用" を選択します。
9. "アクション" パネルで "保存" を選択します。

**Planning 属性ローダの作成**

注： メタデータ ローダは、ソース システムからプランニング モデルの階層に階層情報を同期させます。同期させる前に、ソース システムにすでに階層が存在している必要があります。

重要： Planning 属性ローダの更新リクエストでは、階層属性の場合最大 10,000、またはフラット属性の場合 40,000 と属性値の数が制限されています。これらの制限は、ローダ リクエスト内の新しい属性値の作成には適用されません。

Planning 属性ローダでは、ステージング領域の属性値に関するメタデータを にマッピングできます。Adaptive Planning。Planning 属性ローダの主な利点は、"モデリング" > "モデル管理" > "属性" で 1 つずつ属性値を作成するのではなく、属性値を一括インポートできる点です。ローダを作成したら、手動で実行、またはインテグレーション タスクの一部として実行するようスケジュールを設定できます。

Planning 属性ローダを作成するには、次の手順に従います。

1. データ ソース設定の入力
2. 列マッピングの設定
3. ビジネス ルールの作成
4. ローダ出力のプレビュー
5. ローダの実行またはスケジュール設定

始める前に

Planning 属性ローダには、既存の データ ソースのインポートからのステージング データが必要です。

データ ソース設定の入力

データ ソース設定では、ステージング データから使用するソース テーブルを選択し、ロードする Planning 属性を選択し、新しい属性値を自動的に作成するかどうかを選択できます。

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。
2. コンポーネント ライブラリのローダ領域で "新しいローダを作成" をクリックします。
3. ローダ タイプとして "Planning 属性ローダ" を選択します。ローダの名前を入力します。
4. "作成" をクリックします。

ヒント： ベスト プラクティス: ローダを作成および編集する際は、"アクション" パネルで "保存" をクリックして頻繁に保存します。"閉じる" をクリックしてから "いいえ" をクリックすると、保存していない変更を廃棄できます。

以下の通り、Planning 属性ローダの一般プロパティ情報を入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

- ソース テーブル: ドロップダウン リストからソース テーブルを選択します。リスト内のソース テーブルは、アクセス権を持つステージング領域内で利用できるすべてのテーブルです。
- Planning 属性: ロードするソースのすべての属性から属性を 1 つ選択します。リストされている属性は、"モデリング" > "モデル管理" > "属性" から取得されます。
- Planning に見つからない場合は属性値を作成する: ソース システムで見つかったものの、"モデリング" > "モデル管理" > "属性" では見つからなかった新しい属性値を自動的に作成する場合にオンにします。このオプションをオフにすると、既存の属性値の更新のみが実行され、新しい属性は作成されません。
    - ロードする属性について、 "モデリング" > "モデル管理" > "属性" の "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" が有効になっていない場合、ローダは次の警告を表示します。
- ログ レベル: ローダを実行するときに記録する詳細のタイプを選択します。
    - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
    - 情報: ローダが更新された場合など、基本情報を記録します。
    - 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報を提供します。このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くのログ情報を生成する可能性があります。

列マッピングの設定
列マッピングを使用すると、データ ソースの列を "モデリング" > "モデル管理" > "属性" で選択可能な属性値にマッピングできます。

マッピングする列が複数ある場合、"フィルタの表示" を使用して、以下を選択できます。

- すべて: Planning 列をすべて表示します。
- 必須: 必要な Planning 列をすべて表示します。
- マッピング解除済: マッピングが解除された Planning 列をすべて表示します。
- マッピング済: マッピング済みの Planning 列をすべて表示します。

"検索" フィールドを使用して列を見つけることができます。完全な名前または部分的な名前を入力して検索し、虫眼鏡をクリックします。検索に一致するステージング列は、結果に表示されます。

列をマッピング

1. "列マッピング" をクリックします。

   "列マッピング" タブには下記が含まれます。

    - ステータス: Planning 列がマッピング済みかどうかを示します。チェック マーク マッピングされた列を示します。感嘆符 マッピングされていない列を示します。
    - Planning 列: シートにマッピングできる Planning 列をすべて表示します。Planning 列のリストには、必須の Planning 列と、それに続く他のすべての Planning 列が含まれています。必須の Planning 列は、アスタリスクを使用した太字のテキストで示され、値列を含みます。必須ではない列には、短縮名と説明が含まれます。
    - ソース列: "データ ソース設定" で選択したステージング テーブル内の列を表示します。
2. マッピング解除済の列を選択し、ドロップダウンをクリックします。マッピングできる列のリストがドロップダウン リストに表示さ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

れます。列をマッピングすると、ステータスインジケータが赤の から緑の に変わります。

"データのインポートにより自動的に属性値を作成する" が有効になっている場合は、コードごとに属性をマッピングできます。この場合、属性名が自動的にコードになります。

属性値とその親を Planning にマッピングする方法については 、例: スプレッドシートのデータ ソースからの属性値のロードを 参照してください。

| | |
|---|---|
| ロード時の Planning 属性値の名前の変更 | ロード時に Planning 属性値の名前を変更するには、以下の手順に従います。<br>1. ソース内の属性値を一意的に識別する "ソース列" を選択します。<br>2. ID 列を属性値 ID にマッピングします。<br>3. 名前を属性値名にマッピングします。 |
| 列のマッピングを解除 | 列のマッピングを解除するには、"マッピング解除" をクリックして、以下を選択します。<br>• すべてマッピング解除: 列のマッピングをすべて解除します。<br>• 選択項目をマッピング解除 : 選択した列のみマッピングを解除します。<br>列のマッピングを解除すると、ステータス アイコンが赤の に変わります。 |
| リスト属性に関連付けられたマッピング特性 | データ ソースのインポートから列をマッピングすることにより、特性をリスト属性に関連付けることができます。<br>注 : 特性と属性の関連付けは、リスト属性についてのみ可能です。特性を階層属性に関連付けることはできません。<br>以内 Adaptive Planning "モデル管理 " >"属性" にアクセスし、属性をクリックして詳細を表示し、それがリスト属性であるかどうかを確認できます。<br>データ ソース設定で、Planning 属性としてリスト属性を選択します。<br>この属性はリスト属性であるため、特性は列マッピング内の列として使用可能になります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

リスト属性は階層ではないため、parentId は "ソース列" のオプションではありません。

### マッピングのダウンロードおよびアップロード

ローダのマッピングをダウンロードして変更し、アップロードすることで、マッピングのエラーを迅速に解決できます。アップロードを実行すると、すべてが置換されます。アップロード時に処理できるファイルのマッピング シートは 1 枚のみです。マッピング シートが複数あるとエラーになり、アップロードがキャンセルされます。

1. "アクション" ペインで "メンバー マッピングをダウンロード" をクリックします。
2. .XLSX ファイルをダウンロードします。また、マッピング ファイルのダウンロード リンクが記載された E メールまたは Workday 通知が届きます。
3. ファイルを開いて、エラーの原因となっているマッピング シートのステージング テーブルの値を調べます。

   "Planning のコード" 列または "Planning の名前" 列で "(無効)" とマークされたセルは、このコードが Workday Adaptive Planning に存在しないことを示しています。
4. エラーを修正し、"メンバー マッピングのアップロード" をクリックしてファイルをロードします。"読み取り専用" 列はアップロードされません。
5. ローダを再度実行します。

注 : 導入パートナーまたは Workday Adaptive Planning サポートによる指示がない限り、"メンバー マッピングをクリア" はクリックしないでください。

### ビジネス ルールの作成

ビジネス ルールを使用して、ステージングのどのデータをロードに使用できるかを制限する SQL 式を作成できます。フィルタ基準を満たすレコードのみがロードされます。

SQL フィルタを作成するには、次のようにします。

1. "ビジネス ルール" タブで "SQL フィルタ" を選択します。"編集" をクリックします。
2. SQL 式を入力します。"使用できる列" リストでアイテムをクリックすると、タイピングせずに、その列を SQL 式に持ってくることができます。
3. "適用" をクリックして、SQL 構文を確認します。構文のエラーが発生すると、式を囲む線が赤に変わります。SQL エディタの上にマウスを合わせて、構文エラー情報を確認します。

   SQL 構文の詳細なヘルプについては、"SQL フィルタを編集" の "メモ" セクションの "オンライン ヘルプ" をクリックします。また、"SQL 式参照"にアクセスすることもできます。
4. 構文のエラーを修正し、"適用" をクリックします。ローダを実行すると、SQL 式に一致するステージング行のみがインポートされます。

### ローダ出力のプレビュー

完全ロードを実行する前にローダ出力をプレビューして、マッピングが必要とする仕様であることを確認できます。その出力を XML ファイルとしてダウンロードして、データ ソースからの属性値をロードする前に、その値が要件に合っていることを手動で確認することもできます。

1. "アクション" パネルで "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。
2. (任意) "ローダ出力のプレビュー" 設定を入力します。入力できる情報は、この Planning 属性ローダで選択したデータ ソースによって異なります。ここで設定を変更すると、ステージング テーブルおよび列に新しいデータがインポートされます。
3. "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

ローダが実行され、すべての変換とビジネス ルールが実行の一部として適用されます。ステータス ポップアップは、ローダが実行したステップを表示します。ロードする属性値がある場合、ローダは XML ファイルを作成し、それを Zip された XML 添付ファイルとしてローダの出力を含む E メール通知を送信します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ローダが成功した後、追加のポップアップで、"ローダ出力のプレビュー" を Zip された XML ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードのポップアップは、属性値の数とファイルのサイズに応じて、表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。

### 検証エラーの修正

属性値がロードされると、ソース データは次のエラーに対して検証されます。

- データにおいて属性値のソース ID 値が欠落しています (空欄)。
- データにおいて、ソース ID が重複しています。ソース ID は一意である必要があります。
- データに属性値名がありません (空欄)。
- データに重複した属性値名があります。
- ParentId がデータのソース ID と同じである場合、列はそれ自体をその親として参照しています。
- サブツリーをインポートする場合、サブツリーのルートは、Planning の既存のノードにマッピングされます。この場合、parentID は Planning に導入される新しいノードのソース データに含まれません。
- 既存のノードが新しいノードの下に移動し、"新規作成" フラグが無効になります。この場合、新しい属性値を作成しないようにローダに明示的に指示しておくと、既存の属性値は新しいノードに移動します。
- データの階層に周期的参照があります。この場合、ParentId はその子を親として参照しています。

## ローダの実行

必要なすべての構成設定とともに Planning 属性ローダを保存すると、ローダを手動で実行するか、スケジュールされたインテグレーション タスクとして実行できます。

重要 : 各 Planning 属性ローダの実行の間には、約 15 ~ 30 分の待機時間をおきます。 Adaptive Planning はインポートと同期する時間を確保します。より大きなインポートは同期するのにより長い時間がかかります。待機時間はモデル サイズやその他の要因によって異なります。

ソース システムから直接インポートすることも、すでにインポートされたステージング値を使用してローダを実行することもできます。ローダの実行時に、これらの動作のどれを使用するかを選択します。既存のステージング テーブルをロードに使用するには、"データ インポートを省略" を選択します。データ ソースとしてスプレッドシートを使用する場合は、"データ インポートを省略" は使用できません。

実行プロセスの一部として、ローダは、ステージング テーブルのデータが正しくマッピングされていることを確認します。ロード中に複数の検証が適用されます。ロード中に発生するエラーは、正常なインポートのために何を解決する必要があるかを示します。

### インテグレーション タスクに Planning 属性ローダを追加

インテグレーション タスク には、1 つまたは複数のローダを含めることができます。タスクには、Discovery メトリック ローダとスクリプト化されたローダのほか、他のインテグレーション タスクも含めることができます。

ヒント : ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | 1 つのタスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータが表示されます。タスク内のローダで共通/共有パラメータが使用されている場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。<br><br>計画実行されるタスクの場合、ローダが作成された際に保存されたパラメータのデフォルト値が使用されます。 |
| メッセージと警告のトラブルシューティング | ロード中に記録されたメッセージに関する説明については、を参照してください。 参考: Planning 属性ローダのログ メッセージ（1800ページ）。 |

ソース属性値の変更のロード
ソース属性値へのマッピングが既に確立されている場合、Planning 属性ローダは、ロード時に属性値の名前を変更できます。

この表は、ローダによってすでに確立済みのマッピングを示しています。ソース属性値 "USA" は、ソース ID 列 "1001" にマッピングされます。

| Planning 属性値 | ソース ID 列 | ソース属性値 |
|---|---|---|
| USA | 1001 | USA |
| カナダ | 1002 | Canada |

ソースシステムで、"USA" が "United States" に変更された場合、ローダはソース ID 列 "1001" と属性値 "USA" の Planning の内部 ID との間のマッピングを維持するため、Planning 属性ローダはロード時にこの変更を適用できます。

| Planning 属性値 | ソース ID 列 | ソース属性値 |
|---|---|---|
| USA | 1001 | アメリカ合衆国 |
| カナダ | 1002 | Canada |

ローダを実行すると、Planning の 属性値が "USA" から "United States" に変更されます。

名前またはコードの一括更新

次のレベル: カスタム属性名/コードの一括更新への Adaptive Integration の使用を参照してください。

**Scripted Planning Exporter** による **Planning** データのエクスポート

カスタマイズされた Pentaho プラグインの Scripted Planning Exporter (SPE) を使用して、Planning データを外部システムにエクスポートすることができます。その他の情報: Adaptive Planning スクリプト化されたデータ ソースの設定を参照してください。

**SPE** について
SPE は、 Adaptive PlanningREST API をエクスポートし、指定されたファイルにその API コールの結果を保存します。SPE は、CSV および XML ファイル形式への出力をサポートしています。すべてのエクスポート データを CSV 形式に変換できるわけではありません。

SPE はバージョン v51.17.0734 から始まる データ エージェントにバンドルされているプラグインです。プログラムを開くと、どのバージョンの データ エージェント サービス マネージャを所有しているかを確認することができます。バージョン番号は "バージョン情報" タブの情報に表示されます。データ エージェントのインストールについては、 データ エージェント サービス マネージャのインストールを参照してください。SPE がインストールされると、Adaptive Planning プラグインが Spoon の "設計" タブの "入力" フォルダに表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

注： Scripted Planning Exporter Adapter 関連の用語は多少わかりにくいかもしれません。データは Planning からスクリプトに流れてから、いくつかの外部の宛先に流れるため、Planning からのデータのエクスポートと、外部の宛先へのデータのインポートとなります。ただし、Spoon から見ると、SPE はスクリプトへ入力するため入力ステップとなります。このため、Spoon では "Adaptive Planning Input" というラベルが付けられています。

Spoon 環境から直接 SPE を起動することも、スクリプタ ローダに SPE を組み込むことによってリモートから起動することもできます。SPE を使用する一般的なプロセスでは、Planning サーバーで受け入れられた形式で XML リクエストを作成し、それを SPE に渡してから結果を処理するスクリプトを作成します。以下は、SPE スクリプトの最低要件を示したサンプルのスクリプトです。

```
      Scripted Planning Exporter
-----------------------------------------
Input:
      requestXMLString: request in XML format
      targetResponseFormat: CSV or XML
      targetFolder: target folder to store result file generated by
         this plugin

Output: The type of output fields is String, except
    requestSuccess, which is boolean
      requestSuccess: Boolean, Y' or N'
      planningMsgs: concatenate Planning messages in a string,
    delimited by ###'
      responseFileName: complete path of the response file name
      fieldNames: column name in CSV header, or NULL if
    targetResponseFormat is XML
      numberRecReturned: String, number of records returned by
    Planning, or NULL if targetResponseFormat is XML
```

このスクリプトのベスト プラクティスには次のものが含まれます。

- すべての入力フィールド名では、大文字と小文字が区別されます。それに応じて Kettle スクリプトで定義します。
- requestXMLString: 各エクスポート API には独自のリクエスト XML フォーマットがあります。以下を参照してください。 Adaptive Planning 詳細については、 REST API を参照し てください。
- targetResponseFormat: API v11 時点では、'exportData' API のペイロードのみを CSV フォーマットに変換できます。その他のエクスポートはすべて XML である必要があります。
- TargetFolder: 通常は、 エージェント サービス マネージャで、"ファイルへのランナー アクセスを制限する" チェックボックスをオンにしないでください。ターゲット フォルダはファイル システム内のどこにでも置くことができます。
- responseFileName: 回答ファイルの名前は、次のフォーマットである。 `<targetFolder>_ApiResponse_<exportMethod>_<UUID>.<targetFormat>`; 例: `C:\pdiTemp\ApResponse_exportData_83980a17b3dc40c48282483cb9ea5e96.csv`
- requestSuccess: エクスポート リクエストが Planning サーバー側で処理される場合、requestSuccess は true ('Y') の値を持ちます。Planning への呼び出しの結果、エクスポート リクエストが失敗した場合、SPE は Planning サーバーから返されたエラーメッセージを含む例外をスローします。

Planning から情報を抽出して出力ファイルに送信する一般的なワークフローを以下に示しています。

1. リクエスト XML ファイルを入力
2. ファイル コンテンツを文字列に変換
3. ターゲット フォーマット (CSV | XML) およびフォルダをセット
4. Adaptive Scripted Planning Exporter
5. ブロッキング ステップ
6. Adapter 出力の記録

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

**Kettle** スクリプトから **Planning** エクスポート **API** を使用
SPE は以下を使用します。 Adaptive PlanningAPI v11 以上。SPE では次の API を使用できます。

- customReportValues: リクエストされたインスタンス内のリクエストされたレポート条件のデータセットを返します
- exportData: 特定のバージョンから一連の値を取得します

の理解を参照してください。 Adaptive Planning 詳細については API を参照 してください。

**SPE Kettle** プラグインの構成
SPE Kettle プラグインを設定するには:

1. Spoon の "設計" タブで "Adaptive Planning Input" をクリックします。
2. SPE の情報を入力します。
    - アクティブ エージェント: SPE によって自動的に入力されます。
    - インスタンス ホスト: SPE によって自動的に入力されます。
    - インスタンス コード: SPE によって自動的に入力されます。
    - ログイン: ログイン コンテキスト パラメータの値です。
    - ログイン パスワード: パスワード コンテキスト パラメータの値です。
    - ロケール: デフォルトは en_US です。
3. "OK" をクリックします。

SPE 操作の入力と出力を定義するスクリプトを作成する必要があります。この記事のサンプル スクリプトを参照してください。

内の **SPE** の構成 **Adaptive Planning** インテグレーション クラウド **UI**
インテグレーションのクラウド UI を使用してスクリプト化されたローダを作成する一般的なプロセスは次のとおりです。

- スクリプト化されたローダを作成
- エントリ ポイントを選択
- 必須パラメータを構成

新しいスクリプト化されたローダの作成から開始します。詳細については、 スクリプト化されたローダの作成を 参照してください。エントリ ポイント ドロップダウンでエントリ ポイントも選択する必要があります。エントリ ポイントは、スクリプト化されたローダが実行されたときに実行されるスクリプトの名前に設定されます。

Kettle/Spoon 環境の環境変数として、スクリプト化されたローダで定義されたローカルおよび共有コンテキスト パラメータをマッピングして公開する必要があります。例: "login" というコンテキスト パラメータがパラメータ セクションのローダ設定画面で定義されている場合、Kettle 環境の変数 "${login}" として公開されます。スクリプト化されたローダの 2 つのコンテキスト パラメータが定義され、対応する両方の Kettle 変数の SPE で使用されます。

設計時に現在のデフォルトのコンテキスト パラメータ値で Kettle 変数を更新するには、Adaptive スクリプト エディタを起動し、"Refresh Configuration" をクリックしてリフレッシュをトリガします。

**Planning** 関連付けローダの作成

関連付けローダでは、ステージング領域のユーザー属性と組織の関連付けに関するメタデータを にマッピングできます。 Adaptive Planning。"関連付け" により、組織とカスタム属性をユーザーに結びつけます。組織所有権は、ユーザーを組織に結びつけるタイプのユーザー関連付けです。通常の組織関連付けと異なり、組織所有権には他の権限も付属します。を参照してください。

ローダを作成したら、手動で実行するか、またはインテグレーション タスクの一部として実行するようスケジュールを設定できます。インテグレーション タスクの作成を参照してください。

前提条件

- 関連付けローダには、既存の データ ソースのインポートからのステージング データが必要です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 必要な権限: "モデル"、"インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"

基本ステップ

1. データ ソース設定の入力
2. 列マッピングの設定
3. ビジネス ルールの作成
4. ローダ出力のプレビュー
5. ローダの実行またはスケジュール設定

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

データ ソース設定の入力

データ ソース設定では、インテグレーション ステージング データから使用するソース テーブルを選択し、ロードする関連付けを選択できます。

1. コンポーネント ライブラリの "ローダ" ペインで "新しいローダを作成" を選択します。
2. ローダ タイプとして "Planning 関連付けローダ" を選択します。ローダの名前を入力します。
3. "作成" をクリックします。
4. "データ ソース設定" タブで関連付けローダの一般プロパティ情報を入力します。
    - ソース テーブル: ドロップダウン リストからソース テーブルを選択します。リスト内のソース テーブルは、アクセス権を持つステージング領域内で利用できるすべてのテーブルです。
    - マッピング プロファイル: ローダ作成プロセスの一環として、マッピング プロファイルにリンクします。ドロップダウン リストからマッピング プロファイルを選択します。リストにあるマッピング プロファイルは、アクセスできるプロファイルです。Planning データ ローダの「マッピング プロファイル」セクションを参照してください。このマッピング プロファイルと、メタデータ ローダの一部として読み込まれたマッピングは、Planning 組織と属性をマッピングします。Planning データ ローダの作成を参照してください。例: 関連付けローダの組織列の値が "999999" (Workday の場合は WID) の場合、マッピング プロファイルは、それが参照する Planning 組織を決定します。
    - 組織または属性: 組織の承認権または組織関連付けの組織を選択します。属性関連付けをロードする属性を選択します。
    - 特性:(任意) 組織または属性の Adaptive Planning 特性を選択します。これにより、組織または属性特性の関連付けをマッピングおよびロードできます。
    - モード: "更新" を選択して、組織のサブセットで関連付けまたは所有権の割当を変更します。これにより、ユーザーではなく組織が更新されます。組織を更新するには、ペイロードでその組織に関連付けられているすべてのユーザーが必要です。"すべて置換" を選択して、ペイロードに記載された関連付け内のすべてのユーザーを削除して、置き換えます。
        - Workday ヒューマン キャピタル マネジメントまたは Workday 財務管理と Adaptive Planning を使う場合、モードには自動的に "更新" が入ります。
        - Workday ヒューマン キャピタル マネジメントまたは Workday 財務管理と Adaptive Planning を使わない場合、モードには自動的に "すべて置換" が入ります。
    - 警告のまま続行: 警告を表示してローダの実行を継続する場合はオンにします。オフのままにしておくと、警告が出たときにローダが停止します。これを有効にすると、ローダはマッピ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

ングされていない属性や組織をスキップし、ログに警告を表示する一方で、ローダの処理を続行することができます。
- ログ レベル: ローダを実行するときにキャプチャする詳細のタイプを選択します。
  - オフ: エラーは記録されていません。
  - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
  - 情報: ローダが更新された場合など、基本情報を記録します。
  - 詳細: すべての段階と操作に関する詳細な情報。主にデバッグまたは監査用に使用されます。

列マッピングの設定
列マッピングを使用すると、データ ソースの列を "モデリング" > "モデル管理" > "組織" または "モデリング" > "モデル管理" > "属性" で使用可能な関連付けにマッピングできます。ユーザー と Planning 列はマッピングする必要があります。

注 : この環境でユーザー同期を実行している Workday カスタマーは、ユーザー列が WID を含むソース列にマッピングされている必要があります。ユーザー同期を実行していない場合、または Workday カスタマーではない場合、ユーザー列はユーザー名または E メールを含むソース列にマッピングされる必要があります。

マッピングする Planning 列が複数ある場合、 "表示" フィルタを使用して、以下を選択します。

- すべて: すべてのユーザーを表示します。
- 必須: "ユーザー" と "組織" など、必要な Planning 列をすべて表示します。
- マッピング解除済: マッピングが解除された Planning 列をすべて表示します。
- マッピング済: マッピング済みの Planning 列をすべて表示します。

"検索" フィールドを使用して列を見つけることができます。完全な名前または部分的な名前を入力して検索し、虫眼鏡をクリックします。検索に一致するステージング列は、結果に表示されます。

列をマッピング

1. "列マッピング" タブをクリックします。"列マッピング" タブには、次の列があります。
   - ステータス: チェックマーク マッピングされた列を示します。感嘆符 マッピングされていない列を示します。
   - Planning 列: マッピングできる Planning 列をすべて表示します。必須の Planning 列は、アスタリスクを使用した太字のテキストで示されます。
   - ソース列: "データ ソース設定" で選択したステージング テーブル内の列を表示します。
2. マッピング解除済の列を選択し、ドロップダウンをクリックします。マッピングできる列のリストがドロップダウン リストに表示されます。列をマッピングすると、ステータス インジケータが赤の から緑の に変わります。

組織所有権のマッピング列

組織所有権のみをロードする場合は、"ソース列" に組織の関連付けコードの識別子をマッピングしないでくださ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | |
|---|---|---|
| | | い。"管理" > "関連付け" の組織所有権は、関連付けコードを空にすることで得られます。 |
| | 組織と属性関連付けのマッピング列 | 組織と属性関連付けをロードする場合は、"ソース列" に関連付けコードの "Ref ID" などの識別子をマッピングします。<br><br>重要：1 つのローダに組織所有権と組織関連付けの両方をロードすることはできません。組織所有権用に 1 つのローダを作成し、組織関連付け用に別のローダを作成してください。 |
| | 特性関連付けのためのマッピング列 | 組織または属性特性を関連付けとともにロードする場合は、それらを "ソース列"にマッピングします。特性はマッピングの下部 (関連付け名の下) に表示されます。 |
| 列のマッピングを解除 | | 列のマッピングを解除すると、ロードしたくないステージング データを無視できます。また、ローダの実行後に列のマッピングを 1 つずつ解除して、ログにエラーを生成する列をトラブルシューティングすることもできます。<br><br>列のマッピングを解除するには、"マッピング解除" をクリックして、以下を選択します。<br>• すべてマッピング解除: 列のマッピングをすべて解除します。<br>• 選択項目をマッピング解除: 選択した列のみマッピングを解除します。<br><br>列のマッピングを解除すると、ステータス アイコンが感嘆符 に変わります。 |

ビジネス ルールの作成
ビジネス ルールを使用して、ロードに使用できるステージング データを制限する SQL 式を作成できます。フィルタ基準を満たすレコードのみがロードされます。

"ビジネス ルール" タブには、SQL を入力するためのテキスト領域が含まれています。

SQL フィルタを作成するには、次のようにします。

1. "ビジネス ルール" タブで "SQL フィルタ" を選択します。 "編集" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. SQL 式を入力します。"使用できる列" リストでアイテムをクリックすると、タイピングせずに、その列を SQL 式に持ってくることができます。
3. "適用" をクリックして、SQL 構文を確認します。構文のエラーが発生すると、式を囲む線が赤に変わります。SQL エディタの上にマウスを合わせて、構文エラー情報を確認します。

   SQL 構文の詳細なヘルプについては、"SQL フィルタを編集" の "メモ" セクションの "オンラインヘルプ" をクリックします。参考: SQL 式を参照してください。
4. 構文のエラーを修正し、 "適用" をクリックします。ローダを実行すると、SQL 式に一致するステージング行のみがインポートされます。

### ローダ出力のプレビュー

完全ロードを実行する前にローダ出力をプレビューして、マッピングが希望通りに動作していることを確認できます。プレビュー出力を XML ファイルとしてダウンロードし、ロードする前に要件に対してデータ ソースからユーザー組織所有権の関連付けを手動で確認することもできます。

"アクション" ペインで "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

ローダが実行され、すべての変換とビジネス ルールが実行の一部として適用されます。ステータス ポップアップは、ローダが実行したステップを表示します。ロードするユーザー関連付け値がある場合、ローダは XML ファイルを作成し、それを Zip された XML 添付ファイルとしてローダの出力を含む E メール通知を送信します。

ローダが成功した後、追加のポップアップで、"ローダ出力のプレビュー" を Zip された XML ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードのポップアップは、関連付け値の数とファイルのサイズに応じて、表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。

| | |
|---|---|
| 検証エラーの修正 | ローダ出力のプレビュー時または手動によるロード実行時に、ソース データのエラーが検証されます。検証の例には、次の場合のチェックが含まれます。<br>• データにおいてユーザーまたは組織と属性値のソース ID 値が欠落している (空欄)。<br>• ソース ID がマッピングされていない。 |

### ローダの実行

必要なすべての構成設定とともに Planning 関連付けローダを保存すると、ローダを手動で実行するか、スケジュールされたインテグレーション タスクとして実行できます。

重要 : 各 Planning 関連付けローダの実行の間には、約 15 ~ 30 分の待機時間を置きます。 Adaptive Planning はインポートと同期する時間を確保します。より大きなインポートは同期するのにより長い時間がかかります。待機時間はモデル サイズやその他の要因によって異なります。

ソース システムから直接インポートすることも、すでにインポートされたステージング値を使用してローダを実行することもできます。ローダの実行時に、これらの動作のどれを使用するかを選択します。既存のステージング テーブルをロードに使用するには、"データ インポートを省略" を選択します。データ ソースとしてスプレッドシートを使用する場合は、"データ インポートを省略" は使用できません。

実行プロセスの一部として、ローダは、ステージング テーブルのデータが正しくマッピングされていることを確認します。ロード中に複数の検証が適用されます。ロード中に発生するエラーは、正常なインポートのために何を解決する必要があるかを示します。

| | |
|---|---|
| インテグレーション タスクに Planning 関連付けローダを追加 | インテグレーション タスク には、1 つまたは複数のローダを含めることができます。タスクには、Discovery メトリック ローダとスクリプト化されたローダのほか、他のインテグレーション タスクも含めることができます。<br>ヒント : ベスト プラクティス: 各ローダに個別のインテグレーション タスクを持たせます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

1 つのタスクに複数のローダが含まれている場合は、タスクの実行時に各ローダのパラメータが表示されます。タスク内のローダで共通/共有パラメータが使用されている場合、タスクがパラメータの入力を求めるのは 1 回だけです。パラメータ プロンプトのオーバーライドを選択できます。

計画実行されるタスクの場合、ローダが作成された際に保存されたパラメータのデフォルト値が使用されます。

## 特性と関連付けのロード

### 始める前に

セキュリティ:"モデル"、"インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"権限

以下を含むデータ ソース。

- ユーザーを識別するために、ユーザーの E メールを含む列
- 関連付け名を含む列
- 関連付けコードを含む列
- 属性値または組織を含む属性または組織の列。
- 属性値または組織と一致する特性値を含む特性の列。

### このタスクについて

Adaptive Planning 関連付けローダを作成および実行することにより、特性と関連付けてロードできます。データ ソースには、関連付けを作成する特性値と、それぞれのカスタム属性値または組織値を含める必要があります。

例:

特性 "地域" と特性値 "US" の関連付けを作成するには、"US" に関連付けられている "市" のカスタム属性値ごとにデータ ソースの行を含める必要があります。

- ニューヨーク
- サンフランシスコ
- シアトル

### 手順

1. コンポーネント ライブラリの "ローダ" ペインで "新しいローダの作成" を選択します。
2. ローダ タイプとして "関連付け Planning ローダ" を選択します。ローダの名前を入力します。
3. "作成" をクリックします。
4. 次を参考にして、"データ ソース設定" を完了させます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| ソース テーブル | データ ソースからソース テーブルを選択します。 |
| マッピング プロファイル | このマッピング プロファイルは、メタデータ ローダの一部として読み込まれるマッピングとともに、Planning 組織と属性をマッピングします。Planning データ ローダの作成を参照してください。例: 関連付けローダの組織列の値が "999999" (Workday の場合は WID) の場合、マッピング プロファイルは、それが参照する Planning 組織を決定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| 組織または属性 | 関連付けをロードする組織または属性を選択します。 |
| 特性 | 組織または属性にタグ付けする特性を選択します。<br><br>その組織または属性に対して有効な特性を選択する必要があります。"モデリング" > "モデル管理" に移動して "組織" または "属性" ページを表示し、特定の組織または属性値に対して有効な特性を確認します。 |
| モード | • "更新" は組織のサブセットで関連付けを変更します。組織を更新するには、ペイロードでその組織に関連付けられているすべてのユーザーが必要です。<br>• "すべて置換" は、ペイロードに記載された関連付け内のすべてのユーザーを削除し、置き換えます。<br>  • Adaptive Planning を Workday ヒューマン キャピタル マネジメントまたは Workday 財務管理と併用する場合、モードには自動的に "更新" が入力されます。<br>  • Workday ヒューマン キャピタル マネジメントまたは Workday 財務管理と Adaptive Planning を使わない場合、モードには自動的に "すべて置換" が入ります。 |
| 警告のまま続行 | 警告を表示してローダの実行を続行する場合に選択します。オフにすると、警告が出たときにローダが停止します。これを選択すると、ローダはマッピングされていない属性または組織をスキップし、ログに警告を作成しますが、ローダは処理を続行できます。 |
| ログ レベル | • オフにすると、エラーは記録されません。<br>• エラーは、重大なエラーを記録します。<br>• 詳細ログは、すべてのフェーズとアクションに関する詳細情報を記録します。主にデバッグまたは監査用に使用されます。 |

5. 次を参考にして、列マッピングを設定します。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ユーザー | データ ソースからユーザーを含む列を選択します。 |
| Level | 組織の関連付けについては、組織を含むデータ ソースから列を選択します。 |
| 属性 | 属性を関連付ける場合、データ ソースから属性値を含む列を選択します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ロール参照 ID(財務管理または HCM を使用する Adaptive Planning 用)<br>または<br>関連付け ID | 関連付けコードを含むデータ ソースから列を選択します。 |
| ロール参照名 (財務管理または HCM を使用する Adaptive Planning の場合)<br>または<br>関連付け名 | 関連付け名を含むデータ ソースの列を選択します。 |
| 特性 | データ ソースから特性値を含む列を選択します。 |

6. (任意) SQL 式を作成してビジネス ルールを設定します。
   参照 参考: SQL 式 ( 1693ページ ) 。
7. ローダを実行します。
   参照 ローダの実行 ( 1722ページ ) 。
8. "モデル管理 > 関連付け" に移動し、ロードが成功したことを確認します。

ワークフォース プランニングのステージング テーブルおよびローダ

ワークフォース プランニング は Adaptive Planning インスタンスを使用 Workday HCM データモデルの基盤には、属性ローダおよびデータ ローダ、トップダウンおよびボトムアップのモデル シート、属性、および数式が含まれます。

ローダを実行することは、ワークフォース プランニングの設定の 1 つのステップです。最初に以下を参照してください 概念: HCM を使用したワークフォース プランニング ( 27ページ ) 。ワークフォース プランニングを始めたときに実行するローダにより、以下が追加されます。

- 組織
- カスタム属性値
- 関連するカスタム属性特性
- 対応する に関連付けられたデータ Workday レポート

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

ワークフォース プランニングのデータ ソース、ローダ、および結果
一般的な手順については、 ローダの実行を参照してください。

重要 : 表に記載されている順序でローダを実行する、または実行するようにスケジュールします。

| | |
| --- | --- |
| 組織ローダ | 設定 Workday 組織にロードした 属性は、すべてのシートに表示されます。これは、すべてのシートに組織が必要だからです。組織には、"会社"、"コストセンター"、"監督組織" を選択できます。残りの 2 つをカスタム属性としてロードします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Workday レポート ソース | Adaptive Planning データ ソースと ローダ名 | 結果 | 属性または データのある シート |
|---|---|---|---|
| 計画された 属性/階層 | 会社組織 | 会社の属性を組織としてモデルとすべてのシートにロードします。<br><br>"会社のコスト センター組織" と "監督組織" を使用しなかった場合のみ使用してください。 | すべて |
| 計画された 属性/階層 | コスト センター組織 | コスト センターの属性を組織としてモデルとすべてのシートにロードします。<br><br>"会社組織" と "監督組織" を使用しなかった場合のみ使用してください。 | すべて |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| Workday レポート ソース | Adaptive Planning データ ソースと ローダ名 | 結果 | 属性または データのある シート |
|---|---|---|---|
| 計画された 属性/階層 | 監督組織 | 会社の属性を組織としてモデルとすべてのシートにロードします。<br><br>"会社のコスト センター組織" と "会社組織" を使用しなかった場合のみ使用してください。<br><br>"Workday 監督組織" 属性を使用して、Adaptive Planning 組織にロードすることをお勧めします。 | すべて |

属性と特性のローダ

| Workday レポート ソース | Adaptive Planning データ ソースと ローダ名 | 結果 | 属性のある シート |
|---|---|---|---|
| 計画された 属性/階層 | 会社 | 属性値をロードします。<br><br>組織用の "会社組織" ローダを実行していない場合にのみ使用します。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan |
| 計画された 属性/階層 | ローダ名: 報酬等級 | 今後開発される予定です。実行しないでください。 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| Workday レポート ソース | Adaptive Planning データ ソースと ローダ名 | 結果 | 属性のある シート |
|---|---|---|---|
| 計画された 属性/階層 | コスト セ ンター | 属性値を ロードしま す。<br>"コスト セ ンター組 織" ローダ を実行して いない場合 にのみ使用 します。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan |
| PLN イニ シアチブ | イニシアチ ブ | 今後開発さ れる予定で す。実行し ないでくだ さい。 | なし |
| PLN 職務 プロファイ ル属性 | データ ソース: 特 性ありの職 務プロファ イル<br>ローダ名: 職務プロ ファイル | 属性値を ロードしま す。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan<br>• Bottom Up: Aggregated (Position + Job Management) Plan |
| 計画された 属性/階層 | 職務補充依 頼 | 属性値を ロードしま す。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| Workday レポートソース | Adaptive Planning データソースとローダ名 | 結果 | 属性のあるシート |
|---|---|---|---|
| PLN バスサイトとしての場所 | 場所 | Location_Country 特性値がタグ付けされた属性値をロードします。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan<br>• Bottom Up: Aggregated (Position + Job Management) Plan<br>• Strategic Plan: Location Assumptions |
| 計画された属性/階層 | 管理組織 | 今後開発される予定です。実行しないでください。 | なし |
| 計画された属性/階層 | データソース: ポジション<br>ローダ名: ポジション属性 | "ポジション要件 v2" の属性値をロードします。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan |
| 計画された属性/階層 | 監督組織 | 属性値をロードします。<br>"監督組織" を組織に合わせてロードしていない場合のみ使用します。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| Workday レポート ソース | Adaptive Planning データ ソースと ローダ名 | 結果 | 属性のあるシート |
|---|---|---|---|
| PLN 従業員属性 | データ ソース: 特性ありの従業員<br>ローダ名: 従業員属性 | "従業員タイプ" 特性がタグ付けされた属性値をロードします。 | • Bottom Up: Position Management Plan<br>• Bottom Up: Job Management Plan<br>• Worker Data |

データ ローダ

| | | | |
|---|---|---|---|
| PLN すべてのポジション | データ ソース: ポジション データ<br>ローダ名: ポジション データ モデル シート | Bottom Up: Position Management Plan モデル シートにデータをロードします。 | Bottom Up: Position Management Plan |
| PLN すべての従業員 | データ ソース: 従業員データ<br>ローダ名: 従業員データ モデル シート | Worker Data シートにデータをロードします。 | Worker Data |

概念: ローダ

ローダを使用すると、ソース システムのデータとメタデータを Adaptive Planning に一括同期できます。ローダにより、モデル管理の手動プロセスを自動化して、以下の階層を作成および更新できます。

- 特性
- 科目
- 属性
- 組織

また、Planning データ ローダを使用して、データをインポートする手動プロセスを自動化することもできます。

Adaptive Planning のローダには以下が含まれます。

- メタデータ ローダ: 階層および構造用
- データ ローダ
- Adaptive Planning から他のクラウドベース システムにエクスポートするローダ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| ローダ タイプ | ローダ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| メタデータ ローダ: 階層および構造用 | Planning 特性ローダ | ステージング領域の特性をマッピングしてから、その階層をインポートします。 |
| メタデータ ローダ: 階層および構造用 | Planning 科目ローダ | ステージング領域から総勘定元帳 (GL) 科目とそのプロパティをマッピングしてから、その階層をインポートします。 |
| メタデータ ローダ: 階層および構造用 | Planning 属性ローダ | ステージング領域の属性値をマッピングしてから、その階層をインポートします。 |
| メタデータ ローダ: 階層および構造用 | Planning 組織ローダ | ステージング領域の組織をマッピングしてから、その階層をインポートします。 |
| データ ローダ | Planning データ ローダ | ステージング領域のデータをマッピングしてから、そのデータを以下にインポートします。<br>• 総勘定元帳科目 (標準インポートを使用)<br>• キューブ シートとモデル シート<br>• トランザクション テーブル |
| データ ローダ | スクリプト化されたローダ | Pentaho Kettle スクリプトを抽出、処理、ロードし、外部ソースから直接ロードして複雑な計算および分析を実行します。 |
| Adaptive Planning から他のクラウドベース システムにエクスポートするローダ | カスタム クラウド ローダ | JavaScript および ai 名前空間 API を使用して、外部のクラウドベースのシステムにステージング データをロードします。<br>注： 組織が Discovery Enterprise を使用している場合は、Discovery メトリック ローダにアクセスすることもできます。このローダは Adaptive Planning シートまたはトランザクションへのロードはできません。 |

ローダのワークフロー

ローダを作成する際は、以下の場合にステージング テーブルのデータとメタデータがどのように Adaptive Planning にマッピングされるかを指定します。

- ロード元のデータ ソース ステージング テーブルを選択する。
- ローダ設定を選択する。例: ローダが更新する既存の属性値を見つけられない場合に、Adaptive Planning で新しい属性値を作成できます。
- Adaptive Planning の列にソース システム列をマッピングする。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- ローダを手動で実行するか、またはインテグレーション タスクの一部として実行するようスケジュールを設定する。

また、以下の場合にデータとメタデータがどのようにマッピングされるかを指定するオプションもあります。

- Planning データ ローダ プロファイルを外部システムにマッピングし、Adaptive Planning からその外部システムへのドリルを有効化する。
- ビジネス ルールまたは SQL フィルタを適用する。
- ローダ出力をプレビューして、ログ内のエラーを確認する。

1 つのデータ ソースからステージング領域に必要なすべてのデータの共用体をインポートすることをお勧めします。共用体をインポートしたら、各ローダのデータをフィルタリングし、ロードする必要がある特定のデータ セットを抽出します。

relatedlinks
タスク
インテグレーション タスクの作成（1806ページ）
参考
ai 名前空間（1827ページ）
次のレベル: Adaptive Planning - 新しい属性を定義する要素

例: スプレッドシートのデータ ソースからの組織のロード

この例では、スプレッドシートのデータ ソースから に組織のリストをロードする方法を説明します。Adaptive Planning Planning 組織ローダを使用それは、以下の組織であることを前提としています: `Total Company` は組織の最上位レベルとしてすでに存在します:

2 つの新しい組織を追加することが、ここでの最終目的です。`Sales - South East` および `Sales - South West` 既存の組織の下に `Sales - South`。ロードの完了後、組織管理者に表示される組織構造は以下のようになります。

```
Total Company
|__Company A (100% owned)
   |__Operations
      |__United States
         |__Sales - North
         |__Sales - South
            |__Sales - South East
            |__Sales - South West
         |__Sales - East
         |__Sales - West
         |__Services - East
         |__Services - West
         |__Support
      |__Canada
      |__United Kingdom
...
```

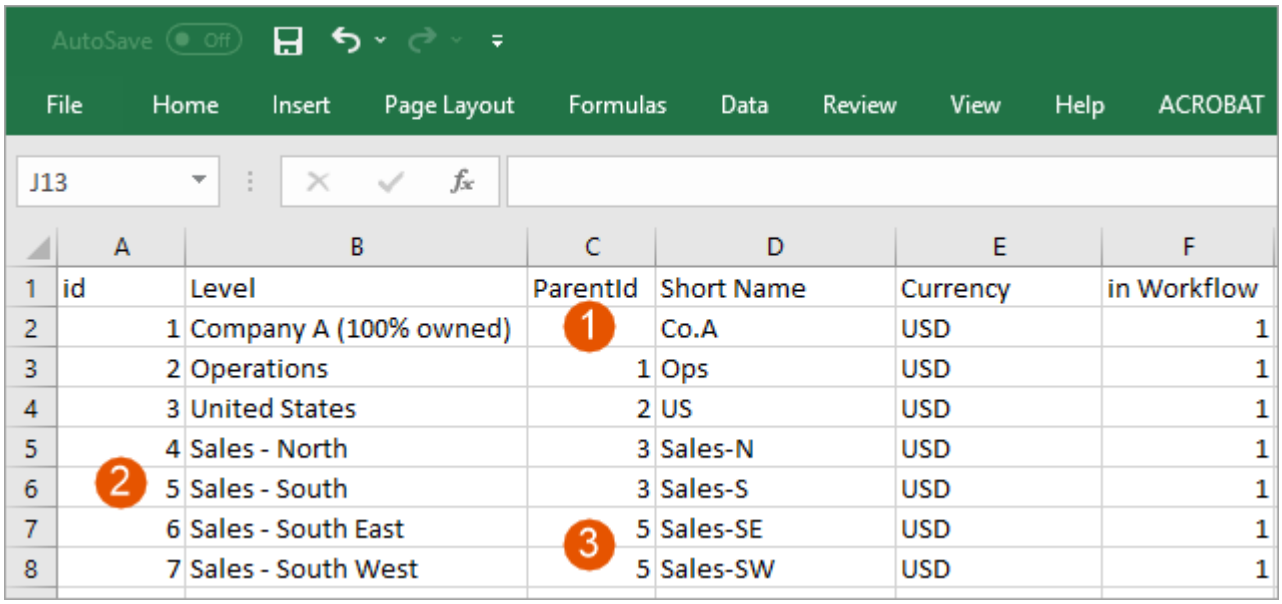
組織スプレッドシートの形式設定
Planning 組織ローダへのインポートに使用するスプレッドシートには、組織の親子関係を示す特定の列が必要です。

以下の列が必要です。

- ID: ソース システムにおけるその組織の一意の識別子
- Level: ソース システムにおける組織の名前
- ParentId: ソース システムにおける親組織の一意の識別子

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ID 列により、各組織は一意的に識別されます。ParentId 列は、組織の親組織の ID を示します。階層の最上位の組織としてロードするには、ParentId を空白のままにします。最上位組織の下に子組織を作成する場合も、ParentId を空白のままにします。




| | A | B | C | D | E | F |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | id | Level | ParentId | Short Name | Currency | in Workflow |
| 2 | 1 | Company A (100% owned) | | Co.A | USD | 1 |
| 3 | 2 | Operations | 1 | Ops | USD | 1 |
| 4 | 3 | United States | 2 | US | USD | 1 |
| 5 | 4 | Sales - North | 3 | Sales-N | USD | 1 |
| 6 | 5 | Sales - South | 3 | Sales-S | USD | 1 |
| 7 | 6 | Sales - South East | 5 | Sales-SE | USD | 1 |
| 8 | 7 | Sales - South West | 5 | Sales-SW | USD | 1 |

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | ParentId 列 |
| 2 | 営業 - 南部 |
| 3 | "営業 - 南東地域" および "営業 - 南西地域" |

注： 組織名が重複している場合は、データ ソースの XSLX ファイルに列を追加して "コード" を指定する必要があります。重複した組織名が存在している場合には、この "コード" によって個々の組織を一意に識別します。

次の項目について ParentId 値が空白です `Company A (100% owned)`。これはつまり、 `Company A (100%)` 組織の最上位組織の子である `Total Company`。の ID 列の下に新しい組織をロードするには、`Sales - South`の行 `Sales - South East` および `Sales - South West` リファレンス `Sales - South` ParentId 列この 2 つの新しい組織は、 `Sales - South` が親として表示される。

重要： 組織をロードする際は、その親組織の完全なツリーを常に指定するようにします。これにより、異なる親組織の下に同じ名前の組織が存在する場合でも、ローダは区別することができます。たとえば、組織の営業部門とマーケティング部門に "西部" という名前の組織がある可能性があります。ロードする際に親組織の完全なツリーを指定すれば、異なる組織の下に同じ名前の組織があっても適切に処理できます。

ワークフロー、相殺消去組織、相殺消去の取引先など、ブール値列には、「true」を意味する「1」か「false」を意味する「0」を指定する必要があります。ブール値列ではその他の文字は使用できません。

**Planning 組織ローダ向けのデータ ソースの作成**
スプレッドシートでデータ ソースを作成して、「組織シート」などのファイル名で保存します。

データ ソースのシート内容をインポートすると、ステージング領域にデータがロードされます。

**Planning 組織ローダの設定**
スプレッドシートのデータ ソースを作成して、ステージング テーブルにデータを読み込むと、ローダの設定を開始できます。

| | |
|---|---|
| データ ソースの設定 | ソース テーブルは、組織シートの XLSX データ ソース ワークシート名です。 `Sheet1`。XLSX ファイルに複数のシートがある場合には、組織シートの |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

下に追加のシート名が表示されます。この例では、組織シートのデータ ソースのみを使用していますが、リストでは、その他のデータ ソースがサポートされていることが確認できます。Planning 組織ローダは、データ ソースの種類を問わず、任意のステージング データにアクセスすることができます。

"Planning に見つからない場合は組織を作成する" を有効化します。この設定により、ローダが で同じ名前の組織が見つからない場合、新しい組織が作成されます。 Adaptive Planning。

列マッピング

データ ソースのスプレッドシートの形式と列に基づき、このローダの列マッピングは以下のようになります。

| Planning 列 | ソース列 |
|---|---|
| 親 ID | ParentId |
| 組織 ID | ID |
| 組織 名前 | 組織 |

"ソース列" は、各組織固有の ID を参照することに留意してください。ソース列名の行は、組織名を参照します。

この例ではビジネス ルールは必要ありません。

"アクション" パネルで "保存" をクリックします。

ローダ出力のプレビュー
ローダが保存されたら、"アクション" パネルで "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

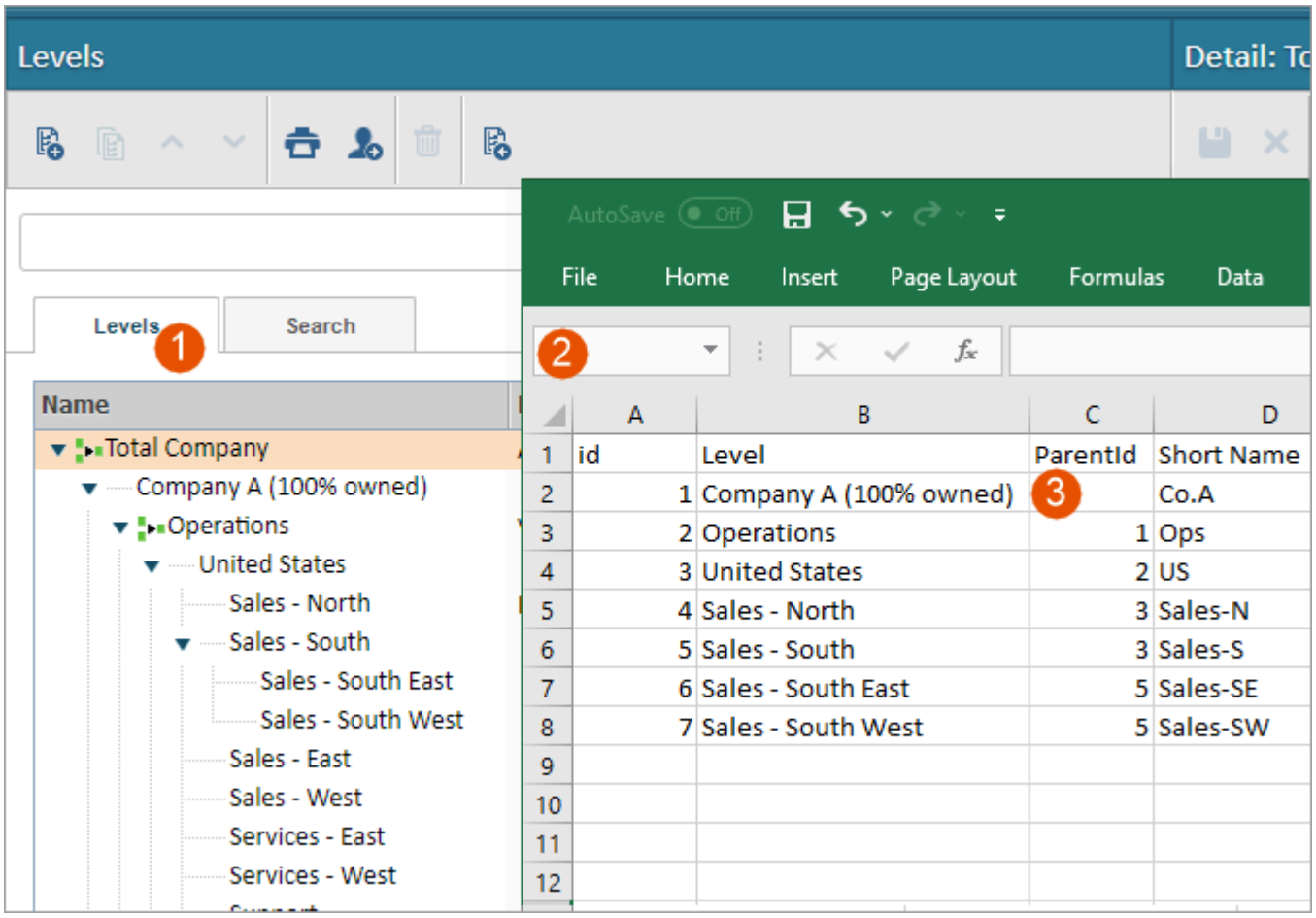
"ローダ出力ステータスのプレビュー" を調べ、エラーが発生していないことを確認します。

ローダの実行
ローダ出力のプレビューの確認後、ローダでの読み込みの準備が整います。"アクション" パネルの "手動で実行" をクリックして実行します。

ローダは、自動的に実行されるスケジュールされたインテグレーション タスクの一部として実行することもできます。

ロードされた組織の表示
以下のスクリーンショットは、組織のロード後の結果を示しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | モデリング > モデル管理 > 組織内のツリーの展開表示 |
| 2 | インポート用に書式設定されたスプレッドシート |
| 3 | ParentId 列 |

ParentId 列が空白の場合、階層の最上位組織の "会社全体" が親組織となります。

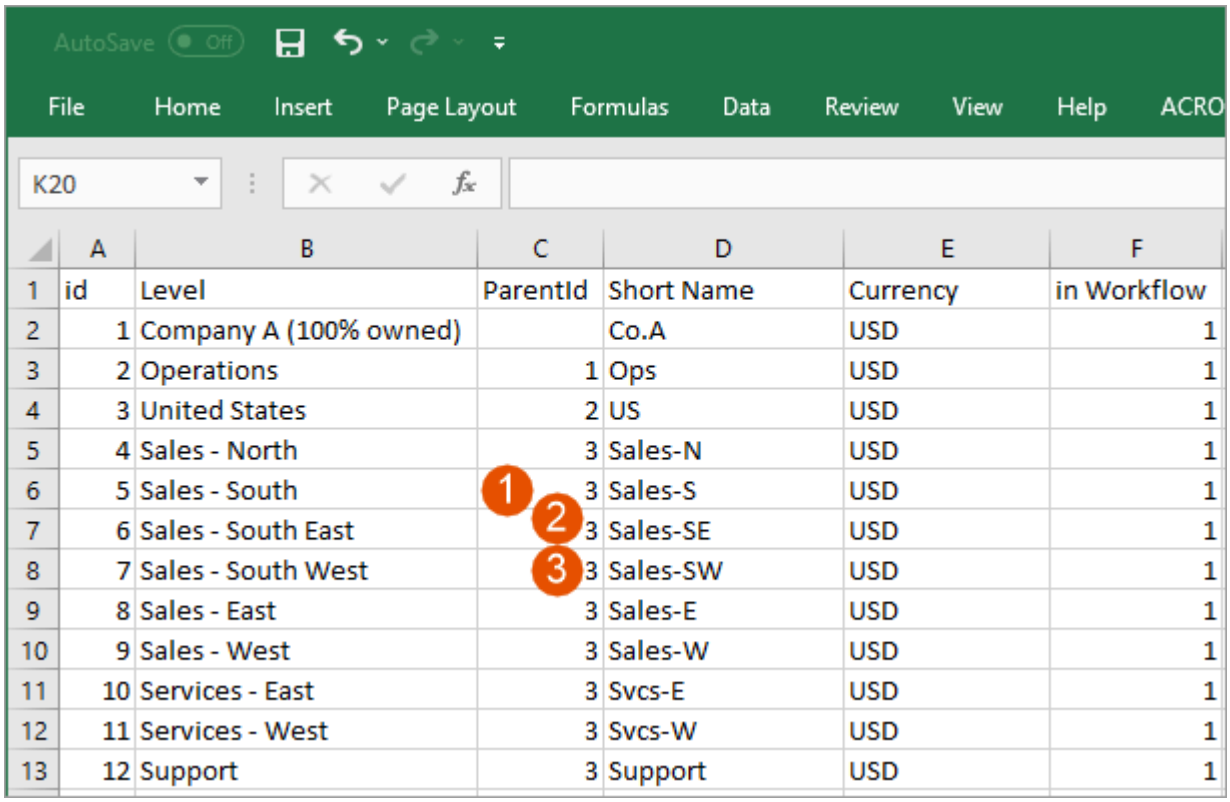
組織の親の再設定
ローダを使用して既存の組織の親を変更するには、移動する組織の ParentId 列に新しい親組織の ID を入力します。例: 必要に応じて、上記の結果を取得 `Sales - South East` および `Sales - South West` 直接の子になる `United States` ツリーが以下のようになります。

```
Total Company
|__Company A (100% owned)
   |__Operations
      |__United States
         |__Sales - North
         |__Sales - South
         |__Sales - South East
         |__Sales - South West
         |__Sales - East
         |__Sales - West
         |__Services - East
         |__Services - West
         |__Support
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      |__Canada
      |__United Kingdom
...
```

この場合、データ ソース スプレッドシートは以下のようになります。



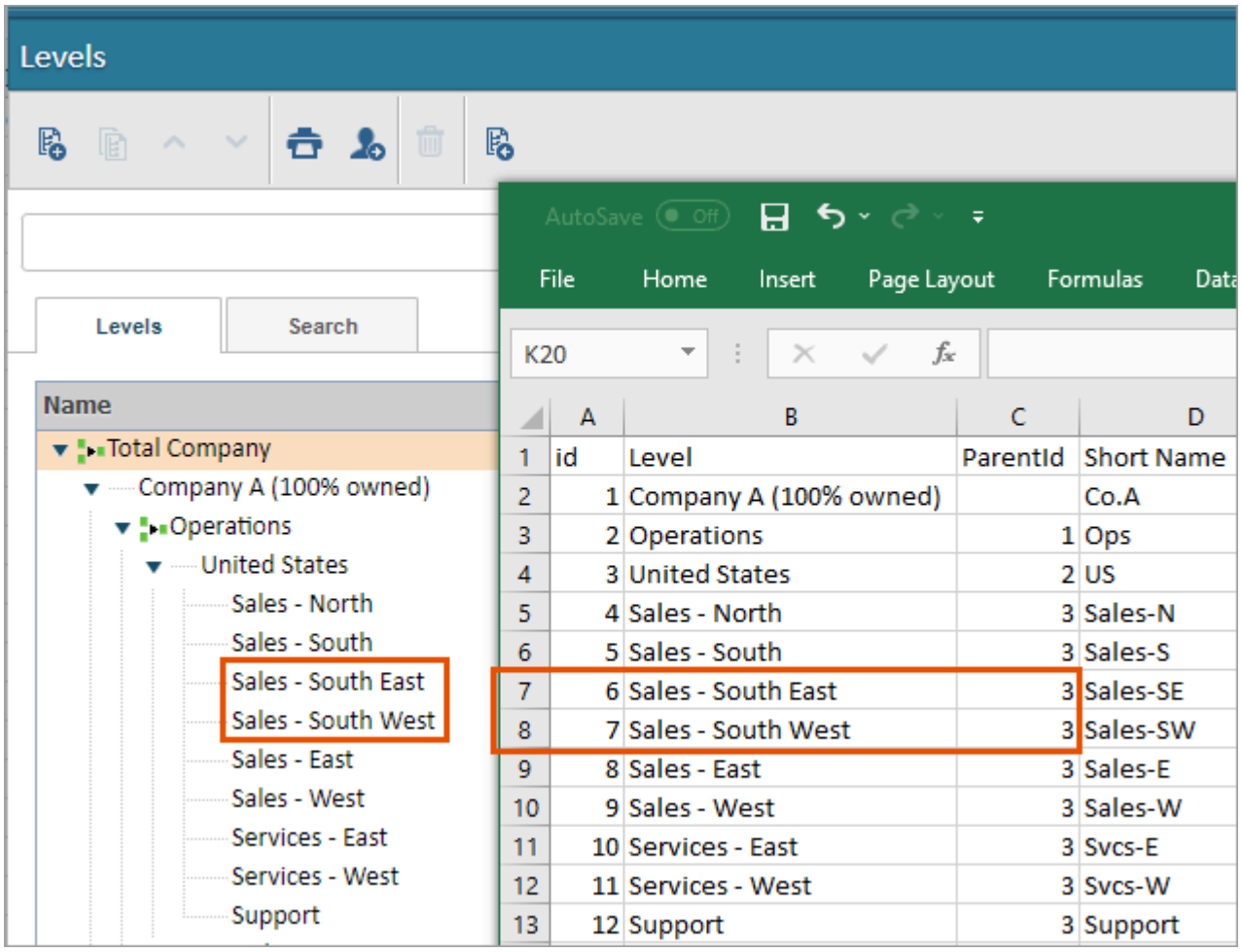
| id | Level | ParentId | Short Name | Currency | in Workflow |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Company A (100% owned) | | Co.A | USD | 1 |
| 2 | Operations | 1 | Ops | USD | 1 |
| 3 | United States | 2 | US | USD | 1 |
| 4 | Sales - North | 3 | Sales-N | USD | 1 |
| 5 | Sales - South | 3 | Sales-S | USD | 1 |
| 6 | Sales - South East | 3 | Sales-SE | USD | 1 |
| 7 | Sales - South West | 3 | Sales-SW | USD | 1 |
| 8 | Sales - East | 3 | Sales-E | USD | 1 |
| 9 | Sales - West | 3 | Sales-W | USD | 1 |
| 10 | Services - East | 3 | Svcs-E | USD | 1 |
| 11 | Services - West | 3 | Svcs-W | USD | 1 |
| 12 | Support | 3 | Support | USD | 1 |

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 営業 - 南部 |
| 2 | 営業 - 南東地域 |
| 3 | 営業 - 南西地域 |

`United States` は親です `Sales - South`。米国は次の親組織にもなります `Sales - South East` および `Sales - South West` ParentId 列に示されているとおり。これらの組織の下に表示されている兄弟組織は、これらの組織が目的の順序でロードされているかどうかを確認するために表示されます。

このスプレッドシートをロードした結果は以下のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




以下に注意してください。`United States` が親になりました `Sales - South East` および `Sales - South West`スプレッドシートの ParentId 列の指定に基づく。

組織への特性の関連付け
マッピングを指定して、既存の特性を組織に関連付けることができます。ローダ内の "列マッピング" タブには、属性と特性が列として "実績の開始" と "実績の終了"の後に表示されます。すでに に存在する特性のみ Adaptive Planning 組織に関連付けることができます。

ビデオを見る: 1 分 42 秒

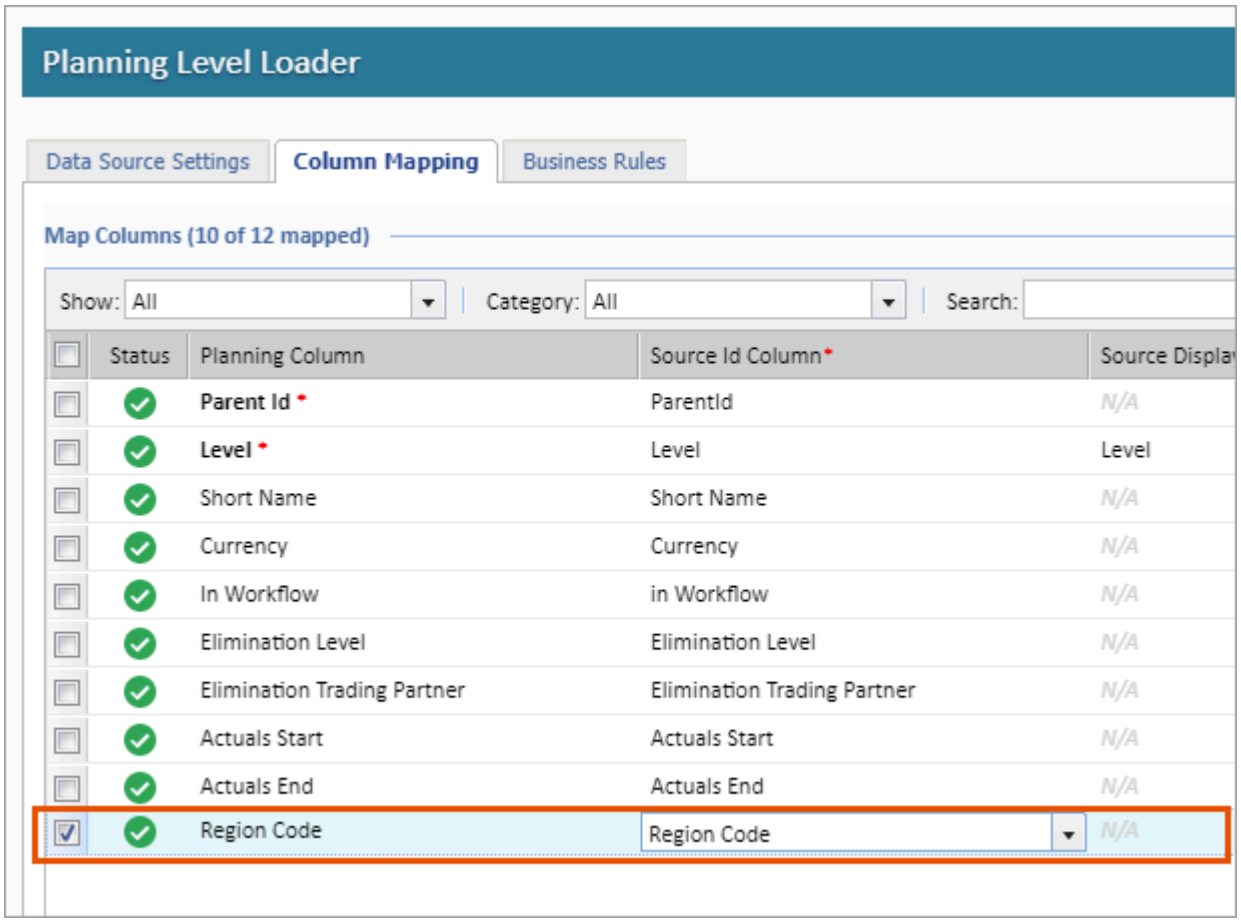
ロード中に新しい特性値を作成するには、組織の特性管理で "組織のインポートにより自動的に特性値を作成する" が有効化されていることを確認してください。

組織のスプレッドシート データ ソースには、各組織の特性用の列があります。この例では、"地域コード" という組織の特性があります。各営業組織には、組織の特性値として、地域コードが 1 つ与えられています。

以下に注意してください。`Sales - North` 次の値がある `N20` に存在しない特性値として Adaptive Planning。組織の特性管理で設定されている地域コードにより、組織ローダを実行すると、"N20" が新しい組織の特性として作成されます。

組織の特性である地域コードは、 で選択可能な組織の特性であるため、"列マッピング" 内の列として使用できます。 Adaptive Planning:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




スプレッドシートを組織ローダで読み込むと、次のような特性値が作成されます `N20` 対象 `Region Code` をすぐに関連付ける `N20` 組織 `Sales - North`。

名前またはコードの一括更新

次のレベル: カスタム属性名/コードの一括更新への Adaptive Integration の使用を参照してください。

例: スプレッドシートのデータ ソースからの属性値のロード

この例では、スプレッドシートのデータ ソースから に CRM 顧客リストをロードする方法を説明します。 Adaptive PlanningPlanning 属性ローダを使用ここでは、"Customer" という名前の階層属性がすでに存在していることを前提とします。

階層的な顧客属性の直下にいくつかの属性値を CRM 顧客のコレクションとして追加し、以下のようなツリーを作成することが最終的な目標です。

```
Customer
|__Customer 1
|__Customer 2
|__CRM Customers
   |__R.G. Barry Corporation
   |__Sierra Bancorp
   |__SkullCandy, Inc.
   ...
|__StoneMore Partners L.P.
|__ScanSource, Inc.
...
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

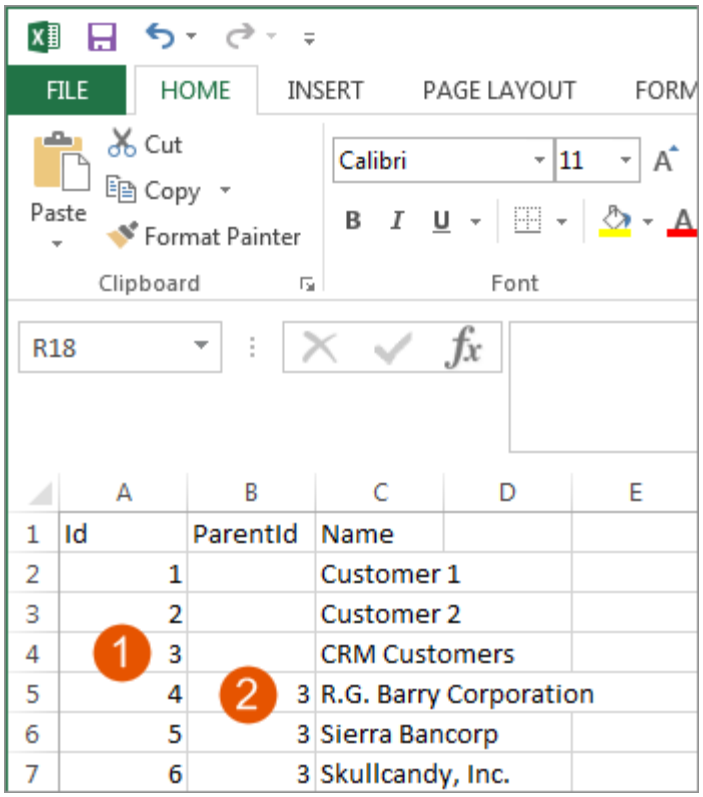
### CRM 顧客スプレッドシートの形式設定

Planning 属性ローダへのインポートに使用されるスプレッドシートでは、どの属性値が親であり、どの属性値が子であるかを示す特定の形式が必要です。

以下の 3 列が必要です。

- ID: ソース システムの属性値における一意の識別子
- ParentId: ソース システムの親属性値の ID (親がある場合)
- Name: 理想的には Planning 属性値と一致するべきソース システムの属性名 (ローダを初めて実行する際に Planning に存在する場合)

ID 列は、各属性値を一意に識別します。ParentId 列は、属性値が親として指す ID を示します。root でロードするには、ParentId をヌルにします。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | ID 列 |
| 2 | ParentId 列 |

注 : 値の名前が重複している場合は、データ ソースの XSLX ファイルに列を追加して "コード" を指定する必要があります。重複した属性値名が存在している場合には、この "コード" によって個々の属性値を一意に識別します。

CRM 顧客の ID が "3" であることに注意してください。この "3" の ID は、ParentId 列で参照され、子となるすべての属性値にフラグが立てられます。

属性である "Customer" は、ローダのデータ ソース設定で選択されるため、スプレッドシートに含める必要はありません。

### Planning 属性ローダ向けの CRM シート データ ソースの作成

上記のスプレッドシートを使用して、「CRMシート」という名前のスプレッドシートのデータ ソースを作成します。

データ ソースのシート内容をインポートすると、ステージング領域にデータがロードされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### Planning 属性ローダの設定

スプレッドシートのデータ ソースを作成して、データがステージング テーブルに読み込まれると、ローダの設定ができます。

| | |
|---|---|
| データ ソースの設定 | ソース テーブルは、CRM シートのデータ ソースの "Sheet1" に相当します。この例では、CRM シートのデータ ソースのみを使用していますが、リストでは、その他のデータ ソースがサポートされていることが確認できます。Planning 属性ローダは、データ ソースの種類を問わず、あらゆるステージング データにアクセスできます。<br><br>"Planning 属性" として "顧客" を選択します。<br><br>"Planning に見つからない場合は属性値を作成する" を有効化します。 |
| 列マッピング | データ ソースのスプレッドシートの形式と列に基づき、このローダの列マッピングは以下のようになります。 |

| Planning 列 | ソース列 |
|---|---|
| 親 ID | ParentId |
| 顧客 ID | ID |
| 顧客名 | Name |

この例ではビジネス ルールは必要ありません。

"アクション" パネルで "保存" をクリックしてローダを保存します。

### ローダ出力のプレビュー

ローダが保存されたら、"アクション" パネルで "ローダ出力のプレビュー" をクリックします。

"ローダ出力ステータスのプレビュー" を調べ、エラーが発生していないことを確認します。

### ローダの実行

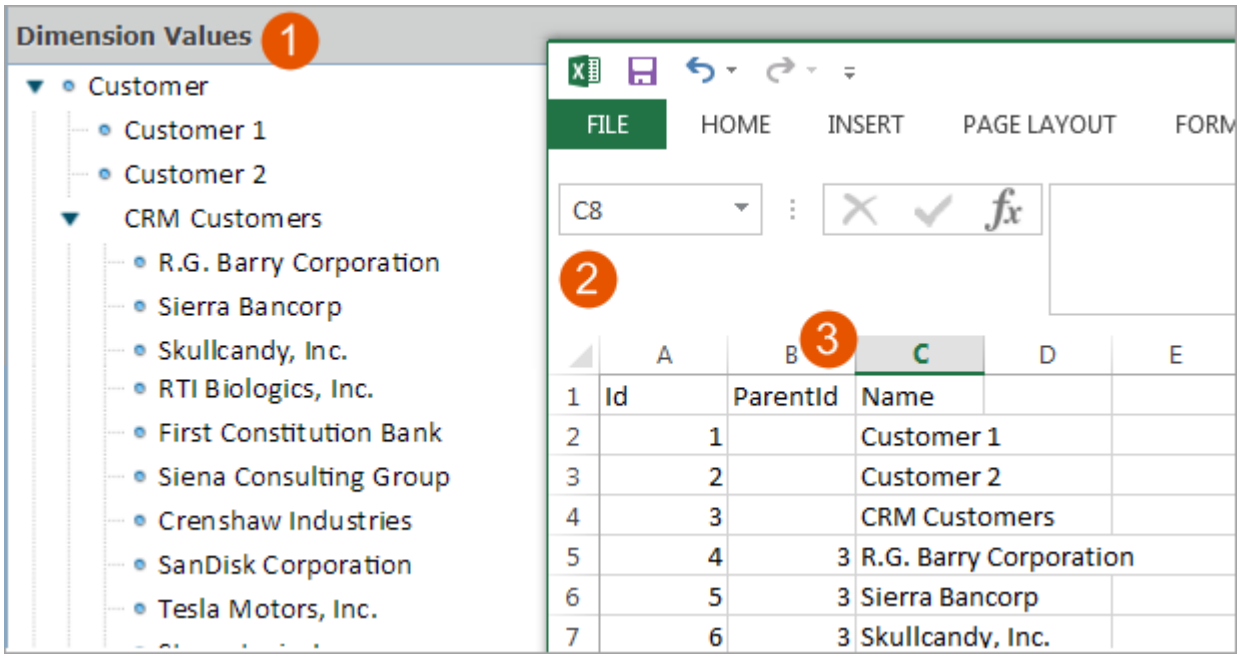
ローダ出力のプレビューの確認後、ローダでの読み込みの準備が整います。"アクション" パネルの "手動で実行" をクリックして実行します。

ローダは、自動的に実行されるスケジュールされたインテグレーション タスクの一部として実行することもできます。

### ロードされた属性値の表示

以下のスクリーンショットは、顧客属性値のロード後の結果を示しています。左側のペインには、"モデリング" > "モデル管理" > "属性"内の展開されたツリーが表示されます。ドロップダウン値の "C8" は、インポート用に書式設定されたスプレッドシートを示しています。ParentId 列を空白のままにすると、Planning 属性ローダのデータ ソース設定ドロップダウンで選択した Planning 属性がその親になります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | 属性値パネル: 顧客および CRM 顧客階層 |
| 2 | インポート用に書式設定されたスプレッドシート |
| 3 | 親 ID 列 |

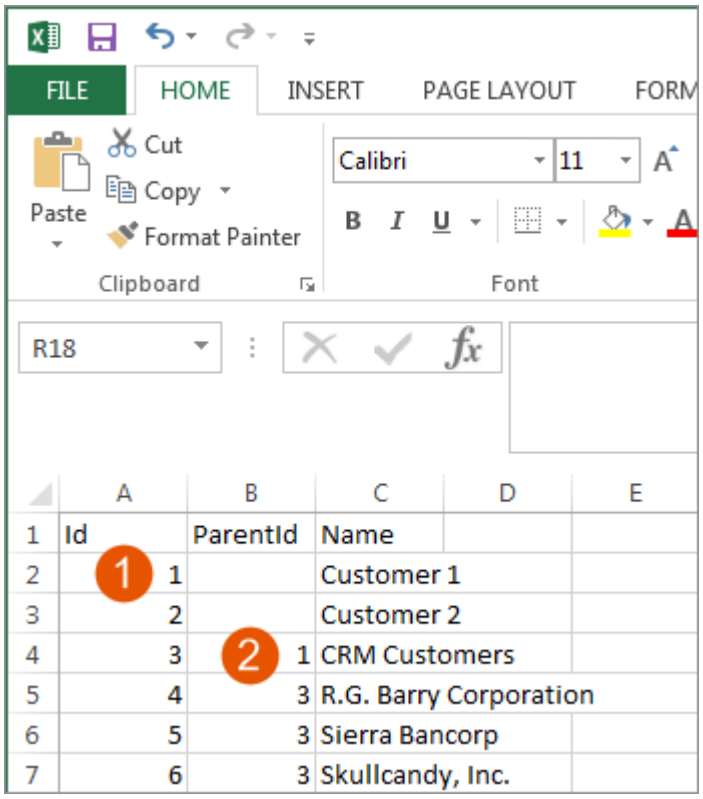
左側の "属性値" リストの上部にある "Customer" が、ローダ内の "データ ソース設定" ドロップダウンで Planning 属性として選択されています。

親属性値の再設定
ローダを使用して既存の親属性値を変更するには、移動する必要がある属性値の ParentId 列に新しい親の ID を入力します。たとえば、上の例の結果を使って、"CRM 顧客" を "顧客 1" の子にする場合、ツリーは以下のようになります。

```
Customer
|__Customer 1
   |__CRM Customers
      |__R.G. Barry Corporation
      |__Sierra Bancorp
      |__SkullCandy, Inc.
      ...
|__Customer 2
|__StoneMore Partners L.P.
|__ScanSource, Inc.
...
```

この場合、データ ソース スプレッドシートは以下のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

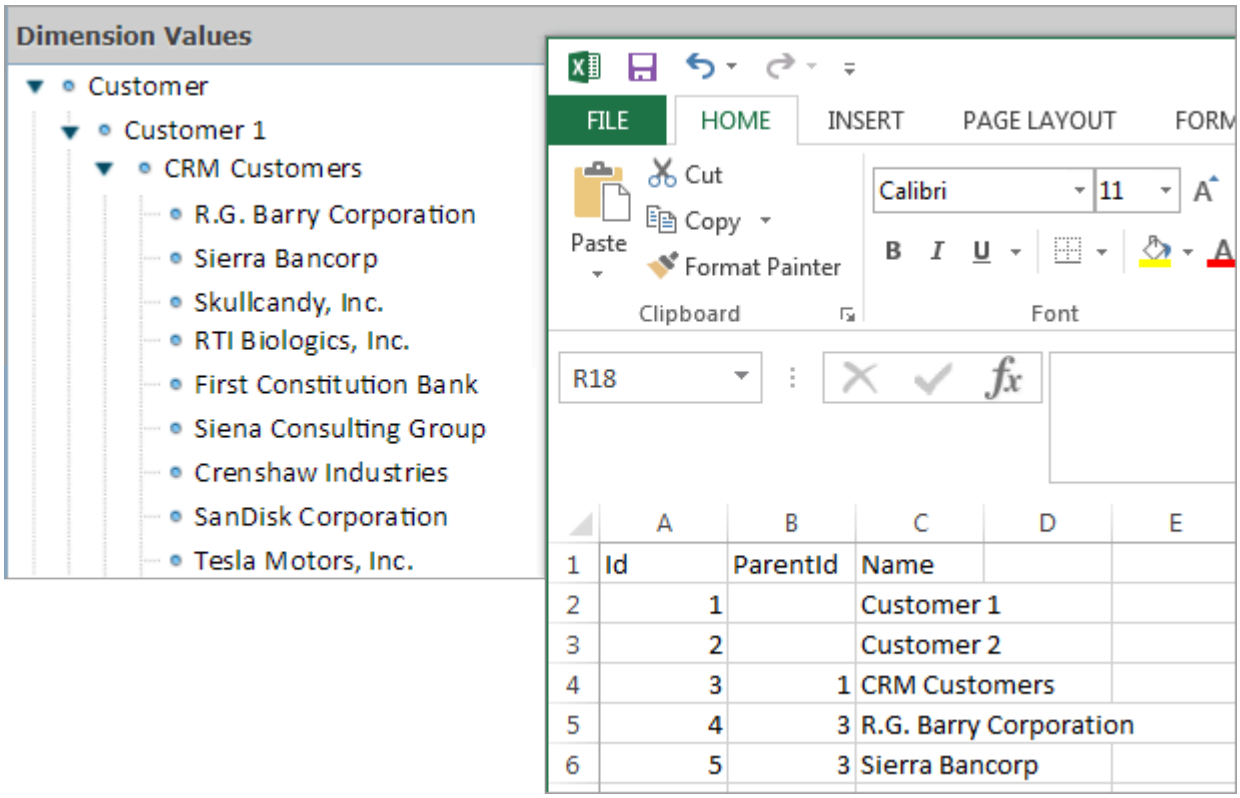



| オプション | 説明 |
|---|---|
| 1 | ID 列 |
| 2 | ParentId 列 |

顧客 1 の ID は "1" です。"CRM Customers" の ParentId 列で示されるとおり、Customer 1 が CRM Customers の親となります。

このスプレッドシートをロードした結果は以下のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




スプレッドシートの ParentId 列で示されたとおり、顧客 1 が CRM 顧客の親となっていることに注意してください。

特性のリスト属性への関連付け
ParentId を指定せずにマッピングすると、リスト属性に特性を関連付けることができます。

リスト属性は全体的に階層構造を持たない属性です。サブ属性や属性値の階層構造を持たず、単層の値のリストのみが存在します。

リスト属性製品のスプレッドシート データ ソースには、グループ、色、サイズなどの属性特性の列があります。

グループ、色、およびサイズの列には、製品属性の特性が含まれています。

ローダの "データ ソース設定" でリスト属性を選択します。

この属性はリスト属性であるため、製品の特性は "列マッピング" 内の列として使用可能になります。

これが階層属性である場合、これらの追加列は列マッピングに使用できません。

名前またはコードの一括更新

次のレベル: カスタム属性名/コードの一括更新への Adaptive Integration の使用を参照してください。

参考: **Planning** 組織ローダのログ メッセージ

詳細
Planning 組織ローダは、ロード中に生成された作成、更新、エラー、警告のメッセージを記録します。

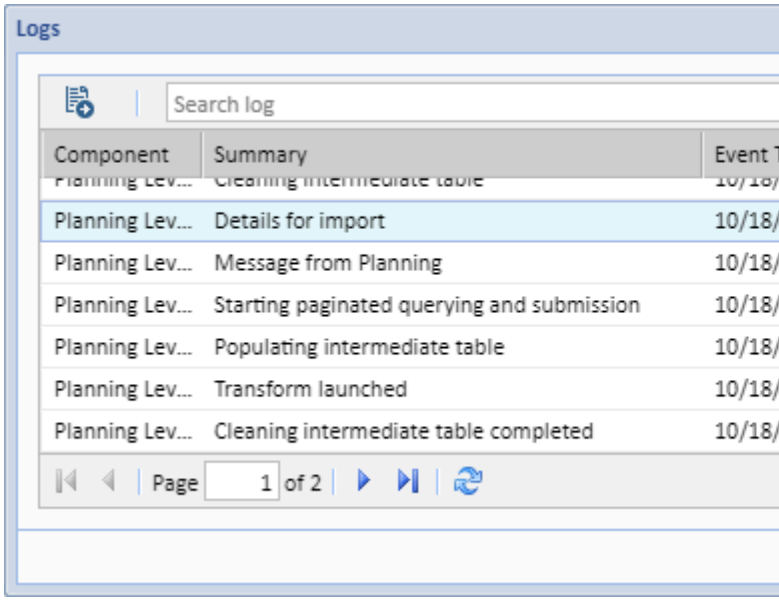
ログの各行アイテムには、最大 100 の組織エントリが含まれます。ログ内のアイテムにマウスを合わせると、更新または作成されたアイテムが表示されます。 をクリックして、完全なログをスプレッドシートでダウンロードします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ヒント： ベスト プラクティス: 後日必要になる場合は、ログをダウンロードします。ローダの実行後、最大 1 週間利用可能です。

インポート組織の詳細

このメッセージは、ローダ実行に対する updateLevels API 応答の圧縮 XML ファイルのダウンロードに使用できる URL を提供します。




URL にアクセスすると、ファイルの説明とそれをダウンロードするためのリンクを含むページに移動します。ダウンロードは 7 日後にインスタンスから削除されます。

Zip 形式のダウンロードには、完全な応答の XML が含まれます。

```
<?xml version='1.0'
 encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
  <messages>
    <message type="INFO">Level was
 saved successfully.</message>
  </messages>
  <output>
    <levels
 deleteWorkflowSilently="0"
 deleteActualsSilently="0">
      <level id="1" name="Total
 Company" currency="USD"
 shortName="TotalCo"
 eliminationLevel="1"
 eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="1"
 proceedWithWarnings="0" status="">
        <level id="201"
 name="Company A (100% owned)"
 currency="USD" shortName="Co.A"
 eliminationLevel="0"
 eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="1"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 propagateToDescendants="0"
 proceedWithWarnings="1" status="">
          <level id="164"
 name="Operations"
 currency="USD" shortName="Ops"
 eliminationLevel="1"
 eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="0"
 proceedWithWarnings="1" status="">
            <level id="165"
 name="United States" currency="USD"
 shortName="US" eliminationLevel="0"
 eliminationTradingPartner="1"
 inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="0"
 proceedWithWarnings="1" status="">
              <level id="166"
 name="Sales - North"
 currency="USD" shortName="Sales-
N" eliminationLevel="0"
 eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="0"
 proceedWithWarnings="1" status="" /
>
              <level id="167"
 name="Sales - South"
 currency="USD" shortName="Sales-
S" eliminationLevel="0"
 eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="0"
 proceedWithWarnings="1" status="">
                <level id="321"
 name="Sales - South East"
 currency="USD" shortName="Sales-
S" eliminationLevel="0"
 eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="0"
 proceedWithWarnings="1" status="" /
>
                <level id="322"
 name="Sales - South West"
 currency="USD" shortName="Sales-
S" eliminationLevel="0"
 eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="0"
 proceedWithWarnings="1" status="" /
>
              </level>
            </level>
          </level>
        </level>
      </level>
    </levels>
  </output>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
</response>
```

メッセージの作成または更新

メッセージの作成または更新の例

```
Level was saved
 successfully.
```

警告メッセージ

メッセージは、ローダが で見つからないソース内の特性が検出されたときに組織に表示されます。Adaptive Planning。Planning 組織ローダは、特性を自動的に作成しません。このメッセージを回避するには、当該特性が既に存在することを確認します。

警告の例

```
The following
 attributes were
 not recognized
 for the level
 HQ: Color
```

エラー メッセージ

これらのメッセージは、ローダが にすでに存在するソースで組織が検出されたときに表示されます。Adaptive Planning。

エラーの例

```
Following Source
 Level values
 have duplicate
 names: 1,8
```

エラーと警告メッセージの説明

| タイプ | メッセージ | 説明 |
|---|---|---|
| エラー | 内部エラーです。 | インスタンスでエラーが発生しました。 |
| エラー | システム属性は API を通しては更新できません。 | カスタム属性のみ更新できます。 |
| エラー | ID "{0}" は存在しません。 | ID "456" は存在しません。この ID に一致する ID がインスタンス内にありません。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} (含む) から {3} (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 | 属性 ID "-3" は 1 (含む) から 2,147,483,647 (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} 文字より長くすることはできません。 | 属性名 "a very long name" は長すぎます。N 文字以上の長さにすることはできません。 |
| エラー | {0} は空にできません。 | 属性名は空にできません。 |
| エラー | "{0}" という名前の属性は既に存在しています。 | 製品という属性は既にインスタンスに存在します。 |
| エラー | "{0}" は長すぎます。{0} 文字より長くすることはできません。 | 短縮名 "a very long name" は長すぎます。5 文字を超える長さにすることはできません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タイプ | メッセージ | 説明 |
| --- | --- | --- |
| エラー | ID "{0}" の属性は存在しません。 | ID "123" の属性は存在しません。属性の ID はインスタンス内のどの属性の ID とも一致しません。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} (含む) から {3} (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 | 属性値 ID "-3" は 1 (含む) から 2,147,483,647 (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} 文字より長くすることはできません。 | "more-than-5-chars" の属性値名は長すぎます。X 文字を超える長さにすることはできません。 |
| エラー | "{0}" は名前には使用できません。 | "This" は予約語で、名前として使用できません。 |
| エラー | {0} は空にできません。 | 属性値名には値が必要です。 |
| エラー | "{0}" という名前の属性値は既に存在しています。 | 属性値名は、属性内で一意である必要があります。 |
| エラー | "{0}" という名前の属性値は、属性値 ID {0} の Planning インスタンスに既に存在します。 | "コンピュータ" という属性値は、属性値 ID "317" のインスタンスに既に存在します。 |
| エラー | "{0}" という名前の属性値は、ペイロードに {0} 回存在します。 | "コンピュータ" という属性値は、ペイロードで 2 回見つかりました。 |
| エラー | 入力内容に属性/属性値がありません。 | 属性または属性値が定義されていません。 |
| エラー | 入力が正しくありません。入力データは XML 文書である必要があります。 | 入力は XML ではありません。 |
| エラー | 属性値を自身の親にすることはできません。 | それ自体が親として参照されている属性値。 |
| エラー | 親ノード "{0}" が、現在の直接/間接子ノード "{1}" の子になります。 | 親ノード "2" が、現在の直接/間接子ノード "3" の子になります。親がそれ自体の子またはそのいずれかの子になるように設定されています。 |
| エラー | 無効な {0} "{1}"。 | 属性名 "foo(+)" には予約語 "+" が含まれており無効です。+ および - は属性名では無効な文字です。 |
| エラー | 無効な {0} "{1}"。 | 無効な属性値名 "foo(+)"。無効な属性値名 "foo(-)"。+ および - は属性値名では無効な文字です。 |
| エラー | 組織 "{0}" はペイロードで重複している、または ID "{1}" でシステムに既に存在しています。 | 複数の新しい組織に同じ名前が含まれています。1 つのレコード {0} のみが存在するようにします。<br><br>または<br><br>最上位組織にロールアップする組織には、"ロールアップ先" フィールド内に値があります。このレコードでは、"ロールアップ先" フィールド内の値を空白に指定します。 |
| 警告 | OnLevels と listDimension の両方を使用して同時に "1" にすることはできません。 | リスト属性に親を指定することはできません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| タイプ | メッセージ | 説明 |
|---|---|---|
| 警告 | 無効な "autoCreate" 値 "x"。値は "1" または "0" である必要があります。 | 固定値プロパティを 1 または 0 以外の値 (例: listDimension="1999") にすると、プロパティを変更せずに警告を生成します。 |
| 警告 | 無効な "listDimension" 値 "w"。値は "1" または "0" である必要があります。 | 属性名と属性値名が長すぎると、警告が生成され、要素のプロパティは変更されません |
| 警告 | 無効な "keepSorted" 値 "z"。値は "1" または "0" である必要があります。 | "listDimension" または "useOnLevels" 設定を無効な組み合わせに変更しようとすると、警告が生成され、フラグは変更されません。 |
| 警告 | 無効な "useOnLevels" 値 "y"。値は "1" または "0" である必要があります。 | 無効なバージョン可視性の組み合わせ (allVersions=true を指定しながらバージョンを指定する) を作成しようとすると警告が生成され、相反する "可視" 設定は無視され、"allVersions" 設定が使用されます。 |
| 警告 | リスト属性値に親は指定できません。 | リスト属性は階層制ではないため、親を持つことはできません。 |
| 警告 | 属性値名をその属性名と同じにすることはできません。 | 属性値にその属性と同じ名前を付けることはできません。 |
| 警告 | {0} "{1}" は {2} 文字より長くすることはできません。 | 属性値の短縮名 "a very long phrase" は長すぎます。5 文字を超える長さにすることはできません。 |
| 警告 | 指定された属性特性 {0} が属性 {1} に関連付けられていません。 | 特性が入力されました。その特性は指定された属性に関連付けられていません。どの特性が属性に関連付けられているかを確認します。 |

参考: **Planning** 属性ローダのログ メッセージ

重要： Planning 属性ローダの更新リクエストでは、階層属性の場合最大 10,000、またはフラット属性の場合 40,000 と属性値の数が制限されています。これらの制限は、ローダ リクエスト内の新しい属性値の作成には適用されません。

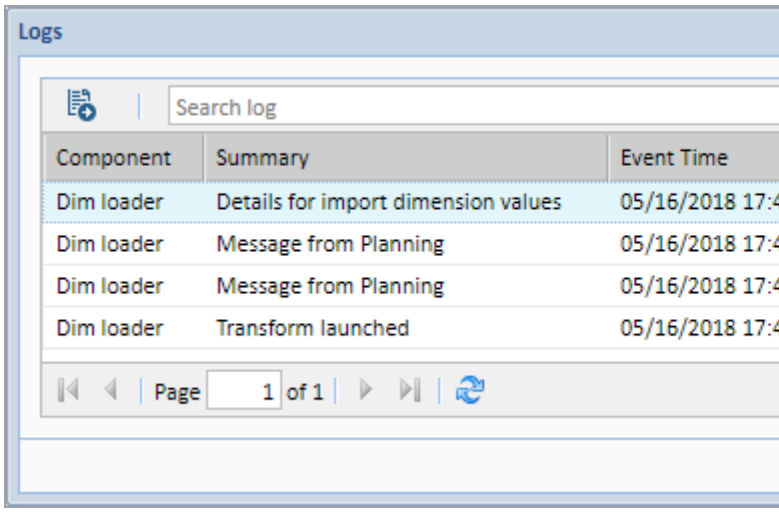
詳細
Planning 属性ローダは、ロード中に生成された作成、更新、エラー、警告のメッセージを記録します。

ログの各行アイテムには、最大 100 の属性値エントリが含まれます。ログ内のアイテムにマウスを合わせると、更新または作成されたアイテムが表示されます。 をクリックすると、ローダの完全なログをスプレッドシートでダウンロードできます。

ヒント： ベスト プラクティス: 後日必要になる場合は、ログをダウンロードします。ローダの実行後、最大 1 週間利用可能です。

| | |
|---|---|
| インポート属性値の詳細 | このメッセージは、ローダ実行に対する完全な updateDimensions API 応答の圧縮 XML ファイルの取得に使用できる URL を提供します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




この URL にアクセスすると、ファイルの説明を含むページが表示され、ダウンロードすることもできます。ダウンロードは 7 日後に削除されます。

Zip 形式のダウンロードには、完全な応答の XML が含まれます。

```
<?xml version='1.0'
 encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
  <messages>
    <message type="INFO">Dimension
 was saved successfully.</message>
  </messages>
  <output>
    <dimensions>
      <dimension id="4"
 name="CountryRegion" shortName=""
 autoCreate="0" listDimension="0"
 keepSorted="0" useOnLevels="0"
 status="">
        <dimensionValue id="132"
 name="Venezuela" shortName="VEN"
 description="Land of the Anaconda"
 status="updated" />
      </dimension>
    </dimensions>
  </output>
</response>
```

メッセージの作成/更新

属性値の作成または更新が成功すると、これらのメッセージが表示されます。

メッセージの作成/更新例

```
The following
 dimension
 values were
 updated Product
 A3, Product A1,
 Product A2.
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

警告メッセージ

これらのメッセージは、Adaptive Planning で見つからないソース内の特性値をローダが検出した場合に、リスト属性に表示されます。Planning 属性ローダは、特性値を自動的に作成しません。

警告の例

```
The following
 values were
 not recognized
 for attribute
 Color: Mauve
```

エラー メッセージ

これらのメッセージは、ローダが Adaptive Planning にすでに存在するソースで属性値が検出されたときに表示されます。

エラーの例

```
Following Source
 Dimension
 values have
 duplicate name:
 2,3
```

エラーと警告メッセージの説明

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
|---|---|---|
| エラー | 内部エラー。 | システムでエラーが発生しました。 |
| エラー | システム属性は API を通しては更新できません。 | カスタム属性のみ更新できます。 |
| エラー | ID "{0}" は存在しません。 | ID "456" は存在しません。この ID に一致する ID がシステム内にありません。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} (含む) から {3} (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 | 属性 ID "-3" は 1 (含む) から 2,147,483,647 (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} 文字より長くすることはできません。 | "more-than-5-chars" の属性名は長すぎます。X 文字を超える長さにすることはできません。 |
| エラー | {0} は空にできません。 | 属性名は空にできません。 |
| エラー | "{0}" という名前の属性は既に存在しています。 | "製品" という名前の属性は既に存在します。 |
| エラー | "{0}" は長すぎます。{0} 文字より長くすることはできません。 | 短縮名 "more-than-5-chars" は長すぎます。5 文字を超える長さにすることはできません。 |
| エラー | ID "{0}" の属性は存在しません。 | ID "123" の属性は存在しません。属性を示す ID がシステム内のどの属性の ID とも一致しません。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} (含む) から {3} (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 | 属性値 ID "-3" は 1 (含む) から 2,147,483,647 (含む) の範囲内の整数値である必要があります。 |
| エラー | {0} "{1}" は {2} 文字より長くすることはできません。 | "more-than-5-chars" の属性値名は長すぎます。X 文字を超える長さにすることはできません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
|---|---|---|
| エラー | "{0}" は名前には使用できません。 | "This" を名前として使用することはできません。"This" は予約語で、名前として使用できないためです。属性値名にのみ適用されます。 |
| エラー | {0} は空にできません。 | 属性値名を空にすることはできません。 |
| エラー | "{0}" という名前の属性値は既に存在しています。 | 属性値名は、属性内で一意である必要があります。 |
| エラー | "{0}" は ID {1} と重複しています。 | "Computers 2A" は ID 50, 69 と重複しています。 |
| エラー | ペイロードで値が "{1}" の新しいエンティティが {0} 個検出されました。 | ペイロードで値が "Computers" の新しいエンティティが 2 個検出されました。 |
| エラー | 入力内容に属性/属性値がありません。 | 属性または属性値が定義されていません。 |
| エラー | 入力が正しくありません。入力データは XML 文書である必要があります。 | 入力は XML ではありません。 |
| エラー | 属性値を自身の親にすることはできません。 | それ自体が親として参照されている属性値。 |
| エラー | 親ノード "{0}" が、現在の直接/間接子ノード "{1}" の子になります。 | 親ノード "2" が、現在の直接/間接子ノード "3" の子になります。親がそれ自体の子またはそのいずれかの子になるように設定されています。 |
| エラー | 無効な {0} "{1}"。 | 無効な属性名 "foo(+)"。無効な属性名 "foo(-)"。+ および - は属性名では無効な文字です。 |
| エラー | 無効な {0} "{1}"。 | 無効な属性値名 "foo(+)"。無効な属性値名 "foo(-)"。+ および - は属性値名では無効な文字です。 |
| 警告 | useOnLevels と listDimension を同時に "1" にすることはできません。 | リスト属性に親を指定することはできません。 |
| 警告 | 無効な "autoCreate" 値 "x"。値は "1" または "0" である必要があります。 | 固定値プロパティの無効な値 (たとえば、listDimension="1999") は、プロパティを変更せずに警告を生成します。 |
| 警告 | 無効な "listDimension" 値 "w"。値は "1" または "0" である必要があります。 | 無効な属性名と属性値名 (長さ制限と文字制限) は警告であり、要素のプロパティは変更されません。 |
| 警告 | 無効な "keepSorted" 値 "z"。値は "1" または "0" である必要があります。 | listDimension または useOnLevels 設定を無効な組み合わせに変更しようとすると、警告が発せられ、フラグは変更されません。 |
| 警告 | 無効な "useOnLevels" 値 "y"。値は "1" または "0" である必要があります。 | 無効なバージョン可視性の組み合わせ (allVersions=true を指定しながらバージョンを指定する) を作成しようとすると警告が発せられ、相反する "可視" 設定を無視し、"allVersions" 設定を使用します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
| --- | --- | --- |
| 警告 | リスト属性値に親は指定できません。 | リスト属性は階層制ではないため、親を持つことはできません。 |
| 警告 | 属性値名をその属性名と同じにすることはできません。 | 属性値にその属性と同じ名前を付けることはできません。 |
| 警告 | {0} "{1}" は {2} 文字より長くすることはできません。 | 属性値の短縮名 "more-than-5-chars" は長すぎます。5 文字を超える長さにすることはできません。 |
| 警告 | 指定された属性特性 {0} が属性 {1} に関連付けられていません。 | 特性は入力されましたが、その特性は指定された属性に関連付けられていません。 |

**FAQ: Planning データ ローダにおけるキューブ シートまたは標準シートの置換モード**

"消去設定" がオフで、他のローダのないタスクで既存のローダを実行する場合、既存のローダを設定するにはどうすればよいですか？

1. "置換モードを有効化"を選択します。
2. 科目を選択します。

   キューブ シートの場合、次のいずれかを行います。

   - "シートのキューブ科目" を選択し、シートのすべての科目を置き換えます。
   - "パラメータを編集"を選択します。"置換インポート モードの科目を作成" を選択し、ロードする科目のみを選択します。

   標準シートの場合、次のいずれかを実行します。

   - すべてのルート GL 科目を選択して、すべての GL 科目を置き換えます。
   - "パラメータを編集"を選択します。"置換インポート モードの科目を作成" を選択し、ロードする科目のみを選択します。
3. 組織を選択します。以下のいずれかを実施します。
   - "すべての組織" を選択すると、シートのすべての組織にロードされます。
   - "パラメータを編集"を選択します。"置換インポート モードの組織を作成" を選択し、ロードする組織のみを選択します。
4. ローダを保存します。
5. "手動で実行" を選択し、結果を検証します。

"消去設定" がオフになっていて、ローダが連続するタスクで実行されている場合、既存のローダを設定するにはどうすればよいですか？

最初のローダが消去を実行し、後続のローダがデータの追加のみを実行する場合は、データ ソースをユニオン テーブルに結合することを強くお勧めします。データ ソースを 1 つのユニオン テーブルにまとめることで、1 つのローダを実行してすべてのデータ ソースを一度にロードできます。データ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ソースをユニオン テーブルに結合した後、ローダの置換モードを有効にします。

1. "置換モードを有効化"を選択します。
2. 科目を選択します。

   キューブ シートの場合、次のいずれかを行います。

   - "シートのキューブ科目" を選択し、シートのすべての科目を置き換えます。
   - "パラメータを編集"を選択します。"置換インポート モードの科目を作成" を選択し、ロードする科目のみを選択します。

   標準シートの場合、次のいずれかを実行します。

   - すべてのルート GL 科目を選択して、すべての GL 科目を置き換えます。
   - "パラメータを編集"を選択します。"置換インポート モードの科目を作成" を選択し、ロードする科目のみを選択します。

データ ソースを結合してユニオン テーブルにロードできない場合は、置換モードのパラメータで、置換する必要がある項目を正確に指定してください。パラメータが十分に具体的でない場合、ローダに含まれていないデータが誤って削除される可能性があります。

1. "置換モードを有効化"を選択します。
2. "パラメータを編集" を選択し、新しい科目パラメータを作成します。 "置換インポート モードの科目を作成" を選択し、ロードする科目のみを選択します。
3. "パラメータを編集" を選択し、新しい組織パラメータを作成します。 "置換インポート モードの組織を作成" を選択し、ロードする組織のみを選択します。
4. ローダを保存します。
5. "手動で実行" を選択し、結果を検証します。

"消去設定" で特定の科目と組織のパラメータが選択され、"消去設定" がオンになっている場合、既存のローダをどのように設定すればよいですか？

1. "置換モードを有効化"を選択します。
2. "消去設定" で使用したのと同じ科目パラメータを選択します。
3. "消去設定" で使用したのと同じ組織パラメータを選択します。
4. ローダを保存します。
5. "手動で実行" を選択し、結果を検証します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| "消去設定" ですべての科目とすべての組織が選択されている場合、"消去設定" がオンの場合、既存のローダを設定するにはどうすればよいですか？ | 1. "置換モードを有効化"を選択します。<br>2. 科目を選択します。<br>• キューブ シートの場合は、"シートのキューブ科目"を選択します。<br>• 標準シートの場合、"パラメータを編集"を選択します。"置換インポートモードの科目を作成" を選択し、新しいパラメータを作成します。GL 科目と置き換えるルート GL 科目をすべて選択<br>3. "すべて"を選択します。<br>4. ローダを保存します。<br>5. "手動で実行" を選択し、結果を検証します。 |
| "消去設定" がオンで、ローダが一連のローダの最初のローダとしてタスクで実行される場合、既存のローダを設定するにはどうすればよいですか？ | この FAQ にある他のシナリオで、この状況をカバーする必要があります。後続のローダがロードしようとする追加データが、順序の最初のローダで削除されていないことを確認します。"置換モードを有効化"を選択した場合、ローダがロードを想定しているデータ交差部分と同じ交差部分でのみデータを置換します。 |

注 : ローダのログにエラーが生成される場合は、トラブルシューティングについてサポートにお問い合わせください。ローダは正常に実行されても、データが期待どおりにロードされない場合は、パラメータを確認します。 パラメータは、ロードまたは以前に消去されたものと整合している必要があります。解決できないログ エラーが発生した場合、サポートはサービスの利用をお勧めする場合があります。

タスクとスケジュール
インテグレーション タスクの作成

始める前に

- Adaptive Planning Integration を有効化および設定します。
- セキュリティ: "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

以下の目的で、タスクまたは事前定義された一連のアクションを作成できます。

- データ ソースから情報を抽出し、Adaptive Planning にロードする。
- ローダおよびその他のタスクを使用してインポート プロセスとフィルタを構築する。
- さまざまな操作を 1 つの連続した操作にまとめる。
- タスクを使用できる他のユーザーと共有する。

タスクを自動的に実行するようにスケジュール設定することも、ユーザーが必要に応じてオンデマンドで実行することもできます。

手順

1. メイン メニューから "インテグレーション > 設定""インテグレーション" を選択します。
2. コンポーネント ライブラリで "タスク" を展開します。
3. "新しいタスクを作成"を選択します。
4. ″インテグレーション タスク″ を選択して、
5. タスクの実行内容を説明するわかりやすい名前を入力します。
6. "作成" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

7. (任意)"各ローダの後にデータ ソースをリフレッシュ" を選択し、タスク内の各ローダの実行後にステージング テーブルを自動的にリフレッシュします。
   タスクの順序が正しいかどうかに関係なく、ステージング テーブルがリフレッシュされます。
8. " ログ レベル"を選択します。
   - エラー: 重大なエラーのみを記録します。
   - 情報: データ ソースが更新されたときなど、すべての基本情報を記録します。
   - 詳細: すべてのフェーズとアクションの詳細情報を表示します。このレベルは、主にデバッグや監査に使用されます。一般的な用途よりも多くの口グ情報を生成する可能性があります。
9. "保存" を選択します。
10. 毎時、毎日、毎週、または毎月のスケジュール項目を "データ コンポーネント" から "スケジュール設定" テーブルにドラッグします。
11. "スケジュール" フィールドに入力します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 名前 | スケジュールの名称を入力します。 |
| 実行 | ドロップダウンから頻度を選択します。デフォルト以外の頻度は、他のフィールドを適宜変更します。 |
| スケジュール情報 | スケジュール頻度に応じて、さまざまなスケジュール オプションが表示されます。<br>• 毎時: スライダーバーを使用して分を選択できます。<br>• 毎週: タスクを実行する日と時間を選択できます。<br>• 毎月: 月の日付と時刻を選択できます。 |
| タイムゾーン | タスクを実行する時間帯を選択します。 |
| 現地時間 | 表示専用の参照情報です。 |
| アクティブ | このスケジュール情報に基づいて、タスクが実行されます。このチェックボックスがオフの場合、スケジュールは " データ コンポーネント" に保存されますが、タスクはスケジュールされていません。複数のスケジューリング シナリオのタスクに複数のスケジュールを追加します。一度にアクティブにできるスケジュールは 1 つだけです。 |
| 現在のアカウントで実行 | 表示専用です。 |

12. "保存" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

13. ローダとタスクを "データ コンポーネント" から "タスクおよびローダ" テーブルにドラッグします。
    - ローダを追加してデータを抽出し、データ操作を実行し、Adaptive Planning に情報をロードします。
    - 他のタスクを追加して、より大きなタスクを作る構成要素として小さなサブタスクを作成します。より大きなタスクでサブタスクを使用する場合、時刻または月に応じて、同じ操作を異なる順序で実行できます。

    インテグレーションはタスクを実行する際に、ローダとタスクを回収し、ローダの単一のリストを作成します。インテグレーションがリストを作成した後、必要なデータ ソースがすべてリフレッシュされます。その後、ローダはこれらのグループで、次の順序で実行します。

    - Planning メタデータ ローダ例: Planning 属性ローダ
    - Planning データ ローダ
    - スクリプト化されたローダ
    - カスタム クラウド ローダ

    グループ内では、タスクが追加された順に実行されます。
14. "保存" を選択します。

インテグレーション タスクのための権限の付与

ユーザー グループ、ロール、または個人に対してインテグレーション タスクを起動するための権限を付与することができます。起動権限を付与すると、ユーザーはタスクを実行できますが、タスク設定を編集することはできません。給与計算や会計の事務員に対して、実行できるタスクを特定のものに制限する場合は、起動権限を使用します。編集権限を付与すると、ユーザーはタスク設定の編集とタスクの起動を行えます。タスクを編集して実行する必要があるシニアレベルの人材には編集権限を付与できます。

"モデル" 権限を持つユーザーのインテグレーション設定内での表示権限や起動権限を管理することはできません。"モデル" 権限は、グローバル アクセスを付与します。

前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション オペレーター"、"データ デザイナー"
- インテグレーションが必要

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

起動または編集の権限を付与

1. "コンポーネント ライブラリ" で "タスク" ペインを展開します。
2. 権限を付与するタスクを選択します。
3. "操作" ペインで "起動を許可する" または "編集を許可する" を選択します。
4. ポップアップ ウィンドウでグループ、ロール、またはユーザーのリストを展開し、権限を付与する対象をダブルクリックします。ダブルクリックした各グループ、ロール、またはユーザーは、"選択済み" リストに追加されます。
5. "選択内容をすべて表示 (閲覧のみモードに切り替え)" を選択して、既に権限を持っているユーザーを確認します。
6. "保存" を選択します。

インテグレーション タスク通知の管理

前提条件

- 通知を受け取るには、受信者が Adaptive Planning に少なくとも 1 回はサインインしている必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- セキュリティ:
  - "インテグレーション オペレーター" 権限
  - "データ デザイナー" 権限

コンテキスト

注 : Workday ヒューマン キャピタル マネジメントおよび Workday のファイナンシャル製品とのユーザー同期を使用している場合、すべての通知は Workday を介して配信されます。

インテグレーション タスクに関連するイベントについての通知をセットアップできます。タスクが成功したとき、失敗したとき、またはその両方のときに、ユーザーまたはグループに通知を送信できます。

"ユーザー名" と "E メール" のフィールドに 2 つの異なる E メール アドレスがあるユーザーは、両方の E メール アドレスで通知を受け取ります。

すべての通知は、通知ログに永久に記録されます。

ステップ

1. メイン メニューから "インテグレーション > 設定""インテグレーション" を選択します。
2. 通知を管理するタスクを選択します。
3. "アクション" ペインで "通知を管理" を選択します。
4. ユーザーまたはグループのリストを展開し、通知リストに追加するユーザーまたはグループを選択します。
5. タスクが成功した場合、失敗した場合、またはその両方の場合にユーザーに通知するかどうかを選択します。

インテグレーション通知の表示

始める前に

- Adaptive Planning Integration を有効化および設定します。
- ユーザー同期とともに SAML SSO を使用して、ユーザーの Workday および Workday Adaptive Planning プロファイルを同期する場合は、ユーザーを同期し、ユーザー同期を持つ通知を有効にします。これにより、同期されたユーザーが Adaptive Planning Integration 通知を受信できるようになります。次を参照してください。
  - ステップ: 同期されたユーザーの Adaptive Planning への SAML SSO の設定
  - ユーザー同期後に機能を有効化します。
- セキュリティ:"インテグレーション オペレーター" 権限

このタスクについて

Adaptive Planning Integration が通知を生成すると、これらの通知が恒久的に記録され、他の Adaptive Planning 通知とともに表示されます。自分に直接送信されたインテグレーション通知のみが表示されます。通知は新しいものから古いものへと表示されます。これらの通知を変更または削除することはできません。

通知には以下を含めることができます。

- ローダ ログのダウンロード
- ローダまたはタスクのアラート
- ステージング テーブルのダウンロード
- その他のインテグレーション アラートまたは通知

手順

1. プロファイル アバターの横にある通知ベルのアイコンを選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

2. "インテグレーション通知" を検索して選択します。
   これらの通知のリンクをクリックすると、次のいずれかが実行されます。
   - Adaptive Planning の他の領域に自動的に移動する。
   - ローダの実行またはステージング テーブルからコンテンツをダウンロードします。これらのダウンロード リンクは、通知の受信から 7 日後に自動的に失効します。通知を表示せず、ダウンロード リンクをクリックしない場合でも、リンクの有効期限が切れています。

タスクの表示と実行

インテグレーションに移動すると、インテグレーションの "タスクの概要" ページがデフォルトでロードされます。インテグレーション タスクは、インポート フローとして作成される定義済みの一連の操作です。

タスクには以下を含めることができます。

- 複数のデータ ソース
- 複数のローダ
- その他のタスク

この概要には、表示または実行できるすべての既存のスケジュール設定済みタスクとスケジュール未設定のタスクが表示されます。

"タスクの概要" の各行には以下が表示されます。

- タスク名
- タスク ステータス
- 次回スケジュールされている実行
- 最終実行

ナビゲーション
ナビゲーション メニューで "インテグレーション > 概要"に移動します。

前提条件

- 必要な権限: "インテグレーション" > "インテグレーション オペレーター"
- "インテグレーション" > "データ デザイナー" の権限を持つ 人物が、表示する タスクの設定を実行していること を確認します
- "インテグレーション" > "データ デザイナー" の 権限を持つ人物が、実行したいタスクの 起動権限を 付与されたことを確認します

タスクの詳細を表示

1. (任意) "失敗したタスク" をクリックして、失敗したタスクを表示し、トラブルシューティングを行います。
2. "タスク名" をクリックしてタスクを表示します。
3. タスク実行をクリックすると、以下が表示されます。
   - ステータス
   - コンポーネント
   - サマリ
   - イベント時間
   - ログ レベル
   - 詳細

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. (任意) 手動でタスクを起動する場合は "実行" を選択し、パラメータを入力します。必須フィールドはタスクによって異なります。
    - スプレッドシート データ ソースに関するタスクの場合は、ファイルを求められます。
    - スクリプト化されたデータ ソースに関するタスクの場合は、実行時間パラメータを要求するプロンプトが表示されます。

    注 : スクリプト化されたデータ ソースまたはローダを使用している場合は、デフォルト値に設定されたパラメータでプロンプトが表示されます。その個々の手動実行について、パラメータをオーバーライドできます。スケジュールされたタスクでは、デフォルトのパラメータが使用されます。
5. (任意) "キャンセル" を選択して、実行中のタスクを停止します。

**Planning** 設定のスケジュールされたタスクのアクティブ化

始める前に

- 自分が作成したタスク、または他のユーザーが自分と共有したタスク。参照 インテグレーション タスクの作成 ( 1806ページ ) 。
- 実行するタスクの起動権限。参照 インテグレーション タスクのための権限の付与 ( 1808ページ ) 。
- セキュリティ:"インテグレーション オペレーター" 権限

このタスクについて

Planning Configuration Manager を使用して Adaptive Planning モデルを構築する場合、"スケジュールのリフレッシュ" ページでスケジュールされたタスクを作成するかを選択できます。"スケジュールのリフレッシュ" により、"インテグレーション設定" に "FPI 増分" というタスクが作成されます。設定マネージャによって作成された他のタスクは自動的に実行されますが、このタスクは設定したスケジュールに従って実行される前にアクティブ化する必要があります。

手順

1. メイン メニューから "インテグレーション" > "インテグレーション設定" を選択します。
2. "コンポーネント ライブラリ" で "タスク" ペインを展開します。
3. タスクを開くには、アクティブ化するタスクを選択します。
4. "スケジュール設定" セクションで、スケジュールのドロップダウン矢印をクリックし、"設定" を選択します。
5. "アクティブ" チェックボックスをオンにします。
6. 保存:

タスクの結果

ローダはスケジュールに従って実行されます。

インテグレーション タスクの並べ替え

始める前に

- インテグレーションが必要
- セキュリティ: "データ デザイナー" 権限

このタスクについて

タスクに特定の順序を設定して、ローダが希望の順序で実行されるようにすることができます。

注 : この機能を有効にすると、サブタスクをスケジュールできなくなります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

手順

1. メイン メニューから "インテグレーション > 設定""インテグレーション" を選択します。
2. "コンポーネント ライブラリ" からタスクを選択します。
3. "アクション" ペインで "ローダ実行順序を管理" をクリックします。
4. "ローダ" の各行のボタンをクリックして、タスクまたはローダを並べ替えます。
   最上位のアイテムが最初に実行されます。
5. タスクを保存します。

タスクの結果

進行状況モニタ ウィンドウおよびログには実行中のローダが列挙されるため、エラーのトラブルシューティングに役立ちます。

例

次のタスク

カスタム クラウド データ ソース **(CCDS)**
**CCDS** の紹介
カスタム クラウド データ ソース *(CCDS)* の設定

カスタム クラウド データ ソース (CCDS) を設定し、データ デザイナーがスクリプトを利用できるようにするには、"コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" ペインを使用します。

始める前に

- 確認 JavaScript プログラミングに関する十分な知識と経験を備えた、経験豊富なプログラマーをご利用いただけます。
- 必要な権限: "管理" 権限セット内の "インテグレーション開発者"。参照 概念: 権限セット（1407ページ）。
- CCDS に接続するためのインターネットでアドレス指定可能なサービスおよび認証情報を選択します。
- CCDS が接続する必要のある外部システムの API ドキュメントを参照してください。
- 外部システムで使用する必要のある認証のタイプ (OAuth またはシステム キー) を選択します。
- 外部システムからの回答フォーマット (JSON または XML) を選択します。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

ステップ

| | |
|---|---|
| CCDS の作成および設定 | 1. "データ ソース" ペインの "新しいデータ ソースを 作成" を選択します。<br>2. データ ソース タイプとして "カスタム クラウド データ ソース" を選択し、名前を入力して "作成" をクリックします。<br>3. CCDS でユーザーに入力を許可する "パラメータ " または "静的値" を選択します。たとえば、開始アドレス、終了アドレス、期間範囲、その他スクリプトで指定された情報などです。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. "データ ソース設定" タブで "ログ レベル" を選択します。以下のようにさまざまなログのタイプがあります。
    - エラー: エラーのみを記録します。
    - 情報: データ ソースが更新された日付など、すべての基本情報を記録します。
    - 詳細: すべてのフェーズおよびアクションの詳細情報を表示します。このレベルは、主にデバッグまたは監査に使用されます。
5. (任意) "データ ソース設定" タブの "認証情報が必要" を選択して、OAuth 認証情報を選択します。認証情報が "認証情報" ペインにすでに存在している必要があります。

| | |
|---|---|
| パラメータの定義 | データ デザイナーが記入する必要があるパラメータを選択します。"デザイナー設定" タブでパラメータを追加および設定し、スクリプトで参照することができます。たとえば、"場所"、"GPS 情報"、"ユーザー名"、"パスワード" をパラメータとして追加できます。 |
| スクリプトの作成およびテスト | 1. "スクリプト" タブでスクリプトを書きます。<br>2. "アクション" ペインから "保存" を選択して、スクリプトを保存します。<br>3. "アクション" ペインの "接続テスト" をクリックして、接続を確認します。 |

### *CCDS* へのアクセスおよび認証をリクエスト

ユーザー インターフェイスで CCDS にアクセスすることにより、インテグレーション開発者が作成した CCDS スクリプトを実行することができます。

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。
2. "コンポーネント ライブラリ" の "データ ソース" から自分の CCDS を選択します。OAuth が必須の場合、"操作" ペインで "認証をリクエスト" をクリックします。OAuth を使用した認証を参照してください。

### *OAuth* を使用した認証

OAuth 認証情報を構成することにより、OAuth サービス プロバイダを使用してカスタム クラウド データ ソース (CCDS) を認証することができます。データ デザイナーが CCDS を使用する際は、ログインし、アクセス申請が認証される必要があります。

注 : Workday 認証情報を作成した場合は、それを使って CCDS を認証することができます。

#### 前提条件

- CCDS を初めて使用する場合は、概念: CCDS および カスタム クラウド データ ソース (CCDS) の設定を参照してください。
- OAuth を使用して CCDS を設定および認証するために必要な権限: "　管理" > "権限セット"　の "インテグレーション開発者"
- CCDS の認証をリクエストするために必要な権限:　"管理" > "権限セット"　の "データ デザイナー"
- CCDSを作成する か、既存の CCDS を選択します 。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ナビゲーション

ナビゲーション メニューで "インテグレーション" > "インテグレーション設定" に移動します。

**OAuth** の設定と構成

"コンポーネント ライブラリ" の "認証情報" ペインを使用して、OAuth の作成および管理を行います。

1. "認証情報" パネルで "新しい認証情報の作成" を選択します。
2. "OAuth 1.0a" または "OAuth 2.0" を選択して、認証情報名を入力し、"作成" をクリックします。OAuth 1.0a および OAuth 2.0 の認証情報は、違いが分かりやすいように、別々のアイコンを使用しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. 以下に従って "設定" に入力します。

   OAuth 1.0a 設定に は以下のフィールドがあります。

   - コンシューマー キー: 登録プロセス中に発行されるクライアント ID (クライアント識別子) です。コンシューマー キーおよびコンシューマー シークレットは、リクエストを申請するクライアントを識別し、認証するための認証情報ペアとなります。
   - コンシューマー シークレット: クライアントの秘密キー。
   - サポートされている署名方法: 事前定義された署名方法は、「HMAC-SHA1」であり、これを変更することはできません。
   - リクエスト トークン サービス HTTP メソッド: ドロップダウンで "GET" または "POST" を選択します。
   - リクエスト トークン サービス エンドポイント: クライアントによるトークン認証情報セットのリクエストで使用されます。
   - 認証リダイレクト URL: 委任リクエストの識別のために一時的な認証情報を取得するために使用される URL です。
   - アクセス トークン サービス HTTP メソッド: 外部アクセス トークン サービスの要件に応じて、GET または POST のいずれかを選択します。
   - アクセス トークン サービス エンドポイント: 保護されたリソースのアクセスに使用するトークンを取得するための URL です。
   - URL をリクエストするための OAuth パラメータの追加: URI スキームと命名期間の範囲内のリソースを識別するための URI です。

   OAuth 2.0 の 設定に は、以下の追加のフィールドがあります。

   - コンシューマー キー: 登録プロセス中に発行されるクライアント ID (クライアント識別子) です。コンシューマー キーおよびコンシューマー シークレットは、リクエストを申請するクライアントを識別し、認証するための認証情報ペアとなります。
   - コンシューマー シークレット: クライアントの秘密キー。
   - リダイレクト URI: 認証後にユーザーをリダイレクトします。インテグレーション開発者は、サード パーティのサーバー上の OAuth 2.0 アプリケーション設定中に、この URI を使用します。このフィールドは変更できません。
   - 適用範囲: サービス、つまり、認証アクセス申請のオブジェクトの範囲です。
   - 認証ヘッダーが必要です: サードパーティのサービス プロバイダが認証後にアクセス トークンを要求またはリフレッシュする際に申請に認証ヘッダーが必要な場合、このチェックボックスをオンにします。
   - アクセス トークン更新可能: 最初の認証プロセスで元のアクセス トークンを取得して、トークンをリフレッシュする場合、また、サードパーティのサーバーのアクセストークンが自動的に更新される場合、このチェックボックスをオンにします。
   - 認証リダイレクト URL: 委任申請の識別情報のための一時的な認証情報を取得するための URL です。
   - アクセス トークン サービス HTTP メソッド: 外部アクセス トークン サービスの要件に応じて、GET または POST のいずれかを選択します。
   - アクセス トークン サービス エンドポイント: 保護されたリソースのアクセスに使用するトークンを取得するための URL です。
   - トークンの有効期限デフォルト (秒): 有効期限のないアクセス トークンのデフォルトの秒単位の有効期限です。
4. "アクション" ペインで "保存" をクリックします。

詳細については、OAuth 1.0 および OAuth 2.0 の認証フレームワークを参照してください。

**OAuth を使用した CCDS 認証**

以下は、インテグレーション開発者向けのステップです。

1. "データ ソース" パネルで使用する CCDS を選択します。
2. "データ設定" タブで "認証情報が必要" を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "認証情報" ドロップダウンで使用する OAuth の認証情報を選択します。
4. "スクリプト" タブで、OAuth 認証情報を含むスクリプトを更新します。たとえば、次のようになります。 `response=ai.authorizedRequest(url,method,body,headers)`。
5. "アクション" ペインで "保存" をクリックします。

認証リクエスト

以下は、データ デザイナー向けのステップです。

1. "データ ソース" パネルで使用する CCDS を選択します。
2. "アクション" パネルで "認証をリクエスト" を選択して、CCDS 認証リクエストを生成します。

   サードパーティの Web サイトを認証するための新しいブラウザのウィンドウが開きます。認証が完了すると、OAuth 1.0a アプリケーションがお使いのアカウントに接続して、データにアクセスすることができます。OAuth 2.0 については、サードパーティの Web サイトが許可する場合は、"OAuth 2.0 設定" - "適用範囲" フィールドで提供したサービスの全範囲が示されていることがあります。
3. リフレッシュ: Adaptive PlanningCCDS データ ソース ページ"アクション" パネルのすべてのメニュー アイテムが有効化されていることに注意してください。

"データ ソース設定" タブには、サードパーティの認証 ID を伴う認証ステータスおよび認証日が表示されます。認証の有効期限は、プロバイダにより異なります。認証の有効期限にご注意ください。

"アクション" パネルの "認証のリセット" をクリックして、必要に応じて再認証を行います。"認証のリセット" は、サードパーティの Web サイトに別の認証情報を提供する場合に使用することができます。

*CCDS* 用スクリプトの作成

ソース システムからデータを取得するスクリプトを作成できます。スクリプトは、パラメータ メンテナンス パネルで作成した一意の名前を参照します。

前提条件

- CCDS を初めて使用する場合は、概念: CCDSを参照してください。
- 必要な権限: "管理" > "権限セット" の "インテグレーション開発者"
- CCDS 開発者は、経験豊富な JavaScript プログラマーである必要があります。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

ステップ

1. "インテグレーション設定" の "データ ソース" ペインから既存の CCDS を選択するか、CCDS を作成します 。
2. CCDS の "スクリプト" タブを選択します。
3. "ソース URI" フィールドに、スクリプトが接続する URI をセミコロンで区切って入力します。このフィールドは、CCDS に接続されたソース システムを特定します。
4. "含まれるスクリプト" ペイン "SampleCCDSJavaScript" の編集アイコンをクリックするか、SampleCCDSJavaScript が含まれる行をダブルクリックします。SampleCCDSJavaScript コードには、 `https://`、リクエストの送信、回答の受信、回答の検証Windows のキーボードのショートカット: CTRL + Shift + B でスクリプトの形式を設定し、 Ctrl + H で以下を実行します 検索および置換。
5. "アクション" ペインで "保存" を選択します。

ヒント： ベスト プラクティス: 一度に小さな変更を加え、頻繁にスクリプトを実行することで、構文エラーを簡単に見つけることができます。"アクション" ペインで "ログ" を使って エラーを特定します。ログ ファイル内のエラー メッセージの数が少ないため、多くの変更を行った場合、問題を特定するのが難しい場合があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

スクリプト関数

接続のテスト、データ ソースのスキーマの作成または更新、ソース システムから行のインポートを行うには、スクリプト内で以下の関数を使用します。 Adaptive Planning ソース システムでのデータのステージングおよびプレビュー参照 Adaptive Planning 関数。

- testConnection() - ソースへの接続をテストします。
- importStructure() - データ構造をインポートします。
- importData() - 「https://」または静的コードからデータを取得します。
- previewData() - ソース システムから出力データをプレビューします。

サンプル スクリプト

Google Sheets

カスタム クラウド データ ソース *(CCDS)* のパラメータ
カスタム クラウド データ ソース (CCDS) でのパラメータの定義

"設計の設定" タブを使用すると、パラメータ化 (動的)、静的、設定 (SFTP/PGP) のパラメータをスクリプトに追加および設定できます。たとえば、接続 URL、ユーザー名、パスワード、マッピング済配信ルートの開始アドレスおよび終了アドレス、期間、その他の情報を追加して設定できます。さまざまなパラメータのタイプについては、 参考: パラメータ を参照してください。

- パラメータ化: 実行時にスクリプト実行中の動的な値を変更します。
- 静的: 実行前に初期化され、スクリプト実行時に変更されない値です。
- 設定: カスタム クラウド ローダ または のために作成された SFTP 接続または PGP 暗号化値 カスタム クラウド データ ソース (CCDS) の設定 ( 1812ページ )

始める前に

- CCDS を初めて使用する場合は、概念: CCDS および カスタム クラウド データ ソース (CCDS) の設定を参照してください。
- 必要な権限: "管理" > "権限セット" の "インテグレーション開発者"
- CCDS 開発者は、経験豊富な JavaScript プログラマーである必要があります。
- データ デザイナーが入力する必要がある情報のタイプを決定する必要があります。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

ステップ

| | |
|---|---|
| デザイナー設定へのパラメータの追加 | "設定コンポーネント" パネルのパラメータをクリックして、"デザイナー設定" タブにドラッグします。スクリプトで参照する必要がある数に応じて追加できます。 |
| デザイナー設定でのパラメータ値の設定 | 1. "デザイナー設定" タブで利用できるパラメータの隣の編集アイコンを選択します。実行時にパラメータ化される変数を設定するか、各実行時に持続する静的変数を設定します。<br>2. パラメータ化パラメータおよび静的パラメータでは、ともに "設定名" を変更できます。<br>3. パラメータ化された変数を変更するには、"Edit Parameterized Settings" ウィンドウの "パラメータを編集" を選択します。"静 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

的" 変数用の "パラメータを編集" リンクは提供されていません。

スクリプトでのパラメータの参照

1. "スクリプト" タブでスクリプトを選択します。
2. "含まれるスクリプト" パネルで "SampleCCDSJavaScript" が含まれる行をダブルクリックします。SampleCCDSJavaScript には、HTTPS リクエスト、構造のインポート、データのインポート、およびデータのプレビューの機能を作成するテンプレートが含まれています。参照 Adaptive Planning 関数 (スクリプト全体の例)
3. スクリプトで参照するパラメータを追加します。

例:

```
var startAddress =
dataSource.getSetting('startAddress').getValue();

var endAddress =
dataSource.getSetting('endAddress').getValue();
```

参考: パラメータ

CCDS では、Web API を使ってデータをインポートする際に、スクリプトに追加するパラメータを選択することができます。

ここでは、CCDS のパラメータ タイプについて説明します。また、以下の情報を読むこともできます。

- パラメータのカテゴリと設定に関するパラメータの定義
- CCDS のプロセス フローの概要については、 CCDS を設定してください 。

パラメータ タイプ

パラメータ化および静的

| タイプ | 説明 |
|---|---|
| ブール値 | 値は 0 または 1 です。デフォルト値は 0 です。 |
| 属性 | 属性の値には、組織、組織特性、属性、属性特性、科目特性、バージョンが含まれます。 |
| 整数 | 10 進数以外の数値。 |
| パスワード | パスワードには、アルファベット、数字、特殊文字などを使用することができます。 |
| 期間範囲 | 開始と終了のタイムフレーム期間 (動的または固定が可能)。 |
| テキスト | 英数字の文字列シーケンス |

詳細設定

| タイプ | 説明 |
|---|---|
| SFTP 接続 | コンポーネント ライブラリの認証情報エリアで作成されたユーザー定義の値。SFTP 接続には、サーバーとその認証情報が含まれます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タイプ | 説明 |
| --- | --- |
| PGP 暗号化 | コンポーネント ライブラリの認証情報エリアで作成されたユーザー定義の値。PGP の暗号化には、パートナー、公開キー、秘密キーの詳細が含まれます。 |

*PGP* 暗号化の設定

から暗号化されたファイルをアップロードしたり、ダウンロードしたりすることができます。 Adaptive Planning 安全なサーバーに対して十分なプライバシー (PGP) を使用する。この記事では、インテグレーション設定から PGP 認証情報を作成する方法、CCDS に PGP 暗号化を追加する方法、PGP を使ってファイルを暗号化および復号化する方法について説明します。

PGP では、自分の公開キーをパートナーと共有したり、パートナーのキーを取得したりすることができます。

始める前に

- 必要な権限: "管理" > "権限セット" の "インテグレーション開発者"
- パートナーキーを .asc ファイルで伝えてもらいます。

基本ステップ

1. PGP 暗号化の認証情報を作成します。
2. パートナーキーを入力します。
3. 公開キーをダウンロードします。
4. CCDS に PGP 暗号化を追加する。
5. PGP の暗号化および復号化をスクリプトに組み込みます。

詳細手順

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

**PGP** 暗号化認証情報の作成

新しい PGP の暗号化には、2048 ビットのキーペアが含まれています。公開キーはフォームに表示され、"アクション" ペインでダウンロードできます。秘密キーは隠されており、エクスポートすることはできません。

1. インテグレーション設定の "認証情報" ペインから "PGP 暗号化" の認証情報を作成します。
2. PGP 暗号化認証情報の名前を入力します。

パートナー キーの入力

パートナーのファイルやテキストを暗号化するには、パートナー キーが必要です。パートナー キーは、受け取った .asc ファイルに記載されています。

1. .asc ファイルから次のようなテキストをすべてコピーします。 `-----BEGIN PGP PUBLIC KEY BLOCK-----` および `-----END PGP PUBLIC KEY BLOCK-----`
2. "パートナー キー" フィールドにキーを貼り付け、フォームを保存します。

公開キーをダウンロード

"アクション" パネルの "公開キーをダウンロード" を選択します。これにより、公開キーが .asc ファイルで生成され、ローカルのファイル マネージャにダウンロードされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### CCDS に PGP 暗号を追加

1. "データ ソース" から CCDS を選択します。
2. CCDS の "デザイナー設定" タブを選択します。
3. "設定コンポーネント" ペインの "追加設定" から "PGP 暗号化" パラメータをドラッグ アンド ドロップします。設定名は、スクリプト内で使用するハンドル名です。例: 'myPgp'

### PGP による文字列の暗号化および復号化の例

PGP メッセージにテキストを暗号化する例

```
function testConnection(context) {
    var text = "Text to encrypt";
    var encrypedPgpMessage =
 ai.util.encrypt(text,'myPgp');
    ai.log.logInfo("encrypted
 message", encrypedPgpMessage );
    return true;
}
```

PGP メッセージの復号化の例

```
function testConnection(context) {
    var message = "-----BEGIN PGP
 MESSAGE-----"
        +"Version: GnuPG v2.0.14
 (GNU/Linux)"
        +"Your Message"
        +"-----END PGP
 MESSAGE-----";
    var text =
 ai.util.decrypt(message,'myPgp');
    ai.log.logInfo("text message",
 text);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    return true;
}
```

*SFTP* の設定と構成

SFTP (Secure File Transfer Protocol) サーバーに接続し、ファイルに対して様々な操作を行うためのクライアントを作成することができます。この記事では、カスタム クラウド データ ソース (CCDS) に SFTP 接続を追加する方法と、SFTP 接続をスクリプトに含める方法を説明します。ファイルの暗号化と復号化については、 "PGP 暗号化の設定" を参照してください。

始める前に

- CCDS を初めて使用する場合は、概念: CCDS の概要 および カスタム クラウド データ ソース (CCDS) の設定を参照してください。
- 必要な権限: "管理" > "権限セット" の "インテグレーション開発者"

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" へ移動します。

**SFTP** の設定と構成

新規 **SFTP** 接続の作成

1. インテグレーション設定の "認証情報" ペインから "SFTP 接続" を作成します。
2. 接続の名前を入力し、"作成" をクリックします。
3. 接続フォームにホスト表現を入力します。指定していない場合、接続には 22 番ポートが使用されます。以下のポートがサポートされています。
    - 22
    - 1224
    - 2222
    - 5022
    - 5031
    - 5122
    - 10022
    - 20022
4. 認証方法を選択してください。
    - 秘密キー認証の場合、パスワードは必要ありません。
    - 基本認証の場合は、パスワードを入力します。
5. 秘密キー認証の場合は、公開キーをクライアント サーバーの管理者に送り、インストールしてもらいます。
6. 最初に "接続テスト" を選択します。

秘密キーまたは基本認証の場合

- 最初に "接続テスト" を選択すると、"指紋" フィールドが表示されます。これにより、今後の接続時にサーバーの検証が可能になります。クライアント サーバーの管理者が "指紋" を確認することで、正しいサーバーに接続されていることが確認できます。
- 初めて "接続テスト" を実行した後、"認証情報" ペインで SFTP 接続をクリックすると、接続が再読み込みされ、"指紋" フィールドが表示されます。
- "接続テスト" を選択したり、スクリプトで SFTP 接続を使用したりする場合、サーバーからの指紋が一致しないと接続に失敗します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| カスタム クラウド データ ソースの選択 | CCDS を選択するか、"インテグレーション設定" の "データ ソース" から CCDS を作成します。 |
| カスタム クラウド データ ソースへの SFTP 接続の追加 | 1. CCDS の "デザイナー設定" タブを選択します。<br>2. "設定コンポーネント" ペインの "追加設定" から "SFTP 接続" パラメータをドラッグ アンド ドロップします。<br>3. "デザイナー設定" タブで SFTP 接続の設定を行います。設定名は、スクリプト内で使用するハンドル名です。たとえば、"sftpserver" などです。 |
| スクリプトに SFTP 接続を追加 | 1. ai.sftp.createClient() でクライアントを作成し、SFTP 設定の名前を指定します。例: `const client = ai.sftp.createClient('mysftp')`. 接続が正常に完了すると、クライアント オブジェクトが作成されます。<br>2. "アクション" ペインから接続をテストして、スクリプトを実行します。スクリプトのテスト結果は、"アクション" ペインの "ログ" で確認できます。 |

**SFTP** によるファイルのアップロードとダウンロード

以下の方法で クライアントを作成し、暗号化されたファイルを SFTP サーバーにアップロード、 ダウンロード し 、PGP で暗号化または復号化します。ai.sftpを参照してください。

- createClient(sftpConnection)

  ```
  client = ai.sftp.createClient('mysftp');
  ```

- uploadFile(Writer, uploadedFileName)

  ```
  client.uploadFile(writer,'./archive/datasample.csv.asc' );
  ```

- downloadFile(filename)

  ```
  client.downloadFile('./archive/datasample.csv.asc' );
  ```

- クライアントの接続解除

  ```
  client.disconnect();
  ```

- ファイル リーダー オブジェクトが消費するシステム リソースを解放

  ```
  reader.cleanUp();
  ```

**SFTP** サーバーに接続してファイルをダウンロードする例

```
function testConnection(context) {
    let client;
    try {
        client = ai.sftp.createClient('mysftp');
    }
    catch(e) {
        ai.log.logError('An error occurred connecting to the server: ' + e);
        return false;
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    finally {
        if (client) client.disconnect();
    }
    return true;
}


function importData(context) {
    const rowset = context.getRowset();
    const client = ai.sftp.createClient('mysftp');
    const reader = client.downloadFile('./someData.csv');
    try {
        reader.readLine();
        let line = reader.readLine();
        while (line)
        {
            let cells = line.split(',');
            rowset.addRow(cells);
            line = reader.readLine();
        }
    }
    catch(e) {
        ai.log.logError('An error occurred downloading the file: ' + e);
    }
    finally {
        client.disconnect();
        reader.cleanUp();
    }
}
```

概念*: CCDS*

インテグレーションは、外部クラウド システム上でホスティングされているカスタム、アドホック、汎用データ ソースをサポートして、データを Planning、Consolidation、ダッシュボードに読み込みます。技術スキルのある JavaScript 開発者 ( Adaptive Planning、インテグレーション開発者) がデータ ソースを構築し、 でデータ ソースを公開できる。 Adaptive Planning カスタム クラウド データ ソース (CCDS) を使用したインテグレーション。

CCDS は、インターネットのアドレス指定可能システムに接続し、 にデータを供給するために設計されたカスタムビルドのアダプタです。 Adaptive Planning。これらのデータ ソースを有効にすると、Google Sheets、Quickbooks、Sage Intacct などの Web ベースのソースとその他のアプリケーションを Planning ローダで使用できるようになります。 Adaptive Planning パートナーおよびカスタマーは自分で JavaScript を作成することなく、あらかじめ記述された CCDS のデータ ソースを活用できます。CCDS データ ソースへのアクセスは、特定の顧客を対象としてオンまたはオフにできます。

**CCDS** のメリット

- CCDS スクリプトの実行場所 Adaptive Planning インテグレーション サーバー。オンプレミスでのインストールは必要ありません。
- CCDS は JavaScript をサポートし、インテグレーション Web UI で、完全な機能を備えたデータ ソースとしてクラウドベースのシステムに接続する。
- Kettle のインストールが不要。
- パートナーは特定のユースケースに合わせて専用のアダプタを作成する。
- CCDS では、開発者がセルフ ホスティングで作成した個別の製品 API を使用して、 Adaptive Planning メタデータとデータを交換する インテグレーション API
- CCDS は 、OAuth 1.0a および OAuth 2.0 をサポートしています。
- CCDS は、他の Web アプリケーションからの XML や JSON データを解析するための独自の API もサポートする。
- CCDS データ ソースの作成者は自分のモジュールを共有できる。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

注 : CCDS は、第三者がコンパイル済みのコード (JDBC ドライバーや DLL) を に読み込むことを許可していません。 Adaptive Planning サーバー

概念: 設計

CCDS API は、データ ソースへの接続、データ ソース内でのオブジェクトの作成、XML の解析、日付の変換など、データ ソースを作成する際に頻繁に利用する項目について、インテグレーション オペレーターを支援するために設計されています。

名前空間

JavaScript エンジンにより、組み込み関数へのアクセスが提供されます。 Adaptive Planning"adaptive" 名前空間または "ai" (Adaptive Planning) namespace (エイリアス)これは、jQuery (https://jquery.com/) などの普及している JavaScript ライブラリと似ています。

```
// JavaScript short namespace example.
ai.log.logError('this is a log');

// JavaScript long namespace example.
adaptive.log.logError('this is a log');
```

ルートの「ai」名前空間の下には、JavaScript がインターネットや Adaptive Planning Discovery/ Integration 機能これらの公開 JavaScript API は、ガイドとして Node.js (https://nodejs.org/) API を使ってモデリングされます。

関数

関数によるデータの取得や設定で、API の一貫性を保ち、カプセル化を実現し、設定メソッドや取得メソッドを明示的に許可します。また、関数は C# オブジェクトのカプセル化を行い、JavaScript 言語の関数のみを公開し、JavaScript と C# の境界を不必要に越えないようにすることで、パフォーマンスを向上させます。取得メソッドは get プレフィックス以下を考慮し、設定メソッドは set プレフィックス以下を考慮します。

```
var isEnabled= item.getIsEnabled();
item.setIsEnabled(true);
```

関数コンテキスト

CCDS から呼び出される各関数は、コンテキスト オブジェクトを受け取ります。コンテキストには、処理に役立つ読み取り専用のオブジェクトが含まれています。

```
function importData(context) {
 var tableId = context.getTableId();
 var tables = context.getDataSource().getTables();
 var setting = context.getDataSource().getSetting('password');
}
```

コンテキストは、C# から渡されたオブジェクトで構成されています。パフォーマンスを向上させるために、各オブジェクトを JavaScript オブジェクトにカプセル化することで、JavaScriptでの C# オブジェクトの公開を避けています。これにより、JavaScript と C# の境界を越えた通信を管理できます。たとえば、コンテキストにテーブルを求める場合、C# オブジェクトは JavaScript オブジェクトで折り返して返されます。オブジェクト階層がある場合、JavaScript オブジェクト内の各組織を折り返します。テーブルの列を求めると、JavaScript で折り返されたオブジェクトのリストを返します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

制限事項

以下の制限は、実行中の CCDS スクリプト処理セッションに適用されます。

| 設定 | 説明 | デフォルト値 | 適用設定変更が可能? | テナント設定変更が可能? |
|---|---|---|---|---|
| 最大ヒープ サイズ (MB 単位) | V8 エンジンで消費可能な RAM 量。 | 800 | はい | はい |
| CPU 時間制限 | V8 エンジンでの CPU 使用可能時間。 | 10 分 | はい | はい |
| 実行時間の上限 | CPU リソースを使用中かどうかにかかわらず、V8 エンジンの実行が可能な最大時間。 | 60 分 | はい | はい |
| ネットワーク呼び出しの遅延時間 | | 1 秒 | はい | はい |
| 1 秒あたりのログ限度数 | スクリプトから 1 秒間に作成されるログの最大数。 | 5 | はい | はい |
| 1 時間あたりのログ限度数 | スクリプトから 1 時間に作成されるログの最大数。 | 1000 | はい | はい |
| ネットワーク使用量の上限 (MB 単位) | スクリプトがネットワーク経由で送受信できる最大メガバイト数。 | 5 ギガバイト | はい | はい |
| 非同期スクリプト サービス リクエスト間のミリ秒 | タスク サービスとスクリプト実行プロセス間のトラフィックを調整するために使用されます。スクリプト実行プロセスが、タスクサービスからの要求に追いつくことができれば、待ち時間は 0 ミリ秒になります。 | 200 ミリ秒 | いいえ | いいえ |
| リクエストあたりの最大スクリプト結果ページ数 | タスク サービスがスクリプト実行リポジトリから要求できるデータのページ数 | 50 | いいえ | いいえ |
| ページ最大サイズ | タスクサービスがデータの各ページに要求するデータの行数 | 10000 | はい | はい |

以下の制限は、CCDS スクリプト プール マネージャに適用されます。

| 設定 | 説明 | デフォルト値 | 適用設定変更が可能? | テナント設定変更が可能? |
|---|---|---|---|---|
| スクリプト最大プール サイズ | 同時実行可能なスクリプト処理の最大数 | 100 | はい | いいえ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 設定 | 説明 | デフォルト値 | 適用設定変更が可能? | テナント設定変更が可能? |
|---|---|---|---|---|
| スクリプト最小プール サイズ | 一度に実行するスクリプト処理の最小数 (スクリプト実行プロセスの予熱に使用) | 0 | はい | いいえ |
| スクリプト プール待ちタイムアウト | スクリプト実行処理のリクエストをキューに入れることができる最大時間 | 180 秒 | はい | いいえ |
| スクリプト最大プール キュー サイズ | スクリプト実行処理の待機中のリクエストの最大数 | 1000 | いいえ | いいえ |

その他制限

- スクリプトで ai.https.sax.parser メソッドを使用しない場合、解析対象の XML ファイルのサイズに制限があります。上限サイズは不明ですが、参考までに、100mb のヒープ サイズで 10mb のファイルを解析することは可能です。大きなファイルには「ai.https.sax.parser」の使用をお勧めします。
- スクリプトは 内の IP にはアクセスできません Adaptive Planning ネットワーク
- サポートされているのは HTTPS だけで、 HTTP はサポートされていません。

既知の問題

- importData/importStructure の間、データ ソースは testConnection を呼び出します。CCDS では、これは 2 つの個別スクリプト実行処理を表します。testConnection を実行するための最初のプロセスが正常に作成されている可能性があります。importData/importStructure を実行する 2 つ目のプロセスは、プール マネージャにキューイングされ、最終的にタイムアウトし、その後失敗する可能性があります。
- 兄弟のフレキシブル設定により、同じ表示名を持つことができます。そのため、getSetting(displayName) で設定にアクセスするスクリプトでは、ひとつのインスタンスのみが返されますが、どのインスタンスが返されるかは保証されません。ユーザーが同じ表示名で兄弟のフレキシブル設定を作成できないようにする必要があります。

*参考: Adaptive Planning SFTP* ホスト キーおよびキー交換アルゴリズム

ホスト キー アルゴリズム

SFTP の認証情報設定で "指紋アルゴリズムとして RSA または DSS を使用" が選択されていない場合、Adaptive Planning では以下のホスト キー アルゴリズムがサポートされています。

- "ssh-ed25519"
- "ecdsa-sha2-nistp256"
- "ecdsa-sha2-nistp384"
- "ecdsa-sha2-nistp521"
- "ssh-rsa"
- "ssh-dss"

SFTP の認証情報設定で "指紋アルゴリズムとして RSA または DSS を使用" が選択されている場合、Adaptive Planning では以下のホスト キー アルゴリズムがサポートされています。

- "ssh-rsa"
- "ssh-dss"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

キー交換アルゴリズム

Adaptive Planning では、以下のキー交換アルゴリズムがサポートされています。

- "curve25519-sha256"
- "curve25519-sha256@libssh.org"
- "ecdh-sha2-nistp256"
- "ecdh-sha2-nistp384"
- "ecdh-sha2-nistp521"
- "diffie-hellman-group-exchange-sha256"
- "diffie-hellman-group-exchange-sha1"
- "diffie-hellman-group16-sha512"
- "diffie-hellman-group14-sha256"
- "diffie-hellman-group14-sha1"
- "diffie-hellman-group1-sha1"

**CCDS スクリプト作成 API**
*ai* 名前空間

| Namespace | 説明 |
|---|---|
| ai.awss3 | AWS S3 機能の名前空間 |
| ai.date | 日付機能の名前空間 |
| ai.https | HTTPS 経由で通信するための名前空間 |
| ai.calendar | カレンダー機能の名前空間 |
| ai.dataSource | データ ソース機能の名前空間 |
| ai.log | ログ記録機能の名前空間 |
| ai.oauth | OAuth 機能の名前空間 |
| ai.sftp | SFTP 機能の名前空間 |
| ai.util | データ タイプのチェックなどのユーティリティ関数の名前空間 |
| ai.xml | XML ドキュメントの解析と構成の名前空間 |

*ai.date*

ai.date 名前空間を使用すると、ユーザーは ISO8601 の日時文字列を作成したり、それらをさまざまなタイムゾーンに変換したりできるようになります。ISO8601 の詳細については、 こちらをご覧ください。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| create( date, sourceTz, format) | • date: 文字列の日付ベース<br>• sourceTz: 日付を作成する文字列のタイムゾーン<br>• format:String 任意 - 日付の解析を支援するフォーマット文字列 | String | 部分的な日時文字列、タイムゾーン、およびオプションのフォーマット文字列から、日付、時間、タイムゾーン オフセットを含む ISO8601 フォーマットの日時文字列を作成します。有効なフォーマット文字列のトークンは以下にあります。<br>重要:date が有効な ISO8601 文字列ではない場合、正常に解析して日付文字列を作成するためにフォーマット文字列を指定する必要があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| convertTimezone( date, targetTz ) | • date: 変換する日付/文字列の日付<br>• targetTz: 日付を変換する文字列のタイムゾーン | String | JavaScript 日付オブジェクトまたは有効な ISO8601 日付文字列をあるタイムゾーンから別のタイムゾーンに変換します。戻り値は、ターゲット タイムゾーンでフォーマットされた ISO8601 の日付文字列です。タイムゾーンの有効な値を以下で確認できます。 |
| getServerTimezone() | | String | インテグレーション サーバーのタイムゾーンを返します。ユーザー スクリプトで作成された新しい日付オブジェクトは、サーバーのタイムゾーンのものとして扱われます。 |
| getSupportedTimezones() | | Array<String> | convertTimezone() で使用されるすべての有効なタイムゾーンを含む配列を返します。 |

サポートされているタイムゾーン

| | | | | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| アフリカ/アビジャン | America/Grand_Turk | アジア/アンマン | オーストラリア/北部 | ヨーロッパ/バドゥズ |
| アフリカ/アクラ | アメリカ/グレナダ | アジア/アナドリル | オーストラリア/パース | ヨーロッパ/バチカン |
| Africa/Addis_Ababa | アメリカ/グアドループ | アジア/アクタウ語 | オーストラリア/クインシーランド州 | ヨーロッパ/ウィーン |
| アフリカ/アルジェリア | アメリカ/グアテマラ | アジア/リクルーター | オーストラリア/南部 | ヨーロッパ/ビリニュス |
| アフリカ/アスマラ語 | アメリカ/グアキー語 | アジア/アシガバート | オーストラリア/シドニー | ヨーロッパ/ボルト |
| アフリカ/アローマ語 | アメリカ/ガイアナ | アジア/アシュカバード | オーストラリア/タスクソース | ヨーロッパ/ワルシャワ |
| Africa/Bamako | America/Halifax | アジア/バグダッド | オーストラリア/ビクトリア州 | ヨーロッパ/ザグレブ |
| アフリカ/バンギ語 | America/Havana | アジア/バーリン | オーストラリア/西部 | ヨーロッパ/ザポリシー |
| アフリカ/バンジュール語 | America/Hermocillo | アジア/バクー | オーストラリア/Yancounna | ヨーロッパ/ジュリ語 |
| アフリカ/ビサウ語 | アメリカ/インディアナ州/インディアナポリシー | アジア/銀行口座 | ブラジル/エーカー | GB |
| アフリカ/ブランストーン | America/Indiana/Knox | アジア/ベイルート | ブラジル/DeNoronha | GB-Eire |
| Africa/Brazzaville | アメリカ/インディアナ州/マレンゴ | アジア/ビシュケク語 | ブラジル/東部 | GMT |
| アフリカ/ブ純ブラ | アメリカ/インディアナ州/ペテルブルグ | アジア/ブルネイ | ブラジル/西部 | GMT+0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アフリカ/カイロ | America/Indiana/Tell_City | アジア/カルカット | CET | GMT-0 |
| アフリカ/Casablanca | アメリカ/インディアナ州/Vベイ | アジア/チタ語 | CST6CDT | GMT0 |
| アフリカ/セウタ | アメリカ/インディアナ州/ビンセント | アジア/カスタマイズ | カナダ/大都市 | グリーンウィッシュ |
| アフリカ/コンナックリ語 | アメリカ/インディアナ州/ウィナMac | アジア/重慶 | カナダ/中央 | HST |
| アフリカ/ダカル | アメリカ/インディアナポリシー | アジア/チャンキング | カナダ/東部サスケワン州 | 香港 |
| Africa/Dar_es_Salaam | アメリカ/イヌブク語 | アジア/コロンボ | カナダ/東部 | アイスランド |
| アフリカ/ジブチ | America/Iqaluit | アジア/ダッカ | カナダ/Mountain | インディアン/アンアナリボ |
| アフリカ/ドゥアラ | アメリカ/ジャマイカ | アジア/ダマスコ | カナダ/ニューファンドランド | インディアン/チャゴス語 |
| Africa/El_Aaiun | America/JuJuy | アジア/ダッカ | カナダ/太平洋地域 | インディアン/教会 |
| アフリカ/自由都市 | アメリカ/ジュオー | アジア/ディル語 | カナダ/サスカチュワン州 | インディアン/コースト |
| アフリカ/ガボロン | アメリカ/ケンタッキー州/ルービル | アジア/ドバイ | カナダ/ユーコン準州 | インディアン/コモロ |
| アフリカ/ハラレ | アメリカ/ケンタッキー州/モンティセロ | アジア/Dun Plane | チリ/西部 | インディアン/ケルゲール語 |
| Africa/Johannesburg | America/Knox_IN | Asia/Gaza | チリ/EasterIsland | インディアン/マーヘ語 |
| アフリカ/ジュバ | America/Kralendisk | アジア/ハービン | キューバ | インド/モルディブ |
| アフリカ/カンパラ州 | America/La_Paz | アジア/ヘブライ語 | EET | インディアン/モーリシャス |
| アフリカ/シャルルサム | America/リマ州 | Asia/Ho_Chi_Minh | EST | インディアン/マイロット |
| アフリカ/キガ語 | America/Los_Angeles | Asia/Hong_Kong | EST5EDT | インディアン/レユニオン |
| アフリカ/キンシャサ | アメリカ/ルービル | アジア/ホビデオ | 予算 | イラン |
| アフリカ/ラゴス | America/Lower_Prences | アジア/リクルーター | エイレ | イスラエル |
| アフリカ/リーブル | America/Maceio | アジア/イスタンブール | Etc/GMT | ジャマイカ |
| アフリカ/ローマ字表記 | アメリカ/マン語 | アジア/ジャカルタ | Etc/GMT+0 | 日本 |
| アフリカ/ルンダ | America/Manaus | アジア/ジャヤプラ | Etc/GMT+1 | クワジャリン |
| アフリカ/ルンバシ | America/Marigo | アジア/エルサレム | Etc/GMT+10 | リビア |
| アフリカ/ルサカ | アメリカ/マルティニーク | アジア/カブール | Etc/GMT+11 | MET |
| アフリカ/マラボ | America/Matamors | アジア/カムチャツカ語 | Etc/GMT+12 | MST |
| アフリカ/マプト | America/マサトラン | アジア/カラチ | Etc/GMT+2 | MST7MDT |
| アフリカ/マセル | アメリカ/メンドーサ | Asia/Kashgar | Etc/GMT+3 | メキシコ/バハマ |
| アフリカ/ムババン | アメリカ/メンター | アジア/カトマンズ | Etc/GMT+4 | メキシコ/バハマ |
| アフリカ/モガディシュ語 | America/Merid | アジア/カトマンズ語 | Etc/GMT+5 | メキシコ/一般 |
| アフリカ/モンロビア | アメリカ/メトラカットラ | アジア/カンディガ | Etc/GMT+6 | NZ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アフリカ/ナイロビ | America/Mexico_City | アジア/コルカタ | Etc/GMT+7 | NZ-CHAT |
| アフリカ/ンジャメナ語 | America/Mikelon | アジア/クラスノヤルスク | Etc/GMT+8 | Navajo |
| アフリカ/ニアメトリック | アメリカ/モンクトン | Asia/Kuala_Lumpur | Etc/GMT+9 | PRC |
| アフリカ/ヌクショット | America/Montry | アジア/クチン | Etc/GMT-0 | PST8PDT |
| アフリカ/ワガドウ語 | America/Montevid | アジア/クウェート | Etc/GMT-1 | 太平洋/アピア |
| アフリカ/ポートフォリオ州 | America/Montreal | アジア/マカオ | Etc/GMT-10 | 太平洋/エーカーランド |
| Africa/Sao_Tome | America/Montserrat | アジア/マカオ | Etc/GMT-11 | 太平洋/ブレークダウン |
| アフリカ/ティムクツ語 | America/Nassau | アジア/マガダン | Etc/GMT-12 | 太平洋/チャタム語 |
| アフリカ/トリポリシー | America/New_York | アジア/マカサール | Etc/GMT-13 | 太平洋/キューク諸島 |
| アフリカ/チュニジア | アメリカ/ニピオン | アジア/Manila | Etc/GMT-14 | 太平洋/東部 |
| アフリカ/ウィンドウホック | アメリカ/ノーム | アジア/マスカット | Etc/GMT-2 | 太平洋/東部 |
| America/Adak | America/Noronha | アジア/ニックネーム | Etc/GMT-3 | 太平洋/エンターベイ |
| America/AnchoRage | America/North_Dakota/Beulah | アジア/ノヴォクズネツク | Etc/GMT-4 | パシフィック/ファカオ |
| アメリカ/アンギラ | America/North_Dakota/Center | アジア/ノヴォシビルスク | Etc/GMT-5 | 太平洋/フィジー |
| アメリカ/アンティグア | America/North_Dakota/New_Salem | アジア/オンスク | Etc/GMT-6 | 太平洋/カリフォルニア州 |
| アメリカ/アラガイナ語 | America/OJNag | アジア/口頭 | Etc/GMT-7 | 太平洋/ガラパゴス |
| アメリカ/アルゼンチン/ブエノスアイレス | アメリカ/パナマ語 | Asia/Phnom_Penh | Etc/GMT-8 | 太平洋/ガンビア |
| アメリカ/アルゼンチン/補償範囲 | America/Pangurtong | アジア/Pontianak | Etc/GMT-9 | 太平洋/湾岸地域 |
| America/Argentina/ComodRivadavia | アメリカ/パラマリーボ | アジア/ピッキング | Etc/GMT0 | 太平洋/グアム |
| アメリカ/アルゼンチン/コルドバ語 | America/Phoenix | アジア/カタール | Etc/Greenwich | 太平洋/ホノルル |
| アメリカ/アルゼンチン/フフイ | アメリカ/ポルトガル プラン | アジア/Qy済ロールダ | ETC/UCT | 太平洋/Johnston |
| America/Argentina/La_Rioja | America/Port_of_Spain | アジア/ラングーン | Etc/UTC | 太平洋/島国 |
| アメリカ/アルゼンチン/メンドーサ | America/Porto_Acre | アジア/リヤド | ETC/汎用 | パシフィック/コラーサ語 |
| America/アルゼンチン/リオ ガレゴ | America/Porto_Velho | アジア/サイゴン | ETC/ズールー語 | 太平洋/クワジャリン |
| アメリカ/アルゼンチン/サルタ | America/Pueto_Rico | アジア/サハリン | ヨーロッパ/アムステルダム | 太平洋/マジュロ語 |
| アメリカ/アルゼンチン/san_Juan | America/Rainy_River | アジア/サマルカンド | ヨーロッパ/アンドラ | 太平洋/マーケサ語 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アメリカ/アルゼンチン/san_luis | America/Rankin_Inlet | アジア/ビルマ語 | ヨーロッパ/アテネ | 太平洋/中空 |
| アメリカ/アルゼンチン/チュクマン語 | America/Recipe | アジア/香港 | ヨーロッパ/ベルファスト | 太平洋/ナウル |
| アメリカ/アルゼンチン/ウシュア語 | America/レジャイナ | アジア/シンガポール | ヨーロッパ/ベオグラード | 太平洋/ニューウェー |
| America/Aruba | America/Resolution | エイリアス/スレ状 | ヨーロッパ/ベルリン | 太平洋/ノルウェー語 |
| America/Asunion | America/Rio_Branco | アジア/台北 | ヨーロッパ/ブラチスラバ | 太平洋/ヌメア |
| USA/アトリコカン | America/Rosaio | アジア/タシュケント | ヨーロッパ/ブリュッセル | Pacific/Pago_Pago |
| America/Atca | America/Santta_Isabel | アジア/トビリシ | ヨーロッパ/ブカテスト | 太平洋/パラオ |
| アメリカ/ベイア語 | America/算入 | アジア/テヘラン | ヨーロッパ/ブダペスト | 太平洋/ピトケアン |
| America/Bahia_Banderas | アメリカ/サンティアゴ | Asia/Tel_Aviv | ヨーロッパ/ブエンジン | 太平洋/ポンドペイ |
| アメリカ/バルバドス | America/Santo_Domingo | アジア/トンブ語 | ヨーロッパ/中国 | パシフィック/ポイント |
| America/Belm 社 | America/Sau_Paulo | アジア/タンプー語 | ヨーロッパ/コペンハーゲン | Pacific/Port_Moresby |
| アメリカ/ベリーズ | アメリカ/スコア基準 | アジア/台帳 | ヨーロッパ/ダブリン | 太平洋/ラロトンガ語 |
| America/ブランサブロン | America/出荷ロック | Asia/Ujung_Pandang | ヨーロッパ/ジブラルタル | 太平洋/サイパン |
| America/Boa_Vister | アメリカ/シトカ語 | アジア/ウランバートル | ヨーロッパ/ガベージオン | 太平洋/サモア |
| アメリカ/ボゴタ | America/St_Barthelemy | アジア/Ulan_Bator | ヨーロッパ/ヘルシンキ | 太平洋/タヒチ |
| America/Boise | America/St_Johns | アジア/ウルムチ | Europe/Isle_of_Man | 太平洋/タワ軍 |
| America/buenos_aires | America/St_Kitts | アジア/米国 | ヨーロッパ/イスタンブール | パシフィック/トンガプション |
| America/Cambridge_Bay | America/St_Lucia | アジア/ビエンチャン | ヨーロッパ/ジャーニー | 太平洋/トラック |
| America/Campo_Grande | America/St_Thomas | アジア/ウラジオストク | ヨーロッパ/カリングラード | 太平洋/ウェーク航空 |
| America/カンクン | America/St_Vincent | アジア/ヤクツク | ヨーロッパ/キエフ | 太平洋/ワリス語 |
| America/Caracas | America/Swift_Current | アジア/エカテリンブルグ | ヨーロッパ/リスボン | パシフィック/ヤプ語 |
| America/Catalog | アメリカ/テグシガルパ | アジア/セレバン | ヨーロッパ/リュブリジャーナ | ポーランド |
| America/カイエンヌ語 | アメリカ/木曜日 | Atlantic/アゾレス諸島 | ヨーロッパ/ロンドン | ポルトガル |
| America/ケイマン語 | America/Thunder_Bay | 大転換/バミューダ | ヨーロッパ/ルクセンブルグ | ROC |
| アメリカ/シカゴ | アメリカ/ティファナ | アトラント/カナダ | ヨーロッパ/マドリード | ROK |
| アメリカ/チワワ | America/Toronto | Atlantic/Cape_Verde | ヨーロッパ/マルタ | シンガポール |
| America/Coral_Harbour | America/Totorola | アトランティック/フェロー | ヨーロッパ/マリーハム | トルコ |
| America/Cordba | America/Vancouver | アトランティック/フェロー | ヨーロッパ/ミンスク | UCT |
| America/Costa_Rica | アメリカ/バージン | Atlantic/Jan_Mayen | ヨーロッパ/モナコ | 米国/アラスカ州 |
| America/Creston | America/ Whitehose | Atlantic/Madeira | ヨーロッパ/モスク | 米国/ア単位語 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| America/クイアバ語 | アメリカ/ウィニペグ | Atlantic/Reykjavik | ヨーロッパ/ニックネーム | 米国/アリゾナ州 |
| アメリカ/キュラソー語 | America/ヤクタ | Atlantic/South_Georgia | ヨーロッパ/オスロ | 米国/中央 |
| America/DanmarkShavn | アメリカ/Yellowknife | Atlantic/St_Helena | ヨーロッパ/パリ | 米国/東インディアナ州 |
| America/Davis | 南極点/Casey | アトランティック/スタンリー | ヨーロッパ/ポドゴルイカ | 米国/東部 |
| America/Dawson_Creek | 南極点/Davis | オーストラリア/ACT | ヨーロッパ/プラハ | 米国/ハワイ州 |
| America/Denver | 南極点/DupmontDurvid | オーストラリア/アデレード | ヨーロッパ/リガ | 米国/インディアナ州スターク |
| アメリカ/デトロイト | 南極点/マックエリー | オーストラリア/ブリスベン | ヨーロッパ/ローマ | 米国/ミシガン州 |
| アメリカ/ドミニカ国 | 南極点/Mawson | オーストラリア/Broken_Hill | ヨーロッパ/サマリ | US/Mountain |
| America/Edmonton | 南極点/McMurdo | オーストラリア/カリフォルニア州 | Europe/San_Marino | 米国/太平洋地域 |
| America/Eirunepe | 南極点/パーマー語 | オーストラリア/通貨 | ヨーロッパ/サラエボ | 米国/太平洋-新 |
| America/El_Salvador | 南極点/ロザ | オーストラリア/ダーウィン | ヨーロッパ/シンフェロール | 米国/サモア |
| アメリカ/エンセナダ | Antarctica/South_Pole | オーストラリア/Eucレーション | ヨーロッパ/スコピエ | UTC |
| America/Fort_Nelson | 南極/相和 | オーストラリア/ホバート | ヨーロッパ/ソフィア | 汎用 |
| America/Fort_Wayne | 南極/トロール | オーストラリア/LHI | ヨーロッパ/ストックホルム | W-SU |
| America/Fortalezu | 南極点/トランスポーター | オーストラリア/Lindeman | ヨーロッパ/タリン | WET |
| America/Glace_Bay | 北極/ロングエイビエン | Australia/Lord_Howe | ヨーロッパ/アジア | ズールー語 |
| America/godthab | アジア/アーデン | オーストラリア/メルボルン | ヨーロッパ/ティラプール | |
| America/Goose_Bay | アジア/アルマトイ | オーストラリア/NSW | ヨーロッパ/ウズゴロド | |

サポートされている日付フォーマット文字列トークン

英数字以外の文字は、解析によって無視されます。

年、月、日のトークン

| 入力 | 例 | 説明 |
|---|---|---|
| YYYY | 2014 | 4 桁または 2 桁の年 |
| YY | 14 | 2 桁の年 |
| Q | 1..4 | 四半期月を四半期の最初の月に設定します。 |
| M MM | 1..12 | 月数 |
| MMM MMMM | 1 月.12 月 | ロケールの月名 |
| D DD | 1..31 | 月の通算日 |
| 許可事項 | 1 ~ 31 日 | 月の日付 |
| DDD DDDD | 1..365 | 年の通算日 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 入力 | 例 | 説明 |
|---|---|---|
| X | 1410715640.579 | Unix タイムスタンプ |
| x | 1410715640579 | Unix ms タイムスタンプ |

バージョン 2.10.5 の YYYY は 2 桁の年をサポートしており、2000 年 (YY と同じ) に近い年に変換されます。

週の年、週、曜日のトークン

この場合、小文字のトークンではロケール対応の週の開始日を使用し、大文字のトークンでは ISO の週の 日付の開始日を使用します。

| 入力 | 例 | 説明 |
|---|---|---|
| gggg | 2014 | ロケール 4 桁の週の年 |
| gg | 14 | ロケール 2 桁の週の年 |
| w ww | 1..53 | ロケールの週 |
| e | 1..7 | ロケールの曜日 |
| ddd dddd | 月曜日...日曜日 | ロケールの曜日名 |
| GGGG | 2014 | ISO 4 桁週数 |
| GG | 14 | ISO 2 桁週数 |
| W WW | 1..53 | 年の ISO 週 |
| E | 1..7 | ISO 曜日 |

時間、分、秒、ミリ秒、オフセット トークン

| 入力 | 例 | 説明 |
|---|---|---|
| H HH | 0..23 | 24 時間単位 |
| H H | 1..12 | A で 12 時間使用。 |
| a A | am pm | メリット給の計上 |
| m mm | 0..59 | 分数 |
| s s | 0..59 | 秒 |
| S SS SSS | 0..999 | 分数で表された秒 |
| Z ZZ | +12:00 | UTC からのオフセット (+-HH:mm、+-HHmm、または Z) |

**ISO8601** 日時文字列の作成

```
// create a date from a date fragment that is in ISO8601 format
var date = ai.date.create('2016-02-01', 'America/Los_Angeles');
// date is "2016-02-01T00:00:00-08:00"

// create a date from a date fragment that is NOT in ISO8601 format
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
var date = ai.date.create('02/01/2016', 'America/Los_Angeles', 'MM/DD/
YYYY');
// date is "2016-02-01T00:00:00-08:00"

// create a date from a date fragment that is NOT in ISO8601 format, but in
 Australian format
var date = ai.date.create('02/01/2016', 'America/Los_Angeles', 'DD/MM/
YYYY');
// date is "2016-01-02T00:00:00-08:00"

// create a date from a date and time fragment, but no offset, fragment is
 in ISO8601 format.
var date = ai.date.create('2016-02-01T05:00', 'America/Los_Angeles');
// date is "2016-02-01T05:00:00-08:00"

var date = ai.date.create('2016-02-01 05:00', 'America/Los_Angeles');
// date is "2016-02-01T05:00:00-08:00"

// create a date that includes daylight savings
var date = ai.date.create('2016-02-01 12:00', 'Australia/Sydney');
// date is "2016-02-01T12:00:00+11:00"

// without daylight savings...
var date = ai.date.create('2016-06-01 12:00', 'Australia/Sydney');
// date is "2016-02-01T12:00:00+10:00"

// create a date in UTC
var date = ai.date.create('2016-03-01', 'UTC');
// date is "2016-03-01T00:00:00+00:00"
```

**ISO8601** 日時文字列の変換

```
// convert Brisbane to Sydney time with daylight savings
var date = ai.date.convertTimezone(new Date('2015-01-15T12:00:00+10:00'),
 'Australia/Sydney');
// date is "2015-01-15T13:00:00+11:00"

// convert Brisbane to Sydney time without daylight savings
var date = ai.date.convertTimezone('2015-06-15T12:00:00+10:00', 'Australia/
Sydney');
// date is "2015-06-15T12:00:00+10:00"

// convert Brisbane to New York time
var date = ai.date.convertTimezone('2015-06-15T12:00:00+10:00', 'America/
New_York');
// date is "2015-06-14T22:00:00-04:00"

// convert New York to Brisbane time
var date = ai.date.convertTimezone('2015-06-15T12:00:00-04:00', 'Australia/
Brisbane');
// date is "2015-06-16T02:00:00+10:00"

// convert New York to UTC time
var date = ai.date.convertTimezone('2015-06-15T12:00:00-04:00', 'UTC');
// date is "2015-06-15T16:00:00+00:00"
```

サーバーのタイムゾーンを取得

```
var serverTz = ai.date.getServerTimezone();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
// as an example, serverTz = 'America/Los_Angeles'
```

サポートされているすべてのタイムゾーンの取得

```
var timezones = ai.date.getSupportedTimezones();
// timezones is an array containing the above 583 timezones
```

*ai.https*

リクエスト

| 方法 | 説明 |
| --- | --- |
| request(url, method, body, headers, ) AllowAutoRedirect) | HTTPS リクエストを作成します。レスポンスを返します。<br>2018.3 時点で、request(method) は<br>• GET: データの取得。<br>• POST: 指定したリソースにデータを送信します。<br>• PUT: 指定したリソースを作成/置換する。<br>• PATCH: リソースに部分的な変更を適用します。 |
| requestStream(url, method, body, headers<br>2018.3 で使用可能 | HTTPS ストリーム リクエストを作成します。レスポンスを返します。<br>• GET: データの取得。<br>• POST: 指定したリソースにデータを送信します。<br>• PUT: 指定したリソースを作成/置換する。<br>• PATCH: リソースに部分的な変更を適用します。 |
| authenticationRequest(url, method, body, headers) | OAuth 対応 CCDS 用に生成された認証ヘッダーを持つ https リクエストを作成します。レスポンスを返します。<br>基になる OAuth 設定アイテムの詳細とデータ ソースの認証情報を使用して、https リクエストの認証ヘッダーを生成します。<br>2018.3 時点で、authorizedRequest(method) は<br>• GET: データの取得。<br>• POST: 指定したリソースにデータを送信します。<br>• PUT: 指定したリソースを作成/置換する。<br>• PATCH: リソースに部分的な変更を適用します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | 説明 |
| --- | --- |
| requestAuthorizedStream(url, method, body, headers)<br><br>2018.3 で使用可能 | OAuth 対応の CCDS 用に生成された認証ヘッダーを持つ HTTPS ストリーム リクエストを作成します。レスポンスを返します。<br><br>基になる OAuth 設定アイテムの詳細とデータ ソースの認証情報を使用して、https ストリーム リクエストの認証ヘッダーを生成します。<br><br>Request AuthorizedStream(meth) のサポート<br><br>• GET: データの取得。<br>• POST: 指定したリソースにデータを送信します。<br>• PUT: 指定したリソースを作成/置換する。<br>• PATCH: リソースに部分的な変更を適用します。 |

回答

| 方法 | 説明 |
| --- | --- |
| getHttpCode() | 応答の HTTP コードを返します。HTTP 応答コードの完全なリストについては、 ここをクリックしてください。 |
| getHeaders() | 応答ヘッダーを返します。 |
| getBody() | 回答内容を返します。 |

例

ai.https.request

```
function testConnection(context) {
    //This example connects to
 Postman Echo using GET
    var URL = 'https://postman-
echo.com/get?foo1=bar1&foo2=bar2';
    var method = 'GET';
    var body = '';
    var headers = null;
    //ai.https.request
    var response =
 ai.https.request(URL, method, body,
 headers);
    var responseCode =
 response.getHttpCode();
    if (responseCode == 200) {
        ai.log.logInfo('Test
 Connection Succeeded','Response
 code was 200');
        return true;
    }
    else{
        ai.log.logInfo('Test
 Connection Failed','Response code
 was not 200');
        return false;
    }
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ai.https.requestStream

```
function testConnection(context) {
    //This example connects to
 Postman Echo using GET
    var URL = 'https://postman-
echo.com/get?foo1=bar1&foo2=bar2';
    var method = 'GET';
    var body = '';
    var headers = null;
    var response =
 ai.https.requestStream(URL, method,
 body, headers);
    return true;
 }
```

ai.https.authorizedRequest

```
function testConnection(context) {
    //This example connects to
 Postman Echo using GET
    var URL = 'https://postman-
echo.com/basic-auth';
    var method = 'GET';
    var username='postman';
    var pwd='password';
    var body = '<username>'+username
+'</username><password>'+pwd+'</
password>';
    var headers = {'Authorization':
 'Basic cG9zdG1hbjpwYXNzd29yZA==';
    var response =
 ai.https.authorizedRequest(URL,
 method, body, headers);
    var responseCode =
 response.getHttpCode();
    ai.log.logInfo(responseCode);
    if (responseCode == 200) {
        ai.log.logInfo('Test
 Connection Succeeded','Response
 code was 200');
        var responseBody =
 response.getBody();

 ai.log.logInfo(responseBody); //
{"authenticated":true}
        return true;
    }
    else{
        ai.log.logInfo('Test
 Connection Failed','Response code
 was not 200');
        return false;
    }
}
```

ai.requestAuthorizedStream

```
function testConnection(context) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    //This example connects to
 Postman Echo using GET
    var URL = 'https://postman-
echo.com/basic-auth';
    var method = 'GET';
    var username='postman';
    var pwd='password';
    var body = '<username>'+username
+'</username><password>'+pwd+'</
password>';
    var headers = {'Authorization':
 'Basic cG9zdG1hbjpwYXNzd29yZA==';
    var response =
 ai.https.requestAuthorizedStream(URL,
 method, body, headers);
}
```

*ai.calendar*

生データまたは集計データを含む期間です。参照 ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ ) 。

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getNextPeriod( 期間 [, オプション ] ) | • period: 次の期間を取得する期間の文字列値<br>• オプション: オブジェクト タイプ プロパティ "数値" と整数としての値プロパティを含むオブジェクト。例: {type: 'number', value: 3} | ai.calendar.period | の次の期間を返します Adaptive Planning 引数で渡された期間のカレンダー |
| getPreviousPeriod( period [, Options ] ) | • period: 前の期間を取得する期間の文字列値<br>• オプション: オブジェクト タイプ プロパティ "数値" と整数としての値プロパティを含むオブジェクト。例: {type: 'number', value: 3} | ai.calendar.period | 前の期間を返します Adaptive Planning 引数で渡された期間のカレンダー |
| getAvailablePeriodTypes( periodType ) | • periodType: 使用可能な 1 つの層の文字列層コード。 | Array<String> | 渡された層よりも階層内のカレンダーでサポートされた層 (期間タイプ) コードの配列を返します (ex ['QuarterYear', 'HalfYear', 'Year']) |
| getPeriodStartDateTime( period ) | • period: ai.calendar.period 開始日時を取得する期間 | String | 期間の開始日時を ISO8601 の日付文字列形式で返します (例: '2015-06-15T12:00:00+10:00') |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getPeriodEndDateTime( period ) | period: ai.calendar.period 終了日時を取得する期間 | String | 期間の終了日時を ISO8601 の日付文字列形式で返します (例: '2015-06-15T12:00:00+10:00') |
| convertTo AdaptivePeriodStart (開始, 終了) | • start: 変換する期間の ISO8601 形式の文字列開始日<br>• end: 文字列の ISO8601 形式の、変換する期間の終了日 | String | 対応するパラメータを返します Adaptive Planning ISO8601 の日付文字列形式による期間開始日 (例 '2015-06-15T12:00:00+10:00') |
| isWithinAdaptivePeriodRange( start, end, periodFrom, periodEnd ) | • start: 変換する期間の ISO8601 形式の文字列開始日<br>• end: 文字列の ISO8601 形式の、変換する期間の終了日<br>• periodFrom: ai.calendar.period 比較する期間<br>• periodEnd: ai.calendar.period 比較する期間 | ブール値 | 指定された開始日と終了日の両方が、開始期間と終了期間の両方に該当する場合に真を返します。それ以外の場合は false を返します。 (真/偽の例) |

例

getNextPeriod( period [, Options ] ) と getPeriod( period [, Options ] ) の例

```
function PreviewData(context) {
   var calendar = context.getCalendar();
   var dataSource = context.getDataSource();
   var periods = dataSource.getSetting("Periods").getValue();
   // getNextPeriod
   var nextMonth = calendar.getNextPeriod(periods.getFromPeriod());
   //getPreviousPeriod
   var prevMonth = calendar.getPreviousPeriod(periods.getFromPeriod());
}
```

convertToAdaptivePeriodStart (start, end) の例

```
function PreviewData(context) {
   var calendar = context.getCalendar();
   var newDate =
 calendar.convertToAdaptivePeriodStart(ai.date.create('2016-02-01',
 'America/Los_Angeles'), ai.date.create('2016-05-01', 'America/
Los_Angeles'));
   // write the corresponding Adaptive Planning period start date to log.
   ai.log.logInfo(newDate);
  //Assuming server is in PST timezone, the corresponding output is
 '2016-04-01T00:00:00.0000000-07:00'
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

getAvailablePeriodTypes( periodType ) の例

```
function PreviewData(context) {
  var dataSource = context.getDataSource();
  var calendar = context.getCalendar();
  var availableTypeMonth = calendar.getAvailablePeriodTypes('month');
  var availableTypeQuarter = calendar.getAvailablePeriodTypes('qtr');
  var availableTypeYear = calendar.getAvailablePeriodTypes('year');
  ai.log.logInfo("Stratum code of one of the available Strata for month:
"+availableTypeMonth);
  ai.log.logInfo("Stratum code of one of the available Strata for quarter:
"+availableTypeQuarter);
  ai.log.logInfo("Stratum code of one of the available Strata for year:
"+availableTypeYear);
 }
  //Stratum code of one of the available Strata for month: month,qtr,year
  //Stratum code of one of the available Strata for quarter: qtr,year
  //Stratum code of one of the available Strata for year: year
```

**ai.calendar.period**

生データまたは集計データを含む期間です。

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getValue() | | 文字列 | カレンダーに渡すために使用できる子列が引数として機能する、"期間" の文字列値を返します。 |

例

```
function PreviewData(context) {
   var dataSource =
 context.getDataSource();
   var calendar =
 context.getCalendar();
   var periods =
 dataSource.getSetting("Periods").getValue();
   var period =
 calendar.nextPeriod(periods.getFromPeriod());
   var nextPeriod =
 calendar.nextPeriod(period.getValue());
}
```

*ai.dataSource*

データ ソースには設定とテーブルが含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getTables() | | Array<ai.dataSource.table> | インポートしたテーブルのリストを返します。 |
| getTable( tableId ) | tableId: テーブルの文字列リモート ID | ai.dataSource.table | リクエストされたテーブル ID を持つテーブルを返します。テーブルが見つからない場合は、ヌルを返します。 |
| getSettings() | | Array<ai.dataSource.setting> | すべてのフレキシブル設定を返します。 |
| getSetting( displayName ) | displayName: 設定の文字列名 | ai.dataSource.setting | 表示名でフレキシブル設定を返します |

例

```
function previewData(context) {
 var dataSource =
 context.getDataSource();
 var allTablesInThisDataSource =
 dataSource.getTables();
 //Navigate to Designer Settings
 tab, drag and drop a Static
 Integer parameter from the Settings
 Component
 //Setting Name: Custom Integer and
 Value: 100
 var
 getSetting=dataSource.getSetting("Custom
 Integer" );
 ai.log.logInfo(getSetting.getValue()); //100
}
```

**ai.dataSource.table**

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getColumnByDisplayName( name ) | name: 列の文字列表示名 | ai.dataSource.column | 表示名で列を検索します。列が見つからない場合は、ヌルを返します。 |
| getColumnById( id ) | ID: 列の文字列リモート ID | ai.dataSource.column | リモート ID で列を検索します。列が見つからない場合は、ヌルを返します。 |
| getColumns() | | Array<ai.dataSource.column> | データのインポートに対して有効化されているすべての子列を返します。 |
| getDisplayName() | | String | テーブルの表示名を返します。 |
| getId() | | String | このテーブルのリモート ID、またはリモート ID が指定されていない場合は表示名を返します。 |
| getLastImported() | | String | テーブルが最後にインポートされた日を識別する文字列を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getRelationships() | | Array<ai.dataSource.relationship> | このテーブルが関係の主テーブルであるすべての関係を返します。 |
| getRequiredParameters() | | Array<ai.dataSource.table.requiredParameter> | テーブルの必須パラメータとそのパラメータ値をすべて返します。 |
| getRequiredParameter( id) | ID: 構造のインポート時に定義された必須パラメータの文字列リモート ID | ai.dataSource.table.requiredParameter | この必須パラメータをリモート ID 別に返します。 |

例

```
//Consider a sample data source
dataSample = {
     rows: [
        {"Value": 10, "Measure":
 "", "Test": "No Space", "Effective
 Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 20, "Measure": "
 ", "Test": "One Space", "Effective
 Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 30, "Measure": "
 ", "Test": "Two Spaces", "Effective
 Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 40, "Measure":
 "   ", "Test": "Three Spaces",
 "Effective Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 50, "Measure":
 "1 ", "Test": "Aus" + '\\-' +
 "tin" + '\\-', "Effective Date":
 "2018-11-01"},
        {"Value": 10, "Measure": "2
  ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"},
        {"Value": 20, "Measure": "3
   ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"},
        {"Value": 30, "Measure": "4
    ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"},
        {"Value": 40, "Measure": "5
     ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"}
    ]
};
ExternalMetadataDefinition = {
    Tables : [
        {
            name : "dataSample",
            displayName : "Sample",
            id:"dataSample",

 parameterId:"sampleParameter",
            columns : [
                {name : "Value",
 displayName : "Value", type:
 "float", includeByDefault :
 true, },
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                {name : "Measure",
 displayName : "Measure", type:
 "text", includeByDefault : true},
                {name : "Test",
 displayName : "Test", type: "text",
 includeByDefault : true},
                {name : "Effective
 Date", displayName : "Date", type :
 "datetime", includeByDefault :
 true}
            ]
        }
    ]
};

//Create a table structure
function importStructure(context) {
    var addColumn = function(table,
 column, order) {
        var recordColumn =
 table.addColumn(column.name);

 recordColumn.setDisplayName(column.displayName)
        switch (column.type) {
            case "text":

 recordColumn.setTextColumnType(column.length);
                break;
            case "int":

 recordColumn.setIntegerColumnType();
                break;
            case "float":

 recordColumn.setFloatColumnType();
                break;
            case "boolean":

 recordColumn.setBooleanColumnType();
                break;
            case "datetime":

 recordColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
            default:

 recordColumn.setTextColumnType(200);
                break;
        }

 recordColumn.setDisplayOrder(order);

 recordColumn.setIncludeByDefault(column.include
 || false);

 recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKe
 || false);

 recordColumn.setMandatoryForImports(column.mand
 || false);

 recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteC
 || "String");
    };
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
    var builder =
 context.getStructureBuilder();
    var
 dataSource=context.getDataSource();
    for (var i = 0; i <
 ExternalMetadataDefinition.Tables.length;
 i++) {
        var externalTable =
 ExternalMetadataDefinition.Tables[i];
        var table =
 builder.addTable(externalTable.name);

 table.setDisplayName(externalTable.displayName)
        for (var j = 0; j <
 externalTable.columns.length; j++)
 {
            addColumn(table,
 externalTable.columns[j], j + 1);
        }
    }
}

//Examples for ai.datasource.table
function importData(context){
    var dataSource =
 context.getDataSource();
    var
 alltablesinds=dataSource.getTables();
    var rowset=context.getRowset();
    //Example: getTableId;
    var tableId =
 rowset.getTableId(); ////dataSample
    var table=
 dataSource.getTable( tableId );
    //Example: getDisplayName
    var
 dname=table.getDisplayName(); //
Sample
    ai.log.logInfo("Table Display
 Name",dname);
    //Example: getLastImported
    var
 lastImported=table.getLastImported();
    ai.log.logInfo("Last
 Imported:",lastImported); //Last
 Imported 10/23/2020 01:12:59
    //Example: getId
    ai.log.logInfo("Table
 id",table.getId()) //dataSample

}
```

**ai.dataSource.table.column**

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getColumnType() | | String | 列タイプを返します。値は、'DateTimeColumn'、'IntegerColum のいずれかです。 |
| getDisplayName() | | String | 列の表示名を返します。 |
| getDisplayOrder() | | String | 列の表示順序を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getId() | | String | 列のリモート ID を返すか、表示名がリモート ID に指定されていません。 |
| getIncludeByDefault() | | ブール値 | その列がデータのインポートに含まれている場合に真を返します。 |
| getIncludeInKey() | | ブール値 | 列がテーブル キーの一部である場合に真を返します。キー列はヌル値にできません。 |
| getLength() | | 整数 | 注: TextColumns に限定されます。TextColumn に保持される値の最大長を返します。 |
| getMandatoryForImports() | | True | 列がデータのインポートに含まれる必要がある場合に真を返します。 |
| getNonFilterable() | | True | 列が SQL フィルタ (WHERE ステートメント) の一部として使用できない場合に真を返します。 |
| getRemoteColumnType() | | String | 構造のインポート スクリプトで定義された列のリモート列タイプを返します。 |

例

```
//Consider a sample JSON data set
dataSample = {
     rows: [
        {"Value": 10, "Measure":
 "", "Test": "No Space", "Effective
 Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 20, "Measure": "
 ", "Test": "One Space", "Effective
 Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 30, "Measure": "
 ", "Test": "Two Spaces", "Effective
 Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 40, "Measure":
 "   ", "Test": "Three Spaces",
 "Effective Date": "2018-11-01"},
        {"Value": 50, "Measure":
 "1 ", "Test": "Aus" + '\\-' +
 "tin" + '\\-', "Effective Date":
 "2018-11-01"},
        {"Value": 10, "Measure": "2
  ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"},
        {"Value": 20, "Measure": "3
   ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"},
        {"Value": 30, "Measure": "4
    ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"},
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
        {"Value": 40, "Measure": "5
     ", "Test": "Austin", "Effective
 Date": "2018-12-01"}
    ]
};
ExternalMetadataDefinition = {
    Tables : [
        {
            name : "dataSample",
            displayName : "Sample",
            id:"dataSample",

 parameterId:"2018-01-01",
            columns : [
                {name : "Value",
 displayName : "Value", type:
 "float", includeByDefault :
 true, },
                {name : "Measure",
 displayName : "Measure", type:
 "text", includeByDefault : true},
                {name : "Test",
 displayName : "Test", type: "text",
 includeByDefault : true},
                {name : "Effective
 Date", displayName : "Date", type :
 "datetime", includeByDefault :
 true}
            ]
        }
    ]
};

function testConnection(context) {
    return true;
}

//Create a table structure
function importStructure(context) {
    var addColumn = function(table,
 column, order) {
        var recordColumn =
 table.addColumn(column.name);

 recordColumn.setDisplayName(column.displayName)
        switch (column.type) {
            case "text":

 recordColumn.setTextColumnType(column.length);
                break;
            case "int":

 recordColumn.setIntegerColumnType();
                break;
            case "float":

 recordColumn.setFloatColumnType();
                break;
            case "boolean":

 recordColumn.setBooleanColumnType();
                break;
            case "datetime":
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 recordColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
            default:

 recordColumn.setTextColumnType(200);
                break;
        }

 recordColumn.setDisplayOrder(order);

 recordColumn.setIncludeByDefault(column.include
 || false);

 recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKe
 || false);

 recordColumn.setMandatoryForImports(column.mand
 || false);

 recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteC
 || "String");
    };
    var builder =
 context.getStructureBuilder();
    var
 dataSource=context.getDataSource();
    for (var i = 0; i <
 ExternalMetadataDefinition.Tables.length;
 i++) {
        var externalTable =
 ExternalMetadataDefinition.Tables[i];
        var table =
 builder.addTable(externalTable.name);

 table.setDisplayName(externalTable.displayName)
        for (var j = 0; j <
 externalTable.columns.length; j++)
 {
            addColumn(table,
 externalTable.columns[j], j + 1);
        }
    }
}

//Examples for
 ai.datasource.table.column
function importData(context) {
    var columnArray =
 rowset.getColumns();
    var colIds=[];
    var colDisplayNames=[];
    var colTypes=[];
    var colDisplayOrder=[];
    var colIncludeByDefault=[];
    var colLength=[];
    for (var k = 0; k <
 columnArray.length; k++) {
        //Example:getColumnType

 colTypes.push(columnArray[k].getDisplayName().t
        //Example:getDisplayName

 colDisplayNames.push(columnArray[k].getDisplayN
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
        //Example:getDisplayOrder

 colDisplayOrder.push(columnArray[k].getDisplayN
        //Example:getId

 colIds.push(columnArray[k].getId().toString());
        //
Example:getIncludeByDefault

 colIncludeByDefault.push(columnArray[k].getDisp
        //Example:getLength

 if(columnArray[k].getColumnType()==="TextColumn
        {

 colLength.push(columnArray[k].getDisplayName()
        }
    }

    ai.log.logInfo("Column Ids are
 "+colIds);
    //Column Ids are Effective
 Date,Value,Measure,Test
    ai.log.logInfo("Column Display
 names are "+colDisplayNames);
    //Column Display names are
 Date,Value,Measure,Test
    ai.log.logInfo("Column Types are
 "+colTypes);
    //Column Types are Date:
 DateTimeColumn, Value:FloatColumn,
 Measure:TextColumn,Test:TextColumn
    ai.log.logInfo("Column Display
 Order: "+colDisplayOrder);
    //Column Display Order:
 Date:4,Value:1,Measure:2,Test:3
    ai.log.logInfo("Column Included
 by Default:"+colIncludeByDefault);
    //Column Included by
 Default:Date:true,Value:true,Measure:true,Test
    ai.log.logInfo("Length -
 "+colLength);
    //Length - Measure:200,Test:200
}
```

### ai.dataSource.table.relationship

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getJoinExpression() | | String | 関係の式保存 SQL を返します'P.Column123 = R.Column321'. |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getJoinType() | | Int | 関係の結合タイプを返します。値は、0 (内部)、1 (左外部)、2 (右外部) のいずれかです。 |
| getDisplayName() | | String | 関係の表示名を返します。 |
| getRelatedTableId() | | String | 関係の関連テーブルのリモート ID を返します。あるいは、その表示名がリモート ID に指定されていません。 |
| getRelatedTableName() | | String | 関係の関連テーブルの表示名を返します。 |

**ai.dataSource.setting**

フレキシブル設定は、カスタム クラウド データ ソースの子アイテムです。設定は、値が設定されるという点で静的にすることも、スクリプトの実行時にユーザーが設定の値を入力するよう要求されるようにパラメータ化することもできます。設定の使用例としては、スクリプトがアクセスできる URL、ユーザー名、パスワード、日付範囲、または属性などがあります。

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getDisplayName() | | String | 設定の表示名を返します。 |
| getValue() | | 混在 | 設定のパラメータの値を返します。値は基本タイプまたは複雑なオブジェクトの場合があります。下記の「値タイプ」を参照してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| isBoolean() | | ブール値 | 設定タイプがブール値の場合に真を返します。 |
| isDimension() | | ブール値 | 設定タイプが属性である場合に真を返します。 |
| isInteger() | | ブール値 | 設定タイプが整数である場合に真を返します。 |
| isPassword() | | ブール値 | 設定タイプが "パスワード" の場合に真を返します。 |
| isPeriodRange() | | ブール値 | 設定タイプが PeriodRange の場合に真を返します。 |
| isText() | | ブール値 | 設定タイプがテキストの場合に真を返します。 |

例

```
//Navigate to Designer Settings
 tab and drag an Integer Static
 parameter from the Settings
 Component pane
//Name the setting Custom Integer
 and set the value to 100
 var dataSource=
 context.getDataSource();
 var
 setting=dataSource.getSetting("Custom
 Integer" );

 //Example: getDisplayName
 var name =
 setting.getDisplayName(); //Custom
 Integer

 //Example: getValue
 var value =
 setting.getValue(); //100

// DataType checkup for the setting.
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
if(setting.isInteger()){
    ai.log.logInfo("Setting is of
 the type Integer"); //Setting is of
 the type Integer
}
//Check for other data types
 using setting.isPeriodRange(),
 setting.isInteger(),
 setting.isBoolean(),
 setting.isText(),
 setting.isPassword(),
 setting.isDimension();
```

値タイプ

各設定の getValue() 関数は、プリミティブなタイプまたは複雑なオブジェクトを返すことができます。

ブール値設定: getValue() は値をブール値として返します。

テキスト設定: getValue() は値を文字列として返します。

整数設定: getValue() は整数として値を返します。

パスワード設定: getValue() は値を文字列として返します。

期間範囲の設定: getValue() は、複雑なオブジェクトとして値を返します。このオブジェクトは次のように定義されています。

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getFromPeriod() | | String | 解決済みの内部表現を定義する文字列を返します Adaptive Planning ai.calendar メソッド呼び出しに渡すことができる "From Period"。E.g."3152\|52016111000000" |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getToPeriod() | | String | 解決済みの内部表現を定義する文字列を返します Adaptive Planning ai.calendar メソッド呼び出しに渡すために使用できる "終了期間"E.g."3152\|5201611100000" |
| getFromPeriodStartDateTimeString() | | String | ローカル時間で表された、"開始" 期間の開始日時の日時文字列を返します。E.g."2016-01-01T00:0 |
| getFromPeriodEndDateTimeString() | | String | 開始期間の終了日時の日時文字列をローカル時間で表して返します。E.g."2016-02-01T00:0 |
| getToPeriodStartDateTimeString() | | String | 終了日の開始日時の日時文字列をローカル時間で返します。E.g."2016-06-01T00:0 |
| getToPeriodEndDateTimeString() | | String | 終了日の終了日時の日時文字列をローカル時間で表して返します。E.g."2016-07-01T00:0 |

例

```
function importData(context)
{
    var dataSource =
 context.getDataSource();
    //getFromPeriod
    var
 getFromPeriod=dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriod();
    //getToPeriod
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    var
 getToPeriod=dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getToPeriod();
    //getFromPeriodStartDateTime
    var getFromPeriodStartDateTime
 = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriodStartDateTime()
 10);

 ai.log.LogInfo("getFromPeriodStartDateTime"+get
    //getFromPeriodEndDateTime
    var getFromPeriodEndDateTime
 = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriodEndDateTime().s
 10);

 ai.log.LogInfo("getFromPeriodEndDateTime"+getFr
    //getToPeriodStartDateTime
    var getToPeriodStartDateTime
 = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getToPeriodEndDateTime().sub
 10);

 ai.log.LogInfo("getToPeriodStartDateTime"+getTo
    //getToPeriodEndDateTime
    var getToPeriodEndDateTime
 = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getToPeriodEndDateTime().sub
 10);

 ai.log.LogInfo("getToPeriodEndDateTime"+getToPe
}
```

属性設定

getValue() は、複雑なオブジェクトとして値を返します。このオブジェクトは次のように定義されています。

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getDimensionName() | | String | 値で定義された属性の名前を返します。 |
| getValueName() | | 混在 | 値で定義された属性メンバーの名前を返します。 |

例

```
//Navigate to Designer Settings
 tab and drag a Static Dimension
 parameter from the Settings
 Component pane
//Name the setting "Custom
 Dimension" and set a value from the
 Static Dimension Setting dropdown
 var
 setting=dataSource.getSetting("Custom
 Dimension" );
 var value = setting.getValue();

 //Example: getDisplayName
 var name =
 value.getDimensionName();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 var
 settingValue=value.getValueName();

 ai.log.logInfo("Dimension Settings
 Name: "+name+" and Dimension
 Settings Value: "+settingValue);
//Dimension Settings Name: Level and
 Dimension Settings Value: Company
 B (40% owned)Example for Dimension
 Settings
//Navigate to Designer Settings
 tab and drag a Static Dimension
 parameter from the Settings
 Component pane
//Name the setting "Custom
 Dimension" and set a value from the
 Static Dimension Setting dropdown
var
 setting=dataSource.getSetting("Custom
 Dimension" );
var value = setting.getValue();

//Example: getDisplayName
var name = value.getDimensionName();
var
 settingValue=value.getValueName();

ai.log.logInfo("Dimension Settings
 Name: "+name+" and Dimension
 Settings Value: "+settingValue);
//Dimension Settings Name: Level and
 Dimension Settings Value: Company B
 (40% owned)
```

**ai.dataSource.table.requiredParameter**

スクリプトの実行中に、有効な "必須パラメータ" が指定された場合、ユーザーは値を入力するよう要求されます。その後、これらの値にはスクリプトでアクセスできます。必須パラメータは importStructure 中に作成できます。

注： ImportData の実行中は、setForDataImport(true) として設定可能な必須パラメータのみにスクリプトでアクセスできます。

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getId() | | String | 必須パラメータのリモート ID を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getValue() | | 混在 | 必須パラメータのパラメータの値を返します。値は基本タイプまたは複雑なオブジェクトの場合があります。下記の「値タイプ」を参照してください。 |
| isBoolean() | | ブール値 | 必須パラメータのタイプがブール値である場合に真を返します。 |
| isDimension() | | ブール値 | 必須パラメータのタイプが属性である場合に真を返します。 |
| isInteger() | | ブール値 | 必須パラメータのタイプが整数である場合に真を返します。 |
| isPassword() | | ブール値 | 必須パラメータのタイプが "パスワード" である場合に真を返します。 |
| isPeriodRange() | | ブール値 | 必須パラメータのタイプが PeriodRange である場合に真を返します。 |
| isText() | | ブール値 | 必須パラメータのタイプがテキストである場合に真を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

値タイプ

それぞれの必須パラメータの getValue() 関数は、プリミティブなタイプまたは複雑なオブジェクトを返すことができます。

ブール値の必須パラメータ

getValue() は値をブール値として返します。

テキスト必須パラメータ

getValue() は値を文字列として返します。

整数の必須パラメータ

getValue() は整数として値を返します。

パスワードの必須パラメータ

getValue() は値を文字列として返します。

期間範囲の必須パラメータ

getValue() は、複雑なオブジェクトとして値を返します。このオブジェクトは次のように定義されています。

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getFromPeriod() | | String | 解決されたフィールドを定義する文字列を返します Adaptive Planning 開始期間E.g."Month y2016 M1" |
| getToPeriod() | | String | 解決されたフィールドを定義する文字列を返します Adaptive Planning 終了期間E.g."Month y2016 M1" |
| getFromPeriodStartDateTime() | | String | ローカル時間で表された、"開始" 期間の開始日時の日時文字列を返します。E.g."2016-01-01T00:0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getFromPeriodEndDateTime() | | String | 開始期間の終了日時の日時文字列をローカル時間で表して返します。E.g."2016-02-01T00:0 |
| getToPeriodStartDateTime() | | String | 終了日の開始日時の日時文字列をローカル時間で返します。E.g."2016-06-01T00:0 |
| getToPeriodEndDateTime() | | String | 終了日の終了日時の日時文字列をローカル時間で表して返します。E.g."2016-07-01T00:0 |

属性設定

getValue() は、複雑なオブジェクトとして値を返します。このオブジェクトは次のように定義されています。

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getDimensionName() | | String | 値で定義された属性の名前を返します。 |
| getValueName() | | 混在 | 値で定義された属性メンバーの名前を返します。 |

*ai.log*

関数

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| logError(サマリ, 詳細) | Summary: 混合ログ サマリ テキスト<br><br>詳細: 混合オプション - ログの詳細 | ブール値 | "ERROR" ログ レベルのイベント ログを追加します。 "サマリ" は 128 文字で切り捨てられます。"詳細" は 1,000 文字で切り捨てられます。文字列以外の値はすべて文字列に変換されます。ログの閾値に違反していない場合、ログ入力が追加されます。ログ記録が成功した場合に真を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| logInfo(サマリ, 詳細) | Summary: 混合ログ サマリ テキスト<br><br>詳細: 混合オプション - ログの詳細 | ブール値 | INFO ログ レベルのイベント ログを追加します。"サマリ" は 128 文字で切り捨てられます。 "詳細" は 1,000 文字で切り捨てられます。文字列以外の値はすべて文字列に変換されます。ログの閾値に違反していない場合、ログ入力が追加されます。ログ記録が成功した場合に真を返します。 |
| logVerbose(サマリ, 詳細) | Summary: 混合ログ サマリ テキスト<br><br>詳細: 混合オプション - ログの詳細 | ブール値 | INFO ログ レベルのイベント ログを追加します。"サマリ" は 128 文字で切り捨てられます。 "詳細" は 1,000 文字で切り捨てられます。文字列以外の値はすべて文字列に変換されます。ログの閾値に違反していない場合、ログ入力が追加されます。ログ記録が成功した場合に真を返します。 |

例

```
function testConnection(context) {
    // Step 1: Create a https request to send to Earthquake USGS API
    var url = 'https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/feed/v1.0/summary/
all_hour.atom';
    var method = 'GET';
    var body = ``;
    var headers = {};
    // Step 2: Send request and receive response
    try{

        var response = ai.https.request(url, method, body, headers);
        //Example logInfo
        ai.log.logInfo("Test Connection Successful");
        //Test Connection Successful
        //Example logVerbose
         ai.log.logVerbose("Test Connection Successful",
 response.getBody());
        //Test Connection Successful
        //2020-10-23T00:25:21ZU.S. Geological Surveyhttps://
earthquake.usgs.gov/https://........
    }
    catch(e)
    {
        //Example for logError
        ai.log.logError("Test Connection Failed");
    }
    // Step 3: Interrogate response to see if it was successful. Return true
 or false depending on the result.
    if (response.getHttpCode() == '200') {
        var body = response.getBody();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        return true;
    } else {
        return false;
    }
}
```

ログ スロットル (バースト + 持続) により、特定のスクリプトは次のことを実行できなくなります。

- 1 秒間に X を超えるログを書き込みます (バースト: デフォルトは 5 です。AppSetting またはテナントごとに設定可能)
- 1 時間あたり X を超えるログを作成する (維持: デフォルトは 1,000。AppSetting またはテナントごとに設定可能)

*ai.util*

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| apply( obj, config )<br><br>2018.3 で使用可能 | • obj : オブジェクト プロパティの受信者<br>• config: Object プロパティのソース | オブジェクト | config のすべてのプロパティを obj にコピーし、obj を返します。 |
| decodeHtml( encodedHtml )<br><br>2018.3 で使用可能 | • encodedHtml: String<br><br>HTML リテラルで使用するために予約文字を翻訳した文字列。{b}様[ there] > Words< | String | 文字列を生の HTML で返します。<br><br>"こんばんは。<b> [ there] >ことば< ! |
| decodeUrl( encodedUrl )<br><br>2018.3 で使用可能 | • encodedUrl: String<br><br>HTML でエンコードされた URL を含む文字列。E.g. https%3a%2f%2fwww.example.com%2ffings%2f%3fid%3d123%26more%3dwords%23hash | String | 生の URL を含む文字列を返します。<br><br>https://www.example.com/fings/?id=123&more=words#hash |
| decodeBase64( encodedBase64 )<br><br>2018.3 で使用可能 | • encodedBase64: String<br><br>Base64 としてエンコードされた文字列。E.g. dGV4dA== | String | デコードされた Base64 文字列を返します。<br><br>テキスト |
| encodeHtml( rawHtml )<br><br>2018.3 で使用可能 | • rawHtml: String<br><br>HTML のままの文字列。E.g."こんばんは。<b> [ there] >ことば< ! | String | HTML リテラルで使用するために予約文字を翻訳した文字列を返します。<br><br>{b}様[ there] > Words< |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| encodeUrl( rawUrl )<br>2018.3 で使用可能 | • rawUrl: 文字列<br>生の URL を含む文字列。E.g. https://www.example.com/fings/?id=123&more=words#hash | String | 生の URL をエンコードされた HTML で返します。<br>https%3a%2f%2fwww.example.com%2ffings%2f%3fid%3d123%26more%3dwords%23hash |
| encodeBase64( rawBase64 )<br>2018.3 で使用可能 | • rawBase64: String<br>テキストを含む文字列。E.g.テキスト | String | テキストを Base64 でエンコードします。<br>dGV4dA== |
| format (formatString, arg1, arg2.....argN) | • formatString: 文字列 置換トークンを含む文字列。例: "{0} 件あります"<br>• arg1 : 文字列トークン {0} を置き換える値<br>• arg2 : String Etc... | String | トークン化された文字列を定義し、トークンを置き換える任意の数の引数を渡すために使用されます。各トークンは一意である必要があり、{0}、{1} などの形式で増分する必要があります。 |
| isDate( value ) | • 値: 混合 テストする値 | ブール値 | 渡された値が JavaScript の日付オブジェクトである場合に真を返します。 |
| isUncategorized( value ) | • 値: 混合 テストする値 | ブール値 | 渡された値が '未定義' である場合に真を返します。 |
| isDefined( value ) | • 値: 混合 テストする値 | ブール値 | 渡された値が '未定義' でない場合は真を返します。 |
| isarray( value ) | • 値: 混合<br>• テストする値 | ブール値 | 渡された値が JavaScript の配列である場合は真を、それ以外の場合は偽を返します。 |
| isString( value ) | • 値: 混合 テストする値 | ブール値 | 渡された値が文字列である場合に真を返します。 |
| isNumber(値) | • 値: 混合 テストする値 | ブール値 | 渡された値が数値であり、有限である場合に真を返します。 |
| isBoolean( value ) | • 値: 混合 テストする値 | ブール値 | 渡された値が真または偽の場合、真を返します。 |
| toArray( a, i, j ) | | 配列数式 | |
| isPrimitive( value ) | • 値: 混合 テストする値 | ブール値 | 渡された値が文字列、数値、ブール値の場合に真を返します。 |

例

```
//Example for ai.util.apply
    var sourceObj = {department:"Engineering"};
    var destObj={};
    ai.util.apply(destObj,sourceObj);
    ai.log.logInfo("Source Properties applied to Destination object:
 "+JSON.stringify(destObj));
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    // Source Properties applied to destination object:
 {department:Engineering}

//Example for ai.util.decodeHtml
     var encodedHtml = "Hello &lt;b&gt; [there] &gt;words&lt;!";
     var decodedvalue=ai.util.decodeHtml(encodedHtml);
     ai.log.logInfo("Decoded HTML is " +decodedvalue);
    // Decoded HTML is Hello [there] >words

//Example for ai.util.encodeHtml
     var rawHtml = "Hello <b> [there] >words<!";
  var encodedvalue=ai.util.encodeHtml(rawHtml);
  ai.log.logInfo("Encoded HTML is " +encodedvalue);
 // Encoded HTML is Hello <b> [there] >words<!

//Example for ai.util.decodeBase64
      var encodedBase64 =
 "VGhpcyBpcyBhIHNhbXBsZSB0ZXh0IGZvciBlbmNvZGluZw==";
      var decodedbasevalue= ai.util.decodeBase64(encodedBase64);
      ai.log.logInfo("Decoded base64 is: "+decodedbasevalue);
      //Decoded base64 is:"This is a sample text for encoding"

//Example for ai.util.encodeBase64
      var rawBase64 = "This is a sample text for encoding";
      var encodedbasevalue= ai.util.encodeBase64(rawBase64, "");
      ai.log.logInfo("Encoded base64 is: "+encodedbasevalue);
      //Encoded base64 is:VGhpcyBpcyBhIHNhbXBsZSB0ZXh0IGZvciBlbmNvZGluZw==


//Example for ai.util.encodeUrl
      var rawUrl = "https://docs.postman-echo.com/";
      var encodedUrl=ai.util.encodeUrl(rawUrl);
      ai.log.logInfo("Encoded URL is: "+encodedUrl);
      //Encoded URL is: https%3a%2f%2fdocs.postman-echo.com%2f

//Example for ai.util.decodeUrl
       var encodedUrl = "https%3a%2f%2fdocs.postman-echo.com%2f";
       var decodedUrl=ai.util.decodeUrl(encodedUrl);
       ai.log.logInfo("Decoded URL is: "+decodedUrl);
      //Decoded URL is: https://docs.postman-echo.com/

//Example for ai.util.format
     var formatted=ai.util.format('How ar{0} you{1}',"e","?");
        ai.log.logInfo("Formatted String is: "+formatted);
        //How are you?

//Example for ai.util.isDate()
        var d = new Date();
        var verifyIfDate=ai.util.isDate(d);
        ai.log.logInfo("Provided value is: "+verifyIfDate);
        //Provided value is: true

//Example for ai.util.isUndefined
        var sampleValue;
        var verifyIfUndefined=ai.util.isUndefined(sampleValue);
        if (verifyIfUndefined)
        {
             ai.log.logInfo("Value is undefined");

        }
        else
        {
              ai.log.logInfo("Value is defined");
        }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
        //Value is undefined

//Example for ai.util.isDefined
        var sampleValue=6;
        var verifyIfDefined=ai.util.isDefined(sampleValue);
        ai.log.logInfo("verifyIfDefined: "+verifyIfDefined)
        if (verifyIfDefined)
        {
             ai.log.logInfo("Value is defined");

        }
        else
        {
              ai.log.logInfo("Value is undefined");
        }
        //Value is defined

//Example for ai.util.isArray
      var sampleValue=["a","b"];
        var verifyIfArray=ai.util.isArray(sampleValue);
        if (verifyIfArray)
        {
             ai.log.logInfo("Is is an Array");

        }
        else
        {
              ai.log.logInfo("Not an Array");
        }
        //It is an array

//Example for ai.util.isString
        var sampleValue="123";
        var verifyIfString=ai.util.isString(sampleValue);
        if (verifyIfString)
        {
             ai.log.logInfo("Is is a string");

        }
        else
        {
              ai.log.logInfo("Not a string");
        }

//Example for ai.util.isNumber
        var sampleValue = {firstName:"Jon", lastName:"Doe"};
        var verifyIfNumber=ai.util.isNumber(sampleValue);
        if (verifyIfNumber)
        {
             ai.log.logInfo("Is is a number");

        }
        else
        {
              ai.log.logInfo("Not a number. Provided value is of type:
 "+typeof(sampleValue));
        }
        //Not a number. Provided value is of type: object


//Example for ai.util.isBoolean
        var sampleValue = true;
        var verifyIfBoolean=ai.util.isBoolean(sampleValue);
        if (verifyIfBoolean)
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
         {
            ai.log.logInfo("Value is Boolean");
         }
         else
         {
            ai.log.logInfo("Not a Boolean. Provided value is of type:
 "+typeof(sampleValue));
         }
         //Value is Boolean
//Example for ai.util.isPrimitive
        var sampleValue = {firstName:"Jon", lastName:"Doe"};
        var verifyIfPrimitive=ai.util.isPrimitive(sampleValue);
        if (verifyIfPrimitive)
        {
             ai.log.logInfo("Provided value is a Primitive Data Type");

        }
        else
        {
              ai.log.logInfo("Provided value is not primitive:
 "+typeof(sampleValue));
        }
        return true;
```

*ai.xml*

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| createFromUrl(url, メソッド, 本文, ヘッダー, コールバック)<br><br>2018.3 時点で使用可能 | URL: 文字列有効な URL<br><br>method: 文字列の有効な HTTP メソッド<br><br>body: 文字列リクエスト本文<br><br>headers: 文字列 HTTP ヘッダー<br><br>コールバック: オブジェクト A 関数 | ai.xml.sax | XML ストリームを解析できる XML SAX パーサー オブジェクトを作成します。 |
| createFromUrlWith Authorisation(url, メソッド, 本文, ヘッダー, コールバック)<br><br>2018.3 時点で使用可能 | URL: 文字列有効な URL<br><br>method: 文字列の有効な HTTP メソッド<br><br>body: 文字列リクエスト本文<br><br>headers: 文字列 HTTP ヘッダー<br><br>コールバック: オブジェクト A 関数 | ai.xml.sax | OAuth を使った認証によって XML ストリームを解析できる XML SAX パーサー オブジェクトを作成します。 |
| createParser() | | ai.xml.parser | XML 文字列を解析できる XML パーサー オブジェクトを作成します。 |
| createDocument() | | ai.xml.document | XML ドキュメントを作成します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| createDocType( xmlStr ) | • xmlStr: 文字列は有効な DOCType XML 文字列 | ai.xml.docType | XML ドキュメントに追加される doctype オブジェクトを作成して、その doctype を定義します。 |
| createElement( name ) | • name: XML 要素の文字列名前 | ai.xml.element | XML ドキュメントの基本的な構成ブロックであり、XML ドキュメントに追加できる XML 要素を作成します。 |
| createAttribute( name, value ) | • name: 特性の文字列名前<br>• value: 特性の文字列値 | ai.xml.attribute | XML 要素に追加できる特性オブジェクトを作成します。 |

例

```
// Construct the sample XML request
 below
/*
   <request>
       <control>

 <senderid>adaptiveplanning</
senderid>
           <password>Bts9DrRkeZ</
password>

 <controlid>SomeRandomThingToMatchToResponse</
controlid>
           <dtdversion>3.0</
dtdversion>
   </control>
</request>
*/

// create XML document
var doc = ai.xml.createDocument();

// create root element
var requestEl =
 ai.xml.createElement('request');

// create control element
var controlEl =
 ai.xml.createElement('control');

//create senderid element
var senderIdEl =
 ai.xml.createElement('senderid');
senderIdEl.setText('adaptiveplanning');
//add <senderid> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(senderIdEl);

//create password element
var controlPasswordEl =
 ai.xml.createElement('password');
controlPasswordEl.setText('Bts9DrRkeZ');
//add <password> to <control>
 element
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
controlEl.addChildElement(controlPasswordEl);

//create controlid element
var controlIdEl =
 ai.xml.createElement('controlid');
controlIdEl.setText('SomeRandomThingToMatchToRes
//add <controlid> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(controlIdEl);

//create dtdversion element
var dtdEl =
 ai.xml.createElement('dtdversion');
dtdEl.setText('3.0');
//add <dtdversion> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(dtdEl);

//add <control> element to the main
 <request> element
requestEl.addChildElement(controlEl);

//set <request>  as the doc's root
 element
doc.setRootElement(requestEl);
```

**ai.xml.sax**

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| createFromText() | XML: 文字列<br>エンコード: UTF8<br>コールバック: 関数を持つオブジェクト | ai.xml.sax | XML テキストを解析できる XML SAX パーサーオブジェクトを作成します。<br>注： 250 万文字に制限されます。 |
| createFromUrl() | URL: 文字列有効な URL<br>method: 文字列の有効な HTTP メソッド<br>body: 文字列リクエスト本文<br>headers: 文字列 HTTP ヘッダー<br>callbacks: 関数を持つオブジェクト | ai.xml.sax | XML ストリームを解析できる XML SAX パーサーオブジェクトを作成します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| createFromUrlWithAuthorisation() | url: 文字列有効な URL<br><br>method: 文字列の有効な HTTP メソッド<br><br>body: 文字列リクエスト本文<br><br>headers: 文字列 HTTP ヘッダー<br><br>callbacks: 関数を持つオブジェクト | ai.xml.sax | OAuth を使った認証によって XML ストリームを解析できる XML SAX パーサー オブジェクトを作成します。 |

注： 設定 `ai.xml.sax` 以下の使用例 `callbacks`。コールバックは、別の関数の実行が完了した後に実行される関数です。ai.xml.sax パーサーでコールバックを使用するメリットの 1 つは、エラーをキャッチし、それを CCDS の実行のログに記録することで、トラブルシューティングを容易にできることです。

ai.xml.sax.createFromText example

```
var data = {
   books: [],
   currentTag: ''
};

function createSaxParser(callbacks)
 {
    var xml = '<BookStore><book
 category="Cooking"><title
 lang="en">Everyday Italian</
title><author>Giada De Laurentiis</
author><year>2005</year><price>
$30.00</price></book><book
 category="Children"><title
 lang="en">Harry Potter</
title><author>Norwegian: .
 French: </author><year>2015</
year> <price>$50.00</price></
book><book category="Sports"><title
 lang="en">Sports for Health</
title><author>&#352;umbera</
author><year>2016</year><price>
$330.00</price></book> </
BookStore>';

   try {
       return
 ai.xml.sax.createFromText(xml,
 "UTF8", callbacks);
   }
   catch(exception) {
       ai.log.logError('Unable to
 setup sax parser', '' + exception);
       throw exception;
   }
}


function testConnection(context) {
   var parser = null;
   var callbacks = {};
   var matched = false;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   callbacks.onOpenTag = function
 (tag) {
       if(tag.name === 'book') {
           matched = true;
           parser.stop();
       }
   };

   parser =
 createSaxParser(callbacks);
   parser.readToEnd();

   return matched;
}

function importStructure(context) {
   var builder =
 context.getStructureBuilder();

   var table =
 builder.addTable('MyNewTableFromText');

 table.setDisplayName('MyNewTableFromText');

   addColumn(table, 'book', 1,
 'string', 100);
   addColumn(table, 'title', 2,
 'string', 500);
   addColumn(table, 'author', 3,
 'string', 100);
   addColumn(table, 'year', 4,
 'string', 200);
   addColumn(table, 'price', 5,
 'string', 1000)
}

function importData(context) {
   var rowset = context.getRowset();

 rowset.setSmartParsingEnabled(true);

   var parser = null;
   var callbacks = {};

   callbacks.onOpenTag = function
 (tag) {
       data.currentTag = tag.name;

       if(tag.name === 'book') {
           var book = {
               category:
 tag.attributes['category']
           };
           data.books.push(book);
       }
   };

   callbacks.onText = function
 (text) {
       var current =
 data.books.length > 0 ?
 data.books[data.books.length-1] :
 null;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
      if(data.currentTag ===
 'title') {
          current.title = text;
      }

      if(data.currentTag ===
 'author') {
          current.author = text;
      }

      if(data.currentTag ===
 'year') {
          current.year = text;
      }

      if(data.currentTag ===
 'price') {
          current.price = text;
      }
    };

    callbacks.onCloseTag = function
 (tagname) {
      if(tagname === 'book') {
          var saving =
 data.books.pop();
          save(rowset, saving);
      }
    };

    parser =
 createSaxParser(callbacks);
    parser.readToEnd();
}

function addColumn(table,
 columnName, order, type, length) {
    var newCol =
 table.addColumn(columnName);

 newCol.setDisplayName(columnName);
    newCol.setDisplayOrder(order);
    newCol.setIncludeByDefault(true);
    switch (type) {
        case 'string':

 newCol.setTextColumnType(length);

 newCol.setRemoteColumnType('string');
          break;
      case 'datetime':

 newCol.setDateTimeColumnType();

 newCol.setRemoteColumnType('datetime');
          break;
      case 'float':

 newCol.setFloatColumnType();

 newCol.setRemoteColumnType('float');
          break;
      default:
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
 newCol.setTextColumnType(100);

 newCol.setRemoteColumnType('string');
   }
}


var save = function (rowset, book) {
   var cells = [];
   cells.push(book.category);
   cells.push(book.title);
   cells.push(book.author);
   cells.push(book.year);
   cells.push(book.price);
   rowset.addRow(cells);
};
```

ai.xml.sax.createFromUrl example

```
var data = {
   entires: [],
   currentTag: ''
};

function createSaxParser(callbacks)
 {
   var url = 'https://
earthquake.usgs.gov/earthquakes/
feed/v1.0/summary/all_hour.atom';
   var method = 'GET';
   var body = ``;
   var headers = {};

   try {
       return
 ai.xml.sax.createFromUrl(url,
 method, body, headers, callbacks);
   }
   catch (exception) {
       ai.log.logError('Unable to
 setup sax parser', '' + exception);
       throw exception;
   }
}

function testConnection(context) {
   var parser = null;
   var callbacks = {};
   var matched = false;

   callbacks.onOpenTag = function
 (tag) {
       if (tag.name === 'entry') {
           matched = true;
           parser.stop();
       }
   };

   parser =
 createSaxParser(callbacks);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   parser.readToEnd();

   return matched;
}


function importStructure(context) {
   var builder =
 context.getStructureBuilder();
   var table =
 builder.addTable('StandardLoaderData');

 table.setDisplayName('StandardLoaderData');

   addColumn(table, 'id', 0,
 'string', 100);
   addColumn(table, 'title', 1,
 'string', 500);
   addColumn(table, 'updated', 2,
 'string', 100);
   addColumn(table, 'link', 3,
 'string', 200);
   addColumn(table, 'summary', 4,
 'string', 1000);
   addColumn(table, 'georss:point',
 5, 'string', 200);
   addColumn(table, 'georss:elev',
 6, 'string', 200);
}


function importData(context) {
   var rowset = context.getRowset();

 rowset.setSmartParsingEnabled(true);

   var parser = null;
   var callbacks = {};

   callbacks.onOpenTag = function
 (tag) {
       data.currentTag = tag.name;

       if (tag.name == 'entry') {
           var entry = {};
           data.entires.push(entry);
           return;
       }

       if (tag.name == 'link') {
           if (tag.attributes) {
               var current
 = data.entires.length > 0 ?
 data.entires[data.entires.length-1] :
 null;
               if(current !== null)
 {
                   current.link =
 tag.attributes["href"];
               }
           }
       }
   };
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
  callbacks.onText = function
(text) {
      var current =
data.entires.length > 0 ?
data.entires[data.entires.length-1] :
null;
      if(current === null)     {
          return;
      }
      switch (data.currentTag) {
          case "id":
          case "title":
          case "updated":
          case "summary":
          case "georss:point":
          case "georss:elev":

current[data.currentTag] = text;
                break;
      }
  };

  callbacks.onCloseTag = function
(tagname) {
      if (tagname == 'entry') {
          var saving =
data.entires.pop();
          save(rowset, saving);
      }
  };

  callbacks.onCData = function
(data) {
      if (data.length === 0)
return;

      if (data.currentTag ==
'summary') {
          var current =
data.entires.length > 0 ?
data.entires[data.entires.length-1] :
null;
          current.summary = data;
      }
  };

  parser =
createSaxParser(callbacks);
  parser.readToEnd();
}


function addColumn(table,
columnName, order, type, length) {
  var newCol =
table.addColumn(columnName);

newCol.setDisplayName(columnName);
  newCol.setDisplayOrder(order);
  newCol.setIncludeByDefault(true);
  switch (type) {
      case 'string':

newCol.setTextColumnType(length);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 newCol.setRemoteColumnType('string');
           break;
      case 'datetime':

 newCol.setDateTimeColumnType();

 newCol.setRemoteColumnType('datetime');
           break;
      case 'float':

 newCol.setFloatColumnType();

 newCol.setRemoteColumnType('float');
           break;
      default:

 newCol.setTextColumnType(100);

 newCol.setRemoteColumnType('string');
   }
}


var save = function (rowset, entry)
 {
   var cells = [];
   cells.push(entry.id || '');
   cells.push(entry.title || '');
   cells.push(entry.updated || '');
   cells.push(entry.link || '');
   cells.push(entry.summary || '');
   cells.push(entry['georss:point']
 || '');
   cells.push(entry['georss:elev']
 || '');
   rowset.addRow(cells);
};
```

**ai.xml.parser**

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| parse( xmlStr ) | • xmlStr Valid XML document string | ai.xml.document | 有効な XML ドキュメント文字列を解析して XML ドキュメントを作成します。 |

解析の例

```
var xmlString =
 '<request><control><senderid>adaptiveplanning</
senderid><password>Bts9DrRkeZ</
password><controlid>SomeRandomThingToMatchToResp
controlid><dtdversion>3.0</
dtdversion></
control><operation><authentication><login><useri
userid><companyid>companyplanningDEV</
companyid><password>GhY93tYi</
password></login></authentication></
operation></request>';
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
var parser = ai.xml.createParser();
var xmlDoc =
 parser.parse(xmlString);
/* Output:
   <request>
       <control>

 <senderid>adaptiveplanning</
senderid>
           <password>Bts9DrRkeZ</
password>

 <controlid>SomeRandomThingToMatchToResponse</
controlid>
           <dtdversion>3.0</
dtdversion>
       </control>
       <operation>
           <authentication>
               <login>
                   <userid>Julia</
userid>

 <companyid>companyplanningDEV</
companyid>
                   <password>GhY93tYi</
password>
                   </login>
           </authentication>
       </operation>
   </request>
*/
```

**ai.xml.document**

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| clone() | | ai.xml.document | このドキュメントのクローンを返します。 |
| getDOCType() | | ai.xml.docType | ドキュメントの DOCType を取得します。 |
| getRootElement() | | ai.xml.element | ドキュメントのルート要素を取得します。 |
| setDOCTYPE( docType ) | • docType: ai.xml.docType ドキュメントを次のように設定します。 | | ドキュメントの DOCType を設定します。 |
| setRootElement( element ) | • 要素: ai.xml.element ドキュメントのルート要素になります。 | | ドキュメント ルート要素を設定します。 |
| toString() | | | XML ドキュメントのフォーマットされた文字列表現を提供します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### ai.xml.docType

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| toString() | | String | このドキュメント タイプ宣言の文字列を提供します。 |

例

```
var doc = ai.xml.createDocument();
var docType =
 ai.xml.createDocType('<!DOCTYPE
 html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0
 Strict//EN" "http://www.w3.org/TR/
xhtml1/DTD/xhtml1-strict.dtd">');
//set doc type
doc.setDOCTYPE(docType);
//get doc type
var getdoctype=doc.getDOCTYPE();
var rootEl =
 ai.xml.createElement('Books');
//set root element
doc.setRootElement(rootEl);
//sample clone
var cloned_doc=doc.clone();
//get root element
var docRoot=doc.getRootElement();
//convert the xml result to a string
 for logging
ai.log.logInfo(doc.toString())
/*Output:
   Cloned data: <Books />
   Doc type is<!DOCTYPE html PUBLIC
 "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Strict//EN"
 "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/
xhtml1-strict.dtd">
   Root element is <Books />
*/
```

### ai.xml.element

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| addChildElement( element ) | • 要素: ai.xml.event 追加する要素 | | 子要素を追加します。 |
| clone() | | ai.xml.element | この要素のクローンを返します。 |
| getAttribute( name ) | name: 特性の文字列名前 | ai.xml.attribute | 指定された名前の属性を取得します。 |
| getAttributeAt(index) | index: 特性の整数インデックス | ai.xml.attribute | この要素の特性配列の指定されたインデックスにある特性を取得します。 |
| getAttributes() | | Array<ai.xml.attribute> | この要素の特性を取得します。 |
| getAttributeValue( name ) | • name: 特性の文字列名前 | String | 指定された名前の特性の値を取得します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getChildElement( name ) | • name: 要素の文字列名前 | ai.xml.element | 指定された名前を持つ最初の子要素を取得します。 |
| getChildElementAt( index ) | • index: 要素の整数インデックス | ai.xml.element | 子要素内の指定されたインデックスにある子要素を取得します。 |
| getChildElements() | | Array<ai.xml.elements> | この要素のすべての子要素の配列を取得します。 |
| getChildElements( name ) | • name: 要素の文字列名前 | Array<ai.xml.element> | 指定された名前を持つこの要素の子要素の配列を取得します。 |
| getCommentText() | | String | コメント テキストを取得します。 |
| getName() | | String | この要素の修飾名を取得します。 |
| getText() | | String | この要素のテキストまたは CDA を取得します。 |
| hasContents() | | ブール値 | この要素に子の内容 (テキスト、CDDATA、子要素) があるかどうかを示します。 |
| removeAllAttributes() | | | この要素からすべての特性を削除します。 |
| removeAttribute( name ) | • name: 特性の文字列名前 | | 要素特性の配列内の指定された名前の特性を削除し、配列を再圧縮します。 |
| removeChildElement( name ) | • name: 要素の文字列名前 | | 指定された名前を持つ最初の子要素を削除します。 |
| removeChildElementAt( index ) | • index: 要素の整数インデックス | | 子要素内の指定されたインデックスにある子要素を削除します。 |
| removeChildElements() | | 整数 | この要素からすべての子要素を削除し、削除された要素の数を返します。 |
| removeChildElements( name ) | • name: 要素の文字列名前 | 整数 | この要素から指定された要素名のすべての子要素を削除し、削除された要素の数を返します。 |
| removeComments() | | | この要素に直接添付されているすべてのコメントを削除します。 |
| removeText() | | | この要素に直接添付されているすべてのテキスト (CDA セクションを含む) を削除します。 |
| setAttribute( attribute) | • attribute: ai.xml.attribute 追加する特性オブジェクト | | この要素に特性を追加します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setAttribute(name, value ) | • name: 特性の文字列名前<br>• value: 特性の文字列値 | | この要素について、指定された名前の特性の値を設定します。 |
| setCDATAText( text ) | • text : 文字列 CDDATA テキスト | | 子要素を含むこの要素から既存のコンテンツ (コメントを除く) をすべて削除し、この要素の CDATA セクション テキストを設定します。 |
| setCommentText( text ) | • text: 文字列コメント | | この要素に直接添付されているすべてのコメントを削除し、指定されたテキストで新しいコメントを追加します。 |
| setName( name ) | • name: 要素の文字列名前 | | この要素の名前を設定します。 |
| setText( text ) | • text: 要素の文字列テキスト値 | | 子要素を含むこの要素から既存の内容 (コメントを除く) をすべて削除し、要素のテキストを設定します。 |
| toString() | | | この要素のフォーマットされた文字列表現を提供します。 |

例

使用例

```
// create XML document
var doc = ai.xml.createDocument();
// create root element
var requestEl =
 ai.xml.createElement('request');
// create an element '<control>'
var controlEl =
 ai.xml.createElement('control');
//create a username or id element
 '<senderid>'
var senderIdEl =
 ai.xml.createElement('senderid');
//set text for the senderid element
 'adaptive planning'
senderIdEl.setText('adaptiveplanning');
//add <senderid> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(senderIdEl);
//create a <password> element
var passwordEl =
 ai.xml.createElement('password');
//set text for the password element
 'pwd'
passwordEl.setText('pwd');
//add <password> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(passwordEl);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
//add <control> element to the root
requestEl.addChildElement(controlEl);

//clone the sender id element
cloneEl=senderIdEl.clone();
//add clone() element to the root
 element
requestEl.addChildElement(cloneEl);

//setCommentText
requestEl.setCommentText("The above
 element is cloned");
//get comment text
ai.log.logInfo(getCommentText()); //
Log Output: The above element is
 cloned

//set document's root
doc.setRootElement(requestEl);

/*
Output:
   <request>
       <control>

 <senderid>adaptiveplanning</
senderid>
       </control>
       <senderid>adaptiveplanning</
senderid>
       <!--    The above element is
 cloned-->
</request>
*/
```

get子要素()、get子要素At()、getていた子要素、get子要素( name ) の例

```


// create XML document
var doc = ai.xml.createDocument();

// create root element
var requestEl =
 ai.xml.createElement('request');

// create an element '<control>'
var controlEl =
 ai.xml.createElement('control');

//create a username or id element
 '<senderid>'
var senderIdEl =
 ai.xml.createElement('senderid');
//set text for the senderid element
 'adaptive planning'
senderIdEl.setText('Sender id 1');
//add <senderid> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(senderIdEl);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
//create another sender id element
 '<senderid>'
var senderIdEl2 =
 ai.xml.createElement('senderid');
//set text for the senderid element
 'adaptive planning'
senderIdEl2.setText('Sender id 2');
//add <senderid> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(senderIdEl2);

//create a <password> element
var passwordEl =
 ai.xml.createElement('password');
//set text for the password element
 'pwd'
passwordEl.setText('pwd');
//add <password> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(passwordEl);

//add <control> element to the root
requestEl.addChildElement(controlEl);

//set document's root
doc.setRootElement(requestEl);

//getChildElement(name)
   var firstChildElement="First
 Child element of <control> is
 "+requestEl.getChildElement( "senderid" ).toStr
   //Output: First Child element of
 <control> is <senderid>Sender id
 1</senderid>

//getChildElementAt(index)
   var elementIndex="Element
 at index 0
 is"+requestEl.getChildElementAt( 0 ).toString()
   /* Output: Element at index 0 is
   <control><senderid>Sender id 1</
senderid><senderid>Sender id 2</
senderid><password>pwd</password></
control> */

//getChildElements()
   var specificChildElements="Child
 elements for the control
 element:"+controlEl.getChildElements().toString
   //Output: <senderid>Sender id
 1</senderid><senderid>Sender id 2</
senderid><password>pwd</password>

//getChildElements(name)
    var childElementsControl="All
 child elements of control
 element with <senderid>:
 "+controlEl.getChildElements("senderid" ).toStr
    //Output:All child elements
 of control element with
 <senderid>:<senderid>Sender id 1</
senderid>,<senderid>Sender id 2</
senderid>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

使用例

```
// create XML document
var doc = ai.xml.createDocument();

// create root element
var requestEl =
 ai.xml.createElement('request');

// create an element '<control>'
var controlEl =
 ai.xml.createElement('control');

//create a username or id element
 '<senderid>'
var senderIdEl =
 ai.xml.createElement('senderid');
//set text for the senderid element
 'adaptive planning'
senderIdEl.setText('Sender id 1');
//getText()
ai.log.logInfo(senderIdEl.getText()); //
Sender id 1
//add <senderid> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(senderIdEl);

//create another sender id element
 '<senderid>'
var senderIdEl2 =
 ai.xml.createElement('senderid');
//set text for the senderid element
 'adaptive planning'
senderIdEl2.setText('Sender id 2');
//add <senderid> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(senderIdEl2);

//create a <password> element
var passwordEl =
 ai.xml.createElement('password');
//set text for the password element
 'pwd'
passwordEl.setText('pwd');
//add <password> to <control>
 element
controlEl.addChildElement(passwordEl);

//add <control> element to the root
requestEl.addChildElement(controlEl);

//set document's root
doc.setRootElement(requestEl);

//removeChildElement of <control>
 element - First child element
 removal
   var
 removeFirstChildElement=controlEl.removeChildE
  /*Output:
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
      |Inital XML
                                  | After
 removal of the child element
            <request>

 <request>
                 <control>

 <control>

 <senderid>Sender id 1</senderid>
                   <senderid>Sender
 id 2</senderid>

 <senderid>Sender id 2</senderid>
                    <password>pwd</
password>

 <password>pwd</password>
         </control>

                  <control/>
                                    </
request>
             <request/>
 */

//removeChildElementAt index 0
   var
 removeIndexChildElement=requestEl.removeChildE
  /*Output:
      |Initial XML
                                  | After
 removing the child element at index
 0
            <request>

 <request><request/>
                 <control>


 <senderid>Sender id 1</senderid>


 <senderid>Sender id 2</senderid>


 <password>pwd</password>


                  <control/>

             <request/>
 */


//removeChildElements()
   var removeAllChildElements=
 controlEl.removeChildElements();
    /*Output:
      |Initial XML
                                  | After
 removing the child element at index
 0
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            <request>

 <request><control/><request/>
               <control>


 <senderid>Sender id 1</senderid>


 <senderid>Sender id 2</senderid>


 <password>pwd</password>


                <control/>

            <request/>
 */

//removeChildElements( name ) and
 hasContents()
    if(controlEl.hasContents()){
        var
 removeSpecificElement=controlEl.removeChildEler
    }
    /*Output:
      |Inital XML
                                  | After
 removal of the child element
           <request>

 <request>
               <control>

 <control>

 <senderid>Sender id 1</senderid>
                    <password>pwd</
password>

 <senderid>Sender id 2</senderid>
         </control>

 <password>pwd</password>
        </request>

                <control/>

            <request/>
 */
```

**ai.xml.attribute**

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| clone() | | ai.xml.attribute | この特性のクローンを返します。 |
| getName() | | String | 特性の名前を取得します。 |
| getValue() | | String | 特性の値を取得します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setName( name ) | • name: 特性の文字列名前 | | 特性の名前を設定します。 |
| setValue( value ) | • value: 特性の文字列値 | | 特性の値を設定します。 |
| toString() | | | この特性の文字列表現を返します。 |

例

```
var tablesElement =
 ai.xml.createElement('Tables');
var table1Element =
 ai.xml.createElement('Table');
var
 row1=ai.xml.createElement('row');
var
 row2=ai.xml.createElement('row');

//Create a new arribute
var attribute1 =
 ai.xml.createAttribute('remoteId',
 '248');
//Add the attribute to
 <table> element using
 setAttribute(ai.xml.attribute)
table1Element.setAttribute(attribute1);

//Or set the name and value of the
 attribute for the <row> elements
 using setAttribute(name,value)
row1.setAttribute('age','50');
row1.setAttribute('color','white');
row2.setAttribute('age','35');
row2.setAttribute('color','blue');

//Set text for the <table> element
table1Element.setText('Sample
 table');

//Add <table> as the child of
 <tables> element
tablesElement.addChildElement(table1Element);
table1Element.addChildElement(row1);
table1Element.addChildElement(row2);

/*Ouput
   <Tables>
       <Table remoteId="248"> Sample
 table
           <row age="50" />
           <row age="35" />
       </Table>
   </Tables>
*/

//Clone() attributes
var cloned = row1.clone();
cloned.setName('cloned_row');
table1Element.addChildElement(cloned);

/*Ouput
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   <Tables>
       <Table remoteId="248"> Sample
 table
           <row age="50" />
           <row age="35" />
           <cloned_row age="50">
       </Table>
   </Tables>
*/

//getAttribute( name )
ai.log.logInfo(table1Element.getAttribute("remot
Output:remoteId="248"

//getAttributeAt( index )
ai.log.logInfo(row1.getAttributeAt(0).toString()
Output: age=50

//getAttributes()
ai.log.logInfo(row1.getAttributes().toString());
Output: age="50",color="white"

//getAttributeValue( name )
ai.log.logInfo(row2.getAttributeValue('color').t
Output: blue

//removeAttribute( name )

var
 removeRow1Attribute=row1.removeAttribute('age')
/*Output:
      |Inital XML
                              | After
 removing the attribute 'age' for
 row1
           <Tables>

 <Tables>
                 <Table
 remoteId="248">Sample table
                   <Table
 remoteId="248">Sample table
                        <row age="50"
 color="white" />
 <row color="white" />
                        <row age ="35"
 color="blue" />
 <row age ="35" color="blue" />

                 <Table/>

 <Table/>
            <Tables/>

 <Tables/>


*/

//removeAllAttributes()
var
 removeRow1Attributes=row1.removeAllAttributes()
/*Output:
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      |Inital XML
                                | After
 removing the attribute 'age' for
 row1
           <Tables>

 <Tables>
                 <Table
 remoteId="248">Sample table
                   <Table
 remoteId="248">Sample table
                       <row age="50"
 color="white" />
 <row/>
                       <row age ="35"
 color="blue" />
 <row age ="35" color="blue" />

                  <Table/>

 <Table/>
             <Tables/>

 <Tables/>


*/
```

**AWS S3 の XML 出力ログの表示**

ai.log メソッドを使用して結果を記録する前に、サンプル XML を解析する必要があります。生の XML サンプルを表示するには、ファイルを次の文字列に変換します。 `toString()` 関数し、AWS S3 バケット内のファイルを表示する。

以下の例を使用して、XML の結果を作成および表示する AWS S3 インスタンスに接続します。バケット名、キー、アクセス キー、秘密キー、地方値が必要になります。詳細とコードの例については、ai.awss3 を参照してください

例

```
function testConnection(context) {
   var bucketName = 'xxx';
   var key = 'newfile.xml';
   var awsAccessKey = 'xxx';
   var awsSecretKey = 'xxx';
   var region = 'xxx'

   var doc =
 ai.xml.createDocument();
   var docType =
 ai.xml.createDocType('<!DOCTYPE
 html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0
 Strict//EN" "http://www.w3.org/TR/
xhtml1/DTD/xhtml1-strict.dtd">');
   //set doc type
   doc.setDOCTYPE(docType);
   //get doc type
   var getdocType="Doc type
 is"+doc.getDOCTYPE().toString();
   var rootEl =
 ai.xml.createElement('Books');
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   //set root element
   doc.setRootElement(rootEl);
   //get root element
   var getroot="Root element is
 "+doc.getRootElement().toString();
   //Combine the Doc type and the
 root element sentences to form a
 string
   var result = getdocType
+"\n"+getroot;
   //send the string to a file on
 aws
   ai.awss3.putFile(bucketName,
 key, result.toString(), region,
 awsAccessKey, awsSecretKey);
   return true;
}
/*
   Output:
       Doc type is<!DOCTYPE html
 PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0
 Strict//EN" "http://www.w3.org/TR/
xhtml1/DTD/xhtml1-strict.dtd">
       Root element is <Books />
*/
```

*Adaptive Planning* 関数

接続テスト関数

"接続テスト" 機能は、インテグレーションが外部システムに接続できるかどうかを判断するために使用されます。"接続テスト" 関数は、結果を示す true または False を返す必要があります。

コンテキスト パラメータ

接続テストに、'コンテキスト' という 1 つのパラメータが指定されました。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getDataSource() | | ai.dataSource | アクティブなデータソースを返します。 |
| getCalendar() | | ai.calendar | 以下を返します。Adaptive Planning カレンダー |

例

```
function testConnection(context) {
    // Step 1: Create a https
 request to send to Earthquake USGS
 API
    var url = 'https://
earthquake.usgs.gov/earthquakes/
feed/v1.0/summary/all_hour.atom';
    var method = 'GET';
    var body = ``;
    var headers = {};
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    // Step 2: Send request and
 receive response
    try{

        var response =
 ai.https.request(url, method, body,
 headers);
        ai.log.logInfo("Test
 Connection Successful");
       }
    catch(e)
    {

        ai.log.logInfo("Test
 Connection Failed");
    }
    // Step 3: Interrogate response
 to see if it was successful. Return
 true or false depending on the
 result.
    if (response.getHttpCode() ==
 '200') {
        var body =
 response.getBody();
        return true;
    } else {
        return false;
    }
}
```

### 構造のインポート関数

構造のインポート機能は、外部システムによって定義されたデータ ソースのスキーマ (テーブルと列) を作成/更新するために使用されます。"構造のインポート" 関数は、ai. Structure. StructureBuilder オブジェクトを返す必要があります。

#### コンテキスト パラメータ

構造のインポート機能には、'コンテキスト' という 1 つのパラメータが用意されています。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getDataSource() | | ai.dataSource | アクティブなデータ ソースを返します。 |
| getProgressManager() | | ai.progressManager | "構造のインポート" タスクの完了率値の更新に使用できるオブジェクトを返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getStructureBuilder() | | ai.structure.structureBuilder | データベース列、パラメータなど、データソース構造を作成するために使用されるオブジェクトを返します。 |
| getCalendar() | | ai.calendar | 以下を返します。Adaptive Planning カレンダー |

例

```
function importStructure(context) {
    //getDataSource
    var
 dataSource=context.getDataSource();
    // getStructureBuilder
    var builder =
 context.getStructureBuilder();
    //getCalendar
    var calendar=
 context.getCalendar();
  }
```

ai.progressManager

ai.processManager オブジェクトを使用すると、ユーザーは構造のインポート スクリプトを実行しているタスクの完了率を手動で設定することができます。スクリプト実行は、タスク全体の完了率の 70% を占めます。そのため、ai.processManager によって定義される進捗状況の値は、タスク全体の進捗状況を表すように拡大縮小されます。例: ai.processManager の完了率を 100% に設定すると、実行中のタスクの 70% に相当し、50% は実行中のタスクの 35% に相当し、以下のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

関数

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getProgress() | | 数値 | ユーザーに対して定義されたスクリプトの完了率を返します。ユーザーがまだ完了率を設定していない場合、この関数は 0 を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setProgress( value ) | value: スクリプトの完了率を次の値に設定します | | スクリプトの完了率を設定します。これは次のように機能します。<br>• 0、10、22.5、100、などの数値のみを使用できます。<br>• 100を超える値は100として扱われます。<br>• 現在のスクリプト進行状況より小さい値は無視されます。<br>例: setProcess(50)の後にsetProcess(40)を呼び出します。これにより、スクリプトの完了率は50%になりま |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
function importStructure(context) {

    ..........


    var progressManager =
 context.getProgressManager();


    // Set script progress % to 10
    progressManager.setProgress(10);


    // Increase script progress % to
 50

 progressManager.setProgress(50.0);


    // Set progress to 100 by using
 value greater than 100

 progressManager.setProgress(230);

 progressManager.getProgress(); //
 returns 100


    // Increase progress by 10%
 based on current progress

 progressManager.setProgress(progressManager.get
 + 10);




    ..........
    return builder;
 }
```

ai.structure.structureBuilder

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| addTable( tableId ) | tableId<br>テーブルの文字列一意ID | ai.structure.editableTable | データソースに対して新しいテーブルを作成して返します。 |

例

データが入力されるテーブルと列の構造を定義する機能を提供します。

```
function importStructure(context) {
........
//getStructureBuilder
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    var builder =
 context.getStructureBuilder();
//Example
 addTable( tableId )-"Sample"
    var table =
 builder.addTable("Sample");
.......
}
```

ai.structure.editableTable

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setDisplayName(displayName) | displayName: テーブルの表示名プロパティを設定する文字列値 | ai.structure.editableTable | テーブルの表示名を設定します。 |
| addColumn( **columnId** ) | **columnId**: 列の文字列 RemoteId | ai.structure.editableColumn | テーブルの新しい子列を作成して返します。 |
| addRequiredParameter(parameterId) | parameterId: パラメータの文字列 ID | ai.structure.editableParameter | テーブルの新しい必須パラメータを作成して返します。このテーブルを ImportData または ImportStructure の一部として使用する場合は、割当可能なパラメータを "必須パラメータ" の値に設定する必要があります。 |

ai.structure.editableColumn

関数

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setDisplayName( value ) | value : 列の displayName プロパティを設定する文字列値 | ai.structure.editableColumn | 列の表示名を設定します。 |
| setDisplayOrder( value ) | value : 列の displayOrder プロパティを次のように設定する文字列値 | ai.structure.editableColumn | 列の表示順序を設定します。 |
| setIncludeByDefault( value ) | value : 列の IsEnabled プロパティを設定するブール値 | ai.structure.editableColumn | インポートに対して有効化する列を設定します。 |
| setIncludeInKey( value ) | value : 列の includeIn Key プロパティを設定するブール値 | ai.structure.editableColumn | 列がテーブル キーの一部であるかどうかを示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setMandatoryForImport() | • value (boolean): この列が必須によるデータのインポートに対して有効であるかどうかを示すブール値 | ai.structure.editable.EditableColumn | 列が必須データのインポートに対して有効になるように設定します。 |
| setNonFilterable(value) | • value (boolean): 列のnonFilterableプロパティを設定するブール値 | ai.structure.editable.EditableColumn | 列をUIでクエリに含めることができるかどうかを示します。 |
| setRemoteColumnType(value) | • value (string): 列のRemoteColumnTypeプロパティを設定する文字列値 | ai.structure.editable.EditableColumn | 列のリモートデータタイプを設定します。たとえば、'文字列'、'整数'などです。 |
| setTextColumnType(length) | • length (int): この列が保持できる値の最大長の整数 | ai.structure.editable.EditableColumn | 列をテキスト列にします。 |
| setIntegerColumnType() | | ai.structure.editable.EditableColumn | 列を整数列にします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setFloatColumnType() | | ai.structure.editableColumn | 列を倍精度浮動小数点列にします。 |
| setBooleanColumnType() | | ai.structure.editableColumn | 列をブール値列にします。 |
| setDateTimeColumnType() | | ai.structure.editableColumn | 列を日付時間列にします。 |

ai.structure.editableParameter

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setDisplayName( value ) | value: パラメータの displayName プロパティを設定する文字列値 | | パラメータの表示名を設定します。 |
| setForDataImport( value ) | value: パラメータが ImportData スクリプトでアクセス可能かどうかを示すブール値 | | データ インポートのパラメータを有効化します。 |
| setTypePeriodRange() | | | パラメータのタイプを期間範囲に変更します |

例

```
function importStructure(context) {
..............
    //addColumn
    var valueColumn=
 table.addColumn('Value');
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    //setDisplayName

 valueColumn.setDisplayName('Value');
    // Set the data type for the
 column - Can be Integer, Float,
 DateTime or Boolean values

 valueColumn.setFloatColumnType();
    //setDisplayOrder

 valueColumn.setDisplayOrder('0');
    //setIncludeByDefault

 valueColumn.setIncludeByDefault(true);
    //setRemoteColumnType

 valueColumn.setRemoteColumnType('float');
    // setIncludeInKey

 valueColumn.setIncludeInKey(false);
    //setMandatoryForImports

 valueColumn.setMandatoryForImports(false);
..............
}
```

"データのインポート" 関数

"データのインポート" 機能は、外部ソースから行を取得し、インテグレーション ステージング テーブルにインポートするために使用されます。行をインポートするメカニズムは ai.rowset オブジェクトです。このオブジェクトは、データのインポート関数に渡されるコンテキスト パラメータによって提供されます。

コンテキスト パラメータ

"データのインポート" 関数には、"context" という 1 つのパラメータが用意されています。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getRowset()<br><br>2021R1 リリースでリクエストに応じて getRowset(ColumnIds) が有効化された後、ログに API 廃止警告を生成します。getRowset() メソッドは引き続き機能しますが、パラメータは無視されます。 | | ai.rowset | 行の追加先の Rowset オブジェクトを返します。行セットはテーブル、列、最大行数を定義します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getRowset([columnIDs])<br><br>Workday カスタマーセンターでケースを作成し、"カスタム クラウド サービスが指定列でステージング テーブルを読み取る" 機能フラグを有効にします。 | [columnIDs] | ai.rowset | 行の追加先の Rowset オブジェクトを指定した列順序で返します。行セットはテーブル、列、最大行数を定義します。 |
| getDataSource() | | ai.dataSource | アクティブなデータ ソースを返します。 |
| getCalendar() | | ai.calendar | 以下を返します。Adaptive Planning カレンダー |

例

この例では、行セットに整数列とテキスト列が順番に含まれていると想定しています。

```
function importData(context) {
...........
   var rowset = context.getRowset();
.........
    var rowset=
 context.getRowset([ 'NAME', 'ID']);
}
```

ai.rowset

Rowset オブジェクトは、ユーザーのスクリプト内の「行」をインテグレーション スタックに転送するメカニズムです。行セットは、ユーザーが PreviewData または ImportData スクリプトを実行しているテーブルの形状 (列名とそのデータ タイプ、maxRows と tableId) をモデル化します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

関数

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| addRow( cells) | cells: 配列<プリミティブ タイプs>各列の値の配列 (順 | | セル値の配列を行として "行セット" に追加します。セル値は、有効な文字列 (ヌルでもかまいません)、数値 (整数または小数)、ブール値または日付のいずれかのオブジェクトである必要があります。各セル値のタイプは、対応する列のデータ タイプと、getColumnNames で定義された順序で一致している必要があります。セル値の数は、定義された列数と一致している必要があります。 |
| getTableId() | | String | プレビューされているテーブルのテーブル ID を返します。 |
| getMaxRows() | | 整数 | この Rowset で許可されている最大行数を返します。0 は不明を意味し、ImportData によって使用されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getColumns() | | Array<ai.dataSource.table.column> | プレビュー用に選択されたテーブルの列を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| setSmartParsingEnabled( val ) | val<br>この機能をオンにするかオフにするかを示すブール値 | | 可能であれば、この設定を有効にすると、各文字列のセル値が、AddRow() 関数の実行中に、ターゲット列の必須データ タイプに自動的に解析されます。これにより、現在のセルの値のデータ タイプがターゲット列のデータ タイプと一致しない場合に、ユーザーがターゲット列のデータ タイプをルックアップして手動で解析を行う必要がなくなります。これは、JSON または XML ですべての行値を文字列として返すサードパーティ API を処理する場合に特に有用であり、各セル値を整数、浮動小数、ブール値、または日時値に正常に解析できます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getSmartParsingEnabled() | | ブール値 | この設定が有効である場合に真を返します。デフォルトは false です。 |

```
function importData(context) {
    var dataSource =
 context.getDataSource();
    var settings =
 dataSource.getSettings();
    var rowset =
 context.getRowset();

    //Set and Get
 SmartParsingEnabled() value

 rowset.setSmartParsingEnabled(true);

 ai.log.logInfo(getSmartParsingEnabled()); //
true

    //Set a Start date and End date
 in the Designer Settings tab with
 the name "Period Range"
    var startDateString =
 dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriodStartDateTime()
 10);
    var endDateString =
 dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getToPeriodEndDateTime().sub
 10);

    //get columns
    var columns =
 rowset.getColumns();

    for (var i = 0; i <
 dataSample.rows.length; i++) {
        var colName;
        var cells = [];
        for (var j = 0; j <
 columns.length; j++) {
            var colValue;
            var re = /\\\-/g;
            if ((new
 Date(dataSample.rows[i]
["Effective Date"]) >= new
 Date(startDateString)) && (new
 Date(dataSample.rows[i]["Effective
 Date"]) < new Date(endDateString)))
 {
                colName =
 columns[j].getId();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                colValue =
 dataSample.rows[i][colName];

 cells.push(colValue.toString().replace(re,
 '.'));

            }
        }
        if (cells.length ==
 columns.length) {
            //add rows
            rowset.addRow(cells);
        }
    }
}
```

データ関数のプレビュー

データのプレビュー機能は、指定されたテーブルおよび列のデータの行について外部システムを照会するために使用されます。これは、外部システムがそのシステムのプレビュー中にユーザーに表示することを許可する最大行数によって制限されます。

コンテキスト パラメータ

データのプレビュー関数には、'コンテキスト' という 1 つのパラメータが用意されています。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getDataSource() | | ai.dataSource | アクティブなデータソースを返します。 |
| getRowset() | | ai.rowset | 行の追加先の Rowset オブジェクトを返します。行セットはテーブル、列、最大行数を定義します。 |
| getCalendar() | | ai.calendar | 以下を返します。Adaptive Planning カレンダー |

例

クラウド ソースに保存されたデータをプレビューする機能を提供します。

```
function previewData(context) {

    var dataSource =
 context.getDataSource();
    var settings =
 dataSource.getSettings();
    var rowset =
 context.getRowset();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    //Set and Get
 SmartParsingEnabled() value

 rowset.setSmartParsingEnabled(true);

 ai.log.logInfo(getSmartParsingEnabled()); //
true

    //Set a Start date and End date
 in the Designer Settings tab with
 the name "Period Range"
    var startDateString =
 dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriodStartDateTime()
 10);
    var endDateString =
 dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getToPeriodEndDateTime().sub
 10);

    //get columns
    var columns =
 rowset.getColumns();

    for (var i = 0; i <
 dataSample.rows.length; i++) {
        var colName;
        var cells = [];
        for (var j = 0; j <
 columns.length; j++) {
            var colValue;
            var re = /\\\-/g;
            if ((new
 Date(dataSample.rows[i]
["Effective Date"]) >= new
 Date(startDateString)) && (new
 Date(dataSample.rows[i]["Effective
 Date"]) < new Date(endDateString)))
 {
                colName =
 columns[j].getId();
                colValue =
 dataSample.rows[i][colName];

 cells.push(colValue.toString().replace(re,
 '.'));

            }
        }
        if (cells.length ==
 columns.length) {
            //add rows
            rowset.addRow(cells);
        }
    }
}
```

接続テスト、データのインポート、プレビューの組み合わせの例

```
//Consider a static JSON Data Sample set
dataSample = {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
              rows: [
                          {"Value": 10, "Measure": "", "Test": "Palo Alto",
 "Effective Date": "2018-11-01"},
                          {"Value": 20, "Measure": " ", "Test": "Palo Alto",
 "Effective Date": "2018-11-01"},
                          {"Value": 30, "Measure": "  ", "Test": "Palo Alto",
 "Effective Date": "2018-11-01"},
                          {"Value": 40, "Measure": "   ", "Test": "Palo Alto",
 "Effective Date": "2018-11-01"},
                          {"Value": 50, "Measure": "1 ", "Test": "Pleasanton",
 "Effective Date": "2018-11-01"},
                          {"Value": 10, "Measure": "2  ", "Test":
 "Pleasanton", "Effective Date": "2018-12-01"},
                          {"Value": 20, "Measure": "3   ", "Test":
 "Pleasanton", "Effective Date": "2018-12-01"},
                          {"Value": 30, "Measure": "4    ", "Test":
 "Pleasanton", "Effective Date": "2018-12-01"},
                          {"Value": 40, "Measure": "5     ", "Test":
 "Pleasanton", "Effective Date": "2018-12-01"}
                      ]
                };

//Table Definition
ExternalMetadataDefinition = {
    Tables: [{
        name: "dataSample",
        displayName: "Sample",
        columns: [{
            name: "Value",
            displayName: "Value",
            type: "float",
            includeByDefault: true
        }, {
            name: "Measure",
            displayName: "Measure",
            includeByDefault: true
        }, {
            name: "Test",
            displayName: "Test",
            includeByDefault: true
        }, {
            name: "Effective Date",
            displayName: "Date",
            type: "datetime",
            includeByDefault: true
        }]
    }]
};
//Since this example uses a static data source,testConnection() function can
 return true
function testConnection(context) {
    return true;
}

//Import Structure
function importStructure(context) {
        var addColumn = function(table, column, order)
        {
            var recordColumn = table.addColumn(column.name);
            recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
            switch (column.type)
            {
                case "text":
                    recordColumn.setTextColumnType(column.length);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                break;
                case "int":
                    recordColumn.setIntegerColumnType();
                break;
                case "float":
                    recordColumn.setFloatColumnType();
                break;
                case "boolean":
                    recordColumn.setBooleanColumnType();
                break;
                case "datetime":
                    recordColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
                default:
                    recordColumn.setTextColumnType(200);
                break;
          }
            recordColumn.setDisplayOrder(order);
            recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault ||
 false);
            recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
            recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport ||
 false);
            recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType ||
 "String");
        };
    var builder = context.getStructureBuilder();
    for (var i = 0; i < ExternalMetadataDefinition.Tables.length; i++)
    {
       var externalTable = ExternalMetadataDefinition.Tables[i];
       var table = builder.addTable(externalTable.name);
       table.setDisplayName(externalTable.displayName);
       for (var j = 0; j < externalTable.columns.length; j++)
       {
           addColumn(table, externalTable.columns[j], j + 1);
       }
    }
}
function previewData(context) {
    //Since the data is static, previewData() function can invoke
 importData()
    importData(context);
}
function importData(context) {
    var dataSource = context.getDataSource();
    var settings = dataSource.getSettings();
    var rowset = context.getRowset();

    //Set and Get SmartParsingEnabled() value
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    ai.log.logInfo(getSmartParsingEnabled()); //true

    //Set a Start date and End date in the Designer Settings tab with the
 name "Period Range"
    var startDateString = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriodStartDateTime().substring(0, 10);
    var endDateString = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getToPeriodEndDateTime().substring(0, 10);

    //get columns
    var columns = rowset.getColumns();

    for (var i = 0; i < dataSample.rows.length; i++) {
        var colName;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        var cells = [];
        for (var j = 0; j < columns.length; j++) {
            var colValue;
            var re = /\\-/g;
            if ((new Date(dataSample.rows[i]["Effective Date"]) >= new
 Date(startDateString)) && (new Date(dataSample.rows[i]["Effective Date"]) <
 new Date(endDateString))) {
                colName = columns[j].getId();
                colValue = dataSample.rows[i][colName];
                cells.push(colValue.toString().replace(re, '.'));

            }
        }
        if (cells.length == columns.length) {
            //add rows
            rowset.addRow(cells);
        }
    }
}
```

### データのエクスポート関数 (カスタム クラウド ローダのみ)

"データのエクスポート" 機能は 、カスタム クラウド ローダ スクリプトを作成する ときに行をエクスポートするために使用します。行をエクスポートするメカニズムは次のとおりです `ai.rowset` オブジェクト ( `context` エクスポート関数に渡されたパラメータ

`context.createTableReader()` リーダーを返す。用途 `reader.readRow()` をクリックして、ソース テーブルのデータ行を読み取ります。

`reader.readRow()` は、デフォルトの順序でデータ列を返します。条件 `context.createTableReader()` が列 ID の配列で呼び出された場合、列はパラメータの列順序に従って配置されます。

#### コンテキスト パラメータ

データのエクスポート関数には、"context" という 1 つのパラメータが用意されています。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| createTableReader() | Value テーブルの列名の任意の配列 | TableReader | アクティブなデータ ソースを返します。列順序は、パラメータで指定された順序と同じです。 |

TableReader オブジェクト

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| readRow() | | 値の配列 | データ ソースの値の配列。 |

#### 例

```
// Manually invoke this method via
 'Run manually'
function exportData(context) {
  // Step 1: Get the data
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
  var reader =
 context.createTableReader();

  // Step 2: Process and export the
 data
  var row = null;
  // If reader.readRow() returns
 null, then there are no more
 records.
  while ((row = reader.readRow()) !
== null) {
    // Send the row to the external
 system or process it for a
 subsequent bulk update.

 ai.log.logInfo(JSON.stringify(row));
  }
}
```

*ai.awss3*

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| getFile(BucketName, key, region, awsAccess Key, AwsSecretkey) | バケット名: 文字列<br>キー: 文字列<br>region: 文字列<br>awsAccesskey: 文字列<br>awsSecretKey: String | | AWS S3 バケットからファイルを取得します。 |
| putFile(bucketName, key, region, awsAccessKey, AwsSecretKey) | バケット名: 文字列<br>キー: 文字列<br>doc:String<br>region: 文字列<br>awsAccesskey: 文字列<br>awsSecretKey: String | | AWS S3 バケットにファイルを入力します。 |
| listKeys(bucketName, region, awsAccessKey, awsSecretKey)<br>5000 キーを超えるバケットにはお勧めしません。 | バケット名: 文字列<br>region: 文字列<br>awsAccesskey: 文字列<br>awsSecretKey: String | | AWS S3 バケット内のキー (ファイル) を一覧表示します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| listObjects(request, region, awsAccessKey, awsSecretKey) | リクエスト オブジェクトのパラメータ<br><br>詳細については、Amazon S3 Request Docs を 参照してください。<br><br>バケット名: 文字列 (必須)。<br><br>ContingentToken: トークンのあるバケットでリストが継続されることを示します。前の応答で取得した "nextContinationToken"。<br><br>区切り文字: キーをグループ化するために使用される文字。Amazon S3 の階層的なキーのリスト化を参照してください。<br><br>コーディング: 回答で使用するエンコーディング方法。<br><br>取得: 各キーを持つリストの所有者に対して true に設定します。指定されていない場合、所有者はヌルになります。<br><br>max Keys: 応答内のキーの最大数。<br><br>Prefix: 指定した接頭辞で始まるキーに応答を制限します。<br><br>requestPlayer: String<br><br>startAfter: リストはこのキーの後に開始します。バケット内の任意のキーを使用します。継続トークンと同時に設定することはできません。<br><br>回答オブジェクトのパラメータ<br><br>詳細については、S3 Response Docs を 参照してください。<br><br>s3Objects: 検出されたオブジェクトのリスト。<br><br>keyCount: 検出されたオブジェクトの数。<br><br>isTruncated: 最初のリクエストに一致するキーが多数存在するかどうかを示します。リクエストで | | AWS S3 バケット内のオブジェクトを一覧表示します。リクエスト内のパラメータを使用して、取得したキーを制限およびフィルタリングできます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
// Invoke this method using 'Test
 connection' in Actions pane
    function testConnection(context)
 {
        exampleGetFile(context);
        exampleListKeys(context);
        return true;
    }

//Example for getFile
    function exampleGetFile(context)
    {
        var bucketName = 'xxx';
        var key = 'newfile.xml';
        var awsAccessKey = 'xxx';
        var awsSecretKey = 'xxx';
        var region = 'xxx';
        var doc =
 ai.xml.createDocument();
        var
 myFile=ai.awss3.getFile(bucketName,
 key, region, awsAccessKey,
 awsSecretKey);
        ai.log.logVerbose("File
 contents
 are",JSON.stringify(myFile));
     }
     //Column,Heading,Names
\n,2016-05-31T00:00:00,49570.89,4110_Product_Rev
 - Canada\n,.....

//Example for listkeys
    function
 exampleListKeys(context) {
        var bucketName = 'xxx';
        var key = 'test.csv';
        var awsAccessKey = 'xxx';
        var awsSecretKey = 'xxx';
        var region = 'xxx';
        var
 myFile=ai.awss3.listKeys(bucketName,
 region, awsAccessKey,
 awsSecretKey);
        ai.log.logVerbose("Keys
 are",JSON.stringify(myFile));
        return true;
    }
    //Keys are ["attribute-import-
demo.csv","cloadertest.csv"]

 //Example for putFile
    function exportData(context) {
        var bucketName = 'xxx';
        var key = 'newfile.xml';
        var awsAccessKey = 'xxx';
        var awsSecretKey = 'xxx';
        var region = 'xxx';
        var doc =
 ai.xml.createDocument();
        var requestEl =
 ai.xml.createElement('request');

 doc.setRootElement(requestEl);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        ai.awss3.putFile(bucketName,
 key, doc.toString(), region,
 awsAccessKey, awsSecretKey);
        //This will create the
 "newfile.xml" with a single line
 "<request />"
    }
```

### listObjects を使用した例

この例では、オブジェクトをリクエストし、結果をページングする方法を示します。

```
//Navigate to Designer Settings tab
 and add 2 "text" parameters from
 the Settings pane.
//Enter awsAccessKey and
 awsSecretKey in the Name fileds
 and provide your keys in the Value
 field

function processFiles(context) {
    // Retrieve access and secret
 keys from settings
    const awsAccessKey =
 context.getDataSource().getSetting('awsAccessKe
    const awsSecretKey =
 context.getDataSource().getSetting('awsSecretKe
    const region = 'us-west-1'
    // Create the request for
 objects, at a minimum a bucket name
 is required
    const request = {
        BucketName: 'xxx',
        Prefix: 'mydata/',
  // Return keys from this directory
    };

    // Push all the keys into an
 array
    const keyNames = [];

    let processing = true;
    while (processing)
    {
        var response =
 ai.awss3.listObjects(request,
 region, awsAccessKey,
 awsSecretKey);
        for (const entry of
 response.s3Objects)
        {
            // Here we have a single
 key that can be processed as
 desired

 keyNames.push(entry.key);
        }

        if (response.isTruncated)
        {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            // If the response did
 not include all remaining results,
 use the
            // nextContinuationToken
 from the response in the next
 request

 request.ContinuationToken =
 response.nextContinuationToken;
        }
        else
        {
            // If the response did
 include all remaining results, exit
 the loop
            ai.log.logInfo('Response
 indicated no further keys
 available');
            processing = false;

        }
    }
    ai.log.logInfo("List of
 Objects:"+JSON.stringify(keyNames));
    //List of Objects:
["attribute-import-demo
 (7).csv","cloadertest.csv"]
}
```

パラメータ リクエストの例

パラメータ `BucketName`, のみが必須です。`Prefix` はディレクトリです。

```
{
  BucketName: 'ag-ccds-test',
  Prefix: 'samplenumber/',
  StartAfter:
 'samplenumber/001_samplefile',
  MaxKeys: 3
}
```

サンプルの listObjects

この listOjbects 応答の例には、8 つのオブジェクトが含まれています。

```
{
  "isTruncated": true,
  "s3Objects": [
    {
      "eTag":
 "\"4c7507b8cf17a6650bcff6787ccd0915\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575352592693.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T15:56:34+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    },
    {
      "eTag":
 "\"b2addf641c43f17df4492524c834984c
\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575353843184.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T16:17:24+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
    },
    {
      "eTag":
 "\"b2addf641c43f17df4492524c834984c
\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575353844190.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T16:17:25+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
    },
    {
      "eTag":
 "\"b2addf641c43f17df4492524c834984c
\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575353845193.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T16:17:26+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
    },
    {
      "eTag":
 "\"b2addf641c43f17df4492524c834984c
\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575353846195.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T16:17:27+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
    },
    {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
      "eTag":
 "\"b2addf641c43f17df4492524c834984c
\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575353847194.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T16:17:28+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
    },
    {
      "eTag":
 "\"b2addf641c43f17df4492524c834984c
\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575353848223.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T16:17:29+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
    },
    {
      "eTag":
 "\"b2addf641c43f17df4492524c834984c
\"",
      "bucketName": "ag-ccds-test",
      "key": "archiveListing/
archiveList_1575353849192.txt",
      "lastModified":
 "2019-12-03T16:17:30+10:00",
      "owner": null,
      "size": 1323,
      "storageClass": {
        "value": "STANDARD"
      }
    }
  ],
  "name": "ag-ccds-test",
  "prefix": "archiveListing/",
  "maxKeys": 8,
  "commonPrefixes": [],
  "delimiter": null,
  "encoding": null,
  "keyCount": 8,
  "continuationToken": null,
  "nextContinuationToken": "1Vut/
ORdOSPdn8ZQdd8Z5nhNvlEfPkw0hkekFIDTVzk8Hn8jlttn/
yIjkl67yK3RAUkPIoUHwDuiybia7Rx7YjVaRefLocnF4",
  "startAfter": null,
  "responseMetadata": {
    "requestId": "5ACCAA141D2F7D2B",
    "metadata": {
      "x-amz-id-2": "zlslMcRM
+qj6SCKELuE2crlEzhc0eEFkpo5OC3Pzn9tMvtOYnaEkLoRO
    }
  },
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
  "contentLength": -1,
  "httpStatusCode": 200
}
```

*ai.oauth*

関数

| 方法 | パラメータ | 返品 | 説明 |
|---|---|---|---|
| getPlanningTokenFromWorkday() | なし | 戻り値タイプ: Object { Authorization : string } | Planning に対して認証するためのトークンを取得します。 |

使用可否: 以下を完了した顧客のみが使用できる。

- Workday テナントと のペアリング Adaptive Planning。
- Workday SAML SSO を に Adaptive Planning。
- Workday の "公開 API" タブ内の公開 API 設定 タスク Adaptive Planning Workday のタブ

注： Workday テナントを Adaptive Planning とペアリングし、SAML SSO を設定するには、Workday 認定済み実装業者と連携して進める必要があります。実装業者を利用できない場合は、カスタマー サクセス マネージャにお問い合わせの上、プロフェッショナル サービスをご利用ください。

この記事の一部のリンクは、Workday コミュニティに移動しています。Community のアカウントがない場合は、 リクエストしてください。

例

```
function testConnection(context) {
   var token = ai.oauth.getPlanningTokenFromWorkday();

   var body = '<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><call
 method="customReportValues" callerName="AdaptivePlanning.Discovery">'
   body += '<credentials token="' + token.authorization + '"
 instanceCode="MYINSTANCE" /><report>...</report> </call>';

   var url = 'https://api.adaptiveplanning.com/api/v22';
   var method = 'POST';
   var headers = { 'Content-Type': 'application/xml' };

   var response = null;
   try {
       response = ai.https.request(url, method, body, headers);
   }
   catch (exception) {
       ai.log.logInfo('api call failed', '' + exception);
       return false;
   }
   ai.log.logInfo("Response:",response.getBody());
   return true;
}
```

*ai.sftp*

この記事では、ai.sftp 名前空間と、クライアントの作成、基本的なクライアント操作の実行、ファイルのリーダーおよびライター オブジェクトによるファイルのアップロードとダウンロードに関連するメソッドについて説明します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ai.sftp 名前空間により、ユーザーは SFTP サーバーにファイルをアップロードおよびダウンロードすることができます。また、暗号化されたファイルのアップロードとダウンロードにより、PGP で暗号化と復号化を行うこともできます。

クライアントの作成

ai.sftp.createClient

createClient() メソッドで SFTP インスタンスを作成し、SFTP サーバーですべての操作を開始できます。この関数は、スクリプトに設定された SFTP 接続文字列の名前をパラメータとして取り、クライアント インスタンス オブジェクトを返します。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| createClient(sftpConnection) | sftpConnection : String<br>SFTP 接続の名称 | オブジェクト | SFTP クライアントの作成 |

使用方法

```
const client =
 ai.sftp.createClient('mySftpConnectionSetting')
```

基本的なクライアント操作

ai.createClient メソッドから返されたクライアント インスタンス オブジェクトに対して、次の操作を実行できます。

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
|---|---|---|---|
| isConnected() | | ブール値 | SFTP クライアントが接続されている場合は True を返します。それ以外の場合は False。 |
| disconnect() | | | ログアウトして、サーバーとのクライアント セッションを閉じます。クライアントでそれ以上呼び出された操作はすべて、例外が送出されます。 |
| delete(fileName) | ファイル名: 削除するファイルの文字列名 | | 指定したファイルを削除 |
| rename (renameFrom, renameTo) | renameFrom : String<br>ファイルの元の名前<br>renameTo : String<br>新しいファイル名 | | 指定されたファイルの名前を変更します |
| createDirectory(directoryName) | 名前: 文字列<br>新しいディレクトリの相対パス | | サーバーにディレクトリを作成します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 方法 | パラメータ | 戻り値の型 | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| changeDirectory(newLocation) | newLocation: 文字列<br>サーバー上の新しい場所の相対パス | String | サーバーの現在の作業ディレクトリを変更します。この操作により、現在の作業ディレクトリが返されます |
| getCurrentDirectory() | | String | 現在の作業ディレクトリを取得します。 |
| getFileSizeBytes(fileName) | ファイル名: 取得したファイル サイズの文字列 | 数値 | 指定したファイルのサイズをバイトで返します |
| listCurrentDirectory() | | コレクション | 現在の作業ディレクトリにあるすべてのファイルとディレクトリのリストを返します。 |

ファイルのダウンロード

サーバーからファイルをダウンロードするには、次のクライアントの方法を使用します。

| | | | |
| --- | --- | --- | --- |
| downloadFile(fileName) | fileName: String<br>ダウンロードするファイルの名前 | オブジェクト | ファイルをダウンロードし、ファイルを 1 行ごとに読み取るリーダーを返します。 |
| downloadEncryptedFile(fileName, encryptionSettingName) | ファイル名: 文字列<br>ダウンロードするファイルの相対パス<br>encryptionSettingName : String<br>"インテグレーション設定" の "認証情報" 領域にある暗号化設定の名前。 | オブジェクト | ファイルをダウンロードし、指定された暗号化設定を使用してファイルを復号化し、ファイルを 1 行ずつ読み取るリーダーを返します。 |
| downloadAndVerifyEncryptedFile(fileName, encryptionSettingName) | ファイル名: 文字列<br>ダウンロードするファイルの相対パス<br>encryptionSettingName : String<br>"インテグレーション設定" の "認証情報" 領域にある暗号化設定の名前。 | オブジェクト | ファイルをダウンロードし、指定された暗号化設定を使用してファイルの検証と復号化し、ファイルを 1 行ずつ読み取るリーダーを返します |

ファイル リーダー方法

これらのメソッドは、DownloadFiles() メソッドから返されたリーダー オブジェクトで呼び出すことができます。

| | | |
| --- | --- | --- |
| readLine() | String | ファイルを 1 行ごとに読み取ります |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| クリーンアップ() | | ファイルリーダーオブジェクトが消費するシステムリソースを解放<br><br>FileReaderは、クリーンアップ()メソッドの実行後に使用できません。<br><br>リソースはスクリプトの最後で自動的にクリーンアップされます。 |

例

```
//Pass the relative filepath and the
 name of your encryption setting
const reader =
 client.downloadEncryptedFile('./
archive/datasample.csv.asc',
 'mypgp');
let line = reader.readLine()
while(line !== null){
    //Process the line
    line = reader.readLine()
}
```

ファイルのアップロード

ファイルをアップロードするには、行を入力できるライターを作成する必要があります。ライター オブジェクトは ai.sftp 名前空間から取得されます。ファイルが作成されると、次のいずれかの方法を使用してクライアントにアップロードできます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| uploadFile(writer, uploadedFileName) | ライター: ライター<br><br>ai.sftp.createFileWriter() メソッドから取得<br><br>uploadedFileName: String<br><br>アップロードするファイルの名前 | | 指定されたファイルをサーバーにアップロードします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| uploadEncryptedFile (writer, uploadedFileName, encryptionSettingName ) | ライター: ライター<br>ai.sftp.createFileWriter() メソッドから取得<br>uploadedFileName: String<br>アップロードするファイルの名前<br>encryptionSettingName : String<br>暗号化設定の名前 | 指定された暗号化設定 ("インテグレーション設定" の "認証情報" 領域にあります) を使ってファイルを暗号化し、サーバーにアップロードします。ファイル名と場所は、updateFileName 引数で指定されます。 |
| uploadEncryptedAndSignedFile(writer, uploadedFileName, encryptionSettingName) | ライター: ライター<br>ai.sftp.createFileWriter() メソッドから取得<br>uploadedFileName: String<br>アップロードするファイルの名前<br>encryptionSettingName : String<br>暗号化設定の名前 | 指定された暗号化設定 ("インテグレーション設定" の "認証情報" 領域にあります) を使ってファイルを暗号化および署名し、サーバーにアップロードします。ファイル名と場所は、updateFileName 引数で指定されます。 |

ファイル ライターの方法

ファイルのダウンロードから返されたリーダー オブジェクトに対して次のメソッドを呼び出すことができます。

| | | |
|---|---|---|
| writeLine(val) | val: 文字列<br>ファイルに書き込む内容 | ファイルに 1 行ごとに内容を書き込みます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| クリーンアップ() | ファイルライターオブジェクトが消費するシステムリソースを解放<br><br>クリーンアップ() メソッドの実行後にライターを使用することはできません。<br><br>リソースはスクリプトの最後で自動的にクリーンアップされます。 |

例

```
const client =
 ai.sftp.createClient('mySftpConnectionSetting')
//Invoke the File Writer method
const writer =
 ai.sftp.createFileWriter();
//Write content to the writer
 variable
writer.writeLine('Here is a line to
 upload');
client.uploadFile(writer,
 'myFileToShare.txt');
writer.cleanUp();
```

**SFTP** に対応した **AWS Transfer** に関する注意事項

SFTP で AWS S3 サーバーに接続している間、オープンな SSH サーバーと比べて、AWS S3 のファイル構成の動作に若干の違いがあります。

- CreateDirectory
  - AWS S3 では、新しいディレクトリのパスを指定できます。例: client.createDirectory('./parent/子');によって親ディレクトリが作成されます。ただし、親ディレクトリがすでに存在する場合に子ディレクトリを作成しようとすると、例外が送られます。

**CCDS** の例
概念: *CCDS* スクリプト テンプレートの例

以下の CCDS スクリプト テンプレートの例が用意されています。

- 参考: CCDS スクリプト例
- 参考: CCDS スクリプトの例 Amazon S3
- 参考: Azure の CCDS スクリプト例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 参考: CCDS スクリプトのボックスの例
- 参考: CCDS スクリプトの例
- 参考: CCDS スクリプト ドロップボックスの例
- 参考: CCDS スクリプトの例 Googlebiquery
- 参考: CCDS Script Google Sheets
- 参考: Microsoft Dynamics 365 の CCDS スクリプトの例
- 参考: Plex Classic の CCDS スクリプトの例
- 参考: CCDS スクリプトの例 Plex UX
- 参考: CCDS スクリプトの例 SAGE Intacct
- 参考: CCDS スクリプトの例 SAP

*参考: Google シートでの CCDS スクリプトの例*

前提条件

Google ドライブへの接続には、以下のような準備的なステップがいくつかあります。

1. Google ドライブに移動します。
2. "新規" を選択し、"ファイル アップロード"を選択します。 をクリックして Google ドライブに csv ファイルをアップロードします。例:CCDS Demo.csv
3. アップロードしたファイルを右クリックして "共有" を選択します。
4. "ユーザーとグループを共有 " ペインで、共有設定を "リンクを知っている全員" にします。
5. 共有リンクから Google Doc ID を取得します。例: サンプル URL 内 `https://drive.google.com/file/d/1QZYX2345ri6789/view?usp=sharing`、ファイル ID は `1QZYX2345ri6789`
6. スクリプト内のファイル ID を使用してください。例: `var url = 'https://drive.google.com/uc?export=downloade&id=ENTER_FILE_ID_HERE';`

**Google シートのサンプル スクリプト**

```
var tableName = 'Csv Example';
//Make sure you adjust the settings to allow people to download this file
 from your google drive
var url = 'https://drive.google.com/uc?
export=downloade&id=ENTER_FILE_ID_HERE';

/* Example cvs file:
-----------------------------------------------
Heading A,Heading B,Heading C
A1,B1,C1
A2,B2,C2
A3,B3,C3
-----------------------------------------------
*/


//Create an HTTPS request to send to the Google Drive API using the callApi
 function.

function callApi() {
    var method = 'GET';
    var body = '';
    var headers = null;
    //Construct and send an HTTPS request to get all of the tables.
    return ai.https.request(url, method, body, headers);
}


function testConnection(context)
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
{
    var response = callApi();
    var responseCode = response.getHttpCode();
    // Interrogate the response to check if it succeeded and that HTTP
 communication was successful.
    if (responseCode == 200)
    {
        ai.log.logInfo('Test Connection Succeeded');
        return true;
    }
    else
    {
        ai.log.logError('Test Connection Failed','Response code was ' +
 responseCode);
        return false;
    }
}

function importStructure(context)
{
    //Use the callAPI function to construct and send an HTTPS request to get
 all the tables
    var response = callApi();
    //Get the structure builder object used to create tables, columns and
 other needed structures.
    var builder = context.getStructureBuilder();
    var table = createTable(builder, tableName);
    var lines = extractLines(response);
    var headingLine = lines[0];
    var headings = extractCells(headingLine);
    //parse the HTTPS response to construct a table
    for(var i = 0; i < headings.length; i++) {
        var heading = headings[i];
        createColumn(table, heading);
    }
}

function importData(context)
{
    var response = callApi();
    //Use the passed-in contextual information to create a rowset object.
    var rowset = context.getRowset();
    var lines = extractLines(response);
    //Skip the heading row and process each row to extract cell values for
 each column.
    for(var i = 1; i < lines.length; i++) {
        var line = lines[i];
        if(line === '') continue;
        var cells = extractCells(line);
        //Add each row array to the rowset.
        rowset.addRow(cells);
    }
}

function createColumn(table, heading) {
    var columnId = escape(heading);
    var column = table.addColumn(columnId);
    column.setDisplayName(heading);
    column.setTextColumnType(1000);
}

function extractLines(response) {
    var content = response.getBody();
    return content.split('\n');
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
}

function extractCells(line) {
    return line.split(',');
}

function createTable(builder, name) {
    var tableId = escape(name);
    var table = builder.addTable(tableId);
    table.setDisplayName(name);
    return table;
}

//In this example, reuse the import data function with context for
 previewing the data.
//A separate function might be needed to limit the amount of data preview
 gets back.
function previewData(context)
{
    importData(context);
}
```

参考: *CCDS* のサンプル スクリプト テンプレート

サンプル コードを CCDS の "スクリプト" セクションにコピーします。このスクリプトを実行するためにパラメータや外部リソースを設定する必要はありません。スクリプトには次のコード モジュールが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート
- データのプレビュー

前提条件

- 必要な権限: "管理" > "権限セット" の "インテグレーション開発者"
- 概念: CCDS、CCDS 用スクリプトの作成を参照してください。
- Adaptive Planning のさまざまな関数について
- CCDS 開発者は、経験豊富な JavaScript プログラマーである必要があります。

例

```
var sampleData = {
    validConnection: true,//Change this for an invalid connection
    headings: ['Heading A', 'Heading B', 'Heading C'],
    data: [
        ['A1','B1','C1'],
        ['A2','B2','C2'],
        ['A3','B3','C3']
    ],
    tableName: 'Example'
};


function testConnection(context)
{
    return sampleData.validConnection;
}

function importStructure(context)
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
{
    var builder = context.getStructureBuilder();
    var table = createTable(builder, sampleData.tableName);
    for(var i = 0; i < sampleData.headings.length; i++) {
        var heading = sampleData.headings[i];
        createColumn(table, heading);
    }
}

function importData(context)
{

    //Use the passed-in contextual information to create a rowset object.
    var rowset = context.getRowset();
    //Process each row to extract cell values for each column.
    for(var i = 0; i < sampleData.data.length; i++) {
        var data = sampleData.data[i];
        //Add each row array to the rowset.
        rowset.addRow(data);
    }
}

function createColumn(table, heading) {
    var columnId = escape(heading);
    var column = table.addColumn(columnId);
    column.setDisplayName(heading);
    column.setTextColumnType(1000);
}

function createTable(builder, name) {
    var tableId = escape(name);
    var table = builder.addTable(tableId);
    table.setDisplayName(name);
    return table;
}
```

*参考: CCDS スクリプト例*

**Acumatica サンプル スクリプト**

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
/******************

Test Connection

******************/


function testConnection(context) {

    var loginResults = login(context);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    if (loginResults.httpCode == '204' && loginResults.cookies !==
 undefined) {
        return true;
    } else {
        ai.log.logError('error authorizing against the service: ' +
 loginResults.httpCode);
        return false;
    }

}

/******************

Import Structure

******************/
function importStructure(context) {

    var loginResults = login(context),
        body, headers, method, url;

    if (loginResults.httpCode == '204') {
        body = metadataService.body();
        headers = metadataService.headers(context);
        method = metadataService.method();
        url = metadataService.url(context);

    } else {
        ai.log.logError('Error authorizing against the login service: ' +
 loginResults.httpCode);
        throw 'Error authorizing against the login service: ' +
 loginResults.httpCode;
    }

    //ai.log.logVerbose('outbound request', method + ' ' + url + '\n' +
 JSON.stringify(headers) + '\n' + body);

    var res = ai.https.request(url, method, body, headers);

    if (res.getHttpCode() != '200') {
        throw 'Unable to read service metadata from ' + url;
    }

    var dataSource = context.getDataSource(),
        builder = context.getStructureBuilder(),
        parser = ai.xml.createParser();
    var xmlDoc = parser.parse(res.getBody());
    var root = xmlDoc.getRootElement();

    var dataServices = root.getChildElement('edmx:DataServices');
    var schema = dataServices.getChildElement('Schema');

    for (var j = 0; j < schema.getChildElements().length; j++) {
        var currentTableXML = schema.getChildElementAt(j);

        //process table if name == 'EntityType', because Data Entity objects
 are tables in OData
        if (currentTableXML.getName() == 'EntityType') {

            //table creation through EntityType
            var table =
 builder.addTable(currentTableXML.getAttributeValue('Name'));
            table.setDisplayName(currentTableXML.getAttributeValue('Name'));
            var keyChain = {};
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            if (currentTableXML.getChildElement('Key')) {
                keyChain =
 ODataConnector.getEntityKeyChain(currentTableXML.getChildElement('Key'));
            }
            for (var k = 0; k < currentTableXML.getChildElements().length; k
++) {
                var currentColumnXML = currentTableXML.getChildElementAt(k);
                if (currentColumnXML.getName() == 'Property') {
                    addColumn(table, currentColumnXML, k, keyChain);
                }
            }
        }
    }
}

/******************

Import Data

******************/
function importData(context) {

    var dataSource = context.getDataSource(),
        rowset = context.getRowset();
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    var tableId = rowset.getTableId();

    for (var x = 0; x < config.getCompanySet(context).length; x++) {
        var companyId = config.getCompanyName(context, x);

        if (importThisDataEntity(context, companyId, tableId) === false) {
            continue;
        }

        var loginResults = login(context, companyId), //verify auth for
 company code before
            body, headers, method, url;

        if (loginResults.httpCode == '204') {
            body = dataService.body(context);
            headers = dataService.headers(context);
            method = dataService.method(context);

        } else {
            throw 'error authorizing into ' + companyId + ' with the login
 service: ' + loginResults.httpCode;
        }


        //request initializations;
        var pageSize = 1000,
            offset = 0,
            count = 1000;

        while (count == pageSize) {
            //a descision gets made here: if there are defined filters, use
 them; otherwise, simply page.
            try {
                url = dataService.url(context,
 companyId) + ODataConnector.select(context) + '&' +
 ODataConnector.limit(pageSize) + '&' + ODataConnector.skip(offset) + '&' +
 ODataConnector.filter(customSettings[tableId].getFilters(context));
            } catch (e) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                url = dataService.url(context, companyId) +
 ODataConnector.select(context) + '&' + ODataConnector.limit(pageSize) + '&'
 + ODataConnector.skip(offset);
                ai.log.logVerbose('' + e, 'url: ' + url);
            }

            if (offset === 0) {
                ai.log.logVerbose('url', '' + url);
            }

            //ai.log.logVerbose('outbound URL -->', '' + url);

            var res = ai.https.request(url, method, body, headers);

            if (res.getHttpCode() != '200') {
                var throwMessage;

                try {
                    var errors = JSON.parse(res.getBody());
                    var stackTrace =
 errors['odata.error'].innererror.stacktrace;
                    var errorMessage =
 errors['odata.error'].innererror.message;
                    ai.log.logError('Message from Acumatica: ' +
 errorMessage, 'Stack trace from Acumatica: ' + stackTrace);
                    throwMessage = 'Message from Acumatica: ' +
 errorMessage;
                } catch (e) {
                    ai.log.logVerbose('' + e);
                    ai.log.logError('unable to retrieve data from data
 service -->', '' + method + ' ' + url + ' ' + body);
                    throwMessage = 'unable to retrieve data from data
 service';
                }
                throw throwMessage;
            }

            var contents = JSON.parse(res.getBody());

            for (var i = 0; i < contents.value.length; i++) {
                var row = contents.value[i];
                var cells = [];
                for (j = 0; j < rowset.getColumns().length; j++) {
                    var columnId = rowset.getColumns()[j].getId();
                    cells.push(row[columnId]);
                }
                rowset.addRow(cells);
            }
            offset = offset + pageSize;
            count = contents.value.length;
        }
    }

}

/******************

Preview Data

******************/
function previewData(context) {
    var rowset = context.getRowset();
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    var tableId = rowset.getTableId();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    var loginResults = login(context),
        body, headers, method, url;

    if (loginResults.httpCode == '204') {
        body = dataService.body(context);
        headers = dataService.headers(context);
        method = dataService.method(context);

    } else {
        ai.log.logError('error authorizing against the metadata service: ' +
 loginResults.httpCode);
        throw 'error authorizing against the metadata service: ' +
 loginResults.httpCode;
    }

    try {
        url = dataService.url(context) + ODataConnector.select(context) +
 '&' + ODataConnector.maxRows(context) + '&' + ODataConnector.skip(0) + '&'
 + ODataConnector.filter(customSettings[tableId].getFilters(context));
    } catch (e) {
        url = dataService.url(context) + ODataConnector.select(context) +
 '&' + ODataConnector.maxRows(context) + '&' + ODataConnector.skip(0);
    }

    var res = ai.https.request(url, method, body, headers);

    if (res.getHttpCode() != '200') {

        try {
            var errors = JSON.parse(res.getBody());
            var stackTrace = errors['odata.error'].innererror.stacktrace;
            var errorMessage = errors['odata.error'].innererror.message;
            ai.log.logError('Message from Acumatica: ' + errorMessage,
 'Stack trace from Acumatica: ' + stackTrace);
        } catch (e) {
            ai.log.logVerbose('' + e);
            ai.log.logError('unable to retrieve data from data service -->',
 '' + method + ' ' + url + ' ' + body);
            throw 'unable to retrieve data from data service';
        }
    }

    var contents = JSON.parse(res.getBody());

    for (var i = 0; i < contents.value.length; i++) {
        var row = contents.value[i];
        var cells = [];
        for (j = 0; j < rowset.getColumns().length; j++) {
            var columnId = rowset.getColumns()[j].getId();
            cells.push(row[columnId]);
        }
        rowset.addRow(cells);
    }
}


/******************

Supporting Functions

******************/
function addColumn(table, column, index, keyChain) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    var stagingColumn = table.addColumn(column.getAttributeValue('Name'));
    stagingColumn.setDisplayName(column.getAttributeValue('Name'));

    var type = column.getAttributeValue('Type');

    stagingColumn.setDisplayOrder(index);

    if (config.createKeys === true) {

 stagingColumn.setIncludeByDefault(keyChain[column.getAttributeValue('Name')]
 || false);

 stagingColumn.setIncludeInKey(keyChain[column.getAttributeValue('Name')] ||
 false);

 stagingColumn.setMandatoryForImports(keyChain[column.getAttributeValue('Name')]
 || false);
    }

    switch (ODataConnector.typeMap[type]) {
        case "text":
            if (keyChain[column.getAttributeValue('Name')] === true &&
 config.createKeys === true) {
                stagingColumn.setTextColumnType(100);
            } else {
                stagingColumn.setTextColumnType(1000);
            }
            break;
        case "int":
            stagingColumn.setIntegerColumnType();
            break;
        case "float":
            stagingColumn.setFloatColumnType();
            break;
        case "boolean":
            stagingColumn.setBooleanColumnType();
            break;
        case "datetime":
            stagingColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        default:
            ai.log.logError('unknown OData type ' + column.type, 'Update
 structure script appropriately');
            throw 'unknown OData type: ' + column.type;
    }

}


function base64Encode(text) {

    if (/([^\u0000-\u00ff])/.test(text)) {
        throw new Error("Can't base64 encode non-ASCII characters.");
    }
    var digits =
 "ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789+/",
        i = 0,
        cur, prev, byteNum,
        result = [];

    while (i < text.length) {

        cur = text.charCodeAt(i);
        byteNum = i % 3;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        switch (byteNum) {
            case 0: //first byte
                result.push(digits.charAt(cur >> 2));
                break;

            case 1: //second byte
                result.push(digits.charAt((prev & 3) << 4 | (cur >> 4)));
                break;

            case 2: //third byte
                result.push(digits.charAt((prev & 0x0f) << 2 | (cur >> 6)));
                result.push(digits.charAt(cur & 0x3f));
                break;
        }

        prev = cur;
        i++;
    }

    if (byteNum === 0) {
        result.push(digits.charAt((prev & 3) << 4));
        result.push("==");
    } else if (byteNum == 1) {
        result.push(digits.charAt((prev & 0x0f) << 2));
        result.push("=");
    }

    return result.join("");
}


function login(context) {

    var body = loginService.body(context),
        headers = loginService.headers(),
        method = loginService.method(),
        url = loginService.url(context),
        cookieJar;

    //ai.log.logVerbose('outbound request', method + ' ' + url + '\n' +
 JSON.stringify(headers) + '\n' + body);

    var res = ai.https.request(url, method, body, headers);

    if (res.getHttpCode() == '204') {
        var resHeaders = res.getHeaders();

        //ai.log.logVerbose('acquired session cookie -->', '' +
 resHeaders['Set-Cookie']);
        cookieJar = resHeaders['Set-Cookie'];
    } else {
        ai.log.logError('unable to authorize against ' + url, 'check
 username, password, and company code then try again.');
        throw 'unable to authorize against ' + url;
    }

    return {
        httpCode: res.getHttpCode(),
        cookies: cookieJar
    };

}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
function importThisDataEntity(context, companyId, tableId){
    var confirmation = false;
    for(var i = 0; i < customSettings[tableId].companyImportList.length; i+
+) {
        if(companyId == customSettings[tableId].companyImportList[i]) {
            confirmation = true;
            break;
        }
    }
    return confirmation;
}

/
**********************************************************************************
 Settings
config = {
    //simply calls config.service(context) to get the Acumatica Endpoint
 Base, then builds a base URL for acumatica.
    base: function(context) {
        return 'https://' + this.service(context) + '.acumatica.com';
    },

    //createKeys, for Acumatica's OData API, should generally be set to
 false.
    //The OData API pulls data from Generic Inquiries in Acumatica, which
 may not respect keys across data entities.
    createKeys: false,

    //returns a trimmed company name value after splitting the company set
 by a delimiter.
    getCompanyName: function(context, index, delimiter) {
        return this.getCompanySet(context, delimiter)[index].trim();
    },


    //takes context and a delimiter, returns an array.
    getCompanySet: function(context, delimiter) {
        var companies;

        //quick assumption in case delimiter wasn't passed in...
        if (!delimiter) {
            delimiter = ';';
        }

        //attempt to get Acumatica Companies list.
        try {
            companies = context.getDataSource().getSetting("Acumatica
 Companies").getValue().split(delimiter);
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find Static Designer Setting
 "Acumatica Companies"', 'Please create Static Text Setting "Acumatica
 Companies" and try again');
            throw 'Please create Static Text Setting "Acumatica Companies"
 and try again';
        }
        return companies;
    },


    getEndDate: function(context, format) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        var dateString;
        try {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            dateString = dataSource.getSetting("Period
Range").getValue().getToPeriodEndDateTime().substring(0, 10);
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Period Range"', 'Please
create Parameterized Designer Setting "Period Range"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Period Range"';
        }
        var date = new Date((dateString.substring(5) + '-' +
dateString.substring(0, 4)).replace(/-/g, '/'));

        return this.getPeriodString(date, format);
    },


    getPeriodString: function(date, format) {
        var period = '';
        switch (format) {
            case 'yyyymm':
                if (date.getMonth() + 1 < 10) {
                    period += date.getFullYear() + '0' + (date.getMonth() +
1);
                } else {
                    period += date.getFullYear() + '' + (date.getMonth() +
1);
                }
                break;
            default:
                ai.log.logInfo('Error encountered in
config.getPeriodString(date, format)');
                ai.log.logError('Unknown date string format ' + format,
'Please update script and try again.');
                throw 'Unknown date string format ' + format;
        }
        return period;
    },


    getStartDate: function(context, format) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        var dateString;
        try {
            dateString = dataSource.getSetting("Period
Range").getValue().getFromPeriodStartDateTime().substring(0, 10);
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Period Range"', 'Please
create Parameterized Designer Setting "Period Range"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Period Range"';
        }
        var date = new Date((dateString.substring(5) + '-' +
dateString.substring(0, 4)).replace(/-/g, '/'));

        return this.getPeriodString(date, format);
    },


    password: function(context) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        try {
            return dataSource.getSetting("Acumatica Password").getValue();
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Acumatica Password"',
'Please create Static Designer Setting "Acumatica Password"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Acumatica Password"';
        }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    },


    service: function(context) {
        var serviceBase;

        //attempt to get Acumatica Endpoint Base setting.  this is what
 users see when they've logged into Acumatica: 'https://{{Acumatica Endpoint
 Base}}.acumatica.com'
        try {
            serviceBase = context.getDataSource().getSetting("Acumatica
 Endpoint Base").getValue();
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find Static Designer Setting
 "Acumatica Endpoint Base"', 'Please create Static Text Setting "Acumatica
 Endpoint Base" and try again');
            throw 'Please create Static Text Setting "Acumatica Endpoint
 Base" and try again';
        }
        return serviceBase;
    },


    username: function(context) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        try {
            return dataSource.getSetting("Acumatica Username").getValue();
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Acumatica Username"',
 'Please create Static Designer Setting "Acumatica Username"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Acumatica Username"';
        }
    }

};

//Contains a system's OData API specifics.
loginService = {
    body: function(context) {
        var req = {
            name: config.username(context),
            password: config.password(context),
            company: ''
        };

        return JSON.stringify(req);
    },
    headers: function() {
        return {
            "Content-Type": "application/json"
        };
    },
    method: function() {
        return 'POST';
    },
    url: function(context) {
        return config.base(context) + '/entity/auth/login';
    }
};

//Contains a system's OData API specifics.
metadataService = {
    body: function() {
        return null;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    },
    headers: function(context) {
        return {"Authorization": 'Basic ' +
 base64Encode(config.username(context) + ':' + config.password(context))};
    },
    method: function() {
        return 'GET';
    },
    url: function(context, companyId) {

        if (!companyId) {
            companyId = config.getCompanyName(context, 0);
        }

        return config.base(context) + '/odata/' + companyId + '/$metadata';
    }

};

//Contains a system's OData API specifics.
dataService = {
    body: function(context) {
        return null;
    },

    headers: function(context) {
        var obj = {};
        obj["Authorization"] = 'Basic ' +
 base64Encode(config.username(context) + ':' + config.password(context));
        obj["Content-Type"] = 'application/json';
        obj["Accept"] = 'application/json';

        return obj;
    },

    method: function(context) {
        return 'GET';
    },

    url: function(context, companyId) {

        if (!companyId) {
            companyId = config.getCompanyName(context, 0);
        }

        return config.base(context) + '/odata/' + companyId + '/' +
 context.getRowset().getTableId() + '?';

    }
};

/
*****************************************************************************
*
* This integration should "work" without these settings, but this file is
 designed
* to support tailoring and optimization for specific customer requirements.
*
* The general design here:
* customSettings.{{Data Entity}} -- intended to let folks create filters for
 a given {{Data Entity}}
* customSettings.{{Data Entity}}.filters: [...] -- an array of relevant
 filters to apply to {{Data Entity}}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
* customSettings.{{Data Entity}}.getFilters(...) -- a function that returns
 an array of filters created in customSettings.{{Data Entity}}.filters:
 [...]
*
* Each filter[x] should have three elements:
*   - getColName()
*   - getVal(context)
*   - getOperator()
*
* An importData() flow first attempts to call customSettings.{{Data
 Entity}}.getFilters(...),
* which then calls each array element in set customSettings.{{Data
 Entity}}.filters
* to build an array of filters for the ODataConnector used in importData().
*
* The existence of customSettings is required, even if it's empty {}.
*****************************************************************************/


customSettings = {
    GLHistory: {
        companyImportList: [''],
        filters: [{
            getColName: function() {
                return 'FinancialPeriod';
            },
            getVal: function(context) {
                return '\'' + config.getStartDate(context, 'yyyymm') + '\'';
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '>=';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }, {
            getColName: function() {
                return 'FinancialPeriod';
            },
            getVal: function(context) {
                return '\'' + config.getEndDate(context, 'yyyymm') + '\'';
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '<';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }],
        getFilters: function(context) {
            var f = [];
            for (var i = 0; i < this.filters.length; i++) {
                f.push(this.filters[i].getColName() +
 this.filters[i].getOperator() + this.filters[i].getVal(context));
            }
            return f;
        }
    },
    GLTranLines: {
        companyImportList: [‘’],
        filters: [{
            getColName: function() {
                return 'Period';
            },
            getVal: function(context) {
                return '\'' + config.getStartDate(context, 'yyyymm') + '\'';
            },
            getOperator: function() {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                var operator = '>=';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }, {
            getColName: function() {
                return 'Period';
            },
            getVal: function(context) {
                return '\'' + config.getEndDate(context, 'yyyymm') + '\'';
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '<';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }],
        getFilters: function(context) {
            var f = [];
            for (var i = 0; i < this.filters.length; i++) {
                f.push(this.filters[i].getColName() +
this.filters[i].getOperator() + this.filters[i].getVal(context));
            }
            return f;
        }

    },
    "AR Transactions": {
        companyImportList: [
            'cofense inc'
            ],
        filters: [{
            getColName: function() {
                return 'Period';
            },
            getVal: function(context) {
                return '\'' + config.getStartDate(context, 'yyyymm') + '\'';
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '>=';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }, {
            getColName: function() {
                return 'Period';
            },
            getVal: function(context) {
                return '\'' + config.getEndDate(context, 'yyyymm') + '\'';
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '<';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }],
        getFilters: function(context) {
            var f = [];
            for (var i = 0; i < this.filters.length; i++) {
                f.push(this.filters[i].getColName() +
this.filters[i].getOperator() + this.filters[i].getVal(context));
            }
            return f;
        }
    },
    "ExchangeRates": {
        companyImportList: [‘’],
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
};

/
*****************************************************************************************
ODataConnector = {

    getEntityKeyChain: function(keys) {
        var keyChain = {};
        for (var k = 0; k < keys.getChildElements().length; k++) {
            var key = keys.getChildElementAt(k).getAttributeValue('Name');
            keyChain[key] = true;
        }
        return keyChain;
    },

    //known OData datatypes.
    typeMap: {
        "Edm.Binary": 'int',
        "Edm.Boolean": 'boolean',
        "Edm.Byte": 'int',
        "Edm.Date": 'datetime',
        "Edm.DateTime": 'datetime',
        "Edm.DateTimeOffset": 'datetime',
        "Edm.Decimal": 'float',
        "Edm.Double": 'float',
        "Edm.Duration": 'text',
        "Edm.Guid": 'text',
        "Edm.Int16": 'int',
        "Edm.Int32": 'int',
        "Edm.Int64": 'int', //possibly change to text
        "Edm.SByte": 'int',
        "Edm.Single": 'float',
        "Edm.Stream": 'text',
        "Edm.String": 'text',

        //experimental area
        "Edm.Geography": 'text',
        "Edm.GeographyPoint": 'text',
        "Edm.GeographyLineString": 'text',
        "Edm.GeographyPolygon": 'text',
        "Edm.GeographyMultiPoint": 'text',
        "Edm.GeographyMultiLineString": 'text',
        "Edm.GeographyMultiPolygon": 'text',
        "Edm.GeographyCollection": 'text',
        "Edm.Geometry": 'text',
        "Edm.GeometryPoint": 'text',
        "Edm.GeometryLineString": 'text',
        "Edm.GeometryPolygon": 'text',
        "Edm.GeometryMultiPoint": 'text',
        "Edm.GeometryMultiLineString": 'text',
        "Edm.GeometryMultiPolygon": 'text',
        "Edm.GeometryCollection": 'text'
    },

    /
*************************************************************************
    *
    * OData's Data Services interface needs to help make decisions on at
 least
    * a few points:
    *  - $filter: which records to query, the 'where' clause
    *  - $top: specify a maximum number of records to query at any given
 time
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   *  - $select: a set of fields to query, just like a 'select' clause in
SQL
   *  - $skip: the quantity of records to offset in a given query, for
paging.
   *
********************************************************************************/

   //locking in design...
   filter: function(set) {
       var f = '$filter=';
       for (var i = 0; i < set.length; i++) {
           if (i == set.length - 1) {
               f += set[i];
           } else {
               f += set[i] + ' and ';
           }
       }
       return f;
   },

   //designed specifically for the importData function's finite, but
unknown e.
   limit: function(pageSize) {
       return '$top=' + pageSize;
   },

   //designed specifically for previewData
   maxRows: function(context) {
       return '$top=' + context.getRowset().getMaxRows();
   },

   //for either importData or previewData.  Looks at columns selected in
the staging table and builds a $select clause.
   select: function(context) {

       var columnSet = context.getRowset().getColumns(),
           select = '$select=';

       for(var i = 0; i < columnSet.length; i++) {
           if (i == columnSet.length - 1) {
               select += columnSet[i].getId();
           } else {
               select += columnSet[i].getId() + ',';
           }
       }

       return select;
   },

   //only used in importData, for paging.
   skip: function(offset) {
       return '$skip=' + offset;
   },

   operationMap: function(op){
       var operation;
       switch (op) {
           case '=':
           case '==':
           case 'eq':
           case ' eq ':
               operation = ' eq ';
               break;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
            case '<>':
            case '!=':
            case 'ne':
            case ' ne ':
                operation = ' ne ';
                break;
            case '>':
            case 'gt':
            case ' gt ':
                operation = ' gt ';
                break;
            case '>=':
            case 'ge':
            case ' ge ':
                operation = ' ge ';
                break;
            case '<':
            case 'lt':
            case ' lt ':
                operation = ' lt ';
                break;
            case '<=':
            case 'le':
            case ' le ':
                operation = ' le ';
                break;
            default:
                operation = '';
                ai.log.logError('No matched operation for ' + op + '.',
 'Please extend available OData operator options and try again.');
                throw 'Please extend available OData operator options and
 try again.';
        }
    return operation;
    }
};
```

*参考: CCDS スクリプトの例 Amazon S3*

**Amazon S3 サンプル スクリプト**

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
/******************

Test Connection

******************/
function testConnection(context) {
    //var keys = ai.awss3.listKeys('bucketName');
    var keys = ai.awss3.listKeys('bucketName', 'filePath', 'region',
 'AWSAccessKey', 'AWSSecretKey');
    return true;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
}


/******************

Preview Data

******************/
/* JavaScript Document
function previewData(context)
{
    // not supported
}


/******************

Import Structure

******************/
function importStructure(context) {

    var addColumn = function (table, column, order) {
        var recordColumn = table.addColumn(column.name);
        recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
        switch (column.type) {
            case "text":
                recordColumn.setTextColumnType(column.length); //this is
 where the default gets overruled, having both `type : "text"` and `length :
 x` defined in ExternalMetadataDefiniton
                break;
            case "int":
                recordColumn.setIntegerColumnType();
                break;
            case "float":
                recordColumn.setFloatColumnType();
                break;
            case "boolean":
                recordColumn.setBooleanColumnType();
                break;
            case "datetime":
                recordColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
            default:
                recordColumn.setTextColumnType(200);
                break;
        }
        recordColumn.setDisplayOrder(order);
        recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || false);
        recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
        recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport ||
 false);
        recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType ||
 "String");
    };

    var builder = context.getStructureBuilder();

    for (var i = 0; i < ExternalSystem.Tables.length; i++) {
        var externalTable = ExternalSystem.Tables[i]; //a dig into the
 external metadata definition contents
        var table = builder.addTable(externalTable.name);
        table.setDisplayName(externalTable.displayName);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        for (var j = 0; j < externalTable.columns.length; j++) {
            addColumn(table, externalTable.columns[j], j + 1);
        }
    }
}

ExternalSystem = {
    Tables: [
        {
            name: "ge_gl_detail",
            displayName: "ge_gl_detail",
            bucketname: 'david.elliott.workday.test.bucket',
            key: 'sampleFile.csv',
            region: 'us-east-2',
            columns: [
                { name: "Purchase Order", displayName: "Purchase Order" },
                { name: "Company", displayName: "Company" },
                { name: "Business Unit", displayName: "Business Unit" },
                { name: "G/L Date", displayName: "G/L Date", type:
 "datetime" },
                { name: "Amount", displayName: "Amount", type: "float" },
            ]
        }
    ]
};

/******************

Import Data

******************/
function importData(context) {
    // Step 1: Make use of passed in contextual information to create a
 rowset object.
    // Here, I am simply assigning tableId, maxRows and columnNames to
 variables to be used elsewhere in this script.
    var rowset = context.getRowset();
    var dataSource = context.getDataSource();
    var tableId = rowset.getTableId();


    //Use the tableId, defined in the structure process (and ExternalSystem
 object) to soon unarchive the appropriate file path.
    var internalTableId = getInternalObjectKey(tableId);

    //Return details from ExternalSystem definition to get ready for call to
 S3 library method
    var filePath = getS3Key(internalTableId);
    var bucketName = getS3BucketName(internalTableId);
    var region = getS3Region(internalTableId);
    var AWSAccessKey = getAWSAccessKey(dataSource);
    var AWSSecretKey = getAWSSecretKey(dataSource);
    ai.log.logVerbose('internalTableId: ' + internalTableId + ' ;filePath: '
 + filePath + ' ; bucket: ' + bucketName + ' ; region: ' + region);

    //enable smart parsing for easier datatype matching at import
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);

    var keys = ai.awss3.listKeys(bucketName, region, AWSAccessKey,
 AWSSecretKey);
    var keysList = '';
    for (var keyIndex = 0; keyIndex < keys.length; keyIndex++) {
        keysList += keyIndex + ' = ' + keys[keyIndex] + ' ';
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    ai.log.logVerbose('keys: ' + keysList);

    var file;

    // Step 3: Make call to S3 AI library to get the file.
    try {
        file = ai.awss3.getFile(bucketName, filePath, region, AWSAccessKey,
 AWSSecretKey);
    } catch (e) {
        ai.log.logError('' + e);
        throw '' + e + '. Check logs for additional information';
    }

    if (file) {
        ai.log.logVerbose('showing some of the data returned from S3; :
 length : ' + file.length, file);
    }
    else {
        ai.log.logError('no data returned to us; nothing to process!');
        return;
    }

    //process CSV into an array of records.
    var rows = CSVToArray(file);
    // ai.log.logInfo('CSVToArray returned : ', '' + rows.length);
    //load array of records into staging.
    addRows(rowset, rows, internalTableId);

}

/******************

Supporting Functions

******************/
/**
 * build columns during importStructure
 */
function addColumn(table, column) {
    var recordColumn = table.addColumn(column.name);
    recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
    switch (column.type) {
        case "text":
            recordColumn.setTextColumnType(column.length);
            break;
        case "int":
            recordColumn.setIntegerColumnType();
            break;
        case "float":
            recordColumn.setFloatColumnType();
            break;
        case "boolean":
            recordColumn.setBooleanColumnType();
            break;
        case "date":
            recordColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        case "datetime":
            recordColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        default:
            recordColumn.setTextColumnType(20);
            break;
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    recordColumn.setDisplayOrder(column.order);
    recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || false);
    recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
    recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport || false);
    recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType || "String");
}


/**
 * loads records to the staging area
 */
function addRows(rowset, rows, internalTableId) {
    var columnMetaData = getColumnMetaData(rowset.getColumns());
    // some biz rule transformations are filename specific
    var fileName = getFileName(internalTableId);

    var rowLength;
    var metadataLength = columnMetaData.length;
    // we start at rowIndex 1 since 0 is the header row
    var addRowsErrors = 'metadata length, which should be ' + metadataLength
 + ' and row length mismatch: ';
    var addRowsErrorsInitialLength = addRowsErrors.length;

    for (var rowIndex = 1; rowIndex < rows.length; rowIndex++) {
        var logStatusMessageRow = ' ';

        rowLength = rows[rowIndex].length;

        if (rowLength >= metadataLength) {
            var cells = [];
            var row = rows[rowIndex];
            for (var columnIndex = 0; columnIndex < metadataLength;
 columnIndex++) {
                var colName = columnMetaData[columnIndex].id;
                var colType = columnMetaData[columnIndex].type;
                var colOrder = columnMetaData[columnIndex].order;
                var colLength = columnMetaData[columnIndex].textSize;
                var value = row[colOrder];

                var cleanResult = cleanTheData(value, colType, colLength,
 colName, fileName);

                cells.push(cleanResult.theValue);
                if (typeof cleanResult.logStuff != "undefined" &&
 cleanResult.logStuff !== null) {
                    // log details about the column/cell we just cleaned
                    logStatusMessageRow += cleanResult.logStuff;
                }
            }
            rowset.addRow(cells);
            if (typeof logStatusMessageRow != "undefined" && typeof
 logStatusMessageRow.length != "undefined") {
                // only emit meaningful errors/information
                if (logStatusMessageRow.length > 3) {
                    ai.log.logVerbose('row ' + rowIndex + ' details (' +
 logStatusMessageRow.length + ')', logStatusMessageRow);
                }
            }
        }
        // if we're here, then the number of columns in the source don't
 match the number expected
        else {
            addRowsErrors += '; row ' + rowIndex + ' length = ' + rowLength;
        }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    }
    if (addRowsErrorsInitialLength < addRowsErrors.length) {
        ai.log.logError('errors in addRows ', addRowsErrors);
    }
}


/**
 * strictly as a debugging aid
 */
function displayColumnMetaData(columnMetaData) {
    var whatIsThis = '';
    for (var i = 0; i < columnMetaData.length; i++) {
        whatIsThis += 'id=' + columnMetaData[i].id + ';type=' +
 columnMetaData[i].type + ';order=' + columnMetaData[i].order;
        if (columnMetaData[i].type === 'TextColumn') {
            whatIsThis += ';textSize=' + columnMetaData[i].textSize;
        }
        whatIsThis += '\n';
    }
    ai.log.logVerbose('column metadata (part 1)', whatIsThis.substring(0,
 400));
    ai.log.logVerbose('column metadata (part 2)', whatIsThis.substring(400,
 800));
    ai.log.logVerbose('column metadata (part 3)', whatIsThis.substring(800,
 1200));
    ai.log.logVerbose('column metadata (part 4)', whatIsThis.substring(1200,
 1600));

}


/**
 * returns an array of objects with the following properties:
 * 1. id
 * 2. type
 * 3. order
 * 4. textSize (text fields only)
 */
function getColumnMetaData(columns) {
    var columnMetaData = [];
    var whatIsThis = '';
    for (var i = 0; i < columns.length; i++) {
        columnMetaData[i] = {};
        columnMetaData[i].id = columns[i].getId();
        var colType = columns[i].getColumnType();
        columnMetaData[i].type = colType;
        // order - 1 to account for the initialization of 1.
        // Adaptive returns undesirable values when display order starts at
 0, yet, js needs the 0 so we offset the delta.
        columnMetaData[i].order = columns[i].getDisplayOrder() - 1;
        var colLength = 0;
        if (colType === 'TextColumn') {
            colLength = columns[i].getLength();
            columnMetaData[i].textSize = colLength;
        }
        whatIsThis += 'id=' + columnMetaData[i].id + ';type=' + colType +
 ';order=' + columnMetaData[i].order;
        if (colLength > 0) {
            whatIsThis += ';textSize=' + colLength;
        }
        whatIsThis += '\n';
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    //ai.log.logVerbose('column metadata (part 1)', whatIsThis.substring(0,
 400));
    //ai.log.logVerbose('column metadata (part 2)',
 whatIsThis.substring(400, 800));
    //ai.log.logVerbose('column metadata (part 3)',
 whatIsThis.substring(800, 1200));
    //ai.log.logVerbose('column metadata (part 4)',
 whatIsThis.substring(1200, 1600));

    return columnMetaData;
}


/**
 * takes XML response as a parameter, then interrogates it for success /
 failure tags.
 */
function parseResponse(responseBody) {
    var parser = ai.xml.createParser();
    var xmlDoc = parser.parse(responseBody);

    try {
        var root = xmlDoc.getRootElement();
        var faultstringsearchResponse = root.getChildElement('faultstring');

        return faultstringsearchResponse.getText();
    }
    catch (exception) {
        // Example of logging to the CCDS log using the Error loglevel
        ai.log.logInfo('parse response failed!', '' + exception.message);
        return null;
    }
}


/**
 * Return ExternalSystem object's index for a given rowset.getTableId().
 */
function getInternalObjectKey(tableId) {
    var rowsetId;
    for (var i = 0; i < ExternalSystem.Tables.length; i++) {
        if (ExternalSystem.Tables[i].name == tableId) {
            rowsetId = i;
            break;
        }
    }
    return rowsetId;
}


/**
 * given an internalTableId, return the corresponding path to where the file
 lives on S3
 * depends on getInternalObjectKey
 */
function getS3Key(internalTableId) {
    return ExternalSystem.Tables[internalTableId].key;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding bucket name to where
 the file lives on S3
 * depends on getInternalObjectKey
 */
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
function getS3BucketName(internalTableId) {
    return ExternalSystem.Tables[internalTableId].bucketname;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding region where the file
 lives on S3
 * depends on getInternalObjectKey
 */
function getS3Region(internalTableId) {
    return ExternalSystem.Tables[internalTableId].region;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding name we're using for
 the file
 * depends on getInternalObjectKey
 */
function getFileName(internalTableId) {
    return ExternalSystem.Tables[internalTableId].name;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding display name we're
 using for the file
 * depends on getInternalObjectKey
 */
function getDisplayName(internalTableId) {
    return ExternalSystem.Tables[internalTableId].displayName;
}

/**
 * given a datasource, return the AWS Access Key to where the file lives on
 S3
 * the default name of this key is AWS_Access_Key
 * depends on datasource
 */
function getAWSAccessKey(dataSource, settingName) {
    if (settingName) return dataSource.getSetting(settingName).getValue();

    // use default setting name
    return dataSource.getSetting("AWS_Access_Key").getValue();;
}

/**
 * given a datasource, return the AWS Secret Key to where the file lives on
 S3
 * the default name of this key is AWS_Secret_Key
 * depends on datasource
 */
function getAWSSecretKey(dataSource, settingName) {
    if (settingName) return dataSource.getSetting(settingName).getValue();

    // use default setting name
    return dataSource.getSetting("AWS_Secret_Key").getValue();;
}


/**
 * Do simple data cleanup such as truncating large fields, removing $ and |
 */
function cleanTheData(inValue, propType, colLength, colName, fileName) {
    if (typeof inValue === 'undefined' || inValue === 'NaN') {
        return { "theValue": null, "logStuff": null };
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    }

    var logStatusMessage = 'cleaning ' + colName;
    var retValue = inValue;
    var anErrorOccurred = false;

    // probably should only do on fields that will eventually be coerced to
 float and int
    // TODO - change logic to only do this on float/numeric fields and also
 make it global so all occurrences of $ will be removed
    // retValue = retValue.replace('$', '');

    if (propType === 'TextColumn') {
        // convert newline to tab
        retValue = retValue.replace(/\n/g, "\t"); // turn newlines into
 tabs; saves a little whitespace when rendered
        // don't attempt this on datetime fields; won't work  replace pipes
 (which will cause us grief post-staging)
        retValue = retValue.replace(/\|/g, '-');
        try {
            // truncate - esp important when crazy large data comes in and
 would overflow the column allocated size
            if (retValue.length >= colLength) {
                //logStatusMessage = ';length before=' + retValue.length +
 '; colLength=' + colLength;
                //logStatusMessage += ';starts with' + retValue.substring(0,
 30);
                retValue = retValue.substring(0, colLength);
                //logStatusMessage += ';length after =' + retValue.length;
            }
        } catch (error) {
            logStatusMessage += '; error occurred:' + error;
        }
    }

    // TODO add more replaces here

    if (anErrorOccurred) {
        return { "theValue": retValue, "logStuff": logStatusMessage };
    }
    return { "theValue": retValue, "logStuff": '' };
}

/**
 * we sometimes get dates in dd/mm/yyyy format
 * return a Date from this input
 */
function convertMMDDtoDDMM(dateStr) {

    var returnDate;
    var dateParts;
    var yearPart;

    /* Important - we must try to parse dates that look like this first
    1/2/2017
    28/2/2018
    ... and so on
    because in this dataset, these dates are dd/mm/yyyy and must be
 interpreted that way.
    It would be erroneous to treat 1/2/2017 as January 2, 2017;
    in fact it's February 1, 2017
    */
    dateParts = dateStr.split("/");
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    try {
        yearPart = dateParts[2].split(" ")[0]; // lop off the time part "
 00:00...
        // js uses numbers 0 thru 11 for months, hence the following
 subtraction
        returnDate = new Date(yearPart, dateParts[1] - 1, dateParts[0], 0,
 0, 0, 0);
        return returnDate;
    } catch (error) {
        // if we're here, dateStr didn't contain 2 /s; see if it's just a
 plain old date
        try {
            returnDate = new Date(dateStr);
            return returnDate;
        } catch (error) {
            // if we're here, the easy approaches failed...
            return null;
        }
    }

}

/**
 * Do simple data cleanup such as truncating large fields, removing $ and |
 */
function debugTheData(inValue, propType, colLength, colName) {
    if (typeof inValue === 'undefined' || inValue === 'NaN') {
        return { "theValue": null, "logStuff": null };
    }

    var logStatusMessage = ' ';
    var retValue = inValue;

    // probably should only do on fields that will eventually be coerced to
 float and int
    retValue = retValue.replace('$', '');

    if (propType === 'TextColumn' && colName === 'CRFDescription') {
        // try to convert newline to tab
        retValue = retValue.replace(/\n/g, "\t");
        // don't attempt this on datetime fields; won't work  replace pipes
 (which will cause us grief post-staging)
        retValue = retValue.replace(/"|"/g, "-");
        try {
            logStatusMessage += ';CRFDescription starts
 with ' + retValue.substring(0, 200) + '\n and ends with ' +
 retValue.substring(retValue.length - 200) + '\n';
            logStatusMessage += ';length before=' + retValue.length + ';
 colLength=' + colLength;
            retValue = retValue.substring(0, colLength);
            logStatusMessage += ';length after =' + retValue.length;
        } catch (error) {
            logStatusMessage += ';exception occurred ' + error;
        }
        return { "theValue": retValue, "logStuff": logStatusMessage };
    }

    return { "theValue": null, "logStuff": null };
}

/**
 *
 * returns an array of rows based on the string and delimiter
 */
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
function CSVToArray(strData, strDelimiter) {
    // Check to see if the delimiter is defined. If not,
    // then default to comma.
    strDelimiter = (strDelimiter || ",");

    // Create a regular expression to parse the CSV values.
    var objPattern = new RegExp(
        (
            // Delimiters.
            "(\\" + strDelimiter + "|\\r?\\n|\\r|^)" +

            // Quoted fields.
            "(?:\"([^\"]*(?:\"\"[^\"]*)*)\"|" +

            // Standard fields.
            "([^\"\\" + strDelimiter + "\\r\\n]*))"
        ),
        "gi"
    );


    // Create an array to hold our data. Give the array
    // a default empty first row.
    var arrData = [[]];

    // Create an array to hold our individual pattern
    // matching groups.
    var arrMatches = null;

    // Keep looping over the regular expression matches
    // until we can no longer find a match.

    // the ai environment will complain about the following = thinking
    // it should be ==
    // but that will be a bad thing, so don't do it
    while (arrMatches = objPattern.exec(strData)) {

        // Get the delimiter that was found.
        var strMatchedDelimiter = arrMatches[1];

        // Check to see if the given delimiter has a length
        // (is not the start of string) and if it matches
        // field delimiter. If id does not, then we know
        // that this delimiter is a row delimiter.
        if (
            strMatchedDelimiter.length &&
            strMatchedDelimiter !== strDelimiter
        ) {

            // Since we have reached a new row of data,
            // add an empty row to our data array.
            arrData.push([]);

        }

        var strMatchedValue;

        // Now that we have our delimiter out of the way,
        // let's check to see which kind of value we
        // captured (quoted or unquoted).
        if (arrMatches[2]) {

            // We found a quoted value. When we capture
            // this value, unescape any double quotes.
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
            strMatchedValue = arrMatches[2].replace(
                new RegExp("\"\"", "g"),
                "\""
            );

        } else {

            // We found a non-quoted value.
            strMatchedValue = arrMatches[3];

        }


        // Now that we have our value string, let's add
        // it to the data array.
        arrData[arrData.length - 1].push(strMatchedValue);
    }

    // Return the parsed data.
    return (arrData);
}
```

*参考: Azure の CCDS スクリプト例*

**Azure サンプル スクリプト**

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
/******************

Test Connection

******************/

// The below settings need to be created on the data source for the script
 to pick up and connect successfully.
// Filename - Text
// Client Id - Password
// Client Secret - Password
// Tenant Id - Password
// Please default the script name to Azure Data Lake CCDS, with Basic
 Authentication. The script is assuming the data read from a CSV file from
 Azure Data Lake.

function testConnection(context) {
    var dataSource = context.getDataSource();

    var tenant_id = dataSource.getSetting("Tenant Id").getValue();
    var client_id = dataSource.getSetting("Client Id").getValue();
    var client_secret = dataSource.getSetting("Client Secret").getValue();
    //ai.log.logVerbose('deets', 'tenant_id:'+tenant_id + ';
 client_id'+client_id + '; client_secret'+client_secret);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    // Step 1: Create a https request to send to your API
    var access_token = azureAPI.requestNewToken(tenant_id, client_id,
 client_secret);

    return (access_token !== null);
}




/******************

Import Structure

******************/


function importStructure(context) {
    var addColumn = function (table, column, order) {
        var recordColumn = table.addColumn(column.name);
        recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
        switch (column.type) {
            case "text":
                recordColumn.setTextColumnType(column.length); //this is
 where the default gets overruled, having both `type : "text"` and `length :
 x` defined in ExternalMetadataDefiniton
                break;
            case "int":
                recordColumn.setIntegerColumnType();
                break;
            case "float":
                recordColumn.setFloatColumnType();
                break;
            case "boolean":
                recordColumn.setBooleanColumnType();
                break;
            case "datetime":
                recordColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
            default:
                recordColumn.setTextColumnType(1024);
                break;
        }
        recordColumn.setDisplayOrder(order);
        recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || true);
        recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
        recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport ||
 false);
        recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType ||
 "String");
    };

    var builder = context.getStructureBuilder();

    for (var i = 0; i < externalSystem.tables.length; i++) {
        var externalTable = externalSystem.tables[i]; //a dig into the
 external metadata definition contents
        var table = builder.addTable(externalTable.name);
        table.setDisplayName(externalTable.displayName);

        for (var j = 0; j < externalTable.columns.length; j++) {
            addColumn(table, externalTable.columns[j], j + 1);
        }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    }
}

//If Oauth is used, please use the following:
externalSystem = {
    token_url: 'https://login.microsoftonline.com/{tenant_id}/oauth2/v2.0/
token',
    scope: 'https://storage.azure.com/.default',

    listDir: '',
    tables: [
        {
            name: 'Account',
            displayName: 'Account',
            fileNameBase: 'Account_',
            fileExtension: '.csv',
            filesStartNumber: 1, // must be a positive number; normally 0 or
 1
            filesEndNumber: 7,    // must be greater than or equal
 filesStartNumber
            /* if filesStartNumber = 0 and filesEndNumber = 3 we will fetch
            Account_0.csv
            Account_1.csv
            Account_2.csv
            Account_3.csv
            */
            columns: []
          }
    ]
};

/******************

Import Data

******************/

function importData(context) {

    /**
     * internal helper function to importData - log numRecordsToLog records
     * NOTE: prior to calling this function, the file should have been
 downloaded
     * via client.downloadEncryptedFile() or client.downloadFile()
     * @param {*} numRecordsToLog - when 0, ALL of the records will be
 logged
     * @param {*} rows - the array of data we want to log
     */
    function logTheFile(numRecordsToLog, rows) {
        //Read and process the file
        let line = 'xxx';
        let lineCount = 0;
        while (line !== null && lineCount < numRecordsToLog) {
            line = rows[lineCount];
            if (line) {
                logContentDetails(JSON.stringify(line), 'record ' + ("000" +
 lineCount).slice(-3));
            }
            lineCount++;
        }
    }

    /**
    * internal function to importData
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    * @returns
    */
    function validateHeaderRow(rows) {
        let line = rows[0];
        // validate that header row has expected content; if not bail now
        var errMsg = 'Header row invalid';
        if (typeof line === 'undefined' || line === null) {
            errMsg += ' it is null or empty!';
            ai.log.logError(errMsg);
            throw errMsg + '; see log for more details';
        }

        let headerRow = line;
        if (headerRow.length === Row_Length) {
            ai.log.logVerbose('header row', line.join());
            return;
        }


        errMsg += '; length is ' + headerRow.length + ' but should be ' +
Row_Length;
        ai.log.logError(errMsg, 'content: ' + line);
        // go ahead and log the next few to provide more hints to user
        line = rows[1];
        if (typeof line === 'undefined' || line === null) {
            throw errMsg + '; see log for more details';
        }
        ai.log.logError('line 2 of file', 'content: ' + line);

        line = rows[2];
        if (typeof line === 'undefined' || line === null) {
            throw errMsg + '; see log for more details';
        }
        ai.log.logError('line 3 of file', 'content: ' + line);

        line = rows[3];
        if (typeof line === 'undefined' || line === null) {
            throw errMsg + '; see log for more details';
        }
        ai.log.logError('line 4 of file', 'content: ' + line);
        throw errMsg + '; see log for more details';
    }


    var rowset = context.getRowset();
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    var tableId = rowset.getTableId();
    var columns = rowset.getColumns();
    var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(columns);
    var Row_Length = columnRemoteIds.length;
    var dataSource = context.getDataSource();

    // get variable details
    var tenant_id = dataSource.getSetting("Tenant Id").getValue();
    var client_id = dataSource.getSetting("Client Id").getValue();
    var client_secret = dataSource.getSetting("Client Secret").getValue();
    let internalTableId = getInternalObjectKey(tableId);
    let filenameBase = getFileNameBase(internalTableId);
    let fileExtension = getFileExtension(internalTableId);
    let filesStart = getFilesStartNumber(internalTableId);
    let filesEnd = getFilesEndNumber(internalTableId);
    ai.log.logVerbose('filesStart:' + filesStart + '; filesEnd:' +
filesEnd);
    // Step 1: Create a https request to send to your API
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
   var access_token = azureAPI.requestNewToken(tenant_id, client_id,
client_secret);
   //ai.log.logInfo('access_token', access_token);

   let filesToFetch = [];
   if (filesStart >= 0 && filesEnd >= filesStart) {
       while (filesStart <= filesEnd) {
           filesToFetch.push(filenameBase + "" + filesStart +
fileExtension);
           filesStart++;
       }
   }
   else {
       filesToFetch.push(filenameBase);
   }
   ai.log.logVerbose('files to fetch', filesToFetch.join());

   let filesFetched = [];
   //var directory = azureAPI.readDirectory(access_token);
   //throw 'readDirectory';

   for (var fileIndex in filesToFetch) {

       let currentFileName = filesToFetch[fileIndex];
       ai.log.logInfo('fetching file' + currentFileName);

       let result = azureAPI.readCSV(currentFileName, access_token);
       if (result.success === false) {

           if (result.exception) {
               ai.log.logError('readCSV HTTPS Request failed with
exception', '' + result.exception);
               // NOTE - we don't necessarily have to throw this exception
               // we could just silently consume it and skip this file...
TBD
               //throw result.exception;
           }
           if (result.httpCode) {
               ai.log.logInfo('readCSV HTTPS Request failed with HTTP Code
' + result.httpCode);
           }
           // since the call didn't succeed, bail now; nothing to do
           // and we should presume that we've exhausted the list of files
to read
           ai.log.logInfo('since fetching ' + currentFileName + ' failed,
we will not fetch remaining ones in this set');
           break;
       }
       filesFetched.push(currentFileName);
       //logTheFile(2, result.data.split('\r\n'));
       //throw 'xxx';

       let rows = CSVToArray(result.data);


       validateHeaderRow(rows);

       /*
       logContentDetails(JSON.stringify(rows[0]), 'row - 0', 3);
       logContentDetails(JSON.stringify(rows[1]), 'row - 1', 3);
       logContentDetails(JSON.stringify(rows[2]), 'row - 2', 3);
       throw 'rows!';
       */
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
        addRows(rowset, rows);
    }

    sleepX(1000);
    ai.log.logVerbose('processed these files for ' + tableId,
 filesFetched.join());
}

azureAPI = {
    requestNewToken: function (tenant_id, client_id, client_secret) {
        // Step 1: Create a https request to send to your API
        var method = 'POST';

        // Setup request in body, sample is using xml, but could be json
        var body = 'grant_type=client_credentials&scope=' +
 externalSystem.scope;

        var base64 = ai.util.encodeBase64(client_id + ':' + client_secret,
 "");

        var headers = {
            "Content-Type": "application/x-www-form-urlencoded",
            "Authorization": 'Basic ' + base64,
            "x-ms-version": "2018-11-09",
        };

        // Step 2: Send request and receive response
        var response = null;
        try {
            var url = externalSystem.token_url.replace('{tenant_id}',
 tenant_id);
            response = ai.https.request(url, method, body, headers);
        }
        catch (exception) {
            ai.log.logError('requestNewToken HTTPS Request failed', '' +
 exception);
            return false;
        }

        // Step 3: Interrogate response to see if it was successful.
        // Return true or false depending on the result.
        // Check that http communication was successful
        if (response.getHttpCode() == '200') {
            var responseBody = response.getBody();
            // Parse body and look for a success flag. Body could be xml or
            // json depending on the use case.

            // ******* parsing logic here *******
            //ai.log.logVerbose('responseBody', responseBody);
            return JSON.parse(responseBody)['access_token'];

        } else {
            ai.log.logError('got this HttpCode: ' + response.getHttpCode());
            return null;
        }
    },

    /**
     *
     * @param {*} filename
     * @param {*} access_token
     * @returns an object that looks like this: {success: false, data: null,
 httpCode: null, exception: null}
     */
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
   readCSV: function (filename, access_token) {

       let returnObj = { success: false, data: null, httpCode: null,
exception: null };

       // Step 1: Create a https request to send to your API
       var method = 'GET';

       // Setup request in body, sample is using xml, but could be json
       var body = '';

       var headers = {
           "Content-Type": "application/x-www-form-urlencoded",
           "x-ms-version": "2018-11-09",
           "Authorization": "Bearer " + access_token,
       };

       let url = externalSystem.outboundBB + filename; // +
'xxxISNOTThere';
       // Step 2: Send request and receive response
       var response = null;
       try {
           response = ai.https.request(url, method, body, headers);
       }
       catch (exception) {

           returnObj.exception = exception;
           return returnObj;
       }

       // Step 3: Interrogate response to see if it was successful.
       // Return true or false depending on the result.
       // Check that http communication was successful
       let httpCode = response.getHttpCode();
       if (httpCode == '200') {
           var responseBody = response.getBody();
           //logContentDetails(JSON.stringify(responseBody),
'responseBody', 3);
           //throw 'responseBody';
           returnObj.data = responseBody;
           returnObj.success = true;
           return returnObj;
       } else {
           returnObj.httpCode = httpCode;
           return returnObj
       }
   },

   readDirectory: function (access_token) {
       // Step 1: Create a https request to send to your API
       var method = 'GET';

       // Setup request in body, sample is using xml, but could be json
       var body = '';

       var headers = {
           "Content-Type": "application/x-www-form-urlencoded",
           "x-ms-version": "2019-12-12",
           "Authorization": "Bearer " + access_token,
       };

       // Step 2: Send request and receive response
       let url = externalSystem.listDir;
       var response = null;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        try {
            response = ai.https.request(url, method, body, headers);
        }
        catch (exception) {
            // Example of logging to the CCDS log using the Error loglevel
            ai.log.logError('readDirectory HTTPS Request failed', '' +
 exception);
            return false;
        }

        // Step 3: Interrogate response to see if it was successful.
        // Return true or false depending on the result.
        // Check that http communication was successful
        if (response.getHttpCode() == '200') {
            var responseBody = response.getBody();
            var parser = ai.xml.createParser();
            var xmlDoc = parser.parse(responseBody);
            logContentDetails(JSON.stringify(responseBody), 'responseBody');
            throw 'responseBody';
            ai.log.logVerbose('responseBody', responseBody);
            var progress = '';
            var xmlElementRoot = xmlDoc.getRootElement();
            if (xmlElementRoot) {
                progress = xmlElementRoot.getName();
                ai.log.logVerbose('xmlElementRoot', progress); // NextMarker
            }

            let children = xmlElementRoot.getChildElements();
            //logContentDetails(JSON.stringify(children), 'children');
            ai.log.logVerbose('children', JSON.stringify(children)); //
 NextMarker


            var child0 = xmlElementRoot.getChildElementAt(0);
            if (child0) {
                progress = child0.getName();
                ai.log.logVerbose('child0', progress); // Name
                var child00 = child0.getChildElementAt(0);
                if (child00) {
                    progress = child00.getName();
                    ai.log.logVerbose('child00', progress); // Name
                }
            }

            //logContentDetails(JSON.stringify(responseBody),
 'responseBody');
            throw 'responseBody';
            return responseBody;
        } else {
            ai.log.logError('readDirectory got this HttpCode: ' +
 response.getHttpCode());
            sleepX(1000);
            ai.log.logInfo('readDirectory url= ' + url);
            return null;
        }
    }
}

/**
 * Insert a single row into the staging table.
 * @param {*} rowset
 * @param {*} row
 */
function addRows(rowset, rows) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(rowset.getColumns());
    //logContentDetails(JSON.stringify(columnRemoteIds), 'columnRemoteIds');
    //throw 'columnRemoteIds';
    var row_length = columnRemoteIds.length;

    const MAX_TEST_ROWS = 20000;
    // start at 1 because 0 is the header row
    for (let rowIndex = 1; rowIndex < rows.length; rowIndex++) {
        //for (let rowIndex = 1; rowIndex < MAX_TEST_ROWS && rowIndex <
 rows.length; rowIndex++) {
        var cells = [];
        var row = rows[rowIndex];
        //logContentDetails(JSON.stringify(row), 'row');
        //throw 'row';
        if (row.length === row_length) {
            for (var columnIndex in columnRemoteIds) {

                var colIndex = columnRemoteIds[columnIndex].order;
                var colID = columnRemoteIds[columnIndex].id;
                var propType = columnRemoteIds[columnIndex].type;

                var value = row[colIndex];
                value = typeof value === 'undefined' || value === 'NaN' ?
 null : value.replace('$', '');

                // get rid of pipes
                if (propType == "TextColumn" && value !== null) {
                    value = value.replace(/\|/g, ' '); // this doesn't seem
 to be working
                    value = value.replace("|", " ");   // will this work?
 unfortunately, no :(
                }

                cells.push(value);
            }

            //logContentDetails(JSON.stringify(cells), 'cells');
            rowset.addRow(cells);
        }
        else {
            ai.log.logInfo('row ' + rowIndex + ' is wrong length. Should be
 ' + row_length + ', but is ' + rows[rowIndex].length);
            sleepX(500);
        }
    }
}

/**
 * returns an array of objects with the following properties:
 * 1. id
 * 2. type
 * 3. order
 * @param {*} columns  = context.getRowset().getColumns()
 */
function getColumnRemoteIds(columns) {
    var columnIds = [];
    for (var i = 0; i < columns.length; i++) {
        columnIds[i] = {};
        columnIds[i].id = columns[i].getId();
        columnIds[i].type = columns[i].getColumnType();
        columnIds[i].order = columns[i].getDisplayOrder() - 1; //order -
 1 to account for the initialization of 1.  Adaptive returns undesirable
 values when display order starts at 0, yet, js needs the 0 so we offset the
 delta.
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    }
    return columnIds;
}

// convert date to yyyy-mm-dd
function parseDate(value, delimeter) {
    var str = value.substring(0, 10).split(delimeter); //yyyy-mm-dd

    var Y = parseInt(str[0]);
    var M = parseInt(str[1]) - 1; // javascript months, Expected values are
 0-11
    var D = parseInt(str[2]);

    // because tenant timezone is in UTC we need to convert the date into
 UTC timezone before importing it into staging tables
    return new Date(Date.UTC(Y, M, D));
}

// convert date to mm/dd/yyyy
function parseDate_mmmyy(value, delimeter) {
    var str = value.split(delimeter); //mmm yyyy | mmm-yy
    var monthArr = ["Jan", "Feb", "Mar", "Apr", "May", "Jun", "Jul", "Aug",
 "Sep", "Oct", "Nov", "Dec"];

    var Y = parseInt(str[1]);
    var M = monthArr.indexOf(str[0]); // javascript months, Expected values
 are 0-11
    var D = 1;

    // because tenant timezone is in UTC we need to convert the date into
 UTC timezone before importing it into staging tables
    return new Date(Date.UTC(Y, M, D));
}

// ************************************************************************
// CSV to Array
// ************************************************************************
function CSVToArray(strData, strDelimiter) {
    // Check to see if the delimiter is defined. If not,
    // then default to comma.
    strDelimiter = (strDelimiter || ",");

    // Create a regular expression to parse the CSV values.
    var objPattern = new RegExp(
        (
            // Delimiters.
            "(\\" + strDelimiter + "|\\r?\\n|\\r|^)" +

            // Quoted fields.
            "(?:\"([^\"]*(?:\"\"[^\"]*)*)\"|" +

            // Standard fields.
            "([^\"\\" + strDelimiter + "\\r\\n]*))"
        ),
        "gi"
    );


    // Create an array to hold our data. Give the array
    // a default empty first row.
    var arrData = [[]];

    // Create an array to hold our individual pattern
    // matching groups.
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    var arrMatches = null;


    // Keep looping over the regular expression matches
    // until we can no longer find a match.
    while (arrMatches = objPattern.exec(strData)) {

        // Get the delimiter that was found.
        var strMatchedDelimiter = arrMatches[1];

        // Check to see if the given delimiter has a length
        // (is not the start of string) and if it matches
        // field delimiter. If id does not, then we know
        // that this delimiter is a row delimiter.
        if (
            strMatchedDelimiter.length &&
            strMatchedDelimiter !== strDelimiter
        ) {

            // Since we have reached a new row of data,
            // add an empty row to our data array.
            arrData.push([]);

        }

        var strMatchedValue;

        // Now that we have our delimiter out of the way,
        // let's check to see which kind of value we
        // captured (quoted or unquoted).
        if (arrMatches[2]) {

            // We found a quoted value. When we capture
            // this value, unescape any double quotes.
            strMatchedValue = arrMatches[2].replace(
                new RegExp("\"\"", "g"),
                "\""
            );

        } else {

            // We found a non-quoted value.
            strMatchedValue = arrMatches[3];

        }

        // Now that we have our value string, let's add
        // it to the data array.
        arrData[arrData.length - 1].push(strMatchedValue);
    }

    // Return the parsed data.
    return (arrData);
}

/**
 *
 * @param {*} milliSeconds
 */
function sleepX(milliSeconds) {
    var startTime = new Date().getTime(); // get the current time
    while (new Date().getTime() < startTime + milliSeconds);
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
/**
 * a utility function to log (1,000 bytes at a time) the content you want to
 analyze
 * NOTE - only effective when logging level is set to Verbose in Data Source
 Settings tab
 * @param {*} content - the content you want to analyze
 * @param {*} contentName - descriptor that will appear in the log file to
 help you identify what you're looking at
 * @param {*} limit - optional. If you don't want to log everthing; handy
 when you want, for example, just the header row and first few records of
 data
 */
function logContentDetails(content, contentName, limit) {

    /**
    * a utlility function - returns an array of the start and end to
 substring the content so that we can log
    * all of it in 1000-byte chunks (the max size of a verbose log detail)
    * so, for example, in the case of a 2025 length string this would
 return:
    * [ {start: 0, end: 1000},
    *   {start: 1000, end: 2000},
    *   {start: 2000, end: 2025} ]
    * @param {} content
    */
    function getChunksToLog(content) {
        var bytesRemaining = content.length;
        var array = [];
        var startByte = 0;
        var endByte = 0;
        const maxDetailSize = 1000;
        while (bytesRemaining > 0) {
            endByte = Math.min(bytesRemaining, maxDetailSize);
            array.push({ start: startByte, end: startByte + endByte });
            startByte += endByte;
            bytesRemaining -= maxDetailSize;
        }

        return array;
    }

    if (ai.util.isUndefined(content)) {
        ai.log.logVerbose(contentName + ' 000 no content to display!');
        return;
    }

    var ChunksToLogArray = getChunksToLog(content);

    var limitUse = limit ? limit : ChunksToLogArray.length;
    if (limitUse > ChunksToLogArray.length) {
        limitUse = ChunksToLogArray.length;
    }

    for (var chunkIndexer = 0; chunkIndexer < limitUse; chunkIndexer++) {
        var chunkIdentifier = chunkIndexer + 1; // humans like to see number
 sequences that start with 1
        // to make sorting the log file easier, let's make each 'chunk' a 3-
digit value with leading zeroes as necessary
        var chunkIdentifierPadded = ("000" + chunkIdentifier).slice(-3);

        ai.log.logVerbose(contentName + ' ' + chunkIdentifierPadded,
            content.substring(ChunksToLogArray[chunkIndexer].start,
 ChunksToLogArray[chunkIndexer].end));
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
        sleepX(1000); // to avoid excessive logging
    }
}

/**
 * Return ExternalSystem object's index for a given rowset.getTableId().
 * @param {*} tableId
 */
function getInternalObjectKey(tableId) {
    var rowsetId;
    for (var i = 0; i < externalSystem.tables.length; i++) {
        if (externalSystem.tables[i].name === tableId) {
            rowsetId = i;
            break;
        }
    }
    return rowsetId;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding fileNameBase we're
 using for the file
 * depends on getInternalObjectKey
 * return fileName rather than fileNameBase if fileNameBase is not present
 * @param {*} internalTableId
 */
function getFileNameBase(internalTableId) {
    if
 (ai.util.isDefined(externalSystem.tables[internalTableId].fileNameBase)) {
        return externalSystem.tables[internalTableId].fileNameBase;
    }
    return externalSystem.tables[internalTableId].fileName;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding fileExtension we're
 using for the file
 * depends on getInternalObjectKey
 * @param {*} internalTableId
 */
function getFileExtension(internalTableId) {
    return externalSystem.tables[internalTableId].fileExtension;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding filesStartNumber we're
 using for the file
 * depends on getInternalObjectKey
 * if not found, return -1; indicating this setting isn't present
 * @param {*} internalTableId
 */
function getFilesStartNumber(internalTableId) {
    if
 (ai.util.isDefined(externalSystem.tables[internalTableId].filesStartNumber))
 {
        return externalSystem.tables[internalTableId].filesStartNumber;
    }
    return -1;
}

/**
 * given an internalTableId, return the corresponding filesEndNumber we're
 using for the file
 * depends on getInternalObjectKey
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 * if not found, return -1; indicating this setting isn't present
 * @param {*} internalTableId
 */
function getFilesEndNumber(internalTableId) {
    if
 (ai.util.isDefined(externalSystem.tables[internalTableId].filesEndNumber))
 {
        return externalSystem.tables[internalTableId].filesEndNumber;
    }
    return -1;
}
```

参考: *CCDS* スクリプトのボックスの例

ボックス サンプル スクリプト

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
function testConnection(context) {

    var url = getCurrentAccountURL(),
        headers = getCurrentAccountHeader();

    //httpsPOST will throw the script, if something large is awry...
    var response = httpsGET(url, headers);

    //However, we interrogate responses here for anything minor!
    if (response.getHttpCode() == '200') {
        var responseBody = JSON.parse(response.getBody());
        ai.log.logInfo(response.getBody());
        ai.log.logInfo('Authorization confirmed for user '
 + responseBody.id, responseBody.name + ' with e-mail: ' +
 responseBody.email);
        return true;
    } else {
        ai.log.logError('Detected an undesired error code: ' +
 response.getHttpCode());
        throw 'Detected an undesired error code: ' + response.getHttpCode()
 + '.  Assess logs for details.';
    }

}

/
**************************************************************************
 *
 * functions in this file:
 *
 * addColumn(table, column)
 * addRows(rowset, rows)
 * CSVToArray(strData, strDelimiter)
 * getColumnRemoteIds(columns)
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 * getCurrentAccountBody()
 * getCurrentAccountHeader()
 * getCurrentAccountURL()
 * getFileDownloadBody()
 * getFileDownloadHeader(path)
 * getFileDownloadURL()
 * getInternalObjectKey(tableId)
 * getPath(internalTableId)
 * httpsPOST(url, body, headers)
 *
 ********************************************************************************/
function GetFileSearchResponse(searchFileName) {

    var searchURL = getSearchURL(searchFileName);
    ai.log.logInfo('searchURL: ' + searchURL);
    var searchHeader = getSearchFileHeader();
    //ai.log.logInfo('searchHeader: BDW' + searchHeader + '==<');
    var searchResponse =
 JSON.parse(httpsGET(searchURL,searchHeader).getBody());
    ai.log.logInfo('searchResponse: ' + searchResponse);
    return searchResponse;
}


//Return a URL for File Search.
function getSearchURL(searchFileName) {
        //return 'https://api.box.com/2.0/search?query=' + searchFileName +
 'file&scope=user_content&type=file&file_extensions=csv';

   return 'https://api.box.com/2.0/search?query='+ searchFileName;
}

//Return a header for File Search
function getSearchFileHeader() {
    return {
        //"Content-Type": "application/java"
    };
}


//Return a URL for csv downloads.
function getFileDownloadURL(file_id) {
    return 'https://api.box.com/2.0/files/' + file_id+ '/content';
}

//Return a body for csv downloads.
/*
function getFileDownloadBody() {
    return null;
}
*/

//Return a header for csv downloads.
function getFileDownloadHeader() {
    return {};
}


function httpsGET(url, headers) {
    //authorizedRequest is used since Box integrations leverage OAuth2.0 for
 Authorization
    try {
        response = ai.https.authorizedRequest(url, 'GET', null, headers);
        return response;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    } catch (e) {
        ai.log.logError('GET to Box failed', 'URL: ' + url + '; body: ' +
 null + '; headers: ' + JSON.stringify(headers)); //headers is an object.
 stringify it to hit logs.
        ai.log.logError('Exception caught -->', '' + e);
        throw 'Request to Box failed: ' + e;
    }
}


//Create columns with importStructure
function addColumn(table, column) {
    var recordColumn = table.addColumn(column.name);
    recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
    switch (column.type) {
        case "text":
            recordColumn.setTextColumnType(column.length);
            break;
        case "int":
            recordColumn.setIntegerColumnType();
            break;
        case "float":
            recordColumn.setFloatColumnType();
            break;
        case "boolean":
            recordColumn.setBooleanColumnType();
            break;
        case "date":
            recordColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        case "datetime":
            recordColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        default:
            recordColumn.setTextColumnType(20);
            break;
    }
    recordColumn.setDisplayOrder(column.order);
    recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || false);
    recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
    recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport || false);
    recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType || "String");
}


//Add rows to the staging area during importData.
function addRows(rowset, rows) {
    var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(rowset.getColumns());
    for (var i = 1; i < rows.length; i++) {
        if (rows[i].length == columnRemoteIds.length) {
            var cells = [];
            var row = rows[i];
            for (var x = 0; x < columnRemoteIds.length; x++) {
                var propName = columnRemoteIds[x].id,
                    propType = columnRemoteIds[x].type,
                    colIndex = columnRemoteIds[x].order;
                var value = row[colIndex];
                value = typeof value === 'undefined' || value === 'NaN' ?
 null : value.replace('$', '');
                cells.push(value);
            }
            rowset.addRow(cells);
        }
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
}



//CSVToArray - convert the response body to an array to store it in Adaptive
 tables.
//This function needs try-catch checks...
function CSVToArray(strData, strDelimiter) {


    // Check to see if the delimiter is defined. If not, then default to
 comma.
    strDelimiter = (strDelimiter || ",");


    // Create a regular expression to parse the CSV values.
    var objPattern = new RegExp(
        (
            // Delimiters.
            "(\\" + strDelimiter + "|\\r?\\n|\\r|^)" +
            // Quoted fields.
            "(?:\"([^\"]*(?:\"\"[^\"]*)*)\"|" +
            // Standard fields.
            "([^\"\\" + strDelimiter + "\\r\\n]*))"),
        "gi");


    // Create an array to hold our data. Give the array a default empty
 first row.
    var arrData = [
        []
    ];


    // Create an array to hold our individual pattern matching groups.
    var arrMatches = null;


    // Keep looping over the regular expression matches until we can no
 longer find a match.
    while (arrMatches = objPattern.exec(strData)) {

        // Get the delimiter that was found.
        var strMatchedDelimiter = arrMatches[1];

        // Check to see if the given delimiter has a length (is not the
 start of string) and if it matches
        // field delimiter. If id does not, then we know that this delimiter
 is a row delimiter.
        if (strMatchedDelimiter.length && strMatchedDelimiter !==
 strDelimiter) {

            // Since we have reached a new row of data, add an empty row to
 our data array.
            arrData.push([]);
        }

        //Now that we have our delimiter out of the way, let's check to see
 which kind of value we captured (quoted or unquoted).
        var strMatchedValue;

        if (arrMatches[2]) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            // We found a quoted value. When we capture this value, unescape
 any double quotes.
            strMatchedValue = arrMatches[2].replace(new RegExp("\"\"", "g"),
 "\"");
        } else {
            // We found a non-quoted value.
            strMatchedValue = arrMatches[3];
        }
        // Now that we have our value string, let's add it to the data
 array.
        arrData[arrData.length - 1].push(strMatchedValue);
    }
    // Return the parsed data.
    return (arrData);
}


//Takes rowset.getColumns() and returns an array of objects.
function getColumnRemoteIds(columns) {
    var columnIds = [];
    for (var i = 0; i < columns.length; i++) {
        columnIds[i] = {};
        columnIds[i].id = columns[i].getId();
        columnIds[i].type = columns[i].getColumnType();
        columnIds[i].order = columns[i].getDisplayOrder() - 1; //order -
 1 to account for the initialization of 1.  Adaptive returns undesirable
 values when display order starts at 0, yet, js needs the 0 so we offset the
 delta.
    }
    return columnIds;
}


//Return a body for testing connections
function getCurrentAccountBody() {
    return '';
}


//Return a header for testing connections
function getCurrentAccountHeader() {
    return {
        "Accept" : "application/json",
        "Content-Type" : "application/json"
    };
}


//Return a URL for testing connections.
function getCurrentAccountURL() {
    return 'https://api.box.com/2.0/users/me';
}




/
**************************************************************************
 * Our ultimate construction goal is this:
 * {"Dropbox-API-Arg" : "{"path" : "/path/2/file.csv"}""}
 *
 * Hardcoding the path is straightforward, yet making it variable and
 dependent
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
 * on the ExternalSystem object literal needs some subtle application of
 JSON
 * functions.  Here, we stringify an object, introducing escape characters,
 that
 * we remove with regex later.
**************************************************************************/
function getFilePath(internalTableId) {
    return JSON.stringify({path :
 ExternalSystem.Tables[internalTableId].path});
}


//Return ExternalSystem object's index for a given rowset.getTableId().
function getInternalObjectKey(tableId) {
    var rowsetId;
    for (var i = 0; i < ExternalSystem.Tables.length; i++) {
        if (ExternalSystem.Tables[i].name == tableId) {
            rowsetId = i;
            break;
        }
    }
    return rowsetId;
}




function httpsPOST(url, body, headers) {
    //authorizedRequest is used since Box integrations leverage OAuth2.0 for
 Authorization
    try {
        response = ai.https.authorizedRequest(url, 'POST', body, headers);
        return response;
    } catch (e) {
        ai.log.logError('POST to Box failed', 'URL: ' + url + '; body: ' +
 body + '; headers: ' + JSON.stringify(headers)); //headers is an object.
 stringify it to hit logs.
        ai.log.logError('Exception caught -->', '' + e);
        throw 'Request to Box failed: ' + e;
    }
}

function importStructure(context) {


    //Initialize variables for structure import.
    var dataSource = context.getDataSource(),
        builder = context.getStructureBuilder();


    //Structure import "info" logging...
    ai.log.logInfo('import structure ... tables = ' +
 ExternalSystem.Tables.length);


    //This outer for-loop rolls over tables defined in the ExternalSystem
 object.
    for (var i = 0; i < ExternalSystem.Tables.length; i++) {
        var externalTable = ExternalSystem.Tables[i];

        var table = builder.addTable(externalTable.name);
        table.setDisplayName(externalTable.displayName);
        function importStructure(context) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
            //Initialize variables for structure import.
            var dataSource = context.getDataSource(),
                builder = context.getStructureBuilder();


            //Structure import "info" logging...
            ai.log.logInfo('import structure ... tables = ' +
 ExternalSystem.Tables.length);


            //This outer for-loop rolls over tables defined in the
 ExternalSystem object.
            for (var i = 0; i < ExternalSystem.Tables.length; i++) {
                var externalTable = ExternalSystem.Tables[i];

                var table = builder.addTable(externalTable.name);
                table.setDisplayName(externalTable.displayName);


                //Every externalTable in ExternalSystem.Tables[i] has a
 'columns' array.
                //This loop iterates over the 'columns' array(s), while
 addColumn puts actual columns on the staging table.
                for (var j = 0; j < externalTable.columns.length; j++) {
                    addColumn(table, externalTable.columns[j]);
                }
            }
        }

        //Every externalTable in ExternalSystem.Tables[i] has a 'columns'
 array.
        //This loop iterates over the 'columns' array(s), while addColumn
 puts actual columns on the staging table.
        for (var j = 0; j < externalTable.columns.length; j++) {
            addColumn(table, externalTable.columns[j]);
        }
    }
}

function importData(context) {

    //Define script variables from context object
    var dataSource = context.getDataSource(),
        rowset = context.getRowset();

    //Allow rowset to coerce values into appropriate datatype defined at
 structure import
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);

    //Refine rowset definitions.
    var tableId = rowset.getTableId(),
        columns = rowset.getColumns();

    var searchFileName = dataSource.getSetting('SearchFileName').getValue();
    //var searchFileName = 'GLData';
    ai.log.logInfo('File',searchFileName);
    var importFiles = GetFileSearchResponse(searchFileName);
    var noOfFiles = importFiles.total_count;

    ai.log.logInfo(+ noOfFiles + ' File(s) to Import');

    var header = getFileDownloadHeader();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    for (var i = 0; i < noOfFiles; i++) {
        var fileid = importFiles.entries[i].id;
        var filename = importFiles.entries[i].name;
        var url = getFileDownloadURL(fileid);
        ai.log.logInfo('The download url is ' + url);
        //Use script generated values to pass to an authorized POST.
        var response = httpsGET(url, header);

        //ai.log.logInfo('Response ' + JSON.stringify(response.getBody()));

        //Convert csv response to an array
        var rows = CSVToArray(response.getBody());

        //an info log...
        ai.log.logInfo('Importing ' + rows.length + ' records from ' +
 filename);
        addRows(rowset, rows);

    }
}

ExternalSystem = {
    Tables: [
        {
            name : "GLData",
            displayName : "GLData",
            path : "/GLData.csv",
            columns : [
                {name : "Account", displayName : "Account", type : "text",
 length : "25", order : 1, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "Level", displayName : "Level", type : "text",
 length : "255", order : 2, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "SPLIT_LABEL", displayName : "SPLIT_LABEL", type :
 "text", length : "255", order : 3, includeByDefault : true, includeInKey :
 false, mandatoryForImport : true},
                {name : "Time", displayName : "Time", type :
 "datetime", order : 4, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "Amount", displayName : "Amount", type :
 "float", order : 5, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true}
            ]
        }
    ]
}
```

*参考: CCDS スクリプトの例*

**Delete スクリプトの例**

注： この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 構造のインポート
- データのインポート

```
/******************

Test Connection

******************/
function testConnection(context) {

    var params = config.init(context),
        parser = ai.xml.createParser(),
        res,
        root,
        xmlDoc,
        interrogationResults;

    res = ValidateLogin.call(params);
    xmlDoc = parser.parse(res.getBody());
    root = xmlDoc.getRootElement();

    interrogationResults = ValidateLogin.interrogateResponse(root, params);

    if (interrogationResults.Status === true) {
        params = interrogationResults.Parameters;
        ai.log.logVerbose('acquired session token' + params.SessionID);
        return true;
    } else {
        return false;
    }

}



/******************

Import Structure

******************/
function importStructure(context) {

    var params = config.init(context),
        parser = ai.xml.createParser(),
        res,
        root,
        xmlDoc,
        interrogationResults;

    // login to Deltek webservice
    res = ValidateLogin.call(params);
    xmlDoc = parser.parse(res.getBody());
    root = xmlDoc.getRootElement();

    interrogationResults = ValidateLogin.interrogateResponse(root, params);

    // we need the session id on subsequent webservice calls
    if (interrogationResults.Status === true) {
        params = interrogationResults.Parameters;
        ai.log.logVerbose('acquired session token ' + params.SessionID);
    } else {
        throw 'unable to retrieve SessionID';
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    res = ExecuteStoredProcedureXML.call(params);

    // brace yourself, this gets weird since we receive encoded XML in the
 XSD section of the results and thus can't parse it as is
    // we'll need to convert &lt; to < and &gt; to > and then convert that
 big string into XML and a parse-able DOM
    var resBody = res.getBody();

    // we're trying to just consume the sequence/element section of the
 encoded XSD since that's where the columns are specified and that's all we
 care about
    var firstPart = resBody.substring(resBody.indexOf('&lt;xs:choice
 minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"&gt;') + '&lt;xs:choice minOccurs="0"
 maxOccurs="unbounded"&gt;'.length);
    var secondPart = firstPart.substring(0, firstPart.indexOf('&lt;/
xs:choice&gt;'));

    firstPart =
 secondPart.substring(secondPart.indexOf('&lt;xs:complexType&gt;') +
 '&lt;xs:complexType&gt;'.length);
    secondPart = firstPart.substring(0, firstPart.indexOf('&lt;/
xs:complexType&gt;'));

    // here's where we decode the encoded XML
    // Again note that we're only in the XSD area, the data is in a separate
 section of the resBody
    var actualString = secondPart.replace(/&lt;/g, '<').replace(/&gt;/g,
 '>');

    ai.log.logInfo('actual string', '' + actualString);


    //Adaptive structure initialization.
    var builder = context.getStructureBuilder();

    xmlDoc = parser.parse(actualString);
    root = xmlDoc.getRootElement(); ai.log.logInfo('root name: ' +
 root.getName());

    var tableSchema = root;

    var table = builder.addTable('AdaptiveInsightsActualsSelect');

    for (var i = 0; i < tableSchema.getChildElements().length; i++) {
        var column = tableSchema.getChildElementAt(i);
        addColumn(table, column, i);
    }

    return true;

}

/******************

Import Data

******************/
function importData(context) {
    var params = config.init(context),
        parser = ai.xml.createParser(),
        res,
        root,
        xmlDoc,
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        dataRoot,
        dataXmlDoc,
        interrogationResults;

    // login to Deltek webservice
    res = ValidateLogin.call(params);
    xmlDoc = parser.parse(res.getBody());
    root = xmlDoc.getRootElement();

    interrogationResults = ValidateLogin.interrogateResponse(root, params);

    // we need the session id on subsequent webservice calls
    if (interrogationResults.Status === true) {
        params = interrogationResults.Parameters;
        ai.log.logVerbose('acquired session token ' + params.SessionID);
    } else {
        throw 'unable to retrieve SessionID';
    }

    res = ExecuteStoredProcedureXML.call(params);
    // brace yourself, this gets weird since we receive encoded XML in
 results and thus can't parse it as is
    // we'll need to convert &lt; to < and &gt; to > and then convert that
 big string into XML and a parse-able DOM
    var resBody = res.getBody();

    // this string denotes the NewDataSet section of the results
    var START_NEWDATASET = '<ExecuteStoredProcedureXMLResult>';

    // this string denotes the end of the NewDataSet results
    var END_NEWDATASET = '</ExecuteStoredProcedureXMLResult>';

    // we want to capture everything in between START_NEWDATASET and
 END_NEWDATASET and translate encoded XML to decoded XML so we can parse it
    var firstPart = resBody.substring(resBody.indexOf(START_NEWDATASET) +
 START_NEWDATASET.length);
    var secondPart = firstPart.substring(0,
 firstPart.indexOf(END_NEWDATASET));
    //ai.log.logInfo('raw text length before replacing chars', '' +
 secondPart.length);

    // here's where we decode the encoded XML
    // Again note that we're in the data area, the XSD was processed in
 importStructure()
    var actualString = secondPart.replace(/&lt;/g, '<').replace(/&gt;/g,
 '>');
    //ai.log.logInfo('raw text length after replacing < and >', '' +
 actualString.length);

    // we may need to decode additional encoded strings such as quotes and
 apostrophes, etc.
    // so, as these are discovered, use this section as a model; shown here
 is converting an inverted exclamation mark and ampersands
    actualString = actualString.replace(/&iexcl;/g, '¡');

    /*
       Note - the data coming back to use from the SP appears to have
 incorrectly-formatted encoded ampersands
       normally, an encoded ampersand is &amp;, but we're getting &amp;amp;
 - hence the following weird replacement
       here's a useful URL showing typical XML/HTML encodings:
       https://www.web2generators.com/html-based-tools/online-html-entities-
encoder-and-decoder
    */
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    actualString = actualString.replace(/&amp;amp;/g, '&'); // was (/
&amp;amp;/g, 'ampersand')

    /* We have to do some pre-processing here, otherwise the 'XML' content
 won't parse properly and we'll end up
       with far fewer records than are actually in the input received from
 the web service call.
       The issue is that there are some (unknown to us) characters found in
 the AccountName that cause our parser to fail.
       The workaround is to nullify that content before attempting to parse
 the big blob of XML.
    */
    var revisedString = '';
    var lines = actualString.split('\n');
    for (lineIndex = 0; lineIndex < lines.length; lineIndex++) {
        if (lines[lineIndex].includes("<AccountName>")) {
            revisedString = revisedString + '<AccountName/>';
        }
        // Organization appears to NOT have this problem of invalid
 characters so leaving this as a comment
        // just in case that situation should change...
        //else if (lines[lineIndex].includes("<Organization>")) {
            //revisedString = revisedString + '<Organization/>';
        //}
        else {
            revisedString = revisedString + lines[lineIndex];
        }
    }
    actualString = revisedString;


    dataXmlDoc = parser.parse(actualString);
    dataRoot = dataXmlDoc.getRootElement();
    //ai.log.logInfo('root name: ' + dataRoot.getName() + ' xmlDoc length: '
 + dataXmlDoc.toString().length); // s/b Tables

    var tableData = dataRoot;

    var rowset = context.getRowset();

    rowset.setSmartParsingEnabled(true);

    var theRecords = tableData.getChildElements();
    ai.log.logInfo('theRecords has this many records: ', '' +
 theRecords.length);


    for (var recordIndex = 0; recordIndex < theRecords.length; recordIndex+
+) {
        // the first chunk of returned content is the XSD; we need to ignore
 it; we only want the 'data'
        if (theRecords[recordIndex].getName() == 'xs:schema') {continue;}

        var cells = []; // where the data will go into the rowset; these
 must be populated in rowset/cell order (see importStructure method)
        var nextTableRecord = tableData.getChildElementAt(recordIndex);

        for (columnIndex = 0; columnIndex < rowset.getColumns().length;
 columnIndex++) {
            var rowSetColumnID = rowset.getColumns()[columnIndex].getId();
            var nextRecordColumn =
 nextTableRecord.getChildElement(rowSetColumnID);
            var columnValue = nextRecordColumn.getText(); // 12.3400 - the
 data we want to stuff into the cells array
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
            // var columnName = nextRecordColumn.getName();  // DebitAmount
 - the index of the cells array to hold the data
            cells.push(columnValue);
        }

        rowset.addRow(cells);
        // onto next record indexed by recordIndex
    }

    return true;

}


/******************

Supporting Functions

******************/
function generateLoginConnInfo(params) {

    var visionDoc = ai.xml.createDocument();

    var visionRoot = ai.xml.createElement('VisionConnInfo'),
        userEl = ai.xml.createElement('userName'),
        passwordEl = ai.xml.createElement('userPassword'),
        databaseEl = ai.xml.createElement('databaseDescription'),
        securityEl = ai.xml.createElement('integratedSecurity');

    userEl.setText(params.userName);
    passwordEl.setText(params.userPassword);
    databaseEl.setText(params.databaseDescription);
    securityEl.setText(params.integratedSecurity);

    visionDoc.setRootElement(visionRoot);
    visionRoot.addChildElement(databaseEl);
    visionRoot.addChildElement(userEl);
    visionRoot.addChildElement(passwordEl);
    visionRoot.addChildElement(securityEl);

    var soapDoc = ai.xml.createDocument(),
        soapRoot = ai.xml.createElement('del:ConnInfoXML');

    soapRoot.setCDATAText(visionDoc.toString());
    soapDoc.setRootElement(soapRoot);

    //ai.log.logVerbose('Successfully set ValidateLogin CDATA');

    return soapDoc.toString();

}

function generateExecuteSprocConnInfo(params) {

    var visionDoc = ai.xml.createDocument();

    var visionRoot = ai.xml.createElement('VisionConnInfo'),
        sessionEl = ai.xml.createElement('SessionID');

    sessionEl.setText(params.SessionID);
    visionRoot.addChildElement(sessionEl);

    visionDoc.setRootElement(visionRoot);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    var soapDoc = ai.xml.createDocument(),
        soapRoot = ai.xml.createElement('del:ConnInfoXML');

    soapRoot.setCDATAText(visionDoc.toString());
    soapDoc.setRootElement(soapRoot);

    //ai.log.logVerbose('Successfully set ExecuteSprocConnInfo CDATA');

    return soapDoc.toString();

}

function getPeriodString(date, format) {
    var period = '';
    switch (format) {
        case 'yyyymm':
            if (date.getMonth() + 1 < 10) {
                period += date.getFullYear() + '0' + (date.getMonth() + 1);
            } else {
                period += date.getFullYear() + '' + (date.getMonth() + 1);
            }
            break;
        default:
            ai.log.logInfo('Error encountered in
 config.getPeriodString(date, format)');
            ai.log.logError('Unknown date string format ' + format, 'Please
 update script and try again.');
            throw 'Unknown date string format ' + format;
    }
    return period;
}


function generateExecuteSprocParameters(params) {

    var dataDoc = ai.xml.createDocument();

    var dataRoot = ai.xml.createElement('data'),
        startPeriod = ai.xml.createElement('param'),
        endPeriod = ai.xml.createElement('param');

    var startDate = params.startDate;
    var endDate = params.endDate;

     ai.log.logVerbose('startDate from params is: ' + startDate, 'endDate
 from params is: ' + endDate);

    startPeriod.setAttribute('name','@startperiod');
    startPeriod.setText(startDate);

    endPeriod.setAttribute('name','@endperiod');
    endPeriod.setText(endDate);

    dataRoot.addChildElement(startPeriod);
    dataRoot.addChildElement(endPeriod);

    // we're trying to programmatically create the equivalent of this ...
    //dataRoot.setText('<param name="@startperiod">201805</param><param
 name="@endperiod">201805</param>');

    dataDoc.setRootElement(dataRoot);

    var soapDoc = ai.xml.createDocument(),
        soapRoot = ai.xml.createElement('del:ParameterXML');
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    soapRoot.setCDATAText(dataDoc.toString());
    soapDoc.setRootElement(soapRoot);

    //ai.log.logVerbose('soapRoot for SP call is : ', dataDoc.toString());
    //ai.log.logVerbose('Successfully set ExecuteSprocParams CDATA');

    return soapDoc.toString();

}

//adds column definitions to a staging table during importStructure
function addColumn(table, column, index) {

    var stagingColumn = table.addColumn(column.getAttributeValue('name'));
    stagingColumn.setDisplayName(column.getAttributeValue('name'));

    var type = column.getAttributeValue('type');

    //ensuring display order is always positive.
    stagingColumn.setDisplayOrder(index + 1);

    switch (xsdTypeMap[type]) {
        case "text":
            var len;
            try {
                len = column.getAttributeValue('length');
            } catch(e) {
                //ai.log.logVerbose('no \'length\' attribute found for
 column: ' + column.getAttributeValue('name'), '' + e);
                len = 500; //do not exceed 4000
            }
            stagingColumn.setTextColumnType(len);
            break;
        case "int":
            stagingColumn.setIntegerColumnType();
            break;
        case "float":
            stagingColumn.setFloatColumnType();
            break;
        case "boolean":
            stagingColumn.setBooleanColumnType();
            break;
        case "datetime":
            stagingColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        default:
            ai.log.logError('unknown xsd type ' + type, 'Update structure
 script appropriately');
            throw 'unknown xsd type: ' + type;
    }

}


//we leverage the report response and xsd datatype map to align with
 Adaptive data structures.
//add more lines to the map for additional datatype support.
xsdTypeMap = {
    //https://www.w3schools.com/xml/schema_dtypes_string.asp
    //"xs:ENTITIES": 'text',
    //"xs:ENTITY": 'text',
    //"xs:ID": 'text',                  //A string that represents the ID
 attribute in XML (only used with schema attributes)
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    //"xs:IDREF": 'text',               //A string that represents the IDREF
 attribute in XML (only used with schema attributes)
    //"xs:IDREFS": 'text',
    //"xs:language": 'text',          //A string that contains a valid
 language id
    //"xs:Name": 'text',               //A string that contains a valid XML
 name
    //"xs:NCName": 'text',
    //"xs:NMTOKEN": 'text',           //A string that represents the NMTOKEN
 attribute in XML (only used with schema attributes)
    //"xs:NMTOKENS": 'text',
    //"xs:normalizedString": 'text',  //A string that does not contain line
 feeds, carriage returns, or tabs
    //"xs:QName": 'text',
    "xs:string": 'text',               //A string
    "xs:token": 'text',               //A string that does not contain line
 feeds, carriage returns, tabs, leading or trailing spaces, or multiple
 spaces

    //https://www.w3schools.com/xml/schema_dtypes_date.asp
    "xs:date": 'datetime',               //Defines a date value
    "xs:dateTime": 'datetime',        //Defines a date and time value
    "xs:duration": 'text',               //Defines a time interval
    "xs:gDay": 'text',                   //Defines a part of a date - the
 day (DD)
    "xs:gMonth": 'text',              //Defines a part of a date - the
 month (MM)
    "xs:gMonthDay": 'text',          //Defines a part of a date - the month
 and day (MM-DD)
    "xs:gYear": 'text',              //Defines a part of a date - the year
 (YYYY)
    "xs:gYearMonth": 'text',          //Defines a part of a date - the year
 and month (YYYY-MM)
    "xs:time": 'text',                   //Defines a time value

    //https://www.w3schools.com/xml/schema_dtypes_numeric.asp
    "xs:byte": 'int',                   //A signed 8-bit integer
    "xs:decimal": 'float',               //A decimal value
    "xs:int": 'int',                  //A signed 32-bit integer
    "xs:integer": 'int',              //An integer value
    "xs:long": 'text',                   //A signed 64-bit integer
    "xs:negativeInteger": 'int',      //An integer containing only negative
 values (..,-2,-1)
    "xs:nonNegativeInteger": 'int',   //An integer containing only non-
negative values (0,1,2,..)
    "xs:nonPositiveInteger": 'int',   //An integer containing only non-
positive values (..,-2,-1,0)
    "xs:positiveInteger": 'int',      //An integer containing only positive
 values (1,2,..)
    "xs:short": 'int',                   //A signed 16-bit integer
    "xs:unsignedLong": 'text',           //An unsigned 64-bit integer
    "xs:unsignedInt": 'int',          //An unsigned 32-bit integer
    "xs:unsignedShort": 'int',           //An unsigned 16-bit integer
    "xs:unsignedByte": 'int',           //An unsigned 8-bit integer

    //https://www.w3schools.com/xml/schema_dtypes_misc.asp
    //"xs:anyURI": 'text',
    //"xs:base64Binary": 'text',
    "xs:boolean": 'boolean',
    "xs:float": 'float',
    "xs:double": 'float'
    //"xs:hexBinary": 'text',
    //"xs:NOTATION": 'text',
};
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
/
*****************************************************************************************

Deltek Vision Config and SOAP Methods

config = {
    //config.init(context) initializes all parameter values that don't need
 to be extracted programmatically.
    init: function(context) {
        var params = {};

        params.databaseDescription = this._databaseDescription(context);
        params.url = this._url(context);
        params.userPassword = this._userPassword(context);
        params.userName = this._userName(context);
        params.integratedSecurity = this._integratedSecurity(context);
        params.endDate = this._getEndDate(context, 'yyyymm');
        params.startDate = this._getStartDate(context, 'yyyymm');

        return params;
    },
    //returns the configured URL value.  Used by config.init(context)
    _url: function(context) {
        return 'https://woodardcurran.deltekfirst.com/woodardcurran/
visionws.asmx';
    },

    //returns the user's password from a designer setting.  Used by
 config.init(context)
    _databaseDescription: function(context) {
        var dataSource = context.getDataSource(),
            databaseDescription;

        try {
            databaseDescription =
 dataSource.getSetting("databaseDescription").getValue();
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "databaseDescription"',
 'Please create Static Designer Setting "databaseDescription"');
            throw 'Couldn\'t find setting "databaseDescription"';
        }

        return databaseDescription;
    },

    //returns a setting for leveraging integrated security into the Deltek
 databases
    _integratedSecurity: function(context) {
        return 'N';
    },

    //returns the user's password from a designer setting.  Used by
 config.init(context)
    _userPassword: function(context) {
        var dataSource = context.getDataSource(),
            password;

        try {
            password = dataSource.getSetting("userPassword").getValue();
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "userPassword"', 'Please
 create Static Designer Setting "userPassword"');
            throw 'Couldn\'t find setting "userPassword"';
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        }

        return password;
    },

    //returns the userName from a designer setting.  Used by
 config.init(context)
    _userName: function(context) {
        var dataSource = context.getDataSource(),
            userName;

        try {
            userName = dataSource.getSetting("userName").getValue();
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "userName"', 'Please
 create Static Designer Setting "userName"');
            throw 'Couldn\'t find setting "userName"';
        }

        return userName;
    },

    _getEndDate: function(context, format) {
        var dataSource, dateString;

        try {
            dataSource = context.getDataSource();
        }
        catch (ex) {
            ai.log.logError('Couldn\'t getDataSource in getEndDate "');
        }

        try {
            dateString = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getToPeriodStartDateTime().substring(0, 10);
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Period Range"', 'Please
 create Parameterized Designer Setting "Period Range"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Period Range"';
        }
        var date = new Date((dateString.substring(5) + '-' +
 dateString.substring(0, 4)).replace(/-/g, '/'));

        return getPeriodString(date, format);
    },

    _getStartDate: function(context, format) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        var dateString;
        try {
            dateString = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriodStartDateTime().substring(0, 10);
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Period Range"', 'Please
 create Parameterized Designer Setting "Period Range"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Period Range"';
        }
        var date = new Date((dateString.substring(5) + '-' +
 dateString.substring(0, 4)).replace(/-/g, '/'));

        return getPeriodString(date, format);
    }

};
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
/
*****************************************************************************
 *
 * this is the 'methods' block.
 *
 * we call the following UltiPro methods in a given RaaS integration
 *  - /ValidateLogin
 * each have a specific request body, and response.  sometimes they provide
 inputs to other methods.
 * therefore, each method "class" builds requests and interrogates responses
 in its own way.
 *
*****************************************************************************/

//used to acquire a session token.
ValidateLogin = {
    call: function(params) {
        var body = this._body(params),
            headers = this._headers(),
            method = this._method(),
            url = this._url(params),
            res;

        res = ai.https.request(url, method, body, headers);

        if (res.getHttpCode() != '200') {
            ai.log.logError('Unsuccessful request to ValidateLogin service',
 'Please check message contents / request structure and try again.');
            throw 'Unsuccessful request to ValidateLogin service';
        }
        return res;

    },
    interrogateResponse: function(xml, params) {
        var loginResult;

        try {
            loginResult =
 xml.getChildElement('ValidateLoginResponse').getChildElement('ValidateLoginResult').get
        } catch(e) {
            ai.log.logError('unable to acquire SessionID', '' + e);
            throw 'unable to acquire SessionID';
        }

        if(loginResult) {
            params.SessionID = loginResult;
            return {"Status" : true, "Parameters" : params};
        } else {
            return {"Status" : false};
        }
    },
    _body: function(params) {
        var req =
        '<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/
envelope/" xmlns:del="http://tempuri.org/Deltek.Vision.WebServiceAPI.Server/
DeltekVisionOpenAPIWebService">' +
            '<soapenv:Header/>' +
            '<soapenv:Body>' +
                '<del:ValidateLogin>' +
                    generateLoginConnInfo(params) +
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                '</del:ValidateLogin>' +
            '</soapenv:Body>' +
        '</soapenv:Envelope>';

        //ai.log.logVerbose('ValidateLogin request body -->', '' + req);

        return req;
    },
    _headers: function() {
        return {"Content-Type": "text/xml;charset=utf-8"};
    },
    _method: function() {
        return 'POST';
    },
    _url: function(params) {
        return params.url;
    }
};

/
*****************************************************************************
The ExecuteStoredProcedureXML output will need to be inferred from the
 output from other code in this script.
*****************************************************************************/


//used to acquire stored procedure results.
ExecuteStoredProcedureXML = {
    call: function(params) {
        var body = this._body(params),
            headers = this._headers(),
            method = this._method(),
            url = this._url(params),
            res;

        //ai.log.logInfo('Time of request: ' + new Date());

        res = ai.https.request(url, method, body, headers);

        if (res.getHttpCode() != '200') {
            ai.log.logError('Unsuccessful request to
 ExecuteStoredProcedureXML service', 'Please check message contents /
 request structure and try again.');
            throw 'Unsuccessful request to ExecuteStoredProcedureXML
 service';
        }
        ai.log.logInfo('returning the response');
        return res;
    },

    // Note - params is not used in this method
    interrogateResponse: function(xml, params) {
        var execResult;

        try {
            execResult =
 xml.getChildElement('ExecuteStoredProcedureXMLResponse').getChildElement('ExecuteStored
        } catch(e) {
            ai.log.logError('unable to acquire
 ExecuteStoredProcedureXMLResult', '' + e);
            throw 'unable to acquire ExecuteStoredProcedureXMLResult';
        }

        return execResult;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    },
    _body: function(params) {

        ai.log.logInfo('start: ' + params.startDate, 'end: ' +
 params.endDate);

        var req =
        '<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/
envelope/" xmlns:del="http://tempuri.org/Deltek.Vision.WebServiceAPI.Server/
DeltekVisionOpenAPIWebService">' +
            '<soapenv:Header/>' +
            '<soapenv:Body>' +
                '<del:ExecuteStoredProcedureXML>' +
                    generateExecuteSprocConnInfo(params) +
                    '<del:SprocName>AdaptiveInsightsActualsSelect</
del:SprocName>' +
                    generateExecuteSprocParameters(params) +
                '</del:ExecuteStoredProcedureXML>' +
            '</soapenv:Body>' +
        '</soapenv:Envelope>';

        ai.log.logVerbose('ExecuteStoredProcedureXML request body -->', '' +
 req);

        return req;
    },
    _headers: function() {
        return {"Content-Type": "text/xml;charset=utf-8"};
    },
    _method: function() {
        return 'POST';
    },
    _url: function(params) {
        return params.url;
    }
};
```

参考: *CCDS* スクリプト ドロップボックスの例

ドロップボックスのサンプル スクリプト

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
/******************

Preview Data

******************/
/* JavaScript Document */
function previewData(context)
{
    // not supported
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
/******************

Test Connection

******************/

// The script utilizes OAuth2.0 to connect and retrieve the files from
 Dropbox. Create OAuth 2.0 credentail and associate it with the CCDS
 datasource.

function testConnection(context) {

    var url = getCurrentAccountURL(),
        body = getCurrentAccountBody(),
        headers = getCurrentAccountHeader();

    //httpsPOST will throw the script, if something large is awry...
    var response = httpsPOST(url, body, headers);

    //However, we interrogate responses here for anything minor!
    if (response.getHttpCode() == '200') {
        var responseBody = JSON.parse(response.getBody());
        ai.log.logInfo('Authorization confirmed for user ' +
 responseBody.account_id, responseBody.name.display_name + ' with e-mail: '
 + responseBody.email);
        return true;
    } else {
        ai.log.logError('Detected an undesired error code: ' +
 response.getHttpCode());
        throw 'Detected an undesired error code: ' + response.getHttpCode()
 + '.  Assess logs for details.';
    }

}


/******************

Import Structure

******************/

function importStructure(context) {


    //Initialize variables for structure import.
    var dataSource = context.getDataSource(),
        builder = context.getStructureBuilder();


    //Structure import "info" logging...
    ai.log.logInfo('import structure ... tables = ' +
 ExternalSystem.Tables.length);


    //This outer for-loop rolls over tables defined in the ExternalSystem
 object.
    for (var i = 0; i < ExternalSystem.Tables.length; i++) {
        var externalTable = ExternalSystem.Tables[i];

        var table = builder.addTable(externalTable.name);
        table.setDisplayName(externalTable.displayName);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        //Every externalTable in ExternalSystem.Tables[i] has a 'columns'
 array.
        //This loop iterates over the 'columns' array(s), while addColumn
 puts actual columns on the staging table.
        for (var j = 0; j < externalTable.columns.length; j++) {
            addColumn(table, externalTable.columns[j]);
        }
    }
}

ExternalSystem = {
    Tables: [
        {
            name : "FILE1",
            displayName : "File 1",
            path : "/Captain/FILE1.csv",
            columns : [
                {name : "PERIOD", displayName : "PERIOD", type : "text",
 length : "25", order : 1, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "ACCOUNT", displayName : "ACCOUNT", type : "text",
 length : "255", order : 2, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "LEVEL", displayName : "LEVEL", type : "text",
 length : "255", order : 3, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "SPLIT_LABEL", displayName : "SPLIT_LABEL", type :
 "text", length : "255", order : 4, includeByDefault : true, includeInKey :
 false, mandatoryForImport : true},
                {name : "BALANCE", displayName : "BALANCE", type :
 "float", order : 5, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
            ]
        },
        {
            name : "FILE2",
            displayName : "File 2",
            path : "/Captain/FILE2.csv",
            columns : [
                {name : "PERIOD", displayName : "PERIOD", type : "text",
 length : "25", order : 1, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "ACCOUNT", displayName : "ACCOUNT", type : "text",
 length : "255", order : 2, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
                {name : "NOT_LEVEL", displayName : "NOT_LEVEL", type :
 "text", length : "255", order : 3, includeByDefault : true, includeInKey :
 false, mandatoryForImport : true},
                {name : "SPLIT_LABEL", displayName : "SPLIT_LABEL", type :
 "text", length : "255", order : 4, includeByDefault : true, includeInKey :
 false, mandatoryForImport : true},
                {name : "BALANCE", displayName : "BALANCE", type :
 "float", order : 5, includeByDefault : true, includeInKey : false,
 mandatoryForImport : true},
            ]
        }
    ]
}

/******************

Import Data
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
******************/


function importData(context) {

    //Define script variables from context object
    var dataSource = context.getDataSource(),
        rowset = context.getRowset();

    //Allow rowset to coerce values into appropriate datatype defined at
 structure import
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);

    //Refine rowset definitions.
    var tableId = rowset.getTableId(),
        columns = rowset.getColumns();

    //Use the tableId, defined in the structure process (and ExternalSystem
 object) to soon unarchive the appropriate file path.
    var internalTableId = getInternalObjectKey(tableId);

    //Return relative file path from ExternalSystem definition.
    var path = getFilePath(internalTableId);

    //File API specifics, with help from the scripts...
    var url = getFileDownloadURL(),
        body = getFileDownloadBody(),
        headers = getFileDownloadHeader(path);

    //Use script generated values to pass to an authorized POST.
    var response = httpsPOST(url, body, headers);

    //Convert csv response to an array
    var rows = CSVToArray(response.getBody());

    //an info log...
    ai.log.logInfo('Found ' + rows.length + ' records in ' + path, 'Starting
 import...');
    addRows(rowset, rows);
}

/
*******************************************************************************
 *
 * functions in this file:
 *
 * addColumn(table, column)
 * addRows(rowset, rows)
 * CSVToArray(strData, strDelimiter)
 * getColumnRemoteIds(columns)
 * getCurrentAccountBody()
 * getCurrentAccountHeader()
 * getCurrentAccountURL()
 * getFileDownloadBody()
 * getFileDownloadHeader(path)
 * getFileDownloadURL()
 * getFilePath(internalTableId)
 * getInternalObjectKey(tableId)
 * httpsPOST(url, body, headers)
 *
 *******************************************************************************/
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
//Create columns with importStructure
function addColumn(table, column) {
    var recordColumn = table.addColumn(column.name);
    recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
    switch (column.type) {
        case "text":
            recordColumn.setTextColumnType(column.length);
            break;
        case "int":
            recordColumn.setIntegerColumnType();
            break;
        case "float":
            recordColumn.setFloatColumnType();
            break;
        case "boolean":
            recordColumn.setBooleanColumnType();
            break;
        case "date":
            recordColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        case "datetime":
            recordColumn.setDateTimeColumnType();
            break;
        default:
            recordColumn.setTextColumnType(20);
            break;
    }
    recordColumn.setDisplayOrder(column.order);
    recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || false);
    recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
    recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport || false);
    recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType || "String");
}


//Add rows to the staging area during importData.
function addRows(rowset, rows) {
    var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(rowset.getColumns());
    for (var i = 1; i < rows.length; i++) {
        if (rows[i].length == columnRemoteIds.length) {
            var cells = [];
            var row = rows[i];
            for (var x = 0; x < columnRemoteIds.length; x++) {
                var propName = columnRemoteIds[x].id,
                    propType = columnRemoteIds[x].type,
                    colIndex = columnRemoteIds[x].order;
                var value = row[colIndex];
                value = typeof value === 'undefined' || value === 'NaN' ?
 null : value.replace('$', '');
                cells.push(value);
            }
            rowset.addRow(cells);
        }
    }
}



//CSVToArray - convert the response body to an array to store it in Adaptive
 tables.
//This function needs try-catch checks...
function CSVToArray(strData, strDelimiter) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   // Check to see if the delimiter is defined. If not, then default to
comma.
   strDelimiter = (strDelimiter || ",");


   // Create a regular expression to parse the CSV values.
   var objPattern = new RegExp(
       (
           // Delimiters.
           "(\\" + strDelimiter + "|\\r?\\n|\\r|^)" +
           // Quoted fields.
           "(?:\"([^\"]*(?:\"\"[^\"]*)*)\"|" +
           // Standard fields.
           "([^\"\\" + strDelimiter + "\\r\\n]*))"),
       "gi");


   // Create an array to hold our data. Give the array a default empty
first row.
   var arrData = [
       []
   ];


   // Create an array to hold our individual pattern matching groups.
   var arrMatches = null;


   // Keep looping over the regular expression matches until we can no
longer find a match.
   while (arrMatches = objPattern.exec(strData)) {

       // Get the delimiter that was found.
       var strMatchedDelimiter = arrMatches[1];

       // Check to see if the given delimiter has a length (is not the
start of string) and if it matches
       // field delimiter. If id does not, then we know that this delimiter
is a row delimiter.
       if (strMatchedDelimiter.length && strMatchedDelimiter !==
strDelimiter) {

           // Since we have reached a new row of data, add an empty row to
our data array.
           arrData.push([]);
       }

       //Now that we have our delimiter out of the way, let's check to see
which kind of value we captured (quoted or unquoted).
       var strMatchedValue;

       if (arrMatches[2]) {

           // We found a quoted value. When we capture this value, unescape
any double quotes.
           strMatchedValue = arrMatches[2].replace(new RegExp("\"\"", "g"),
"\"");
       } else {
           // We found a non-quoted value.
           strMatchedValue = arrMatches[3];
       }
       // Now that we have our value string, let's add it to the data
array.
       arrData[arrData.length - 1].push(strMatchedValue);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    }
    // Return the parsed data.
    return (arrData);
}


//Takes rowset.getColumns() and returns an array of objects.
function getColumnRemoteIds(columns) {
    var columnIds = [];
    for (var i = 0; i < columns.length; i++) {
        columnIds[i] = {};
        columnIds[i].id = columns[i].getId();
        columnIds[i].type = columns[i].getColumnType();
        columnIds[i].order = columns[i].getDisplayOrder() - 1; //order -
 1 to account for the initialization of 1.  Adaptive returns undesirable
 values when display order starts at 0, yet, js needs the 0 so we offset the
 delta.
    }
    return columnIds;
}


//Return a body for testing connections
function getCurrentAccountBody() {
    return 'null';
}


//Return a header for testing connections
function getCurrentAccountHeader() {
    return {
        "Content-Type": "application/json"
    };
}


//Return a URL for testing connections.
function getCurrentAccountURL() {
    return 'https://api.dropboxapi.com/2/users/get_current_account';
}


//Return a body for csv downloads.
function getFileDownloadBody() {
    return null;
}


//Return a header for csv downloads.
function getFileDownloadHeader(path) {
    var regex = /\\/g; //as mentioned at getFilePath(), this line supports
 the strategic use of JSON functions to refine the path / Dropbox-API-Arg
 headers.
    var header = {
        "Dropbox-API-Arg" : path.replace(regex, null),
        "Content-Type": "text/plain"
    }; //the replace function here eliminates escape characters like '\'
    return header;
}


//Return a URL for csv downloads.
function getFileDownloadURL() {
    return 'https://content.dropboxapi.com/2/files/download';
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
}


/
*****************************************************************************
 * Our ultimate construction goal is this:
 * {"Dropbox-API-Arg" : "{"path" : "/path/2/file.csv"}""}
 *
 * Hardcoding the path is straightforward, yet making it variable and
 dependent
 * on the ExternalSystem object literal needs some subtle application of
 JSON
 * functions.  Here, we stringify an object, introducing escape characters,
 that
 * we remove with regex later.
*****************************************************************************/
function getFilePath(internalTableId) {
    return JSON.stringify({path :
 ExternalSystem.Tables[internalTableId].path});
}


//Return ExternalSystem object's index for a given rowset.getTableId().
function getInternalObjectKey(tableId) {
    var rowsetId;
    for (var i = 0; i < ExternalSystem.Tables.length; i++) {
        if (ExternalSystem.Tables[i].name == tableId) {
            rowsetId = i;
            break;
        }
    }
    return rowsetId;
}


function httpsPOST(url, body, headers) {
    //authorizedRequest is used since Dropbox integrations leverage OAuth2.0
 for Authorization
    try {
        response = ai.https.authorizedRequest(url, 'POST', body, headers);
        return response;
    } catch (e) {
        ai.log.logError('POST to dropbox failed', 'URL: ' + url + '; body: '
 + body + '; headers: ' + JSON.stringify(headers)); //headers is an object.
 stringify it to hit logs.
        ai.log.logError('Exception caught -->', '' + e);
        throw 'Request to dropbox failed: ' + e;
    }
}
```

*参考: CCDS スクリプトの例 Googlebiquery*

**Google WhatQuery サンプル スクリプト**

注： この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
/******************

Test Connection

******************/
function testConnection(context) {

    var dataSource = context.getDataSource();
    var projectId = dataSource.getSetting('projectId').getValue();
    var datasetId = dataSource.getSetting('datasetId').getValue();
    var url = 'https://www.googleapis.com/bigquery/v2/projects/' + projectId
 + '/datasets/' + datasetId +'?maxResults=1';

    try {
        httpsGET(url);
    } catch(e) {
        ai.log.logInfo('error logging in...', 'confirm user privileges for
 dataset access- ' + projectId + ':' + datasetId);
        ai.log.logError('message from service', '' + e);
        return false;
    }
    ai.log.logInfo('success!', 'user authentication is valid for ' +
 projectId + ':' + datasetId);
    return true;

}


/******************

Import Structure

******************/
function importStructure(context) {
    var dataSource = context.getDataSource();
    var projectId = dataSource.getSetting('projectId').getValue();
    var datasetId = dataSource.getSetting('datasetId').getValue();

    var builder = context.getStructureBuilder();

    //generate URL to find all tables in project:dataset
    var url = 'https://www.googleapis.com/bigquery/v2/projects/' + projectId
 + '/datasets/' + datasetId +'/tables';

    //there's a try-catch built into this function
    var response = httpsGET(url);

    //initialize array of tables from response
    var bigQueryTables = JSON.parse(response).tables;
    ai.log.logInfo('tables', JSON.stringify(bigQueryTables));

    ai.log.logInfo('found ' + bigQueryTables.length + ' table(s) in ' +
 projectId + ':' + datasetId);

    //iterate over table array
    for(var i = 0; i < bigQueryTables.length; i++){

        //set current table for structure import
        var currentTable = bigQueryTables[i].tableReference.tableId;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
        try {
            ai.log.logVerbose('adding table: ' + currentTable);

            //CCDS APIs to add table
            var table = builder.addTable(currentTable);
            table.setDisplayName(currentTable);

            //generate URL to return current table's metadata
            url = 'https://www.googleapis.com/bigquery/v2/projects/' +
 projectId + '/datasets/' + datasetId + '/tables/' + currentTable;
            var fieldSet = JSON.parse(httpsGET(url)).schema.fields;

            //build column structure
            for(var j = 0; j < fieldSet.length; j++) {
                var order = j+1;
                addColumn(table, fieldSet[j], order);
            }
        } catch(e) {
            ai.log.logError('message received importing structure', '' + e);
        }


    }

    return true;
}

function addColumn(table, column, index){
    var recordColumn = table.addColumn(column.name);
    recordColumn = recordColumn.setDisplayName(column.name);

    //known GBQ datatypes.
    switch(column.type){
        case "STRING": recordColumn.setTextColumnType(500);break;

        case "BYTES": recordColumn.setIntegerColumnType();break;
        case "INTEGER": recordColumn.setIntegerColumnType();break;
        case "INT64": recordColumn.setIntegerColumnType();break;

        case "FLOAT": recordColumn.setFloatColumnType();break;
        case "FLOAT64": recordColumn.setFloatColumnType();break;

        case "BOOLEAN": recordColumn.setBooleanColumnType();break;
        case "BOOL": recordColumn.setBooleanColumnType();break;

        case "TIMESTAMP": recordColumn.setDateTimeColumnType();break;
        case "DATE": recordColumn.setDateTimeColumnType();break;
        case "TIME": recordColumn.setDateTimeColumnType();break;
        case "DATETIME": recordColumn.setDateTimeColumnType();break;

        default: recordColumn.setTextColumnType(20);break;
    }
    recordColumn.setDisplayOrder(index);
}


/******************

Import Data

******************/
function importData(context) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    var dataSource = context.getDataSource(),
        projectId = dataSource.getSetting('projectId').getValue(),
        datasetId = dataSource.getSetting('datasetId').getValue(),
        rowset = context.getRowset();

    rowset.setSmartParsingEnabled(true);


    var tableId = rowset.getTableId();
    //adjust maxResults to see more or less records at import.
    var tableURL = 'https://www.googleapis.com/bigquery/v2/projects/' +
 projectId + '/datasets/' + datasetId + '/tables/' + tableId + '/data?
maxResults=10';
    var response = JSON.parse(httpsGET(tableURL));

    ai.log.logInfo('response', JSON.stringify(response));

    var rows = response.rows;
    addRecords(rows, rowset);


    return true;

}

function addRecords(rows, rowset) {

    for (var i = 0; i < rows.length; i++) {

        var cells = [];
        var row = rows[i].f;

        for (var j = 0; j < rowset.getColumns().length; j++) {
            //GBQ provides position-based response values, so we resolve
 them by using each column's displayOrder created during structure import.
            var order = rowset.getColumns()[j].getDisplayOrder() - 1;
            var type = rowset.getColumns()[j].getColumnType();

            var value = row[order].v;

            //the reason this evaluation is in place is moderately absurd,
 but essential nonetheless... https://www.epochconverter.com/
            if (type == 'DateTimeColumn') {
                //take GBQ seconds-based date, and convert to JS-friendly
 milliseconds.
                //milliseconds = seconds * 1000
                cells.push(new Date(value * 1000));
            } else {
                cells.push(value);
            }
        }
        rowset.addRow(cells);
    }

}

function httpsGET(url){

    var method = 'GET';
    var body = null;
    var headers = {};

    var response = null;
    try {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        ai.log.logVerbose('reaching out to external application service...',
 url);
        response = ai.https.authorizedRequest(url, method, body, headers);
    } catch (exception) {
        ai.log.logError('Test Connection HTTPS Request failed', '' +
 exception);
        throw 'failed to receive response';
    }
    return response.getBody();
}
```

*参考: Microsoft Dynamics 365 の CCDS スクリプトの例*

#### Microsoft Dynamics 365 Sample Script

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
/******************

Test Connection

******************/

// The script utilizes OAuth2.0 to connect and retrieve the files from D365
 OData service. Create OAuth 2.0 credential and associate it with the CCDS
 data source.

// The connection test and authorization both happen on the OAuth 2.0
 Credential, when the credential is associated with the data source, the
 environment testing happens from the framework.

function testConnection(context) {
    return true;
}

/******************

Config and OData Connector

******************/
config = {
    service : function(context) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        var service;
        try {
            service = dataSource.getSetting("D365 Environment
 URL").getValue();
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "D365 Environment URL"',
 'Please create Parameterized Designer Setting "D365 Tenant"');
            throw 'Couldn\'t find setting "D365 Environment URL"';
        }

        return service;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    },

    base : function(context) {
        return this.service(context);
    },

    //defaulted to false, may be switched to true to create key columns in
the staging area during importStructure.
    createKeys: false,

    //pulls a Period Range setting value from the Data Source, and creates a
js date from it.
    getEndDate: function(context, format) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        var dateString;
        try {
            dateString = dataSource.getSetting("Period
Range").getValue().getToPeriodEndDateTime().substring(0, 10);
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Period Range"', 'Please
create Parameterized Designer Setting "Period Range"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Period Range"';
        }
        var date = new Date((dateString.substring(5) + '-' +
dateString.substring(0, 4)).replace(/-/g, '/'));

        return this.getPeriodString(date, format);
    },

    //after a date is created from getStartDate or getEndDate, this function
creates a string of the date, given a format specified.
    getPeriodString: function(date, format) {
        var period = '';
        switch (format) {
            case 'yyyymm':
                if (date.getMonth() + 1 < 10) {
                    period += date.getFullYear() + '0' + (date.getMonth() +
1);
                } else {
                    period += date.getFullYear() + '' + (date.getMonth() +
1);
                }
                break;
            case 'yyyy-mm-dd':
                var year, month, day;

                year = '' + date.getFullYear();

                if (date.getMonth() + 1 < 10) {
                    month = '0' + (date.getMonth() + 1);
                } else {
                    month = '' + (date.getMonth() + 1);
                }

                if (date.getDate() < 10) {
                    day = '0' + date.getDate();
                } else {
                    day = '' + date.getDate();
                }

                period = year + '-' + month + '-' + day;
                break;
            default:
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                ai.log.logInfo('Error encountered in
 config.getPeriodString(date, format)');
                ai.log.logError('Unknown date string format ' + format,
 'Please update script and try again.');
                throw 'Unknown date string format ' + format;
        }
        return period;
    },

    //pulls a Period Range setting value from the Data Source, and creates a
 js date from it.
    getStartDate: function(context, format) {
        var dataSource = context.getDataSource();
        var dateString;
        try {
            dateString = dataSource.getSetting("Period
 Range").getValue().getFromPeriodStartDateTime().substring(0, 10);
        } catch (e) {
            ai.log.logError('Couldn\'t find setting "Period Range"', 'Please
 create Parameterized Designer Setting "Period Range"');
            throw 'Couldn\'t find setting "Period Range"';
        }
        var date = new Date((dateString.substring(5) + '-' +
 dateString.substring(0, 4)).replace(/-/g, '/'));

        return this.getPeriodString(date, format);
    },
};

//service that returns a JSON formatted list of Data Entities.
authorizedMetadataService = {
    url : function(context){
        return config.base(context) + '/Metadata/DataEntities';
    },
    method : function() {
        return 'GET';
    },
    body : function() {
        return null;
    },
    headers : function() {
        var obj = {"Accept": 'application/json'};
        return obj;
    }
};

//Service to generate an XML of the Data Entity schema for a given
 environment.
metadataService = {
    url : function(context){
        return config.base(context) + '/data/$metadata';
    },
    method : function() {
        return 'GET';
    },
    body : function() {
        return null;
    },
    headers : function() {
        var obj = {"Accept": 'application/xml'};
        return obj;
    }
};
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
//generates the base data service request.
dataService = {
    body : function(context) {
        return null;
    },
    headers : function(context) {
        var obj = {};

        obj["Accept"] = 'application/json';

        return obj;
    },
    method : function(context) {
        return 'GET';
    },
    url : function(context) {

        return config.base(context) + '/data/' +
 context.getRowset().getTableId() + '?';

    },
    maxRows : function(context) {
        return '$top=' + context.getRowset().getMaxRows();
    }
};

//used for OData integrations.
//  1) it maps OData datatypes to CCDS' supported datatypes.
//  2) helps align valid operator syntax
//  3) creates various components of the OData URL syntax.
ODataConnector = {
    //Data Entities have Key column sets.  This function takes the XML form,
 and converts it to a js property-value object.
    getEntityKeyChain: function(keys) {
        var keyChain = {};
        try {
            for (var k = 0; k < keys.getChildElements().length; k++) {
                var key =
 keys.getChildElementAt(k).getAttributeValue('Name');
                keyChain[key] = true;
            }
        } catch (e) {
            ai.log.logVerbose('no keys detected');
        }
        return keyChain;
    },

    //Standard OData datatypes.
    typeMap: {
        "Edm.Binary": 'int',
        "Edm.Boolean": 'boolean',
        "Edm.Byte": 'int',
        "Edm.Date": 'datetime',
        "Edm.DateTime": 'datetime',

        //experimental area
        "Edm.Geography": 'text',
        "Edm.GeographyPoint": 'text',
        "Edm.GeographyLineString": 'text'
    },

    //takes a set of one or more custom defined filters, then builds the
 OData filter syntax '$filter='
    filter: function(set) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
        var f = '$filter=';
        for (var i = 0; i < set.length; i++) {
            if (i == set.length - 1) {
                f += set[i];
            } else {
                f += set[i] + ' and ';
            }
        }
        return f;
    },

    //'$top=' is used for defining a page size, with importData.
    limit: function(pageSize) {
        return '$top=' + pageSize;
    },

    //designed specifically for previewData
    maxRows: function(context) {
        return '$top=' + context.getRowset().getMaxRows();
    },

    //for either importData or previewData.  Looks at columns selected in
the staging table and builds a '$select=' clause.
    select: function(context) {

        var columnSet = context.getRowset().getColumns(),
            select = '$select=';

        for(var i = 0; i < columnSet.length; i++) {
            if (i == columnSet.length - 1) {
                select += columnSet[i].getId();
            } else {
                select += columnSet[i].getId() + ',';
            }
        }

        return select;
    },

    //only used in importData, for incrementing the page offset.
    skip: function(offset) {
        return '$skip=' + offset;
    },

    //this function takes an operator string as input, then attempts to
match it to an appropriate OData operator.
    operationMap: function(op){
        var operation;
        // switch-case using JavaScript fall-through.
        switch (op) {
            case '=':
            case '==':
            case 'eq':
            case ' eq ':
                operation = ' eq ';
                break;
            case '<>':
            case '!=':
            case 'ne':
            case ' ne ':
                operation = ' ne ';
                break;
            case '>':
            case 'gt':
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            case ' gt ':
                operation = ' gt ';
                break;
            case '>=':
            case 'ge':
            case ' ge ':
                operation = ' ge ';
                break;
            case '<':
            case 'lt':
            case ' lt ':
                operation = ' lt ';
                break;
            case '<=':
            case 'le':
            case ' le ':
                operation = ' le ';
                break;
            default:
                operation = '';
                ai.log.logError('No matched operation for ' + op + '.',
 'Please extend available OData operator options and try again.');
                throw 'Please extend available OData operator options and
 try again.';
        }
    return operation;
    }
};

/******************

Import Structure

******************/

function importStructure(context) {

    function addColumn(table, column, index) {

        let stagingColumn = table.addColumn(column.name);
        stagingColumn.setDisplayName(column.name);

        let type = column.type;

        stagingColumn.setDisplayOrder(index);

        switch (ODataTypeMap[type]) {
            case "text":
                stagingColumn.setTextColumnType(1000);
                break;
            case "int":
                stagingColumn.setIntegerColumnType();
                break;
            case "float":
                stagingColumn.setFloatColumnType();
                break;
            case "boolean":
                stagingColumn.setBooleanColumnType();
                break;
            case "datetime":
                stagingColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
            default:
                stagingColumn.setTextColumnType(250);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        }
    }

    const ODataTypeMap = {
        "Edm.Binary": 'int',
        "Edm.Boolean": 'boolean',
        "Edm.Byte": 'int',
        "Edm.Date": 'datetime',
        "Edm.DateTime": 'datetime',
        "Edm.DateTimeOffset": 'datetime',
        "Edm.Decimal": 'float',
        "Edm.Double": 'float',
        "Edm.Duration": 'text',
        "Edm.Guid": 'text',
        "Edm.Int16": 'int',
        "Edm.Int32": 'int',
        "Edm.Int64": 'text', //modified to text as AI doesn't support 64-bit
integers.
        "Edm.SByte": 'int',
        "Edm.Single": 'float',
        "Edm.Stream": 'text',
        "Edm.String": 'text',

        //experimental area
        "Edm.Geography": 'text',
        "Edm.GeographyPoint": 'text',
        "Edm.GeographyLineString": 'text',
        "Edm.GeographyPolygon": 'text',
        "Edm.GeographyMultiPoint": 'text',
        "Edm.GeographyMultiLineString": 'text',
        "Edm.GeographyMultiPolygon": 'text',
        "Edm.GeographyCollection": 'text',
        "Edm.Geometry": 'text',
        "Edm.GeometryPoint": 'text',
        "Edm.GeometryLineString": 'text',
        "Edm.GeometryPolygon": 'text',
        "Edm.GeometryMultiPoint": 'text',
        "Edm.GeometryMultiLineString": 'text',
        "Edm.GeometryMultiPolygon": 'text',
        "Edm.GeometryCollection": 'text'
    };

    // Step 1: Get the structure builder.
    const builder = context.getStructureBuilder();


    const namespace = 'Microsoft.Dynamics.DataEntities'; //D365 OData
namespace -- probably needs to come from onOpenTag, where tag.name =
'Schema', then tag.attributes.Namespace
    const entityContainer = {}; //big placeholder for all entity sets and
entity types / properties.
    let properties = [];


    let parser = null;
    const callbacks = {};


    let entityType;


    callbacks.onOpenTag = function(tag) {

        if (tag.name == 'EntityType') {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            //construct entity type for container
            let typeName = tag.attributes.Name; //find entity type name
            entityType = namespace + '.' + typeName; //fully qualified
 namespace construction of the entity type

            entityContainer[entityType] = {}; //new object built from the
 fully qualified name... helps later.

        } else if (tag.name == 'Property') {

            //build a property - to be used in structure as a column on a
 table.
            let property = {};
            property.name = tag.attributes.Name;
            property.type = tag.attributes.Type;

            properties.push(property);

        } else if (tag.name == 'EntitySet') {

            let entitySet = tag.attributes.Name;
            let entityTypeName = tag.attributes.EntityType; //while the
 result is the same, this must be a different declaration from entityType
 above for onCloseTag purposes.

            //develop the association between an entity type and its proper
 name.
            entityContainer[entityTypeName].name = entitySet;
        }
    };


    callbacks.onCloseTag = function(tagname) {

        if (tagname == 'EntityType') {
            entityContainer[entityType].columns = properties; //assign
 properties array to the EntityType
            properties = []; //reset the array for the next EntityType
        }
    };


    const url = context.getDataSource().getSetting('D365 Environment
 URL').getValue() + '/data/$metadata';
    const method = 'GET';
    const body = '';
    const headers = {'Accept': 'application/xml'};


    parser = ai.xml.sax.createFromUrl(url, method, body, headers,
 callbacks);
    parser.readToEnd();

    for (let i in entityContainer) {

        let table = builder.addTable(entityContainer[i].name);
        table.setDisplayName(entityContainer[i].name);

        for (let j in entityContainer[i].columns) {
            addColumn(table, entityContainer[i].columns[j], j);
        }
    }
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
/******************

Preview Data

******************/

function previewData(context) {
    var rowset = context.getRowset();
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    var tableId = rowset.getTableId();

    var body, headers, method, url;

    //get dataService specific base values
    body = dataService.body(context);
    headers = dataService.headers(context);
    method = dataService.method(context);

    //when there's a custom setting defined, use it.  otherwise, simply
 iterate over pages in the service response.
    try {
        url = dataService.url(context) + ODataConnector.select(context)
 + '&' + ODataConnector.maxRows(context) + '&' + ODataConnector.skip(0) +
 '&' + ODataConnector.filter(customSettings[tableId].getFilters(context)) +
 '&cross-company=true';
    } catch (e) {
        url = dataService.url(context) + ODataConnector.select(context) +
 '&' + ODataConnector.maxRows(context) + '&' + ODataConnector.skip(0)  +
 '&cross-company=true';
    }

    //validate URL in logs before it goes out.
    //ai.log.logVerbose('url -->', '' + url);

    var res = ai.https.authorizedRequest(url, method, body, headers);

    //determine if we should proceed.
    if (res.getHttpCode() != '200') {
        ai.log.logError('unable to retrieve data from data service -->', ''
 + url + '; responseBody ' + res.getBody());
        throw 'unable to retrieve data from data service';
    }

    var contents = JSON.parse(res.getBody());

    //the data points to load come from the response's 'value' object.  so
 we iterate over all elements in contents.value
    for (var i = 0; i < contents.value.length; i++) {
        var row = contents.value[i];
        var cells = [];
        for (j = 0; j < rowset.getColumns().length; j++) {
            var columnId = rowset.getColumns()[j].getId();

            //D365 generates 64-bit integers in some columns.  since AI's
 setSmartParsingEnabled doesn't convert int to string, we simply blanket all
 integers as text, the allow setSmartParsingEnabled to create a 32-bit int
 when applicable.
            if (Number.isInteger(row[columnId]) === true) {
                cells.push('' + row[columnId]);
            } else {
                cells.push(row[columnId]);
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            }
        }
        rowset.addRow(cells);
    }
}
customSettings = {
        //data entity to apply filtering against
    LedgerJournalLines: {
        filters: [{
            getColName: function() {
                return 'TransDate';
            },
            getVal: function(context) {
                return config.getStartDate(context, 'yyyy-mm-dd');
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '>=';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }, {
            getColName: function() {
                return 'TransDate';
            },
            getVal: function(context) {
                return config.getEndDate(context, 'yyyy-mm-dd');
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '<';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }],
        getFilters: function(context) {
            var f = [];
            for (var i = 0; i < this.filters.length; i++) {
                f.push(this.filters[i].getColName() +
 this.filters[i].getOperator() + this.filters[i].getVal(context));
            }
            return f;
        }
    },
           //data entity to apply filtering against
    ExchangeRates: {
        filters: [{
            getColName: function() {
                return 'StartDate';
            },
            getVal: function(context) {
                return config.getStartDate(context, 'yyyy-mm-dd');
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '>=';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
        }, {
            getColName: function() {
                return 'StartDate';
            },
            getVal: function(context) {
                return config.getEndDate(context, 'yyyy-mm-dd');
            },
            getOperator: function() {
                var operator = '<';
                return ODataConnector.operationMap(operator);
            }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        }],
        getFilters: function(context) {
            var f = [];
            for (var i = 0; i < this.filters.length; i++) {
                f.push(this.filters[i].getColName() +
 this.filters[i].getOperator() + this.filters[i].getVal(context));
            }
            return f;
        }
    }
};

/******************

Import Data

******************/

function importData(context) {
    const rowset = context.getRowset();
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    const tableId = rowset.getTableId();


    //get dataService specific base values
    const body = dataService.body(context);
    const headers = dataService.headers(context);
    const method = dataService.method(context);
    let url = '';

    //request initializations;
    const pageSize = 10000;
    let offset = 0;
    let count = 10000;
    let res;
    let contents;

    //pageSize == count by design, but the loop changes count after looking
 at the response size.
    while (count == pageSize) {

        //when there's a custom setting defined, use it.  otherwise, simply
 iterate over pages in the service response.
        try {
            url = dataService.url(context) + ODataConnector.select(context)
+ '&' + ODataConnector.limit(pageSize) + '&' + ODataConnector.skip(offset)
+ '&' + ODataConnector.filter(customSettings[tableId].getFilters(context))
+ '&cross-company=true';
        } catch (e) {
            url = dataService.url(context) + ODataConnector.select(context)
+ '&' + ODataConnector.limit(pageSize) + '&' + ODataConnector.skip(offset)
+ '&cross-company=true';
        }

        //validate URL in logs before it goes out.
        ai.log.logVerbose('url -->', '' + url);

        res = ai.https.authorizedRequest(url, method, body, headers);

        if (res.getHttpCode() != '200') {
            ai.log.logError('unable to retrieve data from data service -->',
 'URL: ' + url);
            ai.log.logError('unable to retrieve data from data service -->',
 'HTTP Code: ' + res.getHttpCode());
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
            ai.log.logError('unable to retrieve data from data service -->',
 'Response: ' + res.getBody());
            throw 'unable to retrieve data from data service';
        }

        contents = JSON.parse(res.getBody());

        for (let i = 0; i < contents.value.length; i++) {
            let row = contents.value[i];
            let cells = [];
            for (let j = 0; j < rowset.getColumns().length; j++) {
                let columnId = rowset.getColumns()[j].getId();

                //D365 generates 64-bit integers in some columns.  since
 AI's setSmartParsingEnabled doesn't convert int to string, we simply
 blanket all integers as text, the allow setSmartParsingEnabled to create a
 32-bit int when applicable.
                if (Number.isInteger(row[columnId]) === true) {
                    cells.push('' + row[columnId]);
                } else if(columnId.indexOf('dataAreaId') > -1 ||
 columnId.indexOf('DataAreaId') > -1) {
                    //AI has case-sensitive join requirements, so we force
 one very common "key" column to always be one case.
                    cells.push(row[columnId].toUpperCase());
                }
                else {
                    cells.push(row[columnId]);
                }
            }
            rowset.addRow(cells);
        }

        //increment page to read, change count to potentially break loop.
        offset = offset + pageSize;
        count = contents.value.length;
    }
}
```

*参考: Plex Classic の CCDS スクリプトの例*

**Plex Classic サンプル スクリプト**

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
const ExternalMetadataDefinition = {
    Tables : [
        //note how constructions from the old Plex.DataSources object have
 migrated to the static definition.
        //this is due to losing a dynamic metadata builder with the UX DS
 API.

        {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            name : "7241", //this lands in the URL.  make sure it's the UX
DS key
            displayName : "Item Usages Get UX",
            columns : [
                {name : "Usage_Date", displayName : "Usage_Date", type:
"datetime"},
                {name : "Item_No", displayName : "Item_No"},
                {name : "Description", displayName : "Description"},
                {name : "Quantity", displayName : "Quantity", type:
"float"},
                {name : "Location", displayName : "Location"},
                {name : "Cost", displayName : "Cost", type: "float"},
                {name : "Unit", displayName : "Unit"},
                {name : "Used_By_Name", displayName : "Used_By_Name"},
                {name : "Approved_By_Name", displayName :
"Approved_By_Name"},
                {name : "Note", displayName : "Note"},
                {name : "Part_No", displayName : "Part_No"},
                {name : "Transaction_Type", displayName :
"Transaction_Type"},
                {name : "Job_No", displayName : "Job_No"},
                {name : "Average_Cost", displayName : "Average_Cost", type :
"float"},
                {name : "Item_Key", displayName : "Item_Key", type: "int"},
                {name : "Journal_Link", displayName : "Journal_Link", type :
"int"},
                {name : "Postable", displayName : "Postable", type: "int"},
                {name : "Standard_Cost", displayName : "Standard_Cost",
type: "float"},
                {name : "Item_Usage_Key", displayName : "Item_Usage_Key",
type: "int"},
                {name : "Check_In", displayName : "Check_In", type: "int"},
                {name : "Checkout", displayName : "Checkout", type: "int"},
                {name : "Supplier_Code", displayName : "Supplier_Code"},
                {name : "Account_No", displayName : "Account_No"},
                {name : "Accounting_Job_No", displayName :
"Accounting_Job_No"},
                {name : "Equipment_ID", displayName : "Equipment_ID"},
                {name : "Tool_Set_No", displayName : "Tool_Set_No"},
                {name : "Department_Code", displayName : "Department_Code"},
                {name : "Supplier_Cost", displayName : "Supplier_Cost",
type: "float"},
                {name : "PO_No", displayName : "PO_No"}
            ],
            //this was originally two functions: getParameterNameList and
getParameterValueList.
            getInputList : function(dataSource) {
                //`inputs` should result in an array of objects.
                let inputs = [{}];
                return inputs;
            }
        },

        {
            name : "2968", //this lands in the URL.  make sure it's the UX
DS key
            displayName : "PO releases Due UX",
            columns : [
                {name : "PO_Key", displayName : "PO_Key", type: "int"},
                {name : "PO_No", displayName : "PO_No"},
                {name : "Supplier_No", displayName : "Supplier_No", type :
"int"},
                {name : "PO_Ship_To", displayName : "PO_Ship_To"},
                {name : "PO_Ship_Via", displayName : "PO_Ship_Via"},
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                {name : "Supplier_Code", displayName : "Supplier_Code"},
                {name : "Name", displayName : "Name"},
                {name : "Line_Item_No", displayName : "Line_Item_No", type :
 "int"},
                {name : "Description", displayName : "Description"},
                {name : "Part_Key", displayName : "Part_Key", type : "int"},
                {name : "Material_Key", displayName : "Material_Key", type :
 "int"},
                {name : "Item_Key", displayName : "Item_Key", type : "int"},
                {name : "Part_No", displayName : "Part_No"},
                {name : "Part_Name", displayName : "Part_Name"},
                {name : "Revision", displayName : "Revision"},
                {name : "Material_Code", displayName : "Material_Code"},
                {name : "Item_No", displayName : "Item_No"},
                {name : "Due_Date", displayName : "Due_Date", type:
 "datetime"},
                {name : "On_Order", displayName : "On_Order", type:
 "float"},
                {name : "Received", displayName : "Received", type:
 "float"},
                {name : "Standard_Pack", displayName : "Standard_Pack",
 type: "float"}
            ],
            //this was originally two functions: getParameterNameList and
 getParameterValueList.
            getInputList : function(dataSource) {
                //`inputs` should result in an array of objects.
                let inputs = [{}];
                return inputs;
            }
        }
    ]
};


/******************

Test Connection

******************/
function testConnection(context) {
    ai.log.logInfo('Plex exposes no "login" API, so the test is trivially
 true.', 'Import Structure to test access against applicable data sources');
    return true;
}


/******************

Import Structure

******************/
function importStructure(context) {

    //structure flow was completely revamped for static definiton processes.
    //it behaves much more like file cabinet solutions now.
    const addColumn = function(table, column, order) {
        let recordColumn = table.addColumn(column.name);
        recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
        switch (column.type) {
            case "text":
                recordColumn.setTextColumnType(column.length);
                break;
            case "int":
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                recordColumn.setIntegerColumnType();
                break;
            case "float":
                recordColumn.setFloatColumnType();
                break;
            case "boolean":
                recordColumn.setBooleanColumnType();
                break;
            case "datetime":
                recordColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
            default:
                recordColumn.setTextColumnType(200);
                break;
        }
        recordColumn.setDisplayOrder(order);
        recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || false);
        recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
        recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport ||
 false);
        recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType ||
 "String");
    };

    const builder = context.getStructureBuilder();

    for (let i in ExternalMetadataDefinition.Tables) {
        let externalTable = ExternalMetadataDefinition.Tables[i];
        let table = builder.addTable(externalTable.name);
        table.setDisplayName(externalTable.displayName);

        for (let j = 0; j < externalTable.columns.length; j++) {
            addColumn(table, externalTable.columns[j], j + 1);
        }
    }
}


/******************

Import Data

******************/
function importData(context) {
    //made addRows a function to "hide" some of the nested loops for easier
 reading.
    const addRows = function(rowset, rows) {
        for (let y = 0; y < rows.length; y++) {
            let row = rows[y];
            let cells = [];
            for (let x = 0; x < rowset.getColumns().length; x++) {
                let column = rowset.getColumns()[x];
                let columnIndex = column.getDisplayOrder()-1;

                cells.push(row[columnIndex]);
            }
            rowset.addRow(cells);
        }
    };

    const getAuthHeader = function(dataSource, pcn) {
        let username = dataSource.getSetting(pcn + ' Username').getValue();
        let password = dataSource.getSetting(pcn + ' Password').getValue();
        let auth = {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            'Authorization': 'Basic ' + ai.util.encodeBase64(username + ':'
 + password, '')
        };
        return auth;
    };

    //regular initializations; nothing special.
    const dataSource = context.getDataSource();
    let rowset = context.getRowset(); //var as rowset intrinsically gets
 modified one line down.  everything else is constant for a script flow.
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    const rowsetId = rowset.getTableId();

    //replacing the old, static URL with one that dynamically updates based
 on the UX DS Key (when it's captured as the rowset name)
    const url = 'https://cloud.plex.com/api/datasources/' + rowsetId + '/
execute';

    //this process still needs some metadata configuration for support.  we
 get it from the ExternalMetadataDefiniton object here.
    const internalScriptIndex = getInternalScriptIndex(rowsetId);

    //build the array of PCNs to loop over by user input.
    const pcnList = dataSource.getSetting("Plex
 PCNs").getValue().split(',');

    for (let i = 0; i < pcnList.length; i++) {

        let pcn = pcnList[i];
        let headers = getAuthHeader(dataSource, pcn);
        let inputList =
 ExternalMetadataDefinition.Tables[i].getInputList(dataSource);

        for (let j = 0; j < inputList.length; j++) {

            let bodyObj = {};
            bodyObj.inputs = inputList[j];

            let body = JSON.stringify(bodyObj);

            let response = ai.https.request(url, 'POST', body, headers);
            let rows = JSON.parse(response.getBody()).tables[0].rows;

            //consider adding a variable to assess rowLimitExceeded.
            //JSON.parse(response.getBody()).tables[0].rowLimitExceeded
            //i won't say it should throw the script, but that's dealer's
 choice.

            addRows(rowset, rows);
        }
    }
}

//used to get the metadata definition object's index associated with a
 specific Plex key.
function getInternalScriptIndex(dataSourceKey) {
    var scriptIndex;
    for (var i = 0; i < ExternalMetadataDefinition.Tables.length; i++) {
        if (ExternalMetadataDefinition.Tables[i].name == dataSourceKey) {
            scriptIndex = i;
            break;
        }
    }
    return scriptIndex;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
}

//given Plex structures, getMonthCount and convertToYYYYMM likely still have
 merit.
function getMonthCount(date1, date2) {
    var date1Year = date1.getFullYear();
    var date2Year = date2.getFullYear();
    var date1Month = date1.getMonth();
    var date2Month = date2.getMonth();

    return (date2Month + 12 * date2Year) - (date1Month + 12 * date1Year);
}

function convertToYYYYMM(date) {
    var period = '';
    if (date.getMonth() + 1 < 10) {
        period += date.getFullYear() + '0' + (date.getMonth() + 1);
    } else {
        period += date.getFullYear() + '' + (date.getMonth() + 1);
    }
    return period;
}
```

*参考: CCDS スクリプトの例 Plex UX*

**Plex UX サンプル スクリプト**

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

```
const ExternalMetadataDefinition = {
    Tables : [
        //note how constructions from the old Plex.DataSources object have
 migrated to the static definition.
        //this is due to losing a dynamic metadata builder with the UX DS
 API.

        {
            name : "7241", //this lands in the URL.  make sure it's the UX
 DS key
            displayName : "Item Usages Get UX",
            columns : [
                {name : "Usage_Date", displayName : "Usage_Date", type:
 "datetime"},
                {name : "Item_No", displayName : "Item_No"},
                {name : "Description", displayName : "Description"},
                {name : "Quantity", displayName : "Quantity", type:
 "float"},
                {name : "Location", displayName : "Location"},
                {name : "Cost", displayName : "Cost", type: "float"},
                {name : "Unit", displayName : "Unit"},
                {name : "Used_By_Name", displayName : "Used_By_Name"},
                {name : "Approved_By_Name", displayName :
 "Approved_By_Name"},
                {name : "Note", displayName : "Note"},
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                {name : "Part_No", displayName : "Part_No"},
                {name : "Transaction_Type", displayName :
"Transaction_Type"},
                {name : "Job_No", displayName : "Job_No"},
                {name : "Average_Cost", displayName : "Average_Cost", type :
"float"},
                {name : "Item_Key", displayName : "Item_Key", type: "int"},
                {name : "Journal_Link", displayName : "Journal_Link", type :
"int"},
                {name : "Postable", displayName : "Postable", type: "int"},
                {name : "Standard_Cost", displayName : "Standard_Cost",
type: "float"},
                {name : "Item_Usage_Key", displayName : "Item_Usage_Key",
type: "int"},
                {name : "Check_In", displayName : "Check_In", type: "int"},
                {name : "Checkout", displayName : "Checkout", type: "int"},
                {name : "Supplier_Code", displayName : "Supplier_Code"},
                {name : "Account_No", displayName : "Account_No"},
                {name : "Accounting_Job_No", displayName :
"Accounting_Job_No"},
                {name : "Equipment_ID", displayName : "Equipment_ID"},
                {name : "Tool_Set_No", displayName : "Tool_Set_No"},
                {name : "Department_Code", displayName : "Department_Code"},
                {name : "Supplier_Cost", displayName : "Supplier_Cost",
type: "float"},
                {name : "PO_No", displayName : "PO_No"}
            ],
            //this was originally two functions: getParameterNameList and
getParameterValueList.
            getInputList : function(dataSource) {
                //`inputs` should result in an array of objects.
                let inputs = [{}];
                return inputs;
            }
        },

        {
            name : "2968", //this lands in the URL.  make sure it's the UX
DS key
            displayName : "PO releases Due UX",
            columns : [
                {name : "PO_Key", displayName : "PO_Key", type: "int"},
                {name : "PO_No", displayName : "PO_No"},
                {name : "Supplier_No", displayName : "Supplier_No", type :
"int"},
                {name : "PO_Ship_To", displayName : "PO_Ship_To"},
                {name : "PO_Ship_Via", displayName : "PO_Ship_Via"},
                {name : "Supplier_Code", displayName : "Supplier_Code"},
                {name : "Name", displayName : "Name"},
                {name : "Line_Item_No", displayName : "Line_Item_No", type :
"int"},
                {name : "Description", displayName : "Description"},
                {name : "Part_Key", displayName : "Part_Key", type : "int"},
                {name : "Material_Key", displayName : "Material_Key", type :
"int"},
                {name : "Item_Key", displayName : "Item_Key", type : "int"},
                {name : "Part_No", displayName : "Part_No"},
                {name : "Part_Name", displayName : "Part_Name"},
                {name : "Revision", displayName : "Revision"},
                {name : "Material_Code", displayName : "Material_Code"},
                {name : "Item_No", displayName : "Item_No"},
                {name : "Due_Date", displayName : "Due_Date", type:
"datetime"},
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                {name : "On_Order", displayName : "On_Order", type:
 "float"},
                {name : "Received", displayName : "Received", type:
 "float"},
                {name : "Standard_Pack", displayName : "Standard_Pack",
 type: "float"}
            ],
            //this was originally two functions: getParameterNameList and
 getParameterValueList.
            getInputList : function(dataSource) {
                //`inputs` should result in an array of objects.
                let inputs = [{}];
                return inputs;
            }
        }
    ]
};


/******************

Test Connection

******************/
function testConnection(context) {
    ai.log.logInfo('Plex exposes no "login" API, so the test is trivially
 true.', 'Import Structure to test access against applicable data sources');
    return true;
}


/******************

Import Structure

******************/
function importStructure(context) {

    //structure flow was completely revamped for static definition
 processes.
    //it behaves much more like file cabinet solutions now.
    const addColumn = function(table, column, order) {
        let recordColumn = table.addColumn(column.name);
        recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
        switch (column.type) {
            case "text":
                recordColumn.setTextColumnType(column.length);
                break;
            case "int":
                recordColumn.setIntegerColumnType();
                break;
            case "float":
                recordColumn.setFloatColumnType();
                break;
            case "boolean":
                recordColumn.setBooleanColumnType();
                break;
            case "datetime":
                recordColumn.setDateTimeColumnType();
                break;
            default:
                recordColumn.setTextColumnType(200);
                break;
        }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        recordColumn.setDisplayOrder(order);
        recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || false);
        recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
        recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport ||
 false);
        recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType ||
 "String");
    };

    const builder = context.getStructureBuilder();

    for (let i in ExternalMetadataDefinition.Tables) {
        let externalTable = ExternalMetadataDefinition.Tables[i];
        let table = builder.addTable(externalTable.name);
        table.setDisplayName(externalTable.displayName);

        for (let j = 0; j < externalTable.columns.length; j++) {
            addColumn(table, externalTable.columns[j], j + 1);
        }
    }
}


/******************

Import Data

******************/
function importData(context) {
    //made addRows a function to "hide" some of the nested loops for easier
 reading.
    const addRows = function(rowset, rows) {
        for (let y = 0; y < rows.length; y++) {
            let row = rows[y];
            let cells = [];
            for (let x = 0; x < rowset.getColumns().length; x++) {
                let column = rowset.getColumns()[x];
                let columnIndex = column.getDisplayOrder()-1;

                cells.push(row[columnIndex]);
            }
            rowset.addRow(cells);
        }
    };

    const getAuthHeader = function(dataSource, pcn) {
        let username = dataSource.getSetting(pcn + ' Username').getValue();
        let password = dataSource.getSetting(pcn + ' Password').getValue();
        let auth = {
            'Authorization': 'Basic ' + ai.util.encodeBase64(username + ':'
 + password, '')
        };
        return auth;
    };

    //regular initializations; nothing special.
    const dataSource = context.getDataSource();
    let rowset = context.getRowset(); //var as rowset intrinsically gets
 modified one line down.  everything else is constant for a script flow.
    rowset.setSmartParsingEnabled(true);
    const rowsetId = rowset.getTableId();

    //replacing the old, static URL with one that dynamically updates based
 on the UX DS Key (when it's captured as the rowset name)
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    const url = 'https://cloud.plex.com/api/datasources/' + rowsetId + '/
execute';

    //this process still needs some metadata configuration for support.  we
 get it from the ExternalMetadataDefiniton object here.
    const internalScriptIndex = getInternalScriptIndex(rowsetId);

    //build the array of PCNs to loop over by user input.
    const pcnList = dataSource.getSetting("Plex
 PCNs").getValue().split(',');

    for (let i = 0; i < pcnList.length; i++) {

        let pcn = pcnList[i];
        let headers = getAuthHeader(dataSource, pcn);
        let inputList =
 ExternalMetadataDefinition.Tables[i].getInputList(dataSource);

        for (let j = 0; j < inputList.length; j++) {

            let bodyObj = {};
            bodyObj.inputs = inputList[j];

            let body = JSON.stringify(bodyObj);

            let response = ai.https.request(url, 'POST', body, headers);
            let rows = JSON.parse(response.getBody()).tables[0].rows;

            //consider adding a variable to assess rowLimitExceeded.
            //JSON.parse(response.getBody()).tables[0].rowLimitExceeded
            //i won't say it should throw the script, but that's dealer's
 choice.

            addRows(rowset, rows);
        }
    }
}

//used to get the metadata definition object's index associated with a
 specific Plex key.
function getInternalScriptIndex(dataSourceKey) {
    var scriptIndex;
    for (var i = 0; i < ExternalMetadataDefinition.Tables.length; i++) {
        if (ExternalMetadataDefinition.Tables[i].name == dataSourceKey) {
            scriptIndex = i;
            break;
        }
    }
    return scriptIndex;
}

//given Plex structures, getMonthCount and convertToYYYYMM likely still have
 merit.
function getMonthCount(date1, date2) {
    var date1Year = date1.getFullYear();
    var date2Year = date2.getFullYear();
    var date1Month = date1.getMonth();
    var date2Month = date2.getMonth();

    return (date2Month + 12 * date2Year) - (date1Month + 12 * date1Year);
}

function convertToYYYYMM(date) {
    var period = '';
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    if (date.getMonth() + 1 < 10) {
        period += date.getFullYear() + '0' + (date.getMonth() + 1);
    } else {
        period += date.getFullYear() + '' + (date.getMonth() + 1);
    }
    return period;
}
```

参考: *CCDS スクリプトの例 SAGE Intacct*

参考: CCDS スクリプトの例 SAGE Intacct

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

この SAGE Intacc の例には複数のファイルが含まれています。それぞれからコード ブロックをコピーし、CCDS 内で個別のスクリプトとして保存します。

- testConnection ( 2014ページ )
- getIntacctSessionID ( 2013ページ )
- importStructure ( 2015ページ )
- importData ( 2021ページ )
- supportingFunctions ( 2042ページ )
- sendAndGetXML_Intacct ( 2015ページ )

:

getIntacctSessionID

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

以下のコード ブロックを SAGE Intacct CCDS にスクリプトとして保存し、「getIntacctSessionID」という名前を付けます。

```
function getIntacctSessionID(intacctURL,intacctRequestParms) {
   //get a session id to use for subsequent api calls

   var xmlSessionIDRequest = '<?xml version="1.0" encoding="iso-8859-1"?
><request><control><senderid>' + intacctRequestParms.senderId +'</senderid>'
   + '<password>' + intacctRequestParms.senderPassword + '</
password><controlid>' + intacctRequestParms.control_controlid +'</
controlid><uniqueid>' + intacctRequestParms.control_uniqueid + '</uniqueid>'
   + '<dtdversion>' + intacctRequestParms.control_dtdversion + '</
dtdversion></control>'
   + '<operation>  <authentication>'
   + '<login><userid>' + intacctRequestParms.userID + '</userid><companyid>'
 + intacctRequestParms.companyId + '</companyid><password>' +
 intacctRequestParms.userPassword + '</password>';

   //clientId and locationId are optional
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   if (intacctRequestParms.clientId !== null &&
 intacctRequestParms.clientId.trim() !== '' ) xmlSessionIDRequest +=
 '<clientid>' + intacctRequestParms.clientId + '</clientid>';
   if (intacctRequestParms.locationId !== null &&
 intacctRequestParms.locationId.trim() !== '' ) xmlSessionIDRequest +=
 '<locationid>' + intacctRequestParms.locationId + '</locationid>';

   xmlSessionIDRequest += '</login></authentication>'
   + '<content><function controlid="' +
 intacctRequestParms.control_controlid + 'XXX"><getAPISession/></function></
content></operation></request>';

   //send XML request and get response
   var xmlSessionIDResponse =
 sendAndGetXML_Intacct(intacctURL,xmlSessionIDRequest);

   if (xmlSessionIDResponse )  {
       //we've already checked for success so now need to extract the
 session id
       //note, this uses the older xml parser.  This parser works fine with
 smaller payloads but is not recommended for larger ones
       var parser = ai.xml.createParser();
       var xmlDoc = parser.parse(xmlSessionIDResponse.toString());
       var apiEl =
 xmlDoc.getRootElement().getChildElement('operation').getChildElement('result').getChild
       var sessionid = apiEl.getChildElement('sessionid').getText();
       var endpoint = apiEl.getChildElement('endpoint').getText();
       //var location = apiEl.getChildElement('locationid').getText();
       return {'sessionId': sessionid, 'endpoint': endpoint};
   } else {
       //session id not found
       return false;
   }
}
```

testConnection

注：この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

以下のコード ブロックを SAGE Intacct CCDS にスクリプトとして保存し、「 testConnection」という名前を付けます。

```
function testConnection(context) {
   //Get values from designer settings, and set other variables needed for
 Intacct API calls
   var dataSource = context.getDataSource();
   var userID = dataSource.getSetting('Intacct UserID').getValue();
   var userPassword = dataSource.getSetting('Intacct Password').getValue();
   var companyId = dataSource.getSetting('Company ID').getValue();
   var senderId = dataSource.getSetting('Sender ID').getValue();
   var senderPassword = dataSource.getSetting('Sender Password').getValue();
   var intacctURL =  dataSource.getSetting('Intacct URL').getValue();

   var authenticationRequest = '<request><control><senderid>' + senderId +
 '</senderid><password>' + senderPassword + '</password>'
       + '<controlid>AdaptiveTestConnection</controlid><dtdversion>3.0</
dtdversion></control>'
       + '<operation><authentication><login><userid>' + userID + '</
userid><companyid>' + companyId + '</companyid>'
       + '<password>' + userPassword + '</password></login></
authentication></operation></request>';
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   var result = sendAndGetXML_Intacct(intacctURL,authenticationRequest);
   return result !== false;    //result is an object or false, need to
 return a boolean value

}
```

sendAndGetXML_Intacct

注：この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

以下のコード ブロックを SAGE Intacct CCDS にスクリプトとして保存し、「sendAndGetXML_Intacct」という名前を付けます。

```
function sendAndGetXML_Intacct(intacctURL,strXMLRequest) {
   //Make the request to Intacct and look for errors in the result
   //The actual request is in strXMLRequest in fully formed XML
   //If no errors found then return the body of the response to the caller,
 otherwise return false.
   //The caller is responsible for checking the response and parsing out the
 payload.

   //Create a https request to send to Intacct API
   var url = intacctURL;
   var method = 'POST';
   var body = strXMLRequest;
   var headers = { 'Content-Type': 'x-intacct-xml-request' };
   var response, responseBody;

   //Send request and receive response
   try {
       response = ai.https.request(url, method, body, headers);
   } catch(e) {
       //catastrophic failure
       ai.log.logError('Intacct Request Failed','Intacct request failed.
 Error: ' + e + ' req: ' + body);
       return false;
   }

   //verify a good http return code
   var httpCode = response.getHttpCode();
   if (httpCode != '200') {
       ai.log.logError('Intacct Request Failed','Intacct request failed.
 Http response code: ' + httpCode);
       return false;
   }

   return response.getBody();

}
```

importStructure

注：この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

以下のコード ブロックを SAGE Intacct CCDS にスクリプトとして保存し、「importStructure」という名前を付けます。

```
/** Import Structure function to be used for CCDS Intacct Data Source */
function importStructure(context) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   //tables to create for readByQuery processing
   var tablesArray =
 ["GLDETAIL","CLASS","DEPARTMENT","GLACCOUNT","GLENTRY","ITEM","LOCATION","PROJECT","EMP
   //some of the other tables available:
   //"BUDGETHEADER", "TRXCURRENCIES","GLACCOUNTBALANCE","REPORTINGPERIOND"

  //Get values from designer settings, and set other variables needed for
 Intacct API calls
   var dataSource = context.getDataSource();

   var intacctRequestParms =  getintacctRequestParms(dataSource);
   var intacctGLRequestParms = getintacctGLRequestParms(dataSource);

   var intacctURL = dataSource.getSetting('Intacct URL').getValue();


   var sessionAndEndpoint =
 getIntacctSessionID(intacctURL,intacctRequestParms);
//    var sessionAndEndpoint = getIntacctSessionID(intacctRequestParms);
   if (!sessionAndEndpoint)    {
       ai.log.logError('Intacct Request Failed','The request to Intacct
 failed.  See log for additional messages.');
       return;
   }
   //extract session id and new url from response
   var operation_sessionid = sessionAndEndpoint.sessionId;
   intacctURL = sessionAndEndpoint.endpoint;

   var builder = context.getStructureBuilder();
ai.log.logInfo('checkpoint -2')    ;

   for (tablesIndex = 0; tablesIndex < tablesArray.length; tablesIndex++) {

       //build Intacct request for table details
       var xmlRequest = '<?xml version="1.0" encoding="iso-8859-1"?
><request><control><senderid>' + intacctRequestParms.senderId +'</senderid>'
           + '<password>' + intacctRequestParms.senderPassword + '</
password><controlid>' + intacctRequestParms.control_controlid +'</
controlid><uniqueid>' + intacctRequestParms.control_uniqueid + '</uniqueid>'
           + '<dtdversion>' + intacctRequestParms.control_dtdversion + '</
dtdversion></control>'
           + '<operation><authentication><sessionid>' + operation_sessionid
 + '</sessionid></authentication>'
           + '<content><function controlid="' +
 intacctRequestParms.control_controlid +'"><inspect detail="1">'
           + '<object>' + tablesArray[tablesIndex] + '</object></inspect></
function></content></operation></request>';

       //send XML request and get response
       var xmlResponseString = sendAndGetXML_Intacct(intacctURL,xmlRequest);
       if (!xmlResponseString)    {
           ai.log.logError('Intacct Request Failed','The request to Intacct
 failed.  See log for additional messages.');
           return;
       }

       //parse XML response and populate CCDS tables

 parseXMLResponseAndBuildTable_IntacctInspectWithDetail(xmlResponseString,
 tablesArray[tablesIndex], builder);
   }

   //Build GL Balances table
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
  //Data for this table is gathered via the get_accountbalancesbydimensions
 api call.  The output from this call varies depending on the dimensions
 included.
  //The output structure cannot be determined from an "inspect" call the
 way the other tables are, so the structure is defined here, and all built-
in dimensions are included.
  //
  //  notes:  dataTypeIntacct is the type in Intacct, and the staging table
 column will be compatible.
  //          column order doesn't matter.  The data is saved into staging
 by the columnName.  The columns will be displayed in alphabetical order.
  //
  var table = builder.addTable('GL Balances');

  var glBalancesTable = [
      {columnName:'periodstartdate',dataTypeIntacct:
'datetime',displayName: 'periodstartdate'},
      {columnName:'glaccountno',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'glaccountno'},
      {columnName:'startbalance',dataTypeIntacct: 'number',displayName:
'startbalance'},
      {columnName:'periodbalance',dataTypeIntacct: 'number',displayName:
'periodbalance'},
      {columnName:'endbalance',dataTypeIntacct: 'number',displayName:
'endbalance'},
      {columnName:'currency',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'currency'},
      {columnName:'locationid',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'locationid'},
      {columnName:'locationname',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'locationname'},
      {columnName:'departmentid',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'departmentid'},
      {columnName:'departmentname',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'departmentname'},
      {columnName:'projectid',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'projectid'},
      {columnName:'projectname',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'projectname'},
      {columnName:'customerid',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'customerid'},
      {columnName:'customername',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'customername'},
      {columnName:'vendorid',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'vendorid'},
      {columnName:'vendorname',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'vendorname'},
      {columnName:'employeeid',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'employeeid'},
      {columnName:'employeename',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'employeename'},
      {columnName:'itemid',dataTypeIntacct: 'text',displayName: 'itemid'},
      {columnName:'itemname',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'itemname'},
      {columnName:'classid',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'classid'},
      {columnName:'classname',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'classname'},
      {columnName:'reportingbook',dataTypeIntacct: 'text',displayName:
'reportingbook'}
  ];
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
  //check to see if any user defined dimensions are specified, if so, then
 add them to the table
  if (intacctGLRequestParms.userDefinedDimensions !== null &&
 intacctGLRequestParms.userDefinedDimensions.trim() !== '') {
      let uud = intacctGLRequestParms.userDefinedDimensions.split(',');
      for (let i=0; i<uud.length; i++) {
          let newCol = {columnName:uud[i].trim(),dataTypeIntacct:
 'text',displayName: uud[i].trim()};
          glBalancesTable.push(newCol);
      }
  }

  //add the columns to the table
  for (var iCol=0; iCol < glBalancesTable.length; iCol++) {

 addTableColumn(table,iCol,glBalancesTable[iCol].columnName,glBalancesTable[iCol].dataTy
  }

  return;

  //end main line

  /***
   *
   * Helper functions
   *
   ***/

  /** Parse XML response for tabe columns and populate CCDS
   * @param {string} responseXML - string representation of XML response to
 parse for table columns
   * @apram {string} strTableName - name of table to create and add columns
 to
   * @return {string} authenticationStatus - 'success' or 'failure'
  */
  function
 parseXMLResponseAndBuildTable_IntacctInspectWithDetail(inspectResponseXML,
 strTableName, tableBuilder) {

      try {
          var parser = ai.xml.createParser();
          var xmlDoc = parser.parse(inspectResponseXML);

          var docType = ai.xml.createDocType('<!DOCTYPE html PUBLIC "-//
W3C//DTD XHTML 1.0 Strict//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-
strict.dtd">');
          xmlDoc.setDOCTYPE(docType);

          var rootElement = xmlDoc.getRootElement();
          var operationElement = rootElement.getChildElement('operation');
          var resultElement = operationElement.getChildElement('result');
          var dataElement = resultElement.getChildElement('data');
          var typeElement = dataElement.getChildElement('Type');
          var FieldsElement = typeElement.getChildElement('Fields');
          var columnsElementArray =
 FieldsElement.getChildElements('Field');

          //add table
            var table = tableBuilder.addTable(strTableName);

          var numColumns = columnsElementArray.length;
          //get details for each column and add columns to table
          for (var iCol=0; iCol < numColumns; iCol++) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                if (strTableName.toUpperCase() == 'REPORTINGPERIOD') {
                    //a field "RECORD#" is found in the meta data, but in
 the data import request we think the column name is actually RECORD, which
 causes a data query to fail with an unhelpful error message, so skip adding
 it to the table.  We don't need it.
                    if
 (columnsElementArray[iCol].getChildElement('Name').getText() == 'RECORD#')
 {
//                        ai.log.logInfo('skipping column RECORD from table
 REPORTINGPERIOD');
                        continue;
                    }
                }

                //get elements
                var nameElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('Name');
                var columnName = nameElement.getText();
//                ai.log.logInfo('DEBUG', 'column = ' + columnName);

/* not used
                var groupNameElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('GroupName');
                var columnGroupName = groupNameElement.getText();

                var dataNameElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('dataName');
                var columnDataName = dataNameElement.getText();

                //get isRequired
                var isRequiredElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('isRequired');
                var isRequired = isRequiredElement == 'true';

                //get isReadOnly
                var isReadOnlyElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('isReadOnly');
                var isReadOnly = isReadOnlyElement == 'true';
*/
                var externalDataNameElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('externalDataName');
                var dataTypeIntacct = externalDataNameElement.getText();


                var maxLengthElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('maxLength');
                var maxLength = maxLengthElement.getText();

                //var displayNameElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('Name');
                var displayNameElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('DisplayLabel');
                var displayName = displayNameElement.getText();

                var columnDescriptionElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('Description');
                var columnDescription = columnDescriptionElement.getText();

                var columnIdElement =
 columnsElementArray[iCol].getChildElement('id');
                var columnId = columnIdElement.getText();


                //get relationship if it exists
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
              var columnRelationshipElement =
columnsElementArray[iCol].getChildElement('relationship');

              if (columnRelationshipElement === undefined) {
                  //create table column only if it's not a primary/foreign
key

addTableColumn(table,iCol,columnName,dataTypeIntacct,displayName,maxLength);
              }

        } // end for

      } catch (exception) {
          throw('EXCEPTION  ' + ' Exception from
parseXMLResponseAndBuildTable_IntacctInspectWithDetail:  ' + exception + '.
 Table = ' + strTableName);
      }


  }   //end parseXMLResponseAndBuildTable_IntacctInspectWithDetail


  function
addTableColumn(table,iCol,columnName,dataTypeIntacct,displayName,maxLength)
{
      var recordColumn = table.addColumn(columnName);
      //check column type and set dataType
      switch (dataTypeIntacct) {
          case "integer":
                  recordColumn.setIntegerColumnType();
                  recordColumn.setDisplayName(displayName);
                  recordColumn.setDisplayOrder(iCol);
                  //recordColumn.setIsMandatoryForImport(cIsMandatory);
 //in wiki not sample script
                  recordColumn.setIncludeByDefault(true);
                  recordColumn.setIncludeInKey(false);
                  recordColumn.setRemoteColumnType("integer");    //in wiki
not sample script
                  recordColumn.setNonFilterable(false);
                  break;
          case "string":
                  recordColumn.setTextColumnType(maxLength);
                  recordColumn.setDisplayName(displayName);
                  recordColumn.setDisplayOrder(iCol);
                  //recordColumn.setIsMandatoryForImport(cIncludeImports);
 //in wiki not sample script
                  recordColumn.setIncludeByDefault(true);
                  recordColumn.setIncludeInKey(false);
                  recordColumn.setRemoteColumnType("string");    //in wiki
not sample script
                  recordColumn.setNonFilterable(false);
                  break;
          case "date":
                  recordColumn.setDateTimeColumnType();
                  recordColumn.setDisplayName(displayName);
                  recordColumn.setDisplayOrder(iCol);
                  // recordColumn.setIsMandatoryForImports(cIsMandatory);
 //in wiki not sample script
                  recordColumn.setIncludeByDefault(true);
                  recordColumn.setIncludeInKey(false);
                  recordColumn.setRemoteColumnType("date");    //in wiki
not sample script
                  recordColumn.setNonFilterable(false);
                  break;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            case "datetime":
                    recordColumn.setDateTimeColumnType();
                    recordColumn.setDisplayName(displayName);
                    recordColumn.setDisplayOrder(iCol);
                    // recordColumn.setIsMandatoryForImports(cIsMandatory);
  //in wiki not sample script
                    recordColumn.setIncludeByDefault(true);
                    recordColumn.setIncludeInKey(false);
                    recordColumn.setRemoteColumnType("datetime");    //in
 wiki not sample script
                    recordColumn.setNonFilterable(false);
                    break;
            case "boolean":
//                     recordColumn.setBooleanColumnType();
                    recordColumn.setTextColumnType(maxLength);  //forcing to
 text type.  In GLDetail values are "T" or "F", which breaks loading staging
 if this is a boolean type field
                    recordColumn.setDisplayName(displayName);
                    recordColumn.setDisplayOrder(iCol);
                    //recordColumn.setIsMandatoryForImports(cIsMandatory);
  //in wiki not sample script
                    recordColumn.setIncludeByDefault(true);
                    recordColumn.setIncludeInKey(false);
                    recordColumn.setRemoteColumnType("boolean");    //in wiki
 not sample script
                    recordColumn.setNonFilterable(false);
                    break;
            case "number":
                    recordColumn.setFloatColumnType();
                    recordColumn.setDisplayName(displayName);
                    recordColumn.setDisplayOrder(iCol);
                    //recordColumn.setIsMandatoryForImports(cIsMandatory);
  //in wiki not sample script
                    recordColumn.setIncludeByDefault(true);
                    recordColumn.setIncludeInKey(false);
                    recordColumn.setRemoteColumnType("number");    //in wiki
 not sample script
                    recordColumn.setNonFilterable(false);
                    break;
            default:
                    ai.log.logInfo("DEBUG", "Intacct Data Type: " +
 dataTypeIntacct);
                    break;
          } //switch

     }   //end addTableColumn

}   //end importStructure
```

importData

注： この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

以下のコード ブロックを SAGE Intacct CCDS にスクリプトとして保存し、「importData」という名前を付けます。

```
function importData(context)
{

/***
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
*
* Extract data from Sage Intacct
*
* This code uses the Intacct API (https://developer.intacct.com/api/) to
 extract General Ledger balances and details,
* and also several other tables that may hold data of interest.
*
* The extracts break out into two basic types: GL data, which requires
 reporting book and period parameters, and other data,
* which does not.
*
* The staging tables are mostly defined by querying Intacct and replicating
 the table structure in Adaptive.  The one exception
* is the GL Balances table.  That table is not a replica of a table in
 Intacct so the layout has to be explicitly defined.
*
* Data in Intacct is organized in "reporting books", with "Accrual" being
 the default but others are common.  Data has to be extracted
* one reporting book at a time.  The main extract loop for GL data loops
 first over all reporting books, and within that loop over
* all requested periods.
*
* There may also be user defined dimensions.  The paramater "User Defined
 Dimensions (comma separated)" holds the names of any user defined
 dimensions you wish to include.
* Once the list has been added, or updated, in the parameter, you must run
 "import structure" to build the staging tables to hold the
* user defined dimension information.  The extract itself will automatically
 include the user defined dimensions.
*
* Programming note:
* Responses from Intacct are in XML format.  Two different techniques are
 used to parse the XML. For smaller responses the non-streaming parser
 created by ai.xml.createParser() is used.
* Most tables are potentially large, so the streaming SAX parser created by
 ai.xml.sax.createFromUrl() is used instead.
*
***/

   //global settings
   const intacctSessionTimeoutTolerance = 600; //seconds; if session timeout
 is less than this many seconds away get a new session token
   const maxRows = 1000;    //number of rows returned by paged call; 1000 is
 the maximum
   var offset = 0;         //for query calls, incremental steps if more than
 maxRows of data returned

  //Get values from designer settings, and set other variables needed for
 Intacct API calls
   var dataSource = context.getDataSource();

   //Intacct details
   var intacctRequestParms =  getintacctRequestParms(dataSource);
   var intacctGLRequestParms = getintacctGLRequestParms(dataSource);

   var intacctURL = dataSource.getSetting('Intacct URL').getValue();
   var method = 'POST';
   var headers = { 'Content-Type': 'x-intacct-xml-request' };

   var periodRange = dataSource.getSetting('Period Range');

   //the Adaptive API is called to get start and end dates of the accounting
 periods
   var adaptiveUser = dataSource.getSetting('Adaptive User').getValue();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
  var adaptivePassword = dataSource.getSetting('Adaptive
Password').getValue();

  /***
   *
   * validate that all required parameters have valid values
   *
   *
   * some paramaters have defaults; set the defaults if there user made no
selection
   *
   **/
  if (intacctGLRequestParms.reportingBooks === null
|| intacctGLRequestParms.reportingBooks.trim() === '')
intacctGLRequestParms.reportingBooks = 'Accrual'; //default
  intacctGLRequestParms.reportingBooks =
intacctGLRequestParms.reportingBooks.toUpperCase();
  if (intacctURL === null || intacctURL.trim() === '') intacctURL =
'https://www.intacct.com/ia/xml/xmlgw.phtml'; //default
  //user could validly specify no dimensions
  //if (intacctGLRequestParms.intacctDimensions ===
null || intacctGLRequestParms.intacctDimensions.trim()
=== '') intacctGLRequestParms.intacctDimensions =
'Location,Department,Project,Customer,Vendor,Employee,Item,Class'; //
default
  if (intacctGLRequestParms.intacctDimensions === null
|| intacctGLRequestParms.intacctDimensions.trim() === '')
ai.log.logVerbose("No dimensions specified","No dimensions were specified
so data will not be split by any dimensions");

  /***
   *
   * other required parameters do not have defaults; report a fatal error
if empty
   *
   ***/
  var missingParms = '';

  function checkIfEmpty(item) {
      //item is a 2 element array; the thing to check, and some text for an
error message
      //missingParms is a string that will contain a list of parameters
that are empty
      if (item[0] === null || item[0].trim() === '') missingParms +=
item[1] + '; ';
  }

  [
      [intacctRequestParms.userID,'Intacct UserID'],
      [intacctRequestParms.userPassword,'Intacct Password'],
      [intacctRequestParms.companyId, 'Company ID'],
      [intacctRequestParms.senderId,'Sender ID'],
      [intacctRequestParms.senderPassword,'Sender Password'],
      [adaptiveUser,'Adaptive User'],
      [adaptivePassword, 'Adaptive Password']
  ].forEach(checkIfEmpty);

  if (missingParms.length > 0 ) {
      missingParms = missingParms.substring(0, missingParms.length - 2);
 //trim last semicolon and space
      throw('The following required parameter values are empty: ' +
missingParms);
  }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
  var rowsProcessed = 0;
  var extractPeriodRange = {};    //holds start and end day, month, and
 year values from user periodRange parameter

  var requestStart,firstRequestBody,requestEnd,rows,rowsremaining,response;
   //for making api requests to Intacct

  var reportingBook='unknown', reportingPeriodName='unknown',
 reportingPeriodStartDate='unknown', reportingPeriodEndDate='unknown';   //
defined here, needed inside different functions

  // Prepare to extract data from Intacct and load into the staging table
  var rowset = context.getRowset();
  rowset.setSmartParsingEnabled(true);
  var tableId = rowset.getTableId();
  var columns = rowset.getColumns();
  var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(rowset);

  //get the session token and new endpoint
  var sessionAndEndpoint =
 getIntacctSessionID(intacctURL,intacctRequestParms);
  if (!sessionAndEndpoint)    {
      ai.log.logError('Intacct Request Failed','The request to Intacct
 failed.  See log for additional messages.');
      return;
  }
  //extract session id and new url from response
  var operation_sessionid = sessionAndEndpoint.sessionId;
  intacctURL = sessionAndEndpoint.endpoint;

  switch(tableId) {
      /***
       *
       * GL Balances and GLDETAIL require different processing from other
 tables due to the need to loop over reporting books and periods
       *
       ***/

      case 'GL Balances' :
      case 'GLDETAIL' :
          /***
           *
           * Build specific extract requests for these tables.
           *
           * We have to loop over both reporting books and reporting
 periods.
           * The exact syntax for specifying the request varies with the
 table.
           *
           ***/

          //get the specified period range info for the GL balances import
          var reportingPeriodsToImport =
 getReportingPeriodsToImport(periodRange);

          /***
           *
           * if there are user defined dimensions, build the clause to
 include them in balances request
           * and also need to add them to the groupby list, with a leading
 comma to make a syntactily correct list
           *
           ***/
          var userDefinedDimensions='';
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
          if (intacctGLRequestParms.userDefinedDimensions !== null &&
intacctGLRequestParms.userDefinedDimensions !== '') {
              userDefinedDimensions =
intacctGLRequestParms.userDefinedDimensions.split(',');   //turn into array
          }
          var uddXMLclause='';
          if (userDefinedDimensions.length > 0 ) {
              uddXMLclause = '<userDefinedDimensions>';
              for (let j=0; j<userDefinedDimensions.length; j++ ) {
                  uddXMLclause += '<userDefinedDimension><objectName>' +
userDefinedDimensions[j] + '</objectName></userDefinedDimension>';
              }
              uddXMLclause += '</userDefinedDimensions>';
              userDefinedDimensions = ',' +
userDefinedDimensions.join(',');    // turn back into string, add leading
comma for groupBy clause
          }


          /***
           *
           * Finally, start pulling the data from Intacct
           *
           * ***
           *
           * Iterate over reporting books
           *
           ***/
          var reportingBooksToExport =
intacctGLRequestParms.reportingBooks.split(',');   //put reportingbooks
into an array

          for (reportingBook of reportingBooksToExport) {

              if (reportingBook === null || reportingBook === '') continue;
  //skip blank values
              ai.log.logVerbose('Beginning import for book ' +
reportingBook);

              /***
               *
               * Iterate over reporting periods
               *
               ***/

              for (let i=0; i<reportingPeriodsToImport.length; i++ ) {

                  reportingPeriodStartDate =
reportingPeriodsToImport[i].startDate;
                  reportingPeriodEndDate =
reportingPeriodsToImport[i].endDate;

                  //build the first part of the request, common for both GL
Balances and GLDETAIL
                  //this is done inside the loop because the sessionid
could change
                  var glExportRequest, glExportRequestHeader,
glExportQuery, glExportRequestFooter;    //query will vary if multiple
requests are required
                  glExportRequestHeader = '<request><control><senderid>'
+ intacctRequestParms.senderId + '</senderid><password>' +
intacctRequestParms.senderPassword + '</password><controlid>' +
intacctRequestParms.control_controlid + '</controlid><dtdversion>' +
intacctRequestParms.control_dtdversion + '</dtdversion></control>';
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    glExportRequestHeader +=
 '<operation><authentication><sessionid>' + operation_sessionid + '</
sessionid></authentication>';
                    glExportRequestHeader += '<content><function controlid="'
 + intacctRequestParms.control_controlid + '">';

                    switch(tableId) {

                        //the export function is different between the two GL
 tables
                        case 'GL Balances' :

                            glExportQuery =
 '<get_accountbalancesbydimensions>';

                            glExportQuery += '<startdate>' +
 getDateElements(reportingPeriodStartDate) + '</startdate>';
                            glExportQuery += '<enddate>' +
 getDateElements(reportingPeriodEndDate) + '</enddate>';

                                /*  include this inside
 get_accountbalancesbydimensions to limit to an account range
                                <startaccountno>4000</startaccountno> \
                                <endaccountno>4999</endaccountno> \   */

                            glExportQuery += '<reportingbook>' +
 reportingBook + '</reportingbook>';

                            glExportQuery += uddXMLclause;    //user defined
 dimensions, if any

                            glExportQuery += '<groupby>' +
 intacctGLRequestParms.intacctDimensions + userDefinedDimensions + '</
groupby></get_accountbalancesbydimensions>';

                            break;

                        case 'GLDETAIL' :

                            //generate the query block, incorporating the
 offset needed for paging calls
                            glExportQuery = setGLDetailQuery(offset);
                            break;

                        default:
                            throw('FATAL ERROR Attempt to create extract
 request for table ' + tableId);

                    }   //end switch

                    //close out the request
                    glExportRequestFooter = '</function></content></
operation></request>';

                    //put it all together
                    glExportRequest = glExportRequestHeader + glExportQuery +
 glExportRequestFooter;

                    /***
                     *
                     * Make Intacct call, process results, load staging
                     *
                     ***/
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    response =
 updateStagingFromGLQuery(tableId,rowset,intacctURL,glExportRequest,reportingBook,report
                    if (!response) {
                        ai.log.logError('Intacct Request Error','The request
 to read data from Intacct failed.  See log for additional messages.');
                        break;
                    }
                    numremaining = response.numremaining;

                    //check for more records; if so, increment offset and
 call it again

                    if (tableId =='GLDETAIL' && numremaining !== null &&
 numremaining != '0') {
                        //There are more records for GLDETAIL, need to keep
 calling until we get them all
                        while (numremaining != '0') {
                            offset = offset + parseInt(numremaining);   //
compute where to start with next call

                            //build the query
                            glExportQuery = setGLDetailQuery(offset);
                            glExportRequest = glExportRequestHeader +
 glExportQuery + glExportRequestFooter;    //put it all together

                            /***
                             *
                             * Make Intacct call, process results, load
 staging
                             *
                             ***/

                            response =
 updateStagingFromGLQuery(tableId,rowset,intacctURL,glExportRequest,reportingBook,report
                            if (!response) {
                                ai.log.logError('Intacct Request Error','The
 request to read data from Intacct failed.  See log for additional
 messages.');
                                break;
                            }
                            numremaining = response.numremaining;

                        }
                    }

                }   //end for reporting periods
            }   //end for reporting books

            function setGLDetailQuery(offset) {
                /***
                 * internal function to build GLDETAIL query, setting the
 offset appropriately
                 *
                 *
                        <query>
                         <object>GLDETAIL</object>
                         <select>
                           <field>BOOKID</field>
                           <field>ENTRY_DATE</field>
                           <field>ACCOUNTNO</field>
                           <field>AMOUNT</field>
                           <field>TRX_AMOUNT</field>
                         </select>
                         <filter>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                            <and>
                            <equalto>
                              <field>MODULEKEY</field>
                              <value>2.GL</value>
                            </equalto>
                            <equalto>
                              <field>BOOKID</field>
                              <value>ACCRUAL</value>
                            </equalto>
                            <greaterthanorequalto>
                                <field>ENTRY_DATE</field>
                                <value>01/01/2011</value>
                            </greaterthanorequalto>
                            <lessthanorequalto>
                                <field>ENTRY_DATE</field>
                                <value>02/28/2011</value>
                            </lessthanorequalto>
                        </and>
                          </filter>
                        </query>
                 *
                 ***/

                var glExportQuery = '<query><object>GLDETAIL</object>';

                //get columns in staging table
                glExportQuery += '<select>';
                for (var j=0; j<columnRemoteIds.length; j++) {
                    glExportQuery += '<field>'+ columnRemoteIds[j] +'</
field>';
                }
                glExportQuery +='</select>';

                glExportQuery +='<filter><and>';
                glExportQuery +='<equalto><field>MODULEKEY</
field><value>2.GL</value></equalto>';
                glExportQuery +='<equalto><field>BOOKID</field><value>' +
 reportingBook +'</value></equalto>';

                //get start and end date of reporting period
                glExportQuery += '<greaterthanorequalto><field>ENTRY_DATE</
field><value>' + reportingPeriodStartDate + '</value></
greaterthanorequalto>';
                glExportQuery += '<lessthanorequalto><field>ENTRY_DATE</
field><value>' + reportingPeriodEndDate + '</value></lessthanorequalto>';

                glExportQuery += '</and></filter><pagesize>' + maxRows + '</
pagesize><offset>' + offset + '</offset></query>';

                return glExportQuery;

            }   //end setGLDetailQuery

            break;  //end GL Balances

        default:

            /***
             *
             * all other tables, using the readByQuery method
             *
             ***/

            rowsremaining = -1; //intial condition
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
          while(rowsremaining != 0) {

              /***
               *
               * Make Intacct call, process results, load staging
               *
               ***/

              //returns {rows,rowsremaining,operation_sessionid,intacctURL}
              response =
intacctReadByQueryRequest(tableId,rowset,intacctRequestParms,maxRows,operation_sessioni


              if (!response) {
                  ai.log.logError('Intacct Request Error','The request to
read data from Intacct failed.  See log for additional messages.');
                  break;
              }

              //set variables from response
              rowsremaining = response.rowsremaining;
              if (response.operation_sessionid !== undefined)
operation_sessionid = response.operation_sessionid;
              if (response.intacctURL !== undefined) intacctURL =
response.intacctURL;

         } //end while

  }   //end table switch

  /***
   *
   *  Internal functions.  These may modify variables that are defined
outside the functions
   *
   ***/

 function
intacctReadByQueryRequest(table,rowset,intacctRequestParms,maxRows,operation_sessionid,
{

     /***
      *
      * returns {rows,rowsremaining,operation_sessionid,intacctURL};
      * return false if any errors in getting the data
      *
      * Read by query request.  If more than maxPages of data is returned
then rowsremaining will be non-zero (for number of rows remaining) and
subsequent calls will be required.
      * rowsremaining is initially set to -1 coming in.
      *
      ***/
     var requestStart, requestQuery, requestEnd;
     var operation_sessionid_internal = operation_sessionid;
     var intacctURL_internal = intacctURL;

      var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(rowset);
      var cols = columnRemoteIds.join(",")


      /***
       *
       * Build the read-by-query HTTPS request
       *
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
         ***/

       //first part of request, authentication etc.
       requestStart = '<request><control><senderid>' +
 intacctRequestParms.senderId + '</senderid><password>' +
 intacctRequestParms.senderPassword + '</password><controlid>' +
 intacctRequestParms.control_controlid + '</controlid><dtdversion>' +
 intacctRequestParms.control_dtdversion + '</dtdversion></control>';
       requestStart += '<operation><authentication><sessionid>' +
 operation_sessionid + '</sessionid></authentication>';
       requestStart += '<content><function controlid="' +
 intacctRequestParms.control_controlid + '">';

       //middle of request, the actual query
       if (rowsremaining == -1) {
           //intial call
           requestQuery = '<readByQuery><object>' + table + '</
object><fields>' + cols + '</fields><query></query><pagesize>' + maxRows +
 '</pagesize><returnFormat>xml</returnFormat></readByQuery>';
       } else {
           //subsequent calls to get remaining rows
           requestQuery = '<readMore><object>' + table + '</object></
readMore>' ;
       }
       //close out the request
       requestEnd = '</function></content></operation></request>';

       //put it all together
       var strXMLRequest = requestStart + requestQuery + requestEnd;

       /***
        *
        * Make the request, load staging
        *
        ***/

       //returns {rowsremaining, sessionTO}
       var response = updateStagingFromReadByQuery(table, rowset,
 intacctURL, strXMLRequest);     //retrieve the rows of data from Intacct,
 push to staging
       if (!response) return false;

       /***
        *
        * Update session id if needed
        *
        ***/

       sessionTO = response.sessionTO;
       sessionTimeOut = new Date(sessionTO);   //datetime when session
 expires

       //intacctSessionTimeoutTolerance is tolerance in seconds, multiply by
 1000 to get milliseconds
       //compute how much time is left to expiration, compare with the
 tolerance
       var needNewSessionId = (parseInt((sessionTimeOut.getTime() - new
 Date().getTime()).toString()) < intacctSessionTimeoutTolerance * 1000)
       if (needNewSessionId) {
           var sessionAndEndpoint =
 getIntacctSessionID(intacctURL,intacctRequestParms);
           if (!sessionAndEndpoint)    {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
              ai.log.logError('Intacct Request Failed','The request
to Intacct to update the session id failed.  See log for additional
messages.');
              return false;
          }
          //extract session id and new url from response
          operation_sessionid_internal = sessionAndEndpoint.sessionId;
          intacctURL_internal = sessionAndEndpoint.endpoint;
      }

      /**
       *
       * return results
       *
       ***/

      return
{rowsremaining:response.rowsremaining,operation_sessionid:operation_sessionid_internal,

  }    //end intacctReadByQueryRequest


  function getReportingPeriodsToImport(periodRange) {
      /***
       *
       * Get the specified period range info for the GL balances importf
       *
       * Get the period range from Adaptive Time Stratum Settings
       * Use the parameter periodRange to pull all periods that fall
between start and end
       * Return data in Intacct by converting YYYY-MM-DD to MM/DD/YYYY
       * Set Period End Dates to Day-1 (Adaptive period end date is first
day of next month; for Intacct request we want last day of current month)
       *
       ***/
      var periodRangeStartSetting =
periodRange.getValue().getFromPeriodStartDateTime();
      var periodRangeEndSetting =
periodRange.getValue().getToPeriodEndDateTime();

      //extract start and end dates into strings formatted YYYY-MM-DD
      //these will be used to pull exportTime periods

      extractPeriodRangeStartDate =
periodRangeStartSetting.substring(0,10);
      extractPeriodRangeEndDate = periodRangeEndSetting.substring(0,10);

      /***
       *
       * Make Adaptive exportTime call
       *
       ***/

      var adaptiveURL = 'https://api.adaptiveplanning.com/api/v39';
      var method = 'POST';
      var xmlBody = '<call method="exportTime"
callerName="IntacctImport">';
      xmlBody += '<credentials login="' + adaptiveUser + '" password="' +
adaptivePassword + '"/></call>';
      var headers = null;
      try {
          response = ai.https.request(adaptiveURL, method, xmlBody,
headers);
      } catch(e) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
          //Catch catastrophic failure
          ai.log.logError('exportTime Failed','exportTime request failed.
Error: ' + e);
          return false;
      }

      //validate response
      var responseCode = response.getHttpCode();

      if (responseCode != 200){
          ai.log.logError('exportTime Failed','exportTime response http
code: ' + responseCode);
          return false;
      }

      /***
       *
       * Process the response
       *
       ***/
      var responseBody = response.getBody();
      var defaultStratumID;
      var withinPeriodRange = false; //Used to add periods between
specified start and end ranges
      var doneParsing = false; //Indicates that all data has been collected
      var reportingPeriodMap = []; //For mapping calendar dates to Intacct
reporting periods
      var loadTimeCallbacks = {};
      var responseStatusSuccess, responseMessage, adaptiveMessages= [],
foundMessages=false, foundMessage=false, messageText='';

      //Coded with expectation that extractTime is ordered chronological
and is consistent
      //stratum tags should be read before period tags
      loadTimeCallbacks.onOpenTag = function(tag){
          switch (tag.name){
              case 'response' :
                  responseStatusSuccess = tag.attributes['success'] ==
'true';
                  break;
              case 'messages' :
                  foundMessages = true;
                  break;
              case 'message' :
                  foundMessage = true;
                  messageKey = tag.attributes['key'] ;
                  break;
              case 'stratum':
                  //assumes the "default" startum is the one we want
                  if (tag.attributes['isDefault'] == 1) {
                      defaultStratumID = tag.attributes['id'];
                  }
                  break;
              case 'period':
                  //if no more data is being collected, skip this tag
                  if(doneParsing){
                      break;
                  }

                  //if still looking for data, process tag if correct
stratumId
                  if (tag.attributes['stratumId'] == defaultStratumID){
                      var periodStart;
                      var periodEnd;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                        //runs when first part of range is met
                        if (extractPeriodRangeStartDate ==
tag.attributes['start']){
                            periodStart = tag.attributes['start'];
                            periodEnd = tag.attributes['end'];

                            //check if end of range is part of first period
                            //if not set withinPeriodRange and skip else if
and else checks
                            //if yes then all data is collected after this
run
                            if(extractPeriodRangeEndDate != periodEnd){
                                withinPeriodRange = true;
                            } else {
                                doneParsing = true;
                            }
                        } else if (extractPeriodRangeEndDate ==
tag.attributes['end']){
                            //runs when last part of range is met
                            //set withinPeriodRange to false and that all
data has been collected
                            withinPeriodRange = false;
                            doneParsing = true;
                            periodStart = tag.attributes['start'];
                            periodEnd = tag.attributes['end'];
                        } else if (withinPeriodRange){
                            //add values and continue since we are somewhere
in the middle of the range
                            periodStart = tag.attributes['start'];
                            periodEnd = tag.attributes['end'];
                        }

                        //If data was collected, reformat the data and add it
to output
                        if(typeof periodStart != 'undefined' && typeof
periodEnd != 'undefined'){
                            //Reformat periodStart YYYY-MM-DD to MM/DD/YYYY
                            mo = periodStart.substring(5,7);
                            dy = periodStart.substring(8,10);
                            yr = periodStart.substring(0,4);
                            periodStartTemp = mo + '/' + dy + '/' + yr;

                            //Reformat periodStart YYYY-MM-DD to MM/DD/YYYY
-1 day
                            periodEndTemp = new Date(periodEnd +'T00:00:00');
                            periodEndTemp = new
Date(periodEndTemp.setDate(periodEndTemp.getDate()-1));
                            yr = periodEndTemp.getFullYear().toString();
                            mo = (periodEndTemp.getMonth() + 1); //Month is 0
based
                            pad = '';
                            if (mo < 10) {
                                pad = '0';
                            }
                            mo = pad + mo.toString();
                            dy =  periodEndTemp.getDate();
                            pad = '';
                            if (dy < 10) {
                                pad = '0';
                            }
                            dy = pad + dy.toString();
                            periodEndTemp = mo + '/' + dy + '/' + yr;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                        reportingPeriodMap.push({startDate:
periodStartTemp, endDate: periodEndTemp});
                    }
                }
            }
        }   //end onOpenTag

        loadTimeCallbacks.onText = function(text) {
            if (foundMessage) {
                foundText=true;
                messageText = text;    //save value in row
            }

        };


        loadTimeCallbacks.onCloseTag = function(tagName) {
            switch (tagName) {
                case 'response' :
                    responseStatusSuccess = true; //TODO work around bug
PLNINT-9135
                    if (!responseStatusSuccess) {
                        //something went wrong, log the messages
                        for (var msgIdx in adaptiveMessages) {
                            ai.log.logError('Adaptive GetTime API error',
adaptiveMessages[msgIdx]);
                        }
                        //fatal error
                        throw('Error attempting to process Adaptive Time
Stratum to determine accounting periods.  See log for additional details');
                    }
                    break;
                case 'messages' :
                    foundMessages = false;
                    break;
                case 'message' :
                    adaptiveMessages.push(messageKey + ':' + messageText);
                    foundMessage = false;
                    break;
            }
        }   // end onCloseTag

        //Sets SAX parser which will run the above onOpenTag function for
each tag
        var timeParser = ai.xml.sax.createFromText(responseBody, "UTF8",
loadTimeCallbacks);
        timeParser.readToEnd();   //process response

        return reportingPeriodMap;

    }   //end getReportingPeriodsToImport

    function getDateElements(aMMDDYYYYdate) {
        /***
         *
         * Generate an XML formated block containing a date
         *
         * assumes date is in MM/DD/YYYY format
         *                    0123456789
         *
         * returns:
         *
            <year>2010</year>
            <month>06</month>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
            <day>01</day>

         *
         ***/

        let dateElements = '<year>' +aMMDDYYYYdate.substring(6,10) +'</
year>';
        dateElements += '<month>' + aMMDDYYYYdate.substring(0,2) + '</
month>';
        dateElements += '<day>' + aMMDDYYYYdate.substring(3,5) + '</day>';

        return dateElements;

    };  //end getDateElements

}   //end importData

/***
*
* Global functions
*
***/

function
 updateStagingFromGLQuery(tableId,rowset,url,requestBody,reportingBook,reportingPeriodSt
 {

    /***
     *
     * returns {numremaining : numremaining}
     *
     * Post GLQuery request to Intacct, process the results, load data into
 staging
     *
     ***/

    var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(rowset);

    var row = {};
    var loadGLCallbacks = {};
    var data = {
        currentTag: ''
    };

    //state flags for keeping track of where we are in the xml stream, and
 for capturing some data
    var foundOperation=false, foundResult=false, foundData=false,
 foundAccountBalance=false, foundText=false, foundGLDetail = false,
 foundError = false, errorsFound=false, numremaining=0;
    var functionText, errorNo, errorDescription, errorDescription2,
 correction;
    var errorMsg='';

    /***
     * Set up the SAX parser callbacks to process the XML reponse
     *

        For GL Balance the result looks like -
            <result>
            <status>success</status>
            <function>get_accountbalancesbydimensions</function>
            <controlid>f860fdfd-f88c-41ae-a93f-e1d1b8012ace</controlid>
            <data>
                <accountbalance>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <glaccountno>4000</glaccountno>
                    ... for each field
                </accountbalance>

        For GLDETAIL the result looks like -
            <result>
                <status>success</status>
                <function>query</function>
                <controlid>d5589b55-3c0b-40ff-8e19-d8aa11dab11e</controlid>
                <data listtype="GLDETAIL" totalcount="10" offset="0"
count="10" numremaining="0">
                    <GLDETAIL>
                        <BATCHKEY>44</BATCHKEY>
                        ... for each field
                    </GLDETAIL>
     *
     *
     ***/
    loadGLCallbacks.onOpenTag = function(tag) {
        data.currentTag = tag.name;
        switch (tag.name) {
            case 'errormessage' :
                foundError = true;  //bad news
                break;
            case 'operation' :
                foundOperation = true;
                break;
            case 'result' :
                foundResult = true;
                break;
            case 'data' :
                foundData = true;
                numremaining = tag.attributes['numremaining']; //GLDETAIL may
require more than one call
                break;
            case 'accountbalance' :
                foundAccountBalance = true;
                row = {};   //reset
                break;
            case 'GLDETAIL' :
                foundGLDetail = true;
                row = {};   //reset
                break;
            default :
        }

    };

    loadGLCallbacks.onText = function(text) {
        // looking for error messages
        switch (data.currentTag) {
            case 'correction' :
                correction = text;
                break;
            case 'description2' :
                errorDescription2 = text;
                break;
            case 'description' :
                errorDescription = text;
                break;
            case 'errorno' :
                errorNo = text;
                break;
            case 'function' :
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                functionText = text;
                break;
        }

        if (foundAccountBalance || foundGLDetail) {
            foundText=true;
            row[data.currentTag] = text;    //save value in row
        }

    };


    loadGLCallbacks.onCloseTag = function(tagName) {
        let cells = [];
        switch (tagName) {
        case 'errormessage' :
            //Oops, found an error
            //assemble the error message to return to caller
            foundError = false;
            if (functionText) errorMsg += 'Operation: ' + functionText + ' ';
            errorMsg += 'Error Number: ' + errorNo + ' Description: ' +
errorDescription;
            if (errorDescription2) errorMsg += '; ' + errorDescription2;
            if (correction) errorMsg += ' Correction: ' + correction;

            ai.log.logError('Intacct API request operation failed',errorMsg);

            errorsFound = true;

        case 'operation' :
            foundOperation = false;
            break;
        case 'result' :
            foundResult = false;
            break;
        case 'data' :
            foundData = false;
            break;
        case 'accountbalance' :
            //done processing one "row" of data
            foundAccountBalance = false;

            //tack on reporting book
            row.reportingbook=reportingBook;

            //tack on reporting period start date
            row.periodstartdate = reportingPeriodStartDate;

            cells = [];
            //put data in the right column order
            for (let i=0;i<columnRemoteIds.length;i++) {
                let val = row[columnRemoteIds[i]] === undefined ? '' :
row[columnRemoteIds[i]]; //has to have a value
                cells.push(val);
            }
            rowset.addRow(cells);   //push to staging

            break;
        case 'GLDETAIL' :
            foundGLDetail = false;

            cells = [];
            //put data in the right column order
            for (let i=0;i<columnRemoteIds.length;i++) {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                let val = row[columnRemoteIds[i]] === undefined ? '' :
 row[columnRemoteIds[i]]; //has to have a value
                cells.push(val);
            }
            rowset.addRow(cells);   //push to staging

            break;
        default:
            if (foundAccountBalance || foundGLDetail) {
                if (foundText) {
                    foundText = false;  //reset flag
                } else {
                    //empty field, output an empty string
                    row[data.currentTag] = '';
                }
            }
        }
    }; //end onCloseTag

    var method = 'POST';
    var headers = { 'Content-Type': 'x-intacct-xml-request' };
    var glParser = ai.xml.sax.createFromUrl(url, method ,requestBody,
 headers, loadGLCallbacks);
    glParser.readToEnd();

    if (errorsFound) return false;  //errors mean no data was returned

    return {numremaining : numremaining};

} //end updateStagingFromGLQuery


function updateStagingFromReadByQuery(tableId,rowset,url,requestBody) {

    /***
     *
     * returns {rowsremaining, sessionTO}
     *
     * Post read-by-query request to Intacct, process the results, load data
 into staging
     *
     ***/

    //state flags for keeping track of where we are in the xml stream, and
 for capturing some data
    var foundOperation=false, foundAuthentication=false, foundResult=false,
 foundSessionTimeout=false, foundResult=false, foundData=false,
 foundTableRow=false, foundError = false, errorsFound = false;
    var functionText, errorNo, errorDescription, errorDescription2,
 correction, sessionTimeout, rowsRemaining;
    var errorMsg='', rows=[], row={};
    var rowCallBacks = {}, data = {}, cells=[];

    var columnRemoteIds = getColumnRemoteIds(rowset);

    /***
     *
     * Define SAX parser callbacks
     *

        response looks like this
        <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
        <response>
            <control>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                <status>success</status>
                <senderid>adaptiveplanning</senderid>
                <controlid>c5KLKSWFEKPR50GF4</controlid>
                <uniqueid>false</uniqueid>
                <dtdversion>3.0</dtdversion>
            </control>
            <operation>
                <authentication>
                    <status>success</status>
                    <userid>Julia</userid>
                    <companyid>adaptiveplanning-DEV</companyid>
                    <locationid></locationid>
                    <sessiontimestamp>2024-09-12T18:30:53+00:00</
sessiontimestamp>
                    <sessiontimeout>2024-09-12T22:30:53+00:00</
sessiontimeout>
                </authentication>
                <result>
                    <status>success</status>
                    <function>readByQuery</function>
                    <controlid>c5KLKSWFEKPR50GF4000002.00</controlid>
                    <data listtype="department" count="14" totalcount="14"
 numremaining="0" resultId="">
                        <department>
                            <DEPARTMENTID>QADept</DEPARTMENTID>
                            <RECORDNO>14</RECORDNO>
                            <TITLE>Brisbane-QA</TITLE>
                            <PARENTKEY>12</PARENTKEY>
                            <PARENTID>QA</PARENTID>
                            <PARENTNAME>TestQA</PARENTNAME>
                            <SUPERVISORKEY>1</SUPERVISORKEY>
                            <SUPERVISORID>1</SUPERVISORID>
                            <WHENCREATED>05/12/2023 07:14:45</WHENCREATED>
                            <WHENMODIFIED>05/12/2023 07:14:45</WHENMODIFIED>
                            <SUPERVISORNAME>John Pearce</SUPERVISORNAME>
                            <STATUS>active</STATUS>
                            <CUSTTITLE></CUSTTITLE>
                            <CREATEDBY>19</CREATEDBY>
                            <MODIFIEDBY>19</MODIFIEDBY>
                        </department>
                        ...
                    </data>
                </result>
            </operation>
        </response>

    ***/

   rowCallBacks.onOpenTag = function(tag) {
       data.currentTag = tag.name;
       switch (tag.name) {
           case 'operation' :
               foundOperation = true;
               break;
           case 'authentication' :
               foundAuthentication = true;
               break;
           case 'result' :
               foundResult = true;
               break;
           case 'errormessage' :
               foundError = true;  //bad news
               break;
           case 'sessiontimeout' :
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                foundSessionTimeout = true;
                break;
            case 'data' :
                foundData = true;
                rowsRemaining = tag.attributes['numremaining'] ;
                break;
            case tableId.toLowerCase() :
                foundTableRow = true;
                break;

            default :
        }

    };

    rowCallBacks.onText = function(text) {
        // looking for error messages
        switch (data.currentTag) {
            case 'sessiontimeout' :
                if (foundOperation && foundAuthentication ) sessionTimeout =
text;
                break;
            case 'correction' :
                correction = text;
                break;
            case 'description2' :
                errorDescription2 = text;
                break;
            case 'description' :
                errorDescription = text;
                break;
            case 'errorno' :
                errorNo = text;
                break;
            case 'function' :
                functionText = text;
                break;
            default :
                if (foundOperation && foundResult && foundData &&
foundTableRow) {
                    //we're processing a row of data; grab this text value
and add it to the row array
                    row[data.currentTag] = text;
                }
        }

    };


    rowCallBacks.onCloseTag = function(tagName) {
        let cells = [];
        switch (tagName) {
            case 'operation' :
                foundOperation = false;
                break;
            case 'authentication' :
                foundAuthentication = false;
                break
            case 'result' :
                foundResult = false;
                break;

            case 'errormessage' :
                //Oops, found an error
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                //assemble the error message to return to caller
                foundError = false;
                if (functionText) errorMsg += 'Operation: ' + functionText +
 ' ';
                errorMsg += 'Error Number: ' + errorNo + ' Description: ' +
 errorDescription;
                if (errorDescription2) errorMsg += '; ' + errorDescription2;
                if (correction) errorMsg += ' Correction: ' + correction;

                ai.log.logError('Intacct API request operation
 failed',errorMsg);

                errorsFound = true;

            case 'sessiontimeout' :
                foundSessionTimeout = false;
                break;
            case 'data' :
                foundResult = false;
                break;
            case tableId.toLowerCase() :
                //done with one row entry; add row to collection of rows
                foundTableRow = false;

                cells = [];
                //put data in the right column order
                for (let i=0;i<columnRemoteIds.length;i++) {
                    let val = row[columnRemoteIds[i]] === undefined ? '' :
 row[columnRemoteIds[i]]; //has to have a value
                    cells.push(val);
                }

                rowset.addRow(cells);   //push to staging

                row = {}; //reset row holder

                break;
            default :
        }
    }; //end onCloseTag


    /***
     *
     * Make the request, process the response
     *
     **/

    var method = 'POST';
    var headers = { 'Content-Type': 'x-intacct-xml-request' };
    var saxParser = ai.xml.sax.createFromUrl(url, method, requestBody,
 headers, rowCallBacks);
    saxParser.readToEnd();   //process response

    if (errorsFound) return false;  //errors mean no data was returned

    return {rowsremaining : rowsRemaining, sessionTO : sessionTimeout};

} //end updateStagingFromReadByQuery


function previewData(context) {
    //previewData should do the same as importData, except that the results
 are not saved to staging
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   //since importData is just loading the data without any other
 manipulation there isn't much to be learned by "previewing"
   throw('External Preview Data is not implemented');
}
```

supportingFunctions

注：この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

以下のコード ブロックを SAGE Intacct CCDS にスクリプトとして保存し、「supportFunctions」という名前を付けます。

```
function logContentDetails(content, contentName, limit) {

   /**
   * a utlility function - returns an array of the start and end to
 substring the content so that we can log
   * all of it in 1000-byte chunks (the max size of a verbose log detail)
   * so, for example, in the case of a 2025 length string this would return:
   * [ {start: 0, end: 1000},
   *   {start: 1000, end: 2000},
   *   {start: 2000, end: 2025} ]
   * @param {} content
   */
   function getChunksToLog(content) {
       var bytesRemaining = content.length;
       var array = [];
       var startByte = 0;
       var endByte = 0;
       const maxDetailSize = 1000;
       while (bytesRemaining > 0) {
           endByte = Math.min(bytesRemaining, maxDetailSize);
           array.push({ start: startByte, end: startByte + endByte });
           startByte += endByte;
           bytesRemaining -= maxDetailSize;
       }

       return array;
   }

   var ChunksToLogArray = getChunksToLog(content);

   var limitUse = limit ? limit : ChunksToLogArray.length;
   if (limitUse > ChunksToLogArray.length) {
       limitUse = ChunksToLogArray.length;
   }

   for (var chunkIndexer = 0; chunkIndexer < limitUse; chunkIndexer++) {
       var chunkIdentifier = chunkIndexer + 1; // humans like to see number
 sequences that start with 1
       // to make sorting the log file easier, let's make each 'chunk' a 3-
digit value with leading zeroes as necessary
       var chunkIdentifierPadded = '' + chunkIdentifier;
       if (chunkIdentifier < 10) {
           chunkIdentifierPadded = '00' + chunkIdentifier;
       }
       else if (chunkIdentifier < 100) {
           chunkIdentifierPadded = '0' + chunkIdentifier;
       }
       ai.log.logVerbose(contentName + ' ' + chunkIdentifierPadded,
           content.substring(ChunksToLogArray[chunkIndexer].start,
 ChunksToLogArray[chunkIndexer].end));
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        sleepX(2000); // to avoid excessive logging
    }
}

function sleepX(milliSeconds) {
    //NOTE this should be replaced by non-CPU consuming sleep function,
 expected in 2024R2
    var startTime = new Date().getTime(); // get the current time
    while (new Date().getTime() < startTime + milliSeconds);
}


function getintacctRequestParms(dataSource)  {
    //get various settings for making Intacct requests
    var intacctRequestParms = {};
    intacctRequestParms.userID = dataSource.getSetting('Intacct
 UserID').getValue();
    intacctRequestParms.userPassword = dataSource.getSetting('Intacct
 Password').getValue();
    intacctRequestParms.companyId = dataSource.getSetting('Company
 ID').getValue();
    intacctRequestParms.senderId = dataSource.getSetting('Sender
 ID').getValue();
    intacctRequestParms.senderPassword = dataSource.getSetting('Sender
 Password').getValue();
    intacctRequestParms.clientId = dataSource.getSetting('Client
 Id').getValue();
    intacctRequestParms.locationId = dataSource.getSetting('Location
 Id').getValue();
//TODO needed?    intacctRequestParms.includeNonPostingDimensions =
 dataSource.getSetting('Include non-posting dimensions').getValue();

    intacctRequestParms.control_controlid = 'ADAP' + (new
 Date()).getTime().toString();
    intacctRequestParms.control_uniqueid = 'false';
    intacctRequestParms.control_dtdversion = '3.0';

    return intacctRequestParms;
}


function getintacctGLRequestParms(dataSource) {
    //get various settings for making GL Data extract requests
    var intacctGLRequestParms = {};
    intacctGLRequestParms.reportingBooks = dataSource.getSetting('Reporting
 Books (comma separated)').getValue();                  //reporting books
 to process
    intacctGLRequestParms.intacctDimensions = dataSource.getSetting('Intacct
 Dimensions (comma separated)').getValue();             //dimensions to
 split data by
    intacctGLRequestParms.userDefinedDimensions = dataSource.getSetting('User
 Defined Dimensions (comma separated)').getValue();    //user defined
 dimensions to include

    return intacctGLRequestParms;
}

function getColumnRemoteIds(rowset) {
    var columnIds = [];
    var columns = rowset.getColumns();
    for (var i=0; i<columns.length; i++) {
        var id = columns[i].getId();
        columnIds.push(id);
    }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
   return columnIds;
} //end getColumnRemoteIds

function getReportingPeriodsToImportXXX(periodRange) {

   /***
    *
    * This version uses Intacct Reporting Periods to determing the periods
    * This version is not in use, preserved here in case it turned out to be
 useful elsewhere
    *
    * get the specified period range info for the GL balances import
    *
    * Get the period range from the user's period range paramater
    * Construct start and end date strings MM/DD/YYYY (Intacct's format)
    * Set the end date to the last day of the last month in the range rather
 than the first day of the following month from the Adaptive period range
    * Pull the reporting periods from Intacct
    * Find the starting and ending reporting periods that correspond to the
 Adaptive periods
    * Build an array containing all the Reporting Periods from start to end
 of the requested range
    *
    ***/
   var rowsremaining;
   var reportingPeriodMap = [];     //for mapping calendar dates to Intacct
 reporting periods

   var periodRangeStartSetting =
 periodRange.getValue().getFromPeriodStartDateTime();
   var periodRangeEndSetting =
 periodRange.getValue().getToPeriodEndDateTime();

   //extract start and end dates into strings formatted MM/DD/YYYY
   //these will be used to lookup the associated reporting periods from
 Intacct
   let mo, dy, yr;  //temporary holders

   mo = periodRangeStartSetting.substring(5,7);
   dy = '01';
   yr = periodRangeStartSetting.substring(0,4);

   //start period date in MM/DD/YYYY format
   var extractPeriodRangeStartDate = mo + '/' + dy + '/' + yr;

   //end date from Adaptive is midnight of the next day, so have to back up
 one day to get correct period value
   periodRangeEndTemp = new Date(periodRangeEndSetting);
   periodRangeEndTemp = new
 Date(periodRangeEndTemp.setDate(periodRangeEndTemp.getDate() - 1));    //
subtract one day
   yr = periodRangeEndTemp.getFullYear().toString();
   mo = (periodRangeEndTemp.getMonth() + 1);                      //month is
 zero based
   //period is 2 digits, left padded with zero
   let pad = '';
   if (mo < 10) {
       pad = '0';
   }
   mo = pad + mo.toString();               //month, with 0 pad if needed
   dy = periodRangeEndTemp.getDate();      //day, no zero pad needed

   //end period date in MM/DD/YYYY format
   var extractPeriodRangeEndDate = mo + '/' + dy + '/' + yr;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
  /***
   *
   * Build the table of reporting period dates from Intacct
   *
   ***/

  var reportingPeriodTableName = 'REPORTINGPERIOD';
  var reportingPeriodColumns =
'NAME,HEADER1,HEADER2,START_DATE,END_DATE,STATUS';

  rowsremaining = -1; //initial condition
  while(rowsremaining !== 0) {

      response =
intacctReadByQueryRequest(reportingPeriodTableName,reportingPeriodColumns,intacctReques
      if (!response) throw('Getting Reporting Period data from Intacct
failed.  See log for additional messages');

      //set variables from response
      rows = response.rows;
      rowsremaining = response.rowsremaining;
      if (response.operation_sessionid !== undefined) operation_sessionid =
response.operation_sessionid;
      if (response.intacctURL !== undefined) intacctURL =
response.intacctURL;

      reportingPeriodMap = updateReportingPeriodMap(rows);

  }

  /***
   *
   * Compute the reporting periods cooresponding to the user's requested
period range
   *
   * One important assumption is Intacct periods align exactly with
Adaptive periods
   *
   * Extract the reporting period from the map.  The map structure is:
   *      reportingPeriodMap[index] = {periodName: periodName, startDate:
startDate, endDate: endDate}
   *
   ***/

  //iterate over reportingPeriodMap to find start and end Intacct periods
  let startDateIdx = -1, endDateIdx = -1;
  for (let j=0; j<reportingPeriodMap.length; j++) {
      if(reportingPeriodMap[j].startDate == extractPeriodRangeStartDate )
startDateIdx = j;
      if(reportingPeriodMap[j].endDate == extractPeriodRangeEndDate )
endDateIdx = j;
  }
  if (startDateIdx == -1) throw('An Intacct Reporting Period that begins '
+ extractPeriodRangeStartDate + ' was not found');
  if (endDateIdx == -1) throw('An Intacct Reporting Period that ends ' +
extractPeriodRangeEndDate + ' was not found');


  /**
   *
   * Set up reportingPeriodsToImport array of reporting periods to be
exported
   *
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    * reportingPeriodsToImport => Array of {periodName: periodName,
 startDate: startDate, endDate: endDate}
    * we need the name for the Intacct request, and date for loading into
 staging
    *
    *
    ***/

   var reportingPeriodsToImport =
 reportingPeriodMap.slice(startDateIdx,endDateIdx + 1);

   return reportingPeriodsToImport;

}   //end getReportingPeriodsToImportXXX
```

*参考: CCDS スクリプトの例 SAP*

注 : この CCDS スターター スクリプトは、JavaScript 開発者がユース ケースに合わせて変更する必要があります。変更しないと機能しません。

Adaptive Planning には、JavaScript 開発者が CCDS を開始するのに役立つ CCDS スターター スクリプト テンプレートが用意されています。すべてのスターター スクリプトには、Adaptive Planning で必須とされる以下の関数のセクションが含まれています。

- 接続テスト
- 構造のインポート
- データのインポート

**API** のサンプル スクリプト

```
/******************

Preview Data

******************/
/* JavaScript Document
function previewData(context)
{
    // not supported
}


/******************

Test Connection

******************/

// These below settings need to be created on the data source for the script
 to pick up and connect successfully.

function testConnection(context) {
    var dataSource = context.getDataSource();
    var username = dataSource.getSetting("Username").getValue();
    var password = dataSource.getSetting("Password").getValue();
    var endpoint = dataSource.getSetting("Request URL").getValue();
    var client_id = dataSource.getSetting("client_id").getValue();
    var client_secret = dataSource.getSetting("client_secret").getValue();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    // Step 1: Create a https request to send to your API
    var url = endpoint + 'client_id=' + client_id + '&client_secret=' +
 client_secret;
    ai.log.logInfo('url: ', url);
    var method = 'POST';
    // Setup request in body, sample is using xml, but could be json
    var body = '{"companyCode": "SAP Company Code","fiscalYear": "SAP Fiscal
 Year","period": "SAP Fiscal Period"}';
    var headers = { 'Authorization': 'Basic ' + base64Encode(username + ':'
 + password),'Content-Type': 'application/json' };

    // Step 2: Send request and receive response
    var response = null;
    try {
        response = ai.https.request(url, method, body, headers);
    }
    catch (exception) {
        // Example of logging to the CCDS log using the Error loglevel
        ai.log.logError('Test Connection HTTPS Request failed',
 ''+exception);
        ai.log.logInfo('http code', response.getHttpCode());
        return false;
    }


    //ai.log.logInfo('http code', response.getHttpCode());
    ai.log.logInfo('response body', response.getBody().toString());

    var parser = ai.xml.createParser();
    var xmlDoc = parser.parse(response.getBody());
    var root = xmlDoc.getRootElement();

    //ai.log.logInfo('authorization', base64Encode(username + ':' +
 password));
    return true;
}

// This is used to encode the username and password with base64
function base64Encode(text){
    if (/([^\u0000-\u00ff])/.test(text)){
        throw new Error("Can't base64 encode non-ASCII characters.");
    }
    var digits =
 "ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789+/",
        i = 0,
        cur, prev, byteNum,
        result=[];

    while(i < text.length){

        cur = text.charCodeAt(i);
        byteNum = i % 3;

        switch(byteNum){
            case 0: //first byte
                result.push(digits.charAt(cur >> 2));
                break;

            case 1: //second byte
                result.push(digits.charAt((prev & 3) << 4 | (cur >> 4)));
                break;

            case 2: //third byte
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                result.push(digits.charAt((prev & 0x0f) << 2 | (cur >> 6)));
                result.push(digits.charAt(cur & 0x3f));
                break;
        }

        prev = cur;
        i++;
    }

    if (byteNum == 0){
        result.push(digits.charAt((prev & 3) << 4));
        result.push("==");
    } else if (byteNum == 1){
        result.push(digits.charAt((prev & 0x0f) << 2));
        result.push("=");
    }

    return result.join("");
}

/******************

Import Structure

******************/

function importStructure(context) {
    var dataSource = context.getDataSource();

    var builder = context.getStructureBuilder();

    for(var i=0; i<MatrixDataModel.Tables.length; i++){
        var definedTable = MatrixDataModel.Tables[i];
        var table = builder.addTable(definedTable.name);
        table.setDisplayName(definedTable.displayName);

        for(var j=0; j<definedTable.columns.length; j++) {
            addColumn(table, definedTable.columns[j]);
        }
    }
}

function addColumn(table, column){
    var recordColumn = table.addColumn(column.name);
    recordColumn.setDisplayName(column.displayName);
    switch(column.type){
        case "text": recordColumn.setTextColumnType(column.length);break;
        case "int": recordColumn.setIntegerColumnType();break;
        case "float": recordColumn.setFloatColumnType();break;
        case "boolean": recordColumn.setBooleanColumnType();break;
        case "datetime": recordColumn.setDateTimeColumnType();break;
        default: recordColumn.setTextColumnType(20);break;
    }
    recordColumn.setDisplayOrder(column.order);
    recordColumn.setIncludeByDefault(column.includeByDefault || false);
    recordColumn.setIncludeInKey(column.includeInKey || false);
    recordColumn.setMandatoryForImports(column.mandatoryForImport ||
 false);
    recordColumn.setRemoteColumnType(column.remoteColumnType || "String");
}


/******************
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
Import Data

******************/

function importData(context) {


    var stagingTable = context.getRowset(); //'rowset' opens up the ability
 to interact with the current staging table.
    stagingTable.setSmartParsingEnabled(true); //allow AI to try coercing
 response data into assigned column types.


    var dataSource = context.getDataSource();
    var username = dataSource.getSetting("Username").getValue();
    var password = dataSource.getSetting("Password").getValue();
    var endpoint = dataSource.getSetting("Request URL").getValue();
    var client_id = dataSource.getSetting("client_id").getValue();
    var client_secret = dataSource.getSetting("client_secret").getValue();
    var companyCode = dataSource.getSetting("companyCode").getValue();


    //Period Range calculations Start
    var startDate = dataSource.getSetting("Import
 Period").getValue().getFromPeriodStartDateTime().substring(0, 10);
    var startYear=startDate.substring(0, 4);
    var startMonth=startDate.substring(5, 7);


    var url = endpoint + 'client_id=' + client_id + '&client_secret=' +
 client_secret;

    var method = 'POST';
    // Setup request in body, sample is using xml, but could be json
    var body = '{"companyCode": "' + companyCode +'","fiscalYear": "' +
 startYear + '","period": "' + startMonth +'"}';
    var headers = { 'Authorization': 'Basic ' + base64Encode(username + ':'
 + password),'Content-Type': 'application/json' };


    // Step 2: Send request and receive response
    var response = null;
    try {

        response = ai.https.request(url, method, body, headers);
    }
    catch (exception) {
        // Example of logging to the CCDS log using the Error loglevel
        ai.log.logError('Test Connection HTTPS Request failed',
 ''+exception);
        ai.log.logInfo('http code', response.getHttpCode());
        return false;
    }


    var responseBody = response.getBody();
    ai.log.logInfo('responseBody', responseBody);
    //convert JSON response to physical, parseable object.

    var responseObject = JSON.parse(responseBody).CDSViewName;

    ai.log.logInfo('responseObjectLength', responseObject.length);

    var stagingTableColumns = stagingTable.getColumns();
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    for(var rowIndex = 0; rowIndex < responseObject.length; rowIndex++) {
        var cells = [];
        var currentRow = responseObject[rowIndex]; //object
        /
*************************************************************************
         *
         * Just as generating the filter leveraged structure design, this
 nested
         * column loop uses the same logic: staging column IDs map 1:1 with
         * object properties.
         *

 ************************************************************************/
        for (var columnIndex = 0; columnIndex < stagingTableColumns.length;
          columnIndex++) {
          var currentColumn = stagingTableColumns[columnIndex].getId();
          var val;
          var intJulianDate;
          // Date is Returned as Juliandate. Converting Julian Date to
 proper date
          if
 (stagingTableColumns[columnIndex].getColumnType()=='DateTimeColumn'){

                intJulianDate=currentRow[currentColumn];
                // Date is retured as /date(2452432442)/. Removing that
 string for proper parsing
                intJulianDate=intJulianDate.replace("/Date(","");
                intJulianDate=intJulianDate.replace(")/","");
                intJulianDate= parseInt(intJulianDate);
                val = new Date(intJulianDate);

              } else {
                 val = currentRow[currentColumn];
              }

              cells.push(val);

        }

    stagingTable.addRow(cells);
  }

    return true;

}
```

## データのインポートとエクスポート

### スプレッドシートのインポート

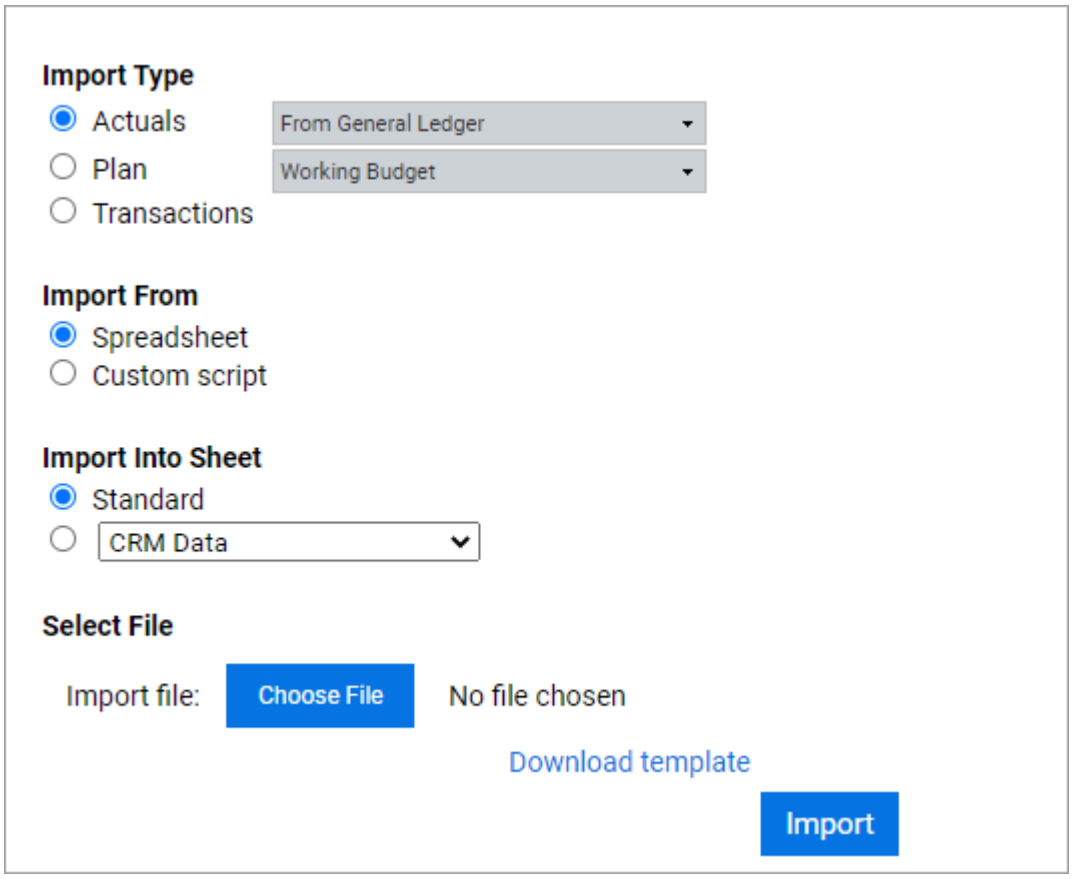
ダウンロードしたスプレッドシート テンプレートに入力して、インスタンスにアップロードすることにより、標準シート、キューブ シート、およびモデル シートにデータをインポートできます。会社にトランザクション モジュールがある場合は、Adaptive Planning でスプレッドシートから トランザクションの詳細をインポートする こともできます。インポート プロセスの一環として、ソースから科目、組織、属性を、Adaptive Planning にすでに存在するものにマッピングします。

Workforce Planning Configuration Manager によって管理されているモデル シートでは無効です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

"データのインポート" インターフェイスでは、インポートの種類、ソース、および移動先を選択できます。選択によりインポートのテンプレートとなるスプレッドシートが生成され、それをダウンロードして、ソース システムのデータを入力します。ダウンロードしたテンプレート ファイルの指示を常に確認し、最新のステップおよび要件を確認してください。スプレッドシートのテンプレートに入力したら、それをインポートします。

インポートを行うユーザーは、アクセス ルールが原因でインポートを検証できない場合があります。ベスト プラクティスとして、インポート元のユーザーは少なくともすべての交差部分に対して "全表示" アクセス権を持っている必要があります。




シートの GL、カスタム、およびキューブ科目の実績バージョンからデータを消去する方法については、を参照してください。 インテグレーション管理からのデータ消去（2060ページ）。

注： その他のインポート方法: 会社が NetSuite インテグレーション オプションを購入した場合は、NetSuite 科目から直接、実績データをインポートすることもできます。

Adaptive Planning インテグレーションは、さまざまな外部システムから自動データ インポートおよびメタデータ インポートをスケジュールできる、完全なデータ インテグレーション プラットフォームを提供します。参照 概念: インテグレーション（1607ページ）。

前提条件

- 必要な権限:
  - "インポート機能" と、データをインポートしたい特定の交差への編集アクセス。
  - または、場所や組織アクセスに関係なく、すべてのエリアにインポートできる "すべての場所へのインポート"。
  - インポートを検証するには、インポート元のユーザーに、データがインポートされるすべての交差部分に対する "全表示" アクセス権が少なくとも必要です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- トランザクションのインポートには、トランザクション モジュールと 参考: トランザクション（1234ページ）。
- シート名と 概念: シート タイプ（43ページ） データは にインポートされます。
- データをコピーできる CSV、XLSX、またはその他のファイルで、ERP またはその他のソース システムからエクスポートします。
- プロセスを効率よく行うには、データ値をロードする必要がある科目、組織、および属性が Adaptive Planning にすでに存在することを確認します。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューで "インテグレーション" > "データのインポート"をクリックします。

基本ステップ

1. インポートの種類とインポート元を選択します。
2. インポート先を選択します。
3. スプレッドシートのインポートの場合、次のいずれかのテンプレートをダウンロードして入力します。
    - モデル データ
    - キューブ データ
    - 標準データ
    - トランザクション データ
4. テンプレートをインポートし、該当する場合、科目、組織、および属性値のマッピングを選択します。

インポートの種類を選択

注："表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" を選択して、"コード" フィールドと "名前" フィールドに列のないテンプレートをインポートできます。このオプションを使用して、表示名が導入される前に作成された古いテンプレートからインポートすることもできます。"一般設定" で "表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化" をオンにすると、アプリケーション全体で "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" が適用され、"インポート" ページのオプションが非表示になります。

インポートの種類として、実績バージョン、計画バージョン、またはトランザクションを選択します。

実績バージョンには、2020 年 5 月からの利益や経費といった、一定期間の実際の財務結果が含まれます。実績は発生したイベントの記録です。

注："インテグレーション" > "インポート履歴" に移動することにより、実績インポートの履歴を表示できます。"ファイル名" では実績のインポート リクエスト、"アクション" ではそのステータスまたはエラー メッセージを表示できます。

計画バージョンは、プランニング バージョン、計画、プランニングと呼ばれることもあり、予算、what-if シナリオ、または想像できる他のほぼすべてである可能性があります。

トランザクションは通常、タイムスタンプ付きの注文、請求書、販売プロセス活動、または支払いに関連するデータです。トランザクション データは、トランザクション モジュールがある場合にのみインポートできます。

インポート元を選択
"スプレッドシート" を選択します。"シートにインポート" でシートを選択し、そのためのテンプレートをその次のセクションの説明に従ってダウンロードして続行します。

"インポート元" というセクションが表示されない場合、組織は NetSuite Basic またはカスタム スクリプトを使用していません。"インポートの種類" セクションと "インポート先" セクションのみが表示されます。

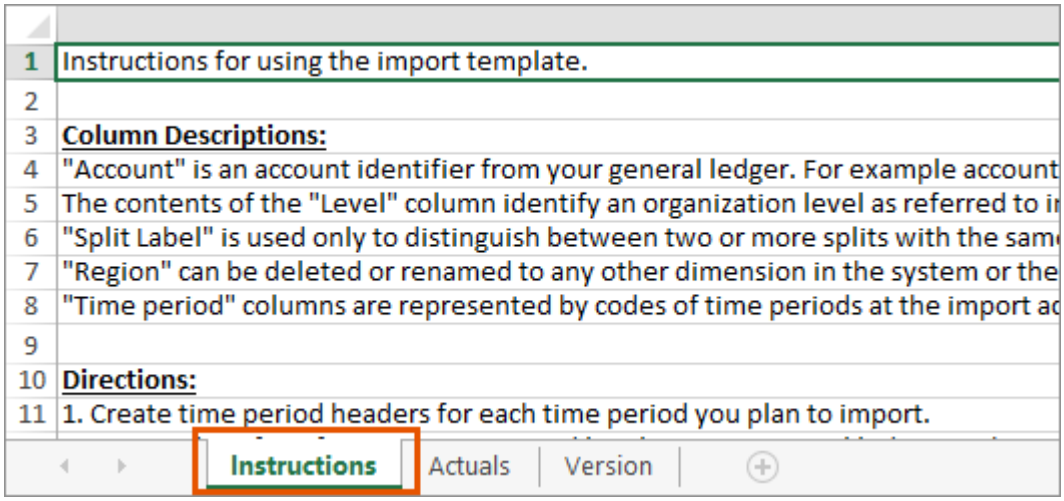
©2026 Workday, Inc. All rights reserved

会社に NetSuite インテグレーション - Basicがある場合、NetSuite 実績オプションを選択できます。

インポート先を選択
インポート先を選択します。インポート先を選択した後、"テンプレートのダウンロード" をクリックし、列に入力します。

ダウンロード テンプレートはシート タイプによって異なります。

スプレッドシート インポートのテンプレート列と日付形式の入力
スプレッドシート テンプレートで入力する必要がある列は、インポート先のシート タイプによって異なります。テンプレートの個々の要件の詳細については、ダウンロードしたテンプレートの最初のシートの指示をお読みください。




詳細については、 参考: スプレッドシートのインポート オプションを 参照してください。

ベスト プラクティス: テンプレートへの入力が済んだら保存します。保存したテンプレートを再度開いて編集し、同じシートからロードする予定がある場合は再利用できます。

インポートの日付形式

期間列では、次のような旧式の日付形式が受諾されます。

- Excel 日付形式: Adaptive Planning は、この日付が入った期間を適切な時間層で見つけ出します。
- 「MMM-YYYY」形式のテキスト文字列 (例: jun-2016): カスタム カレンダーを設定している組織では、この形式は使用できません。

インポートしたファイルに日付を入力する望ましい方式としては、期間コードを使用します。参照 ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ ) 。

標準データ テンプレートに入力

標準シートは科目と期間で構成されるシンプルなグリッドを含んでいます。標準シートの一例としては費用シート、収益シート、損益シート、貸借対照表、キャッシュ フロー シートなどが挙げられます。

標準データは、総勘定元帳科目、カスタム科目、前提条件科目、為替レートには存在するものの、シートには存在しないデータです。標準データのインポート時には、シートを選択しません。

1. "標準" を選択します。
2. "テンプレートのダウンロード" をクリックし、その指示に従って列を作成し、インポートする必要があるデータを入力します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

3. "ファイルの選択" をクリックし、編集したテンプレートを参照して、"インポート" をクリックします。
4. Adaptive Planning がファイルから科目 ID、組織、または属性値をマッピングする方法を選択します。

標準シート データのインポート列

- 科目 (必須): 科目名や科目コードなど、外部システムからの科目識別子。空にすることはできません。この列のヘッダーを "科目コード" とすることもできます。
- 組織 コード (必須): 総勘定元帳の組織レベル コード。空にすることはできません。
- 分割ラベル: 2 つ以上の分割を区別するために使用します。必要ない場合は、空白にすることができます。
- 地域 コード: これはカスタム属性列の例です。Adaptive Planning の任意の属性に合わせて名前を変更したり、このコードとその属性名の列を削除したりできます。属性コード列を追加して、さらに属性を指定します。すべての属性値に一意の属性値コードが必要です。
- 地域 名前 (任意): これはカスタム属性列の例です。Adaptive Planning の任意の属性に合わせて名前を変更したり、名前をその属性コードの列とともに削除したりできます。属性名の列がない場合は、属性コードを属性名として使用します。属性名の列がある場合は、必ずセルに値を入力する必要があります。属性名の重複は、属性値コードが異なる場合に限り認められます。
- 期間: インポート科目の時間層における期間のコードまたはターゲット期間内の日付で表されます。少なくとも 1 つのデータ期間が必要です。

標準データのテンプレートには、テンプレートの入力方法を理解するのに役立つデータのサンプル行があります。

標準データのインポート テンプレートの例

以下の例は、標準データのインポート テンプレートを示しています。標準データのテンプレートには、データのサンプル行があり、それらへの入力方法を理解するのに役立ちます。

| | A | B | C | D | E | F | G | H | I |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 科目 | 組織 | 分割 | 地域 コード | 地域 名前 | 2018/01/01 | 2018/02/01 | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 売掛金 | West Coast | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |

単一列の標準データのインポート テンプレート例

"インポート" ページで "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" を選択しているか、"管理" > "一般設定" で "表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化" をオンにしている場合、インポート テンプレートは次のようになります。

| | A | B | C | D | E | F | G | H |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 科目 | 組織 | 分割ラベル | 地域 | 2020 | 2021 | 2022 | |
| 2 | 売掛金 | West Coast | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |

モデル シートのデータ テンプレート入力

モデル シートはレコード ベースのデータを入力する場合に使用します。このシートでは、列全体にカスタム フィールド名があり、行としてレコードがあります。モデル シートには、売上から得られた収益、社員の月収、資産購入の償却など、財務イベントをモデル化するための基礎的なビジネス ロジックが含まれます。

1. シートを選択します。"モデルのインポート" オプションが表示されている場合は、選択したシートがモデル シートであることが分かります。
2. インポート モードを選択します。インスタンスでアクセス ルールを使用している場合、オプションの一部が異なります。参照 参考: アクセス ルールとモデル（1465ページ）。
    - シートにインポートした行を追加する。
    - すべての組織についてシートのすべてのデータを置換する。
    - シートのすべてのデータを置き換えるが、インポートされた組織に限定される。
    - 既存行を更新する。必須項目は "インポート キー" のみです。"分割を許可" が選択されているシートは、更新をサポートしていません。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。
    - 既存の行を更新し、新しい行を追加する。新しい行を追加しない場合でも、"インポート キー"、"組織"、およびすべてのテキスト セレクターのみが必須列となります。"分割を許可" が選択されているシートは、更新をサポートしていません。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

3. "テンプレートのダウンロード" をクリックし、その指示に従って列を作成し、インポートする必要があるデータを入力します。
4. "ファイルの選択" をクリックし、編集したテンプレートを参照して、"インポート" をクリックします。
5. 行を更新するインポート モードでは、"インポート キー" を選択します。インポートによって更新されるモデル シートの行を示すために、カスタム属性または組織を選択します。インポート キーにマッチしたすべての行が更新されます。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。
6. 希望の方法を選択してください Adaptive Planning をクリックし、ファイルから科目識別子、組織、または属性値をマッピングします。

モデル シートのインポート列

注 : モデル シートに必要なフィールドと列は、モデル シートの定義によって異なります。

インポートする前に、シートの列名が重複していないか確認してください。"期間" 列と 1 つの "表示" 列のみ同じ名前を持つことができます。それ以外で重複した名前があると、インポートに失敗します。列名が重複しているというエラー メッセージが表示された場合、エラー メッセージが示す以上の重複がある可能性があります。テンプレートではなく、シートから重複する名前を見つけて削除する必要があります。

モデル シートは、次のタイプのデータの列を許可します。

- 組織 (必須): 総勘定元帳からの組織。空にすることはできません
- データ入力
  - テキスト: 任意の文字列値
  - 数値: 任意の数値
  - 日付: 日付値
  - テキスト セレクター: テキスト セレクターのオプションに対応する文字列値
  - 初期の残高: 任意の数値
  - チェックボックス: オフの場合は「0」。オンの場合は「1」
  - 期間: 任意の数値。期間列の順番はテンプレートの指定に一致している必要があります。
- 属性: 対応する属性値コードの文字列値
- 特性: 対応する特性値コードの文字列値

モデル シートのインポート テンプレートの例

以下のサービス収益モデル シートに必要な 3 つの列:

- 組織 コード
- 収益認識
- 請求

| | A | B | C | D | E | F | G |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | 必須 | | | | | |
| 4 | 組織 コード | Rev Rec | 請求 | 顧客コード | 顧客名 | サービス コード | サービス名 |
| 5 | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | |

単一列のモデル シートのインポート テンプレート例

"インポート" ページで "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" を選択しているか、"管理" > "一般設定" で "表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化" をオンにしている場合、インポート テンプレートは次のようになります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | 必須 | | | |
| 4 | 組織 | Rev Rec | 請求 | 顧客 | サービス部門 |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |

キューブ シートのデータ テンプレート入力

キューブ シートは、大きくなる可能性がある属性セットのいくつかの科目で多次元データを入力できるタイプのシートです。

1. シートを選択します。"モデルのインポート" オプションが表示されない場合は、選択したシートがキューブ シートであるかどうかが分かります。
2. "テンプレートのダウンロード" をクリックし、その指示に従って列を作成し、インポートする必要があるデータを入力します。
3. "ファイルの選択" をクリックし、編集したテンプレートを参照して、"インポート" をクリックします。
4. 希望の方法を選択してください Adaptive Planning をクリックし、ファイルから科目識別子、組織、または属性値をマッピングします。

キューブ シートのインポート列

- 組織 コード (必須): 総勘定元帳の組織レベル。空にすることはできません。
- 科目 (必須): 科目名や科目コードなど、外部システムからの科目識別子。空にすることはできません。
- カスタム属性 (必須): 他のすべてのラベル付き列は、キューブで使用できるカスタム属性を示します。それぞれの属性に対して、属性コード列が必要です。各行の属性ごとに、値のコードを入力してください。

  属性名の列がない場合は、属性コードを属性名として使用します。属性名の列がある場合は、必ずセルに値を入力する必要があります。属性名の重複は、属性値コードが異なる場合に限り認められます。
- 最後の列はデータを含む期間を示します。これらの列の値は、キューブの該当する場所にインポートする値です。0 の値は、キューブ内でデータを消去できるように空白値としてインポートします。期間列のタイトルはインポート科目の時間層における期間のコードまたはターゲット期間内の日付です。

キューブ シートのインポート テンプレートの例

製品収益キューブ シートに必要な列として、次の項目が挙げられます。

- 組織 コード
- 科目
- 顧客コード
- 顧客名
- 製品コード

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 製品名
- 少なくとも 1 つの期間

| | A | B | C | D | E | G | H |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 組織コード | 科目コード | 顧客コード | 顧客名 | 製品コード | 製品名 | 2015/01 |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |

単一列のキューブ シートのインポート テンプレート例

"インポート" ページで "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" を選択しているか、"管理" > "一般設定" で "表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化" をオンにしている場合、インポート テンプレートは次のようになります。

| | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 組織 | 科目 | 顧客 | 製品 | 2015/01 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |

マッピングを選択または追加

注： "インテグレーション" > "インポート科目マッピング"、"組織マッピング"、または "属性値マッピング" に移動することにより、すでに作成済みのマッピングを表示および編集します。

ファイルがアップロードされると、 Adaptive Planning は、そのファイル内の科目、組織、または属性値を、すでに にあるものと一致させようとします。 Adaptive Planning。

すでにマッピングがある場合は、それらに最適なオプションを選択できます。

"続行" をクリックします。

シートから にすでにマッピングされた科目、組織、または属性値がない場合は、 Adaptive Planningをクリックすると、ウィザードのようなプロセスを続行してマッピングできます。

1. 左側のテーブル内の科目をクリックして選択します。
2. インポート元のソースで名付けられているとおりの正確な科目を入力します。
3. 内の科目をクリックします Adaptive Planning にマッピングする。
4. "適用" をクリックします。
5. すべての科目をマッピングしたら、"保存" をクリックします。

科目がすでにマッピングされている場合、"マッピング詳細" セクションの右側にグレーで表示されます。

科目は最下位にのみマッピングできます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

すべての科目がマッピングされ、すべてグレー表示の場合でも、マッピングを変更できます。"マッピング詳細"の "科目" セレクターで別の科目を選択し、"適用"を選択します。

必要に応じて、同じマッピング手順に従い、組織と属性値をマッピングします。すべてのマッピングを確認した後、"インポート" をクリックします。

シートのロック済組織へのデータ インポート
特定のバージョンの任意のシートにデータをインポートするときに、ロックされた組織に関連する行のデータ インポートに失敗する場合があります。ユーザーは、権限と組織アクセスに基づいて、以下のワークフローのステータスに対してエラー メッセージを受け取ることができます。

- レビュー用に送信済み
- 承認済
- 承認/ロック済

通常のインポートは成功しますが、ロックされた行の更新は無視されます。"すべての場所へのインポート" 権限を持つスーパー ユーザーは、ワークフローのステータスにかかわらず、引き続きすべてのシートへのデータのインポートを実行できます。

参照 ステップ: ワークフローの使用（512ページ）。

relatedlinks
概念
次のレベル: All Items 2023R2 for Adaptive Planning、Core Reporting、Prism、OfficeConnect for Financial Management

科目、組織、または属性値マッピングのインポート

データをインポートする場合、ソースから科目、組織、属性値を 内の対応するものにマッピングする必要があります。 Adaptive Planning。マッピングを初めてインポートすると、マッピング プロセスがトリガされます。"インポート科目マッピング"、"インポート組織マッピング"、および "属性値マッピング" ページを使用して、データ インポートとは別にマッピング プロセスを開始することもできます。

前提条件

- 必要な権限: "インポート機能"
- 外部の科目、組織、または属性値の名前をコピーできる CSV、XLSX、またはその他のエクスポート ファイルが必要です。
- これらは同じ名前ですが、これらのマッピングは にあるマッピングに関連付けられていません。インテグレーション。

ナビゲーション

ナビゲーション メニューから、"インテグレーション" に移動して "インポート科目マッピング"、"インポート組織マッピング"、または "インポート属性値マッピング" を選択します。

テンプレートのダウンロードと入力

1. ページの右上隅にある "マッピングをインポート" をクリックします。
2. ポップアップ内のテンプレートのダウンロード リンクをクリックします。
3. ダウンロードしたテンプレートを開き、説明に従ってテンプレートに入力します。
4. ポップアップ内の "ファイルの選択" をクリックしてファイルを選択し、"アップロード" をクリックします。
5. マッピングおよびマッピング詳細を確認、またはマッピングを手動で追加して "適用" をクリックします。
6. "保存" をクリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

### インポート マッピングのテンプレート列

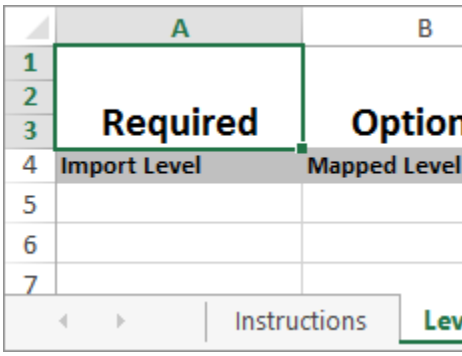
テンプレートの記入に関する説明と例は、テンプレート ファイルの最初のシートに表示されます。

科目、組織、および属性値のマッピングをインポートするためのテンプレートにある列は、次の 2 つのみです。

- インポート (必須): 外部ソースからの科目、組織、または属性値の名前を入力します 。
- マッピング済: すでに にある科目、組織、または属性値を入力 Adaptive Planning。この列が空になっている場合、アップロード後にマッピングを完了するよう求められます。

#### 組織マッピングのテンプレートの例

次の例は、組織マッピング用のテンプレートです。必須列とオプションの列に明確にマークが付けられています。




### 手動でインポートをマッピング

自動的にマッピングしない場合、または少数のマッピングのみを追加する場合は、手動でアイテムをマッピングできます。

1. "マッピングを追加" をクリックします。
2. インポート元のソースに表示されているとおりに正確な名前を入力します。
3. 内の項目をクリックします Adaptive Planning にマッピングする。
4. "適用" をクリックします。
5. 必要なすべてのアイテムをマッピングした後、"続行" をクリックします。

科目がすでにマッピングされている場合、"マッピング詳細" セクションの右側にグレーで表示されます。

科目は最下位にのみマッピングできます。

すべての科目がマッピングされ、すべてグレー表示の場合でも、マッピングを変更できます。"マッピング詳細"の "科目" セレクターで別の科目を選択し、"適用"を選択します。

### インテグレーション管理からのデータ消去

始める前に
セキュリティ:"データの消去 " 権限

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このタスクについて

数値データを消去して、任意の計画バージョンまたは実績バージョン (仮想バージョンは除く) から特定のデータ セットを削除できます。以下のような場合に、データを消去します。

- 科目データをクリアして、新しいインポートの調整を行う。
- 特定の組織やバージョンのデータをクリアする。
- 不適切な場所に読み込まれたインポートを修正する。
- 実績バージョンのシート上の分割を削除します。
- 特定の期間のデータを消去し、最新の実績データで再び開始する。

消去したデータは復元できません。データを消去すると、次のようになります。

- 消去されるデータは、選択した期間と科目における非仮想化プランまたは実績バージョンのデータのみです。
- データ入力オーバーライドがある算出科目からデータを消去できます。
- 親組織を選択すると、その子組織のすべてのデータが削除されます。
- 合計科目を選択すると、その子科目にあるデータをすべて削除できます。
- システム科目データや計算データを含むセルは、数式から削除されません。
- 換算通貨データは削除されません。代わりに、Planning データ ローダを使用してください。換算通貨を置換するには "置換モードを有効化" チェックボックスをオンにする必要があります。

手順

1. メイン メニューから " > インテグレーション管理" を選択します。
2. "手動インポート" セクションで "データの消去" をクリックします。
3. (任意) データをエクスポートします。
   データをエクスポートした場合、再インポートする前にデータを調整できます。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| バージョン | 非仮想化バージョンまたは実績バージョンを選択します。 |
| 科目 | 注 : GL 科目 または カスタム科目 を選択すると、他の設定に基づいて、その科目タイプのすべての科目のデータが消去されます。<br>データ入力オーバーライドが適用されている算出科目から、プラン データを消去できます。次に該当する算出科目からプラン データを消去すると、次のようになります。<br>• 算出科目にデータが含まれている場合、算出科目からすべてのデータが削除される。<br>• 計算済み科目がソース科目の集計である場合は、データが削除されない。 |
| セル メモを含める | セル メモを削除すると、以下の交差部分に該当するすべてのシート上のセル メモが削除されます。<br>• 科目<br>• 期間<br>• 組織<br>• バージョン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

タスクの結果

データを消去したために実績バージョンのシートの分割が空白になった場合、分割は自動的に削除されます。

relatedlinks
概念
概念: データの消去（2068ページ）
参考
FAQ: 換算された通貨データを消去するにはどうすればよいですか？（2068ページ）

**NetSuite** 実績のインポート

NetSuite カスタマーである場合 、NetSuite Basic のセットアップ を完了して NetSuite カテゴリ マッピングを設定すると、NetSuite から実績を直接インポートすることができます。NetSuite 実績オプションは、"データのインポート" ページで利用できるようになります。

前提条件

- 必要な権限: "インポート機能"
- NetSuite Basic が有効になり、設定されている必要があります。
- NetSuite カテゴリ マッピング を完了する必要があります。

ナビゲーション

"インテグレーション" > "データのインポート"に移動します。

**NetSuite** から実績をインポート

1. "インポートの種類" には "実績" を選択します。
2. "インポート元" で "NetSuite 実績" を選択します。
3. "シートにインポート" に "標準" が選択されていることを確認します。NetSuite 実績の場合、"標準" がデフォルトです。
4. インポートする 1 つの期間またはその範囲を選択します。
5. "続行" をクリックします。
6. NetSuite カテゴリ マッピングが 未構成の場合は、構成します。
7. "続行" をクリックします。
8. "はい" または "いいえ" をクリックすることにより、インポートする実績をモデル内のシートに表示するかどうかを決定します。
9. "実績のインポート" をクリックします。

インポートが完了すると、"インポートの結果" ページで成功または失敗に関する情報を確認できます。

トランザクションのインポート

トランザクションは通常、タイムスタンプ付きの注文、請求書、販売プロセス活動、または支払いに関連するデータです。トランザクションはさまざまな外部システムから取得できます。インスタンスでトランザクションが有効な場合は、トランザクションをインポートできます。

前提条件

- 必要な権限: "インポート機能"
- 以下の内容を理解して完了します。 参考: トランザクション（1234ページ）。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ナビゲーション

"インテグレーション" > "データのインポート"に移動します。

トランザクションのインポート
トランザクションをインポートするには、 参考: トランザクション（ 1234ページ ）。トランザクション フィールド定義により、トランザクション テンプレートにどの列が表示されるかが決定されます。

トランザクションは、実績または計画のインポートで使用可能な同じマッピングを使用して、子科目にのみインポートします。リンクされた科目が有効になっている場合、"実績を表示" を使ってリンクされた科目 をインポートすることはできません。総勘定元帳科目は独自の実績を保持しないためです。

参照 参考: トランザクション（ 1234ページ ） を参照してください。

1. "インポートの種類" として "トランザクション" を選択します。

   注： "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" を選択して、"コード" フィールドと "名前" フィールドに列のないテンプレートをインポートできます。このオプションを使用して、表示名が導入される前に作成された古いテンプレートからインポートすることもできます。 "一般設定" で "表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化" をオンにすると、アプリケーション全体で "表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート" が適用され、"インポート" ページのオプションが非表示になります。
2. "テンプレートのダウンロード" をクリックし、その説明に従い、インポートする必要があるデータを入力します。
3. "ファイルの選択" をクリックし、編集したテンプレートを参照して、"インポート" をクリックします。
4. "続行" をクリックします。

トランザクションのインポート テンプレートの例

注： トランザクション インポート用の列は、トランザクション フィールドの定義によって異なります。

トランザクション インポート テンプレートには次の列があります。

- 転記日 (必須): トランザクション転記日の日付フィールド
- トランザクションのタイプ (必須): トランザクションのタイプ
- 科目 (必須): トランザクションの科目コード。この列ヘッダーには "科目コード" ラベルも使用できます。
- 組織 コード (必須): トランザクションが適用される組織
- トランザクションの金額 (必須): トランザクションの金額
- 説明: テキスト フィールド
- <属性> コード: 属性コード フィールド。属性のコードを入力します。行に属性を入力する際に必須です。例: 製品コード
- <属性> 名: 属性名フィールド。属性の名前を入力します。行に属性を入力する場合、データのインポート時に属性値が自動で作成される際に、コードとは異なる名前を使用できるように、任意で入力します。例: 製品名

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

インポート中のトランザクションの削除
インポートする際、インポートの一部として既存のトランザクションの削除を選択できます。

"いいえ" を選択した場合、既存のトランザクションにインポートが追加されます。

"はい" を選択した場合、日付範囲を指定し、インポートが始まる前にどのトランザクションを削除するかを選択します。

重要：トランザクションはインポート プロセス中にのみ削除できます。

データのエクスポート

"インテグレーション" > "データのエクスポート" を使用して、現在選択しているバージョンから、Microsoft Excel ™ で開くことができるカンマ区切り値 (csv) ファイルに科目値をエクスポートできます。多くの点で標準シートのダウンロードまたは印刷版ビューに類似しています。このページは指定したすべての科目とその値をエクスポートします。インポートの場合と同様に、オプションで科目を外部科目コードと組織名にマッピングします。

会社が NetSuite インテグレーション オプションを保有している場合は、このページで から予算バージョンをエクスポートすることもできます。 Adaptive Planning を NetSuite にロードする。

データをエクスポートするには、4 セットのオプションから選択して "エクスポート" を選択します。個々の分割の値は、エクスポート時に集計されます。

"インテグレーション" で "カスタム クラウド ローダ" を使用して、外部のクラウドベース システムにエクスポートすることもできます。

| | |
|---|---|
| 形式 | このセクションでは、エクスポート ファイルで科目と組織にラベルを付ける方法を選択できます。選択肢を見るには "フォーマット" の横にある "編集" を選択します。<br><br>注：外部エクスポート名の設定方法については、「科目のエクスポート」と「エクスポート組織マッピング」セクションを参照してください。<br><br>• Adaptive の科目名とコード - このオプションでは、エクスポートされたデータに にある科目名と組織名のラベルを付けられます。Adaptive Planning。<br>• 外部科目コード - エクスポートされたデータに、"エクスポート科目マッピング" と "エクスポート組織マッピング" で設定された科目コードと組織名のラベルが付けられます。外部科目コードはインポートする際に非常に有用です。 Adaptive Planning 異なる科目または組織マッピングを必要とする他のシステムにデータをインポートする。科目または組織に "マッピングのエクスポート" がない場合は、デフォルトでエクスポートから除外されます。"マッピングされていない項目を含める"を選択すると、すべての科目と組織を含めることができ、マッピングされていない項目に にある名前を付けることができます。Adaptive Planning。 |
| フィルタ | "編集" を選択して、エクスポートされるデータに含む科目、組織、期間を指定します。別途指定されていない限り、すべてのデータがエクスポートされます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | • 科目 - このセクションには、モデル内に存在するすべての科目 (GL、カスタム、メトリック、モデル、キューブ、前提条件、為替レート) のリストが表示されます。Ctrl または Shift を押しながらクリックすると、エクスポートに含める特定の選択肢または科目の範囲を指定できます。Ctrl と Shift を押しながら "名前" 列内をクリックしてから、コンテキスト メニューを右クリックし、複数の選択肢を一度にオンまたはオフにすることができます。選択した親を右クリックすると、コンテキスト メニューを使用して子孫をオンまたはオフにすることができます。月と四半期などの別々の時間層を使用する科目を選択した場合、エクスポートでは 2 つのうちの長いほう (たとえば四半期) が使用されます。<br>• 組織 - このセクションにはアクセスできるすべての組織が一覧表示されます。Ctrl または Shift を押しながらクリックすると、エクスポートに含める特定の選択肢または科目の範囲を指定できます。Ctrl と Shift を押しながら "名前" 列内をクリックしてから、コンテキスト メニューを右クリックし、複数の選択肢を一度にオンまたはオフにすることができます。選択した親を右クリックすると、コンテキスト メニューを使用して子孫をオンまたはオフにすることができます。<br>• 期間 - "開始" および "終了" のドロップダウン セレクターを使用して、含める期間を選択できます。時間セレクターは選択された科目の時間層に基づいて範囲を示すように動的に更新されます。月と四半期などの別々の時間層を使用する科目を選択した場合、2 つのうちの長いほう (たとえば四半期) の範囲が表示されます。 |
| 属性 | エクスポート ファイルのデータにタグ付けする属性 (複数可) を選択します。"編集" を選択すると、モデル内のすべてのカスタム属性のリストが表示されます。 |
| ルール | ルールの横にある "編集" を選択すると、次のオプションが表示されます。<br>• "通貨" - エクスポートする必要があるすべての金額の通貨を選択します。デフォルトの選択肢である "組織の通貨を使用" では、各組織の金額はその組織の通貨でエクスポートされます。<br>• "空の行を含む" - ゼロまたは空白セルのみを含む行は、デフォルトでエクスポートから除外されます。科目または組織にデータが含まれているかどうかに関わらず、このエクスポートに指定した科目と組織をすべて含める場合は、このオプションを選択してください。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| | • "合計科目を含む" - エクスポートにフィルタが適用されていない場合は、エクスポートに合計 (親) 科目を含めることを任意で選択できます。フィルタを適用している場合、このオプションは使用できません。これは、フィルタで選択されている場合は合計が除外されるためです。<br>• "合計組織を含む" - エクスポートにフィルタが適用されていない場合は、エクスポートに合計 (親) 組織を含めることを任意で選択できます。フィルタを適用している場合、このオプションは使用できません。これは、フィルタで選択されている場合は合計が除外されるためです。<br>• "時間合計を含む" - これを選択すると、要求された期間内の時間合計の列がエクスポートに組み入れられます。選択しない場合は、個別のデフォルトの時間層列のみが組み入れられます。 |
| データのエクスポート | フィルタ、属性、およびルールを設定した後、"エクスポート" を選択します。 |

エクスポート科目マッピング
から科目データをエクスポートする必要がある場合 Adaptive Planning で、それらの科目を外部システムの外部名にマッピングする必要がある場合は、"エクスポート科目マッピング" を使用してエクスポートを支援できます。

"エクスポート科目マッピング" を設定するには、"インテグレーション" > "エクスポート科目マッピング" に移動して以下の手順に従ってください。

1. 親科目にナビゲートして展開し、マッピングする子組織の科目を選択します。親科目は選択できません。"科目マッピング" リストのヘッダーの左上にあるボックスをクリックすると、すべての科目を選択/選択解除できます。
2. 既存のインポート名を使用するには、右側の詳細パネルで "インポート名を使用" をクリックし、確認ポップアップで "OK" をクリックします。
3. 複数のアイテムが選択されている場合、選択されたすべての科目にインポート名が使用されます。

カスタムの外部科目名を入力するには、"インテグレーション" > "エクスポート科目マッピング" に移動して以下の手順に従ってください。

1. 親科目にナビゲートして展開し、マッピングする子科目を選択します。親科目は選択できません。"科目マッピング" リストのヘッダーの左上にあるボックスをクリックすると、すべての科目を選択/選択解除できます。
2. 右側の詳細パネルの "外部科目名" フィールドにカスタム名を入力します。"キャンセル" をクリックします。 変更を破棄する場合。
3. 任意の名前を入力したら、"保存" をクリックします。 。
4. "外部エクスポート科目" 列に変更内容が表示されます。
5. 複数の科目が選択されている場合、選択されたすべての科目に入力したテキストが使用されます。
6. "印刷対応ビュー" をクリックします。 ページの上部で、すべての科目マッピングを含むスプレッドシートを表示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

エクスポート組織マッピング
組織データを からエクスポートする必要がある場合 Adaptive Planning これらの組織を外部システムの外部組織名にマッピングする必要がある場合は、"エクスポート組織マッピング" を使用してエクスポートを支援できます。

"エクスポート組織マッピング" を設定するには、"インテグレーション" > "エクスポート組織マッピング" に移動して以下の手順に従ってください。

1. 組織をナビゲートして展開し、マッピングする組織を選択します。"組織マッピング" リストのヘッダーの左上にあるボックスをクリックすると、すべての組織を選択/選択解除できます。
2. 既存のインポート名を使用するには、右側の詳細パネルで "インポート名を使用" をクリックし、確認ポップアップで "OK" をクリックします。
3. 複数の組織が選択されている場合、選択されたすべての組織にインポート名が使用されます。

カスタム外部エクスポート組織名を入力するには、"インテグレーション" > "エクスポート組織マッピング" に移動して以下の手順に従ってください。

1. 組織をナビゲートして展開し、マッピングする組織を選択します。"組織マッピング" リストのヘッダーの左上にあるボックスをクリックすると、すべての組織を選択/選択解除できます。
2. 右側の詳細パネルの "外部エクスポート組織名" にカスタム名を入力します。"キャンセル" をクリックします。 変更を破棄する場合。
3. 任意の名前を入力したら、"保存" をクリックします。 。
4. "外部エクスポート組織名" 列に変更内容が表示されます。
5. 複数の組織が選択されている場合、選択されたすべての組織に入力したテキストが使用されます。
6. "印刷対応ビュー" をクリックします。 ページの上部で、すべての組織マッピングを含むスプレッドシートを表示します。

概念: データをインポート

を使い始めたかどうか Adaptive Planning または既存のモデルを更新する必要がある場合は、別のソースシステムからデータをモデルに取り込むには、データのインポートが必要です。以下を選択できます。

インテグレーションを利用して自動的にインポート

- Planning データ ローダを使用してインポートします。組織がインテグレーションを保有している場合、 インテグレーション タスク でスケジュールを設定できます。

手動でインポート

- スプレッドシート データのインポート
- NetSuite 実績のインポート (NetSuite Basic の場合)
- トランザクションのインポート ( トランザクションが有効になっている場合)

スプレッドシート内の科目名、組織名、属性名を の対応する値にマッピングするよう求められる場合があります。 Adaptive Planning。 "インテグレーション" > "手動インポート" で "インポート科目マッピング"、"インポート組織マッピング"、または "インポート属性値マッピング" をクリックして、既存の手動インポート マッピングを表示および変更できます。

アップロード時に、データはそのコンテンツに最も適したものに自動的にマッピングされます。手動で調整することもできます。

- インポート科目マッピング
- インポート組織マッピング
- インポート属性値マッピング

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

手動でインポートした場合の動作
データを手動でインポートする場合、 Adaptive Planning はインポート ファイルの各行を調べて、一致するデータがシステムに既に存在するかどうかを確認します。 Adaptive Planning は、使用されている属性と、同じ組織、科目、期間、バージョンにデータが存在するかどうかを確認します。行キーが存在する場合は、行キーの列とも照合します。

システムの同じ場所にデータが存在する場合は、インポートして、それに置き換えます。この置換は、行ごとに行われます。インポートは一度にすべてを置き換えるわけではありません。

たとえば、2 つのインポートを実行するとします。最初のインポート ファイルは、2 番目のインポート ファイルに含まれていないデータをロードします。既存のデータは 2 番目のインポート後も残ります。

特定の列のデータをすべて削除する場合

- スプレッドシートのインポートでは、その列を含め、そのセルを空白にします。

概念: データの消去

Adaptive Planning でデータを消去するにはいくつかの方法があります。以下を使用できます。

- eraseData API
- インテグレーション設定の Planning データ ローダ
- "インテグレーション管理" の "手動インポート" セクションで "データを消去" を選択する。
- "モデリング" のキューブ シートおよびモデル シートの "シート サマリ" にある "すべてのデータを消去" ボタン。

以下のデータを消去することはできません。

- 仮想バージョン代わりに、仮想バージョンのデータに影響しているバージョンのデータを消去してください。
- 換算通貨代わりに、Planning データ ローダの "置換モードを有効化" チェックボックスを使用してください。

relatedlinks
概念
Planning データ ローダの作成（1744ページ）
タスク
インテグレーション管理からのデータ消去（2060ページ）
シート内のすべてのデータを消去（1021ページ）
参考
FAQ: 換算された通貨データを消去するにはどうすればよいですか？（2068ページ）
例
eraseData（2544ページ）

**FAQ:** 換算された通貨データを消去するにはどうすればよいですか？

以下が可能です。

- インテグレーション設定で Planning データ ローダを使用する"置換モードを有効化" を選択する必要があります。参照 Planning データ ローダの作成（1744ページ）。
- 実績サブバージョンから通貨を削除します。参照 実績バージョンの作成（834ページ）。

relatedlinks
概念
概念: 通貨と為替レート（1220ページ）
概念: 換算通貨（1223ページ）
Planning データ ローダの作成（1744ページ）

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

参考: スプレッドシートのインポート オプション

シートおよびトランザクション データのインポートに関する詳細な手順については、 スプレッドシートのインポートを参照してください。

Workforce Planning Configuration Manager によって管理されているモデル シートでは無効です。

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| インポートの種類 | データがインポートされる場所を識別します。<br>• 実績: 実績バージョンを選択します。<br>• 計画: 計画バージョンを選択します。<br>• トランザクション (トランザクション モジュールでのみ利用可能) |
| 表示名に "コード" 列と "名前" 列を含めずにインポート | "コード" フィールドと "名前" フィールドの列のないテンプレートからインポートできます。このオプションを使用して、表示名が導入される前に作成された古いテンプレートからインポートすることもできます。<br>"管理" > "一般設定" で "表示名の単一列データのインポート/エクスポートの有効化" をオンにした場合、このオプションは表示されません。 |
| インポート元 | インポート中のデータのソースを識別します。<br>• スプレッドシート<br>• カスタム スクリプト (従来のコネクタの場合) |
| シートにインポート | データのインポート先のシートを識別します。トランザクションをインポートするときは、シートを選択しないでください。<br>• 標準: GL、カスタム、前提条件、為替レートの場合<br>• モデル シートまたはキューブ シート: システム内のモデル シートおよびキューブ シートの場合 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フィールド | 説明 |
| --- | --- |
| モデルのインポート | インポート時の動作を制御します。 |
| シートにインポートするモデル シートが選択されている場合のみ利用可能 | • シートにインポートした行を追加する。<br>• すべての組織についてシートのすべてのデータを置換する。<br>• シートのすべてのデータを置き換えるが、インポートされた組織に限定される。<br>• 編集可能なすべての行を置き換える。すべての既存の行をインポートした行に置き換える。アクセス ルールでのみ使用できます。<br>• 組織が一致し、保護された属性が含まれる行のみを置換します。組織および保護されたカスタム属性に一致するすべての既存の行を置き換えます。一致がない場合は、行を追加します。アクセス ルールでのみ使用できます。<br>• 既存行を更新する。必須の列は "インポート キー" のみです。"分割を許可" が選択されているシートは、更新をサポートしていません。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。<br>• 既存の行を更新し、新しい行を追加する。新しい行を追加しない場合でも、"インポート キー"、"組織"、およびすべてのテキスト セレクターのみが必須列となります。"分割を許可" が選択されているシートは、更新をサポートしていません。インポートしたファイルの "インポート キー" 列の値は一意でなければなりません。 |
| ファイルを選択 | インポートするローカル システムのファイルを選択します。ダウンロード テンプレートを使用してフォーマットします。 |
| テンプレートのダウンロード | "シートにインポート" 内で選択したシートについて、インポート テンプレートをダウンロードします。モデル シート、キューブ シート、および標準シートのデータ用のテンプレートは、含まれる属性と科目によって異なります。 |

## NetSuite インテグレーション

**概念: NetSuite との連携**

注： Adaptive Planning は NetSuite 2023.1 BFN 認証取得済みです。

これには以下の 2 つの異なる方法があります。 Adaptive PlanningNetSuite と以下のインテグレーション:

1. NetSuite インテグレーション- 基本
2. NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration

これらは、少し違う方法で NetSuite とやり取りします。

**NetSuite からのインポート**
NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration を使用している場合は、"Adaptive Integration" > "インテグレーション設定" メニューのみを使用して、NetSuite からデータをインポートする必要がある場合のインポート マッピングを管理します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

重要： NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration を使用している場合は、"インテグレーション" > "インポート" メニューのマッピング画面を使用しないでください。

トランザクション ドリルスルー

注： NetSuite ドリルスルーは、2024 年 8 月 12 日より前に NetSuite インテグレーションを設定した場合のみ利用できます。

NetSuite 外部システムは、ロールアップ組織ではなく最下位組織からのドリル機能だけをサポートします。NetSuite Basic はロールアップ組織からのドリル機能をサポートします。

トランザクション ドリルスルーは、次のいずれかの方法で実行できます。

1. NetSuite インテグレーションの基本バージョンと NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration のどちらでも、標準カテゴリで NetSuite にドリルバックできます。これには、ユーザーが NetSuite シートを持っている必要があります。
2. NetSuite トランザクションを にインポートすることもできます。 Adaptive Planning トランザクション モジュールし、 内のそれらのトランザクションへのドリルスルーを許可する Adaptive Planning。これは NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration によって実現できます。 Adaptive Planning トランザクション モジュールインテグレーション タスクを設定して へのトランザクションのインポートを自動化できます Adaptive Planning。このアプローチでは、ドリルスルーが必要なビジネス ユーザーに個別の NetSuite 用シートは必要ありません。標準 NetSuite カテゴリ以上のトランザクションにドリルインする必要がある場合は、トランザクションを にインポートします。 Adaptive Planning トランザクション モジュールを使用します。

**NetSuite** へのエクスポート
からのデータのエクスポート Adaptive Planning へのアクセスは次の方法で実現できます。

1. NetSuite インテグレーション- 基本を使用する

   エクスポートするには、エクスポート マッピングを作成する必要があります。 Adaptive Planning データを NetSuite に戻す。"基本" オプションを使用してエクスポートする場合、エクスポート プロセスは手動で実行されるためスケジュールはできません。

   注： データをインポートするために NetSuite インテグレーションの拡張機能を使用している場合は、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" を介してインポート マッピングを維持し、"インテグレーション" > "NetSuite エクスポート カテゴリ マッピング" を通してマッピングをエクスポートする必要があります。
2. NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration を使用する

   インポートとエクスポートの両方を、NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration を使って管理できます。この場合、Adaptive Integration の "スクリプト化されたエクスポート ローダ" を使用してエクスポート データを管理する必要があります。このオプションで、エクスポート プロセスの自動化とスケジュールされたエクスポートの作成ができます。Adaptive のプロフェッショナル サービスとオンプレミスのデータ エージェントのインストールによるエクスポート スクリプトの実装が必要です。詳細は ステップ: NetSuite データ ソースの設定を参照してください。

**NetSuite** と統合するためのオプションの比較

注： NetSuite ドリルスルーは、2024 年 8 月 12 日より前に NetSuite インテグレーションを設定した場合のみ利用できます。

| | NetSuite インテグレーション- 基本 | NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration |
|---|---|---|
| Adaptive Insights for NetSuite バンドルのインストールが必要 | はい | はい |
| NetSuite へのドリルスルーを有効にする | はい | はい |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | NetSuite インテグレーション- 基本 | NetSuite 拡張機能を備えた Adaptive Integration |
|---|---|---|
| インポートのマッピングを管理するメニュー | インテグレーション > インポート科目マッピング<br>インテグレーション > インポート組織マッピング | インテグレーション > インテグレーション設定 |
| エクスポートのマッピングの管理に使用するメニュー | インテグレーション > エクスポート科目マッピング<br>インテグレーション > エクスポート組織マッピング | スクリプト化されたエクスポート ローダを設定し、"インテグレーション" > "インテグレーション設定" 内のマッピングを管理する |
| プロフェッショナル サービスが必要 | いいえ | はい<br>• インポートを設定する<br>• スクリプト化されたエクスポート ローダを使用してエクスポートを設定する場合オンプレミス データ エージェントのインストールも必要です。 |
| NetSuite の標準カテゴリ 6 つ (科目、子会社、部門、クラス、アイテム、顧客) をエクスポートする | はい | はい<br>• スクリプト化されたエクスポート ローダを介して |
| NetSuite のカスタム オブジェクトとカスタム セグメントのインポートを許可する | いいえ | はい |
| 標準シートをインポートする | はい | はい |
| 任意のプランニング シートへの自動インポート | いいえ | はい |
| プランニングにおけるトランザクション モジュールでのトランザクションの自動インポート | いいえ | はい |

**Planning** の管理メニューの一般設定にあるインテグレーションと **NetSuite** のオプション

下図は、"管理" > "一般設定" で管理者に表示されるインテグレーションと NetSuite のオプションを示します。インテグレーションの NetSuite データ ソースと NetSuite Basic は、両方を同時に有効化することができますが、NetSuite データへのアクセスが複雑になるため、インテグレーションの NetSuite データ ソースのみを使用することを推奨します。

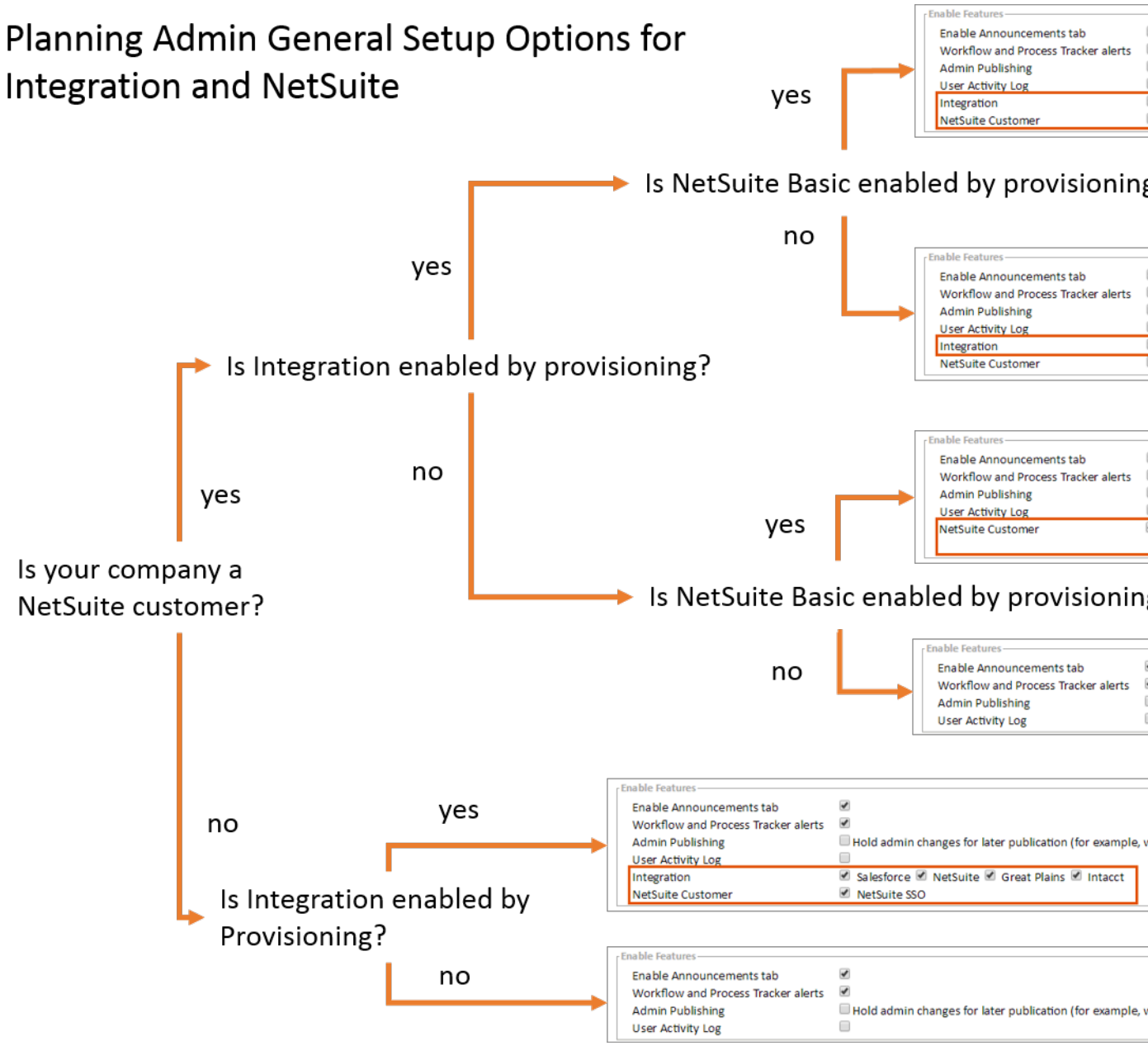
下に示されているインテグレーションと NetSuite のオプションは、企業の管理者が自社の使用例に必要な設定を選択できる "一般設定" に表示されます。

インテグレーション: <データ ソースタイプ> オプションを使用すると、管理者は Adaptive Integration の "データ デザイナー" 画面で作成できるデータ ソース タイプを制限できます。NetSuite だけが使用可能である場合、"データ デザイナー"画面で新規作成できるのはデータ ソースのみです。

NetSuite カスタマー: NetSuite Basic の オプションを使用すると、 内で NetSuite の特定のメニューを利用できます Adaptive Planningのメイン ナビゲーション。

注 : NetSuite ドリルスルーは、2024 年 8 月 12 日より前に NetSuite インテグレーションを設定した場合のみ利用できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




概念: **NetSuite Basic** インテグレーション

注： NetSuite Basic は、推奨されるインテグレーション方式ではなくなりました。最適なパフォーマンスと最新の機能へのアクセスのために、NetSuite インテグレーションへの移行をお勧めします。NetSuite インテグレーションの詳細については、 を参照してください 概念: NetSuite との連携（2070ページ）。

Adaptive Planning は、ERP、CRM、および会計システムである NetSuiteとの一意のインテグレーションを提供します。特に、ワン クリックで総勘定元帳から Adaptive Planning に実績をインポートできる機能を利用すると、予算プロセスを簡素化できます。NetSuite からの実績のインポートは非常に簡単です。毎月、あるいは毎日実行することで、頻繁に予算変更を予測または監視できます。また、Adaptive Planning から NetSuite 予算領域に予算をエクスポートしたり、Adaptive Planning の実績数値を NetSuite トランザクション詳細レポートに直接ドリルインすることもできます。

NetSuite から総勘定元帳データをインポートするには、以下の手順に従います。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. "NetSuite インテグレーション セットアップ" 画面を使って、NetSuite アカウント (本番環境またはサンドボックス) に接続するよう Adaptive Planning のアカウントを設定します。参照 ステップ: NetSuite Basic インテグレーションのセットアップ（2074ページ）。
2. "NetSuite カテゴリの設定" 画面で、Adaptive Planning の科目と属性を NetSuite カテゴリにマッピングする方法を説明します。参照 NetSuite Basic カテゴリの設定（2081ページ）。
3. "インポート" タブで、NetSuite の選択肢を選び、"インポート" ボタンをクリックします。参照 概念: データをインポート（2067ページ）。

設定後は、"インポート" タブの "インポート" ボタンをクリックするだけで、将来の更新とインポートを実行できます。

NetSuite インテグレーション オプションのご購入については、お問い合わせください。参照 参考: お問い合わせ（2783ページ）。

NetSuite を Adaptive Planning と統合する 2 つの方法の詳細については、 を参照してください。 概念: NetSuite との連携（2070ページ）。

ステップ**: NetSuite Basic** インテグレーションのセットアップ

組織の特性 Adaptive Planning カスタマーが NetSuite カスタマーでもある場合、NetSuite アカウントから への実績データのインポートを自動化できます。 Adaptive PlanningNetSuite コネクタを使用するモデルNetSuite コネクタをオンにして設定すると、 から予算をエクスポートすることもできます。 Adaptive Planning からのドリルスルーを有効化 Adaptive Planning を NetSuite にロードする。この接続のメソッドは、NetSuite Basic とも呼ばれています。

基準単位 Adaptive Planning モデル Adaptive Planning 管理権限を持つ ユーザーは、すべてに対して NetSuite セットアップ権限を付与できます。 概念: 権限セット（1407ページ）。その権限が付与されたユーザーは、NetSuite コネクタのセットアップを行うことができます。

トークンベースの認証を使用して、NetSuite Basic を使用したインテグレーションを行うことができます。

- 既存の実装の場合、コンシューマー キー、コンシューマー シークレット、トークン ID、トークン シークレットが必要です。
- 新しい実装の場合、必要なのはトークン ID とトークン シークレットのみです。NetSuite Basic の新規実装では、Workday が管理する共有のコンシューマー キーとコンシューマー シークレットが使用されます。

前提条件

- で必要な権限 Adaptive Planning: 管理者
- NetSuite で必要な権限: "NetSuite admin" (ロール ID = 3)
- "Setup" > "Company" > "Company Information" に移動して、NetSuite 内で会社の NetSuite アカウント ID を取得します
- トークン ベースのアクセス用に、NetSuite でトークン ベースの認証キーを生成します。

基本ステップ

- で "NetSuite セットアップ" 権限を付与します。 Adaptive PlanningNetSuite コネクタをセットアップする必要があるユーザーにその権限セットを割り当てます
- NetSuite アカウント ID を入力します。にログインします Adaptive Planning を NetSuite セットアップ権限を持つユーザーとして実行し、"NetSuite インテグレーション セットアップ" ページで NetSuite トークンベースの認証キーを入力します。
- において NetSuite カテゴリ設定とマッピングを設定します Adaptive Planning NetSuite から初めてインポートする前に
- NetSuite から にインポートします。 Adaptive Planning
- 必要に応じて NetSuite に予算をエクスポートします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ナビゲーション

ナビゲーション メニューで "インテグレーション" > "NetSuite セットアップ"に移動します。

インテグレーションの設定

それぞれに 1 回、NetSuite インテグレーションをセットアップします。 Adaptive Planning インスタンス。

1. にログインします Adaptive Planning。
2. ナビゲーション メニューから、 "インテグレーション" > "NetSuite セットアップ" へ移動します。NetSuite セットアップを 持つユーザーのみ 概念: 権限セット（ 1407ページ ） が "NetSuite セットアップ" にアクセスできる。
3. すでに NetSuite からトークンベースの認証キーを生成している場合は、"トークンベースの認証" を選択します。

   注： 設定のロックを解除するには、"インポート ユーザーを更新" の選択が必要になる場合があります。インポート ユーザーを更新しても、マッピングや以前にインポートした実績は削除されません。
4. NetSuite アカウント ID を入力します。たとえば、会社が Adaptive Planning NetSuite Bundle Marketplace の NetSuite バンドルの場合 (推奨)、"強化されたバンドルベースのドリルスルー"を選択します。

   注： NetSuite ドリルスルーは、2024 年 8 月 12 日より前に NetSuite インテグレーションを設定した場合のみ利用できます。
5. 認証情報を入力します。トークン ベースの認証の場合、NetSuite で生成した NetSuite トークン ID とトークン シークレットを入力します。
6. セットアップを保存します。

注： セキュリティ上の理由から、ユーザーの NetSuite パスワードと E メール アドレスは に保存されません。 Adaptive Planning アプリケーション。

Adaptive Planning "保存"をクリックすると、 は NetSuite に接続してインテグレーションを確立しようとします。接続に成功すると、このページでインテグレーションが確認され、NetSuite アカウント ID が表示されます。接続に失敗すると、このページにエラー メッセージが表示され、問題点が説明されます。

**Adaptive Planning Integration** ユーザーの作成
推奨されるベスト プラクティスとして、NetSuite データ インポートの実行専用に新しいユーザー アカウントを作成できます。このオプションのユーザー アカウントは、最初のユーザー アカウントが無効になってしまった場合に、インテグレーションが失われるのを防ぎます。

インテグレーションとインポート プロセスへの対処専用の NetSuite シートを使用したくない場合は、以下の手順を使用して、既存のユーザーを適切な権限で設定できます。

を設定する場合 Adaptive Planning NetSuite のインテグレーション ユーザー:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. "Adaptive" という新しいロールを NetSuite で作成します。次の権限によって Web サービスのみのアクセス権を付与します。
    - Transactions > Find Transactions FULL
    - Transactions > Set Up Budgets FULL
    - Lists > Perform Search FULL
    - Lists > Accounts VIEW
    - Lists > Classes VIEW
    - Lists > Customers VIEW
    - Lists > Departments VIEW
    - Lists > Items VIEW
    - Lists > Locations VIEW
    - Lists > Subsidiaries VIEW
    - Reports > Balance Sheet VIEW
    - Reports > Income Statement VIEW
    - Reports > Financial Statements VIEW
    - Setup > Accounting Lists EDIT
    - Setup > Deleted Records FULL
    - Setup > Login Using Access Tokens FULL
    - Setup > Manage Accounting Periods VIEW
    - Setup > SOAP Web Services FULL

    注 : 権限の名前は NetSuite 内で変更できます。このリストに権限が表示されない場合は、NetSuite で "Setup" > "Company" > "Rename Records/Transactions" の順に移動し、変更済みの名称を確認します。例: "Class" が "Classification" に名前変更された可能性があります。エラー メッセージには元の名称が使用されます。

    注 : 複数の子会社を擁する NetSuite OneWorld のお客様は、あらゆる子会社にロール アクセスを与え、子会社間の記録の閲覧権限ボックスをオンにする必要があります。ロール ページの "Subsidiaries Restrictions" セクションで、アクセス可能な子会社を "ALL" に設定します。
2. ロールの "Internal ID" をメモします。"Internal ID" が表示されない場合は、"Home" > "Set Preferences" > "General" > "Defaults" > "Show Internal IDs" に移動し、"T" を選択します。
3. NetSuite に "Adaptive Planning Integration" という新しいユーザーを作成し、このユーザーに Adaptive ロールを割り当てます。
4. で "インテグレーション" > "NetSuite セットアップ" に移動します。 Adaptive Planning。
5. "インポート ユーザーを更新" を選択します。
6. Adaptive Planning Integration のユーザーの認証情報を入力します。NetSuite でアカウント ID を表示するには、"Setup" > "Integration" > "Web Service Preferences" をクリックします。ロール ID は、先ほどメモした Internal ID のことです。

インテグレーション セットアップのリセット
NetSuite インテグレーションが正常に完了すると、画面の下部に "接続をリセット" ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、NetSuite インテグレーションが無効になり、NetSuite から へデータを転送できなくなります。 Adaptive Planning。インテグレーションをリセットしても、マッピングや、以前にインポートされた実績は削除されません。

前述の "NetSuite インテグレーション セットアップ" ページで認証情報を再入力することにより、インテグレーションを復元できます。

**NetSuite** カテゴリ設定のセットアップ

1. ナビゲーション メニューから、 "インテグレーション" > "NetSuite カテゴリの設定" へ移動します。
2. ページの下部にある "NetSuite カテゴリマッピングのインポート" を選択します。
3. 使用中の NetSuite カテゴリを対応するカテゴリにマッピングします。 Adaptive PlanningNetSuite から最初のインポートを実行する前に、

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

管理者は NetSuite カテゴリ (子会社、部門、クラスなど) を の属性に関連付ける方法を指定できます。Adaptive Planning(科目、組織など)。ここで確立された関連付けにより、次のマッピングが可能になります。

- NetSuite カテゴリ対 の単一の属性の 1 対 1 の関係 Adaptive Planning
- 複数の NetSuite カテゴリ対 の単一の属性 Adaptive Planning
- 単一の NetSuite カテゴリ対 の複数の属性 Adaptive Planning

マッピングは、インポートプロセス中、または "NetSuite カテゴリ マッピング" ページからインポートする人がどの選択肢を取得するかを決定します。マッピングを変更する必要は全くないか、あったとしても頻繁ではありません。

- 複数の NetSuite カテゴリが単一に関連付けられている場合 Adaptive Planning 属性にマッピングすると、これらのカテゴリの値は連結され、1 つのカテゴリであるかのようにマッピングされます。例: "部門" と "場所" の双方が "組織" に関連付けられている場合、インポート マッピング画面には "エンジニアリング 米国" または "販売 ロンドン" といった選択肢が表示されます。
- 1 つの NetSuite カテゴリが 2 つの NetSuite カテゴリに関連付けられている場合 Adaptive Planning 属性にマッピングすると、マッピングが両方の属性に表示されます。例: "クラス" が "地域" と "製品" の双方に関連付けられているのであれば、インポート マッピング画面には双方の属性が表示され、ユーザーは一方のインスタンスで "北米·中南米: 製品 A" を "北米· 中南米"に、もう一方で "北米·中南米: 製品 A" を "製品 A" にマッピングできます。

| | |
|---|---|
| NetSuite カテゴリの設定 | 1. NetSuite カテゴリを にマッピングするには、ドロップダウン リストで各カテゴリに対応する属性を選択します。 Adaptive Planning 属性ドロップダウンには、"科目"、"組織"、およびモデルの "カスタム属性" が表示されます。 複数の NetSuite カテゴリが 1 つの NetSuite カテゴリにマッピングされている場合 Adaptive Planning 属性: これらのカテゴリのドロップダウン リストでその属性と同じ属性を選択します。<br>2. 1 つのカテゴリを複数の属性に関連付けるには、ドロップダウンリストの横にある "追加" を選択します。各カテゴリに最大 3 つの追加ドロップダウン リストを追加することができ、そのカテゴリに合計 4 つの属性が割り当てられます。<br>3. 完了したら "保存" をクリックします。 |
| NetSuite カテゴリ マッピング値の設定 | カテゴリの設定を完了したら、"NetSuite インポート カテゴリ マッピング" リンクで "マッピング" ページに移動します。インポートを行うユーザーは、NetSuite カテゴリ値と Adaptive Planning モデル属性値このリストはインポートするまで空のままです。 |

**NetSuite** からのインポート
NetSuite インテグレーションとカテゴリ設定が完全に設定が済んだら、インポート ユーザーは、Adaptive モデル内の "インポート" タブの NetSuite からインポートを実行できます。

1. ログイン Adaptive Planning。
2. ナビゲーション メニューの "インテグレーション" > "データのインポート" に進みます
3. "インポートの種類" から、"実績" を選択します。
4. "インポート元" で "NetSuite 実績" を選択します。
5. デフォルトで "標準" が "シートにインポート" から選択されます。
6. "インポートする期間" からインポートする期間範囲を選択します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

7. "インポート" をクリックします。
8. "カテゴリ マッピング" ページで必要なマッピングをセットアップします。
9. "続行" をクリックします。
10. インポートが完了すると、"インポートの結果" ページがロードされ、インポートが成功したかどうかが示されます。

### NetSuite にエクスポート

管理者は、予算を NetSuite にエクスポートするように Adaptive Integration を設定できます。

| | |
|---|---|
| 必要な権限 | "管理" > "一般設定" > "インテグレーション" の NetSuite Basic<br><br>"管理" > "権限セット" でエクスポートするユーザーを編集して、"エクスポート機能" および "予算を NetSuite にエクスポート" を選択します。 |
| エクスポート ターゲットとして NetSuite を選択 | NetSuite Basic を有効にすると、"予算を NetSuite にエクスポート" の権限を持つユーザーは、NetSuite または CSV ファイルにエクスポートできます。<br><br>注： NetSuite Basic が有効になっているものの、構成されていない場合、"ターゲットを出力" セクションが表示されますが、NetSuite のチェックボックスは無効になっています。"NetSuite セットアップ" が設定されていない場合、"NetSuite カテゴリの設定" リンクが表示されます。<br><br>1. 未設定の場合、前述の "NetSuite カテゴリの設定" をセットアップします。<br>2. "インテグレーション" > "データのエクスポート" へ移動します。<br>3. 出力ターゲットに "NetSuite" を選択します。<br>4. NetSuite でエクスポートする予算カテゴリを選択します。<br>5. NetSuite でエクスポートする 1 つまたは複数の会計年度を選択します。<br>6. "エクスポート" を選択します。 |

### ドリルスルー

注： NetSuite ドリルスルーは、2024 年 8 月 12 日より前に NetSuite インテグレーションを設定した場合のみ利用できます。

シートを で表示すると、 Adaptive Planning または、NetSuite からのインポート用にマッピングされた実績数値を含む "セル エクスプローラー" ウィンドウで、数値にドリルダウンできます。これにより、当該数値を構成するトランザクションを詳述した NetSuite レポートを起動できます。

"管理">"一般設定" の "NetSuite Basic" チェックボックスは、任意の権限セットに対して付与できる "NetSuite のインポート済数値にドリルイン" 権限を有効にします。

ドリル動作は、Adaptive Insights for Netsuite バンドルが (NetSuite Bundle Marketplace から) NetSuite インストールにインストールされているかどうかによって異なります。バンドルがインストールされている場合は、必ず "NetSuite インテグレーション セットアップ" ページに行き、"Adaptive Insights for Netsuite バンドル インストール" のチェックボックスをオンにしてください。

| | |
|---|---|
| ドリルのための要件 | • NetSuite では、ドリルスルー用の NetSuite Bundle 30441 をインストールします。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- NetSuite からデータがインポートされると、適切な権限を持つユーザーは、 からの NetSuite データにドリルインできます。Adaptive Planning。

Adaptive Insights for Netsuite バンドルがない場合

Adaptive Insights for Netsuite バンドルが NetSuite にインストールされていない場合、"NetSuite に ドリルスルーする" オプションは、以下のすべてが該当する場合のみ右クリックメニューに表示されます。

- このユーザーに、"NetSuite のインポート済数値にドリルイン" を含む権限セットがある。
- NetSuite インテグレーション セットアップが正常に行われ、接続が設定されている。
- 右クリックした数字が、実績バージョンに属している。数字が数式の結果ではない。生のデータかデータの合計のいずれかでなければならず、データは NetSuite からインポートされたものである必要があります。
- 数字が少なくとも 1 件の NetSuite 会計期間にマッピングするタイムスロットの数である。
- 数字が、NetSuite インポート科目マッピングのターゲットである科目のためのものである。
- 数字がキューブ科目でない。(キューブ科目にリンクされているリンク済科目で、実際の番号が表示され、ドリルスルーできます。)
- 数字が、以下の要件の少なくとも 1 つを満たす組織にある。
    - 組織が最上位組織 (全社) である。
    - 組織が NetSuite インポート組織マッピングに含まれている。
    - 番号が分割上にある場合、分割に割り当てられたすべての属性 (空白または Any 値を除く) が、1 つまたは複数の NetSuite 属性マッピングのインポートに含まれている。
- 数字が各 NetSuite カテゴリについて最大 1 つの値にマッピングされている。

Adaptive Insights for Netsuite バンドルの場合

Adaptive Insights for Netsuite バンドルが NetSuite にインストールされている場合、"NetSuite にドリルスルーする" オプションの要件は、制限が緩和されます。

その他すべての要件は同じです。

より具体的に言うと、"NetSuite にドリルスルーする" オプションは、以下のすべてが該当する場合のみ右クリック メニューに表示されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- このユーザーに、"NetSuite のインポート済数値にドリルイン" を含む権限セットがある。
- NetSuite インテグレーション セットアップが正常に行われ、接続が設定されている。
- 右クリックした数字が、実績バージョンに属している。
- 数字は数式の結果ではありません。生のデータかデータの合計のいずれかでなければいけません。ロールアップの場合、そのロールアップ内のデータの少なくとも 1 つが NetSuite から来ていなければいけませんが、すべてそうである必要はありません。
- 数字が少なくとも 1 件の NetSuite 会計期間にマッピングするタイムスロットの数である。
- 数字が、NetSuite インポート科目マッピングのターゲットである科目のためのものである。
- 数字がキューブ科目でない。(キューブ科目にリンクされているリンク済科目で、実際の番号が表示され、ドリルスルーできます。)
- 数字が、以下の要件の少なくとも 1 つを満たす組織にある。
    - 組織が最上位組織 (全社) である。
    - 組織が NetSuite インポート組織マッピングに含まれている。
    - 番号が分割上にある場合、分割に割り当てられたすべての属性 (空白または Any 値を除く) が、1 つまたは複数の NetSuite 属性マッピングのインポートに含まれている。
- 数字が各 NetSuite カテゴリついて、最低 1 つの値にマッピングされている。
- 探索中またはアクセス中の座標が NetSuite からマッピングされた場合、"NetSuite にドリルスルーする" のオプションが表示されている。マッピングは厳密に 1 対 1 である必要はありません。
- 合計に含まれる最下位のセルの少なくとも 1 つが NetSuite からマッピングされた場合、合計のドリルが許可されている。合計に含まれるすべてのセルにマッピングが必要なわけではありません。

| | |
|---|---|
| シートからのドリル | シートは、次のいずれかの場合に実績値を表示できます。<br>• 表示セレクターで実績バージョンが選択されている<br>• 選択された計画バージョンに、数か月分の実際のデータが表示されている |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | いずれの場合も、実績の数値を右クリックすると、"NetSuite に ドリルスルーする" という選択肢を含むメニューが開きます。<br><br>右クリックのメニューから "NetSuite に ドリルスルーする" を選択すると、新しいブラウザのウィンドウで NetSuite トランザクション レポートが起動されます。NetSuite への口グインが済んでいない場合、口グインを要求するプロンプトが表示されます。<br><br>口グインすると、選択された番号に応じて、NetSuite 損益詳細レポートまたは NetSuite 貸借対照表の詳細レポートのいずれかが表示されます。ドリルインしている金額が経費、収益、その他の収入、その他の費用、計上なし、または売上原価のタイプの NetSuite 科目である場合、損益詳細レポートが表示されます。他のすべての科目タイプは、"貸借対照表詳細レポート" を起動します。<br><br>NetSuite でどこでも構わないのでクリックすると、NetSuite が提供する詳細にドリルインすることができます。<br><br>注： ドリルインしている番号が で変更されたかどうか Adaptive Planningをクリックすると、NetSuite から元々インポートされたデータと一致しなくなる可能性があります。NetSuite の数字は にインポートされた後に変更された可能性があります。 Adaptive Planning。このような場合、NetSuite レポートには でドリルインした番号とは異なる番号が反映されます。 Adaptive Planning。 |
| セル エクスプローラーからのドリル | "セル エクスプローラー" ウィンドウに上記の規則を満たす数字が表示された場合、左上隅に "NetSuite にドリルスルーする" リンクが現れます。このリンクは、右クリック メニューにある "NetSuite にドリルスルーする" オプションと同じ働きをします。 |

**NetSuite Basic** カテゴリの設定

始める前に

- ポジションの NetSuite インテグレーション機能を有効化します。参照 概念: NetSuite Basic インテグレーション（2073ページ）。
- NetSuite へのアクセス。

このタスクについて

注： NetSuite Basic は、推奨されるインテグレーション方式ではなくなりました。最適なパフォーマンスを実現し、最新の機能にアクセスするには、NetSuite インテグレーションへの移行をお勧めします。NetSuite インテグレーションの詳細については、 を参照してください 概念: NetSuite との連携（2070ページ）。

NetSuite から最初のインポートを実行する前に、科目が使用する NetSuite カテゴリを Workday Adaptive Planning の対応する属性にマッピングする必要があります。この設定は、以下のような NetSuite カテゴ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リを、科目、組織、組織構造内の組織、またはカスタム属性のような属性に関連付ける方法を定義します。

これらのマッピング関連付けは NetSuite インテグレーションの一要素であり、頻繁に変更することはできません。これらの要素は、インポート プロセス中、または "NetSuite カテゴリ マッピング" ページで、カテゴリ値をマッピングするときに使用できる選択肢を決定します。

この関連付けは、1 対 1 の関係よりも複雑にすることができます。

- 多対 1: 複数の NetSuite カテゴリを単一の Adaptive Planning 属性にマッピングできます。これを行うと、これらのカテゴリの値は連結され、1 つのカテゴリであるかのように一度にマッピングされます。たとえば、"部門" と "場所" の両方を "組織" 属性に関連付けた場合、インポート マッピングの選択肢には ″エンジニアリング - 米国″ または ″営業 - ロンドン″といった複合値が表示される場合があります。
- 1 対多: 単一の NetSuite カテゴリを複数の Adaptive Planning 属性に関連付けることができます。これを行うと、これらのすべての属性のマッピングが表示されます。

たとえば、"クラス" カテゴリを "地域" と "製品" 属性の両方に関連付けた場合、インポート マッピング画面には各属性のクラスが表示されます。この表示により、クラス "北米中南米: 製品 A" を以下の両方にマッピングできます。

- 地域属性の北米中南米
- "製品" 属性の″製品 *A*″。

手順

1. NetSuite の "NetSuite カテゴリ マッピング " ページにアクセスします。

   このページでは、以下のカテゴリが表示されます。

   - クラス
   - 顧客
   - Department
   - Item
   - 勤務地
   - Subsidiary

   これらの各カテゴリの横に、以下のような Adaptive Planning インスタンス内のすべての属性を含むプロンプトが表示されます。

   - 科目
   - すべてのカスタム属性
   - 組織
   - 該当なし
2. NetSuite カテゴリごとに、対応する Adaptive Planning 属性をプロンプトで選択します。
   - NetSuite カテゴリを使用していない場合、またはどの属性にもマッピングされない場合は、″該当なし″を選択します。
   - 複数の NetSuite カテゴリを 1 つの Adaptive Planning 属性にマッピングするには、各カテゴリのプロンプトでその属性を選択します。
   - 1 つの NetSuite カテゴリを複数の Adaptive Planning 属性にマッピングするには、カテゴリの横にある "リンクの追加" を選択し、プロンプトを追加します。カテゴリは最大 4 つの Adaptive Planning 属性にマッピングできます。
3. "保存" を選択します。

タスクの結果

カテゴリの設定を完了したら、"インポート " タブの NetSuite サブタブ リンクを設定ページの代わりに "NetSuite カテゴリ マッピング" ページに移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

NetSuite カテゴリと Adaptive Planning 属性間のマッピングが保存されます。これらの設定によって、データをインポートし、NetSuite カテゴリ値を Adaptive Planning の属性値にマッピングする必要がある後に 、"NetSuite カテゴリ マッピング" ページに表示されるオプションが決まります。

次のタスク

- NetSuite からインポートを実行して、カテゴリ値を入力します。
- "NetSuite カテゴリ マッピング " ページで、特定の NetSuite カテゴリ値を Adaptive Planning の対応する属性値にマッピングします。利用可能な NetSuite カテゴリ値のリストは、インポートを実行してそれらの値を入力するまで空のままです。

トークン ベースの認証用 **NetSuite** キーの入力

**NetSuite** と二要素認証
NetSuite は、NetSuite 2020.1 リリースの時点で、すべてのロールについてトークン ベースの認証 (TBA) を実施します。Adaptive Planning には、インテグレーションにおいて NetSuite Basic の設定または NetSuite データ ソースの一環として、高度な特権を持つ NetSuite ロールが必要です。

前提条件
NetSuite でトークンベースの認証キーを生成し 、アクセス トークン ID とアクセス トークン シークレットを安全な場所に保存します。

**NetSuite** のトークンベースの認証キーの入力
トークン ベースの認証キーを入力する場所は、NetSuite と Adaptive Planning とのインテグレーションに使用する方法によって異なります。

インテグレーションでは、NetSuite Basic または NetSuite データ ソースのいずれかを使用します。

**NetSuite** でのトークンベースの認証監査ログの表示
NetSuite の監査ログを表示して、ログイン試行中に Adaptive Planning からの正しいトークン要素が NetSuite に送信されているかを確認することができます。

1. NetSuite にログインします。
2. "セットアップ" > "Users/Roles" > "変更履歴の検索" に移動します。
3. "Use Advanced Search" を選択します。
4. "結果" タブを選択します。
5. 結果に以下を追加します。
    - トークンベースのアクセス トークン名
    - トークンベースのアプリケーション名
    - 詳細
6. 検索を実行します。
7. 最新のログインを一番上にして並べ替え、ログイン試行のステータス列と詳細列を確認します。

**NetSuite** でトークンベースの認証キーを生成

**NetSuite** トークンに基づく認証
Adaptive Planning とのインテグレーションのために設定した NetSuite ユーザーには、トークンベースの認証アクセスを持つロールが必要です。トークンベースの認証は以下に対して付与できます。

- セキュリティのベスト プラクティスに従って、インテグレーションに必要な特定の権限のみを持つ新しいカスタム NetSuite ロール
- または既存の管理者 (ロール ID = 3) の Web サービスのロール

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

前提条件

- 管理者として NetSuite にログイン
- Adaptive Planning ですでに使用している NetSuite アカウント、E メール アドレス、および NetSuite のロールのレビュー

基本ステップ

- カスタム ロールを使用して Adaptive Planning を NetSuite と統合するか (推奨)、既存の管理者 (ロール ID = 3) ロールを使用するかを決定します。

Adaptive Planning とのインテグレーションのためのカスタム ロールを持つユーザーを構成 (推奨)

1. NetSuite でトークンベースの認証をオンにします。
2. 管理者のインテグレーション レコードを作成します。既存の "Adaptive Insights Integration" レコードを使用することはできません。
3. Adaptive Planning とのインテグレーション設定のために認証情報が使用されるユーザーに、トークンベースの認証ロールを割り当てます。
4. Adaptive Planning とのインテグレーションのためのアクセス トークンを作成します。
5. Adaptive Planning ユーザー インターフェイスにキーを入力します。

Adaptive Planning とのインテグレーションのための既存の管理者 (ロール ID = 3) の構成

1. NetSuite でトークンベースの認証をオンにします。
2. 管理者のインテグレーション レコードを作成します。既存の "Adaptive Insights Integration" レコードを使用することはできません。
3. 管理者用のユーザー アクセス トークンを作成します。
4. Adaptive Planning ユーザー インターフェイスにキーを入力します。

カスタム ロールを使用して **Adaptive Planning** と **NetSuite** を統合するかどうかを決定する
ベスト プラクティスに従う場合は、NetSuite を Adaptive Planning とのインテグレーションのために必要な特定の権限 のみを持つカスタム ロールを作成します。このカスタム ロールにトークンベースの認証を付与します。

引き続きインテグレーションに使用する管理者 (ロール ID = 3) がすでに存在する場合は、インテグレーション レコードとそのユーザー アクセス トークンを作成できます。管理者向けの手順は、この記事の末尾に記載されています。

**Adaptive Planning** とのインテグレーションのためのカスタム ロールを持つユーザーを構成 **(推奨)**

| | |
|---|---|
| 当該ロールに対して NetSuite でトークンベースの認証をオンにする | 1. "Setup" > "Company" > "Enable features" > "Suite Cloud" > "Manage Authentication" に移動し、"Token-Based Authentication" を選択します。<br>2. "Setup" > "Users/Roles" > "Manage Roles" に移動して "New" をクリックし、新しいカスタム ロールを作成します。カスタム ロールに "Adaptive Planning Integration" という名前を付けます。<br>3. トークンベースの認証を使用して Adaptive Planning とのインテグレーションに必要な権限を そのロールに付与し、"Setup > Log in |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Using Access Tokens - FULL" の権限を追加します。

NetSuite Basic の権限については、この 記事をお読みください。

NetSuite 拡張インテグレーションの場合 (インテグレーションの NetSuite データ ソース) は、これらの 一般的な権限を使用します。

4. ロールを保存します。

トークンベースの認証ロールの割り当て

1. "Lists" > "Employees" > "Employees" > "Edit User" に移動し、Adaptive Planning 内でデータ インテグレーションを管理するユーザーを選択します。
2. "Access" > "Roles" をクリックします。
3. 作成したカスタム ロールをそのユーザーに割り当てます。
4. "Setup" > "Integration" > "Manage Integrations" > "New" に移動します。
5. "Adaptive Planning Integration" という名前を入力し、"Token-based Authentication" をクリックします。"State" が "Enabled" に設定されていることを再確認します。
6. "Save" をクリックします。これにより、アクセス トークンの作成に使用するインテグレーション レコードが作成されます。
7. インテグレーション レコードの次の値をコピーしてテキスト ファイルに貼り付け、将来アクセスできる安全な場所にファイルを保存します。
    - アプリケーション ID (記録保持のみに使用されるもので、Adaptive Planning によって使用されることはありません)
    - コンシューマー キー
    - コンシューマー シークレット

このページから移動する前に、安全な場所に情報をコピーします。これは一度だけ表示され、後で取得することはできません。

これらの値は、Adaptive Planning とのインテグレーションを完了するために必要です。次に、Adaptive Planning インテグレーションに関連付けられている NetSuite ユーザーに、アクセス トークンおよびアクセス トークン ID 値を生成します。

アクセス トークンの作成

1. "Setup" > "Users/Roles" > "Access Tokens" に移動して "New" をクリックします。
2. 前の手順で作成したアプリケーション名 "Adaptive Planning Integration" を選択します。
3. ユーザーを選択してから、作成したロールを選択します。"Adaptive Planning Integration"

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

を選択して、Adaptive Planning インテグレーション レコードを関連付けます。
4. NetSuite が応答を生成します。アクセス トークン ID とアクセス トークンをコピーして、前の手順で作成した安全な場所に貼り付けます。

このページから移動する前に、応答をコピーします。これは一度だけ表示され、後で取得することはできません。

これらの値は、Adaptive Planning とのインテグレーションを完了するためにも必要です。

Adaptive Planning にキーを入力

インテグレーションの NetSuite データ ソースおよび NetSuite Basic の場合は、 次の手順に従ってキーを入力します。

**Adaptive Planning とのインテグレーションのための既存の管理者 (ロール ID = 3) の構成**

既存の管理者 (ロール ID = 3) の Web サービス ユーザーは、カスタム ロールとは異なる手順に従います。既存の管理者 (ロール ID = 3) が NetSuite 内でアクセス トークンを作成する場所も異なります。

管理者のインテグレーション レコードの作成

既存の管理者 (ロール ID = 3) の Web サービス ユーザーの場合、インテグレーション レコードの作成から開始します。

1. "Setup" > "Integration" > "Manage Integrations" > "New" に移動します。
2. "Adaptive Planning Integration" という名前を入力し、"Token-based Authentication" をクリックします。"State" が "Enabled" に設定されていることを再確認します。
3. "Save" をクリックします。これで、アクセス トークンの生成に使用するインテグレーション レコードが作成されます。
4. インテグレーション レコードの次の値をコピーしてテキスト ファイルに貼り付け、将来アクセスできる安全な場所にファイルを保存します。
    - アプリケーション ID (記録保持のみに使用されるもので、Adaptive Planning によって使用されることはありません)
    - コンシューマー キー
    - コンシューマー シークレット

このページから移動する前に、安全な場所に情報をコピーします。これは一度だけ表示され、後で取得することはできません。

これらの値は、Adaptive Planning とのインテグレーションを完了するために必要です。次に、Adaptive Planning インテグレーションに関連付けられている NetSuite ユーザーに、アクセス トークンおよびアクセス トークン ID 値を生成します。

管理者用のユーザー アクセス トークンの作成

1. 管理者として NetSuite にログインします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| | 2. 設定ポートレットで "Manage Access Tokens" をクリックします。<br>3. "New My Access Token" をクリックします。<br>4. アクセス トークンを関連付けるアプリケーション "Adaptive Planning Integration" を選択します。<br>5. "Save" をクリックします。<br>6. NetSuite が応答を生成します。アクセス トークン ID とアクセス トークンをコピーして、前の手順で作成した安全な場所に貼り付けます。<br><br>このページから移動する前に、安全な場所に情報をコピーします。これは一度だけ表示され、後で取得することはできません。<br><br>これらの値は、Adaptive Planning とのインテグレーションを完了するために必要です。 |
| Adaptive Planning にキーを入力 | インテグレーションの NetSuite データ ソースおよび NetSuite Basic の場合は、 次の手順に従ってキーを入力します。 |
| NetSuite でのトークンベースの認証監査ログの表示 | NetSuite の監査ログを表示して、ログイン試行中に Adaptive Planning からの正しいトークン要素が NetSuite に送信されているかを確認することができます。<br><br>1. NetSuite にログインします。<br>2. "Setup" > "Users/Roles" > "Login Audit Trail Search" に移動します。<br>3. "Use Advanced Search" を選択します。<br>4. "Results" タブを選択します。<br>5. 結果に以下を追加します。<br>• トークンベースのアクセス トークン名<br>• トークンベースのアプリケーション名<br>• 詳細<br>6. 検索を実行します。<br>7. 最新のログインを一番上にして並べ替え、ログイン試行のステータス列と詳細列を確認します。 |

ステップ: **NetSuite Basic** を使用した **NetSuite** へのデータのエクスポート

始める前に

- NetSuite インテグレーションをセットアップします。
- NetSuite で複数の予算カテゴリを有効にします。
- セキュリティ: "予算を NetSuite にエクスポート" 権限。

このタスクについて

"NetSuite 予算" は、"インテグレーション" の "データのエクスポート" 領域にあるオプションです。このオプションにより、Adaptive Planning の総勘定元帳科目から NetSuite の予算カテゴリにデータをエクスポートできます。

エクスポートには以下が含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- 総勘定元帳科目のみにあるデータ
- 選択したバージョンのデータ
- 以下のカスタム属性値
    - NetSuite にマッピングしたもの
    - 標準シートで分割されたデータにタグ付けされたもの

NetSuite および Adaptive Planning の予算為替レートは、為替レートを共有する必要があります。

手順

1. NetSuite Basic カテゴリの設定（2081ページ）.
2. "インテグレーション" > "データのエクスポート"に移動します。
3. ヘッダー バージョンのプロンプトから、エクスポートするデータのバージョンを選択します。
4. このタスクの実施にあたっては、以下を考慮してください。

| オプション | 説明 |
| --- | --- |
| ターゲットを出力 | "NetSuite 予算" を選択します。 |
| 予算カテゴリ | エクスポートされたデータを入力する NetSuite 予算を選択します。<br>このオプションは NetSuite から自動入力されます。 |
| 会計年度 | チェックボックスを少なくとも 1 つ選択します。<br>このオプションは NetSuite から自動入力されます。 |

5. "エクスポート" をクリックします。

タスクの結果

Adaptive Planning からエクスポートされたデータは、NetSuite の指定されたカテゴリと会計年度のすべてのデータを置き換えます。

データのエクスポート方法は、Adaptive Planning の組織と NetSuite の子会社をどのようにマッピングしたかによって異なります。

例

relatedlinks
参考
参考: NetSuite へのエクスポートのマッピング結果（2089ページ）

プランニングから **NetSuite** へのドリルスルー

このトピックでは、次を使用してインポートした実績データのドリル スルーを有効化する方法について説明します。 Adaptive Planning インテグレーション NetSuite Adapter

内の NetSuite アダプタを使用してインポートされた実績データ Adaptive Planning インテグレーションにより、Planning 標準シートおよびレポート内のセル エクスプローラーでのドリルスルーが可能になります。プランニング ユーザーは、標準シートおよびレポートで利用可能なドリル スルー URL をクリックして、NetSuite に戻り、該当する実績値に関連する追加の取引情報を表示できます。

Planning から NetSuite へのドリルスルーを有効化するステップの概要

開始前に、以下の "強化されたバンドルベースのドリルスルー" チェックボックスがオンになっていることを確認します。 Adaptive Planning "インテグレーション" > "NetSuite セットアップ " メニュー

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1.NetSuite 外部システムを設定します。

2.同じ Planning 属性に複数の NetSuite カテゴリがマッピングされている場合は、NetSuite データ ソースに再度アクセスして、列の多対 1 マッピング向けの "タプル SQL 列" を追加します。

3.上記ステップ後、NetSuite 実績データをインポートするように Planning ローダを 設定します。

- ステップ 1 で設定した外部システムをプロファイルにリンクします。
- このプロファイルを Planning ローダに添付します。

のための NetSuite Adapter 設定の詳細については、「ステップ: NetSuite データ ソースの設定」記事および「ステップ: Planning データ ローダの作成」の外部システムに関するセクションを参照してください。
Adaptive Planning ドリルスルーのインテグレーション

ステップ: NetSuite データ ソースの設定、 ステップ: Planning データ ローダの作成を参照してください。

参考: **NetSuite** へのエクスポートのマッピング結果

| マッピング | 結果 |
|---|---|
| NetSuite の "子会社" カテゴリを Adaptive Planning の科目、組織、またはカスタム属性にマッピングしていません。 | すべてのデータを NetSuite のルート子会社にエクスポートします。 |
| Adaptive Planning の組織を NetSuite カテゴリにマッピングしていません。 | 最上位組織の合計の値を最上位組織の通貨でエクスポートします。 |
| Adaptive Planning の組織が NetSuite カテゴリにマッピングされており、ターゲットの予算カテゴリはグローバル カテゴリです。 | 各組織の値を最上位組織の通貨でエクスポートします。 |
| Adaptive Planning の組織が NetSuite カテゴリにマッピングされており、ターゲットの予算カテゴリはグローバル カテゴリではありません。 | 各組織の値を各組織の通貨でエクスポートします。 |

relatedlinks
タスク
ステップ: NetSuite Basic を使用した NetSuite へのデータのエクスポート（2087ページ）

## API ドキュメント

**API** ドキュメント

REST API の製品ドキュメント

注： インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL（29ページ）。

現在の API バージョン:40

リリース別の API の変更

現在のバージョンには、以前のバージョンにおける累積的な変更が含まれます。

カスタム カレンダーを使用する場合は、Adaptive API の v15 以上 を使用する必要があります。参照 ステップ: カレンダーの変更（776ページ）。

API v15 のリリースに伴い、オンライン API ドキュメント ページには 、*"API v15+ でサポート済"*、*"API v16+ でサポート済"* などのインライン バージョンの変更が示されます。バージョンにおいてメソッドが完全に新しい場合は、ページの上部にそのバージョンがメモとして表示されます。

API バージョン 14 以前については、API バージョン 14、API バージョン 13、API バージョン 12 を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**Adaptive Planning REST API** について
**Adaptive Planning API** について

製品ドキュメントの概要: Adaptive PlanningAPI

Adaptive Planning は、お客様やパートナーが使用するリッチ API を提供します。この API は RESTful Web サービスの原則に準拠しており、ユーザーがインスタンス内のデータにアクセスして操作できる簡潔なインターフェイスを提供します。API のごく一部では、GET、POST、PUT、PATCH、DDelete HTTPS リクエストで JSON 形式を使用しています。この REST API は多機能なデータ インターフェイスで、ユーザーまたはクライアント プログラムはバージョンからデータを取得し、データをさまざまなシートにインポートし、バージョン、科目、組織、ユーザーなどの顧客メタデータに関する情報を読み取ることができます。各 API 呼び出しは個別に認証され、その API 呼び出しを呼び出したユーザーに、アクションを実行し、要求されているデータにアクセスする権限があることを確認します。

概念**: Adaptive Planning REST API**

基本的な **REST API** アプローチ
Adaptive Planning API には、以下の 3 つの一般分野があります。

- メタデータの取得および操作
- Data retrieval.
- データの作成と更新

クライアントは、Adaptive Planning のメイン Web サービス エンドポイントに HTTP POST リクエストを送信することにより、API コールを呼び出します。エンドポイントには、使用している API のバージョンを示すバージョン番号が含まれます。Adaptive Planning API の現在のバージョンは v40 です。インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL（29ページ）。

```
https://api.adaptiveplanning.com/api/v40
```

API バージョンは通常、新しい Adaptive Planning 製品リリースに応じて更新されますが、すべての製品リリースが新しい API バージョンになるわけではありません。後続の API バージョンのリリースから少なくとも 1 年は現バージョンをサポートすることになります。

API の変更の履歴については、 を参照してください。 リリース別の API の変更（2091ページ）。

HTTP POST リクエストには、XML ドキュメントに POST データが含まれています。この XML ドキュメントには、すべての API メソッド呼び出しに存在する標準セクションと、各 API メソッド呼び出しに固有のセクションが含まれます。Adaptive Planning サーバーが API メソッド呼び出しを処理し、結果を別の XML ドキュメントとして返します。リクエストと同様、応答 XML ドキュメントには、各 API メソッドで同じセクションと、各 API メソッドに固有のセクションが含まれます。

すべてのデータ取得には検索が使用されます。呼び出し元は多数の要素と一致する条件を指定し、サーバーはその条件に一致するメタデータのエンティティまたはデータのリストを返します。データの作成と更新では、データの一括アップロードを使用し、データの一括アップロードを POST ディメンションで送信します。

セキュリティ
ユーザーは呼び出しごとに認証される必要があります。これにより、不正者が Web サービス セッションをハイハイする可能性を排除できます。

HTTPS Web プロトコルを使用する必要があるため、すべての API リクエストは暗号化されます。ユーザーの認証情報は、Web サービス リクエスト本文の一部として Adaptive Planning に送信されます。これは、ユーザーがコンピュータを使って Web サービス リクエストを生成する前に、Web 層によってユーザーのログイン ID とパスワードを暗号化し、ターゲット サーバーでそれらを受信したときにのみ暗号化解除することを意味しています。

API リクエストでユーザーを認証しても、そのユーザーに対して永続的なセッションは作成されません。Web サービスの呼び出しごとに、ユーザーを個別に認証する必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

権限およびデータ アクセスの制御
ユーザーが Web サービスにアクセスするために特別な権限は必要ありません。ただし、Web サービス リクエストを行うユーザーには、リクエストされたアクションを実行するために必要な権限が付与されている必要があります。例: ユーザーが importStandardData Web サービス メソッドを呼び出すには、"インポート機能" 権限が必要です。

また、Web サービスのメソッドによって、各呼び出しの出力が、リクエストを行ったユーザーに表示されるデータ セットに制限されます。例: exportData Web サービス メソッドは、返されるデータを、呼び出し元のユーザーが承認する組織上のデータに制限します。

リリース別の **API** の変更

**2025R1**

(2025 年 2 月)

JSON 形式の REST API

- タスク サービス
  - タスク
    - `/tasks?instanceCode=<instanceCode>` (`GET`, `POST`) インテグレーション タスクでの JSON ベースの HTTP 操作

**2024R2**

(2024 年 9 月)

API v40 の導入

- 更新日:`importModeledSheet`オプション がサポートされるようになりました。`accountCode`特性`DisplayColumns`要素設定`code`特性の特性`DisplayColumn` 列の編集可能な一意の識別子を作成できるようになりました。条件 `accountCode` がリクエストに含まれていない場合は、自動的に一意の ID が生成されます。`code` 列を特定の科目にリンクさせます。
- 更新日: `exportModeledSheet` オプション がサポートされるようになりました。 `accountCode` 特性 `DisplayColumns` 要素設定 `code` 特性の特性 `DisplayColumn` 列の編集可能な一意の識別子を作成できるようになりました。
- 更新日: `importConfigurableModelData` 訂正済 `applyValidationRules` この説明は、デフォルト値が次の値であることを示しますtruev38 以降
- 更新日: `importStandardData` サポート対象 `splitsToUnsplit` 次の中 `importDataOptions` 要素: 既存のデータとともに、分割が分割されていない場所にインポートできるようにします。
- 更新日:`exportCalendar` サポート対象`code` 次の中 `calendar` 要素
- 更新日: `exportVersions` サポート対象 `currencyVersions` 次の中 `include` 要素これにより、換算実績の通貨バージョンを回答に含めることができます。お使いのインスタンスがこの機能の対象となるかどうかを確認するには、指定サポート連絡先にご連絡ください。

JSON 形式の REST API

- モデリング サービス
  - Time
    - `/updateTime` カレンダー オブジェクトは `code` コードが存在する場合。
  - Modeled Sheet Definition
    - `/definition` `PATCH` 上位目標 `accountCode` シート列プロパティ オブジェクトにおいて、表示列のモデル科目を決定します。表示列でのみ有効です。有効な値は、モデル シートの科目のみです。
    - `/definition` `PATCH` 上位目標 `code` シート列のプロパティ オブジェクトで、科目コードと二次識別子を接頭辞に追加します。新しいシートの作成時には必須です。こ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

れは以下と同じように機能します。prefixで、ユーザー インターフェイスに一致する優先プロパティです。

**2024R1**

(2024 年 4 月)

- 米国以外のテナントの場合は、以下の地域認証を使用します。

  注 : インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL ( 29ページ )。

(2024 年 3 月)

API v39 の導入

- 更新日: exportData はサポートされなくなりました。 sheet 要素は API v39 以上にあります。
- 更新日: exportData 以下をサポートしています。
  - API v39 以降のパフォーマンスと拡張性のために最適化されたパスのすべての要素と特性。
  - API v39 以降のパフォーマンスと拡張性のために加重平均合計を持つ科目
  - 参考: exportData Performance を参照してください。
- 更新日: exportAttributes 上位目標 code 特性 attribute 要素 設定 code 特性は、API v39 以降でのみ使用できます。
- 更新日: updateAttributes 上位目標 code 特性 attribute 要素 設定 code 特性は、API v39 以降でのみ使用できます。
- 更新日: exportDimensions 上位目標 code 特性 dimension 要素 設定 code 特性は、API v39 以降でのみ使用できます。
- 更新日: updateDimensions 上位目標 code 特性 dimension 要素 設定 code 特性は、API v39 以降でのみ使用できます。
- 更新日: exportAccounts 新しいブール値をサポートします showAccountGroupCodes 特性 include 要素リクエストでこの属性を true に設定すると、回答で科目グループ コードがエクスポートされます。 設定 showAccountGroupCodes 特性は、API v38 以降でのみ使用できます。
- 更新日: importModeledSheet が必要 name および code 特性 configurableModel リクエストのエレメント- name および code 要素は API v39 以降でのみ使用できます。
- 更新日: exportSheets 名前が変更されました prefix 特性 code 次の中 modeled-sheet 要素 設定 code は API v39 以降でのみ使用できます。
- 更新日: exportVersions ブール値をサポート scenarios 特性 include 返品リクエストの要素 type="SCENARIO" 回答に含まれる個人的な what-if シナリオAPI v37 以降が必要です。
- 更新日: importGroups は、ユーザー グループが dataSource=EXTERNAL。
- 更新日: createUser は以下の属性をサポートしています。 user 要素:
  - position
  - homepage
  - country
  - usState
  - netSuiteLogin
  - salesforceLogin

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 更新日: `updateUser` は以下の属性をサポートしています。 `user` 要素:
  - `position`
  - `homepage`
  - `country`
  - `usState`
  - `perspective`
  - `perspectiveName`
  - `dashboard`
  - `dashboardName`
  - `netSuiteLogin`
  - `salesforceLogin`
- 更新日: `exportUsers` は以下の属性をサポートしています。 `user` 要素:
  - `alternateEmail`
  - `samlFedId`
  - `position`
  - `homepage`
  - `country`
  - `usState`
  - `perspective`
  - `perspectiveName`
  - `dashboard`
  - `dashboardName`
  - `nestuiteLogin`
  - `salesforceLogin`
  - `createdDate`
  - `lastLogin`
  - `failedAttempts`
  - `Locked`

JSON 形式の REST API

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- モデリング サービス
  - Modeled Sheet Definition
    - `/sheet/modeled/definition` PATCH 上位目標 `delete` シート列オブジェクトのプロパティとして を使用し、Adaptive Planning でモデル シート列を削除する。"削除" で以下を削除することはできません。
      - 必須の列
      - 削除のフラグが設定されていない他の列に依存する列
  - キューブ シート定義
    - `/sheet/cube/definition` (PATCH, DELETE) Adaptive Planning でキューブ シート定義を挿入、更新、または削除する。
    - `/sheet/cube/definition` PATCH 上位目標 `delete` シート列オブジェクトのプロパティとして を使用し、Adaptive Planning でキューブ シート列を削除する。"削除" で以下を削除することはできません。
      - 削除のフラグが設定されていない他の列に依存する列
  - 以下の削除のみをサポートする API の導入
    - 科目
      - `/accounts/removeGLAccounts` (POST) 総勘定元帳科目を削除します。
      - `/accounts/removeAccounts` (POST) カスタム科目を削除します。
    - 特性
      - `/attribute` (DELETE) 特性とその特性値を削除します。
    - 特性値
      - `/removeAttributeValues` (POST) 特性値を削除します。
    - 属性
      - `/dimension` (DELETE) 属性とその属性値を削除します。
    - 属性値
      - `/removeDimensionValues` (POST) 属性値を削除します。
    - Level
      - `/removeLevels` (POST) 組織を削除します。
- セキュリティ サービス
  - グループ:
    - `/groups` (GET) 指定されたインスタンスに対して定義されたすべてのグループの完全なリストを取得します。
- ユーザー
  - `/users` (DELETE) Adaptive Planning からユーザーを削除します。

**2023R2**

(12 月 8 日)

- 更新日: `importConfigurableModelData` 上位目標 `applyValidationRules` 次の中 `importDataOptions` 要素。データのインポートが検証ルールに対して有効かどうかを示します。

(9 月 9 日)

API v37 の導入

- 更新日: `customReportValues` 新規サポート `cell-inclusions` 特性 `report` 要素この特性はセル レベルで以下と連動します。 `suppress-zeroes` 出力にゼロや空白のセルが含まれるか、あるいは非表示の行に含まれないようにするかを制御します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 更新日: customReportValues および exportData 特定の条件下でパフォーマンスの改善を受けることができます。次を参照してください。
  - 参考: exportData パフォーマンス条件
  - 参考: customReportValues Performance Conditions

**2023R1**

(3 月 11 日)

API v36 の導入

- 更新日: importStandardData 上位目標 mode importDataOptions 要素内 REPLACE モード
- 更新日: importStandardData 以下が必要です scope 要素 (使用時の設定) replace モード: 置き換えられるデータを示します。設定 scope 要素は 1 つ必要です time 要素、1 accounts 少なくとも 1 つの子を持つ要素 account 要素および 1 levels 要素
- 更新: ユーザー importStandardData リクエストをサポートするには、API v36 の "データの消去" 権限が必要です。 REPLACE モード

JSON 形式の API

- モデリング サービス:
  - 通貨:
    - /currency (POST, DELETE) Adaptive Planning で通貨を作成、更新、または削除する。
  - 為替レート タイプ:
    - /exchangeRateTypes (GET, POST, DELETE) Adaptive Planning で為替レート タイプを挿入、更新、または削除します。
  - シート:
    - /sheet/modeled/definition (PATCH, DELETE) Adaptive Planning でモデル シート定義を挿入、更新、または削除する。
  - バージョン:
    - /versions (GET, DELETE, PATCH, POST) Adaptive Planning でバージョンを取得、削除、更新、または作成します。
  - 時間:
    - /updateTime (POST) Adaptive Planning の時間構造の再ロード、更新、追加。

**2022R2**

(2022 年 11 月 18 日)

API v35 の導入

- 更新日: exportConfigurableModelData ストリーミングのサポート useActualValue リクエスト内の属性として modeled-sheet 要素の小数部桁数ではなく生データを返す。算出科目は 9 の小数点以下の桁数で返されます。
- 更新日: exportConfigurableModelData 新規サポート status 要素内の response 要素設定 status 要素に含まれる値 success ブール値特性の後に続く rowCountSent 成功または失敗したときに送信される行を示します。
- 更新日: exportConfigurableModelData 上位目標 totalRowCount 回答出力に含まれる data 要素の合計行数 data。
- 更新日: exportConfigurableModelData は、応答出力内の属性値の文字列値およびテキストフィールドの文字列値の二重引用符を自動的にエスケープします。
- 削除済: success 特性 response 要素の exportConfigurableModelData データをストリーミングする場合 (isGetAllRows="true")、API v35 ではデフォルトで が削除されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 削除済: 接頭辞 s 対象 parentId 次の場合に、データ出力 useNumericIDs=true データ (isGetAllRows="true") の場合、API v35 でストリーミングが削除されます。

(2022 年 9 月)

API v34 の導入

- 更新日: updateAccounts によってのみ属性値と特性値のタグ付けがサポートされます。 value。サポートしていません valueName および valueCode API v34 を使用
- 更新日: updateDimensions によってのみ属性値と特性値のタグ付けがサポートされます。 value。サポートしていません valueName および valueCode API v34 を使用
- 更新日: updateLevels によってのみ属性値と特性値のタグ付けがサポートされます。 value。サポートしていません valueName および valueCode API v34 を使用
- 更新日: exportAccounts はタグ付けされた属性値および特性値を示します value。サポートしていません valueName および valueCode API v34 を使用
- 更新日: exportDimensions はタグ付けされた属性値および特性値を示します value。サポートしていません valueName および valueCode API v34 を使用
- 更新日: exportLevels はタグ付けされた属性値および特性値を示します value。サポートしていません valueName および valueCode API v34 を使用
- 更新日: updateAccounts リクエストを設定できます balanceType 次のいずれか debit または credit。子科目は別の科目を使用できるようになりました。 balanceType 相対科目をサポートする親科目より
- 更新日: updateAccounts 回答に次の新しいブール値プロパティが含まれます: isContra 科目が相対科目であるかどうかを示します。
- 更新日: createAccount 回答に次の新しいブール値プロパティが含まれます: isContra 科目が相対科目であるかどうかを示します。
- 更新日: exportSheetDefinition 返品 horizontalAxis, verticalAxis, maxColumnWidth, suppressZeroRows, rearreangeGLAndCustomAccounts, hideRollupTotals 次の中 cube-sheet 要素
- 更新日: exportSheetDefinition を返します users および user 呼び出し元のユーザーにモデル権限がある場合、応答内の要素
- 更新日: importCubeData 上位目標 mode 次の中 importDataOptions 次のいずれかを示す要素 APPEND または REPLACE インポート モード
- 更新日:importCubeData をサポート scope 要素 (使用時の設定) REPLACE インポート モード: データが置き換えられるキューブの座標を示します。

(2022 年 8 月)

API v33 の導入

- 新: exportCalendar では、2022R2 で代替カレンダーが導入され、カレンダー メタデータのエクスポートがサポートされています。
- 更新日: exportTime 上位目標 calendarId オプション要素に を選択し、2022R2 で代替カレンダーが導入されたすべてのカレンダーから時間値を取得する。
- 更新日: exportConfigurableModelData で目的の列を指定した場合、目的の列のみのエクスポートをサポートするようになりました。 filters リクエストのエレメント
- 更新日: exportConfigurableModelData 設定により、科目の小数点以下の桁数で数値列を出力できるようになりました。 useAccountPrecision=true 対象: modeled-sheet 要素の条件 isGetAllRows=true。

**2022R1**

(2022 年 5 月)

- 更新日: updateLevels はフラット入力フォーマットをサポートしており、 level タグが の直下に配置されている levels タグ。この入力形式は、組織階層のごく一部に対する差分変更に対してのみ推奨されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

(2022 年 3 月)

- 新: `importGroups`: ユーザー グループをまとめてインポートする場合。

JSON 形式の API バージョン 1 の紹介

- モデリング サービス:
  - `sheet/availability` (`GET`, `POST`) 特定のシートおよび列の属性または特性値の使用可否設定を取得または更新します。
- セキュリティ サービス:
  - `users/permissionSets` (`GET`, `POST`) Adaptive Planning ユーザーに権限セットを割り当てます。
  - `users/instances` (`GET`, `PATCH`, `PUT`) 親子階層で Adaptive Planning のマルチインスタンスを使用する場合は、インスタンスにユーザーを割り当てます。

(2022 年 2 月)

API v32 の導入

- 更新日: `exportConfigurableModelData` パフォーマンスを向上させるためにデータをストリーミングします。
- 更新日: `updateLevels` サポート対象 `valueCode` および `valueName` 次の中 `dimension` 要素 (表示名が有効になっている場合)。
- 更新日: `updateDimensions`, `updateLevels`、および `updateAccounts` サポート開始 `valueCode` および `valueName` 次の中 `attribute` 要素 (表示名が有効になっている場合)。
- 更新日: `exportDimensions`, `exportLevels`、および `exportAccounts` サポート開始 `valueCode`, `valueName`、および `valueDisplayName` 次の中 `attribute` 要素 (表示名が有効になっている場合)。

**2021R2**

(2021 年 10 月)

以下の特定の API では、以下の場合に表示名に対する組織コード、属性コード、特性コードがサポートされます。

- インスタンスで表示名を有効にするには、Workday カスタマー センターでケースを作成します。
- API v30 以上を呼び出す。
- 有効にします `displayNameEnabled` 呼び出しごと (詳細については、API ドキュメントの各ページを参照してください)
- 更新日: `updateLevels`, `updateDimensions`, `updateAttributes` リクエストを受諾するようになりました `code` および `name` 引き続き使用 `id` キーとして を選択します。
  - `code` および `name` は属性値、特性値、組織を作成する場合は必須です。
- 更新日: `updateLevels`, `updateDimensions`, `updateAttributes` 回答を返す `name`, `code`, `displayName` および `displayNameType`。
- 更新日: `importDimensionMapping` リクエストは以下を承諾します。
  - `id` および `name` 対象 `dimension`。
  - `id` および `code` 組織および属性値:
- 更新日: `exportDimensionMapping` リクエストのフィルタリング:
  - `keyword` 値が表示名と部分的に一致する場合。
  - `level` 用途 `code` の代わりに `name`。
  - `dimensionValue` 用途 `code` の代わりに `name`。
  - 特性 `value` が次の基準値 `code`、代わりに `name`。
- 更新日: `exportDimensionMapping` 回答を返す `id`, `name`, `code`, `display  name` 組織および属性値:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 更新日: exportLevels, exportDimensions、および exportAttributes 回答を返す name, code, displayName, displayNameType。
- 更新日: importStandardData, importCubeData, importConfigurableModelData、および importTransactions リクエスト:
  - ヘッダー行 Level 変更先 Level Code。
  - ヘッダー行 Account 変更先 Account Code。
  - ヘッダー行 Dimensions 変更後 "<dimension> Code" および "<dimension> Name"。 "<dimension> Code" は必須です。 "<dimension> Name" は、属性に対して "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" が有効になっている場合にのみ許可されています。
  - "コード"、"名前"、"表示名" のテキストの列ヘッダーでローカライズがサポートされています。
  - useMappings=false システムのコードを使用しています。
  - useMappings および displayNameEnabled することはできません true 同時に。
- 更新日: exportConfigurableModelData(API v31 が必要):
  - level 要素はサポートされなくなりました name API v31+ に含まれています。
  - level 要素では次のサポートを追加します code。
  - modeled-sheet 要素では次のサポートを追加します includeCodes, includeNames、および includeDisplayNames すべてに適用される真偽オプション dimension values および levels がコールに含まれている。これらの 3 つのオプションのうち、少なくとも 1 つが真でなければなりません。
- 更新日: exportConfigurableModelData 回答:
  - 対象列 "<dimension> Code", "<dimension> Name"、および "<dimension> Display Name"
  - "コード"、"名前"、"表示名" のテキストの列ヘッダーでローカライズがサポートされています。
- 更新日: exportData リクエスト:
  - level 要素はサポートされなくなりました name API v30+ に含まれています。
  - level 要素では次のサポートを追加します code。
  - level システムのコードと一致します。
  - dimensionValue 要素はサポートされなくなりました name API v30+ に含まれています。
  - dimensionValue のサポートを追加する code。
  - dimensionValue システムのコードと一致します。
- 更新日: exportData 回答:
  - 対象列 "<dimension> Code", "<dimension> Name"、および "<dimension> Display Name"
  - 対象列 "<level> Code", "<level> Name"、および "<level> Display Name"
  - "コード"、"名前"、"表示名" のテキストの列ヘッダーでローカライズがサポートされています。
- 更新日: eraseData リクエスト:
  - level 要素はサポートされなくなりました name API v30+ に含まれています。
  - level 要素では次のサポートを追加します code。
  - level システムのコードと一致します。

API v31 の導入

(2021 年 9 月)

- 更新日: importConfigurableModelData, importTransactions, importCubeData、および importStandardData ヘッダー内のパイプ文字数とデータが一致しない場合にエラーが発生します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 更新日: updateAccessRules が必要となります。 Users の代わりに、このコンポーネントを起動する権限 Admin - 権限
- 更新日: updateAccounts 既存の親とその子科目の間に新しい親科目を作成できるようになりました。

(2021 年 8 月) API v30 の導入

- 更新日: updateAttributes, updateDimensions, updateLevels 内の Unicode ホワイト スペース文字はサポートされなくなりました name および shortName。許可されていないホワイトスペース文字については、https://docs.oracle.com/javase/7/docs/api/java/lang/ character.html#isWhitespace(char) を参照してください。単語と単語の間にスペースを 1 つ入れることができます name および shortName。

**2021R1**

(2021 年 5 月) API v29 の導入

- 更新日: updateAccounts リクエストに対して、次の数のアカウントを作成できるようになりました。 dataEntryType=CUBE。 Adaptive Planning が次の値を自動的に計算: dataEntryType(最下位科目以外の)親の条件 dataEntryType に次の値がある CUBE、新しい科目のデフォルト値 dataEntryType=CUBE。それ以外の場合、新しい科目はデフォルトで dataEntryType=STANDARD。変更後の割当 dataEntryType 最下位科目以外の科目は無視されます。
- 更新日: UpdateAccounts 回答に次の値が含まれる dataEntryType すべての最下位科目の次のいずれか CUBE または STANDARD。

(2021 年 4 月) API v28 の導入

- 更新日: exportVersions 回答に含まれるようになりました isPredictive=true 次の中 version 要素: 予測バージョン
- 更新日: createUser リクエストに含められるようになりました alternateEmail および samlFedId。用途 alternateEmail 代替 E メールを設定します。これは、"ユーザー詳細" セクションでユーザーの E メールとして自動的に選択されます。用途 samlFedId シングル サインオンの場合、ユーザーの SAML フェデレーション ID を含めるには、
- 更新日: updateUser リクエストに含められるようになりました alternateEmail および samlFedId。用途 alternateEmail 代替 E メールを設定します。これは、"ユーザー詳細" セクションでユーザーの E メールとして自動的に選択されます。用途 samlFedId シングル サインオンの場合、ユーザーの SAML フェデレーション ID を含めるには、

(2021 年 3 月) API v27 の導入

- 更新日: updateAttributes および updateDimensions リクエストに含まれる値 retainExistingOrder 順序を維持するために、ペイロードの順序が無視されているかどうかを示す Adaptive Planning がすでに階層で使用されている。false の場合、ペイロードの順序によって、Adaptive Planning が要素をどのように並べるかが決まります。
- 更新日: updateLevels リクエストのデフォルト値が設定されます retainExistingOrder が 1 に変更されます。
- 更新日: updateAccounts リクエストのデフォルト値が設定されます retainExistingOrder が 1 に変更されます。
- 更新日: importModeledSheet リクエストに含められるようになりました requiredColumn ユーザーがモデル シートを保存するために属性値を入力する必要があるかどうかを示します。質問してください Adaptive Planning のサポート (有効化) requiredColumn 対象 importModeledSheet リクエスト。
- 更新日: exportModeledSheet 回答に含まれるようになりました requiredColumn ユーザーがモデル シートを保存するために属性値を入力する必要があるかどうかを示します。

API v26 の導入

- 更新日: updateAccounts および updateLevels リクエストに含まれる値 retainExistingOrder 順序を維持するために、ペイロードの順序が無視されているかどうかを

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

示す Adaptive Planning がすでに階層で使用されている。false の場合、ペイロードの順序によって、Adaptive Planning が要素をどのように並べるかが決まります。
- 名前変更済: すべての v26 API について、 `permissionSetId` に置き換えられる `roleId` の "ロールと権限" の名前が の "権限セット" に変更されると、 Adaptive Planning。
- 新: `updateAssociations` ユーザー属性と組織の関連付けの設定に使用されます。あるいは、組織に対してユーザーの組織承認権を設定します。 `code` は関連付け要素に含まれません。
- 削除済: `roleID` は API v26 以降でサポートされなくなりました。v25 以前の API は引き続きサポートします `roleID`。

**2020R2**

- (2021 年 2 月) 更新: eraseData リクエストは、以下の大文字と小文字の区別を無視します。 `Accounts` および `Levels` タグ。
- (2020 年 12 月) 以下を更新しました。 `updateDimensionsrequest` は次の場所で見つかった改行文字を置き換えます `dimensionValue name` 空白スペースのあるペイロード名前の前後の改行文字はスペースになり、ペイロードの処理中にトリミングされます。
- (2020 年 12 月) 以下を更新しました。 `updateDimensions` リクエストで、同じエンティティの複数の名称変更を同じエンティティで処理するようになりました `updateDimensions` 呼び出し。これは、Adaptive Planning への同期間のリモート システムで、名前が複数回交換されるときの問題を解決するために役立ちます。

API v25 の導入

- 更新日: `exportData` リクエストに含まれなくなりました `includeRollups`。リクエストにブール値が含まれています `includeRollupAccounts` 科目合計および `includeRollupLevels` 組織合計

API v24 の導入

- 更新日: `updateLevels` リクエストに含まれる値 `publishCurrency` 財務計画を Workday コア ファイナンシャルにパブリッシュする際に通貨を示す
- 更新日: `exportLevels` 回答に含まれる値 `publishCurrency` 財務計画を Workday コア ファイナンシャルにパブリッシュする際に通貨を示す
- 更新日: `exportInstances` 回答に含まれる値 `notificationType` Workday テナント通知設定を示す Adaptive Planning Workday に対して が設定されている。
- 更新日: `exportData` リクエストに含まれる値 `stratum` エクスポートされたデータの時間層のコードを示します。指定する場合、開始期間と終了期間がその時間層内に収まっている必要があります。時間層は、リクエストで最上位の時間層を持つ科目と同じかそれ以上である必要があります。
- 更新日: `exportData:includeZeroRows=false` の場合、空白とゼロのみを組み合わせた行は、markBlanks=true であっても応答に出力されません。
- 新: `eraseData` 計画データと実績データの消去に使用します。と同じ機能を提供します。 `eraseActuals` が、プランのデータを消去する機能も含まれ、ターゲットである特定の科目とプランの組み合わせをさらに制御することができます。
- 新: `updateAccessRules` は、アクセス ルール テンプレート用にフォーマットされた .xslx を含むマルチパート xml ドキュメントをアップロードすることにより、アクセス ルールを一括更新します。

**2020R1**

API v23 の導入

- 更新日: `importConfigurableModelData` リクエストに含まれる値 `importKey` 更新するモデルシート行にインポート行をマッピングするための属性または組織を示す。
- 更新日: `exportUsers` および `exportLevels` リクエストにはブール値を含めることができます `groups` 回答に含まれる値が `groupIds. GroupIds` 組織またはユーザーが属するすべてのグループのカンマ区切りリストが含まれます。設定 `groups` 特性のデフォルト値 `false`。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 新: (セールス プランニングでのみ使用できます。) exportDimensionMapping ユーザー定義の属性マッピング ルールをエクスポートします。
- 新: (セールス プランニングでのみ使用できます。) importDimensionMapping 既存のユーザー定義の属性マッピング ルールを更新します。

**2019.3**

API v22 の導入

- 更新日: exportConfigurableModelData リクエストには新しいオプション プロパティが含まれています useNumericIDs 分割 ID から *S* 接頭辞を削除し、数値のみを返します。
- 会社の条件 アクセス ルールへの移行 ( 1448ページ ) セキュリティ: exportAccounts, exportActiveCurrencies, exportAttributes, exportDimensions, exportLevels, exportTime, および exportVersions は API v22 でのみ検証されます。応答には、ユーザーがこのフィールドで指定した内容のみが含まれます。 credentials 要素へのアクセス権がある。
- 更新日: updateDimensions 新しいオプションが含まれます properties 要素の dimensionValue 最大 5 つまで含めることができます property 要素それぞれ property 要素に含まれる値 name および value. 値は数値である必要があります。
- 更新日: exportDimensions 回答に新しい値が含まれる properties 要素
- 更新日: exportSheetDefinition キューブ シートの応答に次の科目が含まれている code および name 以内 account 要素
- 更新日: exportSheetDefinition キューブ シートの応答に次の属性が含まれます name 以内 dimension 要素
- 更新日: exportSheetDefinition キューブ シートの応答に次の特性が含まれる name 以内 attribute 要素
- 更新日: exportConfigurableModelData リクエストに新しいオプションが含まれている includeAllColumns 次の中 modeled-sheet 要素: 回答にすべての列が含まれるようにします。
- 更新日: exportConfigurableModelData 回答は次のとおり numberOfPages の代わりに pageCount 次の中 job 要素
- 更新日: exportInstances 件の応答で、インスタンスが の管理パブリッシュを許可するかどうかが示されます。 options 特性
- 削除済: rootActuals はサポートされなくなりました exportVersions API のバージョンは関係ありません。

**2019.2**

- (2019 年 9 月) 新: exportSecurityAudit 指定した時間範囲内のすべてのセキュリティ イベントのレポートを返します。

**2019.1**

API v20 の導入

- 更新日: exportInstances 対象 workdayTenantId, workdayEnvironment, workdayUiUrl、および workdayRestUrl 情報 (Workday Power of One が有効になっているインスタンス)
- 新: updateAccounts 科目の一括更新/作成科目とそれらのプロパティを管理します。既存の科目の親を再設定できます。
- 新: updateAttributes 特性の一括更新/作成特性およびその特性値を管理します。既存の特性値の親を再設定できます。
- 更新日: exportAttributes 以下が含まれます。 autoCreate 属性、組織、科目、または特性のインポート時に、見つからない新しい特性値を自動的に作成するかどうかを示すブール値プロパティ Adaptive Planning。
- 更新日: exportInstances 対象 workdayTenantID, workdayEnvironment, workdayUiUrl, workdayRestUrl Workday Power of One が有効になっているインスタンスなど。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 削除済: 単一エンティティ API createDimension, updateDimension, createDimensionValue, updateDimensionValue, createLevel、および updateLevel。のメタデータ バルク API を使用する updateDimensions および updateLevels API v20 以降の単一エンティティの作成または更新に使用されます。

**2018.3**

API v19 の導入

- 新: updateLevels 組織の一括更新/一括作成組織とその特性値を管理します。既存の組織の親を再設定できます。
- 新: exportConfigurableModelData モデル シート行のエクスポートに使用します。

**2018.2**

API v18 の導入

- 削除済: exportLevels が次の値を含まない: inaccessibleLevels 特性新しいのを見る inaccessibleValues。
- 削除済: exportUsers 現在は次のオプションは含まれません hiddenVersions および ownedLevels。
- 削除済: exportAccounts が次の値を含まないようになっています。 formula 特性
- 新: exportAccounts, exportAttributes, exportDimensions, および exportLevels 新規を含める inaccessibleValues 特性をリクエストし、適切な権限を持つユーザーのみがアクセスできない値を表示できるようにする。
- 更新日: exportAccounts, exportAttributes, exportDimensions, および exportLevels デフォルトではアクセス可能な値のみを表示します。アクセスできない値は、適切な権限を持つユーザーのみが表示できます。
- 更新日: exportAccounts, exportDimensions, および exportLevels include 要素 versionName および versionID リクエスト呼び出しの特性は、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ成功します。
- 更新日: exportAccounts 名前 "GL" は " になりましたGL Accounts" - レポートがこの科目に付けられた方法と一致します。
- 更新日: exportActiveCurrencies 回答の順序は次のとおりです code.
- 更新日: exportTime version 要素 option リクエスト内の単一バージョンの特性は、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ成功します。

**2018.1**

API v17 の紹介

- 削除済: updateUser2018 年 3 月のすべての API バージョンから削除
- 更新日: exportActiveCurrencies が含まれている userDefined 特性を使用して、ユーザー定義の通貨を識別する。
- 新: API updateDimensionsXML ドキュメントのアップロードによる属性の一括更新/作成

**2017.3**

API v16 の紹介

- 更新済: の回答フォーマット exportAccounts, createAccount, updatedAccount 各科目の時間層コードを timeStratum フィールド
- 更新日: eraseActualsAPI v15 以上の入力科目タイプと同じ時間層でのみ期間を入力できます。
- 更新日: eraseActuals"粒度" ではなく "時間層" という語句を使用します。
- 更新: リクエスト形式のリクエスト importModeledSheet オプションが含まれている strata-code
- 更新済: 回答フォーマットの exportModeledSheet オプションが含まれている strata-code

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 以下を追加しました。 inUse および isDefault 資産から stratum 要素の exportTime
- 追加済: 任意 leafStratumId プロパティを次のリクエスト形式にマッピング: exportTime
- 新: API recalculateSheet "要求に応じて再計算" プロパティを持つシートの再計算用

**2017.2**

API v15 の導入

企業が時間管理 UI でカスタム カレンダーをインポートした場合のみ、企業が API v14 から API v15 にアップグレードされます。

- 削除されました: のカレンダー関連属性 exportInstances calendarType, q1FirstMonth, lastMonthIsFY, firstDayOfWeek, periodAlgorithm, leapWeekPeriod, および extraPeriodQuarter 特性 instance 要素
- 更新日: exportTime 大幅にオーバーレイ
- 更新日: exportData の動作 start および end 特性では、MMM-YYYY 日付文字列の代わりに期間コードを使用します。
- 更新日: exportData 出力日ヘッダーが期間コードに変更されました。
- 更新日: exportVersions - 特性を置き換える: startVerFY, completedValuesThruYr, completedValuesThruMon, completedValuesThruPer, startScrollYr, startScrollMon, startScrollPer, endVerFY, lockLeadingYr, lockLeadingMon, lockLeadingPer, leftScrollFY, startPlanYr, startPlanMon, startPlanPer, endPlanFY- 相手: startVer, endVer, startScroll, completedValuesThru, leftScroll, startPlan, endPlan, lockLeading
- 更新日: importStandardData, importConfigurableModelData, importCubeDataMMM-YYYY 日付文字列の代わりに期間コードを入力してください
- 更新日: exportLevels の形式を変更しました availableStart および availableEnd 特性は MMM-YYYY 日付文字列の代わりに期間コードを出力します。
- 更新日: eraseActuals 特性の動作 start および end MMM-YYYY 日付文字列の代わりに期間コードを使用する
- 新: API exportLocales 時間管理 UI からロケールをエクスポートする場合。

**2017.1**

API v14 の紹介

- 更新日: customReportValues 新しいオプション エレメントが含まれている suppress-rollups
- 新: API exportModeledSheet
- 新: API importModeledSheet

**2016.3**

API v13 の導入

- 更新日: exportAccounts 新しいオプション エレメントが含まれている sheet
- 更新日: exportLevels 新しいオプション エレメントが含まれている sheet
- 更新日: exportLevels 新しい任意の回答要素が含まれています hasChildren
- 更新日: exportVersions 新しいオプション エレメントが含まれている include

**2016.2**

API v12 の紹介

- 更新日: importCubeData, importStandardData, importConfigurableData, importTransactions エラー メッセージに含まれるコンテキスト情報は、この属性を使用して無効にできます。 includeContext.

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**2016.1**

API v11 の紹介

- 削除済: `canBeTree` 特性 `exportDimensions`
- 更新日: `exportInstances` 新規を含む `datasources` 特性
- 更新日: `exportInstances` 新しい潜在能力の値を含む `INTEGRATION` 終了 `products` 特性 `instance` 要素
- 更新日: `exportLevels` 新規を含む `attributeId` および `valueId` 終了 `attribute` 要素
- 更新日: `exportLevels` 新規を含む `isLinked` および `isElimination` 特性の比較先 `level` 要素
- 更新日: `exportDimensions` 新規を含む `attribute` および `attributes` の子孫としての要素 `dimensionValue` 要素
- 更新日: `exportDimensions` 新規を含む `listDimension`, `keepSorted`、および `useOnLevels` 特性の比較先 `dimension` 要素
- 更新日: `exportSheetDefinition` 新規を含む `required` 特性 `levels`, `text`, `dimension`, `text-selector`, `number`, `date`, `initial-balance`, `level-currency`, `display`, `timespan` 要素の `modeled-sheet`
- 更新日: `exportSheetDefinition` 新規を含む `attribute` キューブ シートの要素
- 更新日: `exportSheetDefinition` 新規を含む `split-column-title` および `allow-splits` 特性の比較先 `modeled-sheet` 要素
- 更新: インポート データ API (`importCubeData`, `importStandardData`, `importConfigurableModelData`, `importTransactions`) エラー メッセージの一部にコンテキスト情報が含まれるようになりました
- 新: API `createDimension`
- 新: API `updateDimension`
- 新: API `updateDimensionValue`
- 新: API `createLevel`
- 新: API `updateLevel`

**Workday** 認証情報を使用した **Adaptive Planning API** リクエストを実行

この記事の一部のリンクは Workday Community に移動します。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。

Workday にログインし、 Adaptive Planning ワークレット実行可能 Adaptive Planning 公開 APIユーザーは、これらの API リクエストを実行するための専用 ISU を作成する必要があります。これらのユーザーは、トークンを次の場所に提供する必要があります: `credentials` 要素の Adaptive Planning ユーザー名とパスワードの代わりに API リクエストを作成する。このトークンはキャッシュし、有効期限が切れるまで使用できます。有効期限が切れたら、新しいトークンを取得する必要があります。

前提条件

Workday ドメインとセキュリティ グループ

- API アクセスを必要とする ISU ユーザーが "Set Up: Adaptive Planning API Access" セキュリティ ドメインに含まれていることを確認します。

Workday 設定タスク

- 次の場所の "ユーザー サインイン" タブ内で、Single Sign On (SSO) タスクが有効になっていることを確認します。 Adaptive Planning タブ
- 次の場所の "公開 API" タブ内で、公開 API 設定 タスクが有効になっていることを確認します。 Adaptive Planning タブ
- インテグレーション システム ユーザー (ISU) 設定タスクで、Workday Adaptive Planning API リクエストを実行するための専用 ISU を作成し、マッピングしたことを確認します。 Adaptive Planning ユーザー アカウント

Adaptive Planning ユーザー管理

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- ISU が次の値で始まることを確認します `PublicAPIISU_` "管理" > "ユーザー" のユーザー リスト
- このユーザーに、実行したい API に必要な組織アクセス権があることを確認します。新しい ISU はデフォルトで組織アクセス権を受け取りません。

ステップ

1. 証明書を取得して公開キーを抽出します。
2. その証明書を使用して Workday に API クライアントを登録します。
3. JWT トークンの生成、Workday Access_Token の取得、AdaptiveAPIAccessToken の取得を実行します。
4. で AdaptiveAPIAccessToken を使用 Adaptive Planning API リクエスト。

証明書を取得して公開キーを抽出

証明書は自分で作成することも、認識済みの認証機関から購入することもできます。Workday の X.509 Certificate に必要なパラメータの詳細については、 概念: Workday の X.509 Certificates を参照してください。

1. Workday にアップロードするための証明書から公開キーを抽出します。
2. 呼び出しアプリケーションで使用する秘密キーを保持してください。
3. JWT Bearer トークンの登録時に証明書を貼り付けます。スクリプトで秘密キーを参照します。

JWT (JSON Web トークン) を使用した OAuth および 外部エンドポイントへのアクセスを参照してください。

**Workday API** クライアントの登録

1. Workday で クライアントの付与タイプ "Jwt Bearer 付与" を使用して API クライアントを登録します。詳細については、API クライアントの登録を 参照してください。
2. 証明書から派生した公開キーを Workday の "API クライアントの登録" ページの "x.509 証明書" にコピーします。
3. "適用範囲 (業務分野)" を選択 Adaptive Planning 。
4. API クライアントの登録が完了したら、ページの下部にある結果フィールドをテキスト ファイルにコピーして、後で使用します。
    - Workday REST API エンドポイント
    - トークン エンドポイント
    - 認証エンドポイント

**JWT** トークンの生成、**Workday Access_Token** の取得、**AdaptiveAPIAccessToken** の取得

1. 秘密キーを使用し、以下にリストされている仮想コードを実行して JWT トークンを生成します。
2. Workday アクセス トークンを取得するには、次のようにします。 `POST` トークン エンドポイントに対するリクエストが一致しています `grant_type` および `assertion`。Workday で API クライアントを登録した後にコピーしたトークン エンドポイントを使用します。トークン エンドポイントの例:

```
https://{host or gateway}/ccx/oauth2/{tenant}/token
```

例 `CURL` トークン エンドポイントへのリクエスト

```
curl --request POST 'https://{host or gateway}/ccx/oauth2/{tenant}/
token' \
--header 'Content-Type: application/x-www-form-urlencoded' \
--data-urlencode 'grant_type=urn:ietf:params:oauth:grant-type:jwt-
bearer' \
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 --data-urlencode 'assertion={{the jwt assertion from your certificate}}'
```

3. Workday アクセス トークンを使用して Workday エンドポイントを呼び出すことにより、AdaptiveAPIAccessToken を取得します。前のものを使用 access_token の "Bearer" トークンの値 Auth このヘッダー GET. アクセス トークンの例:

```
https://{host or gateway}/ccx/api/planning/v1/{tenant}/
adaptiveAPIAccessToken
```

例 CURL AdaptiveAPIAccessToken のリクエスト:

```
curl --request GET 'https://{host or gateway}/ccx/api/planning/v1/
{tenant}/adaptiveAPIAccessToken' \
--header 'Authorization: Bearer {{the prior access_token value}}' \
--data-raw ''
```

4. 以下を呼び出します。 Adaptive PlanningHTTP の XML の認証情報要素で AdaptiveAPIAccessToken を使用した API POST。例:

```
curl -H "Content-Type: text/xml" -d '<?xml version='1.0'
 encoding='UTF-8'?><call method="exportLevels" callerName="a string
 that identifies your client application"><credentials token="ID
 eyJhbDci0iJSUzUxMiIsUmtpZCI6IdvcmtkYXlfa2V5In0.eyJpc3KiOiJXb3JrZGFZIiwiYXV0aF90aW1
r96TdrJK0MXMghUFF1KyjxqIq6ruHU63dJp3JAJn3Eche7SEcoZBVGX4wJgna106pmCqgrrVWMf13Hg_sb_
yxpe1nz-WqB0boiq9a-dv8b3EBzbelxj2fCPdMbng6kzygDcA2at_7BNQiyzfIovS5AG"/
><include versionID="3" inaccessibleValues="false"/><sheet id="3" /></
call>' -X POST https://api.adaptiveplanning.com/api/v23
```

**JWT** トークンを生成する **Java** アプリケーションのサンプル

このサンプル Java アプリケーションでは、JWT トークンが生成されます。

```
//**********************************************************************
//
// File: TestPublicAPISample.java
//
// Copyright 2004-2019 Workday Adaptive Planning.
// All Rights Reserved.
//
// This work contains trade secrets and confidential material of
// Workday Adaptive Planning and its use or disclosure in whole or in part
// without the express written permission of Workday Adaptive Planning is
 prohibited.
//
//**********************************************************************



import java.io.FileInputStream;
import java.security.KeyStore;
import java.security.PrivateKey;
import java.security.Signature;
import java.text.MessageFormat;
//import java.util.Base64;

import org.apache.commons.codec.binary.Base64;
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   public class AccessAdaptiveAPI
   {
       public static void main(String args[])
       {
           String jwtKeyStoreFileString = "/Library/Java/
JavaVirtualMachines/jdk1.8.0_172.jdk/Contents/Home/jre/lib/security/
JWTkeystore.jks";
           String clientIDString =
 "BlywNDM1NmMtZTk2Mi00NTZiTWEyZjktZWM1NGJiOGQ3Yjca";
           String userIdString = "PublicAPIISU_Test";


 System.out.println(GetAccessToken(clientIDString,userIdString,jwtKeyStoreFileString));
       }

       public void callAPI()
       {

       }

       public String getAdaptiveAPIToken()
       {
           return "";
       }

       public String getJWTToken(String privateKey, String username)
       {
           return "";
       }

       public void callWorkdayAPI()
       {


       }

       public static String GetAccessToken(String clientId, String userId,
 String jwtKeyStore) {

           String header = "{\"alg\":\"RS256\",\"typ\":\"JWT\"}";
           String claimTemplate = "'{'\"iss\": \"{0}\", \"sub\": \"{1}\",
 \"aud\": \"{2}\", \"exp\": \"{3}\"'}'";


           try {
               StringBuffer token = new StringBuffer();

               //Encode the JWT Header and add it to our string to sign

 token.append(Base64.encodeBase64URLSafeString(header.getBytes("UTF-8")));

               //Separate with a period
               token.append(".");


               //Create the JWT Claims Object
               String[] claimArray = new String[4];
               //iss
               claimArray[0] = clientId;
               //sub
               claimArray[1] = userId;
               //aud
               claimArray[2] = "wd";
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
                //exp
                claimArray[3] =
 Long.toString( ( System.currentTimeMillis()/1000 ) + 300);
                MessageFormat claims;
                claims = new MessageFormat(claimTemplate);
                String payload = claims.format(claimArray);

                //Add the encoded claims object

 token.append(Base64.encodeBase64URLSafeString(payload.getBytes("UTF-8")));
                //
token.append(Base64.encodeBase64URLSafeString(payload.getBytes("UTF-8")));

                //Load the private key from a keystore
                KeyStore keystore = KeyStore.getInstance("JKS");
                keystore.load(new FileInputStream(jwtKeyStore),
 "Workday123!".toCharArray());
                PrivateKey privateKey = (PrivateKey)
 keystore.getKey("Workday", "Workday123!".toCharArray());

                //Sign the JWT Header + "." + JWT Claims Object
                Signature signature = Signature.getInstance("SHA256withRSA");
                signature.initSign(privateKey);
                signature.update(token.toString().getBytes("UTF-8"));
                String signedPayload =
 Base64.encodeBase64URLSafeString(signature.sign());

                //Separate with a period
                token.append(".");

                //Add the encoded signature
                token.append(signedPayload);
                return token.toString();
                //System.out.println(token.toString());

            } catch (Exception e) {
                e.printStackTrace();
            }
            return "";
        }
    }
```

**JWT** トークンを生成するサンプル **C#** アプリケーション

このサンプル C# アプリケーションでは、 の認証情報要素のユーザー名とパスワードを置き換える JWT トークンを生成します。 Adaptive PlanningAPI リクエスト。

このサンプル コードには NuGet ページが必要です。必要な NuGet パッケージ: `System.IdentityModel.Tokens.Jwt`

```
            var clientId =
 "BlywNDM1NmMtZTk2Mi00NTZiTWEyZjktZWM1NGJiOGQ3Yjca";//Client ID from workday
 API Client
            var isu = "PublicAPIISU_Test"; //the ISU
            var timeout = (DateTimeOffset.UtcNow.ToUnixTimeMilliseconds() /
 1000 + 300).ToString(CultureInfo.InvariantCulture);
            var environment = "wd";
            var pfxFilePath = @"C:\temp\JWTkeystore2.pfx";
            var pfxPassword = "Workday123!";

            var payload = new JwtPayload
            {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                {"iss", clientId},
                {"sub", isu},
                {"aud", environment},
                {"exp", timeout },
            };

            var signingCredentials = new X509SigningCredentials(new
 X509Certificate2(pfxFilePath, pfxPassword),
 SecurityAlgorithms.RsaSha256); // the matching PKCS #12 file with private
 key
            var jwtHeader = new JwtHeader(signingCredentials);

            var secToken = new JwtSecurityToken(jwtHeader, payload);
            var handler = new JwtSecurityTokenHandler();
            var tokenToWorkday = handler.WriteToken(secToken);
            Console.WriteLine(tokenToWorkday);
```

で **AdaptiveAPIAccessToken** を使用 **Adaptive Planning API** リクエスト

Workday の設定が終了すると、 Adaptive Planning 公開 API アクセス、 の認証情報要素 Adaptive Planning API リクエストでは、ユーザー名とパスワードの代わりに AdaptiveAPIAccessToken を使用します。ユーザー名とパスワードによる基本認証が機能しません。詳しくは Adaptive Planning REST API および API メソッド を参照してください。

以下の **AdaptiveAPIAccessToken** の例 **Adaptive Planning API** リクエスト

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportLevels" callerName="a string that identifies your client
 application">
   <credentials token="ID
 eyJhbDci0iJSUzUxMiIsUmtpZCI6IdvcmtkYXlfa2V5In0.eyJpc3KiOiJXb3JrZGFZIiwiYXV0aF90aW1lIjox
r96TdrJK0MXMghUFF1KyjxqIq6ruHU63dJp3JAJn3Eche7SEcoZBVGX4wJgna106pmCqgrrVWMf13Hg_sb_szaba
yxpe1nz-WqB0boiq9a-dv8b3EBzbelxj2fCPdMbng6kzygDcA2at_7BNQiyzfIovS5AG"/>
   <include versionID="3" inaccessibleValues="false"/>
   <sheet id="3" />
</call>
```

リクエストと応答のメッセージ フォーマット

リクエストと応答のメッセージ フォーマット

リクエスト

内のすべての API メソッド Adaptive Planning API は、XML ドキュメントの本文が以下のような構造であることを求めます。

```
   <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
   <call method="exportData" callerName="a string that identifies your
 client application">
      <credentials login="sample@company.com" password="my_pwd"/>

      method specific data goes here
   </call>
```

以下は、関連する各行の説明です。

1. この行は、後続のデータが UTF-8 でエンコードされた XML であることを示します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. <call> タグは、メソッド属性を使用してどの API メソッドを呼び出しているかを示します。この例では、API メソッドは exportDataまた、callerName は <call> タグの必須属性です。これにより、システムに対するクライアント アプリケーションが識別され、トラブルシューティングやログ記録時の識別目的で使用されます。
3. すべての API メソッドで、呼び出しを行うユーザーを認証する必要があります。これは通常、ログイン名とパスワードを入力することによって行われます。その他の属性は、ここで指定することができます。認証情報の詳細については、各 API 関数のドキュメントを参照してください。
4. 一部の API メソッドでは、リクエストに追加データが必要になります。たとえば、exportData メソッドは、データを取得するときに使用すべき期間、科目、組織などを示すいくつかの基準を必要とします。リクエストのこの部分は、方法によって異なります。
5. これは、行 2 の呼び出しタグの終了タグです。

回答

API メソッドからのすべての応答は次の構造になります。

```
    <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
    <response success="true">
      <messages>
         <message key="modeled-import-success">Personnel import successful.
Rows imported: 100</message>
      </messages>
      <output>
        ... method output ...
      </output>
    </response>
```

以下は関連する行の説明です。

1. リクエストと同様に、このラインは後続のデータが XML 形式であり、UTF-8 でエンコードされていることを示します。
2. 各回答は、<response> タグで囲まれます。リクエストが成功した場合、レスポンス タグの Success 属性が true に設定されます。リクエストが失敗した場合、success 属性は false に設定されます。
3. 多くの API 呼び出しは、サーバーで生成されたメッセージのリストを含む、このオプションの <メッセージ> ブロックを返します。このブロックは、呼び出しに応じてサーバーに返されるメッセージがない場合に表示されない場合があります。エラー メッセージは、常にメッセージ ブロック内に表示されます。
4. メッセージ ブロック内の各メッセージには、送信されるメッセージのタイプを識別するキー属性があります。メッセージ タグには、サーバーからのメッセージのテキストも含まれ、これにはリクエストの成功または失敗に関する戻り値、ステータス値、その他の単独のメタデータが含まれます。応答に含めることができるメッセージ タグの数に制限はありません。
5. 終了メッセージ タグ。
6. API メソッド呼び出しからの実際の出力は (返された場合)、<output> タグで囲まれます。
7. API メソッド呼び出しからの実際の出力はここに表示されます。この出力は、呼び出されたメソッドによって異なります。
8. 終了出力タグ。
9. 終了応答タグ。

メタデータとデータの作成、更新、読み取り方法
**createAccount**

| カテゴリ | メタデータの変更 |
|---|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 説明 | システムに科目を作成します。この API は、検証または作成に失敗するとエラー メッセージを返し、成功した場合は作成された科目のメタデータを返します。この API は、次の科目タイプのみをサポートします。前提条件、総勘定元帳科目、カスタム科目。システム科目またはリンク元科目はサポートされていません。 |
| 起動に必要な権限 | GL とカスタム科目のモデル前提条件の前提条件。 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。科目作成を実行するには、ユーザーがモデルまたは前提条件の権限を持っている必要があります。XML リクエストは各フィールドおよび特定のビジネス ロジックに対して検証されます。作成に失敗すると、応答にエラー メッセージが返されます。リスクの操作 (他の科目やデータに予期しない影響を与える可能性のある操作) が検出された場合、操作は停止し、警告メッセージが表示される場合があります。この場合、アカウントの作成を完了するには、"ignoreWarnings" 属性を 1 に設定してリクエストを再送信する必要があります。

リクエストのフォーマット

リクエスト スキーマは、Relax NG コンパクト形式で提供されます。

```
default namespace = ""

start =
element account {
  attribute parentId { xsd:integer }, #id of the parent account the new
 account should roll up to
   attribute name { xsd:string { maxLength="2048" minLength="1"} }, #Non-
empty string with a maximum length of 2048 characters.
  attribute isGroup { string "0" | string "1" }, #0=No, 1=Yes
  attribute code { xsd:string { maxLength="2048"} }, #String with a maximum
 length of 2048 characters.
   attribute description { xsd:string { maxLength="2048"} }?, #Potentially
 empty string with a maximum length of 2048 characters.
   attribute shortName { xsd:string { maxLength="64"} }?, #Potentially empty
 string with a maximum length of 64 characters.
  attribute exchangeRateType { xsd:string }?, #displayAs must be CURRENCY
 (only if multicurrency is enabled)
  attribute hasSalaryDetail { string "0" | string "1" }?, #0=No, 1=Yes
  attribute dataPrivacy { string "PRIVATE" | string "PUBLIC_TOP" | string
 "PUBLIC_ALL" }?,
  attribute isBreakbackEligible { string "0" | string "1" }?, #0=No, 1=Yes
  attribute proceedWithWarnings { string "0" | string "1" }?, #0=No, 1=Yes
  element attributes{
    element attribute{
      attribute attributeId{ xsd:integer },
      attribute valueId{ xsd:integer }
    }*
  }?
}
```

例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="createAccount" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 <account
          parentId="441"
          isGroup="0"
          name="Account Name"
          code="Account_Code"
          description="Account Description"
          shortName="Short Name"
          exchangeRateType="A"
          hasSalaryDetail="1"
          dataPrivacy="PRIVATE" >
  <attributes>
    <attribute attributeId="20" valueId="170" />
  </attributes>
 </account>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要があります credentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | 作成する科目を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| parentId | あり | 科目のロールアップ先科目の内部システム ID 番号。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される科目の名前。 | 流動資産 |
| isGroup | あり | 科目グループを作成するかどうか。いいえの場合は 0、はいの場合は 1。 | 1 |
| code | なし | 科目のコード。英数字と下線のみです。科目グループを作成する場合は、空にするか指定しない必要があります。 | Cur_Assets |
| 説明 | なし | 科目のテキストによる説明。デフォルトは空の文字列です。 | 合計流動資産 |
| shortName | なし | 科目の短い名前。デフォルトは空の文字列です。 | CA |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| exchangeRateType | なし | 多通貨が有効になっているインスタンス、および displayAs="CURRENCY" を指定している科目にのみ存在します。可能な値: "通貨の管理" で設定された、インスタンスに表示されている任意の為替レート タイプ コード。"A" = 月平均、"E" = "月末"親から継承 (設定されていない場合)多通貨が無効であるか、親に為替レート タイプがない場合、ストック科目のデフォルト値は E、それ以外の場合はすべて A になります。 | E |
| hasSalaryDetail | なし | 科目の分割を表示するには、給与詳細の権限が必要です。いいえ: 0、はい: 1。設定されていない場合、または親に hasSalaryDetail がない場合、親から継承します。デフォルト値は 0 です。 | 1 |
| dataPrivacy | なし | 科目の値を非公開 (PRIVATE)、最上位組織でのみ公開 (Public_Top)、またはすべての組織で公開 (Public_ALL) を選択します。デフォルトは "非公開" です。 | 非公開 |
| isBreakbackEligible | なし | 按分で加重値の選択として使用できます。いいえ: 0、はい: 1。前提条件にのみ適用されます。デフォルト値は 0 です。 | 0 |
| proceedWithWarnings | なし | ユーザーが警告メッセージを無視して作成操作を続行するかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。警告が表示され、proceedWithWarnings=0 の場合、科目は作成されません。警告がある場合にアカウントを作成するには、proceedWithWarnings=1 を設定します。 | 1 |

エレメントの内容
科目に関連付けられた 1 つ以上の科目特性を追加する場合の 1 つのオプション特性要素。

| | |
|---|---|
| 特性要素<br>タグ名 | 特性 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | 1 つ以上の科目特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上 特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの科目特性要素を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された科目特性の ID。 | 20 |
| valueID | あり | システムによって生成された科目特性値の一意の ID。この値が 0 の場合、この特性は科目から削除されます。 | 170 |
| エレメントの内容 | | | |
| なし | | | |

回答フォーマット

これらは、科目の作成が成功した場合および失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
 <messages>
  <message type="WARNING" key="warning-unpublished-changes" values=""
 parentId="1">You have unpublished changes.
  Your changes will not be visible every where until it is published.</
message>
 </messages>
 <output>
   <accounts>
      <account id="1" code="AssetsChild" name="AssetsChild"
 timeStratum="month" description="Total Assets Child" displayAs="CURRENCY"
      accountTypeCode="A" decimalPrecision="0" isAssumption="0"
 suppressZeroes="1" isDefaultRoot="1"
      shortName="" exchangeRateType="E" balanceType="DEBIT" formula=""
 isLinked="0" owningSheetId=""
      isSystem="0" isIntercompany="0" dataEntryType="" planBy="DELTA"
 timeRollup="LAST" timeWeightAcctId=""
      levelDimRollup="SUM" levelDimWeightAcctId="" rollupText=""
 startExpanded="1" hasSalaryDetail=""
     dataPrivacy="PRIVATE" isBreakbackEligible="" subType="CUMULATIVE"
 enableActuals="1" isGroup="0" />
   </accounts>
 </output>
</response>
```

エラーの例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
<messages>
  <message type="ERROR" key="invalid-attributevalueid" values="-50"
 parentId="-50">Invalid account id: "-50"</message>
</messages>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 両方 真または false。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一 (任意) "メッセージ" 要素および/または単一のオプション 出力要素 | | | |

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素これ 出力ラップはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| | |
|---|---|
| メッセージ要素 | |
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナ メッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上 メッセージ要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| メッセージ要素 | | | |
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| type | あり | タイプはメッセージのタイプを識別する方法です。異なるタイプは、INFO、WARNING、ERROR です。エラー タイプは、このリクエストが処理されなかったことを示します。 | 警告 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| キー | あり | キーは特定のメッセージやメッセージのタイプを識別するための手段で、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | error-invalid-timespan-start |
| 値 | なし | 値が指定されると、メッセージ テキストで使用されている変数を表します。 | 199,12 |
| parentId | なし | 使用可能な場合は、リクエストで提供された新しい科目の親の ID。 | 50 |

エレメントの内容
メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | 科目 | |
| 説明 | | 1 つ以上のコンテナ 科目要素 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上 科目要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | 単一の科目に対する応答として返される科目を表します。 exportAccounts API コールこの要素が直接枠内にある場合は、 回答の科目要素 (つまり、別の値に囲まれていない) 科目要素) の場合、この科目要素はルート科目、親を持たない科目を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される科目の名前。 | 流動資産 |
| code | あり | 科目のコード。数式で参照された場合に表示されます。 | Cur_Assets |
| ID | なし | 科目の内部システム ID 番号。これは、次のような他の API 呼び出しで科目を識別するために使用できます。 exportDimensionFamilies | 16 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| accountTypeCode | なし | この科目のデータ タイプに対応する文字コード。<br><br>タイプコード / 科目タイプ / 科目クラス<br>A / 資産 / 総勘定元帳<br>B / 流動資産 / 総勘定元帳<br>C / 負債と純資産 / 総勘定元帳<br>キューブ / キューブ / キューブ<br>EN / 年初来の利益/損失 / 総勘定元帳<br>F / 固定資産 / 総勘定元帳<br>G / 売上原価 / 総勘定元帳<br>I / Income / 総勘定元帳<br>J / 営業外収益 / 総勘定元帳<br>K / 為替換算調整勘定 / システム<br>L / 負債 / 総勘定元帳<br>M / 流動負債 / 総勘定元帳<br>MI / 連結比率 / 定義済<br>MT / メトリック / メトリック<br>なし / 純利益 / 総勘定元帳<br>O / 他の資産 / 総勘定元帳<br>Q / 純資産 / 総勘定元帳<br>R / 長期資産 / 総勘定元帳<br>S / 前提条件 / 前提条件<br>T / 長期負債 / 総勘定元帳<br>W / モデル / モデル<br>X / 経費 / 総勘定元帳<br>XR / 為替レート / 定義済<br>あり / 営業外費用 / 総勘定元帳<br>Z / カスタム / カスタム |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | なし | 科目管理で入力された科目のテキスト説明 (存在する場合) | 合計流動資産 |
| shortName | なし | 科目管理で入力された科目の短縮名 (存在する場合) | CA |
| timeStratum<br>API v16 以上でサポート | なし | 科目の時間層 (時間層のコードとして)。キューブ科目、モデル科目、キューブ入力 GL 科目の場合、時間層はそれらを所有するシートの時間層によって決まります。他のすべての科目は、時間管理 UI 内で設定されたデフォルトの時間層を使用します。 | Month |
| displayAs | なし | 科目の出力表示設定: NUMBER、通貨、パーセント"科目の管理" で "表示形式" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。 | NUMBER |
| IS前提条件 | なし | "0" または "1" のいずれかで、科目が前提条件であるかどうかを示します。これは前提条件および為替レート科目では 1 に設定されます。 | 1 |
| suppressZeroes | なし | この科目でユーザーがシート上のゼロを非表示にできるかどうかを示すフラグです。0 は許可されず、1 は許可されます。"科目の管理" で "ゼロを表示しない" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。 | 1 |
| isDefaultRoot | なし | "0" または "1"。科目または科目グループがデフォルト ルートであるかどうかを示します。 | 1 |
| decimalPrecision | なし | この科目の数値を表示する小数点以下の桁数。デフォルトは 0 です。特殊値 99 は、ターゲットの小数点以下の桁数を継承するリンク元科目を示すために使用されます。値が -1 の場合、その科目は通貨科目であり、表示されているいずれかの通貨の小数部桁数が使用されます。 | 0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| planBy | なし | ストック科目の場合、科目が残高での計画 (BALANCE) か、差額での計画 (DELTA) かを示します。 | 残高 |
| exchangeRateType | なし | displayAs="CARERENCY"E を持つ科目の場合のみ存在します。可能な値: "通貨の管理" で設定された、インスタンスに表示されている任意の為替レート タイプ コード。"A" = 月平均、"E" = "月末" | |
| isImportable | なし | 科目がインポートされたデータを受け入れることができるかどうかを示します。0 はその科目がインポート不可であることを意味します。1 つがインポート可能です。次の場合にのみ表示 versionName または リクエストに versionId が指定されています。<br><br>注: "isImportable" は、科目が指定されたバージョンでインポート可能であることのみを示します。API を呼び出しているユーザーに、バージョンまたは科目にインポートする権限があることは示しません。用途 exportVersions: ユーザーがインポートに使用できるバージョンを確認します。 | 1 |
| balanceType | なし | 科目の残高タイプ (借方または貸方) を示します。科目に関連付けられた残高タイプがない場合、この特性は空になります。GL 科目のみに残高タイプがあります。 | 借方 |
| isContra<br>*API v34+* で使用可能 | なし | 0 または 1 でこの科目が相対であるかどうかを示します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| dataEntryType | なし | 科目のデータ入力タイプを示します。STANDARD または CUBE空白の値は、データ入力タイプが科目に適用されないことを示します。たとえば、リンク元科目またはモデル科目のデータ入力タイプが空白の場合、 | キューブ |
| timeRollUp | なし | 特定の期間にわたってロールアップされた科目の動作を示します。SUM、WEITETED_AVERAGE、LAST、AVERAGE を指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | SUM |
| timeWeightAcctId | なし | この科目の timeRollup が ”WESIGNED_AVERAGE” である場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。これは、加重科目が存在しない場合、または科目の timeRollup が WESIGNED_AVERAGE の場合、空になります。 | 133 |
| hasSalaryDetail | なし | 0 または 1 で、この科目に "給与詳細にアクセス" 権限を表示する必要がある分割があるかどうかを示します。この科目に該当しない場合は空になります。 | 1 |
| dataPrivacy | なし | 科目の値がどの組織において公開され、数式の作成時に他の組織で参照可能であるかを示します。科目の値が非公開になる場合は "PRIVATE" を、最上位組織のみで科目の値が公開される場合は "Public_Top" を、すべての組織で公開されるようにするには "Public_ALL" を指定できます。前提条件は常に公開されるため、dataPrivacy 設定はありません。 | 非公開 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| subType | なし | 科目がフローかストックかを示します。科目がフローである場合、特定の月の値はその月の正味アクティビティに等しくなります。例としては、収益科目と経費科目が挙げられます。科目がストックの場合、その値は特定の月の終了残高に等しくなります。これは、前月の値とその月のアクティビティの値の合計です。貸借対照表の科目はストックです。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | フロー |
| startExpanded | なし | これは、シートを最初にロードしたときに科目とその子が展開された状態で開始するかどうかを示します。これは親科目にのみ適用されます。これは最下位科目の場合空になります。 | 1 |
| isBreakbackEligible | なし | 0 または 1 のいずれかで、この科目を按分で使用できるかどうかを示します。これは標準の前提条件にのみ適用されます。これは他のタイプの科目では空になります。 | 0 |
| levelDimRollup | なし | 組織または属性に沿ってロールアップされた科目の挙動を示します。SUM、WEITETED_AVERAGE、TEXT、NONBLANK_AVERを指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | NONBLANK_AVERAGE |
| levelDimWeightAcctId | なし | この科目の levelDimRollup が "WE却下" の場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。加重科目が存在しない場合、または科目の levelDimRollup が WESIGNED_AVERAGE でない場合、これは空になります。 | 118 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| rollupText | なし | この科目の levelDimRollup が TEXT の場合、これは科目のロールアップされた値を示すセルに表示されるテキスト文字列です。 | なし |
| enableActuals | なし | 0 を選択すると、その科目の計画データのみが表示されます。1: 科目に実績をインポートします。リンクされた科目の場合、0 を指定するとリンク元科目に実績がある場合にのみ実績が表示され、1 を指定するとリンク元科目の実績が有効になります。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | 1 |
| isGroup | あり | 0 または 1 で科目グループかどうかを示します。 | 1 |
| isIntercompany | なし | 0 または 1 で、この科目が内部取引科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| 数式 | なし | 科目の数式 (ある場合)。 | ACCT.Revenue - ACCT.Expenses |
| isLinked | なし | 0 または 1 でこの科目がリンク元科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| isSystem | なし | 0 または 1 でシステム科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| owningSheetId | なし | モデル シートおよびキューブ シートにある科目の場合、この科目があるシートの内部システム ID 番号そのような科目ではない場合、またはそのような科目であるがシートに現在割り当てられていない場合は、空になります。 | 17 |

エレメントの内容
1 つがネストされている この科目の各直接の子科目の account 要素

1 科目に 1 つ以上の特性が関連付けられている場合は、attributes 要素

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つ以上のコンテナ 特性要素 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上 特性要素 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 科目が関連付けられている、空白ではない単一の科目特性マッピングを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 科目特性の名前。 | SEC レポート |
| 値 | あり | 科目に関連付けられた科目特性の名前。 | はい |
| attributeId | あり | 科目特性の内部システム ID 番号。 | 10 |
| valueId | あり | 科目特性値の内部システム ID 番号。 | 108 |
| エレメントの内容 | | | |
| なし。 | | | |

**createDimension**

重要： API v20 + ではサポートされていません。updateDimensionsを使用します。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 属性を作成します。成功した場合、API は作成されたばかりの属性の詳細を返します。 |
| 起動に必要な権限 | モデル |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。属性を作成するには、"モデル" 権限が必要です。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="createDimension" callerName="fred">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<dimension
name="New Dimension Name"
/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | 認証情報 | | |
| 説明 | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | 属性 | | |
| 説明 | 作成する属性を指定します。 | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 属性の名前。名前は一意である必要があります。 | NewDimensionName |
| shortName | なし | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | NewDimensionShortName |
| listDimension | なし | "1" はこれがリスト属性であることを意味し、"0" (または指定されない) はリスト属性でないことを意味します。 | 0 |
| useOnLevels | なし | "1" はこの属性が組織で使用できることを意味し、"0" (または指定されない場合) は使用できないことを意味します。 | 0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| autoCreate | なし | "1" はこの属性の値がインポート経由で作成できることを意味し、"0" (または指定されていない場合) は作成できないことを意味します。 | 0 |
| keepSorted | なし | "1" はこの属性の値が常にアルファベット順にソートされることを意味し、"0" (または指定されていない場合) はこの属性が手動で並べ替えられることを意味します。 | 0 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<output>
<dimensions>
<dimension id="41" name="New Dimension Name" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="0"
keepSorted="0" useOnLevels="0">
</dimension>
</dimensions>
</output>
</response>
```

| | |
|---|---|
| 属性要素 | |
| タグ名 | 属性 |
| 説明 | 1 つ以上の属性要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の属性要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | 属性 | | |
| 説明 | exportDimensions API 呼び出しへの応答で返される単一のカスタム属性を示します | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性の内部システム ID 番号。これは、exportDimensionFamilies などの他の API 呼び出しで属性を識別するために使用できます。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される属性の名前。 | 顧客 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性の短縮名 (存在する場合) | cust。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| autoCreate | あり | 1: 選択した属性に "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" フィールドが設定されている場合。それ以外の場合は 0。 | 0 |
| listDimension | あり | 選択した属性がリスト属性の場合は 1。それ以外の場合は 0。 | 1 |
| keepSorted | あり | 選択した属性がソート状態で維持される場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| useOnLevels | あり | 選択した属性を組織で使用できる場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 個以上の dimensionValue 要素。個々の囲まれた dimensionValue 要素は、属性の「ルート属性値」、つまり親の値を持たない値を表します。 | | | |

**createDimensionValue**

重要： API v20 + ではサポートされていません。updateDimensionsを使用します。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 属性値を作成します。成功した場合、API はその属性と、今作成されたものを含むすべての属性値の詳細を返します。 |
| 起動に必要な権限 | モデル |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。属性を作成するには、"モデル" 権限が必要です。パブリッシュされていない変更がある場合、このメソッドはエラーを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="createDimensionValue" callerName="fred">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<dimensionValue
dimensionId="10"
name="New Dimension Value">
<attributes>
<attribute attributeId="20" valueId="170" />
</attributes>
</dimensionValue>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | 認証情報 | | |
| 説明 | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValue 要素 | | | |
| タグ名 | dimensionValue | | |
| 説明 | 作成する属性値を指定します。 | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| dimensionId | あり | 属性の ID です。dimensionId または parentId のいずれかを指定する必要があります | 34 |
| parentId | なし | 親属性値の ID。dimensionId または parentId を指定する必要があります。 | 220 |
| 名前 | あり | 属性値の名前。 | NewDimensionValue |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| shortName | なし | 属性値の説明。 | NewDimensionValue-ShortName |
| 説明 | なし | 属性値の説明。 | これは NewDimensionValue です |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | 特性 | | |
| 説明 | 1 つ以上の属性特性要素のコンテナ | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | 特性 | | |
| 説明 | 1 つ以上の属性特性要素のコンテナ | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された属性特性の ID。 | 20 |
| valueID | あり | システムによって生成された属性特性値の一意の ID。この値が 0 の場合、この特性は科目から削除されます。 | 170 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

これらは、属性値の作成が成功した場合および失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<output>
<dimensions>
<dimension id="6" name="Department" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="0" keepSorted="0"
useOnLevels="1">
<dimensionValue id="7" name="Engr" description="Engineering" shortName="">
<dimensionValue id="52" name="QA" description="Quality Assurance"
 shortName="" />
<dimensionValue id="53" name="Dev" description="Development" shortName="" /
></dimensionValue>
</dimension>
<dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0"
useOnLevels="0">
<dimensionValue id="32" name="Graduate" description="Graduate degree"
 shortName="">
<attributes>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<attribute attributeId="21" name="Education Type" valueId="197"
 value="Tech1" />
</attributes>
</dimensionValue>
<dimensionValue id="33" name="Masters" description="Masters degree"
 shortName="">
<attributes>
<attribute attributeId="21" name="Education Type" valueId="196"
 value="Management" />
</attributes>
</dimensionValue>
<dimensionValue id="34" name="Phd" description="Phd" shortName="" />
</dimension>
</dimensions>
</output>
</response>
```

エラーの例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
<messages>
<message type="ERROR" key="invalid-attributevalueid" values="-50">Invalid
 attribute value id: "-50"</message>
</messages>
</response>
```

属性は名前別に並べられます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | response | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

(なし)
エレメントの内容
単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。

| 属性要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 属性 |
| 説明 | 1 つまたは複数の属性要素のコンテナ |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の属性要素 | |

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | 説明 | | |
| 説明 | exportDimensions API コールへの応答で返される単一のカスタム属性を示します。 | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性の内部システム ID 番号。これは、exportDimensionFamilies などの、他の API コールで属性を識別するために使用できます。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートとシートに表示される属性の名前。 | 顧客 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性の短縮名 (存在する場合) | cust。 |
| autoCreate | あり | 1: 選択した属性に "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" フィールドが設定されている場合。それ以外の場合は 0 | 0 |
| listDimension | あり | 選択した属性がリスト属性の場合は 1。それ以外の場合は 0。 | 1 |
| keepSorted | あり | 選択した属性がソート状態で維持される場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| useOnLevels | あり | 選択した属性を組織で使用できる場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 個以上の dimensionValue 要素。囲まれた各 dimensionValue 要素は、属性の「ルート属性値」、つまり親の値を持たない値を表します | | | |

| dimensionValue 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | dimensionValue | | |
| 説明 | exportDimensions API コールへの応答で返されるカスタム属性の単一メンバー値を表します。 | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | 属性のこのメンバー値の内部システム ID 番号。 | 34 |
| 名前 | あり | レポートに表示され、数式で使用される属性のメンバー値のラベル。 | 会社 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性値の短縮名 (存在する場合) | A |
| 説明 | なし | 属性管理で入力された属性値の説明 (存在する場合) | 法人 |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 以上の任意の dimensionValue 要素囲まれた各 dimensionValue 要素は、この属性値の「子属性値」を表し、そのメンバーは暗黙的にこの値にロールアップされます | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | 特性 | | |
| 説明 | 1 つの属性特性要素のコンテナ | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された属性特性の ID。 | 20 |
| 名前 | あり | 属性特性の名前。 | 学歴タイプ |
| valueID | あり | システムによって生成された属性特性値の一意の ID。 | 170 |
| 値 | あり | 属性特性の値。 | 技術 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**createLevel**

重要： API v20 + ではサポートされていません。updateLevelsを使用します。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 組織を作成します。成功した場合、API は作成された組織の詳細を返します。 |
| 起動に必要な権限 | 組織構造 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーが組織を作成するには、組織構造の権限が必要です。

パブリッシュされていない変更がある場合、このメソッドはエラーを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="createLevel" callerName="fred">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
    <level
       name="New Level Name"
       shortName="NewLvlName"
       parentId="2"
    >
         <attributes>
             <attribute attributeId="20" valueId="199" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
          </attributes>
      </level>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

(なし)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | 作成する組織を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| parentId | あり | この組織を子として作成する組織の ID。 | 34 |
| 名前 | あり | 組織の名前。名前は一意である必要があります。 | 新しい組織名 |
| shortName | なし | 組織の短い名称。 | NewLvName |
| 続行 - 警告あり | なし | ユーザーが警告メッセージを無視して作成操作を続行するかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。警告が表示されていて、proceedWithWarnings=0 の場合、組織は作成されません。警告がある場合に組織を作成するには、proceedWithWarnings=1 を設定します。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| 組織に関連付けられた 1 つ以上の組織特性を設定する場合の 1 つのオプション特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つまたは複数の組織特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの組織特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された組織の特性の ID。 | 20 |
| valueID | あり | システムによって生成された組織の特性値の一意の ID。この値が 0 の場合、この特性は科目から削除されます。 | 170 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
   <output>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        <levels>
            <level="41" name="New Level Name" shortName="NewLvlName"
 currency="USD">
                <attribute attributeId="20" name="Regional Code"
 valueId="199" value="A-145" />
            </level>
        </levels>
    </output>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出力要素 | | | |
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 必須の単一の組織要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | 組織要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の組織要素アクセスできない組織がリクエストに含まれている場合、組織要素は 1 つしかなくなりません。これは組織の最上位組織を表します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | exportLevels API 呼び出しに対する応答で返される単一の組織を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 組織の内部システム ID 番号。 | 7 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される組織の名前です。 | 開発 |
| 通貨 | あり | 組織のこの組織に割り当てられる通貨の通貨コード。通貨は、exportActiveCurrencies コールで検出された、インスタンスに設定された通貨の 1 つになります。 | INR |
| shortName | なし | "組織の管理" で入力された組織の略語 (存在する場合)。 | 偏差 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| availableStart | なし | 実績バージョンの組織の使用可否の開始日。リクエストで実績バージョンが指定されている場合にのみ適用されます。値は、"MM/YYYY" 形式で特定の月、またはバージョンの開始を示す特殊値 "Start" のいずれかです。 | 01/2013 |
| availableEnd | なし | 実績バージョンの組織の使用可否の終了日。リクエストで実績バージョンが指定されている場合にのみ適用されます。値は、"MM/YYYY" 形式で特定の月、またはバージョンの終了を示す特殊値 "END" のいずれかです。 | 12/2013 |
| isImportable | なし | 関連する組織が指定したバージョンでインポート可能であるかどうかを示します。"0" はインポート不可を意味し、"1" はインポート可能を意味します。指定されたバージョンで少なくとも 1 つのタイム スロットがインポート可能である場合、組織をインポートできます。 isImportable 特性は、リクエストで versionName または versionID が指定されている場合にのみ送信されます。<br><br>注: isImportable は、組織が指定されたバージョンでインポート可能であることのみを示すものであり、API を呼び出しているユーザーがバージョンまたは組織にインポートする権限を持っていることを示すものではありません。exportVersions を使用して、ユーザーがインポートに使用できるバージョンを確認します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| workflowStatus | なし | 関連する組織のワークフローのステータスを送信します。"処理中" の I、"送信済" の S、"却下" の R、"承認済" の A、"ロック済" の L。この会社に対してワークフローが有効で、計画のバージョン名またはバージョン ID がリクエストで指定されている場合のみ、応答に含まれます。実績バージョンではワークフローを使用できません。 | I |
| isLinked | あり | 組織がリンク組織であるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。 | 1 |
| 相殺消去 | あり | 組織が相殺消去組織であるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。 | 0 |
| エレメントの内容 | | | |
| この組織の直接の子組織ごとに 1 つのネストされた組織要素この組織が関連付けられている場合、1 つの特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つ以上の特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 組織が関連付けられている、空白ではない単一の組織の特性マッピングを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 組織の特性の名前 | 法人割引 |
| 値 | あり | 組織に関連付けられた組織の特性の値。 | はい |
| attributeID | あり | 組織特性の内部システム ID 番号。 | 20 |
| valueID | あり | 組織の特性値の内部システム ID 番号。 | 188 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**createUser**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 説明 | 1 人または複数のユーザーを作成します。成功した場合、API は作成されたユーザーにメッセージを返します。1 回のリクエストで作成できるユーザーが 1000 人を超えることはありません。 |
| 起動に必要な権限 | ユーザー権限 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーを作成するには、"ユーザー権限" 権限が必要です。

重要 : この方法は、Workday からのユーザー同期の後には機能しません。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="createUser" callerName="a string that identifies your client
 application">
      <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
        <users>
            <user
              email="newUser@company.com"
              name="new guy"
              password="new Password"
              alternateEmail="abc@greenco.com"
              samlFedId= "1234"
              permissionSetId="1"
              ownedLevels="2,3,7,11"
              timeZone="America/Mexico_City"
            />
       </users>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ユーザー要素 | | | |
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | 1 つ以上のユーザー要素が含まれます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のユーザー要素が含まれます。1 回のリクエストで作成できるユーザーが 1000 人を超えることはありません。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ユーザー要素 | | | |
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | 作成するユーザーを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| E メール | あり | このユーザーの E メール アドレス。一意性が必要です。使用できる文字は、a、z、0 ~ 9、-、および のみです。 | newUser@company.com |
| 名前 | あり | このユーザーの名前。 | メルビン ムルメール |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ポジション<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーのポジション | "CEO" |
| password | あり | このユーザーのパスワード。この属性は必須です。ただし、ユーザー同期が有効で、Adaptive Planning にログインするために Workday SAML SSO を使用している Workday 接続インスタンスの場合を除きます。 | newpassword |
| alternateEmail<br>*API v27* で使用可能 | なし | このユーザーの代替 E メール アドレス。このオプションは自動的にオンになり、"ユーザー詳細" セクションにユーザーの E メール ID が入力されます。 | abc@greenco.com |
| samlFedId<br>*API v27* で使用可能 | なし | このユーザーの SAML フェデレーション ID。 | 1234, user@company.com |
| permissionSetId<br>API v25 以上で使用可能 | なし | このユーザーに割り当てられた権限セットの内部システム ID。 | 3 |
| roleId<br>API v25 以前で使用可能<br>API v25+ では使用できません。 | なし | このユーザーに割り当てられたロールの内部システム ID。デフォルト値はありません。(roleId 特性は exportRoles API でカバーされます。) | 3 |
| ownedLevels | なし | カンマで区切られた組織の内部システム ID。デフォルト値はありません。(ownLevels 特性は exportLevels API でカバーされます。) | 5,10,13 |
| ホームページ<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーのホームページ。 | "Welcome" |
| timeZone | なし | ユーザーのタイムゾーン。指定されていない場合は、デフォルトで "US/Pacific" が使用されます。 | 米国/太平洋地域 |
| 国<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーの国コード (英 2 文字コード)。 | "US" |
| usState<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーの状態コード (国は米国である必要があります)。 | "CA" |
| netsuiteLogin<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | NetSuite ログイン | "abc@netsuite.com" |
| salesforceLogin<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | Salesforce ログイン | "abc@salesforce.com" |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
   <output>
       <result>
             <created_users>
                 <user success="true" message="user newUser@company.com
 was created successfully." guid="0CCF69803A990160E063820012ACFDD7"/>
             </created_users>
       </result>
   </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| createUser または updateUser の呼び出しがそれぞれ行われたかどうかに応じて、 created_user または updateUser のステータス要素を含む単一の結果要素 | | | |

| 結果要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | result | |
| 説明 | | 1 つ以上のステータス要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の created_user または updateUser の呼び出しがそれぞれ行われたかどうかに応じて、1 つ以上の created_user または update_user ステータス要素を入力します。 | | | |

| created_users element | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | created_users | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ユーザー成功 | あり | 呼び出しによって返されたステータス真でも偽でも構いません。 | 真 |
| message | あり | ステータス メッセージ。 | ユーザーnewuser@company.comが正常に作成されました。 |
| ガイド | あり | 作成したユーザーの GUID | "0CCF69803A990160E063820012ACF |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 1 つのサブスクリプション エレメント |
|---|

**customReportValues**

API v37 で更新されました。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データ取得 |
| 説明 | リクエストされたインスタンス内のリクエストされたレポート条件のデータ セットを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (ユーザーに権限セットが割り当てられている必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、レポート |

注 : API バージョン 15 以降の場合は、exportTime を呼び出して正しい時間要素 ID を取得してください

注 :

2023R2 でリリースされた API v36 対応のパフォーマンスと拡張性の改善をリクエストで活用する方法については 、参考: customReportValues Performance Conditions を 参照してください。

このメソッドのリクエストには、データの検索や値の返しに使用されるレポートの仕様が含まれています。API は内部 ID 番号を入力として取ります。メタデータ取得 API は、有効な ID を取得するために呼び出すことができます。結果はコードと値で表されます。必要に応じて、応答に警告やエラー メッセージも返されます。

この API はマトリクス レポートに基づいています。このリクエストでは、呼び出し元が X 軸 (列)、Y 軸 (行)、および API によって取得されたすべてのデータのフィルタに使用されるオプションのフィルタ軸の要素を指定する必要があります。マトリクス レポートには、レポートに表示されるデータを決定する軸が含まれています。各軸はレポートの端を定義します。すべてのマトリクス レポートには次の 3 つの軸があります。

- X 軸 (上の端)レポートの列のセットを定義します。
- Y 軸 (左端)。レポート上の行のセットを定義します
- フィルタ軸: レポートのすべてのデータに適用されるプロパティを定義するグローバル軸。詳しくはフィルタ軸の例を参照してください。

軸は複数のセグメントに分割できます。セグメントは、単一の軸上の属性のセットを分割する方法です。フィルタ軸に含めることができるセグメントは 1 つのみですが、他の 2 つの軸は必要な数のセグメントを含めることができます。

各セグメントに含めることができる層の数に制限はありません。層は、その属性のどの要素がその下の行または列に適用されるかを記述するために使用される単一の論理属性を表します。セグメントには、論理属性ごとに最大 1 つの層しか含めることができません。

各層には、層の属性の 1 つまたは複数の要素を含めることができます。(層内のすべての要素は、層で指定された属性に属している必要があります。)要素は通常、科目属性の特定科目や時間属性の会計四半期など、属性の項目です。これらの要素は、レポート上で検出されたデータを選択および集計するためにシステムによって使用されます。

X 軸または Y 軸上のセグメントが複数の層を含む場合、各層の要素は他のすべての層のすべての要素と組み合わされて、層要素の可能性のあるすべての組み合わせのデカルト積が作成されます。各列または行は、各層から 1 つの要素を選択した、要素の 1 つの組み合わせを表します。たとえば、X 軸上のセグメント (上部にある列) が 5 つの要素を持つ層と 2 つの要素を持つ第 1 層である場合、セグメントは 10 個の個別の列となり、これは の要素のあらゆる可能な組み合わせを表します。階層要素タイプを複数の軸に配置することはできません。たとえば、科目要素タイプを行に配置した場合、それから列またはフィルタに科目を追加することはできません。

層は個々の要素または合計要素の両方を持つことができます。合計要素は、その下に指定されたすべての要素を任意に合計します。合計要素はフィルタで使用できません。

フィルタ軸は X 軸および Y 軸と非常に似ていますが、1 つのわずかな違いがあります。フィルタ軸はレポート内のすべてのデータに適用されるため、その層を組み合わせて複数の行や列を構成することはでき

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ません。代わりに、フィルタ軸は各層のすべての要素を結合し、すべての要素のデータを、それらの要素が単一の集計にロールアップされているかのように集計します。

参照 基本的なマトリクス レポートの作成（197ページ）セグメント、軸、属性要素の詳細については、を参照してください。

### フィルタ軸の例

下の例は、フィルタ軸について考えられるすべての要素を示しています。

```
<axis type="FILTER">
    <segment>
<!-- Account filter -->
        <tier type="acct">
            <el id="258" />
        </tier>
<!-- Time filter -->
        <tier type="time">
            <el id="342" />
        </tier>
<!-- Level filter -->
        <tier type="lvl">
            <el id="354" />
        </tier>
<!-- Version filter -->
        <tier type="ver">
            <el id="385" offset="1" offset-strata="2"/>
        </tier>
<!-- Currency filter -->
        <tier type="cur">
            <el id="448" />
        </tier>
<!-- Account Attribute filter -->
        <tier entity-id="23" type="aAttr">
            <el id="512" />
        </tier>
<!-- Level Attribute filter -->
        <tier entity-id="25" type="lAttr">
            <el id="607" />
        </tier>
<!-- Dimension Attribute filter -->
        <tier entity-id="21" type="dAttr">
            <el id="649" />
        </tier>
<!-- Dimension filter -->
        <tier entity-id="1" type="dim">
            <el id="717" />
        </tier>
    </segment>
</axis>
```

### リクエストのフォーマット

リクエストの XML スキーマは、customReportValues REST Specific にあります。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
     <call method="customReportValues" callerName="a string that identifies
 your client application">
        <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 locale="fr_FR" instanceCode="INSTANCE1"></credentials>
        <requestInfo>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            <!-- Add elements here that we want to show up in the ELK logs --
>
        </requestInfo>
        <report suppress-zeroes="1" include-element-code="1"> <!-- Run
 report suppressing blanks, but not zero values. Add calc element codes to
 the response -->
            <!-- columns -->
            <axis type="X">
                <segment>
                    <!-- time columns -->
                    <tier type="time">
                        <!-- Timespan creates multiple time columns from
 Jan-2014 to Dec-2014.Ids specified in timespan element are retrieved from
 exportTime API output.
                                'show-time' is a mandatory attribute specifying
 list of strata ids -->
                        <el complex-type="timespan" end="179001"
 start="168001" show-time="3,2,1"/>
                        <el id="180001" /> <!-- single column of Jan 2015 .
 This id is retrieved from exportTime API output-->
                        <subtotal code="Subtotal" /> <!-- subtotal of the
 output of all the time elements left of this subtotal element -->
                    </tier>
                </segment>
            </axis>
            <!-- rows -->
            <axis type="Y">
                <segment>
                    <!-- There are 2 tiers with 2 elements and 4 elements,
 respectively. Without considering expansion, this generates 8 rows of:
                         1. dimension value with id 135, account with id 51
                         2. dimension value with id 135, account with id 53
                         3. dimension value with id 135, difference between
 account with id 51 and account with id 53
                         4. dimension value with id 135, calculation using
 the formula - Sum of account with id 51 and the output of the difference
 element from previous row
                         5. dimension value with id 199, account with id 51
                         6. dimension value with id 199, account with id 53
                         7. dimension value with id 199, difference between
 account with id 51 and account with id 53
                         8. dimension value with id 199, calculation using
 the formula - Sum of account with id 51 and the output of the difference
 element from previous row.

                         Assume dimension value 135 has child 150, which has
 children 160,161,162. Dimension value 199 has child 200, which has children
 210,211,212.
                         With expansion, element of dimension value 135 with
 rollup-mode 'D' and 'suppress-elt-rollup' would yield to {135,160,161,162}.
                         Element of dimension value 199 with 'rollup-mode'
 'X' and 'start-expanded' 199,200 would yield to {199,200,210,211,212}.
                         In total, there will be 9 x 4 = 36 rows in
 cartesian without suppress zero.
                    -->
-
                    <tier entity-id="13" type="dim"> <!-- dimension values
 with id 135 and 199 from dimension with id of 13 -->
                        <el id="135" rollup-mode="D" suppress-elt-
rollup="1"/> <!-- Expand to Leaves operation on tag dimension id=135, return
 "Leaves + root" -->
                        <el id="199" rollup-mode="X" start-
expanded="199,200"/> <!-- Custom expansion with start expanded on tag
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
dimension id=199 and 200, where 200 is a child of 199, return 199 and the
the immediate children of 199 and 200 -->
                    </tier>
                    <tier type="acct"> <!-- account with id of 51 and 53 -->
                        <el id="51" />
                        <el id="53" />
                        <diff operand-a="51" operand-b="53"
code="Difference" /> <!-- difference between account with id 51 and account
with id 53 -->
                        <calc formula="[51]+RPT.Difference" /> <!--
calculation using the formula - Sum of account with id 51 and the output of
the difference element (previous element) -->
                    </tier>
                </segment>
            </axis>
        </report>
    </call>
```

この API コールの各呼び出しには、リストされた各タイプの要素を 1 つずつ含める必要があります。

認証情報

レポート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| 以下 | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用される ロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| レポート要素 | | | |
| タグ名 | | レポート | |
| 説明 | | レポートを構成する要素を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| suppress-zeroes<br>*API v37* で更新されました。 | なし | この特性は、行レベルで抑制を制御します。これを指定することで、出力にゼロや空白の行が含まれるかどうかを制御します。有効な値は、0 (何も表示しない - すべての行を表示)、1 (空白の表示 - 空白のセルのみを含む行を表示しない)、2 (空白の表示しない、ゼロ - 空白のセルまたはゼロのセルのみを含む行を表示しない) です。この属性が指定されていない場合のデフォルト値は 2 です。セルのセル エクスプローラー値が空の場合、そのセルは空白とみなされます。<br>この属性は、"セルを含む" 属性と連携して機能します。デフォルトの動作を確認するには、"セルを含む" を参照してください。 | 0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

<table>
<tr>
<td>セルも含める<br><br>API v37 で使用できます。</td>
<td>なし</td>
<td>この属性は、"suppress-Zeroes" 特性の指示に従って、抑制されていないすべての行に対するセル レベルでの抑制を管理します。これを指定することで、出力にゼロや空白のセルが含まれるかどうかを制御します。有効な値は、0 (すべて含める - すべてのセルを表示)、1 (データとゼロを含める - 空白のセルを除外)、2 (データのみを含める - ゼロと空白のセルを除外) です。<br><br>デフォルトの動作: この属性が指定されていない場合、デフォルトの動作は "suppress- Zeroes" 特性によって決定されます。 さまざまな "suppress- Zeroes" 特性値に対する動作:<br><br>
<table>
<tr><th>"suppress-zeroes"</th><th>"セルを含める動作 (値)</th></tr>
<tr><td>0</td><td>すべてのセルを含める (0)</td></tr>
<tr><td>1</td><td>データとゼロのセルを含める (1)</td></tr>
<tr><td>2</td><td>データ セルのみを含める (2)</td></tr>
</table>
</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>show-cell-notes</td>
<td>なし</td>
<td>この属性が指定された場合、セル メモが表示または非表示になります。0= セル メモを表示しない (デフォルト)、1= セル メモを表示</td>
<td>1</td>
</tr>
</table>

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロールアップしない | なし | この特性が指定されると、合計の行と列が表示または非表示になります。合計の行と列は、レポートに子が表示されている親にのみ表示されません。有効な値は 0 (合計を表示しない) または 1 (合計を表示しない) です。デフォルト値は 0 です。 | 1 |
| 含める要素コード | なし | この特性が指定されると、"計算" (小計、差分、計算) 要素のコードが追加または非表示になります。有効な値は、0 (計算要素の出力にコードを追加しない) または 1 (計算要素の出力にコードを追加) です。デフォルト値は 0 です。 | 1 |
| エレメントの内容<br>詳細についてはリクエスト フォーマットを参照してください。 | | | |

回答フォーマット

応答の XML スキーマは 、 customReportValues REST 仕様にあります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<response success="true">
   <messages>
       <!-- Dimension value id 13 is invalid. Rows with value id 13 has been
 removed from the report. -->
       <message type="WARNING" key="invalid-dim-attr-id"
 values="199,13">Invalid value Id
           199 for dimension/attribute type id 13
       </message>
   </messages>
   <!-- Global filters. Although the request did not supply any filters,
 defaults are used when dimension types are not
       specified. Reporting against version with id 2 which is the current
 version. Level with id 1 is the top most level this user
       has access to. -->
   <filters>
       <coords>
           <coord type="ver" rollup="1">
               <el id="2" />
           </coord>
           <coord type="lvl" rollup="1">
               <el id="1" />
           </coord>
       </coords>
   </filters>
   <!-- Only two time columns Dec-2014 and Jan-2015 have data, all other
 columns have been removed -->
   <cols>
       <col id="1">
           <coords>
               <coord type="time">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <el id="179001" />
                </coord>
            </coords>
        </col>
        <col id="2">
            <coords>
                <coord type="time">
                    <el id="180001" />
                </coord>
            </coords>
        </col>
        <col id="3">
            <coords>
                <coord code="Subtotal" type="subtotal" />
            </coords>
        </col>
    </cols>
    <rows>
        <row>
            <!-- Row coordinates are account with id 51 and dimension value
with id of 135 from dimension with id of 13 -->
            <coords>
                <coord type="acct">
                    <el id="51" />
                </coord>
                <coord type="dim" entity-id="13">
                    <el id="135" />
                </coord>
            </coords>
            <cell value="2.345" col="1" /> <!-- This value's coordinates are
the row coordinates listed above, matches column position 1 and the global
filters. -->
            <cell value="2.345" col="2" /> <!-- This value's coordinates are
the row coordinates listed above, matches column position 2 and the global
filters. -->
            <cell value="4.69" col="3" /> <!-- This value's coordinates are
the row coordinates listed above, matches column position 2 and the global
filters. -->
        </row>
        <row>
            <!-- Row coordinates are account with id 53 and dimension value
with id of 135 from dimension with id of 13 -->
            <coords>
                <coord type="acct">
                    <el id="53" />
                </coord>
                <coord type="dim" entity-id="13">
                    <el id="135" />
                </coord>
            </coords>
            <cell value="5.34" col="1" /> <!-- This value's coordinates are
the row coordinates listed above, matches column position 1 and the global
filters. -->
            <cell value="7.44" col="2" /> <!-- This value's coordinates are
the row coordinates listed above, matches column position 2 and the global
filters. -->
            <cell value="12.78" col="3" /> <!-- This value's coordinates are
the row coordinates listed above, matches column position 2 and the global
filters. -->
        </row>
        <row>
            <coords>
                <coord code="Difference" type="diff" />
                <coord type="dim" entity-id="13">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <el id="135" />
                </coord>
            </coords>
            <cell value="2.995" col="1" />
            <cell value="5.095" col="2" />
            <cell value="8.09" col="3" />
        </row>
        <row>
            <coords>
                <coord type="calc" />
                <coord type="dim" entity-id="13">
                    <el id="135" />
                </coord>
            </coords>
            <cell value="5.34" col="1" />
            <cell value="7.44" col="2" />
            <cell value="12.78" col="3" />
        </row>
    </rows>
</report>
</output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 回答 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上のメッセージ要素 | |

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| type | あり | タイプはメッセージのタイプを識別する方法です。異なるタイプは、INFO、WARNING、ERROR です。"ERROR" タイプは、このリクエストが処理されなかったことを示します。 | 警告 |
| キー | あり | キーは特定のメッセージやメッセージのタイプを識別するための手段で、クライアント プログラムにおけるエラー ログ記録と復旧に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | error-invalid-time-span-start |
| 値 | なし | 指定された値は、メッセージ テキストで使用される変数を表します。 | 199,12 |
| エレメントの内容 | | | |
| メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。 | | | |

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | output |
| 説明 | |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 詳細は Response XML を参照してください | |

参照 概念: カスタム計算の数式構文とルール（192ページ）

**customReportValues REST** 指定

このセクションでは、customReportValues の呼び出しに関するサポート情報を提供します。

リクエスト

例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="customReportValues" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
   locale="fr_FR" instanceCode="INSTANCE1"></credentials>
<report suppress-zeroes="1">
   <axis type="X">
       <segment>
           <tier entity-id="2" type="dim">
               <el id="8" />
           </tier>
           <tier entity-id="22" type="lAttr">
               <el id="0" />
           </tier>
           <tier type="ver">
               <el id="2" />
           </tier>
           <tier type="lvl">
               <el id="2" />
           </tier>
           <tier type="time">
               <el complex-type="timespan" start="204001" end="227001" show-
time="1,2,3" />
               <el complex-type="ptd" as-of="207001" stratum-id="3"/>
               <el complex-type="ptd" as-of="207001" stratum-id="2"/>
               <el id="17003" />
               <el id="69002" />
               <el id="210001" />
           </tier>
       </segment>
   </axis>
   <axis type="Y">
       <segment>
           <tier entity-id="11" type="dim">
               <el id="34" />
           </tier>
           <tier entity-id="18" type="aAttr">
               <el id="14" />
           </tier>
           <tier entity-id="29" type="dAttr" >
               <el id="87" />
           </tier>
           <tier type="cur">
               <el id="6600" />
           </tier>
           <tier type="acct">
               <el id="1" />
           </tier>
       </segment>
   </axis>
</report>
```

**RNC (Relax NGCompact)** フォーマットの指定

次は、Relax NG コンパクト 形式で指定されたリクエスト スキーマです。

```
default namespace = ""
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
start =
element call {
attribute callerName { text },
attribute method { "customReportValues" },
element credentials {
 attribute instanceCode { text },
 attribute login { text },
 attribute locale { text }?,
 (attribute password { text } | attribute ticket{ text })
},
element report {
 attribute suppress-zeroes { "0" | "1" | "2" }?, #0=Nothing suppressed,
 1=Suppress blank cells but not zeroes, 2=Suppress blank and zero
 cells(Default)
 attribute show-cell-notes { "0" | "1" }?, #0=Don't show cell
 notes(default), 1=show cell notes
 attribute include-element-code { "0" | "1" }?, #0=Don't add element code to
 the response(default), 1=add element code to the response
 X-axis,  # Axes must be specified in order X, Y, (optional) FILTER
 Y-axis,
 Filter-axis?
}
}
```

```
X-axis =
element axis {
   attribute type { "X" },
   segment+
 }
Y-axis =
element axis {
   attribute type { "Y" },
   segment+
 }
Filter-axis =
element axis {
   attribute type { "FILTER" },
   segment
 }
```

```
segment =
element segment {
     (dimTier | levelTier | accTier | timeTier | versionTier | currencyTier
 | accAttrTier | levelAttrTier | dimAttrTier)+
   }
```

```
#Look up ids by calling the exportDimensions API
dimTier =
element tier {
 attribute type { "dim" },
 attribute entity-id { xsd:integer }, #dimension id
 (stdRollup | stdEl | calcElement)+ #stdRollup will allow for arbitrary
 rollups and stdEl will provide the dimension value id
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
#Look up ids by calling the exportLevels API
levelTier =
element tier {
 attribute type { "lvl" },
 (stdRollup | stdEl | calcElement)+ #stdRollup will allow for arbitrary
 rollups and stdEl will provide the dimension value id
}
```

```
#Look up ids by calling the exportAccounts API
accTier =
element tier {
 attribute type { "acct" },
 (acctRollup | acctEl | calcElement)+ #acctRollup will allow for arbitrary
 rollups and acctEl will provide the account id
}
```

```
#Look up ids by calling the exportTime API
timeTier =
element tier {
 attribute type { "time" },
 (timeRollup | timeEl | calcElement)+ #timeRollup will allow for arbitrary
 rollups of single time elements
}
```

```
#Look up ids by calling the exportVersions API
versionTier =
element tier {
 attribute type { "ver" },
 (verRollup | verdEl | calcElement)+
}
```

```
#Look up ids by calling the exportActiveCurrencies API
currencyTier =
element tier {
 attribute type { "cur" },
 stdEl+
}
```

```
#Look up ids by calling the exportAttributes API
accAttrTier =
element tier {
 attribute type { "aAttr" },
 attribute entity-id { xsd:integer },#account attribute id
 (stdRollup | stdEl | calcElement)+ #stdRollup will allow for arbitrary
 rollups and stdEl will provide the account attribute value id
}
```

```
#Look up ids by calling the exportAttributes API
levelAttrTier =
element tier {
 attribute type { "lAttr" },
 attribute entity-id { xsd:integer }, #level attribute id
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 (stdRollup | stdEl | calcElement)+ #stdRollup will allow for arbitrary
 rollups and stdEl will provide the level attribute value id
}
```

```
#Look up ids by calling the exportAttributes API
dimAttrTier =
element tier {
 attribute type { "dAttr" },
 attribute entity-id { xsd:integer }, #dimension attribute id
 (stdRollup | stdEl | calcElement)+ #stdRollup will allow for arbitrary
 rollups and stdEl will provide the dimension attribute value id
}
```

```
#All tiers except account and time have stdEl
stdElAttributes =
    attribute id { xsd:integer },
    attribute code { text }?,
    attribute element-id { text }?,
    attribute suppress-elt-rollup { "0" | "1" }?,
    attribute start-expanded { text }?
stdEl =
element el {
stdElAttributes,
   # R=Rollup or Leaf (as appropriate) (default)
   # U=Uncat
   # C=Me & my immediate Children(not valid with arbitrary rollup)
   # D=Descendants
   # X=Me & the immediate children of the specified descendants in start-
expanded
attribute rollup-mode { "R" | "U" | "C" | "D" | "X" }?,

}

calcElement = (stdRollup | subTotal | difference | customCalc)

stdRollup =
element rollup {
     attribute code { text }?,
  stdEl+
}
```

```
subTotal =
element subtotal {
             attribute code { text }?
}
```

```
difference =
 element diff {
             attribute operand-a { xsd:integer },
             attribute operand-b { xsd:integer },
             attribute code { text }?,
             (

               attribute display-as { "0" | "1" | "2" } | # 0=show using
 account's display type (default), 1=show as value, 2=show value as a
 percent
               attribute reverse-sign { "0" | "1" } # 0=do not reverse any
 signs (default), 1=Reverse sign for Expenses, Liabilities, and Equities
             )?
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
}
```

```
customCalc =
 element calc {
              # this is the human-readable formula as authored in the web
 UI,
              # It works with [ID] of elements as well as with Code
 (Rpt.Code).
              attribute formula { text },
              attribute code { text }?,
              (

                 attribute display-as { "0" | "1" | "2" } | # 0=show
 using account's display type (default), 1=show as value, 2=show value as a
 percent.
                 attribute reverse-sign { "0" | "1" } # 0=do not reverse
 any signs (default), 1=Reverse sign for Expenses, Liabilities, and Equities
              )?

}
```

```
timeEl = (singleTimeEl | timespanEl | ptdEl)

singleTimeEl =
element el {
attribute id { timeId },
attribute code { text }?,
attribute element-id { text }?,
attribute start-expanded { text }?,
attribute rollup-mode { "X" }?
}
timespanEl =
element el {
attribute complex-type { "timespan" },
attribute start { timeId }?, #Not specifying start or end means start or end
 of the 'Range of the versions in this export'.
attribute end { timeId }?,
attribute show-time { comma separated list of stratum ids }, # List of
 stratum ids that has show time enabled. Defaults to all strata being
 enabled.
attribute code { text }?
}
ptdEl =
element el {
attribute complex-type { "ptd" }
attribute stratum-id { stratumId }, # Stratum id of the stratum used in
 "stratum to date"
attribute as-of { timeId },
attribute code { text }?
}
timeRollup = element rollup {
attribute code { text }?,
(singleTimeEl)+
}
timeId = xsd:integer # Unique time period id
```

```
acctEl =
element el {
stdElAttributes,
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
( attribute rollup-mode { "R" | "C" | "D" | "X" } |
 attribute show-acct-splits { "0" | "1" } #0=don't show splits in
 account(default), 1=show splits in accounts (not valid with arbitrary
 rollup)
)?
}
acctRollup =
element rollup {
     attribute code { text }?,
  acctEl+
}
```

```
verEl =
  element el {
    stdElAttributes,
    # R=Rollup or Leaf (as appropriate) (default)
    # U=Uncat
    # C=Me & my immediate Children(not valid with arbitrary rollup)
    # D=Descendants
    # X=Me & the immediate children of the specified descendants in start-
expanded
    attribute rollup-mode { "R" | "U" | "C" | "D" | "X" }?,
    attribute offset { xsd:integer }?,
    attribute offset-strata { xsd:integer }?
}
verRollup =
   element rollup {
     attribute element-id { text }?,
     attribute code { text }?,
       verEl+
       }
```

前提条件

- 認証情報は、ログインまたはチケット (現在のところ) です。
- 軸は次の順序で指定する必要があります: X、Y、(任意) Filter。
- 無効な値は常にマークされます。応答のセルに無効な特性フラグがあります。
- フィルタで指定された期間、qtd、ytd は、フィルタの期間として応答に表示されます。
- セル エクスプローラーでセルの値が空の場合、そのセルは空白とみなされます。空のテキスト値にロールアップされたセルは、空白とはみなされません。
- TimeId の構築: #exportTime API を呼び出して ID をルックアップします。

回答

例

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<response success="true">
<messages>
  <message type="INFO" key="warning-invalid-timespan">Ignoring start of
 timespan, which precedes start of version</message>
  <message type="INFO" key="removed-by-qualification">Account "fred" was
 removed.</message>
  <message type="ERROR" key="exception-happened">Exception message</message>
</messages>
<output>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<report>
  <filters>
    <coords>
      <coord type="ver" rollup="1">
          <el id="3" />
      </coord>
      <coord type="aAttr" entity-id="85" rollup="1">
          <el id="45" />
      </coord>
    </coords>
  </filters>
  <cols>
    <col id="1">
      <coords>
          <coord type="time">
              <el id="204001" />
          </coord>
          <coord type="lvl">
              <el id="4" />
          </coord>
      </coords>
    </col>
    <col id="2">
      <coords>
          <coord type="time">
              <el id="205001" />
          </coord>
          <coord type="lvl">
              <el id="4" />
          </coord>
      </coords>
    </col>
    <col id="3">
      <coords>
          <coord type="time">
              <el id="204001" />
          </coord>
          <coord type="lvl">
              <el id="5" rollup-mode="U" />
          </coord>
      </coords>
    </col>
    <col id="4">
      <coords>
          <coord type="time">
              <el id="204002" />
          </coord>
          <coord type="lvl">
              <el id="5" rollup-mode="U" />
          </coord>
      </coords>
    </col>
  </cols>
  <rows>
    <row>
      <coords>
         <coord type="acct">
              <el id="45" />
          </coord>
      </coords>
      <cell value="2.345" col="1" />
      <cell value="4.567" col="2" />
      <cell value="3.397" col="3" />
      <cell value="5.274" col="4" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    </row>
    <row>
      <coords>
         <coord type="acct">
              <el id="46" />
          </coord>
      </coords>
      <cell value="5.6" col="1" />
      <cell value="2.7" col="2" />
      <cell value="1.9" col="3" />
      <cell value="9.4" col="4" />
    </row>
  </rows>
</report>
</output>
</response>
```

**RNC (Relax NGCompact)** フォーマットの指定

以下は、 緩和 NG コンパクト 形式で指定された応答スキーマです。

```
default namespace = ""
```

```
start =
element response {
attribute success { xsd:boolean },
element messages {
 element message {
   attribute key { text }?,
   attribute type { "INFO" | "ERROR" }?,
   attribute values { text }?,
   text
 }+
}?,
element output {
 element report {
   element filters {
     coords
   }?,
   element cols {
     element col {
       attribute id { xsd:integer },
       coords
     }+
   },
   element rows {
     element row {
       coords,
       element cell {
         attribute col { xsd:integer },
         attribute value { xsd:decimal },
         attribute text-rollup { xsd:string }?, # shows up only for text
 rollups
         attribute invalid { "0" | "1" }?, # 0=value is valid(default),
 1=value is invalid
         attribute blank { "0" | "1" }?,  # 0=value is not blank(default),
 1=value is blank
         element note { xsd:string }? # shows up only if show-cell-notes in
 the request is "1" and there is a note at this location.
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      }+
    }*
  }
 }
}?
}
```

```
coords = element coords {
coord+
}
coord = (stdCoord | dimCoord | acctCoord | timeCoord | calcCoord)
stdCoord =
element coord {
attribute type { "lvl" | "ver" | "cur" },
attribute rollup { "0" | "1" }?, # 0=not a rollup(default), 1=arbitrary
 rollup/filter
attribute offset {xsd:integer }?,
attribute offset-strata {xsd:integer }?,
coordEl+ #More than 1 indicates arbitrary rollup
}
dimCoord =
element coord {
attribute entity-id { xsd:integer }, # This is the dimId/accAttrId/
lvlAttrId/dimAttrId.
attribute type { "dim" | "aAttr" | "lAttr" },
attribute rollup { "0" | "1" }?, # 0=not a rollup(default), 1=arbitrary
 rollup/filter
coordEl+ #More than 1 indicates arbitrary rollup
}
acctCoord =
element coord {
attribute type { "acct" },
attribute rollup { "0" | "1" }?, # 0=not a rollup(default), 1=arbitrary
 rollup/filter
coordAcctEl+ #More than 1 indicates arbitrary rollup
}
timeCoord =
element coord {
attribute type { "time" },
attribute rollup { "0" | "1" }?, # 0=not a rollup(default), 1=arbitrary
 rollup/filter
coordTimeEl+ #More than 1 indicates arbitrary rollup
}
calcCoord =
element coord {
 attribute type { "subtotal" | "diff" | "calc" },
 attribute code { text }?
}
```

```
coordEl =
element el {
attribute id { xsd:integer }, #This is the dimValId/accAttrValId/
lvlAttrValId/dimAttrValId. Id = 0, indicates the root
attribute rollup-mode { "U" }? # rollup-mode=U means categorized value
}
```

```
coordAcctEl =
element el {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
attribute id { xsd:integer },
attribute split-label { xsd:string }? #Will only be emitted if this
 corresponds to an account split.
}
```

```
coordTimeEl = (singleTimeEl | ptdEl | timerangeEl)
singleTimeEl =
element el {
attribute id { timeId }
}
ptdEl =
element el {
attribute complex-type { "ptd"  },
attribute stratum-id { stratumId } # Stratum id of the stratum used in
 "stratum to date"
attribute as-of { timeId }
}
timerangeEl =
element el {
attribute complex-type { "timespan" },
attribute start { timeId },
attribute end { timeId }
}
timeId = xsd:integer # Unique time period id
```

- フィルタ、列、または行のコードに複数の要素が含まれる場合、コード内のすべての要素の任意の合計を表していることを意味します。
- フィルタで期間、qtd または ytd が渡された場合、回答にはフィルタの対応する期間要素が含まれます。
- フィルタ軸では、同じタイプの属性が任意の合計に組み入れられます。ただし、属性、科目特性、組織特性は、タイプとエンティティ ID の両方が一致した場合に組み合わされます。
- フィルタの要素に対する応答内の合計モードは、応答内の単一の合計要素になります。
- フィルタ座標がない場合、フィルタ要素は応答に含まれません。
- エラーが発生し、レポートを実行できなかった場合、出力要素は存在せず、メッセージ要素にはタイプ エラーのメッセージが含まれます。
- セルがテキストの合計の場合、値の特性は「0」になります。

**exportAccounts**

重要： この API はユーザーのみをサポートします 概念: アクセス ルール（1452ページ） API v22 以上

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 前提条件、キューブ科目、カスタム科目、GL 科目、メトリック科目、モデル科目など、すべての科目タイプを含むシステム内のすべての科目の完全なリストのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出しユーザーを識別および認証する認証情報タグと、特定のバージョンの科目のインポート可能性に関する情報を応答に含める必要があるかどうかを示す「含める」タグが含まれています。検証されると、このメソッドはシステムの完全な科目セットを示す XML ドキュメントを返します。囲むタグで表される科目が、囲まれている科目の親である場合、科目は 1 つの科目タグで別の科目タグに囲まれ、入れ子されたツリー形式で返されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportAccounts" callerName="a string that identifies your
 client application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
  <include versionName="sample version"/>
  <sheet id="3" />
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素を含める | | | |
| タグ名 | | 含める | |
| 説明 | | 科目情報のどの側面を応答に含めるか、または応答から除外するかを示すフラグのセットを表します。この要素は任意です。存在しない場合、API はすべてのバージョンの科目情報を返します。また、isImportable 特性は含まれません。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| versionName<br>API v18 で更新済 | なし | 応答に各科目の isImportable 特性を含める必要があるかどうかを示し、科目が指定したバージョンのインポートされたデータを受け入れることができるかどうかを示します。デフォルトでは、この要素またはその特性が存在しない場合、isImportable 特性をレスポンスで送出することはありません。この要素で versionName 特性と versionID 特性の両方が指定された場合、versionID は無視されます。<br><br>バージョンを指定した場合、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ、呼び出しが成功します。 | 2016 年予算 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| versionID<br>API v18 で更新済 | なし | パラメータとして内部バージョン ID 番号を取ることを除き、versionName (上記) と同じです。応答に各科目の isImportable 特性を含める必要があるかどうかを示し、科目が指定したバージョンのインポートされたデータを受け入れることができるかどうかを示します。<br>バージョンを指定した場合、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ、呼び出しが成功します。 | 102 |
| 特性 | なし | 回答に各科目の特性を含めるかどうかを示します。 | false |
| inaccessibleValues | なし | 現在のユーザーがアクセスできない値を回答に含めるかどうかを示します。デフォルトは false です。"モデリング" または "すべての組織にインポート" の権限を持つユーザーのみが、このオプションを true に設定できます。 | false |
| showAccountGroupCodes<br>*API v38* で更新済 | なし | このオプションは API v38 以降で使用できます。<br>デフォルトは false です。<br>true に設定すると、以前は空になっていた科目応答要素の "コード" 特性を再利用することにより、応答に科目グループ コードを含めます。 | 真 |
| includeAttributeValueNames<br>*API v37* で更新済 | なし | このオプションは API v37 以降で使用できます。<br>デフォルトは false です。<br>真に設定した場合、特性値名が応答に含まれます。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| includeAttributeValueDisplayNames<br>*API v37* で更新済 | なし | このオプションは API v37 以降で使用できます。<br>デフォルトは false です。<br>true に設定した場合、特性値の表示名が応答に含まれます。 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| シート要素 | | | |
| タグ名 | | シート | |
| 説明 | | そのシートで使用可能な科目のみを回答に含める必要があるシートを表します。この要素は任意です。存在しない場合、API は特定のシートとは関係なく科目情報を返します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | シートの内部システム ID 番号です。 | 234 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
 <output>
   <accounts seqNo="42">
     <account id="2147483645" code="" name="GL Accounts" description="GL
 Accounts" timeStratum="" displayAs="NUMBER"
     accountTypeCode="" decimalPrecision="0" isAssumption="0"
 suppressZeroes="1" isDefaultRoot="1" shortName=""
     balanceType="" isLinked="0" owningSheetId="" isSystem="0"
 isIntercompany="0" isImportable="0" dataEntryType=""
     planBy="" timeRollup="" timeWeightAcctId="" levelDimRollup=""
 levelDimWeightAcctId="" rollupText="" startExpanded="1"
     hasSalaryDetail="" dataPrivacy="" isBreakbackEligible="" subType=""
 enableActuals="" isGroup="1">
       <account id="1" code="Assets" name="Assets" description="Total
 Assets" timeStratum="month" displayAs="CURRENCY"
       accountTypeCode="A" decimalPrecision="0" isAssumption="0"
 suppressZeroes="1" isDefaultRoot="1"
       shortName="" exchangeRateType="E" balanceType="DEBIT" isLinked="0"
 owningSheetId=""
       isSystem="0" isIntercompany="0" dataEntryType="" planBy="DELTA"
 timeRollup="LAST" timeWeightAcctId=""
       levelDimRollup="SUM" levelDimWeightAcctId="" rollupText=""
 startExpanded="1" hasSalaryDetail=""
       dataPrivacy="PRIVATE" isBreakbackEligible="" subType="CUMULATIVE"
 enableActuals="1" isGroup="0">
         <account id="16" code="Current_Assets" name="Current Assets"
 description="current assets" timeStratum="month"
       displayAs="CURRENCY" accountTypeCode="B" decimalPrecision="0"
 isAssumption="0" suppressZeroes="1"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      isDefaultRoot="1" shortName="" exchangeRateType="E"
 balanceType="DEBIT" isLinked="0"
      owningSheetId="" isSystem="0" isIntercompany="0" dataEntryType=""
 planBy="DELTA" timeRollup="LAST"
      timeWeightAcctId="" levelDimRollup="SUM" levelDimWeightAcctId=""
 rollupText="" startExpanded="1"
      hasSalaryDetail="" dataPrivacy="PRIVATE" isBreakbackEligible=""
 subType="CUMULATIVE" enableActuals="1"
      isGroup="0">
          <account id="51" code="70110" name="Bank Account"
 description="Wells Fargo account" timeStratum="month"
      displayAs="CURRENCY" accountTypeCode="B" decimalPrecision="0"
 isAssumption="0" suppressZeroes="1"
      isDefaultRoot="0" shortName="" exchangeRateType="E"
 balanceType="DEBIT" isLinked="0"
      owningSheetId="" isSystem="0" isIntercompany="0"
 dataEntryType="STANDARD" planBy="BALANCE"
      timeRollup="LAST" timeWeightAcctId="" levelDimRollup="SUM"
 levelDimWeightAcctId="" rollupText=""
      startExpanded="" hasSalaryDetail="0" dataPrivacy="PRIVATE"
 isBreakbackEligible="" subType="CUMULATIVE"
      enableActuals="1" isGroup="0">
            <attributes>
              <attribute name="SEC Reporting" value="Yes" />
              <attribute name="GAAP Reporting" value="No" />
            </attributes>
          </account>
        </account>
      </account>
    </account>
  </accounts>
 </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | 科目 | |
| 説明 | | 1 つ以上の科目要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 連番 | | | |
| API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。 | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の科目要素 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | | |
| タグ名 | | account | | |
| 説明 | | exportAccounts API コールへの応答で返される単一科目を表します。この要素が応答のそれを囲む科目要素内に直接ある場合 (つまり、別の科目要素に囲まれていない場合)、この科目要素はルート科目、つまり親を持たない科目を表します。 | | |
| 要素の特性 | | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | | 例 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される科目の名前。 | | 流動資産 |
| code | あり | 科目のコード。数式で参照された場合に表示されます。 | | Cur_Assets |
| ID | なし | 科目の内部システム ID 番号。これは、exportDimensionFamilies などの他の API 呼び出しで科目を識別するために使用できます。 | | 16 |
| accountTypeCode | なし | この科目のデータ タイプに対応する文字コード | | |
| | | タイプ コード | 科目タイプ | 科目クラス |
| | | A | 資産 | 総勘定元帳 |
| | | B | 流動資産 | 総勘定元帳 |
| | | C | 負債と純資産 | 総勘定元帳 |
| | | キューブ | キューブ | キューブ |
| | | EN | 年初来の利益/損失 | 総勘定元帳 |
| | | F | 固定資産 | 総勘定元帳 |
| | | G | 売上原価 | 総勘定元帳 |
| | | I | Income | 総勘定元帳 |
| | | J | 営業外収益 | 総勘定元帳 |
| | | K | 為替換算調整勘定 | システム |
| | | L | 負債 | 総勘定元帳 |
| | | M | 流動負債 | 総勘定元帳 |
| | | MI | 連結比率 | 定義済 |
| | | MT | メトリック | メトリック |
| | | なし | 純利益 | 総勘定元帳 |
| | | O | 他の資産 | 総勘定元帳 |
| | | Q | 純資産 | 総勘定元帳 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | R | 長期資産 | 総勘定元帳 |
| | | S | 前提条件 | 前提条件 |
| | | T | 長期負債 | 総勘定元帳 |
| | | W | モデル | モデル |
| | | X | 経費 | 総勘定元帳 |
| | | XR | 為替レート | 定義済 |
| | | あり | 営業外費用 | 総勘定元帳 |
| | | Z | カスタム | カスタム |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 説明 | なし | | 科目管理で入力された科目のテキスト説明 (存在する場合) | 合計流動資産 |
| shortName | なし | | 科目管理で入力された科目の短縮名 (存在する場合) | CA |
| timeStratum<br>API v16 以上でサポート | なし | | 科目の時間層 (時間層のコードとして)。キューブ科目、モデル科目、キューブ入力 GL 科目の場合、時間層はそれらを所有するシートの時間層によって決まります。他のすべての科目は、時間管理 UI 内で設定されたデフォルトの時間層を使用します。 | Month |
| displayAs | なし | | 科目の出力表示設定: NUMBER、通貨、パーセント"科目の管理" で "表示形式" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。 | NUMBER |
| IS前提条件 | なし | | "0" または "1" のいずれかで、科目が前提条件であるかどうかを示します。これは前提条件および為替レート科目では 1 に設定されます。 | 1 |
| suppressZeroes | なし | | この科目でユーザーがシート上のゼロを非表示にできるかどうかを示すフラグです。0 は許可されず、1 は許可されます。"科目の管理" で "ゼロを表示しない" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。 | 1 |
| isDefaultRoot | なし | | "0" または "1"。科目または科目グループがデフォルト ルートであるかどうかを示します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| decimalPrecision | なし | この科目の数値を表示する小数点以下の桁数。デフォルトは 0 です。特殊値 99 は、ターゲットの小数点以下の桁数を継承するリンク元科目を示すために使用されます。値が -1 の場合、その科目は通貨科目であり、表示されているいずれかの通貨の小数部桁数が使用されます。 | 0 |
| planBy | なし | ストック科目の場合、科目が残高での計画 (BALANCE) か、差額での計画 (DELTA) かを示します。 | 残高 |
| exchangeRateType | なし | displayAs="CARERENCY"E を持つ科目の場合のみ存在します。可能な値: "通貨の管理" で設定された、インスタンスに表示されている任意の為替レート タイプ コード。"A" = 月平均、"E" = "月末" | |
| isImportable | なし | 科目がインポートされたデータを受け入れることができるかどうかを示します。0 はその科目がインポート不可であることを、1 はインポート可能であることを示します。リクエストで versionName または versionId が指定されている場合にのみ存在します。<br><br>注: "isImportable" は、科目が指定されたバージョンでインポート可能であることのみを示します。API を呼び出しているユーザーが、バージョンまたは科目にインポートする権限を持っていることは意味しません。exportVersions を使用して、ユーザーがインポートに使用できるバージョンを確認します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| balanceType | なし | 科目の残高タイプ (借方または貸方) を示します。科目に関連付けられた残高タイプがない場合、この特性は空になります。GL 科目のみに残高タイプがあります。 | 借方 |
| dataEntryType | なし | 科目のデータ入力タイプを示します。STANDARD または CUBE空白の値は、データ入力タイプが科目に適用されないことを示します。たとえば、リンク元科目またはモデル科目のデータ入力タイプが空白の場合、 | キューブ |
| timeRollUp | なし | 特定の期間にわたってロールアップされた科目の動作を示します。SUM、WEITETED_AVERAGE、LAST、AVERAGE を指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | SUM |
| timeWeightAcctId | なし | この科目の timeRollup が ”WESIGNED_AVERAGE” である場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。これは、加重科目が存在しない場合、または科目の timeRollup が WESIGNED_AVERAGE の場合、空になります。 | 133 |
| hasSalaryDetail | なし | 0 または 1 で、この科目に "給与詳細にアクセス" 権限を表示する必要がある分割があるかどうかを示します。この科目に該当しない場合は空になります。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| dataPrivacy | なし | 科目の値がどの組織において公開され、数式の作成時に他の組織で参照可能であるかを示します。科目の値が非公開になる場合は "PRIVATE" を、最上位組織のみで科目の値が公開される場合は "Public_Top" を、すべての組織で公開されるようにするには "Public_ALL" を指定できます。前提条件は常に公開されるため、dataPrivacy 設定はありません。 | 非公開 |
| subType | なし | 科目がフローかストックかを示します。科目がフローである場合、特定の期間の値はその期間の正味アクティビティに等しくなります。例としては、収益科目と経費科目が挙げられます。科目がストックの場合、その値は特定の期間の終了残高と等しくなります。これは、前の期間の値と指定された期間のアクティビティの値です。貸借対照表の科目はストックです。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | フロー |
| startExpanded | なし | これは、シートを最初にロードしたときに科目とその子が展開された状態で開始するかどうかを示します。これは親科目にのみ適用されます。これは最下位科目の場合空になります。 | 1 |
| isBreakbackEligible | なし | 0 または 1 のいずれかで、この科目を按分で使用できるかどうかを示します。これは標準の前提条件にのみ適用されます。これは他のタイプの科目では空になります。 | 0 |
| levelDimRollup | なし | 組織または属性に沿ってロールアップされた科目の挙動を示します。SUM、WEITETED_AVERAGE、TEXT、NONBLANK_AVERを指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | NONBLANK_AVERAGE |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| levelDimWeightAcctId | なし | この科目の levelDimRollup が "WE却下" の場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。加重科目が存在しない場合、または科目の levelDimRollup が WE却下_AVERAGE でない場合、これは空になります。 | 118 |
| rollupText | なし | この科目の levelDimRollup が TEXT の場合、これは科目のロールアップされた値を示すセルに表示されるテキスト文字列です。 | なし |
| enableActuals | なし | 0 を選択すると、その科目の計画データのみが表示されます。1: 科目に実績をインポートします。リンクされた科目の場合、0 を指定するとリンク元科目に実績がある場合にのみ実績が表示され、1 を指定するとリンク元科目の実績が有効になります。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | 1 |
| isGroup | あり | 0 または 1 で科目グループかどうかを示します。 | 1 |
| isIntercompany | なし | 0 または 1 で、この科目が内部取引科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| 数式<br>API v18+ では使用できません。 | なし | 科目の数式 (ある場合)。 | ACCT.Revenue - ACCT.Expenses |
| isLinked | なし | 0 または 1 でこの科目がリンク元科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| isSystem | なし | 0 または 1 でシステム科目であるかどうかを示します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| owningSheetId | なし | モデル シートおよびキューブ シートにある科目の場合、この科目があるシートの内部システム ID 番号そのような科目ではない場合、またはそのような科目であるがシートに現在割り当てられていない場合は、空になります。 | 17 |
| エレメントの内容<br>この科目の直接の子科目ごとに 1 つのネストされた科目要素科目に関連付けられた 1 つまたは複数の特性がある場合は、1 つの特性要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つ以上の特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 科目が関連付けられている、空白ではない単一の科目特性マッピングを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 科目特性の名前。 | SEC レポート |
| 値<br><br>有効な表示名設定がオンの場合、*API v34* でサポートされます。 | あり | 科目に関連付けられた科目特性の値。 | はい |
| valueCode<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>"有効な表示名" 設定がオンの場合、*API v34* ではサポートされません。 | なし | この特性の特性値コード。<br><br>API v32 および API v33 では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | YR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>"有効な表示名" 設定がオンの場合、*API v34* ではサポートされません。 | なし | この特性の特性値名。<br><br>API v32 および API v33 では、valueName が意味を持つのは、以下の場合のみです。<br><br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | はい |
| valueDisplayName<br><br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | あり | API v32 以降では、valueDisplayName が意味を持つのは、以下の場合に限られます。<br><br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1value | はい |
| attributeID | あり | 科目特性の内部システム ID 番号。 | 10 |
| valueID | あり | 科目特性の内部システム ID 番号。 | 108 |
| エレメントの内容<br>なし | | | |

**exportActiveCurrencies**

重要 : この API はユーザーのみをサポートします 概念: アクセス ルール（1452ページ） API v22 以上

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | システムで設定されているすべての通貨の完全なリストのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはシステムで設定されたすべての通貨の完全なセットを示す XML ドキュメントを返します。為替レートがまだ設定されていない場合でも、通貨は通貨の管理で通貨リストに追加されると「設定」されます。"複数通貨" 機能が有効になっていないインスタンスは、このリストで単一の通貨のみを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportActiveCurrencies" callerName="a string that identifies
 your client application">
   <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
  </call>
```

| | |
|---|---|
| 認証情報要素<br>タグ名 | 認証情報 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<output>
<currencies seqNo="42">
  <currency id="2" code="EUR"  precision="4" isReportingCurrency="0"
 userDefined="0" description="Euro Member Countries, Euro" />
  <currency id="3" code="EUR1" precision="4" isReportingCurrency="0"
 userDefined="1" description="User-defined Euro 1" />
  <currency id="1" code="USD" precision="2" isReportingCurrency="1"
 userDefined="0" description="United States of America, Dollars" />
</currencies>
</output>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出力要素 | | | |
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 必須の単一の通貨要素この 出力 ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 通貨要素 | | | |
| タグ名 | | 通貨 | |
| 説明 | | 1 つまたは複数の通貨要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 連番 | | | |
| API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。 | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の通貨要素 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 通貨要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 通貨 | |
| 説明 | | exportActiveCurrencies API コールへの応答で返される単一通貨を表します。API v17 より前のバージョンの場合、"ユーザー定義" 特性またはユーザー定義通貨は表示されません。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 通貨の内部システム ID 番号。この番号は通貨を一意に識別するために使用できますが、他の API コールでは使用されません。 | 1 |
| code | あり | ISO 4217 基準で指定された 3 文字の通貨コード。 | usd |
| 小数部桁数 | あり | この通貨で金額を表示するときに使用される一般的な小数部桁数 (小数点以下の桁数) です。この小数部桁数は、表示タイプが "通貨" で、小数部桁数が "通貨の小数部桁数を使用" に設定されている科目にのみ使用されます。 | 2 |
| isReportingCurrency | あり | 通貨が「レポートの任意の換算」で使用できるように管理者によって選択されているかどうか。True = 1、False = 0。 | 1 |
| userDefined<br>API v17 以上で使用可能 | あり | 通貨がユーザーによって作成されたかどうかTrue = 1、False = 0。 | 0 |
| 説明 | あり | 通貨の国と通貨の名称で構成される、通貨の基本的な説明。 | アメリカ合衆国、ドル |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**exportAttributes**

重要： この API はユーザーのみをサポートします 概念: アクセス ルール（ 1452ページ ） API v22 以上

| カテゴリ | Metadata retrieval |
|---|---|
| 説明 | システム内のすべての特性を含む完全なリストのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはすべてのメンバー値を含むすべてのカスタム属性 (連結インスタンスの取引先システム属性を除く) の完全なセットを示す XML ドキュメントを返します。特性内のメンバー値は、子を含む親メンバーとともにツリー形式で返されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportAttributes" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |

エレメントの内容
(なし)

**要素を含める**

API v17 以上でサポート

タグ名 含める

説明 「特性値」情報のどの側面を応答に含めるか、または応答から除外するかを示すフラグのセットを表します。この要素は任意です。これが存在しない場合、すべての特性が応答に表示されます。

要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| attributeIDs<br>API v17 以上でサポート | なし | API 応答に表示される ID のリスト。これはフィルタのように機能します。 | "1,2,3,14" |
| inaccessibleValues<br>API v18 以上でサポート | なし | 現在のユーザーがアクセスできない値を回答に含めるかどうかを示します。デフォルトは false です。"モデリング" または "すべての組織にインポート" の権限を持つユーザーのみが、このオプションを true に設定できます。 | false |
| 未分類<br>インスタンスがセキュリティのためにアクセス ルールを使用する場合、API v22+ でサポートされます。 | なし | 回答が各特性の回答に仮想ノードを含めるべきであるかどうかを示します。デフォルトは false です。仮想ノードは、ユーザーがそのノードへのアクセス権を持っている場合のみ、応答に含まれます。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | |
|---|---|---|
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=true 真は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合に、exportAttributes が表示名のプロパティに従う必要があることを示します。<br><br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、exportAttributes API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。exportAttributes API は表示名のプロパティを無視します。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
  <response success="true">
   <output>
     <attributes>
       <attribute id="13" name="AP Eligible" type="account" seqNo="21">
         <attributeValue id="118" name="No" />
         <attributeValue id="117" name="Yes">
           <attributeValue id="136" name="Full" />
           <attributeValue id="135" name="Partial" />
         </attributeValue>
       </attribute>
       <attribute id="11" name="Product Line" type="account" seqNo="3">
         <attributeValue id="34" name="A" />
         <attributeValue id="35" name="B" />
       </attribute>
       <attribute id="9" name="Corporate Discount" type="level" seqNo="11">
         <attributeValue id="56" name="Available" />
         <attributeValue id="54" name="Not Applicable" />
         <attributeValue id="57" name="Not Available" />
         <attributeValue id="55" name="TBD" />
       </attribute>
       <attribute id="10" name="Tax Code" type="level" seqNo="33">
         <attributeValue id="146" name="TT-PYT" />
         <attributeValue id="145" name="TT-TRE" />
       </attribute>
       <attribute id="16" name="Industry" type="dimension" dimension-id="15"
 seqNo="43">
         <attributeValue id="335" name="Apparel">
            <attributeValue id="354" name="Mens Apparel" />
            <attributeValue id="355" name="Shoes" />
            <attributeValue id="356" name="Womens Apparel" />
         </attributeValue>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        </attribute>
      </attributes>
    </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | "true" または "false"。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の必須特性要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| 特性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 0 個以上の特性要素のコンテナです。特性は、タイプに応じて次の順序になるように並べられます: タイプ: '科目'、'組織'、'属性'。同じタイプの特性は名前別に並べられます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 個以上の特性要素 | | | |

| 特性要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 特性 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | exportAttributes API コールへの応答で返される単一の特性を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 特性の内部システム ID 番号。 | 16 |
| 名前 | あり | 特性の管理ページに表示される特性の名前。 | 業種 |
| displayNameType<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | 選択された内部表現。"特性の管理" ページの値の表示名の形式。<br>• 名前<br>• コード<br>• NAME_CODE<br>• CODE_NAME | 名前 |
| type | あり | 特性のタイプ。特性が科目の場合は "科目"、特性が組織の場合は "組織"、特性が属性の場合は "属性" になります。 | 属性 |
| autoCreate<br>API v20+ でサポート | あり | 選択した特性に "組織/科目/属性のインポートにより自動的に特性値を作成する" フィールドが設定されている場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 0 |
| keepSorted<br>API v20+ でサポート | あり | "1" は、この特性の値が常にアルファベット順にソートされていることを示します。<br>"0" (または指定されていない) は、リクエスト ペイロード内の位置に基づいて特性値をソートすることを意味します。<br>XML に親と、リストされていない階層特性値の兄弟が少なくとも 1 つ含まれている場合、リストされていない値は、更新中にリストされた兄弟の最後に移動します (親の子を並べ替える際、リストされた兄弟はすべて最初になります。 XML で指定された順序リストされていない兄弟はすべて、システムにおけるすでに設定されている順序で最後に配置されます。<br>"keepSorted" は各親特性値の子に適用されます。 | 1 |
| dimension-id | なし | 特性のタイプが "属性" の場合、属性の ID。 | 15 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 連番 | |
| API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。 | |
| エレメントの内容 | |
| ゼロ以上の任意の attributeValue 要素囲まれたattributeValue 要素はそれぞれ、特性の「ルート特性値」、つまり親値を持たない値を表します。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| attributeValue 要素 | | | |
| タグ名 | | attributeValue | |
| 説明 | | exportAttributes API コールへの応答で返される特性の単一メンバー値を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 特性のこのメンバー値の内部システム ID 番号。 | 34 |
| code | なし | 特性のメンバー値のコード。 | 使用可能 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| 名前 | あり | 特性ページの管理に表示される特性のメンバー値のラベル。 | 使用可能 |
| displayName | なし | 特性の displayNameType から派生した特性のメンバー値の displayName | 使用可能 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| 説明 | なし | 特性ページの管理に表示される特性のメンバー値の説明。 | |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| ゼロ以上の任意の attributeValue 要素囲まれたattributeValue 要素はそれぞれこの特性値の「子特性値」を表し、そのメンバーは暗黙的にこの値にロールアップされます。 | | | |

**exportCalendar**

この API は API v33+ でサポートされています。

API v40 (2024 年 9 月 21 日) に更新。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | カレンダーのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。呼び出し元が確認されると、このメソッドはカレンダー情報の完全なリストを示す XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<call method="exportCalendar" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
<output>
<calendars>
  <calendar id="1" isDefault="true" name="DefaultTimeHierarchy" />
</calendars>
</output>
</response>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | "true" または "false"。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 正確に 1 つの出力要素が必要です。 | | | |

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の必須カレンダー要素。この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| カレンダー エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | カレンダー | |
| 説明 | | 1 つ以上のカレンダー要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のカレンダー要素 | | | |

| カレンダー要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | カレンダー | |
| 説明 | | カレンダーを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 特定のカレンダーの特定の整数識別子を保持します。 | 1 |
| isDefault | あり | "true" または "false" のいずれかで、特定のカレンダーがデフォルト カレンダーであるかどうかを示します。 | 真 |
| 名前 | あり | カレンダー名を含みます。 | DefaultTimeHierarchy |
| code<br>*API v40* 以上で使用可能 | なし | カレンダー コードが存在する場合は、カレンダー コードが含まれます。 | DefaultTimeHierarchy |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**exportConfigurableModelData**

API v19 以上でサポート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

API v35 (2022 年 11 月 18 日) に更新。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Data retrieval |
| 説明 | 要求されたバージョンとインスタンスの要求されたモデル シートから行のセットを返します。 |
| 起動に必要な権限 | リクエストされているシート、バージョン、インスタンスへの読み取りアクセス権 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、モデル シート、バージョン、ジョブ |

注： exportConfigurableModelData からデータをストリーミングすると、パフォーマンスが向上し、エクスポートできるセルと行の数に対する制限が軽減されます。データをストリーミングするには、次の操作を行う必要があります。

- API v32 以上を使用してください。
- Set isGetAllRows=true.

このメソッドのリクエストには、返されるモデル行の決定に使用されるパラメータが含まれています。ユーザーには、モデル シートを含むシート、バージョン、インスタンスへの読み取りアクセス権が必要です。

ヒント： ベスト プラクティス: exportSheets を呼び出して、exportConfigurableModelData リクエストに必要なモデル シートの名前と ID を取得します。

リクエストのフォーマット

モデル シートのすべての行を取得するストリーミング呼び出し

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportConfigurableModelData" callerName="me">
   <credentials login="user@example.com" password="password"/>
   <version name="Budget 2017"/>
   <modeled-sheet name="Capital Model" isGlobal="false"
 includeAllColumns="false" isGetAllRows="true" useNumericIDs="false"/>
   <filters>
       <timeSpan start="Mar-2016" end="Dec-2017"/>
       <levels>
           <level name="Hosting" includeDescendants="true"/>
       </levels>
   </filters>
</call>
```

ストリーミングされていないストリーミングされていない呼び出し:

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportConfigurableModelData" callerName="me">
   <credentials login="user@example.com" password="password"/>
   <version name="Budget 2017"/>
   <job jobNumber="0" pageNumber="1"/>
   <modeled-sheet name="Capital Model" isGlobal="false"
 includeAllColumns="false" useNumericIDs="false"/>
   <filters>
       <timeSpan start="Mar-2016" end="Dec-2017"/>
       <levels>
           <level name="Hosting" includeDescendants="true"/>
       </levels>
   </filters>
</call>
```

| 認証情報要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 認証情報 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | モデル行を取得するバージョンを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | バージョンの名前。 | 予算 2 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の組織要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| モデル シート要素 | | | |
| タグ名 | | モデル シート | |
| 説明 | | どのモデル シートからモデル行を取得するかを指定します。モデル シートの ID または名前を識別子として使用します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | モデル シートの名前。 | 実行予算 |
| isGlobal | なし | シートがユーザー割当シートか組織割当シートかを指定します。True の場合、シートはユーザー割当シートです。false の場合、シートは組織割当シートです。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| isGetAllRows<br>*API v32+* でサポート | なし | 応答がシートからすべての行を取得するかどうかを指定します。True の場合、すべての行がページングなしで返され、<Levels> 要素は任意になり、<Job> 要素はリクエストでサポートされません。データのストリーミングをサポートするには true である必要があります。 | 真 |
| includeAllColumns<br>*API v22+* でサポート | なし | 回答にすべての列を含めるかどうかを指定します。true 以外の値は、すべて False となります。 | false |
| useNumericIDs<br>*API v22+* でサポート | なし | 回答内の内部 ID を数値形式にするかどうかを指定します。例: "100" vs "S100"。値がないか、"true" 以外のいずれかに設定されている場合 (大文字と小文字を区別しない): 結果は次のようになります。 `false`。<br>分割 ID の例 `true`:<br>• `271`<br>分割 ID の例 `false`:<br>• `S271` | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| displayNameEnabled<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=true\|false は、exportConfigurableModelData が の表示名プロパティを考慮すべきであることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、exportConfigurableModelData API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。exportConfigurableModelData API はプロパティを無視します。 `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 |
| includeCodes<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。 | false | このオプションが意味を持つのは、有効な有効化表示名の設定がオンになっている場合のみです。<br><br>API 応答に組織と各属性のコード列を含めるには、"true" に設定します。<br><br>"false" に設定すると、API 応答で組織と各属性のコード列が除外されます。<br><br>デフォルト値は false です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| includeNames<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。 | | このオプションが意味を持つのは、有効な有効化表示名の設定がオンになっている場合のみです。<br><br>API 応答に組織と各属性の名前列を含めるには、"true" に設定します。<br><br>"false" に設定すると、API 応答で組織と各属性の名前列が除外されます。<br><br>デフォルト値は false です。 | false |
| includeDisplayNames<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。 | | このオプションが意味を持つのは、有効な有効化表示名の設定がオンになっている場合のみです。<br><br>API 応答に組織と各属性の表示名列を含めるには、"true" に設定します。<br><br>API 応答で組織と各属性の表示名列を除外するには、"false" に設定します。<br><br>デフォルト値は false です。 | false |
| useAccountPrecision<br><br>*API v33+* でのみ使用可能です。 | なし | このオプションが意味を持つのは、isGetAllRows="true" の場合のみです。<br><br>科目の小数部桁数で数値列を出力するには、"true" に設定します。<br><br>isGetAllRows="true" である小数点以下の桁数が 9 の場合に、デフォルトの小数部桁数で数値列を出力するには、"false" に設定します。<br><br>デフォルト値は false です。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| useActualValue<br><br>*API v35* 以上でのみ使用可能です。 | なし | このオプションが意味を持つのは、isGetAllRows = "true" の場合に限られます。<br>• 数値列を出力する場合は「true」に設定します。<br>  • 編集可能な数値列の場合、これは生データになります。<br>  • 計算された数値列では、小数部桁数が 9 までの計算値になります。<br>• isGetAllRows="true" である小数点以下の桁数が 9 の場合に、デフォルトの小数部桁数で数値列を出力するには、"false" に設定します。<br><br>デフォルト値は false です。 | 真 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 職務エレメント<br>タグ名<br>説明 | | 職務<br>API コール ジョブの API ハンドラー シリアル番号を指定します。isGetAllRows が true の場合、この要素はサポートされません。 | |
| 要素の特性<br>特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| jobNumber | あり | 最初の呼び出しでは 0。応答で職務番号が返されます。後続のすべてのリクエストでこの職務番号を使用します。<br><br>API ハンドラーは、シートをメモリにロードするシート モデルを作成します。リクエストがタイムアウトしてガベージ コレクションが回収されるまで、シートはメモリに残ります。その後、このAPI は上記にリストされている他のパラメータとともに最初のページを返します。 | 2 |
| pageSize | なし | デフォルトの "pageSize" を上書きし、API ユーザーが各呼び出しで取得するページあたりの行数を指定できるようにします。jobNumber="0" の場合、最初の呼び出しでのみ有効です。<br><br>次の場合、pageSize は無視され、すべてのデータが最初のページに返されます。<br>• 指定された pageSize がシートの行数より大きい場合。<br>• シート内のセル数が 20,000 以下である場合。<br>• シートの行数が 500 以下の場合。 | 200 |
| pageNumber | あり | 複数のページが存在する場合に、リクエストされているページ番号を指定します。ページ番号のインデックスは "1" から始まります。<br><br>API ハンドラーは、同じリクエスト API と認証を使用して後続の呼び出しを行う同じユーザーに対するものです。<br><br>後続のリクエストは、最後の回答時間から 3 分以内にする必要があります。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| フィルタ要素 | | | |
| タグ名 | | フィルタ | |
| 説明 | | フィルタ関連要素のすべてのコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容<br>組織と列の要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | 1 つの組織要素のコンテナ - 行の取得元の組織を指定します。isGetAllRows が true の場合、この要素は任意です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容<br>1 つの組織要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | リクエストをフィルタするレベルを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | リクエストされている組織の名前。<br><br>名前は、有効な表示名設定がオフになっている場合にのみ、v30 より前のリクエストでサポートされます。 | 本社 |
| includeDescendants | なし | エクスポートに指定した組織のすべての子孫を含めるかどうかを示します。true に設定した場合、この組織のすべての子とその子以外もエクスポートします。false に設定した場合、この組織は単独でエクスポートされます。<br><br>"false" を示すと、Adaptive PlanningWeb UI | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| code<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。<br><br>エレメントの内容<br>組織名 | なし | エクスポートする組織のコード。このコードは "組織の管理" で指定されています。コード特性は API v31 で追加されました。<br><br>v30 より前の API リクエストで、有効な表示名の設定がオフになっている場合に、名前属性を使用します。 | false |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 列要素<br>タグ名<br>説明<br><br><br><br>要素の特性<br>特性名<br>エレメントの内容<br>1 つのモデル要素 | 必須？ | 列<br>モデルとシステムの 2 つの要素のコンテナです。モデル タグとシステム タグは、列の名前を指定する子列要素を持っています。<br><br>*API v33+* でのみ使用可能です。<br><br>値 | 例 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| モデル要素<br>タグ名<br>説明<br><br><br>要素の特性<br>特性名<br>エレメントの内容<br>子「列」要素が含まれます。モデルの列で期間要素を指定する場合、"期間" という名前を使用します。 | 必須？ | モデル<br>モデル シート列のセットを指定します。これには子列要素が含まれます。<br><br>*API v33+* でのみ使用可能です。<br><br>値 | 例 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| システム要素<br>タグ名<br>説明<br><br><br><br>要素の特性<br>特性名<br>エレメントの内容<br>子「列」要素が含まれます。 | 必須？ | system<br>システム列名のセットを指定します。指定可能なオプションは、"InternalID"、"ParentID"、"IsParent" です。<br><br>*API v33+* でのみ使用可能です。<br><br>値 | 例 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 列要素<br>タグ名<br>説明<br><br><br>

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つのモデル要素 | | | |

列の例

```
<columns>
   <model>
       <column>NumberCurrency</column>
       <column>Regional Code</column>
       <column>CountryRegion</column>
       <column>CalcAcctNum</column>
       <column>Level Currency</column>
       <column>Invalid Column Name</column>
       <column>InitialBalance</column>
       <column>Timespan</column>
   </model>
   <system>
       <column>InternalID</column>
       <column>Invalid System Column Name</column>
       <column>IsParent</column>
       <column>ParentID</column>
   </system>
</columns
```

| timeSpan element | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | timeSpan | |
| 説明 | | モデル シートに timeSpan 要素が含まれている場合、開始と終了はシートからエクスポートするデータの期間を指定します。timeSpan が含まれていない場合は、バージョンのすべての日付範囲からデータがエクスポートされます。内部期間コードを使用してください ( カレンダー構造の変更 ( 780ページ ) ) またはシート ビューからのローカライズされた時間ラベル。これは、timeSpan の開始または終了を示します。<br><br>TimeSpan は、 のモデル シートの "開始" と "終了" における最下位時間の選択の "表示オプション" > "時間設定" の機能を重複させます。 Adaptive PlanningUI | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 開始 | なし | エクスポートする範囲の最初の期間のシートに表示される時間コードまたはローカライズされた時間ラベル。開始期間は最下位期間でなければなりません。start が指定されていない場合は、バージョンの開始が使用されます。 | 2016 年 1 月<br><br>01/2016 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 終了 | なし | エクスポートする範囲の最後の期間の時間コードまたはローカライズされた時間ラベル。終了期間は最下位期間である必要があります。end が指定されていない場合は、バージョンの終わりが使用されます。 | 2016 年 11 月<br>11/2016 |

**timeSpan examples**

2016 年 1 月に開始し、2016 年 4 月に終了する。2016 年 1 月は、時間管理 UI に表示される内部期間コードです。2016/04 はシート時間ラベルです。

```
<timeSpan start="Jan-2016 end="04/2016"/>
```

2016 年 2 月に開始し、バージョンの終了日に終了する。2016/02 はシート時間ラベルです。

```
<timeSpan start="02/2016"/>
```

バージョンの開始日から開始し、2016 年 11 月で終了する。2016 年 11 月は、時間管理 UI に表示される内部期間コードです。

```
<timeSpan start="" end="Nov-2016"/>
```

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
   <output>
       <data jobNumber="3">
           <!
[CDATA["InternalID","Plan","CapitalAssetClass","Label","Price","Currency","Mar-2016","Q1
FY16","Apr-2016","May-2016","Jun-2016","Q2-
FY16","Jul-2016","Aug-2016","Sep-2016","Q3-
FY16","Oct-2016","Nov-2016","Dec-2016","Q4-
FY16","FY2016","Jan-2017","Feb-2017","Mar-2017","Q1-
FY17","Apr-2017","May-2017","Jun-2017","Q2-
FY17","Jul-2017","Aug-2017","Sep-2017","Q3-
FY17","Oct-2017","Nov-2017","Dec-2017","Q4-FY17","FY2017"
"S1325","Development","Furniture","Chairs","90","USD","","","","","","","","","","","","
"S1326","Development","Furniture","Desks","200","USD","","","","","","","","","","","","
"S1327","Development","Computers","EngineerWS","2500","USD","","","","","","","","","","","","
"S1328","Development","Computers","ManagerWS","1000","USD","","","","","","","","","","","","
"S1323","G &
 A","Facility","Garage","","USD","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","
"S1324","G &
 A","OtherEquipment","CD_Maker","","USD","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","","
       </data>
   </output>
</response>
```

| 回答エレメント |
|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | |
|---|---|
| メッセージ要素 | |
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上のメッセージ要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| メッセージ要素 | | | |
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストの口ケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |
| メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定された口ケールの言語になります (その口ケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。<br><br>ストリーミング バージョンの API の場合 (isGetAllRows="true"): 行のストリーミング中に API が失敗すると、xml タグがクローズされ、次のようなメッセージが追加されます。<br><br>`Exporting configurable model data failed. Retry the export. Contact Support if the export continues to fail.` | | | |

| | |
|---|---|
| 職務エレメント | |
| タグ名 | 職務 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | 返されたデータのジョブおよびデータ ページング情報を指定します。これにより、ユーザーは一連の呼び出しを実行して、モデル シートからフィルタされたデータセットのすべてのデータを抽出できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| jobNumber | なし | サーバーによって割り当てられた API 呼び出しジョブ専用の API ハンドラー シリアル番号。後続のすべてのリクエストで使用されます。 | 2 |
| numberOfPages | なし | フィルタ セットで使用可能なデータの合計ページ数 | 3 |
| pageNumber | なし | 返される現在のデータセットのページ番号 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の組織要素アクセスできない組織がリクエストに含まれている場合、組織要素は 1 つしかなくなりません。これは組織の最上位組織を表します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出力要素 | | | |
| タグ名 | | 出力 | |
| 説明 | | 出力タグには、データ タグという 1 つの子要素があります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| Level | なし | この行または分割/行が存在する組織の名前。これは、リクエストされている組織が合計組織であるかどうかに関係なく表示されます。 | Engineering |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一のデータ要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | データ | | |
| 説明 | 応答は、エクスポートされるモデル行の CSV 形式のデータ ダンプを含む CDATA ブロックを返します。CDATA ブロックの最初の行は CSV の「ヘッダー行」であり、それ以降の行はすべてデータ行です。フィルタリング リクエストに一致する行がない場合は、ヘッダー行のみが出力されます。<br><br>CSV の列は、最大 5 つの内部対象のハードコードされた列で始まります。これらの列により、行とその変更不可のプロパティの一部を識別できます。次のいずれかに関係なく、シート上の列に表示されます。<br><br>• 個々のユーザーが表示オプションで非表示にしている可能性があります<br>• 列が読み取り専用かどうか。<br><br>API 応答のすべての列はシートで表示される/定義された列であり、宣言された列ヘッダーはヘッダー行のラベルです。これには、シートに配置されたすべての特性列が含まれます。期間科目の場合、列ヘッダーは現在のバージョンの月を exportDataAPI と同じ形式で表します。 | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| totalRowCount<br><br>*isGetAllRows=true* の場合に、*API v35* 以上で使用できます。 | なし | この特性は、ストリーミング バージョンの API のデータ要素に追加されます。モデル シートがエクスポートを想定している行の合計数を示します。 | "10" |

エレメントの内容
以下を含む CDATA ブロック

- 有効な CSV 形式でフォーマットされている行。
  - 文字列は二重引用符で囲みます。
  - 数値は 標準形式 (ロケールに依存しない形式) で出力されます。カンマは削除されています
  - 属性とテキスト セレクターは選択した値を出力します。値がない場合、空の文字列を送信します。
- 親行を生成するとき、分割可能な列は CSV で 空白 として表示されます (合計値や「可変」値は表示されません)。
- 子行/分割行を生成する場合、 分割不可の 列は親行の値を含むものとして表示されます。これは、Adaptive Planning Web UI でのシートの動作と同じです。

ステータス要素

| | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名<br>説明 | ステータス<br>データがストリーミングされている場合 *(isGetAllRows="true")*、*API v35+* でのみ使用できます。<br><br>ステータス タグは、ストリーミング バージョンの API の成功ケースと失敗ケースの両方について、出力タグの後に追加されます。 | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | すべてのデータがストリーミングされた場合は、success="true" を返します。エラーがある場合 (すべての行がストリーミングされる前の検証または失敗による)、success = "false" を返します。 | 真 |
| rowCountSent | なし | 送信された行数または行数。それが失敗した応答である場合、この数値はデータ要素に設定された totrollCount 値と一致しません。 | 1 |

エレメントの内容
(なし)

ストリーミング バージョンの **API** で **useNumericIds = "true"** の場合 **(isGetAllRows=true)**、**parentId** から **"S"** を削除

API のバージョン 35 以降、parentId の値に "S" プレフィックスが含まれなくなります。

ストリーミング バージョンの **API** の値の「**"** をエスケープ **(isGetAllRows=true)**

バージョン 35 の API 以降では、" が含まれる列の値は、CSV スタイルの形式でエスケープされます (" は "" で表されます)。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ストリーミング中の失敗シナリオの処理

行のストリーミングの進行中に API が失敗した場合、xml タグがクローズされ、エラー メッセージが送信されます。

```
Exporting configurable model data failed. Retry the export. Contact Support if
the export continues to fail.
```

回答例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
<output>
<data>
<!
[CDATA["InternalID","Level","Plan","CapitalAssetClass","Label","Price","Currency","Jan-2
FY10","Apr-2010","May-2010","Jun-2010","Q2-
FY10","Jul-2010","Aug-2010","Sep-2010","Q3-
FY10","Oct-2010","Nov-2010","Dec-2010","Q4-
FY10","FY2010","Jan-2011","Feb-2011","Mar-2011","Q1-
FY11","Apr-2011","May-2011","Jun-2011","Q2-
FY11","Jul-2011","Aug-2011","Sep-2011","Q3-
FY11","Oct-2011","Nov-2011","Dec-2011","Q4-
FY11","FY2011","Jan-2012","Feb-2012","Mar-2012","Q1-
FY12","Apr-2012","May-2012","Jun-2012","Q2-
FY12","Jul-2012","Aug-2012","Sep-2012","Q3-
FY12","Oct-2012","Nov-2012","Dec-2012","Q4-
FY12","FY2012","Jan-2013","Feb-2013","Mar-2013","Q1-
FY13","Apr-2013","May-2013","Jun-2013","Q2-
FY13","Jul-2013","Aug-2013","Sep-2013","Q3-
FY13","Oct-2013","Nov-2013","Dec-2013","Q4-
FY13","FY2013","Jan-2014","Feb-2014","Mar-2014","Q1-
FY14","Apr-2014","May-2014","Jun-2014","Q2-
FY14","Jul-2014","Aug-2014","Sep-2014","Q3-
FY14","Oct-2014","Nov-2014","Dec-2014","Q4-FY14","FY2014"
"S289","HQ","Development","Furniture","Chairs","90","USD","","","","","","","","","","
"S290","HQ","Development","Furniture","Desks","200","USD","","","","","","","","","","
"S291","HQ","Development","Computers","EngineerWS","2500","USD","","","","","","","","
"S292","HQ","Development","Computers","ManagerWS","1000","USD","","","","","","","","
"S287","HQ","G &
 A","Facility","Garage","","USD","","","","","","","","","","","","","","","","","","","
"S288","HQ","G &
 A","OtherEquipment","CD_Maker","","USD","","","","","","","","","","","","","","","","
</data>
</output>
<messages>
<message>Exporting configurable model data failed. Retry the export. Contact
 Support if the export continues to fail.</message>
</messages>
</response>
```

ストリーミングを伴うステータス **API v35** の応答の例 **(isGetAllRows="true")**

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response>
<output>
<data totalRowCount="6">
<![CDATA["InternalID","CapitalAssetClass","Price"
"S289","Furniture","90"
"S290","Furniture","200"
"S291","Computers","2500"
"S292","Computers","1000"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
"S287","Facility",""
"S288","OtherEquipment",""]]>
</data>
</output>
<status success="true" rowCountSent="6"></status>
<messages>
<message>System Column names [Invalid System Column Name] specified in the
 request weren't found and will be ignored.</message>
<message>Model Column names [timespan,invalid column name] specified in the
 request weren't found and will be ignored.</message>
</messages>
</response>
```

無効な列名に関する警告メッセージ

リクエストで無効な列名が指定されている場合、メッセージが送信されます。

回答例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
<output>
<data>
<![CDATA["InternalID","CapitalAssetClass","Price"
"S289","Furniture","90"
"S290","Furniture","200"
"S291","Computers","2500"
"S292","Computers","1000"
"S287","Facility",""
"S288","OtherEquipment",""]]>
</data>
</output>
<messages>
<message>System Column names [Invalid System Column Name] specified in the
 request weren't found and will be ignored.</message>
<message>Model Column names [timespan,invalid column name] specified in the
 request weren't found and will be ignored.</message>
</messages>
</response>
```

**exportCustomerLogo**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 顧客ロゴの取得に使用できる URL を返します |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドは顧客ロゴを示す URL を含む XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportCustomerLogo" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
 <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
 <response success="true">
  <output>
    <logos>
      <logo url="/logo/DCNT/55.jpg?
ticket=-1183195070:1:s&login=sampleuser@company.com" />
    </logos>
  </output>
 </response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 出力要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |

| エレメントの内容 |
|---|
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 |

| ロゴ エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | ロゴ | |
| 説明 | | 1 つのロゴ エレメントのコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| ロゴ エレメント 1 つ。 | | | |

| ロゴ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | logo |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | exportCustomerLogo API コールへの応答で顧客ロゴを取得できる URL を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| url | あり | 顧客ロゴを取得できる URL です。このインスタンスで顧客ロゴが定義されていない場合は、空の文字列になります。 | /logo/DCNT/55.jpg?ticket=-1183195070:1:s&login= |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**exportData**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データ取得 |
| 説明 | リクエスト インスタンス内のリクエストされたバージョンからデータ セットを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、バージョン、フォーマット、フィルタ |

このメソッドのリクエストには、指定されたバージョンのデータを検索し、リクエストされたフィルタおよびフォーマットに一致する値を返すために使用されるパラメータが含まれています。これは Adaptive Planning からデータを取得するために使用される基本的な方法であり、標準科目、GL 科目、モデル科目、キューブ科目、カスタム科目、メトリック科目、前提条件、為替レートを含むあらゆる科目から値を取得するために使用できます。

計画バージョンをエクスポートする場合、エクスポートには実績のオーバーレイ期間の実績データが含まれます。シートの UI と同様に、実績または計画データが表示されます。

注： エクスポート時に個々の分割の値を集計 `exportData`.

注： API v16 以降の場合は、以下のようになります。 `exportData` 仮想バージョンのデータもエクスポートします。

参照 customReportValues（2142ページ）は、より対象を絞ったデータ取得のアプローチに使用します。

参照 参考: exportData パフォーマンス（2781ページ） 2024R1 でリリースされた API v39 のパフォーマンスと拡張性の改善をリクエストで活用する方法について。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportData" callerName="a string that identifies your client
 application" stream="true">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
<version name="Budget 2014" isDefault="false"/>
<format useInternalCodes="true" includeUnmappedItems="false" />
<filters>
<accounts>
<account code="A100" isAssumption="true" includeDescendants="false"/>
<account code="L100" isAssumption="false" includeDescendants="true"/>
</accounts>
<levels>
<level name="Development" isRollup="true" includeDescendants="true"/>
<level name="QA" isRollup="false" includeDescendants="false"/>
</levels>
<dimensionValues>
<dimensionValue dimName="Customer" name="A Corp" directChildren="true"/>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<dimensionValue dimName="Region" name="" uncategorized="true"
 directChildren="false"/>
</dimensionValues>
<timeSpan start="11/2013" end="12/2014"/>
</filters>
<dimensions>
<dimension name="Product"/>
<dimension name="CountryRegion"/>
</dimensions>
<rules includeZeroRows="false" includeRollups="false"
 markInvalidValues="false" markBlanks="false" timeRollups="single">
<currency useCorporate="false" useLocal="false" override="AUD"/>
</rules>
</call>
```

この API コールの各呼び出しには、リストされた各タイプの要素を 1 つずつ含める必要があります。

- 呼び出す
- 認証情報
- バージョン
- フォーマット

リクエストには次の要素のいずれかを含めることができます。

- フィルタ
  - 科目 > 科目
  - > 組織
  - dimensionValues > dimensionValue
  - timeSpan
- 属性 > 属性
- ルール > 通貨

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素の呼び出し | | | |
| タグ名 | | 呼び出す | |
| 説明 | | そのメソッド属性を使用して呼び出されている API メソッドを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 方法 | あり | 呼び出されるメソッド。 | exportData |
| callerName | あり | クライアント アプリケーションを識別する文字列。 | "Adaptive Planning クライアント アプリケーションの例" |
| stream<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | 処理されるとすぐに、exportData がクライアントへのデータのストリーミングを開始できるようにします。デフォルトでは、false に設定されています。exportData でストリーミングを有効化するには、応答形式を変更する必要があることに注意してください。 | true |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のタイプごとに 1 つの要素を正確に入力します。

- 認証情報
- バージョン
- フォーマット

| | | |
|---|---|---|
| 認証情報要素 | | |
| タグ名 | | 認証情報 |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しを成功させるためには、アクションを実行するために必要な権限がユーザーに与えられている必要があります..<br><br>注： Planning UI の "エクスポート機能" 権限は、exportData には影響しません。 |
| 要素の特性 | | |

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| 以下 | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | リクエストされたデータの取得に使用するバージョンを示します。呼び出しごとにバージョンを指定する必要があります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | なし | データの受信に使用されるバージョンの名前。1 つの API コールでアクセスできるバージョンは 1 つだけです。名前が指定されていない場合は、この要素の isDefault フラグを true に設定する必要があります。 | 2014 年予算 |
| isDefault | なし | 呼び出し元が名前に関係なく、インスタンスの現在のデフォルト バージョンにアクセスしたい場合、この特性は true に設定できます。その場合、タグの name 特性 (存在する場合) は無視されます。そうしないと、この値が false の場合、またはこの特性が存在しない場合、この呼び出しを成功させるためには、指定された名前のバージョンが存在し、ユーザーがアクセスできる必要があります。 | false |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| フォーマット要素 | |
|---|---|
| タグ名 | |
| 説明 | |
| 要素の特性 | |
| 特性名 | 必須？ |
| useInternalCodes | あり |
| useIds | なし |
| includeUnmappedItems | なし |
| includeCodes | なし |
| includeNames<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし |
| includeDisplayNames<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし |
| displayNameEnabled<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし |
| エレメントの内容 | |
| (なし) | |

| フィルタ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | フィルタ |
| 説明 | リクエストされたバージョンのどのデータを API で取得するかを決定するフィルタの仕様を保持します。この要素は、取得する科目、組織、月、および属性値を指定します。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の必須の科目要素、単一の任意の組織要素、必須の単一の timeSpan 要素、および任意の単一の dimensionValues 要素。 | |

| 科目要素 |
|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| タグ名 | 科目 |
| 説明 | 1 つ以上の科目要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の科目要素 | |

科目要素

| | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | exportData API コールでデータをエクスポートする科目を指定します。複数の科目要素が科目要素内に配置されている場合、いずれかの科目要素に一致するすべての科目がエクスポートされます。特定の科目要素の結果が一致する科目がない場合、その要素は無視されますが、他の要素は引き続き適用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| コード | あり | エクスポートする科目のコード。このコードは "科目の管理" で指定されます。 | Current_Assets |
| isAssumption | あり | コードが前提条件科目または非前提条件科目を指定しているかどうかを示します。前提条件と科目の両方に単一のコードを使用できます。このフラグを使用して科目のタイプを示します。 | false |
| includeDescendants | あり | エクスポートに指定した科目のすべての子孫を含めるかどうかを示します。true に設定した場合、この科目のすべての子 (その子など) がエクスポートされます。false に設定した場合、この科目は単一の合計科目値としてエクスポートされます。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

組織要素

| | |
|---|---|
| タグ名 | 組織 |
| 説明 | 1 つ以上の組織要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の組織要素アクセスできない組織がリクエストに含まれている場合、組織要素は 1 つしかなくなりません。これは組織の最上位組織を表します。 | |

組織要素

| | |
|---|---|
| タグ名 | level |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 説明 | |
|---|---|
| 要素の特性 | |
| 特性名 | 必須？ |
| コード | あり |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | "コード" は常に "名前" と相互排他的です。これらの条件が両方とも当てはまる場合、コードのみを使用する必要があります。<br>• "表示名の有効化" 設定がオン<br>• フォーマット要素の displayNameEnabled="true"<br>それ以外の場合は、コードを含めません。 |
| 名前 | あり<br>名前は常にコードと相互排他的です。format 要素で displayNameEnabled="false" にした場合は、name のみを使用します。指定されていない場合は、これがデフォルトになります。 |
| isRollup | あり |

exportD
組織を指
配置され
ポートさ
に一致で
すが、作

次のすべ
ドでフィ

- イ
  タ
- A
- フ
  D

値
エクスポ
ド。この
Adminis

"コード
定がオン
ます。

エクスポ
名称は、
ものです

名前は、
になって
の API
ます。

API はこ
まれる各
よって組
性は機能
われます
するには
が一致し
この組織
合、isR
合計値 (
出力し、
織の未分
値) のみ
のデータ
は、isR
(または
ありま

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| includeDescendants | あり | エクスポ<br>ての子孫<br>す。true<br>のすべて<br>す。同様<br>されます<br>この組織<br>ます。こ<br>ことに注<br>はこの組<br>します。<br>孫も工ク<br>るかどう<br>includeD<br>に設定さ<br>ある場合<br>孫におい<br>(未分類 |

エレメントの内容
(なし)

| 期間要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | timeSpan | |
| 説明 | | 応答で返される期間を示します。指定された範囲 (以下を含む) の期間は、データの個別の列として出力に含まれます。集計またはロールアップされていない。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| start | あり | データがエクスポートされる期間の範囲内の最初の期間のコード。開始期間は最下位期間でなければなりません。 | 2015/01 |
| 終了 | あり | データがエクスポートされる期間の範囲内の最後の期間のコード。終了期間は最下位期間である必要があります。 | 03/2015 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| stratum | なし | エクスポートされたデータの時間層のコード。指定する場合、開始期間と終了期間がその時間層内に収まっている必要があります。時間層は、リクエストで最上位の時間層を持つ科目と同じかそれ以上である必要があります。次を参照してください。<br>• デフォルトの時間層の変更 ( 788ページ ) .<br>• データを含むキューブ シートおよびモデル シートでのデフォルトの時間層の変更 ( 792ページ ) .<br>たとえば、四半期の層を示すには、すべての科目の層が四半期、年、またはそれ以上である必要があります。 | month |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | |
|---|---|
| dimensionValues element | |
| タグ名 | dimensionValues |
| 説明 | 1 つ以上の dimensionValue 要素のコンテナです。この要素は任意であり、属性値のフィルタリングが必要でない場合は表示されません。 |
| 要素の特性<br>(なし) | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の dimensionValue 要素 | |

| | |
|---|---|
| dimensionValue element | |
| タグ名 | dimensionValue |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | 指定された dimensionValue に一致する値のみをエクスポート データに含めることを示します。dimensionValues 要素内の異なる属性からの複数の値は、属性によってグループ化されたものとして機能します。各属性で dimensionValue の少なくとも 1 つが一致する場合、データが返されます。同じ属性内の dimensionValues では、データはどの属性値にも一致します。たとえば、リクエストで属性値として「Region=East」、「Region=West」、「Product=Product_A」が指定されている場合、データは「East」または「West Region」のいずれかに一致する必要がありますが、エクスポートされるには「Product_A Product」とも一致している必要があります。<br><br>次のすべての条件を満たす場合、名前ではなくコードでフィルタする必要があります。<br>• インスタンスでは "表示名" をオンにして、メタデータの重複が有効になっています。<br>• API v30 以上を呼び出す。<br>• フォーマット要素の displayNameEnabled プロパティが true である。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| dimName | なし | 属性値が属する属性の名前 (下記の名前特性を参照)。 | 地域 |
| コード<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | エクスポートする属性値のコード。code 特性が意味を持つのは、そのインスタンスに対して有効な表示名の設定がオンになっている場合のみです。 | |
| 名前 | なし | エクスポートする属性値の名前。<br><br>名前は、有効な表示名の設定がオフになっている場合にのみ、v30 以前の API リクエストでサポートされます。 | 米国西部 |
| directChildren | なし | true に設定すると、API によってこの属性値の直接の子それぞれの合計データがエクスポートされますが、値自体の合計はエクスポートされません。つまり、これによって exportData によって、指定された値から属性ツリーの "1 レベル下" の値がエクスポートされます。指定しない場合は、デフォルトで false になります。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 未分類 | なし | 真に設定した場合、属性値の「未分類」値と一致し、その子孫値 (存在する場合) の値とは一致しません。子のない属性値には影響しません。指定しない場合は、デフォルトで false になります。 | true |
| uncategorizedOfDimension | なし | dimName/name 特性の代わりに uncategorizedOfDimension を指定します。<br>• 指定された場合、特性の値は (属性値ではなく) 属性の内部システム ID 番号である必要があります。フィルタと一致するためには、この属性でデータが完全に分類されていない必要があることを指定します。<br>• "direct子" 特性と "uncategorized" 特性は無視され、それぞれ false および true であると想定されます。<br>• dimName が指定されていても無視されます。 | 15 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| directChildrenOfDimension | なし | dimName/name 特性の代わりに、directChildlenOfDimension を指定します。<br>• 指定された場合、特性の値は (属性値ではなく) 属性の内部システム ID 番号である必要があり、フィルタは属性のすべての最初のレベルの属性値を指定します。<br>• "direct子" 特性と "uncategorized" 特性は無視され、それぞれ true および false であるとみなされます。<br>• dimName または uncategorizedOfDimension が指定されていても無視されます。 | 12 |
| ID | なし | dimName/name 特性の代わりに ID を指定してください。<br>• エクスポートする属性値の内部システム ID 番号。属性値を指定するには、dimName/name 特性の代わりに指定する必要があります。内部 ID を決定するには、exportDimensions API を参照してください。<br>• dimName、uncategorizedOfDimension、または directChildlenOfDimension が指定されていても無視されます。 | 14 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | |
|---|---|
| 属性要素 | |
| タグ名 | 属性 |
| 説明 | 1 つ以上の属性要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の属性要素 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | エクスポートされたデータを指定した属性でブレークダウン (スライス) する必要があることを示します。このタグはフィルタ タグの一部ではなく、フィルタリングを制御しません。代わりに、科目と組織の組み合わせごとにエクスポートされる行数を制御します。属性タグで指定された各属性について、既存の値の組み合わせはそれぞれ別の行のデータとしてエクスポートされます。属性要素に含まれる各属性により、その属性名でラベル付けされた追加の列が出力に表示されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | エクスポートをスライスする属性の名前。属性によってスライスすることができないエクスポート内のデータ行は 1 回だけ表示され、この属性の属性値名が表示される列に属性名自体が表示されます。 | 顧客 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| ルール要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | ルール | |
| 説明 | | 出力される行のタイプと一部のフィールド値がどのように表示されるかを制御する追加の出力ルールを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| includeZeroRows | なし | "true" に設定すると、ゼロまたは空白のみの場合でも行が除外されます。データのない行を出力から除外するには、"false" に設定します。デフォルト値は false です。<br><br>このオプションは、アプリケーション ユーザー インターフェイス内では、属性を含むエクスポートでは使用できません。<br><br>API コールでは、属性別にデータをエクスポートするときは True が無視されます。データのある属性値のデータのみが出力されます。 | true |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| includeRollups<br>API v24 以前で使用できます。<br>API v25+ では使用できません。 | なし | 真に設定した場合、子孫の値に加えて、フィルタ タグ内のすべての科目と組織の合計値が含まれます。この特性は、dimensionValue フィルタまたは属性タグで指定されたカスタム属性がどのように機能するかには影響しません。デフォルト値は false です。includeRollups フラグは、科目または組織に明示的なフィルタリングが適用されていない場合にのみ適用されます。フィルタに個々の科目が含まれている場合、含めるには個々の合計科目を指定する必要があります。 | false |
| includeRollupAccounts<br>API v25+ で使用できます。 | なし | 真に設定した場合、フィルタ タグ内のすべての科目の合計値が、子孫の値に加えて含まれます。この特性は、dimensionValue フィルタまたは属性タグで指定されたカスタム属性がどのように機能するかには影響しません。デフォルト値は false です。 | false |
| includeRollupLevels<br>API v25+ で使用できます。 | なし | 真に設定した場合、フィルタ タグ内のすべての組織の合計値が子孫の値に加えて含まれます。この特性は、dimensionValue フィルタまたは属性タグで指定されたカスタム属性がどのように機能するかには影響しません。デフォルト値は false です。 | false |
| markInvalidValues | なし | true に設定した場合、エクスポート時に無効な値に文字 "I" が追加されます。それ以外の場合は、無効な値に "=NA()" を追加して Excel との互換性を持たせます。デフォルト値は false です。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| markBlanks<br><br>API v24 で更新されました。 | なし | 真に設定した場合、空白値は "B" として出力されます。そうしないと、空白の値はゼロとして出力されます。デフォルト値は false です。<br><br>includeZeroRows=false の場合、空白とゼロのみを組み合わせた行は、markBlanks=true であっても応答に出力されません。 | false |
| timeRollups | なし | 真、偽、単一の 3 つの値があります。true に設定すると、四半期および年の合計は、エクスポートされた月単位内の適切な位置に表示されます。四半期の合計は四半期の最後の月の直後に表示され、年の合計は最終四半期の四半期合計の直後に表示されます。単一に設定した場合、個々の月、四半期、または年は返されず、期間要素に含まれるすべての月の単一の時間合計のみが返されます。false に設定すると、時間合計列は使用されず、個々の月のみが返されます。デフォルト値は false です。 | false |
| エレメントの内容<br>任意の通貨要素。エクスポートで使用する通貨を指定します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 通貨要素 | | | |
| タグ名 | | 通貨 | |
| 説明 | | 通貨科目の値を出力するときに出力で使用すべき通貨を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| useCorporate | なし | 通貨要素に設定できるのは、3 つの属性のうち 1 つのみです。useCorporate が true に設定されている場合、「社用通貨」(組織ツリーの最上位にある通貨)を使用する必要があることを示します。デフォルト値は false です。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| useLocal | なし | 通貨要素に設定できるのは、3 つの属性のうち 1 つのみです。useLocal が true に設定されている場合は、通貨値が存在する組織組織の通貨で通貨値を出力する必要があることを示します。出力の各行は組織を示し、その行の通貨値はその組織の通貨になります。デフォルト値は false です。 | false |
| 上書き | なし | 通貨要素に設定できるのは、3 つの属性のうち 1 つのみです。上書きが存在する場合、インスタンスに対して設定された通貨のいずれかの 3 文字の通貨コードを指定する必要があります。指定すると、エクスポートされるすべての通貨金額がその通貨に換算されます。 | AUD |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

注： 以下の要素により、(適切な権限を持つ) ユーザーは任意の時間合計のエクスポートをリクエストできます。これらのエレメントには、API v40 以上を使ったリクエストが必要です。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 時間要素 | | | |
| タグ名 | | time | |
| 説明 | | データのエクスポート時に期間をマッピングするために使用するカレンダー XML を含む。これは、 で生成された時間 XML を抽出した形式である必要があります。 exportTime ( 2305ページ ) APIこのセクションに含まれる期間は、フィルタの期間要素と一致している必要があります。この要素は、任意の合計カレンダーを使用する場合にのみ必要です。<br><br>API v40 以降でのみ使用可能です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 層要素 | | | |
| タグ名 | | stratum | |
| 説明 | | カレンダーの層を表します。<br><br>API v40 以降でのみ使用可能です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| コード | あり | 時間層の一意のユーザー定義識別子。 | 年 |
| ID | あり | システムによって生成される時間層の一意の整数識別子。 | 7 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| エレメントの内容<br>(なし) |
|---|

| 期間要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 期間 | |
| 説明 | | 単一の暦期間を表します。<br><br>API v40 以降でのみ使用可能です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| コード | あり | 期間の一意のユーザー定義の識別子。 | 2004 年第 1 四半期 |
| stratumId | あり | 期間が属する層の ID。 | 2 |
| timeslot | あり | 期間のタイム スロット。 | 16 |
| ID | あり | システムによって生成される期間の一意の整数識別子。 | 16002 |
| start | あり | YYYY-MM-DD の形式で指定された期間の開始日 (含む)。 | 2004-01-01 |
| 終了 | あり | YYYY-MM-DD の形式での、期間の終了日 (除外)。 | 2004-01-01 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

任意の時間合計のリクエストの例を次に示します。

```
<call method="exportData" callerName="test caller api name">
<credentials login="admin@example.com" password="password" locale="en_US"
 instanceCode="EXAMPLEINST" />
<version name="Budget 2004" isDefault="true" />
<format useInternalCodes="true" includeUnmappedItems="false"
 useIds="false" />
<rules includeZeroRows="false" includeRollupAccounts="true"
 includeRollupLevels="false" markInvalidValues="false" markBlanks="false"
 timeRollups="false">
   <currency useCorporate="false" useLocal="true" />
</rules>
<filters>
   <accounts>
       <account code="70310" isAssumption="false"
 includeDescendants="true" />
   </accounts>
   <timeSpan start="01/1999" end="06/1999" />
</filters>
<time isCustom="1">
   <stratum code="month" label="Month" shortName="Month" id="1" />
   <period code="01/1999" label="Jan-1999" shortName="Jan" stratumId="1"
 id="-12001" start="1999-01-01" end="1999-02-01" />
 <period code="02/1999" label="Feb-1999" shortName="Feb" stratumId="1"
 id="-11001" start="1999-02-01" end="1999-03-01" />
 <period code="03/1999" label="Mar-1999" shortName="Mar" stratumId="1"
 id="-10001" start="1999-03-01" end="1999-04-01" />
 <period code="04/1999" label="Apr-1999" shortName="Apr" stratumId="1"
 id="-9001" start="1999-04-01" end="1999-05-01" />
 <period code="05/1999" label="May-1999" shortName="May" stratumId="1"
 id="-8001" start="1999-05-01" end="1999-06-02" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 <period code="06/1999" label="Jun-1999" shortName="Jun" stratumId="1"
 id="-7001" start="1999-06-01" end="1999-07-01" />
</time>
</call>
```

回答フォーマット

非ストリーミングの応答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<messages>
<message key="warning-invalid-timespan-start">Ignoring start of timespan,
 which precedes start of version; timsepan start: Nov-2009, version start
 date: Jan-2014</message>
</messages>
<output><![CDATA[
Account Name,Account Code,Level Name,
[01/2014,02/2014,03/2014,04/2014,05/2014,06/2014,07/2014,08/2014,09/2014,10/2014,11/2014
"Benefits",30120,"Engineering
 (Rollup)",10653.75,10653.75,10653.75,11506.05,11506.05,11506.05,11506.05,11506.05,11506
"Furniture",70310,"Engineering
 (Rollup)",1740.0,2610.0,2610.0,2610.0,2610.0,2610.0,2610.0,2610.0,2610.0,2610.0,
...
]]>
</output>
</response>
```

ストリーミング用の応答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response>
<output>
<![CDATA[Account Name,Account Code,Level
 Name,Q1-2004,Q2-2004,Q3-2004,Q4-2004,Q1-2005,Q2-2005
"Current
 Assets","Current_Assets","Engineering",33.0,33.0,33.0,33.0,33.0,33.0
"Other Assets","Other_Assets","Engineering",41.0,41.0,41.0,41.0,41.0,41.0]]>
</output>
<messages>
<message>Exporting data failed. Retry the export. Contact Support if the
 export continues to fail. </message>
</messages>
<status success="false" rowCountSent="2"/>
</response>
```

注：ストリーミング リクエストと非ストリーミング リクエストでは、応答の構造が変更されていることに注意してください。たとえば、メッセージ要素とステータスは出力後に発生します。

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 回答 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |

エレメントの内容
単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。

メッセージ要素
タグ名 メッセージ
説明 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。
要素の特性
(なし)
エレメントの内容
1 つ以上のメッセージ要素

メッセージ要素
タグ名 メッセージ
説明 システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。
要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |

エレメントの内容

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | output |
| 説明 | エクスポートの結果データが、CDA ブロックに含まれます。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| エクスポートの CSV 形式のデータを含む CDA ブロック。行は改行文字で区切られます。返されるデータの最初の行は、後続の各行の形式を説明する一連の "列ヘッダー" です。属性とフィルタリング要素が最初に表示され、その後に一連の要求された期間値が表示されます。合計組織の "(Rollup)" サフィックスなどの期間コードとシステムが生成するラベルは、可能な場合、リクエストのロケールに翻訳されます。値は、小数点記号としてピリオドを使用し、カンマのない標準化された形式で出力されます。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ステータス要素 | | | |
| タグ名 | | status | |
| 説明 | | リクエストおよび行数のステータス情報が含まれます (ストリーミング リクエストのみ) | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | "true" または "false"。リクエストが正常に完了したかどうかを通知します。正常に完了したリクエストにも、警告メッセージが含まれている場合があります。<br>注：これは、ストリーミング リクエストにおいてのみ応答の属性を置き換えます。 | "true" |
| rowCountSent | あり | r"\d+".回答内の行数を数値で表します。 | "10" |

**exportDimensionFamilies**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 科目のセットと属性のセットの間の関係を示すメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドは一連の属性ファミリーを記述した XML ドキュメントを返します。これは、特定の属性セットが特定の科目セットにどのように関連するかを表したものです。各ファミリーは、科目のセットと属性のセットで構成されています。このことは、これらの属性が当該科目に適用される一方、他の属性は適用されないことを示します。科目と属性は複数の系列に属する場合があります。系列は次のように定義されます。

- モデル シートの科目はそのシートのファミリーに属します。このファミリーには、そのシートに配置されたすべての属性と組織のすべての属性が含まれます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- キューブ シート上の科目はそのシートのファミリーに属します。このファミリーには、そのシートに配置されたすべての属性とすべての組織属性が含まれます。
- 属性を持つ標準シートの科目は、そのシートのファミリーに属します。ファミリーには、そのシートに配置されたすべての属性とすべての組織属性が含まれます。

属性が配置されていない標準シートには、属性ファミリーが関連付けられていません。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportDimensionFamilies" callerName="a string that identifies
 your client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
 <output>
   <families>
     <family name="Personal" id="381" accounts="734-739, 744"
 dimensions="9321,9422, 9455, 9458" />
     <family name="Capital" id="382" accounts="853" dimensions="4" />
     <family name="Sales" id="386" accounts="769, 4112" dimensions="" />
     <family name="Balance" id="255" accounts="545, 66" dimensions="6,7" />
   </families>
 </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、警告メッセージが応答に含まれる場合があります。 | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |

エレメントの内容
単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。

出力要素
タグ名 出力
要素の特性
(なし)
エレメントの内容
単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。

系列要素
タグ名 系列
説明 1 つまたは複数のファミリー要素のコンテナです。
要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|

(なし)
エレメントの内容
1 つ以上のファミリー要素

ファミリー エレメント
タグ名 ファミリー
説明 単一のモデル シートまたはキューブ シートに関連付けられた単一の属性ファミリーについて説明します。単一系列は、すべての非モデル、非キューブ前提条件、および為替レートに対しても出力されます。このキャッチ オン系列の ID は 0 です。
要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | 属性ファミリーの名前。すべての非キューブ前提条件と為替レート科目 (属性を持たない) で構成されるファミリーは、「*」という名前になります。標準シートの属性ファミリーは標準シートと同じ名前を持ちますが、キューブ シートまたはモデル シートの属性ファミリーはシートのプレフィックスをファミリー名として使用します。 | 資本 |
| ID | あり | 属性ファミリーの ID。このファミリーが記述されたシートの ID です。 | 3 |
| 科目 | あり | このファミリーに属する科目 ID 番号のセット。ID は科目の内部システム ID で、exportAccounts API コールで表示されます。ID はカンマで区切られており、ハイフンで区切られた範囲が含まれている場合があります。これは、範囲内のすべての ID が含まれていることを示します。 | 734-739,744 |
| 属性 | あり | このファミリーに属する属性 ID 番号のセット。ID は属性の内部システム ID であり、exportDimensions API コールで表示されます。ID はカンマで区切られており、ハイフンで区切られた範囲が含まれている場合があります。これは、範囲内のすべての ID が含まれていることを示します。 | 9321,9422,9455,9458 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportDimensions**

重要： この API はユーザーのみをサポートします 概念: アクセス ルール（1452ページ） API v22 以上

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | システム内のすべての属性を含む完全なリストのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはすべてのメンバー値を含むシステムのカスタム属性一式を示す XML ドキュメントを返します。このメソッドは、バージョン、時間、科目などの必要なシステム属性を一切返しません。これらの属性はそれぞれ独自のメタデータ API コールで参照可能です。属性内のメンバーの値は、子を含む親メンバーとともにツリー形式で返されます。

注：属性 ID は、次の方法で見つけることができます。 `exportDimensionsdimensionIDs` 要素のないリクエストです。これにより、すべての属性とその ID のリストが作成されます。回答を確認して、必要な属性 ID を見つけます。属性 ID は、 Adaptive PlanningWeb ユーザー インターフェイス

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportDimensions" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
<include versionName="Budget 2004" dimensionIDs="1,2,4,5"
 dimensionValues="true"/>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素を含める | | | |
| タグ名 | | 含める | |
| 説明 | | 「属性値」情報のどの側面を回答に含めるか、または回答に含めるか、または回答から除外するかを示すフラグのセットを表します。この要素は任意です。存在しない場合、versionName/versionID のデフォルト値は空白 (またはすべてのバージョン) になります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| versionName<br>API v18 で更新済 | なし | リクエストされたバージョン名では使用できない属性値を回答で除外するかどうかを示します。要素またはその特性が存在しない場合のデフォルトでは、すべての属性と値を返します。バージョン名を指定した場合、指定したバージョンで使用できない属性値は返されません。指定したバージョン名が見つからない場合、この API はエラーを返します。versionName 特性と versionID 特性の両方が渡された場合、versionID は無視されます。<br><?xml version='1.0' コード化='UTF-8'?><br><responsecess="true"><br><output> <dimensions><br><dimension id="6"<br>name=" Department"<br>shortName=""<br>autoCreate=" 0"<br>listDimension="0"<br>liveSorted="0"<br>useOnLevels="1"<br>SeqNo="35"><br><dimensionValue<br>id="7" name="Engr"<br>description="Engineering"<br>shortName=""><br><dimensionValue<br>id=" 52" name="QA"<br>description="Quality<br>Assurance"<br>shortName="" /><br><dimensionValue<br>id="53" name="DEV"<br>description="開<br>発" shortName="" /<br>><dimensionValue><br><dimension> <dimension<br>id="7" name="Education"<br>shortName=""<br>autoCreate="0"<br>listDimension="1"<br>liveSorted="0"<br>useOnLevels="0"<br>SeqNo="21"><br><dimensionValue id="32"<br>name ="Graduate"<br>description="Graduatedegree"<br>shortName=""><br><attributes> <attributes<br>attributeId="21"<br>name="Education<br>Type" valueId="197" | 2004 年予算 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| versionID<br><br>API v17 でサポート +<br>API v18 で更新 | なし | パラメータとしてバージョン ID 番号を取ることを除き、versionName (上記) と同じ。リクエストされたバージョンで使用できない属性値を回答で除外するかどうかを示します。要素またはその特性が存在しない場合のデフォルトでは、すべての属性と値を返します。バージョン ID が指定されている場合、指定されたバージョンで使用できない属性値は返されません。指定されたバージョン ID が見つからない場合、この API はエラーを返します。versionName 特性と versionID 特性の両方が渡された場合、versionID は無視されます。<br><br>バージョンを指定した場合、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ、呼び出しが成功します。 | 3 |
| dimensionIDs<br><br>API v17 以上でサポート | なし | API 応答に表示される ID のリスト。これは属性をフィルタリングしますが、属性値はフィルタリングしません。 | "1,2,3,14" |
| 特性 | なし | 回答に各フラット属性の回答に特性を含める必要があるかどうかを示します。 | false |
| inaccessibleValues<br><br>API v18 以上でサポート | なし | 現在のユーザーがアクセスできない値を回答に含めるかどうかを示します。デフォルトは false です。"モデリング" または "すべての組織にインポート" の権限を持つユーザーのみが、このオプションを true に設定できます。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValues<br>API v22+ でサポート | なし | 回答に各属性の属性値を含めるかどうかを示します。デフォルト値は true です。false に設定した場合、フィルタされた属性のみを返し、属性値は返しません。dimensionValues が include 要素に含まれていない場合は、すべての属性とその値を返します。<br>include 要素がリクエストに含まれていない場合は、すべての属性とその値が返されます。 | false |
| displayNameEnabled<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=true は、exportDimensions が の表示名プロパティを考慮する必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、exportDimensions API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。exportDimensions API は表示名プロパティを無視します `code`, `displayNameType` および `description`。<br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 | 真 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
   <output>
       <dimensions>
           <dimension id="6" name="Department" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="0" keepSorted="0" useOnLevels="1" seqNo="35">
               <dimensionValue id="7" name="Engr" description="Engineering"
 shortName=""/>
               <dimensionValue id="52" name="QA" description="Quality
 Assurance" shortName=""/>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
            <dimensionValue id="53" name="Dev" description="Development"
shortName=""/>
         </dimension>
         <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0" seqNo="21">
            <dimensionValue id="32" name="Graduate" description="Graduate
degree" shortName="">
               <attributes>
                  <attribute attributeId="21" name="Education Type"
valueId="197" value="Tech1" />
               </attributes>
            </dimensionValue>
            <dimensionValue id="33" name="Masters" description="Masters
degree" shortName="">
               <attributes>
                  <attribute attributeId="21" name="Education Type"
valueId="196" value="Management" />
               </attributes>
            </dimensionValue>
            <dimensionValue id="34" name="Phd" description="Phd"
shortName=""/>
         </dimension>
         <dimension id="16" name="Geography" shortName="" autoCreate="0"
listDimension="0" keepSorted="0" useOnLevels="0" seqNo="14"
property1="Latitude" property2="Longitude">
            <dimensionValue id="521" name="United States"
description="USA" shortName="">
               <dimensionValue id="555" name="Alabama" description="1"
shortName="">
                  <dimensionValue id="579" name="205" description="1"
shortName="">
                     <dimensionValue id="4718" name="35004"
description="1" shortName="">
                        <properties>
                           <property name="Latitude"
value="33.606" />
                           <property name="Longitude"
value="-86.502" />
                        </properties>
                     </dimensionValue>
                     <dimensionValue id="4719" name="35005"
description="" shortName="">
                        <properties>
                           <property name="Latitude"
value="33.593" />
                           <property name="Longitude"
value="-86.96" />
                        </properties>
                     </dimensionValue>
                     <dimensionValue id="5073" name="35006"
description="" shortName="" />
                     <dimensionValue id="5074" name="35007"
description="" shortName="" />
                  </dimensionValue>
               </dimensionValue>
               <properties>
                  <property name="Latitude" value="37.0902" />
                  <property name="Longitude" value="95.7129" />
               </properties>
            </dimensionValue>
         </dimension>
      </dimensions>
   </output>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
</response>
```

属性は名前別に並べられます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| | |
|---|---|
| 属性要素 | |
| タグ名 | 属性 |
| 説明 | 1 つ以上の属性要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の属性要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | exportDimensions API コールへの応答で返される単一のカスタム属性を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | 属性の内部システム ID 番号。これは、exportDimensionFamilies などの、他の API コールで属性を識別するために使用できます。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される属性の名前。 | 顧客 |
| code<br>*API v39+* でのみ使用できます。 | なし | レポートおよびシートに表示される属性の名前。API v39 以上でのみ表示されます。 | 顧客 |
| displayNameType<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 選択した内部表現。"属性の管理" ページの値の表示名の形式。<br>• 名前<br>• コード<br>• NAME_CODE<br>• CODE_NAME | 名前 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性の短縮名 (存在する場合)。 | cust。 |
| autoCreate | あり | 選択した属性に "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" フィールドが設定されている場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 0 |
| listDimension | あり | 選択した属性がリスト属性の場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| keepSorted | あり | 選択した属性がソート状態で維持される場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| useOnLevels | あり | 選択した属性を組織で使用できる場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| 連番<br>API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。 | | | |
| 説明<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 属性の管理で入力された説明。 | |
| エレメントの内容<br>0 個以上の dimensionValue 要素。個々の囲まれた dimensionValue 要素は、属性のルート属性値、つまり親の値を持たない値を表します。 | | | |

| | |
|---|---|
| dimensionValue 要素 | |
| タグ名 | dimensionValue |
| 説明 | exportDimensions API コールへの応答で返されるカスタム属性の単一メンバー値を表します。 |
| 要素の特性 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| ID | あり | 属性のこのメンバー値の内部システム ID 番号。 | 34 |
| code<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | "属性の管理" で入力された属性のメンバー値のコード (存在する場合)。 | 会社 |
| 名前 | あり | レポートに表示され、数式で使用される属性のメンバー値のラベル。 | 会社 |
| displayName<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameType から派生したメンバー値の表示名。 | 会社 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性値の短縮名 (存在する場合) | A |
| 説明 | なし | 属性管理で入力された属性値の説明 (存在する場合) | 法人 |

エレメントの内容
0 以上の任意の dimensionValue 要素囲まれた各 dimensionValue 要素はこの属性値の「子属性値」を表し、そのメンバーは暗黙的にこの値にロールアップされます。

1 つのオプションのプロパティ要素。

プロパティ要素
タグ名 プロパティ
説明 プロパティ要素を含む任意の要素。
要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| (なし) | | | |

エレメントの内容
最大 5 つのプロパティ要素。

プロパティ要素
タグ名 プロパティ
説明 カスタム プロパティを指定します。プロパティ要素値には数字のみが含まれます。
要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | プロパティの名前。 | 緯度 |
| 値 | なし | プロパティの値。 | 33.6015 |

エレメントの内容
(なし)

特性要素
タグ名 特性
説明 1 つまたは複数の属性特性要素のコンテナです。
要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| (なし) | | | |

エレメントの内容
1 つ以上の特性要素

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された属性特性の ID。 | 20 |
| 名前 | あり | 属性特性の名前。 | 学歴タイプ |
| valueID | あり | システムによって生成された属性特性値の一意の ID。 | 170 |
| 値<br><br>有効な表示名設定がオンの場合、*API v34* でサポートされます。 | あり | 属性特性の値。 | Tech1 |
| valueCode<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | なし | この特性の特性値コード。<br><br>API v32 および API v33 では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | Tech1 |
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | なし | この特性の特性値名。<br><br>API v32 および API v33 では、valueName が意味を持つのは、以下の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | Tech1 |
| valueDisplayName<br><br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | あり | API v32 以降では、valueDisplayName が意味を持つのは、以下の場合に限られます。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | Tech1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportGroups**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 説明 | 指定されたインスタンスに対して定義されたすべてのグループの完全なリストを返します。これには、インスタンス全体でグローバルに定義されたグループと、ユーザーによって定義されたグループが含まれます。 |
| 起動に必要な権限 | ユーザー管理 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはインスタンス内で定義されたすべてのグループを網羅したXML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportGroups" callerName="a string that identifies your client
 application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
 <output>
    <groups>
       <group id="1" name="Corporate and Operations" isGlobal="true"/>
       <group id="2" name="Admins" isGlobal="true"/>
       <group id="3" name="Ops and Admins" isGlobal="true"/>
       <group id="4" name="My group" isGlobal="false" ownerId="3"/>
    </groups>
 </output>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容<br>単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| メッセージ要素 | | | |
| タグ名 | | メッセージ | |
| 説明 | | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上のメッセージ要素 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 |
| エレメントの内容 | | | |
| メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。 | | | |

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一のグループ要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| グループ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | グループ | |
| 説明 | | 1 つ以上のグループ要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 個以上のグループ要素 | | | |

| グループ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | グループ | |
| 説明 | | exportGroups API コールへの応答で返される単一のグループを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | ユーザー グループの内部システム ID 番号。 | 2 |
| 名前 | あり | ユーザー グループの名前。 | 操作と管理 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| isGlobal | あり | ユーザー グループがインスタンス全体でグローバルであるかどうかを示します。 | 3 |
| ownerId | あり | このユーザー グループを所有するユーザーの内部システム ID。isGlobal="false" の場合にのみ設定されます。 | 5 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportInstances**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval. |
| 説明 | のすべてのインスタンスの完全なリストのメタデータを返します Adaptive Planning にアクセスできます。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出したユーザーを識別し、認証する認証情報タグと、どのインスタンスを回答に含めるかを示すオプションの含めるタグが含まれています。ユーザー認証情報が確認されると、このメソッドは認証情報で指定されたインスタンス、またはこのユーザーがアクセスできるすべてのインスタンスの完全なセットを示す XML ドキュメントを返します。マルチインスタンス機能が購入されていない場合、このコールは常にユーザーが属するインスタンスの単一要素を返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportInstances" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
 <include accessibleInstances="true"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素を含める | | | |
| タグ名 | | 含める | |
| 説明 | | インスタンスの情報のどの側面を応答に含めるか、または応答から除外するかを示すフラグのセットを表します。この要素は任意です。存在しない場合、activeInstances のデフォルト値は false になります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| accessibleInstances | なし | True または False のいずれかです。応答に認証情報で指定された単一インスタンス以外の他のインスタンスを含めるかどうか<br><br>要素またはその特性が存在しない場合のデフォルトは false です。これが含まれており、真である場合、API はユーザーがアクセスできるすべてのインスタンスのリストを返します。これらのインスタンスは、ネストされた方法や親を示す方法では返されません。これらは API に示されているプロパティを列挙しているだけです。最初に返されたインスタンスは常に、ユーザーのデフォルト インスタンスです。 | False |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<output>
  <instances>
    <instance code="INSTANCE1" name="Globo Industries" sessionTimeout="60"
 calendarType="G" systemCurrency="USD" products="PLANNING,DISCOVERY"
 options="TRANSACTIONS,MULTI_CURRENCY,DISCO_DISABLED,WORKDAY,PLANNING_VISUALIZE_DATA"
 workdayTenantID="mytenant" workdayEnvironment="Prod"
 workdayUiUrl="www.myworkday.com/mytenant/d/home.html"
 workdayRestUrl="www.myworkday.com/ccx/service/" datasources="WORKDAY,GREAT
 PLAINS,INTACCT,SALESFORCE,NETSUITE" notificationType="NONE"/>
  </instances>
</output>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |

エレメントの内容
単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。

出力要素
タグ名 出力
要素の特性
(なし)
エレメントの内容
単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。

インスタンス要素
タグ名 インスタンス
説明 1 つまたは複数のインスタンス要素のコンテナです。

要素の特性
(なし)
エレメントの内容
1 つ以上のインスタンス要素

インスタンス要素
タグ名 インスタンス
説明 このユーザーがアクセスできる単一のインスタンスを説明します (そのインスタンスの多数の特性を含む)。

要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| code | あり | インスタンスのインスタンス コード。これは、credentials 要素内で API 呼び出しの代替インスタンスを指定するために使用できます。 | INSTANCE1 |
| 名前 | あり | インスタンスの名前。これはそのインスタンスの "管理" > "一般設定" で設定します。 | Globo イン系列 |
| sessionTimeout | あり | ユーザー セッションを分単位でタイムアウトします。 | 60 |
| systemCurrency | あり | システム通貨の ISO コード。 | USD |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 製品 | あり | インスタンスに対して有効になっている製品名のカンマ区切りリスト。 | プランニング、連結、DISCOVERY、インテグレーション |
| オプション | あり | インスタンスで有効になっているさまざまなモジュールのカンマ区切りリスト。 | TRANSACTIONS,MULTI_CURRENCY |
| データソース | あり | インスタンスで有効になっているデータ ソースのカンマ区切りリスト。 | WORKDAY、NETSUITE、SALESFOR |
| workdayTenantID<br>API v20+ で使用可能 | なし | テナントを一意に識別する Workday テナント ID またはテナント名。<br>プロビジョニングで有効化された Workday での Adaptive Planning の設定が必要です。 | mytenant |
| workdayEnvironment<br>API v20+ で使用可能 | なし | Workday 環境。Prod (本番)、Sandbox (サンドボックス)、Impl (実装) のいずれかとして指定します。<br>プロビジョニングで有効化された Workday での Adaptive Planning の設定が必要です。 | 本稼働 |
| workdayUiUrl<br>API v20+ で使用可能 | なし | Workday テナントの Workday UI URL ドメイン名。<br>プロビジョニングで有効化された Workday での Adaptive Planning の設定が必要です。 | www.myworkday.com/mytenant/d/home.html |
| workdayRestUrl<br>API v20+ で使用可能 | なし | Workday テナントの REST URL ドメイン名。<br>プロビジョニングで有効化された Workday での Adaptive Planning の設定が必要です。 | www.myworkday.com/ccx/service/ |
| notificationType<br>API v24+ で使用可能 | なし | Workday テナントの通知タイプ。<br>プロビジョニングで有効化された Workday での Adaptive Planning の設定が必要です。 | NONE |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportLevels**

重要： この API はユーザーのみをサポートします 概念: アクセス ルール（1452ページ） API v22 以上

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | システムにおけるすべての組織レベルの完全なリストのメタデータを返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出したユーザーを識別し、認証する認証情報タグと、どの組織を回答に含めるかを示すオプションの含めるタグが含まれています。ユーザー認証情報が確認されると、このメソッドはリクエストに対応するシステム内の組織レベルのセットを示す XML ドキュメントを返します。ある組織タグが別の組織タグを囲む中、ネストされたツリー形式で組織が返されます。ある組織は、そのタグで表される組織が、その組織の親である場合に役立ちます。

組織のフィルタリング

- バージョンが指定されている場合、使用不可の組織/バージョンのフィルタリングが常に適用されます。
- ユーザーがリクエストでユーザー割当シートを指定した場合:
  - ユーザーがそのシートへのアクセス権がある場合は、組織が返されます。管理ユーザーの場合 `inaccessibleValues` が真の場合、組織はシートについて返されます。
  - ユーザーの組織アクセス権に関係なく、ユーザーがシートへのアクセス権がある場合は、シート上のすべての組織が返されます。
- ユーザーがリクエストで組織割当シートを指定した場合、次のようになります。
  - ユーザー アクセスのフィルタリングは、によって必要な場合に適用されます `inaccessibleValues`, ユーザーがアクセスできない組織を回答に含めるかどうかを決定します。
  - その後、シートのフィルタリングが適用されます。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportLevels" callerName="a string that identifies your client
 application">
   <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
   <include versionID="3" inaccessibleValues="false"/>
   <sheet id="3" />
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素を含める | | | |
| タグ名 | | 含める | |
| 説明 | | 組織の情報のどの側面を回答に含めるか、または回答から除外するかを示すフラグのセットを表します。この要素は任意です。存在しない場合のデフォルト値は、inactiveValues のデフォルト値は false で、versionName/versionID のデフォルト値は空白 (またはすべてのバージョン) になります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| グループ<br>API v23+ で使用可能 | なし | 応答内の組織の要素に groupIds 特性が含まれるかどうかを示します。True の場合、応答の groupIds には、組織が属しているすべてのグループのカンマ区切りリストが含まれます。特性が存在しない場合、またはその値が true または False 以外の場合は、デフォルト値の False が使用されます。 | 真 |
| inaccessibleValues<br>API v18+ で使用できます。 | なし | ユーザーにアクセス権のない組織を応答に含めるかどうか。True または False のいずれかです。<br><br>要素またはその特性が存在しない場合のデフォルトは false です。<br><br>false に設定すると、直接的であるか暗黙的に、ユーザーがデータにアクセスできる組織のみが応答に含まれます。これは、応答が組織の単一ルート ツリーではなく、ツリー全体における一連の異なるサブツリーである可能性があることを意味しています。<br><br>このオプションを true に設定できるのは、"組織構造: すべての組織" または "すべての組織にインポートする" 権限を持つユーザーのみです。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| inaccessibleLevels<br><br>API v17 以前で使用できます。API v18+ では使用できません。 | なし | True または False のいずれかです。ユーザーにアクセス権のない組織を応答に含めるかどうか。<br><br>要素またはその特性が存在しない場合のデフォルト値は true です。false に設定すると、直接的であるか暗黙的に、ユーザーがデータにアクセスできる組織のみが応答に含まれます。これは、応答が組織の単一ルート ツリーではなく、ツリー全体における一連の異なるサブツリーである可能性があることを意味しています。 | 真 |
| versionName<br><br>API v18 で更新済 | なし | リクエストされたバージョン名で使用可能な組織のみを回答に含めるかどうかを示します。要素またはその特性が存在しない場合のデフォルトでは、すべての組織が返されます。バージョン名が指定されている場合、指定されたバージョンで使用可能な組織のみが返されます。<br><br>存在する場合は、inactiveValues 特性も適用され、指定されたバージョンで使用可能で、リクエスト元のユーザーがアクセスできる組織のみが返されます。<br><br>指定したバージョン名が見つからない場合、この API はエラーを返します。versionName 特性と versionID 特性の両方が渡された場合、versionID は無視されます。<br><br>バージョンを指定した場合、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ、呼び出しが成功します。 | Engineering |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| versionID<br>API v18 で更新済 | なし | パラメータとしてバージョン ID 番号を取ることを除き、versionName (上記) と同じ。リクエストされたバージョンで使用可能な組織のみを応答に含めるかどうかを示します。要素またはその特性が存在しない場合のデフォルトでは、すべての組織が返されます。バージョン ID が指定されている場合、指定されたバージョンで使用可能な組織のみが返されます。<br><br>存在する場合は、inactiveValues 特性も適用され、指定されたバージョンで使用可能で、リクエスト元のユーザーがアクセスできる組織のみが返されます。<br><br>指定されたバージョン ID が見つからない場合、この API はエラーを返します。versionName 特性と versionID 特性の両方が渡された場合、versionID は無視されます。<br><br>バージョンを指定した場合、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ、呼び出しが成功します。 | 3 |
| 未分類<br><br>インスタンスがセキュリティのために アクセス ルール を使用する場合、API v22+ でサポートされます。 | なし | 回答に仮想組織を含めるかどうかを示します。デフォルトは false です。仮想組織は、ユーザーがアクセス権を持っている場合のみ、応答に含まれます。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=true\|false は、exportLevels が の表示名プロパティに従う必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、exportLevels API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。exportLevels API は表示名プロパティを無視します `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| シート要素<br>タグ名<br>説明 | | | シート<br>シートを表します。そのシートで使用可能な組織のみが回答に含まれます。この要素は任意です。存在しない場合、API は特定のシートとは関係ない組織情報を返します。指定されたシートが組織割当シートの場合、このフィルタリングは、バージョンとユーザー アクセス フィルタリング (存在する場合) の最上位に適用されます。指定されたシートが、現在のユーザーがアクセスできるユーザー割当シートの場合、バージョンをフィルタリングした後に、そのシートのすべての組織が返されます。 |
| 要素の特性<br>特性名<br>ID | 必須？<br>あり | 値<br>シートの内部システム ID 番号です。 | 例<br>234 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<output>
 <levels seqNo="21">
   <level id="1" name="Corporate Rollup" currency="USD" isImportable="1"
 workflowStatus="I">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      <level id="2" name="Engineering" currency="USD" shortName="Engr"
 isImportable="1" workflowStatus="I">
        <level id="7" name="Development" currency="USD" shortName="Dev"
 isImportable="1" workflowStatus="I"/>
        <level id="8" name="QA" currency="INR" isImportable="0"
 workflowStatus="L"/>
        <level id="9" name="Documentation" currency="PKR" shortName="Doc"
 isImportable="1" workflowStatus=R"/>
      </level>
      <level id="3" name="Professional Services" currency="USD"
 shortName="Prof.Srv" isImportable="0" workflowStatus="A">
        <attributes>
          <attribute name="Corporate Discount" value="Available"
 attributeId="20" valueId="188" />
          <attribute name="Transfers Restricted" value="Yes" attributeId="21"
 valueId="194" />
        </attributes>
      </level>
    </level>
  </levels>
</output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 出力要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| 組織要素 |
|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | 組織要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 連番<br><br>API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。 | | | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の組織要素アクセスできない組織がリクエストに含まれている場合、組織要素は 1 つしかなくなりません。これは組織の最上位組織を表します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | exportLevels API 呼び出しに対する応答で返される単一の組織を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 組織の内部システム ID 番号。 | 7 |
| code | なし | 組織のコード。 | 開発 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される組織の名前です。 | 開発 |
| displayName | なし | displayNameType から派生した組織の表示名。 | 開発 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| 通貨 | あり | 組織のこの組織に割り当てられる通貨の通貨コード。通貨は、exportActiveCurrencies コールで検出された、インスタンスに設定された通貨の 1 つになります。 | INR |
| publishCurrency<br><br>API v24+ で使用可能 | なし | この組織からパブリッシュに割り当てられた通貨の通貨コード。このプロパティは、インスタンスで "Power of One" が有効になっている場合にのみ適用されます。通貨は、exportActiveCurrencies コールで検出された、インスタンスに設定された通貨の 1 つになります。 | USD |
| shortName | なし | "組織の管理" で入力された組織の略語 (存在する場合)。 | 偏差 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| availableStart | なし | 実績バージョンの組織の使用可否の開始期間を指定します。リクエストで実績バージョンが指定されている場合にのみ適用されます。値は、"01/2012" などの期間コードか、バージョンの開始を示す特殊値 "Start" のいずれかです。 | 01/2013 |
| availableEnd | なし | 実績バージョンの組織の使用可否の終了期間です。リクエストで実績バージョンが指定されている場合にのみ適用されます。値は、"12/2013" などの期間コードか、バージョンの終了を示す特殊値 "END" のいずれかです。 | 12/2013 |
| isImportable | なし | 関連する組織が指定したバージョンでインポート可能であるかどうかを示します。"0" はインポート不可を意味し、"1" はインポート可能を意味します。指定されたバージョンで少なくとも 1 つのタイム スロットがインポート可能である場合、組織をインポートできます。 isImportable 特性は、リクエストで versionName または versionID が指定されている場合にのみ送信されます。<br><br>注: isImportable は、組織が指定されたバージョンでインポート可能であることのみを示すものであり、API を呼び出しているユーザーがバージョンまたは組織にインポートする権限を持っていることを示すものではありません。exportVersions を使用して、ユーザーがインポートに使用できるバージョンを確認します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| workflowStatus | なし | 関連する組織のワークフローのステータスを送信します。"処理中" の I、"送信済" の S、"却下" の R、"承認済" の A、"ロック済" の L。この会社に対してワークフローが有効で、計画のバージョン名またはバージョン ID がリクエストで指定されている場合のみ、応答に含まれます。実績バージョンではワークフローを使用できません。 | I |
| isLinked | あり | 組織がリンク組織の場合は 1。それ以外の場合は 0。 | 1 |
| 相殺消去 | あり | 組織が相殺消去組織の場合は 1。それ以外の場合は 0。 | 0 |
| hasChildren | なし | 組織に子があるかどうかを示します。いいえの場合は "false"、はいの場合は "true"。この特性は、子がアクセス可能かどうかに関係なく、子を持つすべての組織に対して設定されます。組織に子が含まれていても、その子にアクセスできない場合でも、hasGreen 特性は true に設定されています。 | 真 |
| 説明<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | "組織の管理" で入力された組織の説明 (存在する場合)。 | |
| エレメントの内容<br>この組織の直接の子組織ごとに 1 つのネストされた組織要素この組織が関連付けられている場合、1 つの特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つ以上の特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の特性要素 | | | |

| | |
|---|---|
| 特性要素 | |
| タグ名 | 特性 |
| 説明 | 組織が関連付けられている、空白ではない単一の組織の特性マッピングを表します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 組織の特性の名前 | 法人割引 |
| 値<br><br>有効な表示名設定がオンの場合、*API v34* でサポートされます。 | あり | 組織に関連付けられた組織の特性の値。 | はい |
| valueCode<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>"有効な表示名" 設定がオンの場合、*API v34* ではサポートされません。 | なし | この特性の特性値コード。<br><br>API v32 および v33 では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | あり |
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>"有効な表示名" 設定がオンの場合、*API v34* ではサポートされません。 | なし | この特性の特性値名。<br><br>API v32 および API v33 では、valueName が意味を持つのは、以下の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1value | はい |
| valueDisplayName<br><br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | あり | 特性値の表示名。<br><br>API v32 以降では、valueDisplayName が意味を持つのは、以下の場合に限られます。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1value | はい |
| attributeID | あり | 組織特性の内部システム ID 番号。 | 20 |
| valueID | あり | 組織の特性値の内部システム ID 番号。 | 188 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportLocales**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 会社のすべての口ケールのリストを返します。 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための 認証情報 タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはその会社に関連付けられているすべての口ケールの完全なセットを示す XML ドキュメントを返します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportLocales" callerName="a string that identifies your
 client application">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
     <output>
         <locales>
             <locale code="en" name="English" isDefault="1" />
             <locale code="de" name="German" isDefault="0" />
             <locale code="fr" name="French" isDefault="0" />
             <locale code="es" name="Spanish" isDefault="0" />
             <locale code="pt" name="Portuguese" isDefault="0" />
             <locale code="nl" name="Dutch" isDefault="0" />
             <locale code="ja" name="Japanese" isDefault="0" />
         </locales>
     </output>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この特性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容<br>単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出力要素 | | | |
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>単一の必須特性要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール要素 | | | |
| タグ名 | ロケール | | |
| 説明 | 1 つ以上のロケール要素のコンテナです。 | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上のロケール要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール要素 | | | |
| タグ名 | | ロケール | |
| 説明 | | 会社に関連付けられている単一のロケールを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | Firefox で使用される標準ロケール コード。 | ja |
| 名前 | あり | ロケール名の読み取り可能なバージョン。 | 英語 |
| isDefault | あり | この口ケールが会社のデフォルトの場合は、「1」。それ以外の場合は「0」。 | 1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportDimensionMapping**

API v19 以上でサポート

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 説明 | 指定されたバージョンの 1 つまたは複数の属性の派生属性マッピング基準をエクスポートします。 |
| 起動に必要な権限 | |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

この API は、1 つ以上の派生属性のマッピング基準のリストを取得するために使用されます。リクエスト内の各属性について、mapTo 値と属性値の条件を取得します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportDimensionMapping" callerName="a string that identifies
 your client application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
  <dimensions>
    <dimension name="Area">
    </dimension>
  </dimensions>
  <version name = "Budget 2017"/>
  <filters>
    <keyword value="Alameda" />
    <levels>
      <level code="HQ" includeDescendants="true" />
    </levels>
    <dimensionValues>
      <dimensionValue dimName="Geography" code="California" />
      <dimensionValue dimId="34" uncategorized="true" />
      <dimensionValue dimName="Region" code="Bay Area"
 uncategorized="true" />
      <dimensionValue dimId="19" id="78" />
    </dimensionValues>
    <attributes>
      <attribute id="1" uncategorized="true"/>
      <attribute name="attributeName1" value="attributeValue1"/>
      <attribute id="3" valueId="31" uncategorized="true"/>
    </attributes>
  </filters>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、期間名、日付形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、xref API メソッドを使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | モデル行を取得するバージョンを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | バージョンの名前。 | 2017 年予算 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | <属性> 要素のリストのコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>属性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | マッピングをインポートする属性について説明します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | マッピングをインポートする属性の名前 | 面 |
| エレメントの内容<br>mappingCriteria 要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| フィルタ要素 | | | |
| タグ名 | | フィルタ | |
| 説明 | | リクエストされたバージョンと属性のどのデータが API によって取得されるかを決定するフィルタの仕様を保持します。この要素は、対応するマッピング基準エントリに含まれるキーワード、組織、属性値を取得することを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 任意の単一の キーワード 要素、任意の単一の 組織 要素、任意の単一の *dimensionValues* 要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | 0 または 1 つの 組織 要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>0 または 1 つの 組織 要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | この API 呼び出しでデータをエクスポートする組織を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | エクスポートする組織の名前。この名称は、"組織の管理" で指定されたものです。 | 開発 |
| code<br><br>*API v30+* では、名前の代わりにコードを使用します。 | ID が指定されていない場合は必須です。 | エクスポートする組織のコード。このコードは "組織の管理" で指定されています。 | 開発 |
| ID | code が指定されていない場合は必須です。 | エクスポートする組織の内部システム ID 番号。 | 8 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| includeDescendants | あり | エクスポートに指定した組織のすべての子孫を含めるかどうかを示します。true に設定した場合、この組織のすべての子もエクスポートされます。同様に、その子もエクスポートされます。false に設定した場合、この組織は単独でエクスポートされます。 | True |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValues 要素 | | | |
| タグ名 | | dimensionValues | |
| 説明 | | 0 個以上の *dimensionValue* 要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>0 個以上の *dimensionValue* 要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValue 要素 | | | |
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | エクスポートされたデータには、一致する指定 dimensionValue を含むマッピング基準エントリのみを含めることを示します。dimensionValues 要素内に複数の dimensionValue 要素が含まれている場合、エクスポートされたマッピング基準エントリには 、指定したすべての属性/値が含まれている必要があります。たとえば、リクエストで「Region=East」および「Product=Product_A」という属性値が指定された場合、マッピング基準に、「Region」に「East」が含まれ、「Product」に「Product_A」が含まれている必要があります。<br><br>また、dimensionValues 要素内の dimensionValue はそれぞれ異なる属性に属している必要があります。たとえば、"Region=East" と "Region=West" の属性値を持つリクエストは受け入れられません。<br><br>入力フィルタリング属性が要求された属性のいずれにも属さない場合、それらの属性は無視されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| dimName | uncategorizedOfDimension が指定されていない場合は必須 | 属性値が属する属性の名前 (下記の名前特性を参照)。 | 地域 |
| 名前 | なし | エクスポートする属性値の名前。 | 米国西部 |
| code<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | ID が指定されていない場合は必須 | エクスポートする属性値のコード。 | 米国西部 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 未分類 | なし | true に設定した場合、エクスポートされたデータには、一致する属性値のみを含むマッピング基準が含まれ、その子孫の値 (存在する場合) の値は 含まれません 。子のない属性値には影響しません。指定しない場合は、デフォルトで false になります。 | 真 |
| dimId | dimName が指定されていない場合は必須です。 | 属性値 (上記の名前特性を参照) が属する属性の内部システム ID 番号 | 15 |
| uncategorizedOfDimension | なし | *"dimName/uncategorized"* 特性 の代わりに "uncategorizedOfDimension" を指定します。<br>• 指定された場合、特性の値は (属性値ではなく) 属性の内部システム ID 番号である必要があります。フィルタと一致するためには、この属性でデータが完全に分類されていない必要があることを指定します。<br>• 未分類の特性は無視され、真であると想定されます。<br>• dimName が指定されていても無視されます。 | 15 |
| ID | コードが指定されていない場合は必須 | 名前 特性 の代わりに ID を指定してください。<br>• エクスポートする属性値の内部システム ID 番号。属性値を指定するには、名前特性 の代わりに 指定してください。内部 ID を決定するには、exportDimensionsAPI を参照してください。<br>• name が指定されていても無視されます。 | 14 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答フォーマット

```
<response success="true">
 <output>
        <mappings>
            <version name="Budget 2017"/>
            <dimensions>
                <dimension name="Area">
                    <mappingCriteria>
                        <mappingCriterion id="121">
                            <mapTo dimensionValue="East"/>
                            <dimension name="Level" value="HQ"/>
                            <dimension name="State" value="MA"/>
                        </mappingCriterion>
                        <mappingCriterion id="122">
                            <mapTo dimensionValue="West"/>
                            <dimension name="Level" value="HQ"/>
                            <dimension name="State">
                                <dimensionValue name="CO"/>
                                <dimensionValue name="CA"/>
                            </dimension>
                        </mappingCriterion>
                    </mappingCriteria>
                </dimension>
            <dimensions/>
        </mappings>
    </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | <属性> 要素のリストのコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 属性要素 | | | |

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | マッピングをインポートする属性について説明します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | マッピングをインポート　面する属性の名前 | |
| エレメントの内容<br>mappingCriteria 要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| mappingCriteria 要素 | | | |
| タグ名 | | mappingCriteria | |
| 説明の 説明 | | <mappingCriterion> 要素のリストのコンテナ | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | なし | ID を指定すると、この ID を持つ既存のマッピング基準が更新されます。ID が指定されていない場合、新しいマッピング基準が属性に追加されます。 | 12 |
| エレメントの内容<br>派生属性の各属性値のマッピング基準要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| mappingCriterion 要素 | | | |
| タグ名 | | mappingCriterion | |
| 説明の 説明 | | 属性値が にマッピングされるかどうかを管理する個々の属性と属性値について説明します。*MapTo*、*dimension*、*dimensionValue* の タグのグループが後に続く必要があります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | なし | ID を指定すると、この ID を持つ既存のマッピング基準が更新されます。ID が指定されていない場合、新しいマッピング基準が属性に追加されます。 | 12 |
| エレメントの内容<br>1 つのmapTo 要素と最大 6 つの属性要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| MapTo 要素 | | | |
| タグ名 | | mapTo | |
| 説明 | | マッピング基準に基づいて派生する属性値を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| dimensionValueId | あり | このマッピング基準のマッピング先の属性値の ID。 | 11 |
| dimensionValue | あり | このマッピング基準がマッピングする属性値の名前。 | カリフォルニア州 |
| dimensionValueCode | あり | このマッピング基準のマッピング先の属性値のコード。 | CA |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValueDisplayName | あり | このマッピング基準のマッピング先の属性値の表示名。 | カリフォルニア州 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | MapTo 属性値の派生に使用される属性の 1 つを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 属性の名前 | 面 |
| ValueId | なし | 属性値の ID。dimensionValue 要素がない限り必須です。 | 282 |
| 値 | なし | 属性値の名前。dimensionValue 要素がない場合は必須 | West |
| valueCode | なし | 属性値のコード。dimensionValue 要素がない限り必須です。 | われ |
| valueDisplayName | なし | 属性値の表示名。dimensionValue 要素がない限り必須です。 | West |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValue 要素 | | | |
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | (任意) 属性 タグについて複数の属性値をリストする必要がある場合、 名前 特性の代わりに一連の *dimensionValue* タグを使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性値の ID | 10 |
| 名前 | あり | 属性値の名前。 | コロラド州 |
| code | あり | 属性値のコード | CO |
| displayName | あり | 属性値の表示名 | コロラド州 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | |
|---|---|
| メッセージ要素 | |
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。 |
| 要素の特性<br>(なし) | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上のメッセージ要素 | |

| | |
|---|---|
| メッセージ要素 | |
| タグ名 | message |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストの口ケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |
| メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定された口ケールの言語になります (その口ケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。 | | | |

**exportModeledSheet**

v40 で更新 (2024 年 9 月 21 日)

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 指定されたモデル シートの定義を返します。 |
| 起動に必要な権限 | Mod (シートの作成、編集、削除) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、およびどのシートがリクエストされているかの仕様 |

モデル シートの定義を取得します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportModeledSheet" callerName="a string that identifies your
 client application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
  <exportModel sheetToExport="Name of Modeled Sheet" />
</call>
```

call 要素には、credentials 要素と単一の exportModel 要素が含まれています。

| | |
|---|---|
| 認証情報要素 | |
| タグ名 | 認証情報 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | |
|---|---|
| exportModel Element | |
| タグ名 | exportModel |
| 説明 | モデル シートのエクスポートに関連するフィールド |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| sheetToExport | あり | モデル シートの名前。 | 資本モデル |
| displayNameEnabled | なし | displayNameEnabled=true は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合に、exportModeledSheet が表示名プロパティに従う必要があることを示します。<br><br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、exportModeledSheet API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。exportModeledSheet API は表示名プロパティを無視します。 | 真 |

回答フォーマット

```
<response success="true">
  <output>
      <ConfigurableModel allow-actuals="false" allow-allocation="true"
 allow-edits-in-rollup-mode="false" breakback-pattern="0" code="Open
 Positions" description="Open positions
to be filled" frozen-column-count="0" has-salary-detail="true" id="15"
 isglobal="1" prefix="Openings" revision="0" selected-plan-ids=
"1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18" state="A" strata-code="month"
 strata-id="3">
          <Columns>
              <AssignablePlan abbr="" code="Plan" id="0" is-
splitable="false" name="Plan" read-only="false" show-total-at-bottom="false"
 tool-tip="" />
              <Driver abbr="" code="PositionCode" decimal-precision="0"
 driver-type="0" id="22" is-split-key="false" is-splitable="false"
 name="Position Code" read-only="false"
show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
              <Dimension abbr="" code="Department"
 codeHasBeenUpdated="false" hasOverriddenTitle="false" id="6" is-
splitable="true" isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
isTextSelector="false" name="Department" read-only="false" show-total-at-
bottom="false" tagType="0" tool-tip="" requiredColumn="true">
                  <DimensionValue abbr="" id="7" in-use="0" name="Engr"
 sort-order="0" />
                  <DimensionValue abbr="" id="40" in-use="0" name="QA" sort-
order="1" />
                  <DimensionValue abbr="" id="8" in-use="0" name="PS" sort-
order="3" />
                  <DimensionValue abbr="" id="41" in-use="0" name="Dev"
 sort-order="2" />
                  <DimensionValue abbr="" id="9" in-use="0" name="G & A"
 sort-order="4" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <DimensionValue abbr="" id="10" in-use="0" name="Sales"
 sort-order="5" />
                    <LookupTables />
                </Dimension>
                <Dimension abbr="" code="Title" codeHasBeenUpdated="false"
 hasOverriddenTitle="false" id="16" is-splitable="true"
 isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
isTextSelector="false" name="Title" read-only="false" show-total-at-
bottom="false" tagType="0" tool-tip="">
                    <DimensionValue abbr="" id="64" in-use="0" name="Sales
 Rep" sort-order="8" />
                    <DimensionValue abbr="" id="65" in-use="0" name="Engr Mgr"
 sort-order="10" />
                    <DimensionValue abbr="" id="66" in-use="0" name="Sr Engr"
 sort-order="11" />
                    <DimensionValue abbr="" id="67" in-use="0" name="Engr"
 sort-order="12" />
                    <DimensionValue abbr="" id="68" in-use="0" name="GUI Engr"
 sort-order="13" />
                    <DimensionValue abbr="" id="47" in-use="0" name="CFO"
 sort-order="1" />
                    <DimensionValue abbr="" id="48" in-use="0" name="VP Mkt"
 sort-order="3" />
                    <DimensionValue abbr="" id="49" in-use="0" name="Doc Mgr"
 sort-order="5" />
                    <DimensionValue abbr="" id="18" in-use="0" name="CEO"
 sort-order="0" />
                    <DimensionValue abbr="" id="50" in-use="0" name="VP Sales"
 sort-order="7" />
                    <DimensionValue abbr="" id="51" in-use="0" name="VP Engr"
 sort-order="9" />
                    <DimensionValue abbr="" id="61" in-use="0"
 name="Controller" sort-order="2" />
                    <DimensionValue abbr="" id="62" in-use="0" name="Mkt
 Assoc" sort-order="4" />
                    <DimensionValue abbr="" id="63" in-use="0" name="Doc
 Writer" sort-order="6" />
                    <LookupTables />
                </Dimension>
                <Dimension abbr="" code="Base Pay" codeHasBeenUpdated="false"
 hasOverriddenTitle="false" id="1" is-splitable="true"
 isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
isTextSelector="false" name="Base Pay" read-only="false" show-total-at-
bottom="false" tagType="0" tool-tip="">
                    <DimensionValue abbr="" id="22" in-use="0" name="60-80K"
 sort-order="3" />
                    <DimensionValue abbr="" id="23" in-use="0" name="80-100K"
 sort-order="4" />
                    <DimensionValue abbr="" id="24" in-use="0" name="100-120K"
 sort-order="0" />
                    <DimensionValue abbr="" id="25" in-use="0" name="120-150K"
 sort-order="1" />
                    <DimensionValue abbr="" id="26" in-use="0" name="150-200K"
 sort-order="2" />
                    <DimensionValue abbr="" id="27" in-use="0" name="&gt;200K"
 sort-order="5" />
                    <LookupTables />
                </Dimension>
                <Dimension abbr="" code="Position Type"
 codeHasBeenUpdated="false" hasOverriddenTitle="false" id="10" is-
splitable="true" isEditDimension="false" isHiddenOnSheet=
"false" isTextSelector="false" name="Position Type" read-only="false" show-
total-at-bottom="false" tagType="0" tool-tip="">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <DimensionValue abbr="" id="28" in-use="0" name="Full
 Time" sort-order="1" />
                    <DimensionValue abbr="" id="29" in-use="0" name="Part
 Time" sort-order="2" />
                    <DimensionValue abbr="" id="30" in-use="0" name="Contract"
 sort-order="0" />
                    <LookupTables />
                </Dimension>
                <Dimension abbr="" code="Education" codeHasBeenUpdated="false"
 hasOverriddenTitle="false" id="7" is-splitable="true"
 isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
isTextSelector="false" name="Education" read-only="false" show-total-at-
bottom="false" tagType="0" tool-tip="">
                    <DimensionValue abbr="" id="32" in-use="0" name="Masters"
 sort-order="1" />
                    <DimensionValue abbr="" id="33" in-use="0" name="Phd"
 sort-order="2" />
                    <DimensionValue abbr="" id="31" in-use="0" name="Graduate"
 sort-order="0" />
                    <LookupTables />
                </Dimension>
                <Driver abbr="" code="Rate" decimal-precision="0" display-
as="1" driver-type="1" id="23" is-split-key="false" is-splitable="false"
 name="Rate" read-only="false"
show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
                <Driver abbr="" code="YearsOfExperience" decimal-precision="0"
 display-as="1" driver-type="1" id="24" is-split-key="false" is-
splitable="false" name="Years Of
Experience" read-only="false" show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
                <Driver abbr="" code="FillBy" decimal-precision="0" driver-
type="2" id="25" is-split-key="false" is-splitable="false" name="Fill By"
 read-only="false"
show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
            </Columns>
            <CalculatedAccounts />
            <Assumptions />
        </ConfigurableModel>
    </output>
</response>
```

応答の ConfigurableModel 要素にシート定義が含まれます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ConfigurableModel 要素 | | | |
| タグ名 | | ConfigurableModel | |
| 説明 | | export-ModeledSheet API コールに応じて返される単一モデル シートを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | シートの名前。これは importModeledSheet などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。 | オープン ポジション |
| 説明 | なし | シートの説明 (存在する場合)。 | 補充対象のオープン ポジション |
| エレメントの内容 | | | |
| Response XML を確認する | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**API v40+ のモデル シート表示列コード**
exportModeledSheetは表示列の一意のコードをサポートします。モデル シートに表示列がある場合、exportModeledSheetAPI 応答に次のプロパティが含まれます:DisplayColumn:

```
<DisplayColumn abbr="" account-code="PayRate" account-id="370"
 code="PayRateDisplay" hiddenColumn="true" id="7" is-splitable="false"
 months="6" name="Pay Rate Display Column" read-only="true" show-total-
at-bottom="true" start-time-adjust="1" start-time-index="2" start-time-
relative-to="C" strata-code="qtr" tool-tip="Display Column" />
```

新しいプロパティに注意してください。 account-code関連付けられた科目のコードを指します。一方、コード プロパティは残りますが、指定列を編集する一意の識別子を作成するために使用することができます。

**exportPermissionSets**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | インスタンス内のすべての権限セットの完全なリストのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはユーザーのインスタンスで見つかった完全な権限セットを示す XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportPermissionSets" callerName="a string that identifies
 your client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
 <output>
   <permission_sets>
     <permission_set id="1" name="Standard"
 permissions="SHT,RPT,SCOREBOARD"/>
     <permission_set id="2" name="Administrative"
 permissions="SHT,RPT,SCOREBOARD,SAL,MOD,IMP,EXP"/>
   </permission_sets>
 </output>
</response>
```

権限セットと権限は、名前別に並べられます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止され、 によって正式に廃止されたことを示します。 Adaptive Planning。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容<br>単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| | |
|---|---|
| permission_sets element | |
| タグ名 | permission_sets |
| 説明 | 1 つまたは複数の権限セット要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の権限セット要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| permission_set element | | | |
| タグ名 | | permission_set | |
| 説明 | | インスタンスで使用できる単一の権限セットを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 権限セットの内部システム ID 番号。これは、exportUsers API コールでユーザーに割り当てられた権限セットを識別するために使用されます。 | 1 |
| 名前 | あり | 権限セットの管理で表示される権限セットの名前 | 標準 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 権限 | あり | この権限セットに割り当てられる権限のコードのカンマ区切りリスト。コードは、シート アクセスを示す "SHT" やレポート アクセスを示す "RPT" などの内部省略形です。 | STD,RPT,SCOREBOARD |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportRoles**

重要： API v25+ ではサポートされていません。exportPermissionSetsを使用します。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | インスタンス内のすべてのロールを含む完全なリストのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはユーザーのインスタンス内で見つかったすべてのロールの完全なセットを示す XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportRoles" callerName="a string that identifies your client
 application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーには、呼び出されるメソッドに必要な権限を持つロールが必要です。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
 <output>
   <roles>
     <role id="1" name="Standard" permissions="SHT,RPT,SCOREBOARD"/>
     <role id="2" name="Administrative"
 permissions="SHT,RPT,SCOREBOARD,SAL,MOD,IMP,EXP"/>
   </roles>
 </output>
</response>
```

ロールと権限は名前別に並べられます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止され、 によって正式に廃止されたことを示します。 Adaptive Planning。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |

エレメントの内容
単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| | |
|---|---|
| ロール要素 | |
| タグ名 | ロール |
| 説明 | 1 つ以上のロール要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上のロール要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロール エレメント | | | |
| タグ名 | | ロール | |
| 説明 | | インスタンスで使用できる単一のロールを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | ロールの内部システム ID 番号。これは、exportUsers API コールでユーザーに割り当てられたロールを識別するために使用されます。 | 1 |
| 名前 | あり | "ロール管理" で表示されるロールの名前。 | 標準 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 権限 | あり | このロールに割り当てられる権限のコードのカンマ区切りリスト。コードは、シート アクセスを示す "SHT" やレポート アクセスを示す "RPT" などの内部省略形です。 | STD,RPT,SCOREBOARD |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportSecurityAudit**

API v20 以上でサポート

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Data retrieval |
| 説明 | 指定された期間内のすべてのセキュリティ イベントのレポートを返します。イベント タイプ別にフィルタリングできます。セキュリティ イベントには、ログイン失敗、パスワード変更、アカウントのロックアウト、アカウント作成、およびその他のセキュリティ関連情報が含まれます。時間範囲がリクエストされていない場合は、過去 24 時間のすべてのイベントが返されます。監査ログによって記録されるセキュリティ イベントは、NEST 800-53 に基づいています。Adaptive Planning に保持されるセキュリティ監査データは 30 日間だけです。 |
| 起動に必要な権限 | 管理者 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出したユーザーを識別し、認証する認証情報タグと、セキュリティ イベントを取得する実行者と期間を識別する含まれているタグが含まれています。検証されると、このメソッドは指定された時間範囲内のすべてのセキュリティ イベントを記述した XML ドキュメントを返します。この XML ドキュメントはイベント タイプ別にフィルタリングできます。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportSecurityAudit" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
 <include actor="stevec@greenco.com" dateTimeFrom="2019-07-30 00:00:00"
 dateTimeTo="2019-07-30 11:59:59"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| エレメントの内容<br>なし | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素を含める | | | |
| タグ名 | | 含める | |
| 説明 | | | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 実行者 | なし | 取得するセキュリティ イベントのユーザー名。実行者が含まれていない場合、すべてのユーザーのイベントを返します。 | stevec@greenco.com |
| dateTimeFrom | なし | 取得するセキュリティ イベントの UTC における ISO-8601 互換形式 (YYYY-MM-DDTHH:MM:SS) の時間範囲の開始。 | 2019-07-30 00:00:00 |
| dateTimeTo | なし | 取得するセキュリティ イベントについて UTC で ISO-8601 互換形式 (YYYY-MM-DDTHH:MM:SS) で指定された時間範囲の終了日。 | 2019-07-30 11:59:59 |
| エレメントの内容<br>なし | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
 <output>
     <audit>
        <event timestamp="2019-07-30 01:59:48.7781" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 01:59:48.9822" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:01:29.115" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:02:03.0594" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
        <event timestamp="2019-07-30 02:06:35.8937" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:06:36.0589" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:06:36.1219" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:06:59.8724" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:07:36.5505" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:07:37.8862" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:08:06.7037" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:08:10.4557" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
        <event timestamp="2019-07-30 02:08:14.8878" action="SUC"
 actor="475245454E434F000000000001000004" version="20" interface=""
 object="User - 475245454E434F000000000001000004" outcome="0" context="" />
    </audit>
 </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止され、 によって正式に廃止されたことを示します。 Adaptive Planning。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 出力要素 |
|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の検証要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| | |
|---|---|
| 検証要素 | |
| タグ名 | 検証 |
| 説明 | セキュリティ イベントをまとめたもの。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上のイベント要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| イベント エレメント | | | |
| タグ名 | | イベント | |
| 説明 | | セキュリティ イベント。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| timestamp | あり | イベントの UTC の ISO-8601 互換形式 (YYYY-MM-DDTHH:MM:SS.ssZ) のタイムスタンプ | 2019-07-30 01:59:48.7781 |
| アクション | あり | 監査イベントをトリガしたアクション:<br>• "cre" 科目の作成<br>• "DIS" 科目が無効になりました<br>• "LOK" アカウントのロック<br>• "UOK" アカウントのロックを解除<br>• "USC" ログインに失敗しました<br>• "SUC" が正常にログインしました<br>• "ULO" ユーザーのログアウト<br>• "PWC" ユーザーのパスワードの変更<br>• 例外により、'TER' セッションが終了しました<br>• "EXP" セッションの有効期限<br>• "CRD" 認証情報の変更<br>• "AUT" 認証設定が変更されます | SUC |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 実行者 | あり | イベントをトリガする操作を開始した実行者 (サービス、ユーザー、システム ユーザー) の GUID (特定のユーザーを割り当てることができない場合は NULL)。<br><br>以下の結果で、GUID 別に現在のユーザー名を取得できます。exportUsers ( 2322ページ ) 呼び出し。 | 475245454E434F00000000000010000 |
| バージョン | あり | アクションの実行に使用したソフトウェアのバージョン | 21 |
| インターフェイス | なし | 監査イベントをトリガするインターフェイス (API、UI、URI)。 | API |
| オブジェクト | なし | 監査イベントをトリガするシステム オブジェクト。 | User - 475245454E434F00000000000010000 |
| 結果 | あり | アクションが成功したか失敗したか。0 は成功を示し、1 は失敗を示します。 | 0 |
| context | なし | 監査イベントに関するシステム固有の情報。 | |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportSheetDefinition**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 指定されたモデル シートまたはキューブ シートの定義を返します。 |
| 起動に必要な権限 | IMP (データのインポート) または Mod (シートの作成、編集、削除) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | どのシートがリクエストされているかを示す認証情報と仕様 |

モデル シートのリクエスト形式

```
 <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportSheetDefinition" callerName="a string that identifies
 your client application">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
    <modeled-sheet id="3"/>
   </call>
```

呼び出し要素には、認証情報要素および単一のモデル シートが含まれています。

| | |
|---|---|
| 認証情報要素<br>タグ名 | 認証情報 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、この API を利用してアクションを実行するために必要な権限がユーザーに与えられている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | |
|---|---|
| モデル シート要素 | |
| タグ名 | モデル シート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| 説明 | | exportSheetDefinition API コールを介してリクエストされた単一モデル シートを特定します。 |
| 要素の特性 | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 例 |
| ID | あり | シートの内部システム ID 234 番号です。 |
| displayNameEnabled | なし | displayNameEnabled=true false は、exportSheetDefinition が の表示名プロパティを考慮する必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、exportSheetDefinition API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。exportSheetDefinition API はプロパティを無視します `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 |
| 表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。 | | |
| エレメントの内容 | | |
| (なし) | | |

モデル シートの応答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
   <output>
       <modeled-sheet id="11" prefix="Personnel" name="Personnel"
 description="Personnel Sheet"
                              available-in-actuals="false" allow-
splits="true" split-column-title="Is Split Child Row" strataId="51">
           <columns>
               <levels code="Plan" name="Plan" read-only="false"
 splittable="false" required="true">
                   <level id="1" />
                   <level id="7" />
               </levels>
               <text code="LastName" name="Last Name" read-only="false"
 splittable="false" required="false" />
               <text code="FirstName" name="First Name" read-only="false"
 splittable="false" required="false" />
               <text code="ID" name="ID" read-only="false"
 splittable="false" required="false" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                <dimension code="JobCode" name="JobCode" read-only="false"
 splittable="false" required="false" id="9">
                    <value id="19" name="E1" />
                    <value id="20" name="E2" />
                    <value id="21" name="E3" />
                </dimension>
                <text-selector code="BenefitsSelector" name="Benefits" read-
only="false" splittable="false" required="true" id="27">
                    <value id="208" name="No" />
                    <value id="209" name="Yes" />
                </text-selector>
                <date code="StartDate" name="Start" read-only="false"
 splittable="false" required="false" />
                <date code="EndDate" name="End" read-only="false"
 splittable="false" required="false" />
                <number code="HoursPerWeek" name="Hr/Week" read-only="false"
 splittable="false" required="false" />
                <text-selector code="per" name="per" read-only="false"
 splittable="false" required="true" id="28">
                    <value id="210" name="Yr" />
                    <value id="211" name="Hr" />
                </text-selector>
                <initial-balance code="PayRate" name="Pay Rate" read-
only="false" splittable="false" required="false" id="143" />
                <display code="PayRate" name="Pay Rate Display Column" read-
only="true" splittable="false" required="false" id="7" />
                <level-currency code="" name="Currency" read-only="true"
 splittable="false" required="false" id="8" />
            </columns>
        </modeled-sheet>
    </output>
</response>
```

モデル シート要素には、シートに対して定義された順序で、以下の 1 つ以上を保持する単一列の子が含まれています。

1. 組織
2. 属性
3. text-selector
4. text
5. 数値
6. date
7. 初期の残高
8. 組織通貨
9. 表示
10. 期間

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止され、 によって正式に廃止されたことを示します。 Adaptive Planning。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |

エレメントの内容
単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。

モデル シート要素

| | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | モデル シート | |
| 説明 | | シートのエクスポート API コールに応じて返される単一のモデル シートを表します。 | |

要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| ID | あり | シートの内部システム ID 番号です。これは、exportSheetDefinition などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。 | 234 |
| prefix | あり | シートのプレフィックス。 | 資本 |
| 名前 | あり | シートの名前。 | 資本モデル |
| 利用可能額 | あり | 真でも偽でも構いません。モデル シートが実績バージョンで使用できるかどうかを示します。 | 真 |
| 説明 | なし | シートのテキストによる説明 (存在する場合) | これが資本モデルです... |
| 分割を許可 | あり | True の場合、モデル シートで分割を許可します。 | 真 |
| split-column-title | なし | 分割を許可する場合のインポートの追加列タイトルリクエストで口ケールが指定されている場合は、ローカライズされた文字列を使用します。この属性は、allow-splits が true に設定されていて、少なくとも 1 つの列が分割可能な場合にのみ存在します。 | 分割行 |
| strataId | あり | このモデル シートに関連付けられた層 ID | 2 |

エレメントの内容
単一列の要素

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 列要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 列 | |
| 説明 | | 1 つ以上の列要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 次の要素のうち 1 つ以上 (シートでの表示順に並べ)<br>• 組織<br>• 属性<br>• text-selector<br>• text<br>• 数値<br>• date<br>• 初期の残高<br>• 組織通貨<br>• 表示<br>• 期間 | | | |

| 組織要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | モデル シートの「組織」列を表します。1 つ以上の組織要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の組織要素 | | | |

| 組織要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | このシート上にある (またはこのシートが配置された上にある) 組織の 1 つ。階層構造を含む組織のメタデータは、exportLevels を呼び出すことによって取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | 組織の内部の数値識別子。 | 42 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| テキスト要素 | | | |
| タグ名 | | text | |
| 説明 | | ユーザー入力テキストを保持するシートの列を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | この企業に対して定義されたディメンションの 1 つ。属性を保持するシートの列を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1 つまたは複数の値要素 (それぞれがこのシートの属性で選択可能な有効な値)ここに属性の値が含まれていない場合、その値はこのシートのデータ行で使用できません。

| 値要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 値 | |
| 説明 | | この属性またはテキスト セレクターに定義された値の 1 つ。階層構造を含む完全な属性メタデータは、exportDimensions を個別に呼び出すことで取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 値の内部の数値識別子。 | 42 |
| code<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | "属性の管理" で入力された属性のメンバー値のコード (存在する場合)。 | メキシコ |
| 名前 | あり | 値の印刷版。 | メキシコ |
| displayName<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameType から派生したメンバー値の表示名。 | メキシコ |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| text-Selector 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | text-selector | |
| 説明 | | このシートに定義された値のカスタム リスト。モデル シートのテキスト セレクター列を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | 真 |
| ID | あり | 内部の数値識別子。 | 42 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の値要素 | | | |

| 数字要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 数値 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | ユーザー入力した数値が格納されるシートの列を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 日付要素 | | | |
| タグ名 | | date | |
| 説明 | | ユーザー入力した日付を保持するシートの列を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 初期残高要素 | | | |
| タグ名 | | 初期の残高 | |
| 説明 | | 科目の値の月次変更を決定する数式を用い、科目の初期残高に対するユーザー指定の値を保持するシートの列を表します。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| ID | あり | この列に関連付けられた科目の内部の数値識別子。 | 42 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| 組織通貨の要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 組織通貨 | |
| 説明 | | 各行に関連付けられた通貨のコードを表示するシート上の列を表します。これは行がある組織の通貨です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。組織通貨の要素の場合、この値は常に真です。 | 真 |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| ID | あり | 内部の数値識別子。 | 42 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 表示要素 | | | |
| タグ名 | | 表示 | |
| 説明 | | 行ベースの読み取り専用計算を保持するシートの列を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| ID | あり | 内部の数値識別子。 | 42 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 期間要素 | | | |
| タグ名 | | 期間 | |
| 説明 | | これはシートごとに最大 1 つですが、これはシートの右側に表示され、周期データを保持できる列のセットを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 列の記号識別子。シートの数式と参照で使用されます。 | MyColumn |
| 名前 | あり | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | My 列 |
| 読み取り専用 | あり | シート上で列が読み取り専用としてマークされている場合は真、列に値を入力できる場合は偽です。 | false |
| 分割可能 | あり | この列の行の分割が異なる値を持つことができる場合は真、分割が親と同じ値である必要がある場合は偽です。 | 真 |
| 必須 | あり | この属性が必須フィールドである場合は真です。 | false |
| ID | あり | この期間に関連付けられた科目の数値による内部識別子。 | 42 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

キューブ シートのリクエスト形式

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportSheetDefinition" callerName="a string that identifies
 your client application">
     <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
     <cube-sheet id="4"/>
   </call>
```

呼び出し要素には、認証情報要素および単一のキューブ シートが含まれています。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、この API を利用してアクションを実行するために必要な権限がユーザーに与えられている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーには、呼び出されるメソッドに必要な権限を含む権限セットが必要です。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付形式設定を使用) に使用される ロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| キューブシート要素 | | | |
| タグ名 | | キューブシート | |
| 説明 | | exportSheetDefinition API コールでリクエストされた単一のキューブ シートを識別します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | シートの内部システム ID 番号です。 | 234 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

キューブ シートの応答形式

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
    <output>
        <cube-sheet id="24" prefix="SummaryCube" name="Summary
 Cube" isGlobal="0" description="" strataId="1" horizontalAxis="-3"
 verticalAxis="-2" maxColumnWidth="0" suppressZeroRows="0"
 rearrangeGLAndCustomAccounts="0" hideRollupTotals="0">
            <dimensions>
                <dimension id="3" uncategorized="false" rollup="false"
 name="Company" newValueBehavior="parent" editableOnSheet="false">
                    <value id="35" />
                </dimension>
                <dimension id="4" uncategorized="false" rollup="false"
 name="CountryRegion" newValueBehavior="parent" editableOnSheet="false">
                    <value id="144" />
                    <value id="133" uncategorized="true" />
                    <value id="133" rollup="true" />
                    <value id="122" rollup="true" />
                    <value id="143" />
                </dimension>
                <levels>
                    <level id="1" />
                    <level id="2" />
                    <level id="8" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <level id="10" />
                    <level id="9" />
                    <level id="5" />
                    <level id="3" />
                    <level id="4" />
                    <level id="11" />
                    <level id="13" />
                    <level id="15" />
                    <level id="16" />
                </levels>
                <accounts>
                    <account id="455" code="" isAssumption="false" />
                    <account id="456" code="" isAssumption="false" />
                    <account id="457" code="SummaryCube.Input"
 isAssumption="false" />
                    <account id="458" code="SummaryCube.CubeMetric"
 isAssumption="false" />
                </accounts>
                <time initialBalance="true"
 visibleTimeStratumCodes="month" />
            </dimensions>
        </cube-sheet>
    </output>
</response>
```

キューブシート要素には、シートで定義された順序で以下を保持する単一の属性の子が含まれています。

1. 属性 (1 つ以上)
2. 特性 (0 以上)
3. 組織 (1)
4. 科目 (1)
5. 時間 (1)

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止され、 によって正式に廃止されたことを示します。 Adaptive Planning。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の必須キューブシート要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| キューブシート要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | キューブシート | |
| 説明 | | exportSheets API 呼び出しに対する応答で返される単一のキューブ シートを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | | シートの内部システム ID 番号です。これは、exportSheetDefinition などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。 | 34 |
| prefix | | シートのプレフィックス。 | 経費キューブ |
| 名前 | | シートの名前。 | 経費キューブ |
| 説明 | | シートのテキストによる説明 (存在する場合) | |
| strataId | あり | シートの層 ID。 | 5 |
| horizontalAxis | あり | デフォルトで横軸に表示される属性の ID。 | -3 |
| verticalAxis | あり | デフォルトで縦軸に表示される属性 ID のリスト。 | -2 |
| maxColumnWidth | あり | 列の最大幅 (ピクセル単位) (指定しない場合はゼロ)。 | 20 |
| suppressZeroRows | あり | ゼロの行が表示されない場合は "1"、表示されない場合は "0"。 | suppressZeroRows="0" |
| rearrangeGLAndCustomAccounts | あり | キューブ シートで総勘定元帳科目の処理を使用する場合は "1"、総勘定元帳科目の処理を使用しない場合は "0"。 | rearrangeGLAndCustomAccounts="0" |
| hideRollupTotals | あり | 合計を非表示にする場合は "1"、非表示にする場合は "0"。 | hideRollupTotals="0" |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | シートの属性のコンテナ | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

エレメントの内容
1 つ以上の組織、属性、科目、時間要素

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | このキューブ シートに定義された属性の 1 つ。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性の内部の数値識別子。 | 34 |
| 未分類 | あり | 真の意味は、属性自身の未分類要素 (ルートの未分類要素) がキューブでの選択として使用可能であることを意味します。 | 真 |
| ロールアップ | あり | True の場合、属性自体の合計要素 (すべての要素の合計) がキューブでの選択として使用可能であることを意味します。 | 真 |
| 名前 | あり | この属性の名前。 | 製品アイテム |
| API v22+ で使用可能 | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つまたは複数の値要素。シート上でどの属性値が使用可能であるかを示します。 | | | |

| 特性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | このキューブ シートに配置された特性の 1 つ。階層構造を含む特性のメタデータは、exportAttributes を呼び出すことによって取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 特性の内部の数値識別子。 | 34 |
| 未分類 | あり | 真は、特性自体の未分類要素 (ルートの未分類要素) がキューブでの選択として使用可能であることを意味します。 | 真 |
| ロールアップ | あり | True の場合、特性自体の合計要素 (すべての要素の合計) が、キューブでの選択として使用可能であることを意味します。 | 真 |
| 名前 | あり | 特性の名前。 | 店舗タイプ |
| API v22 以上で使用可能 | | | |
| newValueBehavior | あり | 新しい属性値の使用可否、使用可能、使用不可、または親のいずれかに対して想定される動作。 | 親 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つまたは複数の値要素。シート上で特性のどの値を使用できるかを示します。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 値要素 | | | |
| タグ名 | | 値 | |
| 説明 | | シートで使用可能とマークされたこの属性の値の 1 つ。"未分類" を true に設定した場合と未分類のままにすると、同じ値 ID が最大 2 回表示される可能性があります。階層構造を含む属性メタデータは、exportDimensions を呼び出すことによって取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性 名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性値の内部の数値識別子。 | 34 |
| ロールアップ | なし | true は、この属性値の合計を示します。値が属性内に子の値を持つ場合にのみ許可されます。この特性がない場合は、false が使用されます。 | 真 |
| 未分類 | なし | 真はこの属性値の未分類の値であることを示します。値が属性内に子の値を持つ場合にのみ許可されます。この特性がない場合は、false が使用されます。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | 1 つ以上の組織要素に適用されるコンテナです。可視性のみに影響する場合でも、個々の組織が返されます。データは任意の組織にインポートできます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の組織要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | このシートが表示されている組織がこのシートで見つかりました。階層構造を含む組織メタデータは、exportLevels を呼び出すことによって取得できます。 | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 組織の内部の数値識別子。 | 12 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | 科目 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | 1 つ以上の科目要素に適用されるコンテナです。可視性のみに影響する場合でも、個々の科目が返されます。データは任意の入力科目にインポートできます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の科目要素キューブ シート プロパティの "総勘定元帳科目の処理を使用 " オプションによって決定される使用可能な科目要素および順序 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | このキューブ シートに定義された科目の 1 つ。階層構造を含む科目メタデータは、exportAccounts を呼び出すことによって取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 科目の内部の数値識別子。 | 23 |
| code | なし | 科目の科目コード。 | SalesCubeWithAttribute.Unit_Price |
| API v22+ で使用可能 | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 時間要素 | | | |
| タグ名 | | time | |
| 説明 | | 適用された時間属性。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| initialBalance | あり | 時間の属性に初期の残高値がある場合は真です。 | "true" |
| visibleTimeStratumCodes | なし | 時間属性によって選択された時間層コードのリスト | "qtr,month,year" |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | このキューブ シートに定義された属性の 1 つ。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性の内部の数値識別子。 | 34 |
| 未分類 | あり | 真の意味は、属性自身のカテゴリ化されていない要素が、キューブでの選択として使用可能であることを意味します。 | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロールアップ | あり | True の場合、属性自体の合計要素 (すべての要素の合計) がキューブでの選択として使用可能であることを意味します。 | 真 |
| 名前 | あり | この属性の名前。 | "製品アイテム" |
| newValueBehavior | あり | 新しい属性値の使用可否、使用可能、使用不可、または親のいずれかに対して想定される動作。 | 親 |
| isEditableOnSheet | なし | この属性がシート上で編集可能であるかどうかを示すフラグ。 | 真 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の値要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ユーザー要素 | | | |
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | キューブ シートのアクセシビリティ プロパティを示すユーザー割当シートのコンテナです。この要素とこの要素のすべての子を表示するには、呼び出しユーザーに "モデル" 権限が必要です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| isExcludedFromWorkflow | あり | シートがワークフローから除外されているかどうかを示すフラグ。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のユーザー要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ユーザー要素 | | | |
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | シートに割り当てられたユーザーの 1 人。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 割り当てられたユーザーの一意の ID を示す整数値。 | 11 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**exportSheets**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 指定されたインスタンスに対して定義されたすべてのシートの完全なリストを返します。これには、"未完了" シートだけでなく、ユーザー割当シートも含まれます。 |
| 起動に必要な権限 | IMP (データのインポート) または Mod (シートの作成、編集、削除) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはユーザーのインスタンス内で見つかったすべてのシートの完全なセットを示す XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportSheets" callerName="a string that identifies your client
 application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、この API を利用してアクションを実行するために必要な権限がユーザーに与えられている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付形式設定を使用) に使用される口ケールを指定します。口ケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
  <output>
    <sheets>
      <modeled-sheet id="1" name="Personnel" prefix="Personnel"
 description="Personnel Sheet" />
      <modeled-sheet id="2" name="Crossover Personnel" prefix="Crossovers"
 description="Personnel Sheet" />
      <modeled-sheet id="3" name="Sales" prefix="Sales" description="Sales
 Sheet" />
      ...
      <standard-sheet id="6" name="Model Summary" prefix=""
 description="Configurable Model Summary Sheet" />
      <standard-sheet id="8" name="Expenses" prefix="" description="" />
      <standard-sheet id="9" name="Balance" prefix="" description="" />
      <standard-sheet id="10" name="Assumptions" prefix="" description="" />
      ...
      <cube-sheet id="17" name="Expense Cube" prefix="ExpenseCube"
 description="" />
      <cube-sheet id="19" name="Sale Cube" prefix="SalesCube"
 description="" />
    </sheets>
  </output>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止され、 によって正式に廃止されたことを示します。 Adaptive Planning。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |

エレメントの内容
単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出力要素 | | | |
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |

エレメントの内容
単一の必須キューブシート要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| シート要素 | | | |
| タグ名 | | シート | |
| 説明 | | 1 つ以上の標準シート、モデルシート、キューブシートの要素を含むコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |

エレメントの内容
1 つ以上の標準シート、モデルシート、キューブシートの要素

| | | | |
|---|---|---|---|
| 標準シート要素 | | | |
| タグ名 | | 標準シート | |
| 説明 | | exportSheets API 呼び出しに対する応答で返される単一の標準シートを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | シートの内部システム ID 番号です。これは、exportSheetDefinition などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。 | 123 |
| prefix | あり | シートのプレフィックス。標準シートの場合、これは常に空です。他のシート タイプは、この特性に対して空でない値を持っています。 | |
| 名前 | あり | シートの名前。 | 合計モード |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | なし | シートのテキストによる説明 (存在する場合) | これらは合計モードです... |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| モデル シート要素 | | | |
| タグ名 | | モデル シート | |
| 説明 | | exportSheets API 呼び出しに対する応答で返される単一のモデル シートを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | シートの内部システム ID 番号です。これは、exportSheetDefinition などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。 | 234 |
| プレフィックス (API v38 以前) | あり | API v38: シートのプレフィックス。 | 資本 |
| code (API v39+) | | API v39: シートのコード。 | |
| 名前 | あり | シートの名前。 | 資本モデル |
| 説明 | なし | シートのテキストによる説明 (存在する場合) | これが資本モデルです... |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| キューブシート要素 | | | |
| タグ名 | | キューブシート | |
| 説明 | | exportSheets API 呼び出しに対する応答で返される単一のキューブ シートを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | | シートの内部システム ID 番号です。これは、exportSheetDefinition などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。 | 34 |
| prefix | | シートのプレフィックス。 | 経費キューブ |
| 名前 | | シートの名前。 | 経費キューブ |
| 説明 | | シートのテキストによる説明 (存在する場合) | |

| |
|---|
| エレメントの内容<br>(なし) |

**exportTime**

重要： この API はユーザーのみをサポートします 概念: アクセス ルール（1452ページ） API v21 以上

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 特定のバージョン、または指定されていない場合はすべてのバージョンの時間メタデータを返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出しユーザーを識別および認証する認証情報タグと、情報を取得するバージョンを指定するオプションのバージョン タグが含まれています。バージョンが指定されていない場合、このメソッドはすべてのバージョンの開始時間と終了時間を含む時間範囲の時間情報を返します。呼び出し元が確認されると、このメソッドはバージョンの完全な時間情報セットをネストされたツリー形式で記述した XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportTime" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" locale="fr_FR"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
<options includeAllLocales="1" includeLegacyInformation="1" />
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| オプション要素 | | | |
| タグ名 | | オプション | |
| 説明 | | 時間をエクスポートするときに使用するオプションを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| includeAllLocales | なし | 任意で、エクスポート時間によって各層/期間のすべての換算をエクスポートします。指定しない場合、認証情報ブロックで指定された口ケールのみがエクスポートされます。 | "1" |
| includeLegacyInformation | なし | 必要に応じて、エクスポート時間により、レガシーの時間情報を含む追加の属性をエクスポートするようにします。isCustom = 1 の場合、これらの追加の特性は含まれません | "1" |
| leafStratumId<br>API v16 以上でサポート | なし | 任意で、最下位として扱う時間層の ID を指定します。指定された時間層よりも細かい時間層は回答に含まれません。また、指定された時間層よりも細かい時間層に属する期間も回答に含まれません。 | "5" |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| calendarId<br>API v33 以上でサポート | なし | 必要に応じて、取得するカレンダー/階層の ID を指定します。指定されていない場合、API はデフォルト階層の時間値のみを返します。 | "1" |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | リクエストされたデータの取得に使用するバージョンを示します。ユーザーは指定したバージョンにアクセスできる必要があります。また、フォルダを指定することはできません。バージョン要素は必須ではありませんが、バージョン要素が含まれる場合、指定したバージョンが有効でなければなりません。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| オプション<br>API v18 で更新済 | なし | エクスポートする期間の範囲を設定します。"すべて"、"単一"、または省略可能な値に設定できます。デフォルトは "単一" です。単一の場合は、"name" または "ID" のいずれかを指定する必要があります。指定した単一バージョンの期間範囲と、そのバージョンの初期残高を返します。name と ID の両方が指定された場合、それらは同じバージョンを参照する必要があります。すべての場合、最小値から最大値の時間範囲の最初の層の初期累積期間を含む、すべてのバージョンの最小値から最大値までの期間を返します。すべての場合、バージョンの "名前" または "ID" を指定することはできません。省略した場合は、定義された時間をすべて返します。<br><br>単一のバージョンを指定した場合、ユーザーがそのバージョンへのアクセス権を持っている場合にのみ呼び出しが成功します。 | シングル |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | なし | データの取得に使用されるバージョンの名前。1 つの API コールでアクセスできるバージョンは 1 つだけです。名前が指定されていない場合、ID を指定する必要があります。両方が指定された場合、それらは同じバージョンに対応している必要があります。 | 2014 年予算 |
| ID | なし | データの取得に使用されるバージョンの ID。1 つの API コールでアクセスできるバージョンは 1 つだけです。オプションが "単一" で ID が指定されていない場合は、名前を入力する必要があります。両方が指定された場合、それらは同じバージョンに対応している必要があります。 | 3 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答形式 **(includeAllLocales="0"** であるか指定なし**)**

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
  <output>
    <time isCustom="1" seqNo="24">
      <stratum code="year" label="Year" shortName="Yr" id="3" inUse="1">
        <stratum code="qtr" label="Quarter" shortName="Qtr" id="2"
 inUse="1">
          <stratum code="month" label="Month" shortName="Mon" id="1"
 inUse="1" isDefault="1" />
        </stratum>
      </stratum>
      <period code="2015" label="FY2015" shortName="FY2015" stratumId="3"
 timeslot="15" encodedTimePeriod="3::15" id="15003" end="2016-01-01">
        <period code="Q1-2015" label="Q1-FY15" shortName="Q1-FY15"
 stratumId="2" timeslot="60" encodedTimePeriod="2::60" id="60002"
 end="2015-04-01">
          <period code="01/2015" label="Jan-2015" shortName="Jan-2015"
 stratumId="1"timeslot="180" encodedTimePeriod="1::180" id="180001"
 end="2015-02-01" />
          <period code="02/2015" label="Feb-2015" shortName="Feb-2015"
 stratumId="1" timeslot="181" encodedTimePeriod="1::181" id="181001"
 end="2015-03-01" />
          <period code="03/2015" label="Mar-2015" shortName="Mar-2015"
 stratumId="1" timeslot="182" encodedTimePeriod="1::182" id="182001"
 end="2015-04-01" />
        </period>
        <period code="Q2-2015" label="Q2-FY15" shortName="Q2-FY15"
 stratumId="2" timeslot="61" encodedTimePeriod="2::61" id="61002"
 end="2015-07-01">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
         <period code="04/2015" label="Apr-2015" shortName="Apr-2015"
stratumId="1" timeslot="183" encodedTimePeriod="1::183" id="183001"
end="2015-05-01" />
         <period code="05/2015" label="May-2015" shortName="May-2015"
stratumId="1" timeslot="184" encodedTimePeriod="1::184" id="184001"
end="2015-06-01" />
         <period code="06/2015" label="Jun-2015" shortName="Jun-2015"
stratumId="1" timeslot="185" encodedTimePeriod="1::185" id="185001"
end="2015-07-01" />
       </period>
       <period code="Q3-2015" label="Q3-FY15" shortName="Q3-FY15"
stratumId="2" timeslot="62" encodedTimePeriod="2::62" id="62002"
end="2015-10-01">
         <period code="07/2015" label="Jul-2015" shortName="Jul-2015"
stratumId="1" timeslot="186" encodedTimePeriod="1::186" id="186001"
end="2015-08-01" />
         <period code="08/2015" label="Aug-2015" shortName="Aug-2015"
stratumId="1" timeslot="187" encodedTimePeriod="1::187" id="187001"
end="2015-09-01" />
         <period code="09/2015" label="Sep-2015" shortName="Sep-2015"
stratumId="1" timeslot="188" encodedTimePeriod=""1::188" id="188001"
end="2015-10-01" />
       </period>
       <period code="Q4-2015" label="Q4-FY15" shortName="Q4-FY15"
stratumId="2" timeslot="63" encodedTimePeriod="2::63" id="63002"
end="2016-01-01">
         <period code="10/2015" label="Oct-2015" shortName="Oct-2015"
stratumId="1" timeslot="189" encodedTimePeriod="1::189" id="189001"
end="2015-11-01" />
         <period code="11/2015" label="Nov-2015" shortName="Nov-2015"
stratumId="1" timeslot="190" encodedTimePeriod="1::190" id="190001"
end="2015-12-01" />
         <period code="12/2015" label="Dec-2015" shortName="Dec-2015"
stratumId="1" timeslot="191" encodedTimePeriod="1::191" id="191001"
end="2016-01-01" />
       </period>
     </period>
     <period code="2016" label="FY2016" shortName="FY2016" stratumId="3"
timeslot="16" encodedTimePeriod="3::16" id="16003" end="2017-01-01">
       <period code="Q1-2016" label="Q1-FY16" shortName="Q1-FY16"
stratumId="2" timeslot="64" encodedTimePeriod="2::64" id="64002"
end="2016-04-01">
         <period code="01/2016" label="Jan-2016" shortName="Jan-2016"
stratumId="1" timeslot="192" encodedTimePeriod="1::192" id="192001"
end="2016-02-01" />
         <period code="02/2016" label="Feb-2016" shortName="Feb-2016"
stratumId="1" timeslot="193" encodedTimePeriod="1::193" id="193001"
end="2016-03-01" />
         <period code="03/2016" label="Mar-2016" shortName="Mar-2016"
stratumId="1" timeslot="194" encodedTimePeriod="1::194" id="194001"
end="2016-04-01" />
       </period>
       <period code="Q2-2016" label="Q2-FY16" shortName="Q2-FY16"
stratumId="2" timeslot="65" encodedTimePeriod="2::65" id="65002"
end="2016-07-01">
         <period code="04/2016" label="Apr-2016" shortName="Apr-2016"
stratumId="1" timeslot="195" encodedTimePeriod="1::195" id="195001"
end="2016-05-01" />
         <period code="05/2016" label="May-2016" shortName="May-2016"
stratumId="1" timeslot="196" encodedTimePeriod="1::196" id="196001"
end="2016-06-01" />
         <period code="06/2016" label="Jun-2016" shortName="Jun-2016"
stratumId="1" timeslot="197" encodedTimePeriod="1::197" id="197001"
end="2016-07-01" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        </period>
        <period code="Q3-2016" label="Q3-FY16" shortName="Q3-FY16"
 stratumId="2" timeslot="66" encodedTimePeriod="2::66" id="66002"
 end="2016-10-01">
          <period code="07/2016" label="Jul-2016" shortName="Jul-2016"
 stratumId="1" timeslot="198" encodedTimePeriod="1::198" id="198001"
 end="2016-08-01" />
          <period code="08/2016" label="Aug-2016" shortName="Aug-2016"
 stratumId="1" timeslot="199" encodedTimePeriod="1::199" id="199001"
 end="2016-09-01" />
          <period code="09/2016" label="Sep-2016" shortName="Sep-2016"
 stratumId="1" timeslot="200" encodedTimePeriod="1::200" id="200001"
 end="2016-10-01" />
        </period>
        <period code="Q4-2016" label="Q4-FY16" shortName="Q4-FY16"
 stratumId="2" timeslot="67" encodedTimePeriod="2::67" id="67002"
 end="2017-01-01">
          <period code="10/2016" label="Oct-2016" shortName="Oct-2016"
 stratumId="1" timeslot="201" encodedTimePeriod="1::201" id="201001"
 end="2016-11-01" />
          <period code="11/2016" label="Nov-2016" shortName="Nov-2016"
 stratumId="1" timeslot="202" encodedTimePeriod="1::202" id="202001"
 end="2016-12-01" />
          <period code="12/2016" label="Dec-2016" shortName="Dec-2016"
 stratumId="1" timeslot="203" encodedTimePeriod="2::203" id="203001"
 end="2017-01-01" />
        </period>
      </period>
    </time>
  </output>
</response>
```

一部回答フォーマット **(includeAllLocales="1"** を含む**)**

注：通常、すべての期間と層に口ケール ブロックがあります。以下には、層セクションのみが表示されています。期間の口ケールと口ケール ブロックの形式は同じです。

```
          <stratum code="year" label="Year" shortName="Year" id="3">
            <locales>
                <locale locale="en" label="Year" shortName="Year" />
                <locale locale="de" label="Jahr" shortName="Jahr" />
                <locale locale="fr" label="Anne" shortName="Anne" />
                <locale locale="es" label="Ao" shortName="Ao" />
                <locale locale="pt" label="Ano" shortName="Ano" />
                <locale locale="nl" label="Jaar" shortName="Jaar" />
                <locale locale="ja" label="年" shortName="年" />
            </locales>
            <stratum code="qtr" label="Quarter" shortName="Quarter" id="2">
                <locales>
                    <locale locale="en" label="Quarter"
 shortName="Quarter" />
                    <locale locale="de" label="Quartal"
 shortName="Quartal" />
                    <locale locale="fr" label="Trimestre"
 shortName="Trimestre" />
                    <locale locale="es" label="Trimestre"
 shortName="Trimestre" />
                    <locale locale="pt" label="Trimestre"
 shortName="Trimestre" />
                    <locale locale="nl" label="Kwartaal"
 shortName="Kwartaal" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <locale locale="ja" label="四半期" shortName="四半期" />
                </locales>
                <stratum code="month" label="Month" shortName="Month" id="1"
isDefault="1">
                    <locales>
                        <locale locale="en" label="Month"
shortName="Month" />
                        <locale locale="de" label="Monat"
shortName="Monat" />
                        <locale locale="fr" label="Mois" shortName="Mois" />
                        <locale locale="es" label="Mes" shortName="Mes" />
                        <locale locale="pt" label="Ms" shortName="Ms" />
                        <locale locale="nl" label="Maand"
shortName="Maand" />
                        <locale locale="ja" label="月" shortName="月" />
                    </locales>
                </stratum>
            </stratum>
        </stratum>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、警告メッセージが応答に含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | メッセージ | |
| 説明 | | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のメッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | message |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストの口ケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |
| メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定された口ケールの言語になります (その口ケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。 | | | |

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の必須の時間要素。この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 時間要素 | | | |
| タグ名 | | time | |
| 説明 | | 1 つのルート層要素、0 または 1 つの初期残高要素、1 つ以上のルート層の期間要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| isCustom | あり | 1 または 0。このインスタンスのカレンダーがカスタマイズ済かどうかを示します。 | 1 |
| q1FirstMonth | なし | 会計年度の開始月 (0 から開始)この属性が表示されるのは、リクエストで includeLegacyInformation が 1 であり、isCustom が 0 の場合のみです。 | 8 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| lastMonthIsFY | なし | 会計年度が、その会計年度が終了する暦年と同等かどうかを示します。この属性は、リクエストで includeLegacyInformation が 1 で、isCustom が 0 の場合にのみ表示されます。 | 0 |

連番

API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。

エレメントの内容

正確に 1 つの層要素、0 または 1 つの初期残高要素、および 1 つ以上のルート層期間要素。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 層要素 | | | |
| タグ名 | | 層 | |
| 説明 | | exportTime API コールから返されるカレンダーの層を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 時間層の一意のユーザー定義識別子。 | 年 |
| ラベル | あり | 時間層の一意でないユーザー定義のテキスト識別子。 | 会計年度 |
| shortName | あり | より短い名前が要求される場合に使用される一意でないユーザー定義のテキスト識別子。短縮名が定義されていない場合、ラベルはここに表示されます。 | Year |
| ID | あり | システムによって生成される時間層の一意の整数識別子。 | 7 |
| で使用<br>API v16 以上でサポート | なし | キューブ シートまたはモデル シートが時間層に関連付けられているか、あるいはこれがデフォルトの時間層であるかを示すフラグ。 | 1 |
| isDefault<br>API v16 以上でサポート | なし | 時間層がデフォルトの層であるかどうかを示すフラグ。 | 1 |

エレメントの内容

ゼロまたは 1 つの口ケール要素これは、includeAllLocales が設定されている場合にのみ含まれます。

0 または 1 つの層要素最下位以外の各層には、正確に 1 つの層要素があります。最下位層要素に含まれる層要素はゼロです。

| | |
|---|---|
| 初期残高要素 | |
| タグ名 | 初期の残高 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | exportTime API コールの応答で返されるバージョンの開始月より前の最後の最下位期間を表します。これは、1 つのバージョンのみがリクエストされた場合にのみ含まれます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 初期の累積期間におけるユーザー定義の一意の識別子。 | 12/2003 |
| ラベル | あり | 初期の残高期間の一意でないユーザー定義のテキスト識別子。 | 2003 年 12 月 |
| 短縮名 | あり | 初期残高期間の一意でないユーザー定義の短いテキスト識別子。短縮名が定義されていない場合は、ラベルが表示されます。 | 12 月 |
| stratumId | あり | 初期残高が属する層の ID。 | 1 |
| タイム スロット | あり | 初期残高が属する期間のタイムスロット | 47 |
| encodedTimePeriod | あり | StrutumId::timeslot の形式の期間のエンコードされたデータ。 | 1::47 |
| ID | あり | 初期の累積期間の一意のシステム生成整数識別子。 | 47001 |
| 開始 | あり | YYYY-MM-DD の形式で指定された初期残高の開始日 (含む)。 | 2003-12-01 |
| 終了 | あり | YYYY-MM-DD の形式での、初期残高の終了日 (除外)。 | 2004-01-01 |
| legacyReportTimeId | なし | 古いバージョンのこの API でこの期間に表示されていたレポート ID。この属性は、リクエストで includeLegacyInformation が 1 で、isCustom が 0 の場合にのみ表示されます。 | 200312 |
| legacySheetTimeId | なし | 古いバージョンのこの API でこの期間に使用されていたシート時間 IDこの属性は、リクエストで includeLegacyInformation が 1 で、isCustom が 0 の場合にのみ表示されます。 | 48、Q63、または Y72 |
| エレメントの内容 | | | |
| ゼロまたは 1 つの 口ケール 要素 | | | |

| | |
|---|---|
| 期間要素 | |
| タグ名 | 期間 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | exportTime API 呼び出しから返される単一の暦期間を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 期間の一意のユーザー定義の識別子。 | 2004 年第 1 四半期 |
| ラベル | あり | 期間の一意でないユーザー定義のテキスト識別子。 | Q1-FY04 |
| shortName | あり | より短い名前が要求される場合に使用される一意でないユーザー定義のテキスト識別子。短縮名が定義されていない場合、ラベルはここに表示されます。 | Q1 |
| stratumId | あり | 期間が属する層の ID。 | 2 |
| ID | あり | システムによって生成される一意の整数識別子。 | 16002 |
| 開始 | あり | YYYY-MM-DD の形式で指定された期間の開始日 (含む)。 | 2004-01-01 |
| 終了 | あり | YYYY-MM-DD の形式での、期間の終了日 (除外)。 | 2004-04-01 |
| legacyReportTimeId | なし | 古いバージョンのこの API でこの期間に表示されていたレポート ID。この属性は、リクエストで includeLegacyInformation が 1 で、isCustom が 0 の場合にのみ表示されます。 | 200491 |
| legacySheetTimeId | なし | 古いバージョンのこの API でこの期間に使用されていたシート時間 IDこの属性は、リクエストで includeLegacyInformation が 1 で、isCustom が 0 の場合にのみ表示されます。 | 48、Q63、または Y72 |
| エレメントの内容 | | | |
| ゼロまたは 1 つのロケール要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール要素 | | | |
| タグ名 | | ロケール | |
| 説明 | | 1 つ以上の ロケール 要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のロケール要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール要素 | | | |
| タグ名 | | ロケール | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | ロケールの説明。テキストはロケールの折り畳みルールに従うことに注意してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ロケール | あり | ロケールのコード。 | ja |
| ラベル | あり | 期間/層のローカライズ済みラベル | 2016 会計年度 |
| shortName | あり | 期間/層のローカライズ済みの短い名前。 | 2016 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**exportTransactionDefinition**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | インスタンス内のトランザクションの定義 (使用可能な列) を返します。 |
| 起動に必要な権限 | IMP (データのインポート) または manage_tx (トランザクション フィールド定義の管理) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはインスタンス内のトランザクションの定義を記述した XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="exportTransactionDefinition" callerName="a string that
 identifies your client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、この API を利用してアクションを実行するために必要な権限がユーザーに与えられている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | | |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
<output>
   <transaction>
     <fields>
       <posting-date name="Posting Date"/>
       <type name="Transaction Type">
         <value id="178" name="Journal Entry"/>
         <value id="179" name="Purchase Order"/>
         <value id="177" name="Invoice"/>
         <value id="180" name="Transaction"/>
       </type>
       <accounts name="Account"/>
       <levels name="Plan"/>
       <dimension id="4" name="Product">
         <value id="48" name="B-2"/>
         <value id="47" name="B-1"/>
         <value id="14" name="A"/>
         <value id="15" name="B-Ste"/>
       </dimension>
       <text-selector id="4" name="Flavor">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
          <value id="123" name="Chocolate"/>
          <value id="122" name="Vanilla"/>
        </text-selector>
        <text name="Description"/>
        <number name="Sales Tax"/>
        <date name="Due Date"/>
        <amount name="Transaction Amount"/>
      </fields>
    </transaction>
</output>
</response>
```

トランザクションの各フィールドは、次のいずれかの要素によって定義されます。

1. posting-date (1)
2. type (1)
3. 科目 (1)
4. 組織 (1)
5. 属性 (0 以上)
6. テキスト セレクター (0 以上)
7. テキスト (ゼロ以上)
8. 数値 (ゼロ以上)
9. 日付 (ゼロ以上)
10. 金額 (1)

| | | | |
|---|---|---|---|
| トランザクション要素 | | | |
| タグ名 | | トランザクション | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つのフィールド要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| フィールド要素 | | | |
| タグ名 | | フィールド | |
| 説明 | | すべての必須フィールドと任意のフィールドのコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| それぞれのトランザクションに必要なフィールドごとに 1 つの要素を入力します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| posting-date 要素 | | | |
| タグ名 | | posting-date | |
| 説明 | | 取引が計上された必須の日付。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | 転記日 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | |
|---|---|
| タイプ要素 | |
| タグ名 | type |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | 必須の取引タイプ | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性 名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | トランザクションのタイプ |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の値要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | 科目 | |
| 説明 | | このトランザクションが属する科目。階層構造を含む科目メタデータは、exportAccounts を呼び出すことによって取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | Account |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | このトランザクションが属する組織。階層構造を含む組織のメタデータは、exportLevels を呼び出すことによって取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | level |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | トランザクションに割り当てることができる属性です。階層構造を含む完全な属性メタデータは、exportDimensions を個別に呼び出すことで取得できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性の内部の数値識別子。 | 42 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | 製品 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の値要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| text-Selector 要素 | | | |
| タグ名 | | text-selector | |
| 説明 | | 取引にタグ付けするために定義された値のカスタムリスト。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | テキスト セレクターの内部の数値識別子。 | 42 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | フレーバー |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の値要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 値要素 | | | |
| タグ名 | | 値 | |
| 説明 | | エンクローズのタイプ、属性、またはテキスト セレクターに定義された値の 1 つ。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 値の内部の数値識別子。 | 42 |
| 名前 | あり | 値の印刷版。 | インボイス |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| テキスト要素 | | | |
| タグ名 | | text | |
| 説明 | | 取引に対応する一般的なテキスト。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | 説明 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 数字要素 | | | |
| タグ名 | | 数値 | |
| 説明 | | 取引に割り当てられる汎用の番号。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷されたヘッダー | 売上税 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 日付要素 | | | |
| タグ名 | | date | |
| 説明 | | 取引に割り当てられる一般的な日付。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | 期日 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 金額要素 | | | |
| タグ名 | | 金額 | |
| 説明 | | 取引に必要な金額。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | このフィールドの印刷ヘッダー | トランザクションの金額 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**exportUsers**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | インスタンス内のすべてのユーザーの完全なリストのメタデータを返します。 |
| 起動に必要な権限 | ユーザー管理 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはインスタンス内で定義された全ユーザー セットを示すXML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportUsers" callerName="a string that identifies your client
 application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素を含める | | | |
| *API v17* 以前で使用できます。 | | | |
| *API v18+* では使用できません。 | | | |
| タグ名 | | 含める | |
| 説明 | | ユーザーの情報のどの側面を回答に含めるか、または回答から除外するかを示すフラグのセットを表します。この要素は任意です。存在しない場合のデフォルト値は、ownLevels では true、hiddenVersions では false になります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| グループ<br>API v23+ で使用できます。 | なし | 単語「true」または「false」のいずれか。応答内の user 要素に groupIds 特性が含まれるかどうかを示します。True の場合、応答の groupIds には、ユーザーが所属するすべてのグループのカンマ区切りリストが含まれます。特性が存在しない場合、またはその値が true または False 以外の場合は、デフォルト値の False が使用されます。 | 真 |
| ownedLevels<br>*API v17* 以前で使用できます。<br>*API v18+* では使用できません。 | なし | 単語「true」または「false」のいずれか。応答内の user 要素にownLevels 特性を含めるか、含めないかを示します。特性が存在しない場合、またはその値が true または False 以外の場合は、デフォルト値の true が使用されます。 | 真 |
| hiddenVersions<br>*API v17* 以前で使用できます。<br>*API v18+* では使用できません。 | なし | 単語「true」または「false」のいずれか。応答内の user 要素に、hiddenVersions 特性を含めるか否かを示します。特性が存在しない場合、またはその値が true または False 以外の場合は、デフォルト値の False が使用されます。 | false |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<output>
   <users seqNo="55">
     <user id="19" guid="B9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092C2E"
 login="analytica@fakecompany.com" email="analytica@fakecompany.com"
          name="Anna Analyzer" permissionSetId="3" timeZone="US/Pacific"/>
     <user id="123" guid="AAFF5218D55ABB9234660001BEC117A9"
 login="randomuser@fakecompany.com" email="randomuser@fakecompany.com"
          name="J. Random User" permissionSetId="2" timeZone="US/Pacific"/>
   </users>
</output>
</response>
```

| | |
|---|---|
| 回答エレメント<br>タグ名 | response |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 出力要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| ユーザー要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | 1 つ以上のユーザー要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 連番<br><br>API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。 | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のユーザー要素 | | | |

| ユーザー要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | exportUsers API 呼び出しの応答で返される単一のユーザーを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | ユーザーの内部システム ID 番号。 | 19 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ガイド | あり | ユーザーのグローバルに一意の識別子。この識別子は、将来ログインまたは名前が変更されても変更されることはありません。 | B9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092 |
| ログイン | あり | このユーザーのログイン情報。 | analytica@fakecompany.com |
| E メール | あり | このユーザーの E メールアドレス。ユーザーが有効な E メール アドレスを設定していない場合、空白になることがあります。 | analytica@fakecompany.com |
| 名前 | あり | このユーザーの名前。 | Anna アナライザー |
| ポジション | なし | ユーザーのポジション | "CEO" |
| *API v39* 以上で使用可能 | | | |
| permissionSetId<br>API v25 以上で使用可能<br>API v36+ では使用できません。 | あり | このユーザーに割り当てられた権限セットの内部システム ID。exportPermissionSetsも参照してください。 | |
| permissionSetIds<br>API v36 以上で使用可能 | あり | このユーザーに割り当てられた権限セットの内部システム ID。exportPermissionSetsも参照してください。 | |
| roleId<br>API v25 以前で使用可能です。<br>API v25+ では使用できません | あり | このユーザーに割り当てられたロールの内部システム ID。「exportRoles」も参照してください。 | 3 |
| ownedLevels<br>API v18 では使用できません。 | あり | この属性が含まれるのは、リクエストの認証情報に含まれるユーザーが組織ツリー全体に対する組織管理権限を持っており、ownLevels を含めるべきであることがリクエストで示されている場合に限られます。含まれている場合、この特性の値は、このユーザーが直接アクセスを許可されている組織の内部システム ID のカンマ区切りリストです。ユーザーは、ここにリストされている組織のすべての子組織にもアクセスできるようになります。 | 5,10,13 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| hiddenVersions<br>API v18 では使用できません。 | N (説明を参照) | この属性が含まれるのは、リクエストの認証情報に含まれるユーザーがバージョン管理権限を持っており、リクエストで「hiddenVersions」を含めるよう指定されている場合のみです。含まれている場合、この特性の値は、このユーザーには表示されない (ただし、その親が存在しないか非表示でない) バージョンまたはバージョン フォルダの内部システム ID のカンマ区切りリストです。また、ユーザーは、ここにリストされているバージョンの子バージョンを表示できません。 | 121 |
| alternateEmail<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | このユーザーの代替 E メール アドレス。 | "abc@greenco.com" |
| samlFedId<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | このユーザーの SAMLFedulation ID。 | "1234" |
| timeZone<br>*API v39 以上で使用可能* | あり | ユーザーのタイムゾーン。 | 米国/太平洋地域 |
| ホームページ<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | ユーザーのホームページ。 | "Welcome" |
| 国<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | ユーザーの国コード (英 2 文字コード)。 | "US" |
| usState<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | ユーザーの状態コード (国は米国である必要があります)。 | "CA" |
| エリア<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | ユーザーのエリア ID | "111" |
| perspectiveName<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | ユーザーのエリアのエリア名 | "テスト エリア" |
| ダッシュボード<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | ユーザーのダッシュボード ID - ダッシュボード ID を設定するにはエリア ID が必要です。エリア ID が指定され、ダッシュボード ID が指定されていない場合、ダッシュボード ID はヌルに設定されます。 | "222" |
| dashboardName<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | ユーザーのダッシュボードのダッシュボード名。 | "ダッシュボードのテスト" |
| netsuiteLogin<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | NetSuite ログイン | "abc@netsuite.com" |
| salesforceLogin<br>*API v39 以上で使用可能* | なし | Salesforce ログイン | "abc@salesforce.com" |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| createdDate<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーが作成された日時のタイムスタンプ | "2023-08-15 08:02:16.0" |
| lastLogin<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーが最後にログインした日時のタイムスタンプ | "2023-11-13 22:22:39.0" |
| failedAttempts<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | このユーザーが失敗したログイン試行の回数 (連続)。 | "0" |
| ロック済<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーがロックされているかどうか/(ログイン失敗回数が多すぎるため)ログインできないか。 | "false" |
| エレメントの内容<br>1 つのサブスクリプション エレメント | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| サブスクリプション エレメント | | | |
| タグ名 | | - サブスクリプション | |
| 説明 | | ユーザーの E メール配信設定を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 登録なし | あり | ユーザーがすべてのサブスクリプションからオプトアウトしたことを知らせる設定1 は、ユーザーがすべてのサブスクリプションからオプトアウトしていることを意味します。 | 0 |
| systemAlertsAndUpdates | あり | システム アラートと、ユーザーがオプトアウトしたサブスクリプションの更新に対する設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| customerNewsLetter | あり | ユーザーがオプトしたカスタマー ニュース レターの配信先の設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| localEvents | あり | ユーザーがオプトしたローカル イベントのサブスクリプションの設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| educationTraining | あり | ユーザーによってオプトインされた教育および研修イベントのサブスクリプションの設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| customerWebinars | あり | ユーザーがオプトしたカスタマー Web セミナー イベントのサブスクリプションの設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| newProductsAndEnhancements | あり | ユーザーがオプトインした新製品や機能強化の通知の設定を行います。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| partnerNewsLetter | あり | ユーザーがオプトしたパートナー ニュースレター サブスクリプションの設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| partnerWebinars | あり | ユーザーによってオプトされたパートナーの Web セミナー イベントのサブスクリプションの設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| userGroups | あり | ユーザーがオプトインしたユーザー グループ イベント通知の設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 1 |
| サーベイ | あり | ユーザーがオプトしたサーベイを受信するための設定。1 はユーザーがオプトインしていることを、0 はオプトアウトしていることを意味します。 | 0 |
| エレメントの内容<br>なし | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**exportVersions**

API v40 で更新されました。(2024 年 9 月 21 日)。

重要 : この API はユーザーのみをサポートします 概念: アクセス ルール ( 1452ページ ) API v22 以上

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 検証されると、このメソッドはリクエスト元のユーザーに対して非表示になっていないインスタンス内で定義されたすべてのバージョンのセットを示す XML ドキュメントを返します。 |
| 起動に必要な権限 | なし (インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別して認証するための認証情報タグのみが含まれています。検証されると、このメソッドはリクエスト元のユーザーに対して非表示になっていないインスタンス内で定義されたすべてのバージョンのセットを示す XML ドキュメントを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="exportVersions" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 要素を含める | | | |
| タグ名 | | 含める | |
| 説明 | | バージョンの情報のどの側面を応答に含めるか、または応答から除外するかを示すフラグのセットを表します。この要素は任意です。存在しない場合、API はすべてのバージョン情報を返します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| rootActuals<br><br>2019.3 時点では、どの API バージョンでもサポートされていません。 | なし | バージョン セレクターから実績が非表示になっているときにルート実績バージョンを含めるかどうかを示します。 | false |
| シナリオ | なし | 非公開の What-If シナリオを回答に含めるかどうかを示します。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| currencyVersions<br><br>API v40 以上で使用可能<br><br>エレメントの内容<br>(なし) | なし | 換算実績の通貨バージョンを回答に含めるかどうかを示します。<br><br>注：お使いのインスタンスがこの機能の対象となるかどうかを確認するには、指定サポート連絡先にご連絡ください。 | false |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<output>
<versions seqNo="32">
  <version id="1" name="Actuals" shortName="" type="ACTUALS"
 isVirtual="false" description="Total Actuals" isDefaultVersion="false"
           isLocked="false" hasAuditTrail="false" isImportable="0"
           startVer="2012" completedValuesThru="03/2012"
           startScroll="01/2012" endVer="2016" lockLeading="" >
    <version id="5" name="Adjusted Actuals" shortName="SV-13" type="ACTUALS"
 isVirtual="false" description="Actuals SubVersion" isDefaultVersion="false"
             isLocked="false" hasAuditTrail="false" isImportable="0" >
      <version id="6" name="Original Import" shortName="SSV-13"
 type="ACTUALS" isVirtual="false" description="Values Imported from the GL"
 isDefaultVersion="false"
               isLocked="false" hasAuditTrail="false" isImportable="1" />
      <version id="8" name="Manual Adjustments" shortName="SSV-14"
 type="ACTUALS" isVirtual="false" description="Actuals Sub-Version for
 Manual Adjustments" isDefaultVersion="false"
               isLocked="false" hasAuditTrail="true" isImportable="1" />
    </version>
    <version id="9" name="Eliminations" shortName="ELIM"
 type="ACTUALS" isVirtual="false" description="Eliminating entries"
 isDefaultVersion="false"
             isLocked="false" hasAuditTrail="false" isImportable="0" />
  </version>
  <version id="2" name="Budget 2013" shortName="" type="PLANNING"
 isVirtual="false" description="This is the budget for 2013 with a five-year
 span." isDefaultVersion="true"
           isLocked="false" hasAuditTrail="true" isImportable="1"
           leftScroll="2013" startPlan="01/2013" endPlan="2017"
 lockLeading="05/2013" />
    <version id="10" name="Worst Case" shortName="S13-A-WC"
 type="SCENARIO" isVirtual="false" description="Worst Case for Budget 2013"
 isDefaultVersion="false" isLocked="false"
             hasAuditTrail="false" isImportable="0" isPredictive="false" />
  </version>
 <version id="3" name="Budget 2014" shortName="B-14" type="PLANNING"
 isVirtual="false" description="This is the budget for 2014 with a five-year
 span." isDefaultVersion="false"
           isLocked="false" hasAuditTrail="false" isImportable="1"
           leftScroll="2014" startPlan="01/2014" endPlan="2018"
 lockLeading="" />
</versions>
</output>
</response>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出されているメソッドまたは API のバージョンが廃止され、廃止予定であることを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出力要素 | | | |
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | 1 つ以上のバージョン要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 連番<br><br>API v17 で追加されましたが、将来の使用のために予約されています。 | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のバージョン要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | exportVersions API 呼び出しへの応答で返される単一のバージョンを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | バージョンまたはフォルダの内部システム ID 番号。すべての ID は、すべてのバージョン、サブバージョン、およびフォルダ間で一意になります。 | 2 |
| 名前 | あり | "バージョンの管理" に表示されるバージョンまたはフォルダの名前。 | 2015 年予算 |
| shortName | なし | バージョンの管理で入力されたバージョンの短縮名 (存在する場合) | B2015 |
| type<br>API v37 で更新されました。 | あり | 次の値のいずれかを選択します。<br>• ACTIALS = 標準実績バージョンまたはサブバージョン<br>• JOURNAL_ENTRY = 仕訳入力の実績サブバージョン<br>• PLANNING = 計画バージョン<br>• VERSION_FOLDER = フォルダ<br>• Sシナリオ = 個人的な what-if シナリオ | 実績 |
| isVirtual<br>API v16 以上で使用可能 | あり | 仮想バージョンかどうかを示す true または False | false |
| 説明 | あり | "バージョンの管理" に表示されるバージョンまたはフォルダの説明。 | これは、5 年スパンの 2015 年の予算です。 |
| isDefaultVersion | あり | バージョンがデフォルトバージョンであるかどうかを示します。バージョンがデフォルト バージョンである場合は真、それ以外の場合は偽です。 | 真 |
| isLocked | なし | バージョンが「グローバルにロック」されている ("ロック済バージョン" チェックボックスがオンになっている) かどうかを示します。存在しない場合、そのバージョンはロック済とは見なされません。実績バージョンまたはフォルダでは、常に "false" になります。 | 真 |
| hasAuditTrail | あり | バージョンで "変更履歴" が有効になっているかどうかを示します。 | 真 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| enabledForWorkflow<br>API v17 以上で使用可能 | なし | ワークフローに対してバージョンが有効かどうかを示します。 | 1 |
| isImportable | なし | この API をリクエストしているユーザーが、バージョンにデータをインポートすることを許可されているかどうかを示します。0 はそのバージョンでインポートを受け入れることができないことを意味し、1 はインポートを受け入れることを意味します。指定されたバージョンの少なくとも 1 つのタイムスロットがこのユーザーに対してインポート可能である場合、そのバージョンはインポート可能です。 | 1 |
| startVer | なし | バージョンが開始するルート期間のコード。バージョン管理ページの "バージョンの開始" に相当します。この特性は、ルート実績バージョンに対してのみ表示されます。この属性は、ルート実績バージョンの場合は必須です。 | 2015 |
| endVer | なし | バージョンが終了するルート期間のコード。バージョン管理ページの "バージョンの終了" に相当します。この特性は、ルート実績バージョンに対してのみ表示されます。この属性は、ルート実績バージョンの場合は必須です。 | 2015 |
| startScroll | なし | 計画が開始される最下位期間のコード。バージョン管理ページのスクロールの開始場所と同じです。この特性は、ルート実績バージョンに対してのみ表示されます。この属性は、ルート実績バージョンの場合は必須です。 | 2015/01 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| completedValuesThru | なし | ルート実績にデータが入力された最新の最下位期間のコード。標準カレンダーでは、これは月になります。バージョン管理ページの で入力された値と同じです。この特性は、ルート実績バージョンに対してのみ表示されます。この属性は、ルート実績バージョンでは任意です。 | 03/2015 |
| leftScroll | なし | バージョンが開始するルート期間のコード。バージョン管理ページの表示開始月と同じです。この特性は、プランニング バージョンにのみ表示されます。この特性は、計画バージョンに必要です。 | 2015 |
| startPlan | なし | 計画が開始される最下位期間のコード。バージョン管理ページの "計画の開始" に相当します。この特性は、Planning バージョンでのみ表示され、Planning バージョンでは必須です。 | 02/2015 |
| endPlan | なし | バージョンが終了するルート期間のコード。バージョン管理ページの "計画の終了" に相当します。この特性は、プランニング バージョンにのみ表示されます。この特性は、計画バージョンに必要です。 | 2015 |
| lockLeading | なし | バージョン値がロックされる最下位期間のコード。バージョン管理ページで次の時点までのすべての月をロックするのに相当します。この特性は、ルート実績バージョンと計画バージョンにのみ表示されます。この属性は、ルート実績バージョンと計画バージョンでは任意です。 | 05/2015 |
| isPredictive<br>API v28 以上で使用可能 | あり | バージョンが予測バージョンであるかどうかを示します。 | false |
| エレメントの内容<br>このバージョンの直接の子バージョンごとに 1 つのネストされたバージョン要素 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### importDimensionMapping

API v19 以上でサポート

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの送信 |
| 説明 | importDimensionMapping API を使用して派生属性値をインポートできます。 |
| 起動に必要な権限 | |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

importDimensionMapping API を使用して、モデル シートの行に自動入力されるマッピング属性値を決定するマッピング条件をインポートできます。これはマッピング条件の作成、更新、削除に使用できます。モデル シート行の派生属性値は、仮想バージョンをサポートしていません。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importDimensionMapping" callerName="a string that identifies
 your client application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
  <version name="Budget 2017" id="7"/>
  <dimensions>
        <dimension id="345" name="Area">
            <mappingCriteria>
                <mappingCriterion id="121">
                    <mapTo dimensionValueId="877" dimensionValue="East"/>
                    <dimension name="Level" valueId="1" value="HQ"/>
                    <dimension name="State" valueId="15" value="MA"/>
                </mappingCriterion>
                <mappingCriterion id="122">
                    <mapTo dimensionValueId="876" dimensionValue="West"/>
                    <dimension name="Level" valueId="1" value="HQ"/>
                    <dimension name="State" id="5">
                        <dimensionValue id="900" code="CA"/>
                        <dimensionValue id="901" code="CO"/>
                    </dimension>
                </mappingCriterion>
            </mappingCriteria>
        </dimension>
    </dimensions>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、期間名、日付形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstancesAPI メソッドを使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | マッピングをインポートするバージョンを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | ID が指定されていない場合は必須です。 | バージョンの名前。 | 2017 年予算 |
| ID | 名前が指定されていない場合は必須です。 | バージョン ID | 7 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の組織要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | <属性> 要素のリストのコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| エレメントの内容<br>属性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | マッピングをインポートする属性について説明します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | ID が指定されていない場合は必須です。 | マッピングをインポートする属性の名前 | 面 |
| ID | 名前が指定されていない場合は必須です。 | マッピングをインポートする属性の ID。 | 15 |
| エレメントの内容<br>mappingCriteria 要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| mappingCriteria 要素 | | | |
| タグ名 | | mappingCriteria | |
| 説明の 説明 | | <mappingCriterion> 要素のリストのコンテナ | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | なし | ID を指定すると、この ID を持つ既存のマッピング基準が更新されます。ID が指定されていない場合、新しいマッピング基準が属性に追加されます。 | 12 |
| エレメントの内容<br>派生属性の各属性値のマッピング基準要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| mappingCriterion 要素 | | | |
| タグ名 | | mappingCriterion | |
| 説明の 説明 | | 属性値が にマッピングされるかどうかを管理する個々の属性と属性値について説明します。*MapTo*、*dimension*、*dimensionValue* の タグのグループが後に続く必要があります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | なし | ID を指定すると、この ID を持つ既存のマッピング基準が更新されます。ID が指定されていない場合、新しいマッピング基準が属性に追加されます。 | 12 |
| 削除 | なし | "yes" を入力すると、マッピング内のすべてのマッピング条件が削除されます。空の値または "はい" 以外の値は無視され、マッピング条件は削除されません。 | はい |
| エレメントの内容<br>1 つのmapTo 要素と最大 6 つの属性要素が含まれます。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| MapTo 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | mapTo | |
| 説明 | | マッピング基準に基づいて派生する属性値を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| dimensionValue | dimensionValueId が指定されていない場合は必須です。 | このマッピング基準がマッピングする属性値の名前。 | 面 |
| dimensionValueId | dimensionValue が指定されていない場合は必須です。 | このマッピング基準がマッピングされる属性値 ID の名前。 | 12 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | *MapTo* 属性値の派生に使用される属性の 1 つを示します。少なくとも、"組織" 属性の 1 つの属性要素と、カスタム属性の 1 つの属性要素が必要です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | ID が指定されていない場合は必須です。 | 属性の名前 | 業種 |
| ID | 名前が指定されていない場合は必須です。 | 属性の ID | |
| 値 | なし | 属性値の名前。*dimensionValue*がない場合は必須 | 小売 |
| valueId | なし | 属性値の ID。*dimensionValue* 要素が存在しない場合は、this と value のいずれかが必須です | |
| エレメントの内容 | | | |
| dimensionValue 要素 | | | |

| dimensionValue 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | (任意) 属性 タグについて複数の属性値をリストする必要がある場合、 値 特性の代わりに一連の *dimensionValue* タグを使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 属性値の名前。 | 小売 |
| code<br>*API v30+* では、名前の代わりにコードを使用します。 | ID が指定されていない場合は必須です。 | 属性値のコード | 小売 |
| ID | code が指定されていない場合は必須です。 | 属性値の ID | 25 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例:

マッピング基準を設定して、組織属性の HQ と状態属性の MA を、エリア属性の East 属性値にマッピングします。両方の値が一致する行は、"East" で加算されます。

```
<dimension name="Area">
    <mappingCriteria>
        <mappingCriterion>
            <mapTo dimensionValue="East"/>
            <dimension name="Level" value="HQ"/>
            <dimension name="State" value="MA"/>
        </mappingCriterion>
    </mappingCriteria>
</dimension>
```

マッピング基準を設定して、組織属性の HQ と状態属性の MA を、エリア属性の East 属性値にマッピングします。両方の値が一致する行は、"East" で加算されます。ID 特性が指定されているため、このマッピング基準によって既存のマッピング基準がこの ID に置き換えられます。

```
<dimension name="Area">
    <mappingCriteria>
        <mappingCriterion id="123">
            <mapTo dimensionValue="East"/>
            <dimension name="Level" value="HQ"/>
            <dimension name="State" value="MA"/>
        </mappingCriterion>
    </mappingCriteria>
</dimension>
```

マッピング基準を設定して、組織属性の HQ と状態属性の CA または CO を エリア属性の East 属性値にマッピングします。両方の値が一致する行は、"East" で加算されます。

```
<dimension name="Area">
    <mappingCriteria>
        <mappingCriterion>
            <mapTo dimensionValue="East"/>
            <dimension name="Level" value="HQ"/>
            <dimension name="State">
                <dimensionValue code="CA"/>
                <dimensionValue code="CO"/>
            </dimension>
        </mappingCriterion>
    </mappingCriteria>
</dimension>
```

回答フォーマット

成功の回答

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true"/>
```

失敗の回答

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
<response success="false">
    <messages>
        <message>There are duplicate mapping conditions. Make all
 mappingCriterion conditions unique</message>
    </messages>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| メッセージ エレメント | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上のメッセージ要素 | |

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストの口ケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |
| メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定された口ケールの言語になります (その口ケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

### importGroups

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | Workday のコア システムまたは外部システムで作成したユーザー グループをインポートします。成功した場合、この API はインポートしたグループの詳細を返します。この API を使用して、Adaptive Planning のユーザー インターフェイスで作成されたユーザー グループを更新することはできません。 |
| 起動に必要な権限 | "グローバル ユーザー グループの管理" 権限 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザー グループをインポートするには 、"グローバル ユーザー グループの管理 > " 権限が必要です。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importGroups" callerName="a string that identifies your client
 application"
dataSource="WORKDAY/EXTERNAL" mode="REPLACE_ALL/UPDATE"
 userIdentifier="userName/userGUID/wid">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
    <groups>
        <group
          externalID="userGroup_ID_1"
          name="new user group"
           >
          <users>
              <user userGUID="B9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092C2E"
                  userName="user1"
                  wid="A9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092C2E" />
              <user userGUID="B9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092C2F"
                   userName="user3"
                   wid="A9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092C2F" />
          </users>
        </group>
     </groups>
</call>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

クエリー属性

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| dataSource | ユーザー グループ データのソースは以下のとおりです。<br>• WORKDAYユーザー グループ データのソースは Workday です。 これらのグループは Adaptive Planning 内で編集できません。<br>• 外部:ユーザー グループ データのソースが、Workday 以外の他のシステムにある場合。<br>管理者は "一般設定" ページで、外部のデータ ソースを持つグループの編集を有効にできます。その後、Adaptive Planning ユーザー インターフェイスを使用してこれらのグループを更新できます。参照 参考: 一般設定 ( 1390ページ )。 | あり |
| モード | API 呼び出しのモード:<br>• REPLANCE_ALLこのモードでは、Adaptive Planning インスタンス内のすべてのユーザー グループが、ペイロードで指定したユーザー グループに置き換えられます。<br>• 更新。このモードでは、ペイロードで指定したユーザー グループのみが更新されます。 | あり |
| userIdentifier | ユーザー グループで指定されたユーザーの識別子:<br>• userName.指定したユーザーのユーザー名。<br>• userGUID指定したユーザーのグローバル ユーザー ID。<br>• wid.指定したユーザーの Workday ID。 | あり |

| 認証情報要素 | |
| --- | --- |
| タグ名 | 認証情報 |
| 説明 | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、このユーザーとして API コールが実行されます。システム内のアクションの履歴や変更履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します。そのため、ユーザーは API 呼び出しを成功させるためにはアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのサインイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 受信する数値と日付の解釈に使用するロケールを指定します。また、出力番号と日付の形式を設定する (適切な千単位の区切り文字、期間名、日付の形式設定を使用)。このロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語も指定します。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性によって、ユーザーがデフォルト インスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| なし | | | |

| グループ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | グループ | |
| 説明 | | 作成または更新する一連のユーザー グループを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| externalID | あり | ユーザー グループの外部 ID。 | user_group_1 |
| 名前 | あり | ユーザー グループの名前。 | セキュリティ管理者 |
| エレメントの内容 | | | |
| ユーザー要素 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| ユーザー要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | ユーザー グループに追加するユーザー (複数可) を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| userGUID | Y (API 呼び出し元によって指定されたユーザー ID が userGUID である場合) | ユーザーのグローバル ID。 | B9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092 |
| userName | Y (API 呼び出し元によって指定されたユーザー ID が userName の場合) | ユーザーのユーザー名。 | updateMail@company.com |
| wid | Y (API 呼び出し元で指定されたユーザー ID が wid の場合) | ユーザーの Workday ID。 | A9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092 |
| エレメントの内容 | | | |

無効なユーザー (無効な userGUID/userName/wid) の場合、特定の無効なユーザーはスキップされ、残りの有効なユーザーのグループに対してリクエストが処理されます。ただし、次の <ユーザー> 要素に関連するシナリオでは、グループ全体がペイロードで却下されます。

1. ユーザー ID がありません:
   - `<user/>`
   - `<user userName=""/>`
   - `<user userName/userGUID/wid=" "/>`

   エラー メッセージユーザー ID がありません。すべてのユーザーについて有効な userName/userGUID/wid を指定してください。
2. WID の形式が無効です:
   - WID の長さが 32 文字を超えています。

   エラー メッセージ: すべてのユーザーについて有効な userWID を指定してください。
3. userGUID は有効な形式ではありません:
   - userGUID の長さが 32 文字を超えています。
   - userGUID は英数字ではありません。

   エラー メッセージ: すべてのユーザーについて有効な userGUID を指定してください。

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
  <output>
      <result>
          <imported_groups>
              <group success="true" externalID="ID_1" id="33" name="New
 Group 1" />
          </imported_groups>
      </result>
  </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、その応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |

エレメントの内容
作成呼び出しと更新呼び出しのどちらを行ったかに応じて、created_usergroup または update_usergroup ステータス要素を持つ単一の結果要素。

| imported_groups element | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | imported_groups | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| グループ成功 | あり | 返されるステータス (真または偽)。 | "true" |
| message | あり | ステータス メッセージ。 | ユーザー グループ新しいユーザー グループが作成されました。<br><br>ユーザー メンバーシップのクリアでペイロードは部分的に実行されました。再試行して問題が解決しない場合は、サポートまでご連絡ください。 |

エレメントの内容
なし。

**importModeledSheet**

API v40 で更新 (2024 年 9 月 21 日)

| | |
|---|---|
| カテゴリ | Metadata retrieval |
| 説明 | 指定されたモデル シートをインポートします。 |
| 起動に必要な権限 | Mod (シートの作成、編集、削除) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、およびどのシートがリクエストされているかの仕様 |

リクエストのフォーマット

```
<call method="importModeledSheet" callerName="a string that identifies your
 client application">
  <credentials credentials login="sampleuser@company.com"
 password="my_pwd" />

  <ConfigurableModel allow-actuals="false"
              allow-allocation="true" allow-edits-in-rollup-mode="false"
              breakback-pattern="0" code="Open Positions Clone"
 description="Open positions Clone to be filled"
              frozen-column-count="0" has-salary-detail="true" id="15"
 isglobal="1"
              prefix="OpeningsClone" revision="0"
              selected-plan-
ids="1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18"
              state="A" strata-code="month">
      <Columns>
          <AssignablePlan abbr="" code="Plan" id="0"
                      is-splitable="false" name="Plan" read-only="false"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
          <Driver abbr="" code="PositionCode" decimal-precision="0"
                    driver-type="0" id="22" is-split-key="false" is-
splitable="false"
                    name="Position Code" read-only="false" show-total-at-
bottom="false"
                    tool-tip="" />
          <Dimension abbr="" code="Department" codeHasBeenUpdated="false"
                    hasOverriddenTitle="false" id="6" is-splitable="true"
                    isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
 isTextSelector="false"
                    name="Department" read-only="false" show-total-at-
bottom="false"
                    tagType="0" tool-tip="" requiredColumn="true">
              <DimensionValue abbr="" id="7" in-use="1" name="Engr"
                        sort-order="0" />
              <DimensionValue abbr="" id="40" in-use="0" name="QA"
                        sort-order="1" />
              <DimensionValue abbr="" id="8" in-use="0" name="PS"
                        sort-order="3" />
              <DimensionValue abbr="" id="41" in-use="0" name="Dev"
                        sort-order="2" />
              <DimensionValue abbr="" id="9" in-use="1" name="G & A"
                        sort-order="4" />
              <DimensionValue abbr="" id="10" in-use="1" name="Sales"
                        sort-order="5" />
              <LookupTables />
          </Dimension>
          <Dimension abbr="" code="Title" codeHasBeenUpdated="false"
                    hasOverriddenTitle="false" id="16" is-splitable="true"
                    isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
 isTextSelector="false"
                    name="Title" read-only="false" show-total-at-
bottom="false"
                    tagType="0" tool-tip="" requiredColumn="false">
              <DimensionValue abbr="" id="64" in-use="1" name="Sales Rep"
                        sort-order="8" />
              <DimensionValue abbr="" id="65" in-use="0" name="Engr Mgr"
                        sort-order="10" />
              <DimensionValue abbr="" id="66" in-use="1" name="Sr Engr"
                        sort-order="11" />
              <DimensionValue abbr="" id="67" in-use="0" name="Engr"
                        sort-order="12" />
              <DimensionValue abbr="" id="68" in-use="0" name="GUI Engr"
                        sort-order="13" />
              <DimensionValue abbr="" id="47" in-use="0" name="CFO"
                        sort-order="1" />
              <DimensionValue abbr="" id="48" in-use="0" name="VP Mkt"
                        sort-order="3" />
              <DimensionValue abbr="" id="49" in-use="0" name="Doc Mgr"
                        sort-order="5" />
              <DimensionValue abbr="" id="18" in-use="0" name="CEO"
                        sort-order="0" />
              <DimensionValue abbr="" id="50" in-use="0" name="VP Sales"
                        sort-order="7" />
              <DimensionValue abbr="" id="51" in-use="0" name="VP Engr"
                        sort-order="9" />
              <DimensionValue abbr="" id="61" in-use="0" name="Controller"
                        sort-order="2" />
              <DimensionValue abbr="" id="62" in-use="1" name="Mkt Assoc"
                        sort-order="4" />
              <DimensionValue abbr="" id="63" in-use="0" name="Doc Writer"
                        sort-order="6" />
              <LookupTables />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
          </Dimension>
          <Dimension abbr="" code="Base Pay" codeHasBeenUpdated="false"
                     hasOverriddenTitle="false" id="1" is-splitable="true"
                     isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
 isTextSelector="false"
                     name="Base Pay" read-only="false" show-total-at-
bottom="false"
                     tagType="0" tool-tip="" requiredColumn="false">
              <DimensionValue abbr="" id="22" in-use="1" name="60-80K"
                          sort-order="3" />
              <DimensionValue abbr="" id="23" in-use="0" name="80-100K"
                          sort-order="4" />
              <DimensionValue abbr="" id="24" in-use="0" name="100-120K"
                          sort-order="0" />
              <DimensionValue abbr="" id="25" in-use="1" name="120-150K"
                          sort-order="1" />
              <DimensionValue abbr="" id="26" in-use="0" name="150-200K"
                          sort-order="2" />
              <DimensionValue abbr="" id="27" in-use="0" name=">200K"
                          sort-order="5" />
              <LookupTables />
          </Dimension>
          <Dimension abbr="" code="Position Type"
                     codeHasBeenUpdated="false" hasOverriddenTitle="false"
 id="10"
                     is-splitable="true" isEditDimension="false"
 isHiddenOnSheet="false"
                     isTextSelector="false" name="Position Type" read-
only="false"
                     show-total-at-bottom="false" tagType="0" tool-tip=""
 requiredColumn="false">
              <DimensionValue abbr="" id="28" in-use="1" name="Full Time"
                          sort-order="1" />
              <DimensionValue abbr="" id="29" in-use="1" name="Part Time"
                          sort-order="2" />
              <DimensionValue abbr="" id="30" in-use="1" name="Contract"
                          sort-order="0" />
              <LookupTables />
          </Dimension>
          <Dimension abbr="" code="Education" codeHasBeenUpdated="false"
                     hasOverriddenTitle="false" id="7" is-splitable="true"
                     isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false"
 isTextSelector="false"
                     name="Education" read-only="false" show-total-at-
bottom="false"
                     tagType="0" tool-tip="" requiredColumn="false">
              <DimensionValue abbr="" id="32" in-use="1" name="Masters"
                          sort-order="1" />
              <DimensionValue abbr="" id="33" in-use="0" name="Phd"
                          sort-order="2" />
              <DimensionValue abbr="" id="31" in-use="1" name="Graduate"
                          sort-order="0" />
              <LookupTables />
          </Dimension>
          <Driver abbr="" code="Rate" decimal-precision="0"
                     display-as="1" driver-type="1" id="23" is-split-
key="false"
                     is-splitable="false" name="Rate" read-only="false"
                     show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
          <Driver abbr="" code="YearsOfExperience" decimal-precision="0"
                     display-as="1" driver-type="1" id="24" is-split-
key="false"
                     is-splitable="false" name="Years Of Experience" read-
only="false"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
          <Driver abbr="" code="FillBy" decimal-precision="0"
                    driver-type="2" id="25" is-split-key="false" is-
splitable="false"
                    name="Fill By" read-only="false" show-total-at-
bottom="false"
                    tool-tip="" />
      </Columns>
      <CalculatedAccounts />
      <Assumptions />
  </ConfigurableModel>
</call>
```

call 要素には、credentials 要素および単一の ConfigurableModel 要素が含まれます。

編集可能なシート コード (API v39 以上に適用)

名称とコード特性が必要な API v39+ の設定が可能なモデルのリクエスト形式

```
<call method="importModeledSheet" callerName="a string that identifies your
 client application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />

  <ConfigurableModel allow-actuals="false"
              allow-allocation="true" allow-edits-in-rollup-mode="false"
              breakback-pattern="0" name="Open Positions Clone"
 description="Open positions Clone to be filled"
              frozen-column-count="0" has-salary-detail="true" id="15"
 isglobal="1"
              code="OpeningsClone" revision="0"
              selected-plan-
ids="1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18"
              state="A" strata-code="month">
 ...
```

モデル データの検証ルール (API v39 以降で適用)

importModeledSheet リクエストを使用してデータ検証ルールをインポートする機能がサポートされています。以下のリクエストの例を参照してください。

```
<call method="importModeledSheet" callerName="a string that identifies your
 client application">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<ConfigurableModel allow-actuals="false" allow-allocation="false"
 allow-edits-in-rollup-mode="false" breakback-pattern="7"
 code="SampleDef" description="TestDef Sheet" frozen-column-
count="0" has-salary-detail="false" id="142" isglobal="0"
 name="SampleDef" recalculateOnDemand="false" revision="0" selected-plan-
ids="1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24"
 state="A" strata-code="month" strata-id="1">
 <Columns>
    <Driver abbr="" code="InitialBalance" data-privacy="0" decimal-
precision="0" display-as="0" driver-type="3" formula="0" hiddenColumn="true"
 id="1163" is-split-key="false" is-splitable="false" name="Initial Balance"
 read-only="false" show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
    <Dimension abbr="" code="CorporateDiscount" codeHasBeenUpdated="false"
 hasOverriddenTitle="false" hiddenColumn="true" id="25" is-splitable="false"
 isEditDimension="false" isHiddenOnSheet="false" isTextSelector="false"
 name="CorporateDiscount" read-only="true" show-total-at-bottom="false"
 tagType="2" tool-tip="">
       <DimensionValue abbr="" id="215" in-use="0" name="Not Applicable"
 sort-order="0" />
       <DimensionValue abbr="" id="216" in-use="0" name="TBD" sort-
order="1" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
       <DimensionValue abbr="" id="217" in-use="1" name="Available" sort-
order="2" />
       <DimensionValue abbr="" id="218" in-use="1" name="Not Available"
 sort-order="3" />
       <LookupTables />
    </Dimension>
    <AssignablePlan abbr="" code="Plan" id="0" is-splitable="false"
 name="Level" read-only="false" show-total-at-bottom="false" tool-tip="" />
 </Columns>
 <CalculatedAccounts />
 <Assumptions />
 <DataValidationRules>
    <Rule actionType="C" expression="if (ROW.InitialBalance=10, 1, 0)"
 helpText="Test" id="268" name="TestInitialBalance" status="A" />
    <Rule actionType="C" expression="if (ROW.CorporateDiscount="na"
, 1, 0)" helpText="Test" id="137" name="TestLAttribRule" status="A" />
 </DataValidationRules>
</ConfigurableModel>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ConfigurableModel 要素 | | | |
| タグ名 | | ConfigurableModel | |
| 説明 | | アップロードされた単一のモデル シートを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code (API v38 以前)<br>名前 (API v39+) | あり | シートの名前。これは importModeledSheet などの他の API 呼び出しでシートを識別するために使用できます。この名前のシートがインスタンスに存在しない場合は、シートがインポートされます。 | オープン ポジションのクローン |
| プレフィックス (API v38 以前)<br>code (API v39+) | あり | シートの科目にプレフィックスとして使用されるシートのプレフィックス。これは一意である必要があります。<br>シートの科目にプレフィックスとして使用されるシートのコード。これは一意である必要があります | 空きポジションクローン |
| 説明 | なし | シートの説明 (存在する場合)。 | 補充対象のオープン ポジションのクローン |
| エレメントの内容<br>上記のリクエスト XML を参照してください。 | | | |

回答フォーマット

```
<response success="true">
  <messages>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      <message type="INFO">Dimension Created: Base Pay New</message>
      <message type="INFO">Dimension Created: ABC</message>
  </messages>
</response>
```

インポートが成功すると、応答の Success 属性が true に設定されます。また、任意で、1 つ以上の情報メッセージが表示され、新しい属性が作成されたかどうかが示されます。

システム エラーのために作成が失敗した場合、応答は次のようになります。

```
<response success="false">
  <messages>
      <message key="exception-caught">Caught Exception: Failed to create
 modeled
          sheet.
      </message>
  </messages>
</response>
```

組織特性を作成する際の回答形式

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
<messages>
<message type="INFO">Level attribute created: CorporateDiscount</message>
<message type="INFO">The modeled sheet named SampleDef has been created.</
message>
</messages>
</response>
```

**API v40+** のモデル シート表示列コード
`ImportModeledSheet`は表示列の一意のコードをサポートします。モデル シートに表示列がある場合、`exportModeledSheet`API 応答に次のプロパティが含まれます:`DisplayColumn`:

```
<DisplayColumn abbr="" account-code="PayRate" account-id="370"
 code="PayRateDisplay" hiddenColumn="true" id="7" is-splitable="false"
 months="6" name="Pay Rate Display Column" read-only="true" show-total-
at-bottom="true" start-time-adjust="1" start-time-index="2" start-time-
relative-to="C" strata-code="qtr" tool-tip="Display Column" />
```

新しいプロパティに注意してください。`account-code`関連付けられた科目のコードを指します。一方、コード プロパティは残りますが、指定列を編集する一意の識別子を作成するために使用することができます。ただし、下位互換性を維持するために、`account-code`プロパティは任意です。この条件を満たす場合、`account-code`がリクエストに含まれていない場合は、一意のコードが自動的に生成され、代わりにコード プロパティに基づいて表示列が特定の科目にリンクされます。
メタデータの一括更新

API v17 以上でサポート

メタデータ一括更新 API の主な利点は、 内で組織、属性、総勘定元帳科目を同期できることです。 Adaptive Planning 外部システムの担当者と定期的にスケジュールに従ってこれらの API を使用すると、個々の要素を 1 つずつ呼び出す代わりに、生の XML ファイルまたは圧縮 (ZIP 形式) XML を送信して、要素の更新、並べ替え、作成を行うことができます。

メタデータ バルク API を使用すると、新しいバージョンの既存の要素のツリーが にインポートされます。 Adaptive Planning。

メタデータ一括更新 API:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 削除しないアップロードされたバージョンに含まれていない要素はそのまま残ります。
- アップロードで見つかった新しい要素を作成します (できる場合)。
- アップロードされる要素のプロパティ (親プロパティを含む) を更新します。
- アップロード中の属性割当を更新してください。
- 特に限定的に、部分的なツリーのアップロードを許可します (削除は実行されないため、部分的なアップロードは非破棄的です)。
- 内部 ID 番号または「元の」(更新前) の一意の識別子フィールドのいずれかによって、ツリー内の既存の要素を識別できます。
- 重大なエラーで停止し、ロールバックします。重大なエラーには以下が含まれます。
    - 階層内でサイクルを作成しようとしています
    - 識別フィールドがシステムに既に存在する要素と競合する新しい要素を作成しようとする (使用中のコードで新しい科目を作成するなど)
    - 要素の識別フィールドを更新することを試み、すでにシステムにある識別フィールドと競合します。
- インポートを停止しない無視できるエラー レベルに進み、結果応答に警告として報告します。無視できるエラーには、連鎖的な影響を与える可能性の低い、以下のようなものがあります。
    - 特性の割当を存在しない値に変更しようとします。
    - フィールドに対して長すぎる組織名を設定しようとしています。

圧縮 **XML (ZIP** 形式**)** を使用した一括アップロード

ペイロードが大きい場合は、サブディレクトリ、フォルダ、その他のコンテンツを含めずに、更新の xml のみを含む圧縮コンテンツを ZIP ファイルとしてアップロードできます。Post 時の ZIP ファイルでフォルダまたはサブディレクトリが検出された場合、リクエストは却下されます。

圧縮 **XML (ZIP** 形式**)** ファイル 丸の添付ファイルの例

```
curl -i -X POST -H "Content-Type: multipart/form-data" -F "request=<C:/temp/
requestUpdateDimVal.xml" -F "content=@C:/temp/updateDimensions.zip" https://
api.adaptiveplanning.com/api/v20
```

requestUpdateDimVal.xml content

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateDimensions" callerName="Steve C">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
</call>
```

updateDimVal.zip/content.xml

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
 <dimensions>
     <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
       <dimensionValue id="32" name="Graduate" description="Modified
 Graduate degree" />
     </dimension>
 </dimensions>
```

添付ファイルを使用せずに、API 呼び出しの本文で API リクエストを行うことはできます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<call method="updateDimensions" callerName="Steve C">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
<dimensions>
     <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
       <dimensionValue id="32" name="Graduate" description="Modified
 Graduate degree" />
     </dimension>
</dimensions>
</call>
```

メタデーター括更新 **API:**

- updateDimensions
- updateLevels
- updateAccounts
- updateAttributes

**publishChanges**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | 管理パブリッシュ |
| 説明 | 保留中の変更をパブリッシュします。 |
| 起動に必要な権限 | インスタンスおよび "管理者の変更のパブリッシュ" 権限に対して有効な認証情報が必要です。インスタンスの管理パブリッシュが有効になっている必要があります。 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。確認が完了すると、この方法でバッチの変更がパブリッシュされます。任意で、リクエストにアクション タグを含めることができます。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="publishChanges" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

- バッチ変更なしでリクエストを受信した場合、応答は "パブリッシュ成功" 応答で、"PublishCount" = 0 となります。
- 成功とは、パブリッシュされていない変更が n 件指定され、その n 件すべてが正常にパブリッシュされたことを示します。
- 正常にパブリッシュされると、出力にパブリッシュされた変更の数を示す publishCount 特性を持つ publishResponse 要素が含まれます。
- 失敗したパブリッシュでは、出力に同じ publishCount 特性を持つ publishResponse 要素と、パブリッシュされなかった変更の数をリストする notPublishedCount 特性が含まれます。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
    <output>
        <publishResponse publishedCount="3" />
    </output>
</response>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

エラーの例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
  <messages>
      <message type="ERROR">Publish Error</message>
  </messages>
  <output>
      <publishResponse publishedCount="0" notPublishedCount="2" />
  </output>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この属性は呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| publishResponse element | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | publishResponse | |
| 説明 | | 変更のパブリッシュ リクエストに対する応答。パブリッシュされていない変更のステータス、またはパブリッシュの実行結果に関する情報が含まれます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| publishedCount | あり | 正常にパブリッシュされた変更の数。 | 6 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| notPublishedCount | なし | パブリッシュされなかった変更の数。失敗した"パブリッシュ" 応答に含まれます。 | 2 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**unpublishedChangesStatus**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | 管理パブリッシュ |
| 説明 | パブリッシュされていない変更の数を取得し、インスタンスの管理パブリッシュが無効になっているかどうかを判断します。 |
| 起動に必要な権限 | インスタンスに対して有効な認証情報である必要があります。管理パブリッシュが無効な場合、追加の権限は必要ありません。管理パブリッシュが有効になっている場合、ユーザーには "管理者の変更をパブリッシュ" 権限が必要です。 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。確認が完了すると、この方法でバッチの変更がパブリッシュされます。任意で、リクエストにアクション タグを含めることができます。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="unpublishedChangesStatus" callerName="a string that identifies
 your client application">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

これらは、管理パブリッシュが有効または無効である場合の応答の例です。

管理パブリッシュの有効例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
    <output>
        <unpublishedStatus adminPublishingEnabled="1" numberToPublish="3" />
    </output>
</response>
```

管理パブリッシュの無効な例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
    <output>
        <unpublishedStatus adminPublishingEnabled="0" />
    </output>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この特性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の必須の unPublishStatus 要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| unpublishedStatus element | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | unpublishedStatus | |
| 説明 | | パブリッシュされていないChangesStatus リクエストに対する応答。管理パブリッシュが有効かどうかに関する情報 (有効になっている場合は、パブリッシュされていない変更の数) が含まれます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| adminPublishingEnabled | あり | このインスタンスで管理パブリッシュが有効かどうか (0=有効でない、1=有効)。 | 1 |
| numberToPublish | なし | パブリッシュされていない変更の数管理パブリッシュが有効である場合にのみ表示されます。パブリッシュされていない変更がない場合、値は 0 です。 | 2 |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| |
|---|
| (なし) |

**updateAccessRules**

API v24+ でサポート

重要： updateAccessRules requires 概念: アクセス ルール（1452ページ）.

| | |
|---|---|
| カテゴリ | アクセス ルールの変更 |
| 説明 | アクセス ルールのスプレッドシート ファイル内の既存のアクセス ルールのセットを更新または置換します。 |
| 起動に必要な権限 | ユーザー<br><br>*API v31* で更新済 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、importOption |

この方法では、ユーザーはスプレッドシート ファイルをアップロードしてアクセス ルールを更新できます。メソッド リクエストのコンテンツ タイプは「Multipart/form-data」です。

リクエストのフォーマット

1. キーはリクエスト、値は xml 内容で、呼び出し元のユーザーを識別し、認証する認証情報タグと、操作を指定する importOption タグが含まれます。アクセス ルールを更新するには、ユーザーに "管理者" 権限が必要です。
2. キーはコンテンツ、インポートするスプレッドシート ファイルです。拡張子が .xls および .xlsx のスプレッドシート ファイルがサポートされています。このファイルは、UI アクセス ルールのインポートで使用されるファイルと同じです。

例

| HTTP リクエスト本文のフォーム データ | | |
|---|---|---|
| キー | 値 | コンテンツ タイプ |
| request | `<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?><br><call method="updateAccessRules" callerName="a string that identifies your client application"><br><credentials login="sampleuser@example.com" password="my_pwd" locale="en_US"/><br><importOption operation="update"/><br></call>` | text/xml |
| コンテンツ | access_rules_template.xlsx | |

完全なリクエストの例

```
POST https://api.adaptiveplanning.com/api/v24
Content-Type: multipart/form-data; boundary=WebAppBoundary

--WebAppBoundary
Content-Disposition: form-data; name="request"
Content-Type: text/xml

<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<call method="updateAccessRules" callerName="a string that identifies your
 client application">
  <credentials login="sampleuser@example.com" password="my_pwd"
 locale="en_US"/>
  <importOption operation="update"/>
</call>
--WebAppBoundary
Content-Disposition: form-data; name="content";
 filename="access_rules_template.xlsx"

< access_rules_template.xlsx
--WebAppBoundary--
```

**XLSX** テンプレート フォーマット

以下の「テンプレートの完了」または「編集」セクションを参照してください。 ステップ: アクセス ルールの作成 ( 1430ページ ) をクリックして、アクセス ルール テンプレートの .xlsx ファイルのフォーマットを表示します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーには、呼び出されるメソッドに必要な権限を持つロールが必要です。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| importOption 要素 | | | |
| タグ名 | | importOptions | |
| 説明 | | アクセス ルールを更新する操作を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 操作 | あり | "update" または "replaceAll"<br><br>"update":<br>• リクエストに記載されたユーザーまたはグループのアクセス ルールを置き換えます。たとえば、"会計士" グループのテンプレートに 1 つのルールを追加するとします。"更新" により、"会計士" グループの既存のすべてのルールが 1 つの新しいルールに置き換えられます。このグループに追加ルールを追加する場合、既存のルールをエクスポートしてから 1 つのルールを追加します。この場合、インポートには、既存のルールと新しいルールが含まれます。<br>• 新規ユーザーまたはグループのルールを追加します。たとえば、テンプレートには、以前はルールがなかった新規ユーザーまたはグループのルールのみがあるとします。"更新" により新しいルールが追加され、既存のルールがすべてそのまま残ります。<br><br>"replaceAll": 既存のルールをすべて削除し、リクエストに含まれているルールを追加します。 | 更新 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

**CURL の例**

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
curl -F "request=<updateAccessRules.xml;type=text/xml" -F
 "content=@access_rules_template_jp.xlsx" https://api.adaptiveplanning.com/
api/v24
```

回答フォーマット

回答には次の 2 つのコンテンツ タイプを選択できます。

1. リクエストが成功した場合や、アップロードされたスプレッドシートの内容に関連しないエラーがある場合は、コンテンツ タイプは "text/xml" になります。
2. アップロードされたスプレッドシートにエラーが含まれている場合、コンテンツ タイプはマルチパート/混合です。回答本文には次の 2 つの部分が含まれます。
    a. 最初の部分は xml データであり、リクエスト ステータスを表します。
    b. 2 番目の部分は Base64 でエンコードされたエラー レポートのスプレッドシート ファイルです。

例

スプレッドシート エラーのない応答

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/xml;charset=UTF-8

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="false">
  <messages>
      <message type="ERROR" key="error-dac-not-enabled">Dimension Access
 Control is not enabled in this instance.
      </message>
  </messages>
</response>
```

スプレッドシート エラーのある応答

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: multipart/mixed; boundary=----
AdaptivePlanningAPIBoundary173bb6faa3d

------AdaptivePlanningAPIBoundary173bb6faa3d
Content-type: text/xml; charset=UTF-8

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="false">
<messages>
  <message type="ERROR" key="error-contains-data-error">Error occurred,
 refer the error sheet for detailed error.</message>
</messages>
</response>

------AdaptivePlanningAPIBoundary173bb6faa3d
Content-Disposition: attachment; filename="Error Report.xlsx"
Content-type: application/vnd.openxmlformats-
officedocument.spreadsheetml.sheet
Content-Transfer-Encoding: base64

UEsDBBQACAgIAKx1BFEAAAAAAAAAAAAAAAATAAAAW0NvbnRlbnRfVHlwZXNdLnhtbM2V307CMBTGX2XprdkKmBhj
+AB1PWMN/
Ze2wHh7Tzd2Ac5EhSXerF2/0+/39WzZpvNayWQHzgujczLORiQBXRgu9Don76vn9J4kPjDNmTQacqINmc
+mq4MFn
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
+BW7XNShWAfKPVFBYr5zFjQqJTGKRbw1q2pZcWGrYFORqM7WhgdQIc0RA8ymy6gZFsZksd2PVrnhFkrRcECpqI7z
RvBFOWogBuiq3CLdlOyYVje
+zKCQGXfwQ4T1a3+16x8U5wuCQZRFcOPLUOC10QcGzEkrnwwhQaUixeouopWmeXsLu
+F8bBj4Cx8CLi2Wm9dcC4rwCCkhhDxdWv/FrSThtfE8/bd6CPd5R8N7kq9/TYvmIO
+FtwkdeX5aRgwBzhIHsefgzQKNckB/y4QB+qEdrroC3HMVNM6L4Me+M2H8ZshuNHQjP/Dt
+InjbDgH34VY7JP8lx2+WgzX9r9glQSwcIwAKQx3gBAAD1BgAAUEsDBBQACAgIAKx1BFEAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAALAA
F6N447WCMUbeXMuhtjO4BNFtJTGLL2NqWvf3MLltLChvsKCR9/4fQdj
+HSb1RLp6jgXXTgqJo2fnYG3g
+PazuQBXB6HDiSAYiw363faIJpW6UwaeiKiIWA4NIute62IECloYTxdrpOAeUWuZeJ7Qj9qQ3bXur808GnDPV0Rn
+mAC97LL5dnFsHzPXTcuZ/mZz/QQ6kKBDwS/qKtUAyuKpXBO6WRDClP77OjQLRUfuwkif/
cDuE1BLBwhuQ/
oi4wAAAEkCAABQSwMEFAAICAgArHUEUQAAAAAAAAAAAAAAABAAAABkb2NQcm9wcy9hcHAueG1snVLLTsMwELzzFZ
+HqcVE1TekDiEs3OTsbj9YrbbV0lDQQ0zmbsYpSyBKx2ubHrjC0XT+c37FaeiVlwHgIZwCT
+YDFjJZGfcI66hFrhKLZt7BQu1IpiGdbcFYXR8OD0pgZLfJym1xy2BDaH/
Nz3hmznOGnov6a5020+XC2+fPST4s77ymhF8U5yanRw6ApKpkobSw7L5HGroRJ8KBPRcg56Ewx9yVTwYSnmWlVwH
+ETSwBCwXuyg0PtEJsrOe4EERwLeR8k4uOIC0MV4FsxU4H
+StxlYIOMLzZ+N7od2VHKg6D2LtDJBfZRfh3+auwnLv3CPSiC/
XCPSTEvVYA8vkc//J4QzzFlqFr9fansGvK95rTRLsVqt
+fy4nqUXqZptwF7TvDDjssfUEsHCAJGEdt0AQAAFwMAAFBLAwQUAAgICACsdQRRAAAAAAAAAAAAAAAAEQAAAGRvY
inifqOnYOklS9kFhsNLCWjZ2J
+aklSUq6pb2389kbfZ5MfBCz3nPc17PyWf7tkFv4LwyusAspRiBlqZSelvgzXqeTDHyQehKNEZDgbXBszKXlkvjY
+NaEeLTbYkV8kVsgWSUnpMWgqhEEKQHJnYk4iOykiPSvrpmAFSSQAMt6OAJSxn51AZwrf
+zYMiMyr1Xo6rrurSbDLroiJGnxf3DYD5Ruv
+6BFzmRzSXDkSACkUADwcbJ3LKPE5ubtdzXGY0owm9iGedUX425Yw95+RHfQ/8uBtXXsWB7ACtlne9bgz3U26ED4
GD4ByqHN962X71BLBwhbwK4NOQEAAD8CAABQSwMEFAAICAgArHUEUQAAAAAAAAAAAAAAABAAAAB4bC9jb21tZW5O
+MwDN37KwgtnRI5RVEcAtsZCgQo0KFDb+io2HQsVB8GRQdOi/
vvpWKnN3SpIBmPFPn49FzuJu/ghJRsDJXarAsFGJrY2nCs1N/X/
eqP2tU3ZRO9x8AJfLN9OoZI5uCwUhMpEIKQKtUzD1utU9OjN2kdBwxy00XyhiWko04DoWlTj8je6buieNDe2LAwb
+X7iuNBP9oPG2oZhix2tp07HrbIM/1GzuNeHJZh9UXZqR+0jpCnRd6u/
U4sWzTfwdAGFXqf29grnsqa2UWJl6M+CCJ9qOVuBnsayVnIfVjDZzWGSQ1z/
RwDjJAJL9Ip/0ASfj5BdtlM5jXSSg40GG7ueWnKZ9FC2Xukfj7IFsznbGW3ee03c5oS
+MXL/FEbw5Q4sOGYF7BCEefQDbwVku2xhuGQZnAnAEGxo3tnOdj9IE0pdfX2rOpHJmzXpx5T
+azbpGqf4CUEsHCK
+2f7toAQAAeAIAAFBLAwQUAAgICACsdQRRAAAAAAAAAAAAAAAAGAAAAHhsL2RyYXdpbmdzL2RyYXdpbmcxLnhtbO
+zITq8Rvo8vEeb5jOuKsvsWw5Weg7DYrSkv2WVgvv1/
P6gGm8DKdnc8jMquVJTEMLodZiEGUJFJ10uVBq9pM5utqQV/
TsjjaKO960vqMUJuclENX5bwDHH1BLBwh207COdQAAAIIAAABQSwMEFAAICAgArHUEUQAAAAAAAAAAAAAABsAAA
+dqKDNlj0uVx8SKUAX6KxfpfLn4/3ybW8LS6yiOLfB4W53LdehbKCWoektmWLAbeUlFgr3G5tCdMmp4zuXxld7Y6
j+YoS/BySJDFSrdgNMH3JPo2E
+5BGNJFhdCcNiaWjfCaNKsSp4h5gzJ5mcMRdaNRzo0IErE1gT7BrlcLtZpOhtWKazJ5VOf8vdEy3QpBXM0zDrYja
XMjeh2zHTj1sNYF99CLb6AeEbrAx0cX1FbgnYoKsYjjdi12ljwNJSEL7mkeFeJ3kNJscRctmxNSk5Kf9chtta5Eh
rDIl2uIimXAVSjYUq9J5RiqqrBYIlnQulNQLcnuBFC1LrdWZ842JJaLz82dDN5CBt1tebzqzVUqcUyZbsCu6tIfV
ZZYb6BXi0jT2WA31lk6qMoaA16KUdTlaXePDau0wVcxadk4Xb5w3ZtQ7lswY2d83M4a
+EezPHp4BxBPwgb7o9A6YGJsbCerTbQjNfQhgkVmbHfExTQO251XUf9EN3/
nG469unPx4b7w3Invm2dmfRwq+IYEE2evvmIHvyxVd+BcmB
+9Dzxwf3s/+7LCdjiJ1UykM3E1rOthveY1m5+hYg4LuOf3L
+61CzDEj54J8QNfi6sYiMbku+Nnrn2xiu7JHhSeajqdt4JDtSt
+A1BLBwhSWjEMMAIAAEIEAABQSwMEFAAICAgArHUEUQAAAAAAAAAAAAAABQAAAB4bC9zaGFyZWRTdHJpbmdzLnh
bOBC+768gdNgmWNdOWqAoso7bbJqmAdI2TZzeaWlsESuRKkk58R72t
+8MScmyJDsOgj3kYXLe3zfk0OMPj3nGlqCNUPI0Oh4eRQxkrBIhF6fR/fTz6/
fRh8lvY2Msi1Up7Wn0/jhipRS/Sjj3C+/
eRgytSHMapdYWJ6ORiVPIuRmqAiTuzJXOucWPejEyhQaemBTA5tnozdHRu1HOhYwmYyMmYzs5i2Mwht2WGbAraaw
+Y+cZngDwsBTFcFDNum3wzZBZlNRA6SKsZSbtDipebSOgP
+v7MsYxePMRRUtKzMZSOkhfOIn0oMY8AygZUFYVMMDX/hNhowtA/
OAOXOsIBus/ZrhuyTkq+sV1/yrATDhGQzZdPgEm3MnZKh5GrNTk5vh
+wswcyZgYJrboFp9eA8unCdbbZSpXPV0b4DYOeIKKo1kPMR50qjY7BcZKajeP79+v5rF7wbZYyYIfY/
XU4d1MHEWriqtLcauLW3PpeIx08BDwN2LXJhIQmfMMiLRNi2/
C38KoWGZMjOU6UMEkUCKxAg4tHQqZwQxurBOBSZVQxwkSXccoS6ctcRWuJiEGoGcsJuNCyBcHeSc61yJ4tNyEyRC
EIg1e
+3SqQjAxD53yjcgkDJtlXP7d8b2W2e7dd56nZjeSRaZmPPNlcJ2yK6S6kbcGdI1lzQw7cG15uD2ojORcaAN28O8h
WCPMMdVoRFsE4NMyO6QAuxqqwdZKw4p+K4Ix4Aqgau5i35Bxe+TwN6Q2crFZFXRqA/
jRQFc18n6HZ8g6ri1xqnLCr7onqMbsDQKtRdCL0GlH4lbyNUTWAwCEFyiiFUaF/
rR6TmW6JZ8moI8COLdC
+5kCpV0i4v6mho8l5vBRKsOPeSkUAKONcaeJSlHlhiIS7Jf2cPDESPdzePat7tb0WUPm9c3cI
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
+toNNJwtVjB83XQW4neiUz2Kj0bibXlek/bjbB3o/Ye+L
+QrxfCnK3RVoQD7rYNluk7psW4N7u3oi3q/B7Zv9cD2Nkc/
J0pzVvIDfeVD3l/77ev7fWg9dzO6uer+ISy5I3JkoyHmDA6rd3vccu6UMkFShY9wYQBPHG
+EgXZipAcx2nIubZjk7a0HtlgqNdfdUO1vfXs/qKQOi54qobqZQxDpwLpcU/
mKzz8gxm7NeWHZK8iBT/IxN2Xl4NtJp4M92ntMf1hpKq
+wY4+3pzfdEZ5aebOLspsznZ1GdMn+JcaCylfVBBNwPLpph/
PWa7ujWPcaLWen4Jr6fwAMq4XjmfMyVLs6FCAnecXLiRoDcYmwqdeLJiHNgEFInBl8+G/
+AxeAvR1CMSTjsziDnV4MsP6r+N0erQU8Nl1+yNQCJkgcLo6WGG6CMhSJ37isT4ZjVWoC
+K6K72vk4s603MT0BbDsvm5q5+6Xs9IU0/8jDYizDXD2OVd2hDwbUXeyYbn1J79S9CcutDr73x5Udrhb6wODEFj
+E0KrCeoJcQNb98MKzz9qwf3523LBFAr25hQY25paR9QrtK6xsen0Hb7G3u7zJ1o1VSxltn0M3tXYawhVYfE2J8H
+QlI2wd+t6D16PK
+puNapgg5tfi4bR1T2raEHmhtMXzJfPXvjdTyzfaZGSMnfwHUEsHCKGAXnNIBQAAIBMAAFBLAwQUAAgICACsdQRF
+9/HNiQ490yaStuH2j4+5/N3LviS8ec6J9Yb4iVmNLK9B9e2EE1Yiukysv
+ex87A/jz5Y1yKNUEvK4SElSej5yVlHC4IiuzaC2Bi1V6f
+1bNbUvC0TKyV0IUIwDKZIVyWD6wAlE5kzGeQyGHfAnKgiOYlgoyJ8B33T7IIaYtwihPrgHJIX
+tCidheQEFXmCCxVpjbWA0vQOkHCeclSwTD9ISsCzDCTokNARDAJMOSbp4G5IXAtff8a7mNyIFgKM3rJJlT8a0yu
UGiZR4yjRhhHEL0xTVKI3sgZJRmKNG5xESvOBYrwFzTNaN2FcC7UOrl2NZG0oImjWa/
xW4sJrnn1xuB2hhAvVvsPGutzkk/f/hdyqgQmVCZ/6O2Tu2EF8uIjuOXf13/
WI7uEdNusUe3GOF4howuiklHCZkW/
Wh3QgmY7kpCMRpLAdW25+vCxkeyihqYLTeBe0lh2vPD683KBnBqWKxfNwl7zcxMAyvhdSMjyAGvVsRT5I8A6kbGe
+a9vr9S7QdGegEEfKitP7JttH2ZbTrzGp2/+dUbfyW
+g42XZmittvANANw2ujTSSMLFgVZf6vyBeKxPnc7qSqMbjTVVt34C8FLmiNqGHznTKBE6ItG8xGb3jW
+Gm56wU1+WnV20WHvsnXrI9NMzmH5d8Tq3REr+Bhe/
lVYZoWcRb4ijwf1pO4vcDO0fnBYzFG9cQHU2enV+u/z4wKTFeP4pzRUh1ciBYhfJBT
+bpLuT+F9X9KZraOx/si6un8whh2hwCQUHBDSFASv0N7+Z4h2t01jovFGCy7wNapbq/9GMj
+E/5XhBe1WbpxfO6fXVmqpG2Bk/ykvJJxg
+tpVjbWoMBGYPm9eIvs23xQvYvhlGOydLpJHWme77yShnq+7zCRGijJYETHfTkZ21/8LpbjK/
a3Wd/zGRKvV9b
+qK0Bz85d5+1oK3VoVx5H979P003D2FPvOwJ0OnKCHQmcYTmdOGDxOZ7N46Pru43/G2/
UdL1f93JSV4gWjkkgt3jrbkn/pZJFtDBr6On6Stsl96PfdL6HnOnHP9ZygDwfOoN8LnTj0/Fk/
mD6FcWhwD2984brA8zry4UjgHMnSQLv056ZUJkkOzzgBNpkA3e8Yk19QSwcIxq0AAdgDAAD7EAAAUEsDBBQACAgI
bNhS/768QdHf17Y
+gTmHLdtM2aYLG7dAjLdMWY0o0SCqJURQY2tMuAwZ0wy4DdtthGFZgBVbssj8mQIut
+yNGSf4QbapN2rTYsNiALZK/9/
jje4+Pz5Kv3ziNsHYMKUMkburWNVPXYByQIYrHTf1+v1ep6ze2P7sOtngII6jFIIJNfX80QgHU
+mmXrgkNMdsCTT3kfLplGCwQ/
YBdI1MYi7ERoRHgoknHxpCCE6E5woZtmlUjAijWtxfKu1h8xJylHQGmh8HGjBl2OLHSLzZjPqbaMcBNXegckpM
+POW6hgHjYqCpm9lLN7avG0shzEtkC3K97DWXmwsMJ3YmR8eDpaDrem61tdRv5/
o3cd1at9qtLvVlABAEYqWWQmfN9t05tgDKLxW6O7WOY0n4gn5nA9/y0reEd1Z4dwPf6/krGxZA
+aW3gffajXZH1u+t8NUNfM1sddyahM9AIUbxZANtelXHX6x2CRkRvKOENzy3V7Pn8BXKKERXLh/
zsliLwBGhPQHInAs4ijU+m8IRCATOBxgNKNJ20TgUgTcFMWGi27TNnumIz/
TtZleZR8EWBAXpvCtgG10pH40FFE15U78ttOoFyKuXL8+evDh78tvZ06dnT36Zz70ptwPicVHuzY9f//39F9pfv/
OXr3/94m3ou0fr2+esXz19999WfPz1TwFsUDIrwPoog0+7CE
+0eicQCFRPAAb2YRD8ESJIAoUAqgF0eSsC7M4BVuDaUTfiAikyhAt5MjiSuhyFNOFIA74SRBNwjBLcJVS7nTjpXo
TUHd5OpCHmkUumHUKJ5gIW3wRjGkGvpGJlAqBB7iJBk1z0UUMLIiGsPkdYGSGmSPhpwtdAOioRfZiqCwtWSbfYea
+3Qm0b0jMoza7Xt4FslIytFEhdwFhBSRHTLxQxBNlZxRHBaxt9hEhCjQDghXkiDyDknbwg8gLnX3AwT5xbb1fZGB
+lwpMpUZO
+HYqssgNVtrkN5FhN2zFkosxK6xqFYxGTQvYQjkkJn73ZWuKZgTgCtEzz3YkcMl1xyilT6T4OJlIqRTTdtGoS
+ywC59J6EAIprNI2U8frjMYX3WNC5ug9ZOCFZURiP7dt
+gBDdcD0gSgwVOlWiCRqkXQ7ZWKJUm4kb9qVG4y1eidC8TuLn7Wyx/
s0Zc9HK3guv9QpSynrBU4Z7j9Y1nRAEh9AcZJcVTVXVc3/
saop28tXtcxVLXNVy3yyWmZVvhjFuzyZlqj0ls8IYXzIZxjusqzwYWLvD3uiM2tkQss7TNNQXM6nk3BjCrJrjRL
+OeLhYQimYhorm2HM5qrHTJsSJkonvVR3Vnol0R4Z5r2WtbipKQQAX/
WL0mvRLwo1nvdWa6u7d0v1WWvMigS8TOn5SRQmk0k4ChI153wkLPOyWDQULOrW21gYBa
+Iw0kD6d1vz80ZiXATIT1M/
ZTLL7x76Z4uM6a8bFuxvIZ7aZ6WSBTCTSZRCMNQHB7r3Zfs60ZD7WpbSaNW/
xi+NjZzA47llnYi9pzjCTUBmDb1kfjRJC6jqdDH0kwF8Dhu6gGfG/
p9MsuUMt4BLMxh2VC+/ghxSDWMIhHrRTfgeMXNsmvmv5dcw/
z3Wc5YdzIcjWDAS3pWTTGWK1GOfiA4bZBEkD4MhyfaACf0HhCG8mpWasAhYnxpzSGiheBeWXEtXc23ovSwZbVFAZ
+ul3QK68iYrq/KUJlwMO5dxqn7bqG1pFlygNRKs9jHO
+QLrBw1K0+Z6xp18+2nxIcfCAVqdTU1R02t7Oy4xIKgMF21xG52qTc/8DRYj1qjUFdmrY2n2mRwJCK/
I6rVBHOW3xw7FeW3v3gemWeCrHeRXU65llDU1B+ZXsv1bc
+vmHWvW3Ed16zUvZZTaXmeY3U9y+y07cfCKDyMLC+fuyd
+7OOZ8qE9Eqt6VLV7DafRrlYaTqtXcTvteqXhV9uVTtWvdXod36s3eo917TgDuy3Hd6vdeqVq
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
+X7FrZrp1PVGpebadsuttepdt/V48W+AjMTGPwKiRV1/LSCRQTJCRsY0+0eAZef/CJgnw1O+
+F6YN4Nu/
wNQSwcIbppOcoUGAAC0IAAAUEsDBBQACAgIAKx1BFEAAAAAAAAAAAAAAAAPAAAAeGwvd29ya2Jvb2sueG1spVRdb
HivjGGLVsTPbAaqq/33XgfBR
+tB1VnB8fa8P59x7nYvLTSm8FdOGK5kh3A2QxyRVOZfLDN3dfu0M0OXoy8Va6ae5Uk9eSdPZUipN5oJlaIN73kbD
+GEQJH5JuNwhpPojGGqx4JRNFa1LJu0WRDNBLOgxBa9Mi1bSj8CVRD/
VVYeqsgKIORfcPjegLQwoPsMpOdXKqIXtwrkdozNxOPAxPtG3ORf4MaQYFK64q9gBKvkkVrLHOkiESv43Gg4OcOE
+3b+UZ7OVuQWthbINbCQ2CSDMOei4R+HwvLtCSWXSlpocmazatCAWfvF/
tTc81McxWAJMyEpmRubogtvFqLDPl3BmD9Z94VvPanai2FApn
+UUeR8978h54i1BH196S263PWG522+byx2oP1bPodcvebrCCTUK98d4tmLlXRo6Q6xY8v0WQyHk6TSScZTqJObxc
+N+FHbi6aB/1Z8MMR4Er8h9A1KqSG2LXRYddIbi3juuH2TTenCQ1jw/0HgJdqPzztSOVyfY1e
+es7U5lNOZ3uaBy1ytG0XP7TpOwFo3xgPPbZGhKEqC/d43xpcFsMWDQQybhFq
+YrdkDjuOZOg4vuE23dL6CqOZTrj5R
+SacrVvTzZtO5PG6po2HynkNZ4m6dCsqfsnPcuxwzk5U1ZK26Po8Cg6fBt9rbXS5igiOToZNRxbYpQIChfBvZwza
AVBLBwihvwtvjAIAACIGAABQSwMEFAAICAgArHUEUQAAAAAAAAAAAAAAABoAAAB4bC9fcmVscy93b3JrYm9vay54
+gFCGlsmtmQ000f+vsKFxoEIunC7kRCDzj2Iq83uc+jFO0bqgldQFSUI9CbYzrcKXg9PN/
cgiLW3ug8eFfgAu+3mGXvN6Qa5biSREJ4UOObxQUoyDgdNRRjRp0kT4qA5HWMrR22OukVZl
+VaxjkDLplibxXEva1AHHRskRV8hHgkh8gkp60qEjyNTyP+Jjo0TWfwMZi3AT1fMZA/
ASCvy9R5mfrfZVZnGU45KKd18UeZqDmH27MD8alHWjr9m5qLv5vFOx3RvnBMtV3eYg7Pyazz5Vj9aTnkxV/
cfgFQSwcI3UKoF/
QAAADRAwAAUEsDBBQACAgIAKx1BFEAAAAAAAAAAAAAAAAYAAAAeGwvd29ya3NoZWV0cy9zaGVldDEueG1snZhdc
+ooGIDv91dkcl8TIJ+Oeuacuu32YmfO7OzHNUbUTBPJkFjb2dn/
voDREgiJaafaRODhIby8VBbf3svCeSOszulx6YKZ7zrkmNFtftwv3b/+fHpI3G
+rXxZnyl7rAyGNU2bzl/2RMrwpyNJ9BwHOnHfGfyF/IZe/zU/5dun+67c/D/
wFHq5Xl7frz3+8flkc66V7aJpq7nl1diAlrme0IkdesqOsxA2/ZXuvrhjBWylRFh70/
cgrcX5sCXN2D4PudnlG1jQ7leTYXCCMFLjho68PeVVfaWV2D67E7PVUPWS0rDhikxd58yGhV4x8PAapzDNGa7prZ
VSD2c3kjm+uzAg4AN8y8X0fqLgF1nhjQU/YeiLsOgGQ+5qsc35jIgbh5Hd0v0O5s/
Id73VQrb4OyfnWrl2RDxuKH0VNy882mRVz6j7JCfrJ3M2uCaPtPgn3zYHHuY8yrdkh09F8/
lhMksQ9BGA4a3wD3r+jeT7Q8Ob8E/lbM63H2tSZzx8eK8zKPrNaFHLd6fMxSJynRK/
y7/ZqW5o2XbQsBNxnfPlJvDFUuNtClzVhI9gh4uatLQLB7YcOMQJ41EOajloiBON
+wQtJxjigHCUE7accIgDk1FO1HKiQZ9xTtxy4iEOAjaOd5l+GW9r3ODVgtGzw+T81xUWyQ3M
+bMXUQRBfxSFfAVkos130UhOOS+o+advK3/hvYle+IuDb3TYpffG5hUKJTRQoKAfiiZAkYKD/
bhgAk61Q/24cAIuVHBBPy6egIvlEwQKNOyHJhOgiTEtUT80vR/6IzWg8Q0qazyaNZL
+bkWa1CM4SEYGJRvJSLrh067AD1HlMxJ9Ta8FRGodS7iCniUGojFBYAgCqBuqMw2QbghMQ0uMAfgVQ2gahrqhmi
phhaBoGuqGaxmCoG4amoSWDiJibPsuRaRjrhp3eE90wMg1Ti6GajuOLYTq6UmLDEPm6YayWAt0wNgyRZTcDiWk4/
gwT0xDpholaGuiGiWlo2Xyg3zUc/qfAN/
YBZIkeCKZw1dyJLFkHwilENdchy2YF0RRiZz4sEQnDKcTLWgwHtr2eKvrG89hXR1v26546gRb0v/
bV0UL/qaeOnoCe+
+rYpjSa8rjUcA707bdbivSxdUoDfVSdUttCiae4xoOu8YDrultqPN1OqW3xJfe7PkM1lQS2mUqnjD5Vifom3y01F
gdQSwcIMxpi8ysEAADFEwAAUEsDBBQACAgIAKx1BFEAAAAAAAAAAAAAAAAjAAAAeGwvd29ya3NoZWV0cy9fcmVsc
BXMb4vTncYYyRpxz6gh11K9wDCVhwTWzKW23VvP8MYrLDDjpLQD/01bC8pqjMWCUyj3nS9VkiWXSA/6vfj6829V
+JX4I6Lz2IGDXMMZcwSidm9nOZmdZ2ODM08FoeKjtShyOEWUH+mNXYvxcqlYCGLrfmb8z
+08z8HiM9tTQqp/
RDBLk0oMtGozDebqRdMXUEsHCDOQkQPfAAAAaAEAAFBLAwQUAAgICACsdQRRAAAAAAAAAAAAAAAAGAAAAHhsL3dv
qOBDH3/
dTRHmH3LkJOOohpNAWabXXZ5MYiJrEWTtQqtX57jt2QggDBbY9qFD778lvxmNP4gy/7dNE21EuYpaNdKtt6hrNQh
lH0Orp38a/DN8YfxUbSgstDQfzdcY4WSZ0pO8tl4TansOfDV9Hh5/BNo5G
+r9m9WnB12qVLavs1p8fYJ8mmRjpm6LIB4Yhwg1NiWiznGYwsmI8JQV0+doQOackUkGkiWGbZsdISZxVhAG/
h8FWqzikPgu3Kc2KEsJpQgqYvdjEuTjQ9tFdvIiTN8jUIZ5GiH45UvMs94yXxiFngq2KdsjSKrTzWfaN/
sk80/
CewFLCX7d5C8A5TG4ZJ3HxrmJsBETOSfeHRMKadJ6puzCWC6nfxXLjHVH2J1lezbKPMOeTsE4Nc/
TxMIphr8iOxulqpD9Yg4WnG+OhuuCvmL6JRlsryPJ3mtCwoFADlq7Jwlky9ioH5yCZQBTKQBIJ/
NvRCU0SAMPaiH9KHx3pwKipzfbBW6BW+1euLYmgE5b8HUfFBlxCAUd0RbZJcRR77Z5jm45le/
Xgb+xtRuP1poBLQFXbYRC9+1SEUBkQZ9uWMYQsEepXS+NMTSgl
+5Hu6lq4FQVLKwcF31KYa9mxTXkXgWsSkguZhhVJBK1oJcerON5VjnuT06k4nS/
G06043auczk1Or+L0rnKsm5x+xelf4zj2TY7cDQokG1/
KkHVYetm4QureJtkHkv3VmJwDyfncuhnl9i5v2KQg4yFnbxpX
+1zkRD6XrIGEqzKx2916v9a180HpQJSS8yBBajuALkDdjT1zaOyk68rke2nSVzOTwgQL/
gWIdQqZ4msCLDxiYYaFORaesPCMhRcsLBqCAbmsE2r/
rITayON3LEyw4GNhioUAC49YmGFhjoUnLDxj4QULC/uDZDk/
K1kOThYWJljwsTDFQoCFRyzMsDDHwhMWnrHwgoWF80GyXJSsqwlxFaTbqKQ+qsZzC8s
+NZlcMPFOTfxzExeV/
fSCCSrqoDSRN9zapoMwj5dsEGd27spDc5pfMHFOTZ4umLinJs8XTFBmXi6YdE5NFhdMurXJydp7/2ftvWaqe2jZv
CNRpPmJTytTrxCXgkbWWQMsRarQ
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
+ZUJrGme7D4VPpxhEzHm7ec8qTOHtttssL5MT4QL6P8XlkNd7OptNe1wl8sxVMLK9lWW7Qeuj1Oq2g5/
TNiR90Jw/OD+WpSc/
Jmi4IX8eZ0BK6UhmGheLl7Ui1C5arFjhesgJuVofeBg7ZlMserNSKseLQASfVe9QxVFeqCV2T8N3HY
+pgatRvpOP/
AFBLBwhZyvJH6gMAAMQOAABQSwMEFAAICAgArHUEUQAAAAAAAAAAAAAAACMAAAB4bC93b3Jrc2hlZXRzL19yZWxz
Fws+u9YxeMyVJQvBYVZxg0GRsaxT
+Or3dPnKUMwYCjgIoH4rvt5h0d5PIitbZLrCBCUrzNuVtLmXSLHpKgDkPZnCh6yOUYG9mBPkODclVVjzL
+ZfApkx2M4vFgas6OEBvMinuwLtO6mFyfDWhNQpMf1m9kittLnzEGcOX22uF/
hOh0shr3pD89hjzjJdtCis6GM5fziqtRUQhpInyVdElevNv/
zrUo85JKI/qW0/3EqXT6QaVa9MuKDOBbGg/zaczQZWEdM0aRkw+6/
QZQSwcIDfecMv0AAADmAgAAUEsDBBQACAgIAKx1BFEAAAAAAAAAAAAAAAAYAAAAeGwvd29ya3NoZWV0cy9zaGVl
+Mj4S+sh3GhZKGo+U2IxStEzxRT4aNQuVE+Z/J35bKP0b7OJqo/+rVq8ffRq8cGeW0fv3g/
jTJ2ETdFUU+0jQW7nCKWJ/kOONHNoSmqOBTutVYTjGKZBBpopm67mopirOKMKL3MMhmE4fYJ+E
+xVlRQihOUMF3z3Zxzs60U3QXL6LoyDN1jqcRol8eqXmGfcFL45ASRjZFPyRpFdrlLofasLXPNLwnsBTR133e4+C
iEXhvaPMT7KcmmW
+w6xPwtwaZqnTcRTzWhETheLNRH0wRitH1aZjecJfMT6yxlgp0Pp3nOCwwLwHNihhWFVE86wJeRWGJZd1TmXSJKi
zvgGU4SDufXh/1TruOKRbSa3ByfVwzkFf
+VKmvE8Iwkf8dRseNdzJs4whu0T4p30et7lqlbhunUB38jxwWOt7uCn8JVWRKj6M3HLOTdwePsmyKGkCRMfippLC
+Ep2jPM1F4MroMFNkHkGmV
+MyDqDrE9dMa0s6vJWjQo0HVNyVKisbpYj8Y1kjARbNofZH9RlWnfMBw3DgxScBwGShcB1xtXD1NHH2kEsXVm
+l5ah3JgQZlDwOyBGGzKH5wRQeITCAgpLKDxB4RkKL1BYNQSN57JOqPmzEmqCFb9DYQYFHwpzKARQeITCAgpLKDx
pZybJgsqAwg4IPhTkUAig8QmEBhSUUnqDwDIUXKKysD5Jlg2RdTYgtIcJWt9IQtGOHxTDbnlmXx2l7/
A6PDVp/3uUBnR1UHrPhcUE8jx0cF3AWHR4HcJZdHqvteery2G3Pc5cH5Oely+O2Pasuz6D2tMrA
+T9l4DQT7oECcMpF9eaiwOO3AKCCguZBZwjC1RpfNimmW/nIx/iX014EKUKs1fpJk3epdqH7/
AlU6to7ZjreveWYJnH22hyXJ4iN0ZH4UUaXkdH4iTafewMr8PVeMDOcnmHYQe/
B89xe4FlDfeYHg9mD9UOu1KTnaItXiG7jjCkJ3sgM8+cmWt6Z5LgguRzxhdek4Pet82zHn7QxFTN
+pTaEFOeJWKT
+kTn9D1BLBwiZjxVM2QMAAJcOAABQSwMEFAAICAgArHUEUQAAAAAAAAAAAAAAACMAAAB4bC93b3Jrc2hlZXRzL19
kz48hi9UYvDhSyo6jhlY2ICgati52Gj52rw/PIHLBaNFzJA2RYbVcvJPHUl/
k3g1Z1ETMGvpShrlS2fQUMEseKNabPaeApW5TpwY0B
+xIzZrmSaXfDZg2xdZqSFvbgthh6qhoCOh84XmVnNYWjWFpOFyu39hW28tYKEX09fQ00H9AvN87Qxs2n4FiueFSf
ysW1nX9yRd03+ZHiemOqdzKrdyvC/
kEj4z1ORLLL8BUEsHCIiJ6rHyAAAAWAIAAFBLAQIUABQACAgIAKx1BFHAApDHeAEAAPUGAAATAAAAAAAAAAAAAA
+iLjAAAASQIAAAsAAAAAAAAAAAAAAAAAuQEAAF9yZWxzLy5yZWxzUEsBAhQAFAAICAgArHUEUQJGEdt0AQAAFwMA
AgAAEQAAAAAAAAAAAAAAACHBAAAZG9jUHJvcHMvY29yZS54bWxQSwECFAAUAAgICACsdQRRr7Z/
u2gBAAB4AgAAEAAAAAAAAAAAAAAAAAD/
BQAAeGwvY29tbWVudHMxLnhtbFBLAQIUABQACAgIAKx1BFF207COdQAAAIIAAAAYAAAAAAAAAAAAAAAAAKUHAAB4
+xAAAA0AAAAAAAAAAAAAAAAAYxAAAHhsL3N0eWxlcy54bWxQSwECFAAUAAgICACsdQRRbppOcoUGAAC0IAAAEwAA
QAAADRAwAAGgAAAAAAAAAAAAAAAAFHgAAeGwvX3JlbHMvd29ya2Jvb2sueG1sLnJlbHNQSwECFAAUAAgICACsdQ
QAAAOYCAAAjAAAAAAAAAAAAAAAAABIpAAB4bC93b3Jrc2hlZXRzL19yZWxzL3NoZWV0Mi54bWwucmVsc1BLAQIUA
LgAAeGwvd29ya3NoZWV0cy9fcmVscy9zaGVldDMueG1sLnJlbHNQSwUGAAAAABIAEgDMBAAAwi8AAAAA
------AdaptivePlanningAPIBoundary173bb6faa3d--
```

エラー レポートのスプレッドシート ファイルの保存

レスポンス内のエラー レポート.xlsx は Base64 でエンコードされたデータです。これを Microsoft Excel で開くには、データを Base64 からバイナリに変換し、バイナリ ファイルとして保存します。

テキスト エディタを使用して応答内のデータをエラー レポート スプレッドシートに変換する手順は、以下のとおりです。

1. Subline Text などの 16 進数エンコーディングをサポートするテキスト エディタを開きます。
2. 新しいファイルを作成し、「error_report.xlsx」という名前で保存します。
3. "ファイル" > "エンコーディングで再オープン" > "16 進数" をクリックします。
4. Cryptiv などのツールを使用して、Base64 のデータを 16 進数に変換します。末尾の改行文字は必ず削除してください。
5. 変換されたデータをテキスト エディタにコピーして保存します。
6. Microsoft Excel でファイルが開きます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

エラー メッセージの説明

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
|---|---|---|
| エラー | インポート操作特性がありません。 | 操作特性が指定されていません。 |
| エラー | 操作特性が無効です。 | リクエストで指定された操作が無効です。有効な値は "update" または "replaceAll" です。 |
| エラー | リクエストの形式が無効です。 | リクエスト部分が有効な XML データではありません。 |
| エラー | 属性のアクセス制御はこのインスタンスでは有効化されていません。 | ターゲット インスタンスで DAC が有効になっていない。 |
| エラー | スプレッドシート ファイルが無効です | アップロードされたファイルは有効なスプレッドシート ファイルではありません。.xls または .xlsx ファイルであることを確認してください。 |
| エラー | エラーが発生しました。詳細なエラーについてはエラー シートを参照してください。 | アップロードされたスプレッドシート ファイルにはいくつかのデータ エラーがあります。 |

**updateAccount**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | システムの既存の科目を更新する場合。この API は、検証または更新に失敗するとエラー メッセージを返し、成功した場合は更新された科目のメタデータを返します。この API は、次の科目タイプのみをサポートします。前提条件、総勘定元帳科目、カスタム科目。システム科目またはリンク元科目はサポートされていません。 |
| 起動に必要な権限 | GL とカスタム科目のモデル前提条件の前提条件。 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。科目作成を実行するには、ユーザーがモデルまたは前提条件の権限を持っている必要があります。XML リクエストは各フィールドおよび特定のビジネス ロジックに対して検証されます。作成に失敗すると、応答にエラー メッセージが返されます。リスクのある操作が検出された場合、操作が停止し、警告メッセージが表示される場合があります。科目の更新を完了するには、"ignoreWarnings" 属性を 1 に設定してリクエストを再送信する必要があります。

リクエストのフォーマット

リクエスト スキーマは、Relax NG コンパクト形式で提供されます。

```
default namespace = ""
start =
    element account {
        attribute id { xsd:integer }, #account id
        attribute name { xsd:string { maxLength="2048" minLength="1"} }?,
 #Non-empty string with a maximum length of 2048 characters.
    attribute code { xsd:string { maxLength="2048" minLength="1"} }?, #Non-
empty string with a maximum length of 2048 characters.
    attribute description { xsd:string { maxLength="2048"} }?, #Potentially
 empty string with a maximum length of 2048 characters.
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

```
    attribute shortName { xsd:string { maxLength="64"} }?, #Potentially
 empty string with a maximum length of 64 characters.
    attribute exchangeRateType { xsd:string }?, #displayAs must be CURRENCY
 (only if multicurrency is enabled) attribute hasSalaryDetail { string "0" |
 string "1" }?, #0=No, 1=Yes
    attribute dataPrivacy { string "PRIVATE" | string "PUBLIC_TOP" | string
 "PUBLIC_ALL" }?,
    attribute isBreakbackEligible { string "0" | string "1" }?, #0=No, 1=Yes
    attribute proceedWithWarnings { string "0" | string "1" }?, #0=No, 1=Yes
    element attributes{
        element attribute{
            attribute attributeId{ xsd:integer },
            attribute valueId{ xsd:integer }
        }*
    }?
}
```

例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateAccount" callerName="a string that identifies your
 client application">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
    <account
        id="48"
        name="Account Name"
        code="Account_Code"
        description="Account Description"
        shortName="Short Name"
        exchangeRateType="A"
        hasSalaryDetail="1"
        dataPrivacy="PRIVATE" >
        <attributes>
            <attribute attributeId="20" valueId="170" />
        </attributes>
    </account>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | 作成する科目を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 科目の内部システム ID 番号です。これは、exportDimensionFamilies などの他の API 呼び出しで科目を識別するために使用できます。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される科目の名前。 | 流動資産 |
| code | なし | 科目のコード。英数字と下線のみです。科目グループのコード特性を指定することはできません。 | Cur_Assets |
| 説明 | なし | 科目のテキストによる説明。 | 合計流動資産 |
| shortName | なし | 科目の短い名前。 | CA |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| exchangeRateType | なし | 多通貨が有効になっているインスタンス、および displayAs="CURRENCY" を指定している科目にのみ存在します。可能な値: "通貨の管理" で設定された、インスタンスに表示されている任意の為替レート タイプ コード。"A" = 月平均、"E" = "月末" | E |
| hasSalaryDetail | なし | 科目の分割を表示するには、給与詳細の権限が必要です。いいえ: 0、はい: 1。 | 1 |
| dataPrivacy | なし | 科目の値を非公開 (PRIVATE)、最上位組織でのみ公開 (Public_Top)、またはすべての組織で公開 (Public_ALL) を選択します。デフォルトは "非公開" です。 | 非公開 |
| isBreakbackEligible | なし | 按分で使用できます。いいえ: 0、はい: 1。前提条件にのみ適用されます。 | 0 |
| proceedWithWarnings | なし | ユーザーが警告メッセージを無視して更新操作を続行するかどうかを示します。いいえ、0 は 1、はいは 1 です。警告が表示されていて、proceedWithWarnings=0 の場合、科目は更新されません。警告がある場合に科目を更新するには、proceedWithWarnings=1 を設定します。 | 1 |
| エレメントの内容<br>科目に関連付けられた 1 つ以上の科目特性を編集する場合は、1 つの任意の特性要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つ以上の科目特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの科目特性要素を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| attributeID | あり | システムによって生成された科目特性の ID。 | 20 |
| valueID | あり | システムによって生成された科目特性値の一意の ID。この値が 0 の場合、この特性は科目から削除されます。 | 170 |

エレメントの内容
なし

回答フォーマット

これらは、科目の更新が成功した場合および失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
    <messages>
        <message type="WARNING" key="warning-unpublished-changes" values=""
 accountId="1">You have unpublished changes.
           Your changes will not be visible every where until it is
 published.</message>
    </messages>
    <output>
        <accounts>
            <account id="1" code="Assets" name="Assets" description="Total
 Assets" timeStratum="month" displayAs="CURRENCY" accountTypeCode="A"
 decimalPrecision="0" isAssumption="0" suppressZeroes="1" isDefaultRoot="1"
 shortName="" exchangeRateType="E" balanceType="DEBIT" formula=""
 isLinked="0" owningSheetId="" isSystem="0" isIntercompany="0"
 dataEntryType="" planBy="DELTA" timeRollup="LAST" timeWeightAcctId=""
 levelDimRollup="SUM" levelDimWeightAcctId="" rollupText=""
 startExpanded="1" hasSalaryDetail="" dataPrivacy="PRIVATE"
 isBreakbackEligible="" subType="CUMULATIVE" enableActuals="1" isGroup="0">
              <attributes>
                  <attribute
                  name="AP Eligible"
                  attributeId="17"
                  value="Yes"
                  valueId="170" />
              </attributes>
              </account>
        </accounts>
    </output>
</response>
```

エラーの例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
    <messages>
       <message type="ERROR" key="invalid-account-id" values="441"
 accountId="-50">Invalid account id: "-50"</message>
    </messages>
</response>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | True または False のいずれかで、API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、警告メッセージが応答に含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素または単一の任意の出力要素。 | | | |

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | メッセージ | |
| 説明 | | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のメッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| type | あり | タイプはメッセージのタイプを識別する方法です。異なるタイプは、INFO、WARNING、ERROR です。エラー タイプは、このリクエストが処理されなかったことを示します。 | 警告 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| キー | あり | キーは特定のメッセージやメッセージのタイプを識別するための手段で、クライアント プログラムにおけるエラー ログ記録と復旧に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | 警告-無効な期間-開始 |
| 値 | なし | 値が指定されると、メッセージ テキストで使用されている変数を表します。 | 199,12 |
| parentId | なし | 使用可能な場合は、リクエストで提供された新しい科目の親の ID。 | 50 |

エレメントの内容
メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされていると仮定します)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。

| | |
|---|---|
| 科目要素 | |
| タグ名 | 科目 |
| 説明 | 1 つ以上の科目要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の科目要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | exportAccounts API コールへの応答で返される単一科目を表します。この要素が応答のそれを囲む科目要素内に直接ある場合 (つまり、別の科目要素に囲まれていない場合)、この科目要素はルート科目、つまり親を持たない科目を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される科目の名前。 | 現在資産 |
| code | なし | 科目のコード。英数字と下線のみです。科目グループのコード特性を指定することはできません。 | Cur_Assets |
| ID | あり | 科目の内部システム ID 番号です。これは、exportDimensionFamilies などの他の API 呼び出しで科目を識別するために使用できます。 | 16 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| accountTypeCode | なし | データ タイプの科目に対応する文字コード | A |

| タイプコード | 科目タイプ | 科目クラス |
|---|---|---|
| A | 資産 | 総勘定元帳 |
| B | 流動資産 | 総勘定元帳 |
| C | 負債と純資産 | 総勘定元帳 |
| キューブ | キューブ | キューブ |
| EN | 年初来の利益/損失 | 総勘定元帳 |
| F | 固定資産 | 総勘定元帳 |
| G | 売上原価 | 総勘定元帳 |
| I | Income | 総勘定元帳 |
| J | 営業外収益 | 総勘定元帳 |
| K | 為替換算調整勘定 | システム |
| L | 負債 | 総勘定元帳 |
| M | 流動負債 | 総勘定元帳 |
| MI | 連結比率 | 定義済 |
| MT | メトリック | メトリック |
| なし | 純利益 | 総勘定元帳 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | なし | 科目のテキストによる説明。 | 合計 |
| shortName | なし | 科目の管理で入力された科目の短縮名 (存在する場合) | 流動資産<br>CA |
| timeStratum<br>API v16 以上でサポート | なし | 科目の時間層 (時間層のコードとして)。キューブ科目、モデル科目、キューブ入力 GL 科目の場合、時間層はそれらを所有するシートの時間層によって決まります。他のすべての科目は、時間管理 UI 内で設定されたデフォルトの時間層を使用します。 | Month |
| displayAs | | 科目の出力表示設定: NUMBER、通貨、パーセント"科目の管理" で "表示形式" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。 | NUMBER |
| IS前提条件 | なし | "0" または "1" のいずれかで、科目が前提条件であるかどうかを示します。これは前提条件および為替レート科目では "1" に設定されています。 | 1 |
| suppressZeroes | なし | 科目でユーザーがシート上でゼロを表示しないようにすることを許可するかどうかを示すフラグ。0 は許可されず、1 は許可されます。"科目の管理" で "ゼロを表示しない" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。 | 1 |
| isDefaultRoot | なし | "0" または "1"。科目または科目グループがデフォルト ルートであるかどうかを示します。 | 1 |
| decimalPrecision | なし | この科目の数値を表示する小数点以下の桁数。デフォルトは 0 です。特殊値 99 は、ターゲットの小数点以下の桁数を継承するリンク元科目を示すために使用されます。値が -1 の場合、その科目は通貨科目であり、表示されているいずれかの通貨の小数部桁数が使用されます。 | 0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| planBy | なし | ストック科目の場合、科目が残高での計画 (BALANCE) か、差額での計画 (DELTA) かを示します。 | 残高 |
| exchangeRateType | なし | 多通貨が有効になっているインスタンス、および displayAs="CURRENCY" を指定している科目にのみ存在します。可能な値: "通貨の管理" で設定された、インスタンスに表示されている任意の為替レート タイプ コード。"A" = 月平均、"E" = "月末" | E |
| isImportable | なし | 科目がインポートされたデータを受け入れることができるかどうかを示します。0 はその科目がインポート不可であることを、1 はインポート可能であることを示します。リクエストで versionName または versionId が指定されている場合にのみ存在します。<br><br>注: "isImportable" は、科目が指定されたバージョンでインポート可能であることのみを示します。API を呼び出しているユーザーが、バージョンまたは科目にインポートする権限を持っていることは意味しません。exportVersions を使用して、ユーザーがインポートに使用できるバージョンを確認します。 | 1 |
| hasSalaryDetail | なし | 科目の分割を表示するには、給与詳細の権限が必要です。いいえ: 0、はい: 1。 | 1 |
| balanceType | なし | 科目の残高タイプ (借方または貸方) を示します。科目に関連付けられた残高タイプがない場合、この特性は空になります。GL 科目のみに残高タイプがあります。 | 借方 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| dataEntryType | なし | 科目のデータ入力タイプを示します。STANDARD または CUBE空白の値は、データ入力タイプが科目に適用されないことを示します。たとえば、リンク元科目またはモデル科目のデータ入力タイプが空白の場合、 | キューブ |
| timeRollUp | なし | 特定の期間にわたってロールアップされた科目の動作を示します。SUM、WEITETED_AVERAGE、LAST、AVERAGE を指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | SUM |
| timeWeightAcctId | なし | この科目の timeRollup が ”WESIGNED_AVERAGE” である場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。これは、加重科目が存在しない場合、または科目の timeRollup が WESIGNED_AVERAGE の場合、空になります。 | 133 |
| hasSalaryDetail | なし | 0 または 1 で、この科目に "給与詳細にアクセス" 権限を表示する必要がある分割があるかどうかを示します。この科目に該当しない場合は空になります。 | 1 |
| dataPrivacy | なし | 科目の値がどの組織において公開され、数式の作成時に他の組織で参照可能であるかを示します。科目の値が非公開になる場合は "PRIVATE" を、最上位組織のみで科目の値が公開される場合は "Public_Top" を、すべての組織で公開されるようにするには "Public_ALL" を指定できます。前提条件は常に公開されるため、dataPrivacy 設定はありません。 | 非公開 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| subType | なし | 科目がフローかストックかを示します。科目がフローである場合、特定の月の値はその月の正味アクティビティに等しくなります。例としては、収益科目と経費科目が挙げられます。科目がストックの場合、その値は特定の月の終了残高に等しくなります。これは、前月の値とその月のアクティビティの値の合計です。貸借対照表の科目はストックです。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | フロー |
| startExpanded | なし | これは、シートを最初にロードしたときに科目とその子が展開された状態で開始するかどうかを示します。これは親科目にのみ適用されます。これは最下位科目の場合空になります。 | 1 |
| isBreakbackEligible | なし | 0 または 1 のいずれかで、この科目を按分で使用できるかどうかを示します。これは標準の前提条件にのみ適用されます。これは他のタイプの科目では空になります。 | 0 |
| levelDimRollup | なし | 組織または属性に沿ってロールアップされた科目の挙動を示します。SUM、 WEligTED_AVERAGE、TEXT、 または NONBlank_AVERAGE を指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | NONBLANK_AVERAGE |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| levelDimWeightAcctId | なし | この科目の levelDimRollup が "WE却下" の場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。加重科目が存在しない場合、または科目の levelDimRollup が WE却下_AVERAGE でない場合、これは空になります。 | 118 |
| rollupText | なし | この科目の levelDimRollup が TEXT の場合、これは科目のロールアップされた値を示すセルに表示されるテキスト文字列です。 | なし |
| enableActuals | なし | 0 を選択すると、その科目の計画データのみが表示されます。1: 科目に実績をインポートします。リンクされた科目の場合、0 を指定するとリンク元科目に実績がある場合にのみ実績が表示され、1 を指定するとリンク元科目の実績が有効になります。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | 1 |
| isGroup | あり | 0 または 1 で科目グループかどうかを示します。 | 1 |
| isIntercompany | なし | 0 または 1 で、この科目が内部取引科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| 数式 | なし | 科目の数式 (ある場合)。 | ACCT.Revenue - ACCT.Expenses |
| isLinked | なし | 0 または 1 でこの科目がリンク元科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| isSystem | なし | 0 または 1 でシステム科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| owningSheetId | なし | モデル シートおよびキューブ シートにある科目の場合、この科目があるシートの内部システム ID 番号そのような科目ではない場合、またはそのような科目であるがシートに現在割り当てられていない場合は、空になります。 | 17 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| |
|---|
| エレメントの内容<br>この科目の直接の子科目ごとに 1 つのネストされた科目要素<br>科目に関連付けられた 1 つまたは複数の特性がある場合は、1 つの特性要素。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つ以上の特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 科目が関連付けられている、空白ではない単一の科目特性マッピングを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 科目特性の名前。 | SEC レポート |
| 値 | あり | 科目に関連付けられた科目特性の名前。 | はい |
| attributeId | あり | 科目特性の内部システム ID 番号。 | 10 |
| valueId | あり | 科目特性値の内部システム ID 番号。 | 108 |
| エレメントの内容 | | | |
| なし。 | | | |

**updateAccounts**

API v20 以上でサポート

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 既存の GL 科目のセットを更新するか、新しい GL 科目を作成します。複数の値を持つ複数の科目は、1 回の呼び出しで更新できます。成功した場合、この API は更新または作成された科目の詳細を返します。API が失敗すると、エラーとその原因の包括的なリストが返されます。 |
| 起動に必要な権限 | 各組織のモデルと権限 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーには "モデル" が指定されている必要があります 概念: 権限セット（1407ページ）および更新する科目を管理するために必要な権限

ヒント： ベスト プラクティス:exportAccounts を呼び出して Adaptive Planning updateAccounts リクエストに必要なアカウント ID。exportAccounts の呼び出しから updateAccount のリクエストまでの時間を、できるだけ短くするように注意してください。

| HTTP | 説明 |
|---|---|
| `Method` | `Post` |
| `Content-Type` | text/xml |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**curl の例**

```
curl -H "Content-Type: text/xml" -d @C:/temp/updateAccounts.xml -X POST
 https://api.adaptiveplanning.com/api/v20
```

updateAccounts.xml contents

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateAccounts" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
<accounts proceedWithWarnings="0">
<account id="1441" code="LocalAssets" name="LocalAssets" shortName=""
 description="Local Assets"
displayAs="CURRENCY" decimalPrecision="0" suppressZeroes="1"
exchangeRateType="E" isIntercompany="0" planBy="DELTA" timeRollup="LAST"
 hasSalaryDetail="0" dataPrivacy="PRIVATE"
subType="CUMULATIVE" enableActuals="1">
<account id="1610" code="LocalCashAssets" name="Local Cash Assets"
 shortName="" description="cash assets"
displayAs="CURRENCY" decimalPrecision="0" suppressZeroes="1"
exchangeRateType="E" isIntercompany="0" planBy="DELTA"
timeRollup="LAST" hasSalaryDetail="0" dataPrivacy="PRIVATE"
subType="CUMULATIVE" enableActuals="1" propagateToDescendants="1">
  <attribute name="SEC Reporting" value="Yes" />
  <attribute name="GAAP Reporting" value="No" />
</account>
</account>
</accounts>
</call>
```

ペイロードが多い場合は、圧縮 XML ファイル (ZIP 形式) を計上できます。その方法については、 こちらをご覧ください。

次の条件が updateAccounts に適用されます。

- 更新対象の科目は内部 ID 番号によって識別されます。
- 新規科目を作成するには、空白または ID プロパティがない科目を指定します。
    - 既存の (新規ではない) アイテムを移動して、新しいアイテムの子にすることができます。これにより、新しいアイテムが作成され、既存のアイテムが子としてその下に移動します。
    - API v31 以降の場合、既存の親とその子科目の間に新しい親科目を作成できます。

科目の親を再設定

- updateAccounts 子の特性値が新しい親特性と互換性がない場合、エラーが発生します。例: reparentedAccount1 特性の SEC レポート値 = いいえ。newParentAccount2 の SEC レポート値 = はいのため、互換性がありません。
- updateAccounts 次の場合に、親の再設定中に互換性のない特性値が新しい親と一致するように修正されます。 proceedWithWarnings=1.
- 科目の親を再設定すると循環関係を作成できません。
- 親の再設定は、システムで生成されたルート科目では許可されていません。 Assets, Liabilities and Equities, Net Income, PL Income, Non-Operating Income, PL COGS, PL Expense, Non-Operating Expenses。

API のバージョンに応じて、以下のようになります。 updateAccounts 既存の親とその子科目の間に新しい親科目を作成できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| ソース科目 | 移動先 | API v30 以前 | API v31 + |
|---|---|---|---|
| ルート | ルート | 阻止 | 阻止 |
| ルート | 親 | 阻止 | 阻止 |
| ルート | 最下位 | 阻止 | 阻止 |
| 親 | ルート | 許可 | 許可 |
| 親 | 親 | 許可 | 許可 |
| 親 | 既存の最下位を最初の子として設定 | 阻止 | 阻止 |
| 親 | 既存の最下位を最初の子以外として表示 | 許可 | 許可 |
| 親 | 既存の親の子である新しい最初の科目 | 阻止 | 許可 |
| 親 | 既存の親の子である新しい科目以外の科目 | 許可 | 許可 |
| 最下位 | ルート | 許可 | 許可 |
| 最下位 | 親 | 許可 | 許可 |
| 最下位 | 既存の最下位を最初の子として設定 | 阻止 | 阻止 |
| 最下位 | 既存の最下位を最初の子以外として表示 | 許可 | 許可 |
| 最下位 | 既存の親の子である新しい最初の科目 | 阻止 | 許可 |
| 最下位 | 既存の親の子である新しい科目以外の科目 | 許可 | 許可 |
| 最下位 | 既存の最下位科目の子である新しい最初の科目 | 阻止 | 阻止 |
| 最下位 | 既存の最下位科目の子である新しい科目以外の科目 | 許可 | 許可 |

最下位科目の子

- 最下位科目の最初の子は新しい科目のみにすることができます。既存の GL 科目を既存の最下位科目の下に移動することはできません。
- 親の再設定中に科目が最初の子を取得すると、"インテグレーション" > "インポート科目マッピング" にある科目マッピングは削除されます。
- 科目の親を再設定する場合、 `balanceType` および `subType` プロパティは親の GL 科目から継承されます。

キューブ科目とキューブ入力データ

- キューブ入力科目は、親の再設定が可能です。
- 親の再設定が可能な科目は、ソースとターゲットのサブツリーにキューブ入力データがない科目のみです。
- キューブ/ミックス科目の親の再設定はできません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- キューブ アカウントの下にある新しい科目は許可されていません。STANDARD/mixed ACCOUNT の下の新しい科目を使用できます。

新規科目を作成するためのリクエスト形式

新しい科目を作成するには、その親 ID を含めます。たとえば、L の下に新しい子科目を追加すると、ocalAssets が含まれる科目 id 1441では、以下を使用できます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateAccounts" callerName="Steve C">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
<accounts>
 <account id="1441">
   <account id="" code="newLocalAssets" name="new Local Assets"
 description="new local assets account for this area" shortName="" >
   </account>
 </account>
</accounts>
</call>
```

この方法では、科目に関する何もの変更も行われません id 1441。"子" という名前の新しい子が作成されます。 new Local Assets 対象 id 1441。指定されていないすべての子 LocalAssets 子リストの最後に移動する。これは新しい科目の "親を設定" することと同じです。

**1 回の updateAccounts コールでの複数の名前変更の処理**

リモート システム内の同一エンティティに対して複数の名称変更が発生する可能性があります。updateAccounts。リモート システムのエンティティ名は、同じエンティティ ID と交換できます。条件 updateAccounts 名前の交換後に呼び出しが発生する場合、 updateAccounts 呼び出しは、氏名変更全体の ID を追跡することによって、これらの変更を管理します。この呼び出しは、既存の名称を使用する新しい ID の導入を処理することもできます。

それぞれの例が成功するには、固有の値を使って ID が完全に交換される必要があります。

例 1: リモート システムでの単純な名称交換。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
1       AA              BB
2       BB              AA
```

例 2: リモート システムでの 3 つの名前変更のシーケンス。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
1       AA              BB
2       BB              CC
3       CC              AA
```

例 3: 既存の一意値を使用した新しいエンティティ。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
4                       AA
1       AA              BB
2       BB              Old BB
```

| 認証情報要素<br>タグ名 | 認証情報 |
|---|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | |
|---|---|
| 科目要素 | |
| タグ名 | 科目 |
| 説明 | ペイロードごとに許可される科目要素のリクエストは 1 つだけです。1 つ以上の科目要素が含まれます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性<br>特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| --- | --- | --- | --- |
| proceedWithWarnings | なし | proceedWithWarnings="1" は、updateAccounts API が親の再設定に基づいて科目の特性とプロパティを調整することを示します。<br><br>proceedWithWarnings="0" は、updateAccounts API が親の再設定に基づいて科目の特性とプロパティを調整しないことを示します。UpdateAccounts はエラーが発生し、失敗の理由を示すメッセージが表示されます。たとえば、親を再設定すると特性マッピングが無効になります。<br><br>ない場合はデフォルトで 0 になります。 | 1 |
| retainExistingOrder<br><br>API v26 以上で使用可能 | なし | tainExistingOrder="1" は、updateAccounts API が XML ペイロード内の要素の順序を無視する必要があり、既存の定義済み順序は保持されることを示します。<br><br>retainExistingOrder="0" は、updateAccounts API が XML ペイロード内の他の兄弟と比較したタグの位置に基づいて要素の順序を更新する必要があることを示します。<br><br>tainExistingOrder 特性は、API v26 より前の API バージョンでは無視されます。<br><br>v26 では、retainExistingOrder のデフォルト値が "0" です。API バージョン v27 以降の場合、retainExistingOrder のデフォルト値は "1" です。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=1 は、updateAccounts が の表示名プロパティに従う必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=0 は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、updateAccounts API が v32 前の API 契約に従う必要があることを示します。updateAccounts API は表示名プロパティを無視します。 `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "0" です。 | 1 |
| エレメントの内容<br>1 つまたは複数の科目要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | 作成する科目を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 科目の内部システム ID 番号。 | 16 |
| code | なし | 科目のコード。英数字と下線のみです。科目グループのコード特性を指定することはできません。 | Cur_Assets |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される科目の名前。 | 流動資産 |
| shortName | なし | 科目の短い名前。 | CA |
| 説明 | なし | 科目のテキストによる説明。最大文字数は 2048 文字です。 | 合計流動資産 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| subType | なし | 科目がフローかストックかを示します。科目がフローである場合、特定の月の値はその月の正味アクティビティに等しくなります。例としては、収益科目と経費科目が挙げられます。科目がストックの場合、その値は特定の月の終了残高に等しくなります。これは、前月の値とその月のアクティビティの値の合計です。貸借対照表の科目はストックです。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。<br><br>読み取り専用で、親科目に基づいて識別されます。 | ストック |
| planBy | なし | ストック科目の場合、科目が残高での計画 (BALANCE) か、差額での計画 (DELTA) かを示します。<br><br>デフォルトは "差額" です。<br><br>科目が実績以外のバージョンで分割されている場合、planBy を Delete に変更することはできません。<br><br>最下位科目でのみ適用されます。ユーザーが最下位科目以外に対して PlanBy を設定しようとすると、updateAccounts エラーが発生します。 | DELTA |
| actualsBy | なし | ストック科目の場合、科目が残高ごとの実績 (BALANCE) か、差額ごとの実績 (DELTA) かを示します。<br><br>デフォルトは "BALANCE" です。<br><br>最下位科目でのみ適用されます。ユーザーが最下位科目以外の科目に actualsBy を設定しようとすると、updateAccounts エラーが発生します。 | 残高 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| enableActuals | なし | 0 を選択すると、その科目の計画データのみが表示されます。1: 科目に実績をインポートします。リンクされた科目の場合、0 を指定するとリンク元科目に実績がある場合にのみ実績が表示され、1 を指定するとリンク元科目の実績が有効になります。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。Planning の GL 管理 UI では、「実績のオーバーレイ」という用語を使用します。<br><br>現在の科目がグループである場合、デフォルトは 0 です。現在の科目が最下位の場合、デフォルトは 1 です。 | 1 |
| balanceType<br><br>*API v33* で更新済 | なし | 科目の残高タイプ (借方または貸方) を示します。科目に関連付けられた残高タイプがない場合、 balanceType は空になります。<br><br>GL 科目のみに残高タイプがあります。<br><br>API v32 以前の場合、残高タイプは親科目で識別される読み取り専用プロパティです。<br><br>API v33+ では、子科目が親科目とは異なる balanceType を使用することができます。 | 貸方 |
| timeStratum | なし | 科目の時間層のコード。モデル科目およびキューブ科目の場合、これは科目の所有シートから継承されます。<br><br>参照 ステップ: カレンダーの変更 ( 776ページ ) 時間構造および期間コードの詳細を参照してください。<br><br>時間構造、モデル シート、またはキューブ シートから選択された読み取り専用プロパティ。 | month |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| displayAs | なし | 科目の出力表示設定: NUMBER、通貨、パーセント"科目の管理" で "表示形式" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。<br><br>総勘定元帳科目の場合は読み取り専用プロパティです。 | NUMBER |
| decimalPrecision | なし | この科目の数値を表示する小数点以下の桁数。<br><br>特殊値 99 は、ターゲットの小数点以下の桁数を継承するリンク元科目を示します。値 -1 は、その科目が通貨科目であり、表示される通貨の小数部桁数を使用することを示します。<br><br>指定可能な値: -1、0、1 ~ 9、99<br><br>デフォルトは 0 です。 | 0 |
| exchangeRateType | なし | 多通貨が有効になっているインスタンス、および displayAs="CURRENCY" を指定している科目にのみ存在します。可能な値: "通貨の管理" で設定された、インスタンスに表示されている任意の為替レート タイプ コード。"A" = 月平均、"E" = "月末"<br><br>値がない場合、"PERIODIC" は "A"、"ストック" は "E" を使用します。 | E |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| suppressZeroes | なし | 科目でユーザーがシート上のゼロを非表示にすることを許可するかどうかを示します。"0" の場合、ユーザーはゼロを非表示にすることはできません。1 人の場合は、ユーザーがゼロを非表示にすることができます。科目の管理で "シート上で表示しない" プロパティがオンになっている科目に対してのみ提供されます。<br><br>存在しない場合は、デフォルトで 1 が指定されます。 | 1 |
| startExpanded | なし | シートが最初にロードされたときに、科目とその子が展開された状態で開始するかどうかを示します。親科目にのみ適用されます。<br><br>展開済みの場合は 1、折り畳みの場合は 0。<br><br>存在しない場合は、デフォルトで 1 が指定されます。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| dataEntryType<br>*API v29* で更新済 | なし | 最下位科目のデータ入力タイプを示します。STANDARD または CUBE<br>親の dataEntryType が CUBE の場合、新しい科目はデフォルトで dataEntryType CUBE になります。それ以外の場合、新しい科目はデフォルトで dataEntryType STANDARD になります。<br>最下位科目以外に対する dataEntryType の変更は無視されます。システムによって、最下位科目以外のすべての科目に対する新しい dataEntryType が自動的に計算されます。<br>API v29 以降では、dataEntryType=CUBE を使用した新規科目の追加がサポートされています。 | 標準 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| hasSalaryDetail | なし | この科目に、表示するために "給与詳細にアクセス" 権限が必要な分割があるかどうかを示します。この科目に該当しない場合は空です。<br><br>科目グループ/最下位科目以外に対して hasSalaryDetail=1 は許可されません。<br><br>hasSalaryDetail=1 にする場合:<br>• dataEntryType は STANDARD である必要があります<br>• accountType は GL である必要があります<br><br>dataEntryType が NOT STANDARD の場合、エラーが発生します。<br><br>最下位科目以外で dataEntryType=1 の場合にエラーが発生します。<br><br>GL 以外およびカスタム科目でエラーが発生しました。 | 1 |
| dataPrivacy | なし | 科目の値がどの組織で公開され、数式の書き込み時に他の組織で参照可能であるかを示します。"非公開" は、科目の値が非公開であることを示します。PUBLIC_Top は科目の値が最上位組織のみで公開されることを示し、Public_ALL は科目の値がすべての組織で公開されるようにします。前提条件は常に公開され、dataPrivacy 設定はありません。<br><br>存在しない場合は、デフォルトで "PRIVATE" が指定されます。<br><br>科目グループと前提条件科目のエラーが表示されます。 | 非公開 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| isIntercompany | なし | 科目が内部取引科目であるかどうかを示します。<br><br>isIntercompany プロパティへの変更はサポートされていません。 | 0 |
| propagateToDescendants | なし | 特性マッピングの変更を子孫に伝達することを示します。<br><br>値がない場合は、デフォルトで 0 になります。<br><br>空の場合、または 1 や 0 以外の値が含まれている場合、エラーが発生します。<br><br>子孫に伝達されるプロパティ:<br>• subType<br>• planBy<br>• displayAs<br>• actualsBy<br>• decimalPrecision<br>• exchangeRateType<br>• accountTypeCode | 1 |

エレメントの内容
科目に関連付けられた 1 つ以上の科目特性を編集する場合は、1 つの任意の特性要素。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 更新する特性を指定します。モデルに科目特性がある場合、科目に特性のタグを付けます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 特性の名前。<br><br>この名前がシステムにまだ存在しない場合は、エラーが発生します。<br><br>名前は存在するが特性が科目特性でない場合は エラーになります。<br><br>特性名が空であるか、見つからない場合、エラーが発生します。 | 勤務地 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 値<br>*API v34* で更新済 | あり | この特性の特性値。<br>空の値によって現在の値を削除するか、定義済みの科目特性値を削除できます。<br>特性値は、科目に割り当てられた特性と互換性がある必要があります。<br>API v32 および v33 では、この属性が意味を持つのは、インスタンスの表示名設定がオフになっている場合のみです。<br>API v34 以降の場合:<br>• 有効な表示名の設定がオンの場合にサポートされます。<br>• valueCode と valueName が存在すると エラーになります。<br>• "科目のインポートにより自動的に特性値を作成する" が有効になっている場合、値が存在しない場合は、値の文字列がコードと名前になります。<br>この特性のタグ付けを削除するには、value="" に設定します。 | 170 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| valueCode<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | あり | 特性値の一意のコード。 SFO<br><br>valueCode 入力が意味を持つのは、displayNameEnabled=1で、表示名の設定が API v32 および API v33 のインスタンスに対してオンになっている場合に限られます。<br><br>無効な特性値コード:<br>• this<br>• (+) または (-) で終わる名前<br>• 特性名<br>• any/-any/any-/-any-<br><br>この特性のタグ付けを削除するには、valueCodee="" を設定します。 |
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | なし | 新しく自動作成された特性値の名前。 サンフランシスコ<br><br>特性 valueName が意味を持つのは、次の場合のみです。<br>• valueCode は存在しない特性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1<br>• API v32 および API v33 を呼び出す。<br><br>valueCode が既存の特性値を保持している場合、valueName は無視されます。 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | |

上から下へのペイロード処理

科目特性は論理的に値をグループ化し、科目にタグを付けます。updateAccounts API は XML ペイロードを上から下に処理するため、親科目の科目特性を割り当ててから、子科目の特性を変更します。親科目の特性値が空白の場合、子科目は任意の特性値でタグ付けできます。子科目特性が親特性と整合しない場合、互換性検証エラーが発生します。

以下のツリー構造を検討します。親科目 "Product Line" に、2 つの子科目 "A" と "B-Ste" が含まれています。科目 "A" と "B-Ste" は兄弟です。

```
Product Line|__A          __A
|__B-Ste     __B-Ste
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   |__B1      __Product B-1
   |__B2      __Product B-2
   |__B3      __Product B-3
```

科目属性を含む元のリクエスト **XML** の例

科目特性値 "A" が "その他の科目" と "スイス銀行" の両方に割り当てられていることを確認します。

```
<accounts>
 <account id="60" code="70140" name="Other Accounts">
 <attribute name="Product Line" value="A"  />
    <account id="91" code="70150" name="Swiss Bank">
       <attribute name="Product Line" value="A"  />
    </account>
 </account>
</accounts>
```

ペイロード処理の順序の誤りの例

以下の XML ペイロードでエラーが発生します。`The attribute value B-1 is not compatible with the parent's attribute value`。上から下へのペイロード処理では、親の "その他の科目" は前のコード ブロックの値 "A" を持っていると見なされ、"B-1" が "A" の子として処理されます。このエラーが生成されるのは、ツリー構造で示されているとおり、子 "Swas Bank" の特性値が "A" または "B-Ste" に限られるためです。

```
<accounts>
 <account id="60" code="70140" name="Other Accounts">
    <account id="91" code="70150" name="Swiss Bank">
       <attribute name="Product Line" value="B-1"  />
    </account>
    <attribute name="Product Line" value="B-Ste"  /> <!-- Account Attribute
 change ignored due to placement order-->
 </account>
</accounts>
```

ペイロード処理の有効な順序の例

"B-Ste" の配置順序を "その他の科目" の下に並べ替えることにより、API が親科目特性 "B-Ste" を最初に処理できるようになり、"Swas Bank" が "B-Ste" または "B-Ste" のいずれかの値を持つことを可能にします。いずれかの子

```
<accounts>
 <account id="60" code="70140" name="Other Accounts">
    <attribute name="Product Line" value="B-Ste"  /> <!-- Account Attribute
 change processed due to correct placement order-->
    <account id="91" code="70150" name="Swiss Bank">
       <attribute name="Product Line" value="B-1"  />
    </account>
 </account>
</accounts>
```

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<response success="true">
<messages>
<message type="INFO">Accounts were saved successfully.</message>
</messages>
<output>
<accounts>
 <account id="1441" code="LocalAssets" name="LocalAssets" shortName=""
 description="Local Assets"displayAs="CURRENCY"
 decimalPrecision="0" suppressZeroes="true" exchangeRateType="E" formula=""
 isIntercompany="0"
 planBy="DELTA" timeRollup="LAST" timeWeightAcctId="" levelDimRollup="SUM"
 levelDimWeightAcctId="" rollupText=""
 startExpanded="true" hasSalaryDetail="" dataPrivacy="PRIVATE"
 isBreakbackEligible="" subType="CUMULATIVE" enableActuals="true">
   <account id="1610" code="LocalCashAssets" name="Local Cash Assets"
 shortName="" description="cash assets" displayAs="CURRENCY"
   decimalPrecision="0" suppressZeroes="true" exchangeRateType="E"
 formula="" isIntercompany="0" planBy="DELTA" timeRollup="LAST"
   timeWeightAcctId="" levelDimRollup="SUM" levelDimWeightAcctId=""
 rollupText="" startExpanded="true" hasSalaryDetail=""
   dataPrivacy="PRIVATE" isBreakbackEligible="" subType="CUMULATIVE"
 enableActuals="true">
   </account>
 </accounts>
</output>
</response>
```

| 出力要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 出力 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の必須科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | | | |

| 科目要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 科目 | |
| 説明 | | 1 つ以上の科目要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の科目要素 | | | |

| 科目要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | updateAccounts API コールへの応答で返される単一科目を表します。この要素が応答のそれを囲む科目要素内に直接ある場合 (つまり、別の科目要素に囲まれていない場合)、この科目要素はルート科目 (親を持たない科目) を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 科目の内部システム ID 番号。これは、exportDimensionFamilies などの他の API 呼び出しで科目を識別するために使用できます。 | 16 |
| code | あり | 科目のコード。数式で参照された場合に表示されます。 | Cur_Assets |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される科目の名前。 | 流動資産 |
| accountTypeCode | なし | この科目のデータ タイプに対応する文字コード | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | タイプ コード | 科目タイプ | 科目クラス | |
| | | A | 資産 | 総勘定元帳 | |
| | | B | 流動資産 | 総勘定元帳 | |
| | | C | 負債と純資産 | 総勘定元帳 | |
| | | キューブ | キューブ | キューブ | |
| | | EN | 年初来の利益/損失 | 総勘定元帳 | |
| | | F | 固定資産 | 総勘定元帳 | |
| | | G | 売上原価 | 総勘定元帳 | |
| | | I | Income | 総勘定元帳 | |
| | | J | 営業外収益 | 総勘定元帳 | |
| | | K | 為替換算調整勘定 | システム | |
| | | L | 負債 | 総勘定元帳 | |
| | | M | 流動負債 | 総勘定元帳 | |
| | | MI | 連結比率 | 定義済 | |
| | | MT | メトリック | メトリック | |
| | | なし | 純利益 | 総勘定元帳 | |
| | | O | 他の資産 | 総勘定元帳 | |
| | | Q | 純資産 | 総勘定元帳 | |
| | | R | 長期資産 | 総勘定元帳 | |
| | | S | 前提条件 | 前提条件 | |
| | | T | 長期負債 | 総勘定元帳 | |
| | | W | モデル | モデル | |
| | | X | 経費 | 総勘定元帳 | |
| | | XR | 為替レート | 定義済 | |
| | | あり | 営業外費用 | 総勘定元帳 | |
| | | Z | カスタム | カスタム | |
| 説明 | なし | 科目管理で入力された科目のテキスト説明 (存在する場合) | | | 合計流動資産 |
| shortName | なし | 科目管理で入力された科目の短縮名 (存在する場合) | | | CA |
| timeStratum | なし | 科目の時間層のコード。モデル科目およびキューブ科目の場合、これは科目の所有シートから継承されます。 | | | Month |
| displayAs | なし | 科目の出力表示設定: NUMBER、通貨、パーセント"科目の管理" で "表示形式" プロパティがある科目に対してのみ提供されます。 | | | NUMBER |
| IS前提条件 | なし | "0" または "1" のいずれかで、科目が前提条件であるかどうかを示します。これは前提条件および為替レート科目では 1 に設定されます。 | | | 1 |
| suppressZeroes | なし | 科目でユーザーがシート上のゼロを非表示にすることを許可するかどうかを示します。"0" の場合、ユーザーはゼロを非表示にすることはできません。1 人の場合は、ユーザーがゼロを非表示にすることができます。科目の管理で "シート上で表示しない" プロパティがオンになっている科目に対してのみ提供されます。 | | | 1 |
| isDefaultRoot | なし | "0" または "1"。科目または科目グループがデフォルト ルートであるかどうかを示します。 | | | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| decimalPrecision | なし | この科目の数値を表示する小数点以下の桁数。<br><br>特殊値 99 は、ターゲットの小数点以下の桁数を継承するリンク元科目を示します。値 -1 は、その科目が通貨科目であり、表示される通貨の小数部桁数を使用することを示します。<br><br>指定可能な値: -1、0、1 ~ 9、99<br><br>デフォルトは 0 です。 | 0 |
| planBy | なし | ストック科目の場合、科目が残高での計画 (BALANCE) か、差額での計画 (DELTA) かを示します。 | 残高 |
| exchangeRateType | なし | displayAs="CARERENCY" を持つ科目の場合のみ存在します。可能な値: "通貨の管理" で設定された、インスタンスに表示されている任意の為替レート タイプ コード。"A" = 月平均、"E" = "月末" | E |
| balanceType | なし | 科目の残高タイプ (借方または貸方) を示します。科目に関連付けられた残高タイプがない場合、この特性は空になります。GL 科目のみに残高タイプがあります。 | 借方 |
| dataEntryType<br><br>API v29 で更新済 | なし | 科目のデータ入力タイプを示します。STANDARD または CUBE空の値は、データ入力タイプが科目に適用されないことを示します。<br><br>システムによって、最下位科目以外のすべての科目に対する新しい dataEntryType が自動的に計算されます。<br><br>API v29 以降の場合:<br><br>• 最下位科目以外の科目には、常に空の文字列が含まれます。<br>• 最下位科目には、常に STANDARD または CUBE の dataEntryType 値が入力されます。 | 標準 |
| timeRollUp | なし | 特定の期間にわたってロールアップされた科目の動作を示します。SUM、WEITETED_AVERAGE、LAST、AVERAGE を指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | SUM |
| timeWeightAcctId | なし | この科目の timeRollup が ”WESIGNED_AVERAGE” である場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。これは、加重科目が存在しない場合、または科目の timeRollup が WESIGNED_AVERAGE の場合、空になります。 | 133 |
| hasSalaryDetail | なし | この科目に、表示するために "給与詳細にアクセス" 権限が必要な分割があるかどうかを示します。この科目に該当しない場合は空です。 | 1 |
| dataPrivacy | なし | 科目の値がどの組織で公開され、数式の書き込み時に他の組織で参照可能であるかを示します。"非公開" は、科目の値が非公開であることを示します。PUBLIC_Top は科目の値が最上位組織のみで公開されることを示し、Public_ALL は科目の値がすべての組織で公開されるようにします。前提条件は常に公開され、dataPrivacy 設定はありません。 | 非公開 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| subType | なし | 科目がフローかストックかを示します。科目がフローである場合、特定の期間の値はその期間の正味アクティビティに等しくなります。例としては、収益科目と経費科目が挙げられます。科目がストックの場合、その値は特定の期間の終了残高と等しくなります。これは、前の期間の値と指定された期間のアクティビティの値です。貸借対照表の科目はストックです。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | フロー |
| startExpanded | なし | これは、シートを最初にロードしたときに科目とその子が展開された状態で開始するかどうかを示します。これは親科目にのみ適用されます。これは最下位科目の場合空になります。 | 1 |
| isBreakbackEligible | なし | 0 または 1 のいずれかで、この科目を按分で使用できるかどうかを示します。これは標準の前提条件にのみ適用されます。これは他のタイプの科目では空になります。 | 0 |
| levelDimRollup | なし | 組織または属性に沿ってロールアップされた科目の挙動を示します。SUM、WEITETED_AVERAGE、TEXT、NONBLANK_AVERAGE を指定できます。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | NONBLANK_AVERAGE |
| levelDimWeightActId | なし | この科目の levelDimRollup が "WE却下" の場合、これは科目の内部システム ID 番号になります。この内部システム ID 番号は加重値の決定元となります。加重科目が存在しない場合、または科目の levelDimRollup が WE却下_AVERAGE でない場合、これは空になります。 | 118 |
| rollupText | なし | この科目の levelDimRollup が TEXT の場合、これは科目のロールアップされた値を示すセルに表示されるテキスト文字列です。 | なし |
| enableActuals | なし | 0 を選択すると、その科目の計画データのみが表示されます。1: 科目に実績をインポートします。リンクされた科目の場合、0 を指定するとリンク元科目に実績がある場合にのみ実績が表示され、1 を指定するとリンク元科目の実績が有効になります。これは、科目グループおよびメトリック科目の場合は空になります。 | 1 |
| isGroup | あり | 0 または 1 で科目グループかどうかを示します。 | 1 |
| isContra | なし | 0 または 1 で相対科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| *API v34+* で使用可能 | | | |
| isIntercompany | なし | 0 または 1 で、この科目が内部取引科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| isLinked | なし | 0 または 1 でこの科目がリンク元科目であるかどうかを示します。 | 1 |
| isSystem | なし | 0 または 1 でシステム科目であるかどうかを示します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ステータス | あり | 更新後の科目のステータス警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新 |
| message | なし | 科目入力に関するエラー メッセージ。 | 科目の ModAccount33 は、ペイロードで重複している、または ID 8 でシステムにすでに存在しています。 |

エレメントの内容
この科目の直接の子科目ごとに 1 つのネストされた科目要素科目に関連付けられた 1 つまたは複数の特性がある場合は、1 つの特性要素。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 科目に特性がタグ付けされることを示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 科目特性の名前。 | 学歴タイプ |
| 値 | あり | 科目特性の値。 | Tech1 |
| *API v34* で更新済 | | API v32 および API v33 では、この特性が意味を持つのは、インスタンスの表示名設定がオフになっている場合のみです。 | |
| valueCode | あり | 特性値の一意のコード。 | |
| 表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。 | | API v32 および API v33 では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。 | なし | 新しく自動作成された特性値の名前。<br><br>特性 valueName が意味を持つのは、次の場合のみです。<br>• valueCode は存在しない特性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1value<br>• API v32 および v33 を呼び出します。<br><br>valueCode が既存の特性値を保持している場合、名前は無視されます。 | |
| ステータス | あり | 更新後の特性のステータス。警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: 科目が特性によって正常にタグ付けされました。<br>• 更新: 科目特性タグは正常に更新されました | 更新されました |
| message<br><br>エレメントの内容<br>(なし) | なし | 無効な特性が入力されたことを示すエラー メッセージ。 | |

**updateAssociations**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | エンティティ (組織など) の所有権/関連付けを更新します。複数の値を持つ複数の関連付けを 1 回の呼び出しで更新できます。成功した場合、API は成功メッセージを返します。API が失敗すると、エラーとその原因の包括的なリストが返されます。 |
| 起動に必要な権限 | モデル管理: モデル モデル管理: 組織構造: すべての組織の管理アクセス: ユーザー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |
|---|---|

参照 概念: 関連付け（1518ページ）および 関連付けをインポート（1514ページ）。

以下の条件が updateAssociations に適用されます。

- 各関連付けには、タイプ、任意の操作、および属性値 ID (エンティティ ID) のセットがあります。
- 新しい関連付けを作成するには、所有権を付与するエンティティ ID (組織 ID など) とユーザー識別子 (ID、WID、ユーザー名) のリストを指定します。
- 関連付けでは、同じエンティティ ID が複数回指定された場合、最後のものが使用されます。
- リクエストで指定されたがシステムに存在しないユーザーは無視されます。リクエスト内の残りの有効なユーザーが処理され、関連付けの詳細が更新されます。
- カスタム属性関連付けの場合、コード、名前、dimId は必須フィールドです。
- リクエストには、組織所有権の関連付けをゼロか、1 つのみ含めることができます。他の組織の関連付けには、code、name、dimId の追加フィールドが必要です。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateAssociations" callerName="me">
<credentials login="sampleuser@greenco.com" password="my_pwd"/>
<associations>
  <association type="level" operation = "update">
   <dimValueIds>
     <dimValueId id = "2">
         <users>
             <id> 1, 2, 3 , 87654</id>
         </users>
     </dimValueId>
     <dimValueId id = "24">
         <users>
             <WID>23,12</WID>
             <username>stevec@grEENco.com</username>
         </users>
     </dimValueId>
     <dimValueId id = "6">
         <users>
             <id> 1, 2, 3 </id>
             <username>johno@greenco.com, johnstevec@greenco.com</username>
             <WID> ABC, CSD </WID>
         </users>
     </dimValueId>
     <dimValueId id = "12">
     </dimValueId>
   </dimValueIds>
 </association>
 <association type="customdimension" code= "CD1" name="CustomDim1"
 operation="replaceAll" dimId="8">
   <dimValueIds>
     <dimValueId id = "86">
         <users>
             <id> 14, 45</id>
         </users>
     </dimValueId>
     <dimValueId id = "92">
         <users>
             <id>20, 21</id>
             <WID>ABCD</WID>
             <username>stevec@grEENco.com</username>
         </users>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      </dimValueId>
    </dimValueIds>
  </association>
  <association type="customdimension" code= "CD2" name="CustomDim2"
  operation="update" dimId="4">
    <dimValueIds>
      <dimValueId id = "16">
          <users>
              <id> 20, 21</id>
          </users>
      </dimValueId>
    </dimValueIds>
  </association>
  <association type="level" code= "TL2" name="TestLevels2" operation="update"
  dimId="-1">
    <dimValueIds>
      <dimValueId id = "1">
          <users>
              <id> 15</id>
          </users>
      </dimValueId>
    </dimValueIds>
  </association>
</associations>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連付け要素 | | | |
| タグ名 | | 関連付け | |
| 説明 | | ペイロードごとに許可される関連付けエレメント リクエストは 1 つのみです。1 つまたは複数の関連付け要素が含まれています。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の関連付け要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 関連付け要素 | | | |
| タグ名 | | 関連付け | |
| 説明 | | エンティティのリストに対して作成/更新される関連付けを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| type | y | 関連付けを作成/更新するエンティティのタイプ。次の値のみを取得できます。<br>• level<br>• customdimension | level |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 操作 | なし | この関連付けの操作モード。次の値のみを取ることができます (update orreplaceAll)<br>• Operation="replaceAll" の場合、その関連付けタイプの既存の所有権エントリがすべて削除され、リクエストに記載された所有権の詳細のみが保存されます。<br>• Operation="update" の場合、リクエストに記載されたエンティティ ID (組織 ID など) のみが更新されます。<br>• 操作が説明されていない場合、デフォルトで「更新」動作になります。 | 更新 |
| code | 条件付き | 作成/更新される関連付けのコード。これが必須でない唯一のケースは組織所有権の場合です。その他のすべてのケースでは必須です。 | TL1 |
| 名前 | 条件付き | 作成/更新中の関連付けの名前これが必須でない唯一のケースは組織所有権の場合です。その他のすべてのケースでは必須です。 | TestLevels1 |
| dimId | 条件付き | dimValueIds の所有権の詳細が更新される ID です。カスタム属性の場合は必須です。 | 12 |
| エレメントの内容<br>1 つの dimValueIds 要素を含みます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimValueIds element | | | |
| タグ名 | | dimValueIds | |
| 説明 | | dimValueId のリストを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の dimValueId 要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimValueId element | | | |
| タグ名 | | dimValueId | |
| 説明 | | 指定 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | エンティティの内部システム ID 番号。 | 23 |
| エレメントの内容 | | | |
| 最大で 1 つのユーザー要素が含まれます。ユーザー要素が指定されていない場合、dmiValueId の既存の所有権はすべて削除されます。 | | | |

| ユーザー要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | ユーザー | |
| 説明 | | "id"、"WID"、または "username" の要素でユーザー ID を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| カンマ区切りのユーザー ID のリストが含まれます。システムに存在しないユーザーは無視されるかスキップされます。ユーザー ID がいずれも指定されていない場合、エンティティの既存の所有権 (dimValueId) はすべて削除されます。特定のユーザー タグに同じ識別子タグが複数回指定された場合、呼び出しはエラー条件を返します。<br><br><id> 1, 2, 3 /id>: ID が 1、2、3 のユーザーに所有権を付与することを指定します。<br><br><username>johno@greenco.com/username>: ユーザー名が johno@greenco.com のユーザーに所有権が付与されることを指定します。<br><br><WID> ABC、CSD <WID>: Workday ID が ABC および CSD を持つユーザーに所有権が付与されることを指定します。 | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
 <messages>
     <message type="INFO">Associations were saved successfully.</message>
 </messages>
</response>
```

| 回答要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 説明 | | 指定 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | "true" または "false"。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一のオプション メッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | メッセージ | |
| 説明 | | 1 つ以上のメッセージ要素のコンテナ | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上のメッセージ要素が含まれます。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| メッセージ要素 | | | |
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しないというエラー メッセージや、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| type | なし | メッセージのタイプを指定します。 | 情報エラー警告 |
| エレメントの内容 | | | |

エラー メッセージの説明

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
|---|---|---|
| エラー | エラー: 要素 "Y" が未完了です。必須エレメント "Y" がありません | リクエストに必須エレメントがありません - 関連付けなどの dimValueId |
| エラー | 特性 "type" の値が無効です。 "組織" と等しくなければなりません | 関連付けに正しくないタイプが関連付けられています。 |
| エラー | DimValueId にはユーザー要素を 1 つだけ含めることができます。 | dimValueId にはユーザー要素を 1 つだけ含めることができます。 |
| 警告 | ユーザー ID -5 はシステムに存在していません。システムに WID -98A は存在していません。ユーザー名 ID stevec@comp がシステムに存在していません。 | ユーザー ID 値が正しくありません。これらのユーザーはスキップされ、残りの有効なユーザーが処理されました。 |
| エラー | DimValue ID -123 はシステムに存在していません。 | dim 値 ID が正しくありません。 |

**updateAttributes**

API v20 以上でサポート

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 既存の特性、その特性値、プロパティのセットを更新します。複数の特性値を持つ複数の特性は、1 回の呼び出しで更新できます。成功した場合、この API は更新または作成された特性の詳細を返します。API が失敗すると、エラーとその原因の包括的なリストが返されます。 |
| 起動に必要な権限 | モデル |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーには "モデル" が指定されている必要があります 概念: 権限セット（1407ページ）および更新する属性を管理するために必要な権限

ヒント： ベスト プラクティス: exportAttributes を呼び出して Adaptive Planning updateAttributes リクエストに必要な特性 ID。exportAttributes の呼び出しと updateAttributes の呼び出しとの間の時間を短縮するために、最善を絞ってください。

| HTTP | 説明 |
|---|---|
| `Method` | `Post` |
| `Content-Type` | text/xml |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**curl の例**

```
curl -H "Content-Type: text/xml" -d @C:/temp/updateAttributes.xml -X POST
 https://api.adaptiveplanning.com/api/v20
```

updateAttributes.xml contents

リクエストのフォーマット

```
Update a set of existing attributes and their attribute values, and their
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateAttributes" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
<attributes proceedWithWarnings="0">
  <attribute id="13" name="AP Eligible" type="account" keepSorted="1">
    <attributeValue id="118" name="No" />
    <attributeValue id="117" name="Yes">
      <attributeValue id="136" name="Full" />
      <attributeValue id="135" name="Partial" />
    </attributeValue>
  </attribute>
  <attribute id="11" name="Product Line" type="account">
    <attributeValue id="34" name="A" />
    <attributeValue id="35" name="B" />
  </attribute>
  <attribute id="9">
    <attributeValue id="56" name="Available" />
    <attributeValue id="54" name="Not Applicable" />
  </attribute>
</attributes>
</call>
```

ペイロードが多い場合は、圧縮 XML ファイル (ZIP 形式) を計上できます。その方法については、 こちらをご覧ください。

次の条件が updateAttributes に適用されます。

- 更新対象の特性は、内部 ID 番号によって識別されます。
- 新しい特性を作成するには、空白または空白の ID プロパティを指定してください。
    - 既存の (新規ではない) アイテムを移動して、新しいアイテムの子にすることができます。これにより、新しいアイテムが作成され、既存のアイテムが子としてその下に移動します。

新規特性を作成するためのリクエスト形式

新しい特性を作成するには、次のようにします。 `AP Eligible`、ID を空白のままにして、その名前とタイプを入力します。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateAttributes" callerName="Steve C">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
    <attributes>
      <attribute id="" name="AP Eligible" type="account">
        <attributeValue id="" name="No" />
        <attributeValue id="" name="Yes">
          <attributeValue id="" name="Full" />
          <attributeValue id="" name="Partial" />
        </attributeValue>
      </attribute>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
  </attributes>
</call>
```

リスト属性の新しい特性の作成に関するリクエスト

新しい特性を作成する場合 Education Type リスト属性の場合 Education. 特性値 Technical とその子 Tech1, ID が空白: 新規である.

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateAttributes" callerName="Steve C">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password" />
 <attributes>
      <attribute id="" name="Education Type" type="dimension"
 listDimensionName="Education" keepSorted="1" importAutoCreateValues="1">
          <attributeValue id="" name="Technical" description="">
              <attributeValue id="" name="Tech1" description="" />
          </attributeValue>
          <attributeValue id="" name="Management" description="" />
      </attribute>
 </attributes>
</call>
```

新規特性値を作成するためのリクエスト形式

future 次の値より下 AP Eligible 特性の次の値 id 13および特性値 no - 相手: id 118では、以下を使用できます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateAttributes" callerName="Steve C">
  <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
  <attributes>
    <attribute id="13">
      <attributeValue id="118" >
        <attributeValue id="" name="future" />
      </attributeValue>
      </attribute>
    </attributes>
</call>
To create a new attribute value, include its parent by its ID. For example,
 to add a new
      attribute value
```

この方法では、特性に関する何もの変更も行われません id 13。新しい特性値を作成する future - 特性 id 13 その親を特性値にする no。次のすべての記載されていない特性値 no 値リストの最後に移動する。これは、新しい特性値に対して「親を設定する」ことと同じです。

**1 回の updateAttributes コールでの複数の名前変更の処理**

リモート システム内の同一エンティティに対して複数の名称変更が発生する可能性があります。updateAttributes。リモート システムのエンティティ名は、同じエンティティ ID と交換できます。条件 updateAttributes 名前の交換後に呼び出しが発生する場合、 updateAttributes 呼び出しは、氏名変更全体の ID を追跡することによって、これらの変更を管理します。この呼び出しは、既存の名称を使用する新しい ID の導入を処理することもできます。

それぞれの例が成功するには、固有の値を使って ID が完全に交換される必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

例 1: リモート システムでの単純な名称交換。

```
To create a new attribute value, include its parent by its ID. For example,
 to add a new
ID      Unique Value    New Unique Value
1       AA              BB
2       BB              AA
```

例 2: リモート システムでの 3 つの名前変更のシーケンス。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
1       AA              BB
2       BB              CC
3       CC              AA
```

例 3: 既存の一意値を使用した新しいエンティティ。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
4                       AA
1       AA              BB
2       BB              Old BB
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | ペイロードごとに許可される属性要素のリクエストは 1 つだけです。これには、1 つ以上の特性要素が含まれます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| proceedWithWarnings | なし | 特性値の親を再設定する場合にのみ適用されます。<br><br>警告があり、proceedWithWarnings=0 の場合、attributeValue は更新されません。警告がある場合に attributeValue を更新するには、proceedWithWarnings=1 を設定します。<br><br>type=科目と type=組織にのみ適用されます。<br><br>ProceedWithWarnings=1 (a) 科目/組織特性のタグ付けとの互換性がなくなる場合でも、親の再設定が実行されます。 (b) 互換性のない科目/組織の特性のタグ付けはすべて、親の特性のタグ付けを使用して修正されます。<br><br>ProceedWithWarnings=0 は、特性値の親の再設定によって科目/組織の特性マッピングの互換性がなくなる場合にエラーが発生します。 | 1 |
| retainExistingOrder<br><br>API v27+ で使用可能 | なし | retainExistingOrder="1" は、updateAttributes API が XML ペイロード内の要素の順序を無視し、既存の定義済みの順序を保持することを示します。<br><br>tainExistingOrder="0" は、updateAttributes API が XML ペイロード内の他の兄弟と比較したタグの位置に基づいて要素の順序を更新する必要があることを示します。<br><br>特性で "keepSorted" フラグが有効になっている場合、"retainExistingOrder" フラグは無視されます。<br><br>retainExistingOrder のデフォルト値は "1" です。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| DisplayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=1 は、updateAttributes が の表示名プロパティに従う必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=0 は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、updateAttributes API が v30 前の API 契約に従うべきであることを示します。updateAttributes API は表示名プロパティを無視します `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "0" です。 | 1 |
| エレメントの内容<br>1 つまたは複数の特性要素を含みます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 作成または更新する特性を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 特性の内部システム ID 番号。 | 16 |
| 名前<br><br>*API v30* で更新済 | あり | レポートおよびシートに表示される特性の名前。 | 流動資産 |
| code<br><br>*API v39+* で使用できます。 | なし | 特性のコード | 流動資産 |
| displayNameType<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 特性値の表示を制御します。指定可能な値は、NAME、CODE、NAME_CODE、CODE_NAME です。<br><br>空白の場合または指定されていない場合は、デフォルトの NAME になります。<br><br>このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | "CODE_NAME" |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| importAutoCreateValues | なし | "1" はこの特性の特性値がインポートによって作成できることを意味し、"0" (または指定されていない場合) は作成できないことを意味します。 | 1 |
| type | なし | 特性が組織特性、科目特性、属性特性のいずれであるかを示します。<br><br>システムにまだ存在しない新しい特性を作成する場合は必須です。<br><br>更新操作によってタイプを変更することはできません。 | account |
| listDimensionName | なし | 属性がフラット リスト属性であるかどうかを示します。<br><br>特性タイプ = 属性の場合にのみ適用されます。<br><br>"listDimensionName" は更新操作で変更することはできません。 | 色 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| keepSorted | なし | "1" は、この特性の値が常にアルファベット順にソートされていることを示します。<br><br>"0" (または指定されていない) は、リクエスト ペイロード内の位置に基づいて特性値をソートすることを意味します。<br><br>値が指定されていない場合のみ、作成操作でのみデフォルト値は "0" になります。<br><br>XML に親と、リストされていない階層特性値の兄弟が少なくとも 1 つ含まれている場合、リストされていない値は、更新中にリストされた兄弟の最後に移動します (親の子を並べ替える際、リストされた兄弟はすべて最初になります。 XML で指定された順序リストされていない兄弟はすべて、システムにおけるすでに設定されている順序で最後に配置されます。<br><br>"keepSorted" は各親特性値の子に適用されます。<br><br>注： "並べ替えを維持" が有効になっている場合、表示名のコンポーネントを変更すると、要素のソート順が変わる可能性があります。 | 1 |
| shortName<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 特性の短い名前。最大文字数は 64 文字です。<br><br>インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | 資産 |
| 説明<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 特性の説明。最大文字数は 2048 文字です。<br><br>デフォルト値: 空<br><br>このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | 資産 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の attributeValue | 要素 | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| attributeValue 要素 | | | |
| タグ名 | | attributeValue | |
| 説明 | | 作成または更新する特性値を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | なし | 特性値を識別します。<br><br>空白のままにした場合、リクエストによって新しい特性値が作成されることを示します。 | 24 |
| code<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 特性値の一意のコード。 | はい |
| 名前<br><br>*API v30* で更新済 | あり | シートおよびレポートに表示される特性値の名前。API v30 以上のインスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合、名前の重複値が許可されます。インスタンスで "表示名の有効化" がオフになっている場合、コードを使用できないため、名前は一意である必要があります。<br><br>特性値の名前が無効です: この名前は (+) または (-) で終わります | はい |
| 説明 | なし | 特性値のテキストによる説明。<br><br>デフォルト値: 空<br><br>デフォルト値は、値が指定されなかった場合にのみ作成操作で使用されます。 | |
| エレメントの内容<br>別の attributeValue を含めることができます。 | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
<messages>
  <message type="INFO">Attributes were saved successfully.</message>
</messages>
<output>
    <attributes>
      <attribute id="13" name="AP Eligible" type="account">
        <attributeValue id="118" name="No" />
        <attributeValue id="117" name="Yes">
          <attributeValue id="136" name="Full" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
          <attributeValue id="135" name="Partial" />
        </attributeValue>
      </attribute>
      <attribute id="11" name="Product Line" type="account">
        <attributeValue id="34" name="A" />
        <attributeValue id="35" name="B" />
      </attribute>
      <attribute id="9" name="Corporate Discount" type="level">
        <attributeValue id="56" name="Available" />
        <attributeValue id="54" name="Not Applicable" />
        <attributeValue id="57" name="Not Available" />
        <attributeValue id="55" name="TBD" />
      </attribute>
      <attribute id="10" name="Tax Code" type="level">
        <attributeValue id="146" name="TT-PYT" />
        <attributeValue id="145" name="TT-TRE" />
      </attribute>
      <attribute id="16" name="Industry" type="dimension"
 listDimensionName="Education">
        <attributeValue id="335" name="Apparel">
           <attributeValue id="354" name="Mens Apparel" />
           <attributeValue id="355" name="Shoes" />
           <attributeValue id="356" name="Womens Apparel" />
        </attributeValue>
      </attribute>
    </attributes>
  </output>
</response>
```

| 出力要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の必須特性要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| 特性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 0 個以上の特性要素のコンテナです。タグは、入力リクエストに基づいて順序付けされます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| proceedWithWarnings | なし | API リクエストで指定されたproceedWithWarnings値です。 | 1 |
| retainExistingOrder | なし | updateAttributes=0 は、XML ペイロードの内容に基づいてソート順を更新します。<br>updateAttributes=1 は既存のソート順を保持します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=1 は、updateAttributes が の表示名プロパティに従う必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=0 は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、updateAttributes API が 2021.42 より前の API 契約に従う必要があることを示します。updateAttributes API は表示名プロパティを無視します `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のサポートは、2021.42 に開始されました。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "0" です。 | 1 |

エレメントの内容
1 つ以上の特性要素

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | updateAttributes API コールへの応答で返される単一の特性を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 特性の内部システム ID 番号。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される特性の名前。 | 流動資産 |
| code | あり | 特性のコード。 | 流動資産 |
| *API v39+* で使用できます。 | | | |
| shortName | | 特性の短い名前。最大文字数は 2048 文字です。 | 資産 |
| displayNameType | なし | 特性値の表示を制御します。指定可能な値は、NAME、CODE、NAME_CODE、CODE_NAME です。<br><br>空白の場合または指定されていない場合は、デフォルトの NAME になります。<br><br>このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | CODE_NAME |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| importAutoCreateValues | なし | "1" はこの特性の特性値がインポートによって作成できることを意味し、"0" (または指定されていない場合) は作成できないことを意味します。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| type | あり | 特性のタイプ。これは、特性が科目の場合は "科目"、特性が組織の場合は "組織"、属性の場合は "属性" になります。 | account |
| listDimensionName | なし | 特性のタイプが "属性" の場合は、リスト属性の名前。 | 学歴 |
| 説明 | なし | "特性の管理" で入力された特性のテキスト説明 (存在する場合) | 合計流動資産 |
| keepSorted | あり | "1" は、この特性の値が常にアルファベット順にソートされていることを示します。<br><br>"0" (または指定されていない) は、リクエスト ペイロード内の位置に基づいて特性値をソートすることを意味します。<br><br>XML に親と、リストされていない階層特性値の兄弟が少なくとも 1 つ含まれている場合、リストされていない値は、更新中にリストされた兄弟の最後に移動します (親の子を並べ替える際、リストされた兄弟はすべて最初になります。 XML で指定された順序リストされていない兄弟はすべて、システムにおけるすでに設定されている順序で最後に配置されます。<br><br>"keepSorted" は各親特性値の子に適用されます。 | 1 |
| ステータス | あり | 更新後の特性値のステータス。警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新 |
| message | なし | 特性入力に関するエラー メッセージ。 | 属性 "業種" は、ペイロードで重複しているか、ID 8 でシステムにすでに存在しています |

エレメントの内容
ゼロ以上の任意の attributeValue 要素囲まれたattributeValue 要素はそれぞれ、特性の「ルート特性値」、つまり親値を持たない値を表します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| attributeValue 要素 | | | |
| タグ名 | | attributeValue | |
| 説明 | | updateAttributes API コールの応答で返される特性の単一メンバー値を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 特性のこのメンバー値の内部システム ID 番号。 | 34 |
| code | なし | 特性値の一意のコード。 | 使用可能 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | 特性ページの管理に表示される特性のメンバー値のラベル。 | 使用可能 |
| shortName | なし | 特性値の短い名前。 | 平均 |
| 説明 | なし | 特性値の説明。<br><br>デフォルト値: 空<br><br>デフォルト値は、値が指定されなかった場合にのみ作成操作で使用されます。 | |
| propogateToDescendants | なし | 変更がこの組織の子に伝達されるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。 | 0 |
| ステータス | あり | 更新後の特性のステータス。警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br><br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新されました |
| message | なし | 無効な attributeValue を入力した場合のエラーメッセージ | |
| エレメントの内容<br>ゼロ以上の任意の attributeValue 要素囲まれたattributeValue 要素はそれぞれこの特性値の「子特性値」を表し、そのメンバーは暗黙的にこの値にロールアップされます。 | | | |

**updateDimension**

重要： API v20 + ではサポートされていません。updateDimensionsを使用します。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 属性を更新する。成功した場合、API は更新されたばかりの属性の詳細を返します。 |
| 起動に必要な権限 | モデル |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。属性を作成するには、"モデル" 権限が必要です。

この API には次の条件が適用されます。

- パブリッシュされていない変更がある場合、このメソッドはエラーを返します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 属性特性が定義されている場合、またはすべてのバージョンで値の一部が使用できない場合、"listDimension" をオフにすることはできません。
- 階層 dimensionValues がある場合、listDimension をオフにすることはできません。
- useOnLevels と listDimension の両方を有効にすることはできません。(同じコマンドで 1 つをオフにし、もう 1 つをオンにすることもできます。)

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateDimension" callerName="fred">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
    <dimension id="34"
       name="Updated Dimension Name"
     />
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | 作成する属性を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 更新されている属性のID。 | 34 |
| 名前 | なし | 属性の名前。名前は一意である必要があります。 | NewDimensionName |
| shortName | なし | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | NewDimensionShortName |
| listDimension | なし | "1" はこれがリスト属性であることを意味し、"0" (または指定されない) はリスト属性でないことを意味します。 | 0 |
| useOnLevels | なし | "1" はこの属性が組織で使用できることを意味し、"0" (または指定されていない場合) は使用できないことを示します。 | 0 |
| autoCreate | なし | "1" はこの属性の値がインポート経由で作成できることを意味し、"0" (または指定されていない場合) は作成できないことを意味します。 | 0 |
| keepSorted | なし | "1" はこの属性の値が常にアルファベット順にソートされることを意味し、"0" (または指定されていない場合) はこの属性が手動で並べ替えられることを意味します。 | 0 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
   <output>
       <dimensions>
           <dimension id="41" name="New Dimension Name" shortName=""
 autoCreate="0" listDimension="0" keepSorted="0" useOnLevels="0">
           </dimension>
       </dimensions>
   </output>
</response>
```

| 属性要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 属性 |
| 説明 | 1 つ以上の属性要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の属性要素 | |

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | exportDimensions API コールへの応答で返される単一のカスタム属性を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性の内部システム ID 番号。これは、exportDimensionFamilies などの、他の API コールで属性を識別するために使用できます。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される属性の名前。 | 顧客 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性の短縮名 (存在する場合) | cust。 |
| autoCreate | あり | 1: 選択した属性に "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" フィールドが設定されている場合。それ以外の場合は 0。 | 0 |
| listDimension | あり | 選択した属性がリスト属性の場合は 1。それ以外の場合は 0。 | 1 |
| keepSorted | あり | 選択した属性がソート状態で維持される場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| useOnLevels | あり | 選択した属性を組織で使用できる場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 個以上の dimensionValue 要素。個々の囲まれた dimensionValue 要素は、属性の「ルート属性値」、つまり親の値を持たない値を表します。 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| dimensionValue 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | exportDimensions API コールへの応答で返されるカスタム属性の単一メンバー値を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性のこのメンバー値の内部システム ID 番号。 | 34 |
| 名前 | あり | レポートに表示され、数式で使用される属性のメンバー値のラベル。 | 会社 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性値の短縮名 (存在する場合) | A |
| 説明 | なし | 属性管理で入力された属性値の説明 (存在する場合) | 法人 |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 以上の任意の dimensionValue 要素囲まれた各 dimensionValue 要素はこの属性値の「子属性値」を表し、そのメンバーは暗黙的にこの値にロールアップされます。 | | | |

| 特性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つまたは複数の属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の特性要素 | | | |

| 特性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された属性特性の ID。 | 20 |
| 名前 | あり | 属性特性の名前。 | 学歴タイプ |
| valueID | あり | システムによって生成された属性特性値の一意の ID。 | 170 |
| 値 | あり | 属性特性の値。 | Tech1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**updateDimensions**

API v17 以上でサポート

重要：の単一リクエスト呼び出しの場合 `updateDimensions` リクエストによる更新は、階層属性で最大 10,000、またはフラット属性で最大 40,000 と制限されています。これらの制限は、リクエスト内の新しい属性値の作成には適用されません。

| カテゴリ | メタデータの変更 |
|---|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 説明 | 既存の属性とその属性値のセットを更新します。複数の属性と複数の値は、1 回の呼び出しで更新できます。成功した場合、API は更新されたばかりの属性の詳細を返します。 |
| 起動に必要な権限 | 各属性のモデルおよび権限 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーには "モデル" が指定されている必要があります 概念: 権限セット（1407ページ）および更新する属性を管理するために必要な権限

ヒント： ベスト プラクティス: を呼び出す exportDimensions（2227ページ） updateDimensions リクエストに必要な Planning 属性 ID を取得します。updateDimensions リクエストを送信する前に、他のユーザーが Planning UI や API を使用して Planning 属性に変更を加えていないことを確認します。

| HTTP | 説明 |
|---|---|
| `Method` | `Post` |
| `Content-Type` | text/xml |

**curl の例**

```
curl -H "Content-Type: text/xml" -d @C:/temp/updateDimVal.xml -X POST
 https://api.adaptiveplanning.com/api/v17
```

updateDimVal.xml contents

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateDimensions" callerName="Steve C">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
<dimensions>
   <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
     <dimensionValue id="32" name="Graduate" description="Modified Graduate
 degree" />
   </dimension>
</dimensions>
</call>
```

**XML ファイルへの添付ファイルの挿入の例**

```
curl -i -X POST -H "Content-Type: multipart/form-data" -F "request=<C:/
temp/requestCreateNewDimVal.xml" -F "content=@C:/temp/createNewDimVal.xml"
 https://api.adaptiveplanning.com/api/v17
```

requestCreateNewDimVal.xml content

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateDimensions" callerName="Steve C">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
</call>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

createNewDimVal.xml

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<dimensions>
  <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
    <dimensionValue id="" name="Graduate" description="Graduate degree" />
  </dimension>
</dimensions>
```

ペイロードが多い場合は、圧縮 XML ファイル (ZIP 形式) を計上できます。参照 メタデータの一括更新 ( 2353ページ ) 。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateDimensions" callerName="Steve C">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
<dimensions>
   <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
    <dimensionValue id="32" name="Graduate" description="Graduate degree"
 shortName="" allVersions="0">
        <attribute name="Education Type" value="Tech1" />
        <version name="Budget 2017" available="1" />
    </dimensionValue>
    <dimensionValue id="33" name="Masters" description="Masters degree"
 shortName="" allVersions="0">
        <attribute name="Education Type" value="Management" />
        <version name="Budget 2017" available="1" />
    </dimensionValue>
    <dimensionValue id="34" name="Phd" description="Phd" shortName="" />
  </dimension>
  <dimension id="16" name="Geography" property1="Latitude"
 property2="Longitude">
    <dimensionValue id="521" name="United States" description="USA"
 shortName="">
      <dimensionValue id="555" name="Alabama" description="1" shortName="">

        <dimensionValue id="579" name="205" description="1" shortName="">

          <dimensionValue id="4718" name="35004" description="33"
 shortName="">
            <properties>
              <property name="Latitude" value="33.6015" />

              <property name="Longitude" value="86.4895" />

            </properties>
          </dimensionValue>
          <dimensionValue id="4719" name="35005" description=""
 shortName="" />
        </dimensionValue>
        <properties>
          <property name="Latitude" value="" />
          <property name="Longitude" value="86.9023" />
        </properties>
      </dimensionValue>
    </dimensionValue>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
   </dimension>
</dimensions>
</call>
```

次の条件が updateDimensions に適用されます。

- 属性と属性値はいずれも、内部 ID 番号によって更新対象として識別されます。
- システム属性である通貨は、API で更新することはできません。
- 新しい属性および属性値を作成するには、空白または欠落している ID プロパティを指定します。
    - 既存の属性内で、既存の (新規ではない) 属性値を新規属性値の下でシフトできます。これにより、新しい dimensionValue が作成され、既存の dimensionValue が子としてその下に移動します。
- フラット属性用に作成されたすべての属性値は、デフォルトですべての計画バージョンに表示されます。公開先を指定するには、次のいずれかを使用して明示的に指定する必要があります。
    - 設定 `allVersions` 特性 `dimensionValue` タグ
    - または子を提供することによって `version` 下のタグ `dimensionValue` カスタム表示の提供

    updateDimensions は、計画バージョンのバージョン使用可否のみを更新します。allVersions=1 の場合でも、実績バージョンのバージョン使用可否を更新できません。

新しい属性値を作成するためのリクエスト形式

新しい属性値を作成するには、その親の ID を含めます。たとえば、新しい子の値を下に追加すると、`Engr` 次の値を持つ値 `id 7`では、以下を使用できます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateDimensions" callerName="Steve C">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
 <dimensions>
   <dimension id="7">
     <dimensionValue id="" name="Documentation" description="docs"
 shortName="" >
       <properties>
         <property name="OwnerID" value="58371998"/>

       </properties>
     </dimensionValue>
   </dimension>
 </dimensions>
</call>
```

この方法では、値のことは何も変更されません `id 7`。"子" という名前の新しい子が作成されます。 `Docs` 対象 `id 7`。メンションされていない子はすべて、子リストの最後に移動します。これは新しい値の「親を設定する」ことと同じですが、その親を要素として含めることによって実現できます。

コードと名前を使用した新しい属性値を作成するためのリクエスト形式

新しい属性値を作成するには、その親の ID を含めます。たとえば、ID が 7 の Engr 値の下に新しい子の値を追加するには、以下を使用できます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateDimensions" callerName="Steve C">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<dimensions displayNameEnabled="1">
   <dimension id="7">
      <dimensionValue id="" code ="Doc" name="Documentation"
 description="docs" shortName="">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
         <properties>
            <property name="OwnerID" value="58371998" />
         </properties>
      </dimensionValue>
   </dimension>
</dimensions>
</call>
```

入力形式 **1:** ペイロードにディメンション ツリー全体を含める

updateDimensions API は、変更を考慮することなく、呼び出し元が新しいツリー状態を提供したい場合に最適です。

updateDimensions API は属性構造の変更を把握し、変更された、または新しい属性/属性値のみを更新します。設定 `dimensions` 要素には直接の子が 1 つのみ含まれます `dimension` または `dimensionValue` 要素

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateDimensions" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<dimensions>
   <dimension id="16" name="Geography" property1="Latitude"
 property2="Longitude">
      <dimensionValue id="521" name="United States" description="USA"
 shortName="">
         <dimensionValue id="555" name="Alabama" description="1"
 shortName="">
            <dimensionValue id="579" name="205" description="1"
 shortName="">
               <dimensionValue id="4718" name="35004" description="33"
 shortName="">
                  <properties>
                     <property name="Latitude" value="33.6015" />
                     <property name="Longitude" value="86.4895" />
                  </properties>
               </dimensionValue>
               <dimensionValue id="4719" name="35005" description=""
 shortName="" />
            </dimensionValue>
            <properties>
               <property name="Latitude" value="" />
               <property name="Longitude" value="86.9023" />
            </properties>
         </dimensionValue>
      </dimensionValue>
   </dimension>
</dimensions>
</call>
```

入力形式 **2:** ペイロードにディメンション サブツリー構造を含める

この形式は、変更が属性ツリー構造の 1 つの部分のみに制限されるユース ケースをサポートします。

updateDimensions API は属性構造の変更を把握し、変更された、または新しい属性/属性値のみを更新します。設定 `dimensions` 要素には直接の子が 1 つのみ含まれます `dimensionValue` 要素

たとえば、アラバマ州内の変更があるとします。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateDimensions" callerName="a string that identifies your
 client application">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<dimensions>
   <dimensionValue id="555" name="Alabama" description="1" shortName="">
      <dimensionValue id="579" name="205" description="1" shortName="">
         <dimensionValue id="4718" name="35004" description="33"
 shortName="">
            <properties>
               <property name="Latitude" value="33.6015" />
               <property name="Longitude" value="86.4895" />
            </properties>
         </dimensionValue>
         <dimensionValue id="4719" name="35005" description=""
 shortName="" />
      </dimensionValue>
   </dimensionValue>
</dimensions>
</call>
```

フラット属性の場合、親を指定する必要があります dimension タグの下に dimensions タグの後に 1 つまたは複数の属性値が続きます。 dimensions 要素には直接の子が 1 つのみ含まれます dimension 要素

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateDimensions" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<dimensions>
   <dimension id="16" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
      <dimensionValue id="521" name="Graduate" shortName=""
 description="Graduate degree" />
      <dimensionValue id="522" name="Masters" shortName=""
 description="Masters degree" />
   </dimension>
</dimensions>
</call>
```

入力形式 **3:** 単一属性値の更新

この形式は、変更が 1 つの属性値のみに制限されるユース ケースをサポートします。

設定 dimensions 要素には直接の子が 1 つのみ含まれます dimensionValue 要素

注： 単一の属性値を更新する場合のみ、入力形式 3 を使用します。入力形式 3 は、複数の属性値を更新するための好ましい形式ではありません。この形式で新しい属性/属性値を作成することはできません。新しい属性/属性値を追加するには、入力形式 2 を使用します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateDimensions" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<dimensions>
   <dimensionValue id="555" name="Alabama" description="1" shortName=""/>
</dimensions>
</call>
```

**1** 回の **updateDimensions** コールでの複数の名前変更の処理

リモート システム内の同一エンティティに対して複数の名称変更が発生する可能性があります。 updateDimensions。リモート システムのエンティティ名は、同じエンティティ ID と交換できます。 条件 updateDimensions 名前の交換後に呼び出しが発生する場合、 updateDimensions 呼び出しは、

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

氏名変更全体の ID を追跡することによって、これらの変更を管理します。この呼び出しは、既存の名称を使用する新しい ID の導入を処理することもできます。

それぞれの例が成功するには、固有の値を使って ID が完全に交換される必要があります。

例 1: リモート システムでの単純な名称交換。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
1       AA              BB
2       BB              AA
```

例 2: リモート システムでの 3 つの名前変更のシーケンス。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
1       AA              BB
2       BB              CC
3       CC              AA
```

例 3: 既存の一意値を使用した新しいエンティティ。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
4                       AA
1       AA              BB
2       BB              Old BB
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| 以下 | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | 1 つ以上の属性または属性値が含まれます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| retainExistingOrder<br><br>API v27+ で使用可能 | なし | tainExistingOrder="1" は、updateDimensions API が XML ペイロード内の要素の順序を無視し、既存の定義済み順序を保持することを示します。<br><br>retainExistingOrder="0" は、updateDimensions API が XML ペイロード内の他の兄弟と比較したタグの位置に基づいて要素の順序を更新することを示します。<br><br>属性で "keepSorted" フラグが有効になっている場合、retainExistingOrder フラグは無視されます。<br><br>retainExistingOrder のデフォルト値は "1" です。 | 1 |
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=1 は、updateDimensions が の表示名プロパティを考慮する必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=0 は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、updateDimensions API が v30 前の API 契約に従うべきであることを示します。updateDimensions API は表示名プロパティを無視します。 `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "0" です。 | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の属性または属性値が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | 作成する属性を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | 更新されている属性の ID。 | 34 |
| 名前 | なし | 属性の名前。名前は一意である必要があります。 | NewDimensionName |
| コード<br>*API v39+* で使用できます。 | | 属性のコード。コードは一意である必要があります | NewDimensionCode |
| shortName | なし | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | NewDimensionShortName |
| listDimension | なし | "1" はこれがリスト属性であることを意味し、"0" (または指定されない) はリスト属性でないことを意味します。 | 0 |
| useOnLevels | なし | "1" はこの属性が組織で使用できることを意味し、"0" (または指定されていない場合) は使用できないことを示します。 | 0 |
| autoCreate | なし | "1" はこの属性の値がインポート経由で作成できることを意味し、"0" (または指定されていない場合) は作成できないことを意味します。 | 0 |
| keepSorted | なし | "1" はこの属性の値が常にアルファベット順にソートされることを意味し、"0" (または指定されていない場合) はこの属性が手動で並べ替えられることを意味します。<br>注：表示名のコンポーネントを変更すると、"並べ替えを維持" が有効になっている場合でも、要素のソート順が変わります。 | 0 |
| displayNameType<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 属性値の表示を制御します。指定可能な値は、NAME、CODE、NAME_CODE、CODE_NAME です。<br>空白の場合または指定されていない場合は、デフォルトの NAME になります。<br>このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | "CODE_NAME" |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | なし | 属性の説明。 | "dim について降順" |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | |
| property1, property2, ... | なし | 属性の管理で入力された属性のプロパティ (存在する場合)。各属性には最大 5 つのプロパティを含めることができます。 | "緯度" |
| エレメントの内容<br>任意の dimensionValue 要素。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValue element | | | |
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | 更新する属性値を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性値の ID。 | 34 |
| コード | なし | 属性値の一意のコード。 | NewDimensionValue |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| 名前 | あり | 属性値の名前。API v30 以上のインスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合、名前の重複値が許可されます。インスタンスで "表示名の有効化" がオフになっている場合、コードを使用できないため、名前は一意である必要があります。<br>改行文字 (`
`) 単語の間で見つかった値は、ペイロードの処理中に 1 つのスペースに置き換えられます。<br>名前の先頭または末尾にある改行文字も、単一のスペースに置き換えられます。ペイロード処理中に空白がトリミングされるため、これらのスペースはユーザー インターフェイスに表示されません。 | NewDimensionValue |
| shortName | なし | 属性値の短い名前。 | NewDimensionValueShortName |
| 説明 | なし | 属性値の説明。 | これは NewDimensionValue です |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| allVersions | なし | "1" は属性値がすべての計画バージョンで使用可能であることを示し、"0" は次の計画バージョンではないことを示します。allVersions がない場合のデフォルト値は 1 です。<br><br>注： updateDimensions は、計画バージョンのバージョン使用可否のみを更新します。allVersions=1 の場合でも、実績バージョンのバージョン使用可否を更新できません。<br><br>特定のバージョンの使用可否を示すには、allVersions を 0 に設定し、各バージョンの属性値の使用可否を指定します。<br><br>例: バージョンが 2018a、2018b、2018c、2018d であるとします。バージョン 2018b にのみ属性値を含めるには、次のようにします。<br><br><dimensionValue .... allVersions="0"> <version name="2018a" enabled="0"> <version name="2018c" enabled="0"> <version name="2018d" enabled="0" ><br><br>上の例で、allVersions="1" の場合、その下の子バージョン要素は無視されます。 | 0 |
| エレメントの内容<br>オプションのプロパティ要素を含めることができます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの属性特性要素のコンテナです。既存の特性名と値が必要です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 属性特性の名前。 | 勤務地 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 値<br><br>*API v34* で更新済 | あり | 属性特性の値。<br><br>"属性のインポートにより自動的に特性値を作成する" が属性特性管理者 UI で有効になっている場合、まだ存在しない特性値はルート属性の新しい特性値になります。<br><br>API v32 および v33 では、この属性が意味を持つのは、インスタンスの表示名設定がオフになっている場合のみです。<br><br>API v34 以降の場合:<br>• 有効な表示名の設定がオンの場合にサポートされます。<br>• valueCode と valueName が存在するとエラーになります。<br>• 特性管理者 UI で "属性のインポートにより特性値を自動的に作成" が有効になっている場合、値が存在しない場合、値の文字列がコードと名前になります。<br><br>この特性のタグ付けを削除するには、value="" に設定します。 | SFO |
| valueCode<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | あり | この特性の特性値コード。<br><br>valueCode 入力が意味を持つのは、displayNameEnabled=1で、表示名の設定が API v32 および API v33 のインスタンスに対してオンになっている場合に限られます。<br><br>この特性のタグ付けを削除するには、valueCode="" を設定します。 | SFO |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | なし | 新しく自動作成された特性値の名前。<br><br>特性が意味を持つのは、次の場合に限られます。<br>• valueCode は存在しない特性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1<br>• API v32 および API v33 を呼び出す。<br><br>valueCode が既存の特性値を保持している場合、valueName は無視されます。 | サンフランシスコ |

エレメントの内容
(なし)

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | ディメンション値の計画バージョンの使用可否を指定します。既存の計画バージョンが必要です。仮想、非表示、実績、ロック済、またはアーカイブ済みのバージョンのバージョン使用可否を変更することはできません。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | "バージョンの管理" に表示されるバージョンの名前です。 | 2015 年予算 |
| 使用可能 | あり | 1 の場合、この属性値はこのバージョンで使用可能です。 | 1 |

エレメントの内容
各属性値に対して 1 つ以上のバージョン要素

| | |
|---|---|
| プロパティ要素 | |
| API v22 でサポート | |
| タグ名 | プロパティ |
| 説明 | プロパティ要素を含む任意の要素。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 最大 5 つのプロパティ要素が含まれます。 | |

| | |
|---|---|
| プロパティ要素 | |
| API v22 でサポート | |
| タグ名 | プロパティ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | 更新するカスタム プロパティを指定します。プロパティ要素値には、数字のみを含めることができます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | プロパティの名前。 | 緯度 |
| 値 | あり | プロパティの値。値が空の場合、属性値のプロパティ値は消去されます。 | 33.6015 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<messages>
 <message type="INFO">Dimension was saved successfully.</message>
</messages>
<output>
 <dimensions>
   <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0" status="">
     <dimensionValue id="44" name="Documentation" description="docs"
 shortName="" status="created">
     </dimensionValue>
   </dimension>
   <dimension id="16" name="Geography" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="0" keepSorted="0" useOnLevels="0" property1="Latitude"
 property2="Longitude" status="">
     <dimensionValue id="521" name="United States" shortName=""
 description="USA" status="">
       <dimensionValue id="555" name="Alabama" shortName="" description="1"
 status="">
         <dimensionValue id="579" name="205" shortName="" description="1"
 status="">
           <dimensionValue id="4718" name="35004" shortName=""
 description="33" status="">
             <properties>
               <property name="Latitude" value="33.6015" status="created" />

               <property name="Longitude" value="86.4895" status="" />

             </properties>
           </dimensionValue>
           <dimensionValue id="4719" name="35005" shortName=""
 description="" status="" />
         </dimensionValue>
         <properties>
           <property name="Latitude" value="" status="deleted" />

           <property name="Longitude" value="86.9023" status="updated" />

         </properties>
       </dimensionValue>
     </dimensionValue>
   </dimension>
 </dimensions>
</output>
</response>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | | 属性 |
| 説明 | | | 1 つ以上の属性または属性値が含まれます。 |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の属性または属性値が含まれます。 | | | |
| retainExistingOrder | なし | 0 の場合、updateDimensions API は XML ペイロードの内容に基づいてソート順を更新します。<br><br>1 つの場合、updateDimensions API は既存のソート順を保持する必要があります。 | 1 |
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | displayNameEnabled=1 は、updateDimensions が の表示名プロパティを考慮する必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=0 は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、updateDimensions API が 2021.42 前の API 契約に従って続行する必要があることを示します。updateDimensions API は表示名プロパティを無視します。 `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のサポートは、2021.42 で開始されます。displayNameEnabled のデフォルト値は "0" です。 | 1 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素 | | | |
| タグ名 | | | 属性 |
| 説明 | | | exportDimensions API コールへの応答で返される単一のカスタム属性を示します。 |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | 作成の場合、新しい ID が入力されます。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される属性の名前。 | 顧客 |
| コード<br>*API v39+* で使用できます。 | なし | 属性のコード。 | 顧客 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性の短縮名 (存在する場合) | cust. |
| autoCreate | あり | 1: 選択した属性に "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" フィールドが設定されている場合。それ以外の場合は 0。 | 0 |
| listDimension | あり | 選択した属性がリスト属性の場合は 1。それ以外の場合は 0。 | 1 |
| keepSorted | あり | 選択した属性がソート状態で維持される場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| useOnLevels | あり | 選択した属性を組織で使用できる場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| displayNameType<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 属性値の表示を制御します。指定可能な値は、NAME、CODE、NAME_CODE、CODE_NAME です。<br>空白の場合または指定されていない場合は、デフォルトの NAME になります。<br>このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | CODE_NAME |
| 説明<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | 属性の説明。 | |
| property1,propert2,... | なし | 属性のカスタム プロパティ。 | |

エレメントの内容
0 個以上の dimensionValue 要素。個々の囲まれた dimensionValue 要素は、属性の「ルート属性値」、つまり親の値を持たない値を表します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValue element | | | |
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | exportDimensions API コールへの応答で返されるカスタム属性の単一メンバー値を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID | あり | 作成の場合、新しい ID が入力されます。 | 16 |
| コード | なし | 属性値の一意のコード。 | 会社 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | | |
| 名前 | あり | レポートに表示され、数式で使用される属性のメンバー値のラベル。 | 会社 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性値の短縮名 (存在する場合) | A |
| 説明 | なし | 属性管理で入力された属性値の説明 (存在する場合) | 法人 |
| status | あり | 更新後の属性値のステータス。警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新されました |
| メッセージ | なし | 無効な dimensionValue が入力されたことを示すエラー メッセージ。 | 属性名 ProductFirst01234567890123456... は 64 文字を超えることはできません |
| エレメントの内容<br>0 以上の任意の dimensionValue 要素囲まれた各 dimensionValue 要素はこの属性値の「子属性値」を表し、そのメンバーは暗黙的にこの値にロールアップされます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 属性特性の名前。 | 勤務地 |
| 値 | あり | 属性特性の値。 | サンフランシスコ |
| *API v32* で更新済 | | API v32 以降では、この属性が意味を持つのは、インスタンスの表示名設定がオフになっている場合のみです。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| valueCode<br><br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | あり | この特性の特性値コード。<br><br>API v32 以降では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | SFO |
| valueName<br><br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | なし | 新しく自動作成された特性値の名前。<br><br>特性が意味を持つのは、次の場合に限られます。<br>• valueCode は存在しない特性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1value<br><br>valueCode が既存の特性値を保持している場合、名前は無視されます。 | サンフランシスコ |
| status | あり | 更新後の属性値のステータス。警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新されました |
| メッセージ<br><br>エレメントの内容<br>(なし) | なし | 無効な特性が入力されたことを示すエラー メッセージ。 | |

| | |
|---|---|
| バージョン要素<br>タグ名 | バージョン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | ディメンション値の計画バージョンの使用可否を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | "バージョンの管理" に表示されるバージョンの名前です。 | 2015 年予算 |
| 使用可能 | あり | 1 の場合、この属性値はこの計画バージョンで使用可能です。 | 1 |
| status | あり | 更新後の属性値のステータス。警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新されました |
| メッセージ | なし | 無効なバージョンを入力した場合のエラー メッセージ。 | |
| エレメントの内容 | | | |
| 各属性値に対して 1 つ以上のバージョン要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| プロパティ要素 | | | |
| タグ名 | | プロパティ | |
| 説明 | | 最大 5 つのプロパティ要素が含まれます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 最大 5 つのプロパティ要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| プロパティ要素 | | | |
| タグ名 | | プロパティ | |
| 説明 | | 更新するカスタム プロパティを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 値 | | 例 |
| 名前 | プロパティの名前。 | | 緯度 |
| 値 | プロパティの値。値が空の場合、属性値のプロパティ値は消去されます。 | | 33.6015 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| ステータス | 更新後の資産のステータス。エラーの場合は、メッセージ要素にエラー メッセージの内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました<br>• 変更なし: ステータスが空の場合、エンティティについては何も変更されていません。 | |
| メッセージ | 無効なプロパティ入力に関するエラー メッセージ。 | プロパティ タグには名前特性が必要です。 |

**updateDimensionValue**

重要： API v20 以上でサポートされていません

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 属性値を更新した。成功した場合、API は属性と、今更新されたものを含むすべての属性値の詳細を返します。 |
| 起動に必要な権限 | モデル |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。属性を作成するには、"モデル" 権限が必要です。

パブリッシュされていない変更がある場合、このメソッドはエラーを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateDimensionValue" callerName="fred">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
    <dimensionValue
       id="10"
       name="New Dimension Value">
       <attributes>
         <attribute attributeId="20" valueId="170" />
       </attributes>
   </dimensionValue>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行することを示します)。そのため、このユーザーは API を利用してアクションを実行するために必要な権限を持っている必要があります。を呼び出してください。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| dimensionValue 要素 | | | |
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | 更新する属性値を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| dimensionId | なし | 値が属する属性の ID。 | 3 |
| ID | あり | 属性値の ID。 | 34 |
| 名前 | あり | 属性値の名前。 | NewDimensionValue |
| shortName | なし | 属性値の短い名前。 | NewDimensionValue-ShortName |
| parentId | なし | 親属性値の ID。 | 220 |
| 説明 | なし | 属性値の説明。 | これは NewDimensionValue です |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| エレメントの内容 |
| --- |
| (なし) |

| 特性要素 | | | |
| --- | --- | --- | --- |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つまたは複数の属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の特性要素 | | | |

| 特性要素 | | | |
| --- | --- | --- | --- |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された属性特性の ID。 | 20 |
| valueID | あり | システムによって生成された属性特性値の一意の ID。この値が 0 の場合、この特性は科目から削除されます。 | 170 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

これらは、属性値の更新が成功した場合および失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
 <output>
   <dimensions>
       <dimension id="6" name="Department" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="0" keepSorted="0" useOnLevels="1">
              <dimensionValue id="7" name="Engr" description="Engineering"
 shortName="">
              <dimensionValue id="52" name="QA" description="Quality
 Assurance" shortName="" />
              <dimensionValue id="53" name="Dev" description="Development"
 shortName="" /></dimensionValue>
      </dimension>
      <dimension id="7" name="Education" shortName="" autoCreate="0"
 listDimension="1" keepSorted="0" useOnLevels="0">
              <dimensionValue id="32" name="Graduate" description="Graduate
 degree" shortName="">
                  <attributes>
                      <attribute attributeId="21" name="Education Type"
 valueId="197" value="Tech1" />
                  </attributes>
              </dimensionValue>
              <dimensionValue id="33" name="Masters" description="Masters
 degree" shortName="">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    <attributes>
                        <attribute attributeId="21" name="Education Type"
 valueId="196" value="Management" />
                    </attributes>
                </dimensionValue>
                <dimensionValue id="34" name="Phd" description="Phd"
 shortName="" />
      </dimension>
   </dimensions>
 </output>
</response>
```

エラーの例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
    <messages>
        <message type="ERROR" key="invalid-attributevalueid" values="-50"
 dimensionValueId="10">Invalid attribute value id: "-50"</message>
    </messages>
</response>
```

属性は名前別に並べられます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| 廃止 | なし | レスポンス タグに存在し、true に設定されている場合、この特性は、呼び出しているメソッドまたは API のバージョンが廃止されており、正式に廃止されたことを示します。現時点では機能し続けていますが、まもなく機能が停止する可能性があります。通常、この属性は存在しません。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一の任意のメッセージ要素と、厳密に 1 つの必須の出力要素。 | | | |

| | |
|---|---|
| 出力要素 | |
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 単一の科目要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 属性要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 属性 |
| 説明 | 1 つ以上の属性要素のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上の属性要素 | |

| 属性要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 属性 | |
| 説明 | | exportDimensions API コールへの応答で返される単一のカスタム属性を示します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性の内部システム ID 番号。これは、exportDimensionFamilys など、他の API コールで属性を識別するために使用できます。 | 16 |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される属性の名前。 | 顧客 |
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性の短縮名 (存在する場合) | cust。 |
| autoCreate | あり | 1: 選択した属性に "データのインポートにより自動的に属性値を作成する" フィールドが設定されている場合。それ以外の場合は 0。 | 0 |
| listDimension | あり | 選択した属性がリスト属性の場合は 1。それ以外の場合は 0。 | 1 |
| keepSorted | あり | 選択した属性がソートされている場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| useOnLevels | あり | 選択した属性を組織で使用できる場合は 1、それ以外の場合は 0。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 個以上の dimensionValue 要素。個々の囲まれた dimensionValue 要素は、属性の「ルート属性値」、つまり親の値を持たない値を表します。 | | | |

| dimensionValue 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | dimensionValue | |
| 説明 | | exportDimensions API コールへの応答で返されるカスタム属性の単一メンバー値を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 属性のこのメンバー値の内部システム ID 番号。 | 34 |
| 名前 | あり | レポートに表示され、数式で使用される属性のメンバー値のラベル。 | 会社 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| shortName | なし | 属性の管理で入力された属性値の短縮名 (存在する場合) | A |
| 説明 | なし | 属性管理で入力された属性値の説明 (存在する場合) | 法人 |
| エレメントの内容 | | | |
| 0 以上の任意の dimensionValue 要素囲まれた各 dimensionValue 要素はこの属性値の「子属性値」を表し、そのメンバーは暗黙的にこの値にロールアップされます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つまたは複数の属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの属性特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された属性特性の ID。 | 20 |
| 名前 | あり | 属性特性の名前。 | 学歴タイプ |
| valueID | あり | システムによって生成された属性特性値の一意の ID。 | 170 |
| 値 | あり | 属性特性の値。 | Tech1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**updateLevel**

重要： API v20 + ではサポートされていません。updateLevelsを使用します。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 組織を更新する。成功した場合、API は更新されたばかりの組織の詳細を返します。 |
| 起動に必要な権限 | 組織構造 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーが組織を作成するには、組織構造の権限が必要です。

パブリッシュされていない変更がある場合、このメソッドはエラーを返します。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateLevel" callerName="fred">
    <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
    <level
        id="41"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        name="New Level Name"
        shortName="NewLvlName"
    >
        <attributes>
            <attribute attributeId="20" valueId="199" />
        </attributes>
    </level>
</call>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | 更新する組織を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 更新する組織の ID。 | 34 |
| 名前 | あり | 組織の名前。名前は一意である必要があります。 | 新しい組織名 |
| shortName | なし | 組織の短い名称。 | NewLvName |
| proceedWithWarnings | なし | ユーザーが警告メッセージを無視して作成操作を続行するかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。警告が表示されていて、proceedWithWarnings=0 の場合、組織は作成されません。警告がある場合に組織を作成するには、proceedWithWarnings=1 を設定します。 | 1 |
| エレメントの内容<br>組織に関連付けられた 1 つ以上の組織特性を設定する場合の 1 つのオプション特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つまたは複数の組織特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの組織特性要素のコンテナです。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| attributeID | あり | システムによって生成された組織の特性の ID。 | 20 |
| valueID | あり | システムによって生成された組織の特性値の一意の ID。<br><br>この特性のタグ付けを削除するには、valueID="" に設定します。 | 170 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
   <output>
       <levels>
           <level="41" name="New Level Name" shortName="NewLvlName"
 currency="USD">
               <attribute attributeId="20" name="Regional Code"
 valueId="199" value="A-145" />
           </level>
       </levels>
   </output>
</response>
```

| 出力要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 出力 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 必須の単一の組織要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| 組織要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | 1 つ以上の組織要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の組織要素アクセスできない組織がリクエストに含まれている場合、組織要素は 1 つしかなくなりません。これは組織の最上位組織を表します。 | | | |

| 組織要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | exportLevels API 呼び出しに対する応答で返される単一の組織を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 組織の内部システム ID 番号。 | 7 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される組織の名前です。 | 開発 |
| 通貨 | あり | 組織のこの組織に割り当てられる通貨の通貨コード。通貨は、exportActiveCurrenciesコールで検出された、インスタンスに設定された通貨の 1 つになります。 | INR |
| shortName | なし | "組織の管理" で入力された組織の略語 (存在する場合)。 | 偏差 |
| availableStart | なし | 実績バージョンの組織の使用可否の開始日。リクエストで実績バージョンが指定されている場合にのみ適用されます。値は、"01/2012" のような期間コードか、バージョンの開始を示す特殊値 "Start" のいずれかです。 | 01/2012 |
| availableEnd | なし | 実績バージョンの組織の使用可否の終了日。リクエストで実績バージョンが指定されている場合にのみ適用されます。値は、"12/2013" などの期間コードか、バージョンの終了を示す特殊値 "END" のいずれかです。 | 12/2013 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| isImportable | なし | 関連する組織が指定したバージョンでインポート可能であるかどうかを示します。"0" はインポート不可を意味し、"1" はインポート可能を意味します。指定されたバージョンで少なくとも 1 つのタイム スロットがインポート可能である場合、組織をインポートできます。 isImportable 特性は、リクエストで versionName または versionID が指定されている場合にのみ送信されます。<br><br>注： "isImportable" は、組織が指定されたバージョンでインポート可能であることのみを示します。API を呼び出しているユーザーに、バージョンまたは組織にインポートする権限があることは示しません。exportVersions を使用して、ユーザーがインポートに使用できるバージョンを確認します。 | 1 |
| workflowStatus | なし | 関連する組織のワークフローのステータスを送信します。"処理中" の I、"送信済" の S、"却下" の R、"承認済" の A、"ロック済" の L。この会社に対してワークフローが有効で、計画のバージョン名またはバージョン ID がリクエストで指定されている場合のみ、応答に含まれます。実績バージョンではワークフローを使用できません。 | I |
| isLinked | あり | 組織がリンク組織であるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。 | 1 |
| 相殺消去 | あり | 組織が相殺消去組織であるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。 | 0 |

エレメントの内容
この組織の直接の子組織ごとに 1 つのネストされた組織要素

この組織が関連付けられている場合、1 つの特性要素

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つ以上の特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の特性要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 組織が関連付けられている、空白ではない単一の組織の特性マッピングを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 組織の特性の名前 | 法人割引 |
| 値 | あり | 組織に関連付けられた組織の特性の値。 | はい |
| attributeID | あり | 組織特性の内部システム ID 番号。 | 20 |
| valueID | あり | 組織の特性値の内部システム ID 番号。 | 188 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**updateLevels**

API v19 以上でサポート

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 既存の組織のセットを更新するか、新しい組織とそのプロパティを作成します。複数の値を持つ複数の組織は、1 回の呼び出しで更新できます。成功した場合、この API は更新または作成された組織の詳細を返します。API が失敗すると、エラーとその原因の包括的なリストが返されます。 |
| 起動に必要な権限 | 各組織のモデルと権限 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーには "モデル" が指定されている必要があります 概念: 権限セット（1407ページ）および更新する組織を管理するために必要な権限

ヒント： ベスト プラクティス: を呼び出す exportLevels（2245ページ）をクリックして、updateLevels リクエストに必要な Adaptive Planning の組織 ID を取得します。updateLevels リクエストを送信する前に、他のユーザーが Adaptive Planning UI や API を使って Planning 組織に変更を加えないでください。

| HTTP | 説明 |
|---|---|
| `Method` | `Post` |
| `Content-Type` | text/xml |

**curl の例**

```
curl -H "Content-Type: text/xml" -d @C:/temp/updateLevels.xml -X POST
 https://api.adaptiveplanning.com/api/v19
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

updateLevels.xml contents

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateLevels" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"/>
<levels>
<level id="1" name="HQ">
 <level id="2" name="Engineering" currency="USD" shortName="Engr">
   <level id="8" name="Development" currency="USD" shortName="Dev"
 inWorkflow="0"/>
   <level id="9" name="QA" currency="INR" eliminationTradingPartner="1"/>
   <level id="10" name="Documentation" currency="PKR" shortName="Doc"
 actualsStart="05/2013" actualsEnd="12/2018" inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="1">
      <version name="Budget 2011" available="1"/>
      <version name="Budget 2012" available="0"/>
      <version name="Budget 2013" available="1"/>
   </level>
 </level>
 <level id="3" name="Professional Services" currency="USD"
 shortName="Prof.Srv" eliminationLevel="1">
     <attribute name="Corporate Discount" value="Available"/>
     <attribute name="Transfers Restricted" value="Yes"/>
     <dimension name="Region" value="C-US"/>
 </level>
</level>
</levels>
</call>
```

ペイロードが多い場合は、圧縮 XML ファイル (ZIP 形式) を計上できます。参照 メタデータの一括更新 ( 2353ページ ) 。

次の条件が updateLevels に適用されます。

- 更新対象の組織は内部 ID 番号によって識別されます。
- 新しい組織を作成するには、空白であるか ID プロパティがない組織を指定します。
    - 既存の (新規ではない) アイテムを移動して、新しいアイテムの子にすることができます。これにより、新しいアイテムが作成され、既存のアイテムが子としてその下に移動します。
- シートの使用可否とユーザー アクセスは を介して更新できません updateLevels。

新しい組織を作成するためのリクエスト形式

新しい組織を作成するには、その組織の親をその ID で含めます。たとえば、新しい子組織を追加すると、 Engr 次の値を持つ値 id 7では、以下を使用できます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateLevels" callerName="Steve C">
 <credentials login="stevec@greenco.com" password="password"/>
 <levels>
   <level id="7">
     <level id="" name="Documentation" description="docs" shortName="" >
     </level>
   </level>
 </levels>
</call>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

この方法で組織に関する情報は一切変更されません id 7。"子" という名前の新しい子が作成されます。Documnentation 対象 id 7。指定されていないすべての子 Engr 子リストの最後に移動する。これは、新しい組織において「親を設定する」ことと同じです。

入力フォーマット **1:** ペイロードにツリー全体が含まれる

updateLevels API は、呼び出し元が変更を考慮することなく新しいツリー状態を提供したい場合に最適です。

updateLevels API は組織構造の変更を把握し、新しく追加された組織または変更された組織のみを更新します。以下の点に注意してください。 levels 要素には直接の子が 1 つのみ含まれます level 要素その子要素に、階層の残りの部分が含まれます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateLevels" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<levels>
   <level id="1" name="HQ">
      <level id="2" name="Engineering" currency="USD" shortName="Engr">
         <level id="8" name="Development" currency="USD" shortName="Dev"
 inWorkflow="0" />
         <level id="9" name="QA" currency="INR"
 eliminationTradingPartner="1" />
         <level id="10" name="Documentation" currency="PKR"
 shortName="Doc" actualsStart="05/2013" actualsEnd="12/2018" inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="1" />
      </level>
      <level id="3" name="Professional Services" currency="USD"
 shortName="Prof.Srv" eliminationLevel="1" />
   </level>
</levels>
</call>
```

入力フォーマット **2:** ペイロードに組織サブツリー構造を含める

この形式は、変更が組織のツリー構造の 1 つの部分のみに制限されるユース ケースをサポートします。

たとえば、"エンジニアリング" 組織内での変更です。繰り返しますが、 levels 要素には直接の子が 1 つのみ含まれます level 要素その組織には、サブツリー構造の残りの組織が含まれます。この形式の最小サブツリーには、親と子のみが含まれます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateLevels" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<levels>
   <level id="2" name="Engineering" currency="USD" shortName="Engr">
      <level id="8" name="Development" currency="USD" shortName="Dev"
 inWorkflow="0" />
      <level id="9" name="QA" currency="INR" eliminationTradingPartner="1" /
>
      <level id="10" name="Documentation" currency="PKR" shortName="Doc"
 actualsStart="05/2013" actualsEnd="12/2018" inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="1" />
   </level>
</levels>
</call>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

入力形式 **3:** 単一組織の更新

この形式は、変更が 1 つの組織のみに制限されるユース ケースの処理をサポートします。設定 `levels` 要素には直接の子が 1 つのみ含まれます `level` 要素

注 : 単一の組織を更新する場合は、入力形式 3 のみを使用します。入力形式 3 は、複数の組織の更新に適した形式ではありません。この形式で新しい組織を作成することはできません。新しい子組織を追加するには、入力フォーマット 2 を使用します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateLevels" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
<levels>
   <level id="10" name="Documentation" currency="PKR" shortName="Doc"
 actualsStart="05/2013" actualsEnd="12/2018" inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="1" />
</levels>
</call>
```

入力形式 **4:** 組織タグの下にすべての組織タグを含むフラット形式

このフォーマットに含まれる値 `level` タグ `levels` 階層のないフラット形式のタグ組織の階層を変更することなく、リストされた各組織のプロパティのみを更新します。

注 : 差額、または階層のごく一部に対する差分変更には、フラット形式のみを使用してください。入力形式 1 は、組織の階層全体をロードする場合のパフォーマンスが最適です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="updateLevels" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="steve@steveco.com" password="" />
<levels>
   <level id="2" name="Engineering" currency="USD" shortName="Engr" />
   <level id="8" name="Development" currency="USD" shortName="Dev"
 inWorkflow="0" />
   <level id="9" name="QA" currency="INR" eliminationTradingPartner="1" />
   <level id="10" name="Documentation" currency="PKR" shortName="Doc"
 actualsStart="05/2013" actualsEnd="12/2018" inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="1">
      <version name="Budget 2011" available="1" />
      <version name="Budget 2012" available="0" />
      <version name="Budget 2013" available="1" />
   </level>
</levels>
</call>
```

**1** 回の **updateLevels** コールでの複数の名前変更の処理

リモート システム内の同一エンティティに対して複数の名称変更が発生する可能性があります。`updateLevels`。リモート システムのエンティティ名は、同じエンティティ ID と交換できます。条件 `updateLevels` 名前の交換後に呼び出しが発生する場合、 `updateLevels` 呼び出しは、氏名変更全体の ID を追跡することによって、これらの変更を管理します。この呼び出しは、既存の名称を使用する新しい ID の導入を処理することもできます。

それぞれの例が成功するには、固有の値を使って ID が完全に交換される必要があります。

例 1: リモート システムでの単純な名称交換。

```
ID     Unique Value   New Unique Value
1      AA             BB
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
2       BB              AA
```

例 2: リモート システムでの 3 つの名前変更のシーケンス。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
1       AA              BB
2       BB              CC
3       CC              AA
```

例 3: 既存の一意値を使用した新しいエンティティ。

```
ID      Unique Value    New Unique Value
4                       AA
1       AA              BB
2       BB              Old BB
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| 以下 | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | ペイロードごとに許可される組織要素のリクエストは 1 つだけです。1 つ以上の組織要素が含まれている。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| retainExisitingOrder<br><br>API v26+ で使用可能 | なし | retainExistingOrder="1" は、updateLevels API が XML ペイロード内の要素の順序を無視し、既存の定義済みの順序を保持することを示します。<br><br>tainExistingOrder="0" は、updateLevels API が XML ペイロード内の他の兄弟と比較したタグの位置に基づいて要素の順序を更新する必要があることを示します。<br><br>API v26 より前の API バージョンでは、retainExistingOrder 特性が無視されます。<br><br>v26 では、retainExistingOrder のデフォルト値が "0" です。API バージョン v27 以降の場合、retainExistingOrder のデフォルト値は "1" です。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=1 は、updateLevel がの表示名プロパティに従う必要があることを示します `code`, `displayNameType`、および `description` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=0 は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、updateLevels API が v30 前の API 契約に従うべきであることを示します。updateLevels API は表示名プロパティを無視します `code`, `displayNameType` および `description`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "0" です。 | 1 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の組織要素が含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | 作成する組織を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 更新されている組織の ID。 | 34 |
| コード | なし | 組織の一意のコード。 | NewLevelName |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | |
| 名前 | なし | 組織の名前。API v30 以上のインスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合、名前の重複値が許可されます。インスタンスで "表示名の有効化" がオフになっている場合、コードを使用できないため、名前は一意である必要があります。 | NewLevelName |
| shortName<br><br>*API v30* で更新済 | なし | シートに表示される列の表示可能なタイトル。 | NewLevelShortName |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 通貨 | なし | 組織のこの組織に割り当てられる通貨の通貨コード。通貨は、exportActiveCurrencies コールで検出された、インスタンスに設定された通貨の 1 つになります。 | USD |
| publishCurrency<br>API v24+ で使用可能 | なし | "PublishCurrency" は、財務計画をパブリッシュする際の Workday 会社の通貨を設定します。パブリッシュ通貨は、組織の追加の通貨属性として Workday Adaptive Planning インテグレーションの Planning 組織ローダを介してロードされます。PublishCurrency は、exportActiveCurrencies コールと組織管理 UI にある、インスタンスに設定された通貨の 1 つを示します。<br><br>Workday で Adaptive Planning を設定した場合のみ使用できます。ステップ: HCM と財務管理に向けた Adaptive Planning の設定の "計画のパブリッシュ" セクションを参照してください。 | CAD |
| inWorkflow | なし | この組織がワークフローで使用されるかどうかを示します。 | 1 |
| propagateToDescendants | なし | 変更がこの組織の子に伝達されるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。<br><br>注 : 組織のプロパティのすべてが PropagateToDescendants でカバーされるわけではありません。<br><br>影響を受けるプロパティのリスト: `propagateToDescendants`、UpdateLevels リクエスト中の propagateToDescendants の動作 ( 2483ページ ) 。 | 0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| eliminationLevel | なし | この組織が、内部取引消去で使用する相殺消去組織であるかどうかを示します。組織は、相殺消去組織または相殺消去の取引先のいずれかになることができますが、両方になることはできません。 | 1 |
| eliminationTradingPartner | なし | この組織が相殺消去取引パートナーであるかどうかを示します。組織は、相殺消去取引パートナーまたは相殺消去組織のいずれかになることができますが、両方になることはできません。 | 0 |
| actualsStart | なし | この組織の実績の開始を示します。デフォルトの時間層における時間管理からの既存の時間コードである必要があります。 | 2013 年 5 月 |
| actualsEnd | なし | この組織の実績の終了を示します。デフォルトの時間層における時間管理からの既存の時間コードである必要があります。 | 2018 年 12 月 |
| 説明 | なし | 組織の説明。 | 最上位の部門 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | |
| エレメントの内容<br>1 つまたは複数の特性要素 (組織に関連付けられた 1 つまたは複数の組織特性を設定する場合)。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | 組織のバージョンの使用可否を指定します。既存のバージョンが必要です。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | | 例 |
| 名前 | あり | "バージョンの管理" に表示されるバージョンの名前です。 | 2015 年予算 |
| 使用可能 | あり | 1 つの場合、このバージョンはこの組織で使用可能です。 | 1 |
| エレメントの内容<br>各組織について 1 つ以上のバージョン要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 更新する特性を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | 特性の名前。 | 勤務地 |
| *API v30* で更新済<br>値 | あり | この特性の特性値。 | 170 |
| *API v34* で更新済 | | API v32 および v33 では、この属性が意味を持つのは、インスタンスの表示名設定がオフになっている場合のみです。<br>API v34 以降の場合:<br>• 有効な表示名の設定がオンの場合にサポートされます。<br>• valueCode と valueName が存在すると エラーになります。<br>• "組織のインポートにより自動的に特性値を作成" が特性管理 UI で有効になっている場合、値が存在しない場合は、値の文字列がコードと名前になります。<br>この特性のタグ付けを削除するには、value="" に設定します。 | |
| valueCode<br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br>*API v34* ではサポートされていません。 | あり | この特性の特性値コード。<br>valueCode 入力が意味を持つのは、displayNameEnabled=1で、表示名の設定が API v32 および API v33 のインスタンスに対してオンになっている場合に限られます。<br>この特性のタグ付けを削除するには、valueCode="" を設定します。 | SFO |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | なし | 特性 valueName が意味を持つのは、次の場合のみです。<br><br>• valueCode は存在しない特性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1<br>• API v32 および API v33 を呼び出す。<br><br>valueCode が既存の特性値を保持している場合、valueName は無視されます。 | サンフランシスコ |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素<br>タグ名<br>説明<br>要素の特性 | | 属性<br>組織属性値の割当を指定します。 | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前<br><br>*API v30* で更新済 | あり | 属性の名前。 | 2015 年予算 |
| 値<br><br>*API v34* で更新済 | あり | この組織で使用できるこの属性の属性値。<br><br>API v32 および API v33 では、インスタンスの表示名設定がオフになっている場合にのみ値が意味になります。<br><br>API v34 以降の場合:<br><br>• 有効な表示名の設定がオンの場合にサポートされます。<br>• valueCode と valueName が存在すると エラーになります。<br>• 属性の管理 UI で "データのインポートにより自動的に属性値を作成" が有効になっている場合、値が存在しない場合は、値の文字列がコードと名前になります。 | ラホール |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| valueCode<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | あり | この組織で使用できるこ　LHE の属性の属性値コード。<br><br>API v32 および API v33 では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br><br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 |
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | なし | 新しく自動作成された属　ラホール性値の名前。<br><br>API v32 および API v33 では、valueName が意味を持つのは次の場合のみです。<br><br>• valueCode は存在しない属性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | |

上から下へのペイロード処理

組織の特性は、値を論理的にグループ化し、組織にタグ付けします。updateLevels API は XML ペイロードを上から下に処理するため、子組織の組織特性値を変更する前に、親組織の組織特性を割り当ててください。親組織の特性値が空白の場合、子組織は任意の特性値でタグ付けできます。組織の特性が親の特性と整合しない場合、互換性検証エラーが発生します。

以下のツリー構造を考慮します。親 "カリフォルニア" に対して、"パロアルト" と "プレザントン" の 2 つの子組織があります。組織の特性 "パロアルト" と "プレザントン" は兄弟です。

```
Location
|__USA
|__California
   |__Palo Alto
   |__Pleasanton
```

組織特性を含む元のリクエスト **XML** の例

場所特性値 "Palo Alto" が、"エンジニアリング" と "開発" の両方に割り当てられていることに注意してください。

```
<levels deleteWorkflowSilently="0" deleteActualsSilently="0">
<level id="1" name="HQ" proceedWithWarnings="0">
   <attribute name="Location" value="" />
   <level id="2" name="Engineering">
      <attribute name="Location" value="Palo Alto" />
      <level id="8" name="Development">
         <attribute name="Location" value="Palo Alto" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      </level>
   </level>
</level>
</levels>
```

ペイロード処理の順序の誤りの例

以下の XML ペイロードでエラーが発生します。The attribute value Pleasanton is not compatible with the parent's attribute value"。上から下へのペイロード処理では、親組織 "Engineering" が前のコード ブロックからの事業地特性値 "Palo Alto" を持っていると見なされ、"プレザントン" が "Palo Alto" の子として処理されます。このエラーは、子組織 "開発" の事業地特性が、ツリー構造で示されている "パロアルト" のみであるために発生します。

```
<levels deleteWorkflowSilently="0" deleteActualsSilently="0">
<level id="1" name="HQ" proceedWithWarnings="0">
   <level id="2" name="Engineering">
      <level id="8" name="Development">
         <attribute name="Location" value="Pleasanton" />
      </level>
      <attribute name="Location" value="California" /> <!-- Level Attribute
 change ignored due to placement order-->
   </level>
   <attribute name="Location" value="" />
</level>
</levels>
```

ペイロード処理の有効な順序の例

"Engineering" の下で特性 "カリフォルニア" の配置順序を再配置することで、API が親組織の特性を最初に処理できるようにし、子組織 "開発" の場所特性値として "Palo Alto" または "プレザントン" のいずれかを持たせることができます。 。

```
<levels deleteWorkflowSilently="0" deleteActualsSilently="0">
<level id="1" name="HQ" proceedWithWarnings="0">
   <attribute name="Location" value="" /> <!-- Level Attribute change
 processed due to correct placement order-->
   <level id="2" name="Engineering">
      <attribute name="Location" value="California" />
      <level id="8" name="Development">
         <attribute name="Location" value="Pleasanton" />
      </level>
   </level>
</level>
</levels>
```

組織のバージョンの使用可否も同様に機能します。互換性エラーを回避するため、子組織を変更する前に組織のバージョン使用可否を設定します。

バージョンのある元のリクエスト **XML** の例

"エンジニアリング" および "開発" 組織の "2020 年予算" バージョンの使用可否が "0" に設定されていることに注意してください。

```
<levels deleteWorkflowSilently="0" deleteActualsSilently="0">
<level id="1" name="HQ" proceedWithWarnings="0">
   <version name="Budget 2020" available="0" />
   <level id="2" name="Engineering">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      <version name="Budget 2020" available="0" />
      <level id="8" name="Development">
         <version name="Budget 2020" available="0" />
      </level>
   </level>
</level>
</levels>
```

ペイロード処理の順序の誤りの例

以下の XML ペイロードでは、上から下へのペイロード処理により、親の "Engineering" が使用不可 ("available=0" ) が前のコード ブロックの "2020 年予算" バージョンに割り当てられ、子組織 "開発" の使用可否が "1" として処理されます。親組織 "エンジニアリング" が使用できない場合、子組織 "開発" は使用できません。

```
<levels deleteWorkflowSilently="0" deleteActualsSilently="0">
<level id="1" name="HQ" proceedWithWarnings="0">
   <level id="2" name="Engineering">
      <level id="8" name="Development">
         <version name="Budget 2020" available="1" />
      </level>
      <version name="Budget 2020" available="1" /><!-- Parent version
 availability change ignored due to placement order-->
   </level>
   <version name="Budget 2020" available="1" />
</level>
</levels>
```

ペイロード処理の有効な順序の例

親組織の "エンジニアリング" の下の "2020 年予算" バージョンの配置順序を再配置すると、API で親の使用可否を最初に処理できるようになり、"開発" のバージョンの使用可否値が "1" または "0" になります。

```
<levels deleteWorkflowSilently="0" deleteActualsSilently="0">
<level id="1" name="HQ" proceedWithWarnings="0">
   <version name="Budget 2020" available="1" />
   <level id="2" name="Engineering"><!-- Parent Version availability change
 processed due to correct placement order-->
      <version name="Budget 2020" available="1" />
      <level id="8" name="Development">
         <version name="Budget 2020" available="1" />
      </level>
   </level>
</level>
</levels>
```

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<output>
<levels>
  <level id="1" name="HQ" currency="CAD" shortName="" eliminationLevel="1"
 eliminationTradingPartner="0" inWorkflow="0" status="">
    <level id="2" name="Engineering" currency="USD" shortName="Engr"
 eliminationLevel="0" eliminationTradingPartner="1" inWorkflow="0"
 status="updated">
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
      <level id="8" name="Development" currency="USD" shortName="Dev"
 eliminationLevel="0" eliminationTradingPartner="0" inWorkflow="0"
 status="updated" />
      <level id="9" name="QA" currency="INR" shortName=""
 eliminationLevel="0" eliminationTradingPartner="0" inWorkflow="0"
 status="updated" />
      <level id="10" name="Documentation" currency="PKR" shortName="Doc"
 eliminationLevel="0" eliminationTradingPartner="0" inWorkflow="1"
 propagateToDescendants="1" actualsStart="05/2013" actualsEnd="12/2018"
 status="updated">
        <version name="Budget 2011" available="1" status="" />
        <version name="Budget 2012" available="0" status="updated" />
        <version name="Budget 2013" available="1" status="" />
      </level>
    </level>
    <level id="3" name="Professional Services" currency="USD"
 shortName="Prof.Srv" eliminationLevel="1" eliminationTradingPartner="0"
 inWorkflow="0" status="updated">
      <attribute name="Corporate Discount" value="Available" status="" />
      <attribute name="Transfers Restricted" value="Yes" status="" />
      <dimension name="Region" value="C-US" status="" />
    </level>
  </level>
</levels>
</output>
</response>
```

| 出力要素 | |
|---|---|
| タグ名 | output |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 必須の単一の組織要素この出力ラベンダーはすべての API 応答の標準であり、成功した API 呼び出しの有効な出力を囲みます。 | |

| 組織要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | 1 つ以上の組織要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 既存の順序を保持 | なし | 0 updateLevels API は XML ペイロードの内容に基づいてソート順を更新する必要があります。<br><br>1 updateLevels API は既存のソート順を保持する必要があります。 | 1 |
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=1 は、updateLevel がの表示名プロパティに従う必要があることを示します code, displayNameType、および description インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1 つ以上の組織要素アクセスできない組織がリクエストに含まれている場合、組織要素は 1 つしかなくなりません。これは組織の最上位組織を表します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | updateLevels API コールへの応答で返される単一の組織を表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ID | あり | 組織の内部システム ID 番号。 | 7 |
| コード | なし | 組織の一意のコード。 | 本社 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | |
| 名前 | あり | レポートおよびシートに表示される組織の名前です。 | 開発 |
| 通貨 | あり | 組織のこの組織に割り当てられる通貨の通貨コード。通貨は、exportActiveCurrencies コールで検出された、インスタンスに設定された通貨の 1 つになります。 | INR |
| publishCurrency<br>API v24+ で使用可能 | なし | "PublishCurrency" は、財務計画をパブリッシュする際の Workday 会社の通貨を設定します。パブリッシュ通貨は、組織の追加の通貨属性として Workday Adaptive Planning インテグレーションの Planning 組織ローダを介してロードされます。パブリッシュ通貨は、インスタンスに設定された通貨の 1 つを示します。これは exportActiveCurrencies コールで検出され、組織管理 UI で示されます。<br>プロビジョニングで Workday Power of One が有効になっている必要があります。 | CAD |
| shortName | なし | "組織の管理" で入力された組織の略語 (存在する場合)。 | 偏差 |
| eliminationLevel | なし | 組織が相殺消去組織であるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。 | 1 |
| eliminationTradingPartner | なし | *説明* | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| inWorkflow | なし | 組織がワークフロー内にあるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。 | 1 |
| propagateToDescendants | なし | 変更がこの組織の子に伝達されるかどうかを示します。いいえ: 0、はい: 1。<br><br>ProgateToDescendants の動作の詳細については、 を参照してください。 UpdateLevels リクエスト中の propagateToDescendants の動作 ( 2483ページ ) 。 | 1 |
| actualsStart | なし | この組織の実績バージョンの開始に、"時間管理" で定義された時間コード。 | 05/2013 |
| actualsEnd | なし | この組織の実績バージョンの最後に、"時間管理" で定義された時間コード。 | 12/2018 |
| 説明 | なし | 組織の説明。 | 最上位の部門 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | このプロパティは、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合にのみ使用できます。 | |
| status | あり | 更新後の組織のステータス警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新 |
| メッセージ | なし | 無効な組織入力に関するエラー メッセージ | 組織 UKregion2 は、ペイロードで重複している、または ID 6 を持つシステムに既に存在しています。 |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

この組織の直接の子組織ごとに 1 つのネストされた組織要素この組織が関連付けられている場合、1 つの特性要素

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特性要素 | | | |
| タグ名 | | 特性 | |
| 説明 | | 1 つの組織特性要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 組織の特性の名前 | 勤務地 |
| 値 | あり | 組織特性の値。 | SFO |
| valueCode | あり | この特性の特性値コード。<br><br>API v32 以降では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | SFO |
| valueName<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v32* および *API v33* でのみ使用できます。<br><br>*API v34* ではサポートされていません。 | なし | 新しく自動作成された特性値の名前。<br><br>特性 valueName が意味を持つのは、次の場合のみです。<br>• valueCode は存在しない特性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1value<br><br>valueCode が既存の特性値を保持している場合、名前は無視されます。 | サンフランシスコ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| status | あり | 更新後の特性のステータス。警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティで エラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新されました |
| メッセージ | なし | 無効な特性が入力されたことを示すエラー メッセージ。 | 組織 UKregion2 は、ペイロードで重複している、または ID 6 を持つシステムに既に存在しています。 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | 組織のバージョンの使用可否を指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | "バージョンの管理" に表示されるバージョンの名前です。 | 2015 年予算 |
| 値 | あり | 1 の場合、この組織はこのバージョンで使用可能です。 | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| status | あり | 更新後のバージョンのステータス警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティで エラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新されました |
| エレメントの内容<br>各属性値に対して 1 つ以上のバージョン要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 属性要素<br>タグ名<br>説明 | | 属性<br>updateLevels API コールに応じて返される単一のカスタム属性を表します。 | |
| 要素の特性<br>特性名<br>名前 | 必須？<br>あり | 値<br>レポートおよびシートに表示される属性の名前。 | 例<br>地域 |
| 値<br>valueCode<br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | なし<br>あり | この組織の属性値です。<br>この属性の属性値コード。<br>API v32 以降では、valueCode が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1 | C-USA<br>CUS |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| valueName<br><br>表示名を有効にするインスタンスの *API v32* 以上でのみ使用できます。 | なし | 新しく自動作成された属性値の名前。<br><br>API v32 以降では、valueName が意味を持つのは次の場合のみです。<br>• valueCode は存在しない属性値を保持しています。<br>• インスタンスの "表示名" 設定がオンになっています。<br>• displayNameEnabled=1<br><br>valueCode が既存の属性値を保持している場合、valueName は無視されます。 | C-USA |
| status | なし | 更新後のバージョンのステータス警告とエラーの場合は、メッセージ要素にメッセージ内容が含まれます。更新ステータスはメッセージ内容を返しません。<br>• エラー: エンティティでエラーが見つかりました<br>• 警告: エンティティで警告が見つかりました<br>• 作成済: エンティティは正常に作成されました<br>• 更新済: エンティティが更新されました | 更新 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

エラーと警告メッセージの説明

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
|---|---|---|
| エラー | システム エラーが発生しました。詳細については、サポートまでお問い合わせください。 | システム エラー |
| エラー | content.xml ファイルが見つかりません。 | updateDimensions API にすでに存在します |
| エラー | 入力内容に、組織タグが含まれていません。 | ペイロードに組織タグがありません。 |
| エラー | {0} は定義された {1} として認識されません。 | バージョン名または値が不明な場合に使用します。 |
| エラー | {0} は空にできません。 | バージョン名が空です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
|---|---|---|
| エラー | 実績のバージョン使用可否は変更できません。 | ユーザーが実績バージョンのバージョンの可視性を変更しようとする場合。 |
| エラー | ルート組織 {0} のバージョン使用可否は変更できません。 | ユーザーがルート組織のバージョンの可視性を変更しようとするとき。 |
| エラー | 組織 {1} 上のバージョン {0} の表示設定は、{1} の親と互換性がありません。 | 組織の指定されたバージョンの表示設定が親組織と互換性がない場合。 |
| エラー | リクエストで指定された 1 つ以上の組織またはバージョンを更新する権限がありません。 | ユーザーが、アクセスできない組織情報の更新を試みた場合。 |
| エラー | {0} は定義された {1} として認識されません。 | 属性名または値が不明な場合に使用します。 |
| エラー | {0} は空にできません。 | 属性名が空です。 |
| エラー | リスト属性は組織で使用できません。 | ユーザーが組織のフラットな属性値をマッピングしようとしています。 |
| エラー | 属性 {0} はこの組織では無効になっています。 | この組織の属性は無効になっています。 |
| エラー | 属性値 {0} は親の属性値と互換性がありません。 | 組織の指定された属性マッピングが親組織と互換性がない場合。 |
| エラー | {0} は定義された {1} として認識されません。 | 特性名または値が不明な場合に使用します。 |
| エラー | 特性値 {0} は親の特性値と互換性がありません。 | 指定された組織の組織特性値が親組織と互換性がない場合。 |
| エラー | {0} は空にできません。 | 特性名が空です。 |
| エラー | updateLevels API リクエストの処理中に例外が発生しました。 | システム エラー |
| エラー | ID {0} は存在しません。 | リクエスト ペイロードで存在しない組織 ID が指定されました。 |
| エラー | {0} は親と同じ ID を持つことはできません。 | 子組織と親組織の ID が同じである。 |
| エラー | {0} を {1} の子にすることはできません。 | 特定の組織を別の特定の組織の子にすることはできません。 |
| エラー | ルート組織 ID がありません。 | ルート組織の ID が指定されていません。 |
| エラー | 組織名が {1} のルート組織 ID {0} は子組織になることはできません。 | ルート組織を子組織にすることはできません。 |
| エラー | ルート組織通貨は変更できません。 | ルート組織の通貨は変更できません。 |
| エラー | 通貨 "{0}" は無効です。 | 組織タグで不明な通貨名が指定されました。 |
| エラー | 組織 {0} は ID {1} について重複しています。 | 重複組織名が指定されました。 |
| エラー | 組織 {0} はペイロード {1} {2} で重複しています。 | 複数の新しい組織に同じ名前が含まれています。 |
| エラー | ルート組織ワークフローは変更できません。 | ルート組織の "ワークフロー中" ステータスは変更できません。 |
| エラー | 組織 {0} の特性の割り当ては、親の特性値と互換性がありません。 | 指定された組織の組織特性値は、親組織と互換性がありません。 |
| エラー | ID {0} を持つ組織は存在しません。 | 指定された ID の組織は Planning に存在しません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
| --- | --- | --- |
| エラー | リクエストで指定された 1 つ以上の組織またはバージョンを更新する権限がありません。 | ペイロードに記載されている組織に対するユーザー権限がありません。 |
| エラー | 組織 {0} のバージョンの表示設定は、{0} の親 {1} と互換性がありません。 | 組織の提供されたバージョンの表示設定が、親組織と互換性がありません。 |
| エラー | 組織 {0} には、親 {1} よりも多くの期間を含む実績の可用性があります。 | 現在の組織の実績の範囲が変更されました。変更された実績レンジは、その子孫の 1 つの実績レンジよりも小さくなります。 |
| エラー | deleteWorkflowSilently、0 である場合、組織 ({0}) のワークフローを無効化することはできません。deleteWorkFlowSilently を 1 に設定した場合、この組織に関連付けられているすべてのワークフロー タスクが削除されます。 | "ワークフローを削除" がオフになっている場合、ワークフローを無効にすることはできません。"ワークフローをサイレントに削除" がオンになっている場合、その組織のすべてのワークフロー タスクが削除されます。 |
| エラー | {0} の実績の開始日と終了日を更新できませんでした。この日付範囲が実績バージョンに定義された開始日と終了日よりも小さいため、および deleteActualsSilently が false に設定されているため、{1} の実績が削除されません。 | deleteActualsSilently フラグが設定されていないのに実績の範囲を縮小しようとします。 |
| エラー | 組織 {0} の親のワークフローが無効化されているため、ワークフローを有効化できません。 | 親のワークフローが無効化されているため、この組織のワークフローを有効化することはできません。 |
| エラー | 組織の {0} は、その親で TradingPartner が有効化されているため、 TradingPartner または EliminationLevel は有効化できません。 | 取引パートナーが親に対してすでに有効になっている場合、その子で取引パートナーまたは相殺消去組織を有効にすることはできません。 |
| エラー | ID {0} の親は存在しません。 | 存在しない ID が親組織に提供されました。 |
| エラー | 親ノード {0} が、現在の直接/間接子ノード {1} の子になります。 | 親と子の間の循環関係が作成されています。 |
| エラー | 組織を自身の親にすることはできません。 | 組織がペイロードで自身の親になることはできません。 |
| エラー | ID {0} を持つ組織は存在しません。 | 指定されたエンティティは Planning に存在しません。 |
| エラー | 相殺消去と TradingPartner は同時に true とすることはできません。 | 組織は、相殺消去組織または取引先のいずれかになります。ただし、両方を同時に設定することはできません。 |
| エラー | この組織の親が TradingPartner を無効にしている間のみ、この相殺消去を変更できます。 | 組織の相殺消去の変更は、その組織の親の取引先が無効になっている場合にのみ行うことができます。 |
| エラー | この組織の下部組織は相殺消去組織であるため、この組織を取引先に指定することはできません。 | 現在の組織は相殺消去組織のため、取引先としてマークできません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
| --- | --- | --- |
| エラー | 親のワークフローが無効になっている間は、この組織でワークフローを有効にすることはできません。 | 組織の親のワークフローが無効になっています。 |
| エラー | {0} は、ノードとその子孫に対してのみ一緒に有効化できます。これらに変更を加えるには、propagateToDescendants=1 に設定します。 | ProgateToDescendants の動作の詳細については、 を参照してください。 UpdateLevels リクエスト中の propagateToDescendants の動作 ( 2483ページ ) 。 |
| エラー | 1 つ以上の内部取引科目にデータがあるため、組織 "{0}" を相殺消去組織にすることはできません。 | 内部取引科目のデータを含む組織は、相殺消去組織にできません。 |
| エラー | actualsStart または actualsEnd は、ルート組織 {0} について変更できません。 | ユーザーがルート組織の実績範囲を変更しようとしています。 |
| エラー | リンク組織に子を追加することはできません。 | ユーザーは、リンク組織に対して子組織を追加しようとします。 |
| エラー | タイムコード {0} が存在しません。 | 指定された時間コードは存在しません。 |
| エラー | 実績の開始日 {0} は、実績の終了日 {1} の後にすることはできません。 | 指定された実績の開始時間は終了時間の後です。実績の開始時間は終了時間の前である必要があります。 |
| エラー | 無効なタイム コード "{0}"。actualsStart と actualsEnd について設定されたタイム コードは、時間管理で使用できる最低の時間層と一致している必要があります。 | 指定された時間コードが最下位層レベルではありません。 |
| エラー | 無効なタイム コード "{0}"。actualsStart {0} は、親の actualsStart {1} より前となります。 | 指定された actualsStart 時間は、親組織の実績の開始時間より前です。 |
| エラー | 無効なタイム コード "{0}"。actualsEnd {0} は、親の actualsEnd {1} より後となります。 | 指定された actualsEnd 時間が、親組織の実績の終了時間を超えています。 |
| エラー | actualsStart of {0} は、実績バージョンの {1} より前となります。actualsStart は {1} の後になります。 | 指定された actualsStart 時間は、実績バージョンの開始時間より前です。 |
| エラー | actualsEnd of {0} は、実績バージョンの End of {1} より後となります。actualsEnd は {1} の前になる必要があります。 | 指定された actualsEnd time が、実績バージョンの終了時間を超えています。 |
| エラー | 無効な "{0}" 値 "{1}"。値は "1" または "0" である必要があります。 | ユーザーがブール値プロパティに "0" または "1" 以外の値を指定しました。 |
| エラー | {0} {1} は無効です。 | ユーザーが無効な値を入力しました。 |
| エラー | {0} は名前には使用できません。 | 予約語 "this" または "(+)" または "(-)" で終わる単語が組織名として提供されています。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| タイプ | メッセージ | 例/説明 |
| --- | --- | --- |
| エラー | ID "{0}" は存在しません。 | 指定されたエンティティは Planning に存在しません。 |
| 警告 | proceedWithWarnings=0 の間は、組織 {0} を別の親に移動することはできません。 | ユーザーは、WithWarning="1" に進むことなく組織の移動を試みています。proceedWithWarning="1" は、バージョンの表示設定、特性マッピング、データが新しい親組織と一致するように調整されることを意味します。 |
| 警告 | 実績の可用性の範囲が、組織 {0} で縮小されました。範囲から除外された実績データは削除されました。 | 実績の可用性の範囲が縮小されました。範囲外のデータは削除されます。 |
| 警告 | deleteWorkflowSilently はグローバル フラグです。これを組織タグに入れてください。 | ワークフローをサイレント削除はグローバル フラグです。別のタグではなく、組織タグに属している。 |
| 警告 | deleteActualsSilently はグローバル フラグです。これを組織タグに入れてください。 | 実績をサイレント削除はグローバル フラグです。別のタグではなく、組織タグに属している。 |
| 警告 | パブリッシュされていない変更があるため、組織を変更できません。 | Planning に、管理パブリッシュに対する保留中の変更があります。 |

**UpdateLevels リクエスト中の propagateToDescendants の動作**

設定 `updateLevels` API にブール値が含まれています `propagateToDescendants` ワークフローの特性、組織の属性、組織の特性、組織のバージョン、組織の実績 `PropagateToDescendants` 変更が親から子にどのように流れるかを示します。イベントの実行中 `updateLevels` リクエストの有効化または無効化 `propagateToDescendants` は、使用される場所によって異なる影響を受けます。設定 `ProceedWithWarnings` 特性も、 の一部として何が変更されるかに応じて、異なる結果を生成します。`updateLevels` リクエスト。

ワークフロー

| 設定 | propagateToDescendants | result |
| --- | --- | --- |
| inWorkflow=0 | =1 | 現在の組織とそのすべての子は無効です |
| inWorkflow=0 | =0 | UpdateLevels はエラーになります。 |
| inWorkflow=1 | =0 または =1 | 現在の組織に影響します。子孫に対する変更はありません。 |

組織属性

| 設定 | propagateToDescendants | result |
| --- | --- | --- |
| 組織には属性があります。 | =1 | 親属性とその子属性が変更されます。最初に PropagateToDescendants が実行され、その後特定の属性変更が子内で実行されます。 |
| 組織には属性があります。 | =0 | updateLevels は、現在の組織の属性のみを更新します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

組織特性

| 設定 | propagateToDescendats | result |
|---|---|---|
| 子特性は互換性があります。 | =1 | 現在の特性のみが変更されます。 |
| 子特性には互換性がありません。 | =1 | 現在の組織およびそのすべての子特性は変更されます |
| 子特性は互換性があります。 | =0 | 現在の特性のみが変更されます。 |
| 子特性には互換性がありません。 | =0 | updateLevels はエラーになります。 |

組織バージョン

| 設定 | propagateToDescendants | result |
|---|---|---|
| 親のバージョンは使用できません。 | =1 | このバージョンは、現在の組織とそのすべての子で使用できなくなります。 |
| 親のバージョンは使用できません。 | =0 | updateLevels はエラーになります。 |
| 親に対してバージョンが使用可能です。 | =1 | このバージョンは、現在の組織とそのすべての子で使用できます。 |
| 親に対してバージョンが使用可能です。 | =0 | バージョンは現在の組織に対してのみ使用できます。 |

組織実績

| 設定 | propagateToDescendants | result |
|---|---|---|
| 親実績の縮小 (日数の減少)。 | =1 | 現在の組織とそのすべての子の実績が縮小します。 |
| 親実績の縮小 (日数の減少)。 | =0 | updateLevels はエラーになります。 |
| 親実績の展開 (日数の増加)。 | =1 | 現在の組織の "実績" が展開されます。子は影響を受けません。 |
| 親実績の展開 (日数の増加)。 | =0 | 現在の組織の "実績" が展開されます。子は影響を受けません。 |

**proceedWithWarnings**

| 設定 | proceedWithWarnings | result |
|---|---|---|
| 現在の組織の変更 | proceedWithWarnings=0 | updateLevels はエラーになります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 設定 | proceedWithWarnings | result |
| --- | --- | --- |
| 現在の組織の変更 | proceedWithWarnings=1 | • 属性: 組織は属性値とともに新しい親に移動します。親の再設定が原因で、移動した組織またはその子孫の属性マッピングが変更されることはありません<br>• 親: 移動した組織の親は新しい親になり、組織の順序も変更されます。<br>• バージョン: バージョンの表示設定が変更され、新しい親組織との互換性が維持されます。<br>• 実績: 実績の開始/終了時間が新しい親組織と互換性があるように変更されます。<br>• 特性: 特性マッピングに互換性がない場合、親の特性の値に変更されます。 |

**updateUser**

| | |
| --- | --- |
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | ユーザーを更新する。成功した場合、API は更新されたユーザーに対してメッセージを返します。 |
| 起動に必要な権限 | ユーザー権限 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。ユーザーを更新するには、"ユーザー権限" 権限が必要です。

この方法では、ユーザーの 概念: アクセス ルール（1452ページ）(属性アクセス制御)

重要： この方法は、Workday からのユーザー同期の後には機能しません。これは、ユーザーの同期が発生する 前に、 権限セットと組織アクセスの割り当てのみを許可するものです。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="updateUser" callerName="a string that identifies your client
 application">
     <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd" />
       <users>
           <user
             guid="B9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092C2E"
             email="updateMail@company.com"
             name="update name"
             password="new Password"
             alternateEmail="abc@greenco.com"
             samlFedId="1234"
             permissionSetId="1"
             ownedLevels="2,3,7,11"
             timeZone="America/Mexico_City"
                 />
      </users>
</call>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しには、API を呼び出したユーザーを識別するための単一の認証情報要素が含まれている必要があります。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| ユーザー要素 | |
|---|---|
| タグ名 | ユーザー |
| 説明 | 更新するユーザー (複数可) を指定します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性<br>特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| ガイド | あり | ユーザーのグローバルに一意の識別子。この識別子は、将来ログインまたは名前が変更されても変更されることはありません。(ガイドは exportUsers API に含まれます) | B9ADBCB81AA2F9BAE040307F02092 |
| E メール | なし | このユーザーの E メール アドレス。一意性が必要です。使用できる文字は、a、z、0 ~ 9、-、および のみです。<br>この E メール アドレスはユーザー名を示します。 | newUser@company.com |
| 名前 | なし | このユーザーの名前。 | メルビン ムルメール |
| ポジション | なし | ユーザーのポジション | "CEO" |
| *API v39* 以上で使用可能<br>password | なし | このユーザーのパスワード。マルチインスタンス環境のユーザーを更新する場合、パスワードの変更はデフォルトのインスタンスでしか指定できません。 | newpassword |
| alternateEmail<br>*API v27* で使用可能 | なし | このユーザーの代替 E メール アドレス。このオプションは自動的にオンになり、"ユーザー詳細" セクションにユーザーの E メール ID が入力されます。 | abc@greenco.com |
| samlFedId<br>*API v27* で使用可能 | なし | このユーザーの SAML フェデレーション ID。 | 1234, user@company.com |
| permissionSetId<br>API v25 以上で使用可能 | なし | このユーザーに割り当てられた権限セットの内部システム ID。 | 3 |
| roleId<br>API v25 以前で使用可能<br>API v25+ では使用できません。 | なし | このユーザーに割り当てられたロールの内部システム ID。(roleId 特性は exportRoles API でカバーされます。) | 3 |
| ownedLevels | なし | カンマで区切られた組織の内部システム ID。(ownLevels 特性は exportLevels API でカバーされます。) | 5,10,13 |
| ホームページ<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーのホームページ。 | "Welcome" |
| timeZone | なし | ユーザーのタイムゾーン。 | 米国/太平洋地域 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 国<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーの国コード (英 2 文字コード)。 | "US" |
| usState<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーの状態コード (国は米国である必要があります)。 | "CA" |
| エリア<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーのエリア ID | "111" |
| ダッシュボード<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | ユーザーのダッシュボード ID - ダッシュボード ID を設定するにはエリア ID が必要です。エリア ID が指定され、ダッシュボード ID が指定されていない場合、ダッシュボード ID はヌルに設定されます。 | "222" |
| netsuiteLogin<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | NetSuite ログイン | "abc@netsuite.com" |
| salesforceLogin<br>*API v39* 以上で使用可能 | なし | Salesforce ログイン | "abc@salesforce.com" |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
 <response success="true">
    <output>
        <result>
              <updated_users>
                  <user success="true" message="user newUser@company.com was
 updated successfully."/>
              </updated_users>
        </result>
    </output>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント | | | |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 真偽のいずれか。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | 真 |
| エレメントの内容 | | | |
| createUser または updateUser の呼び出しがそれぞれ行われたかどうかに応じて、 created_user または updateUser のステータス要素を含む単一の結果要素 | | | |

| | |
|---|---|
| 結果要素 | |
| タグ名 | result |
| 説明 | 1 つ以上のステータス要素のコンテナです。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| (なし) | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の created_user または updateUser の呼び出しがそれぞれ行われたかどうかに応じて、1 つ以上の created_user または update_user ステータス要素を入力します。 | | | |

| update_users 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | updated_users | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ユーザー成功 | あり | 呼び出しによって返されたステータス真でも偽でも構いません。 | 真 |
| message | あり | ステータス メッセージ。 | ユーザーnewuser@company.com が更新されました。 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つのサブスクリプション エレメント | | | |

**参考: customReportValues Performance Conditions**

2023R2 でリリースされた customReportValues のパフォーマンスと拡張性の最適化を利用するには、リクエストに API v36 以上を使用する必要があります。

パフォーマンスの改善は、スタンドアロンの customReportValues API 呼び出しと、customReportValues を呼び出す以下の機能に影響します。

- OfficeConnect
- ダッシュボード
- ヘッドカウント プランニング
- インテグレーション

customReportValues のパフォーマンスと拡張性の向上により、以下がサポートされます。

次を除くすべての科目タイプを使用します。

- システム科目 (配賦、少数株主持分の割合、相殺消去、為替換算調整勘定など)。
- モデル シートの前提条件科目

次を除くすべてのモデリング機能を使用します。

- スプレッド ルックアップ
- 値ルックアップ
- テキストの合計
- 加重平均合計
- 加重平均換算

データ送信方法
**importConfigurableModelData**

API v40 (2024 年 9 月 21 日) に更新。

| カテゴリ | データの送信 |
|---|---|
| 説明 | モデル シートのデータを挿入、置換、または更新します。 |
| 起動に必要な権限 | インポート |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、ImportDataOptions、バージョン、シート、RowData |

このメソッドのリクエストにはパラメータが含まれており、指定されたデータ行をどのシートとバージョンで受け取るかを決定します。

この方法では、以下の処理が可能です。

- シートに新しい行を追加する。
- モデル シートに現在あるすべての行をインポートしたシートに置き換える。
- シートのすべてのデータを置換 (インポートされた組織のみ)
- インポートからの行をインポート キーと照合することによって、既存の行を更新する。
- インポートからの行をインポート キーと照合することで既存の行を更新し、新しい行を追加します。

この API コールの各呼び出しには、リストされた各タイプの要素を 1 つずつ含める必要があります。

- 認証情報
- importDataOptions
- バージョン
    - シート
    - rowData

注 : ヘッダー内のパイプ文字 (|) の数とデータとが一致しない場合、API v30 以上ではエラーが発生します。

注 : API v37 時点で、モデル シートにインポートできる新しい行の最大数に制限が設けられています。この制限に到達した場合は、サポートまでご連絡ください。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importConfigurableModelData" callerName="a string that
 identifies your client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
<importDataOptions planOrActuals="Plan" allowParallel="false"
 moveBPtr="false" useMappings="false" replaceExisting="2"/>
<version name="Budget 2014" isDefault="false" />
<sheet name="Personnel" isUserAssigned="false" />
<rowData>
 <header>Level|Region|Title|JobCode|Benefits|per|Last Name|First Name|ID|
Start|End|Hr/Week|Pay Rate|Pay Rate Display Column</header>
 <rows>
   <row>Corporate Plan|Any|CEO|E1|Yes|Yr|Topdog|Andy|1000|12/20/2013|
12/30/2014|80|500,000.12|888,888</row>
 </rows>
</rowData>
</call>
```

**import Key** で既存行を更新するためのリクエスト形式

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importConfigurableModelData" callerName="a string that
 identifies your client application">
<credentials login="sampleuser@company.com"
 password="my_pwd"instanceCode="INSTANCE1"/>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<importDataOptions planOrActuals="Plan" replaceExisting="3"
 importKey="Region" allowParallel="false" moveBPtr="false"
 useMappings="false"/>
<version name="Budget 2014" isDefault="false" />
<sheet name="Personnel" isUserAssigned="false" />
<rowData>
 <header>Plan|Region|Benefits|per</header>
 <rows>
   <row>Europe Sales|W-US|Yes|Hr</row>
 </rows>
</rowData>
</call>
```

認証情報要素

| タグ名 | | 認証情報 | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要がありますcredentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| 以下 | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、期間名、日付形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| importDataOptions 要素 | | | |
| タグ名 | | importDataOptions | |
| 説明 | | インポートの実行時に使用するオプションを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| planOrActuals | あり | 次のいずれかに設定プランまたは実績: インポートするデータのタイプを指定します。この設定が "バージョン" タグで指定されたバージョンと競合する場合、"バージョン" タグの値が優先され、この設定は無視されます。 | 計画 |
| moveBPtr | なし | インポートするデータに各行の期間番号のセットがある場合にのみ使用されます。条件moveBPtr は次のように設定されていますtrue の場合、インポートによって、実績バージョンの実績の可用性のポインターが、インポートされたデータで見つかった最新の期間に移動します。オンにした場合false の場合、インポートは、各バージョンの実績を表示する期間に影響しません。PlanOrActuals が "計画" に設定されている場合、この属性は "false" に設定する必要があります。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| allowParallel | あり | オンにした場合True の場合、このインスタンスに対してすでに別の実績またはトランザクションのインポートが処理されていても、インポートが続行されます。オンにした場合false の場合、このインスタンスに対して処理中の実績またはトランザクションのインポートがすでに存在する場合、インポートは失敗します。 | false |
| useMappings | なし | 行要素内で科目、計画、属性値のインポート マッピングを使用するかどうかを指定します。検討済デフォルトでは true。条件false の場合、使用すべき内部識別子: 科目はコードで識別され、組織と属性値は名前で識別されます。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| replaceExisting | なし | "1" または "true" に設定すると、すべての組織のすべての既存の行が、インポートする新しい行に置き換えられます (つまり、すべての組織ですでに存在していたすべての行を消去)。このオプションは 、″すべての場所にインポート″ 権限を持つユーザーのみが使用できます。<br><br>新しい行が重複している場合でも、インポートした行を既存の行に追加するには、"0" または "false" に設定します。<br><br>"2" に設定すると、モデル シートの既存の行が、インポートされる新しい行に置き換えられます。ただし、組織が保護された行のみが対象です。アップロードされたスプレッドシートに分割されていない行がない組織と保護された属性の組み合わせの行は、その行がアップロードによって置き換えられる行の分割でないかぎり、既存の行が削除されることはありません。<br><br>"replaceExisting" は、使用された属性と、データが同じ組織、科目、期間、バージョンに存在するかどうかを検証します。行キーが存在する場合は、行キーの列とも照合します。<br><br>システムの同じ場所にデータが存在する場合は、インポートして、それに置き換えます。この置換は、行ごとに行われます。インポートは一度にすべてを置き換えるわけではありません。一致しないインポート行がシートに追加されます。<br><br>たとえば、2 つのインポートを実行するとします。最初のインポート ファイルは、2 番目のインポート ファイルに含まれていないデータをロードします。既存のデータは 2 番目のインポート後 | true |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| importKey | なし | モデル シート行の更新時にインポート キーとして使用するモデル シート列名 Adaptive Planning はインポート キー列を使用して、インポート内の各行をモデル シート内の行にマッチングさせます。すべての行のインポート キー値は一意である必要があります。<br><br>この属性は、replaceExisting が "3" または "4" の場合にのみ使用することができます。<br><br>インポート キー列は次のいずれかになります。<br>• 組織列<br>• 属性列 | Level |
| includeContext | なし | メッセージにコンテキスト ブロックを含めることができるかどうかを指定します。値のタイプfalse (コンテキストを表示しない) またはtrue (該当する場合はコンテキストを表示)。指定しない場合、真であると想定されます。 | false |
| displayNameEnabled<br><br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=trueは、インスタンスに対して "表示名の有効化" 設定がオンになっている場合、API がペイロードの科目コード、組織コード、属性コード、属性名列を想定する必要があることを示します。<br><br>displayNameEnabled=falseは、インスタンスの "表示名の有効化" 設定がオンになっている場合でも、API は 30 日前の API 契約に従う必要があることを示します。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| applyValidationRules<br>*API v38 +* でのみ使用できます。 | なし | applyValidationRules=true は、API のバージョンが v38 以上である場合に、インポートされたすべてのデータに対してモデルシートのルール検証を API が実行することを示します。<br>applyValidationRules=false は、インポートされたすべてのデータのモデルシート ルール検証が API によって無視されることを示します。<br>applyValidationRules のデフォルト値は "true" です。 | false |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | リクエストされたデータの受信に使用するバージョンを示します。呼び出しごとにバージョンを指定する必要があります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | なし | データの受信に使用されるバージョンの名前。1 つの API コールでアクセスできるバージョンは 1 つだけです。名前が指定されていない場合、isDefault フラグを次のように設定する必要がありますこの要素に対して true 。 | 2014 年予算 |
| isDefault | なし | 呼び出し元が名前に関係なく、インスタンスの現在のデフォルト バージョンにアクセスしたい場合、この特性は true に設定できます。その場合、タグの name 特性 (存在する場合) は無視されます。そうしないと、この値が false の場合、またはこの特性が存在しない場合、この呼び出しを成功させるためには、指定された名前のバージョンが存在し、ユーザーがアクセスできる必要があります。 | false |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

(なし)

| シート要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | シート | |
| 説明 | | インポートしたデータを受信するシートを示します。各 API 呼び出しは、1 つのシートのデータのみを対象とすることができます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | データのインポート先のシート名 | 従業員 |
| isUserAssigned | なし | シートがユーザー割当シートであることを示します。指定しない場合のデフォルト値は false で、組織割当シートであることを示します。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| スコープ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | Scope (API v40 で使用可能) |
| 説明 | このインポートの範囲を指定します。例:<br>`<scope>`<br>`<levels> mode="INPUT"/>`<br>`</scope>`<br>注： importDataOptions 要素のreplaceExisting特性が 5 の場合にのみ許可されます。 |

| rowData element | |
|---|---|
| タグ名 | rowData |
| 説明 | インポートするデータの行のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 正確に 1ヘッダー要素 - 正確に 1 つ行要素 | |

| ヘッダー要素 | |
|---|---|
| タグ名 | ヘッダー |
| 説明 | 対応するデータの列の名前と順序を指定します行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 縦棒で列名が区切られたテキスト行。これらの列名は、シートの属性名やフィールド名、あるいはデータを格納できる期間のコードと対応している必要があります。これらはデータのインポート先シートのインポート テンプレートにある列名と同じで、各列ヘッダーは縦棒またはパイプ記号で隣の列と区切られています。 。<br>注： 表示名を有効にするインスタンスの場合、ヘッダーでは次の操作がサポートされません。 "<dimension>" 次の値との組み合わせ "<dimension> Name" または "<dimension> Code" Adaptive Planning でサポートされている口ケールの API v30 以上。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 行要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 行 |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナ行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上行要素 | |

| 行要素 | |
|---|---|
| タグ名 | row |
| 説明 | インポート中の単一行のデータ |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| インポートされている単一行のフィールドのデータ。各フィールドの値は、縦棒またはパイプ記号で区切られます。データ フィールドは、ヘッダー要素の行と同じ順序である必要があります。値の数字が千単位の区切り文字を使用している場合、それらはリクエストの認証情報で指定されたロケールで使用されているカンマ区切り文字であると想定されます。 | |

回答フォーマット

これらは、データのインポートが成功した場合および失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<messages>
 <message key="modeled-import-success">Personnel import successful. Rows
 imported: 1</message>
 <message key="modeled-import-replace">All existing rows were replaced.</
message>
</messages>
</response>
```

失敗 (コンテキストあり)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
 <messages>
     <message key="modeled-import-failed">The Personnel import has failed.</
message>
     <message key="error-import">Import Failed with the following error: 1
 Error(s) Occurred.</message>
     <message key="import-detail">Additional information:</message>
     <message key="warning-nonexistent-dimension-value">Warning: No data was
 imported for rows with the following dimension values because the dimension
 values for Plan do not exist: Development1.</message>
     <message key="invalid-plan-choice-withCoordinate">
         <context>
             <col header="Plan" value="Development1" />
             <col header="Region" value="C-US" />
             <col header="Title" value="CEO" />
             <col header="JobCode" value="E1" />
             <col header="Benefits" value="Yes" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            <col header="per" value="Yr" />
            <col header="Last Name" value="Topdog" />
            <col header="First Name" value="Andy" />
            <col header="ID" value="1000" />
            <col header="Start" value="12/20/2013" />
            <col header="End" value="12/30/2014" />
            <col header="Hr/Week" value="80.0" />
            <col header="Pay Rate" value="500000.12" />
            <col header="Pay Rate Display Column" value="888,888" />

         </context>
   Invalid Level Choice: Development1 on row 1 column A

     </message>
   </messages>
</response>
```

失敗 (コンテキストなし)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
 <messages>
     <message key="modeled-import-failed">The Personnel import has failed.</
message>
     <message key="error-import">Import Failed with the following error: 1
 Error(s) Occurred.</message>
     <message key="import-detail">Additional information:</message>
     <message key="warning-nonexistent-dimension-value">Warning: No data was
 imported for rows with the following dimension values because the dimension
 values for Plan do not exist: Development1.</message>
     <message key="invalid-plan-choice-withCoordinate">Invalid Level Choice:
 Development1 on row 1 column A</message>

 </messages>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 回答 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 両方真またはfalse。API呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一 (任意)メッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナメッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上メッセージ要素 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | メッセージ | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |
| 1. メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。<br>2. 任意のコンテキスト要素。 | | | |

| コンテキスト要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | context | |
| 説明 | | 1 つ以上の列要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| なし | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の列要素 | | | |

| 列要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | col | |
| 説明 | | メッセージのコンテキストを示します。ヘッダーと値のペアを指定して、メッセージを生成している行を識別できるようにします。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ヘッダー | あり | 列のヘッダー。 | "科目" |
| 値 | あり | 列の値。 | "GL-29482-38233" |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**importCubeData**

| カテゴリ | データの送信 |
|---|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 説明 | キューブ シートでデータを挿入または置換します。この方法は、キューブ内の位置にゼロをインポートすることによって、キューブ シートからデータを削除するために使用することもできます。キューブ シートにゼロをインポートすると、ゼロの位置のデータが消去されます。 |
| 起動に必要な権限 | インポート |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | Credentials, ImportDataOptions, Version, Sheet, RowData |

このメソッドのリクエストにはパラメータが含まれており、指定されたデータ行をどのシートとバージョンで受け取るかを決定します。この方法は、キューブ内の位置にゼロをインポートすることによって、キューブ シートからデータを削除するために使用することもできます。キューブ シートにゼロをインポートすると、ゼロの位置のデータが消去されます。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importCubeData" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
<importDataOptions planOrActuals="Plan" allowParallel="false"
 moveBPtr="false"/>
<version name="Budget 2014" isDefault="false" />
<sheet name="Sales Cube" isUserAssigned="false" />
<rowData>
   <header>ProductFurniture|CountryRegion|FabricationMachine|Customer|
Account|Level|06/2014|07/2014|08/2014|09/2014|01/2015</header>
   <rows>
     <row>Coffee table|Argentina|Do-All 15 Vertical|Aeropostale|Price|
Corporate Plan|0|0|0|0|0</row>
   </rows>
</rowData>
</call>
```

この API コールの各呼び出しには、リストされた各タイプの要素を 1 つずつ含める必要があります。

- 認証情報
- importDataOptions
- バージョン
- シート
- rowData

また、モードが "置換" に指定されている場合は、適用範囲要素を指定する必要があります。

注： ヘッダー内のパイプ文字 (|) の数とデータとが一致しない場合、API v30 以上ではエラーが発生します。

対象範囲が指定された置換モードを指定したリクエストの例:

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importCubeData" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
 <version name="Budget 2022" isDefault="true" />
 <sheet name="Expense Cube" isUserAssigned="false" />
 <importDataOptions planOrActuals="Plan" allowParallel="false"
 moveBPtr="false" mode="REPLACE" />
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 <!-- Scope parameter specifying the import scope.-->
 <scope>
 <!-- Specifies the time scope for import. All values will be specified as
 time codes.-->
  <time mode="EXPLICIT">
   <timeRange start="01/2021" end="10/2021" />
  </time>
  <!-- Specifies list of accounts in the scope. All values will be specified
 as code field.-->
  <accounts mode="EXPLICIT">
   <account includeDescendants="true">Op_Expense_Inputs</account>
   <account includeDescendants="true">Op_Expense_Drivers</account>
  </accounts>
  <!-- Specifies list of levels in the scope. All values will be specified
 as code field.-->
  <levels mode="INPUT"/>
 </scope>
 <rowData>
  <header>ProductFurniture|CountryRegion|FabricationMachine|Customer|
Account|Level|01/2022|02/2022|03/2022|04/2022|05/2022|06/2022|07/2022|
08/2022|09/2022|10/2022|11/2022|12/2022</header>
  <rows>
   <row>Coffee Table|Argentina|Do-All 15 Vertical|Aeropostale|Units|
Development|44567.33|21345.77|22341.43|65567.32|298145.12|12641.83|77821.53|
7766342.09|211441.21|88712.43|61940.41|662341.03|775420.25|800345.17</row>
  </rows>
 </rowData>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要がありますcredentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 受信番号と日付の解釈、および送信番号と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字を使用) に使用する口ケールを指定します。期間名、日付の形式設定)。口ケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが Adaptive Planning の複数のインスタンスにアクセスできる場合、この属性を使用して、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| importDataOptions element | | | |
| タグ名 | | importDataOptions | |
| 説明 | | インポートの実行時に使用するオプションを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| planOrActuals | あり | 次のいずれかに設定してください:プラン" または "実績": インポートするデータのタイプを指定します。この設定が で指定されたバージョンと競合する場合、バージョン タグバージョン タグの値が優先され、この設定は無視されます。 | 計画 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| moveBPtr | なし | 次の場合にのみ使用します。PlanOrActuals 特性の設定実績条件moveBPtr は次のように設定されていますtrue の場合、インポートによって、実績バージョンの実績の可用性のポインターが、インポートされたデータで見つかった最新の期間に移動します。オンにした場合false の場合、インポートは、各バージョンの実績を表示する期間に影響しません。この特性は、次の場合に偽に設定する必要があります。PlanOrActuals の設定は次のとおりです計画 | false |
| allowParallel | あり | 次の場合にのみ使用します。PlanOrActuals 特性の設定実績オンにした場合True の場合、このインスタンスに対してすでに別の実績またはトランザクションのインポートが処理されていても、インポートが続行されます。オンにした場合false の場合、このインスタンスに対して処理中の実績またはトランザクションのインポートがすでに存在する場合、インポートは失敗します。 | false |
| useMappings | なし | 行要素内で科目、計画、属性値のインポート マッピングを使用するかどうかを指定します。検討済デフォルトでは true。条件false の場合、使用すべき内部識別子: 科目はコードで識別され、組織と属性値は名前で識別されます。 | false |
| includeContext | なし | メッセージにコンテキスト ブロックを含めることができるかどうかを指定します。値のタイプfalse (コンテキストを表示しない) またはtrue (該当する場合はコンテキストを表示)。指定しない場合、真であると想定されます。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | |
|---|---|---|
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=true\|false は、importCubeData が次の値を想定していることを示します `Account Code`, `Level Code`, `Dimension Code`、および `Dimension Name Column` インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合、ペイロードに含まれます。<br><br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、importCubeData API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。importCubeData API は表示名プロパティを無視します `Account Code`, `Level Code`, `Dimension Code`、および `Dimension Name Column`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード<br>*API v32+* で使用可能 | なし | インポート モード ("Append" または "置換") を指定します。<br>追加 - 既存のデータが更新されるか、新しいデータが挿入されます。データは削除されません。<br>置換: 呼び出し元は、データがペイロードで提供されたものと置き換えられるキューブの座標を表す適用範囲要素を指定する必要があります。スコープ内の既存のデータはすべて、呼び出しのペイロード内のデータに置き換えられます。<br>このオプションは、API v32 以降のバージョンでサポートされています。前のバージョンで API を呼び出すとエラーが発生します。<br>モードが指定されていない場合のモードのデフォルト値は Append です。 | 置換 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | リクエストされたデータの受信に使用するバージョンを示します。呼び出しごとにバージョンを指定する必要があります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | なし | データの受信に使用されるバージョンの名前。1 つの API コールでアクセスできるバージョンは 1 つだけです。名前が指定されていない場合、isDefault フラグを次のように設定する必要がありますこの要素に対して true 。 | 2012 年予算 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| isDefault | なし | 呼び出し元が名前に関係なく、インスタンスの現在のデフォルト バージョンにアクセスしたい場合、この特性は true に設定できます。その場合、タグの name 特性 (存在する場合) は無視されます。そうしないと、この値が false の場合、またはこの特性が存在しない場合、この呼び出しを成功させるためには、指定された名前のバージョンが存在し、ユーザーがアクセスできる必要があります。 | false |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| シート要素 | | | |
| タグ名 | | シート | |
| 説明 | | インポートしたデータを受信するシートを示します。各 API 呼び出しは、1 つのシートのデータのみを対象とすることができます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | データのインポート先のシート名 | 従業員 |
| isUserAssigned | なし | シートがユーザー割当シートであることを示します。指定しない場合のデフォルト値は false で、組織割当シートであることを示します。 | false |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 適用範囲要素 | | | |
| タグ名 | | 適用範囲 | |
| 説明 | | このインポートの範囲を指定します。インポートのモードが "置換" に指定されている場合にのみ適用されます。<br><br>*API v32+* で使用可能 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード | あり | 範囲内のセル メモを消去するかどうかを指定します。次の 3 つの列挙値のいずれかである必要があります。<br>• None - セル メモを消去しません。<br>• ALL - 範囲内のすべてのセル メモを消去します。<br>• ModIFIED_Only - インポートによって変更された範囲内のセルについてのセル メモを消去します。これには、データがインポートされた以前は空のセル、およびデータがクリアされたセルが含まれます。<br>eraseCellNotes が指定されていない場合は、デフォルトで "なし" が使用されます。 | なし |
| エレメントの内容<br>1 つの時間要素、1 つの科目要素、1 つの組織要素。 | | すべて必須です。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 時間要素 | | | |
| タグ名 | | Time | |
| 説明 | | インポートの範囲を表す時間範囲を 1 つまたは複数指定します。<br>*API v32+* で使用可能 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード | あり | 時間範囲のモードを指定します。次の 3 つのオプションのいずれかを選択してください:<br>• 入力 - このモードが指定されている場合、時間範囲は <header> 要素の時間コードによって決定されます。ヘッダーに 2 か月が含まれている場合、インポートの範囲はこの 2 か月になります。<br>• Explicit - このモードが指定されている場合、インポートの時間範囲を決定する timeRange サブ要素が 1 つ以上表示されると想定されます。<br>• バージョン - このモードが指定されている場合、時間範囲はバージョンの開始と終了 (最初の累積期間を含む) になります。<br><br>モードが指定されており、INPUT または VERSION の場合、timeRange 要素を含めることはできません。存在する場合、エラー条件として扱われます。<br><br>注： VERSION を指定すると、計画の開始日がバージョンの開始日より後であってもバージョンの開始日が考慮されます。 | 入力 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の timeRange 要素 (モードが INPUT または VERSION 以外)。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| timeRange 要素 | | | |
| タグ名 | | TimeRange | |
| 説明 | | 時間スコープの単一の時間範囲を指定します。<br><br>*API v32+* で使用可能 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開始 | あり | インポート期間の開始期間。 | 07/2021 |
| 終了 | あり | インポート期間の終了期間。 | 08/2021 |

エレメントの内容
(なし)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | 科目 | |
| 説明 | | インポート範囲の科目コードを指定します。ここに科目コードは存在するが、インポート データにこの科目のデータがない場合、この科目のデータは、その期間および残りのスコープ座標で削除されます。<br><br>*API v32+* で使用可能 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード | あり | 科目適用範囲のモードを指定します。次の 3 つのオプションのいずれかである必要があります。<br>• Explicit - このモードが指定されている場合、インポートの科目範囲を決定する 1 つまたは複数の科目サブ要素が表示されると想定されます。<br>• 入力 - このモードが指定されている場合、科目の適用範囲は、インポート データに含まれる一意の科目セットによって決定されます。<br>• ALL - このモードが指定されている場合、科目の適用範囲はインポートのすべての科目になります。キューブ シートのインポートの場合、これはそのキューブ シートのすべてのインポート可能科目を表します。<br>モードが指定されており、INPUT または ALL の場合、科目下位要素を含めることはできません。存在する場合、これはエラー条件として扱われます。 | 明示 |

エレメントの内容
モードが INPUT または ALL でない場合は、1 つ以上の科目要素です。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | account | |
| 説明 | | インポートの範囲に含める科目コードを指定します。<br>*API v32+* で使用可能 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| includeDescendants | なし | 科目が最下位科目の場合、"includeDescendants" は何の影響も及ぼしません。<br><br>科目が親科目である場合、この特性を true と指定すると、この科目のすべての最下位子孫が範囲に含まれます。<br><br>科目が親科目であり、includeDescendants が false の場合、この科目要素は指定されていないものとして扱われます。<br><br>親科目をこのように処理する理由は、最下位科目が親科目になるようにプロモーションされる場合があるためです。この変更を反映するためにインポート仕様が更新されるのが遅い場合があります。includeDescendants=false の場合、親科目を無視することで、誤ったデータの削除を防ぐことができます。<br><br>これは任意の属性であり、デフォルト値は false であると見なされます。<br><br>真 |
| エレメントの内容<br>インポート範囲の一部として使用される科目の科目コードを指定します。たとえば、"業務経費" です。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | インポート範囲の組織コードを指定します。ここで組織コードが指定されているものの、インポートデータにこの組織のデータがない場合、この組織のデータは、時間範囲および残りのスコープ座標から削除されます。<br><br>*API v32+* で使用可能 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード | あり | 組織適用範囲のモードを指定します。次の 3 つのオプションのいずれかである必要があります。<br>• Explicit - このモードが指定されている場合、インポートの組織適用範囲を決定する 1 つまたは複数の組織サブ要素が表示されると想定されます。<br>• 入力 - このモードが指定されている場合、組織の適用範囲は、インポート データに含まれる一意の組織によって決定されます。<br>• ALL - このモードが指定されている場合、組織の適用範囲はすべてのインポート可能組織になります。<br>モードが指定されており、INPUT または ALL の場合、組織のサブ要素を含めることはできません。存在する場合、これはエラー条件として扱われます。 | 入力 |
| エレメントの内容<br>モードが INPUT または ALL として指定されていない限り、1 つ以上の組織要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | インポートの範囲に含める組織コードを指定します。<br>*API v32+* で使用可能 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| includeDescendants | なし | 組織が親組織である場合、この特性を true と指定すると、自身 ("限定" ノード) を含むこの組織のすべての最下位子孫が範囲に含まれます。<br><br>これは任意の属性です。<br><br>特性が指定されていない場合、デフォルト値は false になります。特性が指定されていないか、false として指定されており、指定された組織が親組織である場合、インポート時にその組織の "限定" ("エンジニアリングのみ") ノードが考慮されます。組織の子は、他の組織要素で明示的に指定されない限り、適用範囲の対象外となります。 | 真 |

エレメントの内容
インポート範囲の一部として組織の組織コードを指定します。たとえば、「開発」です。

| | |
|---|---|
| rowData element | |
| タグ名 | rowData |
| 説明 | インポートするデータの行のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 正確に 1ヘッダー要素 - 正確に 1 つ行要素 | |

| | |
|---|---|
| ヘッダー要素 | |
| タグ名 | ヘッダー |
| 説明 | 対応するデータの列の名前と順序を指定します行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |

縦棒で列名が区切られたテキスト行。列名は、シートの属性名やフィールド名、あるいはデータを含む期間コードと対応している必要があります。これらは、データのインポート先のシートのインポート テンプレートにある列名と同じで、各列ヘッダーは縦の棒またはパイプの記号で隣の列と区切られます。

注 : 表示名を有効にするインスタンスの場合、ヘッダーでは次の操作がサポートされません。 "<dimension>" 次の値との組み合わせ "<dimension> Name" または "<dimension> Code" Adaptive Planning でサポートされている口ケールの API v30 以上。

| | |
|---|---|
| 行要素 | |
| タグ名 | 行 |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナ行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上行要素 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 行要素 | |
|---|---|
| タグ名 | 行 |
| 説明 | インポート中の単一行のデータ |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| インポートされている単一行のフィールドのデータ。各フィールドの値は、縦棒またはパイプ記号で区切られます。データ フィールドは、ヘッダー要素の行と同じ順序である必要があります。値の数字が千単位の区切り文字を使用している場合、それらはリクエストの認証情報で指定された口ケールで使用されているカンマ区切り文字であると想定されます。 | |

回答フォーマット

これらは、キューブ データのインポートが成功した場合および失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
<messages>
  <message key="warning-no-data-imported-dimension-unmapped">Warning: Row 3
 was not imported because Coffeee table is unmapped.</message>
</messages>
</response>
```

失敗 (コンテキストあり)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
   <messages>
       <message key="err-incomplete-cube-row">
           <context>
               <col header="ProductFurniture" value="Coffee table" />
               <col header="CountryRegion" value="" />
               <col header="Account" value="Do-All 15 Vertical" />
               <col header="Level" value="Aeropostale" />
               <col header="06/2014" value="Price" />
               <col header="07/2014" value="Corporate Plan" />
               <col header="08/2014" value="0.0" />
               <col header="09/2014" value="0.0" />
               <col header="01/2015" value="0.0" />

           </context>
     Row 1 is missing a value.

       </message>
       <message key="err-no-rows">You must import at least one row of
 data.</message>
    </messages>
</response>
```

失敗 (コンテキストなし)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<response success="false">
   <messages>
       <message key="err-incomplete-cube-row">Row 1 is missing a value.</
message>
       <message key="err-no-rows">You must import at least one row of
 data.</message>

   </messages>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 両方真またはfalse。API呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一 (任意)メッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナメッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上メッセージ要素 | |

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。
- 任意のコンテキスト要素。

| コンテキスト要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | context | |
| 説明 | | 1 つ以上の列要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| なし | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の列要素 | | | |

| 列要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | col | |
| 説明 | | メッセージのコンテキストを示します。ヘッダーと値のペアを指定して、メッセージを生成している行を識別できるようにします。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ヘッダー | あり | 列のヘッダー。 | "Account" |
| 値 | あり | 列の値。 | "GL-29482-38233" |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**importStandardData**

API v40 で更新 (2024 年 9 月 13 日)

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの送信 |
| 説明 | 標準科目にデータを挿入または置換します。 |
| 起動に必要な権限 | すべての場所にインポート<br>データの消去 (置換モードをサポートする API v36 以上) |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、ImportDataOptions、バージョン、RowData |

includeDescendants

このメソッドのリクエストには、提供されたデータ行をどのバージョンが受け取るかを決定するパラメータが含まれています。科目がシートに配置されているかどうかにかかわらず、データは任意の標準科目 (総勘定元帳科目、カスタム科目、前提条件、為替レート) にインポートできます。

重要： importStandardData は 、"オーバーライド数式設定の データ入力" を使用する科目にはインポートできません。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importStandardData" callerName="a string that identifies your
 client application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<importDataOptions planOrActuals="Plan" allowParallel="false"
 moveBPtr="false" useMappings="false" />
<version name="Budget 2004" isDefault="false" />
<rowData>
<header>Account|Level|Split Label|Product|Region|11/2005|01/2006</header>
<rows>
<row>70110|Corporate Plan||Bunnyrabbit Toy|Western-US|2037|4032</row>
</rows>
</rowData>
</call>
```

この API コールの各呼び出しには、リストされた各タイプの要素を 1 つずつ含める必要があります。

- 認証情報
- importDataOptions
- バージョン
- rowData
- ヘッダー
- 行

注 : ヘッダー内のパイプ文字 (|) の数とデータとが一致しない場合、API v30 以上ではエラーが発生します。

API v36+ では、importDataOptions モード特性が置換の場合、適用範囲要素も指定する必要があります。

例: 置換モードのリクエスト

*API v36+* でのみ使用可能です。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importStandardData" callerName="a string that identifies
 your client application">
<credentials login="nobody@company.com" password="password"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
<importDataOptions planOrActuals="Plan" allowParallel="true"
 moveBPtr="false" useMappings="false" mode="replace" />
<version name="Budget 2011" isDefault="false" />
<scope>
<accounts mode="explicit">
<account includeDescendants="false">30490</account>
<account includeDescendants="false">70313</account>
</accounts>
<levels mode="explicit">
<level includeDescendants="false">Development</level>
<level includeDescendants="true">Sales</level>
</levels>
<time mode="input" />
</scope>
<rowData>
<header>Account|Level|Split Label|Base Pay|CapitalAssetClass|Company|
CountryRegion|01/2011</header>
<rows>
<row>30490|Asia Sales||120-150K|Furniture|ABC Cons|Washington|1</row>
<row>70313|Development||100-120K|OtherEquipment|ABC Cons|Maharashtra|2</
row>
</rows>
</rowData>
</call>
```

認証情報要素

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要がありますcredentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| 以下 | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 受信番号と日付の解釈、および送信番号と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字を使用) に使用するロケールを指定します。期間名、日付の形式設定)。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | |
|---|---|
| importDataOptions 要素 | |
| タグ名 | importDataOptions |
| 説明 | インポートの実行時に使用するオプションを指定します。 |
| 要素の特性 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| --- | --- | --- | --- |
| planOrActuals | あり | 次のいずれかに設定してください:プラン" または "実績": インポートするデータのタイプを指定します。この設定が で指定されたバージョンと競合する場合、バージョン タグバージョン タグの値が優先され、この設定は無視されます。 | 計画 |
| moveBPtr | なし | 次の場合にのみ使用します。PlanOrActuals 特性の設定実績条件moveBPtrは次のように設定されていますtrue の場合、インポートによって、実績バージョンの実績の可用性のポインターが、インポートされたデータで見つかった最新の期間に移動します。オンにした場合false の場合、インポートは、各バージョンの実績を表示する期間に影響しません。この特性は、次の場合に偽に設定する必要があります。PlanOrActuals の設定は次のとおりです計画 | false |
| allowParallel | あり | 次の場合にのみ使用します。PlanOrActuals 特性の設定実績オンにした場合True の場合、このインスタンスに対してすでに別の実績またはトランザクションのインポートが処理されていても、インポートが続行されます。オンにした場合false の場合、このインスタンスに対して処理中の実績またはトランザクションのインポートがすでに存在する場合、インポートは失敗します。 | false |
| useMappings | なし | 行要素内で科目、計画、属性値のインポート マッピングを使用するかどうかを指定します。検討済デフォルトでは true。条件false の場合、使用すべき内部識別子: 科目はコードで識別され、組織と属性値は名前で識別されます。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| includeContext | なし | メッセージにコンテキスト ブロックを含めることができるかどうかを指定します。値のタイプfalse (コンテキストを表示しない) またはtrue (該当する場合はコンテキストを表示)。指定しない場合、真であると想定されます。 | false |
| displayNameEnabled<br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=trueは、importStandardDataが次の値を想定していることを示します `Account Code`, `Level Code`, `Dimension Code`、および `Dimension Name Column` インスタンスで"表示名の有効化" がオンの場合、ペイロードに含まれます。<br><br>displayNameEnabled=falseは、インスタンスで"表示名の有効化" がオンになっている場合でも、importStandardData API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。importStandardData API は表示名プロパティを無視します。 `Account Code`, `Level Code`, `Dimension Code`、および `Dimension Name Column`。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 | false |
| splitsToUnsplit<br>*API v40* 以上でのみ使用可能です。 | なし | splitsToUnsplit=true を指定すると、既存のデータとともに、分割を未分割の場所にインポートできます。この特性のデフォルト値は false です。 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード<br><br>*API v36+* でのみ使用可能です。 | なし | インポート モード (「Append」または「置換」) を指定します。<br><br>追加<br>既存のデータが更新されるか、新しいデータが追加されます。データは削除されません。<br><br>置換<br>リクエストには、データがペイロードで提供されたデータに置き換えられる超キューブの座標を表す適用範囲要素を含める必要があります。有効範囲内の既存のデータのうち、ペイロードに一致する座標がないデータは削除されます。<br><br>このモード属性は、API v36 以降のバージョンでサポートされます。mode="REPLANCE" を指定して以前のバージョンの API を呼び出すとエラーが発生します。<br><br>モードが指定されていない場合のモードのデフォルト値は Append です。 | 追加 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| バージョン要素 | | | |
| タグ名 | | バージョン | |
| 説明 | | リクエストされたデータの受信に使用するバージョンを示します。呼び出しごとにバージョンを指定する必要があります。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | なし | データの受信に使用されるバージョンの名前。1 つの API コールでアクセスできるバージョンは 1 つだけです。名前が指定されていない場合、この要素の isDefault フラグを true に設定する必要があります。<br><br>換算通貨バージョンとその名前のリストを取得するには、include 要素で currencyVersions=true を指定してexportVersions リクエストを作成します。 | 2014 年予算 |
| isDefault | なし | 呼び出し元が名前に関係なく、インスタンスの現在のデフォルト バージョンにアクセスしたい場合、この特性は true に設定できます。その場合、タグの name 特性 (存在する場合) は無視されます。そうしないと、この値が false の場合、またはこの特性が存在しない場合、この呼び出しを成功させるためには、指定された名前のバージョンが存在し、ユーザーがアクセスできる必要があります。 | false |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 適用範囲要素 | | | |
| タグ名 | | 適用範囲<br><br>*API バージョン 36* 以降でのみ使用可能です。 | |
| 説明 | | このインポートの範囲を指定します。<br><br>importDataOptions 要素のモード特性が置換されている場合にのみ使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| eraseCellNotes | なし | 範囲内のセル メモを消去するかどうかを指定します。次の 3 つの列挙値のいずれかである必要があります。<br><br>None- セル メモを消去しません。<br><br>ALL- 範囲内のすべてのセル メモを消去します。<br><br>ModIFIED_Only- インポートによって変更された範囲内のセルについてのセル メモを消去します。これには、データがインポートされた以前は空のセル、およびデータがクリアされたセルが含まれます。<br><br>eraseCellNotes が指定されていない場合は、デフォルトで "なし" が使用されます。 | なし |
| エレメントの内容<br>1 つの 時間 要素、1 つの 科目 要素、1 つの 組織 要素。すべて必須です。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | 科目<br><br>*API バージョン 36* 以降でのみ使用可能です。 | |
| 説明 | | インポート範囲の科目を指定します。指定された科目は存在するが、インポート データにこの科目のデータがない場合、この科目のデータは、その期間および残りのスコープ座標で削除されます。<br><br>importDataOptions 要素のモード特性が置換されている場合にのみ使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード | あり | 科目適用範囲のモードを指定します。次の 3 つのオプションのいずれかである必要があります。<br><br>Explicit- このモードが指定されている場合、インポートの科目範囲を決定する 1 つまたは複数の科目サブ要素が表示されると想定されます。<br><br>入力 - このモードが指定されている場合、科目の適用範囲は、インポートデータに含まれる一意の科目セットによって決定されます。<br><br>注: account mode="ALL" は、標準のインポート範囲では許可されていません。 | 明示 |

エレメントの内容
モードが "入力"の場合、<科目> サブ要素は存在しません。

モードが "EXPLICIT"の場合、1 つ以上の "<科目>" サブ要素が必要です。

モードが "EXPLICIT"で、<account> サブ要素内のいずれかの科目コードが無効な場合、<accounts> 要素全体、および拡張子は <適用範囲> が無効とみなされます。無効なコードごとにエラー メッセージが応答に含まれます。

| | | |
|---|---|---|
| 科目要素 | | |
| タグ名 | | account<br><br>*API* バージョン *36* 以降でのみ使用可能です。 |
| 説明 | | インポートの範囲に含める科目コードを指定します。<br><br>importDataOptions 要素のモード特性が置換されている場合にのみ使用できます。 |
| 要素の特性 | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 |
| includeDescendants | なし | 科目が最下位科目の場合、"includeDescendants" は何の影響も及ぼしません。<br><br>科目が親科目である場合、この特性を true と指定すると、この科目のすべての最下位子孫が範囲に含まれます。<br><br>科目が親科目で、"includeDescendants" が "false" であるとエラーになります。最下位科目にのみインポートできます。<br><br>これは任意の属性であり、デフォルト値は false であると見なされます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | |
|---|---|---|
| セレクター | なし | 科目要素のコンテンツ タイプを指定します。<br>• コード科目要素のコンテンツは科目コードです。例: `<account selector="code">30440</account>`<br>この例では、30440 は科目コードです。<br>• タイプ科目要素の内容は科目タイプです。例: `<account selector="type">GL</account>`<br>この例では、科目要素タイプはすべての GL 科目です。現在、標準インポートの科目タイプは "GL" と "CUS TO" のみがサポートされています。それ以外のコンテンツはすべてエラーになります。<br>セレクターのデフォルト値は code です。 |

エレメントの内容
インポート範囲の一部として使用される科目の大文字と小文字の科目コード。たとえば、AccountsPayable です。コードは空欄にできません。また、コードに対応する科目が存在している必要があります。この科目をシステム科目またはリンク元科目にすることはできません。科目が算出科目の場合、その科目のデータ入力オーバーライドが存在する必要があります。そうでない場合、無効とみなされます。

科目コードが無効な場合、<accounts> 要素全体、および延長により <適用範囲> が無効とみなされます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| | | *API バージョン 36* 以降でのみ使用可能です。 | |
| 説明 | | インポート範囲の組織コードを指定します。ここで組織コードが指定されているものの、インポートデータにこの組織のデータがない場合、この組織のデータは、時間範囲および残りのスコープ座標から削除されます。<br>importDataOptions 要素のモード特性が置換されている場合にのみ使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード | あり | 組織適用範囲のモードを指定します。次の 3 つのオプションのいずれかである必要があります。<br><br>Explicit- このモードが指定されている場合、インポートの組織の適用範囲を決定する 1 つまたは複数の <組織> 下位要素が表示されると想定されます。<br><br>入力 - このモードが指定されている場合、組織の適用範囲は、インポートデータに含まれる一意の組織によって決定されます。<br><br>ALL- このモードが指定されている場合、組織の適用範囲はすべてのインポート可能組織になります。 | 明示 |
| エレメントの内容<br>mode が INPUT または ALL の場合、<組織> サブ要素は存在しません。<br><br>モードが "EXPLICIT" の場合、1 つ以上の "<組織>" サブ要素が必要です。<br><br>モードが "EXPLICIT" で、<組織> サブ要素内のいずれかの組織コードが無効な場合、その <組織> 要素全体、および延長上で <適用範囲> が無効とみなされます。無効なコードごとにエラー メッセージが応答に含まれます。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | *API* バージョン *36* 以降でのみ使用可能です。<br>インポートの範囲に含める組織コードを指定します。<br><br>importDataOptions 要素のモード特性が置換されている場合にのみ使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| includeDescendants | なし | 組織が親組織である場合、この特性を true と指定すると、それ自体 ("限定" ノード) を含むこの組織のすべての最下位子孫が範囲に含まれます。<br><br>これは任意の属性です。<br><br>特性が指定されていない場合、デフォルト値は false になります。特性が指定されていないか、false として指定されており、指定された組織が親組織である場合、インポート時にその組織の "限定" ("エンジニアリングのみ") ノードが考慮されます。組織の子は、他の組織要素で明示的に指定されない限り、適用範囲に含まれません。 | true |

エレメントの内容
組織の大文字と小文字の区別のコードを指定します。たとえば、「<組織>開発/組織」などです。

組織コードに問題がある場合 (組織でコードが見つからない場合など)、<組織> 全体、および拡張子 <適用範囲> が無効とみなされます。無効なコードごとにエラー メッセージが応答に含まれます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 時間要素 | | | |
| タグ名 | | time | |
| 説明 | | *API バージョン 36* 以降でのみ使用可能です。<br>インポートの範囲を表す時間範囲を 1 つまたは複数指定します。<br><br>importDataOptions 要素のモード特性が置換されている場合にのみ使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| モード | あり | 時間範囲のモードを指定します。次の 3 つのオプションのいずれかを指定してください。<br><br>入力 - このモードが指定されると、時間範囲は の時間コードによって決定されます。 <header> 要素ヘッダーに 2 か月が含まれている場合、インポートの範囲はこの 2 か月になります。<br><br>Explicit- このモードが指定されている場合、インポートの時間範囲を決定する timeRange サブ要素が 1 つ以上表示されると想定されます。<br><br>バージョン - このモードが指定されている場合、時間範囲はバージョンの開始と終了 (最初の累積期間を含む) になります。<br><br>モードが INPUT または SIONVER の場合、timeRange サブ要素を使用することはできません。timeRange サブ要素が存在する場合、エラーとして扱われます。 | 入力 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の timeRange 要素 (モードが INPUT または VERSION 以外)。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| timeRange 要素 | | | |
| タグ名 | | timeRange | |
| 説明 | | *API バージョン 36* 以降でのみ使用可能です。<br>時間スコープの単一の時間範囲を指定します。<br><br>importDataOptions 要素のモード特性が置換されている場合にのみ使用できます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 開始 | あり | インポート期間の開始期間。 | 07/2021 |
| 終了 | あり | インポート期間の終了期間。 | 08/2021 |
| エレメントの内容<br>1 つ以上の timeRange 要素 (モードが INPUT または VERSION 以外)。 | | | |

| | |
|---|---|
| rowData element | |
| タグ名 | rowData |
| 説明 | インポートするデータの行のコンテナです。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| |
|---|
| 要素の特性<br>(なし)<br>エレメントの内容<br>正確に 1ヘッダー要素 - 正確に 1 つ行要素 |

| | |
|---|---|
| ヘッダー要素 | |
| タグ名 | ヘッダー |
| 説明 | 対応するデータの列の名前と順序を指定します行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 縦棒で列名が区切られたテキスト行。列名は、シートの属性名やフィールド名、あるいはデータを含む期間コードと対応している必要があります。これらは、データのインポート先のシートのインポート テンプレートにある列名と同じで、各列ヘッダーは縦の棒またはパイプの記号で隣の列と区切られます。<br>注 : 表示名を有効にするインスタンスの場合、ヘッダーでは次の操作がサポートされません。 "<dimension>" 次の値との組み合わせ "<dimension> Name" または "<dimension> Code" Adaptive Planning でサポートされている口ケールの API v30 以上。 | |

| | |
|---|---|
| 行要素 | |
| タグ名 | 行 |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナ行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上行要素 | |

| | |
|---|---|
| 行要素 | |
| タグ名 | row |
| 説明 | インポート中の単一行のデータ |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| インポートされている単一行のフィールドのデータ。各フィールドの値は、縦棒またはパイプ記号で区切られます。データ フィールドは、ヘッダー要素の行と同じ順序である必要があります。値の数字が千単位の区切り文字を使用している場合、それらはリクエストの認証情報で指定された口ケールで使用されているカンマ区切り文字であると想定されます。 | |

回答フォーマット

これらは、標準科目データのインポートが成功した場合および失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true"></response>
```

失敗 (コンテキストあり)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
<messages>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
<message key="error-empty-account">
    <context>
        <col header="Account" value="" />
        <col header="Level" value="Corporate Plan" />
        <col header="Split Label" value="" />
        <col header="Product" value="Bunnyrabbit Toy" />
        <col header="Region" value="Western-US" />
        <col header="11/2005" value="2037" />
        <col header="01/2006" value="4032" />

    </context>
Account cannot be empty on row 1.

</message>
</messages>
</response>
```

失敗 (コンテキストなし)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
<messages>
<message key="error-empty-account">Account cannot be empty on row 1.</
message>

</messages>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 回答 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 両方真またはfalse。API呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一 (任意)メッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナメッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上メッセージ要素 | |

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストの口ケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |

1. メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定された口ケールの言語になります (その口ケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。
2. 任意のコンテキスト要素。

| | | | |
|---|---|---|---|
| コンテキスト要素 | | | |
| タグ名 | | context | |
| 説明 | | 1 つ以上の列要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| なし | | | |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の列要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 列要素 | | | |
| タグ名 | | col | |
| 説明 | | メッセージのコンテキストを示します。ヘッダーと値のペアを指定して、メッセージを生成している行を識別できるようにします。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ヘッダー | あり | 列のヘッダー。 | "科目" |
| 値 | あり | 列の値。 | "GL-29482-38233" |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

**importTransactions**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの送信 |
| 説明 | 新しいトランザクションを挿入する。 |
| 起動に必要な権限 | インポート |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、ImportTransactionsOptions、RowData |

この方法は、"トランザクション" へのアクセス権がある場合にのみ適用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

注 : トランザクションはインポート中のみ削除できます。インポート中にすべてのトランザクションを削除する場合は、1 つの空白行をインポートし、残りのデータを削除することを検討してください。

このメソッドは、特定の条件に一致する既存のトランザクション行の削除、新しいトランザクション行のシステムへの挿入、または 1 回の呼び出しで両方のアクションを実行する (トランザクション行のセットを別の行のセットに置き換える) ために使用できます。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="importTransactions" callerName="a string that identifies your
 client application">
 <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_pwd"
 instanceCode="INSTANCE1"/>
 <importTransactionsOptions allowParallel="false" useMappings="false"/>
  <rowData>
    <header>Posting Date|Transaction Type|Account|Plan|Transaction Amount</
header>
    <rows>
       <row>01/02/2011|Invoice|70110|Marketing|100</row>
    </rows>
  </rowData>
</call>
```

この API コールの各呼び出しには、リストされた各タイプの要素を 1 つずつ含める必要があります。

- 認証情報
- importTransactionsOptions
- rowData

注 : ヘッダー内のパイプ文字 (|) の数とデータとが一致しない場合、API v30 以上ではエラーが発生します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認証情報要素 | | | |
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要がありますcredentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、月名、日付の形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| importTransactionsOptions element | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | importTransactionsOptions | |
| 説明 | | インポートの実行時に使用するオプションを指定します。以下のうち 1 つ以上の場合deleteStartDatedeleteEndDate、またはtransactionTypes が指定されている場合、このメソッド呼び出しは、指定された条件に一致する既存のトランザクションの削除を試みます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| deleteStartDate | なし | このメソッド呼び出しの目的が、既存のトランザクションの削除を目的としている場合、この属性は削除するトランザクション セットの開始日を指定します (含む)。指定しない場合、日付が指定日以前のすべての取引が使用されます。deleteEndDate (指定されたオプションのいずれかに一致TransactionTypes) は削除されます。 | 11/01/2012 |
| deleteEndDate | なし | このメソッド呼び出しの目的が、既存のトランザクションの削除を目的としている場合、この属性は削除するトランザクション セットの終了日を指定します (含む)。指定しない場合は、日付が指定日以降のすべての取引が使用されます。deleteStartDate (指定したオプションのいずれかに一致TransactionTypes) は削除されます。 | 12/31/2012 |
| transactionTypes | なし | パイプ記号で区切られた、削除されるトランザクション タイプのセット。指定しない場合、次の間に指定されたすべての取引が指定されます。deleteStartDatedeleteEndDate は削除されます。いいえの場合deleteStartDate またはdeleteEndDate が指定されている場合、指定されたタイプのすべてのトランザクションは、日付に関係なく削除されます。 | 発注書 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| allowParallel | あり | オンにした場合True の場合、このインスタンスに対してすでに別の実績またはトランザクションのインポートが処理されていても、インポートが続行されます。オンにした場合false の場合、このインスタンスに対して処理中の実績またはトランザクションのインポートがすでに存在する場合、インポートは失敗します。 | false |
| useMappings | なし | 行要素内で科目、計画、属性値のインポート マッピングを使用するかどうかを指定します。検討済デフォルトでは true。条件false の場合、使用すべき内部識別子: 科目はコードで識別され、組織と属性値は名前で識別されます。 | false |
| includeContext | なし | メッセージにコンテキスト ブロックを含めることができるかどうかを指定します。値のタイプfalse (コンテキストを表示しない) またはtrue (該当する場合はコンテキストを表示)。指定しない場合、真であると想定されます。 | false |
| displayNameEnabled<br>表示名が有効になっているインスタンスの *API v31+* でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=trueは、インスタンスに対して "表示名の有効化" 設定がオンになっている場合、API がペイロードの科目コード、組織コード、属性コード、属性名列を想定する必要があることを示します。<br><br>displayNameEnabled=falseは、インスタンスの "表示名の有効化" 設定がオンになっている場合でも、API は 30 日前の API 契約に従う必要があることを示します。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 | false |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| |
|---|
| rowData element |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| タグ名 | rowData |
| 説明 | インポートするデータの行のコンテナです。 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 正確に 1ヘッダー要素 - 正確に 1 つ行要素 | |

| | |
|---|---|
| ヘッダー要素 | |
| タグ名 | ヘッダー |
| 説明 | 対応するデータの列の名前と順序を指定します行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 縦棒で列名が区切られたテキスト行。これらの列名は、シートの属性もしくはフィールドの名前、あるいはデータを含む月に対応している必要があります。これらは、データのインポート先のシートのインポート テンプレートにある列名と同じで、各列ヘッダーは縦の棒またはパイプの記号で隣の列と区切られます。<br>注： 表示名を有効にするインスタンスの場合、ヘッダーでは次の操作がサポートされません。 "<dimension>" 次の値との組み合わせ "<dimension> Name" または "<dimension> Code" Adaptive Planning でサポートされている口ケールの API v30 以上。 | |

| | |
|---|---|
| 行要素 | |
| タグ名 | 行 |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナ行要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上行要素 | |

| | |
|---|---|
| 行要素 | |
| タグ名 | 行 |
| 説明 | インポート中の単一行のデータ |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| インポートされている単一行のフィールドのデータ。各フィールドの値は、縦棒またはパイプ記号で区切られます。データ フィールドは、ヘッダー要素の行と同じ順序である必要があります。値の数字が千単位の区切り文字を使用している場合、それらはリクエストの認証情報で指定された口ケールで使用されているカンマ区切り文字であると想定されます。 | |

回答フォーマット

これらは、トランザクション データのインポートが成功した場合または失敗した場合の応答の例です。

成功例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="true">
   <messages>
       <message key="row-imported">1 row was imported.</message>
   </messages>
</response>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

失敗 (コンテキストあり)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
   <messages>
       <message key="error-import">Import Failed with the following error:
 No transactions were imported or deleted during the import.</message>
       <message key="import-detail">Additional information:</message>
       <message key="warning-nonexistent-dimension-value">Warning: No data
 was imported for rows with the following dimension values because the
 dimension values for Transaction Type do not exist: Invoice12.</message>
       <message key="invalid-dimension-choice-withCoordinate">
           <context>
               <col header="Posting Date" value="01/02/2011" />
               <col header="Transaction Type" value="Invoice12" />
               <col header="Account" value="70110" />
               <col header="Plan" value="Marketing" />
               <col header="Transaction Amount" value="100.0" />

           </context>
     Invalid Dimension Choice: Invoice12 on row 1 column B

       </message>
     </messages>
</response>
```

失敗 (コンテキストなし)

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<response success="false">
   <messages>
       <message key="error-import">Import Failed with the following error:
 No transactions were imported or deleted during the import.</message>
       <message key="import-detail">Additional information:</message>
       <message key="warning-nonexistent-dimension-value">Warning: No data
 was imported for rows with the following dimension values because the
 dimension values for Transaction Type do not exist: Invoice12.</message>
       <message key="invalid-dimension-choice-withCoordinate">Invalid
 Dimension Choice: Invoice12 on row 1 column B</message>
     </messages>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 両方真またはfalse。API呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一 (任意)メッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 |
|---|

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナメッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上メッセージ要素 | |

メッセージ要素

| | |
|---|---|
| タグ名 | message |
| 説明 | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 |

要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |

エレメントの内容

1. メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。
2. 任意のコンテキスト要素。

コンテキスト要素

| | |
|---|---|
| タグ名 | context |
| 説明 | 1 つ以上の列要素のコンテナです。 |

要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| なし | | | |

エレメントの内容

1 つ以上の列要素

列要素

| | |
|---|---|
| タグ名 | col |
| 説明 | メッセージのコンテキストを示します。ヘッダーと値のペアを指定して、メッセージを生成している行を識別できるようにします。 |

要素の特性

| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
|---|---|---|---|
| ヘッダー | あり | 列のヘッダー。 | "Account" |
| 値 | あり | 列の値。 | "GL-29482-38233" |

エレメントの内容

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| |
|---|
| (なし) |

**eraseActuals**

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの送信 |
| 説明 | 実績バージョンの指定された期間と科目の数値データを消去します。 |
| 起動に必要な権限 | データの消去 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、消去オプション |

この方法は、特定の時間枠における指定された科目のセットのすべての組織について、実績バージョンから数値を消去します。数式 (共有数式、セルの数式、科目の数式など) は消去されません。実績の消去プロセスの結果として空になった科目の分割が削除されます。空の分割とは、データ、数式、セル メモを含まない分割のことです。実績を消去することにより、分割から最後のデータが削除される場合、その分割は削除されます。この API を呼び出す前に空であった場合、分割は変更されません。

リクエストのフォーマット

開始から終了までの期間の数値と新しく空になった分割を、デフォルトの実績バージョンのすべての組織の総勘定元帳から消去するには、次のようにします。

```
 <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="eraseActuals" callerName="a string that identifies your client
 application">
   <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
   <eraseOptions
     accountType="GL"
     start="01/2013"
     end="03/2013"
     includeCellNotes="false" />
</call>
```

指定された開始から終了までの特定の実績バージョンのすべての組織について、単一のキューブ シートから数値とセル メモを消去するには、次のようにします。

```
 <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="eraseActuals" callerName="a string that identifies your client
 application">
   <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
   <eraseOptions
     actualsVersionName="Actuals"
     accountType="CUBE"
     cubeSheetName="Sales Cube"
     start="01/2013"
     end="03/2013"
     includeCellNotes="true" />
</call>
```

| | |
|---|---|
| 認証情報要素 | |
| タグ名 | 認証情報 |
| 説明 | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要がありますcredentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、期間名、日付形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| eraseOptis 要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | eraseOptions | |
| 説明 | | 実績を消去するときに使用するオプションを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| actualsVersionName | なし | 実績バージョンが複数ある場合は必須です。このインスタンスにプランニング製品のみが含まれている場合は、次のようになります。"実績の消去" を実行すると、その唯一の実績バージョンからデータが消去されます。 | 実績 |
| accountType | あり | 科目タイプが総勘定元帳 ("GL")、カスタム ("カスタム") またはキューブ シート ("CUBE") | 総勘定元帳 |
| cubeSheetName | なし | 以下の場合は必須accountType="CUBE"。キューブ シートの名前を指定します。 | 売上キューブ |
| 開始 | あり | 実績の時間範囲の開始期間のコードを指定します。コードは科目の時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>キューブ シートを指定した場合、コードはキューブ シートの時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>GL またはカスタム科目タイプを指定した場合、コードはデフォルトの時間層を参照する必要があります。<br><br>注： API v15+ では、指定する期間が科目の時間層と一致している必要があります。たとえば、科目の時間層が 1 月に開始する "四半期" の場合、2 月を開始として選択することはできません。 | 01/2013 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 終了 | あり | 実績の期間の終了期間のコードを指定します。コードは科目の時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>キューブ シートを指定した場合、コードはキューブ シートの時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>GL またはカスタム科目タイプを指定した場合、コードはデフォルトの時間層を参照する必要があります。<br><br>注： API v15+ では、指定する期間が科目の時間層と一致している必要があります。たとえば、科目の時間層が "1 月" に始まる "四半期" の場合、2 月を終了として選択することはできません。 | 03/2013 |
| includeCellNotes | あり | "に設定した場合true" の場合"実績の消去" は、セルのデータを消去するかどうかに関係なく、選択したバージョン、科目タイプ、期間内のすべてのセル メモを消去します。条件 "false に設定されている場合、セル メモは削除されません。 | 真 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

回答フォーマット

```
 <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
   <messages>
     <message key="erase-actuals-success">Successfully erased actuals
 data.</message>
     <message key="erase-actuals-facts-deleted">4 facts deleted.</message>
     <message key="erase-actuals-notes-deleted">2 notes deleted.</message>
     <message key="erase-actuals-splits-deleted">1 splits deleted.</message>
   </messages>
</response>
```

| | | | |
|---|---|---|---|
| 回答エレメント<br>タグ名 | | response | |
| 要素の特性<br>特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 成功 | あり | 両方真またはfalse。API呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容<br>単一 (任意)メッセージ要素 | | | |

| | |
|---|---|
| メッセージ要素 | |
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナメッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上メッセージ要素 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| メッセージ要素 | | | |
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストの口ケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | error-invalid-timespan-start |
| エレメントの内容<br>メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定された口ケールの言語になります (その口ケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。 | | | |

**eraseData**

API v24 以上でサポートされています。

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの送信 |
| 説明 | 組織と科目に対するオプションのフィルタを使用して、科目の指定された期間の計画または実績のデータを消去します。 |
| 起動に必要な権限 | データの消去 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報、消去オプション |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

特定の時間枠で指定された科目のセットについて、計画または実績のバージョンから数値を消去します。数式 (共有数式、セルの数式、科目の数式など) は消去されません。消去プロセスの結果として空になった科目の分割を削除します。空の分割は、データ、数式、セル メモを含まない分割です。消去の結果、分割から最後のデータが削除された場合、その分割は削除されます。この API は、この API を呼び出す前に空であった場合、分割をそのまま残します。

注： eraseData メソッドは eraseActuals と同じ機能ですが、計画データを消去する機能も含まれ、ターゲットである特定の科目と計画の複合に対する追加制御があります。条件に一致するセル メモも削除されます。

注： "インポート機能の > データの消去" は、 ロック済組織を含め、Adaptive Planning 全体で実績または計画データを消去できるスーパーユーザー権限です。"データの消去" は、アクセス ルールと組織所有権の制限をオーバーライドします。データを削除できるのは、データ入力オーバーライドがある算出科目のみです。

注： この API は、選択された科目の時間層を検証します。

### 合計科目の消去

データの消去 API では、合計科目のデータは消去されません。リクエストに各アカウントを個別に含める。

### 組織の消去

リクエストで親組織を渡すと、eraseData API は親組織のデータのみを消去し、子組織のデータは消去しません。API リクエストには各組織を個別に含める必要があります。

### リクエストのフォーマット

認識されないタグをリクエストが却下した場合。タグでは大文字と小文字を区別しないマッチングが可能です。例: <accounts>、<Accounts>、<ACCOUNTS> は科目要素に使用できます。

### デフォルト実績バージョンのすべての組織の実績を消去

開始から終了までの期間の数値と新しく空になった分割を、デフォルトの実績バージョンのすべての組織の総勘定元帳から消去するには、次のようにします。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="eraseActuals" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"
 instanceCode="MYINSTANCE" locale="en_US"/>
<eraseOptions actualsVersionName="Actuals" accountType="GL" start="01/2013"
 end="03/2013" includeCellNotes="false" />

</call>
```

指定された開始から終了までの特定の実績バージョンのすべての組織について、単一のキューブ シートから数値とセル メモを消去するには、次のようにします。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="eraseActuals" callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
<eraseOptions actualsVersionName="Actuals" accountType="CUBE"
 cubeSheetName="Sales Cube" start="01/2013" end="03/2013"
 includeCellNotes="true" />
</call>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

特定の組織の科目用フィルタを使用した実績データの消去

この例では、実績バージョン内の実績データ ActualsSubVersion2013 カスタム科目 WAT_Input_Custom および WAT_Test_Custom 組織上 QA は削除されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="eraseData" callerName="test caller api name">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"
 instanceCode="MYINSTANCE" locale="en_US" />
<eraseOptions actualsVersionName="ActualsSubVersion2013"
 accountType="CUSTOM" start="01/2010" end="11/2010" includeCellNotes="true">
<filters>
  <Accounts>
    <Account code="WAT_Input_Custom"/>
    <Account code="WAT_Test_Custom"/>
  </Accounts>
  <Levels>
    <Level name="QA"/>
  </Levels>
</filters>
</eraseOptions>
</call>
```

特定のカスタム科目から削除するフィルタを使用した計画データの消去

この例では、計画バージョン内の計画データ clone2013Budget カスタム科目 SUM_TEXT および LAST_NB は削除されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="eraseData callerName="a string that identifies your client
 application">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"
 instanceCode="MYINSTANCE1" locale="en_US"/>
<eraseOptions planVersionName="clone2013budget" accountType="CUSTOM"
 start="01/2010" end="12/2013" includeCellNotes="true">
<filters>
  <Accounts>
    <Account code="SUM_TEXT"/>
    <Account code="LAST_NB"/>
  </Accounts>
</filters>
</eraseOptions>
</call>
```

特定の組織の特定のカスタム科目から削除するフィルタによる計画データの消去

この例では、計画バージョン内の計画データ clone2013Budget カスタム科目 WA_SUM および SUM_SUM 上の組織 Development および Hosting は削除されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="eraseData" callerName="test caller api name">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"
 instanceCode="MYINSTANCE1" locale="en_US"/>
<eraseOptions planVersionName="clone2013Budget" accountType="CUSTOM"
 start="01/2010" end="12/2013" includeCellNotes="true">
<filters>
  <Accounts>
    <Account code="WA_SUM"/>
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
    <Account code="SUM_SUM"/>
  </Accounts>
  <Levels>
    <Level name="Development"/>
    <Level name="Hosting"/>
  </Levels>
</filters>
</eraseOptions>
</call>
```

特定の組織の特定のキューブ科目から削除するフィルタを使用した計画データの消去

この例では、計画バージョン内の計画データ `10YearBudget` キューブ科目 `ExpenseCube.Units` 組織内 `WorldWide Sales` は削除されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<call method="eraseData" callerName="test caller api name">
<credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"
 instanceCode="MYINSTANCE1" locale="en_US" />
<eraseOptions planVersionName="10YearBudget" accountType="CUBE"
 cubeSheetName="Expense Cube" start="01/2010" end="12/2017"
 includeCellNotes="true">
<filters>
  <Accounts>
    <Account code="ExpenseCube.Units" />
  </Accounts>
  <Levels>
    <Level name="WorldWide Sales" />
  </Levels>
</filters>
</eraseOptions>
</call>
```

| 認証情報要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | 認証情報 | |
| 説明 | | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要がありますcredentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、期間名、日付形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容<br>(なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| eraseOptis 要素 | | | |
| タグ名 | | eraseOptions | |
| 説明 | | 実績または計画データを消去する際に使用するオプションを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| actualsVersionName | なし | 実績データを消去する場合は必須です。データを消去する実績バージョンの名前を指定します。<br><br>すべての数式 (共有数式、セルの数式、科目の数式など) は消去されません。 | ActualsSubVersion2013 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| planVersionName | なし | 計画データを消去する場合は必須です。データを消去する計画バージョンの名前を指定します。<br><br>すべての数式 (共有数式、セルの数式、科目の数式など) は消去されません。 | clone2013Budget |
| accountType | あり | 科目タイプが総勘定元帳 ("GL")、カスタム ("カスタム") またはキューブ シート ("CUBE") | 総勘定元帳 |
| cubeSheetName | なし | 以下の場合は必須accountType="CUBE"。キューブ シートの名前を指定します。 | 売上キューブ |
| 開始 | あり | 期間範囲の開始期間のコードを指定します。コードは科目の時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>キューブ シートを指定した場合、コードはキューブ シートの時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>GL またはカスタム科目タイプを指定した場合、コードはデフォルトの時間層を参照する必要があります。<br><br>注 : 指定する期間は、科目の時間層と一致している必要があります。たとえば、科目の時間層が 1 月に開始する "四半期" の場合、2 月を開始として選択することはできません。 | 01/2013 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 終了 | あり | 期間の終了期間のコードを指定します。コードは科目の時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>キューブ シートを指定した場合、コードはキューブ シートの時間層の期間を参照する必要があります。<br><br>GL またはカスタム科目タイプを指定した場合、コードはデフォルトの時間層を参照する必要があります。<br><br>注 : 指定する期間は、科目の時間層と一致している必要があります。たとえば、科目の時間層が "1 月" に始まる "四半期" の場合、2 月を終了として選択することはできません。 | 03/2013 |
| includeCellNotes | あり | "true" に設定されている場合、eraseData は、選択されたバージョン、科目タイプ、期間 (および指定されている場合はフィルタに一致する科目組織の組み合わせ) のすべてのセル メモを消去します。セル"false" の場合、セル メモは削除されません | 真 |
| displayNameEnabled<br><br>表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | なし | displayNameEnabled=true は、eraseData が の表示名プロパティに従う必要があることを示します code インスタンスで "表示名の有効化" がオンの場合。<br><br>displayNameEnabled=false は、インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合でも、eraseData API が v30 前の API 契約に従う必要があることを示します。eraseData API は表示名プロパティを無視します。 code。<br><br>displayNameEnabled のデフォルト値は "false" です。 | True |
| エレメントの内容 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

(なし)

| | | | |
|---|---|---|---|
| フィルタ要素 | | | |
| タグ名 | | フィルタ | |
| 説明 | | データを消去するときに使用する科目と組織のフィルタを指定します。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つの科目要素、1 つの組織要素、または科目要素と組織要素の両方。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | 科目 | |
| 説明 | | eraseData フィルタの 1 つまたは複数の科目要素のコンテナです。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の "科目" 要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | 組織 | |
| 説明 | | eraseData フィルタの 1 つ以上の組織要素のコンテナ | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| エレメントの内容 | | | |
| 1 つ以上の "組織" 要素 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目要素 | | | |
| タグ名 | | Account | |
| 説明 | | 科目コードで指定された、データが消去される科目。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| code | あり | 消去するデータの科目の科目コードを指定します。 | WA_SUM |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組織要素 | | | |
| タグ名 | | Level | |
| 説明 | | 消去される科目データの組織。組織名で指定されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | あり | 消去する科目データの組織名を指定します。 | 全世界営業 |
| code | なし | 組織のコード。 | 全世界営業 |
| 表示名を有効にしたインスタンスの *API v30* 以上でのみ使用できます。 | | インスタンスで "表示名の有効化" がオンになっている場合は必須です。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| エレメントの内容 |
| --- |
| (なし) |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
<messages>
 <message key="erase-actuals-success">Successfully erased actuals data.</
message>
 <message key="erase-actuals-facts-deleted">4 facts deleted.</message>
 <message key="erase-actuals-notes-deleted">2 notes deleted.</message>
 <message key="erase-actuals-splits-deleted">1 splits deleted.</message>
</messages>
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
| --- | --- | --- | --- |
| タグ名 | | response | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | 両方真またはfalse。API呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一 (任意)メッセージ要素 | | | |

| メッセージ要素 | |
| --- | --- |
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナメッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上メッセージ要素 | |

| メッセージ要素 | | | |
| --- | --- | --- | --- |
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストのロケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | error-invalid-timespan-start |
| エレメントの内容<br>メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定されたロケールの言語になります (そのロケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。 | | | |

**recalculateSheet**

API v16 以上でサポート

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの送信 |
| 説明 | "要求に応じて再計算" プロパティを使用してシートを再計算します。 |
| 起動に必要な権限 | シート編集権限 |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

このメソッドのリクエストには、呼び出し元のユーザーを識別し、認証するための認証情報タグが含まれています。再計算するには、ユーザーに "シートの編集権限" 権限が必要です。

リクエストのフォーマット

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<call method="recalculateSheet" callerName="a string that identifies your
 client application">
   <credentials login="sampleuser@company.com" password="my_password"/>
   <version name="Default Structure"/>
   <sheet name="Expense Cube"/>
   <level name="Corporate Plan"/>
</call>
```

- version 要素 - バージョンが指定されていない場合、エラーが発生します。
- シート要素 - シート要素が指定されていない場合、"要求に応じて再計算" オプションを持つすべてのシートは、指定されたバージョンの最上位レベルで再計算されます。この場合、組織は無視されます。
- 組織要素
  - 組織が指定されていない場合、シートは指定されたバージョンの最上位組織で再計算されます。
  - ユーザーが指定された組織へのアクセス権を持っていない場合、エラーが発生します。
  - 組織とその子孫について、シートが特定のバージョンで再計算されます。

| | |
|---|---|
| 認証情報要素<br>タグ名 | 認証情報 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 説明 | | すべての API 呼び出しに単一の値を含める必要があります credentials 要素を使用して、API を呼び出したユーザーを識別する。その後、この API 呼び出しはこのユーザーとして実行されます (システムの監査証跡やアクション履歴は、このユーザーがアクションを実行したことを示します)。そのため、API 呼び出しが成功: | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| ログイン | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのログイン名。このユーザーは、メソッドを呼び出すために必要な権限を持っている必要があります。 | sampleuser@company.com |
| password | あり | API メソッドを呼び出すユーザーのパスワード。 | my_password |
| ロケール | なし | 入力される数値と日付の解釈、および出力する数値と日付の形式設定 (適切な千単位の区切り文字、期間名、日付形式設定を使用) に使用されるロケールを指定します。ロケールは、応答内のシステム メッセージを表示する言語を指定するためにも使用されます。指定しない場合は、en_US (米国英語) が使用されます。 | fr_FR |
| instanceCode | なし | 認証情報で指定されたユーザーが の複数のインスタンスにアクセスできる場合、 Adaptive Planning、この属性は、ユーザーがデフォルトのインスタンス以外のインスタンスにアクセスしようとしていることを指定するのに使用できます。指定しない場合、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。使用可能なインスタンス コードを決定するには、exportInstances API を使用します。 | MYINSTANCE1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| | |
|---|---|
| バージョン要素 | |
| タグ名 | バージョン |
| 説明 | リクエストされたデータの受信に使用するバージョンを示します。呼び出しごとにバージョンを指定する必要があります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 要素の特性 | | | |
|---|---|---|---|
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | なし | バージョンの名前。 | デフォルト構造 |
| ID | なし | バージョンの IDID は、名前が存在しない場合にのみ考慮されます。 | 4 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| シート要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | シート | |
| 説明 | | 名前または ID によってシートが定義されました | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | なし | シートの名前 | 経費キューブ |
| ID | なし | シートの IDID は、名前が存在しない場合にのみ考慮されます。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

| 組織要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | level | |
| 説明 | | 名前または ID により定義された組織 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 名前 | なし | 組織の名前 | 法人プラン |
| ID | なし | 組織の ID。組織は名前が存在しない場合にのみ考慮されます。 | 1 |
| エレメントの内容 | | | |
| (なし) | | | |

回答フォーマット

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response success="true">
</response>
```

| 回答エレメント | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | response | |
| 説明 | | 名前または ID により定義された組織 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| 成功 | あり | "true" または "false"。API 呼び出しが成功したかどうかを示します。呼び出しが成功した場合でも、応答に警告メッセージが含まれる場合があります。 | true |
| エレメントの内容 | | | |
| 単一のオプション メッセージ要素 | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| メッセージ要素 | |
|---|---|
| タグ名 | メッセージ |
| 説明 | 1 つ以上のコンテナ メッセージ要素 |
| 要素の特性 | |
| (なし) | |
| エレメントの内容 | |
| 1 つ以上 メッセージ要素 | |

| メッセージ要素 | | | |
|---|---|---|---|
| タグ名 | | message | |
| 説明 | | システムから呼び出し元に送り返されるメッセージを表します。メッセージは、リクエストが成功しない場合のエラー メッセージ、リクエストが成功した場合の警告メッセージ、成功した場合の確認メッセージに使用されます。 | |
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |
| キー | なし | キーを入力すると、特定のメッセージやメッセージのタイプを識別することができ、クライアント プログラムにおけるエラーの記録と復旧の自動化に役立ちます。メッセージの言語が変わってもキーはリクエストの口ケールの中で変更されません。また、単語の調整や用語の変更によってキーが将来変更される可能性も低いです。 | invalid-attributevalueid |
| エレメントの内容 | | | |
| 1. メッセージのテキスト。このテキストは、リクエストで指定された口ケールの言語になります (その口ケールがサポートされている場合)。テキストには、処理された行数や、エラーの原因となった特定の列や値などの可変情報を含めることもできます。<br>2. 任意のコンテキスト要素。 | | | |

サンプル クライアント **Java** プログラム

以下のサンプル Java プログラムは、"exportAccounts" API メソッドを呼び出します。API メソッド呼び出しの結果が画面に印刷されます。実際のアプリケーションでは、XML データが解析され、基になる科目データが処理されます。

```
import java.net.HttpURLConnection;
import java.net.URL;

public class WebServiceClient {

   /**
    * Make an "exportAccounts" method call.
    */
   public static void main(String[] args) throws Exception {
       String request = "<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>\n" +
                        "<call method=\"exportAccounts\">\n" +
" <credentials login=\"sampleuser@company.com\" password=\"my.pw\"/
 callerName=\"test program\">\n" +
                        "</call>";
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        // Make a URL connection to the Adaptive Planning web service URL
        URL url = new URL("https://api.adaptiveplanning.com/api/v14");
        HttpURLConnection conn = (HttpURLConnection) url.openConnection();

        // Set the content type, the HTTP method, and tell the connection we
 expect output
        conn.setRequestProperty("content-type", "text/xml;charset=UTF-8");
        conn.setRequestMethod("POST");
        conn.setDoOutput(true);

        // Send the request
        writeRequest(conn, request);

        // Read the response
        String response = readResponse(conn);

        // Print it out
         System.out.println(response);
    }

    /**
     * Write the request to the given URLConnection
     */
    private static void writeRequest(HttpURLConnection conn, String request)
 throws Exception {
        conn.getOutputStream().write(request.getBytes("UTF-8"));
    }

    /**
     * Read the response from the given URL Connection
     */
    private static String readResponse(HttpURLConnection conn) throws
 Exception {
        byte[] buffer = new byte[4096];
        StringBuilder sb = new StringBuilder();
        int amt;
        while ((amt = conn.getInputStream().read(buffer)) != -1) {
            String s = new String(buffer, 0, amt, "UTF-8");
            sb.append(s);
        }
        return sb.toString();
    }
}
```

## インテグレーションの FAQ とトラブルシューティング

### タスクが 1 時間ごとよりも頻繁に実行されるようにスケジュールするには、どのようにすればよいですか？

**質問**

1 時間に 1 回より高い頻度でタスクを実行するようにスケジュールするには、どうすればよいですか？

**回答**

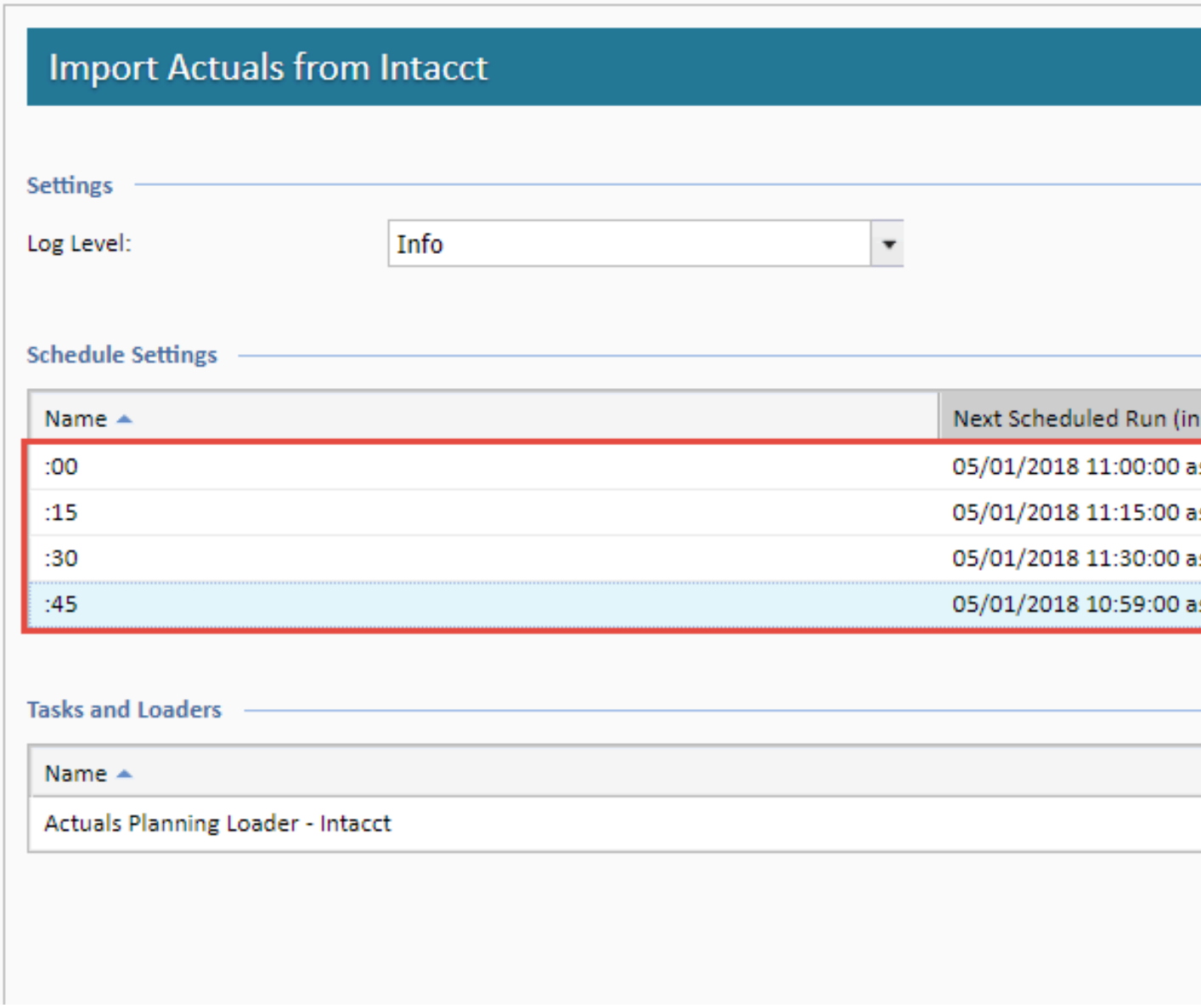
スケジュールされたタスクをまだ設定していない場合は 、タスクの作成 ドキュメントの手順に従って設定を行うことができます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Adaptive Integration のインポート タスクは、毎時、毎日、毎週、または毎月実行するようにスケジュールできます。インポートの頻度を高める方法は、インポートを実行したい頻度によって異なります。

タスクを 1 時間ごとに実行する場合は、時間単位のスケジュールを 1 つ作成すれば十分です。

時間ごとではなく 1 日に複数回実行したい場合は、代わりに複数の日次スケジュールをタスクに追加し、上記のステップを使用して、それぞれの日次スケジュールを異なるタイミングで実行するように設定します。同様に、1 時間に複数回実行するタスクがある場合は、複数の "毎時" タスクを作成できます。たとえば、15 分ごとにタスクを実行する場合、同じ "時間" タスクを 4 つ作成し、それぞれが 15 分間隔で開始するように設定できます。




## インポートおよびエクスポートに関する FAQ

### ロックされたバージョンにインポートできません

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

質問

実績をインポートしていますが、ロック済バージョンにインポートできないというメッセージが表示されました。何も変更していないのに、実績をインポートできなくなっているのはなぜですか？

回答

ユーザーがそのバージョンにデータをインポートできるようにするには、そのバージョンへのアクセス権が明示的に付与される必要があります。そのため、"モデリング" > "バージョン" の実績バージョンの "アクセス設定" を確認すること、および実績をインポートするユーザーに割り当てられているロールを確認することができます。たとえば、"実績" バージョンが "実績" アクセス グループのユーザーに対してのみインポート用にオープンであり、インポート ユーザーに "実績の特権アクセス" ロール権限がない場合、ユーザーは実績をインポートできません。「バージョンのアクセス制御」 を参照してください。

サンドボックスのリフレッシュ後、データ エージェントはプロビジョニングされません

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

最近の移行、クローン、またはリフレッシュ後にデータ エージェントがプロビジョニングしないのはなぜですか？

回答

リフレッシュされたサンドボックスは別のインスタンスのコピーであり、インテグレーション設定が以前にサンドボックスに設定されたものとは異なる場合があるため、サンドボックスに以前にプロビジョニングされたデータ エージェントは、サンドボックスのリフレッシュ後に存在しない場合があります。

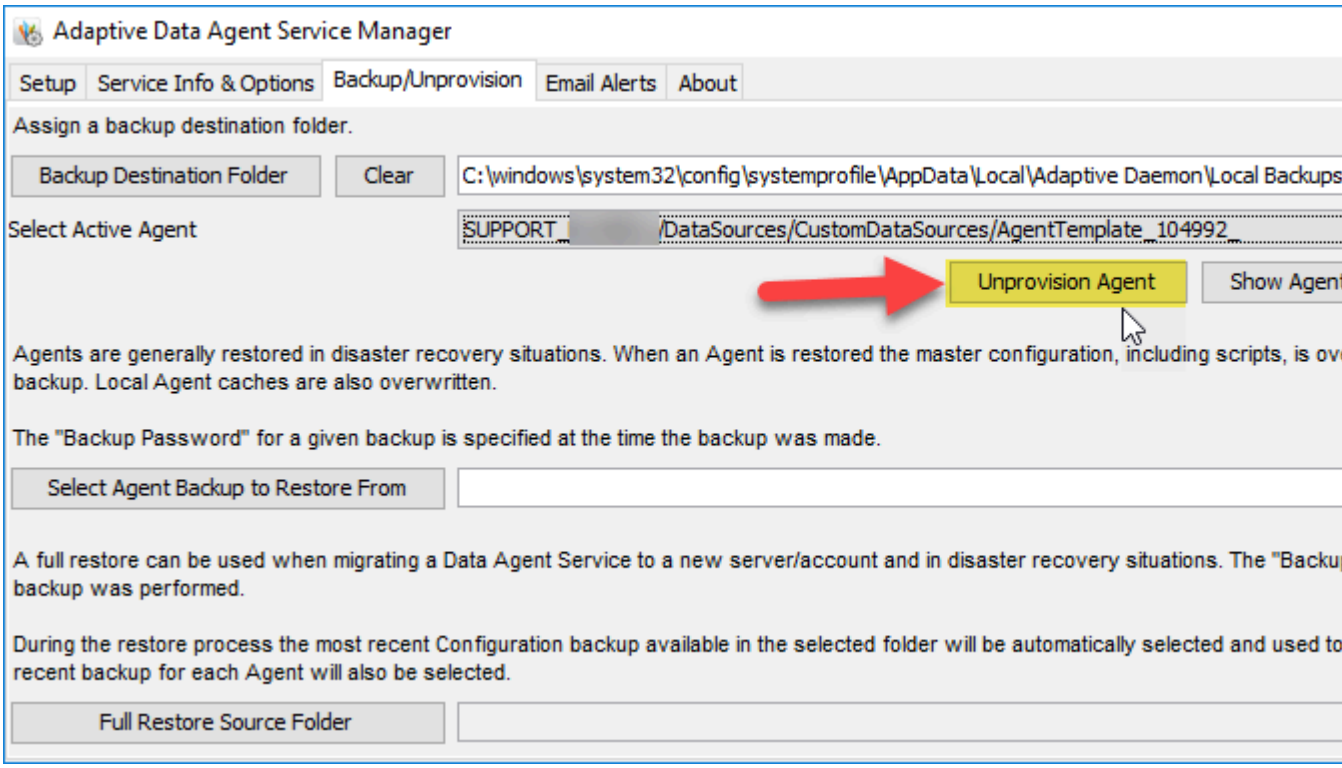
オンプレミス データ エージェント ソフトウェアでは、古いサンドボックス エージェントに関連するローカル設定ファイルは自動的に削除されません。ただし、ユーザーは、古いサンドボックス エージェントと同じ名前と内部 ID を持つ新しいサンドボックス エージェントをプロビジョニングしようとすることはできます。これにより、サーバー上のデータ エージェントが無期限に "プロビジョニング" 状態になる可能性があります。つまり、正常に完了したり、エラーで終了したりすることがありません。

新しいインスタンス (または最近リフレッシュされたインスタンス) に対して新しいエージェントをプロビジョニングするには:

1. データ エージェント マシンにログインし、Adaptive データ エージェント サービス マネージャ (ADASM) プログラムを開きます。
2. "Backup/Unprovision" タブに移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

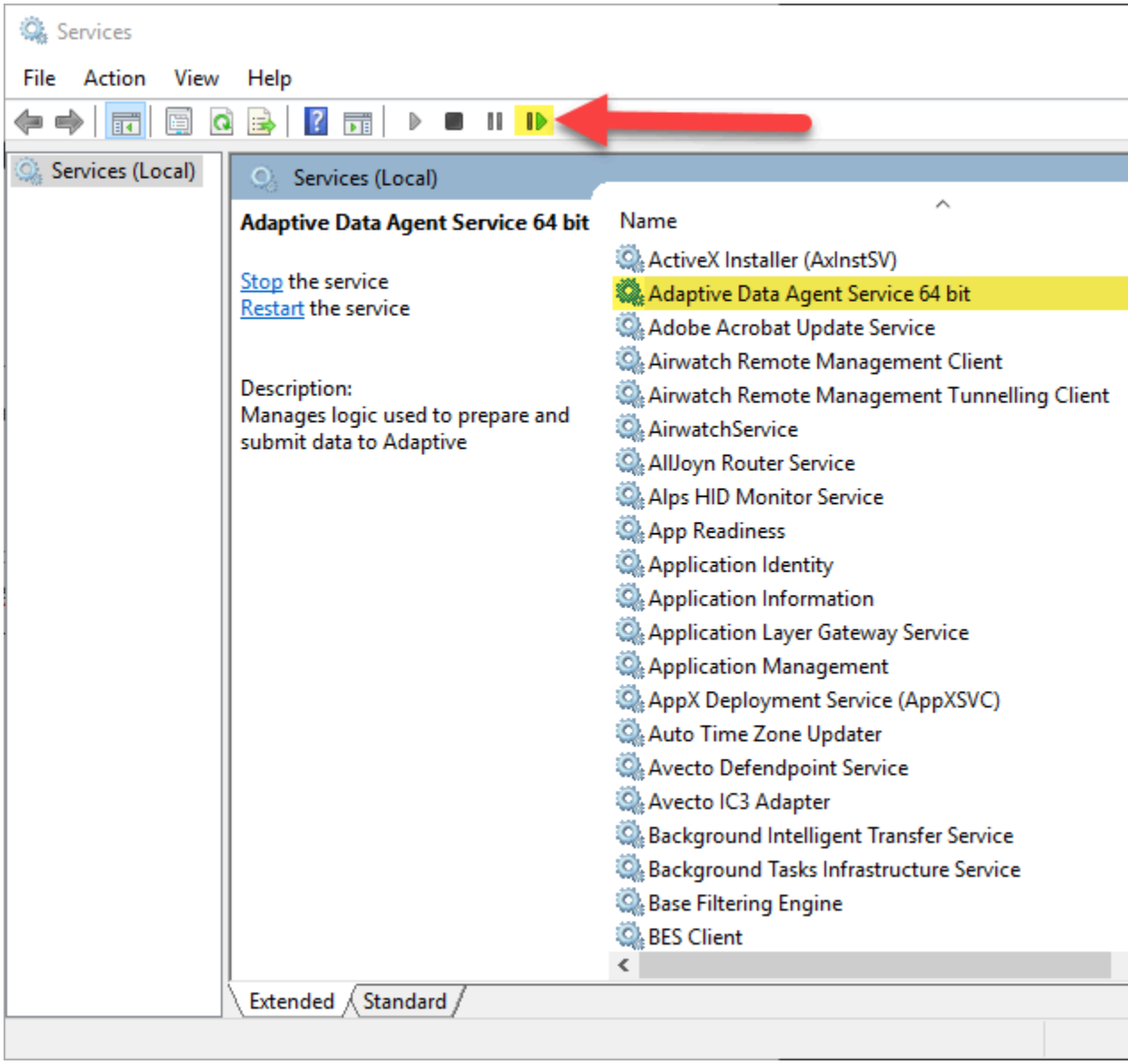
3. "Select Active Agent" ドロップダウン メニューで、サンドボックス インスタンス コードで始まる各エージェントを選択し、"Unprovision Agent" をクリックします。インスタンス コードは、サンドボックスにログインして "管理" > "一般設定" に移動することで確認できます。




4. サンドボックス インスタンス コードを持つすべてのエージェントのプロビジョニングが解除されたら、ADASM を閉じます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

5. "サービス" プログラムを開き、"Adaptive データ エージェント" を右クリックして、"再起動" をクリックします。




6. サービスが再開されたら、ADASM を再度開き、エージェントをプロビジョニングします。参照 データ エージェントの作成（1709ページ）。

重要なのは、サンドボックスがリフレッシュされた後、エージェントをプロビジョニングする前に上記のステップを実行することです。古いエージェントがローカルでプロビジョニングされておらず、サービスが事前に再開されている場合、プロビジョニングは問題なく機能するはずです。

**NetSuite へのエクスポート**

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

データを NetSuite にエクスポートするにはどうすればよいですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答

NetSuite インテグレーション機能が有効で、現在のユーザーに "予算を NetSuite にエクスポート" する権限がある場合は、"エクスポート" 画面で NetSuite 予算エクスポート機能を利用できます。エクスポートでは、NetSuite と CSV ファイルを選択できます。このオプションのいずれかを選ぶと、選択内容に基づいて、画面に表示されている他のセクションが更新されます。出力ターゲットが CSV ファイルの場合、現在の "エクスポート" タブのセクションすべてが "ターゲットを出力" セクションの下に表示されます (詳細については、"エクスポート" タブのヘルプ ページを参照してください)。"ターゲットを出力" が NetSuite に設定されている場合は、現在の "エクスポート" タブのセクションは一切表示されず、その代わりに以下のセクションが表示されます。

- 予算カテゴリ - このセレクターでは、NetSuite で利用できる予算カテゴリがすべて一覧表示されます。
- 会計年度 - このセクションには一連のチェックボックスが含まれており、会計年度ごとに 1 つのボックスがあります。NetSuite と Adaptive Insights の開始月と年は同じです。チェックボックスのラベルは、NetSuite 会計年度のラベルです。チェックボックスは最初はオフになっているため、作業を続けるにはユーザーが少なくとも 1 つのボックスをオンにする必要があります。

NetSuite 予算エクスポート機能には、以下の条件が適用されます。

- データを "NetSuite 予算" にエクスポートする前に NetSuite で "複数の予算カテゴリ" 機能を有効にしておく必要があります。
- データは、現在作業中のバージョンからのみエクスポートされます。これは、画面上で現在選択されているバージョンです。
- データは、総勘定元帳科目からのみエクスポートされます。カスタム科目、前提条件、モデル科目、キューブ科目からはエクスポートできません。NetSuite では、総勘定元帳科目以外の予算には対応していません。
- 選択した会計年度に選択した予算カテゴリで古い NetSuite のすべての NetSuite 予算入力が削除されると、データが Adaptive Insights から NetSuite にエクスポートされ、完全に NetSuite 予算のデータと置き換わります。
- マッピングのエクスポートに "エクスポート中は無視" という印が付いている AP 属性値に関連のあるデータ、またはマッピングされていないデータはエクスポートされません。
- GL データをエクスポートする際、カスタム組織 (旧プラン) の属性は考慮されません。科目によって割り当てられ、分割のある属性値のみが考慮されます。
- 選択された出力ターゲットが NetSuite の場合に "エクスポート" メイン ページで "エクスポート" ボタンをクリックすると、"NetSuite エクスポート カテゴリ マッピング" ページが表示されます ("マッピングのエクスポート" 画面で現在マッピングされていないデータをエクスポートする場合)。エクスポートされるデータがすべて "マッピングのエクスポート" 画面でマッピングされている場合は、"マッピングのエクスポート" 画面は表示されず、すぐにエクスポートが開始されます。
- NetSuite へのエクスポートが完了したら、結果ページが表示され、エクスポートが成功したか失敗したか通知されます。
- Adaptive Insights の属性が子会社にマッピングされていない場合、すべてのデータは NetSuite の「ルート」子会社にエクスポートされます。

エクスポートされる値は、以下のルールに基づいて通貨換算されます。

- Adaptive Insights の組織が属性マッピングとして設定されていない場合、エクスポートされる値はすべて AP の組織構造 (以前のプラン ツリー) での組織合計からのものになります。このため、すべての値はエクスポート前に最上位組織の通貨に換算されます。
- Adaptive Insights の組織がマッピングされており、ターゲット予算カテゴリがグローバル カテゴリではない場合、エクスポートされる値は、その値が存在する組織の通貨でエクスポートされます。NetSuite の当該組織に関連する子会社または他の属性に対して、当該通貨で値がエクスポートされます。ユーザーは、Adaptive Insights の組織が NetSuite で同等の通貨の子会社にマッピングされていることを確認する必要があります。
- Adaptive Insights の組織がマッピングされており、ターゲット予算カテゴリがグローバル カテゴリの場合、エクスポートされる値は各組織で社用通貨に換算され、値がある組織において社用通貨でエクスポートされます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

注: 為替レートは Adaptive Insights から NetSuite にエクスポートされません。換算された数値をロールアップして関連付けられるように、双方のシステムで同等の為替レートを使用する必要があります (特に NetSuite の "予算為替レート" 領域の場合)。

ある会計年度から標準科目データをエクスポートし、別の会計年度にインポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

ある会計年度から標準科目データをエクスポートし、別の会計年度にインポートするにはどうすればよいですか？

回答

データのエクスポート

標準科目データをエクスポートして、エクスポートから組織合計を除外するには、2 つの方法があります。

1. インテグレーションを使用 > エクスポート
    a. "形式" セクションで "Adaptive 科目名" と "科目コード" をオンにします。
    b. フィルタ セクションで、すべてのチェックボックスがオンになっている科目と組織の選択を解除してください。
        - これにより、Excel 形式でエクスポートされたファイルに対して、科目名/コードを持つ合計組織/科目を除外した未カスタマイズのデータが生成されます。

2.マトリクス レポートの作成

1. データをエクスポートするマトリクス レポートを作成するには、レポートの科目、組織、期間、バージョンを選択します。
2. 関連するすべての階層を展開する
3. "レポートのプロパティ" で、レポートのデフォルト値を Excel に設定し、(1) Excel で行ラベルを繰り返す、(2) "ロールアップしない" の 2 つの設定をオンにします。

データのインポート

エクスポートされたデータの形式は同じ期間に設定されることはないため、以下を実行する必要があります。

1. "インテグレーション" > "データのインポート" > "テンプレートのダウンロード" に移動して、テンプレートをダウンロードします。
2. データをインポートする期間の列の更新または追加、あるいはその両方を実行
3. エクスポート ファイルからデータをコピーして、インポート テンプレート ファイルの目的の期間にデータを貼り付け
4. 更新したインポート ファイルを保存
5. "インテグレーション" > "データのインポート" に戻り、インポートする バージョン ("インポートの種類") と ファイル ("ファイルの選択") を選択します。
6. "インポート" をクリックします。

構造の変更を実行できません

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

モデル シートにインポートしたところ、次のエラーが表示されます: 構造の変更を実行できません。このエラーはどのような意味ですか？また、インポート ファイルを修正するにはどうすればよいですか？

回答

このエラー メッセージは、モデル シートのインポートのインポート ファイルに無効な値があると返されます。無効な値を修正するには、Excel ファイルで無効なセルを検索し、適切な値で修正できます。

次のシナリオのファイルを検索します。

1. #N/A や #VALUE などのエラーとして表示される文字列
    - 適切な数式または値を入力して、これらの出現箇所を修正してください
2. =D5/D5 や =356/30 など、十分に評価されていない数式を含むセル。
    - 他のセルへの単純な参照や、評価されなかった単純な数学関数を修正するには、セルをコピーしてから Excel の "値として貼り付け" 機能を使用して数式を再入力します。

これらのステップを完了してもファイルをインポートできない場合は、サポート チケットを開き、問題のファイルを添付してください。

モデル シートへの実績データのインポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

予算バージョンでモデル シートにデータをインポートすることはできますが、実績バージョンにインポートする場合、このモデル シートはオプションではありません。モデル シートに実績をインポートするにはどうすればよいですか？

回答

たとえば、実績バージョンにインポートしようとしたときに従業員シートまたは資本シートが表示されない場合があります。モデル シートの実績バージョンにデータをインポートするには、まずモデル シートを実績バージョンで使用できるようにする必要があります。これを行うには、次の手順を実行します。

1. "モデリング" > "モデル管理" 画面を開き、"シート" を選択します (シートの場所により、"組織割当済" または "ユーザー割当済" のいずれか)
2. モデル シートの横にある "編集" をクリックします (またはモデル シートをクリックします。どちらのリンクからもシート ビルダーが表示されます)
3. "列と組織" オプションをクリックし、上部にある "シートのプロパティ" を選択します。
4. "設定" タブを開く
5. "実績バージョンで利用可能" チェックボックスをオンにする
6. シートを保存します。

シートが実績バージョンで使用可能になると、"データのインポート" 画面の "インポートの種類" として実績が選択されている場合、"シートにインポート" セクションでモデル シートを選択できます。

科目マッピングのインポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

科目マッピングを追加および編集するにはどうすればよいですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

回答

新しい科目マッピングの追加

新しいマッピングを 1 つまたは 2 つだけ追加する場合は、手動でマッピングを作成できます。

1. "インテグレーション" > "インポート科目マッピング"に移動します。
2. "マッピングを追加" をクリックします。
3. "マッピング詳細" ペインで、"インポート科目" 名を入力します。インポート科目名は、ソース システムからの科目の名前です。
4. 次に、マッピングする科目を下のボックスで検索します。選択した科目は "マッピングされた科目" (Adaptive における科目の名前) になります。
5. "適用して保存" をクリックします。

多くの新しい科目マッピングを追加する場合、インポート オプションが最も速くなります。

1. "インテグレーション" > "インポート科目マッピング"に移動します。
2. 右上の "インポート科目マッピング" リンクをクリックします。
3. "テンプレートのダウンロード" の横にある "科目マッピング" のリンクをクリックします。
4. Excel ファイルを開きます。
5. 2 番目のタブに入力します。
    - インポート科目 = ソース システムの科目名
    - マッピングされた科目 = Adaptive に含まれる科目名
6. ファイルを保存して、Adaptive 画面に戻ります。
7. "ファイルのインポート" の横にある "参照" をクリックします。
    - 保存したファイルを選択し、テンプレートをアップロードします。
    - アップロード中にエラーが表示された場合は、"今すぐ表示" リンクをクリックしてください。これにより、訂正のためにレビューされるエラー タブが記載された Excel ファイルが生成されます。
8. 必ず "保存" をオンにしてください。

既存の科目マッピングを編集

1. "インテグレーション" > "インポート科目マッピング"に移動します。
2. 変更する科目をクリックします。
3. 右側のボックスで、スクロールするか検索機能を使用して、マッピングする科目を見つけます。
4. 新しい科目が選択されたら、"適用" をクリックして "保存" をクリックします。

注 : 科目マッピングを更新しても、履歴データには影響しません。代わりに、先に選択されたすべてのインポート データが、新しく選択された科目に送られます。

科目マッピングの削除

1. "インテグレーション" > "インポート科目マッピング"に移動します。
2. 削除するマッピングを見つけます。
3. 左側のボックスで、マッピングをオンにします。科目マッピング行がオレンジ色に変わります。
4. 削除するマッピングをすべて選択してから "保存" をクリックします。

注 : 削除ボックスをクリックするときは十分注意してください。ボックスはオフにできないためです。代わりに、ページから移動してページに戻って最初からやり直す必要があります。これは、多数のマッピングを削除する場合に特に重要です。削除するマッピングが多数ある場合は、それらを一括で削除することを検討してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

**Excel** テンプレートを使用してデータをインポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

**質問:**

Excel テンプレートを使用して Adaptive Planning にデータをインポートするにはどうすればよいですか？

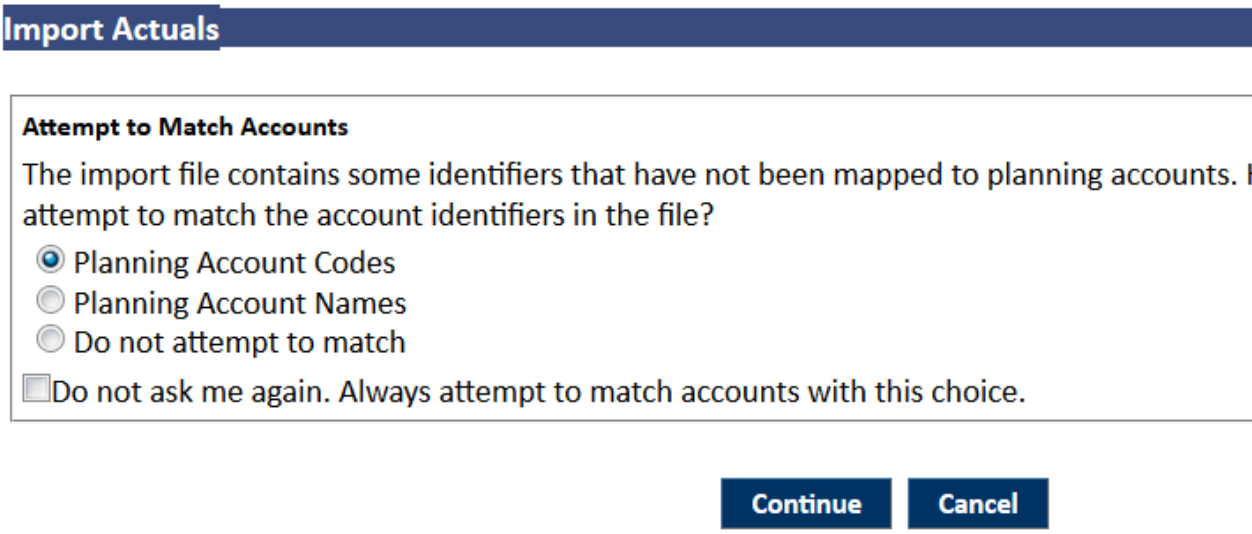
**回答:**

以下の手順を使用して、標準シート、モデル シート、キューブ シートにデータをインポートできます。

1. ナビゲーション メニュー > "インテグレーション" > "データのインポート" に移動します (注: このページにアクセスするには、ユーザーに対して "インポート機能" ロール権限が有効になっている必要があります。)
2. 実績バージョンまたは特定の計画バージョンにインポートするかどうかなど、適切なフィールドに入力します。
    - 標準シートにインポートする場合、"標準" オプションをクリックします。
    - モデル シートまたはキューブ シートにインポートする場合、"標準" の下のオプションを選択し、ドロップダウン メニューから目的のシートを選択します。
3. "テンプレートのダウンロード" をクリックし、ステップ #2 での選択に基づいて特定のシート用にカスタマイズされた Excel ファイルをダウンロードします。
4. テンプレートにデータを挿入します。
    - モデル シートまたはキューブ シートにインポートする場合は、データを追加する前にテンプレートを変更する必要はないため、必須フィールドにデータを入力してからステップ 5 に進むことができます。
    - 標準シートにインポートする場合、目的の値と一致するようにテンプレートを変更する必要がある場合がありますが、これについては 次の記事 で説明されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

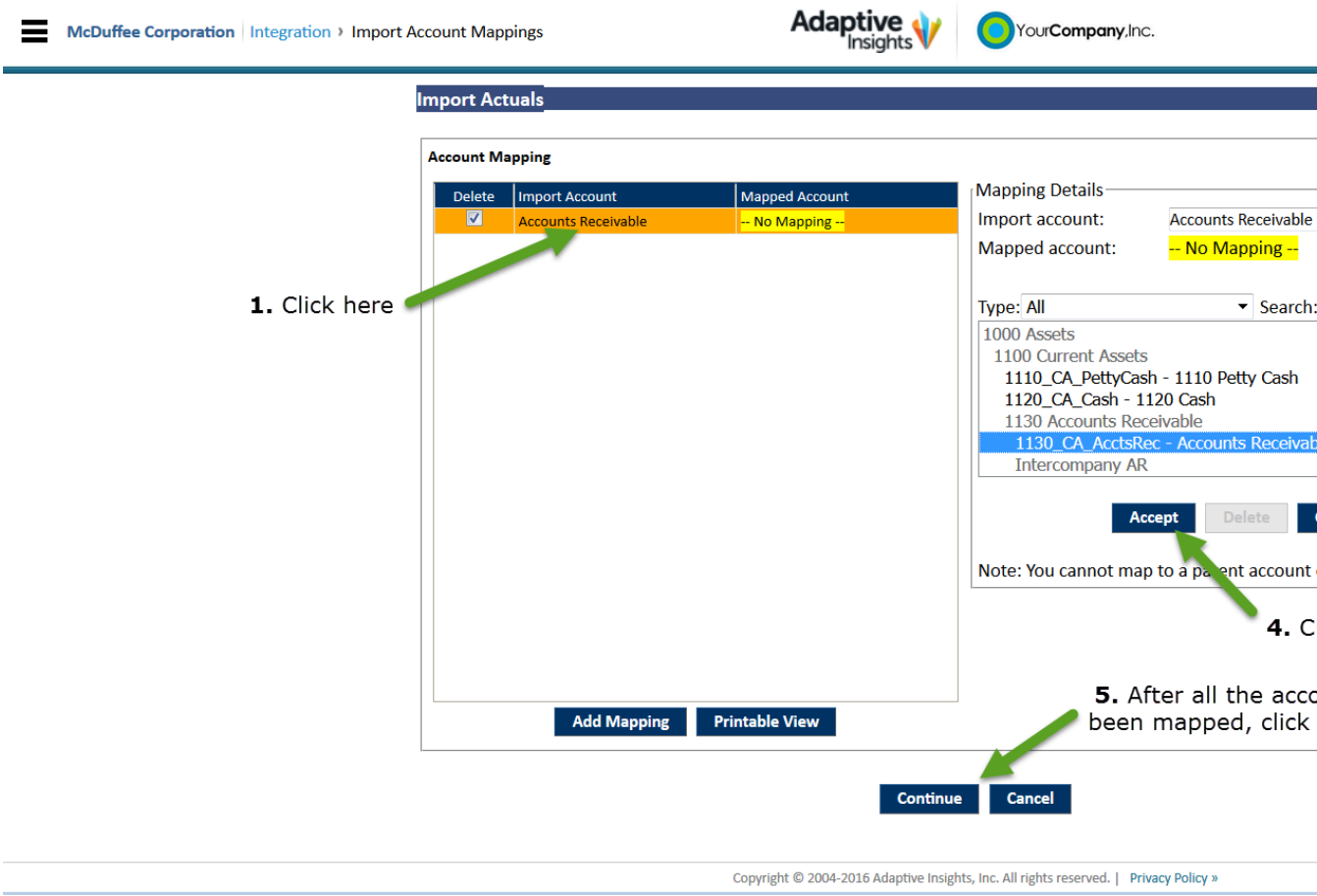
5. "インポート" をクリックします。最初のステップでは、ファイル内の科目と、Adaptive で設定されている科目の照合が試みられます。




システムに既存の科目マッピングがある場合、それらのマッピングに最適なオプションを選択できます。システムに科目マッピングがない場合は、いずれかのオプションを選択して "続行" を選択できます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

6. このページには、科目マッピングを追加および/または変更できるテーブルが表示されます。システムにマッピングを追加するには:




7. 組織および属性値には、科目と同じプロセスをたどるマッピング ページが表示されます。これらのマッピングを確認したら、"インポート" ボタンをクリックしてプロセスを完了します。

為替レートをインポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

"通貨の為替レートを入力" にある為替レート値をインポートするにはどうすればよいですか？

回答

為替レートは、標準科目と同様の方法でインポートできます。

- "インテグレーション" > "データのインポート"で、データをインポートするバージョンを選択できます。
- 次に、一番下にある "テンプレートのダウンロード" を選択します。
- Excel テンプレート ファイルの 2 番目のタブで、"科目" 列に為替レートのペア名を入力します (選択した名前の為替レートへのマッピングを作成するため、任意の形式に設定します)。
    - 組織列は組織の最上位組織/企業組織になります
    - デフォルトの "地域" 列は削除できます
    - "分割ラベル" は空白のままにすることができます
    - これにより、必要な月数のデータを入力できます

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- "データのインポート" 画面で、このテンプレート ファイルをインポートします
- "科目マッピング" から、インポート ファイルの科目名を Adaptive の為替レートと照合できます。
    - 正しいタイプにインポートしていることを確認します (EOM vs 平均など)。
- その後、 "管理" >"通貨の為替レートを入力"からインポートを確認できます。
    - インポートしたバージョンは、必要に応じて右上で変更できます。

インポート履歴

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

"インポート履歴" に "計画" のインポートが表示されないのはなぜですか？

回答

インポート履歴には、計画データのインポートではなく、実績のインポートのみが保存されます。リンクをクリックすると、すべての実績のインポート履歴を表示できます。インポートの権限を持つユーザーは、履歴を削除できることに注意してください。新しい実績のインポートを表示するために古いインポートを削除する必要はありません。

"初期残高" 列にインポート

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

"初期の残高" 列にインポートするにはどうすればよいですか？

回答

前月にインポートする必要があります。たとえば、2012 年のデータをインポートする場合、2011 年 12 月にインポートします。2011 年 12 月は初期残高月です。

データ エージェント間でスクリプトを移動する

質問

ある データ エージェントから別のデータ エージェント にスクリプトを転送するにはどうすればよいですか？

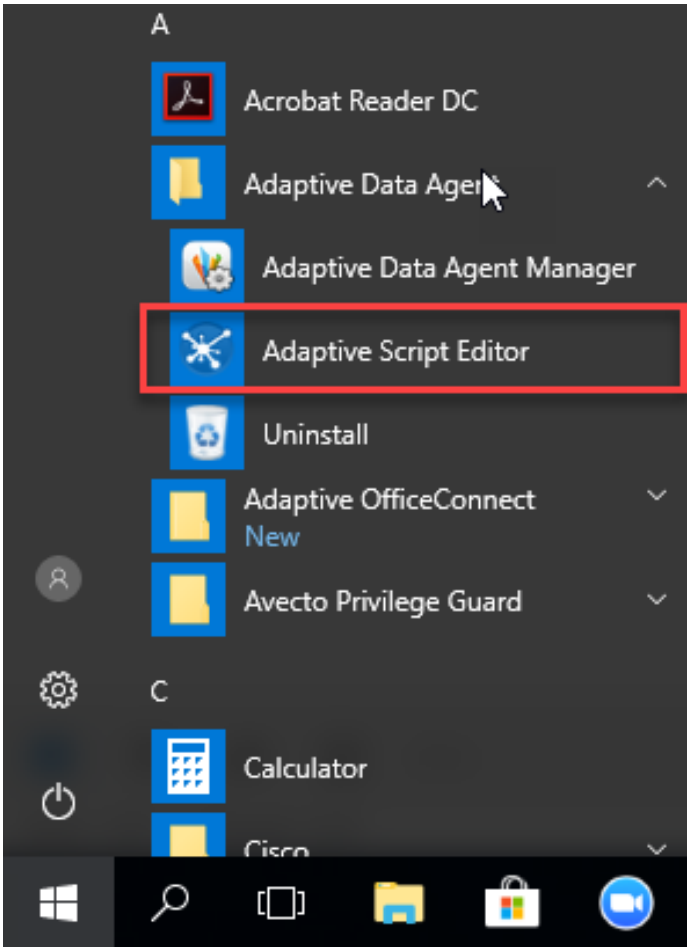
回答

新しいデータ エージェントを作成し、以前のデータ エージェントに関連付けられたスクリプトを、新しく作成されたデータ エージェントに関連付けるために転送したい場合があります。これらのスクリプトは、以下の手順に従って転送できます。

重要： これはかなり高度なプロセスで、Adaptive データ エージェントおよび Adaptive データ エージェント サービス マネージャがインストールされているエージェント サーバーに関する実際的な知識を備えたユーザーのみが実行する必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

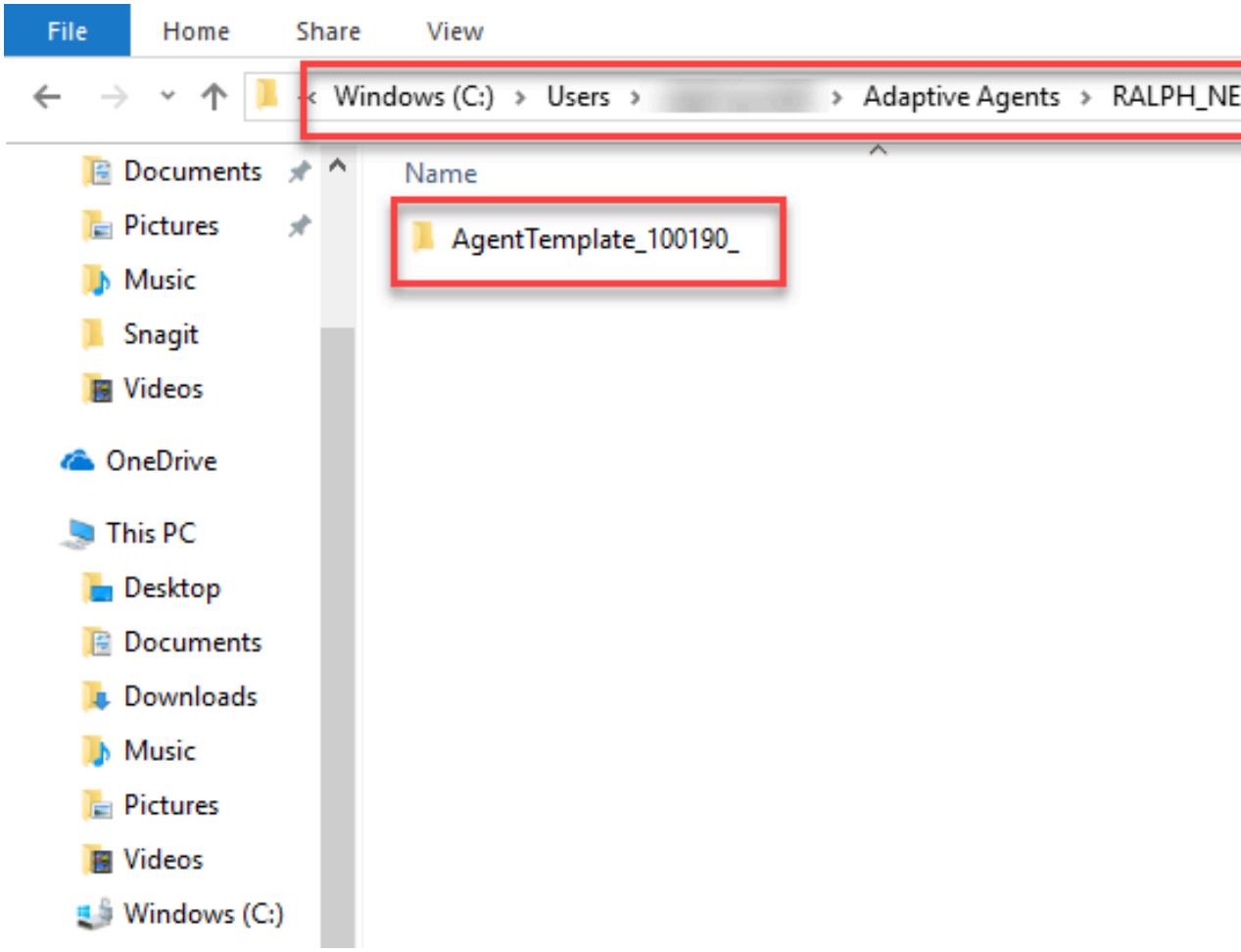
1. Adaptive スクリプト エディタを開く




2. Adaptive 認証情報を入力します。
3. "アクティブなテナント" ドロップダウン メニューから Adaptive インスタンス コードを選択します。
4. "Select Active Agent" メニューから、コピーするスクリプトを含むエージェント ("エージェント 1") を選択します。これにより、このエージェントに保存されているスクリプトがダウンロードされます。
5. "Select Active Agent" メニューから、スクリプトをコピーするエージェント (エージェント 2) を選択します。
6. 移動先 **`C:\Users\<user you are logged in as>\Adaptive Agents\<instance code>\DataSources\CustomDataSources`**
    - この場所に、Adaptive スクリプト エディタからアクセスした Adaptive インスタンス内のすべてのエージェントのフォルダが作成されます。
    - フォルダごとに、「AgentTemplate_Xxxxxxx_」のような名前が付けられます。「Xxxxxxx」はエージェントの内部 ID 番号です。各エージェントに対応するフォルダを確認するには、フォルダ (たとえば、 ***AgentTemplate_Xxxxxxx_*** ) を開き、その中にある Agent.config.xml

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

ファイルを開きます。この XML ファイルには、このエージェントの表示名を表示する *<displayName>* ノードが含まれます。




7. 移動先 **C:\Users*<user you are logged in as>*\Adaptive Agents*<instance code>*\DataSources\CustomDataSources*<Agent 1 ID>*\Repository** をクリックし、このフォルダのスクリプトをコピーします。
8. 移動先 **C:\Users*<user you are logged in as>*\Adaptive Agents*<instance code>*\DataSources\CustomDataSources*<Agent 2 ID>*\Repository** をクリックし、このフォルダにスクリプトを貼り付けます。
9. Adaptive スクリプト エディタで "Publish Agent Changes"をクリックします。
10. Adaptive Insights インスタンスにログインして、 "インテグレーション" > "データ デザイナー" > "データ ソース" を選択します。 スクリプト化されたデータ ソースごとに、 "エージェント" として "<new Agent>" を選択し、データ ソースのエントリ ポイントとして使用するスクリプトを選択します。

**NetSuite - NetSuite から複数の通貨のデータをインポートできますか?**

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

子会社ごとに複数の通貨の統合レポートをインポートする場合、NetSuite のデータを米ドルで Adaptive にインポートできますか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

顧客が次の通貨を使用して計画を立てる: USD、GBP、インド ルピー、カナダ ドル、ユーロ、オーストラリア ドルであるが、基本通貨は米国、GBP、インド ルピーである。これらの組織はデータを部門と場所別に分類します。

回答

次の 2 つのオプションがあります。

1. 子会社レベルで通貨構造を組み込むと、データを任意の通貨として取り込み、為替レートに基づいて USD でプラン レベルにロールアップできます。
2. NetSuite で USD でレポートを実行し、それを Adaptive Insights に手動でインポートします。

外貨でのプランニング - 顧客が NetSuite で多通貨でプランニングしている場合 (NetSuite の OneWorld 多通貨子会社化機能)、Adaptive Planning で子会社レベルでプラン構造を構築する必要があります。集計レベルでデータをインポートしようとすると、インポートされた数値は意味をなしません。クライアントは NetSuite の集計/変換されたレベルでデータを表示できますが、データがインポートされると、NetSuite は変換されていないデータの合計を提供します。

この場合、集計レベルで USD 情報を取り込むように設計されていない NetSuite API を含め、他の回避策はありません。

**NetSuite** インポート カテゴリ マッピング

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

データをインポートできるように、NetSuite カテゴリ マッピングを設定するにはどうすればよいですか？

回答

マッピングを表示する前に、まず "NetSuite カテゴリの設定" ページをチェックして、どの NetSuite アイテムがどの Adaptive 要素に接続されているかを確認します。

- "カテゴリ設定" ページを使用すると、NS と Adaptive の設定方法をより明確に理解できます。
- たとえば、"子会社" と "部門" の両方が Adaptive の ”組織” に接続されている可能性があります。記事の残りの部分では、この例に焦点を当てます。

次に、理解する必要がある 2 つの部分があります。

**NetSuite** インポート カテゴリ マッピング

1. ドロップダウン メニューから要素を選択するオプションがあります。
2. Financial Planning の属性: 組織
    - [例] a) 列は NS と Adaptive の特定のアイテムを示します。
        - 1$^{ST}$ 子 NS
        - $^{第}$ 2 親 NS
        - $^{第}$ 3 Adaptive レベル
    - b)NetSuite 子会社の部門 (1$^{st}$): "子会社" の後に "部門" を表示するようにフォーマットが設定されていることを示します。
        - この書式設定は、子列 (1$^{番目}$) と親列 (2$^{番目}$) に適用されます。
        - 1$^{番目}$: 子会社の子部門
        - 2$^{位}$: 子会社の親部門の親

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ファイルをインポート

1. FromNetSuite.xlsx ファイルは 、"インテグレーション" > "インポート履歴"から取得できます。
2. "組織" 列を表示するときのフォーマットは次のようになります。
    - 子会社の親: 子会社の子部門の親: 子部門
    - インポート ファイルは、NS 要素が子/子や親/親ではなく、グループ化されているという点でマッピング画面とは異なります。

ファイルとマッピングを理解したら、Adaptive でファイルがどの組織を指しているかを比較できます。

必須パラメータが設定されていません

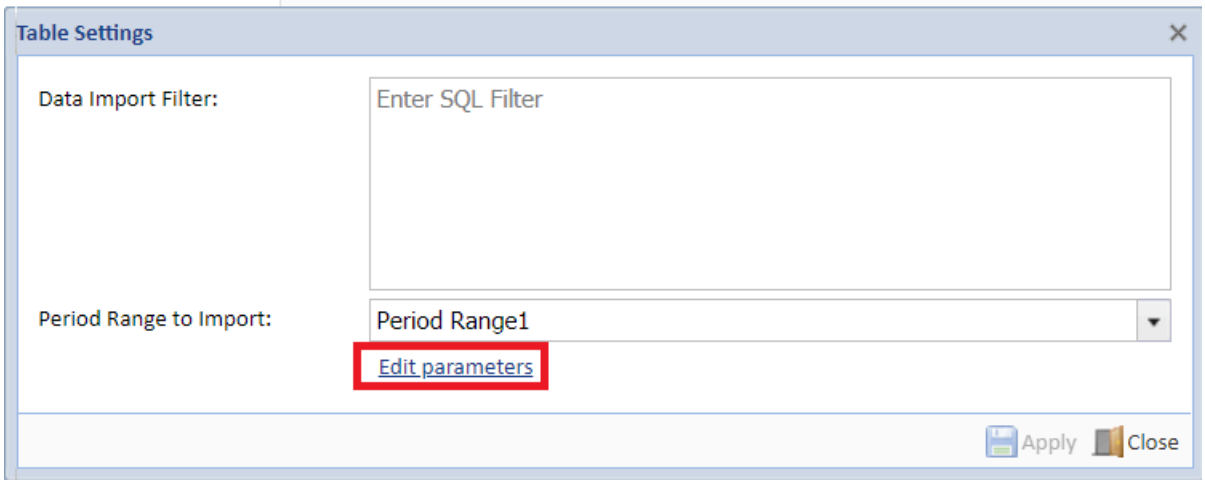
この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

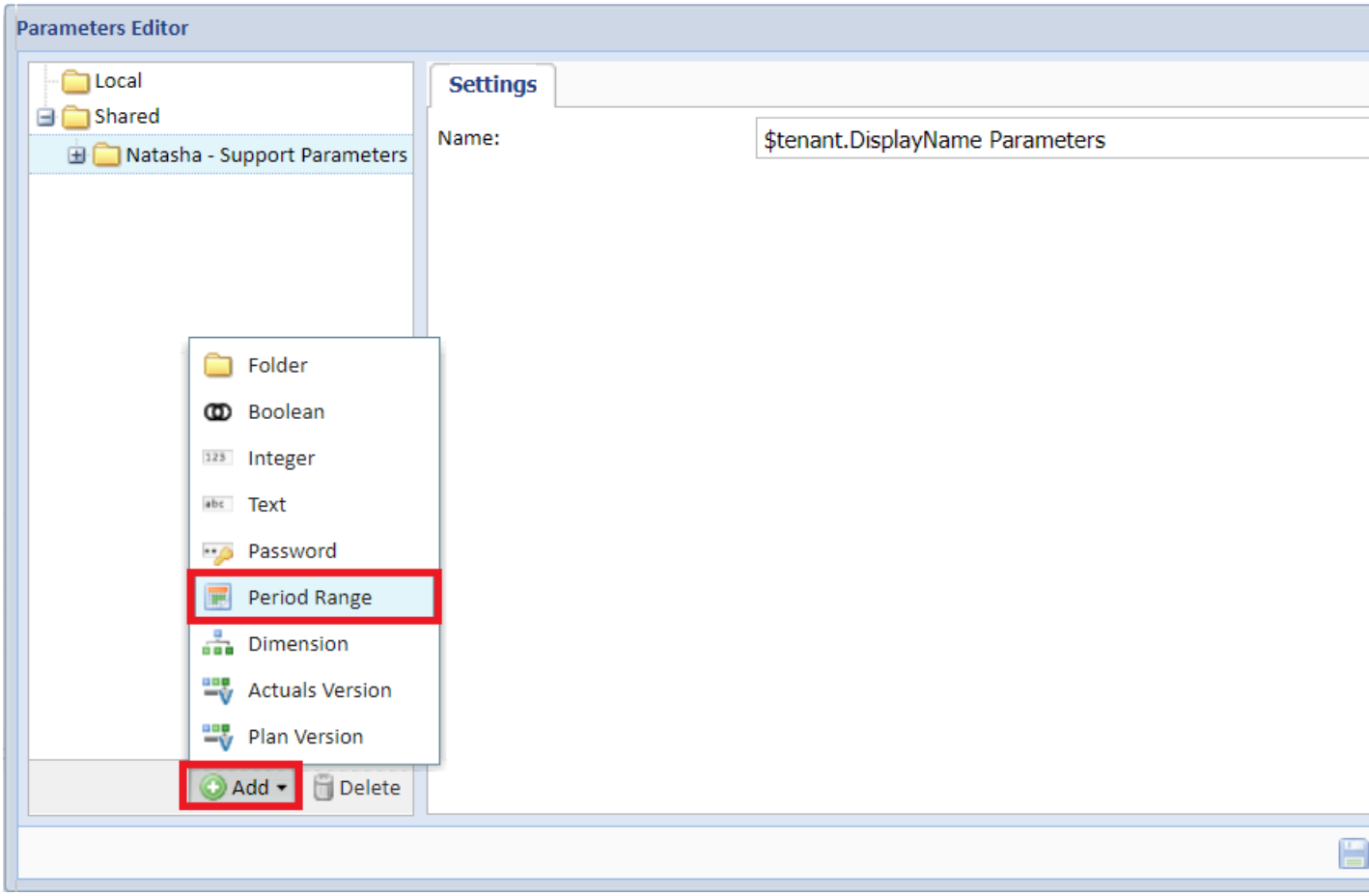
データのインポート時に "必須パラメータが設定されていません" というメッセージはどのような意味ですか？

回答

このメッセージは、データ ソースで必要なパラメータのいずれかが設定されていない場合に表示されます。ほとんどの場合、このメッセージは期間パラメータに関するものです。"期間パラメータ" は、データをインポートする必要がある期間を識別します。パラメータを追加するには、データ ソース内でエラーの出ているテーブルに移動し、"テーブル設定" を選択します。すると、"パラメータを編集" オプションが表示されます。ここでは、時間パラメータまたはその他の必要なパラメータを作成できます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved




予約文字

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

科目名、組織名、属性名に使用できない文字はありますか？

回答

パイプ文字 (縦線記号 |) は の予約文字であるため、要素名またはメモ/ノート フィールドでは使用しないでください Adaptive Planning データを区切り文字として機能する API です。パイプ文字は Integration for Planning ツールでサポートされていません。要素名またはソース データにパイプ文字が含まれると、列の区切りが正しくなくなり、値が間違った列に転記される可能性があります。

注： にインポートするソース システムのフィールドでのパイプ文字の使用を完全に回避する/削除することをお勧めします。 Adaptive Planning。

また、データ ソースで SQL 列を作成して、ステージング テーブルからパイプ文字を削除することもできます。以下の SQL 式の例を参照してください。

```
REPLACE('|' WITH '' IN "ExampleField")
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

マッピングがないタスクとローダを実行する

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

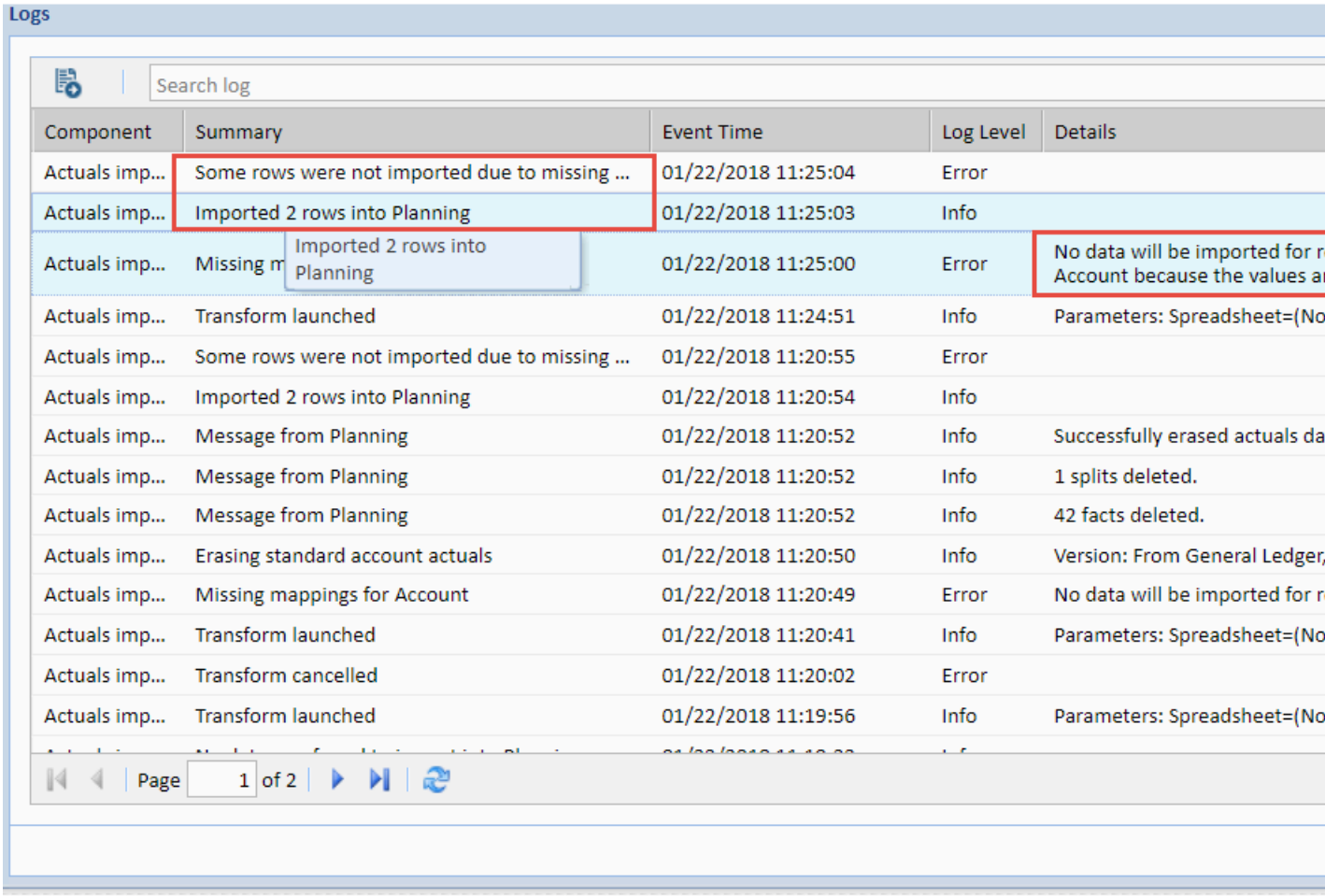
質問

ローダを介してデータを直接実行すると、データがインポートされるのに、マッピングがないこと、データをインポートしていないことによって、タスクが失敗することがあります。それはなぜですか？

回答

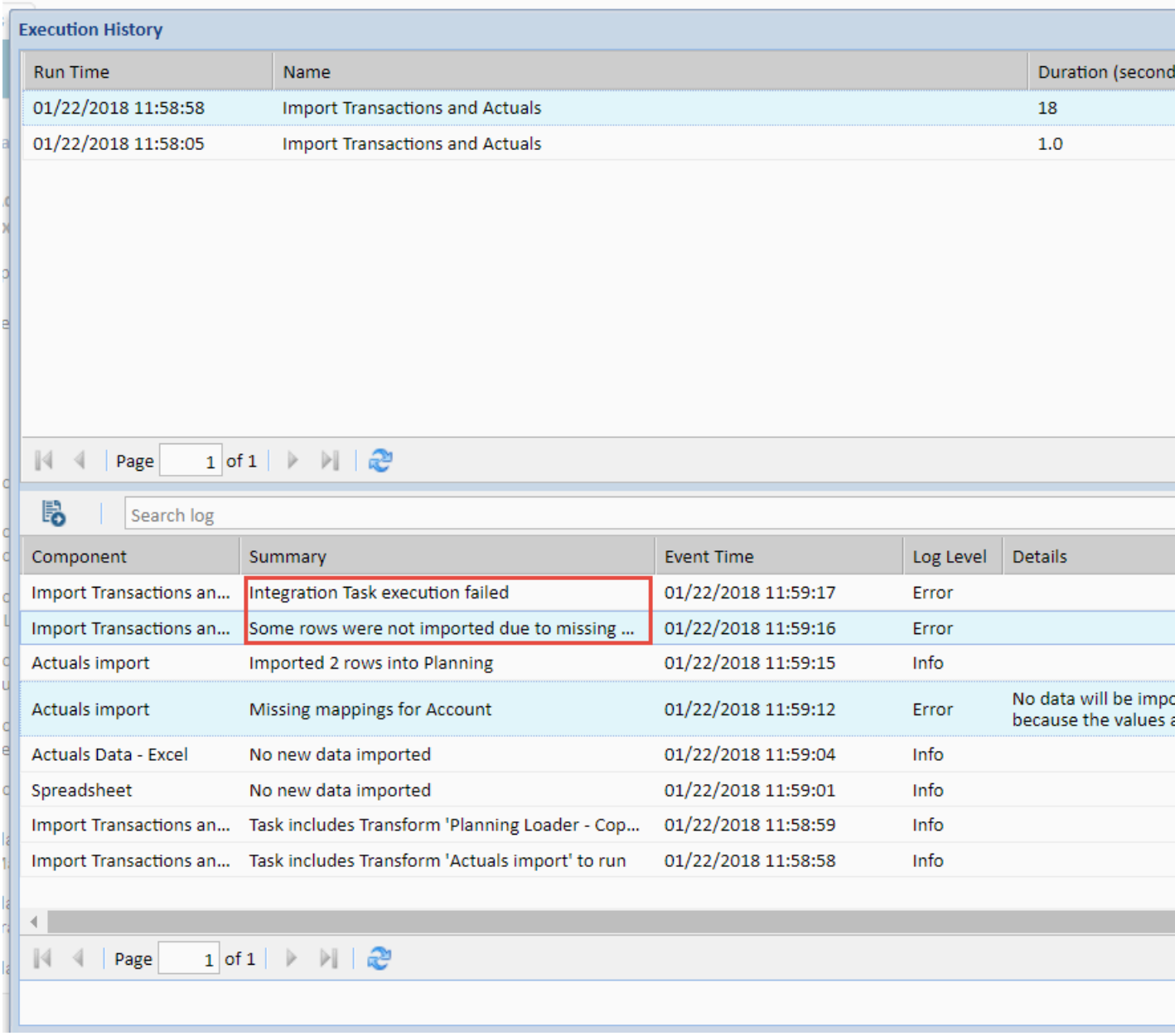
タスクには複数のローダを含めることができます。タスク内でローダが失敗すると、不完全なデータや競合するデータをロードしたくないため、同じタスク内で後続のローダは処理されません。マッピングがないために、以前のローダが失敗した可能性があります。マッピングの欠如に関する詳細は、以下で確認できます。

ローダを手動で実行するときに、組織または科目のマッピングが不足している場合、マッピングされたデータがインポートされ、不足しているマッピングを示すエラーがログに表示されます。これは、すべての標準科目のインポートとキューブ シートのインポートに当てはまります。モデル シートのインポートは、科目マッピングがなくても成功し、組織マッピングがなくても失敗します。



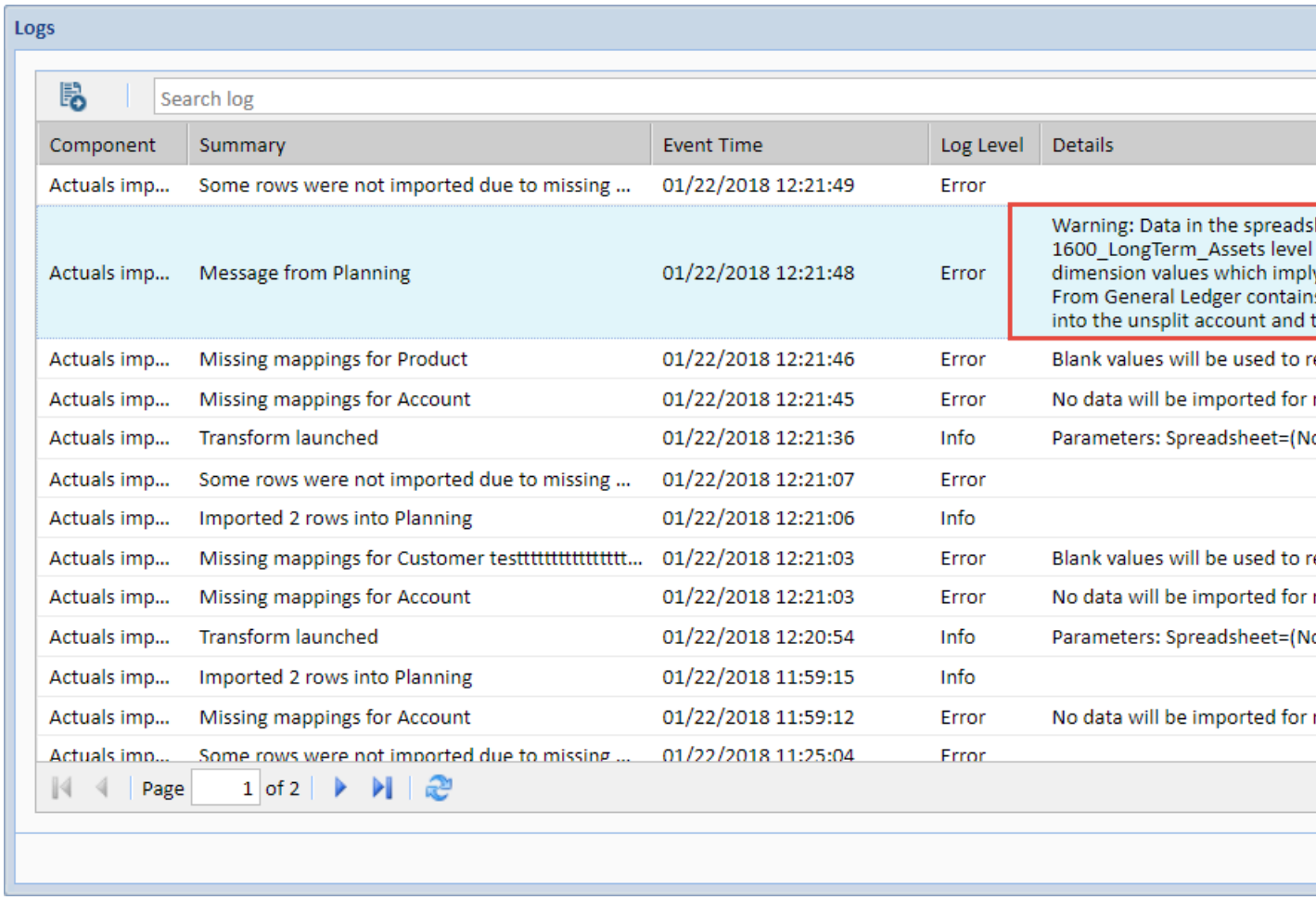

タスクが実行されると、成功または失敗のマークが付けられます。科目または組織マッピングがないためにタスクが失敗する場合がありますが、タスク内で実行されたローダ用にはマッピングされたデータが引き続きインポートされます。タスクに複数のローダがある場合は、タスク ログを確認して実行されたローダを特定し、エラーを確認できます。ローダと同様に、タスクはインポートのタイプに応じて成功または失敗します。キューブと標準は同じように機能しますが、モデルのインポートに科目は必要ありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




タスクまたはローダに属性マッピングがない場合、属性値は不要で、データは科目と組織の組み合わせに引き続きインポートできるため、成功として分類されます。マッピングが欠落していると表示されてタスクが正常に完了するのは、これが理由である可能性があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential



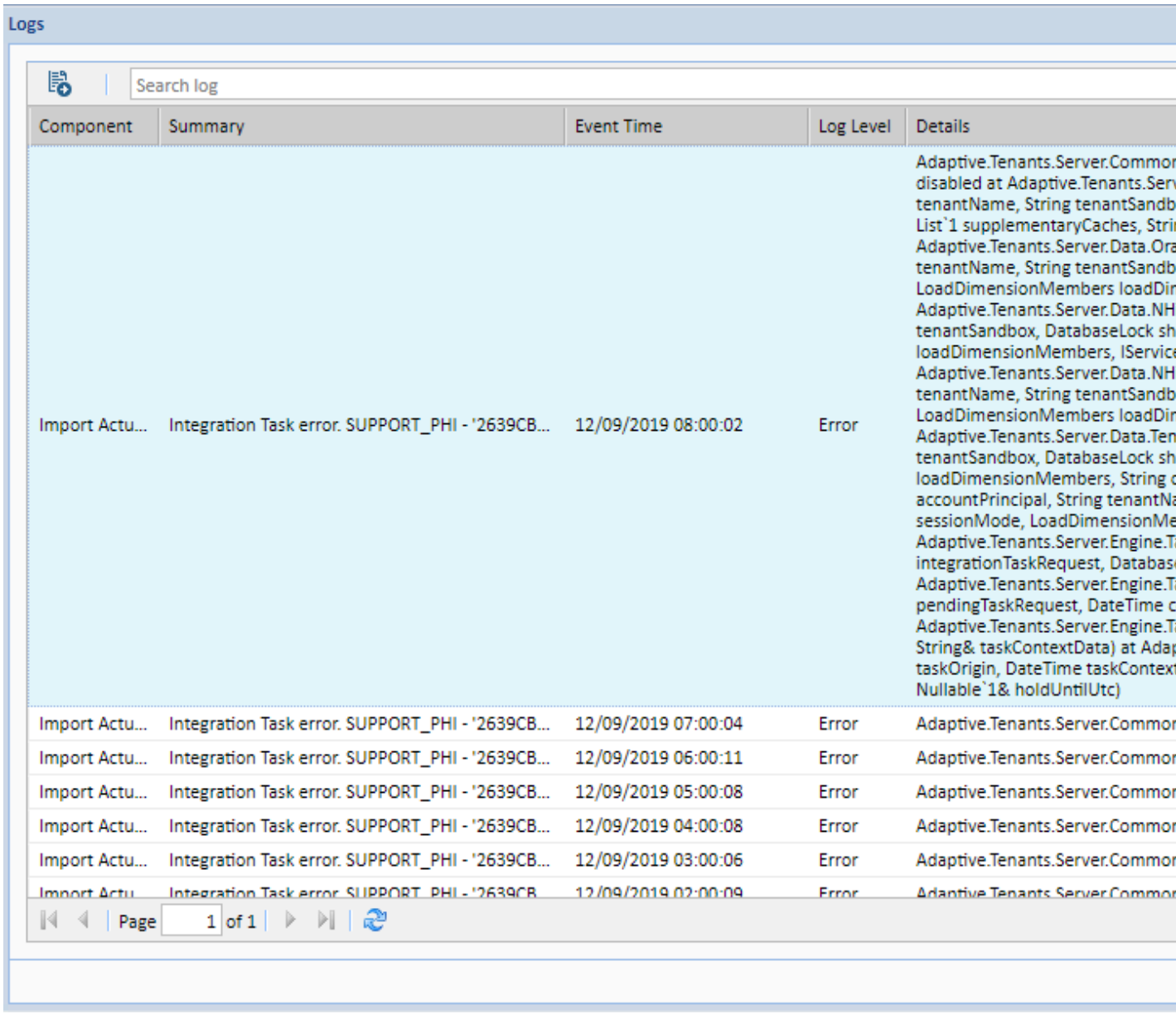

スケジュールされたインテグレーション タスクはエラーで失敗するが、手動で実行すると正常に完了する

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

インテグレーション タスクが自動で実行されると、このタスクでエラーが表示されます。タスクは手動で実行してもエラーはありませんが、スケジュールを介して自動的に実行されると エラーが発生します。このエラーを解決して、不一致なしにタスクを一晩実行するにはどうすればよいですか？

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




回答

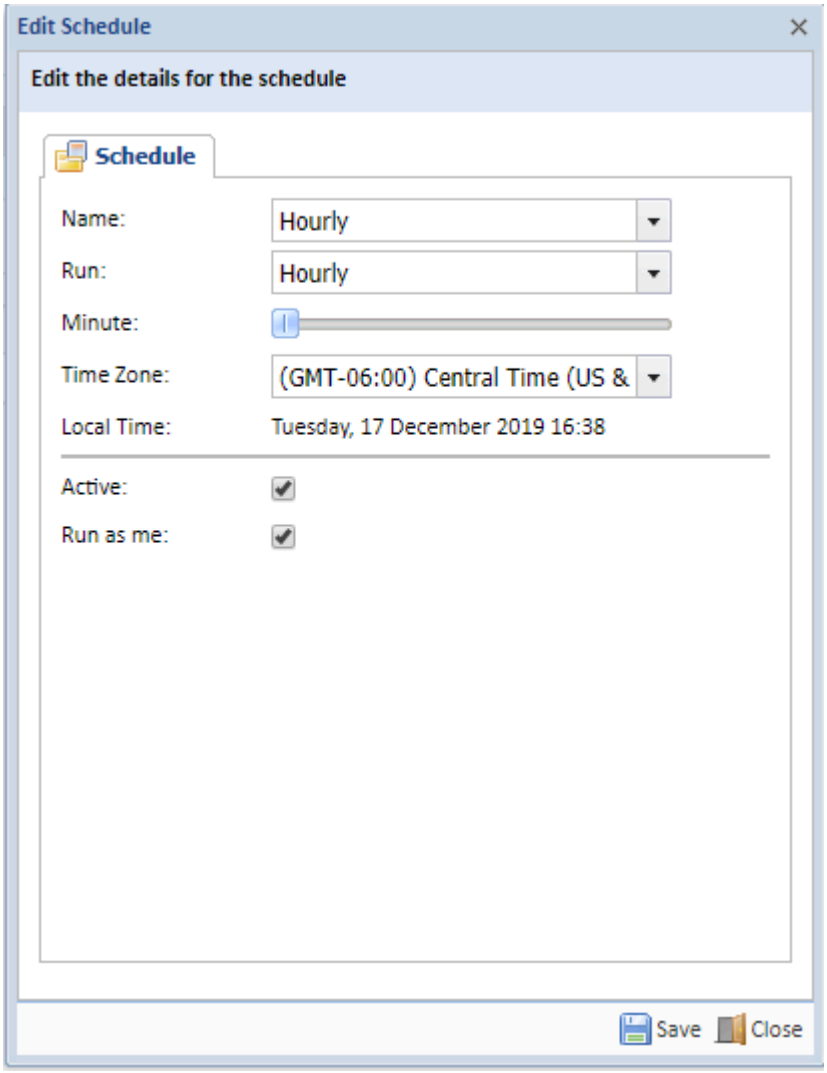
このエラーは通常、最初にタスクを実行するように設定されていたユーザーがインスタンスに存在しなくなったときに発生します。

このエラーを解決するには、以下の手順で、タスクを「自動的に」実行するユーザーを更新してください。

1. "インテグレーション" > "インテグレーション設定" > "タスク" に移動し、更新するタスクを選択します。
2. "スケジュール設定" で、"次回スケジュールされている実行" の下のドロップダウンを選択し、設定を選択します。
3. "スケジュールの編集" メニューで、"アクティブ" をオフにし、スケジュールとタスクの "保存" を クリックします。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

4. タスクのスケジュール設定に戻り、"アクティブ" および "自分として実行" を選択します。




5. スケジュールとタスクの "保存" をクリックします。

**NetSuite** バンドルに対応した **NetSuite** と **Adaptive Insights** 間のインテグレーションの設定

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

**NetSuite** バンドルに対応する**NetSuite** インスタンスと **Adaptive Insights** 間のインテグレーションを設定します 。

注： NetSuite インテグレーション ガイドにアクセスするには、ここをクリックしてください

1. 認証情報を使って Adaptive Insights インスタンスにログインします。
2. "インテグレーション" > "NetSuite セットアップ"に移動します。このページに入力して "保存" をクリックします。
3. "管理" > "ユーザーを編集" に移動して、ユーザー名を選択します。この画面の Adaptive Insights ログインの下に、NetSuite ログイン E メールの入力を求める別のフィールドが表示されます。これは、NetSuite ログイン情報と完全に一致している必要があります。NS ログイン情報を入力し、"送信" をクリックします。

- "NetSuite ログイン E メール" フィールドには、AP ログイン E メールが事前に入力されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- "NetSuite ログイン E メール" フィールドが表示されない場合、AP インスタンスは NetSuite Financial Planning に対して有効になっていません。この場合は、NetSuite アカウント マネージャにお問い合わせください。
- NetSuite Financial Planning へのアクセスを必要とするすべての NetSuite ユーザーに対して、このステップを繰り返します。

ソース テーブルはスプレッドシートのデータ ソースに属している必要があり、カスタム テーブルは指定できません

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

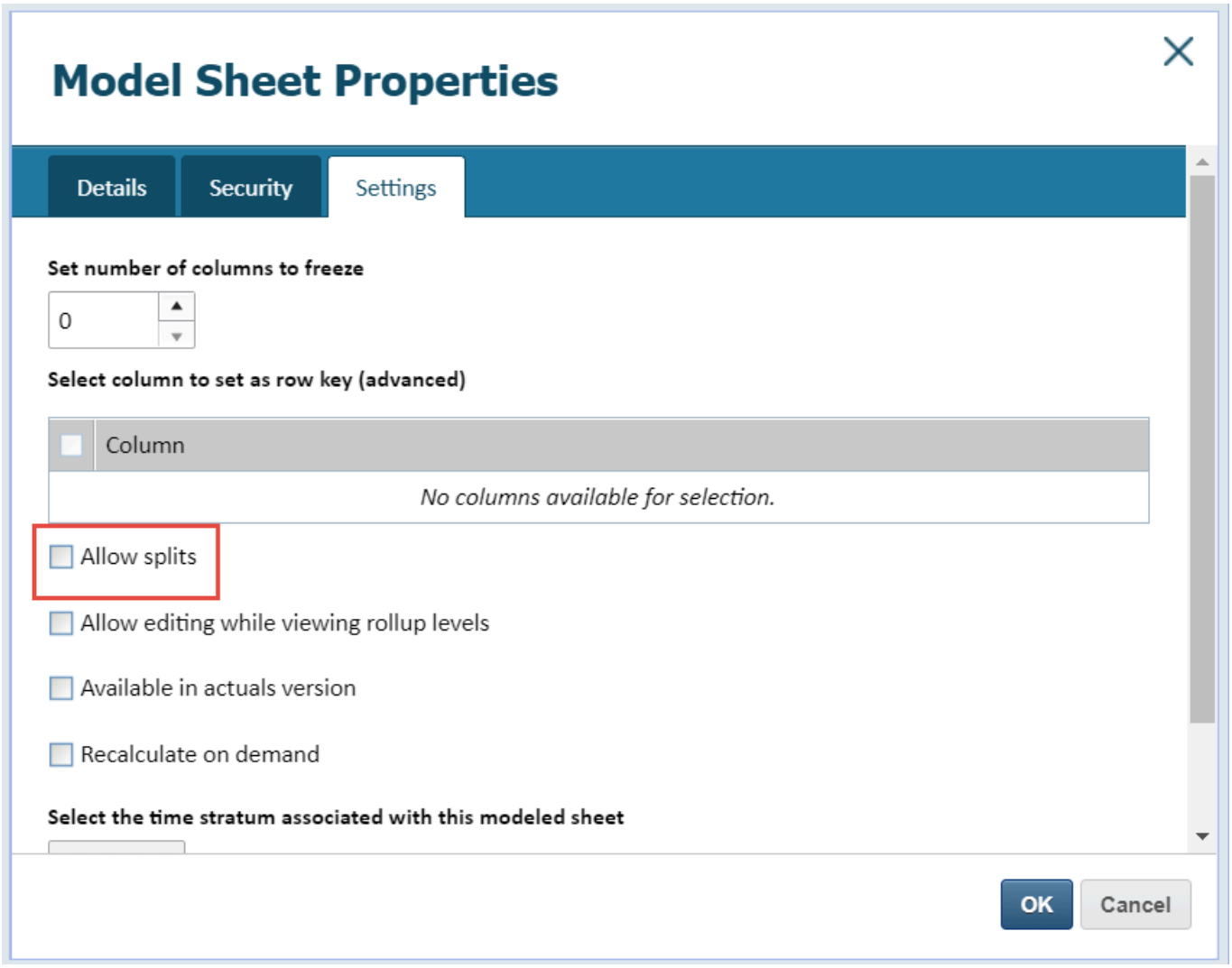
質問

ローダを保存しようとすると "ソース テーブルはスプレッドシートのデータ ソースに属している必要があり、カスタム テーブルにすることはできません" というメッセージが表示されるのはなぜですか？

回答

このメッセージは、分割を含むモデル シートにインポートすると表示されます。分割がある場合、データ ソースはスプレッドシート データ ソースである必要があります。モデル シートに分割は不要で、カスタム テーブルまたは非スプレッドシート データ ソースとともにデータをロードしたい場合。"モデリング" からシートに移動し、"シート プロパティ" を選択して分割を削除できます。 "分割を許可" をオフにする。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




別のオプションとして、スプレッドシート データ ソースを作成してデータをアップロードすることもできます。こうすることで、モデル シートで分割を維持できます。

インポート時の分割動作

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

分割が含まれている場合、インポートはどのように機能しますか？分割されたファイルをインポートしようとすると、エラー メッセージが表示されます。このエラーの原因は何ですか？

回答

1. インポートして いる 科目/組織/バージョンの 組み合わせに データが含まれていない 場合 (科目がすべての期間で空白の場合)、インポート テンプレート内の分割はすべて 自動的に作成されます。
2. インポート 先の 科目/組織/バージョンの 組み合わせに (バージョンの任意の期間の) データが含まれている 場合、次のとおりです。
    - 1 つの分割を特定の科目/組織/バージョンの組み合わせにインポートする場合、警告メッセージが表示され、データは分割されていない科目に配置されます。新しい分割を作成したい場合/データを属性とタグ付けしたい場合は、シートのその位置に移動し、手動で 1 つの分割を

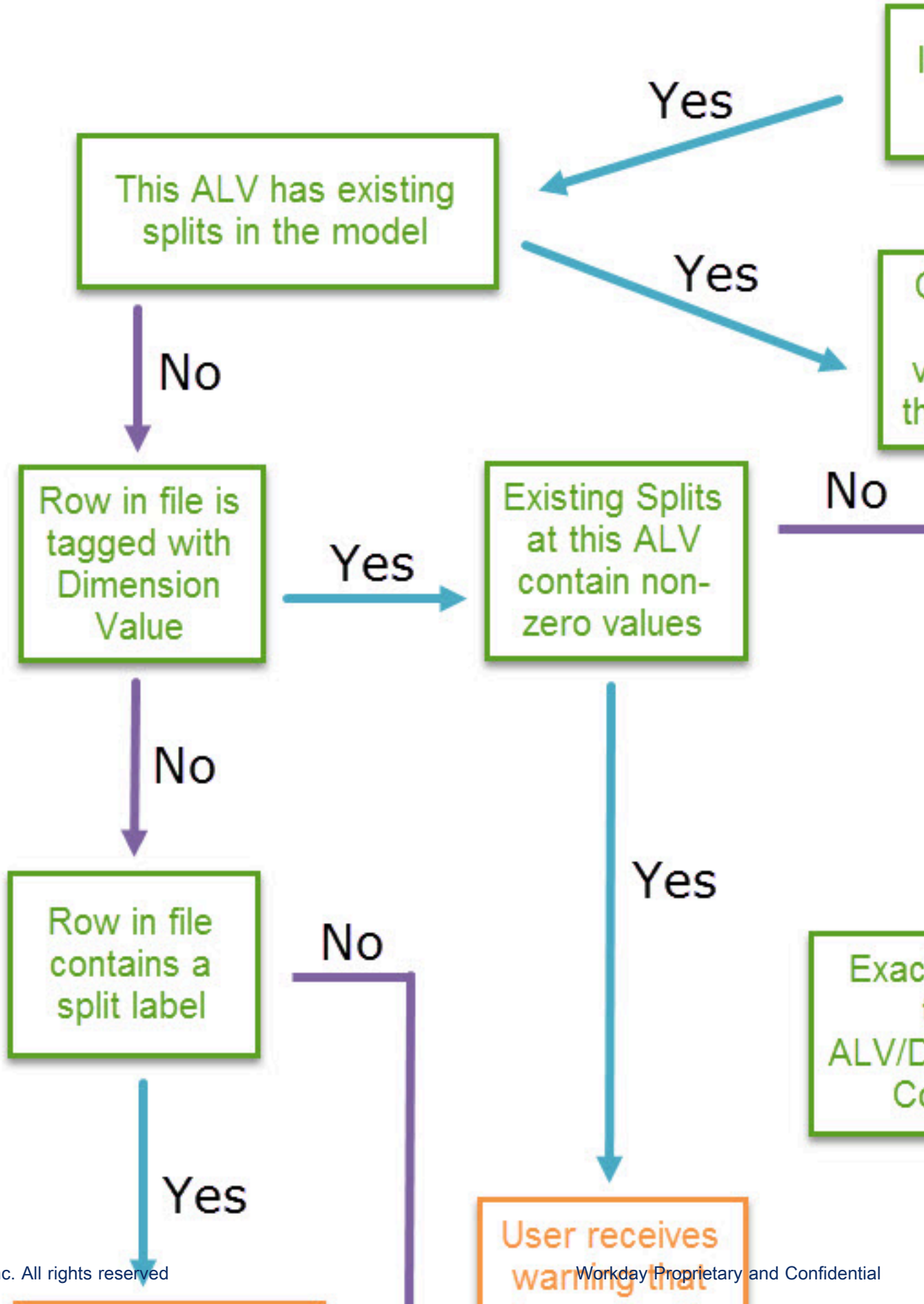
©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

追加する必要があります。これを行う必要がある理由は、メイン科目のデータをどの分割に配置し、どのようにラベル付けするかを指定する必要があるためです。

- 特定の科目/組織/バージョンの組み合わせに複数の分割をインポートする場合、エラー メッセージが表示され、シートに最初の分割を手動で作成する必要があります。
- 警告メッセージは、データがまだインポートされていることを意味します。エラー メッセージが表示された場合、データはインポートされていません。"エラー" が 1 つ存在すると、"エラー" を含む行だけでなく、全体のファイルのアップロードが失敗します。

3. 空白の分割ラベル を含む インポートは 、システムで すでに分割を含む科目に対して新しい分割を作成します。システムは、特定の組織/科目の組み合わせに関連付けられたすべての空白分割ラベルをマッチングして整合させることはありません。
4. 属性でタグ付けされ た入力と、関連付けられた属性または分割ラベルを持たない入力をインポートする場合、システムは関連付けられた属性または分割ラベルを持たない値をインポートし ません 。このシナリオでは、「_」という名前の属性値を作成し、インポートする空白のエントリをすべて下線に関連付けることをお勧めします。
5. "実績の消去" を実行すると、分割が消去されます。実績を消去するプロセスによって分割が空になった場合です。空の分割とは、値やセル メモがない分割のことです。すでに空になっている分割には影響しません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential




©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

サポートされているデータ ソースのインテグレーション

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

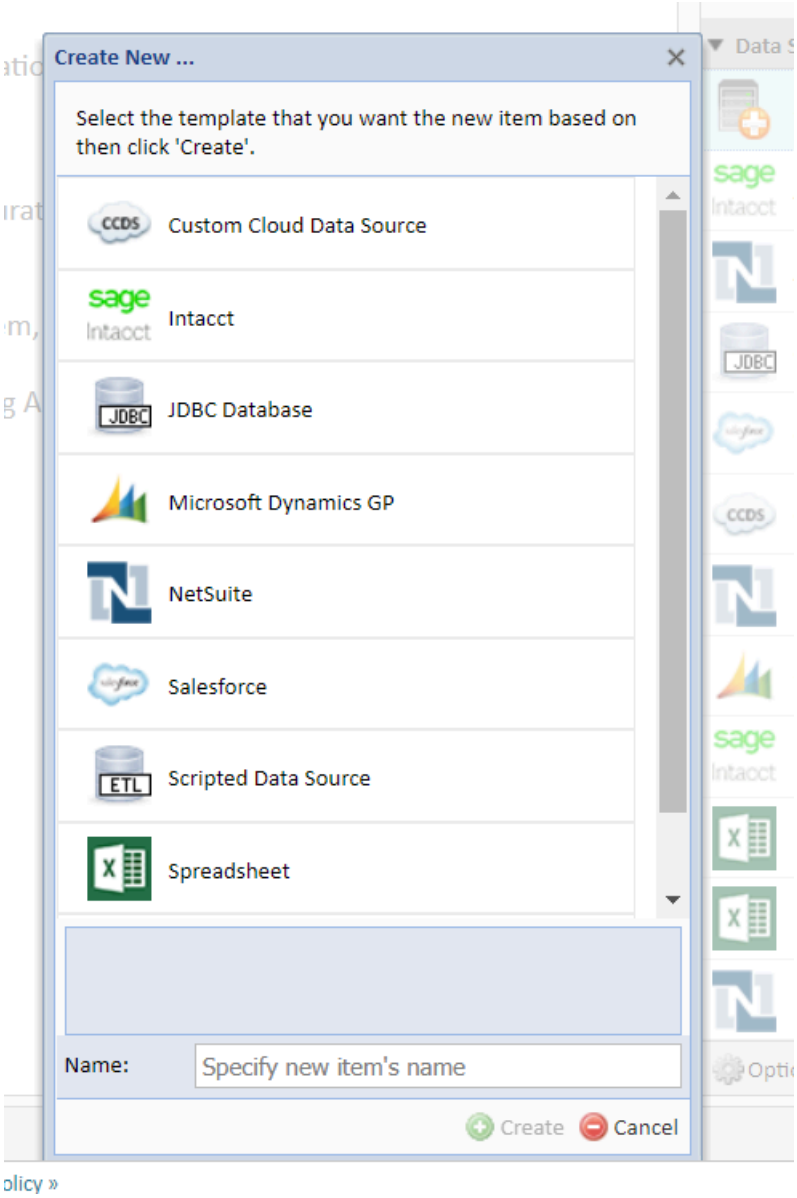
質問

データ ソースとのインテグレーションにはどのようなオプションがありますか？

回答

次のオプションを使用できます。

1. Intacct、Salesforce、NetSuite、および Great Plains といった、利用可能な事前設定済みのアダプタのいずれかを使用できます。
2. オンプレミスの JDBC 準拠システムには、Workday の JDBC データ ソースを使用できます。
3. クラウドベースのシステムには、カスタム クラウド データ ソース (CCDS) を使用できます。これは、インテグレーションのために JavaScript コードをビルドする必要があります。
4. 他のシステムの場合、Pentaho を使ってスクリプト化されたデータ ソースを作成できます。




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

この組織は月 **X** に対して使用できません

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

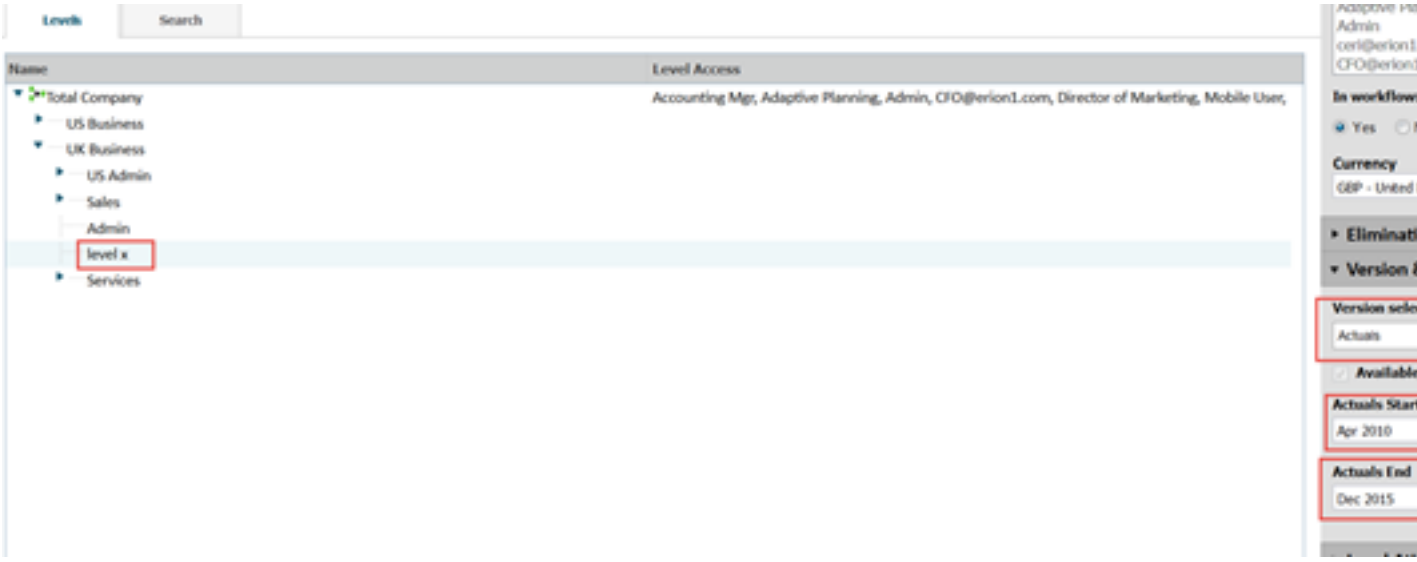
質問

実績のインポート時に "(組織 X) は月 X に使用できません" というエラーが表示されるのはなぜですか？

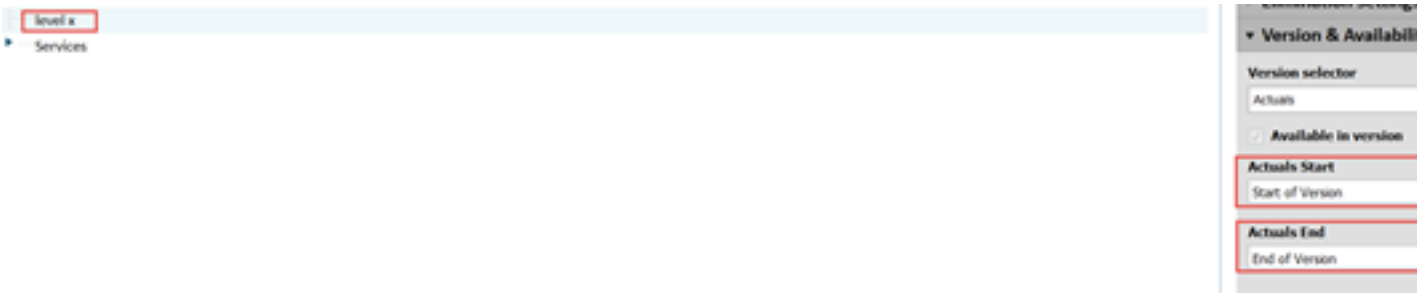
回答

これは、この期間に実績バージョンが使用できないためです。これを確認するには、"モデリング" > "組織" に移動し、"(組織 X)" を選択します。組織を選択すると、右側に "バージョン使用可否" の設定が表示されます。

バージョン セレクターのドロップダウンで "実績" バージョンを選択すると、"実績の開始日と終了日" ドロップダウンが表示されます。




添付のスクリーンショットで示されているように、この組織には 2010 年 4 月から 2015 年 12 月までの期間に "実績" が設定されています。これは、この組織が 2016 年 1 月について使用できないことを意味しています。これを訂正するには、2016 年 1 月を使用可能にする必要があります。実績バージョンをその期間全体にわたって利用できるようにする場合、バージョンの開始日と終了日を設定できます。以下のスクリーンショットを参照してください。




インポート エラーのトラブルシューティングと推奨されるソリューション

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

質問

インポート中に複数の異なるエラーが表示されました。考えられるエラーとそれらの解決方法のリストはありますか？

回答

データのインポート時に、ユーザーが発生する可能性のあるエラーには以下の 2 つのカテゴリがあります。

- ユーザー インターフェイスに表示されるエラーは、 インポート画面に "前のリクエストでエラーが発生しました:" または "エラー:" として表示されます。
- インポート ファイルが無効であるか指定されていません このエラーは通常、ファイルの形式が正しくない場合に発生します。インポートしようとしているファイルの拡張子が .xlsx または .xls であることを確認します。
- エラー: 科目 3500 プラン 000 のスプレッドシートのデータは複数の分割を指定していますが、バージョンの実績のその場所には分割が含まれていません。インポートするには、この場所で少なくとも 1 つの分割を作成する必要があります。Adaptive Planning のデータが分割されていない科目に含まれている場合、分割データをインポートするには、まずシートのその場所に 1 つの分割を追加する必要があります。最初の分割を追加することにより、ユーザーは科目内の既存データにラベルを付ける方法を指定することができます。科目が空の場合、分割はインポート時に自動的に作成されます。
- 必須フィールドがありません: 名前、ロールアップ先 および 前のリクエストでエラーが発生しました: 行 2 に値がありません。行 3 に値がありません... - これらのエラーは通常、インポート テンプレートの最初の数行、つまり必須ヘッダーと任意のヘッダーが削除されたときに発生します。インポートを許可するには、新しいインポート テンプレートをダウンロードして古いテンプレートのデータを新しいテンプレートにコピーするか、現在使用しているファイルの先頭に 3 行を追加します。
- 前のリクエストでエラーが発生しました: 列 "null" が必須であるか、 次のエラーでインポートが失敗しました: java.lang.NullPointerException - これらのエラーは通常、インポート テンプレートに完全に入力されていない必須列がある場合に発生します。インポート ファイルを確認し、必須列に空白がある場合は入力します。
- 無効な属性の選択: または xxx がマッピングされていないため、行 X はインポートされませんでした - これらのエラーは通常、属性値がシートで使用可能としてマークされていない場合に発生しま

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

す。"モデル シート ビルダー/キューブ シート ビルダー" に移動し、シート上で属性値が "使用可能" に設定されていることを確認します。

- 例外エラー - リクエストの処理中にエラーが発生したことを示します。例外エラーが発生すると、空白の画面が表示され、上部にエラー メッセージが表示されます。確認事項がいくつかあります。
  - スプレッドシートに「#」文字が含まれているかどうかを確認します。存在する場合は削除します。
  - インポート テンプレートから数式ベースのセルを削除します。
  - 新しい構造要素をインポートする場合は、"Excel で重複を削除" を使用して、インポート ファイルから重複する値を削除します。
  - シートがパスワードで保護されている場合は、パスワードの保護を削除します。
  - ファイルに固定されたペインがないか確認します。その場合は凍結を解除します。
  - フィルタを削除します。
  - 条件付き書式設定を削除します。
  - マクロを削除します。
  - データ領域外の列と行を削除する。
  - すべてのデータをコピーし、ファイルに特殊値として貼り付けます。これで動作しない場合は、新しいテンプレートに貼り付けてみてください。
  - カスタム科目または GL 科目にインポートするときに、データが "属性" でタグ付けされないようにするには、すべての "属性" 列を削除し、"分割ラベル" 列を空白のままにしてください。
- また、これらのシートをすべての先祖組織に追加する必要があります (シート名に続きます)。 これは、組織の管理ページで組織をインポートしようとして、メッセージにリストされたシートで先祖組織を使用できない場合に表示されます。

科目マッピングのアップロード

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

科目マッピングをアップロードするにはどうすればよいですか？

回答

"インテグレーション" > "インポート科目マッピング"に移動すると、画面の右上に "インポート科目マッピング" のリンクが表示されます。このリンクにより、"インポート科目マッピング" テンプレートをダウンロードできます。テンプレートを使用すると、科目マッピングを 1 つずつ追加する代わりにアップロードできます。

インポート科目マッピング テンプレートでは、マッピングされた科目 (Adaptive で ERP GL 科目を にマッピングしている科目) が "科目コード - 科目名" としてリストされている必要があります。科目のコードと名前を取得してそれに応じて形式設定するには、以下の手順に従ってください。例が "Account Formatter" として添付されています。以下で参照されている数式は、"マッピング" タブのセル C4:D4 にあります。

1. "モデリング" > "総勘定元帳科目"に移動します。
2. 画面の下部あたりにある "印刷対応ビュー" を選択します。これにより、総勘定元帳科目の Excel ファイルがダウンロードされます。
3. マッピングする必要のない科目を削除します。ERP から Adaptive 科目へのマッピングは多対 1 です。つまり、ERP から複数の科目が Adaptive の 1 つの科目にマッピングできることを意味します。これは、すでにマッピング済みの科目に新しいマッピングをインポートしても、古いマッピングは削除されないことを意味しています。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

4. "科目" タブの "列 A" と "列 C" をコピーして、新しく作成したタブに貼り付けます。列 C に次の数式を配置します。 `=Trim(A1)1` は現在の行番号です。列 D に以下を配置します。`=CONCATENATE(B4," - ",C4)`。
5. 新しいタブの列 D の値をコピーして、列 B の "マッピングされた科目" ヘッダーの下にある科目マッピング テンプレートに貼り付けます。
6. 列 A の "科目のインポート" ヘッダーの下に、Adaptive の科目にマッピングされる ERP から科目を入力します。

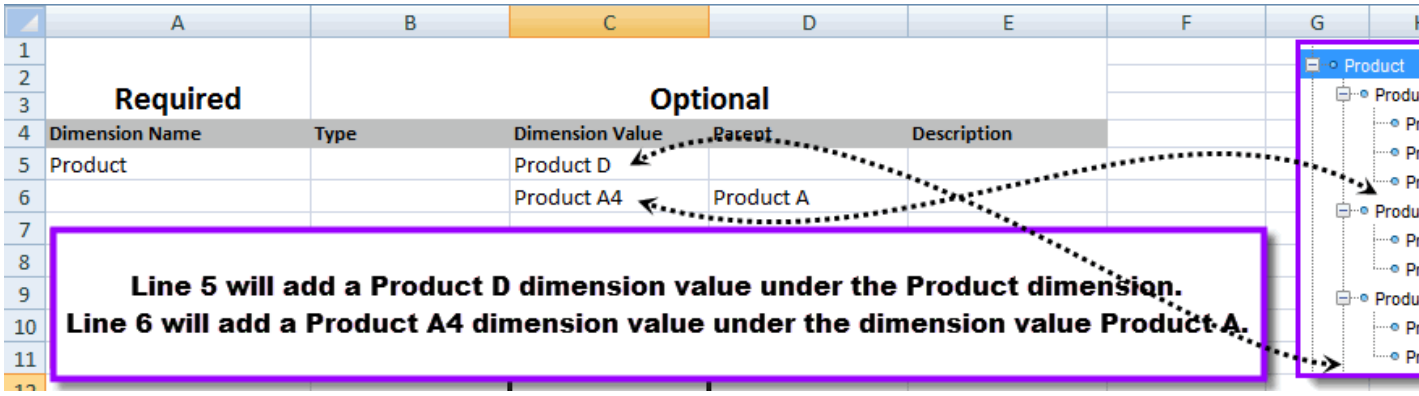
属性インポート テンプレートを使用して属性値を作成する

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

属性インポート テンプレートに入力するにはどうすればよいですか？

回答




警告: 科目 X 組織 X のスプレッドシートのデータに属性値があります

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

このメッセージはどのような意味ですか？このメッセージを修正するにはどうすればよいですか？"警告: 科目 X 組織 X のスプレッドシートのデータには、分割を意味する属性値がありますが、バージョン X のその場所には分割が含まれていません。データは分割されていない科目にインポートされ、属性値は無視されます。

回答

属性を持つデータを標準科目にインポートする場合、分割を作成する必要があります。属性のインポート時に分割が存在しない場合、属性は無視され、データは分割を作成せずに科目に送信されます。その位置で分割を作成してからインポートを実行することにより、分割にデータを送信することができます。詳細については、「インポート時の分割動作」 記事を参照してください。

警告: X の為替レートの為替レートは、新しい実績期間では使用できません。これらの通貨の組織に無効なデータが含まれている可能性があります。

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

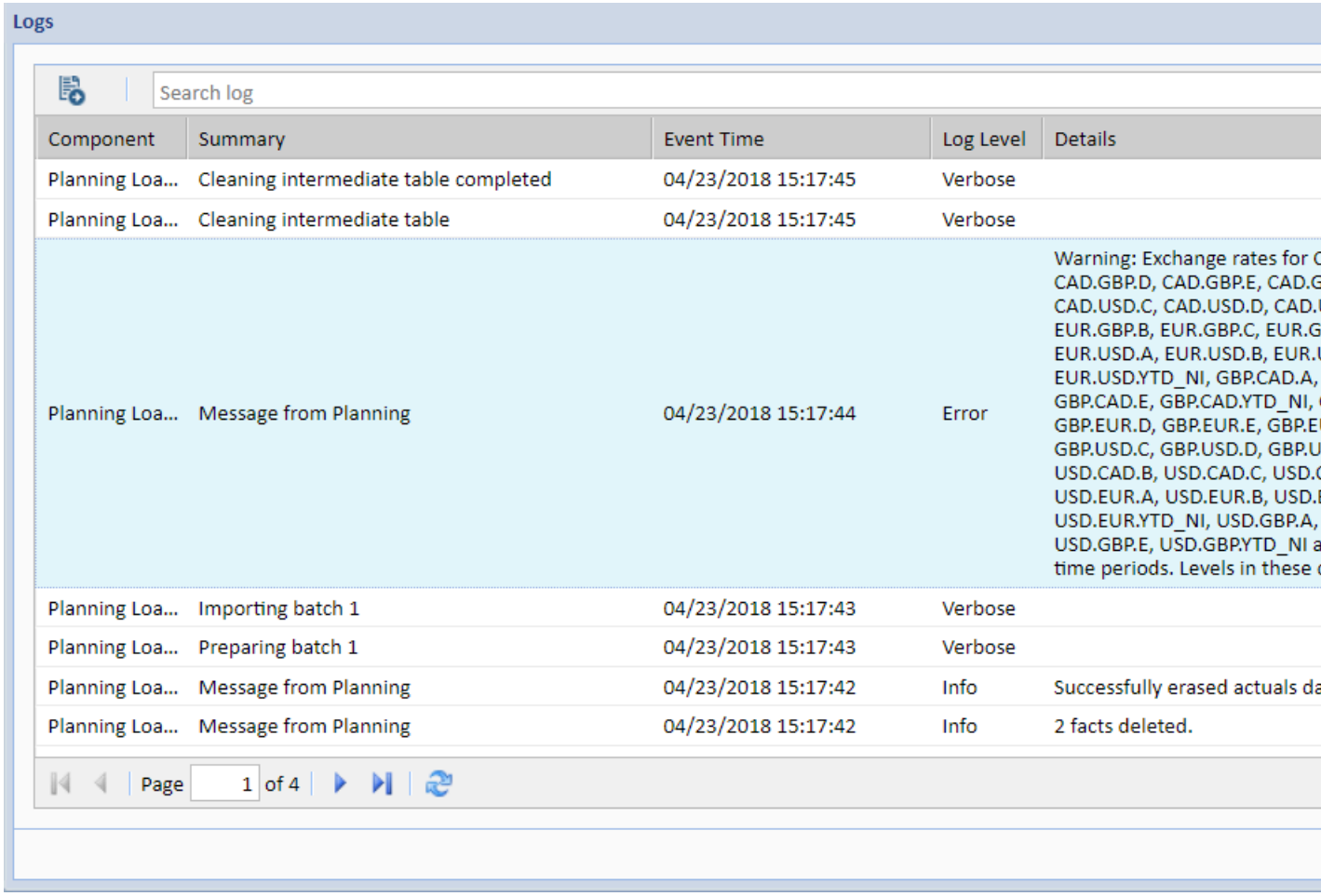
質問

"警告: X 為替レートの為替レートは新しい実績期間に使用できません。これらの通貨の組織は、データのインポート時に無効な値になる可能性があります

回答

社用通貨とは異なる通貨の組織にデータをインポートする場合、データの正確性を確保するために為替レートを入力する必要があります。このメッセージは、インポートしている期間の為替レートの一部が入力されていないことを通知するもので、データの正確性を保証するために入力の必要があることを通知します。

為替レートを調整するには、"モデリング" > "モデル管理" > "為替レート" に移動し、インポートしているバージョンに為替レートを追加します。

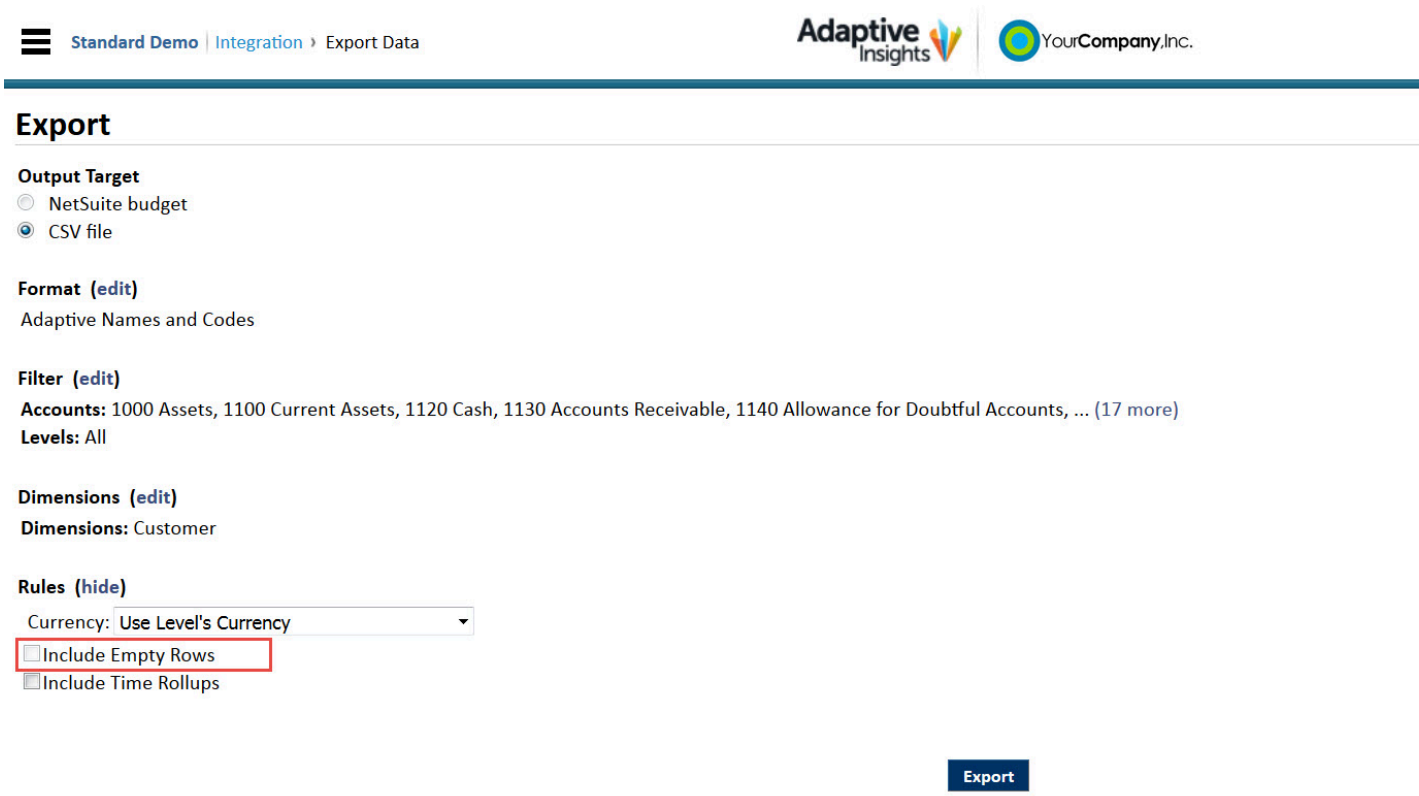



"データのエクスポート" ページで空の行を選択するボックスが使用できないのはなぜですか？

質問

空の行を含むデータをエクスポートしようとしますが、空の行を選択するボックスをオンにすることができません。空の行をエクスポートするにはどうすればよいですか？

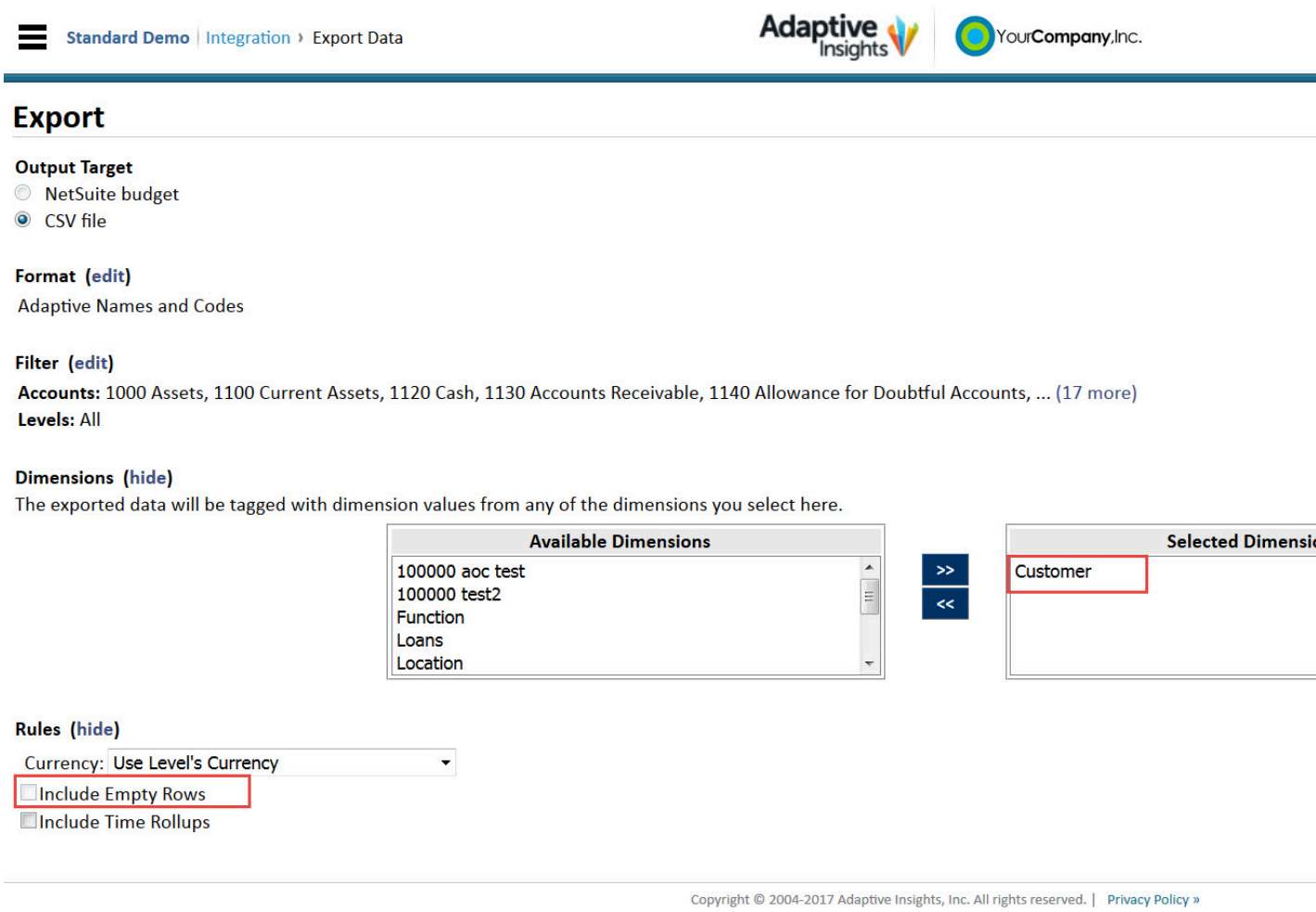
©2026 Workday, Inc. All rights reserved




回答

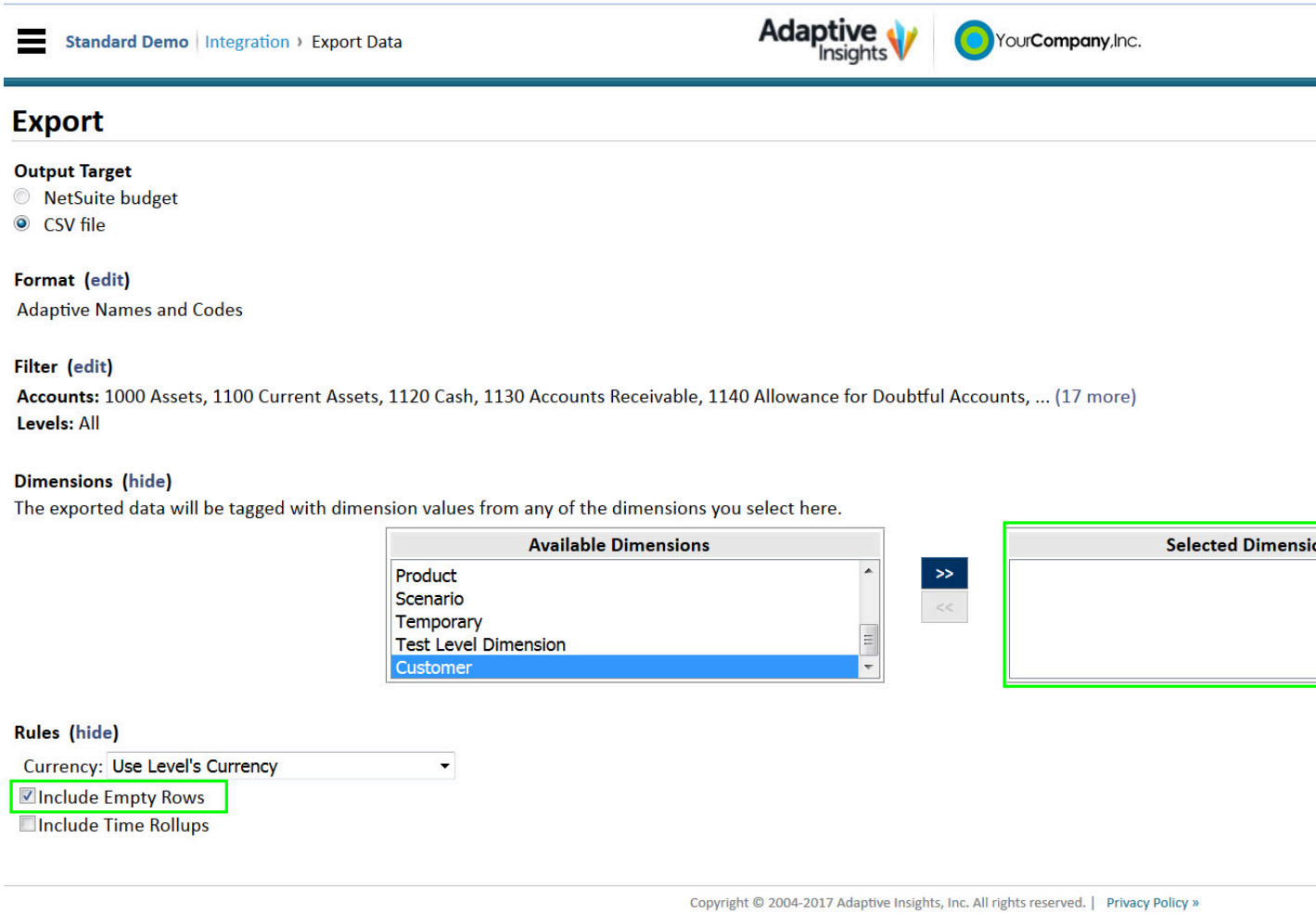
エクスポートで属性が選択されている場合、"空の行を含める" オプションは使用できません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved




©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential




お客様の資格情報は **NetSuite** インテグレーションの構成に有効ではありません。管理者にお問い合わせください

この記事には提案と回避策が含まれています。コンテンツはすべてのユース ケースに対して正確であるとは限らず、また最新リリースのベスト プラクティスを示すものではありません。

質問

にログインしましたAdaptive Planningを選択し、"インテグレーション" > "NetSuite セットアップ"に移動し、"NetSuite アカウント詳細" 領域に認証情報を入力して、"保存" をクリックしました。この操作を実行した後、"あなたの認証情報は NetSuite インテグレーションの設定に有効ではありません。管理者にお問い合わせください。これの原因と修正方法

回答

このエラーは通常、入力された認証情報に、NetSuite においてインテグレーションを設定するための十分な権限がないことを意味します。NetSuite のロールは、次の権限セットを持つ、Web サービスのみのアクセス ロールである必要があります。

- Transactions > Find Transactions FULL
- Transactions > Set Up Budgets FULL
- Lists > Perform Search - FULL
- Lists > Accounts - VIEW
- Lists > Classes - VIEW
- Lists > Customers - VIEW

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

- Lists > Departments - VIEW
- Lists > Items - VIEW
- Lists > Locations - VIEW
- Lists > Subsidiaries VIEW
- Reports > Balance Sheet VIEW
- Reports > Income Statement VIEW
- Reports > Financial Statements - VIEW
- Setup > Web Services - FULL
- Setup > Manage Accounting Periods - VIEW
- Setup > Accounting Lists EDIT

複数の子会社を擁する NetSuite OneWorld のお客様は、あらゆる子会社にロール アクセスを与え、子会社間の記録の閲覧権限ボックスをオンにする必要があります。

インテグレーションの設定方法については、こちらの NetSuite トピックを参照してください。 概念: データをインポート（2067ページ）

**FAQ: NetSuite** の保存済検索条件

| | |
|---|---|
| "保存済の検索条件の管理" に "NetSuite 保存済の検索条件" が表示されないのはなぜですか？ | NetSuite の Web サービスでは、保存済みの検索条件は最大 1000 に制限されています。この制限には、保存済みの検索条件の非公開と公開の両方が含まれます。合計が 1,000 を超えないようにしてください。<br>未使用の保存済の検索条件を削除する。<br>合計に反映される非公開の検索は、自分には非表示のままにすることができます。個々のユーザー アカウントにアクセスして、これらの非公開の検索を表示します。<br>個々の検索を表示するのに手助けが必要な場合は、NetSuite に連絡することをお勧めします。 |
| NetSuite の保存済の検索条件の上限を増やすことはできますか? | いいえ。特定のタイプの保存済み検索条件を NetSuite にリクエストする際は、1,000 件未満のままにする必要があります。 |
| カスタムのセグメント、フィールド、データ要素を使用しているときに保存済の検索条件の数を減らすことができない場合はどうすればよいですか？ | 1,000 の制限を回避するために、カスタム クラウド データ ソース (CCDS) を使用して NetSuite ファイル キャビネットからデータを抽出することを検討してください。ファイル キャビネットを使用すると、NetSuite カスタマーは NetSuite 全体のあらゆるレポートまたは検索から得たあらゆる種類のデータを保存することができます。 |

**FAQ:** 最初の **1000** 行のデータがない **NetSuite** 列をインポートするにはどうすればよいですか？

1,000 件のレコードでフィルタリングして構造をインポートする保存済の検索条件を作成します。インポートするすべての列は、最初の 1,000 件のレコード以内のデータが必要です。

保存済の検索条件では、列ごとに少なくとも 1 つのレコードのデータを返す必要があります。最良の結果を得るには、列全体に入力し、ヌルを削除します。フィルタによって、データを含む各列から少なくとも 1 つのレコードが抽出される場合、その構造をインポートできます。

**FAQ:** スケジュールされた自動インテグレーション タスクを停止または一時停止するにはどうすればよいですか？

1. "インテグレーション > 設定""インテグレーション" に移動します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

2. コンポーネント ライブラリで "タスク" を展開します。
3. タスクを選択します。
4. "スケジュール設定"でスケジュール コンポーネントをダブルクリックします。
5. "アクティブ"をオフにします。
6. 保存:

**FAQ:** 勘定科目表のロード エラーはなぜですか？

勘定科目表をロードするときによくあるエラーは、以下を示します。

親の科目のプロビジョニングなしには、新規科目を追加することはできません。

このエラーは、ローダが、ロールアップ先の親科目を持たない科目を作成しようとしたことを意味します。ロールアップされない科目はルート科目です。Workday Adaptive Planning で新しいルート科目を作成することはできません。

これらの科目をロードするには、ロールアップ先の親科目を入力します。

# REST API (JSON)

## 概念: JSON 形式の API

Adaptive Planning からデータを送信および取得するために JSON 形式を使用できる Adaptive Planning REST API は限られています。今後のリリースでは、JSON 形式を使用する API が増えます。

**JSON** リクエスト
各 JSON リクエストには、以下が必要です。

- HTTP 動詞またはメソッド

  例: GET, PUT、または PATCH
- URL エンドポイント

  注： インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL（29ページ）。

  例: `HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/v1/globosales/sheet/availability`
- 認証ヘッダー

  例: `--header 'Authorization: Basic c5RldmVjQLdsb2JvLmNabTpjaGFuZ2VtZQ=='`

**HTTP** 動詞またはメソッド
使用可能なメソッドや動詞は、サービスやリソースによって異なります。

| 方法 | 説明 |
|---|---|
| GET | データの集合または単一のオブジェクトを取得します。 |
| POST | 指定されたデータで単一データ インスタンスを作成します。 |
| PATCH | 既存のデータを部分的に更新します。 |
| 入力 | 既存のデータを更新し、既存のデータをリクエスト本文の指定されたデータに置き換えます。 |
| DELETE | 既存のデータ インスタンスを削除します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**URL エンドポイント**

注： インスタンスが米国以外の地域の認証を使用している場合、認証 URL と API エンドポイントは地域によって異なります。参照 参考: 地域認証 URL ( 29ページ )。

```
https://api.adaptiveplanning.com/rest/<service name>/<version>/<tenant>/
<resource path>
```

- `service name`

  コンポーネント名 (以下のような機能に基づく) `modeling`、または `security`。
- `version`

  サービスのバージョン。すべてのサービスの現在のバージョン: `v1`。
- `tenant`

  このサービスのテナント。Adaptive Planning インスタンスを示します。用途 `default` 認証内のユーザーのデフォルト インスタンス
- `resource path`

  リソースへのパス (次のような名詞を使用)。 `sheet` および `availability`。このパスは、以下のようなクエリー パラメータもサポートします。
  - `sheetName` Adaptive Planning でシートの名前を指定します。
  - `columnName` Adaptive Planning シートの列の名前を指定します。
  - `limit` をクリックし、単一の回答に含めるオブジェクト データ エントリの制限を指定します。
  - `offset` をクリックし、回答に含めるコレクション内の最初のオブジェクトに対するオフセットを指定します。

例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/v1/globosales/sheet/
availability?sheetName=Expense Cube&columnName=Level&columnType=Level
```

**例: JSON 本文の POST リクエスト**

```
curl --location --request POST 'https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/default/sheet/availability?sheetName=Sales
 Cube&columnName=account&columnType=Account' \
--header 'Authorization: Basic c5RldmVjQLdsb2JvLmNabTpjaGFuZ2VtZQ==' \
--header 'Content-Type: application/json' \
--data-raw '[
        {
            "name": "Discount Percent",
            "code": "SalesCube.DiscountPercent",
            "accountGroup": false,
            "available": true
        }
]'
```

回収

リソースは通常、次のビジネス オブジェクトの集合を表します。 Adaptive Planning が JSON コレクションとして返されました。このコレクションを開発フレームワークで使用して、ビジネス オブジェクトのリストを作成できます。コレクション内の特定のオブジェクトへのアクセスは、識別子によって行われます。

コレクション内のオブジェクトのソート順は次のように設定されます。 Adaptive Planningであり、設定できません。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

コレクションのページングは、2 つのオプションのクエリー パラメータ ( limit と offset) によって制御されます。

| クエリー パラメータ | 説明 |
| --- | --- |
| limit | 単一の回答に含まれるオブジェクト データ エントリの制限。デフォルト値は 20 で、最大値は 100 です。 |
| offset | レスポンスに含めるコレクション内の最初のオブジェクトに対するオフセット。デフォルトは 0 です。 |

制限と相殺のあるリクエストの例

このサンプルでは、次のようにユーザー インスタンスのコレクションを取得します。 `instanceCode` の GLOBO。

```
@GET
@PATH("/users/instances?instanceCode=GLOBO&limit=20&offset=0")
@Produces(MediaType.APPLICATION_JSON)
public List<User> getUsers(@PathParam("instanceCode") String
 instanceCode,@PathParam("limit")int limit,@PathParam("offset")int offset)
```

制限とオフセットを使用した回答例

```
{
    "total": 25,
    "link": {
        "next": "https://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/v1/
default/users/instances?instanceCode=GLOBO&offset=4&limit=2",
        "previous": "https://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/v1/
default/users/instances?instanceCode=GLOBO&offset=0&limit=2"
    },
    "users": [
        {
            "userId": 14,
            "userGuid": "474C4F424F000000000000000100000E",
            "userName": "asiaboss@globo.com",
            "instances": [
                {
                    "code": "GLOBO",
                    "default": true
                }
            ]
        },
        {
            "userId": 21,
            "userGuid": "474C4F424F0000000000000001000015",
            "userName": "Bob@globo.com",
            "instances": [
                {
                    "code": "GLOBOSALES"
                },
                {
                    "code": "GLOBOSUB"
                },
                {
                    "code": "GLOBO",
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
                    "default": true
                }
            ]
        }
    ]
}


Note:
-Default offset = 0 and limit = 500
```

認証情報タイプ、認証、および認可

すべての API リクエストはステートレスで、単一アクションのリクエストです。ユーザーは呼び出しごとに認証される必要があるため、既存の Web サービス セッションをハイハイする不正者が存在することはあり得ません。

API リクエストでユーザーを認証しても、このユーザーの永続的なセッションは作成されません。Web サービスの呼び出しごとに、ユーザーを個別に認証する必要があります。

設定 Adaptive Planning JSON 形式の API は、基本とトークンベースの認証 (TBA) の両方の方法をサポートします。 Adaptive PlanningJSON 形式で真の REST API をサポートし、XML API のようなリクエスト本文ではなく、リクエスト ヘッダーに認証が示されます。XML API の例については、リクエストと応答のメッセージ形式および Workday 認証情報を使用した Adaptive Planning API リクエストを参照してください 。

基本認証

基本認証は、認証ヘッダーで Base64 でエンコードされたユーザー名とパスワードを使用します。

例:`'Authorization': 'Basic <insert base64 encoded string>'`

例: `xyz@demo.com:password` にエンコード `eHl6QGRlbW8uY29tOnBhc3N3b3Jk`

トークンベースの認証 **(TBA)**

ユーザーを Workday から Adaptive Planning に同期させる場合、 を使用する必要があります (トークンベースの認証方法を使用)。トークンを取得するには、「Workday 認証情報を使用した Adaptive Planning API リクエストを実行する」のステップに従ってください。トークンを取得したら、ヘッダーでトークンを渡します。

例: "authorization": "Bearer <insert token Here>"

例:「`Authorization: Bearer eyJjdHkiOiJ0ZXh0L3BsYWluIiwiYWxnIjoiSFMyNTYifQ.eyJsb2dpbl9pZCI6InN0ZXZlY0BheWdsb2JvLmNvbS`
`A9ILi53z6YLGNNI45Mlc-4NT3As'`

## Adaptive Planning REST サービス ディレクトリ

次のディレクトリでは、Adaptive Planning REST サービス用の JSON 形式の API を提供します。エンドポイントをクリックして、REST API ドキュメントを取得します。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

サービス: モデリング

| リソース | エンドポイント | サマリ |
|---|---|---|
| | Currency（2622ページ） | 通貨の挿入、更新、または削除。 |
| | 為替レート タイプ（2627ページ） | 為替レート タイプを挿入、更新、または削除します。 |
| シート | Modeled Sheet Definition（2632ページ） | モデル シートの定義を挿入、更新、または削除する。 |
| シート | シートの使用可否（2655ページ） | 特定のシートおよび列の属性または特性値の使用可否設定を取得または更新します。 |
| | Time（2663ページ） | 時間構造を再ロード、更新、または追加します。 |
| | Versions（2674ページ） | バージョンを挿入、更新、または削除します。 |

サービス: セキュリティ

| リソース | エンドポイント | サマリ |
|---|---|---|
| ユーザー | インスタンス（2729ページ） | 親子階層で Adaptive Planning マルチインスタンスを使用する場合は、インスタンスにユーザーを割り当てます。 |
| ユーザー | 権限セット（2739ページ） | Adaptive Planning ユーザーに権限セットを割り当てます。 |

サービス: タスク

| リソース | エンドポイント | サマリ |
|---|---|---|
| | 参考: タスク（2752ページ） | Adaptive Planning のインテグレーション設定のタスク、タスクの実行に関する情報を取得します。インテグレーション タスクをトリガする。 |

## サービス: モデリング

モデリング

"モデリング" サービスを使用すると、アプリケーションは通貨、為替レート、シート、シートの在庫状況、時間、バージョンに関するモデル情報にアクセスできるようになります。

科目

バージョン: v1

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 説明 |
|---|---|
| POST | リクエストに記載された科目を削除する。 |

**POST:**

リクエスト:

| /removeGLAccounts: |
|---|
| 指定された GL 科目コードの科目を削除します。<br>このエンドポイントは "ENable_ACCOUNTS_DELATION_JSON_API" (現在はデフォルトでオン) 機能フラグの背後にあります。<br>UI で削除できるすべての GL 科目をサポートします。削除できない科目は無視されます。 |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
accounts/removeGLAccounts
```

リクエスト ヘッダーの例:

認証: 基本

コンテンツ タイプ: application/json

リクエスト本文の例

POST リクエストの例

```
[
    {
        "accountCodesToDelete":
 ["Assets", "b"]
    }
]
```

ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| accountCodesToDelete | 削除される科目コードの名前 | あり |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作対象のテナント。例: | あり |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | グローバル営業 | |

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| forceRemove | forceRemove=trueの場合は使用中の科目を削除し、forceRemove=falseの場合は使用中の科目を無視します。<br><br>デフォルトは常にforceRemove=falseです。 | なし |
| instanceCode | 値の取得元のinstanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCodeが指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |

回答例:

204 コンテンツなし

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています。

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

**POST:**

リクエスト:

```
/removeAccounts
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

指定された GL 科目コードの科目を削除します。

このエンドポイントは、"ENable_ACCOUNTS_DELATION_JSON_API_2" (現在はデフォルトでオフ) 機能フラグの背後にあります。

UI で削除できるすべての科目をサポートしています。削除できない科目は無視され、任意の警告を表示することができます。

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
accounts/removeAccounts
```

リクエスト ヘッダーの例:

認証: 基本

コンテンツ タイプ: application/json

リクエスト本文の例

POST リクエストの例

```
   {
       "accountCodesToDelete":
["Assets", "b"]
   }
```

ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| accountCodesToDelete | 削除される科目コードの名前 | あり |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作対象のテナント。例: グローバル営業 | あり |

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | デフォルト | 必須 |
|---|---|---|---|
| forceRemove | 使用中の科目の削除 | false | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | デフォルト | 必須 |
| --- | --- | --- | --- |
| showWarnings | それに応じて警告を表示します。 | false | なし |
| doValidateOnly | 検証モードを有効にします。 | false | なし |

警告

account-deletion-Warning=一部の科目は削除されませんでした。

error-default-root=デフォルトのルート科目は削除できません。

error-sheet-root=シート ルート グループを削除できません。

error-cta-account=為替換算調整勘定は削除できません。

error-in-use=forceRemove がオフに設定されているため、使用中の科目は削除できません。

error-cannot_delete_mi_system_account=少数株主持分システム アカウントは削除できません。完全連結方式の少数株主持分の計算に使用されています。

error-cannot_delete_mi_net_income_account=少数株主持分純利益科目は削除できません。完全連結方式の少数株主持分の計算に使用されています。

error-cannot_delete_mi_account_ancestor=その科目の子孫科目の 1 つが完全な連結方式の少数株主持分の計算に使用されているため、この科目を削除することはできません。

error-delete_person_useed_in_breakback-msg=この科目またはその子孫の 1 つが自動按分で使用されているため、この科目を削除できません。

error-cannot_delete_pCM_account=Planning Configuration Manager を使用して、この科目を削除してください。

error-nonexistent-code=この科目は存在しません。

警告-明確なコード=このコードは複数のアカウントで共有されています。

回答例:

200 OK

```
{
    "total": 0
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

200 OK (警告あり)

```
{
    "total": 0,
    "warning": {
        "info": "Some accounts were
 not deleted.",
        "warnings": [
            {
                "field": "xyz",
                "warning": "This
 account does not exist."
            }
        ]
    }
}
```

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています/機能フラグがオフになっています。

```
{
    "error": "Service Unavailable"
}
```

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

特性

**DELETE**

リクエスト:

| /attribute?name=dname 指定された特性を名前別に削除します |
| --- |
| 特性名を指定すると、その特性とその特性値が削除されます。 |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
attribute?name=dname
```

または

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/
globosales/attribute?
name=dname&&doValidateOnly=true
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエスト ヘッダーの例:

認証: 基本

コンテンツ タイプ: application/json

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作対象のテナント。例: グローバル営業 | あり |

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 | デフォルト |
|---|---|---|---|
| 名前 | 削除対象の特性名 | あり | |
| doValidateOnly | 検証モードでリクエストを処理します。これは、変更が DB に残らないことを意味します。 | なし | false |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、グローバリゼーションなどです。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし | |

回答例:

204

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています。

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

特性値

バージョン: v1

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 説明 |
| --- | --- |
| POST | 既存の特性値をすべて削除します。 |

**POST:**

リクエスト:

| /removeAttributeValues |
| --- |
| 特性名と特性値コードのリストを指定すると、その特性値は削除されます。 |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
accounts/removeAttributeValues
```

または

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
accounts/removeAttributeValues?
doValidateOnly=true&&showWarnings=true
```

リクエスト ヘッダーの例:

認証: 基本

コンテンツ タイプ: application/json

リクエスト本文の例

POST リクエストの例

```
[
   {
      "attributeName":"tax code",
      "attributeValueCodes":[
         "TT-TRE",
         "test-67"
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
        ]
    },
    {
        "attributeName":"AP
 Eligible",
        "attributeValueCodes":[
            "Yes",
            "No"
        ]
    },
    {
        "attributeName":"test-2",
        "attributeValueCodes":[
            "test-22",
            "test-21",
            "test-5"
        ]
    },
    {
        "attributeName":"test-3",
        "attributeValueCodes":[
            "test-22",
            "test-21",
            "test-5"
        ]
    }
]
```


ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| attributeName | 特性名 | あり |
| attributeValueCodes | 削除するすべての特性値コードのリスト | あり |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作対象のテナント。例: グローバル営業 | あり |

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 | デフォルト |
|---|---|---|---|
| doValidateOnly | 検証モードでリクエストを処理します。これは、変更が DB に | なし | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- |
| | 残らないことを意味します。 | | |
| showWarnings | 削除で無視/スキップされた属性値の背後にある警告のリストです。 | なし | false |

回答例:

200 OK

正常に完了しました。

```
{
"total": 5
}
```

警告付きの正常応答。

```
{
   "total":5,
   "warning":{
      "info":"Some attribute
 values were not deleted.",
      "warnings":[
         {
            "field":"TEST-67",
            "warning":"Attribute
 value isn't available for
 deletion."
         },
         {
            "field":"TEST-21",
            "warning":"Attribute
 value isn't available for
 deletion."
         },
         {
            "field":"TEST-22",
            "warning":"Attribute
 value isn't available for
 deletion."
         },
         {
            "field":"TEST-5",
            "warning":"Attribute
 value isn't available for
 deletion."
         }
      ]
  }
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
}
```

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています。

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

キューブ シート定義

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/sheet/cube/definition`

バージョン: v1

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの送信 |
| 説明 | メタデータの変更 |
| 呼び出すために必要な権限 | モデル管理 > モデルに含まれるシート、科目、属性、数式 |
| リクエストに必要なパラメータ | 名前 |

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 単一リソース | 説明 |
|---|---|---|
| PATCH | サポート済 | キューブ シート定義の挿入または更新 |
| DELETE | サポート済 | キューブ シート定義の削除 |
| オプション | サポート済 | このコレクション リソースでサポートされている HTTP 動詞のリストを返します。 |

**PATCH**

リクエスト URI

```
/sheet/cube/definition
```

指定されたクエリー パラメータと一致するキューブ シート定義を更新してください。

一致する名前のシートが存在しない場合は、指定されたプロパティで新しいキューブ シートが作成されます。

名称別リクエストの例

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
sheet/cube/definition?name=Sales
Cube
```

リクエスト ヘッダーの例

受諾言語: en

リクエスト本文の例

"リクエスト本文" セクションを参照してください。

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |
| 名前 | シートの名前。 | なし |
| reorderColumns | このクエリー パラメータを true に設定すると、列リストの順序が変更され、API リクエスト本文で指定された列の順序が反映されます。デフォルトでは、false に設定されています。参照 参考: モデル シート定義およびキューブ シート定義の JSON API における列の並べ替え（2728ページ）。 | なし |

リクエスト本文

リクエスト本文の例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

両方のエンドポイントで、同じキューブ シート定義形式が JSON ペイロードとして使用されます。

リクエストのフォーマット

```
{
   "properties": {
       "description": "Expense
 Cube",
       "prefix": "Expense",
       "horizontalAxis": {
           "type": "level"
       },
       "verticalAxis": [
           {
               "type": "account"
           },
           {
               "type":
 "dimension",
               "name":
 "ProductFurniture"
           }
       ]
   },
   "columns": [
       {
           "properties": {
               "name": "Base Pay",
               "type": "dimension"
           },

 "availability":List<SheetAvaliabilityDTO>,
           "defaultAvailability":
 false
       }
   ],
   "accounts": [
       {
           "name": "AccountName",
           "code": "AccountCode"
       }
   ],
   "accessibility": {
       "usernames":
 [ "test@greenco.com" ],
       "excludedFromWorkflow":
 true
   }
}
```

リクエストの例:

シート作成のリクエストの例

```
{
   "properties": {
       "description": "Test
 description",
       "prefix": "TestPrefix",
       "horizontalAxis": {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

シート作成のリクエストの例

```
            "type": "level"
        },
        "verticalAxis": [
            {
                "type": "account"
            },
            {
                "type":
 "dimension",
                "name": "Base Pay"
            }
        ]
    },
    "columns": [
        {
            "properties": {
                "type": "Account"
            },
            "defaultAvailability":
 true
        },
        {
            "properties": {
                "type": "Level"
            },
            "defaultAvailability":
 true
        },
        {
            "properties": {
                "type": "Time"
            }
        },
        {
            "properties": {
                "name": "Base Pay",
                "type": "dimension"
            },
            "defaultAvailability":
 true
        }
    ],
    "accounts": [
        {
            "name": "AccountName",
            "code": "AccountCode",
            "type": "Standard"
        }
    ]
}
```

シート定義オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| プロパティ | 一般シート プロパティを含むオブジェクト | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| 列 | キューブ シートの列オブジェクトのリスト | なし |
| 科目 | 科目オブジェクトのリスト | なし |
| アクセシビリティ | ユーザー割当シートのアクセシビリティの定義を含むオブジェクト | なし |

シート プロパティ オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 説明 | シートの説明 | なし | 文字列 | 空の文字列 |
| prefix | 科目コードに使用されるシート プレフィックス | なし | 文字列 | |
| userAssigned | シートがユーザー割当シートか (デフォルト) 組織割当シートか。 | なし | ブール値 | false |
| timeStratumCode | シートのデータに関連付けられた時間層コード | なし | 文字列 | GL の時間層 |
| recalculateOnDemand | シートで "要求に応じて再計算" が有効 | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | になっているかどうか。 | | | |
| rearrangeGLAndCustomAccounts | GL ユーザーが他のキューブ科目とともにキューブ入力科目を並べ替えることが許可されているかどうか。これは、キューブ標準科目が存在する場合、またはリクエストで作成されている場合にのみ有効化できます。 | なし | ブール値 | false |
| hideRollupTotals | 合計のパフォーマンスを向上させるために合計を非表示にするかどうか。 | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| horizontalAxis | 横軸の列を識別する列参照オブジェクト。 | なし | 列オブジェクト | Time |
| verticalAxis | 縦軸の列を識別する列参照オブジェクトのリスト指定した場合、縦軸は以前の選択を上書きします。 | なし | 列オブジェクト配列 | Account |
| maxColumnWidth | 各列のピクセル単位の最大幅10 ~ 1000 の値の間で指定してください。幅が指定されていない場合は 0 を指定してください。 | なし | 整数 | 0 |
| suppressZeroRows | ゼロ行を非表示にするかどうか | なし | ブール値 | false |

シート列の参照オブジェクト

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| 名前 | 列名カスタム属性および特性の場合は必須です。 | あり |
| type | 列タイプ | あり |

シート列オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| プロパティ | シート列のプロパティを含むオブジェクト。 | あり |
| 使用可否設定 | 現在の列に対するシート使用可否オブジェクトのリスト参照 シートの使用可否 ( 2655ページ ) リスト形式の詳細については、 | なし |
| defaultAvailability | 空き状況で指定されていない限り、すべての値に適用されるデフォルトの空き状況。組織と属性列で有効です。 | なし |
| 削除 | 指定されたシートから列を削除するリクエストです。削除のフラグが設定されていない既存の列に依存する列 (属性特性など) に対しては無効です。 | なし |

シート列のプロパティ オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| 名前 | 列名 カスタ | あり | 文字列 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | ム属性列および特性列の場合、名前はそれぞれのカスタム属性または特性の名前と一致します。 | | | |
| type | 列のタイプ。<br>可能な値: Level、ACCOUNT、TIME、DIMENSION、Level_attr | あり | 文字列 | |
| initialBalanceIsHidden | 初期残高がシートに表示されるかどうか。時間列でのみ有効です。 | なし | ブール値 | 真 |
| visibleTimeStratumCodes | シートに表示される時間層のリストを定義します。時間列でのみ有効です。 | なし | 文字列配列 | すべての時間層 |
| editableOnSheet | シートから属性列に新しい値を追加できるか。属性と | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | テキスト セレクターの列でのみ有効です。 | | | |
| newValueBehavior | 新しい値が属性に追加されたときに新しい値を有効にするか無効にするかを定義します。属性列でのみ有効です。サポートされている値: AVAILable、UNAVAilable、PARENT | なし | 文字列 | 使用可能 |

シート列ルックアップ テーブル オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 名前 | ルックアップテーブル名 | あり | 文字列 | |
| displayAs | このルックアップテーブルの"表示形式"フォーマット。可能な値: "NUMBER"と"PERCENT"。値ルッ | なし | 文字列 | NUMBER |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| | クアップ テーブルでのみ有効です。 | | | |
| decimalPrecision | ルックアップ テーブルの値の小数点以下の桁数。可能な値は 0 ~ 9 です。 | なし | 整数 | 0 |
| type | ルックアップテーブルのタイプ。可能な値: VALUE、SPREAD。 | あり | 文字列 | |

シート科目オブジェクト

詳細については、次を参照してください: 参考: 科目の JSON インポート ペイロードのプロパティ（2724ページ）

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| 名前 | 科目名。 | あり |
| code | 科目コード。 | あり |
| 親 | 親科目。 | なし |
| タイプ | 科目タイプ。 | あり |
| 説明 | 科目の説明。 | なし |
| shortName | 科目の短縮名 | なし |
| isCumulative | 科目がストックであるかどうかを返します。 | なし |
| isPlanByDelta | 科目が差額での計画である | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | かどうかを返します。 | |
| isActualsByDelta | 科目が実績であるかどうかを差額で返します。 | なし |
| isLink | 科目がリンクされた科目であるかどうかを返します。 | なし |
| timeRollupType | 時間合計に対して実行する合計のタイプ。 | なし |
| timeWeightAccount | 期間合計に使用される加重科目。 | なし |
| levelDimRollupType | 組織/カスタム属性合計で実行する合計のタイプ。 | なし |
| levelDimWeightAccount | 組織/カスタム属性合計に使用される加重科目。 | なし |
| levelDimRollupTextValue | 組織/カスタム属性合計で使用される合計テキスト値。 | なし |
| actualsOverlay | 科目の実績オーバーレイ設定。 | なし |
| attributeValues | この科目の科目特性値オブジェクトのリスト。 | なし |
| displayAs | 科目の設定として表示されます。 | なし |
| 数式 | 科目の数式。 | なし |
| decimalPrecision | 科目のデフォルトの小数点以下の桁数。 | なし |
| exchangeRateType | この科目の為替レート タイプです。 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| suppressZeros | シート上の科目に対してゼロ行を非表示にするかどうかを返します。 | なし |
| startExpanded | 科目がシート上で展開されているかどうかを返します。 | なし |
| dataEntryType | この科目のデータ入力タイプ設定。 | なし |
| dataPrivacy | この科目のデータ プライバシー設定。 | なし |
| linkedAccountMappings | LinkedAccountMapping のリスト。 | なし |

シートのアクセシビリティ オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ユーザー名 | シートに追加するユーザー名のリスト<br>有効な E メール アドレスの形式である必要があります。 | なし | 文字列配列 | |
| excludedFromWorkflow | シートのアクセシビリティ設定の "ワークフローから除外" | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| | チェックボックスが更新されます。 | | | |

回答例

204

正常に完了した場合の応答は空白で、ステータスコードは 204 です。

**DELETE**

リクエスト URI

| /sheet/cube/definition |
|---|
| 指定されたクエリー パラメータに一致するキューブ シート定義を削除します。一致する識別子を持つシートが存在しない場合、次のエラーが発生します。 |

名称別リクエストの例

```
https://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/v1/globosales/sheet/cube/definition?name=Sales Cube
```

リクエスト ヘッダーの例

受諾言語: en

リクエスト本文の例

<なし>

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| 名前 | キューブ シートの名前。 | なし |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| 回答例 | 204<br>成功した場合の応答は空白で、ステータス コードは 204 です。 |

### Currency

**URL エンドポイント**
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/upsertCurencies`

バージョン: v1

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | Adaptive Planning における通貨の作成/更新/削除 |
| 呼び出すために必要な権限 | 通貨 (CURRENCies) |
| リクエストに必要なパラメータ | 該当なし |

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 説明 |
|---|---|
| POST | システムで利用可能な通貨に基づいて、通貨の挿入/アクティブ化/更新を行います。 |
| DELETE | 指定された通貨コードの通貨を削除します。 |

**POST**

リクエスト URI

`/upsertCurrencies`: 通貨を挿入または更新します。

システムで通貨が利用可能かどうかに基づいて、Planning に通貨を挿入または更新します。

- システムで通貨が使用できない場合は、通貨を挿入してください。
- システムで通貨が使用可能であるが、アクティブ化されていない場合にアクティブになります。
- システムで通貨がすでにアクティブな場合は、通貨を更新する。
- 通貨名は、ユーザー定義通貨の場合のみ変更できます。
- システム/社用通貨は、newInstanceFlow の場合にのみ変更できます。これは、システムに複数のアクティブな通貨がある場合は変更できないためです。

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/
globosales/upsertCurrencies?
proceedWithWarnings=false&newInstanceSetup=false
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

属性

バージョン: v1

**DELETE**

リクエスト:

| |
|---|
| /dimension?name=dname 指定された属性を名前で削除します。 |
| 属性名を指定すると、その属性とその属性値が削除されます。 |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
dimension?name=dname
```

または

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/
globosales/dimension?
name=dname&&doValidateOnly=true
```

リクエスト ヘッダーの例:

認証: 基本

コンテンツ タイプ: application/json

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作対象のテナント。例: グローバル営業 | あり |

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 | デフォルト |
|---|---|---|---|
| 名前 | 削除する属性名 | あり | |
| doValidateOnly | 検証モードでリクエストを処理します。これは、変更が DB に残らないことを意 | なし | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- |
| | 味します。 | | |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、グローバリゼーションなどです。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし | |

回答例:

204

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています。

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

属性値

バージョン: v1

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 説明 |
| --- | --- |
| POST | 既存の未使用の属性値をすべて削除します (使用中の属性値は無視されます)。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**POST:**

リクエスト:

| /removeDimensionValues |
| --- |
| 指定された属性名と属性値コードのリストを指定すると、その属性値が削除されます。 |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
accounts/removeDimensionValues
```

または

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
accounts/removeDimensionValues?
doValidateOnly=true&&showWarnings=true
```

リクエスト ヘッダーの例:

認証: 基本

コンテンツ タイプ: application/json

リクエスト本文の例

POST リクエストの例

```
[
    {
        "dimensionName": "Dim1",
        "dimensionValueCodes": [

 "dimensionValueCode100"
        ]
    },
    {
        "dimensionName": "Dim2",
        "dimensionValueCodes": [

 "dimensionValueCode102",

 "dimensionValueCode103"
        ]
    },
    {
        "dimensionName": "Dim3",
        "dimensionValueCodes": [

 "dimensionValueCode104",

 "dimensionValueCode105",

 "dimensionValueCode106",

 "dimensionValueCode107"

 "dimensionValueCode108",
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
 "dimensionValueCode109"
        ]
    }
]
```

ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| dimensionName | 属性名 | あり |
| dimensionValueCodes | 削除するすべての属性値コードのリスト | あり |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作対象のテナント。例: グローバル営業 | あり |

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 | デフォルト |
|---|---|---|---|
| doValidateOnly | 検証モードでリクエストを処理します。これは、変更が DB に残らないことを意味します。 | なし | false |
| showWarnings | 削除で無視/スキップされた属性値の背後にある警告のリストです。 | なし | false |

回答例:

200 OK

正常に完了しました。

```
{
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
"total": 5
}
```

警告付きの正常応答。

```
{
"total": 5,
"warning": {
"info": "Some dimension values
 were not deleted.",
"warnings": [
{
"field": "TEST-67",
"warning": "Dimension value isn't
 available for deletion."
},
{
"field": "TEST-5",
"warning": "In-use dimension
 values cannot be deleted."
}
]
}
}
```

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています。

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

為替レート タイプ

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/exchangeRateTypes`

バージョン: v1

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | Adaptive Planning における為替レート タイプの取得/作成/更新 |
| 呼び出すために必要な権限 | 通貨 (CURRENCies) |
| リクエストに必要なパラメータ | 該当なし |

サポートされている **HTTP** バージョン

| HTTP Verb | 説明 |
|---|---|
| GET | システムで使用可能なすべての為替レート タイプを取得します |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| HTTP Verb | 説明 |
| --- | --- |
| GET | テナントのシステムで、コードが指定された為替レート タイプを取得します |
| POST | システムで選択可能な為替レート タイプに基づいて、為替レート タイプを挿入/更新します。 |
| DELETE | 指定された為替レート タイプ コードに基づいて、為替レート タイプを削除します |

**GET**

リクエスト URI

| `/exchangeRateTypes`: 為替レート タイプを取得します。 |
| --- |
| テナントのシステムで使用可能なすべての為替レート タイプを取得します。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/greenco/
exchangeRateTypes/A1
```

**POST**

リクエスト

| `/exchangeRateTypes`: 為替レート タイプを挿入または更新します。 |
| --- |
| 為替レート タイプ コードに基づいて、Planning の為替レート タイプを挿入または更新します。<br>• システムにコードが存在しない場合は、為替レート タイプを挿入してください。<br>• 為替レート タイプ コードがシステムにすでに存在する場合は更新されます。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/greenco/
exchangeRateTypes
```

回答

204 コンテンツなし

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

例

```
{
    "error": "Errors occurred while processing the request",
    "errors": [
            {
                "error": "ABCD1 is a duplicate exchange rate type code in
 the request body. Exchange rate type code must be unique.",
                "code": "PLN310002"
            },
            {
                "error": "Abcd name is a duplicate exchange rate type
 name in the request body. Exchange rate type name must be unique.",
                "code": "PLN310002"
            },
           {
                "error": "Test Name is a duplicate exchange rate type
 name in the request body. Exchange rate type name must be unique.",
                "code": "PLN310002"
            }
    ]
}
```

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

例:

```
{ "message": "Invalid credential", "status": 401 }
```

**DELETE**

リクエスト

| |
|---|
| /exchangeRateType/{code}: 為替レート タイプを削除します。 |
| ユーザーが定義した既存の為替レート タイプを削除します。外部為替レート タイプのマッピングが存在する場合はそれも削除されます。<br>予約されている 2 つの為替レート タイプは削除できません。これらは "月平均" と "月末" の為替レート タイプです。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/greenco/
exchangeRateType/Xrate
```

組織

バージョン: v1

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | ステータス | 説明 |
|---|---|---|
| POST | サポート済 | リクエストに記載された組織を削除する。 |

**POST**

リクエスト:

| /removeLevels |
|---|
| 指定された組織コードの組織を削除します。 |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
removeLevels
```

または

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/
globosales/removeLevels?
forceRemove=false&&doValidateOnly=true&&showWarn
```

リクエスト ヘッダーの例:

認証: 基本

コンテンツ タイプ: application/json

リクエスト本文の例

POST リクエストの例

```
{
"levelCodesToDelete":
 ["testLevel", "HQ"]
}
```

ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| levelCodesToDelete | 削除される組織コードの名前 | あり |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作対象のテナント。例: グローバル営業 | あり |

クエリー パラメータ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- |
| forceRemove | forceRemove=true の場合は使用中の科目を削除し、forceRemove=false の場合は使用中の科目を無視します<br><br>デフォルトは常にforceRemove=falseです | なし | |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし | |
| doValidateOnly | 検証モードでリクエストを処理します。これは、変更が DB に残らないことを意味します。 | なし | false |
| showWarnings | 削除で無視/スキップされた属性値の背後にある警告のリストです。 | なし | false |

回答例:

200 OK

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答に成功しました

```
{
    "total": 1
}
```

警告付きの応答

```
{
    "total": 0,
    "warning": {
        "info": "Some levels were
 not deleted.",
        "warnings": [
            {
                "field": "HQ",
                "warning": "Default
 Root Plans cannot be deleted."
            }
        ]
    }
}
```

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています。

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

### Modeled Sheet Definition

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/sheet/modeled/definition`

バージョン: v1

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの送信 |
| 説明 | メタデータの変更 |
| 呼び出すために必要な権限 | モデル管理アクセス > モデルに含まれるシート、科目、属性、数式 |
| リクエストに必要なパラメータ | 名前 |

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| PATCH | サポート済 | サポートされていません | モデル シート定義の挿入または更新 |
| DELETE | サポート済 | サポートされていません | モデル シート定義を削除 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| POST | サポート済 | サポートされていません | モデル シート定義アップロードの検証モード |
| オプション | サポート済 | サポートされていません | このコレクション リソースでサポートされている HTTP 動詞のリストを返します。 |

**PATCH**

リクエスト URI

```
/sheet/modeled/definition
```

指定されたクエリー パラメータと一致するモデル シート定義を更新してください。

一致する識別子を持つシートが存在しない場合は、指定されたプロパティで新しいモデル シートが作成されます。

名称別リクエストの例

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
sheet/modeled/definition?
name=Capital Model
```

リクエスト ヘッダーの例

受諾言語: en

リクエスト本文の例

"リクエスト本文" セクションを参照してください。

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |
| 名前 | シートの名前。 | なし |
| proceedWithWarnings | 警告の検証を無視するかどうかを指定します。通常は、変更され | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | たシート プロパティによってシートからデータが削除される可能性がある場合に返されます。 | |
| reorderColumns | このクエリー パラメータを true に設定すると、列リストの順序が変更され、API リクエスト本文で指定された列の順序が反映されます。デフォルトでは、false に設定されています。参照 参考: モデル シート定義およびキューブ シート定義の JSON API における列の並べ替え ( 2728ページ )。 | なし |

リクエスト本文

リクエスト本文の例

両方のエンドポイントで、同じモデル シート定義形式が JSON ペイロードとして使用されます。

リクエストのフォーマット

```
{
  "properties": {
      "description": "Capital
 Model",
      "prefix": "Capital"
  },
  "columns": [
      {
          "properties": {
              "code": "Base Pay",
              "name": "Base Pay",
              "type":
 "TEXT_SELECTOR",
              "values": ["value1",
 "value2"],
              "lookupTables": [
                  {
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエストのフォーマット

```
                        "name":
 "valueLookup1",
                        "type":
 "VALUE",

 "decimalPrecision": 1,
                        "displayAs":
 "CURRENCY"
                    },
                    {
                        "name":
 "spreadLookup1",
                        "type":
 "SPREAD",

 "decimalPrecision": 0,
                        "displayAs":
 "NUMBER"
                    }
                ]
            },
            "availability": [
                {
                    "name": "100k",
                    "code": "100k",
                    "available":
 true
                }
            ],
            "defaultAvailability":
 false,

 "defaultActionIfDataIsPresent":
 "delete"
        },
        {
            "properties": {
                "code": "Label",
                "name": "Label",
                "type": "TEXT"
            },
            "delete": true
        }
  ],
  "accounts": [
        {
            "name": "AccountName",
            "code": "AccountCode"
        }
  ],
  "accessibility": {
        "usernames":
 [ "test@greenco.com" ],
        "excludedFromWorkflow": true
  }
}
```

シート定義オブジェクト

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| プロパティ | 一般シート プロパティを含むオブジェクト | なし |
| 列 | モデル シート列オブジェクトのリスト<br>新しい列はシート定義の最後に作成され、新しい列の相対的な順序が考慮されます。<br>既存の列はインプレースでのみ更新されます。再発注されることはありません。 | なし |
| 科目 | 科目オブジェクトのリスト | なし |
| アクセシビリティ | ユーザー割当シートのアクセシビリティの定義を含むオブジェクト | なし |

シート プロパティ オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 説明 | シートの説明 | なし | 文字列 | 空の文字列 |
| code | 科目コードと二次的な一意の識別子のプレフィックスとして使用されるシート コード新しいシートの作 | なし | 文字列 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| | 成時には必須です。 | | | |
| prefix | 科目コードに使用されるシート プレフィックス 新しいシートの作成時には必須です。コードに代わって廃止予定です。 | なし | 文字列 | |
| userAssigned | シートがユーザー割当シートか (デフォルト) 組織割当シートか。 | なし | ブール値 | false |
| salaryDetail | シートに給与の詳細が含まれているかどうか。 | なし | ブール値 | false |
| frozenColumnCount | | なし | 整数 | 0 |
| allowSplits | シートで分割行が許可されているかどうか。 | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| allowRollupModeEdits | 組織の合計の表示中にシートの編集が許可されているかどうか。 | なし | ブール値 | false |
| allowActuals | シートが実績バージョンで使用可能かどうか。 | なし | ブール値 | false |
| recalculateOnDemand | シートで "要求に応じて再計算" が有効になっているかどうか。 | なし | ブール値 | false |
| timeStratumCode | シートのデータに関連付けられた時間層コード | なし | 文字列 | GL の時間層 |

シート列オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| プロパティ | シート列のプロパティを含むオブジェクト。 | あり | オブジェクト | |
| 使用可否設定 | 現在の列に対する | なし | リスト | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | シート使用可否オブジェクトのリスト参照 シートの使用可否（2655ページ）<br>リスト形式の詳細については、 | | | |
| defaultAvailability | 空き状況で指定されていない限り、すべての値に適用されるデフォルトの空き状況。組織と属性列で有効です。<br>属性列の場合、"availability" または "defaultAvailability" が指定されていない場合、"defaultAvailability" は新しい列に対して true に設定されます。 | なし | ブール値 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | デフォルトでは、この値は空になっています。つまり、空き状況によって特に変更されない限り、既存の空き状況が保持されます。 | | | |
| defaultActionIfDataIsPresent | 使用可否設定で指定されていない限り、値の削除時にデータが存在する場合のデフォルトのアクション。属性列では有効です。<br>既存の列の "デフォルトの使用可否設定" が偽の場合は必須です。 | No | 文字列 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| 削除 | 指定されたシートから列を削除するリクエストです。削除のフラグが設定されていない既存の列に依存する列 (属性特性など) に対しては無効です。 | なし | ブール値 | |

シート列のプロパティ オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| 名前 | 列名 | なし | 文字列 | |
| code | 列コード。組織と組織通貨列を除くすべての列に必須です。 | あり | 文字列 | |
| type | 列のタイプ。<br>可能な値: Level、DIMENSION、Level_attribute、DIMENSION_チェックボックス | あり | 文字列 | |
| readOnly | 現在の列が読み取り専用 | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | かどうか。属性特性列で、特性を属性のフィルタとして使用するには、"読み取り専用" を "false" に設定します。<br>組織の特性および表示列では、true である必要があります (デフォルトは true)。 | | | |
| allowSplits | 現在の列が分割可能かどうか。一般の AllowSplits プロパティが True の場合に、シートに対してのみ有効です。 | なし | ブール値 | false |
| showTotalsAtBottom | 合計列のシートの下部に合計を表 | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | 示するかどうか。 | | | |
| allowHidden | "表示オプション" のシートビューアーでこの列を非表示にできるかどうか。テキストセレクターと期間列を除くすべての列で有効です。 | なし | ブール値 | 真 |
| editableOnSheet | シートから属性列に新しい値を追加できるか。属性とテキスト セレクターの列でのみ有効です。 | なし | ブール値 | false |
| 必須 | 各行のこの列に値が必要かどうか。AllowHiddenが偽の属性列でのみ有効です。 | なし | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| recalculateOnMatch | 一致した場合に値を再計算するかどうか。recalculateOnDemand が真であるシートでのみ有効な属性とテキスト セレクター列 | なし | ブール値 | false |
| lookupTables | スプレッドと値ルックアップを定義する LookupTable オブジェクトのリスト属性とテキスト セレクターの列でのみ有効です。 | なし | LookupTable | ヌル |
| 値 | テキスト セレクター値として追加する文字列のリスト。テキスト セレクターの列でのみ有効です。 | なし | 文字列配列 | ヌル |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| rowKey | この列を行キーとして使用できるか。テキスト ドライバー列でのみ有効です。 | なし | ブール値 | false |
| displayAs | 列の"表示形式"。数値ドライバー列でのみ有効です。<br>可能な値: NUMBER、PERCENT、CURRENCY | なし | DisplayAs | false |
| decimalPrecision | 表示する小数点以下の桁数。数値ドライバー列でのみ有効です。<br>可能な値は 0 ~ 9、-1 (CURRENCY と表示される場合に通貨の小数部桁数を使用する場合) です。 | なし | 整数 | 0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| showToggle | チェックボックス列をトグルとして表示するかどうか。チェックボックスの列でのみ有効です。 | なし | ブール値 | false |
| showInEditMode | Excel シートの編集可能な行に列を表示するかどうか。組織通貨列でのみ有効です。 | なし | ブール値 | false |
| referenceTimePeriod | 表示列の参照期間を示します。科目表示列でのみ有効です。<br>可能な値: FIRST_Non_ACTUALS_PERIOD、Start_OF_Plan | なし | 文字列 | FIRST_NON_ACTUAL |
| startOfRollupRange | 表示列の期間合計範囲を開始する場所を示します。科目表示列での | なし | 文字列 | CONTAINING_REFER |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | み有効です。<br>可能な値: CONTINUING_REFERENCE_PERIOD、BEFORE_REF | | | |
| timePeriodsInRollupRange | 表示列の合計範囲に含める期間の数科目表示列でのみ有効です。 | なし | 整数 | 1 |
| startOfRollupRangeTimeStratumCode | 表示列の合計範囲の開始を決定する期間のコード。科目表示列でのみ有効です。可能な値には、シートの時間層と同じかそれ以降の時間層が含まれます。 | なし | 文字列 | シートの時間層 |
| accountCode | 表示列のモデル科目を決定する科目のコード。表示列でのみ有効です。有 | なし | 文字列 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | 効な値のみが指定されたモデルシートの科目です | | | |

シート列ルックアップ テーブル オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 名前 | ルックアップテーブル名 | あり | 文字列 | |
| displayAs | このルックアップテーブルの"表示形式"フォーマット。可能な値: "NUMBER"と"PERCENT"。値ルックアップ テーブルでのみ有効です。 | なし | 文字列 | NUMBER |
| decimalPrecision | このルックアップ テーブルの値の小数点以下の桁数。可能な値は 0 ~ 9 です。 | なし | 整数 | 0 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
|---|---|---|---|---|
| type | ルックアップテーブルのタイプ。可能な値: VALUE、SPREAD。 | あり | 文字列 | |

シート科目オブジェクト

詳細については、次を参照してください: 参考: 科目の JSON インポート ペイロードのプロパティ（2724ページ）

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| 名前 | 科目名。 | あり |
| code | 科目コード。 | あり |
| 親 | 親科目。 | なし |
| 説明 | 科目の説明。 | なし |
| isCumulative | 科目がストックであるかどうかを返します。 | なし |
| isActualsByDelta | 科目が実績であるかどうかを差額で返します。 | なし |
| isLink | 科目がリンクされた科目であるかどうかを返します。 | なし |
| timeRollupType | 時間合計に対して実行する合計のタイプ。 | なし |
| timeWeightAccount | 期間合計に使用される加重科目。 | なし |
| levelDimRollupType | 組織/カスタム属性合計で実行する合計のタイプ。 | なし |
| levelDimWeightAccount | 組織/カスタム属性合計に使用される加重科目。 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| levelDimRollupText | 組織/カスタム属性合計で使用される合計テキスト値。 | なし |
| actualsOverlay | 科目の実績オーバーレイ設定。 | なし |
| attributeValues | この科目の科目特性値オブジェクトのリスト。 | なし |
| displayAs | 科目の設定として表示されます。 | なし |
| 数式 | 科目の数式。 | なし |
| weightedAverageTranslationEnabled | 科目の加重平均換算が有効かどうかを返します。 | なし |
| weightedAverageTranslationResetStratum | この科目の WAAT REST 層。 | なし |
| weightedAverageTranslationTransferAccount | この科目の WAT 移転科目 | なし |
| decimalPrecision | 科目のデフォルトの小数点以下の桁数。 | なし |
| exchangeRateType | この科目の為替レート タイプです。 | なし |
| suppressZeros | シート上の科目に対してゼロ行を非表示にするかどうかを返します。 | なし |
| startExpanded | 科目がシート上で展開されているかどうかを返します。 | なし |
| dataEntryType | この科目のデータ入力タイプ設定。 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| dataPrivacy | この科目のデータ プライバシー設定。 | なし |
| hasSalaryDetail | 科目に給与の詳細があるかどうかを返します。 | なし |
| isBreakbackEligible | 按分がこの科目の対象であるかどうかを返します。 | なし |
| isSystemAccount | この科目がシステム科目であるかどうかを返します。 | なし |
| isIntercompany | 内部取引科目であるかどうかを返します。 | なし |
| IS前提条件 | 科目が前提条件であるかどうかを返します。 | なし |
| isMetric | 科目がメトリック科目であるかどうかを返します。 | なし |
| modeledSheetSpreadCode | 関連するモデル スプレッドのモデル シート スプレッド コード。 | なし |
| spreadTargetAccount | スプレッド科目のターゲット科目オブジェクト。 | なし |

シートのアクセシビリティ オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ユーザー名 | シートに追加するユーザー名のリスト | なし | 文字列配列 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | タイプ | デフォルト |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | 有効な E メール アドレスの形式である必要があります。 | | | |
| excludedFromWorkflow | このアクセシビリティ設定の "ワークフローから除外済 " チェックボックスを更新します | なし | ブール値 | false |

回答例

204

正常に完了した場合の応答は空白で、ステータスコードは 204 です。

**DELETE**

リクエスト URI

```
/sheet/modeled/definition
```

指定されたクエリー パラメータに一致するモデル シートの定義を削除します。一致する識別子を持つシートが存在しない場合、次のエラーが発生します。

名称別リクエストの例

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/globosales/
sheet/modeled/definition?
name=Capital Model
```

リクエスト ヘッダーの例

受諾言語: en

リクエスト本文の例

<なし>

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| 名前 | モデル シートの名前。 | なし |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |

回答例

204

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

**POST**

リクエスト URI

```
/sheet/modeled/definition/validate
```

モデル シートの定義リクエストを検証します。

名称別リクエストの例

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/default/sheet/
modeled/definition/validate?name=My
Sheet
```

リクエスト ヘッダーの例

受諾言語: en

リクエスト本文の例

<以下に記載>

クエリー パラメータ

検証されている相対エンドポイント (PATCH など) を参照してください。

リクエスト本文

リクエスト本文の例

検証されるエンドポイントの JSON ペイロードと同じモデル シート定義形式が使用されます。ただし、オブジェクト `validationOptions` は検証リクエストの送信時にペイロードに含まれている必要があります。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエストのフォーマット

```
{

  "validationOptions": {
      "httpMethod": "Patch",
      "dependentDimensions": [
          "MyTestDim1", "MyTestDim2"
      ],
      "dependentAttributes": [
          {
              "attributeName":
 "MyTestAttr1",
              "attributeType":
 "DIMENSION_ATTRIBUTE",
              "dimensionName":
 "MyTestDim2"
          },
          {
              "attributeName":
 "MyTestAttr2",
              "attributeType":
 "LEVEL_ATTRIBUTE"
          }
      ]
  },

  "properties": {
      "description": "Capital
 Model",
      "prefix": "Capital"
  },
  "columns": [
      {
          "properties": {
              "code": "Base Pay",
              "name": "Base Pay",
              "type":
 "TEXT_SELECTOR",

...
```

検証オプション オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| httpMethod | どのモデルシートの API エンドポイントを検証するかを指定します。現在、次のエンドポイントをサポートしています。<br>• PATCH | あり |
| dependentDimensions | 検証で存在すると想定される属性名の | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | リスト。検証リクエストの結果、属性は保持されません。依存するすべてのカスタム属性が均一であると想定されます。 | |
| dependentAttributes | 依存特性オブジェクトのリスト検証リクエストの結果、特性は保持されません。 | なし |

扶養家族の属性オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| attributeName | 依存特性の名前。 | あり |
| attributeType | 依存特性のタイプ。サポートされているタイプは次のとおりです。<br>• LEVEL_ATTRIBUTE<br>• DIMENSION_ATTRIBUTE | あり |
| dimensionName | 依存特性の属性の名前。属性特性にのみ適用され、必須です。組織の特性では使用できません。 | なし |

シートの使用可否

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveinsights.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/sheet/availability`

バージョン: v1

| | |
| --- | --- |
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | 特定のシートおよび列の属性または特性値の使用可否設定を取得または更新します。 |
| 呼び出すために必要な権限 | モデル管理アクセス > モデルに含まれるシート、科目、属性、数式 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| リクエストに必要なパラメータ | シート名、列名 |

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| GET | サポートされていません | サポート済 | 特定のシートと列のすべての値の使用可否を取得します。 |
| POST | サポートされていません | サポート済 | 特定のシートと列の値の使用可否設定を更新します。 |
| オプション | サポート済 | サポート済 | このコレクション リソースでサポートされている HTTP 動詞のリストを返します。 |

**GET:**

リクエスト:

| |
|---|
| `/sheet/availability`: 値の可用性のコレクションを取得します。 |
| シート属性内のすべての値の使用可否設定を取得します。instanceCode、sheetName、columnName でフィルタできます。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/modeling/v1/
globosales/sheet/availability?
sheetName=ExpenseCube&columnName=Level&columnTy
```

リクエスト ヘッダーの例:

受諾言語: en

リクエスト本文の例

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| sheetName | 可用性の値を取得するシートの名前。 | あり |
| columnName | 使用可能日の値を取得するシート列の名前。キューブ シートでのみ必須です。<br>値の使用可否設定を変更で | あり |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | きる列のみがサポートされています。<br><br>キューブ シートの科目と組織の列の場合、列の名前は Accept-Language ヘッダーに設定された口ケールを考慮します。 | |
| columnCode | 使用可能日の値を取得するシート列のコード。モデル シートでのみ必須です。<br><br>値の使用可否設定を変更できる列のみがサポートされています。 | あり |
| columnType | 指定された columnName または columnCode の列のタイプ。<br><br>入力可能な値: 科目、組織、属性、特性 | あり |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |
| limit | 単一の回答に含まれるオブジェクトの最大数 | なし |
| offset | 回答コレクション内の最 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | 初のオブジェクトの 0 から始まるインデックス。デフォルトは 0 です。<br><br>limit パラメータで offset を使用して、回答一覧のページングを制御します。 | |

回答例

200

正常に完了しました。

回答例


```
{
    "data": [
        {
            "code": "Corporate
 Plan",
            "name": "Corporate
 Plan",
            "available": true
        },
        {
            "code": "Engineering",
            "name": "Engineering",
            "available": true
        },
        {
            "code": "Development",
            "name": "Development",
            "available": true
        },
        {
            "code":
 "Documentation",
            "name":
 "Documentation",
            "available": true
        },
        {
            "code": "QA",
            "name": "QA",
            "available": true
        },
        {
            "code": "2014-
Development Organization",
            "name": "2014-
Development Organization",
            "available": false
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答例


```
            "code": "Development-
India",
            "name": "Development-
India",
            "available": false
        },
        {
            "code": "QA-India",
            "name": "QA-India",
            "available": false
        },
        {
            "code": "G & A",
            "name": "G & A",
            "available": false
        },
        {
            "code": "Hosting",
            "name": "Hosting",
            "available": true
        },
        {
            "code": "Professional
 Services",
            "name": "Professional
 Services",
            "available": true
        },
        {
            "code": "Sales",
            "name": "Sales",
            "available": true
        },
        {
            "code": "Marketing",
            "name": "Marketing",
            "available": true
        },
        {
            "code": "US Sales",
            "name": "US Sales",
            "available": false
        },
        {
            "code": "Worldwide
 Sales",
            "name": "Worldwide
 Sales",
            "available": true
        },
        {
            "code": "Asia Sales",
            "name": "Asia Sales",
            "available": false
        },
        {
            "code": "Europe
 Sales",
            "name": "Europe
 Sales",
            "available": true
        },
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

回答例


```
        {
            "code": "Latin America
 Sales",
            "name": "Latin America
 Sales",
            "available": true
        }
    ],
    "total": 18
}
```


**POST:**

リクエスト:

| /sheet/availability: 値のコレクションを更新します。 |
| --- |
| シート属性内のすべての値の使用可否設定を更新します。 |

リクエスト URI の例:


```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/
globosales/sheet/availability?
sheetName=ExpenseCube&columnName=Level&columnTyp
```


リクエスト ヘッダーの例:

受諾言語: en

リクエスト本文:

エクスポートの "データ" プロパティと一致する、空き状況オブジェクトの JSON 配列。各 JSON オブジェクトの構造は次のとおりです。

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| code | 値のコード。値を一意に識別するために使用されます。 | あり |
| 名前 | 値の名前。 | あり |
| accountGroup | 値が科目グループであるかどうか。科目の場合は必須です。 | なし |
| 使用可能 | 値が使用可能かどうか。存在しない場 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | 合、変更は行われません。 | |
| deleteIfDataIsPresent | データが存在する場合に削除するかどうか。キューブ シートでカスタム属性値を無効にする場合は必須です。 | なし |
| actionIfDataIsPresent | データが存在している場合に実行するアクション。モデル シートでカスタム属性値を無効にする場合は必須です。 | なし |

リクエスト本文の例

リクエスト本文

```
[
    {
        "code":
 "SalesCube.DiscountPercent",
        "name": "Discount
 Percent",
        "accountGroup": false,
        "available": false
    }
]
```

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| sheetName | 可用性の値を取得するシートの名前。 | あり |
| columnName | 使用可能日の値を取得するシート列の名前。キューブ シートでのみ必須です。<br>値の使用可否設定を変更できる列のみがサポートされています。 | あり |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | キューブ シートの科目と組織の列の場合、列の名前は Accept-Language ヘッダーに設定されたロケールを考慮します。 | |
| columnCode | 使用可否設定を取得するシート列のコードモデル シートでのみ必須です。<br><br>値の使用可否設定を変更できる列のみがサポートされています。 | あり |
| columnType | 指定された columnName または columnCode の列のタイプ。<br><br>入力可能な値: 科目、組織、属性、特性 | あり |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |

回答例:

204

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

### Time

#### URL エンドポイント

```
HTTPS://api.adaptiveinsights.com/api/rest/modeling/{version}/{tenant}/
updateTime
```

バージョン: v1

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの変更 |
| 説明 | Planning の時間構造を更新する |
| 呼び出すために必要な権限 | カレンダーの設定 |
| リクエストに必要なパラメータ | 該当なし |

#### サポートされている HTTP 動詞

| HTTP 動詞 | 説明 |
|---|---|
| POST | 操作パラメータに基づいて、Planning の時間構造を再ロード/更新/追加します。操作パラメータが指定されていない場合、デフォルトは追加操作になります。 |

#### POST

リクエスト

/updateTime: 時間構造を更新します。

クエリー パラメータとして指定された操作 (再ロード/更新/追加) に基づいて、Planning の時間構造を更新します (操作が指定されていない場合は、デフォルトで追加)。

- 再ロード: 時間構造全体を再ロードします。既存のデータはすべてクリアされます。再ロードを通じてデフォルト層を設定することもできます。
- 更新: 既存の時間層のラベルの変更、新しい層の追加など、既存の時間構造を更新します。更新を通じてデフォルトの層を設定することもできます。
- 追加: 時間構造に新しい期間を追加します。追加する場合、期間の変更、期間の新しい粒度レベルの追加、期間の削除は行えません。

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/modeling/v1/TIMEREALM/
updateTime?operation
```

リクエスト ヘッダーの例

認証: 基本ベースまたはトークンベース

コンテンツ タイプ: application/json

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエスト本文

リクエスト本文の例


```
{
   "calendars": [
       {
           "name":
"DefaultHierarchy",
           "strata": [
               {
                   "code": "month",
                   "label": "Month",
                   "shortName":
"Mon"
               },
               {
                   "code": "qtr",
                   "label":
"Quarter",
                   "shortName":
"Qtr"
               },
               {
                   "code": "year",
                   "label": "Year",
                   "shortName": "Yr"
               }
           ]
       },
       {
           "name": "AltHierarchy",
           "strata": [
               {
                   "code": "month"
               },
               {
                   "code": "altQtr",
                   "label":
"AltQuarter",
                   "shortName":
"AltQtr"
               },
               {
                   "code":
"altYear",
                   "label":
"AltYear",
                   "shortName":
"AltYr"
               }
           ]
       }
  ],
  "periods": [
       {
           "startDate":
"2022-01-01",
           "endDate": "2023-01-01",
           "code": "2022",
           "label": "FY2022",
           "shortName": "2022",
           "stratum": "year"
       },
       {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            "startDate":
"2022-01-01",
            "endDate": "2022-04-01",
            "code": "Q1-2022",
            "label": "Q1-FY2022",
            "shortName": "Q1",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2022-01-01",
            "endDate": "2022-02-01",
            "code": "01/2022",
            "label": "Jan-2022",
            "shortName": "Jan",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-02-01",
            "endDate": "2022-03-01",
            "code": "02/2022",
            "label": "Feb-2022",
            "shortName": "Feb",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-03-01",
            "endDate": "2022-04-01",
            "code": "03/2022",
            "label": "Mar-2022",
            "shortName": "Mar",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-04-01",
            "endDate": "2022-07-01",
            "code": "Q2-2022",
            "label": "Q2-FY2022",
            "shortName": "Q2",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2022-04-01",
            "endDate": "2022-05-01",
            "code": "04/2022",
            "label": "April-2022",
            "shortName": "April",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-05-01",
            "endDate": "2022-06-01",
            "code": "05/2022",
            "label": "May-2022",
            "shortName": "May",
            "stratum": "month"
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
            "startDate":
"2022-06-01",
            "endDate": "2022-07-01",
            "code": "06/2022",
            "label": "June-2022",
            "shortName": "June",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-07-01",
            "endDate": "2022-10-01",
            "code": "Q3-2022",
            "label": "Q3-FY2022",
            "shortName": "Q3",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2022-07-01",
            "endDate": "2022-08-01",
            "code": "07/2022",
            "label": "July-2022",
            "shortName": "July",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-08-01",
            "endDate": "2022-09-01",
            "code": "08/2022",
            "label": "Aug-2022",
            "shortName": "Aug",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-09-01",
            "endDate": "2022-10-01",
            "code": "09/2022",
            "label": "Sept-2022",
            "shortName": "Sept",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-10-01",
            "endDate": "2023-01-01",
            "code": "Q4-2022",
            "label": "Q4-FY2022",
            "shortName": "Q4",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2022-10-01",
            "endDate": "2022-11-01",
            "code": "10/2022",
            "label": "Oct-2022",
            "shortName": "Oct",
            "stratum": "month"
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
            "startDate":
"2022-11-01",
            "endDate": "2022-12-01",
            "code": "11/2022",
            "label": "Nov-2022",
            "shortName": "Nov",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-12-01",
            "endDate": "2023-01-01",
            "code": "12/2022",
            "label": "Dec-2022",
            "shortName": "Dec",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-01-01",
            "endDate": "2024-01-01",
            "code": "2023",
            "label": "FY2023",
            "shortName": "2023",
            "stratum": "year"
        },
        {
            "startDate":
"2023-01-01",
            "endDate": "2023-04-01",
            "code": "Q1-2023",
            "label": "Q1-FY2023",
            "shortName": "Q1",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2023-01-01",
            "endDate": "2023-02-01",
            "code": "01/2023",
            "label": "Jan-2023",
            "shortName": "Jan",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-02-01",
            "endDate": "2023-03-01",
            "code": "02/2023",
            "label": "Feb-2023",
            "shortName": "Feb",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-03-01",
            "endDate": "2023-04-01",
            "code": "03/2023",
            "label": "Mar-2023",
            "shortName": "Mar",
            "stratum": "month"
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
            "startDate":
"2023-04-01",
            "endDate": "2023-07-01",
            "code": "Q2-2023",
            "label": "Q2-FY2023",
            "shortName": "Q2",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2023-04-01",
            "endDate": "2023-05-01",
            "code": "04/2023",
            "label": "April-2023",
            "shortName": "April",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-05-01",
            "endDate": "2023-06-01",
            "code": "05/2023",
            "label": "May-2023",
            "shortName": "May",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-06-01",
            "endDate": "2023-07-01",
            "code": "06/2023",
            "label": "June-2023",
            "shortName": "June",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-07-01",
            "endDate": "2023-10-01",
            "code": "Q3-2023",
            "label": "Q3-FY2023",
            "shortName": "Q3",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2023-07-01",
            "endDate": "2023-08-01",
            "code": "07/2023",
            "label": "July-2023",
            "shortName": "July",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-08-01",
            "endDate": "2023-09-01",
            "code": "08/2023",
            "label": "Aug-2023",
            "shortName": "Aug",
            "stratum": "month"
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
            "startDate":
"2023-09-01",
            "endDate": "2023-10-01",
            "code": "09/2023",
            "label": "Sept-2023",
            "shortName": "Sept",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-10-01",
            "endDate": "2024-01-01",
            "code": "Q4-2023",
            "label": "Q4-FY2023",
            "shortName": "Q4",
            "stratum": "qtr"
        },
        {
            "startDate":
"2023-10-01",
            "endDate": "2023-11-01",
            "code": "10/2023",
            "label": "Oct-2023",
            "shortName": "Oct",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-11-01",
            "endDate": "2023-12-01",
            "code": "11/2023",
            "label": "Nov-2023",
            "shortName": "Nov",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2023-12-01",
            "endDate": "2024-01-01",
            "code": "12/2023",
            "label": "Dec-2023",
            "shortName": "Dec",
            "stratum": "month"
        },
        {
            "startDate":
"2022-01-01",
            "endDate": "2023-01-01",
            "code": "alt2022",
            "label": "Alt FY2022",
            "shortName": "Alt2022",
            "stratum": "altYear"
        },
        {
            "startDate":
"2022-01-01",
            "endDate": "2022-05-01",
            "code": "altQ1-2022",
            "label": "Alt Q1-FY2022",
            "shortName": "AltQ1",
            "stratum": "altQtr"
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

```
            "startDate":
"2022-05-01",
            "endDate": "2022-07-01",
            "code": "altQ2-2022",
            "label": "Alt Q2-FY2022",
            "shortName": "AltQ2",
            "stratum": "altQtr"
        },
        {
            "startDate":
"2022-07-01",
            "endDate": "2022-09-01",
            "code": "altQ3-2022",
            "label": "Alt Q3-FY2022",
            "shortName": "AltQ3",
            "stratum": "altQtr"
        },
        {
            "startDate":
"2022-09-01",
            "endDate": "2023-01-01",
            "code": "altQ4-2022",
            "label": "Alt Q4-FY2022",
            "shortName": "AltQ4",
            "stratum": "altQtr"
        },
        {
            "startDate":
"2023-01-01",
            "endDate": "2024-01-01",
            "code": "alt2023",
            "label": "Alt FY2023",
            "shortName": "Alt2023",
            "stratum": "altYear"
        },
        {
            "startDate":
"2023-01-01",
            "endDate": "2023-05-01",
            "code": "altQ1-2023",
            "label": "Alt Q1-FY2023",
            "shortName": "AltQ1",
            "stratum": "altQtr"
        },
        {
            "startDate":
"2023-05-01",
            "endDate": "2023-07-01",
            "code": "altQ2-2023",
            "label": "Alt Q2-FY2023",
            "shortName": "AltQ2",
            "stratum": "altQtr"
        },
        {
            "startDate":
"2023-07-01",
            "endDate": "2023-09-01",
            "code": "altQ3-2023",
            "label": "Alt Q3-FY2023",
            "shortName": "AltQ3",
            "stratum": "altQtr"
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
            "startDate":
 "2023-09-01",
            "endDate": "2024-01-01",
            "code": "altQ4-2023",
            "label": "Alt Q4-FY2023",
            "shortName": "AltQ4",
            "stratum": "altQtr"
        }
    ]
}
```

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| 操作 | 実行する時間構造のインポート操作。再ロード、更新、または追加のいずれかである必要があります。操作が指定されていない場合は、デフォルトで追加が実行されます。 | なし |
| proceedWithWarnings | 警告メッセージを却下するために使用される任意のクエリー パラメータ。true に設定しない場合、呼び出しが実行される前に潜在能力に関する警告が返されます。URL でこのパラメータを true に指定することにより、それらを却下します。 | なし |
| skipAwaitCacheRefresh | 任意のクエリー パラメータ。true に設定した場合、キャッシュのリフレッシュを待つことなく、準備が整ったらすぐにレスポンスを返します。 | なし |

ペイロード パラメータ

時間構造オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| カレンダー | インポートするすべてのカレンダー オブジェクトのリスト。デフォルトのカレンダーが最初に配置される必要があります。更新と追加には、既存のすべてのカレンダーを含める必要があります。 | なし |
| 期間 | カレンダー内のすべての期間オブジェクトのリストです。期間は、カレンダーごとに深さ優先探索の順序でリストする必要があります。デフォルト カレンダーの期間が最初になる必要があります。代替カレンダーの場合、分岐層またはそれ以下の層 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | で期間をリストに並べ直すのは任意です。 | |

カレンダー オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| 名前 | カレンダーの名前。 | あり |
| 層 | カレンダー内の層オブジェクトのリストは、昇順で並べられている必要があります。最下位レベルは最も詳細な層になります。代替カレンダーの場合、分岐層の下に層を再リスト化することは任意です。 | あり |
| code | カレンダーのコード。カレンダー コードが存在する場合にサポートされます。 | なし |

層オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| code | 時間層のコードは一意である必要があります。 | あり |
| ラベル | 時間層のラベルは一意である必要があります。代替カレンダーで再リストされた共有層の場合は不要です。 | あり |
| shortName | 時間層の短縮名は一意である必要があります。代替カレンダーで再リストされた共有層の場合は不要です。 | なし |
| isDefaultStratum | 時間層がデフォルト層であるかどうか。再ロードまたは更新操作では、デフォルト層の設定のみが許可されます。いずれの層にも isDefaultStratum が指定されていない場合は、最下位層が再ロード操作のデフォルトの層であり、既存のデフォルトの層が更新された操作で変更されていないことを前提とします。 | なし |

期間オブジェクト

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| startDate | 期間の開始日は、yyyy-MM-dd の形式である必要があります。 | あり |
| endDate | 期間の終了日は、yyyy-MM-dd の形式である必要があります。 | あり |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| code | 期間のコードは一意である必要があります。 | あり |
| ラベル | 期間のラベル。 | あり |
| shortName | 期間の短い名前。 | なし |
| 層 | この期間が属する層のコード。 | あり |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode 。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |

回答

204 コンテンツなし

正常な応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

400 不良のリクエスト

リクエストをサーバーで理解できませんでした。

例:

```
{
   "message": "Include only one of these valid operation parameters in the
 request: reload, update, or append.",
   "status": 400
}
{
   "error": "Errors occurred while processing the request.",
   "errors": [
       {
           "error": "Stratum code is required. Specify a code.",
           "field": "calendars[0].strata[2].code",
           "code": "PLN310002"
       }
   ]
}
{
   "error": "Errors occurred while processing the request",
   "errors": [
       {
           "error": "Last descendant period (12/2022) end date
 (2023-01-02) doesn't match the ancestor period (Q4-2022) end date
 (2023-01-01).",
           "field": "periods[16]",
           "code": "PLN310002"
       },
       {
           "error": "Last descendant period (12/2022) end date
 (2023-01-02) doesn't match the ancestor period (2022) end date
 (2023-01-01).",
           "field": "periods[16]",
           "code": "PLN310002"
       }
   ]
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
}
```

401 認証されていません

ユーザーが許可されていません。

例:

```
{
   "message": "Invalid credential",
   "status": 401
}
```

401 禁止

ユーザーに必要な権限が不足しています。

例:

```
{
   "message": "This resource is only available when the JSON based time
 API feature and the alternate time roll-up feature are enabled.",
   "status": 403
}
```

500 内部サーバー エラー

内部サーバー エラーです。

**Versions**

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/versions`

`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/cloneVersion` *(POST のみ)*

バージョン: v1

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの送信、変更、取得 |
| 説明 | メタデータの変更 |
| 呼び出すために必要な権限 | モデル管理 > モデル |
| リクエストに必要なパラメータ | エンドポイントによって以下のように異なります。<br>PATCH、POST、DDelete: バージョン名<br>GET になし |

サポートされている **HTTP VERB**
(注: バージョン フォルダは、以下のいずれのエンドポイントでもサポートされていません)

| HTTP 動詞 | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| GET | サポートされていません | サポート済 | テナントのすべてのバージョンを取得します。 |
| DELETE | サポート済 | サポートされていません | 既存の削除可能バージョンを削除します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| HTTP 動詞 | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| PATCH | サポート済 | サポートされていません | 実績バージョンを作成/更新するか、計画バージョンを更新します。 |
| POST | サポート済 | サポートされていません | 新しい計画バージョンを作成します。 |

**GET**

リクエスト URI

| /api/REST/modeling/v1/{tenant}/versions: テナントのすべてのバージョンを取得します |
|---|
| リスト内のテナントのすべてのバージョンを取得します。<br>特定のバージョンの UI に表示されないプロパティは、応答内の対応するバージョン オブジェクトに含まれません。たとえば、サブ実績バージョンの startOfVersion です。<br>"limit" パラメータと "offset" パラメータを使用してページングを使用することができます。<br>以下のバージョン プロパティは現在 GET でサポートされていない/表示されません。<br>ベース バージョン (仮想バージョンの場合)、固定通貨レポートを有効化 (仮想バージョンの場合)、<br>数式値、管理アクセス、ユーザー アクセス、編集可能なシート アクセス、実績の特権アクセス、グループ、グループ アクセス レベルを計算します。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/v1/DACCO/versions?limit=25&offset=1
```

リクエスト本文の例:

<空白のまま>

クエリー パラメータ:

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| limit | 単一の回答に含まれるオブジェクトの最大数 | なし |
| オフテスト | 回答コレクション内の最初のオブジェ | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | クトの 0 から始まるインデックス。デフォルトは 0 です。<br><br>limit パラメータで offset を使用して、回答一覧のページングを制御します。 | |

パス パラメータ:

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| テナント | 操作するテナント (GREENCO など) | あり |

回答例

200 OK

注: 実績バージョンの "バージョンの開始" と計画バージョンの "表示開始月" は、両方とも startOfVersion プロパティ (ポインタ A) の下に表示されます。

同様に、実績バージョンの "バージョンの終了" と計画バージョンの "計画の終了" は、両方とも endOfVersion プロパティ (ポインタ D) の下に表示されます。

実績バージョンの "スクロールの開始場所" と計画バージョンの "計画の開始" は、両方とも StartingScrollLocation プロパティの下に表示されます (マウス C)。

正常に完了しました。

回答例


```
{
    "data": [
        {
            "name": "Test-Actuals-
Version",
            "shortName": "Test-
Actuals-Version-Shortname",
            "versionType":
 "ACTUALS",
            ...

 "lockLeadingCompletion": true
        },
        {
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答例

```
            "name": "JE Sub under
 Actuals",
            "shortName": "JE01",
            "parent": "Actuals",
            ...
            "journalEntryVersion":
 true,

 "journalEntryVersionProperties":
 {

 "journalEntryNumbering": "N",
                "startingNumber":
 0
            },
            ...
        },
        ...
    ],
    "limit": 12,
    "offset": 4,
    "total": 12
}
```

**DELETE**

リクエスト

/api/REST/modeling/v1/{tenant}/versions: 既存のバージョンを削除

指定したバージョン名のバージョンを削除します。

ルート実績バージョンとデフォルト バージョンは削除できません。

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/DACCO/versions?
versionName={versionName}
```

リクエスト本文の例:

<空白のまま>

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| versionName | 削除する既存のバージョンの名前を指定します。 | あり |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえ | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | ば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| テナント | 操作するテナント (GREENCO など) | あり |

回答例

204 NO_CONTENT

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

**PATCH**

リクエスト:

| /api/REST/modeling/v1/{tenant}/versions: 実績バージョンの作成/更新、または計画バージョンの更新 |
| --- |
| 指定したバージョン識別子が存在する場合は、既存の実績/計画バージョンを更新します。そうしない場合、その識別子を使用して新しい実績バージョンを作成します。<br>現在、クエリー パラメータでサポートされているバージョン識別子のセットは次の 2 つです。<br>- バージョン名<br>呼び出しごとに URL で指定する必要があるのは、上記のクエリー パラメータのうち 1 つのみです。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/v1/DACCO/versions?versionName={versionName}
```

リクエスト本文

- 既存のバージョンに対して更新されるバージョン プロパティ、または作成される新しいバージョンに対して指定されるバージョン プロパティを含む JSON。

更新:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- 更新の場合、リクエスト本文に特定のプロパティは必要ありません (versionType を除く)。ただしリクエスト本文は必要です。POST のリクエスト本文のセクションでは、さまざまなタイプの計画バージョンにおけるプロパティのリストを示します。

- インジケータのプロパティ (仕訳入力バージョンなど) は更新できません。ただし、変更されていない適切な値がある限り、リクエスト本文に含めることができます。

- 親の更新は現在サポートされていません。

- 最下位バージョン以外 (子を持つバージョン) を更新する場合、これらのバージョンのユーザーグループは、"FULL_ACCESS" または "HID済" のアクセス タイプのみを持つことができます。"FULL_ACCESS" は、UI 上で "VISIBLE" と等価に表示されます。

- グループ アクセスの詳細 (グループ ID とグループ アクセス レベル) は、更新コールのリクエスト本文で groupId=0 を指定することで削除できます。

以下を作成します。

- 作成の場合、次のプロパティをリクエスト本文の "指定" に指定できます。

| プロパティ | 説明 | 必須 (実績の場合) | 必須 (仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 短縮名 | バージョンの短縮名 | なし | なし | shortName | String | 空の文字列 |
| 親 | このバージョンの親です。 | なし | なし | 親 | 文字列 (バージョン名) | ルート実績バージョン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 | 必須(実績の場合) | 必須(仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| バージョンタイプ | バージョンのタイプ(実績または計画) | Y、実績 | Y、実績 | versionType | String | |
| 説明 | 説明 | なし | なし | 説明 | String | 空の文字列 |
| 管理者アクセス | バージョンの管理者のアクセスレベル | なし | なし | administrationAccess | VersionAccessControl | 親から継承 |
| ユーザーアクセス | バージョンのアク | なし | なし | userAccess | VersionAccessControl | 親から継承 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 | 必須(実績の場合) | 必須(仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | セスレベル(ユーザーの場合) | | | | | |
| 実績の特権アクセス | バージョンのアクセスレベル("実績の特権アクセス"権限を持つ人) | なし | なし | privilegedAssuranceAccessControl | VersionAccessControl | 親から継承 |
| グループID | 特定のユーザー | なし | なし | groupId | 整数 | 親から継承 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 | 必須(実績の場合) | 必須(仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | グループID | | | | | |
| グループアクセスレベル | 指定したユーザーグループのバージョンのアクセスレベル | グループIDが指定されている場合は"Y"。 | グループIDが指定されている場合は"Y"。 | groupAccessLevel | String | 親から継承 |
| 変更履歴 | 変更履歴情報の保持/削除。 | なし | なし | auditTrail | ブール値 | false(仕訳入力バージョンの親から継承) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 | 必須(実績の場合) | 必須(仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 仕訳入力バージョン | 作成するバージョンが仕訳入力であるかどうか。 | なし | Y、真 | journalEntryVersion | ブール値 | |
| returnId | trueに設定されている場合は、バージョンIDを返します。操作 | なし | なし | returnId | ブール値 | false (falseの場合は204 No Contentを返します。trueの場合はバージョンと |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 | 必須(実績の場合) | 必須(仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | によって新しいバージョンが作成された場合の新しいバージョンID。それ以外の場合は、更新された既存のバージョンに200 OKを返します) | | | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| プロパティ | 説明 | 必須 (実績の場合) | 必須 (仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ジョンのIDを返します。 | | | | | |

- VersionAccessControl 値タイプは、
次の文字列値を取ることができます:
"HIDDEN"、"LOCKED"、"LOCKED_EXCEPT_NOTES"、"IMPOR

- グループ ID は、exportGroups 公開 API を介して
取得できます。

- 仕訳入力バージョンは、連結が無効になっている
会社ではサポートされていません。

仕訳入力バージョンのプロパティ:

次のプロパティは、journalEntryVersionProperties
のネストされたオブジェクト (サンプル リクエスト
本文を参照) の下に存在し、JE バージョンに対して
のみ使用されます。

| プロパティ | 説明 | 必須 (実績の場合) | 必須 (仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 仕訳入力 | 仕訳入力 | 未使用 | なし | journalEntryVersionProperties | String | nothing(null) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| プロパティ | 説明 | 必須(実績の場合) | 必須(仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| の番号付け | に番号を付ける方法を指定します。自動(A)、手動(M)、またはなし(N)のいずれかになります。 | | | | | |
| プレフィックス | JE番号付け | 未使用 | 仕訳入力の | prefix | String | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 | 必須(実績の場合) | 必須(仕訳入力の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | のプレフィックス | | 番号付けが自動(A)または手動(M)の場合は"Y" | | | |
| 開始番号 | JE番号付けの開始番号 | 未使用 | 仕訳入力の番号付け(A)の場合はY | StartingJENumber | 整数 | |

ルート実績固有のプロパティ:

次のプロパティは、ルート実績を更新する場合にのみ使用されます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ | 説明 | 必須 | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ |
|---|---|---|---|---|
| バージョンの開始 | バージョンの開始 | なし | startOfVersion | 文字列 (期間コード) |
| バージョンの終了 | バージョンの終了 | なし | endOfVersion | 文字列 (期間コード) |
| スクロールの開始場所 | バージョンのスクロールの開始場所 | なし | startingScrollLocation | 文字列 (期間コード) |
| 次の時点までの確定数字を表示 | 計画バージョンに対する実績のオーバーレイが停止するとき | なし | completedUntilDatesThrough | 文字列 (期間コード) |
| ワークフローを有効化 | ワークフローで組織別に実績を送信できます。 | なし | endableWorkflow | ブール値 |

リクエスト本文の例:

リクエスト本文

```
{
        "parent": "Parent
 Version",
        "versionType": "ACTUALS",
        ...
        "administratorsAccess":
 "FULL_ACCESS",
        "usersAccess":
 "IMPORT_AND_NOTES",
        ...
        ...
        "auditTrail": true
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエスト本文

```
}
```

ネストされたプロパティがあるバージョンのリクエスト本文の例 (仕訳入力バージョンと仮想バージョン):

リクエスト本文

```
{
        "parent": "Actuals",
        "versionType": "ACTUALS",
        "shortName": "test JE
 version",
        "journalEntryVersion":
 "true",

 "journalEntryVersionProperties":
 {

 "journalEntryNumbering": "A",
                "prefix": "JE-
Prefix",
                "startingNumber":
 "25"
        },
        ...
        "auditTrail": true
}
```

クエリー パラメータ:

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| versionName | 作成する新しいバージョン、または更新する既存バージョンの名前。 | あり |
| proceedWithWarnings | 警告メッセージを却下するために使用される任意のクエリー パラメータ。true に設定しない場合、呼び出しが実行される前に潜在能力に関する警告が返されます。URL でこのパラメータを true に指定することによ | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | り、それらを却下します。 | |
| instanceCode | 値の取得元の instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | なし |

パス パラメータ:

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| テナント | 操作するテナント (GREENCO など) | あり |

パブリッシュ アクセス プロパティ:

次のリクエスト本文のプロパティは、WD が有効な場合にのみ使用されます。

回答例

204 NO_CONTENT

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

**POST**

リクエスト:

| /api/REST/modeling/v1/{tenant}/cloneVersion: 新しい計画バージョンの作成 |
| --- |
| ソース/デフォルト バージョンのクローン化によって新しい計画バージョンまたは予測バージョンを作成するか、仮想バージョンを作成します。<br>現在、クエリー パラメータでサポートされているバージョン識別子のセットは次の 2 つです。<br>- 新しいバージョン名<br>呼び出しごとに URL で指定する必要があるのは、上記のうち 1 つのみです |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/modeling/v1/DACCO/
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
cloneVersion?newVersionName=Budget
 2012&
sourceVersionName=Budget 2011&
copyAllData=true&
copySharedFormulasAndRules=true&
copyAllOverrideFormulas=false
```

リクエスト本文:

作成する新しいバージョンに対して指定されるバージョン プロパティを含む JSON。

| 名前 | 説明 | 必須 (プランに対して) | 必須 (予測の場合) | 必須 (仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 短縮名 | バージョンの短縮名 | なし | なし | なし | shortName | String | 空の文字列 |
| 親 | このバージョンの親フォルダ。 | なし | なし | なし | 親 | 文字列 (フォルダ名) | |
| バージョンタイプ | バージョンのタイプ (実績または | Y, PLANNING | Y, PLANNING | Y, PLANNING | versionType | String | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計画) | | | | | | |
| 説明 | 説明 | なし | なし | なし | 説明 | String | 空の文字列 |
| ロック済バージョン | マスター数式や他の科目数式を含む、すべてのユーザーバージョンをロックします。 | なし | 未使用 | 未使用 | lockedVersion | Integer | ソースバージョンから継承 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数式値を計算 | "ロック済バージョン"がオンになっている計画バージョンで使用できます。ほとんどの科目で数式と参照の計算 | なし | 未使用 | 未使用 | calculateFormulaValues | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 結果を保持し、ロック済バージョンのパフォーマンスを向上させるために使用します。 | ー | | | | | |
| 管理者アクセス | バージョンの管理者のアク | なし | なし | なし | administrationAccess | VersionAccessControl | バージョン(計画)から継 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | セスレベル | | | | | | 承。IMPORT_AND_NO(予測)ロック済(仮想) |
| ユーザーアクセス | バージョン:ユーザのアクセスレベル | なし | なし | なし | usersAccessControlVersion | | スバージョン(計画)から継承。IMPORT_AND_NO(予測)ロック済(仮想) |
| 編集可能なシートアクセス | バージョンのアクセスレベル("編集可能 | なし | なし | なし | editableSheetAccessControlVersion | | スバージョンから継承(計画、予測) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | なし"トアクセス"権限を持つ人) | | | | | | |
| グループID | 指定したユーザグループのID | なし | なし | なし | groupId | 整数 | ソースバージョンから継承(計画、予測) |
| アクセスレベル | 指定したユーザグループのバージョンのア | なし | なし | なし | groupAccessLevel | AccessControl | ソースバージョンから継承(計画、予測) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | クセスレベル | | | | | | |
| 表示開始月 | バージョンの表示開始月 | なし | なし | 未使用 | startOfVersion | 文字列(期間コード) | ソースバージョンから継承 |
| 計画の終了 | 計画の終了 | なし | なし | 未使用 | endOfPlan | 文字列(期間コード) | ソースバージョンから継承 |
| 計画の開始 | 計画の開始 | なし | なし | 未使用 | startOfPlan | 文字列(期間コード) | ソースバージョンから継承 |
| 先行期間をロック | バージョンにおいて、 | なし | 未使用 | 未使用 | lockLeadingTimePeriod | 文字列(期間コード) | ソースバージョンから |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| デフォルト値 | 値のタイプ | リクエスト本文のプロパティ名 | 必須(仮想の場合) | 必須(予測の場合) | 必須(プランに対して) | 説明 | 名前 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 継承 | | | | | | データの指定期間を編集不可にします。UI では "次の時点までのすべての{最下位層をロック"}として表示され | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ます。 | | | | | | |
| 先行の完了をロック | 上記のプロパティの"完了{最下位層}"オプション。このプロパティと"次の期間をロック"の両方をリクエスト | なし | 未使用 | 未使用 | lockLeadingCompletion | ブール値 | バージョンから継承 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 本文で指定することはできません。 | | | | | | |
| デフォルト | バージョンを、すべてのユーザーに対してデフォルトバージョンとします。 | なし | 未使用 | 未使用 | デフォルト | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 変更履歴 | 変更履歴情報の保持/削除。 | なし | なし | 未使用 | auditTrail | ブール値 | ソースバージョンから継承 |
| 実績のオーバーレイに、利用できない組織を含める | すでに使用されなくなったものも含め、すべての組織を実績オーバーレイに表示 | なし | なし | 未使用 | actualsOverlaysIncludesUnavailable | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | します。 | | | | | | |
| オーバーレイの実績バージョン | 計画データを、指定した実績バージョンのデータでオーバーレイします。 | なし | なし | 未使用 | actualsVersionOverlay | 文字列(バージョン名) | ロールオーバー実績バージョン |
| トランザクションIDにドリル | バージョンのトランザクションにドリルインテグレーションIDを | なし | なし | 未使用 | drillIntegrationId | 整数 | デフォルトレポートトランザクション |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イン | リルインできるようにします。 | | | | | | |
| 予測バージョン | 作成するバージョンが予測バージョンかどうか。 | 未使用 | Y、真 | 未使用 | predictiveVersion | ブール値 | |
| 仮想バージョン | 作成するバージョンが仮想バー | 未使用 | 未使用 | Y、真 | virtualVersion | ブール値 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ジョンかどうか。 | | | | | | |
| returnId | trueに設定されている場合はバージョンIDを返します。操作によって新しいバージョンが作成さ | なし | なし | なし | returnId | ブール値 | false(falseの場合は204 No Contentを返します。trueの場合は、応答にバージョンが含まれ200 OKを返します) |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | れた場合の新しいバージョンID。それ以外の場合は、更新された既存のバージョンのIDを返します。 | | | | | | |

- VersionAccessControl 値タイプは、
次の文字列値を取ることができます:
"HIDDEN"、"LOCKED"、"LOCKED_EXCEPT_NOTES"、"IMPOR

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- ロック済計画バージョンには、ユーザー グループに対して "IMPORT_AND_NOTES" または "FULL_ACCESS" を設定することはできません。

- 予測バージョンでは、ユーザー グループに対して "FULL_ACCESS" を設定できません。

- 仮想バージョンには、どのユーザー グループに対しても "非表示" または "ロック済" のみを設定できます。

- プランニングがなくても連結が有効化されている会社では、計画バージョンと予測バージョンを作成できません。

バージョンの仮想プロパティ

次のプロパティは、VirtualVersionProperties のネストされたオブジェクトの下に存在し、仮想バージョンに対してのみ使用されます。

| 名前 | 説明 | 必須 (プランに対して) | 必須 (予測の場合) | 必須 (仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ベースバージョン | 仮想バージョンのベースデータを提供するバージョンです。仮想バージョ | 未使用 | 未使用 | なし | baseVersion | 文字列 (バージョン名) | デフォルトバージョン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ンまたはサブ実績バージョンにすることはできません。 | | | | | | |
| 為替レートバージョン | 固定通貨のレポート作成で使用される仮想バージョ | 未使用 | 未使用 | なし | exchangeRateVersion | 文字列(バージョン名) | 実績バージョン |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| デフォルト値 | 値のタイプ | リクエスト本文のプロパティ名 | 必須(仮想の場合) | 必須(予測の場合) | 必須(プランに対して) | 説明 | 名前 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ーョン用為替レートを提供するバージンです。仮想バージョンまたはサブ実績バージョンにすることはできません。 | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 固定通貨レポートの有効化 | 固定通貨レポートを有効/無効にします。 | 未使用 | 未使用 | なし | enableConstantCurrencyReport | ブール値 | false |
| オフセット | 後ろ方向(正の整数)または前方向(負の整数)のオフセット量。 | 未使用 | 未使用 | なし | offset | 整数 | 0 |

パブリッシュ アクセス プロパティ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

次のリクエスト本文のプロパティは、WD が有効な場合にのみ使用されます。

| 名前 | 説明 | 必須 (プランに対して) | 必須 (予測の場合) | 必須 (仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 財務計画 | このバージョンの財務プランを有効/無効にします。<br>"Adaptive Planning for Financial Plans" が有効な場合にのみ使用されます。 | なし | 未使用 | 未使用 | financialPlans | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人員計画 | このバージョンのヘッドカウントプランを有効/無効にします。<br><br>財務計画に対するAdaptive Planningまたはワークフォースに対 | なし | 未使用 | 未使用 | headcountPlans | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | するAdaptive Planningのいずれかが有効な場合にのみ使用されます。 | | | | | | |
| ワークフォースアクション計画 | このバージョンのワークフォースアクションプランを | なし | 未使用 | 未使用 | workforceActionPlans | ブール値 | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | リクエスト本文のプロパティ名 | 値のタイプ | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 有効/無効にします。"ワークフォースへのAdaptive Planning"が有効になっている場合にのみ使用されます。 | | | | | | |

リクエスト本文の例

リクエスト本文

```
{
        "parent": "Parent Folder",
        "versionType": "PLANNING",
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエスト本文

```
        "description": "Test Plan
 Version",
        ...
        ...
        "usersAccess":
 "LOCKED_EXCEPT_NOTES",
        "editableSheetAccess":
 "LOCKED",
        ...
        "startOfVersion": "2012",
        "endOfVersion": "2013",
        "startingScrollLocation":
 "01/2012",
        "lockLeadingTimePeriod":
 "02/2012",

 "actualsOverlayIncludesUnavailableLevels":
 true
}
```

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ソースバージョン名 | クローン元のバージョンの名前指定しない場合は、デフォルトバー | なし | なし | 未使用 | sourceVersionName | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ジョンのクローンを作成します。 | | | | | |
| 新しいバージョン名 | 作成する新しいバージョンの名前。 | あり | あり | あり | newVersionName | |
| すべてのデータをコピー | Trueの場合は、すべてのデータをコピーします。 | なし | 未使用 | 未使用 | copyAllData | false |
| 共有数 | 真の場 | なし | 未使用 | 未使用 | copySharedFormulasAndR | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 式とルールをコピー | 合、共有数式とルールをコピーします。 | | | | | |
| すべてのオーバーライド数式をコピー | 真の場合は、すべてのオーバーライド数式をコピーします。 | なし | なし | 未使用 | copyAllOverrideFormulas | false |
| GLとカスタム科目の | Trueの場合、GLとカスタム | なし | 未使用 | 未使用 | copySpreadGLAndCustom | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 分割をコピー | 科目の分割をコピーします。 | | | | | |
| モデル行をコピー | 真の場合、モデル行をコピーします。 | なし | 未使用 | 未使用 | copyModelRows | false |
| セル、シート、ワークフローのメモをコピー | Trueの場合は、セル、シート、ワークフローのメモ(該当する | なし | 未使用 | 未使用 | copyAllNotes | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 場合)をコピーします。 | | | | | |
| ワークフローのステータスを進行中にリセット | 真の場合、ワークフローのステータスは進行中にリセットされます。 | なし | 未使用 | 未使用 | resetWorkflowStatusToInP | false |
| 変更履歴の履歴をコピー | Trueの場合は、レポートのパラメー | | 未使用 | 未使用 | copyAuditTrailHistory | true |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | タの選択肢としてすべてのレポートに追加されます。 | | | | | |
| レポートのパラメータとして選択すべてのレポートに追加 | Trueの場合は、レポートのパラメータの選択肢としてすべての | なし | 未使用 | 未使用 | addAsReportParameterCho | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | レポートに追加されます。 | | | | | |
| シートの再計算値をコピー | Trueの場合は、シートの再計算値をコピーします。 | なし | 未使用 | 未使用 | copyRecalculatedValuesOf | false |
| 警告のまま続行 | 警告メッセージを却下するために使用され | なし | なし | なし | proceedWithWarnings | false |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | る任意のクエリーパラメータ。true に設定しない場合、呼び出しが実行される前に潜在能力に関する警告が返されま | | | | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | す。URLでこのパラメータをtrueに指定することにより、それらを却下します。 | | | | | |
| インスタンスコード | 値の取得元のinstanceCode。たとえば、GLOBOが指定され | なし | なし | なし。instanceCode | instanceCode | ユーザーのデフォルトインスタンス |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| 名前 | 説明 | 必須(プランに対して) | 必須(予測の場合) | 必須(仮想の場合) | URLのパラメータ名 | デフォルト値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ていない場合は、ユーザーのデフォルトのインスタンスが使用されます。 | | | | | |

- "ワークフローのステータスを進行中にリセット" は、ワークフローが無効になっている企業ではサポートされていません。

- "シートの再計算値をコピー" は、モデル ISOLATION 機能フラグがオフの場合、サポートされません。

パス パラメータ:

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| テナント | 操作するテナント(GREENCOなど) | あり |

回答例:

204 NO_CONTENT

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

成功した応答は空白で、ステータス コードは 204 です。

参考: 科目の **JSON** インポート ペイロードのプロパティ

注 : "プロパティ値が存在しない" は、プロパティがペイロードに含まれていないか、値がヌルであることを意味します。空の文字列は存在しないとみなされます。

モデル科目のインポート

| プロパティ名 | 使用可能な値 | 要件 | プロパティ値が存在しない場合に作成するデフォルト値 | プロパティ値が存在しない場合の更新時のデフォルト値 |
|---|---|---|---|---|
| 名前 | 文字列 | 新しい科目を作成する場合は必須です。 | 該当なし | 現在の名称。 |
| 親 | 親科目の正確な名前またはコード。 | 任意です。 | モデル シートの科目グループ。 | 現在の親。 |
| type | ルート科目の場合、"期間" または "初期残高" または "計算" または "前提条件" または "スプレッド"、あるいは空白。 | 必須です。 | 該当なし | 該当なし |
| isCumulative | true または False。 | ストック科目の場合は必須です。 | false | 現在の累積。 |
| isLink | 偽の場合、モデル科目管理で科目をリンクさせることはできません。 | 任意です。 | false | false |
| shortName | 英数字 | 任意です。 | デフォルトはありません。 | 現在の短縮名。 |
| code | 英数字、下線、特殊文字、スペースなし。 | 任意です。存在しない場合、コードとして "名前" が使用されます。 | 名前 | 現在のコード。 |
| isPlanByDelta | true または False。 | ストック科目の場合は必須です。フロー科目の場合は空白のままにします。 | false | 現在の閾値は PlanByDelta |
| displayAs | "NUMBER" または "通貨" または "パーセント"。 | 任意です。 | "数字" | 現在の displayAs |
| decimalPrecision | 1 ~ 9 の数字または -1 | 任意です。 | 0 | 現在の小数点以下の桁数。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ名 | 使用可能な値 | 要件 | プロパティ値が存在しない場合に作成するデフォルト値 | プロパティ値が存在しない場合の更新時のデフォルト値 |
|---|---|---|---|---|
| | -1 は通貨の小数部桁数を意味します。 | | | |
| exchangeRateType | "月平均" または "月末"、またはその他の有効な為替レート タイプの正確な名前。 | 任意です。 | フロー科目の場合は "月平均"、ストック科目の場合は "月末" です。 | 現在の為替レート タイプ |
| 数式 | 有効な数式。 | 任意です。 | 算出科目の場合は "0"、その他の場合はヌル。 | 現在の数式。 |
| 説明 | 英数字 | 任意です。 | デフォルトはありません。 | 現在の説明。 |
| dataPrivacy | "PRIVATE" または "CORPORATE_ROLLUP_Plan" または "ALL_PLANS"。 | 任意です。 | "PRIVATE" | 現在のデータのプライバシー。 |
| spreadTargetAccount | モデル シート内で定義された科目コード | スプレッドの科目タイプを作成する場合は必須です。 | ヌル | 現在の SpreadTargetAccount |
| modeledSheetSpreadCode | モデル シートのモデル シート エディタ内の "データ入力列" で定義されたスプレッド ルックアップ。 | スプレッドの科目タイプを作成する場合は必須です。 | ヌル | 現在のモデルSheetSpreadCode |
| attributeValues | 特性に定義された特性値。 | 任意 | ヌル | 現在の attributeValues |

キューブ科目のインポート

| プロパティ名 | 使用可能な値 | 要件 | プロパティ値が存在しない場合に作成するデフォルト値 | プロパティ値が存在しない場合の更新時のデフォルト値 |
|---|---|---|---|---|
| 名前 | 文字列 | 新しい科目を作成する場合は必須です。 | 該当なし | 現在の名称 |
| 親 | 親科目の正確な名前またはコード。 | 任意です。 | キューブ シート科目グループ | 現在の親 |
| type | "標準"、"計算"、"前提条件"、"メトリッ | グループでない場合は必須です。 | 該当なし | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| プロパティ名 | 使用可能な値 | 要件 | プロパティ値が存在しない場合に作成するデフォルト値 | プロパティ値が存在しない場合の更新時のデフォルト値 |
|---|---|---|---|---|
| | ク"、およびサポートされているキューブ入力科目タイプ | グループに存在しない必須フィールドです。 | | |
| isCumulative | true または False。 | ストック科目の場合は必須です。 | false | 現在の累積 |
| isLink | true または False。 | リンク科目を作成する場合は必須です。 | false | 現在のリンク |
| shortName | 英数字 | 任意です。 | デフォルト値なし | 現在の短縮名 |
| code | 英数字、下線、特殊文字、スペースなし。 | 任意です。存在しない場合、コードとして "名前" が使用されます。 | 名前 | 現在のコード |
| isPlanByDelta | true または False。 | ストック科目の場合は必須です。 | false | 現在のタイプは "PlanByDelta" です |
| isActualsByDelta | true または False。 | ストック科目の場合は必須です。 | false | 現在の時間数はActualsByDelta |
| displayAs | "NUMBER" または "通貨" または "パーセント"。 | 任意です。 | "数字" | 現在の displayAs |
| decimalPrecision | 1 ~ 9 の数字または -1<br>-1 は通貨の小数部桁数を意味します。 | 任意です。 | 0 | 現在の小数部桁数 |
| exchangeRateType | "月平均" または "月末"、またはその他の有効な為替レート タイプの正確な名前。 | 任意です。 | フロー科目の場合は "月平均"、ストック科目の場合は "月末" です。 | 現在の為替レートタイプ |
| 数式 | 有効な数式。 | 任意です。 | 算出科目の場合は "0"、それ以外の科目の場合はヌル | 現在の数式 |
| 説明 | 英数字 | 任意です。 | デフォルトはありません。 | 現在の説明 |
| dataPrivacy | "PRIVATE" または "CORPORATE_ROLLUP_Plan" または "ALL_PLANS" | 任意です。 | "PRIVATE" | 現在のデータのプライバシー |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| プロパティ名 | 使用可能な値 | 要件 | プロパティ値が存在しない場合に作成するデフォルト値 | プロパティ値が存在しない場合の更新時のデフォルト値 |
|---|---|---|---|---|
| attributeValues | 特性に定義された特性値。 | 任意です。 | ヌル | 現在のattributeValues |
| timeRollupType | "SUM"、"LAST"、"AVERAGE"、"WEIGHTED_AVERAGE"。 | 任意です。 | 親科目の timeRollupType を継承します。科目に親科目がない場合は、デフォルト値が "合計" になります | 現在の timeRollupType |
| timeWeightAccount | 時間合計の加重科目のコード。 | "時間合計" 列に "WEIGHTED_AVERAGE" を入力した場合は必須です。 | ヌル | 現在の time WeightAccount |
| levelDimRollupType | "SUM" または "NONBlank_AVERAGE" または "WESIGNED_AVERAGE" または "TEXT"。 | 任意です。 | 親科目の levelDimRollupType を継承するか、科目に親科目がない場合は、デフォルトで "合計" が指定されます | 現在の組織DimRollupType |
| levelDimWeightAccount | 組織/属性合計加重科目のコード。 | "組織/属性合計" 列に「WEIGHTED_AVERAGE」を入力した場合は必須です。それ以外の場合は空白のままにします。 | ヌル | 現在の time WeightAccount |
| levelDimRollupText | 任意のテキスト。 | "組織/属性合計" 列に "テキスト" を入力した場合は必須です。 | ヌル | 現在の組織DimRollupText |
| startExpanded | true または False。 | 任意です。 | 真 | 現在の startExpanded |
| actualsOverlay | "ENable_ACTUALS" または "SHAW_Plan"。 | 任意です。 | "ENABLE_ACTUALS" | 現在の実績のオーバーレイ |
| suppressZeros | true または False。 | 任意です。 | 真 | 現在の「suppress Zeros」 |
| dataEntryType | "標準" または "キューブ"。 | 任意です。 | ヌル | 現在の dataEntryType |
| linkedAccountMappings | linkedAccountMapping のリスト。 | リンク科目の場合は必須です。 | 該当なし | 該当なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

参考: モデル シート定義およびキューブ シート定義の **JSON API** における列の並べ替え

注： 以下でのみ使用可能です。 `/definition` 条件クエリー パラメータ `reorderColumns` が真である。

リクエストの例

リクエスト URI:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/modeling/<version>/<tenant>/sheet/modeled/definition/?name=APIColumnsReorderTwo1660598383&reorderColumns=true
```

| リクエスト本文の作成 | 本文の更新のリクエスト | 期待される結果 |
|---|---|---|
| {<br>"properties": {<br>"prefix": "APIColumnsReorderTwo166(<br>},<br>"columns": [<br>{<br>"properties": {<br>"name": "Level",<br>"type": "LEVEL"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextOne",<br>"code": "TextOne",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextTwo",<br>"code": "TextTwo",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextThree",<br>"code": "TextThree",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>}, | {<br>"properties": {<br>"prefix": "APIColumnsReorderTwo1660598383",<br>},<br>"columns": [<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextFour",<br>"code": "TextFour",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextSix",<br>"code": "TextSix",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextThree",<br>"code": "TextThree",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextSeven",<br>"code": "TextSeven",<br>"type": "TEXT" | 条件 `reorderColumns` でした `false`列リストの更新後は、次の順序が想定されます。<br>• Level<br>• TextOne<br>• TextTwo<br>• TextThree<br>• TextFour<br>• TextFive<br>• TextSix<br>• TextSeven<br>• TextEight<br>共有先 `reorderColumns` に設定 `true`をクリックすると、代わりに次の順序になります。<br>• Level<br>• TextTwo<br>• TextFour<br>• TextSix<br>• TextThree<br>• TextSeven<br>• TextEight<br>• TextOne<br>• TextFive |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| リクエスト本文の作成 | 本文の更新のリクエスト | 期待される結果 |
| --- | --- | --- |
| <pre>{<br>"properties": {<br>"name": "TextFour",<br>"code": "TextFour",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextFive",<br>"code": "TextFive",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>}<br>]<br>}</pre> | <pre>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextEight",<br>"code": "TextEight",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>},<br>{<br>"properties": {<br>"name": "TextOne",<br>"code": "TextOne",<br>"type": "TEXT"<br>}<br>}<br>]<br>}</pre> | |

- "列の並べ替え" フラグは、新しいシートの作成時、または既存のシートの更新時にオンにできます。
- 通常、並べ替えアルゴリズムにより、API リクエスト内の列の順序に優先順位が付けられます。ただし、不明確な点がある場合、またはリクエストで指定されていない列を処理する場合、アルゴリズムは、シートにすでに存在する列の順序を優先します。
- 並べ替えアルゴリズムにより、列を前に進めるのではなく、後に移動します。2 つの列の配置 (C、B) を入れ替える場合、実際にはアルゴリズムは C を B の前に移動させるのではなく、C の後に B を移動します。これは、リクエストに記載されていない既存の列が B と C の間にある場合に重要になります。

## サービス: セキュリティ

### セキュリティ

このセキュリティ サービスにより、アプリケーションはインスタンス、権限セット、グループ、およびユーザーの情報にアクセスできるようになります。

### インスタンス

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/<version>/<tenant>/users/instances`

バージョン: v1

| カテゴリ | データの更新 |
| --- | --- |
| 説明 | 親子階層で Adaptive Planning マルチインスタンスを使用する場合は、インスタンスにユーザーを割り当てます。 |
| 起動に必要な権限 | "管理アクセス" > "ユーザー" |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

マルチインスタンス ユーザー アクセス API を使用すると、ユーザーのインスタンス割当を取得および変更できます。

サポートされている **HTTPS VERB:**

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| GET | サポートされていません | サポート済 | デフォルトのインスタンス割当を含む、ユーザーのすべてのインスタンス割当を取得します。 |
| PATCH | サポート済 | サポートされていません | 既存のユーザーのインスタンス割当に新しいインスタンスを追加します。 |
| 入力 | サポート済 | サポートされていません | ユーザーに割り当てられた既存のインスタンスを、リクエスト本文の指定されたデータで更新および置き換えます。 |

**GET**

リクエスト:

| `/users/instances`: ユーザーに割り当てられたインスタンスのコレクションを取得します。 |
|---|
| デフォルトのインスタンス割当を含む、ユーザーのすべてのインスタンス割当を取得します。instanceCode でフィルタできます。ページングは、これらのクエリー パラメータがない場合、 limit または offset にデフォルト値を使用します。 |

リクエスト URI の例

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/security/v1/default/users/
instances?offset=5&limit=5
```

リクエスト ヘッダーの例:

受諾言語: en

リクエスト本文の例

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| instanceCode | インスタンスのユーザーのリストを取得するインスタ | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | ンス コンテキストを定義するインスタンスの一意の識別子インスタンス コードが指定されていない場合は、API 呼び出し元のデフォルト インスタンスのすべてのユーザーが取得されます。 | |
| limit | 単一の回答に含まれるオブジェクトの最大数デフォルト値は 500 です。最大値は 500 です。 | なし |
| offset | 回答一覧の最初のユーザーを示す 0 から始まるインデックス。デフォルトは 0 です。<br>limit パラメータで offset を使用して、回答一覧のページングを制御します。 | なし |

回答例

200

有効な回答

| 回答例 |
| --- |

```
{
"links": {
   "next": "https://
api.adaptiveplanning.com/api/
rest/security/v1/default/users/
instances?offset=10&limit=5",
   "previous": "https://
api.adaptiveplanning.com/api/
rest/security/v1/default/users/
instances?offset=0&limit=5"
},
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答例


```
"total": 26,
"users": [
  {
      "userGuid":
"111SampleUserGuid",
      "userName":
"sampleuser1@company.com",
      "wid" :
"144000000000000000000000000000samplewid",
      "instances": [
          {
              "code":
"sampleCompany",
              "default": true
          }
      ]
  },
  {
      "userGuid":
"222SampleUserGuid",
      "userName":
"sampleuser2@company.com",
      "wid" :
"311000000000000000000000000000samplewid",
      "instances": [
          {
              "code":
"sampleCompany",
              "default": true
          }
      ]
  },
  {
      "userGuid":
"474C4F424F0000000000000001sampleGuid",
      "userName":
"sampleuser3@company.com",
      "wid" :
"344000000000000000000000000000samplewid",
      "instances": [
          {
              "code":
"sampleCompany",
              "default": true
          }
      ]
  },
  {
      "userGuid":
"111C4F424F0000000000000001sampleGuid",
      "userName":
"sampleuser5@company.com",
      "wid" :
"343400000000000000000000000000samplewid",
      "instances": [
          {
              "code":
"sampleCompany",
              "default": true
          }
      ]
  },
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答例


```
   {
        "userGuid":
 "374C4F424F0000000000sampleGuid",
        "userName":
 "sampleuser4@company.com,
        ""wid" :
 "3550000000000000000000000000samplewid",
        "instances": [
            {
                "code":
 "sampleCompany_Child1"
            },
            {
                "code":
 "sampleCompany_Child2"
            },
            {
                "code":
 "sampleCompany",
                "default": true
            }
        ]
   }
]
}
```


バッチ:

リクエスト:

| |
|---|
| users/instances?instanceCode={INSTANCECODE}: 既存のユーザーのインスタンス割当を部分的に更新します。 |
| 既存のユーザーのインスタンス割当に新しいインスタンスを追加します。インスタンスのデフォルトの特性を指定すると、ユーザーの現在のデフォルトのインスタンス割当が置き換えられます。<br>userIdentifier クエリー パラメータでユーザー ID を指定します。<br>リクエスト本文で、"userIdentifier" を指定します。 |

リクエスト URI の例

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/security/v1/default/users/
instances?userIdentifier=userName
```

リクエスト本文の例

PATCH リクエスト本文の例

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

PATCH リクエスト本文の例

```
{
     "userName":
 "SampleUser1@SampleCompany.com",
     "instances": [
         {
             "code":
 "SampleCompany"
         },
         {
             "code":
 "SampleCompany_Child",
             "default": true
         }
     ]
 }
```

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | 既存のユーザーに追加するインスタンスと同じインスタンス階層で上位のインスタンスコード。子インスタンスを追加できるのは、上位の親インスタンスへのアクセス権を持つユーザーのみです。 | なし | |
| userIdentifier | userIdentifierありは、Adaptive Planningの一意のユーザーを決定するために使用されます。可能な値: userName、wid、userGuid。 | | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | |
|---|---|
| リクエスト ヘッダー | |
| コンテンツ タイプ | application/json |
| 認証 | 基本ベースまたはトークンベース |

ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| wid | ユーザーの Workday ID。 | なし |
| userName | ユーザーのユーザー名 (ログイン名)。 | なし |
| userGuid | ユーザー作成時にシステムで割り当てられたグローバル一意ユーザー ID。 | なし |
| インスタンスコード | ペイロードでユーザーに割り当てられる企業の instanceCode です。 | あり |
| デフォルト | ペイロードでユーザーに割り当てられたデフォルト instanceCode です。 | なし |

入力:

リクエスト:

| `users/instances`: ユーザーに割り当てられた既存のインスタンスの更新と置き換え |
|---|
| ユーザーに割り当てられた既存のインスタンスを、指定された userIdentifier で更新します。ユーザーに割り当てられたインスタンスを、リクエスト本文の指定されたデータに置き換えます。<br>• インスタンス割当が、ユーザーに割り当てられた既存のインスタンスの一部ではない場合、そのインスタンスが追加されます。<br>• インスタンス割当がリクエスト本文に含まれていない場合、そのインスタンスへのアクセス権が以前に存在していた場合 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

は、そのインスタンスへのアクセス権が削除されます。
- userIdentifier クエリー パラメータでユーザー ID を指定します。
- 必要に応じて、instanceCode クエリー パラメータにインスタンス コードを指定します。
- userIdentifier クエリー パラメータのユーザー ID。
- リクエスト本文で、次の必須フィールドを指定します。<userIdentifier> (ユーザー名、WID または userGUID)。<userIdentifier> は、userIdentifier クエリー パラメータで指定した値です。
- インスタンスのデフォルト特性を指定すると、 はユーザーの現在のデフォルト インスタンスを置き換えます。

リクエスト URI の例

```
HTTPS://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/security/v{1}/
{default}/users/instances?
userIdentifier=userName
```

リクエスト本文の例

PUT リクエスト本文の例

```
{
     "userName":
 "sampleUser@SampleCompanyParent.com",
     "instances": [
         {
             "code":
 "SampleCompanyParent"
         },
         {
             "code":
 "SampleCompanyChild",
             "default": true
         },
         {
             "code":
 "SampleCompanyGrandChild"
         }
     ]
 }
```

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 | |
|---|---|---|---|
| instanceCode | 既存のユーザー | なし | |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 | |
|---|---|---|---|
| | に追加するインスタンスと同じインスタンス階層で上位のインスタンスコード。子インスタンスを追加できるのは、上位の親インスタンスへのアクセス権を持つユーザーのみです。 | | |
| userIdentifier | userIdentifierありは、Adaptive Planningの一意のユーザーを決定するために使用されます。可能な値: userName、wid、userGuid。 | | |

| リクエスト ヘッダー | |
|---|---|
| コンテンツ タイプ | application/json |
| 認証 | 基本ベースまたはトークンベース |

ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| wid | ユーザーのWorkday ID。 | なし |
| userName | ユーザーのユーザー名(ログイン名)。 | なし |
| userGuid | ユーザー作成時にシステムで割り当て | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | られたグローバル一意ユーザー ID。 | |
| インスタンスコード | ペイロードでユーザーに割り当てられる企業の instanceCode です。 | あり |
| デフォルト | ペイロードでユーザーに割り当てられたデフォルト instanceCode です。 | なし |

回答

回答

サポートされるステータス コードのリスト:

200

正常に完了しました。

回答の例

200 件のPATCH 応答の例

```
{
"userName":
 "SampleUser@SampleComopany.com",
"instances": [
    {
        "code": "SampleCompany"
    },
    {
        "code":
 "SampleCompany_Child1",
        "default": true
    }
]
}
```

500

内部サーバー エラー

例: ユーザーが無効な場合。

500 の回答の例

```
{
 "status": {
     "errorMessage": "User with
 username user@samplecompany.com
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

500 の回答の例


```
 does not exists in company
 SampleCompany. "
 },
 "userName":
 "user@samplecompany.com"
}
```


例: 無効な instanceCode の場合

500 の回答の例


```
{
  "userName":
 "user@samplecompany.com",
  "instances": [
      {
          "status": {
              "errorMessage":
 "SampleOtherCompany
 not in SampleCompany
 network. API Caller:
 APICaller@samplecompany.com
 not authorized to assign user:
 user@samplecompany.com to
 Instance: SampleOtherCompany "
          },
          "code": "SampleCompany",
          "default": true
      },
      {
          "code":
 "SAMPLECOMPANY_CHILD2"
      }
  ]
}
```


405

無効なリソースまたは操作

403

ユーザーに必要な権限が不足しています

404

リソースがありません。

権限セット

**URL** エンドポイント

`https://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/<version>/<tenant>/users/permissionSets`

バージョン: v1

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | |
|---|---|
| カテゴリ | データの更新 |
| 説明 | Adaptive Planning ユーザーに権限セットを割り当てます。 |
| 起動に必要な権限 | 管理アクセス > ユーザー、 権限セット |

権限セットの割当 API を使用すると、ユーザーの権限セットを取得および割り当てることができます。

サポートされている **HTTPS VERB:**

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| GET | サポートされていません | サポート済 | すべてのユーザーと、割り当てられた権限セットを取得します。 |
| POST | サポート済 | サポート済 | ユーザーの権限セットを追加するか、既存の権限セットを更新します。 |

**GET**

リクエスト

| |
|---|
| `/users/permissionSets` ユーザーに割り当てられた権限セットのコレクションを取得します |
| すべてのユーザーと、割り当てられた権限セットを取得します。instanceCode でフィルタできます。instanceCode クエリー パラメータが指定されていない場合、この API によりデフォルト インスタンス内のすべてのユーザーとその権限セットが取得されます。"limit" または "offset" のデフォルト値は、これらのクエリー パラメータが指定されていない場合に使用されます。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/security/v1/default/users/
```

クエリー パラメータ:

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| instanceCode | インスタンス コンテキストを定義するインスタンスの一意の識別子。 | なし |
| limit | 単一の回答に含まれるオブジェクトの最 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| | 大数デフォルト値は 500 です。最大値は 500 です。 | |
| offset | 回答一覧の最初のユーザーを示す 0 から始まるインデックス。デフォルトは 0 です。<br><br>limit パラメータで offset を使用して、回答一覧のページングを制御します。 | なし |
| | | |

回答例

ユーザーが Workday と同期したインスタンスからの応答の例

```
  "links": {
      "next": "https://
api.adaptiveinsights.com/api/
rest/security/v1/default/users/
permissionSets?offset=10&limit=5",
      "previous": "https://
api.adaptiveinsights.com/api/
rest/security/v1/default/users/
permissionSets?offset=0&limit=5"
  },{
  "total": 34,
  "users": [
      {
    "userGuid":
 "111SampleUserGuid",
    "wid":
 "144000000000000000000000000000samplewid",
    "userName":
 "sampleuser1@company.com",
    "permissionSet": [
      {
        "id": 1,
        "name":
 "samplePermissionSet1"
      }
    ]
  },
      {
    "userGuid":
 "112SampleUserGuid",
    "wid":
 "244000000000000000000000000000samplewid",
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ユーザーが Workday と同期したインスタンスからの応答の例


```
    "userName":
 "sampleuser3@company.com",
    "permissionSet": [
      {
        "id": 1,
        "name":
 "samplePermissionSet1"
      }
    ]
  },
      {
    "userGuid":
 "113SampleUserGuid",
    "wid":
 "34400000000000000000000000000samplewid",
    "userName":
 "sampleuser3@company.com",
    "permissionSet": [
      {
        "id": 2,
        "name":
 "samplePermissionSet2"
      }
    ]
  },
      {
    "userGuid":
 "114SampleUserGuid",
    "wid":
 "44400000000000000000000000000samplewid",
    "userName":
 "sampleuser4@company.com",
    "permissionSet": [
      {
        "id": 3,
        "name":
 "samplePermissionSet3"
      }
    ]
  },
      {
    "userGuid":
 "115SampleUserGuid",
    "wid":
 "54400000000000000000000000000samplewid",
    "userName":
 "sampleuser5@company.com",
    "permissionSet": [
      {
        "id": 4,
        "name":
 "samplePermissionSet4"
      }
    ]
  }
]
}
```


©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**POST:**

リクエスト:

| /users/permissionSets: ユーザーに権限セットを割り当てたり更新したりします。 |
| --- |
| ユーザーの権限セットを追加するか、既存の権限セットを更新します。instanceCode でフィルタできます。instanceCode クエリー パラメータが指定されていない場合、対応する権限セットがデフォルト インスタンス内のすべてのユーザーに割り当てられます。リクエスト本文で、次の必須クエリー フィールドを指定します: <userIdentifier> と permissionSet。対応する権限セットを複数のユーザーに割り当てる一括リクエストを送信するには、各権限の割当を含む配列を指定します。 |

クエリー パラメータ:

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| instanceCode | インスタンス コンテキストを定義するインスタンスの一意の識別子。 | なし |
| userIdentifier | Adaptive Planning の一意のユーザー ID を決定するユーザー ID。可能な値: userName、wid、userGuid。 | あり |

リクエストの例:

```
HTTPS://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/security/v1/
default/users/permissionSets?
userIdentifier=userName
```

リクエスト本文の例

POST リクエスト本文の例

```
[
  {
      "userName":
 "sampleuser1@company.com",
          "permissionSet": [
                  {
                      "name":
 "samplePermissionSet1"
                  }
      ]
  },
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

POST リクエスト本文の例

```
  {
      "userName":
 "sampleuser2@company.com",
          "permissionSet": [
                  {
                      "name":
 "samplePermissionSet2"
                  }
          ]
  },
  {
      "userName":
 "sampleuser3@company.com",
          "permissionSet": [
                  {
                      "name":
 "samplePermissionSet3"
                  }
          ]
  }
]
```

ペイロード パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| wid | ユーザーの Workday ID。 | なし |
| userName | ユーザーのユーザー名 (ログイン名)。 | なし |
| userGuid | 作成時にシステムで割り当てられたグローバル一意ユーザー ID。 | なし |
| 名前<br>ID | 権限セットの名前。<br>権限セットの ID。<br>権限セットの "名前" または "ID" のいずれかは必須です。 | あり |

グループ

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/<version>/<tenant>/groups/{groupID}`

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

バージョン: v1

| | |
|---|---|
| カテゴリ | メタデータの取得 |
| 説明 | 指定されたインスタンスに対して定義されたすべてのグループの完全なリストを返します。これには、インスタンス全体でグローバルに定義されたグループと、ユーザーによって定義されたグループが含まれます。 |
| 起動に必要な権限 | "管理アクセス" > "ユーザー" |
| リクエストに応じてパラメータが必要 | 認証情報 |

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| GET | サポート済 | サポート済 | Planning からグループを取得します。 |

**GET:**

リクエスト:

| /groups/{groupId} |
|---|
| 指定されたインスタンスに定義されたすべてのグループとそのユーザー/メンバーのリストを取得します。 |

リクエスト URI の例:

```
HTTPS://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/security/v1/default/groups?
instanceCode=globalsales&offset=2&limit=1
```

リクエスト ヘッダーの例:

受諾言語: en

リクエスト本文の例

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
|---|---|---|
| groupId | 個別に取得するグループの ID | なし |
| includeUsers | 呼び出しているグループのユーザーを返すかどうかを決定するため。デフォルトでは、"ユーザーを含める" はオンになっています。 | なし |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| limit | 単一の回答に含まれるオブジェクトの最大数 | なし |
| offset | ページごとに一定数のグループを表示する場合。グループが制限を超えている場合、追加のグループは次のページに送られます。特定のページにアクセスするには、オフセット値を指定する必要があります。 | なし |
| instanceCode | デフォルトでは、ユーザーが割り当てられているデフォルトのインスタンスを返します。値を指定することにより、ユーザーがアクセスできるインスタンス (親/子インスタンスを含む) を呼び出すことができます。 | なし |

回答例

回答例

```
{
   "links": {
       "next": "HTTPS://
api.adaptiveplanning.com/api/
rest/security/v1/default/groups?
instanceCode=TENANT&offset=2&limit=1",
       "previous": "HTTPS://
api.adaptiveplanning.com/api/
rest/security/v1/default/groups?
instanceCode=TENANT&offset=0&limit=1"
   },
   "total": 3,
   "groups": [
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

回答例


```
        {
            "id": 2,
            "name": "Admins",
            "groupType": "NATIVE",
            "users": [
                {
                    "userGuid":
 "randomValue",
                    "wid": "",
                    "userName":
 "test@email.com"
                },
                {
                    "userGuid":
 "randomValue",
                    "wid": "",
                    "userName":
 "test2@email.com"
                },
            ]
        },
        {
            "id": 1,
            "name": "Corporate and
 Operations",
            "groupType": "NATIVE",
            "users": []
        },
        {
            "id": 3,
            "name": "Ops and
 Admins",
            "groupType": "NATIVE",
            "users": [],
            "groups": [
                {
                    "id": 2,
                    "name":
 "Admins",
                    "groupType":
 "NATIVE"
                },
                {
                    "id": 1,
                    "name":
 "Corporate and Operations",
                    "groupType":
 "NATIVE"
                }
            ]
        }
    ]
}
```


回答要素

| タグ名 | | 回答 | |
|---|---|---|---|
| 要素の特性 | | | |
| 特性名 | 必須？ | 値 | 例 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| 合計 | あり | グループの合計数 | 3 |
| グループ | あり | すべてのグループまたは指定したグループのグループ情報。グループが別のグループ内にある場合は、指示されたグループに関連付けられたグループも表示されます。 | <pre>{<br>"id":<br>1,<br>"name":<br>"Corporate<br>and<br>Operations",<br>"groupType":<br>"NATIVE",<br>"users":<br>[]<br>}</pre> |
| groupType | あり | グループのタイプを表示します。 | 外部 |
| ID | あり | グループの関連付けられた ID | 1 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名前 | あり | グループの名前。 | "Admins" |
| ユーザー | なし | includeUsers = true または includeUsers がデフォルトの場合、ユーザーの GUID、WID、およびユーザー名が提供されます。そうしない場合、返されません。 | "users": [ { "userGuid": "randomValue", "wid": "", "userName": "test@example.com" }, { "userGuid": "randomValue", "wid": "", "userName": "test2@example.com" } |
| リンク | なし | limit および/または offset が指定されていて、グループの異なるページに移動する手段が必要な場合は、リンクを使用して前後に移動できます。 | "links": { "next": "HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/v1/default/groups?instanceCode=TENANT", "previous": "HTTPS://api.adaptiveinsights.com/api/rest/security/v1/default/groups?instanceCode=TENANT" } |
| next | なし | limit が指定されていて、使用可能な次のページがある場合、"リンク" に "next" が表示されます。 | "HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/v1/default/groups?instanceCode=TENANT |
| 前 | なし | limit & offset が指定されていて、前のページとさらに先のページが使用できる途中にいる場合、"previous" | "HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/v1/default/groups?instanceCode=TENANT |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| エレメントの内容<br>示された要素に関連する情報。 |
|---|

エラー応答

| エラー | 原因 |
|---|---|
| limit および offset に対して有効なパラメータ値を指定してください。 | 限度/オフセット値の入力が無効です |
| GroupAPI: getGroupByGroupId の場合、インスタンス コードのグループが見つかりません: {TENANT} | インスタンス コードの groupId が存在しません |
| この API を実行するすべての権限がありません: グローバル ユーザー グループの管理。 | ユーザー認証情報に API コールを呼び出す適切な権限がありません |
| 無効な認証情報です | 使用された認証情報が正しくありません |
| HTTP 404 が見つかりません | groupId パラメータが無効です |

ユーザー

**URL** エンドポイント
`HTTPS://api.adaptiveplanning.com/api/rest/security/<version>/<tenant>/users/<userGUID>`

バージョン: v1

| カテゴリ<br>説明<br>起動に必要な権限<br>リクエストに応じてパラメータが必要 | データの更新<br>Adaptive Planning からユーザーを削除します。<br>"管理アクセス" > "ユーザー"<br>userGUID |
|---|---|

適切なユーザー権限と企業設定によって、Planning からユーザーを削除できる REST API。Workday HCM または Workday 財務管理と Adaptive Planning を使用するように設定されたインスタンスに対してブロックされています。

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
|---|---|---|---|
| DELETE | サポート済 | サポートされていません | Planning からユーザーを削除します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

リクエスト

サポートされているメソッド:

DELETE

| /users/<userGUID> |
| --- |
| Planning からユーザーを削除します。instanceCode でフィルタできます。 |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveplanning.com/
api/rest/security/
v1/globosales/users/
EEDDEEDDEEDDEEDDEEDDEEDDEEDDEEDD
```

リクエスト ヘッダーの例:

リクエスト本文の例:

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| userGUID | ユーザーの英数字の一意の識別子。 | あり |
| instanceCode | ユーザー インスタンスを取得する instanceCode。たとえば、GLOBO。instanceCode が指定されていない場合は、デフォルトのインスタンスを使用します。 | なし |

回答例:

200

正常に完了しました。

401

無効なインスタンス コードです。

エラー応答の例: 401

```
{
  "error": "Invalid credential"
}
```

403 は禁止されています

ユーザーに必要な権限が不足しています。

500 内部サーバー エラー

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

内部サーバー エラーです。

| エラー応答の例: 500 |
| --- |
| <pre>{<br>  "error": "Delete User API failed for instance code GLOBO.",<br>  "code": 500<br>}</pre> |

## サービス: タスク

**参考:** タスク

**URL** エンドポイント
`https://api.adaptiveinsights.com/api/rest/tasks/v1/<tenant>/tasks?instanceCode=<instanceCode>`

バージョン: v1

| | |
| --- | --- |
| カテゴリ | インテグレーション タスクのトリガ、およびタスクの実行を含むタスクの詳細の取得 |
| 説明 | インテグレーション タスクでの JSON ベースの HTTP 操作 |
| 呼び出すために必要な権限 | データ デザイナー、インテグレーション オペレーター |
| リクエストに必要なパラメータ | GET、POST: インテグレーション タスク ID、インテグレーション タスクの実行 ID |

インテグレーション タスクを取得または更新します。

サポートされている **HTTP VERB**

| HTTP Verb | 単一リソース | 回収リソース | 説明 |
| --- | --- | --- | --- |
| GET | サポート済 | サポート済 | タスク情報を取得します。タスクの実行詳細を取得します。 |
| POST | サポート済 | サポートされていません | インテグレーション タスクをトリガします。 |

**GET <タスク詳細>**
取得タスク詳細

リクエスト URI

| /api/REST/v1/{tenant}/tasks: インスタンスで定義されたインテグレーション タスクの詳細を取得します。 |
| --- |
| テナントのすべてのインテグレーション タスクを取得します。 |

リクエスト URI の例:

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

```
https://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/tasks/v1/<tenant>/tasks?
instanceCode=<instanceCode>
```

リクエスト ヘッダーの例

認証: 基本ベースまたはトークンベース

リクエスト本文の例

該当なし

パス パラメータ

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| テナント | 顧客インスタンス コード |

クエリー パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| limit | 結果に含めるインテグレーション タスクの数。<br>• タイプ: 数値<br>• 最小: 1<br>• 最大値: 100<br>• 例: limit=50 | なし |
| offset | 結果にタスクが含まれるように開始する前にスキップするタスクの数。<br>• 最小: 0<br>• example: offset=0 | なし |
| taskType | 取得したタスクをタスク タイプ別にフィルタします。<br>• インテグレーション<br>• example: taskType=integration | なし |

回答

タスクのリスト

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

成功したタスクの GET 応答の例

```
HTTP/1.1 200 Ok
Content-Type: application/json

{
 "count": 3,
 "data": [
     {
         "id": "integration4",
         "taskType":
 "integration",
         "name": "An Integration
 Task"
     },
     {
         "id": "integration111",
         "taskType":
 "integration",
         "name": "Another
 Integration Task"
     },
     {
         "id": "integration43",
         "taskType":
 "integration",
         "name": "Also Another
 Integration Task"
     }
 ]
}
```

回答ペイロード

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| カウント | (この回答に含まれるタスクだけでなく) 顧客インテグレーションタスクの合計数。<br>タイプ: 数値 |
| データ | インテグレーションタスクの集合。<br>• タイプ: 配列<br>• タイプ定義:<br>  • ID: インテグレーション タスクの一意の識別子。<br>  • 名前: インテグレーション タ |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | スクの名前。 |
| | |

失敗した回答

不良タスク リクエストの回答の例

```
{
 "type" : "validation-error",
 "title": "invalid request",
 "errors" : [
     {
         "message" : "must be a
 non-negative integer",
         "parameter" : "offset"
     },
     {
         "message" : "must be
 positive integer no greater than
 100",
         "parameter" : "limit"
     },
     {
         "message" : "must be a
 valid task type",
         "parameter" : "kind"
     }
 ]
}
```

回答ペイロードの場所

回答ペイロード

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| type | エラーのタイプ。 |
| title | エラーを説明するテキスト。 |
| エラー | リクエスト内で見つかったエラーの集合。<br>• タイプ: 配列<br>• タイプ定義:<br>  • message: エラーを説明するメッセージ。<br>  • parameter: エラーが関連付けられた |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | パラメータ。 |

**POST**
タスク実行のトリガ

リクエスト URI

| 渡されたタスク識別子によって表されるタスクの実行をトリガします。 |
| --- |
| `/{taskId}/runs` |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/tasks/v1/{tenant}/
tasks/integration111/runs?
instanceCode=<instanceCode>
```

この例では、taskId は Integration111 です。

リクエスト ヘッダーの例

認証: 基本ベースまたはトークンベース

コンテンツ タイプ: application/json

リクエスト本文の例

リクエスト本文が必要です。空にすることはできません。

| リクエスト本文 |
| --- |
| `{ }` |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 | 必須 |
| --- | --- | --- |
| taskId | トリガされているタスクのタスク ID。 | あり |

回答例

正常にトリガされたタスクの実行の応答

```
HTTP/1.1 201 Created
Content-Type: application/json

{
 "id": "taskrun456",
 "status": "Completed"
}
```

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

**GET <タスクの実行詳細>**
タスクの実行詳細の取得

リクエスト URI

| 渡されたタスク識別子によって表されるタスク実行の詳細を取得します。 |
| --- |
| `/{taskId}/runs/{taskRunId}` |

リクエスト URI の例:

```
https://api.adaptiveinsights.com/
api/rest/tasks/v1/{tenant}/tasks/
integration111/runs/taskrun456?
instanceCode=<instanceCode>
```

この例では、以下の ID を使用します。

| ID | 値 |
| --- | --- |
| taskId | integration111 |
| taskRunId | taskrun456 |

パス パラメータ

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| taskId | 実行されたインテグレーション タスクの一意の識別子。 |
| taskRunId | タスク実行の一意の識別子。 |

回答例

タスクの実行応答の取得に成功しました

```
{
 "id": "taskrun456",
 "status": "Completed"
}
```

回答ペイロード

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| ID | このインテグレーション タスクの実行の一意の識別子。 |
| ステータス | タスク実行のステータス (以下のいずれか)<br>• なし<br>• 保留中<br>• 進行中 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 名前 | 説明 |
| --- | --- |
| | • キャンセル中<br>• キャンセル済<br>• 完了<br>• 失敗 |
| | |

# 製品サポート

## 参考: 技術要件

ブラウザ、言語、Microsoft Office のバージョンに関する Adaptive Planning のすべての技術要件について説明します。

対応ブラウザおよびプラットフォーム

| | Windows | Mac | モバイル |
| --- | --- | --- | --- |
| | Windows 10、11 | OS X 10.11 以上 | |
| Edge | 最新バージョン | 非対応 | Microsoft Surface Pro 4 |
| FireFox | 最新バージョン<br>最新 ESR* | 最新バージョン<br>最新 ESR* | 非対応 |
| Chrome | 最新バージョン | 最新バージョン | Samsung Galaxy S2 |
| Safari | 非対応 | 最新バージョン | iPad Pro |

*延長サポート版 (ESR) とは、大規模導入に対する延長サポートが必要な組織で使用する Firefox for desktop の公式リリースです。例: 教育機関や企業。

タブレット サポート ページ
タブレットでは、次のページのみがサポートされています。

- ホーム
- ようこそ
- シート
- 前提条件
- レポート
- ダッシュボード
- 連結
- プロセス
- ワークフロー
- モデル概要
- インテグレーション タスク
- インテグレーション タスクの詳細

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

対応言語

| | Planning | ダッシュボード | Excel Interface for Planning と OfficeConnect | ヘルプ センター[1] |
|---|---|---|---|---|
| 中国語 (簡体字) | はい | はい | 非対応 | はい |
| 中国語 (繁体字) | はい | はい | 非対応 | はい |
| デンマーク語 | はい | はい | 非対応 | 使用不可 |
| オランダ語 | はい | はい | 非対応 | はい |
| 英語 (米国) | はい | はい | はい | はい |
| フィンランド語 | はい | はい | 非対応 | 使用不可 |
| フランス語 | はい | はい | 非対応 | はい |
| フランス語 (カナダ) | はい | はい | 非対応 | 使用不可 |
| ドイツ語 | はい | はい | 非対応 | はい |
| イタリア語 | はい | はい | 非対応 | はい |
| 日本語 | はい | はい | 非対応 | はい |
| 韓国語 | はい | はい | 非対応 | はい |
| ノルウェー語 | はい | はい | 非対応 | 使用不可 |
| ポルトガル語 (ブラジル) | はい | はい | 非対応 | はい |
| スペイン語 | はい | はい | 非対応 | はい |
| スウェーデン語 | はい | はい | 非対応 | 使用不可 |
| タイ語 | はい | はい | 非対応 | 使用不可 |

[1]ヘルプ センター内の FAQ は英語のみです。

ユーザー インターフェイス内のすべてのテキストはユーザーの言語で表示されます。シートおよびレポートの番号と日付は、ユーザーのロケールに適した書式で表示されます。ユーザーは自分の言語でデータを入力、保存、表示できます。ユーザーは、アクセント付き文字や表意文字 (中国語や日本語など) を含む、任意の言語のテキスト データを入力できます。入力されたテキストはすべて正しく表示されます。

Microsoft Semi-Annual Channel for template reports、Excel Interface for Planning、および OfficeConnect の使用をお勧めします (Microsoft Excel を使用する必要があります)。Microsoft では、「リリースごとにテストが必要な相当数のビジネス関連アプリケーション、アドイン、マクロを使用するユーザーまたは組織」向けに Semi-Annual Channel の使用を推奨しています。

Office 365 のベストプラクティスの詳細については、https://docs.microsoft.com/en-us/DeployOffice/best-practices/best-practices-update-channels を参照してください。

**Workday Adaptive Planning** のデータ エージェント
参照 参考: インテグレーション データ エージェントの技術要件（ 1719ページ ） 要件をすべて網羅。

ドメインおよび **IP** アドレスによるアクセス制限
次のドメインを使用してアクセスを制限します。

- *.adaptiveplanning.com

©2026 Workday, Inc. All rights reserved 

- *.adaptiveinsights.com

組織が次のいずれかである場合は 、特定のドメインおよび IP アドレスでアクセスを制限を 参照してください。

- Workday Adaptive Planning サイトへのアクセスを特定のドメインおよび IP アドレスで制限する必要がある。
- ドメイン ベースのアクセス制限が許可されていない。

**OfficeConnect と Excel Interface for Planning**
要件の詳細については、以下を参照してください。

- 参考: OfficeConnect の技術要件（591ページ）.
- 参考: Excel Interface for Planning の技術要件（118ページ）.

## 参考: Adaptive Planning におけるアクセシビリティ

Workday Adaptive Planning は、Web コンテンツ アクセシビリティ ガイドライン 2.1 に規定されるアクセシビリティ標準を満たしています。

シート
これらのキーボード ショートカットは、シート内で非標準のナビゲーションを提供します。

| キーボードのショートカット | 説明 |
|---|---|
| Shift + Ctrl + / (Windows)<br>Shift + Ctrl + / (Mac) | キーボードのショートカット ダイアログにアクセスします。 |
| Shift + Ctrl + \ (Windows)<br>Shift + Command + \ (Mac) | コンテキスト メニューにアクセスします。 |
| Shift + Ctrl + Alt + 左矢印キー (Windows)<br>Shift + Ctrl + Option + 左矢印キー (Mac) | 行情報にアクセスします。 |
| Shift + Ctrl + Alt + 上矢印キー (Windows)<br>Shift + Ctrl + Option + 上矢印キー (Mac) | 列情報にアクセスします。 |
| Shift + F2 (Windows)<br>Shift + F2 (Mac) | セル メモにアクセスします。 |
| スペース バー (Windows)<br>スペース バー (Mac) | 行を展開または折り畳みます。 |

マトリクス レポート ビューアー
これらのキーボード ショートカットは、マトリクス レポート ビューアーで非標準のナビゲーションを提供します。

| キーボードのショートカット | 説明 |
|---|---|
| 上矢印キー (Windows)<br>上矢印キー (Mac) | セルを 1 つ上へ移動します。 |
| 下矢印キー (Windows)<br>下矢印キー (Mac) | セルを 1 つ下へ移動します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| キーボードのショートカット | 説明 |
| --- | --- |
| 左矢印キー (Windows)<br>左矢印キー (Mac) | セルを 1 つ左へ移動します。 |
| 右矢印キー (Windows)<br>右矢印キー (Mac) | セルを 1 つ右へ移動します。 |
| タブ (Windows)<br>タブ (Mac) | 次のセル、オプション、コントロール、またはコマンドに移動します。 |
| Shift + Tab (Windows)<br>Shift + Tab (Mac) | 前のセル、オプション、コントロール、またはコマンドに移動します。 |
| Ctrl + Alt + Home (Windows)<br>Ctrl + Option + Fn + 左矢印キー (Mac) | グリッドの最初のセルへ移動します。 |
| Ctrl + Alt + End (Windows)<br>Ctrl + Option + Fn + 右矢印キー (Mac) | グリッドの最後のセルへ移動します。 |
| Page Up (Windows)<br>Fn + 上矢印キー (Mac) | 1 画面上へ移動します。 |
| Page Down (Windows)<br>Fn + 下矢印キー (Mac) | 1 画面下へ移動します。 |
| Ctrl + Page Up (Windows)<br>Fn + Option + 上矢印キー (Mac) | 1 画面左へ移動します。 |
| Ctrl + Page Down (Windows)<br>Fn + Option + 下矢印キー (Mac) | 1 画面右へ移動します。 |

relatedlinks
概念
概念: アクセシビリティ

## 参考: インポート履歴の保存域ポリシー

インポート履歴には後処理ファイルが含まれ、ディスク使用量に影響します。これらのファイルを削除しても、Adaptive Planning のデータには影響しません。

2023 年 10 月 13 日時点で、インポート履歴の保存域の上限は 30 日です。

インスタンスのディスク使用量を確認するには、"管理 > ""一般設定"に移動します。

relatedlinks
参考
参考: 一般設定 ( 1390ページ )

## 参考: Adaptive Planning のユーザー アクティビティと監査証跡

ユーザー アクティビティの記録と変更履歴の保存は、以下のポリシーに従って行われます。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

ユーザー アクティビティの記録

ユーザー アクティビティのログ記録には、過去 30 日間のデータが保持されます。

**Adaptive Planning** の監査証跡

変更履歴の口グには、過去 12 か月のデータが保持されます。

## Adaptive Planning のドメインおよび IP アドレス

Adaptive Planning では、すべてへのアクセスを許可することを強く推奨しています。 `*.adaptiveplanning.com`, `*.adaptiveinsights.com`, `adaptiveplanning.doc.workday.com`, `doc.workday.com`、および `community.workday.com` ドメイン

グローバル ドメイン **(**推奨**)**

| |
|---|
| *.adaptiveplanning.com<br>*.adaptiveinsights.com<br>adaptiveplanning.doc.workday.com (Workday Adaptive Planning ドキュメントのコンテンツ)<br>doc.workday.com (Workday ドキュメントのコンテンツ)<br>community.workday.com (Workday Community のコンテンツ) |

現在のクラスタの検索

IP アドレスはクラスタによって異なります。現在のクラスタを検索するには、次のように行います。

1. 通常どおり Adaptive Planning に口グインします。
2. URL を表示し、次の値で始まる文字を確認します。 c 最初の期間の前で、数字が 1 つ指定されているもの。

   例:

   - クラスタの対象 `livec01a1.adaptiveinsights.com` に次の値がある `c01`。
   - クラスタの対象 `livec06a3.adaptiveinsights.com` に次の値がある `c06`。

**Workday Adaptive Planning** 用 **IP** アドレス

以下の情報を確認する際は、顧客のファイアウォールのエリアが以下のように定義されていることに注意してください。

- アウトバウンド: ファイアウォールまたは Web プロキシは、自分のサイトからこの Adaptive Planning IP アドレスへの接続を開くことを許可する必要があります。
- インバウンド: ファイアウォールは、この Adaptive Planning IP アドレスから自分のサイトへの接続を開くことを許可する必要があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ログイン URL | login.adaptiveinsights.com | | |
| API URL | api.adaptiveinsights.com | | |
| データ エージェント サインイン | signin.adaptiveplanning.com | | |
| クラスタ | アウトバウンド<br>自分のサイトからこの IP へ | インバウンド<br>この IP から自分のサイトへ | データ常駐 |
| c01 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32 | 米国 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | |
| c02 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c03 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c05 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c08 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c11 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c12 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32 | 米国 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | |
| c14 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c16 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32 | 米国 |
| c17 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c18 | 52.156.153.121/32 | 20.69.172.231/32<br>20.69.172.228/32 | 米国 |
| c19 | 52.156.153.121/32 | 20.69.172.231/32<br>20.69.172.228/32 | 米国 |
| c21 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32 | 米国 |
| c24 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c27 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32 | 米国 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| c28 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32 | 米国 |
| c29 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.189.91.170/32<br>54.184.159.94/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>44.225.55.71/32<br>44.240.170.184/32<br>52.43.17.157/32 | 米国 |
| c30 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.189.91.170/32<br>54.184.159.94/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91<br>44.208.75.49/32<br>44.225.55.71/32<br>44.240.170.184/32<br>52.43.17.157/32 | 米国 |
| c50 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c51 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c52 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c53 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c54 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c55 | 3.93.131.111/32 | 52.36.161.180/32 | 米国 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | |
| c56 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c57 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c58 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32<br>34.202.16.91 | 米国 |
| c63 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 50.19.205.176/32<br>34.202.16.91/32<br>44.208.75.49/32<br>52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32 | 米国 |
| c64 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32<br>3.89.78.224/32<br>35.160.159.105/32<br>52.5.155.114/32<br>52.34.73.181/32 | 米国 |
| c66 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32<br>3.89.78.224/32<br>35.160.159.105/32<br>52.5.155.114/32<br>52.34.73.181/32 | 米国 |
| c68 | 3.93.131.111/32 | 52.36.161.180/32 | 米国 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32<br>3.89.78.224/32<br>35.160.159.105/32<br>52.5.155.114/32<br>52.34.73.181/32 | |
| c69 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32<br>3.89.78.224/32<br>35.160.159.105/32<br>52.5.155.114/32<br>52.34.73.181/32 | 米国 |
| c81 | 3.93.131.111/32<br>3.95.140.149/32<br>54.184.159.94/32<br>54.189.91.170/32 | 52.36.161.180/32<br>44.230.95.178/32<br>35.83.85.235/32<br>3.89.78.224/32<br>35.160.159.105/32<br>52.5.155.114/32<br>52.34.73.181/32 | 米国 |
| c20 | 15.223.123.113/32<br>35.183.74.111/32<br>40.82.179.220/32 | 3.99.79.111/32<br>3.96.24.225/32<br>20.151.31.161/32<br>20.151.31.190/32<br>35.182.128.50/32<br>35.182.161.211/32 | カナダ |
| c59 | 15.223.123.113/32<br>35.183.74.111/32<br>40.82.179.220/32 | 3.99.79.111/32<br>3.96.24.225/32<br>20.151.31.161/32<br>20.151.31.190/32<br>35.182.128.50/32<br>35.182.161.211/32 | カナダ |
| c04 | 52.19.140.196/32<br>52.210.82.93/32 | 54.78.137.143/32<br>34.242.106.181/32<br>99.81.55.250/32<br>34.246.254.125/32<br>34.246.95.41/32 | E.U. |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| c15 | 52.19.140.196/32<br>52.210.82.93/32 | 54.78.137.143/32<br>34.242.106.181/32<br>99.81.55.250/32<br>34.246.254.125/32<br>34.246.95.41/32 | E.U. |
| c65 | 52.19.140.196/32<br>52.210.82.93/32 | 54.78.137.143/32<br>34.242.106.181/32<br>99.81.55.250/32<br>34.246.254.125/32<br>34.246.95.41/32 | E.U. |
| c22 | 52.58.8.170/32<br>52.28.101.122/32<br>3.125.248.101/32<br>18.156.67.136/32<br>18.157.67.0/32 | 52.58.12.191/32<br>18.193.56.138/32<br>52.58.8.170/32<br>52.28.101.122/32<br>3.125.248.101/32 | ドイツ |
| c23 | 52.19.140.196/32<br>52.210.82.93/32 | 54.78.137.143/32<br>34.242.106.181/32<br>99.81.55.250/32<br>34.246.254.125/32<br>34.246.95.41/32 | E.U. |
| c26 | 52.19.140.196/32<br>52.210.82.93/32 | 54.78.137.143/32<br>34.242.106.181/32<br>99.81.55.250/32<br>34.246.254.125/32<br>34.246.95.41/32 | E.U. |
| c61 | 52.19.140.196/32<br>52.210.82.93/32 | 54.78.137.143/32<br>34.242.106.181/32<br>99.81.55.250/32<br>34.246.254.125/32<br>34.246.95.41/32 | E.U. |
| c25 | 3.105.253.242/32<br>13.239.101.204/32 | 52.62.66.56/32<br>54.79.157.5/32<br>3.24.22.113/32<br>3.104.168.246/32<br>13.55.189.87/32 | オーストラリア |
| c62 | 3.105.253.242/32<br>13.239.101.204/32 | 52.62.66.56/32<br>54.79.157.5/32 | オーストラリア |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 3.24.22.113/32<br>3.104.168.246/32<br>13.55.189.87/32 | | |

| | シンガポール | | | |
|---|---|---|---|---|
| クラスタ | アウトバウンド<br>自分のサイトからこの IP へ | インバウンド<br>この IP から自分のサイトへ | | データ常駐 |
| c13 | 3.0.84.47/32<br>3.1.45.45/32 | 18.136.172.122/32<br>13.214.92.169/32<br>13.215.83.41/32<br>18.136.169.42/32<br>54.254.241.227/32 | | シンガポール |
| c60 | 3.0.84.47/32<br>3.1.45.45/32 | 18.136.172.122/32<br>13.214.92.169/32<br>13.215.83.41/32<br>18.136.169.42/32<br>54.254.241.227/32 | | シンガポール |

クラスタのプレビュー

| クラスタ | アウトバウンド | インバウンド | データ常駐 |
|---|---|---|---|
| c57 | 54.212.19.25<br>44.240.113.107/32<br>54.148.45.56/32<br>54.190.224.163/32<br>54.212.19.25/32 | 44.230.95.178<br>52.36.161.180<br>35.83.85.235<br>52.10.10.0/32<br>44.229.52.23/32<br>44.229.221.64/32 | 米国 |
| c81 | 54.212.19.25<br>44.240.113.107/32<br>54.148.45.56/32<br>54.190.224.163/32<br>54.212.19.25/32 | 44.230.95.178<br>52.36.161.180<br>35.83.85.235<br>52.10.10.0/32<br>44.229.52.23/32<br>44.229.221.64/32 | 米国 |
| c80 | 54.220.180.21/32<br>54.216.200.109/32<br>99.81.86.46/32<br>54.220.157.24/32 | 34.246.125.47/32<br>54.228.188.191/32<br>52.50.216.22/32<br>52.208.95.95/32 | E.U. |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 54.229.71.238/32<br>18.203.37.126/32 | |

サンドボックス クラスタ

| クラスタ | アウトバウンド | インバウンド | データ常駐 |
|---|---|---|---|
| c01 | 54.148.45<br>44.240.113.107 | 44.230.95.178<br>52.36.161.180<br>35.83.85.235 | 米国 |
| c57 | 54.148.45<br>44.240.113.107 | 44.230.95.178<br>52.36.161.180<br>35.83.85.235 | 米国 |
| c80 | 54.220.180.21/32<br>54.216.200.109/32 | 34.246.125.47/32<br>54.228.188.191/32<br>52.50.216.22/32 | E.U. |

**Workday Adaptive Planning** のドキュメント

| ドメイン | IP |
|---|---|
| adaptiveplanning.doc.workday.com | 54.149.94.84<br>54.69.133.75 |

手動での **IP** アドレス検索

IT 管理者およびセキュリティ ポリシーにより、IP アドレスによるアクセス制限が必要とされる場合、インスタンスで使用されている IP アドレスを手動で検索することができます。

1. https://login.adaptiveinsights.com/app にアクセスして、インスタンスにログインします。
2. ログイン後、ブラウザに表示された完全な URL をメモします。

   例: `https://livec01a01.adaptiveplanning.com/app`
3. 「https://」の次の文字から「.com」までのテキストをすべてコピーします。

   例: `livec01a01.adaptiveplanning.com`
4. Windows コマンド プロンプトを開き、以下を実行します。 `nslookup` このドメインを使用するコマンド

   例

   ```
   C:\windows\system32>nslookup livec01a01.adaptiveplanning.com
   ```
5. このコマンドで生成された 1 つまたは 2 つの IP アドレスをコピーして、IP アクセス リストに追加します。

## 参考: Adaptive Planning の制限

- モデリング
- シナリオ
- シート

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- レポート
- システム設定
- プロセス トラッカー
- インテグレーション
- ユーザー アクティビティと監査証跡

モデリング

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| モデル シート | • 各シートに 50 列<br>• 10 件の検証ルール<br>• 検証ルールのヘルプ テキストは 128 文字。<br>• 検証ルール名は 65 文字である。 |
| キューブ シート | • 各キューブ シートに 10 個のカスタム属性<br>• 各キューブ シートの交差部分は 1,200 億です。<br>• 各キューブ シートには 2 億 5,000 万個のデータがあります。 |
| 組織 | 100,000 組織 |
| カスタム属性値 | 各カスタム属性に 1,000,000 の値 |

シナリオ

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| Versions | • 各ユーザーに対して 15 件のシナリオ (バージョン全体)<br>• シナリオにアクセスできるすべてのユーザーについて、シナリオごとに 2,000 件のシートが保存されます。<br>• インスタンスごとに 5,000 件のシナリオ。 |

シート

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| セル データ入力 | • テキスト セルの場合は 2048 文字。<br>• 行キー セルに 500 文字 |
| セル メモ | 4000 文字。 |
| シート メモ | 4000 文字。 |
| セル エクスプローラーにおける関連行または属性分割 | システムのデフォルト値は 2,000 で、設定できる最大値は 100,000 です。この設定は "管理" > "一般設定"で変更できます。<br>参照 FAQ: "セルを探索" ですべての関連行または属性分割を表示する方法 ( 105ページ ) 。 |
| モデル シート | • 100 万行<br>• シートに 1,000 万個以上のセルが含まれている場合、ツールバーの "ダウンロード " ボタンは無効になります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

レポート

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| レポート メモ | 2048 文字。 |
| スナップショット レポート | 組織数は 6,000 です。参照 レポートのスナップショットの作成 ( 163ページ ) |
| レポートのスケジュール | • インスタンスごとに 100 件のスケジュール<br>• 20 件の同時スケジュール<br>• 500 件のスケジュールされたスナップショット<br>スケジュールの作成を参照してください。 |
| スケジュールされた添付ファイルを一括表示するレポート | • 特定の時間における 1 つのレポート バースト スケジュール<br>• バーストごとに 250 ユーザー<br>参照 スケジュールされたレポートを添付ファイルとして送信 ( 254ページ ) 。 |
| 変更履歴レポート | 印刷対応ビュー: 50,000 行 |
| 繰り返し使用するレポート、ワークシート名 | Excel の最大文字数は 32 文字です |
| ダッシュボード上のマトリクス レポート | レポートごとに 100 万セル |
| マトリクス レポート | レポートごとに 300 万セル |

システム設定

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| 一般設定 | "次の IP アドレスからのみログインできるようにする " フィールドは、最大 2048 文字を入力できます。参照 参考: 一般設定 ( 1390ページ ) 。 |

プロセス

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| プロセスまたはタスクの名称 | 60 文字。 |
| プロセスまたはタスクの説明 | 2000 文字 |
| タスク メモ | 2000 文字 |

インテグレーション

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| インテグレーション設定の Adaptive Planning データ ソース | エクスポート行数は 500,000 です。参考: exportData Performance を参照してください。 |
| exportData API | エクスポート行の上限は、以下に応じて 500,000 または 200 万です。<br>• API バージョン<br>• 要素特性を呼び出します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| | • 科目のタイプ<br>• モデリング機能<br>参考: exportData Performance を参照してください。 |

ユーザー アクティビティと監査証跡

| 面 | 制限 |
| --- | --- |
| ユーザー アクティビティ | 30 日分のデータ。参考: Adaptive Planning ユーザー アクティビティと監査証跡を参照してください。 |
| 変更履歴 | 12 か月分のデータ参考: Adaptive Planning ユーザー アクティビティと監査証跡を参照してください。 |

## 参考: Adaptive Planning のレポート パフォーマンス

パフォーマンスを向上させるために、インスタンスに対して "最適化レポート実行 マトリクス" レポートのプロパティがデフォルトで有効になっています。特定のレポートのプロパティを無効にして、最適化されていないレポート動作を保持できます。次のレベル: All Items 2023R2 for Adaptive Planning, Reporting, and Prism Analyticsを参照してください

注 : レポート プロパティを有効にしても、特定の機能や科目を使用する一部のマトリクス レポートでは、パフォーマンスが引き続き低下する可能性があります。

サポートされている機能

以下を除くすべてのモデリングおよびレポート機能がサポートされています。

- バージョン オフセット
- 表示形式
- 分割の追加
- 代替カレンダー
- スプレッド ルックアップ
- 値ルックアップ
- テキストの合計
- 加重平均換算
- "データの表示" オプションが "組織に関係なくすべてのデータを表示する"に設定されている共有マトリクス レポート。

注 : サポートの上限は次のとおりです。

- セル: 300 万
- 列 (レポート用): 16,000

サポートされている科目

パフォーマンス向上の利点を得るには、以下の条件を満たす必要があります。

- すべてのレポートに、少なくとも 1 つの科目が含まれる。
- 複数のセグメントがあるマトリクス レポートの場合、各セグメントに少なくとも 1 つの科目が含まれる。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved Workday Proprietary and Confidential

現在、以下を除くすべての科目タイプを含むレポートがサポートされています。

- 以下を含むシステム科目。
    - 配賦
    - 少数株主持分の割合
    - 相殺消去
    - 為替換算調整勘定
- モデル シートの前提条件科目

消費アプリケーション

パフォーマンス向上のために、customReportValues API と、この API をバックグラウンドで使用する以下のアプリケーションが有効になっています。

- OfficeConnect
- ダッシュボード
- ヘッドカウント プランニング
- インテグレーション
- 計画のパブリッシュ

マトリクス レポートの動作

以下の設定によって、マトリクス レポートが異なる動作を示す可能性があります。

- "レポート実行を最適化" レポート プロパティを選択しています。
- レポートに、最適化をサポートする機能と科目が含まれる。

注 : 再分類ルールのある科目を含むレポートを生成するには、"レポート実行を最適化" レポート プロパティをオフにします。

| レポートの分野: 書式 | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| 空のバージョン フォルダ | 空のバージョン フォルダに関連付けられている時間要素と科目要素のラベルが、レポートに表示されません。 | 空のバージョン フォルダに関連付けられている時間要素と科目要素のラベルが、レポートに表示されます。 |
| 差異計算 | 以下の条件下で、レポートの差異計算に空白が表示されます。<br>• 差異を計算している要素の結果がゼロになる。<br>• 差異計算のパーセント表示が選択されている。 | 同じ条件下で、レポートの差異計算にゼロ パーセント (ゼロ %) と表示されます。 |
| 合計の書式 | 要素のプロパティで定義した合計の書式が、ヘッダー セルとデータ セルの両方に適用されます。 | 要素のプロパティで定義した合計の書式が、データ セルにのみ適用されます。 |

| レポートの分野: 構造 | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| 空のバージョン フォルダ | 以下の条件下で、レポートに空のバージョン フォルダが表示されます。<br>• モデル内の空のバージョン フォルダに、1 つ以上の要素が含まれる。 | 同じ条件下で、レポートにモデルの空のバージョン フォルダが表示されません。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| レポートの分野: 構造 | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
| --- | --- | --- |
| | • 以下のレポート プロパティが選択されている。<br>  • すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない<br>  • ロールアップしない | |
| 科目グループ | 科目グループとすべての空の子科目行がレポートに表示されます。 | 科目グループのみがレポートに表示され、空の子科目行は表示されません。 |
| 複数のセグメントと層 | 以下を適用すると、セグメントの追加ヘッダーが空白スペースでレポートに表示されます。<br>• 複数のセグメントと層<br>• データが含まれない最初のセグメントの科目<br>• "ロールアップしない" | 科目にデータが含まれない場合、レポートの最初のセグメントには何も表示されません。 |
| キューブ前提条件科目と組織 | 親組織要素を行に追加すると、以下の要素のキューブ前提条件科目のみがレポートに表示されます。<br>• (限定)<br>• (合計) | 組織階層内のすべての要素のキューブ前提条件科目がレポートに表示されます。この動作は、キューブ シートのキューブ前提条件科目の "外観" の 設定に関係なく適用されます。 |
| キューブ前提条件科目と組織特性 | キューブ前提条件科目と組織特性の要素を追加すると、レポートに次のエラー メッセージが表示されます。<br>レポートの処理中にエラーが発生しました。すべてゼロまたは空白の場合は、行、列、またはその両方を表示しないように指定しました。 | 特性に一致する組織からの合計値がレポートに表示されます。 |
| 属性分割と期間科目 | 以下のとおり、"期間" 科目を含む属性の特定の組み合わせでは、レポートに分割に応じた行と値が表示されません。<br>モデル シートを以下のように設定します。<br>• 製品などのカスタム属性の分割を許可する。<br>• 地域などの別のカスタム属性の分割を許可しない。<br>• "期間" 科目の分割を許可しない。<br>レポートを以下のように設定します。 | 分割のある属性の行と値がレポートに表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| レポートの分野: 構造 | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
| --- | --- | --- |
| | • シートで分割を有効にする "製品" などのカスタム属性要素を追加する。<br>• シートで分割がオフになっている "地域" などの別のカスタム属性要素を追加します。<br>• シートで分割がオフになっている期間科目を追加します。 | |
| モデル科目とラベル | 要素のプロパティでラベルを定義すると、レポートは以下のような一貫性のない表示になります。<br>• 親モデル科目のラベルが表示される<br>• 親非モデル科目のラベルが表示されない | レポートには、親モデル科目と親非モデル科目の両方のラベルが一貫して表示されません。 |
| フィルタの組織特性 | 以下の要素を含めると、フィルタに関係なくすべての組織のデータがレポートに表示されます。<br>• 科目と組織を行または列に含める。<br>• 組織特性を行または列に含める。<br>• 組織特性をフィルタに含める。 | フィルタの組織特性が適用される組織のデータのみがレポートに表示されます。 |
| 層内差異の計算 | 層内計算の小計要素の差異計算が、レポートに表示されません。 | 層内計算の小計要素の差異計算が、レポートに表示されます。 |
| "空白スペース" 設計要素および "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" レポート プロパティ | 次の場合、レポートに要素の空の行が表示されます。<br>• 科目、組織、および時間を追加する。<br>• 科目の"空白スペース" 設計要素を追加します。<br>• レポートのプロパティで "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" を選択します。 | 以下の条件下で、空白の要素がレポートに表示されません。 |
| "繰り返しレポート" および "すべてゼロまたは空白の場合は列を表示しない" レポート プロパティ | 次の場合、レポートにはすべてゼロの値の列が表示されます。<br>• 繰り返し使用するレポートを作成します。<br>• レポートのプロパティで "すべてゼロまたは空白の | これらの条件では、レポートの値がすべてゼロの列が非表示になります。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| レポートの分野: 構造 | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
| --- | --- | --- |
| | 場合は列を表示しない" をオンにします。 | |

| レポートの分野: 構造とデータ | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
| --- | --- | --- |
| 複数の層と小計 | 以下の場合、レポートの "小計" 列に小計が表示されません。<br>• 要素の層を複数設定した場合<br>• 連続する 2 つの層に "小計" 列を設定した場合 | 2 層目の "小計" 列の下に、最後の列として小計がレポートに表示されます。 |
| 計画バージョンと実績バージョンの属性値 | 以下の条件下では、実際の期間の計画バージョンで使用できない属性値の行がレポートに表示されません。<br>• 行と列のゼロまたは空白を非表示にするオプションが選択されている。<br>• 使用できない属性値を持つ属性の親要素が含まれている。<br>• 親要素の "常に展開" オプションが選択されている。<br>• 実際の期間の計画バージョンで使用できない値が科目に含まれている。 | 同じ条件下で、実際の期間の計画バージョンで使用できない属性値の行がレポートに表示されます。 |
| 未分類の属性要素 | レポートのプロパティで "ロールアップしない" オプションを選択すると、未分類の属性要素の属性ラベルがレポートに表示されます。 | レポートのプロパティで "ロールアップしない" オプションを選択すると、末尾に "(未分類)" が付いた要素名がレポートに表示されます。<br>例: 製品ライン (未分類) |
| 属性の総合計 | 以下の場合、マッピングされていない属性値の行がレポートの属性総合計セクションに表示されません。<br>• 属性とそれに対応する属性特性がレポートに含まれる。<br>• 属性値が属性特性にマッピングされていない。 | 属性値と属性特性値 (マッピングされているものとマッピングされていないもの) のすべての組み合わせの行が、レポートの属性総合計セクションに表示されます。 |
| メトリック科目の組織特性とカスタム合計 | 以下の条件下で、マッピングされていない組織特性の行がレポートに表示されます。<br>• メトリック科目のカスタム合計が作成されている。 | 同じ条件下で、マッピングされた組織特性の行のみがレポートに表示されます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| レポートの分野: 構造とデータ | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| | • カスタム合計に組織パラメータが含まれる。 | |
| 属性、属性特性、メトリック科目 | 属性値と、メトリック科目を含む別の属性の属性特性値の組み合わせの行が、レポートに表示されません。 | これらの組み合わせの行がレポートに表示されます。 |
| キューブ メトリック科目、組織属性、キューブ シート | 以下の条件下で、未分類の組織属性値の行のみがレポートの組織合計に表示されます。<br>• キューブ メトリック科目、組織、組織属性がレポートに含まれる。<br>• キューブ メトリック科目を含むキューブ シートで組織属性を使用できない。 | 同じ条件下で、組織にマッピングされるすべての組織属性値の行がレポートの組織合計に表示されます。 |
| 期間内の複数期間 | 次のいずれかの期間のセル メモがレポートに表示されます。<br>• 時間要素が含まれていない。<br>• "期間" 要素に複数の期間を含めています。 | レポートにセル メモは表示されません。 |
| 条件付き書式設定および すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない 設定 | 以下の場合、レポートに空白行は表示されません。<br>• “空白” と表示される条件付き書式設定ルールを追加してください。<br>• レポートのプロパティで "すべてゼロまたは空白の場合は行を表示しない" を選択します。 | これらの条件では、レポートは空白の行で表示されます。 |
| フィルタに複数の項を持つカスタム計算の数式 | レポートには、フィルタ内のカスタム計算の数式内のすべての項に一致する行のみが表示されます。 | レポートには、フィルタ内のカスタム計算の数式の項の 1 つ以上と一致する行が表示されます。 |
| シート タブ内の組織特性を持つ繰り返しレポート | 以下を追加すると、レポート内の組織にマッピングされていない組織の特性のシート タブがレポートに表示されます。<br>• シート タブの組織の特性<br>• 行または列の組織 | レポートには、レポート内の組織にマッピングする組織特性についてのみシート タブが表示されます。 |
| フィルタに組織が含まれ、列とシート タブの両方に組織特性がある繰り返しレポート | レポートには、フィルタ内の組織にマッピングされる組織特性列が表示されますが、シート タブの組織特性にはマッピングされません。 | レポートには、フィルタ内の組織にマッピングされる組織特性列のみが表示されます。組織特性は、列とシート タブの両方で組織特性にマッピングされます。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| レポートの分野: 構造とデータ | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| シート タブ内の科目特性を持つ繰り返しレポート | レポートには、シートのタブの科目特性にマッピングされていない科目が表示されます。 | レポートには、シートのタブ内の科目特性にマッピングされた科目のみが表示されます。 |
| シート タブに計算要素を含む繰り返しレポート | レポートには、レポートの科目特性にマッピングされていない科目が表示されます。 | レポートには、レポート内の科目特性にマッピングされている科目のみが表示されます。 |

注 : "セル エクスプローラー" ウィンドウでは、レポートを最適化しても表示される値は、最適化しない場合と同じ値です。

| レポートの分野: データ | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| "符号を反転" プロパティ | "符号を反転" プロパティが差異計算を含むセルの交差部分に適用されません。 | "符号を反転" プロパティが差異計算を含むセルの交差部分に適用されます。 |
| 科目グループ、フィルタ、期間 | 以下の要素をすべて追加すると、空白のセルがレポートに表示されます。<br>• 科目特性要素をフィルタに追加する。<br>• 科目グループを行に追加する。<br>• 任意の親科目を行に追加する。<br>• 期間を列に追加する。 | 同じ設定で、データがレポートに表示されます。 |
| 通貨とリンク元科目 | 表示タイプが以下の場合、リンク元科目の通貨が換算されません。<br>• ソース科目が数値の場合<br>• 受領科目が通貨の場合 | リンク元科目の通貨が換算されます。受領科目の表示タイプ (数値または通貨) によって、親子合計の換算ルールが決まります。 |
| カスタム計算 | 文字列および部分文字列を連結したカスタム計算がレポートに表示されません。 | 文字列および部分文字列を連結したカスタム計算がレポートに表示されます。 |
| QTD 小計 | 年初来累計の値がレポートの QTD 小計に表示されます。 | QTD 小計の正しい値がレポートに表示されます。 |
| 科目の組織/属性合計の設定 | レポートでは 、"組織/属性合計" の 設定が "ロールアップした値の非空白平均" として設定されている科目の属性特性合計の最下位値が合計されます。 | 属性特性の合計の最下位値の非空白平均がレポートで計算されます。 |
| カスタム計算のメトリック科目と合計関数 | メトリック科目のカスタム計算の合計関数は、最初に合計関数の各パラメータの科目の数式を評価してから、それらを合計します。<br>これは、以下のようなパラメータに異なるものが複数含まれる合計関数で行われます。 | メトリック科目のカスタム計算の合計関数は、最初に合計関数のパラメータ全体で個々の数式コンポーネントの集計値を計算します。次に、個々の数式コンポーネントの集計値に基づき、科目の数式に従って最終値を評価します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| レポートの分野: データ | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| | • 期間<br>• 組織<br>• 属性値 | |
| メトリック科目と組織属性 | 組織属性の最下位組織の値のメトリック科目に対して、レポートがゼロを返す不整合が発生します。 | 組織属性の最下位組織値のメトリック科目がレポートで正確に計算されます。 |
| メトリック科目と無効な数式 | 無効な数式構文を持つメトリック科目が、数値として評価されます。 | 無効な数式構文を持つメトリック科目が、ゼロ (0) と評価されます。 |
| 総合計のメトリック科目 | レポートでは、通貨換算のある組織の組織属性の合計のメトリック科目にゼロ (0) が表示されます。 | レポートで、通貨換算がある組織の組織属性の合計のメトリック科目が正しく評価される。 |
| 他のメトリック科目を参照するメトリック科目 | 組織階層の特定の組織にのみアクセスできるユーザーに対して、他のメトリック科目を参照するメトリック科目に誤った値が表示されます。 | 組織階層の特定の組織にのみアクセスできるユーザーに対して、他のメトリック科目を参照するメトリック科目に正しい値が表示されます。 |
| 文字列数式を使用した層内計算 | 文字列数式を伴う層内計算がレポートに含まれている場合、レポートに「空白」が表示されます。concat("stringvalue") | レポートに、連結演算子の文字列値パラメータが表示されます。 |
| 実績のオーバーレイを使用したプランニング バージョンの前提条件科目に、利用できない組織を含める オプションをクリア | レポートには、Planning バージョンで選択できない組織の値が表示されます。 | レポートの計画バージョンで使用できない組織については "0" が表示されます。 |
| カスタム アカウント設定 | 次のようなカスタム科目が含まれている場合、レポートに誤った値が表示されます。<br>• "組織/属性合計" を 合計値の加重平均に設定<br>• 加重科目としてキューブ メトリック科目 | この設定を持つカスタム科目がレポートに含まれている場合、レポートに正しい値が表示されます。 |
| 複数の子バージョンを持つカスタム科目設定、加重科目、実績バージョン | 以下の場合、レポートでは合計値の加重平均が親実績値で適用されます。<br>• "組織/属性合計" オプションを ″合計値の加重平均″ に設定したカスタム科目を追加します。<br>• 加重科目はモデル シートの算出科目です。<br>• 実績バージョンには複数の子バージョンが含まれます。 | レポートは、最下位組織を合計の場所として扱い、加重平均ロジックを適用します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| レポートの分野: データ | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| Power(0, 負) を使用する計算 | Power(0, Negative) を使用した計算を含むレポートは、ゼロの値を返します。 | Power(0, Negative) の計算を含むレポートは、ゼロの値ではなく無限大を返します。 |

| レポートの分野: ラベル | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| カスタム ラベル | 親要素にカスタム ラベルを適用した場合、未分類の子要素にも新しいラベルが表示されます。 | 親要素にカスタム ラベルを適用した場合、未分類の子要素には新しいラベルが表示されません。 |

| レポートの分野: メッセージ | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| エラー メッセージ | レポートに含まれる属性、要素、または層が多すぎる場合、レポートに汎用的なエラー メッセージが表示されます。 | レポートに含まれる属性、要素、または層が多すぎる場合のエラー メッセージが改善されます。 |

## 参考: exportData パフォーマンス

exportData のパフォーマンスとスケーラビリティの最適化によるメリットを得るため、リクエストで特定の API バージョン、特性、要素を使用する必要があります。

パフォーマンスの改善は、スタンドアロンの exportData API コール、および exportData を呼び出す以下の機能に影響します。

- 計画のパブリッシュ
- インテグレーション設定内の Adaptive Planning データ ソースからの科目データの取得

参照 exportData（2204ページ）。

API v38 には、次のいずれかに応じて、新しいリクエストと応答の形式が含まれます。 `stream="true"` または `stream="false"` 次の中 `call` 要素

サポートされている科目

exportData のパフォーマンスと拡張性の向上により、以下がサポートされます。

次を除くすべての科目タイプを使用できます。

- システム科目 (配賦、少数株主持分の割合、相殺消去、為替換算調整勘定など)。
- モデル シートの前提条件科目

次を除くすべてのモデリング機能を使用できます。

- 加重平均換算
- テキストの合計
- スプレッド ルックアップ
- 値ルックアップ

消費アプリケーション

- 計画のパブリッシュ

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

- インテグレーション設定内の Adaptive Planning データ ソースからの科目データの取得
  - 時間層のあるキューブ データを除き、exportData API パフォーマンスの最適化が含まれます。
  - ストリーミングのエクスポート行の上限は含まれません。

**exportData** のパフォーマンスと動作
exportData API は、以下の設定に基づいて異なる動作を行います。

API v36

| リクエストにサポートされていない科目タイプまたはプロパティが含まれています | **stream** 特性 | 回答フォーマット | エクスポート行数 | パフォーマンスの最適化 |
|---|---|---|---|---|
| いいえ | 使用不可 | 変更なし | 500K | はい |
| はい | 使用不可 | 変更なし | 500K | いいえ |

API v38

| リクエストにサポートされていない科目タイプまたはプロパティが含まれています | **stream** 特性 | 回答フォーマット | エクスポート行数 | パフォーマンスの最適化 |
|---|---|---|---|---|
| いいえ | 休暇・休職または `false` | 非ストリーミング | 500K | はい |
| いいえ | `true` | ストリーミング | 200 万 | はい |

API v39

| リクエストにサポートされていない科目タイプまたはプロパティが含まれています | **stream** 特性 | 回答フォーマット | エクスポート行数 | パフォーマンスの最適化 |
|---|---|---|---|---|
| いいえ | 休暇・休職または `false` | 非ストリーミング | 500K | はい |
| いいえ | `true` | ストリーミング | 200 万 | はい |
| 使用可能 | `true` | 非ストリーミング | 500K | いいえ |
| はい | `false` | 非ストリーミング | 500K | いいえ |

exportData API v36 以上の更新

次のテーブルは、exportData API Performance Optimization 機能の一部として、exportData API v36 以降の 2024R1 で導入されたパフォーマンス最適化パスの拡張機能を示しています。

| exportData API | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| ユーザーには、DAC ルールの属性の科目と組織の組み合わせに対するアクセス権がありませ | 応答によって次のキューブ シートまたはモデル シートの科目のデータが返されません: | レスポンスは、属性の未分類値を持つ行を返します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| exportData API | 最適化されていない動作 | 最適化された動作 |
|---|---|---|
| ん。その属性は exportData API リクエストに含まれません。 | • 属性が含まれます。<br>• ユーザーがアクセスできる属性値と未分類の属性値のデータが含まれます。 | |
| 次の両方の場所に属性が含まれている API リクエスト:<br>• `<dimensions>` ブロック (例: `<dimension>` または `<dimensionIds>` 要素)。<br>• 値として `directChildrenofDimension` 特性 `<dimensionValue>` 要素内の `<dimensionValues>` ブロック。 | 応答は属性または属性の直接の子についての行を返しません。 | 応答は、直接の子の合計値の行と属性の未分類値の行を返します。 |
| 両方の場所で属性が指定されたキューブ科目の API リクエスト<br>• `<dimensions>` ブロック (例: `<dimension>` または `<dimensionIds>` 要素)。<br>• 値として `dimName` 特性 `<dimensionValue>` 要素: 空の値になります `name` 特性 `<dimensionValues>` ブロック。 | 応答は属性または属性の直接の子についての行を返しません。 | 応答は、属性合計または直接の子合計の行、および属性の未分類の値を次の値に基づいて返します。 `directChildren` および `uncategorized` 特性 `<dimensionValue>` 要素 |
| API リクエスト - オン `directChildren` 組織属性を含まないキューブ シートの科目の組織属性値 | 応答は、組織属性値の直接の子の合計値に寄与する組織の行を返しません。 | 応答は、組織属性値の直接の子の合計値に寄与する組織の行を返します。 |

## 参考: お問い合わせ

| お問い合わせ | サービス | アクセス方法 |
|---|---|---|
| Workday カスタマー センター | 以下のサポート ケースを作成します。<br>• 製品サポート<br>• テクニカル サポート<br>• プロビジョニング<br>• Office Hours の予約 | 指定サポート連絡先 (NSC) のみご利用いただけます。<br>ナビゲーション メニューから、"サポート" > "リクエストの送信" をクリックします。<br>ログイン ページからアクセスをリクエストします。コミュニティ組織の管理者または NSC がリクエストを承認します。 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

| お問い合わせ | サービス | アクセス方法 |
| --- | --- | --- |
| Workday Community | 以下を含む一元化されたプラットフォーム上で、Workday や Workday をご利用の他のお客様と交流することができます。<br>• Q&A フォーラム<br>• 製品ロードマップ<br>• Product Innovation Experience イベントのコンテンツ<br>• リリース情報<br>• その他 | ナビゲーション メニューから、"サポート" > "ようこそ" > "Community" をクリックします。<br>ログイン ページからアクセスをリクエストします。コミュニティ組織の管理者または NSC がリクエストを承認します。 |
| カスタマー サクセス マネージャ (CSM) | 以下のパーソナライズされたサポートを受けられます。<br>• リニューアル<br>• 価格設定、シート、およびその他の契約関連のお問い合わせ<br>• プロフェッショナル サービスの紹介 | 初めてのご利用にあたっては、直通 E メール アドレスを使用して担当の CSM にご連絡ください。<br>CSM への連絡方法がわからない場合は、Workday カスタマー センターでケースを作成してください。 |
| Office Hours | 本稼働後の次のような問題についてサポートを受けられます。<br>• 新機能<br>• 現在の設定の強化<br>• 複雑な数式<br>Office Hours は、実装サポートや一般的なサポートに関する質問を対象としたものではありません。 | カスタマー センターで Office Hours をご購入の上、スケジュールを設定してください。 |
| プロフェッショナル サービス | 作業明細書で定義された料金にて、以下を含む長期的な支援および成功に向けたサポートを行います。<br>• ベスト プラクティスの推奨事項、業界知識、製品の専門知識を活用した Workday Adaptive Planning のデプロイメント<br>• アドバイス、コーチング、指導、設定<br>• 今後の成長に向けた変更や調整についてアドバイスするための、現在のモデルの詳細な分析 | 初めてのご利用にあたっては、直通 E メール アドレスを使用して担当の CSM にご連絡ください。 |
| 製品ドキュメント チーム | Adaptive Planning ヘルプ センターから各種トピックに関するフィードバックをお寄せください。 | E メール: doc.feedback@workday.com |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

# 製品ダウンロード

## OfficeConnect をダウンロードしてインストールする

OfficeConnect の実行可能ファイルへのリンクは、ダウンロード可能な最新の製品バージョンを常に示します。

1. ダウンロードとインストールの前 OfficeConnectにアクセスし、すべての技術要件を満たしていることを確認します。参照 参考: OfficeConnect の技術要件（591ページ）。最新の OfficeConnect バージョンでの変更内容は、古いバージョンと互換性がありません。レポートの共有を継続するには、チーム全体が最新バージョンをダウンロードする必要があります。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、より新しいバージョンのレポートを表示または変更することができません。参照 OfficeConnect 技術要件
2. 最新バージョンの のダウンロードとインストール OfficeConnect:
    - ユーザーごとにインストールする場合、以下を使用します。OfficeConnectSetup.exe 実行可能ファイル
    - マシンごとにインストールする場合、以下を使用します。OfficeConnectMachineSetup.exe 実行可能ファイル

参照 エンド ユーザーとして OfficeConnect をインストール（578ページ）または 管理者として OfficeConnect をインストール（579ページ）。

### 現在のバージョンの確認

最新の OfficeConnect バージョンでの変更内容は、古いバージョンと互換性がありません。レポートの共有を継続するには、チーム全体が最新バージョンをダウンロードする必要があります。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、より新しいバージョンのレポートを表示または変更することができません。

### ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴

最新でない OfficeConnect バージョンは、所定の猶予期間の最終日の深夜に期限切れとなります。終了日はユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールに適用されます。強制的に更新することもできます。 インストールのタイプに応じて、以下の猶予期間が設けられています。この場合、OfficeConnect を最新バージョンの OfficeConnect にアップグレードすることができます。

- ユーザーごとのインストールの場合、猶予期間の終了日は、更新通知から 45 日後、また

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

はリリース日から 90 日のうち、どちらか早い方になります。
- マシンごとのインストールの場合、猶予期間の終了日はリリース日から 90 日後です。

注：バージョン履歴表には、最新のリリース情報が常に反映されるわけではありません。最新情報については、Workday Community の OfficeConnect のバージョンの確認と更新を参照してください。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。

| バージョン | リリース日 | ユーザー了日 |
|---|---|---|
| 2025.209.1214.3837<br>注：最新バージョンは、リリース日の翌日の午前 0 時 (PT) 以降にダウンロード可能になります。 | 9/20/2025 | セクションおよびマジョン履 |
| 2025.102.1819.1857 | 3/15/2025 | セクションおよびマジョン履 |
| 2024.209.1006.0116 | 9/21/2024 | セクションおよびマジョン履 |
| 2024.104.2517.0744 | 5/10/2024 | セクションおよびマジョン履 |
| 2024.104.0316.3119 | 4/5/2024 | セクションおよびマジョン履 |
| 2024.102.2817.4317 | 3/9/2024 | セクションおよびマジョン履 |
| 2023.214.0202.5527 | 2/2/2024 | 3/3/202 |
| 2023.211.0923.3931 | 11/17/2023 | 12/17/2 |
| 2023.208.3023.4738 | 2023/9/8 | 2023/10 |
| 2023.105.0414.0839 | 2023/5/12 | 2023/6/ |
| 2023.104.2501.1618 | 2023/4/28 | 2023/5/ |
| 2023.103.2122.0321 | 2023/3/24 | 2023/4/ |
| 2023.103.106.4039 | 2023/3/11 | 2023/4/ |
| 2022.213.701.318 | 2023/1/13 | 2023/2/ |
| 2022.211.0918.0739 | 2022/11/18 | 2022/12 |
| 2022.208.3021.2959 | 2022/9/9 | 2022/10 |
| 2022.105.2718.2929 | 2022/6/10 | 2022/7/ |
| 2022.104.0718.0345 | 2022/5/14 | 2022/6/ |
| 2022.103.0118.1220 | 2022/03/11 | 2022/5/ |

**Excel Interface for Planning** をダウンロードしてインストールする

ダウンロードとインストールの前 Excel Interface for Planningにアクセスし、すべての技術要件を満たしていることを確認します。参考: Excel Interface for Planning の技術要件を参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved

1. 最新バージョンの をダウンロードします。 Excel Interface for Planning:
    - WorkdayAdaptivePlanningExcelSetup.exe
    - WorkdayAdaptivePlanningExcelMachineSetup.exe
2. インストール Excel Interface for Planning ユーザーごとまたはマシンごと「インストール」を参照してください。 Excel Interface for Planning。

**現在のバージョンの確認**

チーム全体が新しいバージョンをダウンロードするようにしてください。古いバージョンを使用するチーム メンバーは、より新しいバージョンのレポートを表示または編集することができません。参照 Excel Interface for Planning バージョンの確認（109ページ）。

**ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴**

インストール済バージョン以外の Excel Interface for Planning は、猶予期間の終了日の深夜に失効します。終了日はユーザーごとおよびマシンごとの両方のインストールに適用されます。強制的に更新することもできます。 インストール タイプに応じて、以下の猶予期間が設けられています。この場合、EIP を最新バージョンにアップグレードすることができます。

- ユーザーごとにインストールを行う場合、猶予期間の終了日は、更新通知から 30 日またはリリース日から 60 日のいずれか早い方になります。
- マシンごとのインストールの場合、猶予期間の終了日はリリース日から 60 日後です。

注：バージョン履歴表には、最新のリリース情報が常に反映されるわけではありません。最新情報については、Workday Community の Excel Interface for Planning のバージョンの確認と更新を参照してください。Community のアカウントをお持ちでない方は、リクエストしてください。

| バージョン | リリース日 | ユーザーごとの猶予期間終了日 | マシンごとの猶予期間終了日 |
|---|---|---|---|
| 2024.209.1096201206<br><br>注：最新バージョンは、午前 0 時 (PT) またはリリース日の翌日の午前 0 時過ぎにダウンロード可能になります。 | 24 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴 |

©2026 Workday, Inc. All rights reserved
Workday Proprietary and Confidential

| バージョン | リリース日 | ユーザーごとの猶予期間終了日 | マシンごとの猶予期間終了日 |
|---|---|---|---|
| 2024.104.25 | 5/10/2024 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴<br>次のいずれかのうち早い方:<br>• 更新通知から 30 日。<br>• リリース日から 60 日。 | セクション: ユーザーごとおよびマシンごとのバージョン履歴<br>リリース日から 60 日。 |
| 2024.102.28 | 3/7/2024 | | |
| 2023.214.02 | 2/2/2024 | 3/3/2024 | 4/2/2024 |
| 2023.211.09 | 11/3/2023 | 12/17/2023 | 01/16/2024 |
| 2022.211.09 | 10/27/2022 | 2022/12/18 | 2023/1/17 |
| 2022.105.27 | 8/2/2022 | 2022/7/10 | 2022/8/9 |
| 2022.104.07 | 6/2/2022 | 2022/6/13 | 2022/7/13 |
| 2022.103.01 | 5/2/2022 | 2022/5/15 | 2022/6/14 |
| 2021.210.27 | 12/2/2021 | 2021/12/12 | 2022/1/11 |
| 2021.209.30 | 11/2/2021 | 2021/11/07 | 2021/12/07 |
| 2021.209.02 | 10/2/2021 | 2021/10/11 | 2021/11/10 |
| 2021.103.03 | 4/2/2021 | 2021/4/12 | 2021/05/12 |

近日提供予定**: Workday for Google Sheets** のダウンロードとインストール

今後予定されている早期導入者プログラムでは、Workday for Google Sheets が導入されます。この新しいアプリでは、ユーザーが Google シート内の Workday Adaptive Planning データを使用してレポートを作成できるようになります。

アプリの詳細については、Workday for Google Sheets早期利用者プログラムを参照してください。

アプリは Google API を使って情報を受信、転送します。限定使用要件を含む Google API Services User Data Policy に準拠します。

Workday のプライバシー ポリシーについては、Workday プライバシー ステートメントを参照してください。

©2026 Workday, Inc. All rights reserved